ENCYCLOPAEDIA JUPITER



558617

世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

3

カセグ―キンゾ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

3

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel (262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　**本見出し**
げんじものがたり　**【**源氏物語**】**
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　**【**沼津**】**　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　**【**羅紗**】**
らっぱ　**【**喇叭**】**

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　**【**大阪（府）**】**
おおさか　**【**大阪（市）**】**
ミシシッピ（州）
ミシシッピ（川）

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　**【**河北省**】**　ホーペイ省
ふざん　**【**釜山**】**　プサン
もうたくとう　**【**毛沢東**】**　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　**【**上海**】**
ペキン　**【**北京**】**
メイランファン　**【**梅蘭芳**】**

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　**【**入れ墨**】**　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

しんくう　**【**真空**】**
しんぐう　**【**新宮（市）**】**
じんぐう　**【**神宮**】**

はい　**【**肺**】**
ばい　**【**蛽**】**
パイ　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう　**【**銃**】**
じゆう　**【**自由**】**

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ **あへん**　【阿片】
{ **アーヘン**　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

{ **あか**　【赤】　⇨色
{ **あか**　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

{ **じゅんし**　【殉死】
{ **じゅんし**　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比（農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合）は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1972年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名表記は，本文の地名表記の基準に従った。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　**【関西弁】**　⇨方言
しょせき　**【書籍】**　⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフイズ　⇨カクテル

⇀ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(⇀アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(⇀東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　**【藍色】**　……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　**【安山岩】**　中性の火山岩*。
いほうじん　**【異邦人】**　カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治5)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

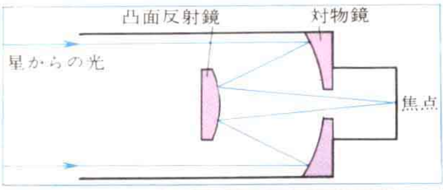
mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

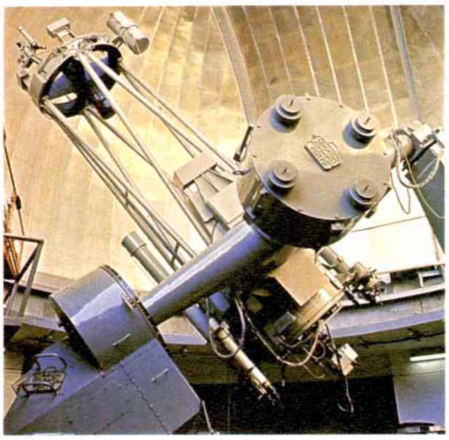
装丁　田中一光

特別大項目目次　第3巻

か せく

カセグレンしきぼうえんきょう 【カセグレン式望遠鏡】 対物鏡の後ろに目標の物体の像を結ばせる方式の反射望遠鏡。対物鏡の焦点の手前に小さな凸面(とつめん)(双曲面)反射鏡を置き，対物鏡の中心に小孔をあけてその後方に像を結ばせる。焦点距離の長い(したがって倍率の高い)わりに，望遠鏡の筒を短くできるので，大口径の天体望遠鏡に広く用いられている。➔反射望遠鏡





カセグレン式望遠鏡　堂平天文台(91cm)

かせだ 【加世田(市)】 鹿児島県薩摩(さつま)半島南西部の市。古くから中国その他との海外貿易が盛んで，江戸時代は島津藩の直轄地となり，密貿易が行なわれた。1954年(昭和29)市制施行。人口26,000。東シナ海に臨み，万瀬(まのせ)川の河口南岸の沖積地(ちゅうせきち)上に位置する。産業三大別人口比は34：22：44で，周辺農村地帯ではサツマイモをはじめ，茶・タバコの栽培やウシの飼育が盛んである。しょうちゅう・クエン酸製造・人造宝石加工などの工場があり，加世田鎌(かま)の特産も名高い。鹿児島交通で鹿児島市と1時間半で結ばれ，国道270号線が通ずる。海岸部には吹上浜の砂丘地帯が北へ延びて，吹上浜県立自然公園に指定されている。

かぜたいふう 【風台風】 雨量が比較的少なく，風害だけを起こすような台風。一般に移動速度の速い台風は風台風になりやすい。➔雨台風

かぜたちぬ 【風立ちぬ】 堀辰雄*(ほりたつお)の長編小説で，その代表作の一つとされる。〈序曲〉〈風立ちぬ〉〈冬〉〈春〉〈死のかげの谷〉の5章からなり，1938年(昭和13)刊行。登場人物は〈私〉と婚約者節子。節子は胸を病み，八ケ岳山麓(さんろく)のサナトリウムで静かに死を迎える。人間の〈生〉と〈愛〉を〈死〉によって確かめ，昇華させている。詩情あふれる作品

かせつ 【仮説】 ある事象や法則を統一的に説明しうるとみなされる言明をいう。科学においては，まだ観察・実験によって確証されてはいないが，それを仮定することによって問題を解決し，知識を体系化することができる，いわば仮の法則や理論をいう。しかし，事実に照らしてその信頼すべきことが明らかにされ，定説として認められているものでも，これと矛盾する新しい事実が現われたときには直ちに退けられなければならない。この意味で法則や理論もまた仮説である。仮説の根本要件は，それ自身もしくはそれから演繹(えんえき)された結論が観察可能な事実と比較できえなければならない。いいかえれば，事実に一致するかしないかを決定することが可能な結論を導かねばならない。なお，ある研究を進めるために，便宜上設定される仮説を作業仮説という。〔石倉恒之〕

かぜつなみ 【風津波】 ⇨高潮

かせどり 小正月*前後の夜，青年または少年が簑笠(みのかさ)，わらの腰巻などを着て仮装し，数人で家々を訪れ，祝言や唱えごとを述べて祝儀をもらい歩く行事。年の改まった一夜，遠くきたり臨む神が，家々を訪問して新たな年を予祝して回るという信仰に基づくものと考えられる。ほぼ全国的に分布しているが，宮城・福島・山形県などでは〈かせどり〉，宮城県北部・青森県では〈かせぎどり〉，大分・熊本県以南の地方では〈かぜどり〉〈かせどりうち〉とよんでいる。〔直江広治〕

かぜのかみ 【風の神】 風をつかさどる神。風の神を祭る奈良県の龍田(たつた)神社*では天武天皇以来国家的行事として，しばしば風神祭(かぜのかみまつり)が行なわれた。長野県の諏訪(すわ)大社*も風の神を祭るので知られる。民間では，年頭・盆*・八朔*(はっさく)・二百十日*などに風の神を祭り，暴風の被害のないように祈願する地方が多い。また，新潟県・福島県には，風の神を〈風の三郎〉とよび，6月中に仮小屋をこわして風の神が通ったと安心する風俗がある。〔直江広治〕

かぜのまたさぶろう 【風の又三郎】 宮沢賢治*の長編童話。生前未発表作品。執筆年未詳。台風シーズンに村の分教場に転校してきた赤毛の高田三郎少年をめぐって，一連のできごとの中から，村の子どもたちがしだいに三郎の中に伝説の風の子又三郎の姿を見いだしていく話で，賢治の〈イーハトーヴ〉(理想郷)そのものを形象化したような作品。子どもの心理と岩手の自然描写とがみごとにとけ合い，作者の代表作の一つとされる。〔岡田純也〕

カゼラ [Alfredo Casella] (1883～1947) イタリアの作曲家。音楽家の家庭に生まれ，早くからピアニストの母親から厳格なレッスンを受け，13歳のときパリ音楽院のピアノ科に入学，その後すぐ作曲を始めた。1915年ローマにもどるまでパリに住み，ピアニストや指揮者として活躍しながら，ドビュッシーやフォーレと知り合い，作曲を続けた。彼の新古典主義的な作品，《子どものピアノ小曲》，舞踊音楽《大きなつぼ》，オーケストラ曲《スカルラッティアーナ》は有名。〔船山　隆〕

ガゼル [gazelle] 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科・ガゼル亜科の総称。アンチロープ*のうちの一群で，体は小形か中形で優美。角はコルク栓(せん)抜き状にねじれるか，はじめやや外側に向かって後方に曲がり，先はやや内側に向かい上方に伸びる。雌にはないが，あっても小形。前肢(ぜんし)の毛根部に毛総がある。アフリカ・アジアに広く分布し，ブラックバック・スプリングボック・チベットガゼル・モウコガゼル・グラントガゼル・トムソンガゼルなど多くの種がある。〔今泉吉典〕

かせん 【河川】 ⇨川

かせん 【化繊】 ⇨化学繊維

かせん 【歌仙】 和歌にすぐれた人のこと。《古今集》の序にあげられた6人の歌人が六歌仙*とよばれるようになって以後は，もっぱら特定数のすぐれた歌人の汎称(はんしょう)として用いられる。藤原公任*(きんとう)選の三十六歌仙*をはじめとして，後六歌仙・中古三十六歌仙・武家三十六歌仙・女房三十六歌仙などがあり，〈百人一首*〉もこの形式の一つといえる。また，室町時代に三十六歌仙を句中によみこむ〈歌仙連歌〉が起こり，のちにはただ句数が36からなる連歌・俳諧(はいかい)の形式を一般に歌仙とよぶようになった。〔平田喜信〕

かせん 【寡占】 少数者が市場を支配している状態をいう。特に競争者が二つの経済主体からなる場合を複占とよぶ。現実の市場では，完全競争*も完全独占もともに存在することはまれであり，供給者と需要者との関係は完全競争と完全独占の間で多様な形態をとっている。需給の双方がともに1人である場合を双方独占といい，同様に，ともに2人の場合を双方複占，ともに少数の場合を双方寡占とよぶ。また需要者が多数の場合に，供給者が1人であれば供給独占，2人のときには供給複占，供給者が少数であれば供給寡占という。これに対して，供給者が多数であって，需要者が1人の場合には需要独占といい，需要者が2人のときには需要複占，需要者が少数の場合には需要寡占という。

ところで，市場における競争は需要者と供給者との数によってのみ制限されるので

はない。同一産業の生産物が完全に同質的ではなく，商標・デザイン・品質などの面で需要者のより好みを伴うような生産物の差別化が存在する場合には，供給者が多数であってもそれぞれの供給者はなんらかの独占力を行使できることになる。しかし，そのような独占的立場は他の供給者の競争参加を必ずしも排除するものではなく，その意味でかなり不安定な性格をもつものである。このように，供給者が生産物の差別化によってある程度の独占力を保持しようとしながら，結局のところ競争を免れない場合を独占的競争という。特に供給者が少数の場合には，供給寡占を伴う独占的競争が行なわれることになる。競争的産業においては，革新企業のコスト削減作用によって，その属している産業内部で一定の利潤を確保しつつ経営を維持しているような限界企業がしだいに淘汰(とうた)され，やがて競争産業が寡占産業に移っていく傾向がある。現代では寡占が市場において支配的である。　〔加藤　寛〕

かせん　【貨泉】　中国，王莽(おうもう)のときの貨幣。泉とは銭の意。王莽は理想を《周礼*(しゅらい)》に求めて漢の制度を全面的に改正，貨幣制度も漢の貨幣である五銖銭(ごしゅせん)を廃止して金貨1品，銀貨2品，亀甲(きっこう)4品，貝貨5品，布貨10品，銭貨6品，計6種28品の銭をつくった。しかし，あまりにも多種類で，しかも実質価値とかけ離れたものもあり，あまり一般には使用されなかったようである。貨泉は日本にも発見され，考古学的遺跡の年代推定の重要なかぎをなしている。　〔米田賢次郎〕

かせんえ　【歌仙絵】　和歌を1首添えて描いた三十六歌仙*などを主体とした歌仙の肖像。平安末期から盛んになった歌仙崇拝の風潮と似絵(にせえ)の流行とが結びついて興り，鎌倉期に最もよく行なわれた。藤原信実*(のぶざね)筆と伝わる《三十六歌仙絵巻*》は代表的である。なお，このほか絵巻・掛幅(かけふく)・屛風(びょうぶ)・色紙など，江戸時代に至るまでの多くの遺品が伝えられている。

かせんおりもの　【化繊織物】　化学繊維による織物の総称。レーヨン織物・アセテート織物・各種合繊織物を含む。化繊織物は天然繊維織物に準じて織り，綿織物ふうのもの，毛織物ふうのもの，絹織物ふうのものなどがある。混紡織物・交織織物が多い。一般に耐久的で取り扱いに便利であることを特色とする。レーヨン織物以外は吸水性に乏しく，親水性繊維(天然繊維およびレーヨン)を混紡しなければ下着に不適。

かせんぎょぎょう　【河川漁業】　河川で営まれる漁業。石狩川のサケ漁業，相模(さがみ)川のアユ漁などが有名である。中国などと比較すると，わが国の河川漁業の規模は小さく，漁獲高もきわめて少ない。しかし，養殖用未成熟ウナギ漁とか，シジミ採取漁とか特異な漁業形態がみられる。近



歌仙絵　小大君　佐竹本《三十六歌仙絵巻》断簡　大和文華館蔵

年，河川水の都市排水・工場排水・農薬などによる汚染がはなはだしく，魚族の生活が脅かされているばかりでなく，阿賀野(あがの)川有機水銀事件のように，魚類汚染から人体への影響さえ出ている。〔石野　誠〕

かせんこうがく　【河川工学】　河川を研究して，一方において洪水(こうずい)の被害を軽減し(治水)，他方河川を人間の生活上に十分に利用する(利水)ための工学である。河川を地学的に研究する河川学，河水を研究する水文学，水の運動を研究する水理学を基礎として，河川工事*のために土木工学の諸分野を応用する。

かせんこうじ　【河川工事】　洪水(こうずい)防御(治水)と河水利用(利水)のため河川に人工を加える工事。①水源工：一般に水源は山岳地帯であり，雨量多く，また川が運んでくる土砂の生産地である。したがって，砂防工を施し，植林と山腹工によって降水をできるだけ多く地中に保留するとともに，土砂が流れ出さぬように努める。②河道工：計画した洪水量が安全に流れるように河積をつくり，堤防・護岸・水制・床固めなどの工事で流路を守る。支川の合流を円滑に導き，場合によっては分水路(放水路)を設け，利水のためには各種の取水施設を整える。③流量調節工：上・中流に治水と利水を兼ねた多目的貯水池を設け，中・下流には洪水調節のため遊水池を準備し，また河水の最終利用のためと，海水の逆上防止のために河口近くに河口堰(かこうぜき)を設ける。　〔米元卓介〕

かせんし　【化繊糸】　化学繊維の糸。レーヨン糸(人絹糸)・スパンレーヨン糸(スフ糸)・アセテート糸・ナイロン糸・ビニロン糸・ポリエステル糸・アクリル糸など。紡績糸と連続繊維糸とがある。

がせんし　【画仙紙】　宣紙ともいい，雅仙紙とも書く。中国の揮毫(きごう)用の紙で，書・画ともに用いる。色は白くて，柔らかく，よくにじむ。小画仙は幅66cm，長さ135cmである。大きいのは大画仙，さらに大きいのを壁紙という。画仙紙にロールをかけたのを煮埵箋(しゃすいせん)，2枚重ねたのを二双紙または青六疋(せいろっぴき)，それに光沢をつけたのを玉版箋という。わが国で模造したのを和画仙という。

かせんじき　【河川敷】　河川の占める敷地であり，その範囲については河川法第6条で規定されている。常識的には川らしい土地の部分である。この部分の私権を認めず，場合によって公園・緑地・運動場などの公共的利用に供することは許されている。

かせんそうごうかいはつ　【河川総合開発】　河川の水資源の開発と流域内のあらゆる分野の開発を総合的に計画すること。水資源の補給源は限られた降水であり，有効に利用することを考えなければならない。場所によっては無貯水池式開発も考えられるが，一般には多目的貯水池方式が普通である。まず，貯水池によって治水の目的を達し，次いで利水(灌漑(かんがい)・発電・上水・運輸・水産物・観光)に極力利用することを計画する。また，その流域の他の資源，たとえば林産物・鉱産物なども道路網の整備により市場性を高め，域内の交通も飛躍的に向上しうる。ただし，各流域にはそれぞれの事情により投資可能の限度があるから，いたずらに膨大な計画を立てず，最も経済的に立案すべきである。わが国でも主要河川ごと，都道府県ごと，指定区域ごとに担当部局を設けて開発計画を進めている。〔米元卓介〕

かぞ　【加須(市)】　埼玉県北東部の市。もと加増と書き，江戸時代には中山道(なかせんどう)と奥州街道を結ぶ脇(わき)往還に沿う宿駅であった。1954年(昭和29)加須町・不動岡町ほか6村が合体して市制施行。人口48,000。利根(とね)川右岸に沿う沖積(ちゅうせき)地帯にあり，かつては利根川の本支流が乱流したため河畔砂丘や自然堤防が多い。産業三大別人口比は24：32：44。水田が開け，イチゴ・キュウリの生産やキンギョの養殖が盛んである。東武鉄道伊勢崎(いせさき)線に沿い，国道125号線が通ずる。不動岡には関東三大不動尊の一つがあり，東部の〈加須の浮野と植物〉は県の天然記念物に指定されている。特産はこいのぼり・剣道具など。

かそう　【火葬】　⇨葬制

かそう　【家相】　⇨観相術

かそううん　【下層雲】　地面付近からおよそ2kmの高さにある雲。層雲*・層積雲*などはその代表例。しかし，乱層雲*・積雲*・積乱雲*などのように雲底は下層にあって，雲頂が中・上層に達しているものもある。

かそうじんぶつ　【仮装人物】　徳田秋声*の長編小説(1938)。作者は，一連の心境小説に続いて，妻の急死後〈順子もの〉とよばれる短編小説を20編ほど発表したが，これは，その素材となった山田順子との2年余の情痴の世界を晩年に再構成したものである。作家の稲村庸三(ようぞう)が，男性遍歴を重ねる作家志望の女性葉子をときに半狂乱に陥って追う経過を，無方法の方法とよばれる円熟した手法で描いている。

がぞうせき　【画像石】　中国において石造の柱，祠堂(しどう)，墓室の壁画に薄く画像

を彫りつけたものをいう。この風習は前漢ころに始まり後漢に盛行した。石材の豊富な山東省(武氏祠堂・孝堂山・沂南(ぎなん)古墓)や四川省に多い。画題としては帝王・烈女・孝子の伝記，神仙図(しんせんず)のほか，当時の日常生活・風俗をうつし，歴史・美術の好資料である。

かそうてきこく【仮想敵国】国防上の諸計画を立案するにあたり，その前提として自国の安全に危険を及ぼす可能性があると仮に想定する敵国。仮想敵国は地理的・歴史的条件によってほとんど与えられたものとして定まり，現実には潜在的戦争が行なわれている場合が多い。仮想敵国を念頭に置くことは，軍備の規模，陸海空3軍の兵力比率，部隊の装備，戦闘法など一連の問題を具体的に定めるために必要である。したがって，一国の国防体制も仮想敵国の状態によって相対的に決定される。しかし，これはあくまで仮想であって，現実に非友好政策をとることを意味するものではない。〔森田 哲〕

かそうぶとうかい【仮装舞踏会】仮面や衣装などによって特異な扮装(ふんそう)をして行なわれる，社交目的の舞踏会。呪術(じゅじゅつ)の目的をもった原始舞踏，中世の謝肉祭・復活祭の舞踏にその萌芽(ほうが)がみられるが，普通はルネサンス時代の宮廷舞踏会がそのはじまりとされている。特にイタリア-ルネサンスの宮廷舞踏会は，バレエ発生の母胎となったことで舞踊史上大きな意義をもつ。元来貴族生活と密接な関連をもって発展してきたため，帝政時代のフランス(特にルイ14世時代)・ロシアで流行したが，現在ではクリスマスパーティーなどにそのなごりをとどめている程度である。わが国では1887年(明治20)の鹿鳴館*(ろくめいかん)時代に一時流行した。〔高橋孝一〕

かそうぼ【火葬墓】⇨墳墓

かぞえうた【数え唄】数を歌詞の中に織り込んだ歌。日本だけでなく，中国・インド・ヨーロッパなどに主として子どもの遊び歌として散在している。日本のわらべ歌*では，手まり歌・お手玉歌・はねつき歌・なわとび歌に多い。数の織り込み方は，数をそのまま列挙していくもの，数の最初のシラブルを利用して地名や人名を列挙したり，意味のあるフレーズ構成にしたりするものなどがある。わらべ歌以外に民謡(木遣歌(きやりうた)・盆踊り唄など)・三味線(しゃみせん)歌曲(地歌・端唄(はうた)・義太夫節(ぎだゆうぶし)など)・歌謡曲にある。古くは鎮魂歌(たましずめうた)や《梁塵秘抄(りょうじんひしょう)》の中の四句神歌などの例がある。〔山口 修〕

かそく【仮足】偽足・擬足・虚足などともいう。アメーバのような生活をする動植物の細胞に特徴的な構造である。原形質体からの一時的な突起としてつくられ，運動や捕食のために役だつ。仮足には根足状・糸状・葉状・有軸状・放射状などの形状がある。仮足をもつ代表的なものは原生動物の根足虫に属するアメーバであり，そのほか，変形菌・アサクサノリの遊走子，多細胞動物の遊離細胞のあるものなどである。➔アメーバ運動〔蒲原春一〕

かぞく【家族】夫婦を中核として，その近親者とともに営まれる生活共同体(➔コミュニティ)をいう。またそのような集団に属している血縁者を家族とよぶ場合もあり，家や家庭も同義語として用いられることもある。このほか統計学的分析の用語として世帯*という概念があり，家族の量的操作に代用されることもある。

家族の研究は，J.バッハオーフェンの《母権論》(1861)やメーン*の《古代法》(1861)から始まる。のちL.H.モルガン*の《古代社会》(1877)によって家族の歴史がかなり体系的に示された。これはエンゲルスの《家族・私有財産および国家の起源*》(1884)によって強く支持されている。モルガンは社会進化論(➔社会進化)的立場を家族の歴史に適用し，人類文化の発展を野蛮・未開・文明の段階に分け，家族の歴史をこの文化段階に対応させて，血族婚家族→半血族婚家族→対偶婚家族→家父長的家族→一夫一婦制家族の過程を経て発展するものとした。現在この考え方は，いくつかの点で批判されている。

家族の形態で最も一般的な分類は小家族と大家族とである。マードック*はあらゆる家族形態において，最も普遍的に見いだされるのが，夫婦と未婚の子女とを家族的単位とする核家族であるとした。単位である核家族が種々結びつくことにより拡張家族や複婚家族が形成されるとし，これを整序して，①夫婦とその未婚の子女によって構成される夫婦家族，②夫婦と1人の既婚の子とその妻子および未婚の子女からなる直系家族，③夫婦と複数の既婚の子とその妻子および未婚の子女によって構成される複合家族，という分類法を多く用いている。

家族の構造分析は種々行なわれているが，特に役割構造と権威構造の分析が注目されている。家族成員はそれぞれ，夫・妻・母・子・父というような多角的かつ重層的地位を占め，それぞれの地位に付着した役割を果たすべく社会的に期待されている。このことによって，一定の行動様式ないし行動基準が与えられ，それぞれのメンバーが相互補完的に協力しうる。また，役割構造をリーダーシップ構造として分析することもある。権威構造は，権威の布置状況によって分析される。家族の権威構造のタイプとして，父権型・母権型，また夫優位型・妻優位型・自律型・一致型などがあげられる。

家族の機能の最も基本的なものは，社会的に認められた夫婦の持続的結合と性的秩序の機能，生殖機能，子女の養育機能などである。このほか，経済的・福祉的・教育的・宗教的・娯楽的などの諸機能がある。特に学習の機能，つまり子女の社会化，パーソナリティー*形成の過程の中で望ましい価値が内面化されるという意味で，この機能は家族と社会との媒介的役割を果たす。全体社会が機能分化し，専門化するとともに，元来包括的であった諸機能がやはり分化し，しかも家族外の諸機関によって代替される傾向が強い。しかし，代替不可能な基本的機能は家族にとどまり，ますます重要度を増している。

生産単位として存在する家族や，統合度の高い地域社会の中での家族は，きわめて凝集力の高い統一体をなしていた。しかし，産業社会の進展の中で価値が多元化し，家族を統合する目的や態度の不一致を生みだしている。成員の諸欲求が家族外の諸機関によって満たされることも家族の凝集力を低下させる原因である。家族を安定的なものにしていた制度の抑圧が薄れ，成員相互の合意がしだいに重要なものになってきているが，このような傾向をバージェス*は制度的家族から友愛家族へということばで表わしている。➔核家族〔国近浩一〕

かぞく【華族】明治維新以後の族称で，士族・平民の上位に位した。1869年(明治2)公卿(くぎょう)・諸侯の称を廃し，華族の語を使用した。1884年〈華族令〉10条を制定して公・侯・伯・子・男の5爵に分け，爵位は世襲された。旧公卿・旧諸侯は家格・経歴・勲功によってそれぞれ授爵した。また新たに国家の功労者またはその嗣子にも与えられ，1884年当時総計508人を数えた。1947年(昭和22)に廃止されるまで，華族は皇室の藩屏(はんぺい)と称され，種々の特権を有した。特に，公・侯爵は満30歳になれば自動的に貴族院議員となり，伯・子・男爵は満30歳で互選で貴族院議員を選出し，衆議院に対置する貴族院議員の半数以上を占めた。第2次世界大戦後，日本国憲法の制定によって1947年廃止。〔千野境子〕

かぞくけいかく【家族計画】合理的で健全な家庭生活を築くため，それぞれの家庭の事情に応じて子どもの生み方を計画的に調節すること。家庭生活は子どもの数や年齢の差によって左右される面が大きい。家庭生活をよりよくするためには，それぞれの家庭の経済状態や両親の健康上の負担，精神上の負担を考えて，幾人の子どもを生んだらいいか，どのくらいの間を置いて生んだらいいか，よく考えることが必要となる。特に母親の健康が出産や育児に耐えるかどうか，母親に育児のための時間的余裕があるかどうかは重要である。病身の母親や職業をもつ母親が育児の見通しもないままに多くの子どもをもつことは，母親の健康を害したり，子どもの健全な成長を妨げたりして家庭の苦しみを大きくする。両親の文化的活動のための時間や家庭の経済的余裕を確保することも必要だし，よりよい子どもを育て，教育するためにも子どもの数や間隔の調節が望ましい。

家族計画は計画産児ともよばれる。これらは1930年代から使われだした比較的新しいことばであってその系譜をたどると，1800年代の新マルサス主義運動で提唱された産児制限・出生抑制・避妊にまでさかのぼることができる。新マルサス主義では，過剰人口が社会の進歩を妨げるという見地から，出生抑制によって人口の過剰化を防ぐための避妊が提唱された。しかし，1900年ごろからは，過剰人口対策としてよりも個人生活の向上を目的として出生抑制が提唱されるようになり，産児調節(バス-コントロール)ということばが使われだした。アメリカのサンガー*夫人はこの産児調節運動の推進者として有名である。しかしこの産児調節ということばには多分に新マルサス主義の過剰人口対策的出生抑制の色が残っており，主旨の徹底さを欠くと同時に誤解を招く場合も多かった。そのため，産児調節の過剰人口対策的意味を完全になくし，家庭の健全化に主旨を統一する目的で提唱されたのが家族計画あるいは計画産児ということばである。したがって現在使われている家族計画ということばは，避妊技術による受胎調節を提唱している点では新マルサス主義や産児調節の場合と変わらないが，出生の抑制でなく調節に力点が置かれている。しかし，主旨はそのように変わってきたが，最近でも人口の多い国や出生率の高い国では，家族計画という名のもとに，過剰人口対策的意味を含めて政策的に推進される場合が多い。第2次世界大戦後の日本や東南アジア・南米諸国にその傾向がみられ，家族計画＝産児制限として考えられている面がある。

日本では第1次世界大戦後，吉野(よしの)作造*・安部磯雄*(あべいそお)・加藤(石本)シズエ・山本宣治*たちによって産児調節が説かれ，サンガー夫人も来日したりしたが，一般的な普及はみられなかった。特に第2次世界大戦前の生めよふやせよの軍国主義的政策の中では，まったくこの運動はおさえられてしまった。しかし戦後はアメリカの占領政策のもとで，急速に運動が繰り広げられ，政府によっても推進された。1947年(昭和22)の薬事法の改正によって避妊薬や避妊器具の製造販売の禁止が解かれ，1948年以降の優生保護法*の施行と改正によっては，悪質遺伝の断種*以外にも母体保護のための断種や人工妊娠中絶*の許可など大幅な制限条件の緩和がなされた。1954年には日本家族計画連盟が成立し，また国際家族計画連盟への加入が承認され，運動の組織化と活動が進められた。政府は，1952年厚生省から各都道府県に〈受胎調節普及実施要領〉を指示し，保健所を通して企業などに集団指導を行なうとともに，助産婦・保健婦・看護婦を受胎調節実地指導員に養成し，避妊技術の個人指導にあたらせた。これらの施策や運動はマスコミュニケーションによる解説などとあいまって，都市から農村にしだいに家族計画を普及させたのである。

戦後の生活の苦しさの中で，国民に家族計画による生活の維持向上を受け入れる条件が整っていたことも急速に家族計画が普及した原因の一つである。ただ日本の家族計画の普及には一つの暗い側面があり，問題点として世界的にも指摘されている。産児調節の方法には，避妊のほか，断種や人工妊娠中絶が用いられているが，わが国の場合，人工妊娠中絶による産児調節を行なうものがきわめて多い。人工妊娠中絶は，母体を傷つけることがあり，死を招くこともある。道徳的な配慮からもできるだけ避けるほうが望ましい。もともと家族計画は，事前に計画を立て，家庭を合理化し，健全化しようとするものである。その意味からは人工妊娠中絶は避妊の努力のうえで失敗した場合に許されるはずのものである。日本の場合は，それがきわめて安易に，避妊の努力を十分にしないで行なわれていると考えられる。こうした人工妊娠中絶に対する安易な考えや態度は人間の生命に対する安易さにつながり，その一般化は，人間尊重の精神を破壊するものといわなければならない。なお，家族計画は，個人の生活に関係するものであり，個人の意志によってその実行は決定されるべきものだが，社会的観点からみていくつかの問題が指摘されている。第1は家族計画が普及して出生数が少なくなると人口が減少しないかということ。産児制限が過剰人口対策として出発していることを考えると奇妙であるが，現実にフランスでは第2次世界大戦前に人口の減少が生じ問題化した。日本の場合は，2030年ぐらいにならないと人口が減少しないものと推計されているから問題はあまりないが，非常に遠い将来を考える場合には問題になるであろう。第2は，人口が老齢化することである。人口が減らないとしても，人口の老齢化は起こる。出生数が少なくなれば年齢構成で若い年齢層の占める割合が小さくなり，相対的に高年齢層の割合は大きくなってくる。このことは活発な生産活動人口が減り，生産から引退した人口がふえることであり，社会的生産に影響するとともに，老人問題*を拡大させる。第3は，生物学的な人間の遺伝がそこなわれて，劣質人口がふえないかという点である。しかしすぐれた質の人間の出生が抑制され，劣った質の人間が相対的に割合を高める逆淘汰(ぎゃくとうた)の可能性はある。

家族計画はその歴史的経過からいって避妊などによる出生抑制の面が中心となるが，本来の主旨は出産の計画化にあるのであって，たしかに，人工授精*などによって人工的に妊娠出産を行なう場合も，広い意味の家族計画の一環として考えられている。

〔宮川　実〕

かぞく・しゆうざいさんおよびこっかのきげん　【家族・私有財産および国家の起源】　エンゲルス*の著書。マルクスの死の翌年にあたる1884年に刊行された。マルクス主義の古典的文献とされる。アメリカの人類学者L. H. モルガン*の《古代社会》を高く評価するとともに，これに対するマルクスの評注に基づいて，史的唯物論*の立場から家族・私有財産・国家の形成を述べ，国家の歴史的・階級的性格を明らかにした。古代社会研究・家族史研究でも大きな影響を与えた。〔仲村計美〕

かぞくせいど　【家族制度】　全体社会*や地域社会*などが，家族*の構造や機能を規律している規範をいう。法律体系のような明確なものから，広く道徳・慣習のような明確に意識されないものまでをも含めた，家族に関する社会的規範である。家族の成員が欲求を充足するための相互行為を規定する外面的行為様式と，それに対応する内面的な態度や観念の体系をも含める。また家族内のみではなくて，外部社会との関連をも規制するものである。いずれにせよ家族制度は，生産様式の発展段階に照応して成立するものであるが，つねに規範と現実の生産様式との間に時間的ずれがあり，矛盾を生みだす。日常用語として用いられるときには，具体的な家族制度，たとえば第2次世界大戦前のわが国にみられたような家*制度をさすことが多い。またより限定的には明治民法に規定された法律上の制度をさすこともある。しかし，特定の家族制度ではなくて，一般的家族制度を問題とするときには，普遍的な類型概念を用いる。血縁関係のあり方によって，夫婦家族制・直系家族制・複合家族制という三つの類型が，また相続のあり方によって，一子相続制・均分相続制，または母権制・父権制などの類型が設定される。この一般的な類型とは別に，具体的な社会にのみ適用される特有な典型(たとえばわが国の家制度)もまた設定される。〔国近浩一〕

がぞくせっちゅうたい　【雅俗折衷体】　文芸用語。平安朝の和文脈や趣向を取り入れた雅文と，口語文脈や小説的趣向とを混交させた文体をいい，明治20年代の小説に顕著である。たとえば樋口(ひぐち)一葉*の《大つごもり》《にごりえ*》の文体など。樋口一葉は，平安期の和歌・物語の浪漫的教養から出発し，しだいに現実に目を開いて，西鶴*(さいかく)や明治文学の写実，いわゆる俗調を取り入れて，これらの作品を成功させた。

かそくど　【加速度】　⇨運動

かそくどけい　【加速度計】　運動体の加速度*の大きさを測定するための装置。特に重力加速度を測定するためのものは重力計*とよばれる。重力加速度の測定には，多く振り子の振動の周期の測定を利用する。一般の加速度を測定する装置には，磁歪(じわい)現象を利用したものである。

かそくどげんり　【加速度原理】　所得の

増加，したがってまた消費財に対する需要の増大は，資本財に対する需要（投資需要）を派生させるという命題。そして，これは，消費財需要と資本財需要との関係だけに適用されるのではなく，いかなる段階にせよ，ある特定段階の生産物需要とそれに先だつ段階の生産物需要の関係について適用される。いま所得Yの増加ΔYがあると，この増加分の一定倍の投資Iがひき起こされ，両者の関係は投資$I=\nu\times$所得増加分ΔYとして示される。このνを通常加速度因子，あるいは加速度係数とよぶ。この関係が成立するのは主として技術的理由によるもので，増大した消費財需要を満たすには，資本蓄積による産出高の増大が必要となるため，投資需要が起こるとされている。この産出高1単位の増大のために技術的にどれだけの資本ストックの増加が必要となるかを示す係数が前記のνである。この原理によれば，一定の投資需要を維持するには，所得はたえず一定率で増大しなければならない。このように一定点にとどまるには，つねに駆け足をしていなければならないという逆説的性質こそ，この原理が経済体系の不安定化要因とみなされる理由である。この原理と乗数理論*を結合させて景気変動*の説明をしたのが，ハンセン*・サムエルソン*・ヒックス*らである。〔宮田重夫〕

かそくどびょう【加速度病】⇨乗り物酔い

かぞくりょうほう【家族療法】夫婦・親子，あるいは家族関係全体を治療することを目的とした精神療法*。夫（妻），父母を，妻（夫），子どもの精神療法と並行して治療する並行治療（面接）と，両者を同席させて行なう同席治療（面接），家族全員を同席させて行なう合同治療（面接）などがある。また家庭訪問による方法もあり，これらは主としてケース-ワーカー（→ケース-ワーク）によって行なわれる。

かそざい【可塑剤】合成樹脂・合成ゴムに可塑性*を与え，または増大させるために添加する物質。常温では分子間力が強くて可塑性をもたない高分子物質でも，可塑剤を加えると可塑性を生じ，いわゆる軟質製品とすることができる。古くはセルロイド中に含まれるショウノウがよい例であるが，最近では軟質の塩化ビニル樹脂*に使われるフタル酸ジ-2-エチルヘキシル（DOP）が生産量も最も多く，代表的な可塑剤といえる。可塑剤には，フタル酸ジエステル系で代表される低分子のものと，ポリエステル系統の高分子化合物のものとがある。可塑剤としては，もとの樹脂とよく混合することが必須（ひっす）条件であるが，さらに不揮発性・耐寒性・非移行性その他のきびしい性質が要求される。たとえば，軟質塩化ビニル樹脂（ビニルふろしきなど）で古くなると柔軟性が乏しくなるのは，可塑剤が揮発してしまったためであり，また，冬季，か



加曾利貝塚 発掘遺物が陳列されている収蔵庫

たくなるのも可塑剤の耐寒性がよくないためである。〔伊藤 卓〕

かそせい【可塑性】一般に，外力を与えると固体は変形し，ひずみを生ずる。外力の小さい間は外力を除くともとの形にもどる（弾性変形）が，外力が大きくなって降伏点を越えると，もう外力を除いてももとの形にもどらず，そのままの形を保持する。これを塑性変形といい，そのような変形を行なう性質を塑性，または可塑性という。一般に，金属のように降伏点の大きいものは，可塑性を呈するのに大きな力がいるが，粘土・石膏（せっこう）などを水で練ったものは降伏点が小さいので小さい力で可塑性を示す。ガラスやある種の高分子物質は降伏点がはっきりしないものの例で，温度によっては比較的小さい力で塑性を示す。特に，架橋されていない線状の合成高分子化合物で無定形のものは，熱を加えれば可塑性を生じるので（熱可塑性樹脂*），任意の形に成形できる。合成樹脂成形品を総称してプラスチック*（可塑体）とよぶのもこのためである。〔伊藤 卓〕

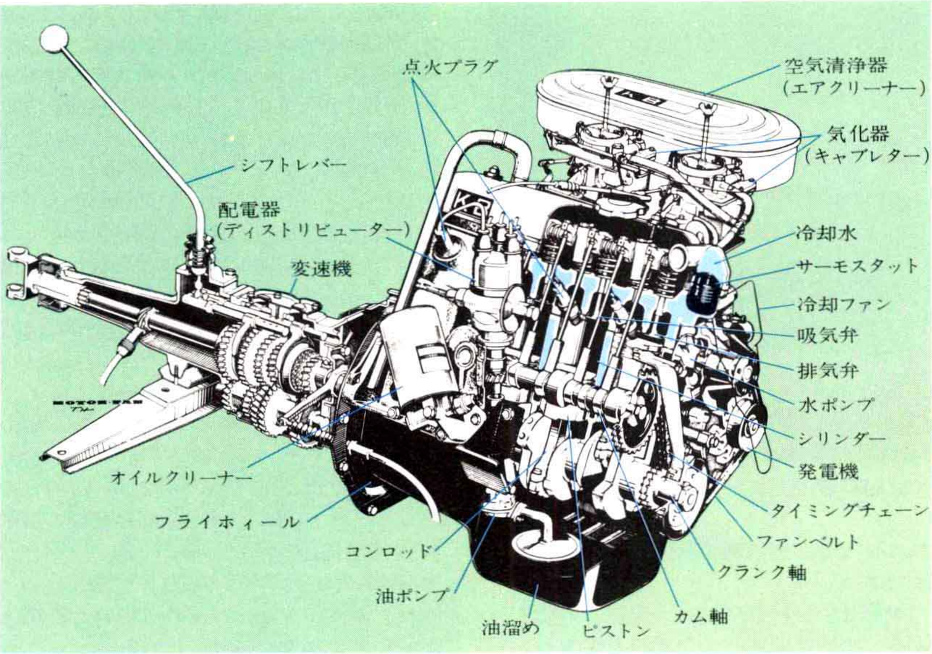
カソード ⇨真空管

カソーナ［Alejandro Casona］（1903～1965）スペインの劇作家。《陸に上がった人魚》の成功により劇界に不動の地位を築いた。1939年アルゼンチンに亡命。その後も《暁夫人》《漁夫なき舟》など，技巧的で夢と現実の微妙な調和を描いた作品を発表した。

かそりかいづか【加曾利貝塚】千葉市加曾利町にある縄文（じょうもん）時代の遺跡で，史跡に指定されている。東京湾東岸に沿う洪積（こうせき）台地上に位置し，東西約200m，南北約400mに及ぶ貝塚*が凸堤（とってい）状に集積して，2群の環状を形成している。広大な貝塚は測量調査のうえ，A・B・C・D・Eの各地区に分けられ，出土する土器は出土地区により加曾利B式，加曾利E式と命名され，縄文式土器*の編年的基準となっている。〔高崎徳次〕

ガソリン［gasoline］俗に揮発油とよばれる沸点約30～200℃の精製石油製品。自動車用または航空機（プロペラ機）用のガソリン機関燃料として用いられるが，量的には大部分が自動車用である。その化学的組成は炭素原子数5～11程度の各種炭化水素の混合物であるが，ガソリンとして最も重要な性質はアンチノック性*（オクタン価*）が高いことで，高オクタン価成分の芳香族や分枝状脂肪族炭化水素の含有量が多いものでなければ使用できない。1950年ごろまでは主として原油の蒸留（直留ガソリン*）や重油の熱分解（分解ガソリン*）によって製造されていたが，これらはオクタン価が低いため，現在では精製した軽質直留ガソリン（沸点約100℃以下）が一部ガソリン配合剤として使用されているにすぎない。ガソリンの大部分は重質ナフサ*のリフォーミング*（改質ガソリン*）で製造され，一部は軽油*の接触分解（接触分解ガソリン*），重油の水素化分解（水素化分解ガソリン）などで製造される。これらの操作では，いずれも触媒の作用によって高オクタン価成分に富むガソリンを生成し，改質ガソリンには芳香族炭化水素が，接触分解ガソリン・水素化分解ガソリンには分枝状脂肪族炭化水素の含有量が多い。これらのガソリンは適当に配合されたうえ，さらに四エチル鉛・四メチル鉛などのアンチノック剤*を微量添加してオクタン価を上げ，自動車用ガソリンでは並み級（規格オクタン価85以上）・特級（同95以上）の製品として市販される。一般に市販ガソリンのオクタン価は規格値より5以上高いのが普通である。また，航空機用ガソリンでは，特にオクタン価の高いアルキレート（合成イソパラフィン燃料）が配合される。なお，ガソリンには燃料用のほかに，ベンジン*・石油エーテル*など，おもに溶剤用に用いられる工業ガソリンがある。〔原 伸宜〕

ガソリンきかん【ガソリン機関】ガソリンを燃料とする内燃機関*。ガソリンを気化するための気化器と，混合気に点火するための点火装置をもっているのがその特徴。空気取り入れ口からはいった空気は，気化器のベンチュリー部でガソリンを吸い出し，これを気化して適当な空燃比（空気と燃料の重量比）の混合気となってシリンダーに吸入される。ピストンはこれを5～20kg/cm²の圧力に圧縮し，シリンダーヘッドに設けられた点火プラグに電気火花を飛ばして点火燃焼させる。高圧・高温の燃焼ガスは膨張して仕事をする。仕事量は気化器についている絞り弁（スロットル弁）を開閉して混合気の量を調節して加減する。圧縮比は5～10で，ディーゼル機関*より熱効率は悪く（20～25％），燃料経済性では劣るが，最高圧力が20～50kg/cm²と低いので比較的小形軽量にでき，回転速度を高くすることによって比出力（機関のシリンダー容積に対する出力の割合）を上げうる。自動車用，特に乗用車や小形車の原動機，航空発動機，農工用の小形機関に広く使用されている。4サイクル



ガソリン機関　トヨタ パブリカ　名称 SLKB-エンジン　形式 4サイクル水冷直列4気筒

機関が多く，2サイクル機関は，燃料経済性が悪いためシリンダー容積1,000cm³以下の小形のものにしか使われない。〔斎藤　孟〕

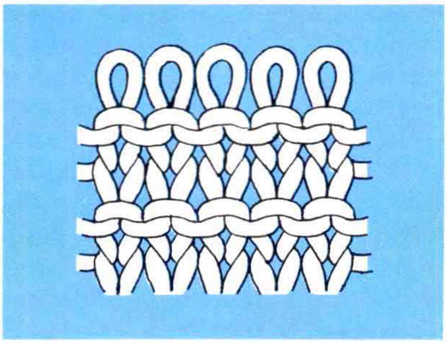
ガソリンじどうしゃ【ガソリン自動車】ガソリンエンジンを動力として走る自動車。1885年ドイツのゴットリーブとダイムラーが世界最初のガソリン自動車の試作に成功して以来急速に発達し，自動車といえばガソリン自動車をさすぐらいで，乗用車・小形トラックの大多数はガソリン自動車である。→自動車

ガソリンぜい【ガソリン税】⇨揮発油税

カーソンシチー［Carson City］アメリカ合衆国ネバダ州の州都。人口15,000(1970)。州の西端部にあり，南方のタホ湖によってカリフォルニア州と境を接する。州都としては寂しい町であるが，開拓時代には駅伝所として交通の要地を占めていた。

カーゾン-ライン［Curzon line］1920年4月ソビエト-ポーランド戦争の際に，イギリス外相カーゾンが勧告した両国の国境線。1919年12月連合軍最高会議が決定した。イギリス政府はこれをもってポーランドを援助し，新生ソビエトに干渉した。イギリス・フランスの援助でポーランドが再進撃し，1921年のリガ条約ではこの線以東の西ウクライナ・西白ロシア・ビレンシチナをも獲得した。しかし，1939年にはポーランドがドイツと交戦中にソ連は失地を回復し，ヤルタ会談*・ソビエト-ポーランド国境条約(1945)により，最終的にカーゾン-ラインを国境に確定した。〔山県弘忠〕

かだ【加太】和歌山市の北西部，紀淡海峡*(友ケ島水道)に臨む加太湾の沿岸地区。加太港は古くから漁港として栄え，タイの1本づりの本場として名高く，また，紀州



ガーター編み

と淡路・四国・山陽地方などを結ぶ要地であり，第2次世界大戦終結まで海軍の要塞(ようさい)地帯であった。風光美に恵まれ，自然の植物景観がよく保存されており，沖合いの友ケ島(地ノ島・沖ノ島の2島からなる)とともに瀬戸内海国立公園*に属する。加太国民休暇村があり，南海電鉄支線で和歌山市と連絡する。また，淡島信仰*の本宗で，世俗に婦人病の神として信仰された加太神社(淡島明神)がある。〔浅井得一〕

カーター［Howard Carter］(1873～1939) イギリスの考古学者・エジプト研究家。1892年ペトリー*のテル-エル-アマルナの発掘に加わり，また，カーナボン卿(きょう)の発掘にも参加した。考古学関係の仕事で，エジプト政府に仕えたこともある。彼の最も大きな業績は，1922年，エジプト第18王朝のツタンカーメン*王の墓を発見したことである。この王墓には，多数の副葬品がほとんど無傷のまま残されており，紀元前14世紀のエジプトの宗教史・生活史の解明上，貴重な史料を提供した。〔兼岩正夫〕

がた【潟】⇨潟湖(せきこ)

ガーター［garter］くつした留め。ゴムやゴム入りの布などを輪状にしてくつしたを留める。なお，ストッキングをつる留め金のついた帯状のものはガーターベルトといい，ファンデーションの一種だが，体型を整える機能はない。

かたあしとび【片足とび】一方の足をあげたまま，一方の足だけでとび走る子どもの遊び。東京付近では，チンチン・チンチンモガモガとよぶ。古くから全国的に分布し，方言も多い。唱えごとを伴うものが多く，鬼遊び・石けり・丸とび・相撲(すもう)などに利用されて，それぞれ一つの遊戯方法となっている。かつては戦場で実用の技芸であったのが，子どもの間に模倣されて，遊戯の一つとして残ったものと考えられる。

かたあて【肩当て】ひとえの長着・じゅばんの肩の裏に，補強のために縫いつけるあて布。多くさらしもめんを使う。透いて見える薄物のひとえにはつけない。

ガーターあみ【ガーター編み】棒針編み*の編み方の一つ。平面に編むときには毎段表編みをくり返し，丸編みの場合は表編み・裏編みを1段おきにする。編み目の組織は表裏の区別がなく，表編みの列はくぼんで裏編みの横に走る列に隠され，うねのように高低ができる。編み地は厚みがあり，たて方向の伸縮性に富み，横方向の伸縮は少ない。地編みとして多く使われ，またメリヤス編みのようにまるまらないので，えり・すそ・ポケット口・そで口などに用いる。工業用機械編み用語ではパール編みとよび，機械で編むときにはこの組織専用のものを用いる。〔山村あい子〕

かたうた【片歌】古代歌謡の歌体の一。5音・7音一連に7音を加えた〈5・7・7〉の音律の歌。古代の歌謡は，はじめ不定形であったが，しだいに5音・7音を基準として，いろいろの組み合わせの歌体を生じている。その最も単純なものが片歌である。相手に呼びかけることが多く，問答歌としてつくられた。片歌の唱和をひとりでつなぐと，六句歌すなわち旋頭歌*(せどうか)が生まれる。

カターエフ［Valentin Petrovich Kataev］(1897～　) ソ連の小説家。いわゆる同伴者*作家のひとりで，代表作《時よ，進め》は第1次5か年計画の社会主義建設を描いた長編である。また，1905年の革命を背景に子どもたちのめざめを描いた，中編《孤帆は白む》に始まる4部作《黒海の波》などの問題作がある。

かたおかけんきち【片岡健吉】(1843～1903) 政治家。土佐藩士族の家に生まれる。戊辰(ぼしん)戦争に参加，1871年(明治4)藩から選ばれて軍事研究のため欧米を視察，1872年帰国後西郷隆盛(たかもり)らの征韓論*(せいかんろん)を支持して官職を辞任。1874年林有造らと高知に立志社*を興し，自由民権運動*を展開した。1877年京都臨幸中の天皇に国会開設建白書を提出したが却下された。西

南戦争の際は，反乱に連座した罪で100日の禁錮(きんこ)に処せられた。1880年国会開設請願運動が展開された際には，国会期成同盟の総代に推され，その前後大阪愛国社大会議長・高知新聞社社長・自由党顧問を歴任。1885年キリスト教の洗礼を受けた。1887年地租軽減ほか三大事件建白運動の代表として上京し，保安条例違反で投獄されたが憲法発布で大赦。第1回衆議院議員選挙に当選，副議長・議長を歴任した。1902年地租増徴案で伊藤博文(いとうひろぶみ)総裁を非難し立憲政友会を脱党した。〔安達淑子〕

かたおかてっぺい　【片岡鉄兵】(1894～1944)　小説家。岡山県の生まれ。岡山県立津山中学校を終えたのち慶応義塾(けいおうぎじゅく)大学仏文科に在学したが，帰郷して新聞記者生活を転々とし，その間に《舌》を発表。1924年(大正13)横光(よこみつ)利一・川端康成(かわばたやすなり)らと同人誌《文芸時代》を創刊し，新感覚派の論客として活躍した。その後，1927年(昭和2)ごろにプロレタリア文学運動に加わって世人の注目を集めたが，活動のすえに下獄し，転向した。初期の代表作は《綱の上の少女》に収められている。〔池内輝雄〕

かたおかにざえもん　【片岡仁左衛門】　歌舞伎(かぶき)俳優。上方では最も古い家がらで，現在13世。屋号は7世以後松島屋。

[1]初世(1656～1715)　三味線(しゃみせん)ひきから俳優になり，敵役(かたきやく)の名人といわれた。

[2]7世(1755～1837)　中絶していた名跡を再興。

[3]8世(1810～1863)　7世の養子。和事を本領とし，女方・老役(ふけやく)も兼ねた。

[4]11世(1857～1934)　8世の4男，明治から大正・昭和にかけ，東京・大阪の両地で活躍した名優。和事・実事のほか新作にもすぐれ，晩年には老役が無類といわれた。

[5]13世(1903～　)　11世の長男。

かたおなみ　【片男波】　和歌山市街の南部，和歌浦につくられた砂嘴(さし)。和歌浦に注ぐ紀ノ川の分流和歌川の運搬する土砂が潮流によって河口近くにたまり，和歌浦丘陵から南へ約2,500mに及ぶ砂嘴が形成されたものである。砂嘴の裏側は潟湖(せきこ)となり，ノリの養殖が行なわれている。《万葉集》に歌枕(うたまくら)として〈潟を無み〉と歌われたのが地名のもとと思われ，古くから詩人に親しまれてきた。

かたかけ　【肩掛け】　⇨ショール

かたかな　【片仮名】　⇨かな

かたがみ　【型紙】　衣服を構成するときの基礎となる紙の型。パターンともいう。原型をもとにデザインを製図したもので，紙の上に平面に描かれてパターンとなるもの，布で立体的に操作されたのち平面に展開されてパターンになるものなどがある。個々で製図したもののほか，デザインとサイズの決まった実物大の既製型紙も市販されている。

かたかみのぶる　【片上伸】(1884～1928)　評論家・ロシア文学者。愛媛県の生まれ。号は天弦。早稲田(わせだ)大学文科卒。はじめ，《早稲田文学》の記者として自然主義文学のための論陣を張り，明治末期には唯美的・芸術至上主義的態度に転じ，1915年(大正4)のロシア留学を契機に人道主義・理想主義を説き，さらに晩年は唯物史観に基づく文学理論の確立をめざした。主著に《生の要求と文学》《文学評論》など。

かたきうち　【敵討ち】　主君や親兄弟などが殺されたとき，報復としてその家臣や子らが相手を殺すこと。仇(あだ)討ちともいう。近代法が制定される以前は古今東西を問わず公然と行なわれた。わが国での最も古い例は，《日本書紀》に記されている，眉輪王(まゆわのおおきみ)が父のかたき安康天皇を殺した事件であり，鎌倉時代における曾我(そが)兄弟が工藤祐経(すけつね)を討った事件は，《曾我物語》以下各種の物語・能・浄瑠璃(じょうるり)などに語りはやされた。江戸時代では，忠孝という封建的道徳や武勇を重んじ名誉を尊ぶ武士道的観念から，合法的なものとして認められ，かつ奨励された。その代表的事件が1702年(元禄15)の赤穂(あこう)義士の復讐(ふくしゅう)であった。江戸時代だけでもかたき討ちの件数は百余件あったといわれているが，実際にはこれよりはるかに多くの数になったであろう。はじめは武士のかたき討ちが多かったが，中期以後には百姓・町人などにまで及んだ。かたき討ちは，普通は被害者が討ち手の目上の者であったが，妻・子・弟妹などのためのかたき討ちも行なわれ，特に夫が妻と通じた男を討つことを妻敵(めがたき)討ちとよんだ。また交通の発達していなかった当時としては，国々を回ってかたきを捜すということは非常に困難なことで，運のよい者で2～3年，悪い者は20～30年，はなはだしいのは53年めに本望を遂げたという例もあった。またかたきを捜す途中で病死したり，場合によっては反対にかたきのために殺されたりすることもあり，これを返り討ちといった。また殺されたかたきのかたきとして討ち手がまたかたきとなる〈復敵(またがたき)〉なども起こったが，これは厳禁されていた。討ち手が幼少であったり，女子である場合，被害者に親密な者が討ち手を助けた。これを助太刀(すけだち)といい，1634年(寛永11)荒木又右衛門(またえもん)の助太刀によって渡辺(わたなべ)数馬が弟のかたき河合又五郎(かわいまたごろう)を討った事件は有名である。しかし1873年(明治6)に至ってかたき討ちは法律で禁止されてしまった。〔岡山泰四〕

かたきうちてんがちゃやむら　【敵討天下茶屋聚】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《天下茶屋》。6幕13場の時代物で奈河亀輔(ながわかめすけ)・奈河十輔らの合作。1781年(天明1)大阪角(かど)の芝居初演。大阪天下茶屋でのかたき討ち事件を題材にした作品である。東間三郎右衛門(さぶろうえもん)に討たれた早瀬玄蕃(げんば)の子伊織(いおり)・源次郎の兄弟が，奴(やっこ)の弥助(やすけ)とその兄元右衛門とともにかたきを捜して流浪するが，途中変心した元右衛門に苦しめられながらも，ついに本懐を遂げる。現在では4幕に改められ，元右衛門の演技によって生命を持続している。〔前田慎一〕

かたぎぬ　【肩衣】　⇨裃(かみしも)

かたぎぬはかま　【肩衣袴】　後世の裃(かみしも)の原形で，肩衣と袴とを組み合わせたもの。肩衣はそでなしの短衣で，素襖(すおう)のそでが邪魔になるので切り落としたものといわれる。そでなしは古くから庶民の間に着用されており，《万葉集》に〈布かたぎぬ〉とか，平安・鎌倉時代には〈手なし〉などの名で知られる。近世以後の肩衣は，小袖(こそで)の上に補助衣的に着用されたものをいう。形も，室町・安土桃山時代ごろの風俗画や絵巻物などに，下郎・小者などが袴の上にそでなしの上衣をつけた姿が見えるが，これが初期の肩衣袴の形態とみられる。江戸時代に武士の公服となって形式化し，肩衣と袴を共布で仕立て，裃へと発展していった。〔勝呂千枝〕

かたぎもの　【気質物】　江戸前期の浮世草子のうち，江島其磧(きせき)・八文字屋自笑などによる〈一気質・容気〉という題名の作品群をいう。うち《世間子息気質(むすこかたぎ)》は，町人の子息のさまざまな行状を短編小説的にまとめ，以後，娘・親仁(おやじ)・手代などが同じ手法で書かれた。人間の性別・年齢・階級それぞれに共通する性格を取り上げ，やや誇張して教訓的に描いた点はおもしろいが，西鶴(さいかく)の人間描写ほどの細かな鋭い分析はみられない。〔小池正胤〕

かたぎりかつもと　【片桐且元】(1556～1615)　安土桃山時代の武将。通称市正(いちのかみ)。近江(おうみ)(滋賀県)の人。豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，賤ケ岳(しずがたけ)七本槍(しちほんやり)(→賤ケ岳の戦い)のひとりとして有名。関ケ原の役後，豊臣秀頼(ひでより)の家老，摂津(大阪府)茨木(いばらき)城主となる。1614年(慶長19)京都方広寺の鐘銘問題などで淀殿(よどどの)らと不和になり，大阪城を脱出し，大阪の陣の端緒をつくった。夏の陣には徳川方に参加して，家康(いえやす)から所領四万石を安堵(あんど)されたが，まもなく没した。〔松尾　涼〕

かたぎりせきしゅう　【片桐石州】(1605～1673)　江戸初期の大名。石州流茶道の開祖として知られる。父は片桐貞隆(さだたか)。且元(かつもと)のおいにあたる。初名貞俊(さだとし)，のちに貞昌(さだまさ)と改む。徳川幕府に仕え，1624年(寛永1)，従五位(じゅごい)下，石見守(いわみのかみ)に叙任。大和(やまと)(奈良県)小泉一万六千四百石を領した。茶道を千道安の高弟桑山宗仙(そうせん)に学ぶ。号は宗関。1665年(寛文5)，小堀(こぼり)遠州のあとを受

け，徳川将軍家の茶道師範となる。晩年に隠棲(いんせい)した小泉(大和郡山(やまとこおりやま)市)の慈光院の数寄屋(すきや)・書院・庭園は遺跡として知られ，名勝・史跡に指定されている。〔桑田忠親〕

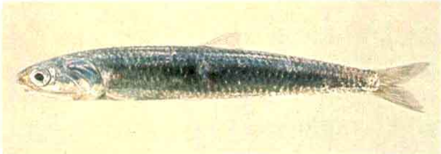
かたく　【花托】　花床ともいう。花の柄(花梗(かこう)という)の先端で，がく・花弁・めしべ・おしべのつく部分。一般にはアブラナのように花の柄の先端がわずかにふくらんでいるものが多いが，球状・棒状・扁平(へんぺい)に広がったものなどもある。イチゴ・イチジクなどでは，これが発達してくだものとして食される部分になる。

かたくじんね　【荷沢神会】　(670～762)　中国，唐代の禅僧。荷沢宗の祖。おくり名は真宗大師。襄陽(じょうよう)(湖北省)に生まれ，14歳で出家，六祖慧能*(えのう)に参じて法を得た。714年南陽(河南省)龍興(りゅうこう)寺に住し，のち洛陽(らくよう)に出て，北宗禅に抗して慧能の南宗禅を宣揚した。743年荆州(けいしゅう)(湖北省)開元寺の般若院(はんにゃいん)に住し，さらに曹州(そうしゅう)(山東省)荷沢寺に禅院を建てた。著書に《壇語》《南宗定是非論》《問答雑徴義》などがある。〔田中良昭〕

かたくそうさく　【家宅捜索】　裁判所・裁判官または捜査機関が，証拠物件を発見するために住居など使用中の建造物に立ち入って捜索*すること。原則として裁判官の発する捜索令状を必要とする。例外として，現行犯*の逮捕，逮捕令状の執行などの場合に，司法警察職員などが逮捕の現場において行なう捜索・差し押え*は令状を要しない。なお，捜索の範囲は，必要最小限度にとどめるべきことはもちろん，捜索にあたっては，原則として，家人・家主・隣人などの立会人を置くことを要する。夜間(日出前・日没後)の家宅捜索には，令状に夜間でも執行することができる旨の記載がなければできない(例外として，旅館・飲食店など夜間公開され，公衆の出入りする建物については記載がなくともできる)。〔井上公耳〕

かたくちいわし　【片口鰯】　硬骨魚類・カタクチイワシ科。15cmほどの海産魚。背は濃い青緑色，腹面は白い。マイワシ*よりも細長く，口が大きく裂ける。死ぬと背が黒くなるのでセグロイワシともいう。シコイワシという名もよく使われる。日本全土の沿岸に分布し，産額が非常に大きく，重要魚である。煮て干した〈煮干し〉はだしとして重要であり，そのまま干した〈田作り〉(ゴマメともいう)は正月に欠かせない。塩干しもよくみかける。新鮮なものをたたいて〈だんご〉にしたものもうまい。〔菅野　徹〕

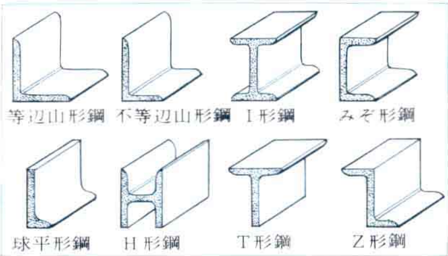
かたくらけんたろう　【片倉兼太郎】　(1849～1917)　片倉製糸の創始者。長野県出身。1873年(明治6)長野県諏訪(すわ)町で製糸業を始め，1895年片倉組を設立。製糸業を中心にして，薪炭会社・貨物輸送会社など多角経営に乗り出し，有力な地方財閥をつくりあげた。さらに晩年には林業経営に力



カタクチイワシ



カタクリ



形　鋼

を注ぎ，全国いたるところに農場を開いた。彼の死後，実弟光治が2世兼太郎を継ぎ，片倉組を改め，片倉製糸紡績株式会社(現社名片倉工業)を設立。〔片岡一郎〕

かたくり　【片栗】　単子葉植物・ユリ科。山野の林内に自生する多年草。日本全土・サハリン(樺太(からふと))に分布。長楕円(ちょうだえん)形の白色の鱗茎(りんけい)がある。早春に2枚の葉を出し，葉の間から20cmほどの花茎を伸ばして，淡紅色の花を一つつける。花被片は披針(ひしん)形で，強くそりかえる。鱗茎は良質のデンプンを含み，かたくり粉*をとる。鱗茎は煮ても食べられ，花や若葉も食べられる。

かたくりこ　【片栗粉】　本来は，カタクリの鱗茎(りんけい)からつくったデンプン。5～6月ごろ掘り出し，石うすでひきつぶしてもめんの袋でこし，水洗い・精製してつくる。生産が少量で高価なので一般には用いられず，わずかに東北地方に名菓の材料として用いられているにすぎない。一般に〈かたくり粉〉として市販されているのは，ほとんどジャガイモのデンプンである。

ガーターくんしょう　【ガーター勲章】　イギリスの最高勲章。1348年ごろエドワード3世が制定した。騎士道精神をたたえて，はじめは軍功のあった者に授与され，皇帝と騎士26人に限られていた。19世紀に叙勲の対象は拡大され，外国の元首や皇族にも贈られることになった。勲章は左ひざにつけるガーター・頸飾(けいしょく)・星章・マントなどからなる。

かたけずりばん　【形削り盤】　ラムという水平方向に往復運動をする部分の先端にバイト*を取り付けて，工作物の表面を削り取るようにした工作機械*。工作物を取り付けたテーブルは，ラムの1往復ごとに横に移動するように送りが掛けられ，この運動とバイトをハンドルで上下に移動させることによって，種々の断面形状のものをつくりだす。小物の加工に便利である。

かたこう　【形鋼】　特殊な断面形にした棒状の鋼材。構造用形鋼は炭素鋼が大部分で，主として転炉・平炉・電気炉でつくられた鋼塊を圧延して製造される。断面形状により山形鋼(断面形状がL形の鋼で，辺の長さが等しいものを等辺山形鋼，他のものを不等辺山形鋼という)，I形鋼(断面形状がI形の鋼)・みぞ形鋼(断面形状が匚形の鋼)・球平形鋼(平鋼の一縁の片側に突起をつけた形の断面を有する鋼)・H形鋼(断面形状がH形の鋼)などに分けられる。〔長谷川正義〕

カタコム　⇨カタコンベ

かたこり　【肩こり】　筋肉の過緊張や血行状態の不全などによって，頸部(けいぶ)から両肩や背部にかけて圧迫感・疲労感を覚える症状をいう。おもに自覚的症状で，他覚的には症状の認められないことが多いが，僧帽筋上縁部などの筋肉に圧痛が起きたり，硬結(こり)ができたりすることもある。原因としては，単一なくり返し労働の結果起こるものが多いが，そのほか胸部疾患・胃疾患・高血圧症・変形性脊椎症(せきついしょう)・骨粗鬆症(こつそしょうしょう)などの際にもみられる。また女性では閉経期のホルモンの不均衡によって起こることが比較的多い。近年は，むち打ち症の後遺症としても数多くみられる。ただ，いわゆる四十肩や五十肩の部分症状としてはあまりみられない。治療としては，温熱・マッサージ・頸牽引(けいけんいん)などの理学的療法や，筋弛緩(きんしかん)剤・精神安定剤・鎮痛剤・末梢(まっしょう)血行改善剤・各種ビタミンなどの投与および適度の体操を行なう。また原因疾患がある場合には，その治療によって回復を図ることができる。〔荻野幹夫〕

カタコンベ　[catacombae]　地下につくられた初期キリスト教徒の墓所。ローマ近郊に多くみられるが，ナポリ・シラクサ・小アジアなどにも残る。古くは1世紀ごろからみられるが，3～5世紀が最盛。5世紀以降，墓は地上につくられた。地下10～15mの所に幅1m，高さ2mぐらいの縦横の通路があり，壁面に死体を納める穴が整然とつくられた。市街地の地下につくられたものが多く，元来はローマ政府当局の建設許可によってつくられた。ローマの法律では墓所を犯すことは禁じられていたので，キリスト教徒迫害時代には，教徒はここに

隠れてひそかに礼拝した。アッピア街道にあるサン-セバスチアーノ教会堂のカタコンベが特に有名である。壁面には古代神話の人物・動植物などのほか,《旧約聖書》に題材をとったフレスコ画がある。その多くは象徴的な意味をもち,キリストを示す羊飼いや魚,聖霊を示すハトの絵などが多く,中世絵画の象徴主義のもととなったといわれる。〔高山高雄〕

かたさ【硬さ】ある物体が他物体によって変形を与えられようとする場合に示す抵抗。ふつう,金属材料のかたさは,材料にある程度の塑性変形,すなわちくぼみを与え,その度合いによって測定される。しかし,変形を与える条件が異なれば,同じ材料でもその値が異なってくるので,絶対単位では測定することができず,測定方法を明記したうえで用いられる比較値である。各種の測定方法が日本工業規格(JIS)で規定されているが,これによって測定した種種のかたさの値の間には近似的関係があるだけで,理論的な関係は明らかではない。一般にかたさの大きいものは摩耗に対する抵抗が強く,摩耗しやすい部分にかたさの大きいものが使用される。鉱物のかたさはふつうモースの硬度計によって測定される。➔硬度計〔山根雅巳〕

かたさしけん【硬さ試験】⇨材料試験

かたしながわ【片品川】群馬県北東部を南西に流れ,沼田盆地で利根(とね)川に合流する川。流程56km。水源は奥日光,尾瀬沼南の山地で,上流には菅沼(すがぬま)・丸沼・尾瀬沼・尾瀬ケ原などの景勝地やひなびた温泉があり,会津街道が川沿いに尾瀬沼に通じているので,重要な尾瀬探勝路になっている。本・支流を合わせて14の発電所がある。

かたしろ【形代】紙や板でつくられた厄(やく)のがれの人形(ひとがた)。大祓(おおはらえ)をする際,人間の汚れや災いをこれに背負わせ,身代わりとして川や海へ流した。雛(ひな)人形や因幡(いなば)(鳥取県)・美濃(みの)(岐阜県)に残る流し雛もこの形代の一種である。

カタストロフィー［catastrophe］ギリシア語のカタkataは上から下への動きの意味を含む接頭語で,ストロフェstrophēは転回の意味をもつことば。〈破局〉〈大詰〉〈大団円〉などと訳される。一般に物事の結末が悲惨な結果に陥ったときに使うが,文学や演劇用語では複雑にからみ合った筋が最後に解決する場面をさす。

かたすべり【肩滑り】ウールなどのひとえ長着の肩の裏に,すべりをよくして着やすくするためにつける肩あてで,絹・レーヨンなどすべりのよい布を使う。

かたせ【片瀬】神奈川県藤沢市の南部地区で,隣接する鵠沼(くげぬま)とともに湘南(しょうなん)地方の代表的な保養地。相模(さがみ)湾に注ぐ片瀬川の河口付近に中心集落があり,東浜・西浜の砂浜海岸は,〈東洋のマイアミ〉とよばれる海水浴場で,西浜には水族館・マリンランドなどの施設がある。江の島の入り口にあたり,小田急電鉄江の島線・江の島鎌倉観光電鉄・国道134号線・湘南有料道路が通ずる。龍ノ口(たつのくち)は鎌倉時代の刑場で,日蓮上人(にちれんしょうにん)法難の地,文永・弘安(こうあん)の役の際の元の使節の処刑地として知られ,日蓮宗龍口(りゅうこう)寺がある。〔浅井得一〕



カタコンベ　サン-カリストのカタコンベにある石棺《ダニエル-カナの奇跡とラザロの復活》





カタツムリ
(上)ミスジマイマイ
(下)ヒダリマキマイマイ

かたぞうむし【堅象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科に属するこん虫の総称。いずれも鞘翅のスクレロチン化が進み堅固であるが,カタゾウムシ類では著しい。一般に前胸と中胸の間で内方に著しくくびれた種類が多く,外見上ひょうたん形を呈するものが多い。日本本土には産せず,沖縄諸島に数種が知られ,台湾以西の熱帯地方には多くの種類が知られている。

かたぞめ【型染め】文様染め技法の一。①木版・銅板の型を用いて文様を押す,②文様を彫り抜いた型紙を用いて糊(のり)防染して染める,③機械捺染(なっせん)による,の3種がある。①は,正倉院の臈纈(ろうけち)にあり,臈防染めによる技術はわが国に限らずインド更紗(さらさ)・ジャワ更紗などにもみられる。また,木版を使用し染料をすりこむすり絵も型染めの一種で,室町時代の蛮絵といわれる遺品がある。②の方法の発生は不明であるが,平安～鎌倉時代の鎧(よろい)の染革に型紙の使用がみられる。室町～桃山時代には小紋系の細かい型染め,散らし文様ふうのもの,色数を多く用いたものなど,江戸時代の型染めの母形があったことが知られる。③は,今日のプリント類である。型染めは型によって織物のように斉一(せいいつ)な文様をつくり,また量産性があるという特徴があり,小紋・中形などはこの特質を生かしている。〔勝呂小枝〕

かたたがえ【方違】方塞・方忌などともいう。目的地の方角が金神(こんじん)・天一神(なかがみ)・太白神の巡遊の座位にあたると,忌むべき方角として直接その方向に行くことを避け,前夜に別方向に進んで一泊し,翌日その方向から目的地へ行くことをいう。このような例は平安時代の物語や日記類に数多くみられ,幅広く信じられていたが,中世末から近世になるにしたがってしだいに形式化した。しかし,地方によってはいまなお信じられている。この風習は道教信仰に由来するものである。〔渡辺欣雄〕

かたたんぞう【型鍛造】鍛造には自由鍛造と型鍛造とがあり,自由鍛造は簡単な用具を用い,材料を金敷の上で加圧・成形するが,型鍛造では正確な製品形状の上・下金型間に加熱された素材を入れて,ハンマー類やプレス機でたたいて所要寸法のものにする。金型材としては,一般にニッケル・クロム・モリブデン系の合金が多く使用されている。この加工法の利点は,製品形状にばらつきがなく,寸法精度が高いこと,仕上げ面が良好で,成形後の加工をあまり必要としないこと,結晶粒の流れが整っていて,微細な粒子の強靭(きょうじん)な組織が得られること,歩どまり率が高いこと,などである。〔秋枝哲児〕

カタック［Cuttack］インド共和国東北海岸の都市。人口19万4,000(1971)。カルカッタの南西350km,マハナジ川デルタの頂点に位置し,ベンガル湾岸の交通の要点となっている。銀の細線細工で名高い。歴史的にはヒンズーの諸王,ムガール朝・マラータ族により次々と支配され,さらに1803年イギリス領となった。1947年インド独立とともにオリッサ州の州都となったが,1953年に州都は南隣のブバネスワールに移った。〔別技篤彦〕

かたづまもよう【片褄模様】下前のつま先だけに,えり下20cmぐらいの高さで,前すそに低く斜めに置いた模様で,江戸の末から明治の末まで女性の紋付き長着に染め,中年以上に使われた。江戸後期のきびしい奢侈(しゃし)禁令から目だたぬ模様が好まれたもの。大正以後すたれた。

かたつむり【蝸牛】軟体動物・腹足綱・柄眼目のコハクガイ・ベッコウマイマイ・ニホンマイマイ・オナジマイマイの各科に属する陸生の巻き貝を一般にカタツムリ・マイマイ・デンデンムシという。北陸・近

畿(きんき)・中国・四国にすむオトメマイマイなどの殻径(かくけい)3mm内外の小形種から，中部山岳地帯にすむクロイワマイマイなどの殻径6cmほどの大形種まで，多数の種類が含まれる。

殻(から)はヒダリマキマイマイなどのごく一部の種類を除いて右巻き。低い円錐(えんすい)形で，そろばん玉のような形のものが多い。わずかであるが高い円錐形の種類もある。殻の色は，濃淡の違いはあってもほとんどがかっ色で，帯のように殻を取り巻く黒いしま(色帯)のある種類が多い。すべて雌雄同体であるが，普通は2個体が交尾して，互いに精子と卵を交換する。しかし，まれに自家受精の起こることがある。体はナメクジ状で，伸縮自在の1対の触角と，その後ろに同じく伸縮自在の1対の長い柄の中に納まった目がある。外套腔(がいとうこう)の一部が肺の作用を営むように変化しているので，直接空気を呼吸する。カタツムリは，気温が降下したり，空気が乾燥すると，殻口に薄い膜を張って活動を停止する。さらに条件が悪くなると，二重・三重に膜を張って眠る。地中の線虫を食う肉食性のベッコウマイマイ科を除き，ほとんど草食性である。

カタツムリにかぎらず，陸産の貝には一般に地方的変異が多く，地方によって普通に見られる種類が異なっていることが多い。カタツムリでは，関東の平地に最も普通に見られるものは殻径3.5cmほどのミスジマイマイ，関西では殻径3.5cmほどで殻の口に赤みのあるクチベニマイマイが普通種である。殻径2.5cmほどで殻の特に薄いウスカワマイマイと殻径1.5cmほどのオナジマイマイはほぼ日本全土に分布し，関東・中部の平地には殻径4.5cmほどのヒダリマキマイマイも普通にみられる。〔菅野　徹〕

かたな　【刀】　⇨刀剣

かたなかじ　【刀鍛冶】　刀剣を製作する専門鍛冶。刀工・刀匠ともいう。古くは，鉄の生産から刀剣の製作に至るまで一貫作業であったが，のちには製鉄(大鍛冶)と鉄製品をつくる作業(小鍛冶)との分化がなされた。小鍛冶のうち，刀剣専門鍛冶はかなり早い時期に分化し，鎌倉時代には鉄処理の技術の進歩もあって，各地で刀鍛冶は大いに栄えた。特に，山城(京都府)・大和(やまと)(奈良県)・相模(さがみ)(神奈川県)・美濃(みの)(岐阜県)・備前(岡山県)が刀鍛冶の生産地となり，〈五ケ伝〉といわれた。室町時代には，さらに新しい生産地も生まれ，刀鍛冶の移住や渡り職人的な他地での製作も行なわれ，槍(やり)の製作も多く，束刀・数打物といった粗悪品も目だった。桃山期にはいって，新刀(慶長以後の刀剣)の時期には，大名の城下町に刀鍛冶が集中し，ある者は藩の抱工(かかえこう)となり，京都・大阪・江戸など各地で栄えた。〔小笠原信夫〕

かたながり　【刀狩り】　中世以来各地で，民間の武器を領主が没収すること。一般には，1588年(天正16)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が命じた刀狩り令が有名。これは全国の社寺・農民から武器を没収し，来世の供養になるという名目で大仏建立(こんりゅう)のくぎ・かすがいなどの製造にあてた政策である。当時農村の土豪一揆(いっき)などに悩まされていたため，その根絶を図り，さらに兵農分離*を促進するために役だった。



カタバミ　花と果実

カタニア　［Catania］　イタリア，シチリア島東岸の都市。人口39万8,000。シチリア第2の都市で，冬の保養地として有名。絹・リネンなどの繊維工業や食品加工業が盛んである。天然の良港に恵まれ，オレンジ・レモンなどの果実やイオウなどを集散し積み出している。市は紀元前8世紀に建設されたギリシア人の植民都市であるが，北方にそびえるエトナ山(3,263m)の噴火と地震によってたびたび被害を受け，当時の町並みはほとんど破壊された。現在の市街は18世紀の再建である。11世紀末の寺院や，1434年の創立というシチリア最古の大学など歴史的建造物が多い。〔梶川勇作〕

かたの　【交野(市)】　大阪府北東部，生駒(いこま)山地の北部から交野台地にかけてあり，1971年(昭和46)市制施行。人口60,000。1970～75年の人口増加率は56.5％で，大阪府の市町村中最高である。産業三大別人口比は3：45：52。米・ミカン・モモなどの農業地域であったが，国鉄片町線と京阪電鉄交野線が通じているので，大阪市の衛星都市となった。大阪市立大学付属植物園がある。

かだのあずままろ　【荷田春満】　(1669～1736)　江戸中期の国学者。国学の祖として，本居宣長*(もとおりのりなが)らとともに国学四大人のひとりと数えられる。京都の伏見稲荷(いなり)神社の祠官(しかん)信詮(のぶあき)の次男。《万葉集》《古事記》《日本書紀》など広く古典を研究したが，その中心は古語の解釈にあった。弟子(でし)賀茂真淵*(かものまぶち)らにみられるように，〈古道〉すなわち古代の精神の解明を行なったものではないが，古道を知る基礎作業として語釈が必要であると考えた。彼の思想的立場は十分に知ることはできないが，京都に国学の学校を設立すべきことを幕府に請願した《創学校啓》に邪説横行を正すため〈皇国の学〉を興し，わが国の古典を研究する必要性を説いている。また《日本紀神代巻劄記(さっき)》には古代の精神を〈本朝の道〉〈神祇道(じんぎどう)〉という語で表わしている。研究方法でも，儒学の古文辞学派と通じるところもある。上代の古典研究の基礎を開いた功績は大きい。〔熊谷保孝〕

かだのありまろ　【荷田在満】　(1706～1751)　江戸中期の国学者。荷田春満*(あずままろ)の養子となり，春満から継承した有職(ゆうそく)故実*の学をもって田安宗武*(むねたけ)に仕官した。《国歌八論》を書いて，整然たる理論で伝統墨守の歌壇に新古今調を称揚し，宗武・賀茂真淵*(かものまぶち)と論争を交え，歌道革新の風潮を醸成した。

かたはずし　【片外し】　江戸時代中期ごろから御殿(大奥)の女性が結った髪形。中世以後，貴族や武家の婦人たちは，自然の下げ髪が伝統とされていたが，民間で前髪・びん・たぼのある結髪(後世の日本髪)が行なわれるようになった。このふうが御殿にも影響を及ぼし，髪を巻き上げて笄(こうがい)で留め置く髪形が生まれた。その笄の一方をはずした形を片外しという。笄を抜けばもとの下げ髪になることが特徴である。

かたばみ　【酢漿草】　双子葉植物・カタバミ科。スイモノグサともいう。日本全土のいたるところにみられる多年草。根の上端から茎が四方に伸びて地面をはい，よくはびこる。葉は長い柄があり，倒心臓形の3小葉からなり，色は赤から緑までさまざまである。春～秋，花びらが5枚の径8mmほどの黄色い花をつける。葉と花は夜間は閉じる。果実は円柱形で自然にはじけ，種子を飛ばす。シュウ酸を含み，酸味があり，料理のつまにする。葉はしんちゅうみがきにも使われた。紋章の酢漿草や剣酢漿草はこの葉をもとに図案化したものである。

カタパルト　［catapult］　本来はヨーロッパで古代から使われていた石弓の意。現代では艦船上から飛行機を至近距離で発進させるための射出機をいう。そのしくみは，15～25mの軌条上を走る台車に飛行機を置き，飛行機のエンジンを全力回転させながら滑走車を急速に前方に走行させることにより，飛行機を浮揚させるもの。1920年ごろイギリス・アメリカ・イタリア各海軍で実用化され，わが国でも1928年(昭和3)カタパルトによる最初の飛行機発進が行なわれた。第2次世界大戦までに各種の艦船に広く装備され，動力源としては圧縮空気または火薬が用いられた。戦後は，ジェット機の発進のために，航空母艦の飛行甲板上に長大な蒸気カタパルトが装着されるようになり，一方，航空母艦以外の艦船からカタパルトは姿を消した。〔藤井冬木〕

かたびら　【帷子】　袷*(あわせ)に対してその片々(かたひら)の意で，ひとえもの*の総称。中世は麻の汗取りで，束帯*や衣冠*のはだ着に用いた。色目*は夏が赤，冬は白，老人は香色を着た。大帷子といって，下襲*(したがさね)のえりとそで口を取り付けて双方を兼ねたも

のもある。また，模様のあるものや，紋のついたものも出現した。江戸時代にはいると，武家では夏に白帷子の上に直垂*(ひたたれ)や大紋*を着，裃(かみしも)のときも白帷子で登城してよかった。また民間では夏の礼服に麻の帷子を着ている。帷子地には一般に薩摩(さつま)上布・越後(えちご)上布を最上とする。帷子は帳(とばり)に用いる布帛(ふはく)の意もあって，これには夏は生絹(すずし)，冬は練り絹を用いた。〔稲垣史生〕

かたびろとげとげ【肩広棘棘】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長5mm内外，背面は全体黒色，腹部はかっ色，触角と脚は黄かっ色。触角は糸状。前胸背板の前縁角に先端で2分枝する1本の直立した歯状突起があり，外縁には3本の鋭い歯状突起がある。鞘翅は中央部でやや内方にくびれ，全体は俵状を呈し，外縁部全体に大小の鋭い歯状突起が多数あり，各鞘翅に4本の断続した隆起列があり，大きな点刻が密にある。肩部の隆起は最も顕著で，5～6個の小さい歯状突起を備える。本州・九州に分布し，幼虫はクヌギなどの葉肉内に潜入して食害する。

かたぶとん【肩蒲団】寝具の一種。長方形の掛けぶとんは，肩によく巻きつかないで肩が寒い。これを補うために使う，たけ30～40cm，幅130cm内外の薄めの綿入れふとん。首のはまるように，半円形に刳(く)りを入れるなどくふうされたものがある。

かたほりばん【型彫り盤】小形の棒状のフライス*型彫り用エンドミルを回転させて，鍛造やプレス作業に用いる型を模型にならってつくるための工作機械*。一種の〈ならいフライス盤〉である。模型にならう代わりに，穴あき，または磁気テープで制御を行なうものもつくられている。

カタマランせん【カタマラン船】普通の船は船体の胴の部分が一つであるが，胴体部二つを2列にもって，その上に橋形に上部構造物を設備した船。双胴船ともいう。安定性がよく，波の干渉効果によって抵抗を少なくする設計も可能で，遊覧客船やフェリーボートなどに用いられる場合が多い。なお，双胴型のボートをカタマラン型ボートというが，これは形が大きくなると船体強度の点で問題が多い。

ガーダミス［Ghadames］アフリカ大陸北部，リビア共和国西部の砂漠(さばく)中にあるオアシスの町。人口13,000(1966)。城壁を巡らし，内部には回教寺院があり，隊商の中継地で，皮革製品・絨毯(じゅうたん)などの手工業が行なわれている。

かたみわけ【形見分け】故人の遺品を親類縁者らに配ること。そでわけ・あかつき・おてよごし・すそわけなどともいう。故人の着用した衣服などの中に霊魂が宿ると考える観念から生まれた習慣と思われる。現在でも広く各地にみられる。一方，所務分けとよぶ地方では，故人が生前できなかった親類縁者への財産の分かち合いを意味するようになった。



帷　子　手箱雪輪秋草模様帷子　東京国立博物館蔵



カタマラン船



カタヤマガイ



片山　潜

かたむき【傾き】傾斜面などで水平距離に対する高さの比をいい，勾配(こうばい)ともいう。また，一次関数*のグラフでも，同様に，直線がx軸の正の向きとなす角をαとするとき，$m=\tan\alpha$をその直線の傾きという。直線の式を$y=mx+b$の形とすれば，xの係数mはこの直線の傾きを示す。

かたむきざん【傾山】九州山地の北部，大分・宮崎県境にある山。標高1,605m。祖母山の山群のうち，東につらなる連峰の一つで，やや傾きかげんの突出した峰をもつ。古生層からなる山容は祖母山とともに険しく，森林美と渓谷美(けいこくび)で知られ，一帯は祖母傾国定公園に指定されている。西のふもとにはスズを産する豊栄鉱山がある。

かためのうお【片目の魚】社寺の池や沼に片目の魚がすむという伝説。片目の魚の由来は，行基*が料理した魚肉の残りを池に捨てたのが1片ずつ片目のフナになったとか，すがめの女が入水して片目の魚となったとか，鎌倉権五郎が戦いで傷ついた片目を池で洗ったためなどと語られている。このような伝説を生むに至った理由には，神供の魚は川から取ったものを直ちに供えるのでなく，当分の間，社寺の池に放っておく風習があったためで，これを普通の魚と区別して片目をつぶしておいたものと考えられる。片目と神との関係は，神がゴマやアサなどで目をついて片目になったという言い伝えによるものであろう。〔山路勝彦〕

かだやし ⇒タップミンノー

かたやまがい【片山貝】軟体動物・腹足類・イツマデガイ科。ミヤイリガイともいう。殻高(かくこう)7mm，殻径3mmほどの細い円錐(えんすい)形の巻き貝で，殻(から)はかたくかっ色で光沢がある。螺層(らそう)(横から見たときの殻巻きの数)は8階。山梨県・広島県福山市北方・福岡県筑後(ちくご)川下流域など分布が限られている。田のみぞや浅い流れにすむ。日本住血吸虫*の中間宿主として有名である。水辺の草むらで冬眠する習性があるので，そのような場所を焼き払ったり，コンクリートで固めてしまうなどして防除に努めている。カタヤマガイの名は古くから日本住血吸虫の被害で知られた広島県神辺(かんなべ)町片山に，ミヤイリガイは日本住血吸虫の幼生セルカリアがこの貝を中間宿主とすることを突き止めた宮入慶之助にちなんだもの。〔菅野　徹〕

かたやません【片山潜】(1859～1933)労働運動家・社会主義者。岡山県の貧農の子に生まれる。1881年(明治14)上京。1884年アメリカに渡ってエール大学などに学び，社会主義者となって1896年に帰国した。翌年労働組合期成会*を創立して機関紙《労働世界》の主筆をつとめた。1901年安部磯雄(あべいそお)・幸徳秋水・西川光次郎らと社会民主党を結成したが，即日禁止された。のち幸徳や堺利彦(さかいとしひこ)らの直接行動派と離れ，西川とともに社会改良主義を唱え



片山東熊
1909年に竣工し，現在迎賓館として改装中の旧赤坂離宮

た。1911年東京市電労働者の大ストライキを指導して投獄され，出獄後の1914年(大正3)アメリカに亡命した。ロシア革命の影響を受けて共産主義者となり，1921年モスクワにおもむき，コミンテルン(→インターナショナル)役員として国際共産主義運動に活躍した。日本共産党の創立を外から指導してモスクワで死んだ。〔岸野淳子〕

かたやまづおんせん【片山津温泉】石川県加賀市片山津町にある温泉。泉温68〜71℃，泉質は含塩化土類弱食塩泉で，胃腸病にきくとされ，〈胃腸・疝気(せんき)は片山津〉の里謡がある。日本海に近い柴山潟(しばやまがた)の岸に湧出(ゆうしゅつ)し，観光客でにぎわう。温泉地としての開発の歴史は浅いが，山代(やましろ)・粟津(あわづ)・山中とともに北陸四大温泉の一つとして名高い。越前(えちぜん)海岸国定公園に属する。北陸本線動橋(いぶりはし)駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

かたやまてつ【片山哲】(1887〜1978) 社会主義政治家。和歌山県の生まれ。東京大学法科卒業後，弁護士となる。クリスチャンで，早くから安部磯雄(あべいそお)に師事し，穏健な社会民主主義の立場から労働運動に関係していた。日本労働総同盟の法律部長などになっていたが，普通選挙法が公布されると無産政党の合法的な議会進出をめざした。1926年(大正15)社会民衆党の書記長となり，1930年(昭和5)の総選挙で衆議院議員に当選。次いで1932年無産政党右派を結集した社会大衆党の執行委員となった。第2次世界大戦下には院内の同交会に属して，翼賛選挙の〈推薦制度〉に反対を表明した。戦後日本社会党の結成とともに書記長，次いで委員長となり，1947年日本最初の社会主義政権として社会党内閣を組織して首相となった。片山内閣は保守政党の民主党・国民協同党との連立内閣であったため，独自の社会主義政策を行なうに至らず，党内左派の攻撃を受けて9か月で総辞職した。のち総選挙で落選し委員長を辞任。日本社会党が分裂してからは右派社会党に属したが，1955年社会党の合同がなると同党顧問に推された。1960年脱党して民主社会党に参加し，その最高顧問になった。その間憲法擁護運動・平和運動・禁酒運動の推進に努めていたが，1964年政界を引退し，現在に至っている。〔高崎徳次〕

かたやまとうくま【片山東熊】(1854〜1917) 建築家。山口県の生まれ。1879年(明治12)工部大学校(東京大学工学部の前身)卒業後，明治皇居の造営など宮内省関係の建築に従った。ルネサンス様式の作風で，旧赤坂離宮が代表作。

かたやまびょう【片山病】⇨日本住血吸虫

カタラウヌムのたたかい【カタラウヌムの戦い】シャロンの戦いともいう。451年，アッチラの率いるフン族とヨーロッパ軍との戦い。アッチラ軍のガリア(フランス)侵入に対し，西ローマ皇帝バレンチヌス3世はアエチウスを派遣し，西ゴート王テオドリックやバンダル族・フランク族の援助を受けて，パリ東方のカタラウヌム(現在のシャロン-シェル-アルヌ付近)の野でアッチラ軍を破った。この戦いでテオドリックは戦死した。西ヨーロッパの運命を決した戦いといわれる。

カタラーゼ［catalase］過酸化水素2分子から2分子の水と1分子の酸素を生ずる反応を触媒する酵素。フランスの化学者テナールによって1834年に発見された。分子量約23万。ペルオキシダーゼの一種として分類され，補欠分子族としてプロトヘムをもつヘムタンパク。ペルオキシダーゼは水素供与体AH_2を過酸化水素H_2O_2の存在下で酸化する酵素で，

$$AH_2 + H_2O_2 \longrightarrow A + 2H_2O$$

の式で表わされる反応を触媒する。カタラーゼにおいては水素供与体もH_2O_2である。カタラーゼは好気的生物のほとんどで見いだされ，非常に強いH_2O_2分解能力をもっているが，生体内にはそれに相応するH_2O_2産生系が見いだされず，その生理的機能は不明だった。最近，動物の肝臓などから一重膜でおおわれた小胞体(ペルオキシゾーム)にカタラーゼの局在していることが発見された。この小胞体中ではカタラーゼがH_2O_2以外の水素供与体を酸化する能力をもつようになる。その後植物からもペルオキシゾームが発見され，同様の機能をもつことが知られた。植物では，グリコール酸代謝経路において葉緑体の系とミトコンドリアの系をつなぐ位置にあると考えられている。〔原野友之〕

カタリナ［Catharina Alexandrina］生没年不詳。4世紀ごろの殉教者。聖女。キリスト教迫害時代，ローマ皇帝マクセンチウスの前でキリスト教を弁護し，多くの哲学者を改宗させたという。のち，皇后にキリスト教徒となるように勧めたため車裂きの刑にあったが，祈りによって車輪は粉粉にこわれたため，斬首(ざんしゅ)となったと伝わる。また，さまざまな伝説的物語がつくられており，絵画の題材ともなっている。

カタリナ［Catharina de Siena］(1347〜1380) イタリアのドミニコ会修道女。しばしば神秘的な体験をし，その聖性により多くの信奉者を集めた。ローマ教皇グレゴリウス11世にアビニョンからローマへの復帰を説得して成功。またグレゴリウスの死後，教皇庁の大分裂の際にウルバヌス6世を断固支持し，その地位の確保に尽力するなど，社会的にも大きな影響力をもっていた。主著に《対話》がある。

カタリは【カタリ派】12世紀から13世紀，西ヨーロッパで広まったキリスト教異端の一派。〈清浄派〉ともよばれる。12世紀ごろ西ヨーロッパでは社会的繁栄とそれに伴う退廃的風潮の中で聖職者層の堕落が著しく，このため聖職階級制を否定する異端が数多く生まれた。中でもマニ教に由来する二元論(精神を善，物質を悪とし，この世を善悪の永遠の相克とみる)をその特徴的な教義とするカタリ派は多くの信徒を得，南フランス・北イタリアでは一時カトリックをしのぐほどの勢力をもった。13世紀，異端粛清運動とドミニコ会の活動によりその勢力を失ったが，完全に姿を消したのは15世紀初めであった。〔牧野信也〕

かたりべ【語部】記録法の発達しなかった古代において，諸事跡を口唱で語り伝えることを職とした部(べ)。《古事記》《日本書紀》の神話も語部により語り伝えられたとも考えられるが，確かではない。《延喜大嘗祭式(だいじょうさいしき)》によれば，美濃(みの)(岐阜県)・丹波(京都府・兵庫県)・丹後(京都府)・但島(たじま)(兵庫県)・因幡(いなば)(鳥取県)・出雲(いずも)(島根県)・淡路(兵庫県)の諸国から召され，大嘗祭(おおにえのまつり)の儀式に古詞を奏したとある。〔柳雄太郎〕

かたりもの【語り物】日本伝統音楽の分類用語。歌い物の対。表現の目的が文学的な物語の展開であるため，多くの場合半旋律的なレシタチーボふうの語りの技法が使われる。代表的な曲種は義太夫節(ぎだゆうぶし)・一中節・河東節・宮薗節(みやぞのぶし)・新内節・常磐津節(ときわずぶし)・富本節(とみもとぶし)・清元節などのいわゆる浄瑠璃(じょうるり)と，平曲・謡曲・説経節・琵琶楽(びわがく)・浪曲などである。歌詞の抑揚・アクセント・表現内容が重んじられるので，リズムや韻律法に特徴がある。〔山口　修〕

カタル［catarrh］カタル性炎ともいい，粘膜に起きた浸出性炎の一型。粘膜は生理的に粘液分泌を営んでいるものであるが，この型の炎症のときには粘膜組織の壊死(えし)・破壊をきたさずに分泌(浸出)の異

常に亢進(こうしん)した状態となる。分泌亢進が粘液のときは粘液性カタル，漿液(しょうえき)のときは漿液性カタル，膿性(のうせい)ならば膿性カタルとよばれる。粘膜上皮の剝離(はくり)・充血・炎性水腫(すいしゅ)・好中球の遊出を伴うこともある。カタルは〈下に流れる〉の意で，病的に生じた液体が鼻腔(びこう)や口腔に流れ下るという意味がある。〔中原義行〕

カタール　［Qatar］　アラビア半島東部，ペルシア湾に突き出た半島を占める小国で，イギリスの保護を受けているアラブ首長国連邦に属していたが，1971年9月1日に完全独立を宣言，ハリファ副首長が初代首相に就任した。イギリスとの外交関係は従来の特別条約にかわって，新しく友好条約を締結した。面積11,000km²。人口22万(1978)のうち，約20％は近辺諸国からの労務者である。首都ドハ。ほとんど砂漠(さばく)からなり，海岸で真珠養殖が行なわれていたが，1939年に油田が開発されて，現在は世界産油量の約1％を採油している。

カダル　［Kádár János］　(1912〜　)ハンガリーの政治家。前ハンガリー社会主義労働者党第1書記。第2次世界大戦中反ナチ抵抗運動を指導した。1948年左翼ブロック内閣の内相。1951年チトー主義者のかどで投獄されたが，1956年2月ソ連の〈非スターリン化〉により自由を回復し，ナジ*内閣の国務相となる。しかし，ハンガリー動乱*の際にナジ政府から脱退。ソ連の支持を得て革命労農政府を樹立し，1956〜1958年，1961〜1965年，首相をつとめた。〔山県弘志〕

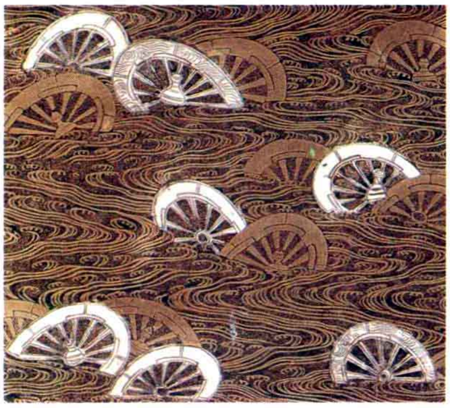
ガダルカナル(島)　［Guadalcanal］　南太平洋，ソロモン諸島中の島。イギリス領。面積6,500km²。人口約14,000(1948年推)。密林におおわれ，東西にカボ山脈が走り，ポポマナシュ山(2,440m)がある。ココヤシのプランテーション*と牧牛を営む。メラネシア人とポリネシア人の混血である原住民のほかに，少数の白人と中国人がいる。1568年スペインの探検家A.ネイラが発見，1860年以後白人商人が移住した。1893年他のソロモン諸島とともにイギリスの保護領になる。第2次世界大戦中の1942〜1943年に島をめぐって日本軍とアメリカ軍の間に激戦がくり返された。アメリカ空軍のヘンダーソン飛行場がある。➔ソロモン諸島

カタルシス　［katharsis］　〈浄化〉〈排泄(はいせつ)〉を意味するギリシア語。カタルシスはオルペウス教(➔オルフィズム)における密儀の重要な理念であったが，プラトン*はこれに倫理的な意味を与え，真のカタルシスは魂を肉体や激情(パトス)から解放することであるとした。これに対し，アリストテレスは，悲劇は恐怖や悲しみの情をひき起こし，さらに観客の情緒を清め高める〈カタルシス〉の効用をもつと説き，悲劇や叙事詩などの芸術性が〈カタルシス〉にあるとして，芸術論に大きな影響を与えた。

カタルシス　［catharsis］　精神分析*用



カタロニア地方　サンクルス付近の風景。地中海岸の丘陵地特有のテラロッサとよばれる紅色土が広がり，果樹や野菜が栽培されている



片輪車文　東京国立博物館蔵の蒔絵螺鈿手箱部分

語。意識下に抑圧された心のシコリをなんらかの方法で外部に表出させ，それによって病状の軽快をはかろうとする治療法の一。浄化法ともいう。催眠術(➔催眠)を利用して，はじめてこの方法を用いたのはオーストリアの神経病医ブロイエルであるが，フロイト*は，さらに催眠術による効果には限界があることから，技法として自由連想法を取り入れて成功した。これが精神分析学の発端となった。〔片山義郎〕

カタレプシー　［catalepsy］　患者の手足を他動的に動かしてある姿勢をとらせると，その姿勢を異常に長く保っている現象。緊張病(➔精神分裂病)症候群にみられる。蠟細工(ろうざいく)の人形のようでもあるので，蠟屈症ともいう。催眠*状態でも同様な現象が出現し，これもカタレプシーとよばれる。

カタログ　［catalogue］　商品を求める見込み客に対して商品の説明をし，その価値を訴えることによって購買意欲を起こさせることを目的とした小冊子。商品目録・営業案内をさし，型録とも書かれる。商品の販売促進に不可欠な部分を占め，その優劣は企業のあげる利潤を左右する。このためもあって，特に編集・デザイン・印刷などに注意が払われ，商品の印象を鮮烈にするための方法が試みられている。

カタロニア(地方)　［Catalonia］　スペイン北東部，ピレネー山脈によってフランス国境と接する地方。東は地中海に面し，西と南はアラゴン・バレンシアの地方に接している。バルセロナなど4州からなる。ピレネー山脈南側斜面の起伏の激しい土地であるが，海岸部や谷間の低地は肥沃(ひよく)で，ブドウ・オリーブ・野菜が栽培されている。特にぶどう酒の生産は名高く，スペインの産出量の3分の1を占める。ここを流れるエブロ川は，灌漑(かんがい)と水力発電によって農・工業をささえている。地下資源は，石炭・鉄・岩塩などがあるが，全般に乏しい。工業は，スペイン第2の都市バルセロナに織物・紙・機械・ガラス・化学工業がみられる。沿岸部はギリシア・ローマ時代から貿易が盛んで，14世紀ごろのカタロニア商人はジェノバやベネチアの商人と肩を並べたという。一般に，南部のカスチリア人に比べて活動的な気風がある。

カタロニアびじゅつ　【カタロニア美術】⇨ロマネスク美術

かたわぐるまもん　【片輪車文】　代表的な和風文様の一。牛車(ぎっしゃ)の不用なとき，はずした車輪の乾燥を防ぐために流水につけた景から考案されたとする説や，車輪の別名を流水ということから，自然の流水の文様を借りて人生流転の相を表わしたとする説もある。流水の姿に照応させて，車輪の一方を流れるように形象化した意匠力の感覚は光彩を放ち，手箱・衣装・鏡など工芸品一般に広く扱われている。

かたん　【賈耽】　(730〜805)　中国，唐の政治家。字(あざな)は敦詩(とんし)，滄州(そうしゅう)南皮(河北省)の人。徳宗の信任を受け，節度使から宰相に抜擢(ばってき)されて，憲宗による中興に布石した。後世には政治家としてよりも地理学者として名高く，《古今郡国県道四夷述》40巻をはじめとする多くの地理書があり，ことに《海内華夷図》1軸は，中国における方眼図法の基礎を築いた地図として知られている。

かだん　【花壇】　一定の場所に花を配植して建物を引き立たせ，あるいは庭そのものを美しくして，人間に美的満足感を与えるものをいう。したがって花壇は，そのつくられる場所によって趣をことにする必要がある。たとえば駅前広場などのように，見る人がたえず流動する場所では，大胆なはでな花壇，図書館や病院などの花壇は慰安を与えるような落ち着きのあるものが適する。家庭園では各人の好みによってつくればよい。いずれにしても，たえず花壇を美しく飾るには多くの経費と労力が必要である。〈花壇の種類〉①形式による分類：㋑もうせん花壇(たけの低い花をもうせんのように咲かせる花壇)，㋺縁取り花壇(建物・道路・池・川などに沿って細長くつくる花壇)，㋩境栽花壇(建物や道路などの境に設ける花壇)，㊁寄せ植え花壇(数種の花を寄

せ植えにして集合の美を表わす花壇)など。②植え込み材料による分類:㋑1～2年草花壇，㋺宿根草花壇，㋩球根花壇，㊁花木花壇，㋭水栽花壇，㋬高山植物園。③季節による分類:春・夏・秋・冬花壇。④設置場所による分類:㋑室外花壇，㋺室内花壇，㋩屋上花壇。⑤植物の種類による分類：キク・バラ・シャクヤク・ボタン・ダリアなど。

花壇をつくる場合には，用いる花の草たけ・葉張り・開花期・開花持続期間などをよく調べ，たけの高いものは後方に，低いものは前方に植える。花時計では特に草たけに注意し，夜間花が閉じるものを避ける。〔小杉　清〕

カタンいと　【カタン糸】　もめんの縫い糸。コットン糸のなまり。主としてミシン縫いに用いる。多く三子撚糸(ねんし)・六子撚糸で，漂白・染色し，のりづけ加工・ロウびき加工をして仕上げる。太さは，太いほうから8番・20番・60番・100番などの各種がある。一巻きの長さは家庭用では100 m・200 m・400 m・500 m・700 m・1,000 mの区分がある。なお手縫い用・手編み用のものもあり，ソフト仕上げしたものもある。

カタンガ(州)　[Katanga]　アフリカ大陸中部，コンゴ民主共和国南部の州。人口約209万7,000(1969推)。コンゴ盆地南部の山地を占め，面積約50万km²。赤道地帯の内陸であるが，高度1,000 mを越える山地なので気温は年平均約20℃，乾季・雨季の別があり，住みよい地域となっている。銅をはじめ金・ダイヤモンド・コバルト・スズなどの豊富な埋蔵があり，同国の鉱産物の約60%を産出している。また第2次世界大戦後，世界最大のウラニウム鉱山が開発されたことで有名。有用鉱産が多いために国際的利害が対立し，同国独立の際にもこの州は分離独立運動を企て，内戦までひき起こした。〔小栗　宏〕

かたんちゅうてつ　【可鍛鋳鉄】　もろい白*銑を長時間熱処理して強靭(きょうじん)性を与えたもの。白心可鍛鋳鉄・黒心可鍛鋳鉄，およびパーライト*可鍛鋳鉄に分けられる。白心可鍛鋳鉄は白銑を脱炭して延性をもたせたものであり，破面が白いためこの名がある。黒心可鍛鋳鉄は白銑を黒鉛化して延性をもたせたものであり，パーライト可鍛鋳鉄は黒心可鍛鋳鉄の組織をパーライトとして，延性よりはむしろ強度・硬度をもたせたタイプである。〔長谷川正義〕

かち　【価値】　経済学上，価値とは商品の価値のことをいう。商品の価値は質的に一様で，量的にのみ異なるという性質のものであり，使用価値とともに商品の2要因の一つをなす。使用価値とは，その商品が人間のなんらかの欲望を満たすことのできる有用性のことであり，この人間の欲望の充足という側面からみれば，ある財貨の効用はそれを使う人により，また，財貨の種類によっても異なるので，効用の客観的測定は不可能である。したがって，使用価値は商品の交換を成立させる契機をなすものではあっても，交換比率を規定するものではない。ある一定量の商品がそれと引き替えに他の一定量の商品を入手できるという〈値うち〉が商品の交換価値であるが，こうした交換価値を規定する背後にあるものが価値であり，交換価値はその背後にある価値の現象形態にほかならない。この価値の実体は〈抽象的人間労働〉であり，価値の大きさはその商品に含まれている抽象的人間労働の分量によって決まる。この分量は労働時間によってはかられ，労働時間を長く必要とするものほど多くの価値をもっている。しかし，この労働時間は個々の商品生産者が個別的に費やす労働時間によってはかられるものではなく，社会的平均必要労働時間によってはかられる。この社会的平均必要労働時間とは，現存の社会的・標準的な生産諸条件と，労働の熟練および労働強度の社会的平均度とをもって，なんらかの有用物を生産するために必要とされる労働時間のことである。個々の商品生産者が個別的に費やした労働時間によってはかられる価値を個別的価値といい，社会的必要労働時間によってはかられる価値を社会的価値とよぶ。ある商品の現実的価値は個別的価値ではなく，社会的価値である。しかし，各商品はそれぞれ相異なる生産条件のもとで生産されるのが現実である。したがって，同一種類の商品でもそれぞれ相異なる個別的価値をもって生産される。より具体的・現実的には，その商品種類の大部分を供給する企業における商品の個別的価値が社会的価値を規定することになる。このような場合，その大部分の商品の個別的価値が市場価値を規定する。市場価値とは社会的価値のより具体的な実在形態のことであり，この市場価値(＝社会的価値)と個別的価値との差が特別剰余価*値である。〔常盤政治〕

かち　【徒士】　江戸時代の下級武士の一。江戸幕府では，将軍出行のとき徒歩で従い，行列の先導・警備をつとめた。平常は城の玄関・中の口・廊下などに詰め，非常に備えた。諸藩においても同様なものが置かれていた。

かちいろ　【褐色・勝色】　色名。藍(あい)染めの濃い色。アイを〈搗(か)つ〉(うすでつく)ところから〈かち色〉といったと思われ，〈褐〉〈勝〉はあて字であろう。いずれにしても今日の〈かっ色〉とはまったく異なった色である。かちん色ともよばれ，のちには武具の色として好んで用いられた。なお，上代においては，〈褐〉は粗布衣またはその材料であるアサをさしたり，その布の色である黄かっ色をさしたりしたようである。かち色と同様な藍染めの色の系としては，ほかに紺*色・納戸(なんど)*色・縹(はなだ)*色・藍*色などがある。〔武井邦彦〕

カチオンせんりょう　【カチオン染料】　⇨塩基性染料

かちかちやま　【かちかち山】　動物昔*話の一。畑で豆まきをしているじいさんを，切り株の上のタヌキがからかったため，これをいけどり，ばあさんにあずける。タヌキは人のよいばあさんをだまして殺し，婆汁(ばばじる)をつくってじいさんに食わせて逃げる。悲しむじいさんのかたき討ちに，ウサギがタヌキの背負う柴(しば)に火打ち石で火をつけたり，タヌキを泥舟(どろぶね)に乗せて沈ませるという筋で，類話は全国に多い。かちかち山の名称はウサギの使った火打ち石の音に由来するといわれている。この話の中には，祈願儀礼，神の在所としての切り株，各地で伝えられるタヌキ・オオカミ・サルといった山の神の使者としての動物，日本の昔話によくみられる爺(じじ)・婆(ばば)という司祭者などの諸説話と，南太平洋諸島社会に伝えられる土舟を沈めて相手を溺死(できし)させる説話との2系列からなっており，山と川の舞台的背景の相違などもあわせて複合説*話の代表的なものである。〔渡辺欣雄〕

かちがらす　【勝烏・勝鴉】　⇨カササギ

かちく　【家畜】　ふつう家畜とは，ゾウなども含めて人間になれて飼育されているすべての動物を意味しているが，狭義にはこれらの動物のうち，さらに人間の保護のもとで繁殖され，かつ乳・肉・卵・毛・役力などの生産によって経済生活に役だつように育種された動物をさす。家畜に属するものには，哺乳(ほにゅう)類・鳥類・魚類・こん虫類があるが，鳥類は特に家禽(かきん)ともよばれる。また，日本ではこれらのうち，哺乳類・鳥類およびミツバチが畜産業上の家畜として扱われ，魚類は水産業，カイコは養蚕業で扱われる。畜産業上の家畜のうち，畜力を利用するものを役畜，乳・肉のような消費財を生産するものを用畜という。

最初に家畜化された動物はイヌであり，約12,000年前といわれている。ウシ・ウマ・メンヨウ・ブタなどは6,000～8,000年前，ニワトリは3,000～4,000年前に家畜化されたといわれる。家畜化の動機は，一度捕えて飼育しておけば危険を冒して狩猟をしなくとも，必要なときに食肉としたり，宗教儀式に用いうると気づいたことによると考えられている。家畜は野生動物を素材として，経済性を目的として育種してつくりだされた動物であるから，その祖先とは外観は似ていても，いろいろの面で異なったものとなっている。そのおもな変化は，体型の変化，早熟化，繁殖力の増大，性質の温順化などであり，また同じ種の中でも利用目的・風土などにより多くの品種に分化したことなどもあり，これらの諸変化が総合されて家畜と野生動物との決定的な違いである生産力の大きな差が生じた。以上のような有用な変化とともに，病気にかかりやすくなったり，粗悪な飼料が利用できなく

なるなどの変化が起こったので，家畜を飼う場合には飼育技術を研究することが必要となり，畜産学が起こった。生産力の最高記録として，乳量ではアメリカ合衆国で1年間に19,416kg，1日の最高乳量約70 l を出した乳牛があり，また，産卵数では日本で1954年(昭和29)に1年間に365個を産んだニワトリがでた。

日本に多い品種は，乳牛では黒白斑(こくはくはん)の毛色のホルスタイン，ブタでは白毛で耳の小さく直立した中ヨークシャー，白毛だが耳が大きくたれているランドレース，黒毛のバークシャーなど，ニワトリでは羽毛の白い白色レグホンである。別に，ニワトリには尾羽が8mもある長尾鶏があり，特別天然記念物に指定されて世界的驚異とされるなど，独特の観賞用鶏種が多い。また，肉牛としての和牛は肉質のよいので有名である。これらは，日本の家畜育種のすぐれた成果である。〔森田琢磨〕

かちくえいせいしけんじょう 【家畜衛生試験場】 農林省に所属する試験場。各種家畜・家禽(かきん)の伝染病の調査・試験・研究をして予防法を決定し，各種予防液・血清・診断液の研究・製造・配布を行なっている。1921年(大正10)に設けられた農林省獣疫調査所がその前身であり，現在の名称となったのは1947年(昭和22)である。本場は東京都小平市にあり，北海道(札幌(さっぽろ)市)・東北(青森県七戸(しちのへ)町)・北陸(柏崎(かしわざき)市)・中国(兵庫県和田山町)・九州(鹿児島市)に支場がある。〔岡田十九郎〕

かちくでんせんびょう 【家畜伝染病】 家畜の伝染病には，各家畜に特有なもの，家畜に共通なもの，人にも共通するものなどがある。公衆衛生に及ぼす影響が大きく，また非常に急速・広範囲に発生して，畜産・農業経営に多大の損害を与える。伝染病が一度発生した地域は，常在地となってたえず発生しやすくなる。種類はきわめて多いが，そのうち特に被害が大きく，人にも感染するものなど28種(口蹄疫*(こうていえき)・狂犬病*・ブタコレラ*・結核*など)について，家畜伝染病予防法によって届け出義務を定めている。〔岡田十九郎〕

かちぐり 【搗栗】 クリの実を乾燥してから，うすでつき，殻(から)と渋皮を除いたもの。カチ(カツの連用形)は〈うすでつく〉の意味の古語であり，その〈カチ〉という音を借りて〈勝栗〉とも書き，縁起を祝って新年その他祝儀(しゅうぎ)に用いられる。

かちけいたい 【価値形態】 商品は価値*と使用価値の二つの要因をもつ。使用価値は直接これを認識することができるが，価値は他の商品との交換関係においてしか認識されない。たとえば，x量のA商品の価値はy量のB商品に等しい(x商品A＝y商品B)という関係によって示される。このように他の商品の使用価値で商品の価値を表現する姿を価値形態という。価値形



ガチョウ
シナガチョウのかっ色種と白色種

態は，x商品A＝y商品B，という単独で簡単な価値形態にとどまらず，x商品A＝y商品B，または＝z商品C，または＝u商品D，または＝……というように，無数の他の商品の諸使用価値によって表現される〈拡大された価値形態〉をとる。さらに，この拡大された価値形態を逆転させ，諸商品のそれぞれの価値をすべてx商品Aで表わす〈一般的価値形態〉を得る。この一般的価値形態の一般的等価物として，自然的属性によって金という商品が選ばれ，貨幣となる。こうして，貨幣の出現によって商品の価値が価格によって表示される〈貨幣形態〉が成立する。貨幣形態は価値形態の展開の完成形態にほかならない。〔常盤政治〕

かちてつがく 【価値哲学】 ⇨価値論

かちどきばし 【勝鬨橋】 東京都を流れる隅田(すみだ)川(荒川の下流)の最下流の橋で，可動橋*の一種の跳開橋である。中央区築地(つきじ)6丁目と，同じく勝どき1丁目(月島)の間にかかっており，1940年(昭和15)完成，幅25m，長さ246m。橋の中央の44mの部分が両開き跳開橋になっており，70°の角度まで開くことができ，大形船舶の通航を可能にしている。毎朝7時から70秒間開くのを原則としていたが，最近は大形船舶の通行の減少と自動車交通の激増のために，ほとんど開かれることがない。〔浅井得一〕

がちゃがちゃ クツワムシの俗称。鳴き声に由来する。➔クツワムシ

かちゅう 【華中】 ホワチュン 中国本土中部の地方。北は淮河(わいが)，南は南嶺(なんれい)，西は楚西(そさい)山地に及ぶ揚子江中・下流の本・支流域一帯をいう。行政的には，上海(シャンハイ)特別市と江蘇(こうそ)・浙江(せっこう)・安徽(あんき)・江西・湖北・湖南の各省を含む地域である。温暖多雨で平野が多く，古来穀倉地帯として著名であった。さらに，茶などの産も多く，また養蚕も盛んで，絹織物その他の伝統的な工業が行なわれた。揚子江を交通の大動脈として河川交通が発達し，鉄道・自動車道路の発達も顕著である。清(しん)末以来，揚子江を経由して外国資本の侵入が活発に行なわれ，中国で最も経済的に進んだ地域となって，鉱工業・商業も活況を呈し，上海・武漢・南京(ナンキン)・蘇州・南昌(なんしょう)など大都市の発達が促進された。しかし，反面これらの事情は，この地域が従来大土地所有制の発達が著しかったこととあいまって，住民の革命意識を呼び起こすこととなり，毛沢東を生み，中国共産党草創期に江西省にソビエト地区を建設するなど，新中国の揺籃(ようらん)の地となった。〔船越昭生〕

カチューシャのうた 【カチューシャの唄】 歌謡曲の曲名。1914年(大正3)芸術座*がトルストイ原作の《復活*》を上演した際，劇中で松井須磨子*(すまこ)が歌い，大流行した。作詞は島村抱月と相馬御風，作曲は中山晋平(しんぺい)。〈カチューシャかわいや，別れのつらさ〉で始まり，旋律的には第4・第7音を抜いた長音階である。レコード20,000枚を売り，歌謡曲の最初の曲となった。

がちょう 【鵞鳥】 鳥類・ガンカモ科。野生のガンを家畜化した水鳥。主として肉用に飼育される。ヨーロッパ原産のものはハイイロガンを家畜化したもので，フランスで発達したツールーズガチョウ，イギリス・ドイツで飼育されるエムデンガチョウがあり，いずれも性質は温和である。日本で飼育されているものは，中国原産のシナガチョウで，これはサカツラガンを家畜化したものである。ヨーロッパ原産のものに比して小形であり，頭部の前端にはこぶ状の突起がある。白色種とかっ色種があり，日本には白色種が多い。外敵に対する警戒性がきわめて強く，大きな鳴き声を出すので番犬の代用にされることがある。

かちょうが 【花鳥画】 東洋画の画題。原則的には花と鳥を主題に，山水画*・人物画とともに最も多く描かれる。細分すれば花卉(かき)・翎毛(れいもう)(家畜や家禽(かきん))・草虫などになり，わが国では花木というべき主題のとり方が重要である。また，山水と合わせて山水花鳥の内容になる場合もある。彩色画で楷体(かいたい)描法のものと，水墨画で行・草体描法のものに大別されるが，彩色画は装飾画として最も喜ばれる。中国では，遺作のうえでは六朝(りくちょう)ごろまでに花鳥的主題をさかのぼれるが，五代に蜀(しょく)の画院の黄筌*(こうせん)と江南の処士であった徐熙*(じょき)とが出て，唐以来の花鳥画を集大成した。おのおの富貴・野逸とよばれる画風を確立し，以後中国の花鳥画はこの2画風を軸として展開する。宋(そう)時代には，両者を総合した徽宗*(きそう)皇帝をはじめとし李迪*(りてき)・李安忠*・馬遠*ら，元時代には銭選*・王若水ら，明(みん)時代には辺景昭・呂紀*(ろき)・林良らなど，すぐれた花鳥画家がいるが，清(しん)以降は水墨の花卉図などに佳作がみられる。わが国では奈良時代かからの遺作はあってもつねに中国画の影響を受け，鎌倉末期以降は宋元画の流入に伴って漢画花鳥が盛んとなり，特に桃山期には花鳥・花木図の全盛期を迎えた。室町末期以降は明代花鳥画の筆法が輸入されてい



狩野山楽《花鳥図襖》妙心寺天球院蔵





(左)雪舟《花鳥図屏風》部分
(右)馬麟《梅に小禽図》

花鳥画

るが，襖(ふすま)・屏風(びょうぶ)を主とする遺作にはわが国独自の装飾画風が強く感じられる。江戸時代以降には，草花図を好んだ琳派(りんぱ)のように花鳥画を手がける流派は無数にあり，現在もこの伝統はなお続いている。〔中島純司〕

かちょうはんい　【可聴範囲】　⇨音

かちょうまい　【加徴米】　荘園*(しょうえん)・公領において正税*・年貢*(ねんぐ)のほかに徴収される米のこと。加徴の語は10世紀末からみられる。鎌倉幕府成立後，諸国の荘園・公領に設置された地頭*の中には，先例によって加徴米を徴収する権利をもつ者もあったが，承久(じょうきゅう)の乱後，新補地頭*が置かれると，得分の先例のない者に対して得分の規定が定められ，1223年(貞応2)地頭給田のほか1反あたり5升の加徴米の徴収が認められた。〔鈴木英雄〕

カチリナ　[Lucius Sergius Catilina]　(BC108～BC62)　古代ローマの政治家。ポンペイウス*のアジア遠征中に反乱を起こし，ローマのコンスル(執政官)となる。スラ*が行なったように富裕者を公敵として死刑にし，その財産を奪おうと企てたが，キケロ*らの努力で危機は除かれ，カチリナはエトルリアにのがれたが追討軍のため敗死した。共和政末期の政治・社会の退廃ぶりを示す事件で，キケロの演説やサルスチウスの著作《カチリナ内乱史*》が残る。〔高山高雄〕

カチリナないらんし　【カチリナ内乱史】　紀元前1世紀中葉ごろ活躍したローマの政治家サルスチウス*の作。BC43年出版。有名なカチリナ*の陰謀の全貌(ぜんぼう)を書いたもの。哲学的序文に続いて陰謀のすべてを明らかにし，共和政末期の社会的危機を具体的に叙述している。実際には数か月の事件を1年以上に引き延ばしたり，日付けの歪曲(わいきょく)はみられるが，記述は生き生きとしており，特に人物描写にすぐれている。

かちろん　【価値論】　価値*とはもともと事物の値うちであり，経済学上の概念であったが，19世紀末からその意味・用法が拡大され，哲学上重要な概念となった。一般に〈よい〉〈望ましい〉〈美しい〉〈尊い〉と判断され，その実現を要求される事物，あるいはそれらに共通の特性を意味する。これはしかし，古来広く善とよばれてきた積極的なプラスの価値であって，これに対して否定的なマイナスの価値，すなわち反価値や無価値が立てられる。また，価値には大小・高低の程度があり，道徳的・美的・学問的・宗教的・政治的などの部類に応じた価値がある。さらに目的としての，それ自身における価値と，手段としての道具的価値が区別されることもある。

こうした価値の本性を問い，価値判断の意味や妥当性，事実判断との関係を研究するのが価値論である。これは次のように分類できる。①価値は経験的にとらえることができるとする立場。ある事物が価値をもつとは，その事物が楽しまれる，関心の対象となる，欲求される，あるいは欲求を満足させるということだとされる。これには一定の条件が付されねばならないとする主張をも含めて，この立場は自然主義とよばれ，ペリー*・デューイ*・ルイスらに代表される。②価値を存在・事実の領域から区別し，主観から独立に実在する独特の性質とみる立場。価値判断は事物がこのような性質をおびているかどうかによって客観的に真偽を決定されうるが，それは直覚によって自明的であるとされる。直覚主義とよばれ，シジウィック・ムーア*・ロスらを代表者とする。③価値判断はその本性において事実を記述するものではなく，したがって認識ではないとする反記述主義あるいは非認識説。これには，価値判断を情緒や欲求，態度の表現としてなんら客観的な妥当性を認めないエイヤー*・ラッセル*・スチブンスンらの情緒主義と，語の用法から価値表現を選択・勧告・禁止・命令の働きとしてとらえ，これには認識の領域における論理とは別の論理によって合理的に正当化されうると考えるヘア・トゥルマン・ノウェルスミスらの日常言語学派*の主張が含まれる。〔石倉恆之〕

カチンぞく　【カチン族】　北東ビルマ，北東アッサムおよび中国雲南省に分布。人口は約34万(1954)。チベット-ビルマ語群の民族で，人種的にはパレモンゴリーデ型に属する。生業はおもに焼き畑耕作で，トウモロコシ・アワ・ムギが栽培され，雲南のカチン族では灌漑棚田(かんがいきくでん)水稲耕作も行なわれる。社会組織は父系の氏族組織をもち，末子相続が行なわれる。また上司制度が存在し，貴族と奴隷の階級分化もみられるが，反面，北部住民は階層差のない民主的村落体制をもつ。宗教ではナットという呪術(じゅじゅつ)信仰が広く崇拝されている。〔竹村卓二〕

ガーツ(山脈)　⇨ゴーツ山脈

かつうら　【勝浦(市)】　千葉県南東部の市。古くから漁港として発達し，1,300年の歴史をもつ朝市*で知られる勝浦町と，保養地興津(おきつ)村ほか2村が1955年(昭和30)に合併し，1958年市制施行。人口26,000。太平洋に臨み，背後の房総丘陵の山地を含む。産業三大別人口比は28：23：49。勝浦港には冬のマグロ延縄(はえなわ)，春のカツオづりなどの出漁船が多く，遠洋漁業の基地ともなる。沿岸は海女(あま)によるアワビ・サザエの潜水漁業が盛んで，鵜原(うばら)海岸ではシマアジ・アワビを養殖する。山地では林業が主で，自給農業を営む。南西部の興津地区はおせんころがし*・鵜原理想郷・行川(なめがわ)アイランドなど景勝地・行楽地に富み，観光開発が進んでいる。房総東線・国道128号線が海岸沿いを走る。

かつうらおんせん　【勝浦温泉】　和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡那智勝浦(なちかつうら)町にある温泉。泉温30～70℃，泉質は硫黄・アルカリ・単純泉などで，神経痛・皮膚病・リ

ウマチなどにきくといわれる。熊野灘(くまのなだ)に面した勝浦湾の入り口に湧出(ゆうしゅつ)し，旅館が岬(みさき)や島に散在しているため客を船で送迎する。赤湯・越の湯・外の湯・貴志の湯・浦島などに分かれる。海岸の風景が美しく，〈紀の松島〉とよばれ，吉野(よしの)熊野国立公園に属する。紀勢本線紀伊勝浦(きいかつうら)駅下車。〔木村東一郎〕

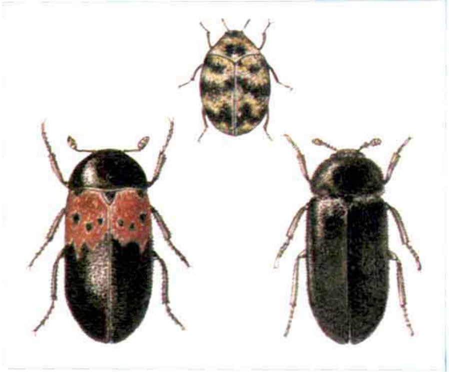
かつお【**鰹**】 硬骨魚類・サバ科。90cmほどになる海産魚。紡錘形で，背は青黒く，腹は白い。店先に並べられたカツオには，腹にはっきりした青黒い水平のしまが必ずあるが，生きているときにはこのしまがほとんど見えず，むしろ，幅広く色の薄い垂直のしまが腹面に数本現われる。世界じゅうの暖かい海に分布し，日本近海へは春さき黒潮に乗って接近する。九州南端には3月ごろ姿を見せ，しだいに北上し，関東近くには5～6月に現われる。カツオの群れはえさを追って，真夏には三陸沖・北海道沖に達し，10月ごろ水温が低下すると，反転して生まれ故郷の赤道近海へ帰るが，その南下コースはよくわかっていない。日本列島沿いとも，小笠原(おがさわら)諸島伝いともいわれるが，群れを解き，かなりの深海を通るらしい。カツオは一本づりによって漁獲される(→次項)。生でも加熱してもともに美味で，〈たたき*〉は土佐の名物料理。また，蒸して軽く干した〈なまりぶし*〉も美味。かびの働きを利用してつくるかつお節*は，日本独特の世界に誇るべき保存調味料である。内臓の塩辛は，酒のさかなによく，酒が進むというので，酒盗とよばれている。

かつおいっぽんづりぎょぎょう【カツオ一本釣り漁業】 日本で漁獲されるカツオのほとんどは，一本づり*漁業によるものである。早春のころに，南西諸島海域，あるいは小笠原(おがさわら)諸島沿いに漁期にはいり，水温の暖化とともに，漁場もしだいに北に移る。8～9月にはいると，漁場は三陸沖に形成される。この〈上りガツオ〉漁が日本のカツオ漁獲の主部を占める。秋にはいってからの〈下りガツオ〉漁でもわずかに漁獲される。カツオ漁船は，散水装置とえさイワシのための生け簀(す)を備えているのが特徴である。カツオ一本づり漁業は，最も勇壮な漁業の一つとされている。鮮度のよい近海カツオは美味だが，季節と水温に左右されて，漁が不安定であった。近年は，大形船がマリアナ諸島以南の水域にまで出漁し，周年カツオ漁が営まれるようになってきた。

かつおぞうむし【**鰹象鼻虫**】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長は口吻(こうふん)を除いた長さ10～12mm。体形がかつお節に似ることからこの名がある。地色は黒色で，全体に白色毛と黄色毛を装うが黄色毛は脱落しやすく，鞘翅上では密度に濃淡があって不規則な斑紋(はんもん)状を呈する。頭部は前方に向かって細まる。前胸背板は幅と長さがほぼ等しく，外側は弱い丸



カツオ



カツオブシムシ　(左)アカオビカツオブシムシ　(上)ヒメマルカツオブシムシ　(右)トビカツオブシムシ

みをおび，前方に向かってせばまる。鞘翅は中央のやや後方で最も幅広く，先端に向かってゆるやかに細まる。各鞘翅には10条の点刻列がある。北海道・本州・朝鮮・中国北部に分布し，夏季に雑草間に普通にみられる。〔鈴木邦雄〕

かつおどり【**鰹鳥**】

①鳥類・カツオドリ科の総称。大形の海鳥で，世界に約9種があり，大西洋北部で繁殖するもの1種のほかは温帯および熱帯の島で繁殖している。いずれの種も飛行力にすぐれ，15～20mの高さから水中に飛び込み，潜水して魚やイカ類を捕えて食べる。ペルー沖にある島には無数のペルーカツオドリとグアナイヒメウが集団営巣し，その糞(ふん)はグアノ*とよばれ，大量の天然肥料を産出している。

②カツオドリ科の一種。翼長約40cm，腹部は白色，他の部分はかっ色。太平洋・大西洋のおもに熱帯に分布し，日本では伊豆(いず)七島・小笠原(おがさわら)諸島・草薙(くさなぎ)島などで繁殖している。カツオドリ・オオミズナギドリ*などは海面近くに浮上してきた魚群の上に群がることがある。こういう魚群を鳥付群という。特にカツオ一本づり漁の人たちには，このはるか遠くの海上の鳥群がカツオ魚群発見の手がかりにもなっており，オオミズナギドリのことをカツオドリとよぶこともある。〔安部直哉〕

かつおのえぼし【**鰹烏帽子**】 腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・クダクラゲ目・カツオノエボシ科。1個のカツオノエボシは，実は群体であり，共同体である体幹は著しく膨大して気胞体となり，その下面に栄養体・生殖体・感触体など，分業的な機能を果たせるように分化した個虫が，懸垂した形になっている。感触体の基部からは長い触手が伸びている。気胞の長径はほぼ10cm，触手は30cmに達する。わずかに青みをおびるがほぼ無色透明な気胞を除き，他は海の色と似た藍(あい)色。世界じゅうの暖海に分布し，気胞で水面を漂う。大風のあとで，海岸が一面に青くなるほど吹き寄せられていることがある。触手の刺胞の毒は強烈で，誤って触れると電撃的な痛みを感ずるので，デンキクラゲともいう。この毒は死後も強力であり，浜べに打ち上げられたものにも触れないほうがよい。カツオノエボシはその強力な触手で，トビウオなどを捕食している。しかし，エボシダイ*という小形の魚が，いつもカツオノエボシにつきまとい，平気で触手の間を出入りすることは，昔からよく知られている。気胞の形がえぼしに似ているのが和名の由来。〔菅野　徹〕

かつおのかむり【**鰹の冠**】 腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・クダクラゲ目・カツオノカムリ科。1個のカツオノカムリは群体であり，群体の共同幹は，楕円(だえん)形・軟骨状の水平板と，その上面に垂直に立つ三角形の垂直板とで，水平板の下面に生殖体・感触体などの個虫が懸垂する。水平板の縁と生殖体・感触体は青藍(せいらん)色。その他の部門は無色透明。長径約5cm。水平板で海面に浮き，垂直板は風を受ける。世界じゅうの暖海に分布する。

かつおぶし【**鰹節・松魚節**】 カツオの肉を煮熟・焙乾(ばいかん)・日干し・かびづけの過程を経て乾燥した水産加工食品。すぐれた調味料として重用されるほか，〈勝魚〉の異名から祝儀の贈答品としても広く用いられている。歴史は古く，《古事記》にすでに記載され，徳川時代には商品として盛んに取引された。**《種類》**カツオの頭部・内臓を除いて三枚におろすが，左右両側の2片からつくったものを亀節(かめぶし)という。大形のカツオの場合には，背と腹に分ける。背肉のを背節または雄節，腹肉のほうを腹節または雌節といい，これらを亀節に対して本節という。また産地名をつけて，薩摩(さつま)節・土佐節・紀州節・焼津(やいづ)節などともいう。なお，カツオのとれる時期によって春節・秋節に分けられるが，前者のほうが品種がよい。かびが薄く，光沢があり，かたくて皮の部分が小縮みになっており，カンカンとかたい音のするのがよい。うまみの主成分はイノシン酸*であることが明らかにされている。〔佐藤友太郎〕

かつおぶしむし【**鰹節虫**】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カツオブシムシ科の総称。体長は1.5mm内外のものから10mmを越えるものまであり，体形も卵形・半球形・長円形など変化に富む。触角は短く，棍棒(こんぼう)状。翅(はね)は一般によく発達している。脚は短く，体下面に密着してたたまれる。幼虫はほぼ円筒形で，長短の毛を輪状あるいはふ

さ状に密生するものが多い。幼虫・成虫ともに動物の死体や植物質のものを食べ，皮革・角・毛・羊毛製品や獣脂・干し肉・チーズ・こん虫標本・海藻(かいそう)やのりなどを加害する種類が多いが，種々の生花に集まる種類も多く知られる。世界各地に広く分布し，いくつかの亜科に分類され，少なくとも600種以上が知られる。

日本に産する重要な害虫には，次のような種類がある。ただし，近似種が多く，また同定のむずかしい種類が少なくない。①トビカツオブシムシ：体長は9㎜内外，体は円筒形，黒かっ色で，黄かっ色毛を装う。頭部は小さく，触角は赤かっ色。鞘翅には細かい点刻が密にある。②ハラジロカツオブシムシ：体長9～10㎜，体形・体色ともに前種に似ているが，前胸背板の外縁部および体下面が白色毛でおおわれている点で区別できる。③ヒメマルカツオブシムシ：体長1.8～3.2㎜の微小種で，体は黒色であるが，黄色・かっ色・白色の鱗毛(りんもう)でおおわれる。上記3種はいずれも全世界に広く分布する普通種であり，被害も著しい。これらのほか，日本からはヒメカツオブシムシ・アカマダラカツオブシムシ・シラオビカツオブシムシ・シモフリカツオブシムシなどが害虫として知られている。〔鈴木邦雄〕

がっかい【学会】 各種の学問分野の研究者がそれぞれの領域ごとの研究を深め，発展させるために組織する団体。また，この目的を達成するための研究連絡・情報交換や研究成果の発表のために開催する集会をもさす。わが国では，学会を母体として選出された会員が日本学術会議*を構成し，日本の学術研究全般の発展のために政府の学術行政に影響を与えている。

かつかいしゅう【勝海舟】(1823～1899) 江戸末期の幕臣・政治家。旗本(はたもと)出身。通称麟太郎(りんたろう)。名は義邦(よしくに)，のち安芳(やすよし)。江戸の人。蘭学(らんがく)・兵学に通じ，1855年(安政2)蕃書(ばんしょ)翻訳係に採用され，同年幕府が長崎に海軍伝習所*を設けるや，その伝習生として長崎におもむき，1859年帰府して海軍操練所教授方頭取に任命された。1860年(万延1)遣米使節を乗せた咸臨丸*(かんりんまる)の艦長として太平洋横断に成功。1864年(元治1)軍艦奉行(ぶぎょう)となったが，各藩出身の人材を集めて育成した海軍操練所の開放性を幕府当局に忌まれて，同年，同所は閉鎖され，勝は職を解かれた。幕府崩壊後，1868年(慶応4)官軍の東征に際しては，幕府の陸軍総裁として東征大総督参謀西郷隆盛*(たかもり)と江戸開城を約定した。維新政府では1873年(明治6)参議兼海軍卿(かいぐんきょう)，1875年元老院議官，のち枢密顧問官に就任した。晩年には著述に専念し，《開国起源》《吹塵録(すいじんろく)》《幕府始末》《氷川清話》などがある。伯爵。〔岸野淳子〕



勝 海舟
勝芳孝蔵（サンフランシスコにて撮影）



勝川春章 《初代中村里好》 東京国立博物館蔵



被衣 江戸時代

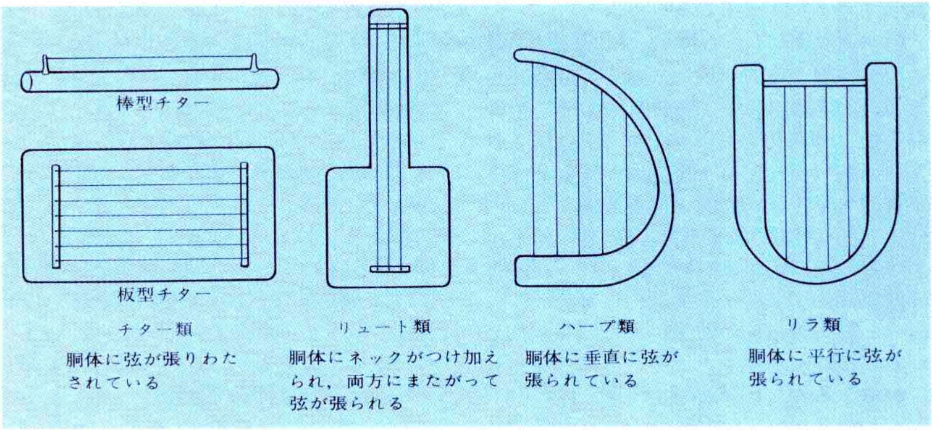
かっかざん【活火山】 現在活動を続けている火山のこと。活火山といっても激しい噴火は比較的短期間続くだけで，次の激しい噴火との間は，静かに噴煙を上げているだけである。浅間山，伊豆(いず)大島の三原山，阿蘇(あそ)の中岳，桜島などはその例である。活火山については，山体の傾斜のわずかな変動や標高のわずかな隆起，頻発(ひんぱつ)地震の震源の移動などを常時観測しておけば，次の激しい噴火がいつごろ起こるかを，ある程度予報することができる。現にハワイ島の火山観測所では，すでにこれを実行しているし，浅間山についてもその可能性を証明する基礎研究ができあがっている。なお，一般に富士山のように有史時代に噴火した火山ではあるが近年はまったく活動を停止している火山を休火山，また有史時代の噴火の記録のない火山を死火山とよぶこともあるが，これらの火山でも急に爆裂したりして大被害を与えることがあるので，学問的には用いられない。

かつかわしゅんしょう【勝川春章】(1726～1792) 浮世絵師。俗称は裕助，旭朗井(きょくろうせい)と号し，俳名を宜富という。宮川長春*の門人春水に師事し宮川あるいは勝宮川を称し，のち勝川と改めて一派を開いた。鈴木春信*(はるのぶ)による錦絵(にしきえ)の創始とほぼ同時に，写実的な役者似顔絵を発表，鳥居派の類型的な役者絵を一蹴(いっしゅう)して東洲斎(とうしゅうさい)写楽*を登場させた功績は大きい。また，気品に富む肉筆美人画を数多くのこすが，代表作として版画《東扇(あずまおうぎ)》，肉筆画《十二月図》などがある。門下に春好・春英・春潮・葛飾(かつしか)北斎*らの俊才を出した。〔小林 忠〕

かつぎ【被衣】 古くは〈かずき〉。貴婦人が外出のときに顔を隠すために用いた衣服。はじめは袿*(うちき)をそのまま頭からかぶっただけであったが，のちにはえりを肩山より前に下げて仕立てた。室町時代からは小袖*(こそで)の様式となり江戸時代に及んでいる。江戸時代の被衣には御所被衣と町被衣とがある。御所被衣は公家(くげ)のもので，紺絽地(こんろじ)，腰は雁木(がんぎ)横文様，白・紺・縹(はなだ)の3色である。前に丸打ちのひもをつける町被衣は，華麗な文様で色が美しい。〔河鰭実英〕

がっき【楽器】 人間が音楽あるいはそれに準ずるもの，たとえば遊び・信号・儀式などの表現手段として使う発音機構をもった道具・機械類を総称していう。広く解釈するなら，人間の身体も楽器とみなすことができる。たとえば，平手を打ち合わせたり，へこませた手を打つこと，胸や足をたたいたりする打楽器効果や，口笛や吐息による発音がある場合である。発声の基礎となる声帯を楽器として含むこともできるが，普通は区別して扱い，結果としての音楽も声楽と器楽の二大様式が区分される。

楽器の分布状態は，音楽が人間社会のあるところではどこででも聞くことができるのと同じように広い。しかし，楽器がそれぞれの地域や時代の文化・社会の中でもっている意味や，またそれの果たす役割は千差万別である。自然民族では自然界に対する畏敬(いけい)の念が，楽器の形態・構造，そして楽器から出る音の中に象徴化されていることが多い。したがって，楽器にトーテム的意味合いが含まれており，社会集団における人間の生物学的関係(氏族・親族・



楽　器

家族・性）もまた楽器として置き換えられている。そのような場合には，社会慣習としてのタブーの概念もはいってきて，たとえば笛やトランペットのような男性を象徴する楽器は儀式において男性によってのみ演奏されて，女性はそれを見たり聞いたりすることが許されないといった事例がしばしば見受けられる。高度文化にあっては，楽器はもっと自律的となり，音楽以外のものと結びつくことは少なくなってくるが，それでも階級制度が楽器に反映されることもあるし，楽器に外見的装飾を施すという美術的要素が介入して，自然民族と共通の事柄も存続している。楽器の種類が地域によって多かったり少なかったりするのは，環境の中で利用できる材料が豊富か否かという生態学的条件によって規定されるが，同時に諸地域間の交易がいろいろな規模で進むにつれ多様な楽器をもつようになり，それとともに音楽様式の変容も推進されるのである。

このようにして各地で多様な形態をもって存在する楽器は，各種の方法で分類される。中国をはじめとする東アジアでは，楽器の主体となる部分の材料・材質を基準にして金・石・糸・竹・匏(ほう)（ひさご）・土・革・木という8分類が古くからあるが，これは方位や季節を八つに分ける東洋思想の現われである。ヨーロッパの楽器は便宜的に管楽器・弦楽器・打楽器の3種に区別されているが，これははっきりした根拠のない分類である。音楽学の一分野としての楽器学の確立に伴って，論理的・科学的楽器分類が1914年に考案され，世界の楽器を広大詳細な分類体系に組み入れるようにくふうされた。これはマイヨン・ホルンボステル・ザックスによるもので，MHS方式楽器分類とよばれ，発音原理によって体鳴楽器・膜鳴楽器・弦鳴楽器・気鳴楽器に四大分され，さらに近年になって電子工学の発達によってできた楽器を考慮して電鳴楽器を加えて5分類法が確立された。①体鳴楽器：楽器の胴体そのものの振動が発音源となるもので，普通に打楽器とよばれるものはここにはいる。細分類は発音源にどのような力（演奏法）が加えられるかによってなされ，コンカッション（対になったものを打ち合わせる拍子木やシンバルなど）・打奏（胴体をバチでたたく割れ目太鼓・ゴング・チャイム・木琴・鉄琴・竹琴など）・踏奏（踏み板や竹筒など）・振奏（ガラガラ・ベル・アンコロン*など）・撥奏(ばっそう)（はじくもので，口琴*・サンザ*など）・擦奏（こするもので，グラスハーモニカなど）に分けられる。②膜鳴楽器：細分類は膜の材質（ウシ・ウマ・ヘビ・ネコ・サメなどの皮革），胴体の形（円筒形・たる形・円錐(えんすい)形・砂時計形），膜の数（片面・両面），膜の締め方（ひも・のり・びょう），楽器の配置（台の上，わくにつり下げる，床の上，ひざの上，肩から下げる，手にもつなど），演奏法（バチによる，手によ る，指によるなど）によってなされる。③弦鳴楽器：弦が胴体に関連してどのように張られているかに着目して，チター類・リュート類・ハープ類・リラ類の四つに分けている（図参照）。さらに弦の材質（絹・ガット・金属・芭蕉(ばしょう)・ナイロンなど），胴体の形状（棒形・箱形，その他），調音機構（フレット・可動ブリッジ・不可動ブリッジ・張力加減），演奏法（撥弦・擦弦・打弦）などによって細分類ができる。④気鳴楽器：リード（簧(こう)）楽器・口唇(こうしん)楽器・フルー楽器・自由気鳴楽器に分けられる。リード楽器の発音主体は単簧（クラリネット）あるいは複簧（オーボエ）が演奏者のくちびるに直接触れて振動されるもの，口唇楽器はホルンやトランペットのように演奏者のくちびるそのものが振動して発音主体となるもの，フルー楽器はフルート・尺八・レコーダーやパンの笛のように隙間(げきかん)を通る気流が発音源となるもの，そして自由気鳴楽器は笙(しょう)・ハーモニカ・オルガン（リード管）のリードが送られてくる気流によって振動されるものと，ブルロアラーのように薄い胴体が空中で振動するものとである。⑤電鳴楽器：本来は発音そのものが電子工学的になされるものであって，ただ単に普通の楽器の音量を増すために増幅装置（アンプ）を使う場合にはここには含まれない。以上のようなMHS方式楽器分類は包括的で応用範囲が広いので，世界的に大幅に受け入れられてきている。しかし，細かい点では多少矛盾することもあって改良の余地がないわけではない。

楽器学の中で分類法が最も重要な課題となっている理由は，過去に存在した楽器や現存する楽器の相互関係・発展関係を体系的に図式化し，それぞれの楽器の世界的位置を見きわめることができるばかりでなく，その図式化を通じ現存しない楽器を予測したり，現存のものに改良の余地を与えたりすることができるという前提があるからである。しかし，各楽器は改良すべき点があるだけではなく，逆に，それぞれの置かれた時代的・地理的背景を如実に反映しているものである。ある時代の音楽様式を把握(はあく)するためには，多くの場合その時代に使われていた楽器を理解することが先決問題である。その際に楽器について生ずる大きな問題としては，楽器編成法（オーケストレーション）と楽器法（インストルメンテーション）とである。合奏形態が，ある場合に個々の楽器の特性がどのように生かされて全体の音色多様性を助長するか，また独奏楽器の場合にはその楽器でなくては表現できない音楽語法がどのように求められたかがポイントとなるわけである。世界の諸文化の価値体系が多様であることがよしとされる今日，音楽文化の多様性をささえるのは，声楽とともに楽器のさまざまに異なるあり方にある。〔山口　修〕

かっきゅう　【割球】　受精した卵が分裂（卵割）して生じた卵細胞のこと。だいたい2細胞期から胞胚(ほうはい)期までのものをいう。割球は大きさ，含有される色素，顆粒(かりゅう)などの位置によって一定の規則的な違いがある。ふつう，卵黄を含む割球は大きく，このような割球は植物極側にある。➔発生

がっきゅう　【学級】　学校において，学習指導*・生活指導*の対象とされる基本的な集団の単位。教育目的の達成のために人為的に組織され，集団内部で人格の直接的接触が可能な範囲に人数を制限している。その規模は，欧米の場合は20〜40人であるが，わが国においては最近になって45人の定員を実現した。なお，その編成は原則として同学年の児童・生徒によるが，複式学級のように数学年があてられることもあるし，能力によって学年の異なる学級を編成することもある。〔中野　光〕

がっきゅう　【楽弓】　ミュージカル・ボウ・弓琴ともいう。最も原始的な楽器の一つで，現在でもメキシコのコラ族，東アフリカのワシャンバラ族などのほか，南アフリカ・中央アフリカ・メラネシアなどで使われている。ヤシの実などで共鳴体をつけたものもある。弦の張力を変えたり，弦に指や棒をあてて音高・音色に変化をつける。

歌の伴奏としても用いられる。

がっきゅうたんにんせい【学級担任制】教科担任制*とは対照的に，ひとりの教師がその担当学級の児童・生徒に対して，全教科を指導する制度をいう。特に法制化されてはいないが，児童・生徒との接触が深く，児童の性格・家庭環境・交友関係などを十分に把握(はあく)できるので，高い教育効果があげられる。しかし，ひとりの担任の個性・価値観に強く児童・生徒が感化され，教科指導においてはその徹底が十分になされないという難点がある。〔福井幸雄〕

がっきろん【楽毅論】中国，東晋(とうしん)の王羲之*(おうぎし)の小楷(しょうかい)の法帖(ほうじょう)。原文は魏(ぎ)の夏侯玄が戦国時代の燕(えん)の武将である楽毅の人物を論じたもの。梁(りょう)代のころから王書の第1の名跡として知られている。いま，伝わるものに梁模本(りょうもほん)，末尾に〈异僧権(いそうけん)〉3字と〈永和四年十二月廿四日書付官奴〉の1行のあるものや，その他種々の系統の本がある。日本では，光明皇后の臨本が著名。

がっく【学区】一定地域住民の学校に対する要望を実現できる財政，学校の管理，運営能力などが総合されて成立する一つの教育行政区という用い方と，いわゆる通学区としての用い方がある。もともとこの二つは別個のものであり，わが国の1872年(明治5)の〈学制〉は，全国を8大学区に，1大学区を32中学区に，各中学区を210の小学区に分けるという教育行政単位としての，独自の学区制を設けていた。それが教育の中央集権化に伴って姿を消し，今日では，2校以上の小・中学校を設置する市町村教育委員会が決める〈通学区〉のことと，都道府県教育委員会によって定められた高等学校の〈通学区域〉のことをさしている。これらにみられる通学区域外入学〈越境入学〉は，学校差を助長させる結果となっていて，教育の機会均等を守り，就学人口の増減とも見合った改善が要望されている。1967年(昭和42)から東京都教育委員会が実施した〈学校群制度〉(都内を2～4の都立高校のある学区に分け，この学校群単位に入学者を決め，入学者の成績が平均化するように群内の各校に生徒を配分する)は一方策ではあるが，学校選択の自由を制限するという問題が残る。〔福井幸雄〕

かっくみおんせん【川汲温泉】北海道茅部(かやべ)郡南茅部町にある温泉。別名鶴(つる)ノ湯ともいう。泉温42～47℃，泉質は明礬緑礬泉(みょうばんりょくばんせん)で，神経痛・リウマチにきくといわれる。恵山の中腹，川汲川の渓谷(けいこく)に湧出(ゆうしゅつ)し，秋の紅葉の美しい湯治場として知られる。函館(はこだて)本線鹿部(しかべ)駅からバスの便がある。

かっけ【脚気】ビタミンB_1不足に関係する疾患。下肢倦怠(かしけんたい)・しびれ・動悸(どうき)・浮腫(ふしゅ)などを主症状とし，重症では急性の心不全(脚気衝心)を起こすことがある。白米を主食とするアジアにおいて古くから記載された疾患であるが，食物の内容が変わるにつれて，今日その典型的な症例をみることはない。

かつげき【活劇】劇映画の一ジャンルで，登場人物の激しくはなやかな動作や活躍の魅力を多く取り入れたものをいう。時代劇映画*・ギャング映画・西部劇*の大部分がこれに属している。特に無声映画時代には，俳優が動作によって感情を表現しなければならなかったので，いわゆる追っかけ・パイ投げ・ぶちこわしなどの激しくおおげさな動作を取り入れた喜劇(スラップスティック-コメディーが人気をよび，黄金時代を迎えた。トーキー時代になるとせりふへの依存度が高まり，映画は活動性の魅力を失いつつあったが，音を伴った活劇が現われはじめた。活劇は，人間や物をつねに外側からとらえるカメラの力に負うところが多く，それは活劇の本質にかかわる。いつの時代にも映画の中心にあって，大衆に親しまれている。〔波多野哲朗〕

かっけつ【喀血】肺・気管支からの出血を吐き出すこと。せきを伴って喀血することが多く，血液は鮮紅色。最も多いのは肺結核であるが，肺癌(はいがん)・気管支拡張症・肺損症などの際にもみられる。→結核

かっこ【羯鼓】雅楽で使われる両面の太鼓。中国，唐代によく用いられ，それがわが国に伝えられた。皮をひもで締め，台上に載せて木の撥(ばち)で奏する。一つの音をたたくだけでなく，片手や両手でつくるトレモロも重要な奏法で，太鼓が大きな段落をつくるのに対して，羯鼓は小さなリズム-パターンを反復して，その周期性によってリズム形成に参加する。またテンポの推進にも指導的役割をもつ。

かっこう【郭公】鳥類・ホトトギス科。カンコドリともいう。全長35cmほど。灰色で，胸腹には細かい横斑(おうはん)がある。ヨーロッパ・アジア・アフリカに広く分布し，日本には初夏にきて秋に南アジアへ帰る。他の鳥の巣に卵を産むことで有名。おもにオオヨシキリ・モズ・ホオジロに托卵(たくらん)。開けたところにすみ，森林内にははいらない。鳴き声はよく知られるように〈カッコーカッコー〉で，これからカッコウという名が生まれた。諸外国でもこの声に近い名まえでよばれている。〔浦本昌紀〕

かっこう【割腔】多細胞動物の発生初期に卵割が進むと割球*に囲まれた腔所ができる。これが割腔または分割腔とよばれるもので，胞胚(ほうはい)期に最も発達した状態となり，胞胚腔とよばれることもある。割球の大きさと配置は卵黄にも関係があり，卵黄の少ない種類では割腔が比較的大きく中央部に存在するが，卵黄の多い胚では割腔も小さく，動物極側にかたよる。卵黄が多く，しかもそれが中央部にある卵のときは割腔は見られない。→発生〔蒲原春一〕

かっこう【葛洪】(283～343) 中国，東晋(とうしん)初期の道士。字(あざな)は稚川。号は抱朴子(ほうぼくし)。江南(江蘇(こうそ)省)の出身。葛玄や鮑靚(ほうせい)の神仙術(しんせんじゅつ)を学び，金丹を求めて広州(広東(カントン))の羅浮山(らふざん)に隠れて煉丹(れんたん)と養生に専念し，61歳で奥義をきわめて仙人になったという。著書《抱朴子*》は，神仙・養生の術を組織的に述べた内編と，時政を論じた外編とからなる。

がっこう【学校】社会における教育機能をもつ諸集団の中の一つで，意図的に組織された機関。文化の発展により，それまで家族・地域集団の中で日常的・経験的に行なわれた文化財の維持・伝達が困難になったため創設された。したがって学校の目的は，豊富でしかも複雑化していく文化財を系統的・組織的に構成し，集中的・継続的・能率的に授けることを特質とする。そのため，一定の場所に教育施設(学校)を設け，教育の主体である教師が客体としての児童・生徒・学生の集団を対象に面接授業を行ない，教育目的に則して教育計画が立てられ，その一環としての授業というように，教育活動が組織的に営まれる。

英語のスクールの語源がギリシア語のスコレー(閑暇)の意味であるように，当初の学校は生活時間に余裕のある貴族・僧侶(そうりょ)の子弟を対象にした。これは国によって時代的な差はあっても，ほぼ共通の現象である。しかし，今日ではその実態に大きな差異がある。

今日では一部特権階級のためでなく，国民全体のための教育機関として制度化され，組織・運営される傾向にある。その背景が庶民の教育要求の高まりであり，近世では，従来の指導者層のための学校と庶民のための学校とが，教育目的・教育内容をことにしながら併存した。そして近代の学校は，これらによりながら教育の機会均等を唱え，二重構造的な複線型の学校体系をとるが，ヨーロッパに興った統一学校運動を契機に，公教育を中心とした単線型の学校体系を拡大するようになった。その結果が義務教育年限の延長である。また教育活動も，新しい科学・技術・文化に裏づけられた知識教育・全面教育(訓育)の両面にわたり，教科指導・生活指導などの分野で相互に密接な関連をもった。

学校は，設立主体・目的によって区分される。わが国の教育制度を例にとれば，学校教育法*は設立主体による国立・公立・私立の区分を定め，設立目的によって小学校・中学校・高等学校・大学・高等専門学校・盲学校・聾(ろう)学校・養護学校および幼稚園を学校と規定し，その他はすべて各種学校*に入れ，学校体系の単純化を図っている。近年になって後期中等教育の多様化の問題や大学改革の問題が発生し，それに関連して学校制度全般についての再検討が行なわれて

いる。〔赤司政雄・浜田陽太郎〕

かっこうあざみ ⇨アゲラータム

がっこうあんぜんかい 【学校安全会】⇨日本学校安全会

がっこうい 【学校医】 学校歯科医・学校薬剤師などとともに,学校における児童・生徒・教職員の保健管理に従事したり,指導助言を行なう専門職員をいう。1898年(明治31)に全国の公立学校にはじめて置かれ,1929年(昭和4)にすべての官公私立の学校・幼稚園に必置が命ぜられた。現在では学校保健法によって設置され,医師の資格を有する者から任命されている。また,学校医の任用・分限・服務などは,特別に法令の定める場合を除いて,当該教育委員会の規則によって決められている。その主要な職務は,①学校保健計画立案への参与,②学校環境衛生の維持・改善に関する指導・助言,③健康診断および健康相談,④疾病(しっぺい)の予防処置および救急処置などである。〔佐藤英一郎〕

がっこうえんげき 【学校演劇】 学校教育の一部として行なわれる児童・生徒による演劇活動を総称して〈学校演劇〉という。〈学校劇〉というよび方も用いられるが,これは主として,小学校の劇活動か,またはそこで用いられる脚本をさすことが多い。児童・生徒による演劇の創造活動だけでなく,鑑賞の教育も含めて〈演劇教育〉という用語も広く用いられるようになっている。美術教育や音楽教育と同じ意味で,子どもの芸術教育の一つとして,演劇の教育を考えるとすれば,〈演劇教育〉というよび方のほうが適切であるともいえよう。

演劇と教育との結びつきは,きわめて古いが,学校教育の一部として位置づけた最初の人は,近代教育の始祖でもあるコメニウス*であった。コメニウスは,直観教授の立場から,その著書《遊戯学校》によって,学習の手段としての演劇の有効性を主張した。その影響もあって,ヨーロッパでは17世紀ごろから,学校教育の一部として演劇活動が行なわれていた。しかし,その時期の学校演劇は,主として語学や歴史などの教授法の一つとして行なわれていたもので,演劇のもつ芸術性を子どもの人間教育に豊かに生かしていこうとする運動は,欧米においても,〈児童の世紀〉といわれる20世紀にはいってから始まったといえよう。

わが国では,第1次世界大戦後の大正デモクラシー*の高揚期の中で,アメリカの児童演劇運動や,イギリスの劇化教育運動などの影響を受け,当時の芸術自由主義教育の運動や,新教育運動とも呼応して盛んになった。1922年(大正11)には坪内逍遙*(しょうよう)の《児童教育と演劇》や小原国芳*(くによし)の《学校劇論》などが書かれ,その後の学校演劇運動の基礎が築かれた。しかしまもなく,官僚主義的な教育統制によって,1924年には文部大臣が学校演劇を禁止する訓令を出すなどの動きがあり,十分な発展を遂げることができなかった。



滑降競技

第2次世界大戦以後は,再び民主主義的な新教育運動が復活し,それとともに,学校演劇の運動も盛んになった。第2次世界大戦以前には,まったく行なわれなかった中学校や高等学校における演劇活動も,クラブ活動として活発に行なわれるようになり,学校生活をいろどる楽しい,しかも意義のある活動として普及するようになった。学校演劇は,正規の教科として教科課程に位置づけられてはいないが,クラブ活動や教科外活動として,子どもの教育に一定の役割を果たし,独自な芸術教育として発展している。〔富田博之〕

がっこうきゅうしょく 【学校給食】 児童・生徒の栄養改善・体位向上・健康増進を図り,ひいては国民の食生活を合理化するため,学校において昼食や夜食を給与することをいう。ヨーロッパでは1870年代に開始されたが,限られた貧民の子弟を対象とし,救済事業色が濃く,現在の学校給食とは著しく性格をことにしている。わが国では,1923年(大正12)関東大震災時に,被災児童に与えられたのがその発端とされている。その後,1930年代の経済不況期に続出した欠食児童に対して,一部の学校で給食が実施されたが,制度的にはなんらの裏づけもなかった。学校給食が本格的に実施され制度化したのは,第2次世界大戦後である。終戦直後の食糧事情の悪化が,特に都市の児童・生徒の体位をはなはだしくそこねたことから,GHQの指示で1947年(昭和22)1月アメリカの放出物資によって,国民学校を中心として全国的に学校給食が実施された。以後,年々急速に実施校が増加した。1951年放出物資の打ち切りによりその存廃が問題になったが,応急の予算措置が講ぜられ,危機を脱した。このころからその制度化の要望が高まり,1954年学校給食法が制定され,関係法規が整備された。同法による学校給食の目標は,①日常生活の食事について,正しい理解と望ましい習慣を養う,②学校生活を豊かにし,明るい社交性を養う,③食生活の合理化,栄養の改善,健康の増進を図る,④食糧の生産・分配・消費について正しい理解に導く,などである。またこれに前後して,給食時間の取り扱いや給食の教育的意義が問題となり,1958年11月告示の学習指導要領は,学校給食を学校行事の中に位置づけた。なお1950年代後半から,中学校・定時制高校(夜間)にも実施され,しだいに普及していった。しかし,各地域間の格差,中学校の低い実施率,物価高による食事内容の質的低下,給食施設設備の貧弱さ・不合理,父母負担金の漸増などの問題も派生し,その早期解決が期待されている。〔佐藤英一郎〕

がっこうきょういくほう 【学校教育法】 学校制度,学校組織の設置・運営についての基本的事項を定めた1947年(昭和22)制定の法律。その基本は,単線型の学校体系としての六・三・三・四制を確立し,第2次世界大戦前においては不十分な形でしか行なわれなかった通信教育・定時制教育・盲聾(もうろう)教育・養護教育などの制度を拡充・整備することによって,教育の機会均等を保障する法的根拠を定めたことにある。

かっこうきょうぎ 【滑降競技】 スキーのアルペン競技*の一。延長4kmに近い急斜面を猛スピードで滑降する豪快な競技。瞬間時速100kmを越すことがあり,空中を数十メートルも飛ぶことさえある。コースは,出発点と決勝点との標高差が男子800~1,000m(特別の場合には750mまで公認される),女子500~700mで,競技者は設定された旗門を順次通過してひたすら滑降する。危険を少なくするために,人工の障害物をつくってはならない,ターン箇所の外側は広くする,空中をあまり長く飛ばないようにする,障害物には安全処置を講ずる,競技者はヘルメットを着用する,などが決められている。高速なので,電気計時装置によって100分の1秒台まではかることになっている。1972年(昭和47)に札幌(さっぽろ)で行なわれる冬季オリンピックのコースは,標高差が男子764m,女子561mである。〔堀 浩〕

がっこうぎょうじ 【学校行事】 学校の教育活動の主要な4領域(教科・特別教育活動・特設道徳・学校行事)の一つで,学校が計画・実施する教育活動をいう。たとえば入学・卒業に伴う儀式,遠足とか運動会などの体育的行事,学芸会・写生会・作品展示会などの文化的行事,安全指導的行事などがある。しかし,その位置づけは必ずしも明確ではなく,1971年(昭和46)度以降に実施される学習指導要領では〈特別教育活動〉の中に吸収されている。

がっこうきょうれん 【学校教練】 国防上・軍事上の知識・技能を授け,国家武力の予備戦力とするため,学校で実施した軍事教練をいう。日本では1925年(大正14)〈軍事教練〉を学校の正課目とし,中等学校以上の学校には陸軍将校を配属して指導にあたらせた。これにより男子生徒は,将校になるための受験資格が与えられた。

がっこうきんし【学校近視】ごく近くのものを間断なく見続けるために生じた近視をいい，わが国では学生に多いためこの名がある。この中にはまだ完全に固定されておらず，仮性近視の段階のものもあり，これらは適切な処置により治癒(ちゆ)しうる。➔近視

がっこうけいえい【学校経営】学校教育の目的を達成するために，学校の人的条件・物的条件を組織・整備し，適切に運営する活動。学校管理と異なる点は，学校を一つの教育組織体としてとらえ，そこに自主性・自律性を重視して運営するところにあり，大正期の自由主義的教育と関連した用語である。その主要な教育的活動には，①学校教育に必要な物的条件の整備・充実，②教職員の組織と児童・生徒の編成，③教育課程を中心とした学校の全体計画の立案・実施などがある。いずれにしても，これらの諸活動は統一的に営まれなければならず，管理・統制機能の強化があれば，学校経営にとっての個性・自律性・創造性は失われてしまう。〔中野　光〕

がっこうしんぶん【学校新聞】多くは中学校・高等学校の生徒によって発行される新聞をいう。生徒会活動の一分野として新聞委員会が発行するが，最終的にはその編集・発行権は学校長にある。内容は，校内の生徒を対象にした学校ニュースが主であるが，社会問題に触れたり，論説で学校の理想を表明したりする場合もあり，記載内容によって生徒と学校が対立する例もある。➔学生新聞

がっこうでんせんびょう【学校伝染病】学校保健法施行規則により特に学校において留意すべき伝染病。学校では感受性の高い年齢の児童・生徒が多数集合するため，伝染性の疾患が流行しやすい。また，学校における流行は児童の家庭へ運ばれ，地域的な流行へと移行する場合が多い。したがって学校における伝染病の対策は意味が大きい。病名は表に示したが，これらの疾患に対しては伝染病予防法に従う防疫活動と一般原則に従うほか，各疾患の必要に応じた出席停止および臨時休業の措置がとられる。〔金子義徳〕

第１類	コレラ・赤痢(疫痢を含む)・腸チフス・パラチフス・痘瘡・発疹チフス・猩紅熱・ジフテリア・流行性脳脊髄膜炎・ペスト・日本脳炎などの法定伝染病11種
第２類	インフルエンザ・伝染性下痢症・百日咳・麻疹・急性灰白髄炎・流行性肝炎・泉熱・流行性耳下腺炎・風疹・水痘・流行性腎炎
第３類	開放性結核・癩・梅毒
第４類	トラコーマその他の伝染性眼疾，疥癬その他の伝染性皮膚疾患

がっこうほうじん【学校法人】⇨私立学校



月 光 菩 薩　東大寺法華堂(三月堂)蔵　国宝

がっこうほうそう【学校放送】1933年(昭和８)に大阪中央放送局が最初の学校放送を行ない，1935年に日本放送協会が全国的な放送を開始した。しかし，今日の規模になったのは1953年のテレビ放送の開始が契機である。学校放送とよばれる番組には各学年児童・生徒向けのもの(単位の認定も認める通信教育もある)，教師を対象とするもの，幼稚園および青少年向けのものなどが含まれる。いずれも学校教育の効果を高めるとともに，広く教育機会を与えることを目的とし，教育方法の近代化に役だてようとしているが，近年になって人間工学的な考えが現われて，多くの他の教育方法とともにその再検討が迫られている。なお，校内伝達をはじめとして児童・生徒が制作する〈校内放送〉も学校放送に含めることがある。〔福井幸雄〕

がっこうほけん【学校保健】学校保健は保健教育と健康管理との二つの領域に分かれる。保健教育は，子どもたちが健康と安全な生活に関心をもち，それを増進していく能力を養う教育をいう。これは，学校教育の全領域で留意されることは当然だが，正規の教科においても実施される。1971年(昭和46)度以降の指導要領では，小学校５年・６年の体育科の中で，中学・高校では３年間に70時間の履修が規定されている。そこでは，日常生活における食生活・生活時間のあり方や運動量のあり方などについての知識や考え方を学習する。保健管理は，学校環境が健康的かつ安全なものであるかどうかを考える領域である。これは，校長・保健主事・学級担任教員・養護教諭・学校医・学校歯科医が直接その責任を負っている。学校は一定の保健計画を立て，健康診断・環境衛生検査，施設の衛生的改善などを図らねばならない。この分野は，一応形式的・制度的には整っているが，外国に比べて学校医が常駐する形式を整えていないし，日常の健康管理はまだ十全とはいいがたい。〔浜田陽太郎〕

がっこうぼさつ【月光菩薩】通例は薬師如来*の右にいる脇侍(わきじ)で，左の脇に侍する日光菩薩*とともに仏所を補い，仏国土に無数にいる菩薩の中でも最上位に属するとされる。密教では，曼荼羅*(まんだら)の中に位置する一尊として描かれ，月のように清涼な法楽を人々に与えるとされる。わが国での信仰も古くから盛んで，東大寺法華堂(ほっけどう)にある塑造日光菩薩・月光菩薩，薬師寺金堂の銅造薬師と両脇侍像，法隆寺講堂の木造薬師と両脇侍座像(いずれも国宝)などが有名である。〔平井宥慶〕

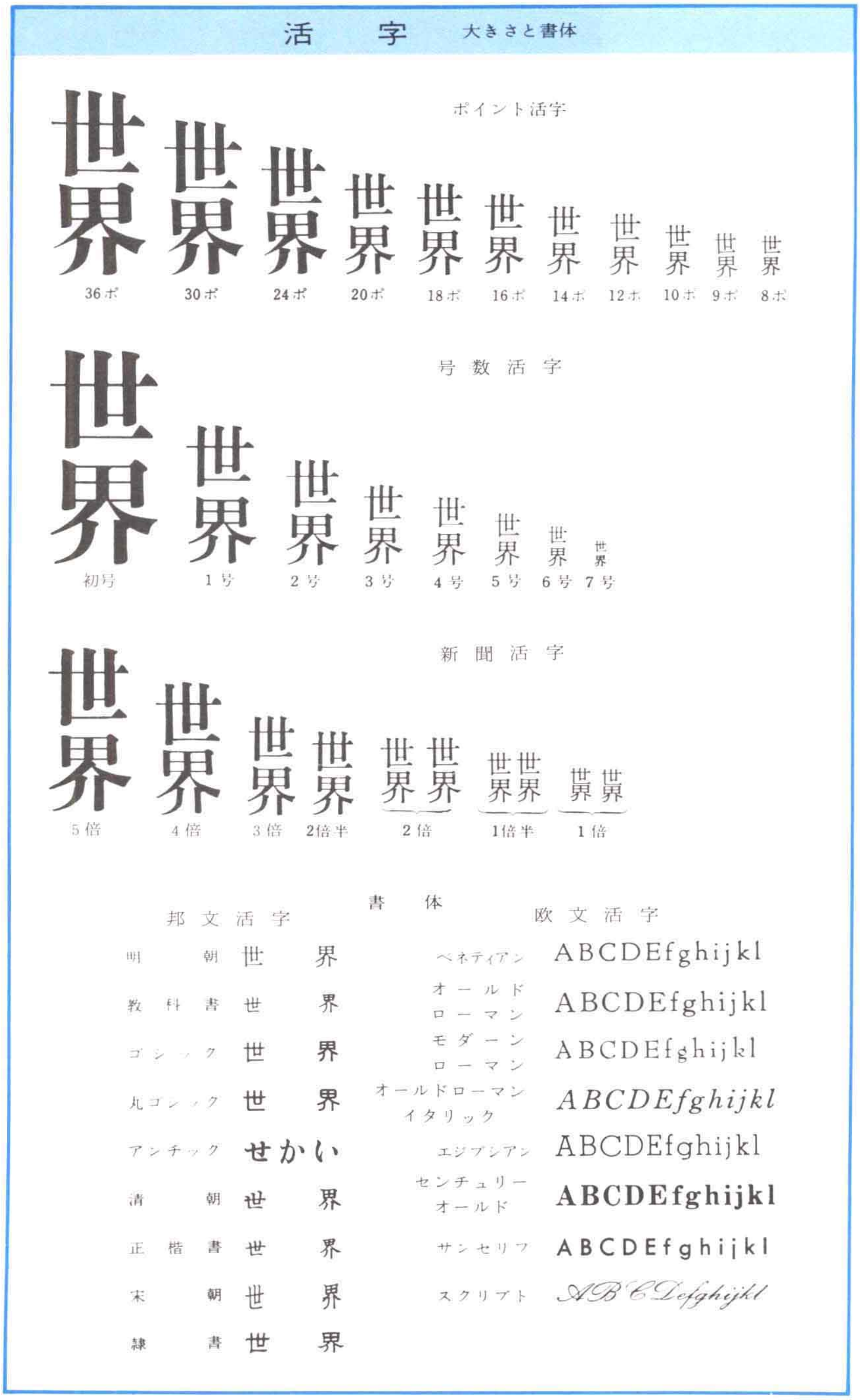
かっこうむし【郭公虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カッコウムシ科の総称。体は細長く円筒状で，全体やや軟弱である。色彩は変化に富み，種々の斑紋(はんもん)のある種類が多い。触角は鋸歯(きょし)状・櫛歯(くしば)状・扇状・棍棒(こんぼう)状など種々の形状を呈する。翅(はね)は，よく発達しているものから退化消失しているものまである。幼虫は，円筒状かいくぶん扁平(へんぺい)で，一般に地中・地上のハチの巣，バッタ類の卵莢(らんきょう)，キクイムシ類が樹木につくる孔洞(こうどう)の内部などに生活して，それらの卵や幼虫を捕食する。成虫も捕虫性で，特にキクイムシ類の天敵として重要であるが，花に集まる種類もある。全世界から2,500種以上が知られ，特に熱帯地方から多くの種類が知られている。近縁のホシカムシ科を本科に包含する研究者もあるが，跗節(ふせつ)の第４節がきわめて微小で背面から見えないなどの点で本科から区別できる。アリモドキカッコウムシ・ホソカッコウムシ・シロオビカッコウムシなどが日本に産する代表的な種類で，いずれも森林害虫の天敵として重要である。一方，ホシカムシ科のものは，幼虫が乾燥した骨・干魚など動物質の乾物を食害する害虫が多く，ルリホシカムシ・アカアシホシカムシなどが日本に産する代表的な種である。〔鈴木邦雄〕

がっさいぶくろ【合財袋】女持ちの小形手さげ袋。信玄袋ともいう。袋の中に一切合財が入れられるというのでこの名がつけられた。織物製で，底・胴まわし・ひも通しの三つの部分からなるかばんのようなものである。1891年(明治24)ごろ考案され，1897年ごろ流行の頂点に達した。袋の底をかごにしたものをかご信玄，巾着*(きんちゃく)形に口の部分をしぼったものを千代田袋といった。1907年ごろから大形のものができ，衣服入れに転化した。日露戦争後布製のオペラバッグが出るや，合財袋は姿を消していった。〔渡辺欣雄〕

がっさくしゃ【合作社】中華人民共和国の生産協同組合。1952年に中国の土地改革は完了し，農民は解放されたが，社会主義建設のためには，農村の社会主義的改造，農業の集団化が要請された。中国共産党中央委員会は，1953年〈農業の互助協同化についての決議〉(1951年起草)を採択，まず互助



月　山　南側から見た10月ごろの月山。山頂には新雪が見える。手前の道路は六十里越街道，遠景の山は鳥海山



組を普及し，さらに合作社をつくる必要があるとした。互助組では，経営は独立のまま労働を集団化するのに対し，合作社は，土地を出資して経営を統一するとともに，農民は土地の配当と労働に応じた支払いを受ける。これは，やがて土地に対する配当を設けない高級合作社の運動に発展し，さらに1958年にはまったく新しい社会組織である人民公社*にまで発展した。〔小野和子〕

カッサシオン　［cassation］　18世紀の器楽合奏の形式の一。戸外で演奏するための曲が多い。構造的にはメヌエットや行進曲を含んだ多楽章の組曲であることが多いが，ソナタ形式を活用して，交響曲やのちの弦楽四重奏曲に近づいたものもある。またディベルティメント*やセレナード*などの形式との間に区別がつけにくい。代表的な作曲家にディッタースドルフ・ハイドン・モーツァルトらがいる。

カッサパ　⇨マハー-カッサパ

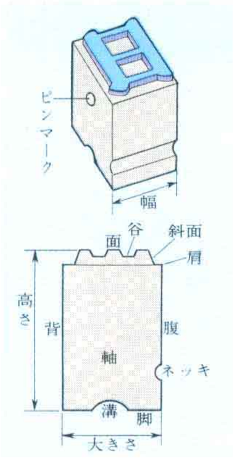
がっさん　【月山】　山形県の中部にそびえる火山。標高1,980m。楯(たて)状火山で，山頂部には半月状の平坦(へいたん)面が残るが，西と東とは深い谷に刻まれている。緩傾斜の山頂部は弥陀ケ原(みだがはら)とよばれる高原で，多くの湿原や雪田があり，高山植物も多い。山頂に月山神社があり，北の出羽(でわ)(羽黒山)神社，南西の湯殿山神社とともに修験道(しゅげんどう)の霊場出羽三山*として名高い。磐梯朝日(ばんだいあさひ)国立公園*の一部で，登山客が多く，また積雪も多いので，春スキーが有名。〔高野　繁〕

がっさんじんじゃ　【月山神社】　⇨出羽(でわ)三山神社

ガッサンディ　［Piérre Gassendi］　(1592～1655)　フランスの自然学者・哲学者。ガッサン(Gassend)ともいう。プロバンスのシャンテルシェの生まれ。1614年アビニョンで神学博士，1617年エクスの大学教授となる。1626年ディーニュ教会の司祭長となるが，ほとんど任地におらず，パリで学者と交わる。1645年より3年間コレージュ-ド-フランスの数学教授。パリで没。デカルト*およびアリストテレス主義に反対し，エピクロス*の唯物論的原子論を支持した。なお，罪に問われたガリレオ*を激励した話は有名である。〔石井忠厚〕

カッサンドラ　［Kassandra］　ギリシア英雄伝説でトロヤの王プリアモスとヘカベの娘。アポロンから予言の力を授かったが，その愛を拒んだので予言の効力を失うようにされた。それゆえ，木馬を城壁内へ入れればトロヤは滅亡するという彼女の警告も人々の聞くところとならず，トロヤは彼女の予言どおり陥落した。捕虜となった彼女はアガメムノン*の手に落ち，奴隷としてミケーネへ連行されるが，アガメムノンとともに彼の妻クリュタイムネストラによって，ミケーネに到着の日に殺された。〔左中庸博〕

かつじ　【活字】　四角な柱状の金属で，頭部に文字または記号などの裏返した形の



活　字



葛飾北斎《千絵の海　甲州火振》東京国立博物館蔵

ものを一つずつ凸状(とつじょう)に鋳造した活版印刷用の字型。今日の鉛活字は鉛・スズ・アンチモンの3元合金で，1445年ごろドイツのグーテンベルク*が考案実用化したのに端を発している。配合率は活字の使用目的に応じて考えられ，鉛73〜87％，スズ1〜7％，アンチモン12〜20％の範囲が最も普通に使用されている。活字合金に要求される性質として，①硬度，②強度と靱性(じんせい)，③字画を正確に鋳造できること，④母型を損傷しない程度の温度で完全にとけること，などがあげられ，このためには湯流れがよく，低融点で凝固収縮がほとんどなく，ある程度の硬度と損傷しないだけの靱性が必要である。活字の材料には陶土・木材・銅などが古くから使用され，近代ではガラス・合成樹脂なども試用されたが，鉛・スズ・アンチモンの3元合金にまさる活字はまだ発明されない。この合金では字づらを形成する凹凸像(おうとつぞう)の鋳造が容易・完全で，印刷インキのつきぐあいが良好である。活字で重要な3要素としては，活字の高さ・大きさ・書体があげられる。活字の高さは足から字づらまでの寸法で，文選・植字などの作業につごうがよいように定められ，わが国では0.918〜0.923インチ(23.32〜23.44mm)が標準になっている。活字組み版の字づらを均一にしてむらのない印刷をするためには，活字の高さを均一にしなければならない。和文活字は原則として体の断面が正方形であるが，欧文活字は長方形で文字によりその幅が異なる。したがって，活字の大きさは原則として活字の字づら天地の長さで決め，それを表わす方法としてポイント制と号数制とがある。1ポイントの単位は，ヨーロッパ諸国では0.0147インチ(0.3734mm)とするディドー式，わが国および英米では0.013837インチ(0.3514mm)とするアメリカ式を使用し，最大36ポイントから4ポイントまでの18種類があるが，一般によく使用される大きさは8・9・10ポイントの本文活字である。号数制は明治初年，わが国の鉛活字実用化の始祖本木昌造*(しょうぞう)がくふう・制定したもので，本邦活字にのみ使用される。

1号＝2×4号

初号＝2×2号＝4×5号＝8×7号

3号＝2×6号＝4×8号

のように，4号・5号・6号を中心とした倍数関係があり，ポイントに換算した関係を示すと表のようになる。

号数	ポイント数
初号	42
1号	27.5
2号	21
3号	16
4号	13.75
5号	10.5
6号	8
7号	5.25
8号	4

活字書体は，文字の読みやすさ，装飾的ねらいなどから，明朝(みんちょう)・清朝(しんちょう)・ゴシック・楷書(かいしょ)などの書体のものがつくられている。ことに欧文活字の書体は，和文活字の書体に比べて種類がおびただしく多い。　〔長野昌隆〕

カッシオドルス［Flavius Magnus Aurelius Cassiodorus］(487ごろ〜583ごろ)　6世紀に活躍したローマの政治家・著述家。貴族の家に生まれた。東ゴート王テオドリックに仕え，執政官や行政長官など重要な公職についたあと550年ごろ退官。ウィバリウムの僧院に隠棲(いんせい)し，図書を収集するかたわら，神学書・百科事典などを書いた。公職在任時代から《演説集》《年代記》《歴史》などを出版。退官後に著わした《教会文学と世俗文学の教則》の後半は，中世にラテン語教科書として用いられた。ローマ文学における異教徒的要素を軽視することなく，古文の引例の貴重な宝庫である。〔久保正彰〕

かつしか【葛飾(区)】東京都23特別区の一。東は千葉県と相対し，南は江戸川区，北西は足立(あだち)区，南西は墨田区と接する。面積33.9km²，人口41万8,000。東西を江戸川と荒川放水路にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)上にあり，中央部を中川がほぼ南北に流れる。江戸時代には水田を主とする農村地帯で，南西から北東に水戸(みと)街道が通じ，帝釈天(たいしゃくてん)の門前町柴又(しばまた)，宿場町の新宿(にいじゅく)などが開けた。南部地区は野菜栽培，北部地区は水田や野菜栽培を主とする農村地帯で，北端部の水元苗圃(みずもとびょうほ)には10,000株を越すハナショウブがつくられる。北部に常磐(じょうばん)線，中部に京成電鉄上野線・押上線，南部に総武本線が通じ，昭和期にはいって各沿線地区に住宅街・工場街が発達した。江戸川区との境にかけて江戸川水郷都立自然公園があり，都民の行楽地となっている。柴又の帝釈天(題経寺)，サクラの名所江戸川堤，堀切(ほりきり)の菖蒲園(しょうぶえん)も古くから名高い。金町(かなまち)浄水場・東京拘置所などの施設があり，水戸街道とほぼ同じコースを通る国道6号線はきわめて交通量が多い。なお，常磐線に沿う亀有(かめあり)周辺は，最近，工業用水のくみ上げによる地盤沈下が著しく，問題になっている。　〔浅井得一〕

かつしかは【葛飾派】素堂*を祖とした江戸の俳諧(はいかい)流派の一派で，素堂が住んだ葛飾にちなむ。素堂以下，温和平淡な句風を特色とし，小林一茶*(いっさ)はこの系統から出た。

かつしかほくさい【葛飾北斎】(1760〜1849)　浮世絵師。はじめは，勝川春章*の門にはいって春朗と号した。師の没後は，勝川派を離れ，以後西洋画を含む諸派の技法を学び取り，これに自己のくふうを加えて独自の個人様式を築いた。喜多川歌麿*(うたまろ)や東洲斎(とうしゅうさい)写楽*によって完成された美人画・役者絵から離れ，風景画をはじめ花鳥画・歴史画に浮世絵の新たな可能性を開拓した功績は大きい。《富嶽(ふがく)三十六景》の連作は風景版画の名作として名高く，また《北斎漫画》にみる略画による戯画的表現は他の追随を許さない。黄表紙や狂歌本などのさし絵あるいは肉筆画にも高い技量を示したが，彼には改名・転居の奇癖があり，その生涯(しょうがい)を貧窮のうちに過ごしたという。門人に北渓(ほくけい)・北馬・北寿があり，また娘応為も絵をよくした。

〔小林　忠〕

かっしぎんこう【甲子吟行】⇨野ざらし紀行

かつじごうきん【活字合金】⇨活字

カッシート［Kassite］古代オリエントの民族名および王朝名。カッシート人はインド-ヨーロッパ語族に属し，ザグロス山脈中に住んでいたが，BC2000年ごろからバビロニア地方にしばしば侵入し，紀元前16世紀ごろハンムラビ王朝を倒したヒッタイト*を破ってバビロン第3王朝をたて，約500年間バビロニアを支配した。しかし，しだいにアッシリア*に同化され，紀元前12世紀には滅びた。政治的・文化的な貢献は少なく，わずかに王の治政年数で年代を数える紀年法，馬と戦車を用いたことで知られる。

〔高山高雄〕

カッシニ［Jean Dominique Cassini］(1625〜1712)　イタリア生まれのフランス

の天文学者。ボローニャ大学の天文学教授であったが，のちパリ天文台長となった。1666年，火星や木星の自転を観測，パリに移ってからは土星の衛星4個と，輪の裂隙(れつげき)を発見した。彼の子息J.カッシニ(1677～1756)は子午線の長さの測定で知られており，孫C.F.カッシニ(1714～1784)，曾孫(そうそん)J.D.カッシニ(1748～1845)も天文学者で，カッシニ以下4代にわたってパリの天文台長をつとめた。〔根本順吉〕

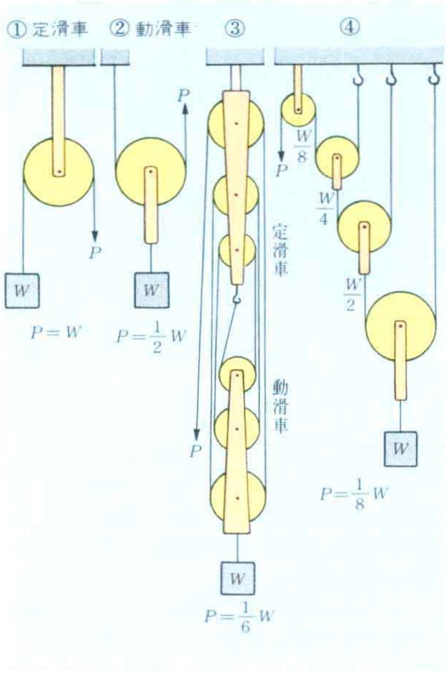
かっしゃ【滑車】車の外周に，綱・ベルト・鎖などをかけて車を回転させ，力の方向を変えたり，力を大きくする装置。滑車には2種類あって，車の軸が固定しているものを定滑車といい，おもに力の方向を変えるのに用いられ，車の軸が移動するものを動滑車といい，力を大きくするのに用いられる。動滑車では図②に示したように，物体を引き上げるに要する力は2分の1になる。動滑車と定滑車を数個組み合わせれば，小さい力で重い物体を移動することもできる。滑車において荷重の大きさWと移動に要する力Pとの比W/Pを揚力比という。➔仕事の原理〔今淳治郎〕

ガッシャブルム(山)［Gasharbrum］インド北部，カラコラム山脈中の高峰群。世界第2の高峰ゴドウィンオースチン山(K_2峰)の南東方にあり，馬蹄(ばてい)形に並ぶ4峰よりなる。最高の第1峰ヒドゥンピークは8,068mで，1958年アメリカ隊が初登頂した。なお，ガッシャブルムはチベット語の〈輝く壁〉の意。

かっしやわ【甲子夜話】肥前(長崎県)平戸藩主松浦静山の随筆。正編100巻・続編100巻・後編80巻。1821年(文政4)11月甲子の夜に起稿し，没年まで書き続けられた。大名・旗本の逸話，和漢の故事，地方の珍談・奇事，市井の風俗，芸能・風流など多方面にわたる作者の見聞を筆録したもので，江戸時代，特に中期以降の政治・経済・外交・風俗などの研究にとっても貴重な資料である。

ガッシュ［Gouasche］水彩絵の具の一種で不透明色。各色にそれぞれ白を混ぜてつくった絵の具と考えればよい。ポスターカラーに似た性質があり，塗り重ねがきき，普通の透明水彩と併用してもよいが，表現は強くなる。絵筆は腰の強いもののほうがよい。なお，これを使用した作品には中世のミニアチュールがある。

がっしょう【合唱】広義には，ふたり以上の人が同時に歌うこと。しかし多くの場合，声部(歌う旋律)の数が一つないし二つのように少ないときは人数が多く，逆に声部数が4とか5のように多いときは各声部がふたりでも，ふつう合唱とよぶ。男女によるものを混声合唱(男女各2部)，男性だけによるものを男声合唱(4部)，女性だけによるものを女声合唱(3部)などと区別する。英語のコーラスはギリシア語のコロ



滑　車



合掌造り

スに由来する。合唱の起源は古代ギリシア以前にさかのぼるが，ギリシアの場合の斉唱(ユニゾン)はよく知られており，また中世のグレゴリオ聖歌もユニゾンであった。こののち，ヨーロッパでは声部を二つ以上にする多声部の合唱が盛んになり，特にルネサンス時代には教会音楽・世俗音楽の両面で合唱音楽が発展し，合唱に重要な役割が与えられた。バロック時代以降も，独立した合唱曲だけでなく，オラトリオやオペラや交響曲などのジャンルでも重要な要素となり，今日に至っている。日本では声明(しょうみょう)や，木遣(きやり)りなどの民俗音楽でもユニゾンの合唱が行なわれている。またアジアの他の地域やアフリカでも，ヘテロフォニーを含めた合唱がある。しかし，高度な芸術音楽としての合唱は西洋で最も盛んに行なわれているが，これは管弦楽などの形態を生んだ思考方式と深い関係があると考えられる。〔徳丸吉彦〕

がっしょうシンフォニー【合唱シンフォニー】⇨第九交響曲

がっしょうだん【合唱団】合唱を行なうための組織。歌劇団・劇場・放送局などの付属ないしは独立している専門声楽家による職業的合唱団と，学校・職場などの同好者によるアマチュア合唱団がある。歴史的にはカトリック教会の聖歌隊が最も古く，18世紀末以後，各地にアマチュア合唱団があいついで設立された。日本の代表的合唱団に，東京混声合唱団・日本合唱協会・二期会合唱団などがある。

がっしょうづくり【合掌造り】飛騨(ひだ)(岐阜県)の白川・荘川(しょうかわ)地方，および越中(富山県)五箇山(ごかやま)地方などにある茅葺(かやぶき)切り妻造り屋根の民家の形式。屋根裏が3～4層に仕切られ，妻側から採光し，かつてはこの地方特有の大家族の主人夫婦以外の寝室や養蚕・物置きなどに利用された。

がっしょうれんこう【合従連衡】中国の戦国時代に，秦(しん)の勢力に対して他の6国(燕(えん)・楚(そ)・韓(かん)・魏(ぎ)・趙(ちょう)・斉(せい))がいかに対応するかという外交方策のこと。合従は，6国が南北に結び，同盟して秦に対抗しようという策で，蘇秦(そしん)が指導者となった。連衡は東西の関係を重視し，6国が秦と単独に平和条約を結ぶ方策で，張儀が指導した。蘇秦・張儀らを縦横家という。

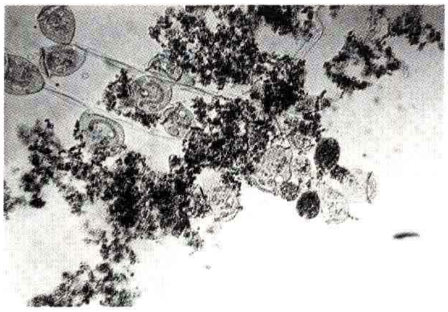
かっしょくしんりんど【褐色森林土】一般に温帯の湿潤な気候下の広葉樹や混合林の排水良好地に発達する土壌(どじょう)。表層は腐植含量が高く暗かっ色で，下層にいくにしたがってしだいにかっ色となる。表層は粒状構造をなすが，下層では角塊状構造をもつ。可溶性塩類は溶脱されており，土壌は酸性ないし中性を示す。

かっしょくど【褐色土】年間降雨量250～400mmの地帯に生成する土壌(どじょう)。自然植生は草本でステップ型。降雨量が少ないため有機物の集積も少なく，炭酸塩の集積もチェルノーゼムに比して表層近くに現われる。したがって表層は中性またはアルカリ性である。肥沃度(ひよくど)が低いため，一般に放牧地に利用される。

カッシーラー［Ernst Cassirer］(1874～1945)ドイツの哲学者。マールブルク派の新カント主義者。ベルリン大学・ハンブルク大学で教えた。若年にライプニッツ研究の一著を出し，のちマールブルク派の立場に立ち，特に豊かな科学的知識を用いて認識論とその歴史的研究を行ない，近代科学の思惟(しい)方法の構造を研究。のち言語・神話的思考・科学的認識を人間精神の発展過程の諸段階における世界の了解の諸形式として把握(はあく)する〈象徴形式の哲学〉に達

した。主著《近代の哲学と科学における認識の問題》《実体概念と機能概念》《象徴形式の哲学》《人間》など。〔豊福英利〕

かっせいおでい【活性汚泥】下水処理法の一つである活性汚泥法において，下水に注入する汚泥をいう。これは下水に十分な酸素を供給しながら攪拌(かくはん)すると，好気性微生物が増殖してできる微生物のかたまりである。肉眼で見ると泥水と変わりはないが，顕微鏡で見ると写真に示したように種々の微生物が認められる。一般に細菌・菌類・原生動物・輪形動物・線形動物などによって構成された100〜1,000 μの不定形の綿くず状のかたまりである。下水中の有機質の吸着・酸化作用が著しく活発で，また沈殿性もきわめて高い。この活性汚泥の性質を利用して下水を浄化するのが活性汚泥法で，一般にはあらかじめ培養した活性汚泥を適量混和し，十分空気を供給すると，下水中の汚濁物質は活性汚泥微生物の栄養源として消費され，一部は無機物に，残部は微生物体に転化される。沈殿により分離した活性汚泥の一部は，返送されて新しい下水に混和され，他の残部は余剰汚泥として処分される。➔下水道〔須藤隆一〕



活性汚泥　つり鐘状のものは原生動物のカルケシウムで，体長約100 μ。ごみのように見えるものは細菌のかたまり

かっせいか【活性化】一般に生物体や物質の機能が活発になることを意味する。たとえば，①未受精卵に刺激を加えて受精しない状態で発生を開始させる，②酵素前駆物質が活性酵素になる(トリプシノーゲン→トリプシン*)，③ある化学反応系に反応を開始するのに十分なエネルギー(活性化エネルギー)が与えられる，などがある。

かっせいたん【活性炭】気体・溶液中の溶質などに対して強い吸着能力を示す炭の一種。木炭などの活性化によってつくられる。組成は無定形炭素が主成分で，シリカ・アルミナ・鉄などの無機質を含む。粉炭を1,200℃ぐらいに熱し，水蒸気を通して賦活(ふかつ)する方法，塩化亜鉛などの溶液に原料を浸してから焼成・水洗して活性化する方法などがある。多孔質で嵩密度(かさみつど)は0.3ぐらい，比表面積は1,000〜3,000m^2/gで木炭の3〜8倍ある。脱色剤・脱臭剤・触媒担体として用いられる。〔竹下三吉〕

かっせいビタミンざい【活性ビタミン剤】大別して次の2種類に分類される。①そのもの自身にビタミンの作用はないが，体内にはいってすみやかに吸収され，長時間止まってビタミンの作用をする製剤。②生体内で活性を示す形，すなわち補酵素型につくられた製剤。①としてはビタミンB_1誘導体(アリナミン・ビオタミン・ノイビタなど)およびビタミンB_2酪酸エステルがあり，②としてはビタミンB_1リン酸エステル・ビタミンB_2リン酸エステル・ビタミンB_6リン酸エステル・ヒドロキソシアノコバラミンなどがある。➔ビタミン剤〔谷村顕雄〕

かっせき【滑石】⇨タルク

かっせきふん【滑石粉】⇨タルク

カッセル［Kassel］西ドイツ中央部，ヘッセン州のフルダ川に沿う工業都市。人口21万4,000(1970)。付近で褐炭(かったん)を産し，鉄鋼・金属・光学機械・車両などの工業が盛んである。ハンブルクとフランクフルトを結ぶ高速道路が通り，9本の鉄道が交差する交通の要地である。第2次世界大戦中，ドイツの航空機・戦車の生産の中心地であったため，激しい空襲を受け，13〜14世紀ごろに建設された教会・宮殿や劇場をはじめ，市街の大半が破壊された。〔梶川勇作〕

カッセル［Gustav Cassel］(1866〜1945) スウェーデンの経済学者。ストックホルム大学・ウプサラ大学に学び，1904年にストックホルム大学教授に就任。1899年に発表した論文《基本的価格論綱要》は，いわゆる価値無用論を提唱したものとして，当時の学界の注目を浴びた。北欧学派*の創始者のひとりであり，その業績のうちで，貨幣金融理論と経済変動論とは特に重要である。彼の論は，のちにウィクセル*らによって批判されたが，それが契機となって北欧における経済学理論研究の発達を促進させたといってもよい。なお，国際金融経済の分野においても貢献があり，そこで展開された購買力平価説*は有名である。主著《社会経済学原論》(1918)。〔松浦　保〕

がっそう【合奏】二つ以上の楽器で同時に演奏すること。独奏に対する。楽器が同種の場合，原則的には異なる声部を奏する。西洋音楽では，中世の舞曲に合奏用のものがあるが，ルネサンスには合奏用舞曲をはじめ少人数用の室内楽も盛んになった。バロック時代には小編成のものとして通奏低音*を伴った独奏曲やトリオ-ソナタが，大編成のものとしてはフランスのリュリ*の五声部の合奏曲やイタリアの協奏曲が多数作曲された。当時は演奏者の即興も合奏の大きな楽しみになっていた。18世紀後半になると，現代にまで伝承されている合奏形態が確立された。その一つは管弦楽*であり，他の一つは弦楽器や管楽器の合奏である。弦楽器の合奏では弦楽四重奏が典型となり，管楽器の合奏では初期の六重奏(オーボエ・ホルン・バスーン各2)や八重奏(六重奏にクラリネット2)から，木管五重奏(フルート・オーボエ・クラリネット・バスーン・ホルン)がしだいに典型となった。また大規模な管楽合奏に吹奏楽*がある。このほかピアノ三重奏も重要である。東洋音楽ではガムラン音楽*のような合奏がある。日本では雅楽*が古くからあるが，近世邦楽でも尺八連管や三曲合奏(箏(そう)・三味線(しゃみせん)と胡弓(こきゅう)または尺八)がある。最近では邦楽のジャンルを越えて種々の楽器を組み合わせることが行なわれ，西洋の楽器との組み合わせも盛んである。〔徳丸吉彦〕

がっそうきょうそうきょく【合奏協奏曲】⇨コンチェルト-グロッソ

かっそうしょくぶつ【褐藻植物】植物分類学上の一門。炎色植物*と合わさって褐色植物とされることもある。褐藻植物の特徴はクロロフィルａおよびｃ，光合成補助色素としてフコキサンチンなどのかっ色系色素をもつ。また，遊走細胞は西洋ナシ形で，腹面には2本の不等長のべん毛がある。おもな同化産物としてラミナリン・マンニットなどの特殊な多糖類を生じる。褐藻植物は世代交代や有性世代・無性世代の形態によって次のように分類されている。①同形世代類：有性体と無性体とが同形同大であるもの。シオミドロ・アミジグサ・ムチモ・ウミウチワなど。②異形世代類：有性体と無性体に著しく大きさの差異がみられ，多くの場合無性体が大きく有性体は非常に小さいもの。モズク・コンブ・ワカメ・アラメ・イシゲなど。③円胞子類：世代交代をせず，複相の有性世代だけのもの。ヒバマタ・ホンダワラ・ヒジキなど。褐藻類のほとんどは海産で，ごくまれに淡水産。コンブ・ワカメ・モズク・ヒジキなどは食用とされ，またヨウ素やアルギン酸を含むものが多いのでその製造原料とされる。

かっそうろ【滑走路】⇨空港

かつた【勝田(市)】茨城県中東部の市。第2次世界大戦の初期から日立製作所による軍需産業で発展し，1954年(昭和29)市制施行。人口91,000。那珂(なか)川下流流域の那珂台地と低い沖積地(ちゅうせきち)上に位置し，北は東海村，東は那珂湊(なかみなと)市，南は水戸(みと)市と接する。産業三大別人口比は12：46：42。南部の低地に水田が開け，台地上では麦・サツマイモ・ラッカセイをつくり，乳牛やブタ・ニワトリの飼育が盛んである。日立製作所の工場群は勝田駅を中心に立地し，発電機・車両・計器などの生産が多い。常磐(じょうばん)線・国道6号線が平行して市域をほぼ南北に縦断し，茨城交通湊線が那珂湊市に通じ，海岸線寄りに国道245号線が走る。1961年水戸とともに都市開発区域に指定され，市の中央部から都市計画街路が放射線および環状線で全市域に通ずる。

カッター［cutter］5〜10mぐらいの長さの小形帆船の一種。10名前後で手こぎもできる。また，大形船に積載されて雑用



黒韋縅胴丸鎧大袖付　（南北朝時代）高津嘉久蔵



赤糸縅胴丸鎧　（平安時代）　大山祇神社蔵



紺糸縅胴丸　（戦国時代）　高津喜之蔵



上杉謙信所用色々縅腹巻　（戦国時代）　上杉神社蔵



豊臣秀吉所用花色日の丸縅具足（安土桃山時代）　徳川黎明会蔵



徳川家康所用熊毛植黒糸縅具足（江戸時代）　徳川黎明会蔵



徳川家康所用南蛮銅具足　（江戸時代）　日光山東照宮蔵

甲　冑　日本

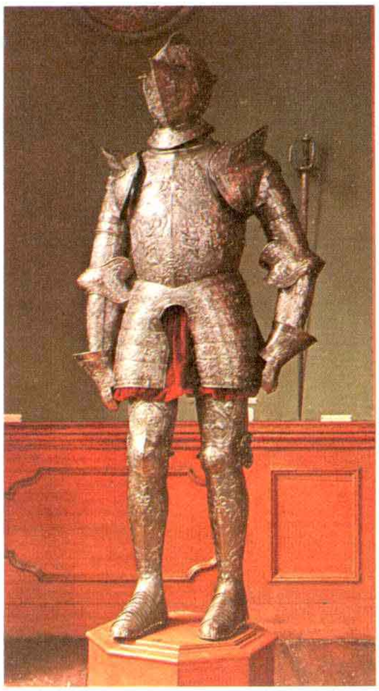
として用いられる。現在では教育訓練用として使われる場合が多く，海事関係の学校間ではカッターの対校戦がしばしば行なわれ，カッターレースといわれる。➔帆船(図)

かったん　【褐炭】　⇨石炭

かつだんそう　【活断層】　一般に第四紀以後に活動した証拠(たとえば第四紀層に影響を与えている)のある断層をいうが，一定の定義はされていない。地震によって生じた断層(たとえば根尾谷断層，丹那(たんな)断層など)は地震断層とよばれているが，活断層中に含まれるものである。

かっちゅう　【甲冑】　戦闘のときに着用した防護用の武具。鎧*(よろい)・兜*(かぶと)の文字も使い，中世の日本とヨーロッパで，時を同じくして進歩した。〈甲〉はよろい，〈冑〉はかぶとである。日本の上代には甲は鉄でつくられ，短甲*と挂甲*(けいこう)の２種類があった。短甲は鉄製の筒形で，前後から胴をおおうもので，剣やほこを防ぐには有効だが，上半身の屈伸が不自由である。挂甲は金属の札(さね)をつづり合わせたもので，柔軟で活動に便利であり，矢を防ぐにもよかった。徒歩戦が主だったときは短甲を着用したが，騎馬戦が多くなり，また大陸の甲冑の影響を受けたため挂甲がこれに代わった。冑は鉢(はち)と𩊱(しころ)からなっている。鉢は鉄をはぎ合わせてつくり，𩊱は首が動きやすいように，鉄板をつづり合わせて首をおおった。またまっこうからの斬撃(ざんげき)をそらすため，鉢の正面を山形にしたり，眉庇(まびさし)をつけたりした。その後，奈良時代には唐様(からよう)を取り入れ，革製の甲冑も現われたが，それらすべては官製であり官給品であった。ところが，平安末期から武家の台頭とともに，甲冑は私製され，経験によるくふうが加えられた。すでに大陸との交渉は薄れて，ここに日本独特の甲冑が生まれた。すなわち優美な大鎧(おおよろい)である。これを正式の甲冑という意味で〈式正の鎧〉という。

鎧はおよそ胴・そで・草摺(くさずり)よりなっており，胴の左右に鳩尾(きゅうび)の板と栴檀(せんだん)の板をつけ，両わきのすきまをふさいでいる。そでは胴の左右にあって肩をおおい，草摺は胴の下部にたれて上腿(じょうたい)を守る。札は鉄または練革(ねりがわ)でつくった小板で，縅糸(おどしいと)でつづって甲の各







甲冑　西洋

(左)オランダのプレートアーマー　15世紀ごろ
(中)フランスのプレートアーマー　16世紀ごろ
(右)スペインのプレートアーマー　16世紀初頭

部をなした。縅糸には糸・革などを用い，その色によって緋縅(ひおどし)・山吹縅・小桜縅・卯の花縅(うのはなおどし)・白檀縅(びゃくだんおどし)・萌黄縅(もえぎおどし)などがあり，また一方から他方へ濃淡のある匂縅(においおどし)，色の段落をつける段縅などもあった。甲の付属物としては，籠手(こて)・脇楯(わいだて)・佩楯(はいだて)・脛当(すねあて)などがある。

略装の甲には胴丸・腹巻き・腹当ての3種があった。胴丸は胴を丸く包むのでこの名があり，これは一続きの胴をぐるりと回して右わきで引き合わせる。そでと脇楯がなく，鳩尾の板・栴檀の板の代わりに杏葉*(きょうよう)とよばれる木の葉形の鉄板をつけ，草摺は8枚に分けて歩きやすいようにした。腹巻きは胸腹部の前後をおおうだけのもので，やはり引き合わせは右わきである。腹当てはさらに簡単で，腹だけをおおって背はあいており，草摺はほとんどないに等しかった。これらの軽武装は大鎧とともに，前九年の役・後三年の役前後につくられ，主として歩卒が着たものである。ところが文永・弘安(こうあん)の役によって，集団戦闘の重要さを知り，また南北朝の争乱以来，機動力を発揮するためには軽武装がよいところから，一般の将士も大鎧に代わって胴丸や腹巻きを着るようになった。戦国時代にはいると，さらに集団戦闘が徹底し，それに鉄砲の伝来があって，弱い札甲では耐えられなくなったため，札を大形の鉄板に代え，またヨーロッパ渡来の南蛮胴，その模倣の鳩胸胴(はとむねのどう)などいわゆる当世具足*の出現となった。胴は2枚あるいは5枚胴で蝶番(ちょうつがい)づき。指物*(さしもの)を立てるための受筒が背にあるのが特徴で，実戦に即応した思い思いの甲が用いられた。

冑は上代のものから進化し，鉢には星・筋・立物ができた。鉢は小鉄板をつないだもので，そのつなぎ目を筋といい，留めた鋲頭(びょうがしら)を星という。すなわち星冑である。立物は鍬形(くわがた)・半月・天衝(てんつき)が一般的で，大将は鍬形の中央に龍頭(たつがしら)を配した。錣(しころ)はたらした数によって三枚錣・五錣とよび，前方の折り返しを吹き返しといった。しかし鉄砲の伝来とともに，甲と同様に吹き返しも札仕立ても無用として，帯状の鉄板をつないで錣とした。冑の鉢にも奇怪な形のものが現われ，優美さより実戦本位でこけおどしのものが多くなった。

甲冑の時代的な特徴をあげれば，平安時代は騎馬の一騎討ちに有効な華麗さを主とし，鎌倉時代は激しい太刀(たち)打ちのため堅実さを尊び，そして戦国時代にはただ堅牢(けんろう)さ・軽快さに走って独特の優美さを失った。太平続きの江戸時代になると，甲冑は死蔵されるか鑑賞の対象かにすぎなかったが，幕末には洋式戦術が輸入されるとともに武具の意義を完全に失った。

〔稲垣史生〕

西洋ではイラン南西部スーサ*出土のアッカド王ナラム-シンの戦勝記念碑(紀元前23世紀)に，牛角の円錐(えんすい)形兜をつけた王像が刻まれている。また紀元前7世紀のアッシリアの戦士が円錐形の兜を用いている。しかし，これら古代オリエント諸国の甲冑についての詳細はわからない。その形態がはっきりするのは古代ギリシアにおいてで，紀元前12世紀ごろの壺(つぼ)に描かれたミケーネの戦士は兜をかぶり，胸甲・脛当をつけ，長い槍(やり)と丸い楯(たて)を持っている。これはポリス成立後，市民兵軍隊の主力となった重装歩兵*の武備にも引き継がれている。ローマ時代には表面に板金をつけた皮の札をつづった胴衣が現われ，ロリカとよばれた。また，ローマ人の娯楽の一つであった剣闘で剣奴*が用いた冑・腕甲・脛当のように，華美な装飾が施されたものも現われた。これら，ギリシア・ローマ時代の甲冑は，主として頭部・胴部を守るものであったが，中世になると，しだいに全身をよろう甲冑が発展していった。

9～10世紀，それまでの歩兵戦に代わって騎馬戦が主要な戦闘形態になると，騎士*が新しい法身分として登場した。彼らは防御兵器としての甲冑をほとんど極限にまで発展させた。10世紀以降，盛んに用いられたメール(鎖帷子)はその一つで，顔面以外の全身をおおい，頭部にはおもに円錐形の兜をかぶった。しかし14世紀ごろ，大形の弓を機械的に射る弩(おおゆみ)が登場し，メールを突き破るほどの威力をもったため，



甲　冑　16世紀初頭，騎士が着装した甲冑

メールの要所は厚いプレート(鋼鉄の板)で補われた。さらに，これが発展してからだ全体をすっぽり包むプレートアーマー(板鎧)が現われた。これは胸甲・背甲・肩甲・腕甲・脚甲などの各プレートが蝶番や尾錠金などで連結され，多いものでは約100の部分からなるプレートアーマーも生まれた。これらは総重量が60～80kgにもなり，ひとりで着脱することはもちろん，ひとりでウマに乗ることも，また騎馬戦で軽快に戦うことも不可能になり，百年戦争の後半には，重装備の騎士による一騎打ちよりも，軽装騎兵や傭兵(ようへい)である歩兵による組織的な戦闘方式が支配的となり，17世紀前半には全身をおおうプレートアーマーはその意義を失った。その後，火器の発達に伴って衰退し，今日では実用性を離れて儀礼用具・美術品となっている。〔斎藤高夫〕

かっちゅうぎょ 【甲冑魚】 古生代オルドビス紀に出現し，シルリア末期からデボン紀に繁栄してデボン紀末には絶滅した魚類。顎(がく)はなく，体中に骨はもたず，体表は規則正しい骨質の板でおおわれ，ひれはなかった。運動は不活発で，淡水にすんだと考えられる。化石はヨーロッパにふつうに産するが，わが国では未発見。

かってっこう 【褐鉄鉱】 かっ色をした水酸化鉄の鉱物の総称であり，また，水酸化鉄を主体とした鉄鉱石のこと。水酸化鉄($Fe_2O_3 \cdot H_2O$)には，α(ハリテッ鉱)・β(アカガネ鉱)・γ(ウロコテッ鉱)の3種の同質異像があり，いずれも斜方晶系で，X線回折線を調べないと区別しがたいことが多い。しかし，一般の鉄鉱石を構成しているのはほとんどハリテッ鉱である。カッテッ鉱を主体とする鉄鉱床でいちばん開発の進んでいるのは，フランス東部を主産地とするミネット鉱である。これは層状の堆積(たいせき)鉱床で，リン分が比較的高いのが特徴である。熱帯地方でジャモン岩などが風化作用を受けると，カッテッ鉱の大きな鉱床が地表にできるが，この種のものはニッケルやクロムなどの不純分を種々の割合に含むため，まだ十分利用されていない。日本のような火山地帯では温泉から沈殿したカッテッ鉱の鉱床があるが，小規模であるためほとんど掘り尽くされた。鉄を含む鉱物が地表で風化作用を受けると，つねにカッテッ鉱がその表面に沈殿して黄かっ色の色をつける。岩石が地表付近で変色するのはこのためである。熱帯地方では風化によって地表にカッテッ鉱と水酸化アルミニウムのみが残る。雨量の多い地方では水を多量に含んでゲル状になる。これは柔らかいので，切り取って積み上げ，家の土台や壁をつくると，やがて脱水結晶化して固まる。〔片山信夫〕

カット ［cut］ 新聞・雑誌などの印刷物に挿入される飾りの小さな絵。複製を目的として，木版・銅版などに簡単な絵を彫ることのカットから転じている。簡単な略画が多く，通例は単色のペン画・筆描が用いられる。こま絵・小さし絵ともよばれ，印刷物の小画類，本文とは関係のない装飾的な木版・凸版画(とっぱんが)などの総称としても用いられる。



甲 冑 魚　ボスリオレピス(模型)



カッテツ鉱　長野県明治温泉産

ガット ［GATT］ General Agreement on Tariffs and Tradeの略称。関税貿易一般協定。第2次世界大戦後，〈自由・多角・無差別・互恵〉原則に基づく世界経済の運営・発展のための国際機関として，通貨金融面ではIMF(国際通貨基金)が設立され，貿易面では国際貿易機構(ITO)の設立が計画されたが，これが死産に終わったため，代わって関税その他貿易障害を除去し，貿易自由化をはかるために成立した国際経済協定。1947年10月，アメリカ・イギリス・フランスなど23か国がジュネーブで調印し，1948年1月に発効。正式加盟国は78か国(1970)で，日本は1955年(昭和30)9月に正式加盟。協定の要点は，①加盟国相互間の多角的交渉により関税率を引き下げ，最恵国待遇を適用し，関税上の差別待遇を撤廃する，②したがって特恵関税制度は廃止または軽減されねばならないが，既存の特恵関税制度は認められ，また関税同盟・自由貿易地域なども認められている，③内国民待遇を与える，④数量制限は撤廃する，⑤輸出補助金は禁止するなどであり，最恵国待遇により，加盟国相互の関税引き下げ交渉で決定したガット税率を加盟国全体に適用することにより，関税引き下げが進められていく。しかし，ケネディ-ラウンドにおけるように，一括関税引き下げ交渉が行なわれる場合もある。〔深海博明〕

かっとう 【葛藤】 対立する，あるいは矛盾し合う二つ以上の要求が同時に，同じくらいの強さで存在していて，行動を決定しがたい状態。レウィンは心理学的場における葛藤を目標のもつ誘意性から次のように分けている。①二つ以上のプラスの誘意性がほぼ等しい強さで存在する場合。映画もみたいし，家にいて読書もしたいなど(接近―接近型の葛藤)。②二つ以上のマイナスの誘意性がほぼ等しい強さで存在する場合。学校に行きたくないし，行かなければしかられるなど(回避―回避型)。③同一目標にプラスとマイナスの誘意性が同時に存在する場合。欲しい物を手に入れたいし，そのためには危険を犯さねばならないなど(接近―回避型)。

一方フロイトは精神分析の基本概念の一として葛藤を重視した。すなわち，精神内界におけるリビドーの欲求はしばしば現実と対立し矛盾するゆえに，それをおさえようとする力(自我)との間にたえず葛藤を起こしているというもので，神経症の発現機構を葛藤の処理の不手ぎわによって説明している。〔深津海明〕

かつどうしゃしん 【活動写真】 ⇨日本映画

かつどうでんりゅう 【活動電流】 細胞は各種イオンに対し，代謝エネルギーを用いて能動的に選択的透過を行ない，浸透圧に逆らってイオンの取り込みと排出を行なっている。このため，細胞膜をはさんで内と外とにイオンの濃度差が生じ，一般に細胞の外側が(＋)に，内側が(－)に帯電している。これを静止電位といっている。たとえば，神経繊維では膜の内側にカリウムイオンK^+，外側にナトリウムイオンNa^+の濃度が高い状態となっており，刺激を受けると局所的に膜の透過性が変わって，膜の外から内へNa^+が，内から外へK^+が移動し，膜電位はその部分だけ外側が陰性となって逆転する。これを活動電位といい，他部の電位よりも低くなるため電流を生じる。これを活動電流という。この電流の刺激によって膜の他の箇所にも活動電位が生じる。こうして刺激は神経繊維の中を次々と伝達される。電流が流れたあとは再び選択的透過を行なって元のイオンの平衡状態を回復する。しかし，この過程は化学反応であるため回復がおそく，電流はまだ刺激を受けていない方向にしか流れない。なお，電流の速度は動物によって異なり，ヒトでは毎秒70～80m，カエルでは42mである。〔原野友之〕

カットグラス ［cutglass］ 切子(きりこ)ともいい，ガラス工芸の技法の一。形成されたガラス器に装飾を加えるため，下図に合わせて表面に削り取りの工作を施したもの。この工作は，ふつう動力のシャフトに取り付けた鉄製円盤を回転させ，上から金剛砂の液を滴下させながら，円盤のとがっ

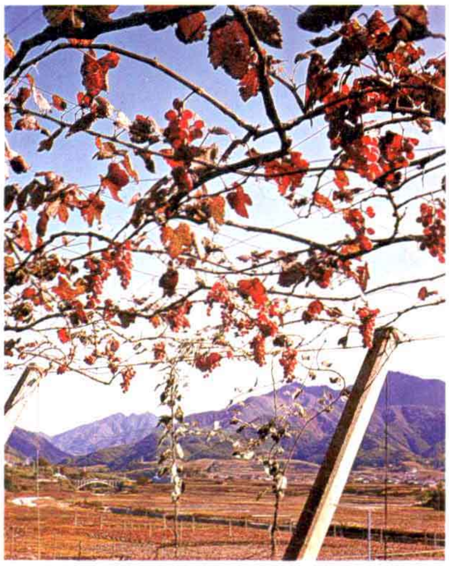


カット　グラス　花瓶　各務クリスタル製作所提供

た縁を器にあてて必要な直線をV字形に切り込む。カットの部分の仕上げは，キリ・ヤナギなどの木製円盤に弁柄の溶液を落としながらみがき，さらになめし皮のバフをかけて光沢を出す。こうして，粗・密種種の直線によって美しい幾何学文が構成され，ガラス自身の光沢のために宝石のような感覚効果を与える。カットグラスの製作はドイツのボヘミア地方が古く，15世紀に国王ルドルフ2世の奨励によって盛んになり，シンジア・ババリア地方に進展した。この地方のものには，2種以上の色を重ねたものが多い。また，イギリスにおいては，17世紀のガラス技術者ラーベンスクロフトのクリスタルガラス*発明以来，ロンドンなどですぐれた無色ガラスの作品が多く産出された。このほか，チェコスロバキアのモーゼルグラス，フランスのバカラ，ベルギーのサン-ランベール，アメリカのコーニングなどは現代の高級品である。なお，19世紀中葉のわが国には，薩摩(さつま)切子*・江戸切子などの製品がある。〔市川　清〕

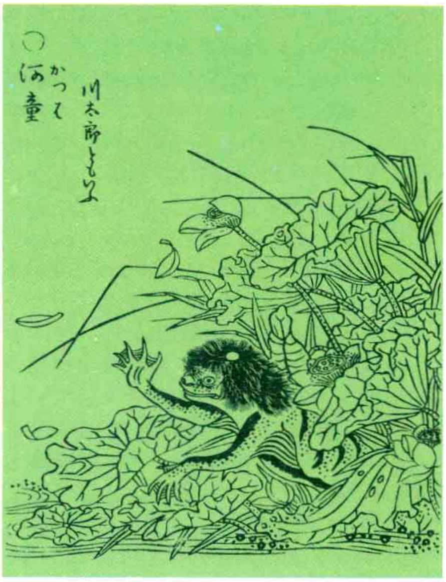
カットワーク　[cut work]　白糸ししゅうの一種。16世紀ごろイタリアからフランスに伝わり進歩発達した。布地に下絵を書き，ボタンホールステッチまたはオーバーキャストステッチ*を施し，穴の部分を切り取る。切り残した布面とステッチの線とに対するカットの空間の調和が模様の特徴である。カットの空間はブリード(橋)で処理することもできる。テーブルクロース・テーブルセンター・ブラウス・ハンカチーフなどに用いられる。〔山村あい子〕

かつぬま　【勝沼(町)】　山梨県東山梨郡に属し，甲府盆地の東縁にある。人口19,000。かつて甲州街道の宿場町として栄え，現在も中央本線・国道20号線が通る。甲州ブドウの主産地で，西に傾斜する日川(ひかわ)扇状地の大部分は日本最古・最大といわれるブドウ園で埋めつくされている。近年，国道の沿線を中心にレジャーブームで観光ブドウ園がにぎわっている。



勝沼町　甲州ブドウの本場，勝沼付近のブドウ園。遠景に日川にかかる祝橋が見え，その背後の山々は笹子峠へ連なる





河　童　(上)小川芋銭画　(下)鳥山石燕画《画図百鬼夜行》から

かつねつ　【渇熱】　健常な新生児で，生後2－5日に，急に38～39℃に及ぶ発熱があり，ほかに異常が認められず，1－3日で下がるものをいう。原因としては水分の不足，体温調節中枢の発育不全，体内代謝産物による刺激，環境の急激な変化などが考えられている。予後は良好で，特別の治療を必要としない。

かづの　【鹿角(市)】　秋田県北東部，北は青森県，東は岩手県に接する南北に細長い市。1972年(昭和47)に，鹿角郡十和田・花輪・尾去沢(おさりざわ)の3町と八幡平(はちまんたい)村が合併して市となった。人口47,000。中心の旧花輪町は鹿角盆地の南部にあり，米代(よねしろ)川に沿う木材の集散地で，江戸時代から3・8の日の六斎市でにぎわい，また南部藩の代官所があった。硫化鉄鉱の花輪鉱山があり，製材・家具木工・醸造・化学工業が行なわれる。十和田湖・八幡平への観光基地でもある。旧十和田町の中心は毛馬内(けまない)で，ここにも南部藩の代官所があった。大湯温泉*や大湯環状列石*が有名である。旧尾去沢町は，尾去沢鉱山*を中心とし人口の80%が鉱山関係の従業員とその家族。産業三大別人口比は35：25：40。

かづのぼんち　【鹿角盆地】　秋田県北東部，米代(よねしろ)川の上流にあり，盆地南部の商業の中心である鹿角市旧花輪町の名をとって花輪盆地ともよんでいる。奥羽山脈の西麓(せいろく)に形成され，南北に向けて長く，東縁と西縁は断層崖(だんそうがい)によって山地とくぎられている。米代川は盆地の南東に湯瀬峡谷をうがち，南部で熊沢(くまさわ)川・夜明島川などの支流を合わせ，西部の断層崖に沿って北流し，青森県境に源を発して南流する小坂川と盆地中央部の十和田南駅付近で合流し，西に向きを変えて大館(おおだて)盆地に流出している。かつて，盆地は湖をたたえていたらしく，東部に三角州状に堆積(たいせき)した湖底堆積物よりなる台地があり，その周辺部には河岸段丘が形成されている。東から西にゆるやかに傾斜しており，東縁の断層崖のふもとには，台地の上に重なるように複合扇状地が続いている。扇状地や台地面は畑やリンゴ園になっており，扇端からの湧水(ゆうすい)を利用できる河岸段丘や沖積地(ちゅうせきち)には水田が広がっている。〔味沢成吉〕

かっぱ　【合羽】　15世紀ごろから南蛮人の渡来によってもたらされた雨具兼防寒具。古代の雨具は蓑*(みの)であったが，江戸時代には雨具として合羽が広く使用され，〈南蛮蓑〉ともよばれた。語源はポルトガル語のcápaで，合羽はそのあて字である。渡来時の布地はラシャ製，色は黒・緋(ひ)・萌黄(もえぎ)など。マント*形式のもので，戦国時代には武将たちに愛用されていた。江戸時代には紙製の紙合羽や布製の丸合羽が現われ，そで合羽もつくられた。江戸末期から明治にかけては防寒具としても便利な〈とんび〉

が使用されるようになると，合羽はラシャ製マントとして学生間になごりをとどめた。

かっぱ【河童】水界特に河川にすむと伝えられる妖怪(ようかい)。かっぱ譚(たん)は沖縄から青森までほぼ全国に分布している。もとは水神，水霊の零落した姿をかっぱといって，信仰上の妖怪の一種と考えられていた。かっぱの形状は，裸身・童形で，おかっぱ頭のまん中にさらがあり，そこに命の水がためられ，左右の両手が伸縮自在，または簡単に抜けるなどの特徴がある。また，すもうをいどむ特性があり，天狗(てんぐ)と類似している。かっぱが秋の末に山に登って山童(やまわろ)になり，春には川を下ってかっぱになる。これは農耕神が春秋に田の神・山の神に神格を変換するという伝説に一致している。食べ物としてキュウリを好むのは，夏野菜の代表としてのキュウリが川祭り・水神祭りの供物であるからであろう。かっぱは古くは〈みずち〉とよばれ《日本書紀》には〈虬〉の字で見られるが，のち関東地方の方言である〈かわわらわ・かわわっぱ〉のなまりがかっぱの語となって普及した。西日本では〈がたろう〉とよばれるが，これは川太郎の意で，みずちと本名をよぶのをはばかった忌みことばとみられる。かっぱ譚は口承文芸として人気があり，各地にかっぱの傷薬や接骨秘法，詫び証文や膳椀(ぜんわん)伝説などとして伝えられている。なお，青森県津軽地方では水虎様(すいこさま)と称して，鎮守の境内などにかっぱの像を祭っている。〔今野圓助〕

かっぱ【河童】芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)の中編小説。1927年(昭和2)《改造》に発表。ある精神病患者がかっぱ社会での体験を語る形式で，現代文明を風刺。かっぱは彼が生涯(しょうがい)愛好した仮構の動物で，風刺的諧謔(かいぎゃく)のうちに，遺伝による発狂へのおびえや実生活上の係累からの苦悩などを盛り込み，さらに自殺への暗い絶望感を底流させる。近代日本文学史上にまれな風刺文学作品の一つ。

カッパ-ロケット［κ-rocket］東京大学生産技術研究所で1956年(昭和31)から開発された大気上層観測ロケット。ペンシルロケット・ベビーロケットに次ぐもの。カッパ8型は，1段めの直径42cmの2段式で，40kgを搭載(とうさい)して200km前後まで上昇した。同じく直径は42cmであるが，3段式にしたカッパ9-L型は，12kgぐらいの搭載物を載せ，350kmまで上昇した。

かっぱんいんさつ【活版印刷】活字の組み合わせを主としてつくった版面で行なう凸版(とっぱん)印刷。本来は活字を拾う文選，この活字を植える植字作業によって組み版を整えて印刷する技術であったが，鉛版・電鋳版などの複製版が発明され，これら複製版での印刷のほかに各種の凸版印刷も含まれるようになった。活版印刷の利用範囲はきわめて広く，名刺・はがき・宣伝広告物などの小物から書籍・雑誌・新聞などの大部数のものまで，印刷物の大半が活版印刷で製造されている。〔長野昌隆〕

カップいっき【カップ一揆】1920年3月，ドイツで起こった帝政派のクーデター。ベルサイユ条約の修正，帝政の復活などを主張。一時ベルリンを占領し，極右翼の政治家カップ(1858～1922)を中心に独裁制を敷いたが，労働者階級がゼネストを実施し，国防軍も中立を守ったため，クーデターはわずか5日で崩壊した。

カップケーキ［cup cake］パウンドケーキの一種で，カップ形の焼き型に種を入れて焼くのでこの名がある。ボールにバターと砂糖を入れてよく練ってから卵を加えて混ぜ，牛乳と香料を加える。これに小麦粉とベーキングパウダーをいっしょにふるいにかけたものを加えてさっとかき混ぜ，焼き型にパラフィン紙を敷いた中に入れて中火のオーブンで焼く。焼き上がったら型から取り出し，紙のまま取り扱う。

かつぶつ【活仏】仏・菩薩(ぼさつ)・聖僧などの再転生者と考えられているラマ(高僧)。チベット語トゥルクー，モンゴル語フトクト，またはホビルハンに対する中国語である。聖者再生思想は宗教一般にみられるものであるが，仏教のうち特にラマ教文化圏においては，これが管長職・大寺院座主職(ざすしょく)などの継承襲位に結合し，のちに僧団制度の要核になった。古くは元代にカルマパ派のカルマパクシ2世(1283～1338)が1世の転生者として管長職を襲位した例があるが，制度として確立されたのは黄帽派(→黄教)時代にはいってからである。ダライ-ラマ・パンチェン-ラマをはじめとする大活仏の数は清(しん)代の記録《大清会典事例》によると，チベット内部32人，アムド(青海省)35人，カム(昌都(しょうと)付近)5人，外モンゴル19人，内モンゴル57人，駐京14人である。〔金子良太〕

かっぷはんばい【割賦販売】売買契約を結ぶ際に，代金の一部または全部の支払いを将来に延期し，一定期間内に分割決済する契約のもとに，商品またはサービスを移転する制度をいう。この割賦販売は，販売信用の供与者の観点から①商品またはサービスの提供者(販売業者)が消費者に直接販売信用を供与して契約する割賦販売と，②販売斡旋(あっせん)機関が販売業者と消費者の間に介在して販売業者の代行者となって消費者に販売信用を供与する割賦販売がある。代行機関としては協同組合連合会・日本専門店連盟・全国商店連盟・日本信用販売などがあり，代行機関は販売代金の4～9％を手数料として受け取る。これらのほかに，商品またはサービスそのものの割賦販売ではないが，それと実質上同じ効果を有する，金融機関が消費資金を個人に貸し付ける消費者ローンが普及しているが，これは①②とは区別して認識する必要がある。割賦販売の特徴として，消費者，特に一括支払いの困難な所得層に対しては，家庭用電気器具・自動車・家具・住宅などの高価な耐久消費財の購入を容易にし，代金完済以前にそれらを入手可能にすること，販売業者に対しては，潜在需要を有効需要に顕在化させる有力な販売促進手段となることなどがあげられる。➔消費者信用〔清水　晶〕

かっぷはんばいだいきんほけん【割賦販売代金保険】割賦販売，たとえば月賦販売の代金債権を回収する際に起こる損害を塡補(てんぽ)する保険。損害保険に属する。貸し倒れに対する保険であって，いわゆる信用保険の一種とされる。割賦販売制度は，経済の発展につれて今後ますます盛んとなり，したがってこの保険のもつ社会的重要性もいっそう増大するものと思われる。しかし，この保険を成功させるためには高い道徳観念が社会に存しなければならないし，保険加入者に対する十分な信用調査が必要とされる。この保険は，欧米先進国における自動車の割賦販売をめぐって発達した。

カッペ［kappe］炭鉱の切り羽で天井の岩盤(天盤)をささえるために用いられる金属製の梁(はり)。1本の長さは1m前後であるが，継ぎ手を用いて次々に連結していくことができるのが特徴で，原則として鉄柱と組み合わせて用いられる。

がっぺい【合併】二つ以上の会社が，契約(合併契約書)によって一つの会社に合同すること。株式会社または有限会社が合併するには，合併契約書をつくり，株主総会または社員総会の承認を得なければならない(商法408条，有限会社法60条)。この合併には，①合併する会社のうち1会社だけが存続し，他の会社は消滅してしまって存続会社に吸収されてしまう〈吸収合併〉と，②合併する会社全部が消滅し，それと同時に新会社を設立してその中にはいりこむ〈新設合併〉の二つの方法がある。合名会社・合資会社・株式会社間では，種類に関係なく合併できるが，有限会社は，有限会社または株式会社としか合併できない(有限会社法59・60条)。合併によって一定の取引分野における競争を実質的に制限することとなる場合や，合併が不公正な取引方法によるものである場合には禁止される(独占禁止法15条)。なお，営業譲渡と異なり，合併により消滅する会社については清算手続きを必要としない。➔企業合併〔松本治雄〕

がっぺいしょう【合併症】ある一つの疾患の罹患(りかん)中に併発して起こる疾患。重症疾患の場合に起こることが多く，衰弱している患者の場合は，注意が必要である。

かっぺん【褐変】食品は，貯蔵・加工・調理などによって，黄かっ色や赤かっ色に着色することが多い。これを褐変とよんでいる。食品は褐変によって食品の色を悪くしたり，栄養価を下げる場合もあるが，逆

に，食品に好ましい色調を与えたり，よいかおりを出す場合もある。褐変の原因は食品によって種々異なるが，きわめておおざっぱに分けると非酵素的と酵素的とになる。前者には糖の加熱(カラメル形成)，糖とアミノ酸の反応など，後者には酸化酵素による褐変などがある。〔佐藤友太郎〕

かっぽう【割烹】 もと中国から伝わったことばで〈割〉は包丁さばき，〈烹〉は火かげんの意。本来は肉を焼いたり煮たりすることであるが，日本料理最初の文献ではさしみやなますなどの調理にも使われており，今日では，食物一般の調理に用いられる。江戸時代後期に出現した高級日本料理店が店名に割烹ということばをつけたのが始まりで，それ以後，日本料理店を割烹，または割烹店とよぶようになった。

かっぽれ

[1]俗曲。江戸末期ごろ，願人坊主*(ぼうず)が江戸市中の空地で興行した一連の大道芸。《かっぽれ》をはじめ，《ヤァトコセ》《姉さん》《深川節》など，豊年踊り*をもとにした奔放な踊りと軽妙な節回しで人気を集めた。明治初年，豊年斎梅坊主らによって寄席・宴席の芸として演じられ，今日に伝わる。

[2]日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《初霞空住吉(はつがすみそらもすみよし)》。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作詞。1886年(明治19)初演。俗曲《かっぽれ》を舞踊にした作品中の代表的なもの。〔如月青子〕

かつもんびょう【褐紋病】 ナス・ダイズ・エンドウなどの病気で，葉・茎・さや・果実に円形または不正形のかっ色の病斑(びょうはん)を生じ，葉は乾燥・枯死して落下し，茎の周囲を病斑が囲むと，茎は乾枯してしおれる。病原菌は菌糸か胞子が被害茎葉や種子について越冬する。

かつやま【勝山】 女子の日本まげの一種。江戸時代(17世紀中ごろ)遊女勝山が結いはじめたという通説がある。のち遊女に限らず一般女性に広まり，元禄(げんろく)時代が最盛期。幕末から明治へかけて人妻の結うまげの代表として残され，おもに武家階級・豪商の妻女が結った。頭の中央部でたばねた髪の先を，大きな輪にして根もとで再び結び，そこに白元結いをかけたもので，丸まげ*は同系のまげである。→髪形

かつやま【勝山(市)】 福井県北東部の市。中世末に柴田(しばた)氏が勝山城を築き，江戸時代は小笠原(おがさわら)氏二万二千石の城下町で，勝山タバコの特産があった。1954年(昭和29)市制施行。人口31,000。九頭龍(くずりゅう)川中流に沿う勝山盆地*の中心を占め，白山火山帯に属する東部山地を含む。産業三大別人口比は18：50：32。明治中期以降は専売制となったタバコに代わって機業が発達し，福井製織地帯の東縁の中心で合繊・人絹・絹織物の産が多い。福井から京福電鉄が通じ，また国道157号線に沿う。白山国立公園の観光基地で，東部にはスキー場



カッラ《馬と騎手》 1915

が多い。

かつやま【勝山(町)】 岡山県真庭郡の町。人口11,000。姫新(きしん)線・国道181号線に沿い，旭(あさひ)川上流域の蒜山(ひるぜん)高原・湯原温泉への入り口にあたる。古くは高田と称し，三浦氏の陣屋町として発達した。木材の集散地で製材工場が多い。

かつやまぼんち【勝山盆地】 福井県北東部にあり，西は越前(えちぜん)中央山地に，北から東にかけては白山山地に囲まれ，九頭龍(くずりゅう)川に沿った幅2km前後，長さ約20kmにわたる細長い盆地で，中心に勝山市*がある。盆地の東部は背後の山地から流れ出る川による扇状地が広がり，その周辺部に数段の河岸段丘が発達し，九頭龍川は西の越前中央山地寄りを南東から北西に貫流している。

かつよう【活用】 日本語の用言や助動詞は，言いきったり，他の語に続けたりする場合に，どのように言いきるか，あるいは，どのような語にどのように続けていくかなどの違いに応じて，一定の語形変化を示す。このように，単語がその用法の違いに応じて語形を変化させるとき，その語形変化の体系を〈活用〉とよぶ。単語がこのように体系的に語形を変えることを，〈活用する〉または〈活用がある〉という。古くは，ことばが〈働く〉ともいった。活用のある単語を〈活用語〉とよぶ。活用語には，自立語として用言*(動詞*・形容詞*・形容動詞*)があり，付属語として助動詞*がある。西欧語のコンジュゲーションも〈活用〉とよばれることがあるが，これは人称・数・時・法・態などに従って語形を変えるもので，日本語の活用とは性質をことにする。

【活用形】語形の変化する種々の形を〈活用形〉とよぶ。口語では，通常，未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形(文語では已然(いぜん)形)・命令形の6種に分ける。活用形の名称には，未然形・仮定形・命令形のように，意味の面から名づけられているものや，連用形・終止形・連体形のように，用法の上から名づけられているものもあって，統一を欠き，また，それぞれの活用形の性格を完全に示しているわけではない。未然形の名称は，文語の〈雨降らば〉のような仮定条件としての意味を重くみた，文語の已然形(雨降れば)と対照される名称であるが，口語ではそのような仮定条件は，文語の已然形と交替した仮定形において示される。また，たとえば〈吹く〉の未然形として，〈フカ-ない〉のほかに，〈フコ-う〉という形を認めるのが普通であるが，これは，音便形を連用形に入れる扱い方と通じるもので，文語との連関を考えた，やや便宜的な扱いである(文語では〈フカ-む〉であったのが，口語では〈フコ-う〉と変化した)。〈吹こ〉のような活用形を志向形とよんで，別に立てる立場もある。活用形のうち，語形の変化しない部分を語幹*，変化する部分を活用語尾または語尾*とよぶ。

【活用の型】用言の活用は，原則として語尾の交替によって示されるが，その様式の違いによって，〈動詞型活用〉〈形容詞型活用〉〈形容動詞型活用〉に分けることができる。助動詞もまた，これに準ずる三つの型と，これらのいずれにも属さない〈特殊型活用〉の四つに区別される。〈動詞型活用〉には，①語の最終音節における母音の交替によるもの(口語の場合，五段活用)，②語の不変化部分に〈ル・レ・ロ〉が添加されるもの(上一段活用・下一段活用)，③両者の混合によるもの(カ行変格活用・サ行変格活用)がある。〈形容詞型活用〉は，不変化部分に〈ク・イ・ケレ・カロ・カッ〉の添加するものである。また，〈形容動詞型活用〉は，〈ダロ・ダッ・デ・ニ・ダ・ナ・ナラ〉の添加するものである。それぞれの活用の型に属する活用の種類は，口語よりも文語のほうが多い。文語では，動詞型活用は9種で，口語の場合のほかに，上二段活用・下二段活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用が加わる(五段活用は四段活用となる)。形容詞型活用も2種(ク活用・シク活用)で，形容動詞型活用も2種(ナリ活用・タリ活用)である。このような，活用の種類はしだいに減少し，ほぼ室町時代の末期以降に，現代口語にみられるような形になった。〔市川 孝〕

かつようじゅ【濶葉樹】 ⇨広葉樹

カッラ [Carlo Carrà] (1881～1966) イタリアの画家。はじめはキュービスム*の影響を受け，1915年までは未来派*の画家として重きをなし，のちキリコ*と接して形而上(けいじじょう)絵画*の派に加わった。その後は，伝統を基本におく自然主義的様式に復帰している。このような過程の探求の中で，カッラの造型理念は本質的に時代の前衛に向かい，特に絵画は造型＝感動であるべきであるとした。代表作は《アナーキスト，ガリの葬儀》《西洋騎士》など。〔井関正昭〕

かつら【桂】 双子葉植物・カツラ科。

日本特産で，各地に自生する落葉大高木。生長が早く，高さ27m，径2mに達する。樹皮は暗灰かっ色で，浅い裂け目を生じて細長い薄片となり離脱する。葉は心臓形で対生。雌雄異株で，4～5月葉腋(ようえき)に小花を開く。果実は円柱形，種子は扁平(へんぺい)で一端に翼があり，翼とともに長さ5～6mm。材は緻密(ちみつ)で軽く，工作がしやすく，耐朽性も強い。建築・器具・楽器・製図板・彫刻などに用いる。樹皮はタンニンが多く，耐朽性も強いので屋根材にする。カツラ科には，葉が広く，種子の両端に翼のあるヒロハカツラもある。〔横井朝子〕

かつら【鬘】 〈かずら〉ともいう。自髪の不足を補ったり，装身に用いたりする別の髪。自髪に足すものと，髪形につくってかぶるものとがあり，また用途によって一般用・舞台用に分けられる。

1わが国では古くから蔓草(つるくさ)などを髪にかざし装飾としたのでこの名が起こった。はじめは髪飾りであったが，のちにかもじ*など髪形を整える付け毛もいい，義髪を総称するようになった。髪形に結ったかつらは主として能・歌舞伎(かぶき)の舞台用に用いられ，その下に結う地髪(本来の髪)をかつら下地とよんだ。

西洋では古代のメソポタミアやエジプトで，つけひげとともにすでにかぶるかつらが用いられていた。中世紀には，髪を切ることが宗教上のタブーとなっていたので一般に髪を長くしており，仮の髪をつけることは禁じられていたが，髪をつけたしたり，袋に入れてたらして長くみせかけることも行なわれた。17世紀から18世紀にかけてはかつらの全盛期を迎え，男子の間で大いに流行した。ルイ13世は禿頭(とくとう)を隠すためにかつらを用いたが，ルイ14世は美しい巻き毛の持ち主で，宮廷の人々は王をまねようとしてかつらを用いたのである。当時のかつらは，下がった巻き毛が肩や背にまでたれる大形のもので，打ち粉をして自然に近く見せることも行なわれた。しかしルイ16世のころには，男子は禿頭を隠す目的だけに用いるようになり，フランス革命とともにすたれた。なお当時の女子の誇張された髪形には入れ毛や部分かつらを用い，女子が全かつらを使用することはほとんどなかった。

現代のかつらは，禿頭や薄毛を隠す目的と，おしゃれ向きの変身を目的とするものに大別される。種類は全かつら(ヘアドレス)・半かつら・部分かつら(ヘアピース)があり，ヘアピースにはまげから一ふさのカールまで多くの種類がある。材質は人毛・化繊に分かれ，自然に近くみえるのは人毛であるが，化繊は鮮明な色彩や軽量さに特長があり，髪がもつれないので奇抜な用い方ができる。〔メイ-ウシヤマ〕

2俳優が舞台で役に扮(ふん)するとき，頭髪の形を表わすための扮装用具。わが国では，歌舞伎(かぶき)のかつらは長い伝統をもつだけあって，製作の精巧さと種類が複雑多岐なことは世界一である。まず演目が決まると，役によって形を指定する付け帳がつくられ，それを見て，かつら屋が俳優の頭に合わせた台金をつくり，毛髪を植える。これを床山*という職分が受け取って，指定に従って髪を結い上げ，初日の前までに楽屋へ持参し，興行中は毎日開演前に俳優の頭へ取り付け，終演後も修理と保管を行なうことになっている。種類としておもなものに，立ち役*用には生締(なまじめ)・車鬢(くるまびん)・菱皮(ひしかわ)・のんこ・燕手(えんて)・王子・逆熊(さかぐま)・百日・五十日・前髪・茶筅(ちゃせん)・切藁(きりわら)・水入りなど，女方*用には，吹輪(ふきわ)・片はずし・結綿(ゆいわた)・勝山・伊達(だて)兵庫・島田・馬のしっぽ・割鹿の子(わりがのこ)などの名称がある。〔松井俊諭〕









鬘

歌舞伎のかつら
(上左)姫の鬘〈吹輪〉《金閣寺》の雪姫
(上中)町家の女房の鬘《文七元結》のおかみさん
(上右)武将の鬘〈生締〉《金閣寺》の木下藤吉郎
(下左)押し戻しの役に使われる鬘〈五本車鬢〉(市村竹之丞)
(下右)傾城の鬘《籠釣瓶》の八ツ橋



かつらがわ【桂川】 ⇨大堰(おおい)川

かつらがわ【桂川】 富士山麓(さんろく)の山中湖を水源とし，富士五湖の水を集めて都留(つる)市・大月市・上野原町などの郡内地方*を通って東流する。相模(さがみ)川の上流にあたり，水源から道志川との合流点までを桂川とよんでいる。流程68km。上流に鏡山，中流に田原の滝があり，またわが国三奇橋の一つとされる猿橋(さるはし)がかかり，両岸いたるところに富士溶岩流の断面がみられる。清流とアユ漁で知られ，郡内は機業地として著名である。〔長津一郎〕

かつらがわれんりのしがらみ【桂川連理柵】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。通称《お半長右衛門(ちょうえもん)》または《帯屋》。2段の世話物で，菅(すが)専助作。1776年(安永5)大阪北の堀江座(ほりえざ)初演。実説の心中事件と先行の浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)脚本を基礎に成立したといわれる。のちに原作にない道行きが増補され，常磐津節(ときわずぶし)・富本節・清元節に取り入れられた。1777年歌舞伎に移され，大阪嵐座(あらしざ)初演。40歳の長右衛門と14歳のお半との恋と心中を描いた異色作で，また江戸浄瑠璃に道行きの形式をとらせた意義は大きい。

かつらぎ【かつらぎ(町)】 和歌山県伊都(いと)郡の町。紀ノ川中流に沿い，1958年(昭和33)妙寺町・伊都町・見好(みよし)村が合併して発足した。人口24,000。町名は和泉(いずみ)山脈の主峰葛城(かつらぎ)山(857m)に由来する。紀ノ川の段丘上ではミカン・カキの栽培が盛んであり，かんづめ工場もある。醸造業も盛ん。和歌山線・国道24号線が通る。

かつらぎさん【葛城山】 近畿(きんき)地方中部，大阪府と奈良県境の金剛山地にある。標高960m。御所(ごせ)市の西に位置する。古来神呪(しんじゅ)の霊山として信仰され，修験道*(しゅげんどう)の行場として発展してきた。修験道の開祖とされる役小角*(えんのおづぬ)は葛城山のふもと大和茅原(やまとちはら)(御所市)の出生といわれ，この山にはいって練行，のち山頂でコトシロヌシノカミを感得したと伝えられる。小角の没後，その信徒が法起菩薩(ぼさつ)を勧請(かんじょう)して，675年(天武4)入唐僧智通(ちつう)が創建したと伝えられる転法輪寺(金剛山寺)を中心に，山岳信仰と仏教を習合して葛城修験道を確立していったものと考えられる。特に鎌倉時代から室町時代にかけては，山中に続々と堂塔が建

立(こんりゅう)され，ついには法華経(ほけきょう)二十八品になぞらえた葛城行所二十八所をはじめ，108所の行所が設けられたという。その規模は紀伊(きい)水道の友ヶ島から奈良県北葛城郡大和(やまと)川岸の亀瀬(かめのせ)に至る百数十キロメートルに及ぶ広大なものである。役小角が密の世界を感得した大峰道場に対して，葛城道場は顕の世界を具現するものとされ，この2山を包括して顕密一如の大道場と考えられている。〔佐野文哉〕

かつらぎさん【葛城山】 金剛山地の葛城山*と区別して和泉葛城(いずみかつらぎ)山とよばれる。大阪府と和歌山県の境をなす和泉山脈のほぼ中央にある山で，標高857m。南側は紀ノ川の断層崖(だんそうがい)で急斜するが，北斜面はゆるく，山頂から付近一帯の渓谷(けいこく)はブナの原生林におおわれている。キャンプ場などの施設も整い，登山客が多い。

かつらぎのそつひこ【葛城襲津彦】 生没年不詳。武内宿禰*(たけのうちのすくね)の子。仁徳(にんとく)天皇の皇后磐之媛(いわのひめ)の父と伝える。《日本書紀》に引く〈百済記(くだらき)〉にある沙至比跪(さちひこ)と同一人なら，大和(やまと)朝廷創成期の欠史時代にはじめて確かめられる実在の人物であろう。朝鮮問題で半島に活躍したことがみえるが，子孫は5世紀後半まで大臣(おおおみ)として活躍した。なお，葛城・的(いくは)・玉手など諸氏の祖とも伝える。〔篠 弘道〕

かつらこごろう【桂小五郎】 ⇨木戸孝允(たかよし)

かつらざる ⇨オマキザル

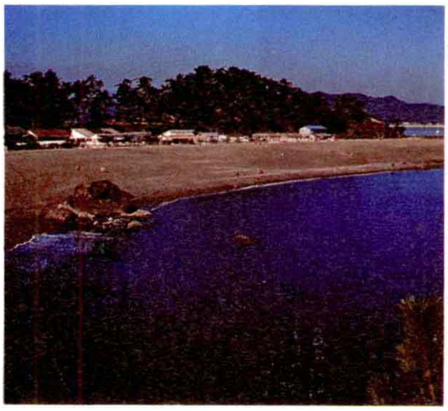
かつらだふじろう【桂田富士郎】(1867～1946) 病理学者。石川県の生まれ。1887年(明治20)石川県立医学校卒業後，帝国大学医科大学(東京大学医学部の前身)病理学教室にはいり，病理学を専攻。1890年岡山医学校教授となり，1904年日本住血吸虫*を発見。1918年(大正7)その功により帝国学士院賞を受けた。

かつら-タフトきょうてい【桂-タフト協定】 桂-タフト覚書ともいわれる。1905年(明治38)7月29日，当時の首相桂太郎がアメリカのT.ルーズベルト大統領の特使W.H.タフトと会談した際に取りかわした秘密文書。朝鮮とフィリピンにおける日米両国相互の支配権尊重，極東における日・米・英3国提携を内容とし，ロシアと対抗する日英同盟*に事実上アメリカが加わったものといわれている。日本側の関係文書は不明。

かつらたろう【桂太郎】(1847～1913) 陸軍軍人・政治家。長州藩出身。幕末，奇兵隊に属し，戊辰(ぼしん)戦争に参加。明治政府成立後，1870年(明治3)ドイツに留学。帰国後，山県有朋(やまがたありとも)直系の軍人として累進し，1886年陸軍次官に就任した。ドイツ式を参考に兵制を変え，日清(にっしん)戦争には第3師団長として出征し，戦後は一時台湾総督となった。1898年第3次伊藤(いとう)内閣の陸相となり，大隈(おおくま)・山県・伊藤各内閣に留任。1901年首相となり，日英同盟*を結んで日露戦争を遂行した。戦後，国民の不満が日比谷(ひびや)焼き打ち事件に爆発して退陣したが，1907年再び組閣して大逆事件*の処断や国定歴史教科書の南北朝正閏論*(せいじゅんろん)に政治的圧力を加えた。1912年(大正1)内大臣から首相となったとき，衆議院で内閣弾劾決議案の説明に立った尾崎行雄から〈詔勅を弾丸とし玉座を障壁として〉と非難され，憲政擁護運動*の追及を受けて辞職，まもなく病死した。公爵。〔岸野淳子〕



桂 太郎



桂 浜 龍王岬から見た桂浜。正面松林の台地の右突端に坂本龍馬の銅像がある。その背後の水道は浦戸湾の入り口

かつらはま【桂浜】 高知市街の南，浦戸湾口の西岸にあり，東は龍頭岬(りゅうずみさき)に，西は龍王岬にはさまれた五色の珪石砂(けいせきさ)の礫浜(れきひん)で，岬の岩礁とあいまってすぐれた景勝地で，特に月の名所として名高く，大町桂月*(けいげつ)の号もこれに由来するという。背後の台地上には，松林の中に坂本龍馬(りょうま)の銅像や大町桂月の記念碑があり，北の青山には長宗我部(ちょうそかべ)氏の浦戸城跡がある。現在は観光地として急速な発展をみせており，桂浜大水族館には太平洋の魚や淡水魚が集められている。

かつらはるだんじ【桂春団治】 落語家。

[1]初世(1881～1937) 本名皮田藤吉。のち岩井姓。桂文我門から7世文治門に転じ，春団治と名のった。伝統の上方落語に独特のナンセンスを加えた芸風は，その奇行とともに人気を倍加した。実際は兄弟子(あにでし)が初世だが，彼が偉大だったので俗に彼を初世という。

[2]2世(1894～1953) 初世の門下。本名河合(かわい)浅次郎。

[3]3世(1930～) 2世の子で，本名河合一(はじめ)。堅実な芸風で知られる。〔興津 要〕

かつらぶんじ【桂文治】 落語家。初世および2世は上方の人で，19世紀中ごろの3世からは上方・江戸双方にこの名をなのる者が出た。上方の文治は4世まで存在し，5世を月亭(つきてい)生瀬があずかってのち中絶した。なお，江戸系の7世は大阪の人である。江戸の文治は9世が現存する。

[1]初世(1773～1815) 上方における寄席(よせ)の創設者。また芝居噺(しばいばなし)を創始した。

[2]江戸の3世 ➔桂文楽(初世)

[3]江戸の5世 ➔桂文楽(2世)

[4]6世(1846～1911) 江戸の4世文治の長男。7歳で初高座。一時3世桂文楽を継いだのち6世文治となる。道具入りの芝居噺に長じ，幕末から明治初年にかけて三遊亭円朝*と並び称された。歌舞伎(かぶき)俳優の声色(こわいろ)を得意とし，また彰義隊の上野戦争や，明治初年の毒婦高橋お伝，西南戦争の西郷隆盛(たかもり)など，時事的な題材をも得意とした。晩年は楽翁と号した。

[5]8世(1883～1955) 《祇園(ぎおん)祭》を得意とし，昭和初期の代表的名人のひとり。〔長尾一雄〕

かつらぶんらく【桂文楽】 落語家。初世は上方で名をなしたが，2世からは江戸にあり，5世・6世は不詳(この間に1925年(大正14)に没した文楽がひとりある)。7世はなく，現在の文楽は8世を称する。

[1]初世(？～1857) 江戸で初世林家正蔵*の弟子(でし)となり，のち大阪で3世桂文治*，さらに江戸で文楽となり，後年大和大掾(やまとだいじょう)となる。

[2]2世(1830～1860) 5世文治から文楽となる。音曲師として名をなしたが若死にした。

[3]3世(1846～1911) ➔桂文治(6世)

[4]4世(1838～1894) 6世文治門下で，口癖から〈デコデコの文楽〉といわれた人気者。

[5]8世(1892～1971) 昭和期の代表的名人のひとり。明るい芸風で，幇間(ほうかん)ものなどを得意とする。落語協会会長を経て同協会顧問。勲四等瑞宝章(ずいほうしょう)を授与され，戦後随一をうたわれている。

かつらぼんまんようしゅう【桂本万葉集】 《万葉集》の古写本。御物に巻4の零本1巻がある。断簡は《栂尾切(とがのおぎれ)》《鎌倉切》という。料紙は色紙，金泥(きんでい)・銀泥で，花・草・木・鳥・流水などの下絵を描いている。筆者は紀貫之(きのつらゆき)といわれているが，《栂尾切》の筆者は源順(したごう)，《鎌倉切》の筆者は宗尊(むねたか)親王ともいわれる。書風は伝紀貫之筆《高野切》第2種の書



桂本万葉集　伝紀貫之筆

風と同じであり，書写年代は11世紀の中ごろである。　［春名好重］

かつらめ【桂女】　平安京の西南郊（京都市右京区）桂の里に住み，桂包（頭を白布で巻くもの）という独特の風俗を残していた女性たちの一群。名主は代々女子が相続した。継承物に神功皇后の三韓*（さんかん）征伐の際，陣中で賜わったと伝える綿帽子がある。大阪の陣での祈願成就のゆいしょをもって毎年江戸に下り，将軍家に拝謁したという。元来，戦いに際して，戦陣で歌舞し，さらに古くは戦勝祈願も引き受けた巫女*（みこ）の一種であったらしい。

かつらりきゅう［桂離宮］　京都市右京区桂御園（かつらみその）町にある。もと八条宮家の別荘で，1883年（明治16）宮内省（現在は宮内庁）に移管，桂離宮と称する。付属地を含めて面積約56,000m²，敷地のほぼ中央に複雑な汀線（ていせん）をもつ園池があり，北西岸に古書院・中書院，楽器の間，新御殿の４棟があとずさりの雁行（がんこう）形に建てられている。池には神仙（しんせん）島や天橋立（あまのはしだて）など大小５個の中島がある。庭園の様式としては完全な回遊式で，池を巡って書院の対岸には松琴亭（しょうきんてい）およびこれに関連する外腰掛（そとこしかけ）・四腰掛（よつこしかけ），最大の中島の頂上に賞花亭，池の南西隅（ぐう）には笑意軒，古書院近くの岸には月波楼と数々の茶亭を配し，園路で連絡している。園路に沿って紅葉（もみじ）山・蘇鉄（そてつ）山などの築山や野筋（ゆるやかな起伏）があり，島や入り江や州浜など移り変わる景色を歩きながら観賞するようにしたものである。しかもその園路は敷石道・畳石・延段・飛び石・じゃり道・土道など，あらゆる構造の路面を用いて，単に視覚上の変化だけではなく，場所に応じて足もとへの触感や，地形の抑揚と合わせて登り降りの体位の変化にまで考慮が払われている。さらに石橋・板橋・土橋や，各種各様の石どうろうや手水（ちょうず）ばちなどの工作物を巧みに使用し，周到な地形の造成と，石組みや植栽のくふうによって，深山や幽谷，あるいは海辺や田園の風景を効果的に表現してあますところがない。いわばそれまでの日本庭園の意匠手法を集大成し，その限りをつくしたものといえよう。露地としてのつくりはもとより，江戸時代の初めに流行した煎茶三店（せんちゃさんてん）式の利用も認められる。三店とは明（みん）から伝わったもので，池の周囲に茶店・酒店・飯店という喫茶飲食のための亭を設け，これらを舟で巡るという遊びである。あらゆる点で桂離宮の様式や造形が以降の大庭園の築造に及ぼした影響は非常に大きい。

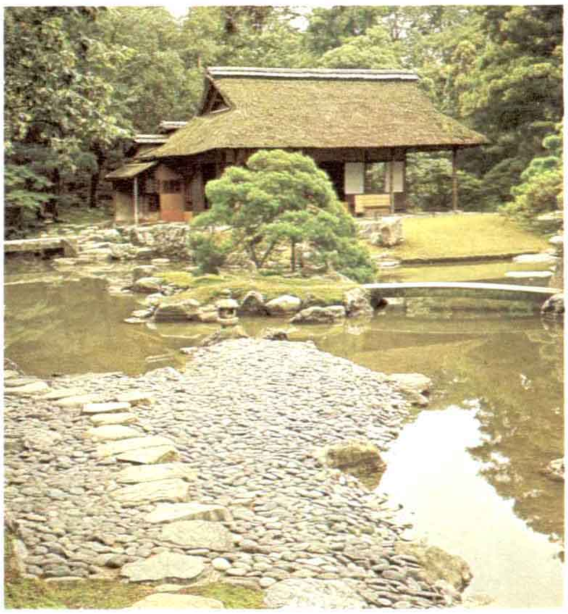
桂離宮の創始者は八条宮初代智仁（としひと）親王（1579～1629）である。工事は1620年（元和６）ごろより始められ，1624年（寛永１）には一応の完成をみた。智仁親王の没後にはかなり荒廃したようであるが，第２代智忠（としただ）親王（1619～1662）により，1642年から1646年（正保３）ごろにかけて再興され，庭園の拡張整備と書院や茶亭の増造が行なわれた。建築と庭園の初期造営の部分と，次期増造の部分とについては議論の分かれるところであるが，古書院とその前面の神仙島を含む池の部分，ならびに竹林亭（いまはない）が初期の造営であるのに対し，他の大部分は智忠親王時代のものとの見方が有力である。ともあれ父子２代の，時を隔て感覚を異にした〈おぼしめすまま〉の造営が，建築・庭園ともになんらちぐはぐな感じをもたらすことなくみごとにまとめ上げられた巧みさは特筆すべきであり，その後のいきとどいた管理によって今日にまでよく伝えられ，日本の文化遺産を代表するものの一つとして世界的に知られている。



桂離宮　配置図

桂離宮の営まれた下桂の地は，桂川の清流に臨み，比叡（ひえい）山と愛宕（あたご）山を東と西に京都盆地の山並みが穏やかにながめられる名勝である。かつては藤原道長や忠通（ただみち）の桂殿が営まれて，《源氏物語》にも描写されたゆいしょある土地がらであった。その後長い間，近衛（このえ）家の領地であったが，替地によって1617年（元和３）八条宮家の所領となった。八条宮というのは，豊臣秀吉（とよとみひでよし）が一時養子とした智仁親王（後陽成天皇の弟）のために1590年（天正18）に創立した宮家である。智仁親王は幼少のころからすぐれた文才があり，23歳にして古今伝授を受けた。《万葉集》《古今集》はもとより《源氏物語》に通じ，漢学にも長じ，特に白居易の詩文に親しみ，詩歌をよくした。また，絵や琴や，立花や茶道を学び，蹴鞠（けまり）や馬術にもひいでて，幅広い才能と高い教養を身につけた人であった。したがって親王の理想とした桂山荘の造営が，藤原氏の桂殿を思い浮かべてのことであり，忠通時代の詩文に残されたその景観や，《池亭記》に述べられた白居易の建築論や庭園観が，構想の基盤となっていることを見のが





桂 離 宮 (左)書院の眺望 (右)松琴亭

せない。第2代智忠親王も父親王の豊かな天分を受け継ぎ，若年より和漢の学問に励んで〈聡明(そうめい)人に過ぐる〉と評された。1642年，加賀百万石の藩主前田利常(としつね)の娘富姫を奥方に迎えたが，その政治的背景とともに前田家の財政的援助が桂山荘の増造整備にも大きな力となった。この第2次造営に際して，よく父親王の意を体し，《源氏物語》や和漢の古典に取材した構想を推し進めるとともに，これまでの日本庭園の意匠にはみられなかった建築的な手法(直線的な意匠や建物まわりの処理法など)をふんだんに取り入れ，現代にも通ずるきわだった新しさを付加したことは高く評価される。しかも，建築と庭園の簡素で深みのある美しさが，すべてこの別荘を使用する上での機能(実用)と表裏一体をなしている点に注目すべきである。

桂離宮の建物や庭園には〈遠州好み〉とされるものが多く，小堀(こぼり)遠州*(1579～1647)でなければできないと考えられる手法を指摘する向きもある。数寄屋(すきや)造り*にも独特のくふうを凝らし，庭園の中に建築的な意匠を大胆に取り入れたのは遠州であったが，遠州が直接桂山荘の造営に参画する可能性はなかった。ただ，当時もてはやされた遠州の作風が智仁・智忠親王の構想と作意を通じ，あるいは遠州ゆかりの人たちの協力によって，随所に現われたとみることができる。〔村岡　正〕

かつらわらしんのう 【葛原親王】 (786～853) 桓武(かんむ)天皇の第3皇子。母は多治比真宗(まむね)。798年(延暦17)元服，803年には四品治部卿(じほんじぶきょう)，のち累進して831年(天長8)には一品に昇叙され，官は850年(嘉祥3)大宰帥(だざいのそち)に至った。この間825年には上表して子女の王号をやめ，平朝臣(あそん)の姓*(かばね)を賜わった。これが桓武平氏(→平氏)である。子の高見王の子孫は武家となって清盛らを出し，高棟王(たかむねおう)の子孫は公家(くげ)となって信範(のぶのり)や時忠(ときただ)を出した。〔緘　弘道〕

かつれい 【割礼】 男女の性器の一部を儀礼的に切開する習俗のこと。男性の場合は，包皮の環状切断が最も多く，尿道を切開する方法，包皮に縦の切り込みをつける方法もある。現代ではユダヤ教徒，イスラム教徒，ポリネシア，メラネシア，アメリカ-インディアンの一部，アフリカ，オーストラリアにみられる。女性の場合は，陰核の一部切除が多く，アフリカ諸族・マライ人・アラビア人・エチオピア人にみられる。また，オーストラリア諸族では膣(ちつ)を拡大する膣道割礼を行なう。イスラム教徒は宗教的義務として生後7日めに，未開社会では一般に成年式の際に行なわれ，これを経ることによって社会的地位が確立される。オーストラリア中部・北部の諸族では男は環状割礼を行ない，その傷がなおると尿道切開をするが，それは成年式に行なわれる。こうした点や，女性の割礼が性行為と結合している点を考えれば，元来は性行為におけるなんらかの実利を目的として成立したとみられる。〔竹村卓二〕

かつれきもの 【活歴物】 歌舞伎(かぶき)の脚本・演出形態の一。1877年(明治10)ごろから9世市川団十郎*が始めた史実尊重の歴史劇，また，これに基づく写実的な演出法をいう。団十郎は従来の時代物*が歴史を題材にしながら史実を無視した内容と演出なのに不満をもち，明治維新で観客層が変化したのを機に，一部の学者と協力して史実第一の新脚本を次々に上演した。これを当時の作家仮名垣魯文*(かながきろぶん)が〈生きた歴史〉という意味で活歴とよんだのが語源。活歴物は戯曲として未熟で無味なものが多く，大衆には不評だったが，後世の新史劇の基礎を築いた点で意義がある。代表作は《高時》《地震加藤》(→増補桃山譚(ももやまたん))《酒井の太鼓》など。〔松井俊諭〕

カツレツ ［cutlet］ 肉料理の一種。本来は子ウシ・ブタ・ヒツジなどの肋骨(ろっこつ)を1本つけた背肉を薄く切り分け，形を整えたものであるが，ふつう，これに小麦粉をまぶして卵に浸し，パン粉をつけてバター焼きかあみ焼きにしたものをいい，油で揚げるのは日本独特の方法である。一般には，肋骨のついていない背肉を薄切りにしたものも用いられ，子ウシ・ブタ・ヒツジのほかにニワトリ・ウサギ・ハトなども用いられる。〔泉　敬子〕

かつれんせき 【褐簾石】 リョクレン石に近いカルシウム・鉄の含水アルミノケイ酸塩鉱物で，3％までのトリウムを含む。$(Ca, Ce)_2(Al, Fe, Mg)_3Si_3O_{12}(OH)$ 単斜晶系。比重2.7～4.0，硬度5～6.5，劈開*(へきかい)不完全，屈折率1.69～1.83。黒色または黒かっ色の柱状結晶または塊状としてカコウ岩やペグマタイト*中に産する。放射性元素を含むため，多くは結晶構造が破壊されて非晶質化(メタミクト化)している。

ガツン(湖) ［Gatun］ 中央アメリカ，パナマ運河の中間にある湖。カリブ海に注ぐチャグレス川をせき止めた人造湖。海抜26m。面積621km^2。湖中に島が多い。→パナマ運河

ガーディアン ［The Guardian］ イギリスの代表的日刊新聞。1821年5月創刊された週刊紙《マンチェスター-ガーディアン》がその前身。1855年6月，新聞に対する印紙税が廃止されると同時に日刊紙となる。1959年8月《ガーディアン》と改称。現在はマンチェスター市に本社を置き，マンチェスター・ロンドンでそれぞれ印刷発行されている。一流の地方新聞であると同時に全国紙としても高い名声を得ている。論調は公正，報道は清新をモットーとして，

《タイムズ*》と並ぶ高級紙である。発行部数は朝刊約27万3,000(1977)。〔飯田良明〕

かていえんげい【家庭園芸】家庭で趣味的に行なわれる園芸。庭先・屋上・ベランダ・窓べなどが利用される。小形温室・ビニルハウス・ワーデアンケース(植物育成箱)などが用いられることもある。家庭園芸に向く花の種類は下表のとおりで，ほかにランや観葉植物・食虫植物・盆栽・野菜類・果樹類もつくられる。用具としては，くわ・スコップ・移植ごて・じょろ・木ばさみ・剪定(せんてい)ばさみ・噴霧器・巻き尺・芝刈り機・ひしゃく・バケツ・刈り込みばさみ・脚立(きゃたつ)・はしごなどを用意すれば便利である。なお，農薬や肥料はデパートや種苗商で使いやすいものを販売している。〔小杉　清〕

かていか【家庭科】小学校5・6年男女，中学校女子，高等学校女子に課せられる教科の一。ただし中学校では選択教科とされ，ほかに〈技術・家庭科*〉と称する必須(ひっす)教科がある。家庭科の内容は，食物・被服・住居・保育などに分かれるが，家庭経営*を中心としてこれらの内容が相互に関連・統合されて組織されねばならない。このような家庭科の背景となる科学は家政学*である。したがって，家庭科の前身である戦前の家事・裁縫のように，将来，家庭をもったときに役だつための技能の修練が主として要求されるのではなく，現在の家庭においてよりよい生活をするために，児童・生徒の発達段階に応じた知識・技能・態度が必要とされる。家庭科という名称は1939年(昭和14)青年学校で最初使われたが，その内容は裁縫と家事であって，上述の内容をもった家庭科は1947年小学校5・6年男女に必須の教科として課せられたとき使われた。〔久武綾子〕

カーディガン［cardigan］えりなし・前あきボタン留めの毛糸編みジャケット。えりぐりは丸またはV字型で，そでは季節により長そで・半そでがある。ブラウス・セーター・シャツなどの上に羽織り，軽く着やすく，気温の変化の調節に便利なので，ホームウエア・スポーツウエア・レジャーウエアとして男女ともに愛用される。名称はクリミア戦争のとき，イギリスのカーディガン将軍が好んで着たジャケットにちなむ。〔小池千枝〕

かていかんご【家庭看護】看護は，母親が本能的にその子を養い育て，保護したことに始まるといわれている。疾病(しっぺい)に苦しむ人を助けるということの手段が，社会の複雑化とともに分化し現在の専門職としての看護婦(人)が生まれた。看護の仕事は，特定の人のみが知っていればよいということではない。特に家族の内で，主婦が教養を身につけ，愛情をもって家族の健康の保持・増進を考え，疾病に対して早期に対処できる態度が望ましい。家庭看護の意義はそこにある。家庭看護には四つの基本的目標がある。①人間の正常の状態をわきまえ，健康を保持・増進させる方法を講ずる。②かかりやすい病気，遭遇しやすい事故について知り，予防をする。③身体的・精神的な異常が発生した場合，早く発見し正しく処理する力をもつ。④身体的に異常のある家族に対して，医療関係者の行なう看護処置に協力できる手技を身につける。家庭看護は，病人を扱う病院の看護とは異なり，健康人が対象である。したがって第1に健康生活，疾病の予防，第2に病人が出たら病気と闘うに最良の条件を整える，第3に専門家を十分に活用する，第4に日常でも非常・救急時の準備を心がける，などが家庭看護の重点であろう。➔救急処置〔金子義徳〕

かていかんり【家庭管理】家庭の機能の円滑化，家庭生活の充実という目標の達成に向かい，物資・金銭・労力・時間などの家庭諸資源を合理的に利用して効果をあげること。広義には家庭経営と同義に用いる場合もあるが，家庭経営は長期的な展望をもった家庭の運営法であり，家庭管理は家庭運営のいくつかの目標を達成するための手段である。家庭管理のおもな内容は，家庭生活の充実のために，いかにしたら最少費用で最大効果をあげうるかという経済管理，いろいろな家事技術をいかにしたら最適に仕上げられるかという技術管理，労力や時間の使用をもとにして，いかに家族関係を調整していくかという人間管理の三つに大別される。〔渡辺みよ子〕

かていぎ【家庭着】⇨ホームウェア

かていきょういく【家庭教育】家庭で親が子どもに対して行なう意図的な教育と，両親の指導のもとで兄弟・姉妹が家庭生活を通して相互に影響を与え合う機能的な働きかけとを総称していう。ペスタロッチ*が〈家庭，なんじこそは人間性の純粋な自然教育の基礎である〉と言ったように，人間にとって最も基本的な共同体での教育は，人間性への教育とともに，社会における文化的達成と職業的地位への教育とを合わせ行なうとされている。これは，家庭が性的結合・血縁関係による形成体であり，夫婦・親子・兄弟の愛情による，それのみが与えうる人間性の陶冶(とうや)の場であること，また地域社会との結びつき，親の社会的地位・経済的条件によって規定された生活の現実性が，子どもを養育・保護する必要性を生み，

家庭園芸に適した花の種類

種別	種類	開花期
秋まき一〜二年草(9月中旬まく)	キンセンカ	3〜6月
	パンジー	3〜6
	ストック	4〜6
	ヒメコスモス	5
	ゴデチア	5〜6
	ペチュニア	5〜10
	キンケイギク	6
	ヤグルマソウ	6〜7
	ヒエンソウ	6〜7
	アスター	7〜9
春まき一〜二年草(4月下旬〜5月上旬まく)	マツバボタン	6〜8
	カスミソウ	6〜8
	ヒャクニチソウ	6〜10
	アサガオ	7〜9
	ケイトウ	8〜9
	ヒマワリ	8〜9
	センニチコウ	8〜11
	ハゲイトウ	9〜10
	コスモス	10〜11
	ハボタン	11〜2

種別	種類	開花期
宿根草	フクジュソウ	3〜4月
	アリッサム	4〜5
	フランスギク	5
	アルメリア	5〜6
	シラン	5〜6
	タツタナデシコ	5〜10
	ガーベラ	5〜11
	ジギタリス	6
	スイセンノウ	6〜7
	ノコギリソウ	6〜10
	ビジョザクラ	6〜11
	カクトラノオ	7〜8
	テンニンギク	8
	トリトマ	8
	コハマギク	10
	ホトトギス	10
	シオン	10〜11

種別	種類	開花期
秋植え球根(10月中旬植え付け)	ハナカタバミ	1〜2月
	スイセン	3〜4
	ヒアシンス	3〜4
	アネモネ	4〜5
	チューリップ	4〜5
	ダッチアイリス	5
	スノーフレーク	5〜6
	ワットソニア	5〜6
	アリウム	5〜6
	テッポウユリ	6〜7
	ヤマユリ	7〜8
	イヌサフラン	11〜2
春植え球根(3月下旬〜4月上旬)	アマリリス	5〜7
	ダリア	6〜11
	ヒメトリトマ	7〜9
	トリトマ	7〜10
	カンナ	7〜10
	グラジオラス	7〜11
	チューベローズ	8〜11
	ショウキラン	9〜10

種別	種類	開花期
花木	ロウバイ	2月
	ウメ	2〜4
	レンギョウ	3
	ジンチョウゲ	3〜4
	ユキヤナギ	4
	モクレン	4
	サクラ	4
	ボタン	4〜5
	フジ	4〜5
	ツツジ	4〜5
	コデマリ	5
	ヤマブキ	5
	アジサイ	6
	クチナシ	7
	キョウチクトウ	7〜8
	サルスベリ	8
	ザクロ	8
	フヨウ	8〜10
	キンモクセイ	10
	サザンカ	11
	ツバキ	11〜4

さらに家族相互の役割分担による協力関係も生み，きびしい現実生活，社会性への教育を付与すること，家庭のもつ特定の家族関係・経済的条件は，家族構成員にとって一定の型をもち，継続的に働きかける文化的環境となるので，この意識的・無意識的両面の教育作用は，個人の性格形成に決定的な影響を及ぼし，精神的成長に重要な役割を果たすことなどによる。学校教育が教師によって特定の教材を媒介にして行なわれるのに対し，家庭教育は，親の日常的な行動を通して，子どもの意識下の心理に働きかけるところに始まるという重要な意味がある。➔教育　〔山崎昌甫〕

かていけいざい　【家庭経済】　一家の生活における経済面の経営。豊かな消費と高い貯蓄を目標として，他との比較よりもわが家が前年より今年へと伸びる前向きの家計の経営が望ましい。毎日の生活を充実させる短期生活設計と，生活周期に即応した長期の生活設計が必要である。短期生活設計での要点は，①消費と貯蓄の割合をわが家なりに定める，②家庭の個性を生かして重点費目にウエートを置く，③消費予算はできるだけ有効に生かして使いきる，など。長期生活設計での要点は，①現在の生活を犠牲にせず，②その置かれた時点での一点充実主義をめざし，③臨時収入からの長期積み立てで管理する，など。〔青木　茂〕

かていさいえん　【家庭菜園】　販売を目的とせず，自給のためあるいは趣味で，野菜類など食用になる作物を宅地内などにつくること。戦時中など食糧事情が悪くなると必然的に家庭菜園は盛んになる。わが国でも第2次世界大戦中やその直後は非常に盛んであった。平和で食糧事情のよいときは，趣味としてか，あるいはやお屋などで常時求めることのできない特殊なものをつくるために家庭菜園を営むことが多い。近年は花などの観賞用の作物を栽培することが盛んであるが，この種のものを含めて家庭園芸とよぶことが多い。　〔松本正雄〕

かていさいばんしょ　【家庭裁判所】　⇨44ページ

かていじょうびやく　【家庭常備薬】　外傷・発熱・かぜ・腹痛・歯痛・皮膚病などの軽度のものに使用する目的で，家庭に常置して救急的に役だてる医薬品。これらの医薬品は自己判断によって使用することが多いが，本来は医者の指示に従って用うべきで，乱用は避けなければならない。特に内服薬では，服用時間・服用方法などがそれぞれで異なり，また使用量も大量に用いれば効果があるものでもなく，かえって危険をひき起こすことになる。医師の指示が受けられない場合には，注意書きや使用法をよく読んだうえで使用する。また，医薬品は温度・湿気・光線によって変化を受けやすいため，保存にはできるだけ注意し，特に開封したものは一段と留意が必要である。さらに，なるべく新しいものを使用するように心がけ，古いものは使用にあたって変化を確かめる必要がある。表のような薬品のほか，水嚢(ひょうのう)（またはアイスノン）・ピンセット・包帯・ガーゼ・包帯留め・脱脂綿・綿棒・油紙・絆創膏(ばんそうこう)を常備するとよい。　〔江本龍雄〕

おもな家庭常備薬

内　服　剤	
胃　腸　剤	小児には乳酸菌製剤がよい
か　ぜ　薬	飲む量が過ぎると危険であり，小児の場合特に注意する。アレルギー症状を呈する場合は非ピリン系の薬剤を用いる
下痢止め薬	ベルベリン製剤・クレオソート丸などがよい。疾患によっては服用したために悪化することがあり，注意を要する
下　剤	一般にヒマシ油などが急性胃腸疾患の際用いられる
鎮　痛　薬	ピラビタール系製剤を歯痛・月経痛・偏頭痛などに用いる
制　吐　薬	乗り物酔い・吐き気止めに用いる
ビタミン剤	疲労時や疾病の回復時に用いる
外　用　剤	
消毒用アルコール	手指・皮膚・創面の消毒。ヘキサクロロフェン製剤も同様に用いられる
マーキュロクロム液	創面治療
オキシドール	創面治療。薄めてうがい薬としても用いられる
ヨードチンキ	創面治療
アクリノール液	創面の洗滌・殺菌
ルゴール液	口内炎・喉頭炎に塗布
アンモニア水	虫さされに使用
抗生物質軟膏	化膿性皮膚炎・火傷・外傷の治療
ホウ酸	ぬるま湯にとかして湿疹治療・洗眼に用いる
重　曹	ぬるま湯にとかしてうがい・湿布に用いる。また胃に不快感のあるときに内服
ピック膏	吸い出し膏。皮膚内部の化膿に用いる
目　薬	眼疾や海水浴後の眼疾予防として用いる
浣　腸　剤	簡易浣腸薬がよい。小児の急性発熱や腹痛に用いる
皮膚用軟膏	メンソレ類・サロメチール類
逆性せっけん液	手指・皮膚・創面の消毒

かていトンネル　【河底トンネル】　河川を横断するトンネル。都市は河口に発達する例が多く，またその部分の河川の勾配(こうばい)はゆるやかである。したがって，河底の堆積物(たいせきぶつ)は細かい土砂である場合が多いので，主として沈埋工法やシールド工法によって構築される。

かていほうしいん　【家庭奉仕員】　ホームヘルパーともいう。低所得・疾病(しっぺい)など，家庭の事情によって通常の生活を営む上で支障をきたす家庭に対して，1週に2回派遣され，家事・相談・助言を任務とする奉仕員のこと。家庭奉仕員は地方公共団体の非常勤職員である。老人福祉法(1963年公布・施行，1966年改正)の12条に，〈老人家庭奉仕員による世話〉を規定している。イギリスでは19世紀末から始まっている。

かていようでんきいどポンプ　【家庭用電気井戸ポンプ】　圧力式により井戸水を蛇口(じゃぐち)で台所その他へ給水する設備。高架式給水法(高所に水槽(すいそう)を設ける)と異なり，場所をとらず，冬暖かく夏冷たい水が得られる。構造は密閉したタンク内にポンプで水を圧入し，圧縮された空気の圧力が水圧となって給水されるもので，水せんを開いて水を使用すると，圧力タンク中で圧縮されている空気の圧力が減って自動的にスイッチがはいりポンプが始動し，水を止めると気圧が上昇してスイッチが切れる。また，圧縮空気がタンク内の水面を押して高い所へも給水することができるから，高架水槽を設ける必要がなく，自動運転の自家水道となる。　〔前田一枝〕

かていようひんひんしつひょうじほう　【家庭用品品質表示法】　1960年(昭和35)，購入した牛かんから馬肉が出てきたいわゆる〈牛かん馬肉事件〉を契機に，商品の品質表示の適正化を求める世論が高まり，繊維製品にのみ実施されていた品質表示法を発展的に解消して，1962年に制定された法律。

従来，生産者がかってにつけていた品質の表示に代えて，あるいは無表示のまま販売されていた商品に，国が定めた一定の表示をつける(ただし，強制ではなく任意表示)ことによって，消費者の経済的利益を保護することを目的とする。規制の対象は日常生活に持ち込まれて使用される繊維製品・合成樹脂加工品・電気機械器具・雑貨工業品で，一般消費者が購入する際に品質を識別することが非常に困難で，識別を誤ると損失が大きかったり危険であったりする品に表示される(1969年8月現在指定商品は68品目)。表示は決められた表示基準

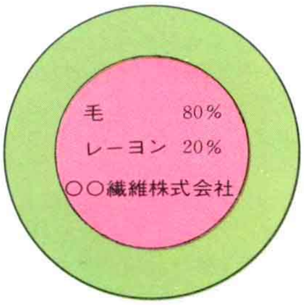
バケツ

原料樹脂	ポリエチレン
耐熱温度	90℃
耐冷温度	70℃
容　量	20 l
取り扱い上の注意	1. 直接火にかけないこと。 2. 火のそばに置くと，軟化し，または変化することがある。 3. たわしまたはみがき粉でみがくと，きずがつくことがある。
表示者	○○化学株式会社

合成洗剤

成　分	陰イオン系
種　類	弱アルカリ性洗剤
用　途	綿・麻・化学繊維用（食品および食器の洗浄には適当でありません）
標準使用量	水2 l に5 g（水30 l に75 g）
表示した者　名称	○○株式会社

繊維製品



家庭用品品質表示法　表示の実際例

に基づき，製造業者・販売業者・表示業者のいずれかが，その商品の成分・性能・用途・使用上の注意，表示責任者の名称などを，張り付けラベルまたは刻印でなされる。表示の標準が守られない場合は，通産大臣が指示または社会的に公表することができる。　〔小野信夸〕

カテガト(海峡)　[Kattegat]　スカンジナビア半島とユトランド半島にはさまれた海峡。西はスカゲラック海峡を経て北海へ，南はエレソン海峡・ベルト海峡を経てバルト海へ通ずる。スウェーデンとデンマークの境界をなす政治的意義のほかに，北海とバルト海を結ぶ要点にあたり，軍事的意義も大きい。

カテキズム　⇨教理問答書

カテキュー　[catechu]　植物染料の一。インド・南アジア・マレー諸島の諸地方に産するアカシア・アレッカなどの樹木の根・枝・果実などを煎出(せんしゅつ)し，煮つめて乾涸(かんこ)してつくる。一般にはカッチまたはカシューともいわれ，かっ色の塊状で市販されている。絹・もめんのかっ色染めによく，日光・洗たく・酸・アルカリなどに堅牢(けんろう)であるが，化学染料の普及によっていまはあまり用いられていない。なお，わが国では下熱剤・鎮痛剤として用いられたこともあり，阿仙薬・阿煎薬ともいう。



嘉手納　民家の屋根越しにみる広大な嘉手納飛行場。進発をまつB52の巨体が家のそばまで迫っている。ここで働く日本人従業員も多い

カテゴリー　[category]　範疇(はんちゅう)と訳され，一般には同一性質のものが属する部門・型・種類などの意味で使われる。哲学用語としては，ある概念の類概念，そのまた類概念とたどっていくと，もはやいかなる類概念にも属さず，したがってみずから種概念となることのない最上位の概念をカテゴリーという。ギリシア語の〈控訴する〉を語源とし，個々の訴訟に一般的法律を適用することから転じて，事物について一般的に〈叙述する〉という意味となった。アリストテレスでは，具体的個物のあり方を究極的に示す最高の述語概念とされ，実体・分量・性質・関係・場所・時間・位置・状態・能動・所動の10個があげられる。ただし，ここでの実体は，〈主語となって述語となりえないもの〉ではなくて，〈種ないしは類〉としての第二実体をさすと考えるべきである。カントでは，客観的対象を成立させるための主観の制約たる思惟(しい)形式として純粋悟性概念と名づけられ，伝統的論理学の12の判断形式に対応して，①量(単一性・数多性・総体性)，②質(実在性・否定性・制限性)，③関係(実体と属性，原因と結果，相互作用)，④様相(可能性・不可能性，現存在・非存在，必然性・偶然性)があげられる。　〔石倉恒之〕

カデット　⇨立憲民主党

カテーテル　[katheter]　体腔(たいこう)から内容を排除する目的でつくられたゴム・ポリエチレン・ビニルなどの管。膀胱(ぼうこう)からの尿の排出や体腔内の膿瘍(のうよう)や分泌物の誘導に用いられてきた。最近は血管内に挿入(そうにゅう)して心内圧測定・血液採取，あるいは悪性腫瘍(しゅよう)などへの持続的薬液投与などの目的にも用いる。また，大動脈分枝にカテーテルを挿入して行なう腹部臓器の造影などにも広く用いられている。

カテドラル　[cathedral]　司教*管区の中心となる教会堂。司教の本居であることを象徴したカテドラ(司教の座)が教会堂内に設けられているのが特徴。このいすは，古いバシリカ式教会堂*では聖壇の背後のアプス*に設けられ，会衆と相対してすわるようになっていたが，後世では内陣*(コアイア)の南側に移った。大会堂・大聖堂などと訳されるが，それらは教会の格式を表わすもので，建築の大きさとは関係ない。

かでな　【嘉手納(町)】　沖縄本島南部に位置し，人口14,000。町域面積15km²，そのうち90%はアメリカ合衆国駐留軍の施設となっている。東洋一の規模といわれる合衆国空軍の嘉手納飛行場は，隣接する北谷(ちゃたん)村，沖縄市の一部分を含む21km²の広さをもち，4,000m滑走路が2本あり，軍人12,000人と日本人従業者5,000人が働き，軍人家族住宅1,200，小学校2，映画館3があり，各種のスポーツ施設はもとより牧場・狩猟場もつくられている。かつては農村であったが，土地を軍用施設に接収されてからは施設の従業者をはじめ商業・タクシー業などの第3次産業人口がふえ，72%に及んでいる。

カテナリー　[catenary]　⇨懸垂線

カテプシン　[cathepsin]　肝臓・脾臓(ひぞう)・腎臓(じんぞう)などに含まれるタンパク質分解酵素*。大部分のタンパク質分解酵素がいわゆる細胞外酵素(消化管など，細胞外に分泌されてから作用する)であるのに対し，細胞内酵素であるのが特徴。基質*に対する特異性その他の性質の違いから，A・B・Cの3種に区別される。動物の死後に起こる組織の自己分解はこの酵素によると考えられるが，その他の生理的意義はよくわかっていない。　〔秋野美樹〕

かてめし　【糅飯】　米に雑穀などを混ぜた飯。古来，純粋の白飯を一般庶民が食することは〈晴れ〉の日に限られ，米以外の雑穀および糅飯が常食であった。糅飯には，麦・アワ・ヒエ・豆などのほか，ダイコン・カブ・イモ・木の実・草根・山菜なども用いられ，その中には特に盂蘭盆(うらぼん)の供物や親類への贈り物として用いられるものもあった。

家庭裁判所

1949年(昭和24)新たに設けられた裁判所。都府県に各1庁，北海道に4庁，全国で合計49庁あり，その支部が240か所，出張所が89か所に置かれている。取り扱う事件は，家事事件(家事調停・家事審判)・少年保護事件および成人事件(少年の福祉を害する成人の犯罪事件)である。家事事件については，家事審判法に〈個人の尊厳と両性の本質的平等を基本として，家庭の平和と健全な親族共同生活の維持を図ることを目的とする〉とされ，また，少年保護事件および成人事件については，少年法*に〈少年の健全な育成を期し，非行*のある少年に対して性格の矯正(きょうせい)および環境の調整に関する保護処分を行なうとともに，少年および少年の福祉を害する成人の刑事事件について特別の措置を講ずることを目的とする〉とされている。

〔家事事件〕 家事調停・家事審判に分けられ，両者を通じて〈履行確保の制度〉と〈家事相談〉がある。

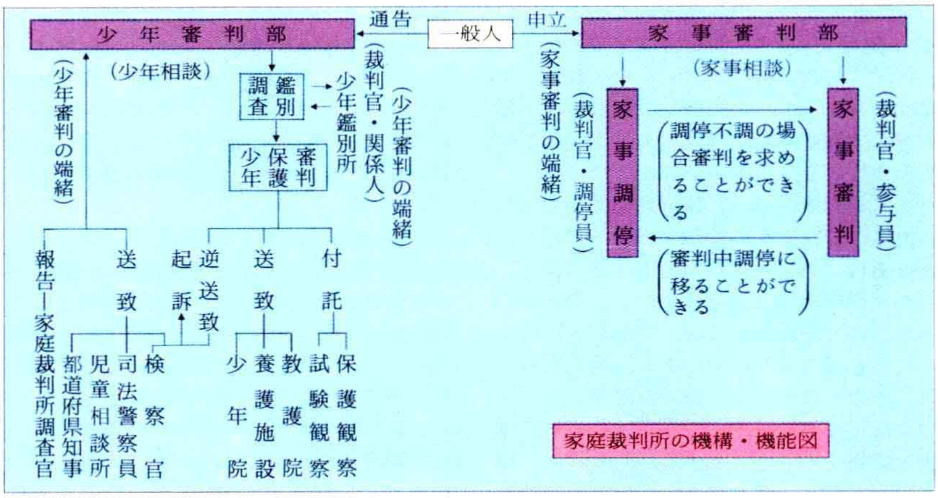
〈家事調停〉 は，家庭に関する紛争の調停を行なうものである。離婚，養子の離縁，子の認知などは訴訟*を起こすこともできるが，訴訟を起こす場合には，そのまえにまず家事調停の申し立てをしなければならない。そして調停が成立しなかったとき，はじめて訴訟を起こすことができる。これを調停前置主義という。調停は，相手方の住所地の家庭裁判所が管轄するが，特別の事情があれば，その他の家庭裁判所で取り扱うこともある。調停の申し立ては，書面でも口頭でもよく，申し立て用紙は家庭裁判所に備えつけてある。申し立ての際，手数料として100円の印紙と送達用の切手を納付する。調停は調停委員会が行ない，場合によっては裁判官が単独で行なうこともある。調停委員会は，通常，裁判官*1人，調停委員*2人で構成されるが，調停委員の1人は，通常婦人である。調停は，期日に申立人と相手方を呼び出して行なわれ，必要に応じて関係人を呼んで事情を聞いたり，また証人*尋問などの証拠調べや，家庭裁判所調査官による調査を行なう。調停で当事者の間に合意が成立すると，それを調書に記載してはじめて調停が成立する。調書の記載は確定判決と同じ効力をもち，相手方が義務を履行しないときは強制執行*することができる。調停は，非公開の調停室で行なわれ，その秘密が守られる。調停委員も秘密を守る義務があり，それに違反すれば罰せられる。調停委員は，徳望・良識のある者の中から家庭裁判所が毎年前もって選任し，事件ごとにその中から裁判官が担当の調停委員を定める。調停委員の全国総数は約12,300人，そのうち婦人が約5,800人である。家事調停事件の受理件数は年間約65,000，その半数近くが夫婦間の事件で，その他，夫婦以外の男女間，遺産の分割，扶養などの事件がある。全事件の42%は調停が成立し，38%は申し立てが取り下げられている。取り下げは実質的な解決によるものが多いから，それを含めると調停の成功率は相当に高いといえる。

〈家事審判〉 は，裁判官の審理・裁判によって決める手続きであるが，その対象となる事項はきわめて多い。禁治産・準禁治産の宣告，その取り消し(民法7・10・13条)，不在者財産の管理(同25条)，失踪(しっそう)宣告*とその取り消し(同30・32条)，夫婦の同居・協力扶助(同752条)，婚姻費用の分担(同760条)，離婚の場合の子の監護，財産の分与(同766・768条)，未成年者を養子とするときの許可(同798条)，親権者の指定・変更(同819条)，親権*の喪失(同844条)，後見人・後見監督人の選任・解任・辞任の許可・監督(同841・844・845・849・863条)，扶養の順序・程度・方法(同878・879条)，推定相続人の廃除とその取り消し(同892・894条)，遺産分割*(同907条)，相続*の限定承認と放棄の申述の受理(同924・938条)，遺言*の確認(同976・979条)，遺言の検認(同1004条)，遺言執行者の選任・解任・辞任の許可(同1010・1019条)，氏または名の変更の許可(戸籍法107条)，就籍の許可(同110条)，戸籍の訂正の許可(同113・114条)など，いずれも家事審判に属する。家事審判の申し立ては書面・口頭いずれでもよく，申し立ての際には手数料として50円印紙と送達用切手を納付する。審判は裁判官が単独で行なうが，場合によっては参与員立ち会いのうえ，その意見を聞いて行なわれる。審判期日に申立人を審問し，必要に応じて証人尋問などの証拠調べ，また家庭裁判所調査官による調査を行なう。審判で金銭の支払いや物の給付を命じたとき，相手方がその義務を履行しなければ強制執行することができる。審判は非公開の審判廷で行なわれ，秘密が守られる。参与員に秘密を守る義務があることは調停委員と同じである。参与員は，調停委員と同じく家庭裁判所が毎年前もって選任し，事件ごとにその中から裁判官が担当の参与員を定める。参与員の全国総数は約5,700人，そのうち婦人が1,400人で，参与員の多数は調停委員を兼ねている。家事審判事件の受理件数は年間約19万9,000件に及んでいる。なお，家庭裁判所の審判に対しては，高等裁判所*に即時抗告*をすることができる。

〈履行確保の制度〉 は家事調停・家事審判で定められた義務の履行を確実にするために設けられた制度である。権利者の申し出があると，家庭裁判所は義務の履行状況を調査し，義務者に対してその履行を勧告する。さらに金銭の支払いなどの財産上の給付の義務を怠っている場合には，権利者の申し立てによって義務者に対して期限を決めてその履行を命じ，その命令に従わないときは義務者を過料*に処する。また，金銭の支払い義務の履行については，義務者の申し出によって，家庭裁判所が権利者のために金銭の寄託*を受け，家庭裁判所から権利者に支払いをする道も開かれている。これらは，いずれも家庭裁判所に独特の制度である。調査勧告の申し出件数は年間約8,800件，勧告回数は延べ約28,000回，履行命令の申し立て件数は年間約77件，寄託金の受け入れ金額は年間20億1,000万円に及ぶ。

〈家事相談〉 は家事事件に関するいっさいの相談に無料で応じている家庭裁判所の制度である。調査官や書記官があたるのが普通であるが，調停委員が担当する場合もある。純然たる法律相談になると，弁護士や弁護士会の仕事となり，この家事相談にははいらない。家事相談の件数は年間30万5,000件に近い。

〔少年保護事件〕 非行のある少年について，性格の矯正および環境の調整に関する保護処分を行なうものである。非行のある少年とは，①14歳以上20歳未満で罪を犯した少年，②14歳未満で刑罰法令に触れる行為をした少年，③20歳未満で保護者の正当な監督に服さない性癖があるとか，正当の理由がなく家庭に寄りつかないなどの事由があって，性格や環境に照らして，将来罪を犯し，または刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年，すなわち虞犯(ぐはん)少年*をいう(少年法3条)。これらの少年を発見した者は，だれでもこれを家庭裁判所に通告しなければならないことになっている。通常は，警察官・検察官から家庭裁判所に送致する。警察官・検察官は，少年に犯罪の嫌疑があるものと思料するとき，その他家庭裁判所の審判に付すべき事由があると思料するときは，これを家庭裁判所に送致しなければならない。成人の刑事事件については，検察官が起訴*するかしないかを決める権限をもっているが，少年の事件については，検察官にその権限はない。検察官は，すべてこれを家庭裁判所に送致して，家庭裁判所が保護に適するものは保護処分にし，刑罰を科すべき者にはさらに検察官に送致する。その選択は，家庭裁判所が専門的な立場において行なうものとされている。ただし，14歳未満の少年については，児童福祉法*によって，都道府県知事・児童相談所長から家庭裁判所に送致することになる。少年および保護者は付き添い人を選任することができるが，弁護士以外の者を付き添い人とする場合には家庭裁判所の許可を必要とする。家庭裁判所が送致を受けると，



家庭裁判所の機構・機能図

裁判官は，家庭裁判所調査官に調査を命じ，必要に応じて少年鑑別所*に送致して収容するとか，あるいは調査官の監護に付するとかの措置をとらねばならない。同行されたり，勾留*(こうりゅう)または逮捕されたりして身柄付けで家庭裁判所に送致された場合は，到着のときから24時間以内にこの措置をとるかどうかを決めなければならない。また，少年鑑別所に収容する期間は2週間以内に限られており，特に継続する必要があるときには1回に限って更新することが許されることなどが定められていて，少年の人権を保障している。少年鑑別所は，家庭裁判所の所在地に置かれて，少年を収容してその身体・精神などを検査し，資質の鑑別を行ない，その結果を裁判官に報告する。家庭裁判所では，鑑別所に収容された少年についても，その他の少年についても，調査官の調査が進められる。調査官は，少年・保護者その他の関係者を取り調べるほか，家庭・学校・職場などの状況を調査し，少年の成育歴・健康状態・性格・環境・非行の実態を明らかにして，これを裁判官に報告する。この調査についてはもちろん秘密が守られる。裁判官は，調査や鑑別の結果によって，都道府県知事または児童相談所長への送致，審判不開始，検察官への送致，審判開始のいずれかの決定をする。知事または相談所長に送致するのは，児童福祉法に定める福祉の措置をとるためであるが，これにあたる事案はきわめて少ない。審判不開始というのは，事案が軽微の場合，またはすでに別の事件で保護処分を受けていて，審判に付するのが相当でない場合で，この場合は審判を行なわない。この場合でも，半数以上は，少年に誓約をさせるとか，保護者に注意を与えるとか，事案に応じて保護のための措置がとられる。検察官への送致というのは，16歳以上の少年について，その犯した罪が死刑・懲役・禁錮(きんこ)にあたる場合で，裁判官が刑事処分に付するのを相当と認めたときに検察官に送致する。検察官は，その少年を地方裁判所に起訴して，刑事の裁判を受けさせることになる。審判開始の決定がなされると，審判期日に審判廷で審判が行なわれる。審判は公開しない。審判には少年を呼び出し，保護者・付き添い人などを在席させる。少年を尋問し，必要に応じて証人尋問などの証拠調べを行ない，保護者・付き添い人などの意見を聞き，さらに家庭裁判所調査官の意見をも聞いて処分を決める裁判を行なう。しかし，それ以前に裁判官が必要と認める場合には，一定の期間少年を家庭裁判所調査官の観察に付する。これを試験観察とよんでいる。この場合，少年を適当な施設や個人に預けて補導を委託したり，保護者に引き渡したりして，調査官が観察し，その結果を裁判官に報告する。これによって裁判官は処分の決定を行なう。裁判官が保護処分に付する必要がないと認めるときは，処分に付さないとの決定をする。しかし，この場合でもほとんど全部について，なんらかの保護のための措置がとられる。

さて，審判の結果，保護処分に付するのを相当と認めた場合には，裁判官はその決定を行なう。保護処分には，①保護観察所の保護観察*に付する，②教護院*または養護施設*に送致する，③少年院*に送致する，の3種類があり，このいずれかに決められる。保護観察所の保護観察に付せられると，はじめ担当の保護観察官の観察を受け，のちに担当の保護司が決められて，その観察を受ける。保護司には，社会的信望があり，職務の遂行に必要な熱意と時間的余裕があるなどの条件を備えた人を選出して法務大臣が委嘱する。その全国定数は52,500人以内と定められている。教護院または養護施設への送致は，児童福祉法に定めるこれらの施設に入れて処遇するものである。少年院への送致は，少年院に収容して矯正教育を行なうものである。少年院には，初等・中等・特別・医療の4種類があり，少年それぞれに応じて適正に処遇することが期せられている。これらの保護処分の決定に対しては，高等裁判所に抗告*をすることができ，さらに憲法違反・判例違反を理由として最高裁判所*に再抗告をすることもできる。少年保護事件の年間総数は，第2次世界大戦後著しい増加を示したが，1966年をピークとして毎年減少の傾向にあり，1970年には約79万件，そのうち刑法犯が約21万件，虞犯が約7,000件，道路交通法違反が約54万8,000件，その他の特別法犯が約18,000件である。刑法犯のうちでは，窃盗の約85,000件，業務上過失傷害の約88,000件が特に多く，傷害約11,000件，恐喝(きょうかつ)約7,000件，暴行約5,000件である。この中の業務上過失傷害は，そのほとんどが自動車やバイクの運転の事故によるものである。

〈交通違反少年に対する措置〉として上記道路交通法違反事件が年間約54万8,000件，業務上過失傷害事件が年間約88,000件という数字は，まさに今日の交通問題を示すもので，しかも，他の少年非行が年々減少しつつあるのに反して，業務上過失傷害は年年増加しつつある。この現状に照らして，家庭裁判所ではこれら少年のために特別の処遇をとっている。その一つは教育的措置であり，他の一つは資質の検査である。教育的措置としては，前記の試験観察の一方法として，家庭裁判所における講習・自動車教習所における委託教習，2泊3日の短期宿泊訓練など，各家庭裁判所がくふう研究して各少年にそれぞれ応じた精神・技術両面の教育・指導を行なっている。そしてその成績の如何(いかん)によって，保護処分に付すか，付さないかの決定を行なう。東京家庭裁判所においてこれらの措置をとる少年の数は，年間10,000人を越える。また，違反や事故の態様の如何によっては，少年の身体・精神・性格など，資質の検査を行ない，運転に適するかどうかを判定し，それに応じた措置を講ずる。成人の場合には，道路交通法違反に反則通告制度が設けられ，反則金の納付によって罰金を免除されることになっている。しかし，この制度を少年に適用することになると，いろいろの弊害があると考えられるため，少年法によって家庭裁判所において教育的措置や資質の検査を行なっているわけである。成人は反則金の納付によって罰金を免除されるのに対し，少年には教育的措置を受けることによって罰金を免れる道を開いている。教育的措置は，現に相当の効果をあげて，再違反の防止に役だっている。

〔成人事件〕刑事事件の中で少年の福祉を害する成人の犯罪事件を，特に家庭裁判所で扱うのは，少年の健全な育成を期すると

いう家庭裁判所の目的によるものである。この事件は，通常の刑事裁判手続きにより，公判が開かれ，審理・判決がなされる。年間約300件，そのうち労働基準法*違反が半数を越え，児童福祉法違反・未成年者飲酒禁止法違反がこれに次いでいる。

〔家庭裁判所の特色〕 家庭裁判所の第1の特色は，個々の家庭や個々の少年に応じて，それぞれに適した処置をとることである。これを個別的司法とよんでいる。他の裁判所が法律で定められた画一的なやり方によっているのと異なるのである。第2の特色は，その家庭や少年の将来の健全な生活や健全な育成をはかるという目的をもって裁判・調停をすることである。もちろん，過去の事実から法律上の責任や義務の有無を判断することは，他の裁判所における裁判の場合と変わりはない。第3の特色は，以上二つの特色から事件を科学的に処理することである。医学や人間行動科学を応用することによって，上記二つの特色が発揮される。そこで，家庭裁判所には，特に家庭裁判所調査官の制度と医務室の制度を設けている。

家庭裁判所調査官は，全国で1,212人，ほかに官補が212人，各家庭裁判所に配置されている。調査官は，裁判官の命によって事件について調査を行ない，その結果を裁判官に報告する。その調査は，関係者の性格・経歴・生活状況その他の環境などについて，医学・心理学・社会学その他の専門的知識を活用して行なうべきものとされている。また調査官は，社会福祉機関と連絡して家庭その他の環境を調整したり，少年の監護・観察にもあたる。その職務の内容はケースワーク*である。調査官は，大学で心理学・社会学・教育学・社会福祉学などを専攻した者の中から採用され，家庭裁判所調査官研修所で1年間の特別の研修を受ける。その後も専門部門の研修があり，ケースワーカー・サイコロジカルテスター・カウンセラー*として訓練される。

医務室には，内科・精神科などの医師と看護婦が勤務している。事案によって関係者の身体・精神の状況を診断し，その結果を裁判官に報告する。場合によっては，調停・審判の席に医師が立ち会うこともある。近年，家庭の問題についても，少年の非行についても，医学的な研究が進むにつれて，家事事件・少年保護事件でも医務室の利用が増加しつつある。〔内藤頼博〕

カーテン ［cartain］ 窓・入り口・間仕切りなどのために用いるたれ布をいう。窓その他の住居室内の装飾として用いられるほか，実用的な機能として，遮光(しゃこう)・遮蔽(しゃへい)・保温・防暑などの効果をもつ。装飾用としては，壁面と調和するように，その色調・文様，たれ下がりの形状，材質感などが考慮されて，室内のふんい気をつくりだす要素として重要視される。遮光用としては，強い外光を緩和して適切な室内光度を保つ作用をもち，必要に応じては外光を遮断して暗室とする用途もある。遮蔽用としては，外光をさえぎることが少なく，しかも外から室内の見えにくい材質のカーテンが用いられる。厚地のカーテンは窓ガラスやすきまなどからの寒気を防ぐ保温の機能をもち，また日射をさえぎって室内の防暑の効果をあげる役目もある。

ふつう，薄地で透明な生地でつくられたものをカーテン，厚地で不透明なものをドレープ，半透明のものをケースメントクロスといって区別する。標準的な用法としては，薄地透明なカーテンを外側に，厚地不透明なドレープを内側にして二重に窓をおおい，昼間は透明なカーテンのみ，夜間は不透明なドレープを引いて遮蔽する方式をとる。窓用のほかに，出入り口カーテン・間仕切りカーテン・シャワーカーテンなど，また，劇場などの緞帳(どんちょう)や各種のたれ幕類がある。

薄地透明なものはレース・紗(しゃ)など，厚地不透明なものは文様を表わした織物を用いる。〔小川安朗〕

かでん 【荷電】 ⇨電荷

カーテンウォールこうぞう 【カーテンウォール構造】 建築構造形式の一。帳壁ともいう。壁が単に空間を仕切るためにのみあり，みずからの強度と取り付け強度を考慮すればよく，建物に加わる外力を負担しない構造。従来のれんが造り・石造りなどの組積式構造は，壁体が外力を負担するため開口部が少ないので，重量が重くかつ外観が重厚な感じであったが，鉄骨造り・鉄筋コンクリート造りの発達に伴って，重厚感を和らげ，かつ建物の軽量化のためにこの構造が着目され，アメリカで発達した。建物が軽量になると壁厚が薄くなるので，有効面積が増す。表面材(内・外)・心材(おもに断熱・防火材料)によって構成され，ユニットとして工場での大量生産が可能であり，外部足場が不用になるなどの特長をもつので高層建築物にしばしば用いられる。れんが・コンクリートブロックを積む方法もあるが，通常は金属板パネルかコンクリートパネルを用いる。代表的な建物に国連ビル・シーグラムビル・霞が関(かすみがせき)ビルなどがある。〔神山幸弘〕



カーテンウォール構造

かでんしょ 【花伝書】 ⇨風姿花伝

カデンツ ⇨終止

カデンツァ ［cadenza］ 楽曲や楽章の終わり近くに置かれ，独奏者の技巧を示すための部分。特にナポリ楽派のオペラのアリア，古典派・ロマン派の協奏曲で使われた。本来は独奏者の即興にまかせるものであったが，過去の演奏家がつくったものや，作曲家自身が様式的な統一を図るために作曲したものも多い。

ガーデントラクター ［garden tractor］ 庭園や果樹園で耕作用に用いる小形のトラクター。ハンドトラクターとよばれる2輪で操縦者が歩きながら作業する1～10馬力，最高速度15km/時程度のものから，アメリカやヨーロッパで多く使われている3輪・4輪で，20～40馬力の大形機まである。噴霧機・播種(はしゅ)機・刈り取り機・干し草収穫機など，専用の作業機と組み合わせて各種の作業をするほか，動力取り出し装置から動力を取り出し，単に動力源としても用いる。作物育成中にうねの間を走行することもあるため，最低地上高は30cm以上で，うね幅に応じて輪距を変えられるものもある。法令では長さ4.7m，幅1.7m，高さ2m以下で，最高速度15km/時以下，総排気量1.5l以下のものを小形特殊自動車，それ以上のものを大形特殊自動車と定めている。〔成田武男〕

かでんみん 【火田民】 北朝鮮の蓋馬(がいま)高原を中心とする山岳地域に居住して焼き畑*農業を営んで生活している人々をいう。火田というのは一般の焼き畑にあたるもので，山林を焼いてから数年の間アワ・ダイズ・ジャガイモ・ソバ・トウモロコシなどの自給作物を輪作する。かつて火田民は186万人(1939)にも達したが，朝鮮民主主義人民共和国が成立して農業技術の改良を推進した結果，その数は著しく減少した。

カトー ［Marcus Porcius Cato Censorius］ (BC234～BC149) 古代ローマの政治家。大カトーといわれる。若くして第2次ポエニ戦争に従軍してハンニバル軍と戦い，BC195年コンスル(執政官)として

スペインの統治を確立した。BC191年シリア戦争に際してはテルモピュライで功をあげた。BC184年ケンソル(戸口調査官・監察官)に就任。彼はこのケンソル職の道徳監督官的権限を最大限に利用したので〈ケンソリウス〉とよばれた。すなわち彼は当時帝国の上下において現われた華美柔弱の傾向，道義の退廃をギリシア文化浸透の結果と考えてこれを糾弾し，そういう退廃分子をケンソルの職権を用いて元老院や騎士の身分から追放した。彼の立場は，第2次ポエニ戦争以後紀元前2世紀にはいって次々と行なわれた海外征服がローマ社会に及ぼした変化，特に中小土地所有者の漸次的没落と大土地所有形成の趨勢(すうせい)をとどめ，中小土地所有の維持をめざそうとするものであった。その後彼はカルタゴに外交使節として派遣されたが，そのときカルタゴの繁栄ぶりをみて帰り，以後カルタゴ撃滅論の急先鋒(きゅうせんぽう)となった。彼は当時の風潮からみれば，並みはずれた節倹と勤労によって有名であったが，単なる保守的道学者ではなく，徹底的な合理主義者であることにその本質があった。彼が解放奴隷を通じてひそかに投資に手を出して貨殖の道に励んだことはその現われで，その著《農業論》において，中小土地所有農民の伝統的農業をではなく，販売目的のための大土地所有の合理的経営を論じているのも注目に値する。一方，彼の保守的国民主義を示す《起源論》7巻は，現在150ほどの断片を残すのみであるが，ラテン語最古のローマ史論としても有名で，王政時代からルシタニア戦争(BC149)までを叙述する。ローマ市民の一兵卒も将軍に劣らない功績をあげたという信念から，将軍についてもいっさい固有名詞をあげなかったところにその面目があり，個人の描写を重んじた当時の歴史家の中で異彩を放っている。〔弓削　達〕

カトー　[Marcus Porcius Cato Uticensis]　(BC95～BC46)　ローマ共和政末期の保守的政治家。大カトーの曾孫(そうそん)で，小カトーといわれる。BC63年，カチリナ派の陰謀に際して予定護民官として元老院においてカチリナ*の処刑を主張。BC59年カエサルに反対したため一時投獄されたが，翌年キプロスの併合のため転出を命ぜられた。ポンペイウスとカエサルの内戦に際してはポンペイウス方に立ち，シチリア・アシアで従軍したのち，ファルサロスの戦い(BC48)にあたってはデュラキウムを守備した。ポンペイウスの敗北ののちはポンペイウス派とともにアフリカのウチカに渡り，タプススの敗戦(BC46)後，カエサルの攻撃をまえに自殺した。ストア哲学によって教育され，古代ローマの伝統保守の立場を貫き，終始元老院側に立っていた彼の自殺は，共和政への殉死でもあった。彼の死後カエサルの著した《反カトー論》はかえって彼の名声を高め，長く共和主義者を鼓吹するものとなった。〔弓削　達〕





可動橋　(上)跳開橋(勝鬨橋)(下)昇開橋(アメリカ，ミネソタ州のダルース市とミネアポリスポイントを結ぶハイーブリッジ)

カード　[card]　繊維をくしけずる機械。梳綿機(そめんき)・梳毛機ともいう。針布*を取り付けたシリンダーあるいは平板で，繊維をくしけずって薄く平面のラップ(むしろ状のもの)につくる装置である。なお，ハンドカードは，手工的に羊毛・綿などをくしけずって繊維を平行に並べる道具。

かとう　【果糖】　ケトヘキソース(ケトン基をもつ六炭糖)の一種，フルクトースともいう。還元性のある糖で，フェーリング液*を還元して赤色の酸化第一銅を沈殿させる。広く植物界に分布し，果実やはちみつの中に遊離の状態で含まれる。なお，ショ糖は果糖とブドウ糖の結合したものであり，キク科植物の根に含まれるイヌリンは果糖が多数結合したものである。糖類中で最も甘味が強く，ショ糖を100とした場合173，熱すると甘味が弱まって103といわれる。ちなみに，ブドウ糖は74，麦芽糖は32，乳糖は10という。

かとう　【賈島】　(788～843)　中国，唐代の詩人。はじめ僧侶(そうりょ)になったが，韓愈*(かんゆ)に認められ，還俗(げんぞく)して役人となった。〈鳥宿池辺樹　僧敲月下門〉(鳥は池辺の樹に宿し，僧は月下の門を敲(たた)く)の句の，〈敲〉を〈推〉(おす)にするかどうかで苦吟したという〈推敲(すいこう)〉の故事が知られている。

かどう　【花道】　⇨生け花

かどう　【歌道】　和歌に関する道。〈家〉の専門化に呼応して形成され，中世を特徴づける学問・技芸などにいわれる〈道〉の概念の一。すなわち，六条家・御子左(みこひだり)家間の抗争に端を発した〈歌の家〉の意識に始まり，藤原為家*(ためいえ)の時代になって，既存のものの尊厳性を無条件に認め，稽古(けいこ)によって個性をそのわくの中に馴致(じゅんち)させるというふうに確立し，後代を支配するに至った。

カトーウィツェ　[Katowice]　カトビツェともいわれる。ポーランド南部，クラクーフの西方60kmに位置する上シュレジエンの工業都市。人口30万6,000(1971)。シロンスク炭田の中心にあり，鉄鉱石・亜鉛・鉛を産出し，製鉄・機械・化学工業が盛んである。第2次世界大戦前はドイツ領で，ドイツの近代鉄鋼業はここに始まったとされる。

かとううまき　【加藤宇万伎】　(1721～1777)　江戸後期の国学者。賀茂真淵*(かものまぶち)門の高弟で，特に古代精神の研究に力を注いだ。著作《古事記解》《雨夜物語たみ詞》など。《雨夜物語たみ詞》では《源氏物語*》の〈雨夜の品定め〉に注解を施した。なお，上田秋成*は彼の門人であり，大きな影響を与えたとされる。

かとうかげまさ　【加藤景正】　⇨藤四郎

かどうかん　【仮道管】　維管束植物の木部にみられる通道組織の細胞。直径10～70μ，長さ1～5mmの細長い細胞で，原形質はなく，細胞壁は厚くなって木化している。上下につながって水分の通路となる。仮道管細胞には膜孔をもった隔膜があること，それが斜面になっていることが道管*と異なる。両端がとがっている紡錘形のものもある。細胞壁は部分的に肥厚して模様があり，らせん紋仮道管・環紋仮道管(原生木部に多い)・孔紋仮道管(裸子植物・被子植物に多い)・階紋仮道管(シダ植物に多い)などがある。ふつう，被子植物では道管の補助的な役割をしているにすぎないが，シダ植物・裸子植物では木部の水液通路の主要素となっている。〔高島丈夫〕

かどうきょう　【可動橋】　橋体を動かすことのできる橋。船舶の航行する水路にかけられる橋で，橋上の交通状況と船舶の航行状況とを比較したとき，後者のほうが優先すべきものと判断された場合に架設される。陸上交通が優先する場合には船舶の航行に支障のない高さに架設するが，この場合には取り付け部分が長くなってそれだけ工費は増加する。可動橋は構造が複雑になり，また駆動設備その他を含めると，一般の橋よりも工費は増加するので，これらの点を勘案して採否が決められる。橋体の動かし方によって旋回橋・跳開橋・昇開橋・転回橋などに分けられるが，通常よくみられるのは跳開橋と昇開橋である。このほか特殊な可動橋として，連絡線接岸用の可動桟橋(さんばし)などがある。〔堀井健一郎〕

かどうきょう　【架道橋】　道路や鉄道のような通路を越える目的でかけられる橋の総称。越えるものと越えられるものとによって名称が異なる。たとえば，鉄道が道路

を越えるための橋は跨道(こどう)鉄道橋，道路が鉄道を越えるものは跨線道路橋という。駅構内のいわゆる跨線橋は正確には跨線歩道橋である。横断歩道橋も架道橋の一種である。架道橋は下をくぐるもののために所要の空間をあけておく必要があり，一方，上を通るもののためにはなるべく低いほうがつごうがよいので，主げたを並列した上路形式のけた橋のような構造の場合にはけた高を制限されることも生ずる。そのため，スパンが大きい場合には下路形式のトラス橋やアーチ系の橋梁(きょうりょう)にするが，ラーメン橋が採用されることも多い。最近，鉄道の踏切をなくすためや高速道路の建設に伴って，おびただしい数の架道橋が架設されつつある。〔堀井健一郎〕

かとうきょうそう【過当競争】 自由企業間の競争が過度に激しく行なわれ，相互に損失を招いているような状態をいう。大企業間においては，ほとんどすべての産業部門で設備投資競争が行なわれ，国民経済全体としては重複投資となり，過剰設備を生み出すもととなっている。また中小企業間においても，低い労働条件のもとで共倒れ的な競争がなされており，これが中小企業の地位を不安定なものとしている。さらに貿易商社間にも価格引き下げ競争のような過当競争がみられる。〔加藤　寛〕

かとうきよまさ【加藤清正】（1562～1611）安土桃山時代の武将。尾張(おわり)(愛知県)の人。通称虎之助(とらのすけ)。幼少から豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，多くの戦功を立て，賤ケ岳七本槍(しずがたけしちほんやり)(→賤ケ岳の戦い)のひとりとして有名。1585年(天正13)主計頭(かずえのかみ)に任ぜられ，1588年肥後(熊本県)半国，二十万石を与えられて熊本城主となる。文禄(ぶんろく)・慶長の役には大いに活躍し，中でも文禄の役では先鋒(せんぽう)として豆満江(とまんこう)を渡り，兀良哈(おらんかい)まで進み，また朝鮮の2王子を捕えて武名をあげた。慶長の役では蔚山(うるさん)の籠城(ろうじょう)が有名。関ケ原の役では徳川方に属し，徳川家康(いえやす)より肥後1国，五十二万石を与えられた。〔松尾　涼〕

かとうしゅういち【加藤周一】（1919～　）評論家・小説家。東京の生まれ。東京大学医学部卒。1942年(昭和17)中村真一郎・福永武彦(ふくながたけひこ)らと〈マチネ-ポエティク〉を組織，第2次世界大戦後に彼らとの共著《1946，文学的考察》で注目された。数度の外遊による広い視野から，西洋との対比を通して日本文化の特殊性を追究しているが，代表作は《雑種文化》《二つの極の間で》などの評論，小説《ある晴れた日に》(1950)などがあげられる。〔源　五郎〕

かとうしゅうそん【加藤楸邨】（1905～　）俳人。東京都の生まれ，本名健雄(たけお)。埼玉県の中学教員時代に水原秋桜子の門にはいり，《馬酔木(あしび)》に参加，その前衛的句風が注目された。1940年(昭和15)みずから《寒雷》を主宰し，戦後に至っている。俳句における人間性回復をめざし，中村草田男(くさたお)・石田波郷とともに人間探求派と称された。句集《寒雷》《雪後の天》《火の記憶》《山脈》など。芭蕉(ばしょう)研究書・紀行随筆なども多い。〔三浦　仁〕


加藤清正

かとうせい【寡頭制】 国家権力が少数の支配者によって掌握されている政治体制のこと。支配者がひとりではない点で君主制と区別され，主権在民ではない点で民主制と異なる。古代ローマの三頭政治はその典型である。寡頭制は実際的には貴族制である場合が多く，貴族制が堕落したときに寡頭制とよばれる。18世紀イギリスの支配体制が貴族的寡頭制といわれるのはこのためである。最近は，独占資本主義下で，少数の金融資本が国家権力を独占している状況を，金融寡頭制ともいう。〔西尾孝司〕

かどうぜき【可動堰】 それより上流の水位を一定に保つ必要のある地点に設けられるゲート(門扉(もんぴ))を備えた堰。基礎となるコンクリート固定堰の上に水門をつくり，水門にゲートをはめこむ。平水時はゲートを閉じて水位を維持し，洪水(こうずい)時はゲートを開いて水位の上昇を抑制する。

かとうたかあき【加藤高明】（1860～1926）外交官・政治家。愛知県の生まれ。1881年(明治14)東京大学法学部第1回卒業生として三菱(みつびし)本社に入社。イギリスに留学後岩崎弥太郎(やたろう)の長女と結婚。1888年外務省にはいり，1894年駐英公使，1900年伊藤(いとう)内閣の外相に就任，日英同盟の締結を準備した。1913年(大正2)桂(かつら)内閣の外相となり，次いで桂の立憲同志会創立に参加，桂の死後，その後身の憲政会総裁となった。1914年大隈(おおくま)内閣の外相として第1次世界大戦参加を主張し，また対華二十一か条要求を指導したが，その要求が内外の非難を浴びて外相を辞職した。そのあと苦節10年といわれた長い野党総裁の座を守り，1924年第2次憲政擁護運動の中心として清浦内閣を打倒，護憲三派(憲政会・政友会・革新倶楽部)内閣の首相となった。このとき普通選挙を実現する一方，治安維持法を成立させた。憲政会内閣の首相在任中病死。伯爵。〔岸野淳子〕

かとうたけお【加藤武雄】（1888～1956）小説家。神奈川県生まれ。新潮社員として編集に従事したが，初期は農村に取材した作品を書き，やがて大衆文学，特に家庭小説の作家として活躍した。やや古風な正義感と人情味のあふれる叙情的作風が特色。《土を離れて》《久遠の像》《春雷》などの代表作のほか，農村小説の著もある。

かとうちかげ【加藤千蔭】（1735～1808）江戸後期の国学者・歌人。本姓，橘(たちばな)。号，朮園(うけらその)など。幕府与力。国学者加藤枝直(えなお)の子。賀茂真淵(まぶち)に師事し，村田春海と並んで江戸派の代表的歌人として聞こえた。歌風は新古今調で，また書道・絵画・狂歌などにもすぐれ，その仮名書は千蔭流として知られる。著書は《万葉集略解》《うけらが花》など。

かとうともさぶろう【加藤友三郎】（1861～1923）海軍軍人・政治家。広島県の生まれ。海軍大学校卒業。日本海海戦時の連合艦隊参謀長として知られる。1915年(大正4)第2次大隈(おおくま)内閣から1923年まで引き続き海相をつとめた。在任中88艦隊建設案を成立させ，1921年ワシントン会議の首席全権委員，1922年首相となり，在任中死亡。元帥・子爵。

かとうひろゆき【加藤弘之】（1836～1916）政治学者。但馬(たじま)(兵庫県)出石(いずし)藩出身。江戸で佐久間象山・坪井為春(ためはる)に洋学を学んだ。1860年(万延1)幕臣に採用されて，開成所教授となり，《隣草》《立憲政体略》を著わして立憲政治思想を日本に紹介した。1873年(明治6)森有礼(ありのり)らと明六社を組織し，共和論・天賦人権論を唱えたが，のち変更して民選議院設立時期尚早論(しょうそうろん)，天賦人権論否認，キリスト教論争をひき起こした。1877年東京大学綜理(そうり)，のち東京大学総長となり，貴族院議員・枢密顧問官・帝国学士院院長を歴任した。〔岸野淳子〕

かとうぶし【河東節】 日本音楽の語り物の一。江戸浄瑠璃(じょうるり)の代表的なもので，享保(きょうほう)年間(1716～1735)に十寸見(ますみ)河東が半太夫節(はんだゆうぶし)に手を加えて創始した。歌舞伎(かぶき)およびお座敷用の音楽で，細棹(ほそざお)の三味線(しゃみせん)を使う。代表的な曲には《助六所縁江戸桜(すけろくゆかりのえどざくら)》があり，歌舞伎十八番の助六狂言に使われる道行浄瑠璃として有名である。18世紀後半以降，常磐津節(ときわずぶし)・富本節などの豊後節(ぶんごぶし)系のものにおされて衰退し，今日では一部の人の間で愛好されている。〔山口　修〕

かとうまど【火頭窓】 花燈窓・火燈窓・華頭窓とも書く。禅宗建築から起こったもので，窓の上方が曲線形(炎形アーチの変形)になった和風窓をいう。上方の曲線形の形態によって，狭間(はざま)火頭・隅切洞(すみきりどう)火頭・蕨(わらび)火頭・富士火頭・櫛形(くしがた)火頭などがある。

かとうみちお【加藤道夫】（1918～19

53) 劇作家。福岡県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学英文科在学中に芥川比呂志(あくたがわひろし)らと〈新演劇研究会〉を結成，劇作・翻訳などを行なった。その後大学院に進み，エリザベス朝演劇を研究，かたわら仏文学に傾倒して，特にジロドーの影響を強く受けた。第2次世界大戦中に執筆した代表作《なよたけ》は，《竹取物語》を素材に独特の詩的世界を形成して，近代的自我を追究した傑作とされる。ほかに戯曲《襤褸(ぼろ)と宝石》《天国泥棒(どろぼう)》などがある。〔源　五郎〕

かとうよしあき【加藤嘉明】(1563〜1631) 安土桃山・江戸初期の武将。初名孫六，通称左馬助(さまのすけ)。豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，賤ケ岳七本槍(しずがたけしちほんやり)(→賤ケ岳の戦い)のひとりとして知られる。九州・小田原征伐に従軍。文禄(ぶんろく)・慶長の役には水軍の将として出陣し大功を立てた。関ケ原の役には徳川方に属し，功により加増されて二十万石。1602年(慶長7)松山城を築く。1627年(寛永4)会津(福島県)に封じられ四十万石を領した。〔善積美恵子〕

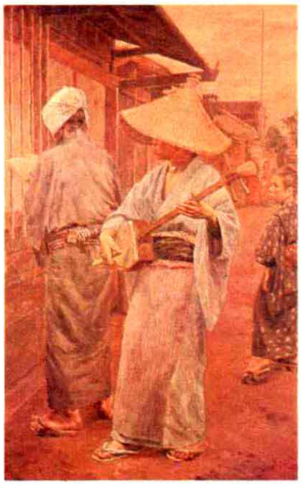
かとうよしろう【加藤芳郎】(1925〜) 漫画家。東京の生まれ。小学校を卒業後，川端(かわばた)画学校などに学んだが，1939年(昭和14)《アサヒグラフ》の投稿漫画に入選し，漫画家として出発する契機となった。その作品は，痛烈な社会風刺と土のにおいのする庶民の笑いで知られる。主要作品は，毎日新聞に連載されてすでに5,700回を越える《まっぴら君》のほか，《オンボロ人生》《オレはオバケだぞ》《モテモテおじさん》《千匹の忍者》など。〔須山計一〕

カトゥルス［Gaius Valerius Catullus］(BC84ごろ〜BC54ごろ) 紀元前1世紀前半に活躍したローマの詩人。叙情詩・恋歌・短詩などを作った。ベロナの富裕な名門に生まれ，BC62年ごろローマに出て，たちまち文壇・社交界の重要メンバーとなる。このころ恋愛詩《レスビア》のモデルとなった女性と会い，10年にわたって恋の苦悩と歓喜を味わう。トロヤを訪問し，BC56年にイタリアに帰国。感情的反カエサル派であったが，のち和解が成立した。詩作と社交に晩年を過ごしたが夭折(ようせつ)する。作品として116行の詩が現存し，恋愛歌・叙情詩・祝勝歌・祝婚歌・エレゲイア詩などがある。ギリシア叙情詩人らや先輩・同輩のローマの詩人らの影響を受けながらも，自分の経験をもとにした簡明ですなおな感情表現による，優雅で優しさにあふれた美しい詩を残している。〔久保正彰〕

かとうれんにゅう【加糖練乳】 牛乳に15〜16%の純良なショ糖を加え，殺菌したのち，約2.5分の1に濃縮したもの。ショ糖濃度が非常に高く，有害菌に対する防腐作用があるので，荒煮の操作で殺菌を行なうだけで，かんに密封したのちの殺菌は行なわない。色調がクリーム色で美しいものがよく，白すぎるものやかっ色のものは不良。飲んでみて，発酵臭やカラメル臭のあるものはよくない。パン・くだものに添え，製菓原料・アイスクリーム原料としても用いる。なるべく低温に保存する。〔佐藤友太郎〕

加藤嘉明





門付け
小林万吾画
東京国立博物館蔵

かとく【家督】 武家社会における一族の族長または家長のこと。平安時代から鎌倉時代にかけて武士階級の間に，一族・一門・一家・門葉などとよばれる族的組織が発達し，このような団体を統率する者を家督または門葉の棟梁(とうりょう)・家長などといった。家督は一族に対する軍事統率権を有し，共同祖先の祭祀(さいし)を行なうなど一族を代表したが，同時に分割相続された一族庶子の所領を総括していたところから惣領(そうりょう)ともよばれた。室町時代以降になると単独相続制の発達に伴って，それぞれの小家族が族的結合から独立するようになり，家督の語は各家の家長の地位を示すようになった。〔鈴木英雄〕

かとくそうぞく【家督相続】 明治民法上の規定で，戸主の死亡・隠居，入夫婚姻(夫が女戸主である妻の家にはいる婚姻)などに伴い，その戸主の身分および財産を相続すること(旧民法964条)。旧民法では，この家督相続に対して，戸主以外の家族が死亡した場合について遺産相続を規定していたが，これは，その者の特有財産が遺産となり，遺産相続人に共同に相続されることとし，近代相続法の精神を取り入れていた。家督相続の場合は，財産は戸主の身分と結びついてその内容をなしており，遺産だけの相続というものはありえなかった。家督相続人にはふつう長男がなったが，これには厳格な規定があった。すなわち，家督相続人になりうるのは女よりも男，庶子(父が認知した婚姻外に生まれた子)よりも嫡出子，幼年者より長年者といったぐあいである(旧民法970条)。また，法定による推定家督相続人は家督相続を放棄することができなかった(旧民法1020条)。旧民法下のこの制度は，結局〈家〉の永続化を図るための物質的基礎をなし，家族制度の中心をなすものであった。第2次世界大戦後，新憲法が制定されると，家督相続制度は憲法の精神に反するとして廃止された。〔黒木三郎〕

かどた【門田】〈かんどだ〉〈もんでん〉ともよむ。荘園(しょうえん)制下の土豪・名主(みょうしゅ)の私有地の一つで，屋敷地の周囲にある田地。門田は荘園領主から年貢(ねんぐ)課役を免除されていたので，土豪・名主の有力な得分地であった。そのため，彼らの中には門田と称して隣接地を押領する者もあった。畑地の場合は門畠(かどばた)という。

かどづけ【門付け】 門ごとに訪れて，歌ったり，楽器を鳴らしたりして物を請うことおよびその人。時節を定めて門ごとに神が訪れ，祝福をたれるという民俗信仰に発し，神の姿をした寿言(ほかいごと)人が来るのがたてまえであったが，やがて下級の神職・僧侶(そうりょ)などから転落した賤民(せんみん)が，いろいろの芸能を行なって米や金を請うようになったものである。明治以降しだいに影を潜め，現在では，わずかに万歳や獅子舞(ししまい)が，ときたま門口を訪れる程度になっている。〔佐藤　薫〕

ガードナー［Erle Stanley Gardner］(1889〜1970) アメリカの推理小説作家。本業は弁護士で，1933年《ビロードの爪(つめ)》でデビュー以来，弁護士ペリィ・メイスンもの80冊や別名のものなど，37年間に長編140冊を書いた。その総発行部数1億4,000万部以上という。法廷推理小説を確立，代表作は《奇妙な花嫁》《義眼殺人事件》など。

かどび【門火】 盂蘭盆(うらぼん)や送葬のとき，門前で麻殻(おがら)などでたく火をいう。冠婚葬祭のとき庭で火をたく古くからの中国や日本の風習が仏教行事に転用されたといわれる。お盆の入りには精霊(しょうりょう)を迎える迎え火，お盆の終わりには送り火がたかれる。京都の大文字焼は大規模な送り火である。

カドフィセス ⇨クシャン朝

かどま【門真(市)】 大阪府中部の市。淀(よど)川左岸の沖積地(ちゅうせきち)上を占め，古くから低湿地帯のレンコン栽培で知られた。昭和初期に松下電器産業が工場を設置して以来，電気機器の町として急速に発展した。1963年(昭和38)市制施行。人口13万7,000。産業三大別人口比は1：46：53。松下電器の本社をはじめ，同系会社のラジオ・通信機

などの工場群が存在し，西隣の守口(もりぐち)市とともに電気機械工業地域を形成する。京阪(けいはん)電鉄京阪線と国鉄163号線が市域を東西に横断する。

カトマイ(山) ［Katmai］ アメリカ合衆国アラスカ州，アラスカ半島基部にある火山。高度2,286 m。1912年6月の有史以来の大爆発により山頂が吹き飛ばされてできた噴火口は深さ1 km，直径4 kmという大きなもので，この噴火の影響で，160km東にあるコジアク市は約60時間暗くなったといわれる。1918年国立記念地区に指定された。

かどまつ 【門松】 正月，家の内外に立てる2本または1本のマツ。門の両側に立てるのが普通であるが，外庭・内庭に立て，あるいは大黒柱に結びつけるところもあり，マツ以外にトチ・スギ，タケなどを立てる地方もある。本来は，正月の年神降臨の目印として常緑の木とされたが，現在ではマツが一般に普及した。暮れの12月13日に松迎えと称し，山からマツを切ってきて立て，お松様とよんでいる所もある。正月7日あるいは14日で年神を祭る期間は終わりとされ，門松を集めて燃す。 〔直江広治〕

カトマンズ ［Katmandu］ ネパール王国の首都。国の中央部，海抜1,370 mの盆地内に位置する。人口35万(1975年推)。15世紀のマルラ王朝時代の王宮をはじめ，ヒンズー教・ラマ教の多数の寺院がある。最近は近代的建築もみられるようになったが，市内にはなお伝統的なれんがの壁，木の柱を使った住宅が多い。町は10世紀ごろ建設されたといわれ，ネパールの中心として栄えてきた。ヒマラヤ登山の基地となっていて，市内からもその連峰が望まれる。

〔別技篤彦〕

カドミウム ［Cadmium］ 周期律表第II族に属する元素。記号Cd 原子番号48，原子量112.40の亜鉛によく似た金属。1817年シュトロマイヤーによって発見された。亜鉛に伴って産出するので，亜鉛精製の副産物として得られる。銀白色，六方最密格子(こうし)の金属で，亜鉛より柔らかく，また揮発しやすい。融点320.9℃，沸点766℃，比重8.65，展性・延性に富む。空気中では酸化されて光沢を失う。熱すると赤色の炎を上げて燃焼し，かっ色の酸化カドミウム(CdO)になる。熱すればハロゲンとも反応する。原子価はつねに＋2価。亜鉛と異なりアルカリ溶液にはとけない。アンモニアには錯イオンをつくってとける。金属としては低融合金の製造に使用。カドミウムめっきや光電管・カドミウム電池にも利用，また，中性子吸収用として原子炉の制御材として使用される。神通川流域の〈イタイイタイ病〉はカドミウムが原因であるといわれ，亜鉛の精錬やカドミウムを扱う事業所付近では，水中や土壌(どじょう)中のカドミウム含有量が検討されている。 〔古屋　弘〕

カドミウムでんち 【カドミウム電池】 ⇨光電効果



門　松



カトマンズ　ネパールはインドとチベットの文化の接点にあり，住民の風俗にもそれが現われている。街頭で素焼きのつぼを売る住民



香取神宮　本殿

カドモス ［Kadmos］ ギリシア神話の英雄。フェニキアの王アゲノルの子で，エウロペ*の兄弟。ミノスの伯父(おじ)。エウロペがゼウスにさらわれたので捜しにいくが果たせなかった。デルフォイの神託に従って道連れにした雌ウシが足を止めた土地で龍(りゅう)を殺し，その歯をまくと大地から武装した男らが飛び出し，互いに殺し合って5人が残った。彼はこの5人の〈まかれた男ら〉と協力してテーベ市を建て，王となった。妻はアレスとアプロディテとの娘ハルモニアで，死後ふたりはヘビの姿で楽土で暮らす。 〔松田　治〕

カートライト ［Edmund Cartwright］ (1743～1823) 力織機を普及させたイギリスの発明家。ノッチンガムのマーンハムに生まれ，オックスフォード大学に学んだ。40歳まで詩や評論を書いていたが，アークライト*の紡機の発明を知り，織機の改良を志した。1785年に最初の力織機の特許を得，1786年最初の工場をドンカスターに，1791年蒸気機関を原動力とする工場をマンチェスターに設立した。この工場は力織機の出現を憎む手織り工によって焼き討ちされた。1789年と1790年に特許を得た梳毛(そもう)機も有名である。彼の発明は紡織工業の産業革命の大きな推進力となったが，発明家としての利益は得られなかった。しかし，その功が認められて，1809年議会から10,000ポンドの賞金を得た。 〔山崎俊雄〕

かとりじんぐう 【香取神宮】 千葉県佐原市香取町に所在する旧官幣大社。主祭神は武神の経津主命(ふつぬしのみこと)。中臣(なかとみ)氏が祭祀(さいし)をつかさどったが，中央の藤原氏に統御されるに至って鹿島(かしま)神宮*と同様藤原氏の氏神となり，春日(かすが)神社創建の際にその分霊を移した。香取郡はその神郡とされ，平安時代には藤原氏の氏長者*は私封10戸を寄進するならわしであった。平安末期以降は常陸(ひたち)(茨城県)・下総(しもうさ)(千葉県)の海夫(あま)を管理したのを特色とする。下総の一宮(いちのみや)で，武神として鎌倉時代には幕府以下東国武士の尊敬を受けた。現在の本殿は1700年(元禄13)徳川綱吉(つなよし)が造営したものである。《海獣葡萄鏡(ぶどうきょう)》(国宝)などを蔵する。

〔柳雄太郎〕

かとりせんこう 【蚊取り線香】 除虫菊*粉を木炭やタブノキなどの粘結剤で賦形してつくった製剤で，燃焼によってカを防ぎ，あるいはこれを殺す。除虫菊の代わりにアレスリンなどの合成剤も用いられる。電熱で有効成分を揮散させる電気蚊取り器が，最近蚊取り線香に代わって用いられてきた。

カトリックおんがく 【カトリック音楽】 ローマ-カトリック教会で，典礼や宗教上の祭式に用いる音楽の総称。ローマ教会では，古くから，教化の補助手段として音楽を重視したため，中世以来，多くの遺産を残している。典礼用の音楽としては，遠くユダヤ教にまでさかのぼるといわれるグレゴリオ聖歌*がある。ルネサンス時代にはグレゴリオ聖歌をその素材とするモテット*やミサ*などの多声音楽が現われ，デュファイ・ジョスカン-デ-プレ・パレストリーナらの作曲家がすぐれた作品を残している。また，これら典礼用の音楽以外にも，教会の催事や演奏会で奏されるオラトリオ*などがあり，これらを含めたカトリック音楽のもつ音楽史上の意義ははかりしれない。

〔吉田泰輔〕

カトリックきょうかい 【カトリック教会】 ローマ教皇を最高の首長とするキリスト教の一派。ローマ-カトリック教会・ローマ教会，また旧教・公教会ともいわれる。本山はバチカンにある。その名は〈普遍〉を意味するギリシア語カトリコスに由来する。イエス-キリストの真の教えと救世の効果を信じ，これを世の終わりまで保持してすべての人に及ぼすために設立したとされ，キリストが創立した真の教会としての特徴である唯一性・聖性・公性・使徒承伝性は，カトリック教会のみが備えているとする。聖職者には下級四段(守門・読師・祓魔師(ふつまし)・侍祭(じさい))と上級三段(副助祭・助祭・司祭)とがあり，さらにこの上に司教がいる。教皇はローマの司教がつとめ，全体としてピラミッド的階層組織をなしている。教皇は使徒ペテロの後継者とされ，教皇を補佐する最高顧問として，司教の中から選ばれた枢機卿(すうききょう)(定員90名)がいる。各国の教会は司教のもとに司教区に分かれ，さらにいくつかの聖堂区あるいは小教区に分かれ，それぞれ主任司祭によって聖務が行なわれる。これらの組織はこの世に設立されているが，その目的は終局的には来世において達成される。また，聖書と伝承とには同じ権威が与えられているが，それらを解釈する権能は教会にのみ与えられている。プロテスタント諸派との対比で注目すべき特色として，①七つの秘跡(サクラメント)の教理をもつこと，②聖母マリアと天の諸聖人へのとりなしの祈りをささげることを認めている点，③天国・地獄のほかに煉獄(れんごく)を認めていること，④修道院制度をもつことがあげられる。

歴史的にみれば，313年のミラノ勅令(ちょくれい)によってキリスト教が公認されて以来，カトリック教会は急速に発展したが，一般には1054年の東西教会の分離以後のローマ-カトリック教会をさし，それ以前を古代カトリック教会という。信徒は伝統的にフランス・イタリア・ポルトガル・スペインに多いが，イエズス会を中心とする16世紀半ば以降の活発な伝道活動によって，南北アメリカ，フィリピンなどのアジア地域にも広まった。日本への伝道は1549年(天文18)，ポルトガルのサビエルの宣教に始まるが，その教勢が急速に伸びたのは第2次世界大戦以後である。

1970年現在，世界のカトリック人口は58,047万，日本のカトリック人口は約34万5,000である。なお最近，教皇ヨハネス23世・パウロ6世の言動にみられるとおり，東方正教会やプロテスタント諸派との合同の気運が生まれている。〔石井忠厚〕

カトリックきょうとかいほうれい 【カトリック教徒解放令】 審査律によってイギリスおよびアイルランドのカトリック教徒に対して設けられていた種々の差別を撤廃した法令。1829年成立。19世紀初頭に激しさを増したアイルランドの解放運動を背景として，ウェリントン内閣がこれを成立させた。この解放令でカトリック教徒は国会議員などの公職につくことが認められた。



カトレア　レリアカトレア-ルミノザ

かとりなひこ 【楫取魚彦】 (1723〜1782) 江戸中期の国学者・歌人。下総(しもうさ)(千葉県)の人。賀茂真淵(まぶち)の門にはいり，万葉調の和歌と古語研究とを主に学び，歴史的かなづかいの研究書《古言梯(こげんてい)》や《続冠辞考》を著わした。契沖(けいちゅう)・真淵の方法に立脚した実証的・科学的な研究態度は，以後の学者に影響したところが大きい。詠歌は古語古調を自由に駆使する万葉調であり，歌集に《楫取魚彦家集》がある。

ガドリニウム [gadolinium] 周期律表第Ⅲ族に属するランタニド族元素の一。記号Gd，原子番号64，原子量157.25。1886年スイスのマリニャックによりサマルスキー石から分離。3価で，イオンおよび塩は無色。酸化物は白色。

カトリーヌ-ド-メディシス [Catherine de Médicis] (1519〜1589) フランス王アンリ2世の妃。フィレンツェの富豪ロレンツォ-デ-メディチの娘で，1533年アンリと結婚。王の死後，その子フランソア2世・シャルル9世が引き続いて即位すると，摂政として政局を動かした。はじめ旧教徒の首領ギーズ家に対抗するため新教徒に接近していたが，シャルル9世の下でユグノー戦争が始まると，態度を変えてギーズ公アンリと結び，新教徒抑圧に乗り出し，1572年の聖バルテルミーの虐殺の一翼をになった。1574年アンリ3世の即位で政界から引退したが，メディチ家の出身にふさわしいその政治的野心は，当時の新旧両教徒の対立と結びついて，フランスの政界に混乱をひき起こした。〔大野慎一郎〕

かとりほずま 【香取秀真】 (1874〜1954) 金工家。別号六斎・梅花亭。1874年(明治7)千葉県の生まれ。本名秀治郎。1897年東京美術学校を卒業後，鋳金技術の発展に尽くし，文化財専門審議委員・帝室技芸員・日本芸術院会員を歴任，1953年(昭和28)には多年の功績によって文化勲章を受けた。金工史研究家としても著名で，考証論文などを集めた《金工史談》《続金工史談》をはじめ多くの著書がある。

かとりやんま 【蚊取蜻蜓】 こん虫類・トンボ目・ヤンマ科。腹長47mm内外，後翅長(こうしちょう)45mm内外。成虫は成熟すると体の地色が緑色になるが，未熟なものは淡かっ色。頭部は淡かっ色をおび，額上に小さいT字形の黒色紋がある。胸部は全体緑色，背隆線は細く黒色。腹部1・2節は合して球状となり，3節の前半は著しく細くくびれる。本州・四国・九州・沖縄などに分布し，成虫は8〜9月ごろに多い。夕暮れ時に好んで飛翔(ひしょう)する。

カドリーユ [quadrille] ダンスの一。18世紀末ごろパリに興り，特にナポレオン時代に盛んだった。のちドイツやイギリスでも行なわれた。組になった男女が四角形をつくりながら踊るもので，音楽的には4分の2拍子と8分の6拍子を交替させながら，旋律をつないでいく。旋律は民衆的な歌謡やオペラからもとられた。代表的な作曲家にミュザール・オッフェンバック・ヨハン-シュトラウス(子)らがいる。

ガードル [girdle] 婦人下着の一種。主としてウエストからヒップにかけての形を整えるためのもので，形は筒形，くつした留めが下部に付けてある。またパンティーの機能を合わせもつスタイルのものをパンティーガードルという。素材は吸湿性・伸縮性のよい衛生的なものであることが必要。→コルセット(図)

カトレア [*Cattleya*] 単子葉植物・ラン科の一属名。この属の植物は熱帯アメリカに30〜40種分布する。短い根茎(仮球茎)のある多年生着生ランで，葉は長さ10〜30cmで革質，長楕円(ちょうだえん)形。花は大輪で径10〜20cmあり，洋ラン中最も美しいといわれている。自然雑種は少ないが，人工交雑によって非常に数多くの交配種がつくりだされている。レリア属・ブラサボラ属・ソフロニティス属との属間交配種もできている。

ガードレール [guard rail] 自動車の転落・飛び出しの防止，また歩行者の保護などのために路肩の外側，または歩道と車道の境界に設置される保安設備。約3m間隔に立てた鋼製の柱に幅約30cmの波状の鉄板を1列に連結したもので，高さは約70cmである。構造が多少異なるガードケーブル・ガードパイプ・ガードフェンスも同じ目的に使用される。

かどわりせいど 【門割制度】 江戸時代に薩摩(さつま)藩で行なわれた土地制度。一村の村民を，多くの門(ふつう4〜5家部で組織され，代表者である名頭(みょうず)1名と名子で構成される農民団体)に割り，村内の耕地をこの門を通じて20〜40石ずつ割り当てて耕作させ，その耕地を一定年限ののち割り替えることを原則とした。農民に直接

かたかなの字源

阿 ア	伊 イ	宇 ウ	(衣 𛀀)	於 オ
加 カ	幾 キ	久 ク	介 ケ	己 コ
散 サ	之 シ	須 ス	世 セ	曽 ソ
多 タ	千 チ	川 ツ	天 テ	止 ト
奈 ナ	二 ニ	奴 ヌ	禰(祢) ネ	乃 ノ
八 ハ	比 ヒ	不 フ	部 ヘ	保 ホ
万 マ	三 ミ	牟 ム	女 メ	毛 モ
也 ヤ		由 ユ	*江 エ	与 ヨ
良 ラ	利 リ	流 ル	礼 レ	呂 ロ
和 ワ	井 ヰ		恵 ヱ	乎 ヲ
**∨ ン	* 天暦までのヤ行のエ。のち，ア行に移った ** 通鼻音を示す声点符号			

ひらがなの字源

安 あ	以 い	宇 う	衣 え	於 お
加 か	幾 き	久 く	計 け	己 こ
左 さ	之 し	寸 す	世 せ	曽 そ
太 た	知 ち	川 つ	天 て	止 と
奈 な	仁 に	奴 ぬ	禰(祢) ね	乃 の
波 は	比 ひ	不 ふ	部 へ	保 ほ
末 ま	美 み	武 む	女 め	毛 も
也 や		由 ゆ	(江)	与 よ
良 ら	利 り	留 る	礼 れ	呂 ろ
和 わ	為 ゐ		恵 ゑ	遠 を
无 ん				

土地を所有させず，藩が完全に労働力を掌握していた。

かとんぼ 【蚊蜻蛉】 ⇨ガガンボ

かな 【仮名】〈かりな〉が〈かんな〉→〈かな〉と転じたもの。真名(まな)(本字・漢字)に対し，和字(国字)ともいう。典型的な開音節(頭子音＋母音)型の音節文字として，古代のミノア文字*と並ぶ。現行は46字で，ほかに濁音(20)，半濁音(5)をそれぞれに濁点・半濁点で区別する。各字は原則として1拍1音節(短音節)を示すが，拗音(ようおん)では，その1拍が2字で示される。長音および促音あるいは撥音(はつおん)を伴う音節(みな長音節)も2字で示されるが，これらは2拍にあたる。もと，ひらがなは曲線的な連綿体としておもに和文脈に用いられ，助詞・助動詞・活用語尾などを表記したのに対し，かたかな(やまとがな)は直線的な分割体として漢文脈に用いられてきたが，現在では主として外来語や外国の地名・人名などの表記に用いられ，漢字とひらがなとの混用が標準的な正書法になっている。ただし，タイプ印書などではかなのみを用いたわかち書きも行なわれる(→かなづかい)。

はじめて，日本に文字(漢字)を紹介した朝鮮では，宣命書の場合のように朝鮮語の助詞・助動詞を表わすために漢字音を借りる吏読(りと)が用いられ，その〈吐(と)〉には，かたかなと同形同音のものもあった。日本でも漢字を国語音にあてて用いた万葉がな(真がな)が5世紀ごろすでに存在したことは当時の金石文によって知られる。これには字音を使った正音がなと，字訓を借りた借訓がながあった。これらの真がなは平安時代には，比較的限られた字源と，特定の簡略な字形に固定して，漢字から離れたかながができた。なお，のちには漢字の草書体を用いる草がなから生じたひらがな(女手)と，漢文訓読に用いる，伊→イのような省画体から出たかたかなの二つの系統が整ったが，そのはじめは両者の明確な区別もなく，それぞれの字源・字形にも伝統の系譜によって多少の出入りがあったために，同音節を表わす字が，いくつかの異なる字源に由来する場合，異なった字形(字体，変体がな)が通用していたが，明治になって，学校教育と活版術のために字形の整理統一が行なわれた。〈ワ・ン〉のように字源について諸説の一定しないものもあるが，〈部・利〉の旁(つくり)から出た〈へ・り〉，〈之・川〉の草書体から出た〈シ・ツ〉などをはじめとして，ひらがな・かたかなに共通の字源も多い。

奈良朝の万葉がなでは，90ほどの音節が書き分けられた(上代特殊仮名遣)が，平安朝では母音が8から5に減少し，さらに清濁を同一字にまとめたため，かなは47音節を書き分けるようになり，やがて撥音を示す〈ん(ン)〉をこれに加えて48字が長くかな文字として用いられた。この配列を示したものが，ひらがなのいろは歌*や，かたかなの五十音図*である。濁点は，漢字につける声点(しょうてん)を清音には一つ，濁音には二つ(本濁で横，連濁で縦に並べて)用いることから起こった。その清音符(°)を積極的に用いて半濁音を示すことは，中世のキリシタン版に始まっている。〔日下部文夫〕

ガーナ(共和国) ［Republic of Ghana］ アフリカ大陸西部，ギニア湾に面する共和国。東はトーゴ，北はオートボルタ，西はコートジボアールに接する。国名は，かつて4～13世紀に強大であったアフリカ人国家ガーナ帝国にちなむ。面積23万8,500km²。人口1,131万7,000(1979年推)。首都アクラ。

〔自然・住民〕国土はボルタ川の流域平野と南部の海岸平野，およびこれを囲む山地からなる。気候は，海岸部は熱帯多雨気候で特に西部で降水量が多いが，中・北部の高原はサバナ気候になっている。住民はニグロのアシャンティ族が大半を占める。人口密度は1km²あたり35人で，ギニア湾岸では最も高い。宗教は，植民地時代の影響から約3分の1がキリスト教徒で，他は各種の原始宗教を信じている。公用語は英語。

〔産業・経済〕ボルタ川流域の平野は肥沃(ひよく)で，住民は雨季にはアワ・米・キャッサバ・根菜類・バナナなどを栽培している。経済の主柱はイギリスの植民地時代に開発されたカカオとボーキサイトである。特にカカオはこの国最大の産物で，世界のカカオ生産の3分の1を占める年間約32万tを生産し，この国の輸出の60％を占めている。独立後は，外国人に支配されていた流通機構も改善され，重要な国家の収入源となっている。ボーキサイトは，その埋蔵量は世界最大といわれ，ボルタ川流域の開発計画が期待されている。計画は下流にダムを建設し，その電力を利用してボーキサイトからアルミニウムの精錬を行なおうとするもので，合わせて灌漑(かんがい)による農地開発も図っている。木材・金・ダイヤモンドなどにも恵まれているが，まだ未開発である。海岸近くの都市間は，鉄道が通じている。

〔歴史・政治〕19世紀にアフリカ大陸の大部分がヨーロッパの植民地となったとき，イギリスの支配下にはいった。第2次世界大戦後の1957年3月，アフリカ独立運動の高まりの中で，西アフリカの民族主義運動の指導者で会議人民党を率いたエンクルマ*らの手によってイギリス連邦内の自治国となり，1960年に共和国として独立。初代大統領となったエンクルマは全アフリカ黒人の団結を訴え，パン-アフリカニズムを主唱したが，1966年2月軍部のクーデターによって追放された。以後，この国の政治は親

西欧的な政策がとられている。〔小栗　宏〕

かないこうぎょう　【家内工業】　製造業に従事する事業所のうち，家族企業的な生産と経営を行なう零細企業をいう。従業員の数について一定の基準はないが，ふつう4～5人以下の事業所に限ることが多い。事業内容は雑多であるが，わが国では在来的商品といわれる，明治以前から日本で一般に使用されていた食料品や生活用具を生産するものや，低品質の部品生産に従事するものなどがほとんどである。かつては，わが国の製造業の中で，このような家内工業の占める比重は高かったが，経済が高度化するにつれて近年その比重は低下しつつある。しかし，なお製造業に占める家内工業の比重は高く，4人以下の事業所数の占める割合は，製造業全体の71％(1969)にのぼっている。➔家内労働　〔原　豊〕

かないのぶる　【金井延】　(1865～1933)　経済学者。静岡県出身。東京大学卒業後，経済学・法律学研究のためドイツに留学し，1890年(明治23)帰朝。25歳の若さで東大教授となった。ドイツ社会政策学をわが国に紹介し，自由主義経済学には批判的論陣を張った。日露戦争の際，七博士事件*のひとりとして対露強硬論を唱えた。東大経済学部の初代学部長になり，また社会政策学会を創立した。著書に《社会経済学》など。

かないろうどう　【家内労働】　製造業者などから材料・資金などの支給を受け，加工賃を得るために行なわれる労働。多くの場合，家計の補助として家庭の主婦・老人・子どもなどにより行なわれ，労働基準法の保護を受けない低賃金と長時間労働，その他低劣な労働条件のもとに置かれている。諸外国では1910年(明治43)以降各種の家内労働法が制定されている。わが国では1969年(昭和44)家内労働法案が国会に提出されたが結実しなかった。➔内職

かなえ　【鼎】　中国古代の容器の名称。三脚と両耳をもち，食物を煮るのに用いた。殷(いん)・周時代には青銅で鋳造され，器体に饕餮(とうてつ)の面などをつけた荘重な祭器につくられた。〈鼎の軽重を問う〉とは楚(そ)の荘王が周室に伝わる宝鼎の大きさ・重さを尋ね，これを移し，周に代わって天下を取ろうとした故事である。

かなえざき　【叶岬】　叶崎とも書く。高知県土佐清水(とさしみず)市の南部，渭南(いなん)海岸の中央部にあたる。太平洋に突出した山地は怒濤(どとう)に洗われて，岩石海岸となり，断崖(だんがい)や海に突出した岬角(こうかく)，海面に見え隠れする岩礁は，自然の雄大さをいっそう高めている。暖地性のウバメガシの茂る岬の先端には燈台がある。東には足摺岬(あしずりみさき)，西には沖ノ島を望み，一帯の海岸は足摺国定公園に指定されている。

カナカ　［Kanaka］　チャモロ族とともにミクロネシア諸族*の一。チャモロ族はマリアナ諸島民で，カナカ族はカロリン諸島およびマーシャル諸島民の総称である。1932年当時約50,000人。皮膚は暗かっ色から黄かっ色，頭髪はなめらかなものからちぢれたものなど，島々により大きく変差がある。文化的にも，西部ではポリネシア的，東部ではメラネシア・インドネシア的な要素をもつ。



ガーナの国旗　1957年制定。赤は独立，黄色は国富，緑は森と農業を表わし，中央の黒い星はアフリカの統一のシンボルである



ガーナ　首都アクラの市街。町の中心部で，車や人が多い。中景のバスフールには，屋根の黄色いバスが並んでいる



鼎　中国西周時代。狩猟文様がある



カナガシラ



かながきろぶん　【仮名垣魯文】　(1829～1894)　江戸末期から明治中期にかけての戯作者・新聞記者。本名野崎文蔵。江戸の生まれ。当時の代表的文人細木香以に才能を認められ，そのすすめで花笠(はながさ)文京に師事。滑稽本(こっけいぼん)《滑稽富士詣(もうで)》で世に出た。その後，明治期には文明開化の世相風俗を描く際物(きわもの)作家として成功，江戸戯作者として最後の存在となる。また，新聞記者としても活躍，猫々(みょうみょう)道人の名で劇評も書いた。作品に《万国航海西洋道中膝栗毛(ひざくりげ)》《牛店雑談安愚楽鍋(あぐらなべ)》《高橋阿伝(おでん)夜叉譚(やしゃものがたり)》などがある。　〔源　五郎〕

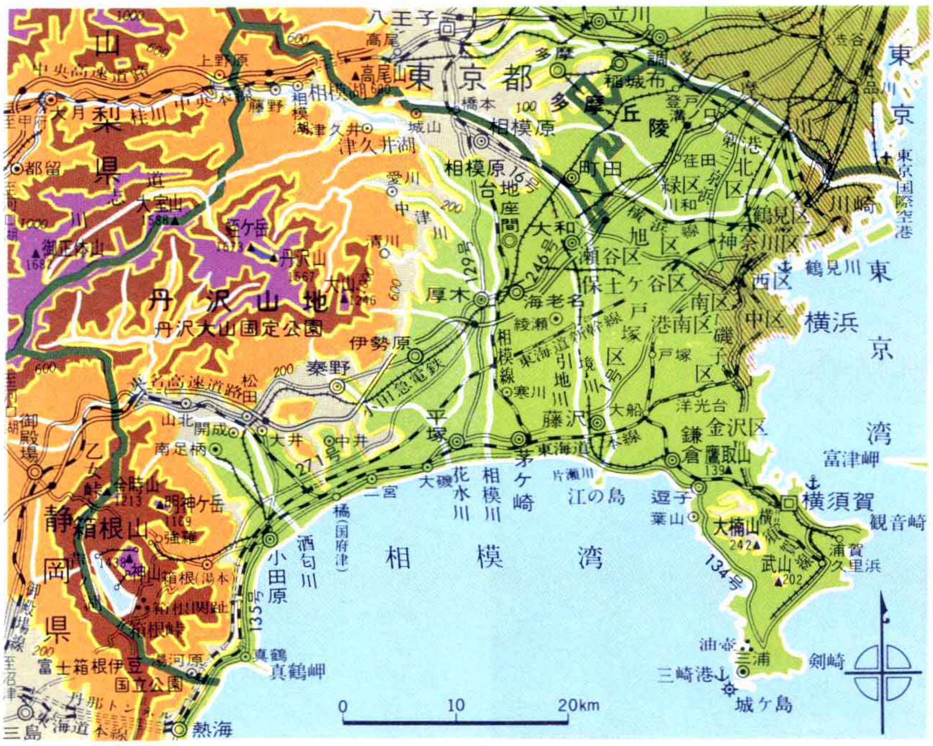
かながしら　【金頭】　硬骨魚類・ホウボウ科。30cmほどになる海産魚。北海道南部から東シナ海に至る海底にすむ。体は筒形で，大きな頭は非常にかたい。ほとんど全身が美しい紅色で，腹面は白い。白身の魚として広く賞味され，漁獲量も多い。

かながた　【金型】　鋳造において，鋳型*をつくるときの原型となる金属製の模型。アルミニウムや鋳鉄でつくられ，木型に比べて製作ははるかに困難であるが，耐久性があり，変形することがないので，同種の鋳物を大量に生産するときに用いられる。なお，金属製の鋳型も金型とよばれる。

かなかな　こん虫類・半翅(はんし)目・セミ科のヒグラシの俗称。➔ヒグラシ

かながわ　【神奈川(県)】　関東地方南西端の県。東は東京湾，南は相模(さがみ)湾に面し，北は東京都，西は山梨県と静岡県に接する。旧国名で相模の全域と武蔵(むさし)の南部にあたる。面積2,390km²，人口683万0,000，人口密度は1km²あたり2,858人に達し，東京・大阪に次ぎ全国第3位。県花はヤマユリ，県木はイチョウ，県鳥はカモメ。県庁のある横浜以下19市と7郡17町1村に分かれる。

〔自然〕地形は北西部の山地とこれに続く台地・丘陵地，および東京湾・相模湾に臨む



神奈川県

沖積(ちゅうせき)低地に３分される。北西部の山梨県境には，険しい丹沢山地があり，最高峰の蛭ケ岳(ひるがたけ)(1,673ｍ)をはじめ，大室山(1,588ｍ)・丹沢山(1,567ｍ)・塔ケ岳(1,492ｍ)・大山(1,246ｍ)などの山々が連なり，丹沢大山国定公園に指定されている。県の中央部を流れる相模川(上流を桂(かつら)川といい，河口付近は馬入川ともいう)は山梨県の山中湖に発し，秩父(ちちぶ)山地と丹沢山地の間を東流してしだいに南に向きを変え，平塚(ひらつか)付近で相模湾にはいる。東京都との境には多摩(たま)川が，丹沢山地の南には酒匂(さかわ)川が流れる。南西部の静岡県境には富士火山帯に属する箱根山があり，富士箱根伊豆(いず)国立公園の中心部となる。箱根は富士山を望む雄大な風景と，多くの温泉群に恵まれた国際的な観光保養地帯として知られる。多摩丘陵は，多摩川に沿って南に延び，三浦半島の丘陵部に連なる。東京湾と相模湾をくぎる三浦半島は，沈降と隆起の交互作用によって形成された。北部から中部にかけては低い丘陵性の山地で，最高所は大楠(おおくす)山(242ｍ)であり，南部は，高さ60～70ｍの平坦(へいたん)な台地が海岸線に延び，南端部には剣崎・油壺(あぶらつぼ)にみられるような海食台地が発達する。相模川と多摩丘陵の間には３段に分かれる広い相模原台地が発達し，その西方に伊勢原(いせはら)台地が開ける。丹沢山地の南方には秦野(はだの)の断層盆地と大磯(おおいそ)地塊の台地が連なり，多摩丘陵と大磯地塊の間には相模川下流の相模平野が開け，大磯地塊の西側，酒匂川の地溝(ちこう)帯には足柄平野が開ける。相模湾に面する海岸平野には〈湘南(しょうなん)砂丘〉とよばれる海岸砂丘がある。海岸線は出入りが多くて変化に富み，三浦半島には城ケ島・油壺，湘南海岸には片瀬・江の島，伊豆半島基部には真鶴(まなづる)などの景勝地がある。港湾に恵まれ，横浜・川崎・横須賀(よこすか)などの重要港湾や，三崎(三浦市)・小田原などの漁港がある。気候は一般に温暖な関東型気候で，湘南海岸に面する地帯は特に冬暖かい。小田原地方や三浦半島の南部では霜が降ることも少なく，ハマユウ・マツバランなど亜熱帯性の樹木が茂り，ミカンや草花・野菜の早期栽培が盛んである。横浜の年平均気温は14.8℃，１月4.4℃，８月26.1℃，年降水量は1,632㎜。

〔産業・経済〕 産業三大別人口比は2：40：58で，京浜工業地帯をもつ工業県の特色を示している。県民分配所得は150.2万円で，東京・大阪に次ぎ全国第３位である(1977)。

《農林水産業》 農業は各地で行なわれるが，その生産所得は県内生産所得の１％にすぎない。耕地は県域の12％を占め，台地が広いので水田と畑地の比率は３：７となっている。水田は関東平野の一部をなす相模平野・足柄平野などに多くみられ，裏作にはおもに麦類をつくる。米の平年収量は24,000ｔ(1974)で，米・麦は農業総生産高の１％にも達しない。台地上の畑作は，かつてはクワ畑や麦・サツマイモの輪作畑が多かったが，最近は京浜の青果市場の需要増加と輸送機関の進歩によって，野菜や畜産を主とする近郊農業が盛んである。川崎・横浜両市周辺で着手された野菜類やナシ・モモなどの果樹の栽培は，湘南の砂丘地帯や三浦半島まで延びている。キャベツ・キュウリ・トマトなどが多く，ビニルハウスによる栽培が普及している。三浦半島は，厳冬期に出荷する三浦ダイコンや草花の栽培で名高く，近郊農業的な性格をもつ。秦野盆地は近郊農業地帯の外側にあり，ラッカセイ・タバコなどの工芸作物を中心に，草花の栽培も行なわれている。さらに，外側の足柄地方ではミカンの栽培が盛んで，東京をはじめとして関東・東北地方一帯に出荷される。山寄りの台地や道志川流域の低地では，古くから養蚕が行なわれた。畜産業ではニワトリの飼育が目だっているが，都市化の進展に伴って，年々減少しつつあり，1968年(昭和43)には556万羽(全国８位)であったのが，1975年には307万羽(全国20位)になってしまった。ブロイラーも全国的に見て下位にある。鶏卵の生産も，1968年には８億個を越えていたが，1974年には３億7,000個となってしまった。しかし，京浜の大市場に近いので，この点は有利である。乳用牛やブタの飼育は少しずつではあるが増加しており，全国的に見ても上位の方で，1975年には，34万2,000頭の乳用牛と，17万2,000頭のブタが飼われていた。乳用牛の飼育の中心は，大磯地塊で，11万6,000ｔの牛乳を生産し，これは全国12位である。ブタは，相模原台地末端部を中心に飼育され，大船・藤沢の近くではハムの製造が行なわれる。林業はあまりふるわず，相模川の上流流域や丹沢山地・箱根周辺に広葉樹や針葉樹の森林があるが，良材は産出しない。水産業では，三崎港がマグロ・カツオなどの遠洋漁業の基地となって県の総水揚げ高の約40％を占め，相模湾ではアジ・サバなどの沿岸漁業が行なわれ，小田原から真鶴にかけてのブリの定置網漁業も有名である。

《鉱工業》 鉱産にはあまり恵まれず，多摩川・相模川ではじゃり採取が行なわれ，箱根山南東部では根府川石とよばれる安山岩を産出する。工業は県の基幹産業として発達し，年間の製品出荷額は８兆427億円(1972)で，東京都よりやや多く，大阪に次いで全国２位である。東京湾に沿って，東京から川崎・横浜の両市に至る京浜工業地帯は，わが国四大工業地帯の一つである。このほか小田原に水産加工や箱根細工，南足柄町にフィルムなどの工業がある。総合開発では相模川河水統制事業計画が進み，1947年(昭和22)には相模川中流をダムでせき止めて相模湖がつくられ，横浜市・川崎市の上水道，相模原台地の灌漑(かんがい)用水に利用されるほか，相模ダム・津久井ダム・道志ダムなどで水力発電が行なわれ，川崎市に送電される。

〔交通・都市〕 陸上交通では，東海道本線・同新幹線が東京湾に沿って西へ向かい，国





神奈川県 (左)東京湾に臨む京浜工業地帯の中心部。横浜市鶴見区と川崎市の一部で，精油・石油化学・製鉄などの巨大工場が並ぶ (右)横浜市の中心部と横浜港の大観。手前の緑地が横浜公園と横浜球場で，これより港にかけて地方裁判所・県庁・開港記念館・横浜税関・水上署などの建物が並び，右手に中華街が見える。右手の埠頭は大桟橋，中央が新港埠頭

電の横須賀線・横浜線・相模線や，京浜東北線・根岸線・南武線・鶴見線などが県下各地を結んでいる。小田急電鉄・東京急行電鉄東横線・同田園都市線・京浜急行電鉄・相模鉄道など東京や横浜を起点とする私鉄が県下各地を縦横に走り，近年急激に増加したバス交通とともに通勤客の輸送や住宅・工場の開発に大きな役割を果たしている。道路は県下を縦横に走り，道路密度は東京・大阪に次ぎ全国3位であるが，最近の交通事情からさらに増設が図られている。東京と横浜を結ぶ主要道路には，第1京浜国道(15号線)・第2京浜国道(1号線)・中原街道・第3京浜道路(有料道路)があり，山手には東名高速道路・厚木街道(246号線)がほぼ平行して走り，県北端をかすめて中央高速道路が相模湖畔を走る。また，東名高速道路のインターチェンジは，川崎・横浜・厚木・大井松田の4か所に置かれている。厚木は県中央部の交通センターとなり，東名高速道路・国道246号線と交差して県下を南北に縦断する国道129号線や，厚木・小田原道路(有料道路)が集まる。三浦半島では，国道16号線(東京環状)が東岸に，国道134号線が大磯から西岸部に通じている。そのほか，多くの有料道路が観光開発に大きな役割を果たしている。海上交通は，横浜港を中心として，海外航路をはじめ内国航路では横浜―伊豆諸島，川崎―木更津(きさらづ)，久里浜(横須賀)―金谷などの定期船がある。また長距離フェリーとしては，川崎から日向(ひゅうが)への〈日本カーフェリー〉が毎日出ている。横浜・川崎の二大都市を中心に，東京湾に面する周辺地域は東京都と密接に結ばれて首都圏を形成し，わが国でも人口密度が最も高い地域である。相模湾に面する湘南地域には保養地・観光地的な色彩の強い鎌倉・逗子(ずし)・藤沢・茅ケ崎(ちがさき)・平塚・小田原などの都市が連なり，鎌倉・小田原の両市は，古い史跡に富んだ都市として知られている。三浦半島の南端三浦市は三崎港をもち，水産業を主とする単一産業都市として，県下唯一の都市である。内陸部の農業地域の相模原市・厚木市・大和(やまと)市は，第2次世界大戦以後東京の住宅都市と化し，人口増加が著しい。なお，逗子・相模原・三浦・秦野・厚木・大和・伊勢原・海老名・座間・南足柄・綾瀬(あやせ)の11市は，1953年の町村合併促進法施行以降に生まれた新市である。県全体としての大きな問題は，相模原市や厚木の基地問題と川崎市を中心とする公害病などがある。厚木基地というのは，ふしぎにも厚木市にはなく，綾瀬市から大和市にかけてあり，横須賀へアメリカの空母ミッドウェーなどが入港した時の艦載機の騒音は特にひどい。川崎市の工場群の空気汚染による公害病は，1975年11月現在，認定患者2,753人，死亡153人を出している。

〔歴史〕古代には東国の辺境で，奈良時代の相武(さがむ)・師長(しなが)の2国が，大化改新に際して合わされて相模国となり，8郡が置かれた。1192年(建久3)源頼朝(よりとも)が鎌倉幕府を開くと，この地方は一躍政治の中心となり，幕府の直轄地として統治され，武家文化が栄えた。南北朝時代には足利(あしかが)氏の領地となったが，1495年(明応4)に北条(ほうじょう)早雲が小田原城を占拠，小田原はその後北条氏5代にわたり，南関東の中心地として栄えた。1590年(天正18)，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐によって北条氏が滅び，徳川家康(いえやす)が代わって関東を治めた。江戸時代には小田原が譜代大名の大久保氏の城下町となり，その他の地もほとんど幕府の直轄地や旗本(はたもと)の知行地となった。幕末にはペリーが2度にわたって浦賀(横須賀市)・金沢(横浜市)に来航し，開国を求めた。1854年(安政1)の日米和親条約(神奈川条約)，1858年の日米修好通商条約の調印を経て，1859年には横浜が開港した。明治初年には，小田原藩・荻野山中(おぎのやまなか)藩・六浦(むつうら)藩・神奈川府に分かれていたが，1871年(明治4)の廃藩置県によって神奈川・足柄の2県となった。1876年足柄県を神奈川県に編入，1893年には多摩3郡を東京府へ移し，1912年には多摩川を東京府との境界と定めて，現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

かながわけんりつきんだいびじゅつかん【神奈川県立近代美術館】1951年(昭和26)に鎌倉市鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)境内に設立され，同年11月の開館。日本近代美術を中心に幅広い企画展覧会を開催している。収蔵品には日本現代彫刻・版画に特色がある。建物は坂倉準三(じゅんぞう)の設計。

かながわじょうやく【神奈川条約】⇨日米和親条約

かなきん【金巾】細手の生綿糸を経緯に用いて，密に平織りした比較的薄手の綿織物。かねきんということもある。かなきんの語源は東部インド産の晒(さらし)綿布(canniguin)によるといわれ，織りの組織，風合いにより生金巾・羽二重金巾・綾(あや)金巾・絽(ろ)金巾などの別があり，織り幅によって二幅金巾・並幅金巾(36～40インチ)・三幅金巾(42～47インチ)などとよばれている。一幅は鯨尺1尺(15インチ，38cm)である。生金巾を精練・漂白して，柔らかく仕上げたものを晒金巾という。白生地としては，シーツや寝具のカバー，エプロンなどに盛んに用いられ，捺染(なっせん)によって文様染めしたものは，夜具地などに用いられている。糸がさらに細く，織密度の細かい並幅性の広幅ものは通常キャラコとよばれ，衣料として広く利用されている。〔北村哲郎〕

かなぐりしぞう【金栗四三】(1891～)わが国最初のオリンピックマラソン選手で，



金沢市
南側から見た金沢市の主要部。手前が犀川で，中央部の緑の台地が旧城址(金沢大学)。その左手のビルの並ぶ街路が市の中心部。遠景に金沢平野が開ける

マラソンの父とよばれている。現在の熊本県玉名市に生まれた。1912年(明治45)東京高等師範学校在学中第5回オリンピック＝ストックホルム大会に，最初の日本選手のひとりとしてマラソンに出場，さらに1920年第7回アントワープ大会，1924年第8回パリ大会と3回代表選手として参加した。入賞こそしなかったが，わが国のスポーツ界の発展に貢献した功績は大きい。現在，毎秋行なわれている国際マラソン大会は，マラソン王金栗を記念して発足したものである。➔朝日マラソン　〔藤岡　端〕

かなざわ【金沢】 神奈川県横浜市南東端の地区。鎌倉時代に金沢実時*(かねさわさねとき)がここに称名寺を建て，金沢文庫*を創立した。《吾妻鏡(あづまかがみ)》に遊覧の地として記されている。江戸時代は米倉氏一万二千石の城下町であった。1948年(昭和23)，もと磯子(いそご)区のうち富岡町以南が金沢区として分離独立した。東は東京湾に臨み，北は磯子区，南は横須賀(よこすか)・逗子(ずし)の両市，西は戸塚(とつか)区・鎌倉市と接している。沿岸漁業とノリの養殖が古くから盛んで，第2次世界大戦末までは海軍の要塞(ようさい)地帯であった。江戸時代から金沢八景の景勝で知られていたが，戦争中に海軍航空隊の拡大などのため，海浜風景は一変して，埋め立て地に工場街や住宅街が進出した。1969年からさらに地先埋め立てが着工され，6,600km^2の埋め立て地に市街地の工場群を移転させる一方，環境のよい住宅団地を建設する計画が進んでいる。〔浅井得一〕

かなざわ【金沢(市)】 石川県のほぼ中央部に位置する。県庁所在地。1471年(文明3)に一向宗の道場が創設されて御山御坊(おやまごぼう)とよばれ，室町末期からほぼ100年間一向宗門徒の本拠地となったが，戦国時代に織田信長(のぶなが)の武将佐久間盛政(もりまさ)が一向一揆(いっき)を攻略して尾山城を築いた。のち前田利家(としいえ)が入城して金沢城と改め，江戸時代には引き続いて前田氏が百二万五千石を領し，市街は拡大改編されて人口10万に近いわが国有数の大都会となった。1889年(明治22)市制施行。人口40万4,000。

市域は，金沢平野の北部，犀(さい)川・浅野川の河岸段丘上に発達し，南は両白山地の山麓(さんろく)に達している。市街はT字路やかぎ形路・袋小路などが多く，戦災を受けなかったので，藩政時代の典型的な大城下町のおもかげを残している。茶道・謡曲・能などの伝統文化が，市民生活の中にとけこんでいる。加賀人形などの郷土玩具(がんぐ)や長生殿などの銘菓も多い。産業三大別人口比は5：30：65で，明治維新以後の士族授産に始まる繊維工業が発達している。前田家が多くの工芸家を迎えた伝統によって，古くから加賀友禅の名で知られる絹織物は現在おもに輸出用の広幅物を産するが，金属箔(はく)(全国生産額の80％)や九谷焼*などの工芸品の生産も盛んである。近代工業としては自動車の車体，電機・冶金(やきん)などの工場があるが，重工業はふるわない。周辺部には近郊農業が発達し，リンゴ・ナシやレンコン・クワイなどの商品作物がつくられる。北陸本線・北陸鉄道金石線が通じ，国道8号線(北陸道)・同バイパス157号線・159号線・249号線が集まり，国鉄バスが名古屋へ通ずる。北陸自動車道も着工されている。日本三名園の一つ兼六園*があり，その真向かいの金沢城跡には金沢大学がある。浅野川上流の湯涌(ゆわく)温泉も市域内に含まれる。年中行事の加賀百万石祭(6月13～15日)は加賀鳶(とび)行列や百万石行列で名高い。〔浅井得一〕



仮名草子
《二人比丘尼》の表紙

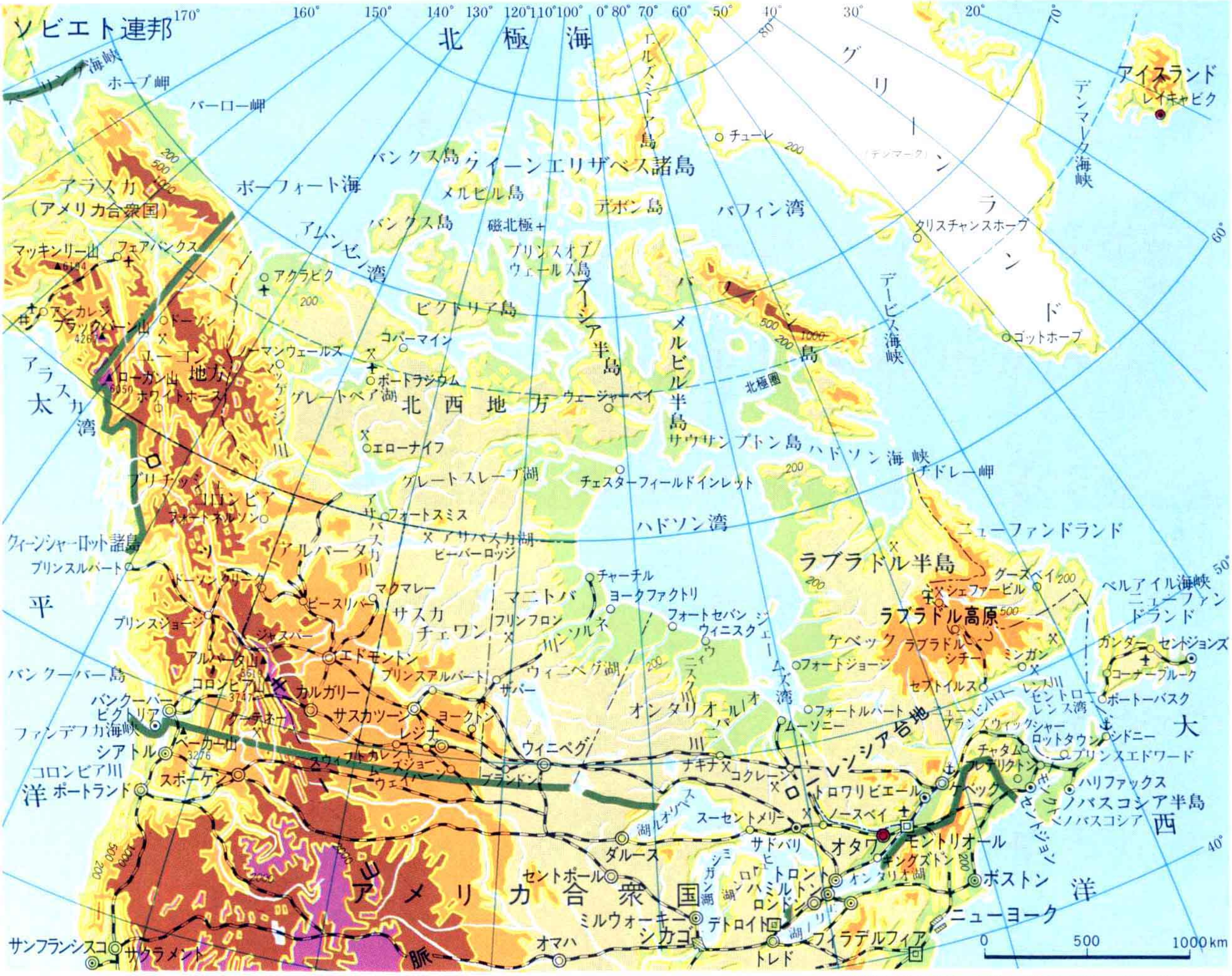
かなざわぶんこ【金沢文庫】 正しくは〈かねざわぶんこ〉。中世の図書館。金沢実時*(かねさわさねとき)が武蔵(むさし)(神奈川県)六浦荘(むつうらのしょう)金沢郷(現在の横浜市金沢区)の称名寺*境内に創設した。実時以後も子顕時(あきとき)，孫貞顕(さだあき)らの好学な後継者を得て，仏典・国書・漢籍など多くの書籍が集められた。蔵書には〈金沢文庫〉の印が押されて広く内外に公開され，関東の学問の中心をなした。1333年(元弘3・正慶2)鎌倉幕府滅亡とともに金沢氏も滅び，金沢文庫も衰微した。現在の建物は神奈川県により昭和御大典記念として建てられた耐震耐火建築である。現存する蔵書は20,000点に及び，県立図書館として一般に公開されている。〔鹿野賀代子〕

かなざわへいや【金沢平野】 かつては加賀平野ともよばれ，石川県の南部，日本海沿いに南北に長く延びている。東は両白山地を主とする富山および岐阜県との境の山々に，南西は福井県との境をなす加越山地に限られた沖積(ちゅうせき)平野で，北から金沢・小松・加賀の3都市があり，これらを結ぶ国道8号線に沿って工業化が進んでいる。県境の山々からは浅野川・犀(さい)川・手取川などが流出しているが，特に流域面積の広い手取川は山地を離れる鶴来(つるぎ)町付近を扇頂として，日本海に向けて大きな扇状地を形成し，扇端は日本海に達して，平野の中心をなしており，農業用水路の完備によって，ほとんど全域が水田化され，1887年(明治20)に全国にさきがけて耕地整理を始めた農業の進んだ地域になっている。海岸地域は砂丘が発達し，北部の内灘(うちなだ)砂丘は最も大きく，砂丘の内側には，外海と断たれて海跡湖となった河北潟(かほくがた)・今江潟・木場潟・柴山潟(しばやまがた)などがある。〔味沢成吉〕

かなしきがんぐ【悲しき玩具】 石川啄木*(たくぼく)の歌集。1912年(明治45)東雲堂刊。〈歌は私の悲しい玩具である〉(歌のいろいろ)の一句により，啄木没後に土岐善麿(ぜんまろ)が命名。《一握の砂*》の浪漫的・叙情的作風から一転，大逆事件*による思想的前進に基づき，貧しい庶民の生活と社会の不合理を，悲憤をこめて歌いあげた作品が多い。

かなしまけいか【金島桂華】(1892～1974) 日本画家。広島県の生まれ。本名政太。竹内栖鳳*(せいほう)に師事して帝展に特選を重ね，1934年(昭和9)審査員となる。1954年日本芸術院賞受賞。1959年日本芸術院会員。

かなぞうし【仮名草子】 近世初期，慶長～天和年間(1596～1681)に刊行された，かな書きの文芸の総称。印刷文化の急激な隆盛と，新興町人層の知識欲とがあいまって，種々雑多な書物が刊行されたが，概して啓蒙



カナダ

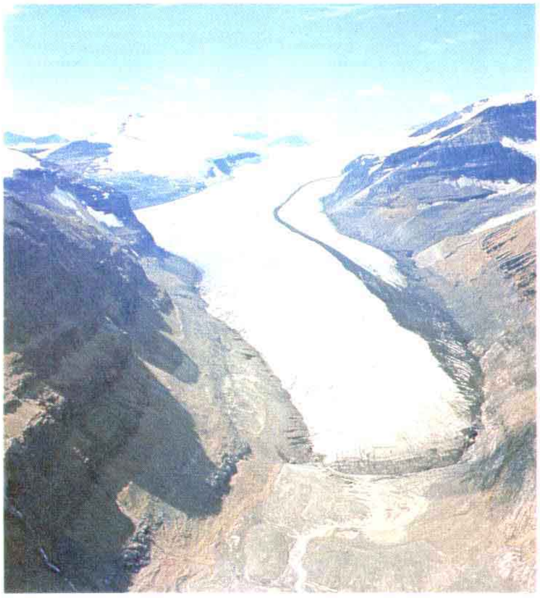
(けいもう)的な性格が強く，教訓性・実用性・娯楽性を基調とした。作者層は，前代からの御伽衆*(おとぎしゅう)に代わって，浪人・僧侶(そうりょ)がその大半を占める。作品内容は，仏教の教義解説類(《清水物語》《糺(ただす)物語》《百八町記》など)・随筆類(《可笑記*》《目覚草(めざましぐさ)》《他我身の上》《為愚痴物語》など)・女訓もの(《本朝女鑑(おんなかがみ)》《賢女物語》など)，説話集的なもの(《堪忍記》《因果物語》《百物語》など)，中世的物語(《恨(うらみ)の介(すけ)》《薄雪物語*》など)，古典の翻案やパロディー(《御伽婢子*(おとぎぼうこ)》《仁勢(にせ)物語》など)，名所記・見聞記(《竹斎*》《東海道名所記》など)・評判記(《難波(なにわ)物語》《吉原鑑(よしわらかがみ)》など)など，多様性を示している。〔長尾高明〕

カナダ［Canada］北アメリカ大陸北部と北極海上の島々を領土とする，10州・2直轄州からなる連邦国家で，イギリス国王を君主とするイギリス連邦構成国。面積998万km²，人口2,369万(1979年推)。首都オタワ。国土は広く，ソ連に次ぐ世界第2の広さをもつが，人口密度は1km²あたり2人にすぎず，オーストラリアと並んで世界で最も低い。しかし，未開発の資源に恵まれており，将来の発展の可能性は大きい。カナダの国名の起源については〈小屋の集まり〉を意味するインディアンのヒューロン-イロコイ族語に基づくといわれる。通貨はカナダ-ドル。

〔自然〕領域は，南は五大湖，北緯49°線によってアメリカ合衆国に接し，北は北極海の島々を含み，東はバフィン湾・大西洋に限られ，西は太平洋岸に達し，西経141°線で合衆国アラスカ州と境する。本土の海岸線は28,300km，島の総延長海岸線は67,300kmに達して世界でも海岸線の最も長い国の一つである。地形は，東から西に向かって北アメリカの東部山地・中央低地・西部山地の南北の配列になっている。東部の大西洋沿岸地方はセントローレンス川以南のアパラチア山脈の延長部で，ノバスコシア・ニューブランズウィック・プリンスエドワードアイランド・ニューファンドランドの諸州とケベック州南東部を含み，準平原化した古生層の波状丘陵地である。ラブラドル半島からハドソン湾を囲んで馬蹄(ばてい)形に広がったローレンシア台地は，先カンブリア代の古地塊が地殻(ちかく)運動もなく長い間の侵食作用によって準平原化したものである。セントローレンス川の谷から五大湖にわたる一帯とハドソン湾岸には低地がある。中央部は平原3州とよばれるマニトバ・サスカチェワン・アルバータの地方で，合衆国のプレーリー・グレートプレーンズに連なる地形をみせ，西に向かってゆるやかな傾斜をなしてロッキー山脈のふもとに移行している。西部は中生代の造山運動による褶曲(しゅうきょく)山地で，カナダロッキー山脈(カナディアンロッキー)は合衆国のロッキー山脈，太平洋岸のカナダ海岸山脈は合衆国のカスケード山脈に連続している。カナダは氷河時代に国土の大半が広く氷におおわれていたため，氷河作用によってできた氷河湖が多く，その面積は国土の6%を越え，東西の海岸ではフィヨルド*が発達している。



カナダ　カナディアン・ロッキーの東斜面にあるジャスパー国立公園。白銀の峰々，神秘をたたえる氷河湖，一面の針葉樹林が壮大な景観を生みだしている



ジャスパー国立公園に続くバンフ国立公園にあるコロンビア氷河。黒い筋は中央堆石，手前の川は融解河流



カナダの国旗　1965年制定。中央のサトウカエデの葉はカナダのシンボルで，左右の赤い帯は西洋を表わす



アルバータ州の広大な小麦畑。地力の保持，土壌侵食の防止，生産調整などのため土地を三つに分けて耕作地・牧草地・休耕地とし，3年1作の作付けを行なっている

気候は大西洋岸が冷温帯気候であるのに対し，太平洋岸は温暖湿潤な西岸海洋性気候を示し，北極海沿岸は寒帯のツンドラ気候である。内陸部では南下するにしたがって冷帯の気候となり，広大な針葉樹林帯が五大湖付近まで展開している。セントローレンス川流域の気候は比較的温和で，中央部の平原では雨量は少なくステップになっている。このような気候的制約から，人口はセントローレンス川の谷から五大湖北岸を経て太平洋岸に至る南部に集中している。

〔住民と社会〕フランス系・イギリス系の住民が圧倒的に多く，フランス系住民は3分の1を占め，イギリス系住民は40％台に達している。フランス系住民の大部分は，ケベック州を中心にセントローレンス川流域に多く，イギリス系住民は東部沿岸諸州・オンタリオ州・西海岸のブリチッシュコロンビア州に多い。フランス系住民が多いのは，カナダがまずフランスの植民地として開発され，その後，イギリスの植民地となる際に，移譲条件としてフランス系住民の言語・宗教の自由と市民権が保障されたという歴史的な背景によるものである。このような歴史から，英語とともにフランス語が公用語として認められており，学校教育でも英語で教える学校とフランス語で教える学校がある。このほかにヨーロッパ系住民としては，ドイツ系・ウクライナ系・イタリア系・オランダ系・スカンジナビア系・ポーランド系・ユダヤ系・ハンガリー系・ロシア系の住民が全人口の6分の1を占めているが，その大部分は，20世紀初めから第2次世界大戦前後にかけて移住した人々で，平原3州に多く居住している。原住民は，インディアンが22万5,000，エスキモーが13,000(1968)で，インディアンは特別保護区に，エスキモーは北極ないしその周辺地域に居住している。黒人は80,000(1968)であるが，大部分は合衆国や西インド諸島からの移住者およびその子孫である。アジア系住民は全人口の0.2％で，日系住民は太平洋岸に多い。宗教は1961年の国勢調査によると，カトリックが全人口の46％を占めて最も多く，その4分の3はフランス系住民である。プロテスタントの中ではカナダ連合教会派(21％)，イギリス教会派(13％)の勢力が強く，ほかにユダヤ教徒25万，ギリシア正教徒24万などがいる。

カナダ政府は，合衆国のように〈民族のるつぼ化〉政策をとらず，むしろ異種民族の特性を生かしつつ，カナダ国民としての忠誠を育てる政策をとってきている。しかしケベック州では，フランス系住民が州人口の90％に達し，フランスとの連帯を強化し，同州をカナダから分離独立させようとする動きもみられる。またスラブ系・イタリア系など9住民は，生活様式がゲルマン系のものと著しく異なり，カナダ人としては同化のおそい〈新カナダ人〉を形成している。

〔産業・経済〕基幹産業は農業で，平原3州では穀物農場は大きく，小麦は全国生産の98％，大麦は95％を生産し，その大部分を輸出している。東部のオンタリオ・ケベック両州では小規模の酪農・肉牛飼育が行なわれ，リンゴは東部沿岸諸州・中央諸州・ブリチッシュコロンビア州で生産されている。森林は全土の43％をおおい，パルプ生産高は合衆国に次ぐ世界第2位で，新聞用

紙は世界需要の約50％を供給している。水産業はカナダの伝統的産業であり，主要漁獲物としては大西洋岸のエビ・タラ，太平洋岸のサケ・ハリバット・ニシン，五大湖地方のホワイトフィッシュがあり，漁場では世界の大漁場の一つとされるニューファンドランド沖のグランド-バンクが知られている。これら3地域の漁獲高はほぼ6：3：1の比率となっている。鉱業は，石綿・ニッケル・亜鉛の生産は世界第1位，金・石こう・モリブデン・ウラニウムは第2位，カドミウム・コバルト・プラチナは第3位を占める。これらの鉱産資源や鉄鉱石・銅はラブラドル高原・ロッキー山地で開発されている。また近年，中央平原諸州や北極圏地域で石油・天然ガスの開発が急速に進められており，アルバータ州では原油の産出が多い。水力資源も豊富で，工業化の基幹となっている。鉄道は合衆国・ソ連に次ぐ世界第3位の総延長キロ数をもち，大陸横断鉄道にはカナダ-パシフィック鉄道とカナダ-ナショナル鉄道の二大幹線があり，1962年に10州を結ぶカナダ横断ハイウエーが完成した。五大湖の水運は，セントローレンス水路によって大西洋に連絡しており，水運の動脈をなす五大湖・セントローレンス川の周辺地域は，カナダ工業の核心部を形成している。

貿易では，輸出品には小麦・紙類・機械類・自動車・木材・パルプ・ニッケルなどがあり，主要輸入品としては機械類・自動車・鉄鋼・原油・金属製品がある。相手国では合衆国が大きく，1966年にはカナダ総輸出額の60.4％，総輸入額の72.3％を占めている。これは両国が強力なドル圏を構成し，伝統的な非武装国境をもって経済的障壁もほとんどなく，資源開発・交通・工業などに密接な連携を保っていることによる。

〔政治・対外関係〕カナダは10州・2直轄州からなり，イギリス国王を元首とするイギリス連邦の構成国である。しかし，実際の統治者として，イギリス国王から任命されたカナダの元首としての総督を置いている。総督の任期は通常5年で，首相の助言によって国王が任命し，内閣の助言に基づいて議会の召集を行ない，法律案を裁可し，その他の行政的機能を行なうが，名目的・象徴的な意味をもっているにすぎない。議会は上院と下院からなり，下院第1党の党首が首相となって内閣を組織する。閣僚は通常下院議員から選出される。下院議員の任期は5年，州代表制で選ばれた上院議員の任期は終身である。政党には進歩保守党と自由党の二大政党がある。連邦政府は国防・外交・金融・貨幣・犯罪法・運輸・貿易などの国家的な事項の権限をもち，州政府は市民権・教育・直接税・保健厚生などで独立した権限をもち，義務教育は16歳までである。外交政策は，イギリスと合衆国の連合陣営に協力することを基本としているが，最近は社会主義諸国との結びつきもしだいに増しており，特に穀物の販売については中華人民共和国・ソ連とも関係をもち，キューバとの貿易もしだいにふえてきている。国際連合・北大西洋条約機構(NATO)の原加盟国であるが，米州機構へは加盟を拒否してきている。国防は，1964年に陸・海・空の3軍がカナダ軍として一つに統合され，国防省の管轄下に置かれている。1968年の兵力は11万。〔相村大彬〕

〔歴史〕カナダにはじめて到来したヨーロッパ人は，1497年，イギリス国王ヘンリー7世の命でラブラドル海岸を探検したイタリア人カボット*である。その後，フランス国王フランソワ1世の命により，1524年セントローレンス湾周辺に到着したイタリア人ベラザノは，この地をニューフランスと命名した。そして1534年にセントローレンス川を発見し，ケベックに達したフランス人ジャック-カルチエは，この地方をカナダと名づけた。カナダへの入植とインディアンへの布教は主としてフランスによって行なわれた。1604年ポート-ロワイヤル(現在のアナポリス)に最初の植民地が建設され，次いで1608年にケベック，1642年にはモントリオールにも植民地が建設された。フランスの植民地経営ははじめ〈ニューフランス会社〉にゆだねられたが，本国での重商主義政策の実施強化により，1663年ニューフランスは国王の直轄領となった。1682年にはフランス人ラ-サール*がミシシッピ川を下航し，その流域をルイジアナと命名し，フランス国王ルイ14世に献じた。

一方，イギリスは1670年〈ハドソン湾会社〉を設立し，毛皮貿易でフランスとしのぎをけずっていたが，17～18世紀，ヨーロッパでの一連の戦争に対応する植民地争奪戦を展開して，フランス軍とインディアンの連合を破り，1763年のパリ条約でカナダとミシシッピ川以東のルイジアナを獲得した。イギリスは1774年，〈ケベック法*〉でフランス人のカナダ居住と彼らの制度・習慣の尊重を約したが，この直後に起こったアメリカ独立革命によりアメリカからのがれて来た王党派イギリス人や本国からの移住民は，土地所有制度や統治形態をめぐってフランス人と対立した。この改善策として，1791年カナダを上カナダ(いまのオンタリオ州)と下カナダ(いまのケベック州)に2分し，分割統治しようとする〈憲法条例〉が制定された。しかし，これはイギリス系カナダ人とフランス系カナダ人との対立を制度化したのみで，その解決には失敗した。また，1812年戦争*による植民地統治の機運の盛り上がりや，植民地の寡頭(かとう)政治に対する1837年の大反乱の勃発(ぼっぱつ)などもあり，1840年，上・下カナダは再び統治され，最初の自治植民地となった。その後，統一カナダほか，北アメリカのイギリス植民地に責任内閣制が認められ，重商主義的な穀物法や航海法も廃止され，カナダはイギリスの植民地支配から脱した。

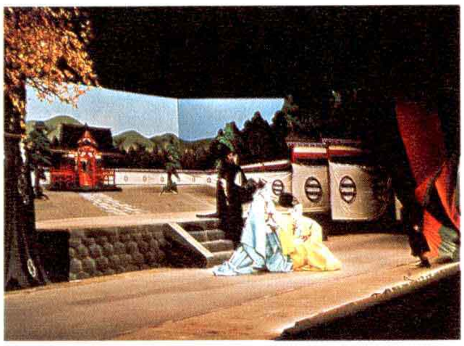
アメリカの南北戦争中に，北アメリカのイギリス植民地では独立運動が発展した。1867年7月1日，〈イギリス領北アメリカ条例〉によりオンタリオ・ケベック・ノバスコシア・ニューブランズウィックの4州は連邦政府を構成し，イギリス国王を元首とする〈カナダ連邦〉が成立した。これ以降，政権を担当した保守党・自由党の両党は，ともに，移民の奨励，保護関税の制定，大陸横断鉄道の敷設などにより国土の開発と国民経済の確立に努め，特に〈20世紀はカナダの世紀〉を目標にした自由党のローリエの時代(1896～1911)にはカナダの産業は非常に活気を示した。第1次世界大戦には連合国の一員としてヨーロッパに派兵し，国際的地位を高めた。1926年，ロンドンのイギリス帝国会議で採択された〈バルフォア宣言*〉でカナダは完全自治を認められ，1931年の〈ウェストミンスター条例*〉でイギリス連邦を構成する完全独立国となった。大恐慌に対しては，1932年のオタワ会議*でイギリス連邦構成国とのブロック経済体制を確立した。第2次世界大戦にもイギリスに続いて参戦し，連合国の兵器庫として重要な役割を演じ，戦後も国際連合やNATO，コロンボ計画などに積極的に参加している。しかし，国内にはフランス系カナダ人とイギリス系カナダ人の対立，経済資本・貿易・軍事の対米依存などの深刻な問題をかかえている。なお，カナダは1949年のニューファンドランドの連邦加盟を待って10州・2直轄州からなる現在の版図を完成し，1950年，正式国名を〈カナダ〉と変えた。〔折井一彦〕

カナダたてじょうち【カナダ楯状地】ロッキー山脈の延長部を除いたカナダの大部分と，グリーンランドの大部分にわたる楯状地*。カナダのハドソン湾を中心とする。カンブリア紀以後は造山運動*を受けておらず，安定した陸塊で，わずかに造陸的な昇降運動を受けている。

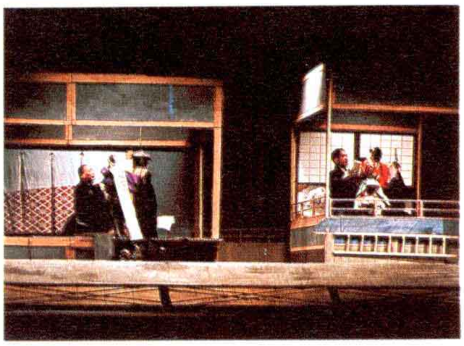
カナダほうそうきょうかい【カナダ放送協会】⇒CBC

カナダも【カナダ藻】単子葉植物・イネ科。北アメリカ原産の水草。日本には明治初年に渡来。葉は線形で，対生または3～4枚が輪生する。雌雄異種。花は白色で，雌花には長い筒があり，水の上に出る。雄花は知られていない。単性生殖により繁殖。光合成や原形質流動などを観察実験する材料としてよく使われる。

かなづ【金津(町)】福井県坂井郡に属し，県北部に位置し，九頭龍(くずりゅう)川支流の竹田(たけだ)川流域を占める。人口18,000。かつて北陸道の宿駅として栄え，現在も北陸本線・国道8号線などが通る交通の要地である。繊維・製紙工場が多い。蓮如上人(れんにょしょうにん)由来の吉崎(よしざき)御坊があり，近くには芦原(あわら)温泉がある。







仮名手本忠臣蔵

(上左)大　序　師直(坂東三津五郎)につめよる若狭之助(市村羽左衛門)を判官(尾上梅幸)は引き止める。下手の大銀杏が黄葉し，登場人物の衣裳とともに色彩美豊かな歌舞伎の舞台
(上右)4段目判官切腹　由良之助(尾上松緑)が駆けつけると,〈待ちかねたわヤイ，この9寸5分は汝への形見…〉と判官は果てる
(下)7段目一力茶屋　由良之助(吉田玉助)は顔世御前からの密書を，鏡に写してお軽(吉田栄三)に読みとられ…(文楽の舞台から)

かなづかい　【仮名遣い】　国語をかなで書き表わすきまり，つまり，かなの使い方をいう。そのきまりを定める根拠を歴史的に古い時代の用例に求める立場にあるものを歴史的かなづかい*，あるいは古典的かなづかい，または復古的かなづかいといい，現代の発音に従ってかな表記を定めるものを表音(式)かなづかい，または発音式かなづかいという。また，この表音(式)かなづかいで書かれた語が本来の日本語である場合はこれを国語かなづかい，漢字の音読みである場合はこれを字音かなづかいといい，外国語のかな表記法を外国語かなづかいといって区別することもある。さらに，現代の発音に準拠して1946年(昭和21)11月16日〈内閣訓令・同告示〉によって公布された現代かなづかいを新かなづかいといい，これに対して，歴史的かなづかいを旧かなづかいともいう。かなづかいには，このほか，奈良時代の上代特殊かなづかい，鎌倉時代に藤原定家(さだいえ)の提唱した定家(ていか)かなづかいなどとよばれるものもある。

平安時代の中ごろまでは，国語は発音どおりに書かれていたのが，発音がだんだん変わって，文字(かな)と一致しなくなったためにかなづかいが混乱し，その整理統一が問題になった。そのために，中世以降定家かなづかいが歌人の間で行なわれたり，江戸時代に国学者によって古典に準拠した歴史的かなづかいの基礎がつくられたりした。明治維新後，政府は，教育・法令にこの歴史的かなづかいを採用したので，これが国民の間に普及した。しかし，歴史的かなづかいは発音と隔たりがあるために，これを改定しようという論議が起こった。1900年(明治33)には小学校施行規則で字音に表音(式)かなづかいを採用し，教科書にも実施されたが，その内容・実施の上に問題があって，まもなく廃止された。この字音かなづかいでは，長音*の表記に〈ちょー〉〈きゅー〉など棒を用いたので，棒引きかなづかいとよぶこともある。その後，大正時代から昭和になって，その改定が論議され，臨時国語調査会・国語審議会*などでも取り上げられたが，1946年に現代かなづかいが制定されて，教科書や法令・公文書などに採用され，新聞・雑誌など一般にも行なわれるようになって今日に至っている。

〔現代かなづかい〕現代語音に基づいて，現代語をかなで書き表わす場合の準則を示したもので，表音(式)かなづかいに近いが，一部に歴史的かなづかいが温存されている。現代かなづかいは，主として現代文のうち口語体のものに適用され，1音1字，1字1音を原則としているので，同じ発音は同じかなで書き表わされる。たとえば歴史的かなづかいでは，同じ〈イ〉と発音するものを〈いし(石)〉〈ゐど(井戸)〉〈はひ(灰)〉と，〈い〉〈ゐ〉〈ひ〉に書き分けるが，現代かなづかいではすべて〈い〉を使う。また，〈ふね(船)〉〈く(食)ふ〉〈あふ(仰)ぐ〉と書いて，〈フ〉〈ウ〉〈オ〉と読んだものを〈ふね〉〈くう〉〈あおぐ〉と書き分ける。現代語音に基づくために，〈ゐ〉〈ゑ〉のかなは用いず,〈を〉〈ぢ〉〈づ〉も特別な場合を除いては使われない。

長音はそれぞれに該当するかなで書く。ただし，オ列の長音だけは〈う〉で書くことを本則とする。例：おかあさん，にいさん，ゆうがた，ねえさん，か(買)おう，きょう(今日)，よいでしょう，とうきょう(東京)など。ただし，オ列長音と同じに聞こえる〈大きい〉〈遠い〉〈多い〉〈通る〉〈凍る〉など，歴史的かなづかいで〈ほ〉と書いて〈オ〉と発音され，その直前にオ列の音がくるものは，〈お〉と書く。また〈十〉は歴史的かなづかいで，〈とを〉と書くので，〈とう〉でなく〈とお〉と書く。〈言う〉は〈ゆう〉でなく〈いう〉，〈衛生〉〈経営〉〈丁寧〉などは，エ列の長音であるが，〈えいせい〉〈けいえい〉〈ていねい〉と書く。

拗音*(ようおん)を表わす〈や〉〈ゆ〉〈よ〉や，促音*を表わす〈つ〉はなるべく右下に小さく書く。例：とっきゅう(特急)。助詞*の〈は〉〈へ〉〈を〉は歴史的かなづかいのように書くのが本則である。例：わたしは京都へ行って，金閣寺を見た。〈ぢ〉〈づ〉は原則として用いないが，2語の連合および同音の連呼の場合は〈ぢ〉〈づ〉を用いる。例：はなぢ(鼻血)，こづつみ(小包)，近づく，基づく，つづく(続く)，ちぢむ(縮む)，つれづれ，つくづく。ただし，歴史的かなづかいのづつ，ぢしん(地震)は連呼でないからずつ，じしんと書く。

現代かなづかいにはこのように歴史的かなづかいがなお温存されているので，さらに表音(式)かなづかいを徹底する必要があるという論もある。　〔石黒　修〕

カナッペ　［canapé］　4～5㎜の厚さに切った一口大のパンの上に，いろいろな材料を載せたり，塗ったりしたもの。オードブル*に用いられる。パンは丸形・角形・長方形・菱形(ひしがた)など適宜に切り，バターで揚げるかあぶり焼きにして用いる。上に載せる材料はハム・ソーセージ・チーズ・獣肉・薫製サケ・塩ニシン・アンチョビー・小エビ・卵・キャビア・レバーペーストなどのほか，トマト・ハツカダイコン・キュウリ・マッシュルームなど，いろいろのものが用いられる。〔泉　敬子〕

カナディアン-カヌー　⇨カヌー競技

かなでほんちゅうしんぐら　【仮名手本忠臣蔵】　浄瑠璃(じょうるり)および歌舞伎(かぶき)狂言の題名。通称《忠臣蔵》。時代物。11段。1748年(寛延1)，大阪竹本座初演。竹田出雲*(いずも)・三好松洛(みよししょうらく)・並木千柳(宗輔*(そうすけ))の合作。赤穂浪士が主君浅野内匠頭(たくみのかみ)のあだ吉良上野介(きらこうずけのすけ)を討った事件を脚色した数多い作品のうち，最もまとまっており，すぐれた作品として，浄瑠璃およびそれを移した丸本歌舞伎*の代表作となった。歌舞伎では〈独参湯(どくじんとう)〉(起死回生の妙薬)とよばれて毎年のように上演され，各時代の名優によって演出にさまざまのくふうが積み重ねられ，完成したスタイルを獲得している。**〈大序〉**鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)社頭。塩谷(えんや)判官の妻顔世に横恋慕する高師直(こうのもろなお)を桃井若狭之助(わかさのすけ)がやりこめる。時代物*浄瑠璃の大序の典型的な場で，荘重で祝言的な気分がある。歌舞伎でも古風な演出の中に色彩美があふれる。**〈2段目〉**桃井館。若狭之助が師直を討とうとして家老の加古川本蔵に意中を明かす。**〈3段目〉**本蔵が師直に進物を贈る〈進物場〉。殿中松の廊下で判官が師

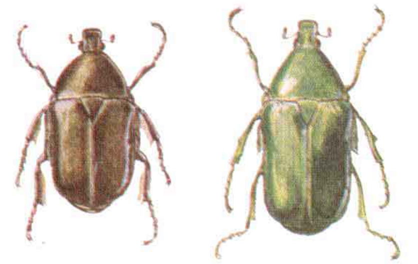
直に切りかけて本蔵に抱きとめられる〈刃傷(にんじょう)〉。このあとに，歌舞伎では清元の《道行旅路の花聟(はなむこ)》(通称《落人(おちうど)》)を出して，お軽・勘平の道行きを見せる。〈4段目〉扇谷館。判官の切腹と駆けつけた家老の大星由良之助(ゆらのすけ)のあだ討ちの決意。〈5段目〉山崎街道。与市兵衛(よいちべえ)は娘お軽の身売りの金をならず者定九郎に奪われるが，定九郎は勘平の鉄砲に倒れる。〈6段目〉与市兵衛住家。勘平はしゅうとを撃ったと誤解して切腹するが，かえってしゅうとのあだを討ったことがわかり，連判状に血判する。5段目と6段目は歌舞伎で創案され，逆に人形浄瑠璃にはいった。勘平の演出には多くの型がある。〈7段目〉一力茶屋。由良之助が放蕩(ほうとう)と見せかけて祇園(ぎおん)に遊ぶ。お軽の兄平右衛門(へいえもん)は忠誠を認められて一味に加わる。〈8段目〉道行き旅路の嫁入り。本蔵の妻戸無瀬(となせ)と娘の小波(こなみ)が，山科(やましな)の力弥(りきや)のもとへ嫁入りの道行き。〈9段目〉山科閑居。虚無僧(こむそう)姿の本蔵が由良之助を尋ね，娘のしあわせのためにとわざと力弥に刺され，師直の邸の絵図面を贈って死ぬ。〈10段目〉堺(さかい)の町人天河屋(あまかわや)義平の義心を描く。〈11段目〉雪中の討ち入りと光明寺への引き揚げ。なお，2段目・8段目・10段目はあまり上演されない。〔服部幸雄〕

かなとこぐも 【かなとこ雲】 発達した積乱雲の雲頂部分がかなとこ状になびいているのをいう。これは氷晶からできている羽毛状の絹雲である。

かなびきそう 双子葉植物・ビャクダン科。日あたりのよい野原や，ときには芝生(しばふ)にみられる多年草で，根は他の植物に寄生する半寄生植物である。高さ15～25cm，全体緑白色。葉は細長く，長さ2cm前後。5月ごろ葉のつけ根に白緑色の花をつける。

かなぶん 【金蚉】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長24～25mm，幅13～14mm。全体かっ色光沢の強い青銅色。頭は長方形，前胸背板は前方が著しく狭く，ほぼ正三角形状。小楯板(しょうじゅんばん)は長三角形で，先端が鋭くとがる。夏季にきわめて普通に見られる種類で，クヌギ・ナラ・イチジクなどの樹液に好んで集まる。本州・四国・九州・朝鮮・中国に分布する。本種に近縁のアオカナブンは，体がやや大きく，長さ29mm内外で美しい緑色，形はカナブンにほぼ等しく，北海道・本州・九州に分布する。またクロカナブンは，全体黒色で，本州・九州に分布する。

かなへび 【金蛇】 爬虫(はちゅう)類・カナヘビ科。体長20cmぐらいで，尾はその3分の2を越える。性質はおとなしく，ペットとして飼育するのによい。こん虫・クモ類を好み，5～8月，浅い土中に6～8個の卵を産む。尾の基部が太いものが雄である。北海道・本州・四国・九州に分布し，平地や丘陵地帯の草むらに多い。カナヘビ科のヘビは，ヨーロッパ・アジア・アフリカに20属150種ほど分布し，日本には南西諸島を含めて5種が知られる。〔松井孝爾〕



カナブン （左）カナブン （右）アオカナブン



カナヘビ



カナムグラ
雄株



カナメモチ

カナマイシン ［kanamycin］ 1957年(昭和32)梅沢浜夫らが長野県の土壌(どじょう)中の放線菌を培養して発見した安定な抗生物質。注射によって用いられる抗生物質としては，ペニシリン・ストレプトマイシンに次ぐ3番めのものである。毒性が低く，特に化学療法剤に耐性をもつブドウ状球菌・赤痢菌に有効である。結核菌に対してはストレプトマイシンより効力がやや弱いが，ストレプトマイシンに特異体質の人やストレプトマイシンの耐性菌にはよく使われ，パスとの併用は有効とされている。〔川村次良〕

かなまじりむすめせつよう 【仮名文章娘節用】 江戸後期の人情本*。曲山人*の作。1700年(元禄13)ごろ大阪にあった小さん・金五郎の情話を武家社会に移したもの。幼なじみのふたりの別離・再会を経て，芸者小三が義理と人情の板ばさみになって自殺するに至る物語。他の人情本のように不徹底な祝着の結末ではないこと，また武家の世界を細かく描いたことで異色作とされる。

かなむぐら 【金律】 双子葉植物・クワ科。荒れ地や道ばたに普通に見られる一年草。よくはびこり，やぶをつくる。茎は長く強く，よく枝分かれし，葉の柄とともに逆向きのとげがある。葉は手のひら状で，5～7片に切れ込み，表面はざらつく。雌雄異株で，秋，雄株では葉のつけ根に淡黄緑色の花が円錐(えんすい)状に集まって咲き，雌株ではぼけた緑紫色の花が穂状に咲く。古歌にヤエムグラというのはこの植物のことである。

かなめもち 【要黐】 双子葉植物・バラ科。東海道以西の本州と四国・九州に分布する常緑小高木。アカメモチともいう。葉は互生し，長楕円(ちょうだえん)形で有柄。新葉は紅色をおび，老葉も落葉前に紅葉する。5～6月枝端に円錐(えんすい)状の小白花をつける。果実は径5mmほどの球形で紅熟する。材はきわめてかたく緻密(ちみつ)で，粘りけが強い。

かなもりそうわ 【金森宗和】 (1584～1656) 江戸初期の茶人。宗和流茶道の開祖。飛騨(ひだ)(岐阜県)高山城主金森可重(ありしげ)の長男。名は重近。豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕えて従五位(じゅごい)下，飛騨守(ひだのかみ)に叙任，のち徳川家康(いえやす)に属したが，所領のことで不平をいだいたため廃嫡され，母とともに京都に閑居し，茶事に没頭して余生を過ごした。大徳寺の紹印禅師に参じて宗和と号し，近衛(このえ)応山・一条昭良(あきよし)らと親交があり，禁中にも出入りした。好みの茶室には大徳寺真珠庵(しんじゅあん)の庭玉軒，鹿苑(ろくおん)寺の夕佳亭，東京国立博物館の六窓庵がある。〔桑田忠親〕

かなや 【金谷】 千葉県君津郡南部，天羽(あまは)町の南部地区。浦賀水道に面する海岸部を浜金谷とよび，鋸(のこぎり)山の登山口にあたり，山頂までロープウエーが通ずる。房総西線・国道127号線が通じ，対岸の久里浜(神奈川県横須賀(よこすか)市)へフェリーボートが就航する。

かなや 【金谷(町)】 静岡県榛原(はいばら)郡に属し，大井川下流西岸に位置する。人口22,000。かつて東海道の大井川渡河地として，対岸の島田とともに栄えた。現在，東海道本線・国道1号線が通り，大井川中流の川根・千頭方面には大井川鉄道が分岐し，駿河(するが)湾岸の相良(さがら)方面にもバスが通う。牧ノ原台地の茶園地をかかえ，製茶・製材・コンクリート工業などの工場がある。

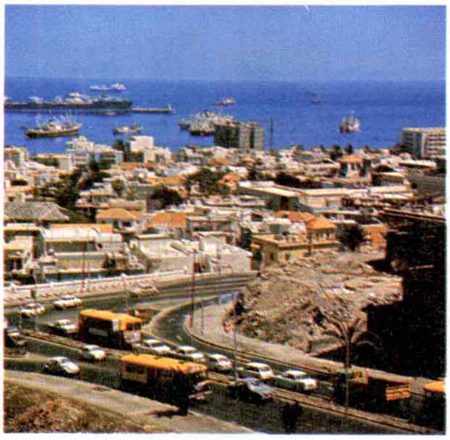
かなやたんぜん 【金谷丹前】 荻江節(お



赤カナリア(無覆輪)　赤カナリア(有覆輪)　レモンカナリア

ローラーカナリア　赤細カナリア　カーキ色巻き毛カナリア

カナリア



カナリア諸島　最大の都市ラスパルマス(グランカナリア島)の市街と港。西アフリカ沖に出漁する日本の漁船も入港している

きよぶし)の曲名。1753年(宝暦3)長唄(ながうた)として作曲されたが，のちに荻江節に取り入れられ，今日では荻江節にしか伝わらない。作曲年代その他は不明。金谷は主人公の名，丹前は当時の伊達(だて)風俗を表わした歌舞伎(かぶき)舞踊。音楽的には，終わり近くで〈丹前の合方〉が使われている点が他の丹前の旋律型との比較上興味がある。

かなよみしんぶん　【仮名読新聞】　1875年(明治8)11月《横浜毎日新聞》の記者，仮名垣魯文*(かながきろぶん)によって創刊された新聞。明治初年の新聞ジャーナリズムは，論説を中心とする大新聞と，一般大衆の啓蒙(けいもう)・娯楽を兼ねてすべての記事にふりがなをつけた小新聞とに大別されるが，これは後者の代表である。魯文独特の活発で洒落(しゃらく)かつ軽妙な筆致は，ようやく読書欲をみせはじめた庶民層を大いに刺激したが，当時の新聞の消長は激しく，5年後には廃刊となった。　〔前納弘武〕

カーナライト　［carnallite］　カリウムとマグネシウムの原料鉱石。$KCl \cdot MgCl_2 \cdot 6H_2O$　斜方晶系。比重1.60，硬度2.5，劈開*(へきかい)ははっきりしない。結晶はまれで，多くは粒状塊をなす。もろく，断口は貝殻(かいがら)状。ドイツのスタスフルト，フランスのビテルスバック地方，スペインのスレアおよびカルトナ地方などの岩塩層に含まれ，その採掘に伴って産する。

カナリア　［canary］　鳥類・アトリ科。代表的な飼い鳥。アフリカ大陸の大西洋側にあるカナリア諸島*ならびにその近辺の島の野生種が飼いならされたものという。カナリアの名はこの鳥の故郷にちなんでつけられた。野生種はアオジやノジコ*のような外観を呈していたと想像される。この鳥が人に飼われはじめたのは14世紀のころで，その後おもにヨーロッパで改良され，今日のような多彩な品種ができた。日本で飼われるおもな種類は，鳴き声を楽しむものとしてローラーカナリア，色彩を観賞するものとして赤カナリア・白カナリア・レモンカナリア・オレンジカナリア・リザートカナリア，容姿を観賞するものとして巻き毛カナリア・細カナリア・ヨークシャーカナリア・ノーウィッチカナリアなどである。わが国にカナリアが渡来したのは徳川時代であるが，今日みられるカナリアのもとは明治以降輸入されたものによる。ローラーカナリアは，ドイツで改良されたものが大正末期に導入された。羽色がオレンジ色のオレンジローラーカナリアは，原種に近い羽色のローラーカナリアからの突然変異種で，日本とドイツで固定された。細カナリアは，イギリスでつくりだされたスコッチファンシーを，1892(明治25)～1895年ごろに輸入して改良したものである。巻き毛カナリアは，ダッチファンシーカナリアに改良が加えられ，細カナリアと同時期に固定された。ノーウィッチカナリア・ヨークシャーカナリアなどはイギリスでつくりだされ，第2次世界大戦後に輸入されたものである。赤カナリアは，ショウジョウヒワとカナリアの雑種からアメリカでつくりだされたもので，日本には1952年(昭和27)に輸入された。一般家庭に飼われるのはおもにオレンジローラーカナリアであるが，最近は赤カナリアの人気が高くなっている。カナリアは年間20万羽ほどアメリカに輸出され，外貨獲得の役目も果たしている。

飼い方は，鳴き声や容姿を楽しむ目的ならば，雄1羽をかごに飼う。巣引きをさせるには庭箱を用いる。普通は雄・雌をいっしょに飼うが，雄を有効に使うために交配のときのみ雌と同居させ，幾羽かの雌に交配させていく方法をとることもある。巣にはさら巣を使う。えさは，ヒエ5・アワ2・エゴマ2・ナタネ1の割合で配合したものを用いる。これはカナリア用として市販されている。ボレー粉・青菜・水を与えることはほかの小鳥と同様。野生のアトリ科の鳥は，虫類でひなを育てる習性があるから，カナリアも粒餌(つぶえ)のみでは育雛(いくすう)できない。ひなを育てるときは，ゆで卵を半分に割って与えるか，ゆで卵を裏ごししたものにパン粉・魚粉を混ぜて与える。管理にあたっては湿気に十分注意する。

〔石島芳郎〕

カナリア(諸島)　［Canary］　アフリカ大陸北西岸の大西洋に浮かぶ火山諸島。スペイン領。総面積7,542km²。人口120万3,000(1971)。亜熱帯の太陽と色彩豊かな植物の光景は，この島を原産地とする小鳥カナリアの名にふさわしい。バナナ・サトウキビの産が多い。おもな都市は，テネリーフェ島のサンタクルスとグランカナリア島のラスパルマスで，国際的な観光地になっている。大西洋に出漁する日本漁船もここに寄港する。15世紀初め，N.J.ベセンコートの探検隊が諸島の一部に達し，1483年P.ベラが占領して以来スペイン領となっている。

カナリア(海流)　［Canary］　イベリア半島沖からアフリカ北西岸沿いに南下し，ベルデ岬(みさき)あたりから西に向かう寒流。カナリア諸島*はこの海流に洗われている。冷たい深層の水が季節風のため海岸近くに浮上するものとも，メキシコ湾流の影響で生ずる海流ともいわれている。

カナリアいろ　【カナリア色】　色名。カナリアの羽毛のような色。わずかに緑みの

ある黄色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈カナリア色〉は，色相7.0Y，明度8.5，彩度10.0の色と規定されている。

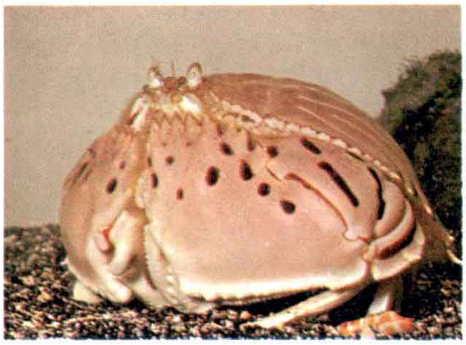
カナレット　［Antonio Canaletto］(1697～1768)　イタリアの画家。風景画，特に故郷のベネチアの町並み・建築を精確に描写するとともに，そのふんい気を光と大気の巧みな遠近法的手法によって表現した。銅版画も残している。1746年ロンドンに渡ってからその名声が高まった。

カナロ　［Francisco Canaro］(1888～1964)アルゼンチン-タンゴの作曲家・バイオリン奏者・指揮者。タンゴの世界的普及に貢献した。ウルグアイ共和国に生まれ，アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに移り住んだ。バイオリンを独習し，1906年からバイオリン奏者として職業的な音楽活動を始めた。1917年前後にはタンゴ楽団をひきいて人気を集め，1920年代にはタンゴ界最高位に格付けされた。1925年，7名編成の楽団でフランスに渡り，ガウチョ服を着たタンゴ楽団のイメージをヨーロッパに定着させた。のちアメリカ合衆国・フランス・イタリア，1961年には日本を訪れた。また広範なレコード録音活動により，タンゴの魅力を外国に紹介することに多大の寄与をなした。平明な演奏スタイル，ショー的な効果の導入などはカナロ楽団の特徴である。代表的な作品に《ガウチョの嘆き》《ラ-タブラーダ》がある。〔中西義郎〕

かなわ　**【鉄輪】**　能の曲名。作者不明。四番目物。下京(しもきょう)の女が，夫が他の女を妻としたのを怒って，貴船神社に毎夜参拝してのろいをかけるが，神主から神のお告げとして鬼になる法を教えられてもどって行く。一方夫は悪い夢を見るので陰陽家(おんみょうか)の阿部(あべの)晴明に見てもらうと，女の恨みを受けて今夜にも命があぶないと言われ，祭壇をつくって晴明に祈ってもらう。やがて頭に鉄輪をいただき鬼女の姿になった女が現われ，祭壇に供えられた男と後妻との人形(ひとかた)を見て，後妻の髪を手に巻いて打ちすえ，さらに男を殺して連れて行こうとするが，御幣の中に多くの神がこもっていて怒り責めるので，望みを捨てて帰って行く。前ジテは下京の女，後ジテは鬼女，ワキは阿部晴明。夫はワキヅレ，神主は狂言方が勤める。歌舞伎(かぶき)《鉄輪》はこの能の後ジテによっている。



イソクズガニ



トラフカラッパ



ケガニ



ケブカオウギガニ

カ　ニ

カナン　［Canaan］　シリアのパレスチナ地方の古代の名。BC3000年ごろセム系のカナン人が定住し，紀元前16～14世紀には海上貿易で栄えた。紀元前13世紀以降エジプトを脱出したヘブライ人が侵入し，それ以前のフェニキア系の多神教的な宗教と戦って，ヤーウェー神教をたてた。

かなん　**【華南】**　ホワナン　中国本土南部の地方。南嶺(なんれい)から雲貴高原に至る地域で，珠江本・支流一帯の地域および南東海岸へ流れる諸河川の流域を中心とし，浙閩(せつびん)山地・両広丘陵・珠江平原・海南島などを含み，その間に河谷・盆地をはさむ。行政的には広東・福建両省と広西チワン族自治区の範囲である。南半は熱帯に属するが，冬季の気温が比較的低いため，全体として亜熱帯の気候となる。米作は2～3毛作が可能であり，またバナナ・パイナップル・レイシ(茘枝)など，熱帯的な果実や茶の産額に恵まれている。一般に丘陵山地が多く，耕地に乏しいため，華中・華北に比べて経済・産業が未発達で，沿海地方では東南アジアへ移住する者も多かった。また山地には，古来チワン・ヤオ・ミャオ・リーなど，少数民族の居住地区も少なくなく，旧広西省はチワン族の省級の自治区となっている。〔船越昭生〕

かなんしょう　**【河南省】**　ホーナン省　中国華北地方南部の省。面積16万7,000km²。人口5,400万(1972年推)。省都は鄭州(ていしゅう)。黄河が黄土高原から沖積(ちゅうせき)平野に出る一帯を占め，3省轄市(鄭州・開封(かいほう)・洛陽(らくよう))，10専区に分かれ，11市109県を統括する。主要な農産物は小麦・綿花で，南部では米作も行なわれている。鉱工業では石炭(焦作・平頂山)の産が知られ，機械・紡織工業が鄭州・洛陽で行なわれる。鉄道は太行山脈東麓(とうろく)を南北方向に走る京広鉄道(北京～広州)および鄭州においてこれと直交する東西連絡鉄道の隴海(ろうかい)鉄道(連雲港～蘭州(らんしゅう))があり，



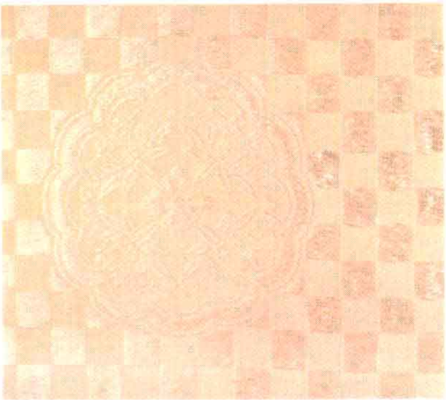
カナレット《サン-ビオの大運河》

華北の交通の要地となっている。なお，西部の三門峡には大規模なダムが建設されて黄河の水量を調節するとともに，発電にも利用されている。いわゆる中原の地で，中国でも最も早くに開けた地方の一。北部の安陽付近にある殷(いん)代の遺跡殷墟(いんきょ)は世界的に有名であり，周代の都，洛邑(らくゆう)（いまの洛陽）の遺跡も残っている。

かに　**【蟹】**　節足動物・甲殻(こうかく)綱・軟甲亜綱・十脚目・短尾亜目の総称。体は，本質的には，同じ十脚目・長尾亜目（エビの類）・異尾亜目（ヤドカリの類）と同じく，頭胸部と腹部に分かれているが，腹部は縮小し，筋肉も退化して，折れ曲がって頭胸部にくっついている。かつて，十脚目の動物の腹部が尾といわれたため，短尾亜目の名が残っている。頭胸部はよく発達し，一般に左右に広く，扁平(へんぺい)で甲におおわれる。5対の脚（胸脚という）があって（ムツアシガニだけは例外で1対少ない），運動・捕食の役を果たすが，うち，第1脚ははさみを形づくっている。目は複眼で柄の先についている。エビ類・ヤドカリ類と異なり，第1・第2触角とも短い。雌雄で形が異なり，俗に〈カニのふんどし〉といわれる腹部が，雌では広く，雄では狭い。

ほとんどすべてが海産，わずかにサワガニ科だけが純淡水産で，わが国ではサワガニただ一種である。アカテガニ*・ベンケイガニなどは海岸近くの湿った陸地にすみ，モクズガニ*は川をさかのぼって純淡水域にはいりこむが，いずれも繁殖期には必ず海を必要とする。波打ちぎわから3,000mほどの深海にまで分布し，世界で4,500〜6,000種を数える。一般の動物と同じく，寒い海には種類数が少なく，熱帯に近づくほど種類数が多くなる。

自由生活をするものが多いが，カクレガニ科のものの多くは二枚貝の殻(から)の中やナマコの体内に半寄生する。また，イソギンチャク・イソバナ・ウニなどと共生する種類もかなりある。カニ類には形や色の変わったものが多いが，変わった習性をもつものも多く，東京湾以南の磯(いそ)に普通に見られるモクズショイは海藻(かいそう)や海綿などを体の全面にくっつけて，みごとな擬態を見せる。房州以南の磯に普通に見られるイソクズガニも，同じような習性をもっている。カイカムリ類やヘイケガニ類は，海綿や二枚貝の殻を背負ったまま歩く。カニのはさみは強い力をもち，甲はカクレガニ類を除いては石灰化が進んでかたいが，魚類・鳥類・タコなどに捕食されるためか性質はおくびょうで，どろ浜や砂浜にすむコメツキガニ・ササガニ・シオマネキ・チゴガニなどは，つねに穴を掘って用意してあり，危険が迫るとすぐその中へ逃げ込む。砂底にすむガザミ・キンセンガニ・トラフカラッパなどは，目だけ出して砂の中にもぐっていることが多い。また，磯にすむイソガ



窠に霰文《窠中花菱笹龍膽文表袴裂》



カニクイザル



カニクサ　葉裏には胞子嚢が2列に並ぶ

ニ・イワガニ・イシガニ・ショウジンガニなどは，岩の割れ目や転石の下に隠れていることが多い。脱皮直後でまだ甲の柔らかいときは，特に警戒心が強い。他の動物に襲われると，はさみや脚をみずから切り落として危急を切り抜けることも多い。この現象はトカゲなどにもみられ，自切または自割という。自切したはさみや脚は，次の脱皮のときから，少しずつ再生する。カニの横ばいといわれるように横に歩く種類が多いが，アサヒガニはあとずさりしかできない。ワタリガニ科のカニは，第4脚の先が扁平になっていて泳ぐこともできる。世界最大のカニは，日本の太平洋岸特産のタカアシガニで，脚をいっぱいに広げると，3mに達する。一方熊本県下の河口にいるシジミピノンは，脚を広げてもやっと3mmほどで，世界最小のカニであろうといわれている。

甲殻類の発生の第1段階はノープリウス期であるが，カニはすべて卵の中でこの期を終わり，一般には，次の段階であるゾエア期の状態で孵化(ふか)する。ゾエアは目が非常に大きく，一般に背に長いとげを備え，成体のカニとは似ても似つかぬ姿をしたプランクトンである。ゾエア期が終わると，次にメガロパ期に達する。メガロパは成体の姿に似ているが，腹部が発達し，そこについている脚でよく泳ぐことができる。メガロパの目もゾエア期同様大きい。メガロパは，はじめに遊泳生活をするが，やがて岸べに泳ぎつき，または海底に降りて脱皮し，成体になる。なお，淡水産のサワガニ科のカニは，雌の腹部に抱かれて保護されたまま，メガロパ期を過ごし，孵化する。陸上生活をするアカテガニの類では，雌が波打ちぎわに降りて，腹部に抱いたゾエアを海に放つ。成体になったカニは，すべて脱皮をくり返して成長する。

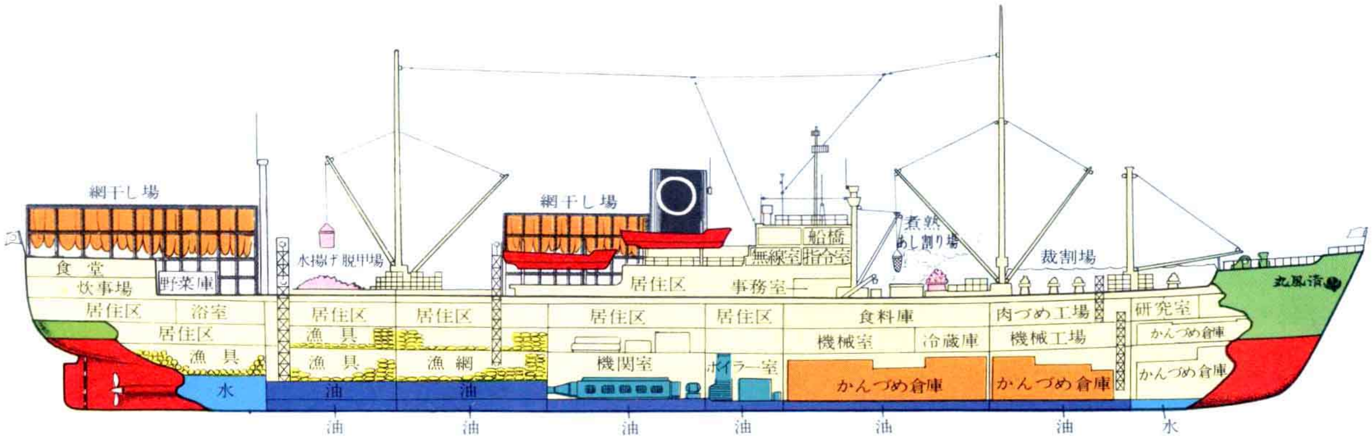
カニの中には食用になるものも多く，特にガザミ・ノコギリガザミ・タイワンガザミ・ズワイガニ・ケガニなどは産額も多く，重要水産物である。サワガニ・イシガニ・ヒラツメガニ・モクズガニなども味がよく，食用にされている。シオマネキを姿のままつぶして塩づけにしたのは，佐賀の名産である。なお，水産物として最も重要なタラバガニは，異尾亜目（ヤドカリの類）に属し，ほんとうの意味ではカニではない。➔前ページ（写）　〔菅野　徹〕

かに　**【可児（町）】**　岐阜県可児郡の西部を占める。人口53,000。広見を中心に7か町村が1955年（昭和30）に合併して新発足したもの。太多(たいた)線と名古屋鉄道広見線が通じ，駅名は広見である。輸送機械・パルプ・陶磁器などの工場がある。北部の今渡(いまわたり)は木曾(きそ)川下りの起点になっている。最近の工場増加などのために，1970〜75年の人口増加率は29.8%で，県下の市町村中第3位である。

かにあられもん　**【窠に霰文】**　有職文(ゆうそくもん)の一。霰文（➔市松文）の地に，円形の中に唐花(からはな)を入れた窠文を配している。窠が動物の穴ぐらをいうことから丸い形をそれに見立てたともいい，その輪郭がウリの断面に似ているとして名づけたともいう。この文様は各種の装束に用いられているが，公家(くげ)などが礼服に束帯を着用する際の表袴(うえのはかま)に用いられたものが代表的である。

かにえ　**【蟹江（町）】**　愛知県海部(あま)郡に属し，町域は名古屋市の西部と接する。人口31,000。関西本線・近畿(きんき)日本鉄道名古屋線・国道1号線が通じ，名古屋市へ至近距離にあるため，近年急速に住宅地化が進み，食品・金属・機械・繊維などの工場が増加した。

かにくいざる　**【蟹食猿】**　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科・マカク属の一種。アカゲザルと並び最も繁栄しているサルで，インドシナ半島，東南アジアの島々の湿潤



清風丸　総トン数9,011トン　600馬力2基　15ノット

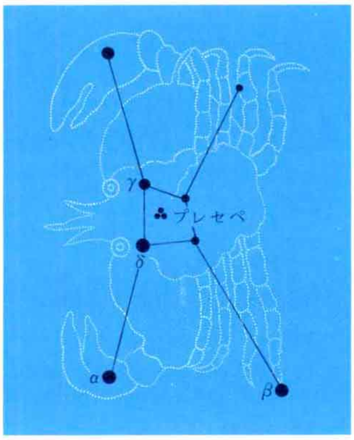
蟹工船　母船式カニ工船の一般配置図

熱帯雨林にすむ。頭胴長および尾長は約40cm，体重4～6kg，マカク属の中ではスマートなからだつきをしている。体色は黄かっ色から灰かっ色で，地方差が大きい。10～40頭の群れをつくり，樹上生活をする。雑食で，特にカニを好むことはない。子どもはポケットモンキーと称され，ペットにされる。オナガザルとよばれることもある。

かにくさ　【蟹草】　シダ植物・カニクサ科。丘陵地の乾燥して日あたりのよいところに見られる多年生のつる性のシダ。根茎に黒色毛状の鱗片(りんぺん)があり，根にはこぶ状の貯蔵器官がある。葉の中軸が長く伸び，2mに達することがある。裸葉は三角形で，羽片は2～3に深裂し，細鋸歯(さいきょし)がある。脈の先端は葉縁で針状になる。上部の葉が羽状に深裂し，胞子囊(ほうしのう)群はその下面に2列に並ぶ。胞子を海金砂といい，漢方では淋疾(りんしつ)に用いる。

かにこうせん　【蟹工船】　かにかんづめをつくる装置を設備したカニ漁業の母船。6～9隻のキャッチャー－ボート(川崎船)を積み，底刺し網を積んだ2～3隻の独航船を伴って船団を組む。洗浄・煮熟・製かんの装置が設備され，およそ次の工程でかんづめにされる。独航船の建てた底刺し網でとられたカニは，川崎船で工船に運ばれ，甲を除去して煮熟され，煮熟後直ちに海水につけて冷却され，各部に分割して肉が取り出される。肉は洗浄して硫酸紙で包装されたうえ，製かん工程に移される。かにかんづめの原料としてはタラバガニ・ズワイガニが多く，北海道・サハリン(樺太(からふと))の沿岸からオホーツク海方面を漁場として5～9月を漁期とするが，漁区および漁獲量に関するソ連との交渉で，北洋漁業では廃止になった。　〔石野　誠〕

かにこうせん　【蟹工船】　小林多喜二*の中編小説。1929年(昭和4)5～6月《戦旗*》に連載。オホーツク海上の蟹工船内で，過酷な労働条件下にある労働者が団結して闘争に立ち上がる過程を描いた。確かな文体と，文学的・政治的意識の高さにおいてすぐれ，プロレタリア文学に新しい方向を切り開いた傑作である。1930年新築地劇団により帝国劇場で上演，好評を呼んだ。



かに座



カニシカ王舎利容器

かにこうもり　双子葉植物・キク科。高山の針葉樹林下にはえる多年草。茎は高さ50～90cm，葉はふつう3枚ぐらいで，カニの甲のような形をし，基部は心臓形。夏から秋に白色の頭花を円錐(えんすい)状につける。

かにざ　【蟹座】　黄道第4星座。しし座とふたご座に囲まれ，春の南天にかかる小さな星座。明るい星はないが，古くから知られた。小望遠鏡の対象として好適な散開星団プレセペは，この星座にある。➔星座

カニシカ(王)　［Kaniska］　漢訳仏典に迦膩色迦(カニシカ)と記される。西北インドのクシャン朝*の王。一説に，144年に即位，約23年間在位した。コータンの出身で小月氏(しょうげっし)に属したという。プルシャプラ(現在のペシャワル)に都し，東はベナレス，南はビンドヤ山地，西北は西域地方およびイランの東北部からアラル海に至る広大な地域を支配した。仏教に帰依して多くの仏塔・僧院を建立(こんりゅう)し，第四結集における《婆沙論*(ばしゃろん)》の編纂(へんさん)は彼の保護のもとに行なわれた。　〔塚本啓祥〕

カニシカおうしゃりようき　【カニシカ王舎利容器】　ペシャワル近郊のカニシカ王創建大塔跡で発見された舎利容器。円筒形の基部に円錐(えんすい)状のふたを載せた金属製の器で，基部の側面には花綵(はなづな)をになうエロスや，太陽神および月神を伴ったカニシカ王の装飾帯が施されている。ふたの表には蓮華(れんげ)を線刻し，その上に座像の釈迦(しゃか)，左右に菩薩(ぼさつ)形の侍者(あるいは梵天・帝釈天か)2人を配したいわゆる釈迦三尊形式の小金銅像を置いている。ふたの側面には，アショカ王石柱に見られる花環を加えたハンサ(鵞鳥(がちょう))が巡らされている。基部側面には不完全なカロシュティ文字の点刻銘があって，カニシカ王統治の最初の年を表わし，紀元128年あるいは144年ごろとされている。さらに銘によると，作者の名がアギセラであることが判明するが，おそらくはギリシア地方出身の工人であろう。　〔西岡康宏〕

かにだまし　甲殻(こうかく)類・十脚目・カニダマシ科の総称。外観はカニに似ているが，最後の1対の脚が非常に小さいので，

一見，3対の脚しかないように見えること，第2触角のひげが長いことなどで区別され，分類学上はヤドカリやタラバガニに近い。多くの種類があるが，日本で最も普通に見られるのは，相模(さがみ)湾以南ボルネオにまで分布するイソカニダマシで，甲の幅8mmほど，全身濃緑かっ色で，浅い岩礁地帯の転石の下などに潜んでいる。

カニッツァロ ［Stanislao Cannizzaro］ (1826～1910) イタリアの化学者。1860年世界化学者会議で，アボガドロ*の分子説の意味を明らかにし，分子概念に基づく有機化学の大系を確立。また，同年イタリア統一の義勇軍に参加して，元老院に列した。アルデヒドにアルカリを作用させたとき，アルコールと酸が生ずる，カニッツァロ反応は有名。

カーニバル ［carnival］ 謝肉祭ともいう。おもにカトリック教徒の間で，キリストの受難をしのぶ四旬節*(復活祭の40日前)の直前3日から1週間にわたって行なわれる祭り。カーニバルの原意は〈肉よ，さらば〉あるいは〈肉食をやめる〉にあるといわれる。四旬節にはいると肉食は禁じられるので，そのまえに肉を食べて楽しむ。起源は明らかでないが，ローマ時代の異教の祭り農神祭がキリスト教と結びついたものと考えられる。同じキリスト教国でもプロテスタント国ではほとんど行なわれない。仮装行列や張り子の偶像の行列，踊りなどがはなやかに繰り広げられる。特にイタリアのフィレンツェ，フランスのニース，ドイツのケルン，ブラジルのリオデジャネイロのカーニバルは有名である。〔五十嵐誠〕

かにむし 【蟹虫】 節足動物・クモ形類・カニムシ目の総称。1対のはさみと4対の脚をもち，外観はクモにもカニにも似ている。多くの種類があるがすべて1cm以下で，かっ色のものが多く，中には白いものもある。落ち葉・石の下やコケの中などにすむツチカニムシ類・コケカニムシ類，木の皮の下にすむキカニムシ類などがある。また，海岸の石の下や海藻(かいそう)の中に潜むものもある。個体数は多いが，小さく，体色がじみなので目だたない。

ガニュメデス ［Ganymedes］ ギリシア神話でトロヤ王家の祖トロスのむすこ。たぐいのない美少年であったので，ヒツジの番をしていたとき，神々はゼウスの酒の給仕人とするために，神々によって，あるいはワシによって，またはワシに化したゼウス自身によって，天上へさらわれた。彼の父はその代償として風のように速い馬または黄金のブドウを与えられたという。

カニング ［George Canning］ (1770～1827) イギリスの政治家。はじめホイッグ党に属したが，ピット*(小)を支持してトーリー党から下院議院にはいった。第1次・第2次ピット内閣に加わり，ピットの死後はポートランド内閣・リバプール内閣で外相として手腕をふるった。選挙法改正に反対したが，カトリック解放を準備し，自由貿易を主張した。外交関係ではモンロー宣言やギリシアの独立を支援した。1827年首相となったが，まもなく病死。



カーニバル　リオデジャネイロのカーニバル



カヌー競技　(上)カヤーク
(下)カナディアン

カヌーきょうぎ 【カヌー競技】 水上スポーツの一。細身の舟をパドル(櫂(かい))でこいで速さを競うもの。舟はカヤークとカナディアン-カヌーの2種がある。カヤークはエスキモーが古くから用いていた小舟を近代化したもので，キャンバスにおおわれた艇の中央にこぎ手のすわる穴があり，水がはいらないようにこぎ手の胴に密着される。パドルは両端にブレード(水かき)があり，左右交互にこぐ。カナディアン-カヌーはカナダの湖沼地帯で使用されていた丸木舟のような小舟を近代化したもので，一端にブレードのついたパドルを用い，片ひざを立てて舟の片側だけをこぐ。いずれもパドルは舟に固定せず，こぎ手は進行方向を向いてこぐ。オリンピック種目としては，男子のカヤーク1人乗り・2人乗り・4人乗り，カナディアン-カヌー1人乗り・2人乗り(距離はいずれも1,000m)，女子のカヤーク1人乗り・2人乗り(距離はいずれも500m)の7種目がある。コースは直線で，幅81mの水面を9コースに分けて行なわれる。風が各コースに平均して吹くような場所を選び，水深3m以上の平水上で行なわれる。スタート・ゴールはボートの場合と同じだが，出場前に舟の規格を計量し，レース終了後再び検定して，はじめて着順を決定する。途中で転覆しても，泳いだり，舟を押したり引いたりしなければ，乗り直してレースを続行することができる。なお，カヤークにはスキーのスラロームのように，急流に旗門を設けて通過させる競技も行なわれる。〔呉　政男〕

カヌート ⇨クヌート

かぬま 【鹿沼(市)】 栃木県南西部の市。江戸時代は，日光例幣使街道・鹿沼街道の分岐点にあたる宿場町として発達し，東照宮造営の宮大工が住みついた建具屋の町であった。1948年(昭和23)市制施行。人口86,000。足尾山地の東麓(とうろく)に位置し，思(おもい)川上流部の黒川がつくる鹿沼扇状地の扇頂部を占める。産業別人口比は21：40：39。製材業・木工業が発達して市域内に多くの中心工場をもち，1949年，重要木工集団地区に指定された。周辺の農業地帯ではアサ栽培が行なわれ，園芸用の鹿沼土*やこれを利用して栽培したサツキ，座敷ぼうきなどの特産がある。日光線・東武鉄道日光線が通ずる。西部は前日光高原県立自然公園に含まれる。

かぬまつち 【鹿沼土】 関東ローム層中に層状をなして存在する灰白色の軽石の風化層。栃木県鹿沼地方のものが特に有名なのでこの名称がある。米粒大の浮石片からなり，粘土化した部分はアロフェンを含む。類似のものに赤かっ色がかった今市土がある。主成分はケイ酸SiO_2，アルミナAl_2O_3，ほかに鉄Fe，カルシウムCa，マグネシウムMgを含む。粒子間の孔隙(こうげき)量が大で，容水量が大であるため，園芸のさし木用土などに好んで用いられる。〔浜田龍之介〕

カーヌーン ［kanun］ 撥弦(はつげん)のチター属弦鳴楽器の一。西アジア特にトルコ・アラビアで古典音楽に使われる。胴体は台形で平たい箱型，表面に78本の羊腸弦を張り渡してある。両手の人さし指にはめた義爪(ぎそう)ではじいて演奏する。右手は旋律，左手は伴奏を奏するのが普通。東ヨーロッパ・ペルシアのサントゥール*，東アジアの洋琴(ヤンチン)と同じ系統のものである。

かね 【鉄漿】 俗におはぐろ・はぐろめなどとよばれる。江戸時代は既婚の女性がこれを用いた。中世貴族階級では，男性にこれを施す習慣があったが，武家時代になり，一部を残し廃されていった。女性は，江戸から明治・大正初めまでこの習慣が残った。正式には1870年(明治3)の太政官(だじょうかん)布告で禁止されている。鉄漿は鉄片やさびたくぎを酒や酢でといてさび水をつくり，これに五倍子粉(ふしこ)を混ぜて，歯ブ

ラシのようなもので歯に塗った。このような風習の起こった理由は明らかでないが，古くは歯の手入れもできぬまま，白い色が黄色になったり抜け落ちたりした醜さを補うために，近世では，色に染まらぬ，つまり二夫にまみえずという儒教精神から既婚女性に用いられたと思われる。〔橋本澄子〕

かね【鐘】金属製の打楽器の一。宗教との結びつきが深く，日本では仏寺の梵鐘*(ぼんしょう)が代表的である。西洋では鈴*を含めてベル*とよばれ，特にカトリック教会で用いられている。

かね【鐘】マードック*の長編小説(1958)。キリスト教的結社の主催者マイケルの同性愛による挫折(ざせつ)，そして結社の崩壊の過程と，生命感にあふれる若い人妻ドーラが成熟していく過程とを巧みにからみ合わせ，沼に沈んだ鐘を引き上げる事件を頂点にして，幻影と真実との関係を追求した象徴的作品。地方のみずみずしい風景と，複雑な人間関係を融和させながら，愛や自由の問題を円熟した筆致で描いている。

かねあきらしんのう【兼明親王】(914～987) 醍醐(だいご)天皇の皇子。小倉親王・前中書王ともいう。源の姓を賜わって冷泉(れいぜい)・円融の2帝に仕え，文章家・能書家として名高い。安和(あんな)の変*に連座して昇殿を止められ，関白藤原兼通*の策謀で左大臣を解官されて親王にもどった。著作に《菟裘賦(ときゅうふ)》がある。

かねがふちぼうせき【鐘淵紡績(株)】紡績界の名門。第2次世界大戦によって設備の大半を失ったが，復興も早く，綿紡績中心を脱皮し，ナイロン・エステルなどの合成繊維から，高分子樹脂・化粧品・食品・合成皮革の分野へも進出，一大総合会社に発展している。研究部門も他社より多く，総合技術研究所・化粧品研究所・食品研究所のほか，八つの研究室をもつ。工場数も多く，大阪を中心に綿8，毛8，絹2，加工2，合化繊3，樹脂2，化粧品1，食品4の各工場をもっている。1971年2月社名を鐘紡と改称。本社大阪。資本金197億4,100万円，年間売上高2,487億円，従業員数5,395(1980年4月)。

かねがみさき【鐘が岬】日本舞踊・地歌・箏曲(そうきょく)・荻江節(おぎえぶし)の曲名。初世中村富十郎が江戸で評判をとった《京鹿子(きょうがのこ)娘道成寺*》を，1760年(宝暦10)に大阪で舞踊劇《九州釣鐘岬(きゅうしゅうかねがみさき)》として演じた。これが地歌に残って，箏曲にも編曲されたもの。《京鹿子》の歌詞とは末段だけが違う。なお，山田流箏曲には同名の別曲があり，また，荻江節では《鐘の岬》とよぶ。➔道成寺物

カーネギー［Andrew Carnegie］(1835～1919) アメリカの鉄鋼王。スコットランドの貧しい手織り工の家に生まれ，その後アメリカに移住，ペンシルベニア鉄道に勤めるかたわら寝台車会社などに投資して巨利を得た。1865年鉄鋼需要増大を予見して独立し，鉄鋼業を経営。1872年ベッセマー製鋼法を導入，1881年にはアメリカ最大の鉄鋼企業〈カーネギー兄弟会社〉を設立した。これを基礎に鉄鉱石・石炭・鉄道などの企業合同を行ない，世界最大の鉄鋼トラストを形成，その製鋼生産額は全アメリカの50%に迫った。さらに，1901年モルガン系との劇的な大合併を成し遂げ，USスチール*を設立。彼はこれを契機に実業界を引退し，その巨額の財産を教育・社会文化事業に投じ，カーネギー財団・カーネギー工科大学と，次々に財団・基金を設立。その信念である〈富は神聖なものであり，人類向上のためにこれを使う〉を貫き通して，学問・文化発展に貢献をした。〔片岡一郎〕

カーネギーホール［Carnegie Hall］ニューヨークにある演奏会場。1891年5月に〈ミュージック-ホール〉の名で開場したが，7年後の大改築に際して多額の寄付をした鉄鋼王カーネギー*を記念して現在の名に変えられた。1962年，マンハッタン島に大規模な総合芸術センターであるリンカーン-センターのフィルハーモニック-ホールが開場したため，閉鎖のうわさもあったが，アイザック-スターン*らの努力で存続された。座席数約3,000。ほかに小ホールがある。

かねこくんえん【金子薫園】(1876～1951) 歌人。東京の生まれ。本名雄太郎。1893年(明治26)浅香社*にはいり，1901年処女歌集《片われ月》を発表，翌年尾上柴舟*(おのえさいしゅう)とともに《叙景詩》を刊行，反《明星》の立場を明らかにした。1903年白菊会を結成，1918年(大正7)《光》を創刊。一時は，自由律に走ったが，温雅可憐(かれん)な作風に終始した。《覚(めざ)めたる歌》《白鷺集(しらさぎしゅう)》などの歌集がある。

かねこけんたろう【金子堅太郎】(1853～1942) 官僚・政治家。福岡藩出身。1871年(明治4)藩の留学生としてアメリカに渡り，ハーバード大学卒業。帰国後書記官として元老院にはいり伊藤博文*(いとうひろぶみ)の知遇を得て，彼のもとで大日本帝国憲法*の草案作成に従事した。第3次伊藤内閣の農商務相，第4次伊藤内閣の法相を歴任，また臨時帝室編修局総裁・維新史料編纂会(へんさんかい)総裁となった。晩年まで枢密顧問官をつとめた。伯爵。

かねこみつはる【金子光晴】(1895～1975) 詩人。愛知県の生まれ。本名保和(やすかず)。早稲田(わせだ)大学・慶応義塾(ぎじゅく)大学・東京美術学校などを中退。1919年(大正8)に渡欧，2年後に帰国，フランス象徴詩の影響を受けた詩集《こがね虫》で詩壇に知られた。その後，1927年(昭和2)出版の妻森三千代との詩集《鱶(ふか)沈む》には無政府主義的な性情をみせた。1929年再び渡欧。1937年の詩集《鮫(さめ)》は，軍部の支配に対して強烈な自我主義の立場からの反逆を示し注目された。第2次世界大戦中は沈黙したが，戦後発表された《落下傘(らっかさん)》《蛾(が)》《鬼の児(こ)の唄(うた)》などは，戦時下の国家権力に対して独自の戦いを続けて屈しなかった強靭(きょうじん)な思想の展開がみられ，高い評価を受けた。ほかに読売文学賞を受けた《人間の悲劇》，歴程賞を受けた《IL(イル)》などの詩集がある。〔源　五郎〕

かねこようぶん【金子洋文】(1894～　) 劇作家・演出家。秋田県の生まれ。本名吉太郎(よしたろう)。はじめ武者小路実篤*(さねあつ)に師事，のち記者生活を経て社会主義運動に接近し，《種蒔(ま)く人*》《文芸戦線*》の創刊，日本プロレタリア文芸連盟の創立に参加して文学運動を行なった。そのかたわら移動劇団〈トランク劇場〉の指導もした。1927年(昭和2)労農芸術家連盟を結成，委員長となる。創作集《地獄》，戯曲集《飛ぶ唄(うた)》などがある。〔小泉浩一郎〕

かねざわさねとき【金沢実時】(1224～1276) 北条実泰(ほうじょうさねやす)の子，執権北条義時(よしとき)の孫，越後守(えちごのかみ)。称名寺殿とよばれた。北条氏一門として引付衆(ひきつけしゅう)・評定衆などの重職を歴任，執権泰時・時頼(ときより)の信頼を得た。学問を好み，儒者清原教隆(のりたか)について和漢の学を修めた。多くの刊本・写本を私蔵したが再度火災にあったので，所領の武蔵(むさし)六浦(むつら)荘金沢郷(現在の横浜市金沢区)に別荘を建てて蔵書を移し，隣接して建立(こんりゅう)した称名寺の寺僧に保管させた。これが金沢文庫*の基となった。1275年(建治1)病のため公職を辞してこの別荘に隠退，翌年没するまで所蔵本の書写・校合に送った。

かねじゃく【曲尺】

1 大工用のものさし。矩尺・指尺とも書き，差金ともいう。黄銅または鋼製でL字形につくられている。表側(表目)の長い方(長手)，短い方(妻手または横手)，および裏側(裏目)の妻手は，1mmまたは2mm単位に刻まれている。裏目の長手は，表目の$\sqrt{2}$倍の目盛りが刻まれている。これを角目とよび，他の1目を1辺とする正方形の対角線の長さにあたる。

2 尺貫法によるものさしの一種，また，それではかった寸法やその単位系。土地・建物などの寸法や面積を表わすのに用いていた。かね尺に対して鯨尺*があり，かね尺の1尺は鯨尺の8寸にあたる。〔富田芳秀〕

カーネーション［carnation］双子葉植物・ナデシコ科。南ヨーロッパ原産で，ダイアンサス属中の代表的な種類。全草粉白色をおびる。茎は直立し，高さ30～90cmで，下方が木質化する。葉は線形で対生し，基部で茎を抱く。花は5弁花が原形であるが，普通は重弁花で，かおりがよい。5月の第2日曜の〈母の日*〉に贈る花とされる。

2,000年前から栽培されていたというが，10世紀の初めごろフランス西部のノルマン人が故郷に持ち帰ってからヨーロッパに広まった。その後イタリア・オランダ・ドイツ・

フランス・イギリスなどで改良が行なわれ，黄・赤・白・紫・絞り・覆輪など多数の品種がつくりだされたが，いずれも露地種で，春秋二季咲きであった。1835～1845年ごろフランスの園芸家ダルメーが四季咲き性の品種をつくりだし，今日の温室カーネーションの基礎を築いた。これがアメリカにはいってさらに改良され，温室カーネーションとして固定された。温室カーネーションが日本にはいったのは1909年(明治42)以後で，品種の導入や改良がくり返されて現在に至っている。切り花として重要。日あたりがよく，空気容積の大きい温室で栽培する。土質はやや粘重。さし芽繁殖し，10～15℃が適温。〔小杉　清〕

かねたたき　【鉦叩】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科。体長10～12mm。体はやや扁平(へんぺい)で，全体灰かっ色の鱗片(りんぺん)でおおわれる。複眼は小さく，単眼は退化している。雄の前翅はきわめて短く，黒かっ色またはかっ色，後翅はない。雌は無翅。腹部末端には2本の尾毛があり，長さは体長の約3分の2。産卵管は短く，尾毛の2分の1。年1回の発生で，卵で越冬し，成虫は8月中旬ごろから出現する。山野の灌木(かんぼく)，庭園やかきねの樹木に生活し，関東以南に分布する。鳴き声は可憐で，〈チン・チン・チン〉と少し鳴き続ける。

かねたたき　【鉦叩】　鉦打(かねうち)ともいう。江戸時代，首に鉦をかけ，和讃(わさん)・念仏を唱えて諸国を遊行(ゆぎょう)した時宗の沙弥(しゃみ)。その源流は空也(くうや)念仏や一*遍の踊り念仏にある。神奈川県藤沢市にある時宗総本山の遊行寺(清浄光(しょうじょうこう)寺)に所属したが，正式の衆徒ではなく，多くは妻帯して俗体であった。主として関東地方に分布した。

かねつき　【過熱器】　ボイラーの蒸発部から出てくる飽和蒸気を加熱して過熱蒸気とするボイラーの付属伝熱装置。火力発電所のボイラーでは，原動所効率を高めるために必ず過熱器を用いる。

ガーネット　⇨ザクロ石

ガーネット　［David Garnett］（1892～　）イギリスの小説家。出版業のかたわら，幻想的な作品を書いた。代表作は，〈ある日突然奥方が雌狐(めぎつね)になった〉という奇抜な着想に基づく《狐になった奥方》。ほかに，《動物園の男》《水夫帰る》などの軽妙な読み物がある。

かねつりおんせん　【鐘釣温泉】　富山県下新川郡宇奈月(うなづき)町にある温泉。泉温45℃，泉質は単純泉で，皮膚病・リウマチにきくといわれる。黒部川左岸の西鐘釣山麓(さんろく)の石灰岩窟(せっかいがんくつ)の中から湧出(ゆうしゅつ)し，岩窟もまた自然石のまま大露天ぶろになっており，入浴しながら山水の自然美を楽しむことができる。中部山岳国立公*園に属する。富山地方鉄道黒部線・宇奈月線から関西電力黒部鉄道に乗り換えるのが便利。〔木村東一郎〕



カーネーション



カネタタキ(雄)

かねつろ　【加熱炉】　材料を加工または成形するために加熱する設備。大別すると連続式加熱炉とバッチ式加熱炉がある。連続式は平型の長い炉で，炉の一端から入れられた材料は順次加熱されて，他端から連続的に取り出される。バッチ式は平型で，一端のとびらから材料を出し入れする。燃料には重油・石炭や高炉ガスとコークス炉ガスの混合ガスなどが用いられる。

かねながしんのう　【懐良親王】（1329～1383）〈かねよし〉とも読む。後醍醐(ごだいご)天皇の皇子。1336年(延元1・建武3)足利尊氏(あしかがたかうじ)の九州挙兵に際して征西大将軍に任じられ，四国から九州に渡って菊池(きくち)・阿蘇(あそ)氏ら南*朝方の豪族を指揮して九州経略を行ない，大宰府(だざいふ)を中心に北九州に勢力圏を築いたが，のち九州探題今川貞*世(さだよ)(了俊)に追われて孤立した。征西将軍宮と称せられている。

ガネフォ　［GANEFO］　Games of New Emerging Forcesの略称。新興国競技大会ともいう。1962年(昭和37)にジャカルタで開かれた第4回アジア競技大会は，台湾・イスラエルの招待をめぐって大混乱に終わり，インドネシアは国際オリンピック委員会(IOC)の加盟簿から除外された。スカルノ大統領はオリンピック競技大会を頂点とするスポーツ組織に対抗し，中華人民共和国体育界の支持を得てガネフォを結成，1963年第1回大会をジャカルタで開催した。48か国，2,200名の参加者で，同大会への参加はオリンピック競技大会の参加資格を喪失するおそれがあるにもかかわらず，わが国からも新日本体育連盟を団体として11種目に85名が参加した。第2回大会は1966年カンボジアで開かれたが，第3回に予定された1967年のカイロ大会は開かれなかった。執行局を形成する国は次のとおり。カンボジア・中華人民共和国・ギニア・インドネシア・イラク・マリ・メキシコ・パキスタン・ベトナム民主共和国・アラブ連合・ソ連・セイロン・ユーゴスラビア・キューバ。

かねんせい　【可燃性】　通常，空気または酸素中で，適当な方法によって点火するときに燃焼する性質。木材・石炭・油などの燃料はこの性質をもち，また，タンパク質や各種有機化合物の大部分もこの性質をもっている。水素やアセチレン・プロパン(液化石油ガス)・メタン(天然ガス)などの気体は可燃性のため，空気中に漏れると燃焼・爆発することがある。鉱物では，リン・イオウなどは空気中で可燃性であるが，鉄・アルミニウムなどは空気中ではこの性質を示さず，酸素中で示す。〔寺沢誠司〕

カノ　［Kano］　アフリカ大陸西部，ナイジェリア連邦共和国北部州の州都。人口35万7,000(1971)。海岸から1,100km北上した奥地の高原にある。古くから隊商交通の中心となった商都で，付近ではワタ・ラッカセイなどの栽培が行なわれており，その集散地になっている。国際空港があり，大陸各地に通ずる。

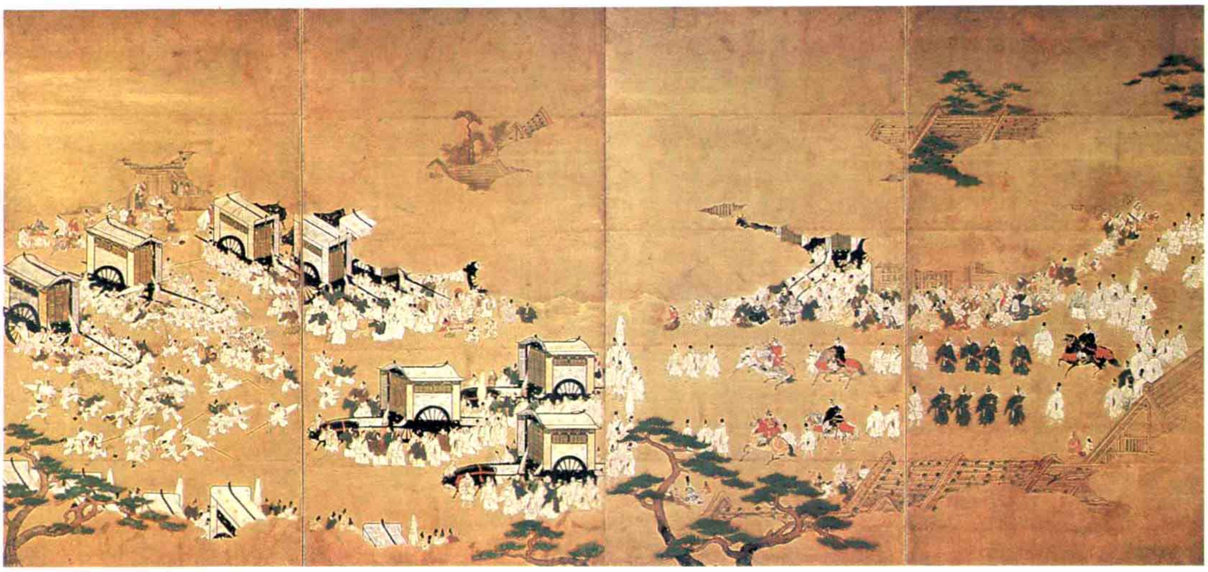
がのいわい　【賀の祝い】　長寿を祝う年祝いの儀礼。60歳の年を祝う還暦に始まり，それぞれ数え年70歳・77歳・88歳の古希・喜寿・米寿に及ぶ。還暦は，生まれ年と同じ干*支(えと)にもどるので〈本卦(ほんけ)がえり〉ともいい，老年にはいって現役から退く重要な契機であるため，親類縁者や知人を招いて祝宴を開いたり贈答を行なったりする。還暦の祝いを最後に家長の地位を譲り，自分は隠*居して余生を全うするふうは各地に多く，社会生活における地位の交替としての意味でも重要である。古希は唐代の詩人杜*甫(とほ)の《曲行》に〈人生七十古来稀(まれ)なり〉とあるところから70歳をいい，喜寿は〈喜〉の草体が〈七十七〉と読まれることから，米寿は〈米〉を〈八十八〉と読んでいう。

かのう　【化膿】　体表や内臓などにうみ*をもつこと。化膿は主として化膿*菌によって起きるが，ある種の化学物質(テレピン油・硝酸銀など)によっても起こる。また，結核や梅毒などの慢性経過の化膿もある。細菌や化学物質により局所に強い充血，白血球の遊出が起こり，同時に組織および白血球の変性・壊死(えし)・融解・液化をきたしてうみを生ずる。これを組織の腔(こう)に限局する場合，膿瘍(のうよう)とよんでいる。

かのうえいとく　【狩野永徳】（1543～1590）安土桃山時代の画家。狩野松栄の長男。



狩野永徳
《唐獅子図屏風》
1580年代
宮内庁蔵



狩野山楽
《車争図》
1604ごろ
東京国立博物館蔵

名は源四郎のちに州信，永徳と号し，法印に叙された。祖父狩野元信*(もとのぶ)に直接の指導を受けて早くから非凡の才を現わし，織田信長(おだのぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)ら覇者(はしゃ)の好尚を反映した豪壮華麗な金碧(きんぺき)装飾画様式を完成した。その生涯(しょうがい)は，はなやかな画業で埋めつくされているが，中でも安土城をはじめ聚楽第(じゅらくだい)・大阪城などにおける一門を率いての障壁画制作は，彼に画壇の第一人者たる地位を保証した。弟に宗秀(むねひで)・長信，子に光信(みつのぶ)と孝信(たかのぶ)，門人に狩野山楽*らを擁し，狩野派*の勢威は他派を圧倒するものがあった。代表作に大徳寺聚光院の襖絵(ふすまえ)，《洛中洛外図屏風(らくちゅうらくがいずびょうぶ)》《唐獅子(からじし)図屏風》がある。

かのうきん 【化膿菌】 化膿*の原因となる菌で，代表的なものは溶連菌やブドウ球菌。皮膚に侵入して増殖し，そのため，白血球が血管壁から遊出してその周囲に集積し，それらの崩壊産物や菌の死体を含めて化膿巣が形成される。体内臓器に侵入して化膿巣をつくることもある。



嘉納治五郎

かのうさくじろう 【加能作次郎】(1885～1941) 小説家。石川県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。1913年(大正2)博文館にはいり，《文章世界*》の編集主任となる。1918年《世の中へ》で文壇的地位を確立。のち退社して創作に専念し，《子供の便(たよ)り》《乳の匂(にお)い》などの佳作を発表，写生的な筆致で庶民生活の哀歓を描いた。

かのうさん 【鹿野山】 千葉県房総半島西部にある山。標高353m。第三紀の砂岩層からなる平坦(へいたん)な山頂をもち，神野(じんや)寺がある。江戸時代には鹿野山詣(もうで)が盛んで，木更津港はその発着地としてにぎわった。現在山頂まで自動車道路が通じており，ゴルフ場やマザー牧場などがある。

かのうさんらく 【狩野山楽】(1559～1635) 安土桃山期～江戸初期の画家。木村氏，名は光頼(みつより)，修理亮(しゅりのすけ)と称し，山楽は号。狩野永徳*に学び，豪放雄偉な永徳様式を穏やかにまとめた独自の装飾画様式を完成した。狩野姓を許されるほど一門に重きをなし，永徳の没後もよく狩野家を補佐して，城郭・社寺などの障壁画制作に指導的な役割を果たした。庇護(ひご)を受けた豊臣秀吉(とよとみひでよし)が没すると石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)の滝本(たきもと)坊に隠棲(いんせい)し，のち京都にもどって活躍，京狩野家の祖となる。代表作は大覚寺の障壁画のほか，《鷙鳥図(しちょうず)》《車争図(くるまあらそ



狩野探幽
《鵜飼図屏風》
六曲一双右隻
1626
財団法人大倉
文化財団所蔵



狩野芳崖 《悲母観音》1888 東京芸術大学蔵

いのず)》など。〔小林 忠〕

かのうじごろう 【嘉納治五郎】(1860～1938) 教育家・体育指導者。柔道を創始し，また日本の体育の基礎を築いた。兵庫県御影(みかげ)町に生まれ，1871年(明治4)上京し，1882年東京大学を卒業，下谷(したや)北稲荷(きたいなり)町に道場を開いて，柔術を柔道へと進化させた。1909年，東京高等師範学校長に在任中に東洋で最初の国際オリンピック委員会*(IOC)委員となり，1911年には大日本体育協会を創立して初代会長に就任，1912年オリンピック-ストックホルム大会に日本代表団を率いて初参加した。1921年(大正10)体協名誉会長となってからもIOC委員として国際的に活躍していたが，1938年(昭和13)IOCカイロ会議に出席しての帰途，船中で客死した。オリンピック東京大会の際，国立競技場正面広場に碑が建てられた。彼の創設した講道館*は，柔道のメッカとして，柔道愛好家が修業のために全世界から集まってきている。➔柔道 ➔前ページ(写)〔藤岡 端〕

かのうせいずいまくえん 【化膿性髄膜炎】 連鎖球菌・ブドウ球菌・肺炎球菌・緑膿菌など，いろいろの化膿菌によってひき起こされる髄膜*の炎症。耳疾患や副鼻腔(ふくびこう)の化膿性疾患に引き続いて起こることが多い。発病は急激で，悪寒(おかん)・戦慄(せんりつ)・頭痛・高熱を伴い，まもなく意識が混濁してくる。髄膜刺激症状としては項部強直，脳膜炎の診断に用いられる兆候のケルニヒ症状，頭を前方に曲げると反射的に下肢(かし)が屈曲したり，片方の下肢を曲げると反射的に他方の下肢が屈曲するブルジンスキー症状などがあり，髄液は膿性となる。従来は予後きわめて不良であったが，近年は強力な抗生物質療法により，かなり治癒(ちゆ)できるようになった。〔国井乙彦〕

かのうたんゆう 【狩野探幽】(1602～1674) 江戸初期の画家。狩野孝信(たかのぶ)の長男で，狩野永徳*の孫にあたる。1617年(元和3)徳川幕府の御用絵師となり，1636年(寛永13)に描いた《東照宮縁起》の功により法眼(ほうげん)に叙され，名を采女(うねめ)から守信に改め，探幽と号した。以後は，狩野派の重鎮として画壇に君臨し，1662年(寛文2)には法印にのぼり，宮内卿(くないきょう)に叙されている。幕藩体制確立期にあたって，支配層の文治理念に適応した絵画様式を創出，江戸期狩野派の繁栄に確固たる基礎を築いた。子に探信・探雪，弟に尚信(なおのぶ)・安信があり，門下に久隅守景*(くすみもりかげ)・桃田柳栄らが出た。代表作は，大徳寺方丈・南禅寺小方丈などの障壁画のほか，《鵜飼図屏風(うがいずびょうぶ)》《東照権現像》など。〔小林 忠〕

かのうなつお 【加納夏雄】(1828～1898) 幕末・明治期の金工家。京都の生まれ。大月派金工の池田孝寿に彫金を学んで，初めは寿郎と号したが，のち夏雄と改め，江戸に出た。1869年(明治2)大阪造幣寮へ出仕，新貨幣の原型製作を行なった。その後1894年東京美術学校教授を経て帝室技芸員となった。作風は，絵画ふうな中に近代的感覚をとり入れ，高低の肉彫りや毛彫り・片切り彫り・色絵象嵌(ぞうがん)などの作品がある。

かのうは 【狩野派】 室町中期に興り，江戸末期に至るまで栄えた日本画の一大流派。始祖狩野正信*(まさのぶ)と狩野元信*は足利(あしかが)幕府に，元信の孫狩野永徳*は織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)に，そして永徳の孫狩野探幽*以後は徳川幕府にと，それぞれ時の権力者の御用絵師となり，彼らの好尚に適応した様式を生んで門流の繁栄を確保した。狩野派が絵画革新の前衛として最も創造的な役割を果たしたのは，大和絵*(やまとえ)と漢画*を融合して豪壮華麗な装飾画様式を創始した元信と，それを発展させた永徳の指導した室町末期から安土桃山期にかけてであった。江戸時代には，幕府をはじめ各藩の御用絵師をほぼ独占して世俗的な権威は著しく増大するが，絵画造形の上ではほとんど革新的な動きをみせなかった。しかし，画壇の一大動脈としての役割を果たし，狩野派を経由することなく名をなした画家はほとんどない。〔小林 忠〕

かのうほうがい 【狩野芳崖】(1828～1888) 日本画家。山口県の生まれ。本名幸太郎。狩野派の毛利家御抱絵師(おかかええし)晴皐(せいこう)が父。江戸に出て狩野雅信(まさのぶ)につき，同門の橋本雅邦*らと並称されたが，明治維新の際には郷里にあった。のち，フェノロサ*・岡倉天心*らに認められ，東京美術学校の開設や日本画の革新に尽力したが，美術学校の開校を目前に世を去った。代表作に《不動明王》《悲母観音》などがある。

かのうまさのぶ【狩野正信】(1434～1530) 狩野派の始祖とされる画家。周文のあとを継いで足利(あしかが)幕府の御用絵師となり，将軍家や寺院のために作画した記録は残るが，現存の遺品はきわめて少ない。それまでは禅宗の門にあった漢画を，明快に親しみやすく表現して武家の好尚に適応させた功績は大きい。子に狩野元信と之信(ゆきのぶ)があり，代表作としては《周茂叔愛蓮図(しゅうもしゅくあいれんず)》が知られている。

かのうもとのぶ【狩野元信】(1476～1559) 室町末期の画家。名ははじめ四郎二郎のち元信，大炊助(おおいのすけ)・越前守(えちぜんのかみ)に任ぜられ，法眼(ほうげん)に叙された。父狩野正信(まさのぶ)が端緒を開いた漢画の平明化をさらに進め，大和絵(やまとえ)の技法を取り入れて，和漢融合の壮麗な装飾画様式をつくりあげた。障壁画を主としたが，掛幅(かけふく)・画巻・扇面と幅広い画域を示し，旺盛(おうせい)な作画活動と武家好みの雄壮な作風によって，以後の狩野派の発展に確固とした基盤を築いた。1539年(天文8)から1553年にわたった一門を率いての石山本願寺の障壁画制作は，彼一代の大事業であった。家は子の松栄が継いだが，その作風は孫の狩野永徳によって正しく継承され，桃山期の絢爛(けんらん)豪華な大画面装飾画様式が生み出される。彼の作と信ずべき遺品に，妙心寺霊雲院・大徳寺大仙院(だいせんいん)の障壁画や清涼寺の絵巻《融通念仏縁起絵巻》などがある。〔小林　忠〕

かのがわ【狩野川】静岡県東部，伊豆(いず)半島の中心にある天城(あまぎ)山を水源として北に流れ，下流部で北から流れる黄瀬川を入れて沼津市で駿河(するが)湾に注ぐ川。流程48km。上流の山間部はワサビ栽培とアユ漁で知られ，また流域に温泉が多い。下流域の沃野(よくや)は農業が盛んで，近年はイチゴの生産が急速に伸びている。1964年(昭和39)に放水路が完成するまでは洪水(こうずい)の多い川で，1959年の台風の際には大被害を受け，そのためこの台風は狩野川台風の名でよばれている。〔長津一郎〕

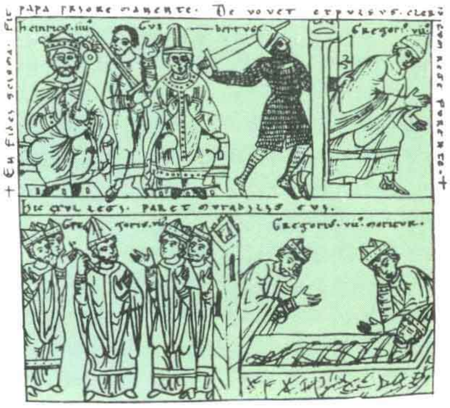
かのこ【鹿の子】もち菓子の一種。賽(さい)の目に切った求肥(ぎゅうひ)をあずきあんで包み，まわりに柔らかく煮てみつづけにしたアズキをつける。アズキの代わりにウグイス豆・クリ・白インゲン・ウズラ豆も用いる。寒天じるをかけてさまし固めれば，つやが出て美しさを増す。しんには求肥のほか，もちやようかんが用いられる。宝暦年間(1751～1764)，江戸人形町エビス屋から売り出した。同家は俳優初代嵐(あらし)音八の実家で，役者手製のもち菓子として評判になり，各地に広まったという。なお，富山県高岡市の銘菓にも鹿の子もちがあるが，これは白色の羽二重もちにみつづけのウズラ豆を散らし，鹿の背の斑紋(はんもん)に擬したもの。〔塩田ふみ〕



カノコガ



カノコユリ



カノッサの屈辱　同事件を示すミニアチュール

かのこが【鹿子蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・カノコガ科。体長14～17mm，翅(はね)を広げた長さ32～38mm。前翅は長三角形，後翅はきわめて小さい。体・翅ともに黒色，腹部基部および中央よりやや後方に黄色の横帯がある。前翅には5個の透明紋があり，後翅にも大きな透明紋があるが黒色の翅脈によって数個に分かれる。成虫は年2回発生し，初夏と初秋に出現する。幼虫態で越冬。日本全土のほか，朝鮮に分布。近縁のキハダカノコは本種よりもやや小形で，腹部がほぼ全体的に黄橙(おうとう)色を呈する点で区別できる。成虫は7月ごろに出現し，本州以南，朝鮮・中国北部・台湾などに分布。

かのこそう【鹿之子草・纈草】双子葉植物・オミナエシ科。山のやや湿った所にはえる多年草。地中に根茎を伸ばしてふえる。茎は中空で，高さ30～80cm。葉は対生し，羽状に切れ込む。5～7月に淡紅色の小花が茎の先に散房状に集まって咲く。春に咲いてオミナエシに似るのでハルオミナエシの名がある。根は吉草根といい，ヒステリー・心悸亢進(しんきこうしん)の鎮静，筋肉のけいれんに用いられる。

かのこゆり【鹿之子百合】単子葉植物・ユリ科の多年生草本。四国・九州，台湾北部，中国の一部に分布。四国・九州のものはがけにはえるのでタキユリ・イワユリともいい，夏開花するのでタナバタユリともいう。石灰岩のがけなどに野生し，広く栽培もされる。鱗茎(りんけい)は丸く黄かっ色。7～9月，茎頂に4～20個の花が円錐(えんすい)花序につく。花弁は白色に濃紅色の斑点(はんてん)がある。日あたりのよい草むらを好むが，半日陰でもよく育つ。〔横井朝子〕

カノッサのくつじょく【カノッサの屈辱】聖職叙任権闘争でドイツ皇帝がローマ教皇に謝罪した事件。中世教皇権の強大さを示すできごととして知られる。ドイツ皇帝ハインリヒ4世はローマ教皇グレゴリウス7世によって破門され，ドイツ諸侯も皇帝の廃位を決めた。苦境に立った皇帝は当時教皇の滞在したトスカナ伯夫人マチルダの居城カノッサに行き，1077年1月25～27日の3日間雪中にたたずみ，ようやく許されて教皇と会い破門を解かれたと伝えられている。皇帝にとって屈辱的事件であるが，破門を解かれてのちの事態は皇帝の側に有利に展開した。〔兼岩正夫〕

カノーバ［Antonio Canova］(1757～1822) イタリアの新古典主義の彫刻家。独学によって古典と自然を学び，しだいに名声をあげてローマで教皇記念碑などを制作，1802年にはナポレオンのパリ招待に応じた。ナポレオン失脚後は，教皇の依頼によって，フランス軍の持ち去ったイタリア美術作品の返還に努めた。現在，ヨーロッパ各地に多くの作品がみられるが，《アモールとプシケ》《ナポレオン像》《パオリーナ-ボナパルト像》などが有名である。〔井関正昭〕

カノープス［canopus］りゅうこつ座のα星。中国名を老人星という。早春のころ，南の地平線近くに望まれる。実視等級－0.9等，シリウスに次いで，全天で2番めに明るく見える恒星である。距離は200光年，F型超巨星。

かのや【鹿屋(市)】鹿児島県大隅(おおすみ)半島中西部の市。1936年(昭和11)海軍航空隊の設置以来，軍都として急速に発展し，第2次世界大戦では特攻隊の基地となった。1941年市制施行。人口172,000で，県下では鹿児島市に次ぐ。地名は往時カヤの密生地域であったことにちなむといわれる。市域の大半は広いシラス台地で，肝属(きもつき)川上流の鹿屋川と大姶良(おおあいら)川が合流する南東の狭長な平地が市街地・工場用地・水田に利用される。産業三大別人口比は28：17：55。サツマイモ・ラッカセイの産が多く，デンプン工業が発達し，通産省のアルコール工場がある。笠野原(かさのはら)台地では，高隈(たかくま)ダムの建設による国営の用水工事が進んでいる。鹿屋原(かのやばる)には旧軍事施設を利用した海上自衛隊の航空

基地が置かれている。古江線が通り，国道220号線と269号線が交差する。鹿児島湾岸の古江港からは定期貨客船が鹿児島へ運航する。特産の鷹の爪(たかのつめ)(トウガラシ)は海外へも輸出される。

カノン [kanon] 規準・規則を意味するギリシア語であるが，美術上は，人体各部の比例関係を定める法則をさす。古代ギリシアの彫刻家ポリュクレイトスは，著書《カノン》において，人体各部の比例関係を詳細な数値で示し，その作例に《ドリフォロス》を制作したと伝えられている。人体比例の理論は，その後ルネサンス期に改めてとり上げられ，レオナルド*やデューラー*らは作画のために，解剖学的研究に基づく新しい人体比例論を展開した。 〔松久勝利〕

カノン [canon] キリスト教で聖書の正典のこと。《旧約聖書》の39巻，《新約聖書》の27巻が正典とされ，それ以外のものは《聖書外典*(アポクリファ)》といわれる。なお，宗教会議やローマ教皇に公認された教理・教会法もカノンといわれることがある。

カノン [canon] 複数の声部をもつ楽曲において，最初に出る声部の音型を他の声部が忠実に模倣しながら進曲する技法。逆行カノン・反行カノン・メンズレーションカノンなど，時代や技法の相違によりいろいろの種類がある。カノンはすでに中世にみられ，このころの有名な例として，現存最古のものといわれる《夏はきたりぬ》がある。ルネサンス期には，定量記譜法*の特色を生かしたメンズレーションカノンが注目された。バロック時代になると，複雑で手のこんだものが現われるが，この時代のカノン技法は，バッハの《ゴールドベルク変奏曲》や《音楽のささげもの》のカノン部分に集約されているといえる。古典派の時代からは，作曲の有効な手段としてよりも，作曲者の技術的な興味や対位法的練習の対象として取り上げられることが多くなった。シェーンベルク・ベルクの12音音楽，メシアンのリズム-カノンなどにその例がみられる。なお，ローマ-カトリック教会の典礼で，ビザンツ聖歌に使われる詩形の一つとして使用されるミサの部分の名称として用いられることもある。 〔吉田泰輔〕

カノンほう 【カノン砲】 加農砲とも書く。初速を大にし，平射弾道をもって遠距離を射撃する大砲。口径に比して砲身が長いことが一つの特徴である。旧陸軍の九六式15サンチカノン砲，陸上自衛隊現用の155ミリカノン砲は，いずれも初速850m/秒，最大射程23,000～26,000m。

かば 【河馬】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・カバ科。体長3.8～4.6m，尾長50cm，肩高1.5mほど。雄は体重2～3tに達する。体はほとんど無毛で，尾端と口の周囲に剛毛がある。下顎(かがく)犬歯(きば)は長大で，0.6～1mに達するものもあり，しばしば上顎を突き抜ける。きばは象牙(ぞうげ)質で，ゾウのものよりも上質でかたい。ふつう日中は20～30頭の群れで水中に過ごし，夜は陸に上がって草などを食う。汗腺(かんせん)が発達しており，日中陸に上がって皮膚がかわくと赤色の汗をかくので血の汗といわれるが，これは赤色の色素のためであり，血色素によるものではない。寿命は40～50年ほど。熱帯アフリカの大きな川や湖に分布する。 〔今泉吉典〕



カ　バ

カーバ [Ka'ba] イスラム教の聖地メッカの大礼拝堂のほぼ中央にある石造建物。その意のとおりカーバ(立方体)は方形で，四すみは東西南北をさし，正面(東北面)と裏面および両側面は，それぞれ横12mと10.5m，高さは15mである。神殿内には〈ゼムゼムの聖泉〉があり，東隅(とうぐう)の壁には黒石がはめこまれている。アニミズム*の一形態である聖石，聖泉崇拝にその起源を有するカーバの神殿の歴史は古く，ダイオドーラス-シキュラス(ギリシアの歴史家)の記述によれば，紀元前1世紀半ばごろすでに著名であったという。イスラム教発生直前には，カーバは偶像崇拝と多神教の中心地であり，周辺の部族はここにそれぞれの守護神を安置し，巡礼を行なっていた。マホメット*はヘジラ後2年(624)，ユダヤ教徒との対立上，キブラ(祈りのとき顔を向ける方角)をエルサレムからカーバに変えた。➔巡礼 ➔イスラム教(図) 〔牧野信也〕

カーバイド [carbide] 本来は炭化物をいうが，一般にはカルシウムカーバイドの俗称として用いられることが多い。➔カルシウムカーバイド

かばいろ 【蒲色・樺色】 色名。ガマの穂のような色。わずかに黄みのある，鈍い赤色。しかし，一般には茶系統の色の総称として用いられることが多い。樺色と書くのはあて字で，カバノキの色とは無関係である。

かばさん 【加波山】 茨城県中部にある筑波(つくば)山地の1峰で，筑波山の北約10kmに位置する。標高709m。筑波山と同じくカコウ岩質の山で，山麓(さんろく)にはカコウ岩の石切り場が多い。1884年(明治17)に自由民権運動の急進派がこの山にたてこもった加波山事件*で知られ，山頂には加波山神社がある。

かばさんじけん 【加波山事件】 1884年(明治17)，栃木県令(前福島県令)三島通庸(みちつね)の圧政に対し，栃木・茨城両県下の急進的自由党員らが，三島を含む政府高官の暗殺を企図し，茨城県加波山*に挙兵した事件。平尾八十吉(やそきち)・富松正安(まさやす)・河野広躰(こうのひろみ)らは，専制政府打倒・立憲体制確立を公然と掲げて決起し，加波山に立てこもり，真壁の警察分署などを爆破した。しかし参加者16名は各地で逮捕され，事件はまもなく鎮圧された。同年群馬事件*・秩父(ちちぶ)事件*・飯田事件*など自由民権運動*の過激派の率いる暴動が頻発(ひんぱつ)した。

かばしま 【樺島】 長崎県西彼杵(にしそのぎ)郡野母崎(のもざき)町に属する島で，長崎半島の先端の南東側にある。面積2.2km²，人口2,500。北部のおぼれ谷*に漁村があり，古くから南北九州を結ぶ海上交通の要地として栄えた所で，昭和にはいって，船の大形化によってさびれた。カラスミ*の特産があり，また天然記念物のオオウナギがすむ。対岸の野母崎町脇岬(わきみさき)との間に連絡船が通じている。

かはだきょう 【香肌峡】 三重県中部，櫛田(くしだ)川の上流から中流にかけての峡谷。地質学上，西南日本を外帯と内帯に分ける中央構造線*が，この峡谷北部で東西に延びる断層線をつくっている。奈良県との境をなす台高山脈の高見山(1,249m)・国見山(1,419m)に源を発する櫛田川は，高見峠付近の大原生林を抜け，峡谷には奇岩や飛瀑(ひばく)をつくり，美しい渓谷(けいこく)を形成する。付近の山々にはサル・カモシカなどが生息し，飯南(いいなん)郡飯高町・飯南町・多気郡勢和(せわ)村にわたる一帯が1953年(昭和28)に香肌峡自然公園に指定された。

カバティーナ [cavatina] 18～19世紀のオペラやオラトリオにおいて，アリア*に比べると単純で，反復のない独唱用の曲。ハイドンのオラトリオ《四季》，モーツァルトのオペラ《フィガロの結婚》などのカバティーナは特に有名である。のちに器楽曲でも，旋律的性格が強い場合に用いられ，代表的な例としてはベートーベンの弦楽四重奏曲(作品130)やラフ(1822～1882)のバイオリン独奏曲《カバティーナ》がある。

かばね 【姓】 大和(やまと)朝廷*を構成する諸氏に対して，朝廷より与えられた称号。個人に対して私的に用いた尊称がその起源だとされるが，大和国家成立後は氏*の秩序を規制する公的制度としてしだいに整備されていった。臣(おみ)・連(むらじ)・君(きみ)・直(あたい)・造(みやつこ)・首(おびと)・史(ふひと)など数十種あり，それらは，たとえば臣・君は皇室から分かれたとされている氏(皇別*)に，連・造は中央の品部*(ともべ)の管理者である伴

造(とものみやつこ)に，直は地方の国造に，というように，おおむね氏の出自や職掌などに応じて与えられた。このうち特に臣・連の姓を与えられた氏はその地位が高く，大和朝廷の上層部を形成し，それぞれの最有力者は大臣(おおおみ)・大連(おおむらじ)として国政に参与した。大化改新以降，氏の私的支配権は否定され，姓の実質的な意義は減少したが，家がらを示す称号としては存続し，684年(天武13)氏の序列を整理再編するため，新たに真人(まひと)・朝臣(あそん)・宿禰(すくね)・忌寸(いみき)・道師(みちのし)・臣・連・稲置(いなぎ)の八色(やくさ)の姓が制定された。しかし，平安時代以降はしだいに有名無実となった。➜氏姓制度 〔加藤　晃〕

かばのき 【樺の木】

1 シラカバの別名。この仲間(カバノキ属)は北半球の温帯・亜寒帯に約40種分布しており，いずれも落葉高木または低木である。日本にはウダイカンバ・ウラジロカンバ・シラカンバ・ヤエガワカンバ・オノオレカンバ・ダケカンバ・アポイカンバ・ジゾウカンバ・ヨグソミネバリなどがある。

2 双子葉植物・カバノキ科の総称。主として北半球に7属140種，日本にはアサダ属・カバノキ属・クマシデ属・ハシバミ属・ハンノキ属の5属33種が分布する。落葉高木または低木。葉は単葉，托葉(たくよう)は早脱する。雌雄同株。雄花も雌花も尾状花序をなす。雄花は包葉に包まれて1～3個ずつつき，雌花は2個ずつつく。〔加藤僖重〕

かばまだら 【樺斑蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・マダラチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70mm内外。翅の地色は黄かっ色，前翅の前縁部および翅端部は黒かっ色で白紋がある。後翅の外縁も黒かっ色で，小さい白紋列があり，中室端には3個の黒かっ色の小斑紋(しょうはんもん)がある。雄は後翅の内縁角近くに発香鱗(はっこうりん)がある。沖縄以西，台湾・フィリピン・マレーシア・インドなどからアフリカまで広く分布する。幼虫はトウワタの葉を食べる。成虫の飛び方は非常に緩慢で，種々の花に飛来する。なお，夏から秋にかけて，特に台風の直後に気流に乗って飛来したと考えられる個体が日本の南西部で採集されることがある。これを迷蝶(めいちょう)という。〔鈴木邦雄〕

カーバメートけいさっちゅうざい 【カーバメート系殺虫剤】 有機殺虫剤として1950年代の後半に創製され，NAC剤(デナポン)・CPMC剤(ホップサイド)・MPMC剤(メオバール)・PHC剤(サンサイド)などがこの系統の薬剤に属している。リン・塩素元素などを含まない化合物であることが特徴的である。ウンカ・ヨコバイ類など吸収性害虫に特異的な殺虫力を示し，一方，天敵類に対しては悪影響が少ないためその使用量は毎年増加している。〔深谷昌次〕

かばやき 【蒲焼き】 ウナギ・アナゴ・ドジョウ・ハモなど，細長形の魚を付け焼きにしたもの。ウナギをまるのまま縦にくしをさして焼いたのが，ガマの穂に似ているのでかば焼きといったといわれる。栄養価(特に脂肪とビタミンA)の高いことは古くから知られ，薬食とされていた。作り方には関西ふう・関東ふうがあり，次のような違いがみられる。関西では，頭をつけたまま腹開きにして金ぐしを打ち，白焼きにしてからたれをつけて焼き上げる。身がかたく脂肪が強い。これに対して関東では，背開きにしたものを頭・中骨を取り，適当な大きさに切って竹ぐしを打ち，白焼きにしたものを蒸してからたれをつけて焼き上げる。蒸すことによって脂肪分が抜けるため，淡白で柔らかになる。〔塩川ふみ〕

カバリエリのていり 【カバリエリの定理】 二つの立体を，ある定まった平面に平行な一つの平面で切ったときつねに切り口の面積が等しければ，二つの立体の体積は等しいという定理。イタリアの数学者カバリエリ(1598～1647)が発見した。

カバルカゼーレ [Giovanni Battista Cavalcaselle] (1817～1897) イタリアの美術史家。ベネチアの美術学校で学ぶ。作品そのものの観照によりその特色を把握(はあく)・記述し，原作と模写の比較研究など終始実証的な，ことに技法的観点からの研究法を貫く。著作に主著《初期フランドルの画家》，大部の《イタリア絵画史》などがある。

カバルジンバルカル(自治共和国) [Kabardino-balkarskaya A. S. S. R.] ソビエト連邦南西部，ロシア連邦共和国内にある自治共和国。面積13,000km²。人口64万3,000(1975)。主都ナリチク。カフカス山脈の北麓(ほくろく)に位置する。住民は，50％を占めるカフカス系のカバルダ人が平原に，トルコ系のバルカル人が山地に住み，ほかにロシア人・ウクライナ人・グルジア人などがいる。南は山地で，高山に深い谷が刻まれ，北東部のテレク川流域の平原は黒土のステップとなっている。平原地帯では農耕地が開かれ，小麦・トウモロコシ・ヒマワリ・果樹などを栽培し，山地ではウマ・ウシ・ヒツジなどの牧畜を行なっている。鉱産物はモリブデン・タングステンが多く，その採鉱・精練がティルニアウズなどの都市に盛んである。水力発電はバリサンなどに発電所があり，木材・パルプ・食品加工などの工業も行なわれている。1825年，ロシア領となり，革命後，一時，カバルダ自治州となっていたが，バルカル人の増加からカバルドバルカル自治州となった。第2次世界大戦中，ドイツ軍の侵入を受け，1944～1957年の間は，カバルダ自治共和国となっていた。〔斎藤晨二〕

カバレフスキー [Dmitry Borisovich Kabalevskii] (1904～　) ソ連の作曲家。1925年にモスクワ音楽院に入学し，作曲をミヤスコフスキーに学んだ。1929年の作曲科卒業時にピアノ協奏曲第1番を発表して注目され，以後1933年の交響曲第3番《レクイエム》，1938年の歌劇《コラーブルニョン》でその地位を決定づけた。同じ年の児童劇《発明家と道化師》のための組曲《道化師》は最も名高く，3曲のピアノ協奏曲，バイオリン協奏曲などもよく演奏される。1939年以来モスクワ音楽院の教授。〔向坂正久〕

かひ 【痂皮】 ⇨かさぶた

かひ 【果皮】 果実の種子を包んでいる皮の部分をいい，子房壁をなしていた心皮が成熟肥大したものである。外果皮・中果皮・内果皮に区別でき，一般には，外果皮はかたく外側をおおい，中果皮・内果皮のいずれかが発達して肉質となる。内果皮が木質化することもある。ウメなどの実では，心皮の最外層が発達してふつう皮といわれる外果皮と，多肉質にふくらんでふつう果肉といわれる中果皮と，かたい殻(から)となってふつう種といわれる中に種子のある内果皮とに分けられる。

かひ 【花被】 がくと花冠の総称。ふつうがくと花冠の区別のつきにくい花(同花被花)のものをいい，単子葉類に多くみられる。おしべ・めしべの外側にあり，それらを保護する。花被が一輪のものを単花被，2輪のものを複花被といい，内側のものを内花被，外側のものを外花被という。なお，がくと花冠の区別がはっきりした花(異花被花)に用いる場合もある。

かび 【黴】 学問的な用語ではなく，一般的な通用語であるため明確な定義はないが，一般にきのこ・酵母などに対して使用され，肉眼的に毛状となる微生物をさす。このため糸状菌ともよばれる。分類学的には，大部分は真正菌類の中の藻菌(そうきん)類・子嚢菌(しのうきん)類・不完全菌類に属し，これが主体と考えられるが，このほか担子菌類や放線菌に属するものの一部，まれに変形菌類に属するものの一部まで含まれる場合がある。代表的なかびをあげると次のようである。①藻菌類：ケカビ・ヒゲカビ・クモノスカビ・ミズカビ類。②子嚢菌類：アカパンカビ。③不完全菌類：アオカビ・コウジカビ・クサイロカビ・ハイイロカビ。

生態学的には，腐生生活をするものと寄生生活をするものとがある。腐生生活をするものの分布は地球上全域にわたり，陸上・空中・水中・海中に広がっている。寄生生活を営むものの中には植物病原菌・動物病原菌がある。前者にはうどんこ病菌・すす病菌・いもち病菌・もち病菌があり，後者には黄・白癬菌(はくせんきん)類(みずむし病菌の仲間)や黒色分芽菌類などの皮膚病を起こすかび類がある。生活環からみると，無性的に繁殖をくり返しているものと無性・有性の両世代をもつものとがある。かびの体制ならびに構造は多様性に富み，他の生物のように説明できないが基本的な単位は菌糸と胞子とからなる。かびの代謝生産物は多種類知られており，特に発酵工業上必

要である。抗生物質工業ではアオカビからペニシリン・グリセオフルビンが生産され，酵素工業ではコウジカビやアオカビからアミラーゼ・プロテアーゼ・セルラーゼ・インベルターゼ・ペクチン分解酵素などが生産される。また，有機酸発酵工業ではコウジカビなどからクエン酸・グルコン酸・フマール酸・イタコン酸などが生産される。このほかビタミンの製造にも利用される。また，日本酒・みそ・しょう油・かつお節・かびチーズなどの発酵食品の製造に利用される。有害かびには直接動・植物に寄生する寄生菌のほか，食物に繁殖して毒素（マイコトキシン）を生産するものがあり，病変米かびは有名である。〔曾根田正己〕

がひ【鵞皮】⇨鳥肌（とりはだ）

がびさん【峨眉山】オメイ山 中国，四川省西部の名山。崑崙（こんろん）山系の東南端に位置し，古生層の砂岩・石灰岩などよりなる。主峰は3,035 m。五台山・九華山・普陀（ふだ）山とともに仏教の四大聖地の一つで，普賢菩薩（ぼさつ）の霊場として名高く，山中には多くの寺院がある。山頂は年じゅう雲霧におおわれ，気温が低いため夏の避暑客も多い。また風景にすぐれ，古くから詩文の題材とされている。

カピタン【甲比丹】元来は長・頭目を意味するポルトガル語。わが国では江戸時代，平戸，のち長崎出島にあったオランダ商館*の館長をさす。カピタンの多くは在任1年で，初代スペックスから幕末のクルチウスまで162代を数えた。毎年1回（1790年以降は5年ごとに1回）江戸に参府して将軍に謁見（えっけん）し，オランダ風説書*などを献上し，海外の事情を報告した。

がびちょう【画眉鳥】鳥類・ヒタキ科。ツグミ大の鳥で，全身かっ色，目のまわりは純白，くちばしと足は黄かっ色。中国から台湾に分布するが，台湾のものはホイビーという。よい声でさえずるため，中国では古くから飼鳥として愛玩（あいがん）されている。

カビール（砂漠）［Kavir］イラン高原中央部の砂漠（さばく）。周囲を山地に囲まれた直径300kmほどの盆地で，標高は500～1,500 m。降雨はほとんどなく，蒸発が激しいため，地表は塩分濃度がきわめて濃く，多くの塩湖がある。

カービンじゅう【カービン銃】もと騎兵銃として発達した小銃。陸上自衛隊が一部に採用。口径7.6mm，全長90cm，重量約3 kg，装弾15～30発，ガス利用の半自動式銃である。

かびんしょう【過敏症】一般にアレルギー反応を惹起（じゃっき）しやすい体質をいう。直接の原因となるものは，食品・薬剤・物理的刺激などである。過敏症の発見には少量の抗原を皮内注射して反応をみる皮膚試験や，貼付（ちょうふ）試験・試験的投薬法などが用いられる。➔アレルギー

カビンダ［Cabinda］アフリカ大陸南西岸ポルトガル領アンゴラの州。面積7,252 km²。人口58,000（1960）。熱帯の森林におおわれ，開発は進んでいないが，ココナッツ・カカオをつくり輸出している。19世紀前半までは，奴隷と象牙（ぞうげ）の取引地であった。住民はバンツー系の黒人カビンダ族で，アンゴラにおける民族解放運動推進の指導的役割を果たしている。

かぶ【蕪】双子葉植物・アブラナ科の一年生草本。有史前に成立した古い作物の一つで，東洋はもちろん，ヨーロッパでも古くから栽培されている。茎はきわめて短く，いわゆる根出葉は長卵形をしたものから刻みの多い形のものまで変異に富んでいる。春，とうだちして黄色の小十字花を多数つけることは他のアブラナ科のものと同じである。根は扁円（へんえん）球のものから円錐（えんすい）状のものまで変異があり，色も白から赤や紫など多様である。わが国の品種の多くは古く中国から渡来したものといわれ，関西で発達した聖護院（しょうごいん）・天王寺，北陸の寄居・大野紅，滋賀の日野菜，京都の酸茎菜（すぐきな）などが有名である。その後ヨーロッパから渡来した品種も栽培され，主として飼料用として利用されている。その他，ヨーロッパの品種と在来の品種と混雑したと思われる東京の金町小カブや長野の野沢菜がある。比較的耐寒性が強いので越冬栽培を行なうことが多く，冬季の煮食用やつけ物として利用される。〔松本正雄〕

がふ【画布】油絵を描く麻布，カンバスともいう。麻布に直接描くと布がいたむので，にかわやカゼインを布に塗り，その上に白絵具（セリーズ）を何度も塗って発色がよくなるように整えられている。布目に，荒目・中目・細目と種類があり，表現にあったものを選ぶ。またカンバスは木わくにくぎ（タックス）で張るが，人物型（F）・風景型（P）・海面型（M）など縦・横の長さの変わったサイズがあり，大きさは0号から500号ぐらいまでである。なお，カンバス生地には1m幅・1.4m幅・2.1m幅などがある。〔萩原卓也〕

がふ【楽府】中国の詩の一ジャンル。漢の武帝のとき音楽を管轄する機構をつくり，これを楽府といった。その仕事は，楽譜の制定，楽工の訓練，歌辞の捜集であった。朝廷の儀式に用いる楽章はおもに文人の作品であったが，民間に発生した音楽（俗楽という）に配合して，普通の場合に歌う歌辞は，主として各地から捜集した民歌であった。これらの楽章や歌辞を総称して楽府詩もしくは楽府といった。漢代の叙情詩を代表するのは，この民間から捜集した楽府歌辞である。その後，魏晋（ぎしん）南北朝にかけて楽曲として楽府は広く流行した。文人の新作もあり，民間でつくられたものもあるが，後者に傑作が多かった。のちには楽曲を伴わない，歌わない詩が行なわれるようになる。楽府を集めたものに，宋（そう）の郭茂倩（かくもせん）の編集した《楽府詩集》100巻がある。古代から五代までの楽府を，郊廟（こうびょう）歌辞・燕射（えんしゃ）歌辞・鼓吹曲辞・横吹曲辞・相和歌辞・清商曲辞・舞曲歌辞・琴曲歌辞・雑曲歌辞・近代曲辞・雑歌謡辞・新楽府辞の12種に分け，時代順に収めている。この分類方法は後世に踏襲された。〔今村与志雄〕

カプアス（山脈）［Kapuas］ボルネオ島西北部にある山脈。サラワクと西カリマンタンの境界に沿って東西に延び，西流するカプアス川の水源をなす。最高点は1,701m。

ガーフィールド［James Abram Garfield］（1831～1881）アメリカの政治家。第20代大統領。在任1881年3～9月。フロンティア時代のオハイオ州に育ち，ウィリアムズ大学を卒業。弁護士を経て，1859年オハイオ州上院議員に選出された。南北戦争中は州義勇軍の指揮官として活躍。1863年連邦下院議員となり，共和党指導者として頭角を現わす。1880年共和党より大統領に当選。猟官制度の弊害の除去に努めたが，他党の反感を受け，任官に失敗した男に狙撃（そげき）され，死亡。〔折井一彦〕

カフェー［café］フランス語でコーヒー店の意味。17～18世紀特にロンドンを中心に一種の社交場として栄えた。日本では1888年（明治21）東京下谷（したや）西黒門町にはじめて可否（かっぴい）茶館ができ，これがカフェーのはじまりとされる。1911年には洋画家松山省三（しょうぞう）が京橋日吉（ひよし）町にカフェー-プランタンを開き，続いてブラジルコーヒー宣伝のため，カフェー-パウリスタができた。前者には画家と文士が，後者には流行に敏感な会社員らがおもに集まり，世の関心を集めた。明治末から大正へかけてカフェーと称する店が急増するとともに，内容も喫茶店・ビヤホール・レストランなどさまざまであった。しかし，1923年（大正12）の関東大震災前後，カフェーは美人女給を置いて客を集めることでバー-ルームの色彩を濃くした。女給の白エプロン姿は当時の特徴的な一風俗である。その後昭和初期へかけては，ネオンに色どられる普遍的な歓楽場となったが，第2次世界大戦でまったく影を潜めた。戦後はかつてのカフェーがキャバレー・バー・喫茶店などに分化している。〔稲垣史生〕

カフェイン［caffeine］コーヒー豆・茶葉などに含まれるアルカロイド*の一種。白色の柔らかい結晶で，苦みがある。水にはあまりとけないが，熱湯にはよくとける。茶葉に1～5％，コーヒー豆に0.8～1.8％含まれる。茶葉からの抽出製造以外にも合成法によって生産される。中枢神経興奮剤で大脳皮質に作用して眠けを除去する作用がある。このほか心臓機能を整える強心作用，腎臓（じんぞう）の血管拡張による利尿作用などもある。大量に服用すると脈搏（みゃくはく）不整・心悸亢進（しんきこうしん）・不眠・嘔吐（お

(うと)・下痢などの副作用が現われる。➔アルカロイド 〔鈴木郁生〕

カフェテリア [cafeteria] セルフサービスのレストラン。客は陳列している各種の料理の中から自分で好みのものを備えつけの盆にとり，伝票をチェックしてもらってからテーブルに運んで食事するという形式である。時間や人件費が節約でき，安価に手軽に食事ができることが特徴である。

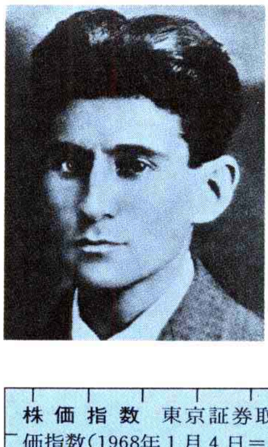
かふか【香深】 北海道北部，礼文(れぶん)島の南東海岸にある集落。行政上は宗谷(そうや)支庁礼文郡礼文町に属し，町役場がある。利尻(りしり)コンブの産地として知られ，香深港から稚内(わっかない)・利尻島との間に定期航路が通じ，利尻礼文国定公園の観光基地となる。付近は桃岩・地蔵岩などの奇岩景勝に富み，高山植物群落は天然記念物に指定されている。

カフカ [Franz Kafka] (1883〜1924) ユダヤ系のドイツの小説家。チェコスロバキアの首都プラハで生まれ，オーストリー＝ハンガリー帝国の治下，ユダヤ人商家のむすことして，支配階級の公用語ドイツ語によって教育を受けた。したがってカフカはドイツ語作家であり，欧州のドイツ語圏で作家活動を行ない，ドイツ文学史に名を連ねている。しかし，ナチスの反ユダヤ主義によって第2次世界大戦中カフカの名はドイツから抹殺(まっさつ)され，むしろ英仏訳でその作品は国際的に広まった。プラハのカレル大学法科を卒業後労働者傷害保険局に10年ほど勤め，結核を病んで辞職し，療養生活から作家生活を確立すべくベルリンに出たが，第1次世界大戦後の極度の生活難の犠牲となった。生前のカフカは個性的な短編作家として知られたが，死後親友のマックス＝ブロートが遺稿を整理して長編三部作《アメリカ》《審判*》《城*》などを次々と公表，これによってカフカの名は世界的となり，20世紀文学の開拓者のひとりといわれ，実存主義文学の先駆者とみなされるようになった。その作品は，独特の様式と主題を通して現代の人間疎外・自己不在の状況と問題性を酷薄なほど即物的に描きだし，神から疎隔された人間実存の宗教的絶望感をいやおうなしに読者の前につきつける。生前の代表作《変身*》に典型的に明らかなように，グロテスクなユーモアと恐怖と幻想の前衛的な手法が，日常的リアリズムと奇妙に重なり合っている点に，大きな特色があるといえよう。 〔山下 肇〕

かぶか【株価】 株式*が流通市場で売買取引されるときに決まる，1株あたりの値段。株価は，証券取引所における売り手と買い手の需給関係によって決まるので，刻刻に変化することが多く，その株価はすぐに公表される。この株価変動を利用して株式売買を行ない，値上がり益を期待する点に，株式投資の大きな特色がある。株価は表面的には需給関係で決定されるが，本質的には，銘柄の企業業績・資産内容などの株式の実体価値評価，企業の成長性，市場人気，仕手関係などさまざまの要因によって変動する。さらに政府・日本銀行のとる財政・金融政策，国際情勢の変化などの影響も受ける。市場全体の株価の動きをみる指標としては，株価指数*・単純平均株価*・ダウ平均株価*などが発表されている。➔証券市場 〔日東証券調査部〕

かぶかしすう【株価指数】 株式市場全体の株価動向を示す指標の一。株価の水準・変動をみるために，単純平均株価*・ダウ式平均株価*などが用いられていたが，それぞれ一長一短があり，現在，わが国では世界的に広く利用されている時価総額*方式の株価指数を，市場全体の動向を的確にとらえるという意味で採用している。東京証券取引所では1969年(昭和44)7月1日，大阪証券取引所では同年8月1日から，この株価指数を算出・発表している。株価指数の算出方法は，各銘柄ごとに，算出時の株価に上場株式数を乗じ，これを全銘柄合計したいわゆる時価総額を，基準時(1968年1月4日)の時価総額で除し，百分比で表わす。なお，権利落ち・上場変更などの場合は，連続性を維持するために，基準時の時価総額を修正する。東京証券取引所では，この株価指数の対象銘柄として，市場第1部は全上場銘柄，市場第2部は300銘柄を選定している。 〔日東証券調査部〕

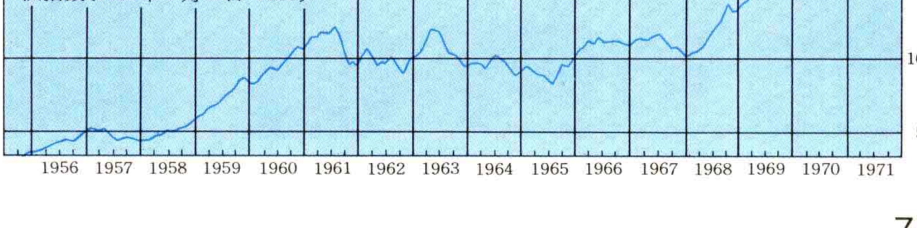
かぶかしゅうえきりつ【株価収益率】 1株あたり利益に対する株価の倍率のこと。算式は次のとおりで，単位は倍で表示される。株価収益率＝株価÷1株あたり年間税引き後利益。この数値が大きいときは，利益に比べて株価が相対的に高いことを示し，逆に数値が小さいときは，株価が相対的に安いことを示す。株価収益率は株式利回りとともに株式の投資価値を判断する尺度として用いられるが，株式利回りが1株あたり配当金を基準とするのに対し，株価収益率は配当金の源泉である1株あたり利益金を基準としているので，企業の収益力，企業の将来性を把握(はあく)するうえで株価収益率のほうがふさわしい指標とされている。株価収益率はアメリカで発達した考え方であるが，現在は世界各国で利用されており，わが国でも近年，株式投資に際して広く用いられるようになった。〔日東証券調査部〕



カフカ

カフカス(山脈) [Kavkas] ソビエト連邦南部，黒海の北東岸からカスピ海西岸にわたり，ほぼ東西に走る山脈。英語ではコーカサスという。全長1,500km，幅は最大200km。最高峰はエルブルース山*(5,630m)で，長さ10km以上に及ぶ氷河をもっている。古来アジアとヨーロッパの境とみなされてきた。山脈の北側をプリ(前)カフカス，南側をザ(裏)カフカスとよび，南北の交通はグルジア道路・オセチア道路によって通ずる。山麓(さんろく)や高地の平坦(へいたん)部は放牧地として利用されている。植物の垂直変化がはっきりしており，ブドウ・オリーブなどは標高1,500mまで，小麦などの栽培限界は2,000m，森林限界は2,500〜3,000mとなっている。鉄・マンガンなどの地下資源に富み，山麓には温泉の湧出(ゆうしゅつ)がみられ，温暖な気候とあいまって著名な保養地も多い。 〔大石堪山〕

カフカス [Kavkas] コーカサスともいわれる。ソビエト連邦南西部，黒海とカスピ海にはさまれた山岳地域。南北の境界は，ソ連では北はクマ川，南はイラン・トルコ国境としているが，歴史的にはもっと広い地域とされる。前者に基づく面積は44万km²。この地域は，古くからアジアとヨーロッパの境とされ，東西交通の要地であった。中央部を北西から南東方向に，カフカス山脈*が走り，その北はロシア連邦共和国に属するプリ(前)カフカス，南はアルメニア・グルジア・アゼルバイジャンの3共和国に属するザ(裏)カフカスに分けられる。裏カフカスは，地形・気候ともに複雑で変化に富み，小カフカス山脈をはさんでカスピ海に注ぐクラ川，黒海へ注ぐリオニ川の流域がやや広いほかは，万年雪と氷河の高山，深い峡谷，酷暑の半砂漠(さばく)，亜熱帯植物の茂る盆地などに細分される。主要な民族はそれぞれ共和国・自治共和国・自治州などを構成しているが，全域にわたってロシア人も多く住んでいる。産業は，亜熱帯性の



作物を栽培する農業と，バクー油田をはじめとする鉱産の採掘・精錬が盛んである。また急流を利用した水力発電も各地で行なわれ，裏カフカスにはソ連全土から客が集まる保養地が多数ある。19世紀初めロシア領となったが，230を数える民族間に激しい対立が続いた。現在も裏カフカス３国の競合意識は非常に強いといわれる。〔斎藤晨二〕

かぶき　【歌舞伎】　⇨78ページ

かぶきざ　【歌舞伎座】　東京都中央区東銀座にある劇場。福地桜痴*の国劇殿堂の建設という意図により，1889年(明治22)創立。1913年(大正２)から松竹株式会社の経営になった。火災・震災・空襲などで三たび焼けたが，そのつど再建され，歌舞伎劇の主要な上演劇場として伝統を守り続けた。現在の建物は1951年(昭和26)に開場。客席数約2,300。歌舞伎上演にふさわしい設備をもっている。なお，大阪市難波の大阪新歌舞伎座をはじめ各地に同名の劇場がある。〔松井俊諭〕

かぶきじゅうはちばん　【歌舞伎十八番】　歌舞伎狂言の代表作品18種に対して与えられた呼称。広義の十八番は江戸歌舞伎狂言の代表作という意味で，相当古くからいわれていた。市川団十郎*家は代々江戸歌舞伎において特殊な地位を占めていたので，この十八番の中には市川家の〈家の芸〉である荒事*の作品がいくつも混じっている。しかし，現在一般にいう〈歌舞伎十八番〉はこれとは別に，幕末の７世市川団十郎が，古い記録を調べて市川家代々に伝わるあたり狂言として荒事系の18種を選び出し，制定したものをさす。すなわち狭義の〈歌舞伎十八番〉である。1832年(天保３)に７世団十郎が《助六》を演じたとき，〈市川海老蔵(えびぞう)寿狂言十八番の内〉と銘記したのが，その最初であった。18種の内容には，一狂言として独立するものと，荒事の一パターンにすぎないものとがある。作品は次のとおり。《不破(ふわ)》《鳴神(なるかみ)》《暫(しばらく)》《不動》《嫐(うわなり)》《象引(ぞうひき)》《勧進帳》《助六》《押戻(おしもどし)》《外郎売(ういろううり)》《矢の根》《関羽》《景清(かげきよ)》《七つ面》《毛抜(けぬき)》《解脱(げだつ)》《蛇柳(じゃやなぎ)》《鎌髭(かまひげ)》。この中には現在伝承の絶えた作品もある。〔服部幸雄〕

かぶきそうし　【歌舞伎草子】　歌舞伎創始期の阿国(おくに)歌舞伎*および女歌舞伎の芸能をもとにして構成した絵物語類の称。京都大学蔵の《国女歌舞妓絵詞(えことば)》と松竹大谷図書館蔵の《かふきのさうし》はともに阿国・山三(さんざ)物語ともいうべき奈良絵本の体裁のもの。徳川黎明会(れいめいかい)蔵の《歌舞伎図鑑》は女歌舞伎の踊りと詞章で，物語性はない。



歌舞伎座

かぶきねんだいき　【歌舞伎年代記】　書名。歌舞伎の興行を記録した年表で，立川焉馬(たてかわえんば)編《花江都歌舞伎年代記》，石塚豊芥子(いしづかほうかいし)編《続歌舞伎年代記》，田村成義編《続々歌舞伎年代記》などが名高い。青々園伊原敏郎(いはらとしろう)編《歌舞伎年表》はこれらを集大成して，記事を書き加えたもの。

かぶきぶよう　【歌舞伎舞踊】　歌舞伎*の中の一場面として，または独立して演じられる舞踊および舞踊劇。江戸時代に江戸歌舞伎とともに興り，発達した舞踊で，今日日本舞踊の古典とされる多くのものがこれにあたるが，京阪(けいはん)歌舞伎の舞踊は歌舞伎舞踊といわない。新舞踊*・民俗舞踊から舞楽*・能*までを含めて日本舞踊というようになってからできたことばで，もとは歌舞伎舞踊すなわち日本舞踊という観念が強かった。〔戸部銀作〕

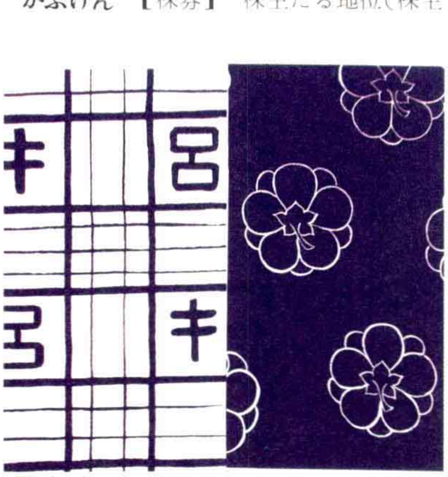
かぶきもん　【冠木門】　左右の門柱を冠木とよばれる大貫(おおぬき)で刺し通して連結した門の形式。門のとびらは両開きとし，屋根がつかない簡素な形式の門であるが，鳥居の構成に似た古風な趣がある。一般にはあまり用いず，親王家・摂家のような格式の高い家の門とされている。

かぶきもん　【歌舞伎文】　歌舞伎狂言に着用された人気役者の衣装の文様とか，その役者たちが日常好んで用いた衣装の文様をいう。《女重宝記》は，江戸時代の一般庶民が衣装や持ち物にこの文様を借りることを盛行させたとしるしている。この現象は，当時の黄表紙*・洒落本*(しゃれぼん)の流行などとともに時流に投じたものであった。３世尾上(おのえ)菊五郎が〈いがみの権太〉で着付けに用いた菊五郎格子(こうし)とか，５世松本幸四郎の扮(ふん)する幡随院長兵衛(ばんずいいんちょうべえ)が肩にかけた合羽(かっぱ)の文様から出た高麗格子とか，上方の役者の佐野川市松の市松格子などは，一般によく知られている。〔毛利　登〕

かぶけん　【株券】　株主*たる地位(株主



歌舞伎十八番　名場面を仕組んだ双六。〈御届明治17年11月〉の記載がある



歌舞伎文　(左)菊五郎格子　尾上菊五郎
(右)裏梅　中村福助

権)を表章する有価証券*。定款に定めがあれば，1枚の株券で数個の株式*を表章することができる。株券には，①株主名を記載してある記名株券と，②記載のない無記名株券とがあるが，定款に無記名株券を発行できる旨の定めがなければならない。株主には株券交付請求権があり，会社は成立後または新株の払い込み期日後，遅滞なく株券を発行しなければならないとされている(商法226条)。株券を紛失したときは，裁判所に公示催告*を申し立て，除権判決*を得なければ再発行されない(商法230条)。➔株式会社　〔松本治雄〕

かぶこうぞう【下部構造】⇨上部構造

かぶしき【株式】株式会社*が元入れ資本を調達するために発行する有価証券*をいう。資本調達の便宜上,株式会社の出資(つまり元入れ資本)は多数の均等な小単位に分割され，これに証券の形態が与えられて，その売買譲渡が保証される。この細分化された出資の単位を表わす譲渡可能な証券が株式である。観念的には，出資の単位を株式，それを表わす証券を株券とよび，両者は区別されるが，実際には混同して使われることが多い。発行された株式は証券市場で売買され転々として流通するが，一方その発行を通して吸収された資本は自己資本として，株式の所有者の変動にかかわりなく，会社が存続するかぎり，その内部において運用され，利潤を生み出す元本として働くことになる。このように株式は出資証券であるので，所有者は株式会社の構成員としての地位およびこの地位に含まれる一定の権利・義務を有する。この権利・義務のことを株主権という。まず株主の権利には，利益配当請求権，会社解散の場合の残余財産分配請求権など，株主個人の財産的利益のために認められた自益権と，株主総会における議決権をはじめ株主総会招集権・会計帳簿閲覧権など，会社の経営に参加する権利を表わす共益権とがある。一方,株主は引き受けた株式に対する出資義務を負うだけで，それ以上の責任は負わない。これを株主の有限責任という。各株式はこのように会社に対して同一の権利・義務を有し，そのかぎりで同一の取り扱いを受けるのがたてまえである。このことを株主の側から表現して株主平等の原則という。

【種類】資本の調達を円滑に行なうためにわが国の商法は次のような種類の株式を認めている。①額面株・無額面株：株券面に額面金額が記載されているものを額面株，そうでないものを無額面株という。額面株の額面金額は均一であり,現商法では500円を下回ることはできない。額面株はこの額面以下で発行することが禁止されているので，株式の市価がこれを割ったときには，発行が困難となる。そのような場合には無額面株が利用される。無額面株には発行価額にそのような制限がなく，市価で発行できるからである。しかし，わが国ではあまり利用されていない。なお，両者は株式としての権利内容の点ではなんら異なるところがない。②優先株・後配株：利益または利息の配当，残余財産の分配について優先的な取り扱いを受けるものを優先株，劣後的な取り扱いを受けるものを後配株という。これらに対して標準的な取り扱いを受けるものが普通株である。このうち，特に利益の配当に関する優先株は，一定率の優先配当を受けるほかに，さらに利益のある場合に普通株とともにその残余利益の分配に預かるかどうかによって，参加的優先株と非参加的優先株とに分かれ，また特定年度の配当が一定率に達しないときに次年度以後の利益からその不足分の配当を受けるかどうかによって，累積的優先株と非累積的優先株とに分かれる。③無議決権株：議決権をもたない株式のこと。株式には原則として1株につき1個の議決権が与えられるが，特に利益配当に関する優先株に限り，議決権のないものとすることが認められている。これは議決権を行使し，会社の経営に参加するよりは配当面で有利なほうを望む投資家の要求に応じたものである。ただし，その数は発行済み株式総数の4分の1以内に限られる。④転換株：数種の株式を発行する場合に，他の種類の株式に転換する権利を与えられた株式のこと。優先株から普通株への転換を認められるのが普通である。そのため株主は自己の選択によって有利な株式に転換することができるので，株式の募集が容易になる。⑤償還株：発行当初から利益をもって償却することが予定されている株式のこと。これは特に一時的な資金を自己資本の形で集める場合に便利である。

これらのうち特に②以下のものは株式としての権利内容をことにするもので，もっぱら資本調達の便宜のために株主平等の原則として認められた特殊な株式である。なお，もともと株式は自己資本を調達するために発行される出資証券であり，他人資本を調達するために発行される債務証券としての社債とは特に報酬(配当または利子)の確定性，議決権の有無，償還の有無，元本の保証などの点で本質的に異なるが，このように利益配当に関する参加的優先株や累積的優先株・無議決権株・償還株などの形態の株式が現われるにつれて，しだいに社債に接近してきている点が注目される。

【発行】設立の際には，定款に定められた発行予定株式総数のうち4分の1以上が発行される。その際，発行される株式の全部を発起人が引き受ける方法(発起設立)と，一部を発起人が引き受け，その残りを公募する方法(募集設立)とがある。後者には，さらに発起人が自己の責任において募集する直接発行と，証券業者の仲介によって募集する間接発行との二つの方法があるが，一般には間接発行が利用される。会社の設立後，経営規模の拡大その他の理由のために新たな資本が必要になったときには，未発行の株式が取締役会の決議に従って発行される。これを新株(増資株)の発行という。その発行の方法は設立時の発行とほとんど同じである。このようにあらかじめ定款*に会社が将来にわたって発行する株式の総数(授権資本)を定めておき，設立の際にその一部を発行し，残りの株式の発行を取締役会に一任する制度を授権資本制度という。これによって資本調達に機動性が与えられることになる。なお，このほか，①準備金および積立金の資本組み入れ，②株式配当*，③株式の分割，④株式の併合，⑤転換株式および転換社債*の転換，⑥企業合併などの場合にも，新株が発行される。➔株式会社　〔森川八洲男〕

かぶしきがいしゃ【株式会社】株式*の形による一定額の出資をした株主*で構成される会社の一種。株式は，出資価額の限度で会社に対してのみ責任を負い，会社債権者に対しては，なんら直接の責任を負わない。つまり，会社の財産のみが会社債権者の担保となるところから物的会社とよばれる。株式の地位は，株式という形で均一に分割された割合的単位(発行済み株式何株のうちのいくつといったように)の形をとっている。

【沿革】株式会社の起源は1602年に設立されたオランダの東インド会社*に求めることができるが,これが近代的な装いのもとに一般に普及しはじめたのは19世紀にはいってからである。つまり，産業革命*を経過し産業資本主義が急速に発展する中で，大規模工業経営が出現し，もはや個人の資力では膨大な資本需要を満たすことができなくなり，広く資本を集中する社会的機構としての株式会社が普及するに至ったのである。なお，わが国においては明治の初めに欧米から輸入されたが，法制化されたのは1893年(明治26)から実施された旧商法においてである。

【特徴】①証券制度：株式会社においては，広く社会のすみずみから多額の資本を集中することができるように資本が多数の均等な小単位に分割され，これに株式という証券の形態が付与され，その譲渡が自由に行なわれるしくみがとられている。このしくみを資本の証券化または証券制度という。もともと，個々の投資家はその投下資本が長期間固定化されることを好まず，必要なときに自由にそれが回収できる状態にあることを望んでいる。一方，企業は多額の資本を各種の固定設備*に投下しなければならないために，長期にわたって利用できる資本を大量に必要とする。このような投資家の側における資本の回収要求と企業の側における資本の固定化要求との矛盾を解決しようとする企てが証券制度である。株式会社はこのしくみの上に立って広く社会から

➔86ページ

歌舞伎

日本の代表的古典演劇の一。俳優の舞踊的演技と音楽的せりふとが，伴奏音楽によって進行し，舞台に絵画美・彫刻美を現出させる総合芸術。17世紀初頭に起こり，能*・狂言*などの先行芸能，人形浄瑠璃*(じょうるり)・見せ物などの並行芸能を取り入れて独自の様式を創造した。江戸時代には，江戸・京・大阪の3都の市民を中心に広く庶民の愛好を受けて発展し，明治以降も長く日本演劇の主流を占めてきた。

歌舞伎ということばは，〈傾(かぶ)く〉という動詞が名詞になったものである。〈かぶく〉とは，〈均衡を失う〉〈放埓(ほうらつ)に流れる〉〈奇をてらう〉などを意味する俗語で，初期の歌舞伎の実態を示している。〈歌舞伎〉はこれに漢字をあてたものである。

17世紀初頭の成立期から現代に至るおよそ3世紀半の間には，演目・演技・演出などあらゆる面に変遷があり，今後なお流動は続くと考えられる。そのことは，近代以後にあっても，新歌舞伎*・現代歌舞伎あるいは東宝歌舞伎・東映歌舞伎などといった語が生み出されたことによってもわかる。歌舞伎が国民の支持を受け，興行として成立する条件のある限り，〈かぶく〉本質を失うことはないだろう。そうしたこの芸能の性質からして，〈歌舞伎〉とはなにかを規定することはまことにむずかしい。1965年(昭和40)に，国家が歌舞伎を重要無形文化財の一つとして指定するにあたり，いくつかの要件を備えているものをオーソドックスな古典歌舞伎と認めて，他と区別する基準とした。次にこれを掲げてみよう。

①演者：演目の重要な構成人物の大部分が，社団法人伝統歌舞伎保存会の会員によって演ぜられるものであること。②演目：伝統的な演目およびこれに準ずるものを上演すること。③演技・演出：伝統的な演技・演出を基調とすること。㋑様式的な演技・せりふによること。㋺女方によって演ぜられること。㋩下座*・床(チョボ*)・長唄*(ながうた)または各流の浄瑠璃*などを使用すること。㊁拍子木・ツケ*の使用は定式によること。㋭定式的扮装(ふんそう)(衣装・かつら・化粧)によること。㋬定式的大道具・小道具を使用すること。㋣原則として定式的舞台機構を使用すること。

以上の要件にみられる〈定式的〉というのは，江戸時代から現代まで引き続いて行なわれ，歌舞伎の標準的な様式として承認されているものをさしている。また，伝統歌舞伎保存会の会員とは，歌舞伎の舞台歴が20年以上に及び，優秀な演技力をもつと認められた者で，現在約90名。

〔歴史〕歌舞伎の創始者は，出雲(いずも)(島根県)の巫女(みこ)であった阿国(お国)という女性とされる。慶長年間(1596～1614)京都に上り四条大橋の東詰めで〈ややこ踊り〉を演じ，のちに北野神社の東に舞台をつくり〈念仏踊り〉に歌を加えた踊りを見せた。また阿国は男装してまちの歌舞伎者に扮し，流行の風俗を取り入れたダンディーな扮装に佩刀(はいとう)して，茶屋女に扮した男性(狂言師)と好色的な所作を演じた。これを〈かぶき踊り〉と称した。この〈阿国歌舞伎〉は，平和の到来とともに刺激的な娯楽を求めていた当時のあらゆる層の人々の熱狂的な支持を受け，各地に〈女歌舞伎〉の劇団が続出することになり，〈佐渡島歌舞伎〉など，遊女の張り見世ショーとして演ずるものも生まれた。しかし，これら女優劇団は，風俗を乱すとの理由から1629年(寛永6)幕府によって禁止され，それに代わって美少年を主演者とする〈若衆歌舞伎〉が行なわれたが，これも女色に代わって男色(衆道)が盛行し，けんかや刃傷(にんじょう)事件が続出したとの理由によって禁止された。1652年(承応1)のことである。こうして，若衆の美しさを象徴する前髪をそり落として野郎頭とし，扇情的な舞いや踊りをやめて〈物真似(ものまね)狂言づくし〉すなわち写実的な演劇だけを演ずるという条件で再開が許された。しかしこの〈野郎歌舞伎〉の時代になっても，容色本位の時代はなおしばらく続き，野郎頭を色染めの布で隠したりした。これがかつらの発達を促すとともに女方芸術確立への道につながる。

元禄(げんろく)期(1688～1703)にはいると，劇場の数もふえ，同時に俳優も観客も非常に多くなった。上方の坂田藤十郎*・芳沢(よしざわ)あやめ*・水木辰之助(たつのすけ)ら，江戸の初世市川団十郎*・中村七三郎・中村伝九郎・荻野沢之丞(おぎのさわのじょう)らの名優が東西に輩出して，それまでの容色本位の芸は技芸本位の芸に切り替えられた。歌舞伎が演劇として第1次の完成期を迎えたのである。坂田藤十郎を中心とする上方の和事*の写実芸，市川団十郎による江戸の荒事*は，それぞれの土地がらを反映してまことに対照的な演技様式を生み出した。なかでも，芳沢あやめによる女方芸術の確立は特記すべき意義をもった。狂言作者の独立，役がらの整備，〈事〉とよぶ各種の演技パターンのおおよその整備，役者の技芸批評(役者評判記*)の登場など，歌舞伎の基礎となることがらは，ほとんど元禄歌舞伎の中で行なわれた。

享保(きょうほう)～宝暦期(1716～1763)は並行芸能である人形浄瑠璃の全盛期で，各作者が続々と登場し，現在まで古典として残った名作の数々が次々と創作された。歌舞伎のほうはこれといった名作者が出ず，むしろ人形浄瑠璃として創作された作品を争って歌舞伎化することが流行した。いわゆる〈義太夫(ぎだゆう)狂言〉である。義太夫狂言は〈丸本物〉〈丸本歌舞伎〉〈でんでん物〉などともよばれ，《仮名手本忠臣蔵*》《菅原伝授手習鑑*(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《義経(よしつね)千





(左)《阿国歌舞伎図屏風》(部分)　能の舞台を踏襲した破風屋根のある舞台で，お国は〈異風なる男〉のまねをして観客を狂喜させた。出光美術館蔵
(右)変化舞踊の名手水木辰之助　そり落とした前髪のあとを隠す野郎帽子が初期の歌舞伎をしのばせる。役者評判記《役者姿記評林》(1700年刊)から

木桜》をはじめとして，この期にほとんどの名作が生み出されている。当然演技術や演出の上にも人形浄瑠璃の影響は大きく作用し，純粋なせりふ劇の中に様式的・音楽劇的な要素を持ち込んで質的な変化を示した時期である。また，この時期は女方による長唄舞踊が盛行した。享保期の初世瀬川菊之丞，宝暦期の初世中村富十郎はその代表者である。歌舞伎が，都市的な洗練の中で，より美しく，より音楽的な方向にと転回を示した時期であった。

また宝暦期には，人形浄瑠璃の作劇法や舞台技巧を摂取して，歌舞伎独自の作劇の中にそれを生かそうとする作者として，上方に初世並木正三(しょうぞう)が出ている。人形浄瑠璃の摂取が義太夫狂言という形での直輸入ではなく，歌舞伎の血となり肉となって新しい創造のエネルギーとなりはじめたといってよかろう。



鳥居清長《出語り図》 1784 中村宗十郎の治兵衛と岩井半四郎の小春

すでに元禄のころから上方の文化は江戸に下っていたが，江戸では享保ごろから上方文化を吸収した新しい江戸文化が形成されはじめていた。享保の末に江戸に下った宮古路豊後掾(ぶんごのじょう)の広めた豊後節が江戸人の間でもてはやされ，やがて天明期(1781～1788)には常磐津節(ときわずぶし)・富本節(とみもとぶし)の大流行をみるに至る。十八大通(蔵前の札差(ふださし)大口屋暁雨・大和屋文魚ら富裕な町人であった18人の代表的通人)に象徴される，はなやかでおっとりとした生活，〈いき〉と〈しゃれ〉を重んずる天明文化は，初世桜田治助の作品にみられるように，それにふさわしいはなやかでしゃれた歌舞伎を創造した。そして，前期に盛んだった長唄舞踊よりも，豊後節系の浄瑠璃を地として使った舞踊劇が盛んに行なわれた。それと結びついて女方以外の役がらの舞踊が自由に行なわれるようになった。初世中村仲蔵によって創演された《関の扉(と)》《戻駕(もどりかご)》は，〈天明ぶり〉〈仲蔵ぶり〉の名とともに古風を現代に伝えている。

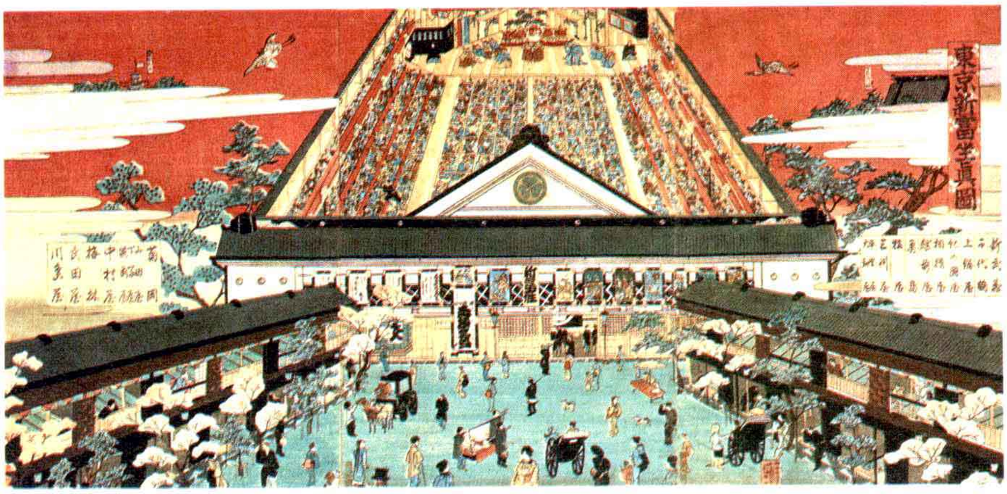
寛政期(1789～1801)に，上方の作者初世並木五瓶(ごへい)が3世沢村宗十郎とともに江戸に下るのを契機として，上方の歌舞伎は急激に衰え，以後はもっぱら江戸歌舞伎が主流となる。19世紀にはいり，文化・文政期(1804～1829)から幕末に近づくにしたがって，退廃的傾向は歌舞伎の作劇の上にも，演技・演出の面にも強く現われる。残忍な殺し場や濃艶(のうえん)なぬれ場がもてはやされる一方，〈けれん〉とよばれる〈早替わり〉や〈宙乗り〉など見せ物的要素の濃いアクロバチックな演出もてはやされた。同時に，初世並木五瓶によって持ち込まれた合理的・写実的な作風も作劇と演技・演出の両面に大きな影響を与え，4世鶴屋(つるや)南北による生世話物の作劇のうちに生かされている。もっとも，南北は必ずしも上方ふうの合理主義的作風によるものではなく，全体としては江戸歌舞伎の伝統的な作劇法である〈ないまぜ〉の構想をとった。名作《東海道四谷怪談》にみられるように，幽霊の出現など非現実的な筋を組んで大道具の大仕掛けやからくりを駆使しながら，しかもなお現実の最低階層に属する人々の日常生活をきわめて写実的に描き出した。そして，奇想天外な着想によって鋭く現実の人間の苦悩や非情を描き出すことに成功した南北は確かに鬼才であったが，同時に彼の作品を演じた幾多の名優の存在を逸するわけにはいかない。初世尾上(おのえ)松助・3世尾上菊五郎・5世松本幸四郎・7世市川団十郎・5世岩井半四郎・3世坂東(ばんどう)三津五郎らの名優たちである。この時代には1人1役がらという原則がくずれ，あらゆる役がらを自由にこなすことのできる俳優が名優として賛仰される傾向が強くなった。それが早替わりを自由にさせ，また変化物を大流行させることにもなったのである。観客はスリルとスピードとサスペンスとを歌舞伎に期待するようになっていた。

幕末期を代表するのは上方出身の俳優4世市川小団次と，作者の河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)である。小団次は生世話物を大成させた重要な存在でもある。白浪(しらなみ)作者を自他ともに認めた河竹黙阿弥の世話物は，ほとんどこの市川小団次によって初演され，この系統は明治期の5世尾上菊五郎に受け継がれる。

1841年(天保12)，天保の改革によって江戸の劇場(→江戸三座)はすべて浅草猿若(さるわか)町へ移転を命じられた。戯曲・演出に関しても，なるべく人情に通じないようにせよという布告が出され，生世話物の名優市川小団次には致命的な打撃を与えた。歌舞伎に対する圧力はきびしく，これが結局衰微の要因につながった。

明治になって，興行師の12世守田勘弥(もりたかんや)は劇場の市中への進出を企て，1872年(明治5)に守田座(旧名森田座)の新富町移転を実現させた。また9世市川団十郎を中心として，政界・財界・学界の有力者をバックにする演劇改良会の推進者ともなった。歌舞伎を明治新政府の国策であった欧化改良主義の路線に添って近代化しようとした9世団十郎は，史実の考証を厳にした作劇および演出による〈活歴物〉の様式を創始した。そして，〈腹芸〉とよぶ表現技術を歌舞伎演技の中に生み出した。これは，いわゆる近代歌舞伎の演技法に多大の影響を与えている。

近代の歌舞伎は，新時代の風俗を背景として当代の人間を登場させた〈ざんぎり物〉とよぶジャンルを生み，また歌舞伎様式を



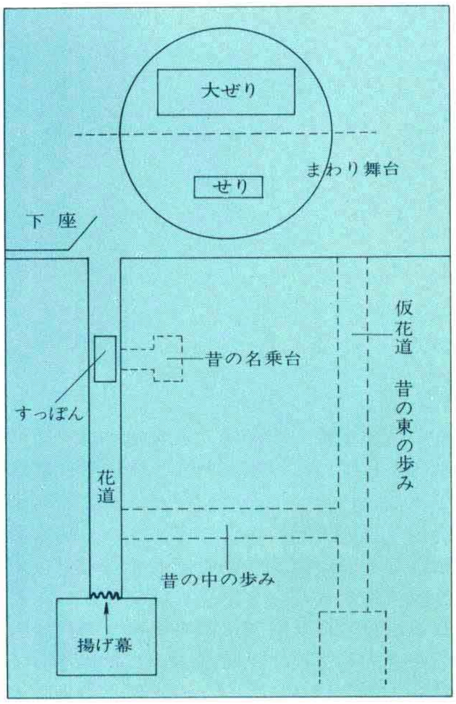
《新富座真図》 守田座を改称して市中に進出した新富座は，一部にいす席を設け，防火建築とするなど劇場構造に一大改革を加えた。1884年発行の錦絵　早稲田大学演劇博物館蔵

そのままに使いながら，その中に近代的な文芸思潮を盛り込もうと意図した新歌舞伎の様式をつくり出した。現代に創作される新作歌舞伎は，その延長線上に位置づけられよう。

　歌舞伎は現在，いちおう興行としてなりたっているけれども，演技・演出の変化は避けがたく，後継者の不足も深刻な問題となりつつある。いま歌舞伎は，古典演劇として確固たる位置を定めるために，保存と振興が必要なときとなった。その使命が，1966年(昭和41)11月に開場した国立劇場に与えられたのである。

【演技・演出】本来，歌舞伎には専門の演出家はなく，座頭(ざがしら)または主演俳優によって演出されてきた。舞踊だけを演出する振り付け師や立ち回り専門に演出するタテ師ができたのは，江戸時代中期以降のことである。

〈演技の形式〉元禄期の初世市川団十郎は，剛勇無双の人物を演じて荒事を創案し，江戸歌舞伎独特の演出として代々の団十郎に継承され，〈歌舞伎十八番〉を生み出した。これに対して上方では，初世坂田藤十郎が傾城買(けいせいかい)狂言を得意とし，優美な男が遊女と戯れる演技を見せたが，この演出は和事とよばれ，荒事と対照される。また，分別のある人物が理性的な演技を見せるのを実事とよんだ。2世団十郎は初世の荒事に和事を加味して《助六》を演出し，初世沢村宗十郎は和事と実事を融合させて《梅の由兵衛(よしべえ)》の演技を創造するなど，古名優の模範的演技が後代に型として継承され，演出の基準となった。これらの型は，写実的演技に出発したものも修飾誇張されてしだいに様式化された。たとえば歌舞伎の立ち回りは闘争を表わす演技であるのに，はなはだ緩慢で，殺伐味がほとんどない。所作立(しょさだて)といって，にぎやかな鳴り物入りで舞踊化された立ち回りもある。主役が演技のうちに，あるポーズをとって一時静止するのを見得という。これは，歌舞伎の絵画美・彫刻美を印象づけるのに効果的な様式で，幕切れに各役がそれぞれのポーズで活(いき)人形のように静止する画面の見得，《勧進帳》で弁慶が不動明王の形を見せる不動見得，右手を上げた石投げの見得など，種類は多い。だんまりは，暗やみの中で数人が無言で探り合いを見せるものだが，立ち回りと見得がふんだんに織り込まれている点，まさに様式劇の見本といえる。その他，花道の引き込みなどで，歩くさまを誇張して演じる〈六方〉，人形の動きをまねて演じる〈人形振り〉など，いずれも歌舞伎独特の様式的な技法である。



歌舞伎の舞台

〈演出の局面〉演出面での重要な見せ場に殺し場・責め場・ぬれ場・愁嘆場・ゆすり場などの名称がある。いずれも一場の中の眼目となる部分を強調した語で，歌舞伎の魅力の要素になっている。原則としてどの場合も，伴奏音楽と絵画的な動きによって芸術的なふんい気を盛り上げているので，俗悪さはみられないのが特徴であろう。

〈せりふ〉一般の演劇でも，せりふの形式は，相手に対する対白と，ひとりごとである独白とに分けられるが，歌舞伎には特殊なものが多く，〈渡りぜりふ〉などがあり，総じて音楽的な抑揚と様式的な言い回しを特色とする。時代物のせりふが特に調子を張り上げるのに対し，世話物は概して日常の会話ふうだが，時代物でも〈世話に砕ける〉，世話物でも〈時代に言う〉といった変化はみられ，〈捨てぜりふ〉といって脚本にないことばをアドリブ式に挿入(そうにゅう)する場合もある。河竹黙阿弥の世話物には，〈厄(やく)払い〉と称して，節分の厄払いの言い立てに似た七五調のリズミカルなせりふを，耽美(たんび)的に言う手法も数多くつくられている。

【音楽・効果】〈下座〉歌舞伎に使われる音楽は，様式的な演出をさらに効果的にする重要不可欠な存在である。舞台下手の黒御簾(みす)の中で演奏するのを陰囃子(かげばやし)または下座といい，幕の開閉や人物の出入り，会話・動作の進行に応じて，その情景にふさわしいふんい気を描き出し，演者の動きやせりふの伴奏となる。下座は長唄の三味線と囃子によって構成され，囃子は能管・小鼓・大鼓・太鼓・大太鼓・大拍子・篠笛(しのぶえ)を中心とする数十種の楽器を操作する。曲目の数はおびただしく，演奏者のうち主たる者が付け師となって，演目ごとに付け帳をつくり，編曲選択を行なう。

〈床・所作音楽〉義太夫節を伴奏とする場合は〈チョボ〉とよばれ，上手(観客席から見て舞台の右手に設けられた床または，その2階の御簾内で演奏する。その他，舞踊劇に使われる所作音楽も，演奏者が観客に姿を見せて演奏するもので，常磐津は下手，





せり上げ　弁天小僧がその上で壮烈な立ち腹を切った極楽寺山門の大屋根ががんどう返しになったのち(左)，桜花の中をゆっくりと楼門が現われる(中)。高欄を巡らした2階の部分がせり上がると，日本駄右衛門が控えている(右)。楼門がすっかりせり上がると同時に，前方のせりから青砥左衛門が家来を従えて現われる。《青砥稿花紅彩画》の〈極楽寺山門上〉の場

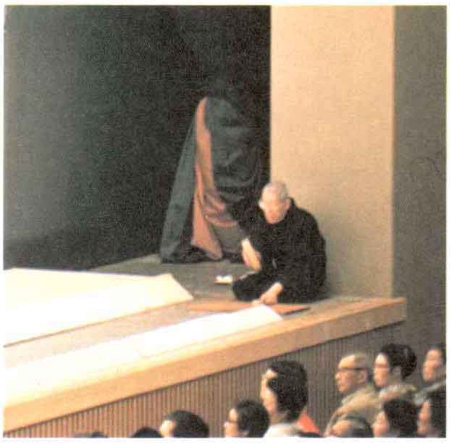
〔音楽・効果〕



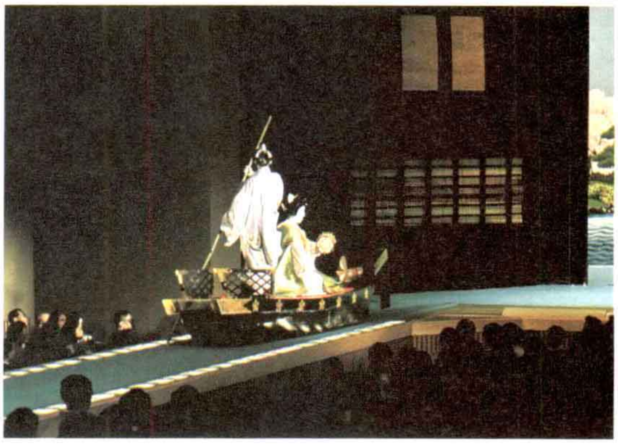
(左)出囃子　舞踊劇の伴奏を行なう長唄は，舞台中央に設けられた雛段で演奏される。《勧進帳》の長唄囃子



チョボ　丸本歌舞伎では，舞台上手の床で義太夫節を語り，劇の展開を促す。《国姓爺合戦》の出語り



ツケ打ち　立ち回りや見得のときなど，舞台袖から俳優の動きに合わせて〈バタッバタッ〉と激しく板を打ちつける




下　座　黒御簾の内と外。黒い板囲いに細い窓を切り，簾を下げて中が見えないようにしてある一郭が下座，黒御簾ともいう。劇のふんい気を盛り上げる背景音楽や効果音はここで演奏される

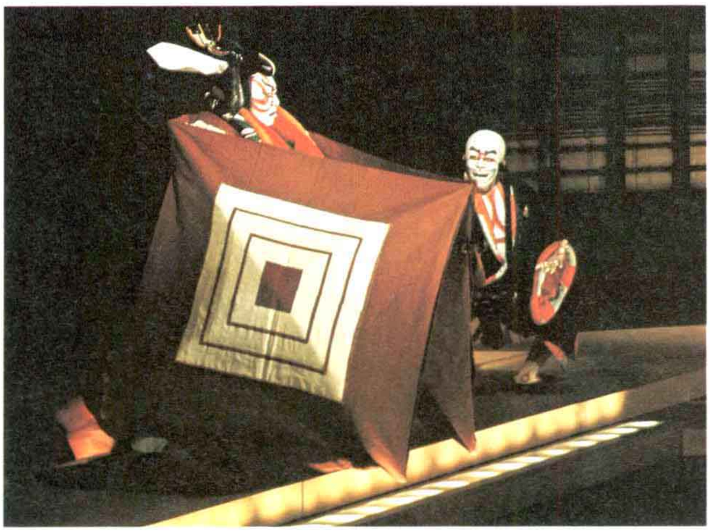
長唄囃子は正面，清元は上手に台を設けて座すのがほぼ原則になっている。

〈木・ツケ〉開幕・閉幕を知らせる拍子木は，略して〈木〉という。主として楽屋中に諸種の合い図のために打つものだが，劇の進行中，道具替わりのきっかけとして打つこともあり，開幕・閉幕の場合は下座音楽とからみあって演出上の大きな役割を果たす。したがって，打ち方にもいろいろな技法がある。また，これとは別に，純粋に音楽的効果を添えるものに，拍子木で1枚板をたたく〈ツケ〉がある。立ち回りや見得のきまりきまりを強調するほか，駆け出すときや首を打ち落とすときなどには擬音的な効果もあげる。上方では〈かげ〉とよぶ。なお，江戸では，木を打つのは狂言方，ツケを打つのは大道具方の受け持ちだが，上方ではいずれも狂言方が担当してきた。

〔扮装〕まず顔をつくる化粧は，それぞれの役がらに応じておしろいや砥粉(とのこ)を塗ってから，紅・墨で口を割り，油墨でまゆ毛を引く。歌舞伎独特の化粧法として，初世団十郎が創始したと伝えられる隈取*(くまどり)は，赤・青・墨などの色彩で顔面をいろどり豪壮または幻怪味を強調する化粧で，主として荒事の役に用いられている。次に衣装の着付けになるが，伝統的な演目では，色彩も模様も類型的なものが使われることが多い。最後にかつら*をつけるが，これも伝統的演目の役では，ほぼ一定している。いずれも，長年月にわたる名優のくふうにより，舞台全体の構図と色彩美の上から，よく配慮されているのが特色である。

〔舞台機構〕歌舞伎の定式的舞台機構とは，本舞台とほぼ直角をなす花道*，回り舞台*，せり*などの機構をもつものをいう。花道の発生年代は明らかでないが，享保ごろにはすでに花道の演技が行なわれていたことは確かで，やがて演技の出発点たる〈出端(では)〉と，終結点である〈引込み〉の演出が洗練され，随時舞台の延長として使用されるようになった。また，舞台上手に花道と並行して設けられた〈東の歩み〉がのちには仮花道とよばれ，両者をつなぐ通路〈中の歩み〉をも用い，俳優が客席を一周する演出も考案され，観客の舞台への親近感はいっそう強まっている。回り舞台は，1758年大阪の狂言作者並木正三が，同時に起こる2場面の経過を幕によって中断することなく見せるために考案したという。この機構は，まもなく江戸にも定着して多彩な演出効果をあげるようになり，1847年(弘化4)には大小二つの同心円の回り舞台を内外二重に回す〈蛇(じゃ)の目回し〉の機構が考案されて

〔歌舞伎の役がら〕



荒事師と道化方 《暫》の熊井太郎(尾上松緑)と稲毛入道(片岡芦燕)



和事師 《廓文章》の伊左衛門(片岡仁左衛門)



実事師 《近江源氏先陣館》の盛綱(市村羽左衛門)



実悪 《祇園祭礼信仰記》の大膳(実川延若)



傾城 《助六》の揚巻(尾上梅幸)



女房 《義経腰越状》の関女(中村歌右衛門)



姫 《本朝廿四孝》の八重垣姫(中村芝翫)

歌舞伎の用語

板付 幕があいたとき，または回り舞台が回ってきたとき，舞台上に人物がいること。〈板〉とは舞台のこと。

打ち出し 1日の芝居が全部終了すること。最後の幕がしまると，すぐ下座で閉場を知らせる大太鼓を打ち出すので，この名が起こった。

大向こう 客席の最後方にある大衆席。またはその席の観客。現代では3階席や立ち見席がこれにあたる。芝居を愛する客が多く，舞台に対する反応も大きい。転じて一般大衆の意味にも使う。

思い入れ 俳優が舞台で，せりふを言わずにその場における役の気持ちを見せる演技。

書き割り 大道具のうち立体的な作り物ではなく，家屋・風景などの絵を遠近法によって描いた張り物。数枚の張り物に割ってかくため，この名ができた。

かぶりつき 最前列の客席。語源は，舞台にかぶりつくようにして見るからという説のほか，昔ここに舞台で使う水・どろなどを観客がよける〈かぶりもの〉がついていたからという説もある。

上手・下手 客席から舞台に向かって右手を上手，左側を下手という。なお，昔の劇場は南向きが原則だったので，現在も実際の方角に関係なく，右側を東，左側を西とよぶ習慣が残っている。

搦(から)み とり手・軍兵・奴(やっこ)などに扮した端役(はやく)が，主役に切られたり，投げられたり，翻弄(ほんろう)される姿を演じ，主役の強さを引き立てる演出。また，その端役のこと。

黒御簾 下座音楽を演奏する場所。舞台下手の一部を黒板で囲い，中に黒い御簾を掛けてある。下座の俗称にもなっている。

けれん 観客の意表をつくことを目的とする見せ物的演出。極端な早替わり・宙乗りや本水(ほんものの水)使用などがその例。

後見 舞台の演技者の陰で，衣装の着替えを手伝い，小道具の受け渡しをする演技補助者。黒衣(くろご)とよぶ黒い着物を着る場合と，紋付き袴(はかま)・裃(かみしも)などを着る場合がある。

こけら落とし 劇場の新築開場興行のこと。昔の劇場は，屋根をこけら(材木を薄くはいだもの)でふき，完成のとき不用の板くずをはき落としたことから，この名が生まれた。

殺し場 舞台における殺人の情景。また，これを中心とする場面。歌舞伎では，たいてい下座音楽を効果的に使い，絵画美を見せる。

仕出し 通行人や群集など，最も軽い役，またそれに扮する俳優のこと。無言またはわずかなせりふと軽い動作だけの演技で，場景描写や登場人物紹介などの役目を果たす。

愁嘆場 親子・夫婦・主従の生別・死別などで登場人物が悲しみ，観客も同情して泣くようにつくられた場面。

所作舞台 所作事(舞踊劇)または様式的な時代物などで，足拍子の音を効果的にするため，舞台に敷きつめるひのき製の板。所作板・置き舞台・敷き舞台ともいう。

すっぽん 〈せり〉のため舞台を切った〈切り穴〉のうち，花道の七三(揚げ幕・舞台への距離が7：3の比率にある位置)にあるもの。語源未詳。忍術使いや妖精(ようせい)などの出没に多く使う。

責め場 登場人物をいろいろ残酷な方法で責め，観客の官能を刺激する演出，またはその場面。

立女方(たておやま) 一座の最高位にある女方俳優。現在では中村歌右衛門・尾上梅幸など。〈たて〉とは首席の意味で，ほかにも立唄・立三味線・立作者などの語がある。

ツケ 見得をはじめとする俳優の演技を印象づけるため，または立ち回り・駆け足・打撃などの音を誇張して表わすため，演技に合わせて拍子木で板を打つこと。打つ人をツケ打ちという。

つんぼさじき 劇場が全部すわる席だった時代に2階の最後方にあった席。せりふが聞こえにくかったための名。日常語でも，事物をまったく知らされないでいることを〈つんぼさじきに置かれる〉という。

トンボ とんぼ返りの略称。舞台で投げられたり，切られたりする役が宙返りして倒れること。主役を引き立てる搦みの役が多く行なう。歌舞伎のタテでは最もたいせつな技巧。

中幕 演目の並べ方で，一番目(時代物)と二番目(世話物)の間に置かれる一幕物。舞踊劇または義太夫狂言の時代物が多い。

奈落(ならく) 舞台と花道の床下のこと。〈せり〉〈回り舞台〉などの機構があり，楽屋から花道へ通ずる通路でもある。昔の劇場の地下道は陰惨だったため，この名が生まれた。

二重 舞台に台を置いて一段と高くしたもの。大道具の重要な部品で，家や土手などに使われる。高さによって，常足・中足・高足などの種類がある。

ぬれ場 男女の愛欲描写を中心とする場面。ラブ-シーンにあたる〈色模様〉より，さらに濃厚な動作で観客の官能を刺激する。

俳名 俳優の雅号。本来は俳句をつくるときの名で，初世市川団十郎が才牛と称したのがはじまりという。その後，別に俳句をやらなくても，俳名をつけるのが習慣になった。

はね 1日の興行が終わること。昔の劇場で終演すると外囲いのむしろを上にはね上げたことから，起こった名称といわれる。〈打ち出し〉と同じ。動詞は〈はねる〉。

引き抜き 舞台で瞬間的に衣装を替える手法。次の衣装を下へ着込み，その上に最初の衣装をかぶせて糸で留め，糸を引き抜いて上の衣装を手早く取る。

吹き替え 〈早替わり〉などでひとりの俳優が2役を演じて同時に登場する必要のあるとき，観客の目をごまかすため，同じ扮装をし登場する身代わりの俳優。

屋号 歌舞伎俳優の各人がもつ，何々屋という家名。俳優の愛称として，ひいきが声援するときの掛け声に使う。

山台 舞台で長唄・常磐津節・清元節などの音楽演奏者が乗る台。舞踊劇に多く使用。背景に合わせて台の前面に山や土手の絵を書くためこの名がある。

ゆすり場 主役の悪党がだれかに因縁をつけ，金品をねだる筋を中心とした場面。ゆする人物の音楽的なせりふと退廃的なムードが見どころ。

いる。〈せり上げ〉〈せり下げ〉は，舞台各所の切り穴や花道の〈すっぽん〉から俳優を出没させる仕掛けで，回り舞台とともに大道具(舞台装置)を制作する大道具方の担当になっている。大道具全部を昇降させる大がかりな〈大ぜり〉は，人形浄瑠璃で始められて歌舞伎に移入されたものである。ほかに，大道具を立体的に回転させる〈がんどう返し〉(大阪では〈箱天神〉)をはじめ，歌舞伎の場面転換には独特の創意が多い。

大道具方は諸種の幕も取り扱う。引き幕・緞帳(どんちょう)・定式幕(→幕)そのほか，舞台では背景の機能とともに，これを振り落とすことによって瞬間的場面転換の効果をもつ浅黄幕や黒幕・山幕・浪幕(なみまく)・網代幕(あじろまく)などの道具幕が使われ，花道には揚げ幕が設けられているが，いずれも演出に重要な役割をになっている。

〔演者と役がら〕 **〈俳優の地位〉** 元来，歌舞伎は俳優中心の演劇であるが，江戸時代には，芝居を風紀上有害とみる幕府の政策により，役者は社会的に河原者(かわらもの)と卑しめられた。したがって，一般市民から隔離される居住制限もあったが，明治になると名興行主12世守田勘弥や名優9世団十郎の努力によって地位は向上し，俳優組合も結成され，現代では芸術院会員や，重要無形文化財保持者として人間国宝とされる者も現われた。また，昭和の初期から独自の劇団活動を続けている〈前進座〉の幹部俳優たちも出身は歌舞伎界だし，別に中央劇壇から離れて巡業専門の小芝居を演ずる歌舞伎俳優が若干名ながら散在している。

〈名跡の継承〉 元禄時代に名優が輩出して以来，著名な俳優は世襲制をとり，現在に及んでいる。現代の代表的俳優では，中村勘三郎・市村羽左衛門がともに17代を数えて最高で，以下，守田勘弥の14代，片岡仁左衛門(にざえもん)の13代，松本幸四郎・坂東三津五郎・沢村宗十郎の各8代，尾上梅幸・中村芝翫(しかん)の各7代，中村歌右衛門の6代，市川寿海・実川延若の各3代，中村鴈

治郎*(かんじろう)・尾上松緑*の各2代などが続いている。子弟が父祖または師の名を継承するにあたっては，それぞれの芸名に応じた規模で襲名披露(ひろう)が行なわれる。このような父子相伝・師弟継承によって，演技が洗練され，名優の演技がかなり確実に今日まで保存されてきた意義は大きい。

〈役者の階級〉 しかし，こうした世襲制は封建的な門閥を確立させ，名門の子弟でなければいつまでも下回り(下級俳優)を続けなければならないという弊害を生んだ。天分をもちながら，脇役(わきやく)に終始する例は現在も少なくない。芸名と定紋を書いた看板を劇場の前に掲げられる者を名題とよび，それ以下の俳優をひっくるめて名題下という。名題下の俳優が名題になるためには，現在は年1回の名題試験があるが，江戸時代は名題下の中にも上分・相中・中通り・下立役または稲荷町(いなりまち)という階級があり，名題までの昇進ははなはだ困難だった。楽屋も，俳優中最高位の座頭やこれに準ずる立者(たてもの)は個室を提供され，普通の名題でも4～5人で1室が与えられるのに対し，名題下は楽屋3階の大きなへやに雑居させられたので，別称を〈三階〉または〈大べや〉とよばれている。

〈女方〉 歌舞伎俳優の役がらの特色として女方があげられる。1629年女歌舞伎が禁止されて以来，もっぱら男優が女役を演ずることになり，男役の立ち役に対し，若女方という専門の役がらが生まれ，代々の名女方の苦心によって，女方芸術が完成された。1886年，末松謙澄が主唱した演劇改良会の諸改革案の中では，女方の廃止と女優の養成が提案され，大正初年の帝国劇場*では専属女優が歌舞伎劇を演ずる事態も生じたが，女性の肉体的条件では到達しえない芸境があり，女方芸の魅力は消去することができず，現在も立ち役と女方の専門別はだいたい存続している。

〈その他の役がら〉 元禄期には，役がらによる分業がかなり細分化され，立ち役といえば単に男の役というだけでなく善人の男を意味し，これに対して悪の性格をもつ役を敵役(かたきやく)とよんだ。そして敵役にも，実悪・公卿悪(くげあく)・色悪(二枚目敵ともいう)・実敵・半道敵(チャリ敵ともいう)などの別が生じ，立ち役の中にも荒事師・和事師・実事師などの種類が生まれた。ほかにも，現在三枚目の称が残る道外方(どうけかた)，老役(ふけやく)を男女に分けた親仁方(おやじかた)と花車方，美少年役の若衆方と子役などの別があり，各自その役がらを固守している。宝暦期以後になると，役がらの分業制が破れ，女方と立ち役を兼ねる者も現われてきた。

〔演目と作者〕 重要無形文化財指定の要件とされた伝統的な演目とは，明治中期ごろまでに座付きの作者によって書かれた脚本をさし，現在上演されるものはおよそ300種ほどになる。その分類のしかたにはいろいろな方法が考えられるが，はじめから歌舞伎のために書かれた純歌舞伎と人形浄瑠璃を歌舞伎化した義太夫狂言に大別される。また，武家・貴族などを中心とした歴史的事件を扱っているか，町人社会の現実の事件を題材にしているかによって，時代物と世話物とに分類される。さらに，作品が生まれ演出が完成された土地の別によって，江戸狂言と上方狂言に分けることもある。そのほか，ふつう所作事*とよばれる舞踊劇は，本来は長編脚本の一幕としてつくられたものが多いが，のちには最初から独立した一幕として書かれるものも生まれ，一つのジャンルのようになった。明治中期以後は，劇場部外者によって，西欧思潮の影響を強く受けた新作も多く提供されるようになったが，これらは〈新歌舞伎*〉とよばれている。



3世歌川豊国**《楽屋稽古図》**1860　せりふの書き抜きを持って演技の手順をつける役者たち。前方の机には河竹新七ら作者の姿も見える。この段階では囃子はまだついていない。早稲田大学演劇博物館蔵



菱川師宣**《中村座内外図屏風》**(部分)　江戸三座の一つ中村座は最も早く幕府の興行権を得て，座元の紋を染め抜いた〈櫓〉を劇場表正面に掲げた　東京国立博物館蔵

現在上演される純歌舞伎脚本のうち，最も古色を残すものに歌舞伎十八番がある。7世市川団十郎の制定だが，ほとんどは初世・2世の団十郎が初演した諸作の中にあり，荒事演出を基礎として元禄歌舞伎のおもかげを残すものが多い。ほかに現在残っている脚本は，たいていが江戸後期から幕末にかけて生まれたもので，上方では並木正三・並木五瓶，江戸では初世桜田治助・4世鶴屋南北・河竹黙阿弥らが代表的な作者だが，中では黙阿弥の手になる世話物が数多く上演される。義太夫狂言は，歌舞伎のうちでも重要な一類をなすもので，近松門左衛門*(もんざえもん)・竹田出雲*・並木宗輔*(そうすけ)・近松半二*らの原作が数多く歌舞伎化されている。

歌舞伎の作者は，元禄以前は俳優と兼業が多かったが，中期以後は座付き専門の狂言作者が増加した。やがて，作者の中にも，一座の主となる立作者(たてさくしゃ)を筆頭に，二枚目作者・三枚目作者・狂言方・見習いというような階級制度が生まれ，立作者を中心に二枚目・三枚目の作者が幕ごとに分担執筆するようになった。明治中期以後，部外者の新作が増加してからは，座付き作者は舞台の陰で俳優にせりふをつけたり，拍子木を打つなど，従来狂言方が担当していた雑務をもっぱらつとめるようになって今日に及んでいる。

〔興行および劇場の変遷〕 歌舞伎興行において，狂言の上演法は，〈通し狂言〉として1日1演目だけを上演する方法，あるいは異なる演目をいくつか並べる〈見取り〉方式か，そのいずれかになっている。昭和初期までは，一番目に時代物，二番目に世話物を置き，その間に〈中幕〉として所作事などを挿入する，または二番目のあとに大切り*として所作事を置くといった方式が守られ

ていた。

現在は，1か月ごとに演目も俳優の座組みも変わるが，江戸時代には1年間同じ座組みで，演目は原則として年間6回ほどの変更で興行した。毎年11月に，翌年10月までの1年間の座組みが決定し，これを披露する顔見世興行(→顔見世狂言)を行なった。大阪では，年末から正月にかけて〈二の替わり〉，3月から〈三の替わり〉，7月から〈盆替わり〉，9月からの〈九月替わり〉などの名称で興行が行なわれた。一方，江戸では，初春狂言・弥生(やよい)狂言・五月狂言・土用芝居・盆狂言・秋狂言などの名でよび，それぞれの初日は節句の日とするのをいちおう原則とした。

江戸時代における歌舞伎の興行は，幕府によってさまざまの制限を受けた。まず，劇場の数が制限されていたことである。幕府は，公許したものだけに興行権を与え，それは世襲を原則としていた。江戸では，猿若勘三郎が最も早く許可を受けて，猿若座(のちの中村座)の櫓(やぐら)を1624年にあげたとされる。〈櫓〉は劇場の表正面の高いところに床組みに幕を張って飾るもので，これが興行権をもつことの表徴である。以後，数多くの劇場ができたが，1713年(正徳3)に江島生島*事件によって山村長太夫の山村座の興行権が没収されて以後は，中村勘三郎の中村座*，市村羽左衛門の市村座*，森田勘弥の森田座*の3座だけが公許され，〈江戸三座〉とよばれて明治初年まで存続していた。もっとも，経済的な事情でこれらが興行できなくなったときは，〈控え櫓〉として都伝内(都座)，桐(きり)大蔵のちに桐長桐(桐座)，河原崎(かわらざき)権之助(河原崎座)が，それぞれ臨時の興行権を得て興行することが許された。このほか，非公認であったが，社寺の境内などに小屋掛けして興行する〈宮地芝居〉とよぶ小芝居*があった。

上方では江戸ほどにきびしくなく，京都では1620年(元和6)ごろに7座が，大阪では1652年に5座がそれぞれ公認されたが，没落すれば他人が権利を借りて興行することができ，櫓名義人のことを名代とよんだ。なお，上方では劇場の持ち主は別に認められていたので，興行は名代・座元・小屋主の3者が共同して行なうことになっていた。

劇場の構造は，当初の舞台は能舞台を襲用し，4本柱に破風(はふ)造りの屋根があり，左手に橋掛かりがあって楽屋に通じていた。観客席には屋根がなく，周囲はむしろで囲ってあるという粗末なものだった。しかし，元禄期以後は観客席にも屋根ができ，二階さじきと平土間の様式が定まり，やがて花道も固定して，しだいに劇場構造が完備するようになった。宝暦から寛政に至る18世紀後半には，能舞台のなごりだった4本柱のうち奥の2本は取り除かれ，破風屋根も取り払われた。間口も本舞台は3間であったが，その前に付き舞台が設置され，重要な演技はほとんどそこで行なわれるようになった。

1872年12世守田勘弥によって新富町に創設された守田座は，舞台の間口を8間(約14.5m)に広げ，一部に外人用のいす席を設けるなど，歌舞伎の劇場構造に一大改革を加えた。さらに1878年，新富座(旧守田座)の本建築には，ガス燈が引かれ，かつては昼間に限られていた興行を，夜間にも行なうことを可能にした。明治以後は，劇場数の制限もなくなったために，群小の劇場がいっせいに興ったが，とかく経営がむずかしく，ひとり栄えた新富座も1889年に開場した歌舞伎座*の隆盛に反して衰退に向かった。1892年下谷(したや)二長町に移って，大正期6世尾上菊五郎，初世中村吉右衛門らの拠城となった市村座は1932年に焼失，森田座の後身である新富座は1923年(大正12)の関東大震災に焼失，1884年浅草鳥越町に移った中村座は9年後に焼失して，いずれも再建されず，こうしてゆいしょをもっていた江戸三座は完全に消滅した。

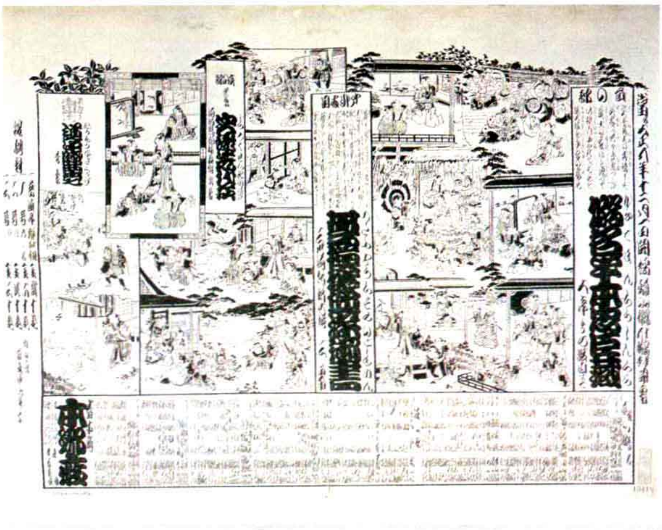
これらに代わって，1893年創設の明治座*，1911年開場の帝国劇場*は，いずれも電燈照明を用いた近代的劇場として出現した。明治末期，関西の劇界に雄飛した白井松次郎*・大谷竹次郎*兄弟による松竹合名会社は，やがて東京の各劇場および歌舞伎俳優を掌中に収め，大正・昭和期を通じて東西の劇壇に君臨する大商業資本となった。現在の歌舞伎興行は，松竹株式会社*と東宝株式会社*の手によって，それぞれの傘下(さんか)にある劇場と歌舞伎俳優を使って行なわれている。専属の劇団をもたない国立劇場の場合は，そのつど松竹および東宝に属している歌舞伎俳優と契約を結んで興行を行なっている。

〔歌舞伎の周辺〕 江戸時代，歌舞伎の置かれた社会的地位は低かったが，実質的には民衆の娯楽の中心であった。俳優たちも一般社会に向かって自分らの教養と権威を示す手段として，俳句その他の文筆をたしなみ，芸名のほかに俳名をもっていた。また，初世団十郎が信仰した成田山から成田屋と自称したのをはじめ，おもな俳優はそれぞれ屋号をもっていた。

俳優はファンにとって魅力の焦点だったので，模様・色彩・服飾などに役者の名や紋を取り入れたものが数多く使われた。また，役者絵や芝居絵は，遊女の絵とともに江戸美術の中心になった。その他，芝居用語が日常語に広く転用されて使われるなど，歌舞伎が他の芸術や風俗に貢献した功は少なくない。　〔浦山政雄〕

おもな歌舞伎俳優の屋号(五十音順)

音羽屋	尾上菊五郎・梅幸・松緑・九朗右衛門，坂東彦三郎	天王寺屋	中村富十郎
沢瀉屋	市川猿之助・段四郎	中村屋	中村勘三郎
紀伊国屋	沢村宗十郎・訥子・源之助・田之助・訥升	成駒屋	中村歌右衛門・芝翫・福助・鴈治郎・扇雀・翫右衛門
喜の字屋	守田勘弥	成田屋	市川団十郎・寿海・海老蔵
河内屋	実川延若	播磨屋	中村時蔵・吉右衛門・又五郎
高麗屋	松本幸四郎，市川高麗蔵・染五郎	舞鶴屋	中村仲蔵
高島屋	市川左団次・子団次・小団次	松島屋	片岡仁左衛門・我童・市蔵
滝野屋	市川門之助・男女蔵	三河屋・三芳屋	市川団蔵・九蔵・団之助
橘屋	市村羽左衛門・家橘	山崎屋	河原崎長十郎・権十郎
立花屋	市川中車・八百蔵	大和屋	坂東三津五郎・簑助，岩井半四郎



辻番付 現在のポスターにあたるもので，興行前からひいきの客に配り，あるいは市中に掲げて宣伝の役目を果たした。芝居の題名・役割のほか，名場面を絵に描いている。(1917年の《仮名手本忠臣蔵》本郷座上演の際の辻番付)

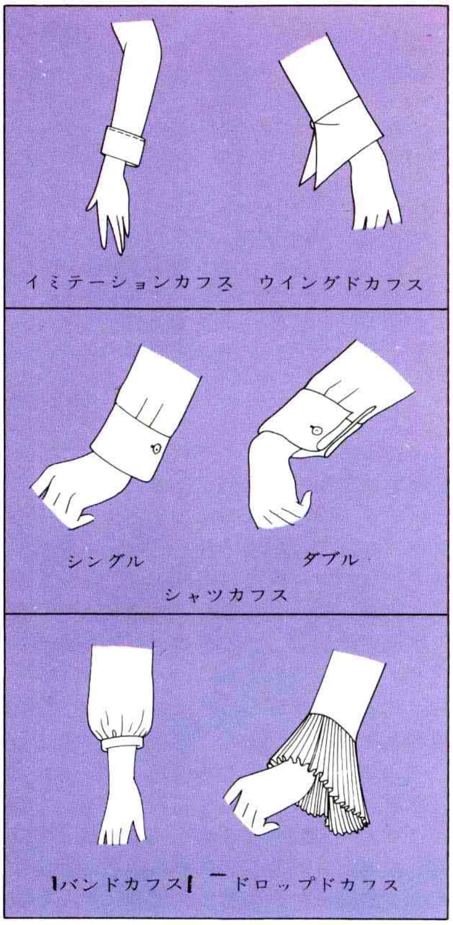
無限に資本を動員することができるのである。②有限責任制度：株式会社においては，出資者である株主は株式の引き受け価額を限度とする出資義務を負うにすぎず，それ以上会社に対して責任を負う必要はない。これを株主の有限責任といい，この有限責任のために投資家大衆は安心して資本を醵出(きょしゅつ)できるのである。もっとも，有限責任そのものはなにも株式会社だけに特有なものではなく，合資会社や有限会社にもみられる。だが，これらの会社においては資本の証券化が行なわれていないために，広く社会から大量に資本を調達することは期待できない。有限責任制度は①の証券制度と結びついてはじめて資本を動員するうえで役だつのである。③所有と経営の分離：このような証券制度と有限責任制度という資本調達面における特徴は，資本の運用面，言い替えれば会社の経営面にも大きな影響を及ぼす。すなわち，株式会社においては，個々の株主は出資額を限度として会社に対し責任を負うにすぎず，しかも欲するときに証券市場*でその株式を売却して投下資本を自由に回収することができるので，いきおい会社の経営に参加する意思をもたなくなり，ただ配当や株価だけに注目するようになりがちである。そのため，会社の最高意思決定機関としての株主総会*はしだいに無力化していく。そのうえ，こうした状況は，企業の大規模化により株式所有の分散が進むにつれて，ますます決定的なものとなる。一方，企業の大規模化は，同時に経営管理機能の複雑化・高度化をもたらし，専門的な知識や能力をもつ専門経営者の出現を促すことになる。このような中で，経営の実権はしだいに出資者である株主の手から離れて，雇われた専門経営者からなる取締役会*に移っていくが，この現象を所有と経営の分離という。わが国の商法においても，1950年(昭和25)の改正によってこの事実が認められ，株主総会の権限が縮小され，取締役会の権限が著しく強化・拡大された。このような現象の下では，よく〈所有なき支配〉が成立するといわれるが，むしろ実質的には，少数の大株主による会社の支配が容易になることを見のがしてはならない。〔森川八洲男〕

【設立】会社の設立には，少なくとも7人以上の発起人が，定款*(株式会社の根本法規)を作成する(商法165条以下)。この定款には，法律で定められた事項を記載しなければならないが，この中にも，その記載がないと会社の設立自体が無効となる絶対的記載事項(同法166条)と，定款に記載すればその効力が認められる(逆に記載しておかないとその効力は認められない)相対的記載事項がある。定款には設立に際して発行する株式総数が定められ，その総数が発起人あるいは第三者によって引き受けられなければならないが，発起人が全部を引き受けるのを〈発起設立〉，発起人がその一部を引き受け，残りを一般から募集するのを〈募集設立〉という。募集設立によって株式を引き受けるものは，設立する会社の大綱や申し込み価額などを記載した株式申し込み証によって申し込みをし，これに対して発起人が株式を割り当てると，引き受けが確定する。

この引き受け株式総数について払い込みが完了すると，発起設立の場合には発起人によって，また募集設立の場合には発起人が招集した創立総会において，取締役・監査役の会社機関が選任される。こうして会社設立の登記がなされると，はじめて会社は完成し，権利義務の主体となることができる。なお，登記が終わるまでの会社を設立中の会社という。

【機関】会社の機関としては，会社の基本的重要事項についての意思を決定する株主総会，会社の業務執行についての意思決定をする取締役会，取締役会の意思決定に基づいてその具体的執行をし，かつ会社を代表する代表取締役，会社内部の会計を監督する監査役の四つがある。

株式会社は，商人としての日々の財産の変動を明らかにするために会計帳簿を作成する義務があるほか，毎決算期に会社の財産および営業の状況を明らかにするため貸借対照表*・財産目録*・損益計算書*および営業報告書*などの計算書類を作成しなければならない(商法281条)。またその作成方法，財産評価の原則なども法定されている(商法285条以下)。〔松本治雄〕



カフス

かぶしきしじょう【株式市場】一般に証券市場は，取り扱う物件によって，株式市場と債券市場に分けることができる。広い意味の株式市場とは，新しく発行される株式を発行会社が発行し，投資家がこれに応ずるまでの発行市場と，発行されている株式を，その保有者が売買取引する流通市場との二つをいう。狭い意味では，特に流通市場に限って用いることが多い。この意味での株式市場は，株式の売買取引のために証券取引所が開設する市場をさし，具体的には東京・大阪・名古屋・京都・福岡・広島・新潟・札幌(さっぽろ)の各取引所の市場をいう。➔証券市場〔日東証券調査部〕

かぶしきはいとう【株式配当】株式会社が利益配当を現金で行なわず，新たに発行する株式をもってこれに替えること。わが国では1950年(昭和25)の商法改正でアメリカ法にならい新しく導入された。現金配当の原則に替えて株式を配当するもので，株主の利害に大きな影響を与えるところから，商法(293条2)はこれを株主総会の特別決議事項としている。株式配当の経済的効果としては，会社が現金の支出を伴わず資金を社内に留保できること，株式の市価を調節し，その市場性を高めることなどがあげられる。〔森川八洲男〕

かぶしきぶんかつ【株式分割】既存の株式*を細分化すること，つまり資本の額を増加しないで発行済み株式数だけを増加すること。これによって，株主の持ち分額は変わらないが，株式数が増加するために株式の市価は引き下げられることになる。株式分割は，特に株価が高すぎる場合に，それを調節し，株式の市場性を高め，新株の発行を円滑にする効果をもつ。

カフス［cuffs］洋服のそで口につけられた部分をいい，そで先の始末や汚れ防止，また装飾の役目をもつ。必ず左右両そでにつけられるため，一般にカフスと複数でいう。その起源は手首までの長そでが仕事のときじゃまなため折り返したことから始まったといわれ，これがしだいに装飾として扱われるようになった。服装史上カフスが目だってきたのは，男子服・婦人服ともに中世の終わりころからで，多くえりと対(つい)になった豪華なものであった。たとえばルネサンス時代には，麻布のひだをとった大きなえりと組みになった対の飾りカフスが常識のように流行した。しかし17世紀後半ころからは，えりとカフスは別のデザインのものになり，えりなしの婦人服が流行したときにもカフスははなやかなものが用いられている。この種のカフスの流行は18世紀が最高潮で，その後しだいに上着から姿を消し，シャツやブラウスに残るようになった。20世紀にはいって服装が機能的で

活動的なものになるとともに，カフスは装飾性のものよりシャツカフスのような実用本位のものが多くなっている。

材質はそでと共布が多いが，別布・レース・リボン・毛皮なども用いられる。形態上ではそでのほうへ折り返るものと，先へ伸ばしてつけるものに大別され，シングル・ダブル，バンド状のもの，また取りはずしのできるものなど種類は非常に多い。

【種類】①イミテーションカフス：そで先に布を継ぎ足して縫い合わせ，カフスのように見せかけたもの。そでの長さの足りないときなどにする。②ウイングカフス：折れ返ったカフスの両端が鋭くとがって鳥の翼の感じをもつもの。③シャツカフス：ワイシャツのカフス。ダブルカフス(そで先につけた布を二つ折りにしてカフスボタンで留める)とシングルカフス(折り返さず巻き合わせてボタン留めとする)がある。④ドロップドカフス：そで先にたれ下がったカフスの総称。フレヤーのもの，ギャザーを寄せたもの，ひだをとったものなどがある。⑤バンドカフス：まっすぐな細い布でバンド状につくったカフス。パフスリーブ*などそで先にギャザーを寄せたものをまとめるのに用いることが多い。

なおそで口のカフスのほか，ズボンのすその折り返し，長ぐつの上部の折り返しやバンド，手袋の腕をおおう部分なども，それぞれのカフスとよび，手袋そのものをカフスとよんだこともある。〔小池千枝〕

かぶせあみ　【かぶせ網】　魚群の上に急に網をかぶせて捕獲する漁法。投げ網類・卸し網類・ちょうちん網類などの型がある。沈子はあるが，浮子を欠くものが多い。一般には，河川・湖沼，海岸近くの海などの浅い場所で使用される。

カプセルざい　【カプセル剤】　医薬品の剤形の一つで，医薬品をカプセルに入れたもの。すでにできているカプセルに医薬品を詰めたものと，機械を用いて自動的に医薬品の上をゼラチン膜でおおって球状(または円盤状)にしたものとがある。カプセルはゼラチンの薄い膜でできた交互に重ね合わせることのできる円筒体で，かたいものと柔らかいものの２種類があり，粉末・顆粒(かりゅう)・油または液状の医薬品を飲みやすくすることと，薬用量を正確にするために用いられる。カプセルは胃の中にはいると10分間くらいでとける。〔江本龍雄〕

かふそくざん　【過不足算】　⇨算術

カプタイン［Jacobus Cornelius Kapteyn］（1851～1922）　オランダの天文学者。バルネフェルトの生まれ。ユトレヒト大学に学び，1875年ライデン天文台の観測員，1878年グローニンゲン大学教授となる。イギリスの天文学者とともにケープタウン天文台で観測した恒星の写真版を整理して南天星表を完成し，また恒星の固有運動の研究から太陽付近の恒星の運動に秩序のあることを確かめ，1904年には〈二大星流説〉を唱えた。さらに晩年には，恒星の総計から銀河系の構造を論じている。〔根本順吉〕



カブトガニ

かふちょうせい　【家父長制】　家長の支配・統率権のもとに，財産相続，労働力の再生産などの家族*の機能が維持される制度。私有財産制度*の発展とともに発生し，封建社会で最も強固に確立されたが，日本では特殊に家*制度として，家族・家産に対する家長権が確立され，第２次世界大戦前まで続いた。またこの語は，単なる家族制度*の範囲を越え，そのイデオロギーを基礎として，社会の支配・従属関係が家父長的な身分制度*に固定され，世襲*によって受け継がれる場合にも用いられる。〔根本英美〕

かぶと　【兜】　冑・盔とも書く。敵の斬撃(ざんげき)から頭部を守る武具。構造はおよそ鉢(はち)と錣(しころ)とからなる。鉢は鉄板をはぎ合わせてつくり，錣もはじめは帯状の鉄板をつづったにすぎなかった。鎧*(よろい)とともに，独特の優美な形ができたのは平安末期である。鉢は筋や星で飾られ，〈筋兜〉〈星兜〉といわれた。筋と筋の間を銀で飾って，その二方のものを〈二方白〉，四方のものを〈四方白〉と称する。星は鉄板を留める鋲(びょう)のことで，鋲頭を白くみがいたのを白星兜という。鉢の頂上は天辺(てへん)，そのまん中に空気抜きの穴をあけて天空(てんくう)といい，これを中心とする装飾金具が八幡座(はちまんざ)である。鉢の正面は真向(まっこう)と称し，そこに鍬形(くわがた)など立て物をつける。立て物は鍬形のほか半月・天衝(てんつき)が普通で，日月や猛獣の角をかたどって武威を表わしている。龍頭(たつがしら)の鍬形は大将に限られた。立て物の下にあるのが眉庇(まびさし)で，顔色をいかつく見せるため，裏に朱を塗って反射させた。鉢の背面および側面にたらして，首を守るのが錣である。その枚数によって三枚兜，五枚兜の別があり，顔の両側でそりかえった部分を吹き返しといった。顔の左右は二重の錣で守られているわけで，吹き返しのある表面には模様のある皮が張られ，その中央の金具は，多く家紋をかたどった。兜の内側は内兜といい，ふつうもめんや麻を張るが，頭のむれを防ぐため，力皮を十文字に張っただけのものもある。これを浮張(うけばり)または裏張ともいった。星兜が兜の標準であるが，戦国時代にはいると新戦術・新兵器に適応して，実用的な要素だけを残して変形する。たとえば星は小さくなり，鉢はとがって，荘重優美な形や色彩は失われた。おのれの存在を強調するため，貝形(ばいきょう)・蛇頭(じゃとう)・桃形(ももなり)・椎形(しいなり)など動植物をかたちどったものや，立雲(たてくも)・火炎などの自然現象を形象化したものが用いられ，また韃成(たつなり)・唐笠(とうがさ)など隣邦の兜型を取り入れたものも現われた。➔甲冑(かっちゅう)〔稲垣史生〕

かぶとえび　【兜蝦】　節足動物・甲殻(こうかく)綱・鰓脚(さいきゃく)亜綱・背甲目・カブトエビ科。ミジンコのような体の背面の前半を楕円(だえん)形の甲がおおい，１対の細長い鞭(むち)状の尾が出ている。緑かっ色で全長３cmほど。中部地方以西の日本・北アメリカ・ハワイなどに分布する。わが国では，６～７月ごろ，水田に現われるが，約１か月で死滅するので，他の期間にはみることができない。

かぶとがに　【兜蟹】　節足動物・剣尾綱・剣尾目・カブトガニ科。体は胸甲・腹甲・尾の３部からなり，全長60cmに達する。胸甲は半円形。腹甲はほぼ六角形。尾は長く体長の半ばに達し，剣状。緑かっ色ないし黄かっ色。甲をひっくり返せば，ウミグモ状の本体をみることができる。雌雄でやや形が違い，雄では胸甲の前縁に深いくぼみがある。カニという名はついているが縁は遠く，ウミグモやクモに近い。瀬戸内海・九州西北部沿岸に分布する。同類が化石として産するところから，生きている化石として扱われる。よく水族館でみられる。〔菅野　徹〕

かぶとくらげ　【兜水母】　有櫛(ゆうしつ)動物・有触手綱・カブトクラゲ目・カブトクラゲ科。体は円筒形で，下方両側に大きな翼状突起があり，兜の形に似る。無色透明で長さ10cmほど。日本近海で最も普通に見られるクシクラゲ*で，ときに大群をつくることもある。

かぶとごけ　【兜苔】　地衣類・ヨロイゴケ科。山地の森林帯の樹木上にはえる大形の葉状地衣。表面は光沢があり，乾燥するとかっ色または黄かっ色で，湿ったときには鮮緑色となる。辺縁部はシカの角のように切れ込む。表面には網目状にくぼみがあり，裏面は淡かっ色で，表面の稜線(りょうせん)に対応する場所がみぞとなり，黒かっ色の短毛を密生する。ヨーロッパの山間部では，古くから結核の民間薬として用いられていた。

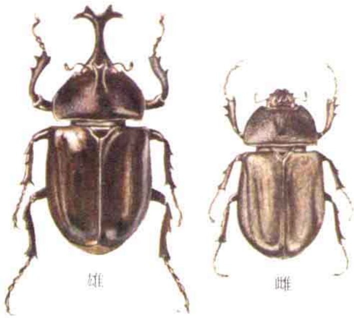
かぶとちょう　【兜町】　東京都中央区，日本橋の南に接する地区。1878年(明治11)，渋沢栄一*らによって東京株式取引所(いまの東京証券取引所)が創設されて以来，大小の証券会社が集まり，〈日本のウォール街〉と

よばれる代表的な証券街となった。最近では，証券会社のビル街は隣接する茅場(かやば)町・小網町・江戸橋地区へも広がっている。国鉄東京駅八重洲口に近く，地下鉄の都営1号線，営団日比谷(ひびや)線・銀座線・東西線が付近を縦横に走り，交通は至便である。

かぶとづくり　【兜造り】　切り落とし屋根*の一形式。妻入り家屋で，草屋根斜面の妻側の下半分を切り落とした型をいい，その形が兜に似ることからこの名がある。山梨県の南部から関東南西部を経て福島県の養蚕地帯にかけて多く，上部が寄棟(よせむね)の場合と入母屋(いりもや)の場合とがある。仙台(せんだい)平野や山形盆地の街道沿いの農家などで，袴腰(はかまごし)とよばれているものもこの形式である。深雪地域では出入り口への雪の落下を少なくし，2階あるいは屋根裏への採光を図り，また深雪時の出入り口ともなる。山形県月山中腹の大網，長野県北部などにみられるものはこの例である。〔佐藤甚次郎〕

かぶとむし　【兜虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。雄は角状突起を除いて体長35～55mm，体幅は19～27mm，体は楕円(だえん)形で，光沢のある黒かっ色。頭部には大形の角状突起があり，その長さは最長30mm内外に達し，前胸背板の中央に小さい鉤(かぎ)状の突起がある。雌は体長40mm内外で，角状突起を欠く。鞘翅は肩部と後端部に隆起があり，雄では光沢が強く，雌では微細な点刻が多数あり，淡かっ色の毛が密生している。体の腹面は黒色。幼虫は乳白色，湾曲した円筒形で，広葉樹の老木や朽ち木の幹に穴をあけて生活するが，しばしば堆肥(たいひ)中やごみ捨て場，製材所のおがくず中などにも見いだされ，サツマイモその他の作物の根部を食害することもある。北海道を除く日本全土のほか，朝鮮・中国・インドなどに分布する。成虫は夏季出現し，好んで樹液に集まり，燈火にも飛来する。俗にサイカチムシとよばれ，古くから子どもの遊び相手として親しまれている。カブトムシ類は，世界の各地に多数の種が知られており，特に南北アメリカに最も多くの種を産し，中には角の長さを含めると150mmに達する大形種もある。〔鈴木邦雄〕

かぶなかま　【株仲間】　江戸時代，幕府や諸藩が公認・保護した商工業者の閉鎖的な同業組合。中世ヨーロッパのギルド*とも比べられる。株(権利)をもつ商工業者で構成され，江戸初期以来商工業の発達に伴って，業者は自己の権益を守るために，組合*・講*など，私的な仲間を結成した。幕府や諸藩ははじめはこの種の同業組合の結成を制限していたが，享保(きょうほう)年間(1716～1735)からこの組織の結成を黙認し，外国貿易品の統制，商業上における諸取り締まりや品質管理・価格統制などに利用して商工業の統制を図るようになった。田沼時代*になると幕府は商工業の統制を強化し，積極的



カブトムシ


鏑木清方　《三遊亭円朝像》 1930　東京国立近代美術館蔵

にこれを公認・保護して，冥加金*(みょうがきん)を上納させ，幕府の財政収入とした。これらのことにより，株仲間は多くの業種に設立され，1813年(文化10)ごろには江戸で68業種，1833年(天保4)には大阪に98業種の株仲間があった。株仲間には年行事・月行事・年寄・年番などの役員があり，会所で寄合*を行ない，新規加入の制限，仲間以外の者の営業の禁止などを行なった。しかし，後期になると株仲間による独占的支配によって物価が騰貴し，また諸産業の発展を妨げるなどの弊害が起こったために，幕府は天保の改革*の一施策として，1841年株仲間を解散させた。しかし，かえって経済界の混乱を招いたので，1851年(嘉永4)株仲間再興令を発し，新興商人を組み入れて，株仲間を再興させた。明治維新に至り，1873年(明治6)株仲間は解散し，以後は単なる同業組合として存続している。〔松尾　涼〕

かぶぬし　【株主】　株式*の所有者のこと。株式は，その醵出(きょしゅつ)した出資額を限度として会社に責任を負う(株主有限責任の原則)。また，会社に対して有する法律関係は，その所有する株式の数に応じて平等の取り扱いを受ける(株主平等の原則)。合名会社*などの社員と異なり，退社は認められないが，実質的には退社と同じ結果となる〈株式の自由譲渡〉が原則として認められている。〔松本治雄〕

かぶぬしそうかい　【株主総会】　株主*によって構成され，会社内部で会社の意思を決定する株式会社*の最高機関。決議できる事項は，取締役の選任・解任など，定款または商法に規定された事項に限られ，会社の業務運営に関する決定は取締役会*にゆだねられている。総会は，決算期ごとに定時に開かれる定時総会(商法234条)と必要あるとき随時に開かれる臨時総会とがある。総会の招集は，商法に特別の定めがある場合を除いては，取締役会の決議によって代表取締役*が行なう。臨時総会は，発行済み株式の総数の100分の3以上にあたる株式を6か月以上引き続いて所有する株主によって招集されることもある(商法237条)。株主総会の招集にあたっては，会日の2週間前に会議の目的事項を記載して株主に通知しなければならない(商法232条)。各株主は1株につき1個の議決権を有し，発行済み株式の総数の過半数にあたる株式を有する株主が出席して，その議決権の過半数をもって決議を行なうことになっている(商法239条)。ただし，会社定款の変更など，会社の基本的重要事項については，発行済み株式の総数の過半数にあたる株主が出席し，その議決権の3分の2以上にあたる多数決をもってしなければならない場合もある(特別決議，商法343条など)。〔松本治雄〕

かぶねんきん　【寡婦年金】　夫が死亡したとき妻に支給される年金(国民年金法49・52条)。支給の対象は，老齢年金の支給を受ける要件を満たしている夫との婚姻関係が10年以上続いた60～65歳未満の妻。支給額は，夫が受けるべきであった老齢年金の2分の1に相当する額。この年金は従来の他の公的年金制度にみられた遺族年金*と同様な構成をもっており，母子年金*とはその性格をことにする。➔年金制度〔椿　輝男〕

かぶらぎきよかた　【鏑木清方】　(1878～1972)日本画家。東京の生まれ。本名健一。明治初年の新聞界に活躍した戯作者・劇評家条野採菊(1832～1902)の子。浮世絵系の水野年方*について風俗画をめざし，早くから新聞・雑誌のさし絵に名をなし，烏合会(うごうかい)・金鈴社を興したが，その後は文展・帝展で画名を高めた。江戸や明治の風俗・人物・肖像画に清新な芸術味を加えた名作が多く，卑俗化していた風俗画の命脈を復興した。〔匠　秀夫〕

かぶらはばち　【蕪菁葉蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・ハバチ科。カブラバチともいう。体長7mm内外。頭部は黒色，胸部および腹部は黄かっ色，中・後胸背板は黒色。翅(はね)は暗色をおび，翅脈および縁紋は黒かっ色。日本全土に分布し，年に数回発生する。幼虫は全体黒紫色でビロード状の光沢があり，カブ・ダイコン・アブラナ・コ

マツナなどアブラナ科の葉を食害する。本種に近縁のものにやはりアブラナ科植物を食害するニホンカブラハバチがあるが，第1腹節の背面が黒色であること，中・後腿節(こうたいせつ)が極端に黒色斑(こくしょくはん)を有することで区別できる。

かぶらや 【鏑矢】 鳴鏑(なりかぶら)・鳴矢ともいう。簳(やがら)の先に鳴鏑をつけ，鏃(やじり)は雁股(かりまた)を用いる。鏑はカブ形のシカやスイギュウの角，またはヒイラギ，ホウの根株を丸くえぐって中空とし，穴を八つ，五つ，あるいは三つあけたもの。矢を射ると穴から風がはいって音響を発する。簳は白篦(しらの)，羽根は四つ立(だて)が普通。もと狩猟のとき鳥獣を狩り出すのに用いたが，のちには戦場で合戦の合い図や敵を威嚇する目的に使った。なお神頭は鏑矢の一種で，木製の鏑で鏃を欠き，内裏で縁側へ上がったイヌを無血で追い払うために用いられたという。➔矢 〔稲垣史生〕

かぶらやが 【蕪菁夜蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。体長18～21mm，翅(はね)を広げた長さは37～45mm。雄の触角は櫛歯(くしば)状を呈する。体・翅ともに灰かっ色で，前翅にはかっ色の斑紋(はんもん)が散在し，数本の波状の横線が走る。後翅は白色で，前縁および外縁に近づくにつれて暗かっ色を呈する。成虫は5月ごろから10月ごろまで断続的に数回発生する。日本全土のほか，朝鮮・中国・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカと非常に広い地域に分布する。幼虫は，頭部が灰かっ色，胴部が暗緑色で，成熟すると40mm内外に達し，ナス・ウリ類・マメ類・ネギ・ジャガイモ・ニンジン・タバコ・トウモロコシなど多数の農作物や，ダリア・キクなどの花卉(かき)類の根を食害する。 〔鈴木邦雄〕

カブラル ［Pedro Alvarey Cabral］ (1460ごろ～1526) ポルトガルの航海者。バスコ-ダ-ガマ*のインド航路発見のあと，1500年国王マヌエル1世の命により第2回探検隊の隊長としてインドに向けて出港。途中暴風にあってブラジルに漂着し，これをポルトガル領とした。その後さらに東航し，インドのカリカットを訪れて帰国した。

カプリ(島) ［Capri］ イタリア南部，ナポリ湾の近くにある美しい島。面積10km²の岩がちの小島であるが世界的に知られた観光地で，ここから対岸のベズビオ山を背景にしたソレントの眺望(ちょうぼう)は有名である。美しい海と岩石海岸のコントラストも観光客に人気のある風景である。〈青い洞窟(どうくつ)〉とよばれる海食洞はローマ時代から知られ，また第2代皇帝ティベリウスが建設したジョビス離宮をはじめ，たくさんの遺跡がある。特産のカプリワインのほか，オリーブ・果実を産する。人口11,000(1961)。 〔大崎　晃〕

カプリチオ ［capriccio］ カプリスともいう。西洋音楽用語で綺想曲(きそうきょく)な



カプリ島　名物の〈青い洞窟〉に集まった観光船。小さいボートに乗り換えて洞窟にはいる。紺碧の海と海食による奇景が観光客を喜ばせる



カブール　高原の町カブールの新市街のバザール(市場)。気候が乾燥しているため町はほこりっぽい。背後の荒涼とした岩山が印象的

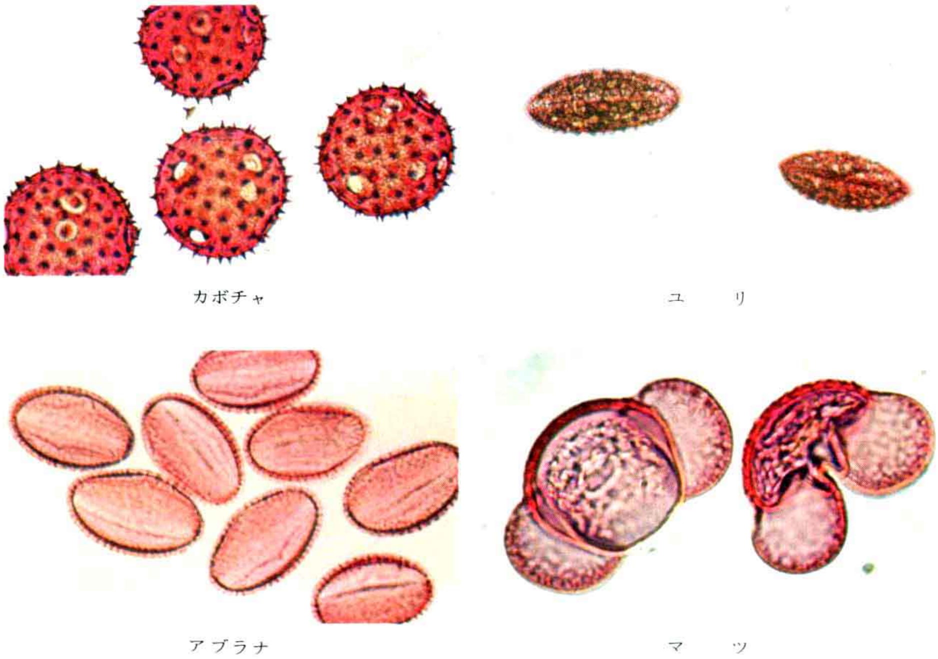
どと訳される。歴史的には，幻想的あるいは遊戯的性格をもつさまざまな器楽曲に対して用いられてきた。17世紀ではカッコウを題材にしたフーガふうな曲に，またバッハでは標題楽の性格をもつファンタジアをさした。19世紀では，サン-サーンスやチャイコフスキーのように構成の気楽な接続曲にも使われた。またパガニーニはバイオリン独奏曲にこの名を使っている。

カプリビ ［Leo Kaprivi］ (1831～1894) ドイツの軍人・政治家。軍令部長として海軍の充実に努め，1890～1894年ビスマルク*のあとを継いで首相を勤めた。ウィルヘルム2世*のいわゆる〈新航路*〉を助け，社会主義者鎮圧法の廃止や穀物関税の引き下げなどを実施し，帝国主義時代への過渡期にあったドイツの政局を指導した。

かぶりもの 【被り物】 頭部にかぶる服物の総称。用途の面から，①外出・労働用，②防寒用，③晴れ着用に分けられ，その数は93種認められる。外出・労働用としては，笠*(かさ)・ふろしき・手ぬぐいなどがある。東北地方から日本海側にかけてはおもにふろしきをかぶり，中部・中国地方では多く手ぬぐいをかぶる。寛政年間(1789～1800)，菅江(すがえ)真澄*の津軽地方紀行文《そとの浜風》に，〈しそ〉あるいは〈やますそ〉というふろしきをかぶり，その上に手ぬぐいをはち巻きにして結んでいたことがみえる。一般に野外の労働には手ぬぐいやふろしきの上に笠をかぶる。防寒用には頭巾類が多く，東北ではこれを〈ボッチ〉という。耳を二つ付けた二幅ボッチ，ふろしきを三角に折った三角ボッチ，頭を包む部分がタコの頭のようなタコボッチなどがある。晴れのかぶりものとしては，婚礼の際に花嫁がかぶる角隠し・綿帽子が一般的である。沖縄本島の花嫁は〈黒張り〉という薄い麻の衣装をかぶり，顔を隠して嫁入りをする。葬礼には婚礼のかぶりものを変えて用いることが多く，また着物の片そでをはおることや，葬式後49日間の墓参りには男は編み笠をかぶり，女は白布をまとうという習慣も各地で行なわれている。これら儀式の日のかぶりものは忌みこもる人の慎みを表わしている。 〔宮本袈裟雄〕

カブール ［Kabul］ アフガニスタンの首都。人口53万(1975)。海抜1,800 mの高地にあり，西南はガズニ峠を経てイラン方面へ，東南はカイバー峠を経てパキスタンのペシャワルに通じ，さらにインド方面へ向かう交通上の要地である。町は古い城壁をもち，細い道路が入り組んだ旧市街と官庁・商社の近代的ビルが並び，高級住宅地となっている新市街が対照的である。カブール川を利用した水力発電のほか，マッチ・綿紡・羊毛紡・皮革などの工業がある。政治・経済の中心であるとともに大学と博物館を擁し，同国の学術の中心でもある。周囲の地形は険しく，古来戦略上の要害の地であった。 〔今井留吉〕

カブール ［Camillo Benso di Cavour］ (1810～1861) イタリアの政治家。リソルジメント*(国家統一運動)に貢献した。1852年サルジニア王国の首相となり，近代産業の育成による社会の繁栄を基盤に，サルジニア王国を中心とした統一イタリア王国の実現をめざした。彼はまた外交手腕にすぐれ，クリミア戦争に参加してイギリス・フランスに恩を売り，ナポレオン3世と密約

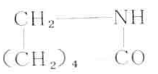


花　粉　ヘマトキシリンで染色したものの顕微鏡写真

してオーストリアと戦い，ガリバルディ*の協力を得てイタリアの統一を達成したが，その直後に没した。〔大野慎一郎〕

かぶれ　【気触】　⇒接触性皮膚炎

カプロラクタム　［caprolactam］



$C_6H_{11}NO$　5-アミノカプロン酸ラクタム，ε-カプロラクタムともいう。葉状の結晶。触媒と共存させて加熱すると，容易に開環重合してポリアミドを生成する。6-ナイロンその他の合成樹脂の製造原料として重要。シクロヘキサノンオキシムに濃硫酸を加えて熱し，ベックマン転位によって合成するが，ε-アミノカプロン酸の環化，ε-カプロラクトンにアンモニアを作用させるなどの方法でも得られる。最近，わが国(東レ)独自の技術で，シクロヘキサノールと塩化ニトロシルを光を使って反応させ，一挙にカプロラクタムを合成する工業的方法が開発された。〔石戸良治・荒木洋之助〕

かぶわけ　【株分け】　キク・カンナ・スズランなどの宿根草や，ユキヤナギ・コデマリ・ボケなどの株立ち性の低木をふやす方法の一つで，大株になったものを数個に分けること。植物の種類により，花芽形成や回復を考慮して，株分けの時期を決定する。手で簡単に分けられるものもあるが，はさみやナイフを必要とする場合もある。

かふん　【花粉】　種子植物のおしべの葯(やく)の中につくられる雄性生殖細胞。普通の大きさは25～50 μ。ときにはもっと大きいものもある。淡黄・黄色のものが多く，形は球状・楕円(だえん)形・多面形などがある。花粉の外膜は厚く，種々の模様や突起があり，またところどころに花粉管が伸び出るための発芽孔がある。マツの花粉には2室の気嚢(きのう)がついている。多くの植物の花粉は1粒1粒ばらばら(単粒)であるが，ツツジ・オオマツヨイグサの花粉は粘性のある糸で連なっている。また，ラン科植物やガガイモ科植物の花粉はかたまりをなしているので花粉塊とよばれる。

若い葯の内部にある花粉母細胞が減数分裂によって半数性の花粉4分子となり，やがて花粉となり，成熟すると葯が裂けて出る。花粉はめしべの柱頭について発芽し，組織の中に伸びてはいる管(花粉管)を出す。ふつう花粉管には花粉管核と2個の精核があり，花粉管は伸びて胚珠(はいしゅ)に達し，1個の精核と胚珠の卵細胞が受精し，もう1個の精核は極核と受精する。このような現象を重複受精という。

花粉がめしべの柱頭に運ばれる方法によって，虫媒・風媒・水媒・鳥媒に分けられる。なお，ブタクサ・クワモドキ・マツなどの花粉がアレルゲンとなって花粉症といわれるアレルギー症状を呈することがあり，花粉が吸入されたり粘膜に付着したりすると，くしゃみや多量の鼻水が出るなどして，さらには喘息(ぜんそく)症状をも起こすことがある。➔アレルギー〔加藤僖重〕

かぶんさいけん・かぶんさいむ　【可分債権・可分債務】　同一の債権*に2人以上の債権者または債務者がいるとき，その給付を可能にするため債権者または債務者の間で分割される債権・債務のことをいう。たとえば，ABCの3人がDに対して30,000円の債権をもっている場合，これを各10,000円ずつに分割できるならば，30,000円の債権は可分債権(分割債権)であり，債務者Dからみればその30,000円が可分債務(分割債務)である。民法は，この分割債権関係をもって多数の当事者による債権関係の原則としているが(民法427条)，この原則に固執すると債権者の保護が十分には図られないため，むしろ，特約がなくてもこれを連帯債務*(または不可分債務)として取り扱うのが実際的であるとされる。〔黒木三郎〕

がぶんしょうせつ　【雅文小説】　近世小説の一。平安朝時代の用語・文体を用いたいわゆる擬古文によって書かれた小説をいう。国学者が漢文脈を避けて上古の日本を尊重する思想から，擬古文を用いて歌文・紀行文を書こうとした機運の中から生まれたもの。荷田在満*(ありまろ)の《白猿(しろざる)物語》《落合物語》がその先鞭(せんべん)をつけ，国学の素養をもって小説の分野に進出した建部綾足*(たけべあやたり)と荒木田麗女*がこれを進展させた。綾足の《西山物語》は，読本*の和漢混交体形成に影響したところが大きい。〔渡辺守邦〕

かふんぶんせき　【花粉分析】　地層中に含まれている花粉や胞子の化石を調べてもとの植物を判定し，その地層の形成された時代や，その時代の植物分布・気候などを知る方法。植物から大量に放出される花粉は腐食されにくく，長期間保存されることが多いので，地質時代の，特に湖沼や泥炭地(でいたんち)の堆積物(たいせきぶつ)中にもしばしば種々の植物の花粉が含まれている。堆積物を機械的にまたは化学的に処理して花粉を取り出し，顕微鏡下で，形や大きさや数，外膜の模様，発芽孔の数や配列のしかたなどを観察すると，もとの植物の種類がわかる。このようにして一系の地層中の花粉の観察から，それらの地層が形成される間の植物分布や気候の変化を追究することができる。〔堀福太郎〕

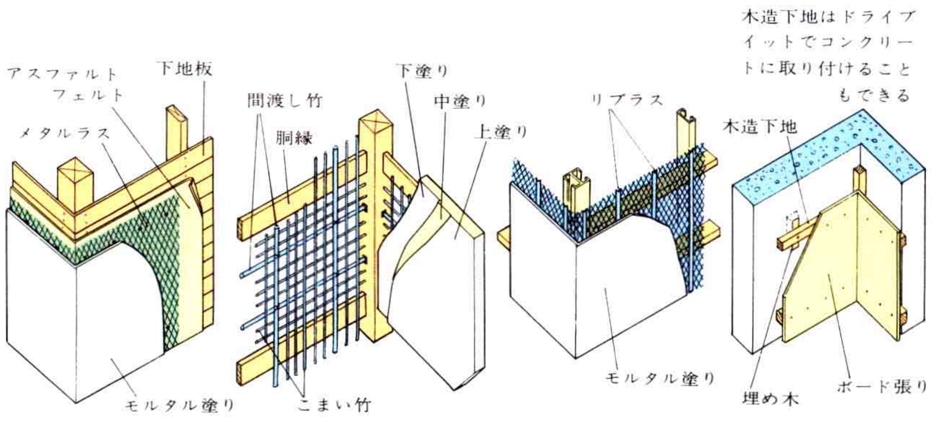
かべ　【壁】　建築物を自然から区画したり，建築物の空間を仕切ったりする目的で設けられた，垂直あるいはこれに近い構造物。建築物の外回りの壁を外壁，建築物内の壁を内壁あるいは間仕切り壁，連続住宅などで各世帯の境となる壁を戸境壁といい，それらの壁が主体構造の一部分となって水平力や鉛直力を負担する場合は耐力壁，単に区画するだけであれば帳壁あるいはカーテンウォール*また非耐力壁とよばれる。さらに，特殊な性能を付与することによって防火壁・断熱壁・遮音(しゃおん)壁・放射線遮断壁などが生まれる。壁はその置かれる位置あるいは架構形式によって，力・光・熱・音・湿度・風・雨・火などに抵抗し，これらを遮断し，あるいは制御する性能をもたねばならない。通常，骨組み・下地・仕上げが一体となってこれらに対処する。

木造建築物の壁の構法には，真壁と大壁とがある。真壁は柱と柱間に，柱の面より内に壁を納めて柱を見せる和風建築本来の壁構造である。大壁は洋風木造に用いられ，柱間に間柱，筋かいを入れ，これらの骨組みを壁仕上げでおおってしまう壁構造である。大壁は構造材に角材が利用でき，また接合金物の使用，断熱材の挿入(そうにゅう)な

どが容易なので，真壁に比較して耐震性・断熱性にすぐれるが，一度侵入した湿気が抜けにくいので耐久性には劣る。鉄骨造建築物の壁の構法はほぼ木造のに準じており，れんが造り・石造り・コンクリート-ブロック造り・鉄筋コンクリート造りなどは，骨組みが壁で構成されることが多いので，壁仕上げの種類によって骨組みが下地となるほか，それぞれの壁下地が取り付けられる。

壁下地には，胴縁下地・木ずり下地・ラス下地・小舞い下地・石膏(せっこう)ボード下地のほか，木毛セメント板下地などがあるが，木ずり下地・小舞い下地は石膏ボード下地の出現によって，その利用は減少している。胴縁下地は板類・合板・繊維板・石綿板などのボード類をくぎあるいは接着剤で止め付けるもので，間柱がある場合は井桁(いげた)に，ない場合は30～45cm間隔に水平に配置する。木ずり下地は，塗り壁仕上げに用いる下地で，厚さ7mm，幅36mm程度のスギ板を6mm間隔の目透しにくぎ打ちする。ラス下地は，木造の場合には断面12×100mmの板を30mmの目透しに柱・間柱にくぎ打ちし，この上に防水紙を張り，さらにこの上にワイヤーラスを取り付ける。鉄骨造の場合には，ワイヤーラスの代わりにメタルラスを取り付けて下地とする。小舞い下地は，日本独特のもので，竹を網状に編んで下地とし，この上に土壁あるいは砂壁を仕上げる。石膏ボード下地は，石膏ボードに穴をあけたものを，木造あるいは鉄骨造にくぎあるいは金物で取り付けて塗り壁の下地とする。

壁仕上げは，木製板を主体としたものに下見板張り・竪羽目板張りがあり，これに似せた合板製・繊維板製のものがある。ボード類としては，石綿セメント板・亜鉛鉄板・プラスチック板などがあり，平板あるいは波板として使用される。塗り壁仕上げでは，土壁・砂壁・真綿壁・しっくい壁などの日本壁のほか，石膏プラスター壁・モルタル塗り壁などがある。このほかに，タイル張り・石張り・人工石材張りなどが用いられる。　〔神山幸弘〕



ラス下地モルタル塗り(大壁)　こまい下地日本壁(真壁)　ラスモルタル塗り壁　ボード張り壁

壁　壁のいろいろ

かべ【可部】広島市1972年4月編入の旧町名。広島市の北方，広島平野の北端にあたり，太田(おおた)川中流に沿う地域。出雲(いずも)・石見(いわみ)両街道の分岐点として古くから栄えた。可部線が通り，国道54号線と186号線の分岐点で，県西部の内陸諸地域への玄関として政治・経済・文化の中心になっている。近年，住宅と企業の進出が著しい。

カベ［Etienne Cabet］(1788～1856) フランスの空想的社会主義者。1830年の七月革命に参加。のちに反政府活動のため追放されイギリスに亡命し，オーエン*やエンゲルス*と交わった。1848年の二月革命に参加ののちにアメリカに渡り，原始キリスト教的な絶対平等的共産主義社会の実現をめざしたが失敗した。著書に空想小説の形式で彼の思想を述べた《イカリア紀行》がある。

かへい【貨幣】①計算単位あるいは価値尺度。貨幣によって他のいっさいの商品・サービス・資産の価値をはかることができる。②一般的な交換手段として広く商品の取引に用いられる。③支払い手段。貨幣は，また債務の支払いにも用いられる。④価値保蔵手段。流動性が高く，またいつでも他の資産と交換できるので価値を貯蔵する手段として使用される。以上のような機能をもつものを貨幣という。貨幣はあらゆる資産の中でいちばん高い流動性(価値の損失なしに直ちに他の資産と交換できる性質)をもつものということができる。したがって，実物資産への転換のための取引費用が最も小さく，また価値の変動が最も小さいものが貨幣として選ばれる。

〔種類〕歴史的に最初に出現した貨幣は物品貨幣(自然貨幣*・商品貨幣)であり，実体的な価値をもつものであったが，その中でも特に取引に便利であり，また価値保蔵手段としてもすぐれている金属貨幣*が分化・発展してきた。次に貨幣経済・信用制度の発達とともに信用貨幣*が発達し，銀行券*・政府紙幣・預金通貨*(当座預金)が貨幣となった。しかし，最近では金融機関などの定期性の預金も価値保蔵手段として機能するので貨幣として取り扱う傾向が強く，また保険・年金・政府短期証券なども貨幣の密接な代替物として準貨幣とよばれる。

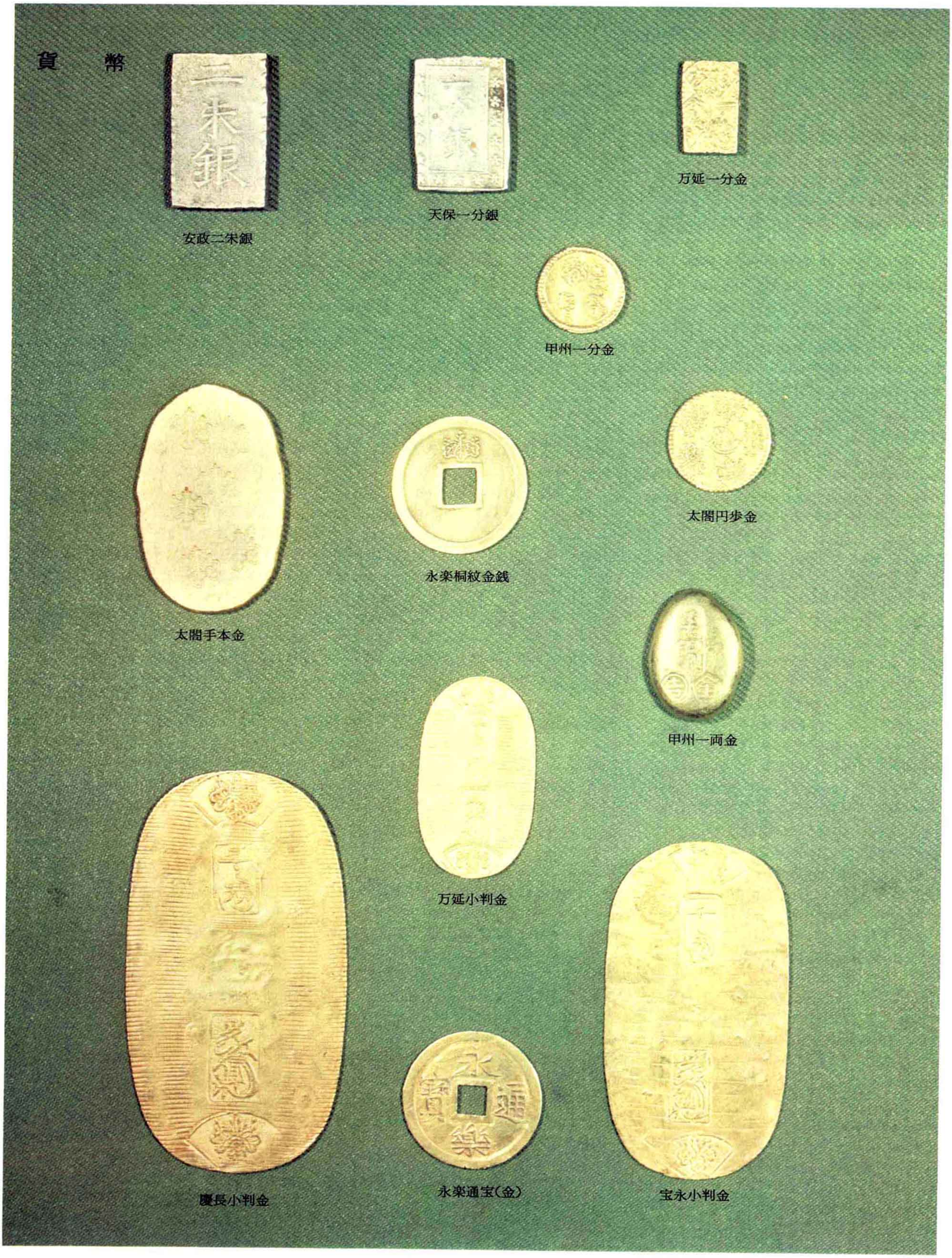
〔制度〕貨幣の制度には本位制度*と発券制度*があり，本位制度はいかなる貨幣を一国の貨幣の中心(基準)とするかということであり，発券制度は一国の中央銀行*の銀行券の発行をどのように規制するかという問題である。しかしそれらは法律制度だけの問題でなく，中央銀行の金融政策*の具体的運営とも密接に関係している。

〔歴史〕貨幣の機能の分化・発達，貨幣制度の発達は国により時代によりさまざまである。その発生原因については諸説があるが，家畜・穀物・毛皮のように，それぞれの社会で最も広く取引される生産物が，物物交換から分化して自然貨幣となったとする説が有力である。しかし，これらの貨幣は同時に原始社会における呪術(じゅじゅつ)的・宗教的な意味をになっている。古代中国の子安貝が安産の護符として用いられていたのはその例である。その後物品貨幣はしだいに金属貨幣に移り，秤量(ひょうりょう)貨幣*のほかに鋳造貨幣がつくられるようになった。

〈西洋〉ギリシアでは地中海貿易に貨幣が使われたが，銀の産出が多く一般に銀貨が使用されていた。ヘレニズム時代になるとオリエントとの接触によって金が豊富になり，アレクサンドロス大王の銀貨がつくられた。ローマでは青銅貨・銀貨がおもであったが，東方貿易と同時に金貨が使用され，1252年フィレンツェのフローリン金貨ができた。16世紀には新大陸の発見とともに銀がヨーロッパに多量に流入し，銀の価値が下がった。近世にはいると金本位制度*の採用で金貨も鋳造されるようになったが，しだいに銀行券の流通が盛んになった。

〈中国〉上古，最初に貨幣として用いられたのは宝貝・小刀・鏟(すきがね)・織物などであり，宝貝が尊重されたことは殷(いん)の甲骨文，周の金文にもみえ，実物も出土している。西周末から鏟・小刀の小銅製模型品(布銭・刀貨)がつくられ，貨幣として行使された。次いで行なわれたのが円形で中央に円孔または方孔をあけた銅の円銭で，戦国時代は布銭・刀貨・円銭が並用され，高額取引には黄金が秤量して用いられた。秦(しん)は中国を統一すると半両銭を鋳造して全国に通用させ，他の貨幣を禁じた。以後，円形方孔の半両銭形式は中国貨幣の基準となった。漢は半両銭のほかに3銖(しゅ)・5銖銭を鋳造し，621年唐の高祖の時代に開元通宝(一説に開通元宝)がつくられ，10個で1両(24銖)になるよう1個の重さを2銖4絫(るい)とした。この制は以後の中国およ

貨　幣



安政二朱銀

天保一分銀

万延一分金

甲州一分金

太閤手本金

永楽桐紋金銭

太閤円歩金

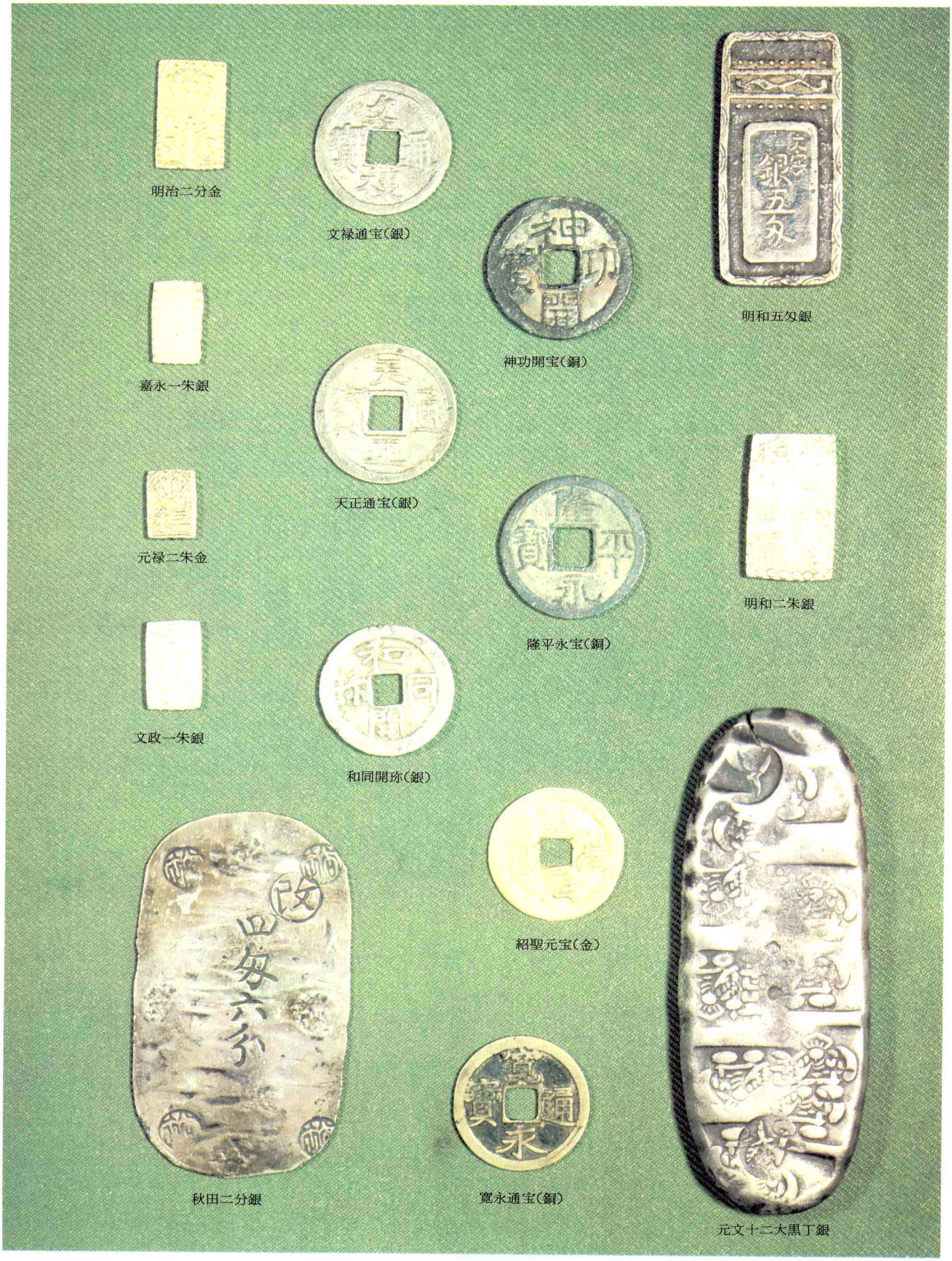
甲州一両金

万延小判金

慶長小判金

永楽通宝(金)

宝永小判金


明治二分金
文禄通宝(銀)
明和五匁銀
神功開宝(銅)
嘉永一朱銀
天正通宝(銀)
元禄二朱金
明和二朱銀
隆平永宝(銅)
文政一朱銀
和同開珎(銀)
紹聖元宝(金)
秋田二分銀
寛永通宝(銅)
元文十二大黒丁銀


小川　浩・田中桂宝蔵
済陰古図法(周末期)
空首布(周前期)
磬幣
魚幣
靖康元宝(北宋末期)
尖首刀(周前期)
大観通宝(北宋末期)
重和通宝(北宋末期)
一　匕(周末期)
貝　宝(周前期)
大観通宝(北宋末期)
シラクサ
アレトゥーザ像
317～310
ローマ共和制期
発行者名不明
BC85～82
ローマ
アントニヌス-
ピウス帝　138～161
ローマ共和制期
ルキウス-バレリウス-
フラッティウス　BC90
ローマ
トラヤヌス帝
98～117
ローマ
ハドリアヌス帝
117～138
エジプト
プトレマイオス王
ギリシア　ポントス
ミトラダテス6世　BC120～BC63
ギリシア
アテナ　BC500前後
ローマ帝政期
クラウディウス帝　41～54
(アフリカ領で使用)
エジプト
プトレマイオス1世　BC323～BC285
ローマ
ネルバ　96～98
エジプト
プトレマイオス王
ローマ帝政期
アレクサンデル-セウェルス帝
222～235
ローマ
コンモドス帝　180～193
マケドニア
ペルセウス　BC178～168

び周辺各国に続けて用いられ，以下歴代貨幣が鋳造されるようになった。宋(そう)の太祖は宋通元宝を，明(みん)代には洪武(こうぶ)通宝・永楽通宝などがつくられた。なお南北朝・隋(ずい)・唐では，高額取引には布帛(ふはく)・金銀も貨幣の代用に盛んに用いられた。宋代に銭の鋳造額が激増したのは，財政の拡大と一般経済の発達のために銭の需要が増し，かつ銅山の発見によって銅産出が急増したことが原因であろう。紙幣(交子・交鈔(こうしょう))もはじめてこの時代に発生した。一方，宋・元以後は銀(銀地金)の行使が盛んとなり，明以後は銀産出量の増大によって，少額の取引にも銀が用いられるようになった。

〈日本〉 わが国最古の鋳造貨幣は和銅開珎*(わどうかいほう)(708)である。その後以下皇朝十二銭*が鋳造されたが，貨幣の使用は一般化せず，朝廷は蓄銭叙位令*を出したりして貨幣流通を奨励した。平安末期から室町時代にかけては唐・宋・明の貨幣が輸入されたが，しだいに国内で粗悪な偽造品がつくられ，貨幣価値が混乱したため撰銭*(えりぜに・せんせん)が行なわれた。豊臣秀吉(とよとみひでよし)は天正大判(→大判)をはじめとする各種の金銀貨を鋳造し，徳川家康(いえやす)も慶長大判・小判*・丁銀*・豆板銀*などを鋳造し，また下って1636年(寛永13)には寛永通宝*がつくられて一般に流通した。金・銀・銭貨の3貨を標準貨幣とする貨幣制度が確立したのもこの時代であった。しかし，幕府は財政の窮乏をまかなうために貨幣の改鋳をしばしば行ない，貨幣の品質はますます低下し，経済混乱を招いた。明治時代にはいると日本銀行券が発行され，また本位貨幣である金貨，補助貨幣である銀貨・銅貨が鋳造され，その後白銅貨・ニッケル貨が現われた。
➔金貨 ➔銀貨 ➔紙幣
〔速水保・内田吟風〕

かへいしほん 【貨幣資本】 貨幣形態にある資本。あるいは実物資本に対する意味にも用いられる。資本はその循環過程で貨幣資本・生産資本・商品資本の形をとるが，貨幣資本はその出発点にあって，資本家がそれによって生産に必要な生産財および労働力を買い入れる資金としての役割と，資本価値計算を容易にする役割を果たす。

かへいすうりょうせつ 【貨幣数量説】 流通する貨幣数量が増加すると物価(財の価格)水準が上昇し，その反対に貨幣数量が減少すると物価水準が下落するとする経済学説。厳密には貨幣数量と物価水準が正比例の関係にあるとする説である。これにはフィッシャー*の交換方程式による説明が有名である。すなわち，Mを貨幣量，Vを流通速度，Pを物価水準，Tを取引量とすれば，交換方程式は$MV=kPT$で表わされ，VとTを一定とすればPはMに正比例することになる。この学説は，供給能力の限度まで生産が行なわれていて，需要の増加があっても生産量または取引量を増加させることが不可能な場合を前提にしている。したがって，供給能力に余裕があれば需要の増加は物価の上昇を招かずに生産量を増加させることが可能である。また，貨幣の流通速度は必ずしも一定ではないから，貨幣量の増加が正比例的に物価を上昇させるとはかぎらない，という批判がある。〔小泉　明〕



貨幣石　エジプトのピラミッドに使われていたもの。古第三紀



壁式構造

かへいせき 【貨幣石】 ヌンムリテスまたはヌンムライトともいう。原生動物で，大形の有孔虫(ゆうこうちゅう)類の一属。石灰質の殻(から)はレンズ状または円盤状で，細かに巻いた螺環(らかん)からなる。外観が貨幣に似ているのでこの名がある。直径4～5cmにも達するものがあり，新生代第三紀の始新世から漸新世の初期の示準化石である。日本では九州の天草や小笠原(おがさわら)諸島から発見されている。

かへいちだい 【貨幣地代】 ⇨封建地代

かべいと 【壁糸】 変わり撚(よ)り糸の一種。主として生糸・化繊糸を用い，強い撚りをかけた1本の細い糸をしんにして，それに撚りをかけない糸をしん糸とは反対の方向に撚りつけたもの。これを用いた壁糸織物は，表面に細かい凹凸(おうとつ)ができ，外観が変化に富む。➔次項

かべおり 【壁織】 壁糸*を使った特殊な風合いの絹織物。壁糸織の略称とされる場合が多い。壁糸織は，壁糸を緯(ぬき)とし，経(たて)に普通の諸撚(もろより)絹糸を使って手織りとしたもので，さらっとした独特の風合いをもっており，主として夏の着尺に用いられてきた。なお，壁糸を使った絹織物には，壁縮緬(かべちりめん)・壁御召(かべおめし)・壁風通・壁透綾(かべすきや)などがある。〔北村哲郎〕

かべがき 【壁書】 室町・戦国時代に幕府や大名が発布した法令の呼び名。殿中の壁に張り出して公布したのでこのようによばれた。おもなものに室町幕府の政所(まんどころ)壁書，大内家壁書*・相良(さがら)家壁書，豊臣(とよとみ)氏の大阪城中壁書などが知られる。

かべしきこうぞう 【壁式構造】 鉄筋コンクリート造りの壁面と床板とによってつくられる建築構造。特に，柱・梁(はり)がなく，板(ばん)のみによって構成されるところから壁式構造という。壁の多い共同住宅などに適当な構造といえる。この構造は現場打ちコンクリートによってつくられる場合と，壁板と床板をあらかじめつくっておいて，それらを現場で結合するいわゆるプレハブ形式によって建設される場合とに分けられる。現在日本においては，この構造によって5階までの建築が行なわれている。この構造では，鉄筋コンクリート壁の厚さはふつう12～21cm程度で，階数に応じて決められている。また，各階の壁の長さも，方向によって，その階の床面積に対して12～20cm/m^{2}程度に決められている。この建築は壁が多く，あたかも箱のような構造であるから，地震などにもかなり強い。
〔谷　資信〕

かべしま 【加部島】 佐賀県北西部，東松浦半島から約500mを隔てた所にある東松浦郡呼子町に属する島で，面積1.8km^2，人口1,000。島の名は，呼子港および鎮西町名護屋港の天然の防波堤をなす壁に由来するという。玄武岩台地で，麦・イモなどの畑作と漁業を営む。弥生(やよい)式時代の遺跡があり，また，海の守護神としての三柱の女神を祭る田島神社は，奈良時代またはそれ以前の創建と考えられ，佐賀県下最古といわれる。境内に松浦佐用姫(まつらさよひめ)を祭る佐用姫神社があり，その社殿の下に，姫が，愛人の大伴狭手彦(おおとものさでひこ)が新羅(しらぎ)へわたる船出に別れを惜しんで化した石と伝えられる佐用姫望夫石がある。島のまわりは景色がよく，玄海国定公園の一部となっている。〔浅井得一〕

かべしんぶん 【壁新聞】 不特定の受け手に特定の内容を伝達する目的で，人目につきやすい場所に張ったビラ類をいう。印刷技術が未発達な時代に盛んであったコミュニケーション*手段の一種。古くはローマ時代にカエサルの指導で出された。日本では，封建時代の高札*にも壁新聞的機能があり，第2次世界大戦中には大量に張り出されたが，いずれも一定の形式で中央でつくられた点に特徴がある。マスコミ時代では，マスメディア*による大量伝達と会話の間を

埋めるものとして活用された。最近の例では中国文化大革命での紅衛兵の使用例はその典型である。1969年前後の全国学園闘争における学生による〈タテカン〉などもそれである。〔名生尚志〕

カペーちょう【カペー朝】987年～1328年まで続いたフランスの王朝。カロリング朝の断絶後，ユーグ-カペーが諸侯により王に選ばれたときに始まる。はじめ王領も狭く諸侯の圧迫を受けていたが，歴代諸王は男系長子相続制を確立し，ローマ教皇と提携して領土の拡大に努め，フィリップ2世に至って王権の基礎が固まった。王はまた，イギリス王ジョンから大陸所領の大半を奪ってプランタジネット家の圧迫を排除することにも成功した。ルイ9世・フィリップ4世時代がこの王朝の全盛期で，特に後者による三部会の創始と教皇のアビニョン捕囚は有名である。1328年シャルル4世の死で男系が絶え，傍系のバロア朝があとを継いだ。〔大野真一郎〕

カーペット ⇨絨毯(じゅうたん)

カベニャック［Louis Eugène Cavaignac］(1802～1857) フランスの軍人・政治家。植民地アルジェリアの反乱を鎮圧して頭角を現わし，1848年の二月革命ののち第二共和制の陸軍大臣に任ぜられ，ブルジョア共和派に属して，六月事件では労働者の暴動に徹底的な弾圧を加えた。同年12月大統領選挙に立候補したが，労働者と小市民にきらわれて，ナポレオン3世に敗れた。

カペラ［capella］ぎょしゃ座α星。冬の北天に輝くクリーム色の明るい星。実視等級0.1等。G型巨星がF型の伴星とともに0.28年の周期で共通重心のまわりをめぐっている。しかも主星は周期104日の分光連星で，三重星系をなしている。距離50光年。

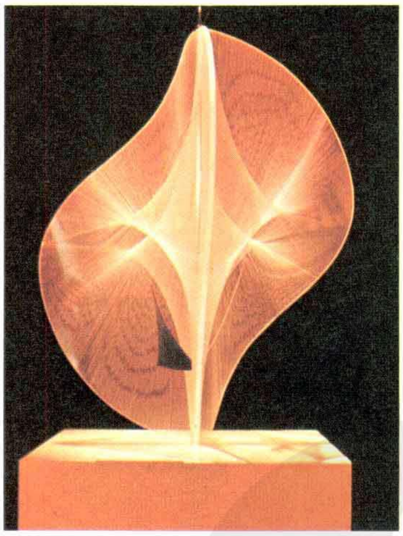
ガーベラ［*Gerbera*］双子葉植物・キク科・ガーベラ属の総称。アフリカ・アジアの温帯山地に分布し，約40種ある。このうち園芸種として最も多く栽培されているのは，ジェムソニー種である。本種は南アフリカのトランスバール・ナタールに自生しているが，これがイギリスにもたらされ，種々の種間交雑を経てフランスに渡り，さらにドイツや日本でも改良が進められた。タンポポのような葉が多数根生し，30～50cmの花茎の先に径10cmほどの頭状花をつける。宿根草で切り花・花壇用。春株分けしてふやす。ガーベラという名は，ドイツの自然科学者ゲルベル氏の名にちなむ。〔小杉　清〕

ガベロニーズ［Gaberones］アフリカ大陸南部，ボツワナ共和国の都市。人口13,000(1969)。南アフリカ共和国との国境をなすリンポポ川の流域に臨む国境都市で，付近で行なう牧牛や豆類などの集散地となっている。

かべん【花弁】花びらともいう。がくとともに花冠を構成している花葉。花弁は



ガーベラ



ガボ《線による構成》オルブライト-ノックス美術館蔵

赤・青・黄などさまざまの色を呈し，また蜜腺(みつせん)をもつものなどがあり，こん虫などを誘引して授粉に役だつともいわれる。

かへんしほん【可変資本】生産過程に投下される資本のうち，労働力の購入にあてられる部分をいう。マルクス経済学に特有の資本概念で，不変資本との対比において用いられる。労働力の購入すなわち労働者の雇用にあてられた資本は，労働者を働かせることによって支払った資本価値(＝賃金)以上の新しい価値を生み出す。つまり，価値増殖によってみずからの価値の大きさを変える。そこで，こうした労働力の購入にあてられる資本を可変資本という。これに対し，生産手段の購入にあてられる資本は，原材料費とか減価償却費として，これら生産手段を使って生産される生産物の中にそのまま価値を移転していき，その移転される価値の大きさそのものにはなんらの変化ももたらさないため，これを不変資本という。〔常盤政治〕

カーペンター［Clarence Raymond Carpenter］(1905～　) アメリカの霊長類学者。現在ペンシルバニア州立大学教授。1930年代から，サルの社会と行動について先駆的な研究を行なう。特に，真正サル類が永続的な群れをなして生活し，それらの群れが固有の社会構造をもち，固有の伝達手段によって統合されていることを明らかにした。

カーペンタリア(湾)［Carpentaria］オーストラリア大陸北部，ヨーク半島とアルネムランドにはさまれた湾。北はアラフラ海に連なる。水深は浅く，大部分が50～70mで，航海の難所とされている。湾口東側にある木曜島ではかつて日本人漁夫が真珠貝の採集をしていた。

ガボ［Naum Gabo］(1890～　) 構成主義の彫刻家。ロシアの生まれ。ミュンヘンその他で学んだが，1917年にロシアに帰って兄のペブスナーとともに構成主義運動を推進し，1920年に〈レアリスム宣言〉を発表した。のち，ベルリン・パリを経てアメリカに住み，抽象彫刻に先駆的役割を果たした。

かほう【家法】⇨分国法

かほう【加法】演算の一。足し算・加え算ともいう。記号＋を用いる。$1+2=3$のとき，1を被加数，2を加数，3すなわち加法の結果を和という。整数の集合$\{\cdots, -2, -1, 0, 1, 2, \cdots\}$では，2整数の和は必ず整数であるが，このことを整数の集合は加法について閉じているという。整数の集合においては，加法について次の二つの法則がなりたつ(→計算法則)。

〔加法の交換法則〕$a+b=b+a$。すなわち，被加数と加数を交換しても和は変わらない。

〔加法の結合法則〕$(a+b)+c=a+(b+c)$。すなわち，いくつかの数を加えるとき，どんな組み合わせをつくっても，和は変わらない。

どんな整数に0を加えても，和はその整数であるが，0のこの性質に着目して，0を整数の集合における加法の単位元といい，乗法も合わせ考える場合に，特にゼロ元という。ある整数aに対して，方程式$a+x=0$の解は，必ず整数であるが，この解を$x=-a$と書き，aの加法についての逆元という(→群)。減法はこれを用いて，$a-b=a+(-b)$と定義する。すなわち，減法は加法の逆演算である。加法は，数においてのみならず，式・ベクトル・行列などにおいても考えられる。〔青柳雅計〕

がぼう【画舫】彩色を施し，画を彫りつけた中国の遊覧船。舫は並べた舟の意である。舟内に室を設け，客を乗せて池や湖を回り，また岸辺につないで風景を観賞したり(遊舫)，舟内で酒宴を開いたり(酒舫)，歌曲に興じたり(妓舫(ぎぼう))するのに用いられた。画舫の彩色は朱や緑が多かったらしく，朱舫・緑舫の文字が中国のさまざまな書物にみえている。画舫のことは唐の白居易の詩などにみえており，そのころ盛んであったことをしのばせる。また，彫られた画には主として龍(りゅう)や水鳥が用いられた。〔渡辺欣雄〕

かほうこんしょく【加法混色】⇨混色 ⇨色

かほうていり【加法定理】三角関数*の加法定理とは次の定理をいう。

$\sin(A\pm B)=\sin A\cos B\pm\cos A\sin B$　(1)

$\cos(A\pm B)=\cos A\cos B\mp\sin A\sin B$

$\tan(A\pm B)=\dfrac{\tan A\pm\tan B}{1\mp\tan A\tan B}$　(複号同順)

これらは，三角関数の諸公式を導く基本的な定理である。たとえば，(1)を用いて，

$2\sin A\cos B=\sin(A+B)+\sin(A-B)$

これは積を和に変形する公式である。この式で $A+B=C$，$A-B=D$ と置けば，

$\sin C+\sin D=2\sin\dfrac{C+D}{2}\cos\dfrac{C-D}{2}$

これは和を積に変形する公式である。さらに，(1)において $A=B$ と置けば，

$\sin 2A=2\sin A\cos A$

これは倍角の公式である。同様にして，余弦や正接の場合も含めて積を和に変形する公式，和を積に変形する公式，倍角の公式，半角の公式などが得られる。〔青柳雅計〕

かほく【華北】ホワペイ　中国本土北部の地方。長城以南，淮河(わいが)・秦嶺(しんれい)以北の地域で，行政上では北京(ペキン)特別市と河北・河南・山東・山西の4省にわたり，地形的には黄河下流の大平野を中心に，燕山(えんざん)山地・山東山地・太行山脈・山西高原などを含む。古代中国文化発祥の地で，殷(いん)以来の漢民族の生活の核心をなす地域であった。現在，中国の全人口の約25％がここに集中し，首都北京に象徴されるようにまさに中国の中心をなす地域となっている。気候は乾燥し，降水量が少ないため，畑作農業を中心とするが，従来しばしば旱魃(かんばつ)に悩まされた。東部は鉱工業が発達し，交通網も比較的整備されている。湿潤地域の華中・華南とは，生活様式・農産物などにおいて，著しい対照を示している。〔船越昭生〕

かほくがた【河北潟】石川県金沢平野北部にある湖。面積23km²。水面高度1m，水深2m。河北砂丘の発達によってできた潟湖(せきこ)で，水は大野川となって日本海に注ぐが，しばしば海水の逆流もあって塩分をおびている。内水面漁業が盛んで，ワカサギ・フナ・ウナギなどがとれ，漁獲量は高かったが，近年は干拓水田化が進められている。

かほくしょう【河北省】ホーペイ省　中国華北地方の省。面積20万2,000km²。人口4,141万(1972年推)。省都は石家荘。1直轄市(天津(てんしん))，10専区に分かれ，9市，12県，2自治県を統括する。北・西・東に燕山(えんざん)山地・太行山脈・山東山地を控え，この間を黄河・永定河とその支流が流れて沖積(ちゅうせき)平野を形成する。純然たる畑作地帯で，コウリャン・アワ・トウモロコシ・小麦・燕麦(えんばく)・綿花などの大生産地である。沿海地方では製塩が行なわれ，長蘆(ちょうろ)塩の名でよばれている。さらに地下資源では石炭(開欒(かいらん)炭田)や鉄(宣化・龍関(りゅうかん))などがその生産量と品質とで知られる。工業では，以前は天津の紡織工業が知られるにすぎなかったが，近年では唐山付近における工業地帯の発達がきわめて顕著である。鉄道の発達が著しく，京広鉄道(北京～広州)をはじめ，津浦(天津～浦口)・石太(石家荘～徳州)・京承(北京～承徳)・豊沙(ほうさ)(豊台～沙城)などの諸鉄道を経由して全国と連絡することができ，自動車道路も近年著しく整備された。海上運輸は，天津・秦皇島(しんこうとう)・塘沽(タンクー)新港などを中心に行なわれている。〔船越昭生〕

かほくしんぽう【河北新報】仙台(せんだい)市に本社を置く東北地方の日刊新聞。1897年(明治30)1月17日創刊。紙名は白河(しらかわ)以北の後進性に着眼した初代社長一力健次郎の創案。当時東北地方には《奥羽日日新聞》《東北新聞》があったが，これらをしのいで発展し，1941年(昭和16)1県1紙の新聞事業令発布により宮城県唯一の日刊紙となった。第2次世界大戦後は岩手・福島・青森・秋田・山形などの各県版を設け，東北ブロック紙の体制を備え今日に至っている。発行部数朝刊約40万2,000(1980)。〔前納弘武〕



カポグロッシ《スーパー-フィシー-486》1958　東京画廊蔵

かほくへいげん【華北平原】ホワペイ平原　中国本土北部の平原で，古来，中原といわれて政治権力争奪の舞台となった。北を燕山(えんざん)山地，南を淮南(わいなん)丘陵，西を太行山脈に限られ，東は渤海(ぼっかい)・東海に至る，黄河下流域の大扇状地と沖積(ちゅうせき)平野で，河北・河南・山東・山西の4省にわたり，北京(ペキン)特別市もこの北部にある。耕地率は約40％で，小麦・コウリャン・綿花・大豆・タバコなどを主作物としており，水稲中心の江南地方とは明瞭(めいりょう)な対照を示している。夏は暑く，冬は乾燥し，年降水量は400～600mmであるが，降雨は極端に不規則で，豪雨になったり，旱魃(かんばつ)になったりすることがしばしばである。豪雨の場合は，黄河の河床が運搬・堆積(たいせき)された黄土によって高くなっているため大水害をひき起こす。そのため治水事業が大規模に行なわれ，堤防・放水路・水門などが建設されている。〔船越昭生〕

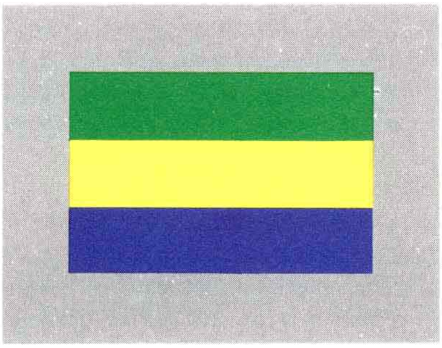
カポグロッシ［Giuseppe Capogrossi］(1900～　) 現代イタリアの画家。1930年前後から各地の展覧会に出品して，15世紀イタリア絵画の精神を継承する具象絵画を発表していたが，1949年以後は抽象絵画に変わり，画面に記号を付しながら造形的空間を表現する記号派の創立者となった。1951年にはアンフォルメルに加わっている。

かぼちゃ【南瓜】双子葉植物・ウリ科の一年生草本。トウナス・ナンキンともいう。蔓(つる)性のものが多く，雌雄異花同株である。植物学的にはモスカータ種の日本カボチャ，マキシマ種の西洋カボチャ，ペポ種のポンキン(ソウメンカボチャ)に大別される。日本カボチャの葉は五角形の大形であるがマキシマ種は丸形である。葉腋(ようえき)に側枝や巻きひげをつけ，またらっぱ状の黄色の花をつける。一般に雌花は節ごとにつくが，子房下位の雄花は数節おきにつく。果実は種や品種により形や大きさにかなりの変異があり，皮の色も緑・黄・かっ色，また白色のものもある。モスカータ種では果実につく柄(果柄)が五角で果実に接する部分が広がる。マキシマ種では果柄は円筒形。ペポ種では果柄は五角で果実に



カボチャ



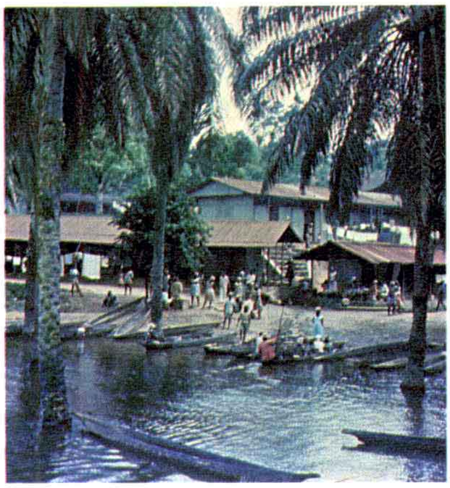


ガボンの国旗　1960年制定。緑は農林業の繁栄，黄色は太陽，青は赤道直下の海を象徴している

接する部分が広がらない。モスカータ種の黒皮・チリメン・菊座，マキシマ種のデリシャス・クリカボチャ・マサカリカボチャ，ペポ種の金糸ウリなどの品種が有名である。モスカータ種は高温多湿を好み，マキシマ種は冷涼な気候を好むので，平坦地(へいたんち)で高温期に収穫する場合はモスカータ種を，冷涼地の夏どりや暖地の早どりにはマキシマ種をつくることが多い。カボチャは多くの糖質とカロチンを含み，夜盲症などの予防に用いられたことがある。また，地方によっては冬至に中風よけと称してカボチャを食べる風習がある。　〔松本正雄〕

カポック　[kapok]　パンヤノキ*の種子毛。形は中空の円筒状で水分の吸収が少なく，水中での浮力が大で自重の30～35倍の浮揚力を有する。浮き具の充塡(じゅうてん)材料やまくら・クッションの詰め物になる。

カボット　[Giovanni Caboto]　(1450～1498)　イタリアの航海者。ジェノバに生まれ，ベネチアに帰化し，1484年イギリスに移住した。1497年ヘンリー7世の特許を得てむすこセバスチアンとともにインドへの航路を求めて北西に向かい，北アメリカ大陸の一角ケープブリトンに到着。1498年再航してグリーンランドからニューファンドランド，さらにニューイングランド沿岸を38度線まで南下したが，帰航の途中死亡。ノルマン人以来北アメリカに渡った最初の



ガボン　ランバレーネにあるシュバイツァー病院村。オゲエ川に沿い，患者や付き添い人は舟でやってくる。写真は病院村入り口の舟着場

ヨーロッパ人である。　〔大野慎一郎〕

ガボット　[gavotte]　17世紀フランスに興った舞曲。今日でも民俗舞踊としてブルターニュ地方やバスク地方に残っている。音楽的には2拍子または4拍子の中位の速さの曲で，多くの場合，曲もフレーズも小節の後半で始まり，前半で終わる。二つのガボットが組み合わせられるとき，二つめはトリオ的になり，ミュゼット*の性格をもつことが多い。ドイツやイタリアでも鍵盤(けんばん)音楽や合奏音楽に用いられた。リュリ*はオペラやバレエにこれを導入した。

カポーティ　[Truman Capote]　(1925～　)　アメリカの小説家。23歳のとき《遠い声，遠い部屋(へや)》を発表，その才能は世間の注目を集めた。以後，短編集《夜の木》などの作品や紀行文を書いて精力的な活動を続けている。1966年には，実話に取材したノンフィクション-ノベルともいうべき《冷血》を発表し，文学の新しい方向を示すものとして評判が高かった。他に《ティファニーで朝食を》などがある。

カーボナード　[carbonado]　黒ダイヤともいう。ブラジルのバイア州特産のダイヤモンドで，微晶の集合体なので劈開(へきかい)で全体が割れることなく，そのためボーリングの刃として利用された。不純物を含むため黒色を呈する。

カポネ　[Alphonso Capone]　(1899～1947)　アメリカのギャング。イタリアのナポリに生まれ，ニューヨークのスラム街で育った。1920年シカゴに移り，ジョン-トリオのギャング団にはいり，のちにその首領となる。禁酒法時代には酒類の密売，密淫売(いんばい)，賭博(とばく)で巨額の富を得，残虐な手口で250人以上を殺した。1929年の〈聖バレンチノの日の虐殺〉は名高い。1931年脱税で逮捕されて入獄し，1939年病気で釈放され，隠遁地(いんとんち)のマイアミで死んだ。〈向こう傷のアル〉の異称がある。

〔折井一彦〕

カボベルデ(共和国・諸島)　[Cape Verde]　アフリカ西岸の大西洋にある群島。1975年7月独立。総面積4,033km²。人口132万(1978年)。かつてのポルトガル植民地。首都プライアはサンチャゴ島にある。コーヒー・サトウキビ・タバコを産する。その位置が南大西洋航路の要衝にあたることと石炭を産することから，重要な寄港地であった。1456年ベネチアの航海者A.L.カダモストとA.ノラが発見。それまで無人島であったが，ポルトガルがネグロを移住させた。現在の住民は，ポルトガル人・ネグロ・ムラット(白人と黒人の混血)など。〔大崎　晃〕

カーボランダム　[carborundum]　炭化ケイ素SiCの商品名。元来純粋なものは，無色透明な板状六角の結晶であるが，通常不純物を含むため，かっ色・緑色あるいは黒色を呈する。比重は3.12。硬度はダイヤモンドと同程度で，種々の結晶形のものがある。電気炉中でコークス・ケイ砂との混合物を2,000°C前後に強熱してつくる。研摩剤あるいは耐火剤として利用されている。

ガボン(共和国)　[Republic of Gabon, République Gabonaise]　アフリカ大陸西岸，ギニア湾に面した共和国。東と南はコンゴ人民共和国，北はカメルーンと赤道ギニアに接する。面積26万7,000km²。人口55万(1978年推)。首都リーブルビル。

〔自然・住民〕国土の東部3分の2はコンゴ国境から続く高原が占め，西部海岸寄りの3分の1に，オゴウェ川流域の平野を中心とする低地が広がっている。国土のほぼ中央を赤道が横断し，気候は熱帯多雨気候に属する。住民は中央アフリカのファン族・バテケ族が住むほか，東部山地に小人種族ピグミーがいる。宗教は約50%がキリスト教徒で，他は自然崇拝の原始宗教を信じている。公用語はフランス語。文盲率は約90%といわれる。

〔産業・経済〕国土の大半をおおう森林による林業が主産業で，オクメ・マホガニー・黒檀(こくたん)などの家具材が有名であり，リーブルビルには製材所や合板工場がある。平野の住民は農耕を行なうが，ピグミーなどは狩猟・採集の原始的な生活を続けている。しかし地下資源は豊富で，世界最大といわれるマンガン鉱床のほかに鉄・ウラン鉱・石油などがある。

〔歴史・政治〕15世紀後半にポルトガル人がここに交易所をつくり，奴隷の売買を行なった。近世になってフランス・イギリス・ベルギーなどが進出したが，中でもフランスは1882年から優位に立ち，19世紀末に植民地とした。第2次世界大戦後の1960年8月，共和国として独立した。元首は大統領。1院制の国民議会が立法権をもち任期は6年。首都リーブルビルからオゲエ川を約300km上流へさかのぼったランバレーネで，その生涯(しょうがい)を医療伝道にささげた故シ

ュバイツァー博士の事績は世界に広く知られる。しかし，独立後のこの国の知識層の間では，故博士の奉仕に対して対外的威信の面から歓迎していないともいわれる。〔小栗　宏〕

カーボンし【カーボン紙】筆記およびタイプライターの複写をする事務用品。約300年以前にアメリカで使いはじめられたといわれ，日本には1871年(明治4)ごろ輸入され，まもなく国産品もつくられるようになった。そして，大正の初期ごろから欧米品に劣らないものとなった。1953年(昭和28)ごろから，事務能率向上の面からワンタイムカーボン紙・裏カーボン紙など，特殊カーボン紙がつくられるようになった。

カーボン紙は一般に，ワックスカーボン(ワックスに染顔料を混ぜた方式)・プラスチックカーボン(合成樹脂に染顔料インキを含ませた方式)の2種類がある。またそれが塗られる台紙には和紙・洋紙・プラスチックフィルムがあり，それぞれの用途に適合するようにつくられている。

ワンタイムカーボン紙は，使用のつどカーボン紙を挿入(そうにゅう)する手間を省くため，あらかじめ帳票類の中にセットし，能率化をはかったもの。

裏カーボン紙は，帳票類の裏面に直接カーボンインキを塗ってカーボン紙の役目をさせるもので，全面に塗布したものと必要な部分だけに塗ったスポットカーボンとがある。最近会社・商店などで広く使われる。

ノーカーボンペーパー(感圧複写紙)は，1955年にアメリカのナショナル金銭登録機会社(NCR)で開発されたもので，カーボン紙のいらない新しい複写紙として脚光を浴び，日本でも最近急速に普及しつつある。これは，上面紙の裏面に微小カプセルの中に薬品を入れたものを塗り，下面紙の表面に別の薬品を塗ったもので，筆記あるいはタイプの圧力でカプセルが破れ，中の薬品が出て化学的に反応して発色する。無色で手をよごさず，他の紙とは反応しないなどの特長がある。〔福永吉太郎〕

カーボンブラック［carbon black］炭素を主成分とする黒色の微粉末。化学組成は，炭素が96～98％，そのほかに水素0.08～0.66％，酸素0.10～3.5％，イオウ0～0.67％などを含有する。天然ガスの不完全燃焼，液状炭化水素の不完全燃焼または熱分解などによってつくられる。俗に〈すす〉ともいう。粒子の大きさは1～500mμ，比重1.7～1.9，吸油量は100～600ml/100gぐらいで，着色力・被覆力はきわめて大きい。ゴムの補強材として，強靭(きょうじん)性・耐摩耗(まもう)性を高めるために最も多く用いられる。また，黒色顔料として，塗料・印刷インキなどにも用いられる。〔品田　登〕

かま【罐】⇨ボイラー

かま【釜】湯わかし・炊飯などに用いる器具。かまは〈かなえ〉(鼎)からなまった



か　ま

ものて，古くは丸がなえともいわれた。一般的には鍔(つば)のある炊飯用のものをいい，寒い地方でいろりのすみに常時すえて湯をわかすかまを茶がまとよんでいる。また，製造工業で物を煮るのに用いるなべ類もかまとよんでいる。かまには金属製と土製があり，土がまはこわれやすいが，熱の放散がゆるやかなので飯を蒸らすのによい。ふたは重い物がよく，ケヤキやカシがよいとされている。〔山本喜男〕

かま【鎌】農作物の収穫や草の刈り取りなど，広い用途をもつ農作業用の道具。構造は木製の握り柄と鉄製の新月形の刃の部分からできている。腕と手によってつかみとる作業を，できるだけ効率的に行なうために使用される。農耕の発生とともに開発され利用された道具で，その使用の歴史は長く，かつ農民のシンボル的役割をになっていた。しかし，近年の科学・技術革命によってわが国でも農業から遠ざけられ，その主要な役目はイネ・麦などの刈り取り機に置き換えられつつある。さらに，除草剤の普及は草刈りの必要を軽くし，この面でのかまの使用を半減させ，農業をささえてきたともいえるかまの役割は，農業の近代化の中で減少した。

かまの着想は古代オリエント時代にウマ・シカなどの草食動物の下顎骨(かがくこつ)の一半から得たものと思われる。すなわち，下顎骨に似た木の柄に石刃を植えつけたのこぎり状の刃にかまの原型を認めることができる。古代中国では新石器時代後期に石製の刃をもったかまが使われ，銅がまを経て鉄製がまに移っている。また，アジアの一部地域では貝殻(かいから)の縁を研摩した貝刃のものもあり，穂刈り用に使われていた。イネ類の穂刈りから株刈りへの農法の変遷は，石刃あるいは貝刃を鉄製に変えるとともに，さらに木製の柄を腕の延長として取り付け，今日のかまの出現となるのである。ヨーロッパでは新石器時代に石刃のかまが登場するが，鉄製がまの登場は青銅器時代からのちである。わが国では弥生(やよい)式文化にか



ガ　マ

まの原型をみることができるが，いまのような形になったのは奈良時代(8世紀)以降といわれ，その後約1,200年の間農業生産に欠くことのできない道具であった。

かまは刃の形から，刃がまとのこぎりがまに分けられる。刃がまは歯の部分がナイフのようになめらかであるが，のこぎりがまは刃がギザギザでのこぎり状をしている。のこぎりがまは固い茎などの刈り取りに便利であり，おもにイネ刈り用であるが，刃がまは草刈り・イネ刈りをはじめ広く使われている。さらに刃の長さや厚さでも用途と名称が変わり，大がま(30cm)・中がま(21～24cm)・小がま(9～12cm)や，薄がま(稲刈り・草刈り用)・中厚がま(山間部の荒草刈り用)・厚がま(木枝やシバなどの刈り取り用)などがある。このような和がまに対し，西洋がまは片手用(穀類の刈り取り用)のシックル(小がま)と両手用(牧草の刈り取り用)のサイズ(大がま)やクレードル-サイズ(抱装大がま)などに分けられ，それぞれの用途別に使われている。〔吉羽和夫〕

がま【蝦蟇】⇨ヒキガエル

ガマ⇨バスコ-ダ-ガマ

がま【蒲】単子葉植物・ガマ科。沼地の水中にはえる多年草。北半球の温帯に広く分布する。日本にはガマ・コガマ・ヒメ



釜石市 リアス式の深い湾入の奥に立地する釜石港と市の全景。市の中央部に製鉄所がある。川は甲子川で，左手前の岬は鎌崎



カマキリ
(左)オオカマキリの孵化
(中)オオカマキリの１齢幼虫
(右)イチモンジセセリを捕食するオオカマキリ

ガマの３種が自生。ガマは草たけ１～２ｍ，茎が円柱形で直立し，夏に茎頂に円柱形の穂をつける。雌雄異花で，穂の上部が黄色の雄花，下部が緑かっ色の雌花である。果実は熟すと綿のようになり風に飛ばされる。コガマはガマに似て小形。ヒメガマは小形で，雄花と雌花が少し離れてつく。花粉は蒲黄(ほおう)といい，民間では外用として止血剤に用い，消炎性利尿剤として内用もする。古くから薬として用いられたことは《古事記》の記述によっても知られる。果実の綿はふとんなどに詰めたり，硝石を加えて火打ち石の火口(ほくち)にする。また，葉や茎で敷き物・かご・雪ぐつを編む。〔横井朝子〕

かまあげ【釜揚げ】 釜揚げうどん・湯づけともいう。熱湯に入れてほぐし，柔らかくしたうどんをかまのまま食卓に出し，つけじるにつけながら食べるもの。いまはかまに代わってふたつきのおけ(黒塗り内朱)が使われるようになった。薬味は刻みねぎ・おろししょうが・七味とうがらしなど。

カーマイケル ［Hoagy Carmichael］(1899～1981) アメリカの作曲家・歌手・ピアノ奏者。インディアナ州ブルーミントンの生まれ。ルイ-アームストロング・ビックス-バイダーベック・ベニー-グッドマンらと親交があり，はじめジャズ的な感覚の曲を作曲した。しかし一般には，《スターダスト》《ロッキン-チェア》《わが心のジョージア》などのポピュラーソングの作曲者として有名である。また，晩年になってテレビ・映画などでも，貴重な性格俳優として活躍した。

カーマイケル ［Stokely Carmichael］(1942～) アメリカの黒人運動指導者。西インド系黒人で，ニューヨークのスラム街で育った。ハワード大学在学中にSNCC(全米学生非暴力調整委員会，1969年学生全国調整委員会と改称)に参加し，1966年委員長に就任。従来の穏健な人種統合運動に反対し，黒人の独自性を強調する〈ブラック-パワー〉を提唱した。都市ゲリラ隊による白人との対決，黒人のみの〈ソングヘイ共和国〉設立を説いた。〔折井一彦〕

かまいし【釜石(市)】 岩手県南東部，太平洋岸の市。江戸中期以降，釜石鉱山の採掘によって発展し，1874年(明治７)官営製鉄所が建設され，わが国の近代的鉄鋼業の発祥地になった。1937年(昭和12)市制施行。人口66,000。1896・1933年の大津波や第２次世界大戦末期のアメリカ軍の空襲と艦砲射撃で中心市街が破壊されたが，そのつどいちはやく復興した。産業三大別人口比は13：36：51。新日本製鉄の製鉄所およびその関連工場が多く，近年は公害が問題視されている。釜石港は三陸沖の好漁場を控えて漁業基地となり，水産加工も盛んであるが，コークス用石炭および鉄鉱石の陸揚げ港としても重要で，12,000ｔ級の船が横づけできる専用岸壁がある。釜石線*と仙人(せんにん)トンネルの有料道路をもつ釜石街道がほぼ平行して通じ，山田線・国道45号線が海岸沿いに走る。陸中海岸国立公園の区域内にあり，三貫島・尾崎岬(みさき)などの景勝地がある。

かまいしせん【釜石線】 花巻～釜石間の国鉄路線。営業キロ数90.2。1913(大正２)～1950年開業。北上川流域より三陸海岸に至る北上山地横断鉄道の一つ。仙人(せんにん)峠を越えることが困難で，全通が遅れたが，1950年長大な馬蹄形(ばていけい)線の建設によって完成された。

カマウ(岬) ［Camau］ ベトナム社会主義共和国南部，コーチシナの最南端に突き出す岬(みさき)。シャム湾の東南端にあたる。カンボジア岬ともよばれる。浅瀬が多く，岬を回って航行する船は12海里離れるように決められている。

かまがさき【釜ケ崎】 大阪市西成区の東田町・東入船町・西入船町から浪速(なにわ)区水崎町にかけてのスラム地区。大正中期から失業者のたまり場であったが，第２次世界大戦後は日雇い労務者や失業者のための簡易宿泊所が急増し，東京の山谷*(さんや)と併称される〈どや街〉に発達した。1961年(昭和36)８月，労務者の暴動が起こったが，その後〈あいりん(愛隣)地区〉と改称され，大阪市が総合福祉対策を立てて改善を図っている。〔浅井得一〕

かまがや【鎌ケ谷(市)】 千葉県北西部松戸市の東隣の市。1971年(昭和46)単独で市制施行。人口76,000。1970～75年の人口増加率は54.4％で，八千代・我孫子(あびこ)両市に次ぎ，県下の市町村中第３位である。東武鉄道野田線・新京成電鉄が通じ，住宅地化が著しく，東京の衛星都市化している。下総(しもうさ)台地上にあり，畑が開け，野菜やナシの栽培が盛んで，養鶏も行なわれている。産業三大別人口比は６：44：50。新京成電鉄鎌ケ谷大仏駅前の木下(きおろし)街道に沿った共葬墓地内に，1776年(安永５)に豪農福田文左衛門(ぶんざえもん)が建立(こんりゅう)した露座の〈鎌ケ谷大仏〉がある。

かまきたこ【鎌北湖】 埼玉県中南部，関東山地の東縁にあたる入間郡毛呂山(もろやま)町にある人造湖。越辺(おっぺ)川の支流の上流山間部をせき止めてつくった灌漑(かんがい)用貯水池であるが，黒山県立自然公園の中心として諸施設が整備され，最近は行楽地としてもにぎわっている。

かまきり【蟷螂】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・カマキリ科の総称およびそのうちの１種をいう。カマキリは体長70～82㎜で全体細長く，黄かっ色ないし緑色。前翅は多数のかっ色の脈をもち，尾端の後方に著しく伸び，前縁部が比較的幅広く緑色で革質。後翅は，前翅の後方に少し伸び，黒かっ色で，不規則な淡色斑(たんしょくはん)が散在する。脚は細長く，前脚は中・小のとげが多く，特に脛節(けいせつ)の先端に鋭いとげがあってかま状を呈し，他のこん虫などを捕食するのに適している。本種に近縁のオオカマキリは日本に分布するカマキリ中最も普通に見

られ，体長70～95㎜。かっ色または緑色で，前胸背の後部が前脚の基節よりも著しく長い点でカマキリと区別できる。カマキリ科は全世界から1,500種以上が知られ，17の亜科に分類される。日本には種類が少なく，コカマキリ・ハラビロカマキリ・ヒメカマキリ・ウスバカマキリなどが産するが北海道には1種類も分布していない。カマキリ類は，大部分の種が樹間や草むら中に生活するが，無翅の種では地上に生活するものもある。いずれも肉食性で，生動物のみを食物とし，農作物の害虫の天敵。卵は，雌によって分泌される粘着性の物質(これはよくあわがたち短時間で乾燥する性質がある)によって形成される卵鞘(らんしょう)内に産下される。1卵鞘内にふつう20～40卵が含まれ，1雌によって4～5個の卵鞘が樹木や岩石などに産下される。なお，交尾直後に雌が雄を食べてしまうという奇妙な習性はよく知られている。〔鈴木邦雄〕

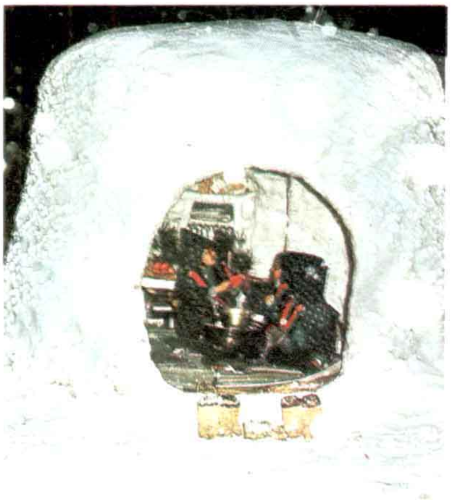
かまきりもどき【擬蟷螂】 こん虫類・脈翅(みゃくし)目・カマキリモドキ科の総称およびそのうちの1種をいう。カマキリモドキは体長14～23㎜，翅(はね)を広げた長さは35～48㎜，全体橙黄(とうおう)色。前脚はカマキリ類に似てかま状を呈し，特に脛節(けいせつ)には中・小のとげが多くあり，他のこん虫類などを捕食するのに適している。翅は透明で多数の脈がある。本州・四国・九州・朝鮮に分布し，成虫は6～8月に出現する。樹陰に生活し，燈火にもよく飛来する。カマキリモドキ科は全世界から約180種が知られ，いずれも複眼は大きく半球形，触角は短い刺毛状，前胸が著しく長く，前脚はその前端部から生じる。すべてが捕食性で，前脚の使用方法や一般的習性はカマキリ類と非常によく似ている。カマキリとカマキリモドキは，分類上の位置が非常に離れているにもかかわらず，こうした形態および機能上の類似のみられることは興味深く，いわゆる〈平行進化〉の好例といえよう。

カマグエイ［Camagüey］ キューバ共和国東部の都市。人口17万9,000(1967)。同国における鉄道および自動車道路網の結節点であり，交通運輸の要地。付近ではサトウキビ栽培と牧牛が盛んであり，それらの取引および加工の中心地として発達してきた。外港としてヌエピタスをもつ。町は1528年にスペイン人により創建され，その植民地時代の教会や，古いスペインふうの町並みが残っている。

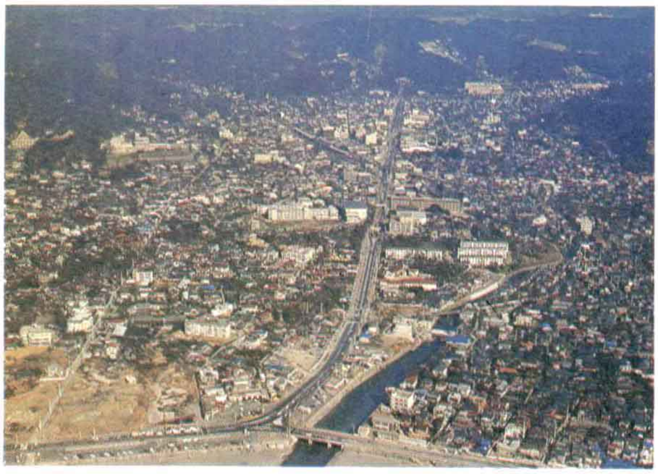
かまくら 秋田県の横手市や角館(かくのだて)地方において正月15日に行なわれる正月行事の一。正月13日ごろ高さ約2m，幅約1.8mの雪室をつくり中にわらやむしろを敷き，正面に四角い雪の祭壇を設けて，水神様*を祭る。15日の夜，水神様にお燈明をともし，隣近所の子どもたちが集まってもちを焼いたり甘酒をふるまう。通行人は水神様を拝んで，もちやお金をあげていく。また，福島県から関東北部にかけては，木や竹を柱にし，わらなどを使ってとんど小屋・鳥小屋という仮小屋をつくるが，これらはかまくらと同系統のものである。なお，秋田県河辺(かわべ)郡の鳥追い*の行事もかまくらとよばれている。〔直江広治〕

かまくら【鎌倉(市)】 神奈川県南東部の市。1192年(建久3)源頼朝(よりとも)が鎌倉幕府*を創設してから北条(ほうじょう)氏滅亡までの約150年間，武家政治の中心地として栄えた。日本の代表的な観光文化都市で，明治中期以降は京浜の保養地・別荘地としても発展し，第2次世界大戦後は東京の衛星住宅都市としての機能を強めている。1939年(昭和14)市制施行。人口17万4,000。三浦半島基部の西方を占め，相模(さがみ)湾に面し，市街は100m前後の馬蹄(ばてい)形の丘陵に囲まれた滑(なめり)川の平地と，〈やと〉〈やつ〉とよばれるその支谷に発達している。横須賀(よこすか)線・国道134号線が通る中心市街地区には，滑川沿岸から由比ケ浜(ゆいがはま)へかけて官庁・会社・商店街などが集まる。海岸部には約10mの隆起砂州が横たわる。低地から山地へ抜ける道筋にはおもなものに極楽寺坂・大仏坂・化粧(けわい)坂・亀ケ谷(かめがやつ)坂・小袋坂・朝比奈(あさひな)坂・名越(なごえ)坂があり，鎌倉の七口または七切り通しとよばれてきた。西部の腰越地区・深沢地区にわたる丘陵地は鎌倉山とよばれる高級住宅地区，北西部の大船地区は柏尾(かしお)川流域の低地で，東海道本線と横須賀線の分岐点にあたる交通の要地である。産業三大別人口比は1：34：65で，地形上また歴史上，消費都市的性格が強く，修学旅行団体や海水浴客の使う金が主要財源となるが，近年大船地区に近代工業が発達している。

鎌倉と源氏のつながりは，源頼義(よりよし)が1063年(康平6)に石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)を由比郷鶴岡(つるがおか)に勧請(かんじょう)し，由比若宮として祭ったことに始まる。1180年(治承4)，鎌倉へはいった源頼朝は，これを現在地に移したが，これが鶴岡八幡宮*である。また，頼朝はその東に接する大蔵に幕府を開いたが，大蔵周辺の雪ノ下・小町・扇ケ谷(おうぎがやつ)には諸将士の邸宅が集まって，鎌倉文化の発祥地となった。幕府の滅亡後は，政治・文化の中心的機能は失われたが，室町時代には足利尊氏*(あしかがたかうじ)の子基氏(もとうじ)から4代にわたり関東管領(かんれい)が置かれた。1455年(康正1)駿河(するが)の今川氏が侵攻して，管領足利成氏(しげうじ)を古河に追い，その際多くの寺社や邸宅が焼失した。室町後期に北条早雲が関東に勢威をふるうと，小田原にその繁栄を奪われてまったく衰微したが，江戸時代には幕府の直轄地となり，中期以降は社寺参拝や江の島・金沢に近い行楽地として復興した。1888年(明治21)横須賀線の開通によって東京と直結して以来，近代都市としての発展が始まり，温暖な気候とすぐれた風光に恵まれて，高級住宅・別荘・サナトリウムなどの集まる湘南(しょうなん)地方の代表的保養地となり，また，大正から昭和にかけては文筆家・画家・工芸家・学者などの文人が多く居住して，いわゆる鎌倉文士の名を広めた。第2次世界大戦後は宅地造成による住宅地化が進んで，1966年(昭和41)には京都・奈良とともに古都保存法の適用を受け，市域内に風致地区・歴史的風土保存



かまくら　秋田県横手市



鎌倉市　材木座海岸の上空より市街を望む。町の中央を若宮大路が通じ，その奥に鶴岡八幡宮がある。近年，急速に宅地化が進み，歴史的風土の保存が叫ばれている

区・同特別保存区が指定されている。松竹映画の撮影所がある大船地区から深沢地区にかけては，京浜工業地帯の延長として電気機器・化学工場があり，また，1962年以後は集団住宅地も形成された。

おもな名所・史跡としては，鎌倉幕府跡・頼朝館跡・鶴岡八幡宮，長谷(はせ)の大仏，長谷観音，〈鎌倉五山〉とよばれる建長寺・円覚(えんがく)寺・寿福寺・浄智(じょうち)寺・浄妙寺，護良(もりなが)親王を祭る鎌倉宮，縁切り寺として知られる東慶寺，夢窓国師像(国宝)を所蔵する瑞泉(ずいせん)寺などがある。近代施設としては，市立鎌倉国宝館・県立近代美術館がいずれも八幡宮の境内にある。また滑川の東の材木座や西の由比ケ浜の海岸は，海水浴場として夏は〈海の銀座〉のにぎわいをみせているが，最近海水のよごれが目立っている。そのさらに西方には稲村ケ崎・七里ケ浜が続き，江の島鎌倉観光電鉄・湘南有料道路が海辺を走る。そのほか，家族連れの行楽地としては県立大船フラワーセンター・横浜ドリームランドなどがある。特産には，鎌倉仏師の影響を受けた鎌倉彫があり，輸出工芸品となっている。年中行事としては，源頼朝や義経(よしつね)・静御前をしのぶ〈鎌倉祭〉(4月7～14日)，鶴岡八幡宮の流鏑馬(やぶさめ)の神事(9月16日)，鎌倉権五郎を祭る権五郎神社の〈孕女(はらみめ)祭〉(9月18日)がある。〔浅井得一〕

かまくらござん【鎌倉五山】 鎌倉禅宗の寺院に付与された最高位の格式。鎌倉中期，南宋(なんそう)の五山の官寺制に準じ北条(ほうじょう)氏によって制定された。室町幕府の世になり京都・鎌倉の各禅寺を混合したうちから新五山を決定したが，その順位をめぐり禅寺間で対立を生じた。1386年(元中3・至徳3)将軍足利義満(あしかがよしみつ)は五山の制を全面的に改革し，京都の南禅寺を別格の上位として京都・鎌倉別に五山を定めた。この制で鎌倉では，建長・円覚・寿福・浄智(じょうち)・浄妙の順位で各寺が五山に列した。〔高崎徳次〕

かまくらさんだいき【鎌倉三代記】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。10段の時代物で近松半二作といわれる。1781年(天明1)江戸肥前座初演。大阪夏の陣を鎌倉時代に置き換えて脚色したもので，真田幸村(さなだゆきむら)を佐々木高綱，徳川家康(いえやす)を北条時政(ほうじょうときまさ)，木村重成を三浦之助，千姫を時姫に暗示している。筋の上では冬の陣を描いた《近江(おうみ)源氏先陣館(せんじんやかた)》の続きで，7段目〈絹川村閑居〉が最も上演回数が多い。歌舞伎(かぶき)への移入は1818年(文政1)で江戸中村座初演。時姫は三姫の難役で知られている。なお，紀海音に同名の作品があるが，現在は上演されない。



鎌倉三代記　歌舞伎の舞台から，〈絹川村閑居〉の場。左から三浦之助(中村鴈治郎)，佐々木高綱(中村勘三郎)，時姫(中村歌右衛門)　時姫は恋人三浦のために父時政を討つことを承知する

かまくらじだい【鎌倉時代】 ⇒104ページ

かまくらじだいびじゅつ【鎌倉時代美術】 鎌倉幕府の成立から滅亡に至る期間の美術。一部に南北朝時代を入れて扱う場合もある。前代の公家(くげ)・貴族中心の美術に代わって，新興の武士・庶民がその支持層に大きく参与していることが特徴である。仏教の世界でも新しく興った諸宗派が著しく栄え，特に宋(そう)から導入された禅宗は，当代末期以後の美術界に中心的役割を果たした。全般的作風の傾向は，平安時代の貴族趣味的な繊細・優美な性格から，力強い現実主義的な趣が強くなっている。また，同時に平安以前，奈良時代への回顧あるいは中国(宋・元)からの新しい技術・様式の導入などが盛んであった点は見のがせない。

建築では，従来の和様のほかに新たに大仏様・禅宗様の二様式が大陸からもたらされ，特に前者は戦乱で荒廃した奈良の仏寺の再興に登用され，偉容を残した。

彫刻では，力強い動きのある写実性による美が要求され，人体における筋肉，顔の表情などにも現実的表現がなされた。目に玉眼を入れたり，仏像の飾りに実際の工芸品をつけたりしているのは著しい例である。

絵画は，全般的に前代の柔らかい優美な表現から，力強いかたい作風の傾向が支配的になっている。仏画の制作は依然盛んであったが，この時代にはやはり現実的な表現形式が強くなり，また技法的にも宋画の影響が認められる。絵巻も隆盛期で，物語・縁起・伝記・合戦物など種々の種類がつくられた。また，似絵(にせえ)とよばれる新しい大和絵(やまとえ)肖像画が発達し，人貌(じんぼう)の描写に鋭い写実表現がみられる。さらに神仏習合の思想に基づいた垂迹画(すいじゃくが)が流行したのも当代の特色の一つである。

工芸も前代の伝統を継いで技術的に著しい発展を遂げたが，全体の作風はやはり繊細・優美な趣が減じて，力強い表現が目だち，写生ふうの意匠が多くなった。また，武具の制作が急増して鎧(よろい)・冑(かぶと)・刀剣などの進歩は著しい。〔村重　寧〕



鎌倉大仏

かまくらだいぶつ【鎌倉大仏】 鎌倉市長谷(はせ)の高徳院にある金銅製の阿弥陀如来(あみだにょらい)像(国宝)。高さ11.4m。はじめ1243年(寛元1)木像がつくられたが破損したため，1252年(建長4)8月に銅像の鋳造を開始した。造像は両度とも阿弥陀信仰の一地方僧浄光が発願し，多くの人々の喜捨を仰いで建立したと伝えられているが，その詳しい経過は知られていない。鋳物師(いもじ)の棟梁(とうりょう)は建長寺梵鐘(ぼんしょう)の製作者である物部重光(もののべしげみつ)と推測されており，大野五郎右衛門(ごろうえもん)と丹治久友が関係していること以外は不明である。運慶様式と宋朝(そうちょう)様式が融合した仏像でその美しい慈顔が有名である。この時期の関東における浄土宗の流布と鋳工技術の発達を反映している。当初は大仏殿があったが，2度の大風で倒れ，1495年(明応4)以後は露座となった。寺はもと浄泉寺といい建長寺の管理下にあったが，元禄(げんろく)年間(1688～1703)から浄土宗高徳院に改めた。〔藤本昌子〕

かまくらばくふ【鎌倉幕府】 源頼朝(よりとも)が相模(さがみ)(神奈川県)鎌倉に創設したわが国最初の武家政権。成立年代については，1185年(文治1)守護・地頭の設置によって幕府が全国的政権としての性格を備えた時点に求める説が有力であるが，このほか1180年(治承4)頼朝が鎌倉に入部したとき，1183年(寿永2)頼朝が東国行政権を取得したとき，1184年(元暦1)幕府の主要行政機関が設置されたとき，1192年(建久3)頼朝が征夷(せいい)大将軍に就任したときとする説など諸説がある。頼朝は，1185年平氏を長門(ながと)(山口県)の壇ノ浦に破って武家の棟梁(とうりょう)となり，御家人制の確立に努めた。初期の幕政機関としては公文所(くもんじょ)(のちに政所(まんどころ))・侍所・問注所を設け，1185年には守護・地頭設置の勅許を受けて，全国の軍事警察権を掌握した。源氏将軍は3代(頼朝・頼家・実朝(さねとも))で滅び，その後は摂家将軍2代(頼経・頼嗣(よりつぐ))，親王将軍4代(宗尊(むねたか)・惟康(これやす)・久明(ひさあき)・守邦(もりくに)親王)が立ったが，頼朝の死後，北条(ほうじょう)氏が台頭し，北条義時(よしとき)は政所別当・侍所別当の職を兼ねて執権と称して実権を握り，将軍は名目的な存在となった。以後執権は北条氏が代々世襲した。1221年

(承久3)の承久(じょうきゅう)の乱*に勝利して公家(くげ)政権に対する武家政権の優位を確立した。1225年(嘉禄1)に評定衆*(ひょうじょうしゅう)，1249年(建長1)に引付衆*(ひきつけしゅう)を設置して行政・裁判の公平と迅速化を図り，1232年(貞永1)には御成敗式目*を制定し，有力御家人の合議制に基づく執権政治体制を完成。文永・弘安(こうあん)の役*(元寇(げんこう))に際しては御家人ら武士団を統率して防衛体制を固めたが，恩賞問題で御家人の期待に応じられず，また幕政が北条氏宗家(得宗*)の専制政治に移行したため，有力御家人と得宗の御内人(みうちびと)の対立が激化した。また，御家人の窮乏化と惣領(そうりょう)制*の解体によって幕府存立の基盤である御家人制が動揺し，後醍醐(ごだいご)天皇を中心とする公家勢力の反撃と御家人の離反によって1333年(元弘3・正慶2)に滅亡した。〔鈴木英雄〕

鎌倉幕府職制表

- 将軍
  - 執権・連署
    - (鎌倉)
      - 政所(はじめ公文所)
      - 評定衆——引付衆
      - 問注所
      - 侍所
      - 小侍所
    - 六波羅探題
      - 評定衆—引付衆
      - 問注所
      - 侍所
    - (遠国)
      - 鎮西(九州)探題(はじめ鎮西奉行)
      - 長門(中国)探題
      - 奥州総奉行
      - 蝦夷管領(はじめ陸奥留守職)
      - 守護
      - 地頭

かまくらはちまんぐう 【鎌倉八幡宮】
⇨鶴岡(つるがおか)八幡宮

かまくらふ 【鎌倉府】 室町幕府の地方行政機関。足利尊氏*(あしかがたかうじ)は京都に幕府を開いたのち，関東地方の支配を重要視して，長子の義詮(よしあきら)を鎌倉に置いた。1349年(正平4・貞和5)以後は，義詮の弟基氏が代わって，関東管領*(かんれい)として鎌倉府の長官となった。鎌倉府は関東10か国(関東地方8か国と甲斐(かい)〔山梨県〕・伊豆(いず)〔静岡県〕)を統轄して，評定衆・問注所・政所(まんどころ)・侍所の諸政治機関を備え，独立化して小幕府の観があった。基氏の子氏満，孫氏兼とその職を世襲し，しだいに権威を高めて鎌倉公方*(くぼう)(鎌倉御所・関東公方ともいう)と称するようになり，補佐役の執事の職にあった上杉(うえすぎ)氏*が関東管領を名のるようになった。氏満・満兼ともに将軍職への野望をいだいて幕府側と紛争を起こした。満兼の子持氏が鎌倉公方になると，公然と将軍義教(よしのり)に反抗して永享の乱*をみるに至ったが，1439年(永享11)持氏の敗死により鎌倉府は滅亡した。〔高崎徳次〕

かまくらぶっきょう 【鎌倉仏教】 鎌倉時代における仏教の総称であるが，特にこの時代に成立した新仏教のみをさす場合もある。鎌倉幕府の成立は，それまで政治の中心であった貴族階級に代わって，民衆の中から成長してきた武士階級による政権の確立を意味し，日本歴史の上で，空前の変革であった。仏教界についても同様な点が指摘できるのであって，それを象徴しているのが，鎌倉新仏教の成立である。


鎌倉彫 《屈輪大香合》 金蓮寺蔵

鎌倉新仏教は大きく3系統に分けられる。第1は，平安時代末期の社会的混乱と末法思想*の流行する中から興った念仏諸宗(浄土宗・浄土真宗・時宗)であり，第2は宋や元との交通が盛んになるにつれて輸入された禅宗，第3は法華経(ほけきょう)信仰に立ち，唱題をもって救いへの唯一の道とした日蓮宗(にちれんしゅう)である。

これら新仏教の諸宗は，法然*(源空)・親鸞*(しんらん)・道元*・日蓮*らによって代表される。彼らの生涯(しょうがい)は12世紀から13世紀にかけて，ほぼ1世紀半の間に集中し，しかもみな天台宗の出身である。また，それまで日本の仏教諸宗はたいてい宗祖が当時の先進国中国に留学し，そこで得た新しい仏教を日本に持ち帰ったものである。それに伴って招来された仏像・経巻の類が，日本文化の発展に大きな影響を与えたことは事実であるが，これら鎌倉新仏教を代表する僧たちは，入宋(にっそう)した道元を除くと，大陸の仏教とじかに触れてはいない。彼らは自己の体験と思索によって，それまでに輸入され信仰されてきた仏教理論を消化し，新しい日本人の仏教を生み出したのである。つまり，外来宗教としての仏教は鎌倉新仏教において，はじめて日本人の心の中に定着したのである。道元の場合も，単に新たな仏教を伝えたのではなく，それの体解(たいげ)，体得を目的としたのであって，仏教を求める態度において，従来の留学僧とは異なっていた。

さらに新仏教においては，法然・親鸞がそれぞれ〈ただ一向に念仏すべし〉〈念仏にまさる善なきゆえに〉と述べ，道元が〈仏祖の道はただ座禅なり〉とし，日蓮が〈一向に他をすてて南無妙法蓮華経と唱うべし〉といったように，念仏・座禅・唱題という単純で実際的な〈一行〉を選び出し，それぞれの一行をもっぱら修すべきことを説いている。旧仏教においては〈八宗兼学〉ということばに代表されるように，自分の所属する宗派にかぎらず，広く他宗派についても学ぶことが要請され，いわゆる学解(がくげ)にすぐれることが重視された。もちろん，それはそれなりに重要ではあるが，反面，実践的な問題が軽視されたことは否めない。それに対して，新仏教における行法の単純化・易行化は，実践を重んじ，学問のみでは救われないことを教えている。しかし，彼らが学問を否定したといっても，それは単なる知識としての仏教の否定であって，彼らはその著作の中でおびただしい数の経典や論書を引用しつつ自説を展開しており，一見平易な主張の背後に奥行きの深さが感じられる。いわば仏教の複雑な内容を取捨選択して，その核心を摘出しているといえよう。単純な行法がかえって広い学問にささえられているのである。鎌倉新仏教においてはじめて純粋な宗教的行為としての行*が重視されたのであり，これは宗教として著しい純化である。またこれによって，従来，主として貴族階級を対象としてきた仏教が，広く武士や民衆の間にまで浸透する道が開かれたのであり，仏教はここに万人の宗教となることができた。

このような新仏教の隆盛に刺激されて旧仏教なかんずく奈良仏教を復興させようとする動きが起こり，その結果，華厳宗(けごんしゅう)・法相宗(ほっそうしゅう)・律宗の各宗が，一時的に活発な動きをみせた。この復興運動の中で重要な役割を果たしたのは華厳宗の高弁*，法相宗の貞慶(じょうけい)，律宗の叡尊*(えいぞん)である。高弁と貞慶とはともに人がらが厳格で戒律を重視し，また法然の専修念仏を攻撃した点でも共通していた。叡尊は戒律思想の民衆化を図るとともに，慈善事業に力を尽くし，殺生禁断を説き勧めた。旧仏教はこれら僧の努力で一時的には復興したが，長続きすることなく，おおむね室町時代までには消滅した。〔奈良博順〕

かまくらぼり 【鎌倉彫】 薄肉の木彫り文様に色漆を塗布して仕上げた漆芸技法。外見上は，鎌倉時代に舶載された中国宋(そう)・明(みん)時代の堆朱(ついしゅ)・堆黒・紅花緑葉(こうかりょくよう)など彫漆類の影響がみられ，現在もなお，鎌倉を中心にその技法は踏襲されていて，同系の遺品は小田原彫・越前彫(えちぜんぼり)・吉野彫(よしのぼり)などが数えられる。一説に，鎌倉時代東大寺大仏の復興に貢献した宋(そう)人陳和卿(ちんなけい)が，仏師康運の子の康円とともに法華堂(ほっけどう)の仏具を彫ったのがその起源であるとしているが，確証はない。鎌倉の建長寺*および円覚寺*の須弥壇(しゅみだん)や前机の木彫装飾文に，鎌倉彫に類似した手法が見いだされるが，明確には室町時代の笈*(おい)や香合類に遺品が多い。〔河田　貞〕

鎌倉時代

時代区分の名称。源頼朝*(よりとも)が平氏*を西海に滅ぼして鎌倉に幕府(→鎌倉幕府)を創設してから，1333年(元弘３・正慶２)後醍醐(ごだいご)天皇*を中心とする倒幕運動と，御家人の離反によって幕府が滅亡するまでの約150年間をいう。鎌倉時代という名称は純然たる政治史的観点からの時代区分であるが，同時にそれは，社会・経済・文化のうえでも一つの特質をもった時代を形造っている。この時代の特徴は，貴族階級の衰退と武士階級の興隆の歴史としてとらえられる。しかし武士階級は，鎌倉幕府という独自の権力機構を形成したとはいえ，まだ伝統的な古代公家(くげ)政権を政治的にも社会・経済・文化的にも完全には克服しえてはいない。その意味でこの時代は，古代社会の中に成立して独自の政権を確立した武士階級が，公武の二元的対立関係を克服して，新しい封建社会をつくりだしていく過渡的時代であるともいえる。

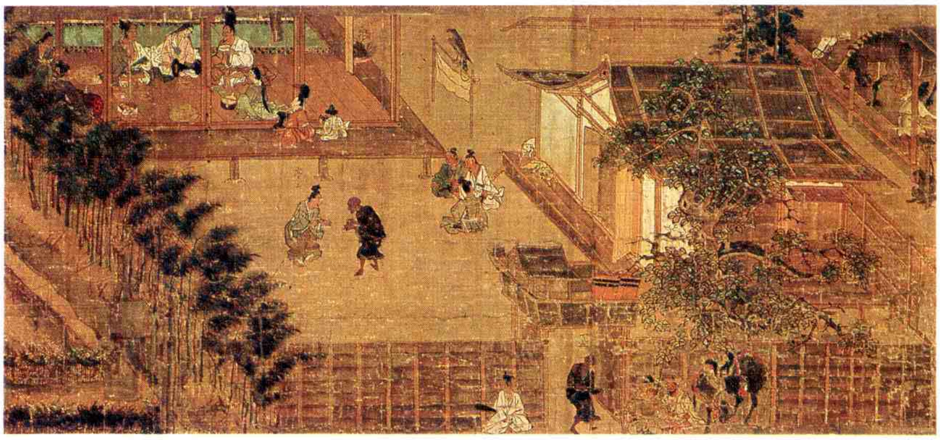
〔政治・経済〕1180年(治承４)８月，以仁王*(もちひとおう)の令旨を奉じて伊豆(いず)(静岡県)に挙兵した頼朝は，石橋山の戦い*に敗れたが，海路安房(あわ)(千葉県)にのがれて再起を図り，千葉常胤(つねたね)・上総(かずさ)広常らの豪族的武士の帰服を得て勢力を広げ，10月には源氏ゆかりの地鎌倉にはいり，平氏の大軍を富士川の戦い*で破って東国の経営に力を注いだ。頼朝は和田義盛*(よしもり)を侍所別当に任じて，帰服した御家人の統制にあたらせる一方，実力をもって得た地域の支配を正当化するために朝廷との接触を図り，後白河(ごしらかわ)法皇に密書を送って朝廷に対する叛意のないことを述べている。また頼朝よりやや遅れて信濃(しなの)(長野県)に挙兵した源(木曾(きそ))義仲*(よしなか)は，いったん越後(えちご)(新潟県)にはいり北陸道を西進して，1183年(寿永２)７月平氏を追って入京した。平氏の都落ちに先だち比叡(ひえい)山にのがれ，義仲に迎えられた後白河法皇は，ただちに平氏追討の宣旨を義仲に下し，平氏一族の官職および所領500余を没収した。しかし義仲はたちまち朝廷の信望を失い，後白河法皇と義仲の対立は収拾しがたいものとなってきた。このような中央の情勢をみた頼朝は，同年10月平家が押領している荘園*(しょうえん)・公領を旧主に返還することを申し入れて公家の歓心を得るとともに，代わりに東海・東山道に対する頼朝の事実上の支配を政治的に認めさせ，朝廷から東国に対する行政権を与えられた。これは頼朝の軍事力による東国支配が国家公権によって合法性を認められたことを意味し，鎌倉幕府の成立をこの時点に置く学説もある。

一方義仲は公家の反感と，後白河法皇と頼朝との急速な接近にみずからの危機を感じ，その打開策として義仲に反対する勢力を朝廷から追放し，さらに頼朝を討とうと図った。頼朝は弟範頼*(のりより)・義経*(よしつね)に大軍を授けて上洛(じょうらく)させ，1184年１月義仲を近江(おうみ)(滋賀県)の粟津(あわづ)に敗死させ，次いで勢力を盛り返した平氏を一の谷の戦い*で破り，さらに屋島・壇の浦の戦い*で連破して滅亡させた。後白河法皇は武士階級の進出に対して平氏には義仲を，義仲には頼朝を対抗させることによって古代公家政権の危機を切り抜けてきた。平氏滅亡後，頼朝と義経の不和が強まると，後白河法皇は義経を公家政権に引き込むことによって，頼朝のもとに結集した武士階級の政治勢力に対抗しようとした。義経は院*に要請して頼朝追討の宣旨を得て挙兵したが，諸国の武士の支持は得られなかった。頼朝の軍は直ちに義経追捕(ついぶ)の行動を起こして入洛したため，院は一転して義経追討の宣旨を頼朝に下した。この矛盾した行動によって院は窮地に立ったが，頼朝は義経追捕を理由に諸国の守護*・地頭*の設置を要求して勅許された。守護は国ごとに置かれ，国内御家人の指揮統制権と軍事警察権を掌握していたが，これは当時弱体化したとはいえ，古代公家政権の政治的・経済的基盤であった律令(りつりょう)制下の地方行政機構に対する合法的食い込みを意味するものであった。また地頭は諸国の荘園・公領に設置され，管内の警察権，年貢(ねんぐ)・公事の徴収権，下地*の管理権などの職権をもち，反別５升の兵糧米(ひょうろうまい)の徴収権を与えられた。この地頭の設置は，公家・寺社の経済的基盤である荘園・公領に幕府によるくさびが打ち込まれたことを意味しており，公家・寺社にとっては大きな脅威となった。そのため公家・寺社は地頭設置に強く反対を続け，頼朝は1186年(文治２)には地頭の設置を平家没官領・謀叛人(むほんにん)所領などに限定して妥協せねばならなかった。ともあれ守護・地頭の設置は，東国の一地方政権として発足した鎌倉幕府が，古代公家政権への寄生・依存という性格をもちつつも，全国的軍事警察権を掌握し，頼朝と御家人の私的主従関係が，公的な職の給与を媒介とする国家体制に編入されることによって，全国的政権に発展したことを示すものである。

1189年頼朝は義経隠匿を理由として奥州に藤原泰衡*(やすひら)を討ち，武力的な全国統一はいちおう完了した。翌年上洛した頼朝は権大納言・右近衛大将(うこのえのたいしょう)に任ぜられたが，やがてこれを辞し，後白河法皇没後の1192年(建久３)征夷(せいい)大将軍*に任ぜられて，鎌倉幕府は名実ともに武士階級の政権となった。この間，幕府ではすべての権限を頼朝の手に集中し，侍所・政所(まんどころ)・問注所を補助機関とする将軍独裁の体制が確立した。1199年(正治１)頼朝が急死すると，公家政権内部において反幕勢力の動きが活発になった。その中心人物源通親*(みちちか)は頼朝が死んだ翌月，通親襲撃のうわさがあるとして幕府の有力御家人を捕え，また西園寺公経(さいおんじきんつね)ら親幕派の貴族の出仕を止め，さらに淡路(兵庫県)・阿波(あわ)(徳島県)・土佐(高知県)３か国の守護佐々木経高の京都騒擾(そうじょう)の罪を糾弾して，幕府に守護職交替を強要するなど，公家政権の勢力挽回(ばんかい)を図った。通親の死後，反幕勢力の中心となった後鳥羽(ごとば)上皇は，1219年(承久１)将軍実朝(さねとも)が甥(おい)の公暁に暗殺されて将軍継嗣の問題が起こると，親王将軍*東下という幕府の要請を拒否し，さらに院の寵妃(ちょうひ)伊賀局(いがのつぼね)の所領である摂津(兵庫県)倉橋荘・長江荘の地頭改補を要求し，幕府がこれを拒否したことから公武の関係は緊張した。1221年５月後鳥羽上皇は執権北条(ほうじょう)義時追討の院宣*を発し，承久(じょうきゅう)の乱*が始まった。しかし乱はわずか１か月で京都方の完敗に終わり，御家人制を根幹とする幕府の体制の強固さが証明された。後鳥羽上皇は義時追討の院宣を撤回し，挙兵は一部謀臣の企てたことであることを弁明した。また今後は諸事にわたって幕府の申請によって宣下することを申し入れた。ここに公武両政権の政治的力関係は逆転し，武家政権の優越性は動かしがたいものとなった。

乱後幕府は３上皇を配流し，六波羅探題*(ろくはらたんだい)を設置して公家との折衝やその監視，西国御家人の統制にあたらせた。また京都方関係者の所領3,000余を没収して，その地頭職を勲功の賞として御家人に与え，それまで地頭未設置の荘園にも漸次地頭を補任した。この結果，従来幕府が十分に勢力を伸ばしえなかった地域にも広く地頭が設置されて，幕府の支配は全国に及ぶことになった。のち幕府は元寇(げんこう)(→文永・弘安(こうあん)の役)に際して，それまで幕府の所管外であった西国地方の寺社・本所*領の非御家人に対する支配権と，本所一円地の年貢・公事徴発の権限を獲得して，幕府の全国政権的性格は一段と強められた。この間幕府政治は，頼朝時代の将軍独裁制を克服して，北条氏*を中心とする執権政治が確立し，有力御家人の合議機関として評定衆*が設けられ，さらにわが国最初の武家法である御成敗式目*が制定されて道理に基づく武家政治の進展がみられた。

一方，承久の乱を契機とする公家政権の衰退と武家政権の伸長を背景に，公家・寺社の経済的基盤である荘園に対する地頭の侵略，すなわち地頭が荘園領主(本所・領



鎌倉時代　筑前の武家屋敷を訪ねた一遍上人《一遍上人絵伝》(部分)　歓喜光寺蔵

家)の支配を排除して，土地と農民に対する一円排他的支配を実現しようとする動きが活発になってきた。荘園領主と地頭の争いは多く幕府にもち込まれ裁判による争論となったが，幕府は御家人保護の立場から地頭の荘園侵略を全面的に禁止することもできず，他面では，幕府の経済的基盤が荘園制に依拠しているために，荘園側そのものを否定する政策もとりえなかった。そのため幕府は実力による支配をめざす地頭と，領主権の確保を図る荘園領主側との和解に意を注いだ。一方地頭による年貢の押領・抑留などに苦しんだ領家側は，荘務のいっさいを地頭に引き渡し，その代わり年々の豊凶にかかわらず，一定額の年貢を地頭の責任で，領家方に納入させる地頭請所*を行なうようになった。この方法は地頭・領家の紛争を解決する有効な手段と考えられたため，幕府の斡旋(あっせん)によって請所の契約が行なわれる場合も多く，これを関東御口入の請所といった。請所契約の結果，領家側は荘務からいっさい手を引き，契約年貢を受けとるだけになった。しかし地頭は自己の武力的背景をたのんで請所契約にそむき，年貢の抑留・未進を続けるものが多かったので，しだいに荘園の土地そのものを地頭方と領家方とに折半して，それぞれが他の支配を交えずに一円排他的な支配を行なう下地中分*の方法がとられるようになった。このようにして荘園制的秩序は，変質・解体への道をたどりはじめ，地頭は在地領主に成長していった。

鎌倉時代における経済は，いうまでもなく土地を主とする生産の上に置かれていたが，牛馬耕の普及，灌漑(かんがい)技術の発達による不安定耕地の安定化，深耕を可能にする鉄製農具の普及，刈り敷き・草木灰など施肥の改善などの農業技術が著しく進歩し，畿内(きない)や西国では二毛作*も行なわれはじめた。荘園領主に送られた公事も，アサ・クワなどの衣料原料や藍(あい)・紅花などの染料をはじめ豊富な内容をもつようになった。このような農業生産力の増大は手工業の発達を促した。手工業者は平安時代の末期から座*を結成し，公家・寺社に属して，その保護のもとに，必要な農具その他の日用品の生産を行なっていたが，この時代になると，座の職人の中には公家・寺社などに奉仕するほか，一般の求めに応じて商品を生産する者も現われた。農業・手工業の発達はまた商業を発展させた。商業も公家・寺社の保護のもとに販売の独占権を与えられた座の商人が中心であったが，やがて荘園の中心地や交通の要地，寺社の門前などでは市*が開かれるようになった。市も不定期のものからしだいに定期のものとなり，三斎市も珍しくなくなった。また宋(そう)との貿易による宋銭の輸入と，その流通はいっそう商業の発達を促進し，また荘園の年貢の銭納化が行なわれるようになると，市場の利用はますます増加した。それにつれて遠隔地の貨幣の取引に為替*(かわせ)が利用され，借上*(かしあげ)とよばれる金融業者が生まれた。彼らは酒屋や運送業を営む一方，農民や武士に高利で金銭を貸しつけた。また交通の要地には物資の管理や運送，仲継取引に従事する問丸*が活躍した。

このような商工業・貨幣経済の発達は，鎌倉幕府存立の基礎である地頭・御家人の生活にも大きな影響を与えた。御家人は京都大番役や鎌倉番役などで，中央の文化に接する機会も多く，貨幣経済の進展とあいまって，生活はしだいに向上した。しかしこの時代には所領の分割相続が行なわれていたので一族の所領はしだいに細分化され，彼らの生活は窮乏して中には所領を質入れしたり売却するものも現われた。幕府は御成敗式目やそれ以後の追加法で御家人所領の保護規定を設け，所領の売買・質入れなどを制限あるいは禁止したが効果はなかった。特に元寇以後この傾向は著しく，御家人制は大きく動揺することになった。幕府は1297年(永仁5)徳政令*を発布して御家人の失った所領を無償で取り返すことにしたが，これは幕府の権威を失墜させたのみならず，かえって経済界を混乱させ，さらには金融の道を失った御家人の不信を招き，翌年には早くも廃止した。また所領の支配をめぐって惣領(そうりょう)と庶子の争いが激化し，惣領が一族庶子を統率して軍役に従い，御家人役を勤仕するという惣領制*が解体して，独立勤仕を求める庶子も多くなった。幕府は基本的には惣領制を維持する立場をとりながらも，一方では庶子の独立を認める方策をとったため，幕府の処置に不満をもつ御家人も多くなった。一方元寇を契機とする御家人社会の不安と動揺をおさえるため，幕府政治は執権*政治に代わって，得宗*家(北条氏嫡流の家)の専制化が進められ，諸国守護職(しゅごしき)を北条氏一門に集中し，一門に対する得宗の統制力を強化した。そのため従来の合議機関である評定衆や引付衆は名目的存在となり，得宗被官である御内人が幕府の中枢をおさえるようになった。

1285年(弘安8)の霜月騒動*はかかる情況に対する御家人の反発を示すものであり，得宗専制政治の強化に伴って，御家人は幕府からしだいに遊離する結果となった。また武士階級の中でも，幕府の御家人保護政策の外に置かれていた非御家人や，地頭の荘園侵略に苦しめられていた公家・寺社は幕府に強い不満をもつようになった。さらに皇位継承をめぐる大覚寺統*と持明院統*の対立は，公家社会の不満を幕府に集中させることになった。1318年(文保2)大覚寺統から即位した後醍醐天皇は院政*を廃止し，人材を登用して政治の刷新を図ったが，幕府の干渉によって皇位を自分の血統に伝えることも，天皇中心の政治体制を実現することもできない情勢から倒幕を考え，また倒幕の客観情勢も熟しつつあると判断して幕府倒滅の計画を進めた。正中の変*，元弘の乱*においては失敗したが，しだいに反幕勢力の結集が進み，北条氏の専制に不満をもっていた有力御家人足利(あしかが)高氏(尊氏*(たかうじ))は，幕府にそむいて六波羅探題をおとしいれ，次いで新田義貞*(にったよしさだ)が鎌倉に攻め入って，高時以下の北条氏を滅ぼした。1333年鎌倉幕府はここに滅亡し，後醍醐天皇は京都に帰って天皇親政の政権が成立した(→建武中興)。

〔文化・宗教〕文化的には，この時代は伝統的な公家文化が形式化し，新しい創造性を生み出す積極性を欠いてはいたが，なお依然として文化の主流を占めていた。武士はその簡素で雄健な気風のうえに伝統的公家文化を摂取して，公家と交流し合いながら武家文化を形成していった。新しい社会をつくりつつあった武士階級の新鮮で個性的な精神を反映して，文化は写実的で雄健な傾向をもち，また積極的に宋の文化を取り入れて多くの作品を生み出した。一面，



鎌倉時代の武士　《蒙古襲来絵詞》(部分)　宮内庁蔵

この時代の文化は仏教*の強い影響のもとに発展した。平安末期から続いた社会不安の中で，旧仏教は造寺・造仏や加持祈禱(きとう)をこととし，一般民衆を救済する力をもたなかった。そのような情勢から新しい宗派がいくつも生み出された。それらは旧仏教の中から生まれたり，あるいは大陸から輸入されたりした。浄土宗・浄土真宗・時宗・法華宗(ほっけしゅう)・臨済宗・曹洞宗(そうとうしゅう)がそれである。これら諸宗の所説はそれぞれ異なっていたが，旧仏教が難解な教理，きびしい戒律，荘園の寄進，造寺を必要としたのに対し，ただ信仰によって在俗生活のまま救いを得られることを説く点は共通していたので，広く武士・農民・商人などの各層にわたって発展した。新仏教の盛行に刺激されて旧仏教の内部にも種々の改革が起こった。華厳宗(けごんしゅう)には高弁(明恵)が出て栂尾(とがのお)の高山寺を開き，人々の尊信を集めた。律宗では泉涌(せんにゅう)寺の俊芿(しゅんじょう)，西大寺の叡尊，鎌倉極楽寺の忍性(良観)らが宗派の再興に努めた。また天台宗では慈円がその学識をうたわれ，真言宗でも高野山大伝法院の頼瑜(らいゆ)が出て真言新義派を大成した。

〔学問・思想〕政治・社会の動きを反映して，学問・思想にも新しい傾向が現われた。文章道・明経道・明法道などの学問は，それぞれ一定の家に世襲され，学問の秘伝・口授が行なわれるようになり，ついには学問の神秘化の傾向が生まれた。また貴族の間では過去の盛時へのあこがれから古典研究が進み《源氏物語》《万葉集》《古今和歌集》などの注釈的研究が行なわれ，また有職(ゆうそく)故実の学も盛んになった。さらに社会の変動による歴史意識の発達は，慈円の《愚管抄》を生み，幕府でも武家政治の記録である《吾妻鏡(あづまかがみ)》を編纂(へんさん)した。儒教では宋学が伝えられ，新しい学問として一部の公家に広まった。また伊勢の豊受大神宮(外宮)の神官渡会(わたらい)氏*は新しく伊勢神道を唱え，これまでの本地垂迹説*(ほんじすいじゃくせつ)に対して，反本地垂迹説を生み出した。神国思想を背景とした神道の発達は《日本書紀》の研究を促し，卜部(うらべ)兼方の《釈日本紀(しゃくにほんぎ)》が生まれた。武家社会でも学問を習得する気風が高まり，金沢(北条)実時(さねとき)は金沢文庫*を創設して多くの書物を集めた。

〔文芸〕一方和歌は依然として盛んで，《新古今和歌集》が勅撰(ちょくせん)され，余情妖艶(ようえん)の象徴美に富んだ歌風は新古今調といわれる。歌人には後鳥羽上皇・藤原俊成・藤原定家・藤原家隆・西行・慈円らがいる。歌壇をささえた人々は多くは公家であったが，武士の中にも将軍源実朝のような歌人が出て《金槐(きんかい)和歌集》を残した。説話文学*には，《古今著聞集》《十訓抄(じっきんしょう)》《宇治拾遺物語》や仏教説話としての《沙石集(しゃせきしゅう)》がある。そのほか紀行文学*として《海道記》《東関紀行》《十六夜(いざよい)日記》があり，随筆としては鴨(かも)長明の《方丈記》や吉田(よしだ)兼好の《徒然草(つれづれぐさ)》のような名作も現われた。これらの中にあって最も特色を示したのが軍記物語*である。《保元物語》《平治物語》《平家物語》などは戦乱を題材とし，実在の人物を主人公としてその活動をいきいきと描写している。中でも《平家物語》は当時の人々に深刻な印象を与えた源平の争乱を描き，その文体も律動的で，琵琶(びわ)法師によって語られ，広く民衆に親しまれた。

〔美術・工芸〕時代の新気風と海外文化の影響を受けて，美術・工芸の分野においても新しい発展があった。寺院建築には新たに宋から伝えられた大仏様*・禅宗様*の新様式が行なわれ，住宅建築では簡素・質実な武家造りが興った。彫刻には，代表的な作者として運慶・湛慶(たんけい)・快慶らがいる。作風は写実的で力強く，運慶・快慶作の東大寺南大門の金剛力士像，康弁作の龍燈鬼(りゅうとうき)像や天燈鬼像など多くの名作が残され，肖像彫刻としては世親・無著像がある。絵画では前代に続いて大和絵(やまとえ)が主流を占め，仏画が多く描かれたほか，絵巻物*が隆盛期にはいった。絵巻物の題材は寺社の縁起，高僧の伝記や戦乱など広範囲にわたり，《平治物語絵巻》《北野天神縁起》《石山寺縁起絵巻》《法然上人(しょうにん)行状絵図》《蒙古襲来絵詞(もうこしゅうらいえことば)》などすぐれたものが多い。また似絵*(にせえ)といわれる肖像画も盛んに描かれ，特に藤原隆信(たかのぶ)・信実(のぶざね)父子が有名で源頼朝像，後鳥羽上皇像などの名作を残している。なお，禅宗の興隆によって頂相(ちんぞう)といわれる禅僧の肖像画の制作も盛んに行なわれた。

工芸では武家社会の需要に応じて，武具の製造技術が進歩した。甲冑(かっちゅう)に明珍，刀剣では鎌倉の岡崎正宗(まさむね)，京都の粟田口吉光(あわたぐちよしみつ)，備前(岡山県)の長船(おさふね)長光らの名工が出た。陶器は，道元に従って入宋した加藤景正(かげまさ)が尾張(愛知県)の瀬戸焼のもとを開いた。

〔生活〕この時代には服装も簡素化し，これまで略装とされていた狩衣(かりぎぬ)や水干*が正装となり，平常服として直垂*(ひたたれ)が広く用いられた。特に武士の間では，水干・直垂に烏帽子*(えぼし)が普通であった。女子は小そでを常服とし，袿*(うちき)を羽織ることもあった。一般に鎌倉時代の武士の生活は簡素なものであり，日常の食物や衣服も公家に比べれば質素なもので，ただ主君への奉公を全うするために武芸を身につけることが重要とされた。そのため犬追物*・笠懸*(かさがけ)・流鏑馬*(やぶさめ)・巻狩り*などが行なわれ，封建的主従制の道徳である兵(もののふ)の道が重視されていた。〔鈴木英雄〕

がまごおり【蒲郡(市)】愛知県中南部の市。江戸時代には三河(みかわ)もめんの特産で知られた。1954年(昭和29)市制施行。人口86,000。渥美(あつみ)湾湾奥部の沿岸平地部と背後の広い山地を含む。産業三大別人口比は8：48：44。綿織物と麻ロープなどの繊維工業が発達し，蒲郡港は貨物の輸移出入量が年間60余万tにも及ぶ国際貿易港である。東三河工業整備特別地域内に含まれ，西部海岸には工業用地が造成されている。東海道本線に沿い，国道247号線・248号線の分岐点にある。すぐれた海岸美をもち，最近は三谷(みや)・形原・西浦などの温泉郷や三ヶ根山の開発が進んで三河湾国定公園の観光拠点となり，遊覧船が蒲郡港から発着する。

がましゅ【蝦蟇腫】舌下唾液腺(だえきせん)，または顎下(がっか)唾液腺の排出管が閉鎖されてできる貯留嚢胞(のうほう)をいう。外傷・炎症・唾石などが原因。多くは，舌の下部にピンポン球大の，青みがかった色に

見える柔らかい膨隆をきたし，このため舌が挙上される。症状が，がまの咽頭嚢に似ているところから，この名まえがある。摘出手術，または内容液がたまらないように開窓術を行なう。

かます【魳・魣】硬骨魚類・カマス科の海産魚。ヤマトカマス・アカカマスなどの種類があるが，一般にはあまり区別せずに取り扱われている。ヤマトカマス(ミズカマス・アオカマスともいう)は，わりあいに小形(20cm内外)で，青みがかり，やや水っぽい感じがする。アカカマスは大きくて最大50cmほどになり，赤みがかり，がっしりした感じである。どちらも本州中部以南に多い。そのまま料理してもうまいが，やや水っぽい。ひと塩にして軽く干したものは，干物の王様といってよいほど美味である。熱帯地方のカマスには有毒な種類もあるが，近海産のもので中毒した例はない。〔菅野　徹〕

カーマ-スートラ［Kāma Sūtra］古代インドの性愛の書。成立年代は不詳だが，4～5世紀にバーツヤーヤナがすでに存在した性愛の諸典籍を簡潔な形にまとめあげたもの。7章からなり，純性典的部分のほか，結婚式，良家の子女のしつけ，遊女の生活，粋人の好みなど，古代インドの風俗・習慣を伝え，インド文化史上貴重な資料を提供している。

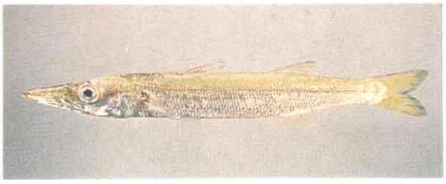
がまずみ【莢蒾】双子葉植物・スイカズラ科。日本各地の丘陵地や山地に自生する落葉低木。高さ1.5～2.5m。若枝には毛がある。葉は互生し，長さ3～12cm，幅2～8cmの広倒卵形で縁に鋸歯(きょし)がある。5～6月に散房花序に小白花をつける。果実は卵形で赤熟し食べられる。果実の黄色に熟すものをキミノガマズミという。

かまつか【鎌柄】双子葉植物・バラ科のウシコロシの別名。➔ウシコロシ

かまつか【鎌柄】硬骨魚類・コイ科。20cmほどになる淡水魚。北海道・青森を除く日本全土の平地の川や湖の砂底にすむ。淡かっ色地に濃色の複雑な斑点(はんてん)がある。習性・形がよく似たものにコイ科のツチフキがあり，10cm内外で，関東以西に分布する。

かまど【竈】上にかまをかけ下に火をたいて物を煮る台所の設備。〈へっつい〉〈くど〉ともいう。小形のものを〈一つかまど〉といって，台箱の上にかわらを並べ，土を盛り塗り上げてかま・なべなどを一つずつ交替にかけて煮たきする。大形のものは半体を土で塗り上げ，かま・なべをかけ半体を銅壺(どうこ)(湯わかし器)につくったものである。現在ではガス・電気の供給の発達に伴い，旧式のかまどの使用はほとんど廃され，ガス・電気炊飯器を使用するようになった。〔前田一枝〕

かまどうま【竈馬】こん虫類・直翅(ちょくし)目・カマドウマ科。オカマコオロギともいうが，発音しない。体長20mm内外，全体暗かっ色で，翅(はね)はなく，体の背面は強く湾曲している。触角は糸状で長い。後脚が発達しており，跳躍力が大きい。台所・縁の下など暗くじめじめした所に生活し，夜間活動してこん虫類・クモ類などの死体や菌類などを食べる。本種よりも大形のマダラカマドウマは体長20～25mm，マダラオカマコオロギともいい，本州・九州に普通に見られ，全体黄かっ色で，多数の黒色斑紋(はんもん)があり，岩の割れ目やほら穴などに生活する。このほか，日本には朽ち木に生活するクチキウマなど数種類が産する。カマドウマ科は全世界から300種以上が知られているが，分類がまだ十分に行なわれておらず，種名が確定していないものも多い。



カ　マ　ス





ガマズミ
(上)花
(下)果実



カマドウマ　マダラカマドウマ

かまどどり【竈鳥】

1鳥類・カマドドリ科の総称。中南米特産で約220種からなる。全長12～25cm。体はかっ色系統のじみな色で，斑紋(はんもん)のないものが多い。主食はこん虫やクモであるが，種子食のものもある。どろを固めた球形の大きな巣を樹上につくるものが多く，またその巣が非常に目につきやすいので，カマドドリ類とよばれる。しかし穴の中に営巣したり，枝や草で巣をつくったりするものもある。

2鳥類・アメリカムシクイ科の1種。北アメリカ産の小鳥で地上に球形の巣をつくるためにovenbird とよばれ，しばしばカマドドリと訳される。〔浦本昌紀〕

かまどのかみ【竈の神】家の竈*に祭られている神。地方により，おかまさま・かまがみ・かまぼとけなどと称される。御神体はお札*や御幣によるものが多いが，東北地方では神の面，沖縄では三つの石であったりする。分家するのを〈かまどを分ける〉と称したり，入嫁式や家族の旅立ちに際して拝礼したり，主婦の交替や死者の出たとき，御神体や灰などを入れ替える儀礼など，家人を守護する神と考えられていた。

かまなしがわ【釜無川】長野県と山梨県の境，赤石山脈の北部を水源とし，北東流して南アルプスの東側，八ケ岳南麓(なんろく)の水を集め，甲府盆地にはいって東から流れてくる笛吹川と合流し，富士川となる。流程72km。甲府盆地西部の灌漑(かんがい)用水源。荒れ川であるためにしばしば治水工事が行なわれ，信玄堤として堤防に武田(たけだ)信玄の名も残っている。

がまのあぶら【蝦蟇の膏】香具師(やし)の取り扱う傷薬。刀でわざと腕などに傷をつけ，〈この膏薬(こうやく)を塗ればたちどころに痛みは去り血が止まる〉などのもっともらしいたんかと演出のおもしろさで，人を集めて売る路傍商法の薬である。この膏薬に入れられてあるというがまの油とは漢薬の蟾酥(せんそ)のことで，高価なため実際には配合されていないであろう。蟾酥はシナヒキガエルやヒキガエルの耳下腺(じかせん)の分泌物に小麦粉などを加えて練り固めたもので，強心・鎮静・局所麻酔作用などがあり，食あたりや気つけなどに用いられる六神丸に配合されている。〔三浦三郎〕

かまぼこ【蒲鉾】水産加工品の一。魚のすり身に調味料を加えて練り，蒸し煮またはあぶり焼きしてつくる。室町中期に儀式用としてつくられたのがはじめといわれているが，当時の製法はいまと異なり，魚のすり身を細竹に塗りつけ，炭火にあぶって焼いた。この形が水べに生ずるガマの穂に似ているところからこの名称が起こった。したがって現在のちくわに似たものである。その後桃山時代に板につけたものが出るようになり，紛らわしいので，もとのかまぼこをちくわ*(竹輪)と名づけたという。現在では板付きかまぼこのほかにいろいろの形態のものがある。四国・九州・中国など西日本にみられる麦わらやすのこで巻いた簀(す)巻きかまぼこ，四角の型に入れて焼いた南蛮焼き，木の葉に似た笹(ささ)かまぼこ

などは板を使わない製品である。原料魚は，最初はナマズが使われた。ナマズは肉は純白美味であるが形が醜いので，すりつぶして食用にしたのがかまぼこのはじめである。次にハモが使われた。現在は原料魚の地方的特色は少なくなってきているが，グチ・ハモ・エソなどは西日本で，東日本ではスケソウダラがおもに使用されている。このような原料の関係から西日本では味のよいのが好まれ，東日本では色が白く弾力の強いのが重要視される。〔佐藤友太郎〕

かまめし【釜飯】たき込み飯の一種。1人用の小さなかまを使って好みの材料を混ぜた飯をたき，かまごと供して熱いところを賞味するもので，冬季のごはん物として喜ばれる。昔，常食とされていた，米に雑穀を併用したり，木の実・野菜・海草などを加えた糧飯(かてめし)が語源といわれる。1人分約0.7カップの米を酒・塩・しょうゆで調味した出しでたく。混ぜる材料はトリ肉やエビ・カニのほか，貝類・タケノコ類・キノコ類などの季節のものがよい。水分の吸収・保温の上から土がまが最適であるが，一般には金属製のかまが普及している。最近では小料理店のほか，駅弁としても各地で売り出され，人気を得ている。〔塩川ふみ〕

カマルゴ［Marie Anne de Cupis Camargo］(1710～1770) フランスのバレリーナ。ブリュッセル生まれ。1726年パリのオペラ座でデビューし，人気を博した。舞い姫のスカートの短縮，かかとのないくつの使用，タイツの着用など，非難を浴びながら衣装の大改革を実行し，以後バレエの技巧は水平的な動きから軽快な空中的な〈パ〉へと飛躍的発展を遂げることになった。1751年引退。

カマレスとうき【カマレス陶器】紀元前約1500年ごろに地中海域のクレタ島でつくられた彩文陶器。1859年イタリア考古学調査隊によって，イダ山中の村落カマレスにある洞窟(どうくつ)から発見されたための名称である。この陶器は表面を黒かっ色に塗り，その上に赤かっ色・淡黄色・藍(あい)色などを用いて渦巻(うずまき)文・花形文などを図案的手法で描いてある。また，その造形は斬新(ざんしん)かつ精巧であり，鳥嘴(ちょうし)形注口および取っ手付き壺(つぼ)・手付きカップ・丸胴形手付き壺などがみられる。なお，この陶器の製作地としては宮殿所在地のクノッソス・ファイストスが考えられる。→エーゲ文明〔市川 清〕

かマンガンさんカリウム【過マンガン酸カリウム】$KMnO_4$ 赤紫色の結晶で金属光沢を有し水によくとける。酸化性が強く，イオウ・リン・有機物などと混合すると自然発火したり爆発したりすることがある。マンガン酸カリウム溶液に炭酸ガス・塩素・オゾンなどを作用させたり，マンガン酸カリウム溶液を電解酸化したりしてつくる。酸化



カマレス陶器
カマレス式のオイノコエ

剤としての性質を利用し，有機合成・漂白剤・殺菌剤などに用いられる。また，鉄・チタン・シュウ酸などの還元剤の定量などに用いられ，分析用試薬としても重要である。〔鈴木 篁〕

かみ【紙】〈繊維を水中でからみ合わせたのち，乾燥することによって薄く平らなシートに仕上げたもの〉をすべて紙とよぶが，厳密には，植物繊維を原料とするもののみを紙と称し，合成繊維・アスベストなどからつくったものは，特に合成繊維紙・アスベスト紙などとよんで区別する。また広義にはプラスチックフィルム(またはシート)を素材とする合成紙*も含めるが，ここでは植物繊維の紙に限定する。

【原料】木材パルプのほか，わら・竹・バガス(サトウキビの茎からショ糖をしぼったかす)などのパルプ，木綿繊維，コウゾ・ミツマタ・麻類などの靭皮(じんぴ)繊維*を使用する。また板紙の大部分，洋紙の一部には多量の古紙(使用済みの紙または切断くずなど)を原料として使用する。

【製法】〈抄紙原料の調製〉原料繊維に対し，水の中で機械的処理(叩解*(こうかい))を施したのち，洋紙*の場合は，サイズ剤(インキのにじみの防止剤)その他の薬品，白土のような鉱物質の白色粉末(填料(てんりょう))を混合して，また和紙*の場合は，〈ねり〉と称する植物の粘質物を混合して，抄紙原料とする。〈抄造〉抄紙原料をさらに水で希釈して濃度を0.3～1.3%としたのち，細かい網の上に流して水をこすと，繊維が互いにからみ合って薄く平らな湿潤シートができる。これを圧搾し，乾燥すると，繊維相互の接触が密になり，ついには繊維間に強固な結合が生成して紙ができあがる。前記の叩解処理は，繊維内部の組織を弛緩(しかん)させて繊維を柔軟にすると同時にその表面積を増大させ，また繊維を紙すきに適した長さに切断する。その結果，抄造の過程で繊維がからみ合いやすくなり，また繊維相互の接触面積が増して，紙の強度が向上する。

【性質】紙の種類は非常に多く，種類によって多少の違いはあるが，一般には次のような性質がある。①白色～かっ色の薄い平面で不透明である。②軽く，透気性がある。③印刷・包装・加工などの用途に耐えるのに十分な強度をもち，また適度なかたさがある。④表面はおおよそ平滑で，弾力性があり，また液体を吸収する能力が大きいため，あらゆる印刷方式に適合する。⑤一見平滑に見える表面にきわめて微小な凹凸(おうとつ)があるため筆記しやすい。⑥微生物により分解し，また燃焼によって有毒ガスを発生しないため，廃棄しやすい。

以上の性質のほとんどは，繊維の性質よりも繊維の集合状態によって生ずる。すなわち，紙は〈繊維が平面的に網状にからみ合った層〉がいくつも積み重なってできており(写真-1)，そのため紙の内部には細かい空隙(くうげき)が連続して存在し，しかも空隙の総容積は，紙の見かけの容積の30～70%にあたる。このような構造によって紙の特長が生ずるが，特に強度に関しては，繊維間の結合が大きく寄与している。この結合は，植物繊維の主要成分であるセルロース*およびヘミセルロース*に含まれている水酸基によってつくられるもので，2本の繊維が密着して，二つの水酸基が著しく近接すると，その間に水素結合*という強力な結合を生ずる。したがって植物繊維を原料とするかぎり，特に接着剤を加える必要はない。

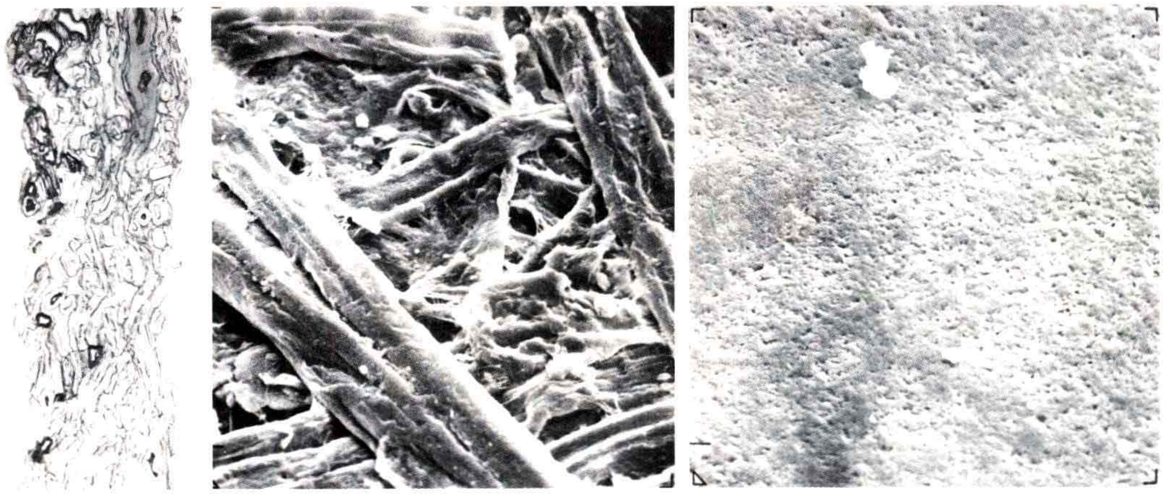
通常の紙の表面には，幅10～50μの繊維が網状に配列している(写真-2)が，コーテッド紙は表面に径2μ以下の扁平(へんぺい)な顔料粒子を塗被してある(写真-3)。このため表面が著しく平滑で，しかも顔料粒子の間に印刷に必要な程度の空隙が存在することになり，印刷結果がきわめて鮮明になる。なお，合成紙には，顔料粒子を表面に並べて，コーテッド紙にその表面構造を類似させたものが多い。

【種類】日本では紙を次のように大別する。

- 紙
  - 紙
    - 洋紙
    - 和紙
  - 板紙

①厚さまたは単位面積あたりの重量(坪量)が大きいものを板紙とよぶが，紙と板紙の境界は明瞭(めいりょう)でなく，日本では商習慣により分類する。②現在の和紙には，手すき和紙と機械ずき和紙があり，原料にも木材パルプが多量に使われるため，洋紙と和紙の区別はあいまいであるが，いちおう，紙すきの際に〈ねり〉を使用したものを和紙とよぶことができる。

【洋紙および和紙】〈新聞用紙〉新聞印刷用の紙で，主原料に機械パルプを使用する。〈印刷用紙〉広い意味では，新聞用紙・コーテッド紙・グラビヤ用紙なども含めるが，JISの印刷用紙A～Dは，雑誌・書籍などに使用される紙で顔料を塗被していないものをさし，化学パルプ*と機械パルプの配合割合で4階級に区別している。Aはいわゆる



①　　②　　③

紙　顕微鏡写真
①クラフト紙断面の顕微鏡写真。約90倍
②③は紙表面の電子顕微鏡写真，②は上質紙，③はコート紙。いずれも約500倍

上質紙で化学パルプ100%，Bは中質紙で化学パルプ70%以上，Cは上更紙(じょうざらがみ)で化学パルプ40%以上，Dは更紙*で化学パルプ40%以下である。下級紙(CおよびD)以外は，不透明性を高めるため5～25%の塡料を配合している。

〈コーテッド紙〉鉱物質の白色顔料を塗被した紙で，日本では塗被量の多少によりアート紙*とコート紙*に区別し，高級印刷に使用される。

〈グラビア用紙〉雑誌・週刊誌のグラビア印刷のページなどに使われ，スーパーカレンダーで表裏を平滑に仕上げてつくる。

〈筆記用紙〉帳簿・びんせん・ノート・はがき・カード(厚紙)などのほか，複写用・雑記用として使われる紙で，インキがにじまないようにサイズ剤を添加してある。なおボンド紙は最も高級な筆記用紙である。

〈図面用紙〉図画・製図などに使う紙。中でもワットマン紙およびケント紙*は高級図画用紙として有名で，前者は主原料に麻を使用し，おもに水彩画に使われ，後者はもめんぼろもしくは化学パルプを主原料とし，製図のほか名刺などにも使われる。

〈包装用紙〉包装用に最も多量に使われる両更クラフト紙は，未さらしクラフトパルプ*からつくり，セメント袋・肥料袋・食糧袋のような重包装用に，またスーパーマーケットで使う紙袋のような軽包装用に使われる。ロール紙は片つやの紙で軽包装用に使われ，そのうちでも純白ロールはさらしクラフトパルプを主原料とし，商店で食料品の包装などに使用される。

〈薄葉紙〉1m²あたりの重量が，洋紙の場合40g以下，和紙の場合20g以下の薄い紙をさし，化学パルプ・靭皮繊維・木綿繊維などからつくる。洋紙では，食品などの包装あるいは窓つき封筒の窓などに使うグラシン紙*，たばこの巻き紙に使うシガレットペーパー(ライスペーパー)，辞典などに使用するインディアペーパー*，タイプライター用紙など，和紙では，貴金属の包装などに使う典具帖(てんぐじょう)，カーボン紙をはさんで複写する際に使う機械ずき和紙，ティーバック用原紙などがある。(→薄葉紙)

〈家庭用薄葉紙〉衛生紙*ともよばれる。一般家庭で使用する化粧紙・トイレットペーパー・生理用紙綿・紙タオル・京花紙など。

〈雑種紙〉洋紙では，感光紙原紙・統計機カード用紙，コンピューターその他に使用する連続伝票用紙・電気絶縁紙*・色上質紙・前記以外の加工用途に使用する加工原紙など，また和紙では，書道用紙・障子紙・紙ひも原紙などが雑種紙の分類にはいる。

〔板紙〕①段ボール原紙：中芯(なかしん)原紙とライナーがあり，前者を波形に成形し，後者とはり合わせて段ボール*をつくる。未さらしクラフトパルプ・セミケミカルパルプ・古紙などを原料とする。②白板紙：表層にさらし化学パルプのような白色原料をすき合わせた板紙*で，その中でも比較的厚いものを白ボール*，比較的薄いものをマニラボール*と称し，いずれも表面に鉱物質の顔料を塗被したものとしないものがある。たばこ・食品・薬品・化粧品の小箱などに使われる。また，絵はがき・牛乳せん，厚手の乗車券に使用する板紙も白板紙の分類にはいる。③黄板紙：わらパルプなどを主原料とし，びんせんの裏表紙などに使う。④チップボール：下級古紙を原料とし，玩具(がんぐ)の箱などに使う。⑤色板紙：化学パルプを着色して表層にすき合わせた板紙で，食料品・化粧品などの箱に用いる。⑥建材原紙：ルーフィングあるいは石膏(せっこう)ボードのような建築材料の製造に使う原紙。

〔紙製品の寸法と取引単位〕書籍・雑誌・ノートなどに使用する洋紙の寸法として，加工仕上寸法と原紙*の寸法とが決められており，原紙の寸法は加工仕上寸法を基準とし，化粧だちの際の損失も見込んである。加工仕上寸法(表-1)は，たとえばB5といえば182×257mmである。なお，表-1の幅と長さの比は1：$\sqrt{2}$で，A列0番の面積は1m²，B列0番の面積は1.5m²である。

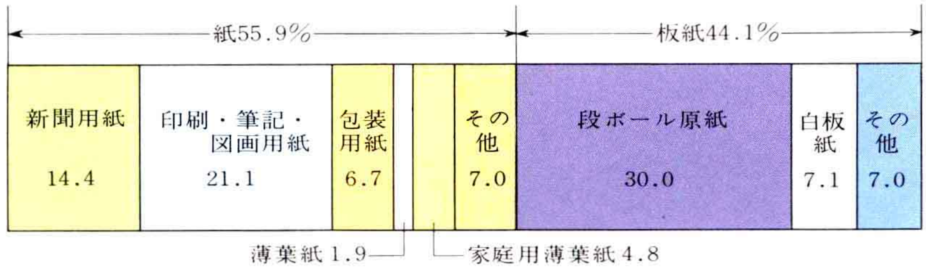
紙および板紙の取引は重量(tまたはkg)あるいは連の単位で行なわれる。1連の紙とは，わが国の場合，規格寸法の紙1,000枚，もしくは板紙100枚を，また巻き取りの場合はそれぞれの枚数に相当する量をさす。1連の紙の重量を連量といい，洋紙の商取引に用いられ，たとえば，B列本判73kgの紙といえば，日本工業規格(JIS)に定められた原紙寸法のB列本判(765×1,085mm)の大きさで1,000枚の重量が73kgの紙をさす。

〔生産と消費〕全世界の紙および板紙の生産量は1979年に1億7,100万tに達し，前年に比べ5%の伸びを示した。上位10か国の生産量は表-2のとおりであるが，日本は1,786万t，第2位で，前年に対し8.3%の伸びを示した。1979年における日本の紙および板紙の製品種類別生産量は図のとおりである。前年に比べて特にコーテッド紙・衛生紙などの伸びが著しい。国民1人あたりの紙・板紙消費量の1例を表-3に示したが，日本は151kg/年で，世界で8番目に消費量が多い。なお，5kg/年に満たない国が世界142か国の40%を占めている。

〔紙の変遷〕古代エジプト人は，パピルス*というアシに似た植物の茎を薄く切って縦横に並べ，水でぬらしてから加圧して，記録が可能なシートをつくった。パピルスは英語やドイツ語の〈紙〉の語源にもなったが，厳密には紙とよぶわけにはいかない。

紙は105年に中国の蔡倫(さいりん)によって発明され，その製法は原理的には今日の紙すき方法とまったく同じであったといわれる。中国の製紙術は，12世紀にはヨーロッパに伝わり，原料にもめんなども使われて，製紙技術もかなり改良されたが，なお手すきの域を出なかった。しかし1798年になって，フランスのロベールが長網式の抄紙機を発明し，やや遅れて円網式抄紙機が発明されて，今日の機械ずき紙が現われた。その後1840年に砕木パルプが発明され，さらに亜硫酸パルプ*・クラフトパルプが発明されて，木材繊維が利用できるようになり，19世紀には大量生産方式で紙をつくる基盤が完成した。

日本へは610年に高麗(こま)の僧曇徴によ



紙　日本の紙・板紙の製品別生産量(1979)

って中国の製紙術が伝えられた。

その後日本人は独特の製紙技術を発展させて，靭皮繊維から優雅で強靭な和紙をつくる方法を完成させた。

紙の歴史は長いが，紙そのものには本質的な変化は少ない。しかし原料は大きく変化しており，戦後パルプ原料として広葉樹材を利用する技術が進んで，針葉樹材との使用比率は50対50(容積比)に達した。最近では，資源節約の観点から古紙の利用が進み，日本では，生産された紙および板紙の40%以上が古紙として回収され，製紙原料に使用されている。また製造面では，戦後設備の大型化，高速化が進んで，生産性が著しく向上した。

表-1　紙の加工仕上げ寸法(単位mm)

A列		B列	
0	841×1 189	0	1030×1456
1	594× 841	1	728×1 030
2	420× 594	2	515× 728
3	297× 420	3	364× 515
4	210× 297	4	257× 364
5	148× 210	5	182× 257
6	105× 148	6	128× 182

表-2　紙・板紙の生産量(1969)

(単位1,000t)

アメリカ合衆国	58 882
日本	17 861
カナダ	13 488
ソ連	8 800
西ドイツ	7 444
スウェーデン	6 280
フィンランド	5 738
フランス	5 261
イタリア	5 101
中国	5 000

表-3　国民1人あたりの紙・板紙消費量(1979)

(単位kg/年)

アメリカ合衆国	289	イタリア	92
カナダ	215	東ドイツ	81
スウェーデン	213	ソ連	33
西ドイツ	205	ブラジル	26
スイス	161	中国	8
日本	151	インド	2
オランダ	148	ヨーロッパ諸国平均	77
イギリス	134	アジア諸国平均	13
オーストラリア	133	南米諸国平均	25
フランス	117	アフリカ諸国平均	5

(表-2，3はPulp & Paper Vol. 54, No 8から引用)

品質の面では，合成高分子の利用が進んで種々の加工紙*が生まれ，本来の紙の欠点を補ってその用途を拡大し，特に最近は情報化時代を反映して，印刷効果がすぐれたコート紙，複写紙，情報記録紙などの需要が急増している。➔製紙➔和紙

〔角祐一郎〕

かみ【神】　人間に恐怖・畏怖(いふ)の感情をいだかせる精霊・霊鬼などの非人格神から高等宗教の人格神までを含めて，広く宗教信仰の対象となる存在をいう。神観念の発生は人間生活と密接な関係をもつ。神の性格は，人間が置かれている気候・風土的条件，生存していくうえでの二大要件である食物，性への関心，生産機構，風俗・慣習の違いなどに影響され，神秘的な情緒の発現，集団感情の高まりや世界観に対応し，文化・社会的条件の変化に応じて変容される。

神はその性格のうえから，自然神・機能神・人間神・超越神などに分類される。自然神は天・地・日・月・星辰(せいしん)・山・川・草木・火・風・雷などの自然の存在をそのまま神格化した神である。古代ギリシアでは天神ウラノス・地母神ガイア・太陽神アポロン・雷神ゼウスなど，自然を神とする崇拝対象が多くみられる。天を崇拝対象とするのは遊牧民族に多くみられ，大地を地母神として崇拝する例は世界各地にみられるが，特に農耕民族にははなはだしい。太陽神の崇拝は広範囲に分布するが，特にアジア・アフリカ諸民族にみられる。機能神は抽象的な力や観念を表現した神で，ギリシアを例にとると，アテナは知恵の神，ヘルメスは通信・商業の神であり，疫病神など日本の民間信仰にみられるように，人間の欲求に応じて出現する。人間神は広い意味では自然神にはいり，偉人・英雄など実在の人間に神性を見いだして神としてあがめる例で，家族・民族・部族の祖先神も人間神である。これに対して全知全能なる万物の創造主，運命の支配者たる唯一絶対神として人間の上に君臨するのは超越神で，ユダヤ教・キリスト教・イスラム教などの一神教がこれにあたる。日本では人は死して仏となり神となり，生存中でも生き神として崇拝される神観念をもち，神と人とは連続した存在としてとらえられるので神人即一教とよばれ，一方キリスト教などのように，神は創造主，人間は神によってつくられたものとして，人と神との関係を二元的対立のもとにとらえるので，神人懸隔教として区別される。

唯一神を信ずるのを一神教というのに対し，信仰対象の神の数のうえから，複数の神を信ずるのを多神教，宇宙に存在するもののすべてが神の現われであるとみるのを汎神教(はんしんきょう)という。多神教のうちでも，イランの民族宗教ゾロアスター教*は善神で光明の神アフラ-マズダと悪神で暗黒の神アーリマンとを対立的にとらえる二元教である。多神教の神々は，多くは自然神であるか人間神であり，職能的に分化して地域住民の欲求にこたえ，半獣半神や動物の姿をとることもある。神々の間には系譜関係が樹立されて，その中の主神が最高神の位置を占める。日本の神々は八百万神(やおよろずのかみ)といわれるほど数がきわめて多い。その中で，アマテラスオオミカミが最高神の位置を占めるが，復古神道ではアメノミナカヌシノカミを宇宙主宰の絶対神としてたてる。数のうえで多いのは人間神である祖神で，氏神*・鎮守として祭られ，出産・育児の神である子安神(こやすがみ)や疫病神などの機能神がひろく信仰されている。しかし，多数の神々が同時に崇拝されるのではない。職能をもった神々の中から祈願の対象となった一神がそのときは最高の神として仰がれ，祈願の内容によって対象とされる神は替わるので，この場合，単一神教とも交替神教ともいうことがある。

このように，一神教や多神教は人格神として崇拝対象となるが，汎神教は一種の哲学的宗教理解であり，世界観である点で前二者とは異なる。すべての中に神を認める立場はすべての神を否定する無神論に通ずる構造をもつ。すべてに仏性(ぶっしょう)を認める仏教は汎神教ではないが，汎神教的特徴をもった宗教であるといえる。

〔藤井正雄〕

【日本における神】〈去来する神から常在する神へ〉　神社*の社殿は神の住居で，神はつねにそこにすみたまうとする神常在の観念が，現在では支配的である。古風な信仰では，神は目に見えない存在であり，〈時あってきたり臨むもの〉と考えられていた。神の降臨に際して，その所在を明らかにするために，目印として依代*(よりしろ)を整えた。神屋として常設の社殿や祠堂(しどう)を構えている場合でも，内に御神体として鏡・御幣・サカキ・石などのいずれかが納めてあるものが多く，これらは神の依代であり，神屋以前の祭祀(さいし)方式を示すものである。これらの依代のうち最も目につくのは御幣であるが，御幣以前の形としては削り掛け*がある。また，古典に神籬(ひもろぎ)・磐境(いわさか)という語が見られるが，これらは依代のごく原初的な形態である。そのほか，人間を依代に立てる〈よりまし*〉とよばれる

ものもある。依代によって去来する神から常在する神への変化は日本人の神信仰の上で，大きな変化といわなければならない。

《祭祀集団による神の分類》日本人の神信仰はまことに種々雑多にみえるが，祭祀集団の規模を規準として四つに分類すると，個々の家で祭る神，同族で祭る神，職業集団で祭る神，地縁集団で祭る神がある。①厨房(ちゅうぼう)に祭られる火の神として竈(かまど)の*神，釜神(かまがみ)，荒神。神だなには，村落の守護神の氏神をはじめ，伊勢(いせ)神宮や出雲(いずも)大社など，著名な神社の勧請神が神札のかたちで納められている。また，神だなあるいは台所に福神として，*夷(えびす)・*大黒の2神を祭る家も多い。そのほか，井戸に祭られる水神，正月に*門松を依代として祭られる正月様・年徳(としとく)神。屋敷の一隅(いちぐう)に祭られる屋敷神などもある。②マギとかイッケとよばれる同族が単位となって祭る神。古くは本家が主催し，分家が奉仕するという形から，回り番で頭屋(とうや)をつとめる形に移行したものが多い。祭られる神としては祖先神・祝神・地神・荒神などがある。③山仕事に従事する人々は山の神を，農民は田の神を，漁民は漁業神としての夷や船の守護神としての船霊(ふなだま)などがある。また，鍛冶屋(かじや)や鉱山のたたら師が守護神として金屋子(かなやご)神を祭るといった事例が知られている。④地域結合の大小によりそれぞれ分類される。㋑近隣集団を単位とした，庚申講(こうしんこう)・伊勢講など，信仰的*講組織によったさまざまな神信仰。㋺部落共同体で祭る神としての山の神・道祖神・藪(やぶ)神などをはじめ，種々の流行神。㋩村落共同体で祭る神としての氏神・産土(うぶすな)神・鎮守。

多種多様な神信仰が，以上で整然と分けきれたとは言いがたい。たとえば家に関していえば，家として家の神を祭り，同族団の一員として同族祭祀にも参加し，さらに地縁集団の一員として，なんらかの講に加入し，同時に部落・村落の神祭りの構成員でもある，といったように非常に複雑な様相を呈している。いいかえれば，日本人はまさに神々に取り囲まれて生活しているといってよく，この点はキリスト教やイスラム教のような他の神々の存在を許さないというたてまえをとる一神教と根本的に異なっている。〔直江広治〕

かみ【長官】 律令(りつりょう)制下の四等官(長官・次官(すけ)・判官(じょう)・主典(さかん))第1位の官職。官司の職務を総轄する最高責任者。官司の格，機構の高低・大小によって長官の字は異なるが，すべてかみとよばれる。すなわち，神祇官(じんぎかん)は伯，各省は卿，職(しき)は大夫，寮は頭，司は正，国は守の字があてられている。

かみあぶら【髪油】 頭髪に塗る液状の油。毛根に栄養を補給して発育を促し，毛髪に美しいつやを与え，髪形を整えるために用いる。原料油として，鉱物油と植物油の2種がある。鉱物油の主成分は流動パラフィンで，主としてつや出し用に使われる。植物油にはつばき油・さざんか油・ごま油・くるみ油・オリーブ油・アーモンド油・やし油などがあるが，オリーブ油とつばき油が最も多く使われている。切れ毛・枝毛・ふけなどを防ぐ役目をし，また毛髪および頭皮のトリートメント剤としての効能もある。〔メイ-ウシヤマ〕



カミエビ

かみあらそい【神争い】 2柱の神が相争う形式の伝説。富士山と筑波(つくば)山の神争いの話は有名。ミオヤガミが富士山に一夜の宿を求めたとき，*新嘗(にいなめ)の祭りで*物忌みだからと断わるが，筑波山のほうでは泊めるという筋である。また栃木県日光山と群馬県赤城(あかぎ)山は仲が悪く，赤城山の神が百足(むかで)となって雲に乗って攻めると，日光山の神は大蛇(おろち)となって戦い，日光山の神は猿丸大夫(さるまるだゆう)という弓の名人の加勢を得て，赤城山の神を退けたという。ほかに京都北野神社と伏見稲荷(いなり)の争いなど，各地にこの種の伝説が数多く残っている。これらの伝説は，自分たちの土地の神だけを強く信仰し，ほかの神を顧みようとしない信仰から生じたものであろう。〔山路勝彦〕

かみいずみいせのかみ【上泉伊勢守】 生没年不詳。戦国末期の兵法家。上野(こうずけ)(群馬県)の人。名は秀綱(ひでつな)，のち武蔵守(むさしのかみ)信綱(のぶつな)。長野信濃守(しなののかみ)業盛(なりもり)に仕えて箕輪(みのわ)城におり，愛州陰(あいすかげ)流の刀槍(とうそう)術を習って精妙を得た。のちこれにくふうを加えて神陰流と称する。1563年(永禄6)業盛が武田(たけだ)信玄に滅ぼされたとき，武田家に仕えるよう勧められたが，固辞して武者修行の旅に出た。神後宗治・疋田(ひきた)文五郎の2門人が同行している。途中信綱は伊勢(三重県)の国司北畠具教(きたばたけとものり)を訪れ，その紹介で柳生但馬守(やぎゅうたじまのかみ)宗厳(むねよし)と立ち合い，宗厳を門弟に迎えた。信綱は柳生の里にとどまり，宗厳に神陰流の極意を授けて去った。京都では山科言継卿(やましなときつぐきょう)を訪れ，卿を通じて将軍義昭(よしあき)をはじめ，公卿や武士に武術・軍学を教えた。1577年(天正5)柳生荘(しょう)で死んだといわれるが明らかでない。〔稲垣史生〕

かみいそ【上磯(町)】 北海道，渡島(おしま)支庁南部，上磯郡にある町。1918年(大正7)町制施行。北海道でも和人が最も古くから定住した地区で，鎌倉幕府の命を受けた荒木大学が，1205年(元久2)に砂金採取のために来住した記録が残っている。人口30,000。函館(はこだて)湾に臨み，函館本線から分かれる江差線，国道228号線に沿い，上磯駅を中心に集落があるが，周辺に渡島山地の末端部が迫っている。宗山川上流流域の戣朗(かろ)は石灰石の産地で，埋蔵量は道内の約60%と推定され，川口付近に日本セメントの工場がある。東部の函館市との境に近い七重浜付近の海岸平野では米・ジャガイモ・野菜類が栽培され，アジア石油製油所をはじめ，コンクリート・鉄工・食品などの工場も多く立地して，函館市の北西に続く工場地帯を形成している。松前陣屋跡・トラピスト男子修道院・釜(かま)峡谷などの史跡・名勝に富み，七重浜に1954年(昭和29)に1,155人の死者を出した台風15号による洞爺丸(とうやまる)船客遭難の碑がある。

かみいち【上市(町)】 富山県中新川郡に属し，県東部に位置し，上市川・早月川の流域にある。人口124,000。1954年(昭和29)上市を中心に周辺6村が合併し，新発足した。上市は渓口(けいこう)市場集落として発達し，機業が盛んで，また反魂丹(はんごんたん)として知られる売薬製造の中心地でもある。富山地方鉄道本線が通ずる。

かみいち【上市】 奈良県吉野(よしの)郡吉野町の中心地区。吉野川中流の河岸段丘上に位置する細長い列村状の集落で，古くから西隣の*下市町とともに東吉野地方を商圏とする市場町として栄えた。恵比須(えびす)神社前に門前市が立ち，2月11日の初市は特に名高い。対岸の貯木場には吉野材が集まり，製材・木材加工業が盛んである。近畿(きんき)日本鉄道南大阪・吉野線が通じている。

かみえび 双子葉植物・ツヅラフジ科。山野に普通のつる性落葉樹。アオツヅラフジ・ピンピンカズラ・チンチンカズラともいう。茎は長く伸びて他物にからみ，葉とともに毛がある。葉は互生し有柄，卵形で全縁，ときに浅く3裂する。雌雄異株で，夏に，葉腋(ようえき)に円錐(えんすい)状に多数の黄白花をつける。秋に球形の腋果が黒熟し，果面は白粉をふく。茎・根を干したものを木防已(もくぼうい)といい，漢方では利尿・鎮痛薬として用いることがある。〔横井朝子〕

かみおか【神岡(町)】 岐阜県吉城(よしき)郡に属し，県北部に位置し，神通川上流の高原川流域にある町。人口16,000。1950年(昭和25)船津を中心に2村が合併発足した。国鉄神岡線が通ずる。国産亜鉛の70%を産する神岡*鉱山がある。

かみおかこうざん【神岡鉱山】 岐阜県

吉城(よしき)郡神岡町にある金属鉱山。1579年(天正7)に開発されたが，明治以降，三井金属鉱山によって採掘されている。現在亜鉛は全国の70%，鉛は同じく35%を産し，ともに首位にある。栃洞(とちぼら)・円山(まるやま)・茂住の3鉱床は世界的規模であり，選鉱は栃洞・鹿間(しかま)・茂住の3工場で行なわれている。

かみおくり・かみむかえ【神送り・神迎え】 陰暦10月に諸国の神々が出雲(いずも)に集まるとされ，その神の出発を神送り，帰来を神迎えという。9月末に神送りし，10月末に神迎えする例が多い。旧10月を神無月(かんなづき)というが，地方によっては2か月に及ぶ場合もある。家や村の神が不在の間の留守神は夷*(えびす)さまであることが多い。もとは里に下った田の神が，秋の収穫を終わり山に帰るとの信仰に由来するものと思われる。この期間中は，家や村では静粛にしていることが望まれ，一種の物忌み*の期間である。〔渡辺欣雄〕

かみがかり【神がかり】 神霊が人体に乗り移り，その人間に託して神意を告げること。神懸・神憑とも書く。《日本書紀》にアマテラスオオミカミが天岩戸(あめのいわと)に隠れた際，アメノウズメノミコトが神がかりしたとあるのが初見である。民間信仰では仏おろし，稲荷おろしなどの口寄せ*がこの形態である。婦人・小児に現われる場合が多く，まれに男性の場合もある。→シャーマニズム 〔田上光治〕

かみかくし【神隠し】 子ども，ときにはおとなが突然ゆくえ不明となること。部落総出で本人を捜し求めてもみつからない場合，その本人を神が連れ去ったと考えることである。ここにいう神とは地方によって天狗*(てんぐ)・鬼*・隠し婆(ばば)・キツネであったりする。中には帰らぬ場合もあるが，帰ってきた者はほとんど放心状態で発見され，幽界や天界，あるいは神隠しの期間中の体験談を語り，現世と霊界との交信の役を果たすと考えられた。〔渡辺欣雄〕

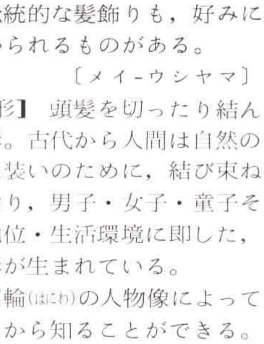
かみかざり【髪飾り】 頭髪を飾ったり，乱れを防いだりするために用いるもの。純粋に髪を飾る目的で生まれたものと，最初は実用から生まれ髪形とともに発達して髪飾りとなったものがある。わが国において，前者は古代に枝花や草花の類を髪に差したもの，後者は髪をくしけずる，たばねて止める，巻きつけるなどの実用品として生まれたくし*・笄*(こうがい)・簪*(かんざし)である。結髪自体，労働その他による必要上，髪をたばねて処理するという行為からしだいに化粧の部分に加わって，美しく結い上げる段階になったとき，これらくし・笄・簪も美しく変身を遂げた。このように髪飾りは髪形とともに発達し，そのときどきの日本人らしい繊細な女の表情をつくってきた。しかしそれらの髪形が失われた現在，昔の髪飾りをながめ，これを用いた人の髪形や容姿をしのぶよりすべはない。〔橋本澄子〕

西洋でも，くしや自然の植物で髪を飾ることは早くから行なわれている。古代ギリシアのヘアピンは金属・象牙(ぞうげ)でつくられ，琺瑯(ほうろう)細工や小さな彫刻，また宝石で飾られていた。のちヘアピン・バレット(輪どめ)・くしは主として鋼鉄にエナメルを塗り，宝石や貝がらをちりばめたり，金銀の線で細工を施した。最近は手軽なプラスチック製も多くみられる。このほか，リボン・打ちひも・ヘッドバンド，また髷(まげ)を包むネットなど，自由に髪を形づけることのできる繊維製の髪飾りも多種ある。

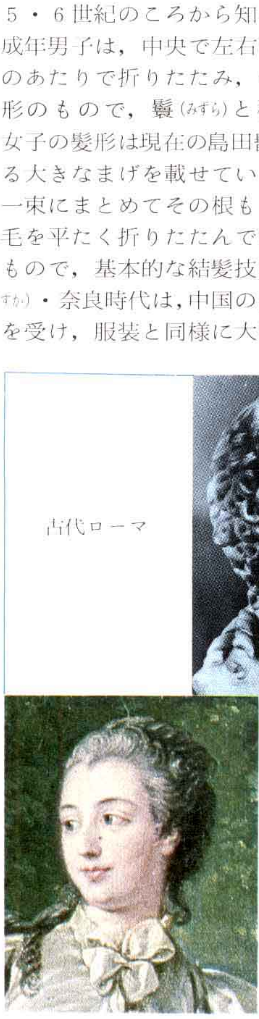
なお，現代の髪形の中には，古代的なひもや髪を三つ編みにしたバンド，またスペインやわが国の伝統的な髪飾りも，好みに応じて自由に用いられるものがある。〔メイ-ウシヤマ〕

かみがた【髪形】 頭髪を切ったり結んだりして整える形。古代から人間は自然の髪を実用あるいは装いのために，結び束ねる習性をもっており，男子・女子・童子それぞれに年齢・地位・生活環境に即した，ふさわしい髪の形が生まれている。

〔日本の歴史〕埴輪(はにわ)の人物像によって，5・6世紀のころから知ることができる。成年男子は，中央で左右に分けた髪を両耳のあたりで折りたたみ，中央で結び止める形のもので，鬟(みずら)と称される。また，女子の髪形は現在の島田髷(しまだまげ)に類似する大きなまげを載せている。頭髪を頭上で一束にまとめてその根もとを結び，残りの毛を平たく折りたたんで中央を結び止めるもので，基本的な結髪技法である。飛鳥(あすか)・奈良時代は，中国の隋(ずい)・唐の影響を受け，服装と同様に大陸様式そのものであった。はじめて冠服の制が定められ，宮廷人はすべて冠をかぶることになったために，男子は髪を頭上に一束にして髻(もとどり)をとった。この形は，これから以後の男子の基本的な髪形となった。そして，美豆良は成人以前の童子が結うものとされた。女子においては，頭上に高いまげを載せる形と，いったんおろした髪を肩のあたりから逆に頭上に折り曲げて，その毛先と前髪を一束にして頭上で結び止める，一種の垂髪形式のものと二つの大きな形式がみられる。中世にはいっても男子は相変わらず髻をとる髷形を踏襲しているが，一つの変化として月代(さかやき)の風習が行なわれるようになった。これは源平時代に，武士がまげのままかぶとを冠するのが苦痛であるために，頭上を丸くそったのが始まりであると伝えられている。最初は戦場のみで行なわれていたが，戦国乱世が続くことによって武士はつねに月代をそるようになり，その習慣がついには江戸時代においては，武士・町人をとわず，日常の髪形となった。女子は，自然のままに長く伸ばす垂髪が習慣となり，結束史の上では無結髪期ともいうべきブランクの時代が7世紀ほど続いた。安土桃山時代から江戸時代の初期にかけて，ようやく結髪のきざしが現われ，男髷をまねた唐輪髷(からわまげ)に始まり，女子特有の兵庫髷や島田髷が生まれた。江戸中期には，封建制を背景として，結髪にも貴族・大名・武士・町人・一般庶民とそれぞれに階級的特色が現われ，女子においては，童女から娘・若妻・としま・老女・後家というような年齢・環境による髪形の違いが生まれた。後期にはいると女髷はますます技巧的になり，世界に類をみないほど複雑で多様な形が生まれ，その数も100種を越えた。髱(たぼ)や鬢(びん)の発達に伴い，現在日本髪とよばれている前髪・鬢・髱・髷の四つの部分から構成される分髪形式が確立したのもこの時期であった。



古代ローマ

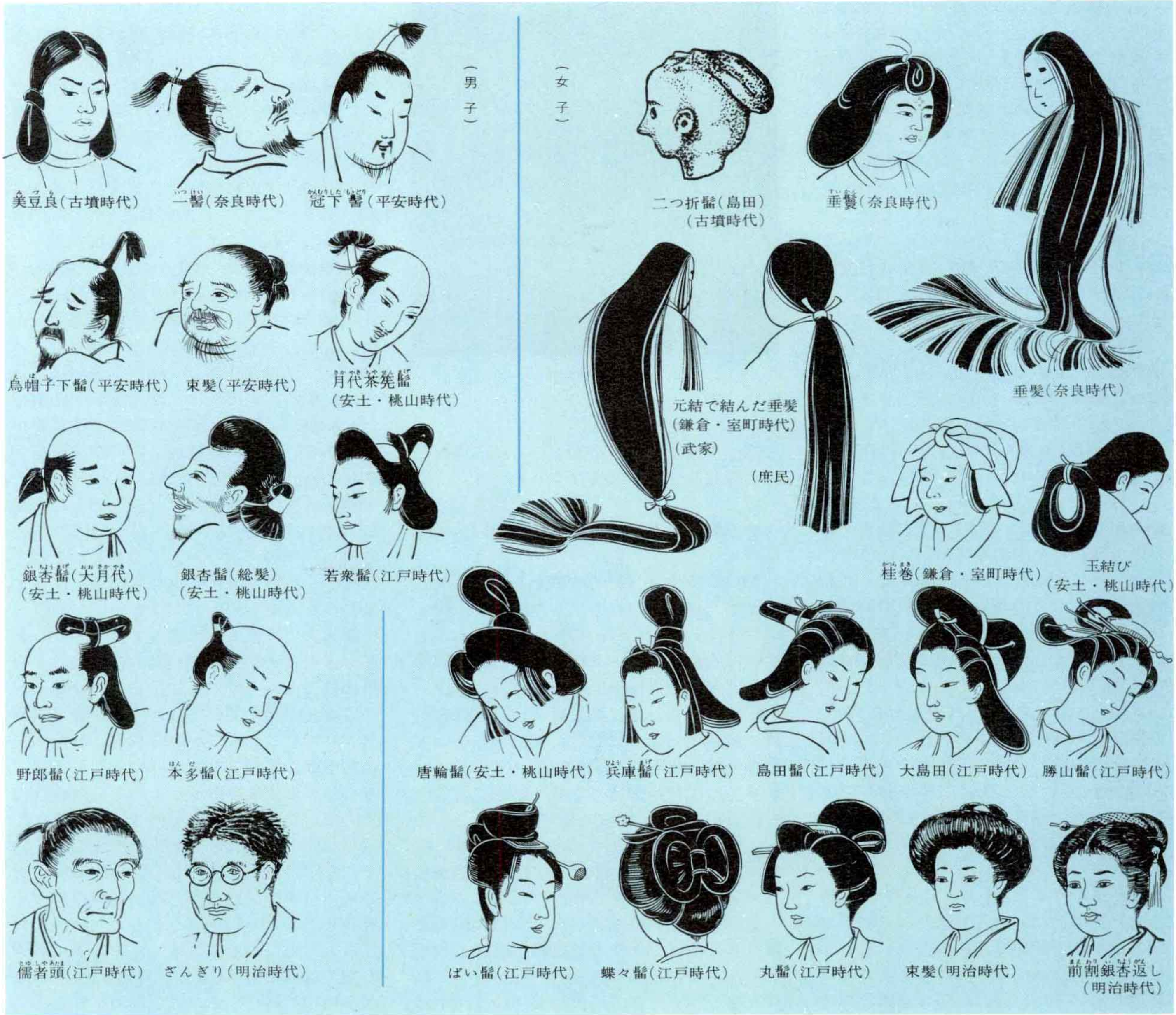


18世紀（ポンパドゥール夫人）

髪　形　西洋の女子の髪形

1871年(明治4)の断髪令以後は，すべての男性の髪はざん切り頭となった。また，女性においても複雑な髷は徐々に姿を消し，日本髪もじみなものが好まれるようになった。一方西洋風の髪形として束髪が流行した。洋髪がとり入れられたのは1884年ごろからで，洋服の普及とともに本格化し，1930年代にはパーマネント-ウェーブの発明によってより技術が進歩し，種々の髪形が容易に結い上げられるようになったこともあいまって，ガルボ-ルックなど映画による影響が一般の人々の関心を集め流行した。第2次世界大戦後マスコミによる影響はいっそう強まり，世界じゅうのファッションが同時に輸入され，日常生活にとり入れられるようになり日本髪はほとんど姿を消した。

〔西洋の歴史〕古代には男女は同じ髪形で，ひげだけが男性を強調していた。古代ギリシアでは，男は短く髪を切り，女は前髪を



髪　形

あげて首のまわりに毛束をたらすようになった。ローマではギリシアの髪形を受け継いだが，円形シルエットのものが多い。単純で優美なのが，古代ギリシア・ローマの特徴であった。現代にもその傾向がみられるが，長い歴史の中で，中世-ルネサンスを経て現代においても三つ編み，まげとしてよみがえっている。

15世紀になると女子は額を高くそりあげ，ヘニンというかぶりものではえぎわを隠した。バロック期には，ルイ14世の宮廷におけるフォンタンジュという細く高い髪形と，スペイン宮廷の横広がりの髪形が代表的である。18世紀の典型的なものは前髪を上げた優雅なポンパドゥール夫人のスタイルで，マリー-アントアネットはこの髪形をさらに後ろへ高く引き上げていき，空前の高さまで達した。フランス革命のあとは流行がしだいに民間へと移り，19世紀の前半には舞台女優の髪形が流行のもととなった。世紀末から20世紀初期の新芸術の運動やスポーツの隆盛に伴って，第1次世界大戦後にボブカットを生み出した。

髪形を大別すると，カットをもととしたショートヘア，中間の長さ，結い上げをもととしたロングヘア，長短の両要素をもったものに分かれる。髪の性質には直毛・カール(巻き毛)・ウェーブがあり，そのどれかを主体にして形づける。髪の長さは地はだに近いスキンヘアからセシール-カットが短いほうの限度。カットを主にしたものにボブがあり，男の子のように切るボーイッシュ-ボブ，簡素だが優美なページ-ボーイ(小姓)(内巻き)など種類が多い。ロングヘアは後ろで束ねたポニー-テール(小馬のしっぽ)やシニヨン(まげ)とよばれるものがある。上に結い上げるのを一般にアップ-スタイルとよぶが，ロール(外巻き)にしてたらす場合もある。バング(前髪)やほおのカールにも種類が多い。逆毛(さかげ)をたててふくらませた髪形をブーファンとよぶ。今日では自分の髪だけでなく，簡単な付け毛や付けまげによって，短い髪を長い量感のある髪に見せかけることもたやすい。長い髪を小さく見せるためにはかつら*もあり，軽く感じさせるためにはヘア-ダイやヘア-ブリーチがある。したがって髪形も幅広く自由なものとなった。〔橋本澄子 メイ-ウシヤマ〕

かみがた 【上方】 江戸時代に京都を中心とする地方をさした呼称。幕府では5畿内(きない)(山城・大和(やまと)・摂津・和泉(いずみ)・河内(かわち))に近江(おうみ)・丹波・播磨(はりま)の3国を加えた地域と規定し，5畿内3州ともいった。大阪や奈良もこの中に含まれ，関西*とほぼ同じ範囲で，近畿地方*というよりは狭い。上方文学・上方歌舞伎(かぶき)・上方落語・上方ことばなどというよう

に，この称呼は文化的な方面で使われることが多い。〔浅井得一〕

かみがたかぶき【上方歌舞伎】江戸時代，京阪(けいはん)地方に生まれ，発展・継承されてきた歌舞伎脚本・演出・俳優などをくるめていう。この地方独特の生活感情を基盤にして，初世坂田藤十郎*の創始した〈和事*〉の演出を中心に，今日まで伝わっている。

かみがたぶんか【上方文化】上方，すなわち京阪(けいはん)地方を中心に栄えた文化。しかし京都と大阪の文化は同じ性格のものではなく，伝統に根ざした京都の文化に対し，活気に満ちた商業都市大阪の文化はおのずと違ったものであった。江戸初期，元禄(げんろく)年間(1688～1703)をピークとして栄えた文化のにない手は大阪の町人たちであった。享保(きょうほう)年間(1716～1735)から文化の中心はしだいに江戸に移っていった。

かみがたまい【上方舞】京都に興り，その地で発達した舞踊を総称していうが，昭和10年代以後に使われるようになった語。江戸時代初期から中期までの京阪歌舞伎(けいはんかぶき)の舞踊は現在ほとんど残っていないため，今日の上方舞は山村流*の流祖初世山村友五郎(1781～1844)から始まるといってよい。現在のおもな流派は山村流のほか大阪の楳茂都(うめもと)流*や京舞*の井上(いのうえ)流(→井上八千代)がある。地歌を伴奏とする地歌舞*が多いが，義太夫節(ぎだゆうぶし)・長唄(ながうた)(江戸長唄)や常磐津節(ときわずぶし)・清元節などの江戸系浄瑠璃(じょうるり)を用いるものもある。〔戸部銀作〕

かみかまがりじま【上蒲刈島】広島県安芸(あき)郡にあり，全島で蒲刈町を構成している。西に下蒲刈島，東に豊島(とよしま)があり，北は本土の川尻(かわじり)町と約3kmの海を隔てているが，呉(くれ)市の商圏にはいっていて，定期船が通じている。面積19km²，人口4,700。山がちであるが，ミカンを多くつくり，また石灰岩を採掘している。下蒲刈島と相対している西岸の向浦は，帆船時代には港として栄えたところで，町役場は北岸の宮盛にある。〔浅井得一〕

かみかも【上賀茂】〈かみがも〉ともよぶ。京都市北区の賀茂川東岸に沿う地区。地名は，南隣の下鴨(しもがも)地区(左京区)とともに，大和(やまと)朝廷時代に帰化した鴨氏が開発したことにちなむ。賀茂別雷(わけいかずち)神社(通称上賀茂神社)があり，古くは伊勢(いせ)神宮・石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)とともに三社とよばれて，朝廷の尊崇を集めた。下鴨の賀茂御祖(みおや)神社と合同で行なわれる〈葵(あおい)祭*〉(5月15日)は京都三大祭りの一つである。東に深泥池(みぞろがいけ)があり，豊富な水生植物群落は天然記念物に指定されている。かつては農村地帯であったが最近急速に住宅地化しつつある。北部に京都ゴルフ場があって，松ケ崎(まつがさき)の国立京都



カミカヤツリ

国際会館や子どもの楽園とともに，京都近郊の観光開発の一翼をになっている。〔浅井得一〕

かみがもじんじゃ【上賀茂神社】⇨賀茂神社

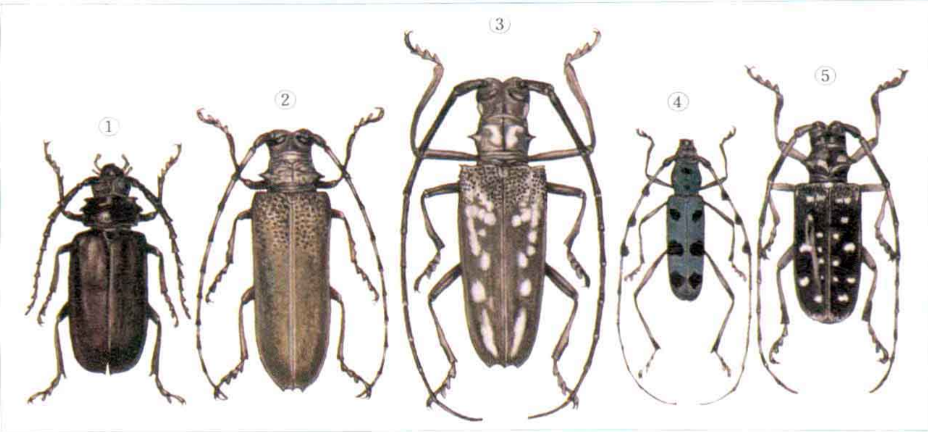
かみかやつり【紙蚊帳釣】単子葉植物・カヤツリグサ科。北アフリカ原産。古代エジプトで，紙(パピルス)をつくるために湿地や浅水池に，8～9世紀まで盛んに栽培された大形の多年草。葉は退化して鱗片(りんぺん)状となり，茎は鈍三稜(さんりょう)性の円柱状で高さ2m以上になる。茎頂から短い多数の包葉と数十本の細枝を出し，その先に淡かっ色の小穂をつけてたれ下がる。日本でも観賞用として，温室で栽培されることがある。昔，茎の髄を裂いて並べ，これを茎の細片で編んだ上に字を書いたが，中国に始まった今日の製紙方法が広まった結果，エジプト北部では本種は絶滅した。本種の繊維を現今の方法に利用すると良質の紙がとれるという。また，茎でマット・むしろ・なわなどをつくったり，たばねていかだにする。根茎は焼くか，生のままで食用とする。➔パピルス〔横井朝子〕

かみかわ【上川(町)】北海道，上川支庁のほぼ中央部，上川郡にある町。1952年(昭和27)町制施行。人口8,700。町域の大半は大雪火山群とその南の石狩山地および北の北見山地の山々におおわれて，道有林・国有林などの林野が広い面積を占める。林業が主産業で，木材・チップ・ベニヤ板を産するが，石狩川とその支流留辺蘂(るべしべ)川の上流の流域では水田耕作も行なわれ，畑にはジャガイモ・エンバク・豆類の産も多い。市街地はこの二つの川の合流点付近に発達し，石北本線および国道39号線(大雪国道)に沿う。町域の南部は大雪山国立公園に属し，溪谷美(けいこくび)で知られる層雲峡・愛山溪があり，観光客が多い。

かみかわ【上川(支庁)】北海道庁管轄14支庁の一。北海道の中北部，北から名寄(なよろ)・上川・富良野(ふらの)の3盆地を中心に周辺山地を含む南北に細長い地域で，上川の地名は，石狩川上流部にあることにちなむ。管内に19町2村があり，庁舎所在地は旭川(あさひかわ)市。面積8,387.4km²，人口14万3,000。石狩川をはじめ，天塩(てしお)・雨龍(うりゅう)・名寄など諸河川の上流が各盆地を潤し，明治中期以後水田を主とする耕地が開発されている。寒暑の差が大きい内陸性気候に支配される欠点はあるが，夏の高温のため，〈上川百万石〉で知られる道内一の米産地である。〔浅井得一〕

かみかわぼんち【上川盆地】北海道中央部にあり，北から南へ名寄(なよろ)盆地・上川盆地・富良野(ふらの)盆地と続く北海道の中央の盆地の中で最も大きい。西は神居(かむい)山地に，南東は十勝岳(とかちだけ)・大雪山の火山に，東から北にかけては米飯(ぺいはん)山地から和寒(わっさむ)山に続く丘陵性山地に囲まれている。石狩川が盆地の中央を北東から南西に貫流し，大雪山に源をもつ忠別川と，十勝岳に源をもつ美瑛(びえい)川はともに北流して盆地西部旭川(あさひかわ)付近で石狩川と合流し，神居古潭(かむいこたん)のある谷を経て西流し，石狩平野に流出している。かつては富良野盆地と続いていたものが，大雪・十勝両火山の噴出物によって分けられ，美瑛町を中心とする南部一帯の丘陵地はこの噴出物によるものである。また，盆地はかつて湖をたたえていたらしく，湖底堆積物(たいせきぶつ)らしいものがみられる。石狩川・忠別川は山地から盆地にはいるところに，それぞれ扇状地を形成している。気候は内陸的で，気温の年数差が大きく，冬季はしばしば低地としての最低気温を記録している。夏季の日数差も大きく，夏の高温とあいまって米作が盛んで，反当収量は道内で最高を示し，空知地方とともに北海道における米作地の中心をなしており，また野菜の重要な供給地でもある。盆地は肥沃(ひよく)な沖積地(ちゅうせきち)で，明治初めより永山(ながやま)・東旭川・当麻の3か所に入植した屯田兵(とんでんへい)によって開拓が始まり，1898年(明治31)には鉄道が敷設されるなど，急速な開発が進められたが，その中心をなしているのが旭川市である。〔味沢成吉〕

かみきりむし【天牛虫・髪切虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科の総称。世界には15,000種以上，日本には約500種が知られる。一般にノコギリカミキリ・クロカミキリ・マルクビカミキリ・ホソカミキリ・ハナカミキリ・カミキリムシ・フトカミキリの7亜科に分類される。大きさは3mm内外の微小種から100mmを越える大形種まで，きわめて変化に富む。体は細長い円筒形のものが多く，大顎(おおあご)はよく発達している。触角はふつう11節で著しく長く，短いものでも体長の3分の1以上ある。多くのものには前胸と中胸にやすり状の発音器があり，キイキイという音を出す。ノコギリカミキリ亜科のものには発音器がなく，後脚の腿節(たいせつ)と鞘翅の縁とを摩



カミキリムシ　①ノコギリカミキリ　②クワカミキリ　③シロスジカミキリ　④ルリボシカミキリ　⑤ゴマダラカミキリ



上高地　田代池付近から望む穂高連峰。上高地の代表的景観で，左から西穂高岳・奥穂高岳・前穂高岳が連なる

擦して音を出す。多くのものは樹木や朽ち木にいるが，草本に集まる種類もある。幼虫の多くはテッポウムシとよばれ，樹木の材部を食害する林業上の害虫である。

日本に産する代表的なカミキリムシには次のようなものがある。①ノコギリカミキリ：体長22～48mmで，赤かっ色ないし黒かっ色。前胸背板の前縁角と側縁中央に棘状(きょくじょう)突起がある。②クロカミキリ：体長12～25mm。体は黒色で，体の腹面は黄かっ色の微毛で密におおわれる。全体円筒状で，触角は数珠(じゅず)形で短い。③ホソカミキリ：体長20～30mm。体は細長く，全体赤かっ色ないし黒かっ色，全面に灰白色の軟毛を密生する。④ヤツボシハナカミキリ：体長12～18mm。鞘翅の斑紋(はんもん)が個体によって著しく変化し，全体黄かっ色のものから，種々の形状の黒紋があるもの，ほとんど全体黒色のものまであり，種々の花に集まる。⑤ミヤマカミキリ：体長34～57mm。体は黒かっ色ないし黒色で，背面は灰黄色の微毛で密におおわれ，前胸背板には大きい多数のしわ状の彫刻がある。⑥ミドリカミキリ：体長15～25mm。体は緑色，触角および脚は青藍(せいらん)色。前胸背板の側方に円錐(えんすい)状の突起がある。成虫はバラ科植物の花に好んで集まる。⑦ルリボシカミキリ：体長15～30mm。体は黒かっ色ないし黒色で，全体に灰青色の鱗状毛(りんじょうもう)でおおわれ，背面に黒色の鱗状毛からなる斑紋がある。触角の第3～第5節の先端に塊毛がある。⑧スギカミキリ：体長12～27mm。体はやや扁平(へんぺい)で黒色，触角と脚は暗赤かっ色，各鞘翅に2個の黄かっ色紋がある。⑨トラカミキリ：体長15～25mm。全体黒色で，多数の黄色ないし赤かっ色の斑紋がある。⑩ベニカミキリ：体長13～18mm。体は黒色，前胸背板と鞘翅は赤色，前胸背板には数個の黒紋がある。⑪キボシカミキリ：体長14～30mm。体は黒色で，全体灰白色の微毛が密生し，前胸背板の側縁に小さい円錐状の突起がある。頭頂の中央，前胸背板の側部および鞘翅に多数の不規則な黄色斑紋がある。⑫ゴマダラカミキリ：体長25～35mm。体は黒色で，鞘翅に多数の白色斑紋がある。⑬シロスジカミキリ：日本に産する最大のカミキリムシで，体長45～52mm。体は黒色で，背面は灰色の微毛でおおわれ，前胸背板および鞘翅に多数の白紋がある。鞘翅の基部に多数の顆粒状の点刻がある。⑭クワカミキリ：体長35～45mm。体は黒色で，背面は灰黄かっ色の微毛で密におおわれる。前胸背板には横しわ状の彫刻が多数あり，両側には先端のとがった円錐状の突起がある。⑮キクスイカミキリ：体長6～10mm。黒色で，前胸背板の中央に1個の赤色の斑紋があり，鞘翅は濃青色，腹部は赤かっ色，キク類の害虫として知られる。
〔鈴木邦雄〕

かみきりもどき　【擬天牛】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリモドキ科の総称。体は細長く，一見カミキリムシ類に似るが，全体が軟弱である。触角は長く糸状または鋸歯(きょし)状。成虫は花に集まるものが多い。また夕刻から夜間に活動するものが多く，燈火に飛来するため地方によってはランプムシという。体液にカンタリジンをもつ種類が多く，人の皮膚に水ぶくれを生じさせることがある。世界各地から約1,000種が発見されている。わが国には，体長5～8mmで濃い藍色(あいいろ)のモモブトカミキリモドキ，体長10～15mmで鞘翅が金緑色ないし青緑色のアオカミキリモドキ，体長10～15mmで黄色のキイロカミキリモドキなど約50種が知られる。

かみくらげ　【髪水母】　腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・ヒドロ虫目・カミクラゲ科。かさは円筒状で径6cm，高さ10cm内外。かさの縁が8片に分かれ，各片に40～80の糸状の触手がつく。口柄・触手は青色，触手の基部にある眼点は赤色，生殖腺(せいしょくせん)は雄は青色，雌はかっ色。世界的に有名な日本特産種で，青森から九州までの太平洋岸の入り江や湾に12月～5月ごろ発生する。和名は多数の触手を髪の毛に見立てたもの。

かみこ　【紙子】　和紙を用いてつくった衣服。紙衣とも書く。和紙をはり合わせ，これをよくもんで柔らかにし，さらに柿渋(かきしぶ)を塗って仕上げたもの。陸奥(むつ)（宮城県）の白石，駿河(するが)（静岡県）の安倍(あべ)川，紀伊(きい)（和歌山県）の華井(はない)などの紙子が有名。風を通さず暖かいため，古くから防寒用の胴着や下着として用いられ，僧侶(そうりょ)の間にも多く用いられた。また戦国時代には戦陣の衣装として陣羽織*，胴服などにつくられた。江戸時代でも広い階層にわたって使用され，また種々の模様をつけて上衣としても使われたが，明治以後，毛織物が普及するに及んでしだいに姿を消していった。現在では東大寺二月堂の修二会に参籠(さんろう)する僧の衣料として用いられている。
〔宮本袈裟雄〕

かみこうち　【上高地】　長野県の西部，穂高岳の南麓(なんろく)，梓(あずさ)川上流の渓谷(けいこく)に沿う地区。明治中期にイギリスの宣教師ウェストン*が開発して以来，北アルプスの登山基地・避暑地として名高い。行政上は南安曇(あずみ)郡安曇村に属する。海抜1,500mの地点に梓川渓谷が幅1kmもある石の河岸をつくって，イワナの生息する清

流を走らせ，その上にかかる河童(かっぱ)橋は，北に穂高岳を望み，南に焼岳(やけだけ)の噴煙を仰ぐ。1915年(大正4)に焼岳が噴火し，その泥流(でいりゅう)が谷の一部をせき止めて*大正池をつくった。松本から新島々まで松本電鉄が通じ，大正末期までは徒歩で徳本(とくごう)峠を越えた。その後上高地まで谷沿いに自動車道路が通じ，いまはバスが松本から2時間余で直通する。中部山岳国立公園の中心地で，宿泊施設の整った温泉があり，シラカバの林はキャンプ場に利用され，夏の登山，秋の紅葉などに多くの行楽客を集めて，〈アルプスの銀座〉といわれている。しかし，最近になって夏の人出があまりにも多いので，マイカーの乗り入れ禁止をしており，名物の河童橋や帝国ホテルも，老朽化してきたので再建されつつある。年中行事にウェストン祭(6月第1土・日曜日)がある。〔浅井得一〕

かみじ【紙治】⇨心中天網島(しんじゅうてんのあみじま)

かみしいばダム【上椎葉ダム】宮崎県東臼杵(ひがしうすき)郡椎葉村にあり，耳川(美美津川)上流に，1955年(昭和30)に完成した日本最初のアーチ式ダム。高さ110m，総貯水量9,200万m^3で，水力発電を目的として九州電力がつくった。上椎葉発電所の最大出力は90,000kWである。

かみしばい【紙芝居】画劇の一。天保(てんぽう)年間(1830～1843)から明治初期にかけて興行された写し絵(動く幻燈)から転化したもの。紙人形を使い，ひとりで拍子木・太鼓などを使いながらせりふをしゃべり行なわれた。数人で見せる写し絵と同じ効果をあげ，のちに立ち絵とよばれた。明治中期に写し絵がすたれたのち，寄席(よせ)の前座の噺家(はなしか)がくふうしたものである。おもな出し物は〈西遊記〉〈孫悟空〉〈牛若丸〉などがあった。昭和初年に教育上の理由から立ち絵が禁止され，かわって絵物語の形の紙芝居が生まれた。これは立ち絵に対し平絵(ひらえ)とよばれ，ガラス張りの中に絵を入れ，1枚ずつ抜き取ってせりふをしゃべるものであった。はじめの出しものは〈黄金バット〉で大好評を博した。1935年(昭和10)には全国で30,000人を越す紙芝居説明業者がいたという。しかし1954年ごろからは，テレビジョンの普及と幼児数の減少とともに急速に衰退した。〔合田　濤〕

かみしま【神島】伊勢(いせ)湾の入り口にあり，愛知県の伊良湖岬(いらござき)に近いが，三重県鳥羽(とば)市に属している。面積0.76km^2，人口1,200。最高点171mの山島で，北側に階段状の集落があり，まわりは岩礁が多く好漁場となっている。1本づりやタコつぼなどの沿岸漁業や，海女(あま)によるアワビの採取などによって生活し，小形貨物船による海運業に従事する者も多い。鳥羽との間に定期船が通じ，島の東端に燈台がある。太陽崇拝の信仰によるものかと思われる旧正月のゲーター祭りなど，民俗学的に興味の深いものが多い。三島由紀夫の小説《潮騒(しおさい)》の舞台といわれる。


裃
南紀徳川史（部分）　東京国立博物館蔵

かみしも【裃】肩衣(かたぎぬ)とはかまからなる近世武士の公服。*肩衣袴(かたぎぬばかま)をより形式化し，飾りひだをつけ，クジラのひげや竹のひごを入れて肩を張らしたもの。裃にははかまの長い長裃，はかまの短い半裃があり，長裃は身分の高い武家の礼装として，半裃は一般の公服に用いられ，麻のひとえ仕立てが正式とされた。下には紋つきの，*熨斗目(のしめ)の小袖(こそで)，*袱紗(ふくさ)の小袖などを着用した。明治になると服装の改正に伴い公服としては用いられなくなり，現在では演劇，民間の祭礼などに用いられているにすぎない。〔勝呂千枝〕

かみすながわ【上砂川(町)】北海道，空知支庁中央部，空知郡にある町。1898年(明治31)鶉(うずら)農場の開拓によって集落が興り，1914年(大正3)以来三井炭鉱が開かれてから炭鉱都市として発展してきた。1949年(昭和24)砂川町(いまの砂川市)から分離独立して町制施行。このときの人口は31,000あったが現在は11,000。夕張山地の西部，石狩川の支流のパンケ川沿いの谷地に位置する。最近，石炭不況のため炭鉱離職者が多く，人口が減少している。西隣の砂川市に函館(はこだて)本線が通じ，バス交通も盛んで，砂川市への通勤者が多い。

かみすわおんせん【上諏訪温泉】長野県諏訪市にある温泉。泉温25～90℃，泉質はアルカリ性泉・単純泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。温泉街は諏訪湖岸にあるが，市内の各所から高温の温泉が豊富に湧出(ゆうしゅつ)し，市街地にも温泉宿が点在する。夏は蓼科(たてしな)高原などの登山者，冬はスキー・スケート客でともににぎわう。中央本線上諏訪駅下車が便利。

かみだな【神棚】家庭祭祀(さいし)の祭場。多くは茶の間，いろりの間などのかもいの上にたなをつくり安置する。神棚には伊勢(いせ)の*大麻・*産土神(うぶすながみ)の神札を奉納し，毎朝あるいは，1日・15日などに神酒・神饌(しんせん)を献じて祭る。地方によってはたなの代わりに床の間に机を置き，神号掛け軸を掛けて祭っている。現在，神棚を設けている家は多いが，これは仏教の影響によって仏壇に*位牌(いはい)を並べて祭るように，戸ごとに祭りの分立が促されたためである。かつては本家の司祭のもとに同族が集まって祖先祭祀を営んでいたと思われる。神棚を設置すること自体，中世以来の変化であり，古くは屋内の祭場は，正月の年棚，盆の盆棚のように，祭りに際して臨時に設けられたものである。〔山路勝彦〕

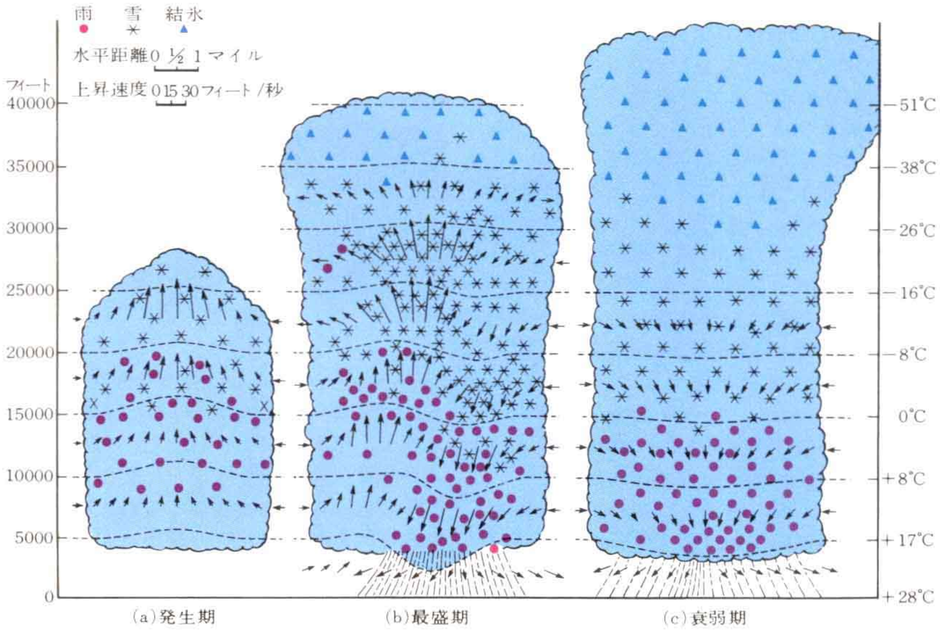
かみつかさしょうけん【上司小剣】(1874～1947)小説家。奈良の生まれ。本名延貴。1897年(明治30)読売新聞に入社，社会部記者から文芸部長などを経て編集局長をつとめた。かたわら，堺利彦(さかいとしひこ)や幸徳秋水らと交わり，社会性・文明批評性のある小説を発表した。代表作に《鱧(はも)の皮》《木像》などがある。

かみつけののかたなのつま【上毛野形名妻】《日本書紀》によれば637年将軍上毛野形名は蝦夷(えぞ)と戦って敗れ，城を囲まれ，軍衆は浮き足立ってなすすべもなかった。ここに形名の妻は夫を励まし，みずから剣を帯び，十張りの弓を数十人の女子に引かせ，弓弦を鳴らして気勢をあげた。形名も立ち上がって進撃したので蝦夷は恐れをなしてついに退却したという。上毛野氏に伝えられた物語であろう。

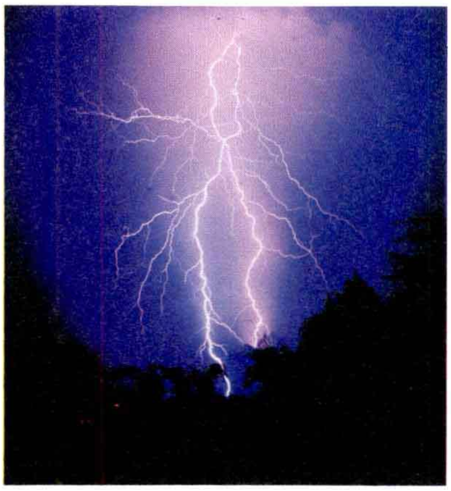
かみつれ 双子葉植物・キク科のカミルレの俗称。➔カミルレ

かみなり【雷】一般には，雷・雷鳴，対流性驟雨(しゅうう)を含めた現象。すなわち，雷には二つの側面がある。一つは発達した積乱雲からの降雨現象，他はその積乱雲中で電気の分離が起こり，雲間または雲と地上との間に放電する電気現象である。また，降雨を伴わない放電現象には，砂漠(さばく)地方で風に巻き上げられた砂塵(さじん)の中で起こる砂漠雷，火山の爆発や大火事の際に噴煙の中で起こる火山雷・火事雷などがある。ふつう，雷といえば，積乱雲の発達に伴って起こるもののことである。雷には局地的加熱によって起こる熱雷，温暖前線や寒冷前線に沿って起こる*界雷，低気圧の暖域内に起こる*渦雷(からい)などの種類がある。熱雷は，夏の午後，強い日射により地表の気温が上昇して積雲が発生し，積乱雲となって起こる雷雨で，最も普通の雷である。次に多いのは寒冷前線に沿って起こる界雷で，暖気内の空気が対流不安定なところへ寒冷前線が進行してきて暖気を押し上げる際にできる。温暖前線に伴うものは少なく，梅雨(つゆ)明けまえによくこの種の雷が起こる。また渦雷は低気圧の暖域内の気流の収束によってできる。一般に上層に寒気がはいると大気の成層を不安定にし，雷の発生につごうがよい。

雷雲の発達段階は，発生期・最盛期・衰



雷　雷雲の断面図



雷　樹枝状電光

弱期の三つに分けることができる。雷雲性の積雲の特徴は10m/秒以上にもなる強い上昇気流である。積雲内の気温は周囲より高く，発生期には地上では雨はないが，雲中では雨滴の数がしだいに増加していく。積雲が直径1km程度から10km程度にまで発達するのに10～15分かかり，この間に雲は8～10kmの高さに達する。最盛期には上層では氷晶雲ばかりになるが，上層の雲が氷晶*になったころに地上で雨が降りはじめる。このころ，最初上昇気流のあった付近の地上で10m/秒以上の強い下降気流が現われ，最盛期には上昇気流も強くなり，30m/秒以上にも達する。雷が進行してくると気温が急に下がり，気圧は急に上る。下層の雲は水滴からなり，中層では水滴と氷晶の混じった雲，上層では氷晶雲からできている。降雨は下降気流が全面積に広がるまで15～30分ぐらい続く。衰弱期には，雲中の気温は周囲より低く，このような状態が下から上に広がっていき，降雨はだんだん弱くなり，20分ぐらいでやんでしまう。衰弱期には雲は圏界面付近にも達し，この付近の強い風のために雲の頂上はしばしば流されて，かなとこ雲になる。

雷の電気は，雲の中に正に帯電した部分と負に帯電した部分ができることによって発生する。放電は先駆電撃から始まる。先駆電撃には階段型と突進型があり，階段型先駆電撃は一つの極から他極(雲中では反対符号に帯電した部分)または地面へ5×10^{9}cm/秒で約50m進み，10^{-4}秒ぐらい休み，その先端からまた50mぐらい進むというように次々に進むものである。階段型先駆放電が地面に到達すると同じ道筋を逆に進む帰還電撃または主電撃が起こる。主電撃の速度は3.5×10^{9}cm/秒で最も明るい。主電撃が終わると，0.03秒ぐらい休止して，突進型電撃がはじめと同じ方向に起こる。これは階段的に休止しないで，2×10^{8}cm/秒で進み，これが終わると第2回めの主電撃が起こる。このようなことを3～4回，ときには10～12回くり返して一つの放電が終わる。全放電の時間は0.25秒ぐらいである。

電光の形には次のようないろいろのものがある。①ひも状電光：1本のなめらかな電光のこと。②屈曲電光：いくつにも折れ曲がっているもの。③樹枝状電光：枝分かれしているもので，最も普通にみられる。④彷徨(ほうこう)電光：細い糸をうねらせたようなもの。⑤瑤電(ようでん)またはじゅず玉電光：じゅず玉のように光点が並んでいるもの。⑥リボン状電光：ひも状電光が幅広くなったもの。⑦幕電：空一面明るく見えるもの。⑧球電：直径1mぐらいに見える球状の火球がゆっくり運動するもので，めったに起こらない。

雷鳴は周期0.01秒ぐらいの不可聴波と周期0.2～0.5秒ぐらいの音波の混じったもので，雷鳴のとどろくのは，大気の不均一性による反射屈折に起因するものと考えられている。〔曲田光夫〕

かみのきゅうせん　【神の休戦】　フランク王国崩壊後，戦乱が慢性的に続いたため，ローマ-カトリック教会が提唱した平和運動。一定期間，武力の行使を禁じ，違反者を破門した。9～12世紀にかけてフランスを中心に西ヨーロッパ各国で効力をもった。

かみのくに　【上ノ国(町)】　北海道，檜山(ひやま)支庁南西部，檜山郡にある町。1967年(昭和42)町制施行。人口9,500。渡島(おしま)半島の西岸，日本海に面し，背後に渡島山地が迫り，中心集落の上ノ国は海岸小平野に位置する。平野部には水田が開け，ジャガイモ・ダイコンなども栽培される。上ノ国港はイカ・コンブ・ホッケなどの水揚げが多い。石崎川上流の昭和石崎鉱山と中外鉱山はわが国有数のマンガン産地で，勝山鉱山では重晶石を産する。函館(はこだて)から江差線が通じ，海岸線には国道228号線が走る。1454年(享徳3)武田(たけだ)信広が渡来したといわれ，江差とともに最古の開拓地で，道指定の史跡や文化財などがある。

かみのくに　【神の国】　アウグスチヌス*晩年の大著。22巻。《告白*》《三位一体論》と並び称される。《再論》(427年ごろ)における著者自身のことばによれば，ゴート族アラリック*によってローマが陥落したのはキリスト教の責任だという異教徒の謬説(びゅうせつ)や神への冒瀆(ぼうとく)を反駁(はんばく)しようとして起草された。はじめの10巻では多神教を禁止したので世に災厄が起きたとか，神々に犠牲をささげて祭祀(さいし)することは来世に利益があるという異教の説を批判する。第8巻では悪魔(ダイモン)，第10巻では天使を論ずる。物質と神，地の国と神の国を理性や世界霊魂によってつなぐ新プラトン派*に対し，イエス-キリストこそ真の仲介者であるとする。ただし，プラトンはキリスト教哲学の先駆者として高く評価される。後半第10巻以降ではキリスト教神観・創造論・罪悪論・終末論が展開される。神の国と地の国の対比は教会とローマ国家といった外面的なものよりもみずからへりくだる神の愛と自己愛にそれぞれの本質がある。二つの国の起源と発展ないしその帰趨(きすう)を論じたこの書で，はじめてキリスト教神学をふまえた歴史哲学が登場した。自由意志と悪(罪)，自然と恩寵(おんちょう)，二重真理の問題の究明など，教父哲学*の最後を飾るアウグスチヌスにおいてすでに中世スコラ神学の基礎が築かれたといえよう。〔村治能就〕

かみのけざ　【髪座】　しし座とうしかい座にはさまれた小さな星座。初夏のころ南の空にかかる。明るい星はないが，銀河系外星雲*の密集している場所として有名である。→星座

かみのめぐみわごうのとりくみ　【神明恵和合取組】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称

《め組の喧嘩(けんか)》。竹柴其水(たけしばきすい)作。1890年(明治23)新富座初演。1805年(文化2)芝神明の境内で起きた鳶(とび)の者と力士の大げんかを脚色した世話物。〈め組〉の鳶職辰五郎(たつごろう)が力士四つ車らに遺恨のあげくけんかを始めるまでの経過を描く。

かみのやま　【上山(市)】　山形県南東部の市。室町時代以来の古い湯治場で，江戸時代は松平氏三万石の城下町，羽州・米沢(よねざわ)両街道の分岐点にあたる宿駅であった。1954年(昭和29)市制施行。人口138,000。市域は東に蔵王(ざおう)山，西に黒森山を控えた上山盆地が中心となる。産業三大別人口比は28：28：44。製鉄・製糸・練乳・皮革などの工業団地があり，また，関根の紅ガキとよばれるカキは，干しがきとして移出される。奥羽本線・国道13号線が通ずる。上山温泉郷があり蔵王山へ有料道路エコーラインが走る。第2次世界大戦末期郷里に移住した歌人斎藤茂吉の記念像がある。

かみのやまおんせん　【上山温泉】　山形県上山市にある温泉。泉温27～68℃，泉質は含石膏(がんせっこう)弱食塩泉で，胃腸病・皮膚病・かっけ・リウマチなどにきくといわれる。市内の月岡公園を中心に，上山・河崎(かわさき)・高松・葉山・石崎などの温泉が並び，合わせて上山温泉とよばれる。室町時代の僧月秀がツルの傷を水でなおしているときに，湯の出る場所を発見したという伝説があり，いまも〈鶴(つる)の休石〉が残っている。湯町(鶴脛(つるはぎ)の湯)は旧湯で，新湯は1922年(大正11)に発掘された。蔵王(ざおう)国定公園を訪れる観光客でにぎわう。奥羽本線上山駅からバスの便がある。

かみ・パルプこうぎょう　【紙・パルプ工業】　原木ないし細片原木(チップ)からパルプを生産するパルプ製造業と，パルプから紙を生産する製紙業からなっている。一般に，パルプ工業は大きな設備を必要とするので，パルプ工業に属するのはほとんど大企業であり，他方，製紙業は紙の種類(洋紙・板紙・機械すき和紙・手すき和紙)に応じて生産規模が異なり，和紙製造を行なう企業は中小企業に属し，洋紙・板紙製造は概して大企業の手になっているが，全体としては紙・パルプ工業は少数の大企業と多数の中小企業からなる二重構造的な要素が色濃く残っている産業分野といえる。

パルプ・紙の需要は，従来は新聞・印刷用紙のような文化用を主としていたが，最近は段ボール・包装用紙などの産業用需要が増大しつつあり，和紙の占める比重は急速に減少しつつある。なお，わが国の紙・パルプ生産量は，経済成長に伴って近年急速に増大し，1969年(昭和44)には紙の生産量はアメリカ・カナダ・スウェーデンに次ぎ世界第4位となった。

第2次世界大戦前までわが国製紙業の85%を占めていた王子製紙は，戦後占領政策により苫小牧(とまこまい)(のち，王子製紙に復帰)・十条製紙・本州製紙に三分割され，さらに領土喪失によって王子製紙が権益を握っていた樺太(からふと)(現在のサハリン)の原木資源が入手不可能となったため，ここに王子製紙の独占的地位はくずれ，群生した中小資本の製紙産業への進出によって，紙・パルプ業界は激しい競争に見舞われることになった。その後，需要増大に伴い大形抄紙機の導入，針葉樹から広葉樹への原木資源転換を実現したクラフト-パルプ製造設備の設置などが行なわれ，紙・パルプ工業は再び巨大企業中心の寡占型産業に復帰していった。紙・パルプ工業の急速な成長と企業間競争の激化，さらに1962年のパルプの貿易自由化と今後予想される資本自由化に対処して，現在，紙・パルプ工業再編成への動きが活発化しつつある。まず原料面では，東南アジアの森林資源開発，海外チップおよびパルプの輸入契約，カナダとの合弁パルプ工場設立にあたって国内での企業提携，商社との共同出資，外国政府・企業との提携などが多く試みられ，生産・販売面では旧設備の廃棄，効率的企業への統合，旧王子系大企業の合併への努力が続けられている。一方，紙・パルプ工業の前途に横たわる問題として公害問題がある。1970年に発生した田子の浦港のヘドロ問題に象徴されるように，紙・パルプの生産工程から排出される廃水は，ヘドロとして堆積(たいせき)しやすく，住民・漁民・船員の健康と生活に被害を与えることが明らかになった現在，企業側はばくだいな公害防止費用を負担せざるをえないうえに，従来のようなやみくもな生産の拡大，新設備の設置は不可能となりつつある。さらに製品技術面では石油化学技術を取り入れた合成紙の開発が進められており，この操業が本格化すれば，紙・パルプ工業はまったく新しい生産組織へと脱皮せざるをえなくなるであろう。

〔原　　豊〕



カミヤツデ

かみふだ　【神札】　御神体・霊体などを表わす，神の表象物の一つ。村の氏神や同族・家族の中で祭られる神体は，自然石・御幣などであるが，神社・仏閣の分霊を家庭に持ち込んで祭る場合に神札が必要となる。伊勢(いせ)神宮の大麻などは神札の代表的なもので，中でも普及しているのは，天照皇大神宮の神札である。

かみむすびのかみ　【神産巣日神】　日本神話の神。天地のはじめのとき，アメノミナカヌシノカミ・タカミムスビノカミとともに高天原(たかまがはら)に生成した神。《古事記伝》に〈産巣は生(むす)なり，其(それ)は男子女子(むすこむすめ)，また苔(こけ)の牟須(むす)などいふ牟須にて，物の成り出づるをいふ〉と説き，ビは魂(たま)と等しく，万物に内在する霊格であろうという。神代史ではカミムスビノカミは出雲(いずも)的世界の神となっていて，高天原の神であるタカミムスビノカミと対照をなす。しかし，タカミムスビもカミムスビもムスビ(生産)の神たるに変わりはない。ただ，ムスビの神を高と神とで形容するところだけが異なる。高は高天原の天上高く存在する性質を表わし，神は地上の神国なる出雲国(島根県)を予想した語であろう。

〔宮井義雄〕

かみもくおんせん　【上牧温泉】　群馬県利根(とね)郡月夜野町にある温泉。泉温32～43℃，泉質は芒硝泉(ぼうしょうせん)で，胃腸病・神経痛・リウマチなどにきくといわれる。利根川上流の水上(みなかみ)温泉郷の入り口に位置する。渓谷美(けいこくび)に恵まれた温泉で，付近には諏訪峡(すわきょう)・利根溪谷・大峰沼・上牧スキー場がある。上越線上牧駅下車が便利。

かみやすり　【紙やすり】　紙面に研摩材を塗付したもので，金属・木材の表面を研摩したり，塗装面をみがくのに用いる。こうぞ紙・クラフト紙などに溶融アルミナ・炭化ケイ素・エメリー・ガーネット・ケイ石などの研摩材を接着剤で塗付する。研摩材の粒度によって，あらいものは24番・30番ぐらいから，細かいものは800番ぐらいまであり，また耐水性のものもつくられている。➔研摩布紙加工

かみやそうたん　【神谷宗湛】　(1551～1635)　紙屋宗旦とも書く。安土桃山時代・江戸初期の豪商・茶人。筑前(ちくぜん)(福岡県)博多(はかた)の人。石見(いわみ)銀山の開発により富豪となった寿貞(じゅてい)の孫。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の保護を得て朝鮮・中国・南洋貿易に従事し巨利を得た。文禄(ぶんろく)・慶長の役には軍事輸送・兵站(へいたん)補給にあたった。また産業開発にも尽くし，製ロウ法開発・鉱山採掘・冶金(やきん)法改良・博多織発明などにも貢献した。茶人としても一流で，千利休や諸大名など多くの茶人と交流があり，《宗湛日記》は彼の茶会記録である。

〔松尾　涼〕

かみやつで　双子葉植物・ウコギ科の常緑低木。沖縄・台湾・中国南部に分布。日本では暖地の庭などに植えられる。高さ3m内外で若枝には星状軟毛があるが，早くに脱落する。幹の内部に白色の髄があり，ところどころに隔膜がある。葉は長柄で，ヤツデに似た大形の膜質円形で7裂し，裂片はさらに2浅裂する。裏面には白色の綿毛を密生する。晩秋に黄白色の4弁花を球

形の散形花序につけ，これがさらに集まって，径45cmぐらいの円錐(えんすい)花序になる。果実は球形で黒熟する。髄部はコルクの代用とされ，造花その他の工芸用にも利用される。〔横井朝子〕

かみやま【神山】箱根火山中央火口丘の主峰(1,438m)で，箱根山の最高点である。粘結度の強い安山岩からなる鐘状の火山で，芦ノ湖(あしのこ)は北斜面の噴火時の泥流(でいりゅう)によってせき止められたものである。大涌谷(おおわくだに)では現在も水蒸気と硫気を噴出し，山腹には原生林がみられる。

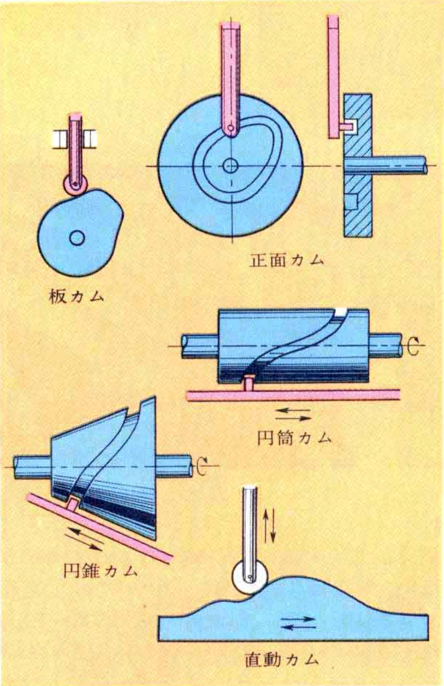
かみやまだ・とぐらおんせん【上山田・戸倉温泉】長野県更級(さらしな)郡上山田町と，埴科(はにしな)郡戸倉町にある温泉。泉温29～58℃，泉質は単純硫黄泉で，胃腸病・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。千曲(ちくま)川の沿岸，姨捨(おばすて)山(冠着(かむりき)山)のふもとに位置し，行政上は二つの町に区分されているが，温泉街は続いている。1893年(明治26)に戸倉温泉が開湯し，続いて上山田温泉も開かれた。かつては善光寺詣(もうで)の宿泊地に利用されたが，最近は観光地として名高い。信越線戸倉駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

カミュ［Albert Camus］(1913～1960) フランスの小説家・劇作家。アルジェリアに生まれ，早く父を失い，病弱と貧困のうちに育った。初期評論《裏と表》《結婚》は，地中海的な思想に基づく自然と生への賛歌でありながら，死の影が張りついている。1940年パリに出て，《コンバ》紙によって対独レジスタンス運動に加わった。1942年《異邦人*》《シジフォスの神話*》を発表，現代人の意識の中の不条理性を表現した作家として一躍有名となり，さらに2年後には戯曲《カリギュラ》《誤解》が，パリ解放後の社会に好評をもって受け入れられた。このころの彼の作品の主人公は，不条理な社会に対して孤独で絶望的な戦いをいどむが，その後のカミュはしだいに人間自身の価値とその連帯性に重きを置くようになり，1947年ナチのパリ侵入をモデルにした寓意(ぐうい)小説《ペスト》で感動的な人間の戦いを描いた。あらゆるニヒリズムに対する反抗を論じた評論《反抗的人間》は，カミュの思想を集約したものだが，サルトル*その他から，歴史の外に立つ日和見(ひよりみ)主義だと批判された。1957年,44歳の若さでノーベル文学賞を受けたが，1960年自動車事故で不慮の死を遂げた。なお，《異邦人》が日本に戦後紹介され，話題になるとともに，その〈不条理の哲学〉をめぐって，1951年(昭和26)中村光夫*(みつお)と広津和郎*(かずお)の間に論争が行なわれた。〔小松英輔〕

かみゆい【髪結い】江戸時代中期ごろから現われた職業。男まげを結う髪床に対し女まげを結うもので，女髪結いともいう。当時まで婦人の単純なまげは，すべて自分の手で結うことがならわしであったが，中期以後(18世紀後半)から技巧的で複雑なまげが流行し，めまぐるしく形が変化したため，しろうとの手に負えぬような複雑なまげはすべて髪結いの手によって結われるようになった。しかし一方，一般家庭の婦人たちは，あまり奇をねらうまげは用いずに，自分でまげを結い上げ，ごく一部の商売女だけが女髪結いを利用したともいう。



カミュ



カム

かみゆいしんざ【髪結新三】⇨梅雨小袖昔八丈(つゆこそでむかしはちじょう)

カミルレ［kamille］双子葉植物・キク科。ヨーロッパ原産の越年草。カミツレともいう。高さ30～60cmで，よく枝分かれし，葉は羽状に切れ込みがあり，全体にかおりがある。夏，周辺が白色で中心が黄色の直径2cmぐらいの頭花を多数つける。花を干したものをカミツレ花とよび，発汗・駆風剤などに用いることがある。

かみん【夏眠】生物が暑い季節や乾燥期に生活活動が低下し，一つの場所に静止している状態。熱帯の乾燥型の生態系(サバンナ・砂漠(さばく))にすむ動植物に多くみられ，肺魚・カタツムリ，種々のこん虫などにその典型的な例が知られている。これは暑さや乾燥に対する積極的適応である。➔休眠

カミングズ［Edward Estlin Cummings］(1894～1962) アメリカの詩人。通常，E.E.カミングズといわれている。ヨーロッパでの生活が長く，さまざまな詩人たちと交友を結び，アメリカの新文学運動の代表的詩人として活躍した。多くの実験的な詩集を発表し，絵画にも特異な才能を発揮したが，第1次世界大戦下の収容所生活を描いた一種の自伝的作品《巨大な部屋(へや)》(1922)は，詩的洞察力(どうさつりょく)に富む散文として有名である。

カム［cam］特殊な形状をした板の縁に従動節(カムによって動かされる部品)を接触させ板を回転させると，従動節は板の縁の形に応じて周期的な往復運動をする。このような特殊な形状を備えた板をカムという。この例のように板の縁に特殊な輪郭曲線をもたせたカムを板カムといい，この輪郭を適当に選ぶことによりカムの回転角と従動節の動きとの間に希望する関係をもたせることができる。このほかに円板の表面にみぞを切り，その中に突起部を入れた正面カム，円筒の側面にみぞを切った円筒カム，円錐(えんすい)の側面にみぞを切った円錐カムなどがある。これらはカムの等速回転運動を従動節の直線運動に変換するものであるが，直線運動をするカムに従動節を接触させて従動節に方向の異なる直線運動を起こさせる直動カムもある。カムは内燃機関・工作機械などに広く用いられている。〔森田 鈞〕

かむいこたん【神居古潭】北海道，旭川(あさひかわ)市西部にある景勝地。石狩川が上川盆地を出て，夕張山地を横切る地点にある長さ約9kmの峡谷で，古生層の変成岩からなり，激流が奇岩を削り，深い淵(ふち)をつくって流れる。サクラの名所として名高く，沿岸のがけ上の林の中にはコロボックル(アイヌ以前の先住民族)の住居跡と伝えられる29個の竪穴(たてあな)があり，土器や石器を出土している。地名はアイヌ語で〈神の部落〉を意味し，交通の難所で，魔神が住んで犠牲を求めるという言い伝えに由来する。毎年10月上旬の日曜日に行なわれる〈古潭祭り〉は，アイヌが魔神に安全を願って祈りをささげたしきたりを受け継いだものである。函館(はこだて)本線・国道12号線が通じる。なお，小樽(おたる)や浦河(うらかわ)付近にも同じ地名がある。〔浅井得一〕

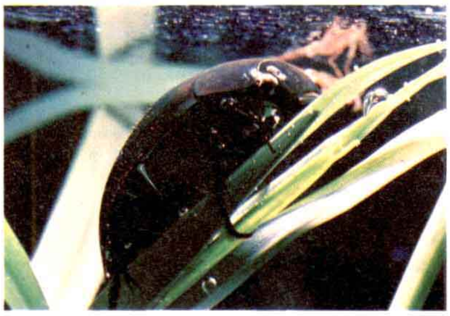
かむいみさき【神威岬】北海道西部，積丹(しゃこたん)半島の北西部で日本海に突出する。南西の茂津多岬(もったみさき)，北東の雄冬岬とともに江戸時代には，西蝦夷(にしえぞ)三険岬といわれていた。古期安山岩や石英粗面岩からなり，侵食された尾根が約1kmにわたって海上に突出し，先端のがけ上には1888年(明治21)に設けられた燈台がある。沖合いには，高さ40mにも及ぶ神威岩をは



神威岬　北西洋上の上空から見た神威岬。先端の崖上に燈台が小さく見える。岬の終わったその先に神威岩のある岩礁が続く。岬の右手の小部落は柾泊

じめとする岩礁が続いており，1664年(寛文4)に禁制がとけるまで，ここより北への女人の渡航が禁止されていた。切り立った海食崖(かいしょくがい)が続く風光明媚(ふうこうめいび)な海岸一帯は，ニセコ積丹小樽(おたる)海岸国定公園に指定されており，夏季には多くの観光客でにぎわう。〔味沢成吉〕

がむし　【牙虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ガムシ科の総称あるいはそのうちの1種をいう。ガムシは日本に産するガムシ科中最大の種で，体長30～35mm，体は楕円(だえん)形，全体光沢のある黒色を呈する。腹部下面は平滑で光沢がある。各鞘翅には4条の点刻列がある。日本全土のほか，朝鮮・中国をはじめ東アジア一帯に広く分布する。幼虫・成虫ともに水生で，池沼や水田などに普通に見られ，他のこん虫類や小形の動物を捕食する。ガムシ科は比較的大きな群で，全世界から約1,800種が発見され，特に熱帯地方から温帯地方にかけて多数の種が知られている。成虫の体長は，最小1.5mm内外のものから最大50mmに達するものまで，種類によって変化に富む。生活の様式も種によってかなり変化し，水生のものばかりでなく半水生や陸生の種も多い。多くの種は食植物性であるが，他のこん虫類などを捕食する肉食性の種もある。成虫はしばしば燈火に飛来する。日本に分布するおもな種類にはコガタガムシ・コガムシ・ヒメガムシ・マメガムシなどがある。〔鈴木邦雄〕



ガ ム シ

カムチャツカ(半島)　［Kamchatka］　ソビエト連邦，シベリアの東端近くで南に突き出す半島。長さ1,200km，面積35万km^2。東岸はベーリング海・太平洋に，西岸はオホーツク海に面する。地形は山がちで，二つの山脈がそれぞれ南北方向に走り，火山活動も活発である。シベリアの最高峰クリュチェフ山(4,850 m)をはじめ，火山の数は120に達し，活火山も多い。美しい円錐(えんすい)形火山クロノック(3,030 m)も有名である。温泉は豊富であるがほとんど利用されていない。南端でも北緯51°で，冬の酷寒期間が長く，ごく一部に農耕地がみられるにすぎない。気温は冬季1月で－12～－15℃，夏季8月で15℃を示し，年間降水量は600～1,000mmである。山脈は美しい針葉樹でおおわれ，テン・トナカイ・キツネなどの動物がすむ。住民の大部分はロシア人で，これら毛皮獣の飼育と漁業を行なう。沿岸は大漁場として知られ，ニシン・サケ・タラ・カニ・マスなどをはじめとする漁獲は，ソ連の全漁獲高の1割を占めている。また，金・石油・石炭をはじめとする地下資源の埋蔵も確認されているが，現在までのところ未開発で，今後が期待されている。沿岸部の交通は，船によって沿海州のウラジオストクやレナ川下流デルタ付近のチクシなどと結ばれるが，内陸部の交通はトナカイやウマのソリにたよるしかない。ロシア人によって開拓され，はじめは夏季だけの季節移住者が多かったが，しだいに定住者が増加し，ペトロパブロフスクなど，都市を興すに至った。〔長津一郎〕

カムデン　［Camden］　アメリカ合衆国ニュージャージー州，デラウェア川左岸の港市・工業都市。人口10万3,000(1970)。フィラデルフィアの対岸にあり，せっけん・レコード・皮革製品・薬品・リノリウム・鉄鋼・織物などを生産している。独立戦争の際の合衆国軍とイギリス軍の激戦地。詩人ウォルト-ホイットマンの旧住居が残っている。

カムフラージ　［camouflage］　偽装・迷彩などと訳す。人員・武器・弾薬・器材・資材・施設の存在あるいはその実体を隠すか，目だたないようにすることをいう。最近では偵察(ていさつ)手段の著しい進歩に伴い，偽装技術も専門的なものとなり，しかも周到な計画と整然とした組織のもとに大規模な偽装や迷彩が行なわれるようになっている。

かむらいそた　【嘉村礒多】　(1897～1933)　小説家。山口県の生まれ。山口中学中退。1924年(大正13)山口市中村女学校の書記となり，女教師小川ちとせと恋愛，1925年妻子を捨てて上京。中村武羅夫(むらお)の斡旋(あっせん)で雑誌《不同調》の編集にあたりながら，《業苦》《崖(がけ)の下》などの作品で私小説作家として文壇に登場した。自己の閲歴からくる罪悪感・劣等感に基づく仮借ないエゴの剔抉(てっけつ)は，私小説の一極点をなす。そのほかの作品は《途上》《神前結婚》など。〔小泉浩一郎〕

カムラン(湾)　［Camranh］　南ベトナム東海岸の湾入。水深12 mの天然の良港。仏領インドシナ時代のフランス海軍基地で，港湾施設も整っている。日露戦争*のとき本国を発しウラジオストクに向かうバルチック艦隊が寄港した所として有名。現在，アメリカ海・空軍のベトナムにおける最大の基地がある。

ガムランおんがく　【ガムラン音楽】　インドネシアの代表的な音楽で，ジャワ島(ジャワ様式およびスンダ様式)とバリ島(バリ様式)で行なわれている。世界的にみても有数の合奏音楽で，旋律打楽器を中心にした一種のオーケストラとみなすことができる。儀式あるいは劇場など，演奏の場所や目的に応じて大編成・中編成・小編成の別がある。三大様式それぞれで細部の音楽構成は異なるが，楽器を役割に従っていくつかのグループに分けて全体のアンサンブルをねらい，特徴あるオーケストレーションを土台にしている点では共通である。楽器のグループ分けは，代表的なジャワ様式では，①主要旋律を奏する楽器群，②旋律を装飾するための楽器群，③周期的な拍節法の拍数を合い図的に明示したり，リズム・テンポをささえたりする楽器群に分けられる。主旋律を奏する楽器は，デムン*・サロン*・ペキン*・スレンテム*などで，並んでいる金属片をつちでたたく。装飾音型のためにはゲンデール*(金属を並べたもの)・ボナン*(なべ状の金属器をさかさに置いて並べたもの)・ガンバン*(木琴)が使われる。リズム楽器としては，クンダン*(両面太鼓)・ゴング*・カンプール(銅鑼(どら)類)・ケノン*・ケトゥック(なべ状の大きいもの)が活躍する。他にルバーブ(擦弦楽器)・スリーン*(縦笛)・ケチャピ(チター系弦楽器)・人声(ソロ・コーラス)などが加わって総員25名ぐらいの大編成となる。また音階によってスレンドロ*とペロッグ*の2編成がある。純音楽とし

ても演奏されるが，おもに舞踊・演劇の伴奏として重要視されている。〔山口　修〕

かむりづけ【冠付】 雑俳種目。句の上5文字(冠)を題として，これに下7・5文字を付けて一句に仕立てるもの。元禄(げんろく)ごろから流行し，前句付*に次ぐ重要な雑俳の名目で，上方では〈笠付(かさづけ)〉，江戸では〈冠付〉といった。また〈えぼし付〉ともいう。→折句

カムルチー ⇨ライギョ

かむろ【禿】 童女の髪形。別名おかっぱ。髪の末端を短く切りそろえてたらす。江戸時代の遊郭で，高級遊女の下に配属された小間使い役の童女の髪がこの形であるため，その職名の代名詞となって残った。

かめ【亀】 爬虫(はちゅう)類・カメ目の総称。甲をもった特有の一群で，他の爬虫類との間に移行形が知られていない。現生種は世界に200種余りが知られ，曲頸(きょくけい)亜目と潜頸亜目に大別される。曲頸亜目にはヨコクビガメ科とヘビクビガメ科が含まれ，これらはアフリカ・マダガスカル・オーストラリア・南アメリカに分布。頸部が長く，頭頸部は甲内に引っ込めないで，頸部を横に曲げて甲の間に隠す。潜頸亜目はヨーロッパ・アジア・アフリカ・南北アメリカに広く分布し，大半のカメ類がこれに含まれる。カメ科・リクガメ科・ウミガメ科など9科に分けられ，すべて頭部を甲内に引っ込めることができる。しかし，オサガメ・ウミガメ・カミツキガメ・オオアタマガメのように，比較的危険の少ない水中での生活者は，二次的にその機能を失って，完全には頭部を甲内に引き込むことができない。また，淡水底に生活する種は，腹甲が小さくなっている。

カメの甲は，皮骨と内骨格が結合した背甲と腹甲とからなり，表面は角質の鱗板(りんばん)でおおわれ，カメの体を守る強い箱となっている。しかし，オサガメやスッポンでは甲が二次的に退化して，鱗板の代わりに革質の皮膚でおおわれる。背甲と腹甲とは，左右で橋(ブリッジ)とよばれる腹甲の延長部によって結合しているが，ハコガメでは橋がなく，靭帯(じんたい)によって結合している。カメの先祖は二畳紀末ごろに，幹爬虫類のコティロサウルス類から分かれたといわれる。最古の化石は三畳紀末の地層に現われるトリアソケリスで，形態的には現生種と大差はないが頸椎骨(けいついこつ)は1個少なく，歯を備え，頭部は甲内に引っ込めることができない。現生種の頸椎は8個，脊椎骨(せきついこつ)は10個で，普通は第2～8脊椎骨が背甲板と癒合(ゆごう)し，肋骨(ろっこつ)は扁平(へんぺい)に広がって背甲の重みをささえている。鎖骨は肩胛帯(けんこうたい)と連絡がなく，胸骨はない。甲に囲まれたカメの体制では，普通の呼吸法はできず，筋肉の収縮によって，内臓を肺に押しつけて行なわれる。総排出腔(こう)は体軸に平行。四肢(しし)はじょうぶで5本の指とつめをもつが，海生種では四肢は櫂状(かいじょう)となって，指は外部から認められない。

現生のカメは全部卵生であり，海生のウミガメ類も産卵は陸上で行なう。生活は水陸両生のものが多いが，マタマタ・スッポン・カミツキガメのように水生のもの，ゾウガメ・アナホリガメのように砂漠(さばく)地帯に分布するもの，リクガメのように森林で生活するもの，ウミガメのような海洋生活者など，その分布範囲は広い。リクガメが植物質を好むほかは肉食または雑食。最大はオサガメの体重650kgに達する個体で，陸上ではゾウガメが250kgを越える。最小はテラピンの数十グラム。最長の寿命はゾウガメが180年ぐらいと推定されている。陸生




ガムラン音楽　(左)バリ島での演奏風景。手前中央で演奏しているのは弦楽器ルバーブ　(右)バリ島のガムラン音楽で最も代表的な舞踊音楽レゴンの演奏風景



ホシガメ



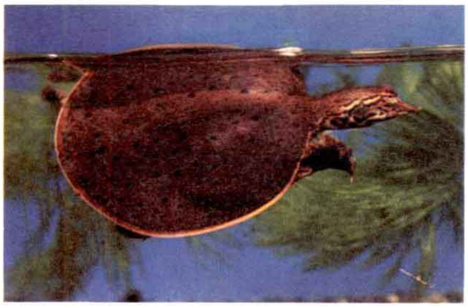
フトクビガメ



ミドリガメ



ダイヤモンドガメ



アメリカスッポン



ヘビクビカメ

カ　メ

種ほど護身手段が発達し，ハコガメでは，腹甲の１～２か所がちょうつがい状となって，腹甲で完全にふたをする。セオリガメでは，背甲の後部を折り曲げてふたをし，前部はじょうぶな前肢でおおう。リクガメ類はじょうぶな四肢で甲のすきまを防ぐ。大半のカメは性温和で，ペットとして飼育されるものが多い。〔松井孝爾〕

かめいかついちろう　**【亀井勝一郎】**（1907～1966）評論家。北海道函館（はこだて）市の生まれ。東京大学美学科卒。在学中からマルクス・レーニン主義の運動に参加，1928年（昭和３）の三・一五事件に際し投獄された。1930年出獄し〈日本プロレタリア作家同盟〉に加入。1933年《転形期の文学》によって自身の転向の過程を明らかにした。その後は保田（やすだ）与重郎らと《日本浪曼派（ろうまんは）》を創刊。第２次世界大戦中から戦後にかけて日本の古典や仏教への関心を深め，それらに取材した創作や評論を発表した《わが精神の遍歴》《日本人の精神史研究》《島崎藤村》ほかの著作がある。〔小泉浩一郎〕

かめいどじけん　**【亀戸事件】**　関東大震災の直後，官憲によって起こされた労働者虐殺事件。1923年（大正12）９月３日夜，当時最も革命的な東京南葛（なんかつ）労働組合の本部となっていた河合義虎（かわいよしとら）宅から，河合ら同組合員と労働者平沢計七ら計９名が自警団員４名とともに亀戸署に不法検束され，翌日騎兵第13連隊により銃殺された。第１次世界大戦後激化する労働運動・社会主義に対し，弾圧の機会をねらっていた官憲が，同月１日の関東大震災の混乱に乗じて，流言を飛ばし，朝鮮人虐殺，大杉（おおすぎ）栄虐殺（→甘粕（あまかす）事件）とともにこの事件をも企てたものであった。〔千野境子〕

かめいどじんじゃ　**【亀戸神社】**　東京都江東区亀戸にある。祭神は菅原道真（すがわらのみちざね）と天穂日命（あめのほひのみこと）。一般に亀戸天神とよばれる。1661年（寛文１），菅原信祐（のぶすけ）が九州太宰府（だざいふ）菅原廟（びょう）のウメの木で道真像を彫り，この地に小祠（しょうし）を祭ったのに始まる。社前に多くのカメのいる池があり，また，美しいフジだながある。例祭は３月と９月の25日。

カメオ　［cameo］　宝石・石・貝殻（かいがら）などのしま目を巧みに利用した浮き彫り。またはこの彫刻をした石や貝の称でもある。古代エジプト時代からあるが，当時は石に彫られていた。ギリシア・ローマ時代には金属やしま模様のある宝石に婦人の胸像を彫ったものが多く，今日イタリアの名物になっているカメオはだいたいこの時代からのもの。イタリアでは美しい貝がとれるのでこれに彫るようになったもので肉厚の赤みがかったものほど高級とされている。ローマ時代には主として兵士たちが装飾として使ったが，今日では婦人の装身具として金・銀の飾りつけを施してブローチ・指輪・ペンダントなどに用いられている。カメオの有名なものはイタリアのフィレンツェのピッティ美術館にあるオニックスのカメオで，黒地に白く聖母像が彫刻されており，ルネサンス期のものである。〔小池千枝〕



カメオ



カメガイ

かめおか　**【亀岡（市）】**　京都府南西部の市。もと亀山とよばれ，古くは丹波の国府が置かれた。山陰道から池田街道・篠山（ささやま）街道を分岐する宿駅で，戦国時代に明智光秀（あけちみつひで）がここに築城し，江戸時代は松平氏五万石の城下町であった。城跡にいま大本教の本部がある。1955年（昭和30）市制施行。人口68,000。保津川流域の亀岡盆地全域と周辺の山地を含み，市街地の町並みには宿場町のなごりがみられる。産業三大別人口比は20：33：47。米・麦のほかトマト・タマネギ・キュウリ・カンラン・スイカなど，近郊野菜の栽培が盛んである。山陰本線・国道９号線が通じ，国道沿いには製糸・コンデンサーなどの工場地帯がある。丹波一ノ宮の出雲（いずも）神社は《徒然草（つれづれぐさ）》にもみえ，金時寺は江戸時代の画家円山（まるやま）応挙が幼少時を過ごした寺で，俗に応挙寺とよばれる。保津橋を起点とする〈保津川下り〉は夏の行楽として名高い。

かめおかぼんち　**【亀岡盆地】**　京都府亀岡市から北西に延びる長さ約10km，幅約3.5kmの丹波高原の南部にできた構造盆地で，かつては湖をなしていたらしく湖底堆積物（たいせきぶつ）も見受けられる。盆地の東部は断層崖（だんそうがい）によって限られ，そのがけ下にはいくつもの扇状地が形成されている。西部は谷により山麓（さんろく）が入り組んでいる。中央を北西から南東へ丹波高原に源を発する大堰（おおい）川が貫流し，盆地で河床勾配（こうばい）がゆるやかになるためしばしば洪水を起こし，盆地の東の老ノ坂山脈をうがち，保津峡をつくって京都盆地へ流出している。ほとんど水田で，水田率は90%にも及んでおり，また近郊農業としての野菜栽培も盛んである。〔味沢成吉〕

かめがい　**【亀貝】**　軟体動物・腹足綱・翼足目・カメガイ科。殻（から）は長さ約２cm，そばがら状ともヒシの実状ともいえる形で，かっ色。ひれ状になった足をチョウの翅（はね）のように左右に広げて海中を泳ぐ。本州近海に普通にみられる。翼足目の貝は巻き貝の仲間ではあるが，すべて足の一部がひれ状に変化して，海洋を浮遊生活する。殻の形は巻き貝形，角笛状，ヒシの実状，そばがら状などさまざま。カメガイに近いクリイロカメガイ・マルカメガイなども，日本近海に普通にみられる。

かめがおかいせき　**【亀ヶ岡遺跡】**　青森県西津軽郡木造町亀ヶ岡にある縄文（じょうもん）時代後期の遺跡。丘陵から西側の低地にまたがり，明治中期より考古学の調査が進められて，1944年（昭和19）史跡に指定された。重要文化財となった大土偶をはじめ各種の遺物が出土し，特に土器は形状・文様ともにすぐれた特色を有し，〈亀ヶ岡式〉の呼称で晩期縄文式土器の総称となっている。低地の泥炭層（でいたんそう）からは多くの木器を出土。〔高崎徳次〕

かめじま　**【亀島】**　日本庭園に行なわれた人間の不老不死，あるいは人間の長寿を祈願した表現の一。鶴亀の長寿伝説にあやかって鶴島（つるしま）とともに生まれたが，これらの島は広大な園池の中に構成されたり，枯山水にもつくられた。その形態は抽象的なものも写実的なものもある。いわゆる蓬莱島（ほうらいじま）や蓬莱石組みとともに祝儀思想に含まれ，時代によって表現の手法に特徴がある。なお，石組みで鶴亀の形態を表現した鶴石組み・亀石組みもある。〔重森完途〕

かめだ　**【亀田】**　北海道，函館（はこだて）市の北西部，もとは渡島（おしま）支庁亀田町であったが，1971年（昭和46）に市制施行，1973年に函館市に併合された。人口約６万。道内最古の農村で，和人居住の歴史が古く，1456年（康正２）にはここで和人のかじ屋がアイヌの酋長（しゅうちょう）を刺殺したことがもとになってコシャマインの乱が起こった。地域は函館（はこだて）平野南部と扇状地を占め，平野部は地味が豊かで米・ジャガイモ・ダイコン・ハクサイ・アカカブなどの産が多い。函館本線・国道５号線が通じる。約5,000年前の先住民族遺跡サイベ沢貝塚（かいづか），函館戦争の際の幕軍の拠点となった四稜郭（しりょうかく）の城郭址がある。

かめだ　**【亀田（町）】**　新潟県中蒲原（なかかんばら）郡に属し，新潟平野の中央部にある。人口約27,000。亀田水郷といわれた低湿地帯の中心にあり，市場町として発展した。

ナシ・野菜の栽培と機業が盛ん。近年は新潟市に近いため住宅地化が著しい。信越本線が通る。

カーメネフ [Lev Borisovich Kamenev] (1883〜1936) ロシアの革命家。ソ連の政治家。1901年モスクワ大学在学中にロシア社会民主労働党に入党し，党分裂後はボリシェビキ*として活動。亡命中にレーニン*・ジノビエフ*やトロツキー*らと知り合う。のちシベリアに流刑。十月革命では武装蜂起(ほうき)に反対した。1917〜1927年の間ロシア共産党中央委員，この間全ロシア中央執行委員会議長・モスクワ-ソビエト議長・人民委員会議副議長を歴任。1925年〈新反対派〉のひとりとなり，トロツキー・ジノビエフらとともにスターリンに対抗した。1927年党を除名されたが，1928年自己批判して復党。1932年再度除名され，また復党したが，1934年のキーロフ暗殺事件に連座し，1936年処刑された。〔山県弘志〕

かめのこてんとう 【亀子瓢虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・テントウムシ科。日本に産するテントウムシ類中最大の種で，体長10〜14mm。体は光沢のある黒色。前胸背板の両側に橙黄(とうおう)色の大きい斑紋(はんもん)がある。鞘翅には，大きな亀甲(きっこう)状の橙赤色の斑紋がある。この亀甲紋の形状は，個体によって多少変化し，ときに全体黒化した個体も見られる。日本全土のほか，中国・台湾・シベリアに分布する。成虫は5〜8月に見られる。幼虫は，クルミ類の害虫クルミハムシの幼虫を捕食する益虫で，赤色の分泌物を出す習性がある。

かめのこはむし 【亀子金花虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。前胸背板および鞘翅が外方に向かって著しく張り出し，頭部や脚などが背面からはほとんど見えず，カメのような形状を呈することからこの名がある。体長7mm内外，体は長卵形で，背面はやや隆起し，腹面は扁平(へんぺい)。背面は灰白色ないし黄かっ色，腹面は黒色。鞘翅には大きな点刻からなる9本の縦条があり，不規則な黒色の小斑紋(しょうはんもん)が多数散布している。幼虫・成虫ともにアカザ・ハマアカザ・テンサイなどの葉を食害する。

かめのて 【亀の手】 節足動物・甲殻(こうかく)綱・蔓脚(まんきゃく)亜綱・完胸目・ミョウガガイ科。鱗片(りんぺん)におおわれ，黒かっ色革状のカメの手を思わせるような柄に三角形の貝殻(かいがら)状の頭状部がついている。全長7cmに達する。本州以南，マレー諸島に分布し，岩礁の岩の割れ目に固着し群生している。フジツボ*に近縁で，6対の脚を開閉して，プランクトンを捕食する。地方によっては岩からかき取って，しるの実などにする。味はエビに似るといわれる。

かめむし 【亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目の総称。狭義にはこのうちのカメムシ科の総称。半翅目に属するこん虫の口器はいずれも吻(ふん)状の口吻となって



カメノテ

おり，食物の吸収に適している。また，口吻の基部が前脚の基節に接しておらず，前胸背板が著しく大きく，前翅が一般に一部分厚化し先端部分のみが膜質となっているなどの点で，ウンカ・ヨコバイ・セミ・カイガラムシ・アブラムシなどを含む同翅亜目から区別される。異翅亜目は，触角が頭部よりも長く顕著な顕角群と，触角が頭部よりも短く通常複眼の下方の陥凹(かんおう)部に保護される隠角群の2群に大別され，両者はさらに多数の上科や科に分類される。顕角群は，陸生または半水生の種類からなり，日本に産する代表的な科には，グンバイムシ科・トコジラミ科(ナンキンムシ科)・メクラカメムシ科・ハナカメムシ科・サシガメ科・マキバサシガメ科・ヒラタカメムシ科・ヘリカメムシ科・ナガカメムシ科・ホシカメムシ科・カメムシ科・アメンボ科などが含まれる。また，隠角群はすべて完全な水生の種類のみからなり，ミズムシ科・メミズムシ科・タイコウチ科・コオイムシ科・ナベブタムシ科・マツモムシ科などが日本に産する代表的な科である。異翅亜目のこん虫は，顕著な臭腺(しゅうせん)が発達していて悪臭を発し，特に陸生の種類ではにおいが強く，ヘコキムシ・ヘッピリムシ・ヘクサムシ・クサガメなどとよばれている。アメンボ科のような水生のものでは，あめのような甘い香りを出すものがある。この臭腺は，幼虫の時期には腹部の背面の節間に開口しているので背板腺ともよばれ，この分泌孔の数は科によって異なる。臭腺の開口部は，成虫になると後胸の腹面に移動するので後胸腺ともよばれ，各科を通じて後脚の基部に近く位置する。刺激が与えられるとこの臭腺から種に特有の物質が分泌されるわけであるが，その分泌物の化学的組成はあまり詳しくわかっていない。ただ，一部の種では，一種の酸またはケトンであることが知られている。食性は，植物体から吸汁(きゅうじゅう)する種類が多く，農林・園芸上の害虫が多い。また，ナンキンムシのように動物の体液を吸収する種類も多い。

カメムシ科は，全世界に約5,000種が知られ，日本にはアカスジキンカメムシ・ニシキキンカメムシ・オオキンカメムシなど50余種が産する。学者によっては，ツノカメムシ科およびクヌギカメムシ科を含めることがある。大部分は食植物性で，種々の農作物や果樹，園芸作物などの害虫が多いが，クチブトカメムシ亜科のものは食虫性である。〔鈴木邦雄〕

かめやま 【亀山(市)】 三重県中北部の市。江戸時代には石川氏六万石の城下町，また鈴鹿(すずか)峠を控えた東海道の宿場町としてにぎわった。1954年(昭和29)市制施行。人口34,000。伊勢(いせ)平野西部の沖積(ちゅうせき)低地および鈴鹿山麓(さんろく)に近い洪積(こうせき)台地を占め，中心集落は鈴鹿川左岸の河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は20：37：43。肥えた低湿部に水田が広がり，良質の伊勢米を産する。鈴鹿山麓では緑茶・紅茶の産が多い。繊維・化学などの近代工業が興っており，1961年，通産省指定の内陸工業適地となって第2次製品加工業や機械工業の発展が期待される。特産の美術ろうそくは輸出される。関西本線と紀勢本線の分岐点で，また，国道1号線から関ケ原町(岐阜県)に至る巡見街道を分岐し，25号線(名阪(めいはん)国道)のインターチェンジがある。樹齢300年のムクノキの大木がある旧東海道の一里塚(つか)が指定史跡として保存されている。なお，東隣の鈴鹿市北部にわたる洪積台地は能褒野(のぼの)とよばれ，ヤマトタケルノミコト薨去(こうきょ)の土地とされており，能褒野陵・能褒野神社がある。安楽川上流の渓谷(けいこく)〈石水渓〉は鈴鹿県立自然公園の一部に属する。

かめやまてんのう 【亀山天皇】 (1249〜1305) 在位1259〜1274年。名は恒仁(つねひと)。後嵯峨(ごさが)天皇の第3皇子。母は西園寺実氏(さいおんじさねうじ)の娘大宮院姞子(きっし)。1274年(文永11)退位して院政*を行なった。1289年(正応2)出家，1291年臨済宗の無関普門を招いて離宮禅林寺院を禅寺(南禅寺*)とした。陵墓は京都市嵯峨の亀山陵。この天皇の系統を大覚寺統*という。

カメラ [camera] 写真機。レンズを通った光が結ぶ映像を，フィルム*などの感光材料*に記録するための装置。

〔構成要素〕大別して三つの部分からなる。

①レンズ部：被写体からの反射光を感光材料の表面に結像させる写真レンズ*と撮影距離に応じてレンズ——感光材料間の距離(画像距離)を調節する繰り出し部とからなる。これに付随する装置に，任意の瞬間にだけ光を感光材料に与える目的のシャッター*と，透過光量を調節する絞り*とがある。

②ボディー部：感光材料はレンズからの光だけを受けるように，他からの光は遮断(しゃだん)されなければならない。この暗箱としての働きをするのがボディー部である。最近のカメラボディーは，この本来の目的のほかに，撮影範囲を確認するファインダー，レンズの繰り出し量を正確に決める焦点調節装置，絞り・シャッターを決める露出計なども組み込まれるようになった。なお，レンズ繰り出し部やシャッターがボデ

表-1　小型カメラの画面サイズの分類

I	超小型カメラ	ⓐ	16mm判	(10×14mm)
		ⓑ	スーパー16mm判	(12×17mm)
		ⓒ	ミノックス判	(8×11mm)
II	35mmカメラ	ⓐ	35mm判	(24×36mm)
		ⓑ	スクエア判(ロボット判)	(24×24mm)
		ⓒ	ハーフ判	(24×18mm)
		ⓓ	126カートリッジ判(インスタマチック判)	(26×26mm)
III	大判カメラ	ⓐ	セミ判	(56×42mm)
		ⓑ	6×6判	(56×56mm)
		ⓒ	6×7判(メーカーによって長辺は一定しない)	(56×68～72mm)
		ⓓ	6×9判	(56×82mm)

注)(　)内は画面の実寸法

表-2　大型カメラの画面サイズの分類

Ⓐ	JS2 1/2×3 1/2 (63×89mm)	名刺判	Ⓕ	JIS未定 (130×180mm)	大カビネ判
Ⓑ	JS3 1/4×4 1/4 (82×107mm)	手札判	Ⓖ	JS6 1/2×8 1/2 (163×213mm)	八つ切り
Ⓒ	JS9×12 (88×118mm)	大手札判	Ⓗ	JS10×12 (251×301mm)	四つ切り
Ⓓ	JS4×5 (100×125mm)	4×5インチ判	Ⓘ	J14×17 (354×430mm)	半切り
Ⓔ	JS4 3/4×6 1/2 (118×163mm)	カビネ判(中判)	Ⓙ	J18×22 (455×557mm)	全紙

注)(　)内は画面の実寸法

ィーの一部になっている機種も多い。

③感光材料保持部：感光材料を焦点の位置に，レンズの光軸に対して垂直の位置に保持する部分。現在，ほとんどの感光材料はロールフィルムになっているので，フィルムの巻き取り装置，種類によっては巻きもどし装置も必要である。巻き取りはレバー，巻きもどしはクランクを採用するのが一般的だが，スプリングまたは電動式のモータードライブによる自動化が増加する傾向にある。

カメラの構成は，眼球の構造によく似ており，レンズ部＝水晶体，ボディー部＝ガラス体，感光材料保持部＝網膜と対置できる。この3要素は一般のカメラでは一体化されているが，プロフェッショナルなカメラでは，各部分が着脱，交換できるように独立させているものが多い。

【カメラの分類と機能】カメラは構成要素によってさまざまに分類されるが，主として使用感光材料とファインダーによる場合が多く，それにシャッター・露出計による分類がつけ加えられる。

①使用感光材料による分類：大別するとロールフィルムを使う小型カメラと，カットフィルム(シートフィルム)やパックフィルムまたは乾板(→フィルム)を使う大型カメラとがある。小型カメラはさらに表-1のように細分され，アマチュア用カメラといわれるものはこのうちに含まれるが，現在はII ⓐ35mm判の使用率が圧倒的に多い。II ⓑスクエア判はごく一部のカメラにしか採用されていない。IIIの大判カメラ(120・220フィルムを使うカメラ)のうち，ⓐセミ判も現在はほとんどなくなっており，ⓑ6×6判とⓒ6×7判が主力である。特に6×7判は120フィルムで10枚(220フィルムで20枚)どりと経済的なうえ，写真を印刷物に利用するのに合理的な縦横比を採用しており，今後の大判カメラの主軸になるとみられる。

大型カメラには連動距離計つきで速写性にウエイトを置いたプレスカメラと，ピントグラス式でアオリ撮影を重視したビューカメラとがあるが，画面サイズは両者とも同じで，両方の性能をもったプレス-ビューカメラもある。サイズはJIS規格で決まっているが，伝統的なインチ表示をそのまま採用している(表-2参照)。JISは乾板用のJとカットフィルム用のJSとがあるが，半切・全紙についてはカットフィルムはない。また，大カビネ判はJISが決まっていない。大型カメラのサイズはこのように非常に豊富だが，実際に使われているのはⒹ4×5インチ判で，アダプターによって各種のサイズに切り替えられるカメラが多い。

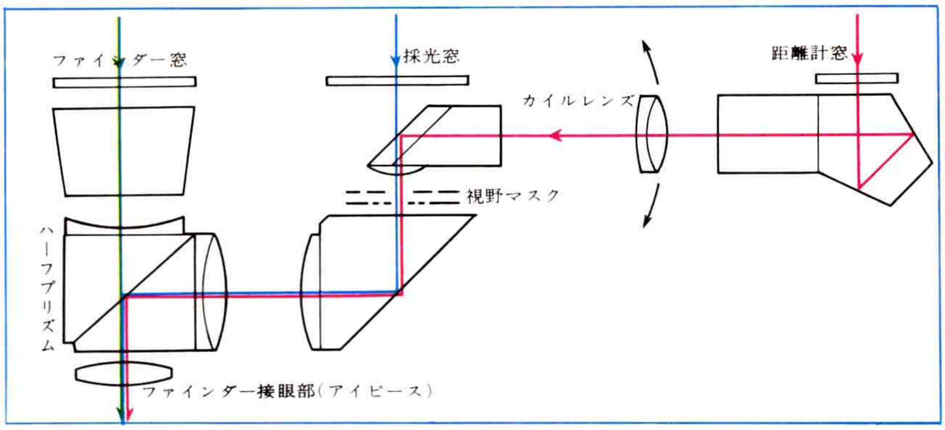


図-1　M型ライカの採光窓式フレームファインダーの構造(このカメラではプリズムの代わりにカイルレンズ回転でプリズム回転と同じ効果をあげている)

②ファインダーによる分類：カメラのファインダーには，撮影範囲の確認と焦点調節という二つの目的があり，これによって細かく分類される。ファインダーには空中像を見る透視式と，すりガラス面に写真レンズの結像を見るピントグラス式とがある。

透視ファインダーの最も単純なものはわく型ファインダーだが，現在は凹凸(おうとつ)レンズを使ったガリレオファインダーで小型化している。焦点調節の最も単純な方法は固定焦点で，レンズに繰り出し部がなく，一般撮影に使用される距離(だいたい1.5～2m)から無限遠までが被写界深度*内にはいる位置にレンズを固定したもの。この形式のファインダーと焦点調節はボックスカメラなどの普及カメラに多い。

焦点調節の次の段階は目測式カメラで，撮影距離を目測して，レンズ繰り出し部にある距離目盛りにセットする。ゾーンフォーカスはこれの改良型で，距離目盛りのうちで使用頻度(ひんど)の高い，たとえば無限遠・3m・1mの位置にクリックストップを設け，その距離に適した被写体，風景・グループ・ポートレートを象徴したゾーンマークをつけたもの。この方式は35mm判EEカメラ*などの中級機に多く，ファインダー内にゾーンマークを組み込み，セットした距離を指針で表示する。このタイプのファインダーは視野内に撮影範囲を示すわくを組み込んだフレームファインダーとなっている。フレームには2種あり，ファインダーの対物レンズの内側を半透明鏡とし，接眼レンズにめっきしたわくを反射させるアルバタ式と，拡散板付きの窓からの光でわくの部分を切り抜いたマスクを照明し，その像をプリズムまたはミラーでファインダー内に導く採光窓式とがある。後者のほうがフレームが明確で，露出計の指針やゾーンマークも組み込みやすいため，現在はアルバタフレームは減少している。

さらに高級カメラになると連動距離計つきになる。以前は，単独距離計で撮影距離を測定し，その値を距離目盛りにセットする単独距離計つきカメラもあったが，現在はこの方式のカメラはない。連動距離計の原理は次のようである(図-1参照)。被写体

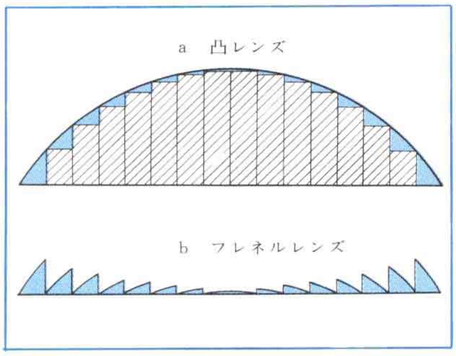


図-2　フレネルレンズの原理(断面)　凸レンズにおいて実際に光を屈折するのはaの青地の部分だけである。この原理を応用して斜線の部分を同心円状に切りとったものがbのフレネルレンズ

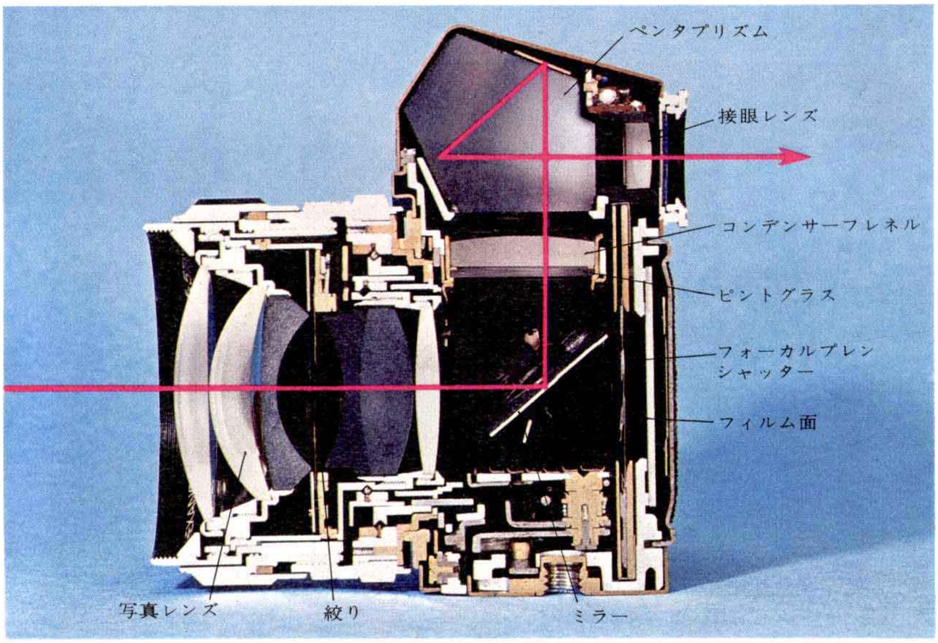


図-3　一眼ペンタレフの構造(コニカFTA)

はファインダー窓のほかに，距離計窓からも見え，距離計の画像はプリズムで屈折されてファインダーの画像と合成される。プリズムはレンズ繰り出しに連動して回転し，レンズが繰り出されるほど(近距離撮影になるほど)内側に傾く。ファインダー内で被写体が二重に見えなくなるようにレンズ繰り出しを調節すると，レンズはその被写体に対して焦点合わせが行なわれるというのが，この二重像合致式連動距離計である。

連動距離計つきカメラのファインダーはほとんどフレームつきで，距離計に連動してフレームが移動するパララックス(視差)自動修正になっているほかに，近距離になると撮影範囲が狭くなるので画角自動修正装置つきのカメラもある。連動距離計はF2級の明るいレンズのついたEEカメラにも使われているが，レンズを交換しても距離計が連動し，レンズの画角に合ったフレームが自動的に選択されるライカMのような例もある。

ファインダーの形式としては透視ファインダーよりもピントグラス式のほうが歴史は古い。カメラ後面，フィルムを取り付ける位置にすりガラスをあてて，写真レンズの結像を直接見ることによって焦点調節と撮影範囲を確認する。ピントグラスをはずしてフィルムと交換してから撮影を行なう。この一見原始的な方法は現在もビューカメラに使われているが，これでなければアオリ撮影の焦点調節は不可能である。

しかし撮影のたびにピントグラスを着脱しなければならないので，動きのある被写体には適していない。そこでカメラ内部にミラー(反射鏡)を取り付けて，レンズからの光をカメラ上面のピントグラスに90度屈折して送り，フィルムは撮影位置にセットしたままでピントグラスが見られるカメラが生まれた。これが大型カメラ時代の一眼レフである。レバーでミラーをはね上げてから撮影するが，ビューカメラに比べればはるかに操作は速くなる。

これをさらに機能的にしたものが二眼レフで，カメラの上にミラーボックス部を取り付け，撮影レンズと同じ焦点距離をもつビューレンズで焦点調節をするもの。この方法ならばミラーを作動させる必要がないので，焦点調節をしながらでも撮影ができる。だが，カメラ-レンズは2台分の大きさになり，縦横の切り替えも困難なので6×6判などの正方形画面のカメラに限られる欠点もあった。

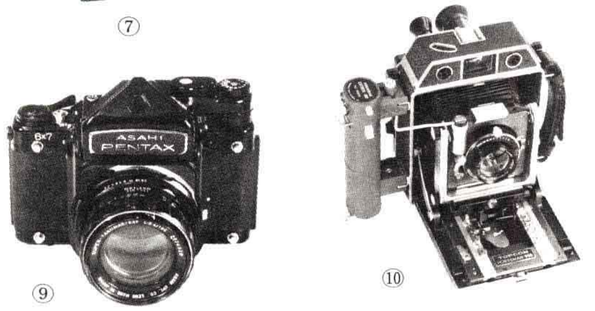
ピントグラスは単純なすりガラスでは周辺の画像は暗くなる。レンズを通った光は放射線状に進むためで，ピントグラスに凸レンズ(コンデンサーレンズ)を置けば，光線は視点の方向に集中され，すみずみまで画像は明るくできる。しかし凸レンズはピントグラスの厚さ・重さを増すので，レンズを同心円状に切り取った形のフレネルレンズ(図-2参照)が使われている。

一眼レフファインダーには撮影レンズの焦点距離や撮影距離の制約なしに正確な焦点調節ができ，また撮影レンズの画像を直接見ているので二眼レフのようなパララックス(視差)は生じない。被写界深度もかなりの程度までピントグラスで確認できるなどの長所は，最初から認められていた。しかし，現在のように広く使われるようになるためには，いくつかの改良を必要とした。その第1がクイックリターンミラーである。ミラーの運動をシャッターと連動させたもので，シャッターボタンを押すとまずミラーが上がり，つづいてシャッターが作動して露光を与えたあと，ミラーは最初の位置に復元する。これによってファインダー画像が見えないのは露光の瞬間だけとなった。第2の改良は自動絞りで，明るいファインダー画像を得るには絞りを開放にする必要がある一方で，撮影のときには所定のF値(ナンバー)まで絞り込まなければならない。初期の一眼レフではいちいち手で絞りを動かしていたが，クイックリターンミラーと同様に露光の瞬間にだけ絞り込む自動絞りに改良されている。

第3の，そして最大の発展はペンタプリズムの採用である。レフファインダー(二眼レフも含めて)の欠点は，上下については正像でも左右が逆像として見える点で，ファインダー内で右から左に移動する被写体を追うには，カメラは反対に左から右に振る。またピントグラスを上から見るのでローアングル撮影には適していても，アイレベル(眼高)撮影には非常な困難を感じる。これまでの一眼レフはピントグラスの上に，周囲からの光を防ぐピントフードを載せているだけだった。その代わりに屋根形をした5角形のペンタゴナル-ダッハ-プリズムを置いたものが，いわゆる一眼ペンタレフである(図-3参照)。これによって上記の一眼レフの欠点はすべてなくなり，透視ファインダーカメラに匹敵する速写性が得られた。

同時にピントグラスも改良された。すりガラス面で焦点調節をするのは正確ではあっても，ピントの山をとらえるのに熟練を要し，個人差や不安感がある。そこで一眼レフ用の連動距離計としてスプリット-イメージがマット面(すりガラス)の中央に組み込まれた。これは傾きが反対方向を向いた2個のプリズムで，焦点が合っていないときは被写体の線が連続しないで二つに折れて見える上下像合致式の距離計である。だが，視点の位置や撮影レンズの明るさによってはプリズムが暗く見える欠点がある。この改良型としてマイクロプリズムが，現在多くの一眼レフに使われている。微細な四角錐(しかくすい)のプリズムを多数並べたもの





新型カメラの代表的機種　①ヤシカアトロンE(ミノックス判)　②オリンパスペンEES-2(ハーフ判)　③ライカM4(35ミリ判フォーカルプレン-シャッター)　④ニコンF(35ミリ判一眼レフ)　⑤ミノルタSR-M(モータードライブ付き35ミリ判一眼レフ)　⑥ミノルタオートパック800(126判EEカメラ)　⑦マミヤC330(6×6判二眼レフ)　⑧ハッセルブラード500C(6×6判一眼レフ)　⑨アサヒペンタックス6×7(6×7判一眼レフ)　⑩トプコンホースマン980(6×9判プレス-ビューカメラ)

で，となりあった2個のプリズムはスプリット-イメージと同じ効果がある。その結果，焦点が合っていないときは，レンズのボケはマット面よりも誇張されて見える。

一眼レフは現在の時点での高級カメラを代表するところまで進歩したが，まだ完成したわけではなく解決すべき問題点は依然残されている。透視ファインダー式カメラと比べて一眼レフには，ミラーと自動絞りという余分に作動する個所があり，そのため撮影時の音が高いのが欠点になっている。これを解決するためにミラーを半透明にして固定したものもつくられているが，まだ十分な解決策となっていない。また，ピントグラスはマット-マイクロプリズム併用型が多いが，暗い条件になると透視ファインダーに比べてファインダー画像が見にくい。マット面をまったくもたない全面空中像式のピントグラスもあるが，使用レンズに制約があり，絞り込んだときの被写界深度が確認しにくいという新しい欠点が生まれてくる。これらを解決するのが一眼レフの今後の課題となるだろう。

③その他の機構による分類：カメラに使われているシャッターには，レンズ構成の中に絞り羽根といっしょに組み込まれたレンズシャッターと，ボディー部のフィルム位置の直前に組み込まれたフォーカルプレン(焦点面)シャッターとがある。構造上，フォーカルプレン-シャッターはレンズ交換が容易なので高級機向き，レンズシャッターはレンズ交換をしない普及カメラ用という基本的な性格がある。

最近になってレンズシャッターでも，レンズ部の後ろに組み込んだビハインド-シャッター式のカメラも生まれ，このタイプではレンズ交換は可能となった。反対にフォーカルプレン-シャッターを使っても，レンズ構成の後群はボディーに固定していて，前群だけを交換するカメラも登場しており，2種のシャッターの性格づけは明確ではなくなってきた。

露出計を組み込んでいないカメラは，現在は非常に少ない。いまのカメラにとって露出計は，レンズ　シャッターなどと並ぶ重要な構成要素となっている。標準仕様では露出計のないカメラも，一部のユニット(たとえば一眼レフのペンタプリズム)を交換すれば露出計が内蔵される。

露出計とカメラとの結合は単独露出計のボディー組み込みから始まったが，連動露出計の段階を経て，EEカメラにまで進んでいる。カメラの絞り・シャッターダイヤルを動かして，ファインダー内の露出計の針を定点に合わせるか(定点式)，2本の針を一致させれば(追針式)適正露光となるのが連動露出計である。これをさらに自動化して，ファインダー内で露光警告マークが現われていないことだけを確認すれば，あとはシャッターボタンを押すだけで適正露光となるのがEEカメラである。

レンズシャッターのほうが露出計との結合は進んでおり，ほとんどがEEカメラとなり，シャッターと露出計が一つのユニットになった電子シャッターつきカメラもある。これに対してフォーカルプレン-シャッターは連動露出計の段階にとどまり，EEカメラとなったものは数えるほどしかない。これは，シャッターの構造の影響というよりも，高級カメラの使用者の心理がEE化にブレーキをかけているものとみるべきだろう。

一眼レフが一般化してくると，この形式のカメラに適した露出計が生まれた。TTL*露出計である。through-the-lensという名のとおり，受光体はカメラの内部にあり，撮影レンズを通過した光だけを測定する。そのため，TTLを内光式，その他の露出計を外光式ということもある。TTLは撮影範囲外の光の影響を受けず，レンズの焦点距離や撮影距離に関係なく正確な測光ができる。一眼レフカメラの万能性を裏付ける〈パララックスのない〉露出計である。

TTLはさらに二つの観点から分類される。その一つは測光範囲の広さで，画面全体の平均的な明るさを測るものが平均測光，その一部だけの明るさを測るものが部分(スポ

ット)測光である。部分測光は精度が高いが，使用法は平均測光に比べて判断を必要とする。平均測光の改良型として中央部重点測光，レンズの焦点距離によって中央部重点から平均まで変化する可変測光，画面を2分して一方が特に明るい(または暗い)場合に自動補正する分割測光などがある。また1台のカメラで部分・平均に切り替えられるものもある。

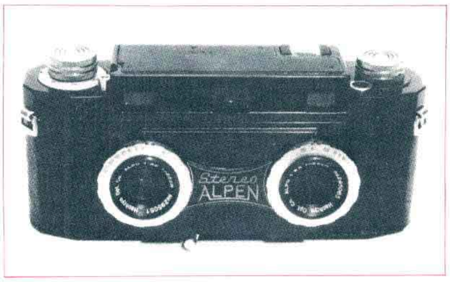
絞りとの連動方式によってもTTLは分類できる。撮影レンズの自動絞りを解除して，露出計の受光体に達する光を実際に絞りで調節するのが絞り込み測光(光学連動)である。これに対してレンズは自動絞りのままで，絞りリングの運動量は電気抵抗の変化として露出計に伝えるのが開放測光(電気連動)である。操作性は開放測光がすぐれているが，専用レンズを必要とし，コスト高になるのが欠点である。また，絞り込み測光は機構が単純なのでカメラを小型化しやすい利点もある。

露出計の受光体そのものによっても分類されることがある。セレン光電池式は低照度の被写体は測定できないが，電源を必要としない長所もある。いちばん普及しているのはCdS(硫化カドミウム)で高感度で堅牢(けんろう)な露出計をつくりやすい。CdSと同じ効果のある受光体としてシリコン光電素子を使うカメラも現われたが，感色性の幅が広く，前歴効果のない点がすぐれている。

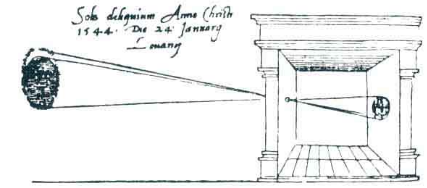
〔特殊カメラ〕以上の一般撮影用カメラのほかに専門分野に役だっている特殊カメラもある。そのうち最も知られているのはX線撮影装置(レントゲン-カメラ)で，このほか天体撮影用のシュミットカメラ・顕微鏡撮影装置・胃カメラとして知られているガストロカメラ，航空測量用カメラ，雲量測定用の全天カメラなどがある。スポーツの着順を判定するスリットカメラは，シャッターに相当するスリットを固定してフィルムを動かす特殊なタイプである。複写カメラや製版用カメラは用途が違うだけで，機構は一般用とあまり差はない。

反対に一般撮影用でも構造から特殊とみられるものもある。防水性をもたせた水中カメラ，撮影後10秒(カラーは60秒)で印画ができるポラロイドランドカメラ*がそれである。1台のボディーに2台分のレンズ-シャッターを組み込み，2コマを同時に撮影できるステレオカメラ，フィルムを円筒状に保持し，その中心でレンズが回転するパノラマカメラなどもある。

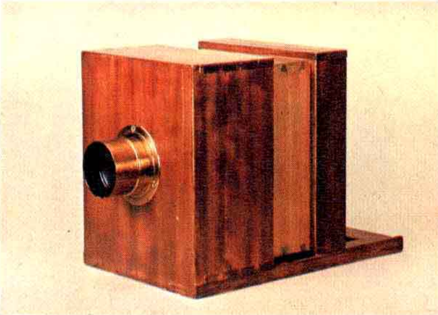
〔カメラの歴史〕カメラは英語の chamber と同じ語源で，へやという意味がある。その前身，カメラ-オブスキュラから出ており，小さい穴から暗いへやにはいる光が回折現象で反対側の壁などに外景を投映する。それを直接観賞したり，スクリーンに受けて精密画をつくるのに利用された装置である。

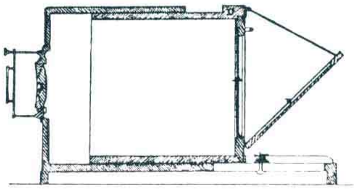


ステレオカメラ

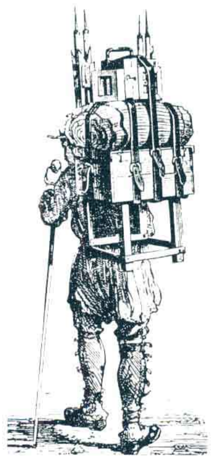


カメラ-オブスキュラの最古のスケッチ(1544)





(上)ダゲレオタイプ-カメラの模型
(下)ダゲールの使ったカメラの構造



道具一式を背負った湿板時代のカメラマン(1862)

発明者には諸説があって明確でないが，だいたい13世紀ごろのものと思われる。

その後，ピンホールの代わりにレンズを使い，絞りによって画像の鮮鋭度を増すなど進歩して，反射鏡を使って現在の一眼レフに近い構造のテーブル型カメラ-オブスキュラさえ生まれた。

しかし画像が固定できなければまだ写真ではない。最初に試みたのはイギリスのT.ウエッジウッドだが，これは実を結ばなかった。フランスのJ.N.ニエプス(1765〜1833)は石版印刷の応用で画像をつくりだすことに成功したが，露光は太陽光で10〜20時間と実用性は低かった。そのためフランスのダゲール*が1839年に発表したダゲレオタイプが，最初の写真術として一般に認められている。これはヨウ素処理をした銀板に画像をつくるものだが，イギリスのW.H.フォックス-タルボット(1800〜1877)が現在と同じネガ-ポジ法の感光紙によるタルボタイプを1841年に発表した。

ダゲールの使ったカメラは二重の箱で，内側の箱を引き出して焦点調節を行ない，レンズの明るさはF14，レンズキャップがシャッターの代わりという簡単なものだった。

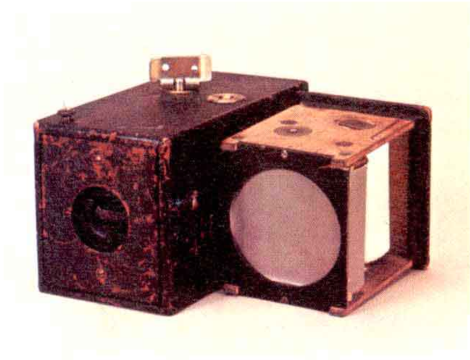
1851年，F.スコット-アーチャーがガラスにコロジオン液を塗った湿板法を開発したが，かわくと感光性を失うので当時の撮影用具は，薬品までも含み相当の大きさとなった。1871年，R.L.マドックスがゼラチン乾板を発明すると，カメラの操作はずっと簡便になった。それに伴ってダゲレオタイプ以来あまり変化のなかったカメラも，折りたたみ式ハンドカメラや，一眼レフカメラも生まれてきた。感光度の増加につれてシャッターの誕生も，この時期である。

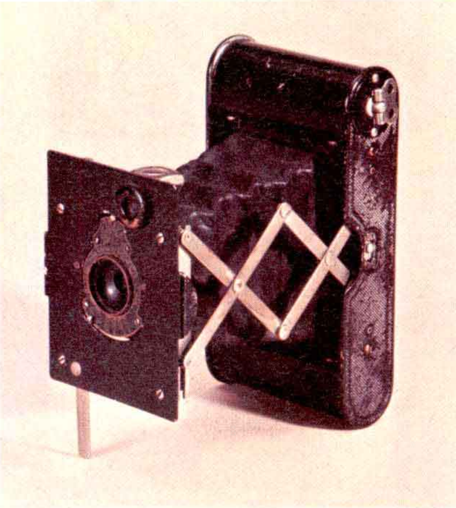
1枚どりではなく連続したロールフィルムは1884年，G.イーストマンによって発売され，1888年にはフィルム専用として〈コダック〉カメラを発売。ここにはじめてカメラの大衆化が行なわれた。この時点ではフィルムと乾板が両立していたが，1915年のベスト-ポケット-コダックの大流行で，アマチュア写真の大勢ははっきりとロールフィルムを指向した。

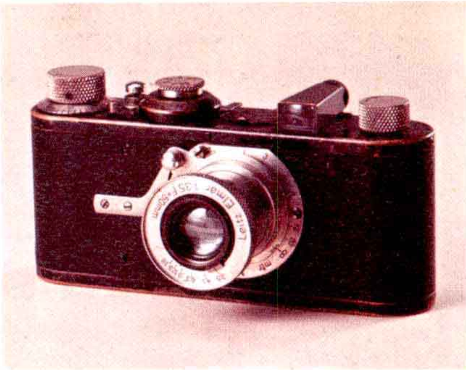
1925年，ドイツのライツ社が35ミリ判精密カメラとしてライカA型を発売。1932年，やはりドイツのツァイス社のコンタックスという好ライバルを得て発展し，現在では一眼レフに王座は譲ったが，いまだに高級カメラとしての地位を保っている。

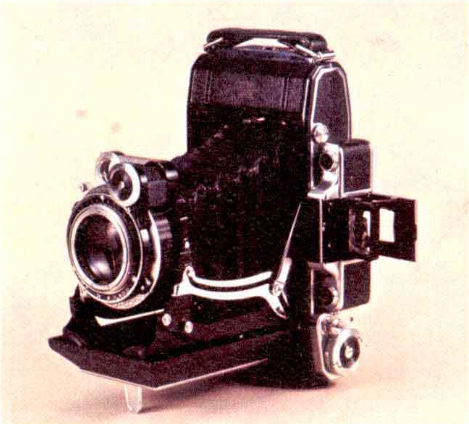
1928年にはツァイス社はイコンタ2Bを発売し，スプリングカメラの時代を開いた。翌1929年にはハイデッケ社がローライフレックスを発売，組み立て暗箱式のピントグラスの良さを加味した高級機，二眼レフの分野を確立した。どちらの機種も35ミリ判ほど小さくない実用的なネガサイズの小型カメラとして，全世界に歓迎され，同種のカメラは多数生産された。第2次大戦後の35ミリ判カメラ流行までは，プロ・アマチュア両方に使えるカメラとして人気は他を圧していた。

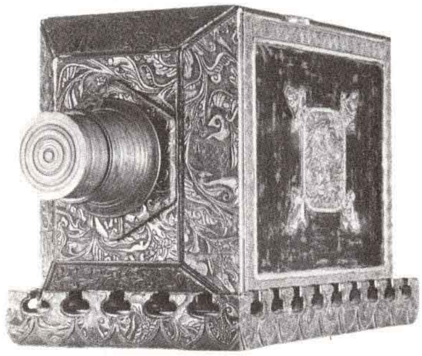
ここで日本国内に目を転じると，写真の渡来は意外に早く，1841(天保12)年6月1日に上野俊之丞(しゅんのじょう)が島津斉彬(なりあき

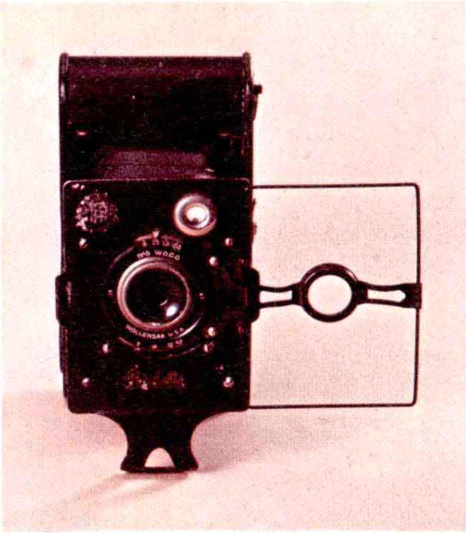

①コダックカメラ(1888)

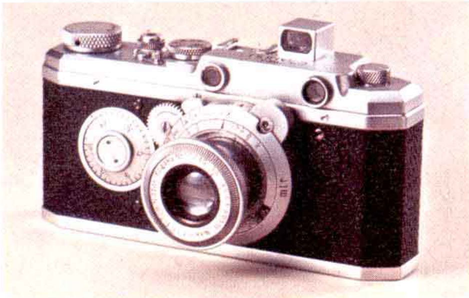

②ベストポケットコダック(1915)


③ライカA(1925)

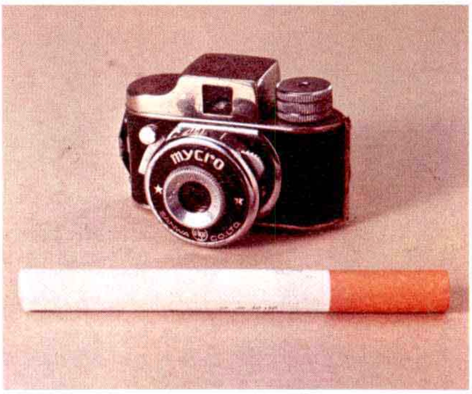

④イコンタ2B(1928)


⑤堆朱カメラ


⑥パーレット2号機(1925)


⑦ハンザキャノン(1935)


⑧マミヤシックスI(1939)



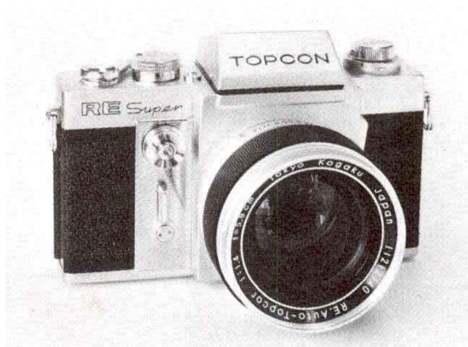
⑨16ミリ豆カメラ(1947年ごろ)



⑩リコーフレックスIII(1950)



⑪アサヒフレックスI(1952)



⑫トプコンREスーパー(1963)

ら)をダゲレオタイプで撮影したという記録がある(〈写真の日〉の起こり)。当時の堆朱(ついしゅ)カメラが残っているが，清(しん)国製か国産か明らかではない。携帯用カメラの国産化は1903年(明治36)，六桜社(現，小西六写真工業)のチェリーハンドカメラが第１号といわれるが，それ以前にも木製暗箱はかなりの量生産されていた。

1925年，ベス単(ベスト-ポケット-コダックのわが国での略称)のヒットに刺激されて小西六からパーレットが発売されたが，これが量産を前提とした国産カメラの最初だった。しかしカメラの供給はほとんど輸入品にたよっており，大正中期に設立された光学会社も軍用の測距儀などの生産に重点を置いていた。この状態は第２次世界大戦直前に輸入がとだえるまで続いた。その間に国産35ミリ判高級機ハンザ-キャノン(1935)，同じく６×６判二眼レフの国産化ミノルタフレックスI(1937)など，高級カメラへの努力もみられた。1939年発売のマミヤシックスI型は，はじめてドイツカメラの模倣ではない高級機として注目を集めた。

戦後1947年ごろに16ミリ判豆カメラがクリスマス用のオモチャとして外貨をかせいだが，本格的な写真ブームは1950年リコーフレックスIII型によって開始された。頭文字がＡからＺまでそろったとまでいわれた６×６判二眼レフと，それに劣らぬ数のスプリングカメラが国内だけでなくアメリカ市場にも進出した。

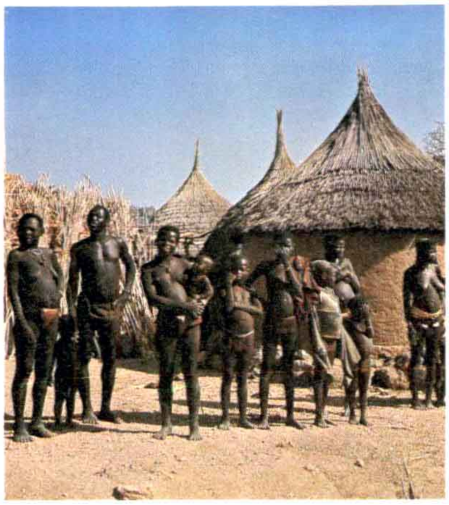
同じころ日本製カメラの優秀性が海外で認められ，キャノン・ニコンをはじめとする35ミリ判カメラが外国市場での声価を高めた。これに対して1954年にライカＭ３が発表され，35ミリ判カメラの精度を一段と飛躍させた。その結果ライカの模倣カメラは脱落したが，レンズシャッター式の35ミリ判中級機は激しい新型競争を始め，６×６判に代わって人気機種となった。

1958年オリンパス-オートアイ，1959年キャノネットと，レンズシャッター式EEカメラの誕生が続き，だれにも使えるカメラが生まれた。これまではプロ用の高級機がアマチュアのあこがれだったが，真のアマチュア向きの使いやすさ重点のカメラが，ここにできたわけである。1959年発売のハーフ判カメラ，オリンパスペンはカメラファンを婦人層にまで拡大したカメラとして歴史上特筆すべき存在である。

一方，高級機も一眼レフに移行した。この機種は1930年代から存在したが，1948年東ドイツのツァイス社がペンタプリズムつきのコンタックスＳを発売以来，実用性を増した。1952年にアサヒフレックスＩ型で国産化し，1955年ミランダＴでペンタプリズムが採用された。その後は連動距離計つきのライカタイプを駆逐するまでに発展し，1963年トプコンＲＥスーパーをトップとするＴＴＬ露出計で，撮影をより確実にした。



カメルーンの国旗　1975年制定。緑は南部地域の森林と将来への希望，赤は国の主権と独立，黄色は富と太陽と北部地方の発展を表わしている



カメルーン　北部地方の原住民キルディ族の風俗と家屋。ナイジェリア南部と同系統で，家は円形の泥壁と円錐形の草屋根からなる

1963年，コダック社はインスタマチックカメラを発売したが，これは初心者向けカメラの弱点だったフィルム装塡を自動化したもの。これに対抗して翌1964年，西ドイツのアグファ社を中心とする日独メーカーがラピッドシステムを開発したが，世界市場におけるコダックの比重の前についに敗退した。

現在の日本カメラの世界市場における地位は，一部の高級機を除いては，カメラ生産の先進国である欧米を完全にリードしている。残された分野である大判カメラも，1960年代末から新製品の発売が続き，しだいに勢力を広めようとしている。

〔新川幸信〕

カメラータ　［Camerata］　16世紀末，フィレンツェのバルディ家に集まった文化人のグループ。彼らは古代ギリシア悲劇が音楽と劇との緊密な結合の上に成立していたことに着目し，その再興を企図した。そして，ことばを主，音楽を従とする音楽劇をつくりだした。これらは真の意味でのギリシア悲劇の復活とはいいがたいが，この運動が近代のオペラの誕生の発端となった。代表的人物には，理論家Ｖ．ガリレイ，詩人リヌッチーニ，音楽家ペリ・カッチーニらがいる。

〔吉田泰輔〕

カメラリウス　［Rudolph Jacob Camerarius］　(1665〜1721)　ドイツの植物学者。チュービンゲンに生まれ，ヨーロッパ各国を回って研究を続けたのち，1688年以後チュービンゲン大学の教授となる。1694年に花粉が受精に不可欠であり，したがって植物に性が存在することを，はじめて実験的に証明した。

カメラリズム　［cameralism］　官房学派ともいう。17世紀から18世紀初頭までの間，ドイツやオーストリアで君侯の内府(Kammer)に携わる人たちによって唱えられた，ごく初期の重商主*義的な経済思想をいう。君侯の富国強兵のために経済・行政・財政に関する知識を理論化し，国家財政強化の政策を打ち立てたもので，上からの問屋制家内工業の育成や輸出貿易の奨励，国庫の充実を論じている。この学派の学者は実際の政治にも関与し，後期には理論を体系化し，当時の大学に官房学の講座を開設した。

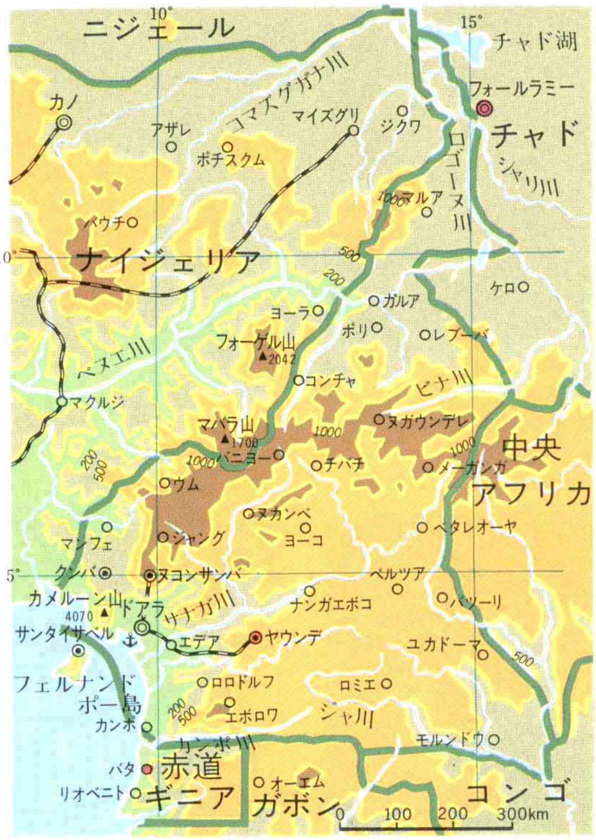
〔加藤　寛〕

ガメラン　⇨ガムラン音楽

カメルリング-オンネス　［Heike Kamerlingh Onnes］　(1853〜1926)　オランダの物理学者。ライデン大学教授。同大学に付属低温研究所を創設(1894)，気体および液体の状態方程式の研究から始めて，液体空気(1904)・液体水素(1906)をつくり，さらにヘリウムの液化(1908)に成功して－269℃の極低温を得た。以後極低温物理学の研究に努め，超伝導現象を発見した。1913年ノーベル賞受賞。

カメルーン(連合共和国)　［United Republic of Cameroun］　アフリカ大陸中部，ギニア湾奥にある共和国。東は中央アフリカ，南はコンゴ・ガボン・赤道ギニア，北はチャド・ナイジェリアに接する。面積47万5,000km²。人口825万(1979年推)。首都ヤウンデ。

〔自然・住民〕国土のほぼ中央をサナガ川が西流し，バンブト・シェブシ山地などの高地と海岸平野からなり，平野は国土面積の10%前後にすぎない。北部に高く，海岸平野付近で階段状に低くなっているが，西部のナイジェリア国境付近は険しい山地となり，活火山カメルーン山(4,070 m)の裾野(すその)はギニア湾岸にまで達している。気候は，熱帯多雨気候で，中でもカメルーン山西部には年降水量10,000mmを越える所もあり，インドのアッサム地方と並ぶ多雨地域となっている。北部の山地にはサバナ気候の所もある。住民は，コンゴ-ニグロ系の黒人で，バンツー語を話す。公用語はフランス語と英語。宗教は，キリスト教徒40%，回教徒20%，他は種々の原始宗教を信じている。



カメルーン
300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府 油田



カメレオン　長い舌で捕食する







仮面劇
(上)16世紀末から17世紀初頭にかけてヨーロッパで隆盛をきわめた即興仮面喜劇コメディア-デラルテの演技図。当時のはつらつとした姿がうかがえる(ミラノ，スカラ座演劇博物館蔵)
(下左)ギリシア悲劇《アガメムノン》に登場する王女カッサンドラの仮面(ラテックス製，東大ギリシア悲劇研究会により復元されたもの)
(下右)ジャワの仮面黙劇舞に使われる仮面(木製)

〔産業・経済〕主産業は農畜産と林業で，コーヒー・カカオ・バナナ・タバコ・ヤシ・ラッカセイなどをイギリス人やフランス人経営の農園によって栽培している。地下資源はボーキサイト・鉄などを産出し，近年は水力発電を利用した大規模な外国資本のアルミニウム精練工場が完成した。農産物や木材を輸出し，綿製品・塩・機械などを輸入している。

〔歴史・政治〕1884～1919年までの間は，ドイツの保護領であった。第1次世界大戦後，国土の90%はフランス，南部の10%はイギリスの委任統治領と，2国に分割されることになり，1960年1月に，仏領のカメルーンが独立し，次いで1961年10月には英領カメルーンの南部(北部はナイジェリアに併合)も合わせて連邦共和国になった。元首は大統領で連邦政府の首班を兼ね，任期は5年。立法機関は連邦国民議会。多くの部族に分かれて住民間で対立し，独立後も部族抗争による暴動があいつぎ，政情は安定しにくい。　〔小栗　宏〕

カメレオン　[cameleon]　爬虫(はちゅう)類・カメレオン科の総称。体色を変えることで知られるトカゲ類の一科で，世界に6属80種が知られる。種の半数はアフリカ大陸に，他はマダガスカル島に分布し，4種のみアジア西南部，インド・セイロンに分布する。体長40cm以下のものが多く，樹上に生活している。前後肢(し)とも指が2本と3本ずつ固着して二つに分かれ，内側に向いている。尾を枝に巻きつけ，体を持ち上げてゆっくり枝を渡る。両眼はたえず別々に回転させて，えさとなるこん虫類を求める。えさを発見すると，両眼を前方に寄せ，舌をすばやく発射して捕える。カメレオンの舌は2組みの筋肉からなる。第1の筋肉は口内のとがった骨のまわりにひだ状にたたまれ，いくつものリング状になった第2の筋肉がこれを引き締めている。第1の筋肉をゆるめ，第2の筋肉を絞るようにして舌を発射させ，先の部分にえさを付着させる。周囲に似た色に体色をすばやく変えるが，これは温度や光の変化によるもので，興奮したときにも緑色に変わる。　〔松井孝爾〕

かめん　【仮面】　⇨面

かめんげき　【仮面劇】　演技者が役柄を表わす仮面をつけて演ずる劇または広く舞踊までも総称する。洋の東西を問わずその起源は古く，原始時代に宗教的儀式や祝祭などの行事と結びついて発展し，しだいに演劇的要素を強めていったものと考えられる。西洋において，はじめて一定の内容と形式をそなえた仮面劇が出現したのはギリシア演劇*の時代で，紀元前6世紀ごろ，俳優・舞台の創案者と伝えられるテスピス*が仮面を使用したのがその始めである。しかし，西洋演劇の源流として未曽有(みぞう)の開花期を迎えたギリシア劇とその影響を受けた

ローマ劇以後は，表面的には仮面劇はしだいに影を潜めていった。もっとも民衆芸能においてはつねに仮面は重要な役割を果たしてきたが，その後，中世の受難劇，さらに16世紀末イタリアに起こった即興喜劇コメディア-デラルテ*に引き継がれるに至って，仮面劇は最も進んだ形となった。その後純粋な仮面劇はあまりみられないが，16世紀から17世紀にかけてイギリスではマスクとよばれる一種の舞踊仮面劇が貴族社会で流行したことがあり，20世紀の今日でもブレヒト*など一部の作家の興味をひくところとなっている。

東洋ではインドネシアの仮面黙劇舞のほか，中国・チベット・モンゴル・朝鮮など各地で古くから行なわれてきたが，中でも日本の能・狂言は仮面劇として世界最高の水準を誇っている。➔面　〔毛利三弥〕

かめんのこくはく【仮面の告白】三島由紀夫*(ゆきお)の長編小説。仮構の〈私〉の性的倒錯の歴史を語りつつ，正常な世界から拒まれている不幸と孤独という精神の危機的位相を描く。戦中世代が戦後世界に直面したときの喪失感の自画像であるが，それを逆説とアフォリズム*の強固な美的世界の構築を介して語ったところに，作者の方法的独創がある。

かも【鴨】鳥類・ガンカモ科。ガンカモ科・カモ亜科の総称。7属146種からなり，多くの亜種があって南極を除く世界じゅうに広く分布しており，わが国には34種が記録されている。生活上の特徴，特に生息場所と採食方法から，淡水カモ類と海上カモ類に分けられる。前者はおもに湖沼・水田・湿地などで水藻(すいそう)や水辺植物・穀類などを主食とし，普通は潜水しないで採食する。このため水面採食性カモ類ともいわれ，マガモ・コガモ・カルガモ・ヒドリガモなどが含まれる。後者は主として沿岸海域・磯(いそ)・内湾などに生息し，潜水して魚貝類その他の底生生物を主食とするもので，シノリガモ・クロガモ・スズガモなどが含まれる。➔ガン　〔安部直哉〕


マガモ


カルガモ


ヒドリガモ


オナガガモ


ヨシガモ


トモエガモ

カ　モ

かも【加茂(市)】新潟県中部の市。もと青海庄(おうみのしょう)とよばれた県下最古の集落発生地域の一つで，江戸時代には六斎市場町であった。現在の地名は京都賀茂神社の社領であったことにちなむ。1954年(昭和29)市制施行。人口137,000。越後(えちご)平野の中東部，東山丘陵を流れる信濃(しなの)川の支流加茂川の谷口に位置する。産業三大別人口比は15：49：36で，伝統的な家内工業で桐(きり)だんす・建具をつくり，木工の町として知られる。加茂じまとして知られた綿織物の伝統から合繊などの繊維工業も興っている。北部では陣ケ峰瓦(じんがみねがわら)や土管を中心とする窯業が盛んで，南部には下条・保内などの植え木村がある。また，七谷地区に産する加茂紙を加工した渋紙・かさ・びょうぶなどの特産がある。信越本線・国道8号線バイパスが通じ，蒲原(かんばら)鉄道が五泉市と連絡する。

かもあおい【賀茂葵】双子葉植物・ウマノスズクサ科のフタバアオイの別称で，京都の賀茂祭に用いられるところからこの名がある。➔フタバアオイ

かもい【鴨居】和風建築の開口部で，床の部分にある敷居と相対してその上部に渡した横木。このかもいと敷居に刻んだみぞに障子・ふすまなどの建具をはめこむ。使用される場所によって一筋かもい(雨戸用)・付けかもい(壁用)・中かもい(欄間用)・無目(みぞのないもの)などがある。

がもううじさと【蒲生氏郷】(1556～1595) 安土桃山時代の武将。近江(おうみ)(滋賀県)日野の領主蒲生賢秀(かたひで)の子。織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，小牧・長久手の戦い*に功を立て，伊勢(いせ)(三重県)松が島(のち松阪(まつさか))十二万石に封ぜられた。1590年(天正18)秀吉の小田原征伐*に功があり，会津若松四十二万石を領し，伊達政宗(だてまさむね)に備えた。伊勢の領民に敬慕され，転封とともに会津若松に移った領民も多かったといわれる。また高山右近*(うこん)の影響でキリスト教に入信し，レオの受洗名をもつ。〔善積美恵子〕

がもうくんぺい【蒲生君平】(1768～1813) 江戸後期の儒学者・勤皇家。下野(しもつけ)(栃木県)宇都宮の生まれ。勤皇の志に厚く，歴代天皇の御陵が世人に忘れられて荒廃している実情を憂い，全国を巡行して考証研究をし，《山陵志*》を著わした。またロシアの南下に伴ってわが国の北辺が侵されている事件を聞き，《不恤緯(ふじゅつい)》を書いて沿岸防衛の必要を説いた。高山彦九郎*(ひこくろう)・林子平*と並んでいわゆる寛政の三奇人と称せられている。〔永藤　武〕

がもうだざき【蒲生田崎】蒲生田岬(かもだみさき)または竈崎(かまどざき)ともよばれている。徳島県東部，阿南(あなん)市の南部にあり，紀伊(きい)水道に向かって約7kmの半島をなした山がちの岬。半島に沿う300m前後の分水嶺(ぶんすいれい)は南海岸にかたより，急崖(きゅうがい)をなしているが，北海岸は比較的ゆるやかな傾斜をなしている。しかし，両海岸とも岩石海岸で平地には乏しく，集落は椿(つばき)湾に面した北海岸に蒲生田・尻杭(しりこう)をはじめ2～3みられるのみである。岬の沖合い約6kmの所には伊島・棚子(たなご)島・前島をはじめ，多くの岩礁があり，岬やこれらの島々は景勝の地として室戸阿南海岸国定公園の一部になっている。夏にはオオ

ウミガメが産卵のため上陸するので有名である。岬には燈台があり，紀伊水道を隔てた30km東方の和歌山県日ノ御埼(ひのみさき)の燈台と相対している。〔味沢成吉〕

かもがた【鴨方(町)】岡山県浅口郡の町。人口19,000。県の南西部にあり，ため池の多い丘陵地帯である。丘陵斜面は明治末期から果樹栽培，特にモモの栽培が盛んになり，県の中心的産地となった。近年は養鶏や酪農とモモの栽培を組み合わせる多角的経営が進められている。町内の竹林寺山には岡山天体物理観測所*がある。

かもがや【鴨茅】単子葉植物・イネ科の多年草。ヨーロッパ原産で，日本・北アメリカに帰化。オーチャードグラスともいう。はじめはアメリカから牧草として移入されたが，現在は雑草化して路傍や小川の縁にはえる。よく株分かれして大株となり，茎は60～120cmになる。7～8月に散開した花序をつけ，晩秋まで生育する。寒冷地でもよく育ち，葉はかたいが収量が多い。

かもがわ【鴨川】京都盆地北部の山地を水源とし，上流部で鞍馬(くらま)川，賀茂大橋付近で高野川を合わせ，ここまでを賀茂川といい，これより下流を鴨川と改めて京都盆地の東縁を南流し，伏見区の羽束師(はづかし)橋付近で桂(かつら)川に合流する。平安京の当時は，上賀茂から現在の堀(ほり)川河道を通って市街中央を真南に流れていたのを，のちにいまの流路としたもので，平時は清流であるが，雨があるとすぐ増水し，氾濫(はんらん)することが多く，かつてすごろくの賽(さい)，山法師とともに三不如意の一つとして白河(しらかわ)法皇を嘆かせたといわれている。しかし，清流とよい水質は友禅*ののり落としに利用されるようになり，その染色技術とともに鴨川の布さらしの風景は京染めの名のもとに全国に知られた。かつて川原は市民のレクリエーションの場の一つであったが，いまはその姿も消えた。〔長津一郎〕

かもがわ【鴨川(市)】千葉県房総半島南部の市で，太平洋に面し，背後の房総丘陵に元清澄山(344m)がある。1954年(昭和29)に，旧鴨川町ほか4村が合併，さらに1971年(昭和46)，江見町長狭町と合体，市制施行。内房館山(たてやま)に対して外房の商業や教育の中心で，人口33,000。水田農業が行なわれ，また鴨川漁港はアジ・サバ・ブリ・イワシの水揚げが多い。産業三大別人口比は36：15：49。夏は海水浴客でにぎわう。

かもがわおどり【鴨川踊】京都の花柳界の一つである先斗(ぽんと)町の芸者による舞踊会。1872年(明治5)都踊*に対抗して始められ，振り付けも都踊の井上流に対してこれも京都の伝統的流派である篠塚(しのつか)流を選んだが，昭和にはいってから若柳(わかやぎ)流・尾上(おのえ)流に変え，踊りも洗練されて近代ふうになった。4月15日から約20日間，歌舞練場で行なわれ，京都観光行事の一つとなっている。


カモガヤ


鴨　川　三条大橋から上流にかかる御池大橋方面を望む。河岸には旅館や料亭などが立ち並ぶ。川原は夏になると夕涼みの人でにぎわう

かもこ【加茂湖】新潟県佐渡島(さどがしま)，国仲平野の東端にある潟湖(せきこ)で，両津市のある砂州によって両津湾と隔てられている。面積4.8km²，水深9m。水産が豊かで，海水魚も混じり，養殖のカキは品質がよく，高級品とされている。湖を前にして仰ぐ佐渡の最高峰金北(きんぽく)山の雄姿はすばらしい。佐渡弥彦(やひこ)国立公園に所属する。

かもし【賀茂氏】古代の大族。神別*。全国に広く分布するため，その発祥の地を明らかにしがたいが，一説に大和(やまと)(奈良県)葛城(かつらぎ)郡の鴨(かも)の地という。大三輪・賀茂・貴布禰(きふね)など諸社の神官となる家がらが多く，中でも山城(京都府)の賀茂神社*に仕える鴨県主(あがたぬし)の家は有名で，《方丈記》の作者鴨長明*を出している。上社社家の岡本・松下・藤木ら，下社社家の梨木(なしき)・鴨脚(いちょう)らの諸家は現在もなお存続する。〔黛　弘道〕

かもじ【髢】結髪用の入れ毛。江戸時代中期以後女性の髪形が複雑になるにしたがい，技巧的な結髪法に用いる小道具の一つとして発達した。自毛が短い場合，それを補うためかもじを足してまげを結う。かもじの毛は髪をすいたときの抜け毛または切り髪を加工したもの。種類は根かもじ・鬢(びん)みの・ばら毛などがある。

かもしか【羚鹿】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。体長1～1.2m，肩高70cmほど。長さ8～10cmの角は雌雄ともにあり，目の下とひづめの間に臭気のある液を分泌する腺(せん)がある。体色は地方変異が大きく，白色から赤かっ色・茶かっ色・黒かっ色まである。本州・四国・九州の亜高


加茂湖　左側加茂湖とその湖口を扼する佐渡の玄関両津港。防波堤内の港に新潟からの船が着いている。遠景に連なるのは大佐渡の山々


カモシカ



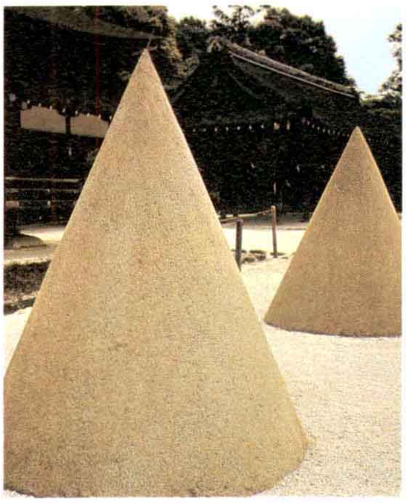
カモジグサ

山から高山にかけて，１～２頭で生活し，草や木の葉を食う。毛皮は良質で，ために乱獲され減少したので，1955年(昭和30)に特別天然記念物に指定された。国際保護動物の一つでもある。近似のものに台湾のタイワンカモシカなどがある。〔今泉吉典〕

かもじぐさ【髢草】 単子葉植物・イネ科。草原や路傍で普通に見られる多年草。日本・朝鮮・中国に分布。茎は多数根生し，やや白緑色。葉は線形。5～7月に18～30cmの穂を出し，一方に傾いてたれる。小穂は汚紫色・粉白色または淡緑色で，長い芒(のぎ)がある。葉をもむと一種の臭気がある。和名は子どもが葉をとって髪の毛に見立てて人形をつくって遊ぶことに由来する。

かもじま【鴨島(町)】 徳島県麻植(おえ)郡にあり，吉野(よしの)川南部低地帯の中心都市。人口26,000。かつてはアイ(藍)をつくり，次いで養蚕・製糸の町として栄えたが，現在は水田耕作と果樹栽培が行なわれている。徳島本線・国道192号線に沿い，近時中央橋が完成，吉野川北岸の阿波(あわ)郡・板野郡の各町村との交通も盛んである。

かもじんじゃ【賀茂神社】 京都市北区上賀茂にある賀茂別雷(かものわけいかずち)神社と，同市左京区下鴨(しもがも)にある賀茂御祖(かものみおや)神社の総称。賀茂別雷神社は俗に上賀茂神社といわれ，祭神は賀茂別雷命(みこと)，賀茂御祖神社は下鴨神社と俗称され，カモノワケイカズチノミコトの母である玉依姫命(たまよりひめのみこと)と，その外祖父賀茂建角身命(かものたけつぬみのみこと)を祭る。《山城国風土記(逸文)》などによると，カモノタケツヌミは神武東征軍の先導を勤めた八咫烏(やたのからす)とされる。その子タマヨリヒメが瀬見の小川で衣を洗っているとき流れ寄った丹(に)塗りの矢を持ち帰ったところ，美丈夫と変じて姫と契り，1男を得た。この子が3歳のとき，カモノタケツヌミが宴を張り杯を持たせて，父と思う者の前にこの杯を置けというと，わが父は天にありと叫び，屋根を破って昇天した。そこで外祖父の名にちなんでカモノワケイカズチと名づけたという。創祀(そうし)は7世紀の後半といわれ，以来社殿は20年ごとの式年改築であったが，賀茂御祖神社の現本殿は1863年(文久3)の建造，様式は典型的な流れ造りで，東本殿・西本殿は国宝。5月15日の例祭は，賀茂祭(葵(あおい)祭)として著名で，祇園(ぎおん)祭・時代祭とともに京都三大祭りの一つとされる。〔佐野文哉〕





賀茂神社　(左)賀茂別雷神社の祭神を象徴する立砂　(右)賀茂御祖神社　本殿

かもちまさずみ【鹿持雅澄】 (1791～1858) 江戸後期の国学者。通称源太。古義軒・山斎と号す。土佐(高知県)藩の下級武士の家に生まれた。賀茂真淵(かものまぶち)・本居宣長(もとおりのりなが)の学統を受ける宮地仲枝に国学を学んだほかは，ほとんど独学。生涯(しょうがい)郷里を離れず微官に甘んじたが，才学は認められて藩のために歌道・書道を教え，私塾(しじゅく)も開いた。古道と言霊(ことだま)を究明するため約30年にわたり執筆した《万葉集古義》は，上代国語の研究を含む近世までの万葉学の集大成。万葉調の長短歌を好み，歌文集《山斎集》などがある。〔小田　博〕

かもつ【貨物】 鉄道・自動車・船舶・航空機などで輸送される物。その輸送量はトン数，トンキロ(輸送された重量トンと輸送距離kmとの積)で測定・表示される。1980年(昭和55)度の国内貨物総輸送量は59億9,100万t，4,397億トンキロである。輸送機関別にみると鉄道のシェアは産業構造の変化，工業立地の臨海部指向，道路の整備，鉄道周辺の市街化の進展等により逐年減少の一途をたどり，トンキロで約9％に低下している。一方，自動車・船舶が発展，総輸送量とほぼ同様の推移を示しつつ増大している。航空においても著しく増加した。品目別では化学工業品，土木・建設関連物資，廃棄物のウエイトが高まりつつある。また1973年秋の第一次石油危機以来はじまった石油価格引き上げにより，石油の消費節減，素材産業における石油から石炭へのエネルギー転換から石油需要が減少し，石油・石油製品が落ち込み，石炭が増加傾向にあるのが特徴的である。今後の貨物輸送については高度成長期の1960年代に比べて輸送量の伸びは著しく鈍化する傾向が定着化するものと考えられる。各輸送機関はそれぞれの特性を十分発揮できる輸送分野を担当していくことになろう。鉄道では，輸送量に合わせた輸送力の見直し等合理化施策を進めつつ大量・定型輸送をめざすための拠点間直行輸送体制の確立が基本となり，自動車・船舶にあっては自動車輸送の効率化，船舶の近代化，運航の効率化が要請される。〔宍塚正幸〕

輸送機関別貨物輸送量(1980年度)

輸送機関	輸送トン数(100万t)	輸送トンキロ(億トンキロ)
鉄道	167	377
国鉄	122	370
私鉄	45	7
自動車	5 318	1 789
営業用	1 661	1 035
自家用	3 656	754
船舶	506	2 228
航空	0.3	3
総計	5 991	4 397

かもつじどうしゃ【貨物自動車】 ⇨トラック

かもつせん【貨物船】 貨物の運送を専門に行なう船の総称。貨物はその種類・形状・重さなど千差万別であるので，それぞれの貨物に適した貨物船があるが，運搬貨物による分類として，一般貨物船と特殊貨物船とに大別される。前者は一般雑貨を運搬するもので，後者はオイルタンカー・鉱石運搬船・冷蔵船・重量物運搬船など種類が多い。一般貨物船の場合には，運航形態の上から，一定の航路で一定の時間に運航される定期船と，貨物を求めて時と所を定めず世界じゅうを転々と運航される不定期船とに分けられる。〔飯島幸人〕

かもつひきかえしょう【貨物引換証】 陸上物品運送契約で，運送人(主として鉄道など)が運送品を受け取ったことを証明し，目的地でこれを引渡請求権者に引き渡すことを約束した有価証券。海上運送の場合の船荷証券に相当する。運送人が荷送人の請求により発行するもので，その記載事項



鴨　長明

は法律で決められているが(商法571条)，重要でない事項は省いてもよい。この証券も法律上当然に裏書*によって譲渡することができるが，船荷証券ほどは利用されていない。運送期間が海上に比べて短いためである。〔松本治雄〕

かもつほけん　【貨物保険】　輸送途上の事故によって貨物に生ずる損害の塡補(てんぽ)を目的とする保険。大別すると，主として海上輸送中の貨物を対象とする貨物海上保険と，主として陸上輸送中の貨物を対象とする運送保険*とに分けられる。普通には前者を貨物保険とよぶが，これは船舶保険とともに海上保険*といわれ，船舶の積み荷に関する積み荷保険と同じものである。貨物保険すなわち貨物海上保険は，国際的な輸出入貨物を対象とする外航貨物保険と，国内の沿岸輸送貨物を対象とする内航貨物保険とに分類できる。〔庭田範秋〕

かものけいば　【賀茂競馬】　〈かものくらべうま〉ともいう。京都賀茂別雷(かものわけいかずち)神社(賀茂神社*)で毎年5月5日に行なわれる歴史的行事。堀河(ほりかわ)天皇の1093年(寛治7)宮中武徳殿の儀式を当社に移し，天下泰平・五穀成就を祈願してはじめて行なった。一の鳥居と二の鳥居の間にさくをつくって馬場とし，馬出はサクラ，決勝点はモミジを目標とする。5月1日の試演で馬の遅速をためして順番を定め，5日の本日には左右20名の騎手が左方は赤色の袍(ほう)，右方は黒色の袍を着けて勝負を競う。《徒然草*(つれづれぐさ)》の一節にそのようすが描かれている。➔競馬　〔菊池礼子〕

かものちょうめい　【鴨長明】　(1155？～1216)　平安末期から鎌倉初期にかけての歌人。実名の長明(ながあきら)の音読が通称。京都賀茂御祖(かものみおや)神社の禰宜(ねぎ)長継の子。和歌と琵琶(びわ)を学び，才能を認められた。1201年(建仁1)後鳥羽院(ごとばいん)によって《新古今和歌集*》撰進(せんしん)のための和歌所が設けられると寄人(よりうど)に任命され，歌壇に活躍した。しかし，一族との不和から50歳ごろ出家し，まもなく日野に方丈の庵(いおり)を結んで没年までを過ごした。《方丈記*》はそこで執筆されたが，ほかに歌集《鴨長明集》，歌論書《無名抄*》，説話集《発心集*》などがある。〔桑原博史〕

かものはし　【鴨嘴】　哺乳(ほにゅう)類・単孔目・カモノハシ科。体長30～40cm，尾長10～15cm。四肢(しし)は短く水かきがあり，カモに似た扁平(へんぺい)なくちばしをもち，尾はビーバーに似て長く扁平。体は灰かっ色。オーストラリア東部とタスマニア島に分布。水泳や穴掘りがうまく，泳ぎながらエビ・カイ・魚などを食い，水べに巣穴を掘る。巣穴にふつう2個の卵を産み，孵化(ふか)した子は母親の乳を飲んで育つが，乳腺(にゅうせん)はあっても乳頭がないので，胸部ににじみ出た乳をなめる。ハリモグラ*とともに現生の哺乳類のうち最も原始的なものである。〔今泉吉典〕



カモノハシ



カモノハシ



賀茂真淵



ガモフ



賀茂祭

かものはし　【鴨嘴】　単子葉植物・イネ科。海岸の砂浜や海岸近くの草地にはえる多年草。本州・四国・九州，黄海の沿岸，南朝鮮に分布。茎は高さ40～70cm，下部で分枝する。葉は広線形で15～30cm。7～11月に花穂をつけ，花序の軸には10数個の節があり，各節に2個の小穂をつけ，熟せば各節がばらばらに折れて脱落する。

かものまぶち　【賀茂真淵】　(1697～1769)　江戸中期の国学者・歌人。本姓は岡部(おかべ)，県居(あがたい)と号した。国学四大人のひとりに数えられる。遠江(とおとうみ)(静岡県)浜松岡部郷の賀茂新宮の神官の家に生まれた。はじめ古学派の儒学者渡辺蒙庵(もうあん)に学んだが，37歳のとき荷田春満*(かだのあずままろ)に師事。特に《万葉集》《祝詞(のりと)》の研究に努力したが，その研究方法は文献的考証によって古語を究明し，それをもとに国意，すなわちわが国の根本道徳である〈まごころ〉を解明することを目的とした。彼の作歌などもそのための手段にすぎない。彼の思想的立場を最も端的に示すものは《国意考*》で，儒教の理をはじめ人為的なものを排して自然のままの姿に立ち返る必要性を力説している。そこには天皇尊崇の立場が表明されており，18世紀の思想界に大きな影響を与えた。ほかに《万葉考》《冠辞考》《歌意考》など。〔熊谷保孝〕

かものみおやじんじゃ　【賀茂御祖神社】
⇨賀茂神社

かものわけいかずちじんじゃ　【賀茂別雷神社】　⇨賀茂神社

ガモフ　［George Anthony Gamow］(1904～1968)　ロシア生まれのアメリカの物理学者。コペンハーゲン大学助教授・レニングラード科学アカデミー研究部長，パリ大学・ロンドン大学講師を経て，ジョージ－ワシントン大学教授。原子核理論で学界に貢献した。とりわけα崩壊の理論を与えてガイガー-ナットールの実験法則を導き，また核反応論を基礎にした恒星進化論を提唱して天体物理学に新生面を開いている。科学啓蒙家(けいもうか)としても有名で，独特の機知に満ちた表現で現代物理学の諸問題を平易に解説し，日本でも多く翻訳出版されている。〔藤村　淳〕

かもまつり　【賀茂祭】　京都市賀茂神社*の祭り。祇園(ぎおん)祭*・時代祭*とともに京

都三大祭りの一。毎年5月15日に行なわれ，祭礼行列の供奉者(ぐぶしゃ)の衣冠や車，また社前をフタバアオイで飾るところから葵祭ともいい，また石清水八幡宮*(いわしみずはちまんぐう)の祭りを南祭りというのに対して北祭りあるいは単に祭りともいう。社伝によれば，欽明(きんめい)天皇のとき数度にわたって暴風雨が襲来し，国民が非常に苦しんだ。そこで伊吉若日子(いきわかひこ)に命じて占わせたところ，賀茂の神の怒りによるとされ，毎年4月の吉日に祭りが行なわれることになったという。〔佐野文哉〕

かもめ【鴎】鳥類・カモメ科。この科はカモメ類とアジサシ*類からなるが，そのうちカモメ類の総称とそのうちの1種のよび名。カモメ類はアジサシ類より一般に大形，くちばしはアジサシ類のように先が細くとがった形ではなく，上嘴(じょうし)はかぎ状，尾の先は角形，脚指の間にみずかきがある。幼鳥は一般にかっ色，成鳥は一般に上背面は灰青色，下面は白色。種によってはゾウゲカモメのように全身純白のものや，ユリカモメのように繁殖羽では頭部が黒かっ色のずきんをかぶったようになるものもある。内陸の草原，湿地で繁殖するものや，島・海岸の断崖(だんがい)で繁殖するものもある。潜水して水産生物を捕えることはせず，水面近くに浮いている海獣の肉片や，漁船から落ちる魚，網からはずれて浮いている魚，また水産加工所や魚市場などからでる魚肉片などを常食としている。地球上に広く分布し，43種からなり，わが国には11種が記録されている。そのうち，ウミネコ*とオオセグロカモメの2種が繁殖している。カモメ類のうちの一種であるカモメは，背面灰青色で，ウミネコよりも少し小形，アメリカ・ヨーロッパおよびアジア北部で繁殖する。〔安部直哉〕

かもめ チェーホフ*の四大戯曲の第1作(1896)。1898年に新設されたモスクワ芸術座*によって上演され，大成功を収めた。作家志望のトレープレフと，女優を夢見るニーナ，作家トリゴーリンの3人の不幸な恋の行き違いを主題にしたもので，現実に目ざめていくニーナへの愛に破れたトレープレフが，ピストル自殺を遂げるという筋である。

かもめがい【鴎貝】軟体動物・二枚貝類・ニオガイ科。殻長(かくちょう)4cm，殻高2cm，殻径2cmほどの横長の卵形で，前端は丸く後ろへ細くなる。茶色がかった灰色。北海道南部から九州まで分布し，潮間帯付近のデイ岩などの柔らかい岩に穴をあけて中に潜む。

かもりょう【鴨猟】カモを目的とする狩猟*。わが国のカモ類は種類も生息数も多く最も重要な狩猟鳥で，陸鳥を代表するキジに対して水鳥の代表とされ，年々80万羽程度が猟獲される。カモ猟は，①猟犬を使役しなくともよい，②広く渉猟しなくともよい，③生息数が多いなどから，初心者でも容易にできるという普遍性に富んでいる。カモ猟の方法は多岐にわたる。銃猟では，①待ち撃ち，②忍び撃ち，③拾い撃ち，④おとり猟(生きおとりを使用する場合と型おとりを使用する場合とある)，⑤棹(さお)差し(小舟による拾い撃ち)，⑥赤イヌ猟(湖沼の岸の隠れ場に待ち，水べに茶色のイヌを歩かせるとカモが泳ぎながら近寄って来るのでそこを撃つ)，⑦沖撃ち(大湖・海などでの機械船による猟)がある。網猟では，①張り網猟，②むそう網猟，③谷切り網猟，④叉手(さで)網猟，⑤投げ網猟，⑥鴨場猟などがある。わが国には多くの種類のカモがみられるが，生息場所から陸ガモと海ガモとに分かれ，狩猟上で重要なのは大部分が前者である。それは日常摂食するえさの関係で肉が美味なのと，姿態がよいからである。海ガモは魚類・貝・海藻(かいそう)などを主食とするので異臭のあるものが多く，また姿態の奇なものが少なくないので狩猟対象として劣る。獲物として賞用されるのはマガモを第1に，カルガモ・オナガガモ・ヒドリガモ・コガモなど。またカモの肉味は時期・場所・捕獲後の処理などに著しく左右されるが，12月中旬～1月中旬の厳寒季と，春季の渡去前に広い水田地帯でとった皮下脂肪の多い個体がよい。カモは綿毛が密生しているうえ，皮と脂肪が厚く，後方から射撃する機会の多いこと，遠射をしいられることなどから銃弾に強く，負傷鳥を出しやすい。したがって細粒弾の使用や無理と思われる距離での発砲は慎み，適切な実包を適切な銃で適切な距離から射撃するようにすべきである。カモ猟に適する銃は一般に30インチ，全絞りの12番2連，スライド式，自動装塡(そうてん)式などの散弾銃で，実包は陸上では3～5号，湖や海上では1～3号がよい。カモは非常に目ざとい鳥だから，危険予防上の必要がある場合は別として，目だった色の服装をしたり，必要以上にからだを動かすことは失敗のもとである。



カモメ (左)ウミネコ (右)オオセグロカモメ



カ ヤ 果実

カモの捕獲制限は，銃猟は1日10羽まで，網猟では1狩猟期間に900羽まで。舟撃ちの場合5ノット以上の速度で航行する舟上からの射撃は禁止されている。なお千葉県市川市の新浜と埼玉県越谷(こしがや)の2か所にある宮内庁の猟場，東京都武蔵村山(むさしむらやま)市にある都水道局の鴨場，および茨城県鹿島(かしま)郡神栖(かみす)町にある民間の鴨場の4か所がある。〔白井邦彦〕

カモンイシ［Luís Vaz de Camões］(1525？～1580) ルネサンス期のポルトガルが生んだ最大の国民詩人。複雑で繊細な感情を叙情詩に結晶させたが，ペトラルカふうのソネットは特にすぐれている。しかし，その名を不朽にしたものは叙事詩《ウスールジーアダス》で，アフリカ・インド・中国に滞留した体験を生かし，インド航路発見とバスコ-ダ-ガマの第1回遠征に取材し，ポルトガル国民の英雄的偉業をたたえている。8行詩10編からなり，ダンテの《神曲》，セルバンテスの《ドン-キホーテ》にも比肩する傑作である。〔浜口乃二雄〕

かや【茅】腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・ヒドロ虫目・ヤワラクラゲ亜目の動物のうち，ポリプが樹状の群体をなすものの総称。樹状の幹に，羽状の小枝がシダの葉状に出るものが多く，外観はきわめて植物的である。クロガヤ・シロガヤなどの種類がある。

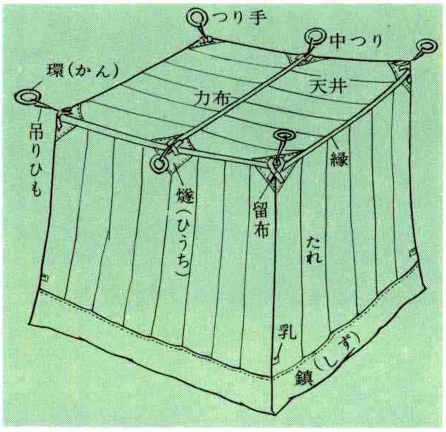
かや【茅・萱】単子葉植物・イネ科のススキ*の別名。また，スゲ・ヨシなど草ぶき屋根に用いる植物の総称としても用いる。➔草ぶき

かや【榧】裸子植物・イチイ科。山地にはえ庭木としても用いられる常緑高木。高さ20m，直径80cmに達する。若枝は1か所から3本ずつ出る。葉は線形で長さ1.5～2.5cm，先がとがり，手が触れると痛い。表面は濃緑色，裏面に気孔腺(きこうせん)があって淡黄色である。葉はらせん状につくが，葉柄がねじれているので2列に並んでいるように見える。雌雄異株で，4～5月，雄花は黄色，楕円(だえん)形で葉の下に，雌花は緑色で枝先につく。果実は卵形で，10月ごろ熟して黒紫色となり食べられる。材は碁や将棋の盤をつくる。また，果実を榧子(ひし)といい，条虫の駆虫剤とする。〔加藤僖重〕

かや【蚊帳】〈かちょう〉ともいい，蚊屋・蚊幬・蚊厨とも書く。夏季の寝具の一種で，夜具を敷いた上に蚊を防ぐためにするおおい。唐から取り入れたらしく，古代に

は貴族が用いた。延喜式伊勢(いせ)大神宮装束の一つに絹がやがある。これは高さ7尺6寸(約250cm,天井から床にたれる長さ),12幅とあるのは，絹の布幅を12枚縫い合わせて四方に配して方形としたものと思われる。中世にも上流以外では用いず，一般は蚊やりのたき火をしてしのいでいたが，江戸中期から庶民にも用いられるようになった。近年は下水道の設備が進むにつれて，用途はせばめられている。

かやの大きさは布数でよび，五六のかやといえば間口6布,奥行き5布で3畳の室用である。高さは200～220cm。すそ回りには鎮(しず)という緋色(ひいろ)のもめん・麻などの並み幅を横布としてつけたが，大正時代からはつけなくなった。その後，四方を一幅に広く織り1か所だけ縫って方形とし，天井の布を縫いつける〈縫い目なし〉とよぶものもできた。近年は縫い目なしが多くなったので，大きさは3畳づり・6畳づりなど，室の大きさでよぶようになっている。色も白ですそを水色にぼかしたものもつくられた。用布は本麻・半麻(もめんと麻の交織)・もめん(下級品)が用いられ，また，古くは紙帳という紙製のものもあったが，明治以後はすたれた。1960年(昭和35)ごろからは化繊の発達によりナイロンその他，長繊維でもつくられている。しかしもめんは通風が悪くてよごれやすく，さらりとしないでたたみにくいのが欠点であり，合繊のものは洗たくが手軽で早くかわくが，電球に触れると熱に弱く，織り目が糸よれしやすく，汚れがつきやすいのが欠点である。麻のかやは古くから奈良県・滋賀県・福井県で生産されている。〔堀越すみ〕



蚊　帳

かや　【加悦(町)】　京都府与謝(よさ)郡にあり,府の北部大江山(833 m)を含む山間の町。人口9,200。宮津線の丹後山田から加悦鉄道が通じている。同線は大江山山麓(さんろく)のニッケル鉱を運搬するための線であったが，休鉱後も交通機関として利用されている。主産業は機業で，丹後縮緬(ちりめん)の主産地の一。大江山はスキー場として知られる。

ガヤ　［Gaya］　インド共和国北東部，ビハール州中部の都市。人口17万9,000(1971)。鉄道の要点で，米・綿布などの集散地となっている。市街は新市・旧市に分かれ，新市は近代的なヨーロッパふうの建物が立ち並ぶのに対して，旧市はインド人の住居が密集するという対照的なたたずまいをみせている。多数のヒンズー教の霊場があり，ヒンズー教徒巡礼の一大中心となっている。特にビシュヌパド寺院は有名。また，ここから10kmほど離れたブダガヤはブッダが悟りを開いた所といわれ，インド仏教の聖地とされる。〔別技篤彦〕

カヤオ　［Callao］　ペルー中部の港市。鉄道と道路が首都リマに通じ，その外港となっている。人口33万5,000(1970)。輸出総額の25%，輸入総額の75%を占める同国最大の貿易港で，銅・銀・綿花などを輸出している。工業として金属・ゴムの加工などがあるほか，漁業基地ともなっている。港にはペルー海軍の基地があり，またスペイン領時代には，ピサロによるインカ帝国攻略の基地となった。

かやく　【加薬】　五目飯に入れる種々の具や薬味をいい，主材料に加役するものの意で〈加役〉の字も使われる。たとえば，飯に混ぜるニンジン・シイタケ・ゴボウ・油揚げなどや，湯豆腐に添える花がつお・さらしねぎ,天ぷらに添える大根卸し・ユズなど。また，牛・鳥なべに加えるネギ・豆腐やあえ物の材料をさす場合もある。中国古代の農耕・医療の始祖といわれる神農氏の《神農本草経》によれば当時薬は効用によって上中下の3段階に分類されており，日常の食物の中で滋養の多いものを上薬，保健薬を中薬，直接病気の治療に使用するものを下薬といっていた。〈かやく〉は元来この上薬，すなわち滋養のある材料を飯に加えるという意味のものであったらしい。わが国ではおもに関西で使われたことばで，のちに具の多いものの総称として，かやく飯・かやくどんぶり・かやく卯(う)の花などの呼び方が起こった。〔塩川ふみ〕

かやく　【火薬】　わが国の火薬類取締法にいう火薬は次の狭義のものである。

火薬類
- 火薬：推進的爆発用(推進薬・発射薬)
- 爆薬*：破壊的爆発用(爆破薬・炸薬(さくやく))

しかし，一般にはこの火薬類を火薬とよんでいる。その意味では火薬とは，爆発力を利用しうる液体ないし固体の爆発性化合物，または爆発性混合物をさす。爆発性化合物であってもきわめて不安定で製造・取り扱いの不可能なもの，あるいは爆発力が非常に小さいもの，爆鳴気などは火薬とはいわない。火薬は外部からのエネルギーにより分解し(多くの場合燃焼を伴う)，大量の熱とガスを発生する。この高温高圧発生ガスのため，次に燃焼が起こりガスの波が生じる。この波の伝播(でんぱ)速度(爆速)が音速を越えると衝撃波を生じて破壊力を示し爆発となる。火薬の爆速は小さいもので1,000 m/秒，高性能爆薬では8,000 m/秒に達する。爆風圧は瞬間的には数十万気圧に達するものもある。火薬は，外部エネルギーによって自己分解(燃焼)を起こすために，不安定な基をもつ化合物または酸化成分と可燃成分よりなるが，これらの成分をもつ化合物を混合したものと,一つの化合物の中に両方の成分を含むものとがある。前者の例は黒色火薬*で，酸化成分は硝酸カリウム，可燃成分は木炭とイオウである。後者の例としてはトリニトロトルエン*(TNT)があげられ，酸化成分は3個のニトロ基で，可燃成分はトルエン残基である。

火薬のおもなものは次のとおりである。①硝酸エステル類：アルコールや炭水化物の硝酸エステルで，ニトログリセリン*(ダイナマイト*の成分)・ニトログリコール・ニトロセルロース*(綿火薬)・ペントリットなど。強力であるが，自然分解しやすく保存安定性を欠く欠点がある。また，ニトログリコールの蒸気を吸入すると心臓障害を起こす。②ポリニトロ化合物：TNT・ピクリン酸*・トリニトロアニソール・ジニトロナフタリン・ヘキサニトロジフェニルアミンなど。強力な爆薬が多く安定で自然分解が少ない。③ニトロアミン類とニトロソアミン類：ヘキソーゲン・エチレンジニトロアミン・ニトログアニジン・テトリル・ニトロソグアニジンなど。強力な爆薬が多い。④アミン硝酸塩：硝酸グアニジンなど。爆発力が弱い。⑤ジアゾ化合物：きわめて爆発しやすいものがあり，起爆薬に使われる。DDNP*がその例。⑥その他の有機物系爆薬：アジ化合物・アジド化合物・過酸化物・雷酸塩などがあり，雷汞*(らいこう)がその例。このほか無機化合物系の火薬(爆発性混合物が主)として，⑦硝酸塩を酸化剤とするもの(例：黒色火薬)，⑧硝酸アンモニウムを用いるもの：硝酸アンモニウムは単独でも爆薬となるが，酸化剤としても使用される(例：硝安油剤爆薬*・硝安爆薬*)，⑨過塩素酸塩を酸化剤とするもの(例：カーリット*)，⑩塩素酸塩を酸化剤とするもの，⑪液体酸素を酸化剤とするもの(液体酸素爆薬または推進薬)などがある。ここで使われる可燃剤は炭粉・木粉・デンプン・燃料油・ケイ素鉄・アルミニウム粉・ヒドラジン類などである。

火薬の用途は軍事用としては銃砲・ロケットなどの発射薬・推進薬，弾丸・爆弾などの炸薬，産業用としては鉱山や土木用の爆破薬がおもなものであるが，その他導火線の芯薬(しんやく)，雷管・信管の起爆薬*，猟銃などの発射薬，鋲(びょう)打ち用や花火・煙火などに使われている。また近年爆発成型などの新用途も開拓されている。

火薬の歴史は黒色火薬の発明に始まり，

その時代が長く続いたが，19世紀後半の産業革命以来，ノーベルのダイナマイトの発明など新技術が急速に発展した。わが国では黒色火薬の原料である硝石(硝酸カリウム)の産出がないので鎖国の江戸時代は特にその入手に苦しみ，窒素供給原料(たとえば尿)とカリウム供給原料(灰)を混合して土中で年月をかけて硝酸バクテリアの作用で硝酸カリウムに変え，これを土から抽出する方法をとった藩もあった。このため硝石は非常に高価であり，火薬の用途も限定されたが，明治以後は欧米技術の導入によって火薬が安価に製造できるようになり，火薬産業の急速な発展をみた。しかし現在では，産業エネルギー構造の変化によって，昔日の繁栄はない。〔住谷光圀〕

かやく【課役】労役を課すという意味のことばで人民の負担する労役をいう。時代によってその内容は異なる。律令(りつりょう)制では調・歳役・庸・雑役などがあり，荘園(しょうえん)制のもとでは公事(くじ)がそれにあたり，地頭や荘官も一定の課役を荘民に課した。鎌倉・室町時代には律令制時代のように国家的に定まった課役の制度はなく，朝廷や幕府は事に際して臨時に賦課した。大別して田地に課す段銭(たんせん)や家ごとに課す棟別銭(むねべちせん)がある。〔鈴木英雄〕

カヤーク

1 エスキモーが海獣猟に用いる舟。獣皮でつくられ，全長5～6m，幅50cmぐらいのカヌー形のもので，乗り手のすわるところ以外は皮でデッキを張り，中に水がはいらないようになっている。

2 運動競技で，カヌー競技の一種。➔カヌー競技

かやくぐり【茅潜過】鳥類・イワヒバリ科。全長14cmほどで，暗かっ色のじみな小鳥。日本の特産で，高山の灌木(かんぼく)帯で繁殖し，冬は雪の少ない山地のやぶで過ごす。主食はこん虫であるが，冬には草の種子なども かなり食べている。

カヤグム 朝鮮特有の十二弦の箏(そう)。伽倻琴(かやきん)ともいう。新羅(しらぎ)(4～6世紀)ごろに中国の箏を母型につくられたらしい。日本に伝えられて新羅琴とよばれた。日本の箏と構造はよく似ているが，胴の形，弦の張り方，張力，大きさなどは異なる。演奏法は，楽器の頭部をひざの上に載せて，右手指でつまんではじいて音量をいろいろに変えながら，左手ではビブラートを施して奏する。

かやつりぐさ【蚊帳釣草】単子葉植物・カヤツリグサ科の一年草。田畑や路傍にはえる雑草。北海道を除く日本各地，朝鮮・中国に分布する。茎はなめらかな三角柱状で，数本が根生し，高さ30～50cm。基部に数枚の細長い葉がつく。8～10月に茎頂から数個の葉状の苞(ほう)と，線形の小穂が出る。和名は，子どもが茎を裂いて四角をつくり，かやまたはますになぞらえて



カヤーク



カヤグム リトル-エンジェルス東京公演



カヤツリグサ

遊ぶのに由来し，マスクサともいう。

かやねずみ【萱鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。体長5～7cm，尾長5～9cm。体毛は柔らかく，黄赤茶色。ヒメネズミ・ハツカネズミに似ているが小さい。ヨーロッパから東南アジア北部・シベリアなどに広く分布し，日本では本州・四国・九州にすむ。草原にすみ，夏にはカヤ・ササなどの葉を編んで巣をつくる。

かやり【蚊遣】家屋内に侵入するカを防除するための方法または用剤。古くからいろいろな手段が講ぜられてきたが，最も一般的なものは蚊取り線香の使用である。これは除虫菊を主剤とし，燃焼させてピレトリンガスを発生させるものであるが，最近ではBHC剤を薫煙(くんえん)するものなど種種のものが市販されている。

かゆ【粥】白米に多量の水を加えてたいた半流動食。消化のよい食べ物として病弱者・乳幼児・産後の婦人などの食事とされるほか，祭日・節日(せちにち)の供物として用いられる。白米だけの白がゆのほか，あずき・もちや季節の野菜などを加えるものがある。奈良時代，米を蒸したものを〈強飯(こわいい)〉，煮たものを〈かゆ〉といい，かゆは貴族の日常の食事とされた。かたさの程度によって〈かたかゆ〉〈しるかゆ〉〈おもゆ〉の区別があり，現在のかゆは〈しるかゆ〉，飯は〈かたかゆ〉にあたる。正月7日の〈七草がゆ〉はこの時代の習慣のなごりと考えられる。平安時代には祝いのかゆとして種々のあずきがゆが食された。おもなものに，今日まで続いている正月15日のもちを入れた〈あずきがゆ〉や11月23日の夜に行なわれる大師講の〈しもつきがゆ〉のほか，誕生を祝って七夜に行なう〈七彦(ななこ)がゆ〉，日蓮宗(にちれんしゅう)の信徒が《法華経(ほけきょう)》を習得し終えたときに祝う〈知恵がゆ〉などがあった。鎌倉時代にはいって，かゆ食は一般に普及した。現在でも，大阪・奈良地方では，朝食にかゆを食べる習慣が残っている地域がある。〔塩川ふみ・渡辺欣雄〕

かゆうら【粥占】⇨年占(としうら)

かゆみ【痒み】はなはだ不快でときにはたえがたい苦しみとなる感覚で，その局所の皮膚をかきたくさせるもの。医学では瘙痒(そうよう)という。病的原因によって生じるだけでなく，正常皮膚に人工的に適合刺激を加えることによってもひき起こされる。現在，かゆみは皮膚の痛覚受容器に対して痛覚閾値(いきち)以下の弱い持続的刺激で起こると考えられている。刺激には，ヤマイモおろしの中にあるシュウ酸カルシウムの針状結晶や電気刺激などの物理的刺激と，ヒスタミン・アミノ酸・ポリペプチド・タンパク質・タンパク質分解酵素・アセチルコリンなどによる化学的刺激がある。皮膚病など病的原因によるものは疾患部からヒスタミン様物質が分泌されるためと考えられ，かゆみを除くには抗ヒスタミン剤が用いられる。〔平野修助〕

かよいこまち【通小町】能の曲名。観阿弥(かんあみ)が古作を改作したもので，深草の少将の百夜(ももよ)通いの伝説に基づいてつくられた四番目物。京都郊外の八瀬の里に夏の間僧が修行していると，毎日木の実やたき木を持って来る女があった。ある日この女に名を尋ねると，小野小町の幽霊であることをほのめかして消え去る。僧が供養をしていると，小町の幽霊が現われて仏の悟りを授けてくれと頼むが，草むらの中から声があって深草の少将の幽霊が現われ，小町の成仏を妨げる。深草の少将はかつて小町に思いをかけ，百夜通って来れば思いをかなえると言われて，九十九夜まで通ったが，百夜めに死んでしまった。その恨みで少将は小

町の成仏を妨げるのである。僧は2人ともに成仏させようと言い，百夜通いのありさまを2人の幽霊に実演させ，成仏の悟りを与える。シテは深草の少将，ツレが小町，ワキは僧。〔長尾一雄〕

かようきょく　**【歌謡曲】**　⇨140ページ

かようまんだん　**【歌謡漫談】**　寄席演芸の一種。広義には，柳家三亀松(みきまつ)のような歌入り漫談をさすが，狭義には，ボーイズ物とよばれる軽演劇ふうの演芸をいう。1937年(昭和12)結成の川田義雄(よしお)たちの〈あきれたぼういず〉に始まる。

かよちょう　**【駕輿丁】**　朝廷や神社に属して天皇の輿(こし)や神事の神輿(みこし)をかつぐことを任務とした者。最も著名なのは朝廷の左右近衛府(このえふ)・左右兵衛府(ひょうえふ)の4府に所属する4府駕輿丁座である。課税免除の特権があったため，鎌倉中期以降になると種々の営業に従事し俸禄(ほうろく)の不足を補った。室町時代にはウマ・材木・銅など18種にわたる取引商品の課税免除・米・呉服など8種の専売権の特権をもつ座が組織され，京都最大の座となったが，織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)の楽市・楽座の政策により衰退した。〔鈴木英雄〕

から　**【加羅】**　古代南朝鮮に存在した多数の血族集団的な部落の総称。三韓(さんかん)の韓は〈から〉から転訛したともいわれている。しかし，馬韓が統一されて百済(くだら)に，辰韓(しんかん)が新羅(しらぎ)になってから，わが国ではもっぱら任那(みまな)の地域を加羅とよぶようになった。

カラー　[collar]　洋服のえり。身ごろから裁ち出した布や別布で首まわりにつけられた部分，またえりぐりから離して，これのみ単独のものもさす。衣服は必要上からだの下部をおおうものとして発達してきたので，上部につけるカラーの発達は比較的おそい。古代エジプト時代の服装に木の実・ビーズ・石などを平らに編んだカラー状のものがみられるが，これは取りはずしのきくネックレスのような装身具であった。身ごろに続いたカラーは中世にはいって現われ，16世紀には服装史上一大特色をつくったラフがみられる。これはのりづけ加工したかたいリンネル・モスリン・レースなどをうす状にひだをとってつくったカラーで，男女ともに大いに流行した。しかし大きなラフは食事など日常生活に不便なため，前の部分を開いて扇状としたものが現われた。17世紀後半からは，それまで首まわりに立っていたカラーはしだいに下がり，ルイ14世時代には折り返ったカラーが流行した。18世紀になると男子服は現代のスーツに近い形式となり，えり腰の高い立ちえりに大きな折り返しのラペルが現われた。一方婦人服はえりぐりが大きくなるとともにえりなしか細いフリルを飾る程度になったが，19世紀中ごろから広いえりぐりにケープふうの大きなカラーがつけられ，後期になると男子服の傾向が取り入れられるようになり，現在に至っている。



カラー

カラーは服装上顔にいちばん近い個所を占め，顔をひきたたせるものとして服飾デザイン上重要な要素の一つで，その種類は非常に多い。材質は服と共布が普通であるが，別布や毛皮・皮革，またビーズ・レースなどの手芸的なものも使われる。

【種類】①ウイングカラー：後ろは首に沿って立ち，前えりが鳥の翼を広げた形に外側に浮いて折り返っているカラー。えり幅は自由，えり先は丸いもの，とがっているものなどある。②オープンカラー：開きえり。ラペル(下えり)が前身ごろと続いているスポーティーなえりで，このえりのついたシャツを開衿(かいきん)シャツとよぶ。③フラットカラー：えり腰がほとんどなく，ネックラインからすぐ折り返る平らなえりの総称。㋑セーラーカラー：水兵服につけられるえり。後ろは四角で背をおおい，前はV字形。イギリス海軍の水兵服に用いられていたのがのちにこども服に取り入れられた。わが国では女学生の制服に多く用いられている。㋺ケープカラー：ケープのように肩をおおってたれる大きなえり。ほかにピーターパンカラー・イートンカラーなど。④スタンドカラー：首に沿って立つえりの総称。典型的なものとして男子学生服の詰めえりがある。ほかにチャイニーズカラー・ミリタリーカラーなど。⑤ロールカラー：首に沿って少し立ってから折り返った形のものの総称。㋑テーラードカラー：背広えりともいい，男子の背広・コート，またきっちりした仕立ての婦人スーツに用いられる。上えりと下えりの境に刻みがあり，上えりの形，下えりの幅や形，あき止まりの高さ，前打ち合わせ(シングル・ダブル)などいろいろに変化する。㋺タートルネックカラー：首にぴったりついてぐるりと回るえり。前中心が輪。㋩シャツカラー：首の後ろではっきりしていたえり腰が前にくるにしたがいなくなるもの。㋥ショールカラー：シャツカラーのあき止まりの低いもの。へちまえりもこの一種。ほかにステンカラー・スポーツカラー・タキシードカラーなど。⑥タイカラー：首まわりを巻いたえりの両端をそのまま伸ばし，前で結ぶ。結び方はいろいろある。〔小池千枝〕

カラー　[calla]　単子葉植物・サトイモ科。園芸上は旧属名のカラーを用いているが，現在はツァンテデスキア属に入れられている。南アフリカに8種あり，肥大した地下茎をもつので，球根類にはいる。葉はサトイモに似ており，白色の斑点(はんてん)があるものもある。仏炎包は白または黄色で漏斗状。肉穂花序は仏炎包より短い。春～初夏に咲く一季咲きのものと，四季咲きのものとある。切り花として用いられ，また，花壇にも植えられる。球根の植え付け適期は秋。肥沃(ひよく)な腐植質に富むやや粘質土を好み，多湿がよい。〔小杉　清〕

からあげ　**【空揚げ・唐揚げ】**　揚げものの一種。小麦粉・上しん粉・デンプンなどを薄くまぶすだけで，衣はつけずに揚げたもの。粉が材料の水分を押え，からっと仕上がる。材料としてはエビ・キス・メバル・ハゼ・イワシ・アジなどの小魚やトリ肉のぶつ切り，あしらいとしてナス・シシトウガラシ・いも類などが用いられる。たっぷりした高温の油で，小骨が柔らかくなるまで揚げる。塩とレモンじるで食する。

カラ-アザール　[Kala Azar]　黒水熱ともいう。原生動物・鞭毛(べんもう)綱に属するリーシュマニア-ドノバンという体長2～3μで円形～卵円形の原虫の寄生によって起こる疾患。脾臓(ひぞう)のはれ，発熱，高度の貧血を主症状とする。病原体は脾臓・肝臓・骨髄・リンパ腺(せん)の細胞に寄生し，診断は穿刺(せんし)によって原虫を発見することが必要である。サシチョウバエの類の刺傷から感染する。中国・インド東部・地中海沿岸・南アメリカにみられ，わが国では最近はほとんどみられない。流行地ではイヌなどが保有動物となっている。治療にはアンチモン剤やチアミジン系の薬剤を用いるが，再発することが多い。なお，患者の分泌物や排泄物(はいせつぶつ)などからの直接感染もあるといわれている。〔山本　久〕

カライカル　[Karikal]　インド共和国南東海岸，マドラス州の都市。マドラスの南240kmのコーベ川河口に位置する。人口80,000(1961)。1739年フランスがこの地方の藩王から獲得し，以来インドにおけるフランスの植民基地となったが，第2次世界大戦後インドから返還の交渉が行なわれ，付近のポンジシェリーなどとともに1962年正式にインドの直轄領にもどった。

からいせんりゅう　**【柄井川柳】**　(1718～1790)　江戸中期の前句付(まえくづけ)・川柳の点者。江戸浅草の名主で通称八右衛門(はちえもん)。俳諧(はいかい)を学んだのち，前句付の点者となり，33年にわたって毎年選句を発表した。その選句は，1765年(明和2)以後門人呉陵軒可有(ごりょうけんあるべし)の精選によって《柳多留(やなぎたる)》として刊行されて大いに迎えられた。以来前句付は川柳を称するようになった。

からいとそう　**【唐糸草】**　双子葉植物・

バラ科の多年草。ワレモコウ*の仲間で，高山植物の一。高さ30～100cm。葉は根もとに多く，羽状に分かれる。8月ごろ，枝先にふさのような長さ10cmぐらいの花の集まりをつける。花弁がなく，おしべが糸状で紅紫色をしているところからこの名がある。観賞用として栽培されることがある。

からいとそうし【唐糸草紙】御伽(おとぎ)草子*の一。源頼朝*(よりとも)の侍女唐糸は，木曽義仲*(きそよしなか)の命によって頼朝を刺殺しようとするが失敗し，石牢(いしろう)に閉じ込められる。その娘万寿は母の身を案じて鎌倉に行き，母と再会する。次の年正月に鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)で舞いを舞った万寿は，その恩賞に母の助命を願い出，許されてともに故郷に帰るという孝行談。

カーライル［Thomas Carlyle］(1795～1881) イギリスの歴史思想家・社会評論家。スコットランドの熱心なカルバン派の農家に生まれた。エジンバラ大学に学び，数学教師・家庭教師・ジャーナリストなどを転々としながら，ドイツ観念論哲学・ドイツ-ロマン派文学の教養と，ピューリタン的な禁欲実践倫理とを融合した独自の思想を樹立した。歴史思想家としては，特に歴史における個人の役割を重視し，客観的な科学性を退けて場面を劇的に描いて読者を魅了する著作を著わした。また，社会評論家としては当時の世俗的功利主義・経済的自由競争・労使対立の混乱に反発して，公益性を自覚する産業指導者の統制を待望した。ロンドンのチェルシーに長く住んだところから，〈チェルシーの聖者〉とよばれ，また彼自身も予言者をもって任じ，歴史の中に神の摂理を求めた。おもな歴史的著作に《フランス革命》《オリバー-クロムウェル》《フレデリック大王伝》があり，社会的評論に《衣裳(いしょう)哲学》《英雄と英雄崇拝》《過去と現在》がある。〔兼岩正夫・長崎勇一〕

からえ【唐絵】中国の絵画，転じてわが国で制作された中国ふうの絵画をもいい，平安中期から用いられた大和絵(やまとえ)に対する語である。大陸に追随してきたわが国の絵画はこのころに至って和様化の傾向が盛んとなり，それとともに二者の区別が行なわれ，対照させて考えられるようになった。はじめは中国の題材を扱った絵画をさしたが，のちには宋(そう)・元画の輸入につれて作風のうえで中国ふうの絵画をよぶようになり，特にこれを漢画*と称する場合も多い。平安期の唐絵は文献中に多くの名がみられるが，遺品はわずかに東寺蔵の唐櫃(からびつ)に描かれた中国ふう人物図のみである。➔漢画 〔村重 寧〕

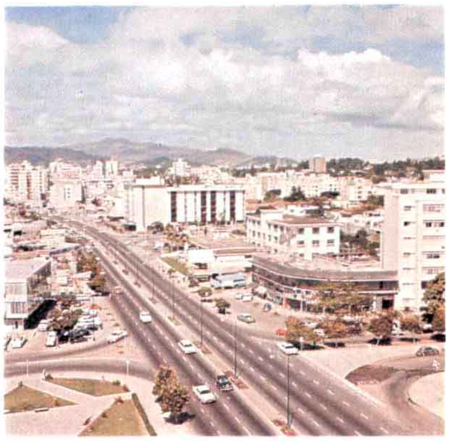
からおり【唐織】唐織には二つの意味がある。一つは織物自体の名称をさし，他はこの織物を用いた能装束の一つである。織物の唐織は地組織を三枚綾(さんまいあや)とし，各種の絵緯(えぬき)は浮かし，金銀糸は地搦(じがら)みでおさえて，華麗な文様が織り出される。唐織はその文字が示しているように，中国ふうのあるいは中国から伝わった織物という意味であって，わが国には室町時代にその技術が伝えられ，その後西陣を中心に製織された。上杉(うえすぎ)神社所蔵の《白地菊文綾胴服》(重要文化財)のえりの唐織は，わが国で製織されたと思われる唐織のうち，時代のわかる最古の遺品である。能装束の唐織は，主として女役の表着に用いられる詰めそでの装束をさしている。能装束のうちで最も豪華で代表的なものとされている。後年，織物としての唐織が主として用いられたところから，その名称をそのまま装束にも使用するに至ったと考えられる。文様や色目は種類が豊富で変化に富んでいるが，紅色を混じえたものは紅入(いろいり)といって年齢の若い役柄に用いられ，中年以上の老役(ふけやく)には無紅(いろなし)とよばれる，紅のはいっていない唐織を着用するのが定めとなっている。〔北村哲郎〕



カライトソウ



唐　織《白地菊文綾胴服》上杉神社蔵



カラカス　市の中心部，アルタミラ広場付近の市街地。中央分離帯をもった6車線のりっぱな道路が走るなど，近代的な建物も目だつ

からかさ【から傘】⇨傘

からかさたけ【傘茸】担子菌類・ハラタケ科。夏や秋に林内や草地の地上に発生する大形のきのこ。かさの径は20cm，高さ40cmに達する。かさははじめ卵球形，成熟すると扁平(へんぺい)に広がって裂け，表面がうろこ状となる。色はかっ色ないしくり色である。食用となる。

からかさてい【傘亭】名茶席の一。安土桃山時代の茶席建築を代表するものの一つで，京都市東山区高台寺の境内にあり，時雨亭*(しぐれてい)と土間廊でつながっている。利休好みの豊臣秀吉(とよとみひでよし)の茶亭で，もと伏見城学問所のすみに建ててあったのを，伏見城が廃されたときに秀吉の後室高台院(北の政所(まんどころ))によって高台寺に移されたといわれる。かやぶき・方形造りの屋根におおわれた内部は，入り口に少し土間をとって床を張り，一隅(いちぐう)にかまどを設けている。天井は竹棰(たけたるき)の化粧屋根裏がかさを広げたような景観を見せているので，これが亭名となった。〔桑田忠親〕

カラカス［Caracas］ベネズエラ共和国の首都。人口218万(1975)。アンデス山脈北端部の標高900～1,100mの地にあり，赤道に近い位置にありながらしのぎやすい。もともと農牧業の中心として発展し，国内向けの紡績や製靴(せいか)・皮革・製材などの工業も興ってはいたが，急速に膨張したのは同国が第2次世界大戦後，南アメリカ最大のマラカイボ湖を中心とする油田を開発したときからであり，高度1,000～1,100mの山腹斜面にまで市域は拡張された。1567年スペインの植民基地として建設された旧市街は当時のおもかげを残し，山腹斜面の近代的な新市街と対照的である。周辺ではサトウキビ・コーヒー・カカオを産し，その集散地としての役割を果たすと同時に，近年，化学・自動車工業などの近代的な工業も興ってきている。また，南アメリカ北部諸国の独立運動の指導者ボリバルの生地として知られる。〔小栗 宏〕

カラカスけつぎ【カラカス決議】1954年3月カラカスで開催された米州機構外相会議の決議。〈国際共産主義運動が，米州の政治機構を支配もしくは管理することは，米州の政治的独立と平和を脅かす〉と決議し，さらに共産主義者の身元・資金源の調査と米州諸国間の情報交換を勧告した。米州機構の反共的性格は，本決議の採択でいっそう鮮明となった。➔米州機構

からかね【唐金】⇨青銅

歌謡曲

歌謡曲ということばは，昭和初期までは今日の歌曲の意味で，シューベルトやフォーレの歌をさすのに用いられた。その後，公共放送が特定の曲を〈流行歌*〉とよぶことを避けるために，歌謡曲の語を流行歌にあてはめたものといわれている。したがって，今日の歌謡曲は，マスメディアとの関連の強い大衆的な声楽曲と考えることができる。

歌謡曲は大衆的という点で，民謡*に似ているが，少なくとも次の2点で民謡から区別される。第1に，民謡にあっては特定の作者がなかったり，あるいはあっても一般に知られることが少ないのに対して，歌謡曲の作者ははっきりしており，その著作権が保護されている。第2に，歌われる期間について，民謡は長ければ1世紀を越えて歌い続けられるのに対して，歌謡曲ではそのような事例がなく，最近では，かなり広く流行する曲でも約半年の場合が多い。

なお，歌謡曲の価値をめぐっては，多くの議論がたたかわされている。しかし理論的にみれば，すべて水掛け論であり，自分の趣味判断を非論理的な方法で正当化しようとするものである。したがって，ここではそうした問題を扱わず，西洋音楽を取り入れた近代日本が生んだまれなジャンルとして，歌謡曲そのものをながめていくことにしたい。

〔歌謡曲の前段階〕 ラジオやレコードなどのマスメディアとの結びつきを，歌謡曲の一つの性格とするならば，歌謡曲の成立はせいぜい大正時代の《カチューシャの唄*(うた)》にさかのぼれる程度である。しかし民謡以外の大衆歌曲で，しかも，流行という性格をもつ点を考えるならば，明治時代に歌われた演歌*が，歌謡曲の先駆的な存在の一つにあげられなければならない。

演歌は自由民権運動*と結びついて，1887年(明治20)ごろから歌われた。〈民権論者の涙の雨で，みがき上げたる大和胆(やまとぎも)，コクリミンプクゾウシンシテ(国利民福増進して)，ミンリョクキュウヨウセ(民力休養せ)，もしも成らなきゃ，ダイナマイトどん〉という歌詞で始まるダイナマイト節は，単純で角ばった旋律にのせて，大言壮語ともいえることばを続けていく点で，演歌の典型である。その他，改良節・ヤッツケロ節・オッペケペ節*・愉快節などの明治中期の演歌は，語りの一種ともいうべき演説調であった。これらの歌は，演歌屋(のちには演歌師)によって町角で歌われ，明治の終わりになると，バイオリンも使われるようになった。これらの歌の内容はのちの歌謡曲とは違い，政治的な事件，心中，軍人の武勇などを扱っているという点で，一般的な情緒を中心とするものではなく，社会的な状況に結びついたものだということができる。

演歌の伝播(でんぱ)方法は演歌師がひとりひとりで歌うことと，彼らが売る新しい演歌の本とによっていたので，大正末期から始まるラジオ放送と，しだいに活発になるレコード生産とによって，演歌の基本的な形は失われていった。しかし，これはマスメディアの隆盛そのものにだけよるものではなく，むしろ音楽を聞く行為と政治的・社会的状況を知る行為とが，聞き手の中に分離し始めたことにも原因があるだろう。

〔歌謡曲の成立と旋律の特徴〕 1914年(大正3)に松井須磨子(すまこ)によって歌われた《カチューシャの唄》は，歌謡曲の歴史にとって二つの点で重要である。第1は中山晋平*(しんぺい)による旋律の新しさであり，第2はマスメディアとの結びつきである。第1の問題はのちに述べるが，第2の点については，この曲の伝播がこの歌を挿入歌(そうにゅうか)としていた戯曲《復活》を直接に見た人によってよりも，売り上げ枚数が20,000枚にもなるレコードや，ただちにつくられた映画によるところが大きいという点であり，このことは新しい大衆歌謡のあり方をよく示している。こうした形はやはり中山晋平作曲の《船頭小唄》(1921)や鳥取春陽作曲の《籠(かご)の鳥》(1922)の大流行の場合にもあてはまる。

昭和にはいると，ビクター・コロムビア・ポリドール・キング・テイチクなど，日本のレコード会社が活発な生産を始めたため，大衆歌謡とレコードとの関係は分離できないものになり，またその過程を通して，今日われわれが〈歌謡曲〉ということばに対してもつイメージともいうべき様式上のわく組みが形成されてきた。このことは，次のような昭和初期のレコードのヒット曲をみればはっきりするだろう。

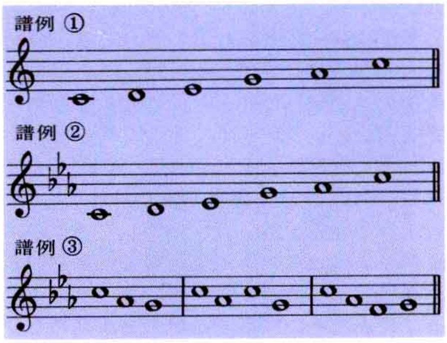
1928年(昭和3)：《波浮の港》(磯(いそ)の鵜(う)の鳥ゃ日暮れにゃかえる)，《君恋し》(宵闇(よいやみ)せまれば悩みは果てなし)，《出船》(今宵(こよい)出船かおなごり惜しや)。

1929年：《東京行進曲》(昔恋しい銀座の柳)，《沓掛(くつかけ)小唄》(意地の筋がね度胸のよさも)。

1930年：《祇園(ぎおん)小唄》(月はおぼろに東山)，《ザッツ-オーケー》(だって逢(あ)わずにゃ居られない)，《麗人の唄》(ぬれた瞳(ひとみ)とささやきに)。

1931年：《影を慕ひて》(まぼろしの影を慕ひて)，《侍(さむらい)ニッポン》(人を斬(き)るのが侍ならば)，《酒は涙か溜息(ためいき)か》《丘を越えて》。

このような有名な曲が形成してきた歌謡曲の音楽的特徴は，大ざっぱにいえば西洋古典音楽でも日本の伝統音楽でもないが，

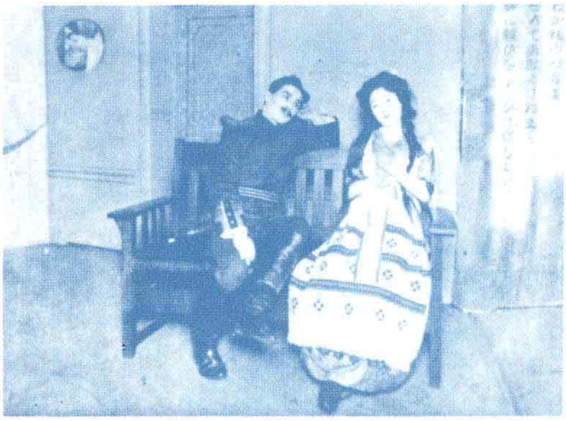


しかしそのどちらかを欠いた世界には成立しえなかったものである。3拍子を含めての確固たる拍子が存在すること，和声づけの存在といったことは，多くの伴奏方法とともに西洋音楽からもってこられたものであり，装飾的な節まわし(小節*)と長調や短調のわくの中での実際の音の使い方は邦楽の流れを引くものである。

《カチューシャの唄》をはじめとして，多くの流行曲を生み出した中山晋平は，1936年の《アルス音楽大講座》の中に〈流行歌の作曲〉の項目を執筆し，その中で彼自身が使ってきた音階を，①短旋法，②長音階学童旋法，③短音階学童旋法，④田舎*(いなか)節系民謡音階，⑤都節系民謡音階の5種に分けている。中山は長音階については言及していないが，これを加えて6種とすれば，現在までの歌謡曲のほとんどがこの6種，あるいはそれらの組み合わせとして説明することができる。②と③の学童旋法という語は聞き慣れないことばであるが，これは譜例①と譜例②に示されるように，長音階や短音階の中で第4音と第7音を欠いたもので，今日では〈ヨナ抜き音階〉の名でよばれるものである。歴史的には，文部省唱歌が長音階のヨナ抜きをしばしば使っていたため，中山がこの名称を用いたのであろう。興味深いのは，中山が《船頭小唄》をはじめとして《東京音頭》や《東京行進曲》などでこのヨナ抜き短音階を使って，この世界における短調好みを結びつけて成功したことである。これは，昭和40年代にはいると，〈艶歌〉の名でよばれる旧式な歌謡曲に使われているだけでなく，日本人にとって最も容易にとらえられ，反応できる音楽パターンにまでなっている。少し古い例では，旧制第一高等学校の寮歌《嗚呼(ああ)玉杯に花うけて》が，1904年(明治37)にできたときには長音階であったのに，大正末期にはヨナ抜き長音階となり，1935年にはヨナ抜き短音階へとしだいに変化を受けたことにも，この音階の歌いやすさが示されている。

しかし，歌謡曲を音階といった巨視的なわく組みで分析するだけでは十分ではない。それぞれの音がどのような機能を果たし，どのような関係にあるかを調べると，これ







歌謡曲 (左)明治末期から大正初期にかけてレコード・蓄音機の普及がみられ，浪花節・義太夫節・映画説明などが盛んにレコード化された。 (中)1914年(大正3)芸術座が上演した《復活》の舞台。右は松井須磨子。劇中歌《カチューシャの唄》は歌謡曲のはじまりとなった。 (右)今日，テレビの歌謡番組は最も人気のある番組の一つであり，歌謡曲の流行とこれらのマスメディアとは不可分の関係になっている

が伝統的な邦楽の音感とも密接な関係にあることがわかる。ヨナ抜きも含めて，歌謡曲に多い短調の曲を昭和に入ってからに限って調べてみると，すべてをハ短調になおした場合，譜例③のように，ド・ラ(ハ・変イ)と動くものが多い。この組み合わせそのものが西洋音楽には珍しいが，さらにド・ラがどこに進むかを調べると，ソ(ト)に動いて，ド・ラ・ソ(ハ・変イ・ト)と4度のわくをつくるものが9割にも及んでいる。この4度のわくこそ，邦楽が伝統的に使ってきたものであり，歌謡曲が西洋音楽と邦楽の双方を不可欠な要因にしていることが納得されよう。

〔歌詞の特徴〕 昭和の歌謡曲の歌詞は，明治時代の演歌とはことなり，特定の事件や状況に結びついているわけではない。しかし，諸外国の大衆歌謡と同じように，日本の歌謡曲も歌詞に紋切り型が多く，また聞き手がその歌詞内容に対して反応している場合も多い。

歌詞についての研究では，社会心理学者の見田宗介(そうすけ)が，明治から昭和38年までの曲の歌詞を，〈怒り〉〈かなしみ〉〈よろこび〉〈慕情〉といったモチーフの消長から調べている。また同じく社会心理学者の南博は，第2次世界大戦後5年間の流行曲をその主題に従って，①感傷，②退廃的なもの，③ロマンチックなもの，④楽天的なもの，ナンセンスものなどの4種に分けている。このうち最も多いのは全体(61曲)の約半数にあたる①で，以下，②，③，④の順になっている。ところが，同じ方法で1964年から5年間の流行曲110曲を調べた研究によると，グループ別の比率はほとんど変わっていない。一方，見田研究のように，モチーフを細かくとって調べると，明治から第2次世界大戦後にかけてはかなりはっきりした変化も見いだすことができる。たとえば，〈かなしみ〉の代表的語句である〈涙〉を含む曲が，明治から大正を経て，第2次世界大戦後で最も大きい比率を占めるという形で現われている。そして単位を20年くらいにとると，その中での変化が非常に少ないことが予測される。たとえば，TBS(東京放送)調査部は1967年度に流行した50曲の歌詞について，使用頻度(ひんど)の高い単語を用いて，次のような歌詞を合成している。〈あなたを恋した　わたしなの，愛しあった夜　涙のふたり　逢いたくて　泣けてきちゃうの，ひとりぼっちで　星に夢みる〉(下線のことばが頻度の高いもの)。

現実にわれわれが耳にしている曲を調べると，上の単語のどれかが含まれているようである。したがって，以上のような調査から，ある時期では歌詞が紋切り型になりやすいとはいえる。ただし最近では，歌詞が全体としての内容による興味深さを捨てて，むしろ単語のレベルで，特殊なかたかな書きされることばや特殊な発声といっしょになったものを強調する傾向がみられる。

〔最近の問題〕 日本の大衆的な芸術ジャンルの中には，第2次世界大戦を契機にして，すたれたり，聴衆が減少したものが多いが，歌謡曲はつねに新しい曲を生み出しながら，きわめて多くの人々に聞かれている。しかし新しい曲というのは，西洋音楽でいうような新しい様式による曲ではなく，同じような様式で，新しく発表された歌を意味することが多い。最近では，流行の期間が5～6か月と短くなっており，最も人気のある期間は1か月程度にすぎなくなっている。

新しさは，上述のように様式の新しさではなく，新しく発表されたことであるが，大きなわくを共通にもちながら，少しは実際の違いを出している点も見のがしてはならない。これは多くの場合，声の違い，ビブラートなど特殊な歌い方，テンポや音量の変化の調節，そして最近では歌手の容姿や表情や服装でもある。また，西洋音楽とは違って，歌謡曲は生の声で歌われることがないので，歌手としては，最小の声量の者でも職業歌手として活動していけるようになり，またテレビによる番組も，表情や身ぶりの設計を楽にした面がある。昭和初期の曲が，歌手を替えてふたたび歌われて流行することがある。このような現象も，様式の固定化と歌手によるわずかの変化という，この世界の特徴を考えれば，なんの抵抗もなく聞かれていることも納得できよう。

最近では，歌謡曲はラジオ・テレビなど公共放送を通してだけでなく，飲食店などの契約者に音楽を提供する有線放送，あるいは店内に置かれたジュークボックスによっても広く伝えられている。また自動車台数が増加したため，自動車の中で聞くラジオだけでなく，カーステレオとよばれる小形テープレコーダー用に録音されたテープも発売されていて，容易に聞くことができるようになっている。

こうした状況に応じて，歌詞の内容にも反応するかつての聴衆や，自己の体験を重ねることによって自叙伝的に聞こうとする軍歌ファンなどとともに，拍のはっきりした新しい形の曲を身体反応によって処理している若い層も生まれている。このような傾向から，今後は〈しんみりした〉感じのない歌謡曲が多くなることも考えられる。

〔徳丸吉彦〕

からかみ　【唐紙】　古くは中国から輸入された紙をすべて唐紙といっていたが，のちには版木で文様を刷って表わした紙をいうようになった。紙に胡粉(ごふん)を塗り(具引きをして)，その上にウンモで文様を刷る。また，逆に紙にウンモを塗り(きら引きをして)，その上に胡粉で文様を刷る。平安時代の中ごろより中国から輸入され，おもに書の料紙，ふすま紙として用いられた。のちにはわが国でもつくられた。

カラカラ　［Caracalla］　(188～217)　ローマ皇帝。在位211～217年。本名マルクス-アウレリウス-セウェルス-アントニヌスで，カラカラは愛用した着衣の名称からの異名。共同統治者である弟ゲタを暗殺し，独裁権を獲得した。ローマ帝国内の全自由民に市民権を与え，租税を徴収した。悪徳高く暴君だったが，カラカラ浴場*や父セウェルス帝のための凱旋門(がいせんもん)などの建築を残した。パルチア遠征の途中暗殺された。

ガラガラ　玩具・楽器の一。体鳴楽器*の代表的なもので，世界じゅうにいろいろな形で分布する。柄のついた器の中に小石や木の実などを入れて振り，音を出す。器の材料は各地区で手に入れやすいものを使う。ハワイのウリーウリー*やラテンアメリカのマラカス*はひょうたん，アメリカ-インディアンではシカなどの動物の皮を固くしたものを用いている。玩具としてはセルロイド・木・紙などで作られたものが多い。

ガラガラへび　【ガラガラ蛇】　爬虫(はちゅう)類・クサリヘビ科・マムシ亜科。北アメリカから南アメリカにかけて分布する一群の毒蛇。危険が近づくと，尾部を激しく振動させて，シャーッという音をたてるので有名。これは，脱皮のときに尾端の部分が残り，さや状となった特別な構造が，発音器官となったものである。最も大きいものはダイヤモンドガラガラヘビの2.5mで，毒性が強く被害が多い。砂漠(さばく)にすむサイドワインダーは，すべりやすい砂の上を特殊な横ばい運動をして進む。〔松井孝爾〕

カラカラよくじょう　【カラカラ浴場】　3世紀初め，ローマ皇帝カラカラ*が建設した大浴場。ギリシアのギムナシオン形式を発展させた建築様式といわれる。体育場・図書館・諸娯楽施設を備え，数千人が入場できる壮大な規模で，コロセウム*同様，人心を掌握する上で大きな役割を果たした。

カラカルパク(自治共和国)　［Karakalpakskaya A.S.S.R］　ソビエト連邦西南部，ウズベク共和国内の自治共和国。アラル海南半，アムダリア川下流域にある。面積16万5,000km²。人口70万2,000(1970)。主都ヌクス。住民はカラカルパク人(35%)のほか，ウズベク人・カザフ人・ロシア人などが住んでいる。地域は全般に砂漠(さばく)ないし半砂漠で，西はウスチマルト高原，東はキジルクム砂漠に接し，その間にアムダリア川の三角州が開ける。産業は大規模な灌漑(かんがい)による農業がアムダリア川流域を主に行なわれている。綿花・米・トウモロコシ・果実などを産し，養蚕も行なわれている。またアストラカン*として知られる毛皮をつくるカラクルラムのほかラクダ・ウシを飼育し，ジャコウネズミ・キツネなどの高級毛皮の特産もある。小規模ながらアラル海の漁業も知られている。石材・リン鉱・非鉄金属などを産し，繊維(綿・絹・羊毛)，水産物加工などの工業が行なわれている。19世紀後半にロシア領となり，1925年，当時のカザフ自治共和国内の自治州となった。1932年ロシア連邦共和国内の自治共和国を経て，1936年からウズベク共和国に属している。〔斎藤晨二〕

カラガンダ　［Karaganda］　ソビエト連邦カザフ共和国のアルマータに次ぐ第2の都市。人口54万1,000(1972)。カザフスタン丘陵に位置し，ペトロパブロフスクとバルハシを結ぶ鉄道に沿う。市は埋蔵量12億tといわれるカラガンダ炭田の開発とともにその中心都市として発展し，人口も激増した。カラガンダ炭田はその面積3,000km²，その厚さ1～7mの炭層をもち，ドネツ・クズネツクに次ぐソ連第3の大炭田である。火力・水力発電所をもち，鉱山機械・冶金(やきん)・製粉などの工場の立ち並ぶ大工業都市である。〔斎藤晨二〕

カラ-カンちょう　【カラ-カン朝】　中央アジアのトルコ系の王朝(940？～1132)。イレク-カン朝ともいう。始祖サトク-ボグラ-カンがイスラム教に改宗し，中央アジアのイスラム化のもとを開いた。999年4代イレク-カンがガズニ朝*と結んでサーマン朝*を滅ぼし，ブハラに都し，西トルキスタンを中心に，東トルキスタンの一部にもまたがる大帝国を建てたが，1047年パミール高原を中心に東西に分裂。東カラ-カン国は最初ベラサグン，のちカシュガルを中心として支配したが，1132年カラ-キタイ朝*(西遼(せいりょう))に滅ぼされ，一方，サマルカンドを中心として支配した西カラ-カン国は1212年コラズム-シャー朝に滅ぼされた。〔若松　寛〕

カラ-キタイちょう　【カラ-キタイ朝】　遼(りょう)の滅亡に際し，一族の耶律大石(やりつだいせき)が西方にのがれ，のち東カラ-カン国(→カラ-カン朝)を滅ぼして中央アジアのチュー河畔のベラサグン*に建てた国(1132～1211)。中国では西遼(せいりょう)，イスラム教徒はカラ-キタイとよぶ。3代80余年間続いたのち，1211年ジンギス汗に追われたナイマン部族のクチュルク汗に滅ぼされた。

からぎぬ　【唐衣】　平安時代以後の女官の正装である女房装束*(裳(も)唐衣姿)の最上衣。幅の狭いそでを付けた上半身衣。えりを返して着用していたが，平安後期，鎌倉時代には肩を脱いで着用した。位階*によって地質や色・文様に区別があり，一般の人は赤色・青色を禁色(きんじき)として禁ぜられた。

からくさもん　【唐草文】　主として植物のつるを媒体にした文様。大別して，花を

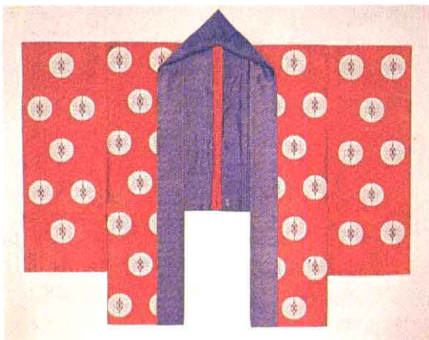


ガラガラヘビ





カラカラ浴場
(左)遺跡　(右)内部壁面を飾っていたモザイク



唐　衣

表わさず線のみで構成した蔓(つる)唐草文と，花を中心としてつるを出した蓮(はす)唐草文など，または両者を交互に扱ったものがある。ふつう，文様を縦横，さらに四方に連続させる場合，自然に唐草文の様式が生まれてくる。これは唐草文の愛用されたゆえんを物語る。この文様の分布は古代エジプトからローマに及んでいる。

がらくたぶんこ 【我楽多文庫】 硯友社*(けんゆうしゃ)の機関誌で，わが国初の文芸同人誌。1885年(明治18)5月～1889年10月。尾崎紅葉*・山田美妙*・石橋思案・丸岡九華らが筆写回覧雑誌として始め，9号から活版となり16号までは非売本。その後公刊発売となったが，その際改めて1号を出し，17号から《文庫》と改題して27号で廃刊した。紅葉の処女作《江嶋土産滑稽貝屏風(えのしまみやげこっけいかいびょうぶ)》や美妙の処女作《竪琴(たてごと)草紙》などは筆写版に発表された。〔江種満子〕

ガラクトース ［galactose］ $C_6H_{12}O_6$ アルデヒド基をもつ六炭糖すなわちアルドヘキソースの一種。脳糖ともいわれる。甘みはブドウ糖より弱い。天然には遊離のものはなく，乳糖(ラクトース)・メリビオース・ラフィノース・寒天・アラビアゴムなどの構成成分として存在する。動物界にも広く存在し，ことに脳や神経組織に糖脂質として多く含まれている。

カラクム(砂漠) ［Kara-Kum］ ソビエト連邦南部，トルクメン共和国の大部分を占める砂漠(さばく)で，アラル海の南岸に広がる。面積約30万km²。年降水量はアシハバードで210mm，その半分は春に降る。ヒツジ・ラクダの放牧用の井戸がいたる所に掘られている。砂漠南部に灌漑(かんがい)のためアムダリア川から引かれたカラクム運河が建設された。

からこいせき 【唐古遺跡】 奈良県磯城(しき)郡田原本町唐古にある弥生(やよい)時代の遺跡。1937年(昭和12)京都大学・奈良県の共同調査で，土器・磨製石器・銅鏃(どうぞく)をはじめ多くの弥生時代の遺物を発掘した。ことに遺跡の中心部にあたる唐古池の池底からは100余の竪穴(たてあな)住居*の跡が発見され，木鍬(きくわ)・きねなどの農具の出土とあわせて，農耕集落の遺跡であることが明らかにされた。この発掘によって学説として提示されていた弥生文化*と農耕生活との関係が真の姿として確かめられた。〔高崎徳次〕

カラ-コージョ 【喀喇和卓】 中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区のツルファン盆地に残っている廃都。5～7世紀，漢人系植民国家〈高昌国〉の国都として栄え，その後ウイグル人に占拠され，15世紀以後すたれた。20世紀にはいって考古学的調査で有名。

カラコラム (山脈) ［Karakoram］ インド北西部のカシミール地方と中華人民共和国の境界をなす山脈。パミール高原の南端から南東方向に延び，インダス川を隔ててヒマラヤ山脈と肩を並べるアジアの屋根の一部である。長さ約500km，幅約80kmに及び，エベレスト・カンチェンジュンガに次ぐ世界第3の高峰ゴドウィン-オースチン山(K_2峰)の8,611mをはじめ，ガッシャーブルム第1峰(8,068m)・ブロードピーク(8,051m)・ガッシャーブルム第2峰(8,035m)と，8,000m以上の高峰だけでも4座を数え，6,600m以上の高山は60余もある。多量の降雪と高地のために氷河が著しく発達して高度3,000mまで流下し，南北両極に続く第3の極地ともいわれる。特にインダス川の源流シアチェン氷河は長さ約75km，幅約4kmで，極地外氷河としてはソ連のフェドチェンコ氷河に次ぐ規模のものである。山間の住民は氷河の融水を砂漠(さばく)にひき，灌漑(かんがい)を行なっている。主作物は小麦であるが，アンズなども産し，また牧畜も移牧*の形をとって行なわれている。山脈の北側は中国の新疆(しんきょう)ウイグル自治区であり，古くから隊商路として有名なミンタカ峠やカラコラム峠がある。インドのカシミール地方からモンゴル中央部の古都カラコルム*への道という意味から峠の名となり，さらに山脈の名となった。〔大石堪山〕



唐草文 《宝相華唐草透彫華籠》 神照寺蔵



我楽多文庫 (公刊発売本)
(左)2号(1888年6月)(右)10号(1888年10月)

カラコルム ［Karakorum］ モンゴル人民共和国のほぼ中央に残っているモンゴル帝国の旧都で，オルコン川上流右岸に遺跡が残っている。北緯47°，東経103°。ジンギス汗時代にはまだ首都はテント集団であったが，国勢の発展に伴って，1235年後継者オゴタイ汗がこの地に新しい都城をつくった。都城の周囲は約3.5kmあり，城内の宮殿には中国ふうの万安宮とイランふうのケケチャガンの二つがあった。また，商人の多いサラセン人の居住区と，工匠の多い中国人の居住区に分かれていたという。各国の技術者がこの都を訪れ，当時の世界帝国の首都にふさわしい繁栄を示していたといわれる。オゴタイ・グユク・メンゲの3代にわたりモンゴル帝国の首都であったが，フビライの時代(1260)に，都が大都(現在の北京(ペキン))に移されてからは単なる地方行政の中心となり，まもなく廃墟(はいきょ)と化してしまった。〔別技篤彦〕

からごろもきっしゅう 【唐衣橘洲】 (1743～1802) 江戸中期の文人・狂歌師。江戸の生まれ。本名小島源之助。友人四方赤良(よものあから)(蜀山人*(しょくさんじん))・朱楽菅江*(あけらかんこう)らとともに狂歌会を始め，天明調狂歌のきっかけをつくり，狂歌三大家とよばれた。酔竹社を主宰し，多くの門人をもった。編著に《狂歌若葉集》《名和十五番狂歌合》など。作風は平明・温雅であったが，名声は赤良に及ばなかった。

カラーコンディショニング ⇨色彩調節

からし 【芥子】 カラシナ*の種を粉末にした香辛料。そのままでは辛くないが，水を加えて練ると，酵素が働いて辛味成分が生成され辛味を生ずる。日本からしは種子をかわかさずに粉末にしたもので，あくが強く，茶飲み茶わんなどでとき，上に和紙をおおって中央をくぼめ，水を少量たらしたところへ炭火を瞬間的に入れてあく抜きをする。西洋からし(白からし)は種子をかわかしてから粉末にする。カレー粉・粉わさびに加えるほか，水または酢で練って調味料として広く使用する。また，からしづけ*の原料として広く使用される。〔佐藤友太郎〕

カラジアーレ ［Ion Luca Caragiale］ (1852～1912) ルーマニアの劇作家。ジャーナリストとして働くかたわら，多くの風刺的コント・短編小説を発表，のちにデマゴギーと買収に終始するブルジョア社会での選挙を，辛辣(しんらつ)な風刺の対象とした喜劇《失われた手紙》によって一躍有名になった。さらに続く数編の喜劇作品によってリアリズム劇文学の伝統を確立したが，彼の鋭い社会批判に対する弾圧が強まり，自発的にベルリンへ亡命，客死した。1907年の農民一揆(いっき)にはパンフレットを送り，政府の弾圧に抗議した。〔直野 敦〕

からしいろ 【芥子色】 色名。からしのような色。鈍い黄色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈カラシ色〉は，色相3.5Y，明度7.0，彩度6.0と規定されている。➔色



カラジウム　白さぎとよばれる品種で，白色地に緑色の脈が美しい

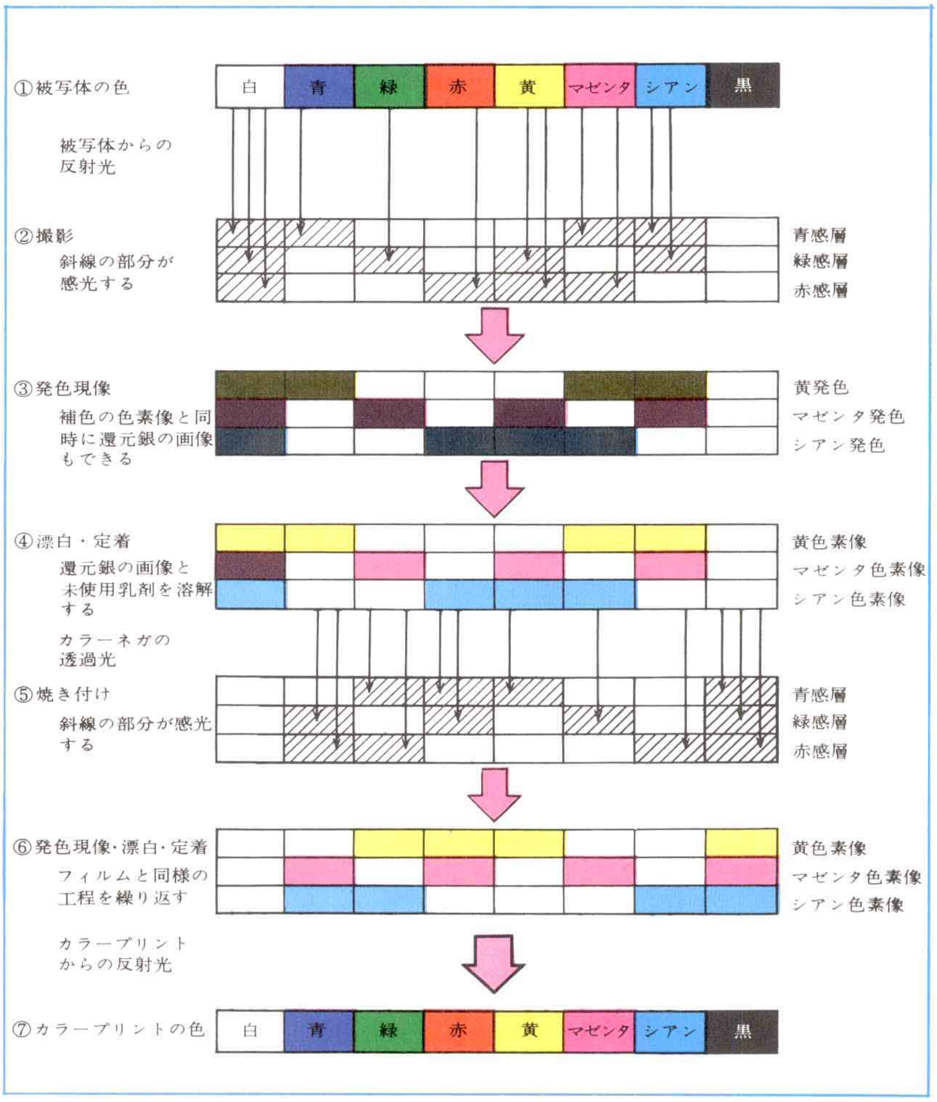
カラジウム ［*Caladium*］ 単子葉植物・サトイモ科の一属名。熱帯アメリカに10数種分布する。サトイモによく似ていて，葉は有柄の長楕円(ちょうだえん)状卵形または長楕円形で長さ5～7cm，赤・白・緑などの美しい斑(ふ)がはいり，地下には塊茎がある。はち植えとして温室で栽培され，夏の室内を飾るのに用いられている。極小形の種類もある。熱帯植物であるため生育には高温を必要とし，球根養成は八丈島などで行なわれている。早春，砂を入れた平箱に塊茎を植え込んで温室に入れ，十分灌水(かんすい)すると発芽する。これをはちに植えて栽培する。〔小杉　清〕

からしづけ【芥子漬け】 野菜類をからしにつけたもの。からし粉のぴりっとした風味を賞するもので，ナスのからしづけが代表的であるが，ほかにキュウリ・カブ・ニンジン・ハツカダイコンなども用いる。

からしな【芥子菜】 双子葉植物・アブラナ科の一年生草本。植物体に辛味成分を有するのが特徴で，植物の形態は他のアブラナ科のものと変わりないが，種類はきわめて多く，葉の大きさや形も多様である。花は黄色で，種子はかっ色。中国での栽培の歴史は古く，わが国へも中国から渡来したものがおもに栽培されている。ふつうカラシナというのは高さ1m以上に達する葉カラシナをさすが，広くはタカ菜・広島菜・カツオ菜・青菜・山塩菜なども含めている。秋の栽培が多く，つけ物に利用される。また，種子を粉末にしてからしをつくる。

ガラシヤ ⇨細川ガラシヤ

カラーしゃしん【カラー写真】 白色である太陽光がにじの7色に分かれることは広く知られているが，可視光のスペクトルは3分割すると青（B，4,000～5,000Å〔オングストローム〕），緑（G,5,000～6,000Å），赤（R，6,000～7,000Å）となり，この3色光を同量合成すると白色光になる。また，黄（Y，マイナス青），マゼンタ（赤紫，M，マイナス緑），シアン（青緑，C，マイナス赤）の3色素は同量混合すれば黒となる。このBGR，YMC 3色の組み合わせをそれぞれ第1・第2三原色というが，この原理を利用して被写体の色再現を行なおうとするのがカラー写真である。



カラー写真　図-1　ネガカラーの色再現

カラー写真をつくるためには，必ずしもカラーフィルムは必要ではない。BGR 3枚のフィルターを使って同じ被写体を3回撮影し，3枚の黒白ポジスライドをつくる。これを3台の映写機にかけて，撮影に使ったと同じ色フィルターを通して同一スクリーン上に投影すれば被写体と同じ色彩が再現される。この実験は1861年，J. C. マクスウェルがはじめて行なった。1869年にはL. D. ド-オーロンが黒白ポジではなく，撮影フィルターとは補色の関係にあるYMCの色ポジ像とし，3枚のポジ像を重ねて観賞する方法を提案した。それぞれ加色法と減色法のカラー写真のはじめである。

しかし，この方法ではまったく同じ状態で3回の分解撮影を行なわないと，画像にズレを生じるため，動きのある被写体では撮影不能となる。そこで半透明鏡を組み込んで3色分解撮影が1回の露光でできるワンショット-カメラも考案された。また，乾板の側では1枚で色再現ができるモザイク-スクリーン法やレンチキュラー法なども開発された。しかし1935年，アメリカのイーストマン-コダック社が発表したコダクローム法によって，現在のカラー写真のほとんどは多層式発色フィルムを使うようになった。この方式については発明者のL. マンネスとL. ゴドウスキーが，コダック社の100万ドル懸賞に応募したものという説もある。

多層式発色フィルムには，その名のように乳剤の多層塗布と発色現像の二つのアイデアが柱となっている。多層塗布は1枚のフィルムベースに3種の乳剤層を塗布したもので，各層の感色性の差によって3色分解を自動的に行なう。第1層はハロゲン化銀固有の感色性のままのレギュラー乳剤で，5,000Åまでの青色光を記録する。第2層は6,000Åまでに色増感されたオーソクロマチック乳剤を使って緑色光を記録するが，これには青感性もあるため，第1層の下側に現像で脱色される黄フィルター層を塗布して5,000Å以下の波長光が第2・第3層に達しないようにカットしている。第3層には7,000Åまでの感色性のあるパンクロマチック乳剤を塗布し，赤色光の記録を担当する。このように第3層はいくつもの層を通過し

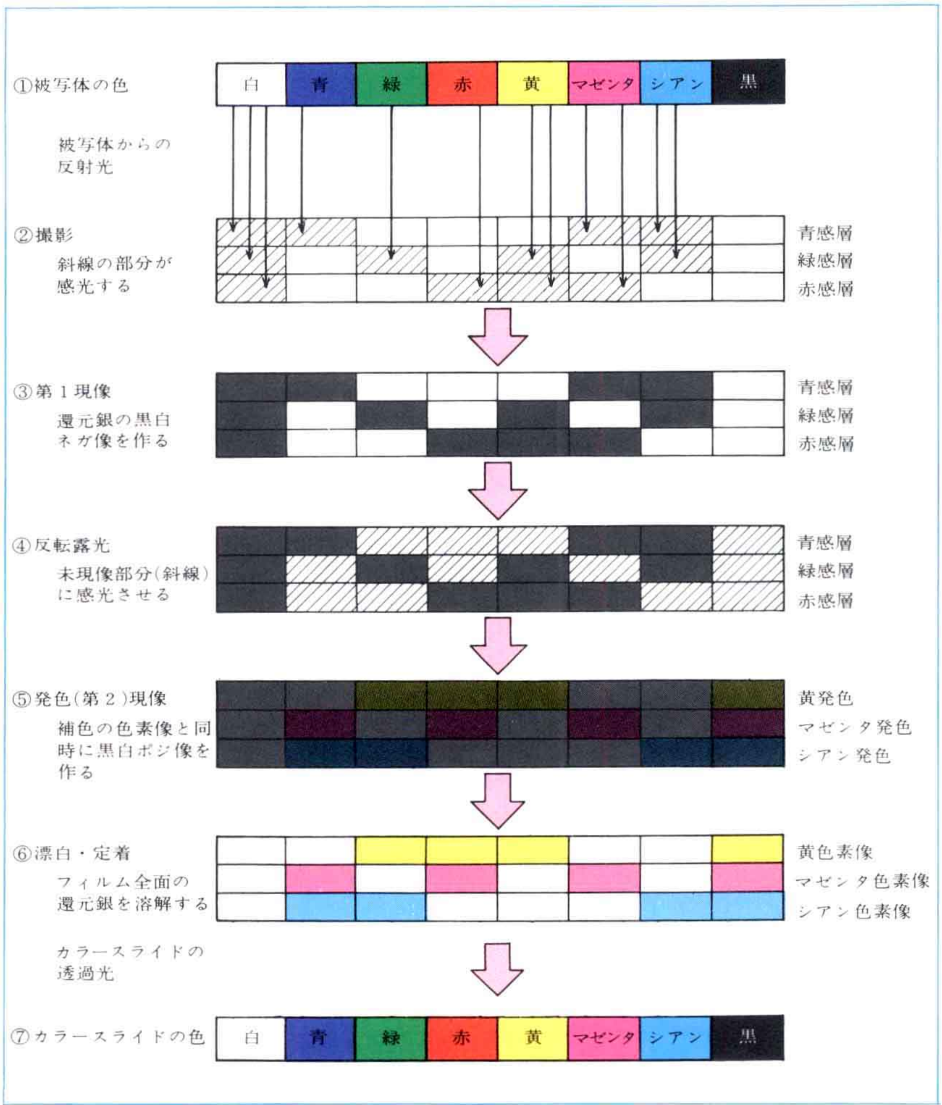


図-2　リバーサルカラーの色再現

た光に感じる必要があるため多層式カラーフィルムの感光度は，初期の段階ではASA*10程度しかなかった。しかし現在ではASA64～100と黒白フィルム並みとなり，ASA500という高感度カラーフィルムも誕生している。

写真フィルムはハロゲン化銀の感光性を利用したもので，現像主薬によって還元すれば黒化銀となる。カラー写真はこれを色像に置換する必要があるが，まえに書いた色フィルターによる方法のほかに，金属調色法や色素転染法などが初期のカラー写真では使われた。発色現像はこれとまったく違う考え方で，現像という過程は現像主薬の側からみればハロゲン化銀によって酸化されることになる。したがって酸化生成物が色素になる現像主薬を選べば，直接的に色素像が現像によって得られることになる。しかし，実用化するためにはカプラーという，もう1段階進んだアイデアが必要であった。酸化生成物が直接色素となるのではなく，それと結合して色素となる有機化合物がカプラーである。コダクローム法では3

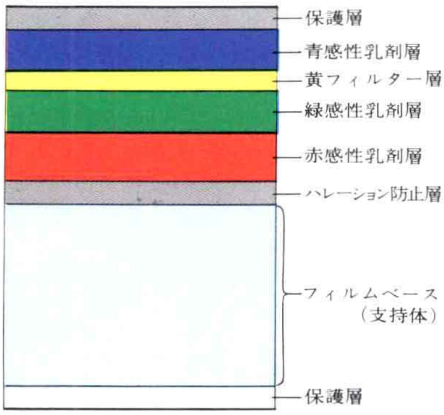


図-3　カラーフィルムの構造

層を単独に現像する方式なので，カプラーは各色用の現像液中に添加される外式発色現像だったが，現在では乳剤内に塗布される内式発色現像がほとんどとなっている。この方式ならば1回の発色現像ですむが，他の乳剤層に転移しない大形の不拡散カプラーを使う必要がある。疑似カラーといわれる赤外カラーフィルムも，乳剤の感色性とカプラーの種類が異なるだけで，構造は一般のカラーフィルムと同じである。

【カラーフィルムの色再現】 カラーフィルムには黒白写真と同様に，ネガフィルム――ポジ印画となるネガカラーと，直接スライドフィルムとなるリバーサルカラーとがあるが，その色再現の理論は変わりがない。

ネガカラーの場合(図-1参照)，被写体の色彩によって3層が選択されて感光するが，発色現像でその個所に補色の色素像(ネガ)と，黒化銀のネガ像とができる。漂白によって黒化銀だけをハロゲン化銀にもどし，定着によってフィルム全面のハロゲン化銀を溶解すれば，色素のネガ像だけがフィルムに残る。このカラーネガから同じ構造のカラー印画紙に焼き付け，同様に発色現像・漂白・定着をすることによって印画紙上に色素によるポジ像が得られる。これがカラープリントである。現在市販されているネガカラーは，現像後オレンジ色に見えるが，これは有色カプラーを使ってマスキングを行なっているからである。各色素には不必要な波長吸収特性があるため，これを補正する目的でマゼンタカプラーは黄，シアンカプラーはピンクに着色されたものを使っている。このオートマスキング-カラーフィルムはカラープリントの色の純度を高めるので各社とも採用している。

リバーサルカラーは(図-2参照)，元来ネガ像となるフィルムをポジ像にするため反転現像(→現像処理)という特殊な現像法を採用する。撮影後のフィルムはまず第1現像で黒白ネガ像にする。この部分は感光性を失うが，未現像の乳剤に対して反転露出(撮影に対比して第2露光ともいう)を与える。ここで発色現像(第2現像)をすると，残りの乳剤が黒化銀になると同時に色素によるポジ像がつくられる。あとはネガカラー同様に漂白・定着によって銀を取り除けば色素によるポジ像だけが透明なフィルム面上に残る。

外式反転フィルムでは1層ずつ単色光で反転露光・発色現像をくり返さなければならないが，内式反転フィルムは白色光で露光し，発色現像するだけでよい。さらに，発色現像液内にカブリ剤を加えて反転露光を不要としたコダック-エクタクロームE-4プロセスもある。

ネガカラーはプリントの際に色補正フィルターで調節することができ，被写体の照明光源の色を考慮する必要がない。また，黒白写真同様にいつでも観賞できるため，現在ではアマチュア用のカラー写真のほとんどはネガカラーによっている。一方，リバーサルカラーは色温度変換フィルターで光源の色を撮影時に調節しなければならず，また露光のラチチュード(幅)はネガカラーに比べて狭い。透明陽画なので観賞にはスライド映写機やライトテーブルを必要とす

るなどの難点があるが，再現の色純度が高く，カラープリントと違って撮影結果が一定などの理由からプロ写真家に多く利用されている。〔新川幸信〕

からす［鳥・鴉］鳥類・カラス科の総称。小鳥類としては中形～大形で，くちばしと足のじょうぶな雑食性のグループ。約100種が全世界に分布し，日本には10種を産する。この類は，主として大形で全身黒色または黒に白・灰・茶のまだらを有するグループと，主として中形で尾が長く種によってははでな色をしているグループとにおおよそ分けられるが，ふつうカラスとよばれるのはこの前者である。南アメリカとニュージーランドを除く全世界に約35種が分布している。日本からは5種が記録されているが，ハシブトガラスとハシボソガラスの2種が最も普通で，全国各地にみられる。ハシブトガラスは全長約56cm，ハシボソガラス約50cmで，くちばしの相対的な大きさも異なる。ふつう，この2種を合わせてカラスとよぶことが多い。〔浦本昌紀〕





カラス
(上)ハシボソガラス
(下)ハシブトガラス

カラス［Maria Callas］(1923～1977) ソプラノ歌手。ギリシア人を両親にニューヨークに生まれ，アテネ音楽院でヒダルゴに学んだ。15歳でアテネ歌劇場でデビューし，第2次世界大戦後は全ヨーロッパの歌劇場で活躍した。1956年メトロポリタン歌劇場に出演したとき，その出演料は史上空前の高額なものだったという。すぐれた歌唱・演技と美貌(びぼう)の三拍子そろったプリマ-ドンナである。

ガラス［glass］学術的には，ガラスとは液態，あるいは気態の物質が冷却して固態となるとき，構成分子または原子が規則正しい結晶の配列をせずに，不規則のままで固化したもの，またはその状態をいう。したがって，高分子物質で，結晶配列をとりにくいものは有機物・無機物ともにガラスとなりやすく，また冷却速度を高めることにより，さらに広範な物質がガラスになる。

〔歴史〕有史以前から，天然産のガラスであるコクヨウ石が，その鋭くかたい先端と美しい光沢で，矢鏃(やじり)・ナイフ・飾りなどとして用いられた。人工的にガラスをつくりはじめたのはエジプトの古代王朝時代といわれ，タイルの釉(うわぐすり)などに使われたのがはじまりである。のちにガラス器がつくられるようになったが，その成形法はなわを棒に巻きつけて原形をつくり，粘土を塗りつけて固めたものの上に，あめのように長く伸ばしたガラスをまきつける方法であった。ガラス素地をふくらませる成形法は約2,000年前に始まり，のちヨーロッパを中心としてめざましい発展を遂げた。日本には300年ごろ中国大陸から渡来し，701年(大宝1)にはまがたまやガラス玉がつくられていたようである。

〔製造法〕現在，実用に供されているおもなガラスの化学組成は付表のようである。これらの主成分は二酸化ケイ素SiO_2で，原料として上質のものはケイ石，普通にはケイ砂を用いる。軟質ガラスでは，酸化ナトリウムNa_2Oとしてソーダ灰(炭酸ソーダ)，酸化カルシウムCaOとして石灰石などを混じた粉末原料(バッチという)を，くずガラスとともに1,400～1,500℃の高温で溶解する。光学ガラスでは内容数百キロの白金るつぼを用いることがあるが，通常の人工成形には耐火粘土製のものが用いられ，びんや板ガラスを自動成形機でつくる場合には内容数十トンから1,000tを越える耐火レンガ製のタンクがまが利用されている。るつぼの場合には，よくとけたガラスを900～1,000℃ぐらいにさまし，中空の鉄棒の先にガラスをつけ，口で吹いてふくらませ，まるめたり，はさみで切ったり，伸ばしたりして仕上げる。タンクがまでは，バッチを溶解する部分と，それを成形に適する温度まで冷却する部分と連続していて，操業は2～3年は休まず続けるのが普通である。多くのガラス製品は成形されたのち，急冷による破壊を避けるために，さましがまに入れて徐々に冷却してから必要な加工を施す。

〔性質〕一般に透明でかたく，電気の絶縁体で，水や薬品に侵されにくい。学術的には非結晶質等方体で，溶融状態から常温までの間に粘度(ポイズ)が10^{20}倍も連続的に変わり，化学的には周期率表上のほとんどあらゆる元素を容易に含有でき，化学組成を連続的に変えられるなどの特徴がある。細い線や薄い膜などの成形が容易であること，成形速度が大きいことは材料として有利である。

〔種類と用途〕最も一般的で生産量の多いのは軟質ガラス*で，製造・成形ともに容易だが，欠点として熱膨張係数が高い(100×10^{-7}/℃)ので急熱・急冷によって割れやすく，化学薬品にも耐久性が高くない。これに対して硬質ガラス*は低膨張($30\sim50\times10^{-7}$/℃)で，じか火で使える調理用具や理化学用器・アンプルなどにも広く利用されている。ガラスの種類を用途別に列挙すると，板ガラス・びんガラス・管球ガラス・理化学用ガラス・電気用ガラス・ガラス繊維*・光学ガラス*・工芸ガラス*・色ガラス*・フィルター-ガラス*・あわガラス・グラス-ライニング・医療用ガラス・結晶化ガラス*・特殊ガラスなどがある。このうち，管球ガラスは電球・真空管などに用いられるもの，理化学用ガラスは硬質ガラスで，フラスコ・ビーカー・温度計などに用いるものである。また微細な無数のあわを含んだあわガラス

おもなガラスの化学組成

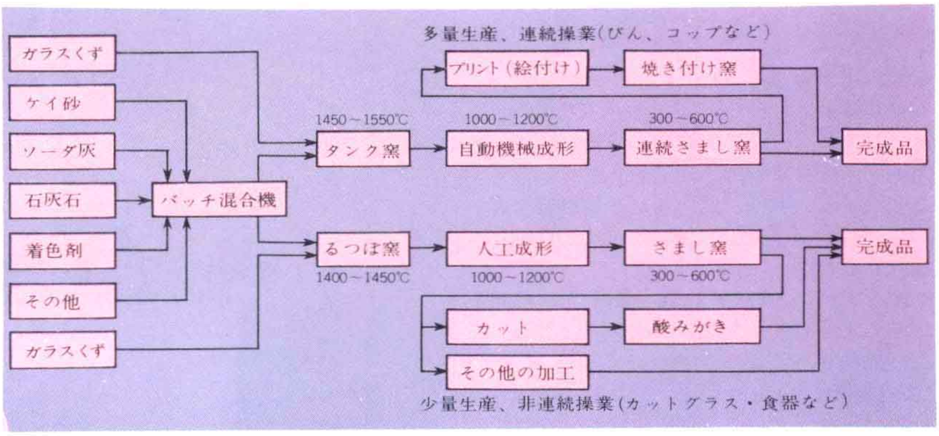
(重量パーセント)

種類	SiO_2	B_2O_3	Al_2O_3	PbO	CaO		Na_2O	K_2O	備考
軟質ガラス(ソーダ石灰ガラス)	70～74		1～2		5～12	(MgO) 0～5	13～17		最も一般的。板・びん・食器その他。熱膨張高く，熱に弱い
鉛ガラス	55～57		～1	20～32			11～20		電気用。高抵抗。電球・管・ステムなど
鉛ガラス	30～52			35～65		(As_2O_3) 0～5	4～10		光学・工芸用。高屈折率・高分散。フリント・クリスタルなど
硬質ガラス(ホウケイ酸ガラス)	65～85	10～15	1～4				5～10		理化学用・調理用・付着用。低膨張・耐熱・化学的耐久性
超耐熱性ガラス(アルミノケイ酸塩ガラス)	50～55	0～5	20～25		7～15	(P_2O_5) 0～5			耐熱性最大。転移点，800℃くらいまで

は，比重0.13～0.16できわめて軽く，のこぎりで切ることができ，断熱・防音などに用いられている。特殊なものに結晶化ガラスがある。これは400℃ぐらいでとけ，しかもそのまま結晶化するとガラスよりもはるかに強固になるので，カラーテレビのブラウン管を接合する結晶化ガラス-セメントとして利用される。また感光性ガラスは，光をあてたところだけ熱処理によって微結晶が析出して白色になるから，永久保存の写真にも利用できる。なお，同じ微結晶でも，感光性のハロゲン化銀が含まれていて，光があたっているときだけ着色するフォトクロミックガラス*がある。

電気的な方面では，バナジウムなどを含んだ電導性をもつ半導性ガラスがあり，表面に透明な電導膜をもった電導ガラス，酸性・アルカリ性をはかるガラス電極がある。放射線関係では，線量計ガラス，放射線があたっても着色しないセリウムを含んだ放射線遮断(しゃだん)ガラス，酸化リチウム・酸化ベリリウム・酸化ホウ素を主成分とするX線透過ガラス，酸化カドミウムを多量に含んだ中性子線遮断ガラス，放射線があたると螢光(けいこう)を発するシンチレーター-ガラスなどがある。光学に利用されるものとしては，ネオジウムなどを含み，レーザー光線を発するレーザー-ガラスがあり，またレーザー光線を自由に曲げて伝えることができる収束性光伝送ガラス繊維もある。この特別なガラス繊維は中心部から外側へかけて屈折率が連続的に低くなっているため，多数の凸(とつ)レンズを重ねたのと同じ光学的性質をもっており，適当に短く切ると，きわめて小さなレンズの役目をする。

以上は，すべて酸化物を主成分としたガラスであるが，イオウ・セレン・テルルなどのカルコゲン元素とヒ素・タリウム・ハロゲンなどの元素の数種だけを成分としたものにカルコゲン系ガラスがあり，これは普通のガラスと異なって，ものによっては波長25μくらいの赤外部の光まで透過する能力をもち，特殊な光学的用途がある。このように工芸品や容器として発展してきたガラスは，最近では特別な機能をそなえたものが数多く開発され，一種の機能的な材料として再認識されるようになった。この場合，ガラスはその化学組成を連続的に変え，また現存するほとんどあらゆる元素をとかしこむことができるという特異な性質が，その自由な加工性とともに高く評価されている。〔境野照雄〕

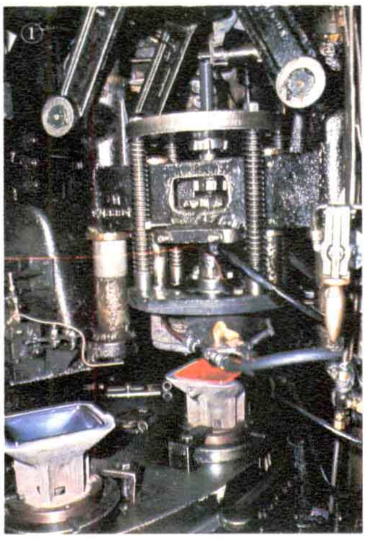


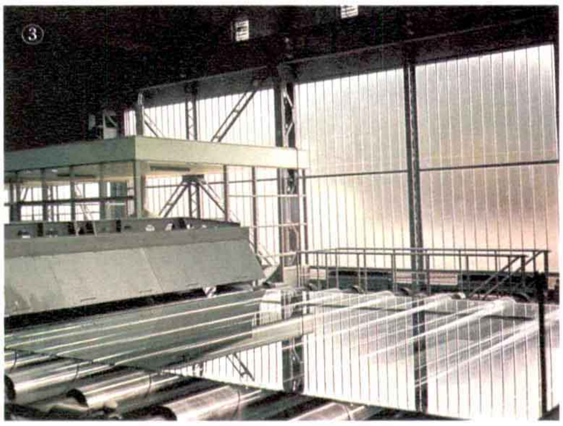
ガラス製造工程の流れ

ガラス

①ブラウン管のファンネル成形
②ロールアウト式製板機から送り出される型板ガラス
③徐冷窯を通って流れてくるフロート板ガラス







からすあげは　【烏揚羽】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ80～135mm。体は黒色，翅の地色は黒色，金属光沢のある緑色ないし青藍(せいらん)色の鱗粉を密布する。雄では，第1～4脈上に黒色ビロード様の特殊な鱗粉（発香鱗という）を密布し，後翅外縁部には金属色鱗粉を欠き，後翅の各室端に青色の三日月状斑紋(はんもん)がある。雌は，前翅のビロード様の黒色鱗粉を欠き，後翅の各室端には赤色の三日月状斑紋がある。ふつう年2回発生し，春型は小形で4～6月，夏型は大形で8～9月に出現する。日本全土に分布する普通種で，ツツジ・オニユリ・ヤブガラシ・アザミ・クサギなどの花に好んで飛来し，また山間の溪流(けいりゅう)や湿地に多数の個体が集まって吸水しているのがしばしば観察される。幼虫は，カラタチ・サンショウ・キハダなど野生のミカン類の葉を食べる。また，本種に酷似しているミヤマカラスアゲハは，翅を広げた長さ130mm内外，表面外縁に近く前後翅を通じて太く明瞭(めいりょう)な青緑色の横帯があり，裏面にも外縁に近く明瞭な灰白色横帯があるため区別できる。➔アゲハチョウ〔鈴木邦雄〕

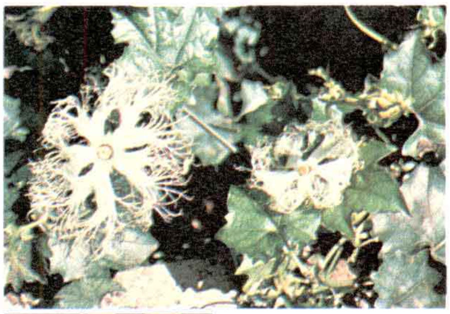
からすうり　【烏瓜】　双子葉植物・ウリ科。山・やぶに多い多年生のつる草。根はいも状。茎は細長く，巻きひげで他の植物にからむ。葉は広い心臓形で浅い切れ込みがある。雌雄が別の株で，夏の夕方，花びらの縁が糸状に切れた白色の花をつける。果実は5～7cmで赤熟する。種子の形はカマキリの顔に似る。根を土瓜根(どかこん)，果実を土瓜実，種子を王瓜仁(おうかにん)といい，漢方で用いられる。根は多量のデンプンを含み,漢方では利尿・浄血薬とされる。カラスウリの仲間に果実が熟すると黄色になるキカラスウリと，果実の長さ7cmでカラスウリよりも大きく，朱赤色に熟すオオカラスウリがある。キカラスウリの根は(局方ではオオカラスウリを含む)括楼根(かろこん)といい，解熱・利尿・催乳・鎮咳(ちんがい)薬と

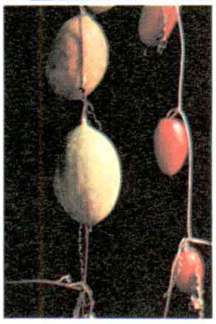
して用いられる。また，栝楼根からとったデンプンは天瓜粉(てんかふん)といい，汗知らずなどに用いられる。〔小清水義隆〕

ガラスえ【ガラス絵】ガラスの裏側に彩色して描いた絵。普通の彩色画とは逆に，仕上げにあたる細部の描写から始め，背景を描いて完成する。西洋で18～19世紀に発達し，わが国では中国に学んで江戸時代に試みられている。

からすがい【烏貝】軟体動物・二枚貝類・イシガイ科。殻長(かくちょう)25cm，殻高12cm，殻径8cmほどのものが普通だが，殻長30cmに達するものもあり，日本産の淡水二枚貝では最大である。殻(から)はひし形に近い長楕円(ちょうだえん)形で，薄く割れやすい。黄色ないし黒色の殻皮をかぶっている。殻の内面には真珠光沢がある。北海道以南の日本全土・シベリア・朝鮮・中国に分布し，湖沼の泥(でい)中にすむ。食べられるがうまくない。なお，海産二枚貝のイガイ・ムラサキイガイ，イシガイ科のイシガイ・ドブガイなども殻の色が黒いため，俗にカラスガイとよばれることが多い。

ガラスかいめん【ガラス海綿】海綿動物のうちケイ酸質の骨格をもつものの総称。その骨片が三軸相称性であることから，六放海綿綱ともよばれる。円筒形ないしスコップ形の本体に長い柄がついたものが多く，その柄で海底に固着している。すべて深い海にすむ。ホッスガイ*・カイロウドウケツ*などが含まれる。





カラスウリ
(上)キカラスウリの花
(下)左はキカラスウリ，右はカラスウリの果実



カラスガイ

ガラスこうぎょう【ガラス工業】板ガラス・びんガラス・食器ガラス，照明用・電気用・理化学用ガラス，ガラス繊維・光学ガラスなど，溶解や成形が機械化され，多量生産方式にしたがっている部門をおもにいい，このほか，ほうろう工業を含むこともある。1876年(明治9)4月1日に工部省品川硝子(がらす)製造所が設立されたのをもって日本のガラス工業の第一歩と考えてよい。代表的な板ガラス工業においては，現在3社の独占下にあり，生活水準の向上と，量産性の高いフロート-プロセスの導入に伴って普通板ガラスに比べてみがき板ガラスの生産額が急速に伸び，1965年(昭和40)度に比して1969年度は2倍を越えている。また，ビールびんを主力とするびんガラスの生産額も上昇を続け，1969年度は1963年度の約2倍となって，いまや板ガラス工業を抜き去らんとする勢いを示している。食器類の中ではコップ類が早くから自動化され，1970年現在，日産10万個の能力をもつ機械が国内で10台近く稼働(かどう)しており，ぶどう酒などに用いる脚つきのものもすでに多量生産が行なわれている。自動車のヘッドライトもレンズと電球と一体構造のシールドビームに代わってからその製造は完全に自動機械化された。電気用ガラスの分野では真空管の衰退に代わってブラウン管の生産が上昇を続けている。ガラス繊維は工業材料・FRP(→強化プラスチック)不燃建築材料としてますます需要をのばし，1969年度の生産額は3年以前の2倍をはるかに越え，最も成長力を秘めた工業として注目されている。光学ガラスは眼鏡用ガラスの需要の伸びに伴い，しだいに連続生産方式に切り替わりつつあり，生産額は世界の最上位にある。

ガラスの主成分はケイ酸塩で地殻(ちかく)の成分と同一なところから，廃棄による公害のおそれが少なく，その点では有利な工業である。〔境野照雄〕

製品別ガラス工業生産額の推移　(単位 t)

年	板ガラス	各種びん	コップその他食器	ガラス繊維	光学ガラス	合計(その他を含む)
1960	597 430	368 605	34 903	10 048	1 406	1 138 662
1961	648 647	547 835	38 427	10 881	1 453	1 390 632
1962	603 545	710 654	44 814	11 718	1 748	1 533 365
1963	646 291	776 777	47 766	15 234	2 187	1 672 711
1964	767 154	880 880	56 386	20 016	2 228	1 942 099
1965	775 375	901 112	62 439	20 363	2 910	1 995 825
1966	825 732	845 336	74 705	24 537	3 600	2 004 263
1967	1 045 248	1 056 739	86 696	34 642	3 204	2 487 387
1968	1 162 950	1 423 095	95 427	46 173	3 130	3 025 131
1969	1 310 448	1 445 351	111 125	60 178	4 004	3 273 591

ガラスこうげい【ガラス工芸】ガラスの持つ，かたい，光沢がある，着色・成形が行ないやすいなどの性質を活用して行なう製作，または製作品をいう。

〔古代ガラス〕ガラスの起源については，ローマ期の碩学(せきがく)プリニウス*(大)の説があるが，それより以前エジプトの第18王朝には，すでにガラス器がつくられていたという。すなわち，アメンヘテプ1世のころ，テーベ・ファユームなどの地に始まり，装飾用ビーズ玉・コップ・びんが製作され，さらに，アメンヘテプ4世(→イクナートン)の都であったエル-アマルナにおいても，多量に製されていたことが出土品によって知られる。また，メソポタミア地方では紀元前8世紀初めに起こったらしく，アッシリア王サルゴン2世*の銘のある精巧なガラス器が出土している。

〔成分による種類〕これらの古代ガラスは，すべてソーダを主体としたガラスである。一般に，ガラスはその後に開発されたものを加え，大別3種に分類される。①ソーダガラス：ソーダとケイ砂に石灰を加えたもの。②ケイ砂と石灰およびカリによるカリガラス。この2種はあわせてクラウンガラスとよばれている。③カリガラスの成分の中にさらに鉛を加えたもの。鉛ガラスまたはフリントガラスとよび，その透明度・光沢・重さなどの性質が水晶に近似しているため，クリスタルガラスともいわれている。ソーダガラスは，エジプト・シリアを中心に古代世界に広範囲に使用され，12世紀以来ベネチアにおいてはこのガラスによるきわめて繊細華麗な多彩細工ガラス器がつくられている。また，現在にあっても広く安価な器物の製作に利用されている。カリガラスは13世紀ドイツの東部山岳地帯において開発され，ワルドグラスとよばれている。これは，当時ボヘミア・シレジア・サクソニア・ババリア地方に散在した広大な森林の木材を焼いた木灰のアルカリを利用したガラスであり，ボヘミアガラスはこの系統を代表している。鉛ガラスは，17世紀末イギリスのジョージ-ラーベンスクロフトによって発明された。イングランド・アイルランドでつくられたカットグラス*はすべてこれに属し，その後多くの国々が高級ガラスの製作に利用している。

〔おもな製作技法〕①サンド-コーアガラ

ガラス工芸



ベネチアガラス〈飾壺〉

ローマガラス
〈バルサマリオ型瓶〉





ローマガラス〈アンフォラ型瓶〉



ボヘミアガラス〈金箔絵飾付角型瓶〉



ローマガラス〈篠木文型ガラス碗〉



江戸切子〈色着せ切子皿〉

ス：この手法は最も古く，吹きガラス*以前の技術である。これはあらかじめ所用の器の形（主として小形香油びん）をぼろを交ぜた泥土(でいど)で形成し，その口の部分から長柄(ながえ)の銅棒を中にさし込み，これをるつぼの中に入れて器型の表面にとけたガラスを巻きつけて取り出し，冷えるのを待って銅棒を抜き，その空洞(くうどう)に水を入れて泥土をとかしてかき出してつくった。さらに，２色以上のガラスを用いて美術的なものをつくる場合は，前述の器型を台の上に横たえ，その長柄をぐるぐる回しながら溶解したガラス糸を器型の表面に適宜にガラスの色を取り替えながら巻きつけて文様をつくる。エジプトおよび初期シリアガラスの美しいびん類はこの方法によっている。②ミレフィオリガラス（万華ガラス）：各種の色ガラス糸を使って美しい文様をつくり，それを適宜組み合わせて飾った器である。これは糸状の色ガラスをモザイク手法で花形に組み合わせて溶接し，その断片を再び器型に配列して熱を加え，吹き広げて器をつくった。主としてわん形のはち，さらが多い。古代においては，エジプトのアレキサンドリアが中心地である。その後，近代に至って再び取り上げられ，18世紀にはシレジア地方，19世紀以降はベネチアでつくられ，現在に及んでいる。

付言すると，ローマ期のガラス工芸は，カメオガラスの例のように，現在各国の工場が採用しつつある制作技法のほとんどを開発していたともいえる。　〔市川　清〕

カラスノエンドウ



からすざ　【烏座】　春から初夏にかけて，夕方，南の空に見える小さな星座。おとめ座の南に位置し，うみへび座の背中にのった形に見える。不等辺四辺形をつくる４個の３等星が目印で，その中の一つδ星は小望遠鏡でもよく見える二重星である。

ガラスしつがんせき　【ガラス質岩石】　ほとんどガラスばかりでできている火山岩*。コクヨウ石*はその代表であり，酸性岩*の中にはガラス質のものが少なくない。化学組成は二酸化ケイ素（74～76％），酸化アルミニウム（13～15％），酸化ナトリウム＋酸化カリウム（７～８％）の範囲にあり，水分はコクヨウ石の場合１％以下である。水分２～５％のものは，灰色の真珠玉が集まったような組織をもち，真珠光沢を示すので，真珠岩とよばれている。真珠岩を強熱すると膨張した気泡(きほう)のため比重0.1～0.3の軽量骨材が得られ，プラスター*に混入して壁などに塗り，防音・断熱用に役だっている。　〔片山信夫〕

ガラスせんい　【ガラス繊維】　とかしたガラスを小穴から急速に引き出したり，遠心力で振り飛ばしたりしてつくった繊維状のガラス。主として前者は長繊維で織物に，後者は短繊維でマットや綿状などにして用いられる。それぞれ表面は有機質の結合剤・潤滑剤で処理されている。直径がミクロン以下の細いものは綿状にして断熱・吸音用などに，数ミクロンのものは織って不燃性の布地・電気絶縁体・濾布(ろふ)などに，また太いものは除塵(じょじん)用などに使われる。用いるガラスは用途によって種類は異なるが，一般にアルカリに乏しく，耐久性・耐火性・強度を大にしてあるので，今後，建築・交通機関・化学工業・光学工業その他に，ますます大きな需要が期待されている。特に，これでプラスチックを強化したFRP（→強化プラスチック）は，その大きな強度と弾性率によって用途が広い。〔境野照雄〕

からすのえんどう　【烏の豌豆】　双子葉植物・マメ科。土手や田のあぜに普通に見られる越年草。茎はやや四角形で根もとから枝分かれし，つる状となる。葉は３～７対の羽状に分かれ，先が巻きひげとなり，他物へからみよじ上る。小葉の先がへこみ，矢筈(やはず)に似ているのでヤハズエンドウともいう。４～５月に葉のつけ根に紅紫色の蝶形花(ちょうけいか)をつける。

からすばと　【鴉鳩・烏鳩】　鳥類・ハト科。全長約40cmほどの鳥で，金属光沢のあ

る黒色。日本と南朝鮮に分布する。常緑樹の密林にすむが，密林が減少したので現在は伊豆(いず)七島・五島列島・奄美(あまみ)諸島・沖縄などに少数生息するのみである。

からすびしゃく【烏柄杓】単子葉植物・サトイモ科の多年草。ハンゲ・スズメノヒシャクともいう。日本全土・朝鮮・中国に分布し，おもに畑地にはえる雑草。わが国には古代に中国から帰化したらしい。球形の地下茎から1～2枚の葉が出て，葉の間に1個の球芽(むかご)をつける。5～8月に30cmぐらいの花茎を伸ばし，その先に仏炎包に包まれた肉穂花序をつける。花序の下部は包と合着し，片側だけに雌花をつけ，上部は包と離れて直立し，雄花をつける。夏に球茎の皮を除いてかわかしたものを半夏(はんげ)といい，漢方では鎮嘔(ちんおう)薬に用いるが，有効成分は明らかにされていない。

からすへび【烏蛇】⇨シマヘビ

からすまるみつひろ【烏丸光広】(1579～1638) 江戸初期の歌人。後陽成天皇・後水尾天皇に仕えた廷臣。細川幽斎に師事して古今伝授*を受けるなど，二条派*歌人の代表的存在であった。儒仏の教養も高く，下情にも通じていたと思われ，逸話が多い。師説の聞き書き《耳底記》，家集《黄葉(こうよう)和歌集》などの著作があり，仮名草子《目覚草(めさましぐさ)》などの著者に擬せられている。

からすみ【鱲子】ボラの卵巣からつくる塩乾品。江戸時代には肥前(長崎県)野母(のも)崎の〈からすみ〉は，越前(えちぜん)(福井県)の〈うに〉，尾張(おわり)(愛知県)の〈このわた〉とともに天下の三珍といわれた。製品の形が唐墨(からすみ)に似ていることからこの名がある。濃かっ色で光沢があり，長さ15cmぐらい，表面に斑点(はんてん)のないのが優良品。薄く切って供するのが普通で，酒のさかなとして喜ばれる。

からすむぎ【烏麦】単子葉植物・イネ科の一年草または越年草。ヨーロッパ・北アフリカ・西アジアの原産で，温帯に広く分布し，日本でも畑地に普通にみられる雑草。チャヒキグサ・スズメムギ・ワイルドオートともいう。高さ50～90cmの茎が叢生(そうせい)し葉は少ない。6～7月に円錐(えんすい)花序をつけ，長い芒(のぎ)のある小花が2～3個つく。作物のエンバク*(オートムギ)は本種が変化したものとされている。

からすやま【烏山(町)】栃木県の東部，茨城県と境を接する那須(なす)郡の町で，1954年(昭和29)に旧烏山町ほか3村が合併して生まれた。人口22,000。1418年(応永25)以来那須氏がここにより，城下町としての歴史が古く，江戸時代にはいって領主がしばしば交替したが，1725年(享保10)以来大久保氏三万石の城下町として明治維新を迎えた。いまでも武家屋敷の一部が残っている。付近は江戸時代から葉タバコの産地として知られ，米・麦などもつくられているが，工業はふるわない。13世紀からの伝統をもつ烏山和紙も，いまは機械すきになっている。八雲神社の夏祭りの〈大山揚げ〉はみごとな張り子の山鉾(やまぼこ)で，重要文化財に指定されている。東北本線の宝積寺(ほうしゃくじ)から烏山線が通じている。

カラーダイナミックス ⇨色彩調節



カラスビシャク



カラスムギ



カラタチ



カラチ　カラチはパキスタンが独立した1947～1959年まで首都であった。博物館前の広場には，これを記念した独立記念塔が立っている

からたち【枸橘】双子葉植物・ミカン科。中国原産の落葉低木。日本ではいけがきに植えられる。幹は3m内外でよく分枝し，枝は緑色扁平(へんぺい)で稜(りょう)があり，5cmぐらいのとげがある。葉は互生し，葉柄に翼があり，3小葉からなる。春，葉の出るまえに葉腋(ようえき)に径3cmほどの白花をつける。果実は球形で黄熟し，芳香があるが食用にはならない。耐寒性・耐病性が強く，他の柑橘(かんきつ)類と活着しやすいので，ウンシュウミカン・キンカンなどの台木に適する。

カラチ［Karachi］パキスタン最大の都市で，西パキスタンの表玄関をなす港市。人口347万(1972年推)。インダス川河口の北西にあり，後背地として広いインダス流域の平野を控えている。1725年ごろ，付近のカラク港が沈泥(ちんでい)のため使用不能になり，代わって建設された。18世紀には一地方要塞(ようさい)にすぎなかったが，1843年，イギリスが占領して以来発展した。パキスタン独立以来1959年までは首都であった。市況は活発で，ビジネスセンターとしてのマクレオドロードは西欧的景観を示し，市民のショッピングセンターとしてのサダル地区は西アジア的なふんい気を残す。第2次世界大戦後は工業化も盛んで，紡績・セメント・プラスチック・ガラス・電機器具工場なども外国の援助で設立されている。小麦・皮革・綿・羊毛の輸出が盛んで，内陸国アフガニスタンの海港としての役割も果たしている。〔別技篤彦〕

からつ【唐津(市)】佐賀県北西部の市。地名が示すように古くから大陸交通の要港であった。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朝鮮征伐の基地となり，その家臣寺沢氏が唐津城を築き，江戸時代は大久保・松平・土井・水野氏を経て小笠原(おがさわら)氏六万石の城下町であった。明治以降は唐津炭田*の開発によって発展し，1932年(昭和7)市制施行。人口78,000。唐津湾*の湾奥部，松浦川河口付近の沖積地(ちゅうせきち)上に位置する。産業三大別人口比は16：22：62。炭田の掘削は海底まで延びているが，最近は石炭不況でふるわず，工業化に努力している。市域西部は工業地区で，水産加工の工場が多い。唐津港はもと松浦川の河口にあったが，1905年大形船舶の停泊に適した唐津西港に移った。石炭の積み出し港で，また玄界灘(げんかいなだ)漁業の基地となっている。なお，東港も築港が進められ，1967年に九州電力佐賀火力発電所が，操業を開始した。唐津線・筑肥(ちくひ)線が通じ，国道202号線・203号線・204号線が集まる。東部の海岸付近は松浦潟(まつらがた)とよばれて大伴旅人(おおとものたびと)の歌によまれ，鏡山(領巾振(ひれふり)山)とともに松浦佐用姫*(さよひめ)の物語で名高い。特別名勝の虹(にじ)ノ松原，天然記念物の海食洞(どう)七ツ釜(かま)，舞鶴(まいづる)公園(唐津城跡)と領巾振山などの史跡・名勝があり，玄海

国定公園の観光基地である。唐津神社の〈おくんち〉(10月28～30日)は名高く，唐津焼は長い歴史をもつ。〔浅井得一〕

ガラツ ［Galatz］ ルーマニア東部，ソ連との国境に近い都市。人口19万1,000(1973)。河口から15kmさかのぼったドナウ川左岸にあって，外航船の接岸も可能である。木材・小麦を輸出し，鉄鉱石・機械などを輸入している。また漁港としても有名で，漁獲物の集散を行なっている。16世紀にはすでにヨーロッパにおける交易の一中心となり，1834年から約50年にわたっては自由港として栄えた。1856年ドナウ国際委員会が設けられ，以来，ドナウ川を航行する船舶を管理している。〔梶川勇作〕

からつたんでん 【唐津炭田】 佐賀県西部にある炭田で，開発の歴史は古い。埋蔵量は約6億2,500万t，中央部には東西に延びる第三層の大向斜構造があり，炭質は瀝青炭(れきせいたん)が主である。現在，杵島(きしま)・古賀山・明治佐賀など14の炭鉱が稼働(かどう)し，年間240万tを産出している。石炭は唐津港・住之江港から阪神(はんしん)や北九州方面に送られている。

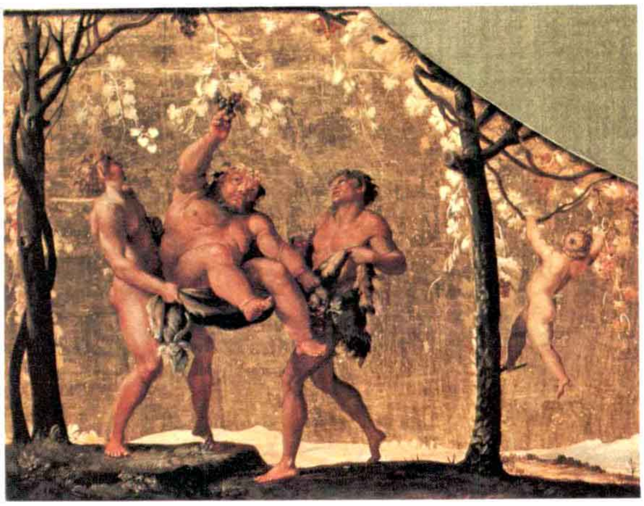
カラッチ ［Annibale Carracci］ (1560～1609) イタリアの画家。ボローニャの生まれ。カラッチの名の画家は，アンニバーレのほか兄のアゴスチーノ，いとこのロドビコの3人がいるが，アンニバーレが最も傑出していた。1585年に，彼らは共同でボローニャに教育アカデミーを創立したが，アンニバーレはこれをロドビコに任せてベネチアにおもむいた。その後，1595年にローマに行き，ファルネーゼ宮の天井に施したフレスコの大装飾画は，ミケランジェロのシスチナ礼拝堂の大天井壁画にも比されるほど典型的である。バロック的性格が強く，空想性に富む中に明快な筆致をもつそれは，ラファエロ・ミケランジェロとベネチア派との総合を意識している。〔井関正昭〕

カラット ［carat］

1 宝石の目方を表わす単位。記号ct 200mgを1カラットとし，その100分の1を1ポイントとする。

2 金の純度を表わす単位。記号KまたはKt 純金を24カラットとする。普通に用いられる〈18金〉は，金分が重量比で18/24で，その組成は1,000分中金750，銀50，銅200である。

からつやき 【唐津焼】 佐賀県唐津地方の陶芸の総称。その起源は室町期にまでさかのぼるともされるが，一般には，文禄(ぶんろく)・慶長の役の際にわが国に渡来した朝鮮の陶工たちによって興隆した窯(かま)とされ，朝鮮李朝(りちょう)時代の陶器に近似した焼物を産した。また，その連房式登窯(のぼりがま)の築窯技術は，従前のわが国の穴窯に比して著しく量産を可能とし，大きな影響を与えた。唐津焼は，その作風から奥高麗(おくこうらい)・斑唐津(まだらからつ)・朝鮮唐津・黒唐津・黄唐津・絵唐津などに分けられる。主として素朴(そぼく)な日用雑器として焼かれたが，江戸初頭に茶人の着目によって茶器に転用されて以来，唐津焼に新しい世界が開かれた。衰微してはいるが，その生産は現在も行なわれる。〔矢部良明〕



カラッチ《ぶどうをとるシレーヌ》ロンドン－ナショナル－ギャラリー



唐津焼《絵唐津柿文三耳茶壺》 1596～1623ごろ 出光美術館蔵

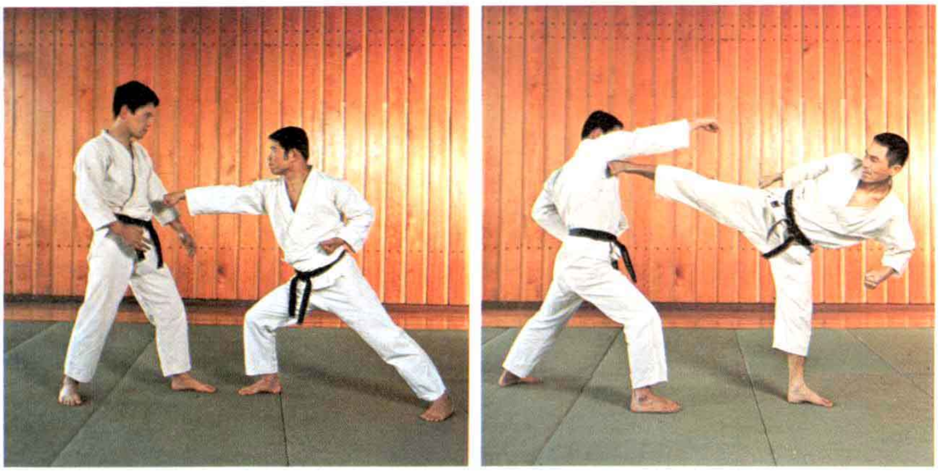
からつゆ 【空梅雨】 梅雨季になっても降水量が少なく晴天の日が続く場合をいう。このような場合に，西日本は旱魃(かんばつ)になることが多い。梅雨はオホーツク海高気圧と小笠原(おがさわら)高気圧の間にできる梅雨前線が日本付近に停滞することによるもので，からつゆはこの梅雨前線が北や南にかたよっていて，日本付近が高気圧におおわれる日が続く場合に起こる。→梅雨

からつわん 【唐津湾】 佐賀・福岡県境にあり，東松浦半島と糸島半島に囲まれた大湾。湾奥部の高島・大島以南の松浦潟沿岸には虹(にじ)ノ松原の大砂州が発達する。大島は埋め立てによる陸繫島(りくけいとう)で，その西側に，唐ノ津とよばれて古代から大陸交通の拠点となり，明治以降は唐津炭田の積み出し港となった重要港湾唐津西港がある。沿岸一帯は1956年(昭和31)玄海国定公園に指定され，鏡山(領巾振(ひれふり)山)からの展望はすばらしい。〔山口恵一郎〕

からて 【空手】 武器を持つことなく，手・足その他身体の各部分を有効に使って敵の攻撃を防ぎ，転じて敵を倒す術。中国文化伝来時には〈唐手〉と書いた。

武器を持たない格闘技は人類の進歩とともにあったといえるが，それらはそれぞれの民族の特質とあいまってボクシング・レスリング・すもうなど，形を変えて発展した。現在の空手の起原はいちおう中国と考えられている。中国の空手(拳(けん)・拳法・打)は，元来，禅宗・道教などの僧の健康法および武技として発生したらしい。禅宗の寺である少林寺を中心とする少林派，道教の寺である武当山を中心とする武当派の二つの派が拳法の大きな流れになっていた。《武道書紀効新書》(1584)によれば，隋(ずい)・唐代から宋(そう)代にかけて拳法は術としての体裁をかなり整えてきたという。この術は明(みん)代に至って沖縄に伝えられ，元来，沖縄にあった格闘術(手(て))の中に消化され，さらに1609年(慶長14)島津藩の沖縄征服に伴う武器携帯の禁止令によって現在の空手に近い形にまで発展した。1922年(大正11)船越義珍によって空手は日本内地に紹介され，その後，摩文仁賢和らによって大学生を中心に発展。第2次世界大戦後，駐留軍による武道禁止令によってやや足踏みした空手は，1950年(昭和25)ごろから急速に発展し，大学生のみならず一般人にも普及して，1955年ごろからは海外へも進出した。組織面でも，流派を超越した組織として1962年に全日本学生空手道連盟，1964年に全日本空手道連盟が設立され，今日に至っている。

空手の流派は敏捷(びんしょう)性に重点を置くもの，体力を鍛えることに重点を置くものなど，それぞれの特徴に応じて発生し，松濤館(しょうとうかん)流(船越義珍始祖)・和道流(大塚博紀(おおつかひろのり)始祖)・剛柔流(宮城長順始祖)・糸東流(摩文仁賢和始祖)がそのおもなものであるが，近来試合制度の普及とともにその内容にあまり差がなくなってきている。



空　手　攻撃の基本技　(左)突き　(右)けり

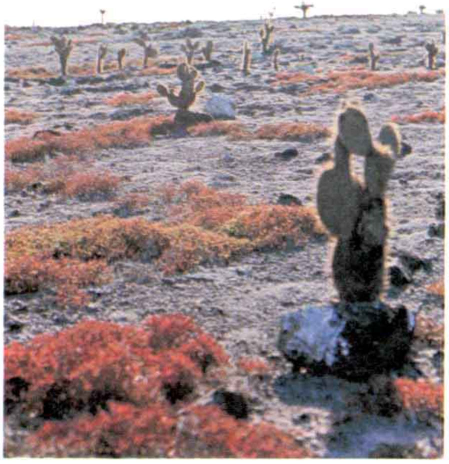
空手の練習方法は，沖縄ではもっぱら型を中心に行なわれたが，内地では，さらに合理化されて，突き・蹴(け)りなどの反復動作を中心とする基本動作，体のさばきや突き・蹴り・受けを組み合わせた型，および2人で行なう組み手(基本組み手・自由組み手)の三つを中心に行なわれている。また，これらの練習の補助手段として巻きわら・鉄げたなどを用いて手・足を鍛えたりしている。

空手の試合化は1957年に第1回の大学選手権大会が開かれてから急速に普及した。試合は普通8～10m四方の試合場で2～3分の試合時間中に主審1名・副審4名の判定によって行なわれる。勝負は，危険防止のため相手のからだに触れることなく，急所の直前で止めることを前提とし(あたった場合は反則)，審判がそれらの動作が十分に相手を倒しうるものであるかどうかを判定することによって決定する。顔面などへの突き(上段突き)，みぞおちなどへの突き(中段突き)，蹴りなどが決まりわざとなる。なお，最近では一部で保護具も使用されだしているが，空手においては剣道のような完全な形の防具を使っての試合は，空手の特徴が制限されることから一般化されていない。〔石塚　彰〕

カラテア　[*Calathea*]　単子葉植物・クズウコン科・テブラソウ属の総称。熱帯アメリカとアフリカ原産の多年草で，100種以上ある。おもに観賞用として温室栽培をする。葉は根生葉で，花はらせん状についた苞(ほう)の腋(えき)に2花をつける。カラテアの名は〈手かご〉を意味するギリシア語カテロスから出たもので，唇弁(しんべん)が袋状になるのによる。葉の条線や色に種々の変化があり，ベニヒメバショウ・トラフヒメバショウ・ヤハズヒメバショウ・シロスジバショウなどがある。〔横井朝子〕

からてがた　【空手形】　融通手形*の中で，支払い資金が十分でなく，不渡りとなる危険が多い手形のこと。➔手形

カラーテレビジョン　⇨テレビジョン



ガラパゴス諸島　フンボルト海流に洗われる火山諸島で，16の島と岩礁からなる。写真は，プラサ島の溶岩台地とウチワサボテン

からど　【唐戸】　板戸の一種。框(かまち)で戸の周囲を構成し，内部に桟(さん)を縦横に渡し，各こうし間に入れ子板(鏡板)をはめこんだもの。鏡板は合板が使用されることが多く，意匠によって洋風にも和風にも用いられる。

ガラナ　[guarana]　双子葉植物・ムクロジ科。ブラジル産のつる性低木。1本の木に雄花と両性花があり，小さな白花の花弁4，がく片5。暗かっ色の種子は直径8～12mmの球形である。種子を砕いて水製エキスをつくり，これにタピオカを加えて練り，ソーセージ状にして薫製にしたものを，ふつう，ガラナとよんでいる。ガラナはコーヒーの3倍に相当するカフェインを含んでおり，興奮性飲料や偏頭痛・神経強壮剤に用いるほか，タンニンをも含むので腸疾患などの薬に用いられる。〔三浦三郎〕

からなでしこ　【唐撫子】　⇨セキチク

からにしき　【唐錦】　⇨錦

ガラパゴス(諸島)　[Galápagos]　エクアドルの西方太平洋上1,000kmにある火山群島。エクアドル領。総面積7,682km²，人口13,000(1964)。クリストバル・サンタクルズ・サンチアゴ・イサベラ・フェルナンディナなど，16の島と岩礁からなる。ガラパゴスはスペイン語のカメの意で，1535年スペイン人F.T.ベルランガが発見したとき，彼が最初に見たものはカメであったという。ペルー(フンボルト)海流の影響によって海水温は低く，赤道直下の位置にありながら気温も低い(垂直差によって差異はあるが，年平均23℃)。体重200kgに達するガラパゴスゾウガメや，体長1.5mのウミイグアナ，アザラシ・ガラパゴスペンギン，サボテンの針を嘴(はし)でくわえ，その針で穴中の虫をつつき出して食するというフィンチ，キク科の植物スカレシアなど固有の動植物がみられ，さながら自然博物館の観がある。イギリスの博物学者C.ダーウィン*は1835年ビーグル号で来島しており，これらの動植物の存在は彼の〈進化論〉に着想を与えたといわれる。しかしこれらの動物も，乱獲により数が減り，特にゾウガメは絶滅寸前にまでなった。1934年動物保護区に指定され，1964年にはサンタクルズ島にダーウィン研究所が設けられ，保護と研究を行なっている。サトウキビ・コーヒー・イオウなどの産がある。〔大崎　晃〕

カラバッジョ　[Michelangelo Merisi da Caravaggio]　(1573～1610)　イタリアの画家。ミラノ近郊に生まれ，ローマ・ナポリで活躍した。その生涯(しょうがい)は冒険と労苦に満ち，激しい性格のためかしばしば争いごとを起こし，壮年にして非業の死を遂げているが，明暗の強い対比と劇的な感情を，光とフォルムの純化ときびしさに反映してバロック絵画の写実主義を確立した。また，スケッチや周到なデッサンを用意せずに，直接カンバスに描きつける新しい技法を用いてもいる。なお，彼の絵画はルーベンス*・レンブラント*に影響を与えたといわれ，近代写実画におけるその理念の普及は大きい。《キリスト降架図》《若いバッカス》などが代表作である。〔井関正昭〕

からはふ　【唐破風】　破風*の一種で，中央で折れ曲がらず，むくりをもった曲線でなだらかに連続し，左右で反転して，破風尻(じり)ではほぼ水平に近くなる特異な形式。玄関や門などの屋根飾りによく用いられる。

カラハリ(砂漠)　[Kalahari]　アフリカ大陸南部に広がる砂漠(さばく)で，ボツワナ共和国・南西アフリカ・南アフリカ共和国にまたがる。平均高度1,000m内外の内陸盆地で，南北約960km，面積約70万km²。北部はやや湿潤で，森林や草地もあり，湿地や塩湖も多い。ブッシュマン*やホッテントット*の居住地で，1849年イギリスの探検家リビングストン*がはじめて踏破した。南アフリカ共和国の北部に設けられたカラハリ国立公園は，ダチョウやライオンなどの野生動物が保護されており，観光客が多い。〔野間三郎〕



カラバッジョ 《手相見》 ルーブル美術館蔵



唐破風 豊国神社唐門(京都)



カラマツソウ

カラハンせんげん 【カラハン宣言】 中国で反帝国主義民族運動が激化している時期に，ソ連の外務人民委員カラハンの名で発せられた宣言。1919年7月25日付〈中国人民および華北・華南政府あて宣言〉と，1920年9月27日付〈外務人民委員部の中国政府あて中ソ協定条項〉をさす。前者は，ソビエト政府が植民地被抑圧民族政策の一環として，民族自決・秘密条約廃止を前提としての商議，侵略放棄などを提案して，中ソ両国間の懸案解決を提起した。後者は，前者を整理して7か条にまとめたもので，世界最初の対華平等宣言である。〔山県弘志〕

カラーフィルム ⇨カラー写真

からふと 【樺太】 ⇨サハリン

からふとちしまこうかんじょうやく 【樺太千島交換条約】 日本とロシアとの間で，樺太(サハリン)と千島の帰属について定めた条約。1875年(明治8)5月7日に署名し，同年8月22日に発効。樺太における日露国境確定は，日露和親条約(1855)においても明確にされず，樺太島規則書(1867)においても日露両属の地とされていたが，種種の紛争の原因となる雑居事態解決のために本条約が締結された。日本は，樺太全島の権利をロシアに譲り，その代地として千島列島18島(択捉(えとろふ)・国後(くなしり)両島はもとから日本領)が日本に譲られ，境界はカムチャツカ半島南端とシュムシュ島の間の海峡と定められた。 〔広部和也〕

カラブリア(地方) 【Calabria】 イタリア半島の南端，〈長ぐつ〉の足先にあたる部分で，メッシナ海峡を隔ててシチリア島と対している。面積15,080km²，人口205万7,000(1969)。中央の山地は石灰岩からなり，標高約1,900mのシラ山やアスプロモンテ山がそびえる。雨量は少ないが，森林が20%をおおっている。小麦・果実の栽培，ヤギ・ヒツジの飼育が主で，開発は遅れている。中心都市レッジオディカラブリア。

カラベル ⇨旅客機

がらぼう 【ガラ紡】 明治初年，長野県の人臥雲辰致*(がうんたっち)の発明した綿紡績機およびその方式。臥雲式紡績機の俗称。また，和紡績ともいう。原料綿を入れた円筒を回転させその中から繊維を撚(よ)りながら引き出して糸を紡ぐ装置。愛知県三河(みかわ)地方で利用されたので三河紡績ともいわれ，動力に水車を用いたので水車紡績，三河の矢作(やはぎ)川の船上で紡績されたので船紡績などともいわれた。近来は落綿・回収綿などを原料として，太い綿糸を紡ぎ，その綿糸はしん地・絹起毛地・綿毛布・敷き物などに織られる。綿のほかに麻・絹・毛・化繊などを用いるものもある。〔小川安朗〕

カラマーゾフのきょうだい 【カラマーゾフの兄弟】 ドストエフスキー*の長編小説(1879～1880)。淫蕩(いんとう)な実利家フョードルとその3人のむすこ，粗野だが豊かな人間性をもつ長男ドミートリー，批判者としてしか存在しえない鋭い知性の持ち主である次男イワン，清純で強固な意志をもち聖者の道をあこがれる三男アリョーシャとの葛藤(かっとう)を中心に展開される作者最後の作品。推理小説的興味と，愛と憎しみ，世界創造者の不正義などの壮大な現実的・形而上(けいじじょう)学的問題がみごとに融合して，ドラマティックな世界をつくりあげ，人間の内面のあらゆる相貌(そうぼう)を描き出している。 〔中村健之介〕

からまつ 【唐松・落葉松】 裸子植物・マツ科。日あたりのよい山地にはえる落葉高木。日本産のマツで落葉するのはこれだけである。幹は直立し，長枝は水平に出てその上に短枝を多数つける。葉は明緑色で柔らかく線形，長さ15～35mm，幅1～1.5mmで，短枝の上に20～30集まってつく。晩秋，黄葉して落葉する。雌雄同株で，3～4月に枝先に黄色の雄花穂，紅色の雌花穂をつける。果実は球卵形で鱗片(りんぺん)の先がそりかえる。材は建築・土木・枕木(まくらぎ)に利用され，樹脂からテレビン油をとる。

からまつそう 【唐松草】 双子葉植物・キンポウゲ科。山地にはえる多年草で，栽培されることがある。高さ90cm，葉は1枚が数回羽状に分かれ，一つの小葉は広い卵形。夏，茎の先に白色のおしべが目だつ花弁のない花を多くつける。

からみ 【鍰】 非鉄金属の精錬過程で，溶融金属表面に浮いた，鉱石中に含まれていた不要物質(鉱滓*(こうさい))。スラグともいう。粘性・比重が小さく，とけた鍰中に金属が混入しないことが必要である。一般にケイ酸塩からなるものが多い。

からみおり 【搦み織】 織物組織の一で，綟子織(もじりおり)ともいう。通常，2本の経糸(たていと)が緯糸(ぬきいと)ともじり合ったようにからむ。この糸組みの原理は，一方の経糸に他の経糸が振綜の装置によってからみ，左右にねじれて組織される。このからむように組織していく経糸を搦経(じゃくけい)，他を地経という。この組織では2本の経糸が緯糸をからみしめるようになり，組織としては堅固で，密度を疎に織っても目寄りがしにくいので，地薄な透かしのある織物を織るのに適している。また，ねじれ目は布に

自然にすきまをつくるので，夏向きの織物に広く応用される。紗(しゃ)や絽(ろ)がこれにあたる。捩み織の最も複雑で精巧なものとしては，上代の羅(ら)があげられる。
〔勝呂小枝〕

カラム-クロマトグラフィ ⇨クロマトグラフィー

からむし 【苧】 双子葉植物・イラクサ科の多年草。マオ・チョマともいう。山や野にはえるが畑にも植えられる。高さは1m以上になり，根茎を伸ばして一面にはびこる。葉は広い卵形で，上面は緑色，下面は毛のために白色。雌雄同株で，夏から秋に黄緑色の小さな花が集まり咲く。茎から繊維をとり，これで織った越後(えちご)上布は有名。変種にやはり繊維用のラミーがある。

カラムジーン ［Nikolai Mikhailovich Karamzin］(1766～1826) ロシアの小説家。地方地主の家に生まれる。1789年ヨーロッパを旅行し，《ロシア人旅行者の手紙》で文名を高めた。感傷を重んじた作風で詩も書いた。貴族の青年と農民の娘の不幸な恋愛を描いた《哀れなリーザ》が代表作。上流知識階級の話しことばに近い柔軟で美しいロシア語を用いた。晩年には12巻の《ロシア帝国史》を書いた。

からめぶし 【からめ節】 岩手県の民謡。《金山踊》ともいう。金山の鉱石をくだいて不純物を取り去ることを〈からめる〉といい，昔，大ぜいの女がからめの仕事をしながら歌ったものという。もとは素朴(そぼく)な歌であったらしいが，囃子(はやし)ことばや三味線(しゃみせん)の伴奏をつけたり，踊りの手を加えたりして現在の《からめ節》となった。

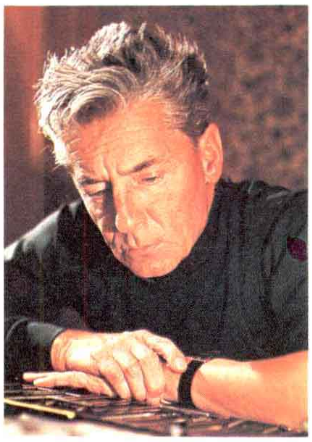
カラメルソース ［caramel sauce］ なべに砂糖と水を入れて煮立たせるとあめ状になり，さらに170～200℃になると色づいてくる。これに少量の水を注ぎ入れてつくる焦げ色の糖水がカラメルソースである。菓子・黒ビール・しょうゆ・ラム酒・ブランデー・ウイスキーその他飲食物の着色剤，たばこの風味料などに用いる。菓子のキャラメルはこのカラメルを応用したもの。

カラヤン ［Herbert von Karajan］(1908～) オーストリアの指揮者。ザルツブルクの生まれ。生地のモーツァルトテウムに学び，はじめピアニストを志したが，のちウィーンでシャルクに指揮を学び，1929年ウルム歌劇場を振り出しに，1934年からアーヘン歌劇場，1938年からベルリン国立歌劇場の指揮者となる。第2次世界大戦後はウィーン-フィルハーモニー管弦楽団，1955年からフルトベングラーの後任としてベルリン-フィルハーモニー交響楽団の指揮者となり，またオペラでも活躍している。1954年以来，たびたび来日している。
〔向坂正久〕

からよう 【唐様】
①江戸時代に流行した中国ふうの書風。明(みん)の文徴明，元の趙子昂(ちょうすごう)の書



カラムシ



カラヤン



カランコエ （上)カランコエ-ブロスフェルディアナ （下)カランコエ-ツビフロラ

風で，江戸時代の中ごろの北島雪山・細井広沢らによって広められ，流行した。
②中世日本建築様式の一。➔禅宗様

からわまげ 【唐輪髷】 元来は男まげで，髪を頭上にたばねて2分し，二つの輪をつくった形のもの。鎌倉時代に主として元服前の童子が結った。江戸初期，このまげを模して女性の結髪が生まれ，頭上にたばねた髪を二つ以上の輪とし，根もとを余りの髪で巻く。それ以前は，女性はほとんど結髪をせず下げ髪が主であったが，おもに遊女によってこの髪が結われた。➔髪形(図)

がらん 【伽藍】 梵語(ぼんご) Samghārāma (サンガーラーマ)の音写。僧伽藍の略で，衆園・僧園・僧院ともいう。インドでは，比丘(びく)たちが集まって修行する静かな場所のことで，華氏城(けしじょう)の西の阿育僧(あいくそう)伽藍，王舎城(おうしゃじょう)の迦蘭陀竹園(からだちくえん)，舎衛城(しゃえじょう)の祇樹給孤独園(ぎじゅきっこどくえん)・祇園(ぎおん)精舎などが有名である。後世になって，僧侶(そうりょ)の住む寺院の建築物の名となり，付属の建築の具備するものを総称することばとなった。➔伽藍配置
〔京戸慈光〕

カランコエ ［*Kalanchoe*］ 双子葉植物・ベンケイソウ科・カランコエ属の総称。低木または多年草で，葉は対生し多肉質。花色には赤・黄・白色などがある。日本ではふつう冬から春にかけて赤色花をつけるカランコエ-ブロスフェルディアナがはち植えなどにされる。ほかにカランコエ-ツビフロラなど多数のものがある。

ガランチン ［galantine］ 鳥料理の一種。〈優美な〉を意味するフランス語に由来し，上品な味と優美な盛りつけが特徴である。一般的にはニワトリが用いられるが，シチメンチョウ・キジ・アイガモその他の野鳥を使ってつくる場合もあり，鳥の代わりにブタのもも肉，子ウシの胸肉などを使用することもある。〈作り方〉ひな鳥の毛をむしり，残ったうぶ毛を毛焼きし，肛門(こうもん)から内臓を押し出し，皮つきのまま背から切り開いて骨を取り，平らに広げる。一方，子牛肉・豚肉・鶏肉などのひいたものに，塩・こしょう・ナツメッグ・ブランデー・シェリー酒などを入れてよくすり混ぜ，平らに開いた鳥肉(皮つきでないほう)に塗りつけ，マッシュルーム・レバー・ベーコンなどを入れてかたく巻き，ふきんで包んでたこ糸でくくり，沸騰水に入れて十分ゆでる。肉が完全にさめたら，1～2cmぐらいの厚さの輪切りにしてゼリー液を注ぎかけるか，またははけで数回塗って固め，ゼリーの薄い層で巻いたように仕上げる。冷製料理として供したり，また小形につくってオードブルとして供することも多い。
〔泉　敬子〕

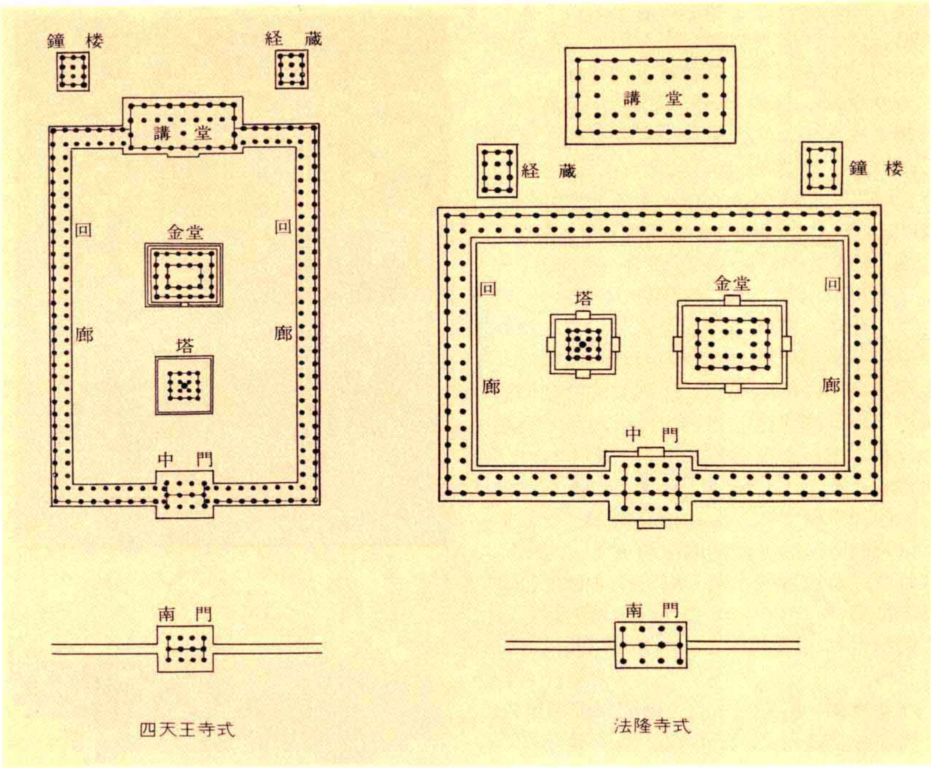
ガーランド ［Hamlin Garland］(1860～1940) アメリカの小説家。中西部の農民のみじめな経済的奴隷状態を，怒りをこめて描き，短編集《本街道》および長編《ダッチャー家のローズ》などによって，アメリカにおけるリアリズム文学の発展に貢献した。

がらんはいち 【伽藍配置】 仏教寺院の主要な堂塔の配置形式。上代の日本は，すぐれた古代中国文化を一方的に熱心に吸収する立場にあったため，日本の古代寺院建築施設には後世の仏寺にはみられないものも含まれ，また寺域を平地に選んで建築を

南面させ,大陸ふうの整然とした配置をとるのが特色であった。伽藍*として主要な建築には，寺院の中心となる仏像を安置する金堂*，本来は釈迦(しゃか)を象徴し寺院の記念的な景観を高める塔*，金堂・塔など最も神聖な建築の聖域をとり囲む回廊，その聖域への出入り口となる中門，寺院の僧侶(そうりょ)全員が集会でき経典などを講究する講堂*，経典類を保存する図書館的役割の経蔵*，僧侶の生活に規律を与える時報のための鐘楼*，僧侶たちの居住施設として僧房と斎食(さいじき)を行なう食堂(じきどう)などがあり，寺域への出入りを固める大門*は，立つ場所によって南大門・東大門などとよばれる。これらの諸建築は，南大門と中門を結ぶ軸線に対して，原則として左右対称に配置され，回廊に囲まれる聖域の背後に講堂と経蔵・鐘楼の一群，さらにその背後と左右に食堂と僧房の一群が配置される。この構成配置は，古代寺院では一貫した規準として守られているが，聖域の構成は少しずつ年代とともに変化した。

日本における本格的な伽藍として最も古く，6世紀末に創立された飛鳥(あすか)寺は，回廊内の中心軸上に塔を置き，その左右と後ろに三つの金堂を配し，次の四天王寺では，左右の金堂を欠いて塔と金堂とが前後して中心軸上に並んでいた。現存最古の法隆寺西院の伽藍は，回廊内に塔と金堂とが左右に並立し，大陸には類例をみない特異な配置形式をとっている。奈良時代前期の薬師寺では，金堂の前方の左右に東西両塔が立ち，奈良時代後期の東大寺では，塔が回廊の外に出て，左右に並び立つ。このように塔は，初期の宗教的な中心性を失って，しだいに寺院の景観を荘厳化する装飾的な役割を強くし，その配置を変化させていった。平安時代にはいって密教が伝来し，寺域を山岳地に選ぶようになると，平坦(へいたん)で広大な敷地が求めにくくなり，整然とした左右対称の配置が貫けず，地形に応じた配置へと変化していった。

〔渡辺保忠〕



伽藍配置

かり 【雁】 ⇨ガン

カリ [Cali] コロンビア共和国西部の都市。人口189万8,000(1973)。標高900 mに位置するこの国第3の都市で，アンデス山脈のカウカ河谷中の地方的中心をなし，鉄道・道路が太平洋岸のブエナベンツラに通じている。熱帯高山気候で，1年を通じて気候の変化がほとんどない。年降雨量1,200 mm，年平均気温23℃。付近には，サトウキビ・コーヒー・綿花の農場や牧牛地帯があり，織物・化学薬品などの生産も盛んである。1536年に建設され，パナマ運河の開通や交通路の発達によって急速に発展した。

〔小栗 宏〕

カーリー [Kālī] インド神話の女神。ヒンズー教の主要神であるシバ*神はそのさまざまな機能を象徴する多くの妃をもつが，カーリー女神は暗黒面を代表する。元来は独立の土着神だったが,ヒンズー教が広まるにつれてシバ神と関係づけられ，5世紀ごろから勢力を伸ばしはじめた。黒色,血にぬれた舌を出し，髑髏(どくろ)の首飾りをまとう恐ろしい形相で，現在でも，特にベンガル地方に信奉者が多い。カルカッタのサーリー寺院はその本山で，いけにえのヤギがささげられる。

〔奈良康明〕

ガリア [Gallia] 古代ローマ人がガリア人(ケルト人に属す)とよんだ人々の住地。ゴールともいう。今日のフランス・ベルギー・ライン左岸・北イタリアにあたる。紀元前3世紀末からローマ人の植民活動が進み，BC58年カエサルの征服で属州となる。5世紀にゲルマン民族が侵入し，486年ソワソンの戦いでローマは敗退した。7世紀にはフランク王国の支配下にはいる。カエサルの《ガリア戦記*》はローマ時代の同地の重要な資料である。

〔高山高雄〕

かりあげ 【借上】 〈かしあげ〉ともいう。江戸中期以後，諸藩が財政窮乏を切り抜けるため，その対策の一つとして，家臣の俸禄(ほうろく)・知行を借り上げたこと。借り上げといってもほとんど返済されることはなく，事実上は減俸で，知行高・禄高の高いものほど減らす割合が大きく(50%の減給を半知といった),低いものは小さくして家臣への影響を少なくしたが，藩士の窮乏ははなはだしくなり，藩政に対する批判もきびしくなった。

ガリアせんき 【ガリア戦記】 古代ローマの政治家カエサル*が著わした歴史書。7巻。BC58～BC52年までを，1年を1巻にまとめている。自身が将軍として指揮をとった対ガリア戦が7年の長きにわたったことについて，ローマ市民に弁明する目的をもって書かれた。しかし弁解がましさはなく，作者の人物を反映してか，描写は愛国心を秘めつつも客観的・冷静・簡素の印象を与える。文体は明晰(めいせき)で，むだな修辞をいっさい省き，用語は単純だが選びぬかれている。ラテン文章の模範として長く教科書に用いられている。

〔久保正彰〕

カリアティード [caryatid] 古代ギリシア建築において，建物をささえる柱の役目をもたせた女性の彫像。アテネのエレクテイオンのそれが最も有名。➔アトラント

カリアリ [Cagliari] 地中海に浮かぶサルジニア島南岸の港湾都市。人口22万5,000(1972)。サルジニア島の中心都市で，イタリアにおける海塩の主産地である。港からは塩のほかに穀物・ぶどう酒を輸出する。フェニキア・カルタゴの植民地を経て，BC 238年ローマ帝国の所有となり，カラリスとよばれた。現在も古代ローマの城壁，中世の城門，聖堂などが残っている。第2次世界大戦前はイタリア海・空軍の重要な基地であった。

〔梶川勇作〕

かりいれきん 【借入金】 貸借契約により，担保を提供するか，借用証書を使用するかして，他人から借り入れた金銭。支払い期限が1年以内に到来するものを短期借入金，1年以上にわたるものを長期借入金という。借入金は，本来企業外部の第三者から借り入れるものであるため，株主・従

業員・関係会社など特定の者から借り入れる場合には，借入金勘定から除き，その内容を明示する科目で記載する。

カリウム　［kalium］　周期律表第Ⅰ族に属するアルカリ金属の一。記号K，原子番号19，原子量39.10。ポタシウムともいう。地殻(ちかく)中に多く存在する元素の一。カリ鉱石として重要なものにシルビン（カリ岩塩，KCl）・カーナル石（$KCl \cdot MgCl_2 \cdot 6H_2O$）などがある。1807年イギリスのデービーによってはじめて金属が単離された。銀白色の金属光沢をもつ柔らかい金属で，融点65.5℃，沸点760℃，比重0.8621(20℃)。炎色反応は淡紫色。化学的にきわめて活発で，水と激しく反応して水素を発生し，発火する。空気中ではすぐに酸化するので，石油中に貯蔵する。金属は塩化カリウムまたは苛性(かせい)カリの溶融電解によってつくられる。金属は還元剤・縮合剤として化学反応に用いられる。カリウム塩は肥料として使用され，また火薬・ガラス製造に用いられる。〔古屋　弘〕

ガリウム　［gallium］　周期律表第Ⅲ族に属する金属元素。記号Ga，原子番号31，原子量69.72。1875年フランスのボアボードランによりセンアエン鉱中より分光法により発見された。メンデレーエフ*がエカアルミニウムとしてその存在を予言してまもないときである。融点29.4℃，沸点2,300℃，比重5.9の金属。亜鉛・アルミニウムに随伴して産出する。アルミナ製造の副産物などとして製造され，半導体*・磁性材料などに用いられる。〔古屋　弘〕

ガリェーゴス　［Rómulo Gallegos］（1884～1969）　ベネズエラの作家・政治家。数度の亡命ののち，1947年大統領に就任。翌年のクーデターで辞任した。作品の主題を自国民の政治的・社会的・文化的生活に求め，それを文学的普遍性にまで高めている。代表作は《ドニャ-バルバラ》《カナイマ》《哀れな黒人》など。

カリエス　［Karies］　骨が壊疽(えそ)になったものをいうが，結核が原因となることが多いので，カリエスといって骨結核*を表わすことが多い。

カリエール　［Eugène Anatole Carrière］（1849～1906）　フランスの画家。母性愛を主題とした作品や家庭の情景を好んで描いたが，特に晩年，色彩は灰色ないしかっ色調をおび，人物像の輪郭はしだいに薄れ，暖かいふんい気の画面を生み出している。代表作は《母性》《接吻(せっぷん)》など。

ガリオアしきん　【ガリオア資金】　⇨見返り資金特別会計

かりかちとうげ　【狩勝峠】　北海道中央部，富良野(ふらの)盆地と十勝平野とを結び，日高山脈を横断する峠。標高726mで，十勝平野を一望のもとに収める雄大ながめで知られている。1907年（明治40）根室本線の狩勝トンネル（長さ917m）が開通したが，1966年（昭和41）にはその南側に新狩勝トンネル（長さ5,656m）がつくられて廃された。国道38号線が通っている。石狩・十勝の国境にあることから名づけられた。



カリエール《病気の子ども》1885　ルーブル美術館蔵



狩勝峠　峠よりの眺望。ここから道路（国道38号線）は北に大きく迂回して山麓を下り，新得町を経て十勝平野を東進し，帯広市に至る



狩衣
《春日権現験記》（部分）

かりかちトンネル　【狩勝トンネル】　⇨新狩勝トンネル

カリカチュール　［caricature］　誇張された表現手段で描かれた風刺・こっけい・寓意(ぐうい)などを内容とする絵画。概念は古く，古代エジプト絵画・ギリシア彫刻にも見られる。大別すると，①芸術表現上の技巧的な傾向としてのカリカチュール，②政治・社会風刺画としてのカリカチュールとに分けられる。前者はルネサンス以後にダ-ビンチ*らによって発展せられた。特に17世紀のアゴスティーノおよびカラッチ*・ベルニーニ*・ティエポロ*・ブリューゲル*・ボッシュ*らはその代表的存在である。後者は，わけても17世紀以降，市民社会形成の過程で旧体制への批判が表明される中で，石版や銅版などの複製技術の開発とあいまって飛躍的に発展し，絵画の一分野として確立された。フランスのカロ*・ドーミエ*，イギリスのホガース，スペインのゴヤ*らは，その風刺の鋭さできわだっている。〔吉田玲子〕

カリカット　⇨コジコーデ

かりがね　【雁金】　清元節の曲名。本名題《色増艶夕映(いろまさるもみじのゆうばえ)》。作曲は2世清元梅吉，作詞は河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)。歌詞は七五調を基盤とし，初秋の風物をうたいあげた，清元としては短い曲。もともと，1881年（明治14）新富座初演の《島鵆月白浪(しまちどりつきのしらなみ)》の背景音楽である他所事(よそごと)浄瑠璃(じょうるり)としてつくられた曲であるため，しっとりとした情緒をもつうた沢*ふうにつくられ，舞台の情景をこわさないようなじみなものである。〔山口　修〕

カリカル　⇨カライカル

かりかんじょう　【仮勘定】　取引が発生しているにもかかわらず，それを記入する勘定科目または金額が確定していない場合に，それらが確定するまで一時的に記入する仮の勘定であり，広義には仮払い金・仮受け金・未払い金・未収金・未決算勘定などが含まれる。

かりぎぬ　【狩衣】　平安時代の装束の一種。雁衣・猟衣とも書き，布衣(ほい)ともいう。元来は，庶民の平服で麻布であった。平安朝の初期から朝廷の狩猟用の衣服となり，動きやすいので公家(くげ)の平常服にもなった。鎌倉時代になると，公家・武家とも式服に採用され，形式や着用資格が決められた。形はおよそ闕腋*(けってき)の袍*(ほう)の簡略なもの。えりは丸く（円領），あげ首（上頸(じょうけい)），そでの前部は身ごろから切れ，わずかに後方で5寸ほどつながっているにすぎない。したがって上から押える必要があり，下に着る衵(あこめ)と同質の当て帯を締めた。そで口には括紐(くくりひも)がつき，その色は若年と中年が紫・萌黄(もえぎ)のだんだら，老人は白で細い。全体の地質ははじめ麻布だったが，公家の衣服となってからは，有文(うもん)の綾(あや)や平絹で製せられた。また夏には紗(しゃ)の狩衣，冬には裏付きのも

のもつくられている。色目は随意で，四季により重ね色目もあり，文様と色目の組み合わせに考慮が払われていた。江戸時代には武家の式服となり，諸大夫は有文の狩衣，その下の従(じゅ)六位の者は無文の狩衣を着た。同じ狩衣でも，無文のものはかつて庶民が着た布衣(ほい)である。そのため，その意味を拡張して，〈布衣〉の語は従六位を表わす位階名として使われた。狩衣を着るには，下に袙・単(ひとえ)をつけ，指貫(さしぬき)をはくのが正式である。ただし，のちには袙の代わりに小袖(こそで)ですませることもあった。〔稲垣史生〕

カリキュラム [curriculum] 教育課程。ラテン語の〈競走路〉に由来し，児童・生徒が教育されていく道筋をいう。古くは，カリキュラムとはスリー-アールズ(読み・書き・算)をさしていたが，社会科学・自然科学・芸術など伝達すべき文化遺産が豊かになるにつれて，自然や社会に関する教科が成立した。さらに，生徒・児童の自主的な成長・発達を図るため，教科外活動がカリキュラムの中に位置づけされ，カリキュラムは教育目標を達成するために用意された教育計画全体，児童・生徒の教育的経験のすべてを包括する概念となった。そのためそれぞれの教科・教科外活動を貫く原理が不明確になり，カリキュラムの総合が必要になってきた。いわゆる相関カリキュラムとかコア-カリキュラムがこれで，1930年以降のアメリカ，第2次世界大戦後のわが国で注目された。今日では，カリキュラムの編成権，科学技術の進歩・発展に伴う改革の方向など，教育内容の現代化の必要からこれをめぐる問題は多い。〔中野　光〕

カリグラ [Caligula] (12～41) ローマ帝国第3代皇帝。在位37～41年。カリグラは兵士のつけた名で〈軍隊ぐつの坊や〉の意。本名ガイウス-ユリウス-カエサル-ゲルマニクス。即位当初は密告制度の廃止など善政を行なったが，すぐ狂人の暴君となり，闘技場での残酷な競技などを行なった。元老院を無視し，国費を乱費し，みずからを神として礼拝させたため，近衛兵(このえへい)に暗殺された。

カリグラフィー [calligraphy] 本来は書法・筆跡・書を意味するが，絵画においては，書にみられるような自由で律動的な描線・筆触をいう。中国や日本の書が，その意味の読解を離れて墨線による造形として広く理解されるようになったために，現代の表現主義的抽象絵画に多く取り入れられている。

かりさかとうげ 【雁坂峠】 埼玉・山梨県境にある峠。標高2,082 m。古くから秩父(ちちぶ)盆地と甲府盆地を結ぶ秩父往還の要衝で，秩父側の栃本(とちもと)には江戸時代の関所跡が残っている。峠の甲州側は視界が開け，ここからの富士山の遠望はすばらしく，ハイキングコースとなっている。

かりさしおさえ 【仮差し押え】 強制執行*の要件がまだそろわないのに，債権者が金銭債権またはこれに代わりうる請求権に基づいて，債務者の財産を暫定的に差し押え，将来強制執行が不可能になったり困難になったりするのを防止する制度をいう。実務上しばしば行なわれる。裁判所に申し立てるためには，請求権を有すること，緊急の必要に迫られていることの2点が疎明されなければならない。

ガリシア(地方) [Galicia] スペイン北西部，南はポルトガルと接し，北と西は大西洋に囲まれた地方。沈降した海岸線は複雑で，深い入り江が多く良港をなす。この入り江をリアといい，リアス式海岸の名の起こりとなった。スペインでは雨の多い地方で，森林と牧場が広がり，ブタなどの飼育が盛んに行なわれる。また漁業も盛んで，同国第1の漁獲量を誇っている。ラコルーニア・ビーゴーはこの地方の主要都市で，エルフェロルには海軍基地がある。〔梶川勇作〕

かりしっこう 【仮執行】 判決の確定前に行なわれる強制執行*またはその判決内容の実現のこと。判決を得て強制執行するためには，その判決が確定することが必要であるが，ふつう第1審判決で仮執行宣言がつけられれば強制執行できる。仮執行宣言は，その未確定判決が財産権上の請求であり，裁判所が債権者(原告)の権利を迅速に実現する必要を認めた場合に限って，債権者(原告)の申し立てにより，または申し立てがなくても裁判所の職権により，終局判決の主文の中に示されるものである。もし上級審でこの宣言のみを変更し，または本案の判決を変更すればその限度で失効することになる。本案の判決が変更された場合は，相手方の申し立てに基づいて給付したものの返還ならびにこうむった損害の賠償を命ずる。〔内田剛弘〕

かりしゃくほう 【仮釈放】 自由刑(懲役*・禁錮*(きんこ)・拘留*)の執行期間満了時前の受刑者に，一定の条件を付して仮に出獄を認める仮出獄，および拘留者・労役場留置*者に仮の出場を認める仮出場を合わせていう。釈放の条件に違反することなく一定期間を経過することによって，残余の刑期などの執行を終わったものとする。仮出獄は，有期刑では刑期の3分の1，無期刑では10年を経過後，改悛(かいしゅん)の情ある者に対して，地方更生委員会が審査して決定する。なお，少年にはその条件が緩和されている。仮釈放された者は保護観察*に付されて一定の事項を遵守する義務が負わされる。仮釈放中に罰金以上の刑に処せられたとき，釈放条件に違反したときなどは，仮釈放は取り消される。〔井上公耳〕

かりしょぶん 【仮処分】 権利の保全のためになされる暫定的な措置。民事訴訟法上，仮処分には，①金銭の給付を目的としない，物を対象とする給付請求権に基づいて，将来の強制執行*を保全するために，物的状態の現状維持を図る仮処分，②権利関係に争いがあることから発生する現在の危険や不安を除去・防止するための仮処分がある。

①を〈係争物に関する仮処分〉，②を〈仮の地位を定める仮処分〉とよぶ。①の例としてあげられるのは，目的物の処分禁止，紛争中の建物への立ち入り禁止，あるいは目的物の執行官保管などを命じて将来の強制執行をあらかじめ保全する。ところが②は，執行保全という性質をもたず，争いのある権利関係につき，仮に法律状態を形成する(たとえば会社から解雇された労働者が仮処分でとりあえず従業員としての地位を得て，賃金の支払いを受けられる)とか，あるいはさらに一歩をふみ出して交通事故の被害者に治療費の仮払いを命ずるなどの事実上の実現を図るというように，紛争が解決されるまでに生ずる損害を防止するためのものである。

仮処分は裁判所の仮処分を命ずる裁判によって行なわれる。申し立ては，管轄裁判所に書面または口頭で行なっているが，実際には書面による場合が多い。係争物に関する仮処分のためには，仮処分によって保全される請求権が存在すること，その保全の必要があること，の二つを疎明しなければならない。〔内田剛弘〕

カリス [Charis] ギリシア神話の美と優雅の女神たち。父はゼウス*。ふつう，その数は3人とされ，若くて美しい娘の姿で表わされる。オリンポス山上に住んでおり，ムーサ*・アポロン*・アテナ*・アプロディテ*などの神々の供をし，自然界・人間・神々のすべてに対して美と優雅によって喜びを与える。肉体的な美や優雅に対してばかりではなく，芸術・技芸などの精神的な才能に対しても影響を与えると考えられる。

カリスマ [charisma] 神からのたまものとして人間に与えられる異常な精神的能力のこと。これには奇跡的なものとそうでないものとがあり，多くの例が福音書や聖パウロの著作にみられる。本来カトリックの用語であったが，マックス-ウェーバー*によって学術用語となり，超自然的な特殊能力を有する者がカリスマ的資質の持ち主であると考えられた。また，カリスマは個人的能力としてばかりでなく，家や部族や官職のようなものにも認められるという。

カーリダーサ [Kālidāsa] 5世紀のインドの詩人。グプタ王朝の宮廷詩人として活躍し，インド最高の詩人と仰がれる。戯曲に《シャクンタラー*》，かわいい小姓と王の恋愛を描いた《マーラビカ-アグニミトラ》，天女と王の恋愛を主題とする《ビクラマ-ウルバシー》があり，叙事詩にはラーマ(→ラーマーヤナ)を中心とする王家の系譜をうたった《ラグバンシャ》，シバ神の王子の誕生

の経緯を描く《クマーラサンババ》がある。ほかに，流謫(るたく)の身で妻を恋い慕う叙情詩《メーガドゥータ》，四季おりおりの風物をうたった《リトゥ-サンハーラ》などがある。〔原　実〕

ガリチア　［Galitsiya］　ソビエト連邦のウクライナ共和国西部からポーランド南東部，カルパート山脈北部と山麓(さんろく)一帯の地方名。リボフ・クラクーフなどの都市がある。おもな住民はウクライナ人・ポーランド人。石油・天然ガス・木材などを産し，水力発電・金属加工などが盛んである。18世紀まではポーランド領であった。その後のポーランド分割によりオーストリア領となったが，19世紀半ばには農民反乱がしばしば起こった。特に1819年・1824年・1832年・1846年の蜂起(ほうき)はガリチア農民戦争として知られる。第1次世界大戦後，再びポーランド領にもどったが，東部は1939年ウクライナ領となった。〔斎藤晨二〕

カーリット　［carlit］　元来はスウェーデンのオスカー-カールソンが発明した過塩素酸アンモニウムとケイ素鉄の混合爆薬のことであるが，日本においてこれが改良され，現在では過塩素酸塩を主成分とする爆薬の一般名称となっている。過塩素酸塩はかなり安定な化合物で，硝酸塩・トリニトロトルエン・ジニトロナフタリン・ケイ素鉄などを加えれば強力な爆薬になるが，鈍感なので取り扱いやすく，現在の主要産業用爆薬の一つとなっている。〔住谷光圀〕

かりとうき　【仮登記】　登記*の申請に必要な手続き上の条件がそろわないとか，不動産物権を条件づきで取得するような場合に，将来の登記順位を保全するためにあらかじめする登記をいう。たとえば，不動産がAからBに売買されたにもかかわらず，売り主Aが買い主Bへの所有権移転登記に協力しない場合とか，あるいは大学を卒業したときに土地をもらえるという停止条件づき贈与の場合などに，それぞれの立場を保全するためにされるもので，この仮登記をしておけばそれら不動産物権が第三者に譲渡された場合，仮登記だけでは効力をもたないが，あとで本登記をすればその本登記の順位は仮登記の順位によって対抗することができる。仮登記をするには，申請書に仮登記義務者の承諾書を必要とするが，承諾書が得られない場合は仮登記権利者が裁判所に申請して，自己の権利について疎明して仮処分命令を得て行なうこともできる(不動産登記法32条)。仮登記は，本来，このように登記義務者が登記申請に協力しないときに，登記権利者が利用する制度であるが，本登記に比べて手続きが簡単であり，登録税も低く，しかも本登記とあまり違わない心理的効果をもっているので，むしろ乱用される場合が多い。〔黒木三郎〕

かりとりき　【刈り取り機】　収穫機の一種で，一連の収穫工程の中の刈り取り工程を受け持つ作業機。一般に刈り取った作物は，脱穀や脱粒などの工程を経て収穫物が得られる。したがって，刈り取り機は収穫作業の一部を受け持つものである。刈り倒した作物の事後処理様式によって，刈り払い型・刈り倒し型・集束型・結束型などがある。刈り払い型は刈られた作物を特別には整然と並べるようなことをしないものをいい，刈り倒し型は刈られた作物を一定の方向に整然と並べるものをいう。集束型とは結束しやすいように一定量を集めて地上に並べるもので，結束は人手による。結束型は，刈り取った作物を結束まで完全に自動化したもので，バインダーということがある。わが国ではイネ用バインダーが開発され，ライスコンバインとともに，イネ収穫機の中心をなす機械となってきた。〔田原虎次〕

カリトン　［Chariton］　生没年不詳。ローマ時代に活躍したギリシアの小説家。アプロディシアスの生まれ。弁論家アテナゴラスの助手を勤めるかたわら，小説を書いた。代表作品は《カイレアスとカリロエ》。カイレアスとカリロエの夫婦がふとした誤解がもとで別れ別れになり，奴隷として売られたりするが，エジプトの反乱を機に再会し，以後幸福に暮らしたという話。文体は簡潔で，叙事詩や新喜劇からの引用も多い。複雑な筋を書きながらむだを省いて明快さを保っている。〔久保正彰〕

カリーニン　［Kalinin］　ソビエト連邦を構成するロシア連邦共和国の同名州の州都。人口38万3,000(1974)。旧名トベリ。市名は，1932年この地出身の政治家カリーニン*にちなんで改称された。モスクワの北西，ボルガ川の上流にある。モスクワからレニングラードに至る鉄道沿線にあり，織物・機械の一大生産地として知られる。13世紀初めの年代記にも現われている古い都市である。

カリーニン　［Mikhail Ivanovich Kalinin］　(1875～1946)　ソ連の政治家。農民出身で，ペテルブルクで労働者となる。1898年ロシア社会民主労働党入党。しばしば投獄，流刑。1905年革命に参加，十月革命に指導的役割を果たす。1919年全ロシア中央執行委員会議長となり，最高ソビエト幹部会議長を歴任。1916～1946年党中央委員，1926～1946年政治局員を勤め，1920年代・1930年代の政治指導権争いの中でも傷つくことはなかった。レーニン勲章，赤旗勲章受章各2回。《社会主義労働者の英雄の称号》のほか，社会主義建設に関する著書がある。〔山県弘志〕

カリーニングラード　［Kaliningrad］　ソビエト連邦，ロシア連邦共和国の飛び地*でリトアニア共和国とポーランドの間にある同名州の州都。旧名ケーニヒスベルク。人口33万1,000(1974)。バルト海に面し，プレゴリア川河口にある港市。港は不凍で，造船・機械・紙・パルプ・水産加工などの工業が盛んである。1255年に建設され，第2次世界大戦まではドイツ領東プロシアの中心地であった。第2次世界大戦でほとんど廃墟(はいきょ)と化したが，戦後1945年からソ連領となるとともに，革命家・政治家カリーニン*にちなんで市名を改称した。1544年創立の大学や14世紀の古い寺院などがある。哲学者カントの生地としても知られる。〔斎藤晨二〕

ガリバーりょこうき　【ガリバー旅行記】　スウィフト*の風刺小説。1726年に《ガリバー船長著の旅行記》として匿名で出版。4部の風刺小説からなる。第1部〈小人国〉では，身長15cmの小人たちに人間世界そっくりの権謀術数のかぎりを尽くさせることによって，第2部〈巨人国〉では，巨人国の国王に〈小人国〉イギリス政界の舞台裏やヨーロッパのキリスト教国の好戦的残忍さを吹聴することによって，イギリスおよび西ヨーロッパの文明世界を風刺している。また第3部〈飛空国・不死国・変物国・日本〉では，数々の変物を登場させて近代の科学文明を風刺，第4部〈馬人国〉ではユートピアの主人公を馬とし，人間を醜悪・残忍なけだもの〈ヤフー〉として馬に隷従させることによって，人間という〈地上最悪・最低の動物〉を風刺している。その風刺は，直接には当時のイギリス社会に向けられているが，人間一般への痛烈な風刺ともなっていて，古今東西に影響を与え，日本では夏目漱石*(そうせき)の《文学評論》に興味ある言及がなされている。〔奥山康治〕

ガリバルディ　［Giuseppe Garibaldi］　(1807～1882)　イタリアのリソルジメント*(国家統一運動)の志士。マッチーニ*の青年イタリア党に参加して1834年ジェノバの革命を指揮し，失敗してフランスから南アメリカに亡命。そこでも各地の反乱や独立運動に参加した。1848年イタリア統一戦争*に際し帰国して参戦し，サルジニア軍敗北ののちローマに成立した共和革命政府に加わってフランスと戦ったが再びニューヨークに亡命。1854年帰国したが，このころマッチーニから離れてサルジニア王国に接近した。1859年第2次イタリア統一戦争が始まるとサルジニア軍を援助し，1860年には〈千人隊(赤シャツ隊)〉を率いてシチリア島に遠征し，たちまち同島および南イタリアをナポリ王国の支配から解放した。さらにローマをめざして進撃したがカブール*にはばまれ，獲得地をサルジニア王に献じて引退した。その後も再度ローマ攻略を企てたが成功せず，また1870年のプロイセン-フランス戦争のときガンベッタ*の義勇軍募集にも応じている。彼は内政には携わらず，共和主義者として義勇軍活動に徹した。〔大野慎一郎〕

カリひりょう　【カリ肥料】　カリウムを比較的多く含む肥料。カリ肥料の大部分は，無機質肥料の塩化カリウムと硫酸カリウム

であり，わが国での消費量は，1970年(昭和45)で，塩化カリウム84万t，硫酸カリウム21万tである。このほとんどを輸入にたよっている。これらの原料は，主としてカルナリット・シルビニットのような水溶性カリ鉱石が用いられている。なお，有機質肥料として，わが国では昔から草木灰・海藻(かいそう)灰・堆厩肥(たいきゅうひ)が用いられてきた。堆厩肥はその他の肥料成分をも含んでいるが，カリウムの含量は他のものに比べ少ない。カリウムが不足すると，植物の生育は悪くなり，ひどくなると葉にかっ色斑(はん)を生ずる。➔肥料　〔早瀬達郎〕

カリフ　[caliph]　〈継承者〉を意味するアラビア語ハリーファに由来し，〈アッラーの使徒，マホメットの後継者〉の呼称。イスラム国家の最高権威者。初代カリフにアブー-バクル(在位632～634年)が選ばれ,のち歴代王朝に受け継がれてきたが，オスマン-トルコ帝国において1923年10月の共和制宣言とともに消滅した。

カリブ(海)　[Carib]　南アメリカ大陸の北岸，西インド諸島と中央アメリカに囲まれた縁海で，東と東北はウィンドワード海峡によって大西洋に連なり，北西はユカタン海峡を経てメキシコ湾に連なる。またパナマ運河によって太平洋へも通ずる。面積190万km²。平均深度は約2,500mであるが,東部と北西部は特に深く，最深部は6,000mを越える。北赤道海流が大西洋から小アンチル諸島の間を経てはいり，ユカタン海峡からメキシコ湾に流れ込んで，メキシコ湾流の源となっている。海の色が美しく透明度の高いことで知られ，海域周辺の島々には保養地が多い。海水の塩分はわりあいに少なく，北貿易風帯にあるため気候は温暖で，水温も1年じゅうほとんど変わらない。しかし，この海域で発生する熱帯低気圧ハリケーン*はアメリカ合衆国を襲い，多大な被害を与えることがある。島々では石油・鉄鉱・砂糖・コーヒー・バナナなどを産し，港から積み出され，この海域を経て諸国へ向かう。

海域を囲む国々には中央アメリカのホンジュラス・ニカラグア・コスタリカ・パナマなど，西インド諸島中にはキューバ・ジャマイカ・ハイチ・ドミニカ，南アメリカ側では，ベネズエラ・コロンビアがこの海域に面している。これらの国々は概して低開発国で，政情も安定していない。1492年コロンブス*は大航海のすえにバハマ諸島に到達し，その後3回にわたって航海を行なって，この海を取り巻く陸地の大部分を発見した。　〔長津一郎〕

カリフォルニア(州)　[California]　アメリカ合衆国太平洋岸最南部の州。面積40万6,000km²。人口2,090万7,000(1974)。州都サクラメント。1850年合衆国の第31番めの州となる。州名はスペインの征服者たちが名づけたものに基づくもので，1510年にモンタルボが書いた騎士道小説に出てくる地球上の楽園付近にある想像の島の名であるという。西部の海岸山脈と東部のシエラネバダ山脈と，この両山脈にはさまれた中央低地としてのカリフォルニア盆地からなる。最南部の砂漠(さばく)地域を除くほかは地中海式気候で，灌漑(かんがい)が発達し，野菜・ブドウ・メロン・砂糖・綿花・米などの農業生産額は合衆国第1位である。州は1848年金の発見とともに開発されたが，現在では，航空宇宙産業とエレクトロニクス・ミサイルなどの軍事・国防産業は合衆国第1位，食品加工業・機械工業などを含めた工業生産額はニューヨーク州に次いで全州中第2位を誇る。石油・天然ガスなどの鉱業と林業・漁業も盛んである。人口は全州中最も多く，日系の住民の最も多い州である。日本からの移民は1869年，官軍に敗れた会津若松の藩士49人が，オランダの武器商人シネールに連れられていったのが最初だといわれ，現在では日本の商社の進出も著しい。主要都市，ロサンゼルス・サンフランシスコ・サンジエゴ・サンホセ・サクラメント。　〔相村大彬〕



カリフォルニア州　州の中部にあるヨセミテ国立公園。氷食によって形成されたU字谷のヨセミテ渓谷を中心として，谷には大小無数の滝がかかっている

カリフォルニア(半島)　[California]　メキシコ北西部，太平洋沿いに南下する半島。長さ1,200km，面積14万5,000km²，人口99万(1967年推)。カリフォルニア湾*をはさんで本土に対する。山がちの地形で，砂漠(さばく)や草原が広がり，本土から不便な位置にあるために開発が遅れた。しかし，住民は比較的肥えた土壌(どじょう)でワタ・トウモロコシ・小麦のほか果実をつくり，銀・鉛・金などの産もあって，今後の開拓の期待される地域である。　〔長津一郎〕

カリフォルニア(湾)　[California]　メキシコ北西部，太平洋岸の湾入。南北に狭長で，長さ1,100kmに達する。南は太平洋に連なり，北部にはコロラド川が注いで三角州平野をつくっている。沿岸部，特にカリフォルニア半島*は乾燥した気候のため，砂漠(さばく)または半砂漠となり，開発は遅れている。海岸線は出入りが多いが，良港には恵まれていない。

カリフォルニア(油田)　[California]　アメリカ合衆国西部，ロサンゼルスを中心にカリフォルニア州南部に広がる大油田。開発は1870年ごろに始まり，1900年ごろには430万バレルを産油し，1923年には年産2億6,300万バレルに達した。現在も約3億バレルを産油しており，メキシコ湾岸油田に次ぐ合衆国第2の油田である。原油はパイプラインで中西部・東部に送られる。1954年からはロングビーチ南東沖で，海底からの採油も行なっている。　〔野間三郎〕

カリフォルニアざいばつ　【カリフォルニア財閥】　⇨ジャニーニ財閥

カリブかいせいさく　【カリブ海政策】　19世紀末から1920年代までの間，アメリカがカリブ海諸国に対してとった強硬外交。19世紀後半の経済的な発展により，原料供給地および商品・投資市場として，また大西洋・太平洋連絡路としての重要性という点から，さらに，ヨーロッパ列強の進出なども原因して，アメリカは19世紀末にはカリブ海地方への経済的・軍事的な関心を高めていった。1895年のベネズエラ・英領ギアナ(ガイアナ)国境紛争に関して仲裁裁判に付すべきことを主張した〈オルニー宣言〉はアメリカ大陸への合衆国の主権を明確にしたもので，カリブ海政策の端緒となった。アメリカ-スペイン戦争*でキューバ・プエルトリコを獲得後，大統領T.ルーズベルト*は〈棍棒(こんぼう)外交〉で1903年パナマ運河を取得。パナマを保護国化し，1904年ドミニカの財政問題に関してアメリカがこれら小国

の債務履行に干渉する責任をもつと唱えた〈ルーズベルトの系論〉を発表，ラテン-アメリカに対する合衆国の国際警察権の保有を宣言した。ここにモンロー主義*の規制対象がヨーロッパ諸国から中南米諸国にも拡大された。次のタフトは〈ドル外交〉を掲げてニカラグアへ海軍を派兵し，グアテマラ・ホンジュラスに干渉。ウィルソン*はドル外交を否定したが，現実には前任者の政策を継続して，1913年ニカラグアを保護国化し，1915年ハイチに軍政を施行，1916年ドミニカ全土を支配し，1917年にはバージン諸島をデンマークから購入して，カリブ海制覇(せいは)を一応達成した。ハーディング・クーリッジの時代には積極的干渉は弱まり，憲法の規定をめぐって緊迫していたメキシコとの外交関係も1927年に解決した。武力干渉・借款供与・税関管理など，帝国主義的手段によるカリブ海政策は中米諸国の反米感情を強めたが，フーバーのとき修正され，F.ルーズベルトが〈善隣外交〉を提唱するに至り衰滅した。〔折井一彦〕

カリプソ ［calypso］ ラテンアメリカ音楽の一。語源は不明だが，本来トリニダード島の黒人の歌であり，歌詞は一般に物語性をもち，歌い手の見聞したできごとなどを軽い皮肉を交えながら即興的に歌う。この場合，メロディーは重要でない。その中には曲として定着したものもあり，《ラムとコカコーラ》などはアメリカ合衆国でも1940年代から有名になった。今日では一般にカリプソをリズム名として使っており，《バナナ-ボート-ソング》などは本来カリプソではないが，このリズムで歌われてから有名になった。〔中西義郎〕

カリプソ ［Kalypso］ ギリシア英雄伝説のニンフ*。オギュギエ島に住み，トロヤ戦争後，故郷へ向かうオデュッセイア*が島に漂着した際に，彼を救った。彼との間に2児を得たが，7年後，彼が故郷への帰還を願ったため，出帆を助けた。

カリフラワー ⇨ハナヤサイ

ガリポリ ⇨ゲリボル

カリホルニウム ［californium］ 超ウラン元素の一。記号Cf，原子番号98。97番元素バークリウムと同じく，カリフォルニア大学のシーボーグなどの核学者によって1950年2月にはじめてつくられた元素。^{244}Cfはα放射性で，半減期45分。

カリマコス ［Kallimachos］ (BC310～BC240ごろ) ヘレニズム時代の詩人・学者。北アフリカのキュレネ出身。アレキサンドリアの郊外で教鞭(きょうべん)をとっていたが《ゼウス賛歌》で詩名をはせた。アレキサンドリア図書館に勤務中50万冊の文学史的図書目録を作成する。BC270年に女王アルシノエ追悼詩をつくり桂冠(けいかん)詩人の栄を得た。短編詩を好み，該博な知識と洗練された技巧と豊富な引例を用いた技巧派詩人である。〔久保正彰〕

カリマンタン(島) ⇨ボルネオ島

かりや 【刈谷(市)】 愛知県中南部の市。江戸時代は土井氏二万三千石の城下町で，1923年(大正12)豊田(とよた)自動織機の工場が設置されて以来急速に発展した。1950年(昭和25)市制施行。人口104,000。西三河(にしみかわ)平野の南部，尾張(おわり)と三河を分ける境川の左岸に位置している。産業三大別人口比は6：60：34で，トヨタ系の工場・会社が集まり，紡織機・ミシン・自動車車体などがつくられ，衣浦(きぬうら)臨海工業地帯の中心地となっている。南部の農業地帯では米作のほか野菜の栽培も盛ん。東海道本線・名古屋鉄道三河線・国道155号線に沿う。

かりやえきさい 【狩谷棭斎】 (1775～1835) 江戸後期の漢学者。市野迷庵(めいあん)に師事して律令*(りつりょう)の研究を深め，その深い学殖をもとにして，わが国の古典の考証を行ない，後代の国文学・歴史学の研究に大きく貢献した。《日本霊異記攷証(こうしょう)》《箋註和名類聚抄(せんちゅうわみょうるいじゅしょう)》《古京遺文》などは論証の正確さという点でことにすぐれている。

カリャオ ⇨カヤオ

かりやす 【刈安】 単子葉植物・イネ科。本州中部の山地にはえるススキに似た多年草。ススキより小形で80～100cmの高さになる。8～10月に散房花序にかっ色をおびた小穂をつける。近江(おうみ)(滋賀県)の伊吹(いぶき)山に多いのでオウミカリヤスともいう。昔から有名な染料植物で，黄色の染料として用いられた。ススキもヨシも同じ目的で用いるが色が淡い。八丈島ではコブナグサ*をカリヤスといい，黄八丈を染めるのに用いる。

かりゅう 【加硫】 ゴム工業において，原料の生ゴムを実用にかなった性質に変質するために施す操作の一。加硫をしない状態の生ゴム製品は，気温の高いときにはべとついて形もくずれ，寒くなるとかたくなってしまう。生ゴムのこうした重大な欠点は，生ゴムにイオウを混ぜて加熱すれば除去できることが，1939年，アメリカの発明家グッドイヤーによって明らかにされた。加硫によって，ゴムは，温度による弾性の変化が減少(100～－50℃にわたってゴム弾性が保持されるようになる)するばかりでなく，弾性自体も強くなり，耐溶剤性も向上するので，加硫はゴム工業には不可欠の工程である。加えるイオウの量は原料ゴムに対して約3％，合成ゴムの場合にはその種類にもよるが2％以下である。特別に30％以上添加して長時間加熱処理したものはエボナイト*とよばれ，硬質製品となる。加硫によりゴムの性質が大きく変わるのは，ゴムの分子鎖のある場所がイオウと反応して結合し，これが他の分子鎖にも及んで，結局，イオウの化学的結合による網状構造が生ずるためと考えられている。実際の加硫に際しては，加硫剤としてのイオウ粉末とともに，グアニジン類その他含窒素化合物を主体とした加硫促進剤，ステアリン酸および亜鉛華による加硫促進助剤もいっしょに加えられる。なお，加硫剤としてはイオウ粉末以外の化合物が用いられることもある。また，上記の熱加硫のほかに塩化イオウを加硫剤に用いる冷加硫もある。➔ゴム 〔伊藤 卓〕

かりゅうかい 【花柳界】 遊女や芸者のいる地域および社会。中国で芸者を花娘(かじょう)，色里を花街柳巷(りゅうこう)というのに由来する。公娼(こうしょう)のいる遊郭*，私娼のいる岡場所*，芸者のはいる料理茶屋や船宿*をいう。江戸の遊郭は吉原*(よしわら)で，はじめ大名など高級武家の社交場であった。遊女は太夫*(たゆう)と称し，肉体のほか高い水準の遊芸で客をもてなした。江戸中期の宝暦(ほうれき)年間(1751～1763)，町人が経済的実力によって大名に代わり，客となると，吉原は性本位の遊蕩(ゆうとう)場と化した。同時に太夫は消滅し，遊芸を楽しむ客はほかにその場を求めた。太夫と交替に現われた町芸者が，料理茶屋や船宿でその粋(いき)な遊びの相手をつとめた。料理茶屋は明和年間(1764～1771)洲崎(すさき)の升屋(ますや)に始まり，文化・文政(1804～1829)にかけて隅田(すみだ)川をはさんで急激にふえた。山谷の八百善(やおぜん)，深川の平清(ひらせい)などがそれで，町芸者の芸の提供場所となった。遊客を運ぶための船宿もまた，芸者との隠れ遊びにかっこうの場であった。しかし，その退廃的な江戸情緒は，明治維新となって時の政治家に喜ばれず，新たに新橋・築地(つきじ)・赤坂に色町が興った。名称の上で〈花柳界〉は，その前後に始まる。〔稲垣史生〕

かりゅうざい 【顆粒剤】 飛散性またはかさ高い粉末剤を飲みやすくするため，結合剤・崩壊剤・賦形剤・白糖などを加えて粒状にした薬剤。剤皮を施すこともある。日本薬局方では粒子の大きさは12～60メッシュ(1.41～0.250mm)の間とし，80メッシュを通過するもの(0.177mm以下)は全体の5％以下と決めている。このほか，調剤の簡易化のため，また自動包装機にかけるために散剤を細粒化したものもあるが，これは正確には顆粒剤とはいわない。〔江本龍雄〕

かりゅうどばち 【狩人蜂】 膜翅(まくし)目のこん虫のうち，他のこん虫類やクモ類などを幼虫の食物とする習性をもつ一群のハチ類。分類学的には単一の群ではなく，ツチバチ科・ベッコウバチ科・スズメバチ科(トックリバチ類やドロバチ類)・ジガバチ科(アナバチ・ジガバチモドキ・ジガバチなど多様な群から構成される)などに属する種類をいう。膜翅目の中では，比較的進化が進んだ群であるが，アリ類やミツバチなどのように高度な社会生活を営むまでには至っていない。種類によって巣の作り方や幼虫の食物とする獲物の種類も異なる。狩りの獲物は毒針(産卵管)で毒を注射して神経を麻痺(まひ)させるが，群によって毒性の

強さは異なる。生活習性は，狩りの現場で獲物に産卵してそのまま放置する放浪性の種から，獲物を草むら・樹皮下などに運んで隠すもの，獲物のいた巣を利用するもの，みずから営巣して獲物をそこまで運搬して貯蔵するものと，進化の段階が進むにしたがって複雑になる。以下，各群について，簡単に巣の作り方と獲物の種類を述べる。ツチバチ科のハチはその名の示すようにほとんどの種が土中に巣をつくり，おもにコガネムシ類の幼虫を狩る。サイパン島で，サトウキビの大害虫であるマリアナスジコガネムシを，その天敵であるヒメハラナガツチバチを放飼して駆除に成功した例は害虫の生物的防除の好例として有名である。ベッコウバチ科のハチは土中に巣をつくるもの，泥土(でいど)でつぼ形の巣をつくるものなど種々あるが，他のベッコウバチ類の巣に寄宿する種類もあり，好んでクモ類を狩る。トックリバチ類は泥土や砂土を集めて石の上や樹板の上などに，とっくり形・球形・半球形などの巣をつくり，鱗翅(りんし)類・ハバチ類・ハムシ類・ハエ類などの幼虫を狩る。ドロバチ類はカミキリムシ類の脱出孔，スズバチやジガバチ・クマバチなどの古い坑道などを利用して，どろの壁で幼虫室を仕切った巣をつくる。獲物には鱗翅類・ハムシ類・ハバチ類の幼虫などを好んで狩る。アナバチ類はキクイムシ類の孔道などを利用して，そこに枯れ草・わらくず・スギゴケなどを運んで巣をつくり，ゴキブリ類の若虫や半翅類・直翅類の若虫や成虫を狩る。ジガバチ類は竹筒虫や樹上の空洞(くうどう)などに小石や木片・枯れ草・わらくず・スギゴケなどを運んで巣をつくり，鱗翅類の幼虫やアワフキムシ類・ハエ類・クモ類を狩る　〔鈴木邦雄〕

かりょう　【過料】　犯罪に対する罰として科せられるもの(科料*)ではなく，主として，ある行政目的を達するため，また法秩序を維持しようとするため，法令違反者に科する金銭罰。たとえば正当な理由がないのに所定の期間内に戸籍*の届け出をしないと500円以下の過料に処せられる(戸籍法120条)。科料と区別するため〈あやまち料〉などともよばれる。

かりょう　【科料】　犯罪を原因として科せられる財産刑*。罰金*よりも軽く，5円以上1,000円未満(刑法9・17条，罰金など臨時措置法)。科料を完納しない者は1日以上30日以下の期間，労役場留置*に処される(刑法18条)。

かりょうびん　【迦陵頻】　日本の雅楽の曲名。左方(唐楽)，壱越調(いちこつちょう)の中曲。古楽で，別名《鳥》《迦陵頻伽(かりょうびんが)》《不言楽》という。題材は，祇園精舎*(ぎおんしょうじゃ)の供養の日に妙音鳥(迦陵頻伽)という極楽の鳥が飛んできて舞ったので，そのようすを妙音天が舞にしたという。2人または4人の子どもの舞人が冠と鳥の羽をつけ，銅拍子を鳴らしながら舞う。《胡蝶(こちょう)》の舞とともに上演され，仏供養の法会のときに舞われる。

かりょうびんがもん　【迦陵頻伽文】　迦陵頻伽を文様化したもの。翼と鳥の足を持ち，顔は美女に表現され，2本の人間の足を持つものと持たぬものとがある。これは理想化された形状の美ともいわれ，仏教関係の器物などに盛んに用いられている。

かりょくじゅりん　【夏緑樹林】　春先に芽吹き，夏に緑葉を茂らせ，冬には落葉する広葉樹を中心とする植物群系。林床は明るいためササや草本植物が茂っている。ミズナラ・カシワ・ブナ・ケヤキ・シラカバなどによって構成され，本州中北部・北海道に分布する。➔温帯林

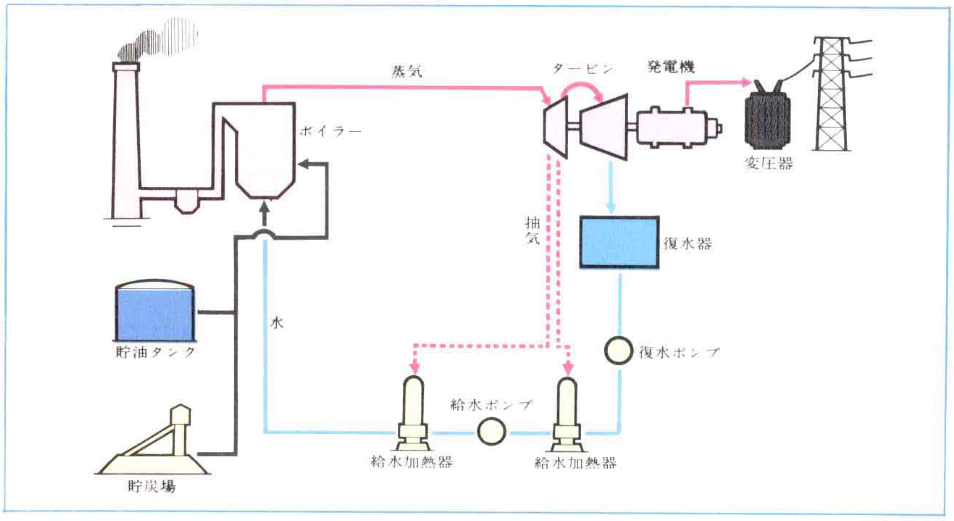
かりょくはつでん　【火力発電】　石炭・重油・ガスなどによって発生した高温高圧の蒸気でタービンを回転させ，その回転力によって発電機を回して発電させる方式。使われる原動機の種類から汽力発電所*・内燃力発電所・ガスタービン発電所*に分類される。

わが国の発電設備は1955年(昭和30)ごろから火主水従*に移行し，現在全発電設備4,000万kWのうち70%近くが火力発電所に依存しており，その主流は汽力発電所である。

燃料には固体燃料(石炭)・液体燃料(重油)および気体燃料(天然ガス・石炭ガス・発生炉ガス・液化石油ガスなど)があり，燃料の貯蔵の方法・施設，経費などは大幅に異なる。近年コンビナートがつくられるに及び，隣接の化学工場からパイプで燃料をもらうことが多くなっている。蒸気を発生するボイラーは，①自然循環ボイラー，②強制循環ボイラー，③貫流ボイラー，に大別される。自然循環ボイラーは蒸発管と下降管中の水の比重差によって灌水(かんすい)が循環する最も簡単な方式で，古くから使われてきた。わが国では圧力170kg/cm²，容量350MWのものが建設されている。強制循環ボイラーは循環ポンプによって気水ドラム(高温高圧の蒸気留め)からボイラー水を抜き，これを水壁管に供給する方式で，水壁管には蒸発量の4～10倍の水が循環され，熱負荷の大きい管には多くの水を供給するように調節をする。わが国では170kg/cm²，400MW程度のものが建設されている。貫流ボイラーは，蒸気留めのドラムがなく，給水ポンプによってボイラー入り口から出口まで強制的に流される。したがって，ボイ



迦陵頻伽文
中尊寺金色堂の金銅迦陵頻伽宝相華文華鬘部分



火力発電　汽力発電所の主要設備



火力発電
東京電力五井火力発電所(千葉県)。容量 176万kW。燃料 重油

ラー保有水量も少なく，水管の肉厚部が少ないので熱歪(ねつわい)が小さく，始動・停止が容易で，負荷変動に対する応答性もよい。貫流ボイラーは近年急速に普及しつつあり，600MW，246kg/cm² のものまでつくられている。

公害問題に関連して，ボイラー内で燃焼し，煙突から外部へ排出されるガスの処理が重要な課題になっている。石炭を燃料とする場合は，すす・粉塵(ふんじん)が多量に発生するため，遠心力などを利用した機械式集塵装置および電気集塵装置が用いられる。また重油燃焼のときは，イオウ分の少ない油を使うか，あるいは脱硫装置によって亜硫酸ガスを除去することが行なわれている。大形ボイラーの効率は90%に達する。

蒸気タービンは，ボイラーで発生した高温高圧蒸気のもつ熱的・機械的エネルギーを機械的トルク(回転力)に変える装置で，発電機と同軸で直結している場合が多い。発電機が2極形式のときは，50ヘルツ*(Hz)系統で毎分3,000回転(60ヘルツ系統では3,600回転)，4極形式のときは毎分1,500回転(1,800回転)で回るので，動的バランスのよくとれていることが肝要で，十分な材料強度，高精度の機械工作技術，タービン翼の機械的共振を起こさせない運転方法が要求される。タービンは固定翼と動翼をもつ。蒸気の圧力降下のさせ方で衝動タービンと反動タービンの別がある。前者は蒸気の圧力降下が主としてノズルで行なわれ，ノズルから噴出する蒸気の衝撃力によって羽根車(ローター)を回すものである。後者はノズルまたは固定羽根で圧力降下させるとともに，動翼(回転羽根)でも圧力降下させ，動翼から噴出する蒸気の反動力によって羽根車を回転させるものである。

復水設備の目的は，蒸気タービンで仕事をした蒸気を凝縮させていわゆる復水となし，再び給水の役にたてることと，タービン排圧を下げることによってタービン効率を向上させることである。

発電機はタービンによって回され，機械的トルクを電力エネルギーに変換する。汽



ガリラヤ湖 湖の東岸には山地が迫り，峨々とした山はだが続く。1967年からの中東戦争で戦場となり，平和な村落も破壊された

ガリレイ



力発電所の建設費を安くするには，発電機の単機容量をできるだけ大きくとる必要があり，わが国でも500MW・600MW機の建設・運転が行なわれるようになった。発電機としては3相同期発電機という形式のものがほとんどであり，その端子を通して送電網と結ばれるので，回転速度の規定値維持，発電機端子電圧の調節などの自動制御が行なわれている。ボイラーの自動燃焼制御などとともに，火力発電所は自動制御機構がなくては運転しえないくらい，大きなシステムを形成している。

電力系統には火力発電所と水力発電所が共存しているのが普通である。1年間という期間を考え，貯水池の水をじょうずに使って，同一の需要変動に対する1年間の火力発電所の燃料費を減らす目的で，経済負荷配分といわれる制御が日常の運転業務の中に取り入れられている。汽力発電所の総合効率は蒸気圧246kg/cm²級のもので，39.5%に達するものがある。〔田村康男〕

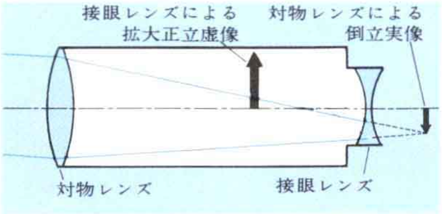
ガリラヤ ［Galilee］ イスラエル北部の高原を主とする地方。北方から延びるアンチレバノン山脈南端の高地で，高度は最高1,200 mである。東側は急落してヨルダン渓谷(けいこく)となり，ヨルダン川はガリラヤ湖*に流入してさらに死海に向かい，ここに低地帯が形成される。中心都市はナザレス。キブツ*とよばれる共同経営の農場を中心に農牧業を営み，小麦・綿・果実の産をあげている。古代ユダヤの中心となったところで，紀元前1世紀にはローマの属州となったが，ユダヤ民族の抵抗が最も激しかった。イエスが育ち，伝道活動をした土地として知られる。〔今井留吉〕

ガリラヤ(湖) ［Galilee］ イスラエル北部，シリアとの国境に近い湖。周囲52km，深度50 m。ガリレー海ともチベリアス湖ともよばれる。死海に連なる地溝帯(ちこうたい)にあたるため，湖面は－212 mという低さである。この湖を含んだ一帯はガリラヤ地方の一部で，風光に恵まれた，土地の肥沃(ひよく)な農業地帯である。古代ユダヤの中心になった所であり，イエスにもゆかりが深い。

ガリレイ ［Galileo Galilei］ (1564～1642) イタリアの天文学者・物理学者。近代自然科学の祖といわれる。ピサに生まれ，はじめピサ大学で医学を修め，フィレンツェに移って数学・自然学を学んだ。1589年ピサ大学数学教授，次いで1592年パドバ大学教授となり，在職18年間にすぐれた業績を示し，その名声は全ヨーロッパに響いた。その後フィレンツェのトスカナ太公のおかかえ学者となったが，このころから地動説*に関連してローマ教皇庁の反発を受け，1616年の審問に次いで1632～1633年の宗教裁判によって異端の判決を受けたことは有名である。以後はフィレンツェ郊外に蟄居(ちっきょ)して《新科学対話*》の完成に努めつつ寂しく死んでいる。運動学の研究にはいった当初は，真空中での運動の可能性を述べる〈差の法則〉や，重さが物体に勢いを与えるとする〈駆動力〉の理論に立っていた。しかし，パドバに移ったころから独自の道を展開し，自然落下運動についての〈斜面の実験〉を行ない，落下距離が時間の平方に比例することを実証し，落下の等加速度性を結論した。またこの加速度が物体の比重に無関係であることを示し，不明確ながら〈慣性の法則〉にも達している。1609年にはいちはやく望遠鏡を製作，これを天体研究に用いて木星の衛星，土星の輪，月面の凹凸(おうとつ)，太陽の黒点などをあいついで発見，コペルニクスの宇宙論(地動説)に支持を与えた。その著《星界の報告》(1610)・《黄金計量者》(16

23)や，特に《天文対話》(1632)と《新科学対話》(1638)は今日も広く読まれ，普遍的数学的法則の確立と経験事実の数量的分析という近代科学の方法の確立者として，その功績がたたえられている。〔藤村　淳〕

ガリレイしきぼうえんきょう【ガリレイ式望遠鏡】接眼レンズに凹(おう)レンズを用いた屈折望遠鏡。対物レンズによって生じた倒立像を，凹レンズによって拡大し，正立の虚像で見る。主としてオペラグラスに用いられている。➔屈折望遠鏡　➔ケプラー式望遠鏡



ガリレイ式望遠鏡

かりん【榠樝】双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉高木。幹は直立し，高さ8m，径35cmほどになり，樹皮が鱗形(りんけい)の薄片にはがれ，雲紋形の跡ができる。葉は互生し，長さ4～7cmの楕円(だえん)形。4月に枝端に淡紅色の花をつける。果実はボケに似た大形の楕円形で，黄熟し，芳香がある。果肉はかたく，酸味があり，生食に適さないが，砂糖づけや果実酒にする。民間ではせんじてせき止めに用いられる。材は緻密(ちみつ)で美しいので，床柱などの装飾材や細工物材として用いられる。


カリン

かりんさんせっかい【過リン酸石灰】化学肥料の一。リン鉱石を硫酸で分解したもので，主成分はリン酸一カルシウムと硫酸カルシウムである。灰かっ色のあらい粉末で，リン酸含有量が17～20%の代表的リン酸質肥料である。1835年ごろ，ドイツで骨粉に硫酸を作用させてつくられ，最も古い歴史をもつ化学肥料である。わが国でも1886年(明治19)より製造が始められた。第2次世界大戦後，一時200万tを越える生産がみられたが，リン安(リン酸アンモニウム)を基調とする高度化成肥料*や溶性リン肥の生産増大におさえられて，最近は110万t程度である。しかし，生産量が減ったとはいえ，わが国の代表的なリン酸質肥料であり，大部分の配合肥料・低度化成肥料のリン酸資材として用いられている。なお過リン酸石灰を略して過石ともいう。また重過リン酸石灰(重過石)に対して，普通過石ということもある。〔早瀬達郎〕

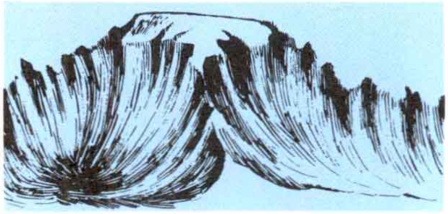
カリンティ［Karinthy Frigyes］(1887～1938)　ハンガリーの小説家。知的な作風で人気を博した。代表作にスウィフトの《ガリバー旅行記》の続編として書かれた風刺小説《ファレミド》《ツァピラーリァ》，作者自身の脳手術の体験記《私の頭蓋骨(ずがいこつ)の旅》などがある。

かりんとう【花林糖】油菓の一種。その名はカリンの木に似ていることに由来する。小麦粉・砂糖・ふくらし粉・水を混ぜてできるだけかたくこね，伸ばして小棒状に切り，油で揚げてみつをかける。かけみつは，砂糖に水を加え火にかけて煮つめる。この中に揚げ種を入れ，手早くかき混ぜ，全体にみつをまぶす。砂糖の種類によって白かりん糖・黒かりん糖という。膨剤にイーストを使用して発酵させる方法もある。

カリンポン［Kalimpong］インド共和国東部，西ベンガル州の町。ダージリンの東南東13kmに位置する。人口25,000(1965)。海抜1,200mの高地にある保養地であり，同時にインドからシッキムを経てチベットに至る交通の要点であって，物資の交換が盛んである。毎週2日開かれる市には，種々の民族が集まってにぎわう。

ガーリン-ミハイロフスキー　⇨ミハイロフスキー

カール［Kar］圏谷ともいい，氷河の侵食作用によって形成され，山地の上部が半分に割った椀(わん)をはめこんだような地形をいう。馬蹄(ばてい)形の急斜面とゆるい傾斜，あるいは平坦(へいたん)な谷底からなる。氷河が山頂部をおおうと気温の変化による融解や凍結，あるいは氷体の圧力によって侵食がくり返され，カール壁下部の岩石は破砕される。破砕された岩片は氷河の回転運動および重力によって下方に運ばれる。氷河の流動は，氷河底と基盤とにはさまれた大小の岩片によって岩盤を研摩し，カール底には多数の瘤状岩(りゅうじょうがん)をつくり，その表面には多数のみぞや擦痕(さっこん)を出現させて氷河流動の方向を示している。ヨーロッパ-アルプスでは各所にこの地形がみられ，わが国でも，中央アルプス・北アルプスの2,500m以上の高所や，北海道日高山脈の1,600m以上の高所に発達している。〔桑原正見〕


カール

カール［Karl］西ローマ皇帝・フランク国王。

1 1世(742～814)　フランス名，シャルルマーニュ。大帝とよばれる。ヨーロッパ中世前半の代表的な帝王。在位768～814年。父の小ピピン*が768年に死亡して弟カールマンと共同で統治したが，771年カールマンの死で単独支配者となった。治政の前半は征戦に終始し，772～804年の長期の戦いによってザクセン人を征服し，773～774年にランゴバルド王国を滅ぼした。778年にスペインへ遠征してサラセン人と戦ったが，その帰途ロンスボーの峠でバスク族の奇襲をうけた。この事件がのちに武勲詩《ローランの歌*》でうたわれた。さらに，バイエルンを征服して東方のアバール人・ベンド人を討伐した。大帝は内政にも努め，伯(コメス)や巡察使(ミッシ-ドミニキ)をおいて国内を統治し，国境地帯には辺境区(マルカ)を設けて外敵を防いだ。また法令(カピトゥラーレ)を発布して産業の振興や教会の刷新を図った。キリスト教の保護・普及に熱心であったが，同時に教会を自分の権力下においた。800年ローマにおいて教皇レオ3世*の手で帝冠をうけ，西ローマ皇帝となった。学者を集めて学芸を奨励し，カロリング-ルネサンス*とよばれる学芸の興隆をもたらした。その事績は，彼に仕えたアインハルトの《カール大帝伝》によって伝えられている。


カール1世(大帝)　カール1世の戴冠　《フランス大年代記》より　14世紀

2 2世(823～877)　禿頭(とくとう)王とあだ名される。西フランク国王。在位843～877年。ルードウィヒ1世*(敬虔(けいけん)王)の末子で，兄3人とは母をことにする。国土分割に関して父王が末子を偏愛したので，兄たちが反乱を起こした(833)。840年父王が死んで兄弟が争ったが，次兄ルードウィヒ2世(ドイツ人王)とシュトラスブルク宣誓を結んで，長兄ロタール*を破った。この盟約は独仏2語による文書として有名。翌843年長兄ロタールと3人の間でベルダン条約*が結ばれ，王国は3分されて，彼は西フランク王国を得た。さらに870年のメルセン

条約*によってほぼ今日のフランスの領土を支配することになった。東フランク王国とたえず争い，また地方勢力やノルマン人の侵入に悩まされた。875年ローマで皇帝位についた。彼は学芸を奨励し，その宮廷には哲学者エリウゲナ*らがいた。

③3世(839〜888) 肥満王とよばれる。在位876〜887年。東フランク国王ルードウィヒ2世(ドイツ人王)の子で，876年父の死で兄2人とともに統治。881年皇帝となり，884年に西フランク国王を兼ね，カール大帝当時のフランク王国領土をほぼ統一した。しかしノルマン人の侵入に無力で，887年に甥(おい)のアルヌルフや諸侯により廃位され，その後をアルヌルフが継いだ。〔兼岩正夫〕

カール [Karl] 神聖ローマ帝国皇帝。

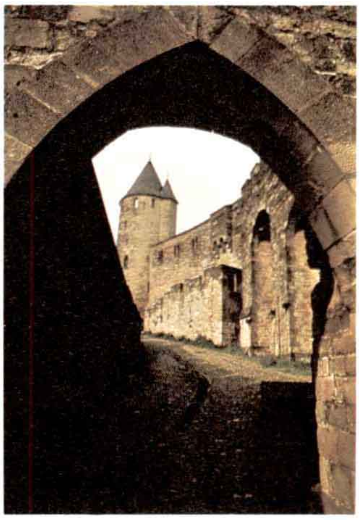
①4世 (1316〜1378) ルクセンブルク家出身の神聖ローマ皇帝。在位1347〜1378年。ベーメン(ボヘミア)王の子。バイエルン公の対立候補として王に選ばれ，のちローマで帝冠を受けた。王はもっぱら自領ベーメンの統治に力を尽くしたが，帝国内では金印勅書*を発布して選帝侯の権利と皇帝選挙の規定を定め，政治的安定を図った。また，プラハに大学を設立するなど，文化政策にも力を注いだ。

②5世(1500〜1558) ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝。在位1519〜1556年。スペイン王としてはカルロス1世。在位1516〜1556年。父方の祖父マクシミリアン1世*のあとを継いで皇帝に選ばれたが，このときの対立候補であったフランスのフランソア1世*とはその後もイタリア戦争を行なって争い，有利に戦争を終わらせた。国内ではウォルムス国会*を開いてルターを抑圧し，ルターを支持する諸侯と争った。その後，トルコ軍の攻撃を受けるとシュパイエル国会*(1526)を開いて一時ルター派と妥協したが，トルコ軍を撃退してからは再びルター派を抑圧した。しかし，ルター派諸侯と自由都市はシュマルカルデン同盟*を結んで抵抗したため，抑圧しきれず，結局1555年，アウグスブルク宗教和議*を機に和を結んだ。1556年，帝位を弟フェルディナント1世に，またスペイン王位を子のフィリップ2世に譲って引退し，それに伴って領土も2分された。➔ハプスブルク家

③6世(1685〜1740) オーストリア-ハプスブルク家出身。在位1711〜1740年。スペイン継承戦争*(1701〜1714)の際，フランスのブルボン家に対抗してスペイン王に推されたが，兄ヨゼフ1世の死後，神聖ローマ皇帝となったため，スペイン王位の継承権を放棄した。娘マリア-テレジア*がハプスブルク家を相続できるように，1713年に国事詔書(プラグマチック-サンクション)を発布し，ハプスブルク家所領の不分割と女子相続の承認を定めたが効なく，オーストリア継承戦争*(1740〜1748)の勃発(ぼっぱつ)をみた。〔松 俊夫〕



軽井沢町　駅前通りの商店街。ふだんは静かなこの町も，夏になると各地から集まる避暑客でにぎわい，町の人口は2倍以上にふくれあがる



カルカソンヌ　二重に巡らした城壁や，城内の街路区画など，中世の城郭都市の姿をそのままに残している旧市街

カール [Karl] スウェーデン国王。

①12世(1682〜1718) 在位1697〜1718年。ロシア・デンマーク・ポーランドの3国がスウェーデン分割を策したのに対し，機先を制してデンマークを降服させ，ナルバの戦い*ではロシアのピョートル1世を破った。ポーランド王アウグスト2世を退位させ，さらにモスクワ遠征をめざしたが，1709年ポルタバの戦いでピョートル1世に大敗した。再挙を図ったが失敗し，王はノルウェー遠征中に戦死し，以後スウェーデンは北欧の強国としての地位を失った。

②14世(1763〜1844) 在位1818〜1844年。現スウェーデン王家の祖。はじめベルナドットの名でナポレオンの部将としてアウステルリッツの戦い*で功をあげた。スウェーデン王カール13世に請われて皇太子となり，ロシア皇帝アレクサンドル1世と同盟し，同盟軍を指揮してナポレオンをライプチヒの戦い*で破った。1814年のキール条約でデンマークからノルウェーを譲り受けたが，ノルウェーの抵抗が強かったため，国王はスウェーデン王が兼ねたうえで自治を認めた。〔高山高雄〕

カルー(高原) [Karroo] 南アフリカ共和国，ケープ州南部の高原。内陸山地から海岸にかけて広がり，高度約500〜1,800m。気候は乾燥して，川はほとんどワジ*とよばれる水無川であるが，ヒツジ・ヤギの牧畜が行なわれ，南部では水のある谷間で農業も行なわれている。

ガル ⇨ブーゲ異常

カール-アウグスト [Karl August] (1757〜1828) ドイツのワイマール大公国の大公。ゲーテ*と親交を結び，シラー*ら文化人をワイマールに招き，また，イエナ大学を創設するなど文化の興隆に努めた。ウィーン体制*に反対し，領内に憲法を敷いて自由主義的政策をとった。

かるいざわ 【軽井沢(町)】 長野県北佐久郡に属し，県東部に位置して町域は群馬県に接する。人口14,000。浅間山の東南斜面を占め，集落の多くは1,000m前後の高原に存在する。東部の軽井沢地区は，中山道(なかせんどう)の難所である碓氷(うすい)峠の峠町として，西部の追分地区は中山道と北国街道の分岐点としてともにかつて宿場町として栄えた。明治時代になり碓氷峠に国道が開かれ，信越本線が通じると外国人宣教師らによって避暑地として着目され，以来，日本の代表的高原避暑地として知られるようになった。近年はホテル・スケートリンク・ゴルフ場などがつくられ，夏期人口は常住人口の2倍以上に上る。しかし，最近は俗化の傾向が強いため，外国人の中には同じ長野県の野尻(のじり)湖畔*に逃避する人たちも出てきた。上信越高原国立公園に含まれ，浅間山や草津温泉・万座温泉への観光基地の役割を果たしている。東京から定期路線バスも通じている。

かるいし 【軽石】 ⇨火山噴出物

カルカス [Kalchas] ギリシア伝説の予言者。テストルの子。ギリシア軍のトロヤ遠征に同道した予言者。陣営に広まる疫病の原因をあてたり，戦争の期間を予言したりした。彼自身は，彼よりも偉い予言者に会えば死ぬという予言のとおり，ギリシアへ帰る途中予言者モプソスと会い，技を競い敗れて死んだ。

カルカソンヌ [Carcassonne] フランス南部の商業都市で，中世に建てられた美しい城郭建築で知られる。オード県の行政中心地で，オード川沿いにあり，ツールーズの南東86kmに位置する。人口44,000(1968)。かつてゴール人が，地中海岸からビスケー湾岸に抜ける渓谷(けいこく)中の丘に築いた砦(とりで)が起源で，紀元前1世紀にはローマ人が植民都市をつくってジュリア-カルカソとよんだ。塔のある内側の城壁は6世紀西ゴート人によってつくられ，12世紀に外側の城壁が加えられた。1242年，ルイ9世は丘のふもとに新しい市街〈ビルバス〉をつく

った。これに対して丘の上の城内は〈オルドシテ〉とよばれる。町は1659年のピレネー条約までスペインに対する防衛線の一つとして重きをなした。19世紀に，建築家ビオレ-ル-ジュックによって，二重の城壁と11～14世紀に建造されたゴシック様式のサン-ナザレ寺院が修理された。訪れる観光客が多く，歴史博物館もある。地中海岸とビスケー湾岸をつなぐミジ運河，マルセイユとツールーズを結ぶ鉄道およびハイウエーが通っている。19世紀以来〈ビルバス〉は地方中心都市となり，ぶどう酒，穀物，牛の取引と毛織物，皮革製品などの工業が行なわれている。　〔大崎　晃〕

カルカッタ　［Calcutta］　インド共和国東部の都市。人口314万9,000(1972)。ガンジスデルタの西部，フーグリ川の河口から150kmさかのぼった所に位置し，世界有数の活動的港の一つである　1690年にイギリスの商館が置かれ，1757年イギリス人クライブがカルカッタを含むベンガル地方をイギリス領とした。以来1912年までイギリス領インドの首都であった。フーグリ河畔のマイダン(公園地区)には官庁・ウィリアム要塞(ようさい)・植物園などがあり，その東のチョリンギー通りは近代的商業取引の中心である。ジュート・茶・ゴム・皮革などの輸出が盛ん。人口は310万であるが，対岸のハウラを合わせた都市圏の人口は500万にも達する。　〔別技篤彦〕

かるがも　【軽鴨】　鳥類・ガンカモ科。全長60cm前後，雌雄同色の羽毛で，全体にかっ色，脚は橙(だいだい)色。日本各地の湿地・池・川原などの近辺で繁殖する。各地に普通にみられるカモの1種で，海面に出ることもあるが，おもに内陸の湖・池・湿地などに生息する。

かるかや　【刈萱】　単子葉植物・イネ科の多年草。メガルカヤともいう。日あたりのよい山地に自生。北海道を除く日本各地，朝鮮・中国に分布。茎は株立ちし，70～100cmに達し，葉鞘(ようしょう)には長毛がある。9～10月に茎頂に細長い穂を出し，小穂を束状につける。小穂は6個で，下部4個は雄性で無柄，その他は両性花。太く長い芒(のぎ)がある。根を集めてカルカヤタワシをつくる。

別属別種のオガルカヤをカルカヤということもある。オガルカヤは日本中部以西の原野に自生する。茎は60～100cmになり，葉は狭線形。8～11月に上方の葉腋(ようえき)に小穂を束生する。小穂は2個ずつ対になって開出し，最下部の無柄1対の小穂は雄性である。　〔横井朗子〕

かるかやいんこ　【刈萱鸚哥】　鳥類・オウム科。マダガスカル島・ロドリゲス島・アンジュアン島・モーリシャス島原産のスズメ大の鳥。雄の頭部は白色で，体は緑色。じょうぶで，巣引き*もよく行なう。

かるかやどうしんつくしのいえずと【苅萱桑門筑紫轢】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で並木宗輔*(そうすけ)・丈助の合作。1735年(享保20)豊竹座(とよたけざ)初演。〈苅萱〉の説話は苅萱道心とその子石童丸との哀話で知られ，謡曲や説経節にとられているが，これらと《石童丸》《百合若(ゆりわか)大臣野守鏡》などの先行浄瑠璃(じょうるり)を原拠としてつくられた。1736年(元文1)歌舞伎(かぶき)に移され，大阪角(かど)の芝居初演。今日では3段目の〈守宮酒(いもりざけ)〉がよく上演される。



カルカッタ　市内にあってひときわ目だつジャイナ教の寺院。緑の庭園にはえる大理石造りの寺院建築が壮麗をきわめる



カルカヤ　メガルカヤ



カルガリー　ボー川に沿って開けるカルガリー市街の中心部。街路は整然と区画され，遠景に広大なカナダ-プレリーの大平原が広がる

カルガリー　［Calgary］　カナダ，アルバータ州南部，ロッキー山麓(さんろく)にある都市で，大カルガリーの人口は40万3,000(1971)に達する。畜産物や小麦の集散地で，肉類加工・製粉・木工業・石油精製業などが行なわれている。近年，付近の油田・天然ガスの開発基地となった。カルガリー-スタンピードとよばれる荒馬乗りは有名。

かるかん　【軽羹】　蒸し物菓子の一種。鹿児島の銘菓で上品で淡泊な味をもつ。安政年間(1854～1859)島津斉彬(なりあきら)が江戸から連れ帰った菓子職人につくらせたのに始まるといわれる。作り方は，皮をむいたヤマイモをおろし金でおろしてすりばちですり，まず水を，次に砂糖を少しずつ入れながら十分にすったのち，上新粉を加えて軽く混ぜ合わせる。これをぬれぶきんを敷いた蒸しわんに移し，その上にかわいたふきんをかぶせ，せいろに入れ30分ほど蒸し，さめてから適当の大きさに切る。なお，これを皮にしてこしあんを入れたものをかるかんまんじゅうとよぶ。　〔塩川ふみ〕

ガルガンチュアものがたり【ガルガンチュア物語】　ラブレー*の長編物語。〈第一の書〉とよばれ，〈第二の書〉から〈第五の書〉

までの《パンタグリュエル物語》と一連をなす。1532年に作者不明の《ガルガンチュア大年代記》が出版され，ラブレーはその続編ともいうべき〈第二の書〉を同年発表，さらに1534年に本書を書いた。大食漢の巨人ガルガンチュアの誕生・遍歴・武勲を語りつつ，当時のソルボンヌのありさま，君主の戦争政策，教会の諸制度などを，豪快な笑いのうちに風刺，ルネサンスによる人々の精神の蘇生(そせい)を描き出して，ユマニスト(人文主義者)ラブレーの面目を発揮している。〔泉　邦寿〕

カルキ　⇨さらし粉

カルクアルカリがん　【カルクアルカリ岩】　アルカリ岩に対し，造岩鉱物としてジュンチョウ石やナトリウム・鉄に富むキ石・カクセン石などを含まない火成岩の総称。普通の玄武岩・安山岩・流紋岩・カコウ岩・センリョク岩などはカルクアルカリ岩に属する。造山帯には主としてカルクアルカリ岩が分布しており，日本の火成岩も大部分はこの系統に属している。

カルグーリ　[Kalgoorlie]　オーストラリア西南部にある鉱山都市。人口9,000(1968)。砂漠(さばく)の中に発見された金鉱の開発基地として建設された。それ以後，金鉱の多くがここやクールガージ地方に集中していることから，急速に人口が増加，ゴールドラッシュをひき起こした。オアシスをもたないため，大陸西端のパース市付近から，480kmの距離を結ぶ水道によって飲料水を得ている。南部のパースとメルボルンを結ぶ大陸横断鉄道と，地方の金鉱へ向かう鉄道の分岐点である。〔小栗　宏〕

カールグレン　[Bernhard Karlgren]　(1889～　)　スウェーデンの言語学者。ウプサラ大学卒業後中国に渡り中国語を研究，帰国後エーテボリ大学教授・ストックホルム極東考古博物館館長・ストックホルム大学教授を歴任。現代中国諸方言音と日本・朝鮮・ベトナムの漢字音の比較言語学的研究によって中古(隋(ずい))音を，さらに清朝(しんちょう)古音学の成果を利用して上古(周)音を復原し，中国語音韻史研究の基礎を築いた。主著に《中国音韻学研究》《中国語・日本漢字音分析辞典》《漢字形声類纂(るいさん)》《中古・上古中国語音声論要説》など。

カルサビナ　[Tamara Karsavina]　(1885～1978)　ロシアのバレリーナ。ペテルスブルク帝室舞踊学校で学び，1902年マリンスキー劇場でデビュー。1909年ディアギレフのバレエ-リュスにパブロワ・ニジンスキーらとともに参加，ヨーロッパ各地で絶賛を博した。芸域が広く，古典ばかりでなく《火の鳥》《ペトルーシュカ》《バラの精》などバレエ-リュスの数多くの作品の初演の舞台に立ち，近代バレエの発展に尽くした。1917年イギリスの外交官と結婚，イギリスで後進の指導にあたった。著書に《バレエのテクニック》がある。〔高橋孝一〕



ガルシーア-ロルカ

ガルシーア-ロルカ　[Federico Garcia Lorca]　(1898～1936)　スペインの詩人・劇作家。アンダルシア出身。詩・音楽・絵画をよくし，スペインの伝統と民衆の心を理解した稀有(けう)な芸術家。1921年《詩の本》で詩人としての地位を確立，《ジプシー歌集》で15世紀末以来のロマンセ(民謡)に新しい表現を与え，独自の境地を開いた。彼はまたスペイン演劇を革新したが，三大悲劇，《血の婚礼》《イエルマ》《ベルナルダ-アルバの家》などに描かれる人物は，血・性といった人間の根源的なものによって動かされている。1936年，内乱勃発(ぼっぱつ)の数日後，ファランヘ党員に射殺された。

カルシウム　[calcium]　周期律表第II族に属するアルカリ土類元素の代表的元素。記号Ca，原子番号20，原子量40.08。地殻(ちかく)中に豊富に分布する元素の一。アルミニウム・鉄に次いで多く，遊離状態では存在しないが，炭酸塩(セッカイ石・ホウカイ石・アラレ石・大理石)・硫酸塩(セッコウ)・リン酸塩(リンカイ石)・フッ化物(ホタル石)などとして存在。金属は1808年イギリスのデービーによってはじめて得られた。塩化物・フッ化物の溶融電解によって得られる。銀白色の金属。マグネシウムより柔らかく，鉛よりかたい。融点851℃，沸点1,240℃，比重1.55。アルカリ金属に次いでイオン化傾向が大で，化学的に反応性に富む。水に触れると水素を出して反応し，水酸化カルシウムとなる。空気中では酸化されて，酸化カルシウムになる。常温でハロゲンと結合する。高温で水素と結合してカルシウムハイドライド(CaH_2)になる。水酸化カルシウムは最も安価なアルカリとして利用され，天然産化合物は建材・化学工業原料として用途が広い。カルシウム単体としては，鉄・銅の脱酸剤とし，また真空管中の残留ガスと化合させて高度の真空を得るために，ゲッターとして用いられる。生体内にも平均2.5%のカルシウムが含まれ，脊椎(せきつい)動物では骨の主成分となっている。また，Ca^{2+}イオンには血液の凝固性を高進する作用があるので，止血に用いられる。〔古屋　弘〕

カルシウムカーバイド　[calcium carbide]　CaC_2　炭化カルシウムともいう。また，単にカーバイドともいわれる。かたい結晶性の固体で，通常は不純物が混ざっているため灰黒色，純粋のものは白色である。セッカイ石を焼いて生石灰をつくり，これに無煙炭・コークスなどの炭素質物を加えて，電気炉で2,000℃ぐらいの高温で加熱すると得られる。水を作用させるとアセチレンを発生し，これは溶接やアセチレン系化合物の合成に用いられる。また，カーバイドは肥料などに用いられる石灰窒素の製造原料にもされる。〔鈴木　篁〕

カルシウムシアナミド　[calcium cyanamide]　CaNCN　窒素肥料として使われる石灰窒素の主成分である。カルシウムカーバイドを細粒状ないし粉末として窒素気流中で高温に加熱すると，炭素とともに得られる。また，ジシアンジアミドと酸化カルシウムとを溶融すると純粋な状態で得られる。無色の固体。炭素との混合物はそのままで窒素肥料として使われる。除草剤や鉄の精製にも使われる。

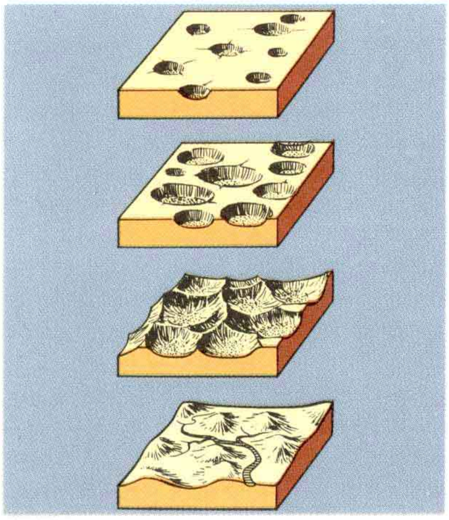
カルジオリピン　[cardiolipin]　梅毒の血清学的診断法であるワッセルマン反応に用いられる成分の一。1941年アメリカのパングボーンがウシの心臓から精製分離したリン脂質で，梅毒患者血清と特異的に反応し，梅毒の病原体と共通な成分をもつと考えられる。レシチン・コレステロールとともに適当な割合で混合して，梅毒患者血清と鋭敏に反応する。非特異反応が少ない抗原として用いられる。グリセロトリフォスフォグリセリドを骨格とする構造式が推定されている。〔和気　朗〕

カルシフェロール　[calciferol]　ビタミンD_2のこと。白色の結晶で，肝油より分離するか，またはエルゴステロールより合成される。腸管によってカルシウムが吸収されるのを助け，骨・歯の形成を促進する。この欠乏症として佝僂病(くるびょう)が有名であるが，近年わが国ではほとんど発生しない。1日必要量(乳児)400国際単位。➔ビタミン

カール-シュバルツシルドてんもんだい　【カール-シュバルツシルド天文台】　ドイツ(東独)，イエナ東郊10kmのタウテンブルクに1960年創設された天文台。口径200cmの反射望遠鏡と口径134cmのシュミットカメラ(現在では世界最大)として使用できる万能望遠鏡をもち，銀河系外星雲の研究や微光星の分光・偏光観測に主力を注いでいる。

ガルシン　[Vsevolod Mikhailovich Garshin]　(1855～1888)　ロシアの小説家。19世紀後半の重苦しい社会的ふんい気の中で，一種宗教的なヒューマニズムを含む約20編のすぐれた短編を書いた。ロシア-トルコ戦争に参加した経験を描いた《4日間》によって有名となり，早くからの精神病が高じて入院したときの体験を生かした《赤い花》などの作品を残した。当時の良心的インテリゲンチアの代表的人物である。飛び降り自殺を遂げた。〔中村健之助〕

カルス　[callus]　植物の組織を傷つけると，切り口の細胞は傷ホルモンの作用で分裂能力を回復して不定形の癒傷(ゆしょう)





カルスト地形　(中)日本最大のカルスト地形をなす秋吉台地の景観。無数の石灰岩の基盤が，石塔群のように露出している　(右)その地底の鍾乳洞の内部(秋芳洞)

組織のかたまりを生ずる。これをカルスという。また，植物体の一部を切り取って適当な条件のもとで培養すると得られる細胞群のかたまりをもカルスという。器官の分化の能力を失っていることが多いが，培養条件を調節することによって，ときには完全な個体にまでなることもある。また，篩管(しかん)の篩板付近に形成されるカロースからなる物質のこともカルスという。これは秋から冬の間にでき，篩板をふさいでしまい，春になると再びとけさって篩管として用いられるようになる。　〔高島文三〕

ガール-スカウト　[girl scout]　1910年イギリスのベーデン-ポーエルがボーイ-スカウト*と同様の主旨で，少女のために創設したガール-ガイドが起源。日本・アメリカ・カナダなどではガール-スカウトとよぶ。1928年世界連盟創立。1967年現在，正加盟国43(日本は1960年承認)，準加盟国38，準準加盟を合わせると102か国に及び，会員総数600万。運動は世界共通の約束とおきてに従い，国籍・宗教・人種・階級・貧富の差を越えた立場で研鑽(けんさん)・奉仕の精神を養い，国際理解を深めることを目的とする。わが国では1920年(大正９)日本女子補導団として発足，1942年(昭和17)世界連盟脱退，解散。第２次世界大戦後の1949年，全国37団でガール-スカウト日本連盟設立。1970年現在1,201団，団員数30,849名。団員はブラウニー(７～10歳)，ガール-スカウト(10～15歳)，上級スカウト(15～18歳)，レインジャー(18～22歳)の４段階に分かれ，一団は７～24人で編成，これをパトロール(組)に細分している。　〔赤司政雄〕

カルステンズ(山)　[Carstensz]　ニューギニア島西イリアンのナッサウ山脈中にそびえる山。高度5,010 m。ニューギニアの最高峰で高所に氷河が発達する。



カルセオラリア

カルストちけい　【カルスト地形】　石灰岩が地表に広く露出している地域でみられる溶食地形をいい，その場合に地下に地下水系が発達していることを前提とする。この特殊な地形は，石灰岩の主成分である炭酸カルシウムが雨中の炭酸ガスによってとかされて生ずる。カルストという用語は，ユーゴスラビアのアドリア海に面したカルスト地方に，この地形が特に著しく発達していたために名づけられた。侵食の度合いによってドリーネ・ポリエ・ラピエなどとよばれる。ドリーネは雨水が割れ目からしみこむ際に，石灰岩を溶食して漏斗状の凹地(おうち)を形成したもので，山口県の秋吉台*(あきよしだい)では，長径20 mから200 m，深さは数メートルから100 mに及ぶものがある。ポリエは，いくつものドリーネがつながって一つの盆地状になったものをいう。またさらに溶食が進むと，ポリエがいっそう広がって溶食され，残ったポリエの壁が乱立する墓石のような景観を示すようになる。これをラピエまたはカレンフェルドとよぶ。また，石灰岩の割れ目に浸透した水や地下水などによって地中の石灰岩が溶食されると，石灰洞(せっかいどう)が生じる。山口県の秋芳洞や岩手県の安家洞(あっかどう)，高知県の龍河洞(りゅうがどう)などが有名である。　〔小栗　宏〕

カールスバート　⇨カルロビ-バリ

カールスバートのけつぎ　【カールスバートの決議】1819年９月，メッテルニヒ*の提案により，カールスバート(現チェコスロバキアのカルロビ-バリ)で開かれたドイツ諸邦会議の決議。当時，ドイツではブルシェンシャフト*を中心に自由主義運動が高まりつつあったが，たまたまブルシェンシャフトの一員がロシア皇帝の密使とうわさされていた人物を暗殺すると，メッテルニヒは自由主義運動の弾圧を決意し，ブルシェンシャフトの解散，言論出版の制限，大学の監視などを内容とするこの決議を採択させ，のち正式にドイツ連邦議会を通過させた。このため，ドイツの自由主義運動はしばらくの間停滞を余儀なくされた。〔松　俊夫〕

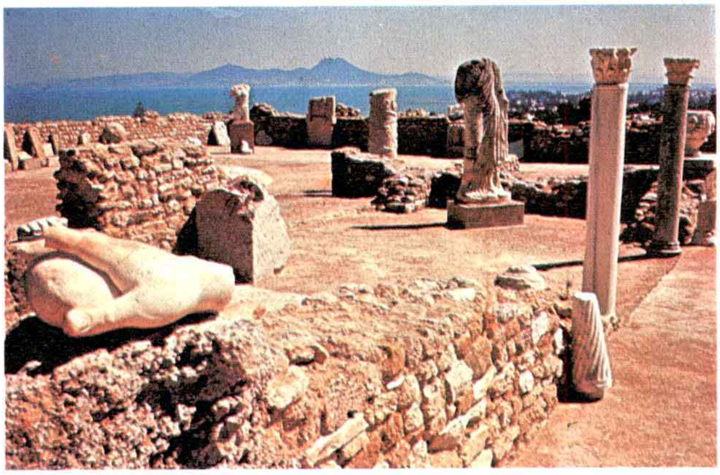
カールスルーエ　[Karlsruhe]　西ドイツ南西部，フランス国境に近い工業都市。ライン川に沿う。人口26万1,000(1974)。金属・機械工業が盛んであり，また，鉄道車両の大修理工場をもつ鉄道交通の要地でもある。1715年に建設された都市で，広大な公園のある城をかなめとして街路が扇状に広がる計画都市として名高い。

カルゼ　[kersey]　紡毛糸で綾(あや)織りに織り，縮絨(しゅくじゅう)した毛織物。綿糸で霜降りに織ったものや，また人造繊維製のものもつくられている。生地はじょうぶで，コート・スポーツ服・スラックス・作業服などに用いられる。

カルセオラリア　[*Calceolaria*]　双子葉植物・ゴマノハグサ科・カルセオラリア属の総称。世界で約200種が知られ，おもにチリ・ペルーのアンデス山系から中央アメリカにかけて広く分布する。この中の１



かるた　(左)うんすんかるた　(右)蒔絵歌かるた　東京国立博物館蔵



カルタゴ
チュニス湾に臨むカルタゴの遺跡

種であるキンチャクソウという和名のものは，花屋などでは属名のカルセオラリアの名でよばれることが多い。これは南アメリカ原産で，観賞用として温室などで広く栽培される一年草で，高さ30～80cm。葉は広い卵形で大きい。花は下向きに咲き，唇形(しんけい)であるが，一部が袋状をしており巾着(きんちゃく)に似るのでキンチャクソウの和名がある。花の色は黄色のものが主で，紅色の斑点(はんてん)のあるものや紅色・橙色(とうしょく)のものがある。　〔小清水義隆〕

カルーソー　［Enrico Caruso］（1873～1921）　イタリアのテノール歌手。ナポリの生まれ。職工として働いていたが，美声を認められ，兵役期間に正規の教育を受けた。1894年ナポリのベリーニ劇場でデビューした。1902年にモンテカルロ歌劇場でコロラトゥラ-ソプラノの名歌手メルバ(1859～1931)と共演して一躍スターとなり，1903年にメトロポリタン歌劇場で大成功を収め，同歌劇場に600回も出演するという記録をつくった。純粋なベル-カント*唱法の名歌手として伝説的存在である。　〔向坂正久〕

かるた　【骨牌】　室内遊戯具の一種。日本には日本固有の〈歌がるた〉系のものと，西洋かるたの影響を受けてつくられた〈うんすんかるた〉系のものがある。日本固有のものには歌がるた・いろはかるた・歌貝などの名でよばれるものがある。歌がるたの前身は，平安時代の貴族社会に流行した貝合わせ*で，1対のハマグリ貝に小倉百人一首の上の句と下の句が書かれていたが，これを合わせる遊戯であった。江戸時代にはヨーロッパから伝来したかるたの影響を受けて紙製のものに変わり，しだいに現行の歌がるたに発展した。西洋の影響を受けたものにはうんすんかるた・天正かるた・株札(かぶふだ)・花札*などがある。うんすんかるたは1571年(元亀2)肥前(長崎県)大村領にポルトガル船がもたらしたのが最初で，かるた(carta)の名もポルトガル語に基づくとされる。初期のうんすんかるたは札の数を48枚，いす・はう・こつふ・うるの4種からなり，後期のものははう・くる・おうる・こつふ・いすの5種に分かれている。天正かるたは別名きんごかるたとよばれ，しばしば賭博(とばく)に用いられ1597年(慶長2)の《長曾我部元親(ちょうそかべもとちか)百箇条*》には賭博かるたの禁止が記されている。これは札の数48枚，12月になぞらえ，1(ぴん)から12(きり)まで各4枚ずつある。また，この天正かるたから変化したものに株札(追丁(おいちょう)かるた)がある。おもに京阪(けいはん)地方では賭博として用いられた。これは1から10まで4種あり，40枚からなり，9点で満点になる。→トランプ　〔須藤健一〕

カルタゴ　［Carthago］　北アフリカ，チュニス湾内の1半島にフェニキア人によって建設された都市。伝承ではBC814年テュロスの王女が亡命して創建した〈新都市〉に由来するとされるが，事実はフェニキア商人の植民市と考えられる。後背地をなすバグラダス川流域平野が肥沃(ひよく)のためと，西地中海を制する位置にあったために，農業にも海上貿易にも発展を示した。国制・社会についてはあまりよく知られないが，富者政治の色彩が強く，大土地所有者および海上商人として富をたくわえたフェニキア人貴族を支配層とし，リビア人・ベルベル人と混血した一般フェニキア人が水夫・農民として一般下層民を形造った。政治機関としては，民会・元老院・最高政務官が置かれたが，実質的には元老院と一部有力貴族が実権を握る寡頭政(かとうせい)であった。軍隊の主力は傭兵隊(ようへいたい)であった。

西地中海におけるカルタゴの覇権(はけん)は，はじめギリシア人・エトルリア人と争いつつ打ちたてられていった。特にシチリアの覇権をめぐってシラクサのギリシア人僭主(せんしゅ)との間で戦われた争いは長期にわたって激烈で，紀元前3世紀初めに至るまで続いた。ローマとの関係は，はじめ利害の対立はなかったらしく，伝承はBC508年，BC348年，BC343年，BC306年に，それぞれ双方の勢力範囲を定めた条約が結ばれたことを伝えている。BC279年，エペイロス王ピュロスの南イタリア侵入に際しては，ローマと防衛同盟を結んでこれにあたった。しかるにその後，イタリア出身の傭兵隊マメルチニとシラクサ僭主ヒエロンとの戦争がきっかけとなり，BC264年から3次にわたるポエニ戦争*に突入した。ことに第2次の戦争ではハンニバル*の率いるカルタゴ軍はイタリア半島を席捲(せっけん)してローマを脅かしたが，BC146年にローマに完敗し，その市街・城壁のいっさいを破壊され，この都市の独立の歴史はここに終わった。

その後BC122年，ガイウス-グラックス*の植民計画の中でこの地にコロニア-ユノニアの建設が予定されたが実現せず，BC45年に至ってカエサル*による植民市コロニア-ユリア-カルタゴが再建され，アウグストゥス*もさらにこの地に植民を送り，アフリカ州総督府所在地としたので，再び往年の繁栄を回復し，やがてローマ・アレキサンドリアに次ぐ帝国内屈指の大都市となった。経済的繁栄につれて紀元2世紀ごろから文化の中心ともなり，弁論家や法学者を輩出した。2世紀末にはキリスト教の司教座もここに置かれ，3世紀にはテルトゥリアヌス*・キプリアヌス*らの教父もここを中心に活躍した。3世紀半ばのノウァチアヌス派，4世紀の初めからバンダル時代まで続いたドナトゥス派の異端がここに生まれたが，それらは社会的運動とも結びついていた。アウグスチヌス*もこの地でしばらく勉学した。

しかし，西ローマの衰運に乗じてスペインからアフリカに渡ったバンダル族は，439年カルタゴを占領し，ここを王国の首都とした。東ローマ皇帝ユスチニアヌス１世*は553年遠征軍を送り，この町を占領してバンダル王国を滅ぼした。その後，コロニア-ユスチニアナ-カルタゴの名で再建されたこの都市も，698年アラビア人の攻撃のまえに陥落し，完全に破壊され，ここに歴史の舞台から完全に消えることとなった。〔弓削　達〕

カルダーノ［Girolamo Cardáno］(1501～1576) イタリアの数学者・医学者・物理学者・哲学者。ミラノの法律家の私生児として生まれる。22歳のときにはパビアで数学を教えるまでになり，25歳で医学博士となったが，私生児であったため1539年まで医師会にはいれなかった。数学・医学・哲学・占星術に関する著述をした。1552～1570年はボローニア大学教授であったが，むすこたちの不始末のため大学を去らなければならなかった。彼は三次方程式の解法を著書によって公表し，また根の近似解法や組み合わせ・確率においても業績を残している。〔下平和夫〕

カルタヘナ［Cartagena］スペイン南東部，ムルシア州にある地中海に臨む都市。人口14万7,000(1970)。港は両側にそそりたつ岩の丘に守られた天然の良港で，同国の重要な海軍基地となり，兵器庫・海軍士官学校・造船所，火薬や乾電池工場が立ち並んでいる。周辺の丘陵からは鉛・亜鉛・鉄が採掘され，農産物とともに輸出される。紀元前３世紀に建設されたカルタゴ*の植民地で，町の名もそれに由来する。

カルタヘナ［Cartagena］コロンビア共和国北部にあるカリブ海沿岸の港市。人口35万6,000(1973)。この国第１の良港で，コーヒーやプラチナの原鉱，石油などを積み出す。石油は後背の産地とパイプラインで結ばれ，主としてアメリカ合衆国に出している。周辺では，サトウキビ・タバコなどを産し，その集散を行なうほか，綿紡・皮革などの工業もある。1533年スペインの植民者たちによって建設された西半球最古の町の一つで，市内には当時の城塞(じょうさい)が残っている。植民地時代から，アンデス山地の鉱産物を積み出す港として利用された。〔小栗　宏〕

カルダン［Piérre Cardin］(1924～　) フランスの服飾デザイナー。パリに高級衣装店を経営，婦人服だけでなく，紳士物・子ども物など，多彩な活動をしている。かつてはディオール*の片腕として活躍していたが，1953年独立。作風は巧みなテクニックで独特なしなやかさを出し，たえず前衛的な傾向を見せる。たびたび来日している。

ガルダン【噶爾丹】(1645？～1697) オイラト*のジュンガル*部族長で，ジュンガル王国のハン。ボショクト-ハンと号した。チベットの第５代ダライラマと結んでラマ教世界帝国の実現に努めたが，外モンゴルに侵入して，清(しん)の康熙帝(こうきてい)に敗れ，自殺した。

カルチエ［Jacques Cartier］(1491～1557) フランスの探検家。ノルマンジーの生まれ。ヨーロッパから北アメリカ大陸の北を通り，アジアに出る北西航路の開発を企て，1534年ニューファンドランドに至り，翌年カナダのセントローレンス川をさかのぼってモントリオール付近に達した。

カルチエ-ラタン　⇨パリ

カルチベーター［cultivator］畑用中耕除草機の一種。各種のつめ・刃を取り替えることによって，土を削ったり砕いたり，また，土を側方に寄せたりすることができるため，中耕・除草・培土(土寄せ)などに用いられる。したがって，作物の管理作業機として利用範囲が広く，かつては管理作業機として最も重要なものとされた。しかし，除草剤の開発によって薬剤除草が普及したこと，また中耕作用効果の科学的究明の結果，中耕の効果が昔ほど重視されなくなったこと，さらに機械除草機としては除草専用機のほうが性能がよいことなどの理由によって，ひところほど重視されなくなってきた。〔田原虎次〕

カルツーム　⇨ハルツーム

カルテ［Karte］医師が患者の診療に際して用いる診療簿。診療を受けた者の住所・氏名・年齢・性別・病名・症状・治療方法・診療年月日などを記入し，５年間保存することが法律によって定められている。

カルデアじん【カルデア人】セム系遊牧民の一。紀元前12世紀ごろから南バビロニアに移住し，紀元前７世紀末アッシリアを滅ぼしてバビロン*に新バビロニア王国をたてた。ネブカドネザル２世*のときが最盛で，オリエント四大国の一つに数えられる。BC539年ペルシアに滅ぼされた。➜新バビロニア王国

カルデナス［Lázaro Cárdenas］(1895～1970) メキシコの軍人・政治家。ミチョアカン州の貧農の生まれ。長じて革命軍に参加し，州知事・内相・陸相などを歴任したのち，1934～1940年大統領をつとめる。在任中，すぐれた政治的手腕で，メキシコ革命の目標を飛躍的に実現させた。特に農地改革は彼の治下に最も進展した。そのほか，英米石油資本および鉄道の国有化，労働者の組織化，経済機構の整備などを行なった。引退後，民族解放運動・ベトナム反戦運動に活躍した。〔松下　洋〕

カルデラ　⇨火山

カルテル［cartel］同一産業部門内で相互に競争関係にある企業が協定を結び，価格や市場の統制によって独占利潤を確保しようとする水平的な企業連合形態をいう。これは価格の維持を目的として企業活動の一部を制限する〈制限カルテル〉と，さらに進んだ形態としてコストの切り下げを目的として，カルテル中央機関が企業活動の主要部分を割り当てる〈割当カルテル〉とに大きく分けられる。〈制限カルテル〉は各加盟企業の協定内容によって，次のものに分類できる。①販売上や支払い上の条件だけを協定する条件カルテル，②商品の販売価格を統制する価格カルテル*，③加盟各企業の生産数量または販売数量を制限する生産制限カルテル，④加盟企業の販売地域を協定する販路カルテル。これらはおもに不況の際に形成され，景気の回復に伴い解消されるので，〈不況カルテル〉ともいわれる。

〈割当カルテル〉はシンジケート*とよばれる中央機関をもち，一般に製品の共同販売をも担当し，いっそうの市場統制と合理化を図ることを目的としている。これは，①利潤をプールし，加盟各企業に所定の割当率で分配する利潤配当カルテル，②注文をカルテル中央機関が一括して引き受け，これを一定の割当率で各企業に割り当てる注文割当カルテル，③生産・販売量を一定の割当率で加盟企業に割り当てる生産割当カルテルの三つの形態をとる。カルテルはトラスト*と異なり，構成員である各企業は独立性を維持しており，統制力に限界がある。このため，内部の利害対立やカルテル外の競争企業アウトサイダーとの競争で協定はくずれやすく，より高次の強制力をもつトラストへと発展していく。〔加藤　寛〕

ガルデル［Carlos Gardel］(？～1935) アルゼンチン-タンゴの歌手。生年・生地については不詳であるが，1880年代に生まれ，ブエノスアイレスに育った。1917年からタンゴを歌いはじめ，タンゴ歌曲という新しいジャンルを確立，タンゴ歌手としてすべての面で最高の境地に達した芸術家として尊敬されている。ヨーロッパでも活動し，８本の映画に主演してスペイン語国最大のスターでもあった。代表曲に《マノ-ア-マノ》《ミノーチェ-トリステ》その他多数がある。〔中西義郎〕

カルデロン-デ-ラ-バルカ［Pedro Calderón de La Barca］(1600～1681) スペイン文学が空前の最盛期にあった〈黄金世紀〉最後の大劇作家。マドリードに生まれ，はじめアルカラ大学などで神学を学び，のち兵士・宮廷詩人などを経て，51歳のときフェリペ４世の名誉司祭となった。彼はカトリックの信仰，国王への忠誠，体面感情といった，同時代のスペイン人の感情的精髄を各種の戯曲によって表現した。代表作は《己(おの)が名誉の医師》《バルタサール王の晩餐(ばんさん)》《サクメアの村長》《人生は夢》などであるが，修辞的技巧，思想的な深さ，壮大な叙情性などにおいて卓越している。〔牛島信明〕

カルドゥッチ［Giosue Carducci］(1835～1907) イタリアの詩人。ボローニャ大学で教鞭(きょうべん)をとりながら幅広い文



カルナク神殿　アモン大神殿のスフィンクス参道　第18王朝

学活動を展開した。マソゾーニ*などのカトリック主義と世紀末のロマン主義に反旗を掲げ，古典主義を擁護・主張した。1877～1889年の詩作《擬古詩集》はその実践であり，ギリシア・ラテン詩の〈音の長短〉様式を取り入れ，民族の理想をかかげて自然と人間を純朴(じゅんぼく)にうたった。1906年ノーベル文学賞を受賞。〔小出知子〕

ガルトク【噶大克】 中国，チベット自治区西部の町。1906年の北京(ペキン)条約によって開放された商業の中心地。インダス川の上流，海抜4,616mの位置にある。ラサから新疆(しんきょう)ウイグル自治区・カシミール方面に通ずる交通路の要地で，新疆～チベット自動車道路も通じている。

カルナクしんでん【カルナク神殿】 エジプトのテーベ近郊，カルナクにある神殿。アモン*神を主神とする。中王国第12王朝時代に創建され，新王国時代には代々の王が増改築した。参道に並ぶスフィンクス，また列柱や浮き彫りに王の威光がしのばれる。特に第19王朝ラーメス2世*の百柱殿は有名で，この建築様式はギリシアの神殿建築に影響を与えた。

カルナクれっせき【カルナク列石】 フランス北西部のブルターニュ地方カルナク村にある新石器時代の巨石記念物。ドルメン*・メンヒル*・クロムレク(環石)などが密集しているが，特に有名なのが2,000個を越える立石が3kmにわたって並ぶアリニュマン(列石)である。北東に向かって立っているところから，太陽崇拝と関連があると思われる。

カルナップ［Rudolf Carnap］（1891～1970） 論理実証主義*の哲学者。ドイツに生まれ，アメリカで活躍した。シュリック*とともにマッハ協会を設立し，ウィーン学団の代表的な指導者のひとりとなる。のちナチスの弾圧によってアメリカに渡り，シカゴ大学教授などを歴任。分析哲学界に大きな影響をもつ。彼は数学の基礎づけとして発展した記号論理学*の成果を哲学に取り入れ，新



カルナク列石



S・ガルニエ　オペラ座正面

しい哲学のあり方を〈科学の論理学〉に求めた。それは古い形而上(けいじじょう)学を否定し，哲学の役割を科学の命題の構文上の論理分析にあるとしたもので，ウィーン学団の思想として一時期を画した。その後意味論の研究をはじめとして確率論・科学基礎論など，多方面ですぐれた業績を残している。主著《言語の論理的構文論》《意味論序説》。〔寺中平治〕

ガルニエ［Jean Louis Charles Garnier］（1825～1898） フランスの建築家。パリの生まれ。はじめルバのアトリエで建築に携わり，次いで美術学校に学びながらゴシック建築の権威ヴィオレ-ル-デュックの下で働いた。1848年ローマ大賞を受賞してイタリアに留学。1854年の帰国後には多くの設計依頼を受けたが，その本領はオペラ座*の競技設計に第1位を獲得して発揮された。オペラ座内部の豪奢(ごうしゃ)な大階段や劇場としての完備した設備は，この期の建築理念とその水準をよく表わしている。〔川田伸紘〕

ガルニエ［Marie Joseph François Garnier］（1839～1873） インドシナ半島を探検したフランスの海軍軍人。1862年コーチシナにおもむき，メコン川流域を調査。プロイセン-フランス戦争後再びインドシナに渡り，中国揚子江流域を調査したが，清仏(しんふつ)戦争*中，義勇軍黒旗軍と戦ってハノイで戦死した。

ガルニエ［Tony Garnier］（1869～1948） フランスの建築家・都市計画家。1898年にローマ大賞を受け，アカデミー-フランセーズの給費生としてローマに留学。同時に，膨大で完全な《工業都市》の計画立案に着手，1917年に出版して，のちの近代建築運動に大きな影響を与えた。計画の主要な特徴は，都市における機能(労働・居住・厚生・輸送)を明確に地域的に分離して配置させ，都市施設のすべてに鉄筋コンクリートを使用したことにある。なお，この計画の一部(病院・屠殺場(とさつじょう)・運動競技場・住宅団地など)は，彼の故郷のリヨンに実現されている。〔川田伸紘〕

カルネ［Marcel Carné］（1909～　） フランスの映画監督。詩人プレベール*の協力を得て，おもに1930年代後半から1940年にかけて活躍した。第2次世界大戦中も祖国にとどまり，《悪魔が夜来る》《天井桟敷(さじき)の人々》で象徴的に抵抗の精神をうたいあげ，世界的名声を獲得した。クレール*・デュビビエ*の後継者として〈ヌーベル-バーグ*〉出現以前のフランス映画界を代表した。ほかに《北ホテル》《霧の波止場》などが有名。

カルネアデス［Karneades］（BC214または213～BC129または128） 古代ギリシアの哲学者。キュレネの人。新アカデメイア派の創始者。BC156～BC155年のアテナイの文化使節としてストア派*のディオゲネス，ペリパトス派*のクリトラオスとともにローマに派遣され，また学頭としてアカデメイアに隆盛をもたらし，ギリシア・ローマ世界に名声をはせたが，著作を残さなかった。晩年は盲目であったという。諸哲学を対置してあらゆる結論が保証されぬことを示して独断的な見解を批判し，特にストア哲学の人間中心的教義に強く反対した。一方種々の仮説のうち最も蓋然(がいぜん)性のあるものが実際行動の指標となるとする蓋然性の理論を展開した。〔左中庸博〕

カルノー［Lazare Nicolas Marguerite Carnot］（1753～1823） フランスの軍人・政治家。〈大カルノー〉といわれる。フランス革命勃発(ぼっぱつ)後，議員・軍人として活躍。1793年8月公安委員会*にはいって軍事を担当し，徴兵制を施行して国民軍を編成した。また，軍需生産を促進してフラン

ス革命軍に勝利をもたらした。のち総裁政府に参画し，統領政府のもとでも陸相をつとめたが，ナポレオンの帝政樹立に反対して引退。ナポレオンの〈百日天下〉には協力して貴族となるが，王政復古により追放された。〔大野真一郎〕

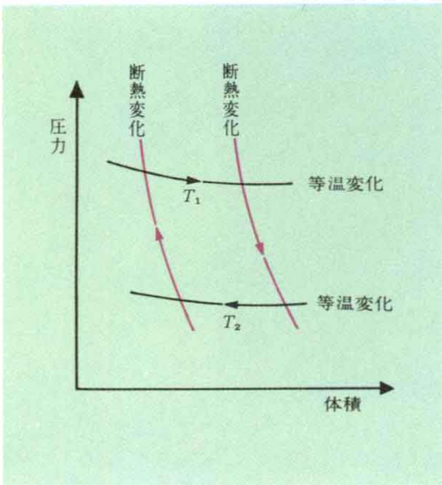
カルノー [Nicolas Leonard Sadi Carnot] (1796～1832) フランスの物理学者。父は政治家L. N. M. カルノー。エコール-ポリテクニクを卒業後しばらく軍務に服したが，のち退いて勉学にいそしむ。特に熱機関について考究し，《火の動力に関する考察》(1824)を書いて効率を論じ，カルノーサイクルの考えを提出し，熱力学第2法則の先駆となり，熱力学の建設に貢献した。コレラにかかって死亡した。

かるのいち【軽市】 古代の市場の一。大和(やまと)(奈良県)の畝傍(うねび)山の南の地域を古来〈軽〉といった。ここは早くから開けて人口多く，7世紀のころには物々交換の市が立っていたと考えられる。《日本書紀》によれば，〈681年(天武10)親王以下群卿(ぐんけい)を軽市に集めて装束せる鞍馬(かざりうま)を検査〉したとあり，また《万葉集》の柿本人麿(かきのもとのひとまろ)の長歌にもその名がみえる。現在の橿原(かしはら)市畝傍町に大字大軽の地名が残っている。〔柳雄太郎〕

かるのおうじ【軽皇子】 ⇨孝徳天皇

カルノーサイクル [Carnot's cycle] 熱機関の効率に関してカルノーが考案した仮想的な可逆サイクル。彼は熱力学の第1・第2法則を用いて効率に関する定理を見いだし，可逆サイクルをする熱機関が効率最大であることを示した(→熱力学)。このサイクルは，二つの等温変化と二つの断熱変化からなっている。図のように，まず作業物質を温度T_1の高温熱源に接触させ，つり合いが保たれるほど十分ゆっくりと膨張させる。このとき，作業物質は熱源から熱量Q_1を吸収する。次に，ゆっくりと断熱的に膨張させる。さらに温度T_2の低温熱源に接触させ，非常にゆっくりと収縮させる。このとき，作業物質は低温熱源へ熱量Q_2を与える。最後に，ゆっくりと断熱的に収縮させ，はじめの状態へもどす。このサイクルは，全過程が可逆変化であるから，はじめと終わりの状態はまったく同じであり，熱力学の第1法則より，このサイクルのなした仕事はQ_1-Q_2である。熱量比Q_1/Q_2は，熱源の温度比T_1/T_2に等しいことが示される。このことから，カルノーサイクルの効率は，作業物質の種類に無関係で，熱源の温度比にのみ依存する。また逆に，熱量の測定により温度を規定することができる。
➔ケルビン温度 〔中野藤生〕

カルノーせき【カルノー石】 バナジウムおよびウランの重要な鉱物。$K_2O \cdot 2UO_3 \cdot V_2O_5 \cdot 3H_2O$ 斜方晶系。比重4.1，黄色の粉末状結晶で，劈開(へきかい)は{001}でウンモ状である。アメリカのコロラド州およびユタ州の鉱床に産する。日本では，岡山・鳥取県境の人形峠に産する。



カルノーサイクル



カルパッチオ 《聖ウルスラのケルン到着》 1490～1496 ベネチア-アカデミア美術館蔵



カルバン ウィーン美術史博物館蔵

カルパチア(山脈) ⇨カルパート山脈

カルパッチオ [Vittore Carpaccio] (1465?～1526?) ベネチア派の画家。ダルマチアの移民の出とされるが，その生涯(しょうがい)はあまり知られていない。はじめジョバンニ-ベルリーニの門下生として働いたが，最も大きな影響はジェンティーレ-ベルリーニから受けたといわれる。また，ラザロ-バスティアーニに入門したとも伝えられる。代表作は，9場面からなる《聖ウルスラ物語》《聖ジロラモの書斎》《聖ジョージと龍(りゅう)》などを含む一連の作品である。いずれも着想の雄大さを生かす緻密(ちみつ)な画面構成，特異な空間処理のうちに劇的な場面が描かれ，しかも描写は一木一草に至るまで細密をきわめている。〔吉田玲子〕

カルパート(山脈) [Carpates] チェコスロバキア・ポーランド国境から南東方向に延び，ソビエト連邦のウクライナ共和国南西部を経てルーマニア中部に至る弧状の褶曲(しゅうきょく)山脈。延長1,300km，平均高度1,000m，最高峰はゲルスドルファー-スピッツェ(2,663m)。西部は東ベスキド山脈・西ベスキド山脈・タトラ山脈に分かれ，ハンガリー盆地を囲んでいる。降水量は比較的多く，ドナウ川に多くの川が流入する。鉄・石炭・石油などの資源が豊富で，牧畜も行なわれている。〔大石堪山〕

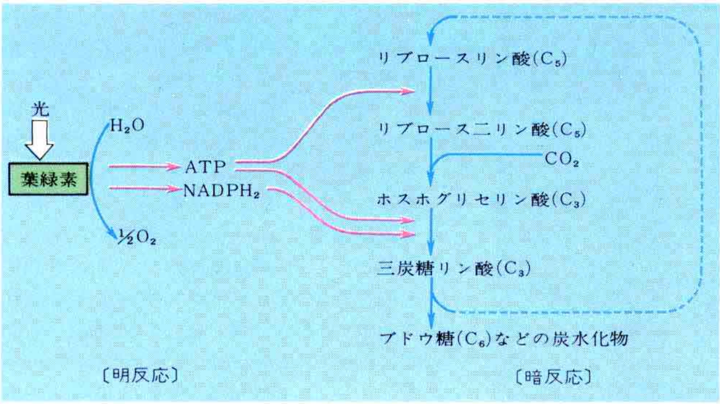
カルバドス [calvados] リンゴ酒を蒸留したブランデー。フランス・ドイツの国境付近に産する。ぶどう酒から製するブランデーに比して下等な酒とされている。なお，カルバドスはノルマンジー地方のセーヌ湾に臨む県名。

ガルバーニ [Luigi Galvani] (1737～1798) イタリアの解剖学者。ボローニアに生まれる。ボローニア大学で学び，同大学の解剖学教授となる。カエルで動物電気の発生を見いだし，動物体内において電気が脳から神経を通って筋肉に達すると考えた。この研究は電気生理学のさきがけであった。

ガルバノメーター ⇨検流計

カルバリ(丘) [Calvary] イスラエルの首都エルサレムの北郊にある高さ約20mの小さな丘で，キリストが十字架にかけられたといわれるところ。地名は，その形が頭蓋(とうがい)に似ていることからラテン語でカルバリア(とうがい骨)とよばれたことにちなむ。

カルバン [Jean Calvin] (1509～1564) フランスの宗教改革者。北フランスのピカルジー州ノワイオンの生まれ。パリ大学で神学を，オルレアン・ブールジュの大学で法律学を学んだ。はじめユマニストとして出発し，セカネの《寛容について》のすぐれた注解書を著わした。1533年ごろ，いわゆる〈突然の回心〉を経験し，福音主義(プロテスタント主義)に転向した。1535年，国王の新教徒に対する追及が強まり，スイスのバーゼルにのがれた。1536年，《キリスト教綱要》第1版を発表。同年，ジュネーブで宗教改革を押し進めていたギヨーム-ファレル(1489～1565)に請われて，同市で改革運動を指導したが失敗し，追放されてストラスブールに移り，同地の神学校教授などをつとめた。この間，《ロマ書注解》などを著わす。1541年，再びジュネーブに招かれ，〈教会憲章〉を制定して神政政治的な厳格な政治を行なった。以後，ジュネーブは宗教



カルビン回路

改革派の中心としてヨーロッパの全地域に影響を与えた。

なお，彼の思想を中心に展開したプロテスタント思想をカルビニズムという。カルビニズムは，救済される者と滅亡する者は神によってすでに決められているとする予定説に端的にうかがわれるように，神中心主義を極度に先鋭化し，〈人間は神の栄光のためにのみ生きるべきである〉と説いた。人間の諸活動のすべて，各人の職業も神の栄光のためにあるとされ，義務意識をもって行なうことにより，各人の救済は達成されるとされた。ここから勤勉・質素・禁欲などの職業倫理が形成され，近代市民社会の成立に重要な役割を演じた。〔石井忠厚〕

カルピーニ [Giovanni de Plano Carpini] (1182ごろ～1252) イタリアのフランシスコ会修道士。かつてヨーロッパに侵入したモンゴル人をキリスト教に改宗するため，教皇インノケンチウス4世の命を受けて，1245年リヨンを発ち，ポーランド・キエフ・カスピ海・天山山脈を経て，当時のモンゴルの首都カラコルム近くに達した。その旅行記はモンゴルの事情をはじめてヨーロッパに伝えたものとして貴重。

カルビニズム ⇨カルバン

カルビン [Melvin Calvin] (1911～) アメリカの植物生化学者。ウィスコンシン州のセントポールに生まれ，現在カリフォルニア大学教授。放射性同位元素である^{14}Cを含む二酸化炭素を植物に与え，光合成産物に存在する^{14}Cの量を測定することにより，光合成における二酸化炭素固定の経路の解明に貢献した。現在この回路は，彼の名をとってカルビン回路とよばれている。1961年ノーベル化学賞受賞。

カルビンかいろ 【カルビン回路】 光合成過程のうち，化学エネルギーに変換された光エネルギーを利用して炭酸同化作用を行ない，糖を生成する代謝系。この研究に基本的な知見を与えたカルビン一派の名にちなむ。ATPと$NADPH_2$の存在下では光の照射がなくとも反応が進むところから，暗反応ともいう。この回路の最初の反応で，カルボキシジスムターゼの触媒により，炭酸ガス(重炭酸イオンの形で反応にあずかる)と五炭糖二リン酸からホスホグリセリン酸(C_3)が2分子生成される。この五炭糖二リン酸の生成およびホスホグリセリン酸の還元反応には，それぞれ高エネルギーリン酸化合物や還元型補酵素が関与するが，これらの化合物は光エネルギーを化学エネルギーに変換する反応である明反応によって生成される。この化学エネルギーはカルビン回路を経て炭水化物中にたくわえられ，さらに動物界へも広がっていく。緑色植物の明反応を行なう酵素系は葉緑体内の葉緑素を含む顆粒(かりゅう)であるグラナに存在し，カルビン回路の酵素系は葉緑体内の色素をもたない水溶性の部分であるストロマに存在する。また，この回路の出発点にあるカルボキシジスムターゼは大腸菌や，光合成を行なわないイオウ細菌にも存在することが知られている。このことからも，緑色植物のカルビン回路は明反応とは独立したものであり，炭素の固定は光合成に特有の現象ではないといえる。〔南川隆雄〕

カールフェルト [Erik Axel Karlfeldt] (1864～1931) スウェーデンの詩人。故郷のダーラナ地方の自然美を洗練された韻律でうたった叙情詩が多く，《秋の角笛》《フリドリーンの歌》などの詩集を残した。20世紀の作家ではじめてスウェーデン-アカデミー会員に選ばれ(1904)，1931年死後にノーベル文学賞を贈られた。

ガルフストリーム ⇨湾流

ガルフせきゆ 【ガルフ石油】 Gulf Oil Corp. アメリカの代表的総合石油メーカー。メロン財閥系の1社。油田採掘はアメリカ・クウェート・ベネズエラなどが主で，最近ナイジェリア・コロンビア南部などを新開拓した。主として東半球に販売網をもち，売上高もこの地域が多い。子会社グッドリッチ-ガルフ-ケミカルズで石油化学製品をつくり，スペンサー-ケミカルでは一般化学製品を生産，ベンゼン・ノルマル-アルファ-オレフィン・接着剤・火薬・肥料・プラスチックなどの売り上げが伸びている。日本ではグッドリッチ-ガルフ-ケミカルと日本ゼオンが合成ゴムで技術提携している。本社ピッツバーグ。年間売上高49億5,300万ドル，従業員数60,000(1969)。〔氏家 尚〕

ガルブレイス [John Kenneth Galbraith] (1908～) アメリカの経済学者。カナダに生まれ，トロント大学・カリフォルニア大学・ハーバード大学を卒業後，教鞭(きょうべん)をとるかたわら文筆活動および公的な活動にはいり，第2次世界大戦中は政府の物価統制活動の責任者となり，その間《フォーチュン》誌の編集者として活躍する。1961～1963年にはケネディ民主党政権を助け，インド大使に任命される。彼の専攻は農業経済学であるが，そのすぐれた文筆家としての能力によって現代のアメリカ資本主義に鋭い洞察(どうさつ)を与えてきたことで有名。著書には《アメリカの資本主義》(1951)，《ゆたかな社会》(1958)，《新しい産業国家》(1968)などがある。〔松浦 保〕

カルフーン [John Caldwell Calhoun] (1782～1850) アメリカの政治家。サウスカロライナの名家の出。1804年エール大学卒業後，弁護士となる。1810年に民主共和党下院議員，1817年モンロー大統領の陸軍長官，1825年アダムズ，1829年ジャクソン両大統領の副大統領。1812年戦争には〈戦争鷹(たか)〉としてナショナリズムを鼓吹したが，1824年以来南部州権論の理論的指導者となる。1832年南部奴隷所有者の代表として高関税に反対，サウスカロライナの連邦分離宣言を指導して，関税率の低下に成功した。1844年以来タイラー・ポーク両大統領の国務長官として，奴隷所有階級のためテキサス併合を実現した。南北両セクションの対立激化に際して，北部の奴隷制即時廃止論者に反対し，南部の急進論者をおさえる役割も果たした。〔折井一彦〕

ガルベストン [Galveston] アメリカ合衆国，テキサス州南東部，ガルベストン湾口の小島にある港湾都市。人口6万2,000(1970)。綿花・イオウ・石油・穀物などの積み出し港として知られ，綿花の積み出し量は合衆国第1である。美しい街路樹と開拓の歴史をしのばせるスペインふう・イタリアふうの建物がある。住家はハリケーンによる海水の流入を防ぐために道路より数段も高く建てられている。

カルポー [Jean-Baptiste Carpeaux] (1827～1875) フランスの彫刻家。ベルギー国境に近いバランシェンヌの石工の家の生まれ。パリに出て苦学しながら数多くの肖像や装飾彫刻を制作，綿密な写生と堅実な技術に基づいた激しい流動的な構図をとり，古典主義からの脱皮を図った。

ガルボ [Greta Garbo] (1906～) アメリカの映画女優。スウェーデン生まれ。神秘的な美貌(びぼう)によって，1920年代から1930年代にかけて世界的なスターとなり，〈銀幕の女王〉〈神聖ガルボ帝国〉などといわれた。代表作は《クリスティナ女王》《アンナ-カレーニナ》《椿姫(つばきひめ)》など。

カルボキシペプチダーゼ [carboxypeptidase] タンパク質やペプチドのアミ

ノ酸残基をそのカルボキシル末端(C-末端)より順次切断する加水分解酵素。A・Bの2種がある。カルボキシペプチダーゼAはチロシン・グルタミン酸などの中性アミノ酸や酸性アミノ酸がC-末端に位置するペプチドに対して作用する。カルボキシペプチダーゼBの作用はリジンなどの塩基性アミノ酸がC-末端に存在する場合に限られる。いずれも分子量34,300のタンパク質である。膵臓(すいぞう)中に不活性酵素(プロカルボキシペプチダーゼ)として生産され,膵液として分泌されるとトリプシンの作用で活性をもつ酵素になる。タンパク質の消化の過程でトリプシン・キモトリプシンによって生じたペプチドに作用して,アミノ酸を生ぜしめる役割を果たすと考えられている。タンパク質の化学構造研究に利用され,アミノ酸配列順序決定に役だっている。〔山崎博子〕

カルボキシメチルセルロース [carboxymethyl cellulose] セルロースグリコール酸ともいう。CMCと略称することもある。セルロースをアルカリで処理したのち,クロル酢酸塩と反応させることにより得られるもので,セルロースの水酸基の一部がカルボキシメチルエーテル(R セルロース $-OCH_2COOH$)に変化していると考えられている。ふつう吸湿性の白色固体のナトリウム塩として得られる。繊維のり・染色のり・乳化塗料・接着剤としてすぐれた性質をもち,また新しい合成洗剤としても重要である。さらに,アイスクリーム・ゼリー菓子・ジャムなどの粘強剤としても使われ,医薬品として,また,製剤用の補助剤として使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕



カルポー《舞踊》パリ,オペラ座ファサード柱廊



ガルボ

カルボキシラーゼ ⇨脱炭酸酵素

カルボナリとう【カルボナリ党】 19世紀前半にイタリアで活動した秘密結社。カルボナリとは〈炭焼き人〉を意味する。19世紀初頭南イタリアに起こり,のち全イタリアに拡大し,イタリアの自由,オーストリア支配からの独立の要求を掲げ,1820～1821年ナポリとピエモンテで一時革命に成功したが,オーストリアの武力により弾圧された。明確な民族意識に基づく統一的な組織と理念に欠けたため,1831～1832年中部イタリアの革命に失敗したあと崩壊し,マッチーニの青年イタリア党*に吸収された。リソルジメント*に果たした先駆的役割は大きい。〔大野慎一郎〕

カルボニル [carbonyl]

1 COで表わされる基のこと。ホスゲン Cl_2CO のように二価の基として化合物をつくるほか,中性の配位子として金属に結合する。

2 錯体の一種,金属カルボニルの略称。

3 一酸化炭素COの配位子としての名称。

4 二価の原子団COのこと。すべてのアルデヒドおよびケトンに含まれる原子団である。カルボニルは多くの特異な反応を起こすので,カルボニル化合物は有機合成化学上きわめて重要な化合物である。

カルボンさん【カルボン酸】 カルボキシル基($-COOH$)を有する化合物の総称。酸性を示すものがほとんどである。分子中に含まれるカルボキシル基の数が1個の場合,2個の場合,および3個の場合,それぞれモノ-,ジ-,およびトリ-カルボン酸とよばれる。遊離酸の状態で,また塩・エステルなどの誘導体として油脂・ロウなどに含まれ,動植物界に存在するものが多い。第一アルコールまたはアルデヒドの酸化,ニトリルの加水分解,グリニヤ試薬と二酸化炭素の反応,エステル*の加水分解*などにより得られる。ギ酸・酢酸などは刺激臭があり,炭素数6個前後のものは不快な腐敗臭をもつ。高級の酸や,ジ-カルボン酸・芳香族カルボン酸はほとんど無臭である。〔石戸良治・荒木洋之助〕

カールマルクスシュタット [Karl Marx Stadt] 東ドイツ南部,ドレスデンの南西65kmにある商工業都市。旧名ケムニッツ。人口30万2,000(1973)。編み物・室内装飾織物などを生産する東ドイツ繊維工業の中心地で,また付近に炭田を控え,製鋼・化学・機械・自動車などの工業が発達して,〈ザクセンのマンチェスター〉の異名をもつ。第2次世界大戦で大被害を受け,12世紀創建の聖ヤコブ教会をはじめ市街の半ばが破壊された。現地名は,1953年マルクスの死後70年を記念して改称した。〔梶川勇作〕

カール-マルテル [Karl Martell] (688ごろ～741) 中ピピンの子で,フランク王国のメロビング朝の宮宰*。在任714～741年。ザクセン族その他を討伐したが,732年,ツール-ポアチエの戦いで,イスラム軍を撃退し,ヨーロッパをイスラム支配から救った。さらにガリア南部に遠征し,イスラム勢力と結ぶ地方権力を破った。彼はイスラム軍と対抗するため,歩兵中心のフランク軍制を騎兵中心にかえようとして,そのため教会領を没収して部下に与えた。これが西洋封建制度の起源とする説がある。晩年には事実上全国を支配し,その子ピピン*(小)が王位を奪ってカロリング朝*をはじめる基礎をつくった。〔兼岩正夫〕

カルマルどうめい【カルマル同盟】 スウェーデン・デンマーク・ノルウェー3国を共通の君主下に置くとする同君連合。1397年スウェーデンのカルマルで成立し,デンマーク王兼ノルウェー王マルグレーテ(女王)が即位した。当時,ドイツのハンザ商人によって北ヨーロッパの穀物輸出権は握られていたので,これと対抗すべく成立したもの。1523年スウェーデンが脱退して解体したが,デンマーク・ノルウェーの連合は1814年まで続いた。

カルマン [Theodor von Kármán] (1881～1963) ハンガリー生まれのアメリカの応用数学者・航空力学者。ゲッチンゲン大学・アーヘン工科大学教授。のち渡米し,カリフォルニア工科大学のグッゲンハイム航空研究所長となり,第2次世界大戦中アメリカ航空技術の中心的指導者として活躍した。諸研究施設・長距離ロケット計画など,その推進に負うものが多い。基礎的研究も〈カルマンの渦列(うずれつ)〉をはじめとして多方面にわたっている。➔うず〔藤村 淳〕

カルマンのうずれつ【カルマンの渦列】 ⇨渦

かるみ【軽み】 文芸用語。淡々とした中に深い滋味のこもった無心の境地をいう。芭蕉*(ばしょう)が1690年(元禄3)ごろから志向しはじめ,特に最晩年の1694年に強く門人たちに説いたところで,把握(はあく)・表現ともに〈巧み〉を排し,平明・素直(すなお)につくべきことをめざしたもの。《猿蓑*(さるみの)》で到達した〈さび*〉〈しほり*〉をさらに越えるものとして芭蕉が最後に到達した境地だが,門人たちからは単なる平俗卑近と誤解され,後世俳諧(はいかい)の低俗化を招く一因ともなった。なお,格を離れた自由自在の芸境として画道・花道のほうでも説かれた。〔尾形 仂〕

ガルミッシュ-パルテンキルヘン [Garmisch-Partenkirchen] 西ドイツ南部,オーストリアとの国境近くの町で,1935年ガルミッシュとパルテンキルヘンが合併してできた。人口27,000(1969)。バイエルン-アルプスの山麓(さんろく),標高700 mの所にあ

って，ドイツの最高峰ツークシュピッツェ山(2,963 m)の登山基地となる。環境に恵まれ，避暑やスキー客でにぎわい，1936年の第4回オリンピック冬季大会はここで開かれた。第2次世界大戦の末期，ナチス党の指導者たちはここを最後の避難地にした。〔梶川勇作〕

カルミナブラナ [Carmina Burana] 13世紀につくられた，中世ドイツの放浪学生歌集。名称は南ドイツのベネディクトボイレンの僧院で発見されたことにより，〈ボイレンの歌〉の意。全編300余のうち250編はラテン語の詩，あとはドイツ語とラテン語の混合した詩からなる。いかにも学生らしく率直に，ときにははめをはずして，春や恋や酒を歌い，聖母マリアをたたえ，十字軍の理想を追う。中には破戒僧や俗人どもをあざわらうものもみられる。〔吉田　孚〕

カルムイク(自治共和国)[Kalmytskaya A.S.S.R.] ソビエト連邦南西部，ロシア連邦共和国内の自治共和国。ボルガ川下流右岸に位置し，カスピ海に面している。面積75,000km²，人口127万3,000(1975)，主都エリスタ。住民は16～17世紀に中国方面から移住してきたモンゴル系のカルムイク人が多く，ロシア人・カザフ人なども住んでいる。西部に低い丘陵地帯があるほかは黒土の平原である。主産業は牧畜で，ヒツジ242万頭，ウシ33万頭(1966)を飼育し，年間を通して放牧している。積雪をみないため，冬季にカフカスやボルダグラードからもここへ家畜を連れてくる。西部では灌漑(かんがい)によって農業を行ない，小麦・トウモロコシなどの産が多い。工業は食品加工業があるにすぎず，重工業は皆無である。1920年に自治州，1935年に自治共和国となったが，第2次世界大戦中にナチス-ドイツとの関係から解体され，1957年再び自治州，1958年に現在の自治共和国となった。〔斎藤晨二〕

カルメット [Albert Léon Charles Calmette] (1863～1933) フランスの微生物学者。ニースの生まれ。はじめ海軍軍医であったが，のちにパスツール研究所へはいって微生物学を専攻。へび毒・ペスト病・鉤虫症(こうちゅうしょう)の研究を行ない，1920年には，ゲラン*とともに結核生菌*を使って結核に対する予防接種法，BCG*を確立した。

カルメラ 焼き物菓子の一種。室町時代の末期，ポルトガル人が伝えた南蛮菓子。カルメイル・カルメイラともいわれ，浮石糖・浮石糖などの字をあてた。現在はだ菓子屋で売られているが，伝来当時の品は現在のものより上等で高価な菓子であった。

〈作り方〉銅の小なべにザラメ糖と水を少量入れて火にかけて煮つめ，細かいあわが一面にできてきたら棒の先に重曹(じゅうそう)をつけて手早くかき回しながら膨張させ，中央部から棒をすっと抜き，そのまま冷やして固まらせる。〔塩川ふみ〕

カルメル(山) [Carmel] イスラエルの北西部，地中海岸近くの山。ネアンデルタール*人骨の出た洞穴(どうけつ)で名高い。標高546 m。1928年南麓(なんろく)のクディ-エル-ムガラ村にある三つの石器時代の洞窟(どうくつ)遺跡が発見され，イギリスのガロットとマッカウが発掘した。この発掘は，人類の発生と農業の起源の研究に貴重な資料を提供したとして高く評価されている。

カルメン

1 メリメ*の中編小説(1845)。作者の2度めのスペイン旅行の所産で，女性の野性的情熱を描いたもの。ジプシー女カルメンの魅力にとらえられた龍騎兵(りゅうきへい)伍長(ごちょう)ドン-ホセは，密貿易の一味に身を落として尽くすが，その愛情はカルメンの奔放な情熱に裏切られ，ホセはカルメンを殺して獄に下る。

2 ビゼー*作曲のオペラ。4幕。メリメ*の同名の小説によってアレビとメイヤックが台本をつくった。1875年3月3日，パリのオペラ-コミック座初演。登場人物はカルメン(メゾ-ソプラノ)・ドン-ホセ(テノール)・エスカミリオ(バリトン)・ミカエラ(ソプラノ)など。初演は必ずしも成功ではなかったが，同年6月3日にビゼーが死んでのち，世界で最も多く上演されるオペラの一つとなった。

かるやき 【軽焼き】 せんべいの一種。もち米粉に砂糖を加えて水でこね，蒸したのちめん棒でかきもちのように薄く伸ばし，好みの形に切って鉄なべに載せて焼く。京都と江戸に古くからあった菓子で明治の終わりごろまで庶民に好まれたが，現在はほとんどみられない。

カルルク 【葛邏禄】 7～12世紀に中央アジアで活躍したトルコ系遊牧民族。アルタイ山脈の南西に遊牧し，東西両突厥(とっくつ)の間に立って叛服(はんぷく)常なかったが，のちウイグルを助けて突厥を滅ぼして西方へ発展，チュー河畔のスイヤーブに都した。その君主はヤブグの称号をおびた。861年カシュガル*を占領。940年都をさらにイリ溪谷(けいこく)のコイルクに移した。10世紀にカラ-カン朝*に加わり，イスラム教に改宗したが，のちジンギス汗*により滅ぼされた。〔若松　寛〕

カルルスおんせん 【カルルス温泉】 北海道幌別(ほろべつ)郡登別町にある温泉。泉温55～70℃，泉質は無色透明の単純泉で，泉質がチェコスロバキアのカルルスバート(カルロビバリ)温泉に似ているため，カルルスの名がつけられたという。胃腸病・神経痛・婦人病・リウマチなどにきくといわれ，登別川上流の閑静な療養温泉として知られる。浴場は谷壁の岩盤を掘ってつくられ，上ノ湯，中ノ湯，下ノ湯の共同浴場がある。登別温泉と洞爺湖(とうやこ)温泉を結ぶコースに位置し，支笏(しこつ)洞爺国立公園に含まれ，近くにはオロフレ峠や橘湖(たちばなこ)がある。室蘭(むろらん)本線登別駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

カルルスバート ⇨カルロビ-バリ

ガルレ [Johann Gottfried Galle] (1812～1910) ドイツの天文学者。はじめは高校の教師であったが，1835年にベルリン天文台の助手となり，1851～1897年はブレスラウ天文台長。1846年ベルリン天文台在務中，パリ天文台長ルベリエ*の指示に基づいて海王星を発見した業績が最も有名である。流星やすい星についての研究も多く，ブレスラウ天文台長当時は小惑星の観測から太陽の視差を求める方法を発見，8.887″という値を得た。〔根本順吉〕

カルロ-アルベルト [Carlo Alberto] (1798～1849) サルジニア王。在位1831～1849年。1821年摂政となり，立憲的改革を企てたが，オーストリアの干渉により一時国外に亡命した。1831年即位ののち，領内に憲法を発布し，1848年の2月革命の刺激を受けてオーストリアに宣戦し，第1次イタリア統一戦争*を開始した。戦争は大敗に終わり，1849年退位してポルトガルに亡命した。その遺志は長子ビットリオ-エマヌエレ2世*により実現された。〔大野慎一郎〕

カルロウィッツへいわじょうやく 【カルロウィッツ平和条約】 1699年，オスマントルコがオーストリア・ベネチア・ポーランド・ロシアのいわゆる〈神聖連盟〉との間に結んだ和約。三十年戦争*以来フランスがトルコと結んでオーストリアを挟撃(きょうげき)したのに対し，オーストリアはフランスと休戦してトルコを反撃，1684年〈神聖連盟〉を結んで東方ハンガリーに進出した。1686年ロシアもこれに参加してトルコと戦い，黒海への進出を企てた。この和約の結果オーストリアはハンガリー全土の獲得に成功し，ロシアはアゾフ地方の割譲をトルコに承認させた。〔大野慎一郎〕

カルロス(1世) ⇨カール5世

カルロス [Juan Carlos] (1938～　) スペイン王位継承者。ブルボン直系の王子として生まれる。アルフォンソ13世の孫。1951年に亡命したが，1954年フランコ総統と協定ができて帰国。1969年7月22日，王位継承法によりフランコの指名を受けて父ドン-ファンを押しのけてフランコ以後，王位を継ぐ予定である。

カルロス-ジョビン [Antonio Carlos Jobim] (1927～　) ブラジルの作曲家。リオ-デ-ジャネイロの生まれ。1940年代末にサンバ-カンソン(サンバの歌曲)の作曲家として活動をはじめ，1959年カンヌ映画祭でグランプリを獲得した《黒いオルフェ》の主題曲《悲しみよ　さようなら》を作曲，1962年には《イパネマの娘》さらに《ワン-ノート-サンバ》《ディサフィナード》などの世界的ヒットで，ボサノバ*-ブームを生んだ。

カルロスせんそう【カルロス戦争】 1830年代スペインの王位継承をめぐって起こった保守派と自由主義派の内乱。フェルナンド7世の弟ドン-カルロスは，はじめ王位継承者であったが，男子相続の規定がその直前に廃棄されていたため，1830年王女が生まれると王位継承権を失い，フェルナンド7世の死後反乱を起こした。1812年の改革以来激化した社会的対立は直ちにこれに結びつき，貴族・教会の保守勢力はカルロス党を結成した。これに対して，ブルジョア自由主義勢力は女王イサベル2世を支持したため，王室の内紛はたちまち政治・社会的内乱に発展した。また，ウィーン体制*に忠実なオーストリア・プロイセン・ロシアはカルロス党を支持し，イギリス・フランスは女王派に味方して国際的干渉を招いた。戦局はカルロス党の分裂もあって政府軍に有利となり，1839年休戦協定が結ばれて内乱も収まった。しかし，カルロス党の特権は存続を認められたため，両派の対立による政治の不安定はその後も続いた。

〔大野慎一郎〕

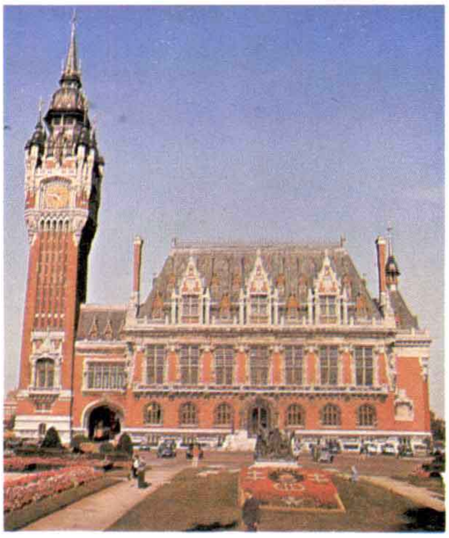
カルロビ-バリ［Karlovy Vary］ チェコスロバキア，ボヘミア地方北西部にある世界的に有名な温泉のある保養地。人口45,000(1969)。エルベ川の支流オーレ川の谷にあり，近くでカオリンを産し，陶器製造も盛んである。1349年カール4世によって建設され，彼の名にちなんでカールスバートともいう。

かるわざ【軽業】 奈良時代に中国の散楽*の中の雑戯の一種として伝えられた曲芸の一。綱渡り・刃渡り・かご抜け・はしご乗りなど常人にはできない芸を身軽な者が人体を使って行なうもの。江戸時代には女軽業師も出るなど盛んであったが，近代になり，サーカスのアクロバット*の出現もあり，芸内容は複雑化した。



軽業　籠ぬけの図
《和漢三才図会》より

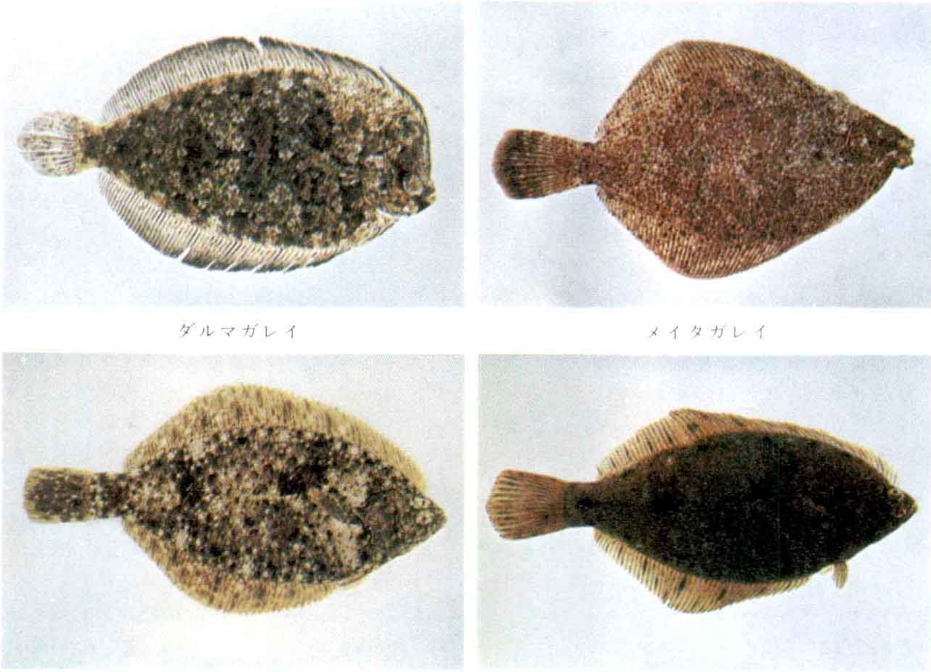
カレー［Calais］ フランス北部，ドーバー海峡に臨む港湾都市。人口75,000(1968)。伝統的なレース工業が盛んで，ニシン・タラ漁の根拠地でもあり，漁網などの製造も行なわれている。海峡の対岸にあるイギリスのドーバー・フォークストンとは連絡船で結ばれる。百年戦争時の1347年にイギリスに占領された歴史をもち，その際，多くの市民を救うために6人の市民が犠牲となったエピソードは，ロダンの彫刻《カレーの市民》のテーマとなり，市内にその作品が立っている。第2次世界大戦中には，ナチス-ドイツのイギリス本土攻撃のロケット基地があった。〔野間三郎〕



カレー　市役所の壮麗な建物と，その前の無名戦士の広場。花壇が美しく手入れされ，中央にロダンの《カレーの市民》が立っている

かれい【鰈】 硬骨魚類・カレイ科の総称。どれもひし形の平たい形をしている。茶かっ色の側に，接近して両眼がついており，白色または淡黄色の側には目はない。目のある側を上にして海底に横たわり，ときには半ば砂に埋まっている。

ヒラメとカレイは近縁であるが，昔から〈左ヒラメに右カレイ〉といわれているように，ヒラメでは体の左半身が目側であることが多く，カレイでは右半身を目側にしているものが多い。カレイは海底でえさをあさり，横倒しのまま，平たい体をあおるようにして泳ぐ。孵化(ふか)したばかりの子魚は，普通の魚と同じ形をし，普通の魚と同じように泳ぐが，しだいに片方の目が反対側に寄っていき，それにつれて横倒しになり，やがて底にすむようになる。種類が多く，マガレイ・イシガレイのように，漁獲量も多く味もよい重要な食用魚が含まれている。近年，北洋からコガネガレイなどが大量に漁獲されるが，北洋のカレイ類は大味である。〔菅野　徹〕



ダルマガレイ　メイタガレイ　マコガレイ　ホンガレイ

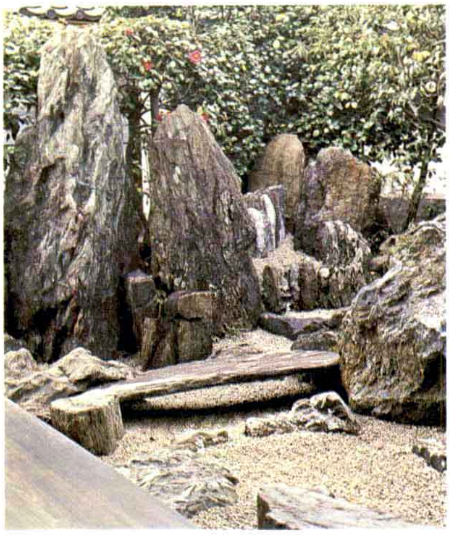
カレイ

かれいきゃく【過冷却】 液体が凝固点以下に冷却されても液状のままになっている状態。たとえば，水の場合には－20℃ぐらいまで凍らないで冷却されることがある。過冷却は不安定な平衡状態であるため，わずかな刺激とか固体の小片を加えることによって，液体は，安定な平衡状態の凝固点の温度まで上がって凝固する。過冷却現象は，雲粒*から雨粒に成長する過程で重要な働きをする。

カレーこ【カレー粉】 英語のカレーは，〈ソース〉を意味する北方インド語カリの転化したもので，肉・魚・くだもの・野菜などを粉末の香辛料とともに調理したものをいう。このカレーに使用する黄色の香辛料をカレー粉とよんでいる。カレー粉は各種の香辛料を混合したもので，一般に香味料としてはクミンシード・コリアンダーシード・ニクズク・チョウジ・ウイキョウ・カーダモン・メースなど，辛味料としてはショウガ・トウガラシ・カイエンペッパー・

コショウなど，着色にはウコン・インドサフランが用いられるが，原料の配合に一定の処方はなく，種類も非常に多い。カレーライス・ドライカレーライスになくてはならないもの。〔佐藤友太郎〕

かれさんすい 【枯山水】 日本庭園に行なわれた様式の一。室町時代に伝来した中国の造園法仮山(仮山水ともいい，諸国のすぐれた山水・名所を象徴してつくる庭園)の一種である。普通は〈かれざんすい〉と読むが，現在では〈かれさんすい〉と読み，室町期には〈ふるせんずい〉と読んだ。本来は《作庭記*》にあるように，池もなく遣水(やりみず)もない場合に石を立てることで，つまりは，水を使わないで水を表現する手法を用いた庭をいう。西芳寺の上部庭園は枯山水の手法ではあるが，下部に池があるのでまったくの枯山水ではない。全庭に水を用いない枯山水は，文明年間(1469～1486)以後に成立した。枯池・枯滝・枯流れなどは，枯山水庭園の局部構成である。〔重森完途〕



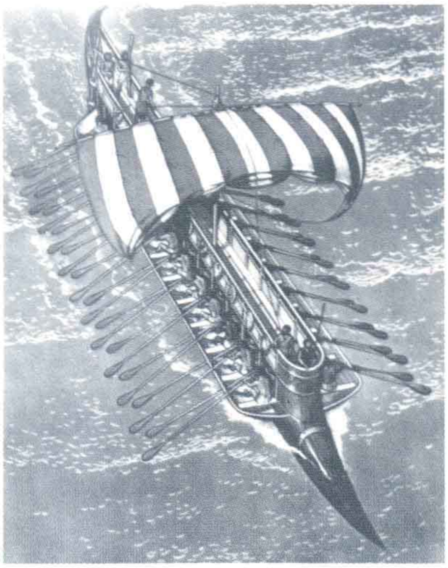
枯山水　大徳寺大仙院

ガレージ ［garage］ 自動車の車庫。自動車の盗難や損傷，あるいは雨露による車体の早期腐食などを避ける目的でつくる。簡単なものでは屋根のみを備えたものから，自動とびらが備わったものまである。市街地では土地が高価で広く使用できないために数階建てにし，共同で利用する大きな駐車場もある。建築基準法では自動車車庫は特殊建物として別扱いを受け，10m² 以下の増築であれば特に届け出は不要であるが，それ以上になると確認申請を必要とする。また，屋根・柱・壁の有無により建物とみなされると，固定資産税の対象となる。なお，わが国では自動車修理工場もガレージとよんでいる。〔成田武男〕

かれすすき 【枯れすすき】 ⇨船頭小唄(せんどうこうた)

ガレスピー ［John Birks'Dizzy' Gillespie］ (1917～　)アメリカのジャズ-トランペット奏者・作曲家。サウスカロライナ州の生まれ。15歳のときトランペットを本格的に学び，1937年強い影響をうけていたロイ-エルドリッチのあとがまとしてテディ-ヒル楽団にはいった。1943年，ビリー-エクスタインの楽団にはいり，チャーリー-パーカー*らと競演してビー-バップ*を創始した。代表曲《グルービン-ハイ》《チュニジアの夜》ほか多数。

ガレーせん 【ガレー船】 ギリシア・ローマ時代の多数のかいを備えた帆船。商船と軍艦とがあった。軍艦は船の長さ120フィート(36.6m)，幅15フィート(4.6m)ぐらいで，かいは上下数段に備え，こぎ手も1隻で200～300人ぐらいになる大形のものもあった。こぎ手は主として囚人や捕虜などが使われた。



ガレー船

かれだに 【涸れ谷】 ⇨ワジ

カレッジ ⇨大学

カレドニアぞうざんたい 【カレドニア造山帯】 アイルランド・スコットランドから，ノルウェーを経て，スピッツベルゲンに至る地域では，先カンブリア時代最末期から形成されはじめた地向斜*が，カンブリア紀末期からデボン紀にかけて広域変成作用*と褶曲*(しゅうきょく)運動を受けて隆起した。このような造山運動を受けた地域をカレドニア造山帯という。ほぼ同じ時代の造山運動は，北アメリカ東部および北部，南アメリカ中部の東海岸と西海岸，アフリカ北西部，オーストラリア中部から南東部，アジアのウラルやシベリアなど，先カンブリア時代にできた楯状地*(たてじょうち)を取り巻く地域に起こっている。〔堀福太郎〕

ガレノス ［Galenos］ (129または130～199，200または201) ローマ時代の医学者・解剖学者。小アジアのペルガモンの生まれ。アレキサンドリアで医学を学んだのち，ペルガモンとローマを往復しながら，医師・解剖学者として名をあげた。医師としては，疾病(しっぺい)を生理機能の障害とみなし，この障害を除去することが医療の役割と考え，医療に際して自然治癒力(ちゆりょく)を最大限に発揮させることが肝要だと強調した(ただし，状況に応じて自然治癒力を助けるため，人為的な補助が必要だとしている)。解剖学者としては，サルなどの動物体を用い，脳神経系・循環系の機能について広範な実験を試みた。左心室と動脈には血液は存在せず空気のような精気のみが含まれているというそれまでの解剖学者たちの見解を，実験的に否定した研究は著名である。したがって，ガレノスを実験生物学の祖と評価することができる。〔中村禎里〕

かれはが 【枯葉蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・カレハガ科。翅(はね)を広げた長さ75～80mm。全体茶かっ色で，前・後翅とも外縁が鋸歯(きょし)状を呈し，枯れ葉に似ることからこの名がある。幼虫はクリ・リンゴ・モモ・サクラ・ヤナギなどの葉を食害し，体色は寄主植物の樹皮に似た色彩を呈する。日本全土のほか，東アジア一帯からヨーロッパまで広く分布する。カレハガ科は比較的大きい群で，全世界から1,400種あまりが知られており，熱帯地方に種類が多く，中形～大形の種が多い。体が太く，口吻(こうふん)は著しく退化している。卵はしばしば樹枝に帯輪状に産付され，固着物質の厚い層に包まれる。幼虫は大形で円筒形，多数の長短の刺毛がある。葉や幼果を食べ，オビカレハの幼虫のように集団で糸をはいて巣を張り，テンマクケムシとよばれるものもある。マツ類の葉を食害するマツカレハ，ヤナギ類の葉を食べるホシカレハ，タケ・ススキなどのイネ科植物の葉を食べるタケカレハ，ウメ・モモ・サクラなどの葉を食べるオビカレハなどが，日本に分布する代表的な種類である。〔鈴木邦雄〕

カレリア(自治共和国) ［Karel'skaya A.S.S.R. Karelia］ ソビエト連邦北西部，ロシア連邦共和国内の自治共和国。東は白海に面し，西はフィンランドに接する。面積17万2,000km²。人口72万5,000(1975)。主都ペトロザボドスク。住民はフィン系のカレリア人(23%)のほかはロシア人が多い。気候は海洋性で，高緯度のわりには暖かい。森林と湖とカコウ岩の国で，カコウ岩台地に長期にわたる氷河の作用でできたラドガ・オネガ両湖をはじめとする43,000余りの湖と，総面積の85%を占める針葉樹を主とする森林がある。産業生産の3分の2が木材関係で，用材・合板・紙・パルプなどが産出される。また，漁業・酪農も行なわれ，ウンモ・鉄鉱石・石材などの地下資源にも恵まれている。地理的な位置から，古くからロシア人とフィン人やスウェーデン人との係争の地であった。また，ロシア革命以前は，ロシアの政治犯などの流刑地としても知られる。1923年自治共和国になり，1940年カレロ-フィン共和国となった。第2次世界大戦中は，国土の大半がフィンランドに併合

されたが，1956年再び自治共和国として新たに発足した。民族叙事詩《カレワラ*》はこの地で生まれた。〔斎藤晨二〕

カレワラ [Kalevala] フィンランドの民族叙事詩。内容は一種の英雄物語であり，吟唱詩人によって7世紀から10世紀ごろにつくられ，カンテレと称する一種の琴を伴奏に，フィンランドの西南地方で歌い伝えられた。しかし，西欧文化の波にのまれてしだいに影が薄れ，わずかに外部僻地(へきち)のカレリア地方に忠実に伝承されていた。これを東北地方の地方医として赴任した文学者レンロットが，民俗文化独立の運動の一つとして1827年ごろから採録，内容的に一貫するものを編纂(へんさん)し，《カレワラ》(2巻32章)と題し1835年に出版した。これはさらに増補され，全50章となり1849年に刊行された。カレワラは，建国の英雄カレワの国の意で，老吟唱詩人ワイナモイネン・鍛冶屋(かじや)イルマリネンなど各種の民衆が主人公となって物語の筋書きを構成する。処女アイノの悲運をうたう叙情的なくだりは中でも広く愛唱されている。全編に一貫する浪漫的な素朴(そぼく)なヒロイズムは，国民文学の出発に大きな影響を及ぼした。〔鈴木徹郎〕

かれん 【花蓮】 ホワリエン 台湾の東岸中部の都市。人口10万(1960年推)。ドック式の港湾設備をもち，タッキリ渓(けい)の水力発電を利用して化学工業が行なわれている。東岸随一の港市で，北部へは蘇澳(そおう)まで自動車道路が太平洋を望む断崖(だんがい)上を走り，南部へは台東まで鉄道が通じている。

カレンぞく 【カレン族】 イラワジ川流域，ビルマ東部，タイ国西部に居住。チベット-ビルマ語族に属し，ビルマのカレンの人口は約137万(1931)。スゴー-カレン・プウォ-カレンに二大別され，ほかに赤カレン・黒カレン・縞(しま)カレンがある。焼き畑による稲作を行なう。氏族組織を欠く小家族型社会で若者宿組織をもち，年長者の権力が強い。宗教はアニミズムで，長い創世移動伝説を有し，鶏骨占を行なう。入れ墨・腕輪・首輪・足輪をもって身体を飾るので有名。〔竹村卓二〕

かろ 【賀露】 鳥取県鳥取市の北西地区。日本海へ注ぐ千代川の河口付近，湖山砂丘の裏側に位置し，北西季節風を避け，農業を主とする里賀露と漁業を主とする浜賀露に分かれる。遣唐使吉備真備*(きびのまきび)の漂着地として知られ，彼を祭る賀露明神がある。戦国時代には毛利氏の鳥取城への物資補給港として利用され，江戸時代には池田氏の城下町鳥取の外港，西回り海運*の寄港地として栄えた。明治末期，鳥取に山陰本線が通ずると，浜賀露は貿易港の機能を失い，機船底引き網漁業の根拠地となった。名産マツバガニやカレイの水揚げ，カニかんづめの生産が多い。港は鳥ケ島をつなぐ防波堤で激浪を防いでいる。〔浅井得一〕



ガロアムシ



カロッサ

カロ [Jacques Callot] (1592〜1635) フランスの版画家。1608年から1611年までローマで学び，フィレンツェで成功したのち，ロレーヌ侯のために《ブレダの攻囲》，パリでルイ13世のために《ラ-ロシェルの攻略》などを制作。機知に富んだ鋭い観察眼で，大衆の生活から深刻な社会風刺まで多くの作品を残した。中でも三十年戦争*を描いた版画集《戦争の惨禍》は名高い。

ガロア [Evariste Galois] (1811〜1832) フランスの数学者。パリ郊外のブール-ラ-レーヌの町長の子として生まれる。エコル-ノルマルに入学したが，政治活動がもとで放校・投獄され，のち仮出獄中に決闘し死亡した。決闘の原因はつまらない女性関係といわれている。決闘の前日に友人に送った手紙は，代数方程式が代数的に解けるための条件に関する〈ガロアの理論〉とよばれるもので，実に画期的な美しい仕事であった。〔下平和夫〕

ガロアむし 【ガロア虫】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・ガロアムシ科。体長20mm内外で，体形はコオロギ類に似る。翅(はね)は完全に退化しており無翅。触角は糸状で長く，多数の節からなり，複眼は小さく，口器はよく発達している。全体かっ色で灰黄色の微毛が全身に密生し，さらに剛毛が粗生している。腹部は10節からなり，末端に多数節からなる1対の尾毛がある。本州に分布し，山地の落葉や石の下など湿気の多いところに生活する。不完全変態を行ない，若虫は全体乳白色を呈する。和名は最初の発見者である元フランス横浜総領事ガロアの名にちなむ。ガロアムシ科はコオロギモドキ類ともよばれ，北アメリカ北西部と極東に分布する原始的なこん虫で，わが国には本種のほか九州からイシイコオロギモドキが知られ，そのほかにも種名がまだ確定していない数種が採集されている。〔鈴木邦雄〕

かろう 【家老】 武家の重臣の称。中世から用いられており，守護大名*の同族長老が任ぜられた。室町末期には大名・小名の家務を主宰する者をいい，江戸幕府においては有力な譜代大名*を家老，のち大老と称した。各藩では藩政に参与する上級家臣をいい，世襲した。なお，家老の称は中世・近世とも，各家に必ずしも共通のものでなく，ほかに年寄・宿老などというよび方もあった。

がろう 【画廊】 絵画などの美術品を陳列する場所をさし，英語のGallery，仏語のGalerieにあてた訳語。中世に，貴族・王侯らがその収集した美術品を邸宅の回廊に陳列したことに始まる。19世紀以後は，一般の鑑賞のために公開されている陳列場をギャラリーとよぶ。

かろうかい 【哥老会】 中国，清(しん)末，民国の秘密結社。哥弟会・弟兄会とも称す。農村を基盤にし，一部の読書人・地主・官僚らを指導者として反清復明を目標とした。太平天国が平定されてから大躍進をし，清末には興中会*とともに革命運動に活躍。最初，四川・湖北地方で結成されたが，民国のときには四川・華中・内モンゴルで隆盛となり，蒋介石(しょうかいせき)の国民政府に大いに反抗した。

かろくせいど 【家禄制度】 封建社会で武士が主家から支給された俸禄(ほうろく)制度*。平安末期にすでにみられるが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の検地*による石高制設定以後完成。一定の領地を与えられる知行取(→知行)，米穀で与えられる蔵米取(→蔵米)とがある。知行取は上級武士に限られ，普通の武士は蔵米取であった。俸禄は原則として世襲され，つまり個人でなく家*により定められ，その高低が家格を決定した。武士階級の間だけでなく，皇族・公家(くげ)・神官・僧侶(そうりょ)などにも与えられた。1876年(明治9)秩禄処分*により金禄公債*に代えられ，全廃した。〔千野境子〕

カロザース [Wallace Hume Carothers] (1896〜1937) アメリカの有機化学者。ナイロンの発明者。イリノイおよびハーバード大学講師。32歳でデュポン有機化学研究所長に迎えられ，系統的に高分子重合の研究を行なう。1931年合成ゴムであるクロロプレン重合体(ネオプレン)を合成，1937年天然絹のタンパク質に似たポリアミドの重合に関する研究からナイロンを発明し，生産に及ぶ。ほかに多数の特許がある。論文集(54編)は重合および環形成に関する研究(I部)と，アセチレン重合体およびその誘導体(II部)の2部からなる。〔山下愛子〕

カロシュティもじ 【カロシュティ文字】 紀元前5世紀にペルシア治下の北西インドで，アラム文字からつくられ，紀元前3世紀





カロリング-ルネサンス
(左)《聖ゴスランの福音書》の表紙　9世紀
(右)フランス中部，オーセールのサン-ジェルマン寺地下葬祭室に描かれているフレスコ《騎士の姿をした天使》 11世紀

半ばのアショカ王の碑文や紀元2～3世紀の東トルキスタンの仏典を中心に，ガンダーラ文明を代表する文字として4～5世紀まで用いられた。音節ごとに1字があるのは，アラム文字の特徴をとどめ，子音を根幹とする字形に母音を示す筆画を加える。つねに特定の母音表示がある点は，すでに字母文字といえる。ブラーフミ文字とともに現行のインド系文字の源流である。➔アラム語　〔日下部文夫〕

ガロぞく　【ガロ族】　西アッサムに分布。チベット-ビルマ語族のボド語群に属する。人口約22万(1941)。チベット・ブータンから移住したらしい。稲およびワタを焼き畑移動耕作する。川岸に村をつくり杭上(こうじょう)家屋に住む。母処婚で，母系外婚氏族をもち，交差いとこ婚が行なわれる。かつては首狩りの習俗もあった。宗教はアニミズムであり，創造者の観念や，木または石の男根的な祖先像をもち，霊魂が再び肉体に帰るという信仰をもっている。〔竹村卓二〕

カロチノイド　[carotenoid]　脂質の一種で，動植物界に広く分布している黄・橙(だいだい)・赤ないし紫色の一群の色素で，共軛(きょうやく)二重結合が重複した長鎖構造をもっている。大別してカロチンとキサントフィルに分けられるが，前者は炭素と水素からなる炭化水素で，トマトの赤色色素リコピンなどがこれに属する。後者は炭素・水素のほかに酸素を含み，トウモロコシの黄色色素ツェアキサンチン，卵黄色素のルテイン，褐藻素(かっそうそ)(フコキサンチン)などがこれに属する。カロチノイドは植物体内では葉緑体中に存在して光合成の際に補助色素として働いている。動物の視力と関係した光化学反応にもカロチノイドが重要な役割を果たしている。➔視紅〔吉田精一〕

カロチン　[carotene]　細胞内に広く分布する赤色の色素で，$C_{40}H_{56}$の分子式をもち，α,β,γの三つの異性体がある。α-カロチンはニンジンの根，クリなどに多い。β-カロチンは動植物界に最も広く分布し，量も多く，緑葉中にクロロフィルと共存している。γ-カロチンはアンズやマメダオシ属に含まれる。カロチンはいずれもプロビタミンAの活性をもち，β-カロチンは生体中でビタミンAに変化する。➔カロチノイド　〔吉田精一〕

カロッサ　[Hans Carossa]　(1878～1956)　ドイツの詩人・小説家。南ドイツの医者の家に生まれ，自身も各地で開業し，主として結核患者の診療にあたった。医者として良心的であったように，作家としても良心的であり寡作であった。西欧的古典的伝統を重んじ，きわめて洗練された高雅な文体で結晶度の高い作品を書いた。はじめデーメルの影響を受け，《詩集》を発表したが，1913年《ドクトル-ビュルガーの運命》によって小説家として高い評価を受けた。この作品は一種の自己告白の書であり，それからのちも自伝的散文を書いた。《幼年時代》は淡々とした滋味とほのかなユーモアによって愛すべき作品となっており，その続編《少年時代の変転》は高校時代を，《美しき惑いの年》は医学生時代を，《若い医者の日》は開業医初期を，それぞれ自伝的に描いている。これらの作品は彼自身の現実と夢想を描きながら，多くの人の運命に通う力をもっている。第1次世界大戦に軍医として従軍したときの体験をもとにした《ルーマニア日記》は，カロッサの思想を簡潔に表現している。ほかに，数回のイタリア旅行をもとにした《イタリア手記》，ナチス時代の悪夢の記録《ばらばらな世界》《先達と道連れ》などの自伝的作品，二つの本格小説《医師ギオン》《成年の秘密》がある。➔前ページ(写)

カロリー　⇨熱量

カロリン(諸島)　[Caroline]　西太平洋，ミクロネシアの大部分を占める群島。総面積1,234km²。人口164,000(1968)。936の島からなる。西カロリン諸島は，パラオ諸島・ヤップ島・アンガウル島を含み，環太平洋造山帯に属する火山島群であり，東カロリン諸島は，トラック諸島・ポナペ島・クサイエ島があり，安定した海底台地に乗るサンゴ礁である。原住民はミクロネシア人。熱帯気候で台風が多い。1526年マゼラン探検隊が発見してのち，宣教師・捕鯨船・商人などが来島し，1885年スペイン領となる。1898年アメリカ-スペイン戦争の結果アメリカ合衆国へ譲られたが，翌年ドイツに売却された。1922年日本の委任統治領となり，第2次世界大戦後1947年からアメリカの信託統治領となっている。➔アンガウル島 ➔パラオ諸島 ➔ヤップ島　〔大崎　晃〕

カロリングちょう　【カロリング朝】　フランク王国の前半を支配したメロビング朝に次いで，751年以後，その後半を支配した王朝。その祖先はピピン(大)およびメッツの司教アルヌルフにさかのぼるので，ピピン家あるいはアルヌルフィング家ともよばれる。ピピン家は元来ガリア東部の大土地所有者で，アウストラシア貴族の指導者としてメロビング朝の下で宮宰の職を占めて強大となった。大ピピン・カール-マルテルを経て小ピピンは751年クーデターを起こし，メロビング朝を倒して王位についた。これよりカロリング朝が始まった。そのあとを継いだカール1世(大帝)は当時のヨーロッパの大部分を支配下に収めた。しかしその社会は農業経済のみに基づく弱体なもので，大帝の死後王家内部の争いやノルマン人の侵入で王権が衰え，封建的勢力が強まった。フランク王国はベルダン条約(843)・メルセン条約(870)により東フランク・西フランク・イタリアに三分され，今日のドイツ・フランス・イタリアの三国の基礎ができた。カロリング朝はイタリアで875年，東フランクで911年，西フランクで987年に断絶した。〔兼岩正夫〕

カロリングちょうびじゅつ　【カロリング朝美術】　フランク王国のカール大帝時代を中心とした美術。いわゆるカロリング-ルネサンスといわれるところの，ゲルマン人の感覚への古代ローマ文化の復活という思潮の中に現われ，写本の装飾さし絵のミニアチュールに最もよく示されている。その方式からいえば，古代の自然主義的傾向を示す宮廷流派，東方的な特色をもつアダ流派に発し，ランス流派・トゥール流派・サン-ドニ流派などが栄え，《カール大帝の福音書》《アルクィンの聖書》《聖エンメラムの福音書》などを残した。また，建築では大規模な建設が行なわれ，アーヘン大聖堂・ジェルミニー礼拝堂などの遺構がある。〔末吉雄二〕

カロリング-ルネサンス　[Carolingian Renaissance]　フランク王国のカール1世(大帝)によって始められた学芸の興隆で，中世ヨーロッパで最初の文化発展をもたらした。大帝の本来の意図は聖職者の教養を高めるというキリスト教的なもので，そのため正しいラテン語の習得が必要とされた。この運動の中心人物はイギリス出身のアル

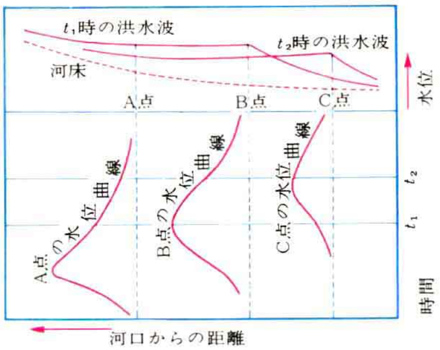
クィン*で，その他各国の文化人が大帝の宮廷に集まった。イタリアからは文法家アクィレイアのパウリヌス，歴史家パウルス-ディアコヌス，スペインからは詩人テオドルフ，ドイツからは大帝の伝記作家アインハルトなど。宮廷には学校ができて王家や貴族の男女子弟が学んだといわれる。その文化運動は大帝の死後も続き，質的には後期のほうがすぐれている。その作家としては神学者ゴッテスカルフ，人文学者セルバトゥス-ルプス，哲学者エリウゲナ*らがある。この文化は修道院を中心とするキリスト教文化ですべてラテン語で書かれ，一般民衆との結びつきはなかった。しかしそれが展開した地域に，中世盛期の文化が完成することになる。なお，このころ成立したカロリング小文字は，今日の西洋の活字体の基礎となっている。〔兼岩正夫〕

カロン ［Kharon］ ギリシア神話で冥界(めいかい)の川アケロンの渡し守(もり)。むさくるしいかっこうの老人と考えられた。彼は亡者から1オボロスの銭を取って冥府へ亡者を渡すと考えられ，それゆえギリシア人は彼に渡し賃を払うために死者の口の中に小銭を入れて埋葬した。

かろん【歌論】 狭義には，歌に関する評論のみをいい，歌合*(うたあわせ)や歌会*などの故実校勘などのような研究的なものは歌学というべきであろうが，両者を厳密に区別することが困難な場合が多いことから，歌に関する評論的・研究的業績全般をさす用語として用いられる。以前は主として〈歌学〉の語が用いられていたが，最近では評論面を重視して〈歌論〉の語を用いるのが普通である。

古く，〈記紀〉や《万葉集》の中にも歌論の萌芽(ほうが)が認められるが，中国詩学の影響を受けながら，撰集(せんじゅう)事業や歌合の盛行に刺激されて，徐々に意識的・体系的な論が形成されるようになる。《古今和歌集*》の序は歌論として最初に注目すべきもので，そこには歌の起源・効用・分類・六歌仙*(ろっかせん)評などの多方面にわたって，すぐれた評論が展開され，後世に多大の影響を与えた。その後には，藤原公任*(きんとう)の《新撰髄脳》や源俊頼*(としより)の《俊頼口伝》などが残されているが，内容的に最も充実した歌論は平安末期から鎌倉期にかけて集中的に現われた。すなわち，藤原俊成*の《古来風体抄》，藤原定家の《近代秀歌*》《詠歌大概*》《毎月抄*》，後鳥羽院*(ごとばいん)の《後鳥羽院口伝》，京極為兼(ためかね)の《為兼卿(きょう)和歌抄*》，そしてまた歌合における判詞の形で示される歌論などであり，中でも，俊成・定家親子が深く和歌の本質に迫り，幽玄・有心を追求したことは歌論史上特筆すべきものである。なお，この期の歌論はごく限定された読者を対象とするものが多く(書状など)，不特定多数の読者を意識して書かれた近世以後のものとは，その位相をはなはだしくことにしている。その後，正徹*や今川了俊*・頓阿*(とんあ)や二条良基*などを経て近世に至ると，古典研究を背景にして多くの論が現われる。契沖*(けいちゅう)・賀茂真淵*(かものまぶち)・本居宣長*(もとおりのりなが)・小沢蘆庵*(ろあん)・香川景樹*(かげき)らの歌論がそれであるが，この期の中心的論点は，《万葉集》《古今和歌集》《新古今和歌集》の三つの美的典型のいずれを第一義とするかということであった。明治になって，正岡子規*が伝統的な《古今和歌集》の尊重を排して，《万葉集》を第一義とする写生説を唱えたが，それを推し進める論とその反対論がその後の関心事になった。〔佐藤恒雄〕

各地点における水位曲線と，時間t_1．t_2時における洪水波の断面



川

ガロン ［gallon］ ヤード-ポンド法の体積または容量の単位。イギリスではある定められた状態における10ポンド(約4.54kg)の純粋の水の体積として規定し，約4.5460lに相当する。アメリカではこれと異なり3.78543 lを1ガロンとしており，日本でもアメリカのガロンを採用している。

カロンヌ ［Charles Alexandre de Calonne］(1734～1802) フランスの政治家。ルイ16世*に仕え，1785年財務長官となった。チュルゴー*・ネッケルが財政改革に失敗したあとを受けて，国債募集を企てたが，失敗した。彼はネッケルにならって特権身分への課税の承認を得るため，1787年2月名士会*を召集したが，全会一致の反対にあい辞任した。しかし，これが次の三部会*開催につながり，フランス革命の一つの契機となった。〔大野真一郎〕

ガロンヌ(川) ［Garonne］ フランス南西部にある川。スペイン国境のピレネー山脈に発し，北西に流れて，ビスケー湾に注ぐ。長さ約560kmで，フランス四大河の一。中下流域はブドウの栽培地域で，ブドウ酒の生産で名高いボルドーまで外洋船がさかのぼることができる。上流のツールーズは，南フランスの鉄道および交易の中心地で，ミジ運河によって地中海のリヨン湾と結んでいる。

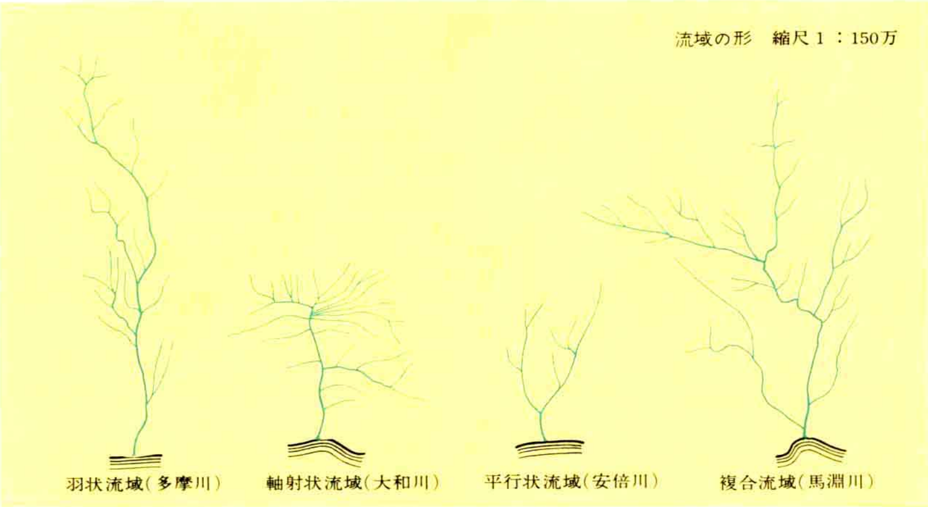
かわ【川】 地上に降った雨水が流れて湖海にはいるとき，水の流路を河道といい，河道の流水とこれに接する地面を河川という。河道は，一般に河口に達するまでにいくつかの河道と合わさったり，ときには湖海にはいる場合にいくつもの河道に分かれることがある。河道のうち水理的に，あるいは文化的・政治的に重要なものを本流または幹線，本流に合流するものを支流または支線，本流から分かれるものを分流という。河川の流水を涵養(かんよう)する降雨の範囲が流域で，二つの河川の流域の境界を分水界という。流水が湖海にまで達せず，乾燥地域の河川のように流水が地中にしみ込んで消えてしまうものを内陸河川とよび，平常は流水のない涸(か)れ川となっているが，降水時のみ流水のあるものを乾燥地域ではワジ*とよんでいる。

【流域】 流域の形は一般に四つに分けられている。①羽状流域：最も一般的な形で，本流を中軸として支流が両側から交互に流入する。②軸射状流域：円形に近い分水界をなし，各支流がほぼ一点で合流するもので，流水も一か所に集まる。そのために大降雨のときには，水位の上昇が著しく洪水(こうずい)になることが多い。③平行状流域：独立した細長い支流が互いに平行して流れ，河口付近で合流するもので，下流では洪水の被害を受けることが多い。④複合流域：①～③が複合したもの。

表-1　日本の主要河川

河川名	幹川流路延長	流域面積	河川名	幹川流路延長	流域面積	河川名	幹川流路延長	流域面積
信濃川	367km	11 900km²	大井川	160km	1 280km²	紀ノ川	136km	1 660km²
天塩川	261	5 590	十勝川	156	8 400	庄川	115	1 180
利根川	322	16 840	熊野川	183	2 360	雄物川	133	4 710
石狩川	268	14 330	那珂川	150	3 270	釧路川	154	2 510
天龍川	213	5 090	旭川	142	1 800	富士川	128	3 990
北上川	249	10 150	由良川	146	1 880	筑後川	143	2 860
最上川	229	7 040	荒川	169	2 940	神通川	120	2 720
阿武隈川	239	5 400	馬淵川	142	2 050	高梁川	111	2 670
阿賀野川	210	7 710	吉井川	133	2 060	九頭龍川	116	2 930
江ノ川	199	3 870	鵡川	135	1 270	揖斐川	107	3 880
吉野川	194	3 750	矢作川	117	1 830	岩木川	102	2 540
木曾川	227	9 100	川内川	137	1 600	大淀川	107	2 230
四万十川	196	2 270	米代川	136	4 100	淀川	75	8 240

《理科年表》(1977年版)



川　流域の形

【流水】降雨のうち，蒸発もせず，地下水にもならない水分は河流となる。また一度浸透して地下水となった水分の一部も，再び地表にわき出して河流となる。降水時の河流は表面流出の水分が主であり，長い間降雨のない時期の河流は，地下水から供給された水分が主になる。流量は，河川のある断面を通過する水量で，河川の断面積と平均流速との積によって求められる。流量は水位の昇降に伴って増減し，両者の関係をグラフで示したものを流量水位曲線とよぶ。各河川の流量水位曲線あるいはその関係式を求めておけば，単に水位観測のみから流量を推定することができる。このほか流量の観測には，河川にせきを設けて測定したり，河川に薬品を投入して薬品の濃度の変化から求めることもできる。水位と流量は日によって変動するが，その最大の原因は降雨である。河水の涵養がおもに降雨の表面流出による河川では変動が激しく，これに反し地下水や湖水によって涵養される河川では変動が小さい。また一般に同一の河川でも上流では変化が大きく，多数の支流と合わせる下流では小さい。水位と流量は，降雨のつど現われる不規則的な変化のほかに，日変化や年変化などによる規則的な変化がある。降雨があると水位と流量は刻々と増していき，降雨があがると減少する。時間ごとの水位と流量の関係をグラフ化したものを量水曲線というが，洪水のとき，上流から下流にわたって求めた各地点の水位曲線から出水の時刻と場所を読みとると，上流から下流に向かって波状に移行していることがわかる。これを洪水波という。洪水波は，一般に出水前の上昇は急で，出水後の下降はゆるやかである。また下流に移るにつれて波高を減じ，波長を増す。洪水波の伝播(でんぱ)速度は川の流れの速度より速いので，この実態を知っておくことは洪水予防上たいせつなことである。

河川の下流では河口はもちろん，河川によってはかなり上流まで，外海の潮汐(ちょうせき)が，河水の塩分や水位・流速に著しい変化を与えている。その部分を感潮河川*という。この影響の度合いは河道の勾配(こうばい)，流量，潮汐の大きさに関係する。揚子江では河口から800kmまで，テムズ川では50kmまで感潮する。塩分は密度が大きいので，河水の下にくさび状にもぐり込んで遡上(そじょう)し，これを知らずに揚水して灌漑(かんがい)すると，塩害を起こす。

【侵食・運搬・堆積(たいせき)】河川は単に水を流すだけでなく，侵食・運搬・堆積作用が働いて，さまざまな地形を形成している。侵食作用には，とけやすい物質を溶解する溶食と，流水が河岸や河床をすり減らしたり，破壊する河食あるいは洗掘がある。河食には，河床を侵食する下方侵食，河幅を広げる側方侵食，谷を延長するような方向に動く頭部侵食，地質の軟弱な所に特に侵食作用が強く働く選択侵食がある。しかし，河食はいかに進んでも海面より低い部分で働くことはないので，海面を侵食基準面という。河水が物質を上流から下流へ運ぶには三つの形式がある。岩石や土壌(どじょう)中の可溶物質を溶解して運搬するものを溶流といい，この量はミシシッピ川では1年間に112.8×10^4 tになる。比較的大きい砂礫(されき)・岩塊は河床をころがりながら流れる。これを掃流といい，大洪水の場合にはこれによって大きい被害を受けることがある。水より軽い木片や軽石はもちろん，水より重いものでも小さい砂やどろは，水中に浮いて流れる。これを浮流という。この量は，中国の黄河では1年間に6.72×10^8 tに達する。

河水の運搬しうる物質は，それぞれの粒子の大きさによるばかりでなく，その量にも限度がある。それで，流速が衰えたときとか，流量が減ったときには，いままで運んできた物質でも運びきれなくなり，そこに沈殿・堆積させる。一般に河川の下流で

表-2　世界の主要河川

河川名	長さ	流域面積
アジア	km	km²
オビ	3 680	2 947 900
エニセイ	4 130	2 591 500
揚子江	5 530	1 775 000
レナ	4 270	2 383 700
アムール(黒龍江)	4 350	2 051 500
メコン	4 020	800 000
黄河	4 670	980 000
ガンジス-ブラマプトラ	3 000	1 730 000
インダス	2 900	960 000
シルダリア	2 210	649 000
アムダリア	2 540	465 000
ウラル	2 530	220 000
ユーフラテス	2 800	765 000
イラワジ	2 090	430 000

河川名	長さ	流域面積
ヨーロッパ	km	km²
ボルガ	3 690	1 420 000
ドナウ	2 860	817 000
ドニエプル	2 290	510 500
ドン	1 970	430 000
北ドビナ	1 750	362 000
ペチョラ	1 810	320 000
ドニエストル	1 410	76 900
ライン	1 320	224 000
エルベ	1 170	147 744
ウイスラ	1 090	198 285
ロアール	1 020	121 000
タホ	1 010	82 600
オーデル	910	124 671
グアンアナ	830	72 100
ウェーザー	812	45 500
ネマン	788	100 900

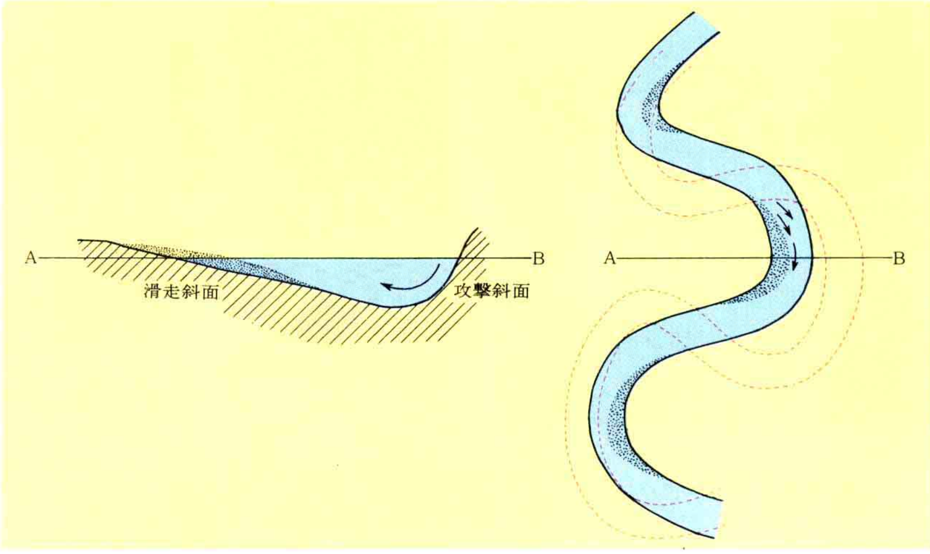
河川名	長さ	流域面積
ローヌ	810	98 900
セーヌ	780	77 800
ポー	680	69 400
北アメリカ	km	km²
ミシシッピ	6 210	3 248 000
セントローレンス	3 060	1 248 000
マッケンジー	4 240	1 668 000
ユーコン	3 700	900 000
リオグランデ	3 030	570 000
ウイニペグ	2 400	1 080 000
コロンビア	1 850	655 000
コロラド	2 320	590 000
南アメリカ	km	km²
アマゾン	6 300	7 050 000
ラプラタ	4 700	3 104 000
オリノコ	2 060	944 000

河川名	長さ	流域面積
アフリカ	km	km²
ナイル	6 690	3 007 000
コンゴ	4 370	3 690 000
ニジェール	4 180	2 092 000
ザンベジ	2 740	1 330 000
オレンジ	2 090	1 020 000
クバンゴ	1 800	785 000
リンポポ	1 770	440 000
ジュバ	1 660	196 000
セネガル	1 630	440 500
シャーリ	1 400	880 000
オゴエ	850	175 000
クネネ	830	137 000
オセアニア	km	km²
マーレー	2 590	1 080 600
ダーリング	2 740	

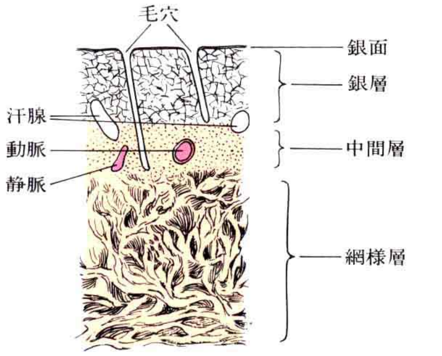
《理科年表》(1977年版)

は勾配がゆるくなり，流速が衰えるので，堆積作用が盛んである。河川が山地から平野に出る所では，出口を中心にして扇形に砂礫を堆積し，扇状地を形成する。扇状地では，河水が砂礫中に浸透して水無川になったり，河道が安定せずに網状河川ができたりする。河川が湖海にはいる所では，河川勾配がきわめてゆるやかになるので，細砂・粘土などが堆積して，低平な三角州を形成する。平野を流れる河川では，洪水時に流水が河道からあふれると急に水深が浅くなり，流速が衰え，河道の両側に土砂が堆積し，そこに堤防状に小高くなった自然堤防を形成する。また，河川の両側に堤防を築くと，洪水時にも水流が堤防外にあふれることがないので，上流から運搬された砂礫は河道内で堆積をくり返し，河床は両側の平地より高くなって，天井川となる。平野を流れる河川は蛇行(だこう)する傾向があるが，河道がわずかに湾曲すると，流水は遠心力によって凹岸(おうがん)に偏流するために，凹岸は侵食されて傾斜が急になり，凸岸(とつがん)部には土砂が堆積して傾斜がゆるくなる。この凹岸を攻撃斜面，凸岸を滑走斜面という。こうしてさらに河道の湾曲が進み，蛇行の頸状部(けいじょうぶ)がしだいに接近し，ついにつながって直行し，蛇行部の旧河道は河跡湖(三日月湖)として残る。一般に河川の上流では侵食力が優勢であり，下流では堆積力が優勢であるが，その中間では侵食も堆積も進まない状態になり，これを平衡状態という。侵食・運搬・堆積の三作用がつり合っている河川を平衡河川といい，上流から下流に至る河道の縦断面は上に凹状のなめらかな放物線を描く。

〔災害と利用〕川は人間生活に密接な関係をもつ。川による最大の災害は洪水で，昔から治水は為政者にとって，つねに大きな課題であった。一般にこの予防には河道に沿って堤防を築いたり，蛇行する所ではくびれている部分を切り開いて河水の流れをよくしたり，河水の一部を早く海に放流するために，分水路または放水路を設けたり，河道内に貯水池(山間部ではダムとよばれ，平地部では遊水池とよばれている)を設けて河水を一時貯え，河水の流れを調節したりする。河水の直接利用法には上水用・灌漑用・発電用のほかに，近年は化学工業の発達により工業用水としての利用もきわめて重要になった。化学肥料・写真フィルム工業・めっき工業など多量の工業用水を必要とする工業は，いずれも川に接近した所に工場がつくられている。しかしこれらの工場が利用後の廃水を直接川に流すために河水を著しく汚染させ，河川公害とよばれるようになった。また，河川の流動性の利用法として交通路の価値があり，中国の揚子江，アメリカ合衆国のミシシッピ川，ヨーロッパのライン・ドナウ・ボルガの諸河川，南アメリカのラプラタ川などはその価値が特に高い。　〔小栗宏・桑原正見〕



川　蛇行の発達と断面



皮　断面

かわ　**〔皮・革〕**　広義には，動植物のみならず物体一般の表面をおおうものを意味するが，狭義には獣類の皮をはぎとったものを意味する。後者の意味での皮を原料として，なめし*処理を施したものを革と称し，これを製品化するまでの全工程を皮革工業とよぶ。一般的には，動物体の生皮を加工した革類を総称して皮革といい，英語のレザーがこれに相当する。本項ではこれを中心に解説する。

〔歴史〕皮革は人類にとってきわめて初期から利用されており，したがって皮革工業の歴史はあらゆる化学工業の中で最も古いものである。なめしの技術は太古から考案されていて，被服・武具・防具・楽器になめし皮が使われていた。なめし法については，長い間進歩はみられなかったが，19世紀末にそれまでの〈タンニンなめし法〉に加えて，〈クロムなめし法〉が出現し，以後，なめし剤の改良・進歩が続けられながら今日に至っている。これら天然皮革に対して，外観を模した，ビニルポリマー系の擬革*(わが国ではこれをレザーとよんでいる)が，さらに1960年ごろに，ナイロン系・ウレタン系の，外見のみならず性質まで天然のものに酷似させた合成皮革*が出現するに及んで，従来の皮革工業は一段と近代化の必要に迫られている。

〔製法〕原料皮としてはウシ皮・ウマ皮・ブタ皮・ヤギ皮・海獣皮，ワニ・トカゲ・ヘビなどの爬虫(はちゅう)類・両棲(りょうせい)類の皮のほか，ヒツジ・シカ・イヌ・ウサギや魚類などの皮も用途に応じて用いられる。皮革工業は，洗浄を中心にした準備工程，次にコラーゲン*タンパクの変性反応を行なうなめし工程，最後に加脂・染色・銀面処理などの仕上げ工程の3段階からなる。中心はなめし工程で，最も古くから行なわれていた，天然の植物性タンニンをなめし剤に用いるタンニンなめし，塩基性クロム塩を用いるクロムなめしが主力で，近年，合成なめし剤の利用も目だってきている。なめし工程によって腐敗・乾燥による硬化などの皮の欠点が除かれる。なめし処理における副産物にゼラチン・ニカワ・毛・油脂などがあり，それぞれ利用される。

〔性質〕動物の皮のうちで，皮革工業の原料となりうるのは，繊維性結合組織からなる真皮層で，その構造タンパク質は，主としてコラーゲンである。繊維がきわめて複雑にからみあっているために，特有な柔軟性，適度な弾性，曲げ性，強靱(きょうじん)性，通気性などが生ずる。合成皮革の性質が年年向上して天然皮革に近づきつつあるとはいっても，これらの性質は容易には達成することのできない天然皮革の特性といえる。そのほかに，耐熱性・耐久性，微生物による分解作用に対する安定性なども，なめし処理によってすぐれたものになっている。天然皮革の欠点は原料の供給の問題で，動物の皮にたよっているために，材料の均一性，あるいは均一な材質のものを大きい面積でとることが困難な点にある。この点だけについては明らかに合成皮革が天然皮革より



河井寛次郎《白地草絵扁壺》1939　京都国立近代美術館蔵

すぐれている。

【用途】原料皮，なめし方法，仕上げ工程によって革の性質・外見もきわめて多彩である。したがって，用途も広範囲に広がっていて，中には，ほかの材料に置き換えることができないものもある。用途別の革の種類には，くつの底革・甲革，馬具革・かばん用革・いす張り革・被服用革・袋物用革・工業用革などがある。くつの甲革はほとんど牛皮が用いられるが，キッドといわれる小ヤギの皮もある。工業用革はベルト・パッキン・ローラーなどとして用いられる。なお，毛をつけたまま製品とされるのが毛皮で，これも皮革工業の中に含まれる。〔伊藤　卓〕

かわ【鈹】乾式冶金(やきん)法の中間生成物の一種。いわゆるマットに対する日本古来の術語である。種々の金属硫化物が溶融状態で互いにとけ合い，金属やスラグ*と別の一相をつくって集まったもの。

かわあいさ【河秋沙】⇨アイサ

かわいえいじろう【河合栄治郎】(1891～1944) 経済学者。東京大学法学部卒業後，農商務省にはいり工場監督官となり，1918年(大正7)東大助教授，次いで教授となる。イギリスのT.H.グリーン*の理想主義哲学の影響を受け，マルクス主義経済学を批判。また自由主義者として右翼*の圧力に抗し，ファシズム*・軍国主義*を強く批判した。1938年《ファシズム批判》《社会政策原理》など4著書が発禁となり，翌年平賀東大総長により，休職の行政処分を受けた。出版元とともに起訴され，法廷論争で奮闘したが1943年有罪が確定，そのため健康を害し，死に至った。〔安達淑子〕

かわいかんじろう【河井寛次郎】(1890～1966) 陶芸作家。島根県安来市の生まれ。1914年(大正3)東京高等工業学校窯芸科を卒業後，京都の国立陶磁器試験所に勤務，釉薬(うわぐすり)の調製に新しい技術を開発した。そののち，柳宗悦*・浜田庄司*(しょうじ)らとともに民芸運動を興して，陶芸界に



川合玉堂《焚火》1903



河合武雄

新思潮をもたらすに至った。初期には，古典を典拠に三島・三彩・青磁などにわたって作陶したが，のちには民芸を基調にした独特の感覚の作風に立った。〔矢部良明〕

かわいぎょくどう【川合玉堂】(1873～1957) 日本画家。愛知県の生まれ。本名芳三郎(よしさぶろう)。はじめ望月(もちづき)玉泉・幸野楳嶺(ばいれい)に四条派*を学び，のち橋本雅邦*に狩野(かのう)派を学んで，両派を融合した穏やかな風景画に多くの秀作を残した。1907年(明治40)文展審査員，1915年(大正4)東京美術学校教授を経て，1917年帝室技芸員，1937年(昭和12)日本芸術院会員となる。1940年文化勲章受章，1956年文化功労者に列せられた。現在，東京都青梅(おうめ)市御岳の旧邸は玉堂美術館としてその作品を展示している。〔匠　秀夫〕

かわいきよまる【川合清丸】(1848～1917) 明治の国家主義思想家。鳥取県の神官の家に生まれ，父の没後太一垣(たいちがき)神社社掌の職を継ぐ。1888年(明治21)東京に大道社を創立。機関誌《大道叢誌(そうし)》の主筆として日本国教の宣布に努めた。その説くところは，神儒仏の3道を合わせて大道とよび，これをわが国の精神，国教であるとするにある。《川合清丸全集》10巻がある。

かわいすいめい【河井酔茗】(1874～1965) 詩人。大阪市の生まれ。本名又平。1895年(明治28)《文庫*》の記者となり，約13年間詩の選評を担当した。1901年処女詩集《無弦弓》，1905年には代表詩集《塔影》を刊行。のち独力で雑誌《詩人*》を創刊し，川路柳虹*の《塵塚(はきだめ)》を掲載して口語自由詩運動の口火を切った。1910年，口語自由詩集《霧》，1922年(大正11)に《酔茗詩集》を刊行。平明温雅な詩風で，生涯(しょうがい)を詩の革新と後進の指導のためにささげた。なお，長編小説《長流》の作者島本久恵(ひさえ)は彼の夫人であり，彼の前半生が描かれている。

かわいそら【河合曾良】⇨曾良

かわいたけお【河合武雄】(1877～1942) 新派俳優。本名内山武次郎。東京生まれ。はじめ新派の山口定雄一座に参加。その後，松居松葉と公衆劇団を起こし，翻訳劇を手がけるなどつねに野心的な俳優であった。大正から昭和にかけては新派の女方*として，美貌(びぼう)と華麗な芸風で全盛時代を築き，伊井蓉峰*(いいようほう)・喜多村緑郎*とともに〈新派三頭目〉のひとりと称された。当たり役は《無花果(いちじく)》のエミヤ，《二筋道*》のおすがなど。〔西尾邦夫〕

かわいつぐのすけ【河合継之助】(1827～1868) 江戸末期の越後(えちご)(新潟県)長岡藩士。名は秋義(あきよし)，蒼龍窟(そうりゅうくつ)と号す。佐久間象山・斎藤拙堂(せつどう)に経学・兵学・砲術を学ぶ。1867年(慶応3)長岡藩の執政となり，政治改革に努めた。戊辰(ぼしん)戦争には藩の局外中立を図ったが，官軍に拒否されて奥州列藩同盟*に加わり，戦端を開いた。長岡城奪還戦で戦傷死。

かわいり【皮煎り】魚鳥獣類の皮をいって調味した食品。古くは，鳥獣類の皮とキノコをいりつけ調味したものであったが，のちには肉や，魚の皮も用いられた。《四条流庖丁書》によれば，室町時代にはすでに行なわれていた古い料理であるが，現在ではこの名の料理は見当たらず，〈いりとり〉(とり肉と野菜をいったん油でいためてから煮じるにいれ，しるがなくなるまで煮込む)が，それに相当するものと思われる。

かわいるか【河海豚】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・カワイルカ科の総称。淡水にだけすむ原始的なイルカで，胸びれは幅広く，吻(ふん)は細長い。底生の魚類やエビ類などを食う。ガンジス川やインダス川などのガンジスカワイルカ(全長2.5mほど)，アマゾン川上流のアマゾンカワイルカ(2.2m)，ラプラタ川のラプラタカワイルカ(1.5m)，中国の洞庭湖(どうていこ)のヨウスコウカワイルカの4種が知られている。

かわうそ【川獺・獺】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。体長78cm，尾長43cmほど。頭と尾は扁平(へんぺい)で，足の指の間には水かきがある。体は光沢のある暗かっ色。

ヨーロッパ・北アフリカ・アジアに広く分布し，日本では四国にすむ。毛皮が優良なため乱獲され減少し，特別天然記念物とされている。水べの穴にすみ，泳ぎは非常に巧みで，夜行性。おもに魚を食い，ザリガニ・カエル・ネズミ・鳥などをも捕える。



カワウソ

かわかみ 【川上〔村〕】 長野県南佐久郡の村。群馬・山梨両県に接する。人口4,600。千曲(ちくま)川最上流部に位置し，関東山地のふもとに展開する。第2次世界大戦後，広大な原野を高冷地野菜の好適地に変え，カラマツ苗木の搬出も行なっている。八つの部落があり，江戸時代以降ほとんど火災にあっていないので，人別帳などの古文書が豊富にそろっている。〔浅井得一〕

かわかみおとじろう 【川上音二郎】（1864〜1911） 新派俳優・興行師。九州の博多(はかた)生まれ。14歳で上京，転々の生活ののち，新聞記者となり自由童子と名のって政府攻撃の激しい演説をするなどして入獄数十回。その後桂(かつら)文之助門下となり，大阪の寄席(よせ)で《オッペケペ節*》をやって人気を博した。それをきっかけに，壮士芝居*に刺激され川上書生芝居を組織し《経国美談》などを上演。失敗も重ねたが，日清(にっしん)戦争に乗じて戦争実況劇など企画の妙と政治的手腕によって大当たりをとり新派*の生みの親として，基礎づくりに貢献した。妻の貞奴*(さだやっこ)とともに海外巡業も行ない，帰国後翻案劇《オセロー》などを紹介，また貞奴と帝国女優養成所を開き，大阪に帝国座を創設するなど，演劇史上に残した功績は大きい。〔西尾邦夫〕



川上音二郎

かわかみさだやっこ 【川上貞奴】（1872〜1946） 新派女優。本名貞。東京生まれ。もと奴と名のる葭(よし)町の芸者であったが，川上音二郎*と結婚。海外巡業から帰朝して《オセロー》の鞆音(ともね)（デズデモーナ）を演じて以後1917年（大正6）まで舞台に立った。日本で〈女優〉とよばれた最初の人。



川上冬崖《風景》 東京国立博物館蔵

かわかみじょうたろう 【河上丈太郎】（1889〜1965） 政治家。東京に生まれる。東京大学卒業。1919年（大正8）関西学院教授。関西では労働運動に参加し，日本労農党から1928年（昭和3）第1回普通選挙で衆議院議員に当選。1940年大政翼賛会総務。第2次世界大戦後は日本社会党結成に参加したが，1946年追放。1952年右派社会党の中央委員長に推された。1961年浅沼稲次郎委員長暗殺のあとを受けて委員長となったが，1965年急死。〔溝口　潔〕

かわかみすずこ 【河上鈴子】（1907〜　） 舞踊家。東京生まれ。上海(シャンハイ)でスペイン舞踊を学び，1924年（大正13）帝国ホテルで第1回公演を行なった。のち欧米に外遊，1931年（昭和6）の帰国後，わが国スペイン舞踊の草分けとして活躍した。弟子(でし)に河上五郎・小松原庸子などがいる。



河上肇

かわかみそうろく 【川上操六】（1848〜1899） 陸軍軍人。薩摩(さつま)藩出身。戊辰(ぼしん)戦争に参加，1871年（明治4）上京して陸軍中尉に任官。1884年大山巌(いわお)に従ってヨーロッパの兵制を視察，1886年再び留学し，ドイツで軍事を研究して帰国。1889年参謀本部次長となり，日清(にっしん)戦争に備えて陸軍の整備と近代化を推進した。1898年陸軍大将，参謀総長となった。子爵。

かわかみてつたろう 【河上徹太郎】（1902〜1980） 評論家。長崎市の生まれ。東京大学経済学部を卒業。1930年（昭和5）《自然人と純粋人》などで，芸術派の批評家として出発，1934年シェストフ*《悲劇の哲学》の翻訳（阿部六郎と共訳）で論議をよび，批評家としての地位を確立した。また一方では，《文学界*》の編集責任者などもつとめ，小林秀雄*(ひでお)と並び近代批評創始の一翼をになう。《私の詩と真実》《日本のアウトサイダー》などの評論集ほか，多くの翻訳がある。

かわかみとうがい 【川上冬崖】（1827〜1881） 幕末明治初期の画家。長野県の生まれ。旧姓山岸，本名万之丞(まんのじょう)，のち寛。江戸に出て四条派*の大西椿年(ちんねん)に学び，1856年（安政3）ごろ幕府の蕃書調所(ばんしょしらべどころ)に出仕したが，1861年（文久1）同所に画学局設置の際に出役となり洋風画法を研究した。明治維新後には，私塾(しじゅく)聴香読画館を設け後進を指導している。この間1872年（明治5）陸軍省兵学寮出仕，次いで陸軍士官学校図画教授掛，1878年陸軍省参謀本部地図課勤務となり，地図製作を担当した。また，1877年第1回内国勧業博覧会美術部の審査主任をつとめた。文人画もよくし，これに比べると洋風画の作品は少ない。門下に高橋由一・小山正太郎・松岡寿らがいる。〔陰里鉄郎〕

かわかみはじめ 【河上肇】（1879〜1946） 経済学者。わが国経済学の開拓者であるとともにマルクス理論研究の先駆者。山口県出身。東京大学法科卒業後各大学の講師となり次々と経済学の著作を発表，《読売新聞》に〈社会主義評論〉を連載して多大の反響を起こした。1907年（明治40）《日本経済雑誌》を発刊，ドイツ派の保護主義に立ち新鋭の論陣を張った。1909年京都大学教授，1913年（大正2）欧州に留学，1915年帰朝後《大阪朝日新聞》に連載した《貧乏物語》は，貧富の現象を資本主義社会展望の立場から達意の名文で明らかにし，多数の読者を啓蒙(けいもう)した。1919年個人雑誌《社会問題研究》を発刊，1925年櫛田(くしだ)民蔵*の批判を受けてから弁証法的唯物論*の研究にはいり，そのころから無産運動に参加。1928年（昭和3）三・一五事件*の余波を受けて京大を追われた。1929年大山郁夫*(いくお)らと新労農党を結成したが，翌年容共の立場から戦闘的解体論を主張して党から除名された。その後地下運動にはいり，1932年日本共産党*のため《32年テーゼ》を訳出し入党したが，翌年検挙され懲役5年の判決を受けて入獄。1937年出獄後は〈閉戸閑人〉と号し漢詩・和歌・書蹟(しょせき)に親しみつつ《自叙伝》を執筆した。主著に《経済学大綱》《資本論入門》などがある。1936年《河上肇全集》が刊行された。〔高崎徳次〕

かわかみびざん 【川上眉山】（1869〜1908） 小説家。大阪の生まれ。本名亮(あきら)。幼時に上京，東京大学予備門で尾崎紅葉*・



川口市
市の南部，荒川に近い飯塚地区。鋳物町として発展しただけに，現在も一帯は鋳物工業の中小工場が密集している



河口湖
西方上空から見た河口湖。左側が御坂山地，右側の奥が河口湖町で，手前は勝山。湖中に鵜ノ島が浮かんでいる



川口軌外《群鳥》1938　東京国立近代美術館蔵

山田美妙*らを知る。1886年(明治19)《硯友社*(けんゆうしゃ)》に参加，1890年の《墨染桜》が出世作となる。その後しだいに厭世(えんせい)的傾向を強め，しだいに硯友社を離れ《文学界*》同人に接近した。やがて社会批判を伴った《大盃(おおさかずき)》《書記官》《うらおもて》(いずれも1895)などを発表したが，これらの作品は，泉鏡花*の諸作とともに〈観念小説〉とも称されている。1908年6月自殺。　〔金子　博〕

かわかみふはく　【川上不白】(1716～1807)　江戸後期の茶人。表千家不白流，および江戸千家茶道の開祖。紀伊(きい)(和歌山県)新宮藩水野家臣川上五郎作の次男。表千家7世如心斎宗左の門にはいり，宗雪の称を授かる。1741年(寛保1)如心斎が七事式を制定した際に，25歳の弱冠でこれに参与した。師命を受けて江戸に下り，表千家流を江戸の町に広めた。世に江戸千家という。孤峰不白と号した。俳諧(はいかい)をよくし，手づくりの茶器も多い。〔桑田忠親〕

かわがらす　【河烏】　鳥類・カワガラス科の総称。4～5種が南北アメリカ西部・ヨーロッパ・アジアに分布。全長14～22cmで，尾が短く，茶かっ色(白色部を有するものもある)のじみな鳥。渓流(けいりゅう)にすみ，泳いだりもぐったり水底を歩いたりして水中の小動物，特に水生こん虫を食べる。小鳥類中唯一の潜水鳥として有名。このうちの1種にカワガラスという和名でよばれるものがあり，これは全長約22cmほど，全身暗かっ色で東アジアに分布する。

かわぐち　【川口(市)】　埼玉県南東部の市。江戸時代には日光御成(おなり)街道の宿場町兼市場町で，また早くから鋳物工業が興り，天保(てんぽう)年間(1830～1843)には高島秋帆*が大砲や弾丸を製作させている。人口37万4,000。荒川左岸の沖積(ちゅうせき)低地を占め，北東部の大宮台地の支脈をなす関東ローム層台地を含む。産業三大別人口比は2：47：51。鋳物工業を中心とする金属工業が発達し，キュポラの町として知られるが，中小工場が多い。北部の青木地区から鳩ケ谷(はとがや)市にかけての一帯では日本のつりざおの90％を産し，そのうち60％を輸出している。北東部の安行地区は江戸初期からの植木や盆栽・果樹の産地で，東京をはじめ全国に出荷する。京浜東北線が通じ，国道122号線(日光御成街道)や大宮までの産業道路などが集まる。荒川には新荒川大橋が完成した。

かわぐちえかい　【河口慧海】(1866～1945)　日本におけるチベット仏教研究の開拓者。和泉(いずみ)(大阪府)堺(さかい)市の生まれ。幼名は定治郎。私塾(しじゅく)に通い，漢学・仏教学・外国語などを修め，上京して25歳のとき出家し，仏僧となる。漢訳《大蔵経》による仏教研究の過程で，サンスクリット仏典とその逐語訳であるチベット訳《大蔵経》研究の重要不可欠性を認識し，チベット仏教研究と仏典資料収集のためチベット入国を志した。1892年(明治25)神戸(こうべ)を出発し，インド・ネパールを経て1901年にチベットの首都ラサに至り，セラ大寺学堂に学ぶ。一度帰国し，1914年(大正3)再度ラサに渡る。その間ネパールで多数のサンスクリット仏典写本，チベットで《大蔵経》および蔵外文献・植物標本・美術品・民族資料を収集して帰国した。請来したサンスクリット文献は東京大学，チベット文献は東洋文庫など，植物標本は東京科学博物館，美術品・民族資料は東北大学に収められている。その著《西蔵旅行記》は克明な記録で高く評価されている。　〔金子良太〕

かわぐちきがい　【川口軌外】(1892～1966)　洋画家。和歌山県の生まれ。中村不折・小杉放庵(ほうあん)に学ぶ。安井曾太郎の滞欧作に感銘し，1919年(大正8)～1922年滞欧，のち，再度の滞欧の際にはロート・レジエ*に師事した。1930年独立美術協会創立に参加，1943年退会，国画会に属した。特異な幻想的・構成的画風で知られる。

かわぐちこ　【河口湖】　山梨県富士山麓(さんろく)にある富士五湖の一。面積6.1km²，水面高度822m，最大水深15.4m。御坂(みさか)山地と富士山麓との間にできた溶岩流によるせき止め湖で，自然の排水路がなかったが，水位の昇降が激しく水害もあるので，人工の排水路がつくられている。湖岸線は複雑で，溶岩が露出している所もあり，湖

中の鵜(う)ノ島は風趣を添える。以前は夏以外は静かな行楽地であったが，いまは中央本線大月駅から分岐する富士急行の軌道に東京の新宿駅から直通急行列車が乗り入れており，中央高速道路も開通して，にぎわっている。富士箱根伊豆(いず)国立公園に所属する。〔長津一郎〕

かわぐちこ【河口湖(町)】山梨県南都留(みなみつる)郡の町。県南東部の河口湖畔にある。人口約15,000。1956年(昭和31)船津を中心に4村が合併して発足。かつて，富士山北麓(ほくろく)の僻村(へきそん)であったが，富士急行電鉄で東京と直結されてから急速に観光地化し，富士登山・湖上遊覧・富士五湖巡りの中心として発展した。

かわぐちまつたろう【川口松太郎】(1899～　) 小説家・劇作家。本名松田松一。東京浅草の生まれ。16歳で久保田万太郎*に師事し，1935年(昭和10)《鶴八(つるはち)鶴次郎*》などで第1回直木賞を受けた。《愛染かつら》《明治一代女》《新吾十番勝負》など，人情をきめ細かに描く作品で広く一般に親しまれ，多くの作品が映画・演劇化されている。夫人は映画女優の三益(みます)愛子。

かわげら【積翅】こん虫類・カワゲラ目・カワゲラ科。体長20～30mm。頭・胸部は黒かっ色，翅(はね)は淡かっ色で黄色の翅脈(しみゃく)が多数ある。晩春から初夏にかけて羽化し，渓流(けいりゅう)のほとりに多い。幼虫は渓流の石の間に生活する。

カワゲラ目は有翅こん虫のうち原始的な群れの一つで，成虫の体はいくぶん扁平(へんぺい)で柔らかく，長いむち状の触角をもち，腹部の末端にはふつう2本の尾がある。翅は2対で多数の翅脈があり，前翅に比べて後翅が大きく，静止時には体の背面にたたむ。しかし，トワダカワゲラやセッケイカワゲラのように無翅の種類も知られる。成虫は陸生であるが幼虫はすべて水生で，ふつう気管鰓(きかんえら)で呼吸する。幼虫は藻類(そうるい)などの植物を食べるものや，カゲロウ・ユスリカの幼虫などの小動物を食べるものがある。また，カワゲラ類の幼虫は逆に魚類の食物源としても重要であり，川づりのえさとして知られる。不完全変態をして，ふつう初夏から盛夏にかけて水辺で羽化する。温帯から極地にかけて多く分布し，世界に1,500種ほど，日本には百数十種が知られる。〔鈴木邦雄〕

かわごえ【川越(市)】埼玉県中南部の市。古くは河肥，鎌倉時代には河越と書き，1457年(長禄1)太田(おおた)道真(道灌(どうかん)の父)の城下町となった。江戸時代には徳川譜代の重臣が次々に統治し，川越街道や新河岸(しんがし)川の水運によって江戸と密接に結ばれて〈小江戸〉といわれるほど繁栄した。現在でも市街地に蔵造りの商家が目だつ。1922年(大正11)県下最初の市制を施行。人口25万2,000。市域は武蔵野(むさしの)台地北端の入間台地東部と入間川および荒川の沿岸低地を含む。産業三大別人口比は8:39:53。米・麦・サツマイモ(川越イモ)などを集散し，川越・狭山(さやま)大工業団地が完成して日清(にっしん)製粉・日清紡績・東洋インキ製造などの大工場がある。川越線・東武鉄道東上線・西武鉄道新宿線が集まり，東京と結ぶ国道254号線(川越街道)，東京外回り幹線の国道16号線など，道路も四通八達する。本丸の玄関が残る川越城(初雁(はつかり)城)跡を中心として初雁公園があり，天台宗喜多院は江戸幕府の強力な庇護(ひご)のもとに栄えた寺で，所蔵の狩野吉信(かのうよしのぶ)筆《職人尽絵屏風(しょくにんづくしえびょうぶ)》は重要文化財に指定され，また，東照宮には岩佐又兵衛(またべえ)筆《三十六歌仙(かせん)絵》(重要文化財)を所蔵している。〔浅井得一〕

かわごえかいどう【川越街道】江戸と川越(埼玉県)とを通ずる近世の街道。川越は中世以来の要地であったが，近世にも繁栄し，松平信綱*(のぶつな)ら幕府の要職にあずかる譜代大名の城下町となった。その参府と商人の交通路として街道が発達し，板橋から練馬・志木などを経由して川越にはいり，中山道*(なかせんどう)の裏街道となった。街道に沿う新河岸(しんがし)川は江戸向け物資の輸送で舟運が盛んであった。現在の川越街道は1級国道254号線。〔高崎徳次〕

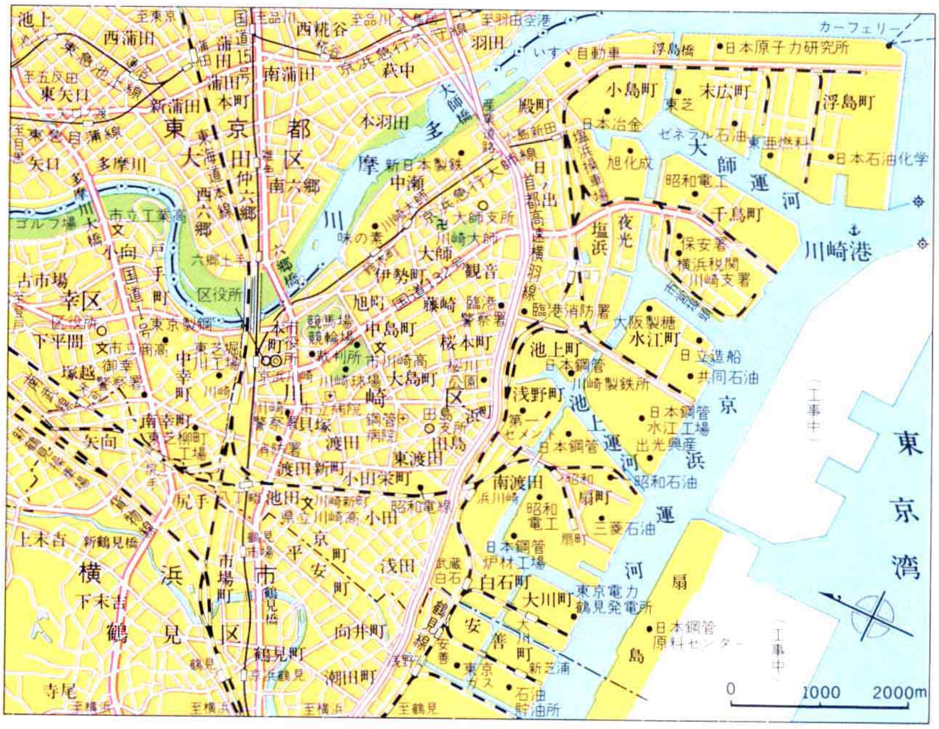


カワゲラ　オオヤマカワゲラの幼虫

かわごけそう【川苔草】双子葉植物・カワゴケソウ科の多年草。鹿児島県の山の急流中の岩の上にはえる珍しい植物で，水流に適応して根は平たく岩上をおおい，一見コケのようである。葉は線形で長さ7～8mm，秋に3mmぐらいの茎の上に小さな花を一つつける。

かわごし【川越】江戸時代，大きい川を渡るのに，川越人足を雇って輦台*(れんだい)や肩車などで渡らせた制度。たとえば大井川では，幕府は架橋や渡船を禁じて徒歩越(かちこし)をさせた。これらの大河は，急流のため架橋が困難であるとも，また要衝の地で軍事上のためともいわれるが明らかでない。いずれも自分勝手に渡ることは許されず川越銭を払って渡った。増水のときは川支(かわづかえ)と称して通行禁止の川止めとなった。その解除は川明けとか留め明けとかいった。明治維新後廃止された。

かわさき【川崎(市)】神奈川県北東端の市。六郷川(多摩川下流部)の渡渉集落として発生した。江戸時代は品川に次ぐ東海道第2の宿場町で，河口の低地は大師河原(だいしがわら)とよばれ，弘法(こうぼう)大師を祭る川崎大師(平間寺)の門前町として栄えた。明治後期以後，工業都市として飛躍的に発展し，京浜工業地帯の中核的位置を占めている。1924年(大正13)市制施行。人口101万6,000で，人口ではわが国で9番目の都市である。川崎・幸(さいわい)・中原・高津(たかつ)・多摩の5区に分かれる。



川崎市



川崎市 京浜運河に臨む川崎市の重工業地区の中心部。金属・機械・石油・化学などの大企業が並び，臨海地域一帯は川崎港域となっている

東京湾に面し，六郷川右岸に沿って南東の三角州地帯から北西の多摩丘陵にかけて広い地域を占め，1913年以降の埋め立て工事によって東京湾岸にも拡張された。産業三大別人口比は1：45：54。埋め立て地には製鉄・セメント・肥料・製油・電気・火力発電・製粉などの大工場が多く，石油化学コンビナートが形成されており，臨港鉄道・船つき場の完備した典型的な工業港の川崎港がある。最近は工業地帯が内陸部の多摩川中流域へも延び，都市別工業生産高は東京・大阪に次ぐ全国第3位であるが，亜硫酸ガスの発生などによる公害も，〈川崎ゼンソク〉などと呼ばれて社会問題化している。東海道本線・京浜東北線に沿い，南武線・鶴見(つるみ)線・臨港鉄道が分かれ，京浜急行電鉄・東京急行電鉄東横線・小田急電鉄などの私鉄や第3京浜道路・国道1号線・国道246号線が市域内を縦横に走り，南部に東名高速道路のインターチェンジがある。平間寺は高尾山・成田山とともに真言宗の関東三山といわれ，参拝客でにぎわう。北西部の丘陵地にはナシ・イチジクなどの果樹園が多く，最近では住宅地の開発が進んでいる。川崎球場・競馬場・競輪場・ゴルフ場などのスポーツやレジャー施設が整い，向ケ丘遊園のバラ，稲田堤のサクラも行楽客を集める。〔浅井得一〕

かわさき【川崎(町)】 福岡県田川郡の町。人口24,000。田川市の南に接する。筑豊(ちくほう)炭田の炭鉱町として発展し，三井などの大企業もあったが，1971年(昭和46)限りですべての炭鉱が閉山してしまった。一時は人口も4万を越えたこともあったが，現在では半減している。

かわさきじゅうこうぎょう【川崎重工業(株)】 陸・海・空にわたる総合機械メーカー。1878年(明治11)東京築地(つきじ)に造船所をつくったのがはじまり。1896年株式会社組織となり，その後川崎汽船(1918)・川崎車輛(しゃりょう)(1928)・川崎航空機(1937)・川崎製鉄(1950)に分離したが，1969年(昭和44)4月に川崎航空機・川崎車輛を合併し，従来の造船中心から総合重機械メーカーへと転換，新発足した。合併を契機に，海洋開発・宇宙開発・各種自動制御・原子力の4分野を重点に，今後の発展を期している。資本金652億300万円，年間売上高5,015億600万円，従業員数25,906(1980年9月)。



川崎大師 参道からみた本殿

かわさきしょうぞう【川崎正蔵】(1837～1912) 川崎造船所の創立者。薩摩(さつま)藩出身。早くから長崎・大阪・琉球(りゅうきゅう)に出て，語学・西洋事情を学び，海運と洋式船建造に強い関心をもち，やがて琉球～本土間の郵便航路，大阪～鹿児島間の航路を開設した。39歳のとき駅逓頭(えきていがしら)(郵政相)前島密(ひそか)に請われて郵便蒸気船会社の幹部になった。1878年(明治11)東京築地(つきじ)に川崎築地造船所を設立して，念願の造船業に着手した。1887年には官営兵庫造船所の払い下げを受け，既存造船所を合併し，川崎神戸(こうべ)造船所として発足し，第2次世界大戦までには，三菱(みつびし)長崎造船所と並び称せられる大企業に成長した。これが現在の川崎重工業の前身である。〔片岡一郎〕

かわさきせいてつ【川崎製鉄(株)】 わが国の代表的な製鉄会社。鋼板部門が強いのが特色。1950年(昭和25)に川崎重工業より鉄鋼専業として分離，設立された。生産の中心は鋼板でほかに条鋼・鋼管・めっき鋼板などを生産。工場は千葉・水島を基幹として，ほかに兵庫・西宮(にしのみや)・知多・葺合(ふきあい)などにある。特に，瀬戸内海に面した水島の新製鉄所は，千葉製鉄所と並んで同社発展の巨大工場となっている。本社神戸(こうべ)。資本金1,273億7,200万円，年間売上高1兆1,478億8,900万円，従業員数30,059(1980年9月)。

かわさきだいし【川崎大師】 川崎市大師河原(だいしがわら)にある真言宗智山(ちざん)派の寺。俗称平間寺。山号を金剛山金乗院という。大治年間(1126～1130)に平間兼豊(かねとよ)・兼乗(かねのり)父子が海中から得た弘法大師の像を本尊として創建，尊賢を開山とした。平安末期に勅願所であったが，その後荒廃し，江戸時代には厄除(やくよけ)大師として広く尊崇された。明治の廃仏毀釈*(はいぶつきしゃく)によって一時衰えたが，以後また多くの信者を得ている。〔藤本昌子〕

かわさきはちえもん【川崎八右衛門】(1834～1907) 川崎財閥の創始者。水戸(みと)藩出身。代々藩の金銭御用達(ごようたし)の家に生まれ，幕末には藩の財政改革に手腕をみせ，1870年(明治3)には藩の北海道天塩(てしお)開拓に携わり成功を収めた。1874年東京に川崎組を設立して，官庁の為替(かわせ)業務，大蔵省国税取締方に従事，1880年川崎銀行と改称，これを拠点として銀行・保険・貿易・倉庫・セメントにその勢力を伸ばし，川崎財閥の基礎をつくった。〔片岡一郎〕

かわじおんせん【川治温泉】 栃木県塩谷(しおや)郡藤原町にある温泉。泉温42～47℃，泉質は単純泉で，リウマチ・動脈硬化症・火傷にきくといわれる。鬼怒(きぬ)川と男鹿(おじか)川の合流点に位置し，付近には高原山・日光山がそびえて峡谷美に富む。1723年(享保8)の開湯と伝えられ，近在農民の農閑期の湯治場として利用されていたが，1930年(昭和5)東武鉄道鬼怒川線の開通後急速に発展した。付近には五十里湖(いかりこ)・龍王峡(りゅうおうきょう)などの景勝地がある。東武鉄道鬼怒川線の鬼怒川温泉駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

かわじとしあきら【川路聖謨】(1801～1868) 江戸末期の幕臣。豊後(ぶんご)(大分県)日田代官所の属吏内藤吉兵衛(きちべえ)の子。旗本川路家の養子となり，幕府に仕えて，1835年(天保6)仙石(せんごく)騒動*で公平な裁決を下し，閣老の信任を得，佐渡小普請奉行(ぶぎょう)を経て，奈良・大阪町奉行を歴任し，1852年(嘉永5)勘定奉行兼海防掛となった。1853年ロシア使節プチャーチン*が長崎に来航したとき交渉にあたり，1854年(安政1)下田で日露和親条約を締結した。1858年退官したが，幕府への忠誠心あつく，1868年(明治1)江戸開城の翌日，ピストルで自殺した。〔善積美恵子〕

かわじりゅうこう【川路柳虹】(1888～1959) 詩人。東京の生まれ。本名誠(まこと)。

画家を志して東京美術学校を卒業したが，詩作を続け，1907年(明治40)口語自由詩《新詩四章》で注目を浴び，1910年処女詩集《路傍の花》を刊行，現代詩への道を開いた。その作風は叙情的な象徴詩風から主知的傾向へと進み，詩集に《曙(あけぼの)の声》《予言》《明るい風》《無為の設計》など。また，美術に関する著書も10数冊に及ぶ。

かわしんじゅがい 【河真珠貝】 軟体動物・二枚貝類・カワシンジュガイ科。殻長(かくちょう)13cm，殻高 6 cm，殻幅 4 cmほど。ややひし形に近い長楕円(ちょうだえん)形。殻質は厚く，かたい。殻(から)本体は灰白色だが，黒く厚い殻皮をかぶっている。殻の内面は，美しい真珠光沢をおびる。シベリア・サハリン・千島，北海道と本州の日本海側に分布し，山間の清流にすむ。

かわせ 【為替】 遠隔地間の金銭の貸借，取引・輸送を現金ではなく手形*・小切手*・証書などで決済する方法，また遠隔地間の債権*・債務を同一地域の債権・債務に振り替えて決済すること。歴史的には，鎌倉時代に為替(かわし)・替銭(かいせん)・替米(かいまい)といい，その手形を割符*(さいふ)とよんでいた。江戸時代にはいって，江戸・大阪の両替商*を中心に為替取引が活発となり，ほぼ近代的な為替取引の組織がととのった。今日の為替取引は，同一国内の内国為替，地域が異なった国にまたがっているときの外国為替*がある。➔送金為替　〔鈴木英雄〕

かわせあんていしきん 【為替安定資金】 ⇨為替平衡勘定

かわせがいしゃ 【為替会社】 1869年(明治2)政府の保護のもとにつくられた，政商資本による最初の金融機関。欧米の銀行制度を取り入れ，東京・大阪・京都で紙幣発行，通商会社への融資，民間金融の発展を図ったが，社中が会社経営の知識を欠いていたため，業績不振となり，1872年国立銀行条例公布により解散。

かわせかんり 【為替管理】 国際収支*の均衡と為替相場の安定を目的として，政府が外国為替取引に対して直接的統制を加えることをいう。1930年代初頭にはじめて実施された当時はもっぱら為替投機*や資本逃避のような攪乱(かくらん)的事態を対象とする資本取引の統制であった。しかし，その後各国において経常取引と資本取引とに関する全面的な管理方式が一般化した。特に第2次世界大戦直後には，各国で最も厳格な為替管理が施行された。為替管理の基本的形態は，為替の全面的集中制と全面的許可制の実施である。すなわち，一国の居住者の取得した外貨はすべて公認為替取引銀行(➔外国為替銀行)を通じて政府に集中され，また対外支払いのため外貨を必要とする居住者は，すべて政府の許可を求め，政府の公認為替銀行を通じて外貨を供与されることになり，政府による外貨の全面的な集中配分が行なわれる。各国の直面する経済的



カワシンジュガイ

困難が緩和され，外貨準備が充実してくるにしたがって集中制も許可制も部分的に緩和され，徐々に，外国為替市場の自由取引が復活していく。国際収支の逆調，為替相場の低落に悩む国にとって，事態を解決する最もてっとり早い方法は為替管理の実施である。しかし，国際経済的観点からみると，取引の自由な遂行を妨げることになり，望ましくない。➔外貨集中制度〔安井孝治〕

かわせぎんこう 【為替銀行】 ⇨外国為替銀行

かわせさいてい 【為替裁定】 同一の時点において為替相場の地域的不均衡が発生した場合に，この地域的不均衡を利用するさやどりの操作をいう。これには2国間に発生した為替相場の不均衡を利用する直接裁定と，3国以上の間の為替相場の不均衡を利用する間接裁定の二つがある。しかし，為替裁定取引を行なうには，電信料その他の費用がかかるため，実際には得られる利益が費用をカバーしてあまりがある場合にのみ行なわれるにすぎない。また為替の裁定には，世界各地の為替状況の迅速かつ的確な把握(はあく)，それに基づく裁定操作の可能性の算定，機敏な売買操作などの諸条件が不可欠であるから，高度の経験技術および十分な通信網を擁する専門業者でなければ，本格的に行なうことはできない。
〔安井孝治〕

かわせせいさんきょうてい 【為替清算協定】 国際間の決済は，通常は外国為替によって行なわれるが，これに対して外国為替を使用しないで，中央銀行(あるいは清算機関)に特別勘定(清算勘定)を設定して帳簿上の振替によって国際間の決済を行なう制度を為替清算制度といい，このために締結される協定が為替清算協定である。元来，為替清算協定は，1930年代に，金や外貨準備の欠乏している国々の間で，金や外貨を使用せずに貿易を遂行する目的で締結された。為替清算協定が円滑に運営されるには協定当事国間の収支が均衡することが最も望ましい。しかし，実際には協定当事国間の収支が均衡せず，未決済の収支じりが累積したり，人為的に収支を均衡させようとして貿易量の縮小を招いたりする。第2次世界大戦直後に広く普及した双務的支払い協定，あるいはオープンアカウント*協定も為替清算協定と同じ目的のものである。〔安井孝治〕

かわせそうば 【為替相場】 ⇨外国為替相場

かわせダンピング 【為替ダンピング】 自国商品を外国市場で不当廉売あるいは投げ売りする目的で，為替相場を政策的に不当に切り下げることをいう。為替相場の切り下げがあれば，商品を国内販売価格と同一の価格で外国に輸出しても，輸出商品の外国市場での価格は切り下げ以前より安くなり，輸出の増進を図ることができる。

かわせてがた 【為替手形】 振出人が，支払人に対して，一定の金額を受取人に支払うことを依頼する形式の手形*。第三者に支払いを委託する点が，振出人自身が支払うことを約束する約束手形*と異なる。つまり為替手形の振出人は，約束手形の振出人と異なり，本来その手形金額の支払いをなすべき義務あるものではなく，ただ支払人が引き受けまたは支払いを拒絶したときに，手形法の規定により，その手形に署名したものとして手形金額を所持人に償還しなければならない義務を負うことになるにすぎない。この為替手形も約束手形と同様厳格な意味での要式証券*であり，手形法で決められた要件事項(手形法1条)の記載を欠く手形は無効であり，また手形の性質を変えるような要件以外の記載も手形それ自体を無効とすることもある。現実の流通面では，約束手形の振出人にあたる者が，印紙税*の負担を免れるために為替手形の引受人となり，振出人などを白地として発行されているものが多い。なおこのほか為替手形は，文言証券*・無因証券*でもある。〔松本治雄〕

かわせとうき 【為替投機】 近い将来における外国為替相場*の変動を見越して，為替相場の変動により利益を獲得することを目的として行なわれる外国為替の売買をいう。為替投機は直物為替・先物為替*のいずれを利用しても可能であるが，直物為替を利用する場合には資金が必要であるのに反して，先物為替を利用する場合には，まったく資金を使用せずに為替の売買差額を利益として獲得することができるため，為替投機の手段としては先物為替が多く利用される。通貨不安が存在せず，為替平価*の維持に関して確信が存在している場合には，為替投機は安定化の作用をもつことが多いが，為替平価の維持に関して疑惑が存在するような場合には，為替投機は不安定化の作用をもたらし，通貨不安を激化する重要な要因となる。➔外国為替相場　〔安井孝治〕

かわせへいか 【為替平価】 一国通貨と他国通貨との最も純粋な交換比率を表わす。現実の為替売買取引に適用される他の種々の為替取引相場に対して基準相場としての意味をもつ。かつて金本位制度*下においては，為替平価は各国通貨単位と等価と規定

された金の純分の比率によって決定され，金平価ともよばれた。第二次大戦後，IMF協定により，各国は自国通貨の平価を金または1944年7月1日現在の純分および量目を有するアメリカ-ドル(金1オンス＝35ドル)で表示しなければならないことになった。また，IMF協定では，為替取引相場の変動は為替平価を基準として，その上下1％の範囲内に制限された。したがっていちおうは固定為替相場*制度がとられたが，各国は基礎的不均衡が存在する場合，IMFの承認のもとに為替平価を変更することが認められた。つまり，アジャスタブル-ペッグとよばれる，必要に応じて調整可能な固定為替相場制度が採用された。1960年代以降しばしば発生した通貨危機に際して，主要諸国の為替平価の全面的改訂や，変動幅の拡大等が行なわれたが，現在では主要諸国において変動相場制度が実施されている。現在のIMF加盟主要国の為替平価は下表のごとくである。〔安井孝治〕

かわせへいこうかんじょう【為替平衡勘定】 政府が直接あるいは間接に外国為替市場に出動して外国為替の売買を行ない，外国為替市場の安定を図るため設立される勘定ないしは資金をいう。為替平衡勘定というのはイギリスで使用されている名称であって，アメリカその他の国では，為替安定資金という名称が多く使用されている。為替平衡勘定は，本来，為替投機*・資本逃避などに基づく為替相場の異常的変動を阻止することを目的とするものであって，経常取引に基づく為替相場の一時的変動に対処するためのものではない。為替投機・資本逃避などの異常事態の発生によって外貨需要が増加し為替相場(支払い勘定建て)が上昇しはじめた際には，為替平衡勘定は外国為替市場で外貨を売却して為替相場の上昇を阻止し，逆に，外貨供給が増加して為替相場が低落しはじめる際には，為替平衡勘定は外国為替市場から外貨を買い上げて為替相場の低落を阻止することになる。為替平衡勘定は，金本位制度離脱後1930年代の国際為替の不安定期に最初にイギリスに設立され，次いでアメリカ，その後カナダ・ヨーロッパや南アフリカの一部諸国によって採用された。〔安井孝治〕



カワセミ

かわせみ【翡翠】 鳥類・カワセミ科の総称およびそのうちの1種の名。カワセミ類は全長10cmの小鳥から45cmの中鳥まであり，約85種が世界じゅうに分布している。くちばしと頭が大きく，一般に尾が短い。羽色はいろいろだが，青・緑・紫・赤色などのあざやかなものが多く，しばしば金属光沢を有し，美しい。魚食のものとこん虫など陸上小動物食のものとがあるが，どちらも低い枝や杭(くい)から下を見張っていて，えさを発見するとさっと水中に飛び込んだり地上に飛び下りたりして獲物を捕え，枝にもどりそれを食べる。巣は樹洞(じゅどう)やがけに掘った横穴につくる。日本では5種が記録されているが，ふつうに生息するの

IMF主要加盟国の為替平価一覧表

(1971年12月20日現在)

国名	通貨単位	1米ドルにつき各通貨単位	円換算	国名	通貨単位	1米ドルにつき各通貨単位	円換算
オーストラリア	ドル	0.822370	374.53	リビア	ディナール	0.328974	936.32
オーストリア	シリング	23.3000	13.22	ルクセンブルグ	フラン	44.8159	6.87
ベルギー	フラン	44.8159	6.87	マレーシア	ドル	2.81955	109.24
ビルマ	クワット	5.34870	57.58	マルタ	ポンド	0.374412	822.62
キプロス	ポンド	0.383772	802.56	メキシコ	ペソ	12.5000	24.64
デンマーク	クローネ	6.98000	44.13	モロッコ	ディルハム	4.66098	66.08
ドミニカ	ペソ	1.00000	308.00	オランダ	ギルダー	3.24470	94.92
エチオピア	ドル	2.30263	133.76	ニュージランド	ドル	0.822370	374.53
フィンランド	マルッカ	4.10000	75.12	ニカラガ	コードバ	7.00000	44.00
フランス	フラン	5.11570	60.21	ナイジェリア	ポンド	0.328974	936.32
西ドイツ	マルク	3.22250	95.58	ノルウェー	クローネ	6.64539	46.35
ガーナ	ニューセデ	1.81818	169.9.40	パナマ	バルボア	1.00000	308.00
ギリシア	ドラクマ	30.0000	10.27	ポルトガル	エスクド	27.2500	11.30
グアテマラ	ケツァル		308.00	ルワンダ	フラン	92.1053	3.34
ギアナ	ドル	2.00000	154.00	サウジアラビア	リヤル	4.14475	74.31
ハイチ	グールデ	5.00000	61.60	シンガポール	ドル	2.81955	109.24
ホンシュラス	レンピラ	2.00000	154.00	ゾマリア	シリング	6.57894	46.82
ホンコン	ドル	5.58213	55.18	南アフリカ	ランド	0.750000	410.67
アイスランド	クローネ	88.000	3.50	スペイン	ペセタ	64.4737	4.78
インド	ルピー	7.27927	42.31	スエーデン	クローネ	4.81290	63.99
イラク	ディナール	0.328974	936.32	タンザニア	シリング	7.14286	43.12
アイルランド	ポンド	0.383772	802.56	トニシア	ディナール	0.483552	636.95
イスラエル	ポンド	4.200000	73.33	トルコ	リラ	14.0000	22.00
イタリア	リラ	581.500	0.53	ウガンダ	シリング	7.14286	43.12
ジャマイカ	ドル	0.767544	401.28	イギリス	ポンド	0.383772	802.56
日本	円	308.000		ユーゴスラヴィア	ディナール	17.0000	18.12
ヨルダン	ディナール	0.357143	862.40	コンゴ	ザイル	0.50000	616.00
ケニア	シリング	7.14286	43.12	ザンビア	クワチャ	0.714286	431.20
クエート	ディナール	0.328947	936.32				

《東京銀行月報》

はカワセミ・ヤマセミ・アカショウビンの3種である。カワセミは全長17cmほど。上面光沢ある青緑色，下面赤かっ色で，くちばしと足は赤色。池や静かな川で魚を捕食する。ヨーロッパ・アジアに広く分布する。日本では農薬でえさとなる魚が減ったためか，近年著しく減少した。〔浦本昌紀〕

かわせレート【為替レート】⇨外国為替相場

かわだおうこう【川田甕江】(1830〜1896) 江戸末期から明治時代の漢学者。名は剛(たけし)。備中(びっちゅう)(岡山県)の人。鎌田玄渓(かまたげんけい)・古賀茶渓らに師事し，程朱・明(みん)・清(しん)諸家・経史百家などの学を修め，国典にも精通した。はじめ板倉侯に仕え，維新後は修史局一等修撰(しゅうせん)・東京大学教授・宮中顧問官などを歴任。文学博士。学士院会員。《近世名家文評》《日本外史弁説》などの著がある。

かわたけしげとし【河竹繁俊】(1889〜1967) 演劇研究家。長野県出身。生家は市村姓，のち，河竹黙阿弥(もくあみ)家の養子となる。早稲田(わせだ)大学在学中より，坪内逍遥(しょうよう)の文芸協会に入り新劇運動に参加。歌舞伎(かぶき)と日本演劇史の研究にすぐれた業績を残すかたわら，早大演劇博物館の設立，国立劇場の建設などに尽力し，広く日本の古典芸能の向上と発展に貢献した。著書は《歌舞伎史の研究》《日本演劇全史》《河竹黙阿弥》など多数。〔西尾邦夫〕

かわたけもくあみ【河竹黙阿弥】(1816〜1893) 歌舞伎(かぶき)狂言作者。5世鶴屋(つるや)南北に師事し，長く2世河竹新七の名で，幕末・明治の江戸劇界で執筆，晩年に古河(ふるかわ)黙阿弥と改名した。はじめ4世市川小団次に多くの世話物を，明治になってからは9世市川団十郎・5世尾上(おのえ)菊五郎・初世市川左団次らに世話物・時代物のほか，新時代の傾向に沿った〈活歴物〉〈散切物(ざんぎりもの)〉や新形式の舞踊劇を書いた。作品360余のうち，代表作は《三人吉三(さんにんきちざ)》《村井長庵(ちょうあん)》《白浪(しらなみ)五人男》《髪結新三(かみゆいしんざ)》《島ちどり》《高時》《土蜘(つちぐも)》など。世話物，特に盗賊の活躍する〈白浪物〉を得意とした。江戸歌舞伎の集大成者といわれる。〔松井俊諭〕


河竹黙阿弥


カワトンボ

かわだじゅん【川田順】(1882〜1966) 歌人。東京の生まれ。東京大学法科を卒業，大阪住友本社に勤務。かたわら佐々木信綱(のぶつな)の〈竹柏会(ちくはくかい)〉にはいり作歌を続け，1924年(大正13)《日光》同人となる。その作風は当初の浪漫的歌風から写実的傾向へと進み，第2次世界大戦後は東宮の作歌指導，歌会始選者も勤めた。戦時中によんだ多くの戦争賛歌(《史歌太平洋戦》など)がある。歌集に《伎芸天(ぎげいてん)》《鵲(かささぎ)》《鷲(わし)》など。〔金子　博〕

かわたびおんせん【川渡温泉】宮城県玉造郡鳴子(なるこ)町にある温泉。泉温52〜60℃，泉質は単純硫化水素泉・硫黄泉・食塩泉・炭酸泉で，古くから〈かっけ川渡かさ鳴子〉といわれてかっけに特効のある温泉として名高い。中森山の中腹に位置し，紅葉で有名な荒雄川の渓流(けいりゅう)に臨み，近くに白糸滝がある。陸羽東線川渡駅からバスの便がある。

かわち【河内(国)】大阪府東部の旧国名。河州。畿内(きない)に属す。もと錦部(にしごり)・石川・古市・安宿(あすかべ)・大県(おおかた)・讃良(さらら)・茨田(まんだ)・交野(かたの)・若江・渋川・志紀・丹比(たじひ)・河内・高安の14郡が，いまは東大阪・枚方(ひらかた)・門真(かどま)・河内長野・富田林(とんだばやし)など13市と大阪・堺(さかい)両市の一部および南北河内の2郡となる。国府は藤井寺市，国分寺は柏原(かしわばら)市にあった。古く凡河内(おおしこうち)国造(くにのみやつこ)の管下にあり，大化改新後茅渟県(ちぬのあがた)とあわせて河内(国)を置き，奈良時代に茅渟の地をさき和泉(いずみ)(国)を分置した。鎌倉時代には三浦・北条(ほうじょう)の諸氏，室町時代には細川・高・畠山(はたけやま)の諸氏が守護となったが，豊臣(とよとみ)氏に至り，大阪より本国を支配した。近世には2藩および諸家領に細分されたが，明治以後，堺県を経て1881年(明治14)大阪府に編入され，今日に及ぶ。〔黛　弘道〕

かわぢしゃ 双子葉植物・ゴマノハグサ科。川原や田のあぜなどの湿地にはえる越年草。群がってはえ，高さ20〜60cm。葉は対生し，基部はややふくらみ，先はとがり，縁には鋸歯(きょし)がある。ふつう緑色であるが若苗は紫色を呈する。初夏，葉のつけ根から柄を出し，白色で淡紫色の筋のある小さな花を多数穂のようにつける。若葉はゆでたり，さしみのつまとして食べられる。

かわちながの【河内長野(市)】大阪府南東部の市。古くから東・西高野街道が合流する交通の要地で，高野山の参拝客で栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口78,000。和泉(いずみ)山脈に発する三日市川と西条川の合流点付近の盆地上にあり，和歌山県境の山地まで市域内に含む。産業三大別人口比は4：42：54。酒造・製材などの在来工業のほか，農機具・ベアリングなどの金属・機械工業が行なわれるが規模は小さい。農村部では，米・麦のほか小山田丘陵上に，モモ・ブドウ・ミカン，段丘上にナシが栽培され，大阪近郊果樹地帯の役割を果たしている。特産には，全国消費の過半を産する高向(たこう)地区のつまようじがあり，最近は竹すだれもつくられる。近畿(きんき)日本鉄道長野線と南海電鉄高野線が集まり，国道170号線が市域を貫通する。南朝にちなむ史跡が多く，南西部の金剛寺は行基の創建と伝えられる名刹(めいさつ)で，6年にわたって後村上天皇の皇居となり，史跡名勝地に指定されている。南東の観心寺は役ノ小角(えんのおづぬ)の創建と伝えられ，楠木正成(くすのきまさしげ)が葬られている。

かわつら【川連】秋田県南東部，皆瀬川中流東岸に沿う地区で，行政上は雄勝郡稲川町に属する。川連漆器の産地として古来名高く，いまも大館(おおだて)・久保の両部落を中心として漆器業者300戸，従業員1,000人を越える。製品は椀(わん)類・膳(ぜん)・盆などで，東北地方をはじめ，京浜地区や北海道へも移出され，年産2億円に達する。西の湯沢からバスが通じる。

かわつらぼんじ【川面凡児】(1862〜1929) 神道家(しんとうか)。豊前(ぶぜん)(大分県)の生まれ。名は恒次，字(あざな)は吉光，のち凡児。宇佐神宮の神体山馬城ケ峰(まきがみね)で悟り，惟神(かんながら)の大道を唱導し，その禊行(みそぎぎょう)は全国の海浜・滝水で行なわれた。当時の欧化思想に反対し，独自の宇宙観・国体観を唱えて，大きな影響力をもった。《川面凡児全集》，また《川面凡児先生伝》がある。

カワード［Noel Coward］(1899〜1973) 作曲・演出・俳優・歌手などもこなしたイギリスの劇作家。第1次世界大戦後の軽佻(けいちょう)浮薄な世相を風習喜劇によって巧みに歯切れよく表現した。代表作は《騎馬行進》《ヴァイオリンを持つ裸婦》など。

かわどめ【川留】増水・氾濫(はんらん)時に橋梁(きょうりょう)や渡船の便のない近世の河川で，その渡渉を一時禁止すること。東海道の諸河川のうち大井川(静岡県)の場合が特に有名。常時の水深は2尺5寸(約0.76m)で，ふつう川越人足の肩ぐるまや輦台(れんだい)で渡河したが，増水2尺5寸以上に及ぶときはいっさいの旅人・荷物の渡河を禁止した。川留による旅程上の被害は甚大であったが，解禁を待つ旅人で両岸の島田・金谷宿(かなやしゅく)はにぎわった。〔高崎徳次〕

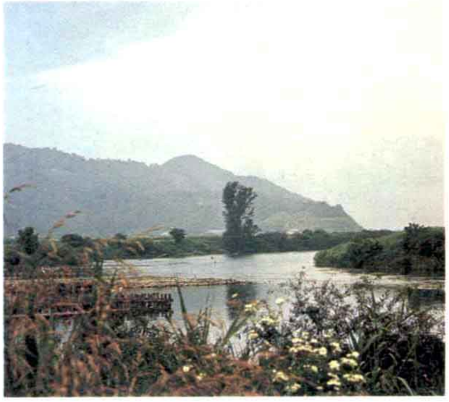
かわとんぼ【川蜻蛉】こん虫類・トンボ目・カワトンボ科。腹長38〜45mm，後翅(こうし)の長さ35〜40mmで，日本全土に広く

分布する普通種であるが，地方によって翅(はね)の色彩がかなり変異する。北海道から本州の関東地方と中部地方高地には橙色(とうしょく)型・透明型の２型の雄と透明型の雌が分布し，近畿(きんき)地方から中国・四国地方および九州中部までは橙色型，橙色型と同傾向の透明型，やや大形で不透明部分の大きい橙色型，やや大形で翅全体が淡い橙色をおびる４型の雌雄がある。また，九州南部には透明型の雌雄と翅の中央部が広く濃かっ色を呈する雄が知られる。成虫は，４～６月に出現し，関東地方では橙色型の雄は低地に多く，少し高地では透明型の雄が多くなる傾向がある。体色は雄は金属光沢のある美しい緑色であるが，老熟すると体表面に一様に白色の粉を装う。雌は黄色をおびた金緑色。カワトンボ科は現生のトンボ目の中では比較的原始的な群で，熱帯地方に多くの種類が分布し，美しい種類が多い。日本にはこのほかミヤマカワトンボ(カワトンボよりも大形で，体が淡かっ色，翅が一様に赤かっ色，低山地の渓流(けいりゅう)に見られる)，ハグロトンボ(体・翅ともに金属緑色をおびた黒色で平地の用水溝(ようすいこう)などに多い)，アオハダトンボ(ハグロトンボに似るが雌雄ともに体が金属緑色で丘陵地や低山地の流水に見られる)などが産する。〔鈴木邦雄〕

かわなかじまのたたかい　【川中島の戦い】　越後(えちご)(新潟県)の上杉(うえすぎ)謙信*と甲斐(かい)(山梨県)の武田(たけだ)信玄*の間で，川中島をはさんで行なわれた戦い。両者は信濃(しなの)(長野県)の村上義清(よしきよ)の向背をめぐり，1553年(天文22)から川中島で５回に及んで対陣した。そのうち1561年(文禄４)９月，10日間にわたる第４回の対陣ではじめて全面的な合戦が行なわれ，謙信は多くの部下を失い，信玄も弟の信繁(のぶしげ)を戦死させた。世に有名な川中島の戦いはこのときのことをいう。1564年再び相まみえたが，それ以後川中島の対陣はなくなった。総合的にみていずれに勝敗があったかは判断しがたいが，たび重なる対陣が上杉・武田両雄の近畿(きんき)進出計画に支障となったことはいえよう。〔村尾元忠〕

かわなべ　【川辺(町)】　鹿児島県川辺郡の町。人口18,000。薩摩(さつま)半島の南部にあり，万瀬(まのせ)川中流の盆地とそのまわりの山地を占める。西は加世田市に接する。米・麦・サツマイモ・茶・タバコをつくるほか，和牛やブタを飼い，林業も行なわれている。特産の仏壇はハワイなどへも輸出している。鉄道はなく，バス交通にたよっている。

かわなべぎょうさい　【河鍋暁斎】　(1831～1889)　日本画家。茨城県古河(こが)の生まれ。少年時歌川国芳(くによし)の門にはいり，のち狩野洞白(かのうどうはく)に学んだ。大酒家で奇行の持ち主であり，痛烈な官辺風刺のために４か月間入牢(にゅうろう)したこともある。



川中島の戦い　武田・上杉両軍が，興亡を賭して戦った古戦場。今は昔をうかがうすべもない



河鍋暁斎《花鳥図》1881 東京国立博物館蔵



カワニナ

《暁斎画談》《暁斎酔画》《暁斎鈍画》などの著書があり，1882年(明治15)第２回勧業博覧会で《枯木寒鴉(かんあ)》が妙技２等賞を得た。

かわにし　【川西(市)】　兵庫県南東端に近い市。1954年(昭和29)市制施行。人口128,000。武庫平野の北東，猪名(いな)川が丹波山地から平野部へ流出する谷口に位置する。産業三大別人口比は２：41：57。友禅染め・さらしなどの繊維工業が盛んで，火打地区では皮革業が行なわれ，馬皮なめしは全国生産額の90％を占める。東隣の伊丹(いたみ)市寄りの段丘面では，果樹・草花・植木・苗木が栽培される。最近は大阪の衛星住宅都市化が進み，人口が急増し，1970～75年の増加率は，兵庫県の21市の中で第３位である。能勢(のせ)電軌が市街を縦断して福知山線・京阪神(けいはんしん)急行宝塚(たからづか)線と連絡する。猪名川上流部の多田地区は多田源氏発祥の地で，源満仲(みつなか)創建の多田神社(多田院)がある。

かわにし　【川西(町)】　山形県東置賜(おきたま)郡の町で，米沢市の北西にある。1955年(昭和30)に小松町を中核として大塚(おおつか)村・犬川村・中郡村および南置賜郡玉庭村が合併して誕生。人口23,000。小松は米沢(よねざわ)・長井・宮内・赤湯・小国の各方面へ通ずる交通上の要衝で，中世の末ごろに居館を構えた船山因幡(いなば)の城下として発達し，５・10の日の六斎市が開かれた。良水が得られ，酒の産地として有名。

かわにな　【川蜷】　軟体動物・腹足類・カワニナ科。殻高(かくこう)３cm，殻径１cmほどの長い円錐(えんすい)形の巻き貝で，殻表は布目状。殻(から)の頂は，ふつう欠けて落ちている。茶かっ色の殻皮におおわれた殻は青白色。全国いたるところの池や川，田のみぞなどにごく普通。台湾・中国・南朝鮮にも分布する。胎生。肺ジストマの第１中間宿主である。

かわのえ　【川之江(市)】　愛媛県北東端の市。奈良時代から開け，太政官(だじょうかん)道の大岡駅があり，江戸時代は一柳(ひとつやなぎ)氏の陣屋が置かれ，のち幕領となって代官所が置かれた。また古くから和紙の手こし業が発達した。1954年(昭和29)市制施行。人口38,000。瀬戸内海燧灘(ひうちなだ)へ注ぐ金生川河口付近の沖積(ちゅうせき)低地を占め，東は香川県と接する。産業三大別人口比は11：50：39。主産業は製紙業で，大小50近くの製紙工場があり，西隣の伊予三島(いよみしま)市とともに〈紙都〉を形成する。予讃(よさん)本線と国道11号線が海岸沿いを走り，国道192号線が東方へ通ずる。

かわのり　【川苔】　緑藻(りょくそう)植物・カワノリ科。わが国特産の淡水藻。長さ10～20cm，幅４cmまでのアオサ*に似た膜状体。有性生殖は異形配偶子によって行なうが，単胞子による無性生殖も行なう。関東以南の山地の清流中の岩上に生ずるが，日本海に注ぐ川からは発見されていない。最盛の夏季に採取したものを浅草のりのようにして食用とする。

かわはぎ　【皮剝】　硬骨魚類・カワハギ科の海産魚。30cmに達するものがある。ひし形の平たい体で，全体淡い茶かっ色に，濃色斑(はん)をつけている。この斑紋は，闘争時や摂食時に，魚が緊張するとはっきり現われる。魚屋で見るカワハギは，全身くすんだ灰かっ色であることが多い。雄の背びれの２番めの筋が，ひどく長く伸びていることがある。本州中部以南の岸近くに普通で，数センチメートルまでの稚魚は，浅



カワハギ

瀬や流れ藻(も)でよくみられる。皮膚はざらざらして厚いが，簡単にむけるので，皮をはいでから料理する。美味。肝臓は特にうまい。関西地方ではハゲということが多い。

かわばたぎょくしょう【川端玉章】(1842～1913) 日本画家。京都の生まれ。本名滝之助。幼時に*円山(まるやま)派の中島来章につき，のち江戸に出て*高橋由一・*ワーグマンに油絵を学ぶ。1890年(明治23)東京美術学校の創立に際して，岡倉天心に認められ教授となり，1909年に川端画学校を興して後進を指導した。

かわばたぼうしゃ【川端茅舎】(1900～1941) 俳人・画家。東京の生まれ。本名信一。画家の川端*龍子(りゅうし)は実兄にあたり，茅舎自身も洋画家を志して岸田*劉生(りゅうせい)に師事したりした。俳句は，はじめ《*雲母(うんも)》，のち《*ホトトギス》などに投句，大正末期，肺患を得て入院したのちは画業を捨て，高浜虚子に師事して俳句に専念。〈花鳥諷詠(ふうえい)〉を旨として，自然を賛美する東洋的求道精神をもって，病臥(びょうが)と俳句づくりのうちに生涯(しょうがい)を送った。《川端茅舎句集》《華厳(けごん)》《白痴》などの句集がある。〔金子　博〕

かわばたやすなり【川端康成】(1899～1972) 小説家。大阪市の生まれ。東京大学国文科卒。幼年時に肉親を次々に失い，それが後年の作風に大きな影響を与えるが，すでに《十六歳の日記》には，生のはかなさと悲しさへのすぐれた洞察(どうさつ)が現われている。1921年(大正10)創刊の第6次《*新思潮》に参加，第2号に発表した《招魂祭一景》で菊池(きくち)*寛の知遇を得た。1924年，横光(よこみつ)*利一とともに《*文芸時代》を創刊，*新感覚派の文学運動に加わり，新鮮な感覚と技法を駆使した掌編小説を発表，《伊豆(いず)の踊子》における新鮮なリリシズムとあいまって文壇的地位を確立した。1929年(昭和4)ごろから浅草に親しみ，浅草物を発表したが，特に《浅草紅団(くれないだん)》は新感覚派的作風の集大成といわれる。次いで《禽獣(きんじゅう)》に至ると非情・虚無的な心情が目だち，1935年ごろから書きはじめられた《雪国》は作者の叙情と人生観照の成熟を示し，傑作とされている。第2次世界大戦後は，その延長上に《千羽鶴(せんばづる)》《*山の音》などを発表している。1968年ノーベル文学賞を受賞。1972年4月ガス自殺で急逝。〔小泉浩一郎〕



川端玉章《桜花鶏》1894 東京芸術大学芸術資料館蔵



川端康成

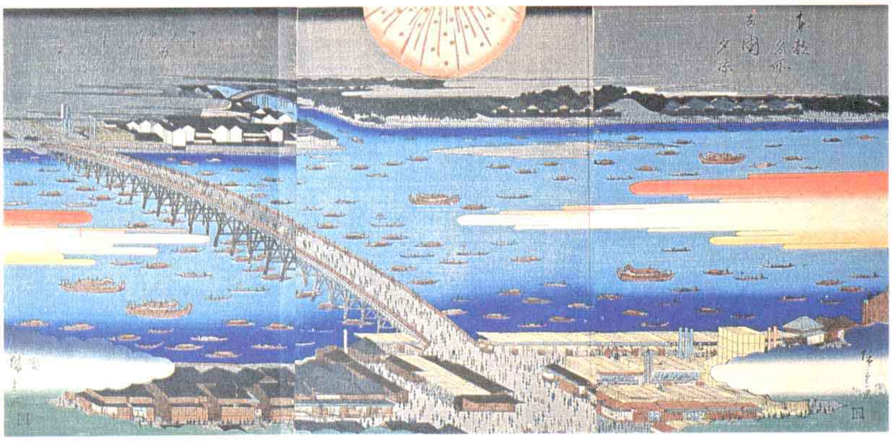
かわばたりゅうし【川端龍子】(1885～1966) 日本画家。和歌山市の生まれ。本名昇太郎。はじめは，*白馬会・太平洋画会の研究所に洋画を学び，国民新聞社などに勤め，1913年(大正2)に渡米。帰国後は日本画に転向して院展に出品，1917年その同人となる。その後新古典的な院展の傾向に反発し，会場芸術を標榜(ひょうぼう)して脱退，1929年(昭和4)青龍社を創立。流動感あふれる豪放な筆致で多くの大作を制作し，後進の指導にあたった。1959年文化勲章を受け，1962年に自作150余点を常時陳列する龍子記念館を自邸内に建てた。代表作としては《鳴門》《魚紋》《新樹の曲》などがある。

かわひがしへきごとう【河東碧梧桐】(1873～1937) 俳人。松山市の生まれ。本名秉五郎(へいごろう)。父は正岡*子規の漢学の師，兄は子規の友人であったことから，親友高浜*虚子とともに子規門に入り，子規の俳句革新運動を助けた。子規没後は新傾向*俳句を提唱，新しい時代の精神を伝統的な俳句に生かそうとし，1915年(大正4)中塚(なかつか)一碧*楼らと《海紅》を発刊，定型を捨て自由律に，さらに無季へ，短詩へとつねに革新を試みた。句集《八年間》のほか俳論集や*蕪村(ぶそん)・子規に関する著作・随筆も多い。〔池内輝雄〕

かわびらき【川開き】納涼の開始を祝う年中行事の一。特に両国の川開きは有名。陰暦5月28日から8月28日まで両国橋付近に露店や見せ物が許され，その初日に，船宿や料理屋が人寄せのため大花火を打ち上げたのが名物となって，ほぼ享保(きょうほう)年間(1716～1735)から近年まで続いた。花火にはしだれ柳・大楼・天下泰平の文字が浮かび出るものなどさまざまあった。華麗なのは専門の玉屋・鍵屋(かぎや)の花火で，屋形船や屋根船の観衆が，〈玉屋あー，鍵屋あー〉と歓声をあげた。この日いちばんかきいれ

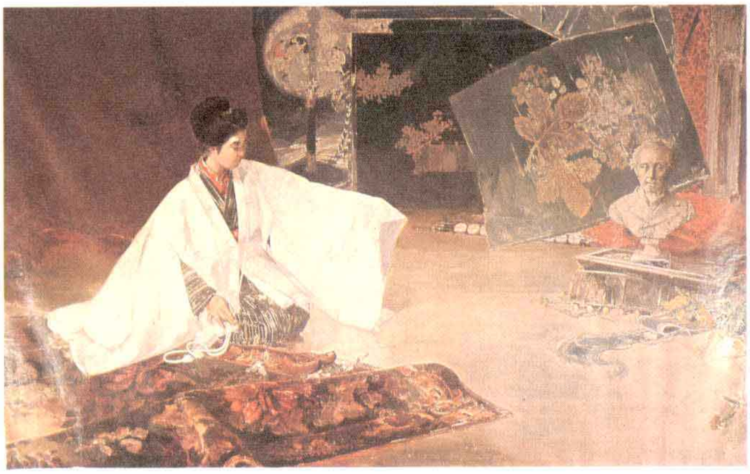


川端龍子《新樹の曲》六曲一双屏風左隻　1932





川 開 き　(左)安藤広重《東都名所両国夕涼》東京国立博物館蔵　(右)群馬県高崎市



川 村 清 雄
《虫干図》
1887
東京国立博物館蔵

どきの柳橋芸者が，わざと座敷へ出ないならわしがあり，心意気として江戸っ子をうれしがらせた。現在では川幅が狭いこと，陸上交通が激しいことなどから両国の川開きは廃止された。しかし地方では観光客誘致のために各地で盛んに催されている。
〔稲垣史生〕

かわぶね【皮船】 古代から使われた船の一種で，動物の肉を抜き取った皮に空気を封じて浮きとし，これを何個も並べ，その上に板を渡していかだに組んだもの，あるいは木製の骨組みの上に獣皮を張って水密とした船。前者にはチグリス川のケレークや，黄河の皮いかだ(ヒハイシ)などがあり，後者にはエスキモーの*カヤークやそれより大形のユミヤークなどがある。なお獣皮の代わりに木皮を使う木皮船も一種の皮船である。
〔茂在寅男〕

かわまた【川俣(町)】 福島県伊達(だて)郡にあり，東北本線の松川駅から分岐する川俣線の終点である。人口21,000。阿武隈(あぶくま)高地の北部および西縁一帯に盛んな養蚕と機業の一中心である。絹織りの起源は古く，江戸時代に川俣絹・飯野絹の名で京阪(けいはん)地方に平絹を出していたが，明治以降は輸出絹織物が盛んになり，はじめ桐生(きりゅう)の羽二重にならって重目物をつくったが，のちに軽目羽二重を織り，その特産地になった。現在でも中小規模の織物工場が多い。

かわまたおんせん【川俣温泉】 栃木県塩谷(しおや)郡栗山(くりやま)村にある温泉。泉温49～99℃，泉質は弱食塩泉・単純泉で，婦人病・外傷・リウマチなどにきくといわれる。鬼怒(きぬ)川の水源に近い標高1,000 mの溪谷(けいこく)に位置する山中の温泉で，奥日光探勝の宿泊地。近くに間欠泉・瀬戸合峡などがあり，国民温泉に指定されている。東武鉄道鬼怒川線鬼怒川温泉駅からバスの便がある。

かわまたダム【川俣ダム】 栃木県塩谷(しおや)郡栗山(くりやま)村にあり，利根(とね)川水系の鬼怒(きぬ)川最上流部に，1966年(昭和41)に完成したアーチ式ダム。高さ120 m，総貯水量8,800万m^3で，洪水(こうずい)調節・水力発電・灌漑(かんがい)の多目的ダムとして建設省がつくった。川俣発電所の最大出力は27,000 kWである。

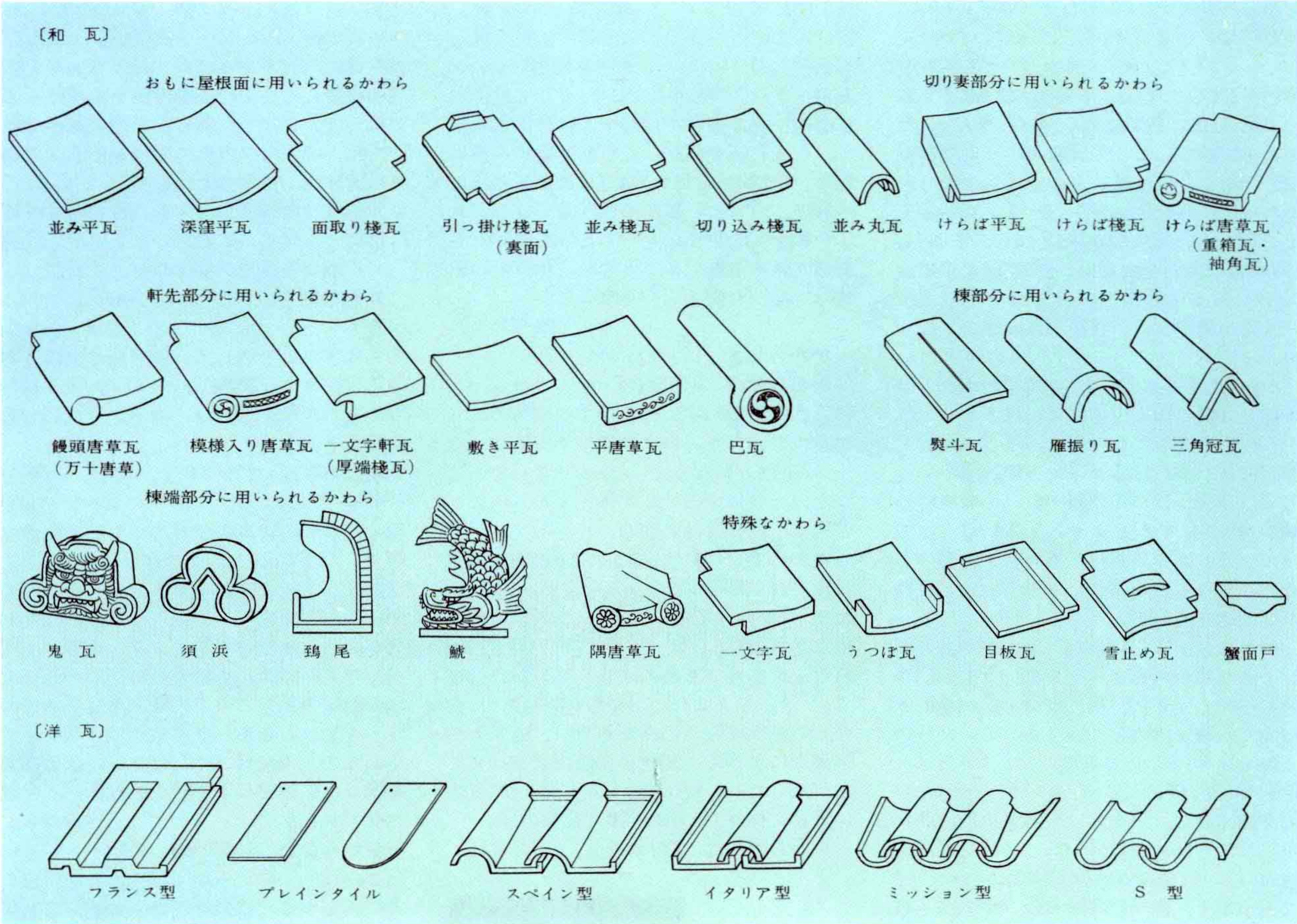
かわみなみ【川南(町)】 宮崎県児湯(こゆ)郡の町。人口18,000。宮崎市と日向(ひゅうが)市の中間にあたり，日向灘(ひゅうがなだ)に面する。洪積(こうせき)台地が広く，第2次世界大戦前は軍用地であったが，戦後開拓された。サツマイモ・ラッカセイを産し，酪農も盛んである。日豊本線の川南駅がある。

かわむらきよお【川村清雄】(1852～1934) 明治期の洋画家。江戸の生まれ。少年期に大阪で田能村直入に南画を学び，上京して川上*冬崖(とうがい)について洋風画の指導を受けた。1870年(明治3)徳川家給費生としてアメリカに留学，1872年ヨーロッパに渡ってベネチア美術学校に学ぶ。1881年帰国，一時は大蔵省印刷局に勤めたが退職し，画塾(がじゅく)を開いた。1889年明治美術会創立に参加，1902年巴会(ともえかい)を組織，画風はしだいに日本画風となった。代表作《虫干図》《少女像》など。

かわむらずいけん【河村瑞賢】(1617～1699) 瑞軒とも書く。江戸前期の豪商。海運・治水の功労者。通称十右衛門(じゅうえもん)。伊勢(いせ)(三重県)の貧家に生まれ，江戸に出てから車力のち材木商となる。1657年(明暦3)明暦の*大火のとき，木曽(きそ)の材木を買い占め巨利を得た。地理に通じ，運輸・航海・治水に長じていたため，1671年(寛文11)幕命により江戸回米の東回*海運，翌年西回*海運を開発し，そのため全国の産物流通上画期的な発達を促した。1683～1687年(天和3～貞享4)淀(よど)川を改修し安治(あじ)川を開き，畿内(きない)の治水工事を実施した。功労により晩年には*旗本(はたもと)となった。
〔松尾　涼〕

かわもずく【川水雲】 紅藻(こうそう)植物・カワモズク科。早春から初夏に小川に生ずる紫かっ色の淡水藻。長さ20cmに達する房状分枝体で，中軸の節部からは密な輪生枝を出す。全体が粘質物におおわれ，食用にされる。

かわや【厠】 便所。〈川屋〉の意とも〈側屋〉の意ともいう。川の上に小屋を建て，糞尿(ふんにょう)が流れ去るようにした形式はかつて山間部に多くみられた。また，奈良時代以降の上流階級では，主屋(おもや)の側につぼや箱を置いていた。厠にはさまざまな禁忌や信仰が伴っている。禁忌は目や歯に関するものが多く，信仰には厠神と出産に関するものが多い。厠神は地方によりカンジョガミとかタカガミなどとよばれ，めおと人形や女の土人形あるいは厠の角柱に対して花・米・酒・燈明などを供えて祭



か わ ら

られている。 〔渡辺欣雄〕

かわやまこうざん 【河山鉱山】 山口県玖珂(くが)郡美川町にある硫化鉱の鉱山で，錦(にしき)川の支流本郷川の谷あいに位置する。硫化鉱を主に銅・亜鉛などを産し，鉱石は国鉄河山駅から宇部・小野田の化学工場に送られる。

かわゆおんせん 【川湯温泉】 北海道川上郡弟子屈(てしかが)町にある温泉。泉温41～75℃，泉質は含食塩明礬緑礬泉(みょうばんりょくばんせん)・含硫化水素酸性泉・含イオウ弱食塩泉で，神経痛・火傷・胃腸病・リウマチなどにきくといわれる。アトサヌプリ山のふもとに位置し，屈斜路湖・摩周湖にも近く，硫黄山のふもとの高原にはエゾイソツツジ・ハイマツ・シラカンバなどの群落がみられる。なお温泉名は，湯量が豊富で湯が川をなして屈斜路湖に流入することに由来するという。阿寒(あかん)国立公園に属する。釧網(せんもう)線川湯駅からバスの便がある。 〔木村東一郎〕

かわゆおんせん 【川湯温泉】 和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡本宮町にある温泉。泉温55～74℃，泉質は単純泉・炭酸アルカリ泉で，胃腸病・婦人病・神経痛などにきくといわれる。熊野(くまの)川の支流大塔川の川原から湧出(ゆうしゅつ)し，地名はこれに由来する。砂原を掘って露天ぶろをつくり，石をまくらに入湯できる。付近には瀞峡(どろきょう)・熊野大社などの名所があり，国民温泉に指定されている。紀勢(きせい)本線新宮駅からバスの便がある。

かわら 【瓦】 粘土焼成品で小形の板状のもの。屋根がわら・敷きがわら・タイルなど広い意味でみなこれに属するが，今日では，一般に屋根がわらをさす。かわらは古代から広く用いられ，わが国では屋根ぶき材として，草ぶき・板ぶき以外にはほとんどがかわらぶき*であった。その品質・種類は，地方によっていろいろである。粘土がわらは，焼成方法から次のように分けられる。①素焼きがわら：うわぐすりのかかっていない素焼きのままのかわらで赤かっ色を呈する吸水性の高いもの。②いぶしがわら：焼成末期に松葉などをたき，還元炎でかわらの表面に炭素粒子を固着させた黒色または銀灰色のかわら。高級品は，吸水性が小さい。③塩焼きがわら：焼成中に食塩を投入すると，その蒸気が粘土成分と結合して，表面にガラス状の被膜をつくる。釉薬(ゆうやく)がわらの一種で，赤かっ色。吸水性は特に小さい。④釉薬がわら：成形乾燥ののち，うわぐすりをかけて焼成する。色は自由に得られ，吸水性は小さい。

形状からは，日本がわら(和がわら)と，洋がわらに分けられる。日本がわらは，使用目的によってさらに次のように分けられる。①平がわら：並平がわら・のしがわらなど。②丸がわら：横断面が半円形で平がわらとともに本がわらぶきに用いる。③軒先がわら：軒先用で棧唐草(さんからくさ)がわら・一文字がわらなど。④妻がわら：切り妻部分に用いられるかわらで，けらば棧がわらなど。⑤その他：棟(むね)の先端につける鬼がわら*，屋根の谷につける谷がわらなど。洋がわらにはわが国でよく用いられるフランス型，そのほかにスペイン型・イタリア型・S型などがある。➔タイル 〔難波蓮太郎〕

〔考古学上〕 歴史考古学の重要遺物の一。かわらの出土はしばしば古代建築遺構の位置やその創建時期を知る決定的な材料となり，その形状・意匠・文様などによって各時期における独自の発達を知ることができる。わが国には577年(敏達6)朝鮮半島から瓦工がはじめて来朝したことが伝えられ，飛鳥(あすか)時代には寺院に，次の白鳳(はくほう)期以降は宮殿，官衙(かんが)，貴族の邸宅にも盛んに使用されるようになった。鐙(あぶみ)

がわら・棰先(たるきさき)がわら・鴟尾(しび)・鬼がわらなど造瓦(ぞうが)の意匠を競い，蓮華文(れんげもん)・忍冬文・重弧文が施されて各時期の特色を発揮している。瓦窯(かわらがま)遺跡も各地で発見され，造瓦技術が地方に及んでいたことを反映し，中でも武蔵(むさし)（東京都）国分寺遺跡からはかわらを寄進した地方民の名や居住した郡名を記した文字瓦が多く出土している。最近の事例では1954年(昭和29)鴟尾の発見を端緒にして，文献上の難波*京(なにわきょう)が大阪市内の市街地にその遺跡の位置を確認され，発掘調査の運びとなった。〔高崎徳次〕

かわら【香春(町)】 福岡県田川郡の町。人口15,000。田川市の北東に接する。上代からの歴史をもつ古い町で，現在炭鉱は全部閉山したが，日本セメントの工場があるので，1970～1975年(昭和45～50)の人口の減少は2.6％にとどまり，旧炭鉱町としてはよい方である。西に，カルスト地形の奇峰で知られる香春岳(508 m)があり，石灰岩が採掘されている。

かわらきょう【瓦経】 屋根がわらと同じような平がわらに経文を書いたもの。かわらを焼くまえに，面に縦のけい線を引き，行間に経文を陰刻して焼きあげる。埋経の一種で経塚*(きょうづか)に埋納した。大きさは一定しないが，縦18～27cm，横7.5～29cmで，30cmを越えない。出土地は愛知県以西，北九州にわたるが，四国にはない。内容は《法華経(ほけきょう)》《無量寿経》《般若経(はんにゃきょう)》などが多く，両界曼荼羅(まんだら)や一字一塔，一字一仏のものもある。兵庫県極楽寺瓦経は特に名高い。〔玉山成元〕

かわらけつめい【河原決明】 双子葉植物・マメ科。ハマチャ・マメチャ・ネムチャともいう。川原や野原に多い一年草。茎は高さ30～60cm。葉は細かく羽状に分かれ，長さ8cm，夏～秋に葉のつけ根に黄色い小さな花をつける。茎や葉を陰干しにして，浜茶・豆茶・合歓(ねむ)茶などといい，茶の代用にする。

かわらざきちょうじゅうろう【河原崎長十郎】 (1902～　) 歌舞伎(かぶき)俳優。初世は9世市川団十郎*の前名で，現2世。本名虎之助(とらのすけ)。8世河原崎権之助の子。東京生まれ。1922年(大正11)より2世市川左団次*一座で修業。1925年には村山知義(ともよし)らと心座を創立して新劇運動にも参加した。1928年(昭和3)海外の演劇を視察，1931年，旧来の歌舞伎界に反旗をひるがえして中村翫右衛門*(かんえもん)らと前進座*を創立，指導的役割を果たしてきたが，1967年思想的な問題から劇団活動を離れた。〔西尾邦夫〕

かわらしょ【瓦書】 ⇨粘土版

かわらたけ 担子菌類・サルノコシカケ科。広葉樹の枯木上に群生する皮革のようにかたいきのこ。かさは通常半円形で幅2～5cm，厚みはなく1～2mmぐらいである。かさの上面は黒色・ねずみ色・かっ色などの同心円状の模様となる。

かわらでら【川原寺】 奈良県高市郡明日香(あすか)村川原にある真言宗豊山(ぶざん)派に属する寺。創建は天智(てんち)天皇の代と推定され，斉明(さいめい)天皇の飛鳥(あすか)川原宮の故地に建てられ，奈良時代以降は弘福(ぐふく)寺ともよばれた。伽藍(がらん)跡には大理石の金堂礎石や塔跡がみられ，近年の発掘調査によって，独特の伽藍配置をなすことが知られた。持国天・多聞天の2像(ともに重要文化財)は木彫で平安前期の作。

かわらばった【河原蝗虫】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・バッタ科。体長(翅端まで)25～45mm。全体灰かっ色ないし灰黒色。前胸背板の前半がくびれて細くなっている。前翅は著しく長く，多少青色をおびた灰色で黒っぽいまだらがある。後翅の基部は淡い青色，中央に暗黒色の横帯があり，外縁部は黄緑色。日本全土に分布し，川原などの砂礫地(されきち)に生活する。静止時は砂地の色によく似ていて発見しにくいが，飛翔(ひしょう)中はあざやかな後翅がよく目だつ。



カワラケツメイ

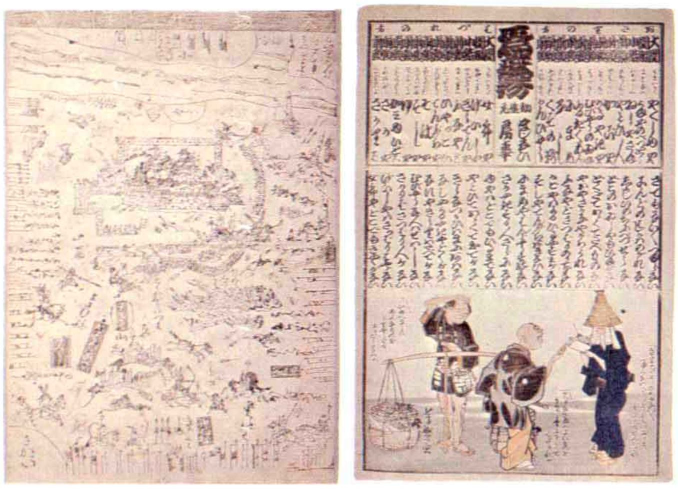
かわらばと【河原鳩】 鳥類・ハト科。ドバト・デンショバトなどの原種。色や大きさはドバトと同じく，青灰色で翼に2本の黒帯があり，後頸(こうけい)が光沢ある緑色である。南欧・北アフリカ・アジアに分布する。➔ハト

かわらばん【瓦版】 江戸時代の木版一枚摺(す)りの印刷物で，新聞のような役割を果たしたもの。瓦版の呼称はむしろ明治以降で，江戸時代には〈よみうり(読売)〉とよばれた。大道で売り子が大きな声をあげて事件の内容を説明して売ったことからその名がある。値段は中期に3文，後期は4文ぐらいであった。半紙大の紙面の半分以上は粗雑な版画で占め，天変・地変・あだ討ち・美挙などを不定期に報道した。現存する最古のものに1615年(元和1)の大阪落城を扱った京都発行の《大坂安部(あべ)之合戦之図》がある。〔安達淑子〕

かわらひわ【河原鶸】 鳥類・アトリ科。全長約14cm。緑かっ色で翼に大きな黄色のまだらがある。草の種子を主食とし村落周辺に主として生息する。東アジアに分布。日本では最も普通なヒワで，秋冬には群れをなしている。

かわらぶき【瓦葺】 かわらを用いて屋根をふくこと。かわら材料の組成から耐火性・耐久性・断熱性にすぐれるが，屋根に大きな荷重がかかる欠点がある。ふき方はかわらの形態，屋根勾配(こうばい)などによって異なるが，日本がわらを用いたものには引っ掛け桟(さん)を屋根面に打ちつけ，これにかわらを引っ掛けてふきあげる方法と，ふき土を用いてこれにかわらをすえ，土の粘着力で留めつける方法とがある。勾配の急な場合には針金ならびにくぎで下地に留めつけられる。日本がわらの場合にはさらにかわらの継ぎ目にしっくいを塗って風による飛散を防止する。〔神山幸弘〕

かわらまちどおり【河原町通り】 京都市の中心部をほぼ南北に走る街路。もと平安京の東郊を流れる鴨(かも)川の荒れた川原であったので，この名がある。江戸時代に三条大橋が東海道*の終点となってから市域内の幹線道路となり，1869年(明治2)にわが国最初の電車軌道が敷かれて以来，近代的市街地として発展した。京阪神(けいはんしん)急行電鉄や京阪電鉄のターミナルに近い四条河原町と三条河原町の間が最も繁華な通りで，常設のアーケードの下に，喫茶店・



瓦　版　(左)1615年5月8日，大阪夏の陣の光景を伝える最古の瓦版　(右)1858年5月ごろ発行された麻疹まじないの瓦版。紙の博物館蔵

レストラン・書店・雑貨店・映画館・銀行・デパートなどが立ち並ぶ。付近には新京極などの盛り場や祇園(ぎおん)・先斗(ぽんと)町などの花街(はなまち)があり，織田信長(のぶなが)が襲撃された本能寺などの史跡にも富む。三条から北の下鴨にかけては京都ホテル・市役所・立命館大学・府立病院・京都御所などがある。〔浅井得一〕

かわらまつば【川原松葉】双子葉植物・アカネ科。日あたりのよい草原にはえる多年草。茎は直立して高さ30～60cm。葉は線形で，同形に発達した托葉(たくよう)により8枚輪生しているように見える。夏，白色の小さい花をつける。

かわらゆおんせん【川原湯温泉】群馬県吾妻(あがつま)郡長野原町にある温泉。泉温62～71℃，泉質は含イオウ硫化水素泉で，胃腸病・リウマチにきくといわれる。関東耶馬溪(やばけい)といわれる吾妻溪谷のがけ上に位置し，背後に金花山を控えて自然美に富む。毎年1月20日に〈湯かけ祭〉の年中行事がある。長野原線川原湯駅からバスの便がある。

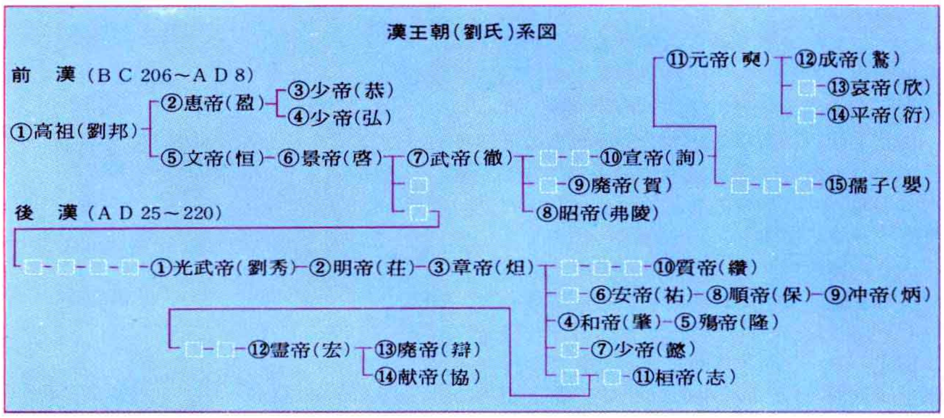
かわらよもぎ【河原艾】双子葉植物・キク科。川岸や海岸の砂地に多い多年草。高さ30～80cmで多くの枝を出す。葉は細く切れ込み，下部のものは緑白色。夏～秋に茎の上部の枝に下向きの黄色い頭花が穂状につく。花をつけた全草の干したものを茵陳蒿(いんちんこう)といい，漢方で消炎・利尿薬とする。

かわりずそ【変わり裾】あわせ・綿入れの長着のすそ回しが，表布と違った布をいう。無垢(むく)(表布と同布のすそ回し)に対していう。現今は黒五つ紋付き留めそでの正装以外は訪問着をはじめ，すべて変わりずそ。しかし表布と同色を使うことが多い。

かん【環】⇨群

かん【棺】遺骸を収める容器・箱の類。古くは〈ふね〉とよび，のち〈ひつぎ〉とよんだ。古代における棺の形式は種々雑多である。縄文(じょうもん)時代後期には，遺骸をかめやつぼに入れて埋葬する甕棺葬(かめかんそう)が発生し，末期から弥生(やよい)時代にかけては，4枚以上の板石を組み合わせた箱式棺*が認められる。石棺にはそのほか，割竹形・舟形・長持ち形・家形などがあり，くりぬき式のものと組み合わせ式のものもある。限定された地域に偏在するものでは，乾漆棺・陶棺などがあり，古墳時代末期にみられる。近代の棺の素材は，ほとんど木製品であり，遺骸の入れ方によって，座棺・寝棺などに大別される。〔渡辺欣雄〕

かん【寒】二十四気*の小寒(1月5日～20日ごろ)と大寒(1月20日～2月4日ごろ)とを合わせたおよそ30日間をいう。このころは一年のうちで最も気温の低い時期なので，古くから特別の季節として意識され，次のように〈寒〉のつくことばや風習が多数生まれた。寒(の)入り(小寒の季節にはいること。また，その日)・寒の内・寒月*・寒ツバキ・寒ゴイ・寒(の)水(飲めば健康を増進し，また醸造に適するという)・寒づくり(寒仕込みともいう)・寒(の)明け(大寒が終わって立春となること。また，その日，すなわち節分)，また，特にこの期間に行なわれる行事に，寒行*・寒参り*・寒げいこ・寒中水泳*(寒泳ともいう)などがある。



漢王朝(劉氏)系図

かん【貫】尺貫法の重さ(正しくは質量)の単位で，3.75kgをいう。古来用いられてきた貫は，あまり精密なものではなかったが，メートル法がはいってから，それによって古来の貫にだいたい等しくなるように，簡単な関係(4貫＝15kg)で貫を規定した。貫を基本として，次のように単位系が組み立てられている。

1貫＝1,000匁　1匁＝10分
1分＝10厘　1厘＝10毛
1斤＝160匁

かん【韓】中国古代の国名，戦国七雄の一。韓氏は，春秋時代には晋(しん)の国に仕え，六卿(りくけい)の一として実力をたくわえた。BC453年，趙(ちょう)・魏(ぎ)とともに晋を3分して独立し，河南省西部の黄河南岸の要地を領有し，平陽(山西省臨汾(りんぷん))に都を置きBC375年には鄭(てい)を滅ぼしてそこに移った(河南省新鄭)。昭公の時代には，申不害の策により国力を伸ばしたが，西方で強大化してきた秦(しん)との抗争のうちに国は傾き，公族の中に政治思想家韓非子*(かんぴし)が出たが，用いられることなく，BC230年，秦のために滅ぼされた。〔小南一郎〕

かん【漢】

1 中国の王朝名(BC206～AD220)。秦(しん)の滅後，楚(そ)の項羽*に漢中・巴蜀(はしょく)に閉じ込められた劉邦*(りゅうほう)はこの地で力をたくわえ，5年にわたる項羽との戦いののち，BC202年垓下(がいか)の戦い*に彼を破り，長安に都して漢朝を建てた。漢は前漢・後漢を合わせて約400年続くが，だいたい創業期(高祖～景帝)・全盛期(武帝～後漢和帝)・衰退期(殤帝(しょうてい)～献帝)に分けられる。

①創業期：高祖は，秦の失敗は，厳酷な法家政治と過度の中央集権にあると考え，また項羽との戦いに戦国時代の六国(りっこく)の旧豪族の援助を受けたことにより郡県制と封建制を併用し，寛大な政治を旨として民心の安定に努めた。しかし，晩年国家の基礎が定まると強大な異姓の諸侯を同族に変え，諸侯の勢力を削減して中央集権を強化しはじめた。彼の方針は文帝・景帝の時代にも受け継がれたので，諸侯は連合して呉楚七国の乱*を起こしたが失敗に終わり，政府は推恩令・酎金令(ちゅうきんれい)によって諸侯を細分・絶家さす一方，その領地は中央派遣の官吏で統治させ，諸侯は領地の租税で衣食する寄生的存在にしてしまった。この間平和が続いたので経済の発展が著しく，商人の経済力が土地経済を基盤とする国家経済をゆるがしはじめた。

②全盛期：このようなときに雄略大材の武帝*が即位した。彼は高祖が匈奴(きょうど)の冒頓単于*(ぼくとつぜんう)に敗れて以来，漢がつねに屈辱的な外交をしいられていたのを残念に思い，大月氏と同盟して匈奴を攻撃しようとして張騫*(ちょうけん)を使者に出した。この計画は実らなかったが，衛青*・霍去病*(かくきょへい)を将軍とし数度にわたって匈奴を破り漠北(ばくほく)に追い払った。この決戦で漢民族が以後の東アジアの主導権を握り，中華の天子が世界の天子となったといって過言でない。また経済面では農業生産力の向上を背景に，戦費調達を兼ねて，商人へ大増税を行ない，〈告緡(こくびん)の法〉で彼らを弾圧し，均輸法*・平準法*で経済統制を強化した。文化的にも董仲舒*(とうちゅうじょ)の献言を用いて儒教の官学化を行なうなど，武帝の施策には後世に大きな影響を与えたものが多く，武帝期は中国史の最重要時期の一つである。次の昭帝・宣帝期は内政充実期で，宣帝は地方官に人材を登用して善政をしいたので有名。しかし，そののち豪族の土地兼併，宦官*(かんがん)の台頭など社会に暗い影がさし，王莽*(おうもう)により王朝を奪われるに至った。王莽は新王朝を建てたが，すべて《周礼*(しゅらい)》に合致する政治を行なうとして時勢に合わず，塞外(さいがい)民族へのけいべつ的態度は異民族の反感を受け，国の内外は混乱し，反乱が相続いた。このとき漢の一族で豪族の支持を受けた光武帝*(劉秀

(りゅうしゅう))が天下を平定して洛陽*(らくよう)に都した。これが後漢である。彼は前漢の制度を復活し，もっぱら民治に留意したので以後明帝・章帝・和帝の間は国内が安定した。

③衰退期：和帝以後比較的幼少短命の天子が続いたため太后が政治に参画し，必然的に外戚(がいせき)が権力をもつようになった。竇憲(とうけん)・梁冀(りょうき)らがその代表である。その後桓帝(かんてい)が外戚を倒すため宦官の力を借りたので，宦官が代わって政治権力を握った。これに対抗する官僚(清流)は宦官と争ったが，これら政府批判派を弾圧する党錮(とうこ)の乱*が起こって有能官吏はほとんど追放された。こうした中央の混乱が地方政治の不安，人心の動揺をよび起こし，ついに黄巾(こうきん)の乱*を招いた。この乱は10余年で平定されたが，平定に功のあった軍閥は各地に割拠して争いをくり返し，その中からしだいに曹操*(そうそう)が頭角を現わし，子の曹丕*(そうひ)はついに漢の禅譲*を受けて魏(ぎ)王朝を建てた。なお1930～1931年にかけ内モンゴルの居延の地から多量の漢代の木簡が発見され，戦後この研究が進み，漢代の研究に大きな光明を与えられるようになった。〔米田賢次郎〕

2(三国) ➔蜀

3(五胡十六国) ➔前趙 ➔成漢

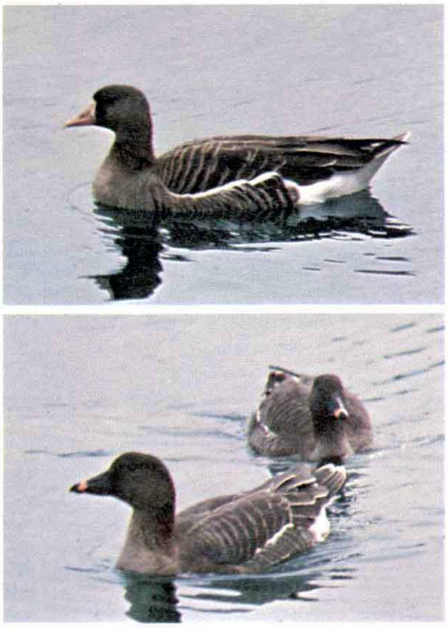
4(五代十国) ➔後漢 ➔北漢 ➔南漢 ➔前蜀

5(元末) ➔大漢国

カン ［Caen］ フランス北西部，ノルマンジー地方の商工業都市。イギリス海峡とは約14kmの運河で結ばれている。人口110,000(1968)。酪農品やブランデー・石材を輸出する。また周辺では鉄鉱石が採掘され，造船・機械などの工業も行なわれる。11世紀にはイングランド王となったウィリアム征服王の居城があった。ノルマンジーのアテネといわれる学芸の中心地。第2次世界大戦中，ドイツ軍の要塞(ようさい)があったため，連合軍のノルマンジー上陸作戦の際市街の大部分は破壊されたが，のち復興した。〔野間三郎〕

がん 【癌】 ⇨198ページ

がん 【雁】 鳥類・ガンカモ科。この科の分類は学者によって多少異なるが，一般にはガンカモ亜科(29種)・カモ亜科(146種)およびオーストラリア・タスマニア・ニュージーランドにのみ分布する1属1種のカササギガンの属する亜科の3亜科に分類される。さらに，ガンカモ亜科はガン族(14種)・ハクチョウ族(7種)およびウィスリングダックスあるいはツリーダックスといわれる類の属する1族(8種)に分類される。ガンとは上記のガン族の鳥の総称である。ガンカモ科の鳥で一般の人の目にとまるのは，ガン類・ハクチョウ類およびカモ類である。これらの分類学上の区別点は複雑なので，ここでは触れないが，見かけ上の簡単な区別点は，前2類はカモ類よりかなり大形な



ガン (上)マガン (下)ヒシクイ



カンアオイ 暗紫色の花弁様のものはがく片

ことであり，さらに，ハクチョウ類の特徴の一つは頭頸(とうけい)部長が胴体部長より長いことである。最近，動物園・公園などでよく飼育されているコクチョウはハクチョウ類であり，この鳥にもこの特徴はみられる。わが国には9種のガンが記録されているが，そのうち，最近渡来し越冬するものは，コクガン*・ヒシクイ*・マガン*が大部分である。コクガンはおもに青森県大湊(おおみなと)湾に，またマガンとヒシクイは全国でわずか5～6か所の湿田，取り入れの終わった水田，池湖，内湾などの保護区で越冬するにすぎない。ガン類は肉が美味なので昔から狩猟者にねらわれていることや，ワシタカ類に対する警戒性が強く，また群性なので，遠くまで見遠しのきく広い場所を生息地の条件として必要としている。しかし，近年人間の生活域の拡張により，このような地域は著しく減少しつつあり，ガン類の渡来数と渡来地はここ10年間に非常に減少している。古くは近江(おうみ)八景の一つの〈堅田の落雁〉としても知られ，われわれ日本人に親しまれてきたガン類がかぎ形になり，〈グワン，グワン〉と鳴きかわし渡っていくふぜいはもうなくなってしまった。〔安部直哉〕

ガン ［Gand］ ベルギー北西部，スヘルデ川とリース川の合流点にある河港都市。ヘントともいう。人口14万8,000(1971)。アンベルスに次ぐこの国第2の港で，運河で外海と連絡する。市街は橋で結ばれた26の島からなる。13世紀以来，綿・リネン・ジュートなどの織物工業と，花とその種子の取引が有名である。7世紀に起源をもつ古い都市で，12世紀のフランドル伯の居城など歴史的建造物も多い。1816年創立の大学がある。〔梶川勇作〕

がん 【雁】 森鷗外*(おうがい)の長編小説。1911～1913年(明治44～大正2)《スバル*》に連載された。高利貸しの妾(めかけ)お玉が医大生岡田を知り強い恋心をいだくが，ある偶然によってそれが実らずにこわれるという筋で，明治10年代の女性の悲しさがみごとに浮き彫りされている。緊密な構成と，お玉の心理の変化のすぐれた描写などによって，完成された芸術作品となっており，鷗外の中期を代表する作品の一。

かんあおい 【寒葵】 双子葉植物・ウマノスズクサ科。本州中部と関東地方の山地の林の下にはえる多年草。全体にかおりがあり，根茎は節が多く地中をはい暗紫色。茎は短く，1本の枝に一つの葉と一つの花をつける。葉は卵円形で基部は心臓形，濃緑色で雲状の模様のあるものが多く，冬でも枯れずに緑色を保つ。秋から冬にかけて，花びらのないつぼ状の暗紫色をした花をつける。同じ仲間にウスバサイシン・フタバアオイなどがある。

かんあく 【韓偓】 (844～923) 中国，唐の詩人。唐末の動乱の時代に節操を守る生き方をしたが，詩では閨房(けいぼう)の女人の姿態や恋情をもっぱらうたった。詩集《香奩集(こうれんしゅう)》がある。なお，これにちなんで，そういう艶体(えんたい)の詩を香奩体という。

がんあつ 【眼圧】 ⇨眼内圧

かんあつし 【感圧紙】 ①感圧複写紙：筆記またはタイプの際に加わる圧力を利用して複写をとる紙。厳密には裏カーボン紙も含まれるが，最近ではノーカーボン紙のみをさすことが多い。ノーカーボン紙は上下2枚の紙の組み合わせによって複写が行なわれる。筆記またはタイプすると，加圧によって上の紙の裏面に塗られたカプセルがこわれて，中に含まれている発色性色素が下の紙に転移し，下の紙の表面に塗られた粘土鉱物と化学変化を起こして発色する。②感圧接着紙：感圧接着剤を塗布した紙で，室温でも圧力を加えるだけで接着できる。便利なため，最近では種々の紙製品に応用されている。接着剤としては，天然ゴムラテックス・アクリル系エマルジョンなどを使用。〔角祐一郎〕

かんあみ 【観阿弥】 (1333～1384) 能役者・能作者。観世流初代の大夫。幼名，観世丸(みよまる)。実名，清次(きよつぐ)。生国の

伊賀(いが)(三重県)で座を結成，大和(やまと)(奈良県)の結崎(ゆうざき)へ移って〈結崎座〉と称し，大和猿楽(さるがく)の一座として興福寺や春日(かすが)大社に奉仕しながら近畿(きんき)地方で活躍した。従来からあった猿楽の物まね中心の演技に田楽などの優美な歌舞的要素を加え，音楽的な面では，メロディー本位だった小歌節に曲舞(くせまい)のリズムのおもしろさを取り入れて，時流に合った芸風をつくりあげた。技量も抜群で，貴賤都鄙(きせんとひ)を問わず見物を魅了する，大器の名人であった。1374年(文中3・応安7)，京都東山の新熊野(しんくまの)神社での演能で，むすこの世阿弥*(ぜあみ)とともに将軍足利義満(あしかがよしみつ)の注目をひき，以後その庇護(ひご)のもとに大和猿楽を他の芸能団体を圧する地位に引き上げた。作能にも《自然居士(じねんこじ)》《卒都婆小町*(そとばこまち)》《求塚(もとめづか)》その他があるが，躍動的な筋の展開や機知にあふれた会話などには，能楽創成期の活気が感じられる。世阿弥の《風姿花伝*》は観阿弥の遺訓を中心にまとめられたものである。〔小林　責〕

かんいかさいほけん　【簡易火災保険】 わが国独自の火災保険*で，普通の火災保険の保険料の約2倍を12分して月掛けで徴収し，満期日に保険料の半額を返還する火災保険。これと似た内容のものに月掛け火災保険がある。これらの保険は，勤労者を主たる対象とした庶民性の強いもので，保険料を払いやすくしたところに特色があるが，集金費や事務費が高くつくところに難点がある。

かんいさいばんしょ　【簡易裁判所】 裁判所法(1947年施行)の定める下級裁判所*のうちの最下位の裁判所。全国で約570か所設置されている。簡易裁判所の権限は，①民事訴訟では訴額30万円を越えない請求事件の第1審の裁判権。②刑事訴訟では罰金*以下の刑にあたる罪を原則として扱い，例外的に選択刑として罰金が定められている賭博罪*(とばくざい)・窃盗罪*・同未遂罪・横領罪*などについての第1審の裁判権(ただし，3年以上の懲役を科することはできない)。③その他特に法律で定められた手続き，たとえば民事調停手続き・和解手続き・督促手続き・公示催告手続き・略式手続きなどを行なう権限である。〔野口恵三〕

かんいじゅうにかい　【冠位十二階】 603年(推古11)に聖徳太子*によって制定された日本最初の冠位制度。徳・仁・礼・信・義・智(ち)という儒教の徳目を名とする冠を大小に分け計12階としたもので，それぞれ冠の色によって順位が決められていた。姓*(かばね)が氏*(うじ)の尊卑を表わして世襲されたのに対し，冠位は個人の業績・才能に応じ一代限りに与えられた。これは従来の姓による門閥的身分秩序を，官僚制的に再編成するためであった。推古朝に創設されたこの制度は官僚制国家形成の上で画期的意義をもち，以後数回の改訂を経ながら基本的に踏襲され，律令(りつりょう)制*では冠をやめ，位階*制度に発展した。〔柳雄太郎〕

かんいしゅくはくじょ　【簡易宿泊所】 素泊まり相べやの簡易宿所。俗に〈どや〉ともよばれる。形式的には旅館業法の規定を受け，一般旅館より設備基準の低い多人数共用の安直な簡易旅館として存在しているが，実質的には主として単身労務者専用の滞在下宿に変質し，宿所としての機能よりも，一時滞在の居所または生活の本拠を置く住所としての機能を多く果たしている。ときにはまた生活の場所としてよりも，仕事の場所として，種々の反社会的な活動に利用されている。大都市周辺推移帯地域に多くみられ，東京の山谷*(さんや)，大阪の釜ケ崎*(かまがさき)は，わが国〈どや街〉の典型となっている。〔広瀬卓爾〕

かんいすいどう　【簡易水道】 現行の水道法において，給水人口が5,000人以下である水道*。給水人口が100人を越える簡易水道には水道法が適用される。水道法の施行(1957)前の1952年(昭和27)以来，厚生省において，簡易水道事業新設補助の予算措置，および1953年に厚生省令をもって簡易水道布設助成規則が制定され，給水人口5,000人以下の水道の新設に対し，その費用の一部を補助してきた。このような小規模水道では，技術面・財政面その他の関係から，水道の維持管理に高度の技術を必要とする複雑な施設はできるだけ避け，井水・湧水(ゆうすい)などの比較的清浄な水を原水とするように指導されてきた。そのために，簡易水道の名がつけられ，水道法でもそのままの名称が踏襲されて，今日に至っている。➔水道〔武田登作〕

かんいせいめいほけん　【簡易生命保険】 郵政省が営利を目的としないで経営する生命保険*。1916年(大正5)10月創始。契約の申し込み，保険料の払い込み，その他の手続きが簡便で，国民のだれでも加入することができる。特色として，①取り扱い機関(郵便局)が全国的であること，②すべて専門医の診査を行なわず，無診査で加入できること，③保険料は月掛けであること，④保険金最高額が制限されていること，⑤加入者保護の規定が各種設けられていること，⑥加入者の健康の保持および福祉向上のための施設が全国各地に設けられていること，などである。しかし，第2次世界大戦後民営保険が，簡易保険と同じように，月掛け・無診査・集金制の小額契約の分野に進出してきたことにより，独占形態は破れ，競合関係にあるといえる。簡易生命保険が普及するにつれて，順調な伸びを示し，1969年(昭和44)5月には契約保険金額は7兆円を突破している。保険種類および保険金額は，創業以来，幾たびか改められているが，現在の保険の種類は，保険期間と保険料払い込み期間とを組み合わせて終身保険が2種類，養老保険が6種類，家族保険が2種類，特別養老保険が2種類の合計12種類となっており，保険金の最高制限額は200万円となっている。1969年9月からは，不慮の傷害事故が激増していることから，終身保険・養老保険の契約者には傷害特約ができる制度が生まれた。簡易生命保険は，郵便年金*とともに，その積立金は，確実・有利な運用を図ることとしているが，公共の利益，地方還元を重視して，住宅・交通・道路・教育施設・災害復旧・中小企業振興など，国民生活の向上に直結した方面に融資されており，その果たす役割は大きい。〔高橋譲二〕

かんいたいかこうぞう　【簡易耐火構造】 都市の不燃化を促進するために防火構造よりも防火性能が高く，かつ耐火構造よりは建築費が安い建物ということで定められた構造。防火性能からいえば，防火構造と耐火構造の中間に位し，外壁を耐火構造としたものと，柱・梁(はり)などの主要構造部を不燃材料でつくったものとの2種類がある。両者とも火災に際し，他に災いの及ぶことが少ない構造である。

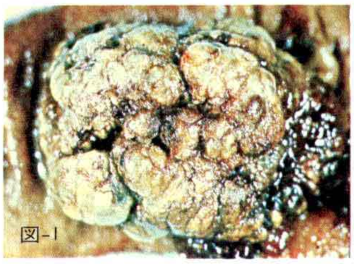
かんいむせん　【簡易無線】 短距離間の通信を目的とした小規模の移動無線。すなわち，商店・工事現場・工場または一般市民が利用する通信である。周波数帯としては，27メガヘルツ(MHz)帯・150MHz帯・400MHz帯および467MHzが割り当てられている。電波の形式は，振幅変調および周波数変調が許されており，出力は周波数によって異なるが，3～5W以下である。無線機はトランジスター式の携帯形であり，押しボタンにより送受の切り換えを行なう。トランシーバという名で市販されており，検定品であれば申請手続きが簡単で，使用者に特別の資格を必要としない。〔内山明彦〕

かんいんのみや　【閑院宮】 江戸時代，伏見(ふしみ)・有栖川(ありすがわ)・桂(かつら)(八条・京極)とともに，四親王家の一。1710年(宝永7)創立。6代将軍徳川家宣(いえのぶ)への新井白石*(あらいはくせき)の献策によって創立された。東山天皇の第8皇子直仁(なおひと)親王を始祖とする。第2代典仁(すけひと)親王の子兼仁親王が皇統を継いで光格天皇となり，父典仁親王に太上(だじょう)天皇の号を贈ろうとして，いわゆる尊号事件*を起こした。宮家は第3代美仁(はるひと)，第4代孝仁(たつひと)と続き，第5代愛仁(なるひと)親王になって継嗣がなく一時断絶したが，1872年(明治5)伏見宮から載仁(ことひと)親王がはいって再興した。1947年(昭和22)皇室典範*改正により皇族から離脱した。〔松尾　涼〕

かんう　【関羽】 中国，三国時代の蜀(しょく)(漢)の武将。河東，解(山西省運城県)の人。劉備*(りゅうび)の人がらに服して張飛とともにこれに従い，魏(ぎ)の曹操(そうそう)，呉の孫権と戦ってよく劣勢の蜀の地位を保った。219年，魏・呉両軍に挟撃(きょうげき)され

➔201ページ

癌



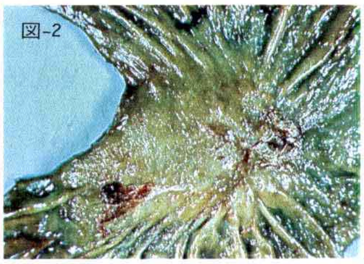


図-1　進行性胃癌
図-2　早期胃癌

癌は悪性腫瘍(しゅよう)ともよばれる。腫瘍は〈生体細胞の自律的な過剰増殖〉と定義されている。腫瘍はその発生した生体自体に由来する細胞からなり，その発生した生体細胞の形態と機能をある程度保持している。すなわち，発生した臓器の特異性をある程度保持しているわけである。その保持力の大きい場合は，一般に腫瘍細胞には異型度が少なく，その機能が低い程度で，増殖性は高くない。したがって生体に及ぼす影響は少ない。このような腫瘍は一般に良性腫瘍といわれ，限局して存在する。これに対して，腫瘍細胞の異型度が強く，どのような組織から発生したのか判定に困難を感じるような場合にはその増殖力は強く，生体に与える影響がはなはだ大きくて，腫瘍細胞は局所に限局せずいろいろの臓器に飛び火する。このような腫瘍は悪性腫瘍すなわち癌とよばれる。癌はその発生母地によって癌腫(上皮性腫瘍で，胃・腸・肺・子宮などから発生したもの)と肉腫(非上皮性腫瘍で，骨・筋肉などから発生したもの)に大別される。癌の増殖は生体の生物学的条件に支配されることが少なく，腫瘍自身の独自の代謝によって行なわれる。正常細胞の増殖は生体の支配下にあり，その目的が終われば正常の状態にもどるが，癌化した細胞(癌細胞)は生体の支配下を逸脱して分裂増殖し，局所に集積して巨大な腫瘤(しゅりゅう)をつくる。その増殖は正常細胞にもどることなく，無限・無秩序かつ進行性に行なわれ，生体が死ぬまでとどまることがない。

〔性質〕 癌は一般に次のような性質をもつと考えられている。①こぶ・はれもののようなしこりをつくる。②しこりから出血しやすい。③貧血が起こる。④しこりのためにその場所の通過が悪くなる。⑤飛び火(転移)する。⑥なおったように思えても再発しやすい。⑦しこりから毒素が出て身体が弱る。しこりには，肉眼的なものから顕微鏡的なもの(肉眼では判定しにくい小さいもの，あるいは癌細胞の集団)まであることが現在では判明している。肉眼ではわかりにくいような小さな癌(早期癌)は，放射線や内視鏡検査の進歩に加え，細胞診や組織診断といわれる顕微鏡を使用した検査法によってはじめて判明する。図-1はさわってしこりとして認められるまでに進行して切除された胃癌(進行性胃癌)，図-2は肉眼的には単なる小潰瘍(しょうかいよう)あるいは糜爛(びらん)としか認められないが，顕微鏡的に癌と診断されて切除された胃癌であり，両者の間に大きな差異がみられる。この違いは予後にも関連し，図-1のような場合では手術がたとえ成功しても，5年後に生き残る人(5年生存率)は30％内外であるが，図-2のような場合ではほとんどの人が5年以上生存する。この結果から，癌の早期発見がいかに重要であるかが知れよう。早期癌の診断法は，わが国ではたいそう進歩しており，特に胃癌の診断法は世界一と考えられる。しかし，早期癌には貧血・狭窄(きょうさく)症状・悪液質などの癌による特有な症状が現われないことが多い。このため，早期癌は単なる胃潰瘍・胃炎と考えて病院に来た人や，職場での集団検診を受けた人の中から見つかることが多い。したがって，少なくとも40歳以上の者はあらゆる機会を利用して診断を受けることがたいせつで，これが癌から身を守ることになる。昔から癌をなおす機会はただ一度だけあるといわれるが，それは早期に癌が発見され，手術された場合にのみ可能であるという意味である。

癌細胞が増殖し巨大なしこりとなると，生体からの栄養物補給が不十分となり，自壊して出血を起こし，その結果貧血が起こる。また，食道・胃・腸・気管支など管腔(かんこう)をつくっている臓器では，その管の中が腫瘍に占拠され，その場所の通過が悪くなる。このための種々の症状が起こるが，腫瘍を取り除くことによって多くは回復する。しかし，癌が悪性といわれるのは，癌細胞が発生した場所(原発巣)のみにとどまらずに他の場所に飛び火することにある。つまり，癌細胞は自律的にどんどん増殖し，その周辺組織にもはいりこみ，やがて血管やリンパ管の中にもはいりこんでいき，その中を流れて他の臓器に移り変わる。そしてその場所で再び増殖をして大きくなり(転移巣)，しこりをつくる。これが転移である。転移は多くの場合，数か所あるいは数十か所に同時に起こることが多く，手のほどこしようがない場合がある。

〔発生と原因〕 癌がいかなる経過をとって発生し，癌として認められるようになるか，またその成立にはいかなる原因が関係しているかはいまだはっきりわかっていない。しかし，昔から癌の発生には，生体あるいは細胞自身に内在する先天性・後天性の内因と，胎生期あるいはそれ以後に生体外から付加される外因とが考えられている。

〈内因〉 ①腫瘍素因：癌の種類や発生頻度(ひんど)は人種・性・年齢・臓器などで違う。その原因はいまだ明らかでないが，胎生期の組織の一部が他組織内に迷入し，これがなんらかの誘因によって癌となるという迷芽説が，ドイツのコーンハイムによって唱えられた。②遺伝的素因：家族的に一定の癌が多発する家系があり，これを遺伝に求める考え方がある。たとえばナポレオン1世，その父，妹2名，弟2名が胃癌で死んでいることは有名な事実である。

動物界にも種々の癌が発生し，人癌と比較対照されている。たとえば，モルモット・ウサギでは自然発癌は少ないが，ウサギでは特殊な腫瘍が発生する。ハツカネズミ・シロネズミでは種々の腫瘍が自然発生し，人工的にも発生させることができる。鳥類，特にニワトリでは，家鶏白血病・家鶏肉腫などの発生が認められ，その原因はウイルスに帰せられている。これらの動物のうち，特にハツカネズミを用いて癌の遺伝に関する問題が研究されている。ハツカネズミには遺伝的に乳癌・肺癌・白血病などの発生率の高い純系*があり，これは遺伝によると考えられていた。しかし，ハツカネズミの乳癌の発生には，遺伝因子のほかにホルモンの影響や，母乳を介して伝達される乳因子(ウイルス)が関与することがわかり，また，白血病では新生児期におけるウイルス感染が主要な意義を有することが見いだされている。これらの結果から動物癌の遺伝因子は，一定の発癌ウイルスが一定の動物に感染したときに癌化に対して重要な役割を果たすと考えられている。しかし，ウイルスが遺伝因子自身に直接働きかけて癌を生じさせるかどうかは不明である。

〈外因〉 フィルヒョー*は癌の発生に関係する因子(発癌因子)をある種の刺激と考え，その刺激によって正常細胞が癌化し，無限・無秩序の増殖を営むようになるという刺激説を唱えた。この説はコーンハイムの迷芽説と古くから対立をみせている。発癌因子となりうるものは多いが，現在では化学物質とウイルスが最も重要な因子としてあげられている。しかし，これらのものによる発癌が人癌の発生とどんな関係をもつのかは，目下のところまったく不明である。①化学物質による発癌：実験的に発癌性の明らかにされている物質は，現在400以上に達している。これらの発癌物質の研究の発端となったのは，わが国の山極(やまぎわ)勝三郎と市川厚一の功績に負うところが大きい。

すなわち，ウサギの耳殻(じかく)内面にコールタールを週2回塗布し続け，1～3か月後に毛嚢(もうのう)上皮腫・乳頭腫という良性腫瘍をつくり，さらに塗布し続けて，6か月後には潰瘍を伴い耳根部のリンパ節に転移を生ずる癌をつくった。この実験は，化学物質によって人工的に癌をつくった世界最初のものである。現在では発癌に関与する化学物質は次のように整理されている。㋑多環性芳香族炭化水素：1,2,5,6-ジベンズアントラセン・3,4-ベンズピレン・コラントレン・3-メチルコラントレン・9,10-ジメチル-1,2-ベンズアントラセンなどに発癌性が認められる。これらの物質による発癌は，塗布部位や注射部位などの作用部位に認められる。㋺アゾ化合物：o-アミドアゾトルエン(AAT)・p-ジメチルアミノアゾベンゼン(DAB，バターイエロー)などをシロネズミに長期間投与すると，肝癌・胆管癌ができる。これは，これらのアゾ色素がシロネズミの肝細胞の一定のタンパク質と特異的に結合してアゾタンパクとなり，発癌の原因となると考えられている。すなわち，アゾ化合物の蓄積部位や代謝部位に癌ができる。㋩その他：芳香族アミン・o-ニトロキノリン-1-オキサイドなどに強い発癌性がみられている。前者は膀胱癌(ぼうこうがん)の発生に関係ある物質として，後者はイヌ・シロネズミなどに投与すると胃癌をつくる物質として，最近特に注目されている。②ホルモン性発癌因子：癌，特に性器に発生する癌はホルモンと一定の関係を有する(ホルモン依存性)。たとえば，女性ホルモン(エストロゲン)や合成ホルモン(スチルベステロール)をハツカネズミに与えると乳癌ができ，男性ホルモン(プロゲステロン・テストステロン)には逆に癌の増殖をおさえる作用がある。そのほか，前立腺癌(ぜんりつせんがん)の発生とアンドロゲン量，白血病の発生と胸腺・副腎(ふくじん)皮質機能の間には，一定の関係が認められている。③物理的発癌因子：放射線の照射によって発癌することがあり，放射線の長期使用によって医師・放射線技師・患者の皮膚に発癌することがある。また，歯(特にむし歯)が舌を刺激する部位に舌癌，パイプをくわえる部位に口唇癌(こうしんがん)など，物理的因子の長期作用と発癌との間に一定の関係があるとする論文があるが，実験的な根拠はない。④職業による発癌：特殊な環境に長く住むこと，あるいは特殊な職業に長く従事することなどによって，一定の癌が発生することがあり，それぞれ環境癌・職業癌といわれている。これには皮膚癌・肺癌・尿路癌・白血病などが含まれている。⑤ウイルスと癌：ウイルスによる癌の発生は，実験的には一部の癌において動かしがたい事実となっている。前述したように，ニワトリの肉腫・白血病，ウサギの乳頭腫，ハツカネズミの白血病など，10種を越える動物癌がウイルスによって発生することが証明されている。しかし，人癌ではその原因を直接ウイルス感染に求めうる成績はまだ得られていない。また，動物においては電子顕微鏡的にウイルス粒子が腫瘍組織やその濾液(ろえき)から証明されているが，人癌ではまだ確実な証明はない。しかしながらいろいろな方法により，人癌のウイルス発生説は乳頭腫・リンパ腫・白血病などにおいて，その確実性を増してきている。特に，アフリカの小児にみられ，上顎部(じょうがくぶ)に巨大なリンパ腫をつくるバーキットリンパ腫の発生は，ハマダラカなどの分布に一致し，こん虫媒介による流行性のウイルス性疾患と考えられている。この腫瘍細胞中からは電子顕微鏡によるウイルス粒子は直接証明されていないが，腫瘍組織を長く培養すると，その培養細胞の核や細胞質内，細胞外にウイルス粒子が証明されている。⑥その他：ビタミン(特にビタミンA・ビタミンDなどの脂溶性ビタミン)と発癌の関係，炎症(特になおりにくい皮膚の火傷)や放射線の火傷からの発生，慢性胃炎や胃潰瘍からの胃癌の発生などが考慮されている。

このように，発癌における化学物質・ウイルス感染などの影響が動物実験を通じてしだいに明らかにされてきたが，これらが正常細胞を癌に変化させる機序はいまだ明らかでない。

〔診断〕 癌の診断も一般の病気の診断とまったく同様の手段で行なわれる。ただ，癌ということを頭の中において，すべての所見を解析する点が異なるだけである。以下，簡単に癌の診断とその進歩について述べる。

《視診・触診》 目で見たり，手で触れたりして診断する方法をそれぞれ視診・触診といい，皮膚・口腔・乳房・睾丸(こうがん)などの癌の確認に利用される。

《X線診断》 古くから胃・腸・肺・骨など，ほとんどすべての癌の診断は放射線を中心に行なわれてきた。その方法は，胸部X線写真にみられるように，血液と空気とではX線の影の与え方が異なるためその差を利用し，さらに積極的にX線に対して濃い影を与える物質を利用して，影の形を中心に癌を診断する方法がいろいろくふうされている。これは，胃・腸・肺・気管支・胆嚢・胆管・腎臓・尿管・膀胱・尿道などの癌の診断に大いに活躍している。また，目的とするいろいろの部分を選択的にうつす方法や，血管・リンパ管を撮影する方法によって，管を診断することができる。

《内視鏡的検査》 昔から，子宮の入り口，直腸の内側，喉頭(こうとう)や膀胱などは内視鏡(鏡を用いて直接に目で見る方法)検査の対象になってきたが，最近は胃カメラ*や気管支鏡を中心とする器機の進歩によって，この方面の検査法が大いに進歩した。特に屈曲自在のファイバースコープ*がくふうされたため，今日では胃・肺だけでなく，体の中のほとんどすべての管腔を有する器官内部が見られるようになり，さらに疑わしい場所の組織の小片をつまみ取ったりこすり取ったりして顕微鏡で検査することができるようになって，以前では想像もつかないような小さい癌の診断が可能となった。

《組織学的診断》 X線や内視鏡などで認められた病変が，確実に癌であるかどうかを決定することが困難な場合は，顕微鏡による検査が必要である。体表に病変がある場合には，その一部分をつまみ取って検査する。口腔・子宮入り口部・喉頭・直腸では，比較的以前からこの検査が行なわれてきたが，最近では胃・食道はもちろん，結腸・肺・膀胱などの検査が可能となった，

《細胞学的診断》 尿・唾液(だえき)・胃液・膵液(すいえき)・乳房の分泌物などの排出液や分泌物を利用して，その中から癌細胞を顕微鏡で見つける診断法であり，アメリカのパパニコローが，子宮癌の診断に子宮の分泌物を検査することにより大きな成果をあげてから，大いに活用されるようになった。現在では内視鏡の利用によって疑わしい場所から直接に擦過物や穿刺液(せんしえき)をとり，それを検査し癌の診断に役だてている。

《放射性同位元素の利用》 癌の診断に用いられる放射性同位元素には，診断部位によって次のようなものがある。①脳：RISA(radioiodinated human serum albumineの略)・^{99m}Tc・^{203}Hg-ネオヒドリン，②唾液腺：Na^{131}I・^{99m}Tc，③甲状腺：Na^{131}I，④肺：^{131}I-MAA(macroaggregated albumineの略)，⑤肝臓：^{198}Auコロイド・^{131}I標識ローズベンガル，⑥脾臓(ひぞう)：^{197,203}HgMHP(1-mercury-2-hydroxy proteinの略)・^{197,203}HgBMHP(bromo-1-mercury-2-hydroxy proteinの略)・Cr標識赤血球・^{75}Se-メチオニン，⑦骨：^{85}Sr，など。これらの放射性物質の多くは，それぞれの臓器の代謝に関係する物質で，その臓器の正常部位に集まる傾向があり，癌ができるとその部位には集まらずに，その部位が抜けて見えるようになる。このような欠損像を目標に診断を行なうわけである。しかし，この方式では欠損像がかなり大きくならないと正常部位との鑑別がむずかしい場合があるので，積極的に癌病巣に集まる物質が研究されている。これが成功すると，診断が確実になるばかりではなく，治療がたいそうしやすくなると考えられる。

《生化学的診断法》 癌ができると，正常組織にみられないような物質代謝が行なわれ，その結果特別の物質が体液中に出てくると考えられ，この物質を測定することによっ

て癌を診断することが試みられている。昔から，このような診断法は癌の生物学的反応診断法として取り上げられ，多くの癌に特異的に出現すると考えられる物質が研究されてきたが，多くは癌の場合以外にも陽性を示すので成功しなかった。しかし最近になって，肝癌の場合にはα_1-フェトグロブリン（胎児性のα-グロブリン）が特別に証明されることが確実視されるようになり，その診断的意義が見なおされた。このような診断法の進歩は，今後大いに期待される。

〔治療〕 癌の治療は，①外科療法，②放射線療法，③化学療法，④ホルモン療法，⑤免疫療法に大別されるが，③④⑤をまとめて薬物療法ということがある。前の国立がんセンター総長の久留勝(まさる)は〈癌がなおらない場合がある。それは診断が遅れた場合である〉と言ったが，これは〈癌がなおる場合がある。それは診断がまちがった場合である〉という古くからある皮肉なことばに対し，外科的な立場から言ったことばである。このことばにも含まれているように，癌治療に携わる者にとって，癌患者に〈あなたはもうだいじょうぶです〉と言うことは非常にむずかしい。これは，癌がほんとうに治癒(ちゆ)したと学問的にいうのには，手術あるいはその他の治療後に少なくとも5年間の観察が必要で，この間に再発がなく元気に働いているような場合に，はじめて治癒したといえるからである。

〈手術的療法〉 癌の最初の治療は外科的療法である。最近は手術法の改良，麻酔法の発達，手術後の特別な強化看護などの徹底によって，手術による危険は非常に減少した。また，手術可能の場所も拡大され，頭の中の癌から，肺・食道・肝臓の一部など，ほとんど全身にわたって危険なしに手術できるようになった。したがって早期に診断が確定した場合には，治癒の可能性はきわめて大きい。たとえば胃癌において，病変が粘膜面に限局している場合，手術後の5年生存率は95％を越えるが，その他の胃癌の場合は30％前後に減少する。すなわち，手術がうまく行なわれても，目に見えないような癌細胞がどこかに残り，それが原因となって再発する。乳癌手術30年後に再発した人もあり，いかに癌の治癒判定がむずかしいかわかる。しかし，診断が早ければ5年生存率は95％以上となるので，早期診断・早期治療が強調される。

〈放射線療法〉 外科的療法を助け，その効果を確実にするための方法や，さらにすぐれた治療法がいろいろ考えられているが，放射線療法はその一つである。たとえば，乳癌の手術後，その所属リンパ節のある腋窩(えきか)リンパ節部に放射線を照射することがしばしば行なわれる。これは，手術によって除去できない癌細胞を殺すために予防的に行なわれるものである。しかし，食道癌・子宮癌の早期では，手術にたよらず放射線療法だけで治療することがあるが，その治癒率は手術によるものとほぼ同じくらいである。また，喉頭癌のように手術によって発声機能が失われるような場合などには，放射線療法が手術に優先する場合がある。さらにリンパ節の腫瘍（悪性リンパ腫）で，病巣が一つのリンパ節にのみ限局している場合にも行なわれる。このように放射線療法の対象になる疾患の多くは，手術と同様に病巣が限局している場合である。レントゲンが1890年にＸ線を発見，キュリーが1899年にラジウムを発見し，まもなくこれらの放射能が癌細胞の発育を妨げることがわかった。以来，放射線療法やラジウム療法は癌治療に大きな役割を果たしてきたが，最近では照射線源として，コバルト60（α線）・ベータートロン（β線）・リニヤ-アクセレレーター（線型加速器）（電子線）のようなものが利用され，短時間に十分な照射が行なわれるようになった。また，照射線量の測定の進歩や照射法にも新しい知見が出て，効果が大きく，副作用がより少ない照射が行なわれている。将来はこの分野に中性子やプロトンが加わり，癌治療に貢献すると考えられる。また，甲状腺のように，ヨウ素をよく摂取する部位の癌には放射性同位元素^{131}Iが，慢性白血病や多血症には^{32}Pが，体腔液・組織内・リンパ管内・動脈内などには$^{65}ZnSO_4$・^{198}Au・$^{90}YCl_3$・^{51}Crなどの金属コロイドがそれぞれ適用され，転移癌の治療に応用されている。

〈化学療法〉 手術療法・放射線療法は，癌が一定の場所に限局する間は効果が大きい。しかし，白血病や骨髄腫などの造血器の癌，全身のリンパ節が同時に腫脹(しゅちょう)する悪性リンパ腫など，はじめから多くの場所から同時に発生する癌には無効である。このような場合に化学療法が行なわれる。いままでに癌に有効といわれる約15万の物質が，試験管内実験や動物実験を通して検討されてきたが，実際に臨床に応用された制癌物質は約30種類である。これらは大きく，①アルキル化剤，②代謝拮抗(きっこう)物質，③ホルモン製剤，④抗腫瘍性抗生物質，⑤細胞分裂毒，⑥酵素製剤，⑦細菌製剤，⑧その他に分類されている。これらの物質は血中や病巣で，放射線と同様に分裂の盛んな癌細胞の代謝径路を阻害し，これを殺す。主として白血病を中心に発展してきた化学療法は，最近ではその適用範囲が広くなり，手術や放射線療法で手の届かない転移を有する癌，あるいは再発癌に盛んに用いられるようになった。さらに手術療法・放射線療法と併用して，再発予防や手術・放射線の効果を高めるために用いられる。これらの薬は単独で用いるよりも，併用して，しかも間欠的に使用すると効果が大きく，副作用が少ないことが現在ではわかっている。現在試験中の多くの薬物の中には，特殊な癌に特別によくきくものもあり，将来は癌治療の大きな柱の一つになると思われる。また，発癌と制癌は表裏の関係にあるので，今後発癌の機構の研究が進んでくれば，よりよい制癌剤が見いだされる可能性がある。

〈ホルモン療法〉 癌の中にはホルモンに関係する癌，すなわちホルモン依存性の癌があり，ある種のホルモンは特定の癌に特に効果がある。その最もよい例は前立腺癌に対する女性ホルモンである。また，女性の乳癌は女性ホルモン産生の場所である卵巣の除去，あるいは卵巣以外の産生場所である副腎や下垂体をあわせて除去すると，癌の発育が著しく抑制される。一般に女性ホルモンと男性ホルモンは強く拮抗(きっこう)する力をもっている。このような立場から，それぞれのホルモンに対するより強い拮抗剤の研究が進んでいる。この治療法の進歩は，将来ある特定の癌に対して威力を発揮すると考えられている。

〈免疫療法〉 癌に対して生体は固有の抵抗をもっていると考えられており，これを増強して癌を治療しようとする試みがなされている。また，癌細胞の生体に対する抗原性を増して生体に癌細胞を認識させ，抵抗を強めようとする試みもなされている。このような治療法は最も望ましいものであるが，現在ではまだ実行の段階に至っていない。しかし，将来は研究の進歩とともに癌治療の前面に出てくる治療法の一つであろう。

〔むすび〕 文明の進歩につれて，病気の多くは治癒するようになり，わが国でもかつて死因の第1位であった結核，第2位であった肺炎・気管支炎は，1957年（昭和32）にはそれぞれ第6位，第5位となった。しかし，これと対照的に薬でなおらぬばかりか，徐々にふえつつある病気があり，その一つが癌である。癌による死亡率はわが国では1947年以降死因の第2位を占め，その死亡数は今後ますます増加する傾向にある。その原因はすでに述べたように明らかになっていないが，われわれの周囲を取り巻く文明の発達の副産物としての大気汚染，あるいは食生活の変化などが関係すると思われる一方，平均寿命の延長による死亡年齢の高齢化も関係している。癌による死亡年齢層は，45～50歳の働き盛りに罹患(りかん)し死亡する者が最も多く，この年齢層では死因の第1位を占めている。この点から，癌は単なる老人病とは考えられず，われわれの身近な問題として癌に対する認識を新たにし，いかにして癌から身を守るかを考えなければならない。　〔木村禧代二〕

て敗死した。小説《三国志演義*》では黒い長ひげをもつ勇猛で義理がたく思慮深い豪傑として描かれている。唐末・宋(そう)代から武神として信仰され，のちには道教の財神にもされ，彼を祭る関帝廟(びょう)は中国内はもちろん日本にまで及んだ。〔大庭　脩〕

かんえい【甘英】中国，後漢の将軍。西域経営で有名な班超*の部下。BC97年，班超の命で大秦(たいしん)へ行くため，安息国(ペルシア)を経てペルシア湾(地中海ともいう)に達したが，船人が航海の困難を説いたので引き返した。しかし，彼によって西方の知識が広まり，彼の報告書は《後漢書 魏略(ぎりゃく)》の史料となったといわれる。

かんえいこうぎょう【官営工業】政府直営工業をいう。明治初期，殖産興業*政策による資本主義の生産確立のため，政府みずから東京砲兵工廠(こうしょう)・長崎造船局・富岡製糸工場など，軍事・造船・製糸・鉱山などの各種近代機械工場を開発，経営した。これらは1880年(明治13)以降順次民間に払い下げたが，きわめて安価であったため，これを入手した政商が財閥*に成長するもととなった。➔官業

かんえいさんばじゅつ【寛永三馬術】講談の題名。寛永年間(1624～1643)の馬術の３名人とうたわれた曲垣(まがき)平九郎・筑紫市兵衛(つくしいちべえ)・向井蔵人(くらんど)の事績を描いた話。特に曲垣平九郎の〈愛宕(あたご)山石段登り〉のくだりは有名。

かんえいじ【寛永寺】東京都台東区上野公園内にある天台宗の関東総本山。山号は東叡(とうえい)山(東の比叡山の意)。1625年(寛永２)３代将軍家光(いえみつ)が天海に命じて，江戸城の鬼門(北東)にあたる上野忍ケ岡に建立(こんりゅう)させた。諸大名の寄進を受けて大伽藍(がらん)となり，歴代将軍(家綱・綱吉(つなよし)・吉宗(よしむね)・家治(いえはる)・家斉(いえなり)・家定)の墓所(霊屋(おたまや))が造営され，寺領一万一千九十石となった。1868年(慶応４)戊辰(ぼしん)戦争のとき，彰義隊*がここを根拠地としたため堂舎の大半を兵火で失い，現在五重塔・弁天堂・霊廟(れいびょう)などを残すにすぎない。〔藤本昌子〕

かんえいしょかけいずでん【寛永諸家系図伝】江戸幕府が編纂(へんさん)した大名・旗本(はたもと)諸家の最初の総合的系譜。1641年(寛永18)太田資宗(おおたすけむね)を奉行(ぶぎょう)として，諸家に系譜を提出させ，それを儒者林羅山(らざん)らの学者が，清和源氏・平氏・藤原氏・諸氏に大別して編纂。1643年完成。186巻。系譜に精粗があり，校訂が不十分な点もある。

かんえいつうほう【寛永通宝】寛永銭ともいう。江戸幕府が鋳造を許し，全国に通用した銭貨。〈寛永通宝〉の４文字のある銭貨のすべてをいう。1636年(寛永13)江戸芝・近江(おうみ)(滋賀県)坂本に銭座*を設けて鋳造させた。のち全国各地に銭座が設けられ，民間の業者が鋳造を請け負い，幕末ま



寛永寺　根本中堂

で鋳造された。形状は円形で中央に方孔がある。一文銭と四文銭があり，素材により銅銭・鉄銭・真鍮銭(しんちゅうせん)に分けられる。鋳造地・鋳造年代によって文字銭・佐字銭・仙字銭(せんじせん)など数百種類に分類される。➔貨幣(図)〔松尾　涼〕

かんえん【肝炎】肝臓の炎症をいい，肝細胞の障害因子により，ウイルス性肝炎，中毒性肝炎，伝染性疾患による肝炎に分けられる。①ウイルス性肝炎：流行性肝炎と血清肝炎の２種があり，前者は集団生活者に流行がみられ，後者は輸血が原因となって起こる。ともにウイルスが原因となって起こるが，経過・予後には多少の差異がみられる。そのため世界保健機構(WHO)では流行性肝炎の起因ウイルスを肝炎ウイルスA，血清肝炎のものを肝炎ウイルスBとしている。ともにまずかぜに似た全身倦怠(けんたい)・食欲不振・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)などの症状に始まり，しだいに黄疸(おうだん)が出現する。しかし，１か月以内で自覚的にも他覚的にも症状は改善され，ふつう６週間ほどで完全に回復する。ただ不幸な転帰をとるものもあり，急性激症型ですみやかに死亡する場合や，慢性肝炎に移行したり，肝硬変に移行する場合がある。一般的には血清肝炎のほうが流行性肝炎よりも症状は軽いが経過が長い。②中毒性肝炎：特殊な食物や多くの薬剤により起こるが，鉛・リン・四塩化炭素などを扱う者の職業病として起こることがある。症状は流行性肝炎に似るが軽微である。③伝染性疾患による肝炎：各種伝染病により起こり，黄疸を主症状とするが軽微である。〔吉田　彰〕

がんえん【岩塩】自然界に固体として存在する食塩。NaCl 等軸晶系，硬度2.5，比重2.168，劈開*(へきかい)は{100}に完全。ガラス光沢，無色・白・黄・赤・青・紫などの色調をおびる。結晶は一般に立方体であるが，ときに八面体もみられる。塊状まれに柱状に産出。地質時代に存在した入り江や塩水湖が干上がって地層中で固まったものである。塩化カルシウム・塩化マグネシウムを含む。ドイツのシュタスフルトの岩塩層は世界的に有名である。わが国には存在しない。食用のほか，ナトリウムおよび塩素資源として重要である。〔河原　昭〕

かんおうかい【観桜会】桜の花を観賞する会。宮中行事の一つで，天皇が国民とともに桜花を観賞されるために催される。1881年(明治14)４月吹上御苑(ぎょえん)で催されたのが初めで，その後会場が新宿御苑*に移され，桜の花の盛りを見計らい毎年４月中旬に行なわれた。当日は各皇族をはじめ各大臣，在京の勅・奏任官，有位有勲者，各国の大・公使ならびに配偶者など約8,000名が招待を受け，天皇・皇后は親任官や各国大・公使などと卓をともにして茶菓を召し上がり，この間陸海軍軍楽隊が音楽を奏して興を添えた。わが国古来の風習を踏襲した優雅な行事であったが，1938年(昭和13)以後中止された。なお，現在はこれに相当する行事として，春の園遊会が毎年５月ごろ赤坂御用地内の御苑で催されている。➔園遊会〔小林亥助〕

かんおんじ【観音寺(市)】香川県西端の市。古くは坂本郷とよばれ，703年(大宝３)に鎮座した琴弾八幡宮(ことひきはちまんぐう)や806～809年(大同年間)創建の観音寺の門前町として発展した。1955年(昭和30)市制施行。人口46,000。瀬戸内海燧灘(ひうちなだ)に面し，財田(さいた)川と柞田(くにた)川の三角州がつくる三豊(みとよ)平野の中心部に位置する。産業三大別人口比は21：32：47。古くから仮屋千軒とよばれるほど漁家が多く，近海漁業の基地となり，ちくわ・かまぼこなどの水産加工業が盛んである。紡績・たびなどの繊維工業も行なわれる。平野部では米・麦・タバコをため池用水でつくり，有明浜では用水方法に特色をもつ乾燥農業が行なわれ，東の讃岐(さぬき)山脈のふもとではミカンが栽培される。予讃(よさん)本線・国道11号線が通ずる。北部にはドライブウエーや展望台をもつ琴弾公園，四国遍路の68番札所神恵院と69番札所観音寺，山崎宗鑑の没した一夜庵(いちやあん)などがあり，西の円上(まるがみ)島にある球状のノーライトとよばれる美しい岩石は天然記念物に指定されている。

かんか【乾果】成熟するにつれて果皮が乾燥し薄くなった果実。完熟すると果皮が決まったところから開くもの(裂果・莢果(きょうか)・蒴果(さくか)・角果)と，完熟しても果皮が開かないもの(閉果・穎果(えいか)・堅果・瘦果(そうか))とある。➔果実

かんが【漢画】水墨画*を中心とした中国画風の絵画およびその画風をいい，鎌倉末期から室町期にかけて流入した宋(そう)元画の影響を受けて，禅僧や武家*によって描かれたが，桃山期以降は花鳥画*が大きな比重を占める。なお，漢画の発生以前，平安期にも中国の唐・宋美術の影響下にその題材を取り入れた山水屛風(せんずいびょうぶ)のようなものはあったが，これは特に唐絵*(からえ)

とよんで漢画と区別している。また，流入した大陸産の絵画はもちろん漢画画風であるが，特に宋画・元画・明(みん)画・宋元画などといい，まとめていう場合は中国画といって漢画と区別する。漢画の全盛期は室町時代で，周文*・雪舟*・狩野(かのう)派*などがその代表的な画家・画派である。〔中島純司〕

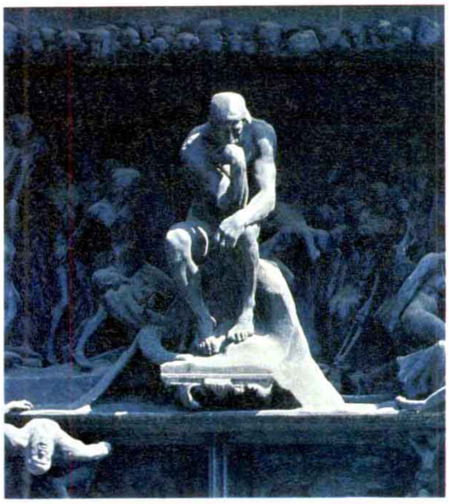
がんか【眼科】 眼球およびその付属器(眼瞼(がんけん)・結膜・涙器・眼窩(がんか)・視神経とその中枢など)の疾病(しっぺい)の診療を行なう臨床医学の一分野。眼科疾患は機能異常と器質異常に大別できる。機能異常は，精巧な写真機にもたとえられる眼球が正常に働かないことで，近視・色盲などが含まれる。器質異常には炎症・腫瘍(しゅよう)・変性・外傷などがある。目は感覚が鋭敏なため眼疾患は苦痛が激しい。また，目は知識や楽しみの取り入れ口であり，美貌(びぼう)の中心でもある。眼科医はこれらのことに留意して，患者の苦痛を軽くし，視力と外貌をいくぶんでもよくするように心がけなくてはならない。なお眼科の歴史は古く，ギリシア時代のヒッポクラテス*にさかのぼり，日本でも鎌倉初期の制作といわれる《病草紙*》の中に，針で目の治療を行なって盲にしたという話が載っている。しかし，近代眼科学として独立したのは，19世紀にはいってヘルムホルツ*が検眼鏡を発明して以来である。〔氏原　弘〕

かんがい【干害】 ⇨旱魃(かんばつ)

かんがい【寒害】 冬季に温度が低いため，越冬中の農作物が障害を受けること。気温が急激に下がったりあるいは長期間低温が続いたりした場合に起こる。著しい低温のために，農作物体の組織中の水分が凍結し，温度が回復しても生活機能の回復をみないことがあり，この障害を凍害という。

かんがい【灌漑】 元来は土地に水分を与えることをいう。水田では〈水田灌漑〉，畑では〈畑地灌漑〉という。水田灌漑では常時水をある深さに入れておく〈湛水(たんすい)灌漑〉，水が不足するときにときおり水を入れる〈節水灌漑〉，また，作物の生育とにらみ合わせて，必要な時期にのみ水を入れる〈間欠(間断)灌漑〉などの区別がある。畑地灌漑では，畦間(うねま)に水を流す〈畦間(けいかん)灌漑〉，水路をせき止め水を水路からあふれさせて畑に水を入れる〈溢流(いつりゅう)灌漑〉，地下に配水パイプを埋め込み，パイプに設けた小孔を通して水を地中に与える〈地下灌漑〉，また，スプリンクラーによる〈散水灌漑〉などの区別がある。

わが国で灌漑といえば水田灌漑をさすほど水稲と灌漑の関係は深いが，近年，畑地灌漑の効果が高く評価され，構造改善の対象事業としても広く認識されるようになった。その理由は，わが国が年降雨量1,500mm以上に達するとはいいながら，時期的に集中し，梅雨以外のときの降雨量は少なく，



考える人　ロダン《地獄の門》(部分) 1880～1917　国立西洋美術館蔵

旱魃(かんばつ)などの被害も畑作に多いことが明らかとなってきたこと，また栽培技術上にも畑地灌漑の果たす役割の大きいことが確認されてきたことなどのためである。灌漑は作物の生産性を高めるために，組織的・計画的に水分を供給することが目的であり，目的から分類すると，土地の過乾を防ぐ目的での〈湿潤灌漑〉，また，灌漑水中に含まれる養分の供給を主目的とした〈肥培灌漑〉がある。本来の水田灌漑の目的は，水稲の生育に必要な水分を供給し，最も経済的な環境下において増収を図ることにある。

水稲灌漑の効果については，① 養分の供給，② 土壌(どじょう)の更新，③ 通気効果，④ 地温の調節，⑤ 雑草の発生・生育防止などがあげられる。特に②の土壌の更新についての効果は高い。水稲灌漑における用水量については，土質，地勢，地下水の高低，イネの品種ならびに生育の状態などによって異なるが，一般に次式によって算出される。用水量＝(葉面蒸発量＋水面蒸発量＋地下浸透量)－有効雨量(雨量×80～90％)。これから算出される灌漑用水量の平均は，10アールあたり早稲(わせ) 9,000t，中稲(なかて) 11,000t，晩稲(おくて) 14,000t (播種(はしゅ)から収穫まで)とされる。灌漑水質についてはカコウ岩層を流れる水はカリウムに富み，石灰岩層を流れてくる水は炭酸石灰・硫酸石灰を含んで良質とされるが，ケイ砂および砂礫(されき)層を通過してくる水は養分が少なく，特に鉄くずを通してくる水は水質不良である。

畑地灌漑用水の水源は一般に地下水が用いられる。水温を高めるため，いったん貯水槽(そう)にくみ入れ，水温を上げるとともにポンプアップして水圧を上げて利用されるのが普通である。畑地灌漑で注意を要することは，灌漑から灌漑までの間隔である。灌漑を始めたら，一定期間ごとに規則正しく，一定量の水を供給する必要がある。雨天の日が間にはいれば，その雨量だけ減量するが，一般には3～5日おきに，30mm程度の灌水をする。この間隔および量は，土質，地勢，作物の種類，天候，特に雨量条件ならびに地下水の高低などと関連するので，これらの条件とにらみ合わせて決定する。〔金木良三〕

がんかい【顔回】 中国，春秋時代末の魯(ろ)(山東省)の人。字(あざな)は子淵(しえん)。顔淵ともいう。孔子のもとに学ぶ。貧窮の中にあったが学問を好み，特に徳行にすぐれた。孔子は自分の跡を継ぐ者として，弟子(でし)の中でも最も期待し，信頼していた。しかし，不幸にして短命で，孔子に先だって若死にした。《論語》には，孔子の顔回に対する賞賛と哀惜の語が多く残されている。

かんかいが【鑑戒画】 治者のための戒めや童蒙(どうもう)(子どものように道理のわからぬ者)の訓戒として，儒教的な故事・事跡によって描かれる絵。中国において，儒教が国家の学問・政治道徳として確立されるにしたがって描かれ，漢代には特に盛んであった。わが国では人物画の画題として少しずつ定着し，やがては鑑賞画に接近したが，江戸時代に儒教が国教化されると再び目的性を回復し，多く幕府御用絵師の狩野(かのう)派*の画人の手になった。〔中島純司〕

かんかいじおんせん【観海寺温泉】 大分県別府市にある温泉。泉温57℃，泉質は単純泉で，胃腸病・神経痛・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。観海寺山中腹のがけ上に位置し，別府湾の展望がよく近代的な高級旅館が多い。付近に鶴見(つるみ)地獄・鶴見岳などがある。日豊(にっぽう)本線別府駅からバスの便がある。

かんがいようすい【灌漑用水】 農業用水*のうちの一つで，農作物に供給されるべき用水をいう。窒素・カリウム・カルシウムなどの無機塩類を適当に含有する水が望ましい。有機物を多く含む汚水(団地などから流される排水)，また工場などの排水は作物生育に不適当な不純物を含有しているので，利用はもちろん，用水路への流入は避けねばならない。したがって用水源として，清浄な河川・貯水池・天然湖沼・地下水などが利用される。わが国では河川水の利用が大きい。➔灌漑〔金木良三〕

かんかいりゅう【観海流】 日本泳法の一。嘉永(かえい)年間(1848～1853)宮信徳(のよのり)が津藩士に伝え，津藩の老臣藤堂出雲(いずも)がその妙技を〈海を観(み)ること陸のごとし〉と激賞したのでこの名があるという。平泳ぎを主体とし，かえる足を用いて遠泳に適した。教授法が一般向きであったため明治以後，軍隊に採用され，広く用いられた。

かんかいん【感化院】 ⇨教護院

かんがえるひと【考える人】 フランスの彫刻家ロダン*の代表作。大・中・小3種類の大きさのブロンズ座像で，最初は《地獄の門》(1880～1917)のとびらの上で，おちていく人々をながめる詩人の像(小)として制

作された。ミケランジェロのメディチ墓廟(ぼびょう)のいわゆる《考える人》やカルポーの《ウゴリノ》などに霊感を得たもので，不動のポーズに内なる激しさを秘めた傑作である。大形像のモニュマンは世界の数か所に建てられている。

かんかく 【感覚】 一般的には，感覚器官や筋肉・内臓などに対する刺激によって生じる意識事実をいう。刺激は神経を媒介にして感覚中枢に伝えられ，そこからさまざまな感覚が起こるとされる。知覚の場合には行動的意味や象徴が重視され，対象の全体的性質が求められるのに対し，感覚は対象の部分的属性をとらえるもので，本質的に受動的である。また，感覚の解釈には二つあって，感情をも含めた直接的な意識内容をさす場合と，感情と対立させて考える場合とがある。この狭い意味での感覚はなんらかの身体的起源をもち，主として器官に対する外的対象の作用から生じる。これに対し，直接には身体的起源をもたず，観念や思考あるいは想像などに関係する心的印象を感情とよぶ。いわゆる内的感覚はこれにあたる。したがって，感覚にはさまざまな程度があり，視覚・聴覚・痛覚などの部分的な感覚から，快・不快の感覚，全身的な疲労感や満足感，さらには心的印象に至るまで多種多様である。〔飯塚勝久〕

刺激が身体の一部の受容器に受け取られて，求心神経(すべての感覚神経と一部の自律神経など)の電気的インパルスに翻訳され，中枢(高等動物では大脳皮質)へ送られる。ここで意識化されてはじめて感覚となるが，神経繊維中を流れるインパルスはみな同じしくみで生じる電流で，刺激の種類を区別するのは受容器の仕事である。受容器に対応する特定の刺激を適当刺激といい，強打によって目から火が出る類を不適当刺激という。受容された刺激がどのようにして電気的インパルスに翻訳されるかはまだ未知であるが，味覚や嗅覚(きゅうかく)のような化学的刺激は受容器中にある種々のタンパク質がそれぞれ特定の化合物と結合して，そのとき生じるタンパク質の構造変化のエネルギーが神経末端に影響すると考えられているようである。

感覚は受容器および適当刺激の種類によって分類される。刺激が体外にあり受容器が体表面にあるものを外受容性感覚といい，これはさらに刺激源の距離から視覚・聴覚・嗅覚の遠覚と，味覚・触覚の近覚とに分けられる。刺激源が体内にある場合を内受容性感覚といい，深部感覚(筋肉覚・平衡覚など)，内臓感覚(臓器の疾病(しっぺい)が刺激源であることが多い)，意欲覚(食欲・尿意など)などを含むが，受容器の不存または不明のものが多い。たとえば飢餓感(きがかん)・満腹感は視床下部で受容されるが，刺激は静脈と動脈の血糖量の差あるいは体温の変動ともいわれ，エネルギー代謝の結果現われ



寒霞渓　侵食を受けた凝灰岩や集塊岩がさまざまの奇峰をつくっている。特に秋の紅葉時期が美しく，野生のサルもすんでいる

る現象がいくつか刺激となっている。

刺激と感覚の関係を定式化する試みも行なわれている。受容器に反応を起こさせるには，適当刺激はある強度以上必要であり，このための最低の強さを閾値(いきち)という。1本の神経を通る刺激の量は一定である(悉無律(しつむりつ)，または全か無かの法則)が，強い刺激には多くの神経が同時に電流を流す。同一種の刺激の量に差がある場合，区別可能な最小の差を区別の閾値といい，ウェーバーが定式化した。刺激の強さと感覚の強さの関係にウェーバー-フェヒナーの法則*が適用される。感覚はまた受容器の位置や刺激の反復などからもたらされる空間覚・時間覚を伴って順応・残像などを生じ，また2種の感覚間の干渉による対比現象を生じるなど，心理学の研究対象となっている。これらの現象は大脳皮質の知覚領と感覚領がかかわりあうので複雑である。〔平野修助〕

かんがく 【漢学】 ①漢代の経学*方法のこと。その特徴は，㋑経書読解のための訓詁(くんこ)学，㋺王朝の権威を高めるための御用学，②清朝(しんちょう)に起こった学風をいう。経書の解釈を宋学*(そうがく)の哲学的道徳論から漢代ふうの〈実事求是(文献学的実証主義)〉に引きもどそうとした。その意味で〈樸学(ぼくがく)〉ともよばれた。しかし，清朝において，のちに起こった究視的・科学的な考証学に比べると，これは漢代の経学が目標とされているものであり，経書そのものの真義を問うというより，むしろ経書の漢代における解釈を基準とするものであった。③日本では江戸時代における，国学*や蘭学*(らんがく)に対する学問のことで，儒教を主とした中国の学問を総称した。つまりこの漢学の〈漢〉は中国のことであり，〈唐(から)学び〉の〈から〉のことであって，江戸時代の教養・学術・思想の中心はこの漢学であった。これの伝統は現代では学校教科の漢文*に残っている。〔西　順蔵〕

かんがくいん 【勧学院】 藤原氏出身の大学生のための大学別曹*(べっそう)(公認の寄宿舎)。821年(弘仁12)藤原冬嗣*(ふゆつぐ)が創設。藤原氏の隆盛とともに大学別曹中で最も栄え，のちには藤原氏の氏寺・氏社の事務も取り扱った。諸寺院にも僧侶(そうりょ)の学問奨励のため，藤原氏にならって勧学院が置かれた例がある。

かんかくき 【感覚器】 感覚をつかさどる器官。視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器(きゅうかくき)・味覚器と体知覚にあずかる皮膚がこれに属する。感覚器は外界の刺激を体内に取り入れるところで，知覚神経が分布しており，刺激を中枢に送って多くは大脳皮質の知覚の中枢に達してはじめて感覚が意識される。感覚器の基本的な構造としては，目・耳・味覚器などにおけるように感覚細胞が特別にあって，そこに神経繊維が終わっているものや，感覚細胞の突起と神経繊維がシナプス*をしているもの，また嗅覚器におけるように感覚細胞の突起が直接刺激を伝えるものなどがある。また，皮膚などにみられるように神経繊維の終末が直接刺激を伝えるものもあり，この神経終末が被膜をもつ場合と被膜をもたない場合がある。〔幡井　勉〕

かんかくてん 【感覚点】 皮膚における感覚，すなわち触覚・温度覚・痛覚が感ぜられる皮膚上に分布した部をさし，これはいわゆる点ではなくて不規則な形をしたかなり広い面積をもつものである。感覚点は全身に同じ密度で分布しているのではないが，平均すると痛点が最も多くて1 cm^2 あたり100～200，触点25，冷点6～23，温点0～3である。

かんかくもう 【感覚毛】 動植物の感覚に関係のある毛状の構造物。動物ではその基部に神経の末端が分布していて，外界の刺激を受けることができる。哺乳(ほにゅう)類では上顎(じょうがく)にあるひげや目の上にある毛などがこれにあたり，特に血洞毛(けっとうもう)とよばれる。こん虫では触覚や臭覚をつかさどる。食虫植物では葉の上面にはえている。

がんかけ 【願掛け】 ⇨祈願

かんかけい 【寒霞渓】 香川県小豆郡内海(うちのうみ)町に属し，小豆島の東部，星ケ城山(817 m)から西に続く山地の南斜面にあり，応神天皇が鍵(かぎ)をかけて登られたというので鍵懸(かぎかけ)とも，神懸(かんかけ)ともよばれていたのを明治になって改めたものである。凝灰岩・集塊岩・安山岩などが種々の節理と侵食によってすぐれた景色をつくり，瀬戸内海国立公園の一部に指定されている。近年はロープウエー・スカイラインをはじめ，いろいろの観光施設も完備された。小

豆島には，もとはイノシシがいたが，明治の初めに豚コレラのために絶滅し，シカもいまは激減しているが，数百頭のサルが5群に分かれてすんでおり，寒霞渓のグループは餌(え)づけされて，老杉洞(ろうさんどう)自然動物園とよばれるサルの楽園を形成している。〔味沢成吉〕

がんがさ 【雁瘡】 ヘブラ痒疹(ようしん)の俗称。皮膚に非常にかゆい結節ができる皮膚病。小児ストロフルス*から移行するといわれるが確実でなく，生活条件の改善された今日では非常に減少した。

がんがぜ 棘皮(きょくひ)動物・ウニ類・ガンガゼ科。殻(から)は半球状で，殻径(かくけい)9cm，殻高4cm。全体紫黒色。殻頂にある肛門(こうもん)の先端は，生きているときは金色に輝く。ガンガゼのとげは殻径の5～6倍に達するほど長いことが著しい特徴で，きわめて折れやすく，うっかり触れると，刺さったとげが皮膚に折れ込んで取り去りがたく，激痛を与えるので恐れられる。このとげには毒腺(どくせん)があるともいわれる。本州中部以南の岩礁の干潮線下に群生する。

かんがっき 【管楽器】 管の中の空気の柱を振動させて音を出す楽器の総称。気鳴楽器*の一部分。西洋では木管楽器・金管楽器の2通りに区別することが多いが，これは必ずしも実際の材質によっているわけではない。空気柱の振動のまえになにがあるかによって，演奏者の両くちびるが強く振動させられるトランペット・ホルンの類，狭い間隙(かんげき)を通るジェット気流が働くフルートの類(縦笛・横笛)，歌口(マウスピース)にリードをとりつけ，これを口にくわえて振動させる1枚リードのクラリネット類と2枚リードのオーボエ類というように分類される。世界的にみれば，管楽器の材質は木・竹・貝・角・骨・金属などがあるが，本質的には材質はあまり重要ではなく，音の決定は主として円柱のなめらかさ，円柱の長さ(音の高さを決定)による。円柱の長さを変える目的のためには，尺八・レコーダーのように管に指穴を施して押えたり半分開いたりするもの，クラリネット・オーボエのように指穴を押える機構を機械的にキーで行なうもの，トロンボーンのようにスライド(すべらせること)によって長短を調節するものがある。音色決定にかかわるのは歌口であり，演奏者のくちびるの状態，トランペット類の場合にはカップの良否，リードの幅・厚さ，湿気などが微妙に働く。〔山口　修〕

がんかのうよう 【眼窩膿瘍】 眼窩の化膿性炎症。細菌の感染がその原因となり，感染路は外傷などによって直接細菌がはいる場合と，身体他部の化膿部位から細菌が血管を通して感染する血行性の場合がある。症状は強く，まぶたは赤くはれ，眼球が突出し，強いうずきや発熱を伴う。ときには脳内に細菌が侵入し，脳膜炎を起こすという恐るべき結果になる。しかし，最近では抗生物質の発達により，重症とならずに治癒(ちゆ)するようになった。〔氏原　弘〕

カンガルー ［kangaroo］ 哺乳(ほにゅう)類・有袋目・カンガルー科・カンガルー属のうち大形のものの総称。体長1～1.6m，尾長87～100cm。雌は雄よりやや小形で，下腹部に育児嚢(いくじのう)がある。前肢(ぜんし)は短いが，後肢は著しく長く，跳躍に適し，1回の跳躍が8mほどに達する。オーストラリアの乾燥した草原や林に分布し，日中は林の中などで休み，夕刻や早朝に種々の草を食う。妊娠期間は30～40日で，年1回，1産1子であるが，子は未成熟の状態で生まれ，全長2.5cm，体重1.3gほどである。子は大きなつめのついた前肢を用いて，自力で母親の育児嚢にはいり，そこにある乳頭に吸いつき，7～8か月で育児嚢を出入りするようになる。

ふつう，ハイイロカンガルー・アカカンガルー・クロカンガルーの3種をカンガルーとよぶ。ハイイロカンガルーはオオカンガルーともよばれ，体上面が灰色～灰かっ色で，最も普通にみられる。アカカンガルーはカンガルー類中最大で，雌雄で体色が異なり，雌は青灰色，雄はくり色またはあざやかな代赭(たいしゃ)色。クロカンガルーは，体が暗かっ色～黒色で，オーストラリア南部のカンガルー島だけに分布する。なお，カンガルー類のうち上記3種よりも足が短く体ががんじょうなものをワラルー，体形はカンガルーに似るが小形のものをワラビーという。このほかキノボリカンガルー・ネズミカンガルーなどはカンガルーの名があるが，カンガルー類とは別のネズミカンガルー科に属する。〔今泉吉典〕

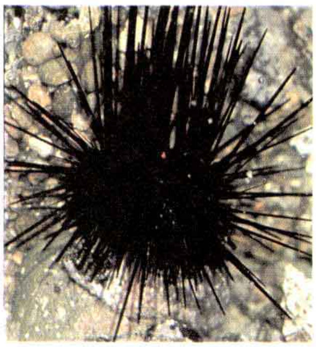
カンガルーねずみ 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ポケットネズミ科。体長6.5～7.5cm，尾長6.5～10.5cm。前肢(ぜんし)は小さく，後肢と尾は長く，跳躍のとき長い尾でバランスをとる。北アメリカ西部の山地の砂漠(さばく)にすみ，種子・根・葉・こん虫などを食い，水を飲まずに長期間生きる。

カンカン ［can can］ フランスの舞踊で，フレンチ-カンカンともいう。語源については種々の説があるが明らかでない。1831年，ヘンリー-セイモアというパリ社交界の人物が，カーニバルの余興として催したのがはじまりとされる。ひだの多い長いスカートをけって，足を高く上げる動作がこの舞踊の決まった型で，本来社交舞踊であったが，動きがエロチックなためミュージック-ホールのステージ-ダンスとして取り入れられ，19世紀後半から20世紀初頭にかけて全世界に流行した。現在でもパリ名物の一つとなっている。〔高橋孝一〕

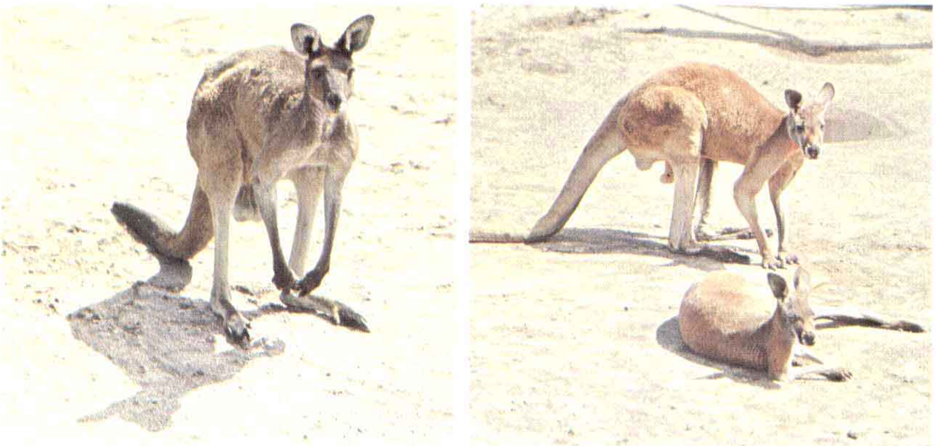
かんかん 【漢奸(姦)】 売国奴・裏切り者の意。漢代，漢側から匈奴(きょうど)・南越など異民族に投降し，異民族に協力して漢の不利を図った者をいった。この代表者は文帝のときの中行説である。しかし，漢奸の語は，後世清(しん)代に漢人であって満州人に通じた者をさす場合が多い。

かんがん 【肝癌】 ⇒肝臓癌

かんがん 【宦官】 宮廷の雑役に使用される去勢された男子。この風習は西アジアに始まったが中国で最も盛んとなった。もと宮刑に処せられた者をあてたが，隋(ずい)で宮刑が廃止されてから，捕虜や外国からの貢進者，進んで去勢した者(私白宦官)をあてた。元来は権力に関係ない賤役(せんえき)であるが，君主に近づく機会が多く，皇帝権を背景に政治に口を入れ害毒を流した。特に後漢・唐・明(みん)の3代が害が著しく，唐で



ガンガゼ



カンガルー　(左)ハイイロカンガルー　(右)アカカンガルー

は定策の国老，門生の天子といわれ天子の廃立も自由にした。〔米田賢次郎〕

かんかんけい【関漢卿】（1230？～1280） 中国，元代の劇作家。元における雑劇*第一の作家で，その作品14種が現存している。中でも，借金のかたに養女にやられた竇娥冤(とうがえん)が，婚家先で悪人のためにしゅうとめ殺しの無実の罪をきせられて処刑されるという悲劇《感天動地竇娥冤》が有名である。

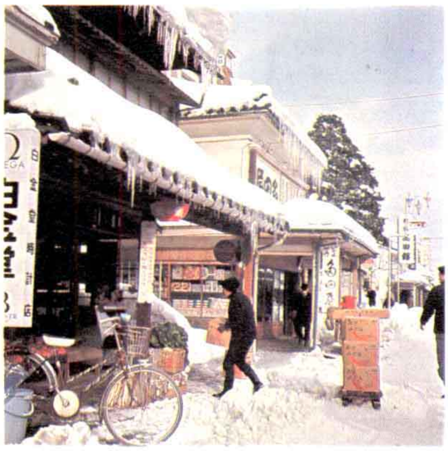
カンカンぼう【カンカン帽】 クラウン*が浅く角張り，トップが平らで，つばは狭く，水平な形の男子用夏帽子。イギリスではボーター，フランスではキャノチエとよばれる。麦わらを圧縮し，のりで固めて型づけしたもので，本来はボートの漕手(そうしゅ)が用いた。アメリカで最も流行し，日本では大正中期から昭和の初期にかけて一般庶民に愛用され，親しまれた。

かんき【換気】 室内のよごれた空気と清浄な外気とを入れ替えること。自然換気と機械換気の2種類がある。自然換気は，外部の風の力で外気がはいる作用(風力換気)，および，室の内外の空気の温度差によって室内の暖かい空気が上の窓から流出し，外の冷たい空気が下の窓から流入する作用(温度差換気)などを利用して，自然に行なわれるものである。機械換気は，モーターなどの動力によりファン(送風機・扇風機)を回転して，空気を強制的に流動させる方法である。空気の流入口・排出口の両方にファンを備える第1種換気，流入口のみに備える第2種換気，排出口のみに備える第3種換気がある。映画館などのような大きい室を換気するとか，多数の室を同時に換気する場合は，ファンを1か所に設け，各室とダクト*で連絡して換気する。これを中央式といい，これに対し，各室ごとにファンを設ける方法を個別式とよぶ。室内の空気と外気を毎時何回入れ替えるかの回数を換気回数とよぶ。機械換気によるおもな室の換気回数の概略値を示すと，住宅用台所(20)・便所(15)・ボイラー室(10)・倉庫(5)・映画館客席(6)である。冬季における自然換気による住宅の居室の換気回数は和風住宅(2)・洋風住宅(0.5)である。〔井上宇市〕

かんき【刊記】 刊本で，出版事項・出版年・出版地・出版社・出版人・印刷者名などを記載した部分をいう。現代の奥付け*に相当する。海外では，はじめわが国の奥付けのように，巻末に刊記を記載していたが，標題紙(タイトル-ページ)の発達とともに巻頭(多くは標題紙の裏)に移され，特別のものを除き，巻末にはほとんどなにもない。ヨハン-フストとペーター-シェッファの手になる《聖詩編》(1457)は，はじめて色印刷を用い，印刷者名・印刷年月日・印刷場所などを刷り込んだものとして著名だが，最終ページの刊記に次のようにしるしてある。〈美しいかしら文字をもって飾り，朱彩色をもって瞭然(りょうせん)としたこの《聖詩編》は，ペン書きによらず，実に巧みな発明，すなわち個々の活字をもって印刷された。しかして神をあがめるため，多くの労苦と勤勉とをもって，マインツの住民ヨハン-フストおよび，ゲルンスハイムのペーター-シェッファが，1457年，聖母昇天祭(8月14日)の前夜これを完了した〉。〔庄司浅水〕



顔　輝〈鉄拐図〉知恩寺蔵



雁　木　上越市の雁木の残っている町並み



観菊会　中沢弘光画　聖徳記念絵画館蔵

かんき【韓琦】（1008～1075） 中国，北宋(ほくそう)の政治家。字(あざな)は稚圭(ちけい)，おくり名は忠献。安陽(河南省)の出身。次席で科挙に合格，新鮮な政治感覚で手腕をふるい，特に西夏防衛に活躍した。1058年宰相となる。英宗擁立の立て役者となり不動の地位を得たが，王安石に反対して下野。新興士大夫(だいぶ)の典型で，子弟から高官が輩出した。

がんき【顔輝】 中国，元の画家。生没年不詳。号は秋月。13世紀ごろの宮廷画家で，道釈人物をよくすると伝えられ，筆法奇絶で八面生意があるなどと評された。その線描は力強く変化に富み，類例のない怪奇な筆法は，顔輝風人物描法としてわが国の室町期の絵画に取り入れられ，明兆*ら東福寺系の画家が好んで模倣した。遺作としては《蝦蟇(がま)・鉄拐図(てっかいず)》《寒山拾得図》などがある。

がんぎ【雁木】 冬の降雪期に備えて，住家の前面を張り出したもので，その下を歩道にした。新潟県地方の市街地にみられ，深雪地域の町屋の特徴ある構造の一つである。2階の部分が突き出したものは〈造り込み雁木〉とよばれ古くからあるが，現代はひさし状の構造のものが多い。最近では道路拡張や防火のために取り払われたり，アーケードに変わったりしたが，上越市・長岡市などでは現在でもみられる。青森県・秋田県ではこの構造を小店(こみせ)とよぶ。同様の機能をもつものとして，スイスのベルンやチロル地方の都市などでみられるラウベンがある。〔佐藤甚次郎〕

がんぎえい【雁木鱝】 硬骨魚類・ガンギエイ科。1.5mほどになる海産魚。上下に平たいうちわ形の体に，細長い尾がついているところはアカエイに似ているが，アカエイと異なり，体表に目玉様のよく目だつ斑紋(はんもん)がある。本州各地・朝鮮・東シナ海に分布する。交尾後産卵するエイで，卵はナヌカザメの卵と同様，黒かっ色で皮のようにじょうぶな35×60㎜ほどの長方形の殼(から)に包まれ，その四すみについている細いひもで，海藻(かいそう)などに巻きつく。〔菅野　徹〕

かんぎくかい【観菊会】 キクの花を観賞する会。宮中行事の一つで，天皇が国民とともに菊花を観賞されるため催される。1880年(明治13)11月赤坂御苑(ぎょえん)で催されたのがはじめで，その後会場は新宿御苑*に移され，キクの花の盛りを見計らい毎年11月中旬に行なわれた。春の観桜会*とともに春秋の景物を楽しむわが国の優美な風習を取り入れた宮中行事であったが，1937年(昭和12)以後中止された。会の次第，招待

者の範囲などはまったく観桜会と同じである。なお，現在はこれに相当する行事として，秋の園遊会*が毎年11月ごろ赤坂御用地内の御苑で催されている。〔小林亥助〕

かんぎこうじ【歓喜光寺】京都市東山区東大路通五条上ル遊行前(ゆぎょうまえ)町にある時宗の寺。宗祖一遍のいとこ聖戒(しょうかい)の建てた善導寺が最初で，1299年(正安1)京都六条河原(ろくじょうがわら)に移転し，これ以来は六条道場紫苔山(したいざん)河原院歓喜光寺と称した。天正年間(1573～1591)寺町通錦小路(にしきこうじ)に移転し，のち兵火にあったが直ちに再興した。寺宝の《一遍上人(しょうにん)絵伝*》は，絵巻の名品として国宝に指定されている。〔永井信一〕

かんきつるい【柑橘類】双子葉植物・ミカン科・カンキツ亜科のカラタチ属・ミカン属・キンカン属の総称。アジアの熱帯から亜熱帯にかけて自生する低木ないし高木。普通は枝幹にとげがあり，全縁または鈍鋸歯(どんきょし)の革質で光沢のある葉を互生する。野生種は30種ほどが知られるが，多くの栽培種があり世界各地に植えられている。古くから栽培され，《日本書紀》の垂仁(すいにん)天皇の項に〈田道間守(たじまもり)が常世(とこよ)の国から非時香草(ときじくのかぐのこのみ)をもたらした〉とあるが，非時香草とはダイダイまたはコミカンのことと考えられる。

①カラタチ属：カラタチが含まれ，葉が三出複葉で落葉性であり，単葉で常緑性のミカン属と区別できる。主としてつぎ木の際の台木として用いられる。②キンカン属：マルキンカン・ナガキンカン・マメキンカンなどが含まれ，子房の室がミカン属の10～15に対して3～7であることで区別される。③ミカン属：初生カンキツ類と後生カンキツ類に大別される。初生カンキツ類は多くが総状花序で，一つの花柄に2花以上をつけ，花糸が癒合(ゆごう)せず胚(はい)が白色である。また果実の多くは長形または丸形で，外果皮がはがれにくく，これには，ライム・ベルガモットなどのライム類，シトロン・レモン・ブシュカンなどのシトロン類，ザボン・ハッサク・グレープフルーツなどのザボン類，ダイダイ・ナツミカン・ネーブルオレンジなどのダイダイ類などがある。後生カンキツ類は花が単生または群生して，多くのものでは花糸が癒合し，胚は緑色である。また多くの果実は扁平(へんぺい)で，外果皮がはがれやすい。これには，ユズ・スダチなどのユズ類，ウンシュウミカン・クネンボ・キシュウミカン・ポンカン・タチバナなどのミカン類などがある。〔加藤僖重〕

かんぎてん【歓喜天】象の頭をもち，人の身体をしたインドの神。聖天(しょうてん)・大聖歓喜天などともいう。梵語(ぼんご)では，異名が多いが，代表的なものは障害の神を意味するVināyaka(ビナーヤカ)と象鼻天を意味するGaṇeśa(ガネーシャ)である。この名で知られるように象面の鬼神であったが，仏教*に帰依してからは守護神となり，富と愛とを与えるとされるようになった。インド教では学問と富の神とされる。

かんきゅうあん【官休庵】京都市上京区の武者小路(むしゃのこうじ)千家の邸内にある茶室。千宗旦(そうたん)の次男一翁宗守が1667年(寛文7)，高松藩の茶頭を辞して隠居してから設け，致仕隠居して官を休むというところから名づけた。しかし，その席は3度にわたる火災で焼失し，1881年(明治14)に丹波から官休庵写しを移建したが，老朽のために1926年(大正15)改築されて現在の席となった。一畳台目半板の席で，畳敷き台目床。〔重森完途〕

かんきゅうしゅう【漢宮秋】中国，元代の雑劇。13世紀前半ごろの人，馬致遠の作。漢の元帝のとき，王昭君*が匈奴(きょうど)に嫁す故事を脚色したもので，胡地(こち)に行く王昭君と元帝の離別の哀切を描き，〈元曲*〉の中でも屈指の作品という。

がんきゅうしんとう【眼球振盪】眼振ともいう。眼球が不随意に左右または上下の方向に往復運動する状態。普通は両眼に起こり，1眼の場合は少ない。原因は脳内の異常，内耳の疾患および眼性の三つがあり，眼性のものは生まれつき視力が弱い目に起こる。なお，眼球振盪の際の眼球の運動形式には，時計の振り子のように動く振り子様の運動と，一側にはすみやかに動き，他側へはゆるやかに動く衝動性の運動とがある。〔氏原　弘〕

かんきゅうちゅう【肝吸虫】扁形(へんけい)動物・吸虫綱に属する寄生虫。肝臓ジストマともいう。長さ10～25mm，幅3～5mmで非常に薄く，ヤナギの葉に似ている。中国・朝鮮・インド・フィリピンなどに分布。わが国でも全国に広く分布する。成虫は胆管系に寄生し，卵は胆汁(たんじゅう)とともに腸内に運ばれ，糞便(ふんべん)とともに排出される。第1中間宿主はマメタニシで，貝内で最初の幼生ミラシジウムは，スポロシスト・レディア・娘レディアを経てセルカリアになる。第2中間宿主はコイ科の淡水魚(モツゴ・ゼニタナゴなど)で，セルカリアは魚の筋肉内でふくろに包まれたメタセルカリアとなる。このような魚肉を摂食してヒトは感染する。多数の肝吸虫が寄生すると食欲不振・肝肥大などを起こし，ときには黄疸(おうだん)・腹水・貧血，さらに肝硬変などの原因となる。予防は第2中間宿主であるコイ科の魚肉を生食しないことである。治療薬は，最近効果の高い薬剤が開発された。〔山本　久〕

かんきょう【環境】生物学では，特定の生物種の生活とかかわりをもつ外界諸要因の総称で，光・温度・水分など，そのおのおのを環境要因という。要因には水・温度・光・土壌(どじょう)の性質などの無機的要因と，他の生物種・心理的影響などの有機的要因に分けられる。生物の生活は，それを取り巻く環境と密接な関係をもっている。それはまず環境が生物の生活に影響を与えていることである。緑色植物は光があたらなければ光合成を行なわず，また，光の強さや温度の相違によって光合成速度が違ってくる。一方，光合成が活発に行なわれると，群落の中の大気は二酸化炭素が減少し，土壌中からは大量の無機塩が失われるなど，環境もまた影響を受ける。さらに無機塩が不足になった結果，そこの植物の生長速度は低下する。このように生物の生活は環境の影響を受けるが(環境の作用という)，一方では環境に影響を与えており(環境への反作用という)，作用と反作用は相互に働き合っている。〔船越真樹〕

心理学では，人間や動物などの生活体を取り巻いて，それらの発達や行動を規定する事象の総称。環境は，一般に自然的環境(気候・風土など)，社会的環境(社会状況，職場・家庭などの人間関係)，文化的環境(学問・芸術・宗教など)の三者に分類されるが，これらは厳密に区別されるものではなく，混然として環境を形づくっている。一方，コフカ*は，環境を個体の外部にある客観的・物理的な〈地理的環境〉と個体の行動に直接的に影響を与える〈行動的環境〉とに分けて考えた。その他，個体を中心に考えた場合，外界の事象は〈外的環境〉であるが，個体の組織も環境の一部と考えれば，個体内の行動を規定するもの(体質・性質・思想)を〈内部環境〉とよぶこともできる。たとえば，ある行動の失敗を予測させる外的条件がないにもかかわらず，ある人が〈危険だからやめよう〉と判断したとすると，その人は内部環境(用心深い性質)に規制されて行動を中止したことになる。

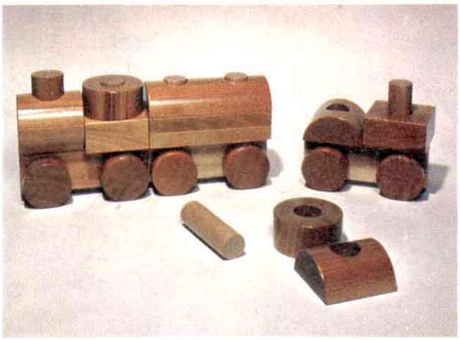
個体は一方で環境に支配され，その規制を受けながら，他方では環境に働きかけ，これを改変していくという，相互作用のうちに生活を維持している。〔深津千賀子〕

かんぎょう【官業】国有国営の事業。すなわち，資本・経営両面で，国が直接全面的に関与している事業をいう。わが国では明治初年，殖産興業*政策による近代産業育成のため，各地に官営模範工場・事業所・農場を設置した。官営の工場のほかに，炭坑，金・銀・銅・鉄山，育種場，農具製作所，ブドウ園などがある。1880年(明治13)以後民間企業育成などのため軍事工場を除き，民間に払い下げられた。第2次世界大戦後官業の一部は廃止，大部分は公共企業体化した。今日残っている官業は郵便・国有林野・印刷・造幣・国立病院などである。

➔官営工業〔千野境子〕

かんぎょう【寒行】寒修行ともいう。小寒から節分までの約30日間，寒苦に耐えてする修行で，平常の修行よりその功徳はまさると考えられている。寒中水を浴びて神仏に祈願する〈寒垢離(かんごり)〉，僧俗を問

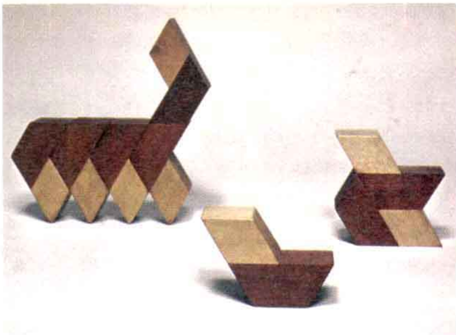
玩具



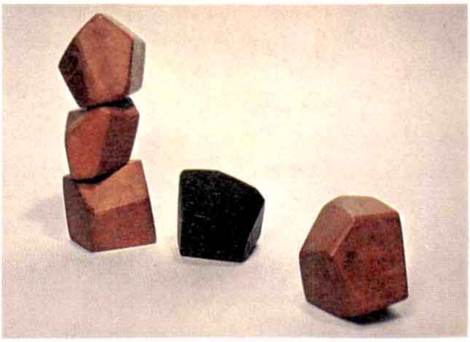
〈汽車積み木〉



〈町づくり積み木〉



〈鳥積み木〉



〈石ころ積み木〉

〈積み木遊びと積み木〉積み木といえば,四角・三角に決まっているように思われている。これは,立方体・球体を基本としたフレーベルの恩物に代表される。しかし,積み木は本来子どもの想像世界の具体化に役だつ玩具であるから,子どもの想像力に適応することが望ましいが,子どもの想像力・造形力は,必ずしも抽象的な幾何形に順応しない。むしろ,四角・三角のために造形世界が限定される恐れがある。この考えからやや具象形の〈汽車積み木〉〈町づくり積み木〉,抽象的な〈鳥積み木〉など多様な積み木を提案したい。しかし,積み木遊びは結合構成する〈組み木〉と異なり,くずれるおもしろさの造形であるから,〈石ころ積み木〉のように不安な造形に徹するのも一つの方向である　　（制作　寺内定夫）

わず,鉦(かね)をたたき念仏を唱える〈寒念仏〉,裸足または裸で,ときには白衣だけで神社・仏閣に参詣(さんけい)する〈寒もうで〉などがある。

がんきょう　【眼鏡】 ⇨めがね

かんぎょう　【観経】 ⇨観無量寿経

かんきょうえいせいがく　【環境衛生学】 生活環境は人の健康に密接な関連をもっているが,それが人に及ぼす影響を調べ,その本質を明らかにして有害な影響があるとわかればそれを減らしたりなくしたりする方法を追究し,これを実用化するのを目的とする衛生学の一分野である。環境要素としては空気・水・光・音などの自然環境から,衣服・住居・下水・屎尿(しにょう)処理・塵芥(じんかい)処理などの社会生活に伴うものも含まれる。衛生学のうちでも最も基本的な分野である。　〔金子義徳〕

かんきょうえいせいかんしいん　【環境衛生監視員】 ⇨衛生監視員

かんぎょうぎんこう　【勧業銀行】 ⇨第一勧業銀行

がんぎょうじ　【元慶寺】 京都市東山区山科(やましな)北花山にある真言宗の寺。もと天台宗。別名花山寺。陽成(ようぜい)天皇誕生のとき母后藤原高子の発願で造山し,877年(元慶1)堂宇が完備した。座主に招ぜられた遍昭(へんじょう)の学徳と尽力により一時期寺運が栄えた。986年(寛和2)花山天皇*が藤原兼家の謀略に乗ぜられ,同寺に潜幸して落飾,退位するという政治事件があった。たびたび火災に会い衰え,小寺院として現存している。　〔高崎徳次〕

かんきょうちょう　【環境庁】 総理府の外局。1971年(昭和46)7月環境保全行政推進のために新設。長官官房のほか,企画調整局・自然保護局・大気保全局・水質保全局の4局,国立公害研究所・公害研修所の2付属機関,ならびに中央公害対策審議会・自然公園審議会・中央鳥獣審議会の3審議会を置く。長官には,総理大臣のもつ各省庁大臣指揮権を発動するよう総理大臣に意見を具申する権限を与えている。

かんぎょうはくらんかい　【勧業博覧会】 ⇨内国勧業博覧会

かんきょく　【寒極】 地球上で最も低い気温を示す地点をいう。これまでシベリア北東部のベルホヤンスクが1892年2月に記録した−67.8℃が知られていた。しかし1958年に南極大陸のソ連観測基地ボストークでは−87.4℃を記録したが,ここは海抜700mの高地に位置し,−83°の記録をもつ同じソ連の南極観測基地ソビエツカヤが現在のところ低地の寒極と思われる。

かんきん　【桿菌】 棒状ないし線状の細菌。らせん状に巻いてはいない。長軸と短軸の比はいろいろで炭疽(たんそ)菌の長軸は10μ,非病原菌には80μのものもある。インフルエンザ桿菌の長軸は1μで,このようなものは短桿菌・球桿菌とよばれる。ジフテリア菌は一端がふくれて棍棒(こんぼう)状,ペスト菌は両端が丸みをおび,炭疽菌・枯草菌は角が直角に近い。同一種の細菌でも発育条件により球菌型を呈する場合もあるので,これは絶対的な区別ではない。　〔和気　朗〕

かんきんざい　【監禁罪】 一定の区画された場所から人を脱出できない状態に置く犯罪(刑法220条)。便所のドアを外から締めてしまう場合はもちろん,脱衣所の衣服を隠して,心理的に浴室から出られないようにしてしまう場合にも成立する。刑は3月以上5年以下の懲役。自分または配偶者の直系尊属を監禁したときは6月以上7年以下の懲役。監禁の結果,死傷の結果を生じたときは,重い傷害罪*の刑で処罰される(刑法221条)。　〔野口恵三〕

かんきんさくもつ　【換金作物】 生産物を販売して現金収入を得るためにつくられる作物の総称。いいかえれば非自給的作物のことであって,近年は商品作物ということばがよく使われる。➔商品作物

かんぎんしゅう　【閑吟集】 1518年(永正15)成立の歌謡集。編者未詳。室町時代に流行した小歌311首が春・夏・秋・冬・恋の順に配列され,さらに各部の小歌は連歌的な内容語句の連鎖でまとめられている。当時の民衆の生活感情に触れたものが多く,中でも恋愛を扱ったものが過半数を占めている。韻律は七五七五形が主流であるが,その他自由律詩的なものもあり,多様さをみせている。

がんきんまひ　【眼筋麻痺】 眼球を動かす筋肉である眼筋(外眼筋ともいう)の麻痺。眼筋自体が麻痺することは少なく,多くは眼筋を支配している神経の麻痺で起こるのが普通である。左右の眼球にそれぞれ6個の眼筋があって,円滑な眼球運動を行なっているが,眼筋のどれかが麻痺すると,その筋の働く方向へ眼球が動かなくなり,ものが二つに見える複視の症状が出る。治療に数か月またはそれ以上を要することが多い。　〔氏原　弘〕

がんく　【岸駒】 (1756〜1838)　江戸時代の画家。金沢の生まれ。字(あざな)は賁然(はんぜん)。号は同功館・可観堂。京都に出て有栖川宮(ありすがわのみや)に仕え,越前守(えちぜんのかみ)の官名を得る。沈南蘋(なんぴん)の流儀や円山*

(まるやま)派・四条派*を学び，写実を骨格とした覇気(はき)に富む装飾画風を創始し，多くの門人を集めて岸派の祖となる。作品は《猛虎図(もうこず)》など。

がんぐ　**【玩具】**　遊び道具・おもちゃ。玩具は子どもの遊びを刺激し，子どもの成長を助けるための重要な道具である。現在では，既成玩具だけでも多種多様のものがあるが，自分でつくるものを含めて，玩具は子どもの心身の発達に応じたもの，またこれを促進するためのものである。

日本の玩具は，古く中国から伝来したもの，西洋から伝えられたもの，郷土玩具のようにその地方の風俗習慣に応じて日本各地で製作されたもの，近代になって合成樹脂などの発達により大量に生産されたものなどがある。

〔材料〕①金属玩具：ブリキ板・銅板・合金鋳物などでつくられる。乗り物玩具に多く用いられ，ぜんまい・電動装置・玩具装置などが備えられているものも多い。②セルロイド製玩具：硝酸繊維素製のものは発火しやすく燃えやすいが，酢酸繊維素製のものは燃えにくいので不燃性セルロイドといわれ，おしゃぶり・人形などがつくられている。③プラスチック玩具：燃えにくく，こわれにくく，あざやかな色が出るので，セルロイド・ゴム・ガラスなどに代わって多く用いられ，動物・人形・ままごと道具・組み立て玩具など数多く生産されている。④ゴム製玩具：ゴムまり・ボール・風船，またカエル・ワニなどにゴムのパイプをつけスポイト式に押し出して動物を飛躍させるものなどがある。⑤木製玩具：乗り物玩具・小箱・積み木・楽器玩具，各地でつくられている彫刻品やこけしなどの郷土玩具*などがある。⑥布帛(ふはく)製玩具：布の中に木毛・カポック(パンヤ)などを詰めた動物や人形の縫いぐるみ，従来は綿・絹が主材料であったが，現在ではパール・アセロンなどの化学繊維が用いられ，またプラスチック系のものも出ている。⑦これらのほかに竹製玩具・紙製玩具・陶磁器製玩具・薬品製玩具・骨角製玩具・貝製玩具・石製玩具・ガラス製玩具など，その他種々の材料を組み合わせてつくられた玩具もある。

〔用途〕玩具を用途によって分類することはむずかしく，一つの玩具でいくつかの用途を兼ねているものが多いが，ほぼ次のように区別することができる。①育児玩具：カラカラ・オルゴール・おしゃぶりなど。②音響玩具：太鼓・木琴・笛・ピアノなどの楽器類。③運動玩具：輪投げ・ボール・なわとび・ヨーヨー・けん玉，幼児の歩行器，押し車・スケート・三輪車の類。④模倣玩具：ままごと遊びの道具，水遊び・電車ごっこ・郵便やさんごっこなどの道具類。⑤知能玩具：知恵の輪・はめ絵・パズルなど。⑥学習玩具：文字遊び・顕微鏡・塗り絵など。⑦人形・動物玩具。⑧乗り物玩具。⑨季節的玩具：羽子板・福笑い・すごろく・雛(ひな)人形・五月人形・たこなど。⑩手芸玩具・折り紙・ビーズ玉・人形材料など。⑪郷土玩具：地方の風俗習慣に伴って発生し，その土地特有の要素をもっている。伝説・信仰・縁起・教訓などにちなんで玩具化されたもので，最近はみやげ用としてのものは数多くつくられているが，郷土玩具としての持ち味は薄れてきている。

〔玩具と心身発達〕玩具は子どもの成長を助けるためのものであるが，子どもは既成玩具で遊ぶだけではなく，あらゆる事物に目を向け，興味を示し，家具・調度類を自動車などに見立てて遊ぶことも多い。したがって，子どもに玩具を与える場合には，いろいろな面での安全度に注意しなければならず，とがったもの，有毒なもの，飲み込めるような小さなもの，戦争玩具で危険なもの，めんこなどの投機心をそそるもの。こわれやすいものについては，どの年齢においても慎重な配慮を必要とする。①生後5～6か月：オルゴール-メリーのように視覚・聴覚の働きを伸ばすもの，色彩はどぎつくなく単純・あざやかで，柔らかい音色のものがよい。②生後6か月～1年：まり・人形・らっぱ・押し車など。なんでも口にもっていく時期なので，おもちゃは清潔にし，ガラス・金属類は避けたほうがよい。③生後1年～1年6か月：歩行いす・ゴムまりなど。④4歳ごろまで：この時期には子どもは自他を区別しはじめ，自己中心・独立の心を確立し所有観にめざめる。ハーモニカ，動く玩具，三輪車・積み木・ままごと・クレヨン・絵本など。⑤5～6歳：性別・個人差も大きく，発育も不安定な年代であるが，各種の玩具を組み合わせて遊ぶようになる。子どもは自主的になり，遊び方も積極的で幅が広がり，玩具を自由に使いこなす。ぶらんこ・すべり台・輪投げ・ままごと・砂遊び，絵本・いろは板など。⑥小学校入学後：このころから子どもは，既成の玩具以外に自分でつくることを活発に行なうようになり，子ども自身がはじめから目的を立て，計画し，努力し，形を仕上げるための製作活動が多くなってくる。スポーツ器具として，スケート・子ども用自転車・野球セットなど。また折り紙・模型づくり・組み立て玩具・楽器・実験器具・パズルなど，思考・創造力を養うものがよい。

幼稚園の創始者であるフレーベル*は，みずから玩具を考案し，恩物*と名づけた。彼は恩物を通じて，子どもが感覚的・身体的・知能的・知識的に活動するきっかけを与えようとした。それは積み木であったのだが，あらゆる種類の玩具も，各種の精神機能を均等に発達させることを目的としているといってよいであろう。

〔玩具の社会性〕おもちゃということばは，〈もてあそびもの〉が変化してきたものであるといわれる。心身の発達に沿ったもの，それを助ける道具ということの中に，当然含まれていなければならないのだが，子どもの集団の媒介物という要素を現在は重視していく必要があるだろう。現代の玩具の意義は，単にひとりの子どもの〈もてあそびもの〉ではなくて，子どもたちの仲間をつくり，結びつけ，その中で子どもの個性が形成されていくための道具でなければならない。

ところが商品として出回っている玩具の中には，玩具の社会性をほとんど無視してしまったものがみられる。子どもひとりだけが室内で遊んで楽しむという傾向が助長されてしまうものがある。しかし，そういうものは見た目がどんなに魅力的であろうとも，現代の子どもの玩具としては不適当であろうし，また飽きられてしまうものである。

さらにこのような観点から玩具をみていくならば，遊具や遊び場についても考えなおしてみる必要がある。幼児の遊園地としてつくられている多くは，ぶらんこがあり，すべり台がありという定型的なものでしかない。したがって，そこで遊べる遊びもまた型にはまってしまう。子どもの想像力なり創造力を自由に発揮できるような玩具・遊具・遊び場の開発ということを，人工的にではなく，自然と結びつけて考えていく必要がある。➔ 前ページ(写)〔磯貝芳郎〕

かんくきしょうだい　**【管区気象台】**　気象庁の地方機関として最大の組織。東京・大阪・札幌(さっぽろ)・仙台(せんだい)・福岡にあり，その下に地方気象台*・測候所*などがある。

がんくびそう　**【雁首草】**　双子葉植物・キク科。山の樹陰にはえる多年草。キバナガンクビソウともいう。高さ25～100cm，上部で枝分かれする。葉は卵状楕円(だえん)形，下部のものは基部が心臓形になる。8～10月に枝の先に黄色い頭花をつける。頭花は下向きに咲き，直径6～8mm，きせるの雁首に似る。

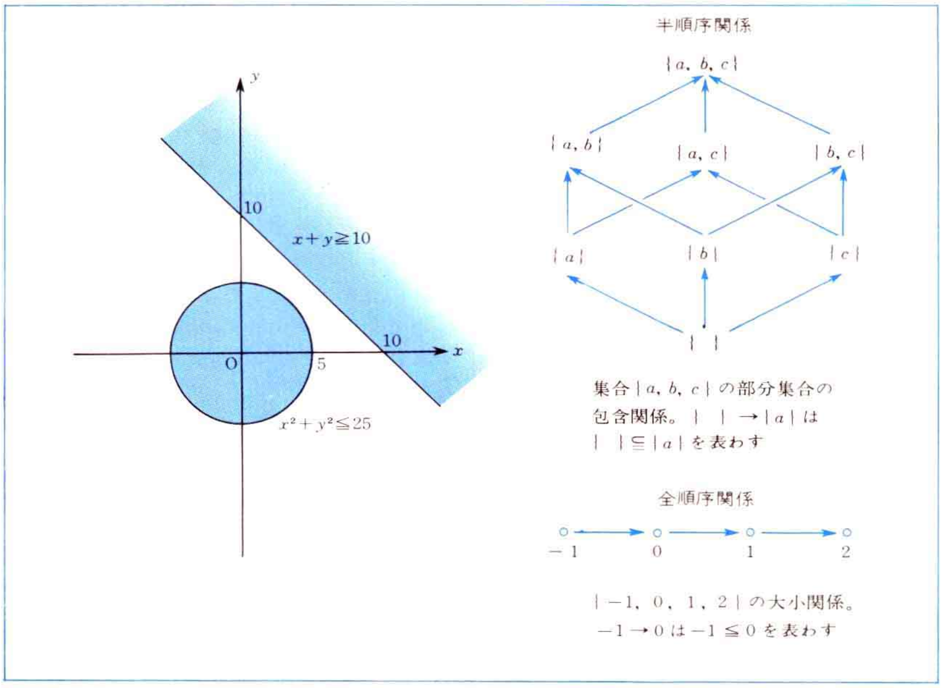
かんけ　**【菅家】**　⇨菅原道真(すがわらのみちざね)

かんけい　**【関係】**　$x+y\geqq 10$は$x=5$，$y=6$に対して真であるが，$x=5$，$y=2$に対しては偽となる。このように，集合XおよびYをそれぞれ変域*とする変数x，yを含む命題があって，x，yにそれぞれXおよびYの元を代入すると命題の真偽が定まるとき，この命題を関係という。関係はしばしばxRyと書かれる。関係xRyを満たす(x, y)全体の集合を関係Rのグラフという。X，Yを実数の集合とするとき関係$x+y\geqq 10$のグラフは直線で限られた平面の部分(直線を含む)，関係$x^2+y^2\leqq 25$のグラフは原点を中心とする円(円周を含む)となる。

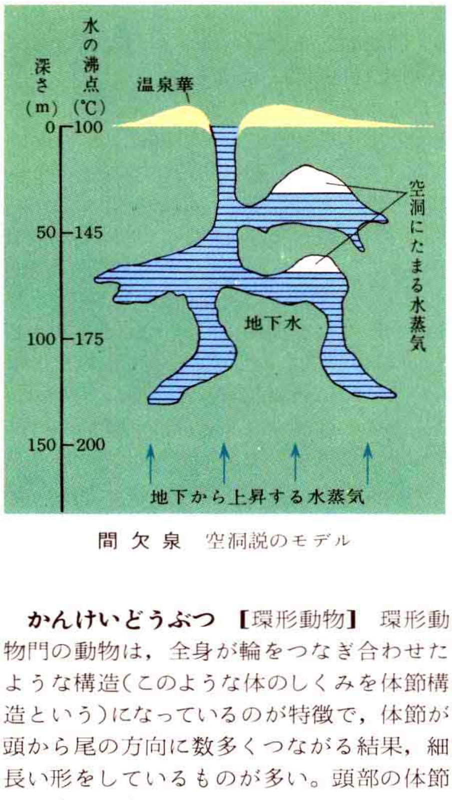
命題$x+y=10$では，xにXの各元を代入するとき，Yの元yがただ一つ定まる。このような関係を特に関数とよぶ。$x^2+y^2=25$は，$-5<x<5$の区間の任意のxに対し

て，yの値が二つずつ定まるから関数ではなく関係である。
〔同値関係〕X＝Yであって，その2元x，yの間にある関係xRyがなりたつかどうかが定まっているとする。Rが反射的とは，すべてのxに対して，xRxがなりたつことをいう。Rが対称的とは，xRyならば，yRxがなりたつことをいう。Rが推移的とは，xRyかつyRzならばxRzがなりたつことをいう。反射的・対称的・推移的な関係を同値関係という。数についての相等，図形の合同・相似，直線の平行などの関係は同値関係である。整数の集合から2元x，yをとり，それぞれを3で割った余りが同じであるとき，$x \equiv y$と書くことにすれば，これも一つの同値関係である。同値関係を満たす2元は同値であるといい，ある一定の元aに同値な元全体の集合をaの同値類という。上の例で，3で割った余りは0，1，2のいずれかであるから，整数全体を，0の同値類，1の同値類，2の同値類の三つの部分集合に分けることができる。そして，異なる同値類の間には共通元はない。ある集合をこのような共通元をもたない部分集合に分けることを類別するという。同値関係の定められている集合は，その同値関係によって類別できる。
〔順序関係〕関係Rが反対称的であるとは，xRyかつyRxならば$x=y$がなりたつことをいう。反射的・反対称的・推移的な関係を順序関係または半順序関係という。ある集合の部分集合A，B，Cにおいて包含関係⊆を考えれば，A⊆A（反射律）。A⊆BかつB⊆AならばA＝B（反対称律）。A⊆BかつB⊆CならばA⊆C（推移律）。よって，部分集合の包含関係⊆は順序関係である。
　順序関係Rがあって，任意の二元x，yに対し，つねに，xRyまたはyRxがなりたつとき，これを全順序関係または線形順序関係という。実数の集合における大小関係≦は順序関係であり，任意の二実数x，yに対して，つねに，$x \leqq y$または$y \leqq x$が成立するから，これは全順序関係である。〔青柳雅計〕

かんけいだいめいし　【関係代名詞】　接続詞の機能をもも つ代名詞の一種。前に置かれた主節中の先行詞（普通は名詞・代名詞）に性・数・人称を一致させてその先行詞をあとの関係詞節に結びつけるとともに，みずからは関係詞節に対して主語・属詞・補語などの働きをするから，格は関係詞節中のそれらの機能に応じて決められる。元来，指示代名詞・疑問詞であったものが接続詞的な機能をおびた場合が多く，かつての機能の名ごりは先行詞を必要としない用法において認められる。インド-ヨーロッパ語族では顕著に発達したが，日本語では動詞・形容詞の活用を利用したり，〈ところの〉という語を用いてその機能の一部を表現しうるにすぎない。〔崎山　理〕



関　係



間欠泉　空洞説のモデル

かんけいどうぶつ　【環形動物】　環形動物門の動物は，全身が輪をつなぎ合わせたような構造（このような体のしくみを体節構造という）になっているのが特徴で，体節が頭から尾の方向に数多くつながる結果，細長い形をしているものが多い。頭部の体節と最後の体節（肛節(こうせつ)という）以外は，各体節は互いに似た構造・外観を示し，区別をつけがたい。皮膚の下に環状の筋肉と縦に走る筋肉がよく発達しており，一般に運動は活発である。血液にはヘモグロビンが含まれる種類が多い。生殖法は，出芽による無性生殖を行なうものもあるが，有性生殖をするものが多い。海産の環形動物はトロコフォア幼生の時代を経て成体になる。陸上・淡水・海など地球上のあらゆるところに分布し，深海底，高山の氷河上にもすむ種類がある。
　環形動物は，ゴカイ*の仲間（多毛綱），ミミズ*の仲間（貧毛綱），ヒル*の仲間（ヒル綱），ユムシ*の仲間（ユムシ綱）などに大別される。多毛綱・ユムシ綱はほとんど海産。ヒル綱・貧毛綱はほとんどが陸産か淡水産である。トロコフォア幼生を経て成体となるところが軟体動物に似ているので，環形動物と軟体動物は，同じような祖先から分かれたものと考えられている。〔菅野　徹〕

かんげつ　【寒月】　都山流尺八の曲名。本曲*の一つに数えられる。初世中尾都山*が1911年（明治44）に作曲した独奏曲で，冬の夜の冷々とした月の光を描写している。後段の部分は，箏曲(そうきょく)の《冬の曲》の前弾(まえびき)と合奏できるようになっている。

かんけつうんどう　【間欠運動】　機械などが一定の周期で運動と停止をくり返す状態。映画の映写機でフィルムを送るとき，一こまごとにレンズの後ろで一時停止させるのはその一例である。これにはゼネバ歯車・カム*などを用いる。このほかつめとつめ車，リンクなどを用いたものがある。

かんけつせん　【間欠泉】　水蒸気と熱湯を周期的に吹き上げる温泉。温度は噴出口付近で100℃内外。噴出の高さは5～6cmから100m以上に達するものもある。これは，地下の空洞(くうどう)にたまる地下水が地熱で熱せられ，空洞の上部に集まる水蒸気の圧力によって押し出されるという空洞説と，空洞はあまり関係なく，単に垂直な管状の穴の下部の水圧の変化によるという説とがある。周期・噴出量は大小さまざまであるが，1個の間欠泉では一定である。アメリカ合衆国西部のエローストン国立公園*のものが有名で，わが国にも宮城県鬼首(おにこうべ)

温泉*・静岡県峰温泉*などにみられる。
〔平山　健〕

かんけぶんそう【菅家文草】菅原道真*(すがわらのみちざね)の漢詩文集。成立は900年(昌泰3)。1～6巻が詩で12歳のときの作品からほぼ年代順に配列，7～12巻は文で賦・銘・策問などを種類別に記載する。詩風は元白(唐の詩人，元稹(げんしん)と白居易*)調といわれるが，やはり当時の詩風と同じく中国六朝(りくちょう)詩風の影響が強い。しかし，類型的ではなく，個性的な作風がにじみ出ている。なお，道真には大宰府(だざいふ)貶謫(へんたく)後の漢詩を集めた《菅家後草》もある。

かんげん【還元】⇨酸化・還元

かんげん【管弦】主として日本の雅楽*について使われる用語で，楽器編成あるいは演奏慣習による分類名の一。舞の伴奏としての舞楽*と対立するもので，純粋に器楽演奏だけが目的とされ，西洋の絶対音楽*の概念に通じるものがある。基本的な楽器編成は，管楽器では笙(しょう)・篳篥(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)が各3本，弦楽器では琵琶(びわ)・箏(そう)が2面ずつ，打楽器では羯鼓(かっこ)・太鼓・鉦鼓(しょうこ)1個ずつである。

かんげんえん【還元炎】⇨炎

かんげんがく【管弦楽】西洋音楽の合奏形態の一。これによって交響曲*や協奏曲*が演奏される。英語のオーケストラはギリシア語オルケストラに由来し，元来，古代ギリシアの演劇で〈舞踏する場所〉をさし，舞台と観客の間の半弓形の平土間のことであった。17世紀になってオペラ劇場ができると，楽団の置かれる場所がやはり舞台と観客の間にあったため，楽団を示すためにこの名が復活した。なお，日本語の管弦楽は雅楽の合奏形態である管弦*の語を用いて訳されたものである。

今日の管弦楽の形は18世紀後半に始まると考えられるが，その先駆的なものは17世紀に始まるバロック時代の音楽にすでに見いだされる。それは弦楽器(高音から低音まで)を主体とした合奏で，これに管楽器が多少加わるというものである。最も古いものでは，モンテベルディがオペラ《オルフェオ》でレコーダーやトランペット・トロンボーンなどを使用した例が有名である。しかし今日に近い形は，より和声的な性格の古典派様式が成立したことと不可分に結びついている。18世紀後半には，ドイツ・オーストリア・イタリア・イギリスなどの諸都市で，新しい様式にかなった表現手段である管弦楽が誕生していた。その中でも特に著名なのが，シュターミッツに始まる南ドイツのマンハイム楽派*の管弦楽であった。そこでは，弦楽器を音楽構造上の主体としながら，管楽器を不可欠なものとして加えるという今日の基本形だけでなく，さらに弓使いやフレージングを合わせたり，管弦楽で特に効果を出すような音量の変化法などが行なわれている。19世紀にはいると，楽器の種類だけでなく，楽器の数もしだいに大きくなっていった。また，まえの時代では遠慮がちにしか使われなかった楽器が非常に大胆に，しかも高度な技法をもって使われるようになり，この傾向は今日にまで及んでいる。今日の大規模な管弦楽では，ふつう100人前後の演奏者を必要とし，これは弦楽器群・木管楽器群・金管楽器群・打楽器群に大別され，各楽器群は一定の比率で構成される。

管弦楽はアマチュアの団体によっても演奏されることがあるが，個々の楽器の技術だけでなく，合奏にも高度な技術と熟練が必要であること，オペラや放送と結びついた定期的な活動が必要であることなどのため，ほとんどが専門家による組織によって演奏されている。また，運営や活動に経費がかかるため，公共団体や放送局によって経営されるものが，国際的にみても多い。
〔徳丸吉彦〕

かんげんこうそ【還元酵素】酸化還元酵素*の一種。酸化還元反応で，還元反応のほうがはるかに起こりやすい場合，その反応にあずかる酵素を還元酵素と通称する。硝酸還元酵素・グルタチオン*還元酵素など，多くの場合，水素供与体*として還元型のNAD*またはNADP*を必要とする。

かんげんざい【還元剤】他の物質を還元することのできる物質。酸化されやすい物質，すなわち，他の物質に電子を与えやすい性質をもつ物質は，電子を受け取りやすい物質に対して還元剤として働く。還元剤の例としては，水素(特に発生期の水素)，アルカリ金属の水素化物，ヨウ化水素のような不安定な水素化合物，一酸化炭素のような低級酸化物，亜硫酸・亜硫酸ナトリウムのような低級酸素酸とその塩，マグネシウムのようなアルカリ金属，硫酸第一鉄のような低酸化状態にある金属の塩，アルデヒド類のような有機化合物，特に有機化学でよく用いられるリチウム-アルミニウム-ヒドラゾン$Li[AlH_4]$などがある。二酸化イオウのような電子の与えやすさが中くらいの物質では，強い酸化剤に対しては還元剤として，強い還元剤には酸化剤として働く。また，元素の酸化還元力の強さを示すために，酸化還元電位が測定されている。酸化還元電位は，水素電極を標準点とし，酸化還元電池の電圧を測定することにより知られる。
〔三輪誠・加藤康〕

かんこ【官戸】律令(りつりょう)制下の賤民(せんみん)の一。官有の賤民で，官奴司(かんぬのつかさ)の監督下に諸司の雑役に従事した。官戸は，①刑罰により良民から落とされた者，②66歳以上の官奴婢(かんぬひ)または廃疾者，③家人・奴婢が主家との間に生んだ子などを含む。官奴婢より身分が上で家族を構成し，良民と同額の口分田*(くぶんでん)を得たが，収穫はすべて官納し，衣食は別に官給された。

かんご【漢語】日本語の語彙(ごい)の中で，漢字音を使ってできている語。中国から借用した語だけでなく，その造語成分を使って日本で形成された語も含めていう。ウマ(馬)・タケ(竹)・ゼニ(銭)など中国起源ではあるがきわめて古く借用されて字音語としての意識がなくなっているものや，マージャン(麻雀)・クーニャン(姑娘)のように中国現代音で借用した語は，漢語とはいわない。字音の種類としては，カイ(会)・フボ(父母)のような漢音，ズ(図)・ニンゲン(人間)のような呉音が主である。かつては呉音の語が多かったが，現代語では漢音の語の勢力が大きい。ほかに，ビン(瓶)・フトン(蒲団)のような唐音などもある。また，これらを混用した語もある。なお，〈夕刊〉〈現場〉〈ソーダ水〉〈急カーブ〉などのように，漢語の造語成分と，和語やヨーロッパ系の外来語との結合した，いわゆる混種語もある。**《特色》**〈門〉〈客〉〈胃〉〈愛〉など，漢字1字(1～2音節)に相当する漢語もあるが，〈水銀〉〈金魚〉〈土地〉〈便利〉〈旅行〉〈精神〉など，いわゆる2字漢語(2～4音節)がきわめて多い。〈大理石〉〈自動車〉〈東西南北〉〈言語道断〉など，3字以上の漢語もあるが，〈委員会〉〈大事件〉〈地盤沈下〉〈憲法違反〉などのように，2字漢語に，1～2字の漢語が結合したものが多い。〈新空港建設実施本部〉のように，回数多く結合を重ねやすいことも漢語の特徴である。〈総-〉〈新-〉〈反-〉〈不-〉〈-的〉〈-性〉〈-化〉など，接頭語・接尾語的に，広く他の語と結びつく，きわめて生産的な漢語要素も多い。2字漢語の構成法は，〈洗車〉〈脱水〉〈派米〉のように新しい造語でも，漢語本来の造語法に従うのが原則である。が，〈菓子製造〉〈現地到着〉のように2字漢語を重ねる場合は，日本語の普通の順序に従う。漢語は他の借用語と同様に，名詞として使われることが最も多い。しかし，〈調査する〉〈愛する〉〈論じる〉〈訳す〉〈退治る〉〈力む〉など動詞として，〈得意な〉〈意外な〉など形容動詞として使われることも多い。ほかに，〈四角い〉〈美々しい〉など形容詞として，〈結局〉〈一切〉〈漠然(ばくぜん)と〉など副詞として使われるなど，多くの品詞にわたっている。**《語彙体系に占める位置》**漢語は先進国のことばとして古代から日本語に摂取されてきたが，明治時代には欧米語の訳語としておびただしくつくられた。漢語は教養ある人間の，権威あることばとして尊重されてきたともいえよう。官庁・法令のことばや，学術用語にも漢語がきわめて多く，それらが日常語にも波及する傾向は今日でも続いている。現代では漢語は日本語の語彙の半ばに及んでいる。使用頻度(ひんど)の点では，最も基本的な和語の類に及ぶものは少ないが，かなり高いものも多い。〈疲労する/つかれる〉〈生命/いのち〉のように和語と同義的な対をなすものもあるが，和語に置き換えられない漢語も多い。漢語を，①〈身代〉〈悋気(りんき)〉〈道中〉のよう

に古くさくなったもの，②〈天気〉〈挨拶(あいさつ)〉〈早速(さっそく)〉のように日常的な語になりきって，漢字のささえも必要としなくなっているもの，③〈責任〉〈環境〉〈実施〉のようにある程度のかたさを伴うもの，④〈牙保(がほ)〉〈畦畔(けいはん)〉〈饋還(きかん)〉のように専門語的でかたさの著しいもの，⑤〈美肌〉〈捕邪飛〉〈細面(委細面談)〉のように声で読まれるよりむしろ視覚符号的な性格の強いもの，のように分けてみることもできるであろう。《問題点》漢語は，手軽に造語できること，語形が短いこと，読む場合はすばやく理解しうること，リズムがいいこと，などの利点がある。しかし，一方では，字種が多く字画の複雑な漢字によって構成されているために，学習上の負担が大きく，機械による処理にも著しく不利である。漢字のささえを必要とするケースが多いので耳で聞く場合は不利であり，特に同音語が多いことが障害となる。また，文字から造語される傾向があるため，〈湾岸道路〉〈更埴(こうしょく)市〉などのように，音形式に対して非常に無神経と思われるものもある。〔西尾寅弥〕

かんこう【観光】⇨次ページ

かんこう【甘汞】Hg_2Cl_2 化学名は塩化第一水銀。無色の結晶であるが，帯黄白色の粉末状態であることが多い。劇薬。甘汞電極などのように理化学用に用いられ，また医薬用としても用いられる。汞は水銀の意で，甘味があるのでこの名がある。

かんこう【漢江】ハン川 朝鮮中央部を流れる，洛東江(らくとうこう)に次ぐ鮮内第2の川。大白山脈に源を発した二大支流南・北漢江がソウルの東方で合流し，西流して黄海に注ぐ。延長514km。流域面積26,000km^2。下流部は広い平野が開け，耕地・人口が密であるが，台風期には氾濫(はんらん)に見舞われることが多い。河口より330kmまでは川舟の便があるが，冬季には凍結する。

かんこう【咸興】ハムフン 朝鮮咸鏡(かんきょう)南道の主都。人口45万(1962年推)。漢代には玄菟(げんと)郡が置かれ，高句麗(こうくり)時代にはその要地となった。李朝(りちょう)発祥の地でもある。城川江下流の咸興平野の米・アワ・ダイズ・大麦などの農産物や，東海岸の水産物の集散地であったが，赴戦江・長津江の水力発電が開発されて以来，工業化が進められた。1960年，興南市をはじめ，退潮・咸州2郡と五老郡の一部が編入され，重化学工業都市としての位置を高めた。咸興地区の繊維・食品・ゴム工業，本宮地区の化学繊維・苛性(かせい)ソーダ工業，龍城(りゅうじょう)地区の機械・建築資材工業，興南地区(戦前より窒素肥料工場で知られたが，朝鮮戦争でいったん壊滅)の化学肥料・油脂・薬品・機械・化学繊維・ゴム工業など，近代的施設の大規模工場の林立する一大重化学工業コンビナートを形成し，興南港はこのコンビナートの海の門戸である。科学院咸興分院・医科大学・工科大学・国立博物館などの文化機関もある。1950年12月，朝鮮戦争*中における韓国軍とアメリカ軍の興南撤収作戦の成功は有名である。〔矢守一彦〕



元興寺　飛鳥寺僧房の一部と伝えられる極楽坊部分

かんこう【桓公】(?～BC643) 中国，春秋時代の斉(せい)の君主。在位BC685～BC643年。斉の王室の内紛を治めて位につく。管仲*を起用して国内の農業・商工業の発展に心を注ぎ，充実した国力をもって，尊王攘夷(じょうい)をスローガンに北方の蛮族を攻めて，燕(えん)・衛を復興し，南方の大国楚(そ)をおさえ，中原の諸侯たちを幾度か糾合して会盟を主宰し，周の王室の衰えたのちの中国の実質的な統率者であることを示した。春秋五覇(ごは)の筆頭に数えられる。

かんこうざいりょう【感光材料】光を受けると化学変化を起こす性質のある物質。本来〈感光性物質〉と同義語だが，一般には狭義に写真用のフィルム*・乾板・印画紙*などだけをさす。

写真感光材料は支持体によって上記の3種に分かれるが，塗布してある乳剤は同じ構造で，ハロゲン化銀，特に臭化銀や塩化銀を含むゼラチン*である。銀塩はゼラチン内でイオン*化しているが，光の刺激でハロゲン-イオンは電子を放出し，この電子の集まる場所が感光核と想定されている。銀イオンは感光核の負電場に引かれて集まり，潜像をつくる。潜像は肉眼で観察することはできないが，現像処理*によって金属銀の集団に変化し，写真画像となる。

写真乳剤はゼラチン内でハロゲン塩と硝酸銀を化合させてつくるが，適当な温度のまま放置するとハロゲン銀結晶がしだいに成育する。この熟成の時間によって乳剤の特性が変化する。写真乳剤の特性として感光度・コントラスト(階調)・粒状性・解像力・感色性などがある。熟成につれて感光度は高まるが，結晶が拡大して粒状性は悪化し，その結果，解像力(同じ幅の白黒平行線を1mm内に分離できる本数，普通のフィルムで50～65本)が低下する。

コントラストは熟成によるよりも，ゼラチンなどの原料によって左右される。感色性も添加色素によって決まる。色増感しないレギュラー(非感色性乳剤)はハロゲン化銀固有の感色性で，波長4,800Å(オングストローム)以下の青色光と紫外線にだけ感光する。これに色素を加えると，5,800Åの緑色光にまで感じるオーソクロマチック(整色性乳剤)や，肉眼と同じ比視感度をもち7,000Åの赤色光にも感じるパンクロマチック(全整色性・汎色(はんしょく)性乳剤)になる。さらに肉眼を越えて7,500～9,000Å以上にも感光する赤外乳剤も，添加色素によってつくられる。

ハロゲン化銀以外にも感光性物質があり，複写感光材料に多く利用されている。よく知られている青写真は鉄塩による感光紙が，最近はジアゾニウム化合物の感光性を使ってアンモニア現像でアゾ色素をつくるジアゾタイプ複写紙も一般化した。

光が静電気*を中和する作用を使って，未露光部分にだけ色素粉を吸着させ，熱処理で複写紙面に色素を固定する電子写真(ゼログラフィー)，赤外線で加熱すると発色する物質を使った熱線写真(サーモフィックス)など，複写感光材料は範囲が広がりつつある。カルバー方式のスライドフィルムは，プラスチック内の感光性物質が加熱されると分解・発泡(はっぽう)して，潜像の部分が不透明になる性質を応用している。これらの新感光材料はすべて熱処理＝乾式現像を採用しており，写真感光材料が依然としてゼラチン乳剤——湿式現像をとりつづけている点と対照的である。➔印画紙 ➔フィルム〔新川幸信〕

がんごうじ【元興寺】奈良市芝新屋町にある華厳宗(けごんしゅう)の寺院。寺の創始は古く，高市郡明日香(あすか)村大字飛鳥(あすか)の地に建てられたのがはじめで，現在はこの地にいわゆる飛鳥大仏・安居院*(あんごいん)が存する。平城遷都ののち，平城京左京七坊の四条と五条にまたがる広大な地域に，大安寺式伽藍(がらん)配置をとって新しく建立(こんりゅう)され，南都七大寺の一つとして栄えたが，その後は宝徳の土一揆(つちいっき)に寺の中心部を失い，安政年間(1854～1860)には五重塔も焼失した。いまは，塔の礎石と仮堂をのこして藤原期の十一面観音(重要文化財)を安置するが，薬師如来立像(国宝)は平安初期の仏像を代表する名品である。元興寺の北わずか離れた所にある極楽坊は，もとその一院であった極楽院にあたり，禅室は奈良時代の僧坊建築を伝える貴重な遺構で，その北室にあたる本堂は鎌倉時代に改修されてはいるが，ともに国宝である。北室の一隅(いちぐう)に住んでいた智光(ちこう)法師がある日感得した智光曼荼羅(まんだら)(重要文化財)・五重小塔(国宝)，その他古美術品をはじめ，本堂の解体修理のときに天井裏や地中から発見された五輪塔・印仏こけら経・地蔵小像などは，鎌倉時代以降の庶民信仰資料として宝物館に陳列されている。〔永井信一〕

観　光

〔観光の語義〕観光とは《易経*》の〈国の光を観(み)るはもつて王に賓たるに利(よろ)し〉に由来する。〈国の光を観る〉とは他国の制度・文物などの輝かしい成果を視察するという意味で，今日の意味とは少し違いがある。現在使われている観光の意味は，人が再びもどってくることを前提にして，日常生活圏から離れた場所へ移動し，気晴らしを楽しむことである。ここでいう気晴らしとは，物見遊山ばかりではなく，鑑賞・知識・体験・活動・休養・参加などを含めた広い意味でのレクリエーション*活動をさしていう。

〔観光の範囲〕観光の範囲は，〈時間〉と〈行動〉の二つの視点からとらえられる。時間的観念でとらえた範囲は，生活時間から労働と生活必需時間を除外した日々の余暇と，週休日・祝祭日・年次休暇などのまとまった余暇にある。その余暇を構成する行動は，広義のレクリエーション活動と労働・生理行為以外の生活行動である。

余暇量を表わす労働と余暇の比率は，1965年(昭和40)において54：46であったが，最近は労働時間の短縮現象が著しく，経済企画庁試算の1975年の労働と余暇の比率は46：54に逆転した。またフランスのジャン-フーラスティエの21世紀の余暇時間量の予測によれば，一生の持ち時間が70万時間となり，そのうち37万時間が余暇時間になるという。観光の範囲を行動面からみると，見る，くつろぐ，学ぶ，遊び動くの四つの行動に分けられる。すなわち，①見る観光とは，神仏もうで・見物・行楽・風景観賞・動植物園鑑賞など，②くつろぎ休む観光とは，慰安・気晴らし・温泉・保健・休養など，③学ぶ観光とは修学旅行・見学・視察・自然探勝・採取研究など，④遊び動く観光とは技術や熟練を要するスポーツや一般スポーツ・ドライブなどである。従来は受け身の物見遊山的行動が圧倒的に多かったが，近年では余暇量の増加とともに能動的で個性的な活動をする人々がふえており，この傾向は今後ますます強まることが予想される。

〔観光の効果〕観光の効果は行なう側とそれを受け入れる側の両面において現われる。行なう側の効果は，観光の本質である移動する要素によって満たされる固定的な日常環境や習慣からの解放であり，そこでの新たな体験や知識の習得である。受け入れる側の効果は観光することによって起こる経済現象である。人間の移動はすなわち経済的移動であり，交通機関・宿泊施設・各種レクリエーション施設などの利用が行なわれ，その消費行為が地域の経済振興に寄与する。この経済現象に適当な組織と体系を与えて編成することによって観光事業が生まれる。

〔観光の歴史〕《万葉集》にある防人(さきもり)の歌や，桜花・紅葉をめでる遊山の歌にもみるように，古くから旅は人の心に深い感銘を与えてきた。しかし，その後の《土佐日記》《十六夜(いざよい)日記》《海道記》などでも知るように，旅は公家(くげ)や武家など特定の階級に属する人々のものであった。市井(しせい)の人々の間で旅が普通に行なわれるようになったのは，18世紀の初期，江戸時代になってからである。当時〈道中記〉という名で一般大衆用のかなり進んだ旅行案内書が販売されていたが，それは木版刷りの地図に宿駅と宿駅の距離，旅館の宿泊料などの旅行案内事項が詳細に書いてあり，いまでいうガイドブックに相当するものである。当時の観光はお伊勢(いせ)まいりや札所*を巡る霊地訪問など宗教を中心とした旅がそのほとんどであったが，明治時代以降の新たな時勢における観光の展開は，1872年(明治5)に新橋～横浜間を結んで敷設された汽車の出現以来である。鉄道網は漸次日本全国に普及し，その後さらに自動車や飛行機の出現と普及が急速に旅を身近なものにしていった。

観光を取り扱う組織としては，1893年に喜賓会がつくられ，おもに外人の旅行斡旋(あっせん)と誘致の仕事にあたった。観光行政機関としては，1930年に鉄道省の外局として国際観光局が設置された。また明治末期から大正時代にかけてスキー・スケート・登山などが一部の人々に普及しはじめ，観光の多様化が始まった。

西欧においては，道路の整備が進められたローマ帝政時代に，早くも観光が近代的な姿で行なわれはじめたといわれている。その後中世紀の暗黒時代を経て，産業革命のころに資本主義という新たな時勢を背景として観光が復活した。19世紀にはいって各種旅行案内書が著わされ，旅行斡旋業が組織されて営業を始めた。第1次世界大戦後ヨーロッパ各国が国策として外客誘致を積極的に推進しはじめたために，国際間の動きが活発に行なわれるようになり，以後交通機関のスピードアップや低廉化によってその傾向は顕著になる一方である。

〔観光事象〕1968年に全国の観光地を訪れた人数は日帰りと宿泊の両方を含めて10億人であったが，これは前年に比べて8％増であり，そのうち宿泊を伴う旅行をした人が6億5,000万人であった。年間の来訪者が1,000万人を越える大観光地は横浜・川崎，三浦半島，湘南(しょうなん)海岸，箱根・湯河原，熱海(あたみ)，京都・宇治川，神戸(こうべ)，奈良，福岡の9か所である。1968年に国立・国定公園を訪れた人は4億2,000万人で，前年に比べて11％増加している。特に来訪者の多い国立公園は，富士箱根伊豆，瀬戸内海，日光の各公園で，国定公園では玄海・日南海岸・琵琶湖(びわこ)の各公園となっている。

観光の形態を実態調査にみると，過去1年間に観光旅行を経験したことのある人が52％であり，1人当たりの平均旅行回数が1.8回，1人1回当たりの平均旅行費用が8,300円，1回当たり泊数が1.8泊である。観光の背景となる日曜・祭日・定休日の過ごし方はごろ寝をしてテレビを見，子どもの相手をしたり，家事をする人が半分近く，今後の過ごし方の希望も同様である。少しまとまった夏期休暇をもつことのできた人が全国民の約半分で，その過ごし方は帰省や観光旅行がおおかたである。観光旅行の目的は慰安旅行が半数近く，次いで見物・行楽が多い。今後の希望では見物・行楽をしたい人の数が実績の倍近いが，それでも第1位は慰安旅行である。

日本人の外国旅行の実績は1969年の総出国数が71万人で，前年に比べて31％もの増加である。観光目的で出国する人々が全体の半数を占め，その割合も年々増加している。また，同年の訪日外国人旅行者の総数は61万人で前年に比べて17％の増加である。訪日の目的は観光が半分以上で，発地は北アメリカからが多く，次いでアジア・ヨーロッパの順である。平均滞在日数は12.8泊，観光目的の場合は9.3泊である。旅行が年年質・量とも大形化していく傾向の中で，観光がどのような姿に変わっていくかが興味深いところである。

〔観光資源〕観光をしたいという意欲を満足させるすべてのものを観光対象とよぶ。それらが観光客を誘引し，観光客の満足を得ることによって観光消費を促す場合に観光対象が観光資源によび名を変える。観光対象を広義にとらえた場合には観光施設もそこに含まれる。狭義の観光対象は次のようなものをいう。①徒歩あるいは汽車や船などの交通機関によって移動することそのもの，②避暑や避寒の対象になる気候，③ローカル色の豊かな国土，④山・高原・海岸・半島・島・川・湖沼・渓谷(けいこく)・滝などの風景観賞，あるいは各種野外レクリエーションに適した地形，⑤溶岩流や間欠泉などの地質，⑥日の出・月見などの天象，⑦雪見などの気象，⑧生活・民俗・ふんい気・行事・芸能・工芸技術・史跡・都市・田園・美術・文化財・郷土料理・庭園・産業などの文化的対象，⑨登山・ハイキング・つりなどの行動。広義の観光対象に含まれる観光施設とは観光客の誘致および接遇に必要な施設をさすもので，①ホテル・旅館・モーテル*・国民宿舎*・ユースホステル*・キャンプ場などの宿泊施設，②鉄道・ケー

ブルカー・ロープウエー・自動車・船舶・航空機・海空港・道路・道路標識などの交通施設，③ゴルフ場・スキー場・スケート場・狩猟場・海水浴場・プール・野球場・庭球場などの運動施設，④カジノ・キャバレー・バー・レストラン・劇場・競馬場などの娯楽施設，⑤博物館・美術館・記念館・動物園・植物園などの文化施設，⑥温泉・上下水道・都市公園などの保健衛生施設，⑦国際会議場・総合案内所・旅行案内所などの案内接遇施設などがこれに含まれる。

観光資源の所在する観光地をその大きさによって観光地点・観光基地・観光地域・観光地区におよび分ける。観光地点とは観光客が無理なく散歩できる長径900m程度の単位で，観光地区を構成する一要素ともなる。観光基地とは観光行事に便利な位置にあって，観光地域への交通上の結接地にあたるもので，観光地域への人の流入をコントロールするとともに，そこ自体が観光資源になる場合もある。中小観光ルートと観光地域相互の交通連絡上の要地となる空港・駅・集落・都市などがこれに属する。観光地域とは観光経営や統制を行なう必要のあるまとまった地域で，各種の観光資源が集合してその中になければならない。国立公園・国定公園・都道府県立自然公園などがこれに属する。観光地区とは半径1km程度の範囲で観光地域内にあってすぐれた特色のある区域をいい，国立公園内の集団施設地区や温泉地などをいう。

〔観光事業〕一時的に滞在する外来者とその土地の人々との間には諸般の関係からさまざまな現象が発生するが，これを構成する要素に，組織を与え，訓練を施し，体系を整えることによって国家の繁栄と人類の福祉増進に寄与しようとする活動が観光事業である。営利目的の私益的事業と非営利目的の公益的事業とに区分されるが，後者は観光行政と定義されるので，私益的事業のみを観光事業とする。観光事業には次の種類がある。①宿泊業：ホテル・旅館・貸間・保養所・国民宿舎・ユースホステル・ロッジ，②交通業：鉄道・船舶・航空機・バス・タクシー・ケーブルカー・ロープウエー・リフト，③旅行業：旅行斡旋業・観光案内業，④料飲業：レストラン・喫茶店・料理屋・飲食店，⑤娯楽業：劇場・映画館・遊戯場・遊園地・ヘルスセンター・スポーツ場，⑥慰安業：キャバレー・バー・トルコぶろ・芸者置屋，⑦製造業：土産品製造業，⑧販売業：駅構内売店・旅行者向け商店，⑨治療業：あんま・マッサージ，⑩その他：両替店・荷物預り所・記念写真撮影業など。観光事業の効果には国民の厚生や文化の交流などとともに三つの経済的効果が重要視されている。それは国際収支への寄与と国民所得への影響と地域経済の振興である。観光収入は外貨手取率が高く最も有利な外貨獲得手段となっている。各国の貿易外収支中の観光収入の割合は1962年でスペインが60.4％，オーストラリア・カナダが58％，スイスが55.8％，日本は4.4％である。また1967年の日本の国際旅行収支の受け取りは1億4,800万ドルで前年に比べて17％増加しており，支払いは2億4,100万ドルで前年と比べて44％の増加である。したがって現在わが国の国際旅行収支は赤字であるが，今後さらに海外旅行ブームの到来も予想されており，当分の出超は免れない状態である。国民所得への影響は，観光客が最初に落とした金が順次に循環して新たな所得を生み出すために生ずるもので，地域剰数の試算によれば地域内で3.2倍とされている。地域経済への振興とは，観光事業の発達によってこれを構成する多くの関連産業が影響を受け，さらにその外側にある商業・農業・工業まで広くその恩恵を受けることをいう。国立公園地域の1967年における観光消費額は1,770億円でその地域経済への波及効果の大きさはばくだいなものであろう。1960年のアメリカでの娯楽などの消費額は1,100億ドル(39兆6,000億円)であった。これにはスポーツ・映画などの入場料，社交クラブなどでの消費，娯楽用具の購入費，新聞・雑誌などの購読料も含まれるが，日本とは比べものにならない規模である。

〔観光の機構〕観光をになうものは，国・地方公共団体・民間資本・一般観光者の四つである。観光に関係する国の行政機関は公益的事業の遂行を目的として1府1庁12省にまたがってその役割を分担している。すなわち，①総理府：公正取引委員会・青少年対策本部・近畿圏(きんきけん)整備本部・中部圏開発整備本部・首都圏整備委員会，②経済企画庁：総合開発局，③法務省：入国管理局，④外務省：中南米移住局・情報文化局，⑤大蔵省：関税局・国際金融局，⑥文部省：体育局・文化庁，⑦厚生省：公衆衛生局・環境衛生局・国立公園部，⑧農林省：林野庁，⑨通商産業省：企業局，⑩運輸省：海運局・船舶局・港湾局・鉄道監督局・自動車局・航空局・観光部・地方陸運局・地方海運局・地方航空局，⑪郵政省：大臣官房，⑫労働省：大臣官房，⑬建設省：計画局・都市局・道路局，⑭自治省：財政局・消防庁である。これら府省庁の連絡機関として観光対策連絡会議が組織され，内閣の諮問機関として観光政策審議会が設置されている。都道府県の観光・レクリエーション主管課と直接連絡のある部局は，厚生省国立公園部と運輸省観光部と自治省財政局である。近年国を主体とした観光に関する動向は，需要の急激な増加に伴って活発である。〈新全国総合開発計画〉において，国土開発計画の中の観光レクリエーションの位置づけがはじめて明らかにされた。それによって運輸省では〈大規模海洋レクリエーション基地〉を，建設省においては〈大規模レクリエーション緑地〉を，厚生省においては〈国民保養地〉などの開発構想が打ち出された。その他厚生省においては東海自然歩道の造成，林野庁においては自然休養林の設定など，能動的観光対象の開発が進められている。地方公共団体の観光主管部門は，おおかたが産業経済・商工行政の中に置かれているため，観光を経済的な側面でとらえる立場をとる場合が多い。民間資本は旧来観光・行楽地における地もと中小資本の点的な開発と，輸送をになう私鉄と旅行斡旋業が大半であった。このうち私鉄は鉄道の開発利潤を吸収するために沿線開発を進め，いちはやく観光企業として成長を遂げた。次に各種大手企業や不況産業の多角経営などによる観光開発の着手があいついだ。近年は従来の点の開発から面の開発へと拡大されるに至り，資本の集合化，システム化など新たな組織編成が進められている。一般観光業者の量と質は観光開発を促進するための重要な要素であるが，組織力が弱いために，往々にしてだれのための観光地づくりかわからない開発の進め方が見られる。近年は，旅行クラブなどの趣味団体や固定客獲得のための企業側からの組織化，または労働組合自体の開発への参画なども進められている。観光事業に関係した民間団体のおもなものは次のとおりである。国際観光振興会(特殊法人)は外客誘致のための海外宣伝機関である。日本観光協会(社団法人)は都道府県，国鉄など交通機関をはじめとした各種企業や団体によって構成される国内観光面での中央機関である。宿泊関係団体では日本ホテル協会(社団法人)・国際観光旅館連盟(社団法人)・日本観光旅館連盟(社団法人)・全国環境衛生旅館組合連合会がある。また旅行斡旋業関係には国際旅行業者協会・全国旅行業団体連合会，自然公園整備のための国立公園協会(財団法人)や国民休暇村協会(財団法人)，自然と人文資源保護の観光資源保護財団(財団法人)などがある。

〔将来展望〕観光の背景となる所得増・余暇増，意識の高揚はすでに観光の量を従来になく増加させ，それが今後ますます多くなっていくことが容易に想像される。今後の質的変化として，広域化の進展，リゾート・自動車旅行などの新しい旅行形態の発生，青少年や老人層の参加増，安価な旅への志向，国際観光の比重増などが考えられる。中でも都市環境の劣悪化に相対する自然環境への希求の高まりと，余暇の長期化に伴うレクリエーション活動の専門化が今後の観光の趨勢(すうせい)として目だった現象となって現われてくるはずである。〔猪爪範子〕

かんごうしゅうらく【環濠集落】周囲を濠(ほり)で囲んだ集落。環濠は排水・灌漑(かんがい)・水運・洪水(こうずい)対策その他の機能をもっているが，防御的目的をもった場合が多い。奈良平野の垣内(かいと)式村落(→垣内)や各地でみられる豪族屋敷村*はこの形式をとるものが多く，また寺内町*にもこの形態をとるものがみられる。

かんこうせいひりょう【緩効性肥料】速効性肥料*に対する語で，長い期間にわたって肥効の持続する肥料。窒素質やカリ質の化学肥料は速効性のため，一度に大量施肥すると作物が障害を起こすことがあり，また肥切れを起こすため追肥回数を多くしなければならない。このためゆっくりと肥効の長続きする肥料が要求される。これに応じて開発された窒素肥料としては，IB・ウレアホルム・CDU・GUという4種類の緩効性肥料が市販されており，しだいに需要量は増大している。また，緩効性カリ肥料も現在開発されつつある。〔早瀬達郎〕

かんこうば【勧工場】明治・大正時代における商品の展示販売場。1877年(明治10)東京上野公園で開かれた第1回内国勧業博覧会*における残品処分方法として，東京・麹町(こうじまち)に物品陳列場を設けたのを起源とする。これが好評を得たため，以後東京各地に民営勧工場が誕生した。これらは今日のマーケットのような性格をもっていたが，やがて当初の精良品としての特色は失われて粗悪化し，また市中各商店の組合に押されて明治末期には営業不振となり，さらに百貨店の進出により，関東大震災後姿を消した。〔千野境子〕

かんごうふ【勘合符】⇨勘合貿易

かんこうへんしょう【肝硬変症】肝臓の結合組織の慢性進行性増殖と実質細胞の萎縮(いしゅく)・変性をきたし，また同時に実質の再生を伴う疾患。その発生転機から二大別される。一つは肝細胞を冒す害毒が血行性にくる場合で，ラエンネック肝硬変とよばれている。他の一つは胆道方面よりくる場合で，胆路性肝硬変といわれる。原因としては，中毒・栄養不良・感染・寄生虫・血液循環障害など多様なものが考えられる。また，特に大酒家に多いことから，アルコールのみが原因ではないにしても，アルコール摂取が発病に重要な役割を果たすと考えられている。症状はきわめて徐々に進行し，食欲不振・全身倦怠感(けんたいかん)・嘔吐(おうと)・吐きけ・腹部膨満感などの消化管症状から，さらに進行すると腹水・吐血・下血・腹壁静脈怒張などの門脈圧亢進(こうしん)症状を呈するようになる。末期には，全身衰弱・貧血・血液タンパク質，特にアルブミン減少による全身浮腫(ふしゅ)・出血傾向・脾腫(ひしゅ)が起こり，意識混濁から昏睡(こんすい)状態に陥り死に至る。進行を止める決定的な治療法はなく，輸液，食餌(しょくじ)療法，ビタミン・ステロイドホルモン投与のほか，対症療法によ



ガンコウラン

ることが多い。〔後藤義隆〕

かんごうぼうえき【勘合貿易】室町幕府が中国の明(みん)と協定を結んで行なわれた貿易。1401年(応永8)3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)は明に国交を求め，1404年貿易を開始した。のち4代将軍義持は明と国交を断ったが，1432年(永享4)6代将軍義教(よしのり)のとき貿易を再開。貿易にあたっては明の方針に従い，遣明船*が正式のものであることを証明する勘合符を用いて，公私の船を区別した。おもな輸出品は銅・イオウ・金・刀剣・扇など，おもな輸入品は銅銭・生糸・絹織物などであった。幕府をはじめ，遣明船に参与した商人・寺院・大名らは大いに収益をあげたが，幕府の勢威が衰えると，勘合貿易の実権は大内氏*やそれと結ぶ博多(はかた)商人*，細川氏と結ぶ堺(さかい)商人*の手に移り，貿易権をめぐって互いに争った。やがて大内氏がその実権を独占し，城下町山口は繁栄をきわめたが，1551年(天文20)大内氏の滅亡とともに勘合貿易は断絶した。➔日明貿易〔高崎徳次〕

がんこうらん【岩高蘭】双子葉植物・ガンコウラン科。本州中部以北の高山帯に自生する常緑小低木。茎は地上をはい，枝は斜めに立ち，高さ10～25cm。葉は線形で密生し，長さ5～6mm，縁は裏面に巻いてほぼ筒状になる。6～7月に葉腋(ようえき)に小花をつける。雌雄異株。果実は夏～秋に黒熟し，球形で径6mmぐらい。甘酸味があって食用となり，ジャム・シロップにもされる。

かんごえ【寒肥】⇨基肥(もとごえ)

かんこく【韓国】⇨大韓民国

かんごく【監獄】懲役・禁錮(きんこ)・拘留の刑を受けた者，および未決囚や死刑の確定判決のあった者を収容する国家施設。刑務所*・拘置所*とよび，総称して矯正(きょうせい)施設ともいう。そのうち，拘留囚や未決囚については，警察留置場をもって監獄に代用できるので，この場合を代用監獄という。監獄は，刑罰関係法規により送致された収容者(受刑者)を収容し，受刑者については，作業と矯正教育を通じて改善し，未決者については，証拠湮滅(いんめつ)と逃走を防止し，死刑判決を受けた者については，社会から永久に隔離するためにある。基本法として監獄法(1908)があり，関係法令として監獄法施行規則・行政累進処遇令・仮釈放審査規程などがある。監獄の種類として，懲役監・禁錮監・拘留監・拘置監の4種があり，さらに少年監・男監・女監の区別がある。また拘禁の方法として改善教化などを考慮のうえ独居拘禁・雑居拘禁に分けられる。監獄には令状・判決書・執行指揮書などの法的文書によって収容するが，婦女が満1歳未満の子を携帯することを願い出た場合や監獄内で分娩(ぶんべん)した場合は，例外的に婦女に付随して子どもの収容が認められる。懲役刑受刑者に対しては，強制労働(定役)が課せられるが，受刑者の刑期・技能・職業などを考慮した社会復帰のための職業教育で懲罰のためではない。なお監獄法は，制定以来60年余を経過し，時代にそぐわない点があり，政府も1953年(昭和28)ごろより，未決・既決の処遇の分離，代用監獄の廃止，処遇制度としての外部通勤および帰休制度の採用，教誨(きょうかい)制度などを中心に全面改正が検討されているが，刑法改正とからみ問題点が多く，いまだ実現されていない。〔井上公耳〕

かんこくかん【函谷関】中国，戦国時代に秦(しん)が河南省霊宝県西南の地に設けた関所。長安を中心とした関中を守る東の要害の地で，黄土の絶壁に囲まれた函(はこ)のような深い谷底にあるのでこの名がある。前漢の武帝のとき150km東の新安県(河南省鉄門県)に移された。

かんこくへいしゃ【官国幣社】官幣社・国幣社を合わせた称で，社格の一種。一般の民社に対して官社とも略称する。〈延喜(えんぎ)式〉(927年成立)の規定によれば，官幣社は神祇官(じんぎかん)より，国幣社は国司より幣帛(へいはく)を奉られる神社で，それぞれ大・小の二等があり，全国で合計2,861社(祭神数は3,132座)を数えた。1871年(明治4)から実施された官国幣社の制度は，この延喜の制を基礎としたもので，官幣社・国幣社はおのおの大・中・小の三等に分けられ，合計190社が存した。翌1872年からは新たに別格官幣社が設けられ，28社を数えた。これらの神社のゆいしょは一般の神社に比べてすぐれたものとされていた。これらのうち，官幣社は歴代天皇および皇族を祭る神社，歴代皇室の崇敬の厚い神社，国幣社は国土経営に功績のあった神を祭る神社，別格官幣社は国家に大功のある臣下を祭る神社であった。なお，この制度は第2次世界大戦後に廃止された。〔土岐昌訓〕

かんこくみっしじけん【韓国密使事件】⇨ハーグ密使事件

かんこつ【寛骨】骨盤*を形成する骨の一。左右1対あり，大腿骨(だいたいこつ)と関節して下肢(かし)を体幹に連結しているので下肢帯ともいわれる。思春期までは，寛骨は

上部を占める腸骨と下後部を占める坐骨(ざこつ)と下前部を占める恥骨に分けられているが，成人に達すると癒合(ゆごう)して1個の骨となる。腸骨は腸に接し，坐骨はすわるときにいすの面にあたるところであり，恥骨は外陰部付近に位置する。腸骨内面には分界線という線状の高まりがあり，骨盤を構成する場合にそれより上が大骨盤，下が小骨盤となる。この内腔(ないこう)を骨盤腔といい，直腸・膀胱(ぼうこう)・子宮などの骨盤内臓を入れる。また，腸骨の後縁近くに耳状面があり，ここで仙骨(せんこつ)と仙腸関節をつくる。寛骨外面には寛骨臼(かんこつきゅう)があり，大腿骨頭が入り込んで股関節(こかんせつ)をつくる。〔蟠井　勉〕

かんこどり【閑古鳥】⇨カッコウ

かんごふ【看護婦】傷病者もしくは褥婦(じょくふ)に対する療養上の世話または診療の補助を業務とする婦人。医師・歯科医師の指示・監督のもとに，診療・治療の補助，医学的諸検査，患者の身辺の世話，医療事務一般など広範囲の業務に従事する。保健婦助産婦看護法に従い，高等学校卒業後指定の教育機関で3年以上の教育を受け，国家試験に合格した者に対して厚生大臣が免許を授ける。また，高等学校卒業もしくは免許を得たのち3年間業務に従事した准看護婦が，指定の教育機関で2年以上の教育を受けて国家試験に合格しても資格を得られる。看護婦と同じ資格をもつ男子を看護人といい，主として精神科・精神病院に勤務している。なお，准看護婦は医師・歯科医師・看護婦の指示を受けて業務を行なう婦人で，中学校卒業後指定の教育機関で2年以上教育を受けたのち，試験に合格した者に対して，都道府県知事が免許を授ける。〔金子義徳〕

かんこんき【還魂記】⇨牡丹亭(ぼたんてい)還魂記

かんさ【監査】経営の業務や会計記録・財務書類の作成を監視し検査すること。監査の対象は広範囲であるが，業務監査と会計監査に大別される。そして通常，監査といえば会計監査をさし，会計記録や財務書類の正確性や正当性をその記録または書類の作成者以外の監査人が検査(外部監査*)することを監査とよんできたが，経営の大規模化に伴い，経営内部での監視・検査が必要となり(内部監査)，さらに会計の分野のみでなく，経営の執行・管理活動といった一般業務の適否および能率を検討すること(業務監査)も監査の対象とされるようになった。会計監査では，一般に認められた会計基準と経営政策に照らして会計記録と財務書類の公正妥当性が検査され，その結果に基づいて監査報告書が作成される。一般の営利企業，たとえば，株式会社に対する制度的監査としては，証券取引法に基づく監査や商法に基づく監査役監査がある。➔会計監査〔清水　晶〕

かんさ【感作】生体に異種タンパク質などを注入するとそれを抗原として抗体が生じ，同一抗原を再び注入したときにはアナフィラキシー*状態となる。このようにある抗原に対して感じやすい状態にすることを感作という。これに対して，生体がある物質に過敏性をもっている場合，その物質をはじめは微量を注入し，漸次その量を増していくと過敏性が除去されるが，このような方法を脱感作といっている。

ガンサー［John Gunther］(1901～1970) アメリカのジャーナリスト。世界政治に関する一連の内幕物で著名。初著《ヨーロッパの内幕》以来，《アジアの内幕》《ラテンアメリカの内幕》《アメリカの内幕》《アフリカの内幕》《ソビエトの内幕》《現代ヨーロッパの内幕》がある。いずれも彼が直接取材にあたって得た豊富な資料をもとに，鋭い分析力でなまなましく描かれたものであり，好評を博した。シカゴ大学卒業後，シカゴ-デーリー-ニューズの特派員として，ヨーロッパ各地に駐在，第2次世界大戦中は地中海戦域の報道に従事した。〔松沢　勝〕

かんさい【関西】関所の西という意味で，平安時代には，鈴鹿(すずか)・不破(ふわ)・愛発(あらち)の3関から西を関西，東を関東といった。つまり関西は，近畿(きんき)・中国・四国・九州を含む西日本全体の呼称であった。江戸時代になって，関西は近畿地方の中心部をさす呼称として使われるようになり，上方*とほぼ同じ範囲となった。現在は国鉄の線名として関西本線，会社名として関西汽船，大学名として関西大学・関西(かんせい)学院大学などに使われ，関西弁などともいう。〔浅井得一〕

かんざい【寒剤】低温度を得る冷却剤。食塩と氷を混合したものは，氷の融解熱と食塩の溶解熱により熱量を奪われて温度が低下するが，共融点に達すれば氷の融解は止まり，温度は－21.2℃で一定となる。氷と塩化カルシウム六水塩では－55℃，塩化亜鉛では－62℃が共融点である。これらの塩類をそれぞれ重量パーセントで，食塩23.4%，塩化カルシウム六水塩58.8%，塩化亜鉛51.0%加えたときに，最低温である上記の温度が得られる。このほかドライアイスを有機液体に浸したものは，二酸化炭素の蒸発により冷却し，寒剤として用いられる。エチルアルコールの場合には－72℃の低温が得られる。〔竹下三吉〕

がんさい【岩滓】火山の溶岩は，噴出前にガスのためにあわ立ち，多孔質になることがあり，ときにはそのまま噴出されて火山レキや噴石(溶岩片)になる。このようなものの中で灰白色のものを軽石*といい，暗かっ色のものを岩滓という。スコリアともいう。

がんざい【丸剤】医薬品に賦形剤・結合剤・崩壊剤などを加え，練り合わせてかたまりをつくり，これを均等に切断したのち球状にし，剤皮または丸衣を施して製した薬剤。長期間保存ができ，携帯に便利で飲みやすいのが特色である。丸剤は服用後，消化管内で徐々に崩壊するため，持続した薬効を期待する薬剤に用いられる。日本薬局方では1個の重量は約0.1gを標準としている。

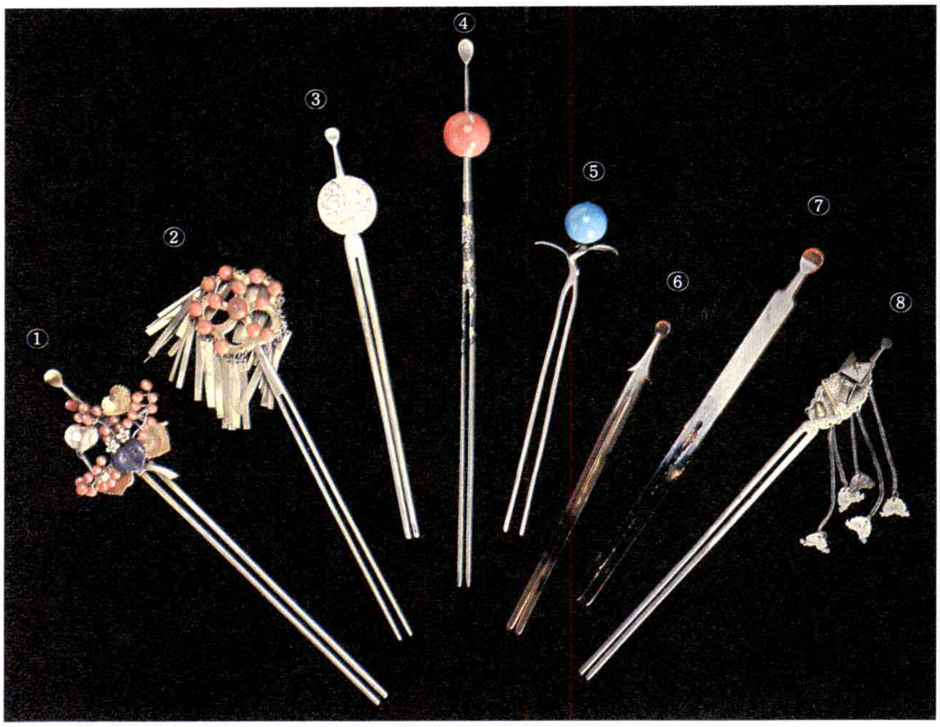
かんさいき【艦載機】艦艇に搭載(とうさい)され，それを基地にして行動する飛行機。旧海軍では，航空母艦から発着する車輪つきのものを艦上機*，ほかの艦艇が搭載する水上機のことを艦載機とよんだ。水上機は艦上からカタパルト*で発進するが，艦上に降りられず，海上の状況により使用が制限されることが多いので，第2次世界大戦以後艦上の狭いスペースにも発着できるヘリコプターが使われだした。最近は艦上機も艦載機に含めてよばれている。〔藤井冬木〕

かんさいきいん【関西棋院】囲碁棋士の団体。1950年(昭和25)，第5期本因坊位を得た橋本宇太郎*が日本棋院*を脱退して大阪に創立。普及活動のほか，段位の認定，大手合などの棋戦を行ない，若手棋士の台頭もあって，所属棋士は約100名に達しようとしている。

かんさいでんりょく【関西電力(株)】近畿(きんき)2府4県を供給地域とし，1951年(昭和26)に日本発送電(株)の全国9分割の一つとして発足。京阪神(けいはんしん)三大都市および臨海工業地帯をかかえ，増大一途の電力需要に対応するため設備投資に巨額を投じ，長期的見通しをもって電力供給の安定に努めている。513億円の巨費を投じ，7年の歳月をかけて黒部(くろべ)第4発電所を完成したことは有名。電力会社としてはわが国ではじめて原子力発電を手がけ，福井県美浜(みはま)町に1号炉(34万kW)を建設し，さらに同所に2号炉(50万kW)の完成をめざしている。引き続き3～5号炉も計画中で，これが達成されると水力21・火力55・原子力24の割合が想定される。資本金順位では東京電力に次いでわが国第2位。資本金3,596億7,600万円，年間営業収入1兆2,224億1,100万円，従業員数24,300(1980年9月)。

かんさいべん【関西弁】⇨方言

かんさいほんせん【関西本線】名古屋-奈良-湊町(みなとまち)間の国鉄路線。営業キロ数175.1。ほかに貨物支線20.6kmがある。名古屋～柘植(つげ)間は1895年(明治28)，柘植～湊町間は1899年に開業した。名古屋～大阪間で東海道線のバイパスを形成するが，勾配(こうばい)区間・単線区間が多くて条件が悪いうえ，非電化線であるため，並走する近畿(きんき)日本鉄道との競争においても不利な地位にある。湊町～奈良間は気動車運転によって都市近郊フリークェントサービス(頻発(ひんぱつ)運転)を実施する特異な区間である。桑名・四日市・伊賀(いが)上野・奈良・大和郡山(やまとこおりやま)などの都市が沿線にある。〔青木栄一〕



かんざし　①花かんざし　②びらかんざし　③平打ちかんざし　④玉かんざし　⑤玉かんざし　⑥松葉かんざし　⑦耳かきかんざし　⑧変わり形かんざし　東京国立博物館蔵

かんざき　【神埼(町)】　佐賀県神埼郡の町。人口17,000。1955年(昭和30)に神埼町ほか2村が合併して生まれた。佐賀市の北東に接し，米・麦・ミカンなどの農業が行なわれている。特産に，江戸時代からの歴史をもつ神埼そうめんがある。江戸時代には長崎街道に沿う宿場町で，現在も長崎本線と国道34号線に沿っている。

かんさく　【間作】　一作物の条間に他作物を作付けすること。落葉樹園で果樹がまだ矮小(わいしょう)でその条間を利用する場合，前作物の収穫前に次の作物を条間に植栽する場合など，いろいろの方法がある。

がんさく　【贋作】　偽作・偽造。〈だます〉意図のもとに制作された，にせの美術作品。〈だます〉つもりがなくても，真偽に関して人を惑わす意図をもって流布することも，広い意味では贋作にあたる。画家が技法を学ぶために，あるいは記録のために模写した作品を画商が本物と称して売ることなどはその一例である。贋作は，実在する作品を模倣したものと実在しない作品を創作したものとがある。いずれにしても，美術作品に金銭的価値を認め，その作品の〈にせもの〉を売却して利益を得ることが目的である。贋作は古くから行なわれていたが，ミケランジェロ*が大理石のキューピッドをつくり，ブドウ園に埋めて，あとでこれを古代の作品と偽って売った話は有名である。近代では，フェルメール*の偽作事件が大きな問題となった。　〔子安三喜男〕

かんざくら　【寒桜】　双子葉植物・バラ科の落葉高木。ヤマザクラに比べて，葉が厚く，花は葉よりさきに出る。東京では3月下旬に開花。伊豆(いず)半島のような暖地では2月に咲く。花色は淡紅色。果実は広楕円(こうだえん)形で大きく，11～14mmぐらい。

かんさざん　【菅茶山】　(1748～1827)　江戸後期の儒者・漢詩人。備後(びんご)(広島県)の人。京都の那波魯堂(なわろどう)に朱子学を学び，詩に長じた。帰郷して黄葉夕陽邨舎(こうようせきようそんしゃ)とよぶ私塾(しじゅく)を設け，また福山藩に仕えた。温和な人がらで，詩風は風格高逸，律詩を得意とした。頼山陽*の師。《福山志料》《律詩法門》《茶山文集》など多くの編著のほか，詩集《黄葉夕陽邨舎詩》(全10巻)がある。

かんざし　【簪】　女子の髪飾りの一種。江戸時代に用いはじめたもので，当時の女まげは，前髪・びん・たぼ・まげの分髪形式で構成されているが，この髪形を引き立たせる重要な役割をもち，各人の個性を生かす働きをする。つまり，ほかの髪飾りである，くし*・笄*(こうがい)とともに，かんざしは女性のもつ趣味性が最も端的に表われるものである。その年齢・階級・髪形により，多くの材質や種類があり，黒髪をバックにしてよく調和する，べっこう・金属などが材質の大部分を占め，ガラスや蒔絵(まきえ)のものもある。種類は，耳かきかんざし・松葉かんざし・玉かんざし・平打ちかんざし・花かんざし(ビラビラ)・変わり形かんざしなど。古いものに，法隆寺宝物の雲形透かし彫り銀製のものがある。〔橋本澄子〕

カンザス(州)　［Kansas］　アメリカ合衆国中央部の州。面積21万2,000km²。人口227万(1974)。州都トピーカ。1861年合衆国の第34番めの州となる。州名はインディアンのシウ族語で〈南の風が吹いてくるほうにいる人々〉の意。東部はプレーリー，中部・西部はグレートプレーンズ*に属し，広大な波浪状の小麦畑，群立した油井やぐら，大群のウシ，小麦の貯蔵塔の見られる景観はこの州を象徴する。主要産業は工業・農業と鉱業(特に石油と天然ガス)で，成長工業としては食品加工・製紙・印刷・化学・機械などの工業があげられる。農地は全面積の95%を占め，小麦の生産高は全州中第6位である。石油は全鉱業生産額の半ば以上を占める。アビリーンにはアイゼンハワー大統領が少年時代を過ごした家が残り，アイゼンハワー博物館と図書館がある。主要都市，ウィチタ・カンザスシチー*・トピーカ。

カンザスシチー　［Kansas City］　アメリカ合衆国カンザス州北東端，ミズーリ州のカンザスシチー*の対岸にある商工業都市。人口16万8,000(1970)。市内には巨大な穀物貯蔵のサイロやカントリーエレベーターがみられ，穀物取引の要地で，冬小麦の製粉加工センターがある。シカゴに次いで大きな家畜取引市場があり，肉牛加工業が盛ん。

カンザスシチー　［Kansas City］　アメリカ合衆国ミズーリ州北西端の商工業都市。人口50万2,000(1970)。カンザス川がミズーリ川に合流する州境地点をはさんで北岸にカンザス州のカンザスシチー*がある。背後に農業・牧畜地域を控えて穀物・家畜の大規模な取引市場が発達し，肉牛の加工・製粉業も盛んである。フォード・シボレーなどの工場があり，乗用車やトラックなどの組み立てを行なっている。カンザスシチー大学がある。　〔椙村大彬〕

カンザス-ネブラスカほう　【カンザス-ネブラスカ法】　1854年，アメリカ大陸ミズーリ川とロッキー山脈間の土地をカンザス・ネブラスカ両准州(じゅんしゅう)に組織することを定めた法律。制定の動機は大陸横断鉄道敷設の促進にあり，法案提出者スチーブン-ダグラス上院議員の人民主権論により，奴隷州になるか自由州となるかの決定を両准州の住民にゆだねたが，この法律の制定は1820年の〈ミズーリ協定*〉の否認を意味した。法案は民主党の支持によって成立したが，北部の奴隷制拡張反対者は同法制定直後に共和党を結成し，南北両セクションの対立は激化した。　〔折井一彦〕

かんさつ　【鑑札】　免許*を要する営業などに対して，免許を許す旨の官庁の証明札。古物・質屋・風俗営業・飲食店・旅館・公衆浴場などは不特定多数の者が利用する公共的施設であるため，その営業が公許されているかどうかを一目でわかるよう許可官庁が許可札を交付し，掲示させたことに始まる。したがって，自動車の免許証のような個人専用に属するものは，免許証ではあるが鑑札とはいわない。

かんさつい　【監察医】　指定地域内の不自然死の死因を明らかにするために，知事

に任命された医師。わが国では1946年(昭和21)に監察医制度が発足,1949年公布の死体解剖保存法に基づき,現在,東京都の区の存する区域,大阪市・京都市・横浜市・名古屋市・神戸(こうべ)市および北九州市の各大都市に監察医制度が設けられている。監察医はそれぞれの都府県知事により,その地域内における伝染病・中毒または災害により死亡した疑いのある死体,および死因の明らかでない死体について,その死因を明らかにするために検案し,死因の判明しないときにはそれを解剖して,法医学的および病理学的所見から死因を明らかにする義務を負わされている。このほかの地域では,いわゆる警察医がこれを行なう。〔朝倉　了〕

かんさつかん　【監察官】　⇨ケンソル

かんさつしん　【間擦疹】　乳児や肥満者などで,互いに接触する皮膚面(首のまわり,乳房下,臀部褶襞(でんぶしゅうへき),腕や足のつけ根など)が比較的明確な境界をもって潮紅・湿潤する皮膚病。湿疹のできる場合は間接性湿疹とよばれ,これは湿疹の治療を行なう。化膿(かのう)菌や分芽菌の二次感染を起こしやすい。分芽菌によるものは分芽菌性間擦疹とよばれ,鱗屑(りんせつ)の顕微鏡検査や培養でカンジダ菌を証明することができる。白癬(はくせん)菌の寄生による頑癬(がんせん)の場合もあり,治療法が異なる。

かんさやく　【監査役】　会社の会計の監査機関。株式会社に必要な常置機関であり,有限会社では任意機関である。員数は法律上は1人でもよく,任期は最長1年である。監査役の職務は,旧商法では業務執行全般の監督にあったが,1950年(昭和25)の改正によって現在では会計監査のみに限定されている。会計帳簿などの閲覧,取締役に対して会計に関する報告を求める権限をもつ一方,取締役が株主に提出する会計書類などを調査して,総会にその意見を報告しなければならない義務を負っている。しかし,株主総会の多数決で,その資格に制限なく選任されるために,監査役の監査は形式的なものとなっている。〔山桝忠恕〕

かんざんえげん　【関山慧玄】　(1277～1360)　鎌倉末期の僧。臨済宗妙心寺派の開祖。おくり名は無相大師。信濃(しなの)(長野県)の人。21歳で鎌倉建長寺の東伝和尚(おしょう)について出家し,参ずること30余年,のち京都大徳寺の宗峰妙超に参じて法を継ぎ,美濃(みの)(岐阜県)伊吹(いぶき)山に隠退した。花園上皇は洛西(らくせい)の離宮に妙心寺を創建すると,師を招じて開山となした。師のもとには学人雲集し,臨済宗発展の基をなした。法を授翁宗弼(そうひつ)に授け,1360年(延文5)84歳で寂した。〔田中良昭〕

かんざんじおんせん　【館山寺温泉】　静岡県浜松市にある温泉地。泉温17℃で加熱を要するが,泉質は単純泉で,神経痛・リウマチにきくといわれる。浜名湖東北部の村櫛(むらくし)半島の北端に位置し,岩山の中腹には曹洞宗(そうとうしゅう)館山寺がある。浜名湖随一の景勝地で,月見の名所で知られた山頂は展望がよく,近くに館山寺遊園地・大草山ロープウエーもある。東海道本線浜松駅からバスの便がある。



寒山拾得　海北友松《三酸寒山拾得図屏風》(部分)　妙心寺蔵

かんざんじっとく　【寒山拾得】　中国,唐代の高僧。寒山は天台山国清寺の僧である豊干(ぶかん)禅師の弟子(でし)で,拾得はその弟弟子にあたる。奇行の多い隠者として伝えられ,その詩集という《寒山詩集》の呂丘胤(りょきゅういん)の序によれば,寒山は文殊菩薩(もんじゅぼさつ),拾得は普賢(ふげん)菩薩の再来と伝えられている。寒山の詩を集め,さらに拾得・豊干の詩を付録した《寒山詩集》は,中国でも日本でも禅僧の間で愛読された。寒山拾得は,画題として宋(そう)代以来しばしば描かれている。〔今村与志雄〕

かんざんらくぼく　【寒山落木】　正岡子規の句稿。1924年(大正13)アルス刊《子規全集》に収録。子規が俳句に興味をいだきはじめた1885年(明治18)ごろから,月並俳句に対抗して新俳句を唱道した1896年ごろまで,生涯(しょうがい)の前半期の12,700句を収める。

かんし　【漢詩】　⇨次ページ

かんし　【干支】　⇨十干十二支

かんし　【鉗子】　主として外科手術の際に用いられるはさみのような形をした器具。体腔(たいこう)内にある組織をはさんだり,引き出したり,血管を圧迫止血したり,異物を除去したりするために用いる。ペアン鉗子・コッヘル鉗子など考案者名を冠したものや,骨鉗子・腎臓(じんぞう)鉗子など臓器名を冠したもの,麦粒鉗子などその形をとったもの,あるいは産科鉗子(→鉗子分娩(ぶんべん))など目的から名づけられたものなど多くの種類がある。17世紀にフランスで発明され,その後手術手技の進歩とともに目的に応じてくふうが加えられ,改良されている。

かんし　【冠詞】　名詞に限定性を与え,また名詞の性・数・格を明確にするため添えられる品詞の一つ。アレクサンドリアの文法家アポッローニオスが古代ギリシア語の冠詞に対して行なった〈対象が聞き手の意識においてすでに知られているものとして述べるもの〉という説明は,現在もだいたい通用する。冠詞は,〈つなぎ〉を意味するギリシア語(árthion)・英語(article)の訳語であるが,単に名詞の前に〈冠する〉のみとは限らず,あとに置かれる言語(ルーマニア語・デンマーク語など)もまれではない。元来は指示代名詞・数形容詞〈1〉に由来し,現在みられる冠詞の成立は比較的新しい。一般的には定冠詞・不定冠詞が認められるが,部分冠詞・人称冠詞・集合冠詞をもつ言語もある。〔崎山　理〕

かんし　【管子】　中国,春秋時代斉(せい)の桓公(かんこう)に仕えた管仲の書といわれているが,斉の地方の法家の説を集めたもので,内容的には戦国後期のものが多く,大略現存の形(24巻86編)になったのは前漢時代と思われ,軽重編・水地編など興味深い史料があるが,使用の際は注意を要する。

かんじ　【漢字】　⇨220ページ

かんじ　【官寺】　政府または幕府によって建立(こんりゅう)・維持される寺院。個人が建立した私寺に対する。639年(舒明11)の百済(くだら)大寺(のちの大安寺)がはじめで,奈良時代には元興(がんごう)寺・法隆寺・薬師寺・東大寺・興福寺・崇福寺・弘福(ぐふく)寺・法華(ほっけ)寺・西大寺など,僧綱(そうごう)が監督する官寺があり,造営と維持のために造寺司が設けられていた。また,741年(天平13)には国分寺・国分尼寺の造営があり,中央の僧綱と地方の国司らが監督する国寺ともいうべきものであった。また従来の貴族・豪族の私寺に一定の稲を国家から支給し,国司・三綱(さんごう)・檀越(だんおつ)によって統制される定額寺(じょうがくじ)の制が行なわれた。平安時代には天皇・皇后・皇族の発願で建立され,あるいは天皇のために僧俗が建立して御願を修する,准官寺というべき勅願寺・御願寺が現われた。これらの制は律令(りつりょう)制の衰頽(すいたい)とともにすたれ,鎌倉時代には,幕府が臨済宗に京都・鎌倉の五山十刹(じっさつ)の制を設け,僧録司に管掌させて官寺と称した。これ以後は官寺とよぶべきものはなくなった。〔岡山泰四〕

カンジ　［Kandy］　セイロン島中部の歴史的都市。コロンボの北東100kmに位置する。人口76,000(1970)。近世まではセイロンの伝統的なシンハリ族王朝の都であり,ブッダの歯を祭ったデラダ-マリガワ寺院をはじめ多くの寺がある。この寺の祭りはペラハラとよばれ,毎年8月の祭日は大いににぎわう。都心にある湖水を中心とした静かな町で,付近には名高いペラデニア植物園やセイロン大学がある。

ガンジー　［Mohandas Karamchand Gandhī］　(1869～1948)　インドの民族指導者。

漢　詩

中国古典詩の形式にならい，わが国で古代からつくられた詩の称。ただし，一般には中国の古典詩そのものをも含めて漢詩という。なお，〈漢詩〉の名称は明治中期以後のもので，それ以前は単に〈詩〉といえば漢詩をさした。古代においては〈からうた〉ともよばれている。

〔歴史〕漢詩の上限は，王仁(わに)によって《論語》《千字文》がもたらされた応神天皇の朝にまでさかのぼる。下って7～8世紀の奈良時代には勅撰(ちょくせん)詩集《懐風藻*(かいふうそう)》が編まれた。《万葉集》とともにこの時代を代表する文学業績である。《懐風藻》の詩風は中国六朝(りくちょう)のそれにならった高雅なもので，作者には弘文(こうぶん)天皇をはじめ皇子や廷臣・僧侶(そうりょ)などが名を連ねている。作者が貴族階級に限られているのが《万葉集*》と異なる点である。一方《万葉集》にも律詩*の型で書かれた数首の漢詩や六朝駢儷体(べんれいたい)の文章が収められている。例として山上憶良(やまのうえのおくら)の〈痾(やまい)に沈みて自ら哀(かな)しぶ文〉〈俗道の仮に合ふは，即(すなわ)ち離れて去り易(やす)く留まり難きを悲しび歎(なげ)く詩一首并(ならび)に序〉などをあげることができよう。憶良や大伴家持(やかもち)らの歌人は漢詩・漢文にも造詣(ぞうけい)が深かった。

平安時代前半は漢詩文の盛期で，《凌雲集*(りょううんしゅう)》《文華秀麗集*》《経国集*》の勅撰三部詩集には多くの詩人が登場する。一方，個人の集には空海の《性霊集(しょうりょうしゅう)》，菅原道真(すがわらのみちざね)の《菅家(かんけ)文草*》《菅家後草》などがあり，日本の漢詩文も勅撰集の時代から個人作家の時代にはいる。さらにその後に《本朝文粋*》《続本朝文粋》《本朝無題詩》などの撰集が続くのである。この時代の詩風は，梁(りょう)の昭明太子の《文選*》，唐の白居易の《白氏文集*》などの影響を受けて一般に平易なものに移った。この両書が当時の知識人に愛好され，詩人の詞藻(しそう)を豊かにしたことは，清少納言の《枕草子(まくらのそうし)》の記事によってもうかがうことができる。また，評論の部門でも空海の《文鏡秘府論*》が書かれた。同じく空海の《三教指帰(さんごうしいき)》は，《史記》に伝えられた漢の作者司馬相如の《子虚賦(しきょのふ)》の句型を受け継いでいる点が注目される。

〈賦*〉という文体は中国古代の《詩経*》に収められた古詩のよみぶりから生まれたものである。この文体は漢の王朝のころ，時代の文学として最もはなやかであった。ために後世の評家は〈漢の賦，唐の詩〉と並び称した。《文選》ではその作品の半ばが賦と詩とで占められている。ゆえに奈良時代・平安時代の作家は《文選》でまず賦を学び，次いで詩に及んだものであろう。奈良朝の末には，石上宅嗣(いそのかみのやかつぐ)の《小山の賦》，藤原宇合(うまかい)の《棗(なつめ)の賦》など，数は少ないが中国の作家に伍(ご)するほどの作品がつくられている。

鎌倉・室町時代にはいると，貴族階級に代わって，禅宗の僧侶たちが漢詩のにない手として登場する。特に中国から僧山寧の渡来を迎えて，虎関(こかん)師錬*・中巌(ちゅうがん)円月，さらに義堂周信・絶海中津*(ちゅうしん)と，すぐれた詩僧が輩出し，いわゆる五山文学*の詩壇を飾った。彼らの特色は，前代の《白氏文集》一辺倒の風潮を脱して，韓愈*(かんゆ)・杜甫*(とほ)に学び，また宋(そう)・元の風潮を摂取して清新な詩風を樹立した点にある。一方，明(みん)人の記録には，中国の海辺を侵した倭寇(わこう)の中にも，かの地の詩人と唱和した無名詩人が存在したと伝えられている。事実，そうした詩酒のつどいを風刺するかのごとく，市販の酒令札の中には，〈頭の禿(は)げたる者は飲め(武士の髪型を禿頭(とくとう)とみて)〉〈倭寇また春情を解す〉などと記したものが現われている。当時漢詩が民間にもかなり浸透していった例証と考えられよう。

江戸時代，儒学は林羅山(らざん)以後林家が代々昌平黌(しょうへいこう)の大学頭を継ぎ，宋・明の理学が幅をきかせていたが，漢詩の分野では荻生徂徠(おぎゅうそらい)をはじめとする古文辞学派の作者らによって唐詩への回帰が叫ばれた。徂徠の弟子(でし)服部(はっとり)南郭の訳と伝える《唐詩選*》の読物が，漢詩評釈のさきがけとして民間にも普及した。今日，漢詩といえば《唐詩選》を思い浮かべるのも，その起こりは徂徠の一派が詩の教科書としてこれを選んだことにある。これよりさき，石川丈山*は詩仙堂(しせんどう)に古今の詩人36人の画像を掲げてその風懐にあこがれているが，所詮(しょせん)文人趣味の域を出ず，主流とはなりえなかった。

徂徠らによって巻き起こされた唐詩趣味はその後しだいに浮薄に流れ粗野に堕すようになった。そうしたとき，山本北山*が出て，明の作者袁中郎(えんちゅうろう)の詩説を継承し，清新で情趣豊かな，かつ風刺に富む詩境を平易な文字で表現すべきだと主唱した。その奚疑塾(けいぎじゅく)に盛り上がった袁中郎ふうの詩作は宋の詩を模範とする風潮を育て，江戸・京阪(けいはん)に多くの作者を出した。中でも高田竹山は，唐詩に次いで起こった宋詞(詩余とよばれる)の美しい歌詞にならって詩作を試みている。北山なきのち，豊後(ぶんご)(大分県)に広瀬淡窓*が出た。その文集に陶淵明*(とうえんめい)の詩句〈心遠ければ地自ら偏なり〉から題をとった《遠思楼集》があるように，彼の詩風は淵明から始まっているが，のちにはおもに中唐の詩人たちの影響を受けている。淡窓の咸宜園(かんぎえん)では詩教主義を標榜(ひょうぼう)して，詩を語ることで人物を教育することをたてまえとし，いわゆる淡窓流の吟詩法が創案された。笈(きゅう)を負ってその門に集まった若者は1,000名を越えるといわれる。淡窓の没後もその講筵(こうえん)は長く継続され，明治30年代の勝屋明浜に至っている。淡窓と同時代に，頼山陽*と梁川星巌*(やながわせいがん)が関西の詩壇をリードした。このふたりの詩風は，清(しん)初の詩人王士禎*(おうしてい)(王漁洋)の影響を多く受けている。

明治時代にはいると，西欧文物の流行におされて，漢詩は不振に陥るが，やがて星巌門下の小野湖山*・森春濤(しゅんとう)らを中心に活動を開始した。春濤とその子の槐南(か

マハトマ(偉大な魂)とよばれる。非暴力主義(→アヒンサー)を提唱して世界の政治・思想界に多大の影響を与えた。グジャラート地方のジャイナ教徒の学識ある名家に生まれた。父は藩国宰相を勤めたこともあり，家は富んでいた。幼年時代に結婚し，インドとロンドンでイギリス式の教育を受けて弁護士となり，1893年南アフリカ連邦で開業した。やがて現地のインド人移民の受けている人種差別政策に抗議して，非暴力的抵抗によるサティヤ-グラハ*闘争を組織し，これに成功した。1914年に帰国してからは国民会議派*の指導者として祖国の農民運動，



M.ガンジー

民族解放闘争の指導に専念し，1920年代初頭には全国的規模の第1次対イギリス非協力運動を起こし，以後逮捕・投獄をくり返した。しかし，1930年代に至り，第2次非協力運動が退潮すると彼の指導力も弱まり，国民会議派の指導権はネルー*らに移行した。第2次世界大戦後，インドの独立の達成のためにインドとパキスタン間の融和に努めたが，デリーで夕べの祈りにおもむく途中，狂信的なヒンズー教徒によって暗殺された。

彼の思想は体系化されることがなかったが，前述したアヒンサー・サティヤ-グラハのほかに，自国経済の独立たるスワデーシ

いなん）は清朝の袁枚*（えんばい）・趙翼*（ちょうよく）の詩風を愛したといわれる。彼らは明治の初期から中期にかけて《新文詩》という雑誌を発行したが，これには二松学舎大学の創始者三島中洲（ちゅうしゅう）らも詩文を寄せており，また楊守敬（ようしゅけい）・黄遵憲ら清国公使館の外交官たちの作品も誌上をにぎわしている。また，駐清公使副島種臣（そえじまたねおみ）（号は蒼海（そうかい））のように，詩名を海外にうたわれた人もある。

新文詩社が終息したあとは，その同人や春濤らの門下生が，それぞれに詩集を発行したり，漢詩の評釈を試みたりしているが，それも明治の末年には衰微していった。むしろ，漢詩の文学的生命は森鷗外（おうがい）や夏目漱石（そうせき）らの作品の中に保たれていたともいえる。大正の初め，釈清潭（しゃくせいたん）が主宰する雑誌《漢詩》が発刊されたが長くは続かなかった。当時の新聞や読物・雑誌には，漢詩欄が設けられていたものも多かったが，それらもしだいに姿を消した。その後，国分青厓（せいがい）・田辺碧堂（たなべへきどう）・土屋竹雨らによって雑誌《東華》が発行され，1945年（昭和20）ごろまで続いたが，《新文詩》時代のはなやかさは望むべくもなかった。近年の詩人では中京詩壇の服部（はっとり）胆風や鈴木豹軒（ひょうけん）があるが，それらもすでに去り，わずかに今関天彭（てんぽう）がその雅文社によって孤塁を守っていたが，1970年（昭和45）に辞世した。

【種類】漢詩にはさまざまな規則があるがそれらを大別すると，①1句の字数，②1首の句数，③脚韻を踏むこと，④平仄（ひょうそく）の配列，⑤用字・対句などの技法，の五つになる。これらのうち，おもに字数と句数を基準にして漢詩は次のように分類される。

漢詩
- 古体詩
  - 古詩（四言・五言・七言）
  - 楽府（がふ）（雑言・七言）
- 近体詩
  - 律詩（五言・七言）
  - 排律（五言・七言）
  - 絶句（五言・七言）

古体詩は1首の句数も自由で，脚韻も途中で変えることができ，平仄の配列も自由である。これに対し，近体詩は句数や平仄の配列に規定があり，脚韻を変えることも許されない。また律詩は1首が8句からなり，偶数句に韻を踏み，第3・4句と第5・6句とがそれぞれ対句をなすものである。排律は1首が10句以上の偶数句からなり，最初と最後の句以外は2句ずつ対句になっていなければならない。絶句は1首が4句からなるもので，第3句以外の3句に脚韻がある。

天	〈天〉字が平声の平字であることを表わす。漢和字典では，〈天〉のかわりに，その文字の属する韻字が載せてある。〈天〉の場合は 先
子	〈子〉字が上声の仄字であることを表わす。
聖	〈聖〉字が去声の仄字であることを表わす。
哲	〈哲〉字が入声の仄字であることを表わす。

例-1　平起式の絶句型　　朱熹《偶成》

⦶ ○ ⦶ ● ● ○ ◘
少年易老学難成，
⦶ ● ⦶ ○ ⦶ ● ◘
一寸光陰不可軽。
⦶ ● ⦶ ○ ○ ● ●
未覚池塘春草夢，
⦶ ○ ⦶ ● ● ○ ◘
階前梧葉已秋声。

〈成〉〈軽〉〈声〉の3字は平声の〈庚〉韻に属する。七言絶句の法則は，〈二四不同二六同〉（この句も，⦶●⦶○⦶●◘の平仄になっている）といわれている。1句のうちで，第2・第4の文字は，平か仄かのいずれかの文字でなければならない。第2・第6の文字は，平は平で，仄は仄で同じでなければならない。

例-2　仄起式の絶句型　　杜牧《江南春》

⦶ ● ⦶ ○ ⦶ ● ◘
千里鶯啼緑映紅，
⦶ ○ ⦶ ● ● ○ ◘
水村山郭酒旗風。
⦶ ○ ⦶ ● ⦶ ○ ●
南朝四百八十寺，
⦶ ● ⦶ ○ ⦶ ● ◘
多少楼台煙雨中。

〈紅〉〈風〉〈中〉の3字は平声の〈東〉韻に属する。〈四百八十〉の〈十〉は仄字のジウであるが，平字のシンによむ。

【作法】漢詩をほんとうに理解し鑑賞するためには，その作法をひととおり心得ておくことが望ましい。そこで，初学者のために，漢詩作法の基本となる事がらを述べておく。

①現代において漢詩を学ぶには，七言絶句一本にしぼって作詩を試みることが望ましい。七言に通ずることで五言の絶句も書けるようになるからである。

②絶句がもつ平仄と押韻の二つの原理は，形だけでも受け継ぐことが望ましい。その韻字を調べるためには，韻譜という字引を用意することが必要である。

③漢字の平仄はいまの字音からみて意味が薄いが，唐の絶句に示された平仄の原理だけは受け継がなければならない。平仄を見分ける方法は，古い漢和字典を見ると，各字の下にその文字の平と仄とが左記の図式で記されている。平声が平字であり，上・去・入の三声が仄字であることを見分けしていくうちに，何の字が平字で何の字が仄字であるかがおのずから記憶にとどめられるであろう。

そして，七言絶句がもつ方式に沿って1首の絶句を構成する。例-1は平字で起句する平起式であり，例-2は仄字で起句する仄起式である。（○は平字，●は仄字，⦶は平仄どちらでもよい文字，◘は押韻の文字を表わす。）

韻は平声の韻を踏むがよい。仄字の韻を踏んで作詩することは避けるべきである。

この三つの条件に少しでもはずれるようでは絶句はつくれない。あとはその人の努力しだいであるが，ひととおりの詩がつくれるようになるには，〈桃栗（ももくり）三年柿（かき）八年〉（⦶●⦶○●●◘の句法）のたとえどおり，少なくとも3年の継続した努力を要する。➔漢文学　〔橋川時雄〕

（国産品専用）と，完全独立としてのスワラージを主張し，またアーシュラム（修道場）を郷里アーメダバードに建てて後進を指導した。ジャイナ教や《バガバッド-ギーター*》《福音書》，ビベーカーナンダ*・トルストイ・ラスキン・ソローから影響を受けた。〔山折哲雄〕

ガンジー［Indira Gandhi］（1917～　）インドの首相。故ネルー*（初代首相）のひとり娘。故フェロース-ガンジー下院議員の夫人。サンチニケータン・オックスフォード大学卒業。12歳のときから父について独立運動に参加し，1938年国民会議派*に加入した。その間入獄13か月。独立後は国民会議派の運営委員・婦人部長・議長などを歴任し，1964年シャストリ*内閣の情報相・放送相として入閣。1966年1月シャストリの急死により第3代首相となる。1969年，国賓として来日。1977年3月総選挙で野党に大敗，十一年にわたる施政に終止符を打ち下野した。〔吹浦忠正〕

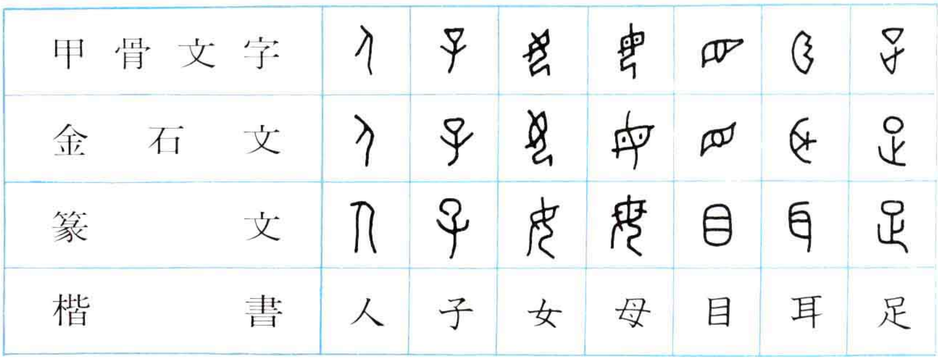


1.ガンジー

かんじおん【漢字音】漢字は一つ一つが漢語*の単語（またはその要素）を表わす表語文字であるから，それぞれの時代の漢語の〈ことばとしての発音〉を伴っている。6～7世紀すなわち六朝（りくちょう）のころ，中国の江南地方の漢語の音がおもに朝鮮を経て奈良朝の日本に伝来したのを〈呉音〉という。

➔222ページ

漢　字



中国で，3,000年前から用いられた文字。日本・朝鮮・ベトナムに借用されて長く用いられたほか，かな文字や字喃(チュノム)(ベトナム文字)・西夏文字などのような民族的な文字を生み出す素材となった。日本では現在でも用いられている。

〔起源〕現在の中国河南省安陽県は，BC1300年ごろからBC1027年までの約300年の間，河北デルタに栄えた殷(いん)帝国が，その後半期の都を置いた所である。19世紀の末，そこから亀(かめ)の甲や獣の骨に刻まれた殷代の占いの記録(卜辞(ぼくじ))が発見された。その後いくたびもの発掘調査が行なわれ，壮大な王墓や30余か所の建物の跡，1,300kgにも達する鼎(かなえ)なども発見された。そのおびただしい甲骨断片に刻まれた甲骨文字*の字種も約3,500字が発見され，そのうち約1,500字が解読されている。殷代前半期のものとみられる遺跡(鄭州(ていしゅう)の二里崗(にりこう)や山東の城子崖(じょうしがい)など)においては，器物に若干の記号らしいものを刻んだものは見いだされるが，まだ文字は認められない。文章を表現できるような大量の漢字の体系は，紀元前13〜紀元前12世紀ごろに成立したものと考えられる。その字形から見ても文法から考えても，卜辞は明らかに周・秦(しん)・漢以後の漢字・漢文の祖形を示している。

〔漢字の本質〕漢字のうち，〈人〉〈口〉〈手〉〈雨〉などの象形文字*が最も基本的なものであり，〈上〉〈下〉など記号的な要素を加えた指事文字がそれに次ぐ。さらに，Aの人のあとにBの人の従うさまを (从)と表わし，上の手と下の手でまん中の｜印を取り合うさまを (争)と表わすなどの組み合わせ字がつくられる。これが会意文字である。また，たとえば〈卜〉と音〈テイ〉(鼎)を合わせて〈貞〉(下部は貝ではなくて鼎の略形)という字をつくり，〈鳥〉と音〈ケイ〉(奚)を合わせて〈鶏〉という字をつくる。これが形声文字である。のち後漢の許慎*が，漢字のつくられ方を6種に分類して説明したが(→六書(りくしょ))，その原型はすでに殷の甲骨文字に備わっている。ところで漢字はアルファベット*のような音素を分解して表わす音素文字でもないし，かな*のような簡単な音節を切り取って表わす単音文字でもない。〈良〉(liang)や〈官〉(kuan)のように，ことばの意味的な単位，つまり単語(またはその要素)をトータルに表わす表語文字であるので，俗に表意文字ともよばれている。その際，漢語では昔から，事物の外形的な特色によって名をつける習慣があったため，同じルートから生まれた親戚(しんせき)語が文字の上でも大グループをなして現われる。漢字全体の9割を占める形声文字の諸グループがそれである。たとえば，工 型の定規に丸い取っ手のついている姿を 巨 (巨)という字で表わす。上下の2線の間が ｜ の幅だけ隔たっているとの意味である。そこで，巨大の〈巨〉(大幅に隔たっている)，拒絶の〈拒〉(おし隔てて近づけない)，距離の〈距〉(隔たり)のような〈単語家族〉が成立する。また，一 線の台の上に物を重ねた姿を 且 (且)という字で表わす。そこから，〈祖〉(父・じじ・ひいじいと重なった世代)，〈俎〉(物を上へ重ねて置く台)，〈組〉(糸を上へ上へと重ねてくみひもをくむ)，〈助〉(力を上へ上へと重ねてやる)，〈且〉(その上に重ねて，という副詞)のような単語家族が成立する。また，音符の選び方は必ずしも一定しないし，同時同地でつくられるわけでもないから，〈巨・拒・距〉のような同じ形声グループでなくても，〈覆・伏〉(うつぶせる)，〈進・晋〉(まっすぐすすむ)，〈普・布〉平らにのびてゆきわたる)，〈延・衍〉(のびる)，〈包・保〉(つつみこむ)，〈系・継・繫〉(つなぐ)のように，同系の語を別の漢字で表わす場合も少なくない。この雑然たる漢字の集積は，時代とともにふくれて後世に残され，何万という数に達したため，自然にふるい落とされるものが出てくるほかに，さらに整理を加える必要が生じてくる。

〔字形の変化〕殷代の甲骨文字は，やや図案化されて周代の青銅器や石刻に引き継がれた(→金石文)。春秋戦国時代には，各国でさまざまな異体の字が派生し追加されたが，それを古文・籀文(ちゅうぶん)などとよぶ。紀元前4世紀に秦の始皇帝は天下統一の便宜を図るため，これら異体字を改廃し，正式の字体として小篆(しょうてん)(篆文)を定めた。篆とは〈縁〉(平均してたれたへり)と同系の語で，左右均斉(きんせい)をとってたれ下がった字体のこと。今日でも篆刻*をする人人の心をひく曲線的に美化された字体である。漢代にはいって，戸口登録や収税などの実務に文字を活用する必要がふえ，隷書(隷とは小役人のこと)が通行するようになった。漢の西域郡治から発掘された木簡には，やや簡単化した隷書(楷書(かいしょ)に近づいている)がしるされている。後漢になって，隷書を直線化してさらに簡単化した楷書が用いられるようになった。後漢から三国にかけて，竹簡・木簡および布帛(ふはく)のほかに実用的な紙が登場した。書写の普及につれて，速く書くために楷書をくずした行書・草書が実用されるようになり，楷書自体にも時代的・個人的な癖が現われて多くの異字体が登場し，〈惡→悪〉〈亂→乱〉などが並用されるようになった。また，魏(ぎ)・晋(しん)から六朝(りくちょう)にかけて書家が現われ，書を作品として評価する風も興った。漢の熹平(きへい)石経および唐の開平石経(大半は西安の碑林に残存)などは，経書のテキストを石碑に刻んで，正しい字体を示そうという規範的な意図をもったものであるが，その流れに沿った唐の顔元孫の《干禄字書》(774)では，正・通・俗の3類に分けて，たとえば〈聰(正)・聦(通)・聡(通)〉〈蟲(正)・虫(俗)〉〈牀(正)・床(通)・床(俗)〉のように整理している。唐が滅んだあと五代のころに木版印刷が始まり，宋(そう)・元・明(みん)には書物が盛んに刊行されるようになった。そのうち通俗小説のたぐいには，〈區→区〉〈會→会〉〈醫→医〉などの多くの略字が用いられるようになった。明の字書《正字通》(張自烈著)はその名の示すとおり字体の正俗を明らかにすることを一つのねらいとしたが，のち清(しん)の《康熙(こうき)字典*》の正・通・俗の指定がいちおうの基準となり，一般社会では《翰苑(かんえん)分書》の中の《字学挙隅》が標準とされている。

〔漢字の改革〕中国では明末に，宣教師のマテオ＝リッチ*やニコラス＝トリゴールらがはじめて漢語をローマ字化してみせたが，清末には王照や労乃宣(ろうだいせん)が日本のかなにあたる字母を案出し，民国にはいってそれらを改良した注音字母(のち注音符号)が公布された。一方，瞿秋白*(くしゅうはく)らの考案したラテン化新文字は1933年以後，魯迅(ろじん)らの援助によって普及し，中国共産

字体の変遷



党区では日中戦争中にかなり通行した。中国の革命ののち，1954年中国文字改革委員会が成立し，やがて1958年拼音(ピンイン)方案が練り上げられ，〈巴bā〉〈始mā〉〈法fǎ〉のような拼音(ローマ字つづり)が行なわれるようになった。毛沢東主席は，〈文字は，世界の文字に共通の拼音の方向に進む必要がある〉(1951)と指示したが，中国人の漢字への愛着はきわめて強いので，過渡的なやり方として，漢字の簡化をまず推進することとなり，1955年に〈漢字簡化方案草案〉が発表された。その後，A・B・C 3回の〈簡化字表〉が公布され，さらに146の偏と旁(つくり)とがすべての漢字に適用されることとなったため，1964年〈簡化字総表検字〉によると，約2,600字の簡化字(簡体字)が示されている。同時に，〈佈→布〉〈癡→痴〉〈牀→床〉〈跡・蹟→迹〉〈脈→脉〉〈棲→栖〉〈昇・陞→升〉〈兇→凶〉〈週→周〉など39字の異体字併合が行なわれ，左側の字は用いられなくなった。

簡化の原則を要約すると，ほぼ次のとおりである。

①古代の簡単な字形にもどす。
　従→从　衆→众
②旧来の民間俗字を広く採用する。
　醫→医　衛→卫
③字形の一部を省略する。
　婦→妇　産→产
④草書体を取り入れる。
　車→车　馬→马
⑤新しい会意文字を考える。
　塵→尘　隊→队
⑥新しい形声文字を考える。
　溝→沟　藝→芸
⑦民間から募集する。
　富→实

なお，同音の字で代用する方法は，一部行なわれているが，なお不十分である。たとえば，〈干←乾・幹〉〈复←復・複・覆〉〈厂←歴・暦〉〈台←臺・檯・颱〉〈系←係・繫〉〈获←獲・穫〉など。今後はさらにこの方向に進むことが予期される。

日本ではすでに大正・昭和にかけて，2,000～2,500字程度に常用漢字をおさえる動きがあったが，1946年(昭和21)に〈当用漢字表〉(1,850字)が，1951年に〈人名用漢字別表〉(92字)が公布されて漢字の制限が行なわれた。また，当用漢字以外の漢字を含んで構成されている漢語を，同音の別の当用漢字に書き換えることがきめられたりして，しだいに常用される漢字の数が減少していった。また1949年に〈当用漢字字体表〉が発表され(135字の略字を採用)，なるべく印刷体と書写体とを近づけようとしたため，それまでの字体と細かい違いを生じているが，はねるか止めるか，つけるか離すかなどの微細な点は，〈筆写の際はこれにとらわれない〉ことが明示されている。➔当用漢字 ➔教育漢字 ➔漢字音 〔藤堂明保〕

中国の簡化漢字

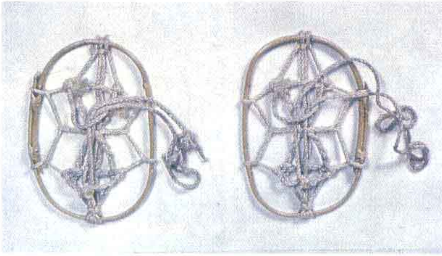
(一部)

愛	爱	參	*参	當	*当	兒(児)	儿	構	构	幾	几
寶	*宝	產	产	黨	*党	發(発)	发	關(関)	关	擊(撃)	击
報	报	長	长	遞(逓)	递	飛	飞	觀(観)	观	鷄(鶏)	鸡
備	备	車	车	點	*点	墳	坟	廣(広)	广	積	积
貝	贝	遲(遅)	迟	電	电	奮	奋	歸(帰)	归	際	际
筆	笔	齒(歯)	齿	東	东	糞	粪	國	*国	繼(継)	继
幣	币	蟲	*虫	動	动	豐(豊)	丰	過	过	價(価)	价
畢	毕	礎	础	獨	*独	風	风	漢(漢)	汉	繭	茧
邊(辺)	边	處(処)	处	斷	*断	鳳	凤	壺	壶	見	见
變(変)	变	從(従)	从	對(対)	对	婦(婦)	妇	華	华	階	阶
標	标	帶(帯)	带	隊	队	蓋	盖	壞(壊)	坏	盡	*尽
賓	宾	單(単)	单	奪	夺	岡	冈	還	还	舊	*旧
補	补	擔	*担	惡(悪)	恶	個	个	獲	获	舉(挙)	举

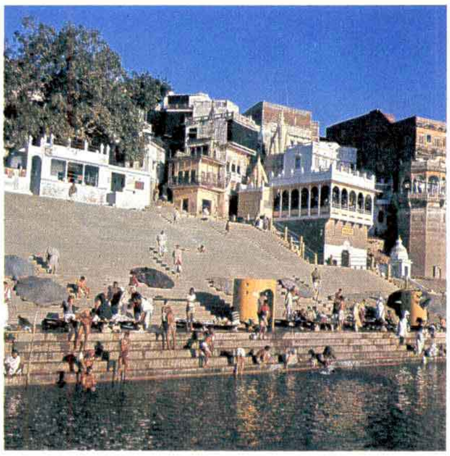
①左側が旧字，右側が簡化漢字。
②＊印のついている簡化漢字は，日本の当用漢字の字体と同じ。
③現代中国語の発音によるアルファベット順。

それ以前の三国時代の漢語の音は，推古朝ごろから断片的に伝わったが，その例は少ない(例：寧ナ・宜ガ・止ト・巳ヨ・里ロ・愛ォなど)。当初日本へ伝来したのは主として仏教と仏教用語であったため，呉音はおもに仏語の読み方に用いられる(例：経キャウ・清シャウ・西サイ・弟ダイ・家ケ・馬メなど)。これに対して遣唐使が8～9世紀にかけて唐都長安に留学し伝えてきたのが〈漢音〉である。長安は唐代の西北方言に属し，特殊なくせがあって六朝の漢語音とかなり異なったため，呉音と合わぬことが多い(例：経ケイ・清セイ・西セイ・弟テイ・家カ・馬バなど)。ことに長安では鼻音のm・n・niをそれぞれmb・nd・riと発音したため，漢音もそれをまねて，万(マン→バン)・男(ナム→ダム・ダン)・二(ニ→ジ)・人(ニン→ジン)のように濁音で発音する。また，長安では本来の濁音が清音と混同しはじめていたため，漢音では旧呉音の濁音を清音に変えてしまう(例：呉音 権ゴン・地ヂ・弟ダイ→漢音 権ケン・地チ・弟テイ)。平安朝初期には，呉音を漢音に改めるよう触れを出したこともあったが，実際には両者は併存を続け，漢音は主として漢籍読みとかたい漢語の発音に用いられ，呉音は仏語と古くから輸入されて生活にとけこんだ漢語の発音に用いられるという傾向が固定した。鎌倉・室町時代には，禅宗の僧や商人が，おもに今日の杭州(こうしゅう)や寧波(ニンポー)を経て往来したが，南宋(なんそう)から元・明(みん)にかけて(13～16世紀)の江南共通語は，中世北方漢語に近い簡素な体系となっており，今日の北京(ペキン)語にかなり接近していた。それを伝えたのが〈唐宋音〉(唐音，また宋音ともいう)である。唐宋音では，〈和尚(おしょう)〉の〈和ヲ〉，〈湯婆(たんぽ)〉の〈婆ポ〉のように，中古(隋(ずい)・唐)のaがoになり，〈庫裡(くり)〉の〈庫ク〉，〈栗鼠(りす)〉の〈鼠ス〉のように中古のoがuとなり，〈看経カンキン〉の〈経〉，〈提燈チャウチン〉の〈燈〉，〈湯婆タンポ〉の〈湯〉のように，漢語のng語尾をンで音訳する(漢音では〈経ケイ〉〈湯タウ〉のように長母音で音訳した)。また，当時は漢語の入声(にっしょう)(つまり音)の語尾-p，-t，-kが弱まって，単にのどを閉鎖するだけになっていたため，〈行脚(あんぎゃ)〉の〈脚キャ〉(漢音ならキャク)，〈石灰(しっくい)〉の〈石シッ〉(漢音ならセキ)のように音訳する。唐宋音は，禅宗のことばや，当時輸入された物品などの名称にのみ用いられ，その使用率は呉音・漢音に比べてはるかに少ない。〔藤堂明保〕

がんしかくん【顔氏家訓】中国，北斉(ほくせい)の学者顔之推(がんしすい)(531～591)著。20巻。南北朝末の動乱期に梁(りょう)・北斉・北周・隋(ずい)の諸王朝に仕えて苦難の亡命生活を送った体験をもとに，子孫が真に人間らしく生き，顔家の家風を守っていくよう説いた訓戒の書。当時の平均的知識人の思想や生活態度，また社会・文化・風俗などを伝えて興味深い。



樏 北陸地方の輪樏



ガンジス川 ヒンズー教最大の聖地ベナレスの河畔。階段状の沐浴場(ガート)には，老若男女の信者が各地から集まって沐浴する

かんしき【鑑識】鑑定識別の略。犯罪に関係ある資料を鑑定し，異同などを識別する刑事警察上の手段をいい，科学捜査*上の重要部門。鑑識分野としては指紋・手口・被疑者写真・足痕跡(こんせき)・文書・筆跡・理化学・銃器・物理・電気などがあるが，科学の進歩に伴い拡大しつつある。現在中央には警察庁鑑識課，地方には各府県警察本部鑑識課が置かれ，それぞれ指紋原紙・手口原紙・被疑者写真票などが備えられ犯人割り出しに努めている。また警察庁に科学警察研究所*が置かれ，鑑定を行なっている。〔井上公正〕

かんじき【樏】泥土(でいど)・氷・雪上を歩くときに使用する特殊なはき物の総称。古来，橇(ぜい)・輴(ちゅん)・檋(きょく)・梮(きく)などの漢字をあて，〈かいじき，かじき，かんじき，がんじき〉などと読ませた。現在かんじきとよばれるものに3種類ある。①どろ深い田を歩くときに用いられ，大きなげたの形をしているところから，田げたとよばれる木製板状のもの。②深雪の歩行のとき雪沓*(ゆきぐつ)をはいた中に結びつけてもぐらないようにしたわかんじきとよばれた木製輪状のもの。③氷上の歩行に滑倒を防ぐのに用いた鉄製つめの形で，一般的にかねかんじき・アイゼンとよばれたものである。
➔アイゼン 〔合田 濤〕

ガンジス(川)［Ganges］インド北東部を流れベンガル湾に注ぐインド第一の長流。全長3,000km。ガンガ川ともいう。水源はヒマラヤ山脈西部で，ヒンドスタン平原では大小多数の支流を合わせて南東流し，下流では北からのブラマプトラ川と合流し，河口には大三角州をつくる。ヒンズー教徒はこの川を〈聖なる川〉とよび，流域のヒンドスタン平原は古来インド文明の中心である。傾斜はゆるやかであり，川舟は山麓(さんろく)のハルドワルまでさかのぼり，汽船も河口から約1,600km奥のデリーまで航行している。低平なため，雨期の4～5月には下流部は氾濫(はんらん)する。流域は人口の稠密(ちゅうみつ)な農業地帯で，下流部では米・黄麻，上・中流部では麦・トウモロコシ・綿花などを産する。流域にはカルカッタ・ハウラ・パトナ・アラハバード・カンプール・アグラ・ニューデリー・デリーなどの都市が並ぶ。また，ベナレス・アラハバードなどはヒンズー教徒が巡拝し，沐浴(もくよく)する聖地となっている。〔野間三郎〕

かんじせいげん【漢字制限】⇨当用漢字

カンジダしょう【カンジダ症】モニリア症ともいう。真菌類のカンジダ属(モニリア属)によってひき起こされる感染症。カンジダ-アルビカンスによるものが多い。これはかび状の菌の一種で，抗菌物質に抵抗性がある。近年抗生物質療法の進展に伴い，菌交代症*の最も重要なものの一つとして注目されている。全身各部に起こりうるが，口腔(こうこう)・皮膚・つめ・気管および肺・膣(ちつ)などが多い。治療にはゲンチアナ紫・マーセタート・トリコマイシン・ナイスタチン・アンホテリシンBなどが用いられる。〔国井乙彦〕

がんじつ【元日】年始第1日で1月1日。元日の朝を元旦・元朝という。古くは農耕儀礼の行なわれる最も重要な日で，春に播種(はしゅ)，秋に収穫という周期的な生活の1年のくぎりであり，また，年神を招き，収穫を感謝するとともに，農業生活の安康を祈願する日であった。暦の発達や，正月の農耕儀礼的性格が薄らぐにつれて，元日は，その年の恵方*にあたる方角の社寺に初詣(はつもうで)する日となり，現在は神社への参詣者が絶えない。元日の儀礼として，年男の若水*，直会*(なおらい)の料理としての雑煮づくり，親類縁者の年始のあいさつなどがある。➔正月 〔渡辺欣雄〕

かんしつうんどう【乾湿運動】植物の物理的運動の一つで，死んだ細胞の細胞壁が大気の乾湿に応じて物理的に収縮または膨潤することによって起こる運動。マメ科植物の果実のさやが乾燥してはじけ，種子が飛び散る運動や，スギナの胞子の飛散する運動などがある。ゼラニウムでは分果の芒(のぎ)が乾燥してらせん状にねじれ，湿気によってまっすぐに伸び，この運動によって土の中にはいることができる。

かんしつけい 【乾湿計】 同形の水銀寒暖計2本を使用し，一方の球部を布で包んで湿らせ，両者の示度の差から水蒸気圧を求める一種の湿度計*。湿球の球部を湿らすのに使用する布は，白色無地のもめんで薄地の密な織り方のものがよく，空気中の湿度の大小によって，この布からの蒸発のしかたが異なるわけである。蒸発の際には，蒸発熱を奪われるから湿球温度は乾球温度より低くなる。両者の温度差を利用して空気の湿度を求める。乾球温度T，湿球温度T_wとすると，空気の水蒸気圧eは(mb単位)

$$e=E(T_w)-\frac{AP}{755}(T-T_w)$$

と表わすことができる。この式はスプルングの式といわれ，$E(T_w)$は温度T_wに対する飽和水蒸気圧，Pは気圧，Aは湿球が氷結してない場合には0.5，氷結している場合には0.44という値が実験的に求められている。厳密には，Aの値は風速によって異なり，風速0～2.5m/秒でやや大きく，2.5m/秒以上で上記の値になる。アスマン通風乾湿計では，風速の影響をなくすためにプロペラで風速2.5m/秒程度の風を送るようになっている。乾湿計を使用する場合，湿球が氷で包まれている場合には観測時に微温湯でとかし，薄い氷の被膜を新たにつくるようにしてはかる必要がある。また霧のあるときなどには，湿球の示度が乾球の示度より高いことがあるが，この場合には両者は等しいと考えるわけで，空気は水蒸気で飽和していることになる。〔曲田光夫〕

かんしつぞう 【乾漆像】 乾漆でつくった仏像。乾漆は，古くは即・塞(そく)と称され，脱活乾漆と木心乾漆の二つに分けられる。脱活乾漆は，塑土で像身をつくり，その上に麻布と漆とを何枚も重ねて張り合わせ，漆がかわいたのち塑土を取り除く。像の内部には保存のために木のわくを入れ，目・口・鼻や着衣の衣文(えもん)・装身具などは木屑漆(こくそうるし)(木を削ったときにできる粉を漆で練ったもの)を使って盛り上げる。首や手・足などは同じようにして，はぎ合わせてつくる。わが国では，唐の影響を受けて天平(てんぴょう)彫刻にその作例が多く，興福寺の八部衆*・十大弟子*(でし)は有名である。木心乾漆は，木心部の表面に麻布を張って漆を塗ったもので，わが国の木彫像の大部分はこの技法を用いている。脱活乾漆・木心乾漆ともに，最後に表面に彩色あるいは金箔(きんぱく)を施す。〔永井信一〕

かんしぶんべん 【鉗子分娩】 産科鉗子で児頭を把握(はあく)し，牽引(けんいん)して娩出させる方法。ドイツの産科医ネーゲレによって19世紀初頭に産科鉗子が発明される以前は母体の危険を救うために子を犠牲にしたが，発明以後は自然分娩が困難なときでも生活児を得やすくなった。しかし，鉗子を用いることは必ずしも安全でなく，無理な手術を行なうと，母体に対しては産道の損傷，胎児に対しては頭蓋(とうがい)内出血・神経麻痺(まひ)などを起こすことがある。〔木川源則〕

かんしゃ 【甘蔗】 ➡サトウキビ

かんしゃさい 【感謝祭】 〈サンクスギビング-デー〉のこと。アメリカ合衆国の祝祭日で，11月の第4木曜日にあたる。1620年，メーフラワー号で新大陸に渡ったピルグリム-ファーザーズ*が，かずかずの困難とたたかって開拓を進め，はじめて収穫を得たことを記念し，感謝したのに始まる。アメリカではクリスマス・イースター(復活祭*)と並ぶ国民的な祝祭日で，仮装行列なども行なわれる。

かんしゅ 【看守】 監獄*(刑務所・拘置所)に勤務し，収容者(受刑者)の監視・護送，および監獄内の規律維持にあたるとともに，監獄法に定める収容者の処遇についての事務を処理する法務事務官。刑務官ともいう。勤務中は制服を着用し，拳銃(けんじゅう)を携帯することができる。また，規律維持のため収容者に必要な指示命令を行なうほか，逃走・暴行・自殺などの防止に必要な警具を使用することができる。さらに逃走者に対しては，逃走後48時間以内に限り逮捕権がある。階級は，看守長・副看守長・看守部長・看守の4階級に分かれている。〔井上公正〕

かんしゅ 【貫主】 貫首・管主とも書き，〈かんす〉〈かんず〉ともいう。貫とは故郷の戸籍，すなわち本籍のことであり，主は一家の長の意味で，もとは本籍の筆頭者を意味し，のちには広く一門・一職の頭領の意味に用いられた。仏教教団では天台座主(ざす)を貫主といったのがはじまりである。今日では東京上野の寛永寺，千葉県成田の新勝寺(成田不動)，奈良の薬師寺，福井の永平寺，横浜市鶴見(つるみ)の総持寺など，広く本山や諸大寺の住職の職名または敬称として用いられる。〔広川堯敏〕

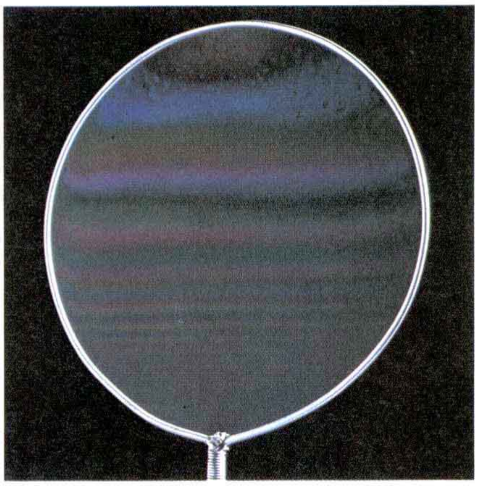
かんしゅう 【慣習】 一定の社会集団の成員によって承認され，守られている社会的規範で，比較的に意識的強制力のゆるやかなもの。モーレス*によれば制裁力を伴い，価値観を含むようになるという。習慣が個人的なものであるのに対して，慣習は，集団成員全員に共有されるものであり，その内容は，日常生活のすべての側面にかかわる。また慣習は集団の中での個人の行為を位置づけ，集団を統合する機能をもつ。慣習が集団の成員によって内面化され，行為様式として定着し，集団統合の機能を果たすためには，集団が比較的に持続的でかつ非流動的でなければならない。そのような社会でのみ慣習は十分に機能しうる。しかるに，しだいに流動的でかつ巨大な社会を生みだしつつある大衆社会*においては，慣習のもつ本来の機能は失われつつある。しかし，まったく失われてしまったということではなく，他律的に与えられたものとして，内面化されつつあるということである。〔国近浩一〕

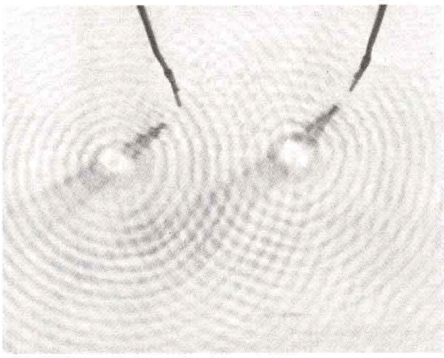
かんじゅうしき 【間充織】 多細胞動物の発生初期にみられる組織の一種で，間充組織または間葉ともいう。上皮組織間のすきまを埋める星形や不規則形の遊離細胞の集まり，および細胞間質とよばれる物質から構成される。➔発生

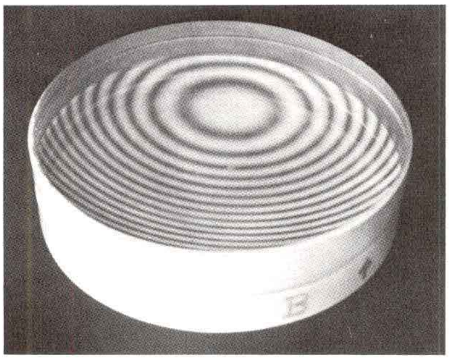
かんしゅうほう 【慣習法】 国会*などにより制定された成文法*ではないが，長年の慣習*が，強い拘束力をもって社会生活関係を規律している場合，それを法とみなし，これを慣習法とよぶ。ただし，それは制定法(成文法)の補充的効力しか認められず，法例の2条には〈公の秩序または善良の風俗に反せざる慣習は法令の規定に依(よ)りて認めたるもの及び法令に規定なき事項に関するものに限り法律と同一の効力を有す〉と規定している。成文法の発達の不完全な領域，たとえば国際法，あるいは敏活な取引などの必要上たえず新しい慣行の発生する分野，たとえば商法などでは，特に成文法とともに慣習法は存立する。商法は，民法に優先して適用される商慣習法の存在を認めている(商法1条)。また慣習法に近い〈事実たる慣習〉もあるが，それは当事者がこれによる意思をもっていたと認められる場合に限って，一定の要件のもとに，その効力が認められる(民法92条)。〔永井憲一〕

かんしゅくしょう 【甘粛省】 カンスー省 中国西北地方の省。面積36万6,000km²。人口1,400万(1972年推)。省都は蘭州(らんしゅう)。2省轄市(蘭州・嘉峪関(かよくかん))，8専区に分けられ，2市，66県，6自治県を統括する。黄河上流部にあり，北をモンゴル高原，南をチベット高原にはさまれ，中国本土と新疆(しんきょう)ウイグル自治区とを連絡している。農産物では小麦・コウリャン(高粱)・燕麦(えんばく)などのほか，商品作物としてアマ・たばこ・綿花などを産する。地下資源にも恵まれ，石炭・銅・鉄などを産するほか，玉門では大規模な石油精製が行なわれる。また，新中国になってからの蘭州付近の化学工業を中心とした工業化は注目すべきものがある。近年，鉄道の発達が著しく，隴海(ろうかい)鉄道(蘭州～連雲港)によって華北平原や沿海地方と，包蘭鉄道(蘭州～包頭(パオトウ))によって北方の内モンゴル一帯と，また蘭新鉄道(蘭州～ウルムチ)によって新疆地方と，宝成鉄道(宝鶏～成都)によって四川盆地・揚子江上流地方と連絡することができる。秦(しん)の始皇帝によって建設された万里の長城の西端が及んでおり，また漢代の河西四郡の地に示されたように，古来中原より西方への門戸をなしていた。このような周辺諸地域との交渉の歴史を有するため，現在でも，回族・チベット族・モンゴル族・ウイグル族など多種多様の少数民族の居住がみられる。〔船越昭生〕

かんじゅじ 【勧修寺】 京都市東山区山科(やましな)勧修寺仁王堂(におうどう)町にあり，







干　渉
(左)せっけん膜の干渉じま
(右上)水面波の干渉じま
(右下)平面ガラスの上に曲率半径の大きい(数メートル以上)平凸レンズをその凸面が下向きになるように重ねたとき，その接触点を中心にして観測される同心円状の干渉じま

〈かじゅうじ〉ともいう。真言宗山階(やましな)派の大本山。醍醐(だいご)天皇が生母胤子(いんし)皇后のために，承俊律師を開山として900年(昌泰3)に創建し，定額寺となった。のちに東密小野流の勧修寺派の本拠となり，18世の寛胤法親王以来は宮門跡となった。現在の堂舎は江戸初期再興以後の建物であるが，池泉を備えた庭園は雄麗で，15の勝景を収めた名園として知られている。
〔永井信一〕

かんじゅせい　【感受性】　⇨感性

がんしゅびょう　【癌腫病】　カキ・クリ・リンゴなどの果樹の病気で，苗木の茎・根の表面が不規則に隆起し，はじめ白色，のちに暗かっ色のこぶを生ずる。幹の地ぎわ，根にこぶを生じさせる根頭癌腫病菌は細菌の一種で，土中でも長く生存し，また被害組織内でも越冬する。虫の食い跡，剪定(せんてい)・つぎ木の傷口から侵入し，植物ホルモン類を生産して植物の健全細胞を癌細胞に変え，異常増殖を起こさせる結果，癌腫を形成する。対策としては無病の苗木を用い，さらに石灰乳を塗って植えつける。
〔渡辺　実〕

かんしょ　【甘藷】　⇨サツマイモ

かんじょ　【漢書】　中国，後漢の儒者班固*の著。100巻。《史記*》に次ぐ2番めの正史。《前漢書》ともいう。武帝の時代で中断した《史記》に続けて父の彪(ひょう)が著わした《後伝》をもとに，班固が明帝の命を受けて編纂(へんさん)し，固の獄死後妹の昭が補った。《史記》の紀伝体*を踏襲して体裁を整えたが，《史記》が通史であるのに対して，前漢一代の事跡をしるした断代史である。内容的には儒教主義の色調が濃い。

かんしょう　【鑑賞】　美的対象を享受する態度。美意識における受容的側面をさし，享受や観照と同義であるが，鑑賞は特に芸術作品の場合に用いられ，翫賞(がんしょう)ともいう。創作に対立する概念であるが，芸術観照を創作の追体験ないしは内面的な模作と考えれば一種の創造的活動であり，両者は原理的には共通する。美的享受の基盤は，現実的・利害的関心に基づかない静観に求められなければならない。しかし，感情移入などの美意識における積極的活動と矛盾するものではなく，むしろ内面的創造性の条件とも考えられる。なお，芸術観照の態度には，二つの場合を区別することができる。享受客体である芸術品そのものを観照する場合と，作品が誘発する観照者自身の感情・気分を享受する場合である。前者は能動的態度(ウティッツ)・外方集中(ガイガー)とよばれ，後者は受動的態度・内方集中とよばれるが，これは本来の芸術享受とは認められない。
〔島田紀夫〕

かんしょう　【干渉】　二つの波(→波動)が重なって，互いに強め合ったり，打ち消し合ったりする現象。二つの波が1点に同時に到達すると，その点での振動のようすは二つの波を重ね合わせたものになる。特に波長・周期の等しい二つの波が重なり合う場合，それらの位相が等しければ山と山，谷と谷がつねに一致するので互いに強め合い，位相が半波長分だけずれていると山と谷とが一致して互いに打ち消し合う。水面上の2点から同時に同じ強さの波を送り出すと，その2点を焦点とする多数の双曲線の形のしま模様が現われるが，これは水面の波の干渉によるものである。大きなへやの中で1か所から出る音が場所によって特に強く，または弱く聞こえることがあるのは，へやの壁や天井で反射された音波が干渉を起こすためである。干渉は波に特有の現象で，水面の波や音波ばかりでなく，弾性体内を伝わる波や，光・X線・電波などの電磁波でも起こる。しかし，光の場合には別々の光源から出る光は位相の間に一定の関係がないので干渉をしない。光の干渉は同一の光源から出た光が反射・屈折によってわずかに長さの異なる経路をたどったあとでいっしょになった場合に起こる。水面に浮かんだ油の膜やシャボン玉に色がついて見えることがあるのは，膜の表面で反射された光と裏面で反射された光とが干渉を起こすためである。光の干渉を利用すると微小な長さを精密に測定することができる。
〔有山正孝〕

かんしょう　【干渉】　国家または国際組織が，他国に対して強制的に一定の状態を保たせたり，変更せしめたりすること。干渉の定義については学者の意見は一致しておらず，また，実際にも干渉となるか否かの認定はきわめて困難である。広くは他国に対する単なる意見の開陳をもって干渉とし，狭くは，武力の行使や武力による威嚇を伴う場合のみを干渉とする立場などがあるが，なんらかの形で相手国の意思を拘束するような強制あるいは強制による威嚇があれば干渉と考えるべきであろう。強制または威嚇が背景となっていることが必要で，強制の要素のない勧告や周旋・仲介・調停の申し出などは干渉にはいらない。強制が背景となるから，相手国の同意があれば，干渉にはならない。たとえば，武力による威嚇を前提としたり，外交や通商関係の断絶をほのめかして申し出をしたり，一定の不利益な結果を生ずることが予想されるようなしかたで要求する場合などである。干渉は，国際法上違法なものとされ，国家は一般に不干渉の義務を負っている。すなわち，国家は，独立権が認められていることから，国際法上，他の国家の国内・国外事項の処理に関して干渉してはならない義務を一般に負っている。この点，国際連合*においても，加盟国の国内管轄事項については干渉しない旨が定められている。しかし，次の場合には，干渉は合法的なものとされる。①条約によって，直接に，一定事項に関する干渉が認められている場合。②国際法違反に対する抗議あるいは制裁として，または権利濫用に対して行なわれる場合。③在外国民外交保護権に基づく場合。④自衛権に基づく場合。⑤国際連合が平和に対する脅威や平和の破壊，侵略行為に対してとる行動としての非軍事的あるいは軍事的な強制措置をとる場合。
〔広部和也〕

かんしょう　【環礁】　礁湖を囲んで環状に連なるサンゴ礁。環の直径は小さな円形のもので数キロメートル，不規則で大きなものでは300kmに達するものもある。礁原の幅はふつう数百メートル程度で海抜数メー

トル程度にすぎない。環はところどころ小舟を通す程度の狭くて浅い水路によって断たれている。おもに南太平洋・インド洋に点在し，特にマーシャル諸島には大きな環礁が多数ある。

かんじょう【感情】外的な状況や事物に接した際に個人の内面に起こる主観的な態度や価値づけを感情という。感覚や知覚のように外的刺激に対する反応(認知)そのものではなく，個人の性格・価値観・好み・興味など種々の側面が加わったもの。内容はきわめて多岐であるが，快の極と不快の極との間に位置づけられる。感情を分類すると，怒り・恐怖・喜び・あわれみ・悲しみなど一時的，急激に起こり，長く持続せずに消滅するものに，情動(情緒)・感動・激情などとよばれるものがある。これらは自律神経系の興奮や内臓の変化など身体的変動を伴う(動悸(どうき)が速くなる，顔面紅潮など)。これを狭義の感情とする説もある。これに対し，緩慢に長期間持続し，なんらかの願望や目標へ向かう努力などを含むものがある(芸術・学問・恋愛など)。熱情(情念)・気分・情操などがこれに属し，感情傾向ともよばれる。このうち気分は最も微弱な感情で，急激な感情のなごりとして持続することが多い。

感情の本質については複雑微妙であるため，定説がなく，ブント・ティチェナー・クリューガー・オールポートらによって，さまざまな説が唱えられてきたが，知覚実験的方法に基づいているために，感情を感覚の属性としてとらえるものが多い。〔佐伯喜和子〕

かんじょう【灌頂】(561～632) 中国，唐代の僧。天台宗第4祖。浙江(せっこう)省台州の人。25歳のとき天台智顗(ちぎ)の弟子(でし)となり，13年間侍者として講説などに従った。智顗の門人はすこぶる多かったが，その中で特に，《法華(ほっけ)文句》《法華玄義》《摩訶止観(まかしかん)》などを筆受編纂(へんさん)し後世に伝えた。智顗が世に中国の釈迦(しゃか)と仰がれるのに対し，彼はアーナンダ(阿難)にたとえられている。またみずからも《涅槃経疏(ねはんきょうしょ)》《涅槃経玄義》などの著作もあり，師に関する伝記《智者大師別伝》《国清(こくしん)百録》も編している。〔京戸慈光〕

かんじょう【灌頂】仏教で頭上に水を注いで一定の資格を与える儀式。梵語(ぼんご) abhiṣeka(アビシェーカ)またはabhiṣecana(アビシェーチャナ)の訳。もとはインドにおいて，帝王が即位するにあたって聖水をとり，それを四大海の水とみなして頭に注いだ儀式で，これを仏教にも取り入れたのである。たとえば，第九地の菩薩(ぼさつ)が第十地に上るときに，法王子の職位を得る灌頂が行なわれるが，これは第十地の位は仏と等しくなるところから，諸仏の智水(ちすい)をとって頭上に注ぐものと考えられる。密教では，弟子(でし)が阿闍梨(あじゃり)から法を受けるにあたってこの儀式を行なう。これを秘密灌頂・密灌という。宗派によりいろいろな灌頂が行なわれるが，真言宗では結縁(けちえん)・伝法の二つ，天台宗ではそれに蘇悉地(そしつじ)の一つを加えた三灌頂をおもなものとする。現在の儀式においては，実際に頭上に水を注ぐよりも，灑水(しゃすい)でこれに替えることが多い。〔金岡秀友〕

かんじょう【感情】詩誌。1916年(大正5)から1919年まで通巻32冊。萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)・室生犀星(むろうさいせい)のふたりが始め，山村暮鳥・竹村俊郎(としお)らの参加もあって，結社雑誌ふうになった。近代の孤独な青年の情感を叙情的に表現した口語自由詩を発表した。朔太郎・犀星・マラルメ・ボードレールらの特集号を出し，雑誌休刊後に《感情同人詩集》が刊行された。

がんしょう【岩漿】⇨マグマ

がんしょう【岩床】地表，または地層面にほぼ平行に，上下の地層の間にはさまれている，レンズ状または平板状の火成岩体。地表に流出した溶岩である場合を噴出岩床，地表には出ず地層の間に貫入した場合を貫入岩床という。アメリカのパリセード岩床が有名である。

かんじょういにゅう【感情移入】他人の表情や身ぶりのうちに表出された感情を，連想や類比によらず直接的に共感する場合，その心的活動を感情移入とよぶ。観照対象に，そこに表出された感情と類比的な自己の感情を投射し，しかもそれを対象に属するものとして体験することである。このような経験は実生活においてもしばしばみられるが，芸術作品の享受において最も完全に行なわれる。リップス(1851～1914)らはこれを美意識の根本原理であるとした。感情移入の概念は本来人間を対象としているが，美的観照においては自然物や風景に対する象徴的感情移入がある。これは無生物の有情化・擬人化であり気分移入ともよばれる。〔島田紀夫〕

かんしょうえき【緩衝液】緩衝溶液ともいう。緩衝作用をもつ溶液。溶液の水素イオン濃度(pH)を一定に保つ必要のあるときに用いる。酢酸－酢酸塩などのように，一般的には酸または塩基とその塩の混合溶液であるが，塩酸－クエン酸ナトリウムなどのように用途によっては種々の組み合わせがある。1909年デンマークのS.P.L.セーレンセンが塩酸・水酸化ナトリウム・グリシンのほか，リン酸・クエン酸・ホウ酸などとその塩の混合物を用いてはじめてつくった。代表的なものにワルポール緩衝液(pH 3.6～5.6：酢酸－酢酸ナトリウム)，メンツェル緩衝液(pH 8.94～11.37：炭酸ナトリウム－炭酸水素ナトリウム)などがある。
➔緩衝作用〔三輪誠・野宮健司〕

かんじょうかごうぶつ【環状化合物】化合物を形成している原子が分子内で環をつくっている化合物の総称。環式化合物ともいう。環を形成している原子が同一の場合，同素環状化合物といい，炭素だけで環を形成しているものを炭素環状化合物という。また2種以上の原子で環を形成している場合は複素環状化合物あるいは異節環状化合物という。炭素環状化合物には，炭素の状態により，脂環族化合物と，芳香族化合物とがある。また，環の数により単環状化合物，二環状化合物，多環状化合物に分類される。〔石戸良治・荒木洋之助〕

かんじょうかたようしき【感情過多様式】1740年から1760年ごろにかけて，バロック様式から古典派の様式への移行期に現われた音楽様式の一。バロックの荘重さ，事大主義と，古典派の形式重視との中間にあって，感情表現を強調したものをさし，ロココ様式に並列または包含されるものと考えられている。フリーデマン-バッハの作品の多くはその代表的なものであるが，音楽史的にはジングシュピールや民族的リートに与えた影響を見のがすわけにはいかない。〔吉田泰輔〕

かんしょうき【緩衝器】物体に対する外部からの衝撃や振動を吸収し和らげる装置。ばね・防振ゴム・油圧装置などによって運動エネルギーを吸収する。車両用緩衝器として普通に使用される油圧緩衝器は，シリンダー内に油を満たし，その中をピストンが動くようになっている。ピストンによって圧縮された油が細い穴を通るときの摩擦を利用して振動を吸収する方式である。緩衝器は，自動車・鉄道車両，航空機の脚，その他の諸機械などに広く使用されている。〔成田武男〕

かんじょうきょういく【感情教育】フローベールの長編小説。1864年から1869年にかけて書かれた自伝的な作品である。地方出の青年フレデリック-モローが，パリで恋愛と生活の不安を通して虚無的になっていくさまを描き，1848年の二月革命の記録とあいまって，19世紀前半のパリにおける青年の幻滅と時代精神がみごとに映し出されている。

かんしょうぎょるい【観賞魚類】観賞用に飼育する魚類。日本では昔からキンギョ・ニシキゴイ・ヒメダカなどが愛されてきた。近年は南アメリカ・東南アジア・アフリカ・オーストラリアなど，熱帯地方の魚類，いわゆる熱帯魚も，水槽(すいそう)の温度を暖かく一定に保つ装置が発達したので，大いに流行している。エンゼルフィッシュ・ネオンテトラ・グッピーなど多種多様の熱帯魚が飼われている。さらに最近，熱帯のサンゴ礁水域にすむ魚類のうち，珍奇な形やあざやかな色彩をもつ魚，いわゆる海水魚を飼うことが流行しはじめている。コバルトスズメ・フエヤッコダイ・チョウチョウウオ類・ナンヨウハギなど，淡水熱帯魚よりもはるかに多彩な魚類が飼われは

じめた。日本では，淡水熱帯魚のほとんどすべての種類を水槽で繁殖させているが，熱帯性海水魚は，水槽の繁殖に成功しておらず，すべて野生のものを，直接，外国や沖縄から運び込んでいる。〔菅野　徹〕

かんしょうけい【干渉計】一つの光源から出た光を二つまたはそれ以上に分け，再びこれを重ね合わせて干渉させ，これを観測して種々の測定を行なう装置。歴史的には，相対性理論の発端となったマイケルソン干渉計が有名であり，その一種であるトワイマン-グリーンの干渉計は光学部品の検査にしばしば用いられる。その変形も数が多い。空気力学の研究にはマッハ-ツェンダー干渉計が好んで用いられる。多光束の干渉計としては，ファブリ-ペロー干渉計が有名で，現在多くの光学測定に用いられている。〔吉原邦夫〕

かんじょうげんけいき【官場現形記】中国，清(しん)末の小説。李宝嘉(りほうか)(1867～1906)の作。60回，一貫した筋はないが，挿話(そうわ)を次々に積み重ねていって小説を展開させていく。当時の官界の腐敗の暴露を主とし，外国人が中国人を奴隷視し，官吏が外国人に迎合するさまを細かに書きつづり，当時，非常に評判となった。

かんしょうさよう【緩衝作用】ある溶液に酸または塩基を加えても，酸性・アルカリ性の程度，すなわち水素イオン濃度の変化が著しく小さい場合，この溶液を緩衝液といい，その溶液には緩衝作用があるという。一般に弱酸とその塩，または弱塩基とその塩をとかしている溶液はこれに属する。緩衝作用の原理は次のようである。弱酸HAとその塩BAの混合溶液において，HAは$HA \rightleftarrows H^+ + A^-$のように解離するが，その解離はわずかである。一方BAは完全に解離している。この溶液に外から酸(H^+)が加えられると上の平衡は右から左に向かって進み，加えられたH^+はHAとなって除かれるから，この溶液の水素イオン濃度は変化しない。一方，塩基(OH^-)が加えられると，溶液のH^+は中和されて除かれるが，平衡は左から右に進み，H^+を補うので溶液中の水素オイン濃度はほとんど変化しない。緩衝作用が化学変化に重要な役割を果たしているのはもちろんであるが，生体内における生理作用の調整にも重要な役割をもっている。〔三輪誠・野宮健司〕

かんしょうしつがんせき【完晶質岩石】火成岩のうちでガラスを含まず結晶ばかりでできているもの。深成岩は完晶質であり，火山岩の中でも玄武岩のような塩基性岩は完晶質のことが多い。

かんしょうじま【干渉縞】二つ以上の光波を互いに干渉させると，強め合うところは明るく，弱め合うところは暗くなり，明暗のしま模様を生ずる。これを干渉じまという。シャボン玉の色模様や，水面の油の膜の色づいてみえるのは，膜の表と裏とで反射した光が干渉するためである。色のあざやかなのは光が単色でなく，さまざまな色のしま模様が重なるからである。ヤングの実験，フレネルの複鏡，ニュートン環などは干渉じまの代表的なものである。



環状星雲　こと座の環状星雲

かんじょうしんけいけい【管状神経系】動物の集中神経系をその形態上から分けたものの一つで，原索動物や脊椎(せきつい)動物がこの神経系をもつ。発生学上外胚葉(はいよう)起原の神経管から由来する管状の神経系やその発達したものが中枢となっている。脊椎動物ではその前端は太くなって脳になり，後方は脊髄となる。

かんじょうせいうん【環状星雲】丸い環の形をした惑星状星雲。惑星状星雲は中心星から噴出したガスが発光している姿であるが，そのガスの噴出がやんでから十分な時間がたつと，ガスは球殻(きゅうかく)状に分布する。このとき，視線上に存在するガスの量は星雲の中心部では少なく，中心より少し離れた所で最大になり，星雲は円環状に見えるのである。こと座の環状星雲が代表的な例である。

かんじょうせん【環状線】大都市の中心部から外周部の各方向に向かって伸びる放射状道路どうしを連絡する環状または円弧状の道路。このほか，放射線道路の連絡にはほとんど関係なく，単に形状が環状，あるいはそれに近いものもこれに属する。鉄道の場合にも環状の路線を環状線という。

かんしょうちたい【緩衝地帯】国家間の衝突を緩和するため，両国の領土の中間に設けられた地域。非武装地帯や中立地帯がこれにあたる。なお，地理的位置の関係から，強国間に介在してその衝突を緩和する役割をなす小国がある。これを緩衝国といい，永世中立国はこの一例である。

かんじょうどうみゃく【冠状動脈】冠動脈ともいい，心臓を取り巻いて心臓を養う動脈。大動脈の心臓の出口のところから左冠状動脈と右冠状動脈の2本の冠状動脈が出て，まず心臓外壁の心房と心室の間にある冠状溝(かんじょうこう)に沿い，次いで左右の心室の間にある室間溝に沿って枝を出しながら心尖(しんせん)に向かう。血液は心筋を養ったのち，冠状静脈洞(じょうみゃくどう)を経て右心房に注ぐ。この循環を冠循環といい，全身を回る大循環のうち，最小の回路のものである。冠状動脈が硬化すると内腔(ないこう)が狭くなって心筋に栄養障害をきたし，狭心症・心筋梗塞(しんきんこうそく)となりやすい。〔蟠井　勉〕

かんじょうぶぎょう【勘定奉行】江戸幕府の職名。三奉行の一つで，幕府の要職。初期のころ租税財務をつかさどる者が加判の中にあったが，その職務はしだいに専門化し，寛永年間(1624～1643)には勘定頭(かんじょうがしら)と称した。その管掌するところは，幕府領の租税以下いっさいの出納を総括し，関八州の公私領および関八州以外の幕領の庶民の訴訟を取り扱い，幕領の郡代・代官および蔵奉行・銭奉行・林奉行・漆奉行・川船奉行などを支配した。また交通宿駅に関する道中奉行をも兼ねた。1722年(享保7)に勝手方と公事方(くじかた)とに分かれ，前者は租税と徴収，金銀米銭の出納，諸役人の知行割，長崎貿易，検地など民政・財務に関するすべてをつかさどり，後者は訴訟を専管した。定員は勝手方・公事方各2名の4名で，1年ごとに交替した。2～3千石の旗本の役で，役料700俵，手当300両が支給された。属吏に勘定組頭・勘定衆・支配勘定・普請役元締などがあった。なお年貢(ねんぐ)の受取勘定などにあたった役職は鎌倉時代にもあり，それが常置されたのは室町時代からであった。〔岡山泰四〕

かんしょうふしょう【官省符荘】律令(りつりょう)制において太政官符(だじょうかんぷ)・民部省符によって不輸租(租税免除)の特権を認められた荘園。初期の荘園は原則として輸租地であったが，荘園領主である貴族・寺社は種々の理由をつけて不輸租の特権を得ようとして申請した。その申請を受けた朝廷では，国司に命じて国衙(こくが)(諸国の政庁)の役人を現地に派遣し，荘園側の責任者立ち会いのうえで荘域を調査して，その結果を中央に報告させ，太政官符や民部省符を下して不輸租を認めた。→不輸・不入〔鈴木英雄〕

ガンじょうやく【ガン条約】1812年戦争(第2次英米戦争)終結のためベルギーのガンで結ばれたイギリス・アメリカ合衆国間の講和条約。戦争状態の停止，平和の回復，アメリカ・イギリス領カナダ間の国境問題を調整する委員会の設置が決定され，奴隷貿易の禁止が約された。しかし，中立貿易の保証，海上封鎖の廃止，船員徴発の禁止，インディアン扇動の停止などアメリカの戦争目的は未解決で，アメリカのカナダ沖出漁権やイギリスのミシシッピ川航行権は不問に付された。このため，両国の関係は不変だったが，アメリカの国家意識は高まった。〔折井一彦〕

かんじょうれっせき【環状列石】新石器時代のストーン-サークルの訳。わが国では，縄文(じょうもん)時代遺跡として北海道と東北地方にみられる。北海道の忍路(おしょ

る)には直径10mのものと30mのものとが散在しており，道内の他の数か所からも発見されている。ふつう，列石の内側には積み石が置かれ，その下は墓穴になっている。墓穴からは副葬品として硬玉製飾り玉や石鏃(せきぞく)などが出ることもあり，付近に縄文後期の土器が発見されることから，本土の縄文文化との関連が考えられる。秋田県大湯と付近数か所にその遺跡が発見されているが，副葬品は出土していない。➔大湯環状列石　〔高崎徳次〕

かんしょく　【間食】　朝・昼・晩の定食時の合間や夜間などにとる軽い食事。〈おやつ〉または〈お三時〉ともいう。1日2食が習慣となっていた時代には農民や激しい労働に従う者は小昼・小昼飯・中食と称する間食をとっていた。その後，この風習は鎌倉時代にはいると一般にも伝わって四つ刻(午前10時ごろ)や八つ刻(午後2時ごろ)に間食・茶請けをとるようになった。健康な成人においては3度の食事が充実しておれば，栄養面でふつう間食を必要としないが，消化機能の未熟な幼児では1回の食事量が少ないので，発育のための栄養，また，活動によって消耗されたエネルギーの補充が，1日3回の食事では不十分であるので，幼児にとって規則的な間食は欠かせないものである。

〔与える上での注意点〕①回数：幼児期では1日2回(午前10時ごろと午後3時ごろ)，学童期には午後1回が適当である。②量：次の食事の妨げにならない程度(1日に要する総熱量の10%を越えないこと)が基本であるが，食欲や，その日の運動量によって加減する必要がある。③種類：甘味の強いもの，油っこいものは避け，栄養・カロリー面の補給ができる消化のよいものを選ぶ。パン・ビスケット・クラッカー・せんべい・カステラ・ゼリー・寒天食品・牛乳・乳製品・くだもの果汁(かじゅう)など。

また，老齢期においても消化機能の衰えによって1回に少量ずつしか吸収できなくなるため，幼児と同様に間食をとることが必要となる。　〔宇留野勝正・塩川ふみ〕

カンジーラ　インドの楽器。タンバリンふうの膜鳴楽器で，北インドではカンジャリともいう。木の円形のわくの片面にとかげの皮を張り，さらにわくには金属が組み込まれている。おもな音は右手で皮をたたく音である。皮の張力の加減は湿気を与えることによって行なう。合奏形態ではムリダンガムと競い合ったり，あるいはムリダンガムの代理をしたりする。

かんしん　【汗疹】　⇨あせも

かんしん　【韓信】　(？～BC197)　蕭何(しょうか)・張良と漢の高祖の三傑。若いとき無頼の少年の悪口に腹をたてず，その股(また)をくぐった話は有名。もと項羽に仕えたびたび献策したが用いられず，のち高祖に仕え蕭何の推薦で大将となり，楚(そ)・漢の戦いには大功を立て，斉(せい)を従えて斉王に封ぜられ，のち楚王に従った。しかし，漢も安定すると有力諸侯の削減をはじめ彼も淮陰侯(わいいんこう)に落とされ，BC197年陳豨(ちんき)が反乱を起こしたとき，高祖の軍に従わなかったので，呂后(りょこう)の計略で捕えられ，次いで殺された。〔米田賢次郎〕



顔真卿　千福寺多宝塔碑



観心寺　金堂

かんじん　【勧進】　寺院を建立(こんりゅう)または修復などするために信者や有志者を勧めてその費用を寄進させること。それによって人を仏道にはいらせ功徳を積ませることが本意であった。これを行なう者を勧進聖(ひじり)といい，勧進の趣意を書いた寄進帳を勧進帳といった。源義経(よしつね)・弁慶が安宅(あたか)の関で，東大寺勧進の山伏と称して勧進帳を読んで無事通過した劇は有名。のちには勧進能・勧進舞などのような芸能興行を催して観覧料をとって費用にあてるようになった。江戸の回向院(えこういん)で行なわれた勧進相撲(ずもう)は，この寺の建立のための勧進から始まったもので毎年行なわれ，これが現在の大相撲の起こりである。

〔岡山泰四〕

がんじん　【鑑真】　(688～763)　中国，唐代の僧。揚州(いまの江蘇(こうそ)省)の人。仏教のうち特に戒律に通じ，名声が高かった。当時遣唐使に従って入唐(にっとう)した日本僧の懇請により日本に渡る意を固め，幾多の困難を乗り越えて来日し，日本律宗の祖となった。朝廷はこの遠来の失明の名僧を厚遇し，聖武(しょうむ)天皇はみずから受戒した。主として唐招提(とうしょうだい)寺に住し，彼の伝えた戒律は奈良仏教徒の重要な生活規範となった。　〔佐藤成順〕

かんじんかんもんてくだのはじまり　【韓人漢文手管始】　歌舞伎(かぶき)脚本。世話物。通称〈唐人殺し〉。初世並木五瓶(ごへい)作。1789年(寛政1)，大阪角(かど)の芝居(中山福蔵座)初演。1763年(宝暦13)に来朝した朝鮮の使節を日本側の通訳鈴木伝蔵が刺殺した事件を脚色したもの。長崎を舞台にし，唐人が登場する珍しい歌舞伎の一種で，作者が江戸で改作したものが現在に行なわれている。

がんしんけい　【顔真卿】　(709～785)　中国唐代の政治家・書家。字(あざな)は清臣，瑯邪臨沂(ろうやりんき)(山東省)の人。北斉(ほくせい)顔之推の5世の孫。安禄山(あんろくざん)の乱のとき平原(山東省)の太守をしていたが，敵軍を排撃して戦争を有利に導き，勇名をはせた。のち刑部尚書(ぎょうぶしょうしょ)に進み，魯郡(ろぐん)開国公に封ぜられたが，晩年，李希烈(りきれつ)の謀叛軍(むほんぐん)に使者としておもむき，捕えられて殺され，忠烈と諡(おくりな)された。書ははじめ張旭(ちょうきょく)から十二意の筆法を授かったといわれるが，のちしだいに質朴(しつぼく)な個性的書風を形成し，碑文に一新面を開いた。その書法を蚕頭燕尾(さんとうえんび)とよんでいる。作品はきわめて多く，《多宝塔碑》《麻姑仙壇記(まこせんだんき)》《顔氏家廟(びょう)碑》《争座位帖(じょう)》などがある。その書を集めた法帖に《忠義堂帖》がある。　〔中田勇次郎〕

かんしんじ　【観心寺】　大阪府河内長野(かわちながの)市寺元にある真言宗の寺院。空海の弟子(でし)実慧(じっけい)による827年(天長4)の創建と伝えられ，金堂(国宝)は和風と宋(そう)風とを折衷した鎌倉時代の建築，内陣須弥壇(しゅみだん)の厨子(ずし)に安置されている秘仏如意輪観音座像(国宝)は平安前期の代表的な仏像で，木造彩色の名品である。その他白鳳(はくほう)期の小金銅仏，平安期の木彫仏などの重要文化財が数多い。また，観心寺文書として知られる《観心寺勘録縁起資材帳》(国宝)などの古文書も有し，境内には楠木正成(くすのきまさしげ)の首塚(くびづか)や彼が建立(こんりゅう)しようとした〈建掛塔(たてかけのとう)〉などもある。　〔永井信一〕

カンジンスキー　［Wassily Kandinsky］　(1866～1944)　抽象絵画の先駆者として知られるロシアの画家。モスクワ大学で法律・経済学を修めたが，画業を志して1896年ミュンヘンに出る。1901年以後はアカデミーを離れて自己の芸術的課題を追求，1906～1907年パリに滞在，新しい美術運動に

触れ，その後はしだいに線と色彩による純粋抽象に近づいた。1910年水彩による最初の抽象画を描き，1911年マルク*とともに〈青騎士*〉を結成，《芸術における精神的なもの》を出版した。1913年抽象画の最初の大作《コンポジション7》を発表したが，1914年第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)によりロシアに帰国し，構成主義*の影響を受けた。革命後はソビエト政府の下で美術教育行政に従事。1922年バウハウス*に招かれ，以後は構成的傾向がいっそう顕著となり，バウハウス閉鎖後はフランスに移住した。晩年には幾何学的要素は後退し，代わって有機的フォルムが登場，色彩画家としての才能は変幻自在な画面を生んでいる。〔岸野悦子〕

かんじんちょう【勧進帳】歌舞伎*(かぶき)舞踊劇の作品名。歌舞伎十八番*の一。1840年(天保11)，江戸河原崎(かわらざき)座初演。3世並木五瓶(ごへい)作。4世杵屋(きねや)六三郎(六翁)作曲(長唄(ながうた))。4世西川扇蔵振り付け。配役は弁慶7世市川団十郎*，富樫左衛門(とがしさえもん)3世市川九蔵，義経(よしつね)8世市川団十郎であった。謡曲《安宅*(あたか)》をもととし，山伏問答などを織り込んで大胆に歌舞伎化したもので〈松羽目物*〉の先駆でもある。兄，頼朝(よりとも)と不和になった義経が，山伏姿に身をやつしたわずかの家来とともに合力の姿となって奥州に下向の途中，加賀国安宅の新関で関守(せきもり)の富樫に見とがめられる。しかし，弁慶の機転によってかろうじて通過することができる。一方富樫は義経と見抜いたが，弁慶の心情に共鳴して知らぬこととして落としてやる。架空の勧進帳の読み上げ・問答・押し合い・打擲(ちょうちゃく)などの劇的緊迫感，武士の情愛，元禄(げんろく)見得，不動の見得，延年の舞，飛六法など荒事*の骨法を採り入れた勇壮な演技など，さまざまの見せ場をもつ名作で，曲もすぐれている。明治以後は9世市川団十郎の手で荘重高尚(こうしょう)な演出が採り入れられ，さらに7世松本幸四郎*の得意芸となって洗練された。今日も諸優によってしばしば上演される。〔服部幸雄〕

かんじんのう【勧進能】寺院や神社などの建築または修復の費用を集める目的で行なわれた能楽の興行。14世紀以後しばしば行なわれ，1433年(永享5)・1464年(寛正5)の再度，京都糺河原(ただすがわら)で行なわれたものは特に有名。江戸時代には前時代よりも営利的な目的のものが多くなった。

ガンス［Abel Gance］(1889〜1981) フランスの映画監督。その創作活動は1910年代の無声映画*の時代から1960年代までに及び，代表作に《鉄路の白ばら》《ナポレオン》などがある。短い画面の結合によって独自の視覚的リズムをつくり出す手法，ワイド-スクリーン*の先駆ともいうべきトリプル-エクラン，同時に異なった3画面を映写するポリビジョンなど，のちの映画に与えた影響は大きい。



カンジンスキー《単純と複雑》パリ国立近代美術館蔵



勧進帳 中村吉右衛門の弁慶と市川染五郎の富樫(木の芽会，1970年上演)

かんすい【漢水】ハン川 中国陝西(せんせい)省に発し，湖北省を流れる揚子江の支流。全長約1,000km。陝西省寧強県に源を発する漾水(ようすい)が東流して沔水(べんすい)となり，漢中に至ってはじめて漢水とよぶ。漢口において揚子江に注ぐ。支流に丹江・白河などがあり，本流とともに水運の便多く，湖北・河南・陝西3省間の交通運輸に果たす役割は大きい。

かんすいがい【冠水害】豪雨により河川が氾濫(はんらん)し，田畑の作物が水面下に没し，被害を受けること。畑では比較的水が引きやすいので冠水害は少ないが，水田ではイネの冠水によりしばしば大きな被害を生ずる。冠水の害の生理的原因は，①酸素の欠乏による呼吸障害，②光線の不足に由来する同化作用の障害，③病原微生物の繁殖による障害である。①の原因が最も大きいが，水面上に葉先が若干でも出ていると被害はかなり軽減される。〔金木良三〕

がんすいたんそ【含水炭素】⇨炭水化物

かんすう【関数】集合*Xの任意の要素xに対して，集合Yの要素yがただ1通りに決まる対応の規則があるとき，この規則を関数といい，ふつうf，gなどの記号を用いて表わす。たとえば，X，Yを実数の集合とし，xに対してyを$2x+1$と定めれば，yはただ1通りに決まるから，〈xを2倍して1を加える〉という規則は関数である。集合Xから集合Yへの関数fを

$$f: X \to Y,\quad X \xrightarrow{f} Y$$

などと書く。xにXの要素aを代入したとき定まるYの要素を$f(a)$で表わし，関数の値という。たとえば，Zを整数全体の集合，Z_3を集合$\{0, 1, 2\}$とするとき，〈整数xを3で割った余りをyとする〉という規則を関数gと名づければ，$g: Z \to Z_3$，$g(4)=1$，$g(3)=0$，$g(2)=2$，$g(1)=1$，$g(0)=0$，$g(-1)=2$である。

【変数】一般に，ある集合Xの要素を代入することが許されている文字xを変数といい，Xを変域*という。上述の関数の定義において，xを独立変数，xのとる値の集合を定義域，yを従属変数，yのとる値の集合を値域という。このとき〈yはxの関数である〉といい，$y=f(x)$とも書き表わす。

【相等】二つの関数は，定義域，値域，対応の規則の三つとも同じときに等しいという。

【表現形式】関数を表示するには，xとyの対応を直接，表や図で示したり，グラフに表わしたり，式の形に書いたり，ことばで対応の規則を示したりする。

【陽関数・陰関数】式表示できる関数であって，変数の値からそれに対応する関数の値が直接かつ具体的に求められる形の関数(たとえば$y=2x+1$など)を陽関数という。これに対して，関数の値が直接求められる形になっていない関数(たとえば，$2x+3y+1=0$など)を陰関数という。

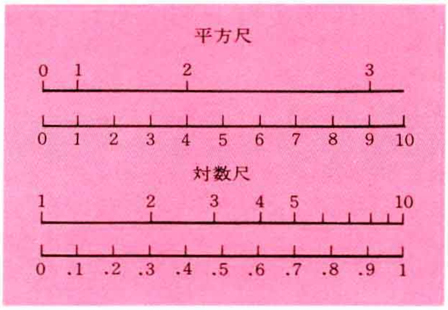
【整関数】一次関数$y=2x+1$，二次関数$y=2x^2+x+3$などのように，対応の規則を多項式$a_nx^n+a_{n-1}x^{n-1}+\cdots\cdots+a_1x+a_0$の形に表わすことのできる関数を整関数という。

【連続関数】実数のある開区間で定義され，実数値をとる関数$f(x)$があるとき，その区間内の1点aにおいて，$\lim_{x \to a} f(x)$が存在し，$\lim_{x \to a} f(x)=f(a)$となる場合に，$f(x)$は$x=a$で連続であるという(→極限)。関数$f(x)$が，開区間内のすべての点で連続ならば，fはその開区間において連続であるという。連続な関数を連続関数という。整関数，$\sin x$，$\cos x$などは$-\infty<x<\infty$で連続である。

【単調関数】$3x+2$，x^3などのように，関数$f(x)$について，$a<b$なる任意のa，bに対し，つねに，$f(a)<f(b)$がなりたつとき，$f(x)$は単調増加であるという。また，$-3x+2$，$-x^3$などのように，$a<b$なる任意のa，bに対し，つねに，$f(a)>f(b)$となるとき，$f(x)$は単調減少であるという。単調増加，および，単調

減少の関数を合わせて単調関数という。➔関係 ➔逆関数 〔青柳雅計〕

かんすうじゃく【関数尺】 関数 $y=x^2$ があるとき，数直線上の座標が x^2 である点に x と目盛りをつけたものを平方目盛りといい，この目盛りのついた直線を平方尺という。一般に，ある関数 $y=f(x)$ があるとき，数直線上の座標が $f(x)$ である点に x と目盛りをつけたものを関数目盛りといい，この目盛りのついた直線を関数尺という。対数目盛りは $y=\log_{10}x$ の関数目盛りであり，この目盛りのついた直線が対数尺である。〔菊池兵一〕



関数尺

かんすうほうていしき【関数方程式】 微分方程式*・積分方程式などのように，未知の関数*を含む方程式*を広い意味での関数方程式という。特に，極限の演算を許さない場合を，狭い意味の関数方程式といい，これには，微分方程式・積分方程式は含まれない。たとえば，

$$f(x+y)=f(x)+f(y)$$

が任意の x，y についてなりたつとき，解は $f(x)=cx$（c は任意定数）である。

かんすうろん【関数論】 複素数*を変数とする関数*を複素関数または複素変数関数といい，その理論および応用を研究する数学の一部門を複素関数論，または複素変数関数論，あるいは簡単に関数論とよぶ。変数・定数をともに，実数から複素数へ拡張することによって，一見無関係にみえる関数のいくつかの性質も，深い関連をもつことが明らかにされる。

カンスタブル［John Constable］（1776～1837） イギリスの画家。ロンドンのロイヤル-アカデミーで学んだのち，ロイスダール*・ローランらの作風に影響を受けた。1811年ごろから直接に自然を写生する方法をとりはじめ，外光描写に専念した。ターナー*とともに19世紀前半のイギリス風景画家を代表する。その清新な賦彩と大気の描写は，フランスのバルビゾン派*や印象派*の画家に多くの影響を与えている。

かんすぼん【巻子本】 書物形態のうち最も古いもので，いわゆる巻き物のこと。東西ともその軌を一にし，エジプトでは，数千年前パピルス*が書写の料に供されるとともに，中国では，2世紀の初め紙の発明とともにこの様式が採用された。書物のことを1巻・2巻というのは，この巻子本からきているので，英語でも〈巻〉のことをボリューム(volume)というが，これは〈巻く〉という意のラテン語ボリューメン(volumen)を語源としている。〔庄司浅水〕

かんせい【慣性】 物体が力の作用を受けないとき，一定の速度を保ち続けようとする性質。惰性ともいう。力の作用を受けなければ，慣性によって，静止している物体は静止を続け，運動している物体はそのままの速度で等速直線運動を続ける。これを慣性の法則という。ニュートン*の運動法則の第一にあげられているものである。電車が急停車するとき乗客が前に倒れそうになるのは，車体が停止しても中の乗客は慣性によりそれまでどおりの速度で運動を続けようとするためである。また，ぬれたかさの柄を軸として回転させると水滴が飛び散るのは，水滴が慣性によって等速直線運動を続けようとしてかさのまわりに飛び去るためである。➔運動 〔有山正孝〕

かんせい【感性】 ふつう外的感覚に固有な感覚・知覚の能力をいう。また，喜びや悲しみなどの情緒の意識をもいい，しばしば精神的なもの，道徳的なものに対立させられる。心理学では，知性と区別して感覚・知覚・感情の活動をさし，すでに知性の萌芽(ほうが)が含まれていると考える。哲学では，カントは感性と悟性*を認識の二つの幹であるとし，自発的に思惟(しい)する能力である悟性に対して，〈対象から触発されるしかたによって表象を受け取る能力(感受性)を感性〉とよび，〈感性を媒介としてわれわれに対象が与えられ，感性のみがわれわれに直観を与える〉とした。対象は時間・空間の直観形式で与えられ，これに悟性の思考が加わって認識となる。なお，倫理学では，理性*によって克服されるべき感覚的欲求をいう。〔中川 誠〕

かんせい【間性】 正常の雌と雄の中間に位置する個体。R.ゴールドシュミットが1917年にマイマイガで発見したが，生物界に広くみられる現象。品種間の交配によって，翅(はね)の色，触角の形，交尾器官のような本来雌雄ではっきり違っている形質が，両性の中間を示すようになる。間性になるのはおもにヘテロのほうの性(XY，ZW，XOなど)であるが，ホモのほうの性(XXやZZ)でもみられる。

かんぜい【関税】 貨物の輸出入および通過に際し賦課される税。移動方向により，輸出品に課する輸出税，輸入品に課する輸入税，単にその国を通過するだけの場合に課する通過税とがある。そのうち，現在実際に行なわれているのは，主として輸入税である。関税はその目的により，財政関税*と保護関税*とに分けられる。財政関税は財政収入の確保を主目的としている。保護関税は，もちろん結果においてこれも財政収入の一部とはなるが，その主目的が国内産業の保護・育成にあるものである。これにはさらに，①幼稚産業*の保護・育成を目的とするものと，②独占資本の国内市場支配と独占利潤の確保を目的とするものとがある。

関税は，その課税標準がなにであるかによって，従価税*と従量税とに分けられる。従価税は輸入品の価格を基準として税額を決めるものであるが，わが国の場合，原則として到着地価格，つまりシフ*(CIF)価格が課税価格としてとられている。従価税では，価格が上昇するとき，その税額も増加するが，価格が下落するとき，その税額が減少するので，その場合産業保護の機能は弱められることになる。これに対し，従量税は輸入品の数量を課税の基準とするもので，輸出国によって価格差が大きい場合や，輸送費の負担の影響が大きいような場合，この従量税によればつごうがよい。また，従価税と従量税とを混用する関税に混合関税がある。

関税の税率には，その決め方によって，①一国の主権によって完全に自主的に決められる国定税率と，②外国との条約によって個別に決められる協定税率とがある。前者は，その国の必要に応じて自由に改正されうるが，後者の場合は，相手国の承認を得て条約の改正ないし代償の賦与ということが必要となる。しかし，現在のようにガット*(GATT)に加盟している国が世界の大半を占める状態では，ガットによって互いに引き下げ合った譲許税率が協定税率の大部分を占め，これがガット加盟国や最恵国待遇を与える国に適用されている。〔西野義彦〕

かんせいいがくのきん【寛政異学の禁】 松平定信(さだのぶ)による寛政の改革*の思想統制的施策の一。1790年(寛政2)5月，江戸幕府は湯島聖堂における儒学の講義で朱子学*派以外の講義を禁止した。幕府は初期から朱子学を官学として奨励してきたが，江戸中期以降，古学派*・折衷学派に圧迫され不振となった。そのため幕臣の学問所である湯島聖堂を昌平黌*(しょうへいこう)と改称し，統制を強め，朱子学を官吏登用試験とすると定めて，これによって朱子学を振興し，封建教学の再編成を図ろうとした。また諸藩の藩校もこれにならって講義を朱子学に切り替えるものが多かった。〔松尾 涼〕

かんぜいいっかつひきさげこうしょう【関税一括引き下げ交渉】 ⇨ケネディ-ラウンド

かんぜいおよびぼうえきにかんするいっぱんきょうてい【関税および貿易に関する一般協定】 ⇨ガット

かんせいけい【慣性系】 ニュートン*の運動の法則*がなりたつような座標系。同一の物体の運動を静止している座標系Kと，それに対して加速度をもって運動している他の座標系K′によって観測すると，それぞ

れ異なって観測される。運動の法則に従って，物体の運動は運動方程式〔質量〕×〔加速度〕＝〔力〕から定まるが，加速度運動をしている座標系K′では運動方程式に慣性力を付け加えて，〔質量〕×〔K′系による加速度〕＝〔力〕＋〔慣性力〕と書かねばならない(→慣性力)。しかし，K′系のK系に対する運動は実は相対的なものであって，K系とK′系だけを考えるとどちらが静止していてどちらが加速度運動をしているのかはわからない。地球上に住むわれわれにとっては，地面に固定された座標系を静止していると考えるのが最もわかりやすいが，実は地球も自転・公転をしているからそのような座標系も宇宙空間ではけっして静止しているとはいえない。したがって，突きつめて考えると，静止している座標系，もっと正確にいえば慣性力を考えなくてもよい座標系とはどのような座標系かということが疑問になる。慣性力を考えなくてよい座標系，すなわちニュートンの運動の法則がなりたつ座標系のことを慣性系，または惰性系とよぶ。経験によれば，太陽系内の1点を原点として恒星に対して回転しない座標系は慣性系と考えてよい。また，この系に対して座標軸の方向を一定に保ち，一定の速度で運動をする座標系もまた慣性系である。〔有山正孝〕

かんせいけん【肝生検】 特殊な穿刺針(せんしばり)を用いて肝臓の組織を採取し，組織学的に検索すること。肝臓はきわめて代償能力の強い臓器で，重い病変があっても一部(20～30%)の健全な組織が残っていれば，機能を代償する。したがって，比較的高度の病変が存在しなければ，肝機能検査だけでは障害が認められないため，肝生検が行なわれる。肝生検には吸引採取法と細切採取法があるが，いずれの方法も必ずしもつねに組織片の採取に成功するとはかぎらない。しかも後出血などの合併もあるので，最近では腹腔鏡(ふくこうきょう)を用いて腹腔と肝臓を詳細に観察し，病変部と思われるところで，かつ安全な部位から組織を採取して，さらに後出血がないのを確かめてから検査を終了することができるようになった。腫瘍(しゅよう)などがある場合，そこを穿刺すると危険である。その意味からも腹腔鏡を用いるのが安全であり，また，腹腔鏡による観察だけでも診断のつくことがある。〔吉田　彰〕

かんせいしつりょう【慣性質量】 ⇨質量

かんせいしょくぶつ【乾生植物】 大気や土壌(どじょう)の乾燥した場所，塩分濃度が高い場所など，吸水の困難な環境下に生育する植物。貯水組織の発達，クチクラ層・コルク層の発達による蒸散の抑制，根の発達，浸透価が高く吸水力低下を防止するなど，他の環境下の植物とは異なった形態や機能を備えたものが多く，サボテン・マツバギク・ハマボウなどがその例である。

かんせいちょうしゅうしょかふ【寛政重修諸家譜】 江戸幕府が編纂(へんさん)した，諸大名・旗本(はたもと)・幕臣の系譜。《寛永諸家系図伝*》の補訂の意味をもつ。1,530巻。1799年(寛政11)，堀田正敦(ほったまさあつ)の建議によって諸家に系譜などを提出させ，正敦を総裁に林述斎らの学者多数を動員して，1812年(文化9)完成。1798年までの系譜であるが，徳川家，親藩の松平家は収録されていない。第2次世界大戦前・後の2度復刻されている。〔松平秀治〕

かんせいでんせつ【感生伝説】 自然の事物(岩・樹木・光・足跡その他)に接触したり，感じたり，体内に導いたりすることによって懐妊し分娩(ぶんべん)するという筋の伝説。世界の諸民族の伝説にみられ，原因となる自然事象として次のようなものがある。①岩・樹木など精霊がいるような事物や場所ではらむ。②日光・風・雲気などの自然現象に生命の活力・生命の根源を認め，それによってはらむ。③日・月・星・電光あるいは精霊などが身中にはいるのを夢みてはらむ。④巨人や聖者の足跡を踏んではらむなど。これらの伝説は，ことに《創世記*》などの材料にもみられ，いずれも原始女性が，神霊や霊力・超自然力を伴った事物との性交により人間世界の事物一般が生じたという筋になっている。伝説の背景には，事物や自然現象に対する信仰と，事物生成の起源に対する解釈における各民族の世界観がうかがわれる。〔渡辺欣雄〕

かんせいとう【管制塔】 ⇨空港

かんせいどうぶつ【乾生動物】 砂漠(さばく)・サバナ・ステップなどの乾燥した環境に適応して生活している動物。体内水分が失われるのを防ぐ体をしており，こん虫類・クモ類・多足類・爬虫(はちゅう)類・鳥類の中に代表的なものが多い。サソリ・ガラガラヘビ・ラクダなどはその典型的な例である。

かんぜいどうめい【関税同盟】 同盟参加国の間では関税を撤廃，あるいは関税率を低減し，同盟外の諸国に対しては共通の関税率を課そうとする取り決め。古くはドイツ関税同盟*，最近ではEEC*にその例をみることができる。関税同盟のおもな目的は，同盟国内において自由貿易の利益を生み出し，その成果をできるだけ享受しようとする点にある。しかし，同盟外諸国に対する共通関税率を設定して域外貿易を差別化し，関税撤廃を域内貿易に限定する差別的自由化であるので，関税同盟の形成が直ちに世界大の貿易自由化に近づいたことを意味しない。事実，世界的な視点に立って関税同盟の得失を考察した場合には，関税同盟の形成が世界全体にとって有利であるとは一義的にいえない。関税同盟が形成されると，従来関税によって保護されていた国内の高コスト生産がやみ，同盟内の低コスト供給国から輸入されるようになる。他方，同盟外の国々に対する関税が保持されている反面，同盟国の間での関税が撤廃される結果，従来同盟外の低コスト供給国から輸入していたものを同盟内の高コスト供給国からの輸入に置き換えることになる場合もある。前者は貿易創出効果といい，より有効な資源配分をもたらすのに対して，後者は貿易転換効果といい，より悪い資源配分を結果する。貿易創出効果が貿易転換効果を圧倒する保障があってはじめて，関税同盟が世界全体からみても有利であるといえる。〔福島義久〕

かんせいのうりつ【慣性能率】 ⇨慣性モーメント

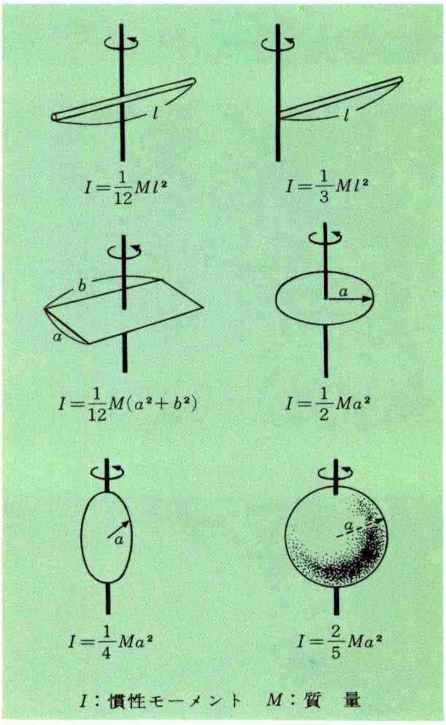
かんせいのかいかく【寛政の改革】 江戸幕府の実施した三大改革の一。11代将軍徳川家斉(いえなり)のとき，老中松平定信*(さだのぶ)を中心に，1787年(天明7)6月から1793年(寛政5)7月まで行なわれた。享保(きょうほう)の改革*の施政を目標にした復古的理想主義の性格をもつもので，田沼時代*にゆるんだ幕政の再建，領主経済・武士生活の維持，農村の復興，商業資本の抑圧を主要政策とした。江戸中期以降，商品経済の発展によって幕藩制の基礎であった本百姓*が窮乏化し農村が荒廃したのに対し，農民の帰村を奨励し農村の復興を推進した。また飢饉(ききん)や貧民救済のために社倉*・義倉*を設置し，囲い米*・七分金積立*など備荒の制を整えた。都市の浮浪人収容と職業補導のため江戸石川島に人足寄場*をつくった。消費をおさえるためには倹約令*を出して財政緊縮・再建を図り，窮乏した旗本(はたもと)・御家人を救済するため棄捐令*(きえんれい)を公布した。また，文武奨励・風俗矯正(きょうせい)を行ない，林子平の処罰，1790年寛政異学の禁*を出し出版・言論を統制，また，欧米諸国船の日本への来航に対して諸藩に命じ海防を強化した。この改革により幕政は一時的に緊張し，老中中心の閣僚政治が推進された。しかし，時勢に逆行する反動的色彩が濃いため，結果としては失敗であった。白河(しらかわ)藩など東北地方を中心に藩主の主導による藩政改革*が行なわれた。〔松尾　涼〕

かんせいのほうそく【慣性の法則】 ⇨慣性

がんせいひろう【眼精疲労】 目を使う仕事を続けてすると，普通の健康人なら疲れない程度の仕事でもすぐに疲れて，目の重い感じや眼痛・頭重感・頭痛・視力減退・複視，はなはだしい場合には悪心(おしん)・嘔吐(おうと)まで起こす状態。眼精疲労には次のような種類がある。①調節性眼精疲労：遠視・乱視・老視の初期などに起こる。②筋性眼精疲労：潜伏斜視などの場合に起こる。③症状性眼精疲労：結膜炎・眼瞼炎(がんけんえん)や緑内障の初期などに起こる。④不等像性眼精疲労：左右の目に映る同一物体の像の大きさが左右で異なるために起こる。⑤神経性眼精疲労：神経衰弱・ヒステリーなどの

際起こる。治療はそれぞれの原因に応じて行ない，いずれも目の使用は控えめにし，身体の栄養を高める。〔氏原　弘〕

かんせいモーメント【慣性モーメント】回転する物体を微小な部分に分割し，そのおのおのの部分の質量に回転軸からの距離の2乗を掛けて，全体を加え合わせた量。慣性能率ともいう。慣性モーメントは物体の形，質量の分布，回転軸の位置によって決まる量である。(慣性モーメント)×(軸のまわりの回転の角加速度)＝(物体に作用する外力の回転軸のまわりのモーメント)という関係があり，これから剛体の回転運動のようすを調べることができる。この関係が示すように慣性モーメントはその物体を軸のまわりに回転させるときの慣性の大小を示す量で，慣性モーメントが大きいほど慣性が大きい。はずみ車は，回転軸に慣性モーメントの非常に大きいものを取り付けて，なるべく回転速度が変化しにくいようにしたものである。〔有山正孝〕



慣性モーメント

かんせいゆ【乾性油】植物油のうちで，薄層にして空気中に放置すると空気中の酸素によって酸化を受け，粘着性を失い固化乾燥し，樹脂状の透明な塗膜をつくる性質をもつもの。主成分はリノール酸・リノレン酸などの不飽和度の高い脂肪酸のグリセリドで，ヨウ素価が高い。これに属するものとして，亜麻仁油(あまにゆ)・桐油(とうゆ)・大豆油などがある。用途としては，顔料を加えてペンキ・印刷用インキ・塗料に用いられ，ボイル油に加工して同じ目的に用いられることもある。〔岡部平八郎〕

かんせいりょく【慣性力】加速度をもって運動している観測者が，静止物体の運動を観測するとき，物体に働くと考える見かけ上の力。運動の法則によれば，物体に力が作用したときに加速度が生じる。しかし，物体が力の作用を受けず静止していても，観測者が加速度をもって運動していると観測者にとっては物体のほうが加速度をもって運動しているように見える。このとき，観測者にとって運動の法則がなりたつためには，すなわち，物体の質量と観測者から見た物体の加速度の積が物体に作用している力に等しいと置くことができるためには，物体に見かけ上の力が働いていると考えればよい。慣性力は観測者の加速度によって現われるのだから，その加速度によって慣性力が異なる。物体が慣性力でない力(万有引力，クーロン力，ばねの力など)を受けて運動している場合に，加速度運動をしている観測者に対する運動を求めるためには，運動方程式を立てる際に，物体に作用している力のほかに慣性力を付け加えて考えねばならない。➔運動〔有山正孝〕

かんぜおんじ【観世音寺】福岡県筑紫(つくし)郡太宰府(だざいふ)町大字観世音寺にある天台宗の寺。天智(てんち)天皇が斉明(さいめい)天皇の冥福(めいふく)を祈念して建立(こんりゅう)したが，完成は聖武(しょうむ)天皇の746年(天平18)であり，当時の規模は法隆寺式伽藍(がらん)配置であったことが寺跡からうかがわれる。寺域にある鐘楼の梵鐘(ぼんしょう)は創建当初の作で国宝。宝物館には，藤原期の馬頭観音立像(高さ5.5m重要文化財)など数々の仏像の名品が安置されている。〔永井信一〕

かんぜおんぼさつ【観世音菩薩】⇨観音

かんせき【礶石】⇨スケール

がんせき【岩石】岩石といえばかたいものの代表と思われがちであるが，専門用語としての岩石は，必ずしもかたいことを意味しない。地殻(ちかく)を構成する単位として，いろいろな岩体あるいは地層となって産する物質をすべて岩石という。また，地球以外の天体を構成するものでも，固体状態のものはすべて岩石という。最近までは，われわれの手にしうる地球外の岩石は隕石(いんせき)だけであったが，いまでは月の岩石も採取して研究されるようになった。

〔岩石の種類〕岩石は鉱物と違って純粋物質ではないから，化学組成または比重などの物理的性質を基準にして明確な分類をすることはできない。岩石がもっている学問上の意義は，それができた当時およびできてからいままでのいろいろな記録として役だつことにある。したがって，その分類も岩石のでき方を中心にしたものが一般に用いられている。地球の地殻を構成している岩石は，その成因にしたがって，堆積(たいせき)岩・変成岩・火成岩に三大別される。堆積岩は風化作用の産物が，水流や風などによって運搬されたのち堆積してできたもので，堆積当時生存していた古生物の化石をしばしば含んでいる。その化石や堆積岩の構成物質・組織などを調べると，堆積当時の水温や気候などの地理的環境を推定することができる。また，堆積岩の褶曲(しゅうきょく)構造などからは，堆積後に受けた地殻変動を知ることができる。変成岩は堆積岩および一部の火成岩が地下数キロメートル以上の深いところで，地表よりも高い温度と圧力の影響を受けて，その条件下で安定な鉱物組成や組織に変わってできたものである。変成岩は造山運動の中心部でできる場合が多く，したがって造山運動の解明に役だつ。火成岩は溶融状態にあったマグマから冷却してできたと考えられるもので，そのうち地表に噴出したものは火山岩とよばれ，過去における火山活動の記録である。

〔岩石の化学組成と鉱物組成〕火成岩では少量産出する特殊なものを除くと，化学組成の変動の範囲は比較的小さく，その平均組成は$SiO_2$59％，$Al_2O_3$15％，CaO 5％，Fe_2O_3，FeO，MgO，Na_2O，K_2O各3～4％，TiO_2，H_2O各1％である。その化学組成とマグマが冷却するときの条件とによって，鉱物組成もほぼ一定の範囲に決まってくる。火成岩を構成するおもな造岩鉱物は，チョウ石族・セキエイ・カンラン石・キ石族・カクセン石族・ウンモ族などで，一つの火成岩では一般に3～4種類が共出する。堆積岩では火成岩に比較して化学組成が広い範囲に分散している。たとえば，石灰岩や蒸発岩の仲間のように，SiO_2がほとんど0のものもあれば，チャートや石英砂岩のようにSiO_2がほとんど100％に近いものまである。鉱物組成もそれに応じて変化し，チャートや石灰岩のようにほとんど1種類の鉱物だけで構成されている岩石もあれば，ワッケとよばれる砂岩の仲間のように非常に多種類の鉱物が含まれているものもある。そのように多種類の鉱物からなる岩石でも，変成岩になるときには，そのときの温度・圧力と岩石の化学組成によって決まる鉱物の組み合わせに変わり，ふつう数種類の造岩鉱物から構成されるようになる。

〔岩石の組織と構造〕一般に岩石の構造というのは，節理とか層理とかのように，野外で大きな露頭を観察してはじめてわかるような構造をさし，組織というのは，結晶粒の大きさとか，造岩鉱物の配列とか，顕微鏡的な規模での幾何学的な特徴をさしている。節理は高温の状態から冷却するときにできる構造なので，火成岩に特徴的に現われることが多く，特に溶岩にはみごとな柱状節理がみられることがある(例：玄武洞(げんぶどう))。層理は堆積岩の特徴で，堆積するときの条件の変化を示している。これに対し片理とよばれているものは，変成岩ができるときの圧力の影響で鉱物がほぼ一定の方向に配列したり，岩石がその方向にはげやすくなったりすることで，これらの方向性から変成作用に関与した圧力の方向などを推定することができる。

➔233ページ

《岩　　石》



玄武岩(大島三原山，1951年の溶岩)



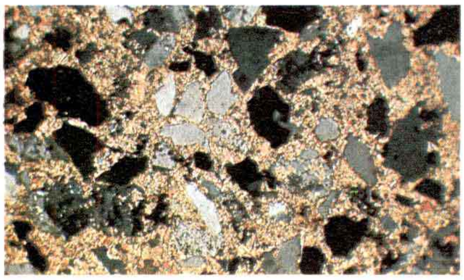
砂岩(大阪府淡輪村産)



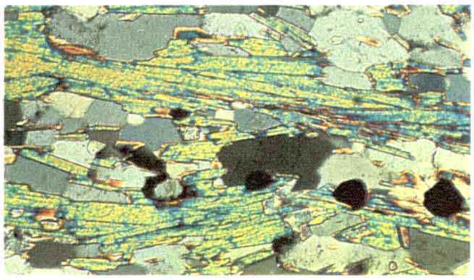
変成岩(愛媛県千原鉱山産)



火山岩の顕微鏡写真



堆積岩の顕微鏡写真



変成岩の顕微鏡写真



火山岩の露頭(富士川河口の上流約10km)



堆積岩の露頭(城ヶ島)



変成岩の露頭(埼玉県長瀞)

火 山 岩　マグマが地表近くに貫入するか，あるいは溶岩流として地表に噴出すると，急速に冷えるので，結晶が十分に成長しないうちに固まり，火山ガラスになる。そのため火山岩は，ガラスと細かい結晶からできた石基中に，マグマがまだ地下にある時期にできた粗粒の斑晶が点在する斑状組織を示すことが多い

写真上は，大島三原山の玄武岩の標本で，灰色の部分は火山ガラスおよびシャチョウ石・キ石の緻密な結晶からなる石基，その中に散在する白い斑点はシャチョウ石の斑晶である

写真中は，この玄武岩を厚さ約0.02mmにすり減らした薄片を，光の振動方向が直交する2枚の偏光板の間にはさみ，顕微鏡で拡大(40倍)したものである。石基中の暗色の部分はほとんどが火山ガラスで，明るく見えるのはシャチョウ石とキ石の微晶である。黒白のしま模様を示す斑晶はシャチョウ石，また，左上の赤みをおびた部分および右下の青色の結晶はキ石の斑晶である

写真下は，富士川岸に到達した富士火山の玄武岩の溶岩流である。表層部はマグマに含まれていたガスが発泡してできた空孔に富み，下部は緻密で，冷却に伴う収縮により柱状節理が発達し，六角柱状の割れ目ができている

堆 積 岩　堆積物を運んできた水流や風の方向や速さが変化すると，堆積物の種類や粒度が変わるために，堆積岩には層理ができる。層理面を境として上下の地層は，堆積物の種類・粒度だけでなく，色・組織・かたさなども違うことが多い。とくに含まれている化石によって生物界の歴史が分離抽出され，地史の尺度となる。

写真上は，砂岩の標本である。砂岩は地表に露出した種々の岩石が，風化・侵食されてできた砕屑物が水流・風に運ばれ，砂とそれより細かいシルトや泥が混じって堆積し，続成作用によってこれら粒子の間にシリカ・炭酸カルシウム・粘土鉱物などが沈殿し固結した岩石である

写真中は，砂岩の薄片を，2枚の偏光板にはさんで拡大(40倍)したものである。セキエイ粒(白・灰・黒色の粒子)の間を，ホウカイ石(黄・緑・淡紅色の部分)が埋め，セキエイ粒を膠結している

写真下は，層理の発達した堆積岩の露頭で，平行なしま模様が見られる。層理面は堆積物が沈んだときの表面にあたり，堆積当時の海底や湖底を表わしている。海底や湖底はふつう緩傾斜なので，層理面はもともとは水平に近かったと考えてよい。したがって，層理面が傾いている地層は，堆積後変位したことを示している

変 成 岩　広域変成作用においては，地下深くへもち込まれた岩石が，地下深所に相当する温度のもとで，特定の方向に強く働く偏圧力を受けて再結晶する。その結果，板状・柱状・針状の結晶は一定方向に互いに平行に配列するようになり，片理が発達する。片理をもっている変成岩は，多くの場合，片理面に沿って平板状に割れやすくなる。したがって広域変成帯は，火成岩や堆積岩が分布する地域とは違った地形を呈することが多い

写真上は，片理の発達した結晶片岩の標本である。片理は鉱物粒の直径が1/4～1/2mm程度の中粒の変成岩に発達しやすく，またウンモ類やリョクデイ石のような板状の鉱物の多い変成岩に最も強く現われる。粒度が細かすぎたり，荒すぎる変成岩や，ザクロ石・キンセイ石などの粒状の鉱物に富んだ変成岩では目だたない

写真中は，クロウンモとシャチョウ石とを主成分とする結晶片岩を，片理に直角の方向に切ってつくった薄片の顕微鏡写真(40倍)である。シャチョウ石(白・灰・黒色の結晶)の間に，クロウンモ(黄・緑・赤かっ色の結晶)が互いに平行に並んでいる。この平行面群が片理面である

写真下は，三波川変成帯に属する結晶片岩が広く露出する，埼玉県長瀞の景観である

〔岩石の物理的性質〕岩石の密度はふつう岩石中のすきまを含めたままのかさ比重で表わす。また地下水面以下では，それらのすきまは水で満たされているから，水で飽和した状態でかさ比重を測定する。堆積岩では，上に新しい堆積物が積み重なるにしたがって圧縮されて密度は高くなる。このため，泥岩*(でいがん)類では1.9～2.7の広い範囲にわたって変動する。火成岩ではそのような影響は少ないので，軽石*のような特殊な例を除くと2.5～2.9と比較的狭い範囲に納まる。そして酸性岩*のほうが塩基性岩*よりも比重が小さくなっている。一般に密度の高い岩石ほど，地震波の伝わる速度は大きくなる。たとえば泥岩類では，未固結のもので縦波の速度が毎秒1kmに達しないこともあるが，粘板岩*のように密度が高くなったものでは毎秒3kmを越えるものもある。ほとんどすき間のないカコウ岩*では，毎秒4～6kmである。密度は重力探査*，地震波の速度は地震探査*の結果を検討する際に重要な役割をするが，石材として岩石を利用する場合には強度が問題になる。耐圧強度では，カコウ岩の平均1,500kg/cm²，大理石の1,360kg/cm²などが最も強い仲間である。

〔岩石の利用〕強度が比較的高い岩石は，石材*や砕石*として土木建築用に広く利用されている。また，強度はさほどでなくとも，みがいて美しくなる岩石は，装飾用の石材として用いられることがある。ジャモン岩*などはその例である。日本では古来観賞用に岩石を用いる風習が行き渡っていて，大きなものでは庭石として，また小さなものでは水石*や盆石として珍重される。これら観賞用の岩石では，天然に風化・水摩された表面の形や色つやのよいものが高く評価され，一塊数十万円のものも珍しくない。一方，化学組成の特殊な岩石は，化学工業原料あるいは金属鉱石として利用される。その例は堆積岩中の沈殿岩*に多い(例：鉄鉱*・ボーキサイト*・岩塩*・石灰岩*など)。一般に鉱石*とよばれるものも，組成が特殊で分布も限られている岩石の一種といえる。〔片山信夫〕

がんせきけん【岩石圏】 おもに岩石よりなる地表近くの部分。気圏*・水圏*などに対する語。岩石圏をつくる岩石は火成岩・堆積(たいせき)岩・変成岩に大別される。堆積岩は地表では70%以上の分布を示すが岩石圏を深さ15kmまではかれば火成岩が90%以上を占め，変成岩はたいへん少ない。岩石圏を構成する元素は比較的少数に限られている。そのおもなものは質量で酸素が47%，ケイ素が28%，アルミニウムが8%，鉄が5%などである。〔平山　健〕

がんせきせんい【岩石繊維】 ロックウールともいう。安山岩*・玄武岩*・ジャモン岩*などを溶融し，湯口から流れ出たものを圧縮空気で吹き飛ばして冷却し繊維とする。板状・フェルト状・筒状に集合して防音材・断熱材として用いる。

かんせつ【関節】 2個またはそれ以上の骨の可動的な連結をいう。2個の骨がその骨端で連結するものを単関節といい，それ以上の骨が連結するものを複関節という。単関節の基本的な構造は，二つの骨のうち，一方の骨端が半球状に突出して関節頭となり，他方の骨端はへこんで関節窩(かんせつか)を形成して関節頭を受け入れる。関節頭と関節窩の表面はともに軟骨におおわれ，両骨端の間は関節腔(かんせつこう)となり，その内面は滑膜によって裏打ちされる。外面は強靭(きょうじん)な結合繊維からなる関節包でおおわれ，さらに靭帯などによって2骨間の結合が補強される。関節腔には滑膜から潤滑油の役割を果たす滑液が分泌され，関節の動きをなめらかにしている。関節はその形状によって次のように分類される。①球関節：関節頭は半球状を呈し，関節窩は浅い。このため運動性は大きく，各方向に自由に運動できるが脱臼(だっきゅう)しやすい。肩関節などがその例で，上腕骨頭が肩甲骨の関節窩と関節している。②臼状関節：球関節の1種で，関節窩が深い臼状をなすものをいう。各方向へ自由に運動できるが，その範囲は①に比して狭く脱臼しにくい。股関節(こかんせつ)がその例で，大腿骨(だいたいこつ)頭が寛骨臼に関節する。③鞍関節(くらかんせつ)：関節頭と関節窩が，ちょうど人が鞍にまたがったような形を呈して関節するもので，指のつけ根の骨(基節骨)と手掌の中手骨との間の中手指関節がこの例である。④楕円(だえん)関節：関節頭が楕円体状を呈する。手首の関節(橈骨(とうこつ)手根関節)がこれで，橈骨と手首の手根骨からなる。⑤蝶番(ちょうつがい)関節：蝶番状の運動をする関節で，指の骨の間の関節がこれにあたる。⑥車軸関節：一つの骨を軸として，そこにある関節窩に他の骨頭が関節し回転するもので，肘(ひじ)関節部の橈骨と尺骨の間の関節がこれにあたる。〔幡井　勉〕

がんせつ【岩屑】 一般には，岩石が風化作用を受けてこわれ，破片になったもの。岩屑を含む土壌(どじょう)を〈岩屑土〉ともいう。火山岩屑は火山の爆発作用で飛ばされたいろいろな火山砕屑物の総称である。

かんせつえん【関節炎】 関節の炎症をいう。関節を構成する滑膜に炎症が起こって浸出液がたまり，肉芽組織が関節軟骨を侵食して，最終的には関節面で癒着(ゆちゃく)して強直し，極端な場合にはまったく動かなくなることがある。炎症の激しいときには熱感・疼痛(とうつう)・運動抑制が著しい。関節炎には，変形関節症に伴う関節炎，リウマチ性関節炎，淋菌(りんきん)の感染が原因となり激烈な痛みを伴う淋菌性関節炎，化膿菌(かのうきん)の感染による化膿性関節炎などがある。特に化膿性関節炎は，関節内注射の機会が増加するに伴ってふえる傾向にある。治療は局所の安静を保ち，リウマチ性関節炎には抗リウマチ剤を，細菌が原因となるものには抗生物質を投与する。また，疼痛の少ないときに関節部を動かして関節面での癒着を防ぐ。なお，不完全治癒の場合は関節軟骨がそこなわれやすく，続発性変形関節症の原因となる。〔荻野幹夫〕

かんせつさつえい(ほう)【間接撮影(法)】 螢光板(けいこうばん)上に映るレントゲン像を，きわめて明るいレンズのついた写真機で撮影する方法。写真の大きさは，24×24mmから70×70mmまで数種のものが用いられる。通常のレントゲン写真に比して，陰影の拡大やひずみが大きく，陰影の輪郭も不鮮明である。しかし，費用は少なくてすむため，集団健康診断などの多人数を検査する場合，直接レントゲン撮影を行なう必要のある被験者のふるい分けに最も適している。〔白石　透〕

かんせつしんりゃく【間接侵略】 武力の直接的な行使を伴わない侵略。国内にある反政府勢力に対する教唆(きょうさ)・扇動・指導・援助，または内政に対する干渉*などにより，大規模な内乱または騒乱をひき起こさせ，侵略の目的を達成しようとすること。また，外国の軍隊が直接戦闘の主体とならず，反徒または暴徒に武器などを供与し戦わせる場合も間接侵略であるが，これを直接侵略とみることがある。

かんせつぜい【間接税】 税が課される場合，納税者と担税者(税金を実際に負担するもの)とがいつも同じであるとはかぎらない。一般に，納税者と担税者とが同じであるような税を直接税*，納税者と担税者とが異なるような税を間接税という。現行税制で間接税に含まれるものとしては，国税における酒税*・砂糖消費税・揮発油税*・石油ガス税・物品税*・トランプ類税・取引所税・有価証券取引税・通行税*・入場税*・関税*・とん税*・印紙税*・登録税・地方道路税・特別とん税・専売益金，地方税*における不動産取得税・たばこ消費税・娯楽施設利用税・料理飲食等消費税・軽油取引税・電気ガス税・木材取引税・入湯税などである(大蔵省主税局分類による)。現在わが国で行なわれている直接税・間接税の区分には，大蔵省主税局分類と経済企画庁分類とがある。前者は伝統的な〈転嫁の有無〉を基準とした区分のしかたに従っているが，後者は国民所得計算上の定義に従っており，要素費用に包含される税を直接税，それ以外の税を間接税とよんでいる。両者の分類で大きな違いは，固定資産税と事業税が，主税局分類では直接税に含められているのに対し，企画庁分類では間接税に含められているという点である。第2次世界大戦後のわが国租税構造は，国税・地方税合計で，ほぼ直接税が6割，間接税が4割という関係がみられ，間接税よりも直接税のほうにウエートが高い。アメリカ・イギリスではわが国と同様直接税のウエートが高いが，西ドイツ・

フランス・イタリアでは間接税のウエートが高い。➔直接税　〔西野義彦〕

かんせつせいはん　【間接正犯】　責任無能力者または故意のない者を利用して犯罪を実行すること。たとえば，満14歳未満の子どもを使って店先の商品を盗ませたり，精神病者をけしかけて放火させたり，事情を知らない看護婦を使って毒薬を患者に飲ませたりする場合，いずれも間接正犯である。この場合は，そのような行為をさせた者を正犯として普通どおりに処罰し，共犯は成立しない。〈盗んでこい〉〈火をつけろ〉とそそのかしたときに窃盗罪・放火罪の実行の着手があったものとされる。〔野口恵三〕

かんせつみんしゅせい　【間接民主制】　国民がみずから選んだ代表を通して間接的に国家意思の決定・執行に参加する民主制をいい，直接民主制に対する概念。代表民主制ともいう。代議制・ソビエト制などは典型的な例である。国民が政治権力の究極の源泉となっている民主主義の国では，国民が直接政治に携わることを理念とするが，ほとんどすべての国の場合国家が広域に及び，人口も多く，かつ国務がきわめて複雑で，その処理に専門的知識を要するなどの理由により，この制度が不可避的に生ずる。そこで，主権者である国民の意思を国政に十分に反映させるため，代表の選出（選挙），代表者の組織（➝国会）の方法がここではきわめて重要な意味をおびてくる。選挙で多数を得た議会（➝国会）の第一党が内閣を構成するイギリスの議院内閣制は，間接民主制のモデルとされた。わが国の政治制度もこれによっているが，新憲法では特に代表による政治が国民の意思と背離する危険を防ぎ，代表をチェックするため，レファレンダム・リコールなどの直接民主制的方途を施している。〔寺尾方孝〕

かんせつリウマチ　【関節リウマチ】　リウマチ様関節炎ともいう。関節の滑膜と周囲組織に慢性の炎症性変化があり，また骨の萎縮（いしゅく）をきたす疾患。β溶血連鎖球菌やその他の菌による感染説や，膠原病（こうげんびょう）と同じく特殊な抗原抗体反応によるという説などがあるが，原因はなお不明である。主症状は軽度の発熱と頻脈（ひんみゃく），白血球増加，赤血球沈降反応の促進，関節の発赤・腫脹（しゅちょう），リンパ腺腫（せんしゅ）などであるが，進行すると関節の奇形や関節強直を示すに至る。女性は男性の2～3倍罹患（りかん）し，20～40歳に多い。現在リウマチ性疾患の血清反応としてワーラー-ローズ反応およびラテックス凝集反応が用いられている。これらは，リウマチ患者血清中のグロブリン分画にあるリウマトイド因子を発見するもので，ワーラー-ローズ反応のリウマチ様関節炎での陽性率は30～100％と報告されている。ラテックス凝集反応はRAテストともよばれ，リウマチ様関節炎における陽性率は85％と診断的価値は高く，他の疾患では，梅毒・膠原病・白血病・痛風などでときに陽性を示すにすぎない。リウマチ様関節炎の経過は長く再発するものも多いが，男性では一般状態がよく，活動性病変の少ないものは予後がよい。治療としては副腎（ふくじん）皮質ステロイドが著効を示すが，治癒（ちゆ）をもたらすものでなく，重篤な副作用を生ずることがあるので，サリチル酸や非ステロイド消炎剤の併用が基本である。なお，フェルティ症候は脾腫（ひしゅ）を伴うリウマチ様関節炎，スティル病は小児にみるリウマチ様関節炎である。〔清水直容〕

かんぜのぶみつ　【観世信光】（1435～1516）　能役者・能作者。通称，小次郎。観世流3世大夫音阿弥（おんあみ）の第7子。はじめ大鼓の名手として知られたが，のち観世座の権守（ごんのかみ）となる。権守はどの役に支障があってもすぐ代行できる多芸にすぐれた人に与えられる称号で，応仁（おうにん）の乱後の能楽苦難期に一座の後見役として流勢の維持に努めた。作能にも《安宅（あたか）》《船弁慶》《紅葉狩（もみじがり）》や《道成寺》の原作《鐘巻》など30数曲あるが，乱世の観客に適した劇的ではなやかな能が多い。〔小林　責〕

かんぜもとまさ　【観世元雅】（1394？～1432）　能役者・能作者。通称，十郎。世阿弥（ぜあみ）の長男。観世座3世大夫。ただし，その後の観世家の系図はこれを認めず，音阿弥（元雅のいとこ）を3世としている。優美な芸風で名人といわれたが，将軍足利義教（あしかがよしのり）の音阿弥びいきによって，事ごとに圧迫を受け，不遇のうちに伊勢（いせ）で客死した。世阿弥は追悼文《夢跡一紙》に，〈当道の破滅のとき至る〉とその死を悲しんだ。作能には《隅田川（すみだがわ）》《弱法師（よろぼし）》《歌占（うたうら）》《盛久（もりひさ）》などがあり，いずれも宗教的香気と劇的詩情に満ちた名作である。〔小林　責〕

かんぜりゅう　【観世流】　能楽シテ方の流儀名。古くは結崎座（ゆうざきざ）といい，大和猿楽（やまとさるがく）四座（観世・宝生・金春（こんぱる）・金剛）の一。観阿弥（かんあみ）の創座で，興福寺・春日（かすが）神社などに奉仕した。観阿弥は，物まね芸だけであった大和猿楽の芸風を，歌舞を尊重し幽玄を追求する方向に向け，さらに当時流行の曲舞（くせまい）を取り入れるなどして，能の音曲に変化を与え，評判を高めたため，室町将軍足利義満（あしかがよしみつ）の知遇を得た。その子の世阿弥も，能を優雅に仕立てることによって，観世座の地位を高め，流勢を拡張し，四座の筆頭として栄えた。豊臣秀吉（とよとみひでよし）のときは金春座に一時勢力を奪われたが，徳川家康（いえやす）の支援を受け，江戸幕府のおかかえ役者として活躍した。明治初年には一時は衰えたものの，梅若実らの努力によって流勢を回復し，今日では能楽協会員の7割が観世流であることからもわかるように，シテ方五流のうちの最大勢力である。芸風は流麗である。なお，小鼓・太鼓にも観世を名のる一流がある。〔片桐　登〕

かんせん　【感染】　病原微生物が宿主の体内に侵入して増殖することをいい，その結果なんらかの病的変化をきたした場合を〈発症〉として区別すべきであるが，混同して用いられる場合が多い。医学的には宿主はヒトや動物であるが，植物病原体や細菌に対するバクテリオファージについて，またデオキシリボ核酸（DNA）やリボ核酸（RNA）が宿主体内で自律的複製をする場合にも感染ということばが用いられる。感染がはじめて（初感染）の場合においては，宿主は異種の抗原物質が侵入することになるので，通常免疫反応を起こし，抗体を産生したり遅延反応を起こすような敏感な状態になるが，発症を伴わない場合も多く，これを〈不顕性感染〉という。はじめて感染を受けた個体に，くり返し同一病原体が侵入増殖すれば再感染であり，ふつう初感染と異なった反応が示される。再感染において，感染した微生物が宿主の抵抗機構に殺されないで生き続けることを〈持続感染〉といい，宿主の病的反応が明らかにならない場合を〈沈黙感染〉とよぶ。その際，病原微生物が排出され続けると〈保菌者〉とよばれ，感染源の役割を果たす。患者や保菌者から排出された病原体は，生きたまま空中を浮遊したりして新しい宿主の気道から吸い込まれ（空気感染・気道感染），あるいはハエやゴキブリに付着したり，吸血したノミ・シラミ・ダニ・カの媒介動物によって運ばれたり，飲料水や食物に付着汚染して食事とともに口から侵入（経口感染）したり，粘膜や皮膚表面の創口から侵入（接触感染）したりして新しい宿主に感染する。このような感染の筋道を〈感染経路〉とよび，防疫対策としては感染源を絶滅する，感染経路を遮断（しゃだん）する，個体を免疫するの3段階があり，伝染病の種類によってどの段階を重視することが得策であるか異なっている。〔和気　朗〕

かんせん　【汗腺】　哺乳（ほにゅう）類の皮膚に分布する外分泌腺（せん）で，汗を分泌する。ヒトではくちびる・亀頭（きとう）・包皮などを除いて全身に分布し，その数は200万～500万といわれる。汗腺はアポクリン腺（大汗腺）とエクリン腺（小汗腺）に分けられる。アポクリン汗腺は腋窩（えきか）・耳道・乳輪・肛門（こうもん）周囲・陰嚢（いんのう）・大陰唇（だいいんしん）などに分布し，その分泌物は特有のにおいをもつ。エクリン汗腺は全身に広く分布する一般の汗腺であるが，特に手掌・足底には多い。汗は長い排出管を通って皮膚表面に開孔する汗孔より排出される。汗腺には交感神経と副交感神経が分布し，交感神経は濃い汗の，副交感神経は薄い汗の分泌にあずかるという。〔幡井　勉〕

かんせん　【乾癬】　尋常（じんじょう）性乾癬，鱗屑疹（りんせつしん）ともいう。皮膚に種々の大きさの赤い病変ができ，その表面に銀白色

の角層が厚く重なり，それが次々と剥離(はくり)してくる皮膚病。外からの刺激を受けやすいひざやひじにできやすく，頭部ではひどいふけ症のように見える。欧米人に多く日本人に少ないので，体質や栄養が問題にされている。誘因としては，皮膚に対する機械的・温熱的・化学的刺激，精神的ストレスがあげられる。治療によって容易に治癒(ちゆ)するが再発をくり返す。〔田嶋公子〕

がんせん 【頑癬】 輪郭性湿疹(しっしん)，輪郭性湿疹様白癬ともいう。白癬菌(猩紅(しょうこう)色白癬菌や鼠径(そけい)表皮菌)の寄生による皮膚病。陰部から大腿(だいたい)のつけ根の内面・臀部(でんぶ)・下腹部などに多い。境界のはっきりした湿疹様の病像を呈し，かゆみが非常に強い。局所から白癬菌が証明され，抗真菌剤の外用で容易に軽快するが，難治の場合は内服療法を行なう。なお，陰部のまわりにできたものは同部の湿疹とともに〈いんきんたむし〉と俗称される。〔田嶋公子〕

かんせんえん 【汗腺炎】 汗腺に化膿(かのう)菌が侵入して炎症を起こし，皮膚の深い所にしこりができ，触れると痛みのある皮膚病。これが大きくなると皮膚の表面が赤くはれ上がってくる。化膿が進行すると軟化して中にうみがたまり，やがて皮膚の表面に破れてうみが出てくる。湿疹(しっしん)や汗疹に続発することが多い。成人ではわきの下に，乳幼児では頭部に多く，〈あせものより〉はこれに属する。軽い場合はリバノール湿布などでよい場合もあるが，痛みが激しかったり，はれのひどいときは皮膚科医の診療を要する。〔田嶋公子〕

かんぜんきたい 【完全気体】 ⇒理想気体

かんぜんきょうそう 【完全競争】 経済社会における経済主体が，それぞれ独自の判断によって経済活動を自由に行なう経済形態を市場経済といい，市場において需要者と供給者との間に完全な競争が行なわれる状態を完全競争という。完全競争が成立するためには，二つの条件が満たされなければならない。第1は純粋競争の条件，第2は完全市場の条件である。純粋競争の条件とは，ある市場において需要者も供給者も多数存在し，その個々の取引量が市場全体からみるときわめて微少であるために，需要者も供給者も単独では価格を支配することができず，その価格を与えられたものとして受け入れ，そのもとで自己に最も有利になるように需要量および供給量を調節せざるをえない状態をいう。完全市場の条件とは，個々の経済主体が自己の判断に基づいて最大の経済的成果をあげるように行動するのを妨げるものがなにも存在しない状態をいう。完全市場の条件は三つの要素からなりたっている。第1は経済主体の行動に対して，人為的・制度的・慣習的・技術的な制約が存在しないこと，第2は各主体は市場状況について完全な知識をもっていること，第3は同種の生産物に対して需要者は無差別に選択すること，つまり，同一種類の商品が多数の売り手によって供給されるが，買い手が特定の生産物をより好みすることがないこと，である。➔不完全競争 〔藤枝省人〕



岩船寺
鎌倉時代に建立された三重塔

かんぜんこよう 【完全雇用】 資本設備・労働・土地その他の経済資源が完全に利用され，雇用されている状態をいうが，通常は，労働に着目し，現行の賃金率で働く意志をもちながら雇用される機会のない非自発的失業*が解消している状態を完全雇用とよぶことが多い。この状態においては，有効需要*の増大は物価水準の上昇を招くだけで，産出量・雇用量は増加しえない。このような状態で経済体系が均衡している状態を，完全雇用均衡という。ケインズ*は，経済は完全雇用の状態でのみ均衡状態に達することができるとする，いわゆる古典学派*の経済理論を批判し，失業を含んだ過少雇用均衡を説明する理論を提示した。完全雇用は，現代の経済政策の重要な目的の一つである。〔富田重夫〕

がんせんじ 【岩船寺】 京都府相楽郡加茂町大字岩船にある真言律宗の寺院。開基は行基*と伝えられ，寺史の詳しいことは不明であるが，平安時代には一山39坊を擁して栄え，1221年(承久3)には兵火のために大部分の堂宇を焼失，寺運も衰えた。本尊阿弥陀如来(あみだにょらい)座像(重要文化財)は像高2.84mもある一木造りの像で，胎内に946年(天慶9)の作と知られる墨書がある。本尊四隅(しぐう)の四天王像は1293年(永仁1)の作。寺の景観の中心をなす三重塔(重要文化財)は鎌倉末期の再建。庭には十三重塔・五輪塔・不動明王石室など鎌倉期の石造美術の遺品がある。〔永井信一〕

かんぜんちょうあくのぞきからくり 【勧善懲悪覗機関】 歌舞伎(かぶき)の脚本。通称《村井長庵(ちょうあん)》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1862年(文久2)，守(森)田座*(もりたざ)初演。講談《大岡政談*》にある医師村井長庵の話を脚色した世話物*。強欲非道の長庵が義弟を殺して金を奪ったのをはじめ，数々の悪事を犯し，多くの人の不幸を招くが，大岡越前守(えちぜんのかみ)の裁きによってついに服罪するまでを描く。

かんせんべんごにん 【官選弁護人】 ⇒国選弁護人

かんぜんへんたい 【完全変態】 こん虫類にみられる変態*の一形式，無翅(むし)の幼虫が翅(はね)をもち，動かないさなぎの時期を経て成虫となるように，形態の区別がはっきり変化する変態をいう。チョウ・ガ・ハエなどがこれを行なう。幼虫は頭部・胸部が成虫に比べて分節が不完全である。翅は全幼虫期を通じて体内に成虫芽(成虫盤)として発達しており，さなぎとなってはじめて外部に出現する。あしなどの成虫になって機能をもつ構造は，幼虫期にもそのきざしは存在するが，それに対応する幼虫の構造とはほとんど無関係で，さなぎの時期に組織が崩壊する内部変態の際に完成される。完全変態をする仲間では，幼虫独特の構造である幼虫器官がよく発達していて，幼虫期を通じてそれが強調されている。その程度によって，完全変態をさらに原完全変態(脈翅目の一部)と真完全変態(原完全変態以外のもの)に分けることもある。また幼虫期に体形が変化する過変態(ツチハンミョウ)，卵から直接に成体形の子が出る隠変態(ノミバエ科のあるもの)，多変態(シデムシ)などの変わった例もある。➔こん虫 〔蒲原春一〕

かんぜんりゅうたい 【完全流体】 粘性*と圧縮性をもたない流体。理論的な取り扱いを簡便にするために考えられた仮想的流体である。粘性(または内部摩擦)をもつ実在の流体の運動は複雑で，たやすく解くことはできない。しかし，水や空気のように粘性の小さい流体が運動するときには，粘性の影響は物体表面に接した薄層内に限られ，全体の流れには大きな変化を与えない。そこで理論的な解析を行なうとき，まず粘性を無視して全体の流れを解き，あとから粘性の影響を補正する，という方法が行なわれる。〔内田茂男〕

かんそう 【乾燥】 湿気を含んだものから，これを十分に取り去ること。温度を高める，動いている乾燥大気中に置く，乾燥剤を入れた乾燥器内に置くなどが一般的な方法であるが，乾燥ミルク・乾燥血漿(けっしょう)など，食品・医薬品を低温で急速に脱水乾燥させるのには，真空ポンプを用いて水蒸気を除去する。実験室用乾燥剤としては塩化カルシウム・濃硫酸・無水リン酸がふつう用いられるが，家庭用ののり・ビスケット類の乾燥保存には現在シリカゲルが広く用いられている。〔志田正二〕

湿式洗たく後の水分除去は，脱水*と乾燥の2工程を経る。強制的な脱水(手しぼり・しぼり機・脱水機などによる)ののち，自然乾燥・加熱乾燥などにより繊維製品を着用可能な水分率とする過程をいう。もめん・

麻・レーヨン・絹・羊毛など親水性の高い繊維は(標準状態における水分含有率は，それぞれ8.5，12.0，11.0，11.0，15.0%)，乾燥に時間がかかるが，アセテート・ビニロン・ナイロンなどはやや疎水性で(水分率それぞれ，6.5，5.0，4.5%)，アクリル・ポリエステル・ポリプロピレンは著しく疎水性で(水分率それぞれ，1.5，0.4，0%)速乾性である。直射日光下の乾燥は，繊維の脆化(ぜいか)・着色をもたらし，蛍光(けいこう)増白剤などの加工剤の分解を起こしやすい。通風のよい日陰での乾燥が望ましい。近年熱源に電気・ガスを用いた乾燥機が普及しつつあり，これは煤煙(ばいえん)の多い都市や，梅雨期などに便利である。〔矢部章彦〕

かんぞう【甘草】 双子葉植物・マメ科。アマキ・アマクサともいう。中国北部に自生する多年草。茎は高さ60～100cm。葉は羽状に分かれ，小葉は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがる。夏から秋にかけて，葉のつけ根にたくさんの淡紫色の蝶形花(ちょうけいか)を穂のようにつける。根を干したものを甘草といい，グリシルリジンを含み，特有の甘みがあり，せき・胃潰瘍(いかいよう)の治療などに用いられる。漢方ではのどの痛みや腹痛などの緩和剤として用いられる。また，甘味料用として，しょうゆ・たばこなどに多量に使われる。同じ仲間にスペインカンゾウ・ロシアカンゾウなどがある。〔小清水義隆〕

かんぞう【萱草】 単子葉植物・ユリ科。日本の山野に自生する多年草。日あたりのよい所にはえ，根は赤かっ色で細く，ところどころが紡錘状にふくれる。葉は数枚向き合って束生し，長く伸び先はたれ下がる。7～8月ごろ花茎を伸ばし，二またに分枝し，総状に数個の花をつける。花はユリに似て，だいだい色の一日花である。カンゾウ類の基本形は中国原産のホンカンゾウであるが，日本にはヤブカンゾウ・ノカンゾウがある。ヤブカンゾウは通常八重咲きで，おしべ・めしべはしばしば花弁化し，結実しない。中国の，この花を見ると憂いを忘れるという故事からワスレグサという名もある。ノカンゾウは八重咲きにならず，花被弁の内面に，暗色八字形の斑紋(はんもん)がある。近縁種にはユウスゲ・ハマカンゾウ・ニッコウキスゲ・ヒメカンゾウなどがある。〔横井朝子〕

かんぞう【肝臓】 胆汁(たんじゅう)を分泌する暗かっ色の臓器で，ヒトでは腹腔(ふくこう)右上部で横隔膜の直下に位置する。体内にある最大の腺(せん)で，成人では重さ1.2kgほど。横隔膜に接する上面は横隔面とよばれ，上方に円蓋(えんがい)状に突出する。内臓に面する下面は内臓面とよばれ，軽く陥凹(かんおう)し，胃・十二指腸・腎臓(じんぞう)・副腎・結腸などと接する。肝臓は右葉・左葉・方葉・尾状葉の4葉に区別され，右葉は左葉に比して大きく，右葉と左葉の間にさらに小さな方葉と尾状葉が位置する。下面には肝門とよばれるはっきりしたくぼみと長さ約8cmのふくろである胆嚢(たんのう)がある。肝門は血管・神経・リンパ管・肝管が出入りする。肝管は胆汁を送り出す管で，胆嚢につながる。血管には門脈・固有動脈などがあり，門脈は小腸・胃・脾臓(ひぞう)・膵臓(すいぞう)などから血液を集めて肝臓に送り込む。したがって中を流れる血液は静脈血であるが，小腸で吸収されたブドウ糖やアミノ酸が多量に含まれている。固有肝動脈は肝臓を養うための栄養血管で，腹大動脈の枝である腹腔動脈から血液を受ける。門脈と固有動脈はともに肝臓の中で細かく枝分かれして毛細血管となり，肝細胞のまわりに達し，静脈に移行する。この静脈を中心静脈といい，しだいに集まって太くなって2～3本の肝静脈となり，肝臓の後ろを通る下大静脈に直接注ぎ込む。肝門にはいる神経は自律神経の交感神経と副交感神経(迷走神経)であり，肝細胞の機能などを調節する。肝臓の実質をつくる肝細胞は索状に連なって肝細胞索をつくり，これが放射線状に並んで2～3mmの角錐(かくすい)状または円錐状の柱をつくる。この柱は肝小葉とよばれ，この中心を中心静脈が貫いている。肝小葉と肝小葉の間には小葉間結合組織があり，ここを門脈の枝である小葉間静脈や固有動脈の枝である小葉間動脈枝および小葉間胆管が走る。肝細胞は胆汁をつくり，これは肝細胞索に沿って走る胆細管を通る。胆細管は集まって小葉間胆管となり，さらに集まって肝管となる。肝管は胆嚢から出る胆嚢管と合して総胆管となり，胆汁を十二指腸に注ぐ。

まず肝臓は胆汁を分泌して消化腺としての働きをする。胆汁は肝細胞でたえず分泌され，その量は1日に500～800mlで，これは胆嚢にたくわえられる。胆汁は十二指腸に送られ，ここで食物中の脂肪を乳化して消化を助けるとともに，脂肪分解酵素で膵臓から分泌されるステアプシンを活性化する。また肝臓は栄養素の貯蔵および化学的変化を行なう。小腸で吸収されたブドウ糖やアミノ酸からグリコゲンを合成し，それを貯蔵する。体が盛んに糖代謝を行なうと血中の糖濃度が下がるため，必要に応じてグリコゲンを単糖として全身へ送り，血中の濃度を一定に保つ。この濃度の調節にはインシュリンとアドレナリンの両ホルモンが関与する。さらに肝臓は解毒作用を営み，アミノ酸を分解した際に生ずるアミノ基を尿素にし，薬物・毒物などをグルクロン酸などと結合して無毒化する。また肝臓中にはクッペル星細胞という大形の細胞があり，こわれかかった赤血球や血中の異物などを摂食する。肝臓はまた古い赤血球を破壊して中のヘモグロビンを胆汁色素に変え，胆汁の中に分泌する。胆汁色素の胆汁への分泌が妨げられると黄疸*(おうだん)となる。そのほか肝臓はヘモグロビンの材料である鉄などをたくわえ，さらに貧血時には

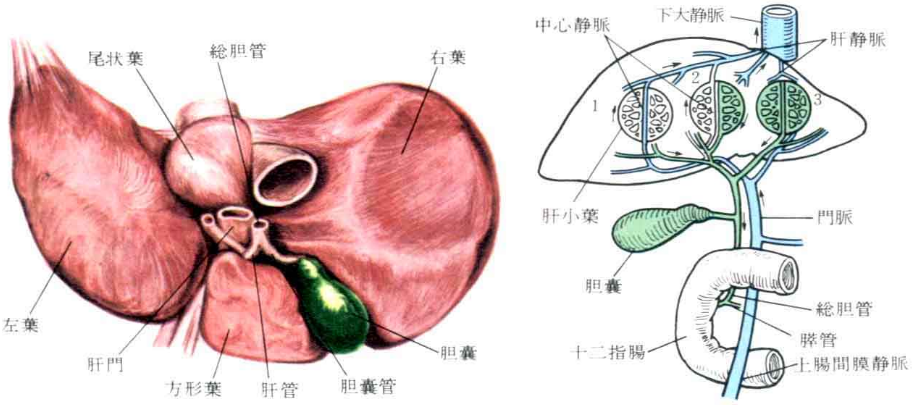


ノカンゾウ



ヤブカンゾウ

カンゾウ



肝　臓　(左)肝臓の下面　(右)肝小葉を模式的に示したもので，1は静脈系のみを，3は胆道系のみを，2は両者を半分ずつ示した

肝臓中にたくわえている血液を送り出すなど血液の貯蔵庫としても働く。また，血漿(けっしょう)中のアルブミンをつくり，カロチンからビタミンAを合成するなど重要な働きをしている。〔幡井　勉〕

がんそう　【含嗽】　⇨うがい

がんぞう　【龕像】　インドや中国における石窟(せっくつ)寺院の壁面をくぼませて彫り出した仏像をいい，それから転じて，木をくりぬいて小さな厨子(ずし)の形とし，仏像を高肉彫り(→浮き彫り)にしたものをさすようになった。わが国では，空海が唐から請来したと伝える金剛峯寺*(こんごうぶじ)の枕(まくら)本尊が名高い。

かんぞうがん　【肝臓癌】　肝臓に発生する癌腫(がんしゅ)。肝癌ともいう。初発する原発性肝癌と，他臓器に発生した癌の転移による転移癌とがある。さらに原発性肝臓癌は，肝細胞原発の肝細胞性肝癌(ヘパトーム)と，肝内の胆管上皮細胞より発生する胆管上皮細胞性肝癌(ヒヨランギオーム)に大別される。ヘパトームは40歳代から50歳代に最も多く，男性は女性より罹患頻度(りかんひんど)は高い。ヒヨランギオームは，それよりやや高齢者に多いとされる。肝臓癌の原因はいまだ解明されていないが，地理病理学的に著しい発生頻度差を認めること，しばしば肝硬変*を合併すること，実験的に容易に作成できることなどから，その研究は比較的進歩している。症状としては，腹痛，肝臓の腫張と圧痛，黄疸*(おうだん)，腹水，食道腹壁静脈怒張，吐血，下血，浮腫，発熱などがある。診断には，血清肝機能検査・腹腔鏡(ふくこうきょう)検査・肝生検・X線検査(肝血管造影法なども含む)・肝シンチグラム・超音波などを用いる。外科的手術ができる肝臓癌はごく一部で，治療法としては放射線療法・化学的療法(ナイトロミン・ザルコマイシン)や5FUの局所灌流*(かんりゅう)などが多く行なわれているが，いずれも対症療法に終始する場合が多い。転移癌は原発性肝癌より頻度ははるかに高く，原発巣は胃・大腸・乳腺(にゅうせん)・子宮・胆嚢(たんのう)・膵臓(すいぞう)・泌尿器系のことが多い。〔後藤義隆〕

かんそうきこう　【乾燥気候】　1年じゅう雨が少なく，植物の乏しい地域の気候をいう。厳密に範囲を定めるのは困難であるが，多くの学者によって限界が研究され，マルトンヌの土地利用に注目した方法，ケッペンの植生に注目した方法などがある。乾燥気候帯は，緯度20°～40°の中緯度高圧帯に存在するが，大山脈の影響や，寒流の効果によって，大陸の西岸では緯度が低く(熱帯砂漠(さばく)とよばれる)，大陸の内部では緯度が高く(冷帯砂漠とよばれる)分布している。また大陸の東岸には，季節風の影響で存在しない。植生は，乾燥に強い特殊な灌木(かんぼく)や草が生じ，土壌(どじょう)も，一部に肥沃(ひよく)な黒色土の所もあるが，一般にステップ土や砂漠土で農耕には適さない。農業には灌漑の必要な場合が多く，河川沿いかオアシスの周囲では定着農業が行なわれるが，その他の所では遊牧民による牧畜が行なわれている。〔小栗　宏〕

かんそうきょく　【間奏曲】　⇨インテルメッツォ

かんそうけっしょう　【乾燥血漿】　新鮮な血漿を凍結・乾燥したもの。使用直前に添付してある溶解液を加え，37℃に加温して使用する。採血後，遠心分離機にかけて血漿を分離し，8人以上の血漿を混合してから，紫外線を照射してウィルスを不活性化し，凍結・真空乾燥する。5年間保存できる，血液型を問わず使用できる，輸血に比べて副作用が少ないなどの利点があるが，最近輸注後の肝炎の発生が問題とされており，現在はあまり使用されていない。

〔三島好雄〕

かんそうざい　【乾燥剤】　吸湿を防いだり，吸湿したものを乾燥するのに用いる物質。化学の分野では乾燥器(デシケーター)の下部に詰めて乾燥・防湿用に用いるものをいう。塩化カルシウム・濃硫酸五酸化リン・苛性(かせい)ソーダ・過塩素マグネシウムなどが用いられる。シリカゲル・アルミナゲルなどは最近その製造法が進歩し，家庭用・工業用の乾燥剤としても多く用いられる。

かんぞうジストマ　【肝臓ジストマ】　⇨肝吸虫

かんそうじゅつ　【観相術】　人の外形によってその内面を察するとともに運勢を判断する法。人相・手相のほか，家相・印相などをも含めていう。顔面が重視され，もと手相も人相の一部であったが，のちに独立して発達した。東洋流と西洋流があり，類似する点も多いが，異なる点は，東洋流は運命予測に力を入れたのに対し，西洋流は性格の解剖に力を注いでいる。東洋流の発祥地は中国で，古代は医学の一分科として発達し，のち春秋時代のころに医学と分離したといわれる。古典に名を残している人も多い。その間インドから達磨相法(だるまそうほう)も伝えられたという。相学が大成されて世に認められ，広く流布するようになったのは，五代の末に陳図南が華山の石室で麻衣道人から伝えられたという秘伝の《神相全篇》を，明(みん)の袁柳荘(えんりゅうそう)が訂正増補し，かつ自分の研究も同時に発表してからである。

〔人相〕西洋流の人相の起源は不明であるが，エジプトやギリシアには相当古くからあったといわれる。学問として認められたのは，18世紀になって，スイスのラバートルが人相の書を著述してからで，西洋流人相の始祖といわれている。それに刺激されて熱心な研究者が輩出し，しだいに広まっていった。

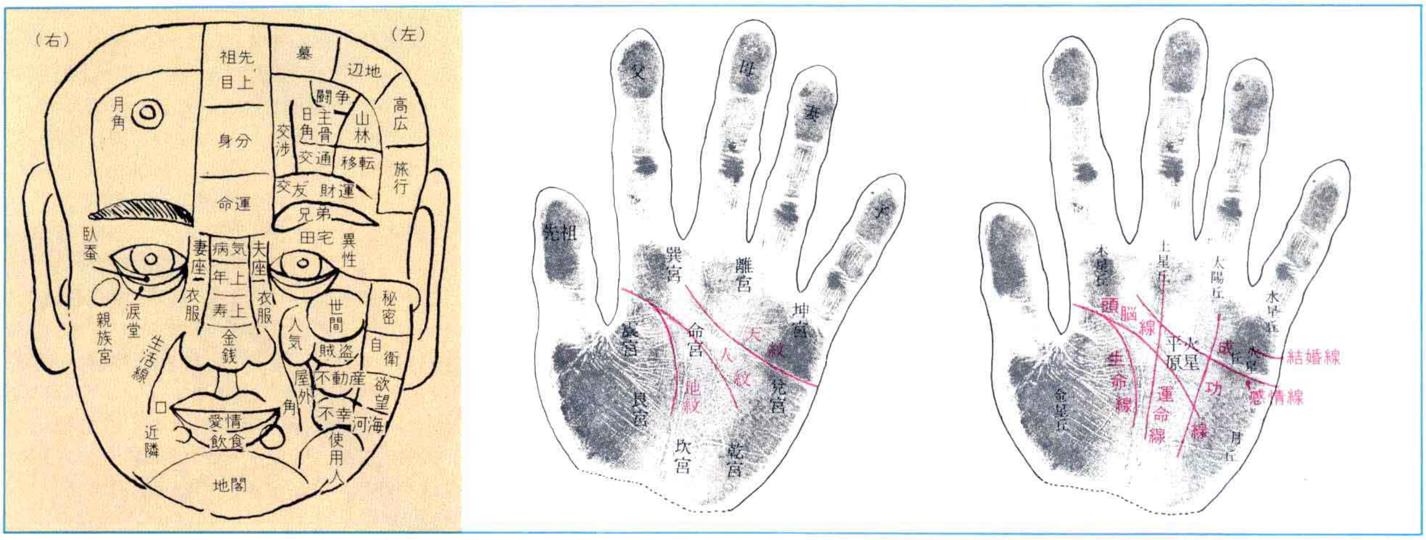
わが国における人相は遣唐使の時代に中国から伝えられたといい，それは達磨相法の系統といわれているが，足利(あしかが)時代に比叡(ひえい)山の天山阿闍梨(あじゃり)が伝えた仏典の中から多くのヒントを得てしるしたという《先天相法》もある。初めは僧侶(そうりょ)の間で研究されていたが，中国から人相の書物が伝えられてからは，研究はしだいに盛んになり，一般にも広まっていった。そうした中で江戸時代に初代石龍子(せきりゅうし)が翻訳した《神相全篇》はわが国で尊重されている。江戸時代特に有名であったのは，長崎の鶴塞翁(かくさいおう)，京都の菅沼梅荘(すがぬまばいそう)，大阪の水野南北である。南北の著《南北相法》《相法修身録》は日本相学の聖典とされている。明治になってからは林文嶺(ぶんれい)の気色の研究と，すぐれた観法が有名である。明治になって西洋流の人相がはいってきてからは，東西の長所を取り入れ，欠点を捨ててそれに自分の研究を加えるという方向に進んでいる。人相はまた骨相とも深い関係があり，医学・心理学とも密接な関係がある。近年はそれら科学的な面からの研究も進められている。人間の形体を区分するのに，いくつかの法が伝えられている。東洋流では大陰人・小陰人・小陽人・大陽人・陰陽和平人に分ける五態説，木形・火形・土形・金形・水形と分ける形質の五行分類法や十字面法がおもなものである。西洋流では，神経質・多血質・胆汁(たんじゅう)質・淋巴(りんぱ)質と分ける四液の分類法がある。近年わが国では栄養質・筋骨質・心性質に分ける三形質分類法が多く用いられている。

栄養質の人は，見るからに栄養がよくとれていて，ふっくらとした丸形の顔をしていて，血色がよく，目は輝き，にこやかで毛髪も柔軟な人が多い。性格は快活で愛情豊かであり社交的である。耐久力に乏しいのが欠点である。糖尿病などの栄養過剰からくる病気になりやすい。これは女性の代表的型である。

筋骨質の人は，長方形の顔をしていて目も鋭く，筋骨たくましい形貌(けいぼう)をしている。行動は積極的で敏捷(びんしょう)であり実務に堪能である。性格は短気で勝ち気であり，交際はあまりうまくない。健康であるが，無理をして呼吸器・心臓などの病気にかかる人がある。しかし概して長命といえる。これは男性の代表的型である。

心性質の人は，頭部が比較的大きく，顔の形は逆三角形に近い。目は輝いて印象に富み，首は細長で，見るからに清楚(せいそ)な形貌である。感情がいたって優美で趣味が豊富である。自然や芸術を愛する。感情も細かく想像力も豊かである。社交性・実行力に乏しいのが欠点である。病気はおもに脳・胃腸からくるもの，神経衰弱・頭痛などにかかりやすい。

多くの人は以上の二つあるいは三つを混合していることが多い。その場合は主とする形質に混合している形質を加味して正しい判断をする。その他，まゆ・目・鼻・口・



観相術 (左)人相部位 (中)手相－東洋 (右)手相－西洋

耳などの位置や形も判断の対象となる。また，顔を区分する法に基づいて色やつやを見，動作・声も十分観察したうえで，それらを総合してはじめて正しい判断ができるのである。

【手相】人の手のすがたによって，性格・運命を判断する法。古代インドに起こり，中国・エジプト・ギリシアに伝わったといわれる。中国では観相術の一部としてすでに周代に研究された。日本には平安時代，易*とともに伝えられ，江戸時代になってからは一般に普及した。西洋においても古くから行なわれたが，中世にローマ教会の圧迫を受けたのちは衰え，わずかにジプシーの間に残ったにすぎなかったが，その後再び研究されている。

判断の方法は，腕の長短とそのすがた，手の大小，指・手の型，手の肉の厚さと弾力，手の暖かさ，つめの形，指紋，てのひらの筋などを調べ，色つやなども参考にして総合的に観察する。てのひらの筋では，東西ともに三大線を重んじ，天紋(感情線)は主として父親に関する運勢およびその人の職業，人紋(頭脳線)は一生の運勢・性格・識見，地紋(生命線)は母親に関する運勢および資産・居住と生命の長短を判断するところとされている。なお，このほかに60余種の掌紋が対象とされ，また，てのひらに八卦(はっか)・黄道十二宮(→占星術)・十干十二支*などを割り当てる方法も行なわれている。

【家相】家屋のすがた，家屋の構造，周囲の建造物との関係，自然環境などを見て，その家屋が住む人の運命にいかなる影響を与えるかを判断する法。古代から行なわれており，わが国にも古くから伝えられた。その後，わが国の建築の変遷とともに，家相は日本の建築や風土・習慣に合うように変化してきた。したがって，家相は，自然の理法に順応したもので，その多くは現代の科学と矛盾するものではないが，運命学の一部門であるために，科学的に説明できぬこともある。それは易理と五行説に基づいている部分といえる。家相の見かたは，昔は家の中心から東・西・南・北・東南・西南・東北・西北の八方を45度に均分していたが，近年は東・西・南・北を30度に，その他を60度に分けるものもある。土地は周囲が，東から南にかけて平坦(へいたん)で広く，通風・採光が十分であり，西から北にかけて高くなっているのが好ましいとされる。また土質が肥沃(ひよく)で，草木のよく育つ所がよいとされる。地形は長方形がよく，欠けた部分のあるものとか，三角形はよくないという。家屋は，東北・西南を除いて少しの張り出しはよいが，欠け込みはどの方角にあっても悪いとされる。そのほか，便所・台所・浴室・玄関・門などの出入り口の位置などについても，一定の約束が決められている。同時に美的外観も考慮する。近年は土地入手難のおりであって，なかなかよい家相の条件を満たすことがむずかしくなってきている。しかし，家相は迷信ときめつけられぬ要素も含んでおり，許される範囲内で参考にして活用すべきであろう。〔柳下尚範〕

かんそうしょくひん【乾燥食品】 食品は一般に水分が多い場合，腐敗しやすく，貯蔵性が悪い。そこで乾燥によって水分を低くして保存性を高めた食品を乾燥食品という。方法として自然乾燥と人工乾燥に大別される。前者には，日干し・陰干しなどがあり，製品としては干しぶどう・干しがき・するめなどの乾果・乾魚がある。これらのものは単に乾燥というだけでなく，乾燥前の新鮮な食品とは異なる性質となることが多い。切り干しだいこん・干ししいたけ・かんぴょうなどがその例。人工乾燥にはきわめて多くの種類がある。方法別に分類すると次のとおりである。

加圧——加熱により加圧→噴出(ばくだんあられ・ぽんせんべい)

常圧
- 自然換気(干しりんご)
- 熱風(送風)(各種食品)
- 噴霧(粉乳・コーヒー・香料)
- 被膜(乾燥マッシュポテト・αデンプン)
- 泡沫(ほうまつ)(ペースト状食品)
- 超音波(比較的水分の少ない食品)

真空
- 噴霧・被膜(各種食品)
- 凍結(インスタント食品)

〔佐藤友太郎〕

かんそうだんねつげんりつ【乾燥断熱減率】 水蒸気を含まない空気塊が，外部からなんらの熱も与えられることなしに大気中を上昇していったと仮定した場合に，その気塊の温度の下がる率。100m上昇するごとに0.976℃下がることが知られている。空気塊が水蒸気を含んでいて凝結する場合には，凝結熱を出すので温度の下がる率はもっと小さくなる。➔湿潤断熱減率

かんそうのうほう【乾燥農法】 雨が比較的少ないところで，灌漑(かんがい)をしないで行なう特殊な耕作方法。耐乾燥性の作物を選んで行なわれる。一般には降雨のあと，水分の蒸発や雑草のはえるのを防ぐため，すきなどで耕起して水分をたくわえる。ソ連・アメリカ・カナダ・オーストラリア・南アメリカのパンパ*などの乾燥地域でこの農法がとられている。これらの地域では小麦—牧草—休閑の3年輪作が行なわれ，大規模な粗放的農業である。〔大石堪山〕

かんそうぶんかけん【乾燥文化圏】 人類の文化が乾燥地の環境と対応して成立したと考えたときの概念で，一般には，西アジアからアフリカ大陸のサハラ砂漠(さばく)北部に広がる乾燥地域の遊牧やオアシス農業社会の文化をさして用いられ，イスラム文化圏とよばれるものと重合した概念である。

かんそく【管足】 ウニなど棘皮(きょくひ)動物の体の表面で経線方向に並ぶ5個の放射状の帯(歩帯)の表面に伸びた薄壁の細い

管。その先端に吸盤があって，基部は体壁下のふくらんだ部分(アンプル)と連絡している。内部は体液が充満していて，アンプルの筋肉が収縮すれば体液は管束中に流入して管足が伸び，吸盤で他部に吸着することができる。移動や捕食のために用いられ，そのほか呼吸・感覚の目的にも働いている。

かんそくのりろん【観測の理論】⇨量子力学

かんそくロケット【観測ロケット】大気圏上層の観測を行なうロケット。1919 年アメリカのゴッダードが気象観測用としてロケットに着想したのに始まる。彼はロケットの開発にとどまったが，第2次世界大戦後，アメリカは長さ5m，重さ400kgの観測ロケット，ワック－コーポラルを70kmの高さに打ち上げ，また，ドイツから持ち帰った部品でブラウン*が組み立てたV-2*を観測用にして183kmの高さに打ち上げた。続いてV-2を原型にして長さ13.6m，直径0.9m，重さ7tの観測ロケットが開発され，その11号は1954年254.4kmの高さに上り，当時の高度記録を樹立した。アメリカが打ち上げようとした最初の人工衛星バンガードはこの改良型を第1段に用いた3段ロケットである。日本の初期のロケットもすべて観測用である。観測ロケットは局部の，しかも短時間の観測しかできないので人工衛星が用いられるようになったが，大気圏の比較的低層の観測には現在でも盛んに用いられる。〔原田三夫〕

かんそん【環村】集落の平面形態の一形式。中央広場を円形または馬蹄(ばてい)形に宅地が取り巻き，1か所に出入り口をもつ集落で，ドイツのエルベ川の西に多く分布する。起源については諸説があり，明らかでない。

かんだ【神田】東京都千代田区の北部，旧神田区の地域で，神田川をはさんで北側を外神田，南側を内神田とよぶ。地名はかつての神領で，神供田(じんくでん)があったことにちなむ。北部は本郷台から続く台地で，国電お茶ノ水駅付近は，駿河台(するがだい)とよばれ，もと武家屋敷が多かったが，明治の学制施行とともに多くの学校が設置された。神田川対岸の本郷台が官学中心であったのと対照的に，私立の明治・日本・中央などの各大学が集まり，〈学生の町〉といわれる。台地の南縁には神保(じんぼう)町の古書店街があり，東京の代表的な出版社の多くもここに集まり，印刷・製本などの中小工場も多い。南部および東部の低地は江戸時代には町人の町で，鍛冶(かじ)町・紺屋町付近に同一業種の職人が集まり，その職人気質は，江戸っ子の中でも典型的な〈神田っ子〉の呼称で親しまれてきた。東部はいまも問屋を中心とする下町商業地域の一部で，外神田の，国電秋葉原駅付近には東京都御売市場神田分場がある。また，文京区との境をなす湯島の台地上には神田明神があり，古くから地もとの産土神(うぶすなのかみ)として崇敬され，江戸三大祭りの一つ神田祭は多くのみこしが町内を練り歩く。地区全域にわたって国電や地下鉄の各線が通じ，交通は至便である。〔浅井得一〕

かんだ【苅田(町)】福岡県京都(みやこ)郡の町。人口31,000。北九州市小倉南区と行橋(ゆくはし)市にはさまれ，周防灘(すおうなだ)に面する。日豊本線・国道10号線に沿う。《延喜式》に苅田駅として出ている古い町で，神田とも書いた。豊富な石灰岩と筑豊(ちくほう)炭を利用してセメント工業が興り，また第2次世界大戦後に完成した苅田港は，石炭の積み出し港として若松港よりも阪神(はんしん)地方に近い重要な存在であった。最近九州電力と西日本共同火力の二つの大火力発電所が建設され，工場用地の埋め立ても進んで，北九州工業地帯の新興工業都市として注目されている。

かんたい【寒帯】緯度によって熱帯・温帯・寒帯に区分した場合の一つで，66°33′より高緯度をいう場合(数理気候帯)と，気温分布によって区分した場合の針葉樹林帯の限界である最暖月平均気温が10℃の等温線より極地をさす場合(物理気候帯)とがある。冬季半年は太陽を見ずきわめて寒冷であり，夏季半年は太陽が没せずかなりの熱を受けるが，熱は氷や雪の融解のため消費されるので気温は高くならない。ここでは低温のため樹木は生育せず，冷帯に近い所では夏の間だけ氷雪がとけて，コケ類が生育する。〔小栗　宏〕

かんたい【艦隊】戦略任務に応ずるよう各種艦船部隊・航空隊・補助艦艇・基地業務機関をもって編成した海軍部隊。第2次世界大戦以前の艦隊は大艦巨砲主義により戦艦・巡洋艦を主力艦として編成された。しかし開戦後まもなく勝敗のかぎは航空隊の優劣によることが明らかとなったので，各国とも航空母艦を骨幹とする機動部隊が中心となった。艦隊は2個以上をもって連合艦隊を編成することがある。また，必要に応じ艦隊を戦隊に区分する。戦隊を同一艦種ごとに編成するのは，大戦前のように水上戦闘を主とする場合に適したが，それ以後は上陸作戦(水陸両用作戦)・海上航空戦が主となったので，各種艦艇や航空機の混成部隊を編成するようになった。➔海軍〔森田　哲〕

かんだい【寒鯛】硬骨魚類・ベラ科。60cmほどになる海産魚。アマダイ*に似た形で，全身くすんだ赤紫色。雄は成長すると，まるでコブをつけたように，額部が醜く張り出してくる。若い魚は全身茶色で，体側に幅の広い白い条がはいっていて，別種かと思うほど色彩が違う。本州中部から東シナ海の岩の多い岸近くにすみ，つりの好対象魚であるが不味。水族館でよくみられる。

かんたいきだん【寒帯気団】亜寒帯高気圧域に発見する寒冷な気団。日本付近ではシベリア気団とオホーツク気団がある。➔気団

かんたいし【韓退之】⇨韓愈(かんゆ)

かんたいしょくぶつ【寒帯植物】群落学では針葉樹林を形成する地帯を寒帯といい，そこに生育する植物。寒帯は寒冷期が長く，永久凍土層がその多くを占めており，夏期に地表近くの浅い層のみが融解し，トウヒ・カラマツ・モミ・マツを代表種とする針葉樹林が発達している。年間を通じての低温のため，土壌(どじょう)動物や細菌の活動が阻害され，針葉樹の落葉や枯れ枝の分解速度が遅く，厚い腐植層ができる。降雨があると，腐植層からとけでた有機酸のため酸質をおびた水が地中へ浸透し，土壌中の無機塩を奪ってしまう。こうした条件のもとに生育する植物は根を浅く広く張って生活する。ハンノキ・ヤナギ・カンバなども針葉樹に混じって生育する。〔船越真樹〕

かんたいぜんせん【寒帯前線】寒帯気団と熱帯気団との境界に形成される前線。この前線に沿って低気圧が発生・発達することが多い。➔前線

かんたいへいようかざんたい【環太平洋火山帯】西太平洋の弧状列島群と南北アメリカ大陸の太平洋岸とに沿って太平洋をとり囲んでいる火山帯*。日本列島はその一部にあたる。細かく見ると場所によりいくつかに分岐していて，たとえば東北日本では那須(なす)火山帯と鳥海火山帯は互いにほぼ平行して走り，これらに対し，千島弧に沿う千島火山帯，小笠原(おがさわら)弧に沿う富士火山帯などが斜交している。なお環太平洋火山帯は，環太平洋造山帯*に属し，環太平洋地震帯*と密接な関係にある。〔片山信夫〕

かんたいへいようじしんたい【環太平洋地震帯】太平洋を取り巻いて，大陸の周縁部に連なる地震帯。火山帯とも一致し，また第三紀の大造山運動を強く受けた地域にあたっている。この地震帯において，全世界の浅発地震の80～90%，深さ300km以上の深発地震のほとんどが起こっている。また，震源は太平洋側にいくほど浅く，大陸側にいくほど深くなる傾向は大きな特徴である。日本列島はこの地震帯に含まれる。

かんたいへいようぞうざんたい【環太平洋造山帯】太平洋を取り巻いてアジア大陸の東縁から南北アメリカ大陸の西縁に分布する造山帯。この造山帯の形成は同名の火山帯・地震帯の形成に密接に関連するとされ，形成の時期は第三紀末といわれる。

かんたいりん【寒帯林】寒帯を代表する樹林で，針葉樹林。わが国では北部山岳に分布し，シベリア・カナダ・スカンジナビアには発達した樹林が見られる。地球上で最も広大な面積を占めている森林で，ケストレルの説によれば地球上の全森林面積の3分の1以上を占めているという。針葉樹林の全面積の3分の2は永久凍土層の上



干　拓
木曽川河口の干拓地帯

にある。まばらにはえているため林床は明るく，広葉樹のカンバ・ハンノキ・ヤナギなどを混じえている。下草はあまり茂らない。北へいくほど背は低くなり，森林限界線に達する。➔寒帯植物　〔船越真樹〕

かんだか【貫高】鎌倉・室町時代，所領の大きさを表示するのに用い，土地に対する課税額を銭(貫文)高の数値で表わしたもの。貢租の銭納を前提にした呼称であるが，実際には銭納と現物納とが混合して行なわれていた。検地*や度量衡の統一が実施をみなかった中世では，貫高で共通の単位らしいものを示した。東国地方に特に貫高制は行なわれ，戦国大名領では軍役賦課の基準となった。太閤(たいこう)検地により石高*に統一された。〔高崎徳次〕

かんだがわ【神田川】東京都区部中央を東へ流れる江戸川の新宿区船河原橋(ふなかわらばし)から隅田(すみだ)川両国橋までの間の名だが，一般には上流の神田上水・江戸川・善福寺川・妙正寺川を含めてよんでいる。神田上水は江戸時代に江戸の上水であり，もとは飯田橋(いいだばし)から日本橋を経て隅田川に注いでいた。1660年(万治3)に幕府は仙台(せんだい)藩に命じて，飯田橋付近から浅草橋付近に至る現在の神田川を開削し，船を通ずるようにした。〔長津一郎〕

かんたく【干拓】海岸・河岸および湖沼岸で堤防を築いてその内外を遮断(しゃだん)し，その土地内の水を排除することによって新しい農地を造成すること。埋め立てと違う点は，埋め立ては他所から土を運んで低地をかさ上げして土地を造成するのであるが，干拓は低い土地のままで水を排除して適湿の土地をつくるのである。潮汐(ちょうせき)との関係から次に述べるように2種の干拓に分けることができる。

①海面干拓・河口干拓など，潮汐の影響を受ける土地の干拓は，外海と遮断するために潮受堤防を築いて干拓区域を保護し，排水樋門(ひもん)を設けて干潮を利用して内水を排除する。この干拓においてはまず除塩作業が必要である。

②湖沼干拓・河川干拓など，潮汐とは無関係の土地の干拓は，その区域外から域内へ流入しようとする水は，承水路または遮集渠(しゃしゅうきょ)で受けて域内の水とは別に処理し，内部の水は自然流下またはポンプ排水をして，その土地の農耕地としての条件を維持させる。

干拓地となりうる条件は，ある程度の自然排水ができること，他の水利権との調整ができて用水が得られること，漁業・舟運との調整ができること，土性が農業経営に適すること，などである。

おもな構造物は潮受堤防と排水樋門である。前者については適当な堤防線を選定し，基礎工事に万全を期し，堤防断面すなわち高さ・幅・法勾配(こうばい)，場合によっては粘土羽金を入れることなどを考慮して設計する。排水樋門は1潮汐(約12時間半)の間に干潮を利用して内水排除ができる開扉(かいひ)時間を調査し，その開扉時間で閉扉時間内に流集してきた内水を排出できるように設計する。自然排水だけで困難ならば排水機を併設する。堤防築設にあたっては工事中は適当間隔に開口部を設けて潮の出入りを自由に許しておき，築堤と樋門とができあがったら一挙にこの開口部を閉ざす。この作業を潮止め工*という。

干拓は戦前にも各地で少しずつ行なわれていたが，1945年(昭和20)の終戦後は食糧難解決策として真剣に取り上げられ，農林省が大規模の計画を推進した。八郎潟(はちろうがた)の大工事はその代表的なものである。その後，工業の発達および住宅問題のため都市周辺の農地が転用されることが多くなり，農地確保のためにも干拓が考えられるようになった。干拓の例としては，八郎潟(約17,000ヘクタール，生産高60,000t)をはじめ，児島(こじま)湾・有明海・伊勢(いせ)湾(鍋田(なべた))など，湖面干拓としては印旛沼(いんばぬま)・手賀沼・琵琶湖(びわこ)沿岸・霞ケ浦(かすみがうら)沿岸などが有名である。〔米元卓介〕

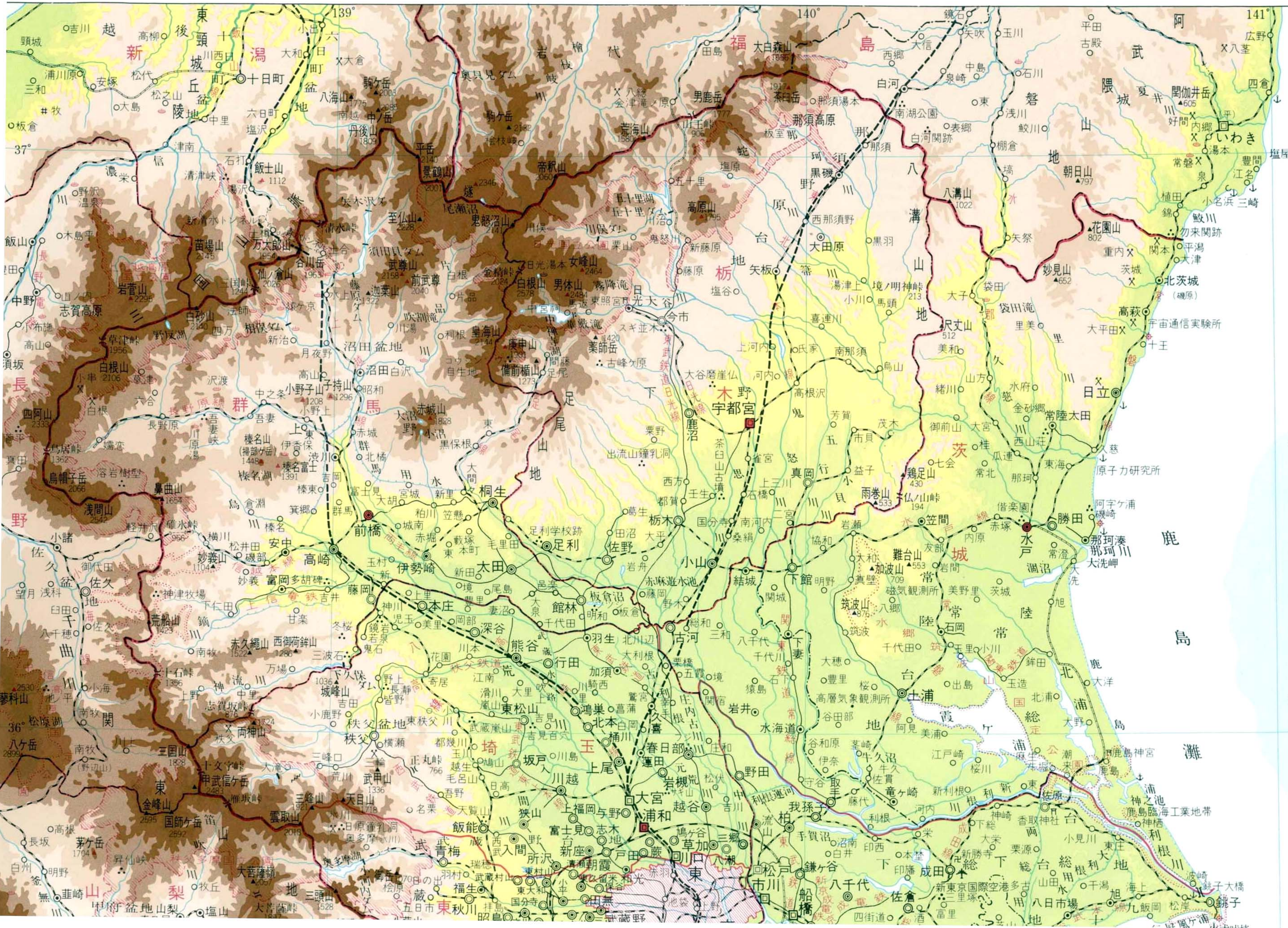
かんだじょうすい【神田上水】江戸開府にあたって1590年(天正18)につくられた日本最初の上水道。武蔵野(むさしの)台地の侵食谷頭の一つである井之頭(いのかしら)池を水源とする神田川*は途中で善福寺川や妙正寺川の水を合わせて目白台・小日向台(こびなたたい)のすそに至り，そこに設けられた堰(せき)(関口町の名はこれに由来するといわれる)によって導水され，外堀(そとぼり)を大かけひで渡り(水道橋の名はこれに由来するといわれる)，神田・日本橋・丸の内一帯に給水した。のち江戸の発展によって玉川上水が新設されるまで，江戸唯一の上水道であった。明治初年には東京市民20万人余の飲用水を供給していたが，1900年(明治33)淀橋(よどばし)浄水場の開設によって廃止された。〔竹内淳彦〕

カンタジーロ［Cantagiro］イタリアで毎年行なわれるカンツォーネ*のコンクール。カンタジーロとは〈歌の巡業〉の意味だが，これは各地を回って，一種の歌比べをするもの。1962年に始められ，1963年からは，一流歌手によるAグループのほか，新人歌手を集めたBグループがつくられ，さらに1966年にはグループ-サウンズを中心にしたCグループが加わった。1グループにだいたい15人ないし20人くらいの歌手が参加し，投票によって順位を決める。〔永田文夫〕

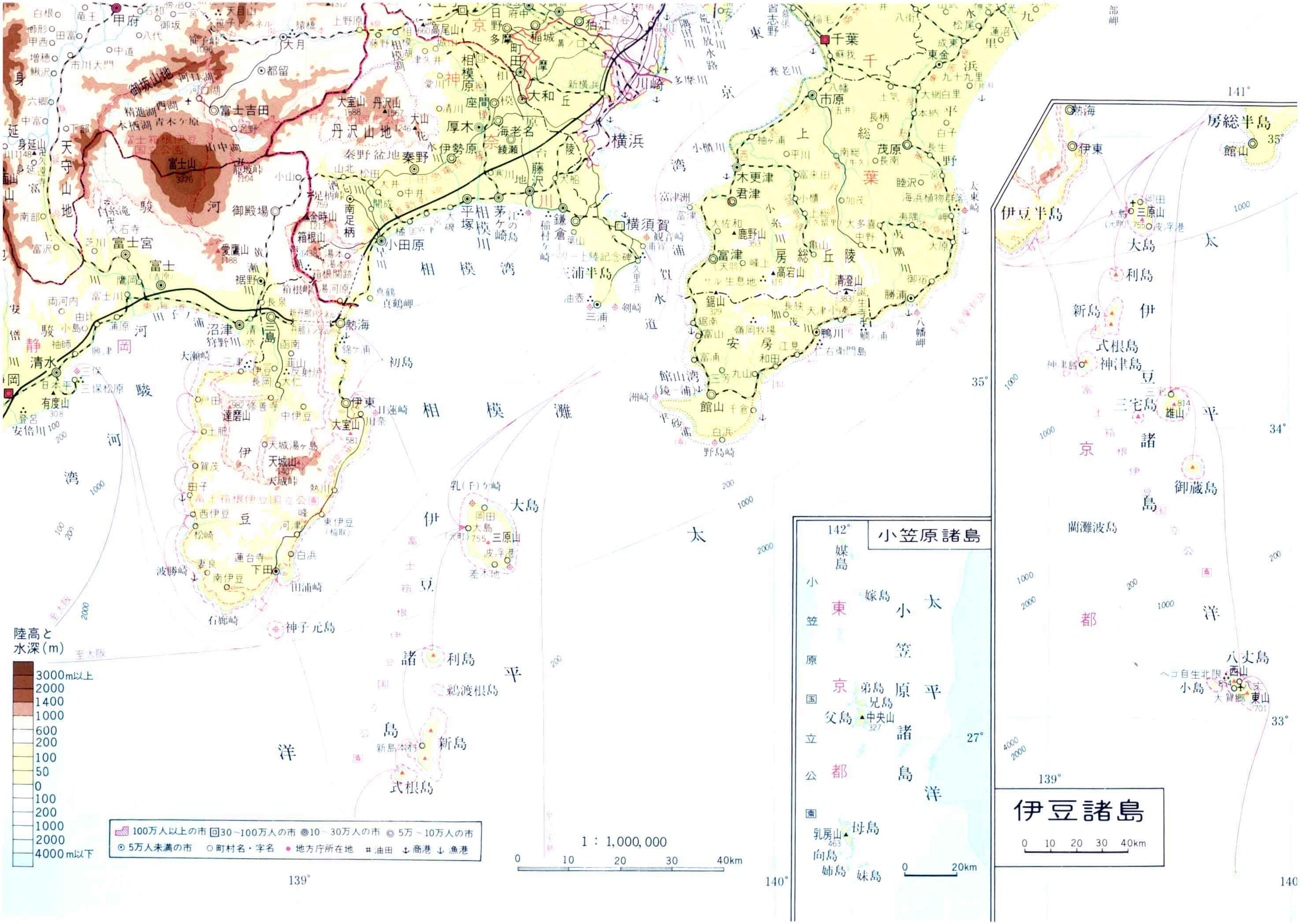
カンタータ［cantata］1600年ごろ，イタリアに起こった声楽曲の一種である。語源はカンターレ(歌う)。初期には，カンタータの名でこの形式とは違う種々の形式の曲がつくられていたが，17世紀のロッシ・チェスティ・カリッシミらによってしだいに形式が整えられた。続くナポリ楽派の作曲家たちは，対照的な性格をもつ二つのアリア*と，それらのおのおのに先だつ二つのレシタティブ，それに随所に現われる短いリトルネルロふうのオーケストラによるシンフォニアをもつ，いわゆる室内カンタータ(カンタータ-ダ-カメラ)を完成した。ストラデルラ・A.スカルラッティ*らがこの派の中心的作曲家であるが，17世紀末から18世紀前半にかけて生み出されたこれらのカンタータは，歌手の名人芸を中心とした，オペラの演奏会用の縮小版といった性格をもっていた。フランスにおけるカンタータの歴史も，カリッシミの弟子(でし)であるM.シャルパンチエに始まるところから，形式的にはイタリアの模倣であるといえる。ただ，フランスでは歌手の技巧がイタリアほど重要視されず，その言語の独特の発想法とあいまって独自の様式が確立された。ドイツにおけるカンタータの歴史も，その源はイタリアに発するが，世俗的な性格を徐々に捨て去って，まじめな内容をもつ教会カンタータ(カンタータ-ダ-キエーザ)へと向かった。合唱や対位法*的な処理を重視する傾向はすでに17世紀半ばのブクステフーデ*らの作品に現われており，素材にコラール*の旋律を用いるコラール-カンタータもこの時代の産物である。しかし，なんといっても，教会カンタータの最大の作曲家はJ.S.バッハ*であり，残存する200に近い作品の中には，それ以前のすべての様式が結集されている。

18世紀後半以降，カンタータは急速にその生命力を失い，わずかにシュポール・メ

関東地方



太平洋
鹿島灘
阿武隈山地
福島
栃木
茨城
群馬
埼玉
新潟
長野
山梨
東京
宇都宮
水戸
前橋
浦和
いわき
日立
土浦
霞ヶ浦
高崎
足利
桐生
太田
熊谷
川越
大宮
千葉
銚子
成田
那須高原
那須
八溝山地
関東山地
足尾山地
秩父盆地
沼田盆地
佐久盆地
十日町



伊豆諸島
小笠原諸島
1：1,000,000
0 10 20 30 40km
陸高と水深(m)
3000m以上
2000
1400
1000
600
200
100
50
0
100
200
1000
2000
4000m以下
100万人以上の市 回30～100万人の市 ◎10～30万人の市 ◎5万～10万人の市
⊙5万人未満の市 ○町村名・字名 ●地方庁所在地 ⌗油田 ⚓商港 ⚓漁港
甲府
富士山
3776
富士吉田
富士宮
富士
沼津
三島
熱海
伊東
下田
小田原
横浜
川崎
横須賀
鎌倉
藤沢
平塚
茅ヶ崎
厚木
相模原
大和
町田
千葉
市原
木更津
君津
富津
館山
鴨川
勝浦
茂原
東金
清水
静岡
相模湾
駿河湾
東京湾
相模灘
太平洋
伊豆半島
房総半島
三浦半島
大島
利島
新島
式根島
神津島
三宅島
御蔵島
八丈島
父島
母島

ンデルスゾーンらの作品にいくつかみるべきものがある程度で，今日，作曲家の意欲的に創作する対象とはなりえないものとなった。〔吉田泰輔〕

かんだちめ【上達部】⇨公卿(くぎょう)

かんだはくざん【神田伯山】講談師。

1 初世(？〜1873)《天一坊》が得意で，神田派隆盛の基礎を成した。

2 2世(1841〜1925) 本名玉川金次郎。《越後屋(えちごや)伝吉》を得意とした。のち神田松鯉(しょうり)とした。

3 3世(1872〜1933) 本名岸田福松。《清水次郎長伝*》が十八番。

4 4世(1898〜1976) 本名岡田秀章。世話物・新作を得意とした。

カンダハル［Kandahar］アフガニスタン南部の同名州の州都。海抜1,100mにある，カブールに次いで同国第2の都市。人口14万(1973年推)。独自の工業はないが，インド・パキスタンと結ぶ交通上の有利性から，同国最大の交易市場として発展している。南東120kmのチャマンまでは自動車道が通じ，そこからカラチまでは鉄道が通じている。市の歴史は古く，遠くアレキサンダー大王の遠征時までさかのぼり，アレキサンドリア-アラコシアとよばれた時代もある。16世紀にはムガル王朝の首都となり，市街には，この当時の城塞(じょうさい)や遺跡が多く残っている。1747年アフガニスタン建国の父アハマッド-シャーによって首都として定められ，カブールと並んで栄えた。現在首都はカブールに移っている。〔今井留吉〕

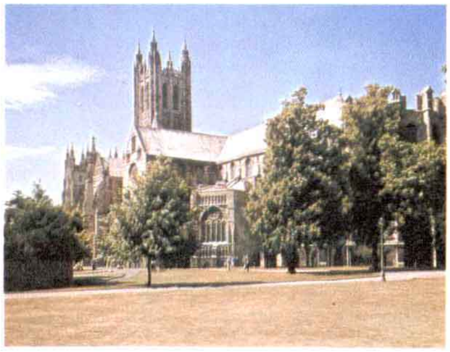
カンタービレ［cantabile］音楽の発想記号で，〈歌うような〉〈歌うのに適する〉の意味。cantando(カンタンド)・カンタンテ(cantante)も同じ意味で使われる。多くの場合，器楽曲で旋律が一つのまとまりをもち，歌のような性質をもつとき，あるいは歌のように奏するときに使われる。

カンタブリア(山脈)［Cantabria］スペイン北部をビスケー湾沿いに東西に走る山脈で，ピレネー山脈に続いて，東へフィーニステル岬(みさき)に達する。延長約480km。最高峰はセレド山(2,648m)。内陸は年降水量500mmで乾燥するが，北部沿岸では1,500mmの降水量があり，この山地が気候の境になる。鉄・石炭・マンガンなどの鉱物資源に富む。

カンタベリー［Canterbury］イギリス，イングランド南東部のケント県にある宗教都市。ロンドンの東約85kmにあり，1448年以来自治特別区となっている。人口33万(1969)。597年ローマからイギリスへ布教にきた聖アウグスチヌスがカンタベリーの大司教になり，また，全イギリスの僧正になって以来，イギリス国教会の総本山となり，国教会全体を統轄している。12世紀以来巡礼が多く集まり，それを描いたチョーサーの《カンタベリー物語》は中世イギリスの風俗・社会を伝える名作といわれる。カンタベリー大司教はイギリス王の即位のとき，その戴冠(たいかん)式を取り行なう。教会堂は何回も火災にあったがそのたびに再建され，現在のものは1184年に再建され，1495年に増築，第2次世界大戦後に修復されたもの。聖トーマス病院はかつての巡礼の宿泊所である。皮革・れんが・酒造などの産業がある。〔野間三郎〕



カンタベリー　市の中心部に近いメルセリー通り。宗教都市らしく町は落ち着いたふんい気が漂い，大寺院の尖塔がどこからも望まれる

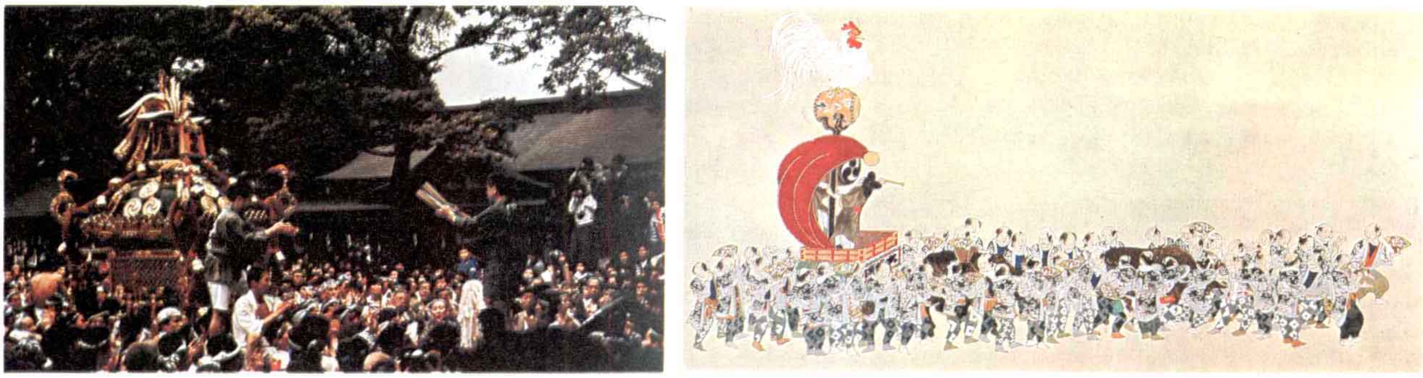


カンタベリー大聖堂

カンタベリーだいせいどう【カンタベリー大聖堂】カンタベリーにあるイギリス国教会大司教座本寺。東西に祭室・翼廊を出して二重内陣形式をとり，3層の側壁構成や半円形アーチによる壁体の表現に強さを示す。内陣部は，フランス人の建築家ギヨームによる1174〜1185年の再建，フランスの初期ゴシック会堂であるサンス大聖堂のロマネスク様式を継承しているが，その他にはイギリス独自の様式がうかがわれる。

カンタベリーものがたり【カンタベリー物語】チョーサー*の代表作(1387〜1400)。カンタベリー大寺院に巡礼に行く人々が道中のつれづれに語る物語を集めたもの。未完のもの3編を含め24の物語が伝わっている。騎士・聖職者・商人・地主・おかみさんなど，あらゆる階層の人間が，語り手に登場。全編の総序ともいうべき〈プロローグ〉に各人の人物像が描かれていて，この部分だけでもイギリス文学史上名高い。物語は，敬虔(けいけん)から猥雑(わいざつ)に至るまで種々多様で，中でも《騎士の話》《粉屋の話》《バースのかみさんの話》などは特に有名である。中世のロマンスやファブリオー(笑い話)に典拠をもつものがほとんどであるが，国運の上昇中にあったイングランドのはなやいだ気分が，お寺まいりのなごやかなふんい気の中に感じられる。詩文は，ほとんど抑揚五歩格で2行ずつ脚韻を踏むスタイルで書かれ，この韻律がのちの英詩に大きな影響を与えた。〔五十嵐一〕

かんだまつり【神田祭】東京都千代田区外神田にある神田神社(通称神田明神)



神田祭　(左)現在　(右)江戸時代　《神田明神祭礼絵巻》(部分)





(左)仏伝浮彫　ガンダーラ出土　2〜3世紀　(右)仏頭　ハッダ出土　3〜5世紀　東京国立博物館蔵







(左)菩薩像　ガンダーラ出土　2〜3世紀　(中)仏座像　ガンダーラ出土　2〜3世紀　東京国立博物館蔵　(右)仏立像2〜4世紀

ガンダーラ美術

(祭神大己貴命(おおなむちのみこと)・少彦名命(すくなひこなのみこと))の例祭。730年(天平2)創建と伝えられる神田神社は末社に平将門*(まさかど)の霊社があることで知られるが，江戸時代になっては天下祭・御用祭と称して祭礼が行なわれるようになった。三大祭として山王祭*・三社祭*とともに著名である。天和年間(1681〜1683)以後は，山王祭と隔年挙行され，丑(うし)・卯(う)・巳(み)・未(ひつじ)・酉(とり)・亥(い)の年の9月14日(宵祭(よいまつり))・15日(本祭)に行なわれた。祭礼の行なわれない年は陰祭としたが，本祭は明治以後，5月15日に改められた。5月13日に2基の神輿*(みこし)が本社を発して神田一帯を練り回り，15日の夜まで両国の御仮屋にとどまり，16日から18日まで，日本橋・内神田を巡幸する。〔直江広治〕

かんだまつり【神田祭】清元節・日本舞踊の曲名。本名題《〆能色相図(しめろやれいろのかけごえ)》という上下二段構成の踊りの下。三升屋二三治(みますやふみじ)作詞，2世清元斎兵衛(さいべえ)作曲。1839年(天保10)初演。神田祭*の風俗描写で，手古舞や鳶(とび)の頭(かしら)たちが粋(いき)に威勢よく踊る。〈常から主の〉のくどき，〈森の小鳥〉の投げ節，木遣(きやり)など，曲もすぐれている。ほかに長唄(ながうた)の曲もある。

ガンダーラびじゅつ【ガンダーラ美術】クシャン朝*統治のもとの，インド西北部ガンダーラ地方で栄えた美術の総称。ガンダーラ(健駄羅)は古代において，インダス川西岸の小さな地域，すなわち北方を山脈に，南と西をそれぞれカブール川・スワット川で境界づけられた地方を包含するペシャワールの西北地方に限定された王国の名称である。しかし現在では，ガンダーラということばは，一般に紀元後の比較的早い時期におけるパキスタン・アフガニスタンの半古典的彫刻の流派を記述するために用いられている。しかしながら，ガンダーラの芸術は，古代王国の地理的範囲をこえて拡張されたので，この芸術的意味においてカブール渓谷(けいこく)，ヒンズークシ山脈南部あるいはパンジャブの北部をも包括した範囲に及ぶ。その遺物は，北はオクサスのような遠隔地から，南はインダス川南のタキシーラの古代跡などから数多く発見・発掘されている。これらの発掘品から推すと，この地方において繁栄した芸術は，ギリシアというよりもむしろローマ帝国にその由来を求められるものを強く反映している。事実，ガンダーラ美術は明らかにクシャン朝とローマ帝国との間に営まれていた商業的・外交的関係によって決定づけられ，しかもそのことはガンダーラ美術の性格を顕著に示している。その関係は，アウグスチヌス帝・トラヤヌス帝・ハドリアヌス帝・アントニウス帝の統治まで継続された。この両国間における交渉の結果としてのころ当時のローマ美術のすぐれた作品の数々は，タキシーラやカブール渓谷のベグラムなどで発見されており，ローマ世界との密接な文化的交流を裏づけている。ことに，ガンダーラの彫刻家たちは，古典からのテーマ，たとえばトリトン・ケンタウロス・アトランチスなどを積極的に好んで用いていた。これら神話の人物は，礼拝の対象としてよりも建築(ストゥーパ)などの壁面などを埋める装飾的意味合いのほうが強かったものと思われる。ガンダーラ彫刻に主として用いられた石材は，青みがかった粘板岩である。これらの石像彫刻には，元来，金箔(きんぱく)や彩色が施されていた。また，いくぶん時代が下ると，石彫に加えて，小石，動物の毛あるいはわらなどで強化されたストゥッコ製(塑像)の作品もおびただしくつくられるようになった。〔西岡康宏〕



カンタン(雄)

かんたん【邯鄲】こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科。体長11〜16mmで，淡黄緑色。頭部は細長く，ふつう暗色。前胸背板は長く，後方に向かって多少広まる。前翅は著しく薄く，無色で尾端を越え，背面部は雄ではほとんど全面発音部になっており，発音鏡は大きく2本の直線状の斜横脈がある。雌の背面部には5〜6本の斜縦脈があり，ほかにきわめてまばらに不規則横脈がある。後翅は細長くて尾状。産卵管は細長く，暗かっ色ないし黒かっ色。日本全土に分布し，成虫は8月上旬ごろから出現して草むらなどに生活し，〈ルル……〉と美しく鳴く。

かんたん【邯鄲】能の曲名。作者不明。四番目物。中国故事による。蜀(しょく)の盧生(ろせい)という青年が，人生について悩み，楚(そ)の国に尊い聖人がいることを聞いて旅していく途中，邯鄲に着く。そこには一つのまくらがある。それをして眠ると夢に悟りを得るといわれている。宿の女の勧めるままに盧生がそのまくらをして眠ると，夢の中に勅使がやってきて，楚の王になってくれという。そこで帝位につくと，すばらしい栄達のうちに50年が過ぎ，さらに1,000年の寿命を保つという酒を飲んで繁栄を続けるが，やがてみな消えうせてしまい，気がつくともとの場所で例のまくらをして寝ていた。ちょうど宿では眠るまえに仕掛けたあわの飯がたけたところで，長年の栄華も飯がたけるまでの短い間に等しいのだった。

盧生は聖人を尋ねるのをやめて国へ帰っていく。シテは盧生で，夢の中で楽(らく)を舞う。ワキは勅使。夢の中ではワキヅレが家臣となり，子方も舞う。宿の女主人は狂言方の役。〔長尾一雄〕

かんたん【邯鄲】ハンタン 中国，戦国時代の趙(ちょう)の都。河南省南部の大行山脈東麓(とうろく)に位置し，南西・南北両交通路の要所にあたる。戦国・秦(しん)・漢時代には屈指の商業都市として栄え，その遺跡は，1940年日本の考古学者によって発掘調査された。

かんたんふ【感嘆符】⇨句読点(くとうてん)

カンチェンジュンガ(山)〔Kangchenjunga〕 シッキム-ヒマラヤの5峰からなる山群の総称で，東からⅠ峰(7,780 m)・Ⅱ峰(8,476 m)・Ⅲ峰(8,613 m)・Ⅳ峰(8,500 m)・Ⅴ峰(7,858 m)と並んでいる。最高峰であるⅢ峰はエベレストに次ぐ世界第2の高峰である。山名は〈五つの雪の大きな宝蔵〉の意。山容はゼム・タルン・セルン・カンチェンジュンガの4氷河に削られたのこぎり状の尖峰(せんぽう)となって連なり，その威容はインドのシッキム州の避暑地ダージリンからよくながめられる。ゼム氷河は長さ25kmでヒマラヤ山脈中最長の氷河である。鉄道がダージリンまで通じていることから，この山については早くから知られ，登頂も早くから試みられた。まず1899年イギリスのフレッシュフィールドが山麓(さんろく)を一周したのち，1905年には国際登山隊が登頂を試みたが失敗した。その後1929年のドイツ隊，1930年の国際隊，1931年のドイツ隊など，多くの登頂が試みられたがいずれも失敗し，初登頂は1955年5月25日イギリスのエバンス隊によりなされた。〔野間三郎〕



カンチェンジュンガ 世界的な避暑地として有名なダージリン(標高約2,000m)から望むカンチェンジュンガの雄壮な山容

かんちく【寒竹】単子葉植物・イネ科のタケの一種。観賞用に日本の暖地に多く植えられ，九州に自生するともいう。高さ1～3 m，直径1～1.5cm。葉は薄く，下面が粉白色。タケの皮は薄く膜質でかっ紫色の斑点(はんてん)がある。まれに花をつけ，小穂は線形，まばらに小花がつく。たけのこは9～11月に出て，美味。

かんちゅう【関中】中国，陝西(せんせい)省の渭水(いすい)盆地の別称。その名は，東は函谷関(かんこくかん)から西は隴関(ろうかん)までの間，あるいは東は函谷関，南は武関，西は散関，北は蕭関(しょうかん)に囲まれた地域のことだという。いずれにしても今日の西安を中心にして函谷関の内側という意味で使われた。東方から見て関西というのも同じ意味である。盆地だから外敵を防御しやすいうえに交通の要路にもあたるので，古く周はこの地に起こり，秦(しん)・漢もここを根拠として中国を統一した。そののち数世紀にわたって中国の政治的中心は東部に移ったが，隋(ずい)・唐に至って再び国都が置かれたのは，軍事交通の利点が重視されたからである。今日では西北方面の経済建設基地として新しく発展しはじめている。〔日比野丈夫〕

かんちゅう【管仲】(?～BC645) 中国，春秋時代の政治家。斉(せい)の桓公(かんこう)に仕え，大臣として手腕をふるい桓公を覇者(はしゃ)(→覇道)とした。彼は農民を富ませ君権を強化して斉国を強化し，諸侯を心服させて天下を統一し，しかも周の天子への忠誠を怠らないようにした。彼の名により書かれた《管子*》という古典があるが，これは後世の偽作である。

かんちゅうすいえい【寒中水泳】冬季，特に寒中に海や淡水で泳ぐ行事。心身の鍛練が目的で，欧米各国でも行なわれている。わが国では古くから修行の一つとしてあったが，行事として広く行なわれるようになったのは，水泳(日本泳法)が一般に普及した明治以後である。寒中水泳にあたっては，事前に心身の鍛練を重ねておく，実施前に健康診断を行なうなど，事故防止のための十分な準備・対策が必要である。

かんちゅうぼんち【漢中盆地】ハンチョン盆地 中国，陝西(せんせい)省南部にあり，漢水の上流，漢中市を中心とする盆地で，秦嶺(しんれい)・大巴山脈の間にある。水田が広がり，米・生糸・薬材・桐油(とうゆ)・漆器・綿織物を産する。秦の漢中郡の地で，早くから開拓が進められ，古来，南北抗争の際には争奪の中心となり，三国時代，曹操(そうそう)と劉備(りゅうび)がこの地を争った。北は関中盆地に，南は四川省に，東は漢水から揚子江を下って江南から西方に通ずる位置を占めている。〔船越昭生〕

かんちょう【干潮】潮の満ち干につれて，海面は1日に2回水位が上がって最高となり，2回最低となる。水位が最低の状態を干潮という。低潮ともいう。→潮汐(ちょうせき)

かんちょう【官庁】国の意思，政策の決定と執行をつかさどる国家機関の総称。通常〈役所〉ともよばれる。大蔵省など12の省(庁・委員会)，総理府，最高裁判所，会計検査院などがあり，内閣・各省大臣・庁長官・行政委員会などの行政官庁と司法官庁(裁判所)とに大別される。国会や地方公共団体の機関は含まれない。

かんちょう【浣腸】肛門(こうもん)から腸内に液体を注入すること。便秘*のときに，腸の内容物を排除するために行なわれる排便浣腸と，注腸麻酔の目的などのために行なう薬液浣腸とがある。家庭で行なう排便浣腸には，イチジク浣腸が用いられる。グリセリン・微温湯混合液が一般的であるが，食塩水・せっけん水・硫酸マグネシウムなども用いられる。いずれも大量の液体を注入し，直腸を広げ，糞便(ふんべん)を軟化させ，直腸粘膜を刺激し，大腸の動きをよくし，排便を促す。〔清水喜八郎〕

かんちょう【管長】仏教の各宗派で，その宗門の行政を統轄する最高の長をいう。1872年(明治5)教導職管長が置かれたが，1884年教導職*は廃止され，今日の管長制度が始まった。末寺住職の任免，教師等級の進退，寺院所属の宝物什器(じゅうき)類の保存など，監督官庁に対してすべての責任を負う。その選出方法には世襲によるもの(真宗)，選挙によるもの(天台宗・真言宗・浄土宗・臨済宗・日蓮宗(にちれんしゅう))，交替制によるもの(曹洞宗(そうとうしゅう)・法相宗(ほっそうしゅう))などがある。〔広川堯敏〕

かんちょうかせん【感潮河川】河口付近の流れは，潮汐(ちょうせき)作用の影響を受けることはもちろん，河川によっては，上流まで外海の影響で塩分・水位・流速などに周期的な変化がみられることがある。このように，潮汐の作用を特に著しく感じる河川およびその部分を感潮河川という。感潮河川では下層にある塩水が，淡水中に上流に向かってくさび状に侵入して成層をなし，上層より落下してくる懸濁砂泥粒子(けんだくさでいりゅうし)をとらえて底に浅瀬をつくる。ときには，下層の流れで運ばれて河川上流の港などを浅くしてしまうこともある。〔相原正彦〕

かんちょうろううたかい【観潮楼歌会】森鷗外*(おうがい)が自宅観潮楼に主宰し，1907年(明治40)3月から1910年4月まで毎月1回行なわれた歌会。《アララギ*》と《明星*》の

二派の接近・交流をはかったものであると，森鷗外の言からもうかがえる。与謝野(よさの)鉄幹*・伊藤(いとう)左千夫*・佐佐木信綱(のぶつな)・石川啄木*(たくぼく)・北原白秋*・古泉千樫*(ちかし)・斎藤茂吉*らが招かれた。

かんつうざい　**【姦通罪】**　夫のある婦人(人妻)が，夫以外の男と性交することによって成立する犯罪。刑法183条に規定されていたが，1947年(昭和22)の刑法改正のとき削除され，姦通は刑法上の犯罪ではなくなった。しかし，民法上は，不法行為として損害賠償原因(民法709条)，または不貞行為として離婚*の事由(民法770条)になることがある。

カンツォーネ　［canzone］　イタリア語で〈歌〉〈歌謡〉を意味する。時代により，所によって，いろいろな音楽形式に対して使われるが，次のように大別される。

①カンツォーネ-クラッシカ：いわゆるクラシック音楽に属するもの。これには，13～17世紀ごろのイタリアの詩の形式の一種，16世紀のイタリアの世俗歌曲，および18～19世紀の叙情的な歌曲あるいはそのような性格をもった器楽曲など，一様にカンツォーネの名でよばれている。②カンツォーネ-ポポラーレ：英語のポピュラーソングにあたるイタリア語。カンツォーネ-クラッシカに対して，広く今日の民衆の間で愛好されている歌をいう。きわめて多種多様にわたるが，次のように分類できる。㋑民謡：イタリアの各地で歌い継がれてきた作者不明の伝統的歌曲。それぞれの地方色がよく表われており，南部と北部とでは，かなり大きな違いがある。一般に南イタリアの民謡は明るく開放的で，ときには東洋的要素が見いだされる。北イタリアのものは重々しく和声的で，ドイツやフランスの影響がみられる。カンツォーネ-ポポラーレという名称は，狭義にはこれらの民謡をさす。㋺カンツォーネ-ナポレターナ：〈ナポリの歌〉の意味で，略してナポレターナともいう。港町ナポリに発達したポピュラー歌曲で，創作民謡の一種といえる。独特の節回しをもち，ナポリ方言で歌われる。有名なピエディグロッタの歌祭りを通じて盛んになり，《オ-ソレ-ミオ》《帰れソレントへ》などの名歌を生んだ。第2次世界大戦後，この歌祭りの伝統は，1953年に始まったナポリ歌謡祭に受け継がれて，今日に及んでいる。㋩イタリアにおける一般の流行歌曲：現在，単にカンツォーネとよばれているものは，ほとんどこれに属する。作品を歌手が歌い広めるため，媒体としてレコード・放送・テレビなどが利用される。時代とともに，世界のポピュラー音楽界の傾向を敏感に取り入れて，国際的な色彩をおび，近年はロック調の歌が多い。

このようなカンツォーネの普及と流行に重要な役割を果たしているのが，数々の音楽祭である。そのおもなものは前述のナポリ歌謡祭のほか，地中海岸北西部のサン-レモで1951年から始められたコンテスト形式のサン-レモ音楽祭*がある。この音楽祭は1958年の優勝曲《ボラーレ》によって世界に広く知られ，その後も多くのヒット曲を送り出している。またベネチア音楽祭はベネチアで1965年から行なわれている国際音楽祭で，スター歌手によるショー形式の〈金のゴンドラ〉と，新人歌手のコンテストである〈銀のゴンドラ〉の2部に分かれている。北イタリアのボローニャには，優勝者に金貨を贈るところからゼッキーノ-ドロ(金貨)とよばれている音楽祭が，1959年から行なわれている。ここでは12歳以下の子どもが新作童謡を歌う。《黒ネコのタンゴ》はこの音楽祭の入賞曲である。カンツォニッシマはテレビのための音楽祭で，1961年から始められ，毎年異なる趣向が凝らされている。また1962年から歌い手たちがイタリアの各地を回って，歌合戦を行なうカンタジーロ*(歌の巡業)がある。またレコード会社と音楽出版社が中心になって，1964年から始められている〈夏のディスク〉がある。

カンツォーネの一般的特色としては，①メロディーが明るく美しく，だれにも歌いやすい。②内容が比較的単純で，気持ちを包み隠さず歌った恋の歌が多い。③間の構成がわかりやすく，たいてい2小節，4小節，8小節と，メロディーが倍ごとに進行する。④ストロファという〈語り〉にあたる部分と，リトルネッロというくり返し部分とからなりたっている。⑤コマーシャルな要求が強く，観光客を誘致したり，世にはやらせたりすることを主目的としてつくられる場合が多い。　〔永田文夫〕

かんつばき　**【寒椿】**　双子葉植物・ツバキ科。中国原産で観賞用に庭に植えられる常緑低木。高さ1～1.5m。枝はよく分枝し，葉は長楕円(ちょうだえん)形で厚い。冬にやや頂生したばら色の花をつける。冬芽は披針(ひしん)形で，緑色，絹状毛がはえる。

かんづめ　**【罐詰】**　食品を微生物が通らないような容器に入れ，完全に密封したのち，中にいる微生物を全部殺してしまえば，食品は微生物による腐敗から免れて長期間保存することができる。このとき容器としてかんを用いたものが〈かんづめ〉である。単にかんに詰めたもののことではなく，加熱殺菌したものについていう語で，単にかんに入れたものは〈かん入り〉という。

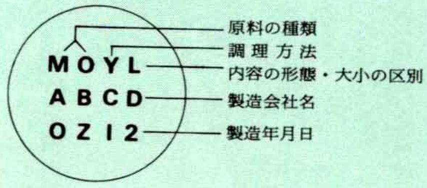
〔製造原理〕かんは鉄板にスズめっきをしたものを用い，これに食品を入れる。これを〈肉づめ〉という。次にふたを載せて密封するが，この操作を〈巻き締め〉といい，図のように二重に巻き締める。巻き締めのまえに肉づめしたかん内から空気を排除する〈脱気〉が行なわれるが，これには機械的方法と加熱的方法とがあり，最近では前者が用いられる。これは真空ポンプで空気を排除しながら巻き締めも同時に行なう真空巻き締めの方法である。後者は軽く巻き締めてから蒸気で加熱された脱気装置の中を通過させ，直ちに密封する。巻き締め後加熱殺菌を行なう。加熱の温度と時間は，かんの形・大小・内容物，かんの攪拌(かくはん)(熱の伝導)などによって決められる。微生物を完全にゼロにすることを滅菌とよぶが，かんづめの場合には，普通の貯蔵状態で腐敗しなければよいのであるから，滅菌でなくともよく，〈商業的滅菌〉とよんでいる。殺菌条件はまえに述べた物理的な問題のほかに，かん中の微生物の耐熱性によって大きく左右される。微生物の熱に対する抵抗力は微生物の種類によって異なるし，同一微生物でも胞子のほうが生活細胞よりはるかに耐熱性が高い。そこで加熱の程度は耐熱性の胞子をつくるクロストリジウム・ボツリヌムという菌を対象として考え，胞子の90%が死滅する加熱条件を定める。それがたとえば100℃で20分の場合その12倍，すなわち240分加熱することにしている。これによってほとんど100%胞子がいなくなるとされている。しかし長時間加熱すると，香気成分や栄養分が分解減少するので，高温短時間殺滅菌法(HTST法)，すなわち瞬間殺菌法が行なわれる。

なお，この殺菌の条件は，中身の食品のpHによってかなり大きい差がある。酸性になるにつれて滅菌は行ないやすくなり，pH 4.5以下のものでは簡単である。例を示すと次のごとくである。

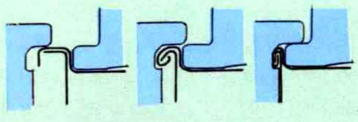
かんづめ食品の滅菌加熱の標準

食品名	pH	滅菌温度	滅菌時間
ミカン	3.5	80 ℃	10～15分
ナシ	4.2	100	17～20
トマト	5.1	100	20～40
ジャガイモ	6.2	115	50～70
トウモロコシ	6.9	120	50～75
サケ	6.9	115	60～80

上記の滅菌温度はもちろん品温であるが，外囲の温度と品温とは簡単には同じにならない。かんづめの場合，外からの熱の内容への伝わり方には伝導と対流とがあり，内容が可動性の場合，つまり液体が多いときには対流が起き，熱の伝わり方はわりあい早い。ミカンのかんづめはこの例である。一方固体が詰まっている場合には伝導によるので，熱の伝わり方はおそい。コンビーフのかんづめはこの例で中心部の温度はなかなか上がらない。このようなことから，内容物の種類によってかんづめの大きさはおのずから定まってくる。肉では大きなかんづめはできにくく，くだもののシロップかんづめではかなり大きなかんづめができる。熱の伝導が悪く，長時間の加熱で品質が悪くなりやすいような内容物の場合では，極端に扁平(へんぺい)なかんも使用される。現在使われているおもなかん形の種類は図の



〈カンマーク〉



〈かんの封じ方〉

〈調理方法マークのおもなもの〉

W　野菜水煮
N　魚類水煮・食肉類水煮
L　マグロ類水煮
Y　果実糖液づけ
K　てり焼きおよびかば焼き
焼き味つけ(焼き肉など)
B　みそ煮
T　トマトづけ
O　油づけ(オリーブ油)
S　くんせい油づけ
C　味つけ
JU　ジュース
JM　ジャム

〈内容の形態，大きさマークのおもなもの〉

L　大　M　中　S　小
T　極小(魚類，野菜)四つ割り(果実)くび肉(サケ類)
H　二つ割り
クリームスタイル(スイートコーン)
X　混合
・　フレーク(魚類)　カット(アスパラガス)
ブロークン(ミカン)
：　スライス(野菜・果実)　カット(マツタケ)

〈製造年月日マークの読み方〉

O Z 12は1970年12月12日と読む
第1字：西暦年号の末尾
第2字：製造月。1～9月は数字，10，11，12月はO，Y，Zの記号を用いる
第3・4字：製造日。1～9日は01～09で表わす

かんづめ　　(日本罐詰協会資料による)

とおりである。

【かんづめの種類】原料によって農産・畜産・水産かんづめに分かれ，また製法によって，水煮・味付き・油づけ・シロップづけ・トマトづけなどがある。

【かんマーク】かんでは中身がわからないので，かんマークといってかんのふたに英字でしるし，それによって品名，内容の状態，形態，また製造年月日もわかるようになっている。例を示すと右図のとおりである。

【かんづめの貯蔵中の変化】かんづめを貯蔵している間にいろいろ好ましくない変化が起こる場合がある。①かんの膨張である。これは微生物が繁殖しガスを発生してふくれてくるのであるが，このほかにかん材が内容物によって侵され，化学反応を起こし水素ガスを発生して膨張することもある。②フラットサワーとよばれるものがある。これも微生物によって起こるものであるが，この場合は膨張は起きないが，内容物が酸味を呈し，酸臭を生じる。蔬菜(そさい)のかんづめに起こりやすい。③内容物が変色することもあり，この原因にもいろいろあるが，たとえばタンパク質の分解によって硫化水素を生じ，これが鉄その他の金属と化合して着色物質を生ずるために起こる。また，いわゆる褐変(かっぺん)現象によって着色することもある。④酸化により香味が悪くなることも珍しくない。この場合には空気による酸化がおもな原因となるので，かんづめの中の空気をできるだけ除くようにかんづめをつくる。このために真空巻締機を用いて脱気したり，炭酸ガスのような不活性ガスを空気の代わりに充塡(じゅうてん)している。〔佐藤友太郎〕

【歴史】1804年，フランスのニコラ-アペールがびんづめによる食物貯蔵の原理を発見した。それは，広口びんにあらかじめ調理した食品を詰め，コルクせんをゆるくはめて加熱したのち，密封するという簡単な方法であったが，現在でもこの原理が応用されている。1810年，イギリスのピーター-デュランドによってびんの代わりに金属容器が発明され，かんづめの製造が始められたが，1821年，イギリス人ウィリアム-アンダーウッドがアメリカのボストンに工場を建設してから企業的に製造されるようになった。その後は主としてアメリカにおいてかんづめ工業が発展したが，1861年，アメリカで南北戦争が始まって軍用食糧としての需要が高まり生産は急激に増加し，さらに第1次・第2次世界大戦の軍需により大いに発展した。日本では1871年(明治4)に長崎の松田雅典(まさのり)がフランス人ジュリーよりその製法を教えられ，イワシの油づけかんづめをつくったのが最初であるといわれる。その後日清(にっしん)・日露戦争の需要を契機として製造が盛んになり，北洋漁業のサケ・マス・カニのかんづめが工業的に行なわれ，次いでマグロ・イワシ・ミカンなどのかんづめもつくられるようになった。第2次世界大戦後は生産高も急激に増加し，国内の消費だけでなく多量に輸出されるようになった。

【栄養】かんづめは原料の生産地にできるだけ近い所で生産されるので，新鮮な原料を使用できる。したがって栄養の損失は少ない。製造工程中の加熱によってタンパク質・脂肪・糖質などは人体に吸収されやすい状態になっており，魚などは骨まで食べられるようになるのでカルシウムの補給源としてよい。ビタミン類もたいした損失はないが，加熱によりビタミンCは破壊されるので，ジュースやくだもののかんづめにはビタミンCが添加されているものが多い。

【利用法】かんづめは携帯保存食糧として発達してきたものであるから，かんをあけてすぐそのまま食べられるようにつくられたものが多い。日常の食事にはそのまま用いたり簡単に手を加えて種々の料理として用いたりする。代表的な利用法を次にあげる。①そのまま用いる(サラダ・あえ物・前菜・つまみ物にそのまま用いるなど)。②しる物。③煮物(水煮かんづめを用いれば好みの味にできる)。④焼き物(バター焼き・チーズ焼き・グラタン・照り焼き・塩焼き・幽庵(ゆうあん)焼きなど)。⑤揚げ物(かんづめのくせを消すのでよい利用法である。フライ・フリッターなど衣をつけるものは水煮のものを，コロッケには水煮・味付けどちらでもよい。和風・中華風の揚げ物にも使う)。⑥蒸し物(卵などをつなぎに入れて蒸す)。⑦ご飯・めん・パン用(ご飯にたきこんだり，いため合わせたりする，めんの上からかけたりいためたりする，パンにはマヨネーズ・バター・ケチャップなどを併用してペーストとして塗ったり，野菜をいっしょにはさんだりする)。なお，料理する場合には次のようなことに注意する必要がある。時間をかけない，新鮮な野菜と組み合わせてかんづめに不足しがちなビタミンを補給して栄養を強化し味をよくする，かんのにおいを消すためにかおりの強い野菜を用いる，なるべく上質の調味料を使う，味が平均化しているので家族の嗜好(しこう)に合うように味付けをするなどである。

【保存法】かんづめは長く保存できる食品ではあるが，保存は温度の低い所，温度差が著しくない所につねに置くことが望ましい。かんをあけたら一度に使ってしまうのがよいが，やむをえず残す場合は次のようなことに注意して保存する。①よく加熱して濃厚な味付けとし，別の清潔な容器に移してふたをしておく。②できるだけ冷暗所に保存する。③野菜の水煮は保存中にときどき水を取り換える。④コンビーフなどは形をくずさない。⑤いったんかんをあけるとなま物より腐敗が早いので，以上のようにして保存したものでも火を通してから食べることが必要である。なお，かんはあけるまえに清潔にぬぐい，清潔なかん切りを用いるようにする。〔泉　敬子〕

かんてい【鑑定】美術品・工芸品の制作年代・作者・真偽などを明らかにすることで，〈鑑識〉ともいう。室町時代に，足利義政(あしかがよしまさ)は画家や禅僧に書画を鑑定させたが，唐物(からもの)の鑑定家には能阿弥(のうあみ)・相阿弥らがいた。鑑定には，文献や経験による識別方法と科学的方法とがあるが，後者には顔料の化学分析，X線による内部調査，あるいは紫外線による画面の付着物，色彩の異常の検出などがあり，顕微鏡・赤外線・アイソトープ*も利用される。〔子安三喜男〕

かんてい【鑑定】訴訟事件の審判手続きにおいて，裁判官は専門的知識に基づいて判断しなければならない事がらについて，特別の学識経験者を選び必要な知識または

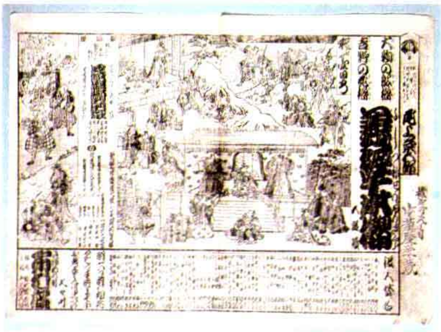
これに基づく判断を報告させることができる。この報告を命ぜられた者を鑑定人といい，鑑定人によって裁判官の知識・経験を補充すること，または鑑定人のした報告の結果を鑑定という。鑑定の対象は，人の精神・身体の状況，死亡の日時・原因，土地・建物の評価，器具の品質・性能など種々の事がらである。鑑定人は大学教授・医師・心理学者・技術者など各方面の専門家があたり，良心に従って誠実に鑑定することを宣誓しなければならず，秘密保持の責任もある。鑑定は，民事・刑事の裁判に用いられるが，特に刑事事件では，鑑定人は裁判所の許可を得て，他人の住居への立ち入り，身体検査，死体の解剖，墳墓の発掘，物品の破壊などを行なうことができる。検察官と弁護人は鑑定に立ち会うことができる。〔井上公耳〕

がんていけんさ【眼底検査】 網膜やその外側にあり血管に富んだ脈絡膜，および視神経(眼底で見える部分を視束乳頭という)などを検眼鏡を用いて検査することをいい，この際見える眼底のようすを眼底像という。検眼鏡には眼底像が倒立するが広い範囲の見える倒像検眼鏡と，直立像で拡大率の高い直像検眼鏡がある。眼底像を見る場合に重要な点は血管である。正常では血管壁は透明で，中を流れる血液がそのまま見えるが，血管に硬化などが起こると，その部分は不透明となり，種々の病的状態が出てくる。動脈硬化症・高血圧症・糖尿病などの診断の際の重要な検査である。〔氏原　弘〕

がんていしゅっけつ【眼底出血】 網膜または脈絡膜の出血。眼球内面は網膜におおわれ，その外側には血管に富んだ脈絡膜がある。脈絡膜出血はまれなので，ふつう眼底出血といえば網膜出血をさす。若年者では結核性の網膜静脈周囲炎による出血が多く，老齢者では高血圧・動脈硬化・糖尿病などによる出血が多い。また，貧血・白血病などの血液病や，腎炎(じんえん)　妊娠中毒などでも出血をみることがある。

カンディード ボルテール*の風刺小説。1759年の作。専制政治下の人間社会の不平等や矛盾を直接体験した作者が，〈すべては最善の状態にあり，この世界は正しい〉とするライプニッツの楽天思想を，社会批判を含ませつつ皮肉った作品である。カンディードは主人公の名。

かんていびょう【関帝廟】 中国，蜀(しょく)漢の武将関羽*(かんう)を祭る廟。関帝(関羽)は初代蜀漢の皇帝劉玄徳(りゅうげんとく)と生死の約束をしたが，魏(ぎ)の曹操*(そうそう)との戦いに敗れて捕えられた。しかし曹操の下で武功を立て，その功により美女・金銀を与えられたが，劉将軍への忠義は厚く，これをすべて辞退して劉軍に走った。このように義に厚く，財貨に淡白であるという故事から，武神として広く民間に信仰され，



勘亭流　市村座の絵番付。1856

各地に廟が設けられた。〔渡辺欣雄〕

カンティヨン［Richard Cantillon］(1680～1734)　アイルランド生まれの経済学者。パリの銀行家であり，イギリスよりもフランスの経済学者に影響を与えた。著書《商業一般の性質に関する主論》(1755)はケネー*の《経済表》に先がけて，経済の循環構造を明らかにしているが，長い間経済学界においてかえりみられることなく，1888年ジェボンズ*によって再発見された。彼は富を生活の必需品・便宜品と規定し，その源泉を土地と労働に求めた。商品の真実価値は商品の生産に用いられた土地と労働の量によって決定され，労働量はさらに土地の量に還元されるとし，市場価格と区別した。しかし，市場価格は利己心の発動によって究極的には真実価値に帰着するものとした。〔松浦　保〕

かんていりゅう【勘亭流】 歌舞伎(かぶき)で看板や番付などを書くのに用いられる書体。1779年(安永８)江戸中村座の手代岡崎屋勘六が書きはじめたもので，勘六の号を勘亭といったところから勘亭流という。右肩上がりの肉太な書体で，特に縦画が太い。現代では，一般には判読しにくいので，ほとんど装飾用になっている。

かんてつ【肝蛭】 扁形(へんけい)動物・吸虫綱に属する寄生虫。大きさ20～30mm×８～13mmで扁平葉状で口吸盤の部分が突出している。成虫は胆管系に寄生する。全世界のヒツジ・ヤギ・ウシなどに寄生するほか，少数の人体例が報告されている。虫卵は糞便(ふんべん)とともに排出され，水中で発育しミラシジウムという幼虫になる。中間宿主はヒメモノアラガイで，貝内に侵入したミラシジウムは，スポロシスト→レジア→娘レジア→セルカリアとなる。セルカリアは貝から遊出し，水べの水草に付着して，メタセルカリアとなる。家畜類はそのような草類を摂食して感染する。家畜産業には重要な寄生虫疾患である。中近東では住民がヤギなどの肝臓を生食する習慣があり，肝蛭が咽喉(いんこう)・後鼻腔(びこう)などに吸着し，呼吸困難・嚥下(えんげ)困難をきたし，まれに死亡することがあるという。肝蛭によく似た吸虫で巨大肝蛭・肥大吸虫が知られている。特に肥大吸虫は中国南部・インド・タイ・ボルネオ・スマトラなどに分布しヒトの小腸に寄生し重い病状をきたすことがある。これはヒシの実などに付着したメタセルカリアを取り込んで感染する。〔山本　久〕

カンテミール［Antiokh D.Kantemir］(1708～1744)　ロシアの詩人。啓蒙(けいもう)主義者であり，ピョートル大帝の改革を熱烈に支持し，保守的で頑迷(がんめい)な貴族や聖職者を９編の風刺詩で嘲笑(ちょうしょう)した。音節詩型を擁護した詩論のほか，古典やフランス文学からの翻訳も多い。外交官としてパリに駐在中に客死した。

カンテラ 油用燈火具の一種。ポルトガル語candela(燭台(しょくだい))のなまったもの。江戸時代は金属製か陶製で土びんのような口をしたものが，明治時代にはしんを立てる口金を装着したブリキ製のもの，さらに石油ランプ普及後は角形・筒形の手さげカンテラが用いられた。

カンデラ［candela］ 光度*の単位。記号cd　凝固点(2,042°K)にある白金の黒体*1m²における垂直方向の光度の60分の１の光度。これを１次標準器として，２次的に標準電球がつくられている。もとわが国では，ペンタン燈を法定標準光源として，その10分の１を１燭*(しょく)とする光度の単位が用いられていたので，カンデラを新燭とよぶ場合がある。

かんてん【寒天】 寒ざらしのところてん*の意で，隠元禅師が命名したという。ところてんは，テングサを煮て固めたもので，最初〈こころぶと(心太)〉といったのが，〈こころてい〉となまり，さらに〈こころてん〉から〈ところてん〉となった。寒天はところてんを凍らせたのち，天日に暖めて水分を蒸発させ，乾燥させたもの。角寒天・糸寒天・粉寒天の３種がある。ようかん・ジャム・ゼリー，その他菓子材料として重用され，工芸用・医療用など用途は広い。わが国の特産物で，おもに長野県で生産されている。〔佐藤友太郎〕

かんてん【官展】 官設美術展の略。1907年(明治40)開設の文展(文部省美術展覧会)に始まる，日本画・洋画・彫刻の３部門からなる総合展。文展初期の審査委員は，横山大観*・竹内栖鳳*(せいほう)・川合玉堂*・下村観山*・黒田清輝*(せいき)・浅井忠*・岡田三郎助*・中村不折*・高村光雲*・長沼守敬*ら各派を代表する美術家に，森鷗外*(おうがい)・岡倉天心*らの学者も加わって美術の社会的認識を広め，新人の登龍門(とうりゅうもん)としての役割も大きかった。しかし，審査員の人選，受賞を通じての紛争も多く，大正初期には二科会*・再興日本美術院*などの有力在野団体が生まれ，当初の総合性を欠くに至ったため，1919年(大正８)帝国美術院の創設に伴って帝展(帝国美術院展覧会)に改組された。1927年(昭和２)第４部として美術工芸を加えたが，無鑑査出品の低俗性が顕著になったため，1935年に松田源治文相は帝国美術院を

改組し，在野団体の有力作家を加えて無鑑査出品者の整理などの改革をめざした。これが美術界空前の大混乱を招き，1937年平生釟三郎(ひらおはちさぶろう)文相の再改組による帝国美術院の解消，帝国芸術院の設置によって収まり，文部省主催の新文展として毎年秋に開催されることになった。→日展
〔匠　秀夫〕

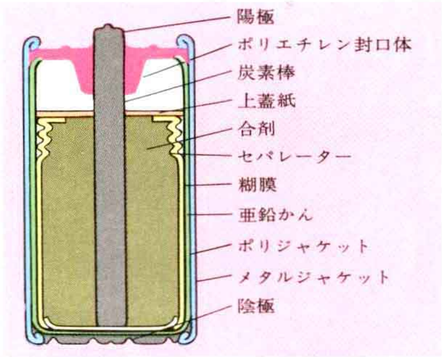
かんでん【官田】①律令(りつりょう)制下，皇室の用にあてた供御(くご)の稲をつくる田地。大化改新以前の屯倉*(みやけ)の系統を引き，宮内省が直轄した大和(やまと)(奈良県)・摂津(兵庫県・大阪府)に各30町，河内(かわち)(大阪府)・山城(京都府)に各20町あり，耕営には徭丁(ようちょう)を使役し田司を派遣して監督した。9世紀の中ごろ供御料の未進が著しかったので国司が全経営を監督することになった。②国家が王臣に与える位禄(いろく)・王禄などの公用にあてるため，879年(元慶3)畿内(きない)5か国に4,000町を設定し，直接あるいは間接経営によってその収穫を位禄などにあてた。〔星野良子〕

かんでん【感電】電流が流れている導体に触れたり，導体間に発生するスパークまたはアークによって，生体に有害な電流が流れることをいう。商用周波数(50または60ヘルツ)の交流を持続的に流した場合，1mAでははだに感じる程度であるが，5mAでは相当の痛みを覚え，10mAでは耐えられないほど苦しくなり，20mAでは筋肉の収縮が激しくなって被害者が回路から離れることができなくなる。50mAになるとかなり危険となり，100mAでは命を落とすようになる。人体への安全限界としては，多くの動物実験の結果からダチールが次のような式を発表している。$I=0.165/\sqrt{T}$ ただしIは電流(mA)，Tは通電時間(秒)を示し，通電時間が5秒以下のときに適用される。

感電によって生ずる傷害は電撃傷といわれる。全身傷害としては失神・昏睡(こんすい)・興奮などがあり，呼吸麻痺(まひ)・心臓麻痺などで感電死することがある。からだがぬれてよくアースされた状態にあるときや，左手もしくは体の左半部を通じて感電した場合に死亡することが多いといわれる。局所傷害としては，接触部の皮膚に特異な種種の程度の熱傷(電流斑(でんりゅうはん)という)や，電流の流入部位から放射状に広がる樹枝状の電流紋がみられる。

なお直流と交流を比べると低電圧のときは交流のほうが危険であり，100V以下の直流および40V以下の交流では死亡することがまれである。〔田村康男・朝倉了〕

がんてん【眼点】下等な無脊椎(むせきつい)動物にみられる，小さくて簡単な構造の視覚器官。実際には感光性のないものもある。たとえば，ミドリムシではべん毛の基部近くに赤色色素リポクロームが集まり，感光性があると考えられて眼点と名づけら



乾電池　マンガン乾電池


カント

れたが，眼点がむしろ光の通るのを妨げていて，光感受性のある感光点にかげりを与え，そのかげりの角度から光の方向がわかるといわれる。

かんでんち【乾電池】電解液を適当な吸収体に吸収させ，取り扱いを便利にした一次電池*。マンガン乾電池*・空気乾電池*・塩化銀乾電池・水銀電池などがある。一般に乾電池といえばマンガン乾電池をさす。

〔マンガン乾電池〕陽極には炭素と二酸化マンガンとを混合した陽極合成剤を用い，陰極は亜鉛でつくり，容器を兼ねている。電解質としては，塩化アンモニウムと塩化亜鉛とをペースト状にして用いている。陽極の炭素棒は，電導性をよくするために用いられ，ここにも電解質が含まれている。陽極・陰極の化学反応式は，次のとおりである。

陽極：$Zn \longrightarrow Zn^{++}+2e$

陰極：$2MnO_2+2H^{+}+2e \longrightarrow Mn_2O_3\cdot H_2O$

この化学反応によって放出されるエネルギーが電流として取り出される。このときの起電力は約1.5Vで，したがって，マンガン乾電池1個の電圧は1.5Vである。マンガン乾電池で高い電圧の得られるものもあるが，これは多くの電池を直列に接続して一つの容器に収めたもので，積層乾電池*とよばれる。普通のマンガン乾電池は，0℃以下になると性能が低下し，−20℃ではまったく働かなくなる。そこで，適当な薬品を加え，低温でも使用できるようにしたものがある。これを低温用乾電池という。

〔空気乾電池〕マンガン乾電池の二酸化マンガンを空気に置き換えたもので，多孔性の炭素に含まれる酸素がこの働きをする。マンガン乾電池よりも電圧の変化が少ないのが特徴である。

〔塩化銀乾電池〕陽極に塩化銀および銀線を，陰極に亜鉛を用い容器を兼ねる。電解液としては，亜鉛の塩類を主とする数種の塩類の溶液を用い，デンプンでのり状にしてある。第2次世界大戦中からアメリカで発達した。

〔水銀電池〕陽極に酸化銀，陰極に亜鉛，電解液として苛性(かせい)カリ溶液を使ったもので，電圧の変化が非常に少ない。
〔堀内和夫〕

カント［Immanuel Kant］(1724～1804) ドイツの哲学者。東プロイセンのケーニヒスベルク(現在のカリーニングラード)に馬具商の子として生まれた。両親，特に母の敬虔派(けいけんは)(プロテスタントの一派)の信仰はカントの心情に深く影響した。1732年敬虔派のコレーギウム-フリデリキアーヌムに入学。1740年ケーニヒスベルク大学に入学，クヌッツェンとシュルツにウォルフ哲学と神学を学び，ニュートンの自然哲学についても学ぶ。1747年より1754年まで家庭教師をするかたわら研究に打ち込み，1755年ケーニヒスベルク大学私講師となる。1760年代はヒューム*とルソー*の影響を受け，批判哲学の胎動期といえる。1770年《感性界および英知界の形式と原理について》により論理学・形而上(けいじじょう)学の正教授となり，1786年と1788年には学長となり，1796年冬まで講義した。ほとんどケーニヒスベルクから外に出たことがなかった。自分に対しては厳格な道徳的態度を生涯(しょうがい)もち続けたが，隣人に対しては明朗な人であった。静かな学究生活にあって唯一の波瀾(はらん)は1794年のウェルナー事件で，彼の著《単なる理性の限界内の宗教》が思想不穏当として，宗教担当の大臣ウェルナーの進言によりフリードリヒ2世の名で箝口(かんこう)令が出された。1795年《永遠平和のために*》を書く。また《学部の争い》は大学の内外に対して学問の権威と自由を主張した。カントは単なる書斎の哲学者ではなかった。

カントは啓蒙(けいもう)主義の完成者であると同時に克服者といわれる。〈理性〉を信頼し，理性能力の自己批判によってくずれることのない形而上学を打ち立てようとし，各認識能力に固有の原理を発見した，啓蒙主義の完成者である。それは逆に悟性を制限し，理性を内面的に無限なものとしてとらえ，感情に独自の意義を見いだして宗教的目的論的世界観を樹立することであり，ロマン主義*に道を開いたのである。批判哲学の関心は，①われわれはなにを知りうるか，②なにをなすべきか，③なにを期待しうるかという点にあり，これらを総括して，④人間とはなにか，であるといわれる。①は《純粋理性批判*》の課題であり，〈先天的総合的判断はいかにして可能であるか〉の解答がこの大著である。②は《実践理性批判*》，

③は②と連続する問いで《実践理性批判》および既述の《宗教論》が答える。④は人間学であるが，《判断力批判*》をも含めて《純粋理性批判》以後のカント哲学全体が答える，というべきである。批判哲学の根本問題は道徳的人間を軸として神と世界を貫く論理を発見・形成することにある。それゆえ〈人間とはなにか〉は〈神とはなにか〉の問いと関連づけて考えなければならない。また，カントの宗教の核心は敬虔な内面の純粋性にあった。それゆえ理性は宗教的理性でありながら，実践理性として論じられることになり，善(よ)き心・定言命法の道徳となる。しかも自律*する意志の主体，すなわち人格*は神の人格(ペルソナ)に類比され，人格に無限の価値が置かれる。《判断力批判》の課題は，有限なものとして切り捨てられた外なるものを，内なる無限なものにすくい上げることであった。カントの思索はつねに具体的であり，それゆえ二律背反*・根源悪の問題に直面した。なお《全集》はアカデミー版が標準的。➔批判哲学　〔中川　誠〕

かんど　**【感度】**　⇨露光

カンドー　［Sauveur Antoine Candau］(1897〜1955)　フランスのカトリック司祭。第1次世界大戦に従軍して入信に傾いた。1919年パリ外国宣教会にはいり，さらにローマのグレゴリオ大学で神学を学んだ。1925年(大正14)来日し，公教大神学校を創設し日本人司祭の養成にあたった。第2次世界大戦で帰国し，従軍して負傷。1948年(昭和23)再び来日し，著述・説教・講演など，布教に専心した。日本名は貫道・苅田(かりた)澄。著書《思想の旅》《世界のうらおもて》など。また《羅和(らわ)字典》を編集。

かんとう　**【竿燈】**　秋田市で8月5日から7日にかけて行なわれる七夕(たなばた)祭。以前は旧暦の7月7日に〈眠り流し〉と称して1年じゅうの睡魔を送り流す呪術(じゅじゅつ)的行事で，農作物の豊作を祈る農耕儀礼として伝えられる。1本の太いさおに9本の横竹を結び，これに46〜48個のちょうちんを米俵のように9段に分けて積み重ねたもので，重さは50〜60kgもある。笛・太鼓の囃子(はやし)に合わせ，若者たちの肩・額・あご・腰などにすえて，町じゅうを練り歩く。　〔直江広治〕



竿　燈　秋田市



龕　燈

かんどう　**【換頭】**　日本の雅楽*の理論用語。楽式上の反復に関するもので，西洋音楽でいえばダル-セーニョにあたる。ある曲が一通り演奏されて反復されるとき，返付(かえしづけ)として指定されたところまでもどって，換頭の指示のあるところまでをくり返す。すなわち，1回めと2回めとでは頭の部分が別のものに置き換えられる。これに対して，重頭といえば，曲の頭の前に別の短い楽句が挿入されて同じものがくり返され，ダ-カーポに相当する。　〔山口　修〕

かんどう　**【勘当】**　江戸時代，親族関係の断絶行為を意味した語。軽微の犯罪につき罪を勘(かんが)えて刑を当てることが語源。平安末期から鎌倉・室町時代にかけて，主従ないし親族関係の断絶に勘当・不孝(ふきょう)・義絶などの語が用いられたが，江戸時代の勘当はその後身である。勘当は同居の子の放逐をさし，主たる目的は子に対する親の懲戒であった。そのため着物をはぎ，一重紙子*に着替えさせて追い出すのが普通であった。勘当によって親子の関係は切れ，その子は相続権を失う。法律的効果を発生させるためには，武士・庶民ともに町奉行所(ぶぎょうしょ)に願い出て，公簿に登録されなければならなかった。武士の場合，封禄(ほうろく)相続後の勘当は認められなかった。なお，主従・師弟関係の断絶も勘当と称した。➔義絶　➔久離　〔安達淑子〕

がんどう　**【龕燈】**　ろうそく用燈火具の一。龕燈ちょうちん・強盗(ごうとう)ちょうちんの略。おもに江戸時代に目明(めあかし)などが探照用に用いた一種の携帯用燈火。金属製の筒で，取っ手がしりについている。内部にはろうそくがつねに垂直に立ってあかりが消えないように2個の鉄輪(かなわ)がしくまれている。明治時代以後，しだいに姿を消した。

かんとうい　**【貫頭衣】**　原始衣服の一種。身長の2倍ほどの白布を二つに折り，折り目のところに穴をあけて首を出す。《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》に〈貫頭衣之〉の文字があり，古代人の通常服だったとする。そでがないこと，わきがあいていることなど，のちの闕腋*(けってき)の袍*(ほう)の基をなすといわれる。その形を最もよく残すのは千早(ちはや)で，《北野天神縁起絵巻*》の中に，貫頭衣そのままの千早を着た男が描かれている。なお，1枚の布や毛皮のまん中に穴をあけ，頭を通して着用する衣服は，今日では中南アメリカ・太平洋地域・東南アジア・西アジアなど，暑熱の地方に分布する。　〔河鰭実英〕

かんとうかんれい　**【関東管領】**　関東10か国を管掌した室町幕府の職名。幕府を京都に開いた足利尊氏*(あしかがたかうじ)は武士の本拠である東国を重視して，長子義詮(よしあきら)を鎌倉に置き関東管領とした。義詮のあと弟基氏(もとうじ)が継ぎ，以後その子孫が世襲した。基氏以後は独立化の傾向を強めて鎌倉公方*(くぼう)と称し，執事上杉(うえすぎ)氏*を関東管領と称した。基氏の曾孫(そうそん)持氏が永享の乱*で滅んでからは形骸(けいがい)化し，管領職は上杉氏から越後(えちご)(新潟県)の長尾景虎(かげとら)(のち上杉謙信*)に譲られて有名無実となった。　〔大三輪龍彦〕

かんとうぐん　**【関東軍】**　満州に配置されていた日本陸軍の部隊。日露戦争後，関東州および南満州鉄道の警備にあたってきた関東都督府陸軍部が，軍・政分離政策によって1919年(大正8)分離独立し，関東軍司令部が旅順に設けられた。当時の兵力は1個師団と6個独立守備隊を基幹とするにすぎなかったが，日本の大陸政策の前進基地として重要な役割を果たしてきた。満州事変後，司令部は新京(長春)に移り，司令官は全権大使を兼ねて満州国の実権を握った。このころ関東軍は泣く子も黙るとその精強をうたわれ，また，しばしば中央の意に反した積極的行動に出たので，関東軍は独走するものの比喩(ひゆ)にも使われた。

関東軍は元来ロシアを仮想敵とする〈北向きの軍隊〉であり，これが基本的性格である。国境によりソ連と直接相対するようになってからは対ソ戦備が急速に進められた。1941年(昭和16)夏，独ソ戦争に策応するため，関東軍特別演習の名のもとに，70万の大兵力を集中して対ソ戦を準備した。しかし，第2次世界大戦には逐次精鋭兵団を抽出されてまったくの張り子の虎(とら)となり，末期にはソビエト軍の進攻の前に完敗した。　〔森田　哲〕

かんとうごぶんこく　**【関東御分国】**　現在解釈に二つの説がある。①鎌倉時代，将軍家の知行国*とする説。御分国の国司には幕府の推挙する御家人が任命され，幕命に従って国務を行なった。《吾妻鏡(あずまかがみ)》によれば，1186年(文治2)3月の源頼朝(よりとも)知行の国々は相模(さがみ)・武蔵(むさし)・伊豆(いず)・駿河(するが)・上総(かずさ)・下総(しもうさ)・信濃(しなの)・越後(えちご)・豊後(ぶんご)の9か国であったというが，国名や国数は時期によって異なる。ただし，伊豆・相模両国は永代知行国となった。②源頼朝が朝廷から認められた東国沙汰(さた)権に基づいて支配していた東国諸国とする説。遠江(とおとうみ)・駿河・伊豆・甲斐(かい)・相模・武蔵・

安房(あわ)・上総・下総・常陸(ひたち)・信濃・上野(こうずけ)・下野(しもつけ)・陸奥(むつ)・出羽(でわ)の15か国がこれに含まれる。〔飯田悠紀子〕

かんとうごりょう【関東御領】鎌倉時代，将軍家が本家*または領家*として領有していた所領，すなわち将軍家の所領をいう。主として平家没官領からなり，承久(じょうきゅう)の乱後は，京都方の公家(くげ)・武家から没収した所領も加えられたらしい。鎌倉幕府の経済的基礎の一つであって，将軍は全国に散在するこの所領を御家人*に自由に給与することができた。

かんとうさんち【関東山地】関東地方の西境に，中部地方にまたがって，ほぼ北西から南東方向に走る山地で，主峰に三国山(1,828 m)・甲武信ケ岳(こぶしがたけ)(2,483 m)・大菩薩嶺(だいぼさつれい)(2,057 m)などがある。丹沢山地は含めないこともある。東側には鏑(かぶら)川・神流(かんな)川などの利根(とね)川支流や荒川が流出し，西側には千曲(ちくま)川や富士川の支流の笛吹川が流れ出る。おもに古生層や中生層などで構成され，周辺部は第三紀層からなる。山地を横断して関東地方と中部地方を結ぶ交通路が古くから開け，十国峠・十文字峠・雁坂(かりさか)峠・大菩薩峠などが知られていたが，いまはすたれたものが多い。東京に近いため登山・ハイキングなどで有名な所が多い。〔高野　繁〕

かんどうし【感動詞】品詞の一種。自立語で活用がなく，独立語となる。感嘆詞・間投詞などともいう。通常，次のように類別される。①感動を表わす：〈ああ〉〈あら〉〈あれ〉〈おお〉〈おや〉〈そら〉〈ほう〉〈ほら〉〈まあ〉など。②よびかけ：〈おい〉〈おうい〉〈こら〉〈さあ〉〈ねえ〉〈もしもし〉など。③応答：〈いいえ〉〈いえ〉〈ええ〉〈はあ〉〈はい〉など。このほか，〈おはよう〉〈こんにちは〉のような，あいさつのことばも感動詞に準じるものである。感動詞は独立性の強い単語で，一つの感動詞で一つの文となる場合もある。〔市川　孝〕

かんとうしゅう【関東州】1905年，日本が日露戦争の結果として，ロシアから権利を継承した中国の遼東(りょうとう)半島西南部を占める租借地。関東庁が旅順に置かれ，その下に民政署が数か所設けられた。第2次世界大戦でソ連が占領したが，1950年の中ソ友好同盟相互援助条約で中国に返還された。

かんとうじゅうはちだんりん【関東十八檀林】関東にある浄土宗の18の寺。江戸時代には同宗僧侶(そうりょ)の教育機関であった。1602年(慶長7)徳川家康(いえやす)が阿弥陀如来*(あみだにょらい)の18願にちなんで，増上寺*の存応に命じて定めたといわれているが，確立したのは天和年間(1681～1683)以後である。檀林には寺格の差があり，増上寺を最上位とし，貫主は大僧正に任ぜられ，緋衣(ひえ)の綸旨(りんじ)を受けた。光明寺・伝通院・常福寺・大光寺・弘経(ぐぎょう)寺(飯沼(いいぬま))が紫衣檀林でこれに次ぎ，他は香衣檀林と称した。これは檀林の住持が紫衣・香衣の着用を許されたためである。十八檀林は以下のとおり。〔藤本昌子〕



関東大震災
《大震災の印象》
有島生馬画

増上寺	江戸芝(東京都)
伝通院	江戸小石川(〃)
霊巌寺	江戸深川(〃)
霊山寺	江戸本所(〃)
幡随院	江戸下谷(〃)
大善寺	武蔵滝山(〃)
勝願寺	武蔵鴻巣(埼玉県)
浄国寺	武蔵岩槻(〃)
蓮馨寺	武蔵川越(〃)
善導寺	上野館林(群馬県)
大光院	上野太田(〃)
光明寺	相模鎌倉(神奈川県)
常福寺	常陸瓜連(茨城県)
大念寺	常陸江戸崎(〃)
弘経寺	常陸結城(〃)
大巌寺	下総生実(千葉県)
弘経寺	下総飯沼(〃)
東漸寺	下総小金(〃)

かんとうだいしんさい【関東大震災】1923年(大正12)9月1日午前11時58分，関東地方の全域を襲った大地震。全世界の地震計に記録され，被害は東京・神奈川を中心に，千葉・埼玉・静岡・山梨・茨城の1府6県に及び，死者99,331，負傷者10万3,733，ゆくえ不明43,476，焼失家屋44万7,128，全壊家屋12万8,266，半壊家屋12万6,233，津波による流出家屋868，推定損害は約100億円といわれた。地震後発生した火災で被害はさらに大きくなり，東京では強風下に40数時間火災が続き，本所被服廠(しょう)跡には焼死者38,000人の多数に上った。交通・通信が途絶し，流言が流れ，社会不安が起こったため，翌2日に成立した山本権兵衛(ごんのひょうえ)内閣は，神奈川・東京に戒厳*令を敷き，支払い延期・暴利取締令を発布し，臨時震災救護事務局を設置した。

第1次世界大戦後，1920年・1922年の恐慌*に直面していた経済界はさらに混乱し，いわゆる震災恐慌をひき起こした。政府は手形割引損失補償金の支払いを行なうなど銀行資本を救済・収拾したが，人心の不安は治まらず，流言が飛びかい，朝鮮人集団虐殺，甘粕(あまかす)事件*，亀戸(かめいど)事件*など官憲による社会運動家虐殺事件も発生した。大震災はその後の日本の方向にも多大な影響を与え，1927年(昭和2)の金融恐慌*を招き，また右翼のテロリズム*，資本独占の強化，労働運動の分裂など社会対立を激化させた。〔千野境子〕

かんとうだき【関東煮】⇨おでん

かんとうちほう【関東地方】日本を分ける8地方の一つで，首都東京の所在地であり，東京都と栃木・群馬・千葉・埼玉・茨城・神奈川の6県を含み，面積32,309 km²で，全国の8.4％，人口3,439万で，全国の30％を占める。1 km²あたりの人口密度は1,064人で，8地方中最大であり，日本ばかりでなく，世界的にみても，最大の人口密集地域である。地名の由来は，古代から中世にかけて近畿(きんき)地方と中部地方の境界の近くにあった愛発(あらち)・鈴鹿(すずか)・不破(ふわ)のいわゆる〈三関〉の東という意味である。また，いまの関東地方に対して〈坂東(ばんどう)〉という呼び名があり，これは足柄坂と碓氷(うすい)坂の東という意味であるが，この名称は，室町時代のころからあまり使われなくなり，いつのまにか関東という名称が使われるようになった。そして，関東地方へはいる道も，鎌倉時代のころから足柄越えがすたれて，箱根越えに代わり，江戸時代になって，箱根の関が置かれた。

〔地形〕西部には，関東山地*や丹沢山地，富士火山帯に属する箱根山や浅間山があり，北部には，三国山脈や那須(なす)火山帯に属する那須岳・男体(なんたい)山・赤城(あかぎ)山・榛名(はるな)山・妙義山などの諸火山や，阿武隈(あぶくま)山地があって，これらの山々がわが国最大の広がりをもつ関東平野*を囲んでいる。関東平野の面積はおよそ15,000km²で，その大半は，わが国第2の長流利根(とね)川の流域で，那珂(なか)川・江戸川・荒川・相模(さがみ)川なども流れているが，武蔵野(むさしの)台地や常総台地・相模原台地をはじめ，台地や丘陵が目だち，一面に平らな平野ではない。また，阿武隈山地から分かれた八溝(やみぞ)山地の末端は，高さ876 mの筑波(つくば)山となって，関東平野の中に孤立してそ

びえている。関東平野の表面は〈関東ローム〉とよばれる赤色の火山灰土でおおわれているが，そのさらに上に新しく積もった黒色の火山土があって，腐植土を含み，これを〈黒墨〉といっている。関東地方の東と南は太平洋に臨み，東の海岸線は利根川の河口の銚子(ちょうし)半島を除いて単調で，九十九里浜のような砂浜海岸があるが，南には大きな出入りがあり，房総・三浦の２半島が突出して，東京湾と相模湾をいだいている。太平洋上には伊豆(いず)諸島と，東京から約1,000km南にあたる小笠原(おがさわら)諸島がある。火山地帯には，箱根・草津・伊香保・水上(みなかみ)・日光湯元・鬼怒川(きぬがわ)・塩原・那須などの温泉も多く，箱根・鎌倉・日光などは国際的な観光地として知られている。富士箱根伊豆・秩父(ちちぶ)多摩・上信越高原・日光の４国立公園が，周辺の山地を中心として指定されており，富士箱根伊豆国立公園は，伊豆諸島を含む。また最近は小笠原諸島の観光開発が新しい話題となっており，1972年(昭和47)に，わが国の27番目の国立公園として，小笠原国立公園が指定された。

〔気候・生物〕全体として温暖な表日本式気候で，年平均気温は13～15℃であり，伊豆諸島の南端に近い八丈島では18℃，小笠原諸島の父島では22℃となる。降水量は平均1,400mm前後であり，降雨は６月の梅雨のときと９月の台風のときに最も多い。山地は年降水量が2,000～3,000mmとなり，伊豆諸島も3,000mmで多雨地域の一つである。雪は北部山地を除いて一般に少なく，八丈島では年に１回ぐらいであるが，小笠原諸島はまったく降雪をみない。冬の〈からっ風〉とよばれる北西の季節風と，夏の雷雨はこの地方の名物で，また水分を含みやすい関東ロームでは，冬に霜柱がよく立つ。

関東地方の動物や植物は暖地系のものがおもで，山地にはツキノワグマ・イノシシ・ニホンジカなどが一般にみられ，丹沢山には特別天然記念物のカモシカがおり，冬にはオットセイが銚子沖まで南下してくる。クマゼミやタマムシは関東地方が北限で，海ではイセエビが銚子付近から北へ行くと見られなくなる。埼玉県浦和市野田の白サギの繁殖地や，伊豆諸島南端の鳥島のアホウドリが特別天然記念物に指定されているが，野田の白サギは最近付近の道路を通る自動車の騒音などのために，ほとんど寄りつかなくなった。

クヌギやケヤキなどの雑木林と，ススキやカヤの茂る武蔵野は，関東地方の代表的な植物の姿を示しているが，いまでは住宅地の開発によって，しだいにそのおもかげが失われてきた。浦和市田島ケ原のサクラソウ自生地は特別天然記念物に指定されている。伊豆諸島や小笠原諸島には，ビロウやタコノキなどの亜熱帯植物が見られる。

〔第１次産業〕台地には畑，低地には水田が多く，その比率は45：55である。茨城・栃木・千葉の３県を除いて，米は自給できない。畑にはサツマイモ(千葉県)・ラッカセイ(千葉・茨城県)などをおもにつくっている。関東地方は，かつてはわが国の麦類の主産地であったが，最近は水田の裏作として麦類を作ることが少なくなり，これは全国的な傾向ではあるが，関東地方ではそれが特に目だち，最近まで大麦・小麦を合わせて，その収穫量は，茨城・栃木・埼玉・群馬・千葉の順に，それぞれ全国の１位から５位を占めていたのが，1974年には茨城(２位)・栃木(４位)・群馬(６位)・埼玉(８位)・千葉(15位)というように地位が低下し，主産地は北海道と九州地方に移る傾向がある。東京や横浜などの大都市を控えて，野菜・草花の栽培や乳牛・ブタの飼育が盛んで，乳牛の頭数では群馬県が北海道に次いで２位，千葉県が３位，ブタは茨城・千葉・群馬・埼玉の各県が頭数で全国のそれぞれ１，３，５，８位を占めている。栃木県から茨城県にかけて，那珂川流域地方には葉タバコの産が多く，茨城県の葉タバコの収穫量は全国４位であり，ミカン(神奈川県)・リンゴ(群馬県)・日本ナシ(千葉・茨城・埼玉県)・ウメ(群馬県)・クリ(茨城県)・ビワ(千葉県)などの果実類もつくられている。タイマやカンピョウ・トウガラシは栃木県，コンニャクイモは群馬県の特産である。また埼玉県と茨城県の丘陵地には茶が多くつくられ，埼玉県の収穫量は全国の６位を占めている。

寒暖両流が海岸を洗い，大消費地を控えているので，サバ・ブリ・サンマなどの近海漁業が盛んで，銚子や三浦を基地とする遠洋漁業もよく発達している。東京湾ではノリの養殖が行なわれているが，最近は工場の廃水などによる海水の汚染や埋め立てなどのために減産しており，かつては全国一を誇った東京都のノリの収穫はいまでは皆無で，千葉県が全国で４位となっているにすぎない。

〔第２次産業〕地下資源のおもなものは，日立鉱山の銅，秩父鉱山の鉄，千葉県の飯岡(いいおか)および忍坂の砂鉄などで，足尾鉱山(銅)や常磐(じょうばん)炭田は，最近閉山してしまった。このほか，埼玉県秩父(ちちぶ)市や東京都の日の出村をはじめ，各地に石灰岩があり，栃木県の葛生(くずう)町では，マグネシウムの原料であるドロマイト(苦灰岩)を産する。これらの地下資源は，砂鉄や石灰岩を除いて必ずしもその量が豊富とはいえないが，京浜工業地帯は，明治初期の官営工場という歴史的伝統と，首都東京の存在という有利な条件によって発達し，交通や労働力の点でも恵まれて，全国の工業出荷額の20.8％を占める日本一の工業地帯となっており，機械・金属・化学・食料品の部門が特に目だち，家庭用電気製品や印刷製本工業がきわめて高い比率を示している。しかし，最近は過密化による交通難や，地下水の大量くみあげによる地盤沈下，工場の廃水や有毒ガスによる公害など，多くの問題が発生し，その対策として工場の分散を図って宇都宮(うつのみや)や熊谷(くまがや)の工業団地がつくられ，工業整備特別地域の指定を受けて茨城県の鹿島臨海工業地帯が建設中である。また茨城県北東部には，日立鉱山の銅をもとに，日立製作所を中心として独自の発達を遂げた日立工業地帯がある。

関東平野の北西部の台地からその背後の山麓(さんろく)地帯にかけては，桑園が多く，ここから中央高地にかけては日本最大の養蚕地帯の一部になっている。製糸業は熊谷・高崎・前橋・富岡などに，絹織物業は八王子・秩父・伊勢崎・桐生(きりゅう)・館林(たてばやし)・足利(あしかが)などが盛んであるが，最近は化学繊維の比率が高くなっている。このほか利根川の下流地方では，千葉県の野田・銚子を中心にしょうゆの醸造が盛んで，佐原では酒，流山ではみりんをつくっている。また栃木県の益子焼(ましこやき)，埼玉県各地の雛人形(ひなにんぎょう)や桐(きり)だんす，つりざお，行田のたび，栃木のげた，箱根の工芸品，茨城県各地の花火などの郷土産業的な特産物が多い。行田のたびは，いまは最盛期の５分の１程度の生産で，たびに代わって既製服がつくられている。

〔交通・都市〕東京を中心として，東海道・東北の両幹線や東海道新幹線をはじめ，鉄道が四方に伸び，郊外電車もよく発達している。大阪までの国道１号線，青森までの国道４号線のほか最近は東名・中央などの高速道路が自動車交通の上で重要な役割をになっており，東京都内の交通も首都高速道路と地下鉄に主力が移りつつある。横浜・東京・川崎には貿易港が整備されており，東京国際空港は世界の航空路の一中心となっているが，すでに内外旅客機の発着によって飽和状態となったので，千葉県の成田に新空港が建設されている。1,130万という世界一の都市人口をもつ東京と，262万の横浜のまわりには，浦和・大宮・市川・船橋・松戸・横須賀(よこすか)・鎌倉・藤沢などの多くの衛星都市があり，最近は東京や横浜からのこれら都市への人口の流出が多く，東京と横浜にはさまれた川崎は，99万の人口を擁して，百万都市に近づいている。内陸には，前橋・高崎・宇都宮・水戸(みと)のように，旧城下町から発展して，その地方の中心都市となっている都市が目だっている。東京を中心とするこれらの都市とその周辺地域の根本的な整備および有機的な結合を図るために，1956年(昭和31)から首都圏の建設が始まっており，関東の１都６県と山梨県がその範囲に定められている。→241ページ(地図)
〔浅井得一〕

かんとうてつどう【関東鉄道】茨城県南部で地方鉄道とバス路線網を経営する交通企業で，1965年(昭和40)に常総筑波(つくば)

鉄道と鹿島(かしま)参宮鉄道が合併して成立した。鉄道は営業キロ数122.8。常総線(取手～下館(しもだて)間，1913年(大正2)常総鉄道により開業)，筑波線(土浦～岩瀬間，1918年筑波鉄道により開業)，鉾田(ほこた)線(石岡～鉾田間，1914年鹿島参宮鉄道により最初の部分が開業)，龍ケ崎(りゅうがさき)線(佐貫(さぬき)～龍ケ崎間，1900年(明治33)龍ケ崎鉄道により開業)がある。〔青木栄一〕



関東平野
埼玉県栗橋町付近上空から見た関東平野の大観。広大な平野を貫流する大動脈利根川(左)に渡良瀬川(右)が合流する。その下流に東北本線(上方)と国道4号線がかかる

かんとうへいや【関東平野】 関東地方*の大部分を占め，1都6県にまたがる日本最大の平野。北から西にかけて山地に囲まれ，山地の前面には丘陵が平野に向かってゆるやかに傾斜している。西の関東山地*の東縁には海抜100～200mの多摩・狭山・加住・加治・高麗(こま)・比企などの丘陵があり，東に行くにしたがって低くなっている。房総半島には房総丘陵があり，愛宕(あたご)山(405m)のような400m前後の山がある。これらの丘陵は第三紀層の基盤の上を火山灰による関東ローム層がおおっている。丘陵に続く平野の周辺部には相模原(さがみはら)・武蔵野(むさしの)・常陸(ひたち)・両総などの台地が分布し，平野の最も広い部分を占めている。これらの台地は洪積(こうせき)台地で平野の中心部に向かってゆるやかに傾斜し，第三紀層を基盤とし，その上に陸成層または海成層，特に浅海性の堆積物(たいせきぶつ)の砂礫層(されきそう)や砂層がのり，武蔵野台地の山手台地では関東ローム層の下に，粘土や砂からなる〈東京層〉とよばれる地層があり，海生の貝の化石を含み，洪積世の時代に現在の鹿島灘(かしまなだ)の方向に湾口を開き，湾の奥は川越付近にまで達していた〈古東京湾〉に堆積したものであることを物語っている。武蔵野台地は，関東山地との接触点の青梅(おうめ)市の海抜190m付近をかなめとして扇状に広がる台地で，東に傾斜し，東部では三角州の性格をもつ。これらの台地の表面近くにのる関東ローム層は火山灰によるもので，北部では浅間山をはじめ，榛名(はるな)・赤城(あかぎ)・男体などの火山により，南部では箱根火山・古富士などの噴出によるものである。そのため，関東ローム層の堆積は，これらの火山に近づくほど厚く，粒子も西部ほどあらくなる。これらの台地は，山手台地が目黒川・渋谷川(古川)などの小河川によって芝白金台・麻布台・麹町台(こうじまちだい)などに刻まれ，小台地に分けられている。台地面は水利が悪く，地下水面も低く，主として畑作が行なわれて第2次世界大戦前までは養蚕が盛んであったが，戦後は近郊農業が主となり，最近は急速に市街地化している。台地の末端は急崖(きゅうがい)をなして沖積地(ちゅうせきち)に続く。相模原台地の南端は30～50mのがけを，武蔵野台地の東端は約20mのがけを，大宮台地の南端は約13mのがけを，平野の中心部にある常陸台地西端の古河市付近では約15mのがけをつくっている。台地とこれを取り巻く丘陵は埼玉県栗橋(くりはし)付近を中心にゆるやかに傾斜しており，これは栗橋付近を中心として，平野が造盆地運動をしていることを物語る。台地の間には利根川をはじめとして鬼怒(きぬ)川・那珂(なか)川・相模川のように太平洋に直接流入する河川と，荒川・多摩川のように東京湾に流入する河川とがある。これらの川筋は沖積平野を形成し，特に荒川・江戸川の下流地域の低地は海面下のいわゆる〈0(ゼロ)メートル地帯〉を形成している。利根川は，かつては東京湾に流入していたものが，江戸時代に江戸の町々を洪水(こうずい)から守るため，人工的に鬼怒川の下流の流路につけ替えられたもので，以前の東京湾に流れていた流路は現在，古利根川となっている。沖積地は主として水田になっているが，南部は東京の工業地区をなし，人口過密地域となっている。また，東京湾沿岸は埋め立てが進み，東京湾を取り囲む重化学工業地帯の形成が進行している。関東平野の開発は古く，武蔵野台地には奈良時代にすでに朝鮮からの帰化人の定住があったが，本格的な開発は江戸時代にはいってからで，明治維新後，東京が近代日本の首都となってからは政治・経済・文化などあらゆる分野での発展が急速に進んでいる。〔味沢成吉〕

がんどうりゅうかてっこうしょう【含銅硫化鉄鉱床】 オウテッ鉱*またはジリュウテッ鉱*(これらはいずれも鉄とイオウの化合物で，リュウカテッ鉱*で総称される)に伴ってオウドウ鉱*が存在する鉱石をガンドウリュウカテッ鉱という。この鉱石が層状をなして結晶片岩*の片理*面，または水成岩の層理面に沿って存在している鉱床を含銅硫化鉄鉱床または層状含銅硫化鉄鉱床とよんでいる。この鉱石のおもな有用成分は銅およびイオウであり，オウテッ鉱またはジリュウテッ鉱の結晶の間を埋めてオウドウ鉱が存在している。少量のセンアエン鉱・ホウエン鉱などを伴うこともある。含銅硫化鉄鉱床として，わが国においては愛媛県別子鉱山，茨城県日立鉱山，北海道下川鉱山が代表的なものである。外国では，ドイツのラムメルスベルク鉱山，スペインのリオティントー鉱山が著名である。この種の鉱床をキースラーガーともいう。ドイツ語でキースはオウテッ鉱，ラーガーは層の意である。〔今井秀喜〕

かんとうローム【関東ローム】 関東地方一帯に分布する赤かっ色の火山灰土。赤土ともいう。洪積(こうせき)世に箱根・富士などの火山の噴出物が風で運ばれ，主として陸上に堆積(たいせき)した地層(最厚約15m)で，赤かっ色を呈するのは風化が進んで，含まれている鉄分が酸化したためである。下位から多摩ローム・下末吉(しもすえよし)ローム・武蔵野(むさしの)ロームおよび立川ロームに細分され，それぞれ同名の段丘堆積物と関係づけて研究されている。〔平山　健〕

かんとく【簡牘】 中国古代における書写材料。木または竹の細長い札で，これをなめし皮または絹糸のひもで編んで冊(さく)(策)とする。紙の発明以前の書物にあたる。また，木の方版の，1尺四方の大きさで，尺牘(せきとく)とよばれるものがあり，後世これが書簡の意に用いられるようになった。簡の大小・寸法は書写の内容目的に応じて規定があり，詔勅・典籍は長く，零細な記録用のものは短小である。書体も正式のものは篆隷(てんれい)，略式のものは草書を用いている。戦国時代の楚(そ)の竹簡が湖南省長沙(ちょうさ)で発見されたのが最も古く，漢・魏(ぎ)・晋(しん)代のものが多数出土している。歴史考証ばかりでなく，書の研究にも役だつ貴重な資料である。なお，簡牘は日本でも古く用いられ，平城宮址(きゅうし)からは多数の木簡が出土している。〔中田勇次郎〕

がんとくせん【岩徳線】 岩国～玖珂(くが)～櫛ケ浜(くしがはま)間の国鉄線。営業キロ数43.7。1929～1934年(昭和4～9)開業。山陽本線岩国～徳山間の短絡線として建設され，全通後山陽本線の一部となったが，急勾配(こうばい)で曲線区間が多いため海岸回り旧線の複線化とともに，ローカル線に転落した。

かんどこうか【乾土効果】 土壌(どじょう)を乾燥すると土壌有機物が微生物によって分解されやすくなり，乾燥後水を補うとアンモニアが生成される。この乾燥処理によってアンモニアを生成する現象を乾土効果という。乾土効果によってアンモニア態窒素の生成する量は，多い場合で風乾土100gあたり30～50mg，通常の沖積(ちゅうせき)水田では5～10mgである。これは全窒素の2～10%に相当する。いま10アールあたりの風乾土壌の量を10万kgとすると，10mg/100g風乾土により得られるアンモニア態窒素の量は10kgとなる。〔浜田龍之介〕

カント-ラプラスのせいうんせつ【カント-ラプラスの星雲説】 太陽系の起源について，ドイツの哲学者カント*の考えをフランスの数学者ラプラス*が改め，発展させた仮説。この考えによれば太陽系の前身は回転する高温ガスのかたまり(原始星雲)で，アンドロメダ星雲*のような渦状(かじょう)星雲がその例であるとする。このガスのかたまりは冷却すると自身の重力によって収縮し，しだいに回転運動が早くなる。その結果遠心力が重力に打ち勝って，本体からガスが噴出し，まわりを巡る。中心部に残った物質はさらに収縮を続けて太陽になり，外に飛び出したかたまりは冷えて惑星になったという。〔磯部琇三〕



カントリー-アンド-ウェスタン　テネシー州ナッシュビルのグランド-オール-オプリーで演奏するハンク-スノーと彼の楽団レインボー-ランチ-ボーイズ

カントリー-アンド-ウェスタン［Country and Western］ アメリカのポピュラー音楽の一。ウェスタン音楽，また単にカントリーともいわれ，C&Wの略語が広く用いられている。アメリカ西部と南東部山岳地帯の民俗音楽の一つで，イギリスやヨーロッパ諸国からアメリカ大陸に渡ってきた開拓者たちの数々の民謡や賛美歌をミックスして生まれた。

19世紀半ばゴールドラッシュ*が起こり，さらに南東部・西部の森林や鉱山の開拓・開発，また鉄道の敷設が活発に行なわれたが，それらの仕事に従事する人々の間で多くの歌がうたわれて，従来あった音楽に新しいカラーを加えていった。1日のいこいを求めて人々が集まる酒場(ホンキートンク)では，4～5人編成のバンドが出演し，ホンキートンク-メロディー(おもにピアノを中心とするディキシーふうの音楽)やバーンダンス(スクエアダンス)，またフィドル(バイオリン)・5弦バンジョーを中心とする音楽が演奏された。カントリー-アンド-ウェスタンはこうした開拓者たちの間で始まり，時間がたつにつれてエンタテイナー的な性格をもつようになってきた。1900年代にはいると，民間放送の援助があって，シカゴ-ナショナル-バーンダンスが始まり，スクエアダンス-ミュージック・ストリンク-バンド・カウボーイ-ソングが次々とショーの中心となった。その後1925年末，現在のテネシー州ナッシュビルでWSM放送の主要音楽番組グランド-オール-オプリー*が始まり，〈カントリー-ミュージックUSA〉とよばれるめざましい活動を続けている。

カントリー-アンド-ウェスタンの特色としてはしばしば3S，すなわち〈Simplicity(素朴(そぼく))〉〈Sadness(悲哀)〉〈Sincerity(誠実)〉があげられる。今日，カントリー-アンド-ウェスタンは多方面に発展的な歩みを続けており，全米にネットワークされ，特に視聴率の高いカントリー系のテレビ放送には，ジョニー-キャッシュ・グレン-キャンベル・バック-オーウェンスらのショーが有名であり，またナッシュビルでつくられるナッシュビル-サウンドは，いまやアメリカのニューサウンドとして人気が高い。さらにフォーク-ロックやブルース系のミュージシャンと，ナッシュビルのカントリー系のミュージシャンとの共演が数多く行なわれているのも，カントリー-アンド-ウェスタンの重要性を物語っているといえよう。カントリー系の代表的なアーチストには，上記のほかにマール-バガード・チャーリー-プライド・ハンク-スノー・ハンク-ウィリアムズ・ロイ-エイカフ・ジェリー-ルイスらがあげられる。また，代表的な曲には《テネシー-ワルツ》《線路は続くよ，どこまでも》《峠のわが家》《知りたくないの》《レッド-リバー-バレイ》《ジャンバラヤ》《ノース-ウィンド》などがある。カントリー-ミュージックのプロモート機関として，ナッシュビルのCMA(カントリー-ミュージック-アソシエーション)，ロサンゼルスのACWM(アカデミー-オブ-カントリー-アンド-ウェスタン-ミュージック)の2団体があり，毎年カントリー-ミュージックの総決算的な行事が行なわれている。〔鳥羽幸一〕

カントリーエレベーター［country elevator］ 米の大形乾燥調製貯蔵施設の一種。ライスセンター*と並び次代の施設として注目されるものといえる。

この施設の機能は収穫された未乾燥のもみ(生もみ)を乾燥・貯蔵することで，ここから必要に応じて，もみすりをして玄米を出荷する。したがって，貯蔵はもみの状態で行なわれる。同じ大形であるライスセンターと異なる点は，前者はもみ貯蔵方式をとるのに対し，後者は玄米貯蔵である点である。したがって，カントリーエレベーターでは巨大なコンクリート製サイロにもみを貯留し，その間にテンパリング方式という乾燥法で，比較的長時間をかけて乾燥し，同時に貯蔵する。立地条件がよければ，きわめて合理的な施設であるが，技術的にはまだ未完成で，今後の進展が期待されている。

カントリーエレベーターは田園の中にそびえる偉観からアメリカでつけられた名称で，わが国においては適当なことばがなく，そのまま用いられている。〔田原虎次〕

カントリー-クラブ［country club］ クラブ*の一種。本来は，都塵(とじん)を避けて田園の空気やふんい気に親しむために郊外につくられるクラブをいう。ここにスポーツなどの施設を備え，カントリー-アンド-アスレティック-クラブとよんでいるものもある。日本では，ふつうゴルフ施設を設けているので，しばしばゴルフ-クラブの意味で用いられている。

カントール［Georg Cantor］(1845～1918) ドイツの数学者。ユダヤ系の商人の子としてレニングラードに生まれる。ベルリン大学で数学・物理学・哲学を修めた。整数論およびフーリエ級数を研究したが，三角級数の一意性の研究から集合論を開拓した。1対1の対応，濃度・可付番集合の考えを導き，超越数*が代数的数*より多いことを証明したが，クロネッカー*の攻撃にあった。彼の考えは，位相空間論への道を開いたのである。晩年は病身となり精神病院で没した。〈数学の本質はその自由性にあ

る〉という彼の言は有名。　〔下平和夫〕

カントロビッチ［Hermann Kantorowicz］(1877～1940)　ドイツの法学者。フライブルク大学教授。新カント派*に属し，民主主義的な思想に基づいて積極的なナチズム批判を展開したため，ドイツを追われイギリスに亡命した。自由法学の提唱者であり，また法社会学の樹立に貢献した学者として高い評価が与えられている。

カントン　**［広東］**　⇨広州

カントンぐんせいふ　**［広東軍政府］**　中国で，北方派の段祺瑞(だんきずい)政府が不法に解散された国会の復活を拒否したため，民党派議員が孫文*を中心に広東に集合して，1917年に樹立した政府。孫文は推されて大元帥(または総統)に就任した。以後，第2次(1921)，第3次(1923)と変遷があった。1925年，孫文が北京(ペキン)で客死すると，委員制の国民政府が組織され，軍政府は消滅した。

カントンご　**［広東語］**　中国の方言の一。粤語(えつご)ともいう。広州市を中心に広東省の中部，西南部，広西省の一部および香港(ホンコン)で使われている。使用人口約2,700万人。標準語の北京(ペキン)音系に比べ音韻体系が複雑であり，長母音と短母音の対立，入声(にっしょう)韻尾-p，-t，-kなどがある。声調は入声3種を含め9種で，中国方言の中で最も多い。地理的にかつてヨーロッパ文明の受け入れの窓口であったことから，方言の中では上海(シャンハイ)方言とともに大きな影響力をもっている。〔大河内康憲〕

カントンじゅうけつせんちゅう　**［広東住血線虫］**　線形動物・線虫綱に属する寄生虫。成虫は体長15～30mmほどで，野ネズミの肺動脈に寄生し，そこで産卵する。卵は肺内で発育，孵化(ふか)して一期幼虫となる。幼虫は気道・食道を経て糞便(ふんべん)とともに排出され，陸生貝類(ナメクジ・アフリカマイマイなど)に侵入し，やがて感染幼虫となる。終宿主は感染幼虫を経口的に摂取して感染する。幼虫は血流にはいっていったん脳に運ばれてしばらく脳内で発育し，3～4週間ぐらいで肺動脈に移行する。ヒトでは成虫になることはないが，幼虫が脳内に移行し，好酸球性髄膜脳炎を起こすことが知られている。太平洋各地の島々，東南アジア・セイロン・マダガスカルなどに分布する。わが国では沖縄のドブネズミからの報告があるほか，最近横浜港地区のドブネズミからも見いだされているが，人体例はまだ知られていない。　〔山本　久〕

カントンしょう　**［広東省］**　コワントン省　中国南部の省。面積23万1,000km²。人口4,300万(1972年推)。省都は広州(旧名広東)。1省轄市(広州)・7専区・1行政区・1自治州に分かれ，9市・94県・3自治県を統轄する。珠江本・支流流域と雷州半島・海南島からなり，熱帯圏にはいる。したがって，水稲3期作も可能で，珠江デルタの





カ　ン　ナ

一部では，人口密度が1km²あたり1,000人に達するところもある。水稲のほかサトウキビ・ジュート・果実・ゴムなどの産があり，養蚕も盛んである。地下資源ではタングステン(南嶺(なんれい)山地)や石炭(北江流域)・鉄鉱などの産が有名である。工業は広州を中心に行なわれ，セメント・製糖・製紙・紡績・鉄鋼・造船・食品加工などの諸工業が盛んで，伝統工業では仏山の陶品や汕頭(スワトウ)のししゅうなどが名高い。交通は，南北縦貫鉄路の京広鉄道(北京～広州)をはじめ，広九鉄道(広州～九龍(きゅうりゅう))・黎湛鉄道(黎塘～湛江)などがあり，水運では珠江の航運が盛んに行なわれ，広西チワン族自治区の門戸である梧州(ごしゅう)まで1,000トン級の汽船が通ずる。また，広州・汕頭・湛江・海口は重要な港として知られる。沿岸一帯は華僑(かきょう)の送出地として有名であり，広州南方の中山県は政治家孫文の出身地である。なお，珠江河口西端のマカオ(澳門)は16世紀末以来，ポルトガルの支配下にあり，東端の香港(ホンコン)・九龍は19世紀末以来イギリスの支配下にある。19世紀後半から第2次世界大戦までの間フランス統治下にあった広州湾租借地は1946年に返還された。　〔船越昭生〕

カンドンベ　［candombe］　ウルグアイおよびアルゼンチンに移入されたアフリカ黒人の儀式的な舞踊。王様を筆頭に白人の廷臣を模した扮装(ふんそう)をした登場人物が，一定の筋書きと振り付けによってパントマイムふうに踊る。19世紀に盛んだったが，黒人人口の減少とともに衰退し，現在はまったく行なわれない。カンドンベの祭典は年末から年始にかけて行なわれ，人種を問わず多数の観衆を集めた。黒人の太鼓のリズムや踊りのステップはタンゴ音楽とダンスの発生に影響しているともいわれるが確証はなく，今日では強い2拍子のリズムをもったタンゴ曲の一種に〈ミロンガ-カンドンベ〉という形式名がつけられているだけである。なおブラジルに同種のものが現存し，カンドンブレとよばれる。　〔中西義郎〕

カンナ　［canna］　単子葉植物・カンナ科。この科の植物はアジア・アメリカ・アフリカの熱帯に50種ばかり分布している。園芸種はこれらの交雑によってつくりだされたもので，たけの高いものから矮性(わいせい)のものまである。根茎は多肉で，塊状をなして分枝する。葉は長楕円(ちょうだえん)形で長さ30～40cm，幅15～20cm。花は3がく片・3花弁・花弁状のおしべ3本・めしべ1本よりなるが，めしべはあまり発達していない。花色は赤・桃・黄・白やそれらの複色のものがあり，夏の花壇をにぎわせる。春，根茎を植え付けるが，日あたりのよい場所を好み，土質は粘質で水分のある所がよい。種子は硬実なので種皮に傷をつけてまく。

かんな　**［鉋］**　木材の表面を削る木工具。かんな台とそれに差し込むかんな刃からなる。台はカシでつくられ，かんな刃をまっすぐ誘導する。刃は用途により形は異なるがおおむね扁平(へんぺい)で，先端から頭部に向かって厚さを増し，かつ幅が広い。刃の大きさは，先端の幅で定め，約4.2cmと約5.5cmの2種が最も多用される。種類は多く，使用目的によって，平・溝(みぞ)・反台・わき・内丸・長台・台直しなどがあり，刃の角度・出方・幅などによって工程別に，荒仕上げ・中仕上げ・上仕上げがある。最近では，電気かんなが普及してきている。

がんないあつ　**［眼内圧］**　眼圧ともいう。眼球は強膜と角膜というじょうぶな膜に囲まれ，一定の圧力によってその形を保っている。その圧力を眼内圧という。これは主として眼房水により，そのほか膜の弾力性，血行などに支配される。眼房水はおもに毛様体から分泌され，大部分は毛様体静脈から流れ去る。この分泌と流出の調和によって眼内圧は一定(正常は15～25mmHg)に保たれている。眼内圧が異常に高くなった状態を緑内障*といい，眼科の最も重要な疾患の一つである。また，眼内圧が低くなった状態を眼球低張という。　〔氏原　弘〕

かんなぜん　**［看話禅］**　中国，南宋(なんそう)時代の臨済宗の大恵宗杲(たいえそうこう)の主唱した禅風で，公案禅ともいう。看話とは，話頭を看(み)る，すなわちすぐれた禅者の悟り*の因縁や言行を話頭とし，これを手がかりとして，人間が本来有する仏性*を体験的に透徹しようとすることで，こうして悟りに至ろうとする立場の禅を看話禅という。禅宗

は本来不立(ふりゅう)文字*をたてまえとするところから，特定の教義・経典をもたず，修行者は，師僧の言行を修行の標準として重んじ，禅僧の言行を記録した語録が多く作製された。《臨済録*》《碧巌録*(へきがんろく)》《従容録(しょうようろく)》《無門関*》などは公案集として禅門で重んじられた。〔田中良昭〕

かんなのへん【寛和の変】986年(寛和2)6月2日夜，右大臣藤原兼家*父子が女御(にょうご)忯子(しし)の死を嘆く花山天皇を謀略により出家させたことから起こった政変。翌日一条天皇が7歳で即位すると，新帝の外戚(がいせき)として兼家が摂政*となり，関白藤原頼忠(よりただ)は退けられた。またこれまで花山天皇の外戚として実権を握っていた藤原義懐(よしかね)も出家したため，政権は以後兼家一門に帰することになった。

かんなべ【神辺(町)】広島県深安郡の町。人口37,000。県の南東端，芦田(あしだ)川流域の穀倉地帯にあり，丘陵部はモモ・ブドウ・ナシなどの果樹栽培が盛んである。織物業・染色業が発達し，近くの福山市とともに機業地域をなし，近時は作業服などの縫製加工工場も進出しはじめた。

かんなべやま【神鍋山】兵庫県北部，但馬(たじま)高原にある鐘状の火山で，標高は480m。山麓(さんろく)は広い変化のあるスロープで，関西地方有数のスキー場となっている。山陰本線江原駅の西方約15kmの所にあり，リフト・夜間照明施設・山荘などが整い，冬季は阪神(はんしん)各地から直通バスがスキーヤーを運ぶ。

かんなめさい【神嘗祭】伊勢(いせ)神宮における鎮座以来の重儀で，新穀を天照大神(あまてらすおおみかみ)に奉る祭り。毎年10月(明治の改暦前は9月)に，外宮では15・16日，内宮では16・17日の両日に行なわれる。第1日の夕と第2日の朝には由貴大御饌(ゆきのおおみけ)と称して，新穀の飯・もち・酒などが供えられる。第2日の昼には奉幣の儀と称して朝廷より幣帛(へいはく)が奉られ，また，懸税(かけちから)とよばれる神穂の稲穂が旧神領の農家などから奉納され，御垣(みかき)にかけて供えられる。かつては朝廷より例幣使と称して四姓(王氏・中臣・忌部(いんべ)・卜部(うらべ))の者がつかわされたが，現今では勅使がこれに代わり，天皇は当日，宮中で遥拝(ようはい)の儀を行なわれる。なお両宮の祭儀に続き25日までの間に，別宮・摂社・末社・所管社などの祭りが行なわれる。

かんにゅう【貫入】陶磁器の釉(うわぐすり)にみられるひび割れ。ガラス*質の釉は，窯中で焼成されるときには，素地がわずかにとける程度の熱でほとんどが液状を呈する。それがそのまま冷えて固まると，素地と釉の収縮率の相違からひび割れを生じる。これは浸水性を生む原因ともなるが，それ自体が焼き物における一つの景色ともなる。特に，中国南宋(なんそう)の郊壇官窯の青磁の二重貫入は有名である。



カンヌ　内外の保養客でにぎわうカンヌの海水浴場。白亜高層のホテルが建ち，観光・保養客には至れり尽くせりの施設をもつ

かんにゅうがん【貫入岩】地殻(ちかく)中へマグマ*が貫入して生じた火成岩体。すべての深成岩・半深成岩は貫入岩に含まれ，噴出岩*と区別される。迸入岩ともいう。

がんにんぼうず【願人坊主】略して願人坊ともいう。江戸時代，市中を徘徊(はいかい)して人家の前に立ち，祈禱(きとう)やまじないをして銭や食物を乞(こ)うた乞食僧(こつじきそう)のこと。堕落・無頼の大衆法師の仲間で，食に困ったあげく，袈裟(けさ)・衣などをつけて物を乞うに至ったとみられる。江戸時代の中ごろに始まり，幕末には廃絶したらしい。人に代わって願かけの修行などをした者もあったので，この名を得たものと思われる。〔坂東性純〕

がんにんぼうず【願人坊主】常磐津*(ときわず)の曲名。本名題《七枚続花姿絵(しちまいつづきはなのすがたえ)》。作曲は岸沢古式部，作詞2世桜田治助。七変化舞踊の一つ。願人坊主*を題材にし，裸身に衣をわずかに着けてにぎやかに，おもしろおかしく踊る。この曲に手を加え，清元になおしたのが《浮かれ坊主*》である。

カンヌ［Cannes］フランス南部，地中海に面する国際的な観光・保養都市。人口67,000(1968)。ニースの南西にあり，温和な気候から夏は海水浴場，冬は避寒地として観光客が絶えない。また夏のカーニバルと国際映画祭の開催地として名高い。港の西側には，中世ふうの教会を中心にした旧市街があり，海岸沿いに新市街が6kmも延び，ホテルなどが立ち並ぶ。1815年ナポレオンはエルバ島を脱出，ここに上陸した。

かんぬし【神主】神事をつかさどる人の称。現在では職員のひとりになっているところも多いが，本来神に一時的になりかわって祭祀(さいし)を授ける者のことであった。神祭りのときは，厳重な物忌みをし，託宣も行ない，島根県美保神社では，1年ずつ順番に村人が神主役をつとめる〈一年神主〉の慣行がある。一年神主は祭りの中枢に置かれ，忘我の状態に入り，ときに託宣を伝える役目をする。〈記紀〉に斎主，斎の大人の名称がみられ，神功(じんぐう)皇后が吉日を選んで斎宮に入り，神主になったとある。平安時代には神職が制度化され，宮司という名称も現われたが，これは神社の運営の総管者であり，のちに神主と習合し，両者の性格もあいまいになっていった。さらに世襲化されるに及んで，単に儀礼上の必要から神社の専門職として招かれるようになり，その性格も大きく変容した。〔山路勝彦〕

かんねつめっきん【乾熱滅菌】微生物が乾燥と高温に抵抗が弱いことを利用した滅菌法。融点・沸点・発火点の低い物質を含まないガラスなどの耐熱性容器の滅菌法として最も一般的なものであり，綿せんや耐熱性のせんをして行なう。ガス式と電気式とあり，160℃に30分～1時間保つ法と170～180℃にしたのち，通気孔を閉じて自然冷却させる法とがある。綿せんや包紙がきつね色になる程度がよい。

カンネーのたたかい【カンネーの戦い】カンナエの戦いともいう。BC216年，第2回ポエニ戦争*中の激戦の一。カルタゴの将軍ハンニバル*は50,000余の兵を率いて80,000余のローマ軍を破った。ローマ軍の死者54,000，捕虜18,000に対し，カルタゴ軍の死者は6,000という。劣勢兵力が優勢兵力を大破した戦例として名高く，以来，包囲殲滅戦(せんめつせん)の代名詞となっている。

かんねん【観念】

[1]一般に心理学的に用いられる場合，意識内容のうち比較的統一性・客観性をもった感覚の総合，表象*をいう。感覚印象の総合(例，リンゴ・書物)，情緒，記憶や想像の助けを借りて再現された心像を，バークリ*は観念という語で意味した。

[2]語源のギリシア語イデア*は形，物の外観・現象を意味したが，①プラトンは〈形相*〉の意味に用い，㋑感覚によってではなく，ヌース*によってのみ認識できる対象，㋺永遠不変の客観的実在，㋩現実の個物がそれを分有することによって個物となりうる事物の原理(本質)であるが，㊁美にして善である真実在で，哲学的実践・テオリア*の目的であり〈理念〉の意味を有した。②中世のキリスト教哲学では，イデアは個物の原形であるが，神の精神のうちの思想を意味した。③しかしスコラ哲学では人間の心のうちの思想の意味にも用いられ，16世紀のイギリス・フランスでは原形・典型と，心の中の思想の両方の意味が通俗的に用いられた。④17世紀には心の中の表象，すなわち人間精神が事物についてつくる像・意識内容となり，主観的なものとなった。デカルト*・ライプニッツ*は生得観念によって観念の普遍妥当性を主張するが，ロック*・ヒューム*は観念を経験的・心理学的に考察し，ロックは観念の客観的普遍的結合関係を認めた(合理論的)が，ヒュームはこれを否定した。⑤カントは〈理念〉の意味に用いる。それは純粋理性が必然的に有する概念で，

霊魂の不死・自由・神の三種をさす。悟性の働きを統制して，認識を体系的に統一することを究極の意図とするものである。われわれの認識は無限にこれに接近できるがけっして完全には到達できない。⑥ドイツ観念論はプラトンの用法に帰り，ヘーゲルは〈理念〉を存在と解した。理念は主観的・客観的な，最も具体的な動的存在であり，その発展段階においていっさいのものに自己を顕わす世界理性である。観念はその他種々の意味に解されるが，上述①②④がおもな方向である。

③仏教では心想を止めて無念に住し，諸法の真相を観察すること。〔中川 誠〕

かんねんしょうせつ【観念小説】 ある観念の対立を前提にして状況や人物を設定し，作家の人生論・社会観を織り込もうとする小説形式で，特に明治20年代後半に流行した。代表作は泉鏡花の《夜行巡査》《外科室》，川上眉山(びざん)の《うらおもて》など。ヨーロッパ文学にも，形而上(けいじじょう)的ないし社会政治的状況を扱う観念小説ないし思想小説という分類が行なわれることもあり，その例としては，トーマス-マンの《魔の山》，ハクスリーの《対位法》，マルローの《征服者》，カミュの《ペスト》などがあるが，これらは日本における上記のような作品の場合とは違って，ふつう観念小説とことさら称せられることはない。〔沢村 灌〕

かんねんぶつ【寒念仏】〈かんねぶつ〉ともいう。寒行の一種。僧俗を問わず，鉦(かね)をたたき，和讃(わさん)や念仏を唱えて町や村を練り歩く寒行で，そのはじまりは，平安時代，空也上人(くうやしょうにん)が京都で始めた，黒衣の鉢叩(はちたた)き僧(空也僧)の五山昧(ごさんまい)や七墓巡りといわれている。

かんねんれんごう【観念連合】 ⇨連想

かんねんろん【観念論】 認識論において世界を観念・理念であるとする立場。形而上学(けいじじょうがく)的には唯心論とよぶ。観念論ということばが哲学用語に用いられたのは，ライプニッツがエピクロスを唯物論者，プラトンを観念論者とよんだのが初めであるといわれる。観念論は，このことばの用いられた初めから唯物論と対立している。観念が種々の意味に用いられているのに対応して，観念論にも種々の形がある。①形而上学的観念論の典型はプラトンのイデア論である。イデアは意識から独立に，それ自体客観的に存在する。したがってイデア論は認識論的には実在論であるが，唯物論に対しては観念論である。②神学的観念論はアウグスチヌスやトマス-アクィナスにみられる。被造物は神の思想によって相対的・偶然的存在を与えられる，それゆえ観念論である。しかし神は第1の実体であり，神においては本質と実存は同一である点に注目すれば，実在論である。③主観的観念論の代表者はバークリである。これはロックからヒュームに連なる経験的観念論とも重なり合う側面がある。バークリによれば存在するとは知覚されることであり，知覚する精神の外部に，知覚されることから独立に物体が存在すると考えるのは誤りである。物とは観念の結合にほかならず，存在するのはわれわれの精神に知覚された観念のみである。彼は人間および神の精神を実体として認めて独我論を回避したが，ヒュームは精神を感覚印象の集合にすぎないとしていっさいの実体を否定した。これはバークリの思想を徹底させたものだが，自我の実体性を否定したことにより主観性が薄くなる結果となった。主観的観念論は実在論に対立するが，ヒュームは新実在論と結合する可能性をもっている。④カントの先験的観念論は，経験は観念を内容とするが，その観念を統一するものは超個人的な意識一般であるから経験は客観性をもつとする立場。認識は感性的直観の内容を超個人的な主観の総合統一によって構成されるものであるから，経験の世界は現象であって物自体ではない，それゆえ先験的観念論である。しかし現象としての物質は直接に知覚されるのであるから経験的実在論である。⑤カントの観念論は主観客観の相関において認識を考え，主観なくして客観はなく，意識の内容として与えられないものは認識できないと考える。絶対的観念論は，カントの認識論的観念論とプラトンの観念論的実在論の統一，観念-実在論とみることができる。その典型はドイツ観念論であるが，観念は活動する主観であって最も現実的なものであり，物はこうした観念の所産，現象にすぎないと説く。フィヒテでは非我(外界)は絶対的自我の活動の産物であり，シェリングにおいては主観客観の対立を超越する絶対的同一者(精神)が自然および精神として現われる。しかし絶対的観念論とよばれるに最もふさわしいのはヘーゲルの立場である。彼はいっさいを理念の弁証法的自己発展として理解し，自然は絶対精神(世界理性)の自己外化(他在)にほかならず，個人精神も理性の一発展段階にすぎないとした。➔唯心論 ➔理想主義〔中川 誠〕

かんのうのじょうらん【観応の擾乱】 1350年(正平5・観応1)将軍足利尊氏(あしかがたかうじ)と弟直義(ただよし)の不和に高師直(こうのもろなお)がからんで起こった事件。直義側の上杉顕憲(うえすぎあきのり)・能憲(よしのり)父子が尊氏側の高師直討伐の兵を鎌倉であげたことが発端となった。1351年兄弟は和解したが，高師直はこの事件で直義に殺された。しかしその後，両者は再び不和となり，1352年(正平7・文和1)南朝方に下った尊氏は直義を追討して鎌倉で自殺させた。この事件は足利氏と関係のある武士の対立を招き，社会をいちだんと争乱状態にした。

かんのうよう【肝膿瘍】 肝臓内にできた膿瘍で，胆嚢炎(たんのうえん)・胆石症・横隔膜下膿瘍・腸チフス・アメーバ赤痢・敗血症などが原因となる。右上腹部から右肩にかけての激しい持続痛，高熱・黄疸(おうだん)・腹水・嘔吐(おうと)などの症状がある。また，肝臓部の皮膚の発赤，浮腫(ふしゅ)を認めることが多い。治療は原因となる疾患を考慮しながら，強力な抗生物質の投与と外科的手術による。

かんのうら【甲浦】 甲ノ浦とも書く。高知県安芸(あき)郡東洋町東端の商港・漁港。徳島県へ続くリアス式海岸の南端にあり，江戸時代には土佐藩主が参勤交替の際，野根山越え街道を経て大阪へ渡る要地であった。明治末期には銃殺捕鯨の根拠地となり，いまはカツオ・サバなどの沖合い漁業が盛んで，木材・水産物などを移出する。高知〜阪神(はんしん)航路の寄港地で，国道55号線に沿い，海水浴場として知られる白浜には〈みせ〉または〈ぶっちょう(蔀張)〉とよばれる特殊な雨戸を備えた民家が多い。〔浅井得一〕

かんのすが【管野スガ】 (1881〜1911) 無政府主義者。京都府出身。苦難の中に成長，17歳で嫁したが離婚。平民社の日露戦争反対闘争に共鳴し社会主義に近づき，荒畑寒村と恋愛した。1908年(明治41)赤旗事件で検挙されたが無罪となる。寒村の入獄中に幸徳秋水の妻となり，《自由思想》の発行署名人として投獄され，1910年大逆事件に連座し，翌年1月刑死した。

かんのわのなのこくおうのいん【漢委奴国王印】 1784年(天明4)博多(はかた)湾志賀島(しかのしま)で偶然一農夫に発見された金印。1辺2.3cm(漢尺の1寸に相当)の純金の方印で，つまみは蛇鈕(だちゅう)になっている。《後漢書》の〈東夷伝(とういでん)〉に〈建武中元2年(57年)倭(わ)の奴国，奉貢朝賀す。光武帝賜うに印綬(いんじゅ)をもってす〉という内容記事に相応するものと考えられている。ただし，にせ物説もある。奴国は現在の福岡市付近の1世紀ごろの小国で，委奴(いと)とも読み，奴国と同時期に現在の福岡県糸島郡に所在していた伊都(いと)国をこれにあてる説もある。国宝。➔印章(図)〔吉村武彦〕

かんのん【観音】 菩薩(ぼさつ)の名。観世音菩薩の略。梵語(ぼんご)名Avalokiteśvara(アバローキテーシュバラ)。光世音・観自在などと漢訳される。《法華経(ほけきょう)》の〈妙法蓮華経観世音菩薩普門品(みょうほうれんげきょうかんぜおんぼさつふもんぼん)〉(観音経)に〈この世の衆生がもろもろの苦悩を受けるとき，この観世音菩薩を聞いて一心に名をとなえれば観世音菩薩はただちにその音声(おんじょう)を観じてみな解脱を得せしめる〉と説かれる。菩薩の慈悲を代表し，人々の厄難(やくなん)・苦難を救うとされる。観音信仰の起源は古く，地域的にもインド・西域・チベット・中国・日本などに広く伝播(でんぱ)し，後代には二十五観音・三十三観音など多くの種類が説かれるに至った。日本では仏教伝来の直後から信仰され，法隆寺夢殿の救世(ぐぜ)観音，東大寺の不空羂索(ふくうけんさく)観音・唐招提(と

(うしょうだい)寺の千手観音をはじめ，十一面観音・准胝(じゅんてい)観音・如意輪観音などの像がつくられた。平安末期には熊野(くまの)信仰に伴って西国三十三観音霊場巡礼の風習が起こり，一般庶民信仰として広まった。〔佐藤良純〕

かんのんざき【観音崎】 神奈川県南東部，横須賀(よこすか)市に属する三浦半島の東端の浦賀水道に突出した岬(みさき)をいう。岬は台地状をなし，その先端には，1869年(明治2)に設けられた日本最古の洋式燈台である観音崎燈台がある。岬より8kmの対岸には富津州(ふっつす)があり，東京・横浜を控える東京湾の入り口として重要な位置にある。このため江戸時代末期には幕府の，また第2次世界大戦中は海軍の砲台が築かれ，東京湾の防衛にあたっていた。現在は自然博物館をはじめ，ユースホステルなどの観光施設が整い，訪れる客も多い。〔味沢成吉〕

かんのんちく【観音竹】 単子葉植物・ヤシ科の常緑小低木。リュウキュウシュロチクともいう。中国原産で，日本へは江戸時代に琉球(りゅうきゅう)から渡来し，観賞用に栽培。茎は1～2mで分枝せず黒かっ色の古い葉鞘(ようしょう)の繊維で包まれる。頂上から葉を出し，長柄で掌状に4～8裂し，古くなると基部が繊維状になり茎を包む。雌雄異株で6月に淡黄色の穂状花序をつける。株分けによりたやすくふやせる。

かんぱ【寒波】 冬季，シベリア大陸などの高気圧が発達して，そこにとどまっている寒気が流出するようになり，日本列島は冷たい北風に襲われ，雪や霜をもたらす。このような現象は1週間程度の周期で起こることが多く，俗に寒波とよばれている。例年11月ごろになると寒波の吹き出しが起こり，各地に初霜をもたらすが，最初の寒波では初霜がなく，次の寒波で初霜になる地域もある。冬季，大陸は強く冷やされ地面近くの気温が下がり，その結果高気圧が形成される。この高気圧がある程度以上発達すると寒気の流出が起こって高気圧が弱まり，またしだいに発達して次の流出が起こるというふうに，冬季は寒波の吹き出しがくり返される。すなわち寒波は冬の季節風である。〔曲田光夫〕

かんぱい【乾杯】 宴会の席上における儀礼的な作法。古く宗教的儀式において，神や死者に神酒をささげることに始まり，のちに生きた人間の健康・繁栄などのために行なうようになった。

現在西洋式の宴会の場合には，ロースト(蒸し焼き料理)が供されたのちシャンパン酒で乾杯する習慣になっている。ロースト料理を食べ終わるころを見計らって行なうが，敬意を表するほうが起立し，受けるほうは着席のまま和するのが正式の作法である。日本では宴会のはじめに乾杯してから食事を始める場合もあり，また共同祝宴などの場合には代表が起立してあいさつし，



カンパニュラ　ヤツシロソウ

一同起立のうえ乾杯する場合もある。家庭的小宴の場合には主客とも着席のまま乾杯したりする。一般の乾杯の場合，杯を触れ合わせるのは，昔，酒を勧めるとき毒のはいっていないことを証明するため，主客が同時に杯をとって飲む習慣であったが，それから転じたものといわれる。乾杯のしかたには民族によりいろいろ変わった風習がある。西洋の一部地方では乾杯後グラスを割る，ソ連では杯を持った腕を相手の腕と互いに組み合わせて飲み干す，中国では大きな杯を一気に飲み干したのち互いに見せ合う，などがそれである。〔泉　敬子〕

かんぱく【関白】 天皇を補佐して百官を統率し政治を行なった重職。博陸(はくろく)，一の人，殿下ともいい，前関白を太閤(たいこう)，前関白が出家した場合を禅閤とよぶ。884年(元慶8)〈今後臣下から奏上すること，天皇から命じることは，すべて藤原基経*(もとつね)を経由することとせよ〉との詔が出されたのが関白設置の最初とされ，やがて天皇幼少のときには摂政*が，成長後には関白が置かれるのが通例となり，その地位は藤原氏*に独占されて明治に至った。藤原氏以外の関白は豊臣秀吉(とよとみひでよし)・秀次だけである。〔菊池礼子〕

かんぱち【間八】 硬骨魚類・アジ科。1.5mほどになる海産魚。ブリ*にごく近縁の魚でよく似ているが，頭が丸みをおび，体色が赤っぽい。東北以南，台湾まで分布し，たいへん美味である。

かんばつ【旱魃】 晴天続きで降雨の少ないとき，田畑の土壌(どじょう)水が不足する現象。水源・用水路の発達した今日，水田の旱魃は比較的少なく，むしろ，わが国では湿田が多いため，旱魃に不作なしといわれるように，かえって旱魃ぐらいの晴天が続くときイネの反収は増加する。畑作では地下水の高低，土質・無降雨日数などの条件によってしばしば旱魃の被害を生ずるが，わが国では水田中心の主穀農業であるため，問題とされることが少なかった。しかし，畑作物による旱魃の害は全畑地面積の10%以上にも及ぶことが推測され，近年畑作の収量，品質向上も含めて畑地灌漑(かんがい)の施設は伸びてきている。〔金木良三〕

かんばつ【間伐】 林木の生長が進み，林がこんだ状態になり，お互いに発育が阻害されているようなとき，そのこみ方を調節するために行なう伐採をいう。間伐には幹の形質に留意して行なう定性的間伐と，適当な密度を主眼に置く定量的間伐がある。森林に手を入れない状態で林木が生長を続けると，林木間で互いに競争を始め，生育のよい優勢木とそれにおされた劣勢木とに分かれ，一部が枯れはじめる。間伐を行なわないと，下枝は枯れて幹は完満(幹の上下の太さの差が少ないこと)になり，1本の木あたりの肥大生長は劣り，細いために風雪害などを受けやすい。間伐を行なって，形質の悪い木を除き，こみ方を調節することによって，残った木の肥大を促進させる。また除いた木が売れる場合には，生産期間の中途で収入が得られる。〔川名　明〕

カンパーニア(地方)［Campania］イタリア南部，チレニア海に面する地方。背後をアペニン山脈が走り，北はリリー川から南はポリカストロ湾に至る。気候に恵まれ，カプリ島・ソレント・アマルフィ・ポンペイなど観光・保養地が多い。一般に山がちの地方であるが，ナポリとサレルノ周辺には平地が開け，レモン・オレンジ・オリーブ・ブドウなどの果実のほか，マカロニの生産が行なわれる。また家畜の飼育も盛んである。ナポリ・サレルノ・ベネベントはこの地方の主要都市で，工業も興っている。

カンパニュラ［*Campanula*］双子葉植物・キキョウ科・ホタルブクロ属の総称。温帯北部，地中海地方に約300種あり，日本には6種が自生する。花壇やはち植えにしたり，切り花にもされる。多くは多年草。花はつり鐘状。栽培されるものは昭和の初めに日本にはいったものが多い。タカネギキョウはオーストリアの高山にはえ，高さ30cm，7～8月ごろ濃青色の花を茎上につける。ハタザオギキョウはカフカス原産で高さ60～100cm，5～6月に3cmほどの白～淡紅色の花をつけ，花壇や切り花に適する。アゾレスギキョウは北大西洋のアゾレス諸島原産で，45～70cmの半灌木(かんぼく)となり，葉は肉厚で，長さ2.5cm，白色で基部の黄色い花をつける。クモマギキョウはスイス原産，高さ10cm，7月ごろ紫色の花をつける。タカネホシギキョウはイタリア原産で，高さ15cm，6～7月に紫色の花をつける。オトメギキョウはユーゴスラビアのダルマチア原産で，高さ10～15cm，5～6月にふじ色の花を1～3個茎上につけ，最も普及しており，はち植えによい。日本にはイワギキョウ*・チシマギキョウ*・ホタルブクロ*などが自生する。〔小清水義隆〕

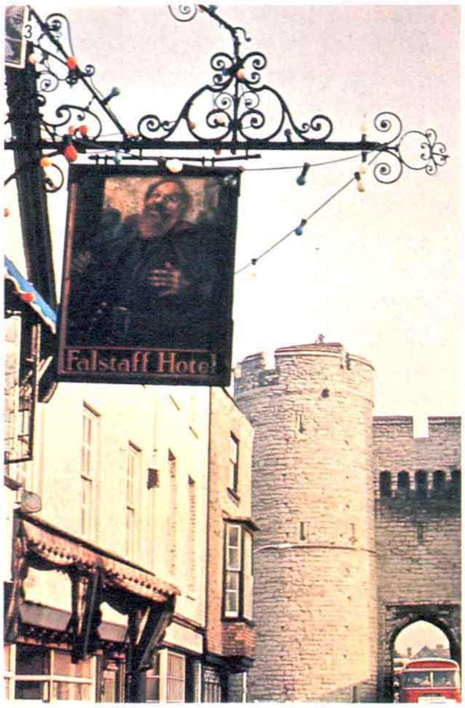
カンパネラ［Tommaso Campanella］(1568～1639)　イタリアの哲学者。カラブリアに生まれ，パリで没した。14歳でドミニコ修道会士。アリストテレス主義と戦い，

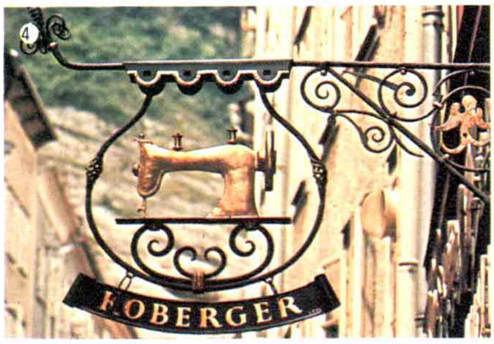
看　板

①両替屋の分銅型看板
②両替屋の銭型看板
③ホテルの看板(1403)　イギリス　カンタベリー
④ミシン屋の看板　オーストリア　ザルツブルク
⑤くつ屋の看板　オーストリア　ザルツブルク











テレジオ*の影響を受けた。まもなく異端の嫌疑(けんぎ)を受け，さらにスペインの圧制からの解放を企てたことで政治犯として告発され，ナポリで27年間の獄中生活を送った。釈放後，フランスへ行き，そこでリシュリュー*から年金を受けつつ，自己の学問体系の完成に専念した。なお，牢獄(ろうごく)で書き上げられたのが有名な《太陽の都*》である。

かんばやしあかつき【上林暁】(1902～1980) 小説家。高知県生まれ。本名徳広巌城(いわき)。東京大学英文科卒業後，改造社に勤め，その合い間創作に励み，《薔薇盗人(ばらぬすびと)》を発表，文壇に認められた。1939年(昭和14)の夫人の発狂から1946年の死亡まで，おりからの第2次世界大戦による物資窮乏にもかかわらず献身的に看病，これらの日々を私小説*として描いた《聖ヨハネ病院にて》などにより，作家的評価を不動にした。

かんばやしおんせん【上林温泉】 長野県下高井郡山ノ内町にある温泉。泉温64～73℃，泉質は含食塩セッコウ苦味泉で，婦人病・皮膚病・リウマチにきくといわれる。夜間瀬川と角間川の合流点に位置し，志賀高原の入り口にあたる。標高800mの地点にあって日本アルプス連峰が望まれ，背後の東山には上林温泉スキー場がある。長野電鉄湯田中駅からバスの便がある。

かんばら【蒲原(町)】 静岡県庵原(いはら)郡に属し，県中央部の蒲原丘陵が急崖(きゅうがい)をもって駿河(するが)湾に臨む所にある。人口16,000。かつて東海道の宿場町として栄え，地形上の制約から現在も国道1号線・国鉄東海道本線・同新幹線・東名高速道路などがここを通過している。1939年(昭和14)にアルミ電気精練工場が建設され，ほかにかんづめなどの食品工場もみられる。

カンパラ［Kampala］ アフリカ大陸東部，ウガンダ共和国の首都。人口33万(1975年推)。赤道直下にあり，1,000mを越える高原にあるため，年じゅう過ごしやすい。ビクトリア湖の北岸に位置し，付近に多い湿地を避けて，丘陵上に市街が広がっている。隣国ケニアに通ずる鉄道の起点で，この地方一帯の商業経済の中心地である。

かんばらありあけ【蒲原有明】(1876～1952) 詩人。本名隼雄(はやお)。官吏の長男として東京に生まれ，幼時生母と離別した。少年時代から文学に親しみ，《新体詩抄*》《於母影*(おもかげ)》を愛読，長じて島崎藤村*に私淑して詩作に専念，英詩人D.G.ロセッティ*の詩の影響も受けて詩集《草わかば》《独絃(どくげん)哀歌》を刊行した。のち，ベルレーヌ*の詩に接して象徴主義を学び《春鳥集》を発表，詩壇の注目を集めた。次いで《有明集(ゆうめいしゅう)》で象徴詩を完成に導いたが，以後詩壇から遠ざかった。1948年(昭和23)芸術院会員。《野ざらしの夢》《夢は呼び交(か)わす》などの散文集もある。〔池内輝雄〕

かんばらトンネル【蒲原トンネル】 東海道新幹線三島～静岡間にある複線型鉄道トンネル。長さ4,934mで1964年(昭和39)開通。東海道新幹線で第4位の長さのトンネルである。

カンバーランド(州)［Cumberland］ イギリス，イングランド北西部の州。面積1,520km^2，人口29万6,000(1969)。州都カーライル。イングランドでは最も山がちで，北はスコットランドに接し，西はアイリッシュ海に臨む山や湖が美しい風景をなす地方である。また，石炭・鉄鉱・石灰石の採掘が盛んで，鉄鋼・金属・皮革などの製品を生産している。海岸の低地では酪農を行ない，東部のペニン山脈付近はヒツジを飼っている。この地域の帰属をめぐり，イングランドとスコットランドが長い間争った。

かんばん【看板】 屋号・販売品目・営業種目などをしるした店の標識。掲げる位置からみると，屋根看板・下げ看板・掛け看板・置き看板などがみられる。今日では広告看板ともいうべきものが，広場や人の目につきやすいところに氾濫(はんらん)している状態であり，ポスターの部類に属するものが多くなっている。使用する物から分類すると，実物現品，模型品，商品の付属品や関連ある品，隠語，判じ物，あんどん，ちょうちん，幟旗(のぼりばた)，文字を主とするものなどである。看板の起源は古く，平城・平安両京の東西市では，店ごとにその営業品目を掲示することが命ぜられた。中世では多くの商品の陳列がそのまま看板となり，さらに，中世末から近世にかけてのれんに商品名をしるしたものが現われた。そして近世に至って都市における店舗商業の発達に伴ってますます盛行した。民俗的には，現物を使ったもの，たとえば，かもじ(髢)屋のかもじ，かさ屋・きせる屋などがあり，塩屋は塩俵を店頭につるしたりした。各地に多くみられるものに酒屋のさかばやしがある。これはスギの葉をまとめ，葉の先を外に出して丸くしたものを軒先につるしておいたものである。判じ物ふうの看板は文字でしるしたものが多く，くし屋は十三屋(九四屋)などとしるした。今日，古風な看板は目につきにくくなったが，商業慣行を伝える民俗資料として重要なもので，〈文化財保護法〉でも，重要民俗資料指定基準に指定されている。〔北見俊夫〕

西洋では，すでに古代エジプト時代にも

存在していたが，ギリシア時代を経て，ローマ時代の紀元1世紀には，ミルク屋の看板としてヤギを浮き彫りにした素焼きの額や，酒屋の看板として，ふたりの男がつぼをつり下げた棒をかついでいるものなどが，ポンペイの遺跡から発掘されている。中世初期には商業が衰えて自然経済体制が強くなったことから，看板にも新しい動きは少なかったが，それでもローマ時代以来，居酒屋の看板としてキヅタの枝をたばねたものが店頭に掲げられた。また中世の都市では，農具屋がすきの看板を掲げたり，刃物屋がナイフを店頭に掲げるなど，一般に商品や商売道具そのものを看板に表わすことが多かった。中世にギルド制が発達してくると，同業者の協定で，ウマやライオンなど騎士の紋章を共通の看板とすることもあった。さらに都市商業が発達して競争者がふえると，判じ絵など特殊なしるしを用いることも行なわれた。近世・近代になると，理髪屋の看板として今日のものに似ている赤と白のだんだら棒など，世界的に共通するものが現われたり，芸術作品としてもりっぱに通用するような看板も出てきた。こうして16～17世紀には商業の発達とともに独創的・芸術的な看板の最盛期を迎えることになったが，同時に国家によって看板の大きさや掲示場所に関する規制も行なわれ始めた。18世紀以降は，家屋に番号をつけたり，文字による看板へと変化し，やがて今日のような広告的要素と装飾的要素とをもつ多様な形式の看板へと発展した。 〔桜木 庚〕

かんぱん 【肝斑】 ⇨しみ

かんパン 【乾パン】 生パン（普通のパン）に対して水分の少ないパン。生パンと同じようにつくるが，水の量は少なくする。大形と小形の2種あり，大形は自衛隊の非常用糧食などに，小形は農林省の災害対策用備蓄乾パンなどに使われる。小形1個の重量は約3gで，215gを1包みとして1食用とする。貯蔵性が高いので，備蓄食糧・携帯食糧として登山・航海などに用いる。

かんぱん 【官版】 私版または坊刻版*（町版）に対していわれる語で，時の政府の命を受けて刊行した書物のこと。中国では宋(そう)代以降しばしば官版が行なわれ，朝鮮でも李朝(りちょう)以来，官版による大蔵経の印行がしばしば行なわれた。わが国の官版のはじまりは，天海僧正による大蔵経で，1637年（寛永14）から1648年（慶安1）の11年の歳月を費やして完成をみた。世に《天海本》または《寛永寺版大蔵経》といわれるものである。のちには，林家の主宰する徳川幕府の昌平坂(しょうへいざか)学問所で整版印刷した古典籍を官版と称し，昌平版ともいった。官版は所要の部数を印行したのち，その版木を著者または書肆(しょし)に下付する慣習があった。 〔庄司浅水〕

ガンバン ［gambang］ インドネシアの木琴系楽器。多くの場合，木製であるが，竹製・青銅製のものもある。ジャワ島のガムラン音楽*の合奏形態の中で旋律装飾の楽器として使われるのがいちばん代表的である。両手にフェルトつきのばちを持ち，基本的にはオクターブを保ちながら演奏する。

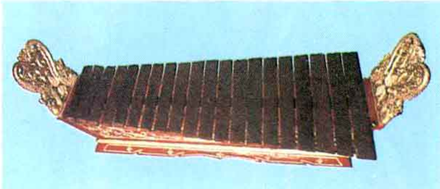
かんばんがし 【看板貸】 ⇨名板貸

かんぱんバタビヤしんぶん 【官板バタビヤ新聞】 1862年（文久2）1月，幕府の洋書調所から刊行された翻訳新聞。〈新聞〉という名称をもつ最初のものだが，バタビヤのオランダ政庁から幕府に献上された週刊新聞《ヤバッシュ-クーラント》の一部を邦訳したもので，日本人の創意による新聞ではない。内容はイギリス・アメリカ・フランス・ロシアなど諸外国の紹介であった。

がんぴ 【岩菲】 双子葉植物・ナデシコ科の多年草。中国原産であるが，古くから日本にはいり，庭園に植えられる。高さ40～90cm。葉は対生し，卵状楕円(だえん)形で先がとがる。5～6月ごろ，茎の頂や上部の葉のつけ根に5cmぐらいの黄赤色の花をつける。

がんぴ 【雁皮】 双子葉植物・ジンチョウゲ科。静岡県以西，四国・九州の山地にはえる落葉低木。高さ1.5mぐらいになり，幹は直立して，外皮は濃かっ色でなめらか。葉は互生し卵形，両面に絹毛がある。初夏にその年の枝端に黄色の小花をつける。がくは下部が筒状で上部は4裂，花弁はない。果実はがくの内側にできる。樹皮の繊維は雁皮紙*の原料とされる。

ガンビア ［Gambia］ アフリカ大陸の西部，大西洋に面する共和国。面積10,269 km^2。人口60万（1978年推）。首都バサースト。西が大西洋に面するほかはセネガルに囲まれており，内陸深く航行可能でこの国の動脈をなすガンビア川沿いに狭長な丘陵地域が続いている。サバナ気候で，雨は6月から10月にかけて降り，海岸地域は温度が高いが，内陸では和らぐ。主産業は農業で，牧畜がこれに次ぐが，いずれもふるわない。産物はラッカセイが主で，輸出額の95％を占めており，収穫期には隣国から約20,000に及ぶ季節労務者が入国する。農場はいずれも原住民が経営し，ヨーロッパのプランテーションは一つもない。住民は大部分がイスラム教徒で，ニグロの系統ではあるが，赤道アフリカのニグロとは区別される。内陸では遊牧民が多い。1783年以来イギリスの植民地となっていた。第2次

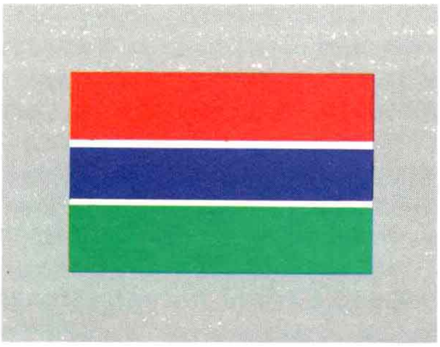


ガンバン 武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

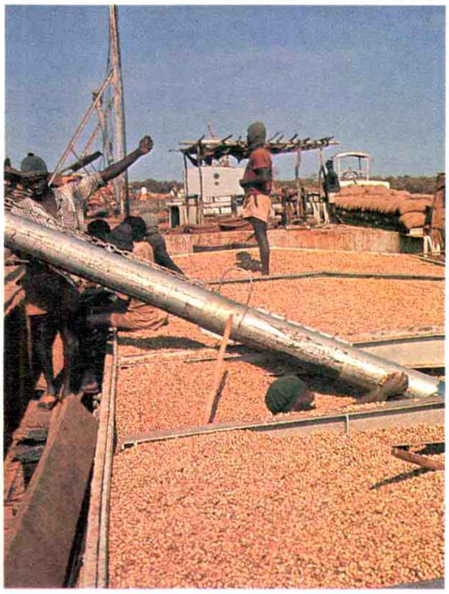


ガンピ





ガンビアの国旗 1965年制定。赤は国土への愛情，青は国土の中央を流れるガンビア川，白はその両岸に広がる国土と幹線道路，緑は農業とその発展を表わす



ガンビア 首都バサーストの港でのラッカセイの積み荷風景。ラッカセイはセネガル・ガンビアからナイジェリアにかけた地域の重要な輸出農産品である

世界大戦後の1947年および1954年に憲法を制定して自治組織をもつようになり，1965年，イギリス連邦内の自治国として独立した。元首は大統領。〔小栗　宏〕

かんぴし【韓非子】法家*思想の完成者，韓非(？～BC233)の著書。韓非は中国戦国時代の末期の韓の公族で，強国の秦(しん)に抵抗して富国強兵のための方法とその思想を創出したが，秦の始皇帝はそれを採用して天下を統一し，彼自身は秦に殺された。その思想は，〈勢(権力)〉を〈法〉と〈術〉によって強化しようとするものであり，その法・術は人間の自然の欲望に基づいて人間を権力に奉仕させる方法であった。

がんぴし【雁皮紙】ガンピ*の皮の繊維を原料とした光沢のある薄葉紙。用途は木版用，写図・絵画の粉本，謄写版原紙など。圧写用に適するためコピー紙ともいう。機械ずきもある。岐阜・高知両県で産する。奈良時代には斐紙(ひし)とよばれた。

かんぴしょう【柑皮症】柑色皮症ともいう。皮膚にカロチン*が沈着して，ことに手のひらや足底などの角質の厚い部分が黄色調を呈する状態。柑橘(かんきつ)類・カボチャ・トマト・ニンジンなど，カロチンの豊富な食品を過量に摂取することが原因。カロチンは脂溶性なので，脂質含量の多い角質と皮下脂肪に沈着する。黄疸*(おうだん)と異なり，眼球の白目の部分は黄染せず，自覚症状もない。上記の食品をやめれば自然に消えるので放置してよい。ただし，カロチン代謝障害が原因の場合もあるので注意を要する。〔田嶋公子〕

かんぴしょう【乾皮症】皮脂と汗の分泌が減少したために，皮膚が乾燥してざらざらする状態。一般に，腕の外側やすねに多く，冬季悪化する。この状態が進行して魚のうろこ状を呈する場合，単純性魚鱗癬(ぎょりんせん)という。サリチル酸ワセリンや吸水軟膏(なんこう)の塗布とビタミンAやDの補給が有効。ほかに色素性乾皮症とよばれるものがあり，これは日光にあたる露出部が赤くなり，しだいにそばかす様の色素斑(はん)が多数現われ，皮膚が萎縮(いしゅく)する遺伝性の皮膚病で，皮膚癌(がん)を生じやすいので，日光にあたるのを避け，皮膚科医の診察を受ける。〔田嶋公子〕

カンピニーぶんか【カンピニー文化】フランスのセーヌ下流カンピニーで発見された新石器時代前期の文化。北フランス・ベルギーに分布する。炉のある竪穴(たてあな)住居に住み，原始的な土器と初期の磨製(ませい)石器をもっていた。狩猟・漁労が主だが，野生の大麦なども採集して石ざらでひいていた。おそらく農耕に移る直前の段階と思われる。後カンピニー文化はBC3000年以降で，東部フランスが中心となり，スイスの湖上文化と接触があるらしい。〔高山高雄〕

カンビュセス(2世)［Kambyses］(？～BC522) ペルシア帝国第2代の王。在位BC530～BC522年。キュロス2世*の子。父王の事業を受け継ぎ，BC525年，最後にのこされていたオリエントの大国エジプトを征服した。エジプト滞在中，エチオピアやカルタゴなどの遠征を企てたが，成功しなかった。BC522年，マゴス僧(ペルシアの祭司)ガウマータの王位簒奪(さんだつ)事件として伝えられる王弟バルディヤの謀叛(むほん)が起こり，帰国の途中で没した。王は皇帝権力強化の政策を積極的に行ない，ペルシア人から専制君主として恐れられた。〔佐藤　進〕

かんぴょう【乾瓢】ユウガオ(ウリ科)の白い果肉を細長くひものようにむいて干したもの。栃木県が特産地として有名。7～8月ごろのものがよい。製品は吸湿しやすく，かびを生じたり，褐変(かっぺん)したりするので，貯蔵には防湿包装紙を用いる。清水またはぬるま湯にしばらくつけて柔らかくしたのち，料理に用いる。五目ずし・ちらしずしの材料，巻きずしのしん，煮しめなどに用いる。

かんぴょうき【間氷期】地質時代*の氷期*と氷期にはさまれた時期。気候が温暖になり，氷河がとけて高緯度地方へと後退した。第四紀には4回の氷期があり，したがって間氷期は3回あったと考えられている。このように考えると，現在は最後の氷期(第4回めの氷期)のあとの第4回めの間氷期ということができる。この間氷期は約11,000年前に始まっていて，地質学ではこの時期を現世とよび，今後少なくとも10,000年ぐらいは続くものと考えられている。



カンピーリ《婦人の頭部》1913　アムステルダム市立美術館蔵

かんぴょうのごゆいかい【寛平御遺誡】897年(寛平9)に宇多天皇が譲位してまもなく，幼少の醍醐(だいご)天皇に書き与えた訓戒。天皇としての心得・動作・学問，臣下の人物評などが述べてあり，藤原氏台頭の時期にあたって上皇の配慮がうかがわれる。今日全文は伝わらない。

カンピーリ［Massimo Campigli］(1895～) 現代イタリアの画家。1919年から1939年までパリに滞在し，スーラ*・ピカソ*・レジェ*らの影響を強く受けた。絵の具を吸収させてフレスコ壁画の効果を出す特殊な技法を用い，アルカイック*の様式によっての風刺に満ちた女性像を多く描いている。

かんぷうざん【寒風山】秋田県男鹿(おが)半島東部にある山。標高355m。直径約1kmのカルデラと数個の小火口丘をもつ二重式火山で，草でおおわれた山頂の展望台からは，眼下の八郎潟(はちろうがた)・船川港をはじめ，遠く鳥海山や奥羽山脈の山々がながめられる。男鹿市方面から頂上まで有料道路が通じている。

がんぶつ【元物】⇨果実

かんぶつえ【灌仏会】仏生会(ぶっしょうえ)・降誕会ともいい，ブッダ降誕の日と伝えられる4月8日に行なわれる仏事。今日一般に〈花祭り〉という。これはブッダ降誕のおり，地に落ちて歩くこと7歩，天上天下を済度し天人尊となり，生死の苦を断じてすべての人々に安楽を与えることを宣言したとき，龍王(りゅうおう)または帝釈天(たいしゃくてん)が天から降りてきて香水をもって洗浴したという故事による。インド古来の仏事で，わが国でも古くから寺院や宮中で行なわれている。種々の草花で飾った小堂中の銅ざらに，右手は天，左手は地をさした立像の誕生仏を安置し，甘茶を注ぐ。甘茶を用いるのは江戸時代以後のことで，それ以前には香水を注いだ。親しまれている各宗共通の行事で，参詣者(さんけいしゃ)は甘茶を持ち帰って，飲んだり，墨にすって害虫よけのまじない歌を書いたりする。〔平井宥慶〕



寒風山　一面草地におおわれた寒風山の山頂。最高点に回転展望台がありドライブウエーが通ずる。遠くに広大な八郎潟の干拓地が望まれる

かんぶないでん　【漢武内伝】　中国古代の小説。1巻。漢の班固*の作というが，実は六朝(りくちょう)時代の偽作らしい。漢の武帝の一生のことをしるすが，西王母(せいおうぼ)を宮中に迎えることが詳しく述べられている。

カンプハウゼン　［Ludolf Camphausen］(1803～1890)　プロイセンの自由主義的政治家。1848年の三月革命*直後，内閣を組織したが，労働者階級の政治的進出を恐れるブルジョアジーの空気を反映して妥協的となり，反革命派の復活を許し，まもなく退陣した。➔オルミュッツの協約

かんぷまさつ　【乾布摩擦】　かわいた布を用いて身体を摩擦する身体強健法。冷水摩擦も同様に用いられる。鬱血(うっけつ)の改善，末梢(まっしょう)血管の拡張，皮膚反射の増強に役だち，全身的整調も期待されている。普通は早朝起床時に行なう。上肢(じょうし)から軀幹(くかん)への順に摩擦し，また末梢側から身体の中心に向かって摩擦する。熱のある場合や急性疾患の場合は行なってはならない。虚弱児，かぜの予防，小児ぜんそく，蕁麻疹(じんましん)，身心の練成，精神身体症に効果があるといわれる。〔増田武弘〕

乳児でも生後3か月以上なら始めることができる。朝起きて着物を着るときや，夜寝るまえ，寝巻きに着換えるときにさせるとよい。乳児や年齢の少ない幼児の場合には保育者がやってやり，それ以後になれば自分でもできるので，やり方を指導する。乾布摩擦をするときに，もし汗その他で皮膚が湿っているようなら，汗しらずをふってよくかわかしてから行なうほうがよい。特に乳児ではむりに行なうと皮膚を損傷することがあるので注意を要する。乳児の場合はタオルやてぬぐいを用いず，保育者の手のひらでこすってやってもよい。乾布摩擦の効用は皮膚の刺激により，寒冷に対する皮膚毛細管の反応が訓練され，急に寒くなってもかぜをひくことが少なくなる。しかし，これは夏季から毎日続けなければ効果は望めない。〔宇留野勝正〕

カンプラ　［André Campra］(1660～1744)　フランスの作曲家。南フランスのプロバンス地方の生まれ。17歳のときに作曲したいくつかのモテットで才能を認められ，ツーロン大聖堂の楽長に採用され，以後アルル・ツールーズの指揮者を経てパリのノートルダム寺院の楽長となった。1697年はじめて劇作品を手がけ，幕の途中にはなやかな合唱やバレエを入れる《優雅なヨーロッパ》というオペラ-バレエを作曲し，話題を集めた。1700年ノートルダム寺院の楽長をやめ，オペラの作曲に専心し，リュリ*と並んで，フランスオペラの伝統を築きあげた。〔船山　隆〕

カンブリア(山地)　［Cambria］　イギリス南西部，ウェールズ山地全体をさす名称。古生代の岩石からなり，平均高度700～800 mの準平原で，スノードン山(1,085 m)やマーサーチドビルなどの残丘が突出する。地質学発祥の地でもあり，地質時代のカンブリア紀*の名はセジウィックがこの地名をとって名づけたもの。

カンブリアき　【カンブリア紀】　地質時代のうちの古生代を6分した第1番めの時代。先カンブリア時代のあと，オルドビス紀のまえ。名称はイギリスのカンブリア山地*に由来し，1836年セジウィックによって提唱された。約5億7,000万年前から約5億年前までの約7,000万年の期間を代表する。この時代の地層の標準地域はイギリスのバルト海沿岸である。カンブリア紀になると，まえの先カンブリア時代と異なって無脊椎(むせきつい)動物の諸門が出現した。動物はすべて海生である。サンヨウチュウが最も代表的で，大繁栄し，全世界を通じてカンブリア系大区分の基準となる。腕足類や海綿とサンゴ類の中間型とみなされる古杯類(アルケオキアトゥス)も栄えた。植物化石は動物化石に比べてきわめて少なく，藻(そう)類が知られているにすぎない。気候はカンブリア紀初期に寒冷で，氷河が発達したこともあった。その後は温暖のようで，一部乾燥気候もあった。〔田中啓策〕

カンフル　［camphor］　樟脳(しょうのう)の日本薬局方名。カンファーともいう。クスノキ中に含まれるテルペン*の一種。特異な芳香があり，わずかに苦く清涼味のある白色半透明の結晶またはかたまりで，防臭・防腐・殺虫剤として用いられる。また，体内で中枢神経刺激作用を示し，心運動亢進(こうしん)・血圧上昇・呼吸量増大などの作用があり，心臓に対しては，はじめ抑制作用があるが体内で酸化されて，強心作用を示すようになる。皮膚に塗ると局所刺激作用を現わし，メントール・フェノールとともに皮膚病・しもやけ・神経痛・打撲症などの治療に用いられる。〔中館正弘〕

カンプール　［Kanpur］　インド共和国北部，ウッタル-プラデシュ州の都市。ガンジス川の右岸にある。人口127万5,000(1971)。18世紀末までは寒村にすぎなかったが，鉄道の要点となるに及んで，付近の穀物・綿花・皮革の集散地となり，さらに近代的工業が発展した。綿織物・毛織物・皮革製品の生産が盛んである。国営の馬具工場もある。カウンポールともよばれる。

かんぷれんらくこうろ　【関釜連絡航路】　第2次世界大戦終了時まで下関(しものせき)と朝鮮半島の釜山(ふざん)との間に開かれていた国鉄の鉄道連絡航路。1905年(明治38)開設。大戦前における日本と大陸との幹線交通路で，釜山で朝鮮総督府鉄道(鮮鉄)と連絡運輸を行なっていた。1943年(昭和18)には7隻の連絡船が就航していたが，戦争の激化に伴い，潜水艦の攻撃と機雷の脅威によって正常な運航は不可能となり，1945年6月事実上放棄された。〔青木栄一〕

かんぶん　【漢文】　ふつう，中国固有の，特に文語によって書かれた文章や，それにならって漢字ばかりで書かれた文章を漢文という。もともと，中国では，漢学・漢文とは，漢という一朝代の学問・文章をさしていったが，外国民族が中国という意味で漢ということばを使い，しだいに中国でもそう使うようになって，漢学・漢文も，中国学・中国文という意味に拡大して使うに至った。中国文という意味での漢文は，〈文言〉(文語体)と〈白話〉(口語体)の2種に大別されるが，日本でいう漢文は，ふつう文語体のそれをさしている。

【漢文の訓読】中国周辺の国々のうち，日本のほかに朝鮮やベトナムでも漢文を取り入れ，読み書きしてきたが，それらの国の漢文と日本の漢文との間には大きな違いがある。朝鮮・ベトナムでは，現在，漢文を直読しているのに対し，日本では漢文の語序を日本語のそれに改めて訓読していることである。まだ文字のなかった古代に漢字・漢文を取り入れた日本人は(一部では当時の中国の発音に従って音読することも行なわれたらしいが)，進んで漢字を日本語の文脈の中で使用して日本字化していく一方で，漢文を訓読するくふう・努力を重ねた。ここに，漢字の音(日本語化した発音)と漢字の訓(日本語でそれに対応する訳語)とを併用しながら日本語の語序に改めて読む訓読という読み方が生まれ，定着していった。訓読法は，本来，外国語の文章である漢文を，外国語として意識させずに日本語の文章として受容する効果を生んだ。

【訓点】漢文訳読の便宜上生じたのが訓点である。漢文には活用語(日本語でいえば，用言と助動詞)がなく，また日本語の助詞にあたる語もごくわずかである。それで，訓読では助詞・助動詞や用言の活用語尾などを漢字の右下にかたかなで記入する。これが送りがなである。ただし，古く平安時代には，漢字の四すみなどに点を打って，送りがなにあたるものを示していた。それをヲコト点(➔おことてん)といい，仏典では宗派や寺，また漢籍では博士家(はかせけ)(学問を業とする家がら)によって点のつけ方が異なり，読み方に差があった。しだいにヲコト点はすたれて，送りがなが主になった。次に，語序の違いを示すため漢字の左下につけられる符号が返り点である。それにはレ(れ点。雁点(かりがねてん)ともいう)，一・二・三，上・下および上・中・下，甲・乙・丙，天・地および天・地・人などがあり，レ点は1字をひっくり返して読むことを示す符号，一・二・三は2字以上隔ててひっくり返して読むことを示す符号，あとはそれぞれ前の符号を使用した以外にさらにひっくり返して読むことを示す符号として用いられる。漢文の原文には，特に古代のものは全部，句点(。)も読点(，)もついていない。訓読の場合は，。や，をつけて読む

便宜を図ることになっている。それが句読点である。これらの〈送りがな〉〈返り点〉〈句読点〉を合わせて訓点という。訓点は，時代によってつけ方に違いがあり，とりわけ江戸時代にはいると儒学が盛んになり，儒者たちがそれぞれ独自の訓読*を考案した。それで読み方が多様化し，明治時代にはいってから漢文教授の上で統一を欠くことが問題となって，1912年(明治45) 3月29日付官報に文部省から〈漢文教授ニ関スル調査報告〉が発表され，学校教育における漢文の読み方は現在までこの報告に準拠している。

【漢文の内容】 しかし，訓読法で訳読できるのは中国文のうちだいたい文語文であって口語文の訳読は無理である(例外として，禅家の語録のように，口語文の原文を訓読したものもある)。そこから，漢文の内容はおのずから限定されたものとなる。すなわち，漢文は〈訓読された中国の文語体の詩文〉〈日本人がそれを学んでつくった詩文〉と規定されるわけである。しかし，こうして受容された中国の古典が日本の知的伝統の形成に資したことは大きい。また，漢文は日本の文章語として，和文による変容を当然受けながら，明治維新までは公用文として使用されていたほどで，日本の古典には《日本書紀*》《大日本史*》その他本格的漢文で執筆されたもの，《古事記*》《風土記*(ふどき)》《吾妻鏡*(あづまかがみ)》など変則的な，漢字ばかりで書かれた作品などがあり，漢詩文に至っては枚挙にいとまがない。思想・政治・制度方面の著作も漢文で書かれたものが多く，日本人の精神形成の上で見落とせない役割を果たしてきた。学校教育では，江戸時代では《論語*》《孟子*(もうし)》などを教科書にした漢文教育がそのまま教育の同義語といってよいほどであった。

【漢文教育】 そういう過去の文化遺産の継承のためにも，またいわゆる人格形成の必要上からも，学校教育における漢文教育の必要性が主張されている。現在，高等学校の国語科で，職業課程の生徒には古典甲の中で1単位程度必修，普通課程の生徒には古典乙Iの中で2単位程度必修，古典乙IIの中で1単位程度選択させることになっている(1973年度から高等学校教育課程が改訂され，古典の教育課程も変わる予定)。

〔今村与志雄〕

かんぶんがく 【漢文学】 古代日本に大陸から進んだ学問や文学が伝えられると，日本人はこれを受容・研究して自国の制度・文物の進歩・向上を図り，一方ではその内容・形式を模して中国ふうの詩文をつくることを学んだ。この研究と創作の両方を称して漢文学という。もっとも漢文学という名称は近代のもので，古代の日本人は漢文・漢詩をそれぞれ〈からぶみ〉〈からうた〉，または単に〈ふみ〉と称している。

明治時代になると，漢文学の意味は二つに分かれた。一つは，長い年月にわたる文化業績をいわば漢文学史というような体系に整理しようとする学問の分野をさすものであり，もう一つは，国民の教養としての漢字・漢語，および漢字の詩文，さらに中国古代の著作(漢書・唐本とよぶ)などを学校教育を通じて児童・生徒に学ばせようとする教育の分野をさすものである。後者は〈漢文〉とよばれて今日に至っている。漢文とはいっても，その内容は漢文と漢詩であり，最近では教材の量は漢詩が漢文を上回る。したがって，現在一般には，漢文学とは古典としての漢文と漢詩を学ぶこととされており，真の意味での漢文学，つまり古い伝統をもつ支那学(しながく)(シノロジー)の研究は，一部の専門家のものに限られるようになった。

日本古代の漢文学は，奈良朝以前にすばらしい業績を築いている。すなわち，有名な聖徳(しょうとく)太子の十七条憲法を筆頭に，唐制を取り入れた大宝令(たいほうりょう)・養老令などがそれである。また，奈良時代には，中国の王朝史の書きぶりにならった《日本書紀》，詩文集の《懐風藻*(かいふうそう)》などが登場した。これらは以後の漢文学，さらには日本の文化史の流れを志向するものとみてよい。大宝令・養老令には，すでに大学制度の規定さえもみられる。

これらを受け継いだ平安時代には，特に詩文の分野が著しく発展した。このころつくられた詩文集は，勅撰(ちょくせん)の《凌雲集*(りょううんしゅう)》《文華秀麗集*》《経国集*》から，空海の《性霊集(しょうりょうしゅう)》，菅原道真(すがわらみちざね)の《菅家(かんけ)文草*》などの私撰集に至るまですこぶる多彩である。その他，空海の《文鏡秘府論*》(論文)，円仁(えんにん)の《入唐求法(にっとうぐほう)巡礼行記》(紀行随筆)なども注目される。この時代に詩文が栄えたのは，大学制度のうち経史集4部の分野における集部の《文選*(もんぜん)》が特に重視され，また，入唐した最澄・空海ら高僧が文物の輸入に尽力したためである。清少納言の《枕草子*(まくらのそうし)》に，〈書(ふみ)は，文集(もんじゅう)(《白氏文集*》のこと)，文選，史記，五帝本紀，願文，表，博士の申文(もうしぶみ)〉とあることによって，また，唐から舶来した書籍の目録である藤原佐理(すけまさ)の《日本見在書目録》に記載された書名によっても，この時代の漢文学のあらましがうかがわれる。

鎌倉・室町の幕府時代になると，漢文学は王朝の宮人の手から離れて，義堂周信・絶海中津*(ちゅうしん)・虎関(こかん)師錬*ら，京都五山の僧侶(そうりょ)たちによってささえられてきた。これを五山文学*という。足利(あしかが)学校*・金沢文庫*の創設で漢文学は関東地方に拠点をもつようになり，さらに長門(ながと)(山口県)・土佐(高知県)・肥後(熊本県)・薩摩(さつま)(鹿児島県)へと派出していく。しかし，全体としてこの時代は漢文学も不振の時代であったといえよう。

それが江戸時代になると，漢文学は，明(みん)代の宋明学(そうみんがく)が移入されたこともあって，再びそのはなやかな活動を開始した。世の中が泰平であり，さらに幕府が学問を奨励したこともあって漢文学は江戸と京都を中心に諸国の村々まで普及したのである。

林羅山(らざん)が徳川家康(いえやす)の信任を得て官学を主導したことから，幕府の昌平坂(しょうへいざか)学問所*では朱子学派の林家が代々大学頭となる。また各藩でもそれぞれ学校を設け，一藩の学風を誇示するようになった。水戸(みと)の弘道館*(こうどうかん)，仙台(せんだい)の養賢堂*，萩(はぎ)の明倫館*，熊本の時習館*などがそれである。その風潮はさらに，各地方の庶民教育の場にも及んで，村村に寺子屋が設けられるほどの発展がみられた。そして江戸時代の中期になると，京都の堀川(ほりかわ)には伊藤(いとう)仁斎*の古学派，江戸に荻生徂徠*(おぎゅうそらい)の古文辞学派などの私学も起こった。中江藤樹*・熊沢蕃山*(くまざわばんざん)ら陽明学派の活動もよく知られている。さらに，太田錦城*(おおたきんじょう)らによって考証学も始められた。そして江戸時代の後期には，頼山陽*・梁川星巌*(やながわせいがん)ら詩人の活動もめざましく，詩教を提唱した広瀬淡窓*の私塾(しじゅく)咸宜園(かんぎえん)も著名な存在であった。こうした江戸時代における漢学は，明治になってから井上(いのうえ)哲次郎*の《日本朱子学派之哲学》《日本古学派之哲学》《日本陽明学派之哲学》という3部の著書でその全貌(ぜんぼう)がとらえられている。

明治以後は，新興の西欧文化におされて漢文学はしだいに衰運に向かうこととなる。明治維新の暁を告げた五か条の御誓文や明治中期に公布された教育勅語は漢文句調で書かれており，また夏目漱石(そうせき)・森鷗外(おうがい)・幸田露伴らの文学者がその豊かな漢文の教養を作品に織り込み，漢文や漢詩を創作したことはあったが，専門の漢文学者としては明治後期に中国に留学した服部(はっとり)宇之吉*・狩野(かのう)直喜らの活躍が目だつ程度である。ただ学校教育の科目としては，国漢英数とよんで重視されてきた。それも近年では当用漢字の制定など，漢文の学習を制約する要素が増加してきている。それだけに学校教育の場でも漢字・漢語の知識をどう導くか，漢文という科目をどう取り扱うかが今後なお検討すべき問題であろう。➔漢文　➔漢詩〔橋川時雄〕

かんべ 【神戸】 〈じんこ〉とも読む。古代，神社に従属し，その生産力をもって神社の経済をささえていた戸。《日本書紀》では崇神天皇7年に置かれたのを起源にしているが，実証の限りではない。大化改新前は神社の部民(➔部)として神田を耕作していた農民であろう。律令(りつりょう)制における封戸*(ふこ)の一つで，その官納した租・庸・調*を神社の財用にあてたが，負担は一般公民より軽かった。神社制度の整備に伴って増加

し,806年(大同1)には4,876戸があった。
〔高崎徳次〕

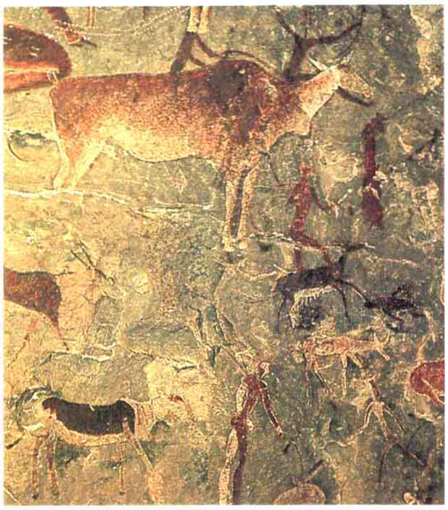
かんぺいしゃ 【官幣社】 ⇨官国幣社

かんべ 【神戸】 ⇨すずか

がんぺいホルモン 【眼柄ホルモン】 甲殻(こうかく)類の眼柄から分泌されるホルモン。脱皮の抑制,脱皮の促進,卵巣の発育抑制,体色変化などに関係ある種々のホルモンが含まれる。これらのホルモンはいろいろな分泌細胞でつくられてから,眼柄内にあるサイナス腺*(せん)にたくわえられ,体液中に放出されて機能を発揮するので,サイナス腺ホルモンということもある。

がんぺきが 【岩壁画】 自然の岩の表面に描かれまたは刻まれた彩画や刻画。洞窟(どうくつ)や岩陰の岩壁,巨石の表面に施される。彩画は主として鉱物性の顔料で描かれ,刻画は石器(まれに鉄器)で,線刻または敲打(こうだ)されて刻まれる。これらの岩壁画は先史時代に属するものが多いが,アフリカやオーストラリアでは現在も行なわれている。主要な岩壁画をあげると,フランスやスペインを中心とする旧石器時代後期の洞窟彩画および線刻画,東スペインの中石器時代の岩陰彩画,大サハラ地域の山岳に広く分布する,新石器時代を中心とする岩陰彩画および岩面刻画,アフリカ南部のブッシュマン族の岩陰彩画と岩面刻画,スカンジナビア半島の中石器時代および青銅器時代の岩面刻画,アルプス山中の新石器時代の岩面刻画,インド中部の旧石器時代ないし新石器時代の洞窟彩画,オーストラリア北部の岩陰に描かれた彩画などがあり,また部分的には,ペルー・カリマンタン島・セレベス島・北海道などにも見いだされる。アフリカのドゴン族は現在も岩陰に彩画を描く風習がある。

これらの岩壁画の制作動機は一様でないが,一般に呪術(じゅじゅつ)的ないし宗教的な目的と関連することが多い。したがって主題は,狩猟民の場合は,彼らが好んで捕獲し食糧とした動物が多く,西ヨーロッパの旧石器時代美術ではウシ・ウマ・シカ・バイソン・ヤギなど,ブッシュマン美術ではアンチロープ・シマウマ・キリン・ダチョウ・ゾウが多い。もとより人物の描出もあり,東スペインのレバント美術では動物とさまざまな形で対峙(たいじ)する人物が描かれる。大サハラ地域では牧畜民の制作した岩壁画を含んでおり,ウシやヒツジの放牧が,当時の社会生活と関連して表わされる。青銅器時代のスカンジナビア美術には日輪崇拝を中心とした当時の信仰生活が,オーストラリアでは特異な神像が表わされる。なお,風景や樹木の描写は,ブッシュマン美術の一部を除き,行なわれない。様式は概してリアリスティックであるが,動物と人物とでは少し異なり,前者は自然主義的,後者は多少とも様式化されている。また時代が下ると,スカンジナビアの青銅器時代の岩



岩壁画 ブッシュマンの岩絵,動物の群れと狩人(南アフリカ共和国ケープ地方)



カンペンドンク 《二つの頭部のある静物》 1920 ボン市立美術館蔵

壁画のように,きわめて抽象化される。

表現の技術は,彩画に単彩画・二彩画・多彩画があり,また線描・べた塗り・打ち塗り・吹きつけなど,変化に富んでいる。それぞれの岩壁画は,時代が下るにつれて,表現の技法が複雑になる。一方,刻画では,輪郭の一線彫り,敲打法による〈たたき彫り〉,形象のまわりの空間を刻んで,形象を浮き出す薄浮彫の技法などがあり,それらは単独に,または結合して用いられる。彩画と刻画の技法が併用される場合も少なくない。
〔木村重信〕

ガンベッタ [Léon Gambetta] (1838〜1882) フランスの政治家。はじめ弁護士として第二帝政を批判して有名になり,共和派の幹部に連なった。1870年プロイセン-フランス戦争が始まり,9月ナポレオン3世が捕虜になると,共和政を宣言して国防政府*に内相として参加し,ドイツ軍に包囲されたパリを軽気球で脱出して各地で抵抗軍を組織した。パリ-コンミューン*崩壊後は,議会で共和派の中心として王党派に対抗し,王政復古の企てをおさえて第三共和政*の樹立に貢献した。1881年,首相に就任したが,短時日で辞職した。
〔大野真一郎〕

かんべんざん 【簡便算】 手ぎわよく結果を求めるためにくふうした計算法のことで,次のようなものがある。

1998＋3627＝(1998＋2)＋(3627－2)
＝2000＋3625＝5625

3627－1998＝(3627＋2)－(1998＋2)
＝3629－2000＝1629

359×25＝(359÷4)×(25×4)
＝89.75×100＝8975

359×125＝(359÷8)×(125×8)
＝44.875×1000＝44875

8975÷25＝(8975×4)÷(25×4)
＝35900÷100＝359

44875÷125＝(44875×8)÷(125×8)
＝359000÷1000＝359

$97^2=(100-3)^2=100^2+3^2-2\times3\times100$
$=10009-600=9409$

78×82＝(80－2)×(80＋2)
$=80^2-2^2=6400-4=6396$

カンペンドンク [Heinrich Campendonk] (1889〜1957) ドイツの画家。1911年にカンディンスキー*・マルク*らに招かれ,〈青騎士〉の最年少の会員となった。のち1933年にオランダに亡命,アムステルダム-アカデミーで絵画を教えた。作品は木版画が多いが色彩に富む油彩に特色をみせる。

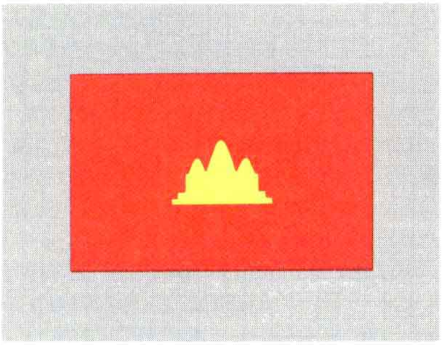
カンポ [Campo] カンポスともいう。ブラジルの熱帯草原をさしていう。アマゾン盆地の南に広がり,南北2,700km,東西2,400kmを占める。まばらな林や灌木(かんぼく)のある比較的湿潤な草原と,灌木がほとんどなくたけの高い草地との二つの地域に分かれる。

かんぼう 【感冒】 ⇨かぜ

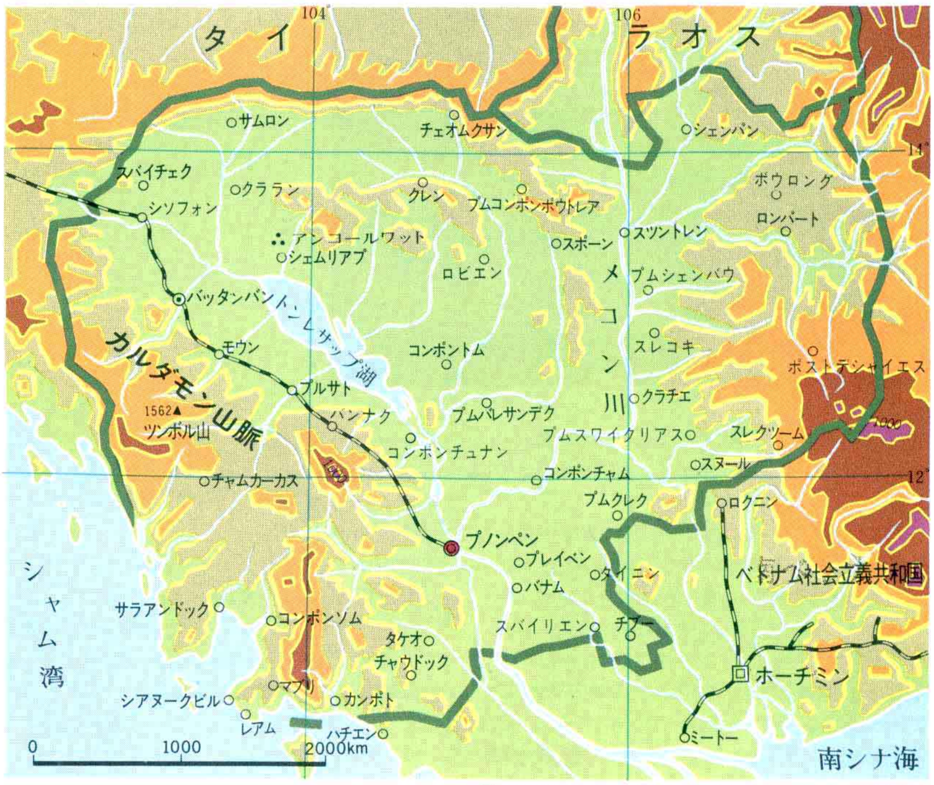
かんぼう 【官房】 国家の行政諸組織の内局に置かれる一部局。その起源は絶対君主制時代に,君主を補佐する少数の臣下が執務した小室を官房とよんだことにあり,王室の財政・行政・外交などのいっさいの事務をつかさどっていた。今日では,内閣・総理府などのほか,各省に機密事項・公文書管理・人事,各部局間の調整・統合的事務を扱う部局が設けられている(国家行政組織法*の規定による)。

かんぽう 【漢方】 ⇨東洋医学

かんぽう 【汗疱】 生理的に角質の厚い部位,手のひら,足のうら,手足の指の腹などに限って現われるあわ粒大ぐらいの水疱。数日後にそのまま吸収されるか,あるいは破れて小さな穴ができたりするが,自然に治癒(ちゆ)する。春から夏にかけて好発し,多汗症の人に多いことから,発汗との関係が考えられるが,発汗の少ない人にも発生する。湿疹(しっしん)の一種と考えている学者もあるが原因は不明。再発傾向があり,よい



カンボジアの国旗　1976年，新憲法に基づき制定された。赤は革命運動と国家の解放・防衛・建設のための勇敢な闘争を意味し，黄の寺院は繁栄する国家を建設しているカンボジア人民の国民的伝統の象徴とされる



カンボジア



カンボジア　首都プノンペンの王宮と庭園。この前をメコン川が流れる

治療法はない。汗疱状白癬*(はくせん)によく似ているので注意を要する。　〔田嶋公子〕

かんぽう　【官報】　政府が，法令の公布をはじめ，通達，告示，国会事項，公務員の人事異動，叙位，叙勲，官庁事項，公告などを公示するため発行する定期刊行物の一種。わが国の官報は1883年(明治16)参議山県有朋(やまがたありとも)の建議により創刊されたが，現在は大蔵省印刷局から日曜日・祝日を除き，日刊で発行されている。なお，必要に応じ号外として衆議院および参議院の本会議会議録と，付録として毎週1回政府の政策などを解説し周知させるための《資料版》を発行している。官報は東京・大阪・名古屋・福岡・札幌(さっぽろ)にある6か所の大蔵省印刷局直営の政府刊行物サービス-センターおよび全国主要都市53か所にある同局指定の政府刊行物サービス-ステーションで販売している。　〔北島武彦〕

かんぼうがくは　【官房学派】　⇨カメラリズム

かんぽうてい　【咸豊帝】　(1831～1861)　中国，清朝(しんちょう)第9代の皇帝。文宗ともいう。1850年即位するとまもなく太平天国*の乱が起こり南京(ナンキン)が陥った。1856年にはアロー戦争*が起こり，1858年には英仏連合軍が天津(てんしん)を占領，天津条約*を結んだ。1860年には英仏連合軍の北京(ペキン)占領により熱河に逃避したが，結局北京条約*を結んだ。こうして多事多難のうちに熱河に病没した。

かんぽうやく　【漢方薬】　⇨生薬

カンボジア　[The Democratic Cambodia]　インドシナ半島東南部の独立国。1970年共和制施行以後，国名をクメール共和国といったが，1976年に新憲法制定，〈民主カンボジア〉と国名を改めた。メコン川下流の低地を中心とする国で，北西はタイ，北はラオス，東はベトナム共和国に接し，南西はシャム湾に面している。面積18万1,000km²。人口887万(1978年推)。首都プノンペン。

〔自然・住民〕国土の4分の3は国土を縦貫するメコン川流域の低地であり，その中央部にトンレサップの大湖がある。メコン川は5～10月の雨季には氾濫(はんらん)して低地をおおい，その水は逆流してこの湖に流れ込む。この時期のプノンペンにおけるメコン川の水位は8mを越える。また11～4月の乾季にはメコン川は水が引き，湖の水位も低下するというぐあいで，トンレサップ湖はメコンの水調節の役割を果たしている。このトンレサップ湖はかつてシャム湾の一部であったが，河川運搬物の堆積(たいせき)により出口をふさがれて淡水湖化したものといわれる。気候は常時高温であるが，乾季・雨季が明確に区分されるサバナ気候で，一般に他の東南アジア諸国に比べて住みやすい生活環境を備えているといえる。住民は大部分が仏教徒のクメール族で，BC2000年ごろ北西方からこの地域に到達したといわれる。早くからインド文化の影響を受け，文化的にかなり高い。ほかに少数民



カンボジア
プノンペンの中央マーケットのくだもの市場の風景。バナナやリンゴ・ブドウなど品数も豊富に取りそろえてある

族としてベトナム人・チャム人・華僑(かきょう)などがいる。公用語はカンボジア語で文盲率は高い。

〔産業・経済〕産業の中心は稲作を主体とする農業であるが，メコン川の氾濫に合わせてイネを栽培する原始的な農法である。このため，米の平均収量は1ヘクタールあたり1.2tで，日本の5分の2にすぎない。しかし土地は広く，1戸あたりの平均耕地は2ヘクタールにも及んでいる。近年，政府は農業の近代化を図っており，日本も技術援助をしている。トンレサップ湖を中心とする漁業もかなり盛んである。またベトナムに近い地域ではフランス人によるゴムのプランテーションも行なわれている。しかし一般に国民の生活水準はまだ低い。独立後政府は経済の近代化に努め，国家資本主義を経済建設の基本とし，五か年計画によって道路の建設，海港(シアヌークビル)の建設などを実現させた。工業では中国・フランスの援助による工場もつくられ，日用品・アルコール製造なども行なわれている。鉱産は，鉄鉱・石灰石・リン鉱などが発見されてはいるが，開発には至っていない。貿易面では米・ゴム・木材が主要輸出品で，いまでもフランスとの関係は強い。

〔歴史・政治〕紀元前後にメコン川下流域に扶南(ふなん)・チャム・クメールの諸民族がおり，中でも扶南が5世紀ごろ栄えたが，いずれもインド文化の影響が強い。6～8世紀には真臘国(しんろうこく)が興り，さらに9世紀にはこの国の歴史を代表するクメール王国が興った。この時代はカンボジアの栄光期といえ，12～13世紀ごろいまも遺跡として残っているアンコールワットなどが建設された。しかし隣国タイの侵略などによって没落した。また近世には南ベトナムからベトナム人の侵入も受けた。この間にあって，この国はかろうじて王国としての存在を保ってきたが，1864年フランスの支配下にはいってその保護国となり，1887年には仏領インドシナの一部に編入された。20世紀にはいってから愛国者ソン-ニヨク-タンなどが出現して，民族主義が進展し，1945年独立を宣言した。1953年フランスは独立を認め，準備期間をおいて1955年完全に独立した。国王シアヌークは退位して改めて国家元首兼首相となり，王国ではあるが国王は事実上空位となった。外交的には非同盟・中立主義をとり，社会主義諸国とも友好関係を保ち，アメリカ合衆国とは1965年に断交した。しかし，1970年3月，軍部によるクーデターが起こり，シアヌーク元首は中華人民共和国にのがれ，11月1日，共和制を施行した。〔別技篤彦〕

カンボジアご　【カンボジア語】　クメール語ともいう。モン-クメール語族に属する一言語。パーリ文字に由来する文字を用いる。カンボジアの公用語。使用者は本国の約500万人およびタイ・南ベトナム・ラオスのクメール族を含めて計600万人前後。最古の記録は7世紀初頭の碑文にさかのぼる。アンコール文化を築いたクメール帝国の時代(最盛期は12世紀)にはインドシナ半島の最も強力な言語であった。現代語では文語と口語との差がことにサンスクリット借用語において著しく，前者はその原形，後者はその変化形を保つ。文法的機能を表わしたかつての盛んな接辞の使用は退化し(接尾辞は完全に消失)，語彙(ごい)は固定化してむしろ孤立語的様相を呈する。〔崎山　理〕

カンポ-フォルミオのわやく　【カンポ-フォルミオの和約】　1797年10月フランスとオーストリアの間に結ばれた和約。総裁政府からイタリア遠征軍の司令官に任ぜられたナポレオンは，北イタリアでオーストリア軍を破ってこの和約を結ばせた。この結果，第1回対フランス大同盟は解体し，フランスはオーストリアからネーデルラントその他を得，また密約でライン左岸の地を入手した。和約は結局一時的休戦状態を得たにすぎなかったが，このためにナポレオンの名声はさらに高まった。〔大野真一郎〕

がんぽん　【元本】　広義では，果実を生ずる基礎となる財産(たとえば，貸し家・貸し地・公債・株券・預金など，さらには無体財産権である特許権なども含む)のこと。しかし普通には法定果実を生ずる元物をいい，特に利息に対する貸し金のことをいう。

かんまいり　【寒参り】　社寺参詣(さんけい)の一形式。1年じゅうで最も寒気のきびしい寒の内に社寺を巡歴すること。修験者(しゅげんじゃ)が修行のために始めたものが最初で，これがしだいに一般化した。個人的に強い祈願をかけて行なわれる場合が多く，苦痛をいとわず行なうと，特に霊験が著しいと考えられ，中には水垢離(みずごり)をとり，素足で参詣する者もある。

かんまき　【上牧(町)】　奈良県北西部，北葛城(きたかつらぎ)郡の町で，大阪府に接する。農村地帯であったが，西大和ニュータウンなどの団地の進出によって，人口が急増，1970年(昭和45)の国勢調査では4,483人であったのが，1975年には1万1,488人となり，5年間の増加率は156.3%で，全国一である。これは大阪市を中心とする都市人口の〈ドーナッツ化〉が現われた結果にほかならない。2位は北海道石狩支庁広島町の128.4%。現在の人口は約16,000。〔浅井得一〕

ガンマ-グロブリン　［γ-globulin］　血清グロブリンの一。血液の液体成分である血清を電気泳動によって分画すると，アルブミンとグロブリン(α・β・γ)に大別される。病源体に対応して働く抗体(免疫によってつくられた抵抗力をもつタンパク)の大部分はこのγ-グロブリン中に含まれ，医学の分野ではこれを純粋に取り出して治療薬として使用している。麻疹(ましん)・小児麻痺(まひ)に感染するまえや感染直後に与えると，それらの疾患を予防し，また症状を軽くするのに有効である。乳幼児の重症感染症や風疹・破傷風・ジフテリア・敗血症・ウイルス性肝炎にも用いる。〔竹内直子〕

ガンマせん　【γ線】　⇨放射線

ガンマフィールド　⇨放射線育種場

ガンマりゅうし　【γ粒子】　α粒子・β粒子と並んで放射性元素から飛び出すエネルギーの高い電磁波。加速器・宇宙線でつくられる高エネルギー電磁波をも総称してγ粒子という。ふつう，γ線といっているが，物質は粒子と波動との二重性を有しており，電磁波も波の性質と粒子の性質をもっているので，粒子の立場ではγ粒子という。➔放射線

がんみつとう　【含蜜糖】　糖蜜を分離させた分蜜糖に対し，分蜜せずに原始的な方法で製造する砂糖をいう。黒糖・赤糖・白下糖・和三盆などがあり，いずれも純度が低く不純物を含んでいるので複雑な味をもち，風味が賞用される。下級菓子やつくだ煮などに用いる。➔砂糖

がんみゃく　【岩脈】　ほぼ平行した側壁をもち，長さに比べてその幅が小さい火成岩が他の岩石を貫いている場合に，この火成岩の産状を岩脈という。露頭では板状に見られる場合が多いが，ときに輪状を呈したり，岩脈中を他の岩脈が貫いて複合する場合もある。なお，成因はまったく違うが，堆積(たいせき)岩(砂岩など)が他の岩石の割れ目などを埋めて火成岩の岩脈と類似した産

状を示すことがあり，それを堆積岩脈（水成*岩脈）とよぶことがある。〔平山　健〕

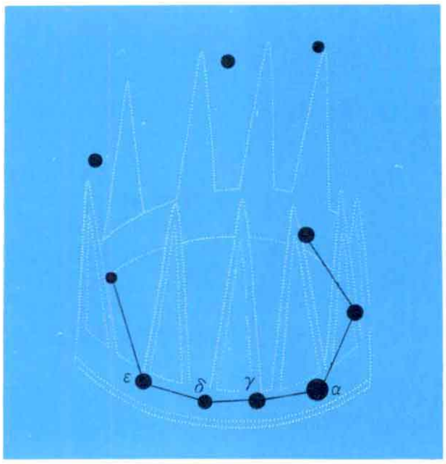
かんみりょう　【甘味料】 天然甘味料と合成甘味料とがある。前者には，砂糖・水あめ・ブドウ糖・甘草エキスなどがある。砂糖は甘蔗（かんしょ）や甜菜（てんさい）から抽出し，水あめ・ブドウ糖はジャガイモ・サツマイモ・トウモロコシなどのデンプンを酸あるいは酵素で分解してつくる。カンゾウはマメ科の植物でその甘味成分はおもにグリシルリジンである。合成甘味料は食品添加物なので，使用するには食品衛生*法の規制を受ける。現在許可されているものに，サッカリ*ンやブドウ糖を還元してつくるソリビットなどがある。〔佐藤友太郎〕

かんみんぞく　【漢民族】 中国の住民を代表する民族。中国の全人口約8億の9割以上で，本国ばかりでなく移住民として東南アジアにも広く分布している。一般に淡かっ色の皮膚，黒かっ色の直毛，黒かっ色の虹彩（こうさい）で，東アジア民族に共通の特徴をもっているが，地域的に相当大きな違いが目だつ。これは風土の相違のほか，歴史的に周辺の異民族との混血を経た結果である。もともと，彼らは黄河（こうが）中・下流域の原住地からしだいに広がったのであって，その固有の文化のいきわたる範囲を中華・中国・華夏などと称した。はじめて統一国家を形づくったのは秦（しん）・漢王朝（BC221～AD220）であるが，特に漢は前後400年以上も続いたので，漢という字は今日まで中国の代名詞のようになっている。共通の言語は漢語で，一字一音の漢字の結合によって表現される。方言はきわめて多いが，今日では北京（ペキン）方言を標準語とする。漢民族について特記すべきは，古く旧石器時代に民族形成が行なわれて以来，今日まで発展を続け，文化の上でも連続を維持していることである。たえず異民族と対立しながらも，人種的・文化的にそれらを同化し，特有の中華世界を拡張したのは，他の民族に例をみないといってよい。〔日比野丈夫〕

かんむてんのう　【桓武天皇】（737～806）在位781～806年。名は山部（やまべ），光仁（こうにん）天皇の第1皇子，母は百済（くだら）系帰化氏族の高野新笠（たかののにいがさ）。母が卑姓のため，光仁天皇の即位に際しては他戸（おさべ）親王が立太子したが，773年（宝亀4）代わって皇太子となり，781年（天応1）父に代わって即位。先代の律令（りつりょう）*制再建の方針を継承して班田制の励行，地方官の綱紀粛正，新仏教の保護を図り，これと並行して長岡遷都，次いで平安遷都を行ない，また坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ）をして*蝦夷（えぞ）を討たせ，大いに治績をあげたが，晩年は造都・征夷（せいい）ともにやめて民力の休養を図った。陵墓は京都市伏見区桃山の柏原（かしわばら）陵。〔黛　弘道〕

かんむへいし　【桓武平氏】 ⇨平氏

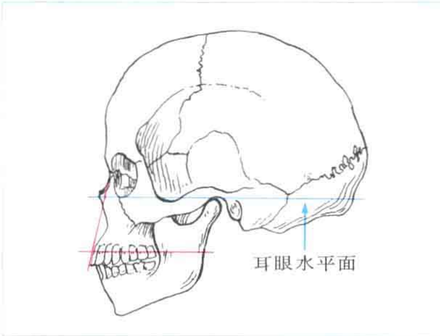
かんむり　【冠】 朝服に着用するかぶり



かんむり座



カンムリヅル



顔　面　角

物の総称。603年（推古11）に冠位十二階の*制が定められ，臣下を冠の色によって12級に分けた。その後多少の改変があって，683年（天武11）新しく漆紗冠（しっしゃかん）の制ができ，これが後世の冠の祖となった。奈良時代に*礼服（らいふく）・朝服が制定されると，前者には礼冠，後者には漆紗冠系のずき*んをかぶることになった。礼冠には，天皇の冕（べん）冠，女帝の宝冠，童帝の日形冠などがある。一方，朝服用のずきんは袋様のもので，平安時代のはじめ髻（もとどり）を入れる巾子（こじ）という円筒を後頭部に立てたが，まだ冠は柔らかく，冠の後部にさした纓（えい）も背へたれ下がっていた。それが，平安末期から漆で塗り固め，纓も後方へ張るようになり，ようやく冠の定形ができあがった。〔稲垣史生〕

かんむりうみすずめ　【冠海雀】 鳥類・ウミスズメ科。全長は25cmほど，胸腹部は白色，上背面は灰青色で，冠状の羽毛がある小形のかわいい海鳥。わが国の近海でのみ繁殖している日本特産種。伊豆（いず）七島・三重県・静岡県など数か所の島で繁殖。

かんむりざ　【冠座】 夏，南の空に見える主星が2等星の小さな星座。うしかい座の東隣に，比較的暗い6～7個の星が小さな半円形に連なっているのが目じるし。

かんむりつくしがも　【冠筑紫鴨】 鳥類・ガンカモ科。冠状の羽毛をもち，全体に美しい羽毛の大形のカモ。世界じゅうにただ3点（朝鮮産2点，ウラジオストク産1点）の標本があるのみの希種。わが国の古画に本種を描いたものがあるといわれ，昔は日本にも渡来したものと考えられている。上記の朝鮮産の標本のうちの1点が採集されたのは1916年で，それ以後この種はまったく採集も観察もされていないので，絶滅したと考えられている。また，絶滅以前の個体数や生息状況は知られていない。

かんむりづる　【冠鶴】 鳥類・ツル科。頭上に金かっ色の細かい扇形の冠状の羽毛のある中形のツル。アフリカのナイル川流域とそれ以南に分布。動物園で飼育され，繁殖もしている。

かんむりばと　【冠鳩】 鳥類・ハト科。ニューギニア，およびその付近の諸島の原産。頭上には大きな毛冠があり，上半身は美しい青灰色，背面はやや濃く，翼はくり色をおびる。ハト科の中では最も大形で，翼長40cmに達し，脚が魚のうろこのようなものでおおわれ，盲腸がない。孵化（ふか）するまでに23日を要する。

かんむりやま　【冠山】 〈かむりやま〉ともいう。中国山地の西部，広島・山口・島根の3県にまたがる冠山山地の中央，3県の県境に位置する山で，標高1,339m。錦（にしき）川・太田（おおた）川・高津川などの水源になっている。

かんむりょうじゅきょう　【観無量寿経】 浄土三部経の一。424～453年ごろ，畺良耶舎（きょうりょうやしゃ）により漢訳。無量寿仏すなわち阿弥陀*仏（あみだぶつ）を観察する経の意。インドのマガダ国の韋提希妃（いだいけひ）は，親をも幽閉するアジャータシャトル（阿闍世太子）の悪逆ぶりを悲しみ，仏に憂いのない浄土をみ，往生できるように願った。これに対し仏は16の方法を示された。第1～第13は，高度の精神集中による浄土や阿弥陀仏の観察で，第14～第16が往生の方法である。特に第16では，他の高度な仏教修行者よりも，むしろ最も罪多き者が，一心に〈南無（なむ）阿弥陀仏〉と唱えれば罪は消え往生できることを示している。これを重視した善*導は注釈を著わし，それが法*然の浄土宗を開くもととなった。なお，経に説かれた浄土や仏の姿は，多彩な浄土教芸術のよりどころとなった。〔真野龍海〕



関門海峡
関門海峡のうち最も幅の狭い早鞆ノ瀬戸。手前左側が下関市で対岸が北九州市門司区の門司港。遠景は周防灘

かんめ ⇨角膜軟化

がんめん【岩綿】ロックウールともいう。カンラン岩またはジャモン岩などマグネシアに富む岩石に，マンガン鉱などを適量混ぜて溶融し，溶融物を吹き飛ばしながら冷却すると，綿状のものができる。これを岩綿という。保温材や防音材・防火材として利用される。

がんめんかく【顔面角】人類学で用いられる角度。いろいろの種類があるが，最も普通には全側面角が使われている。これは，頭骨鼻・前頭縫合の中央(ナジオン)と上顎(じょうがく)中切歯歯槽(しそう)縁の中央(プロスチオン)を結ぶ直線が耳眼水平面となす角をいう。類人猿(るいじんえん)を人類と比較するとき，前者の顔面は脳頭骨の90%を占め，それだけ顔が前に突き出ているが，後者は約40%にすぎないので，大きな頭骨の下に隠れている。このことは全側面角に大きな差として現われる。たとえばオランウータン41°，ゴリラ55°，チンパンジー56°に対して，現代人では日本人85°，ヨーロッパ人89°とはなはだしく大きい。➔前ページ(図)

がんめんしんけいつう【顔面神経痛】顔面の神経痛であるが，表情運動のみをつかさどる顔面神経とは関係ない。➔三叉(さんさ)神経痛

がんめんしんけいまひ【顔面神経麻痺】顔面の表情筋運動をつかさどる顔面神経の麻痺。表情筋の障害のため顔がゆがみ，重症のときは目を閉じても白目が残り，口角が健側に引かれ，よだれが出るが，顔面知覚はまったく正常である。大脳の障害が原因の場合では，顔面上半部の麻痺は著明でないが，脳幹の顔面神経核より末梢(まっしょう)の障害が原因の場合では，顔面全体の不対称が目だち，額のしわが寄せられず，また閉眼力が著しく弱くなる。頭蓋骨(とうがいこつ)内の狭い顔面神経管内に炎症性腫脹(しゅちょう)が起こって生ずる末梢性麻痺のほうが多くみられ，患側の唾液(だえき)分泌や味覚も犯される。そのほか，脳底髄膜炎・脳底部腫瘍(しゅよう)・外傷・多発神経炎などでも起こる。〔井形昭弘〕

かんもち【寒餅】寒の内についたもち。元来，もちは正月の松の内の神祭に欠かすことのできない食物であった。これを長期間保存するため，東北地方ではもちを冷水にひたして凍らせたり，山口県ではもちを水がめに入れて水もちにしたりした。寒もちは元来保存の必要から起こり，また寒中につくと美味で，いつまでも腐らないなどといわれて習俗化したものとみられる。

がんもどき【雁擬】油揚げの一種。ガンの肉に似ているところからこの名がある。昔は麩(ふ)を油で揚げたものであった。いまは，豆腐を袋に入れて水を絞り，これにヤマイモ・ニンジン・ゴボウ・コンブ・ゴマなどを入れて適宜に丸め，最初は低温，ついで高温の油で揚げてつくる。おでんなどに用いる。関西では飛龍子(ひりゅうず)という。

がんもどし【願もどし】死者が生前神仏に願かけをしていた場合，死者の執念があとあとまで残ることを恐れ，心残りなく成仏するよう，死者の神仏への祈願を撤回してやるための作法。大別して，願が成就したこととして，死者に代わって礼参りをするもの，立願を撤回するため扇のかなめをはずして屋根のむねを投げ越したり，死者が用いていた食器をこわしたり，着物をさかさまにしてすそを振りながら願もどしのことばを唱えたりする方法がある。地方によっては願はたし・願ほどき・願もどき・願ばらい・願びらきなどとよび，いずれも願をかけるまえの状態にもどし，神仏との縁を断つという趣旨が呼称に表われている。

かんもん【勘文】朝廷や幕府の諮問(しもん)に応じて，先例や故実・日時・方角などを調べて上申する文書。太政官(だじょうかん)の外記(げき)，史(ふひと)・明法(みょうぼう)博士などから出されるほか，天文道・陰陽道(おんみょうどう)・暦道・医道など多くの勘文がある。

がんもん【願文】仏教徒が造寺・造塔・造像・写経をはじめその他いろいろな仏事を行なうにあたり，その願意を表白した文をいう。書式は，まず〈敬白〉と書き，次に仏事作善(さぜん)の事々を列挙する。そのあと改行して願意を記し，慎んで敬白する意味のことをしるして，日付けと願主の位署で終わる。主として漢文体，ほかに宣命体・かな書きもある。中国では六朝(りくちょう)時代に盛んにつくられ，日本でも法隆寺薬師仏光背の銘や光明皇后の写経願文など数多く現存している。〔広川堯敏〕

かんもんかいきょう【関門海峡】山口県下関(しものせき)市と福岡県北九州市門司(もじ)区の間の狭い海峡。以前は下関海峡の名で知られ，江戸時代末から明治時代には下関の旧名である赤間関(赤馬関)(あかまがせき)の略称から馬関海峡とよんでいた。現名は下関と門司からとったもの。瀬戸内海の西の出入り口をなし，周防灘(すおうなだ)と響灘とをつなぐ。海峡の西端は彦(ひこ)島と洞海(どうかい)湾口，東端は企救(きく)半島裏門司の部崎(へさき)と対岸下関市長府で，東の海中に満珠島・干珠島がある。海峡の中心は彦島と門司との間の大瀬戸(幅1.5km，水深15m)で，その東の下関市壇ノ浦と門司側の和布刈(めかり)との間は海峡の最狭部の早鞆(はやとも)ノ瀬戸である。下関と彦島との間は小瀬戸とよばれ，下関漁港がある。下関市側も北九州市側も工業地域で，大瀬戸の海底下を関門鉄道トンネルが通じ，早鞆ノ瀬戸の海底下を関門国道トンネルが通じている。さらに1973年11月14日に東洋一の吊り橋，関門橋(全長1,068m)が開通した。〔山口恵一郎〕

かんもんトンネル【関門トンネル】関門海峡の海底を貫いて本州と九州をつなぐトンネルで，鉄道トンネルと国道トンネルがある。鉄道トンネルは，下関(しものせき)市彦(ひこ)島と北九州市門司(もじ)区小森江の間に通じ，海底鉄道トンネルとしては世界唯一のもので，下り線と上り線が別々の2本の単線トンネルからなっている。下り線は1942年(昭和17)完成，延長3,614m，上り線は1944年完成，延長3,605m，海底部分はともに1,104mで，山陽本線に属し，第2次世界大戦中の労働力や資材の不足を克服して工事が成し遂げられた。国道トンネルは，鉄道トンネルの北東5km，関門海峡中で最も狭い下関市の壇ノ浦と門司区の和布刈岬(めかりみさき)の間の早鞆(はやとも)ノ瀬戸の海底を通じる国道2号線のトンネルで，1939年に着工し，戦時中および戦後の困難な時代を経て1958年に19年ぶりで完成した。長さ3,461mで，海底部分は780m，海底部分は内径9.8mの円形のトンネルで，上・中・下の3段に分かれ，上段は排気ダクト，中段は自動車道(幅員7.5m)，下段は歩道と送気ダクトとして使われている。自動車排気ガスのための排気・送気ダクトは，トンネルの中間にある椋野(むくの)・下関・門司・

観葉植物


ベゴニア-アイアンクロス


エピスシア


グズマニア-マグニフィカ


コレウス


ペペロミア


フィロデンドロン


コルジリネ


シュロガヤツリ

古城の4本の換気用立坑に連絡している。最近は鉄道・道路の交通が飽和状態に達したため，鉄道では山陽新幹線が建設され，1975年に博多(はかた)まで開通，この新幹線の関門トンネルの長さは1万8,560mで，日本一であるばかりでなく，世界でも3位である。〔浅井得一〕

かんゆ　【換喩】　⇨比喩

かんゆ　【肝油】　マダラ・スケソウダラなどの食用魚類の肝臓から採った油。ビタミンA(普通1g中2,000国際単位以上)・ビタミンD_3(1g中200国際単位以上)・飽和脂肪酸・不飽和脂肪酸・グリセリドなどを含む。古くから薬用として用いられた。ビタミンA・D欠乏症の治療・予防，妊産婦・病人・小児の栄養剤，また肉芽形成促進のために外用にも使用されている。特異なにおいのする淡黄色の油で，味はほとんどないが，飲みにくいので，ゼリー・ドロップ製剤として利用される。なお，ビタミンAの必要量は1日成人2,000国際単位，妊婦2,500国際単位，授乳婦3,500国際単位，小児800～1,500国際単位，またビタミンDの必要量は年齢に関係なく1日400国際単位である。

かんゆ　【韓愈】　(768～824)　中国，唐代の文人。韓退之(かんたいし)ともいう。おくり名は文公。六朝(りくちょう)から唐代に至る間に盛行した四六文が修辞美を事とするのに対し，周・秦(しん)から前漢に及ぶ時代の散文を模範として〈古文〉を提唱し，士大夫階級の散文の支配的文体にした。思想史的には宋(そう)代儒教の先駆者でもある。詩は，杜甫*(とほ)の詩風をならい，形式の点で意匠を凝らした。親しい友に柳宗元*があり，賈島*(かとう)・李賀*(りが)らの後進を導いた。唐宋八大家*のひとり。〔今村与志雄〕

かんよう　【官窯】　中国で宋(そう)以後，高級の陶磁をつくるために設けられた政府直営の窯(かま)。また，その製品をさす。北宋では都の開封付近に置かれ，青磁を焼いたと考えられるが，遺跡も明確でないので，汝州(じょしゅう)青磁の高級品こそ官窯だろうという説がある。南宋では杭州(こうしゅう)付近に置かれた修内司窯と郊壇窯がそれで，青磁の最高級品とされる。明(みん)・清(しん)では景徳鎮*に宮廷御用品を焼く御器廠(しょう)を置き，各時代を通じてそれぞれ代表的な名品をつくった。〔日比野丈夫〕

かんよう　【咸陽】　シエンヤン　中国，陝西(せんせい)省の中央部の都市。人口241万1,000(1957)。西安の北西26kmに位置する。渭水(いすい)の北岸に面し，隴海(ろうかい)鉄道の沿線にある水陸交通の要地である。秦(しん)の始皇帝にゆかりの深い咸陽城は東約10kmの位置にある。天下の富豪を移住させて繁栄をきわめたが，項羽のために滅ぼされて宮室は灰燼(かいじん)に帰した。周辺は小麦・綿花・大麦・トウモロコシを産し，その集散地となっている。最近では綿紡織工業が隆盛。

かんようく　【慣用句】　イディオムともいう。二つ以上の単語の結びつき方が強くなり，その組み合わせが固定化して，全体として特定の意味を表わすようになったもの。したがって，形式上はある程度分解できるが，意味上は一単語的なものも多い。動詞的なものとして〈腹をたてる〉〈腹がたつ〉〈ほねをおる〉〈メスを入れる〉〈たなに上げる〉〈らちがあく〉〈けりをつける〉，形容詞的なものとして〈鼻が高い〉〈手が長い〉〈口が軽い〉〈だらしがない〉〈元も子もない〉，副詞的なものとして〈にべもなく〉〈ねこもしゃくしも〉の例があげられる。〔西尾寅弥〕

かんようしょくぶつ　【観葉植物】　葉の美しさを観賞するために栽培する植物の総称。広い意味ではハボタンやハゲイトウ・タチテンモンドウ・イワヒバ・マツバランなども含まれるが，一般には温室で栽培され，室内装飾に用いられる植物の意。温室栽培の観葉植物は，近年世界的の流行となり，日本でも洋風建築物の増加に伴って急速に需要が増加した。これらの植物は種類が多く，性質もかなり異なったものが多いので，主要なものについて概説する。

①パイナップル科植物：アナナス・アレゲリア・ビルベルギア・クリプタンサス・フリージアなどの属が含まれる。用土は水苔(みずごけ)だけでもよい。生長点を水に浸し

ておくと生育がよい。適温は25℃ぐらいであるが，7℃でも越冬する。繁殖は株分け，吸枝の水苔ざしによる。

②イラクサ科植物：モヨウカラクサがこれに属する。腐葉を混ぜた軽い土を用い，半日陰・多湿の場所で栽培する。繁殖は茎ざし。5°Cで越冬。

③アオイ科植物：フイリアブチロンがこれに属する。腐葉を混ぜた排水のよい砂質壌土(じょうど)を好む。繁殖は春，さし木による。移植は3月。あまり強光でなければ日あたりのよい所に置く。

④カヤツリグサ科植物：カミガヤツリ・シュロガヤツリなどがある。夏季は戸外の池などに出し，冬は温室内ではち植えとしておく。越冬温度5℃。4～5月に株分けして繁殖する。

⑤キツネノマゴ科植物：アミメグサ・キンヨウボク・ウラムラサキなどが含まれる。水苔植えか腐葉のはいった砂質壌土に植える。高温多湿を好み，越冬温度は10～15℃。株分けで繁殖させる。

⑥クズウコン科植物：カラテア・ストロマンテ・マランタ属が含まれる。用土は腐葉と砂に鹿沼土*(かぬまつち)を混ぜたものがよい。高温多湿を好み，越冬温度は10℃以上。強光をきらい，よしず下で栽培する。植え替えは4月。株分けで繁殖する。

⑦クワ科植物：ゴムノキ類が含まれる。腐葉の多い粘質土を好む。越冬温度は5℃。さし木や取り木によってふやす。さし木の適期は4～5月。

⑧コショウ科植物：ペペロミア属がこれに含まれる。腐葉と鹿沼土を加えた砂質壌土に植える。よしず下で栽培。移植の適期は4月。越冬温度は10℃以上。株分け・葉ざしでふやす。

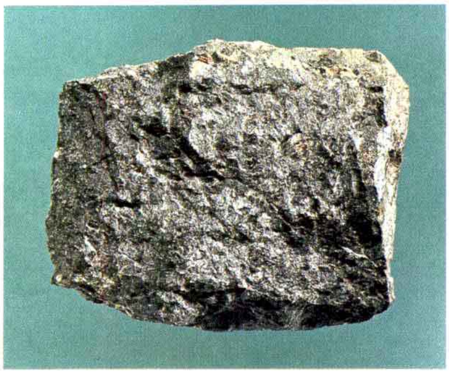
⑨シュウカイドウ科植物：ベゴニア属が含まれる。腐葉の多い砂質壌土に植える。高温多湿を好み，強光をきらう。生育適温は25℃，越冬温度10℃。移植適期は4～5月。葉ざしをすれば，1枚の葉から10数株を得ることができる。さし木は20～25℃が適温。

⑩タコノキ科植物：パンダナス属がはいる。腐葉を含んだ肥沃土(ひよくど)を好む。生育適温は25℃，越冬温度7℃。実生または株分けでふやす。

⑪ツユクサ科植物：ムラサキオモトやハカタカラクサが含まれる。性質強健。さし木でふやす。

⑫タカトウダイ科植物：クロトンがこれに属する。腐葉と砂を含んだやや粘質土を好む。生育適温は25～27℃，越冬温度は15℃以上。植え替えは4月。取り木・さし木でふやすが実生もまれに行なわれる。

⑬サトイモ科植物：アグラオネマ・アロカシア・アンスリューム・ディフェンバキア・モンステラ・フィロデンドロンなどがある。20～25℃が生育適温。よしず下で栽培。株分け・さし木・取り木など



カンラン岩 スウェーデン産

⑭ヤシ科植物：ケンチャ・フェニックスなどのヤシ類が含まれる。生育適温は20～25℃，越冬温度は種類によって異なる。実生により繁殖。

⑮ユリ科植物：アスパラガス・サンセベリア・ドラセナ・コルジリネなどが含まれる。栽培方法は種類によって異なる。

〔小杉　清〕

かんようれい【寛容令】 名誉革命*後の1689年，イギリス議会で制定された宗教法令。宗教的寛容を望む国民の声とカトリック教徒の進出を恐れるプロテスタントの主張に動かされて，エリザベス1世以来非国教徒に課していた罰則を部分的に排除した。その結果，カトリック教徒とユダヤ教徒を除く非国教徒に信仰の自由が認められた。しかし，それは条件つきで，しかも審査律*は従来どおり適用されたので，完全な信仰の自由とはいえなかった。なお，〈ミラノ勅令*〉〈ナント勅令*〉のような信仰の自由をある程度認めた法令一般をさすことも多い。

がんらいこう【雁来紅】 双子葉植物・ヒユ科の一年草。ハゲイトウの漢名であるが，特に葉が赤と緑の2色のものをこうよぶことがある。➔ハゲイトウ

かんらん【橄欖】 双子葉植物・カンラン科の常緑高木。中国南部・ベトナムに自生する。日本では鹿児島県南部で栽培され，よく結実する。高さ9mに達する。葉は互生し，長さ30cmほどの羽状複葉で，小葉は革質。5月に葉腋(ようえき)に円錐(えんすい)花序に小白花をつける。果実は緑色で，熟すと白緑色となる。果肉は渋く酸味があり，生食したり，砂糖づけ・塩づけにされる。

かんらんがん【橄欖岩】 カンラン石*を主成分とし，チョウ石をほとんど含まない深成岩*。典型的な超塩基性岩*である。カンラン石のほかには，キ石*・カクセン石*・キンウンモ*・クロムテッ鉱*などを種々の割合で伴う。また，カンラン石やキ石はジャモン石化していることが多く，その程度もいろいろで，ジャモン岩*へと漸移する。ジャモン岩とともに，造山帯の褶曲(しゅうきょく)構造に沿って，いくつものレンズ状岩体として雁行(がんこう)状に分布していることが多い。日本でも西南日本外帯*や北海道の日高地方などで，そのようなかけがみられる。カンラン石に富むカンラン岩は，1,600～1,800℃ではじめて溶融するので，耐火れんがの原料として利用される。また，それを粉砕して砂状にしたものは〈オリビンサンド〉とよばれて，良質の鋳物砂として用いられる。

かんらんせき【橄欖石】 マグネシウムと鉄のケイ酸塩で重要な造岩鉱物*の一。$(Mg,Fe)_2SiO_4$　斜方晶系。比重3.3～3.5，硬度6.5～7，劈開*(へきかい)不完全，屈折率1.64～1.68。Mg_2SiO_4(クドカンラン石)とFe_2SiO_4(テツカンラン石)の間は完全な固溶体*をなす。結晶として産することはまれで，ふつう粒状をなす。ふつう黄緑色でガラス光沢を呈するが，鉄が多くなるとかっ色～黒色になる。透明で黄緑色のものはクリソライトとよばれ，宝石となる。玄武岩*・ハンレイ岩*・カンラン岩*などの塩基性もしくは超塩基性火成岩中に産する。クドカンラン石はスカルン*中に産する。また石質～石鉄質隕石(いんせき)の主要鉱物である。変質しやすく，熱水作用によってジャモン石や鉄の酸化物に変化する。クドカンラン石は融点が高く，1,500℃以上の高温に耐えるので耐火れんがの製造に用いられる。地殻(ちかく)深部に豊富に存在していると考えられ，重要な鉱物である。

〔加藤敏郎〕

かんりうんえいじこう【管理運営事項】 公共企業体等労働関係法(略称，公労法)および地方公営企業労働関係法(略称，地公労法)上の用語。公労法8条・地公労法7条では，団体交渉*の対象として，管理・運営に関する事項を除外している。日本政府は，管理運営事項と労働条件に関する問題とを分け，労働条件に関する問題は団体交渉の対象になるが，管理運営事項はその対象とならないと主張している。しかし，管理運営事項と労働条件とをはっきり区別することは不可能であり，一応管理運営事項とみられる事項も，多くは労働条件の問題と不可分である。それゆえ，ILOのドライヤー勧告*も，このことを批判し，少なくとも，定員と配置・転換を対象外に置くべきでないと勧告している。現実には，管理運営事項は団体交渉の対象とならないというしくみのもとでも，労働条件の面から交渉の対象にすることができる。

〔木元錦哉〕

かんりかいけい【管理会計】 経営管理を合理的・効果的に遂行することを目的として組織・運用される会計。実際原価計算・標準原価計算・直接原価計算・営業費計算・損益分岐点分析・差額原価分析・経営比較・経営統計などのいろいろな計算手段を包摂している。財務会計*が資本の調達・運用を主体とした財務活動に対する会計であり，その特色が回顧的・過去的会計といわれるのに対して，管理会計は経営における諸機能を対象とした会計であり，未来思考を特色とする会計といわれている。今日では，管理会計を計画のための計画会計と統制の

ための統制会計とに分けて体系づけるのが一般的となっている。計画のための計画会計というのは，将来を予測したうえで企業の活動の目的を設定し，その目的を実現するための代替的な諸方策を探究し，その中から最も適当な方策を選択するために役だつ会計であり，損益分岐点分析・直接原価計算・差額原価計算などが中心となっている。損益分岐点分析というのは，費用・売上高・利益の関係を明らかにすることによって短期利益計画への有用な資料を提供するものであり，直接原価計算は，短期利益計画の設定，価格政策，期間費用の計画管理などのための限界分析資料を提供するものである。統制のための統制会計は，企業活動を定められた目標へ規制するための会計であり，標準原価計算と予算とがその中核をなす。標準原価計算は，生産要素の消費量標準を設定し，標準と実績との比較・分析を通じて原価管理のための資料を提供することを目的とする。予算は，統制の指標を利益ないし利益率に置き，予算と実績との比較・分析を通じて利益管理に役だつ資料を提供することを目的とするものである。〔山桝忠恕〕

かんりかかく【管理価格】 生産者または販売者によって決定される価格。かなりの期間にわたって一定で変化することなく，また需要の変化が価格よりもむしろ生産と販売の変化に反映するものをさして一般に管理価格という。アメリカの経済学者ミーンズによって用いられはじめた用語とされている。狭義では独占的な大企業が自己に有利なように製品の販売価格を定めようとして，プライス-リーダーシップや価格カルテルなどを通じて決定する価格を意味する。しかし，このような現象は独占的な大企業のみにみられるものでなく，労働組合の組織力による賃上げも一種の管理価格の採用とみることができるし，中小企業の価格カルテルもこれに含まれるとする見方がある。

管理価格のもとでは，需要量の減少に際して，価格の切り下げの代わりに供給量の減少という措置がとられる。したがって，そこでは非価格競争が激しく行なわれることになり，生産性の上昇による製造コストの低下分は，価格の切り下げのためにではなく，宣伝費や販売上の諸経費のために用いられることが多い。このため，価格機構の働きが鈍り，経済活動の指標としての機能を有効に果たせなくなってくる。しかし，他方では，このような管理価格は経済全体に広く普及しており，現代の大量生産と大量販売はあらかじめ設定された価格表をもとにして運営されるのであるから，管理価格は現代の生産と流通において必然的なものであるともいわれる。管理価格は産業や市場の構造的特徴と，競争において重要な地位にある企業の競争戦略との関連で成立するが，その成立条件としては競争者が少数であること，規模に格差があること，市場が細分化されていること，製品の需要が非弾力的なものであること，コストの硬直性が増大していること，さらに団体契約の領域が拡大していることなどがあげられる。

管理価格において問題が生じるのは，生産者または販売者が価格を大幅に恣意(しい)的に定め，その決定がつねに市場で採用される場合に限られるのであり，管理価格は悪影響のみをつねにもたらすようなものではない。しかし，管理価格が乱用された場合には，過度の非価格競争，競争によるコスト引き下げ圧力の消滅，コストインフレーション，さらにインフレーション的賃金などの発生という重大な結果をもたらすことになる。〔加藤　寛〕

かんりげんぽうじけん【官吏減俸事件】 1929〜1931年(昭和４〜６)浜口・若槻(わかつき)両内閣が緊縮政策の手始めに立案した官吏の減俸計画とその実施および影響をいう。1929年10月浜口内閣は月給100円以上の官吏の俸給を１割平均減額すると決定(1930年１月実施予定)したが，司法・海軍・鉄道・拓務各省官吏が反対したため総選挙への影響を恐れて撤回した。しかし1931年５月，若槻内閣は再び減俸総額988万円の減俸案を実施，府県・市町村吏員にも及ぼした。これに対し特に鉄道省では本省の局・課長総辞職の決議，ゼネスト決行の気運をみせ，また逓信・農林官吏や教員もこの運動に加わったので，政府は減俸の率の引き下げ，除外例や実質的なすえ置きなどで，妥協を図った。この事件は政党内閣に対する文武官僚の不満を募らせ，少壮軍人のファッショ化の一因となった。〔安達淑子〕

かんりこうい【管理行為】 財産を管理するに必要な行為をいう。財産の管理にあたって，その代理の範囲は法律の規定や契約の内容によって定められるが，実際にはその範囲をめぐって争いが生ずることが少なくない。そこで民法は，代理の範囲として次の三つの行為を代理人に許している。①保存行為といわれるもので，家屋の修繕や時効の中断など，財産の現状を維持する行為。②利用行為といわれるもので，家屋の賃貸や荒地の耕作など，財産の性質を変更しない限度で収益を図る行為。③改良行為といわれるもので，家屋の造作の設置や無利息の貸し金を利息つきにするなど，財産の性質を変更しない限度で経済的価値を増加させる行為である(民法103条)。以上を総称して管理行為という。〔黒木三郎〕

かんりこうがく【管理工学】 経営管理の役割の中で，特に事実を数量的に把握(はあく)して次になすべき行動を決定するような部分を研究する学問分野。従来，経験と勘と常識だけにたよっていたのに代わって，近代的な経営管理を科学的・工学的な手法によって行なおうとするもので，IE(インダストリアル-エンジニアリング)・OR(オペレーションズ-リサーチ)・QC(品質管理)・システムズ-エンジニアリング・EE(エンジニアリング-エコノミー)・HR(ヒューマン-リレーション)・人間工学・行動科学などを含む。〔十代田三知男〕

かんりしょくくみあい【管理職組合】 公務員で管理もしくは監督の地位にある職員または機密事務を取り扱う職員が組織する労働組合のこと。改正前の公共企業体等労働関係法(４条２項)，地方公営企業労働関係法(５条２項)は，使用者の利益代表の団結を禁止していた。ところがILO87号条約批准に伴い，この規定の条約違反が明らかになったため，1965年(昭和40)の改正で削除された。他方，使用者の利益を代表する者の加入を認めている組合は労働組合法上の労働組合ではないという〈労組法２条ただし書き１号〉と同様の規定(国家公務員法108条の２・３号ただし書き，地方公務員法52条３号ただし書き)が挿入(そうにゅう)された。その結果，管理職員の団結が，生存権の擁護，労働条件の維持改善のために必要とされた。この管理職労働組合の問題はまだその緒についたばかりで一般化されていないが，特定郵便局長らの労働組合，学校長らの労働組合など，そのきざしがみえはじめている。〔木元錦哉〕

かんりそしき【管理組織】 企業における管理機能を合理的・円滑に遂行するための企業内部の組織化をいう。管理組織の構成は上級管理者層・中級管理者層および下級管理者層の三つに区分される。また上級・下級の区分で構成される場合もある。これらの区分の対象となるものは，取締役会・社長・部長・課長および職長である。管理組織は，企業の複雑化に対応するために，適切な職務分と人間関係に基づいて，能率を十分に発揮できるように考慮されねばならない。特に管理担当者の管理の範囲，責任の程度などの明確化が必要である。➔経営管理〔坂本　清〕

かんりつうかせいど【管理通貨制度】 通貨を金に機械的に結びつけることによって通貨の供給量を自動的に調節する金本位制度に代わって，中央銀行や政府などの貨幣当局が銀行券または通貨の供給量を人為的に調節する制度。第１次世界大戦後，金本位制度がうまく機能せず世界恐慌が起こったため，世界各国で採用されるようになった。したがってその目標も，金本位制度におけるような対外為替(かわせ)相場の維持ではなく，国内物価の安定または完全雇用に置かれていた。しかし，第２次世界大戦後は自国の経済成長が目標となり，戦後の世界主要諸国の高度成長は政府の通貨量調節によってささえられてきたともいえる。しかし，これはインフレーションを招きやすく，しかも各国でそれが不均等に現われるため，国際通貨の上に困難をひき起こしている。➔金本位制度〔速水　保〕

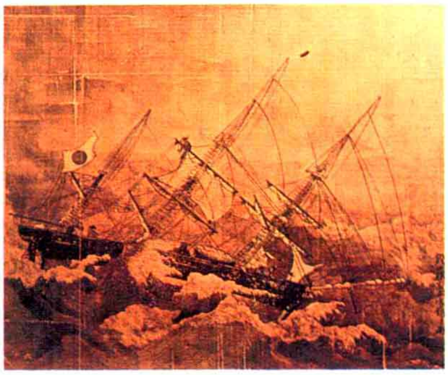
かんりゅう【寒流】 暖流*に対する相対的な名称。海流図では青線で示されるのが普通。寒流のおもなものは，北半球では親潮，大西洋のラブラドル海流・東グリーンランド海流であり，南半球ではフンボルト海流・ベンゲラ海流で，それは北極洋・南極洋に源を発している。寒流は，周囲に比べて低温で塩分濃度は低く，酸素・ケイ酸塩・リン酸塩などの含有が多い。したがって，浮遊生物が多く，生産力が大であるが，透明度は低く暗緑色を呈している。寒流は気象・海況に大きな影響を与える。

かんりゅう【乾留】 空気の供給を遮断(しゃだん)または制限した状態で固体を加熱し，一方で気体・液体の留出物を得るとともに，他方で残留する不揮発性の固体を得る操作。このとき，多くは原料固体の熱分解を伴う。ガスおよびコークスを得る石炭乾留*がおもなものである。

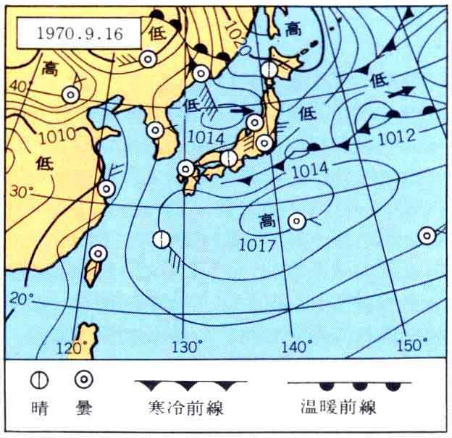
かんりゅう【灌流】 人工的に一つの臓器を通る循環系をつくり，その循環液中にいろいろな薬剤などを加えて，その臓器の代謝機構の研究や治療などを行なう方法。生理・薬理などの実験では，体内に臓器を置いたままか，または，臓器を摘出して生理的に近い状態にして行なったりする。おもに心臓・腎臓(じんぞう)・肝臓などでこのような実験方法が用いられている。悪性腫瘍(しゅよう)に対する治療として，抗腫瘍剤による灌流が行なわれている。ことに四肢(しし)の肉腫などでは転移を抑制するために，腫瘍摘除の前処置としてみるべき効果をあげている。また心臓手術の際に，脳庇護(ひご)を目的として人工心肺による体外循環を行なうとき，選択的に脳の灌流を低温度で行なう脳冷却法なども行なわれている。最近では肝不全による肝昏睡(こんすい)などの際に，人工肝臓の代用として，ブタの肝臓を用いて循環路をつくり，ヒトの循環系と連結して血中の有害成分を除去する肝灌流なども試みられている。〔三島好雄〕

がんりゅうじま【巌流島】 下関(しものせき)市彦(ひこ)島の東岸，関門海峡に臨む面積0.1km²の小島で，船島ともいい，古くは岩流島・岩柳島とも書いた。北端に小丘があるほかは平坦(へいたん)で，工場や倉庫用地となっており，東南端に燈台がある。1612年(慶長17)巌流と号する佐々木小次郎と宮本武蔵(むさし)がここで試合し，小次郎が敗死した所として知られている。

がんりょう【顔料】 水や油にとけない，色をもった微粒子状の無機または有機化合物で，塗料*その他の着色剤。単独では用いられず，油・樹脂・セメントなどに加えて用いられる。顔料を用いる目的は，素材に美しい色彩を与えるだけでなく，耐久力をも与えることなどである。その成分の相違によって無機顔料と有機顔料とに分類される。無機顔料は天然産または合成によってつくられる無機化合物であって，一般に熱や光に対して安定で変色しにくい。無機顔料はその成分として元素の単体からなるもの，および亜鉛・鉛・チタン・カドミウム・鉄・マグネシウム・アルミニウム・コバルトなどの酸化物・硫化物・硫酸塩が大部分で，そのほかにクロム酸塩・ケイ酸塩などもある。なお，無機顔料の中には体質顔料と称するものがある。これは油または樹脂と練り合わすと透明または半透明となって被覆力はないが，このほかの性質が着色顔料と同じなので，着色顔料の増量材として用いられる。主としてバリウム・カルシウム・アルミニウム・ケイ素・マグネシウムの炭酸塩・硫酸塩・ケイ酸塩・酸化物・水酸化物などからできていて，天然産のもののほかに合成したものもある。有機顔料は有機化合物を主成分とした顔料で，レーキ顔料および色素顔料に分類される。レーキ顔料は染料に適当な金属塩または特殊な酸類を結合させて水酸化アルミニウム・硫酸バリウムなどの体質顔料の上に沈殿させてつくる。色素顔料は染料自身が水に不溶性のもので，たとえば不溶性アゾ顔料*・フタロシアニン顔料*などはこの顔料に属する。有機顔料は一般に被覆力・耐光性・耐溶剤性などが無機顔料に劣るから使用量は少ないが，色が無機顔料よりあざやかなので，あざやかな色が要求される場合に多く使用される。〔品田 登〕



咸臨丸　鈴藤勇次郎画《咸臨丸難航之図》



寒冷前線

かんりょうせい【官僚制】 ⇨次ページ

かんりんいん【翰林院】 中国で，主として詔勅を起草する官庁。8世紀初め創設されたときは詩文や書画を中心とした皇帝の私的サロンで，この意味の翰林院はのち翰林伎芸院(ぎげいいん)などといわれる。738年(翰林)学士院が分離し，従来の中書舎人に代わって重要な詔勅を起草する翰林学士が誕生した。これは宋(そう)代に活躍したが，明(みん)代内閣制の成立とともに名目化した。

かんりんまる【咸臨丸】 江戸幕府がオランダに注文して建造した木製軍艦。原名ヤッパン号。蒸気船。100馬力。300トン。砲12門。1857年(安政4)長崎に到着。1860年(万延1)遣米使節*の護衛と操練のため提督木村喜毅(よしたけ)・艦長勝海舟*指揮のもとに，日本人のみでの最初の太平洋横断に成功した。戊辰(ぼしん)戦争*で榎本武揚(えのもとたけあき)の艦隊に所属したが，官軍に捕えられた。

かんれい【管領】 室町幕府の最高役職。主として訴訟裁判・守護統制の面で将軍権を代行した。はじめは執事といい，足利尊氏(あしかがたかうじ)が高師直*(こうのもろなお)を任じたのに始まる。足利氏の私的管理者としての色彩が強かったが，のち斯波義将(しばよしまさ)が就任するに及び，管領を正式名称とした。その後，足利一族の斯波・畠山(はたけやま)・細川の3氏が交替で任ぜられる慣例となった。これを三管領という。➔三管・四職

かんれいこうきあつ【寒冷高気圧】 冬季のシベリア高気圧*のように，地表面から冷やされることによってできる高気圧。寒冷高気圧は一般に背が低い。オホーツク海高気圧*もその例である。➔高気圧

かんれいしゃ【寒冷紗】 綿織物の一。薄地で目の透けた手ざわりのややかたい平織物。経緯ともに細い綿糸で平組織に織り，厚くのりづけして仕上げる。現在，わが国では一般にローンとよばれ，漂白した白無地のまま用いられることが多い。子どもや婦人服などの服装品，造花や人形などの手芸品，カーテンなどの室内装飾品，苗床の日おおいなどに利用されている。

かんれいぜんせん【寒冷前線】 前線*のうち，冷たい気塊が進行して暖かい気塊の下にくさび状に進入してできるもの。寒冷前線の進行により前面の暖気が急激に押し上げられて積乱雲が形成され，雲は低く，風の息は荒く，驟雨(しゅうう)を伴う。前線通過後は気温が低下し，雨は比較的早くやみ，雲もなくなる。雲の状態は暖気の湿度や安定度に関係する。

かんれき【還暦】 ⇨賀の祝い

かんろ【寒露】 二十四気*の一。陽暦の10月8日ごろにあたる。太陽黄経は195°。山は日ましに紅葉していき，カリが渡ってくる。寒露とは，露が寒冷の気に触れて凍るばかりになっているの意。

かんろに【甘露煮】 ⇨飴煮(あめに)

かんわ【官話】 ⇨中国語

かんわじてん【漢和字典】 ⇨辞書

官僚制

〔官僚制とは何か〕官僚制にあたる英語ビューロクラシーは，ビューロー(事務所)を通して人々を直接に支配する管理体制の意味である。現代では，ビューローはコンピューターを備え，そこからさまざまな指令を発する管理室であるが，こうした管理室の最も大規模なものがいくつかの省からなる国家行政機構としての官僚制で，通常，官僚制というと，この国家行政機構としての官僚制を意味する場合が多い。しかし，社会科学的な概念としてはその他の組織にも適用される。企業における官僚制，労働組合における官僚制などとよばれるものがそれである。現代では，組織が大きくなり，技術が発展するにつれて，管理体制自体がますます合理化される傾向がある。こうした傾向を官僚制化(ビューロクラティゼーション)という。このように,官僚制をビューローである管理機構を通して,人々を直接に管理監督する支配体制のことであると規定するのが，官僚制に関連して生ずる多くの問題を理解するうえに最も適切であろう。日常よく新聞紙上をにぎわす天下り人事・汚職・収賄，またお役所風とかセクショナリズムなどの現象は，支配管理機構としての国家官僚制が生み出す腐敗的ないし病理的現象である。これらの現象は官僚主義といわれ，世論のきびしい批判の対象となる。天下り人事は，高級官僚の特権的地位の利用であり，汚職や収賄は，私的な企業などに対して許認可権や監督権をもつ国家官僚制が,みずからの支配的地位を利用して,特定の企業や人物に対して特別な配慮をすることから生ずる。お役所風ということばは，役所が国民のために存在していないことを示しており，また役所を構成する役人が国民に対して特権的意識をもっていることの現われである。セクショナリズムは，行政機構を構成する各部門がそれぞれの特権を維持し，自己保身のために他の部局の介入を排斥するというなわ張り根性や派閥意識を示している。

ところで，わが国の国家官僚制という巨大な管理機構で働く職員の数は,国家・地方の公務員，および政府関係公共企業体職員を合わせると,実に350万人を越える。この巨大な管理機構の頂点に，いわゆる特権的エリート官僚がすわっている。これらの特権官僚は約4,000人で,彼らが重要な行政ポスト約1,500を順次専有していく。そしてこれらの特権官僚の多くは退職後,公共企業体や民間企業に天下るか,あるいは代議士になるという典型的コースをたどる。わが国の大臣や政治家の中に，官僚出身者が多いことをみても，官僚制が代議士の供給源であることがわかる。このように，官僚制それ自体を支配する特権エリート層に注目して，官僚制を考察する立場はかなり一般的であり，かつ有力である。このような特権官僚は，人民による指導，すなわち民主制をきらい，人民を直接に支配し監督しようとする。このような傾向をもつ官僚制のもとでは，市民的自由や民主主義の成長は押えられがちである。それゆえ,官僚制はしばしば民主制の対極概念として考えられ，民主制にとっての敵対的概念として用いられる。こうした官僚制の特権性や反民主性のよってきたる原因を理解するためには，官僚制が歴史的には絶対主義時代に成立したことを明らかにし，その時代の特質を考察してみることが必要である。

〔絶対王政下の官僚制――家産官僚制〕官僚制を人民を直接支配する機構であると理解するならば,歴史的には古代のエジプト・ローマ・中国や中世のローマ教会支配のうちにも官僚制支配をみることができる。しかし，典型的な官僚制が出現したのは，近代国家の初期の段階である絶対主義時代である。絶対王政は，封建制によって領土が分割されていた領邦国家を統一して，統一国家を形成する過程で成立した政治形態である。その絶対王政を確立するための支柱となったのが，絶対君主を頂点とする常備軍であり，また統一国家を維持するための法制・産業・軍事・徴税・治安などについて専門知識をもつ官僚群であった。絶対王政は，領土と人民とを封建領土の世襲的な家産としての立場から解放した。しかし，〈一君万民〉思想に示されているように，統一された領土は絶対君主の家産とみなされ，人民はすべて臣民とみなされた。すなわち，絶対王政下においては公的支配の名のもとに，領土・人民は君主の私的な世襲財産のごとくに取り扱われる。このような絶対王政下の官僚制を家産官僚制という。すなわち，家産官僚制とは，国家全体にまで拡大した君主の〈家*〉権力を管理する機構である。そして，このような家産官僚制の中核には，君主に絶対の忠誠を誓う支配幹部としての官僚層が存在する。君主はこれらの官僚層に庇護(ひご)を加え，官僚層はその庇護のもとに君主に代わって人民を支配し監督する権力を行使する。人民の日常的行動や思想を規制する治安法令や秘密警察などは，この時代を特徴づけるものであるが，君主からの距離によって個人の社会的地位の高低が決まるという厳格な上級・下級の関係を示す位階制(ヒエラルヒー*)や官尊民卑という思想もこの時代の特徴である。その後絶対王政はしだいに次のような社会的・経済的な発展を遂げていった。すなわち，①貨幣経済の発展，②行政機能の量的増大と質的変化，③行政における専門家的要素の優位，④物的経営手段の集中化，⑤社会的・経済的差別の平均化などである。これらの社会的・経済的発展に対応するため，支配機構としての君主の官僚制はしだいに合理化・体系化され，永続的な官庁制度，明確な権限範囲の確立，職務ヒエラルヒー，文書主義，抽象的な規則の体系などを備えていった。そして君主の権力も，これらの機構の合理化を通して拡大することができたのである。

絶対王政下の官僚制が家産的な特徴をもっていることは，たとえば明治時代のわが国の〈官吏服務紀律〉をみても明らかである。そこには次のような規定がある。すなわち，〈凡(およ)ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ対シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ従ヒ各其ノ職務ヲ尽スヘシ〉。この規定からもわかるように，家産官僚制は，君主に対する恭順(ヒエテート)の感情に基づく人格的支配を根底としながら，法律や規則の支配を行なうのである。そこでは，確かに合理的な法体系がつくられたけれども，それはあくまでも君主の支配権力拡大のためになされたのであり，したがって君主の恣意(しい)が法よりも優越していたのである。

〔企業における家産官僚制――財閥*〕わが国における家産官僚制のもう一つの典型的な例は，企業における財閥支配である。家産官僚制とは，家父長的〈家〉権力が拡大したために，それを合理的に管理するための支配機構であると定義するならば，三井財閥*・住友財閥*・三菱(みつびし)財閥*などはまさしく〈家〉権力の拡大した企業形態である。財閥にみられる企業経営は，それぞれの財閥に絶対的忠誠を誓う経営幹部を中核として行なわれる。この場合，企業が大きくなり，経営自体が専門的知識や高度の技術を必要とするにつれて，経営幹部は，もはや一族ないし同族のうちから補充することができなくなる。こうして，一族とは関係のない大学卒業生が将来の経営幹部候補として採用されるようになる。しかし，これらの経営幹部候補にまず要求されることは，財閥家への絶対的忠誠の宣誓であった。たとえば，大学を卒業してある財閥企業に入社した新入社員は，まず羽織はかまに威儀を正して財閥家の祖先の墓参りをすることにより，当家への絶対的忠誠を誓う家産的社員になることが要請されたのであった。このように，第2次世界大戦前のわが国の財閥企業に典型的にみられるように，企業経営のための専門的経営者が育成され，彼らが実際の経営にあたったけれども，その根底には家意識が存在していた。しかし他方では，専門的経営者の登用は，いわゆる〈所有と経営〉の分離を進め，一族はしだいに経営そのものには携わらなくなる。このような過程で，財閥企業経営は合理化され，

558617

官僚制化されていったのである。

〔近代的・合理的官僚制〕絶対主義時代の特権的家産官僚制は，市民階級の成長とともに，特権的要素をしだいに放棄せざるをえなくなった。すなわち，市民社会においては，議会と政党の発達，民主制の発展によって政治と行政とがしだいに機能的に分化し，君主の家産的な官僚制支配に代わって，議会と政党とが政治的指導の構造を確立するに至った。こうして，市民社会においては，政治家と官僚との役割は区別されることになる。すなわち，政治を方向づけ，決めるのは市民自体であって，官僚ではない。市民社会では，官僚制は国民のために存在し，国民の要望や要求を吸収してそれを能率的に実現するための，いわゆる公僕(こうぼく)としての公務員制度に転化する。歴史的には，このような公務員制度としての官僚制は，市民階級が著しい成長を遂げた19世紀のイギリスやアメリカ合衆国にみられる。

一方，資本主義の進展は大衆民主主義を発展させたが，それと同時に国家の行政機能は拡大し，国家はさまざまな分野，たとえば国民衛生・民生・労働保護・公害防止・企業統制・地域計画・住宅政策・教育などの領域に積極的に関与するようになった。こうして，国家および地方自治体は，ますます多くの国家公務員および地方公務員を必要とし，専門的行政についての能力と知識をもつ専門官僚を必要とするようになる。このように大衆民主主義は必然的に国家の行政領域を拡大するのである。この場合に問題になることは，政策決定を行なう議会と行政を遂行する行政官僚制との調和の問題であり，行政官僚制の拡大とその必要性とが，民主政治における国民の政治参加をまったく形式的なものにしてしまう危険性をはらんでいる点である。民主政治においては，政治を決定し方向づけるのは主権者としての国民であり，行政はあくまでも国民の決定した政治を国民のために実現していくものである。そこに公僕としての公務員制度の本質がある。しかしながら，技術が高度に発展するにつれて，高度な知識をもつ専門官僚層が実際の政治を動かす勢力となる可能性が生まれる。こうして再び政治と行政との一体化が進み，絶対王政の時代とは異なる新しい官僚制支配が生まれる。行政国家と特徴づけられる現代国家においては，国家官僚制の比重はますます大きくなる。こうした官僚制の強化と拡大とは，資本主義国家においても社会主義国家においてもみられる傾向で，たとえば，ソ連は最も典型的な官僚制国家であるともいわれる。

なお，日本の場合のように，市民社会の発展が十分でなかったために，絶対主義時代の天皇制*・官僚制が民主的な公務員制度にまで質的に転化しないままに現代の高度な行政国家時代を迎えたところでは，なお戦前の特権的エリート意識が残存しており，それが現代の専門能力の必要性と結びついて，高級官僚の行動様式を特徴づけている。天下り人事や国有財産(土地や建物)の特権的利用などは，明らかに戦前の絶対主義時代の特権的意識の残存を示しているものである。

〔近代的な管理機構としての官僚制〕以上，支配機構としての国家官僚制に焦点をあてて，その歴史的発展と問題点を述べてきた。しかし，官僚制の概念は，国家の支配管理機構にだけ適用されるものではなく，企業・軍隊・労働組合・病院・学校などの近代的組織の管理機構を特徴づけるものとしても用いられているのである。このような概念として，官僚制を特徴づけたのは，ドイツの社会学者M.ウェーバー*である。彼は，近代的組織に共通する管理機構としての官僚制の特徴を次のように整理している。①職務は，分業の原理に基づいて遂行される。②命令とそれへの服従は，あくまでも職務を遂行するためになされる。③職務は，明確な規則に基づいて，一定の範囲内で行なわれる。④命令服従の関係は，明確な権限ヒエラルヒーに基づいている。⑤経営や行政は，専門的知識と専門訓練を備えた専門スタッフによって遂行される。⑥雇用関係は，あくまでも個人の自発性に基づく自由な契約関係である。⑦文書・記録を重視する。

このような特徴を備えている官僚制組織において，命令権を行使する正当性は，法とか制定規則のうちにあるが，この法とか規則の執行をささえているものが専門的知識である。権限ヒエラルヒー上の下位者が上位者の命令に従うのは，規則に定められているからだけではなく，上位者が専門的能力の点ですぐれていることを認めるからでもある。すなわち，組織目標を達成するためには，下位者がみずから自分の判断に基づいて行動を決定するよりは，専門的知識をもった上位者の命令に従ったほうがはるかに能率的・効果的であると考えられるからである。このように，近代的・合理的官僚制においては，上位者の権限の行使は，規則によると同時に，専門的知識によっても正当づけられているのである。しかしながら，このような官僚制原理に基づく実際の管理は，さまざまな問題を生み出す。まず第1に，専門的能力や知識をもつ者が権力を専有し，彼らが少数者支配すなわち寡頭制*をつくりだすという問題である。知識や情報を専有することによって生ずる寡頭制は，民主制を旗じるしにしている政党や労働組合においてもしばしばみられるが，特に合理化の名のもとに高度の知識や技術がトップの管理層に集中する企業に多くみられる現象である。そしてその結果，組織のトップに権力が集中し，組織の中層以下の人人は個人的な自主的判断の領域を奪われ，トップの命令に対してまったく受動的な人間になる。このように，官僚制組織は，しばしば専門的知識や専門的管理能力をもつ人々に意思決定権が集中し，寡頭制支配の傾向を生み出し，組織の現場で実際に働いている人々の人間的自立性は奪われ，彼らは組織の歯車と化して人間疎外感をいだくようになりやすい。また末端の人々には，上からの指令に従ってのみ動くことによって自発的な労働の意欲を喪失し，規則どおり，指令どおりに動いているのだということによって責任を回避するという，いわゆる官僚主義的行動が生まれる。トップに権力が集中し，中層以下の人々が自主的判断を失い，ただ規則や命令の厳守のみに汲々(きゅうきゅう)とする場合に，官僚的パーソナリティーが生まれる。官僚的パーソナリティーの持ち主は，規則を守ることの意味や規則がなんのためにあるのかということを考えないで，ただ規則の厳守それ自体が彼の行動の目的であるかのようにふるまい，まったく融通のきかない杓子定規(しゃくしじょうぎ)な行動をくり返す。確かに官僚制の原理は，人間の恣意性や主観性，またえこひいきなどを排除して，個人の感情の混じらない職務に即した行動の基準をつくりだすことを目的としている。しかし，一方で，命令服従の上下関係を厳格にすることによって権力の集中化をもたらし，職務と職務との関係を物と物との関係に転化させて人間と人間との関係を捨象し，非人間的な体系をつくりだす。その結果として，官僚制原理が人間疎外を生み出し，組織全体を動きのとれない非弾力的なものにしやすい。とりわけ，日本においては，官僚制組織を構成している権限ヒエラルヒーの構造は，学歴や出身学校の相違によって序列づけられ，官僚制そのものに越えがたい身分差が存在している。この学歴や出身学校差による人間の序列づけが，人間の能力や創意を破壊し，結局，官僚制組織そのものを非能率な，自己保身の砦(とりで)のようなものにしている大きな原因であると考えられる。

確かに，近代的組織の管理体系としての官僚制は，伝統的社会から近代的社会への転化に際して，また近代的社会の発展に対して大きな役割を果たしてきたのだが，同時に人間性の発展にとってマイナスの面をも生み出してきた。それゆえ，いまや官僚制原理に代わって組織を構成するすべての人々の人間性を育てうる新しい組織原理の探求が始められているのである。

〔武田良三・佐藤慶幸〕

き

き　【黄】　⇨色

き　【記】　⇨古事記

き　【紀】　⇨日本書紀

き　【木】　地上部・地下部ともに多年生で，茎と根の形成層*がよく発達し，肥大生長により多量の木部を形成する植物体。木部の細胞壁は厚く木化して，強固になる。熱帯のように1年じゅう高温のところではたえず生長が続くので年輪*はできないが，温帯や亜寒帯では生長に季節変化があるため年輪ができる。木は高さにより高木と低木に分けられ，その境界は2～5mである。

き　【気】　もと気息のことで，中国で自然・人事に共通な生命的原質のこととされた。気はもとは混沌(こんとん)たる一気であるが，自己運動してしだいに分化し，その結果，物から人間・社会に至る複雑な世界を形成するが，元来一気の分化であるから調和的秩序を保つ。そしてその自己運動の原理が陰陽(→陰陽説)・五行(→五行説)であり，調和的秩序も陰陽・五行の範疇(はんちゅう)の下にある，とされた。➔性説

き　【基】　化学変化のときに，一つの化合物から他の化合物にそのまま移動することのできる原子の集団をいう。このうちイオンになる傾向のあるものを根という(水酸根OH^-，硫酸根$SO_4{}^{2-}$など)。基が原子価を満足させないまま遊離するときこれを遊離基といい，反応性に富む。代表的なものは下表のとおり。



キアゲハ　夏型

き　【紀】　地質時代の区分単位の一。世*より大きく，代*より小さい。動物の細かい分類単位に着目して，動物の進化の時期を境界として代をいくつかの紀に分けている。中生代を三畳紀・ジュラ紀・白亜紀に分けるのがその例である。地質系統区分系*に対応する。➔地質時代

ぎ　【魏】

1 中国古代の国(BC453～BC225)。戦国七雄の一。魏氏は，春秋時代には晋(しん)に仕え，その六卿(りくけい)の一に数えられたが，韓(かん)・趙(ちょう)とともに晋の国を3分して独立し，山西省南部を領有，安邑(あんゆう)に都を置いた。法家の祖とされる李悝(りかい)を任用して富国強兵に努めた文侯とそれを継いだ武侯の時代に国力は最も充実したが，恵王の時代には西方から秦(しん)の圧力を受けるようになり，BC362年都を大梁(たいりょう)(河南省開封)に移した。BC341年，斉(せい)に大敗して急速に衰えた。戦国時代末，公族の信陵君が国際的にも勢力をふるったが，秦のために滅ぼされた。

2 中国，秦2世皇帝1年(BC209)に，中国史上最初の農民反乱の指導者である陳勝*が，1の公子の魏咎(ききゅう)を奉じて建てた国(BC209～BC205)。秦の攻撃で咎が自殺したのち，弟の豹(ひょう)が立つが，漢の将軍韓信*(かんしん)によって滅ぼされた。

3 中国，三国時代の王朝(220～265)。曹操*(そうそう)の子の曹丕*(そうひ)が建て，5世46年で滅んだ。後漢の末期は宦官*(かんがん)によって政治が乱されたため，これに反発する知識階級の抵抗と，引き続いて黄巾(こうきん)の乱*とよばれる広範な農民暴動とが起こり，その大混乱の中から各地に割拠した軍閥のうち，曹操は後漢最後の天子献帝を推戴(すいたい)して他の群雄を破り，しだいに華北を統一したが，赤壁の戦い*(208)に敗れて揚子江流域を併合することはできなかった。曹操が死んだ年に曹丕は後漢を滅ぼして，みずから帝位についた。屯田(とんでん)制*によって財政的基礎と兵力源を確保し，貴族の支配する社会制を利用して国内の統一を図ったが，やがて内側から台頭する代表的な貴族の司馬氏によってしだいに実権を奪われていった。魏の末年(263)に三国の一である蜀(しょく)を滅ぼしたのも，実は司馬氏の力によるのであり，やがて司馬炎*によって魏も滅ぼされた。

4(北朝)　⇨北魏

5 中国，隋(ずい)末の群雄のひとり李密(りみつ)が河南省鞏県(きょうけん)に拠(よ)って建てた国(617～618)。一時は山東から揚子江北部を勢力下に置いたが，のち唐に下った。

ギア　⇨歯車

きあげは　【黄揚羽蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。体と翅(はね)は黄色で黒条があり，アゲハチョウ*とよく似ているが，全体に黄みが強く，前翅の基部に黒条がなく淡黒色。年数回の発生で，暖地ほどその回数が多い。春型は小形で黄色が

基

無機の基	
HO	ヒドロキシル
NO	ニトロシル
NO_2	ニトリル
UO_2	ウラニル
CO	カルボニル
ClO_3	ペルクロリル
SO	チオニル

炭水水素基	
CH_3-	メチル
C_2H_5-	エチル
C_3H_7-	プロピル
$CH_2=CH-$	ビニル
CH_2-CHCH_2	アリル
$-CH_2-$	メチレン
$-CH_2CH_2-$	エチレン
$CH_2=C<$	ビニリデン
C_6H_5-	フェニル
$(CH_3)_2C_6H_3-$	キシリル
$C_6H_5CH_2-$	ベンジル
$C_{10}H_7-$	ナフチル

その他の官能基	
$-OH$	オキシ
$-OCH_3$	メトキシ
$-OC_6H_5$	フェノキシ
$-O-$	エポキシ
$-CHO$	ホルミル
$>CO$	カルボニル
$-COOH$	カルボキシ
$-COOCH_3$	メトキシカルボニル
CH_3CO-	アセチル
$-S-$	チオ
$-NO_2$	ニトロ
$-NH_2$	アミノ
$=NH$	イミノ
$-NHOH$	オキシアミノ
$-NHNH_2$	ヒドラジノ
N_2-	ジアゾ
$-NHNH-$	ヒドラゾ
$-CN$	シアン
$-N=C$	イソシアン
$-SO_3H$	スルホン

濃く4月初旬から，夏型は大形で黒色部が多く6月ごろから出現し，10月ごろまでみられる。幼虫は，ニンジン・ミツバ・セロリなどのセリ科植物の葉を食べる害虫。終齢幼虫の色彩は美しく，緑色の地に黒色の横じまがあり，その黒条中に赤色の小紋がある。さなぎは，他のアゲハ類より頭部の突出部が少なく丸みをおび，緑色とかっ色の2型がある。さなぎで越冬する。日本全国をはじめ，ユーラシア大陸北部一帯に広く分布し，北アメリカやアフリカにも及んでいる。春型のものは好んで山上に現われ，各種の花を訪れる。アゲハチョウとともに，きわめて普通に見られる種。〔鈴木邦雄〕

きあししぎ　**【黄脚鷸】**　鳥類・シギ科。全長27cmほどで，背面は灰色，下面は白っぽいが，夏羽では胸・腹側部に灰色のしま模様ができる。脚はその名のように黄色。北アメリカ西北部とシベリア東北部で繁殖し，日本には春・秋に干潟(ひがた)や川に多数渡来する。鳴き声はよくとおる声で，〈ピューイ，ピューイ〉と聞こえる。➔シギ

キアズマ　［chiasma］　減数分裂*の太糸期に相同染色体(2価染色体)がより合って交差した部分をいう。2価染色体は縦に分裂して4本となり，次に2本ずつ組み合うように分かれるので，キアズマのある場所で染色体が切断されてつなぎ換えが起きる。その結果，染色体上の遺伝子も組み換わる。キアズマの機構を説明するものとして，ヤンセンスのキアズマ型説，ダーリントンの新キアズマ型説，ベリングの半よじれ説，松浦一らの新二面説など，種々の仮説がある。〔北川　修〕

きあつ　**【気圧】**　大気の圧力のこと。ある場所での気圧はそこより上方にある空気の重さによって生じると考えてよい。気圧をはかる単位としてはミリバール(mb)またはmmHg(水銀柱ミリメートル)が用いられる。1mbの圧力とは1cm²の面積に1,000ダインの力が働く圧力のことで，気象関係で使われている。また1mmHgの圧力というのは，標準重力(980.665cm/秒・秒)のもとで，厚さ1mmの0℃の水銀が底面に及ぼす圧力のことである。1mmHgは約4/3mbに等しい。また，海面上での平均気圧は約760mmHg＝1,013.25mbで，この値を標準にとり，1気圧ということもある。気圧は高さとともに減少する。いろいろの地点で気圧をはかり，高いところの値は海面の値に換算して海面上の気圧分布図がつくられる。気圧分布は時間とともに変動するが，ある時刻での分布を見ると，気圧の高いところや低いところが，それぞれ一定の広がりをもっている。気圧の高いところを高気圧*，低いところを低気圧*という。気圧分布に応じて一定の空気の運動が起こり，天気現象を支配する。

きあつけい　**【気圧計】**　気圧*をはかる計器。ふつう使われているのは水銀気圧計とアネロイド気圧計である。



キアシシギ

〔水銀気圧計〕一方の端を閉じた1mほどのガラス管に水銀を入れて水銀槽(すいぎんそう)内に伏せて立たせると，水銀柱は一定の高さまで下がって止まる。このとき，水銀槽の表面からこの高さまでの水銀の圧力は，水銀槽に及ぼしている気圧に等しい。そこで，水銀柱の高さをはかり気圧に対応させるというのがそのしくみである。水銀気圧計のうちで最もよく使われているのはフォルタン型気圧計で，ほかにステーション型・マリーン型・サイフォン型など用途に応じてくふうされたものがある。水銀気圧計は精度は高いが携帯に不便である。

〔アネロイド気圧計〕空盒(くうこう)とよばれる薄い金属板2枚でつくられた中空円盤状の空室と，それに連絡されたばね・てこ・指針とからなる。空盒の表面は伸縮が容易なように同心状にひだがつけられている。気圧が変化すれば空盒は上下の方向に伸び，または縮み，この動きはてこを通して拡大され，指針によって表わされる。精度はそれほど高くないが携帯に便利なので，船舶・航空機・ラジオゾンデなどに用いられている。〔曲田光夫〕

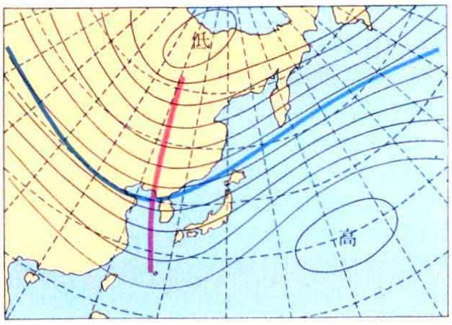
きあつけいど　**【気圧傾度】**　気圧が水平方向に変化する度合い。気圧勾配(こうばい)ともいう。空気は気圧の低いほうへ動く性質があるので，気圧傾度は風の吹き方を支配する重要な要素である。地球上の風は，地球自転の効果が加わって，普通はほぼ等圧線に沿い，気圧傾度に比例して吹く。

きあつのたに　**【気圧の谷】**　二つの高気圧の間にはさまれた気圧の低い細長い部分。気圧の谷が通過する地域は天気が悪いので，気圧の谷の動向が天気予報上重要である。

きあつはいち　**【気圧配置】**　比較的広い範囲の気圧の水平分布。天気と密接な関係がある。地表の天気図では，地上の気圧観測値は海面高度における値に換算した等圧線の分布が描かれている。上層天気図では等圧線の代わりに，等圧面高度，たとえば

気圧の鉛直分布（日本標準大気表）

高さ m	気圧 mb	地上気圧との比	気温 ℃	空気密度 kg/m³	音速 m/秒
0	1 013	1 000	15.0	1.2249	340.43
100	1 000	988	14.4	1.2083	340.06
500	955	942	11.8	1.1626	338.50
1 000	899	887	8.5	1.1071	336.57
1 500	846	835	5.3	1.0538	334.63
2 000	795	785	2.0	1.0024	332.33
2 500	747	737	1.3	0.9531	330.68
3 000	701	692	−4.5	0.9054	328.71
3 500	658	649	−7.8	0.8598	326.71
4 000	616	608	−11.0	0.8159	324.70
4 500	577	570	−14.3	0.7737	322.68
5 000	540	533	−17.5	0.7331	320.65
5 500	510	498	−20.8	0.6943	318.61
6 000	472	466	−24.0	0.6571	316.55
6 500	440	435	−27.3	0.6213	314.48
7 000	411	405	−30.5	0.5871	312.39
7 500	383	378	−33.8	0.5547	310.30
8 000	356	351	−37.0	0.5252	308.17
8 500	331	327	−40.3	0.4951	306.05
9 000	307	303	−43.5	0.4664	303.90
9 500	285	281	−46.8	0.4389	301.75
10 000	264	261	−50.0	0.4127	299.57
11 000	227	223	−56.5	0.3640	295.16
12 000	193	191	〃	0.3109	〃
13 000	165	163	〃	0.2655	〃
14 000	141	139	〃	0.2268	〃
15 000	120	119	〃	0.1937	〃
16 000	103	102	〃	0.1654	〃
17 000	88	87	〃	0.1413	〃
18 000	75	74	〃	0.1206	〃
19 000	64	63	〃	0.1031	〃
20 000	55	54	〃	0.0880	〃



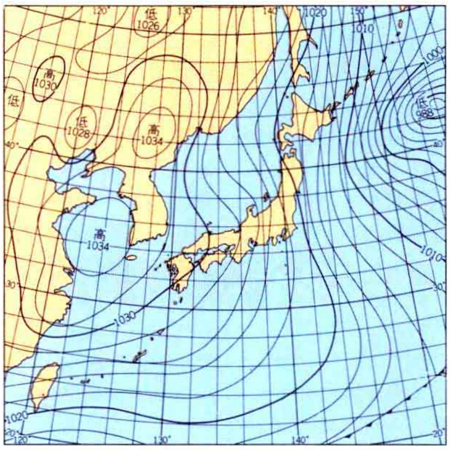
気 圧 の 谷　気圧の谷の一例（赤線）

500ミリバール(mb)の気圧をもつ面の高度においての等高線の分布が描かれている。この等圧面高度の分布はその高度での等圧線の分布と平行関係にある。ふつう使われるのは地表天気図で，それに850mb・700mb・500mb・300mb・100mbの等圧面高度図である。気圧分布は日々複雑な変動をするが，1か月ぐらいの平均値をつくってみると，月により特徴ある分布をしていることがわかる。たとえば，北半球における1月の平均気圧分布では，大陸上に高気圧，海洋上に低気圧があり，7月の分布では，大陸上に低気圧，海洋上に高気圧がある。

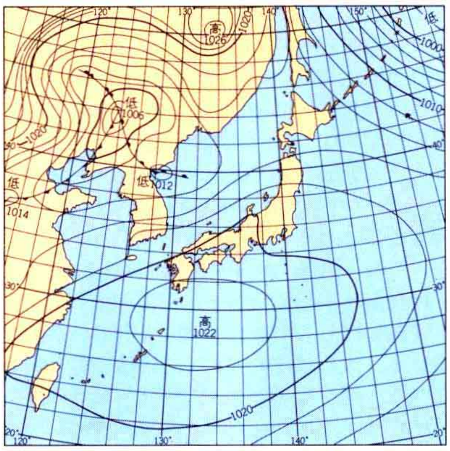
日本の天気に対応して，日本付近の気圧配置のいろいろの型が調べられている。そのおもなものは次のとおり。①西高東低型：中国大陸に優勢な高気圧があり，アリューシャン列島南方に低気圧がある。冬に多い。②移動性高気圧型：移動性高気圧が日本付近を東に移動し，その後に低気圧が出てきて天気が悪くなる型で，春・秋に多い。③梅雨型：オホーツク海から日本海にかけて高気圧があり，小笠原(おがさわら)高気圧との間に梅雨前線を形成し，ぐずついた天気が続く。④南高北低型：北太平洋高気圧が日本をおおって張り出し，よい天気が続く。夏に多い。⑤北東気流型：日本付近は北東風になっており，前線が日本の南岸を北東から南西に走っている。秋から冬に多い。⑥台湾坊主型：春・秋の季節の変わりめ，特に2月に最も多く，台湾付近の東シナ海に低気圧が発生して発達しながら日本付近を北東進し，本土南岸に降雨をもたらす型である。この低気圧の発生はヒマラヤ系の影響，大陸東方海面からの熱や水蒸気の補給などが大きな要因と考えられているが，まだ十分解明されておらず予報も困難である。⑦日本海低型：春先に多く，低気圧が日本海で発生したり，あるいは他から移動してきて日本海で急速に発達する型で，国内では南西風が強く比較的天気はよい。ただ山では暴風雨となり，気温が高く融雪洪水(こうずい)など起こしやすく，日本海側ではフェーン現象を起こし大火事につながることが多い。

以上のほかにもいろいろの型があって，日本付近の春夏秋冬の複雑な天気を支配している。しかし，気象状態は地表面での気

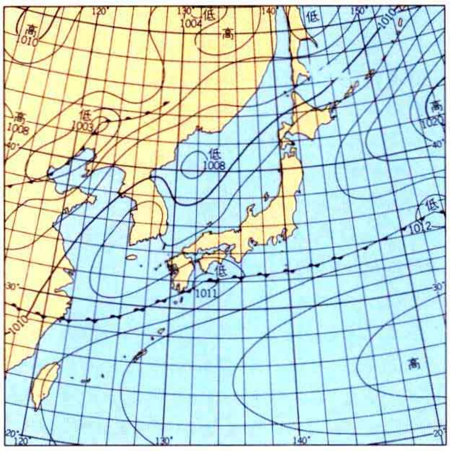
気圧配置



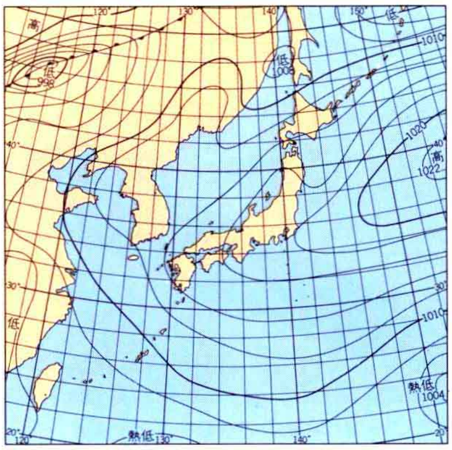
西高東低型



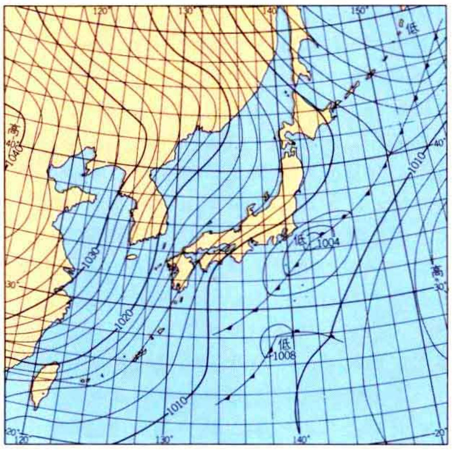
移動性高気圧型



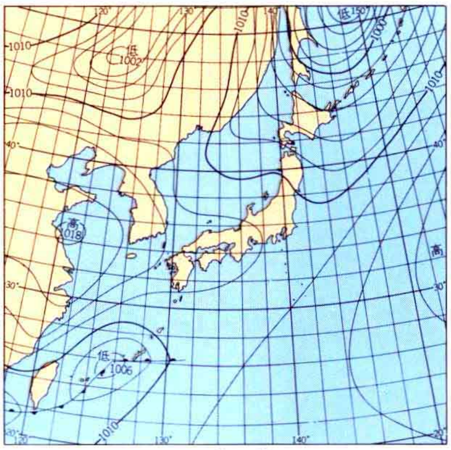
梅　雨　型



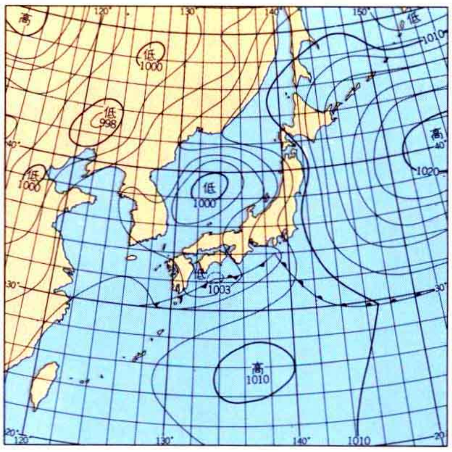
南高北低型



北東気流型



台湾坊主型



日本海低型

圧配置だけでなく上層の気圧配置も重要である。地表天気図は，地表面の起伏，海陸の分布，地表からの熱的効果などのために複雑な様相を呈するが，上層へ行くにつれてこれらの影響が除かれて簡単化され，法則性が見やすくなっている。〔曲田光夫〕

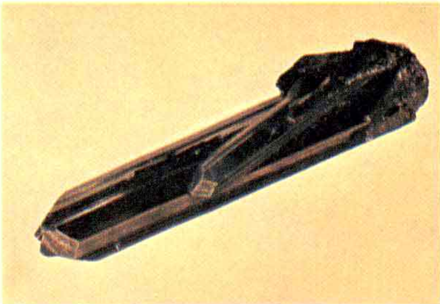
ギアナ［Guiana］南アメリカ大陸の北岸にある，多くの川によって囲まれた地域。ガイアナ共和国・オランダ領ギアナ(スリナム)・フランス領ギアナ・ブラジリアン-ギアナ・ベネズエラン-ギアナからなる。北はオリノコ川に境し，西と南はアマゾン川の支流に囲まれている。この地域の北岸は西インド諸島を制したスペイン人にもポルトガル人にも関心をもたれなかったが，16世紀末から17世紀初頭にかけてイギリス・オランダおよびフランスによって，次々に占領された。住民は海岸地域に居住し，インディオは少なく，ヨーロッパ人・インド人・ジャワ人・中国人がサトウキビやコーヒーの生産に従事している。後背のギアナ高*地はボーキサイト・金・ダイヤモンドの埋蔵で知られている。〔小栗　宏〕

ギアナ(高地)［Guiana］南アメリカ大陸北部，ベネズエラの南部からブラジルの北部に広がる丘陵性の山地。面積約120万km²。砂岩からなる卓状高原の周辺をゆるやかな丘陵が取り巻き，最高所ロライマ山は2,810 m。オリノコ川やアマゾン川の支流に沿って諸所に集落が見られるのみで，大部分が熱帯雨林とサバナにおおわれる。牧畜と野生ゴム採取がわずかに行なわれるが，金・ダイヤモンド・鉄・ボーキサイトなどの鉱産物に富む。〔野間三郎〕

ぎあん【議案】会議に付されて議決の対象となる原案。日本の国会法，衆議院規則では，法律案・予算案・条約および憲法改正の発議案などが含まれる。通説では，国会の議決の原案のほか，一院の議決の原案も含まれるとする。緊急を要するもの以外は，原則として，各議院の議長は議案の提出があれば，それを適当な委員会に付託し，その審査を経て本会議に付すことになっている。なお内閣，国会議員は議案提出権を有するが，予算案提出権は内閣だけが有する。〔吉田善明〕

きあんこう【輝安鉱】キアンチモン鉱ともよび，アンチモンの鉱石。Sb_2S_3　斜方晶系，比重4.5～4.6，硬度2，劈*開(へきかい)は｛010｝に完全，C軸方向に柱状に伸びている。銀白色の金属光沢であるが，空気中では表面は酸化して黒みがかっている。柱状結晶の集合体として産する。愛媛県市ノ川鉱山産の結晶は標本として世界的に有名。ボリビア・中国などがおもな産地である。

きい【紀伊(国)】和歌山県全部と三重県の南部にまたがる旧国名。紀州。南海道に属する。木の国の意。もと伊都・那賀(なか)・名草・海部(あま)・在田(ありた)・日高・牟婁(むろ)の七郡であったが，現在は和歌山県の和歌山・海南・有田・新宮などの7市と伊都，那賀，海草，有田，日高，東・西牟婁の7郡および三重県の熊野(くまの)・尾鷲(おわせ)2市と南・北牟婁の2郡からなる。国府は和歌山市，国分寺は那賀郡打田町にあった。古く紀国造(くにのみやつこ)の治下にあったが，大化改新以後紀伊国となる。鎌倉時代に豊島(としま)・佐原・三浦・北条(ほうじょう)の諸氏が，室町時代には細川・畠山(はたけやま)・山名・大内の諸氏が守護に任じられたが，戦国時代に至って国じゅう大いに乱れた。のち豊臣秀長(とよとみひでなが)，関ケ原の役後浅野幸長(ゆきなが)の領となったが，1619年(元和5)徳川頼宣(よりのぶ)が紀州五十五万五千石に封ぜられ，子孫あいついで明治に至り，田辺(たなべ)・新宮・和歌山の3県，次いでこれを合わせて和歌山県として今日に至る。〔簗　弘道〕



キアン鉱　愛媛県市ノ川鉱山産

きいさんち【紀伊山地】近畿(きんき)地方南部，紀伊半島の大部分を占める山地で，三重・奈良・和歌山の3県にまたがる。東流する櫛田(くしだ)川と西流する紀ノ川の中央構造*線の谷が北の限界をなす。中央部は高度が大で，熊野(くまの)川上流の十津(とつ)川・北山川のほぼ南北方向の深い谷で刻まれ，東の大台ケ原山(1,695 m)を中心とする台高山脈，中央の山上ケ岳(1,720 m)・八剣(はっけん)山(1,915 m)(紀伊山地の最高峰)・釈迦ケ岳(しゃかがたけ)(1,800 m)を中心とする大峰山脈，西の伯母子(おばこ)山地が並ぶ。わが国の最多雨地域の一つであるとともに，またわが国有数の林産地で，〈吉野スギ〉で知られる。



紀伊山地
東側上空から見た大台ケ原山山頂付近。大台ケ原ドライブウェーが隠見し，ホテルや山小屋も見える。遠景は大峰山脈の山々

きいすいどう【紀伊水道】紀伊半島日ノ御埼(ひのみさき)と四国蒲生田岬(かもだみさき)，および淡路島に囲まれた海域で，北は鳴門海峡で瀬戸内海の播磨灘(はりまなだ)と，友ケ島水道(紀淡海峡)で大阪湾と結び，南は紀州灘ならびに海部灘(かいふなだ)へ通ずる。南北約50km。また別に日ノ御埼・蒲生田岬間のややせばまった部分をいうこともあり，ときにはこの両岬以南の紀州灘の部分までも紀伊水道ということがある。なお日ノ御埼は日ノ御崎あるいは日ノ岬，蒲生田岬は蒲生田崎とも書くことがある。紀伊半島から四国・九州へ連なる外帯山地の落ち込んだところにあたり，この海域の両岸はリアス式の海岸線を示す。〔山口恵一郎〕

きいちご【木苺】双子葉植物・バラ科。カジイチ*ゴを含むキイチゴ属の一般名。大部分は北半球に産し，わが国にも約100種がある。ラスプベリーまたはブラックベリーといわれて栽培され，果実を食用とする。茎や葉にとげのあるものが多く，花は白色まれに紅色をおびるものがある。日本に自生するおもなものは，カジイチ*ゴ・ナワシロイチ*ゴ・クサイチ*ゴ・クマイチゴ・フユイチゴ・バライチゴ・モミジイチゴ・ベニバナイチゴ・ゴヨウイチゴなどで，中国原産のトキンイバラは大輪八重咲きで観賞用。

きいちほうげんさんりゃくのまき【鬼一法眼三略巻】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で，松田文耕堂・長谷川(はせがわ)千四合作。通称《菊畑》。1731年(享保16)竹本*座初演。《義経記》に取材し，牛若丸や彼に力を貸す鬼一法眼・鬼次郎・鬼三太の3兄弟と弁慶を中心に話を組み立てている。翌1732年歌舞伎(かぶき)に移され，京都小六座初演。眼目は3・4段目，特に，兵法三略の巻を手に入れようとする3段目の〈菊畑〉は舞台面の美しさで知られ，その奥庭の場は7世市川団十*郎が《虎之巻(とらのまき)》として能楽的な味わいと史実に基づく脚色で上演し，新歌舞伎十八*番の一つとなっている。また，源氏に心を寄せる公卿(くぎょう)がばかを装って世を欺く4段目は，今日《一条大蔵譚(ものがたり)》として独立して演じられる。

きいつ【紀逸】(1695～1762)江戸中

期の俳人。江戸の人。姓は慶。家業は代々御用鋳物師。俳諧(はいかい)は江戸座の立羽不角に手ほどきを受け，白峰・祇空(ぎくう)らに師事。付合に一句立ての趣向をたっとび，1750年(寛延3)前句を省略して付句の高点句だけを選んで《武玉川(むたまがわ)》を出版。世に流行して，没年までに15編を重ねた。ほかにも編著書は多い。

きいと　【生糸】　カイコの繭から製糸した絹繊維糸。乾繭・煮繭・操糸・仕上げの各工程を経て製糸される。ふつう，繭5個または7個から操糸し，5本または7本合わせとなっている。生糸は精練によって20～25%のセリシン(絹膠(きぬにかわ))が除かれて練り糸となる。生糸はそのまま商品化され，輸出・内需とも検査によって格付けされる。日本の生糸は明治以後輸出用として奨励され，主としてアメリカに輸出して外貨獲得の主要輸出品であった。近来化学繊維などの生産によって産額は減少したが，なお国産繊維として重要である。最近は品種改良・機械化など，生糸の需要を高めるための研究が進められている。➔絹　〔小川安朗〕

日本の生糸輸出先(単位 t)

	1965	1966	1967	1968	1969
アメリカ合衆国	779	419	87	214	90
スイス	56	42	19	71	12
フランス	52	23	8	33	11
イタリア	35	4	7	54	10
イギリス	16	1	1	24	9
計	1 053	543	218	461	144

日本の絹織物生産と輸出(単位100万m²)

	1935	1945	1955	1965	1968	1969
生産	285.3	41.8	154.1	167.7	182.3	179.0
輸出	109.5	0.9	25.1	35.3	19.0	17.2

大蔵省《日本貿易月報》

きいはん　【紀伊藩】　紀伊徳川氏を領主とする親藩。紀州藩ともいう。江戸時代を通じ，紀伊全土・伊勢(いせ)(三重県)南半・大和(やまと)(奈良県)の一部を藩地として，五十五万五千石を領した。御三家の一。1619年(元和5)徳川家康(いえやす)の十子頼宣(よりのぶ)が封ぜられて初代藩主となった。和歌山を城下町とし，大名配置の上では，近畿(きんき)・西国の外様(とざま)大名を威圧する徳川政権の重鎮の地位に置かれた。領内には中世以来の土豪勢力が各地に割拠していたのを，漸次郷士に取り立てて藩の支配に組み入れることに成功した。林業・漁業・ミカン栽培など物産が多く，江戸中期以後藩は積極的に産業政策を推し進めた。藩主から，吉宗(よしむね)は8代将軍，慶福(よしとみ)(家茂(いえもち))は14代将軍となる。〔高崎徳次〕

きいはんとう　【紀伊半島】　和歌山・奈良・三重の3県に及ぶ，近畿(きんき)地方南部の太平洋に突出する日本最大の半島で，



鬼一法眼三略巻　〈菊畑〉の場　鬼一(13世片岡仁左衛門)と皆鶴姫(7世中村芝翫)

その範囲はふつう，東の櫛田(くしだ)川(三重県)と西の紀ノ川(和歌山県)を結んで東西に走る中央構造線以南をさす。地質はこの構造線に平行して，北から南に古生層・中生層・第三紀層が見られ，また火成岩が点在している。河川は地質構造に沿って東流する櫛田川・宮川や，西流する紀ノ川・有田川・日高川，および地質構造と直交するように流れる十津(とつ)川・北山川がある。半島の大部分は紀伊山地で占められており，下流に狭小な平野が見られるのみである。半島の南海岸にあたる御坊・串本(くしもと)・新宮・熊野(くまの)の間には海岸段丘が見られ，隆起海岸の地形を示し，また西海岸の御坊から加太に至る海岸や，東海岸の熊野から鳥羽(とば)に至る海岸は，リアス式海岸が発達し，沈降海岸の地形を呈している。本州最南端のこの半島は気候にも大きな特徴を示し，南部海岸は暖流の黒潮の影響で無霜地帯をなし，ハマユウをはじめ亜熱帯性植物が見られる。内陸部は近畿地方最高の山地で，特に大台ケ原一帯は日本の最多雨地の一つとなっており，南東斜面は年降水量4,000mmに達する。山地が海岸に迫り，平野が少ないため，交通網の発達が遅れ，鉄道は海岸に沿って紀勢本線が通じているのみで，内陸部は道路交通にたよっている。変化に富む自然は，志摩の海岸，瀞八丁(どろはっちょう)の渓谷(けいこく)，大台ケ原の深山をはじめとして風光に富み，伊勢(いせ)志摩国立公園・吉野(よしの)熊野国立公園・高野龍神(こうやりゅうじん)国定公園が分布する。また信仰の伊勢や高野山，白浜をはじめとするたくさんの温泉がある。近年は臨海工業地域の開発も進められ，和歌山・尾鷲(おわせ)の火力発電所をはじめ，海南から有田にかけての海岸には重化学工業地域の建設が進められている。〔味沢成吉〕

きいれ　【喜入(町)】　鹿児島県揖宿(いぶすき)郡の町。鹿児島湾の西岸にあり，人口13,000。鹿児島市の近郊農村地帯であったが，最近，日本石油株式会社が海面を埋め立てて，世界的水準の石油貯蔵中継基地を建設したので有名になった。1976年(昭和51)現在，石油タンク50基，その貯蔵能力は660万kℓで，さらに増設の計画がある。48万tの世界最大のタンカーが，接岸できるバースが4つある。〔浅井得一〕

きいろしょうじょうばえ　【黄色猩々蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・ショウジョウバエ科。体長2～2.5mm，黄かっ色の小さなハエ。腹部は暗黄かっ色で，各節の後半は黒かっ色。腹部全体が黒かっ色の個体もある。翅(はね)は透明でわずかに灰色をおび，強いにじ色の光沢がある。複眼は暗赤かっ色。全世界のほとんどの地域に分布しているが，多くの近似な種がある。家屋の内外を問わずみられ，各種の発酵物に好んで集まる。一世代の経過時間は約20日で，高等動物の中では比較的短く，また飼育も容易であるため，各種の生物学的実験の好材料として広く用いられてきた。中でも遺伝学では，1930年ごろ，このハエを用いた広範な研究がなされ，近代遺伝学の基礎を築くうえで多大の貢献をした。〔鈴木邦雄〕

きいろすずめ　【黄色天蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長45～55mm，翅(はね)を広げた長さ95～100mm。体は緑色をおびたかっ色，腹部の両側には鮮明な橙黄(とうおう)色の広い縦帯がある。前翅はかっ色で，基部から前縁にかけて暗緑色，中央部は灰黄色で淡い紅色を帯びる。後翅は黒色で，外縁に近く灰黄色の帯がある。幼虫はヤマノイモの葉を食べる。成虫は6～9月に出現する。本州・四国・九州をはじめ東洋区一帯に広く分布する。

きいん　【紀昀】　(1724～1805)　中国，清(しん)代の学者。乾隆帝(けんりゅうてい)の《四庫全書》編纂(へんさん)の事業に従事し，総編集の任にあたって大ぜいの学者を総括，《四庫全書総目提要》200巻(1772～1782)を完成した。一生の精力をこの事業に注いだため，これという著書はないが，文語体の小説《閲微草堂筆記》を残している。

ぎいんないかくせい　【議院内閣制】　内閣(政府)が国会で多数を占める政党指導者たちによって組織され，与党支持のもとに政策を実行していく政府形態。政党内閣制と同じ。イギリスで典型的に形成されたもので，日本の内閣制もこれに準じている。内閣は法的にも政治的にも国会信任の上に存在し，国会に対して連帯責任を負い，国会で不信任を決議されれば辞職するか，対抗手段として解散して総選挙に訴えることとなる。この制度のもとでは，内閣(行政権)が国会(立法権)で多数を占める与党の上にあるから，法案・予算・条約など，すべてみずからの主張する政策が国会の承認を得られ，行政・立法の2権が協力的に円滑にいく長所をもっている。同時に，反対党による批判や議案の修正は，とかく無視されたり否決されがちで，多数党横暴の弊も生ずる。特に与党が絶対多数を占めているかぎり，内閣に対する不信任案が出されても否決され，内閣は内部の対立の生じな

いかぎりは存続し，国会に対して優位の地位を占めて，内閣独裁になるという批判も出ている。この政府形態に対して，アメリカ合衆国にみられる大統領制*(首長制)がある。大統領は，国会によって指名されることなく，国民の公選によるのを原則とし，国会には直接責任を負わず，不信任案が出されることもなく，独立にその任期中はその地位を保ちうる。しかし大統領およびその内閣は，議院内閣制における総理大臣はじめ諸大臣のように，国会に出席して直接活動することはできず，また解散権をもたない。この意味で行政権と立法権は分離されている。ただし政党の発達によって，実際には政府と国会との一体性が保たれている。フランスの大統領・内閣も，一方ではアメリカ型で国会から分立しているが，大統領は解散権をもっている。日本の地方公共団体の首長(知事・市町村長)は住民の公選・リコール*に基礎を置いているのでこの形態に数えられるが，アメリカ型と違って議会に出席して活動できる。〔鈴木安蔵〕

ぎいんりっぽう【議員立法】国会議員*の発議に基づく立法をいう。はじめ国会法では議員の単独立法を認めていたが，1955年(昭和30)法律3号で〈議員の発議に一定数の賛成者を必要とする〉ことに改めた。議案*の発議については衆議院20人以上，参議院10人以上，予算を伴う法律案については衆議院50人以上，参議院20人以上の賛成者を必要とする(国会法56条)。唯一の立法機関としての国会の地位からいえば，議員立法は重視されなければならないはずであるにもかかわらず，議員の単独立法の発議を制限したのは，議員が発議権を濫用し，国会審議の円滑を害する法案を出しかねないと判断したからである。こうした制限には問題が残っている。〔吉田善明〕

キーウイ［kiwi］鳥類・走鳥類*・キーウイ目・キーウイ科の総称。ニュージーランド特産種で，現生のものはキーウイ・オオマダラキーウイ・コマダラキーウイの3種。いずれもおよそ白色レグホンほどの大きさ。翼はわずか数センチ程度の痕跡(こんせき)的なもので翼羽はなく，尾羽もない。羽毛は羽軸のない獣毛様のもので，全体にかっ色または淡い斑条(はんじょう)がある。鳥類は一般に嗅覚(きゅうかく)が発達していないが，キーウイ類にはかなりの嗅覚があり，鼻口は長い柔軟性のあるくちばしの先端に開いている。このくちばしで地中を探り，こん虫類の幼虫やミミズなどを捕食する。森林中に生息し，夜行性であるため野生生活についてはよく知られていない。〔安部直哉〕

キーウェスト［Key West］アメリカ合衆国南東部のフロリダ州，フロリダ半島に連なる小列島フロリダキーズの西端にある観光・軍事都市。人口27,000(1970)。合衆国最南端の都市で，西はメキシコ湾，東はフロリダ海峡を経て大西洋に通ずる。付近には海ガメ・海綿が多い。葉巻きを産する。島伝いに高速道路で本土と結ばれる。合衆国海軍の潜水艦基地がある。



キーウイ



キエフ　市の中心部クレシャティック大通り。街路樹の豊かな幅広い歩道には，いたるところにいこいの場がつくられている

きうちそうごろう【木内惣五郎】⇨佐倉惣五郎(さくらそうごろう)

きうま【木馬】運材に使う一種のそり。木馬運材は古くから用いられている日本特有の運材方法で，幅1.0～1.5mの傾斜した路面に盤木という横木を置いた道上を，木馬に木材を積載して滑降させるものである。

きえ【帰依】仏教で自己のすべてを投げ出して救済を頼むこと。〈信仰〉の意味にも用いる。仏教の信者は仏・法・僧の三宝*に帰依する。これを〈三帰依〉といい，原始仏教以来の伝統として仏門にはいる者は必ずこれを誓わなければならず，修行途上の者が悟りをめざす宗教生活の規範である。

キエフ［Kiev］ソビエト連邦，ウクライナ共和国の主都。人口188万7,000(1974年推)。モスクワ・レニングラードに次ぐソ連第3の大都市。モスクワ・ハリコフなどと鉄道・航空路で結ばれ，ドニエプル川の水運によって黒海沿岸の都市と通じている。輸送機械・電機・精密機械・繊維・工芸・食品加工などの工業が盛んな工業都市であると同時に，ウクライナ科学アカデミー・大学・各種研究所などをもつ学術・文化の中心でもある。〈ロシア文化の発祥地〉とか，〈ロシアの都市の母〉などといわれる。市街にはビザンチン様式のセント-ソフィア寺院(11世紀の創建)をはじめ多くの寺院・史跡がある。8世紀に，スカンジナビア～ビザンチン間の河川交易の中心として起こった都市で，9～12世紀はキエフ公国*の首都として栄えた。19世紀ロシア領の下で貿易・工業都市として発展し，ロシア革命運動の一中心でもあった。第2次世界大戦ではドイツ軍に占領され，市民の大虐殺と市の破壊をこうむったが，戦後急速に復興し，ソ連でも最も美しい都市の一つといわれる。〔斎藤晨二〕

キエフこうこく【キエフ公国】9～12世紀に東スラブ人および若干の非スラブ民族を統合した封建国家。ドニエプル川中流右岸のキエフを中心として，キエフ大公が支配した。4世紀ごろから農耕・牧畜・手工業を営んでいた東スラブ人の間に，8世紀から9世紀にかけて政府が形成された。統一の完成はノブゴロド公オレーグおよびイーゴリによるとされる。その勢力は黒海沿岸にまで広がり，ビザンチンを脅かした。988年ウラジーミル大公のとき，キリスト教を国教とした。政治権力は大貴族を統合する大公が握り，11～12世紀に編まれた封建法《ルースカヤ-プラウダ》が適用された。11世紀後半，封建的細分化が始まり，領主による農民の搾取が激化した。農民暴動も激発し，遊牧民の侵入や国内諸公の内乱などが起こり，公国は急速に衰退し，13世紀中ごろ，モンゴルのヨーロッパ侵入によって消滅した。〔山県弘志〕

ギェレルプ［Karl Gjellerup］(1857～1919) デンマークの小説家。はじめブランデス*の影響を受けて急進的実証主義者だったが，のちにドイツ観念哲学*に傾倒し，対立的立場をとるようになった。1888年以後ドイツに住む。1917年ポントピダン*とともにノーベル文学賞を受けた。代表作は《理想家》《ミンナ》など。

ぎえん【義淵】(？～728) 奈良時代の法相宗(ほっそうしゅう)の僧。元興寺智鳳(ちほう)から法相唯識の教義を学び，学徳高く，奈良仏教隆盛の基礎を築いた。天智(てんち)天皇から岡本宮を賜わって龍蓋(りゅうがい)寺(岡寺*)を建てた。門弟は多く，玄昉*(げんぼう)・行基*・良敏・宣教・行達・隆尊・良弁*(ろうべん)を七上足(7人の高弟)という。龍蓋寺にて入寂。岡寺に彼の木心乾漆座像(国宝)が伝わるが，円満温和そのままの姿を示す。

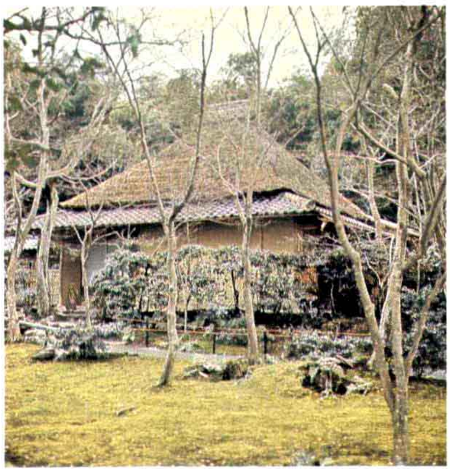
きえんれい【棄捐令】江戸時代，幕府や諸藩が家臣の財政窮乏を救済するために家臣に対する債権を捨てさせた法令。幕府では松平定信*(さだのぶ)が老中であった1789年(寛政1)はじめて発令。のち阿部正弘*(あべまさひろ)が1843年(天保14)再度発令した。これにより旗本(はたもと)・御家人に貸し出しをしていた札差*(ふださし)らは大損害を受け，以後貸し出しをほとんど停止したので，かえって旗本・御家人は困窮した。諸藩でもしばしば発令された。〔松尾　涼〕

きおいざかのへん【紀尾井坂の変】18

78年(明治11) 5月14日朝，元老院会議出席のため，自邸から赤坂仮皇居に参内の途中，麴町(こうじまち)紀尾井坂下で参議兼内務卿(ないむきょう)大久保利通(としみち)が刺殺された事件。明治政府成立以後，天皇制支配の実質的な政策推進者であった大久保は，征韓論(せいかんろん)や台湾出兵(→征台の役)で対立した西郷隆盛(たかもり)や木戸孝允(たかよし)があいついで辞職したのち，独裁的な地位を固めたため，施政について大久保を敵視する不平士族や平民が少なくなかった。犯人の石川県士族島田一郎ら6名は，民権抑圧など5項目にわたる斬奸状(ざんかんじょう)を持って宮内省に自首し，7月全員斬罪(ざんざい)となった。〔安達淑子〕

きおいじし【勢獅子】 常磐津(ときわず)・日本舞踊の曲名。本名題《勢獅子劇場花罾(かぶきのはなかご)》。作詞は3世瀬川如皐(じょこう)，作曲は岸沢式作。1851年(嘉永4)初演。もと曽我(そが)祭(江戸の劇場の行事の一つ)の余興として演じられたものである。のちに山王祭を描いた舞踊として踊られるようになった。鳶(とび)の頭(かしら)ふたりが主役で，〈曽我の夜討ち〉の振りや獅子舞いなどをみせ，手古舞いたちがからむ。

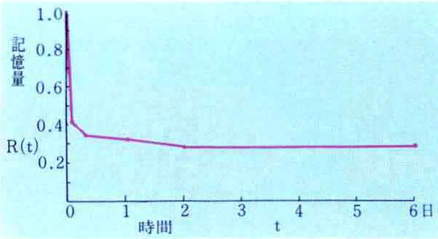
ぎおうじ【祇王寺】 京都市右京区嵯峨(さが)二尊院門前往生院町にある古義真言宗の尼寺。草創年代は明らかでないが，《平家物語》で名高い平清盛の愛妾(あいしょう)，祇王・祇女とその母，および祇王遁世(とんせい)の原因となった仏御前がともにいおりを結んだことで世に知られている。現在の本堂は1902年(明治35)に再興されたもので，4人の尼の木像を安置し，境内にはその墓がある。寺の南に滝口入道と横笛の木像が祭られている三宝寺(滝口寺)がある。〔毛利早公子〕



祇王寺 草庵 (本堂)

きおうしょう【既往症】 これまでに罹患(りかん)したことのある疾病(しっぺい)。既往歴ともいう。医師はふつう初診の際に主訴・現病歴・家族歴とともに，これまでにかかった病気の有無・種類・軽重などを問い，診断上の参考にする。問題になることの多いものとしては，遺伝性疾患，先天性疾患，後遺症を残しやすい疾患，終生免疫を残す疾患(急性伝染病の一部)などがあげられる。そのほか結核・性病・手術・外傷などにも注意する。〔国井乙彦〕

きおく【記憶】 広義には，過去の経験を保持し，それを再生する心の作用をいう。記憶される経験の種類には，言語・図形・顔などを覚える〈表象的記憶〉，タイプライターや運動のわざを覚える〈運動感覚的記憶〉，その他，伝言をしようとか，手紙を投函しようとかいう〈意図の記憶〉などが区別されるが，普通に記憶といえば，多くの場合，〈表象的記憶〉をさしている。記憶が成立するには，経験した事がらを覚える〈記銘〉過程，それを記憶の中にとどめておく〈保持〉過程，記憶からそれを取り出す〈想起〉過程が必要で，そのいずれを欠いても〈忘却〉になる。想起には2通りあり，他人の顔を見てその人の名まえをいうような場合を〈再生〉，顔を見て，まえに見たことがあると気づいたり，いくつかの写真の中からその人の顔を選び出すような場合を〈再認〉という。自発的に再生できなくても再認ならできることは少なくない。記憶している量を測定するには，再生法・再認法のほかに，第1回めに比べると第2回めには記銘に要する時間が短くてすむことを指標として記憶量を表わすこともでき，これを節約法という。記憶が大脳で保持されるということは現代では常識となっているが，この常識は必ずしも古来のものではなく，心臓が〈心の臓〉と書くことや，暗唱することを英語で〈ラーン-バイ-ハート〉というように，心臓で保持されると思われていた時代もあったのである。そして現代でも，大脳のどこにどういう形で記憶が保持されているかは，よくわかっていない。前頭葉その他，特定の場所を想定することを記憶機能局在説，大脳皮質全体にまたがっていると想定することを非局在説という。



記憶曲線 エビングハウスによる記憶曲線

忘却の原因としては，大脳のどこかに存在する記憶痕跡の自発的崩壊も考えられるが，ある記憶材料を記銘後，同種の材料に接すると，それによって前の記憶が妨害されることも実験によって確認されており，この現象を〈逆向抑制〉という。睡眠中には〈逆向抑制〉を起こす原因が少ないはずで，記銘後，同じ時間を覚醒(かくせい)して過ごすのと眠って過ごすのとでは，後者のほうが忘却の少ないことが実験によって示されている。他の心理的機能と同様に，記憶の機能にもいろいろな個人差が認められる。1回だけ呈示された材料について，その直後の直接記憶で再生される範囲を直接記憶範囲というが，電話番号のような数字の場合，普通は6けたぐらいであるのに対し，中には10数けたまで自然に記憶に収める人もあり，特別な記憶術を用いてずっと大きなけた数まで記憶してみせる人もある。こういう直接的記憶は一般にその場限りのものであるが，言語の語彙(ごい)などは半永久的な記憶で，前者を短期性の記憶，後者を長期性の記憶という。因子分析法その他の分析によれば，それらの一方において優秀な人が必ずしも他方においても優秀であるというわけでもない。極端な例としては，精神薄弱者の中には暦日など特別な事がらに異常な記憶を示す〈白痴の天才〉がある。また，記憶は病的な障害を起こしやすく，健忘症その他の病状が知られている。〔印東太郎〕

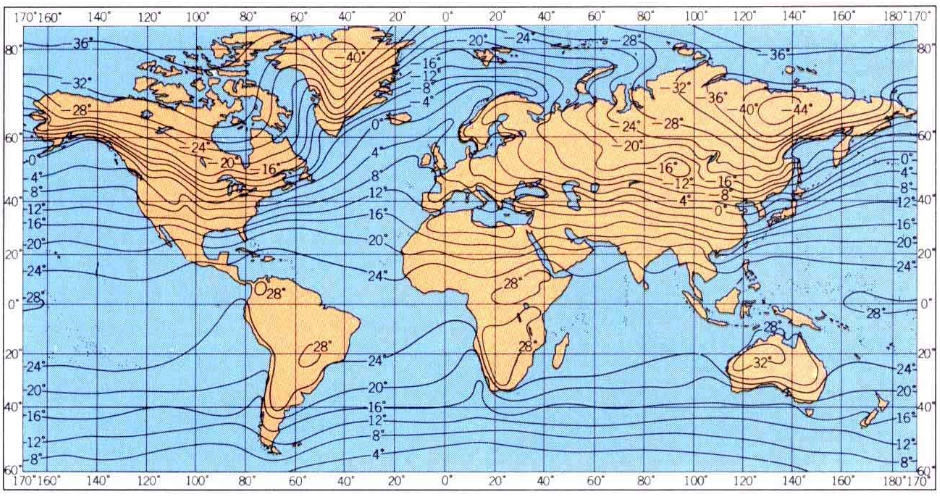
【記憶の変容】記憶はその保持期間中に形を変えていく。ドイツの心理学者ウルフによれば変容のしかたは次のようなものがある。①構造的変容：不規則性を失い，規則的な秩序をもつようになる，②強調化：印象的部分が強調されていく，③常態化：記憶するときの把握(はあく)のしかたによって具体的な特徴が強く打ち出され，その把握したものの概念に近似していく。〔吉田俊郎〕

きおくきょくせん【記憶曲線】 記銘ののち，時間 t を経過してから再生法などによってその時点における記憶の量R(t)を測定すると，一般にR(t)は t の単調減少関数となる。このR(t)を記憶曲線または忘却曲線という。1885年，エビングハウス(1850～1909)が無意味つづりのリストを用いてはじめて組織的に実測した。R(t)ははじめ急激に低下し，のちR(∞)＞0に漸近する。なお，記銘直後にR(t)が一時上昇することがあり，これをレミニセンスという。

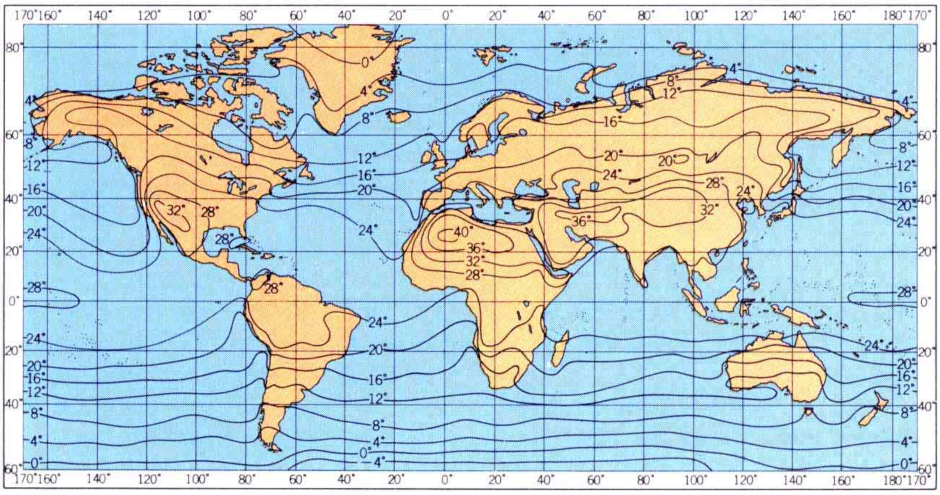
きおくじゅつ【記憶術】 外国語の単語などをできるだけ能率よく暗記するテクニックをさす場合と，見せ物的に大量の無意味な数字などを即座に暗唱してみせる人の用いる技巧をさす場合がある。いずれも材料を当人にとって記憶しやすい形にひきなおすのが普通で，円周率 $\pi=3.14159265$ を〈産医師，異国に向こう〉と覚えるたぐいで，専門家はその人固有の変換方式をもつ。一般に，記憶術をじょうずに駆使するのは，イメージを視覚的に思い浮かべる視覚型の人が多いといわれている。〔印東太郎〕

キオス(島)［Khios］ 小アジア半島の西8kmのエーゲ海にあるギリシア領の島。面積831km²，人口62,000(1961)。サキズアダシ(トルコ石)ともいわれる。北部に主峰セント-エリアス山(1,219m)があり，南部には肥沃(ひよく)な平野が広がる。気候は温和で，ブドウ・オリーブ・イチジクな

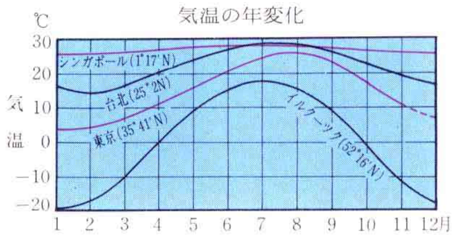
1月における世界の気温分布

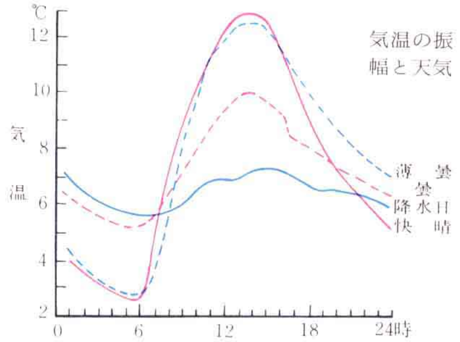


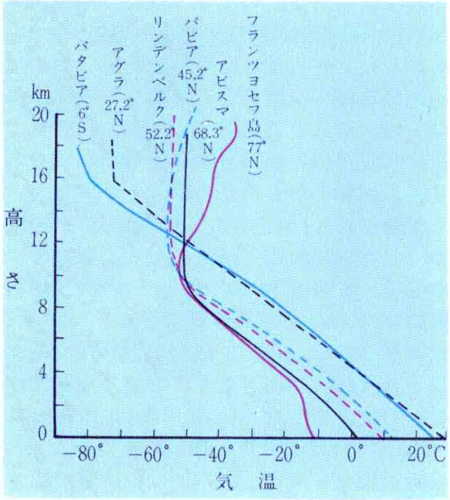
7月における世界の気温分布



気　　温　世界の気温分布







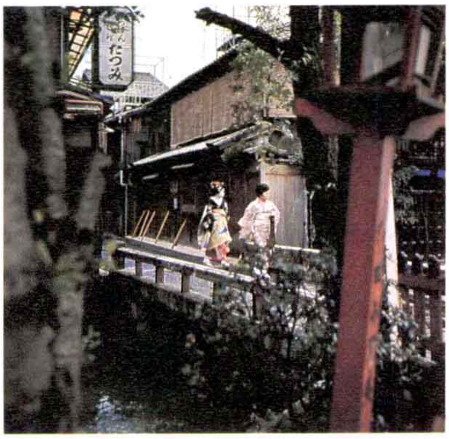
気温の鉛直分布

どの果物を産し，鉱産として大理石・アンチモニー鉱・イオウがある。古代ギリシア時代には有力なポリス*で，その遺跡が多く，古い貨幣も多数出土される。西海岸には11世紀に建造されたビザンチン様式のネア-モニ修道院がある。紀元前6世紀にはペルシアの植民地だったが，ペロポネソス戦争*後はアテナイに属した。以後，ローマ帝国・セルジュクトルコ・ベネチア・オスマントルコの支配を経て，バルカン戦争*後ギリシア領となる。中心都市キオスはホメロスの生誕地といわれる。　〔大崎　晃〕

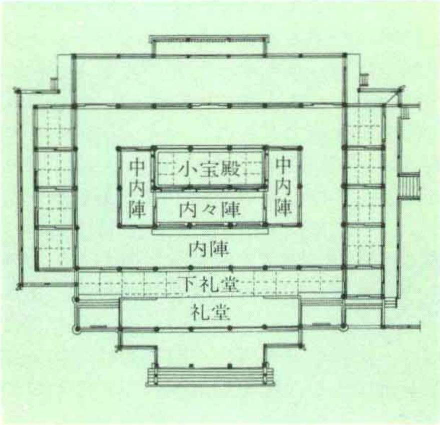
きおん　【気温】　空気の温度。ふつう，地面から1～1.5mの高さの温度のことである。しかし，一般に気温は，場所・高度・時刻により異なる。また気温の単位として，わが国では摂氏*，英語系の国では華氏*が用いられている。気温の変動を支配する源泉は太陽からの日射である。日射によって地面が暖められ，地面から空気が暖められるという関係になっているが，地球の自転・公転のために日変化・年変化が起こる。また地表からの放射・蒸発，地表近くでの熱や水蒸気の乱流輸送，地中(海中)の温度分布，大気中での水蒸気の凝結などが気温の変動に直接影響する。さらに，大気中の水蒸気や雲の分布は，日射や放射に大きく影響するので気温の変動の重要な要素になっている。実際の気温の変動には以上のほかに，他地域からの空気の移流が影響するのは当然である。気温の日変化は，地球の自転により，昼は日射によって地面が暖められ，夜は地表からの放射が卓越して地面が冷やされるために起こる。日射量の多い晴天日には，最高気温は高く，さらに地表からの放射冷却も大きいので夜間の冷却は強く，最低気温が低い。1日の最高気温と最低気温の差すなわち日較差*は，晴天日に大きく，曇天日や降雨日には小さい。

気温の年変化は，地球がおよそ1年の周期で太陽のまわりを回転することによる太陽高度の変化に対応して起こる。年変化は低緯度で小さく高緯度で大きい。また海上で小さく陸上で大きい。また，赤道地域では，ごく弱い極大・極小がそれぞれ年2回起こるが，その他の地域では1回ずつ現われる。これは地軸の傾斜のために，太陽高度の極大が，赤道地域では年2回，その他の地域では1回現われるためである。また海面と陸面の熱的効果の差異は，熱容量が違うこと，海面では水の移流によって熱が遠くまで運ばれること，地中では温度の日変化で深さ1m，年変化で20mにも及ばないが，海中では，乱流や対流によって数百メートルの深さに達しうる，などが主要な点である。次に気温の鉛直分布であるが，対流圏では100m上昇するごとに平均0.5～0.6℃程度気温が下がり，成層圏にはいると等温または逆に上がるのが普通である。対流圏では，赤道で最も高温であるが，成層圏では，赤道で最も低温である。対流圏と成層圏の境界すなわち圏界面は赤道で最も高く，高緯度ほど低い。　〔曲田光夫〕

ぎおん　【祇園】　京都市東山区の西北部，東は東大路から，西は大和(やまと)大路，南は建仁(けんにん)寺の北，北は新橋通りに至る地区一帯の通称。鎌倉時代以降，八坂神社*の門前町として発展した。祇園の名は八坂神社の旧称祇園社にちなむ。応仁の乱後，町勢は一時衰退したが，江戸初期から参詣客(さんけいきゃく)を相手に水茶屋が軒を並べ，1790年(寛政2)遊里として公認されて以来島原を



紙　園　八朔（旧暦８月１日）の日の祇園。白川にかかる小橋を渡る祇園の舞い子



祇園造り　八坂神社本殿平面図。神社本殿としては規模が大きく，かなり複雑である



祇園祭　祇園囃子に合わせて市中を練り渡る山鉾

しのぐほど繁栄した。いまも京都の代表的歓楽街で，茶屋は高級料理店となり，古風な赤壁の家を背景に舞い子が行きかう姿は京の情緒を代表する風景である。八坂神社の東には円山（まるやま）公園があり，〈祇園の夜桜〉として名高いシダレザクラがある。祇園の舞い子による都踊り*は明治初年以来の伝統を誇り，八坂神社の祇園祭*は京都三大祭りの一つである。〔浅井得一〕

ぎおん　【祇園】　広島県の旧町名。広島市の北にあたり，1972年（昭和47）８月広島市編入。従来から近郊農業地域として広島市と結ばれてきたが，国道54号線新道の開通により機械工業を中心とする諸企業，住宅の進出がめざましい。

きおんげんりつ　【気温減率】　気温が高空へ行くにつれて下がる割合。対流圏では，平均的には100m上昇するごとに0.5～0.6℃程度気温が下がる。気温減率が大きいほど大気は不安定である。水蒸気を含んだ空気が上昇すると凝結を起こして凝結熱を放出するが，これが，気温減率に大きな影響を与える。気温減率は，主要な大気現象の生起に密接な関係をもっている。

ぎおんしゃ　【祇園社】　⇨八坂神社

ぎおんしゅぎょうにっき　【祇園執行日記】京都の祇園社（八坂神社*）を管理した執行職が記した室町初期の社務日記。1343年（興国４・康永２）・1350年（正平５・観応１）・1352年（正平７・文和１）・1371年（建徳２・応安４）・1372年（文中１・応安５）の各年の日記に《三鳥居建立記（こんりゅうき）》および《祇園社草創以来代々勅願次第》を合わせて７巻からなる。当時祇園社は綿座*（わたざ）の本所，祇園祭*の神社として，京町衆の経済活動や信仰と密接な関係にあったため，本記録は中世京都の都市生活を知る重要資料である。

ぎおんしょうじゃ　【祇園精舎】　古代インドの僧院。漢訳仏典には〈祇樹給孤独園（ぎじゅきっこどくおん）〉などと記されている。中インド，コーサラ国の首都シュラーバスチー（舎衛城（しゃえじょう））の郊外にあるジェータ（祇陀（ぎだ））王子所有の林中に，アナータピンディカ（給



祇園南海《山水図》　東京国立博物館蔵

孤独，本名スダッタ）が建てて，ブッダとその教団に寄進したものである。アナータピンディカはこの地を購入するに際して，その地面の広さだけ黄金を敷きつめ，土地の代価としようとしたと伝えられる。日本では《平家物語》の冒頭にある〈祇園精舎の鐘の声，諸行無常の響きあり〉の文で広く知られる。現在，ウッタル-プラデシュ州サヘート-マヘートに遺跡がある。〔佐藤良純〕

ぎおんしんこう　【祇園信仰】　京都祇園社（八坂神社*）に基づく信仰。869年（貞観11）祇園社を中心として当時流行した疫病の霊を和らげるために，牛頭天王（ごずてんのう）（薬師如来の垂迹（すいじゃく）ともいい，スサノオノミコトともいう）を祭神とする御霊会（ごりょうえ）が催された。これが祇園祭のはじまりで，古くは疫病流行の季節にあたる旧暦６月７～14日に行なわれた。なお，現在，６～７月に各地で行なわれる祇園祭・天王祭は病害虫に悩まされる時期に行なわれるが，祇園信仰の影響である。➔祇園祭〔直江広治〕

ぎおんづくり　【祇園造り】　日本の神社本殿形式の一つで，京都の八坂神社*本殿に見られるもの。現在の形式は平安時代末には成立していたものと考えられ，本来別棟であったはずの神殿と礼堂（らいどう）（拝殿）を一体化して入母屋（いりもや）造りの一つの屋根の下にとりこみ，一見して和風化した大規模な仏堂の印象を与え，神仏調和思想をよく表現している。

ぎおんなんかい　【祇園南海】（1677～1751）江戸中期の儒学者・南画家。名は正卿（せいけい）のち瑜（ゆ），字（あざな）は伯玉，通称与一郎，南海は号。紀州藩士で，儒学を木下順庵（じゅんあん）に学んで詩文に長じ，一夜に100首の詩をつくって師を驚かせたともいわれ，その集に《一夜百首》《明詩俚評（りひょう）》など多数がある。また，画は《八重画譜》《芥子園（かいしえん）画伝*》など中国木版画譜から独学したらしく，水墨による山水画や四君子を得意とした。池大雅*（いけのたいが）らに影響を与えて，南画の興隆に尽くした功績は大きい。

ぎおんまつり　【祇園祭】　京都の八坂神社*の例大祭。祇園御霊会（ごりょうえ），略して祇園会ともいう。869年（貞観11）京都御所の神泉苑（しんせんえん）で悪病退散の祭りとして行な

ったのがはじめといわれ，のち祇園社(八坂神社)の祭りとして神社の興隆とともに盛んに行なわれるようになった。現在は7月17〜24日まで行なわれる。神輿(みこし)の渡御とともに，多くの華麗な山鉾(やまぼこ)が祇園囃子(ばやし)の調べにのって練り歩く17日の鉾祭と，その前夜の宵山(よいやま)，それに24日の弦召(つるめそ)が最も有名。山鉾には長刀鉾(なぎなたぼこ)(長刀は和泉守(いずみのかみ)金道と法師栄仙(えいせん)の合作)，放下鉾(与謝蕪村(よさぶそん)の絵あり)，月鉾(円山(まるやま)応挙の絵，左甚五郎(じんごろう)作の破風蟇股(はふかえるまた)あり)などがあり，いずれもけんらんたるものである。山鉾の上には，稚児(ちご)とよばれる男児が盛装して乗り，笛・太鼓・鉦(かね)などを順次演奏する。これを祇園囃子という。山鉾は，氏子町内の39か所から出すのを慣習としている。〔佐野文哉〕

きか【帰化】 自己の志望によって国籍*を取得すること。わが国の国籍法(1950)は次の条件を備えている場合にのみ帰化を認めている。①5年以上日本に住所*があり，②20歳以上で本国法上でも成人に達し，③素行が善良で，④資産または技能があり，⑤二重国籍にならず，⑥憲法や政府を暴力的に破壊しようとしなかった場合。なお日本人と血縁・婚姻などによる簡易帰化の制度，特別の功労があると国会が認めた場合の大帰化という特別の制度がある。通常は人種や民族を差別して，帰化の条件を定めることはないが，1952年以前のアメリカ，白豪主義*のオーストラリアでは日本人・中国人などの東洋人の帰化を認めていない。近年イギリスでは大量の労働人口流入に対して厳しい制限を加え，その定着と帰化を防ぐ傾向にある。〔吹浦忠正〕

きか【気化】 液体が気体に変わること。この現象のうち，液体の自由平面から任意の温度で気体になる現象を蒸発*といい，液体の内部より気泡(きほう)を発しながら気体になる現象を沸騰*とよぶ。蒸発の速さは圧力と温度が変わると異なり，温度が高く圧力が小さいほど速い。沸騰が起こる温度も圧力によって異なる。単位質量の液体を気体にさせるに必要な熱量を気化熱といい，気化熱は温度とともに変化し，水の場合1気圧の下で気化熱は0℃では596cal，100℃では539calである。〔中野藤生〕

ぎか【偽果】 仮果ともいい，真果に対する語。果実ができるとき，子房ばかりでなくそれ以外の部分，たとえば花托(かたく)やがくが加わって発達してできた果実。ナシ・リンゴは花托またはがくの基部がつぼ状に発達して子房を包んだものであり，イチゴは花托がふくらんで多肉質の球状となったもので，真の果実はその上につく。➔果実

きかい【機械】 一般に次の三つの条件を備えているものが機械といわれている。①抵抗力のある物体の組み合わせであること，②その各部は限定された相対運動を行なうこと，③エネルギーをわれわれの欲する仕事に変ずること。たとえば，ベルトは単独では押したり曲げたりするとき抵抗力はないが，ベルト車に掛けて引っ張りながら使えば抵抗力をもち，ベルト伝動*として機械の一部に利用される。また，のこぎりは人間が手で扱う場合は工具であるが，クランクや連接棒を用いたリンク装置*の中に組み込めば，限定された相対運動を行なうので機械となり，のこ盤とよばれる。また，マイクロメーター・ダイヤルゲージなどは，ねじ・歯車などを用いて限定された相対運動を行なうが，物理的な仕事をするわけではなく，上の定義によれば機械ではなくて測定器といわれる。抵抗力のある物体の組み合わせである機械を分解すると，ボルト・ナット・歯車などの最小単位となる。これを機械要素*という。また機械の限定された運動のみに着目したときこれを機構という。その内容としてはリンク装置・カム装置・歯車装置・巻き掛け伝動装置などがある。機械に与えられたエネルギーはすべて有効な仕事になるわけではなく，一部は摩擦や振動などのために消費される。有効な仕事と与えられたエネルギーの比を機械効率という。機械効率を高めるためには潤滑*その他の手段を講じ，むだに消費されるエネルギーをできるだけ少なくする必要がある。なお，機械がなしうる仕事の大きさを示す量が動力であって，単位時間になした仕事の大きさで表わし，単位としてキロワット・馬力などが用いられる。

現在では上にあげた定義に必ずしもあてはまらなくても一般に機械とよばれているものが多い。たとえば，ボイラーは相対運動は行なわないが機械といわれ，時計やカメラは仕事をさせるのが目的ではないが，精密機械とよばれて機械の一種とされている。したがって，機械の定義を，〈物理量を変形したり伝達するもの〉としたほうがむしろ適切であろう。

〔分類〕大別するとエネルギーを供給する原動機，仕事をする作業機，その間に運動を伝達する伝動装置とになる。原動機には内燃機関・蒸気機関・蒸気タービン・ガスタービン・水車・電動機などがあり，熱・水・電気などのエネルギーを運動のエネルギーに変換するものである。作業機には工作機械・ポンプ・紡績機械・荷役機械・機関車・自動車などがあり，人間の欲する仕事をするものである。原動機で発生した運動を作業機に伝えるのが伝動装置で，回転軸の方向や回転数を変える目的で，歯車・カム・リンク・ベルト・チェーンなどが用いられている。

〔歴史〕原始時代の人間は，てこ・斜面などによって力を利用することを覚えた。これらは上述の機械の定義にあてはまらないが，単一機械といわれることもある。さらに，車輪・車軸・滑車などが考案され，金属の発見とあいまって人力や動物の力を原動力として水をくみ上げたり石うすを回したりしていた。BC100年ごろ流水を利用して石うすを回すいわゆる水車が発明された。これが自然のエネルギーを機械に利用したはじまりである。また，機械要素としての歯車の製作が発達し，14世紀には歯車を用いた機械時計がつくられるようになった。18世紀に至り蒸気機関や紡績機の発明および技術の改良などがあいつぎ，それまで行なわれていた家内工業からしだいに工場制工業となり，いわゆる産業革命の時代となった。19世紀には内燃機関が発明され，さらにこれが自動車・飛行機などの発達を促した。また，電動機・工作機械の発明に金属材料の発達が伴い，大量生産方式の確立とあいまって現在のように精度の高い機械が大量に製作されるようになった。また，現在はコンピューターを利用した機械の自動化が進んでいる。〔森田 鈞〕

きかい【機械】 横光(よこみつ)利一*の小説。1930年(昭和5)9月《改造》に発表。ネームプレート工場で働く4人の人々の心理の対立・衝突・格闘が，新心理主義という新しい手法で描かれている。〈いかなる小さなことにも機械のような法則が係数となって実体をはかっている〉という認識と，プルースト・ジョイス*らの〈意識の流れの文学*〉の手法がみられる。

ぎかい【議会】 ⇨国会

きかいあみ【機械編み】 手編みに対して機械を使って編むこと，およびその製品。手編みは針を手で動かして1目ずつループをつくりながら編みつないでいくが，機械編みでは多数の固定された針に糸が連続供給されて編成される。機械には工業用と家庭用があり，一般に太糸使用のものにはベラ針を，細糸使用のものにはヒゲ針を用いる。現在機械の種類や形式は数多く，おもなものにメリヤス編み地を編成する緯(よこ)編み機・経(たて)編み機がある。緯メリヤスは手編みの棒針編み*に相当し，1本の糸が緯方向にループをつくりながら編み進む。経メリヤスは，編み針に平行に並べられた経糸で編み目を経方向につくりながら左右の糸にからみつけ，編み地を形成するもので，緯メリヤスのように編み目が単一の糸でつくられないからはしご状のほつれを生じないし，切断面からほつれることがない。

基本組織には，緯メリヤスに平編み(メリヤス編み・天竺(てんじく)編みという)・ゴム編み・パール編み(ガーター編み)，経メリヤスには閉じ目編み・開き目編みがある。

編み機は，1589年イギリスの牧師ウィリアム=リーがヒゲ針使用のくつした編み機(別称ハンドフレーム)を発明したのが始まりで，1856年には，マシュー=タウンゼントがリーの開発した原理に基づき，ベラ針使用の編み機を発明した。今日広く用いられている工業用編み機は改良が加えられてめ

ざましい発展をみせているが，その原理には変わりがない。日本における機械編みメリヤスは，明治初年西村勝三がくつした編み機を輸入してくつした製造を行なったのがはじまりである。

編み物の用途は，上着からはだ着に至るまで広範囲にわたり，中でもくつした・手袋・はだ着などは特に生産率が高い。現在普及している家庭用編み機は，平型編み機を改造したベラ針使用の緯編み機である。➔手編み機　〔山村あい子〕

ぎかいいいんかい　**【議会委員会】**　国会または地方議会の内部に設けられる議員の会議体をいう。本会議での審議を能率的かつ迅速に行なわせるため，あらかじめ案件の予備調査をさせる目的で設置されているが，その地位・権限はきわめて高い(委員会中心主義)。委員会には常任委員会*と特別委員会*の2種類がある。

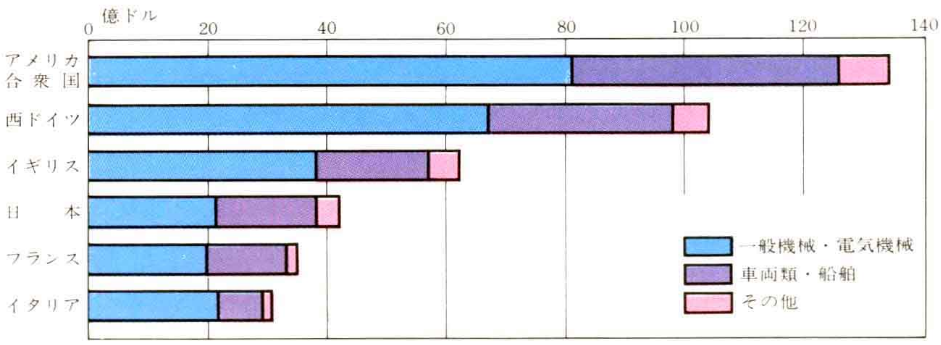
きかいがしま　**【鬼界島】**〈きかいじま〉ともいい，また喜界島とも書く。鹿児島県大島郡にある喜界島*とは別の島で，同じ大島郡三島村の中央にある火山島の硫黄(いおう)島*の別名である。面積8.3km²，人口300。《平家物語》にみえる僧俊寛*が流された島と伝えられ，また平家の落人(おちうど)が住みついたともいうがはっきりしない。

きかいかのうぎょう　**【機械化農業】**　作物生産体系に農業機械*を多く取り入れ，生産効率を高める農業をいう。もともと耕地の広いアメリカ合衆国やソ連，また機械化に適した北欧の諸国では，機械化農業による労働生産性はきわめて高く，作物の生産コストは低い。昔からわが国の農業は稲作を中心とした主穀農業で，しかも手労働による集約農業であるため，品質は良好で収量は高い。しかし，作物の生産性はきわめて低く，農産物価格の国際競争に不利なばかりでなく，国内においてすら他産業の労働生産性に劣り，所得は伸び悩みで，この10数年農村の労働力は減少の一途をたどってきた。今後は土地生産性はもちろんであるが，労働生産性を高め，農家所得の安定・向上を図ることが必要である。他産業に流出する農村労働力を補う意味においても，機械化農業の進展を図る必要が認められている。機械化農業においては，機械に見合った耕地面積と生産体系を考慮する必要がある。機械化に見合う経営規模の拡大が前提となるが，協業経営・協同作業および集団栽培などがその例で，このような形式で大形機械を取り入れ，作業の合理化・能率化が推進されるようになった。また耕地面積の拡大が困難であり，一筆面積の増加が困難な場合の機械化として，わが国では早くから小形機械による作業体系が研究されてきた。小形耕耘機(こううんき)による水稲の移植栽培では，慣行法による10アールあたり166時間の作業時間を2分の1にできるとし，直播(じかま)き体系では5分の1に短縮できることが試算されている。機械化農業では，小形耕耘機・中形トラクターやスピードスプレーヤー・全自動脱穀機・コンバイン・乾燥機をはじめとし，最近では稲作で最も多くの手間を要する移植作業までほぼ機械化の見通しが立ち，実用普及の段階に至っている。田植え機・刈り取り機・刈り取り脱穀機などはわが国独自の製品であり，今後農業の機械化が進むにつれてわが国農業の経営の安定化が期待されている。

収量よりも品質，また高度な栽培技術を必要とする園芸作物や工芸作物では，おのずから機械化も制約を受ける場合が多い。すなわち，作物の特徴を認識しての機械化，作業体系の合理化を図ることとなる。わが国の現状では，八郎潟(はちろうがた)干拓地や，有明・児島(こじま)湾の干拓地，また北海道や岩手県などの一部を除いては大形機械による作業体系は困難であり，もし，大形機械による機械化農業の進展を図るとすれば，当然そこに別の形の耕地の利用法が生まれてくる。　〔金木良三〕

きかいかぶたい　**【機械化部隊】**　装甲輸送車をもって車両化された歩兵部隊が戦闘力の主体となり，戦車・自走砲兵・牽引(けんいん)砲兵などを加えて編成した車両化部隊をいう。歩兵部隊がトラックにより車両化された場合は自動車化部隊と称して区別している。機甲部隊*に比べて防護力・地形克服能力が劣るが，歩兵部隊より機動力がすぐれ，広地域をすみやかに行動して奇襲の効果をあげることができる。各国とも1930年代から編成を始め，第2次世界大戦ではヨーロッパ西部だけでなくアジアの戦場でも活躍した。現在では輸送手段の進歩により，空輸特にヘリコプターによる機動性能の向上が図られている。　〔森田　哲〕

きかいげんいんろん　**【機会原因論】**　偶因論ともいう。デカルト*の精神・物質の厳密な二元論と心身関係の事実との矛盾または説明の不備を補うためにゲーリンクス*・マールブランシュ*らが唱えた説。ゲーリンクスは心身が互いに他の原因となることを否定し，神が真の原因であるとした。たとえば，身体の刺激を〈機会〉に神が介入して心に感覚を生じさせ，心の意志を〈機会〉に神が身体に運動を生じさせると説き，心身は互いに他の機会原因にすぎないとした。



機械工業　列国の機械類輸出額(1967)

きかいこうぎょう　**【機械工業】**　一般機械工業・電気機械工業・輸送機械工業・精密機械工業より構成され，その関連する分野はきわめて広い。自由世界第2位のわが国鉄鋼業の躍進をささえている製鉄機械から，日常生活に直接関係深い自動車・家庭用電気機器・カメラ・時計などの耐久消費財をはじめ，これらの部品をつくる工作機械から部品工業までを含む。機械工業の使用原資材は鉄鋼・非鉄金属・ガラス・塗料・プラスチック・ゴム・繊維などきわめて多くの種類に及ぶ。このため，機械工業は総合工業ともいわれる。

日本の機械工業生産額は，1969年(昭和44)に17兆円に達し，製造業全体の35%を占めるに至っている。しかも，機械工業生産の伸びは著しく，1960年から1969年までの間に国民総生産が3.8倍に成長したのに対して，機械工業の生産は約8.5倍の急成長を示している。また，輸出面においても機械工業の役割は大きく，1969年の機械工業製品の輸出額は全輸出額のほぼ41%に達し，その伸びは1961年に比べて約6倍，2兆3,800万円に増大している。これを業種別にみると，輸送機械の比重が最も大きく，1969年に機械工業生産の35%を占め，輸出においても40%を占めている。これに次ぐものが電気機械で機械工業生産の33%，輸出でも29%，さらに一般機械の生産が28%，輸出が23%の順となる。業種別の伸びでは，ここ10年間に電気機械生産は約9倍，そのうち家庭用電気機器の伸びが電化ブームにささえられて特に著しい。次いで輸送機械は6倍の伸びを示し，そのうち，自動車と造船の伸びが目だっている。このほか一般機械は約6倍，精密機械は約4倍に伸びている。輸出面でも，同じく電気機械の伸びが高く，10年間に18倍に増大している。一般機械は約9倍，輸送機械も自動車輸出の急増によって6倍にふえている。しかし，船舶輸出の伸びが低かったため，その構成比は大きく低下している。

このように急速に発展してきた日本の機械工業は，世界の機械工業においてもその地位を高めつつある。1969年現在，日本の機械工業の出荷高は世界第2位，輸出高は

第4位に達している。とはいえ，企業規模からみると，わが国の機械工業は全体として国際水準以下にあり，特に成長著しい電気機械・自動車部門でも，なおアメリカと比べてかなりの規模格差をもっている。そのために，企業再編成による大規模化が強く要請されている。〔原　豊〕

きかいじま【喜界島】 鹿児島県の奄美(あまみ)大島の東方約25kmにあり，1島1町で大島郡喜界町となっている。面積56km^2，人口11,000。大部分がサンゴ礁の石灰岩でおおわれ，最高点は百ノ台とよばれる203mの地点である。おもにサトウキビとサツマイモをつくり，バナナも産する。1km^2あたりの人口密度は228人で奄美諸島中最高である。鹿児島へ定期船のほか，定期航空路が開けている。なお，古く鬼界島とよばれたのは広く薩南(さつなん)諸島をさすものと思われ，1177年(治承1)俊寛が流されたのは硫黄(いおう)島(→鬼界島)である。〔浅井得一〕

きがいしゅうしゅく【期外収縮】 早期収縮ともいう。不整脈の一つで，心臓が次にくるべき周期よりも早く収縮するものをいう。期外収縮を起こす心臓の亢奮(こうふん)部位によって，上室性(洞結節(どうけっせつ)・心房・房室結節)と心室性に大別される。刺激物のとりすぎ，過労，不眠，精神的亢奮などが原因となって心臓の一部分に亢奮性が高まったために起こるものがあり，これは原因を取り除いて病気ではないと説得することによって期外収縮が消失する。一方，急性リウマチ・心筋梗塞(しんきんこうそく)・高血圧・心臓弁膜症などによって心臓自体に障害が起こるものがある。この場合は原因疾患の治療を行ない，期外収縮が頻発(ひんぱつ)するときにはキシロカイン・アミサリン・キニジンなどを投与する。なお，ジギタリス投与時に中毒症状として起こることがあり，この場合には投与の中止などを行なう。〔清水直容〕

ぎかいしゅぎ【議会主義】 議会政治を尊重していこうとする政治路線をいう。政治的争点を最終的には議会(→国会)における討論によって解決を図ろうとするものである。このかぎりでは自由民主党から日本共産党まで今日の日本のおもな政党はすべて議会主義をとっている。しかし他方では国会外の大衆運動や国会内における反対闘争を軽視ないしは無視し，国会における形式的規則にのみ拘泥(こうでい)する傾向をもつ与党に対する批判としていわれる場合もあり，また暴力革命路線に対置して用いられる場合もある。→平和革命〔西尾孝司〕

ぎかいせいじ【議会政治】 近代諸国家において，国民の意思を国政に反映させ，国政が君主や少数の特権層の専制的な支配であることをおさえるために，近代民主革命を通じて，各国に確立された政治体制。国会は，国政全体の基本を決定する国民の代表機関であり，国民に代わって，そこでは議員が十分に問題を審議して決定するという代表および審議の原理に立っている，近代民主主義国家の普遍的な制度である。最初は，選挙権も財産や性別，あるいは人種の差別などで制限され，十分に国民各層が国会に代表されなかったが，しだいに，普通選挙制が行なわれるようになった。また国会が必ずしも国民の意思を表わしていない場合もあるので，国民自身が国会とは別に直接投票で重要な事がらを決定する方法(直接民主制)も取り入れられてきている。しかし，なお国民大衆の意思が，ともすると社会上層の利益におさえられて国会で取り上げられないと批判され，国会外に大衆行動が展開されるような事態が，今日各国でみられる。また選挙に際して買収やおどかしさえも行なわれる。このような欠点を克服しなければ，議会政治は，支配階級の一つの統治手段にすぎないという不信感をおさえることができないであろう。〔鈴木安蔵〕

きかいそしき【機械組織】 植物体を機械的にささえて補強している組織。厚角組織・厚膜組織・木部繊維・篩部(しぶ)繊維の集合で，これに維管束も加わって環状に配列している。茎では周辺部にあって曲がったり折れたりすることに抵抗し，根では中心部にあって引き抜かれることに耐え，葉では周辺部にあって引き裂かれないように働いている。

きかいたいそう【器械体操】 器械を使用して行なう体操一般の呼称。今日ではオリンピックなどの体操競技で行なわれる男子の鉄棒・平行棒・つり輪・鞍馬(あんば)・跳馬(ちょうば)，女子の平均台・段違い平行棒・跳馬が代表的なものである。これらの種目に使用する器械はドイツ体操系統のものであるが，学校などで使用する飛び箱・肋木(ろくぼく)などの器械はスウェーデン体操系統である。器械体操の歴史は古く，すでに古代ギリシア時代に戦技訓練として行なわれたようだが，教育的目的をもって行なわれたのは19世紀の初めで，ドイツ体操の父といわれるヤーン(1778～1852)がベルリン郊外の森に体操場を設け，青少年の精神と身体を鍛練するために，鉄棒・木馬・平行棒・鞍馬などの器械運動を行なわせた。その後，第1回オリンピックの競技種目に加えられて急速に発展した。器械体操の技術には回転技術，姿勢を保持する技術，各個人の力を示す技術などがあり，それぞれ正確なタイミング，優美性，力強さ，安定感などが要求される。なお，最近ではわが国にも普及しつつあるトランポリンの運動も器械体操とよんでいる。→体操競技〔伊藤春雄〕

きかいてきしょうか【機械的消化】 物理的消化ともいう。消化作用の一つで，化学的消化に対する語。従属栄養的に獲得する栄養は，酵素による化学的消化を受けてから細胞内に取り込まれるが，一度に多量の食物を消化する場合，酵素の作用を受けやすくする目的で，歯による咀嚼(そしゃく)，舌・腸の運動による消化液との混合などの機械的な仕事が，化学的消化のまえに必要となる。これらの機械的な仕事を総称していう。→消化

きかいてきりょうほう【器械的療法】 器具・装置などを使用して行なう治療の総称で，運動器疾患の治療の一部を占め，薬剤治療・手術治療と並んで重要である。温熱療法で局所の温度を高めて血行改善を図ることや，手を用いたりして行なう関節の可動性の保持，電気刺激による筋肉の廃用性萎縮(いしゅく)の防止，マッサージによる関節の拘縮の防止と筋肉の血行改善，運動による患者の運動機能の増大を図ってリハビリテーションを行なわせること，装具の着用やつえを用いての運動機能の改善，牽引(けんいん)による根性神経痛(脊髄(せきずい)の後根に病変があるために起こる神経痛)の治療などが含まれる。〔荻野幹夫〕

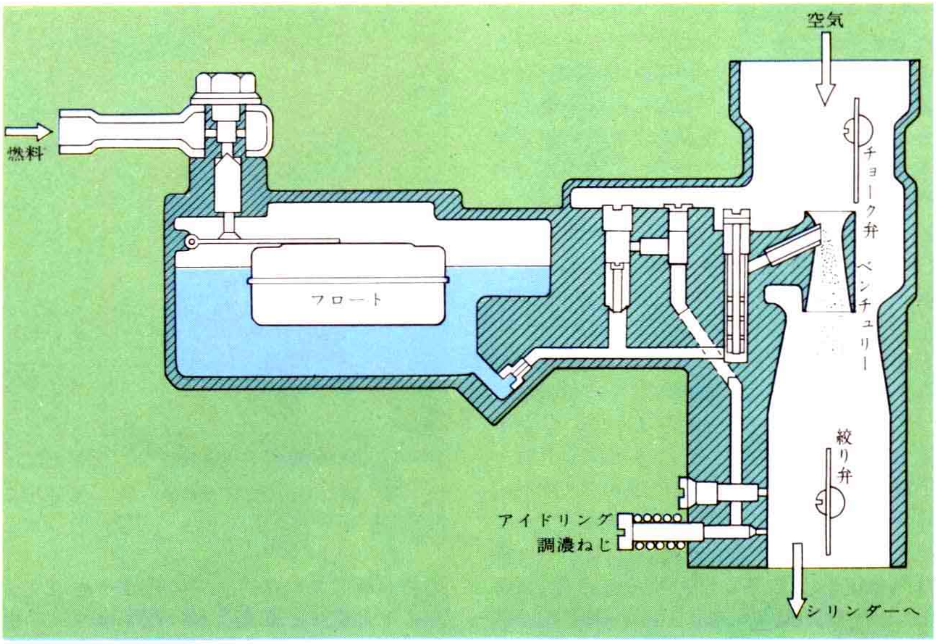
きかいパルプ【機械パルプ】 木材またはチップ(砕木)をそのまま機械にかけ，機械力だけで繊維を取り出したもの。歩どまりは90%以上で，新聞用紙に最も多く使用され，また低質な雑誌用紙や板紙などの主要原料となっている。原料としては針葉樹材がおもに使われる。砕木パルプとリファイナーグランドパルプがあり，前者は木材を砕木機にかけ，水を注ぎながらすりおろしてつくられ，後者は蒸し煮して軟化させたチップをリファイナーにかけて繊維をほぐして取り出す。→パルプ〔香山　彊〕

きかいひよう【機会費用】 多くの用途をもつ経済的資源は，それらを最も効率よく使用することが要求される。これを経済性の原則という。しかし多くの場合，この原則にしたがって生産資源を有効に使用しているとはいえない。最も効率の高い用途から順次低い効率の用途までを考えたとき，効率の低い用途は，それより効率の高い用途を犠牲にして得られるものということができる。つまり最も効率よく経済的資源を使用したときに得られる用途とそれより低い効率の用途との比較をするときには，次善の効率は最善の効率を犠牲にして得られることになる。したがって，最善の効率と次善の効率との差は，次善の用途から得られる効率を確保するために負う犠牲であり，これを次善の用途から得られる効率の機会費用という。〔藤枝省人〕

きかいようそ【機械要素】 機械を構成する最小単位の部品。機素ともいう。ボルト・ナット・キー・歯車・カム・ベルトなどがその例である。

きかいろん【機械論】 メカニズムの訳。あらゆる自然現象は物質と運動，およびその法則だけで説明できるとする思想的立場。しばしば目的論と対立する。この法則が主として因果律とするならば，いっさいはもっぱら自然的・必然的な因果関係に従うと

いう主張になる。また自然現象，あるいはいっさいの中に生命・精神を含めれば，唯物論とほぼ同義になる。さらに物質界にのみ限定して意識・精神を除外すれば，二元論的立場となり，生命を除外すれば生物学的目的論と両立することになる。運動の第1原因としての神を想定し，純粋に世界は因果的必然性をもって展開するとすれば，有神論とすら矛盾するものではない。すなわち形而上学(けいじじょうがく)として徹底すれば唯物論に，方法の問題とすれば種々の立場と両立するものとなる。前者の例としては，古代のレウキッポス*・デモクリトス*・エピクロス*・ルクレチウス*ら原子論的唯物論者や，ラ・メトリ*・ドルバック*らのフランス唯物論者，またフォークト・ヘッケルらの19世紀のいわゆる俗流唯物論者が，後者の例としてはニュートン*・デカルト*・カント*らがいる。近代哲学史上，大きな影響力をもったが，19世紀後半以後，急速に衰えた。なお，生物学では生命論*の一つで，生気論に対立する。〔石井忠厚〕



気 化 器 気化器の構造

きがおんせん 【木賀温泉】 神奈川県足柄下郡箱根町にあり，泉温38～47℃，泉質は単純泉で，皮膚病・婦人病・神経病にきくといわれる。早川の渓流(けいりゅう)に臨む景勝地に位置し，付近に木賀峡谷・白鷺(しらさぎ)ノ滝などがある。交通は箱根登山鉄道強羅(ごうら)駅下車が便利。

きかがく 【幾何学】 物の形，大きさ，位置など，空間や図形の数理的性質を考察する数学の一部門。古代エジプトで，毎年定期的に氾濫(はんらん)するナイル川の洪水(こうずい)のあと，土地区画をいかにして復旧するかということから，図形について合理的に考えることが行なわれはじめた。英語のジェオメトリーが〈土地〉と〈測量〉の意をもつ語からできているのは，その発生の由来を示すものである。ギリシア時代までに得られた数学の知識を論理的な体系としてまとめたのがユークリッドの《ストイケイア*》(幾何学原論)である。ストイケイアでは，図形に関する部分が最も多いが，量の一般論や整数に関することも含まれており，ギリシア時代には，幾何学は数学全体を意味していた。

ヨーロッパでは，ルネサンス以後代数学が進歩し，17世紀以後になって解析学が発達したので，幾何学はこれらと対立する形になった。しかし，デカルトが強調したように，数と図形の間には密接な関係があり，座標を用いると，図形の問題を代数的計算で処理することができる。この方法によるのが解析幾何学*で，さらに微積分も利用するのが微分幾何学*である。

これに対し，ユークリッドのように，図形を直接考察する方法を総合幾何学または純粋幾何学といい，さらに投影法などと関連して射影幾何学*が生まれた。また，ユークリッドの平行線公理に対する批判的研究から，これを否定する立場の非ユークリッド幾何学*も確立された。

さらに，ユークリッドの公理系の吟味から，ヒルベルトは〈幾何学基礎論〉をたて，現代数学の公理的な方法の道を開いた。今世紀になって空間の構造を論ずる〈位相幾何学*〉が発達し，幾何学は数学全般と関連するようになった。〔小西勇雄〕

きかがくげんろん 【幾何学原論】 ⇨ストイケイア

きかがくてきもんよう 【幾何学的文様】 直線・円・渦(うず)・弧線などで構成された文様。直線を主体としたものに菱(ひし)・三角・縞(しま)・格子(こうし)などがあり，円を主体としたものは，単に線で円を描いたものや円内を塗りつぶしたもの，二重円・三重円など複雑なものもある。また，直線と弧線の合成になる直弧文とよばれる文様は古墳時代の文様として除外することはできない。

幾何学的文様のうちには，菱や三角のように現代にもその命脈を保っているものがある。その他の文様にしてもこれと同様，さまざまなバリエーションが現代に継続しているものもかなりある。直線を主体にした縦縞文や格子文などは，後世になって特に広く愛好されたもので，古田織部*(おりべ)などの陶器にも描かれているが，浮世絵の盛行以来その美人画の衣装に，縦縞が好まれ，ほとんどの作品に表現されている。

また，これらのもののほかに，建造物に用いられたものとして，古くは法隆寺の天井に格子が組まれているほか，江戸時代につくられた京都島原の角屋(すみや)には，この格子がさまざまにその姿を変え，実に有効に使用されていて，見る者の目を楽しませる変化に富んだ作例のあることも忘れてはなるまい。〔毛利 登〕

きかき 【気化器】 ガソリン機関*において，ガソリンを気化し，吸入空気と適正な混合比に混ぜてシリンダー*に導入する装置。吸気の通路にベンチュリーを設け，そこに生じた圧力差でフロート室の燃料を吸い出し，ノズルで霧化する。通常の運転では混合比がほぼ一定に保たれるが，自動車用機関において，アイドリングや全負荷運転，また加速などで濃い混合気を必要とするときはそれを補うための種々の補償装置がついている。〔斎藤 孟〕

きかきゅうすう 【幾何級数】 ⇨等比級数

きかく 【規格】 物の種類・構造・形状・寸法・成分・物理的性質・化学的性質・精度・性能・安全性・耐久性や，製造方法・管理方法・試験方法・包装方法・表示方法・使用方法などの各種方法のほか，これらと関係のある単位・用語・記号・符号など，物の生産・流通・使用にあたってくり返して問題となる技術的事項について，これらを統一・単純化(種類の減少)することを目的として，関係者が協議して定めたもの。一般に文章・図・表・見本など具体的な表現形式を用いて表わされている。

規格に類するものの歴史はきわめて古く紀元前にその起源をもつが，産業革命を契機として規格は格段に発達し，最近は科学技術の進歩の急速化につれ，産業活動・日常生活に欠かせないものとしてめまぐるしい発展をみせている。すなわち，国際的には国際標準化機構*(ISO，1947年設立。この前身のISAは1926年に発足)および国際電気標準会議(IEC，1908年設立)による〈国際規格〉をはじめとし，ヨーロッパでは〈地域規格〉，貿易・協力上特定の関係にある国

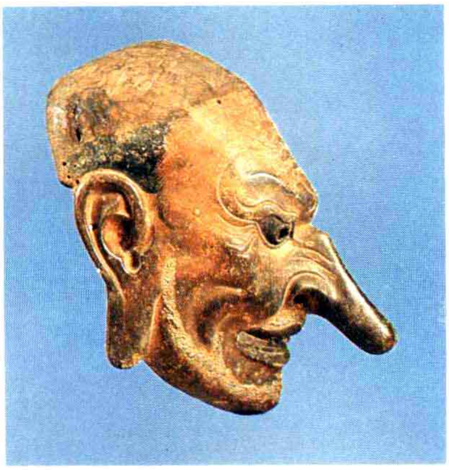
の間では〈協定規格〉を制定する仕事が活発に進められている。一つの国にとって最も重要な規格はそれぞれの国の〈国家規格〉であるが，欧米諸国・日本など工業先進国はもちろん，開発途上国も国家規格制定事業を意欲的に行なっている。この種事業で古いのは1901年に発足したイギリスのBSで，ドイツ(DIN)・アメリカ(ANS)・フランス(NF)などは第1次世界大戦中またはその直後から，日本は1921年(大正10)から開始している。現在使われているわが国の代表的な国家規格としては，日本工業規格(JIS)および日本農林規格(JAS)がある。

国際的・国家的な規格のほかに，学会・協会・業界団体が定める〈団体規格〉，会社・工場が経営の目的のために定める〈社内規格〉，官公庁が自己の調達する物品・サービスについて定める〈官公庁規格〉などがある。規格を定め，これを活用することを〈標準化〉という。標準化によって，国際的には貿易の拡大，相互援助・協力の円滑化がもたらされ，国内では量産化・専門化が可能になり，資材の有効利用，品質の安定・向上，コストの低下，納期の確保，取引の単純公正化，顧客に対するサービスの向上，使用・消費の合理化，互換性の確保などが達成される。また，人命・財産の保護，災害復旧の迅速化，コミュニケーションの改善もこれによって実現される。〔東　秀彦〕

きかく　【其角】　(1661～1707)　江戸前期の俳人。宝井氏。別号は螺舎(らしゃ)など。14～15歳から芭蕉(ばしょう)に師事，1680年(延宝8)俳諧集(はいかいしゅう)《次韻》に加わり，1683年(天和3)《虚栗(みなしぐり)》を編して蕉風確立に貢献した。さらに《続虚栗》を刊行し，江戸蕉門の中心人物となる。以後も《猿蓑(さるみの)》の序を書き，師の臨終に侍して追悼集《枯尾花》を編纂(へんさん)するなど，蕉門随一の高弟として活躍。その作風は〈伊達(だて)を好んで細し〉と師に評され，都会的に洗練された華麗さを特色とし，のちの江戸座の洒落(しゃれ)ふうへの道を開いた。句集に《五元集》がある。〔奥野純一〕

きがく　【器楽】　楽器で奏される音楽の総称。声楽に対立する。西洋では，古代からルネサンスにかけては声楽が優位であり，器楽らしい音楽語法や楽器の奏法が少なかった。器楽と声楽がそれぞれ固有の表現法を確立したのは，17世紀から18世紀のバロック時代である。また器楽は独奏と合奏とに分類され，現代までにそれぞれの分野でソナタ・協奏曲・交響曲などの特徴的な形式が使われてきた。日本では，一般的に声楽が優位にたっているが，雅楽や箏曲(そうきょく)の段物や尺八曲など，純粋な器楽もある。〔徳丸吉彦〕

ぎかく　【擬革】　人工的につくられた皮革の類似品。レザー・人工皮革ともいう。皮革の多彩な諸性質をすべて兼ね備えたものを人工的につくりだすことはきわめて困難で，選択された2～3の特性を再現させるにとどまる。従来からの擬革は外見の再現を第1にねらい，それにある程度の機械的物性を備えさせたものである。その用途は，かばん・ハンドバッグなどの袋ものまたはいす張り程度に限定されてしまう。原素材は布で，これに古くはニトロセルロースを，最近ではポリ塩化ビニルを塗布し，天然皮革類似の模様つけをしたもので，塩化ビニル系のものは特にビニルレザーの名で親しまれている。1960年(昭和35)ごろからわが国でつくられはじめたスポンジレザーは，ポリ塩化ビニルを布上に塗布・発泡(はっぽう)させ，その上をナイロンまたはポリウレタン塗料でコートしたもので，外見・感触は天然皮革によく似ているが，透湿性がないので，これも擬革の域を出ない。なお，皮革の特性である吸湿性・透湿性をもつものは，合成皮革として区別する。〔伊藤　卓〕



伎　楽　面　治道(法隆寺献納宝物)　東京国立博物館蔵

ぎがく　【伎楽】　612年(推古20)，百済(くだら)の味摩之(みまし)がもたらした中国の楽舞で，野外で行なう仮面の黙劇。聖徳(しょうとく)太子は，これを仏教音楽として大いに奨励したので，特に寺院に普及したが，奈良・平安時代を経て鎌倉時代には衰えはじめ，江戸時代にはほとんど滅びた。しかし，それは単に滅びたとみるべきでなく，その後に輸入された雅楽や散楽やさらには各種の民族芸能の中に吸収されたとみるべきであろう。伎楽は，本来的には仏の徳をたたえ，その教義を民衆の耳目口からわかりやすく訴えようとするねらいをもつものであったことから，娯楽的要素を多分にもつものであった。伴奏楽器としては笛・鼓・鉦(かね)・銅鈸子(どびょうし)などを用いた。

きかくいん　【企画院】　1937年(昭和12)から1943年まで，戦争体制の総合国策の企画と推進にあたった内閣直属の官庁。日中戦争勃発(ぼっぱつ)のとき，第1次近衛文麿(このえふみまろ)内閣が，経済統制のため設けた企画庁を廃し，内閣資源局と合併して設置した。総合国力の拡充運用の企画，国家総動員計画の設定および遂行のための各省庁事務の調整・統一を行ない，戦時経済の確立に大きな役割を果たした。1943年廃止され，所管事務は軍需省に移った。〔千野境子〕

きかくいんじけん　【企画院事件】　1941年(昭和16)3月，企画院の調査官和田博雄(ひろお)・勝間田清一・稲葉秀三(しゅうぞう)ら進歩的革新官僚グループが治安維持法違反の容疑で検挙された事件。前年11月，当時戦時経済の企画・遂行の任にあたっていた企画院は，高度国防国家建設をめざす〈経済新体制確立要綱〉を経済閣僚懇談会に提出したが，これは官僚統制を基調としているために，国家社会主義であるとするデマに不安を感じた財界は，小林一三商相を先頭にして資本家の自主統制を主張した。このため和田らは〈赤〉の背後関係容疑で検挙された。第2次世界大戦後無罪となる。〔千野境子〕

ぎがくめん　【伎楽面】　伎楽に用いた面。仏教の隆盛に伴って7世紀から8世紀にかけて盛んに製作され，752年(天平勝宝4)東大寺大仏の開眼(かいげん)供養の際に用いられた面が，東大寺(33面)，正倉院(南倉164面)にのこされているのをはじめ，法隆寺伝来のものが東京国立博物館に所蔵され，その他春日(かすが)大社・法隆寺・神龍(じんりゅう)寺，それに民間にも若干が現存している。伎楽面は普通の仮面に比べると大きく，材料はクスノキ・キリあるいは乾漆(→乾漆像)によってつくられ，すっぽりと顔にはめて，頭の背面は布でかくして用いた。寺の祭事のときなどにつけて，簡単なこっけいなしぐさをして人を笑わせたものらしく，力士や美女や童子をはじめ，西方の異民族をかたどった隆鼻の面が多い。治道(ちどう)・師子(しし)・師子児(ししこ)・呉公(ごこう)・金剛・迦楼羅(かるら)・崑崙(こんろん)・呉女(ごじょ)・力士・波羅門(ばらもん)・太孤父(たいこふ)・太孤児・酔胡王(すいこおう)・酔胡従の14種が知られている。〔永井信一〕

きかげき　【喜歌劇】　⇨オペレッタ

きかこうがく　【幾何光学】　光が波動であることを無視して，光線の集合と考え，媒質内を伝わるありさまを幾何学的に論ずる光学の一分野。その場合，一様な媒質内での光の直進性と二つの媒質の境界面を光が通るときの反射・屈折の法則を基本原理とする。不均一媒質内での光の進行を論ずる場合は少ない。幾何光学は，光の波長が無限に小さい極限になりたつもので，従来の光学器械の設計はもっぱらこれに基づいていたが，最近は伝達関数を用いる方法も併用される。〔吉原邦夫〕

きがし　【飢餓死】　飢え死に・餓死ともいう。生命維持に必要な栄養素(水も含む)を十分に補給されないためにひき起こされた病的状態を飢餓といい，その結果エネルギー源を消耗して死ぬことを飢餓死という。食物を摂取せずにいると体内の代謝様式が

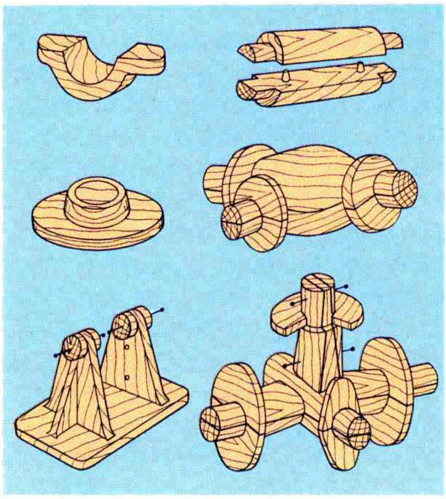
変化し，胃部に投射されて食欲を感ずる。食欲は飢餓の第1段階であり快の感情と結びつくが，飢餓となると不快感を伴い，食べようと思う対象に対する選択性がなくなる。この感覚は身体の欲求を表現するシグナルであり，欲求を満足させるような行動をとらせる働きがある。つまり，食欲・空腹感・摂食行動の三つの要素よりなる。また，飢餓は慢性飢餓と急性飢餓とに分けられ，慢性飢餓は栄養失調と同義に用いられ，むくみ(飢餓浮腫(ふしゅ))のみられることが多い。飢餓による栄養障害のため，組織や臓器の細胞が萎縮(いしゅく)するのを飢餓萎縮といい，脂肪組織や筋に早く強く出現する。水分をとらない場合の生存期間は成人で約1～2週間といわれているが，年齢が若いほど，すなわち新陳代謝が旺盛(おうせい)なほど死亡期は早い。飢餓死の死体所見としては，全身の高度のやせ，眼窩(がんか)部陥凹(かんおう)，皮膚の弛緩(しかん)・乾燥，腹部の高度陥凹，皮下脂肪・筋肉の萎縮，諸内臓の萎縮，重量減少などが認められる。〔朝倉　了〕

きかじん【帰化人】 他国に国籍*を移し，その国民となった者。日本史の上では，ふつう，古代に大陸から渡来永住した外国人，およびその子孫をいう。4～5世紀から8世紀にかけて中国，百済*(くだら)・任那*(みまな)・新羅*(しらぎ)・高句麗*(こうくり)などから，大別して3期にわたり渡来し，日本社会全般に多大の貢献をした。第1期は北鮮の楽浪郡滅亡後(→楽浪文化)，朝鮮の動乱を受けて4世紀ごろ来朝した帰化人で，漢・魏(ぎ)系の文化を将来した。第2期は5～6世紀のころわが大陸文化摂取の要望に応じて来朝した帰化人で，学問・技芸など六朝*(りくちょう)文化を伝来した。第3期は6世紀，百済・高句麗の滅亡により亡命・帰化した。朝廷は彼らを各地に配置して生活させ，氏族集団を形成する者も多かった。代表的な氏族として，文筆関係では西文(かわちのあや)氏，坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)を代表とする軍事面での東漢(やまとのあや)氏*，仏教関係の司馬達等*(しばたっと)一族，産業経済面の秦(はた)氏*，その他高麗(こま)氏*・百済王氏などがある。《新撰姓氏録*(しんせんしょうじろく)》によれば9世紀初頭，畿内(きない)在住1,059氏のうち324の帰化人系氏族のことが記されている。〔北条秀樹〕

ギガス［Gigas］ ギリシア神話で巨体と巨力をもってオリンポスの神々に挑戦(ちょうせん)した巨人族。ウラノスとガイアから生まれたとする説と，エウリュメドンを王とする人間の一族とする説とがある。ゼウスを中心とする神々は，人間が荷担した側が勝利するという予言に従ってヘラクレス*を味方にしたので，ギガスに勝つことができた。この戦いを〈ギガントマキア〉という。

きかすうれつ【幾何数列】 ⇨等比数列

きガスるいげんそ【希ガス類元素】 稀有(けう)気体ともいう。周期律表上の0族元素で，ヘリウム・ネオン・アルゴン・クリプトン・キセノン・ラドンがこれに属する。いずれも化学的に不活性，安定な気体である。これは電子が最も安定な状態に配列しているためである。どの気体も無色・無臭で沸点は低い。空気中に含まれる量は重量パーセントで，それぞれヘリウム7×10^{-5}，ネオン1.2×10^{-3}，アルゴン1.286，クリプトン3×10^{-4}，キセノン4×10^{-5}，ラドンは超微量。〔古屋　弘〕



木　型

きかせいぶつ【帰化生物】 なんらかの方法で人間が仲介することによって，生物が本来の自生地から他の地域へ移動を行ない，そこで繁殖し，すみつく現象が知られている。この現象を帰化といい，帰化した動物を帰化動物，植物を帰化植物という。その生物種が新しい地域で繁殖し生存するためには，移動した地域の環境が適当か，耐えうるもの(より強い競争種がいないことも含まれる)でなければならない。人間が意図せずに輸送や付着によって運び込む場合が多い。また，食用・毛皮採取・観賞や天敵作用の利用などを目的として運び入れてすみつかせる場合や，飼育中に逃げ出したりすることで帰化する場合もある。したがって帰化地では，人間の生活にとって有用な場合もあれば有害な場合もあり，有害な生物を帰化させないために防疫活動が行なわれている。

ナズナ*・スズメノカタビラはムギの，フジバカマ*・ヒガンバナ*はタケやサトイモのわが国への移入に付随して帰化した。また，ハルジョオン*は移入栽培中に野外へ逃げたものである。このほかヤブカンゾウ*・ヒメジョオン*・メヒシバ*・アゼトウガラシ・ハキダメギク*・ブタクサ*などが知られている。わが国の都市周辺の荒地や道端の植物は，多くがヨーロッパ・中国・北アメリカからの帰化植物である。動物ではアメリカザリガニ*・ウシガエル*・ブラックバス*などが食用，ヌートリア*は毛皮採取，タップミンノー*はカの駆除のため移入され，野外へ逃げたものである。樹木の害虫として知られるアメリカシロヒトリ*は第2次世界大戦後在日米軍基地からはいった。このほか，アフリカマイマイ*・シルベストリコバチ・ティラピア・ブルーギル・ソウギョ*・マスクラットなどがある。〔船越真樹〕

きがた【木型】 鋳造で鋳型をつくるときの原型となる木製の模型。必ずしもつくろうとする鋳物と同一の形状とは限らず，板状をしていて，これで砂をかいて鋳型をつくるものを〈かき型〉または〈ひき型〉といい，鋳物と同じ形状のものを〈現型〉という。現型は，鋳型がつくりやすいように，二つ割りあるいはそれ以上に分割できるようになっている場合が多い。

きがつう【飢餓痛】 食後数時間たって現われるけいれん性の上腹部痛。夜間疼痛(とうつう)はこれに属するものである。胃の幽門部あるいは十二指腸潰瘍(かいよう)は，このような痛みを示す傾向が多い。これらの疼痛は少量の食物や液体摂取によって寛解する。

きかへいきん【幾何平均】 n個の数の積のn乗根を，これらの数の幾何平均，または相乗平均という。幾何平均は，正の数について用いられ，$x_1, x_2, \cdots\cdots, x_n$の幾何平均は，$x_1 \cdot x_2 \cdots\cdots x_n = g^n$となる正の数$g$である。算術平均*$m$と比べると$m \geqq g$である。また，幾何平均の対数は各数の対数の算術平均に等しい。幾何平均は，毎年の物価の上昇率など，積に具体的な意味のある数量について利用される。

キガリ［Kigali］ アフリカ大陸東部，ルワンダ共和国の首都。人口3万(1975)。コンゴ盆地の東縁にある小都市で，赤道直下に近いが，3,000mの高地に位置しているので涼しい。かつてベルギーの信託統治領であった当時も首都であり，統治機関が置かれていた。現在は身長2mに近い巨人族である原住民ワッシ族の中心都市になっている。付近ではスズ・金を産し，コーヒー園が開かれている。

きかん【季漢】 ⇨蜀(しょく)[1]

きかん【旗艦】 海軍で指揮官が座乗する艦。艦隊・戦隊(→艦隊)を指揮する少将以上の提督が，将旗をマストに掲げて指揮権の所在を明らかにするところからこの名がある。

きかん【気管】

[1]節足動物のこん虫類・クモ類・多足類にみられる呼吸器官で，中でもこん虫類にその発達が著しい。表皮が細い管となって体中に陥入したもので，分岐して気管枝・気管小枝となって体内の組織や器官に分布する。多くのものでは樹枝状に，カギムシでは総状に分岐する。体表にある入り口を気門(気孔)といい，体の運動によってここから空気が出入りする。表皮と同様な構造でキチン質の層があり，比較的太い枝の部分には，らせん状の隆起が加わってじょうぶになっている。よく飛行するこん虫の気

管は，その幹部がふくれて気管嚢(きかんのう)となっている。水生こん虫では気門がなく，一種のえらになっているものもある。

[2]空気呼吸を行なう脊椎(せきつい)動物の呼吸器官の一部。咽頭*(いんとう)から肺に至る気道の主要部であり，その前端が喉頭(こうとう)となる。肺と同じく咽頭腹壁がふくれてできたものである。動物の種類によって頸部(けいぶ)の長さや肺の位置に違いがあり，それによって気管の長さも異なる。

ヒトの気管は長さ10cmほどの細長い管で，下端は心臓の後ろで分岐して左右の気管支*となる。15～20個の馬蹄(ばてい)形の軟骨がわく組みをなし，繊維性の膜がこれをつないでいる。後壁は軟骨を欠くので膜のみからなる。内面は繊毛をもつ上皮細胞におおわれ，その中に多くの杯細胞が混じっており，粘液を分泌する。気管にはいってきた空気中の塵埃(じんあい)が気管の内面につくと，繊毛運動によって気管の上方に送られて粘液とともに排出される。これが痰(たん)である。　〔蒲原春一・幡井勉〕

きかん【器官】 いくつかの組織が集まってある特定の機能を営み，形態的にも独立性をもつものをいう。動物では共通の機能のためにいくつかの器官が集まって器官系*をなすものが多い。単細胞生物では1個の細胞の部分が分化して一定の機能を営むので，細胞器官とか類器官といっている。器官はある範囲内では独立的機能があり，分離して体外に取り出しても本来の働きを行なうことができる。しかし，器官の正常の働きは他の器官の機能と密接な関連のもとにあり，生活現象は器官の働きの総和であるということができる。　〔蒲原春一〕

きがん【祈願】 神仏の霊験・恩寵(おんちょう)を求めるために願いをこめ祈ること。心に祈念しつつ神仏に手を合わせる簡単な形のものから，金品の力によって積極的に一定の目的を貫こうとするものまで，その形式や内容はさまざまであるが，いずれにしても現世的願望・欲望の充足や死後の平安を神仏に祈る行為である。宗教家や為政者が国家国民の安泰，五穀の豊饒(ほうじょう)を祈るなどは，最も大きな祈願行為であり，個人が一身上の悩みの解消を願うなどは最も小さい祈願目的である。願かけ・神参りなどの語も，ふつう祈願と同義に使われるが，これらは祈願よりもやや切実で積極的なもの，特に個人的な祈願を意味することが多い。

近代社会では個人の幸・不幸が直ちに血縁・地縁の集団全体に影響することが少なくなり，さらに各個人が所属する共同社会における相互の扶助・協力も期待しにくくなったために，前代の社会に多かった共同の祈願形式が少なくなった。ことに消費生活を基本とする都市社会では，個人の祈願形式が増大している。共同祈願は，血縁・同族または地縁共同体としての村，あるいは組*・講*などの構成員が，その共通の目的を達するために，全体の意志で，こぞって祈願に参加するものである。ただし，ある特定の者の祈願に他の構成員が合力する場合もあり，また代表者をもって祈願させることも少なくない。社寺を中心とする春秋または夏季の祭りなど一種の現象とみられるが，普通は共同祈願には含まれない。共同祈願の多くは生産生活に結びつく。山林業・狩猟などの除災招福のための山の祈願としては，山神祭・鉄砲祭などがあり，漁村の豊漁祈願としては，浜祭・浦祭・龍神(りゅうじん)祭・瀬祭・船霊(ふなだま)祭，あるいは不漁を豊漁に変えるための〈まんなおし〉などがある。また，農耕社会には御田植(おたう)え祭*・井堰(いせき)祭・雨乞(あまご)い・雨喜び・照乞い・風祭・稲祈禱(いねきとう)，あるいは病虫害を除去するための虫送りなどの農祈願がある。なお，村に重病・危篤の者が出たときなどに，村民がこぞって病気平癒(へいゆ)を祈願するもの，さらに伝染病・火難，ネズミやヘビの害などを除くために行なわれるものは，村祈願とよばれる。これに対して，一家・一族のために家族・身内が参加して屋敷氏神などを祭る屋敷祭・氏殿祭・家祈禱などは家祈願に分類される。また主として講組織が行なう共同祈願としては，山神講をはじめ，日待ち・月待ち・庚申講(こうしんこう)・職人講・伊勢講(いせこう)・富士講・念仏講などをあげることができる。共同祈願の形式には百度参り・千人垢離(こり)・千社詣*(せんじゃもうで)など，合力・反覆・累積の方式をとるものが多く，個人の単独祈願に比べて，より強力な霊験が期待されている。

個人祈願は，個人が単独に念願するものであるが，必ずしも立願する当人が行なうとは限らず，宗教家などが代理して祈願する方式や，近親者が自発的に代行する場合も少なくない。個人祈願の目的は，五体満足・家内安全・商売繁盛など幅広いものから，治病，魔除け，子授け，安産，愛児の成長，交通安全，競技の必勝，入学試験の合格，学業の向上，就職，出世栄達，富貴，縁結び，縁切りなどの特定なものまで多種多様であり，祈願の対象となる各機能神の類もまた千差万別である。変わったものでは，深夜ひそかに相手に擬した名札やわら人形に針やくぎをさすのろい，丑(うし)の刻参りなどもある。信仰のない者がそのときだけの現世的利益を念願する〈苦しいときの神頼み〉は，祈願があくまでも信仰を基礎としている以上は邪道であって，真の加護霊験や奇跡は期待できない。個人祈願でも，共同祈願同様に，水垢離，百度参り，一定期間の日参，千社札の納札祈願のような累積・反覆方式が行なわれる。祈願の手段は参拝・参籠(さんろう)・奉納・みそぎ・はらえ・対抗・強請などに分類されている。自虐方式とは自分の髪を切ったり，断ち物をしたりするもので，たとえば，酒・たばこ・茶・塩・女色などを立願と同時に一定期間断って願いの切実なことを示すのが断ち物である。

祈願の対象は神仏に限らず，霊験ありと信じられている霊石・神樹・塚(つか)などさまざまであるが，あまりに即物的な物は俗信・迷信の類に含まれる。また，年頭に行なわれる豊作祈願の各種の祝行事の庭田植えや成木責*(なりきせ)めなどはむしろ呪術(じゅじゅつ)的祈願法ともみられる。強請・脅迫方式に類する祈願としては縛られ地蔵などが知られている。祈願にあたっては，賽銭(さいせん)・供物などを神仏に奉納することが多い。供物にも種類が多いが，神社の絵馬*などはその代表的な例である。

祈願の目的が達成されたときは願もどしを行なう。これは，その立願・誓約の撤回・解除・取り消しなどの作法であり，御礼参りや臨時の祭りはその代表的なものである。さらにおはたし・願果たしは断ち物などの制限からの解放を意味し，願もどしの一種とみられる。　〔今野圓助〕

ぎがん【義眼】 眼球があるように見せる人工眼球。先天的，あるいは病気や手術の結果，眼球がないか，または非常に小さくなっている場合に挿入(そうにゅう)する。通常起きているときだけに着用し，寝るときにははずす。従来はガラス製であったが，現在はプラスチック製で，表面に目の模様が巧みに描かれているものが使われているが，動かすことはできない。可動性義眼は，磁性をおびた鉄のわくに眼球を動かす眼筋を縫いつけておき，その上から鉄片のはいった義眼を入れるものである。義眼は取りはずしができるが，眼筋を縫いつけたわくは眼窩(がんか)内に埋没している。コンタクト義眼は，眼球表面(主として角膜)が白く濁って外見上見苦しい場合に挿入する。大きさはコンタクトレンズと同じくらいで，表面に角膜の像が描いてある。しかし，いずれも視力は補えない。　〔氏原　弘〕

きかんえら【気管鰓】 水生こん虫のもつ呼吸器官の一種で，幼虫やさなぎ，まれには成虫にもみられる。表皮が突出して葉状・嚢状(のうじょう)・糸状となり，その内部に気管小枝が分布していて，その末端から表皮を通して水中の酸素を取り込むようになっている。

きかんく【機関区】 鉄道の現業機関の一つ。機関車・電車および気動車の運転・検査を行なう。機関区は機関車および同乗務員を能率よく運用するため，列車運転の始点・終点その他主要駅操車場の構内に置かれている。給炭・給水・給油・検修などのための設備がある。なお，国鉄の機関区は148(1968年8月現在)ある。

きかんけい【器官系】 共通の機能のために協同して働き，形態の点からも一つの系統をもつような器官の集まりをいう。多細胞動物の多くに共通して存在する器官系には，神経系・感覚系・運動系・骨格系・

消化系・呼吸系・循環系・排出系・生殖系などがある。なお，これらの器官のうち，神経系・感覚系・運動系に属するものを動物性器官といい，栄養系・排出系・生殖系に関する器官を植物性器官とよぶことがある。これは，それぞれ動物界に特に発達しているもの，動植物界に広く認められる機能をもつものということからつけられた名称である。〔蒲原春一〕

きかんさんぎょう【基幹産業】一国の経済の基礎を築く産業をいう。鉄鋼業，電力・石油などのエネルギー産業，工作機械・自動車・電気機械器具など諸種の機械工業，石油化学などの主要な化学工業，さらには鉄道や海運業などを含めていう。資本主義体制の中でも一国経済の効率化の観点から，その国有化が問題となっている。

きかんし【機関士】現業機関である機関区で蒸気機関車に乗務し，直接列車の運転に従事する職員。なお，機関士は，機関助士を経験してのち，専門の養成を受けた者のうちから採用され，労働基準法に定める汽罐士(きかんし)の免許を必要とする。

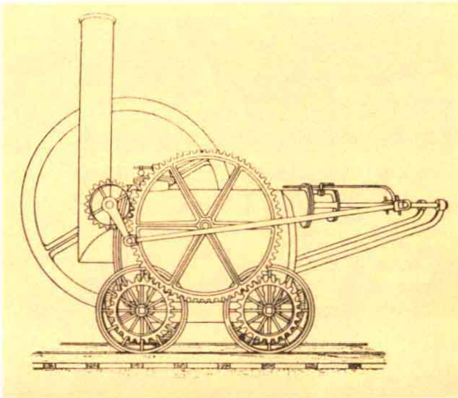
きかんし【気管支】空気呼吸をする脊椎(せきつい)動物では，気管の末端部が2分して両肺に至る。この分岐部と肺の間を結ぶ管をいう。

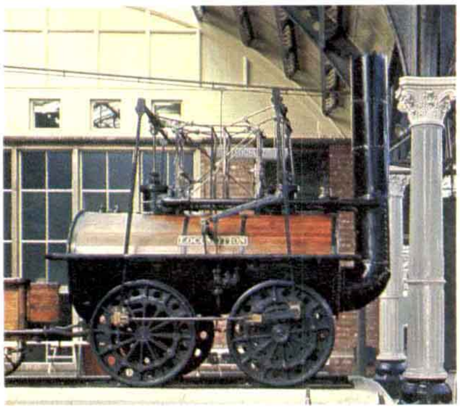
両生類などのように，単なる囊状(のうじょう)の肺を有するものでは，気管支は気管と肺の連結部であるにすぎない。鳥類では他の脊椎動物と異なり，喉頭(こうとう)には発声器がなく，気管の分岐部に発声装置がある。これを鳴管または下喉頭という。最も普通の型は気管(気管支鳴管)で，気管末端の数個の気管軟骨が合一して鼓室という共鳴装置となり，ここに鼓膜とよぶ薄い膜状のひだを形成し，気管支から気管へ出る呼気が強く鼓膜に触れるとき，この膜の振動によって発声する。

ヒトの気管支は気管の下端が左右に分かれ左右の主気管支として始まる。肺門を通るとさらに分岐して葉気管支となる。右の気管支は左のものよりも太く短い。また鉛直線をなす角は左のものより右のほうが小さい。すなわち傾斜が強いため気管に物がはいると右の気管支にはいりやすい。構造は気管の場合と同様に数個の馬蹄(ばてい)形の軟骨をわく組みとし繊維性の膜がこれをつないでいる。内面は繊毛をもつ上皮細胞でおおわれ繊毛運動により気管にはいったちりを除く。各葉にはいった葉気管支は区気管支に，さらに細くなって細気管支となり肺胞(→肺)に続く。細気管支には軟骨はなく，筋肉や弾性繊維が主体となる。肺そのものはブドウのふさのようなもので実の部分が肺胞，枝の部分が気管支や細気管支にあたる。したがって気管から肺胞までの部分を総称して気管支樹という。

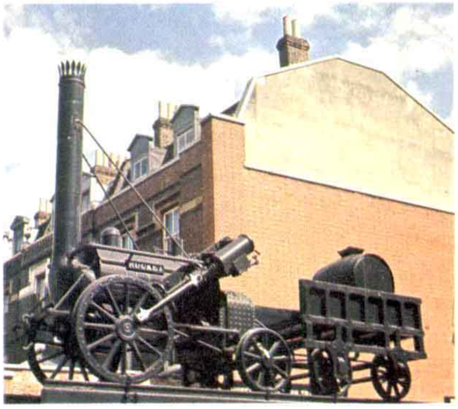
〔蟠井勉・橋本長〕

きかんしいぶつしょう【気管支異物症】





機関車



(上左)トレビシックが製作した蒸気機関車(1804)。レール上を走った世界最初のもの
(上右)スチーブンソンのつくった〈ロコモーション号〉。世界最初に営業用機関車としてストックトン～ダーリントン間を走った(1825)
(下右)スチーブンソンが1829年に製作した〈ロケット号〉。リバプール～マンチェスター鉄道に採用され，両市の間を平均時速22.5kmで走った。その後の蒸気機関車の基礎となったもの

気管支に通常存在しない固型物がはいったときにひき起こされる状態。異物は食物片・玩具(がんぐ)・吐物などで，ピーナツ・豆・針・くぎ・鉛筆キャップ・魚骨などの場合が多く，また，右気管支にはいることが多い。異物がはいる動機は一瞬の強い吸気によるもので，せき，爆笑，号泣，驚いたはずみ，ころんだときなどに反射的に吸引する。吸引直後から激しいせきの発作や呼吸困難をきたしてむせる。ふつう，異物は気管支鏡を挿入(そうにゅう)して鉗子(かんし)類で摘出する。応急処置は適切なものがなく，背中をたたいたりすることによってかえって悪い結果を招くことがある。生命に危険を伴う場合が多く，直ちに耳鼻科専門医に連れて行くことがたいせつで，時間を遅らせてはならない。〔石井哲夫〕

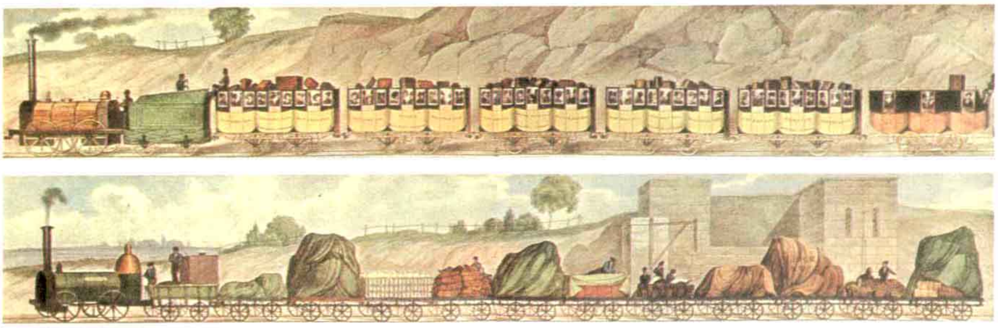
きかんしえん【気管支炎】気管支に起こる炎症の総称。急性気管支炎と慢性気管支炎に大別できるが，気管炎や細気管支炎をも含むことがある。原因は種々あるが，急性のものは感冒によることが最も多く，各種ウイルス・細菌・真菌類によっても起こる。そのほか，たばこ・スモッグ・塵埃(じんあい)やアンモニアなどの揮発性物質による物理的・化学的刺激によっても起こる。慢性のものは物理的・化学的原因の慢性刺激によるものと，急性炎症の反復後あるいは慢性の肺疾患の持続症状として起こる場合がある。急性のおもな症状は咽頭痛(いんとうつう)・鼻しる排出・発熱・せき・たんなどである。治療は安静・保温をもとに化学療法などの薬剤治療，刺激の除去などが考えられるが，通常限局性疾患であり，完全治癒(ちゆ)も可能である。慢性では，せき・たんが中心の症状で，これが，年に3か月以上続き，2年以上くり返すことが一つのめやすとなる。治療は薬剤治療・体位変換によるたんの排除，刺激の除去，環境変更などによるが，一般に難治である。老人・小児・重症衰弱患者では，肺炎に移行しやすいので注意を要する。〔森成　元〕

きかんしがん【気管支癌】気管支粘膜にできる癌で，肺の原発性腫瘍(しゅよう)の大部分を占める。→肺癌

きかんしきょう【気管支鏡】気管・気管支の病変を直接観察したり，試験切片の採取や異物の除去のために気管内へ挿入(そうにゅう)する金属の管。長さ・太さに種々の組み合わせがある。管の先端に照明ランプがついており，組織片採取には鉗子(かんし)を用いる。気管支鏡を用いるとき，原則として局部麻酔を行なうが，全身麻酔を行なうこともある。

きかんしゃ【機関車】原動機をもち，客車や貨車などを牽引(けんいん)する鉄道車両で，それ自体に旅客や貨物を乗せる設備はない。

【歴史】蒸気を車両用動力としてはじめて使用したのはフランスのクノーで，1769年荷車にボイラーを載せて道路上を運転したと記録されている。1804年，これを応用してイギリスのトレビシックが蒸気機関車をつくり，レール上を走らせた。これが機関車のはじめとされている。本格的な蒸気機関車は，1814年イギリスのG.スチーブンソ



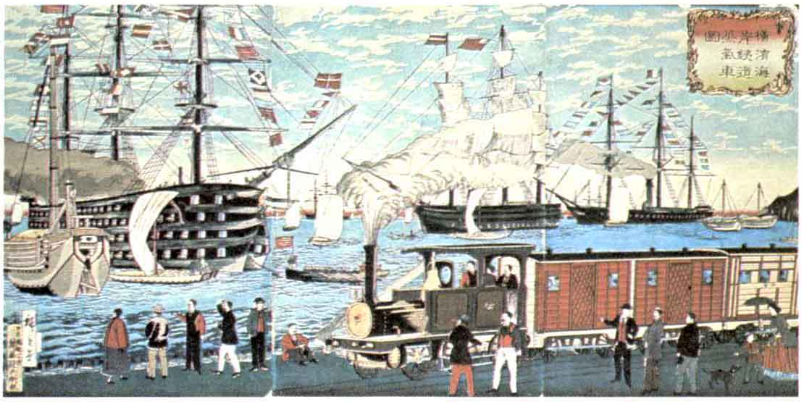
①



②



③



④

機　関　車

①1831年ごろのリバプール～マンチェスター鉄道。(上) 1 等客車　(下)貨物車　②1872年，新橋～横浜間に鉄道が開通したときに走った〈第１号機関車〉。イギリスから輸入されたもので，この両駅間を約53分で走った　③ジーメンスが製作した最初の電気機関車。ベルリン博覧会(1879)で公開されたが，300mの円形軌道を時速約12kmで走った　④横浜の海辺を走る蒸気機関車。鉄道開通当時を伝える錦絵

ン*のつくったロコモーション号機関車で，1825年ストックトン～ダーリントン間の世界最初の鉄道で営業用列車を牽引した。続いて1829年に，スチーブンソンはロケット号を完成したが，その構造には煙管式のボイラー，燃焼を助けるためのブラスト装置，左右式シリンダーなどが採用されており，現在の蒸気機関車の基礎となった。電気機関車*は，1879年にドイツのW. ジーメンス*がベルリン博覧会で直流125Ｖの機関車を運転したのが最初である。また，ディーゼル機関車*は，1908年にドイツで製作されたが，本格的に実用化されたのは1935年ドイツのクラウス社で製作された液体式機関車である。その後，大出力ディーゼル機関車用の電気式動力伝達装置が開発されるに伴い，主としてアメリカで電気式大形ディーゼル機関車が発達した。第２次世界大戦後，高速エンジン，高効率の液体変速機も開発実用化され，現在は電気式・液体式が競って使用されている。

わが国では，江戸末期に，渡来したもの，およびそれを参考にしてつくった模型の蒸気機関車を走らせた記録が残っているが，まがりなりにも人を乗せて走ったのは，ペリーが２度めの来日のとき，アメリカ合衆国大統領から江戸幕府へ献上した蒸気車である。これはかなり小形のもので，人ひと

機関車の形式を表わす数字

蒸気機関車	タンク機関車	10～49
	テンダ機関車	50～99
電気機関車	最大速度85km/時以下のもの	10～29　(直流) 30～49　(交流および交直流)
	最大速度85km/時を越えるもの	50～69　(直流) 70～89　(交流および交直流)
	試作のもの	90～99
ディーゼル機関車	最大速度85km/時以下のもの	10～49
	最大速度85km/時を越えるもの	50～89
	試作のもの	90～99

機関車の車種別両数　(国鉄　1969年７月末現在)

車種		両数	代表的形式
蒸気機関車	タンク	275	C 11　C 12
	テンダ	1878	8620　C 58　960　D 51
電気機関車*	直流	1087	EF 15　EF 58　EF 60
	交流	472	ED 71　ED 75　EF 70
	交直流	102	EF 30　EF 80
ディーゼル機関車		1107	DD 51　DF 50　DD 13　DD 15　DE 10

りがまたがって走ったという。本格的な蒸気機関車の歴史は，1872年(明治５)鉄道が開通したときに始まる。明治時代はほとんどが輸入機関車で，国産車としては1893年にイギリス人の指導で製作された860形式が最初である。電気機関車は，1912年信越線のアプト区間の輸送力増強とトンネル内の煤煙を防ぐため，ドイツ製の10000形式(のちのEC40形式)がはじめて使用された。ディーゼル機関車は第１次世界大戦の賠償として1929～1930年(昭和４～５)にドイツから輸入されたのが最初で，本格的に使用されるようになったのはごく最近である。第２次世界大戦後は，動力近代化が進められ，電化・ディーゼル化によって蒸気機関車はしだいに姿を消しつつある。なお，最近のわが国の鉄道では，旅客列車は機関車によらない動力分散方式列車(電車・ディーゼル動車)を原則とするようになり，機関車は主として貨物列車専用となりつつある。〔肥沼恵一〕

【機関車の種類】動力の違いによって，蒸気機関車・電気機関車・ディーゼル機関車に分けられ，用途別には，速度の大きい旅客列車用機関車，牽引力の大きい貨物列車用機関車，入れ替えや支線区用の小形機関車などに分けられる。

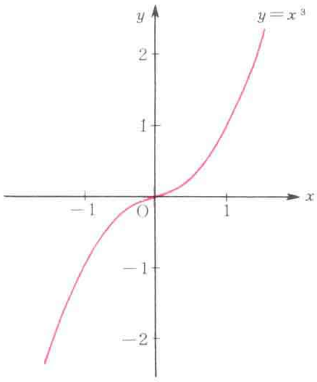
【機関車の形式】機関車の形式には，電気機関車にも直流専用・交流専用および交直両用というようないくつかの種類がある。それらは，次のような記号と３けた以上の数字によって表わされる。〈機関車の形式記号〉機関車の動輪軸の数に従って３軸ならＣ，６軸ならＦなどの記号で表わし，電気機関車は，この記号の前にさらにＥの記号をつけ，ディーゼル機関車にはＤの記号をつける。〈機関車の形式の数字〉動輪軸の数を表わす記号の次に，別表のような２けたの数字をつけて機関車の形式を示す。〈機関車の番号〉記号および上位から第１，第２の数字は形式を表わすが，第３以下の数字は製作番号を示す。たとえば，〈C11 22〉は，動輪３軸(Ｃ)のタンク機関車(11)，すなわち，C11形式で22両めに製作されたもの。〈ＥＦ5801〉は，動輪６軸の直流電気機関車(ＥＦ)で，最大速度85km/時を越える(58)もの，すなわち，ＥＦ58形式の最初に製作されたものという意味である。

【機関車の現況】国鉄には，1969年(昭和44)７月末で4,921両の機関車が活躍している。このうち約44％の2,153両は蒸気機関車であるが，最も両数の多かった1946年末の5,958両に比べ半分以下に減り，1950年以降まったく製造されていない。電気機関車・ディーゼル機関車がそれに代わって製造され，電気機関車は1,661両，ディーゼルは1,107両となっている。私鉄は電車が主で，合わせても約600両ほどだが，ほかに専用鉄道などで使用されているものが約500両ある。なお，国鉄の機関車の車種別両数とおもな形式は前ページの表のとおりである。〔宍塚正幸〕





機関銃　(左)62式7.62mm機関銃。空冷式で軽い。現在陸上自衛隊で採用されている。国産品 (右)第１次世界大戦中に使われたマキシム機関銃。当時の代表的機関銃の一つ。水冷式



奇関数の例

奇関数

きかんじゅう　【機関銃】　高速で連続発射できる小火器。第１次世界大戦以後，歩兵の主要携帯兵器となっている。機構上からは，反動利用式とガス圧利用式に分けられ，また重量の上から，重機関銃と軽機関銃とに分けられる。前者は行軍中は分解してウマまたは車に載せ，戦闘中は２～４名で運搬操作する。後者は１人で携行できるものである。機関銃の歴史は，ニュルンベルクの33銃身砲(1698)などに代表される多銃身砲に始まるが，単銃身の連続発射機構を発明して本格的機関銃を完成(1887)したのは，イギリスの発明家Sir H.S.マキシム(1840～1916)である。わが国では，1890年(明治23)はじめてマキシム機関銃を輸入，これにならって約200丁を製作し，日清(にっしん)戦争にあてたが，不備な点が多かった。1896年，ホチキス機関銃を購入，これを改良して三八式機関銃とし，さらに三年式機関銃へ発展させた。これが第２次世界大戦に主用された九二式重機関銃の前身で，軽機関銃には十一年式・九六式があり，このほか九一式・九二式車載機銃，九九式航空機銃などが第２次世界大戦で用いられた。陸上自衛隊は，アメリカ製A6・A4・A1・Ｍ２各機関銃および国産62式機関銃を装備している。現今の軽機関銃は，口径7.7mm，初速400～500m/秒のものが多く，重機関銃は口径7.7mm，初速450～850m/秒が普通である。〔藤井冬木〕

きかんすう　【奇関数】　$f(x)=x^3$や$f(x)=\sin x$などのように，xのとりうるすべての値に対して，$-f(-x)=f(x)$がなりたつような関数*。奇関数$y=f(x)$のグラフは，原点に関して対称である。➔偶関数

ぎかんせつ　【偽関節】　仮関節ともいう。本来は骨性の部分である場所が，骨部欠損や癒合(ゆごう)不全のために断絶して可動性を示す状態。先天性の頸骨(けいこつ)偽関節では，頸骨の下から３分の１ぐらいの箇所に骨の欠損があり，治療はむずかしい。後天性のものは，主として骨折後の後遺症としてみられる。すなわち，骨折端の骨形成が少ないか全く停止したために骨性癒合が起こらず，可動性を残すものである。骨折時の固定の不十分の場合や化膿(かのう)菌などの感染によることが多い。治療は骨移植や内固定手術などが行なわれる。〔荻野幹夫〕

きかんせっかい　【気管切開】　呼吸困難を救うために，頸部(けいぶ)で気管を切開して人工の呼吸孔をつくる操作。気道が異物・外傷・声門水腫(すいしゅ)・悪性腫瘍(しゅよう)による圧迫などで狭窄(きょうさく)の状態になったり，手術後に分泌物が多くて喀出(かくしゅつ)が困難な場合などに，気道を確保する目的で行なわれる。一般に成人では甲状腺(こうじょうせん)の上で，小児では甲状腺の下で切開し，カニューレという特殊な金属管を挿入(そうにゅう)する。〔三島好雄〕

ギガントピテクス　［Gigantopithecus］　1935年，ケーニーヒスワルトが，香港(ホンコン)の薬店から入手した３本の大きな大臼歯(だいきゅうし)につけた名称。ケーニーヒスワルトは，類人猿(るいじんえん)のものとしたが，ワイデンライヒは，1939年ケーニーヒスワルトがジャワ中部で発掘した化石人類*メガントロプスとの類似性を強調し，ヒトのものとしている。

きかんほう　【機関砲】　機関銃と大砲*の中間に位し，およそ20～50mmの口径をもつ自動連続発射火器。1930年代に対空・対戦車火器および航空機・戦車・艦船搭載(とうさい)兵器として各国で製作が始められた。現用の代表的なものに，35mm双連高射機関砲L-90(エリコン社製)があり，これは口径35

mm，重量5,850kg，有効射程3,000ｍ，発射速度1,000発/分，初速1,175ｍ/秒という性能をもつ。

きき　【窺基】（632～682）中国，唐代の僧。基ともいい，慈恩大師と号す。長安の人。仏典の翻訳で名高い玄奘*(げんじょう)の高弟で，おもに大慈恩寺に住し法相宗(ほっそうしゅう)を成立させた。法相宗は玄奘の訳した《成唯識論*(じょうゆいしきろん)》を中心として学説を組織する宗派であるが，彼はその詳細な注釈書２部，《成唯識論述記》《成唯識論枢要》を著わした。そのほか，〈百本の疏主(しょしゅ)〉とよばれるように多くの著述があり，中でも《大乗法苑(だいじょうほうおん)義林章》は当時の仏教概説でもある。〔佐藤成順〕

ぎき　【儀軌】梵語(ぼんご)kalpa（カルパ）またはkalpa-sūtra（カルパ－スートラ）の訳語。秘密儀軌・密軌ともいう。秘密仏教の修法壇において行なう念誦(ねんじゅ)供養の作法次第や曼荼羅(まんだら)・印明（真言行者の勤行(ごんぎょう)）などのすべての軌則儀式をいい，それを記した聖典をもいう。密教では教理を述べた経典を〈経〉，このような儀式の次第を述べた聖典を〈儀軌〉といい，双方合わせて〈経典〉といい，ともに重視している。儀軌には，金剛界立・胎蔵界立・十八道立などの次第があり，また伝来の経路によってインド撰述(せんじゅつ)のものと中国撰述のものとがある。平安時代，安然和尚(おしょう)が最澄*(さいちょう)・空海*ら入唐八家の請来した儀軌の目録を編纂(へんさん)したところによれば，秘密経軌1,655巻があげられているが，その多くは散逸し，元禄(げんろく)のころ浄厳が編纂したところによれば187部324巻が収録されているにすぎない。これは，密教が口伝をたっとび，聖教は刊行せず筆写する習慣が強かったために散逸したとみられる。〔金岡秀友〕

ぎぎ　【義義】硬骨魚類・ギギ科。全長25cmほどになる淡水魚。頭部がやや上下に平たく，体は長い。胴体はほぼ円筒形。全体の形はナマズに似ているが，あぶらびれのあるのが大きく違う。黄かっ色の地に不規則な灰かっ色の斑紋(はんもん)がある。中部以西の本州，四国の吉野(よしの)川に分布する。形・色・大きさ・習性の似たものにギバチがある。ギバチは，東北・関東地方と，九州の筑後(ちくご)川・大淀(おおよど)川に分布し，ギギの同属であるが，ギギの尾びれが深く切れ込んでいるのに対して，ギバチでは切れ込みがない。両種とも背びれと胸びれの各第１条が強いとげになり，誤ってさされると痛い。胸びれのとげをすり合わせてギーギーという音を出す。湖沼・河川の岸近くの岩陰や石がきの間に潜み，夜間または雨後の濁水時に外に出て小魚・エビ・こん虫などを捕食する。ギギ・ギバチともに食用になる。〔菅野　徹〕

ききいしき　【危機意識】一般に前世紀末から第１次・第２次世界大戦を経て今日に至るまでに，人々が現代社会における人間の平均化・機械化・集団化という状態や，人類全体が破滅しかねないというような戦争がしばしば起こるという状態に対して感じるようになった不安・孤独・絶望・自己疎外感などを危機意識とよんでいる。この危機意識から出発してそれを克服しようとする哲学としては，生の哲学*，弁証法神学*，ネオトミズム*，弁証法的唯物論*などがあるが，特に人間存在の独自なあり方を強調し，人間ひとりひとりの主体的な態度によってこの危機意識を克服していこうとする実存主義哲学が危機の哲学とよばれることが多い。〔米沢克夫〕



ギ　ギ　（上）ギギ　（下）ギバチ

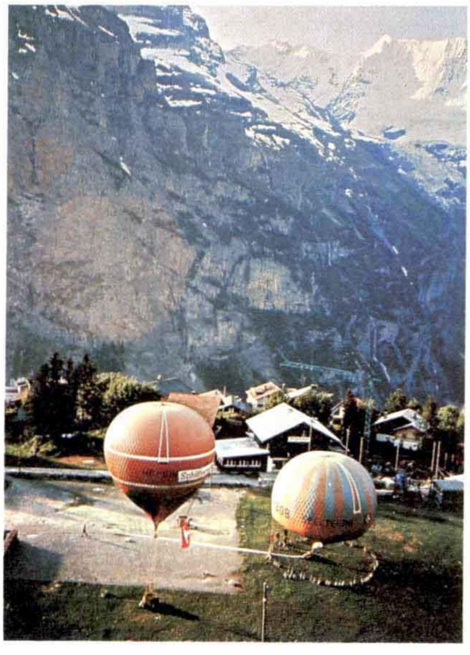
ききかよう　【記紀歌謡】《古事記*》《日本書紀*》に収録されている歌の総称。歌数は《古事記》113首，《日本書紀》127首で，うち重複する共通歌52首を数える。内容から民謡・芸謡・宮廷歌謡・童謡・謡歌(わざうた)などに分かれ，素材から恋愛・哀傷・戦闘・祭祀(さいし)・酒宴など多様の歌がある。歌体は不定型が多いが，およそは片歌*・旋頭歌*(せどうか)・長歌*・短歌に分類できる。いずれも古代人の率直な感動をうたい，日本の最古の文学遺産として，日本の歌の源泉を示しており貴重である。〔鈴木一雄〕

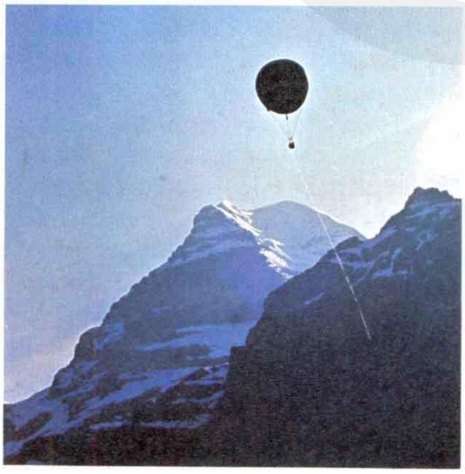
ききざい　【毀棄罪】財産刑*の一種。物の効用を減少させたり，滅却させてしまう犯罪。破壊してしまうばかりでなく，隠したり利用を困難にさせてしまう場合をも含む。対象によって，①公文書毀棄罪（刑法258条），３月以上７年以下の懲役，②私文書毀棄罪（刑法259条），５年以上の懲役，③建造物等損壊罪（刑法260条），５年以下の懲役，④器物毀壊罪*（刑法261条），３年以下の懲役または25,000円以下の罰金もしくは科料に処される。〔野口恵三〕

ききしんがく　【危機神学】⇨弁証法神学

きぎたかたろう　【木々高太郎】（1897～1969）小説家・生理学者。本名林髞(たかし)。山梨県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学医学部卒。大脳生理学を専攻して慶大で教え，かたわら1934年（昭和９）から推理小説を発表。1936年《人生の阿呆(あほう)》で直木賞を受賞した。芸術性のある推理小説の提唱者であり，《睡(ねむ)り人形》《新月》などでそれを実践した。

ききゅう　【気球】風船と同様に，軽くて気密の袋にヘリウムや水素ガスなど軽い気体を満たし，その静的な浮力を利用して空中に浮揚するもので，推進動力装置をもたないもの。アドバルーンのように索を用いて地面に係留しておくものを係留気球，気象観測気球のように自由に飛行するものを自由気球という。フランスなどでは人が自由気球につり下がり，風に乗って山野を飛び越えるスポーツが行なわれている。





気　球
スイスのドルダー気球週間の競技会　（左）ベルナーオーバーランドのミュレンを出発せんとしている水素気球　（右）ユングフラウの尾根を下に見ながら，風まかせの優雅な旅が始まる

ききょう　【桔梗】双子葉植物・キキョウ科。各地に広く分布する多年草。高さ１ｍ内外。葉は長い卵形でへりに鋸歯(きょし)が

ある。夏から秋につり鐘状の青紫色の花をつける。茎や葉を傷つけると白いしるが出る。根は太く，ゴボウ状。秋の七草*の一つで，古くから観賞用にされ，色変わりや二重咲きなど園芸品種が多い。根を乾燥したものは去痰(きょたん)薬として各種家庭薬に配合される。また，漢方では排膿(はいのう)・去痰薬として用いられる。

キキョウ科の植物は，世界の温帯地方から亜熱帯地方にかけて分布し，多くは草本，まれに木本がある。世界に約60属1,500種があるが，日本には8属25種が山野にはえる。多くは茎や葉を傷つけると白いしるを出し，花は合弁花で筒状またはつり鐘状。キキョウのほか，サワギキョウ*・ツルギキョウ・ツリガネニンジン*・ホタルブクロ*が含まれる。〔小清水義隆〕

ききょう【気胸】胸(肋(ろく))膜腔内(こうない)に空気またはガスの存在する状態。原因によって外傷性気胸と自発性気胸とに大別される。自発性気胸の原因としては，胸膜直下の肺に存在する結核その他の炎症，気腫(きしゅ)性膿胞(のうほう)の胸膜腔への破裂などから，気管支を通じて空気が流入することが考えられる。気胸は通常自然に吸収されるが，気管支との弁状閉塞(へいそく)があって空気の流入が続く場合は，肺を圧迫し，呼吸困難・肺機能障害をきたし，重篤となることがあり，積極的に脱気を行なう必要がある。なお，肺結核などの治療として人工気胸術が行なわれたことがあるが，抗結核薬による治療が原則となった今日ではあまり行なわれない。〔白石 透〕

ききょう【帰郷】ハーディ*の長編小説(1878)。エグドン-ヒースとよばれる広大なイギリスの荒野を背景に，パリから帰郷して教育に専念しようとする理想家はだの青年と，郷里を捨てパリに出ようとする驕慢(きょうまん)で自由奔放な美しい娘との破局を扱ったもの。堅牢(けんろう)な建築学的構成とギリシア悲劇的な荘厳さ，無気味で巨大な荒野の象徴的描写は定評がある。

ききょう【帰郷】大仏(おさらぎ)次郎*の長編小説。1948年(昭和23)《毎日新聞》に連載。他人の罪を着て異郷をさまよい，敗戦後に帰国した元海軍軍人守屋恭吾(もりやきょうご)は，日本の伝統をむなしく求める。その姿を通して第2次世界大戦後の軽薄な風潮に対する作者の怒りがうかがえる作品。

きぎょう【企業】一般に企業とは，営利目的をもち，人々の需要を満たすために生産活動を営む個別経済体をさす。消費活動をもっぱら行なう家計あるいは家政，諸勢力の調整を行なう政府と対立的に取り扱われ，全経済システム中における消費欲求の充足を目的とした財貨・サービスの生産活動を行なう経済主体であるとされる。もっとも，その際の生産は狭義の技術的な生産(抽出・製造・加工)をさすのではなく，広義の生産，すなわち交換を通じての人間



キキョウ

の財貨・サービスへの消費欲求の充足に応ずるあらゆる経済活動を意味するのが一般的である。したがって農林漁業・鉱工業のみではなく，流通業，交通・通信業，倉庫業，金融・保険業も企業として組織され，運営されているわけである。なお企業には，私的利益を目的とする私企業*のほかに公共的・行政的目的をもって，国家または地方公共団体によって経営される公企業*がある。〔清水 晶〕

ききょういろ【桔梗色】色名。キキョウの花のような色。青紫色。古くには藍(あい)染めと紅染めとでこの色を染めた。桔梗色と同じような染色方法による色に，二藍・藤色・牡丹(ぼたん)色・紅梅色などがある。これらは，いずれも桔梗色より紅を多く使った赤みの多い色である。なお，桔梗色の薄い色を楝色(おうちいろ)（楝はセンダンの古名）・紫苑(しおん)色という。その色がセンダンやシオンの花の色に似ているからであろう。〈しおに〉は紫苑色と同色である。〔武井邦彦〕

きぎょうかいけいげんそく【企業会計原則】企業会計制度の統一・改善を図るため，会計処理に関して要約した事項。1949年(昭和24) 7月，企業会計制度対策調査会(現在の企業会計審議会)から，中間報告の形ではじめて公表され，その後若干の修正を経て今日に至っている。企業会計の実務の中に慣習として行なわれているもののうちから，一般に公正妥当と認められるもの，基準となるものがまとめられている。法令としての強制力はもたないが，各企業が会計処理を行なう場合に従うことが期待されている。また，公認会計士*が財務諸表*の監査をする場合に基準となる。一般原則（真実性の原則，正規の簿記の原則，剰余金区分の原則，明瞭(めいりょう)性の原則，継続性の原則，健全性の原則，単一性の原則）・損益計算書原則(剰余金原則を含む)・貸借対照表原則の3部からなる。〔山桝忠恕〕

きぎょうがっぺい【企業合併】⇨次ページ

きぎょうかんしんよう【企業間信用】企業どうしのつけ買い・掛け売りによって生ずる貸し借りをいう。ある企業が他の企業に商品を掛け売りした場合，またはある企業が他の企業からつけ買いした場合に起こるもので，信用を与える与信者の企業では売り上げ債権(売掛金・受け取り手形・割引手形)，信用を受ける受信者の企業では買い入れ債務(買掛金・支払い手形)として表わされる。企業は原材料の購入や設備投資にあたって，代金を全額現金で支払うとは限らず，手形を振り出したり，買掛金・未払い代金としてある期間支払いを繰り延べにする商慣習がある。このため，企業間信用は売り上げの増加に伴ってふえていく。〔速水 保〕

きぎょうけいたい【企業形態】企業形態は一般に資本の所有関係から分類される。大分類としては，私企業*と公企業*である。

私企業はさらに，①単独の資本家が出資し，みずから支配・管理・運営を担当する個人企業と，②何人かの共同の資本の出資により運営される共同企業*に分類される。後者はさらに商法によって定められた商行為を業とする社団法人(会社)と，必ずしも営利を目的としない組合企業*に分類される。前者は責任制を基準として，合名会社*(全社員が無限責任)，合資会社*(無限責任社員と有限責任社員からなる)，株式会社*(全出資者の有限責任制)，および中小企業の存立形態の基礎をなす有限会社*(全社員有限責任ではあるが，社員数が限定されている)に分類される。共同企業のもう一つの形態である組合企業は，設立目的を基準に，農業協同組合・水産協同組合・中小企業等協同組合・消費生活協同組合*などに分類される(→組合，→協同組合)。

公企業は公共・公益的，あるいは行政・財政的目的をもって，政府あるいは地方公共団体が出資して経営する企業の総称である。なお，ほかに公私混合企業とよばれる公私共同の出資・経営の下に置かれる企業の分野もある。これは公企業の発展，すなわち，行政と公企業の関係がしだいに自主性を確立し，両者の分離傾向が指摘されることに関連する。今日では，これらの公企業・公私混合企業を総称して公共企業体*とよぶのが一般的になっている。〔清水 晶〕

きぎょうけいれつ【企業系列】金融や生産・流通などの取引関係を通じて，通常の取引関係以上の相互依存の度を強めた企業の結びつきをいう。特に資本の関係によることが多い。資本主義経済の下では，原則として多数の私企業が独立性を保持しながら経済活動を行なっているが，それらの企業は金融，生産技術と設備・原材料の調達，製品の販売などを通じて相互に密接な関連をもっている。このような結びつきは資本主義の高度な発展とともに強められる。特に独占資本が形成されると，いっそうの企業利潤の増大，市場占拠率の拡大のために，独占資本を中心とした企業系列ができる。中小企業との間には垂直的な支配・被支配の関係が生じる。また，大企業の間で

→300ページ

企業合併

2以上の企業が結合して1個の企業となることをいう。企業合併の形式は，吸収合併*と新設合併とに分けられる。吸収合併とは，1企業が存続して他の解散企業の財産と社員とを収容する場合であり，新設合併とは全企業が解散したうえで新企業を設立し，これが解散会社の財産と社員を収容する場合である。さらに，企業合併は合併企業の属する業種間の関係にしたがって，水平的合併・垂直的合併・多角的合併に分けられる。水平的合併とは同一業種に属する企業間の合併，垂直的合併とは生産工程の前後に位置する企業間の合併，多角的合併とは関係の少ない業種に属する企業間の合併(コングロマリット*)である。

企業合併が行なわれる動機としては，経営不振の肩代わりのために行なわれる吸収合併という消極的なものも少なくないが，しかしもっと積極的な理由として考えられるのは，第1に企業合併によって大規模生産や大規模経営の利益を手に入れることである。企業規模が拡大すれば大量生産に基づく費用低下を実現する可能性が増大するし，大量購入や大量販売，資金調達上の有利性などに基づく経営上の利益の増大が見込まれる。第2に，独占的な市場支配力を獲得・強化しようとすることである。企業規模が拡大し，市場占拠率が増大すれば，市場支配力は高まり独占的利潤を得る機会は増大する。

合併はこのように，大規模の経済性と市場支配力の獲得という二つの積極的なねらいをもっているものであり，合併が国民経済に及ぼす影響もまた二面性をもつ。すなわち，大規模の経済性が価格引き下げや品質向上に結びつくことによって国民的利益に還元されるか，市場支配力の行使によって競争が制限され，合併企業の独占的利潤の獲得に結びつくかによって大きく異なってくる。わが国において，企業合併，とりわけ大形合併が問題とされるのは，大規模化を図って国際競争力をつけるという口実のもとに，実は市場支配力の獲得をねらっているのではないかという疑念がもたれているからにほかならない。しかし，独占的な市場支配をめざすものでなく，大規模の経済性を手に入れ 競争を促進するための合併の場合や，最適規模に達していない企業間の合併は，貿易自由化や資本自由化が進展した今日においてはむしろ促進されるべきである。

一般にいって，わが国の大企業の規模は世界のトップクラスの企業に比べて相対的に小さく，労働生産性が劣っているものが少なくない。しかも，わが国の大企業の資本構成は自己資本が他人資本に比べて相対的に低く，これが金利負担を高めて企業利益を圧迫し，企業体質を脆弱(ぜいじゃく)化せしめている。それゆえ，国際的な市場でわが国の企業が対等に競争しうるためには，企業合併による規模の拡大によって国際競争力を強化することが必要な場合もあることは何人も否定できない。したがって，合併の功罪を判定するにあたっては，合併意図を検討するとともに，当該産業なり企業なりのもつ特性と，その国際的環境について十分な配慮を加える必要がある。

〔実態〕 わが国の企業合併は，貿易自由化・資本自由化が進展し，産業再編成への意欲が盛んになるにつれて急速に増大しつつある。すなわち，1959年(昭和34)以降，合併件数は増大のきざしをみせ，1963年度に997件とピークを示した。その後，1964・1965・1966年度にはやや減少し，800件台を維持していたが，1967年以降再び増加し，1969年には1,163件を数えるに至っている。この動向を合併規模からみると，1961年度以降は資本金10億円以上の合併が急増し，1969年度においては，5,000万円(合併後の資本金額)未満の中小企業の合併は854件(総数の73.5%)，5,000万円以上の合併は309件(総数の26.5%)であり，後者の増大傾向が明らかである。次に，1955〜1961年度の合併を合併企業間の関係からみると，直接系列会社によるもの38.2%，大企業傘下(さんか)どうしのもの25.0%，旧同一会社のもの13.1%，その他23.7%となる。このうち直接系列会社とは，いわば親会社と子会社の合併，大企業傘下とは子会社どうしの合併である。この二者に旧同一会社の合併を加えた件数は全体の80%近くに達する。しかも，この間，巨大企業間の合併がほとんどなかったことを勘案すれば，これらの合併の大多数が歴史的にも資本的にもなんらかの関係をもっていた会社間のものであり，経済合理性にのっとったものが少なかったとみることができよう。

合併がこのような型をとった理由としては，第2次世界大戦後の貿易為替(かわせ)の管理によりわが国の企業が国際競争から隔離されていたため，企業合併を通じて国際的な規模に到達しようとする必要性が感じられなかったこと，独占禁止法*で合併が制限されていること，終身雇用制度のもとに経営者・従業員とも企業と一体感をもっており，合併を城の乗っ取りや明け渡しにも似た不徳義な行為と考える心理があることなどがあげられる。しかし，こうした合併の型は昭和30年代後半には変化しはじめ，大企業間のしかも系列を越えた大形企業間の合併が増大してくる。その好例は，1966年の日産自動車とプリンス自動車の合併である。

このころから合併目的に変化が生じている。1961年には市場占拠率の拡大を目的とするものが44.1%，一貫多角化が31.8%，組織の変更が16.8%であったが，1965年には管理販売面の強化が50.2%，資本の充実が16.6%，量産一貫化が12.6%，整理・不振会社買収が9.1%となっている。さらに1967年度には，管理販売面の強化が61.5%，組織変更が8.7%，相手会社整理を目的としたもの7.5%，資本の充実が6.3%となっている。以上からも明らかなように，近年になるにしたがって，企業合併が生産面の効果や系列関係の再編成をねらうものよりも経営合理化の効果を求める方向に変化しつつある。また，1967年度の合併では995件中987件が吸収合併，8件が新設合併であり，業種別では卸・小売業が329件(33.1%)，製造業315件(31.5%)，サービス業101件(10.2%)，運輸通信業84件(8.4%)，不動産業78件(7.8%)，建設業53件(5.3%)，金融保険業19件(1.9%)となっている。近年におけるわが国の企業合併の実態は以上のごときものであるが，第2次世界大戦前の合併がおもに財閥*本社を核とするコンツェルン*型の支配形態に結びついていたことに比すれば，一般にいって戦後の合併は日本経済の過当競争といわれる現実と，貿易や資本の自由化という外的条件によって促進されたものだけに，市場支配力の増大のねらいはかなり限定を受けていたということができよう。もっとも，このことから今後の合併が従来と同じ性格をもつものと予想することはできない。産業再編成が進み，大企業間の合併が叢生(そうせい)する場合には，あからさまに市場支配力を求める合併はもとより，企業規模の増大，市場占拠率の上昇を通じて結果的に市場支配力を増大する合併が随所に出現し，自由競争は減退し，寡占化・独占化の傾向がいよいよ大となるからである。前述したように野放しの企業合併は独占禁止法の存在によって阻止されているにしても，1970年の八幡(やわた)・富士両製鉄の巨大合併実現にみるように独占禁止法の合併制限条項が弾力的に運用される場合には，合併に伴う弊害の発生を予想せざるをえないであろうし，また独占禁止法の緩和が財界から再三にわたって要望されてきた事実を考え合わせても，今後の独占禁止法と合併をめぐる動きには十分に警戒の目を向ける必要があるであろう。

〔合併と独占禁止法〕 1947年に制定され，1949年，1953年に改正された独占禁止法では，その第15・16条において合併と営業の譲渡が制限されている。これらの条項は次のごとくである。

第15条〈合併の制限〉①国内の会社は，下の各号に該当する場合には，合併してはならない。1.当該合併によって一定の取引分

野における競争を実質的に制限することになる場合。2.当該合併が不公正な取引方法によるものである場合。②国内の会社は，合併をしようとする場合には公正取引委員会規則の定めるところにより，あらかじめ公正取引委員会に届け出なければならない。③前項の場合において，国内の会社は届け出受理の日から30日を経過するまでは，合併をしてはならない。(以下省略)

第16条〈営業の譲渡等の制限〉前条の規定は，会社が下の各号に掲げる行為をする場合に，これを準用する。1.他の会社の国内における営業の全部または重要部分の譲渡，2.他の会社の国内における営業上の固定資産の全部または重要部分の譲渡。(以下省略)

以上のごとく第15・16条において合併ならびにこれに準ずる営業の譲渡は制限され，これに該当した場合には，独占禁止法の執行機関たる公正取引委員会*が必要な措置を命ずるために審判を行なったり，勧告を行なったりする。そして，これらの条項に違反する行為があるときには，違反行為を排除する措置を命ずることができるし，合併の無効の訴えを提起することができると定められている(第17条の2および第18条の規定)。このように現行独占禁止法では，合併は事前届け出制になっているが，その合併によって一定の取引分野の競争を実質的に制限する場合と不公正な取引方法による合併の場合以外はそのまま認められることになる。このうち，競争の実質的制限とは具体的になにを意味するかについては論議の多いところだが，すでに1953年12月の東宝・新東宝事件についての東京高等裁判所の判例があり，八幡・富士両製鉄の合併に関する審決でも，この判例がそのまま採用された。この判例によれば，競争の実質的制限とは，競争が減少して特定事業者がある程度自由に価格・品質・数量を左右して市場を支配できる状態であり，いいかえれば競争者がみずからの選択で価格・品質・数量を決定し，事業を行ない，存在を維持することができなくなる状態であるとされている。なお，不公正な取引方法による場合とは，たとえば独占力を背景にして他会

表-1 資本金額別合併受理件数の推移

資本金＼年度	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
50万円未満	12	15	10	6	11	10	2	4	3	2	2	6	0	3	1	1	3	2	6
100万円 〃	34	24	9	15	13	18	18	10	9	8	6	9	11	5	6	11	6	5	10
500万円 〃	139	162	156	151	141	150	135	152	149	144	147	146	188	182	220	205	218	206	187
1000万円 〃	58	71	52	33	47	75	84	85	95	100	125	131	187	160	169	142	181	177	195
5000万円 〃	66	70	64	73	88	89	98	81	94	94	176	221	320	313	318	341	367	383	456
1億円 〃	8	17	24	15	11	17	30	16	18	33	63	72	115	67	57	63	77	103	111
5億円 〃	12	19	19	23	15	13	18	23	30	41	45	91	116	90	93	67	94	100	142
10億円 〃	2	4	5	5	4	2	4	2	7	8	9	10	15	14	16	11	9	16	20
50億円 〃	0	3	5	4	7	6	9	7	8	9	13	23	28	17	8	23	29	19	29
100億円 〃	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	3	5	4	3	2	4	2	5
100億円以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	12	9	3	5	7	7	2
計	331	385	344	325	338	381	398	381	413	440	591	715	997	864	894	871	995	1 020	1 163

注) 資本金額は合併行為後の金額を示す

公正取引委員会《公正取引委員会年次報告》(1970年版)

表-2 業種別合併受理件数推移

業種＼年度	1950	1955	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
農林水産業	11	2	2	4	5	7	9	11	9	9	11	21
鉱業	8	5	11	5	14	11	8	19	7	7	2	13
建設業	10	19	13	34	40	45	39	36	52	53	53	53
製造業	250	151	185	254	311	438	346	313	288	315	450	396
食料品	(34)	(32)	(46)	(51)	(55)	(76)	(56)	(50)	(53)	(54)	(67)	(40)
繊維	(57)	(15)	(18)	(30)	(36)	(53)	(38)	(24)	(20)	(34)	(51)	(72)
木材・木製品	(9)	(15)	(12)	(6)	(20)	(22)	(18)	(18)	(17)	(28)	(30)	(28)
紙・パルプ	—	—	(4)	(3)	(5)	(7)	(17)	(15)	(3)	(10)	(9)	(9)
出版・印刷	(23)	(6)	(12)	(10)	(9)	(12)	(17)	(15)	(13)	(13)	(29)	(15)
化学・石油・石炭製品	(41)	(26)	(12)	(32)	(47)	(37)	(28)	(29)	(21)	(26)	(65)	(37)
ゴム・皮革	—	—	(1)	(5)	(3)	(15)	(6)	(3)	(3)	(2)	(7)	(7)
窯業・土石	(22)	(6)	(10)	(4)	(14)	(18)	(14)	(16)	(14)	(20)	(24)	(25)
金属	(23)	(16)	(23)	(10)	(30)	(79)	(56)	(42)	(62)	(42)	(35)	(51)
機械	(31)	(28)	(39)	(93)	(81)	(110)	(85)	(74)	(62)	(74)	(122)	(91)
その他	(10)	(7)	(8)	(10)	(11)	(9)	(11)	(27)	(20)	(12)	(11)	(21)
卸・小売業	91	109	127	144	184	241	243	261	267	329	225	367
金融・保険業	9	11	7	7	8	11	9	25	11	19	9	20
不動産業	4	9	17	27	38	73	51	40	61	78	51	91
運輸・通信業	26	15	44	60	54	97	74	83	62	}84	117	105
倉庫業	3	3	3	8	5	4	4	3	7		3	8
電気・ガス事業	0	0	1	2	1	3	1	0	0	0	3	2
サービス業	6	13	21	28	55	64	60	88	99	101	93	87
その他	2	1	9	18	0	3	20	15	8	0	3	0
計	420	338	440	591	715	997	864	894	871	995	1 020	1 163

注) 1950，1955年の化学は，パルプ・紙・ゴム・皮革を含む

公正取引委員会《公正取引委員会年次報告》(各年度)

社を圧迫し，合併を強制するような場合と考えられる。

さて，独占禁止法ではこのように合併の制限を規定しているが，その運用は必ずしも厳密に行なわれてはいないといってよい。すなわち，1958年に雪印乳業とクローバー乳業の合併(もとは同一企業)が認められ，1964年には新三菱(しんみつびし)重工業・三菱日本重工業・三菱造船所(もとは同一企業)が合併して三菱重工業となり，1966年には日産自動車とプリンス自動車，1970年には八幡製鉄・富士製鉄の合併が認められている。これらの合併はいずれも大手企業の合併であり，合併後の市場占拠率は20〜60％にも及ぶものであった。したがって，独占禁止法の合併制限条項はかなり弾力的に運用解釈されているということができる。いちおう，合併後の市場占拠率30％程度のところに線を置き，これ以上のものでも，①有力な競争者が存在する場合，②新企業の参入が容易である場合，③おもな取引相手の事業能力が合併企業に比べて著しく大きな場合，④代替品により市場が衰退しつつある場合，⑤貿易や資本の自由化によって競争が増大すると予想される場合には，あまりきびしく独占禁止法を適用しない。これに加えて，個々の市場における支配力は問題にするが，八幡・富士両製鉄の合併にみられるように合併後の総合的な支配力は特に問題にしないようである。それゆえ，独占禁止法による合併制限は実質的にはそれほどきびしいものではないといってよい。とはいえ，独占禁止法の合併制限条項を改正・緩和するように財界側から要請されつづけているところからみると，弾力的に運用されているからといっても，その合併制限効果は少なからず存在しているものと思われる。

なお，海外で問題化している多角的合併(コングロマリット)が，日本において比較的少ないのは，1947年の独占禁止法に規定された事業会社の株式取得の制限，役員兼任の制限などが再度の改正によって緩和され，事業兼営持ち株を通じて系列化できるようになったことが作用しているものとみられる。

〔海外の実態〕 今日の先進諸国においても，わが国と同じく合併を制限している国がほとんどである。だが，その経済環境や歴史的特性を反映して，各国の合併制限の方法はさまざまである。現在までのところ，合併制限が最もきびしく行なわれているのはアメリカである。アメリカの独占対策の中で合併制限が規定されているのは，1914年に制定されたクレイトン法*第7条(これは1950年に改正・拡張された)である。この規定内容は日本の独占禁止法と大差ないが，その運用はきびしく，水平ならびに垂直的合併の中で少しでも競争を減殺するおそれのあるものはこの条項違反とされる。たとえば，合併後石油業界に占める占有度が第6位となるシンクレア-オイルとアトランチック-リッチフィールドの合併すら，連邦取引委員会によって告訴されている。したがって最近のアメリカでは，1966年に1,517件，1967年には2,975件，1968年には4,462件と合併件数が増大しているが，1966年のおもな合併の60％，1967年の72％，1968年の89％はクレイトン第7条に触れないような多角的合併，いわゆるコングロマリットに類するものである。なお，アメリカの合併制限がきびしいのは，シャーマン-反トラスト法*が早くも1890年に制定されたことから察知されるように，独占は自由企業の原則と市場経済機能を破壊するという認識に基づいた，強い反独占感情が国民の中に存在していることによる。

これに対して，イギリスの場合は事情をかなりことにする。貿易依存度の大きいイギリスでは，国際競争力を強化するために合併による企業規模の拡大は望ましいが，他方，合併によって独占的な市場支配力の増大を招くことは避けなければならないとする考えが強く，そのため，合併制限のための法制と，産業再編成を促進するための措置を並行して実施している。すなわち，1965年から実施された〈独占・合併法〉は，独占的弊害が発生するおそれのあるとき，行なわれようとする合併を6か月間中止させて調査できることを決めている。しかし，合併規制が強化された近年においても，アメリカ系企業に対抗するために産業再編成の必要性が強調され，巨大企業間の合併をはじめとして合併ブームの様相を呈している。一方，イギリス政府は1966年に〈産業再編成公社〉をつくり，公的な持ち株方式を用いて企業の合併・再編成を促進している。

最後に，ＥＥＣ*(ヨーロッパ経済共同体)では独占対策の基本原則がローマ条約の第85・86条に規定され，市場支配的な企業の権力の乱用を禁止しているが，ＥＥＣ内の貿易に影響のない企業間の合併は各国独自の独占対策にゆだねられている。しかし，近年，ＥＥＣ各国における大企業間の合併があいつぐところからみて，各国は国際競争力の強化のために合併をむしろ促進するように指導しているようである。

〔原　豊〕

も金融や技術などを通じて企業グループ化，コンビナート*などの水平的・横断的な協力関係が生まれる。前者は垂直的結合，後者は水平的結合とよばれるものである。

企業系列にはその結合のしかたによっていくつかの種別があるが，おもなものとして金融系列・生産系列・原料系列・商社系列などをあげることができる。金融系列は融資に基づく企業の結びつきである。金融機関のうち，特に大銀行は貸し出し先を選別し，安全性の高い企業にのみ集中的に融資することが多く，その結果，銀行と企業との間に特別な関係が生まれる。また独占的な大企業が支配下の中小企業にある程度まで資金を貸し出すことも行なわれ，これも金融系列を形成しているものである。次に生産系列は，中小の下請け企業から親企業への部品の供給を通じて生まれる結合関係であって，部品・組み立て系列ともよばれるものである。自動車・造船・電気・機械工業などの組み立て工業に普及している。これとは逆に，原料系列は，製品の原材料を独占的な大企業が生産し，その2次加工段階以降を中小企業が担当することによる結合関係である。金属・合成樹脂加工，その他多くの分野にわたっているが，繊維産業にその典型がみられる。商社系列は，原材料や製品の購入と販売を通ずる企業の結合関係である。〔加藤　寛〕

きぎょうごうどう　【企業合同】 ⇨トラスト

きぎょうしゅうちゅう　【企業集中】 資本主義経済においては，市場競争のもつ淘汰(とうた)作用や生産技術的に巨大規模が要求されることなどによって，少数の大規模な企業が出現し，生産・販売の全体もしくは広範な部分，あるいは資産の大きな割合がこれら少数の大規模企業の手に集中するという傾向が大となる。これを企業集中という。このような企業集中が進むと，少数の大企業が市場を支配する寡占*の状態が行き渡り，大企業は価格支配力をもつようになり，価格競争が減退して，サービス・品質・宣伝面における競争(非価格競争)や，大企業どうしの価格先導と価格追随行為に基づく同一水準の価格決定(管理価格*)が行なわれるようになりやすい。企業集中が促進される理由は，第1に，規模の経済性が存在するからである。すなわち，一定規模以上の設備を利用すると平均費用が大幅に低下するとか，大規模経営によって原材料の大量購入や，製品の大量販売が可能となり，有利な交渉力を行使できることである。第2の理由は，独占的支配の意図である。企業規模が拡大して市場支配力が高まり市場占拠率が増大すれば，前述したように価格競争を回避しやすくなるからである。企業の大規模化のプロセスは，内部的拡張と外部的拡張とに分けられる。内部的拡張とは，株式や借入金などを通じて資金調達を行ない，企業規模を拡大する場合であり，外部的拡張とは，企業間の結合によって企業規模を拡大することをいう。企業集中の基本

形態はカルテル(企業連合)・トラスト(企業合同)・コンツェルン(資本結合)であり，コンビナート・企業系列とよばれる結合形態もある。

企業集中の促進要因としての企業規模の拡大には，規模の経済性と独占的支配力とが併存するから，企業集中を一概に社会的な弊害を生ずるものとは断定しがたいが，独占的支配力によって規模の経済性による費用低下が消費者に還元されないおそれが大きいため，資本主義諸国の多くは，合併制限などの独占対策によって企業集中化を阻止しようと試みている。しかし，この意図は十分に達成されているとはいえず，企業集中化の度合いはほとんどの国で増大のきざしをみせている。〔原　豊〕

きぎょうないきょういく【企業内教育】 企業がその構成員に対して，職位・職能に応じて行なう研修・教育・訓練。企業目的を実現するための，経営管理の一領域である人事・労務管理の主要な機能として組織・運営される。その形態は生産技術・管理技術の発展段階，産業の種類，企業規模の大小などによって多様であり，最近では，資本の自由化，産業再編成，技術革新の進展とともに，長期的見通しに立った合理化計画の樹立が要請され，これに伴って組織化・体系化が進み，その影響は学校教育・社会教育の領域にまで及んでいる。いわゆる合理化は，生産技術・管理技術を手がかりとして，職務内容を細分化・専門化し，さらにそれを標準化していく方向をたどる。したがって，企業内教育は標準化された職務に適応させるための〈訓練〉という形をとり，さらに訓練方法の定型化を促す。習得すべき知識・技術・態度は，合理化計画によって方向づけられた財務管理・人事管理・生産管理の要請する〈訓練必要点〉という形で提起されるから，企業内教育は選抜された者に対する企業の要請として行なわれる。この点は，学校教育が学習するすべての者の興味・自主性を前提に，個々人の人間的可能性の開発を目的とするのとは質的に違っている。訓練は，職務分析に基づいた職務記述書に従っての職務遂行を上級者がその場で監督・指揮する〈職場訓練〉を中核とし，さらにこれを有効にするために各種の〈職場外教育訓練〉が職務別，職位あるいは階層別に行なわれる。すなわち，中学・高校・大学の学歴別，技能・技術・事務などの職能別の〈新入者教育〉にはじまり，職務経験の有無・多少による〈職能訓練〉，さらに，各種の管理能力・勤務評定による選抜者に対する〈監督者・管理者教育〉，企業環境の的確な把握(はあく)，企業の基本方針の確立，意志決定などに必要な知識の獲得，経営者としての資質の向上をめざす〈経営者教育〉などが計画・実施される。〔山崎昌甫〕

きぎょうねんきん【企業年金】 企業が従業員に対して行なう退職年金制度。この制度は社会保障の一環としての厚生年金保険・国民年金などの公的年金による老後の生活保障の低水準を補うために，それぞれの企業が従業員の老齢退職後の生活の安定を求めて採用するものである。この制度によって，企業は労使関係の長期的安定を図り，労働生産性のいっそうの向上を期待することができる。しかも永年勤続を奨励しながら同時に定年制による退職を円滑にし，老齢高給者の停滞を解消して，従業員一般に昇進の道を開くことができる。また，一時に多額の支出をせずに，合理的かつ計画的に資金の積み立て支出ができるから，企業の資金操作を容易にする。企業年金には，保険会社を利用する保険型年金と信託銀行を利用する信託型年金とがある。〔庭田範秋〕

きぎょうべつくみあい【企業別組合】 同一企業の労働者のみによって組織される労働組合をいう。わが国では，単位組合総数の9割を占める。従業員組合的であるため，組合員としてより従業員としての意識のほうが強くなり，使用者の支配・介入を受けやすい。このため企業別組合の弱点を補うものとして，共同闘争の組織や統一交渉などの努力がなされている。

きぎょうれんごう【企業連合】 ⇨カルテル

ぎきょく【戯曲】 詩・小説などとともに文学の一形式。演劇として舞台に上演できるようにした，対話(せりふ)とト書きからなる作品をいうが，レーゼ-ドラマのように上演を目的としないで，純粋に読むためだけの戯曲もある。語源的には，中国宋(そう)代の〈雑戯の歌曲〉に由来するとされるが，明治以後ドラマの訳語として広く用いられるようになった。脚本・台本とほぼ同義に用いられる場合もあるが，新劇や浄瑠璃(じょうるり)のような文学性の高い台本にのみ適用されることが多く，劇詩・劇文学ともいわれる。ヨーロッパでは古代ギリシア以来文学の一ジャンルとして独自の発展を遂げたが，わが国では中世の能楽によって完成された。

ききょらいじ【帰去来辞】 中国，晋(しん)末の詩人陶淵明(とうえんめい)のつくった韻文。生活のかてを得るため彭沢(ほうたく)県の県令となった作者が役人生活にいや気がさし，しかも武昌(ぶしょう)にいた妹が死亡したので，在職わずか80日余りで辞職した。そして故郷に帰り，家族や友人に囲まれ，天の摂理に従い，自然を友として生きようとうたう。古来，広く愛唱されている。

ききん【飢饉】 農作物が実らず，食糧が欠乏すること。長雨・旱魃(かんばつ)・風虫害・冷害などの天候異変をおもな原因とし，交通が不便で物資の融通が孤立的・封鎖的な時代に多い。はなはだしいときには多数の餓死者が出る。飢饉はまた一揆(いっき)や打ちこわしなどの騒乱や疫病の流行などの社会不安の原因となった。日本では，《日本書紀》の〈欽明(きんめい)天皇28年の条〉の記事が記録上の初見で，その後1869年(明治2)までに225回の大小の飢饉が起きている。江戸時代には35回の飢饉があり，中でも享保(きょうほう)の飢饉，天明の飢饉，天保の飢饉は三大飢饉として有名で多数の餓死者を出した。明治以降は物資の融通が比較的良好になり，農作物が不作でも飢饉に至ることはまれになった。飢饉の対策としては，令制(りょうせい)では義倉などの貯穀が定められている。江戸時代には領主の囲い米・城米の払い下げや，民間の社倉などによる貯穀が行なわれ，飢饉に際しては救小屋による食糧の給与や，米価調節(米価低減策)が行なわれて被害を最小限にとどめようとした。➔荒政

〔松尾　涼〕

きぎん【季吟】(1624〜1705) 江戸初期の俳人・歌学者。北村氏。別号に拾穂軒など。俳諧(はいかい)を貞徳・貞室に学び，《山之井(やまのい)》の編纂(へんさん)，《紅梅千句》《玉海集》への参加を通して貞門の有力者となる。《新続犬筑波集(いぬつくはしゅう)》《続連珠》，俳論《俳諧埋木(うもれぎ)》など編著が多い。また古典研究者としても《源氏物語湖月抄》《徒然草文段抄(つれづれぐさもんだんしょう)》《枕草子春曙抄(まくらのそうししゅんしょしょう)》などを著わし，中世以来の研究の大成者の地位に立っている。

〔奥野純一〕

きぎんこう【輝銀鉱】 銀の重要鉱石。Ag_2S 等軸晶系。比重7.2〜7.4，硬度2〜2.5，劈開(へきかい)は{100}，{110}に存在。鉛灰色の金属光沢。条痕(じょうこん)は黒鉛色。銀鉱床のセキエイ脈中に微結晶として存在するものが多い。わが国では北海道鴻之舞(こうのまい)，兵庫県生野(いくの)，鹿児島県串木野(くしきの)などの諸鉱山が代表的産地であるが，ほとんどすべての銀鉱山で産する。

ききんぞく【貴金属】 金・銀・白金族金属の総称。白金族には白金・ロジウム・パラジウム・イリジウム・オスミウム・ルテニウムが含まれる。貴金属に対し，それ以外の金属を卑金属(賤(せん)金属)という。貴金属は産額が少なく非常に高価であり，化学的に安定で空気中や水中においてさびることがなく，つねに美しい金属光沢をもつ。これらの貴重な性質・価値を利用して工芸装飾用・化学工業用などに独特の用途をもっている。金の生産は大部分専業企業によって採掘精練されている。一方，銀は銅・鉛・亜鉛など他の金属を生産する際の副産物として生産される場合が多い。

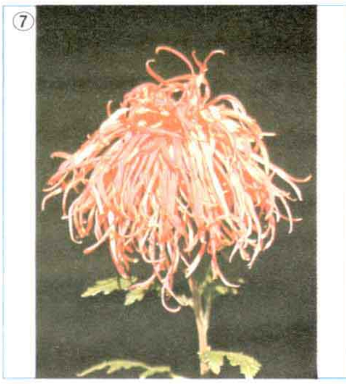
〔草川隆次〕

きく【菊】 双子葉植物・キク科。古くから観賞植物として栽培されている多年草で，多くの系統や品種が知られている。

【歴史】わが国で現在栽培されているキクが，どのような野生植物を原種として改良されてきたかについては，日本に自生するノジギク・シマカンギクなどの野生ギクが栽培ギクの原種であるという本邦固有説と，

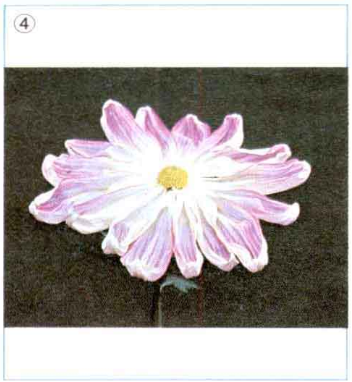
キ　ク

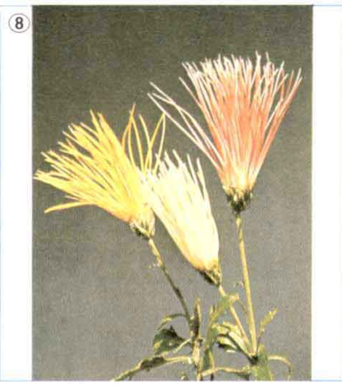
① 厚物盛り上げ
② 厚物走り付き
③ 細管
④ 一文字菊
⑤ 美濃菊
⑥ 中菊　（左が褄折抱，右が丸抱）
⑦ 伊勢菊
⑧ 嵯峨菊
⑨ 肥後菊
⑩ 丁字菊大輪
⑪ 山菊
⑫ 八重咲
⑬ 丁字菊小輪
⑭ 魚子菊


⑦


⑪

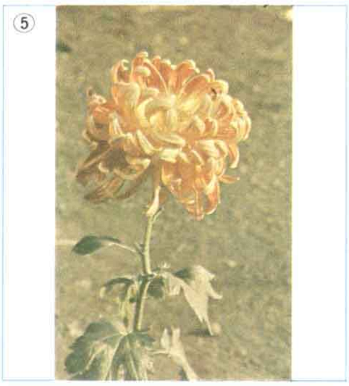

①

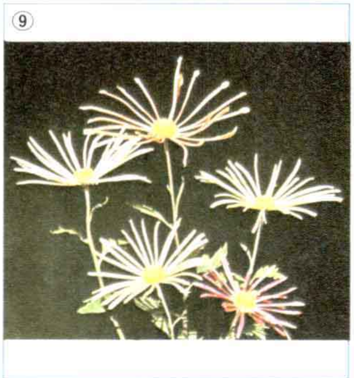

④

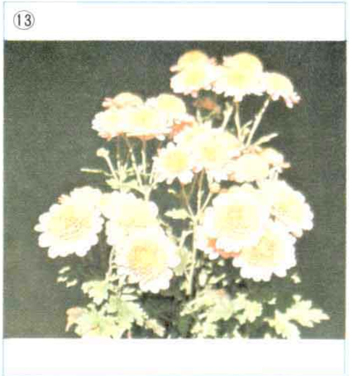

⑧

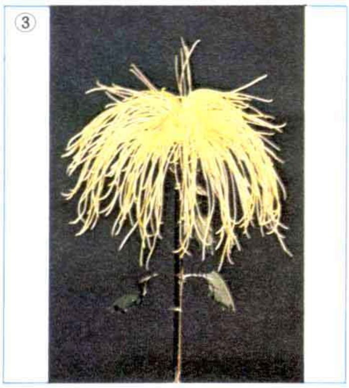

⑫

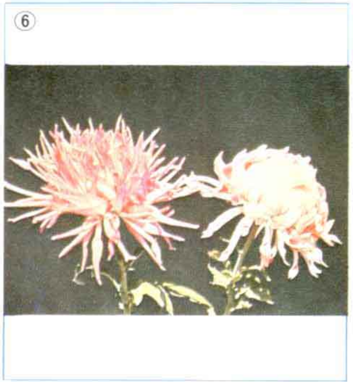

②


⑤


⑨


⑬


③


⑥


⑩


⑭

798年(延暦17)ごろに中国である程度改良されたキクが渡来し，わが国でさらに改良が重ねられたという渡来説などがあるが，現在の学者間では渡来説が有力視されている。しかし，その当時のキクはどの程度の大きさと花容を呈していたかは，文献もなく想像すらしにくいが，栽培の歴史が相当古いことは事実である。キクの栽培は時代によって盛衰があったようであるが，京都を中心として貴紳名門の間で栽培され，江戸時代に至って急速に民衆化されて，多くの人々が愛栽するようになった。特に元禄(げんろく)・正徳・享保(きょうほう)・宝暦の各時代に栽培技術の進歩をみせ，観賞の方法にも趣向が加えられ，また栽培に関する著書も刊行されたという。なお，栽培と観賞が盛んになるにつれて実生法の技術も発達し，数多くの新花が育成され，元禄のころには新花を出品してその優劣を競う〈菊合わせ〉という催しが盛んに行なわれたようである。また，正徳・享保のころ，京都では大輪のキクが流行し，江戸では中輪のキク（現在の中菊で，江戸菊ともいう）が盛んに栽培された。明治初期には，その栽培は一時衰微したようであるが，国政の安定と交通の発達に伴って漸次復興し，1878年(明治11)に皇室で観菊会を催すようになってから各

地の栽培もいっそう熱が高まり，愛好者の団体もあちらこちらで発足して，毎秋品評会が開かれるようになった。明治末期から大正にかけていよいよ盛んとなり，昭和初期にはついに全盛をみるに至った。日中戦争の始まった1937年(昭和12)から1948年ころまでは衰退のやむなきに至り，一部の愛菊家によってようやくその命脈をささえたにすぎなかった。しかし，その後世相の回復とともに愛菊家も年々数を増し，各地で盛大に品評会や陳列会が行なわれるようになっており，再び昭和初期のような隆盛がみられるのもさほど遠くないと思われる。

〔園芸上の分類〕栽培ギクは，花の咲く時期によって春ギク・夏ギク・秋ギク・寒ギクに分けられるが，ふつうキクというと秋ギクをさすので，ここでも秋ギクの花容について述べる。なお，秋ギクとはいっても最近ではシェード栽培の発達によって，四季を問わず花屋の店頭をいろどっている。

〈大輪種〉①厚物盛り上げ：数多くの平弁が，外側から内側に規則正しく重なり合って花芯(かしん)(筒状花)を露出せず，こんもりとしかも整然と盛り上がっているもの。②厚物走り付き：前者に比べればいくぶん盛り上がりが低い感じがあり，外側の花弁(舌状花)は管弁で放射状に四方に力強く走り，かつ内弁との調和を保持して雄大な花容となるもの。③大摑(おおつか)み(奥州菊)：青森県八戸(はちのへ)市を中心として発達したもので，一見厚物走り付きに類似するが，花弁は大匙弁(おおさじべん)と管弁からなり，弁数は少なくて長く，内部の花弁は物をわしづかみしたように中心に向かって大きくかかえ込み，周囲の管弁は雄大で豪快な風格を保ち，大輪種中の白眉(はくび)ということができよう。④太管：管弁からなり，周囲に長く放射状に走る外弁は，厚物走り付きの花弁よりもやや細く，内部の花弁は先端が玉巻きとなり，整然と重なり合って花芯を現わさないもの。⑤間管：太管と細管の中間のもので，太管と同じく外周の弁は長く伸び，内部を形成する玉巻き弁は長短なく重なるもの。⑥細管：花容は太管・間管同様であるが，管物菊の中では管弁の直径が2㎜内外といちばん細く，優雅なものである。なお，細管よりもさらに細いものを針管という。⑦一文字菊(広のし)：一重咲きで，幅広い平弁は先端が袋状に湾曲し，各弁はすきまなく四方に開いて満開となるもので，弁数は16～18が標準である。花の形が皇室の紋章に似ているところから，御紋章菊ともいう。⑧美濃菊(みのぎく)：平弁で三重・四重になり，外部の弁は長く，内部の弁はやや短くいくぶん花芯を包むような花形となる。蓮(はす)咲きともいう。なお，①②をふつう大菊といっている。

〈中輪種〉①中菊(狂い菊・江戸菊)：花の直径が8～10cmほどで，外周に管弁，内部の約3分の1が匙弁，3分の1が平弁からなる。咲きはじめはいったん花芯を現わし，開花が進むにつれて内部の平弁が形を整えながら花芯を包んで満開となる。満開となった花容によって褄折抱(つまおれがかえ)・追抱・丸抱・露芯抱・乱抱・自然抱に分けられる。②伊勢菊(いせぎく)：細い平弁からなり，弁先が二又や三又に裂けた奇形弁が混じる。咲きはじめは弁がちぢれ，花の進むにつれて弁が伸びてたれ下がり，花芯を現わさず満開となる。なお，外周の弁が長くたれ下がるものほど良花とされる。③嵯峨菊(さがぎく)：細い平弁からなり，咲きはじめはいったん四方に乱れ咲き，開花の進むにつれて各弁がよじれて立ち上がり，全部が立ちきって満開となる。花弁が長くて先端がそろい，引き締まって立ち上がるものが良花とされる。④肥後菊：平弁からなるものと，管弁からなるものの2種類があり，大きさは8～9cmが標準。花芯はあまり大きくなく，各弁は長短なく弾力性があり，弁と弁の間は規則正しいすきがあり，力強く放射状に開いて満開となる。清楚(せいそ)にして気品があり，やさしい感じの花である。⑤丁字菊大輪：筒状花の花芯が特に発達してこんもりと盛り上がり，外周の舌状花との調和もよく，一見造花のような感じがある。また外周の弁には平弁・匙弁・管弁の3種があり，花色は内部と外部で異なる。

〈小輪種〉①山菊：野生ギクを改良したもので一重咲き，花径3cm内外。匙弁・平弁などがあり，野趣に富んでしかも気品がある。文人菊ともよばれる。②八重咲き：平弁のものが多く，規則正しく幾重にも重なり，四方に開いて満開となる。花径は山菊と同じくらい。③丁字菊小輪：丁字菊大輪と同様の花容を呈するが，花径が1.5～2.5cmと小さい。①②③はおもに懸崖(けんがい)づくり，盆栽づくりに使用される。④魚子菊(ななこぎく)：ごく小さな平弁が幾重にも重なって丸くなり，満開となった花容は寄り合った魚の卵を思わせるところからこの名がある。⑤薊菊(あざみぎく)：花弁は1.5cmほどの長さで糸のように細く，ちぢれて咲き，満開となったものはアザミの花に似ているところからこの名がある。

このほか観賞用ではなく，食用とする料理ギクがある。これは平弁と匙弁が混じり，黄色の中輪で，八戸市を中心として東北地方に多く栽培されている。ふつうのキクよりもかおりが高く，菊のり・つけ物などのほか，いろいろの料理に利用される。しかし，ふつうのキクでも料理ギク同様に，花はもちろんのこと，葉も揚げ物にして食べられる。〔宮村了三〕

きくあわせ【菊合】平安時代の宮中行事の一。起源は中国にあると思われる。丹精をこめたキクを州浜台(のちの島台)に植えて細工を凝らし，これに和歌を添えて，左右2組に分かれてキクと和歌の優劣を競う。9世紀末から10世紀にかけて盛んに行なわれ，《古今著聞集(ちょもんじゅう)》にその記録が残っている。中世には行なわれなかったらしいが，江戸時代以降には宮中行事としてよりも，武家や町人の間で行なわれるようになった。

きくいし【菊石】⇨アンモナイト

きくいも【菊芋】双子葉植物・キク科。北アメリカ原産の多年草。寒さに強く，昔は塊茎を食用とするために，現在では花を観賞するために栽培され，ときに野生化している。高さ2m以上に達する。葉は長い卵形で先がとがる。夏から秋にかけて直径7cmくらいのヒマワリに似た黄花をつける。塊茎はイヌリン*を含み，果糖製造の原料となる。塩づけにしたものは歯ざわりがよい。

きくおかけんぎょう【菊岡検校】(?～1849) 地歌の演奏家・作曲家。京都に住み，文化・文政から天保(てんぽう)(1804～1843)にかけて活躍した。代表作には今日でも京物*として愛好されている《茶音頭(ちゃおんど)》《夕顔》《笹(ささ)の露》などがある。これらは三弦の部分を同時代の八重崎検校が箏(そう)用になおしたため，さらに普及した。

きくか【菊科】双子葉植物・合弁花類に属する。世界に広く分布し，約1,000属20,000種があり，日本には70属360種がある。多くは草木または低木で，ときに高木になる。一見花のように見えるのは実は多数の花が集まったもので，頭花(頭状花序)とよばれる。キク科をさらに茎や葉を切ると白い乳液の出るタンポポ亜科と，乳液の出ないキク亜科とに分ける。前者にはフキ・ノゲシ・ニガナなど，後者にはアザミ・コウヤボウキ・ヒヨドリバナなどが含まれている。〔加藤僖重〕

きくがしらこうもり【菊頭蝙蝠】哺乳(ほにゅう)類・翼手目・キクガシラコウモリ科。体長6.5cm，前腕長5.8cmほどで，翼を広げた長さは30cm以上に達する。体はコハク色。北アフリカ・ヨーロッパから朝鮮・日本にまで広く分布。洞窟(どうくつ)・樹洞などにすみ，暗くなると飛び出し，ガやハチなどのこん虫を食う。

きくかせき【菊花石】⇨きっかせき

きくがわ【菊川(町)】静岡県小笠(おがさ)郡に属する，県中南部の町。人口26,000。1954年(昭和29)堀之内(ほりのうち)を中心に1町4村が合併して発足。東海道本線に沿い，最近東名高速道路のインターチェンジが開設された。米と茶を産し，鋳物・農業機械の工場もある。

きくぎょさく【菊御作】後鳥羽(ごとば)上皇みずからの作になる刀剣をいい，茎(なかご)に菊花紋の毛彫りがあることからの称。〈きくのおんさく〉ともいう。上皇は，北条(ほうじょう)氏の討伐を企図し，これに備えて士気を鼓舞するため，京粟田口(あわたぐち)派や備前・備中(びっちゅう)(岡山県)から刀工を御所に召して，月番を決めて鍛刀させた。

きくじどう【菊慈童】能の曲名。作者

不明。観世流以外では《枕(まくら)慈童》という(観世流には《枕慈童》という別曲がある)。四番目物。中国故事による。魏(ぎ)の文帝の臣下が薬の水がわき出る水源を見てくるように命令を受けて酈県(れっけん)山に行くと,700年西周の穆王(ぼくおう)のとき帝の枕をまたいだ罪でここに捨てられたが,枕に書かれた経文と菊の露のおかげで少しも年をとらず美しいままでいる慈童に会う。慈童は自分の長寿をそのまま文帝にささげようと楽を舞う。長い能を祝言(しゅうげん)用に縮めたもの。シテは慈童,ワキは勅使,ワキヅレがその従者。〔長尾一雄〕

きくしゃに【菊舎尼】(1753～1826) 江戸後期の女流俳人。姓は田上,名は道。長門(ながと)(山口県)長府藩士の娘。16歳で結婚,24歳のときに夫に死別して実家に帰る。のち28歳で尼になり,俳行脚(はいあんぎゃ)の途に上った。その足跡は北陸・奥羽・東海から九州にまで及び,生涯(しょうがい)を旅に過ごした。俳諧(はいかい)のほか,書・画・茶道・箏(そう)にもたんのうであった。著作に《手折菊(たおりぎく)》がある。

きくじゅつ【規矩術】 日本建築の構造・意匠において,部材の形状・寸法を割り出し,作図する立体幾何学的技法。日本建築の特色の一つは,屋根や軒まわりに微妙な曲線を用いる点にあるが,そうした優美な形態をつくりだすには,部材が単純な長方形断面のものばかりでなく,断面をひし形にしたり,材にねじれを与えたりなど,複雑な材形の調整を必要とし,また,傾斜する材では傾斜の角度や方向によって寸法が変化し,材と材との接合も複雑な角度と形状になるので,これらをあらかじめ正確に割り出しておかないと,施工を精巧にすることができない。このような数値計算や作図は,数学的に解析したり,平面図と立面図などから展開して図学的に結果を得ることも可能であるが,これらの途中操作の大部分を省略して,最終的な必要寸法と図形を直接加工材料上に作図することのできる実際的で能率的な技法が規矩術である。鎌倉時代にはいって急速に発達し,中世建築の精巧・緻密(ちみつ)な加工をささえる源泉となったが,近世にはいって発達が止まり,現代ではまったく衰退して,初歩の内容を習得した職人さえ珍しい。〔渡辺保忠〕

きくすずめがい【菊雀貝】 軟体動物・腹足類・スズメガイ科。巻き貝であるが,殻頂(かくちょう)が片一方に寄ったかさ形で,しかも殻表に太い放射状のみぞがついているため,二枚貝のアカガイのような外観を呈する。殻長2.5cm,殻高1cmほど,殻表は黄かっ色,内面は白っぽい。固着性だが岩にはめったにつかず,サザエやアワビのような大きな巻き貝についていることが多い。キクスズメガイに取りつかれた貝の表面は,この貝の形なりに,くぼんでしまう。雄は小さく,雌は大きい。雄は,雌の殻(から)の



菊池　寛



菊池契月《南波照間(はえはてるま)》1900 京都市立美術館蔵

上や雌の近くに付着しており,栄養条件がよいと大きく発育して雌になるといわれる。北海道南部以南,インド・太平洋水域に広く分布し,中部日本ではキクスズメガイのつかないサザエやアワビを捜すのがむずかしいほどである。〔菅野　徹〕

きくたかずお【菊田一夫】(1908～1973) 劇作家。本名数男。横浜市の生まれ。学業半ばで年季奉公をつとめるなど辛苦の末に劇作の道にはいり,1943年(昭和18)《花咲く港》の上演では喜劇の新生面を開いた。《がめつい奴(やつ)》など大衆演劇に徹した数多くの作品を生み,演出家としても活躍している。連続ラジオ-ドラマ《鐘の鳴る丘》《君の名は》は一世を風靡(ふうび)した。

きくち【菊池(市)】 熊本県北部の市。もと〈隈府(わいふ)〉とよばれ,平安末期に藤原氏の一族菊池氏の本拠地となり,約500年間県北地方の政治・文化の中心地であった。戦国時代以後は行政的機能は薄れたが,江戸時代にも引き続き商業や交通の要衝となった。1956年(昭和31)市制施行。人口29,000。菊池川とその支流流域に沿う平野部と阿蘇(あそ)外輪山西麓(せいろく)の広い林業地域を含む。山紫水明の地で,古来〈九州の京都〉とよばれている。産業三大別人口比は39:15:46。菊池米の産地として知られ,養蚕が盛んで,家畜市場ではウシ・子ブタの取引が行なわれる。南朝に忠節を励んだ菊池氏一族を祭る菊池神社がある。1954年北東部に温泉がわき出し,阿蘇国立公園に属する菊池川水源の渓谷美(けいこくび)と合わせて,温泉観光都市として発達。熊本電鉄が熊本市に通じ,国鉄バスが菊池川温泉郷を巡る。

きくちかん【菊池寛】(1888～1948) 小説家・劇作家。本名寛(ひろし)。香川県高松市の生まれ。中学校卒業後,東京高等師範学校など諸校に学んだのち,第一高等学校に入学,芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)・久米正雄(くめまさお)らと同級であった。卒業目前に退学,京都大学英文科(選科からのちに本科)にはいり,第3次・第4次の《新思潮》同人として戯曲・小説などを発表した。1916年(大正5)京都大学を卒業。時事新報社にはいり,かたわら創作に励んで,《無名作家の日記》《忠直卿(ただなおきょう)行状記》《恩讐(おんしゅう)の彼方(かなた)に》などの小説で文壇に認められた。《父帰る》など戯曲も好評を得たが,1920年の長編《真珠夫人》から通俗小説に力を注ぎ,《第二の接吻(せっぷん)》《三家庭》《貞操問答》などにより〈文壇の大御所〉とよばれた。また,1923年の《文藝春秋》創刊などジャーナリストとしての才能も発揮し,文芸家協会の設立など社会文化への貢献は大きい。〔岡　保生〕

きくちけいげつ【菊池契月】(1879～1955) 日本画家。長野県の生まれ。はじめ児玉果亭(こだまかてい)(1841～1913)に南画を,のち菊池芳文(1862～1918)に四条派を学び,その養子となる。初期文展以来,京都派の代表作家としてしばしば受賞し,清澄典雅な画風で知られた。1925年(大正14)帝国美術院会員に推され,のち京都市立絵画専門学校長・帝室技芸員となる。

きくちし【菊池氏】 大宰権帥(だざいのごんのそち)藤原隆家(たかいえ)の子孫が定着した肥後(熊本県)の豪族。源平の争乱に際して経直(つねなお)は平氏方につき,源頼朝(よりとも)に殺された。能隆(よしたか)は鎌倉幕府の御家人となったが,承久の乱で京方となり所領を削られた。武時(たけとき)以後,武重・武士(たけひと)・武光(たけみつ)・武政(たけまさ)・武朝らは南朝に属し征西将軍宮懐良(かねなが)親王と結んで勢力を広げたが,室町幕府の成立によって衰微し,のち大友氏に滅ぼされた。

きくちだいろく【菊池大麓】(1855～1917) 数学者。蘭学者(らんがくしゃ)の箕作阮甫(みつくりげんぽ)の孫。1861年(文久1)蕃書(ばんしょ)調所に入学,9歳で句読(くとう)教授当分助となり,人に教えるほどであった。洋学者神田孝平から西洋数学も習っている。1866年(慶応2)・1870年(明治3)の2回にわたりイギリスに留学し,ケンブリッジ大学の数学科を優秀な成績で卒業した。1877年に帰国後,その年にできた東京大学の理学部教授となった。その後,東京大学理学部長・総長,文部大臣,帝国学士院長を歴任し,男爵を授けられた。わが国の数学を育てた功労者である。〔下平和夫〕

きくちたけとき【菊池武時】(1272～1333) 鎌倉末期の肥後(熊本県)の武将。

1333年(元弘3・正慶2)後醍醐(ごだいご)天皇の隠岐(おき)(島根県)脱出に呼応して九州で挙兵し，鎮西探題北条英時(ほうじょうひでとき)を博多(はかた)に攻めたが，少弐貞経(さだつね)・大友貞宗(さだむね)の離反によって敗死した。

きくちたけみつ 【菊池武光】(?～1373) 南北朝時代の武将。武時の子。1348年(正平3・貞和4)菊池本城に征西将軍宮懐良(かねなが)親王*を迎え，これをたすけて南朝*の九州の本拠を築き，大友・少弐氏ら北朝*方の武将と戦い，1361年(正平16・康安1)少弐氏を筑前(ちくぜん)(福岡県)に破って大宰府(だざいふ)を占領したが，1372年(文中1・応安5)九州探題今川貞世(さだよ)(了俊)を中心とする北朝軍に圧倒され，衰微した。



菊池武光
熊本県
菊池神社蔵

きくちゆうほう 【菊池幽芳】(1870～1947) 小説家。本名清。水戸(みと)の生まれ。教員生活ののち，《大阪毎日新聞》の記者をつとめ，同紙に連載小説を執筆，また文芸誌《この花草紙》を創刊して明治時代関西文壇の重鎮と仰がれた。《己(おの)が罪》《乳姉妹(ちきょうだい)》などは明治家庭小説の代表作で，脚色・上演された。

きくちようさい 【菊池容斎】(1788～1878) 幕末から明治初期にかけての画家。名は武保(たけやす)，量平と称した。容斎は号。与力(よりき)の家に生まれ，画を狩野(かのう)派*に学ぶ。のち諸家の法を兼学し，ことに古典大和絵(やまとえ)と有職故実(ゆうそくこじつ)を研究して，歴史画に新生面を開いた。

きぐつ 【木靴】 ⇨サボ

きくにんぎょう 【菊人形】 キクの季節に，キクの花葉を用いて，人物・花鳥・動物，その他有名な劇の場面などを細工する見せ物。古くは菊細工と称し，文化年間(1804～1817)に江戸麻布狸穴(まみあな)で植木屋たちによって始められ，次いで巣鴨(すがも)染井でつくられて一躍有名になった。菊人形を陳列した小屋をつくり，最初は茶店を設けて茶代を収益としたが，しだいに木戸銭をとる見せ物となった。現在では千葉県習志野市の谷津(やつ)遊園，大阪府枚方(ひらかた)市の菊花園，茨城県笠間(かさま)市の笠間稲荷(いなり)などが著名である。〔渡辺欣雄〕



菊人形　千葉　谷津遊園

きくばたけ 【菊畑】 ⇨鬼一法眼(きいちほうげん)三略巻

きくはんとう 【企救半島】 福岡県東北部，九州の東北端に突出する本州に最も接近した半島で，関門海峡の最狭部である早鞆ノ瀬戸(はやとものせと)では本州と約630m隔たるにすぎない。半島の大部分は北九州市門司(もじ)区で，西部の一部が小倉区に属している。半島は企救山地からなり，南西部の足立(あだち)山(598m)を最高点として北東方に低くなっている。西側の関門海峡側は山地が海岸まで迫り，海岸線に沿った細長い低地から背後の山腹に門司の市街地が延びている。東側は裏門司ともよばれ，比較的ゆるやかな傾斜をなし，出入の多いリアス式海岸をなしている。入り江には農漁業集落が見られたが，最近は裏門司総合開発計画による臨海工業地域の建設のため埋め立てが進められている。半島の西側中央部にあたる大里には関門鉄道トンネル，北部の古城山南麓(なんろく)には関門国道トンネルの入り口があり，また早鞆ノ瀬戸には1973年(昭和48)完成の予定で関門架橋の建設が進められている。この瀬戸に臨む和布刈(めかり)から部崎(へさき)までの北部海岸は瀬戸内海国立公園に指定されている。〔味沢成吉〕

きくも 【菊藻】 双子葉植物・ゴマノハグサ科。暖かい地方の水田や池などの浅くよどんだ水中や，ときに湿地にはえる多年草。全体にかおりがある。地下茎が長く，節からひげ根を出す。茎は長さ10～30cmで水中にあるが，ときには水上に出る。葉は糸状に裂けたものが輪生する。夏から秋にかけて，葉のつけ根に紅紫色の筒形をした1cmほどの花をつける。

キクユぞく 【キクユ族】 ケニアのナイロビ周辺の有力な農耕種族。人口120万。初代のケニヤッタ現大統領を出し，文化的・政治的に最も開けている。回教化はキリスト教化に比べ少ないが，伝統的呪術(じゅじゅつ)信仰も根強く，一部では割礼*成年式も行なわれている。独立前の対白人秘密結社の中心で，年齢階梯(かいてい)の政治制度をもっていた。

きくらげ 【木耳】 担子菌類・キクラゲ科。春から秋にかけて広葉樹の枯れ枝・倒木・切り株上に群生する寒天質のきのこ。形は耳形・半円形で，さら状やわん状の不整形である。かさの大きさは3～7cm，厚さは2mmぐらいである。かさは互いに癒着(ゆちゃく)している場合が多く，下面が付着木に密着している。上面はかっ色で，湿っているときは寒天状であるが，かわくと紙状になる。中国料理に使用され，人工栽培が行なわれている。近似種により大形で肉は薄く，あらい毛におおわれたアラゲキクラゲ*がある。〔曾根田正己〕

キクラデス(諸島) [Cyclades] エーゲ海南部にある群島。ギリシア領。大小200余の島からなり，行政上は全島がギリシアの一県となっている。総面積2,577km^2，人口99,000(1961)。かつて貿易港として栄え，政庁エルムポリスのあるシロス島，レモンとぶどう酒の産の多いナクソス島，良質の大理石を産し，古代彫刻石材の供給地であったパロス島は特によく知られる。気候は地中海式気候で，産業は農牧業である。BC1000年ごろギリシア人が先住民を追って定住し，ペルシア戦争のころ一時ペルシア領となった。戦後デロス同盟に加盟し，やがてマケドニア，続いてローマに支配された。中世以後もベネチア・トルコ・ギリシア・ドイツと支配国が変わっている。〔大崎　晃〕

キクロペス ⇨キュクロペス

きけい 【奇形】 生物は，発生の条件などの違いから，個々の大きさや形態などはまちまちであるかのように思えるが，普通はそれぞれの種類によってある一定の変異の範囲内にとどまる。この変異の範囲を越えるような場合を奇形という。奇形には過剰形成・過少形成などの量的な異常，配列の異常，それらが組み合わさったものなどがある。量的な異常には，器官や部分の重複や欠損，色素の過剰による黒化や欠損による白化，巨大化や矮性(わいせい)化などが含まれる。配列の異常には，左にあるべき心臓が右にあるものや，果実の先に葉がつくものなどが含まれる。このほか，シャム双生児のように，本来は2個体になるべき一卵性双生児が，なんらかの原因によって分離が不完全になったものがあるが，これは量的な異常の一つとも考えられる。イモリの卵が分割して2細胞になったときにくびれ目を細い糸で完全にくびり切ると，それぞれが別個に発生して2個体となるが，完全には切らずに1部分を残しておくと，シャム双生児のようにからだの一部分がついたままの重複奇形ができる。また，このような機械的な手段ばかりではなく，薬品・放射線・ウイルス・ビタミン欠乏・酸素欠乏なども奇形をつくることや，発生のある時期には奇形形成が起こりやすいことがしだいに明らかにされてきている。妊婦がサリドマイドを服用したために起こったサリドマイド奇形なども，発生のある時期に薬品が奇形を起こしやすい例である。すでに

完成した個体でも，再生をするときに元来の形態と異なる奇形を生じることが知られている。たとえば，ザリガニの眼を眼柄の基部で切断すると，眼の位置に触角が再生して奇形となるが，眼を先端の部分で切れば正常の眼が再生する(→異形再生)。なお，奇形は人々の目につきやすいためか，昔から伝説や物語に現われることが多く，一つ目の巨人キュクロペス，家畜の神で半人半獣のパンなどがある。わが国の八岐大蛇(やまたのおろち)・一つ目小僧や千手観音も一種の奇形ということができよう。→奇形児

〔蒲原春一〕

ぎけいき【義経記】 室町初期の軍記物語の一。源義経(よしつね)の幼年時および平家を討ったあと兄頼朝(よりとも)に追われて衣川の館(やかた)に死ぬまでの落魄期(らくはくき)を中心とする一代記。平家追討に活躍するころの義経の記述は省略されている。早くから地方で行なわれていた〈判官びいき〉の義経伝説が，室町期にはいって京都でまとめられたとされるが，構想にやや不自然さがみられる。《平家物語》と異なり，義経が眉目(びもく)秀麗な貴公子として造型されている点や，家来弁慶のこっけいな所行と活躍ぶりが大きく扱われ，失意の英雄義経と対照的に描かれている点などに，義経に対する深い同情が読み取れる。後代の浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)などに大きな影響を与えた。

〔信太　周〕

きけいじ【奇形児】 遺伝または胎内生活中の異常によって発育異常のまま生まれた児。子宮内で胎児が死亡したり，または生まれてまもなく新生児が死亡する原因の10～20%は先天的奇形による。しかし死亡は奇形による障害の一部であって，生存児の中にもかなりの頻度(ひんど)で先天的奇形が見いだされる。奇形はさまざまな原因によって起こるが，主として次のようなものに分けられる。①遺伝因子に障害がある：この場合には，ふつう妊娠初期に胎児が死亡し流産することが多い。障害が少ないと胎児は死亡しないで成長し，ダウン症候群・ターナー症候群・クラインフェルター症候群・兎唇(としん)・口蓋裂(こうがいれつ)などの奇形や精神薄弱のような先天性障害児となる。②妊娠初期の胎児感染：よく知られているのは風疹(ふうしん)ウイルス感染である。ウイルスにより胎児のいろいろな臓器の形成・発育が妨げられ，白内障・心臓奇形・聾(ろう)などになる。またトキソプラズマ感染による水頭症もある。③妊娠初期の放射線曝射(ばくしゃ)：強い放射線曝射を受けると小頭症が起こる。④妊娠初期の薬剤服用：妊娠初期に服用した薬剤が胎児に移行し，奇形を発生させる。サリドマイドによるあざらし状奇形が有名である。副腎皮質ホルモンや黄体ホルモンによる奇形も報告されている。

先天的奇形を生前に，すなわち胎児が子宮内にいるうちに，診断することはきわめてむずかしい。奇形の発生を予防するには，妊娠初期にいろいろな感染(風疹・トキソプラズマなど)を受けないように注意し，胎児奇形を起こす薬剤の服用は避け，無用な放射線曝射は避けることである。なお，血族結婚の場合には潜在した劣性遺伝因子が重なり合って表面に出る危険性があり，奇形の原因にもなるので避けたほうがよい。

〔木川源則〕

ぎげいてん【伎芸天】 仏教神話の天女。大自在天が天界において諸伎楽をするとき，その髪ぎわより化生したと伝えられている。容姿端正で，伎芸はこれにまさるものはないとされ，諸芸成就・福徳円満をつかさどる神として尊ばれる。像は，天衣服を着け，瓔珞(ようらく)に身を飾り，左手に花を盛ったさらをささげるのが特色。秋篠(あきしの)寺の伎芸天立像(重要文化財)は古像として知られるが，天平(てんぴょう)時代につくられた乾漆造りの頭部に，鎌倉時代につくられた木造の体部を修補したものである。

〔玉山成元〕

きげき【喜劇】 笑いや明るさを呼び起こす演劇の総称。悲劇とともに演劇の二大ジャンルの一。明治以後コメディの訳語として用いられ，高尚(こうしょう)な文芸作品から大衆演芸にまで適用される。一般に，悲劇が高貴な主人公の運命を荘重な気分で描くのに対して，普通以下の人間を明るい気分で描き，また機知・ユーモア・風刺などによって社会の矛盾をあばくものとされ，必ずしもこっけいや卑俗さを主にしたものではなかった。ヨーロッパでは，古代ギリシアの初冬のディオニュソス祭における行列歌(コモーディア)に始まり，ローマ喜劇から中世のファルス(笑劇)や謝肉祭劇などと展開して，近世のイタリアやスペインの喜劇において頂点に達し，シェークスピアやモリエールによって文学的完成をみた。わが国では，天鈿女命(あめのうずめのみこと)の岩戸の舞に始まり，中国伝来の散楽から狂言となって完成した。人形浄瑠璃(じょうるり)や歌舞伎(かぶき)にも喜劇的要素が混在しており，明治以降移入されたヨーロッパ的喜劇の手法と合わせて，今日の演劇・文学のあらゆるジャンルに浸透している。

〔大島　勉〕



キケロ

キケロ［Marcus Tullius Cicero］(BC106～BC43) 古代ローマの弁論家・政治家・哲学者。騎士身分の家がらの出身。弁論術によって世に出ることを志し，25歳のとき，はじめてフォルムで演説をして名をあげた。その後アテナイで哲学・修辞学を研究したが，ストア派のポセイドニオスの影響を最も強く受けた。BC76年ローマに帰国したのち，弁護士としての名声はとみに上がり，政治家としての道も開け，しだいに昇進した。その間，シチリアに財務官として在任したのち，ローマで行なったシチリア総督ウェルレスの不当取得を弾劾した〈ウェルレス弾劾演説〉や，ポンペイウスを支持した〈マニリウス法賛成演説〉などで名を高め，BC 64年ついに執政官となった。このころ，ポプラーレス(民衆派)からオプティマーテス(閥族派)に政治的立場を変更した。彼は執政官としてカチリナの陰謀を迅速に処理する功績をあげたが，やがてカチリナ派に対する刑の執行の合法性が問題とされ，民衆派の運動によってローマから追放された。BC57年帰国を許されてのちは，ポンペイウスとカエサルの不和の間にあって彼の政治的立場は不安定となり，両者の内戦に際してポンペイウスに味方したが，その敗死後，カサエルの仁慈によって赦免された。しかし，それ以後，カエサルの暗殺まで政界を退き，もっぱら研究と著述に従事した。カエサル暗殺後，オクタビアヌス(のちのアウグストゥス)に味方してアントニウスを攻撃する一連の〈反アントニウス，フィリッピカ演説〉をあいついで発表した。しかし，この両将を結合する第2次三頭政治が成立すると，アントニウスの意にオクタビアヌスも従い，キケロはその凶刃に倒れた。彼の著述としては，58編現存する弁論のほかに，公私の生活にわたる書簡が800通近くも残っており，この時代のローマ社会を知る上で貴重な史料である。そのほか，哲学・法律学などに関する著作として，《国家論》《法律論》《弁論家論》《トゥスクルム論叢(ろんそう)》《神性論》《卜占論(ぼくせんろん)》《運命論》《老年論》《友情論》《義務論》など多数を残した。哲学者としての立場は折衷的であるが，ストア派に最も近く(ただしその運命論を退け，自由な意志を認めていた)，エピクロス派にも精通していた。

〔弓削　達〕

きけわだつみのこえ【きけわだつみの声】 第2次世界大戦で戦没した学徒兵の遺稿集。副題《日本戦没学生の手記》。日本戦没学生手記編集委員会編，1949年(昭和24)刊行。全国から公募された遺稿の中から，75名の日記・覚え書き・手紙を編集したもので，死に直面させられた若い学徒兵の悲痛な魂の叫びは社会に大きな反響をよび，これをきっかけに日本戦没学生記念会(通称わだつみ会)が結成された。1950年に映画化(関川秀雄(ひでお)監督)され，1959年には同記念会によって新版と第2集が刊行された。

類書に,東京大学出身者の遺稿集《はるかなる山河に》がある。

きけん 【気圏】 大気圏ともいう。地球を取り巻く大気が占めている部分。水圏・岩石圏に対していう。気圏のうち地表から高さ8～18kmまでが対流圏，その上約50kmまでが成層圏，その上約80kmまでが中間圏，その上約800kmまでが温度圏。

きげん 【紀元】 政治的・宗教的あるいは天文学的事象に基づき，ある特定の年を起算点として国や民族の経過してきた年数を計算することを紀年法といい，紀の起算点を紀元という。これまで約50種の紀元が使われているが，その多くは小区域的で継続的でない。古代国家では政治的な紀元，すなわち王の即位などをとって統治年数を計算しているものが多いが，フランスの革命暦はフランス革命で共和制を採用した年(1792)を紀元とし，14年間使われた。宗教的なものではキリスト誕生の年(実際はBC4年という)を紀元にするキリスト紀元(西暦)が広く使われている。表示のＡＤはラテン語Anno Dominiの略で〈主の年〉を意味し，BCは英語before Christの略で西暦紀元前を表わす。イスラム教徒の中で使われているヘジラ紀元は，マホメットが圧迫されてメッカからメディナへのがれた年(622)を紀元にしており,仏滅紀元はブッダの死を紀元とするものでセイロンなどで用いられている。特殊なものにギリシアのオリンピアードがある。これはBC776年に開催した第1回の古代オリンピック競技の年を紀元とし，最後の競技が行なわれた393年まで使用されたが，4年に1回の競技のため，他のギリシア諸市では4分の1オリンピアードを1年とした。日本では1872年(明治5)，《日本書紀》に従って神武天皇即位の年を紀元とする皇紀(神武紀元)が取り上げられた。《日本書紀》についてはすでに江戸時代に本居宣長(もとおりのりなが)らが，また明治時代以降は那珂道世(なかみちよ)をはじめとする史学者が疑義を出し，誤りを指摘していたが，特に第2次世界大戦中の紀元2600年(1940)行事に象徴される軍国主義高揚の中で公式に使用され，終戦まで続いた。〔安達淑子〕

ぎげん 【魏源】 (1794～1856) 中国，清(しん)末の公羊(くよう)学者(→公羊学派)，経世思想家。字(あざな)は黙深。湖南省邵陽(しょうよう)の人。陶樹・林則徐の幕友として塩政・漕運(そううん)・河工・あへん問題に尽力した。名著《海国図志》は，中国の外務官僚や日本の幕末の志士に影響を与えた。

きげんせつ 【紀元節】 1872年(明治5)11月公布の太政官(だじょうかん)布告で制定された祝日。《日本書紀》に辛酉(しんゆう)の年1月1日(正月朔(ついたち))とあるのを，太陽暦の暦日に換算して1月29日を神武天皇即位の日とし，祝日に定めた。1873年3月，名称を紀元節と改め，10月にはその日を2月11日に定めた。すでに同年1月には民間にも行なわれていた宮廷の五節句を廃止しており，天長節と並んで紀元節は重要な祝日となった。1889年2月11日に明治憲法が公布されたとき紀元節奉祝歌がつくられ，大正末期には在郷軍人会などによる民間の建国祭奉祝行進などが行なわれ，第2次世界大戦の終結まで軍国主義高揚の祝日となった。戦後祝日の再検討が行なわれ,1948年(昭和23)，〈国民の祝日に関する法律〉の制定となり，紀元節は廃止となった。しかし1952年の講和条約調印以後，紀元節の祝日化の動きが起こり，賛否の論議をよんだ。紀元節を2月11日とする史的根拠，《日本書紀》の神武天皇に関する記述の信憑(しんぴょう)性その他をめぐる意見のほかに，過去の実情から紀元節の祝日化は軍国主義復活につながるという不安が表明された。しかし，1966年6月〈国民の祝日に関する法律改正案〉が可決成立し，同年12月9日,建国記念日として新たに国民の祝日の一つに加えられた。〔安達淑子〕

きげんつきてがた 【期限付き手形】 手形金額の支払いに一定期間の猶予が認められている手形をいう。手形の支払い期限のことをユーザンスとよぶところから，期限付き手形はユーザンス-ビルともよばれている。➔ユーザンス

きけんなかんけい 【危険な関係】 ラクロの書簡体小説(1782)。18世紀後半のフランスの腐敗した貴族社会を背景に繰り広げられる悪徳と人間心理を描いた高度な文学作品である。バルモン子爵を中心にしたさまざまな男女の誘惑の模様が，各人物の書簡によって巧みに構成されている。

きけんふたん 【危険負担】 双務契約において，一方の債務が債務者の責によらないで履行不能となり消滅した場合，だれがその損失を負担しなければならないかの問題である。たとえば,売買契約の締結後，その目的物である家屋が落雷により焼失したような場合,その代金支払い義務はどうなるかという問題である。民法は，特定物の売買その他の契約については債権者(ここで債権者とは家屋を買い取る者，債務者とは家屋を売り渡す者をいう)が負担するものとし(民法534条),その他の場合は債務者が損失を負担するものとしている(民法536条)。そのため,前述の例でいうと,家屋の買い主は焼失した家屋の売買代金を売り主に支払わなければならない。なお,請負の場合は，その仕事の完成前の損失については，請負人がその損失を負担しなければならないが，仕事完成後で，あとはただ引き渡すだけの状態にあるときの危険負担は注文者に存することは注意を要する。〔黒木三郎〕

きけんゆうがいぎょうむ 【危険有害業務】 労働基準法が未経験労働者，技能のない者，18歳未満の者，または女子に禁じている物理的危険業務(同法49条・63条)。これは本人の生命の安全のみならず，同僚労働者・住民の安全に対する危険防止のためでもある。これに違反すると6か月以下の懲役または5,000円以下の罰金に処せられる(同法119条)。〔木元美代子〕

きご 【季語】 連歌・俳諧(はいかい)において，春夏秋冬の季感を表現するために特によみこむことが定められた語。季詞，季の詞，四季の詞，四季の題，季題，季の題などともいう。ただし，主として明治以後には発句の季語のことを特に季題という。季語・季題の歴史は古く，その成立は《万葉集》のころにまでさかのぼれるが，ほぼ室町時代の連歌で確立し，江戸時代の俳諧では季語の数が年を追って増加した。またしだいに連句から発句中心に移るにしたがって，発句の季語は単に季語を示すのみならず，17字という短詩形の表現不足を補う役をもになうようになった。季語を集めて分類整理したものを〈季寄(きよせ)〉といい，《歳時記》は最もよく知られている。なお，明治以後季語の内襲化に伴い，無季俳句の運動も提唱されている。〔弥吉沙恵〕

きこう 【気候】 1年を周期として規則的にくり返す大気の現象，およびしばしば起こる異常な天気現象をいう。ある限られた特定の時点での大気現象は気象とよび，気候とは区別している。気候の表現には特定の場所の過去の気象資料を統計的に処理して，大気現象の平均化された状態を求めて示される。ユネスコの世界気象機構では1901～1930年までの30年間の平均値をとっている。また，台風や雷雨のように回数が問題となるものは，年間の回数で表現することもある。

気象資料となる個々の大気現象を気候要素といい，気温・風・降水・湿度・蒸発・雲量・日照などがあり，これらを数量で表わして組み合わせれば，気候の特徴が表記できる。気候要素の原因となるものを気候因子といい，緯度・海抜高度・水陸分布・地形・海流などがある。緯度によって，太陽からの受熱量が異なり，そのため大気の環流が生じて地球上の大気の状態の大要が決定される。また，降水の原因となる大気中の水分は，海洋・地表からの蒸発や植物の呼吸によって供給されるが，その量は気温や湿度によって決定され，風によって運ばれる。これらの条件によって，地球上の大気は異なった性質をもった気団に分かれるが，最近では各種の天気や気候の発現を気団の解析や移動を通してとらえる動気候学の立場がある。

地表にみられるさまざまの気候を類型化することを気候区分という。その方法には二つの立場があり，自然植生を指標としたケッペンの結果的気候区分と，それぞれの気候を生み出す気団の出現状態をもとにしたフローンやアリソフの原因的気候区分が代表的なものである。

気候は，地球上の生物・無生物を問わず，あらゆるものにいろいろの面で影響を与えており，人間活動や自然のありさまには，気候の影響を直接・間接に認めることができる。〔小栗宏・桑原正見〕

きこう【気孔】高等植物の葉や茎にあり，孔辺細胞によってできる細いすきまで，二酸化炭素・酸素・水分の出入り口。気孔の開閉は孔辺細胞の膨圧の変化によって起こり，膨圧の高いときには開き，低いときには閉じる。孔辺細胞は表皮細胞の変化したもので，葉緑素をもち，半月形を呈する。孔辺細胞の働きを助ける副細胞をもつものもある。気孔は一般に葉の上面よりも下面に多いが，アヤメなどのように両面にほぼ等しいもの，スイレンなどのように上面のみにあるものもあり，また茎には存在しない植物もある。大きさはトウモロコシでは幅4μ，長さ26μほどで，$1mm^2$に50～300個あり，1本あたりでは2億個に達するという。なお，孔辺細胞の膨圧変化の機構については，まだ解明されておらず，今後の研究が待たれている。〔高島文三〕

きこうじょうさん【気孔蒸散】高等植物の体内から水分が水蒸気の状態で葉にある気孔を通して排出する現象。葉の細胞間隙(かんげき)の水蒸気圧が葉の表面の水蒸気圧より大きいときに，気孔隙を通じて起こり，その大きさは気孔の開度に支配される。気孔の開閉は気孔を構成している孔辺細胞の膨圧の変化によって行なわれる。気孔蒸散は，この膨圧の変化に直接・間接に影響を与える諸要因に支配され，その調節はきわめて複雑である。〔代谷 康〕

きこうたい【気候帯】地表面が太陽から受ける単位面積あたりの日射量は，太陽高度によって決まるから，気温を緯度の関数とみなすことができ，気温の分布は緯度に平行して帯状に分布している。すなわち赤道を中心にして南北回帰線の間を熱帯，その外側を温帯，極を中心とする極圏を寒帯とよぶ。しかし，現実にはその上に水陸の分布，地形，海流など多くの気候因子が働くので，この分布は複雑である。したがって，多くの学者によってさらに細かい気候の区分が試みられており，中でも植生との対応を考えたケッペンの気候区分が最もよく知られている。ほかに，代表的なものとして，水収支の考えを取り入れたソーンスウェートや，気団論の立場に立ったアリソフの気候区分などがある。〔小栗 宏〕

きこうぶたい【機甲部隊】戦車が戦闘力の主体となり，装甲輸送車をもって車両化された歩兵，自走砲兵，牽引(けんいん)砲兵を加えて編成した車両化部隊をいう。ヨーロッパ西部各国では1930年代に編成を開始し，第2次世界大戦では多くの機甲師団が花形部隊として活躍した。当時の機甲師団は一般師団に比べて人員は4分の1，機動力は4倍，火力は3～4倍に達したといわれる。



気　孔　ギボシの気孔。孔辺細胞には葉緑体があり，その他の表皮細胞にはないことがわかる

欠陥は地形の影響を受けやすく，燃料の消耗が大であること，戦車の生産が高価であることなど。→機械化部隊〔森田 哲〕

きこうぶんがく【紀行文学】旅に基づく文学をいい，旅行中のできごと・見聞・感想などをしるす。日本では《万葉集》中の羇旅歌(きりょか)にその原流が認められ，平安時代に日記文学の多くが紀行文の形をとり，《土佐日記》《更級(さらしな)日記》が代表例である。鎌倉時代には京都～鎌倉間の旅行が盛んとなり，《十六夜(いざよい)日記》《海道記》《東関紀行》などが生まれた。これらには歌枕(うたまくら)を文中に書き込むものが多く，和歌を核とする日本の紀行文学の伝統が流れている。室町時代には宗祇(そうぎ)の《筑紫道記(つくしどうき)》などのように連歌との結びつきが濃くなり，さらに隠者文学的な要素も加わった。江戸時代には《奥の細道》のような俳諧(はいかい)紀行の傑作など，多くの旅行記が書かれた。明治以降，遅塚(ちづか)麗水・大町桂月(けいげつ)・小島烏水(うすい)ら紀行作家，田山花袋・島崎藤村・芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)らの小説家が，さまざまな作品を書いた。西洋文学では紀行文学というより記録文学の範疇(はんちゅう)にはいるべき旅行記・探検記が多く，ゲーテの《イタリア紀行》やジイドの《ソビエト紀行》など，旅での自己の精神の遍歴をしるした作品もある。〔田島 修〕

きこうぼん【稀覯本】数少なく貴重な本のこと。古写本・古版本・古活字本，名家の草稿・書簡・手沢本・署名本・書き入れ本などがある。グーテンベルクの《42行聖書》はじめ，15世紀中に印刷されたインキュナブラ(初期刊本)，シェークスピアの《ファスト-フォリオ》(1623年刊)，1640年版《ベイ-サム-ブック》，明治・大正期の著名作家の処女作・初版本などは，この中に属する。

きごうろん【記号論】記号および記号の働きに関する理論。semioticsの訳語で，モリスの命名による。記号には言語・音符・地図などさまざまあるが，これらは思弁記号(言語)と非思弁記号(言語以外の記号)に分類できる。論理実証主義の発展過程で体系化され，最近の研究では，アメリカの言語学者オグデンとリチャーズによって記号が成立するためには〈記号〉〈記号の指示するもの〉〈記号を使うもの〉の三つが必要であること，また記号とその指示するものとの間には直接的な関係がないことが明らかにされた。さらにモリスは行動主義の立場から記号理論を発展させ，記号が関係する対象に応じて，①記号と記号との関係を論じる構文論，②記号とその指示する対象との関係を論じる意味論，③記号とそれを使う者との関係を論じる語用論の3分野に分けた。→科学哲学〔寺中平治〕

きごうろんりがく【記号論理学】数学において用いられる形式的方法を論理学の領域に適用することにより，伝統的形式論理学を発展させたもの。数学的論理学とも論理計算ともいわれる。その特徴は，形式化された記号法を導入して，思考過程を一定の変形規則に基づく記号の操作，つまり計算によって表現することにある。それは演繹(えんえき)論理の徹底的形式化をめざす公理体系である。すなわち，命題やその構成要素はそれ自体としてではなく，それら相互の結合関係においてのみ考察されるのであり，それぞれ数学における変数のように取り扱われ，それらの間の関係を表わす接合子や全称，特称を表わす量記号と組み合わされて論理式として形式化される。たとえば〈すべての人間は動物である〉は〈すべてのxについて，xが人間である(Fx)ならば，xは動物である(Gx)〉と分析され，$(x)(Fx \rightarrow Gx)$という関数の式で表わされる。そしてこれらのうちのあるものが公理とされ，そこから代入規則や推論規則に従って普遍妥当な式が導かれ，体系が形成される。

この論理学の数学的記号化という思想はライプニッツによって開かれたが，本格的発展は19世紀のブールとド-モルガンに始まる。その形式化の面でジェボンズ・パースの業績を得てブール-シュレーダーの論理代数として整備され，公理化の面で数学の論理的基礎づけの試みとしてフレーゲ・ペアノらによって展開され，ホワイトヘッドとラッセルの《数学原理》において完成の域に達した。〔石倉恒之〕

きこくしゅぎ【旗国主義】公海における船舶が，原則として旗国の管轄権に服するという国際法上の一般原則。旗国とは，船舶が適法に掲揚しうる国旗の属する国家，すなわち，船舶が登録され，船舶の国籍(船籍)の属する国家の意である。船舶は他国の領海内においては，原則として沿岸国の管轄に服するが，船舶内の犯罪については，沿岸国に影響のないかぎり旗国主義がとられる。

ぎこてんしゅぎ【擬古典主義】文芸思潮。ギリシア・ローマにおける芸術上の原理である調和と抑制にあこがれて，これを模倣しようとする芸術的傾向で，狭義には17～18世紀におけるイギリス文学の主要潮流をさす。ロマン主義の立場からの呼称であり，古典の精神でなくて形式のみを模倣するという非難の意を込めて〈擬〉とされたが，ロマン主義に対する新古典主義の中に

含めることができる。18世紀のイギリス擬古典主義は，ドライデンによるフランス古典主義の取り入れを経て，ポープによって完成され，多くの文学作品を生み出した。スウィフト・デフォーらの作品もその一つである。〔沢村　灌〕

きこない【木古内(町)】北海道，渡島(おしま)支庁南部，上磯(かみいそ)郡にある町。1942年(昭和17)町制施行。人口10,000。東は津軽海峡に面し，道内では古くから開けた土地で，和人の来往は1443年(嘉吉３)ごろと伝えられている。北は渡島(おしま)山地の一部，南はゆるい傾斜を示す海岸平野で，海岸段丘が発達している。木古内川・瓜谷(うりや)川・中野川は南東方向に並行して流れ，流域の平地では米・ジャガイモなどが栽培され，酪農も盛んで，バターや練乳をつくっている。山地からブナその他の木材を切り出し，函館(はこだて)湾岸ではイカ・カレイ・ワカメ・コンブなどの沿岸漁業が行なわれる。江差線から松前線が分岐する交通の要地，国道228号線が海岸を走る。薬師山・釜谷(かまや)キャンプ場などの観光地がある。

キコバルトこう【キコバルト鉱】コバルトとヒ素を含む硫化鉱物。CoAsS　ふつう，コバルトの一部は鉄で置換されている。立方晶系，硬度5.5，比重6.3。正六面体・正八面体・五角十二面体など，ジテッ鉱と同様の結晶形を示し，ときに粒状ないし緻密(ちみつ)な結晶集塊として産出する。劈開(へきかい)は３方向に完全。銀白色でやや赤みをおびる。もろく，金属光沢を示し，条痕(じょうこん)は灰黒色。鉱脈中，まれに変成岩中に産出する。わが国では山口県長登の接触交代鉱床中に産する。〔堀福太郎〕

ぎこぶん【擬古文】江戸時代から明治にかけて，国学者の手によってつくられた文章の一体。平安時代や奈良時代の文体を手本とした。表記はひらがなで，漢字はなるべく少なくし，また字音をきらって訓読みにした。擬古文にはだいたい次のような種類が区別される。①枕詞(まくらことば)・縁語・懸詞(かけことば)を盛んに用いた美文調のもの。②修飾を少なくし，達意を旨とした論理的文章。③前二者の中間の，記事・随筆などの文章。④消息の文章。〔市川　孝〕

ぎこものがたり【擬古物語】主として鎌倉時代の物語をいう。擬古とは古典を模倣する意。中世においては，《源氏物語》などの中古の物語が内容・文章ともによるべき古典となっていて，概して新しい文学的達成を示さなかったところから称される。この創作力の低下は，政治的・経済的に無力になった貴族が，その全盛時を回顧・追慕して制作したからであろう。現存する作品は《住吉(すみよし)物語》《石清水(いわしみず)物語》など10編余にすぎないが，《風葉和歌集》によると，もっと多数の作品のあったことが知られる。そして，時代が下るにつれて



象潟町　南側の上空から見た象潟町付近。水田の中に点在する森が，かつてこの地が海であったころの小島のなごりである



木崎湖　山中の静かな湖で，白雪をいただく鹿島槍連峰の影を映している。仁科三湖の一

神仏霊験譚(れいげんたん)・民間説話などの移入が目だち，これが古典の模倣の割合と同等以上になったとき，擬古物語の流れをくんだ御伽草子(おとぎぞうし)の発生がある。〔桑原博史〕

きこん【気根】空気中に露出している根。地上茎からたれ下がって伸びた不定根で，白色，ときに緑色。フウラン・セキコクなどラン科植物のものは吸水気根といわれ，空中から水分を吸収する。ガジュマル・タコノキやトウモロコシの茎の下方に見られるものは支柱気根で，茎や枝から出て太くなり，先端は土中にはいって茎をささえ，水分を吸収している。マルハチでは茎をおおって保護気根となっており，マングローブでは通気組織が発達して呼吸の働きをしているので呼吸根という。〔高島文三〕

きさい【起債】公社債の発行をいう。わが国の国債・地方債・政府保証債については，銀行引き受けが認められているが，それ以外の公社債については認められていない。したがってわが国の社債の起債は，その大部分が証券会社の引き受けによる請負募集によっている。請負募集とは募集に際して売れ残った残額を引き受け業者が引き受ける方式で，残額引き受けともいう。そして銀行は社債の受託会社として担保の受託と社債の募集業務をもっぱら行なっている。〔速水　保〕

きさいしじょう【起債市場】公社債の発行市場。起債市場は通常発行者，応募者，金融機関および引き受け発行業者の３者から構成される。しかし，わが国では公社債の保有が銀行などの金融機関にかたより，一般個人の消化分が少ないために，起債市場での適正な発行条件が形成されにくい。したがって公社債の流通市場(既発行証券の売買市場)も発達していない。第２次世界大戦前には赤字国債の日本銀行引き受けが行なわれていたが，戦後禁止され，1965年(昭和40)度以降の国債の消化の大部分は市中金融機関によって引き受けられている。また社債についても戦後は銀行引き受けが禁止されているが，わが国では間接金融方式が優位のため個人消化は発展せず，1955年まで日銀適格担保社債事前審査制度が行なわれていた。その後も社債の受託銀行会が大蔵省・日本銀行・引き受け証券会社と協議して起債方針を決定するという状態で，わが国の公社債市場は依然として統制市場的な色彩が強い。〔速水　保〕

きさかた【象潟(町)】秋田県由利郡に属する町で，鳥海山の西斜面を占め，県の西南端に位置する。人口14,000。中心集落の象潟は日本海岸の街道沿いに発達し，沿岸漁業の根拠地である。かつて八十八潟・九十九島の名勝として松島と並び称された名勝の地で，芭蕉(ばしょう)も《奥の細道》の紀行で〈象潟や雨に西施がねぶの花〉の句を残した。しかし1804年(文化１)，この地を震源とする地震で潟は約2.4mほど隆起し，天下の名勝地も一瞬にして陸地化した。潟はその後開拓されて水田となり，現在，水田中に散在するかつての島である小丘に昔のなごりをとどめている。米作のほか，酪農やブロイラーの飼育，漁業が行なわれ，電気機器の工場もあるが，町としては観光開発に力を入れている。名刹(めいさつ)蚶満(かんまん)寺や奈曾(なそ)ノ白滝があり，海水浴場や温泉にも恵まれ，スキーもでき，また鳥海山への登山口として，1972年(昭和47)に有料道路の〈鳥海ブルーライン〉が開通している。天然ガスの埋蔵も豊富で，盛んに採掘されている。一帯は鳥海国定公園に指定されている。

きざきこ【木崎湖】長野県北西部，大町市の北方にある湖。面積1.4km²，水面高度764m，水深29m。青木湖・仲綱湖とともに仁科(にしな)三湖とよばれている。中央地溝(ちこう)帯にある湖。夏季涼しいので避暑地として知られ，ここに開かれる夏期大学は有名。湖水は鹿島(かしま)川に流れ，高瀬川に合流する。

ぎさくるい【擬索類】原索動物・擬索綱。体は長く，ミミズ状であるが，吻(ふん)・えり・胴の３部にはっきり分かれている。胴の前部背側に２条の縦溝(じゅうこう)があり，そこに数対の鰓孔(さいこう)が開く。体内には内腔(ないこう)があり，これは棘皮(きょくひ)動物

の水腔と相同である。口腔の背側に1個の小盲管が突き出しているが，これは脊索(せきさく)動物の脊索と相同なものとみなされている。雌雄異体。浮遊性のトルナリア幼生を経て成体になるものが多い。ギボシムシの仲間を含む。すべて海産。なお，学者によっては，この類をホヤ・ナメクジウオなど，他の原索動物とはやや隔たりがあり，かつ棘皮動物にやや近い独特の動物群とみなして，半索動物門または前索動物門と命名して独立させることがある。発生・幼生などに棘皮動物と似通うところがあるのは事実である。〔菅野　徹〕

きさご【細螺】軟体動物・腹足類・ニシキウズ科。シタダミともいう。平たい円錐(えんすい)形の巻き貝で，殻表(かくひょう)はなめらかで光沢がある。殻高2cm，殻径3cmほど。色彩には個体変異が多いが，茶かっ色と暗青色のかすり模様のものが多い。ふたは薄い革質。北海道西岸以南，台湾・中国に広く分布し，外洋に面した砂浜にいる。これとよく似たイボキサゴは，殻高1cm，殻径1.5cmほどで，前種とほぼ同じ地域に分布するが，内湾の浅い砂泥底(さでいてい)にすむ。両種ともありふれた貝で，かつてはよく子どものおはじきに利用された。同属のものに，ダンベイキサゴがあり，これは殻高3cm，殻径4.5cmほど。色彩は前2種に酷似するが，殻の裏がかなりふくらむので横から見るとそろばん玉形になる。房総半島以南の浅海の砂底にすむ。〔菅野　徹〕

きささげ【楸・梓・木豇豆】双子葉植物・ノウゼンカズラ科。中国原産の落葉高木で，日本各地に栽培され，高さは10m前後に達する。葉は卵形で先がとがり，基部は心臓形，ときに掌状に浅く分かれ，キリの葉に似る。夏，枝先に淡黄色に紫色の混じった大形の唇形花(しんけいか)を多数つける。花は筒状で先が5裂する合弁花。秋に直径5mm，長さ30cmほどの細長い果実をつけ，中に多くの種子がある。種子は扁平(へんぺい)で長さ3cmほど，両端に1cmほどの白毛がある。果実は生薬のキササゲで，利尿薬に用いられる。材からはげたなどをつくる。果実がササゲに似るのでこの和名がある。なお，同属に北アメリカ原産のアメリカキササゲ・ハナキササゲがあり，庭園などに植えて観賞用にされる。〔加藤僖重〕

きさらづ【木更津(市)】千葉県中西部の市。鎌倉時代以来の港町で，江戸時代は大阪夏の陣の水軍に従って立てた功により与えられた特権として，安房(あわ)・上総(かずさ)の物資や旅客の輸送を独占した木更津船によって栄えた。1942年(昭和17)市制施行。人口109,000。房総半島の中西部，東京湾にはいる小櫃(おびつ)川の三角州上に位置する。産業三大別人口比は17：28：55。湾内漁業の中心地で，周辺農村地帯では野菜類の産出が多い。なお，かつての海軍航空隊の施設は，航空自衛隊の基地に利用されている。



キサゴ

房総西線と久留里線の分岐点で，国道16号線・127号線が通じ，川崎・横浜へフェリーボートが連絡している。小櫃川流域には，アサの実などの出土した菅生(すごう)遺跡，金の鈴などの遺物の出た金鈴塚(きんれいづか)など，弥生(やよい)時代の遺跡が多い。野口雨情の童謡で名高い証誠(しょうじょう)寺，歌舞伎(かぶき)《与話情浮名横櫛(よわなさけうきなのよこぐし)》で知られる切られ与三郎の墓(光明寺)がある。

きさらづじんく【木更津甚句】千葉県木更津市付近の民謡。昔，江戸湾内の支配権をもっていた木更津船で歌われていた歌のはやしことば〈ヤッサイモッサイ，ヤレコラドッコイ〉を転用してつくられた歌といわれ，替え歌がいくつかある。

キーサン【妓生】〈ぎせい〉とも読み，朝鮮音ではキーシャン。朝鮮で遊芸をもって客をもてなす女性で，妓女(きじょ)の資格である歌舞・音曲の学習者の意。李朝(りちょう)時代には，宮妓・官妓として宮廷・官庁に仕え，庶民を相手とする遊女とは区別されていたが，しだいに遊女もこの名を僭称(せんしょう)するようになった。

ぎさん【蟻酸】HCOOH　最も簡単なカルボン酸*。無色の刺激臭がある液体で，皮膚などに触れると水疱(すいほう)を生じる。酢酸*などよりも強い酸であるが，アルデヒド基をもつため還元性を有し，銀鏡反応*を示す。最初アリを蒸留して得たのでこの名があるが，イラクサなどの植物にも遊離酸として含まれ，またエステルの形では多くの植物の精油中に含まれている。

キサンガニ［Kisangani］アフリカ大陸中央部，ザイール共和国(旧ベルギー領)東部のオリアンタル州の州都。旧名スタンリービル。人口31万1,000(1974)。コンゴ川本流が東部山地から盆地中央部に出る位置にある渓口(けいこう)集落。河港であるとともに，首都キンシャサから盆地東部を経てウガンダ共和国に至る国際ハイウエーとコンゴ川交通の要地。東部山地の豊富な鉱産資源開発の基地としての役割も有する。付近にスタンリー瀑布(ばくふ)があり，探検家H.スタンリー*にゆかりが深い。〔小栗　宏〕

キサントフィル［xanthophyll］カロチノイド*の中で，炭素・水素・酸素からなっている一群の黄色色素。葉緑体の中にあってカロチンと同様，光合成の補助色素としての役割を果たしている。卵黄の黄色成分ルテイン，褐藻(かっそう)の色素フコキサンチンなどもこれに属する。秋の黄葉は主としてこれによる。

キサントプロテインはんのう【キサントプロテイン反応】タンパク質の呈色反応の一。タンパク質溶液に，ごく少量の濃硝酸を加えて煮沸すると黄色になる。これを冷却し，アンモニアでアルカリ性にすると黄橙(おうとう)色になる，その反応をいう。この反応はフェニールアラニン・チロシン・トリプトファンのようなベンゼン核をもつアミノ酸に基づくもので，黄色はベンゼン核がニトロ化された生成物の色である。皮膚が硝酸に触れたとき黄色になるのは，この反応が起こるためである。〔山崎博子〕

きし【紀氏】武内宿禰*(たけのうちのすくね)の子木角宿禰(きのつののすくね)に始まるという古代の大族。5～6世紀ごろ小弓・大磐(おおいわ)・男麻呂(おまろ)らは大和(やまと)朝廷の将軍として朝鮮半島に活躍し，国内でも紀伊(きい)(和歌山県)から瀬戸内沿岸に勢力をもった。7～8世紀にも政治家・軍人を多く出したが，9～10世紀の長谷雄(はせお)以後は衰え，わずかに友則(とものり)・貫之(つらゆき)などの歌人の名が知られるにすぎない。紀伊国造(くにのみやつこ)家は木角の母方の家であるが，代々日前(ひのくま)・国懸(くにかかす)両社に仕え，平安中期には後嗣なく，木角宿禰系の紀氏がこれを継ぎ，江戸時代には藤原氏の一族飛鳥井(あすかい)氏があとを継いだ。〔黛　弘道〕

きし【騎士】西洋中世盛期の封建社会で活動した武人。イギリスのナイト，ドイツのリッター，フランスのシュバリエがある。騎士になる者はふつう自由身分で，りっぱな家がらの出身者であったが，不自由身分の騎士(ミニステリアレス)もあり，特にドイツでは後者の活動が著しかった。ふつう7歳で王侯の宮廷にはいり，貴婦人の小姓となった。14歳で騎士見習いとなり，武技を習って身体を鍛え，21歳で騎士叙任式により正式に騎士の位を得た。この式では新しい騎士は年長の騎士から剣をつけてもらい，ほおまたは首筋を平手で打たれ，ウマに飛び乗って杙(くい)に刺したよろいをやりで突いた。また神に祈って聖職者の祝福を受けるなどキリスト教的要素も加えられた。騎士は，敬虔(けいけん)なキリスト教徒として剣をもって教会を保護し，また異教徒と戦い，未亡人・孤児・貧者を助けるべきであるとされ，騎士道とよばれる独特の倫理観を生み出した。その背景にはゲルマン古来の武勇とキリスト教精神が結合している。騎士は各氏族のことばで詩にうたわれ，中世文学の主人公となったが，特にクレチアン・ド・トロア*の諸作品は名高い。そこに描かれた騎士は主君の夫人などの貴婦人に絶対の愛をささげ，そのため各地を放浪して冒険を求めた。騎士の活動は12～13世紀の十字軍時代が最盛期で，中世末期には農兵や傭兵(ようへい)に対抗できなくなり，火器の普及によって没落した。しかし，栄誉の

称号としては今日まで残されており，また騎士道精神は近代にはいっても長く影響を与えた。〔兼岩正夫〕

きじ【亀茲】⇨クチャ

きじ【雉】鳥類・キジ科の総称およびその一種をいう。キジ科の鳥は両極地帯，南北アメリカ大陸の高緯度地域および大洋州を除き，世界の温帯と熱帯地域を中心に広く分布し，160～170余種からなる。これらは，新世界産ウズラ類(ボブホワイト・ナキウズラなどいわゆるアメリカウズラといわれる類)，旧世界産ウズラ類(日本のウズラをはじめウズラ属で代表される類)，旧世界産シャコ類(コジュケイ・イワシャコ・カンムリシャコなど)，旧世界産キジ類(セイラン・マクジャク・ヤケイや多くのいわゆるキジ類など)に分類される。低地の草原・森林から高山地帯にかけて分布し，全般的に地上性・雑食性であるが，ひなはこん虫類や他の無脊椎(むせきつい)動物を主食とする。一般に，羽毛が雌雄同色でじみな類は一夫一妻性，雄が美しく雌がじみな類は一夫多妻性であり，地上に営巣する。例外としてジュケイ類は樹上に営巣する。翼は丸みがあって短く，長距離の渡りはしないが，ウズラ属は例外である。この科の鳥は世界各国で狩猟鳥として利用され，また，雄の美しいキジ類の多くの種が愛玩(あいがん)用に飼育されている。わが国にはこの科の鳥として，ウズラ・コウライキジ・キジ・ヤマドリ・コジュケイが分布する。

キジには30余の亜種があるが，日本産のものはその一亜種で，雄には頸部(けいぶ)に首輪状の白い羽毛がなく，くびから胸腹部にかけて光輝のある美しい緑青色，雌は全体に黄かっ色である。日本の国鳥にされており，〈ケーン，ケーン〉と高い声で鳴く。〔浦本昌紀・安部直哉〕

キジ







ギシギシ
(上)若葉
(下)果実

ぎし【擬死】動物が外敵などにより急激な刺激を与えられると，あたかも死んでしまったかのように，動かなくなってしまう状態。広く動物界にみられ，特にこん虫では成虫にも幼虫にも例が多い。擬死は外敵に対する積極的な保護・適応の役割をもっていることも多い。

ぎし【義肢】四肢(両上肢・両下肢)切断後，切断肢に装用する代用肢。上肢に用いられるものを義手ともいう。欠損部を形態的に補うものを常用義手，残存する筋肉などを利用して，ある程度ひじや手指などを動かせるようにしたものを能動義手，特別な作業に適したようにつくられ，形態を無視した作業用義手などがある。近年，形態的・機能的にもすぐれた電動義手の開発が進められており，すでに実用化されたものもある。下肢に用いられる義肢は義足といわれ，この場合もできるだけ切断前に近い形に似せて，ひざや足関節の運動性を有している。日常生活に便利なようにつくられた完装義足，および切断術後歩行に慣れることを目的とし形態的な面を省いた仮義足がある。〔宮脇晴夫〕

ぎし【義歯】人工的な歯の総称。歯が崩壊したあと，あるいは抜歯したあとの欠損を補い，咀嚼(そしゃく)機能や発音機能を回復させるために用いる。歯の一部が残っている場合は，金冠*や継続歯*(継ぎ歯)で補い，歯のない部分に対しては，取りはずしのできる有床義歯か，固定してしまう架工義歯*(ブリッジ)かを用いる。有床義歯は，全部歯のなくなった場合に入れる全部床義歯(総義歯)と，何本か歯が残っている場合に入れる局部床義歯とに分けられる。有床義歯は，残っている歯に鉤(かぎ)(クラスプ)をかけたり，床による粘膜への吸着によって，口の中に維持される。ブリッジとは異なり，残っている歯を削らずに入れられ，取りはずしができるので衛生的だが，はずれやすかったり，自然感がないという欠点がある。

【義歯の歴史】人工的な歯を入れる技術は，古代エジプトの昔からあったとされている。象牙(ぞうげ)や骨を歯の形に削って穴をあけ，これに糸や金属線を通して，両隣の歯に結びつけた幼稚なものから，残っている歯に金の帯環を巻いて，これに象牙の歯を連結したものなどが残されている。総義歯については，18世紀に近代歯科医学の父といわれているフランスのピエール-フォーシャール(1678～1761)がつくったものが最初とされている。しかし，わが国では，江戸時代につくられたと思われる木製の義歯がかなり発掘されており，中でも1675年(延宝3)に没した徳川家剣法指南役柳生宗冬(やぎゅうむねふゆ)の遺体から発見されたものは，ツゲの木を彫り，ロウ石の歯をはめこんだもので，きわめて精巧にできており，世界でも最古のものとされる。〔成田令博〕

ぎしぎし【羊蹄】双子葉植物・タデ科。道ばたや田畑のあぜなどにみられる多年草。茎は直立し，高さ60～100cm。葉は根もとに集まってつき，長い柄があり，長楕円(ちょうだえん)形で先はとがり基部はやや心臓形。へりは波形に縮れる。6～8月に茎の上部にたくさんの花を群がりつける。花びらはなく，色は淡緑色。民間では新鮮な根をすりつぶして，そのしぼりじるを皮膚病に用いることがある。

きしざわしきさ【岸沢式佐】常磐津節(ときわずぶし)の三味線(しゃみせん)方の芸名。今日まで10世を数えるが，初世(1730～1783)ののち，5世(1806～1866)が最も有名であり，重要である。5世岸沢式佐は演奏家としてだけでなく，作曲家としてもすぐれており，今日の常磐津節のレパートリーをなすものの多くが彼の作品である。また，1861年(文久1)には岸沢派を始めている。代表作《三人生酔(さんにんなまえい)》《将門(まさかど)》《乗合船》《宗清(むねきよ)》《靭猿(うつぼざる)》《三世相》《角兵衛(かくべえ)》など。

きしせいいち【岸清一】(1860～1933)島根県松江市の生まれ。1889年(明治22)東京大学法科大学を卒業，弁護士として国際的に活躍した。学生時代からボートをはじめとしてスポーツに関心が深く，1920年日本漕艇(そうてい)協会長，翌年2代めの日本体育協会*会長に就任，1924年国際オリンピック委員会*(IOC)委員となった。1932年(昭和7)オリンピック-ロサンゼルス大会における日本選手団の大活躍を天皇に報告し，オリンピック運動に期するところがあったが，翌年死去した。その遺産は日本体育協会に寄付され，それをもとに岸記念体育会館が東京の駿河台(するがだい)に建てられた。これはオリンピック東京大会を機に渋谷区神南に移転，引き続き体協の事務局が置かれ，また各競技団体の本拠ともなって，日本のスポーツ興隆に寄与している。〔藤岡 端〕

きしせんそう【騎士戦争】1522年，ライン地方を中心とする帝国騎士(皇帝から直接封土を受けている騎士)がルター*の宗教改革運動に乗じて起こした反乱。彼らの指導者ジッキンゲン*やフッテン*はルターを支持するヒューマニストであったが，騎士たちの目的は皇帝を中心として彼らを基盤とする中央集権国家の樹立においていたため，一般の支持を受けることができず，乱はトリエル大司教領の襲撃に失敗して終わった。

きしだぎんこう【岸田吟香】(1833～1905) 新聞事業の先駆者，企業家。名は銀次。岡山県出身。少年のころ江戸に遊学し，1864年(元治1)ヘボン*を助けて，わ

が国最初の和英辞典《和英語林集成》を編集。同年浜田彦蔵(ひこぞう)らとはじめての邦字新聞《海外新聞》を発刊した。1867年(慶応3)江戸・横浜間の蒸気船回漕(かいそう)事業を興したこともあり，翌1868年(明治1)には《横浜新報もしほ草》を発刊した。1874年の征台の役では，東京日日新聞社の従軍記者として台湾に渡った。1877年新聞記者をやめ，銀座に楽善堂薬舗を経営，眼薬精錡水(せいきすい)を発売した。晩年には日清(にっしん)貿易の推進に努め，東亜同文会・同仁会の創立に尽力した。〔高崎徳次〕

きしだくにお【岸田国士】(1890～1954) 劇作家・小説家・評論家。軍人の子として東京に生まれた。陸軍士官学校を経て軍人生活を送るが，1914年(大正3)退官して東京大学仏文科選科に入学，のち渡仏してヨーロッパ近代演劇を学ぶ。帰国後は雑誌《演劇新潮》の同人となり，戯曲《古い玩具(がんぐ)》《チロルの秋》を発表，劇作家として認められた。以後，左翼演劇に対抗してフランス近代劇を日本に移植するために，新劇協会の指導，新劇研究所の設立，雑誌《悲劇喜劇》の創刊，築地座・文学座の結成，雑誌《劇作》の援助など，数々の演劇活動を行なった。第2次世界大戦中には大政翼賛会の文化部長をつとめた。代表作に戯曲《牛山ホテル》，小説《由利旗江》《暖流》，評論集《現代演劇論》などがある。〔池内輝雄〕

きしだとしこ【岸田俊子】⇨中島湘烟

きしたば【黄下翅】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。体長40～45mm，翅(はね)を広げた長さ65～75mm。前翅は暗灰かっ色ないし灰黄色の不明瞭(ふめいりょう)な波状の斑紋(はんもん)が多数あり，後翅にはあざやかな橙黄(とうおう)色の太い帯がある。日本全国のほか，中国からヒマラヤ地方まで広く分布する。成虫は8～9月ごろ出現し，しばしば燈火にも飛来する。シタバといわれる種類は多く，わが国ではベニシタバ・ムラサキシタバ・シロシタバなど20種近くが知られ，いずれも後翅の模様が美しい。〔鈴木邦雄〕

きしだりゅうせい【岸田劉生】(1891～1929) 洋画家。岸田吟香の四男として東京に生まれ，東京高等師範学校付属中学校を中退して白馬会研究所に学び，1909年(明治42)文展に入選。のち，《白樺(しらかば)》の影響を受けて後期印象派的傾向(→印象派)をとり，フュウザン会に参加した。1915年(大正4)草土社の結成後は，しだいに北欧ルネサンスふうの精密な写実的作風をとり，〈麗子像〉の連作や《村娘之図》などの傑作を描き，草土社ふう写実は一部の青年画家に影響を与えた。1923年，のちに脱会した春陽会の創設に参加，このころから宋元画(そうげんが)・肉筆浮世絵に関心を向け，著書《初期肉筆浮世絵》などを刊行。晩年は生活に乱れをみせ，満州旅行の帰途に山口県徳山市で客死した。〔陰里鉄郎〕

きしだん【騎士団】⇨宗教騎士団

きしちょうせん【箕氏朝鮮】朝鮮古代の伝説的王朝。その祖先は中国の殷(いん)王朝の一族で，殷の滅亡後，今日の平壌(へいじょう)を中心に独立国を建て，中国文化を移植したという。最後の王は箕準といい，BC195年のころ中国の燕(えん)の亡命者衛満に滅ぼされた。



キシタバ



岸田劉生《麗子微笑》1921 東京国立博物館蔵

きしつ【気質】主として遺伝的・体質的に規定された人間の感情的反応の特徴をさして気質という。クレッチマーによれば，性格は人間の生活過程におけるあらゆる情緒的・意志的な反応可能性の総体であるが，気質はその性格の下部構造をなし，全思考・全意欲の原動力であるとされる。古来，気質については数多く論ぜられてきたが，有名なのはギリシアのヒポクラテスの分類をガレノスが体液の混合の割合によって分類し，体系化した4気質で，陽気で移り気な多血質，怒りっぽくて精力的な胆汁(たんじゅう)質，無口でゆううつになりやすい黒胆汁質，遅鈍だが持続性のある粘液質がそれにあたる。クレッチマーは分裂気質・循環気質・てんかん気質に分け，それぞれ細長型・肥満型・闘士型の体形と深い相関関係があることを見いだした。〔馬場謙一〕

きしつ【基質】①酵素の働きで化学構造に変化を受ける物質の総称。酵素の種類によって基質の構造も違い，無機化合物のように分子量の小さなものから，タンパクのように大きなものまである。②生物体が付着したり，動き回る台をいう。③結合組織の細胞間にある多量の細胞物質をいう。

ぎじどう【議事堂】立法府として議会(→国会)の開かれる建物。1888年(明治21)6月東京日比谷(ひびや)に仮議事堂として置かれたのに始まる。まもなく火災にあい，のち再び同じ場所に再建された。1925年(大正14)9月再び火災にあった。これよりさき，1920年最初の予定地(東京都千代田区永田(ながた)町)で起工されていた本建築が，1936年(昭和11)11月7日に竣工(しゅんこう)した。現在の議事堂はそのとき以来のものである。建坪12,400m²，正面の長さ206.36m，側面の長さ88.63m，両そでの高さ20.91m，中央塔の高さ65.45m。イギリスの議事堂はロンドンのテムズ河畔のウエストミンスターにあり，ゴシック様式で1851年に完成し，建坪17,000m²。アメリカではワシントンにあり，クラシック様式で1793年に起工し，以来火災や修築を経て1861年に現在のものに完成，建坪14,000m²。フランスでは議事堂として特に建てられたものはなく，上院はリュクサンブール宮殿を使用しており，建坪7,600m²，下院はブルボン宮殿で，建坪8,700m²である。〔吉田善明〕

キシニョフ［Kishinëv］ソビエト連邦南西端，モルダビア共和国の首都。ドニエストル川の支流ブイク川に臨む鉄道・道路交通の要地。人口39万5,000(1972)。ぶどう酒・かんづめ(果実)・バター・たばこ・皮革・木材・建設資材・金属などの工業が盛んである。科学アカデミー・自然史博物館・大学などの文化施設も多い。第2次世界大戦までは，多くのユダヤ人が住んでいた。





議事堂 (左)ワシントンのキャピトル・ヒルにあるアメリカの議事堂 (右)日本の議事堂

北のキエフ，南のブカレスト(ルーマニア)へは直通列車で結ばれる。〔斎藤晨二〕

きしのぶすけ【岸信介】(1896〜) 政治家。山口県の生まれ。旧姓佐藤。東京大学法学部卒業後，農商務省にはいる。1936年(昭和11)満州国産業部次長となって満州経済を動かす。1941年東条内閣の商工大臣。第2次世界大戦後A級戦犯容疑者として逮捕されたが，1948年釈放された。1954年日本民主党を結成し，幹事長となる。1955年保守合同後の自由民主党幹事長。石橋内閣の外相を経て，1957年自由民主党総裁・首相に就任し，翌年第2次内閣を組織。日米安全保障条約改定を強行して激しい反対運動を招き，1960年失脚。佐藤栄作の実兄。

きしは【岸派】⇨岸駒(がんく)

きじばと【雉鳩】鳥類・ハト科。一般にヤマバトとよばれているハトで，全国各地の平地から低山帯にかけておもに分布し，平地の市街地でも繁殖する。全体にじみな羽色だが，頸部(けいぶ)にある灰青色と黒色の小斑(しょうはん)と上面のかっ色のウミガメの甲様の文様が目だつ。大きさはドバトと同じくらい。

ぎじばり【擬似針】⇨つり針

ぎじぼうがい【議事妨害】議会で少数派が合法的手段を利用ないし乱用して，計画的に議事の進行を妨害すること。最も顕著なものには長時間演説，多数の不信任案・修正案の提出，投票における堂々巡りなどがある。このような形で議事の正常な進行を故意に妨害して，議案の成立を妨げる企てがひんぱんに行なわれることは，もとより議会政治の健全な現象ではないが，議事妨害を不可能にするため，少数派の発言を徹底的に封じることもまた議会政治の自殺行為となる。議会政治は政府の行動の厳正な批判を前提とする以上，合法的な議事妨害は多数派の不当な横暴に対する少数派の正当な防衛手段として是認されなければならない。〔吉田善明〕

ぎじほっきにん【擬似発起人】会社の設立に際して，定款に署名をしていないのに(正式な発起人でない)，株式申込証・目論見書(もくろみしょ)・株式募集広告などの株式募集に関する文書に自分の氏名を書き，会社設立を賛助するような記載を承諾した者。株式引受人などに対して，発起人と誤信されやすいので，会社が成立した場合の資本充実の責任，不成立の場合の払い込み金の返還責任などについて，発起人と同一責任を負わなければならないと規定している(商法198条)。〔松本治雄〕

きじほんまつたい【紀事本末体】紀伝体・編年体とともに歴史記述形式〈史の三体〉の一。歴史的事件のはじめから終わりまでをまとめてしるす。編年体の中国史書《資治通鑑》(しじつがん)を各事件ごとに編集しなおした《通鑑紀事本末》はその代表。

きじまこうげん【城島高原】大分県別府市西方の高原。北側の鶴見岳(つるみだけ)(1,375 m)・由布岳(1,584 m)と南側の雨乞岳(あまごいだけ)(1,074 m)との間に広がる。東の別府市と西の湯布院盆地を結んで国道210号線が横断している。



キジムシロ

きじむしろ【雉蓆】双子葉植物・バラ科。山や野原にはえる多年草。全体にあらい毛がはえ，直立した茎がなく，根もとから葉が四方に広がる。葉は羽状に切れ込み，先端のほうが大きい。春から夏にかけて細い茎が多数伸び，先のほうに2cmほどの黄色の花を数個つける。地面にべったり広がるので，この名がついたのであろう。

きしめん【棊子麵】ひものような平たいうどん。《庭訓往来(ていきんおうらい)》に点心(間食物)として，うどん・そうめんとともにこの名がある。しかし，当時のものは小麦粉を水で練り竹筒の端で押し切って碁石のような形にし，ゆでていり豆の粉をつけたもの，あるいはうどんのように麵棒で押し伸ばしてから碁石形に打ち抜いただけのものであった。それがのちに平うどんのように長くつくったものをさすようになったため〈ひもかわ〉(紐革)ともよばれる。

きしもじん【鬼子母神】インド神話に現われる鬼神ヤクシャ(薬叉・夜叉)のひとり。梵語名(ぼんごめい)はハーリーティー(Hārītī)といい，おそらく仏教の伝統の中に生じた女神。伝承によれば10,000人あるいは1,000人，または500人の子をもつといい，人間の子どもを殺しては食べて人々を苦しめた。ブッダはその末子を神通力で隠し，半狂乱となった彼女をさとしてついに仏道に帰依させ，悪行をやめさせたという。以来，出産・育児の守護神とされ，日蓮宗(にちれんしゅう)では祈禱(きとう)の本尊ともされる。〔奈良康明〕

きじもの 沖縄各地で聞かれる妖怪(ようかい)の一種。ふつうキジムナーとよばれる。ムナーは〈もの〉のことで霊を意味し，〈木の精〉をいう。小人の形をし，古木にすむ。海のことに詳しく，海面を自由に歩く能力をもち，きじものと親しくなると，つねに海の幸に恵まれるという話が多い。また，いたずら好きで，夜火だねを求めて人家に近づき，睡眠中の人を襲う。人がうなされるのはそのためであり，意識ははっきりしていながら叫ぶことも動くこともできないといわれている。〔山路勝彦〕

きじや【木地屋】ろくろなどを用いてわん・盆などを製造・加工する技術者。木地師・木地くり・轆轤師(ろくろし)ともいう。彼らは古くから山中に良材を求めて漂泊を続けていたが，やがて山中に定住して，各地に木地小屋・木地畑などという地名を残した。彼らが移住者であることから村民からは特殊な目で見られていたが，彼らの残した伝統的技術は，各地に著名な漆器工業を発展させ現在に至っている。文徳天皇の皇子小野宮惟喬(これたか)親王がろくろを発明したという伝承から，木地屋には親王を祖神としたり，木地屋文書と称する中世以来の由来書などを伝承するものがあり，一つの信仰集団にもなっていた。〔渡辺欣雄〕

きじゃく【着尺】長着用の反物。並み幅で，たけ11.5mが標準だが，近年そでたけ・身たけを長く仕立てるため12m以上あるものも多い。羽尺(羽織地)に対していう。

ぎじゃく【義寂】(919〜987) 中国，宋(そう)代の天台宗の僧。浙江(せっこう)省の生まれ。姓は胡(こ)氏，字(あざな)は常照，号は螺溪(らけい)尊者。12歳のとき開元寺の子安の下で出家し，19歳で受戒。会稽(かいけい)に律を学び，のち天台山の国清寺で清竦(せいしょう)法師に天台を学んだ。このころ安史の乱，会昌(かいしょう)の廃仏にあったが，のちに呉越王銭俶にすすめて高麗(こうらい)から章疏(しょうそ)の復帰を得，天台の復興に努めた。弟子(でし)に義通・宗昱(そういく)ら100余人がおり，義通の弟子，知礼は義寂を祖として山家派を立てた。〔京戸慈光〕

きしゃくねつ【希釈熱】希釈に伴って発生する熱量。混合熱の一種。ある濃度の溶液にさらに溶媒を加えるときに発生する熱量で，希釈前の濃度が低いほど小さい。

きしゃくりつ【希釈律】オストワルドの希釈律ともいわれる。溶液の電離度と電離定数の間になりたつ法則で，2個の一価イオンを生ずる弱電解質1モルのうちの α モルが電離するものとすれば(αは電離度)，電離定数Kは $\alpha^2/(1-\alpha)V$ で表わされる。ここでVは希釈度で，1モルの溶液を含む溶液の体積である。濃度あるいは希釈度が変わると電離度 α は変わるが，電離定数Kは温度が一定であれば変わらない。オストワルドは溶液の電気伝導度の測定から実験的にこのことを示し，弱電解質の電離平衡に質量作用の法則が適用されることを証明した。なお，強電解質にはこの法則は修正を要する。➔電離〔三輪誠・野宮健司〕

きしやまじ【貴司山治】(1899〜1973) 小説家。本名伊藤(いとう)好市。徳島県の生まれ。小学校を出たのち一時《大阪時事新報》の記者をつとめた。やがて東京に移り，大衆小説を執筆。1926年(大正15)《霊の審判》が《東京朝日新聞》の懸賞に入選，作家生活にはいった。その後日本プロレタリア作家同盟に参加，文学の大衆化に努めた。代表作に《ゴー・ストップ》がある。

きじゅ 【喜寿】 ⇨賀の祝い

ぎしゅ 【義手】 ⇨義肢(ぎし)

きしゅういぬ 【紀州犬】 主産地は三重県・和歌山県。勇猛で動作が敏捷(びんしょう)なイノシシ猟犬であるが，多くは家庭の番犬として飼われる。毛色は白いものが約7割を占め，ほかに赤やかっ色に黒色が混じった〈ごま〉もある。骨は太く，体高は48.5～51.5cmくらい。

きじゅうき 【起重機】 ⇨クレーン

きしゅうしょう 【貴州省】 コイチョウ省 中国南部の省。面積17万4,000km²。人口1,800万(1972年推)。省都は貴陽。1省轄市(貴陽)・5専区・2自治州に分かれ，1市・69県・9自治県が統轄される。雲貴*高原の東端を占め，標高500～2,000mの起伏の多い地方である。農産物は米・トウモロコシを主とし，大麦・小麦・サツマイモ・ジャガイモ・アワ・コウリャン(高粱)などを産し，木材・桐油(とうゆ)などの林産物も少なくない。地下資源も豊かで，石炭・銅・鉄・ボーキサイトを産し，ことに銅仁・婺川(むせん)などの水銀の産は世界的である。近代工業は貴陽を中心に行なわれ，伝統工業の貴陽の絹織物や紙，および茅台(ぼうだい)の酒などは特に名高い。古来西南夷(い)と総称される少数民族が人口の約40%を占め，ことにミャオ(苗)族が多数を占める。交通は，広西チワン族自治区の柳州から貴陽に向かう黔桂(けんけい)鉄道が1959年に完成し，また貴陽から周辺各省・自治区へ通ずる自動車道路も整備されつつある。〔船越昭生〕

きしゅうはん 【紀州藩】 ⇨紀伊藩

きしゅくしゃ 【寄宿舎】 おもに地方出身の学生・勤労者らのために，学校あるいは企業の提供する共同生活施設をいう。学校付属の寄宿舎(寮)の歴史は古く，ヨーロッパにおいては，中世の修道院やイギリスのパブリック-スクー*ルが厳格な寄宿舎制度で知られている。この場合の目的は，単なる住居の提供ではなくて，全生活を通して修道僧・学生を訓育する人間形成の場とすることである。わが国においても，奈良時代から学僧の修養の場としての寄宿舎の形態はみられるが，特に，旧制高校や大正期の新教育運動の中で創設された私立学校は，パブリック-スクールを範とした自治的な寄宿舎制度をとり，全人教育の場とした。第2次世界大戦後は寄宿舎の教育的積極性は弱く，地方出身者への住居の提供に終わっていることが多い。しかし，農業高校などの一部には，実習教育上の必要と集団鍛練を目的とした寄宿舎制度がある。工場および事業所付属の寄宿舎は，産業革命後の工場制工業の発展とともに出現し，特に繊維産業における女子従業員の寄宿舎は代表的な例である。今日では，使用者は事業所付属寄宿舎の設備・安全衛生について必要な措置を講じ，寄宿者の私生活を尊守する義務を法によって課されている。〔福井幸雄〕



奇　術
アダチ龍光の演ずる水隠し

きじゅつ 【奇術】 手品ともよばれ，巧妙なトリックを使って常識では考えられない奇現象を見せる芸能。エジプトでは5,000年以前の記録があり，インドや中国でも歴史は古い。日本へは奈良時代，散*楽雑戯の一種として中国から伝来したといわれる。江戸時代に，柳川一蝶斎(やながわいっちょうさい)が白紙でつくったチョウを巧みに舞い戯れさせる〈胡蝶(こちょう)の舞〉を完成し，人気を博した。明治時代には，欧米ふうを取り入れた松旭斎(しょうきょくさい)天勝が出，大規模な奇術で一世を風靡(ふうび)した。〔興津　要〕

ぎじゅつ 【技術】 技術ということばは，行為・行動・方法・手段などということばに置き換えてさしつかえないところに広く使われる。厳密に定義づけようとする試みはフランスの《百科全書》の中でなされ，ディド*ロは〈同一の目的に協力する道具と規則の全体系〉と規定した。この規定は今日，技術を労働手段体系とみなす説の原型をなし，《ソビエト大百科辞典》では〈ある社会的生産体系の中で発達する労働手段〉と規定している。労働手段体系としての技術の起源は旧石器時代の道具である。道具の創造が人間への進化に決定的な役割を演じた。鉄器の普及は奴隷制と科学を生み，封建制の末期にマニュファクチュ*アが道具を専門化した。道具から機械への移行を決定的にしたのは産業革*命であり，さらに万能的原動機の発達は機械体系の成立を促した。その後，技術*学の科学における地位が急速度に増大し，最近ではオートメーションの発達とともに，技術革新という新しい産業革命が，資本制に代わる新社会の出現を可能にするものとされている。〔山崎俊雄〕

ぎじゅつがく 【技術学】 技*術が近代科学の対象となったのはフランス啓蒙(けいもう)主義の下であり，その影響下に1772年ゲッチンゲン大学教授ヨハン-ベックマンがはじめて〈技術学(テクノロジー)〉という新しい学問の体系化を提唱した。そのころイギリスでは〈市民のための工業〉という概念が生まれ，これから19世紀半ばごろより機械工学・電気工学などの諸工学が分化した。技術学は工*学とほぼ同義の名称として用いられているが，技術学には農学や，場合によっては医学も含まれ，工学よりも広義に使用される。技術と技術学とはドイツでは区別しているが，しばしば混同される。そこで最近では技術学を技術科学(テクニカルサイエンス)として，科学の一分野とみなす論者が多くなった。〔山崎俊雄〕

ぎじゅつかくしん 【技術革新】 ⇨316ページ

ぎじゅつ・かていか 【技術・家庭科】 1958年(昭和33)従来の〈職業・家庭科〉を解体・再編成して新設された中学校男女の必修教科。1955年ごろから技術革新による産業の高度成長に伴い，国民全般に科学技術に関する教養を高める必要が生じてきた。そのため一般教育としての近代技術が唱えられ，文部省が教育課程審議会の答申に基づき職業・家庭科を全面的に改正して技術・家庭科をつくり時代的要請にこたえようとしたのである。ここでは，従来の職業準備教育的な考え方，狭い地域主義的偏向，職業指導的立場をすべて排除して，①近代技術に関する計画・製作・整備について基礎的技術を習得させ，その科学的根拠を理解させ，②家庭や社会における技術と生活との関連を理解させ，③仕事を合理的・創造的に進める能力や協同の責任，安全を重んじる態度を養うことが目標とされている。その教育内容は生徒の生活が男女によって異なる点があることを考慮して，男子向けには工業的内容(設計製図，木材・金属加工，機械，電気)と栽培が，女子向けには家庭*科的内容と設計製図・家庭機械・工作が含まれ，学習方法は科学教育と技術教育とを関連・総合させるため，学科・実習を一体としたプロジェクトの形で展開させる。〔久武綾子〕

ぎじゅつし 【技術史】 技術*学をはじめて学問として独立させたヨハン-ベックマンは技術の歴史に注目し，《発明史への寄与》(1780～1805)を著わした。これが技術史の体系的記述のはじまりであり，1870年代からドイツで盛んに研究された。ドイツ技術者連盟は20世紀初頭から技術史を重視し，研究誌の刊行，博物館の建設に着手した。ミュンヘンのドイツ博物館(1925年完成)はその成果である。世界各地の技術史博物館は万国博覧会の跡を利用したものが多い。技術史を大学教育に積極的に採用したのはソビエトであり，1929年第1次5か年計画のときからである。特に工科系では必須(ひっす)の教材とされ，今日も教科書が刊行されている。最近ではアメリカでも重視され，多くの大学で講座を置いている。その目的は人類発生以来今日までの技術発達の歴史的法則を究明することにあり，科学史・産業史・経済史・経営史・産業考古学などの隣接新旧諸歴史学との関連が重要である。〔山崎俊雄〕

ぎじゅつどうにゅう 【技術導入】 外国

で開発された技術を使用料を払って自国に導入することをいう。技術水準の遅れた国が，技術水準の進んだ国に追いつこうとする場合にしばしば利用される方法である。第２次世界大戦後，原子力・エレクトロニクス・オートメーション・石油化学・有機合成化学・品質管理などの新技術に遅れをとった日本の企業は，技術導入を盛んに行なうことによって，この遅れをとりもどした。日本の技術導入先としては，アメリカが圧倒的に多く，現在までほぼ６割を占め，これに次いで西ドイツが１割を占めている。

わが国の技術導入の形態としては，1968年(昭和43)までは〈外資に関する法律〉(外資法)による甲種技術導入と〈外国為替(かわせ)及び外国貿易管理法*〉による乙種技術導入に分かれ，前者は契約期間が２年以上で高度かつ包括的な技術，後者は1年以内で補完的な技術を主とするものであった。しかし，1968年６月に技術導入の自由化が実施され，航空機・武器・火薬・原子力・宇宙開発・コンピューター・石油化学の７業種を個別審査を必要とする非自由化業種とし，残りの業種は日本銀行の許認可にゆだねることとなった。技術導入に対してはロイヤルティー(使用料)が支払われるが，その対価として株式が要求されることも少なくない。しかし，この場合には結局，合弁会社*の形をとることになり，経営の支配権を奪われる可能性がある。また，資本自由化の進展に伴って技術導入よりも直接の企業進出をねらう外国企業が増大して，技術導入が制限される場合も出てこよう。したがって，今後は自己技術開発の必要性が増大していく。そのためには，いままで低水準にあった研究開発費を国際的に見劣りしない水準まで引き上げていくことが急務であろう。

〔原　豊〕

ぎじゅつゆしゅつ　【技術輸出】　自国の企業が，外国の企業と技術提携契約を結んで生産技術を提供し，特許料など一定の技術料を受け取る取引をいう。狭義では技術援助をいい，広義ではプラント輸出*に伴う種々のサービスの提供までも含む。提供の内容としては，特許権・実用新案権・意匠権・商標など工業所有権の譲渡または有料貸与，ノウハウなどで，先進国から開発途上国に対する経済援助を目標とする。それと反対に，外国から特殊の技術を輸入することを技術導入*という。この技術援助や技術導入で多いのはノウハウで，これには①製品製造用の設計図・指導書・青写真などの提示，②新工場の建設・経営に関する計画・検討・助言，③技術者や熟練者の派遣による技術指導などがある。〔上坂酉三〕

技術導入

表-1　国籍別甲種技術導入認可件数

	1949～1968 年度累計		1969年度	
	件	%	件	%
アメリカ	3 468	59.4	569	48.1
西ドイツ	666	11.4	146	12.6
イギリス	395	6.8	100	8.7
スイス	393	6.7	55	4.8
フランス	217	3.7	61	5.3

科学技術庁《外国技術導入年次報告》(1969年度)

表-2　業種別甲種技術導入認可件数（1950～1969）

	化学工業	石油・石炭製品	鉄鋼・非鉄金属	一般機械	電気機械	輸送用機械	繊維・繊維製品	その他	合計
件数	1 156	129	371	1 958	1 350	379	312	1 339	6 994
%*	16.3	1.7	3.4	28.4	16.3	5.0	5.7	23.2	100.0

注）＊は1969年度構成比

科学技術庁《外国技術導入年次報告》(1969年度)

きじゅんじ　【基準時】　⇨世界時

きじゅんしんどう　【基準振動】　⇨固有振動

きしょう　【気象】　大気の状態並びにその中で起こる諸現象。大気中には乾燥空気・水蒸気のほか液体・固体などの混入物が混じっている。乾燥空気はN_2(窒素)・O_2(酸素)・Ar(アルゴン)・CO_2(炭酸ガス)を主成分とする混合気体である。これらの気体は一定の割合で混じっていて，その組成は地上から高さ80km程度までの間で変わらない。しかし，詳しくみると乾燥空気の成分の中にはその量がほとんど変わらないものと，場所と時によって変わるものとがある。上にあげた気体はほとんど変わらないものであるが，場所と時によって変わるものとしてはオゾン・亜硫酸ガス・ヨード・海塩などがある。また，大気中にはつねに水蒸気が含まれており，その含有量は他の気体とは異なり，大きく変化する。空気１kgに対して35gの水蒸気が含まれていることもあり，ほとんど０に近いこともある。温度が下がると水蒸気は凝結または昇華して水滴や氷晶となり雲をつくる。気象が複雑な変化をするのは水蒸気があるためである。

大気は地上1,000kmぐらいにわたって存在しているが，上空へ行くにつれて空気が希薄になる。大気の気温分布はラジオゾンデ・探測気球などによって直接観測されているが，それ以上の高空については，最近ではロケットによる観測ができるようになった。

地球を包む大気の層，すなわち大気圏*は大きく対流圏・成層圏・中間圏・熱圏・外圏に分けられる。そして，地上の天気現象は主として対流圏内の空気の運動に支配され，その気象状態は天気図で見るのが最もわかりやすい。上層の天気図ほど簡単で，地表付近は地形や海陸の影響があり複雑である。上層の大気の流れはロスビー波といい，波長数千キロメートルの波状をなしている。その中を高・低気圧が東へ移動していくのが中緯度地帯の状態である。大気中には波長数千キロメートルの大規模な擾乱(じょうらん)のほかに台風のように数百キロメートルの規模のものもあれば，また雷雨現象のように５～10km程度の小規模現象もある。これらの現象のそれぞれに固有の風系，気圧・気温の分布，雲・雨の分布が伴っている。大気現象のエネルギー源は太陽熱であり，地球上に大規模な風系が形成されるのは地球の受熱量が低緯度で大きく高緯度で小さいことによる。海陸分布，水蒸気・炭酸ガスなど大気の組成，雲の分布，地表付近の乱流などの状態が大気の運動とともに熱バランスを支配し，ひいては気圧分布を決め気象現象を生起・消滅させている。おもな気象現象には大規模な高・低気圧，地表付近のやや小さい高・低気圧，台風・不連続線・豪雨・雷雨・たつまきなどがあるが，これらの現象の機構を解明するには，大気の運動・放射・蒸発・乱流・成雨機構などいろいろの機構を研究しなければならない。

〔曲田光夫〕

きじょう　【軌条】　⇨レール

ぎしょう　【宜昌】　イーチャン　中国湖北省の西部，揚子江の左岸に位置する港市。人口10万(1960年推)。風景美で知られる三峡*の東口を占め，四川(しせん)盆地への玄関口にあたるため，古くから交通・軍事上の要地となってきた。揚子江水運の中継地で，下流の漢口および上流の重慶との間に500～1,000トン級の汽船が往来し，農産物のほか，油類の集散を行なう。

ぎしょう　【義湘】　(625～702)　朝鮮の新羅(しらぎ)時代の僧。650年海路で唐にはいり，華厳宗(けごんしゅう)第２祖智儼*(ちごん)について修学する。華厳宗の大成者賢首大師法蔵*とは同門である。帰国後，大伯山(慶尚(けいしょう)北道)に浮石寺を建て，華厳宗を広めた。著書に《華厳一乗法界図》などがある。元暁(がんぎょう)とともに朝鮮の仏教教学樹立の功労者で，その伝記を題材とした《華厳縁起絵巻*》(国宝)は高山寺に所蔵されている。なお，法蔵から義湘に送った手紙が現存している。〔鎌田茂雄〕

ぎじょう　【議定】　王政復古*の際に設けられた官職名。1867年(慶応３)12月９日，朝廷は王政復古を宣言し，天皇を中心とする新政府の建設をめざした。幕府・摂政・関白を廃止し，新たに総裁・議定・参与の三職を置いた。総裁には有栖川宮熾仁(ありすがわのみやたるひと)親王，議定には仁和寺宮(にんなじのみや)・山階宮(やましなのみや)の２親王と中山忠能(ただやす)ら３卿(きょう)，前尾張藩主徳川慶勝(よしかつ)と越前(えちぜん)・安芸(あき)・土佐・薩摩(さつま)の５大名が任命され，朝廷と諸藩を連合した統一的な政治体制を樹立した。その翌日の小御所会議*をはじめとして，新政は

→317ページ

技術革新

本来は，生産技術や管理技術を一変するような新しい技術的変化をいい，英語のイノベーションにあたる。しかし，一般には重要な技術改善や技術進歩をさす場合が多い。技術革新という概念をはじめて使用したアメリカの経済学者シュンペーター*は，技術革新の内容として次のものをあげている。①企業者の創造的活動による新製品の生産，②新生産方法の導入，③新販路の開拓，④新資源の獲得，⑤経営新組織の達成。

人類の学問・知識の進歩につれて，このような技術革新はたえず実現していき，その影響を受けて産業の構造，消費の構造，企業の組織，労働のあり方など社会の諸状態が変化してきた。場合によっては，技術革新によって社会的混乱が生じることもあるが，技術革新は多様でしかも数多い人類の物質的欲求を，限られた資源をもっていっそう豊かに満たしていくために必須(ひっす)の条件であり，経済発展の原動力ともいえるものである。

〔技術革新の歴史〕歴史的に技術革新をふり返ると，画期的な技術革新によって特徴づけられるいくつかの時代がある。①18世紀半ばから19世紀初頭までの蒸気機関・紡織機械の発明・改善を中心とするイギリスの産業革命*およびその浸透期：この時期の蒸気機関による織布技術の発展は，近代的な工場生産への道を開くとともに，資本家と労働者という新しい階級をつくりだした。なお，おもな技術革新は，1768年のワットの蒸気機関の改良，紡織機では1733年のJ.ケイの飛び杼(ひ)，1765年のハーグリーブズの紡績機，1769年のR.アークライトの水力紡績機，1779年のクロンプトンのミュール機，1785年のカートライトの力織機である。②19世紀半ばから19世紀末までの鉄と石炭の時代：1855年のベッセマーの製鋼法，1857〜1865年のウィリアム-ジーメンスおよびマルタンの平炉法，1878年のS.G.トーマスの塩基炉などの技術革新に伴い，それまでの繊維産業に代わって鉄鋼を主導部門とする重工業化の波が起こった。③19世紀末から1920年代の電気・化学・自動車の時代：1879年エジソンの白熱電燈，1876年ベルの電話，1896年マルコーニの無線電信，1860年ルノワールの3馬力ガス機関，1896年オットーの4サイクル機関，1894年ガス内燃機関，1914年フォードの自動車大量生産方式の導入など，この時代の技術革新の特色は動力源が水力から電力へ，石炭から石油へ，蒸気機関からガス内燃機関へ移行したことである。そして，これに伴って重化学工業は飛躍的な発展を遂げ，巨大工場・巨大企業が現われるようになった。④第2次世界大戦から現代まで：1930年代以降，航空機・軽金属・化学繊維技術が発達するが，特に第2次世界大戦は各国の総力をあげての科学戦であったために，これら技術面と原材料・燃料面の開発にばくだいな人材と資金が投入された。そのようにして開発された成果は戦後の各種産業に利用され，現代は技術革新があらゆる産業にわたって飛躍的な発展を遂げる時代となった。現代の技術革新は，㋑エネルギー革命(原子力・太陽熱の利用)，㋺資源革命(海洋資源〔マンガン・油田・天然ガス〕の採掘，ラテライト*・オイルサンドの利用)(→海洋開発)，㋩材料革命(ゲルマニウム・シリコン・チタンなどの複合金属，ナイロン・テトロンなどの合成繊維，ポリエチレン・テフロンなどの合成樹脂の開発)，㊁高分子化学革命(ペニシリン・合成タンパク・医薬品の開発)，㋭オートメーション革命(コンピューターの利用)に分けられる。

〔技術革新のにない手〕技術革新は科学知識の発達と社会的要求とによって促されるが，科学的な発明・発見が直ちに技術革新となって導入されるとは限らない。科学知識によって生み出されたものを現実の社会に導入し，企業化・製品化する役割をになうものは，企業ないし企業家である。とはいえ，資本主義社会において各企業をつねに技術革新にかり立てる要因は，企業間の競争にほかならない。古い製品や生産方法が新しいものによってとって代わられるという〈創造的破壊の過程〉(シュンペーター)こそが資本主義の本質であり，企業はより多くの利潤を求めてつねに新たな技術革新に努める。しかし，現代において技術革新競争に参加するにはばくだいな資金と組織とを必要とするから，技術革新の多くは大企業の手によって行なわれているといってよい。しかし，市場の構造が独占的であり，競争圧力が乏しい場合には，かりに技術革新の機会があったとしても，大企業によってその実現が意識的に抑制される場合もある。また，中小企業や個人の努力によって技術革新の口火が切られることもないわけではない。要は，その経済や産業内に技術革新を促進するような競争が存在するか否かにかかっているといえるだろう。

〔技術革新の効果〕技術革新は経済発展や成長の原動力である。わが国の昭和30年代以降の急速な経済成長が，革新的な技術を導入することによって実現したことは周知のことである。経済成長率は，就業人口の増加率と労働生産性(労働者1人あたり生産高)上昇率を加えたものにほぼ等しいが，この労働生産性の伸びは技術進歩と深く関連している。日本経済についていえば，1959〜1966年までの労働生産性の平均増加率9.3%のうち4.1%は技術進歩，5.2%は資

新技術の実用化・普及の時期予測(1967)

	10 年 以 内	20 年 以 内	20 年 以 上
材料 化学物質	衝撃波利用 ホイスカー ユニット化住宅資材 極低温技術		
エネルギー	増殖炉　太陽電池 燃料電池	MHD発電	核融合発電
コンピューター	徴税への利用 ティーチングマシン 図書館自動化 家庭用コンピューター マン-マシン-コミュニケーション	自動翻訳機 パセプトロン 光計算機	
エレクトロニクス	レーザー通信 人工衛星通信ネットワーク 家庭電器の超小形化	テレビ電話 家庭用ファクシミリ 立体テレビ	
輸送機械	超音速旅客機 電気自動車 オートメ地下鉄	原子力船 100万トンタンカー VTOL(垂直離着陸機) 自動車自動運転 飛行列車 原子力ロケット 月への人間往復	宇宙航空機 光子ロケット 弾道輸送機
資源・気象	海水の淡水化	砂漠・海洋の開発	天候コントロール 地震完全予知

日本経済研究センター〈デルフィ-メソッド予測〉

本装備率(労働者1人あたりの使用資本額)の上昇によるとされる。企業にとって労働生産性上昇率が高いことは，より少ない労働者数でより多くの生産を可能とすることを意味するから，製品価格の引き下げを実現したり，賃金の引き上げを製品価格の引き上げによらずに吸収することを可能にする。したがって，国民経済レベルで考えても，企業レベルで考えても，技術革新は新しい製品を安価に国民に提供しつつ，経済を成長させるために不可欠の要因といえる。

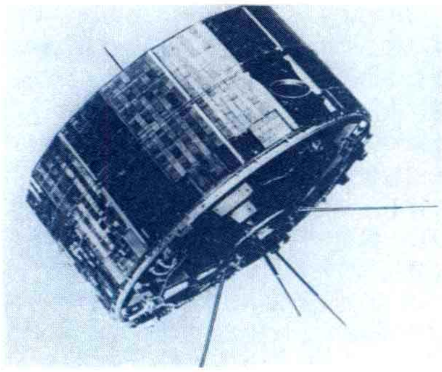
しかし，技術革新はプラスの面ばかりもつわけではない。後述するように，技術革新の副産物として公害*の問題が起こり，また機械化によって労働雇用の減少をもたらすという労働者にとって不利な現象もある。確かに，今日の近代的工場にみるように，工場単位でみると，技術革新による生産の大幅な増大に比べて雇用者数の増加はわずかなものであり，部門によっては人員の大幅削減という問題すら起こっている。しかし他方では，販売・管理・研究開発などの部門で人員が増大するために，企業単位の雇用者数は増加していることが多い。これを国民経済レベルでみると，技術革新によって農林水産業や工業部門での雇用の伸びは鈍化するが，運輸交通・金融・サービス・教育・レクリエーションなどの部門の雇用の伸びは著しく，またこれを職種でみても，生産に直接参加するブルー-カラー*の増加率は低下するが，専門職・技能職，販売・サービス従業者などの雇用の伸びは増大する。したがって，技術革新によって失業者が増大するという事態は先進国において総体的には起こっていない。なお，以上のように生産や雇用の比重が知識・情報に関係する分野に移行していくことは，工業化以後の社会，情報化社会といわれるものの特徴である。

〔今後の技術革新〕 これからの社会では，どのような技術革新が期待されるであろうか。科学はときには飛躍的に発展するし，技術革新が偶然的にもたらされる場合もけっして少なくない。それゆえ，将来の技術革新を予測することは本来困難なことであるが，少なくとも現在の技術的水準に基づいて多数の科学専門家が技術革新を予測したものが下表である。この表から明らかなように，材料・化学物質については予測困難だが，情報機械・運輸交通機械などについてはかなり明確な予測が行なわれている。これからの社会が情報化革命・システム産業(多数の目的と機能を組織化した産業)の時代といわれる理由がここにある。だが，このような科学技術の発展と結びついた技術革新に対しては，今後は社会的な制約がいっそう大きく課されるようになっていくだろう。かりに技術的に可能なものであっても，公害を生み出す技術革新や，地球上の資源を急速に枯渇させるような技術革新は社会的に容認されなくなるにちがいない。このような評価をテクノロジカル-アセスメント(技術の事前評価)というが，将来の技術革新はこのテクノロジカル-アセスメントを経たのちに実現されなければ，せっかくの技術革新が社会的害悪として葬り去られ，投下してきた研究開発費がまったくむだとなる事態が生ずるおそれが大となろう。　〔原　豊〕

議定・参与の合議により推進された。翌1868年(明治1)1月には，三職七科制になり，議定は引き続き親王・公卿(くぎょう)・大名のうちから選ばれ，議政官上局に属して議事に参加した。しかし新三職制では，議定大名も藩勢力を代表するものではなくなり，新政府はここに連合政権的性格を脱して，天皇制官僚の独裁体制を発足させることとなった。翌1869年の官制改革により，三職は廃止された。➔議政官　〔高崎徳次〕

ぎじょう【義浄】(635～713) 中国，唐代の訳経僧。少年時代から法顕*(ほっけん)・玄奘*(げんじょう)を慕ってインドへの求法を志し，37歳のとき，広東(現在の広州)から海路を経てインドに渡った。ナーランダ寺*に10年間学び，諸所を歴遊し約400部の梵語(ぼんご)仏典を携え，695年ごろ洛陽(らくよう)に帰国した。のちに多くの経典を翻訳し，多数の新訳律典を紹介した。特に《南海寄帰内法伝*》《大唐西域求法高僧伝》などの著作は当時のインド・南海地方の仏教事情を知るための貴重な資料である。　〔大南龍昇〕

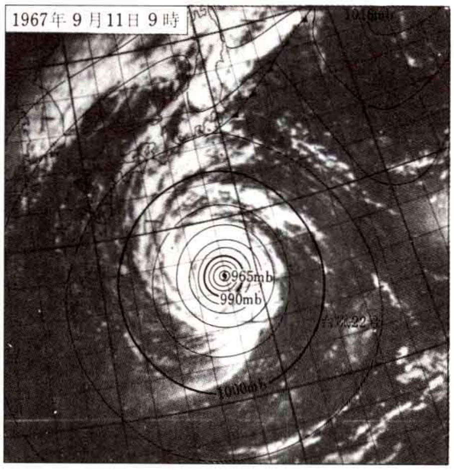
きしょうえいせい【気象衛星】 気象状態を示す雲の分布をテレビ写真にとったり，赤外線探知器によって地表や雲からの放射熱を測定する人工衛星。結果はすべて電送され，気象学の研究と天気予報に役だてられ，特に長期予報は大いに進歩するものと期待されている。世界の気象観測所は文明国に集中し，未開国ではまばらであり，地球表面積の約3分の2を占める海洋は船舶が観測するだけで，地球全体の5分の4の気象状態は不明である。地球全体の雲の分布写真を1日に何回も得られるならば，雲

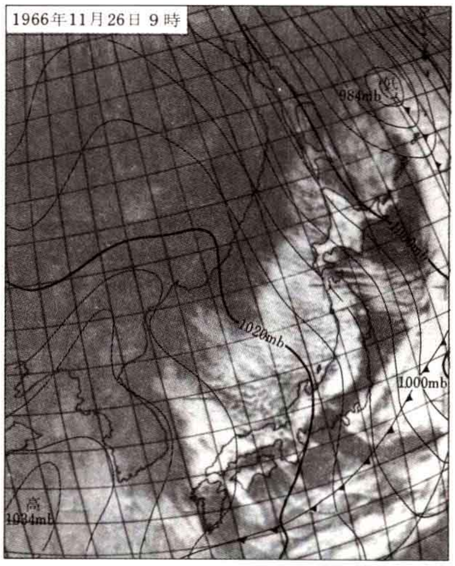


気象衛星　エッサ8号

は気象の変化を語るものであるから，気象学は画期的に進歩し的確な天気予報を出すことができる。アメリカは，不完全なものではあったが，1959年(昭和34)に最初の気象衛星バンガード2号を打ち上げた。本格的には，タイロスを1960～1965年に10個，ニンバスを1964年と1966年に1個ずつ，エッサを1966年以後8個打ち上げた。タイロスはたすきがけの軌道を，ニンバスとエッサは極軌道を回る。タイロスは空間に対する軸の方向が一定なので，固定されたカメラが地球に対して下を向いたときしか撮影できないが，他はつねに下に向けられている。ソ連は1966年に気象衛星コスモス122号を打ち上げた。その後のコスモス144・156・206号も気象衛星である。　〔原田三夫〕

きしょうかんそく【気象観測】 気圧・気温・湿度・風速・風向・降雨量・雲・視程・日射などの気象に関係する諸量の観測・測定をすること。





エッサ2号撮影の台風(上)と季節風(下)

〔気象観測の分類〕地上観測・高層観測・飛行機観測・レーダー観測・ロケット観測・人工衛星観測などの種類がある。①地上観測：地面近くに測器を置いて上記諸量を観測するもので，測候所・気象台などでは定時観測が行なわれている。②高層観測：高空の気圧・気温・湿度・風向・風速を測定するもので，わが国では稚内(わっかない)・根室・札幌(さっぽろ)・秋田・仙台(せんだい)・輪島・米子(よなご)・福岡・鹿児島・名瀬の10市と茨城県谷田部町館野(たての)・潮ノ岬(みさき)・南鳥島(マーカス島)のほかに，夏季南方海上で船舶による定時高層観測が実施されている。風の高層観測で最も簡単なのは測風気球による方法で，風船を揚げて風で流される道筋を経緯儀で追跡し，それから風向・風速を求めるものである。しかし，この方法では風船が雲に隠れたりすると追跡できなくなるので，定時観測などでは発信機を積んだ風船を地上から方向探知機で追跡するレーウィン観測の方法が行なわれている。また気圧・気温・湿度の高層観測は風船に測器を積んで，その観測資料を電波で送り，地上で受信・記録するゾンデ観測の方法で行なわれている。風・気圧・気温・湿度を同時に観測できるようにしたのがレーウィンゾンデ観測で，定時観測ではこの方法が用いられている。

〔レーダー観測〕気象用レーダーは雨粒からの電波の反射を利用して降雨域の把握(はあく)に使われている。すなわち，レーダーから発信された5～10cm波が雨粒群によって反射され，それがレーダー-エコーとしてブラウン管に映像される。その像の特性から降雨域の特性を推定するのである。気象用レーダーの最大探知距離は数百キロメートルに限られ，また山岳などによってさえぎられると電波が到達できないなどの欠点をもっているが，降雨域の把握とその予報に対しては有力な武器になる。わが国では，札幌・函館(はこだて)・仙台・新潟・福井・東京・名古屋・大阪・福岡・名瀬・富士山・室戸崎・種子島(たねがしま)・沖縄本島・宮古島などに気象レーダーが備えてある。そのうち富士山のレーダーが最も大きく，最大探知距離は800kmである。なお，雨を観測するにはセンチメートル波レーダーでよいが，雲粒のようにさらに小さい水滴の集まりに対しては，1cm以下のミリメートル波レーダーが反射が強くなるので有効である。

〔ロケット観測〕レーウィンゾンデ観測による観測もせいぜい高度30km程度までであり，それ以上の高層観測は定時には行なわれていないが，最近ロケットによる観測が行なわれるようになった。これはパラシュートをつけた測器をロケットに積んでおき，一定の高度でこれを放して観測できるようにしたものである。一方，特殊目的には飛行機観測があり，気象諸量の測定のほかに雲や海氷の写真調査，大気浮遊物の採集，海面温度の測定などに用いられている。

〔人工衛星観測〕人工衛星による気象観測も有力な資料を提供している。現在実用化されているのは衛星からの雲の写真で，これによって台風や不連続線の位置が的確に把握できる。ただ，高空数百キロメートルからの写真であるから微細構造は不明で，また雲の上面しかわからないなどの欠点はあるが，大規模な気象現象の動向の把握にはきわめて有効である。雲の写真だけでなく，赤外放射を利用し雲の上面温度を測定したり，また気象測器を積んだ気球からの記録電波を受けて地上に送信するなど，衛星による気象観測には，今後の多大の発展に期待が寄せられている。〔曲田光夫〕

きしょうかんそくせん【気象観測船】海上で気象観測を行なうためにつくられた船。気象庁では啓風丸・凌風(りょうふう)丸・清風丸・長風丸などの気象観測船が，気象観測とともに海洋観測にも従事しており，啓風丸・凌風丸には気象レーダーなど最新の設備がなされている。

きしょうけいほう【気象警報】大きな気象災害*が起こると予測される場合に，事前にその程度を判断して，適時にこれを警告して一般の警戒を促し，あるいは大きな災害が起こっている場合に，その後の推移を予想して人心の安定に役だたせるために，気象庁の予報警報規定に基づいて，気象官署が指定された地域に出す予報警報の一。気象警報には，暴風雨警報・暴風雪警報・大雨警報・大雪警報などがある。

ぎしょうざい【偽証罪】裁判所からよばれた民事・刑事事件の証人は，証言をするまえにうそを言わないという宣誓をする。この宣誓をした証人が，うその供述(自分の見聞・経験による記憶に反した証言)をすることによって成立する犯罪(刑法169条)。刑は3月以上10年以下の懲役。うその証言が裁判上，事実認定に影響してもしなくても成立する。ただ偽証をした者が，その裁判の確定前に偽証をしたことを名のって出れば，刑は減軽・免除される(刑法170条)。〔野口恵三〕

きしょうさいがい【気象災害】気象現象が人間社会に及ぼす災害。気象災害は社会生活の発展段階に応じてその程度や形態が異なる。たとえば，同じ暴風雨でも，大都市と小村落では当然被害の程度や内容が違う。災害をもたらすおもな気象現象をあげると次のようなものがある。

①豪雨：台風期・梅雨末期などに起こり，しばしば狭い区域に集中する集中豪雨となって，洪水(こうずい)・がけくずれなどの水害をもたらすことが多い。②豪雪：冬季，日本海側で豪雪となることが多く，交通機関などに被害を与える。③台風・低気圧：大雨と強風をもたらし，船舶・建造物などに大きな被害を与えることが多い。④雷雨*：大雨となることもあるが，落雷による被害が多い。⑤たつまき*：数キロメートル程度の範囲内の家屋などを完全に破壊することが多いが，アメリカなどに比べるとわが国ではそれほど多くない。⑥霧：船舶や航空機などの航路の視程を悪くし，船舶の衝突，航空機の離着陸障害をもたらす。⑦霜：主として農作物に対して被害を与える。特に季節遅れの霜害が大きい。⑧気候異変：気象状態が平年と著しく異なることから，いろいろの被害をもたらす。冷害・干害・暖冬などがその例である。⑨悪気流：おもに航空機に激しい動揺を与え，ときには墜落事故ともなる。飛行中に遭遇することが多いが，離着陸に際して空港付近でも起こる。⑩大気汚染：純粋な気象災害ではないが，汚染空気を滞留させるような一定の気象状態があるわけで，高気圧・逆転層などに関係が深い。〔曲田光夫〕

きしょうだい【気象台】気象観測*や，気象と関連ある地球物理学的観測を行ない，天気予報や警報を出すなどの業務を行なう国の機関。気象庁の下部機関。札幌(さっぽろ)・仙台(せんだい)・東京・大阪・福岡の5か所に管区気象台があり，これを中心に全国を5管区に分け，その下に各府県ごとに地方気象台が置かれている。そのほかに函館(はこだて)・舞鶴(まいづる)・神戸(こうべ)・長崎に海洋気象台，茨城県谷田部町館野(たての)に高層気象台がある。さらに各地方気象台の下に測候所・気象通報所がある。また東京には航空地方気象台，そのほか主要空港のあるところには航空測候所がある。気象台では気象観測を行なうとともに観測資料を中央に通報し，中央では資料を集めて必要な天気図をつくり模写電送によって地方に送っている。特に気象庁では世界各地の気象資料を集めて北半球全域・アジア地域などの広域天気図をつくり，それを基にしてコンピューターを用いて予想天気図をつくっている。これらの資料を使ってそれぞれの気象台で天気予報を出している。〔曲田光夫〕

きしょうちゅういほう【気象注意報】気象官署が気象庁*の予報警報規定に基づいて，気象災害*について注意を促すために指定された地域に出す予報警報の一。気象注意報には，風雨注意報・風雪注意報・強風注意報・大雨注意報・大雪注意報・異常乾燥注意報・雷雨注意報などがある。

きしょうちょう【気象潮】暴風とか低気圧などの気象現象によって起こる海面の昇降。潮汐(ちょうせき)は，天文潮すなわち月や太陽の引力によって起こり，しかも気象潮は天文潮に比べて小さい。台風時に普通より数メートルも高くなることがある。

きしょうちょう【気象庁】1956年(昭和31)7月1日中央気象台が気象庁に昇格したもの。運輸省の外局であって，日本の気象業務を行なう。国内はもとより世界各地の気象資料を集めて各種天気図をつくり，それを基にしてコンピューターを用いて予想天気図をつくり，天気予報を出している。

下部組織として管区気象台・地方気象台・測候所があり，気象観測・観測資料の送受信，天気図とその予報の作製，天気図類の模写電送などがおもな仕事になっている。このほか，地震・火山・海洋・地磁気などの現象に関する業務も行なっている。〔曲田光夫〕

きしょうつうほう【気象通報】天気予報を行なうのに必要な気象観測資料を相互に交換して収集するための通報。世界気象機関（WMO）は，協定で定められている各国内の観測値，船や飛行機から受信した観測値などが世界じゅうで利用できるように適当な通信中枢や通報形式を規定している。世界の各観測地点はブロック番号と地点番号で指定するようになっている。たとえば，朝鮮・日本はブロック番号が47であり，地点番号は稚内(わっかない)401・青森575・横浜670などとなっている。また，雲量，雲の種類，風向・風速・気温・気圧・天気などの気象要素が定められた数字で表現されて，無線または有線通信で気象通報が行なわれるようになっている。通報形式には，地上実況気象通報式・海上実況気象通報式・地上高層風実況気象通報式・地上高層実況気象通報式・地上月平均値気象通報式・高層月平均値気象通報式などがあり，それぞれ一定の形式で予報中枢に集められる。予報中枢ではこれらの気象電報を翻訳して，各種天気図などに一定の方式で記入し，等圧線・不連続線などを描き，天気の状態を具体的に表現するのである。天気予報は一定の時間内に行なわれる必要があり，そのため気象通報は能率的にすみやかになされねばならない。最近ではコンピューターの利用による近代的な通報組織が確立されつつある。わが国の気象庁においても，通報業務は観測業務・予報業務とともに最も重要な仕事になっている。〔曲田光夫〕

きしょうでんき【気象電気】地球とそれを取り巻く大気とで形成されている電気現象。地球は一般的にいって導体と考えられるので，地球のもっている電荷は表面に現われている。地球表面のもつ電荷は，平常の状態では負で，地球大気の電場は上から下に向かっている。観測によれば，地球大気の電場の強さはだいたい平衡状態を保ち続けているが，その際，主要な役割を果たすのは雷雨に伴う電気現象である。大気電場は一定の日変化をするが，降水・雲・霧・塵埃(じんあい)・煙その他の気象現象は電気的乱れを生じさせる。〔曲田光夫〕

きしょうびょう【気象病】天候の変化により疾病(しっぺい)または症状が動揺・誘発されると考えられる疾患。ドイツのデールッデルが命名。疾患としては急性喉頭(こうとう)クループ，乳児急性けいれん，妊娠性子癇(しかん)，疼痛(とうつう)発作（慢性炎症性組織の疼痛，リウマチ痛，瘢痕痛(はんこんつう)，関節炎痛，肺組織の結核性瘢痕痛，脊髄癆(せきずいろう)の穿刺(せんし)様疼痛)，神経炎痛，喀血(かっけつ)，上気道カタル，急性緑内障，脳溢血(のういっけつ)および血栓(けっせん)など。原因としては，気圧の動揺が体に変化を与えるために起こるという説（気塊説）と，二次的に起こる空中イオンの変化によるとされる説（空気中電気変動説）とがある。〔金子義徳〕



キショウブ

きしょうぶ【黄菖蒲】単子葉植物・アヤメ科。ヨーロッパ原産の多年草。日本には明治の中ごろ渡来。水辺に栽培され，ときには野生状となっている。葉は直立し剣状で60～100cm。5～6月に約1mの花茎を伸ばし，黄色の花をつける。寒さ・暑さに強い。八重咲きもあるが，他種との交雑ができず，園芸品種はない。

きしょうもん【起請文】現在および将来にわたって自身の行為や言説について偽りのないことを神仏にかけて誓約した文書。祭文・誓詞ともいう。はじめ太政官(だじょうかん)へ法律の改定申請をする官庁の建議書をいったが，10世紀ごろから仏寺内で制規を定める文書をいうようになり，仏に誓約するその書式が民間で一般化するようになった。誓約する事がらを書いた前書きと，それが偽りであれば神仏の罰をこうむってもよいことを神々の名をあげて誓う神文とからなる。諸社寺から出される牛王宝印*(ごおうほういん)とよばれる護符*の裏面を用いるのが通例であった。〔鈴木英雄〕

きしょうレーダー【気象レーダー】⇨気象観測

きじらみ【木蝨】こん虫類・半翅(はんし)目・キジラミ科の総称。セミ・ウンカ・ヨコバイなどの頸吻群(けいふんぐん)では吻が頭部の基部から生じているが，キジラミ科はアブラムシ科・カイガラムシ科・コナジラミ科とともに吻が脚の基節間に沿って生ずる腹吻群に属している。微小な種が多く，翅(はね)を広げた長さが大形種でも10mmを越えない。成虫の体形は，セミを小形にしたような形態をしており，触角は9～10節，単眼は3個，後脚は跳躍に適し，腿節(たいせつ)がやや太い。翅は，膜質一様で透明なもの，前翅に種々の色彩の模様をもつものがあり，脈は単純で数が少なく，分類上の特徴として使われる。後翅は非常に小形で，脈も少なく弱い。幼虫（若虫）は，やや複雑な不完全変態をし，長卵形で著しく扁平(へんぺい)。白色のロウ物質を分泌して体をおおう種類が多く，またアブラムシ類のように腹端から甘いしるを分泌してアリなどのこん虫を誘引する種類も多い。また，寄主植物の葉裏や新芽に群生して虫こぶ*をつくらせる種類も多く，農林業上の重要な害虫とされている。全世界から1,000種類以上，日本からも数十種が知られている。中でも，ナシにつくナシキジラミ，クワにつくクワキジラミ，リンゴにつくクロリンゴキジラミなどは大害虫として知られている。〔鈴木邦雄〕

きじりょく【起磁力】磁界*を起こす源泉としての電流。磁性体内における磁束の分布の模様は，導体内部における定常電流の分布状態と非常に類似しているので，電流が流れる電気回路に対応して，磁界Hのつくる磁力線*の回路として磁気回路なる概念がある。磁気回路Cに沿って1周する磁界Hの線積分をとれば，

$$\oint_C H\cdot dl = nI \quad \text{アンペア回数（AT）}$$

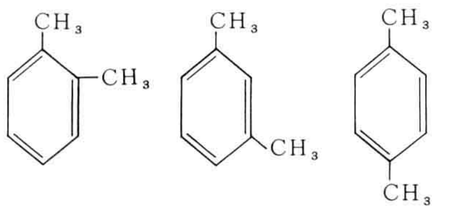
の関係がなりたつ。ただし，dlは閉磁路の微小長さ，nは積分路の鎖交数，Iは電流。これを，電気回路におけるキルヒホフの第2法則で起電力が果たす役割と同じように考えて，磁気回路においても起磁力という概念を対応させ，nI（AT）を特に起磁力とよぶ。すなわち，起磁力は積分路Cと鎖交するアンペア回数に等しい。〔堀内和夫〕

キジルクム（砂漠）［Kyzyl kum］中央アジア，アラル海の南東に広がる砂漠(さばく)。面積30万km^2。地名は〈赤い砂〉の意。アムダリア・シルダリア両河川にはさまれ，ソ連のウズベク・カザフ両共和国にまたがっている。気候は著しく乾燥し，年間降水量は100mm程度にすぎない。南東隅(ぐう)にオアシスの町タシケントがある。

キジルせんぶつどう【キジル千仏洞】中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区のクチャの西方，ムサルト川峡谷に開削された仏教石窟(せっくつ)。今世紀の初めドイツ探検隊のル・コック・グリュンベデルによって調査され，美しい壁画が発見されて世界の注目を集めた。キジル石窟の形式は一般に内陣の奥に塑造の仏像を安置し，その左右にトンネル状通路を掘って背後を巡るようにしてある。塑像はほとんど失われたが，天井・側壁を飾る壁画が多く残り，西域美術の多彩さをよく示す。制作は5～7世紀。〔小谷仲男〕

キシレン［xylene］C_8H_{10} キシロール・ザイレン・ジメチルベンゼンともいう。ベンゼン核に二つのメチル基が結合した化合物で，オルト（o-）・メタ（m-）・パラ（p-）の3種の異性体*がある。石炭や石油中に含まれ，石油などから分離される。精密蒸留や分別結晶によって各異性体を分離することができる。沸点o-：144.41℃，m-：139.10℃，p-：138.35℃，凝固点o-：−25.19℃，m-：−47.87℃，p-：13.26℃。芳香族化合物特有のにおいをもつ無色の液体。

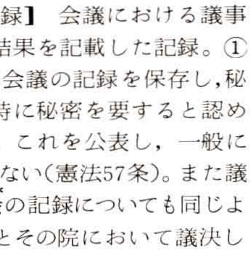
市販品はo-，m-およびp-異性体とエチルベンゼンの混合物で，沸点135～145℃。溶剤，高級ガソリンの配合用に用いられる。また，分離された異性体は，それぞれ合成繊維や合成樹脂の製造原料として重要である。〔石戸良治・荒木洋之助〕



o-キシレン　m-キシレン　p-キシレン

ぎじろく　**【議事録】**　会議における議事の経過およびその結果を記載した記録。①両議院は，それぞれ会議の記録を保存し，秘密会の記録の中で特に秘密を要すると認められるもの以外は，これを公表し，一般に頒布しなければならない(憲法57条)。また議会(→国会)・委員会*の記録についても同じように，秘密を要するとその院において議決した部分以外は公表しなければならない(国会法63条)。地方議会においても，会議録の調整，会議の次第，署名，報告についての規定がある(地方自治法123条)。②株式会社の株主総会・取締役会，有限会社の社員総会などにおいて作成され，一定の者が署名し，本店および支店に備置し，株主(社員)や会社債権者の閲覧に供せしめている。議事録は決議の成立・不成立やその他の決議になんの関係もないが，決議に参加した取締役には一定の責任を負う特殊の効力が認められている(商法266条3)。〔吉田善明〕

キシロース　[xylose]　$C_5H_{10}O_5$　アルドペントース(五炭糖)の一種。D型のキシロースは木糖ともいわれ，木材やわらなど植物界に広く分布している。多くはそれのポリマーであるキシランとして存在し，セルロースと共存してヘミセルロースを形成している。トウモロコシのしん1kgから約100gのD-キシロースが得られる。融点は145℃(154℃という報告もある)。水溶液はショ糖の60％程度の甘味を呈する。L型のキシロースはほとんど自然界には存在していない。〔石戸良治・荒木洋之助〕



ぎしわじんでん　**【魏志倭人伝】**　日本に関する中国最古の文献。《魏志》は中国の正史《三国志*》の一部で，晋(しん)の陳寿が魏朝(220～265)の歴史を記述したもの。俗にその中の〈東夷伝(とういでん)〉という倭人の条を〈魏志倭人伝〉とよんでいる。記事の大半は魏の魚豢(ぎょけん)(3世紀の人)の《魏略》をもとに書かれているので，成立は3世紀後半であると思われる。有名な邪馬台国*(やまたいこく)とその女王卑弥呼*(ひみこ)の記載があり，その当時の地理・社会・政治・風俗などを知る文献的史料として貴重なものである。しかし，伝聞の誤りや誇張も多いので，史料としての扱い方には注意を要する。〔吉村武彦〕

きしわだ　**【岸和田(市)】**　大阪府南西部の市。江戸時代は岡部(おかべ)氏五万三千石の城下町であった。1922年(大正11)市制施行。人口18万0,000。市域は大阪湾に臨む和泉(いずみ)海岸平野のほぼ中央部から，和歌山県境の山地にまで及ぶ。産業三大別人口比は3：45：52で，伝統的な和泉もめんから発展した繊維工業を主産業とし，泉州紡織工業地帯の中心地である。南西部の葛城(かつらぎ)山周辺では米の裏作としてタマネギの特産があり，山麓部(さんろくぶ)ではミカン・草花が栽培される。第2次世界大戦後，工業港として改修された岸和田港を中心に，金属・機械器具・レンズなどの近代工業が興り，1966年(昭和41)には海岸埋め立て地に木材コンビナートが完成した。南海電鉄南海線・国道26号線が海岸沿いに，阪和(はんわ)線・阪和国道が山麓寄りに走る。岸和田城(千亀利(ちぎり)城)跡には天守閣が復元されて，行基がつくったとされる久米田(くめだ)池や南朝とゆかりの深い久米田寺などの史跡がある。

きしん　**【寄進】**　有力な寺社へ土地あるいは財物などを寄付すること。古代末期・中世において贈与行為には貢進・奉献・捨施などの語を用いたが，平安時代には寄進の語をもって示すようになった。寄進は有力な寺社の保護，神仏の加護を求めて行なわれたが，特に地方の武士・土豪は自己の所領に対する実質的支配権を保ちながら，その保護を求めて所領を有力寺社に寄進し，年貢*(ねんぐ)・公事*(くじ)などを納めた。

きじん　**【鬼神】**　人間と神との中間的存在で，鬼(き)と神(かみ)との結合したものをいう。人間の霊魂は天から授けられたものであり，肉体が死ねば霊魂は天に帰する。しかし生前悪行を行なった者の霊魂は昇天できず，下界に横行して災いを起こす鬼神となるとされる。中国では鬼を死者の霊魂として，祭天の儀礼とともにあがめたが，仏教が伝来した後漢(947～950)以降，人のいる所あらゆるものにみな鬼神ありとして，怪異な形態をもつ悪鬼に転化した。日本にも中国の鬼神の思想が伝来し，あるときは神として，あるときは醜女として存在したが，一般的には鬼として物語や俗信の中に現われている。→鬼(おに)　→ダイモン〔渡辺欣雄〕

きじん　**【旗人】**　中国，清(しん)代に八旗*に属したものの総称。モンゴル人・漢人なども含むが，中心は満州人。彼らは清朝国家の基礎として特に優遇され，旗地という土地が与えられ，戸籍も一般人とは区別され，各種の特権が与えられていたが，一方，職業や結婚については制限があった。

ぎしん　**【義真】**　(781～833)　平安初期の天台宗の僧。延暦(えんりゃく)寺第1世座主。相模(さがみ)(神奈川県)の生まれ。早く比叡*(ひえい)山に登り，最澄*に師事した。年若くして最澄の比叡山開創を助け，804年(延暦23)最澄の入唐に訳語僧として従った。最澄の没後は大乗戒壇の戒和上となり，824年(天長1)座主となる。嵯峨(さが)天皇の勅命によって《天台法華(ほっけ)宗義集》を撰(せん)し，ほかに《雑疑問》《維摩堂(ゆいまどう)日記》などの著作がある。〔京戸慈光〕

キージンガー　[Kurt Georg Kiesinger]　(1904～　)　ドイツ連邦共和国(西ドイツ)の政治家。キリスト教民主同盟*の有力政治家。もとナチス党員であったことから戦後は一時不遇であったが，しだいに力量を伸ばし，1966年，エアハルト*首相の退陣後，首相に就任。社会民主党との大連立内閣を組織して注目を浴びた。

きじんしんろん　**【鬼神新論】**　平田篤胤*(あつたね)の著書。1巻。1820年(文政3)刊。神の存否について和漢の学者の間で種々の論議があったが，篤胤はそれらはみな推量の説で妥当ではないとして本書を著わした。篤胤は神の実在説をとり，この書で多くの儒学者の不徹底を摘発し，四書五経や孔子の例を引いて，天(帝)とはわが天神に相当する意味・内容をもつもので，教えのための仮説ではないと強調した。

きしんせん　**【姫新線】**　山陽本線姫路と伯備線新見(にいみ)を結ぶ国鉄路線。営業キロ数158.1。1923(大正12)～1926年開業。佐用・津山・勝山などの中国山地内の都市を通過し，芸備線と結んで，中国地方中央部の縦貫鉄道の一部を形成する。

きしんちけいしょうえん　**【寄進地系荘園】**　地方豪族や有力名主が，自己の開墾地を中央の有力な寺社に寄進*して成立した荘園*をいう。有力寺社などが自己の労働力によって開墾した自墾地系荘園*に対する。寄進を受けた有力寺社は本所*・領家とよばれ，国家に申請して不輸・不入*の特権を受けて荘園とするのが例であり，寄進者は荘官として実際上の荘園の支配権を確保した。平安中期ごろ(10世紀)から多くなった。

ぎじんほう　**【擬人法】**　比喩(ひゆ)の一種。自然や生物など，人でないものを人に見立てて表現する修辞法。活喩法ともいう。対象を新鮮に，美的に表現する技法の一つで，その根底には，個性的な連想と感情移入による対象の美的・全的な把握(はあく)がある。日本では，古くは漢詩文の影響で，近代にはいっては欧米文学の影響で普及したが，対象の全面的な人格化というよりも，対象と主観との融合・調和といった傾向をもつ。

きす　**【鱚】**　硬骨魚類・キス科のシロギスとアオギス(ヤギス)を合わせていうが，シロギスだけをさす場合も多い。シロギスは，全長30cmに達するものもあるが，普通は20cm内外。体はほぼ円筒形で細長い。背が淡かっ色，腹は白色，うろこはやや大き

い。北海道以南からインド・紅海方面に分布する。内湾や沿岸の砂泥底(さでいてい)にすみ，網やつりで多量に漁獲され，市場でよくみかける。上品な白身魚で美味。

アオギスは全長40cmほどに達する。シロギスに酷似するが，全体にやや青黒い色をおび，背のうろこがシロギスに比べて整然と並んでいる。東京湾からインド方面に分布する。シロギスより味は劣るが，浅い海中に脚立(きゃたつ)を立ててつる東京湾の脚立づりは，遊漁として有名。魚屋の店頭にはめったに現われない。〔菅野　徹〕

ギーズ(家)　［Guise］　16世紀フランスの政界に活躍した貴族。ロレーヌ家のクロードがフランソア1世*の下で武功をたて，1527年ギーズ公に封ぜられたときに始まる。2代目フランソアは外戚(がいせき)の地位を得て国政を左右する実権を握り，ユグノー戦争*では旧教徒の首領として新教徒と抗争し，暗殺された。あとを継いだその子アンリは1572年，聖バルテルミーの虐殺*を行ない，さらにアンリ3世の王位をうかがったが，かえって王の刺客に殺された。その子シャルルはスペインにのがれて再起を図ったが成功せず，17世紀後半にはいって家系は絶えた。〔大野真一郎〕

きすいえんこう　【輝水鉛鉱】　モリブデンの原料鉱石。MoS_2　六方晶系。比重4.7〜5.1，硬度1〜1.5，条痕(じょうこん)は薄緑色。劈開*(へきかい)は{0001}に完全。劈開片は自由に曲げられるが弾性はない。金属光沢を有し，鉛灰色ないし灰黒色を呈する。外観は石墨と似ているが条痕色で区別できる。アメリカ合衆国コロラド州のクライマックス鉱山が世界的に有名な産地で，わが国では岐阜県平瀬・島根県山佐および清久の諸鉱山が主たる産地である。〔河原　昭〕

きすいこ　【汽水湖】　海水の浸入によって無機塩類が500mg/lを越える湖沼。砂州によって海水が外海から隔てられ，淡水の流入によって薄められて汽水湖となったもの，または海岸近くにあって水路を通して海水がつねにはいったり，低気圧の通過に伴って海水が浸入して塩分を含む湖になったものなどがある。なお，海に近い部分ほど塩分が濃く，陸に寄る所は薄い。また，潮汐(ちょうせき)の干満によって塩分の濃度が変動したりする。表層部は淡水，下層部は塩水が普通。塩分濃度により多塩湖・中塩湖・少塩湖に分けることもある。塩分の薄い湖では淡水生の魚がとれ，濃い湖では海産魚がとれる。涸湖(ひこ)・三方湖・日向湖(ひゅうがこ)・浜名湖が汽水湖の例。〔相原正彦〕

きすう　【奇数】　⇨偶数

きすうほう　【記数法】　いくつかの記号を用いて，数を書き表わすしかたをいう。時代により，民族により，さまざまの異なる記数法が用いられてきた。現在では，0，1，2，……，9の10個の数字を用いる十進記数法がどこの国でも用いられている。

〔絶対記数法〕一つ一つの記号が，それ自身で数の大きさを表わす記数法で，この方法では，空位を表わす記号(十進記数法の0にあたるもの)は必要がない。ローマ数字で，CCIIIは203を表わしている。古代においては，絶対記数法が多く用いられた。

〔位取り記数法〕ふつう用いられている数の書き表わし方は，手の指が10本であるところに由来する十進位取り記数法である。たとえば，345の各数字が，それぞれ五つの一，四つの十，三つの百を表わすように，各位の数字は，その位の単位の大きさ(一・十・百など)がいくつあるかを示し，さらに，単位の大きさはいちいち示さないでも数字の書かれている相対的位置によって決まる。すなわち，各位の単位は，次々にその右の単位の大きさの10倍となっている。この記数法は，絶対記数法と比べて，記号の種類も少なく，筆算も容易である。しかし，空位に0を用いることをインド人が発明して，はじめて可能となったのである。

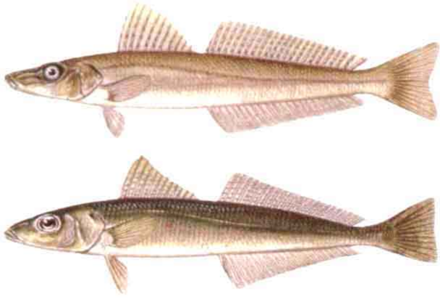
〔p進法〕位取り記数法を用いて数を書き表わすには，十進法でなくても可能である。たとえば，八進法では，0から7までの8個の数字を用いて，一の位，八の位，六十四の位，五百十二の位，……と各位の単位の大きさを定め，

$123_{(八)} = 1 \times 8^2 + 2 \times 8 + 3 \times 1 = 83$

と表わす。十や八をそれぞれの記数法の底(てい)という。底は2以上なら，いくつでもよく，任意の底をpで表わして，p進法という。➔十進法　➔二進法　➔六十進法〔青柳雅計〕

キスカ(島)　［Kiska］　アメリカ合衆国アラスカ州のアリューシャン列島の西部を占めるラット諸島中の最大の島で，アッツ島*の南南東約300kmの地点にある。長さ30km，幅3〜10kmの火山島で，キスカ火山(1,211m)がそびえる。東岸のキスカ湾は不凍の良港である。経済的価値は小さいが，軍事的には重要で，アメリカ軍の軍事・気象観測基地となっている。第2次世界大戦中の1942年(昭和17)6月，日本軍がアッツ島とともにこの島を占領し，鳴神島と命名したが，翌1943年5月のアッツ島守備隊の玉砕に伴い，キスカ島の放棄を決定，7月29日におりからの濃霧を利用して，水雷戦隊がキスカ湾に突入，陸海軍合わせて5,287名の守備隊全員の収容に奇跡的に成功した。戦艦2隻を含むアメリカ艦隊は，2週間にわたって無人のキスカ島に大量の砲弾を撃ち込み，8月14〜15日にカナダ軍を含む10,000余の陸兵を揚陸したが，17日になってはじめて日本軍がいないことに気がついた。キスカ島撤収作戦は，世界の戦史上まれにみる成功といわれている。〔浅井得一〕

きすきせん　【木次線】　宍道(しんじ)〜備後落合(びんごおちあい)間の国鉄路線。営業キロ数81.9。1916年(大正5)宍道〜木次間開通に始まり，1937年(昭和12)全通した。芸備線

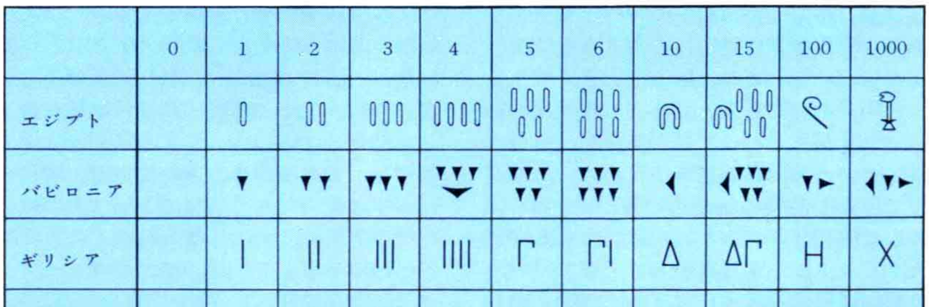


キ　ス　(上)シロギス　(下)アオギス



キスイエン鉱
岐阜県白川村産

さまざまな民族の数記号



記数法

などと結んで，中国山地横断鉄道の一つを形成する。

きすげ　【黄萱】 ⇨ユウスゲ

キストナ(川)　⇨クリシュナ川

きずホルモン　【傷ホルモン】　癒傷(ゆしょう)ホルモンともいう。細胞が傷害を受けたときに，その部分から分泌されて付近の他の細胞の成長や分裂を促すと考えられるホルモン性の物質。インゲン豆から単離されたトラウマチン酸もその一つであるが，現在は傷ホルモンは単一の物質でなく，傷害によって生体物質から生じた多種類の物質が傷ホルモン的な作用をもつものと考えられている。傷害によって生成するエチレンも一種の傷ホルモンと考えられる。

キースラーガ　⇨含銅硫化鉄鉱

キスリング　［Moise Kisling］（1891～1953）　フランスの画家。ユダヤ系のポーランド人。生地クラクフの美術学校で学び，1910年パリに出て，ピカソ・ブラック・ドランらと親交を結ぶ。エコール=ド=パリ*のひとりで，スラブ系独特の色彩と画面の古典的な堅牢(けんろう)さを特徴とし，その多くの作品には哀愁が漂い，繊細な感性をうかがわせるものが多い。

ギゼー　［Gizeh］　エジプト・アラブ共和国の首都カイロの南西約5km，ナイル川左岸にある都市。人口171万2,000(1970)。市の付近には古代エジプトの遺跡が多く，古くから観光地として知られている。特に市の西方8kmにあるクフ王・カフラー王・メンカウラー王の墓である三つのピラミッドとスフィンクスは有名である。このうち，第1ピラミッドとよばれる第4王朝(BC 2900～BC 2877)のクフ王のものは，数あるピラミッド中最大のものとして名高い。19世紀以来，各国の学者によって発掘や研究が行なわれてきた。　〔小栗　宏〕

きせい　【寄生】　ある生物が他の生物に，一時的あるいは恒常的に付着し，その生物におもに栄養を依存して生活する現象。栄養を与える生物を宿主・寄主などといい，栄養を受ける生物を寄生者・寄生生物などという。寄生生物が宿主の体内に寄生するものを内部寄生，外部に寄生するものを外部寄生という。また，宿主が生きているものの場合を活物寄生，死体であれば死物寄生または腐生といって区別するが，ふつう寄生という場合は活物寄生をさす。活物寄生では多くの場合，寄生生物と宿主間に決まった種間関係があり，人畜に対する寄生虫，こん虫に対する寄生バエ・寄生バチ，動植物に対する微生物など多くの例が知られている。寄生と共生*は似ている場合があり，その違いはいっしょに生活しているとき，利益が一方的にかたよっているか，交換されているかであるが，実際には区別しにくいものがある。　〔松本忠夫〕

ぎせい　【犠牲】　動物の血や肉を神霊にささげて神霊との宥和(ゆうわ)を図り，社会共



キスリング《アニー=フロール》1938



ギゼー　アブラヤシの木立ちと緑の耕地を前景にして巨大なピラミッドが立つ。古代エジプトの遺跡が多く，国際的な観光地となっている

同体全体の安寧を得ようとする行為。未開社会で広く行なわれたが，地域や文化の発展段階によってささげられるものは物品・動物また人間などさまざまである。

ぎせいかん　【議政官】　1868年(慶応4)閏(うるう)4月の政体書*によって太政官*中に設けられた立法機関。上局と下局の二つに分かれ，上局には議定*・参与・史官などが置かれ，下局には議長と議員(諸藩選出の貢士)が置かれた。議定・参与は政体を創立し，法制を制定し，三等官以上の人事を選考し，賞罰を決め，条約を定め，講和・宣戦などをつかさどった。下局は上局の命を受けて租税，駅逓，藩と政府との訴訟など，13項を議事とした。政体書はヨーロッパの制度を模倣して立法・行政・司法の三権分立を掲げ，立法権を重んじて議政官を行政官の上に置いた。しかし実際には両官の事務が重複して分けることができず，同年(明治1)9月19日政体書を改正せずに仮に議定・参与を行政官にはいらせ，のち再びもとにもどしたが，1869年5月13日議政官は廃官となった。　〔千野境子〕

きせいきんり　【規制金利】　市中金融機関の金利*について法的に規制した金利をいう。金利を資金市場の自由な作用に任せておくと弊害が起こるため，その最高限度が法律で定められている。わが国では一般の金利は1877年(明治10)の利息制限法(1954年改正)によって，また市中金融機関の金利は1947年(昭和22)の臨時金利調整法によって，それぞれ金利の最高限度が定められている。また，1958年から市中銀行では標準金利*などの自主規制金利方式を採用している。　〔速水　保〕

ぎせいご　【擬声語】〈ガタン〉〈カラコロ〉〈ピューピュー〉〈メーメー〉などのように，物音や動物の鳴き声などを模写的に表わした単語。擬音語ともいう。〈と〉を伴って，または単独で，副詞として使われることが多い。たとえば，吹き鳴らされた音は，〈ポー〉〈ブーブー〉〈ヒュー〉のように，〈p〉〈b〉〈h〉が中心になるというような法則性があるといわれる。

きせいこうしょう　【気成鉱床】 ⇨気成作用

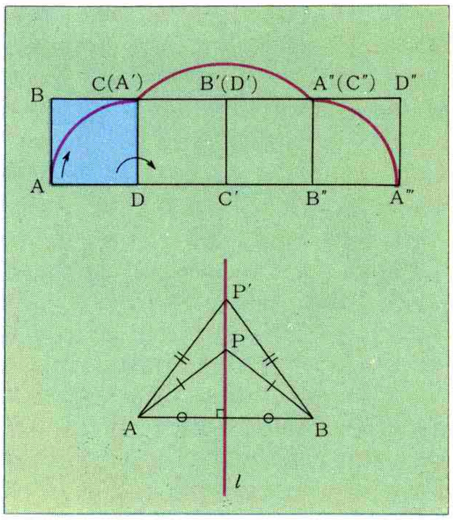
きせいさよう　【気成作用】　マグマ*から分離した揮発性成分が，他の岩石と反応して起こる諸現象。地下深所のマグマは，一般に揮発成分(主として水)を数パーセントぐらい溶解していることが多い。マグマが冷却して造岩鉱物*の結晶が増していくと，残りの液の中の揮発成分の割合はしだいに大きくなり，そのために揮発成分の蒸気圧は高くなっていく。もしその蒸気圧が周囲の圧力に打ち勝つと，揮発成分は沸騰しながらマグマから分離していく。このときの温度は水の臨界温度*374℃よりもはるかに高い。そして水のほかにフッ素・塩素・ホウ酸などのように化学的に激しく反応する成分を含んでいる。そのため，分離した揮発成分と周囲の岩石，特に割れ目に沿った部分には，それらの揮発成分を含んだ鉱物ができる。ホタル石・トパズ・デンキ石などはその例である。また，それらに伴ってスズ・タングステン・モリブデン・ビスマスなどの鉱床ができていることもあり，これを気成鉱床という。このような一連の作用を気成作用とよんでいる。　〔片山信夫〕

きせいじぬしせい　【寄生地主制】　地主が小作人に耕作させ，その小作料に依存して生活を立てる農業経営の形態。寄生地主は酒屋・質屋などの商業・高利貸しを兼業するのが普通である。わが国では，近世中期，貨幣経済の発達に伴い，雇用労働による地主手作りが分解して，寄生地主制の成長を促した。寄生地主制は，小農を圧迫して小作人に転落させ，土地の兼併・農民層の分解を進行させた。明治政府によって行なわれた地租改正*では，政府の主要財源となった地租のにない手として寄生地主制は認められ，近代を通じて国家の保護のもとに地主はその経済的地盤を確実化し，

社会的・政治的に支配的役割を占めた。第2次世界大戦後，2次にわたる農地改革*で消滅した。➔地主制　〔高崎德次〕

ぎせいしほん【擬制資本】 本来の資本に擬せられている〈資本〉をいう。公社債*・株式*・土地価格*・のれん*などは，それ自体はなんらの価値をもっていないのだが，それを所有することによって特定の収益(配当金*・地代*など)をもたらす。これは，それ自体が価値をもっていて自己増殖を行なう本来の資本に擬せられているわけである。そこでこれを擬制資本という。たとえば，100万円を利子率5％で貸し付ければ，1年後には105万円になって返ってくる。これは100万円が貸付資本として機能し，50,000円の利子をもたらしたのである。貸付資本は本来の資本である。一方，株式会社の株券も経営が順調ならば決算ごとに一定の配当金をもたらす。かりに配当率15％とすれば，額面50円の株なら7円50銭の配当である。こうした配当をもたらす株式をもっていることは，利子率を5％とすれば，150円の貨幣をもっていて利子収入を得ているのと同じことである。そこで，この株券は50円の額面でも150円の市場価格＝株価として成立することになる。この株価は，株券自体がもっている価値の貨幣的表現なのではなく，配当の利子率による資本還元額(配当7円50銭÷利子率5％)にほかならない。すなわち，本来150円の価値をそれ自体もっているわけではないが，15％の配当をもたらすということで150円の価値があるものと評価されているのである。株価が配当の資本還元額であるのと同様に，公社債などの利付き証券価格も確定利息の資本還元額にほかならず，地価は地代の，のれんは企業の超過利潤の，それぞれ一般利子率による資本還元額なのである。　〔常盤政治〕

きせいしょくぶつ【寄生植物】 寄生*生活を営む植物の総称。寄生する生物やその程度により，活物寄生・死物寄生(腐生)・全寄生・半寄生などの分け方がある。活物寄生は，生きた生物に寄生するもので，細菌や菌類に多い。また高等植物でもナンバンギセル(ススキ・ミョウガの根)・ネナシカズラ・マメダオシ・コゴメグサ(イネ科の根)・ママコナ(ハシバミの根)・ヤドリギ(エノキ・クリなどの枝)のような例がある。死物寄生は，死体に寄生するもので，細菌や藻類(そうるい)に多い。また寄生の程度により，生活に必要なすべての物質を寄主からとるものを全寄生といい，細菌・菌類・茎葉をもたない高等植物(ネナシカズラ・ハマウツボ・ツチトリモチ・ヤッコソウ・ナンバンギセルなど)がこれに含まれる。これに対して一部の物質を寄主からとりながら，クロロフィルをもって光合成を行なっているものを半寄生といい，ヤドリギ・コゴメグサ・ツクバネ・ママコナなどがあげられる。いずれの寄生でも寄主は一定している場合が多い。　〔横井朝子〕



軌　跡

きせいちゅう【寄生虫】 他の生物に寄生*する動物。宿主と寄生虫の関係は多くの生物の間で知られているが，医学の対象となるのは，ノミ・シラミ・ダニ・カなどの外部寄生虫と，線虫・条虫類・吸虫類などの内部寄生虫である。内部寄生虫は宿主になんらかの動機で侵入した生物が，進化の過程の中で生活して増殖していけるようになったもので，運動器官・感覚器官・消化器官が退化しているものが多い。寄生虫は宿主を何回か変えるものがあり，幼虫の時期に寄生する宿主を中間宿主という。中間宿主を必要とする寄生虫によってひき起こされる疾患は，風土病*としての色彩の強いものが多い。寄生虫の分布は熱帯・亜熱帯に多く，文明国には少ない。〔山本　久〕

ぎせいどうふ【擬製豆腐】 豆腐料理の一種。豆腐に野菜・卵を加え，甘味をつけて焼いたもの。千切りにしたニンジン・シイタケやギンナンまたはグリンピースなどを油でいため，ゆでて水気をきり，よくほぐした豆腐を入れて薄味で煮る。卵・いりごまを加えて混ぜ，卵焼きなべに流して焼く。型に流して蒸す場合もある。精進料理*として用いられることが多いため，古くは卵を使わずにほぐして調味した豆腐を型に入れて固めてから適当な大きさに切って，焼く方法が用いられた。　〔塩川ふみ〕

きせいばえ【寄生蠅】 ⇨ヤドリバエ

きせいばち【寄生蜂】 ⇨ヤドリバチ

きせいふく【既製服】 一定の規格によって工場生産され，購入者がすぐ着用できる形で販売される衣服。レディーメイドともいわれる。機械の分業生産方式による既製服の販売は，ミシンの発達とともに19世紀欧米で始められ，現在ではアメリカが最も発達している。わが国では，明治にはいってからの服制改革による軍人・警察官などの制服に始まり，第2次世界大戦後に一般市民に急激な普及をみた。この混乱期における服装の簡単化に基づく既製服は，機能性・経済性のみが重要視されたものであったため，〈つるし〉と賤称(せんしょう)されて，間に合わせに着る下級品というイメージが強くもたれた。現在の既製服はオーダーメイド*に比べて35～40％は安いとされるが，これまでサイズが各メーカーまちまちであったのを通産省工業技術院が全国統一を図った(1970)ことによって，購入者の不便が解消されたうえ，さらに技術も向上し，流行が敏感に取り入れられるようになるとこれまでのイメージが払拭(ふっしょく)されて，多様化された現代生活においてはスピード性・経済性が新しい価値観をもつようになった。最近では海外デザイナーと技術提携したプレタポルテ*の需要も伸びている。　〔小池千枝〕

きせいほんせん【紀勢本線】 亀山(かめやま)～新宮～紀和(和歌山市内)間の国鉄路線。営業キロ数382.7。ほかに貨物支線3.5kmがある。1891年(明治24)，亀山～一身田(三重県)間開通に始まり，1959年(昭和34)全通した。この間実に68年，国鉄中最も長期間を要した路線である。全通とともに参宮線の一部を編入して現在の線名となった。紀伊(きい)半島の海岸部を一周する鉄道で，伊勢志摩・吉野熊野(よしのくまの)国立公園への観光路線としても重要である。海南・田辺(たなべ)・新宮・熊野・尾鷲(おわせ)などの都市を通過する。　〔青木栄一〕

きせき【軌跡】 ある条件の下で運動する点の描く図形，いいかえれば，ある条件にあてはまる点の全体でできる図形。たとえば，平面上で一つの正方形を定まった直線の上をすべらないようにころがすとき，一つの頂点Aの軌跡は図のような曲線になる。また，平面上で2定点A，Bから等距離にある点Pの軌跡は，その2定点を結ぶ線分の垂直二等分線 l となる。ある条件Mにあてはまる点の軌跡が図形Fになることを示すには，次の二つのことを明らかにすればよい。①条件Mにあてはまる点はどれも図形F上にある。②図形F上の点はどれも条件Mにあてはまる。　〔菊池兵一〕

きせき【輝石】 マグネシウム・鉄・カルシウムなどのケイ酸塩で，重要な造岩鉱物の一。一般的な化学式は$Ca_{0\sim1}(Mg,Fe,Al)_{2\sim1}(Si,Al)_2O_6$　斜方晶系または単斜晶系。比重3.2～3.6，硬度5～6，屈折率1.685～1.724。ケイ素-酸素四面体が鎖状に伸びた結晶構造をもつ。2方向の劈開*(へきかい)がほぼ直交(93°または87°)するのでカクセン石*と区別がつく。ふつう柱状，アルカリの多いものは針状または繊維状の結晶として産する。無色に近いものもあるが，鉄が多くなるとかっ色～濃緑色～黒色になる。火成岩・変成岩中に広く産する。次のような多くの種類がある。①斜方晶系に属するもの：ガンカキ石(マグネシウム)・シソキ石(マグネシウム・鉄を含む)。②単斜

晶系に属するもの：トウキ石(カルシウム・マグネシウム)・ヘデンベルグキ石(またはカイテツキ石)(カルシウム・鉄)・エジルキ石(ナトリウム・鉄)・ヒスイキ石(ナトリウム・アルミニウム)・オージャイト(カルシウム・マグネシウム・鉄)。なおヒスイキ石の緻密(ちみつ)塊状で半透明のものは，硬玉と称して古来東洋で珍重され，種々の工芸品に用いられる。また美しい緑色のものはヒスイと称し，宝石になる。〔加藤敏郎〕

きせき　【奇跡】　自然法則によっては説明できないような超自然的現象で，特に宗教において重要な意味をもっている。《旧約聖書 出エジプト記》では，モーゼの祈りにこたえて紅海の水が左右に割れる奇跡，《旧約聖書 列王紀第二》ではエリシャによって死んだ子どもが生きかえるなどの奇跡が行なわれている。《新約聖書》でも，神の栄光を示すものとして病者の治癒(ちゆ)，死者の復活，自然的奇跡など，多くの奇跡が説かれている。奇跡についてはさまざまな説明がなされている。アウグスチヌスは，奇跡はわれわれにとってすでに知られている自然には反するが，全体としての自然にはけっして反することはないとした。また中世にはトマス-アクィナスが，奇跡は神が最高原因として独立に働くときに現われると説き，この説が長く主張された。17世紀の哲学者スピノザの批判以後は，奇跡に対して合理的解釈ないし批判が試みられ，19世紀にはD. F. シュトラウスの神話説，20世紀初頭にはハルナックの合理的解釈が知られる。しかし今日キリスト者の立場からは，奇跡を奇跡として全知全能である神の人間に対する神意の啓示，さらに神の摂理の一面として解される。なお，奇跡は仏教・イスラム教にもみられる。〔五十嵐誠〕

きせき　【奇蹟】　文芸雑誌。1912年(大正1)9月から1913年5月にかけて刊行された。全9冊。舟木重雄(ふなきしげお)・広津和郎(かずお)・葛西(かさい)善蔵・相馬泰三(たいぞう)・谷崎精二ら早稲田(わせだ)大学文科出身者を中心にした同人雑誌で，志賀直哉(なおや)・宮地嘉六(かろく)らも関係している。自然主義の作風を継承しながら，白樺(しらかば)ふうの理想主義的傾向や独自の現実認識に特徴を示し，私小説の深化に特異な位置を占めた。葛西の《哀(かな)しき父》《悪魔》，広津の《握手》，谷崎の《夢》などを掲載した。

きせきれい　【黄鶺鴒】　⇨セキレイ

ギーゼキング　［Walter Wilhelm Gieseking］(1895～1956)　ドイツのピアニスト。父はドイツ人，母はフランス人。フランスのリヨンで生まれた。16歳のときにハノーバーに移り，同地の音楽院でライマーに師事した。1920年にドイツでデビュー，その後欧米各地で活躍した。特にドビュッシーとラベルの演奏で名声を得，晩年はドイツ古典音楽にもすぐれた解釈を示した。また，師ライマーとの共著《現代ピアノ演奏法》は多くの影響を与えた名著である。1953年に来日した。〔向坂正久〕

きぜつ　【気絶】　精神的な衝撃や，極度の疲労のような外的な原因によって，一時的に意識を失う状態。一時的な昏睡(こんすい)，虚脱，ショック，外因による仮死状態などを含めて使う場合もある。原因として不適当な身体的疲労，体位の変化，一時的な脳圧の亢進(こうしん)，周囲の空気条件の悪化，精神的原因などが考えられる。そのほか，はっきりした外因が主因ではなく，周期的に起こる体内の機能の異常によるものがあり，これはてんかんに近いものとされ，その異同が問題になることが多い。症状はかなり多様であり，意識障害(おもに意識混沌(こんとん))とともに各種の自律神経症状を伴う。経過もいろいろで，多くはしばらくたつともとにもどるが，ときにはかなり重症のものもある。原因・症状は単一でなく，その発現機構も多様であり，自律神経系の機能異常やストレスの概念で説明されている。体質も関係し，性別では女性に多い。〔国井乙彦〕



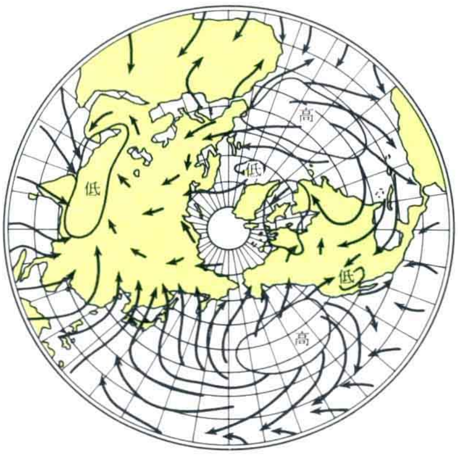
キ　石　佐賀県西ヶ岳産

ぎぜつ　【義絶】　親族関係の解消ないし断絶行為を意味する。律令(りつりょう)制では夫婦が官命で強制的に離婚させられることをいい，中世では親が子を勘当する意味に用いられた。江戸時代になると，いとこなどの同等の身分間での親族関係断絶行為の特称となり，親が子に対して行なう勘当，目上の親族が目下の親族に対して行なう久離と区別された。

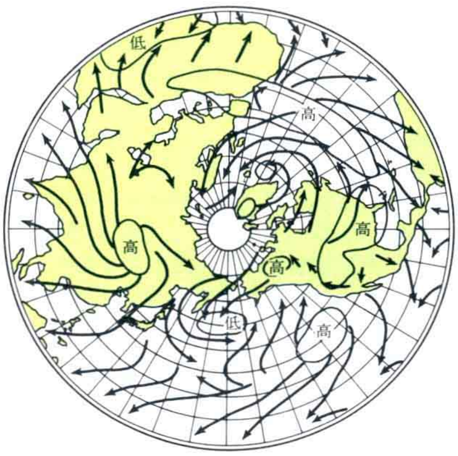
きせつびょう　【季節病】　季節と歩調をともにする疾病(しっぺい)に対してドイツのデールッデルがつけた名称。季節により疾病の発生および死亡状況が異なる理由としては次のようなことがあげられる。①気候および気候要素の直接の影響(冬季における紫外線量減少による佝僂病(くるびょう)の発生)。②気候による生理機能の変化のために伝染性疾患に対する感受性が変わる(冬季におけるジフテリア・猩紅熱(しょうこうねつ)・感冒の多発)。③季節による病原体および病原体媒介動物の活動の変化(カによる日本脳炎の流行)。④季節による食物の変化(夏季における食中毒の多発)。⑤気候による生活様式の変化(夏季における消化器疾患の多発)。➔気象病〔金子義徳〕

きせつふう　【季節風】　冬季，大陸が著しく冷却するので大陸上に高気圧ができ，北半球では時計回りに，南半球では反時計回りに，風が外方に吹き出す。夏季には，逆に大陸が海洋より過熱されて低気圧となり，北半球では反時計回りに，南半球では時計回りに大陸内部に向かって風が吹き込む。このような原理で吹く風を季節風といい，夏冬半年ごとに風系の方向が変わる。実際の季節風は，地球の自転や不規則な山岳分布・海陸分布の影響で複雑に変形をする。比較的はっきりした特性をもつ季節風として東アジアの季節風，インドの季節風，アメリカ大陸の季節風などがあり，ほかにスペイン・オーストラリア・アフリカなどにもある。英語ではモンスーンという。〔曲田光夫〕

きせつよほう　【季節予報】　季節ごとの天気予報のこと。気象庁では3か月予報を発表しているが，その精度は不十分であり，科学的予報法が確立されていない。農業や電力関係など天候に左右されやすい産業は，暖候期・寒候期の予報の必要性が特に強く望まれている。しかし，3か月先の日



北半球の夏の風



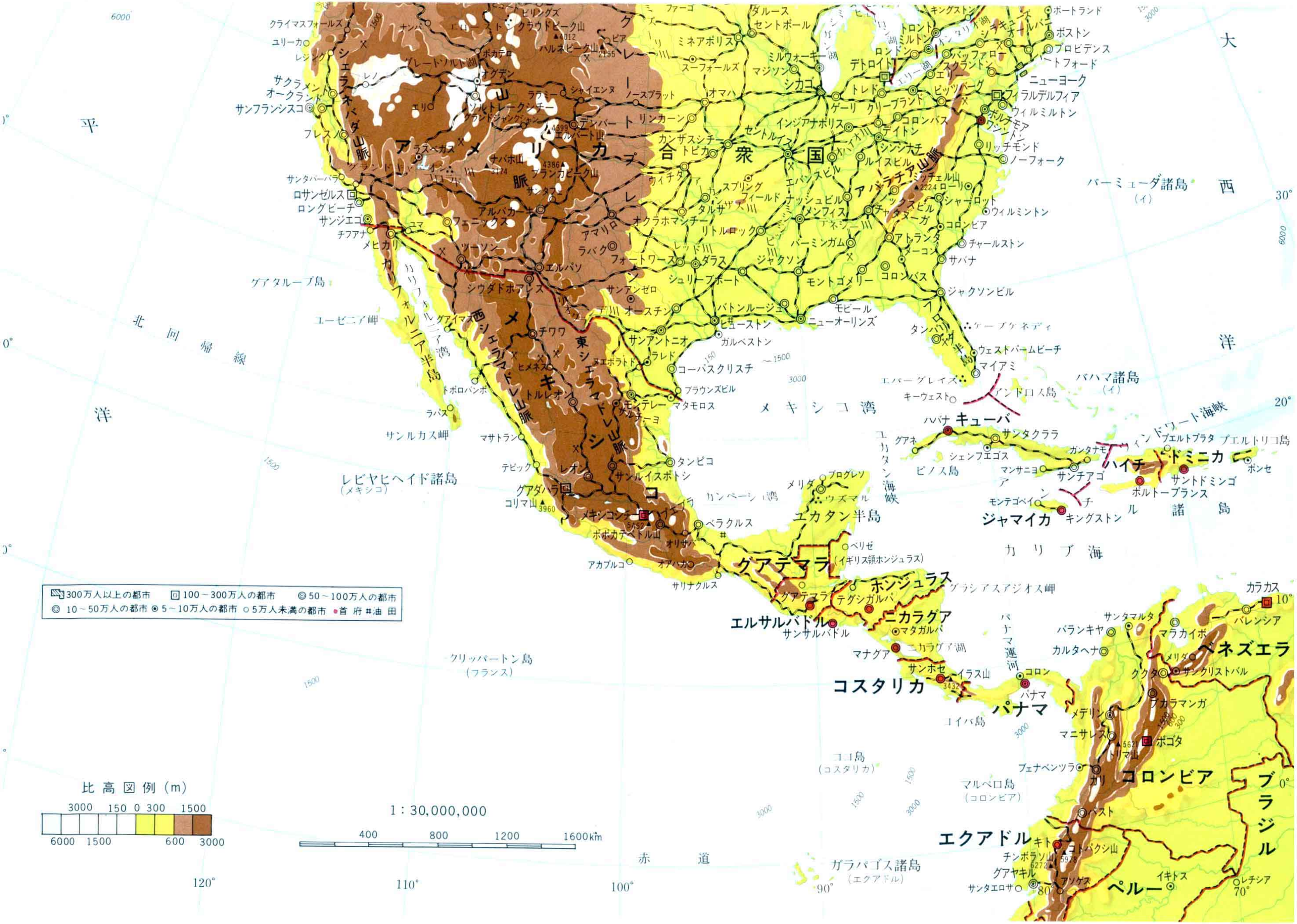
北半球の冬の風

季節風

北アメリカ



ソビエト連邦
アプカ
ペベク
チュコト半島
アナジーリ
ベーリンゴフスキー
プロビデニヤ
ウエレン
ブランゲル島
ベーリング海峡
ホープ岬
日付変更線
セントローレンス島
ベーリング海
北極
北極海
アイスランド
オレファ山
2119
レイキャビク
スコルズビスーン
デンマーク海峡
グリーンランド
(デンマーク)
キングフレデリック8世ランド
ギュンビョルン山
3700
キングクリスチャン9世ランド
アンマグサリック
クリスチャンスホープ
ゴットホープ
ユーリアンハーブ
フェアウェル岬
デービス海峡
バフィン湾
チューレ
エタ
エルズミーア島
北極海諸島
プリンスパトリック島
メルビル島
デボン島
バンクス島
プリンスオブウェールズ島
ビクトリア島
ブーシア半島
メルビル半島
バフィン島
アムンゼン湾
ボーフォート海
バーロー岬
プリンスオブウェールズ岬
アラスカ
(アメリカ合衆国)
ユーコン川
ヌニバク島
ベンスル
ブリストル湾
アラスカ半島
ダッチハーバー
カトマイ山
2286
マッキンリー山
6194
フェアバンクス
フォートユーコン
アンカレジ
セワード
ブラックバーン山
5037
コルドバ
コジアク島
アラスカ湾
ローガン山
6050
ホワイトホース
ドーソン
アクラビク
マッケンジー川
グレートベア湖
ノーマンウェルズ
カバーマイン
ポートラジウム
北極圏
エローナイフ
グレートスレーブ湖
フォートスミス
ヘイリバー
フォートネルソン
アサバスカ湖
スカグウェー
ジュノー
シトカ
クイーンシャーロット諸島
プリンスルパート
ドーソンクリーク
プリンスジョージ
ロッキー
ジャスパー
エドモントン
プリンスアルバート
カルガリー
サスカツーン
バンクーバー島
バンクーバー
ビクトリア
カムループス
オリンパス山
2424
シアトル
タマコ
スウィフトカレント
レジナ
ウィニペグ
太
カナダ
マクマレー
ランデール湖
リンレイク
ネルソン川
ザパ
ノルウェーハウス
ウィニペグ湖
チャーチル
ヨークファクトリ
アメリ
ウィニスク
ニイウスク川
ジェームズ湾
ハドソン湾
ハドソン海峡
サウサンプトン島
チェスターフィールドインレット
ネッチリング湖
ポートハウェル
ラブラドル半島
ラブラドル高原
ラブラドルシチー
シェファービル
グースベイ
ベルアイル海峡
ボールド岬
ニューファンドランド島
ガンダー
セントジョンズ
コーナーブルック
ポートーバスク
ミクロン島
(フランス)
フォートジョージ
フォートルパート
ムーソニー
ナキナ
カグノン
ミシガン
アンチコスチ島
セプトイルス
クラークシチー
シクーチミ
セントローレンス湾
シドニー
チャタム
モンクトン
50°
60°
70°
80°
100°
120°
140°
160°
180°



大西洋
平洋
北回帰線
赤道
アメリカ合衆国
メキシコ
メキシコ湾
カリブ海
キューバ
ハイチ
ドミニカ
ジャマイカ
バハマ諸島 (イ)
バーミューダ諸島 (イ)
グアテマラ
ホンジュラス
エルサルバドル
ニカラグア
コスタリカ
パナマ
コロンビア
ベネズエラ
エクアドル
ペルー
ブラジル
ガラパゴス諸島 (エクアドル)
レビヤヒヘイド諸島 (メキシコ)
クリッパートン島 (フランス)
ユカタン半島
カリフォルニア半島
ロッキー山脈
アパラチア山脈
ニューヨーク
フィラデルフィア
シカゴ
デトロイト
ロサンゼルス
サンフランシスコ
メキシコシティ
ハバナ
カラカス
ボゴタ
キト
300万人以上の都市 100～300万人の都市 50～100万人の都市
10～50万人の都市 5～10万人の都市 5万人未満の都市 首府 油田
比高図例 (m)
3000 150 0 300 1500
6000 1500 600 3000
1：30,000,000
400 800 1200 1600km
120° 110° 100° 90° 80° 70°

日の天気予報はできないし，たとえば，ことしの夏の気温や雨量が特に多いか少ないかという程度の予報も十分精度よくはできないのが現状である。　〔曲田光夫〕

きせつろうどうしゃ　【季節労働者】季節的業務に従事する労働者をいう。季節的業務とは，四季により行なう業務で，繭の乾燥，製氷，夏の避暑地におけるボーイなどがある。労働基準法21条は，使用者が季節的業務に4か月以内の期間を定めて使用する者を解雇する場合は，同法20条の解雇予告手続きによらなくてもよいと定め，一般の臨時工の場合よりも解雇手続きを緩和している。なお，一般的に農・漁村から都市への一時的な出かせぎ労働者をこの意味に使用する場合がある。　〔木元錦哉〕

キセニア　[xenia]　被子植物では，雄核の一つが胚乳(はいにゅう)の形成に参加するため，本来母体の一部とみなされている胚乳にも直ちに雄親の影響が発現することがある。これをキセニアという。胚乳以外の組織に花粉の直接の影響がみられる場合はメタキセニアという。

キセノン　[xenon]　周期律表第0族に属する希ガス類元素の一。記号Xe　原子番号54，原子量131.30。大気中の含有量は9×10^{-6}体積%で，5種の希ガス類元素中では存在量が最少。W.ラムゼーおよびM.W.トラバースが，液体空気の最後の留分からクリプトン・ネオンに次いで1898年に発見，ギリシア語の〈見慣れぬ〉の意でキセノンと命名。無色・無臭の気体で，空気に対する比重は4.53，融点－111.8℃，沸点－107.1℃。化学的に不活性。六水化物$Xe\cdot6H_2O$や，フェノールやハイドロキノンと結合して結晶をつくる。発光管内にキセノンを高圧に封入し放電すると，白色の連続スペクトルを放射する光源となる。光の性質が太陽光に類似しているので，白色光源・映写用光源・紫外線光源などに使用される。　〔古屋　弘〕

きせる　【煙管】喫煙具の一。刻みたばこを吸うのに用いる。金属製の雁首(がんくび)と吸い口，これをつなぐ羅宇(らお)(竹製または木製)とからなり，雁首の先端は火皿(ひざら)で，これにたばこを詰める。わが国では16世紀末ごろから用いられ，江戸時代には大いに流行して，1mにも及ぶ長大なもの，地金に金銀を用いたもの，華麗な彫刻を施したものなどが現われた。全体が一続きになって羅宇のないなた豆ぎせるなどもある。

きせるがい　【煙管貝】軟体動物・腹足類・キセルガイ科に属する貝の総称。木のほらや落ち葉の下などにすむ陸貝である。中央がややふくらんだ細長い巻き貝ですべて左巻き。つけ根がくびれ，丸い殻口(かくこう)の形がキセルの火ざらにやや似ている。日本産は約140種で，多くは胎生。殻(から)の口に近く，外側にだけ開く弾力の強い弁(閉弁という)があるものが多く，軟体は，この弁を押し下げて殻外に出る。茶かっ色で小形のものが多く，種類が多い。殻高5cm，殻径1cmほどのオオキセルガイは日本最大種で，関東地方から中国・四国地方にかけて分布する。殻高3cm，殻径7mmほどのナミギセルガイは，本州・四国北部・北九州に普通に見られる。よく姿の似た陸貝に，オカチョウジガイやキセルモドキガイの仲間があるが，殻は右巻き。　〔菅野　徹〕

きせわた　【着綿】軟体動物・腹足類・キセワタ科の巻き貝。殻(から)はナメクジ状の白い軟体の中に埋もれているので外部からは見えない。殻高(かくこう)2cm，殻径1.5cmほど。殻は薄く，白色半透明。殻高2cmほどの場合，軟体は長さ4cm，幅2cmほど。頭部が楯(たて)状になっており，これをシャベルのように動かして砂にもぐる。北海道南部以南，中国までの内湾の潮間帯から30mほどの砂泥底(さでいてい)にもぐって生活する。貪食(どんしょく)で，アサリ・ハマグリなどの稚貝を食害する。



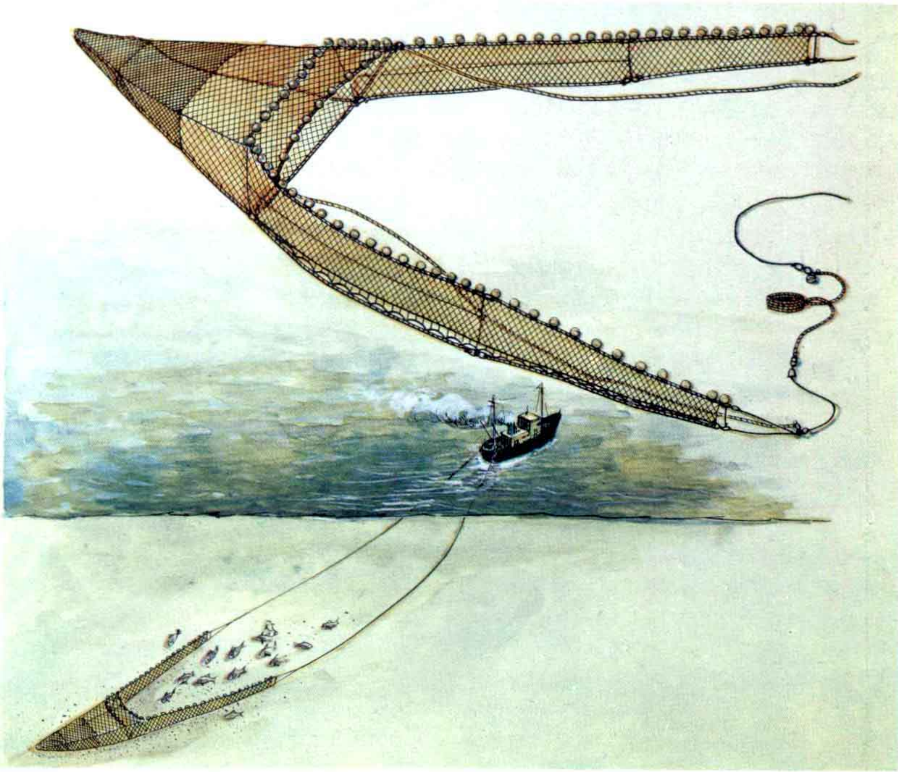
キセルガイ
(左)オオキセルガイ
(右上)ナミギセルガイ
(右下)ヒカリギセルガイ

きぜわもの　【生世話物】歌舞伎(かぶき)脚本の一種。真世話物ともいう。一般社会に取材した世話物のうち，特に写実的な演出の要求されるもの。下層階級に属する町人の生活を描いた脚本が多い。寛政年間(1789～1800)並木五瓶(ごへい)のころに始まり，4世鶴屋(つるや)南北を経て河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)によって大成された。《東海道四谷(よつや)怪談》《梅雨小袖昔八丈(つゆこそでむかしはちじょう)》《四千両小判梅葉(しせんりょうこばんのうめのは)》などはその代表作。

きせん　【汽船】原動力に蒸気機関を用いる船。蒸気船ともいう。大形船には蒸気タービンが用いられ，最も普通には往復動機関が用いられたが，ディーゼル機関の出現により現在ではほとんど姿を消した。なお，船舶法施行細則においては，すべて機械力を利用して推進する船を汽船といい，ディーゼル船などもこの中に含まれる。→船

きせんせいうん　【輝線星雲】輝線スペクトルを放って輝いている銀河系内星雲。星間ガスが付近の高温度星の放射を受けると，その紫外線を吸収して電子をほうり出しイオンになる。これらのイオンが再び電子と結合する際可視域の輝線スペクトルを発する。オリオン座ガス星雲は代表的な輝線星雲である。→散光星雲

きせんそこびきあみぎょぎょう　【機船底引き網漁業】底引き網を引いて行なう漁業。1そう引き，2そう引きの別がある。前者は一つの網を1そうの船で桁(けた)やビー



機船底引き網漁業

ムを用いずに引き，後者のものでは，一つの網具を２そうの漁船で引く。いずれの場合にもエンジンをかけて引き回して行なう。

きそ【起訴】刑事事件において，検察官*が有罪者と認めた場合，裁判所にその審判を求める公訴*の提起をいう。起訴か不起訴処分かを決めるのは，検察官に限られており，これを起訴便宜主義という。すなわち，起訴するには起訴状を裁判所に提出し犯人の性格，年齢および境遇，犯罪の軽重および情状ならびに改悛(かいしゅん)の情を総合判断のうえ，起訴しないことが適当な場合は，起訴猶予*処分にすることができる。

きそ【基礎】建物の自重・積載荷重および建物に加えられた地震力・風圧力などの外力を安全な状態で地盤に伝える地下構造部分の総称。すなわち，建物の沈下・傾斜・移動・変形を生ぜしめないための構造で，板状の基礎スラブと基礎をささえるために，その下部に設ける割りぐり・くいによる地業*よりなる。

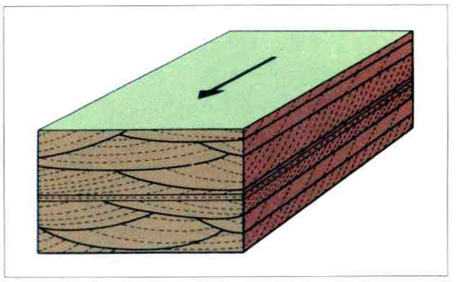
〔種類〕基礎の形によって次のように分けられる。①独立基礎：柱の下端のみに単独で設けられ，最も経済的である。②複合基礎：二つ以上の柱をささえる。③布基礎：外壁や間仕切り壁の下に設けられる。連続基礎ともいう。独立基礎だけでは支持力不足の場合に用いられる。④べた基礎：建物の全底面を基礎とする。軟弱地盤・高層建築・重量建物の場合に用いられる。また，地盤に基礎を置く方法によると次のように分類される。①直接基礎：基礎を直接地表に置く。地盤の状態のよい場合に限られる。②くい基礎：地盤が柔らかく，地表に基礎を置いただけでは建物を支持しきれない場合，地中のかたい地盤まで木・鉄筋コンクリート・鉄などのくいを打って建物を支持する。もし，地盤が深くてくいが届かないときは，くいと土の摩擦力で建物を支持する摩擦ぐいを用いる。③ピア基礎：支持ぐいの本数が多く密になりすぎるときに用いる。地盤上に鉄筋コンクリートの太い柱をつくり，その上に基礎を置く。〔神山幸弘〕

ギゾー［François Pierre Guillaume Guizot］(1787～1874) フランスの政治家・歴史家。19世紀復古王政期に温和な自由主義者としてシャルル10世の反動政治に反対し，1830年七月革命が起こると，これを支持して七月王政*の内相となった。1840年さらに首相となり，上層市民を地盤とする七月王政の指導者として金権政治に終始し，中小市民・労働者の選挙法改正の要求を無視したので，1848年二月革命*が起こり，ロンドンに亡命した。翌年帰国した後は歴史家として活躍した。著作《ヨーロッパ文明史》は特に有名である。〔大野真一郎〕

きそう【徽宗】中国，北宋(ほくそう)第８代皇帝。在位1100～1125年。第６代神宗の11子。帝位継承者のあいつぐ病没のため，思いがけなく帝位についた。はじめ向太后が摂政として新旧両法を折衷した政治を行なったが，即位の翌年向太后が没して親政すると，新法を断行した。詩文にすぐれ，書画には天才的で，特に黄氏体*の花鳥画にすぐれて，《桃鳩図》はその代表作である。また，宮廷の画院を手厚く保護し，大家・巨匠を輩出し，宣和(せんな)時代とよばれる盛時を現出した。政治には無関心で，蔡京*(さいきょう)・童貫らに任せ，自分は豪奢(ごうしゃ)な生活をして国費を浪費した。女真族の金が首都開封を攻めると，みずから退位して道君皇帝と称し，欽宗(きんそう)に譲位したが，1127年金軍の捕虜となって北方に拉致(らち)され，1135年金の領土で没した。〔衣川　強〕

きそう【毅宗】(1610～1644) 中国，明朝(みんちょう)第16代，最後の皇帝。崇禎(すうてい)帝ともいう。1628年即位。衰運の明朝を復興しようと努力し，宦官(かんがん)魏忠賢(ぎちゅうけん)ら前代の奸臣(かんしん)を殺し，名臣徐光啓*(じょこうけい)を用いて諸政の改革を図った。しかし，時すでにおそく，外からは清(しん)の攻撃を受け，内には農民反乱が激発し，1644年反乱の首領李自成*(りじせい)が北京(ペキン)に迫ったときには，勤王の兵も集まらず，万歳山に縊死(いし)した。〔谷口規矩雄〕

ぎそう【偽層】沿岸流の激しい海岸や河口などに堆積(たいせき)した堆積岩や砂丘の堆積物には，上下の地層の成層面に斜交する層面をもった薄層の重なりが見られることがある。このような層面を偽層または斜交層理という。クロスラミナともいう。偽層は水流，ときに風の作用で堆積した層が侵食によって削られ，また異なった方向・傾斜の堆積物ができることによってつくられることが多い。偽層の方向性を調査して，それを堆積させた時期の流れの方向を知る研究が近年行なわれている。〔平山　健〕



偽　層　デルタの層理。矢印は水流の向きを示す

ぎそう【艤装】船を進水*後岸壁に係留し，船内の種々の設備や機関などのすえつけを行なうこと。進水のときは船体は軽いほうがよいので，艤装工事はなるべく進水後に行なわれるが，船が船台にある間でないとできないような船底取り付け品・かじ・プロペラなどの工事は進水前に行なう。艤装は船体艤装(係船装置・居住設備・荷役装置など)・機関艤装(主機関・補助機関のすえつけなど)・電気艤装(通信・照明・航海計器類など)などの各部門に分かれて並行して行なわれ，艤装が完了すれば，ほぼ船は完成されることになる。〔飯島幸人〕

ぎそう【義倉】古代および近世に行なわれた備荒貯蓄(→荒政)のための倉。社倉*・常平倉*とともに三倉と称された。富裕な人人からの寄付，または課税により納めた米穀を官庁が保管し，凶年などで必要なとき，窮民の救済にあてた。律令(りつりょう)制時代，唐の義荘にならって，貴族以下一般農民にその財産に応じてアワを出すことを規定したが，実際には米・麦・豆などをもって納めることが認められた。しかし，この制は一種の増税であり，一般農民には負担過重となったため，のち一定の富民に限定して課せられた。律令制の衰退に伴い久しく中絶していたが，江戸時代にはいって深刻な飢饉*(ききん)の惨害を経験して，多くの藩で復活された。その米穀は富農・富商の寄付または課税によった。明治維新後米穀の全国流通機構が完備されると，その設立の意義を失い廃止された。〔高崎徳次〕

ぎそう【義荘】中国，主として江南で，10世紀以後に行なわれた同族的土地所有形態。義田ともいう。北宋(ほくそう)の范仲淹*(はんちゅうえん)が江蘇(こうそ)省蘇州に設立したのが最初。官僚階級には，貧窮な人の扶助や教育(科挙*受験)を名目に義荘を置く者が多く，20世紀まで続いた。その性格は同族共同体的ふんい気をもつ地主支配形態で，農民の私的保障機関の役割も果たしたといわれる。

ぎそう【議奏】鎌倉・江戸時代の公家(くげ)の職名。朝廷の重要政務を議するのを任務とした。1185年(文治１)源頼朝(よりとも)が右大臣藤原兼実(かねざね)ら10名の公家を推挙し，補任されたのが最初である。いずれも頼朝と親しい公家で，幕府の政治力を朝廷に及ぼすのが目的であった。江戸時代，幕府の奏請で天皇に近侍する年寄衆・側衆(そばしゅう)が議奏と改められ，勅宣を公卿(くぎょう)以下に伝え，また上奏を取り次いだ。

きそうきょく【綺想曲】⇨カプリチオ

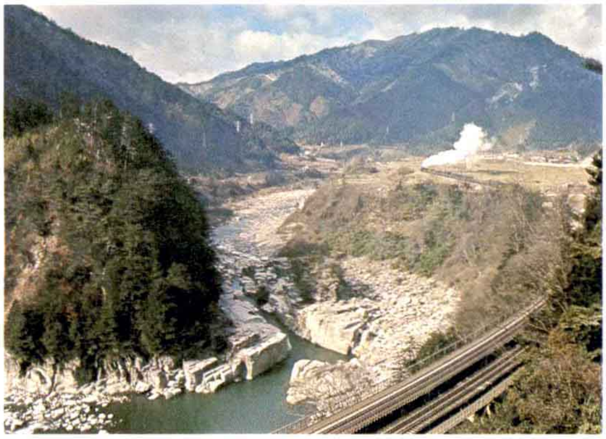
ぎそうしつぎょう【偽装失業】低開発国に特有な潜在的失業状態をいう。人口増加と資源や工業資本の不足のために，増加する労働力は都会での雇用の機会が得られず，農業地域に必要以上に滞留するようになる。このような社会では限界生産力が０またはそれ以下になってしまい，この労働者のうちの何割かをそこから取り除いても生産高は変化しないか，またはかえってよい結果とさえなる。余剰の労働者は表面的には就業者とみなされているが，その実態はほとんど失業者に等しく，資本財建設事業に従事させれば，それまでむだに使われてきた労働力を資本形成のために使うことができる。しかし，実際には需要の不足や，それだけの労働者を動員できるだけの設備が不足していたり，農業生産体制の再編成が不完全なため，過剰労働者を十分に利用することができないことが多い。このよう

な偽装失業は現代の低開発国のもつ深刻な問題の一つである。〔富田重夫〕

きそおんたけ【木曽御嶽】⇨御嶽山

きそかいどう【木曽街道】⇨中山道(なかせんどう)

きそがわ【木曽川】長野県西部の山地に源を発し，御嶽(おんたけ)山と木曽山脈の間の木曽谷*を西南流して岐阜県にはいり，舟下りで有名な日本ライン*を過ぎると岐阜・愛知県境となって濃尾平野を斜めに横切り，河口近くで三重県にはいって伊勢(いせ)湾に注ぐ。流程193km。支流には，上流部で王滝川，中流部で飛驒(ひだ)川(益田(ますだ)川)がある。かつては下流で長良(ながら)川・揖斐(いび)川も合流していたが，江戸時代以来の治水工事でいまは3川が分流している。古くは，木曽森林の材木流しと，下流平野一帯の灌漑(かんがい)用水に役だったが，近時は寝覚(ねざめ)ノ床*・恵那峡*(えなきょう)・日本ラインなどの美しい峡谷と清流，さらに発電を目的としたダム建造による人造湖などが探勝客を集め，中央日本の有力な観光地となった。発電所も多く，木曽(最大出力11万6,000kW)・丸山(最大出力12万5,000kW)はその代表的のものである。また，名古屋市東部から知多半島にかけて灌漑・給水している愛知用水*もこの川の中流から取水して導水したものである。河口近くには輪中*が発達している。〔長津一郎〕



木曽川
奇勝〈寝覚ノ床〉付近の木曽川。峡谷に近い段丘上を中央本線が走る

きそがわ【木曽川(町)】愛知県葉栗(はぐり)郡に属し，県の西北端，木曽川の左岸にある。人口27,000。東海道本線・名古屋鉄道本線，名古屋と岐阜をつなぐ国道22号線が通じている。一宮(いちのみや)市・尾西市とともに尾西毛織物工場地帯を形成している。

きそく【規則】広くは人の行為の準則一般をさすが，法制上で規則というときには国法の一形式である法律*・命令*(政令*)と区別される成文法を称する。国会以外の機関によって制定され，その制定機関によって最高裁判所規則，人事院規則，衆議院・参議院の各規則，会計検査院規則，各種の外局(公正取引委員会・中央労働委員会・国家公安委員会など)の規則，地方公共団体の規則などがある。その効力は最高裁判所規則・人事院規則を除いて，一般には法律・政令に劣り，それに違反できず，法令の細則的事項・手続き的事項を定めている。〔寺尾方孝〕

きぞく【貴族】国家の組織にあって最上級の階級社会に属する人々。この人々は尊貴な血統・門閥を継承し，広大な土地所有を国家から承認され，国政上重要または栄誉ある官職を世襲して種々の国家的特権を保有する。一般民・賤民(せんみん)に対しては公私における支配者であり，学問・教養・生活様式においてもその優越性を誇りとする。

わが国では奈良・平安時代が貴族の最も繁栄し，その権威を発揮した時期といえよう。律令(りつりょう)制下の高級官僚として，貴族たちは政治指導権をめぐり激しい他氏排斥を続けるが，藤原氏が勝利を得て摂関政治*を開始，10世紀から11世紀にかけて摂関貴族を中心に典型的な貴族の時代が展開した。貴族は中世・近世には武家政権にその政治的・経済的優位を奪われるが，なお公家*(くげ)として朝臣の地位を占め，その血統・門閥と古典的教養とで一般から仰がれた。明治維新後旧上級公家と旧藩主が華族*と称せられたが，1884年(明治17)には華族令が制定され，明治維新の功労者を加えた華族は爵位*を授けられ，皇室の藩屏(はんぺい)として特別の国家的待遇を受けることとなった。この華族制度は上院として設けられようとしていた貴族院*の母体となったので，華族は近代日本の貴族と称することができる。第2次世界大戦後華族令は占領軍の指令により廃止され，貴族とよばれる階層は消滅した。〔高崎徳次〕

ぎそく【義足】⇨義肢(ぎし)

きぞくいん【貴族院】明治憲法下の帝国議会*を衆議院*とともに構成した一院。明治憲法下では，皇族*・華族*および勅選議員*からなる貴族院が存在し，衆議院の民主的勢力を抑制する役割を果たしていたが，1947年(昭和22)日本国憲法実施によって廃止された。現在，世界にはわずかにこの制度が残存しているが，その典型であるイギリスでは二院制*を採用し，かつては貴族院の庶民院に対する権限の優位がみられた。しかし民主的勢力の伸長とともに，法制的にも実際上も庶民院の優位へと逆転して今日に至っている。〔吉田善明〕

きぞくせい【貴族制】国家権力が貴族*階級にある政治体制をいう。それは少数の貴族階級による特権的支配であるが，貴族は英知をもっているとして，プラトン・アリストテレスの古来からその擁護者は多い。純粋の貴族制はまったくないといってよく，制限君主制*下において貴族階級が実質的な支配階級として国家権力を行使している場合に貴族制とよぶのが普通である。したがって貴族制は絶対君主制との戦いにおいて貴族階級が勝利することによって成立する。名誉革命*以降のイギリスの政治体制はその典型である。〔西尾孝司〕

きぞくりろん【帰属理論】生産要素の価値決定に関する理論の一。財の価値を決める最終的な基準の一つに消費者としての個人の主観的な評価をもってする考え方(主観価値説)がある。これによると，直接に消費者の欲望を満たす消費財の価値については問題はないが，消費財を生産するのに必要な資本財は，消費者が直接必要としないものであるだけに，消費財ほどその価値を容易に決めることができない。そこで考案されたものが帰属理論である。この理論は，資本財の価値を，それによって生産される消費財の予想価値に帰属させて決めようとするものである。しかし，現実の資本主義社会においては，資本財を所有し支配している生産者はもっぱら自己の生産物を他人に販売するために生産しており，それを使用する主観的価値をもたない。また，その生産物に主観的価値を認める消費者は資本財を所有しない。そのために消費者から資本財への主観的価値の正確な伝達は事実上不可能とする見方がある。〔藤枝省人〕

きそこうじょ【基礎控除】所得税の計算にあたって，一律に一定額を諸控除とともに課税対象から差し引く制度。所得控除の一種。納税者本人に対する控除で，〈基礎的な最低生活費免税の原則〉によるものである。なお，所得税のほかに相続税・贈与税にも採用されている。1980年(昭和55)度の基礎控除額は29万円。➔所得税

きそさんみゃく【木曽山脈】中央高地に雁行(がんこう)状に並ぶ日本アルプス*の3山脈の中央に位置し，〈中央アルプス〉の別名で知られる。東側は天龍(てんりゅう)川に沿う伊那(いな)盆地で境されて赤石山脈と対し，西側は木曽谷*で飛驒(ひだ)山脈南部と相対する。北から経ケ岳(2,296m)，最高峰の駒ケ岳(こまがたけ)(2,956m)，空木岳(うつぎだけ)(2,864m)，恵那山(2,190m)などの峰々が並び，森林でおおわれている。伊那・木曽の両谷を結んで木曽山脈を越える交通路は古来から権兵衛(ごんべえ)峠・大平峠・清内路峠・神坂(みさか)峠(現在は廃道)などが知られている。〔高野　繁〕



木 曾 谷　長野・岐阜県境に近い坂下町(岐阜県)付近の木曾谷。これから北に鳥居峠まで，山また山の木曾路が続く

きそしゅうし　【基礎収支】　国際収支*の状態を判断するためにつくられた収支概念の一つで，経常収支*と長期資本収支とを合わせたものをいう。短期資本の動きは不安定でその国の経済の基調をはかるめやすにはならない。したがって，流動性の激しい短期資本取引を除いた基礎収支が均衡しているかどうかにより，国際収支が均衡しているとか不均衡であるとかを判定しようとするものである。➔資本収支

きそしゅうだん　【基礎集団】　血縁的関係・地縁的関係などによって自然発生的につくられた集団。家族や村落共同体などはこれにあたり，この集団内では諸機能が未分化のまま存在している。この基礎集団の上に，社会の発展とともに分化された機能をになう人為的集団である派生集団が生まれる。こうして基礎集団の諸機能は派生集団に転嫁されていくが，基礎集団はすべての機能を包括しているため，人々の結合は強固であり，そのため閉鎖的な傾向がある。　〔浜岡政好〕

きそしょくひん　【基礎食品】　栄養素別に分類した食品。ある食品の成分組成からみて多く含まれている栄養素はなにか，またその食品が日常どのくらいの量と頻度(ひんど)で献立に使われうるかを合わせ考えると，食品個々がわれわれに供給する栄養素を知ることができる。以上の考えをもとに，すべての食品は３～７群に分類しうる。このように分類された食品群を基礎食品(群)という。栄養的にバランスがとれ，かつ栄養所要量が満たされた食事献立をつくるには，各基礎食品群から必ず１品以上選択し，一定量以上用いればよいという簡便さをもつ。また栄養教育においては，各人のもつ栄養知識・熟練度に応じて食品群の数を増していく方法がとられ，能力に応じた献立作製ができる実用性をもつ。表-１は３色食品ともよばれる最も簡単な分類で，望ましい取り合わせは黄色・赤色・緑色の食品重量比を３：１：２とする。また,表-２は，わが国の栄養改善の指導によく用いられる分類である。　〔江川元偉〕

きそたいおん　【基礎体温】　起床前の基礎静止状態における体温をいい，妊娠診断・受胎調節などに利用される。目ざめてからだを動かしてからの体温ではいけない。婦人は毎早朝空腹時に床内で体温を測定し，これを温度表に記載していけば，１月経周期で体温曲線が書ける。これが基礎体温曲線である。測定は腋窩(えきか)・口腔(こうこう)内どちらでもよいが，正確に測定する。婦人体温計という基礎体温測定用の体温計も考案され，市販されている。また体温表は低温と高温がはっきり区別できるように目盛られ，正常の婦人では月経周期の前半は低温相を，後半は高温相を示し，低温から高温への移行は１日，ときには２日にまたがり，この時期に排卵が起こると考えられている。低温相と高温相に分かれることを２相性といい，示す曲線を２相性曲線という。高温になるのは黄体ホルモンの作用によるとされている。高温相がなく低温相のみが続く月経周期は無排卵性月経である。高温が17日以上も持続する場合には妊娠が考えられる。　〔木川源則〕

きそたいしゃ　【基礎代謝】　BM(basal metabolismの略称)ともいう。安静空腹時，気温約20℃前後での代謝*，または生命保持のための最低必要カロリーをいう。また，単位時間あたりの基礎体謝を基礎体謝率(basal metabolic rate，略称ＢＭＲ)という。基礎代謝は次の条件下で測定した代謝量を考える。①早朝空腹時で，少なくとも８時間睡眠後。②直前の食事から12～14時間後。③環境温度によるストレスの加わらない状態下(20℃)。④測定前に少なくとも30分間，肉体的・精神的の安静を保つ。⑤臥位(がい)をとったとき。

このエネルギーがどこでどのように使用されるかについて，詳細はわかっていない。しかし，まず第１に身体の細胞が構成要素として一定の構造を保つために，自由エネルギーが供給されなければならないと考えられる。次に，生体細胞が機能を営むために，いつも一定の基準状態にあることが必要であり，そのためにもエネルギーの供給はたえず必要となるはずである。これらのためにエネルギーが必要だと推測される。基礎代謝に影響を及ぼす因子として，常識的には体格の大きい動物ほど食物需要量も発熱量も大であると考えられるが，実測上基礎代謝率は体格の指標として用いられる体重あるいは身長と直線的の比例関係を示さず，むしろ指数関数的の関係を示す。これは，動物が小がらなほど代謝の盛んな肝臓や，脳などの実質性臓器が体重に対して占める割合が大きくなることが一つの原因であり，体重に対する体表面積の比率が大きくなることにも関連しているからである。また多くの実験において，体表・体重・身長などが同じでも，性別によって基礎代謝率に変動がみられる。すなわち，わが国における成年男子の基礎代謝率は24時間に平均1,300～1,400kcalで,女子はこれよりも平均して６～10％低いという結果が出ている。これは生活様式の差がおもな原因と考えられる。次に年齢による基礎体謝率の変動をみてみると，女子の妊娠授乳期を除いて，18～40歳の間はほとんど変動はない。40歳以後において減少するのは細胞の活動力低下のためと思われる。18歳以前の若年では身体の成長のために余分のエネルギーを必要とするのは当然であり，これが前記した細胞群の機能を維持するための代謝量につけ加えられるため，それだけ成人よりも高い値を示すのである。　〔平野修助〕

きそだに　【木曾谷】　長野県の南西部，木曾山脈の西麓(せいろく)に沿う狭長な谷で，

表-1　３ 基 礎 食 品 群

①主としてエネルギー源になる食品	黄色食品	穀類・砂糖・食用油
②主として血や肉の素材になるタンパク性食品	赤色食品	魚介類・肉類・卵類
③主としてビタミン・ミネラル源になる食品	緑色食品	野菜類・果実類

表-2　６ 基 礎 食 品 群

①・②は３基礎食品のそれぞれに等しい		
③主としてビタミン・ミネラル源になる食品	緑黄野菜	ホウレンソウ・ニンジン
④主としてビタミンＣ源になる食品	淡色野菜	ダイコン・ネギ・ミカン
⑤主としてカルシウム源になる食品		乳製品・小魚・海草
⑥主として脂溶性ビタミン(Ａ・Ｄ)源になる食品		バター・干ししいたけ



ギター　(左)リュートギター　胴部はリュートと同形で，弦は6本からなる。17世紀後半に流行した　(中)エレキギター　ソリッド型。ジャズやロックなどで盛んに用いられる　(右)各部の名称

北部の鳥居峠を境に，木曾川が南流し，犀(さい)川の上流の奈良井川が北流し，太平洋と日本海の分水嶺(ぶんすいれい)をなしている。鳥居峠の北の奈良井川筋の桜沢地区に〈是(これ)より南木曾路〉の道標があり，一般にはこれより南の馬籠(まごめ)峠までの間をさしている。木曾谷は南から木曾山脈の山々が，北からは御嶽山をはじめとする山々が迫り，木曾川がその間を縫って流れ，寝覚(ねざめ)の床*などの渓谷(けいこく)をつくっている。この一帯は古くからヒノキの産地として知られ，木工業・漆器が盛んである。木曾川にはダムと発電所が各地につくられ，電源資源として重要性をもっている。かつて栄えた木曾ウマの市はなくなったが，木曾路の宿場町の古いたたずまいは，自然美とあいまっていまも観光客をひきつけている。〔味沢成吉〕

きそふくしま　【木曾福島(町)】　長野県木曾郡に属し，県西部木曾谷の中央部にある。人口10,000。1967年(昭和42)福島町と新開村が合して発足した。福島は中山道(なかせんどう)の宿場町として発達し，かつて関所が設けられていた。現在も木曾谷の行政・経済・文化の中心で，製糸・製材・家具・漆器などが生産される。国道19号線と中央本線が通じている。

きそぶし　【木曾節】　民謡の曲名。現在の長野県木曾郡木曾福島町を中心に歌われていた《仲乗りさん》，あるいは《御嶽山(おんたけさん)》とよばれる酒宴歌を，大正にはいってから《木曾節》として復活したもの。3人組みのいかだ乗りのうちのまん中の乗り手の心意気を歌ったもので，酒席の歌，盆踊り歌として全国的に知られている。

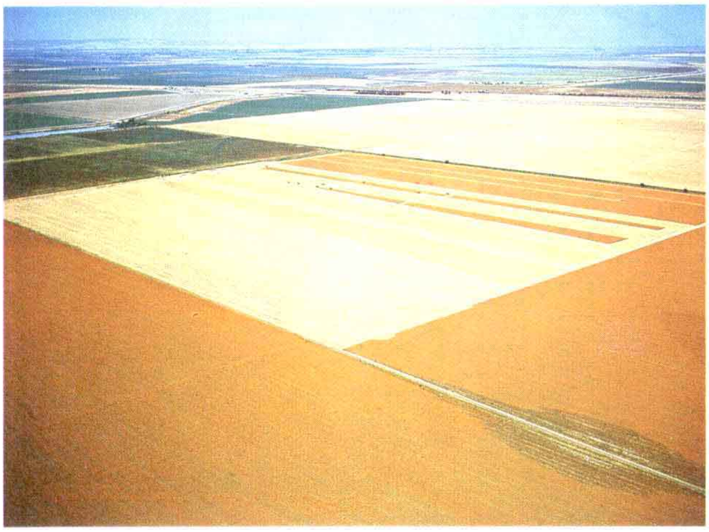
きそゆうよ　【起訴猶予】　不起訴処分の一。検察官が犯罪を捜査した結果，公訴*を提起するのに足りる条件が具備し，犯罪の嫌疑(けんぎ)があるのに，いわゆる起訴便宜主義のたてまえから起訴*をしないことにする処分。起訴便宜主義とは，現行の刑事訴訟法上，犯罪の嫌疑があり起訴する条件が整っていても，犯人の性格・年齢・境遇，犯罪の軽重ならびに犯罪後の情状によって起訴をしないことを認める(同法248条)制度をいう。また，この原則があるために，不必要に犯罪者・前科者をつくることなく，多くの場合は好ましい結果に至っている。しかし，検察官が当然に起訴すべきものと国民が考えているにもかかわらず起訴猶予の判決をした場合には，起訴すべきであると考える関係人は検察審査会へ申し立てることができる。また，職権濫用罪*で告訴または告発したにもかかわらず，検察官が不起訴とした場合，裁判所の審判に付するよう請求することができる(刑事訴訟法262条以下)。これを準起訴手続きという。〔内田剛弘〕

きそよしなか　【木曾義仲】　⇨源義仲

きた　【北(区)】　東京都23特別区の一。北は荒川放水路をはさんで埼玉県と相対し，東は足立(あだち)区，西は板橋区，南は豊島(としま)区に接する。1947年(昭和22)滝野川・王子の2区が合併成立した。面積20.6km²，人口38万4,000。区域の北東部は荒川沿岸の沖積地(ちゅうせきち)上に，南西部は武蔵野(むさしの)台地の一部をなす本郷台上に位置している。江戸時代には純農村地帯で，東部に岩槻(いわつき)街道がほぼ南北に走り，荒川に臨む岩淵本宿(いわぶちほんじゅく)などの宿場町が形成された。石神井(しゃくじい)川と荒川が合流する王子周辺の低地には，1872年(明治5)日本最初の洋紙製造工場(いまの製紙博物館)が設立されたのを契機として，東方の荒川放水路寄りの地域にかけて王子製紙をはじめ，紡績・化学などの工業地帯が発達した。また1883年に岩淵の西方に鉄道(現在の東北本線)が開通して赤羽駅が設けられて以来，その周辺台地には陸軍の被服・鉄砲・弾薬などの製造工場が設置されたが，第2次世界大戦後は，これらの軍事施設は赤羽台や桐ケ丘(きりがおか)などの住宅団地や民間工場へ転用されている。王子周辺には名主の滝・飛鳥山(あすかやま)など，江戸時代から知られた行楽地がある。荒川沿岸の浮間ケ原はサクラソウの自生地として名高いが，いまは約300m²の区役所保護地にわずかに残るにすぎない。東北本線・国電京浜東北線・同赤羽線が区域を南北に縦断し，国道122号線(岩槻街道)と環状7号線が区域のほぼ中央部で交差し，国道17号線(中山道(なかせんどう))が南西部の滝野川地区を横切る。〔浅井得一〕

ギター　［guitar］　西洋の代表的な撥弦(はつげん)楽器。現在広く用いられているものは，ヒョウタン形の胴，まっすぐな棹(さお)，6本の弦をもち，低いほうからホ・イ・ニ・ト・ロ・ホと，1か所を除いて4度に調弦されているが，全体を短3度高くしたものがしばしば用いられる。楽譜には実際の音よりも1オクターブ高く記されている。フレットがある点はリュート*と同じであるが，裏板が平たく，弦が1音に対して1本ずつである点が異なる。ギターの古い形のものは13世紀のスペインにまでさかのぼることができるが，実際の形態では現在までにいろいろなものが使われている。弦は6本だけでなく，4本・5本・7本のものもあり，また2本ずつ組み合わされた弦が同音または8度の関係になっているリュートふうのものもあった。ギターは単音も和音も奏しやすく，古くからともに使われ，独自の楽譜も発展した。スペインとイタリアでは多くのギター曲がつくられたが，重要な作曲家には19世紀スペインのタレガ*・ソル，イタリアのボッケリーニ*・ジュリアーニ・パガニーニ*らがいる。また，今世紀にはいって現代的な奏法を確立したセゴビア*の業績は特にたたえられる。ギターはスペインのフラメンコ*をはじめとする多くの民俗音楽で使われるほか，最近ではジャズやロック*でも使われ，特にロックでは電気的な増幅装置をもった，いわゆるエレキギターが不可欠になっている。〔徳丸吉彦〕

きたアイルランド　【北アイルランド】　イギリス諸島中のアイルランド島北東部を占める地方で，グレートブリテン島とともにイギリス(グレートブリテン-北アイルランド連合王国)を構成する。面積12,575km²。人口151万3,000(1969年推)。首都ベルファスト。アイルランド島の住民は古くから南北間で対立が続いている。島の中・南部は原住民であるアイルランド人が居住してカトリックを信仰し，北部は，12世紀に始まるイギリス王家のアイルランド征服以来の，イギリス本土からの移住者である新教徒が多く居住し，言語・風習にも相違がある。1922年，中・南部に住むアイルランド人は大



北アメリカ　アメリカ合衆国カリフォルニア州の広大な小麦畑と刈り取り風景。刈り取りの進んでいる部分に，コンバインがまるでごま粒のように見える



ロッキー山脈はカナダ領内では多くの壮大な氷河や峡谷をつくっている。写真はアルバータ州のコロンビア氷河の景観(バンフ国立公園)

英帝国から独立してアイルランド自由国をつくったが，北部は1920年から独立した行政県をもち大英帝国内にとどまった。北アイルランドは丘陵性の山地で，最高地点でも850m，アイルランド島中央部のネー湖をはじめ侵食によってできた氷河湖が多い。気候温和であり，農牧業が中心で，ことに酪農が盛ん。伝統産業の麻織物と造船がベルファスト・ロンドンデリーを中心にみられ，近年は航空機・機械工業が興っている。〔野間三郎〕

きたアメリカ　【北アメリカ】　アメリカ大陸のパナマ地峡より北部をいい，北は北極海，西は太平洋，東は大西洋に面し，グリーンランド・アリューシャン列島・ニューファンドランド島・西インド諸島などを含む。面積2,420万km²，人口3億2,006万。アメリカ合衆国・カナダのほか，メキシコをはじめとするラテンアメリカ*諸国の一部を含む。最近は民族や文化の上から，アメリカ大陸を，アメリカ合衆国およびカナダのアングロアメリカ*と，メキシコより南の中部アメリカおよび南アメリカを加えたラテンアメリカとの二つの地域に区分することが多い。

【自然】地形は比較的単調で，西部はロッキー山脈を主とするコルジレラ山系が，アラスカからカナダおよびアメリカ合衆国の西部，メキシコ，中央アメリカを経て，南アメリカのアンデス山脈に続いている。中央低地はカナダのハドソン湾沿岸から五大湖，ミシシッピ川流域を経てメキシコ湾岸に及び，東部山地はカナダの大西洋岸のラブラドル高原からセントローレンス川の谷を経て合衆国のアパラチア山地に続き，合衆国の海岸平野は，北アメリカで最も早くから白人が植民した所で，いまも世界の人口密集地帯の一つで，ニューヨークをはじめとする大都市が集中している。海岸線は南アメリカに比べて複雑であり，アラスカ・ラブラドル・フロリダ・ユカタン・カリフォルニアなどの大半島と，ハドソン湾・メキシコ湾・カリフォルニア湾があり，世界最大のグリーンランドをはじめ北極海には大きな島が多く，またキューバを西端として弓形に並ぶ西インド諸島がメキシコ湾とカリブ海を分けている。

北アメリカは，いまから11,000年前には大部分が氷河におおわれていたと考えられ，特に北東部はその影響が大きく，カナダと合衆国にまたがる五大湖をはじめとする多数の氷河湖がみられる。またグリーンランドには，現在も広大な氷原が広がっており，そのほかの北極海の島々にも，氷河やフィヨルドが発達している。

気候は大半が温帯に属しているが，北部は北極圏にはいり，北極海の沿岸はツンドラ，その南にはタイガが広がっている。南部は，メキシコの中央部を北回帰線が通り，亜熱帯および熱帯式の気候で，中央アメリカと西インド諸島にはサバナが，南アメリカに近い地峡部には熱帯雨林がみられ，また熱帯性低気圧のハリケーンがメキシコ湾岸に上陸して大きな害を与えることがある。大陸の内部は雨が少なく，中央低地ではカナダからアメリカ合衆国のミシシッピ川右岸にかけて温帯草原のプレーリーが広がり，それより西のロッキー山脈のふもとにかけてはさらに雨の少ないグレートプレーンズ(大草原)が，ロッキー山脈中の大盆地やメキシコ高原には砂漠(さばく)が散在している。合衆国太平洋岸のカリフォルニア州は地中海性気候で，同じく大西洋岸から中央低地にかけては日本の東日本とよく似た気候で，バージニア気候ともよばれている。

植生では，アメリカ合衆国以北は，アジア中北部およびヨーロッパと同じく全北区*に属し，カエデ科・ナデシコ科・キキョウ科・アブラナ科などの植物が多くみられ，カナダ国旗の図案になっているサトウカエデは北アメリカ東部の原産で，これから砂糖がとれる。また高さ120mにも達するスギ科のセコイアは世界最高の大木で，中生代ジュラ紀の遺存種と考えられ，現在はアメリカ合衆国のオレゴン州南部に残り，これに似たギガントセコイアは第三紀後半の遺存種で，太さでは世界一とされ，カリフォルニア州に残っている。メキシコ以南は新熱帯区に属し，ソテツ科・ショウガ科・イワタバコ科の植物がみられ，またサボテン科の植物が目だつ。メキシコ原産の栽培植物として世界じゅうに分布したものにサツマイモがある。

動物の分布では新北区に属するが，旧北区や新熱帯区と共通のものが多く，ほかの動物区にみられないものとしてはエダツノカモシカ・カリフォルニアコンドル・ミシシッピワニなどがある。またアラスカから中央アメリカのコスタリカに至る広い範囲にはオオカミに似たコヨーテがおり，かつては数千万頭もいたアメリカバイソンは，いまはアメリカ合衆国とカナダを合わせて20,000頭余に減り，保護されている。

【住民】原住民はアメリカインディアン*であるが，人種的にはアジア系に属し，アメリンドともいい，いまから約20,000年前にベーリング海峡を渡って移動してきたものと考えられている。アメリカインディアンは，コロンブスが到達した15世紀末には，北アメリカだけで400万人いたと推定されているが，アメリカ合衆国とカナダではヨーロッパ人の進出とともにしだいに減少し，現在は合衆国に66万(1968)，カナダに23万を数えるにすぎない。メキシコ以南のラテンアメリカは，混血人が多い所で，メキシコでは総人口4,700万のうち，60%はスペイン人とインディアンの混血のメスチゾ，30%が

インディアン，10％がスペイン系白人となっている。また，アラスカおよびカナダ・グリーンランドにいる53,000人のエスキモー*も，その人種系統はなぞであるが，インディアンと同じくベーリング海峡を渡ってアジアから移動してきたものといわれる。

現在，住民の大部分はヨーロッパ移民の子孫である白人で，その割合はアメリカ合衆国では87％，カナダでは92％に達している。両国ともイギリス系の白人が第1位を占めているが，合衆国ではこれに次いで，ドイツ系，イタリア系，オーストリアおよびハンガリー系，ロシア系，ポーランド系などが多く，カナダでは40％のイギリス系に対して，フランス系も30％に上る。

アメリカ合衆国では，ワスプ*とよばれるイギリスから移住した新教徒と，オランダ系・スカンジナビア系・フランス系の新教徒が，開拓の先駆者として人種的階層の中でのエリートとされ，同じイギリス系でも旧教徒のアイルランド人やイタリア人はいろいろな方面で差別されることが多く，日本人や中国人などの東洋系移民に対する差別もまったく解消したわけではない。しかし最も大きな問題は人口の約10％を占める黒人に対する差別で，かつてはおもに南部諸州に居住していたが1930年代からしだいに大都市に移住し，ニューヨークにはマンハッタン区の北寄りのハーレム地区を中心に約120万人，首都ワシントンでは総人口の70％の55万人が黒人である。このほか主として第2次世界大戦後入国した85万を数えるプエルトリコ人があり，その大半はニューヨークに集中している。カナダではケベック州に多いフランス系カナダ人の独立運動が起こっている。

〔言語と宗教〕アメリカ合衆国とカナダでは英語が使用され，合衆国にいる2,000万の黒人もすべて独特のなまりのある英語を使っている。合衆国の英語は語彙(ごい)や発音・文法・つづり字などでイギリスの英語と多少異なった点がある。ヨーロッパからの移民の上陸地であったニューヨークには英語以外の外国語による新聞が，50余も発行されている。カナダでは，ケベック州でフランス語が日常語となっており，1969年9月から英語と並んでフランス語も，連邦政府の公用語となった。この国も移民の国のため，28種の外国語新聞が発行されている。中部アメリカの国々は，おもにスペイン人の開拓になるためにスペイン語が普及し，例外として旧宗主国の言語が使用されているハイチ(フランス語)，バルバドスとトリニダード-トバゴ(英語)がある。なお原住民のアメリカインディアンおよびエスキモーは，なおその固有の言語を保っているが，アメリカインディアン語は多くの系統に分かれており，すでに死語となったものも少なくない。合衆国のインディアンは一般に英語を使用しているが，白人に比較的



ニューオーリンズ近くを流れるミシシッピ川。アメリカ合衆国内陸部の輸送の大動脈で，汽船の遡行は，現在もミネアポリスまで可能である

新しく侵略されたニューメキシコ州のあたりでは，老人で英語を話せぬ者が多い。

宗教はキリスト教が主で，アメリカ合衆国では新教徒，カナダでは旧教徒が比較的多く，中部アメリカではスペイン人の布教のために旧教徒が大多数を占めている。しかし合衆国では，19世紀後半以降に旧教徒のアイルランド人やイタリア人が多く渡来して勢力を増し，1960年にはアイルランド系の旧教徒であるJ.F.ケネディが大統領に当選した。1965年の調査によれば，約150の新教各派の教徒数は約6,900万人，カトリック教徒は約4,600万人で，このほかに560万人のユダヤ教徒，320万人のギリシア正教徒がおり，またユタ州を中心として250万人のモルモン教*徒がいる。仏教は日系や中国系移民の間で信仰されているが，最近カリフォルニア州を中心に，約10万世帯の白人の間に日蓮正宗(にちれんしょうしゅう)の進出がみられ，また合衆国全体に約10,000の白人の禅宗の信者がいるといわれている。

〔政治〕アメリカ合衆国・カナダをはじめ独立国はすべて共和政体をとっており，諸外国の領土には合衆国自治領のプエルトリコ，デンマーク領のグリーンランド，イギリス自治領のホンジュラスとバハマ諸島，属領のバミューダ諸島・ウィンドワード諸島・リーワード諸島，フランス海外県のマルチニークとガドループなどがある。北アメリカの国々は，イギリス連邦の一員であるカナダを含めて，政治的・経済的にアメリカ合衆国の影響を強く受けている。しかしカナダはOAS*(米州機構)に参加せず，キューバとの接触を維持し，ソ連および中国との関係においても独自の路線を保ち，1970年10月には中国を承認して国際的に大きな波紋を投げた。またキューバは，1959年にカストロが政権を樹立して以来，急速に社会主義国家への道をたどり，1963年には合衆国と断交，翌1964年にはメキシコを除くOAS諸国とも断交した。キューバとソ連とは通商・外交・武器援助などの諸協定を結んでいるが，革命以後の経済的な窮乏状態のため，ソ連をはじめ諸外国から20億ドル以上の負債をかかえている。メキシコの外交政策の基調は親米であるが，キューバ断交をきめたOAS決議を拒否し，ソ連を含む共産圏諸国とも外交関係を保っている。

〔産業〕よい気候と広い土地に恵まれ，農業はきわめて盛んで，地下資源も豊富であるために生活必需物資のほとんどを自給自足したうえ，旧大陸*へも大量に輸出している。中央低地の中部は世界的な小麦・トウモロコシ・ダイズの産地で，高度の機械化農業が行なわれ，カナダとアメリカ合衆国を合わせて世界小麦生産の約18％，世界小麦輸出高の57％を占めており，生産高の45％は輸出に向けられている。また合衆国は世界のトウモロコシの44％を産する世界第1の生産国で，輸出高も世界第1位を占めるが，その最大の輸出先は日本である。ダイズの生産は第2次世界大戦中から急速に伸び，現在合衆国で世界の70％を生産し，輸出では90％近くを占めている。南部ではタバコ・ワタ・サトウキビを産し，合衆国はタバコとワタの世界第1の生産国であり，サトウキビは合衆国とキューバが主で，キューバは砂糖の輸出で世界の首位を占めている。合衆国は生産も多いが消費も多いので，世界最大の砂糖の輸入国ともなっている。またキューバやドミニカのサトウキビをはじめ，グアテマラのコーヒー，ホンジュラスのバナナなど中部アメリカには南アメリカと同じく，単一の商品経済に依存する国が目だち，キューバを除いてはアメリカ合衆国資本の支配下にある。牧畜も盛んで，中央低地の中部では大牧畜や混合農業の形式によって，ウシ・ブタが飼育され，五大湖沿岸では酪農も発達している。ウシ・ウマをはじめ大形の家畜は開拓当時すべて旧大陸からスペイン人によってもたらされたもので，アメリカインディアンはイヌとシチメンチョウのほかは家畜・家禽(かきん)をもっていなかった。

カナダ南部からアメリカ合衆国北西部にかけてはハリモミ・カラマツなどを主とする豊富な針葉樹林が残っており，このためカナダは，世界の新聞用紙の約40％を供給しているが，最近はやや生産過剰の傾向にある。また北東太平洋岸と北西大西洋岸はともに世界的な漁場で，太平洋側にはサケ・マス・ニシン・オヒョウ，大西洋側にはタラ・ハリバットなどが豊富で，太平洋側には日本漁船も進出しているが，1953年発効の〈日米加漁業条約〉でその活動は制限されている。

地下資源も豊富で，アメリカ合衆国には鉄鉱石・銅鉱・石炭・石油などの大産地があり，銅鉱・石炭・石油は世界第1，鉄鉱石はソ連に次いで第2の産出量を誇っている。カナダは世界の半ば近くのニッケル鉱を産し，銀・鉛・亜鉛も豊富で，また良質

のウラン鉱もある。メキシコにも銀や石油などの地下資源が多い。このような豊かな地下資源を背景として，五大湖の周辺には世界有数の工業地帯が発達し，製鉄・自動車・化学繊維・ゴムなどをはじめ各種の工業が発達し，ピッツバーグとデトロイトはその中心となっている。またニューヨークは大商業都市であるとともに，合衆国第1の工業生産額をあげる大工業都市でもある。第2次世界大戦後は，合衆国の太平洋岸にも工業が栄え，特にロサンゼルスの航空機工業が目だち，南部のテキサス州を中心とする石油化学工業の発達もめざましい。

【交通と貿易】陸海空の交通はよく発達しており，カナダとアメリカ合衆国には大西洋岸と太平洋岸を結ぶ大陸横断鉄道があるが，最近は航空路の発達や，自動車専用道路の整備によって，鉄道は斜陽化の傾向にある。合衆国では1916年に全長42万kmに達していた鉄道が，1967年には36万kmとなっている。鉄道はすべて民営であるが，企業合同による合理化が図られている。バスの総路線は約20万kmである。航空路では，国内定期便は23万km，国際線は56万kmの営業ルートをもつ。カナダでは国鉄と民営のカナダ太平洋鉄道がほぼ鉄道交通を独占し，航空路も国営のカナダ航空と，民営のカナダ太平洋航空の二本立てとなっている。

海上交通はヨーロッパとの間の大西洋航路を主とし，これに次いで南アメリカ，オーストラリア，アジアを結ぶ航路がよく発達し，パナマ運河がそのかなめとなっている。パナマ運河は1970年に13,150隻の船舶が通過し，まだその2倍の通過量を消化できる可能性はあるが，近年の船舶大形化の傾向によって新運河の建設が合衆国政府によって検討されており，1970年11月に調査委員会は，現在のパナマ運河の西側に全長80kmの新パナマ運河を14年計画で建設することを大統領に勧告した。

アメリカ合衆国の貿易量は世界最大で，1968年には世界の輸出貿易額の14％を占めている。機械類・自動車・航空機などの工業製品と，小麦・ダイズ・トウモロコシなどの農産物が輸出の主力を占めているが，最近は自動車や機械類・鉄鋼の輸入が増加している。1969年下半期からは入超を記録するようになり，このために鉄鋼・繊維を中心とした保護貿易主義をとる傾向になって，それが日本の対米輸出にも影響を与えている。カナダやメキシコなどの合衆国の隣国は輸出入とも対米依存度が高く，そのほかの中部アメリカの国々も，キューバを除いて同じ傾向にあるが，キューバの貿易相手国は砂糖の第1の輸出相手国である日本を除いて，ほとんどが共産圏である。

➔325ページ(地図)〔浅井得一〕

きたい　【気体】　物質の状態の一つで空気・酸素・窒素・炭酸ガスなどのように一定の形と体積をもたず，流動性があり，みずから容器全体に広がろうとする性質をもち，液体のような表面を示さないものを気体という。物質が気体の状態をとっているときを気体状態あるいは単に気態という。気体を一つの相として扱うときには，これを気相という。標準状態(0℃，1気圧)の気体は次の点で液体・固体と異なる。①体積が大きい(密度が小さい)。②モル*あたりの体積は気体の種類によらず一定で約22.4 l を占める。③膨張率が大きい。④圧縮率が大きい。⑤粘度が小さい。

【気体の法則】気体の体積は一般に圧力および温度によって著しい影響を受ける。理想気体において，温度が一定のとき圧力の変化による体積の変化について述べたものにボイルの法則があり，圧力が一定のとき，温度の変化による体積の変化について述べたものにゲイ-リュサックの法則*(またはシャルルの法則)とよばれるものがある。また総合的には気体の状態式で表わされる。気体の状態式は絶対温度T，圧力P，密度 ρ を用いて $P=\rho\frac{RT}{M}$ なる形で表わせる。ここでMは分子量，Rは気体定数(＝8.206×10^{-2} $l\cdot atm/mol\cdot deg=1.986\,cal/mol\cdot deg$)である。実在気体では十分高い温度，低い圧力でほぼ理想気体に近いが，低温高圧ではずれをみせる。このような挙動を表わす状態方程式として，ファン-デル-ワールス*の状態方程式，$(p+\frac{a}{v^2})(v-b)=RT$ が有名である。ここで v は1モル気体の占める体積，a，b は定数を表わす。

【分子運動論的性質】気体分子はその気体の占めている空間をかってな方向に，たえず激しい運動をしている。個々の分子の運動の速さは，いろいろであり，したがってそれらがもっている運動エネルギーもいろいろである。しかし，一定温度における分子の平均の運動エネルギーはつねに一定で，絶対温度はこの分子の平均の運動エネルギーに比例する。分子間に働く力(ファン-デル-ワールス力*)は一般に弱い。分子間の衝突によりエネルギーや運動量のやり取りも行なわれ，気体全体の熱的平衡が成立する。気体によって呈せられる圧力は，器壁に対する分子の衝突によるものであり，圧力は単位面積に働く力であるから，これは器壁の単位面積に対して単位時間に衝突する分子数に比例する。このように分子を統計的に取り扱って巨視的な気体の物理的性質を導き出す学問分野が気体分子運動論*であり，統計力学なども応用される。

〔三輪誠・野宮健司〕

きだい　【季題】　➔季語

ぎたい　【擬態】　動物が他の動植物や無機物などの形態や色彩に擬すること。これによって隠れる場合と逆に目だたせる場合とがある。前者は隠蔽(いんぺい)的擬態といわれ，例としてコノハチョウがあり，後者は標識的擬態といわれ，例としてアブやガがハチに似た色彩・紋様をもつ場合がある。擬態の意義はその種の存続のためにあると思われ，自然淘汰(とうた)の中で獲得された特異な現象として昔から注目されている。

きたいおんどけい　【気体温度計】　圧力が一定である気体の体積の温度による変化，または体積が一定である気体の圧力の温度による変化(➔状態方程式)を利用した温度計。前者を定圧気体温度計，後者を定容気体温度計という。精密であるため，各種の他の温度計を検定する標準温度計として用いられる。定圧気体温度計は，気体を入れる容器と体積変化を測定する部分からなり，定容気体温度計は容器と水銀圧力計からできている。容器はガラス・銅・セキエイなどが用いられ，気体としては理想気体*に近い空気・水素・窒素・アルゴン・ヘリウムなどが用いられる。測定範囲は白金-イリジウム管に窒素を入れたものは1,000℃以上まで，ヘリウムでは低圧で用いると－271.8℃まで測定できる。〔中野藤生〕

きたいかのうせい　【期待可能性】　ある行為がなされるとき，行為者に対し適法な行為をしたであろう，また違法な行為をしないでもすませたであろうと期待しうる可能性。通常，犯罪行為者を非難する根拠は，普通人であればだれしも適法行為をとることができたのに，その可能性を裏切って違法行為をしたことにあるといえる。したがって，あの場合，だれでもそうせざるをえなかったであろうという状況でなされた違法行為は，これを社会的に非難することはできない。だれでも彼と同じ状況に追い込まれたら，悪いと知りつつもその行為を思いとどまったり，進んで適法行為をとることが不可能であったと判断されるからである。よって適法行為をすることを期待できない状況でなされた違法行為については，責任がないから無罪であるとするのが，期待可能性を責任の本質とする規範責任論の立場である。わが国でも期待可能性のないことを理由に無罪を言い渡した判例が出ている。〔野口恵三〕

ぎたいご　【擬態語】　〈ぬるぬる〉〈ひらり〉〈さっさ〉〈まじまじ〉などのように，物事のようす・感じを言語音によって象徴的に表わした単語。擬容語ともいう。〈と〉を伴って，または単独で副詞として使われるほかに，〈ぺこぺこだ〉〈にこにこする〉などのように形容動詞・サ変動詞として使われるものもある。

きたいち　【期待値】　確率論の用語。1等賞1,000円にあたる確率*が0.01，2等賞100円にあたる確率が0.2であると，何回も試みたときもらえる金高の平均は，1,000×0.01＋100×0.2＝30(円)になると期待される。このように，変量 x の取りうる値が x_1，x_2，……，x_n で，値 x_i を取る確率が p_i であるとき，

$$E(x)=x_1\cdot p_1+x_2\cdot p_2+\cdots\cdots+x_n\cdot p_n$$

を変量 x の期待値という。期待値は，確率


北　一輝

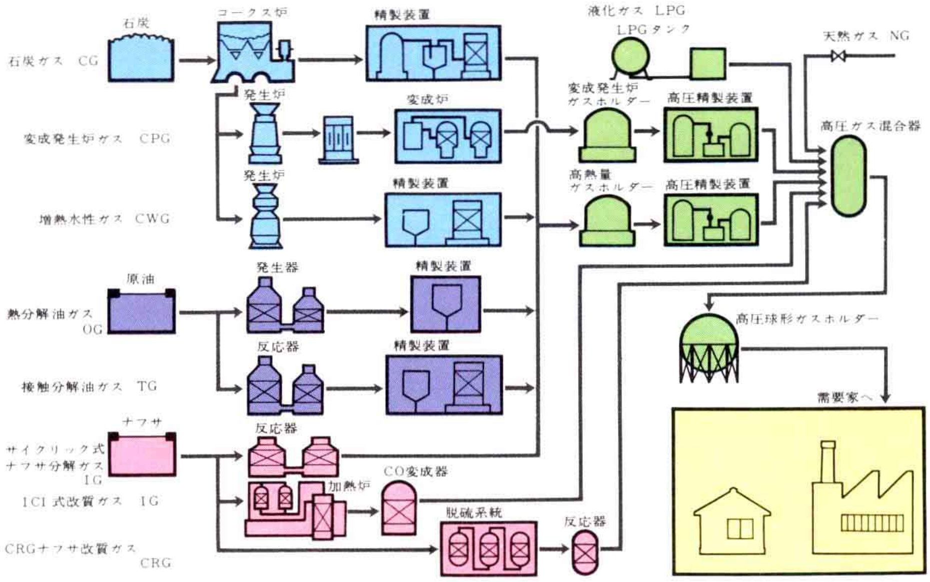
に関する主要な概念であって，次の性質がよく利用される。

2個の変量x，yに対しつねに$E(x+y)=E(x)+E(y)$となり，特に，xとyが独立な場合には$E(x\cdot y)=E(x)\cdot E(y)$となる。〔小西勇雄〕

きたいっき【北一輝】(1883～1937) 日本ファシズム*の理論的指導者。新潟県佐渡出身。1905年(明治38)上京して早稲田(わせだ)大学の聴講生となり，《国体論及び純正社会主義》を出版，幸徳秋水*らと交わる。一方中国革命同盟会*に加入，1911年辛亥(しんがい)革命*中の中国に渡り，中国革命*に参加。1916年(大正5)再び中国に行き上海(シャンハイ)で《日本改造法案大綱》を書き，日本ファシズムの思想的教典として信奉者間で読まれた。帰国後1920年に猶存社*を結成し，国家主義運動の頭首として重きをなしたが，1936年(昭和11)影響下にあった皇道派*青年将校が二・二六事件*を起こし，首謀者として死刑となった。〔岸野淳子〕

きたいていすう【気体定数】⇨状態方程式

きたいねんりょう【気体燃料】常温常圧で気体の状態の燃料をいい，液体燃料*・固体燃料*と対比される。固体燃料に対して気体燃料・液体燃料をまとめて流体燃料ともいう。気体燃料の特長は着火性がよく，燃焼の調節がわりあい簡単で，燃えかすがほとんどなく，パイプで連続供給ができる，などである。気体燃料は工業的にもまた家庭用にもたいせつな燃料である。家庭用として最も代表的なものは都市ガスであり，製造工場から遠方の都市の中心まで高圧パイプで輸送し，一時球形タンクなどに貯蔵し，これから各家庭へ需要に応じて供給されている。このほか気体燃料の代表的なものとして，オイルガス・天然ガス・製油所ガス・液化石油ガス(LPG)・発生炉ガス・水性ガス・水素・アセチレンなどがある。〔寺沢誠司〕



気体燃料　都市ガス製造工程

きたいばらき【北茨城(市)】茨城県北東端の市。明治以降，常磐(じょうばん)炭田の炭鉱集落として発展し，1956年(昭和31)市制施行。人口48,000。東は太平洋に臨み，北は福島県，南は高萩(たかはぎ)市に接する。北西部には多賀山地が連なり，花園川・大北川・塩田川・里根川などの流域に平地が開

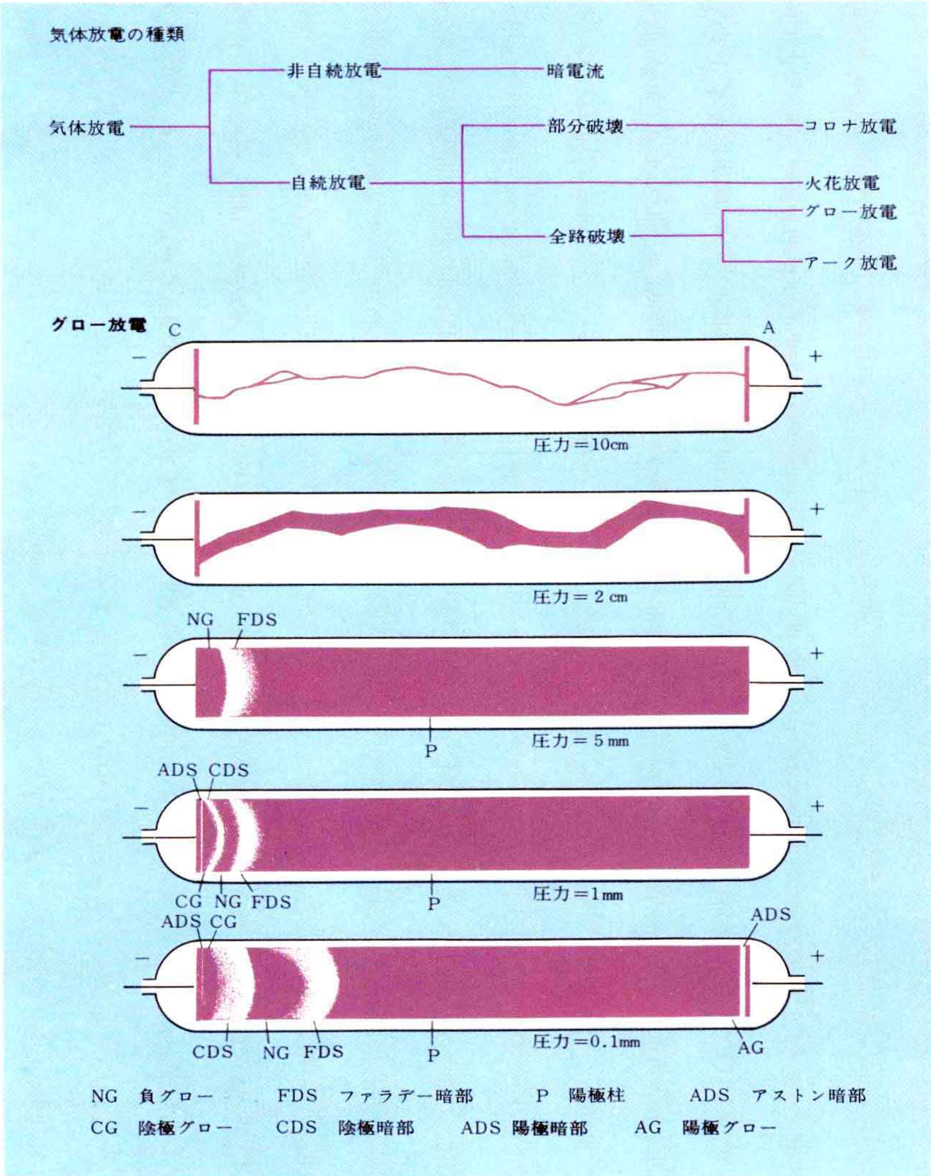

北茨城市　市郊外では最近，丘陵が削られ，耕地がつぶされて工場や宅地に変わり，市の工業化が進められている

ける西高東低の地形である。産業三大別人口比は20：43：37。石炭産業は最近衰退しており，米作のほか，製材・木工業や漁業に従事する兼業農家が多い。大津・平潟(ひらかた)の漁港をもち，沿岸・遠洋漁業が盛んで，イワシのほお刺しや煮干しなどの水産加工が行なわれる。中心市街地の磯原(いそはら)は童謡詩人野口雨情*の生地で，周辺部は海洋公園と山岳公園の性格を合わせもつ北茨城県立自然公園である。また大津の東端五浦(いづら)は日本美術院にゆかりの深い景勝の地で，岡倉天心*の別荘や六角堂が保存され，天心と親交のあったインドの詩人タゴール*の分墓もある。

きたいぶんしうんどうろん【気体分子運動論】気体は分子からできているとし，その分子の熱運動に基づいて気体の性質を論ずる理論。気体運動論ともいう。ベルヌーイ*・ジュール*・クレーニヒらによって創始され，クラウジウス*・マクスウェル*・ボルツマン*らの研究によって飛躍的に発展した。熱力学*は巨視的立場からの実験事実の積み重ねによって得られた理論体系で，熱の本質がエネルギー*の一形態であることなど多くの成果を得たものの，さらに深い熱エネルギーの本質や物質の熱的性質の本質まで立ち入ることはできなかった。これらは物質が原子・分子からなるという原子論*の立場と，これを否定して不可知な原子・分子という概念を持ち込むべきではないというエネルギー力学の立場との論争のすえ，原子論の立場の正しさが示され，はじめて明らかにされた。すなわち，気体は空間をあらゆる方向に不規則に運動する多くの分子からできており，液体・固体に比べ分子間の距離が大きく，分子間の相互作用は小さく分子は互いに独立に，自由に運動している。そして，気体の性質は個々の気体分子の力学的運動の詳細によらず，分子全体の平均の運動状態によって定まり，熱力学の諸法則が導き出されるであろうとマクスウェルやボルツマンは考え，実際に導き出した。この気体分子運動論は原子・分子の微視的性質から巨視的体系の熱的性質を導き出す統計力学*の基本的な考え方(確率論的平均操作など)ともなり，その発展の原動力となった。〔中野藤生〕

きたいほうでん【気体放電】気体がある特殊な状態で導電性になること。イギリスの物理学者J. J. トムソン*・J. S. E. タウンゼントらによって体系づけられた。

たとえば，ガラス管の両端に2枚の金属板電極を向かい合わせて封入し，これに電圧を加えると電流が流れる。この現象は，気体に紫外線*・X線*などを照射して電離させるか，あるいは陰極からの光電子放出によって起こすことができるが，一般にはこのようなことをしないでも宇宙線*などに基づく電離作用によってひき起こされる。このような電流を暗電流といい，電圧を増加すると飽和する。さらに電圧を高くすると，



気体放電

電子が気体分子を電離するのに十分なエネルギーに加速されるため，衝突電離作用が起こる。また，できたイオンが陰極に到達して２次電子を放出し，電流は急激に大きくなり，ついには光を発するようになる。暗電流は宇宙線などの外部作用がなくなると流れなくなるので非自続放電とよばれる。さらに電圧を増加させると，外部作用を取り除いても放電を続ける自続放電に移る。自続放電はさらに全路破壊のグロー放電とアーク放電，および部分破壊のコロナ放電に分けられる。また部分破壊と全路破壊の間の，過渡的な放電に火花放電がある。平板電極どうしのような均一電界の場合には非自続放電から火花放電を経て全路破壊に移るが，針と板のような電極を用いた場合には電界の強い部分で発光するコロナ放電になる。しかし，コロナ放電も電圧を高くすれば全路破壊になる。

〔コロナ放電〕針と平板電極を向かい合わせたような，著しく不均一な電界分布の場合は，火花放電が起こるまえに発光を伴うコロナ放電が起こる。この放電は電極に加える電圧の方向や大きさ，電極間距離によって異なる放電状態を示す。

〔火花放電〕火花放電を起こすのに必要な最小電圧を火花電圧といい，それに関しては〈火花電圧は圧力と電極間隙長(かんげきちょう)の積のみの関数である〉という，ドイツの物理学者パッシェンの法則がある。また，コロナ放電を経由しないで発生する球間隙の火花放電は高電圧の測定に用いられる。

〔グロー放電〕グロー放電は，比較的低気圧で，電流も小さい場合に安定である。気圧が100～20mmHg(水銀柱ミリメートル)程度の場合には，放電路は細く，色もちょうど大気中の火花に似ている。５mmHg程度のときは，陰極の表面は青白い負グローでおおわれ，隣にファラデー暗部，次に赤紫色に輝く陽光柱が続く。１mmHg程度のときは，陰極は陰極グローという橙色(とうしょく)の光輝でおおわれる。陰極グローと負グローの間に陰極暗部ができる。また，陽極直前に陽極グローが現われることがある。0.1mmHgのときは，負グロー・陽極グローが伸び，陽極柱が弱まり，陽極直前には陽極暗部が現われる。またヘリウム・ネオン・アルゴンなどのガス中の放電では，陰極の表面にアストン暗部が見られることがある。0.01mmHg程度のときは，陰極暗部がほぼ全長に広がり，ガラス壁が強く螢光(けいこう)を発するようになる。このようなグロー放電は真空放電ともいわれ，真空放電を行なわせる容器はガイスラー管とよばれる。ガイスラー管は放電状態から圧力の測定に使われる。グロー放電の応用としては，ネオンランプ・ネオン管・ストロボ放電管などの光源のほかに，定電圧放電管・整流管・真空避雷器などがある。

〔アーク放電〕グロー放電の電流を大きくすると，管内をほぼ一様に満たしていたグローが陰極の付近で強い光の細い光柱となり，陰極も白熱して光り，アーク放電になる。しかし，電源が強力で回路の抵抗が小さい場合は，火花から直接アーク放電になる。また大電流が流れている回路のスイッチを切るときもアーク放電がみられる。アーク放電は電流が大きく，陰極での電圧降下がグロー放電の10分の１以下である。アーク放電の陰極は高温であることが要求されるが，電極材料によっては熱電子放出では放電を自続するに十分な電子を補給する温度まで高温にできないため，冷陰極放電により電子の補給を行なっている場合もある。アーク放電の応用としては光源としての各種水銀燈・螢光燈・整流器，熱を利用してのアーク電弧炉やアーク溶接・放電加工がある。

〔高周波放電〕放電が自続するためには，電子の電離作用のほかに，イオンが陰極に到達し，その２次電子放出による後続電子の補給が必要になる。しかし，高周波によって電場の向きを変えると，２次電子による電子の補給がなくても放電が自続できるようになる。これを高周波放電という。

〔伊藤糾次〕

きたいん　【喜多院】 埼玉県川越市小仙波(こせんば)町にある天台宗の寺。北院・無量寿寺ともよぶ。830年(天長７)慈覚大師円仁(えんにん)が往古の仙芳(せんぽ)仙人の旧跡に，淳和(じゅんな)天皇の勅願によって創建したと伝えられる。当時の堂舎のうち南院や中院などは荒廃し，この喜多院だけが残った。1204年(元久１)兵火にかかり，1296年(永仁４)尊海が中興してから関東における天台教学の中心となったが，1537年(天文６)北条(ほうじょう)氏綱の兵火にかかり焼かれた。1599年(慶長４)天海*が入住してから江戸幕府の強力な庇護(ひご)のもとに復興し，しだいに盛観を呈するようになり，天台宗八大檀林(だんりん)の一つとして栄えた。現在の建物は，

1638年(寛永15)焼失後，徳川家光(いえみつ)にによって再建されたもので，重要文化財に指定されている。同院所蔵の重要文化財《職人尽絵屏風(しょくにんづくしえびょうぶ)》は風俗史・工芸史の史料として名高い。〔毛利早公子〕

きたうら【北浦】 茨城県南東部，霞ケ浦(かすみがうら)東方にある南北に長い湖。面積38.7km²，水面高度0m，水深は南部は1m前後であるが北部は深く10mに及ぶところがある。北端に巴(ともえ)川が注ぎ，水は外浪逆浦(そとなさかうら)を通って利根(とね)川に流れる。常総台地にうがった巴川の谷一帯が沈降・沈水し，利根川の運搬物が南部をせき止めてできた湖である。湖の南部は水郷*で，南東岸に近い鹿島(かしま)神宮一帯とともに水郷筑波(つくば)国定公園に所属する。〔長津一郎〕

きたオセチア【北オセチア(自治共和国)】 Severo Osetinskaya A. S. S. R. ソビエト連邦，ロシア連邦共和国内の自治共和国。大カフカス山脈北麓(ほくろく)にある。面積8,000km²。人口58万6,000(1975)。首都オルジョニキーゼ。住民はイラン系のオセチア人が多く，ほかにロシア人・アルメニア人・グルジア人などがいる。北部のテレク川とその支流に盆地がある以外は山地で，平地は国土の3分の1に満たない。盆地はテレク川の灌漑(かんがい)に潤され，トウモロコシ・小麦・麻・テンサイ・果樹などが栽培され，山地では牧畜を営む。亜鉛・鉛・銅などの地下資源に恵まれ，それらの精練を行なうほか，トウモロコシの加工や木材・繊維などの工業があり，テレク川の水力を利用した発電も行なわれている。18世紀後半，トルコ領からロシアに併合され，1924年自治州，1936年自治共和国となった。第2次世界大戦中は国土の一部をドイツ軍に占領された。〔斎藤晨二〕

きたかいきせん【北回帰線】 北緯23°27′の等緯度線。夏至(げし)の日，太陽は北回帰線上の天頂を通る。→回帰線

きたかた【喜多方(市)】 福島県北西部の市。1954年(昭和29)市制施行。人口38,000。地名は，会津地方の北方とよばれたことにちなむ。会津盆地北端から北部山地にまたがる田付川氾濫原(はんらんげん)と台地上に位置する。産業三大別人口比は28：33：39。漆器や，会津桐(あいづぎり)を材料とするげた・家具の工場も多い。豊かな水力資源を利用した昭和電工のアルミニウム精練工場がある。磐越(ばんえつ)西線と日中線の分岐点で，国道121号線(米沢(よねざわ)街道)が通ずる。周辺部に磐梯(ばんだい)高原や熱塩(あつしお)温泉がある。

きたかみ【北上(市)】 岩手県南西部の市。江戸時代は奥羽街道の宿駅，南部藩蔵米を積み出す北上川の河港としてにぎわった。1954年(昭和29)黒沢尻(くろさわじり)町を中心に市制施行。人口53,000。北上盆地の中央部，北上川と和賀(わが)川の河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は26：29：45。



喜多院 客殿



北上川　盛岡市付近を流れる北上川。正面には，頂上を雲におおわれた岩手山がそびえる

近年和賀川溪谷(けいこく)の諸鉱山や豊富な電力を利用した近代工業が興り，村崎野台地の新興工業地帯は，北隣の花巻市とともに北上特定地域総合開発計画の中心となっている。東北本線と北上線の分岐点で，国道4号線・同北上バイパスと国道107号線が交差する。

きたかみうんが【北上運河】 宮城県，北上川河口より10km上流の石井閘門(こうもん)から鳴瀬川河口の野蒜(のびる)に至る運河。北上川河口と阿武隈(あぶくま)川河口を結ぶ目的で1882年(明治15)に完成したが，野蒜築港の失敗などにより予想した効果を上げえなかった。

きたかみがわ【北上川】 岩手県北上山地と奥羽山地の水を集めて南下，石巻(いしのまき)湾(宮城県)に注ぐ川。水源は県北西部の七時雨(ななしぐれ)山，流程247km。南北に長い北上盆地を潤し，雫石(しずくいし)川・猿ケ石(さるがいし)川・和賀(わが)川・胆沢(いさわ)川・磐井(いわい)川・迫(はさま)川などの支流を合わせて仙台(せんだい)平野に出る。本吉(もとよし)郡津山から旧北上川と新北上川に分かれるが，新北上川は，一時流路が旧北上川に変わって流路からはずれた旧河道を改修して，再度水が流れるようにしたものである。下流で追波(おっぱ)川の分流を出すが，古くはこれが本流で，追波湾で太平洋に注いでいたのを，伊達政宗(だてまさむね)が工事をして石巻に導いた。北上盆地も仙台平野も勾配(こうばい)がゆるやかで，出水による水害もあった半面舟運の便がよく，鉄道開通前のこの地の開発に果たした役割は大きい。この川を中心に流域一帯は北上総合開発特定地域に指定され，河川改修，電源開発，牧野・土地改良，開拓地造成などの事業が軌道にのりつつある。〔長津一郎〕

きたかみさんち【北上山地】 東北地方北東部，岩手県の東半部を占めて南北に広がる山地。西側は南流する北上川と北流する馬淵(まぶち)川で境され，東側は太平洋に臨み，特にその南半はリアス式海岸を形成している。高度800～900mの隆起準平原で平坦面(へいたんめん)が多くみられ，ところどころに残丘状の山地がそびえ，早池峰(はやちね)山(1,914m)・姫神山(1,125m)・遠別岳(1,341m)・物見山(870m)などが目だつ。一般に交通が不便で開発が遅れ，人口密度も低い。〔高野　繁〕

きたかみせん【北上線】 北上～横手間の国鉄路線。営業キロ数61.1。1920年(大正9)横手～相野々間の開通に始まり，1924年全通した。奥羽山脈を横断する鉄道の一つで，東北本線と奥羽本線を結ぶ。旧称横黒線。

きたかみぼんち【北上盆地】 岩手県の南西部，東を北上山地に，西を奥羽山脈に限られた細長い盆地で，南部は一ノ関市の南の狐禅寺(こぜんじ)狭窄部(きょうさくぶ)によって限られている。盆地の中央を北から南へ北上川が貫流し，西側には河岸段丘が発達し，山麓(さんろく)には胆沢(いさわ)扇状地をはじめいくつもの扇状地が形成されている。盆地はかつて湖をたたえていたらしいが，現在でも狐禅寺狭窄部の排水が悪く，北上川の水量が増すと，盆地南部は洪水(こうずい)に見舞われる。岩手県最大の平地で，重要な穀倉となっており，北部には県庁所在地の盛岡市がある。〔味沢成吉〕

きたがわうたまろ【喜多川歌麿】(1754～1806) 江戸時代の浮世絵師。通称勇助，狂歌の名を筆の綾丸(あやまる)といった。浮世絵を鳥山石燕(せきえん)に学び，はじめは画名を豊章(とよあき)と称したが，のち歌麿と改めた。上半身を描くいわゆる〈大首美人画〉の形式を創案し，微妙な心の動きがそのまま表情に現われる複雑な女性美を描き出して，鳥居清長*ふうの類型的な姿態美にあきた世人に歓迎された。白い柔肌(やわはだ)の質感をとらえるために朱色の輪郭線を引いたり，ついには輪郭線を用いずに地色で浮き出させたりするなど，女性の相貌(そうぼう)の美しさを表現するためのくふうはひとかたではなかった。同じ寛政期(1789～1800)に活躍する東洲斎(とうしゅうさい)写楽とともに，浮世絵の黄金期を築いた巨匠として，その声価は世界的に高い。代表作に《婦人相学十躰(じった



喜多川歌麿　《娘日時計》　町娘の日中の生活を辰(午前8時)から申(午後4時)の五刻に分けて描いたうちの2図　(左)未(午後2時)は昼下りのくつろぎのものうさが感じられ，(右)申では正装の娘の外出のようすが知られる　東京国立博物館蔵



北川民次　《メキシコ静物》　1938

い)》《歌撰(かせん)恋之部》《娘日時計》などの連作があり，《絵本虫えらみ》など絵本類にも傑作を残している。　〔小林　忠〕

きたがわたみじ【北川民次】(1894～　)　洋画家。静岡県の生まれ。1913年(大正2)早稲田(わせだ)大学を中退，翌年渡米してニューヨークのアート-スチューデント-リーグに学び,1924年メキシコに移ってサン-カルロス美術学校を卒業，壁画運動・美術教育に参加，シケイロス*らと交わった。1931年(昭和6)タスコの野外美術学校校長となる。1937年に帰国，社会的主題，プリミティブな画風で知られ，児童美術教育でも有名。代表作に《タスコの祭り》《大地》《花と煙突》などがある。　〔陰里鉄郎〕

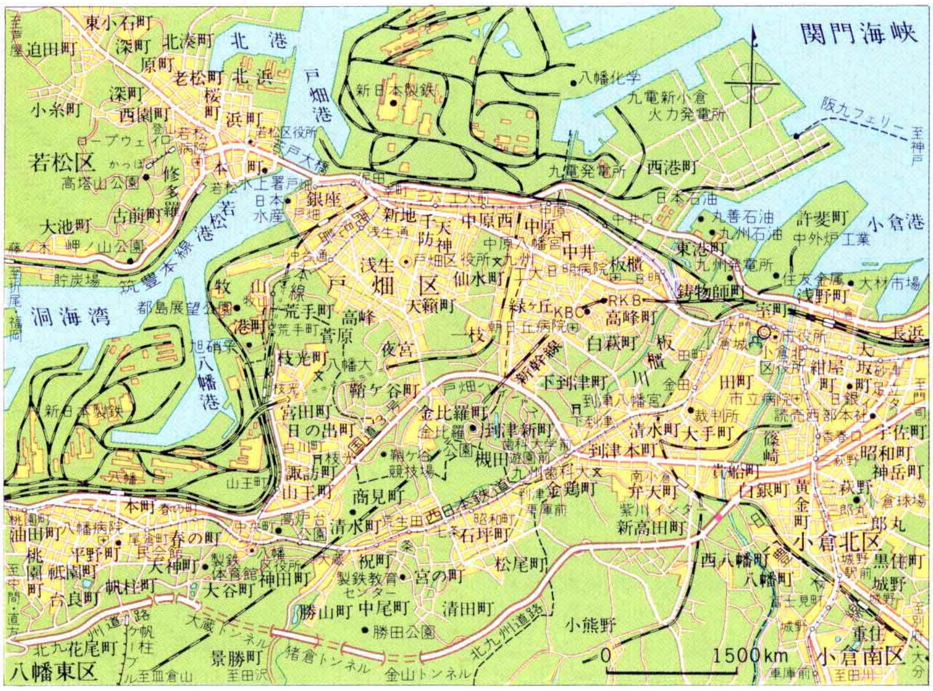
きたがわふゆひこ【北川冬彦】(1900～　)　詩人。滋賀県大津市の生まれ。本名田畔忠彦(たぐろただひこ)。東京大学仏法科卒，同仏文科中退。第1次世界大戦後のフランス詩の吸収のもとに，1928年(昭和3)春山行夫*(ゆきお)らと《詩と詩論*》を創刊，のちしだいに現実から遊離した傾向に不満をもち脱退，《詩・現実》の創刊や新散文詩運動へと進んだ。その後《時間》を創刊，第2次世界大戦後はネオ-リアリズムを提唱し，第2次《時間》を主宰した。詩風はイメージを重視したところに特色がある。詩集《戦争》《夜半の目覚(めざ)めと机の位置》などがある。

きたぎしま【北木島】　岡山県南西部の瀬戸内海中の島で，笠岡(かさおか)市に属し，笠岡諸島または備中諸島の一部である。面積7.8km²，人口約5,000。北木島石として知られ，大阪城や東京の靖国(やすくに)神社の大鳥居，日本銀行にも使われているカコウ岩の産地で，およそ100の石切り場があり，年産2億円を越える。そのほか草花，特にゼラニウムの栽培が盛んで，漁業も行なわれる。中心集落は東岸の大浦で，笠岡～多度津間の定期船が，大浦と豊浦(とようら)に寄港し，金風呂(かなぶろ)はこれら2港とともに，石材の積み出し港となっている。　〔浅井得一〕

きたきゅうしゅう【北九州(市)】　福岡県北東端の市。1963年(昭和38)門司(もじ)・小倉・戸畑・若松・八幡(やはた)の5市が合併して，西日本最初の百万都市をめざして発足した。面積474.77km²，人口105万7,000。

市域は，関門海峡から洞海(どうかい)湾沿岸にかけての狭い平野と，筑紫(つくし)山地に属する低い山並みが連なる内陸部を含む。門司区(人口143,000)は関門海峡に臨み，関門トンネル・関門国道トンネル・関門橋によって本州と連絡する水陸交通の要地，小倉北区(人口21万4,000)・小倉南区(人口17万7,000)はもと毛利氏・細川氏，のち小笠原(おがさわら)氏十五万石の城下町として繁栄した商工業都市で，市役所は小倉北区城内にある。若松区(人口89,000)は洞海湾口にある石炭の積み出し港であった都市，八幡東区(人口10万8,000)・八幡西区(人口24万4,000)は新日本製鉄の大工場をもつ鉄鋼業都市であるが，最近は設備の老朽化や公害対策のため，一部は千葉県君津市に建設された新製鉄所へ従業員とともに移転するなどのことがあり，八幡製鉄所の地位は低下した。戸畑区(人口8万2,000)は県下有数の漁港であるが，1959年に新しい製鉄所(正式には新日本製鉄戸畑製造所)が建設された。合併後は各地区の多角的機能を統合して，北九州工業地帯*の中核をなしている。産業三大別人口比は2：37：61。明治初期までは，城下町の小倉を除いては，いずれも小さな農漁村にすぎなかったが，筑豊(ちくほう)炭田の開発や官営の八幡製鉄所(現在の新日本製鉄)の設置などによって急速に発達し，鉄鋼・化学などの重化学工業をはじめ，セメントを主とする窯業や食料品工業などが盛んである。しかし，1976年に完全に閉山した筑豊炭田の影響が，北九州市にどのような変化を与えるかは，いままで続いてきた閉山で対策は立てているはずではあるが，まだ問題は残っている。1970～1975年の人口増加率は1.5%で，百万都市としては大阪(－6.8%)に次いで最低であった。

門司区・小倉区を中心に商業が栄え，門司港はゴム・機械・鉄鉱石・穀類・砂糖などをおもに輸入し，セメント・鉄鋼・タイヤなどの工業製品を輸出する貿易港である。陸海空の交通が発達して，九州地方の玄関口となり，鹿児島本線・日豊本線・筑豊本線・日田彦山(ひたひこさん)線の起点で，山陽新幹線の小倉駅があり，西日本鉄道北九州線・筑豊電鉄が通る。国道２号線・３号線・10号線・198号線・199号線・200号線・211号線が集まり，北九州有料道路のインターチェンジが３か所に置かれ，バス・トラックの道路網が発達する。洞海湾にかかる若戸大橋（有料道路）は若松地区と戸畑地区を連絡する。海上交通は門司港のほか，運輸は若松港が中心で，小倉港から東神戸(ひがしこうべ)，新門司港から大阪南港へ定期のフェリーボートが通じている。また小倉空港からは九州や本州の各地に定期航空路が通ずる。なお，北九州市には，1977年度から全国で初めての国立産業医科大学が開校される予定で，公害や職業病などの研究に重点をおくとともに，鉱山や工場などの医師不足に対応する目的をもっている。〔浅井得一〕



北九州市



北九州市　洞海湾をひとまたぎにする若戸大橋は北九州市のシンボルである。長さ680m，中央径間367mは東洋一を誇る。対岸は若松区



北九州工業地帯　若松区側から洞海湾を隔てて見た八幡区の新日本製鉄八幡製鉄所の中心部。このエネルギッシュな躍動も，煤煙による公害を生み，最近は悩みの種となっている。背後の山は皿倉山で，そのふもとに住宅街が広がる

きたきゅうしゅうこうぎょうちたい【北九州工業地帯】 わが国四大工業地帯の一つで，その範囲は北九州市のみをさしたり，久留米(くるめ)・大牟田(おおむた)などを含めてよんだり，さらに福岡・佐賀・長崎の３県に広がる工業地域全体を含めたり一定していない。1900年(明治33)に設立された八幡(やはた)製鉄所を中核として急速に発達し，重化学工業部門の生産比率が高く，鉄鋼業を中心に，金属・機械・化学・食品・ガラス・ゴムなどの大工場がある。近くに筑豊(ちくほう)炭田を有し，中国・朝鮮・東南アジアなどに対する地理的位置の優位性などにより，めざましい発展を続け，第２次世界大戦ごろまでに，京浜・阪神(はんしん)・中京に次ぐわが国第４位の工業地帯としての地位を確立した。しかし，地元消費市場が狭いことやエネルギー革命に伴う石炭産業の衰退，工業用地・工業用水の不足，第２次世界大戦後の海外市場の変化などにより，1950年代後半から全国に占める工業生産額の割合は年々低下(1940年8.1％，1966年3.1％)してきている。〔高野　繁〕

きたく【寄託】 当事者の一方(受寄者)が，相手方(寄託者)のために保管することを約して，ある物(寄託物)を受け取ることによって成立する契約(民法657条)。保管とは，寄託物を占有してその物の現状を維持・保全することである。寄託には，保管料を支払う場合と支払わない場合とがある。支払う場合は，受寄者は寄託物を善良な管理者の注意をもって保管しなければならないが(民法400条)，支払わない場合は，自己の財産に対すると同一の注意をもって保管すれば足りる(民法659条)。当事者が寄託物返還の時期を定めたときでも，寄託者はいつでもその返還の請求をすることができる(民法662条)。寄託を営業とする重要なものは倉庫営業であるが，これには商法(597条以下)に詳細な規定がある。〔黒木三郎〕

きたけ【着丈】 和服の肩山から足首までの身たけ・ついたけ(対丈)。男物長着・男女の長じゅばんは着たけに仕立てる。女物長着は着たけにおはしょりの寸法を加えた身たけに仕立てる。洋服では，ワンピースやコートの後ろえりぐりからすそまでのたけ。服の種類や流行・年齢・好みなどで異なる。



北　岳　間ノ岳方向から望んだ北岳の雄姿。主峰の南峰の向こう側は北峰(山頂はピラミッド状の二つの峰に分かれている)。ところどころに残雪があり，ハイマツの緑も効げである

きださだきち　【喜田貞吉】(1871～1939)　歴史学者。徳島県に生まれる。東京大学卒業。1899年(明治32)日本歴史地理研究会を組織し，1901年文部省図書審査官，次いで編集官として国定教科書の編集にあたる。1911年国定教科書の南北朝並立の記述(→南北朝正閏論(せいじゅんろん))が議会の問題となり，その責任を問われて休職。1920年(大正９)京都大学教授となったがまもなく辞し,1924年以後は京都大学・東北大学の講師として末年に及んだ。その間《法隆寺再建論》を発表,雑誌《歴史地理》《民族と歴史》を発行，平城京および歴代帝都の研究，大名領地の調査，未解放部落の研究など論文1,000編を発表した。その実証的な学風は著名。〔岸野淳子〕

きたさとしばさぶろう　【北里柴三郎】(1852～1931)　細菌学者。肥後(熊本県)に生まれる。1871年(明治４)熊本の医学所病院にはいり，マンスフェルトについて医学を修めた。1875年東京医学校にはいってさらに医学の研修を積んだ。1883年東京大学医学部を卒業，直ちに内務省衛生局に勤務した。1885年ドイツへ官費留学し，コッホ*について細菌学を専攻。1889年破傷風菌の純培養に成功。1890年破傷風免疫体(抗毒素),1891年ベーリング*と協力してジフテリア血清療法を発明した。1892年日本へ帰り，福沢諭吉*らの援助を受けて伝染病研究所を設立し，その所長となった。1894年香港(ホンコン)に流行するペスト病の調査・研究に派遣され，その病原菌を発見した。1899年伝染病研究所は官立となり，引き続きその所長に任ぜられた。1906年帝国学士院会員となる。1914年(大正３)同研究所が東京大学に移管されるや奮然として辞職，直ちに同志とともに北里研究所を創立した。1917年慶応義塾(ぎじゅく)大学に医学部が設置されると進んでその学部長となり，医学教育にも力を注いだ。また社会衛生思想の普及に努め，1923年日本医師会長に推された。1924年男爵を授けられた。〔大鳥蘭三郎〕

きたざわらくてん　【北沢楽天】(1876～1955)　漫画家。東京の生まれ。明治20年代，当時在日したオーストラリアの画家ナンケベルについてヨーロッパふうの漫画技法を学び，明治後半から大正・昭和にかけて近代的な日本漫画の開拓者として大きな業績を残した。1900年(明治33)時事新報社にはいり，1905年に創刊した漫画雑誌《東京パック》に掲載された写実的手法による政治漫画は注視の的となったが，傾向としては国家主義的色彩が強かった。

きたしひめ　【堅塩媛】　生没年不詳。欽明(きんめい)天皇の妃。大臣蘇我稲目(そがのいなめ)の娘。用明天皇・推古天皇を含む７男６女の生母。妹小姉君は崇峻(すしゅん)天皇ら４男１女を生み，蘇我氏は外戚(がいせき)としていっそう大きな力を得た。612年(推古20)皇太夫人として檜隈(ひのくま)大陵に改葬された。

きたせきどうかいりゅう　【北赤道海流】赤道付近には，貿易風に原因する吹送流*があり，西に流れている。その北半球の流れを北赤道海流とよぶ。これらは陸地にぶつかって北に方向を転ずる。日本の太平洋岸を洗う黒潮*(日本海流)やメキシコ湾流はこの海流を源としている。→海流

きたたいせいようじゆうぼうえきちいき　【北大西洋自由貿易地域】North Atlantic Free Trade Area　略称NAFTA(ナフタ)。主として，アメリカ・イギリス・カナダ・ヨーロッパ自由貿易連合*(EFTA)諸国など，大西洋を取り巻く国々を中心として結成される自由貿易地域構想である。この構想自体は，種々なる国々の諸機関によって提唱されており，いまだ単なる構想の域を出ないが，世界の地域主義・経済統合化の潮流の中で，EEC*への対抗策として，また先進国間の大きな地域統合の１形態として注目される。最初は，1966年６月，アメリカ・カナダの有力民間経済団体であるNPA(全米企画協会)とPAA(民間企画協会)の組織した合同委員会で打ち出され，イギリスでも大西洋貿易研究財団を中心に日本の参加をも含めた検討が行なわれている。〔深海博明〕

きたたいせいようじょうやくきこう　【北大西洋条約機構】North Atlantic Treaty Organization 略称NATO。1949年４月４日ワシントンで調印され，同８月24日発効した北大西洋条約に基づいてつくられた地域的安全保障同盟機構。北大西洋同盟ともいう。国際連合憲章にいう地域的取り決めで，政治的・経済的協力についても規定しているが，主眼は北大西洋地域の集団的防衛，ならびに平和および安全の維持にある。西ヨーロッパ連合*の５か国を母体として12か国によって発足したが，現加盟国は15か国。アメリカ・イギリス・フランス・ベルギー・カナダ・デンマーク・イタリア・アイスランド・ルクセンブルグ・オランダ・ノルウェー・ポルトガル・ギリシア・トルコ・西ドイツである。条約は前文と本文14か条からなる。相互間の紛争の平和的解決，経済的協力，防衛力の育成，武力攻撃に対する個別的または集団的自衛権による共同防衛，援助義務発生要件としての武力攻撃の範囲，安全保障理事会*との関係などについて定める。運営の最高機関は加盟国外相で構成される北大西洋条約機構理事会であり，その下に，軍事委員会・財政経済委員会・防衛生産委員会などがある。また，1950年12月には北大西洋軍(ヨーロッパ連合軍)が組織され,大西洋諸国の軍隊を一つにした国際的軍隊をつくって，共同防衛にあたることにし，これに最高司令官と最高司令部を置き，さらに各地区の司令官・司令部を設けている。ＮＡＴＯ事務局はブリュッセルにある。〔広部和也〕

きたたいへいようこうかいぎょぎょうじょうやく　【北太平洋公海漁業条約】正式には〈北太平洋の公海漁業に関する国際条約〉。通称日米加漁業条約。北太平洋の漁業資源，特にアメリカ大陸系のサケ・マス資源の保存をおもな目的として，日本・アメリカ・カナダの３国間で，1952年(昭和27)５月に署名され，1953年６月に発効した条約。北太平洋漁業委員会の設置，共同保存措置の実施などを規定している。第２次世界大戦後最初の漁業条約であるため，当時の力関係を反映し，また国際法上の原則を犯しているなど，不平等条約の見本といわれ，日本にきわめて不利なものとなっている。期限は10年で，1963年の条約改定期にあたって，日本は西経175°以東の水域でサケ・マスを，アメリカおよびカナダ沖合いでニシン・オヒョウを捕獲できない〈自発的抑止の原則〉の撤廃を主張したが，合意に達せず現在に至っている。〔広部和也〕

きたたき　【木啄】　鳥類・キツツキ科。翼長25cmほどの大形キツツキ。雄は頭上部と顎部(がくぶ)は鮮赤色，腹・下背・腰部は白色で，他の部分は黒色である。雌は頭上・顎部も黒色。南アジアから朝鮮と対馬(つしま)にかけて分布し，対馬産のキタタキは天然記念物に指定されているが，ここ数十年間，生息の確証はなく，絶滅したとみられる。

きただけ　【北岳】　南アルプス北部に位置する白根山(白根三山)の主峰で，最北に



キタテハ



北野天神縁起絵巻　波路を筑紫の配所へ向かう菅公の船(部分)　北野天満宮蔵

位置するところからこの名がある。標高3,192mで，富士山に次ぐわが国第2の高峰である。➔白根山

きたちょうせん【北朝鮮】⇨朝鮮民主主義人民共和国

きたては【黄蛺蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ60mm内外。季節によって翅の形や色彩が異なり，春型は6月上旬から出現し，黄かっ色の地に異色紋を散布し，外縁の凹凸(おうとつ)の度が弱い。夏型は，続いて7月半ばから8月の終わりまでみられる。9～11月に発生する秋型は，外縁の凹凸の度が著しく，翅表の色彩が濃く，赤みをおび，裏面も濃かっ色を呈する。この秋型成虫は越冬し，翌春3～4月にカナムグラやアサなどの若芽に1～3個の卵を積み重ねて産卵する。幼虫には，多数の肉質枝状突起がある。1世代の発生経過は，高温期では，卵期4日，幼虫期14日，さなぎ期6日ときわめて短い。北海道の北部を除く日本全国のほか，朝鮮・中国・台湾に分布する。成虫は，河畔・堤防・山麓(さんろく)の草原などに最も普通にみられるが，市街地にも多く，またナラ・クヌギなどの樹液にも好んで集まる。本種に酷似するシータテハは，山地や寒地に多くみられ，幼虫はエノキ・ハルニレ・ホップなどを食べ，ヨーロッパから日本全土，さらに台湾にまで広く分布する。キタテハの秋型に酷似するが，外縁の凹凸は著しく，雄の翅の裏面に暗緑色紋が現われる点で異なる。両種とも，後翅の裏面に明瞭(めいりょう)なC字状の金紋または銀紋がある。

きたドイツれんぽう【北ドイツ連邦】プロイセン-オーストリア(普墺(ふおう))戦争*に勝利したプロイセンが，1867年にオーストリアおよび南ドイツ4か国を除くマイン川以北の22か国で組織した連邦で，のちのドイツ帝国*の基礎となった。連邦議長はプロイセン王の世襲で，軍事・外交・内治の重要な権限をもち，連邦の首相は議長にのみ責任を負っていた。またプロイセンの影響力が強い連邦参議院は立法権・行政権を握っていたが，一方男子普通選挙によって構成される帝国議会はほとんど権限を与えられず，諮問機関に等しかったので，立憲制は単に外見上のことにとどまっていた。



北野天満宮　本殿(国宝)

きたながとかいがんこくていこうえん【北長門海岸国定公園】山口県の日本海に面する北部海岸線と，青海(おうみ)島・相島・大島をはじめ大小の島々を含む。面積80.30km²。1955年(昭和30)国定公園に指定された。東部の須佐(すさ)海岸や，萩(はぎ)市東部の笠山(かさやま)一帯の海岸が特に美しい。青海島は日本海の荒波に侵食された断層や洞穴(どうけつ)の名勝地として知られている。島内には夏ミカンの原樹がはえ，天然記念物に指定されている。〔木村東一郎〕

きたにほんしんぶん【北日本新聞】北陸地方の代表的日刊新聞。1940年(昭和15)7月31日，富山県下で発行されていた《富山日報》《北陸タイムス》《北陸日日新聞》《高岡新聞》の四つの日刊紙を吸収統合して発足し，翌8月1日第1号を発行，現在に至っている。発行部数は朝刊約18万4,000(1980)。

きたにみのる【木谷実】(1909～1975)囲碁棋士。神戸(こうべ)市の生まれ。1918年(大正7)9歳で久保松勝喜氏に入門，1921年上京，鈴木為次郎八段の門下生となる。1924年(大正13)初段。1927年(昭和2)〈院社対抗戦(日本棋院対棋正社)〉に出場，2局のジゴをはさんで8連勝し，怪童丸といわれた。1933年(昭和8)に呉清源と〈新布石〉時代をひらき，1938年(昭和13)最後の終生名人本因坊秀哉の引退碁の対局者となった。1956年(昭和31)九段。戦中戦後を通し木谷道場に俊英を育成，本因坊・名人・十段位など碁界のタイトルの過半を制する逸材をうみ出した。紫綬褒章受章(昭和40)。

きたのおおちゃのゆ【北野大茶湯】北野の大茶会ともいう。1587年(天正15)10月1日，豊臣秀吉*(とよとみひでよし)が京都の北野天満宮*および北野松原で開いた大茶会。秀吉・千利休*・津田宗及*・今井宗久が亭主(ていしゅ)となり，高札で貴賤(きせん)貧富にかかわらず参加せよと呼びかけ，参加者1,000余名の開放的茶会となった。その際，秀吉や諸大名の所持する天下の名器を参加者に展示した。

きたのしょうはん【北庄藩】⇨福井藩

きたのてんじんえんぎえまき【北野天神縁起絵巻】菅原道真*(すがわらみちざね)と北野天満宮に関する事跡を説いた絵巻物。道真一代の伝記，死後の有様，北野神社創建の由来，およびその霊験譚(れいげんたん)などがおもな内容である。鎌倉期に成立し，天満宮信仰とともに盛んに制作された。最古の遺品は，1219年(承久1)の詞書(ことばがき)をもつ北野天満宮蔵の〈承久本(じょうきゅうぼん)〉8巻(国宝)で，〈根本縁起〉とよばれている。絵巻中最大の画幅(51.5cm)を活用して，動的な構図にいきいきとした描写と濃厚な彩色を駆使した異色の一作といえる。これに次ぐものとして，1278年(弘安1)の奥書をもつ伝藤原行光(ゆきみつ)筆の〈弘安本(こうあんぼん)〉残欠が諸家に伝わる。このほか，鎌倉期のものや土佐光信*(みつのぶ)(室町時代)，土佐光起(江戸時代)らの作品も知られている。〔村重　寧〕

きたのてんまんぐう【北野天満宮】京都市上京区にある。菅原道真*(すがわらみちざね)の霊を祭り，のち中将殿(道真の長男高視(たかみ)とも，女婿斎世(ときよ)親王とも，孫英明親王ともいう)，および北の方の吉祥女を併祭した。北野神社・北野天神などともよばれ，各地に祭られる天満宮の本社とされている。942年(天慶5)7月，七条の女文子(あやこ)が，託宣によって宅地を画して祭ったのに始まる。現在の社殿は1607年(慶長12)豊臣秀頼(とよとみひでより)の寄進による檜皮葺(ひわだぶき)の権現造り*で，国宝。社宝に紙本着色

《北野天神縁起絵巻》8巻(国宝)，北野本《日本書紀》28帖(じょう)など，多数の文化財がある。例祭は8月4日。ほかに2月25日の梅花祭り，50年ごとに行なわれる大万燈祭などがある。〔佐野文哉〕

きたばたけあきいえ【北畠顕家】(1318～1338) 南北朝時代の武将。親房(ちかふさ)の嫡子。1333年(元弘3・正慶2)16歳で陸奥守(むつのかみ)に任ぜられ，義良(よしなが)親王を奉じて奥州に下向。1335年(建武2)鎮守府将軍を兼ねた。足利尊氏(あしかがたかうじ)が建武政府にそむいて挙兵した際これを追走して上洛(じょうらく)し，1336年(延元1・建武3)尊氏を九州へ敗走させ帰任した。尊氏の再挙にあたり，再びこれを討つため西上したが，美濃(みの)(岐阜県)で足利軍に敗れ，和泉(いずみ)(大阪府)で戦死した。〔大三輪龍彦〕

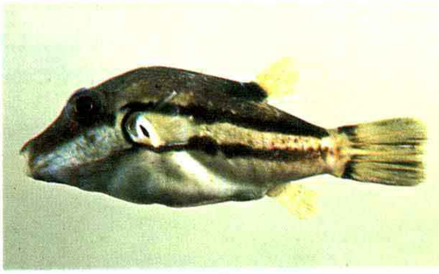
きたばたけし【北畠氏】村上源氏。鎌倉初期，5代通親(みちちか)の4子はそれぞれ堀川(ほりかわ)・久我(こが)・土御門(つちみかど)・中院(なかのいん)の4家に分かれたが，中院通方の子雅家(まさいえ)が京都北畠に住んでから北畠氏を称するようになった。なお，親房(ちかふさ)，その長子顕家(あきいえ)は南北朝時代に南朝の重臣として活躍。三子顕能(あきよし)は1335年(建武2)伊勢(いせ)(三重県)の国司となり，伊勢南半の地を守ってしばしば幕府に抗した。1576年(天正4)具教(とものり)が織田信長(のぶなが)に殺されて滅亡した。〔村尾元忠〕

きたばたけちかふさ【北畠親房】(1293～1354) 南北朝時代，南朝の柱石となった公家(くげ)。師重(もろしげ)の子。1321年(元亨1)，後醍醐(ごだいご)天皇が親政を開始するに際し重用されて，万里小路宣房(までのこうじのぶふさ)・吉田(よしだ)定房とともに三房と称された。1329年(元徳1)養育にあたっていた世良親王の早世にあい出家。建武中興がなるに及び再び出仕し，1333年(元弘3・正慶2)義良(のりなが)親王を奉じて長子顕家(あきいえ)とともに陸奥(むつ)(宮城県)に下った。1335年(建武2)足利尊氏(あしかがたかうじ)が離反し，翌年京都を占領すると，後醍醐天皇に従って吉野(よしの)(奈良県)に拠り南朝を立てた。ここに南北朝の分立が始まった。1338年(延元3・暦応1)，義良親王に従って数船団を編成して東国経略に東下したが，途中暴風雨にあい常陸(ひたち)(茨城県)に漂着。ここの豪族小田氏の支援を得，同地方の経営にあたったが成功せず，足利方の攻撃に敗れて，1343年(興国4・康永2)吉野に帰着した。その著《神皇正統記》は常陸在陣中の著述である。その後，後村上天皇を助け，南朝方の中心となって南朝正統の信念に基づいて天下一統に心血を注いだ。有職(ゆうそく)故実に造詣(ぞうけい)が深く著書に《職原抄》がある。〔高崎徳次〕

きたはま【北浜】大阪市東区北西部の地区で，東京の兜(かぶと)町と並ぶわが国の代表的な証券業街。土佐堀(とさぼり)川に沿って，中之島と相対し，船場の問屋街の北辺を占める。江戸時代前期の代表的豪商とされる蔵元の淀屋(よどや)をめぐって米商人が集まり，のち俵物会所・金相場会所が置かれた。1878年(明治11)株式取引所(いまの大阪証券取引所)が設置されて以来，証券会社が集まって，商都大阪のビジネスセンターを形成し，第2次世界大戦後も引き続き繁栄して高層ビルが立ち並んでいる。地下鉄6号線が通ずる。〔浅井得一〕



北原白秋



キタマクラ

きたはらはくしゅう【北原白秋】(1885～1942) 詩人・歌人。福岡県柳川(やながわ)市の生まれ。本名隆吉，別号射水。中学時代に《文庫》の投稿家として出発。早稲田(わせだ)大学英文科予科中退後《新詩社》にはいり，1908年(明治41)脱退，〈パンの会〉を興し，翌年《スバル》《屋上庭園》の創刊に参加。1909年処女詩集《邪宗門》，1911年《思ひ出》を刊行し，その幻想的かつ華麗な詩風で後期浪漫派の代表的詩人となり，1913年(大正2)処女歌集《桐(きり)の花》で歌人としての地位も確立した。その後，仏教に心を寄せ，童心を賛美し，鈴木三重吉の《赤い鳥》にも関係して1919年の《トンボの眼玉(めだま)》以下多くの童謡集を出した。かたわら劇作・民謡にも新生面を開き，小説も書くなど広く活動を展開。1923年の詩集《水墨集》では沈静枯淡の境地を示し，1935年(昭和10)創刊の歌誌《多磨(たま)》では〈近代の幽玄体の樹立〉を標榜(ひょうぼう)した。晩年は目を病んだが，なお精進を続け《黒檜(くろひ)》などの歌集その他を刊行，その詩業・詩才の豊かさは近代詩壇随一と称せられる。〔江種満子〕

きたホテル【北ホテル】フランスの小説家ダビの代表作(1929)。安宿〈北ホテル〉を舞台に，そこに出入りする場末の民衆の喜怒哀楽を描いたもので，ダビの本領とした生活のふんい気の描写がすぐれている。第1回ポピュリスト賞を受けた。

きたまえぶね【北前船】江戸中期以降，西回り航路に就航した回船をいう。北国の余剰産米を上方や江戸へ運ぶ目的で開始され，江戸末期に蝦夷地(えぞち)(北海道)の開発が進むにつれて発展し，1887年(明治20)ごろまでが最盛期であった。瀬戸内方面で使われた名称らしく，日本海方面ではべんざい船・やまと船などとよばれた。航行は年1回が普通で，東北・北陸地方の米穀や木材，北海道の干魚や塩魚類・魚肥・こんぶなどを上方へ運ぶのが上り航路で，下り航路では上方の塩・砂糖・綿・反物・酒・畳表などの雑貨を満載し北国筋へ向かった。経営方法としては，荷主の依頼に応じる運賃積みだけでなく，船主が荷主を兼ねて各港で売買し，商才を発揮する買い積み制をとった。明治中期以降，蒸気船の登場により衰えた。→回船〔北見俊夫〕

きたまくら【北枕】硬骨魚類・キタマクラ科の海産魚。全長約20cmに達するが，日本沿岸では15cm以上のものは少ない。フグ類に似た形であるが，側面観はひし形に近い。淡かっ色の地に暗かっ色の細いしま模様があり，幼魚には濃かっ色の太い縦帯がある。この縦帯は成長につれて薄れる。雄の成魚は，腹部が青紫色に色づき毒々しい感じを与える。本州中部以南の沿岸にきわめて普通で，特に2～3cmの小形のものは春さきに磯(いそ)の浅瀬に群れて，ヘリコプターのように水中に停止したり後退したりするのがみられる。沖縄・小笠原(おがさわら)を経て，ハワイにまで分布する。有毒で食用にはならない。〔菅野　徹〕

きたまくら【北枕】枕を北に向けて寝ること。仏教伝来ののち，ブッダの涅槃(ねはん)像にならって，死者を北枕西面にして寝かせる風習となったといわれる。日常生活で北枕を忌む全国的な風習は，死者を横たえる方向と一致しているためであろう。

きたまつうらはんとう【北松浦半島】長崎県北部，九州の西端にあたる半島で，伊万里(いまり)湾頭と早岐瀬戸(はいきせと)を基部とし，佐世保市・北松浦郡および佐賀県の一部が含まれる。200m前後の丘陵性山地が発達し，東部の国見山(777m)を最高として，五蔵岳(456m)・金比羅(こんぴら)山(348m)と西に低くなる。西部の海岸線は出入の多い沈水海岸で，九十九島とよばれる大小いくつもの島が散在している。山地からは北に志佐川，西に江迎川，南に佐々川，相浦川などが放射状に流出している。半島の北西部は平戸瀬戸を隔てて平戸島と対し，北部は玄界灘(げんかいなだ)に面している。交通の便には比較的恵まれ，松浦線が半島を一周している。一帯は佐世保炭田が広がるが，最近生産量は大幅に減少している。西部から南部にかけての海岸一帯は特に自然美に富み，西海国立公園の一部に指定されている。〔味沢成吉〕

きたみ【北見(市)】北海道北東部の市。もと〈野付牛〉とよばれ，1896年(明治29)坂

本龍馬(りょうま)の甥(おい)直寛(なおひろ)の率いる高知県士族の移民団北光社が入植し，翌年には屯田兵(とんでんへい)2個中隊が入植し開拓が進んだ。1942年(昭和17)北見と改称して市制施行。人口101,000。野付牛は，アイヌ語の〈ヌプウンケシ〉(野の端の意)に由来する。北見盆地の中心部，常呂(ところ)川と無加川の合流点にあたる氾濫原(はんらんげん)と河岸段丘上に位置する。産業三大別人口比は11：26：63。北見地方を商圏とする商業活動が盛んで，ハッカの生産は全国の約78％，世界産額の半ば以上を占め，製粉・酪農などの工場も多い。北見工業大学がある。石北本線と池北線の分岐点で，国道39号線(北見国道・大雪国道)が通ずる。

きたみさんち 【北見山地】 北海道の脊梁(せきりょう)山脈のうち，北半の東部を占める山地で，北海道中央部の大雪山塊以北に，ほぼ北西に向かって延びる。西側は名寄(なよろ)盆地，天塩(てしお)川の谷を隔てて天塩山地に相対し，東側はしだいに高度を低めてオホーツク海に至る。高度は1,000m内外と低く，最高点は南部に残丘状にそびえる天塩岳(1,558m)である。山地の基盤をなす古生層とこれをおおう第三紀層を貫いてところどころに火山岩が噴出しており，これに伴って有用な金属鉱床が各地にみられる。鴻ノ舞(こうのまい)の金，イトムカの水銀など，いずれもわが国第1の採掘高をもつ。

きたみとうげ 【北見峠】 北海道北東部の上川盆地とオホーツク海沿岸とを結ぶ峠で標高847m。北見山地の南部にあり，上川・網走(あばしり)両支庁の境をなす。旭川(あさひかわ)・網走間の石北本線がトンネルでここを越えている。

きたむらきぎん 【北村季吟】 ⇨季吟

きたむらこまつ 【北村小松】 (1901～1964) 小説家・劇作家。青森県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学英文科卒業。小山内薫(おさないかおる)に学び，松竹キネマ研究所に勤めて，昭和はじめの映画・演劇の発展に尽くした。作品に，《猿(さる)から貰(もら)った柿(かき)の種》《霧隠才蔵》などがある。

きたむらしかい 【北村四海】 (1871～1927) 彫刻家。長野市の宮彫師(みやぼりし)の家に生まれ木彫に親しむ。1893年(明治26)上京，牙彫(げちょう)の島村俊明に師事。1895年小倉惣次郎(そうじろう)について塑造を学び，1899年大理石彫刻を始め，1900～1901年フランスに遊学，帰国後太平洋画会研究所で彫刻を教授した。典雅な作風で知られ，文展出品作の《春秋》《イヴ》などが代表作。

きたむらせいぼう 【北村西望】 (1884～) 彫刻家。長崎県の生まれ。1912年(明治45)東京美術学校彫刻科卒業。1915年(大正4)から文展・帝展に出品，1921～1944年の間東京美術学校教授をつとめた。第2次世界大戦後は日展理事となり，《平和記念像》(長崎市)などを制作，1958年(昭和33)に文化勲章を受けた。日本芸術院会員。



喜多村　緑郎

代表作に《晩鐘》《山県元帥(やまがたげんすい)像》《日蓮上人(にちれんしょうにん)像》などがある。

きたむらとうこく 【北村透谷】 (1868～1894) 詩人・評論家。神奈川県小田原市の生まれ。本名門太郎。東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)中退。自由民権運動の高揚に触れ，三多摩地方の運動に参加。1885年(明治18)大阪事件への参加を求められ，苦悩のすえ運動から離脱，文学による現実批判へと転向した。2年後，石坂ミナとの恋愛を通じてキリスト教へ入信，信仰生活を経て，精神的に再生。翌年，ミナと結婚。キリスト教の生命思想を体得するとともに，現世否定の超越主義的傾向にも傾いた。長詩《楚囚之詩(そしゅうのし)》《蓬萊曲(ほうらいきょく)》はその二傾向を象徴する。また，評論家としての活動は《厭世(えんせい)詩家と女性》から本格化し，《文学界》の創刊以後は，ロマンチシズム運動の驍将(ぎょうしょう)として活躍。硯友社(けんゆうしゃ)の封建性や民友社の功利主義を批判，近代的人間観・文学観の確立に努め，その核としての〈国民〉〈平民〉への注目を説いた。しかし，現実と観念との相克に堪えられずに自殺した。主要評論に《内部生命論》《徳川氏時代の平民的理想》《国民と思想》などがある。　〔小泉浩一郎〕

きたむらろくろう 【喜多村緑郎】 (1871～1961) 新派俳優。伊井蓉峰(いいようほう)・河合武雄(たけお)らと壮士芝居を改革して文学性に富んだ新派劇を創造。泉鏡花の作品を得意として，女方のリアリズム劇を完成させた。芸術院会員。

きたもりお 【北杜夫】 (1927～) 小説家。東京の生まれ。斎藤茂吉の次男で本名は宗吉。東北大学医学部卒。斎藤神経科病院に勤務しつつ執筆活動を続けている。《夜と霧の隅(すみ)で》で第43回芥川賞(あくたがわしょう)を受けた。作品は《どくとるマンボウ航海記》《楡(にれ)家の人々》など。

きたやま 【北山(村)】 和歌山県の南東部東牟婁(ひがしむろ)郡の村で，県域から離れ，三重県と奈良県の間にはさまれて孤立した飛び地となっている。人口879。紀伊(きい)山地中の平地のまったくない村で，林業が村の唯一の産業である。原木をいかだにして三重県境を流れる北山川を流し，熊野(くまの)川河口の新宮市(和歌山県)に送っていたが，いまは七色・小森などのダムがつくられたので，トラック輸送に変わっている。三重県・奈良県・和歌山県の間に所属をめぐる争いも行なわれたが，原木輸送の関係で，昔から新宮との関係が深く，このために明治期に和歌山県に編入された。市町村単位の飛び地としては，唯一の例である。

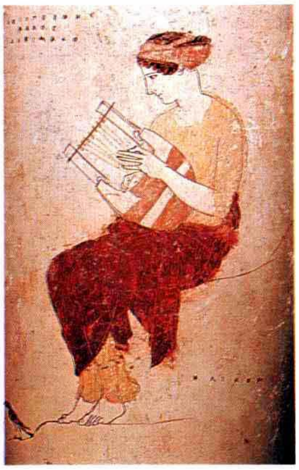
きたやまがわ 【北山川】 奈良県南東部，紀伊(きい)山地から発して西南に向かい，三重県と和歌山県の飛び地北山村との境を流れて十津(とつ)川と合流，熊野(くまの)川となって太平洋に注ぐ。流程90km余。県境を流れる部分はみごとな峡谷をなし，瀞峡(どろきょう)とよばれ，下流より下瀞・上瀞・奥瀞といい，下瀞はまた瀞八丁の名で知られている。探勝はもっぱら舟によって行なわれる。大部分が吉野(よしの)熊野国立公園に所属する。

きたやまぶんか 【北山文化】 3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)時代の文化。8代将軍足利義政(よしまさ)時代の東山文化と並んで室町時代を代表する。義満の別荘が京都北山にあったことから，この名でよばれる。文学面では春屋妙葩(みょうは)・義堂周信・絶海中津(ちゅうしん)らの禅僧が活躍し，五山文学の基礎が確立された。美術界においても禅僧の活躍が盛んで，禅宗寺院を中心に宋(そう)・元画の影響を受けた水墨画が流行，明兆(みんちょう)が特にその画家として名高い。高麗版(こうらいばん)大蔵経が招来されたのもこのころである。また芸能として存在した猿楽(さるがく)を芸術としての猿楽能に高めたのが観阿弥(かんなみ)・世阿弥(ぜあみ)父子で，義満の寵愛(ちょうあい)と保護を受けた。この時代の代表的建築の鹿苑寺(ろくおんじ)(金閣)は義満の北山別荘の一部である。　〔大三輪龍彦〕

ぎだゆうぶし 【義太夫節】 日本伝統音楽の曲種の一。語り物あるいは浄瑠璃(じょうるり)の一流派とされ，人形浄瑠璃(文楽)のための音楽が中心となっているが，歌舞伎(かぶき)にも使われる。流祖は竹本義太夫で，浄瑠璃の諸様式を集大成したいわば新しいものだったので，それ以前のものを古浄瑠璃といって区別する。特に近松門左衛門(もんざえもん)・竹田出雲(いずも)・並木宗輔(そうすけ)・近松半二らの戯曲との結びつきによって，義太夫節は緊迫したドラマを得て長く好まれるようになった。音楽的にも，節付け・手付けともにくふうが凝らされている。複雑な話を扱うことが多いので，段構成(多くは5段)をとって演劇的効果がねらわれ，それを強固にささえるものとしての文芸的意図(詞)と音楽的意図(地といわれる語りの要素の濃い声楽，節といわれる旋律的な声楽，さらに太棹三味線(ふとざおしゃみせん)による器楽)が加わっている。通常の演奏形態は太夫(語り手)ひとりと三味線奏者ひとりであるが，役の分担に合わせて多くなることもある。戯曲台本は時代物と世話物に二大分類される。時代物の代表曲としては《菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《仮名手本忠臣蔵》《絵本太功記》など，世話物では《曾根崎(そねざき)心中》《心中天網島》《艶容女舞衣(はですがたお

んなまいきぬ)》《壺坂(つぼさか)霊験記*》など，また時代世話といわれる折衷形式では《新薄雪物語*》がある。太夫の音楽的特徴は２系統に分けられ，竹本座*系の西風(主として低音域で重々しく語る)と豊竹座*(とよたけざ)系の東風(主として高音域で軽やかに語る)とがある。声楽・器楽ともに定型化された旋律型がいくつかあり，三重*で舞台転換を行なったり，送り*で場面転換や演奏者交替を行なうなど，音楽的機能が明らかである。〔山口　修〕

キタラ　[kithara]　古代ギリシアの撥弦(はつげん)楽器。リラ*よりも弦の数が多く，構造も複雑である。この名はすでにホメロスの叙事詩に見いだされるが，形態や弦の数は少しずつ変化している。構造は下の共鳴箱，その両側の２本の腕木，腕木の間に渡された棒とからなり，棒から下方に張った弦を指やばちではじいて奏する。のちには弦の数が11本になって技巧を競うための楽器となり，その点でリラと異なる。



キタラ
《キタラを奏するムーサ》
紀元前５世紀

きたりゅう　【喜多流】　能楽シテ方*の流儀名。シテ方五流のうち最も歴史が新しく，喜多七太夫(しちだゆう)(1586～1653)を流祖として立てられた。旧来の観世・宝生・金春・金剛の４座に比較して，新興でもあり，座としての実体はなかったが，徳川秀忠(ひでただ)の信頼が厚かった七太夫をはじめとして代々の太夫が将軍の指南役となったことがあって，諸大名の中にもこの流派を学ぶものが多く，各地に根づかせる役目を果たした。いまも多くの城下町に地盤をもっており，武家ふうともいわれる格調高い芸風を誇っている。〔片桐　登〕

きたろっぺいた　【喜多六平太】　(1874～1971)　能楽師。喜多流シテ方。14世家元。幕臣宇都野鶴五郎(つるごろう)の次男，母は12世家元能静の三女。号は能心。８歳で喜多宗家を継ぐ。豊かな天分を自在に駆使し，破格の芸境を開いた。1947年(昭和22)芸術院会員，1953年文化勲章受章，1955年重要無形文化財個人指定。

きたローデシア　【北ローデシア】　⇨ザンビア共和国

きだん　【気団】　水平方向に気温・水蒸気量などが比較的一様な分布をしている空気のかたまり。気団が生成されるのは，広大な地域，すなわち海面や雪でおおわれた地域(シベリアなど)などの表面状態がほぼ一様なところで，停滞性の高気圧におおわれ，風の弱いときである。生成される地域が大陸であるか海洋であるかによって大陸性気団(記号ｃ)，あるいは海洋性気団(記号ｍ)という。また，現在ある位置の地表面温度より暖かいときには暖気団，冷たいときには冷気団という。地球上の気団は発生地によって次の４種類に分けられる。

気団の表示は大陸・海洋による区分(ｃ,ｍ)と上の区分(Ａ，Ｐ，Ｔ，Ｅ)の組み合わせで行なう。たとえば，シベリア気団は寒帯大陸性気団cＰである。なお，上層で生成される乾燥した暖気団を上層気団とよぶこともある。日本付近の天気を支配する主要な気団とその特徴は別表に示すとおりである。

名　称	記　号	場　所
北極気団	Ａ	極の高気圧域
寒帯気団	Ｐ	亜寒帯高気圧域
熱帯気団	Ｔ	亜熱帯高気圧域
赤道気団	Ｅ	貿易風帯の赤道上

気団はその地域の天気現象に特有の性格を与える。たとえば，海洋性気団は水蒸気を多く含むので霧や雲を発生しやすく，大陸性気団は雲が少ないので放射冷却が強く，気温の日較差も大きい。また，気団は地表条件の異なる地域を通過する間に変質されることが多い。冬季，寒冷なシベリア気団が温度の高い日本海上を通過すると，その間に熱と水蒸気を補給することによって変質され，裏日本に大雪をもたらすようになるのはその一例である。さらに，二つの気団の接触するところでは前線*を形成し，天気現象を大きく変える。オホーツク海気団と小笠原(おがさわら)気団との間にできる梅雨前線は，６～７月ごろの梅雨期の天気に対して支配的である。わが国の天気は，冬はシベリア気団，夏は小笠原気団の影響が強く，揚子江気団は春秋のころの移動性高気圧に伴い，高温多湿な赤道気団は台風によって日本付近に送られ，大雨をもたらす。〔曲田光夫〕

きたんかいきょう　【紀淡海峡】　和歌山県と淡路島との間の海峡で，海図上では友ケ島水道というが，一般にこの名でよばれる。最狭部は和歌山市の田倉崎と洲本(すもと)市の生石鼻(おいしのはな)との間のおよそ10km。大阪湾と紀伊(きい)水道とを結び，海域の和歌山県寄りに，地ノ島と沖ノ島および岩礁からなる友ケ島などがある。この水道は和歌山市加太と地ノ島との間の加太ノ瀬戸(または地ノ瀬戸)，地ノ島と沖ノ島との間の中ノ瀬戸，沖ノ島と淡路島との間の由良(ゆら)瀬戸の三つに分かれる。なお，紀淡海峡を由良瀬戸と友ケ島水道の二つに分け，友ケ島水道をさらに細分して加太ノ瀬戸(地ノ瀬戸)と中ノ瀬戸とする見方もある。沿岸は瀬戸内海国立公園*に含まれる。

ギーターンジャリ　タゴール*作の宗教的叙情詩集。題名はギータ(歌)とアンジャリ(合掌)の合成語で，詩人の神にささげる熱烈な信仰を歌った詩が大部分を占める。ベンガル語版(1909)に他の作品を加えた英語版(1912)により，ノーベル文学賞を受賞。

きち　【基地】　行動半径の広い組織的な

日本にくる気団とそれに伴う天気

名　称	発源地	記号	発源時期	特　徴
シベリア気団	シベリア大陸	cＰ	主として冬季	発源地では乾燥して，非常に冷たい。日本海に出ると急に変質し，下から暖まって不安定となる。日本列島で強制上昇して積乱雲を生じ，裏日本に多量の雪を降らせる。表日本では雲は散じ好天気となるが，太平洋上に出ると再び不安定となり雲を生ずる
オホーツク海気団	オホーツク海千島沖	mＰ	主として梅雨期および秋	発源地では天気良好であるが，日本付近では陰鬱な天気をもたらす。厚さは100ｍから２～３km，その上にmＴ，あるいはmＥ気団がある。
小笠原気団	日本の南方海上	mＴ	主として夏季	北太平洋高気圧内で生ずる。暖かく，水分が多いが，上層は乾燥している。低気圧などがないときは天気はよいが，積雲を生じやすい。日射が強いと積乱雲が発達し雷雨を生ずる。北進して千島・三陸沖に霧を生ずることもある
揚子江気団	揚子江流域以南	cＴ	春　秋	移動性高気圧に伴って中国大陸方面から東進してくる気団。この中では暖かく，積雲を生じるが，積乱雲にまで発達しない。乾燥していて，よい天気になり，春など晩霜を生ずる
赤道気団	南　洋	mＥ	暖候期	高温多湿で豪雨を起こしやすい。台風のとき日本に送られてくる。わが国ではmＥとmＴの差は明らかでない。梅雨期の大雨，台風のときにはこの気団がはいってきているといわれる

活動を行なうために必要な根拠地をいう。その活動目的の相違によって，南極などの調査探検を行なう探検基地，日食・月食などの観測を行なう観測基地，ベース-キャンプを張って登山に備える登山基地，戦闘作戦行動・軍事活動のための軍事基地などに分かれる。しかし単に基地といえば，ふつう軍事基地をさす。➔軍事基地

きちがいなすび【気違茄子】⇨チョウセンアサガオ

きちきちばった　こん虫類・直翅(ちょくし)目・バッタ科。ショウリョウバッタモドキともいう。体長は翅端までの長さが雄で35mm内外，雌は55mm内外に達する。体は細長く，黄緑色で，ときに背面が紅かっ色を呈する個体もみられる。頭胸部の背面は著しく扁平(へんぺい)である。関東地方以南，台湾・中国・マライ・ハワイなどに分布。8月ごろより出現し，ススキなどのはえた草原に多い。キチキチバッタとはいうが，本種はまったく発音しない。飛翔(ひしょう)中に〈キチキチ〉と発音するのはショウリョウバッタ*の雄で，本種とは別の種類である。ショウリョウバッタは本種よりも大形で55～90mm，頭頂が複眼の前方に著しく突出している点で区別できる。〔鈴木邦雄〕

きちぎょぎょう【基地漁業】特定の目的あるいは必然性から，特定の港を基地として操業する漁業。基地には，鯨体処理の捕鯨基地や，遠洋漁業*における食料品・飲料水の補給，漁獲物の水揚げのために外国の漁港を使用する海外漁業基地などがある。

きちじょうじ【吉祥寺】東京都の西郊，武蔵野(むさしの)市の中心地区で，東は杉並(すぎなみ)区と接する。地名は，1657年(明暦3)の明暦の大火*(振袖(ふりそで)火事)の際，水道橋にあった吉祥寺の門前町の住民が移住して，吉祥寺新田を開発したことにちなむ。1899年(明治32)の国電中央線の開通や1923年(大正12)の関東大震災を契機に住宅地として発展し，第2次世界大戦後の人口増加は著しい。1970年(昭和45)国鉄・京王電鉄井の頭(いのかしら)線の両駅を内包する駅ビルが完成し，民衆駅として繁栄している。駅の南側に武蔵野自然公園の東端にあたる井の頭公園*(三鷹(みたか)市)があり，周辺地区には成蹊(せいけい)学園や東京女子大学・明星学園など，学校が多い。五日市街道を主軸とする町並みには，開墾当時の長方形の土地割りが現在も残っている。〔浅井得一〕

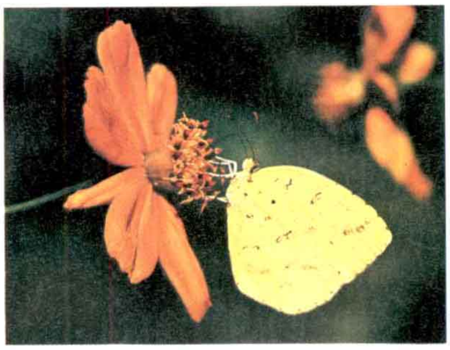
きちじょうてん【吉祥天】インド神話に登場する女天の名。宝蔵天女，功徳天(くどくてん)など多くの異名をもつ。幸福の女神で，のちに諸神とともに仏教に取り入れられ，密教では父は徳叉迦(とくしゃか)，母は鬼子母神(きしもじん)で，毘沙門天(びしゃもんてん)の妃とされる。未来には成仏する天女とされ，また密教では胎蔵界大日(➔大日如来)の変現したものと説かれる。古美術においては吉祥天像は中国ふうの服装，ないし当時の日本の服装をした美女として表現されており，薬師寺の仏画(国宝)，浄瑠璃(じょうるり)寺の彫刻など名作が多い。〔大南龍昇〕



吉祥天《吉祥天画像》(国宝)　薬師寺蔵



吉祥文《熨斗文様振袖》(部分)　友禅史会蔵



キチョウ

きちじょうもん【吉祥文】吉慶・瑞祥(ずいしょう)を表現した文様をいい，古代中国の思想・宗教から生じて象徴化されている。文様の種類は多く，大別して，吉祥とされる物象の表現(蓬莱文(ほうらいもん)など)，福禄寿(ふくろくじゅ)などを仮託して表現したもの，タケの平安やモモの長寿などの寓意(ぐうい)表現，文字(寿・喜など)の図案化などがある。

きちぞう【吉蔵】(549～623) 中国，隋(ずい)・唐代の代表的学僧。嘉祥(かじょう)大師。金陵(南京(ナンキン))の出身。出家して法朗の弟子(でし)となり，《中論》《百論》《十二門論》の三論を学び，浙江(せっこう)省会稽(かいけい)の嘉祥寺*に住した。次いで隋の煬帝(ようだい)の招きにより揚州の慧日(えにち)道場に移り，長安の日厳寺に住して三論の講義と著述に専念，三論宗*の教義を組織・大成した。広く仏教に精通し，《涅槃経(ねはんぎょう)》《法華経(ほけきょう)》の注釈，《三論玄義*》など，多くの著述を著わした。そのほとんどが現存する。

きちやむすび【吉弥結び】女帯の結び方の一種。江戸中期の女形吉村(よしむら)吉弥が舞台で結びはじめた形で，一世の流行となった。後ろに結んだ帯のたけが10～20cmくらいたれるように，くけ目の角に鉛を入れたもので〈唐犬(からいぬ)の耳のごとし〉といわれた。文化文政のころ(1804～1829年)は腰元結びともいい，たてやの字*に近い形をも称した。なお，結んだたけが吉弥結びより長く，50cmぐらいだらりとたれる結び方を水木結びというが，これは俳優水木辰之助(たつのすけ)が高い身長を目だたせないためにした形である。➔帯(図)〔堀越すみ〕

きちゅう【忌中】⇨喪

ぎちゅうじ【義仲寺】大津市馬場町にある天台宗寺門派の寺。1184年(寿永3)，木曾義仲(きそよしなか)(源義仲*)がこの付近で戦死したのを巴(ともえ)御前が草庵(そうあん)をつくって弔ったのに始まるともいわれ，また1553年(天文22)近江(おうみ)(滋賀県)守護六角高頼(たかより)が石山寺に参詣(さんけい)の途中，寂しく立っているその墓を見て建てたのがこの寺であるとも伝えられている。1690年(元禄3)松尾芭蕉(ばしょう)が当寺に来て滞在，1694年大阪で没したが，遺言によりここに葬られた。〈木曾殿と背中合はせの寒さかな〉(又玄(ゆうげん))の句碑をはじめ，芭蕉にちなむ多くの句碑がある。〔毛利早公子〕

きちょう【黄蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。北海道を除く日本全国から，沖縄・台湾，さらに南方熱帯地方にまで広く分布する最も普通な種類。翅(はね)を広げた長さ45mm内外，翅は黄色で，前後翅の外縁に黒色の帯があり，裏面に黒色ないしかっ色の小斑(しょうはん)を散布する。年数回発生し，発生の時期によって色彩や斑紋が変化し，晩秋から早春にかけて発生する秋型・冬型・春型は，黄色が淡く，外縁の黒色帯が著しく細いかあるいはまったく消失し，6～7月ごろ出現する夏型は，黄色が濃く，外縁の黒色帯も太く，裏面の小斑も明瞭(めいりょう)である。冬季でも，暖かい日には成虫の飛ぶのがみられる。幼虫はハギやネムノキなど主として木本のマメ科植物の葉を食べる。近縁のツマグロキチョウは，前翅の外縁が直線状で，翅端がほぼ直角をなす(特に秋型において著しい)。4月ごろ

から10月ごろまでみられ，暖地性の種で，関東地方以南，朝鮮・中国・台湾・インドに至る広い地域に分布する。夏型・秋型ともに，前翅の翅頂から外縁部にかけて明瞭かつ幅広い黒色帯がある。後翅の裏面中央部に2条のかっ色の横斑があり，小黒斑がない点でキチョウと容易に区別できる。幼虫は，カワラケツメイなど草本のマメ科植物の葉を食べる。〔鈴木邦雄〕

きちょう【几帳】 平安時代以来，貴人の座席に立てて人目を避け，あるいは室内を臨時に仕切るために用いた道具。木帳とも書いた。几は骨組み，これに帳(とばり)と称する平絹の裂(きれ)を掛けたために几帳とよばれた。土居とよぶ四角の台に2本の丸柱を立て，その上部に約1.8mの横木を載せて骨組みとした。室内の装飾に用いた美麗几帳は錦(にしき)や綾(あや)を材料として，絢爛(けんらん)の文様意匠を施したものである。



几　帳《石山寺縁起絵巻》(部分)

ぎちょう【議長】 合議体の会議で，その活動を主宰し議事を運営する者をいう。国会の両議院の議長はそれぞれの議院で選挙される。議院の秩序を保持し，議事を整理し，議院の事務を監督し，議院を代表することを職務とする。したがって議長は職務上の不偏不党性が要請される。地方議会でも議長は各議院と同じように議員の中から選挙される。

ぎちょう【魏徴】（580～643） 中国，唐の太宗に仕えた不世出の諫官(かんかん)。隋(ずい)末の動乱のときに群雄のひとりである李密(りみつ)に仕え，のち唐に下り，皇太子建成に仕え，626年太宗の恩遇を得，諫議大夫(かんぎたいふ)となった。文人としても名高く，唐初の詩を代表する《述懐》や，勅命により撰(せん)した《隋書》などがある。

キチン［chitin］ 節足動物の外殻(がいかく)，菌類や緑藻(りょくそう)類の細胞壁などの主成分をなす多糖類。天然には遊離しては存在せず，炭酸カルシウムやタンパク質などと密接に結合して，生体の構造を保持する。非常に安定であり，水・有機溶媒・弱酸・弱アルカリに不溶，濃塩酸・硝酸・硫酸に可溶である。酸で完全に加水分解するとグルコサミンと酢酸が，また部分的に加水分解すると二糖類のキトビオースとN-アセチルグルコサミンが生ずることから，N-アセチルグルコサミン基がβ-結合でつながっている直鎖状の重合体であると考えられている。植物の主要な構造多糖類のセルロースとよく似ており，セルロースのβ-結合のグルコース基がキチンではN-アセチルグルコサミン基に置きかえられている。カタツムリの消化液または細菌に含まれる酵素キチナーゼの作用でキチンはN-アセチルグルコサミンに分解される。〔山崎博子〕

キチンしつ【キチン質】 甲殻(こうかく)類やこん虫類の体表を包む甲殻を形成する物質をいうが，現在ではこれはキチンや硬タンパク質からなることが判明してきたので，



キ ー ツ

物質名ではなく，クチクラ*と同様な生物用語となっている。

きちんやど【木賃宿】 安価で簡易な庶民的宿泊所。野宿から，まかない付きの旅籠(はたご)に移行する過渡的段階の宿泊機関。旅人が食糧を携行して自炊し，燃料費すなわち木賃(木銭ともいった)だけを支払うのでその名がついた。16世紀末，庶民の旅行には干飯(ほしいい)・米・だいこんづけなどを携行し，旅宿では湯の供給を受けるだけであった。近世以来旅籠が発達したが，木賃宿はなお存続し，特に農閑期に農民が湯治するときには，この種の宿を利用することが多く，また貧困者の宿泊機関としていまなお残っている。➔旅籠　〔北見俊夫〕

キーツ［John Keats］（1795～1821） イギリスの詩人。バイロン*・シェリー*と並ぶイギリス-ロマン派の代表的詩人であるが，当時はあまり認められず，結核のためにイタリアで静養中，不遇のうちに若死にした。初期には，ホメロス*などのギリシア世界にあこがれ，スペンサー*を師とし，感性のおもむくままに詩作した。やがて詩人としての自覚が高まるにつれ，シェークスピア*をはじめエリザベス朝作家の悲劇に傾倒していった。その経過は，彼の日記ともいうべき数編のソネットや手紙に明らかである。長編詩はギリシア神話に取材した《エンディミオン》《ハイピリオン》があるが，頌歌(しょうか)としての《ナイチンゲールに寄せて》《ギリシアの古瓶(こへい)に寄せて》も名高い。

きづ【木津(町)】 京都府相楽郡の町。人口16,000。京都府の南端にあり，木津川が北に大きく方向転換する地点に臨む。古くから交通の要地であったが，現在も関西本線・奈良線・片町線の接続点，国道24号線と163号線の分岐点で，近畿(きんき)日本鉄道京都線も通ずる。平野部では米作が，丘陵部では果樹栽培が盛んであったが，近時住宅開発が進んで都市化が著しい。

キツエ［Kitwe］ アフリカ大陸南部ザンビア共和国の都市。人口29万(1972)。コンゴ民主共和国カタンガ州からローデシアを経て南アフリカ共和国に至る鉄道およびハイウエーに臨む交通の要地。東部に銅・金・コバルト・亜鉛などの鉱山があり，その開発の基地として発達した。

きっかせき【菊花石】 断面に菊花状の模様が現われる岩石。岐阜県本巣(もとす)郡根尾村に産するものは特別天然記念物に指定されている。暗緑色・赤かっ色などの細粒の地はだの中に，直径数センチメートル～20cmの白または深紅の菊花模様が点在する。菊紋は，輝緑岩中に部分的に放射状に集まったカクセン石の大きな結晶がのちにホウカイ石やセキエイに変質してできたものである。同種の岩石は京都市・埼玉県秩父(ちちぶ)地方・東北地方などにも見いだされる。近年は水石や飾り石として珍重される。

きづがわ【木津川】 淀(よど)川の支流。三重県上野盆地から流れる伊賀(いが)川が，京都府南東隅(なんとうぐう)で南から流れる名張川を合わせて木津川となり，木津町付近から京都盆地を北流して，大山崎付近で淀川にはいる。いまは消滅した巨椋(おぐら)池に注いでいたこともあった。流程50km。

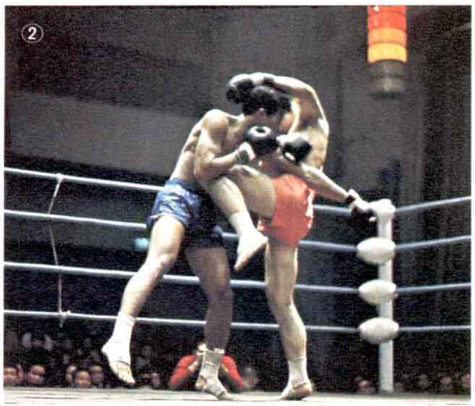
きっかわもとはる【吉川元春】（1530～1586） 戦国時代の武将。毛利元就*(もとなり)の次男。1547年(天文16)吉川興経(おきつね)の養子となる。毛利氏の中国地方平定に活躍。特に尼子(あまこ)氏攻略など山陰経略に戦功をあげ，山陽経略に活躍した弟小早川隆景*(たかかげ)とともに毛利の両川と称された。1582年(天正10)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の中国征伐で毛利氏が屈服したのち秀吉に従うことをきらい，1584年隠居したが，のち毛利輝元(てるもと)らの勧めで秀吉の九州征伐*に参加し，小倉の陣中で死んだ。〔松尾　涼〕

きっかわれいか【吉川霊華】（1875～1929） 日本画家。東京の生まれ。狩野良信(かのうよしのぶ)・山名貫義(つらよし)に学び，岡田為恭(ためちか)に傾倒して大和絵(やまとえ)の研究に進む。1919年平福(ひらふく)百穂*らと金鈴社を結成。高雅で気品のある独特の作品をのこした。

きっき【吉記】 吉田経房(よしだつねふさ)の日記。1173年(承安3)6月から1188年(文治4)9月までの記録であるが，途中欠けている部分もかなり多い。平安末期・鎌倉初期の政治の動きを知る史料として《玉葉*》とともに貴重である。《吉御記》《吉戸記》《吉大記》ともいう。これら書名の由来は，経房が京都の吉田に住んで吉田氏を称し，また民部卿(みんぶきょう)(唐名で戸部という)・大納言であったことによる。《史料大成》に収録。

きつき【杵築(市)】大分県北東部の市。古くは木付と書き，大友氏一族の古い城下町で，江戸時代には松平氏三万二千石が領した。1955年(昭和30)市制施行。人口22,000。国東(くにさき)半島南岸，守江(もりえ)湾に臨み，八坂川・高山川の下流流域の沖積(ちゅうせき)平野上に位置する。産業三大別人口比は48：15：37。条里制の遺構がみられる水田地帯には200年の伝統をもつシチトウイ(七島藺)の栽培が盛んで，畳表(豊後(ぶんご)表)の取引が行なわれる。近年は柑橘(かんきつ)都市を標語に，周辺丘陵地でミカンがつくられている。杵築港は近海漁業の基地となり，北西郊に馬上金山がある。高山川河口付近の低湿地を埋め立てて工場を設置する計画があり，沿岸部ではカキ・ノリの養殖が行なわれる。中心市街は国道213号線に沿うが，日豊本線杵築駅から5km，国道10号線から8km離れており，私鉄バスで連絡する。北隣の安岐(あき)町に生まれた江戸時代の哲学者三浦梅園の〈梅園文庫〉があり，若宮八幡宮(はちまんぐう)の大祭(12月1～7日)には，わが国の三大牛馬市の一つ若宮市が立つ。









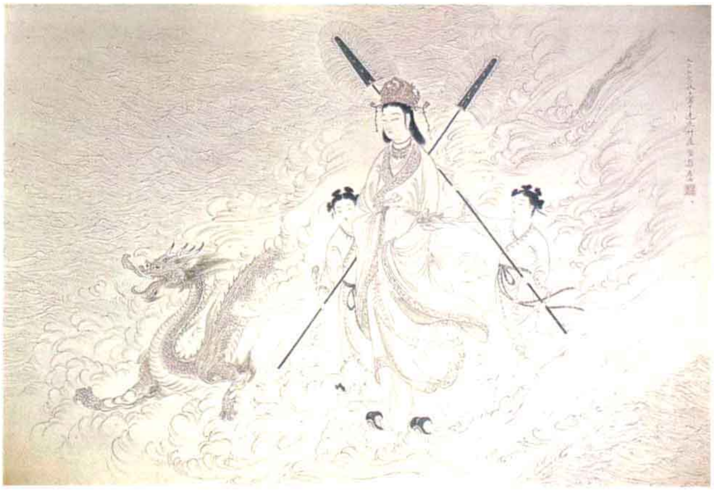
キックボクシング
攻撃の基本技
①まわしげり
②ひざげり
③ひじ打ち
④投げ

キックボクシング 日本で誕生した，新しい格闘技。試合は〈回しげり〉の攻防が中心だが，空手(からて)・拳法(けんぽう)・すもう・柔道・合気道・レスリングなど他の格闘競技のもつすぐれたわざを取り入れ，これをルール化した。攻撃の主体が〈けり〉であるタイ式ボクシングと似ているが，違いは攻撃わざに〈投げ〉を加えたことである。試合は1ラウンド(1回戦)を3分間とし，各回の間に2分間の休憩をはさみ，3～5回戦で行なわれる。勝敗は，①判定，②棄権(TKO)，③打倒(KO)，④反則と区別される。ボクシング*では1ラウンドに3度倒れるとKO負けとなるが，キックボクシングは立ち上がりさえすれば何度倒れてもよいことになっている。

使われる攻撃わざは〈足〉(回しげり・ひざげりなど)〈手〉(ひじ打ち・正拳・裏拳など)〈投げ〉(1本背負い・腰投げなど)がおもなものだが，頭突きも強烈な武器の一つである。豊富な攻撃わざに比べて反則わざは，①親指で目を突く(サミング)，②かみつく，③股間(こかん)の攻撃，④倒れた相手を攻撃する，⑤首を締める，⑥手足の逆をとる，⑦ロープを使っての攻撃などにすぎないため，KO率がきわめて高い。

元プロボクシングコーチの野口修(おさむ)が創造して命名したものだが，1966年(昭和41)，大阪で空手着をつけた沢村忠(ただし)がタイ式ボクサーと対戦したのがはじまりとされる。なお，キックボクシングの名称で正式に興行されたのは1967年2月26日からである。〔布施政郎〕

きづくり【木造(町)】青森県西津軽郡の町。人口25,000。五所川原と鰺ケ沢(あじがさわ)との中間に位置し，五能線に沿っている。かつては西津軽郡一帯の農村の中心集落として発達したが，五能線開通後は五所川原の発展によってその地位を奪われた。



吉川霊華
《離騒》
1933

きつけ【着付け】和服を美しく形よく，着くずれしないように着ること，また着せること。長方形の布を直線で縫い合わせる和服は，洋服と違って幅にゆとりがあるため身体に密接せず，またボタン・バックルなどで留めることもないので装うのがむずかしい。特に女物長着は身たけが長いのをおはしょりをしてひもで結び止め，さらに幅が広くて長い帯を後ろで装飾的に結ぶので，着るのに技巧を必要とし，着付けのよしあしは容姿に大いに関係する。

鎌倉初期より公家(くげ)の男子の装束が強装束(こわしょうぞく)となると，着装上技術が必要となり，その着付けを衣紋*(えもん)とよび，専門に業とする公家ができた。明治末期には美容院・美容師と称して結髪・化粧の専門業者が興り，女子の婚礼衣装その他の盛装の着付けも扱うようになった。1960年(昭和35)ごろからは従来上流社会のものであった振りそで・打ち掛けの婚礼衣装が，都市・農村・漁村まで全国的に着られるようになり，島田髷(しまだまげ)のかつらとともに，着付けも美容師に任せる風習となった。

第2次世界大戦後は和服を日常着ることが少なくなり，民族服として晴れ着に着られるものとなった。そのため自身で着付けのできる人が少なく，近年は腰揚げをしたり，結び付け帯を使って着付けを楽にする工夫がされている。〔堀越すみ〕

きつけぐすり【気付け薬】脳貧血ある

いは虚脱状態などの手当てに用いる薬の俗称。中枢神経興奮薬・循環興奮薬のほか，アルコール類・エーテル類・アンモニアのようにかがせて粘膜を刺激して反射興奮を起こさせるものが含まれる。しかし，虚脱などではその原因にいろいろのものがあり，医師の指示を仰がねばならない。

きっこうきん 【拮抗筋】 互いに反対の動作を起こす筋肉あるいは筋肉群。関節における屈筋と伸筋，瞳孔(どうこう)の括約筋と散大筋，消化管の縦走筋と環状筋などがある。屈筋が縮むときには反射的に伸筋が弛緩(しかん)し，伸筋が縮むときには屈筋が弛緩する。このような働きによって，運動は円滑に行なわれる。

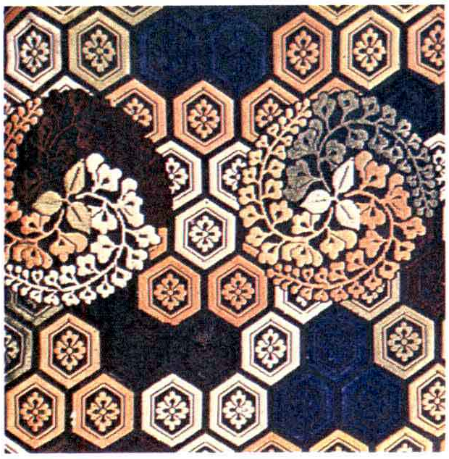
きっこうさよう 【拮抗作用】 2種以上の生体物質あるいは薬剤などが，それぞれのもつ生物学的作用を相互に打ち消すように作用すること。たとえば，マグネシウムイオンが示す麻酔作用は，カルシウムイオンによって打ち消される。またインシュリン*が血糖量を低下させるのに対し，アドレナリン*は増加させるように働く。副交感神経の末端から分泌されるアセチルコリンは脊椎(せきつい)動物の心臓の搏動(はくどう)を弱めるように働くのに対し，交感神経から分泌されるノルアドレナリン(またはアドレナリン)は強めるように作用する。拮抗作用によって生物体内の微妙な均衡が保たれているものと考えられる。 〔秋野美樹〕

きっこうじゅうこつぶん 【亀甲獣骨文】 ⇨甲骨文字

きっこうもん 【亀甲文】 亀甲形を直線で形成した幾何学的文様の一つ。松・桐(きり)・鶴(つる)文などとともに吉祥的意義をもつため古くから好まれ，金工・木工・陶磁など美術品を飾っているが，古墳から発見された鉄地銀象眼鞍(くら)金具に精巧な最も古い作例をみることができる。以後今日までこの文様は各種の作品の題材とされており，亀甲1個のみを扱った場合もあるが，多くは亀甲つなぎとし，鶴を配したり菱(ひし)文を配するなどされ，連続文としてまとまりのいい図形となっている。〔毛利 登〕

きっさてん 【喫茶店】 コーヒーなど洋風飲料を供する店。江戸時代，街道や社寺門前の水茶屋が原形と考えられるが，1888年(明治21)東京下谷(したや)西黒門町に可否(かっぴい)茶館ができたのをはじめとする。1911年ブラジル-コーヒー宣伝のため，銀座鍋町(なべまち)にカフェーパウリスタが開店し，にわかにコーヒー店の数がふえた。しかし，フランス語でコーヒー店を意味するカフェー*はその後，酒場的な色彩を濃くしたため，コーヒー店は大正から昭和へかけて，喫茶店といわれるようになった。レコードの普及により，音楽喫茶・ムード喫茶などの特色をもつものも現われた。 〔稲垣史生〕

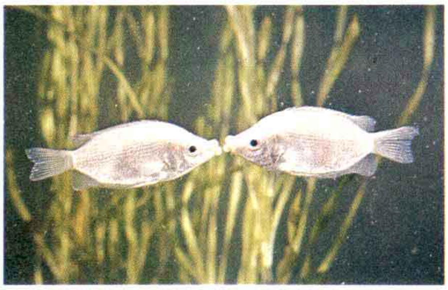
きっさようじょうき 【喫茶養生記】 喫茶の薬用価値と抹茶(まっちゃ)の製造法などを



亀甲文 《亀甲藤丸文様能装束厚板》(部分) 東京国立博物館蔵



牛 車 唐車 《長谷寺縁起絵巻》(部分)



キッシンググーラミ

説いた書物。上下2巻。著者は宋(そう)より帰朝して抹茶法を伝えた栄西*。鎌倉初期の1211年(承元5)に脱稿し，1214年(建保2)に将軍源実朝(さねとも)に献上した。

ぎっしゃ 【牛車】 平安時代以降，貴族など特権階級が用いた乗り物。ウシに引かせる屋形車をさし，太上(だじょう)天皇・女院・摂政(せっしょう)・関白などが用いた唐車(からぐるま)，天皇以下四位以上の者が用いた檳榔毛車(びろうげぐるま)，内親王・女官など女性専用の糸毛車・網代車*(あじろぐるま)・半蔀車(はじとみぐるま)などがあり，位階によりその種類が定められていた。屋形には唐破風(からはふ)の屋根をもったもの，細かく裂いたビロウの葉をふいたもの，赤・青などの色糸で華美な装飾を施したものがあった。中世になると，将軍や武家が拝賀などの晴れの儀式に使用したが，室町時代にはしだいに衰退した。

きっしゅうよう 【吉州窯】 中国，宋(そう)代に江西省吉安府の近傍で焼かれた窯芸。唐代にはすでに精巧な青磁を焼き，宋代になると玳玻盞(たいひさん)として知られる鼈甲調(べっこうちょう)の釉(うわぐすり)を主調とする茶わんを焼き，建盞(けんさん)(→建窯)と対比される。しかし，白磁が生産の中心であったらしく，その作風は定窯*に酷似しているが，明確な吉州窯白磁の特色は把握されていない。

きっしょうてん 【吉祥天】 ⇨きちじょうてん

ギッシング [George Gissing] (1857～1903) イギリスの小説家。早くから流浪・窮乏生活を続け，その作品には《下層社会》など下層階級に暖かい目を向けたものが多い。また《貧乏文士街》では，文学が商品となりつつあったビクトリア朝時代の小説家たちを描いた。ほかに《ディケンズ論》，自伝的随想《ヘンリー-ライクロフトの私記*》などがある。

キッシンググーラミ [kissing gourami] 硬骨魚類・キノボリウオ科。全長25cmほどになる淡水魚。タイに似た形で，全身桃色をおびた白色で，斑紋(はんもん)その他の模様はない。原産地はタイ・スマトラ・ジャワ・ボルネオなどである。観賞用熱帯魚として，わが国でもごく普通に飼われている。水槽(すいそう)飼育では，全長20cm内外にとどまることが多い。2匹が互いにくちびるを合わせるような動作をみせるので，この名がある。くちびるはまくれあがったような形をしている。 〔菅野 徹〕

キッシンジャー [Henry A. Kissinger] (1923～) アメリカ合衆国大統領特別補佐官(国家安全保障問題担当)・国務長官・軍事戦略専門家・ハーバード大学教授。ドイツ生まれ，1938年アメリカに渡り，1943年帰化。1950年ハーバード大学卒業。1956年より，アメリカ統合参謀本部兵器体系評価グループ顧問。1956年〈核兵器と外交政策〉を発表。大量報復戦略を批判した。1968年の大統領選挙ではニューヨーク州知事ロックフェラーを支持したが，選挙後ニクソン大統領の要請で就任。1977年カーター大統領就任まで8年間，〈キッシンジャー外交〉の立役者として活躍した。 〔吹浦忠正〕

きっすい 【喫水】 水に浮かんだ船のキール*の下面から静水面までの垂直距離。喫水は船首・船尾・船体中央部左右舷(げん)ではかるのが普通であって，船首喫水と船尾喫水の平均を平均喫水という。もし船の傾斜中心が船体中央部にあれば中央部喫水と平均喫水は同じになるが，一般に傾斜中心は船体中央部にはないので同じにならない。平均喫水が中央部喫水より小さい状態をホギング，その逆の状態をサギングという。また船尾喫水と船首喫水の差をトリムといい，船尾喫水が船首喫水より大きい状態を〈ともあし〉あるいは船尾トリム，その逆の場合を〈おもてあし〉あるいは船首トリムという。また前後喫水が同じであるときを〈ひらあし〉あるいは等喫水という。普通の航海では1m内外の船尾トリムがよい。喫水を

読むために船首尾および中央部に喫水標(ドラフトマーク)といわれる尺度目盛りが書かれている。喫水は船の沈下量を知るとともに，これを知ってグラフから排水量を求めるのに役だつ。〔飯島幸人〕

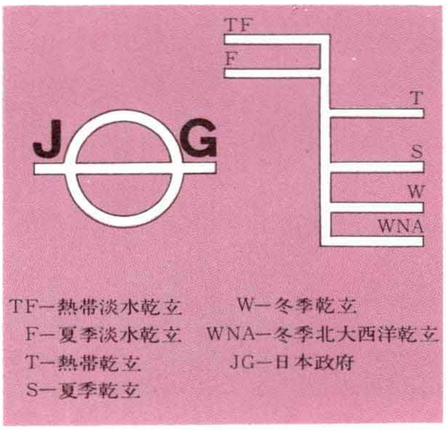
きっすいせん 【喫水線】 静水面と船体外板との交線。水線ともいう。喫水線は積み荷の状況やタンク中の水の移動によって異なり，つねに一定ではない。船舶満載喫水線規程では，船舶の安全航行を図るために，予備浮力をもたせる意味において，船舶おのおのに許される最大の喫水*を指定している。この喫水線を満載喫水線といい，客船・貨物船・帆船・木材甲板積船・槽船(そうせん)など，それぞれの測度方式によって決められる。また同一船舶でも，季節・航行地域などにより満載喫水は異なる。満載喫水を示す印を満載喫水線標・乾玄標・フリーボードマーク・プリムソルマークなどといって，船体中央部の両舷に描かれている。この線までの喫水ならば許されるということである。〔飯島幸人〕

きづた 【木蔦】 双子葉植物・ウコギ科。フユヅタ・オカメヅタともいう。日本原産の常緑のつる性木本。山野に自生し，木や石にからんで，5mくらいにもなる。また庭園にも植えられ，いけがきにもする。枝はよく分枝し，老幹は気根を生ずる。葉は互生し，質はかたく深緑色で光沢があり，卵形で3～5裂する。花は緑黄色の小花で晩秋に円形の散形花序につく。果実は球形で，翌年黒く熟す。

きったん 【契丹】 モンゴル族の一部族。キタイまたはキタンが正しい呼び名。4世紀以来，シラ-ムレン流域に遊牧，8世紀末には完全な部族結成を終え，10世紀には異種族を合わせ，中国北部に大契丹国を建国，のち遼(りょう)と改めた。

きったんもじ 【契丹文字】 10世紀初頭に契丹族の創製した文字。大字と小字の区別があり，大字は，遼(りょう)の太祖耶律阿保機(やりつあぼき)が，小字は，その弟迭剌(てつら)がそれぞれ作成したと伝えられる。以来，金朝初頭(12世紀初め)まで用いられたが，いまなお十分に解読されるに至らない。大字は表意文字で，小字は表音文字であると推定される。この文字の研究で契丹語がモンゴル語系に属することはほぼ定説となった。現存資料として，興宗・道宗およびその妃の碑文などが知られている。〔荒井伸一〕

キッチナー ［Horatio Herbert Kitchener］ (1850～1916) イギリスの軍人。1882年ゴードン*将軍救援のためエジプトに渡り，1892年エジプト軍司令官となる。その後スーダン地方の回復に成功したが，ファショダでフランス軍と衝突し，ファショダ事件*をひき起こした。ボーア戦争*では参謀長のち総司令官として活躍した。1902～1909年の間インド軍総司令官をつとめ，第1次世界大戦が起こると陸相となった。



喫水線



キヅタ



キツツキ
(上)クマゲラ
(下)コゲラ



キツネ

きつつき 【啄木鳥】 鳥類・キツツキ科の総称。オーストラリア・ニューギニア・マダガスカルを除く全世界に広く分布し，アリスイ亜科・コビトキツツキ亜科・キツツキ亜科の3亜科210種からなる。アリスイ亜科はアフリカとユーラシア大陸にそれぞれ一種ずつ分布する。コビトキツツキ亜科は全長10cm前後で，29種中25種が熱帯アメリカに分布し，おもに灌木林(かんぼくりん)に生息してこん虫類を主食とする。キツツキ亜科は179種からなり，著しく樹幹生活に適応しているキツツキ科を代表するものである。この科の鳥はいずれも樹幹に掘った穴か，他の鳥の巣穴で営巣する。鋭くとがった強いくちばしで穴をあけ，嘴外(しがい)に長く突き出すことのできる先に逆鉤(ぎゃくこう)状の小突起が多数ある舌を用い，樹皮下や割れ目を探って潜んでいるこん虫類のさなぎや幼虫を主食とする。尾は，体を垂直に保つときのささえに用い，羽軸は非常にかたい。趾(あしゆび)は前方に2趾(し)，後方に2趾に分かれていること(対趾)がキツツキ目の特徴であり，キツツキ亜科の鳥は，幹上で体を安定に保ち，動きまわるときには後方の第4趾を外側に広げて位置させている。アリを主食とするアリスイ類と，キツツキ亜科のうちこん虫類のほかに果実・樹液なども相当食う少数のものは渡りをするが，これら以外の大部分は冬季も越冬中のこん虫を食い，留鳥性である。大きさは，コゲラ*ほどのものからクマゲラ*大のものまである。いずれの種の鳴き声も，歌といえるようなものはないが，中・大形種は空洞(くうどう)のある樹幹を連続的に早くつつき，ドラム音を出す。わが国には，アリスイ・ヤマゲラ・アオゲラ・アカゲラ・オオアカゲラ・コアカゲラ・コゲラ・ミユビゲラ・クマゲラ・キタタキの10種が生息する。〔安部直哉〕

きって 【切手】 ⇨郵便切手

キッド ［kid］ 子ヤギの皮。きめが細かく光沢があり，薄く柔らかで非常にじょうぶである。皮手袋の材料やくつの甲皮として最高級品に属する。

きつね 【狐】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。体長70cm，尾長40cmほど。体は細く，吻(ふん)は長くとがり，尾は太くふさ状。尾の基部と足の中央部に腺(せん)が発達し，特殊のにおいを出す。北アフリカ・ヨーロッパ・アジア・北アメリカに広く分布する。日中は森林や草原の穴や草むらで過ごし，夜出てこん虫・果実・ネズミ・ウサギなどを食い，ときにニワトリなどを襲う。木登りや泳ぎがうまく，りこうで，猟犬に跡を追われたりすると木に登ったり，水にはいったりして姿をくらます。本種は体色が変化に富み，アカギツネ・ジュウジキツネ・クロギツネ・ギンギツネなどの四色相がある。赤橙(せきとう)色でのど・尾端・体下面が白色のアカギツネはアジアやヨーロッパに多くみられる。ジュウジキツネは全体にくすん

だ色で，背と肩に暗色のしまがあり十字形の模様をもち，シベリアやカナダなどの比較的寒冷な地方に多い。尾端の白色部を除き全身黒色のクロギツネと，黒色に銀白色の毛が混じり全身霜降り状のギンギツネはシベリアやカナダなどに多く，毛皮としては最高級品とされる。〔今泉吉典〕

きつねざる【狐猿】マダガスカルにすむ原猿をキツネザル類とよび，アイアイ科・キツネザル科・インドリ科の3科21種を含む。キツネザル科は2亜科16種よりなり，一般にキツネザルというのはこの科をさす。鼻先がとがり，第2指にかぎづめをもち，歯は36本と原始的な形態をとどめている。夜行性のようにいわれるが，キツネザル亜科のものは昼行性で，数頭の群れをつくる。雑食で飼育は容易，なれやすい。ワオキツネザルが最も知られている。〔河合雅雄〕

きつねつき【狐憑き】キツネの霊が人，特に女性に取りつくこと。キツネにつかれた人間は特別な能力をもち，一種の精神病的症状になる。動物霊が人につく例は，日本ではタヌキ・ヘビなどあるが，最も広く根強いのはキツネの霊であると信じられている。稲荷(いなり)神とキツネとの結びつきも古く，神の使徒としてのキツネと日本人との交渉は深い。キツネは人が畏敬(いけい)と感謝をもって接すれば，さまざまな前兆を示し，年ごとの豊凶を請い占えば託宣を示す霊獣であると信じられていた。キツネに供物をささげる年中行事は，現在も各地に残っている。また〈きつね持ち〉は，特定の家にキツネの霊が宿る，あるいはキツネを飼育すると伝える現象で，これらの家系は信仰の衰えとともに弊害ばかりが目だち，その家系とみられる家族は地域社会からきらわれ，特に縁組みが忌まれるなど社会的緊張を起こしている。キツネにつかれたと信じる者が発狂したり，松葉いぶしなどきわめて原始的なきつね落としの治療法のために親族殺人を犯すなどの悲劇はいまもくり返されており，打破すべき迷信の代表と目されている。➔憑き物〔今野圓助〕

きつねのえふで【狐絵筆】担子菌類・スッポンタケ科。夏から秋にかけて林内や草地の地上に発生する筆状のきのこ。高さ7～9cm，茎の径1cm以下，茎と頭部との間は境界不明瞭(ふめいりょう)である。茎は下半部白色，中部は淡桃色，頂部は鮮紅色である。

きつねのかみそり【狐剃刀】単子葉植物・ヒガンバナ科。山地林内に群生する多年草。葉は早春に鱗茎(りんけい)から数個出，やや幅の広い線形で，質は柔らかく，緑白色。8～9月，葉の枯れたあとに30～50cmの花茎を出し，茎頂に2～6個の黄赤色の花を横向きにつける。

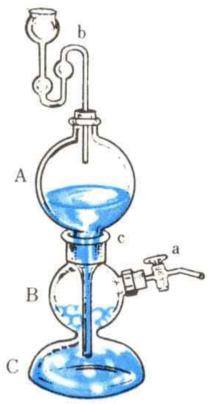
きつねのちゃぶくろ【狐茶袋】担子菌類・ホコリタケ科。夏～秋に林内や草地の地上に群生する擬宝珠形のきのこ。ホコリタケともいう。高さ4～6cmぐらいで宝珠形の頭部と茎とよりできている。頭部は径2～3cmで，はじめ白色，成熟後灰かっ色となり，暗色の細かいいぼ状の突起ができる。成熟すると頂部にできる小さい穴から粉のような胞子が吹き出される。幼いものは食用となり，美味。



キツネザル　ワオキツネザル



キツネノカミソリ



キップの装置

きつねのぼたん【狐牡丹】双子葉植物・キンポウゲ科。道ばたやみぞ，田のあぜなどのやや湿った所にみられる多年草。茎は枝分かれし高さ15～60cm。葉は1枚が三つに分かれる。春～秋にわたり枝の先に黄色の花をつける。花は直径1cm，花びら5枚，果実は多数集まり直径1cmほどの金平糖(こんぺいとう)状になる。有毒植物。

きつねのまご【狐の孫】双子葉植物・キツネノマゴ科。野原や林の縁などにはえる一年草。よく枝分かれし，高さ10～40cm。茎は断面が四角。葉は対生し，長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，秋に赤紫色になる。夏～秋に枝の上部に淡紅紫色のくちびる状の花を穂状につける。

きつねび【狐火】暗夜にキツネが見せると信じられた怪火。ちょうちんの行列のように見える1列の光を〈きつねの嫁入り〉〈きつねの行列〉などとよんだ。キツネを霊獣，神の使徒と信じていた前代日本人は，こうした怪火を神意によるお告げとも解した。特に有名なのは江戸の王子稲荷(いなり)のきつね火で，毎年おおみそかの夜に関八州のキツネが集まるとされ，そのきつね火によって農作の吉凶を占ったという。キツネの唾液(だえき)や口にくわえて歩く骨のリンが光るなど諸説があった。〔今野圓助〕

きつねものがたり【狐物語】フランスの韻文物語。著作者不明。12～13世紀にわたって書かれた27の〈枝編(ブランシュ)〉からなる。キツネのルナールとオオカミのイサングランの争いを中心に，ライオン・ネコ・カラス・ニワトリなどが登場し，人間心理を代弁する。これらは当時の封建社会を反映して，領主・宮廷人・僧侶(そうりょ)・商人・農民などを風刺し，戯画化したものである。すべてを笑い飛ばす中世の庶民精神が結晶した物語といえる。〔泉　邦寿〕

ギッピウス［Zinaida Nikolaevna Gippius］(1869～1945)　ロシアの女流詩人。現実からの逃避，死への恐れ，個我の賛美などを幻想的にうたった。ロシア象徴主義前期の代表的詩人であり，ロシア革命後，1920年に夫メレジコフスキー*とともにフランスに亡命した。

キップのそうち【キップの装置】塊状の固体に液体を反応させて気体を連続的に発生させる装置の一。オランダの化学者R.J.キップの発明した装置で，実験室などで少量の気体を発生させるのによく用いられる。普通は図に示したようにガラス製で，Aの部分とB，Cの部分がcのすり合わせ部によって連結される。Bに固体を入れ，コックaを開いてbから液体を入れると，液体はCからBまで上昇して固体と反応し，気体を発生する。aを閉じると，発生した気体の圧力によってB中の液体はAに押し上げられ，それとともにB内における気体の発生がやむ。たとえば水素はAに希硫酸Bに亜鉛を入れると得られる。〔竹下三吉〕

キップリング［Rudyard Kipling］(1865～1936)　イギリスの小説家・詩人。インドのボンベイに生まれ，ジャーナリストとして活躍するかたわら，日本・中国・アメリカ・アフリカなどを訪れた。インドを背景とした《高原平話》《ジャングル-ブック》《キム》などの小説のほかに，愛国主義を謳歌(おうか)した《七つの海》その他の詩集もある。1907年ノーベル文学賞を受賞。一時は大人気を博したが，その後は短編の技巧と文体以外，その評価は低い。〔日高八郎〕

きつりん【吉林】チーリン　中国東北部，

吉林省*の都市。人口157万(1960年推)。松花江(スンガリ川)の上流に沿い，長図・瀋吉(しんきつ)両鉄道の交差点にあたり，水陸交通の要地である。雑穀・アサ・アイ・獣皮のほか，木材・タバコの集散地であり，南東約24kmにある豊満水力発電所の電力によって，化学工業を中心とする工業都市として発展しつつある。付近には先史遺跡が数多く見られる。

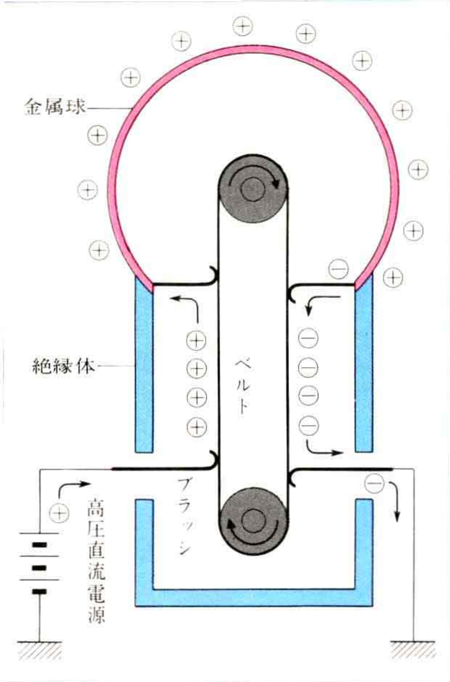
きつりんしょう　【吉林省】　チーリン省　中国東北部の省。旧満州国の吉林・間島両省の領域にあたり，東は朝鮮に接する。面積18万7,000km²。人口12,000万(1972年推)。省都は長春。2省轄市(長春・吉林)・3専区・1自治州(延辺朝鮮族自治州)に分かれ，7市・36県・2自治県を統括する。南東部に長白山脈が走り，北西部は丘陵・平原をなしている。大陸性気候で，冬は寒いが，夏は高温となり，降水も比較的多い。住民はほとんどが中国人であるが，東部の間島地方の延辺朝鮮族自治州には朝鮮族が居住する。ダイズ・アワ・コウリャン(高粱)を栽培し，ことにダイズの生産は，他地域に比べて圧倒的な数量を誇っている。森林資源にも恵まれ，ことに松柏(しょうはく)類の木材生産はきわめて重要である。その他，森林地帯では〈三宝〉といわれて天下に名高いテンの毛皮，ニンジン，鹿茸(ろくじょう)(薬用)などを産する。鉱産資源としては石炭と金が重要である。また松花江上流の鏡泊湖には豊満水力発電所があり，この電力を利用して長春・吉林・延吉などに諸種の重化学工業や軽工業が興っている。　〔木村辰男〕

きつるばみいろ　【黄橡色】　色名。灰黄赤色であるが，その色相は一定しない。クヌギの実のあく媒染によって染めた色。橡はクヌギの古名で，平安時代には単に橡色といえば，この黄橡をさした。また，鉄媒染によって染めた色が黒橡で，上代にはこの黒橡を単に橡色と称した。

ぎていしょ　【議定書】　国際会議の終了にあたり，その交渉の進行状況や事実について記載される正式の概要書または声明書。会議の議事や意見の表明，または一致した解説などが記載してあり，国家間の権利義務を規定するものではないが，条約*に付属した補充的なものであり，関係各国が合意し署名したものであるから，広義の条約でもある。

きていじょうたい　【基底状態】　原子や分子などのとりうるいろいろな状態のうちで最も エネルギーの低い状態。厳密には絶対零度*のときにのみこの状態となるが，原子の場合には，すぐ上の励起状態*とのエネルギー差が大きく，常温では事実上すべての原子が基底状態にあるとみなすことができる。

きていど　【規定度】　溶液1l中にとけている溶質のグラム当量数をその溶液の規定度という。略号N。この定義によると1



起電機　バン-ド-グラーフ起電機の原理



キ　ト　キト北郊のサン-アントニオにある赤道碑。その前を，インディオたちがロバの背に荷をつけて道を急ぐ

グラム当量を1lにとかせば1規定であるが，溶液濃度を規定度で表わすのは不つごうな場合もある。たとえば塩酸・硫酸・硝酸銀などは，普通の反応では酸化状態が変わらないから，そのままその規定度が通用するが，塩化第二鉄・フェロシアン化カリなどの場合には，反応によって規定度が変わってくる。

① $Fe^{+++} \rightleftarrows Fe^{++} + e$

② $Fe^{+++} + 3OH^{-} \rightleftarrows Fe(OH)_3$

①では塩化第二鉄の式量そのままを1lにとかせば1規定の溶液となるが，②では3分の1の式量をとかしたものが1規定の溶液となる。　〔三輪誠・宇山裕〕

きていまく　【基底膜】　内耳の蝸牛殻管(かぎゅうかくかん)の基底部を占め，聴覚の受容器(コルチ器*)をのせる膜。→内耳

きているい　【奇蹄類】　指の数が奇数で，蹄(ひずめ)をもつ哺乳(ほにゅう)類の総称で，奇蹄目を構成する。新生代第三紀に栄えたが第四紀にはいってからはしだいに衰え，現代ではサハラ以南のアフリカとアジアだけに分布する。家畜のウマ・ロバやシマウマ類などのウマ科，マライバク・ブラジルバクなどのバク科，クロサイ・シロサイ・インドサイ・スマトラサイ・ジャワサイのサイ科の3科に大別される。

きていれきがん　【基底礫岩】　不整合面のすぐ上位にあるレキ岩，すなわち不整合に堆積(たいせき)する地層の最下部のレキ岩である。堆積岩が地上で侵食され，その堆積岩が沈降しはじめて浅海に没したとき，その上に最初の堆積物として礫層が生じた場合にできる。基底レキ岩の礫は不整合面の下にある岩層から生まれた砂や礫を含むのが普通である。

ギディングズ　［Franklin Henry Giddings］（1855～1931）　アメリカの社会学者。はじめ心理学的進化論によって社会現象の把握(はあく)を行なったが，のちには数量化的な客観主義をその方法論とした。主著に《社会学原理》《人間社会の科学的研究》などがある。

きてき　【汽笛】　蒸気・圧縮空気または電動機などで音を発する器具。蒸気・圧縮空気によるものを汽笛といい，サイレン形式のものを汽角とよんでいる。規程では，船舶に備える場合，無風状態で2海里(3.7km)以上離れた地点に音が到達することが必要である。信号器具として，衝突予防法における注意喚起信号・針路信号・霧中信号，その他火災信号などに広く利用される。

きでんき　【起電機】　主として実験用に用いられる，金属の静電誘導を利用して電気を集める装置。ウィムズハーストの起電機*，バン-ド-グラーフの起電機がよく知られている。バン-ド-グラーフの起電機は，絶縁性ベルトの一方から電荷を与え，ベルトを回転させて他方の導体に運び，数百万ボルトの高い電圧を得る。

きでんたい　【紀伝体】　歴史記述形式〈史の三体〉の一。本紀・列伝・志・表からなり，志・表は欠けることもある。本紀は天子の伝記や国家の大事を天子在位の年月に従ってしるし，列伝は臣下の伝記および諸外国のできごとを，志は社会・経済・文化など重要項目をまとめてしるす。表は年表・功臣表など。中国の《正史*》はこの形式。

きでんりょく　【起電力】　導体に電流を持続的に流す力。静電的クーロン力(→クーロンの法則)だけでは，回路に持続的電流は流れない。電池におけるような起電力は，静電的に電子を引きまたはしりぞける力とは別な非保存力がなければ生じない。電池では，2種の金属とその間の電解質があり，電解質中に2種の金属がイオンとなってとけこむときの力の差が起電力となり，イオンが動いて電流となる。

キト　［Quito］　南アメリカ北西部に位置するエクアドルの首都。人口56万5,000(1972)。赤道から24kmしか離れていない位

置にあるが，海抜2,850mの高所にあるので1年じゅう温暖でしのぎよい(年平均12℃)。インカ*帝国の繁栄した時代にも地方的な中心であった。スペインの植民地となったあとも，アンデス山中の中心都市として栄え，エクアドル独立後首都となった。したがって，スペインの古都を思わせるような古い建築が多く，中でも1534年に建設されたサンフランシスコ教会が最大である。これらの建築はまた，インカの遺跡とともにこの市を観光都市として位置づけている。市内には近代産業はあまり発達しておらず，伝統的な毛織物・皮革などの工業が目だつ程度である。市の近郊にピチンチャ火山がそびえ，風光は美しいが，反面地震に見舞われることも多い。〔小栗 宏〕

きど【木戸】 古くは城戸・柵戸と書き，城塞(じょうさい)防備のため設けられた入り口を意味したが，のちには街路・庭園・住居などの屋根なしの出入り口で，開き戸のついた木の門を示すようになった。江戸時代には武家屋敷と町人屋敷の境などに木戸が設けられ，わきには番人が住む木戸番屋があり，夜間には門を閉じ拍子木を打って時を知らせたり，町内の警備にあたっていた。古くは木戸に通行料金を課したところから，興行場の入場料を木戸の有無にかかわらず木戸銭とよぶようになった。〔渡辺欣雄〕

きど【輝度】 光源をみると，その面は輝いて見えるし，照らされている面を見ても，また半透明のものを反対側から見てもある明るさに見える。このように面積のある発光面を目で見たときの明るさをいう場合，発光面の定めた方向への光度*をその方向から見た見かけの面積で割ったものを輝度という。単位には光度をカンデラ*(cd)，面積を平方メートルで表わした場合にはニット*(nt)を用い，平方センチメートルをとった場合にはスチルブ(sb)を用いる。実用的にはスチルブが便利である。輝度は目から光源までの距離には無関係である。

輝度を測定するには，マクベス照度計を利用して，輝度が既知の面と比較して行なう方法もあるが，最近はこれを光電的にはかることができるようになった。これには遮光筒(しゃこうとう)式とレンズ系式とがあり，光束発散度*計とよぶものもほとんど同じ構造である。測定したい面の像をレンズで物理眼(受光器)の前に結ばせて，その像の一部を遮光板の小孔より取り出して光電装置に入れ，光電流の目盛りより輝度を直読できるようにしたものである。〔中山忠巳〕

きとう【気筒】 ⇨シリンダー

きとう【几董】 (1741〜1789) 江戸中期の俳人。高井氏。別号に晋明・春夜楼など。巴人*(はじん)門下の几圭(きけい)の子。京都の生まれ。30歳のとき，父と同門だった蕪村*(ぶそん)の門にはいり，師の補佐役として活躍。1772年(明和9)亡父の13回忌追善集《其雪影(そのゆきかげ)》を公刊，その後蕪村一門の俳書を次々に編集・公刊した。蕪村の没後，巴人・蕪村に次いで夜半亭(やはんてい)3世となる。作風は温厚を特徴とした。

きどう【軌道】 ⇨線路 ⇨路面電車

きどう【軌道】

1運動する物体が通る経路。軌道の形はその物体に働いている力の性質と運動の初期条件，すなわちある時刻にその物体がもっていた速度*とそのときの位置が与えられると，〈運動の法則〉によって完全に定まってしまう。たとえば，一様な重力の作用を受ける放物体の軌道はすべて放物線となるが，投げ出された瞬間の位置，速さ，投げ出される方向によって放物線の形が異なる。万有引力*・クーロン力(→クーロンの法則)などのように力の中心からの距離の2乗に反比例する引力の作用を受ける物体の軌道は楕円(だえん)・放物線または双曲線となる。惑星や人工衛星の軌道はその例である。→運動

2原子や分子は原子核とそれを取り囲む電子から構成され，電子は原子核の引力を受けてその周囲で一定の運動をしている。この運動は量子力学によって取り扱わなくてはならない性質のもので，電子が1本の曲線に沿って運動しているのではないが，理解を助けるため，しばしばこれを太陽を回る惑星の運動になぞらえて考え，一つ一つの電子の運動状態を軌道とよぶ。〔有山正孝〕

きどう【気道】 呼吸器は気道と呼吸部に分けられるが，気道は空気を通すところ，呼吸部はすなわち肺*である。気道はさらに上気道と下気道に分かれ，上気道は鼻腔*(びこう)と咽頭*(いんとう)からなり，下気道は喉頭(こうとう)・気管*・気管支*からなる。気道には呼吸器を保護する種々な装置があり，鼻腔の入り口である鼻前庭には鼻毛がはえて除塵(じょじん)の作用をしている。また鼻粘膜には血管や腺(せん)が密に分布し，空気に温度と湿度を与える。鼻粘膜や気管の粘膜には繊毛*や粘液腺があって，この繊毛運動によって気道にはいった塵埃(じんあい)を上方へと送り出し，腺から分泌される粘液とともにたんとして吐き出される。

イモリなどは，鼻孔を通して空気を取り入れることは少なく，主として口を通して取り入れる。カエルでは，口腔*がポンプの役目をもち，口底を下げたときには鼻孔が開いて空気を口腔内に吸い込み，口底を上げたときには鼻孔が閉じるとともに喉頭口が開いて空気は肺へはいる。特にこの口腔内圧を高めるために，眼球を引っ込めて口腔容積を減じて深呼吸を行なうことができる。〔幡井勉・橋本長〕

きどうこう【輝銅鉱】 銅の原料鉱石の一。Cu_2S 斜方晶系。比重5.5〜5.8，硬度2.5〜3，劈開*(へきかい)は{001}に不完全。色・条痕(じょうこん)ともに暗鉛灰色である。金属光沢を有し，ナイフで切ることもできる。銅鉱床の二次富化帯(初生鉱床が，地表付近の酸化作用で溶脱した元素によって品位が二次的に高められた部分)または鉱脈中に他の銅鉱物とともに産する。イギリス・ソ連・チェコスロバキアなどに大産地があり，わが国では秋田県阿仁(あに)，兵庫県生野(いくの)などの鉱山が有名である。〔河原 昭〕

きどうしゃ【気動車】 ⇨ディーゼル動車

ぎどうしゅうしん【義堂周信】 (1324〜1388) 南北朝時代の臨済宗の僧。土佐(高知県)の人。号は空華(くうげ)道人。夢窓疎石*に師事した。1359年(正平14・延文4)関東管領足利(あしかが)基氏*に招かれて鎌倉に下り，同地で約20年間の教化ののち将軍足利義満*(よしみつ)に召されて上京，建仁(けんにん)寺*・南禅寺*の住持となった。詩集《空華集》，日録《空華日用工夫略集》の抄本が現存している。→五山文学

きどうたい【機動隊】 集会・集団運動の警備取り締まり，および集団暴力犯罪の取り締まり警備のため，警視庁と各府県警察本部に設けられている警察組織の一。中隊・小隊・分隊編成で警察力を集団で確保し，緊急事態に対処することに特色がある。装備および訓練も集団事犯取り締まりに重点が置かれ，催涙弾，投石防護用の網，楯(たて)，装甲車などを備える。1934年(昭和9)警視庁本部に特別警備隊を設けたのに始まり，その後予備隊を経て現在に至っている。〔井上公耳〕

きどうばくだん【軌道爆弾】 核弾頭を装備した衛星を人工衛星軌道に打ち上げ，1周ないし2，3周してからロケットエンジンに点火し，核弾頭を目標に命中させる爆撃兵器体系のこと。アメリカ合衆国国防省は，ソビエト連邦がすでにこの兵器の開発を終わり配備を決定したと言明(1969年1月21日)している。この爆弾は長さ約2m，直径1.2mで，1〜3メガトンの核弾頭を備えるとされている。

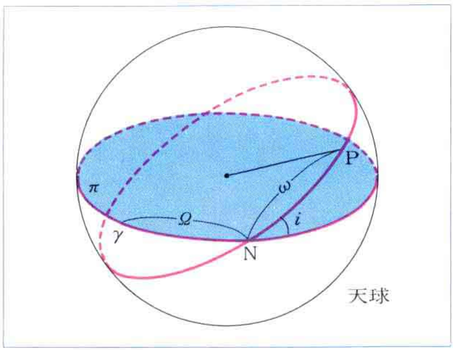
きどうぶたい【機動部隊】 特別の任務に応じ長期間広い海域を迅速に行動することができ，しかも攻撃能力の大きい艦船を集めて編成した艦隊。海軍作戦では作戦地域を適当に区分し，各区域を半恒久的に担任する部隊を配置するとともに，遠く敵軍事基地を攻撃させるとか，敵主力の動向に応じて自由に運用するため機動力のある攻撃部隊を控置しておくのが通常である。太平洋戦争中，日本海軍は，アメリカの有力な航空母艦群を基幹とした部隊を機動部隊とよんだ。しかしアメリカではこれをタスク-フォース(特別任務部隊)と称していた。なお，陸軍でも歩兵部隊に比べて機動力の大きい部隊，たとえば機械化部隊などを機動部隊とよぶことがある。空軍では空挺(くうてい)部隊・ヘリボーン攻撃部隊(ヘリコプターによる輸送部隊)を総称して空中機動部隊という。→艦隊〔森田 哲〕

きどうようそ【軌道要素】万有引力によって互いに引力を及ぼし合う2質点の運動を定める六つの定数。ケプラーの要素ともいう。基準となる平面内での基準点をγとする。軌道面と基準面の交わりのうち，基準面を南から北へ横切る点を昇交点(N)，軌道上で中心にいちばん近い点を近日点といい，中心と近日点を結んだ直線が天球と交わる点をPとする。γとNの角距離を昇交点黄経(Ω)，NとPの角距離を近日点引数(ω)，基準面と軌道面との傾きを軌道傾斜角(i)と名づける。Ωとiは空間における軌道面を定め，ωは軌道面内における軌道の向きを定める。軌道の形は長半径(a)と離心率(e)で，軌道上の位置は近日点通過の時刻(T)で表わす。このΩ，ω，i，a，e，Tが軌道要素である。〔木下 宙〕

きとくけん【既得権】人がすでに取得した権利*。自然法上，既得権は国家といえども侵害することはできないとされるが，絶対的効力をもつものではない。既得権は，法律の不遡及(ふそきゅう)の原則で保護されており，遡及効*が認められる場合でもこれを害しないように保護されている。また行政命令や行政処分*などの取り消しに際しては，既得権は尊重しなければならないことになっている。

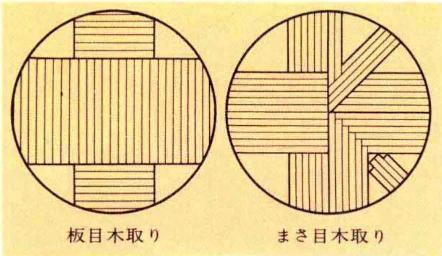
きどこういち【木戸幸一】(1889～1977) 政治家。木戸孝允*(たかよし)の孫。東京都出身。京都大学卒業。農商務省にはいり，1930年(昭和5)牧野伸顕(のぶあき)のもとで内相秘書官となったが，二・二六事件*で辞職。1937年第1次近衛(このえ)内閣の文相兼厚相。1940年内大臣となり，翌年東条英機*(ひでき)を首相に推薦し，東条内閣成立に大きな役割を果たした。第2次世界大戦後は，A級戦犯として極東国際軍事裁判*で終身禁錮刑(きんこけい)に処せられたが，1953年仮出所した。著書に《木戸幸一日記》がある。〔岸野淳子〕

きどたかよし【木戸孝允】(1833～1877) 明治初期の政治家。長州藩出身。はじめ桂(かつら)小五郎，のち藩命で木戸貫治と改め，準一郎と称した。号は松菊。吉田(よしだ)松陰の門にはいり，のち斎藤弥九郎(やくろう)に剣術を，江川太郎左衛門(たろうざえもん)に西洋砲術を学んだ。1858年(安政5)江戸に上り，藩政の指導的地位について尊攘(そんじょう)から討幕へと藩論を導いた。1866年(慶応2)薩長(さっちょう)連合*の密約の締結に活躍。王政復古後は〈五箇条の御誓文*〉の草案修正，版籍奉還*・廃藩置県*の実現に努力し，1870年(明治3)参議に就任。翌年岩倉具視(ともみ)らと欧米を視察，1874年征韓論*(せいかんろん)を阻止して，内治至上主義立憲政治を主張した。同年文部卿(もんぶきょう)を兼任しさらに一時内務卿を兼ねた。征台の役*に際しては強硬に反対して入れられず政府を去ったが，翌年妥協が成立して参議にもどり，第1回地方官会議議長となった。翌年内閣顧問となり閑職に退いた。西南戦争の際病死した。〔岸野淳子〕



軌道要素


木戸孝允



木取り


キトン 左はドリス式キトン，右はイオニア式キトン


キートン
《キートン将軍》

ギド-ダレッツォ［Guido d'Arezzo］(992ごろ～1050ごろ) イタリアの音楽理論家。トスカナ地方のアレッツォに生まれた。ギドの業績としては，今日のように，3度の間隔で置かれる4線による楽譜の確立があげられる。これはのちの音楽様式の発展に不可欠なものとなった。また，楽譜を見て歌うことを容易にするために，音楽の第1音から第6音までに，聖ヨハネの賛歌のことばから，ウト(のちのイタリア式のド)・レ・ミ・ファ・ソル・ラの名を与え，今日でも使われている。なお，階名*を覚えやすくするために左てのひらを使う方法があり，これはギド自身によるものではなく，彼の死後100年ごろに体系化されたと考えられるが，彼の名にちなんで，ギドの手とよばれている。〔徳丸吉彦〕

きどり【木取り】丸太や大形の木材から所要の寸法，品質の板や角材をひき割るとき，木目や傷などを考えに入れて廃材が少ないように計画し，断面(木口)に墨をさして計画線を引くこと(墨掛け)。板目木取りは簡単で幅広のものが得られ，廃材も少なく歩どまりがよい。柾目(まさめ)木取りは計画がめんどうで歩どまりも悪いが，良質の木材が得られる。木取りではのこびきによるひき減り量も考えに入れる。広葉樹は針葉樹よりかたく，曲がり材も多く，歩どまりは悪い。→木材〔難波蓮太郎〕

きどるいげんそ【希土類元素】周期律表第Ⅲ族に属する原子番号57のランタンから71のルテニウムまでの元素は，性質がきわめてよく似ているのでランタニド族元素とよび，これらとその性質がよく似ているスカンジウムとイットリウムを加えた17種の元素を希土類元素という。これらの元素は外殻(がいかく)電子数は同一で，比較的内部に位置する電子の数が異なるだけなので，その性質がよく似ている。

キトン［chiton］古代ギリシアの衣服。長方形の1枚の布を裁断せず，貫頭衣*のようにまとった。女子は足首まで，男子は女子より短めで，子どもや軍人はひざまでのものを用いた。紀元前6～紀元前2世紀ごろにかけて着用され，両肩をピンで留めるドリス式と，肩に多くの留め金があり，たすきをかけたりするイオニア式の二つがあった。

キートン［Buster Keaton］(1896～1966) アメリカの喜劇俳優。3歳のときから両親とともにミュージック-ホールに出演。1917年映画界にデビュー。その後トーキーの出現によって急速に人気が衰えるまで，チャップリン*・ロイド*と並んでアメリカのサイレント喜劇映画の三大スターであった。なにごとにも動じない表情に個性がみられ，その底に社会のメカニズムと人間の関係を感じさせる。代表的な作品に《海底王キートン》《キートン将軍》《キートンのカメラマン》



キナノキ　アカキナノキ

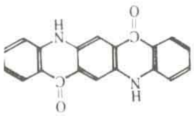


キナバル山　熱帯の高山であるため，高度による植物の分布が見られ，鳥類も種類が豊富である。付近一帯は国立公園になっている

などがある。　〔波多野哲朗〕

きない　【畿内】 ⇨五畿七道

キナクリドンがんりょう　【キナクリドン顔料】 淡彩でフタロシアン顔料に匹敵する耐光性を有する赤～紫の顔料。製造方法の差異によってα・β・γの3種の結晶形のものが得られる。α形は黄みのある赤，β形は紫，γ形は青みのある赤である。

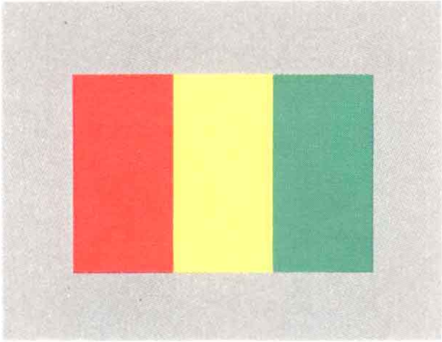


きなこ　【黄粉】 ダイズを金網上で直火でいり，荒砕きして皮を除いたのち粉にしたもの。よいかおりをもち，栄養に富み，かつ消化率も煮豆やいり豆に比べてかなり高い。黄ダイズを原料としたものが普通であって，黄かっ色を呈するが，青ダイズを原料としたものは淡緑色のあざやかな色である。砂糖と混ぜたきなこは，萩(はぎ)のもち・安倍川(あべかわ)もち・きなこもち・きなこ団子として愛用され，これを材料にした日本菓子は非常に多い。　〔佐藤友太郎〕

きなしのかるのたいし　【木梨軽太子】 生没年不詳。允恭(いんぎょう)天皇の皇子。母は皇后忍坂大中姫(おしさかのおおなかつひめ)。容姿佳麗，見る者嘆ぜざるはなかったという。同母妹軽大娘(かるのおおいらつめ)皇女もまた艶麗(えんれい)であったため，ついに皇子はひそかにこれと通じた。これが占いで発覚したため，天皇の死後皇子は弟の穴穂皇子(のち安康天皇)らの反対にあい皇位継承の争いとなったが，敗れて自殺したといわれ，また伊予(いよ)(愛媛県)に流されたともいわれる。《万葉集》に皇子の歌というのがある。　〔黛　弘道〕

きなのき　【規那樹】 双子葉植物・アカネ科・キナ属の総称。南アメリカのアンデス山脈の北部と中部の東麓(とうろく)原産で400種にも及ぶ。高木または低木で，葉は対生し楕円(だえん)形革質で全縁。花は枝端に円錐(えんすい)花序に白花をつける。花冠は筒形で先端が5裂し，星形に開く。果実は紡錘形の蒴果(さくか)で二つに裂け，内に有翼の微細な種子が多数ある。樹皮はキニーネ*を含み，古くインカ人の間でも解熱・強壮剤として用いられた。1632年ヨーロッパに伝わり，1865年にオランダ政府がジャワで栽培に成功し，以来世界の産額の90%以上はジャワで産する。原産地では絶滅に近い。おもに栽培されているアカキナノキは20m以上の高さになり，樹皮は赤かっ色。樹皮にキニーネなど多くのアルカロイド*を含み，マラリアの治療薬となる。　〔横井朝子〕





ギニアの国旗　1958年制定。赤は独立運動の戦いで流された血，黄色は国富と太陽，緑は木の葉と森林を象徴している



ギニア　首都コナクリ郊外のマーケット風景。露天に店が張りだされ，魚などが売られている。住民はバンツー系の黒人で占められている

キナバル(山)　[Kinabalu]　ボルネオ島北部にある高山。標高4,101mで，頂上は平坦(へいたん)であるが，1,500mもある急崖(きゅうがい)をもってそびえている。この山を起点にして島のほぼ中央部を南西に走る山系は，ボルネオ島の脊梁(せきりょう)山脈となる。

ギニア(人民革命共和国)　[People's Revolutionary Republic of Guinea]　アフリカ大陸西部，ギニア湾の西端に位置する黒人共和国。面積24万6,000km²。人口501万(1978年推)。首都はコナクリ。

【自然・住民】 国土の大部分が500～600mの高原で，海岸に狭い平野がある。内陸の高原地帯は東北に流れるニジェール川や，北上するセネガル川の水源地域を含む。海岸は砂州や潟湖(せきこ)が多く，遠浅で，良港に恵まれていない。高原の北部は熱帯サバナ気候，南部は熱帯雨林気候で，海岸部は高温多湿である。住民はバンツー系の黒人であるが，北部のトアレグ族との混血人種もいる。公用語はフランス語。

【産業・経済】 鉱産物は鉄・ボーキサイト・ダイヤモンド・クロムなどが豊富で，特にボーキサイトは世界有数の埋蔵量を誇り，独立後も外国資本によって開発が進められている。バナナとコーヒーは輸出されて，この国の主要な収入源となっている。首都コナクリから内陸都市カンカンへ660kmの鉄道が通じている。

【歴史・政治】 19世紀以来フランス領西アフリカの一部であったが，1958年9月国民投票によりドゴール憲法に反対し，10月フランスの支配から独立して共和国となった。独立後フランスとの関係は悪化し，1965年にはフランスとの国交を断絶してソ連など社会主義諸国に接近し，ガーナのエンクルマ首相のパン-アフリカニズムに好意を示していた。しかし，エンクルマの失脚後はガーナとの関係も悪化している。議会は一院制で任期5年。　〔小栗　宏〕

ギニア(海流)　[Guinea]　アフリカ大陸西部，ギニア湾に環流をなす，北赤道海流の一分流。沿岸一帯は同大陸でも有名な暑熱・多湿の地であるが，この暖流がその原因の一つとみられている。

ギニア-ビサウ(共和国)　⇨ポルトガル領ギニア

ギニア ひひ　⇨ヒヒ

キニクは　【キニク派】 ⇨キュニコス派

キニーネ　[quinine]　アカネ科のキナ属植物の樹皮に含まれるアルカロイド*の一種。

原産は南アメリカであるが，おもな産地はジャワ・スマトラなど。一般にマラリア治療剤として著名であるが，このほか解熱作用もあり，強壮・高血圧・脈搏(みゃくはく)不整などにも用いることもある。医薬品としては塩酸塩または硫酸塩として使用するが，いずれも白色の結晶で，味はきわめて苦い。副作用としては嘔吐(おうと)・発疹(はっしん)・耳鳴り・視力障害などがある。〔江本龍雄〕

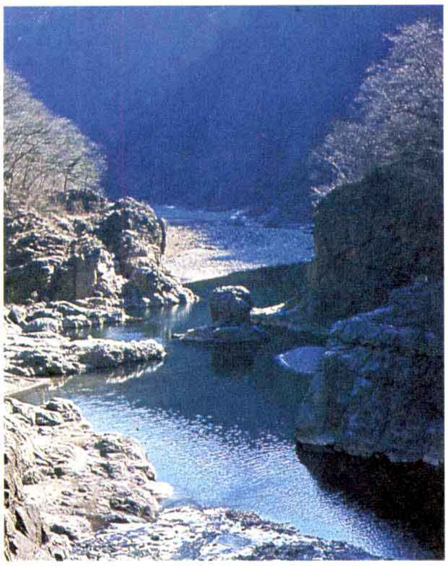
ギニョール ⇨人形劇

きぬ【絹】 カイコのつくる繭からとった動物繊維。養蚕と製糸の技術によって絹繊維を得ることは紀元数千年前に中国で創始され，紀元前後には陸路いわゆるシルクロード*を通って西欧に移入された。6世紀には中国の絹独占が破れてヨーロッパにも養蚕・製糸が起こった。日本へは古代に伝えられ，わが国は絹生産国として発展した。現在は日本が世界生産量の大部分を占め，中国・イタリア・フランスなどが少量を産出する。製糸は，繭を煮て5〜7個から繊維をほぐし出し，1本に合わせて生糸とする工程で行なう。繭からとる1本の糸は2本のフィブロイン(絹繊維)とセリシン*(絹膠(きぬにかわ))とからなる。これをアルカリ類で精練すると，セリシンが除かれて練り糸となる。生糸は太さ2〜3デニール*，繭1個からとれる長さはふつう800〜1,200mである。絹繊維は，細く長く柔らかで強く弾性に富み，酸には抵抗力があるが熱・アルカリには溶解する。染色しやすく美しい色彩が得られるが，日光にさらすと弱くなる欠点がある。これらの性状にしたがって，絹織物は薄地で軽くドレープ性があり，装飾的な用途に最もその特色を発揮し，色沢のすぐれた衣料・家具装飾などに用いられる。なお，家蚕絹糸のほかに，野外に生育する野蚕絹糸として柞蚕糸(さくさんし)・山繭糸などがある。〔小川安朗〕

きぬいと【絹糸】 カイコのつくる繭から引き出した糸の総称。カイコの種類によって家蚕絹糸・野蚕絹糸の区分がある。繭から引き出した糸を数本以上合わせて糸を形づくる連続繊維糸のほかに，絹短繊維を紡績した絹紡糸(紡績絹糸)がある。普通の繭からとった正絹糸のほかに，玉繭(2匹のカイコがつくった1個の繭)から繰り糸したものを玉糸といい，節のあるのが特徴。野蚕絹糸には，柞蚕糸(さくさんし)・山繭糸などがある。絹糸の主要用途は絹織物*であるが，縫い糸・編み糸・網糸としても用いられる。➔絹 ➔生糸 〔小川安朗〕

きぬおりもの【絹織物】 絹糸で織った織物の総称。

〔歴史〕絹織物は紀元数千年前に中国で創製され，紀元前後にはシルクロード*を通って地中海文明の中へもたらされた。6世紀ごろから地中海諸国にも絹織物生産が始まり，以来サラセン・コプトなどの染織物，イタリア・フランスなどに絹織物の隆盛を



鬼怒川　鬼怒川温泉郷の上流にうがたれた龍王峡の冬景色。渓谷美にすぐれ，日光国立公園に含まれる。この左岸の上を川治温泉へ通ずる国道121号線が走っている

みた。日本の絹織物はすでに3世紀ごろには相当に発達していたことが《魏志倭人伝*(ぎしわじんでん)》にみえ，以後大陸の技術の導入によって高度に発達し，中世以来高級絹織物の製出によって特異な絹織物文化を打ち立て，江戸時代には和服の発達とともに種種の豪華美麗な絹織物が織り出され，明治維新後は日本の絹織物は輸出によって国際的な名声を獲得するまでに至った。

〔種類〕生糸を織ってのちに精練・染色する生織物と，生糸をはじめに精練し，あるいは染色して織物とする練り織物とがある。生織物は，多くは白無地・色無地・捺染地(なっせんじ)などとして生産される。多湿の気候が適するためにわが国の絹の生産地は，福井・石川・富山・京都などの諸府県に発達した。その品種は，羽二重・縮緬(ちりめん)・クレープデシン・繻子(しゅす)・生絹・綸子(りんず)・絽(ろ)などである。練り織物は，精練しあるいはさらに染色した絹糸で織られるので，無地物・しま・格子(こうし)・かすり・紋(あや)織りなど，色・がらを織り出す製品が多い。わが国では養蚕地を中心として地方的に特色ある練り織物を産出する。京都西陣をはじめとして博多(はかた)・桐生(きりゅう)・米沢(よねざわ)・八王子などが著名な産地で，その品種は琥珀(こはく)・博多織・御召(おめし)・銘仙(めいせん)・紬(つむぎ)・甲斐絹(かいき)・錦(にしき)などが代表的のものである。

絹織物は，薄地・軽量・精巧で触感がすぐれ，装飾的価値に富むことを特徴とする。また，染色が容易で色彩が華麗・豊富なので装身的な和服地に賞用される。友禅染め・絞り染め・綴(つづれ)織り・錦などの高級絹織物がそれで，礼服・訪問着などに用いられる。一方，実用的な絹織物としては銘仙・紬・富士絹などが日常着として使われる。最近は合成繊維が絹織物の分野に進出してきたが，高級衣料としては，なお絹織物が尊重される。

〔取り扱い〕絹織物の取り扱いには注意が必要で，洗たくは中性合成洗剤で軽く行なうか，ドライクリーニングによる。絹和服には従来洗い張りが行なわれた。白地のものは黄変する傾向があるのでせっけん洗いや日光乾燥を避ける。衣服のえり・そで口などよごれやすい部分は，たえず揮発油などでよごれを落とすとよい。〔小川安朗〕

きぬがさたけ【絹傘茸】 担子菌類・スッポンタケ科。夏〜秋に竹林・樹下・庭園などの地上に孤立発生する美しい女王のようなきのこ。幼菌はウズラの卵(約4cm)に似て白色〜淡紫かっ色である。生長して高さ10〜20cmになり，頂部は鐘形で網状の表面をもち，この下辺から純白色のレース状のマントを広げる。頂部の網状の部分のくぼみには暗緑色で独特の臭気のある胞子液がある。根もとには灰白色のつぼがある。胞子を洗い流すと白色・無臭となる。珍味をもつ食用菌で，多量に発生することがないため珍重される。〔曾根田正己〕

きぬがさていのすけ【衣笠貞之助】(1896〜1982) 映画監督。三重県の生まれ。幼時から舞台に立ち，女形として映画に出演した。1923年(大正12)，マキノ-キネマから映画監督としてデビューし，昭和初期の無声映画時代には最も前衛的な映画作家のひとりだった。トーキー以後は主として商業的な時代劇映画*に才能を示し，《雪之丞変化(ゆきのじょうへんげ)》などの代表作がある。1953年(昭和28)の《地獄門》はカンヌ国際映画祭でグランプリを受賞した。〔佐藤忠男〕

きぬがさやま【衣笠山】 京都市街の北西にある標高201mの小丘陵。北に大文字山があり，東側のふもとに鹿苑(ろくおん)寺(金閣)，南西麓(ろく)には石庭で名高い龍安(りょうあん)寺や仁和(にんな)寺などがある。山頂にはNHKの送信所が置かれている。

きぬかつぎ【衣被】 小粒のサトイモ(特に新芋)を皮つきのまま蒸すか，ゆでるかしたもの。上皮を指先ではさみ上げるような感じで軽く押すと容易に皮がむける。平安時代，婦人が外出着に用いた衣被(きぬかずき)に似ているところから名づけられたともいう。塩かしょうゆをつけて食べる。月見の献立にはよく用いられ，十五夜の異名〈芋名月〉はこれに由来する。また，土のついたまま貯蔵したサトイモを用いて，花見の献立にもする。

きぬがわ【鬼怒川】 利根(とね)川の最も大きい支流。栃木県西北部の奥日光山地に発して東流し，高原山の西麓(せいろく)で支流の男鹿(おじか)川を合わせて南に転じ，平野部に出てからは関東平野を南下，水海道(みつかいどう)市(茨城県)付近で利根川に合流する。流程178km。水源は鬼怒沼山。上流部はうっそうとした森林の中を渓流(けいりゅう)となっ

て走り，そのほとりに点々と温泉がわいて，野趣あふれる奥鬼怒温泉郷を形成する。高原山の裾(すそ)あいは峡谷をなし，鬼怒川温泉*とともに有名な川治温泉*がある。水源から鬼怒川温泉付近までは日光国立公園に所属している。古くから電源開発が行なわれ，鬼怒川発電所の最大出力は12.7万kWである。平野部を広く灌漑(かんがい)しているが，同時に水害も多い河川である。利根川はもと東京湾に注いでいたが，河道を改修してこの川と結び，この川の下流が利根の本流となった。〔長津一郎〕

きぬがわおんせん【鬼怒川温泉】栃木県塩谷(しおや)郡藤原町にあり，泉温34～60℃，泉質は単純泉で，胃腸病・神経痛・切り傷・リウマチにきくといわれる。鬼怒(きぬ)川渓谷(けいこく)両岸の岩崖(がんがい)上に近代的な旅館街がある。1688年(元禄1)に発見され，滝ノ湯または下滝温泉ともよばれる。江戸時代には日光山の神域で僧侶(そうりょ)の専有の湯治場とされ，一般人の入浴は禁じられていた。その後藤原部落にも温泉が発見され，現在では下滝・大滝・鬼怒川を合わせた温泉郷となり，関東地方の代表的行楽地となった。付近には龍王峡(りゅうおうきょう)・鬼怒大滝・虹見滝(にじみたき)・野猿(やえん)公園・鬼怒川温泉ロープウエー・鬼怒川ラインドり・スキー場などもあり，東京方面からも便利なので四季を通じてにぎわう。交通は東武鉄道鬼怒川温泉駅下車が便利。

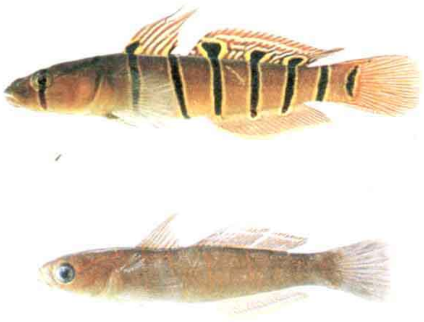
きぬこまちいと【絹小町糸】手縫い糸の一種。絹紡績糸で，絹縫い糸より弱く下級品であるが，価格が安く風合いがよいので，絹縫い糸の代用として使われている。

きぬざる【絹猿】哺乳(ほにゅう)類・霊長目・マーモセット科のサルの総称。南米にすむ小形の広鼻猿。頭胴長20cm以下。足の親指以外はかぎづめをもつ下等なサル。柔らかくて美しい毛をもち，ポケットモンキーとよばれてペットにされる。雑食。群れをつくり，2～3頭の子を産む。

きぬた【砧】能の曲名。世阿弥*(ぜあみ)作。四番目物。筑前(ちくぜん)(福岡県)芦屋(あしや)の男が訴訟のため都に上り，久しく帰って来ない。3年めに侍女夕霧が帰り，この秋には必ずもどると伝えるが，妻は悲しみに沈んだまま，おりから民家で打つ砧の音を聞き，また夕霧ともども自身も砧を打ちながら寂しい一夜を明かす。やがて都からはさらに使いが来て，この秋にも夫は帰らぬと知らされ，妻は病いにかかって死んでしまう。夫はそれを聞いて帰国し，供養するとともに，梓弓(あずさゆみ)を鳴らして妻の霊を呼び出す。妻の霊は現われて綿々と恨みを述べるが，《法華経(ほけきょう)》の力で成仏する。世阿弥は，このような味わいは後世理解する者もあるまいから残しておくのもどうかと思うと言ったというが，現在でも能の最高傑作の一つとされる。シテは妻，ワキは夫，夕霧はツレ，夫の家臣をワキヅレと間狂言(あいきょうげん)がつとめる。〔長尾一雄〕



キヌザル



キヌバリ (上)キヌバリ (下)チャガラ

きぬた【砧】東京都世田谷(せたがや)区砧1～8丁目および砧町のあたりをいい，1936年(昭和11)までは東京府北多摩郡砧村であった。六郷用水の流れる農村であったが，いまは住宅地として開発されている。なお，砧は織物や洗たく物をたたいて柔らかくし，また目をつめてつやを出す用具の名で，大和時代に朝鮮からの移住者が，税として朝廷に納める布を多摩川でさらして，砧をうったことからおこった地名といわれ，付近の調布とともに帰化朝鮮人に関係のある地名である。〔浅井得一〕

きぬたこつ【砧骨】中耳にある三つの耳小骨の中の一つ。人骨中最も小さい。➔中耳

きぬばり【帛張】硬骨魚類・ハゼ科。全長12cm内外に達する海産魚。体はほぼ円筒形で細長い。体側に普通6条の鮮明な黒色横帯があり，地色は幼時は無色かわずかに黄色をおびた透明。成長すると淡紅色の地色になる。東北地方以南の日本全土，朝鮮南部に分布し，海藻(かいそう)の多い岸べに普通に見られる。同属の魚チャガラは，形と大きさがよく似るが，地色は美しい淡紅色である。千葉・新潟県以西の日本全土，朝鮮南部に分布し，岸近くに群れることが多い。両種ともに美麗な体色をしていること，水底を離れて中層または表層に浮いているなど，普通のハゼ類とはやや趣をことにしている。どちらも食用にはしない。

きぬやなぎ【絹柳】双子葉植物・ヤナギ科の落葉小高木。本州・四国・九州に広く栽殖される。高さ3～4m。枝は直立し灰色の軟毛が密生する。葉は互生，披針(ひしん)形で，縁に不明瞭(ふめいりょう)な鋸歯(きょし)があるが，普通は内側に巻き込まれていて見えない。表面は濃緑色で無毛，裏面に白色の絹毛がある。雌雄異株で，早春，葉の出るまえに，白絹毛が密生し，中に葯(やく)だけが見える雄穂が出る。葯ははじめ赤色でのち黄色になる。雌花は知られていない。

キネティック-アート［Kinetic art］動く芸術または動きの芸術。歴史的には，1913年にデュシャン*が自転車の車輪を使ったのをはじめ，ガボ*・モホリ-ナギ*らがあり，カルダー*は1932年に風によって動くモビールをつくった。1960年代にはいって，環境芸術への志向が強まって急速に隆盛し，傾向もさまざまである。観客が作品の一部を自由に動かせる可変芸術(アガム・小橋康秀(やすひで)・ファールシュトレームら)，動力によって作品そのものが動くもの(ティンゲリー・シェフェール・ブリ・コロンボら)，さらに電気やエレクトロニクス*の導入(EATなど)によって光と動きの芸術の性格を強め，光そのものも素材となった。光の反射など多様な効果を意図するもの(視覚芸術探求グループ，ゼロら)，ネオンなど発光体そのものを使うもの(クリッサ・フレビンら)などがある。〔三木多聞〕

きねやえいぞう【杵屋栄蔵】長唄(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)。今日まで4世を数える。初世(1829～1877)は3世杵屋勘五郎*のこと。特に3世(1890～1967)が有名で，5世杵屋勘五郎の弟子(でし)。《お七吉三》《雪女郎》などを作曲し，歌舞伎座(かぶきざ)で活躍した。著書《長唄の唄い方》《長唄根岸集》。

きねやかつさぶろう【杵屋勝三郎】長唄(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)。今日まで7世を数える。特に2世(1820～1896)が有名で，《都鳥》《鞍馬山(くらまやま)》《時雨西行(しぐれさいぎょう)》《連獅子(れんじし)》《船弁慶》などの作品を作曲した。

きねやかんごろう【杵屋勘五郎】長唄(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)。今日まで6世を数える。特に〈根岸の勘五郎〉とよばれた3世(1829～1877)が有名で，《四季の山姥(やまんば)》《竹生島(ちくぶしま)》《綱館(つなやかた)》などの作品がある。大薩摩節*(おおざつまぶし)の研究家としても重要で，《大薩摩四十八手》などの著書がある。

きねやさきち【杵屋佐吉】長唄(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)。今日まで5世を数える。初世(18世紀末)は《黒髪》《蜘蛛拍子舞(くものひょうしまい)》などを作曲した。4世(1884～1945)は低音三味線や電気三味線を製作した進歩的人物で，歌詞を伴わない三絃(さんげん)主奏楽のほか，子ども用に《カニの床屋》などの作品も発表した。

きねやじょうかん【稀音家浄観】長唄

(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)。今日まで2世を数える。2世(1874～1956)は初世(1839～1917)の子で，3世杵屋六四郎であった。近来の長唄三味線の名人で，4世吉住小三郎とともに長唄研精会を興して長唄の歌舞伎(かぶき)からの独立を図り，演奏会制度を確立した。また，小三郎とともにわかりやすい楽譜の形で長唄を普及させた功績も大きい。作品には《熊野(ゆや)》のほか，小三郎との合作になる《紀文大尽》《神田祭》がある。東京音楽学校教授としての活動も重要で，これらの功により1948年(昭和23)芸術院会員となり，1955年には文化勲章を受けた。

きねやろくざえもん 【杵屋六左衛門】 長唄(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)・唄方。杵屋姓の宗家といわれ，今日まで14世を数える。別家9世(？～1819)は《越後獅子(えちごじし)》《大原女(おはらめ)》の作曲者として名高い。別家10世(1800～1859)は《助六》《五郎》などのほか，歌舞伎(かぶき)と関係のないお座敷長唄のジャンルを確立して，品格のある歌詞を伴う《秋色種(あきのいろくさ)》《鶴亀(つるかめ)》などの名作を残した。14世(1900～　)は現在唄方の重鎮をなしている。

きねやろくさぶろう 【杵屋六三郎】 長唄(ながうた)の三味線方(しゃみせんかた)。今日まで11世を数える。4世(？～1855)は《勧進帳》のような劇場長唄のほか，お座敷長唄の最初の作品といわれる《老松(おいまつ)》や《吾妻(あづま)八景》《松の緑》など，今日の基本的演目に属する曲を作曲した。1840年(天保11)杵屋六翁に改名。

きねんきって 【記念切手】 ⇨郵便切手

きねんさい 【祈年祭】 〈としごいのまつり〉ともいう。〈とし〉は穀物をさしたことばで，春に五穀の豊穣(ほうじょう)を神に祈る祭りの意味である。農耕生活を基盤とした日本民族にとって，秋の収穫期に行なわれる新嘗(にいなめ)祭とともに，特別の信仰的意味を認めてきたのはごく自然であろう。延喜式によれば，毎年2月4日に全国3,132座の神神に対して幣帛(へいはく)を奉り，この祭りを行なっている。しかし，このような国家的神事もしだいに衰退し，応仁(おうにん)の乱以後は廃絶したが，1869年(明治2)に至り再興され，2月17日に全国の神社で祈年祭を行なうように定められた。第2次世界大戦後は国家の祭事としては実施されないが，おおよその神社では自主的に古儀を踏襲している。 〔土岐昌訓〕

ぎねんりん 【偽年輪】 熱帯地方の樹木のように生育休止期のないものや，温帯地方で年輪を形成する途中の樹木が害虫や寒さなどの被害を受けたとき，一時生長が衰えてできる年輪状の輪。

きのう 【気嚢】 鳥類の肺から出ている壁の薄い袋状の器官。普通は5対あり，そのうち1対は融合して一つになっているので，合計九つの袋がある。この袋は肺に続いており，内部に空気を満たし，主要部に



木内克《女》1956 東京国立近代美術館蔵

は空気の出入りがある。気嚢は内臓の間のすきまを埋めており，また気嚢の突起が主要な骨の内部の空所にはいりこんでいるものが多い。気嚢の役割についてはまだ不明であるが，袋の内面からの水分の蒸発による体温調節機能はあるといわれている。 〔浦本昌紀〕

きのう 【帰納】 あるクラスの一部の成員について観察し，そこから得られた特殊な命題を前提としてそのクラスのすべての成員についての普遍的な命題を導く推理。これはいくつかの個別的事象を手がかりに一般的法則に達しようとするものであるから，前提に含まれている以上の内容が結論で主張されており，したがって，前提は真であっても結論が真となるとはかぎらない。結論の真は蓋然(がいぜん)的である。この蓋然性は前提に新しい内容が加えられることによって影響を受ける。演繹(えんえき)が形式的推理であるのに対し，帰納は内容的推理といえる。➔演繹 〔石倉恒之〕

ぎのうオリンピック 【技能オリンピック】 国際職業訓練競技大会の通称。技能五輪ともいう。1950年(昭和25)の第1回大会以来ヨーロッパを中心として発展してきた。わが国は1962年の第11回大会から参加し，毎回多数の優勝者を出している。職業訓練所(➔職業訓練)で修得した技能を競い合い，青少年教育の水準向上と国際親善をめざすものである。わが国の場合には，公私の職業訓練所はきわめて少なく，ほとんど個別企業においてその機能が代行されている。それゆえ，選手は企業内で選抜された者となり，ヨーロッパとはかなり異質なものとなっている。 〔国近浩一〕

ぎのうしゃようせいこう 【技能者養成工】 工場労働者などで，従来は徒弟とよばれていた者をいう。労働基準法は，日本特有の徒弟制度に伴う封建的酷使を禁止し，技術の習得に必要な限度で特例を認め，名称も徒弟を技能者養成工と改めた。技能者養成工の保護のために，①酷使すること，私用に労働させることの禁止，②職業訓練を受ける労働者について，技能の習得に必要な場合にはその限度で長期契約にするなどの特例を認めている。 〔木元錦哉〕

きのうしゅうだん 【機能集団】 特定の機能を果たすことを目的として，人為的に形成された集団。国家・政党・企業・組合などがそれである。第2次集団・派生的集団ともいわれる。家族・村落のような血縁・地縁に基づく基礎集団(第1次集団)に対応する概念である。近代社会においては，産業化・都市化の進展とともに，基礎的集団に対して機能的集団が優位を示すようになってきている。

きのうしゅぎ 【機能主義】 19世紀末以来有力に唱えられるようになった科学方法論の一つで，近代諸科学の発展に大きな影響を与えた。機能とは事物の働きを意味し，この立場は，事物の本質や実体や原因についての科学的説明は成立しないものと考え，現象とその諸関係を動的・連関的・連続的に認識すべきだと主張する。その点では，機械的唯物論に対する反発から生じてきたともいえる。機能的な観点を重要視することは近代科学の一般的特徴であるが，特に上記のような意味で方法論的に機能主義的とよばれるものとしては，ダーウィンの進化論的生物学，キャッテルらの機能心理学，ワトソンらの行動主義心理学，マリノフスキーの構造主義的人類学，パウドらの社会工学的方法による法学などがあげられる。 〔米沢克夫〕

きのうしゅぎしんりがく 【機能主義心理学】 精神現象の要素的事実のみに注目する構成心理学の研究態度に反対し，環境に適応するように働く精神作用に注目した心理学。歴史的にはダーウィンの進化論の思想の流れをくみ，前世紀末から今世紀の初めにシカゴ大学を中心に最も盛んであったところからアメリカ的思想の心理学ともいわれる。W.ジェームス・エンジェル・ミード・デューイらが代表者。

きのうせいしきゅうしゅっけつ 【機能性子宮出血】 腫瘍(しゅよう)・炎症・妊娠などと関係なく起こる不正子宮出血。主として内分泌失調が原因で，初潮後および閉経前の数年間は，この種の出血の頻度(ひんど)が比較的多い。診断上重要なのは器質的疾患を除外することで，特に更年期に起こる出血では，子宮癌(しきゅうがん)との鑑別が必要である。

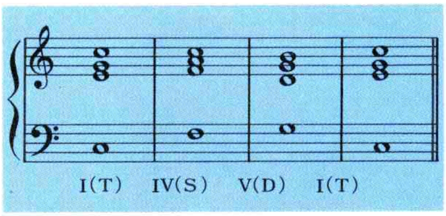
きのうちよし 【木内克】 (1892～　) 彫刻家。水戸(みと)市の生まれ。1914年(大正3)朝倉文夫の彫塑塾(ちょうそじゅく)にはいり，彫塑を学ぶ。1916年から文展に出品，1921

年から1935年(昭和10)までパリに滞在してブールデルに師事，サロン-デ-ザンデパンダンやサロン-ドートンヌなどで活躍，1930年ごろからテラコッタ技法を習熟，帰国後1941年までは二科展に出品した。第2次世界大戦後は新樹会に属し，1951年サンパウロ-ビエンナーレ展に出品，同年毎日美術賞を受け，1958年ベネチア-ビエンナーレ出品。アルカイック彫刻(→アルカイック美術)の影響を受け，動的な形体の作風とひねり彫刻で知られている。代表作に《女の顔》《猫(ねこ)》《婦人誕生》などがある。〔陰里鉄郎〕

きのうはきょうのものがたり 【きのふはけふの物語】 噺本(はなしぼん)の一。作者未詳の笑話集。江戸初期の成立で，約230編の笑話を集めている。当時の作品に多くみられる教訓的意識は希薄で，純粋な笑話集といえる。文章はやや粗雑だが，飾らない口語調でつづられ，内容によく合っている。異版本が多く，当時よく流行したことがうかがわれる。

きのうほう 【気脳法】 エンツェファログラフィーともいう。脳のレントゲン診断法の一方法。座位で腰椎穿刺(ようついせんし)によって脳脊髄液(のうせきずいえき)を除去し，等量の空気と置換してレントゲン撮影を行なう。脳脊髄腔(のうせきずいこう)の形の変化や変位から，脳腫瘍(のうしゅよう)・脳外傷・脳萎縮(のういしゅく)などの有無が確かめられる。腰椎穿刺の代わりに後頭部で穿刺することもある。

きのうわせい 【機能和声】 19世紀末ドイツのフーゴー-リーマンによって提唱された和声の解釈法。機能とは和音相互の関係をさし，さまざまな和音を個々の特殊性によってではなく，機能の点から整理してその進行方向を規定する。リーマンによれば，古典的な西洋音楽の中にはトニック(T)，ドミナント(D)，サブドミナント(S)の3種の機能があり，これらはそれぞれ主和音・属和音・下属和音によって最もよく代表されるが，そのほかの和音も上のいずれかの機能をもつものとして整理される。そして，T～S～D～Tという基本的な終止(カデンツ)にみられるように，機能の間にはそれらを結びつける文法があって，これが有意味で様式にかなった音楽をつくると考えられている。この考えは長調・短調の組織をもった18～19世紀の音楽に最もよくあてはまるため，この時代の和声法を機能和声法の名でよぶようになった。しかし解釈法としては，対象をもう少し前後の時代に延ばすことも行なわれており，そのための欠陥も生まれてはいるが，和声の学習を容易にし，旋法による和声法との違いを明らかにした功績は大きい。〔徳丸吉彦〕



機能和声　機能和声法による基本的進行の例



紀ノ川　和歌山県の岩出町(那賀郡)付近を流れる紀ノ川。河床には，ところどころに中生代の和泉砂岩層が現われ，急湍をつくっている。夏はアユつりのさおを振る人たちでにぎわう



キノカワガ

きのえね 【甲子】 ⇨十干十二支

きのかいおん 【紀海音】 (1663～1742) 浄瑠璃(じょうるり)作者。大阪生まれ。本名榎並喜左衛門(えなみきざえもん)。一門に文学者が多い。俳諧師(はいかいし)として活躍し，のち浄瑠璃に筆を染め，豊竹座(とよたけざ)に座付作者として迎えられ，竹本座の近松門左衛門と対抗した。全作品数約50編。代表作に《鎌倉三代記》《お染久松袂白絞(たもとのしらしぼり)》《八百屋(やおや)お七》などがある。文学性において近松に劣るが，理知的で叙事的な作風で知られる。〔前田慎一〕

きのかわ 【紀ノ川】 紀伊(きい)川ともいう。奈良県南東部の紀伊山地に発して，吉野(よしの)付近からは直線的に西に流れ，和歌山市で紀伊水道に注ぐ。上流は吉野川とよばれ，和歌山県にはいって紀ノ川となる。流程136km。水源の大台ケ原山付近は，年降水量4,000mmを越えるわが国でも最多雨の地域である。吉野から下流は構造線紀ノ川断層谷を流れ，下流の河谷斜面は紀州ミカンの産地であり，河口付近では沖積地(ちゅうせきち)が広がって和歌山平野をつくる。上流は吉野杉(よしのすぎ)として知られる美林の山地を流れ，かつてはいかだ流しが有名で，河口の和歌山はその貯水場と製材所，布さらしで知られていた。河口近くで分流する和歌川は，名勝和歌浦に注ぐ。サクラと史跡の吉野山も真言宗の高野山も，この川の南岸に位置する。〔長津一郎〕

きのかわが 【木皮蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。翅(はね)の模様が，コケにおおわれた木の皮を思わせるところからこの名がある。体長18～20mm，翅を広げた長さ35～45mm。雄は体・翅ともに灰かっ色，雌では暗灰かっ色で，ともに著しく暗緑色をおびる。本州・九州・朝鮮・中国に分布し，成虫は7月および晩秋に出現し，燈火にもよく飛来する。成虫で越冬し，幼虫はカキの葉を食べる。

きのくにやぶんざえもん 【紀国屋文左衛門】 生没年不詳。江戸中期，元禄(げんろく)時代(1688～1703)ごろの豪商。略して紀文という。紀伊(きい)(和歌山県)熊野(くまの)の出身。伝説的人物で明確なことは不明。江戸でミカンが品薄のとき，暴風雨をついて紀州ミカンを江戸に輸送して巨利を得，次いで明暦の大火直後，木曾(きそ)の木材を買い占めて巨富を得たと伝えられる。其角(きかく)の弟子(でし)で俳号を千山と称した。しかし，町人のため経済的手腕を発揮する場がなく，資産を遊興のために浪費し，当時の豪商奈良屋茂左衛門(もざえもん)(奈良茂)と対抗して驕奢(きょうしゃ)の限りを尽くした。のち家業の材木問屋が不振となり，剃髪(ていはつ)して深川で死んだ。〔松尾　涼〕

きのこ 【茸】 菌類のうち子実体(胞子形成器官)が大きく肉眼で見られるようなもの，あるいはその子実体をいう。大部分は担子菌類で，一部が子囊(しのう)菌類である。担子菌類に属するものには，マツタケやマンネンタケのように子実体にかさと茎の区別があり，かさの裏のひだや穴に胞子のできるもの，キツネノチャブクロのように子実体の中に胞子ができるもの，キクラゲのように寒天質の子実体の表面に胞子のできるものなどがある。いずれも胞子は担子柄の先に外生し，その数は4個のことが多い。子囊菌類に属するものには，アミガサタケのように頭が大きく球形でしわの多いもの，冬虫夏草のように棍棒(こんぼう)状のもの，チャワンタケのように子実体がわん状のものなどがあり，いずれも胞子は子囊という袋の中にふつう8個できる。きのこの中には木材を腐朽するもの，樹木に寄生して樹病の原因となるものなどがある。また，樹木の根と栄養的に結びついて菌根をつくるマツタケやシメジのようなものもあり，ふつう菌根によって樹木の栄養が助長されるが，ときには栄養が阻害されることがある。マツタケはマツの栄養を阻害すると考えられている。冬虫夏草の仲間はこん虫やクモ類に寄生し，マグソタケやワライタケなどは動物の糞(ふん)の上にはえる。

きのこには特有の風味があり，日本ではマツタケ・シイタケ・ナメコ・エノキタケ・ヒラタケなど，欧米ではツクリタケ(マッシュルーム)・ヤマドリタケ・セイヨウショ

食用キノコ　**キノコ**　毒キノコ


ハツタケ


キホウキタケ


ツキヨタケ


シロテングタケ


センボンシメジ


シロハツタケ


テングタケ


オオワライタケ


シメジ


ブナハリタケ


ドクササコ


ニガクリタケ


ヒラタケ


クリタケ


タマゴテングタケ


カブラアセタケ

ウロなどが食用に供される。中国料理にはシイタケ・キクラゲのほか，キヌガサタケやシロキクラゲが珍重される。

　きのこの中には有毒のものもあるので注意を要する。毒きのこの見分け方については，古くから俗説や言い伝えなどが多いが，いずれも信ずることはできない。きのこの中毒を防ぐには，結局有毒なきのこをよく知ること，さらにはきのこ全般にわたって種類の特徴をよく把握(はあく)し，理解することしかない。毒きのこには生命にかかわる猛毒をもつものから，軽い毒性を表わすものまでいろいろあるが，本邦産のものに限れば毒きのこの数は20～30種程度であり，覚えるのもそう困難ではない。

　特徴別に分けると次のようである。①テングタケの仲間：かさ・ひだ・茎・つぼ・つばの5部分からできていて，表面の色は白・赤・茶といろいろである。猛毒のものにタマゴテングタケ・シロタマゴテングタケがある。②イッポンシメジの仲間：シメジによく似ているが，成熟したひだの色(胞子紋)に特徴があり，ピンク色や薄い肉色をしている。外見が似ているもので食用種もあるが，避けたほうがよい。イッポンシメジ・クサウラベニタケなど。③ニガクリタケ：イオウ色のきのこで，胞子紋は暗紫色。開くまえのかさの下面には不完全な膜が張る。④ドクササコ：茶かっ色のきのこで，かさの中央は深くくぼむ。毒々しさがないため誤って食用にされやすい。⑤ワライタケ：淡灰かっ色のきのこで，かさは半球形を呈し，中央部が高い。ひだは熟すと黒色を呈する。⑥ツキヨタケ：発光性のきのこで，幼時は淡黄かっ色で，のちに紫かっ色となる。茎を裂くと中心部に暗紫色の斑点(はんてん)がみられる。⑦アセタケの仲間：一般に小形で数も少ないが，かなりの毒性がある。かさはふつう円錐(えんすい)形で先がとがり，胞子紋は黄かっ色。表皮が裂けて放射状の筋目のあるものが多い。毒成分はムスカリンで，この仲間は30余種が知られている。⑧シャグマアミガサタケ：中毒菌の中で唯一の子嚢菌。日本にはあまり多くはないが，ヘルベル酸をもっているため激しい中毒をひき起こす。

　中毒症状には，消化器や神経系が冒されて，吐き気・下痢・腹痛・発汗などを起こすものがある。変わったものにはワライタケ・シビレタケのように笑ったり興奮したりする陽気なものと，一方ドクササコのように身体の末端部に火傷のような猛烈な痛みが長期間続く陰惨な中毒とがある。

　人工栽培されるきのこで代表的なものはシイタケ・ツクリタケ・フクロタケである。シイタケは木材腐朽性のきのこで，ほだ木(原木)に種菌を植えつけて栽培する。ツクリタケは馬糞上にはえるきのこで，馬糞またはそれに似た堆肥(たいひ)に栽培する。また，フクロタケは枯れ草にはえるきのこで，積みわらに栽培する。このほか栽培されるきのことしては，ナメコ・エノキタケ・キクラゲなどがある。マツタケ・シメジなどの菌根をつくるきのこは現在のところ栽培することはできない。なお，きのこの地方名には〈もたせ〉〈もたし〉〈なば〉〈こけ〉などがあり，また，きのこの種類それぞれについても地方的なよび名がある。

〔中村克也・曾根田正己〕

きのこさみ　【紀古佐美】　(733～797)
奈良末期・平安初期の政治家・武将。大納言麻呂(まろ)の孫。780年(宝亀11)蝦夷(えぞ)の首長伊治呰麻呂(いじのあざまろ)の反乱を征東副使となって鎮定し，785年(延暦4)参議となる。788年呰麻呂が蝦夷勢力を結集し，再び反乱を起こしたので征東大将軍として出征したが敗れ，翌年征夷(せいい)の失敗を責められて解任された。793年藤原小黒麻呂らとと

もに平安京の地を視察し，遷都の年の794年中納言，796年大納言となり，翌年65歳で没した。〔黛　弘道〕

きのこばえ【蕈蠅】　こん虫類・双翅（そうし）目・キノコバエ科の総称。全世界に2,000種以上が知られる。いずれも小形で，体形はカ（蚊）に似て細いが活発に飛翔（ひしょう）し，湿気の多い暗所を好む。特に，腐敗樹木やコケ類の生ずる岩石や湿気の多い腐食物などの周囲に普通にみられる。幼虫は湿気のある土・木材・きのこなどの中に生活し，菌類を食べるといわれる。

きのさき【城崎（町）】　兵庫県城崎郡の町。人口5,500。山陰本線に沿い，円山（まるやま）川が日本海に注ぐ地点に近い温泉地で，古くから湯治客が多く，近年は京阪神（けいはんしん）の奥座敷として週末旅行の好適地となっている。付近に柱状節理の玄武洞（げんぶどう）や岩石海岸の日和山（ひよりやま）海岸がある。

きのさきおんせん【城崎温泉】　兵庫県城崎郡城崎町にあり，泉温32～72℃，泉質は食塩泉・単純泉で，神経痛・リウマチにきく温泉として知られる。日本海に近い円山（まるやま）川水系の大谿（おおたに）川沿岸に位置する。717年（養老1）道智上人（どうちしょうにん）の発見と伝えられ，《古今和歌集》には〈但馬（たじま）ノ湯〉としるされ，温泉の歴史は古い。温泉街の端には道智上人の開基した温泉寺がある。かつては地蔵湯・柳湯（やなぎゆ）・御所湯・鴻（こう）ノ湯・一ノ湯・まんだら湯など六つの共同浴場があったが，現在は旅館に内湯が引かれている。志賀直哉（なおや）の作品《城の崎にて》にも描かれている。付近には大師山・玄武洞（げんぶどう）・日和山（ひよりやま）公園などがある。交通は山陰本線城崎駅下車が便利。〔木村東一郎〕

きのしたけいすけ【木下恵介】（1912～　）映画監督。浜松市の生まれ。1933年（昭和8）松竹蒲田（かまた）撮影所技術部に入社，1936年監督部に移り島津保次郎の下で助監督をつとめた。1943年《花咲く港》でデビュー。独特の叙情と喜劇的手腕を生かした社会風刺劇を得意とし，その平易で親しみ深い作風が人気を得た。代表作は《大曾根（おおそね）家の朝》，日本最初の色彩映画《カルメン故郷に帰る》や《二十四の瞳（ひとみ）》《笛吹川》など。〔波多野哲朗〕

きのしたじゅんあん【木下順庵】（1621～1698）　江戸前期の儒学者。名は貞幹（さだまさ），順庵は号。京都の生まれ。幼少より学才すぐれ，藤原惺窩（せいか）の門人である松永尺五（せきご）に学んだ。京都東山で雉塾（ちじゅく）を開き，加賀藩主に仕えた。さらに徳川綱吉（つなよし）のときに幕府の儒官となり，《武徳大成記》の編纂（へんさん）にあたった。その倫理思想は門人の室鳩巣（きゅうそう）・雨森芳洲（あめのもりほうしゅう）らによって受け継がれた。教育者として秀で，門下から先の2人をはじめ，新井白石・祇園（ぎおん）南海らを生んだ。遺稿集《錦里（きんり）先生文集》は文章の格調にお



木下杢太郎



紀　貫之

いてすぐれている。〔田上光治〕

きのしたじゅんじ【木下順二】（1914～　）劇作家。東京の生まれ。東京大学英文科卒。その作品の傾向には2系列が認められ，処女作《風浪》をはじめとして《山脈（やまなみ）》《蛙（かえる）昇天》《オットーと呼ばれる日本人》《沖縄》など問題作の多い現代劇と，《彦市（ひこいち）ばなし》《赤い陣羽織》《夕鶴（ゆうづる）》などの民話劇とに分けられる。前者によって劇作上のドラマの概念を確立し，後者によって民話劇の新しいジャンルを開拓するなど，近代演劇の発達にすぐれた業績をあげた。〔江種満子〕

きのしたたかぶみ【木下幸文】（1779～1821）　江戸後期の歌人。備中（岡山県）の人。号は亮々舎（さやさやのや）。京都に出，はじめ旧派歌人の澄月・慈延に学んだが，のち香川景樹（かげき）に入門，熊谷直好（くまがいなおよし）とともに桂門（けいもん）の双璧（そうへき）と称せられた。率直・平明に自然・真情をよみ，叙情的な歌に秀作が多い。随筆集《亮々草紙》は，本居宣長（もとおりのりなが）の歌論を批判した〈橘（くし）のあか〉を収め，ほかに家集《亮々遺稿》がある。

きのしたちょうしょうし【木下長嘯子】（1569～1649）　江戸初期の歌人。本名は勝俊（かつとし），別号は挙白堂など。豊臣（とよとみ）一族の武士として秀吉（ひでよし）に仕えたが，関ケ原の役後，京都東山や小塩山に隠棲（いんせい）。和歌を細川幽斎に学んだほか，藤原惺窩（せいか）・林羅山（らざん）ら儒家との交遊も深く，飛鳥井（あすかい）の蹴鞠（けまり），遠州流の茶道にも通じた。歌道においては，自由清新の歌風による革新的傾向を示し，門弟に下河辺（しもこうべ）長流を生んだ。歌文集に《挙白集》がある。

きのしたなおえ【木下尚江】（1869～1937）　小説家・社会思想家。長野県出身。東京専門学校（早稲田（わせだ）大学の前身）卒業後，キリスト教に入信，新聞記者となり，1897年（明治30）日本で最初の普通選挙運動を起こして投獄された。1899年から毎日新聞記者として国体批判や足尾銅山鉱毒事件などに活躍した。1901年片山潜らと社会民主党を結成し，1903年には幸徳秋水らの《平民新聞》に協力して日露非戦論を唱えた。また，社会主義文学の代表作《火の柱》《良人の自白》を発表。1905年キリスト教社会主義の雑誌《新紀元》を発行したが，1907年以降は政治運動を離れて信仰生活にはいった。

きのしたもくたろう【木下杢太郎】（1885～1945）　詩人・劇作家・小説家・医学者。静岡県伊東（いとう）の生まれ。本名太田正雄（おおたまさお）。東京大学医学部卒。新詩社同人として創作活動にはいり，北原白秋らと1908年（明治41）に〈パンの会〉を興し，《スバル》を創刊した。大正中期まで約10年間の文壇生活ののちは，おもに医学者および中国の古典・古美術の研究家として活動した。著作には戯曲集《和泉屋（いずみや）染物店》，詩集《食後の唄（うた）》，随筆《芸林閒歩（げいりんかんぽ）》その他多数がある。〔江種満子〕

きのしたりげん【木下利玄】（1886～1925）　歌人。岡山県の生まれ。本名利玄（としはる）。学習院を経て東京大学国文科を卒業。武者小路実篤（むしゃのこうじさねあつ）らと《白樺（しらかば）》を創刊し，歌人としてその文学運動に参加した。佐佐木信綱（のぶつな）の竹柏会（ちくはくかい）同人でもあり，北原白秋や窪田空穂（くぼたうつぼ）・島木赤彦（あかひこ）らの影響も受けたが，つねに白樺的人道主義に立つ特異な作風を保持した。歌集《銀》《紅玉》《一路》，歌文集《李青集（りせいしゅう）》など。〔江種満子〕

きのつらゆき【紀貫之】（872？～945）　平安初期の代表的歌人。初の勅撰（ちょくせん）和歌集《古今和歌集》の筆頭撰者として，いわゆる古今調を大成し，その仮名序に示した歌論は，長く後世にまで深い影響を与えている。《古今和歌集》撰進は，当時盛行していた漢詩に対する和歌の芸術性の宣揚であり，晩年の作《土佐日記》は，仮名散文による独立した文学作品の確立を意味する。貫之のこの二つの業績は，和文による国風文化の推進者としての功績を示す。また上記のほかにも，《大堰川（おおいがわ）行幸和歌》とその序，《新撰和歌》編集とその序などもあげられる。しかしその名声に比べて官職は低く，国守階級としてその生涯（しょうがい）を終えた。なお古今撰進のころから土佐在任のころまで，貫之は，藤原兼輔（かねすけ）らのもとに出入りし，同じ古今撰者の凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）とも親交を深めた。その後，土佐からの帰京後は藤原師輔（もろすけ）の一門に接近し，摂関家のために多くの屏風歌（びょうぶうた）をよみ，和歌の巨匠としての地位を確立した。最終官位は従五位上木工権頭（も

(のこんのかみ)であった。　〔新藤協三〕

きのとものり【紀友則】 平安初期の歌人。生没年未詳。三十六歌仙*(かせん)のひとり。897年(寛平9)土佐掾(とさのじょう)，翌年小内記，904年(延喜4)大内記に任ぜられている。その後，《古今和歌集*》の撰者(せんじゃ)のひとりに推されたが，撰の中途で没した。和歌は《古今和歌集》に46首，《後撰和歌集》以下に18首収められ，格調ある平明な作風を特色としている。

きのはせお【紀長谷雄】(845～912) 平安初期の漢学者。貞範(さだのり)の子。大蔵善行(よしゆき)に師事し，次いで菅原道真(すがわらのみちざね)に学び，文章生(もんじょうせい)を経て，図書頭(ずしょのかみ)・文章博士(はかせ)・大学頭・侍従を歴任した。道真の下で遣唐副使ともなったが，渡唐は中止された。次いで898年(昌泰1)醍醐(だいご)天皇に《群書治要》を進講，902年(延喜2)参議，910年権中納言(ごんのちゅうなごん)，翌年中納言となり，912年死去した。長谷雄の文才は衆人の推すところで，詔勅・上表などで彼の手になるものは多い。《紀家集》は彼の漢詩文を集めたもの。➔長谷雄草紙　〔黛　弘道〕

きのぼりうお【木登り魚】 硬骨魚類・キノボリウオ科。全長25cmほどになるフナに似た形の淡水魚。背部は個体によって灰緑色・銀灰色・茶かっ色などと異なり，腹部は色が薄らぎ，えらぶたと尾のつけ根に暗色の斑点(はんてん)がある。空気呼吸をすることができ，早朝の湿度が高いときや降雨中に，えらぶたのとげと胸びれで体をささえて尾部を強く振り，陸上を飛びはねて別の水場に移動することがある。多くの場合は群れをなして移動し，その距離はときに数百メートルに及び，多少の傾斜ははい登る。樹上に見られることがあり，かつてはヤシなどにはい登り，その果汁(かじゅう)を吸うのだと思われていた。しかし，垂直な幹をよじ登る能力はなく，鳥にくわえられて運ばれたものと思われる。乾季には泥中(でいちゅう)にもぐって休眠するので，地面を掘って捕獲することができる。東南アジア・インド・セイロンに分布し，インドでは多量にとれ，食用にされる。なお，この魚はアナバス属に属し，アフリカには近縁種が15種ほどいる。いずれもキノボリウオと同様に歩くことができる。

キノボリウオ科の魚は，朝鮮半島から中国大陸・東南アジアを経てインドに至る地域と，アフリカの西南部一帯に分布する淡水魚で，チョウセンブナ・闘魚(ベタ)・キッシンググーラミなどを含む。いずれも孵化(ふか)後2～3週間たつと，えらぶたの内側にロゼット状の迷器(ラビリンス)とよばれるこの科に特有な器官を生じる。迷器は毛細血管が密に分布する膜をかぶり，幾重にもひだになった薄い骨板でできている。また，水表から口を出して，直接空気を吸い込み，迷器で酸素を取り込むことができる。したがって，他の魚のすめないような酸素不足の水にでもすむことができる。しかし，迷器にスペースをとられて本来のえらの機能が十分ではなく，網などでおおわれて水面から口を出せない状態に置かれると，その水にいくら豊富に酸素がとけこんでいても，やがて窒息しておぼれ死んでしまう。　〔菅野　徹〕

きのぼりとかげ【木登蜥蜴】 爬虫(はちゅう)類・キノボリトカゲ科。キノボリトカゲ科は300種が旧大陸の熱帯・亜熱帯に分布するが，日本ではキノボリトカゲ1種だけを産する。これは，奄美(あまみ)・沖縄・八重山諸島に分布し，森林や人家近くの林に多くみられる。体長25～27cmで尾はその3分の2を占める。体色は周囲や体の状態によって，緑色から茶かっ色まで変化する。樹上生活を営み，四肢(しし)も各指も細長く発達し，細長い尾は体のバランスを保つ。こん虫・クモ類を捕食し，人にはよくなれる。

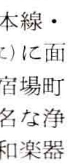
きのめとうげ【木ノ芽峠】 福井県南部の敦賀(つるが)地方と北の福井平野とを分かつ峠で標高628m。古くから越前と若狭(わかさ)の国を結ぶ要衝で，北陸路の難所であったが，1888年(明治21)この山地を避けて北陸本線が開通してからさびれた。なお，現在の北陸本線は1962年(昭和37)から，峠の西側を北陸トンネルで越えている。道路は自動車の通過が困難である。

きのもと【木本】 三重県熊野市の中心集落。⇨熊野(市)

きのもと【木之本(町)】 滋賀県北部，伊香(いか)郡の町。人口11,000。北陸本線・国道8号線に沿い，西部は琵琶湖(びわこ)に面する。中心集落木之本は北国街道の宿場町として発達し，木之本地蔵として有名な浄信寺がある。琴・三味線(しゃみせん)など和楽器用糸の特産があり，全国生産の7割を占める。また石道地区では各農家がエンジンの部品をつくる作業場をもち，農村工場として知られる。西方の賤ケ岳(しずがたけ)は古戦場として有名。

ぎのわん【宜野湾(市)】 沖縄本島南西部の市。第2次世界大戦後，駐留アメリカ軍基地として急速に発展した。1962年(昭和37)市制施行。人口62,000。西海岸の宜野湾沿岸部を占め，幹線道路沿いの村落はしだいに都市化し，ほとんど切れ目のない長さ約7kmの街村状都市となった。総面積の2分の1が軍用地となり，産業三大別人口比は3：23：74で，市の経済は基地のサービス業に依存している。中心部落は北部の普天間で，権現堂と鍾乳洞(しょうにゅうどう)が有名。

キノン［quinone］ 狭い意味ではp-ベンゾキノンをさす。一般には芳香族化合物のベンゼン環上にある水素原子2個が酸素原子2個で置換された形の化合物で，共役環状ジケトンともいうべき一連の化合物の総称である。基本となる化合物はp-ベンゾキノンとo-ベンゾキノンである。天然に見いだされるものは多くはアントラキノン*類で，ベンゾキノン類やナフトキノン類に属するものは少ない。また，o-キノン形のものはごく少なく，p-キノン形のものが広く見いだされている。分布はこん虫のカイガラムシの一種であるエンジムシの色素をはじめ動植物界にわたっている。キノン類は一般に色をもっており，p-キノンは黄色，o-キノンは赤色ないし橙赤(とうせき)色のものが多い。p-(あるいはo-)ジフェノール類・アミノフェノール類などを酸化して合成する。医薬としては寄生虫性の皮膚病治療剤，下剤，あるいは駆虫剤として使われているものがある。また，合成染料として利用されているものが多く，特にアントラキノン系の染料は重要である。



p-ベンゾキノン

〔石戸良治・荒木洋之助〕

きば【牙】 哺乳(ほにゅう)類に属する動物の中で，犬歯や門歯が特に発達して大きく強力になったもの。食肉類に多くみられ，イヌ・ネコ・トラ・ライオンなどは上顎(じょうがく)の犬歯がきばとなり，攻撃・防御に用いられ，えさとなる動物を捕えるのに役だつ。ゾウのきばは雄の上顎門歯が長大に発達したものである。イノシシのきばは雄の下顎犬歯が上方に伸びたもので，セレベス島にいるイノシシの一種バビルサでは，上下の犬歯がともに発達し，雄の上牙(じょうが)は顔面の皮膚を貫き，下牙も口外に出ており，定向進化説の例証としてあげられるので有名である。なお，ヘビなどの歯をきばということがある。毒ヘビの毒牙は，その構造から管牙(マムシ・ガラガラヘビなど)と溝牙(こうが)(コブラ・ウミヘビなど)に分けられている。　〔蒲原春一〕

きば【木場】

1 木材の集散に適した地点に設置された貯木場。たとえば流送時代では上流に生産地をもつ河川の河口付近に設置される。木材業者が集団的に居住し，木材市場的性格をもつものもある。

2 東京都江東区南部，木場町・冬木町・平野町一帯の通称。1603年(慶長8)江戸城築城の際に材木の集散場となり，元禄(げんろく)期(1688～1703)に同地区の埋め立て地が幕府から材木問屋の貯木場に指定されて木場の名が起こった。明治以後も深川の材木問屋・製材所の中心地区となり，中央木材市場が置かれた。十間川・中川・大島川・大横川など，多くの運河が縦横に走って貯木場を結んでおり，かつて〈川並み〉とよばれた従業員が水に浮かぶ原木に乗って移動させる〈角乗り〉の妙技は，東京都の無形文化財に指定されている。最近は地盤沈下が著しく，また，トラック輸送に代わってから輸送面の困難が増大したために，貯木場は東京湾内に設けられ，かつての運河や貯木場は埋め立てられつつある。業者の大半は洲崎(すさき)沖の第10号埋め立て地・第

14号埋め立て地(夢ノ島)・第15号埋め立て地などに移転した。木場の跡には，公園・工業団地・住宅団地・中小企業センターなどが設けられる予定である。〔浅井得一〕

きばくやく 【起爆薬】 爆発を起こさせるために用いる爆発性物質。爆破用の爆薬*は取り扱い上危険が少ないように，多少のショックでは爆発しない鈍感なものが使われているので，起爆薬により爆発を起こさせる。起爆薬はわずかのショックまたは加熱により容易に爆発する鋭感な爆薬で，雷汞*(らいこう)・アジ化鉛$Pb(N_3)_2$・ジアゾジニトロフェノール(DDNP)などが用いられる。

きばしり 【木走】

1 鳥類・キバシリ科の総称。世界に5種が知られ，いずれも北半球に分布する。上面はかっ色と白色の斑状(はんじょう)，下面は白色，全長10数センチメートルの小形の森林性の鳥で，くちばしは細く，上に凸形(とつがた)に湾曲し，樹幹を下から上に向けて歩き登り，このくちばしを用いて樹皮にいるこん虫類を捕えて主食としている。尾は体をささえるのに適応してかたい。

2 キバシリ科の一種。日本に生息するキバシリはユーラシア大陸と北アメリカに広く分布する種で，北海道・本州・四国の亜高山針葉樹林帯に繁殖するが，数は多くなく，普通は他種と混ざらず単独で生活し，鳴き声も姿もあまり目だたない。

〔浦本昌紀・安部直哉〕

きはだ 【黄蘗】 双子葉植物・ミカン科。日本・朝鮮・中国北部に分布する落葉高木。高さ15～20mになり，幹の外皮は淡黄かっ色，厚いコルク質で著しい縦溝(じゅうこう)があり，内皮は黄色。葉は対生し，羽状複葉。小葉は卵形で裏面は帯白色。雌雄異株で，7～9月に太い花軸を出し円錐(えんすい)花序に黄緑色の小花を密生する。果実は黒熟し球形。樹皮の外皮を除いたものは生薬の黄蘗(おうばく)で，黄色を呈し，ベルベリンなどのアルカロイドも含み，苦味健胃剤として用いる。また漢方では，消炎・収斂(しゅうれん)・健胃剤として用いる。材は狂いが少なく美しいので，洋家具や装飾材として用いる。

〔横井朝子〕

きはだまぐろ 【黄肌鮪】 硬骨魚類・サバ科。キワダマグロともいう。全長3m，体重200kgに及ぶ海産魚。体は紡錘形，全身に細かいうろこがある。背は青黒くて腹が白いところは，他のマグロ類によく似ているが，第2背びれとしりびれが高くかま状に伸びていること，第2背びれとしりびれおよびそれらに続く副びれが濃黄色であることで区別できる。世界じゅうの熱帯・温帯域に広く分布し，日本にも北海道を含む全土にいるが，日本海側にはきわめて少ない。南方では赤道反流域に多い。肉は鮮桃色でさしみとされ，関西ではクロマグロ以上に評価されることが多い。〔菅野　徹〕

きばたん 【黄巴旦】 鳥類・オウム科。

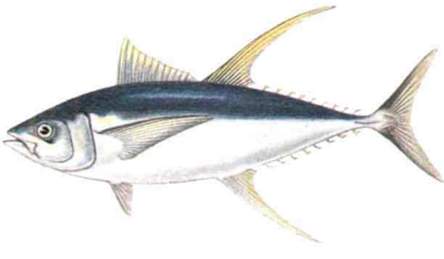


木　　場　運河と貯木場の水面とそれにかかる橋。材木問屋の倉庫や製材所などがたち並ぶが，近年は地盤の沈下に脅かされている





キハダ
(上)果実
(下)樹皮をはがして黄色の内皮を示した



キハダマグロ

オーストラリア・タスマニア・ニューギニア・モルッカ諸島に産し，オウムとよばれる仲間の代表種。全身白色で羽冠はやや長く黄色。じょうぶで戸外でも越冬し，ものまねもよくする。オウムかごまたは架に止まらせて飼うが，巣引きをさせるには禽舎(きんしゃ)に収容する。

きばち 【樹蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・キバチ科に属するハチ類の総称。広義にはクビナガキバチ科・ヤドリキバチ科・クキバチ科をも含める。ハバチ*類とともに広腰亜目に属し，腹部第1節と後胸部の境がくびれることがなく太いことで，細腰亜目のハチ類(ミツバチ・スズメバチ・ヒメバチ・ヤドリバチなど)から区別されている。また，食性も一般に食植物性で，細腰亜目よりも原始的な群と考えられており，幼虫は樹木の材に食い入る習性があるので，林業上の害虫も多い。キバチ科は一般に大形で，体は細長くやや円筒状を呈し，尾端に太いとげをもち，雌の産卵管は長く棒状。卵は，樹皮の下や割れ目の中，あるいは木質部中に産下される。幼虫は淡色，円筒状で，針葉樹や広葉樹の弱ったものや枯死直後のものの木質部に穿孔(せんこう)する性質があるが，ときには鉛管や鉛板などを穿孔して，電話・水道などの事業に二次的な被害を与えることがある。生活史は不明な種類が大部分で，ヨーロッパにおける記録では，1世代を経過するのに数年を要するという。ユーラシア大陸および北アメリカ大陸に分布し，多くの種類が知られている。日本には10数種が産し，各種ごとに寄主植物が一定であり，代表的な例としては，ニトベキバチ(マツ類)・オナガキバチ(モミ類)・ニホンキバチ(マツ・スギ・モミ)・ヒゲジロキバチ(マツ類)・クロヒラアシキバチ(サクラ・カエデ)・キマダラヒラアシキバチ(サクラ・ケヤキ・ニレ)などがある。クビナガキバチ科は小さな群で，キバチ科よりも原始的な群と考えられ，頭部が著しく大きい点が特徴である。日本には約10種類が分布し，ハンノキ類につくクビナガキバチ，モミジ・イタヤカエデにつくヒゲジロクビナガキバチなどが代表的な種である。ヤドリキバチ科はキバチ類の中では特殊化が最も進んだ群で，幼虫が穿孔性のカミキリムシ類やタマムシ類の幼虫に寄生して生育し，日本にはヤドリキバチとトサヤドリキバチが知られている。クキバチ科は一般に体は小さく細長い虚弱なハチで，卵は生きた植物の組織中に産みつけられる。バラにつくバラクキバチ，アカガシにつくアカガシクキバチ，コムギ・ライムギにつくキアシムギバチなどが日本に産する代表的な種類である。

〔鈴木邦雄〕

きはちじょう 【黄八丈】 黄色を主色にした縞(しま)・格子(こうし)の絹の平織着尺地，伊豆(いず)諸島八丈島が原産地。茶を主色にした鳶(とび)八丈，黒を主色にした黒八丈，綾織(あやおり)の八端*をも含めて称するが，八王子市・秋田市産の八丈に対して本八丈とよぶ場合もある。染料にカリヤス*の黄，マダミなどの茶，シイの樹皮からとる黒を用

いるのが特色で，明治末期までは〈みやはく〉〈こいしまる〉〈あおじゅく〉〈あかじゅく〉〈しらたま〉などのカイコの絹糸が使用されていた。その歴史は，北条(ほうじょう)氏以来貢租として上納され，〈御控織〉などの名称もあり，特に江戸中期以降明治まで粋(いき)でしゃれた織物として民間に広く着用された。1909年(明治42)に貢租の制度が廃止されてからは生産も少なくなり，以前のような流行はみられなくなった。現在では，島の伝統工芸品として一部の人々の手で守られているにすぎない。〔勝呂小枝〕

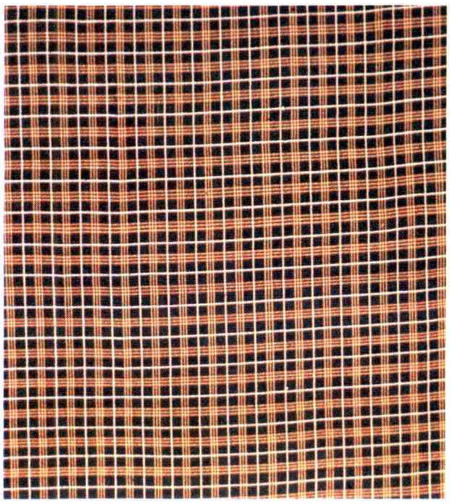
きはつゆ　【揮発油】　⇨ガソリン

きはつゆぜい　【揮発油税】　揮発油(15℃において比重0.8017以下の炭化水素油)に対して課される従量税。1957年(昭和32)揮発油税法によってその徴収が制定され，1971年3月現在税率は1klにつき24,300円。揮発油税の収入は国の道路整備費に全額あてられることが定められている。なお，地方道路整備にあてられる地方道路税(1klにつき4,400円)もこの揮発油税とともに納付される。

きばのろ　【牙麞】　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。体長90cm，肩高50cmほど。雌雄とも尾が短くこぶ状で，角がなく，上の犬歯は長く，雄はときに口外に出てきば状である。中国および朝鮮の繁茂した低木林にすみ，乾燥した場所を好む。ふつう1～2頭でいるが，まれに群れをつくる。

きばみんぞくせつ　【騎馬民族説】　考古学者江上波夫が1949年(昭和24)に発表した〈大和(やまと)朝廷*は北方系の騎馬民族による征服王朝である〉とする説。その説は，4～5世紀ごろ，東アジアで北方系の騎馬民族が続々と農耕地帯に南下して建国したという歴史事実を背景として，三韓*(さんかん)時代に南鮮の支配者であった辰(しん)王が騎馬民族系の征服者であったらしいこと，一方，崇神(すじん)天皇の御真木入日子(みまきいりひこ)という名が任那*(みまな)の王と解せられることなどを根拠に，4世紀はじめに崇神天皇を中心とする騎馬民族が九州に上陸し，東征して4世紀末ないし5世紀初めに大和政権を確立したとするものである。それはまた，前期古墳文化に対して中期からの古墳文化が著しく大陸的・騎馬民族的性格をもつようになるという変化を考古学的な根拠としている。しかし南鮮の辰王が北方騎馬民族であるとは断定しがたいことや，〈記紀*〉にみえる崇神天皇の事績には海外からの征服者である特徴がまったくないこと，そのほか古墳文化の変化についても異論が出されていることなどから，騎馬民族説は必ずしも多くの支持を得ていない。〔柳雄太郎〕

きはんせん　【機帆船】　船の推進装置として帆と補助の発動機を備えた200トンぐらいまでの小形船。多くは木造，最近では帆走よりも発動機によって機走することのほうが多い。沿岸における貨物輸送に大きな役割を果たす。



黄八丈　《能装束着付》(部分)　徳川黎明会蔵

きはんりょく　【既判力】　民事訴訟法と刑事訴訟法とでは，意味が異なる。

〔民事訴訟法〕既判力をもつ代表的なものは，確定判決である。判決が確定すると，同一事項がその後に訴訟上問題となっても，当事者・裁判所ともに，これと相反する主張や判断が許されないという拘束力が生ずる。これを既判力という(実体的確定力ともいう)。既判力の本質については三つの説がある。①実体法説：これにしたがって実体関係に変更が生ずるという説。②訴訟法説：単に訴訟法上で当事者・裁判所を拘束するという説。③具体的法規説：抽象的法規が具体的・現実的な規律に転化したという説。既判力の限界としては三つある。①物的限界(客観的範囲)：判決主文に包含された判断に限り既判力が生じ，判決の理由中に示された事項に及ばないのが，原則である。ただし，相殺*の抗弁に限って，相殺をもって対抗した額について既判力が生じる(民事訴訟法199条)。②人的限界(主観的範囲)：当事者の間だけで生じるのが原則である(民事訴訟法201条1項)。しかし，特別の理由から一定の第三者に拡張されることがある。たとえば，身分関係や会社関係の訴訟，行政処分*の取り消し訴訟などのように，画一的に解決をする必要がある場合に，第三者にも及ぶ。また，標準時以後の承継人，当事者・承継人のため請求の目的物を所持する者，他人のため自己の名で当事者となった(破産管財人・選定当事者)場合の本人などに，既判力が及ぶことがある(民事訴訟法201条1項等)。③時間的限界(標準時の範囲)：権利関係は時間の経過によって変動することがあるから，いつを基準にして既判力を認めるかの問題が生ずる。判決では，事実審の口頭弁論*を終結した当時を基準にする(民事訴訟法545条)。その他の裁判や調書のときには，その成立時。したがって，その後の訴訟では，当事者は，この基準時以前にあった事由に基づいて確定判決の内容に反する主張は許されないし，裁判所もそれ以前にさかのぼって，その内容となった事項について審理できないこととなる。しかし，その基準時以後に生じた事由に基づいて権利関係の変動を主張し，裁判所もその点で判決することはさしつかえない。

〔刑事訴訟法〕有罪・無罪・免訴*の判決が確定したときは，その事件の内容が確定し(内部的効果)，同一事件について再び公訴*を提起することは許されない(外部的効果)。この両効果，ことに外部的効果を，一事不再理*の効果とも，既判力ともいう。この既判力は，事件が単一かつ同一であるかぎり訴因となっていない事実にも及ぶ。もっとも再審*・非常上告*によって既判力は破られるが，一事不再理の効果は，憲法の保障する基本的人権*であるから，被告人の不利益に変更することはできない。〔赤塔政夫〕

きひ　【忌避】　裁判官や裁判所書記官に，その担当事件について職務の公正な執行を疑わせるような事情があるとき，職務の執行をさせないようにすることをいう(民事訴訟法37条・44条，刑事訴訟法21条・26条)。たとえば，裁判官が平素から当事者と特別に親しくしていたこと，また事件にはなはだしい偏見をもっていることのため，不公正な裁判をするおそれがあると思われる場合などに，当事者(刑事訴訟ではその他に弁護人も)の申し立てによって，忌避の事由の有無について裁判(決定)がなされ，その理由ありと認められれば，職務の執行ができなくなる。〔赤塔政夫〕

きび　【黍】　単子葉植物・イネ科の一年草。古くからアジアの熱帯から温帯に広く栽培され，日本でも古代から栽培されたが，現在ではあまりつくられていない。茎は高さ1mくらいになり，夏～秋に茎の先に下垂する穂をつける。種子は球形に近く，小さい。熟すと落ちやすいため，早めに収穫する。乾燥に耐え生育期間も短いので，高冷地によく植えられる。日本では北海道が主産地。粳(うるち)と糯(もち)があり，粳は飯やかゆに，糯は団子・もち・酒・あめなどの原料にする。〔横井朝子〕

きびくびれあぶらむし　【黍縊蚜虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・アブラムシ科。体は濃緑色で，体長2mmほど。無翅形と有翅形があり，無翅形のものは紫色をおびる。脚は細長く多数の棘毛(きょくもう)がある。腹部はややふくれ，有翅形のものでは両側に暗黒色の斑紋(はんもん)がある。腹部の後端部の両側に短い黒色の角状管がある。世界に広く分布し，イネ科植物に寄生する。日本ではムギ類に寄生する害虫として知られる。

きびこうげん　【吉備高原】　中国山地の東部を占め，岡山・広島両県の内陸部に広がる高原。標高1,000m内外の中国山地の脊梁(せきりょう)山地より一段低く，標高500m前



吉備大臣入唐絵詞　第1段，唐の皇帝が使者から吉備到着の報告を聞く場面　ボストン美術館蔵

後のゆるやかな起伏をもつ準平原である。岡山県側を吉井(よしい)川・旭(あさひ)川・高梁(たかはし)川，広島県側を芦田(あしだ)川・沼田(ぬた)川などが流れ，また石灰岩のカルスト地形も多くみられる。高原では畑作が行なわれ，牧牛も盛んで，河谷には水田が開けている。

きひざい【忌避剤】リペレントともいう。害虫を寄せつけないでその害を回避するような薬剤の総称であるが，殺虫剤は多かれ少なかれこのような作用がある。カ・ブユ・サシバエ・ヌカカなどの双翅(そうし)目の吸血こん虫に対するジメチルフタレート・インダロンなどや，ヨトウムシに対するヒ酸鉛，テントウムシダマシに対する硫酸石灰などがその代表的な例である。そのほかネズミやミヤイリガイを回避する薬剤がある。吸血こん虫に関しては，ローションやクリーム状のものが市販されており，ヒトや家畜の皮膚に直接塗布・噴霧したり，衣服にしみこませたりする。〔深谷昌次〕

きびし【吉備氏】吉備地方(岡山県・広島県の東半)に勢威をふるった古代の有力豪族。孝安・孝霊・景行天皇の皇子に吉備を名とする者が多く，大和(やまと)朝廷と古くから関係があったことがうかがわれるが，皇別氏族というのは事実ではないらしい。この氏は早くから上道(かみつみち)・香屋(かや)・下道(しもつみち)・三野(みの)・笠(かさ)・苑(その)の諸氏に分かれて各地を分領し，皇室と通婚し，またしばしば反乱を起こした。奈良時代の右大臣吉備真備(まきび)は下道氏の出身である。〔黛　弘道〕

きびせいさく【羈縻政策】中国の王朝が異民族を支配するのに用いた一方法。羈はウマを，縻はウシをつなぐ意で，離反さえしなければそれで満足するという方針。唐王朝は西域その他の服属地に都護府を置き，配下の都督府・州・県の長官にはその地の有力者を任じ，圧迫感を与えずに統治した。この州を羈縻州といい，最盛時には856を数えた。

きびだいじんにっとうえことば【吉備大臣入唐絵詞】吉備真備(きびのまきび)が入唐した際の物語を描いた絵巻物。鎌倉初期の作で，もと2巻であったが，現在は上巻のみがのこる(ボストン美術館)。遣唐使としてかの地に渡った真備が，唐の朝廷からその才芸をためすために多くの難題を課されるが，阿倍仲麻呂(あべのなかまろ)の霊が鬼と化して現われ，これを助けるという説話を描いている。作り絵風の濃彩と暢達(ちょうたつ)な描線を用いて，両者折衷の画風をもつ。全体の作風は《伴大納言(ばんだいなごん)絵詞》に近似し，筆者も同じく土佐光長(みつなが)と伝えられるが，時代をやや下ってその系統を継いだ作品と考えられる。〔村重　寧〕



吉備津神社　本殿(国宝)

きびたき【黄鶲】鳥類・ヒタキ科。ほぼスズメ大で，雄は眉線(びせん)・胸・上尾筒は橙黄(とうおう)色，腹部は白色，翼に小白斑(はくはん)があり，他の部分は黒色の美しい鳥。雌は上面暗緑かっ色，下面は灰白色でじみ。日本各地の低山帯から亜高山帯の森林に繁殖する夏鳥。東アジアに分布し東南アジアで越冬する。→ヒタキ

きびだんご【吉備団子】岡山の銘菓。薄黄色で碁石の形をした，求肥(ぎゅうひ)に似た柔らかい菓子で，茶菓子用として1856年(安政3)創製された。岡山付近の平野は太古からキビの名産地で，この一帯を吉備国といったので，吉備団子と書く。キビ粉ともち米粉を混ぜ，適量の水を加えて火にかけてよく練り，砂糖を数回に分けて加えつつ，十分に透明になるまで練り，水あめ・はちみつを混ぜる。これをだんごの形につくる。〔塩川ふみ〕

きびつじんじゃ【吉備津神社】岡山県吉備郡高松町にある。祭神は孝霊天皇の皇子彦五十狭芹彦命(ひこいさせりひこのみこと)とも，その弟稚武彦命(わかたけひこのみこと)ともいう。彦五十狭芹彦は，崇神(すじん)天皇910年，四道将軍のひとりとして吉備(岡山県・広島県)に派遣されてこの国を経営し，子孫は吉備氏を称した。現在の本殿は1425年(応永32)足利義満(あしかがよしみつ)によって再建されたもの。吉備造りといわれる檜皮葺(ひわだぶき)比翼入母屋(いりもや)造りで，国宝。例祭は10月18～19日。1月1日に本社南西の御釜殿(みかまでん)で行なわれる，釜の鳴り方で吉凶を占う〈釜鳴りの神事〉は，《雨月物語》にみえる。〔佐野文哉〕

きびなご【黍魚子・吉備奈仔】硬骨魚類・ウルメイワシ科。全長10cm内外になる海産魚。体は細長く，口が小さい。背側は淡青色，腹側は白色，体側に幅広い銀白色の縦帯がある。外洋性であるが，産卵期に群れをなして海岸に接近する。本州中部以南・朝鮮・台湾・フィリピン・ポリネシア・紅海に分布。干して食用にし，つりえとしても利用される。

きびのまきび【吉備真備】(693～775)奈良時代の学者・政治家。本姓下道朝臣(しもつみちのあそん)。746年(天平18)吉備氏を賜う。717年(養老1)入唐(にっとう)留学。儒学の法制・暦学・兵学など各種の唐の新知識を修得して，735年帰朝。のち玄昉(げんぼう)とともに橘諸兄(たちばなのもろえ)政権下で活躍。藤原仲麻呂(なかまろ)の台頭とともに九州へ左遷され，752年(天平勝宝4)遣唐使副使として再度入唐し，帰朝後も長く大宰大弐(だざいのだいに)として九州にあった。764年(天平宝字8)造東大寺長官となって上京，まもなく起こった恵美押勝(えみのおしかつ)の乱は，彼の用兵・指揮よろしきを得て旬日にして平定された。これより再び順調に出世し，参議・中納言・大納言を経て，道鏡政権下の766年(天平神護2)右大臣に任ぜられた。770年(宝亀1)称徳天皇没後の皇嗣選定にあたって政治的に孤立し，藤原永手(ながて)らの工作により光仁(こうにん)天皇が即位すると，彼はまもなく政界を引退した。律令(りつりょう)制下にあって卑姓出身で右大臣になったのは異例の栄進であった。〔黛　弘道〕

きびゅうほう【帰謬法】⇨背理法

きびょうし【黄表紙】草双紙の一種。赤本・黒本・青本のあとを受け，恋川春町《金金先生栄花夢(きんきんせんせいえいがのゆめ)》に始まり，式亭(しきてい)三馬《雷太郎(いかずちたろう)強悪物語》によって草双紙が合巻に移るまでの3か年間に出版された。黄表紙の名は表紙の色によるが，形式は黒本・青本と変わらない。春町は，当時の洒落本(しゃれぼん)の通と穿(うが)ち，さらには当時流行した風俗言語を取り入れ，さし絵も新傾向の浮世絵の筆法

を利用した。このため黄表紙はおとなの文学となり，読者は機知による着想・趣向のおもしろさを観賞するようになった。代表作者に明誠堂(ほうせいどう)喜三二*・芝全交*・山東京伝*・式亭三馬*・十返舎一九*らがあり，いずれも春町の開拓した方法をさらに発展させた。〔小池正胤〕

きびら【生平】 麻織物の一。カラムシやタイマの手紡ぎ糸を経緯に用いて，平織にした漂白しない麻布で，幕末には武士の羽織地などにも用いられた。のちには，漂白して夏季のはだじゅばん地や染色加工を施して着尺地に使用された。なお，手紡ぎの旧製生平に対し，アマやタイマの紡績糸を用いたものを〈半洋生平〉〈丸洋生平〉という。かつては奈良・滋賀・石川の各県が主産地であった。

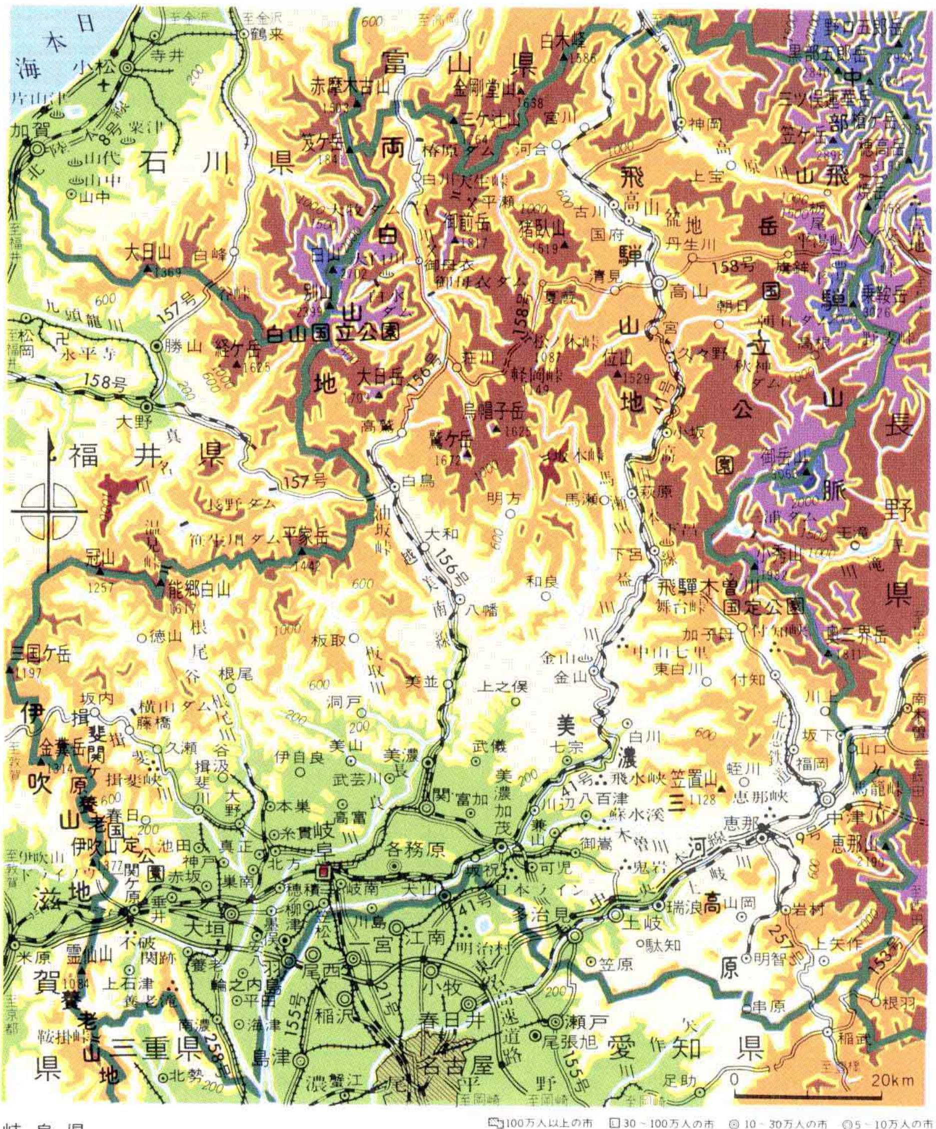
きひらただよし【紀平正美】(1874～1949) 哲学者。三重県の生まれ。1900年(明治33)東京大学哲学科卒。国学院大学・東洋大学講師を経て1919年(大正8)学習院大学教授。1931年(昭和6)文学博士。ヘーゲル研究の先駆者として明治30年代から《哲学雑誌》《丁酉(ていゆう)倫理会講演集》に論文を発表。はじめ人格主義・理想主義の立場にあったが，ヘーゲル哲学を無媒介に東洋哲学に取り入れた結果，仏教に独自の解釈を示しながらも，《行の哲学》を転機として国家主義に傾き，右翼思想の指導者となった。著書《認識論》《哲学概論》《自我論》《人格の力》《無門関解釈》《三願転入の論理》《日本精神》《人と文化》その他。〔中川　誠〕

ぎひん【宜賓】 イーピン 中国四川省南部の都市。人口18万(1960)。揚子江上流部の金沙江(きんさこう)と岷江(みんこう)の合流点に位置し，昆明(こんめい)を経てハノイ(ベトナム)，成都を経て宝鶏・蘭州(らんしゅう)・鄭州(ていしゅう)を結ぶ鉄道に沿う。雲南から生糸・白ロウ・薬材を移入し，さらに重慶に中継する商業・交通都市として発展している。

ぎふ【岐阜(県)】 中部地方西部の内陸県。北は富山県，東は長野県，南は愛知・三重県，西は石川・福井・滋賀の各県と接し，美濃(みの)・飛驒(ひだ)の全域を占める。**面積10,596km^2，人口195万2,000，人口密度1km^2あたり184人。県花はレンゲ，県木はイチイ，県鳥はライチョウ。県庁のある岐阜以下13市と，17郡(55町32村)に分かれる。**【自然】一般に山がちで，〈飛山濃水〉といわれるように，北部の飛驒地方はほとんど全域が山地で，美濃の南部に木曾(きそ)川・長良(ながら)川・揖斐(いび)川などがつくる濃尾平野の一部がある。地形は，北東部の飛驒山脈から南西部の濃尾平野へかけてしだいに低くなり，〈日本の屋根〉とよばれる中部山岳地帯から突き出したひさしにたとえられる。飛驒山脈は，東部県境をほぼ南北に走り，富山・長野両県境に三ツ俣蓮華岳(みつまたれんげだけ)(2,841m)，長野県境に槍ケ岳(やりがたけ)(3,180m)・穂高岳(3,190m)・御岳(おんたけ)山(3,063m)などの高山がそびえ，乗鞍(のりくら)火山帯が重なって，焼岳(やけだけ)(2,458m)・乗鞍岳(3,026m)などの火山も噴出する。北部は海抜1,000m級の飛驒山地で，石川県境には両白山地に白山火山帯が重なっている。飛驒山脈周辺一帯は中部山岳国立公園，白山(2,702m)一帯は白山国立公園に指定されている。南東部には飛驒・木曾両山脈の末端の美濃三河高原が広がり，西の滋賀県境には伊吹(いぶき)山(1,377m)を主峰とする伊吹山地と関ケ原の溪谷(けいこく)，三重県境に養老山地がある。川は北部山地を分水界として，北または南へ流れる。日本海側には，神通川上流部の高原川・宮川があり，宮川流域に高山盆地が開ける。西方には秘境白川郷や御母衣(みほろ)ダムを流域にもつ白川(庄(しょう)川上流部)が北流する。太平洋側には，木曾川とその支流益田(ました)川・長良川・揖斐川などの河川があり，下流部に濃尾平野が愛知県にかけて広がる。益田川中流部は飛驒川とよばれ，下呂(げろ)温泉や中山七里・日本ライン・犬山などの景勝地に富み，東の木曾川流域と合わせて飛驒木曾川国定公園に指定されている。気候は，地形が複雑なために地域差が著しい。飛驒山地北部は裏日本型の気候で，白川付近は豪雪地帯として知られる。飛驒山地南部から美濃三河高原へかけては表日本型に近づき，東美濃地方は冬の降雪量が少なく乾燥した内陸式気候を呈する。濃尾平野は，温暖な東海式気候である。気温は，北部の高山では1月−2.6℃，8月22.6℃，南部の岐阜で



黄表紙
日本女子大学図書館蔵



岐阜県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地





岐 阜 県　(左)岐阜・愛知県境付近の木曽川〈日本ライン〉の空からの大観。川沿いに高山本線と国道21号線が走る　(右上)木曽・長良・揖斐3川の下流に広がる低湿地〈輪中地帯〉の景観。ここにも宅地や工場が進出し，都市化が進んでいる



(左下)岐阜市加納の和がさづくりの作業風景。幕藩時代からの歴史をもち，郷土色豊かな伝統的な産業として残っている

は1月3.3℃，8月27.0℃を記録する。年平均降水量は2,000㎜内外で，揖斐川上流部は3,000㎜を越す日本最多雨地域の一つである。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は8:46:46で県民分配所得は1人あたり118万0,000円(全国28位，1977)である。**〈農林水産業〉**耕地面積は約87,000ヘクタールで県域の8.2%にすぎず，水田率は75%で，大半は低湿な濃尾平野に集まる。この地域は，かつて〈美濃ひでりは豊年〉といわれたほどたびたび河川の氾濫(はんらん)に苦しめられ，輪中*(わじゅう)集落が発達した。米の平年収量は19万6,000t(1974)で，ほぼ自給できる程度である。大麦・小麦は，ナタネなどの工芸作物とともに水田の裏作として栽培されるほか，山間部の畑でもつくられる。サツマイモは南部の洪積(こうせき)台地，ジャガイモは北部山地が主産地で，豆類は平野部では水田のあぜに，山地では畑地や焼き畑*でつくられる。濃尾平野では近郊農業も盛んで，サトイモその他の野菜類をつくっている。果樹は，ミカンからリンゴに至るまで種類が豊富で，西美濃の富有ガキは全国に出荷される。茶は中津川市周辺や南西部でつくられる。養蚕は古くから東美濃や南飛騨の農村地域で行なわれ，最近は山林を開墾した集団桑園に切り換えられている。畜産業は酪農が発達して乳牛が増加し，飼育頭数は，1968年(昭和43)には1万8,600頭であったのが，1975年には2万800頭となっている。しかし，全国的に見れば中位の程度である。肉用牛も同じ期間に2万4,100頭から3万1,500頭，ブタも10万8,000頭から11万6,000頭へと増加しているが，いずれも全国的に見れば中位の程度である。ニワトリは，468万羽から532万羽へと増加しており，これは全国10位であって，全国1位(1,094万羽)の愛知県に続く，日本の養鶏地帯の中心の一部となっていることがわかる。ウマはたった90頭(1975)しか飼われていない。ミツバチの飼養も盛んで，16,000群が飼われて北海道に次ぐ。林野面積は県域の80%を越える86万ヘクタールで，広葉樹林と針葉樹林の比率はおよそ3：2である。飛騨山地と美濃高原北部が林業の中心地で，奥地にヒノキ・ゴヨウマツ・ブナ，やや浅い山地にマツ・ナラなどの樹種が多い。素材の年間生産量は110万4,000m³に達し(全国第9位，1974)，おもに建築用材となる。林野副産物には，美濃加茂市周辺や南西部のシイタケ，南東部のたけのこ，北部山地のナメコなどがよく知られる。内水面漁業は南部の各河川流域で行なわれ，長良川の鵜(う)飼いは特に名高い。アユ・ウグイ・コイ・フナ・ウナギなどの稚魚が毎年河川に放流され，水田にコイ・フナを飼う水田養魚や池・沼を利用するコイ・フナ・ウナギなどの養殖も行なわれている。**〈鉱工業〉**鉱業は，飛騨山地北東部の高原川(神通(じんづう)川)に沿う神岡鉱山と，東美濃地域の亜炭・陶土で代表される。神岡鉱山は良質のセンアエン鉱・含銀ホウエン鉱の埋蔵量がきわめて豊富で，採鉱場の施設も整い，産額は亜鉛が全国1位，銀が2位，鉛が2位(1974)を占めているが，下流の神通川流域におけるカドミウム中毒による〈いたいいたい病〉が，住民と三井金属鉱業との間の訴訟問題となっている。また，揖斐川流域のドロマイト，飛騨地方のホタル石，北西部のモリブデン，大垣(おおがき)市周辺の石灰岩・大理石などがある。水力発電はきわめて盛んで，大小合わせて80余の発電所の出力は約180万kWに達し，長野県に次ぐ全国第2位の電源県である。日本海斜面では山地の雪どけ水，太平洋斜面では夏の降雨によって河川の水量が増加し，この水をせき止めて大規模なダムが各地に建設されている。白川流域の御母衣ダムは最大出力21.5万kWで，全国有数の発電設備をもっている。飛騨川上流にはさらに大規模な出力(35万kW)をもつ岩屋ダムが建設中である。工業はおもに南部の平野部で行なわれ，年間の製品出荷額は1兆2,401億円(全国19位，1973)である。主要製品は，繊維をはじめ，窯業・紙・パルプ・金属・プラスチックなどで，繊維製品の出荷額は全出荷額の約6分の1を占め，大垣市・岐阜市・中津川市などを中心に工場地帯が発達している。大正初期までは生糸・絹織物の生産が主であったが，第2次世界大戦後は綿織物業が発達して紡績工場が増加し，最近は合成繊維の生産も多い。そのほか，各務原(かかみがはら)市に航空機工場があり，大垣市には化学，中津川市に製紙・電気機器，恵那(えな)市に時計などの近代工業が興っている。家内工業は美濃焼・打

ち刃物・岐阜ぢょうちん・春慶塗*などが代表的なものである。美濃焼は，多治見市を中心とする東濃地域で生産され，海外に輸出される。打ち刃物は，日本刀製造の古い伝統をもつ関市を中心に，はさみ・包丁・かみそりなどを産し，輸出も多い。

〔交通・都市〕畿内(きない)と東国を結ぶ交通の要地にあたり，古くから中山道(なかせんどう)・益田街道に沿う地域を中心に開けた。これらの街道はいまも県の主要道路となり，国道19号線・21号線は中山道，国道41号線は益田街道とほぼ同じ道筋をたどる。名神高速道路は県域の南西部を横切り，大垣市・関ケ原町にインターチェンジ，養老町にサービスエリアがある。幹線鉄道に東海道本線・同新幹線・高山本線・中央本線があり，北陸本線の支線越美南線は越美北線とつながって，南北を縦断する重要な役割を果たすことが期待されている。そのほか，太多線・明知線・樽見(たるみ)線，名古屋鉄道・近畿日本鉄道・北恵那鉄道・西濃鉄道などが県内各地を結んでいる。北部の山間部では，バス路線が国道156号線(もと越前(えちぜん)・飛騨・白川の3街道)・157号線(もと越前街道)・158号線(もと白川街道)などを走り，トラック便は関東と関西を結ぶ重要な役割を果たしている。山がちの地形のために都市の発達は遅れ，人口10万以上の都市は岐阜市・大垣市・各務原市で，人口の集中する南部の平野部では人口密度1 km²あたり1,000人を越すが，高山市を含む北部の山地では17人程度にすぎない。岐阜市・高山市・多治見市はもと城下町，大垣市・中津川市はもと宿場町で，岐阜・大垣・中津川の各市には近代工業が発達している。その他の都市は地域産業の中心地的な性格が強い。美濃・瑞浪(みずなみ)・羽島・恵那・美濃加茂・土岐・各務原の7市は，1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以降の新市である。

〔歴史〕飛騨や東美濃には縄文(じょうもん)時代の遺跡や遺物が広く分布し，狩猟生活を主とした当時はこの地域が主要な居住地であったことを物語っている。弥生(やよい)時代の遺跡は南美濃の低地で多く発見され，人々が水利の便と日あたりのよい地域に定住して水稲耕作を行なったことを示している。古墳の数は多く，美濃に2,700，飛騨に200が数えられ，大和(やまと)朝廷の文化が早くからこの地方に及んだことを物語る。大化改新以後，美濃・飛騨両国に国司が置かれ，奈良時代には国分寺が美濃の赤坂(大垣市)，飛騨の高山に建立(こんりゅう)された。道路はすべて平城京へ通じ，近江(おうみ)から美濃へはいる東山道は後世の中山道より山沿いを走り，関ケ原付近はその関門として重視されて不破(ふわ)の関が設けられた。平安時代には東大寺の荘園(しょうえん)茜部(あかなべ)庄(岐阜市内)・大井庄(大垣市内)をはじめとして多くの荘園が置かれ，中央の政治力が弱まるにつれて，荘園どうしの争いから武士が



岐阜市　金華山の山頂にある岐阜城天守閣から望んだ市街と長良川。長良橋の手前に鵜飼いに使われる赤い屋根の屋形舟が並んでいる



キブシ

台頭した。美濃では源氏の勢力が強く，源頼朝(よりとも)・木曾義仲(よしなか)の挙兵には多くの武士が参加している。鎌倉時代には守護・地頭が設置され，南北朝時代には美濃を支配した土岐氏が北朝方に，飛騨の国司姉小路(あねがこうじ)氏が南朝方にくみして戦乱が続いた。戦国時代には土岐・斎藤・小島・京極の各氏が割拠し，土岐氏の家臣斎藤道三が主家を滅ぼして金華山に稲葉城を築き，井ノ口(岐阜)を城下町として勢力をふるった。1567年(永禄10)，織田信長(のぶなが)が稲葉城を攻略して美濃一円を平定すると，商人を優遇して楽市・楽座を開いた。本能寺の変後，1589～1590年(天正17～18)にわたって太閤(たいこう)検地が行なわれて近世村落が成立した。当時の美濃の村落は700余，米産高は美濃が五十四万石，飛騨が三万八千石と推定されている。関ケ原の役では，岐阜城の織田氏をはじめ，美濃の武将の大半は西軍にくみし，戦後は所領を没収されて，美濃は徳川氏の支配下に置かれた。江戸時代には，美濃は細かく分割され，多くの藩が交替したが，元禄(げんろく)期からようやく安定して，野村・高須(たかす)・大垣・加納・今尾・郡上(ぐじょう)・岩村・苗木・高富などの中小藩が幕末まで統治した。飛騨地方は，はじめ金森氏が藩主であったが，その後天領となり，高山に十一万四千石を支配する飛騨郡代が置かれた。この当時，美濃の低湿地はしばしば洪水を起こしたが，これら小藩の財力では治水が不可能であったため，幕府は薩摩(さつま)藩に命じて，揖斐川・木曾川・長良川の合流地点に分水堤を築く大工事を1753年(宝暦3)に完成させた。明治にはいり，廃藩置県に際して，飛騨は高山県となり，美濃は幕領地と旗本地(はたもとち)を含む笠松(かさまつ)県と，大垣藩をはじめとする各藩領を統合して岐阜県となった。その後，高山県は一時筑摩(ちくま)県に合併されたが，1876年(明治9)岐阜県に編入されるようになり，現在の県域が確定した。

〔浅井得一〕

ぎふ　【岐阜(市)】　岐阜県の南西部，県庁のある市。濃尾平野の北端に位置する長良(ながら)川の渓口(けいこう)集落で，もと井ノ口とよばれた。戦国時代は斎藤氏の城下町，織田信長(のぶなが)に攻略されて岐阜と改称，美濃紙(みのがみ)・絹紬(けんちゅう)・美濃米の集散地として栄えた。1889年(明治22)市制施行。人口40万7,000。産業三大別人口比は 4：39：57。第2次世界大戦中，市街の80%が破壊されたが戦後まもなく復興し，繁華街の柳ケ瀬(やながせ)を中心に，北部に官庁街，南西郊に豊富な水力を利用した紡績工場地帯，北部山麓(さんろく)方面に住宅地区がある。岐阜駅前の繊維問屋街には，1,000余の業者が集まり，既製服の取引は年商千数百億円に達する。伝統的な家内工業として，和がさ・縮緬(ちりめん)・うちわ・岐阜ちょうちんなどの生産が市内各地で行なわれる。東海道本線と高山本線の分岐点で，名古屋鉄道の名古屋本線・犬山各務原(かかみがはら)線や国道21号線・156号線・岐阜国道・岐大国道が集まり，バス交通も四方へ通ずる。岐阜大学・岐阜県立医科大学・岐阜薬科大学などの教育施設がある。近郊の農業地では，有名な富有ガキが生産される。長良川の鵜(う)飼いも名高く，その時期には他県からの行楽客でにぎわう。

〔浅井得一〕

きふこうい　【寄付行為】　財団法人を設立する行為。一定の公益を目的とするため財産を提供し，それを管理・運営するための根本規則をつくることである。単に財産を無償で出捐(しゅつえん)または贈与する寄付とは異なる。寄付行為はまた，財団法人の根本規則そのものをいう場合もあり，これは社団法人の定款に相当するものである(民法39条)。なお，寄付行為は生前行為のほか遺言によってもできる(民法41条)。→財団法人

〔黒木三郎〕

きぶし　【通条花】　双子葉植物・キブシ科の落葉低木。北海道西南部，本州・四国・九州の丘陵や山地に自生する。高さ2～3 m。幹は直立し，樹皮はかっ色。葉は互生し，有柄，葉身は卵形で先は鋭くとがり，縁に鋭い鋸歯(きょし)がある。3～4月，葉に先だって穂状花序を下垂し，多数の黄花をつける。雌雄異株で，果実は卵球形。ヌルデの五倍子の代用として，乾燥した果実を粉末にしたものを黒色染料とする。材は黄白色で細工しやすく，かさの柄やつえ・ようじなどに用いられる。

〔横井朝子〕

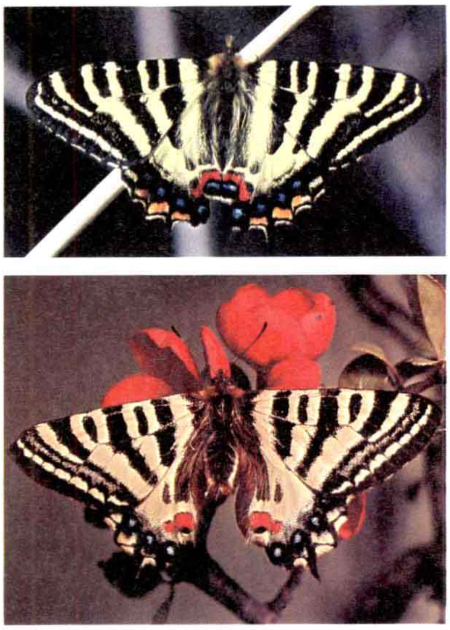
きぶしねんど 【木節粘土】 微細なカオリンを主体とする粘土で，可塑性に富み，耐火度も高い。がいろめ粘土などとともに岐阜・愛知・三重の各県の第三紀層中に産する。埋もれ木を含み，また微細な有機物や腐植を含んでいる。耐火れんがの原料調合の際，適当な可塑性を与えるために必要な粘土である。焼き上がりが白くなるものは，陶磁器の原料に調合される。

ギブス [Josiah Willard Gibbs] (1839～1903) アメリカの物理学者・化学者。エール大学教授。数学に関する仕事のほか彼の最大の業績とされる《相律》をはじめ，不均一物質の平衡を論じて(1874～1878)熱力学的な化学理論に業績を残したが，とりわけ死の前年に書いた《統計力学の基礎原理》(1902)で古典的な統計力学をみごとに体系化し，その後の物性理論の発展に大きく貢献した。

ギプス [Gips] 石膏(せっこう) $CaSO_4 \cdot 2H_2O$のドイツ名。石膏を熱して脱水すると粉末状の焼き石膏$CaSO_4 \cdot \frac{1}{2}H_2O$となり，これに水を加えると固まって再び石膏となる。この性質を利用して，主として整形外科などで四肢(しし)および軀幹(くかん)の固定治療に用いられる。1852年メチセンが用いたのが最初といわれている。あらい目のガーゼ包帯に焼き石膏を塗布したものをギプス包帯といい，これを温水に入れて十分に水分をしみこませたもので患部の包帯を行なうと，数分で発熱して固まり，患部の固定が行なわれる。ギプス包帯は病患部の固定安静，骨折の整復後の固定，変形の矯正(きょうせい)後の固定，装具の形どりなどの目的に使用される。使用にあたっては，阻血性拘縮の発生，圧迫による神経麻痺(まひ)，疼痛(とうつう)および褥瘡(じょくそう)の発生に注意しなければならない。なお，ギプス包帯の下に綿包帯を入れるものを有褥ギプス，直接に包帯を行なうものを無褥ギプスという。ギプスに代わる材料も種々考案されているが，価格・安全性・簡便さなど現在のところまさるものはない。 〔荻野幹夫〕

ギブスせき 【ギブス石】 アルミニウムの原料鉱石。$Al(OH)_3$ 単斜晶系。比重2.3～2.4，硬度3，ウンモ状劈開(へきかい)が{001}に存在。結晶は無色で，玻璃(はり)光沢を呈する。大きい結晶が見いだされることはまれである。アメリカ・インド・マライ半島などのボーキサイトの主成分鉱物として豊富に存在する。わが国では少量ずつ粘土鉱床に広く分布する。

キプチャクかんこく 【キプチャク汗国】 金帳汗国ともいう。チンギス汗の長子ジュチはアラル海北方のキプチャク草原に分封されたが，ジュチの子バトゥは1243年ボルガ河畔のサライを都として南ロシアにキプチャク汗国を建設した。その兄オルダは白帳汗，弟のシェイバンは青帳汗と称し，それぞれ固有の領土をもちつつキプチャク汗国に従属した。14世紀末にチムールの討伐を受けてからは解体過程をたどり，1502年モスクワ公国イワン3世に滅ぼされた。



ギフチョウ (上)ギフチョウ (下)ヒメギフチョウ



キブツ ヨルダン川に沿うデガニア付近のキブツの全景。共同施設や住宅などが建ち並び，公園や緑地も整っている

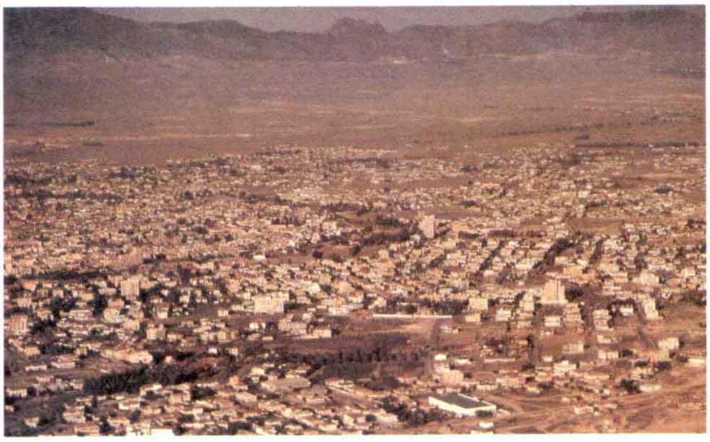
ぎふちょう 【岐阜蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。小形の美しいチョウで，翅(はね)が黄色と黒色の段だらのしま模様をなし，ダンダラチョウともいう。翅を広げた長さは50～55mm。体・前翅基部および後翅内縁に淡黄色の軟毛を密生する。翅は黄色の地に黒色の太い横条が走り，後翅の内縁角に顕著な赤色の斑紋(はんもん)がある。幼虫はカンアオイ類の葉を食べ，6月ごろ石や落ち葉の下などでさなぎになり，翌春3月下旬～5月初旬に羽化し，晴天無風の日に，スミレ・レンゲソウ・サクラなどの花に好んで集まる。日本特産種で，本州の西南部にのみ分布する。中国地方・近畿(きんき)地方では内陸部にもみられるが，東では岐阜地方・東海地方の低山地帯から神奈川県の丘陵地帯を経て東京都の高尾山付近まで達する地域と，北陸地方の低山地帯を日本海沿いに山形県の庄内(しょうない)地方に及ぶ地域に分布する。本州中部の長野県の山麓(さんろく)地帯から東北地方一帯には，近縁のヒメギフチョウが分布し，両者は新潟県糸魚川(いといがわ)地方や山形県最上(もがみ)地方などの限られた地方で混生がみられる。しかし，それらの地方でも自然状態で交雑の起こることはなく，ほぼ東西にすみ分けており，その境界線は両者の属する属名をとってリュードルフィア-ラインとよばれる。ヒメギフチョウは，ギフチョウに比べて小形で，後翅の尾状突起の先端が細まること，翅の黒帯が細く黄色部が広いことなどで区別される。幼虫はウスバサイシンの葉を食べる。 〔鈴木邦雄〕

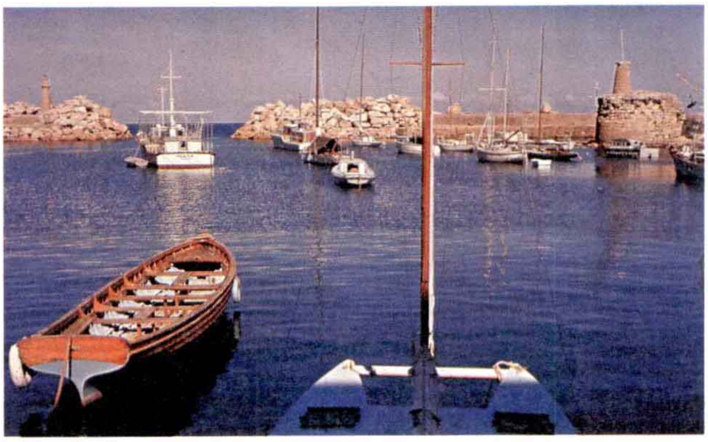
キブツ [Kibbutz] イスラエルで1909年以来始まった開拓的集団農場。財産は参加者全員の共有であり，農場の運営も共同責任でなされる。個人の自由意志で参加し，脱退も自由で，政府が運営に干渉することもない。その点社会主義国における集団農場とは異なる。キブツの労働は無報酬だが，物質面・文化面の必要なものはすべて満たせるよう考慮されている。キブツ1単位は平均400～1,500人からなり，300～600ヘクタールの耕地を共同で耕作し，機械化も進んでいる。農場の中心に機械置き場・厩舎(きゅうしゃ)・サイロなどが立ち並び，住宅地区には中央食堂・講堂・図書館・娯楽施設などのほかに公園や緑地を配している。隣接して児童の生活地区としての〈子どもの家〉があり，児童は満18歳になるまで共同生活を通して集団教育がなされる。1909年にヨルダン河谷のデガニアに建設されたのが最初で，1918年以後シオニズム運動が起こるにつれて盛んになり，1948年にイスラエル共和国が建設されてからは，政府がこの運動の普及に乗り出した。これにより湿地や砂漠地(さばくち)の開拓が急速に推し進められ，ユダヤ難民の救済に際して大きな力となった。1963年のキブツ数230，参加人口約80,000。 〔野間三郎〕

きぶつききざい 【器物毀棄罪】 器物(文書・建造物以外のすべての財物)を破損して，その価値・効用を減少・滅却させたり，動物に傷害を与えたりする罪(刑法261条)。刑は3年以下の懲役，または25,000円以下の罰金または科料。破損するばかりでなく，機械を解体してばらばらにしたり，食器に放尿したり，養魚場の魚を流出させたりする場合も含まれる。➔毀棄罪

きふどう 【黄不動】 園城(おんじょう)寺(三井寺)に秘仏として伝わる不動明王の画像。国宝。全身が黄色に彩色されているためこの俗称がある。838年(承和5)円珍が感得した姿を描いたと伝えられ，右手に剣を握り岩上に直立する独特の姿態につくられ，挾侍(きょうじ)の童子は描かれていない。なお，曼殊院(まんじゅいん)にもこれを模したとみられる同形式の1幅(平安後期)が伝わる。

きぶねぎく 【貴船菊】 双子葉植物・キ





キ プ ロ ス (左)首都ニコシアの市街風景。乾燥の強い地中海性気候の特色が，この景観からもうかがえる　(右)この国の北岸の町キレニアの港。波静かな地中海の水の青さが印象的だ

ンポウゲ科のシュウメイギク*の別名。京都市北郊の貴船山に多くはえるのでこの名がある。

きぶねじんじゃ　**【貴船神社】**　京都市左京区鞍馬(くらま)の貴船山山腹にある。貴布禰・木船とも書く。祭神は高龗神(たかおかみのかみ)という。社伝によれば，678年(天武6)に社殿の新造営の記録があり，古来，祈雨・祈晴の神として尊崇されてきた。境内の船形石は，祭神が昇天のとき残していった船であると伝えている。古くは4月と11月の春秋2回に祭りがあり，そのとき唱えられたという秘歌，春祭りの〈葦原(あしわら)田をとりつくろひてよく植ゑて足引のあはれ駒(こま)なり〉，秋祭りの〈もみぢ葉に木綿(ゆう)四手(しで)鬘(かつら)とりそへて祈る心の色ぞみてける〉は，農耕民族としての祭礼行事の本体をよく伝承するものとして注目される。現在の例祭は6月1日。また，この神社には男女和合の信仰があり，能の《鉄輪(かなわ)》《班女(はんじょ)》などにみられる。〔佐野文哉〕



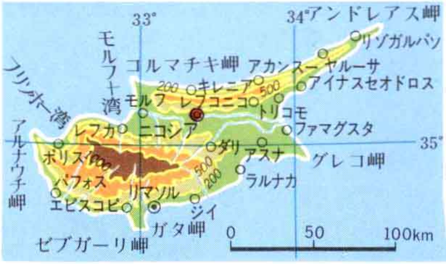
黄 不 動　園城寺黄不動の模写像と伝えられる曼殊院蔵不動明王像

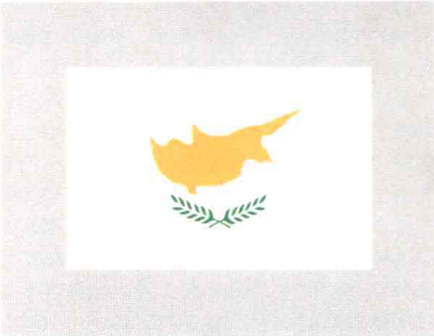
きぶねのほんじ　**【貴船の本地】**　御伽(おとぎ)草子の一。本地物*。定平中将は鬼国の大王の姫を恋う。鬼国に行って姫と結ばれるが，姫は父大王の怒りに触れ，殺されてしまう。のち姫は生まれ変わりまた中将と結ばれる。しかし鬼はふたりを襲い，帝の行なった節分・五節供(ごせっく)(→節供)の行事で追い払われる。その後姫は貴船大明神，中将は貴船の両所の神となって衆生を守った，という筋である。

キプリアヌス　［Caecilius Thascius Cyprianus］(200ごろ～258)　ローマ時代のカルタゴ*の司教。はじめ修辞学者であったが，40代半ばごろ，キリスト教徒になった。ローマ教会の組織に貢献したが，ウァレリアヌス帝の迫害により殉死した。書簡形式の論文および書簡が残っている。〈教会の外に救いはない〉は彼の残した言葉として有名。

キプロス(共和国)　［Republic of Cyprus］　地中海東端に突き出した小アジア半島の南にある島国。面積9,251km²。人口63万人(1978年推)。首都ニコシア。

〔自然・住民〕キプロス島は地中海第3の島で，北岸沿いのキレニア山脈と中西部のトロエドス山脈の間に狭長なメサオリア平野があるほかは，平地に乏しい。地中海性気候で，夏は暑く気温は38℃にもなることがあり，冬は雨が多くて暖かい。雪はトロエドス山(1,951m)の頂上付近にだけ見られる。年降水量は山地で1,200mmに達するが，平地では400mm程度である。住民の77％をギリシア人が占め，次いでトルコ人が18％，





キプロスの国旗　1960年制定。ギリシア・トルコ2国の影響を排して，それらのいずれの国旗とも似ないものを選び，この国のシンボルであるオリーブとキプロス島の地図を描いた特異なデザインとなった

ほかにアルメニア人・ユダヤ人などがいる。国語はギリシア語とトルコ語が用いられ，かつてイギリスの植民地だったところから英語も通用する。宗教はギリシア人がギリシア正教，トルコ人がイスラム教を信ずる。文盲率は低いといわれる。

〔産業・経済〕主産業はメサオリア平野を中心とする農業で人口の40.6％が従事し，農産物は総生産高の20.2％を占めている(1966)。耕地の85％は自作農の所有地である。主産物は穀類・ジャガイモ・タバコ・柑橘(かんきつ)類。農業とは別に牧畜も行なわれるが，畜産物は不足している。工業は第2次世界大戦後発達し，おもに食品加工と繊維工業である。鉱産は黄鉄鉱・銅・クロムなど。ギリシア系住民とトルコ系住民の対立と，資本の不足が経済の発展をはばんでいる。輸出の半ばを農産物が占め，次いで鉱産物が30％であるが，貿易はいつも入

超(1966年輸入5,514万3,000ポンド，輸出2,767万4,000ポンド)を続けている。相手国はイギリスが首位を占める。

〔歴史・政治〕歴史は古く，紀元前2000年ごろはエジプトに支配されていた。その後ギリシア人・フェニキア人が植民し，地中海貿易の要所として，長い間西ヨーロッパ諸国とオリエント諸国との間で争奪がくり返された。1571年トルコ帝国領となり，ロシア-トルコ戦争の結果，1878年イギリスに割譲された。1931年以降多数を占めるギリシア系住民の自治およびギリシア本国への復帰運動(エノシス)が高まると，トルコ系住民とトルコはこれに激しく反対した。1960年8月に独立したが，両国系住民の対立はその後も解決せず，1964年からは両国の軍事的介入があったため，以後は国連軍が駐屯(ちゅうとん)している。1960年に憲法制定。大統領制をとり，憲法によって大統領はギリシア系，副大統領はトルコ系から選出することが定められた。国会は一院制で，議員50名も両系住民から7：3の比率で選出される。〔今井留吉〕

きへい【騎兵】陸軍兵科の一。徒歩戦・乗馬戦のどちらもでき，機動力(地上の移動性)の大きいのが特色である。各種の戦闘任務，捜索・援護などの任務を担当した。騎兵は紀元前7世紀ごろから戦闘に参加し，機動力のある歩兵として高く評価された。中世では騎士団として軍の主兵となったが，やがて火器の進歩により歩兵のわき役の地位に下がっていった。第1次世界大戦以後は機械化部隊が発達して乗馬部隊活躍の余地が少なくなり，第2次世界大戦の前半で近代軍の組織からは姿を消したが，大陸諸国の中にはいまなお騎兵部隊を保有するところがある。アメリカ軍には騎兵師団などの名称が残っているが，内容は機動力のすぐれた近代装備の部隊である。→兵科

きへいたい【奇兵隊】1863年(文久3)高杉晋作*(たかすぎしんさく)らが組織した長州藩の民兵隊。藩の正規兵でないことから奇兵という。郷士・足軽・農民・町人の有志を募って入隊させ，藩から武器・俸給(ほうきゅう)を受けて近代的訓練を施した。長州藩尊攘(そんじょう)派の中心となって藩内保守派を打倒するのに貢献し，第2次長州征伐，鳥羽(とば)・伏見の戦い，戊辰(ぼしん)戦争に戦功を立てた。1869年(明治2)藩の兵制改革で解散。

きべりたては【黄縁蛺蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ60～70mm。翅は濃い紫かっ色で，外縁部は幅広く灰黄色を呈し，その内方に6～7個の紫藍(しらん)色の斑紋列(はんもんれつ)がある。前翅の前縁部に淡黄色の顕著な2本の斜帯がある。裏面は黒かっ色で，黒色の波状線が密に走る。北海道・本州のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮からヨーロッパにかけて分布する。幼虫はヤナギ類の葉を食害し，糸を吐いて巣をつくり，群生する。年1回の発生で，成虫は6月ごろから出現し，8～9月に多い。北海道では平地，東北地方では低山地，関東地方から中部地方では高地に産する。飛翔(ひしょう)は敏速だが，路上・樹液・獣糞(じゅうふん)などに好んで集まる。〔鈴木邦雄〕



ギベルティ《イサクの犠牲》1401 国立バルジェッロ美術館蔵

きべりとげとげ【黄縁棘々】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長4.0～4.5mm。体は黒色，前胸背板と鞘翅にはかっ色の部分が混じり，触角・鞘翅の外縁・脚は黄かっ色ないし黄色。前胸背板や鞘翅には突起がある。北海道・本州のほか，朝鮮・中国に分布する。成虫は，雑木林などの樹葉上に多いが，幼虫はその下草のキク科植物の葉にもぐる。近縁のヒメキベリトゲトゲは，前胸背板および鞘翅が全体黒色で，腹部が黄色である。

ギベリンとう【ギベリン党】ローマ教皇と神聖ローマ皇帝との対立で，神聖ローマ皇帝を支持した党派。皇帝党ともいう。ローマ教皇を支持したゲルフ党*(教皇党)と対立した。11世紀の聖職叙任権闘争*以来，ドイツではギベリン党とゲルフ党の抗争が続いたが，この争いはイタリアに持ちこされ，イタリアを約2世紀にわたって抗争状態においた。14世紀には本来の意義を失い単に政権争いのための集団となった。

ギベルティ［Lorenzo Ghiberti］(1378～1455) イタリア-ルネサンスの著名な彫刻家・建築家。1402年，サンタ-マリア-デル-フィオーレ*大聖堂の北側扉(とびら)の彫刻コンクールにブルネレスキ*と争って勝ち，キリスト伝による卓越した青銅浮き彫りを制作した。その完成には21年を要したが，引き続いて東側扉にも制作を依頼され，没する直前に完成させたので，生涯(しょうがい)のほとんどをこの二つの制作にささげたといってよい。ギベルティの彫刻の特質は，ルネサンス芸術に特に発達した遠近法を浮き彫りに駆使し，その絵画的効果をきわめて発展させた点にある。〔井関正昭〕

きべん【詭弁】相手を欺くためのごまかしや道理に合わないこじつけの論法。大別して2通りある。①論理的には正しいようにみせかけながら，相手のあいまいで不正確な知識や理解を巧みに利用して相手をだます虚偽の議論。②論理的な正しさをもちながら，真の前提から真とは思われない奇妙な結論を導き出す論法で，相手もこれを容易に反駁(はんばく)することができない議論。ゼノン*の運動否定論(〈飛ぶ矢は飛ばず〉〈アキレスと亀(かめ)〉など)や，公孫龍(こうそんりゅう)(→公孫龍子)の〈白馬は馬にあらず〉などがこの好例。古代ギリシアのソフィスト*が教えた弁論術にこのようなものが多かったところから，彼らは詭弁学とか詭弁学派とよばれることもある。〔本橋正義〕

きぼう【希望】マルロー*の長編小説(1937)。1936年スペイン内乱に義勇兵として参戦した作者の体験に取材したもの。多くの人物を登場させながら，極限状況に置かれた人間存在を追究，宗教的ともいえる形而上学(けいじじょうがく)的思索のあとがうかがわれ，革命文学の域を越えた傑作となっている。

きほうけいさんほう【気泡計算法】カナダモ・クロモなどの水草の枝を切って，切り口を上にして水中に入れ，光合成を行なわせると，切り口から盛んに気泡を発生する。この気泡は光合成によって生じた酸素ばかりではないが，気泡が一定の大きさで出てくるようにすれば，気泡の数を数えて一定数の気泡が発生するのに要する時間から，比較同化度を計算することができる。この方法を気泡計算法という。

きほうコンクリート【気泡コンクリート】セメントペーストまたはモルタル中に起泡剤*を用いて気泡を発生させるか，気泡をつくっておいて混ぜ合わせた多孔(たこう)質のコンクリート。軽く加工が容易であるうえ，吸音性・吸湿性に富み，断熱性もよい。多くは非構造材として用いられる。製造方法，起泡剤の大部分が特許になっている。

きほうざい【起泡剤・気泡剤】①溶媒にとけて溶液のあわを安定化する物質。せっけんなどの界面活性剤のほか，卵白・サポニン・ゼラチンなどがそれで，溶液中に機械的に生じたあわを安定化するので泡沫(ほうまつ)安定剤ともいわれるべきものである。高級アルコールや高級脂肪酸，アルキル硫酸塩・イゲポンT・ビルダー(カルボキシメチルセルロース)・ダウフロス・フロトールなど商品化されているものが多い。鉱工業・セメント工業・ゴム工業で利用されているほか，泡沫消火器としても使われている。②材料に混ぜて製品とする過程で加熱などにより気体を発生し，製品中にあわを生じる物質。発泡剤ともいわれる。炭酸水素ナトリウム・炭酸アンモニウム・酢酸ブチル・ジアゾアミノベンゼン・炭酸カルシウム・炭素などで，多くは加熱により窒素ガ

ス・炭酸ガス・アンモニア・水蒸気・水素ガスなどを発生する。あわ入り樹脂・スポンジゴム・あわガラス・発泡消火器などに使われる。パンを焼く場合のベーキングパウダーも炭酸水素ナトリウムを主体とする起泡剤である。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

ぎぼうし　【擬宝珠】　単子葉植物・ユリ科・ギボウシ属の多年草植物群。東南アジア，特に日本各地の山野に多数の種類が自生する。ミズギボウシ・タチギボウシ・オオバギボウシ・キヨズミギボウシなど約30種がある。園芸品種も多く，タマノカンザシ・スジギボウシなど30余種がある。葉は卵形または長楕円(ちょうだえん)形で根生し，7～8月に花茎を伸ばし，淡紫色または白色の花を多くつける。観賞用として栽培され，また若い葉のころに葉柄の白い部分を食用とする。暑さ寒さに強く株分けによりふやす。



ギボウシ

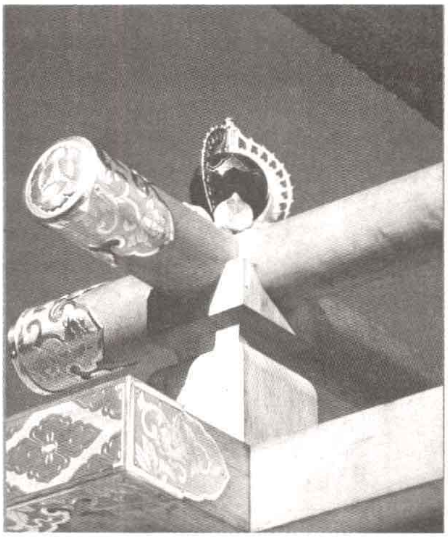
きぼうほう　【喜望峰】　アフリカの南端，南アフリカ共和国南西部にある岬(みさき)，ケープ-オブ-グッド-ホープの日本でのよび名。ケープタウンの南50kmに位置する。南緯34°21′。海岸から急傾斜が続いて海抜約300m以上になり，上は平らな高原状の地形という独特な風景をなす。古くはテンペスト(暴風)岬とよばれたが，1486年ポルトガル人ディアス*がここを回航し，ポルトガル王が現在の名をつけた。1497年にはバスコ-ダ-ガマ*がリスボンからここを経て，インドのカリカットに到達した。以後スエズ運河が開通するまでは，ヨーロッパ～インド航路の目標点であった。　〔長津一郎〕



喜望峰　最先端のケープ-ポイント付近の景観。岬の中腹を観光用自動車道路が走る

ぎぼし　【擬宝珠】　柱などの頭部に用いる装飾。形はネギの花のつぼみに似る。橋や縁の高欄*をささえる親柱などの頂部の装飾*金具に多く用いられる。葱帽子(ねぎぼうし)を語源とする説と，宝珠*に擬して簡略化したものの意とする説がある。わが国での擬宝珠の古い例は平安時代以降のものである。伊勢(いせ)神宮内宮(ないくう)正殿の高欄や，法隆寺夢殿の屋上に宝珠が飾られているように，奈良時代に最高の格式を示す装飾形式として，ごく限定された範囲での宝珠の使用例が認められるが，擬宝珠はこの装飾の高貴性にあこがれて，宝珠の特色の一つである線状の光彩部分を省略して用いた，簡略形式と考えてさしつかえない。

〔渡辺保忠〕





擬宝珠
(上)伊勢神宮内宮正殿の高欄とその上の宝珠
(下)明治神宮神橋の擬宝珠

きぼしかみきり　【黄星天牛】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。キボシヒゲナガカミキリともいう。体長19～27mmで，触角は体長の2～3倍。鞘翅には大小種々の丸形の淡黄色斑紋(はんもん)が多数散在する。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国・インドシナなどに広く分布し，成虫はよく燈火に飛来する。幼虫はイチジク・クワの樹幹に穿孔(せんこう)する害虫。➔カミキリムシ

ぎぼしむし　【擬宝珠虫】　原索動物・擬索類・ギボシムシ科の総称。体は長い円筒形で，吻(ふん)・えり・胴の3部に分かれ，海の砂泥(さでい)底にもぐってすむ。わが国で最も普通なミサキギボシムシは，全長40cmほどで汚黄色。本州の太平洋岸の内湾の低潮線付近の砂泥底に，U字形の穴を掘ってすみ，砂泥を飲み込んで含まれている有機物を摂取する。穴の口に，砂泥の糞(ふん)を積み上げる習性がある。生時，強いヨードホルムのようなにおいがする。

きぼのけいざいせい　【規模の経済性】　資本設備の拡張によって生産量を増加させると，平均生産費は低下する。これを規模の経済性，あるいは大規模生産の法則という。生産規模の拡大による平均費用逓減の理由には二つある。第1は企業内部の理由である。設備の改善や機械化によって分業を高め，生産能率をあげることができるからで，これを内部経済*という。第2は産業全般の拡張，関連産業の一般的発達，交通機関の整備による運賃の低下など企業外部の理由による。これを外部経済*という。しかし，大規模生産の利益にも一定の限界があることにも注意しなければならない。

〔藤枝省人〕

ギボン　［Edward Gibbon］（1737～1794）イギリスの歴史家。一時オックスフォード大学で学び，作家として活躍した。下院議員になったこともある。晩年はスイスのローザンヌに住み，そこで死んだ。はじめ古典研究を行ない，その後歴史家となった。その歴史観は，啓蒙(けいもう)主義に基づく合理主義で，カトリック教会に批判的であった。主著は，《ローマ帝国衰亡史》全6巻で，ローマの没落に関する古典的名著として知られる。本書は，2世紀のローマ帝国から始まり，1453年のビザンチン帝国の滅亡までを取り扱っている。ローマ帝国衰亡の原因としては，キリスト教が本来の純粋性を失って，現世的な権力組織になったこと，またローマ人が自由と道徳を忘れたことなどがあげられている。〔兼岩正夫〕

きほんそしきけい　【基本組織系】　維管束をもつ植物の表皮系と維管束系を除いた組織の総称。表皮系とは区別しやすいが，維管束系との境は厳密ではない。いろいろの形・大きさの細胞で構成されていて，細胞壁の性質，細胞の内容・機能にも種々ある。柔細胞でできている柔組織が大部分を占め，デンプン・糖類・タンニン・結晶体・葉緑体・色素などを含み，生理的に多くの働きをしている。細胞壁が全体に厚くなった厚膜組織，細胞の角の部分だけ膜が厚くなった厚角組織はともに機械組織として体を強固にするのに役だち，また厚膜組織のうち特に細長く変形した厚膜繊維細胞でできている部分もある。機能の面からは，同化組織・貯蔵組織が含まれる。〔高島文三〕

きほんたんい　【基本単位】　⇨単位

きほんてきじんけん　【基本的人権】　⇨次ページ

キマイラ　［Chimaira］　ギリシア神話に現われる女の怪物。ライオンの頭，ヤギの胴，ヘビの尾をもち，口から火を吐く。父

基本的人権

憲法*(日本国憲法)によって，はじめて日本の法律制度の中に取り入れられた国際的法律用語。

〔沿革〕明治憲法(大日本帝国憲法)第2章〈臣民の権利義務〉の中にも，権利とか自由とかいう文字は出ていたが，それらの内容は，前提として国民は永久に天皇に隷属する自主性のない臣民であることを是認させられ，また，条文中の自由とか権利とかいう文字も，そのままの意味ではなく，一つ一つ適用の範囲が法律によって限定されているものであった。条件つきの自由や権利は安心できないものであり，それゆえ国民の知らないうちに，天皇が宣戦の布告をすれば，一般国民は否応なくこれに従事し，一億玉砕の直前までもっていかれても，臣民の身分としては黙って従うほかなかった。これに反すれば法律によってひどい刑罰を受ける。明治憲法発布の勅語の末尾をみると，〈朕(ちん)が現在および将来の臣民は，この憲法に対し，永遠に従順の義務を負うべし〉となっている。すなわち，明治憲法下の一般日本人は，その生命・財産，身体の自由，その他いっさいの有形無形の生活の条件や生死までも，天皇とこれに直結する権力機関の思いのままになっていたのである。第2次世界大戦末期に，全国の庶民は，あやうく一億玉砕の命令によって，地上から姿を消すところであったが，幸いその命令は中止された。しかしそれを中止させたのは，もちろん明治憲法上の臣民の権利や自由によったものではない。また，人間としての意志や抵抗心から発したものでもなかった。臣民の大部分は，官憲に対しては無気力だった。

日本の民衆は，遠く武家時代から，被治者たる位置にくぎづけにされたまま，天皇制*下の臣民となったのである。明治憲法は，国民のこのような盲従性を利用して，国民を無謀な戦争に引きずり込み，あらゆる苦しみを与えたのち，無責任にも降伏をさえ許さず，民族絶滅の運命の中に投げ入れようとしたのだった。自己や同胞の生命に対し，当時の日本国民ほど鈍感でふがいない動物が地上に存在するだろうか。基本的人権を奪われている人間は，天然の動植物よりも哀れなる生物であることを証明した。天から与えられている理性や意志を使うことのできない人間は，人間としての価値を有しない。この厳然たる事実を，当時の国民ほど骨身にしみて知った人類はないはずである。基本的人権に対する理解も認識も，この民族的な経験の反省から始めなければなるまい。しかし，旧来の日本の上層支配層からみれば，日本の庶民はまことに統治しやすい存在だったであろう。明治以前には，百姓・町人を大御宝(おおみたから)と称して，物的な財産と同一視した。明治政府は，この大御宝を臣民という名をつけて受け継いだ。明治以来，危険思想と称して禁圧した思想内容を，今日においてみると，それはことごとく，基本的人権の条項であった。基本的人権は，好むと好まざるとにかかわらず，人間性を確保し，社会正義への門戸を開く条件であった。旧支配層が，これを嫌悪したのはそのためである。その支配層が，明治憲法と氷炭相容(い)れない主権在民と基本的人権とを国民の手に渡すことは，断腸の思いがあったろう。普通なら，流血革命なくしてできるわざではない。それを可能ならしめたのは，日本政府が連合国に降伏する条件として，ポツダム宣言*を受諾したためである。同宣言第10の後半部は，〈日本国政府は日本国国民の間に於(お)ける民主主義的傾向の復活強化に対する一切の障礙(しょうがい)を除去すべし。言論・宗教及び思想の自由並に基本的人権の尊重は確立せらるべし〉(日本政府訳)となっている。日本政府は降伏直後から憲法の改正に着手しなければならなかった。幣原(しではら)内閣は松本国務相に命じて草案をつくらせたが，いたずらに明治憲法の字句をいじっただけで，ポツダム宣言の命じた憲法にはならず，連合軍総司令部から拒否された。やむなく総司令部は，みずから草案を作成し，1946年(昭和21)2月13日にこれを外相吉田(よしだ)茂*に示した。マッカーサー*草案というのがそれである。しかし，その内容は第2次世界大戦後の数年間，部外者には極秘にされていたが，いまその当時の閣議に配布された草案の邦訳をみると，現行の日本国憲法とその構造・内容は，ほとんど同じだったといえる。新憲法を改変しようとする一派が，その理由として，マッカーサーから押しつけられた憲法だからというのは，この事実をさすのであろう。しかし，一般国民にとって，明治憲法のほうがもっとひどく押しつけられた憲法ではなかったか。明治憲法発布前の国内には，天賦人権を叫ぶ自由民権運動*が盛んであって，学者の中には共和制*を主張する一派もあった。明治政府は，これらを早期に抑圧する目的で急いで欽定(きんてい)憲法を作成・発布したといわれる。当時すでに欧米諸国では，民主主義*と基本的人権を憲法*の内容として採用しているのを知っていた民間の識者が，基本的人権を欠く非民主的な憲法を喜ぶはずはない。一方，マッカーサー草案の内容は，1948年12月10日パリのシェロ宮殿で開かれた国際連合*第3回総会で48国賛同のもとに採択された〈世界人権宣言*〉と同性質のものであった。この世界人権宣言は，連合各国の公法学者や哲学者が，自国の名誉をかけた約2年間の研究と討論の結果として成立したものであって，人権に関する20世紀の一大記念碑といわれている。日本国憲法は，マッカーサー草案を仲立ちとして，世界人権宣言と結びつくことができたといえるだろう。日本国憲法第10章最高法規〈基本的人権の本質〉の第97条は〈この憲法が日本国民に保障する基本的人権は，人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって，これらの権利は過去幾多の試練に耐え，現在および将来の国民に対し，侵すことのできない永久の権利として信託されたものである〉となっているが，ここに，〈人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果〉という表現は，端的に日本国憲法上の基本的人権が，単に日本だけのものではなく，欧米の自由や人権と共通の伝統のうえに成立したものであることを物語るだろう。

マッカーサー草案の第10は〈此(こ)の憲法に依(よ)り，日本国の人民に保障せられる基本的人権は，人類の自由たらんとする積年の闘争の結果なり。時と経験の坩堝(るつぼ)の中に於(おい)て，永続性に対する厳酷なる試練に克(よ)く耐えるものにして，永世不可侵として現在及び将来の人民に神聖なる委託を以(もっ)て賦与せらるるものなり〉(日本国政府訳)となっていて，日本国憲法と違った真剣みを読み取ることができるのではなかろうか。

〔内容〕前記ポツダム宣言の中で〈言論・宗教及び思想の自由並に基本的人権の尊重〉という表現をしているので，自由と人権とは，なにか別物のような印象を与えるが，もちろん，それらの自由は基本的人権の内容をなすもので別物ではない。〈基本的〉という形容詞が示しているように，それらの自由も人権も，すべて人間が人間らしく，平和な社会を建設し，その中で末長く，楽しく生きていくために必要な条件を提起したものである。第2次世界大戦時代のアメリカの大統領F.D.ルーズベルトは，これらを，①言論・表現の自由，②信教の自由，③欠乏からの自由(健康で裕福な生活)，④恐怖からの自由(暴力・病気・戦争などの支配しない世界)にまとめて世界に訴えた。〈四つの自由〉として世界史的に有名である。日本の場合は列挙主義をとり，第3章〈国民の権利及び義務〉の第10条から第40条までにこれを列挙している。それらの要点を各条文の番号順に従い列記すると，以下のようになる。10;国民と国籍。11;永久の権利としての基本的人権(前出97条と関連)。12;自由と権利の保持と利用の責任，濫用の禁。13;各個人の生命・自由・幸福追求心などの尊重。14;法の下に平等。15;公務員は公僕，任免は国民の権利，普通選挙の保障。16;国務に対する各種の請願権。17;国や公共団体に対し損害賠償の請求ができる。18;正式の

刑罰以外の苦役の禁。19；思想や良心の自由。20；信教の自由,国教の禁。21；集会・結社・表現の自由，検閲の禁，通信の秘密。22；住居・職業・移住の自由。23；学問の自由。24；両性の平等。25；国民の最低限度の生活の保障。26；教育を受ける権利。27；勤労関係の権利。28；勤労者の団結と団体行動。児童酷使の禁。29；私有財産権の不可侵とその公共性。30；徴税の手続き。31；死刑その他の刑罰は法定の手続きによる。32；裁判を受ける権利。33；逮捕の条件。34；抑留・拘禁の条件と理由開示(別に人身保護法*が並存する)。35；捜査・押収の条件。36；拷問と残虐な刑罰の禁。37；公平・迅速な裁判と弁護人をつける刑事被告人の権利。38；自白だけでは罪にならない。39；一度無罪になったものを蒸し返したり，あとからつくった罰条で罰することはできない。40；無罪になったら，刑事補償の請求ができる。以上が日本国憲法上の基本的人権となっている。しかし，この憲法の前文や，第1条によって主権が天皇から国民に移ったことは，基本的人権の基礎であり，また第9条で戦争を放棄したことは，雄大な基本的人権である。前記四つの自由の④にあげられているとおり，戦争は一挙に国民の基本的人権の全部を吹き飛ばす暴力*である。この暴力排除の重要な人権が，政権担当者のかじのとり方で，しだいに力を失っていくことになれば，法の支配は影をひそめる。憲法第12条の冒頭に〈この憲法が国民に保障する自由及び権利は，国民の不断の努力によって，これを保持しなければならない〉となっているが，努力の対象があいまいである。マッカーサー草案第11では，〈……自由・権利及び機会は,人民の不断の監視(vigilance)に依り確保せられるものにして……〉と書かれていて,基本的人権の敵は,つねに時の権力担当者であることを明示している。権力が公正に働いているかぎり，人権問題の発生する余地はない。

マッカーサー草案には，近代人権史のさきがけとみなされているマグナ-カルタ*や，ピューリタン革命*などの不屈の伝統が織り込まれているが，日本国憲法は，ことさらに反権力的伝統を断ち切ろうとしている。たとえば,第12条の末尾に,〈(国民は)公共の福祉のためにこれを利用する責任を負う〉となっているが，諸国民が，命がけで獲得した基本的人権は，単なる利用価値の事がらとしてではなく，もし否定された場合には，直ちに人道違反となるような真剣な正義の問題である。だからマッカーサー草案第12では〈一切の日本人は,その人類たることに依り，個人として尊敬せらるべし……〉となっている。〈人類たること〉の原文はby virtue of their humanityで，人類たる自覚をもつこと，すなわち人道感覚(正義感)の持ち主たることを意味している。このたいせつな部分を日本国憲法第12条では，全部削除し，単に〈すべて国民は,個人として尊重される……〉としている。これでは，なんのために〈個人〉という文字を使ったか，意味が不明となる。またマッカーサー草案第24には，〈あらゆる生活範囲に於(おい)て，法律は社会的福祉，自由・正義及び民主主義の向上発展の為(ため)に立案せらるべし〉という重要な箇条があったが,日本国憲法第25条②では，〈自由・正義及び民主主義の向上発展〉という部分を削除し，その代わりとして〈社会保障及び公衆衛生の向上及び増進〉という次元の低いものにすり換えた。各項目については，マッカーサー草案を全面的に取り入れたが，これを日本語に直すにあたって，時の政府が革新的な表現を避けたり柔らげたりして表わしたのが，日本国憲法上の基本的人権群といえよう。

【今後の問題点】現代の人類にとって,最も重要な問題は,地上に再び原子爆弾を武器とする戦争が発生するおそれはないか,いかにしたらそれを防ぐことができるか，ということであろう。これは地上の人類が，今後も幸福な生活を続けていくことができるか否かにかかわることで，基本的人権を，いかにりっぱな章典につくりあげても,ひとたび原爆戦争が起こったときには,それらはなんの価値もない。全世界の理性ある人々は,みなそれを憂い,戦争を未然に防ぐことを祈った。第2次世界大戦後に122国の参加を得て成立した国際連合*と国際連合憲章とは人類としての反省の表われであったろう。世界人権宣言は，さらにその具体的な道義的要請を加盟国政府およびその国民にしたものである。日本は1956年から国際連合に加盟して，この要請を受領した。以来12月10日を人権の日として，国家の記念日としたのである。この二つの聖典は，いずれも各冒頭の章句の中に，日本国憲法が置き去りにしようとした正義・良心・平等などの道義的・倫理的の要素を強く打ち出していることに注目しなければならない。原爆という人類冒瀆(ぼうとく)の地獄的惨禍を未然に防ぐには，各国民がその国の権力をたえず監視し，危険な人物や言動を発見したときには，直ちに有効な罷免手続きをとらねばならない。これは日本においても憲法第15条に規定された国民の権利であり道義的義務なのであるが，これに関する手続き法ができていないのは遺憾である。一国の政権が人間の理性を失い，核戦争*に近づく工作をはじめ，また多数の国民が，それに迷わされたような場合，世界人権宣言は，国籍離脱と亡命の権利を認め(第13条・第14条)ている。さらに専制と圧迫とによって，人権の維持が危険にさらされた場合には，好ましくはないが，反逆を禁ずることはできないとしている(前文)。ここに最後の問題となるのは，基本的人権の終局の目的は，人類の平和と永生である。すなわち，生とはなにかということだろう。〈生命は尊貴である。ひとりの生命は全地球よりも重い〉，これは最高裁判所の大法廷が，1948年3月12日に上告棄却の判決理由の冒頭で述べた有名なことばである。ある者は，随喜の涙を流し,ある者はこれを，〈自分のイノチは助かりながら一億に，玉砕を命じようとした徹底的利己主義の哲学だ〉といった(国民を全滅させながら，自分たちは長野県松代(まつしろ)町*の大防空壕(ぼうくうごう)の中で助かろうとしたことをさす)。しかしまた一方に，〈一粒の麦，もし地に落ちて死なずば，ただ一粒にてあらん，死なば多くの果をむすぶべし〉というイエスのことば(ヨハネ伝12章24節)を信じているピューリタン革命の思想をもつ者もある。日本の将来にわたって，この二つの立場のいずれが日本の主導権を握るかによって，日本の運命は思わぬ変貌を遂げるのではあるまいか。

〔正木ひろし〕

チュポン，母エキドナはともに半人半獣の怪物。カリア王アミソダレスに育てられ，リュキアに住んでいたが，リュキア王イオバテスに命じられたベレロポンにより，背中を弓で射られて殺された。

ぎまかこう　【擬麻加工】　主として綿織物・レーヨン織物などに，麻織物に似た外観・触感を与えるための加工。これらの繊維にタンパク質・ビスコース・合成樹脂などを加工してかたい触感を与える。麻織物と同様の用に向けられる。

きまたおさむ　【木俣修】　(1906～　)　歌人。滋賀県の生まれ。本名修二(しゅうじ)。はじめ《赤い鳥*》に詩を投稿，のち歌誌《多磨*(たま)》により北原白秋門下として活躍した。処女歌集は《高志(こし)》。第2次世界大戦後の歌集《冬暦》は，戦前の人道的な叙情に現実的作風を加えているとされる。1953年(昭和28)《形成》を創刊，主宰した。近代短歌史の研究家としても著名。

きまだらせせり　【黄斑挵蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科。翅(はね)を広げた長さは30mm内外。翅表の地色は黒かっ色で，あざやかな橙黄(とうおう)色の斑紋(はんもん)がある。本種には，セセリチョウ科の他の多くの種にみられる雄の発香鱗がない。日本全土のほか，朝鮮・沖縄・台湾などに分布し，年2回発生し，成虫は6～9月に出現する。幼虫はススキ・エノコログサ・チヂミザサなどイネ科植物の葉を筒状に巻いて，基部から中脈を残して食べる。10月下旬には3齢に達し，巻いた葉の上下を閉じ，その中で越冬する。

きまだらひかげ【黄斑日陰蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ジャノメチョウ科。翅(はね)を広げた長さは60mm内外。翅は暗かっ色で，前・後翅とも基半部は暗黄色の軟毛が密生し，各室の外側には黄色の斑紋(はんもん)がある。日本に産するジャノメチョウ科中最も普通な種で，年2回発生し，成虫は4〜9月にみられる。平地・山地のいずれにも多く，樹液・獣糞(じゅうふん)・湿地・腐果実などに好んで集まる。日本全土のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮などに分布する。本州の山地に産するものは平地産のものと形態がいくぶん異なり，習性にも差があり，すみ分けをしているなどの点で，別種ではないかと考えられている。幼虫はタケ類の葉を食べる。近縁のキマダラモドキは，やや小形で，翅を広げた長さ55mm内外，キマダラヒカゲの翅色のあせたような色彩を呈し，日本全土のほか朝鮮・中国・シベリア地方などに分布し，山地に多い。またヒメキマダラヒカゲは，翅を広げた長さは55mm内外，翅の地色は明るい黄かっ色で，日本全土・サハリンに分布し，山地に多い。これら2種類の幼虫もタケ類の葉を食べる。〔鈴木邦雄〕

きまだらるりつばめ【黄斑瑠璃燕蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ30〜37mm。翅表は暗かっ色で，雄は紫色をおびる。後翅後縁角は黒く，その内側は幅広く橙黄(とうおう)色を呈する。後翅には細い長短2本の尾状突起がある。翅の裏面は淡黄色で，かっ色の斑紋(はんもん)がある。幼虫はシリアゲアリの一種の巣中でアリに養われ，幼虫で越冬する。成虫は6月中旬から発生して7月下旬までみられ，低く飛んでは草の葉や花に集まり，日暮れには梢上(しょうじょう)を活発に飛ぶものが多い。わが国では本州のみに，海外では朝鮮および中国の四川省に分布する。なお，鳥取市では天然記念物に指定されている。

きまわり【木廻】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゴミムシダマシ科。体長16〜20mm。体背面の色彩は変化に富み，黒色・黒藍(こくらん)色・銅色のものなどがあり，緑色をおびたものもある。体の腹面と脚は黒色ないし赤かっ色。体はほぼ楕円(だえん)形で，触角および脚は長い。体の背面は膨隆し，全面に点刻を密布している。日本全土のほかサハリン(樺太(からふと))に分布し，成虫は朽ち木上にみられ，左右に敏速に動くためにこの名がついている。幼虫は朽ち木を食する。

きみいでら【紀三井寺】和歌山市紀三井寺町にある真言宗山階(やましな)派の寺。紀三井寺は俗称で紀三井山金剛宝寺という。西国三十三所第二番札所。称徳朝(764〜770)に来朝した唐僧為光上人(しょうにん)が777年(宝亀8)当地に伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)，自作の十一面観音を安置したと伝えられる。三井は三つの清泉から出た名で，近江(おうみ)(滋賀県)の園城(おんじょう)寺*(三井寺)と区別するため紀の字を加えた。1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)のために寺領は没収され，文書なども多く散失したが，その後，徳川頼宣(よりのぶ)の入国にあたり祈願所となった。山門・多宝塔(以上重要文化財)，本尊十一面観音・千手観音・梵天(ぼんてん)・帝釈天(たいしゃくてん)の仏像が著名。


キマワリ


紀三井寺　本堂


キミガヨラン

きみかげそう【君影草】⇨スズラン

きみがよ【君が代】わが国の国歌。〈君が代は千代に八千代にさざれ石の巌(いわお)となりて苔(こけ)のむすまで〉の歌詞により〈君が代〉といわれる。《古今和歌集》巻7に読み人知らずとして初句の〈君が代は〉が〈我君は〉となって載っているものが最も古い。〈我君は千代にましませさされ石の巌となりて苔のむすまで〉という本もあるが，これが古態であろう。祝歌(ほぎうた)として歌集に多く載せられ，年頭の賀歌として古来伝わったもののようである。鎌倉時代以後には神事・仏会・宴席などで盛んに用いられ，近世には文学作品，多種の歌謡などにも広範にみられる。旋律は1870年(明治3)，薩摩(さつま)藩の軍楽隊教師であったイギリス人フェントンが作曲したが歌いづらく，1876年に廃止された。文部省は1881年発行の《小学唱歌集》に同じ歌詞を用いた別の旋律の《君が代》を採録したが，これも一般に歌われなかった。しかし，1880年当時宮内省伶人(れいじん)長林広守(ひろもり)の名で発表されたものは，わが国の伝統的な音楽感に従った旋律であったため，公式にも用いられ，国歌として強制されたことはないが，いつとなくこの曲が国歌として認められることとなり，現在に至っている。〔坂本和子・徳丸吉彦〕

きみがよらん【君ケ代蘭】単子葉植物・ユリ科。北アメリカ原産の常緑低木。関東以南では，戸外で越冬でき，庭園に植えられる。茎は高さ2mくらい，茎頂に四方に広がったかたい葉をつける。葉は1mほどになり，多少たれ下がる。夏〜秋に1mくらいの花茎を伸ばし，円錐(えんすい)花序に下を向いた多数の黄白色の花をつける。

きみしぐれ【黄味時雨】蒸し菓子の一種。丸めたあずきあんに紅で色づけした白あんをかぶせる。さらにその上に，卵黄を入れてかたく練った白あんに上新粉を混ぜた皮をかぶせ，強めの蒸気で約10分蒸す。皮の割れ目から紅色が現われて美しい。

きみず【黄味酢】卵黄を使った調味酢の一種。とり肉や白身の魚，アカガイ・エビ・カニ・イカ・キュウリ・ウドなど，淡泊な材料をあえたり，上に掛けたりして用いる。作り方は次の二とおりがある。①水どきしたデンプンに煮切りみりん(一度煮立てたもの)，塩を混ぜ，卵黄を加えて湯煎(ゆせん)にかけて半熟に煮る。裏ごしをしてから酢を混ぜる。②卵黄をほぐしてなべに入れ，酢，砂糖またはみりん，塩を入れて混ぜ，湯煎にかけて木杓子(きじゃくし)でかき混ぜながらとろりと仕上げる。〔塩川ふみ〕

きみつ【君津(市)】千葉県南部，木更津市の南に接し，東京湾に面する。小糸川下流の農漁村で，米作とノリの養殖に依存していたが，小糸川河口近くの埋め立て地に新日本製鉄君津製鉄所が建設され，1969年(昭和44)にまず1号・2号高炉が完成して，年産500万tの鉄鋼を生産，1972年には第2期工事による3号・4号高炉ができて，年産1,000万tの世界最大級の製鉄所が出現した。北九州市八幡(やはた)区から多くの製鉄所員が家族とともに移動してきたので人口が急増し，九州弁が氾濫(はんらん)している。木更津市との合併も計画されたが，市名問題その他で折り合わず，1970年9月15日，周囲の上総(かずさ)・小糸の2町と小櫃(おびつ)・清和の2村を併合して，面積311km^2，人口74,000となり，さらに1971年9月1日市制が敷かれた。人口78,000。産業三大別人口比は17：43：40。

きみとうげ【紀見峠】紀伊見(きいみ)峠ともいい，大阪府と和歌山県との境にある。和泉(いずみ)山脈東部の鞍部(あんぶ)に位置し，

古くから京阪(けいはん)から高野山に至る高野街道がここを通っていた。現在は国道170号線(高槻(たかつき)～橋本間)がここを通過，南海電鉄高野線がトンネルで越えている。

きみょう　【帰命】 生命のすべてを投げ出して帰順すること。主として仏の教えや導きに真心をもって信心・敬礼し，自分の生命が尽きても後悔しないほどひたすらに帰依することをいう。原語は梵語(ぼんご)のnamas(ナマス)で，〈南無(なむ)〉は音写語，〈帰命〉はその漢訳語である。また〈帰命頂礼(ちょうらい)〉とは頭を地につけて礼拝し，帰命の態度を表わすことをいう。

ぎみん　【義民】 支配権力に抑圧されて苦しむ郷土の一般農民を救うため，一身一家を犠牲にした人。江戸時代，一揆(いっき)・打ちこわしによる反封建権力闘争の先頭に立ち，極刑と定められていた越訴(おっそ)を挺身(ていしん)して行なって処刑された場合が多い。下総(しもうさ)(千葉県)の佐倉惣五郎，上州(群馬県)の磔茂左衛門(はりつけもざえもん)は有名。義民の行為は後世まで民衆追慕の的となり，伝説化・劇化され，郷土に祠堂(しどう)が建てられている。〔高崎徳次〕

ぎむ　【義務】 法律によって課せられた拘束である。義務の内容には，あることをしなければならない義務(作為義務)と，してはならない義務(不作為義務)とがある。義務を履行するにあたっては，信義誠実の原則に従わなければならない。➔権利

ぎむきょういく　【義務教育】 国家が国力の充実と国家統一とをめざして，国民に一定期間の教育または一定の教育課程の修了を法律によって強制し，義務づけたもの。一般に義務教育は，教育年限を定めて学校への就学を義務づけ，さらにこの期間内に国が定める思想・知識・技能を内容とする教育課程を修了することを要求する。第２次世界大戦前(国民学校令以前)の課程主義の義務教育と，現行の教育基本法に定めている〈国民はその保護する子女に９年の普通教育を受けさせる義務を負う〉という年数主義あるいは年齢主義の義務教育とはいささか質を異にする。この国家的な要請に基づく教育は，はじめ初等教育の範囲で義務づけられ，やがて中等教育段階まで延長されるようになったが，それは保護者に対する子女の就学義務を前提にし，国および地方公共団体の学校の設置義務を基盤とし，そのうえに教員の人事，教育内容，さらに学校の管理・運営についての特別な法的規制を加えることで制度的に確立した。義務教育の明確な考え方は，マルチン-ルターが1524年・1530年の説教書の中にはじめて著わしたとされ，法律的な表現をとるのは1763年のプロイセンの〈地方学事通則〉が最初である。さらに憲法または国家的な法律として規定されたのは，国によって多少の違いはあるが，多くは19世紀後半になってからである。〔山崎昌甫〕


木村　栄

ぎむきょういくこっこふたんほう　【義務教育国庫負担法】 ⇨教育財政

キムチ　【沈菜】 朝鮮の代表的なつけ物の一種。冬季の野菜不足を補うための貯蔵用として，広く各家庭でつくられる。材料には主として白菜を用い，トウガラシをよくきかせた紅キムチは代表的。ニラ・ネギ・コンブ・牛肉・魚貝なども加える。日本でもつけ物や酒のさかなとして好まれている。

ギムナジウム　[Gymnasium]　ドイツの伝統的な中等教育機関。イギリスのパブリック-スクール，フランスのリセなどに相当し，４年間の基礎学校修了者が入学する９年制の学校で，その卒業試験は大学入学資格試験を兼ねている。その系列には大別して３種があり，①古典語(ラテン語・ギリシア語)の学習を重視する系列，②数学・自然科学と古典語の学習を重視する系列，③自然科学と近代語の学習を重視する系列である。しかし，卒業試験(大学入学試験)への合格がむずかしく，また，進路の決定が早すぎることなどの反省から，1950年以後はギムナジウムの卒業者以外にも大学への進学が許される制度が拡充されつつある。➔教育制度〔福井幸雄〕

ギムナシオン　[gymnasion]　古代ギリシアの体育と知育のための学校施設。古代ギリシア人は，ギムナスティケ(体育)とムジケ(音楽と文学)・フィロソフィア(哲学)の３科を教育の根本にし，特に体育は他の２科の根元とみなしたので，その教育施設は，体育のための施設を必ず含んでいた。多くは都市の郊外の林泉に恵まれた敷地を選び，運動場やプールを設け，中庭を囲む柱廊の周囲に，講演室をはじめ大小の諸室を巡らせた構成であった。〔渡辺保忠〕

きむらいへえ　【木村伊兵衛】（1901～1974）　写真家。東京下谷(したや)の生まれ。1924年(大正13)営業写真家として出発したが，ヨーロッパの新興写真に触発され，小型カメラによる報道写真の将来性を予見し，下町の庶民的日常を題材にした初期の代表作を《光画》誌に発表。1933年(昭和８)〈ライカによる文芸家肖像写真展〉で広く認められた。この間，広告写真と名取洋之助の工房での報道写真に学ぶ点が多かった。終戦までは写真工房を営み，対外日本紹介の仕事とともに六代目尾上(おのえ)菊五郎らの撮影を続け，舞台写真家としても高い技量を示した。

1950年代以降は，《農村・秋田》などの作品を通じてそのリアリズムへの指向によって後進に影響を及ぼしたほか，ヨーロッパ・中国への外遊で人情の機微にふれる作品を産んでいる。伝統文化の伝承者を扱った近作《新・人国記》もポートレート作家として衰えをみせていない。〔平野　久〕

きむらき　【木村毅】（1894～1979）小説家・評論家。岡山県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。大衆文学論の先駆者として知られ，明治文化・文学の研究にもすぐれている。代表的な著作に《大衆文学十六講》《日米文学交流史の研究》《旅順攻囲軍》など。

きむらぐも　【木村蜘蛛】 節足動物・蛛形(ちゅけい)類・真正クモ目・キムラグモ科。淡かっ色で，雌は1.5cm，雄は1.0cmほど。斜面・がけなどに多くは横穴式の住居をつくり，入り口にはとびらをつける。住居の入り口付近にだけ糸を張る。

きむらこう　【木村項】 ⇨Ｚ項

きむらしげなり　【木村重成】（？～1615）　安土桃山時代の武将。長門守(ながとのかみ)と称した。幼少より豊臣秀頼(とよとみひでより)に仕え，1614年(慶長19)大阪の陣(冬の陣)では佐竹・上杉(うえすぎ)氏の両軍と戦い，講和のときは大阪方の正使となった。その際，徳川家康(いえやす)との誓詞の血判のやり取りの逸話がある。夏の陣において河内(かわち)(大阪府)若江で藤堂・井伊(いい)氏の両軍と戦い戦死。夏の陣出陣の日，名香を兜(かぶと)にたきこんだとの逸話もある。

きむらしょうはち　【木村荘八】（1893～1958）　洋画家・さし絵画家。東京の生まれ。白馬会研究所で学び，1912年(大正１)フュウザン会に参加。岸田劉生(りゅうせい)とともに大正期の画壇に活躍した。代表作として《牛肉屋》《パンの会》などがあげられ，永井(ながい)荷風の《濹東綺譚(ぼくとうきだん)》の挿図(そうず)は著名である。

きむらたいけん　【木村泰賢】（1881～1930）　仏教学者。曹洞宗(そうとうしゅう)に属する。東京大学印度哲学科卒業。宇井伯寿と同門。高楠(たかくす)順次郎門下の逸材で，東京大学教授となった。著者に高楠と共著の《印度哲学宗教史》や，学士院賞を受賞した《印度六派哲学》および《原始仏教思想論》などがある。彼の学説は和辻(わつじ)哲郎らによって批判されたが，現在，再認識されつつある。仏教の啓蒙(けいもう)運動にも尽くし，《解脱への道》は多くの人に読まれた。〔鎌田茂雄〕

きむらたけ　【金精茸】 ⇨オニク

きむらひさし　【木村栄】（1870～1943）天文学者。石川県の生まれ。1892年(明治25)，東京大学理学部星学科卒。緯度観測に従事。1899年に岩手県水沢に創設された緯度観測所長となり，1941年(昭和16)まで在任した。1902年に緯度変化を表わす式に，極の運動とは無関係なＺ項を加えることを発見し，1911年にはこの功績により学士院

恩賜賞を受けた。1918年(大正7)に万国天文同盟ができたとき，緯度変化委員長となり，水沢観測所は1922年に万国緯度中央局となったが，彼はその局長もつとめた。1925年学士院会員，1937年には第1回の文化勲章受章者となった。〔根本順吉〕

きむらもともり【木村素衛】(1895～1946) 哲学者。石川県の生まれ。1915年(大正4)第三高等学校入学，1916年病気のため退学。1920年京都大学哲学科選科入学，西田幾多郎らに学ぶ。1923年同科修了，大谷大学・第三高等学校の講師，広島文理科大学助教授を経て1933年(昭和8)京都大学へ転任，1940年教授に昇任，同年《実在的存在の基礎構造》により文学博士。生命の問題と宗教・文化を課題としてカントおよびドイツ観念論を研究，ことにフィヒテに沈潜した。1941年以後は教育哲学の形成に全力を傾注。哲学上の立場は論文《一打の鑿(さく)》を収めた《表現愛》(1939)で確立された。これは西田哲学の表現的世界を自己の体験からとらえ直したもので，なにものかをつくり現わすことにおいてみずからの存在を具体的に維持していくような生命の働きを，表現として理解し，文化と宗教は弁証法的自同性において総合されつつ表現愛の実在界を形成する，という独創的立場に立つものである。主著《国家に於(お)ける文化と教育》。ほかに《フィヒテ》《独逸(ドイツ)観念論の研究》《美のかたち》《形成的自覚》などの著述と，《フィヒテ全知識学の基礎其他(そのた)》ほかがある。〔中川　誠〕

きむらよしお【木村義雄】(1905～　) 将棋棋士。東京都の生まれ。関根金次郎13世名人(当時8段)に入門，順次昇段して8段に至る。その後，1938年(昭和13)に選手権制度による名人戦で第1期名人位を獲得，1～5期，8～10期に保持。引退後，14世名人として棋界に尽くしている。

ぎむろん【義務論】キケロの著書。3巻。死の前年BC44年の作。むすこあての手紙の形式をとっている。人間の義務をテーマに，第1巻では知識・正義・勇気・節制の四つの根本的道徳について，第2巻では便宜について，第3巻ではこれらの諸徳の応用,徳と便宜の衝突・調和について書かれている。第1巻と第2巻にはストア派のパナエチウスの影響が強いが，第3巻では独自の考えを打ち出している。

きめい【記銘】⇨記憶

きめいがっき【気鳴楽器】楽器の科学的分類法により，体鳴楽器・膜鳴楽器・弦鳴楽器・電気楽器とともに五大分される類の一。基本的な発音原理としては空気柱の振動によるものであり，ふつう管楽器とよばれるものにほぼ相当する。➔楽器

きめこみにんぎょう【木目込人形】衣裳の部分を裂貼(きれば)りとした木彫の小人形。この名称は，裂の端をきめ込んで処理する特色に基づいていて，加茂人形・柳人形と



肝属平野　シラス台地の末端に近い串良付近。遠景の丘陵は笠野原台地。平野では灌漑が行なわれ，県下有数の米作地となっている

もよばれてきた。元文年間(1736～1740)，京都加茂神社の雑掌高橋忠重(ただしげ)がつくったのがはじまりと伝えられている。木肌(きはだ)を生かした木彫法,顔の彫り方，裂には皺(しぼ)の高い縮緬(ちりめん)が多く用いられていることなどに特色がある。

キメラ[chimera] 1株の栄養体に2種類の植物が部分的に混ざり合っているつぎ木雑種。最も有名なのは〈アダムのエニシダ〉という名の低木で，これは1829年フランスのアダムという庭園師によってベニバナエニシダの芽をキバナフジに継いだものの中から，両者の中間の性質を現わしたものとして見いだされた。この木はつぎ木によって繁殖し，現在では各国の植物園にあるが，1株中の枝の間にしばしば分離が起こり，ある枝は純粋のベニバナエニシダ，他の枝はキバナフジの形を示す。また，1ふさの花の間，1枚の葉でも分離を起こすことがある。しかし,花は例外なく不稔(ふねん)。このような偶然に生じたもののほかに，ドイツの生物学者ウィンクラーは実験的にトマトとイヌホオズキのつぎ木雑種をつくり，ギリシア神話に現われるライオンの頭，ヒツジの胴，ヘビの尾をもつというキマイラにちなんでキメラと名づけた。キメラは，新芽の成長点が両種の植物の細胞からなっているために生ずるもので，植物組織の結合のしかたによって周縁キメラ，区分キメラなどに分けられる。➔つぎ木雑種 〔北川　修〕

きめんがに【鬼面蟹】節足動物・甲殻(こうかく)類・ヘイケガニ科。甲長・甲幅ともに3cmほど。甲面に鬼の面のような模様がある。茶かっ色。東京湾以南の30～100mの海底に普通に見られ，広くインド洋・太平洋水域にも分布する。

きもいり【肝煎】肝入とも書く。世話をやく人，周旋する人，あるいは首席として諸事を取りはからう人をいう。江戸幕府の職制では，京都御使(おつかい)のことにあたる高家肝煎，旗本(はたもと)の寄合を取り締まる寄合肝煎などの職名があったが，加賀藩や東北諸藩では村の庄屋(しょうや)・名主を肝煎とよんでいた。その他，町名主や株仲間の役員などもこの呼称でよばれることもあった。

きもうおりもの【起毛織物】織物の表面を毛がきしたもの。綿ネル・毛ネル・フラノ・毛布などがこれである。紡毛織物にはメルトン仕上げ・ドスキン仕上げなど，縮充したあと起毛し剪毛(せんもう)して仕上げたものがある。起毛によって生地が厚くなり，含気量を増して保温性が大となる利点がある。

キモグラフ ⇨カイモグラフ

きもぐりばえ【黄潜蠅】こん虫類・双翅(そうし)目・キモグリバエ科の総称。微小ないし小形のハエで，多くは淡色。単眼は3個あり，それらに囲まれた部分(単眼三角区)が非常に大きい。幼虫はイネ科植物の茎中に潜孔するものが多く，中にはアブラムシ類を捕食するものもある。成虫は草原に多く，ヒトやウシ・ウマなどの眼の周辺を飛びまわって眼からの分泌物をなめる習性をもつ種類や,傷口に集まって膿汁(のうじゅう)や血液を吸収する種類も知られる。日本には，幼虫がイネやムギの茎中に潜孔して形成中の新葉や幼穂を食害するイネキモグリバエ・ムギキモグリバエ・ヒゲブトキモグリバエなど数種が知られる。

きもつきさんち【肝属山地】鹿児島県大隅(おおすみ)半島の南半部を占める山地。地塁性の山地で，最高峰は東部の甫与志岳(ほよしだけ)(968 m)。九州最南端の佐多岬(さたみさき)から北東に広がり，気候は温暖で降水量は3,000mmを越え，山地は森林資源に富み，特に樟脳(しょうのう)の生産で名高い。海岸には亜熱帯性植物のヘゴ・ソテツなどの自生地がある。

きもつきへいや【肝属平野】鹿児島県の南東部，志布志湾に流入する肝属川の中・下流域にあり，大隅(おおすみ)半島最大の平野である。北は笠野原(かさのはら・かさのばる)台地に，南は肝属山地に限られ，西は鹿屋(かのや)市付近までをいう。肝属川およびその支流による沖積地(ちゅうせきち)で，雨量が増加するとしばしば洪水(こうずい)を起こし大きな被害を出す。そのため，現在治水をかねた灌漑(かんがい)用ダムが上流に建設されている。米の二期作も行なわれ，志布志湾岸に発達した砂丘では野菜の栽培も行なわれている。〔味沢成吉〕

キモトリプシン[chymotrypsin] タンパク質分解酵素の一。分子量は約25,000。トリプシンと同様，膵臓(すいぞう)の細胞から不活性型のキモトリプシノゲンとして十二指腸に分泌される。ここでキモトリプシノゲンはトリプシンによって部分的加水分解を受けて活性型のキモトリプシンとなる。キモトリプシンには数種類あるが，その構造も作用もよく似ていて互いに関連がある。作用する至適pHは7～9で，広範囲で有効である。エンドペプチダーゼとよばれる酵

素群に属しているのでタンパク質をその内部から加水分解してずたずたにしてしまう。しかし作用するペプチド結合には一定の法則があって，主として芳香族性アミノ酸のもつカルボキシル基と他のアミノ酸のアミノ基とからできているペプチド結合を加水分解する。➔酵素　〔井坂三郎〕

きもの　【着物】　⇨和服

きもん　【気門】　気孔ともいう。こん虫類・クモ類など，気管で呼吸する動物の体表にある開口部。カギムシやクモ類などは表皮が陥入してできた単純な開口にすぎないが，多くのこん虫では複雑な構造になっている。ふつうは，開口部の周辺が突出して一種のおおいとなり，これに続いて表皮が陥入してできた前房(気門室)があり，ここに気管が開く。前房の入り口や気管の開口部には開閉できる装置があり，筋肉の働きによって開閉を行なう。こん虫では中胸節・後胸節と１～８腹節に１対ずつ，計10対の気門があるのが基本であるが，数とその配置によって完気門型・双気門型など多くの型に分けられる。　〔蒲原春一〕

きもん　【鬼門】　東北の丑寅(うしとら)の方角をいう。陰陽五行説(➔陰陽説)によれば，北東の方角は北の陰から東の陽に転ずる急所で危機がはらまれ，険悪な万鬼がここから出入りすると説く。反対に南西の方角も裏鬼門といわれて，重要な位置にあたっている。平安京の鬼門にあたる比叡(ひえい)山は延暦(えんりゃく)寺，そして江戸城には寛永寺をそれぞれ建立(こんりゅう)し，鬼門を鎮護した。民間では江戸末期に大いに方位家相説が流行し，鬼門に便所や出入り口など万鬼の出入を容易にする建築物を建てることを忌む風習が流行した。現在もなお広く民間に信じられている。　〔渡辺欣雄〕

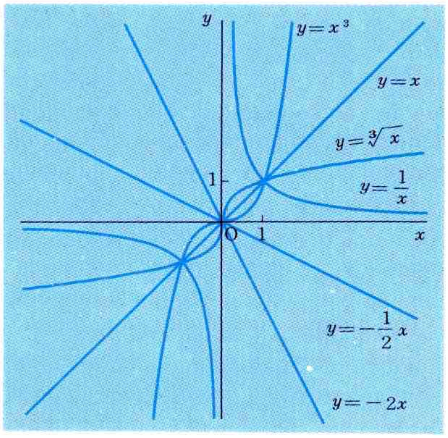
キモン　[Kimon]　(BC512ごろ～BC449ごろ)　古代ギリシアの政治家・軍人。アテナイの人。マラトンの戦いで功績を立てたミルチアデスの子。デロス同盟の結成には，アリステイデスに協力した。ペルシア戦争ではペルシア軍を破る功績をあげたが，親スパルタ派・保守派とみなされ，ペリクレスらによって追放された。のち帰国を許され，ペルシアからキプロス島を奪取するために従軍中，病死した。

ぎもんし　【疑問詞】　疑問の事物・事態を表わす一群の語。〈だれ・なに・どこ・いつ〉(代名詞)，〈いくつ・何時・いくら〉(数詞)，〈どう・なぜ・なんと〉(副詞)，〈どんなに・どんな(だ)〉(形容動詞)，〈どの〉(連体詞)などがこれに属する。ただし，品詞分類の上で，疑問詞を一つの品詞として立てることはしない。

ぎもんふ　【疑問符】　⇨句読点(くとうてん)

きゃく　【格】　⇨格式

ぎゃく　【逆】　命題〈xが６の倍数であるならば，xは２の倍数である〉において，〈xは６の倍数である〉をp，〈xは２の倍数である〉をq，〈ならば〉を→で表わして，この命題を記号化すれば，〈$p \to q$〉と書くことができる。このとき，〈$q \to p$〉をもとの命題の逆という。もとの命題が真であっても，逆は必ずしも真でない。また，もとの命題〈$p \to q$〉に対して，〈pでない→qでない〉を裏，〈qでない→pでない〉を対偶という。したがって，裏は，逆命題の対偶にあたる。もとの命題が真ならば，対偶は必ず真である。　〔青柳雅計〕



逆関数　$y=\frac{1}{x}$の逆関数は$y=\frac{1}{x}$
$y=x^3$　〃　$y=\sqrt[3]{x}$
$y=-2x$　〃　$y=-\frac{1}{2}x$
$y=x$　〃　$y=x$
で，いずれも直線$y=x$に関して線対称

きゃくいん　【脚韻】　押韻の一種。韻文の中で，それぞれの句の末尾に，同音または類音を反復して，韻を踏むこと。漢詩文や欧米の詩では法則化しているが，日本の詩歌では，試みとしては用いられるが，法則とはなっていない。

ぎゃくえん　【逆縁】　仏に敵対したり，仏法を非難したり，悪い師や悪友の誘惑に乗ったりすることが，逆に仏や菩薩(ぼさつ)の教化を受けることになり，ついに仏道にはいるきっかけとなること。なお，年長者が年少者の霊を供養したり，生前の敵あるいは見ず知らずの者が死者を供養したりすることもいう。

ぎゃくかんすう　【逆関数】　定義域・値域をそれぞれX，Yとする関数fにおいて，$X \to Y$の対応が１対１であるならば，逆に，Yのどの要素に対しても，Xの要素がただ一つ対応することになる。この$Y \to X$の対応の規則を，もとの関数fに対して逆関数とよび，f^{-1}で表わす。たとえば，$f(x)=e^x$は実数全体を定義域とし，正の実数を値域とする１対１対応の関数であるが，これの逆関数$f^{-1}(x)=\log_e x$は正の実数を定義域，実数全体を値域とする関数である。$y=f(x)$のグラフと$y=f^{-1}(x)$のグラフは，直線$y=x$に関して対称である。〔青柳雅計〕

ぎゃくきでんりょく　【逆起電力】　電流を通じた抵抗体または磁束の変化するコイルに生ずる起電力。外部から与える起電力とは逆方向に生ずるためこの名がある。抵抗体の抵抗値をR，通ずる電流をIとすると，抵抗体に生ずる逆起電力は，$E=-IR$(オームの法則)で表わされる。また，コイルを貫く磁束をϕとすれば，コイルには，$E=-d\phi/dt$の逆起電力を生ずる。これらを一般化して，インピーダンスZに交流電流Iを通じたとき生ずる逆起電力を，$E=-IZ$と記す。　〔堀内和夫〕

きゃくご　【客語】　⇨目的語

ぎゃくさんかくかんすう　【逆三角関数】　三角関数の逆関数をいう。$x=\sin y$のとき，$y=\sin f^{-1}x$あるいはarc $\sin x$と書いてこれを逆正弦関数といい，〈アークサインx〉と読む。$\sin\frac{\pi}{6}=\frac{1}{2}$であるから，$\sin^{-1}\frac{1}{2}=\frac{\pi}{6}$である。しかし，$\sin y=\frac{1}{2}$を満たす角は，$y=n\pi+(-1)^n\frac{\pi}{6}$であって，無数にある(➔一般角)。すなわち，

$$\sin^{-1}\frac{1}{2}=\cdots,-\frac{7}{6}\pi,\frac{\pi}{6},\frac{5}{6}\pi,\frac{13}{6}\pi,\frac{17}{6}\pi,\cdots$$

そこで，このうちの絶対値の最小なものを主値といい，逆三角関数はふつうその主値を表わすものとする。逆余弦関数($\cos^{-1}x$)・逆正接関数($\tan^{-1}x$)・逆余接関数($\cot^{-1}x$)・逆正割関数($\sec^{-1}x$)・逆余割関数($\mathrm{cosec}^{-1}x$)も同様定義される。　〔青柳雅計〕

きゃくしき　【格式】　国家の根本法・原則法である律令(りつりょう)(➔律令制)に対して，格式はその補充法・例外法ともいうべきもの。格は時勢に応じ律令の規定を改廃・補充する法令で，式は律令格の規定の細則を定める付属法令であった。格・式は個々の単行法令についても，またそれらを集大成した法典についてもいわれる。また格と式は法典の形式の面から区別され，格は種々の単行法令をほとんどもとのままの形で集めてあるが，式は多くの単行法令をそれぞれ補訂・整理して結論だけを箇条書き的に集めた形となっている。平安初期に弘仁(こうにん)・貞観(じょうがん)・延喜のいわゆる三代格式が編纂(へんさん)されたが，これは格式が律令に代わって，現実の基本法典の意味をもつに至ったことを物語る。　〔菊池礼子〕

ぎゃくしめつけ　【逆締めつけ】　労働組合員はすべて従業員とするという労使間の協定をいう。ショップ制が従業員の資格を制限するのとは逆に，労働組合員の資格を制限するところからこの名称が生まれた。しかし，組合員や組合役員をだれにするかは，労働組合が自主的に決めるのが原則であるから，使用者がこの協定を強制すれば，組合活動に対する支配・介入となり，不当労働行為となるおそれもある。

きゃくしゃ　【客車】　鉄道車両のうちで，旅客・郵便物または手小荷物を輸送するための車両。ただし電車・気動車は除く。客車には使用目的によって皇室用客車・営業用客車・事業用客車に分けられる。皇室用客車は皇室で旅行される場合に使用する車で，御料車および供奉車(ぐぶしゃ)がある。営

業用客車には寝台車(A寝台車・B寝台車)，特別車・普通車・食堂車・郵便車・緩急車・荷物車がある。緩急車は車掌室があり手ブレーキおよび車掌弁が設備されているものである。事業用客車とは直接営業に使用しない車両で旅客列車に連結されるものである。事業用客車は職用車(線路状態，沿線の施設および設備状態などの視察，および調査などをするための車両)・試験車・工事車(山間僻地(へきち)の通信施設などの保守ならびに工事に使用する)・教習車(職員の訓練用)などがおもなもので，そのほか保健車・救援車・配給車・暖房車がある。車両形式による車両の分類記号は寝台車はネ，特別車はロ，普通車はハ，食堂車はシ，郵便車はユ，荷物車はニである。車掌室のある客車にはフの記号がつけられ，ハフと記入されているのは車掌室のついた普通車をさす。現在国鉄の客車の保有台数は，皇室用が12両，営業用が8,477両，事業用が457両，計8,946両である(1969年4月1日現在)。ほかに日本銀行・郵政省などの私有車が156両ある。〔三宅　良〕

きゃくしゃびん　【客車便】 ⇨小荷物

ぎゃくしゅ　【逆修】 自分の死後の冥福(めいふく)を祈って，死後に営まれるはずの仏事を生前にあらかじめ営むことで，預修ともいう。死後，遺族にしてもらうよりも功徳があるとされ，古くから行なわれた。生前に戒名をつけ，位牌(いはい)や墓石に戒名を朱書きするのは，逆修から転じた風習である。

きゃくしょく　【脚色】 小説・物語などの原作を題材に，演劇・映画・放送用の脚本*に書き換えることをいう。元来，中国では扮装(ふんそう)や役がらをさすことばであったが，転じて劇化を意味するようになった。さらに戯曲を短縮・省略することも広い意味で脚色に含まれる。これに対し，外国作品を自国向きにつくりかえたり，古い時代の物語を現代に移し換えるなど原作品をもとにはしていてもかなりの創意を加えて脚色したものを翻案とよぶ。

ぎゃくしんぜい　【逆進税】 ⇨累進税

ぎゃくすいりょくそうち　【逆推力装置】 ターボジェット-エンジンまたはターボファン-エンジンの尾筒に装備され，飛行機が着陸滑走にはいったとき作動して逆向き(前向き)の推力を発生して，滑走速度を制御する装置。尾筒を二つ割りにつくり，後端に近い上下軸のまわりにかさを開くように回転させせると，ジェット排気がせきとめられて前方に吹き返し，逆方向の推力を生ずる。

ぎゃくすう　【逆数】 ある数aの逆数とは，aにそれを乗じた積が1になる数，すなわち，$\frac{1}{a}$をいう。たとえば，1，2，$\frac{1}{2}$，$-\frac{2}{3}$の逆数は，それぞれ，1，$\frac{1}{2}$，2，$-\frac{2}{3}$である。分数で割る除法はその逆数を掛ける乗法になおすことができる。

ぎゃくせいせっけん　【逆性石鹸】 陽性せっけんともいわれる。普通のせっけん*とは逆に活性部がプラスの電荷をもつ界面活性剤。細菌中のタンパク質などに親和力があって，殺菌・殺黴作用を生じるが，洗浄作用は弱い。界面活性剤*の中のカチオン性活性剤に属し，一般に4級アンモニウム塩で，窒素を中心に長鎖のアルキル基またはベンジル基などを配位した陽イオンとハロゲン陰イオンからなる。塩化ベンザルコニウム・塩化ベンゼトニウムがその代表である。一般に無色か淡黄色の結晶または無晶形粉末で，強い起泡力(きほうりょく)がある。だいたい10％水溶液として市販され，殺菌消毒に用いる。〔江本龍雄〕

ぎゃくせつ　【逆説】 パラドックスの訳語。逆理ともいう。

1 広くうけいれられている意見に反していて一見奇妙ではあるが，実はある根拠をもって主張されている意見。通常の経験や論理を越えた真理を語るものとされるが，誤った根拠に基づくただの奇論にすぎないものもある(→ゼノンの逆理)。

2 自己矛盾を含むとみなされる命題。たとえば，クレタ島生まれの伝説的予言者エピメニデスがいったという〈クレタ人はみなうそつきだ〉ということばなど，もしすべてのクレタ人が実際にうそつきなのであれば，クレタ人の彼はうそをついていないのであり，すべてのクレタ人がうそをつくのではないならば，彼はうそをついていることになる。記号論理学においてラッセルらによって問題にされた集合論のパラドックスなどが代表的である。〔石倉恒之〕

きゃくせん　【客船】 主として旅客および郵便物を運送する船舶。迅速輸送を要する貨物も少量運ぶことがある。船舶安全法によって，12人を越える旅客定員を有する船舶で，遠洋区域または近海区域を航行するものをいうことになっている。

〔歴史〕帆船時代の海外旅行は冒険的で忍耐を要するものであったが，汽船時代になって安全快適なものとなったため，20世紀はじめごろからけんらんたる豪華客船時代が現出した。広い船内にはぜいたくな客室をもち，最高級のホテルと劇場と社交場を備え，その速力も各社競争して，ヨーロッパとアメリカを結ぶ定期航路船中最高速の船に与えられる栄誉〈ブルーリボン賞〉は一船で長い間保持することができなかったほどである。第2次世界大戦前にすでに発達の極に達した客船は，航空機によるサービスの発達に押され，しだいにその王座を航空機に譲らざるをえなくなった。航空機によって1日で横断できる距離を海路では2週間かかるという事実は，やむをえない結果を生んだといえるが，旅客機が完全に普及した現在になって，再び海路を利用する旅行者が，その豪華さとかふんい気を楽しもうという形態においてふえつつある。そうした特権階級による利用と，時間に関係なく旅費をできるだけ節約しようとする留学生や移民に利用される状態となって現在に至っている。イギリスのクィーンエリザベス2世号65,863総トン，アメリカのユナイテッドステーツ号50,924総トンなどを経てフランスのフランス号66,348総トンやイタリアのラファエロ号45,900総トンあるいはイギリスのオリアナ号41,915総トンなど，まだ数多くの豪華客船が就航中である。しかし，わが国においては氷川丸(ひかわまる)11,600総トンの退役を最後に客船の新造は外航船としてはみられず，わずかにさくら丸12,628総トンが巡航見本市船として建造され，移民船続いて洋上大学船などとして用途替えにされたほか，姉妹船としてのあるぜんちな丸10,970総トン，ぶらじる丸10,217総トンが南米航路の就航を継続しているにすぎない。ただ国内旅客船においては観光ブームの影響から比較的盛況を示し，カタマラン船(双胴船)・水中翼船・エアクッションボート(ホバークラフト)などの小艇(しょうてい)客船のほか，鉄道連絡船や長距離フェリーボートなどを含めて，年々利用者数は増加の一途を示している。最近の日本における傾向としては高速長距離フェリーボートの発達が目だつ。しかもそれが大形化・高速化とともに設備もよくなっている。その代表的な名古屋・鹿児島間のフェリーボートについてその要目を示せば，総トン数10,000トン，主機関26,080馬力，全長185 m，速力25ノット(時速約47km)，積載能力は大形トラック100台，乗用車200台，旅客定員1,200名，全船完全冷暖房で，グリル・マリンガーデン・バー・売店・麻雀(マージャン)・ゴーゴーコーナー・ゲームコーナー・サウナぶろ・プールなどの設備を有し，操船用特殊装置としては，フィン-スタビライザー(ひれ式動揺減殺装置)・可変ピッチプロペラ(プロペラを回転したまま，前進・停止・後退可能)・バウ-スラスター(船首部横方向推力装置)などを備えている。

〔分類〕商船を大別して客船・貨客船・貨物船に分けるが，法規上では旅客定員12名を越えるものは旅客船であり，12名以下のものは貨物船で，それ以外の区別はない。常識的に旅客定員に比して貨物積載量の少ないものを純客船，多いものを貨客船というだけであり，法規上では旅客船，すなわち客船である。1968年(昭和43)現在，日本では客船は588隻，126,418総トン，貨客船は227隻，188,725総トンとなっている。これを旅客の種類によってみると，次のとおりである。①移民船：移民もしくは1室に8人以上雑居する雑居旅客を合わせて50人以上搭載(とうさい)し，近海区域外の港に至る船舶(船舶設備規程第102条)，②甲板旅客船：遠洋または近海の航行区域船が，紅海・渤海(ぼっかい)・黄海および他の限られた区域において，暴露甲板上に旅客を搭載する船で，東南アジアの出かせぎ人や巡礼な

客　船



フランス(66,348総トン)
フランス



ミケランジェロ(45,911総トン)
イタリア



オーシャニック(39,241総トン)　パナマ



ウインザーキャッスル(36,123総トン)　イギリス



エウゲニオ C(30,567総トン)　イタリア



ぶらじる丸(10,217総トン)　日本

どを運ぶもの(同法第79条), ③臨時旅客船：一時的に許可を得て旅客を運ぶ船などである。しかし，それぞれに緩和規程があり，原則として一般旅客船は旅客室を設備するほか，各種の安全設備をすることが厳しく要求されている。　〔茂在寅男〕

ぎゃくだんそう　【逆断層】　地層の断層面を境にして上側にある地塊を上盤，下側の地塊を下盤というが，相対的に上盤が下盤の上にずり上がったように見える断層。衝上断層ともいう。しかし，実際に動いた地塊が上盤側か，下盤側か，またはその両方であるかは明瞭(めいりょう)でない場合が多い。逆断層面の傾斜が小さく，その面が波状を呈し，押しかぶせ地塊をつくっているような場合には，この逆断層を押しかぶせ断層という。➔断層　➔押しかぶせ構造　➔褶曲(しゅうきょく)　〔平山　健〕

ぎゃくてんそう　【逆転層】　気温は，高度が上がるごとに下がる(*乾燥断熱減率)のが普通であるが，その下がり方が非常に小さいかまたは逆に上がる場合にそのような大気層を逆転層という。晴れた夜など放射によって地面が冷やされ，地表近くの気温が下がると逆転層がつくられる。これを接地逆転層という。大気の成層状態によっては，逆転層は上層大気中にもつくられる。

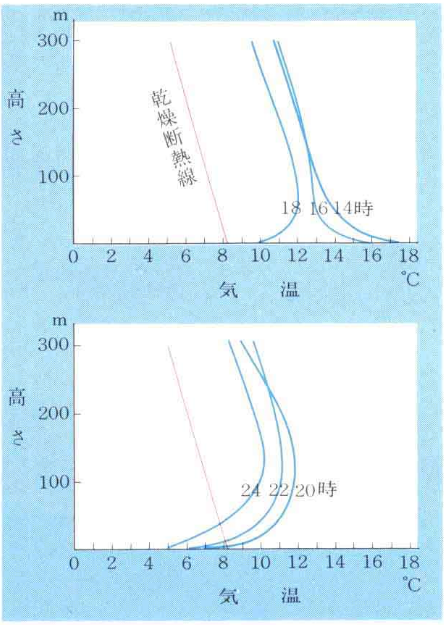
きゃくど　【客土】　土地改良の一手段で*秋落ち田の改良，耕土深の増大，漏水の防止，土壌(どじょう)の理化学性改良のため，水田や畑に別の土を客入することをいう。秋落ち田には鉄分や塩基に富んだ粘土質の土壌が良好であり，漏水防止のためには*ベントナイト(特殊粘土)が用いられる。また，耕土を厚くするためには，理化学的に理想的とされる状態にするための土壌を用いるなど(砂土では粘質土を客入する)，作物生産基盤たる土壌については大いに研究すべきである。　〔金木良三〕

ぎゃくピッチ　【逆ピッチ】　⇨プロペラ

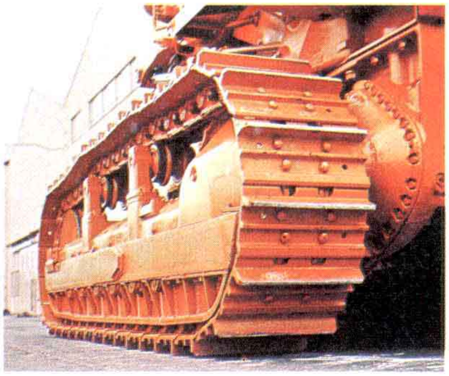
きやくぶんすう　【既約分数】　$\frac{2}{3}$, $\frac{12}{25}$などのように，分母・分子の間に公約数をもたない分数。既約分数は，同じ値の分数の中で最も簡単な形のものであり，どんな分数も約分することによって既約分数になおすことができる。分数式でも，$\frac{x(x-1)}{(x+2)(x-3)}$などのように，分母・分子の間に共通因数がないものを既約分数という。

きゃくほん　【脚本】　演劇・映画・放送劇などにおいて制作の基本となる台帳。*台本ともいう。俳優のせりふを主に，場景や*ト書などを記載したもの。一般に，浄瑠璃(じょうるり)や新劇の台本を*戯曲またはドラマとよぶのに対し，歌舞伎や大衆演劇のように，文学性よりも演劇性の勝った分野に使われる傾向が強い。なお映画の台本は*シナリオとよばれる。

キャザー　［Willa Cather］（1873～1947）　アメリカの女流作家。バージニア州の



逆 転 層　接地逆転層の形成過程の例



キャタピラ

農場に生まれ，10歳以後はネブラスカ州の開拓移民の間で育ち，その経験をもとにして地方主義的な特色をもつ秀作《おお開拓民よ》《私のアントニーア》を発表し，《われらの一人》(1922)でピュリッツァー賞を受けた。開拓地の生命力を描くヒューマニストであるとともに，*フローベルや*ジェイムズに私淑した芸術家はだの作家でもあった。

ギャザー　［gather］　洋裁用語。集めるという意味から，幅広い布や余分な布を所定の寸法まで縫い縮めて装飾効果を出したものをいう。婦人服・子ども服などに多く使用される。ことに身体の各部位の中でも細いところである首・手首・ウエストまわりなどに寄せ集めデザイン化することが多い。ギャザーは素朴(そぼく)な効果をねらったものでそれをさらに美化したものにシャーリング・*スモックなどがある。

ギャスケル　［Elizabeth Cleghorn Gaskell］（1810～1865）　イギリスの小説家。マンチェスターの牧師の妻として夫の貧民救済事業を手伝いながら，社会主義的な小説《メアリ-バートン》《北と南》を書いた。また《クランフォード》では，古風ないなか町の風変わりな女性たちの生活を，女らしい，しかもユーモアのある筆致で描き，田園詩のような美しさを結晶させている。

キャセロール　［casserole］　底が平たく，柄やふたのついた洋風蒸し焼きなべ。磁器または耐熱ガラス製。しるものや煮込みものの材料を入れてじか火で煮たり，オーブンに入れて焼いたりして，なべのまま食卓に出して供する。料理が風味よくでき，かつ冷えにくいのが特徴で，いろいろなデザインが考えられている。またこのなべでつくった料理もキャセロールという。

キャタピラ　［caterpillar］　多数の鋼板(履(は)き板)をピンで連結して環状にしたものと，突起をもった車輪とをかみ合わせた走行装置。アメリカ，キャタピラー-トラクター社の商品名。無限軌道，装軌あるいはクローラーともよばれる。戦車・トラクターの走行装置に用いられている。キャタピラ式走行装置は，キャタピラ，キャタピラを駆動する起動輪・誘動輪，全重量がキャタピラ上に均等にかかるようにする下転輪，キャタピラの自重をささえる上転輪から構成される。下転輪は地面からの衝撃を柔らげるため，板ばね・コイルばね・棒ばねなどで懸架されている。また，キャタピラ式走行装置をもつ車両の方向変換は左右キャタピラのうち進もうとする側のキャタピラを制動して行なう。接地面積がタイヤ式に比べて大きいため，粘着力が大で，また，接地圧が低いため，凹凸(おうとつ)の激しい土地や軟弱地でも大きな駆動力が得られる利点はあるが，高速走行には不向きである。〔成田武男〕

キャタピラー-トラクター　［Caterpillar Tractor Co.］　アメリカの農業機械・建設機械の大手メーカー。1925年設立。第2次世界大戦中のキャタピラー製トラクターの活躍はめざましかった。主製品はトラクター・ブルドーザー・モーターグレーダーなどの大形機械で，ハイウエー・ダム・貯水池・水路・鉄道・パイプラインの建設に活躍する。技術面で業界をリードし，現在燃料・潤滑油・制御装置を中心に開発が進められている。全世界に販売網をもち，売上高の半分近くが国外向けで，特に日本・南アフリカ・ヨーロッパへの進出が著しい。わが国には三菱(みつびし)重工業との合弁会社キャタピラー三菱がある。年間売上高20億ドル，従業員数66,000(1969)。〔氏家　尚〕

ギャチュンカン(山)　［Gyachung Kang］　中部ヒマラヤ山脈中，ネパールとチベットの境にある山。ネパールヒマラヤに属し，標高7,922m。氷河によって削られた尖峰(せんぽう)で，エベレストの北西20km，チョーオユーの北北東8kmにある。ガンジス川の支流コシ川の水源であるゴジュンバ氷河の源流部。1964年(昭和39)4月長野県山岳連盟の古原和美隊が初登頂した。

きゃっかん　【客観】　*主観と相関する語

で，意識の対象となるもの。客体・対物・非我・ノエマなどともいう。ラテン語の語源オブジェクトゥムは〈主観に対して投げられたもの〉を意味しており，むしろ今日の主観的なもの，つまり表象された存在，思惟(しい)された存在をさしていた。近世に至って，主体の概念が成立するとともに主観・客観の意味が逆転し，客観は主観の働きの向かう対象，主観の作用に対立するものとなった。〈客観的〉なものは，①主観から独立に，それ自体において存在すると考えられる(*実在論)，②個人的主観からは独立し，超個人的主観に依存すると考えられる(*観念論)，③真の客観は意識の立場でなく，行為の立場でとらえられる，と考える。このうち，②の場合の〈客観性〉は思惟の普遍的必然性を意味し，客観性の根源はむしろ真の主観性(先天的統覚)にあるといえる。
〔中川　誠〕

きゃっかんテスト　【客観テスト】⇨試験

ぎゃっこう　【逆行】⇨順行

キャッサバ　[cassava]　双子葉植物・トウダイグサ科。ブラジル原産の落葉低木。マニオクともよばれ，古くからアメリカインディアンが主食の一つとしていた。アメリカ大陸発見とともにしだいに熱帯各地に広まり，栽培されている。高さ２～４mになり，茎は乳液が出て，よく分枝する。葉は，５～７に深く裂けた掌状の複葉で，互生する。雌雄同株で，枝先に黄白色の単性花を円錐(えんすい)花序につける。ダリアに似た大形の塊茎は30～80cmになり，肉は白ないし黄色で，キャッサバいもとよばれる。いもには多量のデンプンと青酸配糖体が多量に含まれ，有毒ではあるが，毒成分はおもに外皮にあり，水洗いしてからゆでて取り除くことができる。デンプンは良質で，おろしてから絹ごしし，沈殿させたものはタピオカといわれ，重要なデンプン資源である。
〔横井朝子〕

キャッチフレーズ　[catch-phrase]　*広告・*宣伝の対象となる物の性格を，きわめて短いことばで象徴的に，かつ広告文全体をより効果的に訴えるために案出される句をいう。その意味でわずか一つの単語でも訴求力が強ければ，キャッチフレーズとしての機能は十分果たしうるものである。元来広告は，送り手が意図的に広告技術を駆使して，大衆の興味や関心をとらえようとするものであるが，そのためにキャッチフレーズが示唆する内容は，大衆の商品に対する第一印象を形造るのに大きく作用し，広告効果を最大限に発揮するために多大の影響力をもつ。
〔前納弘武〕

キャッチャーボート　[catcher boat]　直接に魚類を捕獲する漁猟船の総称。捕鯨船・トロール船・カツオ-マグロ船・延縄(はえなわ)漁船・手繰り網漁船などでその種類は多いが，一般には母船式捕鯨の捕鯨船をさす場合が多い。➜捕鯨船



キャパ
イタリア　1944

キャップ　[cap]　頭にぴったり合った，つばのない形の帽子。頭部の保護に用いる以外に，僧侶(そうりょ)・裁判官などが職柄・威厳・順位などを示すためにかぶるものも多い。前ブリム(つば)のついたものもキャップに含まれる場合があり，これらはスポーツ用・作業用・学生帽など活動的なものに多く，ハンチング・キャスケットなどの名称でよばれている。

キャップランプ　[cap lamp]　帽子やヘルメットの前面につける照明用の電燈。腰に着け，または，肩からつった軽量小形のアルカリ電池や鉛電池などの蓄電池で，15～20ルーメン，２～３Wの豆電球をともす。鉱山の坑内作業者の携帯用照明として広く使用される。ただし，炭鉱用のものはガス爆発防止のくふうが施されている。

キャノチエ　[canotier]　婦人帽子の基礎形体の一種。狭いつばが水平につく。本来はフランス語でボートの漕手(そうしゅ)が用いた男子用の麦わら帽子をいい，山が浅く角張ったものが多いが，婦人帽としては丸みのあるものでも水平つばであればこの名称でよばれる。スポーティーでいきな感覚のものが多く，町着用。

キヤノン　【キヤノン(株)】　カメラ・事務機の総合メーカー。1933年(昭和８)精密機械光学研究所を東京六本木につくったのがはじまりで，２年後，国産初の35mmカメラ〈観音〉をつくりあげた。1937年に精機光学工業となる。1947年にキヤノンカメラに名称を改め，本格的生産を開始し，一時期は生産・輸出・国内販売ともカメラ業界のトップに立った。最近では事務機部門に力を入れ，将来は売り上げ構成をカメラ50，事務機50とする方針で，カメラメーカーからのイメージチェンジを図って1969年３月から社名を〈キヤノン〉に改めた。本社東京，工場は東京・千葉。資本金134億2,000万円，年間売上高1,874億7,100万円，従業員数8,279(1980年６月)。

キャパ　[Robert Capa]　(1913～1954)　アメリカの報道写真家。ハンガリー生まれのユダヤ人で，本名はアンドレ-フリードマン。ドイツで写真を学ぶ。スペイン内乱の際，人民戦線派の一兵士の死の瞬間をとらえた写真(1936)で一躍注目を浴びた。その後も，日中戦争下の中国，第２次世界大戦下のヨーロッパ諸国の最前線に従軍し，非情な戦闘の実況と無名の人々の勇気と受難の姿を，欧米の有力誌を通じて訴え続けた。1947年*ブレッソンらと写真通信社《マグナム》を創立して初代会長をつとめ，戦後のソビエト紀行，ピカソの私生活の記録にも非凡な手腕を示した。1954年インドシナ戦争取材のため北ベトナムに飛び，撮影中地雷に触れて殉職した。
〔平野　久〕

ギャバジン　[gabardine]　梳毛糸(そもうし)で急角度のあや織りに織った毛織物。綿・人造繊維でつくられたものもある。生地が平滑で耐久性があり，コート・スラックスをはじめ背広・スーツ・婦人子ども服・制服・運動服などに広く用いられる。

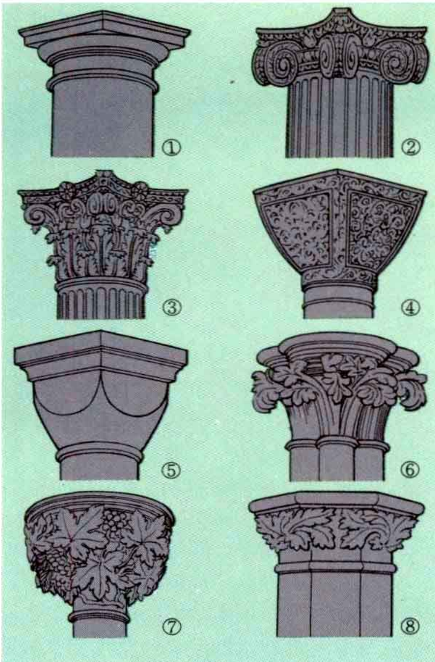
きゃはん　【脚絆】　労働・旅行などに脛(はぎ)に着けて，脛部(けいぶ)を保護すると同時に，筋肉を締めつけて疲れないようにする服装品。古くは脛巾(はばき)とよばれたが，室町時代から脚絆の語が用いられるようになった。次の３種に大別される。①大津脚絆：方形または扇形につくり，上下にひもをつけたもの。②江戸脚絆：上部にひも，背部にこはぜをつけて着用する。③筒脚絆：円筒形で，上部にひもをつけて着用するなどである。このうち筒脚絆形式のものは，北海道のアイヌ，台湾の高砂(たかさご)族などにも使用されている。
〔合田　濤〕

ギャバン　[Jean Gabin]　(1909～1976)　フランスの映画俳優。1930年代に*デュビビエの映画の主役として世界的スターとなった。激情的な役がらを得意としたが，第２次世界大戦後は温厚な紳士の役をもこなしてスターとしての長い生命を保っている。代表作に《望郷》《現金(げんなま)に手を出すな》がある。

キャビア　[caviar]　チョウザメの卵の塩蔵品。卵巣の卵膜を破り，卵粒を分離し，3.5～12.5%の塩で散塩づけしてから容器に詰める。酒のさかな，カナッペなどとして珍重されている。高級品のマロソールキャ

ビアは，冬季とれたチョウザメの卵からつくったソ連製キャビア。なお，キャビアは広い意味では魚の卵の塩蔵品をさし，スペインのツナ-キャビアはマグロ，アメリカのレッド-キャビアはサケ，ギリシア・トルコで消費されるガラガンはスズキ類の卵の塩蔵品である。　〔佐藤友太郎〕

キャピタル [capital] 柱の頭部にあって，上からの荷重を受けとめ，柱身に均等に伝える役割の部分。柱頭ともいう。古くから装飾的に扱われ，さまざまな意匠がくふうされ，時代により特色のある柱頭が生まれた。エジプトでは，れんげ模様・パピルス・シュロ(パルメット)の葉の形を簡略化したものが用いられ，ギリシアではドリス式・イオニア式・コリント式の三つのオーダー*により，それぞれ独自の柱頭が用いられた。ローマでは，ギリシアの3オーダーのほか，トスカナ式とよばれるドリス式の簡略形式や，イオニア式とコリント式とを混合したコンポジット式が生まれ，特にコンポジット式が愛用された。ビザンチンでは柱に直接アーチを載せるため，柱頭の上にアーチの基台となる副柱頭を挿入(そうにゅう)する特異な形式をつくるとともに，柱頭は，下底の円から上底の方形へ，なだらかに移り変わる独特の形態をとり，装飾文様を精緻(せいち)な籠(かご)彫りで施した。ロマネスクでは，植物文様や動物，怪奇な人物像などが柱頭の表面に素朴(そぼく)なタッチで刻まれ，独特のふんい気をかもし出す一方，立方体と球形とを結合させた単純明快な柱頭もくふうされた。ゴシックの柱頭の彫刻は，ロマネスクに比べれば，はるかに技巧が洗練され，葉状のレリーフやつぼみ状の彫刻のついた柱頭が用いられたが，一般に柱頭を以前よりも控えめに扱う傾向が生じた。それは，ゴシック建築の柱は，たくさんの細い柱をたばねた形のものにして，垂直な陰影を強調することにより，床から天井に至る垂直な上昇感を生みだすことをねらったので，柱頭の存在を強調すると，この上昇感をさえぎるおそれがあるからであった。ルネサンス以降は，ギリシア・ローマの柱頭が再現されたり，過去の形式が踏襲されたりして，新しい形式は生まれなかった。　〔渡辺保忠〕



① ローマ時代(ドリス式)
② ローマ時代(イオニア式)
③ ローマ時代(コリント式)
④ ビザンチン時代
⑤ ロマネスク時代(ドイツ)
⑥ 初期イギリス-ゴシック時代
⑦ 中期イギリス-ゴシック時代
⑧ 後期イギリス-ゴシック時代

キャピタル

キャピタル-ゲイン ⇨インカム-ゲイン

キャフタじょうやく 【キャフタ条約】 1727年，ロシアとモンゴルの境界キャフタ河畔で，ロシア・清(しん)両国間になされた条約。全文11条からなり，アバカイトからシャビナ・ダバガに至る現在のモンゴル-ソ連国境，逃亡者の引き渡し，交易場としてキャフタとツルハイトゥの開設，北京(ペキン)にロシア教会を設立することなどが定められ，1689年のネルチンスク条約*後の通商問題，清のモンゴル進出による変化に伴う国境問題を解決した。愛琿(あいぐん)条約・天津(てんしん)条約の結ばれた1858年までの清とロシア両国間の関係を規定した。　〔山県弘志〕

キャプラ [Frank Capra] (1897～　) アメリカの映画監督。イタリアのパレルモ生まれ。喜劇映画の作者として名高く，《或(あ)る夜の出来事》《オペラハット》などが代表作とされる。時代を反映した社会風刺のドラマもつくっているが，彼の本領は喜劇的な状況に対する鋭い感覚にある。

キャベツ [cabbage] 双子葉植物・アブラナ科の一年生または越年生草本。一般にキャベツといわれているのはカリフラワー・ブロッコリ・メキャベツなどのキャベツ類の中で特に葉が発達して結球するものをいい，タマナ(玉菜)・カンラン(甘藍)ともいう。茎は非常に短く，かなり太い筋のある杓子(しゃくし)形の葉は重なり合って出て，内側に巻いて球を形成する。苗が大きくなって低温にあうと花芽を形成し，春，とうだちして大形で黄色の十字花をつける。地中海沿岸から小アジアの原産とされ，ヨーロッパでは古くから栽培されていた。結球性のキャベツは冷涼な地帯でできたものといわれ，特にヨーロッパ北西部でよく発達した。わが国には明治以前にも導入されたが，現在の品種は明治以降導入された欧米や台湾などの品種をもとにしてつくられたものである。欧米から導入された品種は概して冷涼な気候を好み高温には弱いが，台湾から導入された品種は比較的暑さに強いので夏期の栽培が可能である。わが国の品種はよく発達しているので，品種と地域を組み合わせて1年じゅう生産する体制が整っている。暖地での冬どり，高冷地での夏どりも盛んで，消費の伸びも著しい。また，葉にアントシアン色素を含んだムラサキキャベツの栽培もあり，近年サラダ用として利用が多くなっている。一般に生食することが多いが，欧米では乳酸発酵させたサワークラウト(つけ物の一種)の利用も盛んで，国際的商品となっている。また冬季青い飼料の不足する北欧などでは，飼料としての利用もある。　〔松本正雄〕

キャベル [James Branche Cabell] (1879～1958) アメリカの小説家。ドン-マニュエルの一家の歴史を描いた《マニュエル一代記》という連作は，中世の架空の地域ポワテムを舞台に書きはじめられ，20世紀にまで及ぶ代表作。その中の1編《ジャーゲン》は風俗を乱すという理由で発禁となり，1920年代初期の文学論争の対象となった。新ロマン主義的な作風で，登場人物は象徴的・風刺的であり，幻想性に満ちている。

キャベンディッシュ [Henry Cavendish] (1731～1810) イギリスの物理学者・化学者。ケンブリッジ大学に学んだのち私邸内の実験所で研究した。社交を好まず，研究もほとんど発表しなかった。したがって，その業績は約1世紀のちにマクスウェル*によって発表されるまで埋もれていた。キャベンディッシュのねじりばかりによる地球の密度の測定をはじめ，潜熱・比熱・熱膨張・融解・電気に関する研究などがある。また，水素を発見し，古来，元素と思われていた水は酸素と水素の化合物であることを示した。彼の業績を記念してキャベンディッシュ家第7世のデボンシャー公によりケンブリッジ大学内にキャベンディッシュ研究所*が設立され，現在も実験物理学の基礎研究が行なわれている。　〔山下愛子〕

キャベンディッシュけんきゅうじょ 【キャベンディッシュ研究所】 イギリスのケンブリッジ大学にある物理学研究所。1868年ケンブリッジ大学に実験物理学の講座が開設され，同時に付属研究所がときの総長デボンシャー公の寄金を基にして設立された。名称はデボンシャー公の家系から出た物理学者キャベンディッシュ*の名をとったもの。初代所長はマクスウェル*，次いでレーリー*が所長となったが，1884年J.J.トムソンが所長となってから，当時のケンブリッジの学制改革とあいまって海外から多くの人材が集まり，次期所長ラザフォード*の時代にかけて世界の実験物理学の進歩の中心となり，黄金時代を現出した。世界の原子物理学研究の基礎を築き，かつその推進力となった多くの業績がこの研究所から生まれ，当時およびその後のノーベル賞受賞者が輩

出している。原子核・低温・結晶・金属・数理の5部門が置かれている。〔藤村　淳〕

キャミソール [camisole]　婦人用の下着で胴体の上部を包むもの。ペチコートと組み合わせて，スリップとしての役目もする。ツーピースふうのスリップの上部ともいえるものである。

きゃら　【伽羅】　薫香に用いられる代表的な香料。沈香・奇南香などともいい，伽羅は〈黒〉を意味するヒンズー語アガールに，沈は水に沈むことに由来する名。インド・ビルマなどに分布するジンチョウゲ科の植物アキラリア-アカロカを土中に埋め，樹脂を凝集させたもの。わが国には6世紀ごろ中国を経て伝来し，はじめ仏前をきよめるためにたく香木として用いられたが，8世紀ごろから宮廷文化人を中心にへやや衣服にたきこめてそのかおりを楽しむ風習が生まれ，薫物(たきもの)調製の主要物質とされた。➔香　〔三条西公正〕

キャラコ [calico]　綿糸をやや密に平織りにした生地。一般に半幅以上の広幅の晒金巾(さらしかなきん)(金巾を漂白し，のりづけ仕上げをしたもの)を称している。シャツ・エプロン・シーツ・カバーなどに広く用いられる。

ギャラゴ [galago]　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・ロリス科の原猿(げんえん)。アフリカ産で5種からなる。頭胴長15～30cm。耳は大きく，尾は長く太い。家族的集団をつくる。夜行性で動作は敏捷(びんしょう)。ブッシュベビー(茂みのベビー)ともよばれ，おとなしくてよく人になれる。年に2度，1～2頭出産。➔霊長類

ギャラップよろんちょうさじょ　【ギャラップ世論調査所】　1935年アメリカの世論統計家ジョージ-ギャラップ(1901～　)によってプリンストン大学内に設置された世論調査機関。その大統領選挙の予想は著名。調査員1,200名を動員し，アメリカの126の新聞社やイギリスを含む12か国へ資料を提供している。1939年ギャラップは，聴視者調査研究所を創設し，ラジオ番組の聴取率，映画に対する公衆反応の測定など多くの分析調査を行なっている。〔松沢　勝〕

キャラバン　⇨隊商

きゃらぶき　【伽羅蕗】　フキの茎をしょうゆだけでいり煮したもの。でき上がりが伽羅の色に似ているところからこの名がある。フキの茎を1日干してから皮をむき，約4cmの長さに切る。2～3分からいりまたは，少量のゴマ油でいためてからしょうゆと酒(8：2の割合)をひたひたに入れて煮つめ，ほとんどしるのなくなるころに粉とうがらしを少々入れていりつける。伽羅蕗はコンブとマツタケのつくだ煮，青トウガラシのつくだ煮とともに三宝つくだ煮といわれ，お茶づけの菜，焼きざかなのつけ合わせ，酒席のとおし物などによく用いられる。保存に耐えて便利である。〔塩川ふみ〕



ギャラゴ　オオギャラゴ

きゃらぼく　【伽羅木】　裸子植物・イチイ科。庭に植えられている常緑低木。イチイの一変種で，直立せず，枝を多く出して地面をおおう。葉は幅広く，らせん状に枝につく。

キャラメル [caramel]　砂糖を煮てつくるあめ菓子。砂糖・牛乳・バター・水あめを主原料とし，コーヒー・チョコレート・バニラなどの香料を加える。アメリカで製菓技術を研究した森永(もりなが)太一郎が1899年(明治32)に帰国したのち製造したのがはじめである。生産は1955年(昭和30)を頂点に他の菓子の進出におされて，現在は後退傾向にある。〈作り方〉 純良な砂糖と精製した水あめ(麦芽あめがよい)に練乳その他を混ぜ，水を加えてよくとかして質を均一にし，煮つめなべで加熱する。中身が125～130℃の温度になったとき，バターや香料を加えてよく混和したのち，冷却盤に取り出して冷却し，ロールにかけて一定の厚さに伸ばしカッターで小さな立方体に切断する。現在ではミルクを多量に含んだミルクキャラメルが代表的である。さらに，ビタミンB_1・ビタミンB_2も添加されているので，栄養価が高い。〔泉　敬子〕

ギャラントようしき　【ギャラント様式】　近世の楽曲様式の一。18世紀の中ごろ，壮麗なバロック様式に対して，サロンふうのきめ細かな処理が楽曲に加えられるようになった。この様式をギャラント様式とよび，ロココ様式に並列または包含されるものと考えられている。フランスではすでにクープランのクラブサン曲にこの傾向が現われ，ドイツやイタリアにも多くの模倣者を出した。特にドイツでは，バロック期の作曲家テレマン・マテゾンらにもその影響がみられ，下って感情過多様式と直接にかかわり合うこととなった。〔吉田泰輔〕

きやりうた　【木遣り歌】　本来，仕事唄(しごとうた)の一であったが，今日では鳶職(とびしょく)によって建築や祭りの際に歌われる。木遣りとは，建築用材である大木を多勢で引くことをいい，木遣り歌は木遣りの際に全員の力を統一するために歌われる歌である。指揮者が〈音頭(おんど)〉という独唱をし，曳子(ひきこ)がこれを受けて合唱する。戦国時代には城や神社仏閣などの造営に際して慶祝の意味をこめて歌われ，江戸末期には木遣りくずしも生まれた。歌詞は七五調ないし七七調で高僧の一生から庶民の心中まで扱い，そのはでな歌いぶりから，祭りの際に鉾(ほこ)や山車(だし)を引くときにも歌われるようになった。

きやりくずし　【木遣りくずし】　三味線(しゃみせん)歌曲。木遣り歌を本来の仕事唄(しごとうた)としてではなく，三味線に合うように改め，テンポも早めて祝い唄ふうに，あるいはお座敷唄ふうに編曲した歌。もとの歌より音楽的意図が強く，装飾音型がふえている。

ギャリソン [William Lloyd Garrison]（1805～1879）アメリカのジャーナリスト。奴隷制即時廃止論者。1824年，故郷の《ニューベリーポート-ヘラルド》紙，1827年《ナショナル-フィランスロピスト》紙の主筆をつとめた。1829年ボルチモアで《全面的奴隷解放の精神》紙を発刊し，奴隷制廃止運動を展開して投獄された。出所後，1831年ボストンで《解放者》紙を週刊で発行した。翌年奴隷制反対協議会を結成し，1833年全国的組織とした。奴隷制容認の連邦憲法，政府への激しい不信の念と非妥協的態度は不必要な反感を喚起したが，その理想主義と熱意は南北戦争による奴隷解放まで改革者たちへの力づけになった。〔折井一彦〕

キャリパス　⇨パス

ギャルド-レピュブリケーヌすいそうがくだん　【ギャルド-レピュブリケーヌ吹奏楽団】　フランスの吹奏楽団。その起源は，1848年の2月革命の際，パリ防衛軍の兵士12人がトランペットを奏したことにある。6年後ジョルジュ-ポリュスによって55人編成となった。さらに1930年にピエール-デュポンによって83人編成となり，1948年の創立100年祭を機に40の弦楽器を含めた管弦楽団になった。しかし，あくまで軍楽隊であることがこの楽団の特徴である。1961年ジュリアン-ブリュヌを隊長として来日した。〔向坂正久〕

キャロット [calotte]　キャップ型の帽子。頭部をぴったりおおうようにつくられた，つばのない形で，頂点に向かって三角形の布を6～8枚はいでつくられている。古い時代から王冠の下にかぶられ，19世紀からは禿頭(とくとう)の保護など，頭部の保護のために室内で用いられた。英語のスカルキャップに相当する。

キャロル [carol]　中世ではくり返しの部分をもつ歌が広くこの名でよばれたが，今日ではクリスマス祝歌をさし，フランスのノエル，ドイツのバイナハツリートと同じである。今日のクリスマス-キャロルは，伝統的な民謡や特別につくられた曲だけでなく，オペラをも含める世俗的な旋律も用いている。キャロルを二つ以上の声部のための多声的な楽曲にすることは15世紀から行なわれた。

ギャング [gang]　ふつう徒党を組んで金銭的利益を得るために暴力的犯罪を犯す

一群の人々をさす。本来のことばの意味は，同時に動く人や物の一群のことで，少年期の遊戯集団から成人のレジャーグループや各種のサークルにいたるまで，自然発生的に，非公式に形成されるものである。しかし，一定の社会秩序の外で，特殊な行動様式や*隠語をもつ排他的な集団が形成され，ときには反社会的な非行集団ないし犯罪集団にもなることがある。特にその反社会性・犯罪性の点で目だった1920年代のアメリカの暗黒街，*カポネに代表される密輸・密造・売春・賭博(とばく)・麻薬などを扱う地下非合法組織が典型とされ，ギャング映画によって強く印象づけられた。遊戯集団から犯罪集団にいたるまで，いずれにせよその組織は凝集力を高めるために排他的・秘儀的な性格をもち，*暴力によっても対抗勢力やときには社会秩序をも排除し，典型的な行為様式や身分秩序をもった支配体系を形づくる。個々の集団が自然発生的な特殊なものであろうと，その組織形態はきわめて普遍性をもち，容易に全国的・横断的組織化を可能にする。このような組織化の原理は，一定の社会秩序の中での体制内的組織においても見いだされるものであるが，組織目標ないしは集団の欲求水準のあり方によって，反社会的なものに転化しうる。

〔国近浩一〕

キャンデー ［candy］ キャラメル・ドロップなど，砂糖を主原料とする菓子の総称。水あめを加え，寒天・鶏卵・バター・ゼラチン・香料・着色料・ピーナツ・アンズ・アーモンドなども用いられる。キャンデーに水あめを加えるのは，ショ糖の結晶化を防いで耐久性と粘稠(ねんちゅう)性を与え，また色沢や風味を増すためである。

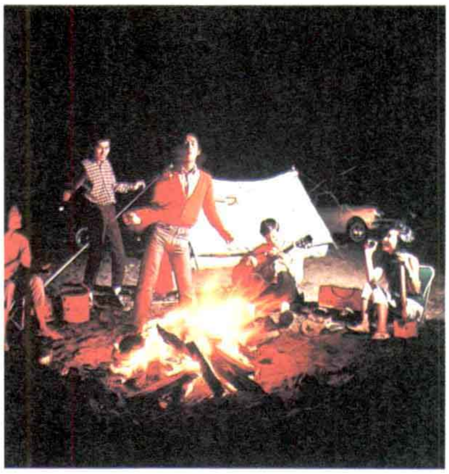
キャンティ ⇨ぶどう酒

キャンパー ［camper］ 自動車の車内を改造し，ベッド・調理台あるいは調理に必要な燃料や水タンク，物入れなどを備えたキャンピング用特殊自動車。構造は普通の自動車とあまり変わらないが，おもにドライブ旅行に使われるため，居住性や乗りごこちがよく機動性に富むことが必要で，マイクロバスやバン型の改造車が多い。用途の似た自動車にハウストレーラーがある。

キャンプ ［camp］ 本来〈野営〉とか〈仮り住まい〉が示すように，戦争とか移動生活，生活必要上の居住空間という意味をもっていたが，今日では一般に観光レクリエーション的に用いられる場合がほとんどである。キャンプないしキャンプ活動は，人間と自然との接触という今日の都市生活者が求めている最大の欲求を満足させうるレクリエーション*活動の一つである。キャンプ場は，目的・滞在期間・環境・交通機関などによって少しずつ変わってくるが，いずれにしてもレクリエーションキャンプにおける基本的主題は，自然生活・野外生活という目的にまとめられる。青少年を対象にしたキャンプは，単なるレクリエーションという意味をこえて，自然の中で，個人個人が団体とのかかわりあいを通しみずからの生活を築きあげ，あるいは自然を理解すること等々，教育的要素も強い。たとえば，夏季林間学校に代表されるような学校単位とか，ボーイスカウト・ガールスカウト・YM(W)CAなどで行なわれるキャンプはこうした意味が強い。一般の場合でも野外生活そのものを楽しむ形態から，観光旅行・ドライブなどの周遊旅行の簡易宿泊場的役割をも果たす場合までさまざまである。



キャンパー



キャンプ

自動車の観光レクリエーション利用への増加に伴いオートキャンプ場(カーキャンプ場)も出現しはじめた。これは自動車で野外生活(キャンプ生活)を楽しめるように計画的に配されたキャンプ場で，わが国でもようやく本格化しはじめた。このほかにサイクリングキャンプ場なども，今後は盛んになるであろう。基本的施設としては，宿泊施設であるキャンプテントまたはケビン，保健衛生施設であるトイレ・洗面場・浴場，医療・売店・管理・通信などの管理施設のほかに，広場・ファイアーサークル・苑地(えんち)・野外劇場・運動施設などが必要である。ほかに基本施設として，上下水道・電力・ゴミ処理なども必要となる。オートキャンプ場になると，自動車道と給油・修理などの付帯施設も準備される。わが国では，従来こうした本格的キャンプ場は育ちにくかったが，都市生活の進展とともに，ようやく家族から青少年まで安心して野外生活を楽しめる施設の必要が高まり，これによって，公共事業・民間企業によって，山岳・高原あるいは海浜地域に開発・整備されつつある。

〔原　重一〕

キャンブリック ［cambric］ 本来は麻織物で，フランスのキャンブレーで最初につくられたためこの名があるという。現在のものは綿織物で，*金巾(かなきん)にのりづけをしてつや出し仕上げをしたもの。漂白した白地が多いが，無地染め・プリントもある。主としてハンカチーフ・エプロン・シーツ・ふとんカバーなどに使われる。



キャンベラ　北東方から見た市の中心部。遠景は行政庁区のキャピタル広場で，円形道路の右手前に国会議事堂の白い建物が見える

キャンベラ ［Canberra］ オーストラリア連邦の首都。マーレー川の上流部の標高450～500 mの高原に，川をはさんで2地区の市街からなる。人口16万6,000(1973)。機能的にはまったくの政治・行政都市で，アメリカ合衆国のワシントン，ブラジルのブラジリアに似ている。市域は連邦政府直轄地(オーストラリアキャピタルテリトリー)として行政上独立している。市街はキャピタル広場を含む七つの広場を中心に環状と放射線状の街路を組み合わせ，行政庁区・市政庁区・工場区・住宅区・田園住宅区など

に整然と分割される。1908年，同国の首都を決定するにあたってシドニーとメルボルンが争ったため，両方の中間にあたる森林地帯を切り開いて，1911年アメリカ人B.グリフィンの設計により計画都市として建設された。〔小栗　宏〕

キャンペーン [campaign] 陸戦における会戦のこと。長期の大きな戦略的目標を達成するために実施する相互に関連した一連の作戦の総称。狭義には，ある作戦の勝敗を決するような重要な地域・時期における戦闘およびその前後における機動をいう。一般用語としては，組織的な運動・宣伝活動の意に使われている。➔作戦

キュイ [Tsezar Antonovich Kiui] (1835～1918) ロシアの作曲家。ナポレオンのモスクワ遠征軍に加わった士官を父にもち，1850年ペテルブルク(現在のレニングラード)の工兵学校に入学，のち同校の築城学の教授となり，陸軍工兵中将まで進んだ。音楽は余技であるが，1857年にバラキレフ*と知り合い，その紹介で〈五人組*〉のメンバーに加わった。作曲も歌劇を中心に少なくないが，特に評論活動でロシア国民楽派の主張を強く押し出した功績は大。〔向坂正久〕

ギュイヨー [Jean Marie Guyau] (1854～1888) フランスの哲学者。A.フーイエに哲学を学び，のち養子となった。スペンサー*の影響を受け，進化論に立脚して独自の世界観を樹立した。進化の動因は生であり，その目的も生であると説き，生の自由な発展は各個人間の連帯の実現に向かうという見地から，義務を強調するカント的道徳に反対，〈義務なき道徳〉という倫理思想を展開した。また，芸術を個人と社会を融合させる活動として重視した。生の哲学*の先駆的存在として高い評価を受けている。主著《義務も制裁もない道徳》《社会学から見た芸術》〔石井忠厚〕

きゅう 【灸】 ⇨鍼灸(しんきゅう)術

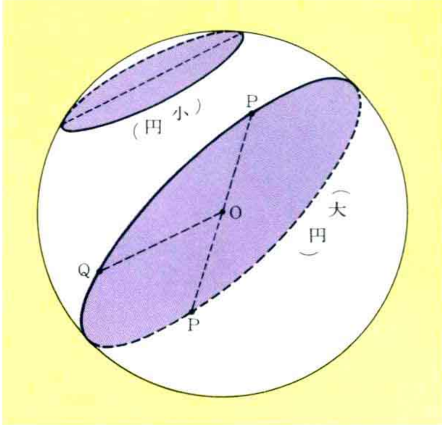
きゅう 【球】 一定点からの距離が一定である空間の点の集合を球または球面という。その定点を球の中心，中心と球面上の1点とを結ぶ線分またはその長さを半径という。球面は，空間を内部と外部とに分ける。球面と内部とを合わせて球領域といい，球面または球領域のことを簡単に球とよぶ。球面上の2点を結ぶ線分のうちで中心を通るものを直径という。球と平面との交わりは円で，直径を含む平面による切り口を大円，そうでないものを小円という。球面上で，中心に関して対称な2点を通る大円は無数にあるが，それ以外の2点を通る大円はただ一つある。大円は球を2等分し，そのおのおのを半球という。半径rの球の表面積S，体積Vは，

$$S=4\pi r^2,\quad V=\frac{4}{3}\pi r^3$$

である。直交座標で，中心M(a, b, c)，半径rの球(球面)は，方程式

$$(x-a)^2+(y-b)^2+(z-c)^2=r^2$$

で表わされる。〔菊池兵一〕



球



仇　英　〈金谷園図〉(部分)　東京国立博物館蔵

きゅうい 【吸胃】 嗉嚢*(そのう)が変形して大きな袋となったもので，樹液やみつなど液状の食物を吸収する鱗翅(りんし)目・双翅目などのこん虫にみられる。食物を急速に吸収して，一時ここにたくわえる。

きゅうえい 【仇英】 中国，明(みん)の武宗帝のころ(16世紀前半)の画家。字(あざな)は実父，号は十洲(じっしゅう)。画院*の細巧派とよばれた周臣に学ぶ。周臣は，院体山水のうち李唐*(りとう)・劉松年(りゅうしょうねん)らの系統を継いでいるが，仇英はむしろ人物・士女画に本分がある。楼台・風俗・鳥獣・花卉(かき)などすべてにわたって綿密な線描に濃厚な彩色を施し，宮粧富貴の体態といわれた。明・清(しん)の風俗人物画は，多くは仇英の模倣から出発している。代表作に《桃李園・金谷園図》などがある。〔中島純司〕

きゅうおうどうわ 【鳩翁道話】 心学*の道話集。正編・続編・続々編，各3巻。1834～1838年(天保5～9)刊。石門心学の柴田鳩翁*(しばたきゅうおう)が晩年地方を巡り歩いて行なった道話を，むすこの武修が筆録したもの。全文口語体で，多くの実例・寓話(ぐうわ)を交え，心学書の中では最も文学性に富む。明治以後活版本も出版された。

きゅうおんざい 【吸音材】 比較的よく音を吸収し，またその目的で使われる材料。高い音をよく吸収する材料と低い音をよく吸収する材料があり，またある高さの音だけを特によく吸収する性質のものもある。一般に，住宅で日本間のほうが洋間より静かな感じがするのは，和風建築の室内表面に使われている材料には吸音材が多いからである。事務室の天井などによく用いられる穴のあいたアコースティック-テックスは室内で発生する騒音をできるだけ多く吸収する役目をする。また，映画館や音楽堂の後ろの壁面が柔らかい布などの材料で仕上げられているのは，音がこの壁面にあたった反射音とステージからの音とが二重に聞こえるのを防ぐためである。多くの吸音材は柔らかいふわふわした材料で，畳・ふとん・じゅうたんやカーテン，および客席のいすや衣服を着た人間なども吸音材といえる。吸音という現象は，音波が材料の内部へ侵入してその中の繊維や粒子を振動させ，その結果音のエネルギーが熱のエネルギーに変わってしまうことである。一般に，ふわふわした繊維状の吸音材は，高い音をよく吸収するものである。ベニヤなど板状の材料に音波があたると，その板自身が振動することによって音のエネルギーが熱のエネルギーに変わり，結局残りのエネルギーだけが音波として反射される。これを板振動というが，これは一般に低音をよく吸収する。また，アルミ板や石綿板の穴あき板は，その裏側に空間をとって取りつけてあるのが普通であるが，小穴の中にはいった音波がある決まった高さの音に相当する振動数の共鳴振動を起こすので，その振動数に近い音をよく吸収することになる。〔木村建一〕

きゅうか 【球果・毬果】 円錐果(えんすいか)ともいう。裸子植物の松柏(しょうはく)類(マツ・モミ)の実のように，一つの花軸に多数の裸出胚珠(はいしゅ)がつき，成熟すると種子は厚く木化した鱗片(りんぺん)でおおわれ，それが多数集まって球状となっている果実をいう。

きゅうかい 【休会】 国会*または両議院が一時その議事を休止すること。国会の休会には両議院の一致した議決が必要とされる(国会法15条)。年末年始などのように，議決を経ず，慣習的に相当期間休会すること，あるいは申し合わせによって休会にはいることもあるが，これを俗に〈自然休会〉という。議院の休会とは各議院が単独の議

決により，10日以内に限ってする休会をいう(国会法15条④)。休会中でも，各議院は議長が緊急の必要があると認め，または総議員の4分の1以上の要求があれば，議長が他の院の議長と協議のうえ会議を開くことができる。➜国会　〔吉田善明〕

きゅうかく　【嗅覚】 ⇨臭覚

きゅうかこくじょうやく　【九か国条約】 1922年，ワシントン会議でアメリカ合衆国・ベルギー・中国・フランス・イギリス・イタリア・日本・ポルトガル・オランダの9か国間に締結された中国に関する条約。会議に提出されたアメリカのルート4原則を骨子とする条約は，中国の主権と独立，行政的・領土的保全の尊重を約束し，門戸開放・機会均等の原則を承認した。この結果，アメリカは第1次世界大戦以来の日本の中国進出を抑制し，石井-ランシング協定*を実質的に廃棄した反面，1899年以来中国政策として推進してきた門戸開放宣言が国際的に承認され，中国における列強の勢力圏が否定された。しかし，不平等条約の改正など，中国の要求は無視された。　〔折井一彦〕

きゅうかとうそう　【休暇闘争】 組合の要求貫徹を目的として，組合員の一部または全部が集団的に年次有給休暇*をとる戦術。争議行為*を禁止されている官公庁の労働者が，ストライキ*と同じ効果を得るために行なう場合が多い。したがって，この闘争方法が合法か否かは，しばしば問題となっている。労働基準法は年次有給休暇の使用目的を限定していないし，休暇の性質上，労働者がいかなる目的に使用してもさしつかえないはずである。したがって判例も，一部の者が要求貫徹のために年次有給休暇を請求しても〈事業の正常な運営の阻害がない〉と判断される場合は，これを認めるべきだとし，他方，組合全体が統一的な行動として年次有給休暇の権利を行使するのは，争議行為にあたるとしている。〔木元錦哉〕

ぎゅうがん　【牛眼】 眼球が異常に大きくなる病気。乳幼児期に眼内圧が上がって緑内障*を起こすと，眼球壁がまだ柔らかいため，これが伸びて眼球が大きくなり，一見ウシの目のように見えるためにこの名がある。多くは先天性で，遺伝による場合もある。治療としてはすみやかに緑内障の手術を行なうことが必要。

きゅうかんちょう　【九官鳥】 鳥類・ムクドリ科。中国の南部，インド・インドシナ・タイ・ビルマ・マライ半島に広く分布し，亜種がいくつか存在する。日本への渡来は古く，江戸初期から物まね鳥として珍重されてきた。ムクドリより一まわり大きい。全身黒色で紫の光沢がある。物まねはオウムより巧み。若鳥のほうがことばを覚え込むのが早いので，春さき巣だつひなが輸入されたとき手に入れるのがよい。物まねは空腹にしておき，えさでつりながら教え込む。専用のかごに入れ，すりえを中心



キュウカンチョウ

に，ときに果実を与えて飼う。〔石島芳郎〕

きゅうぎ　【球技】 運動競技のうち，ボールを使用して行なう種目の総称。格技(柔道・ボクシングなど)・陸上競技・水泳競技などに対していう。その種目ははなはだ多いが，手・足で直接ボールを動かす群(フットボール・バレー)，棒でボールを打つ群(野球・クリケットなど)，ラケット状の器具を用いる群(テニス・卓球)などに分類することも，団体競技とゴルフなどの個人競技とに分類することもできる。

きゅうきゅうぎょうむ　【救急業務】 災害・事故が発生して傷病者が出た場合，これを救急隊*が病院・診療所などへ迅速かつ適切に搬送すること(消防法2条⑨)。したがって，搬送の前段階としての災害現場での救出・救助は別個の業務と考えられる。なお，救急隊員は医師ではないので医療行為は行なえないが，止血・副木(そえぎ)などの応急措置を行なうことになっている。救急業務の対象となる事故は，①火災・水害・地震などの災害で生じた事故，②交通事故，土木建築工事中の事故，③興行場・学校・競技場などの公衆の出入りする場所において生じた事故，④ガス中毒・やけどなどによる事故のうち，救急隊による搬送を必要とする事故である(消防法2条⑨，消防法施行令42)。また，救急業務における傷病者の搬送先は，救急病院であるが，ときには学校・公会堂などを利用した臨時救護所に搬入することもある。

地方自治体のうち救急業務を行なわなければならないのは，消防本部の設置を義務づけられている人口30,000以上の市とされている(消防法35条の5①，消防法施行令43)。ただし，これ以外でも，人口・地勢・交通事情などの要素によって事故発生状況が上記の市と同程度と認められる市町村にあっては，救急業務を行なうように努めなければならないことになっている(消防法35条の5②)。また，最近における交通事故の激増にかんがみ，特に交通事故に対処する救急業務については次のように定められている。①交通事故の発生がひんぱんな道路の区間については，都道府県知事が，他の救急業務を実施している市町村にこれを要請する。②特に交通事故が頻発(ひんぱつ)する高速自動車国道，または一般国道では，政令で指定した区間については，都道府県がみずから補完的に救急業務を行なう(消防法35条の6①②)。1968年(昭和43)の救急業務の実施状況は，出動件数59万4,862件，搬送人員55万1,104人で，国民180人に1人が救急自動車の世話になったことになる。また，1969年4月1日現在で救急業務の実施市町村は，632である。　〔清水英明〕

きゅうきゅうしゃ　【救急車】 ⇨救急業務　⇨救急隊

きゅうきゅうしょち　【救急処置】 外傷や急病の際医師の治療を受けるまでの間に緊急に行なう処置。〈出血〉傷に消毒ガーゼをのせて圧迫し，強く包帯する。出血が多いときには心臓に近いほうで動脈を骨に向かって圧迫する。喀血(かっけつ)(鮮紅色であわが混じる)の場合には上半身を起こすか，横向きにして血液を吸い込まないようにする。吐血(暗赤色で特有の異臭がある)では胃部を氷囊(ひょうのう)で冷やして絶対安静にし，水を与えてはいけない。鼻血に対しては頭を高くして冷やし，あおむけに寝かせる。また，指で鼻を上外から内下へ圧迫するのもよい。〈傷〉切り傷・すり傷・刺し傷のいずれでも，傷を十分にきれいにした上で消毒液を塗布する。汚い傷にはオキシドール*を用いて小石・砂などを除去する。〈火傷〉皮膚が赤くなって痛い程度のものは，チンク油・オリーブ油などを塗布して湿布すればよいが，水疱(すいほう)などを伴うものやそれ以上の重症のものでは医師の治療を待ち，応急的には水道水などで患部を冷やすとよい。〈骨折〉ありあわせの棒・つえなどを副木(そえぎ)として骨折部上下の関節を越えて固定し，必ず医師の治療を受ける。〈ひきつけ〉衣服をゆるめ，呼吸を楽にし，頭を冷やしてゆっくり寝かす。〈嘔吐(おうと)〉横向きにして気道へ吐物を誤飲しないようにし，できるだけ吐かせる。高熱を伴うときには至急医師にみせる必要がある。〔三島好雄〕

きゅうきゅうたい　【救急隊】 救急隊は，救急自動車1台および救急隊員3人以上をもって編成することになっている(消防法施行令44①)。救急自動車には傷病者を搬送するに適した設備をするとともに，救急業務を実施するために必要な器具および材料を備えつけることになっている(消防法施行令44②)。救急自動車は，救急業務の性格上，道路交通法で緊急自動車とされ，種々の優先・特例が認められている。救急隊員は消防職員のうち，①救急業務に関する講習の課程を修了した者，②医師・歯科医師・薬剤師および獣医師，③保健婦・助産婦・看護婦および准看護婦，④医学士・歯学士および衛生看護士，⑤救急業務を実施するために必要な学識経験を有すると認められる者，と規定されている(救急業務実施基準5)。　〔清水英明〕

きゅうきゅうばこ　【救急箱】 家庭などで簡単な救急処置*を行なうための器具・薬品類を常備する箱。ピンセット・はさみ・と

げ抜き・体温計・綿棒・小さいさじなどの小器具，消毒ガーゼ・脱脂綿・油紙・包帯・副木(そえぎ)・三角巾(さんかくきん)・絆創膏(ばんそうこう)・眼帯・マスクなどの衛生材料，消毒用アルコール・ヨードチンキ・2％マーキュロクローム液・3％オキシドール・2％ホウ酸水・軟膏類などの外用薬が救急箱の内容であるが，ほかに，鎮痛剤・解熱剤・感冒薬・胃腸薬などを備えておくと便利である。〔江本龍雄〕

きゅうきゅうびょういん　【救急病院】　外傷や薬物中毒など救急処置を必要とする患者を扱う病院・診療所。消防法によって定められている基準に合う病院・診療所が，救急業務に関し協力する旨を申し出て，消防署から救急病院の指定を受ける。基準として，相当の知識・経験を有する医師が常勤すること，手術室・麻酔器・レントゲン線装置・輸血輸液用具を備えていること，急患のために専用病床あるいは優先使用しうる病床をもつこと，患者の搬入に便利なことなどが必須(ひっす)とされる。〔三島好雄〕

きゅうきょう　【旧教】　⇨カトリック教会

きゅうぎょうてあて　【休業手当】　事業所が休業した場合，労働者の生活を保障する見地から，使用者が労働者に支払う手当。労働基準法は，使用者の責めに帰すべき休業の場合には，休業期間中その労働者の平均賃金の100分の60以上の手当を支払うよう使用者に命じ，違反した場合には罰則を設けている(同法26条・120条)。

きゅうぎょうほしょう　【休業補償】　労働者の療養休業中，最低平均賃金の100分の60が使用者から支払われる補償をいう。これは労働者が業務上の負傷または疾病(しっぺい)の療養のため就業できず賃金を受けられない場合に，療養中の生活を保障しようとするものである(労働基準法75条・76条，労働災害保険法14条)。1952年(昭和27)労働基準法の改正で，この額が妥当でなくなった場合に備え，4半期ごとに補正することとなった(同法76条2項)。〔木元美代子〕

きゆうきょく　【嬉遊曲】　⇨ディベルティメント

きゅうきん　【球菌】　球状の細菌の総称。概して小さく1 μ程度。真に丸いもの(ぶどう球菌)のほか卵円形(乳酸球菌)・腎臓(じんぞう)形(淋菌(りんきん))・ランセット形(肺炎球菌)などがあり，直列に連なって鎖状をなすもの，立体的にぶどう状を呈するものもある。また，桿菌(かんきん)が環境条件によって球菌形を呈することもある。

ぎゆうぐん　【義勇軍】　武力紛争の際に人民が自発的に組織して戦闘する団体。ただし一定の国際法規，慣例に従って行動することが必要で，この条件を具備した義勇隊は交戦資格を認められ，敵軍に捕えられたときも捕虜としての待遇が与えられる。義勇軍は，自国民・外国人の別を問わない。1935年のスペイン内乱ではドイツ・イタリアの義勇軍が革命軍を支援した。また，義勇軍は通常は不正規軍であるが，第2次世界大戦中，イギリスは175万の地方防衛義勇隊を編成して軍の指揮を受けさせ，局地防衛に成果をあげた。なお，1950年に始まった朝鮮戦争で，中国は40万以上の野戦軍を参戦させて北朝鮮を支援したが，政略上これを義勇軍と称した。〔森田　哲〕











急行列車
①アメリカ，ミルウォーキー鉄道の特急〈ハイワーサ号〉(シカゴ～ミネアポリス間)　②ソ連国鉄の特急〈赤い矢〉(モスクワ～レニングラード間)　③イタリア国鉄の代表的な特急〈セッテベロ〉(ミラノ～ローマ間)　④イタリア国鉄の特急〈リアルト〉(ミラノ～ベニス間)　⑤デンマーク国鉄の特急〈リムフィヨルデン〉(コペンハーゲンと主要都市を結ぶ)

きゅうこう　【九江】　チウチャン　中国江西省北部の都市。揚子江中流部右岸に位置する。唐代には潯陽(じんよう)，清(しん)代に九江府といわれ，1858年の天津(てんしん)条約によって近代的な港として開港された。南昌(なんしょう)との間には南潯鉄道が通ずる。市街は城内および城外の2部からなり，城外にはかつてイギリス租界が設けられていた。茶のほか，米・たばこの取引が行なわれ，南20kmには廬山(ろざん)があって観光基地としても名高い。また，景徳鎮産の陶磁器もここから移出される。〔千田　稔〕

きゅうこうじ　【吸江寺】　高知市五台山のふもとにある臨済宗の寺。山号は五台山。夢窓疎石*を開基とする吸江庵(きゅうこうあん)が起源。義堂・絶海をはじめ夢窓派の学僧があいついでここに住し，管領(かんれい)細川頼之(よりゆき)の中興で地方五山の位に列せられ，土佐南学(南村梅軒によって伝えられた朱子学)の発祥地となった。江戸時代，山内一豊*(かずとよ)が入国後，同庵を再興して吸江寺と改めた。明治維新後いったん廃寺となったが，少林踏雲が復興し，今日に至っている。木像の地蔵菩薩(ぼさつ)(重要文化財)のほか夢窓疎石の木像・画像や遺品をはじめ室町時代の文書類を蔵する。境内は風光明媚(めいび)，いわゆる吸江十景の奇勝が一望のもとにながめられる。〔毛利早公子〕

きゅうこうしょくひん　【救荒食品】　日常は食べないが，天災地変が起きたときとか，戦争・凶作などの際，飢えを防ぐために食べるもの。これまでこのために用いられたものの数は600種にも上るといわれるが，中には，平時においても日常食として，また珍味として，食べられるものもある。

きゅうこうれっしゃ　【急行列車】　普通列車に対し，速度が速く，停車駅が少ない列車。旅客・貨物のいずれにも運転される。わが国では，1894年(明治27)にはじめて私鉄の山陽鉄道(現在の国鉄山陽本線)で神戸

(こうべ)～広島間に運転され，この間8時間56分(平均時速33km)を要した。2年後の1896年東海道本線の新橋～神戸間に国鉄ではじめての急行列車が，また1903年前記山陽鉄道の神戸～下関(しものせき)間にはじめての特急列車がそれぞれ運転された。その後1906年鉄道国有法の実施により多数の私鉄が国鉄に併合され，1912年(明治45)新橋～下関間に国鉄の直通特急が運転を開始，1929年(昭和4)には特急の愛称名が公募され，東京～下関間の特急が〈富士〉〈桜〉と名づけられた。1934年丹那(たんな)トンネルの開通によって特急〈つばめ〉の東京～大阪間8時間運転が実現したが，戦争の激化とともに漸次急行列車が削減され，1944年には特急が全廃された。第2次世界大戦後1949年に特急〈平和〉が復活，1956年東京～博多(はかた)間に特急〈あさかぜ〉が，1958年東京～大阪間に電車特急〈こだま〉が運転を始め，大幅なスピードアップが実現されたが，さらに1964年10月東海道新幹線が開業し，新しい高速鉄道の幕あけとなった。国鉄では急行列車を利用する場合，急行料金をとるが，普通急行料金は1906年，特急料金は1912年から設けられている。現在，急行料金は特別急行料金(東海道新幹線ひかり号料金，同こだま号料金，その他)と普通急行料金に分かれ，さらに距離別に設定されている。

私鉄の代表的な急行列車は，東武鉄道の東武浅草～日光間，小田急電鉄の新宿～小田原～箱根湯本間，近畿(きんき)日本鉄道の上本町～名古屋～宇治山田間などに運転されている。また，諸外国の急行列車では，フランスのパリ～マルセーユ～ニースを結ぶミストラル，ヨーロッパの主要国の都市間特急TEE(Trans Europe Express)，アメリカの新幹線といわれるワシントン～ニューヨーク間のメトロライナーなどが著名である。〔森野 章〕

きゅうこん【球根】多年草のうちで葉・茎・根などが特に肥大して，球形をしているものをいう。種類も多く，形態や性質もさまざまであるが，類別すると次のようになる。①鱗茎(りんけい)：短縮された茎の上に，肉質鱗片状に変化した葉が着いているもの。チューリップ・ヒヤシンス・アイリス・スイセンなどのように上部に膜状の皮があるものと，ユリ類のように皮のないものとがある。②球茎：かたい茎の肥大したもの。グラジオラス・フリージアなど。③塊茎：茎や地下茎が球状または塊状に肥大したもの。球茎との違いは膜状の皮が着いていない点にある。シクラメン・アネモネ・ラナンキュラス・カラー・カラジウムなど。④塊根：根の肥大したもの。ダリア・シャクヤクなど。⑤地下茎：地下茎が全体に肥大したもの。ジャーマンアイリス・カンナ・ジンジャーなど。

球根植物は切り花・はち植え・花壇用として重要なものが多く，また輸出用球根としても重要視されている。球根には，ダリア・グラジオラスのように，春植え込んで秋掘り上げるものと，チューリップ・スイセンなどのように，秋植え込んで春掘り上げるものがある。前者を春植え球根，後者を秋植え球根と称している。球根類を促成や抑制によって自然の開花期以外の時期に咲かせるには，球根を高温下や低温下において温度処理を行ない，休眠を打破して花芽の分化・発育を促進したり，あるいは抑制したりする。〔小杉 清〕

きゅうさい【宮宰】フランク王国メロビング朝*の最高官職。国王に代わって行政・裁判などの職務をとり，また国王側近の従士たちの長をも兼ねた。のち宮宰の家がらに生まれたピピン(小)がカロリング朝を開いて国王となり，宮宰の地位は一時なくなったが，9世紀前半のルートウィッヒ1世のとき，財務官として復活した。

きゅうさいぼう【嗅細胞】鼻腔(びこう)の奥にある嗅上皮という粘膜にあり，嗅覚の受容器である。➔鼻

きゅうさいめいれい【救済命令】労働者や労働組合から労働委員会*に不当労働行為*の救済申し立てがあったとき，労働委員会が使用者の不当労働行為の事実を認定した場合に，労働者を救済するために発する命令。申し立ては，救済を受ける正当な資格を有する者であればだれでもできるが，不当労働行為のあった日から1年以内にしなければならない(労働組合法27条)。命令は，不当労働行為がなかった状態にもどすために必要な範囲で行なわれ，それには労働者を復職させる命令，賃金をさかのぼって支払わせる命令，わび状を書くことの命令などがある。使用者が，地方労働委員会*の命令に対し，15日以内に中央労働委員会*に再審の申し立てをしなかったとき，また中央労働委員会の命令に対し30日以内に行政訴訟*を起こさなかったとき，命令は確定する。確定した命令に違反すると，その使用者は1日10万円(その命令の不履行の日数1日につき10万円の割合で算定した金額)以下の過料に処せられる(労働組合法32条)。〔木元錦哉〕

きゅうし【臼歯】歯の種類の一。大小の別があり，雑食性の人間ではかなり発達している。➔歯

きゅうじ【旧辞】わが国の古代の神話・伝承を皇室の立場で政治的に編述したもの。〈本辞〉〈先代旧辞〉ともいう。6世紀の中ごろ欽明(きんめい)天皇時代の成立といわれる。《帝紀*》とともに幾度か改作され，《古事記*》編纂(へんさん)の材料となったが，現在には伝わらない。

きゅうじつ【休日】休日は労働日ではない。それゆえ，労働日を予定されている休暇とは異なる。使用者は労働者に毎週少なくとも1回の休日を与えなければ処罰される(労働基準法35条・119条)。労働基準法は，原則として週休制*をとっているが，4週を通じて4日以上の休日を与える場合には，同法違反とならない。また，いつを休日とするかは労使双方の合意によるが，労働者が人なみの生活ができるように，休日を特定させることが望ましい。〔木元錦哉〕

きゅうしふ【休止符】⇨休符

きゅうしゅう【吸収】生物が外界から物質を体内に取り込むこと。動物の場合は消化管の壁から，植物の場合は根などから水や栄養分を取り入れることで，生物の細胞が物質を吸収するには原形質膜を通しての拡散による受動的吸収のほかに，エネルギーを使っての能動的吸収がみられる。たとえばブドウ糖が消化管壁から吸収される際にはリン酸と結合した形になって吸収され，血管にはいるとき再びブドウ糖に変わって血液中を運ばれる。➔選択吸収

きゅうしゅうおうだんどうろ【九州横断道路】別府から長崎に至る道路の通称で，阿蘇(あそ)国立公園・熊本市・三角(みすみ)港・島原市・雲仙(うんぜん)国立公園などを結んで，九州中部の観光開発に効果があり，〈山並みハイウェー〉の愛称があり，総延長300kmで1964年(昭和39)に完成した。途中に日本道路公団が経営する別府阿蘇道路・島原道路・雲仙道路の3有料道路を含み，三角～島原間は自動車航送船が就航している。

きゅうじゅうごかじょうろんだい【95か条論題】1517年10月，ルター*が免罪符*販売に反対してザクセンのウィッテンベルク教会の門扉(もんぴ)にはりだした公開状。当時ローマ教会は，ドイツで免罪符の委託販売権を握っていたフッガー家*と結んで大量の免罪符を販売したが，ルターは免罪符がなんら宗教的根拠をもっていないことを主張し，討論の課題としてこの論題を発表した。したがって本来これは神学上の論議にすぎず，またルター自身，教会と断絶する意志は少しもなく，論題も一般民衆には理解されないラテン語でしるされていた。しかし，やがてこれが大きな反響をよび，宗教改革*の導火線となった。〔松 俊夫〕

きゅうしゅうさんち【九州山地】九州の中南部を斜めに横切る山地で，北東側は豊後(ぶんご)水道を隔てて四国山地に連なり，南西側は八代(やつしろ)海で終わる。北は阿蘇(あそ)・九重の火山群に接し，南は霧島火山群と境する。地質構造上，四国山地・紀伊山地に続く西南日本の外帯*を構成する。主脈をなす中央部の高峰は1,500mを越え，北から最高峰祖母山(1,758m)・国見岳(1,739m)・市房山(1,722m)などがそびえる。山地を刻む谷は深く，特に球磨(くま)川上流の五家荘*(ごかのしょう)，一ツ瀬川上流の米良荘*(めらのしょう)，耳川上流の上椎葉(かみしいば)など，山地内部に隔絶された山村をもつ。また山地は雨量が多く，森林がよく茂り，林業が重要な産業である。最近では，山地を縦断して奥地開発を目的とする産業開発幹線道路

も急速に進められている。　〔高野　繁〕

きゅうしゅうスペクトル　【吸収スペクトル】　連続スペクトルの光やX線を物質に入射させると，透過光はその物質に特有な波長または波長帯の欠けたスペクトルを示す。これが吸収スペクトルである。それは物質がこれらの波長の光を吸収して通さないからである。このとき，物質は吸収した光によってはじめよりもエネルギーの高い状態に励起されるが，それら二つの状態のエネルギーの差は，吸収した光子のエネルギーに等しい。したがって原理的には，吸収スペクトルは発光スペクトル*と同じになるはずである。しかし，常温では原子はほとんど基底状態にあるので，可視部の吸収スペクトルとしては基底状態と励起状態との間の遷移に相当するものだけが吸収スペクトルとして現われ，そのほかの状態の間の遷移に相当するものは現われない。吸収スペクトルは物質に固有のもので，その構造と密接な関係があるから，化学分析または化合物の構造の決定のためにも，または天体の物質の構造を知るためにも重要である。　〔吉原邦夫〕

きゅうしゅうせいばつ　【九州征伐】　1587年(天正15)豊臣秀吉*(とよとみひでよし)が島津氏*を征服した戦い。島津氏は九州北部に勢力を伸ばし，大友氏を圧迫したため，大友宗麟*(そうりん)はこれを秀吉に訴えた。秀吉は両者の和解を図ったが島津氏が調停を拒否したため，1586年秀吉は長宗我部(ちょうそかべ)・仙石(せんごく)両氏を派兵したが敗退した。翌年秀吉みずから毛利・宇喜多・前田などの諸大名の兵20余万を率いて出兵，5月島津義久(よしひさ)が降伏し終戦となった。これによって秀吉は九州平定をなし遂げた。

きゅうしゅうせき　【歙州石】　中国，安徽(あんき)省歙県から120kmの地点にある龍尾山(りゅうびざん)の武渓(ぶけい)という谷間から産出する石。スレート質の板石。硯(すずり)石として有名で，端渓硯*(たんけいけん)と双称され，石質は端渓に比してややかたいが，なめらかでよく墨がおりる。五代南唐時代(937～975)に硯官を置いて採取し，以後，宋(そう)代から現在に至るまで採掘されている。石の色は青色で，羅(ら)のような文様のある羅文硯*，金銀の星のような文様のある金星硯・銀星硯などがある。　〔杉村勇造〕

きゅうしゅうだいがく　【九州大学】　国立大学。1903年(明治36)京都帝国大学付属の福岡医科大学として発足，1911年増設された工科大学と合わせて九州帝国大学となった。1949年(昭和24)学制改革により新制の九州大学となる。現在，文・教育・法・経・理・医・歯・薬・工・農の10学部と教養部，大学院のほか，九州文化研究所・比較教育研究所・生産科学研究所などが置かれている。本部は福岡市箱崎3576。

きゅうしゅうたんだい　【九州探題】　⇨探題



九州山地　九州山地中央部の国見岳付近上空から北北東を望む。山地を刻む谷は深く，険しい壮年期の山容がよく現われている

きゅうしゅうちほう　【九州地方】　日本南西端の九州島(面積36,554km²)と，その属島約1,500からなる地方で，面積44,357km²，人口1,404万となる。行政的には福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の8県に分かれる。古くから大陸との交渉があり，北九州には1世紀のころにすでに小国家が分立していた形跡がある。江戸時代に鎖国が行なわれていたとき，長崎は世界に開かれた日本のただ一つの門戸であった。第2次世界大戦後は中国との交渉が円滑を欠くようになったことや，最大の地下資源である石炭の需要減などによって，人口は減少しつつあった。沖縄県を除いて，1950年(昭和25)の人口は1,293万であったが，1960年には1,290万，1965年には1,237万となり，1970年の国勢調査では1,207万であった。1972年に沖縄が復帰したが，1975年の国勢調査から沖縄県を除くと，その人口は1,242万となって，やや増加している。1965～70年の間に人口が増加したのは，福岡県(1.6％)のみで，鹿児島県の減少率6.7％は全国最高であったが，1970～75年の間に人口が減少したのは佐賀県(0.1％)と鹿児島県(0.3％)のみであった。ただし，この期間に人口が減少したのは全国で5県しかなく，そのうちの2県が九州ということになる。

【地形】九州島は本州とは関門海峡，四国とは豊予海峡によって隔てられ，北は玄界灘(げんかいなだ)に面して，壱岐(いき)・対馬(つしま)の島々が朝鮮半島との間に横たわる。関門海峡の最も狭い部分である早鞆ノ瀬戸(はやともの せと)は，幅わずか630mで，ここの海底を関門国道トンネルが通過している。九州島の南には薩南(さつなん)諸島と沖縄諸島からなる南西諸島が台湾まで続き，薩南諸島は鹿児島県に属し，その最南端は北緯27°の与論島*である。沖縄諸島は沖縄県を構成し，与那国(よなぐに)島*が台湾に一番近いが，この島の西端東径(122°56′)は日本の最西端でもある。

九州島は一般に山がちで，北部には平均高度約400～900mの低い筑紫(つくし)山地があり，山地の最高峰は福岡・佐賀県境の背振山(1,055m)である。中央部から南部にかけては高険で幅も広い九州山地*があり，大分県の久住山(1,787m)は，九州島の最高峰である。この二つの山地の間に九州第1の長流筑後(ちくご)川(123km)が流れ，下流に筑紫平野が開ける。九州山地西側に発する白川の下流には熊本平野があるが，このほかにはめぼしい平地に乏しく，小倉・遠賀(おんが)川・福岡・八代(やつしろ)・出水(いずみ)・豊前(ぶぜん)・大分・宮崎・志布志(しぶし)・国分・川内(せんだい)などの小平野と，竹田・玖珠(くす)・日田・人吉(ひとよし)・都城(みやこのじょう)・小林・大口などの盆地があるだけである。地体構造上，筑紫山地はその南に接する瀬戸内海陥没地帯と中九州火山地域とともに中国山地に続く日本の内帯*，九州山地は四国山地に続く日本の外帯*を構成し，その境界は西南日本中央構造線*の一部である北東から南西の方向に走る臼杵(うすき)～八代線である。

海岸線はきわめて複雑で，特に北西部のひとまとめにして肥前半島と総称されている東松浦・北松浦・西彼杵(にしそのぎ)・長崎・島原の諸半島沿岸は日本でも代表的なリアス式海岸をなし，付近には五島列島や天草諸島や甑島(こしきじま)列島をはじめ多くの島島が散在する。南九州には薩摩・大隅(おおすみ)の2半島と，その中にいだかれる鹿児島湾が，また北東部には国東(くにさき)半島と佐賀関(さがのせき)半島のいだく別府湾がある。佐賀関半島以南の臼杵湾や佐伯(さえき)湾の一帯はリアス式海岸であるが，日向(ひゅうが)市から宮崎市にかけての日向灘一帯は九州で最も単調な海岸線である。また薩摩半島西岸の吹上浜は九州一の砂丘海岸である。

九州はまた西日本で最も火山の多いとこ



九 州 地 方　九州の表玄関にあたる門司港。背後の和布刈公園に上ると関門海峡を一望に収めることができる。対岸は下関市

ろで，島原半島には白山火山帯に属する雲仙岳(うんぜんだけ)，中部から南部にかけては霧島火山帯に属する阿蘇(あそ)山・霧島山・桜島などの火山があり，雲仙や別府をはじめ多くの温泉にも恵まれて，雲仙天草・阿蘇・霧島屋久・西海の４国立公園があり，沖縄には西表(いりおもて)国立公園*がある。屋久島の宮之浦岳(1,935m)は，九州地方の最高峰である。

【気候と生物】日本で最も南に位置し，また日本海流とその分流の対馬海流の影響を受けているため，比較的温暖で，雨も多い。たとえば，年平均気温と年降水量だけを比較しても，札幌(さっぽろ)が7.8℃と1,141mm，東京が15.0℃と1,503mmであるのに対して，福岡が15.7℃と1,705mm，鹿児島が17.0℃と2,433mm，奄美(あまみ)大島の名瀬は21.2℃と3,039mm，沖縄の那覇(なは)が22.3℃と2,118mmとなっている。したがって九州島南部から南西諸島にかけては，ソテツ・バショウなどの亜熱帯植物の自生もみられ，薩摩半島東海岸の喜入(きいれ)町には，本土では唯一のメヒルギ(リュウキュウコウガイ)のつくるマングローブがあって，特別天然記念物となっている。

北九州の気候は，山陰地方に似て冬季には曇天の日が多い。またこの地方で降水量が最も多いのは梅雨のときで，特にその末期には集中豪雨となって被害をもたらすことが多い。また台風の被害も多く，特に南西諸島が著しい。

大陸に近いことや気候の関係もあって，九州には植物ばかりでなく動物にも特有のものが多い。アマミノクロウサギは世界でも奄美大島と徳之島だけにすむ１属１種のアナウサギで，ルリカケスもこの両島だけにしかいないカラス科の鳥である。対馬にはツシマヤマネコがおり，朝鮮や中国の東北にいるものと同系統に属するベンガルヤマネコの一亜種であるが，絶滅に瀕(ひん)しており，その生存が怪しまれていたが，1966年に田中光常がその写真の撮影に成功して生存が確認された。これに対してキツツキ科の大形種であるキタタキは，対馬にいるといわれているがここ数十年の間姿を見かけず，幻の鳥とされている。沖縄の西表島にすむイリオモテヤマネコは，戸川幸夫によって発見されたまったくの新属新種で，1967年に学界で確認されたが，20世紀にはいってこのような新しい哺乳(ほにゅう)類が発見されたのはきわめて珍しい例である。奄美諸島と沖縄諸島にすむハブは猛毒をもつマムシの一種で，年々ハブによる人命の損害が多かったが，いまでは血清の普及と，1965年に沢井芳男によってつくられたワクチンの注射によって，死亡率がきわめて低くなっている。このほか筑後川下流地方に日本住血吸虫症，北九州の炭田地方にワイル病，薩南諸島や沖縄にフィラリア症とよばれる寄生虫による風土病がまだ残っている。

【第１次産業】筑紫平野とその南の熊本平野の一帯は九州の穀倉地帯，裏作には麦やナタネがつくられ，福岡県は北海道に次ぐ日本第２の小麦の産地で，熊本県も第５位を占めている(1974)。農業の機械化がよく進み，中でも佐賀県の米作は〈佐賀段階〉とよばれて，かつては単位面積あたりの米の収量で全国一を誇っていたが，第２次世界大戦後は一時衰え，最近また復活して〈新佐賀段階〉の名でよばれている。しかし1974年の10アールあたりの米(水稲)の収穫量は527kgで西日本第1であるが，東北地方の山形県(566kg)・青森県(561kg)・秋田県(556kg)には及ばない。なお全国の平均は455kgであった。田畑のあぜにはポマードやクリームなどの化粧品の原料となる木ロウをとるハゼノキが植えられ，秋の紅葉が美しかったが，いまは減少している。また八代平野を中心に熊本県ではイグサの栽培が盛んで，最近では本場の岡山県をしのいで全国一(58%，1974)の収穫量をあげ，福岡県(18%)がこれに続き，岡山県は第３位(９%)に落ちており，大分県国東半島のシチトウイ(全国の85%)とともに，畳表の原料となっている。

鹿児島県一帯と宮崎県の南部にかけては，シラスとよばれる火山灰土のおおう台地が広がり，地味はやせて農業に適しないうえに，大雨が降ると崩壊して，耕地や家屋に大きな害を与える。南九州は水田が少なく，シラス台地の灌漑(かんがい)によって陸稲やサツマイモなどをつくっている。水田では台風の害を避けるために稲の早期栽培を行ない，また野菜や草花の促成栽培や，タバコつくりなどの多角経営も図られ，鹿児島県の国府タバコは1604年(慶長９)以来の伝統をもつといわれる。熊本県もタバコの収穫量が多い。

南西諸島は台地性で水田が少なく，サツマイモやサトウキビがおもに栽培されている。長崎県や熊本県の島々も一般に平地に乏しく，麦・サツマイモ・ミカン・ビワなどをつくっている。九州で米を移出しているのは，佐賀・熊本・大分・宮崎の４県であり，沖縄県の米の平年収量はわずか5,000tにすぎず，必要な米のほとんどを本土から移入している。

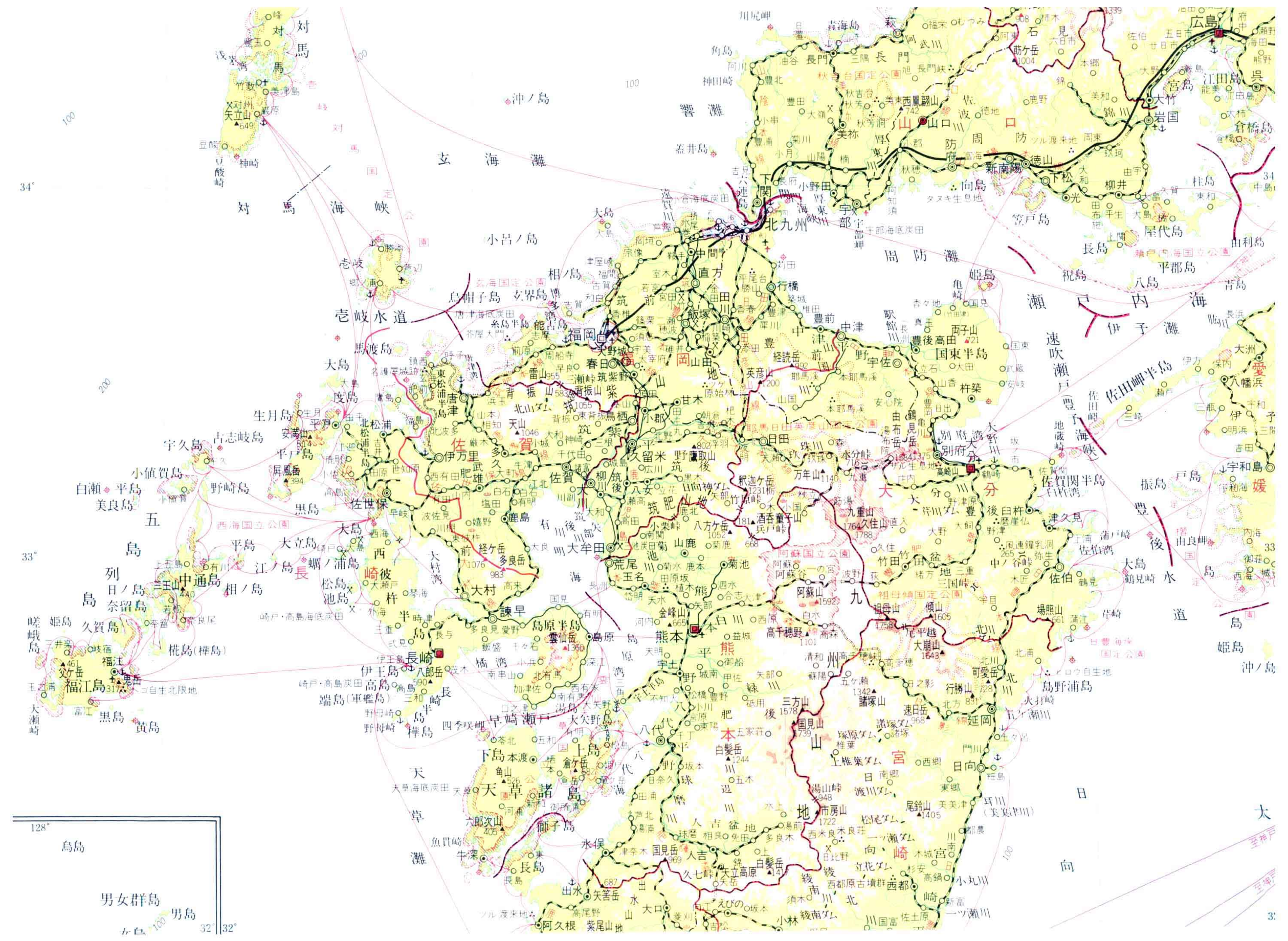
牧畜は比較的盛んで，中でも肉用牛の頭数(1975)では，鹿児島・宮崎・熊本・長崎の４県が，それぞれ全国の１・２・４・７位を占め，中でも最近高原を開拓して集団放牧をするようになった鹿児島県は233,000頭に達する。また熊本県の阿蘇の火口原で飼育される役肉牛は〈肥後の赤牛〉とよばれて，昔から有名である。最近は乳牛もしだいに増加しつつあり，ブタは鹿児島県に多く，デンプンやアルコール用のサツマイモのしぼりかすを飼料にしている。

温暖多雨な気候に恵まれるため林業も盛んである。スギ・ヒノキ・マツなどが多く，もとは建築用材のほか坑木として多く利用されていたが，最近はパルプ原料としての利用も多い。宮崎県の飫肥(おび)スギや鹿児島県の屋久スギは特に名高い。またクスノキは，木材としての利用のほか，樟脳(しょうのう)の原料として広く栽植されていたが，樟脳は合成品の出現によって，クスノキからとることはほとんどなくなった。

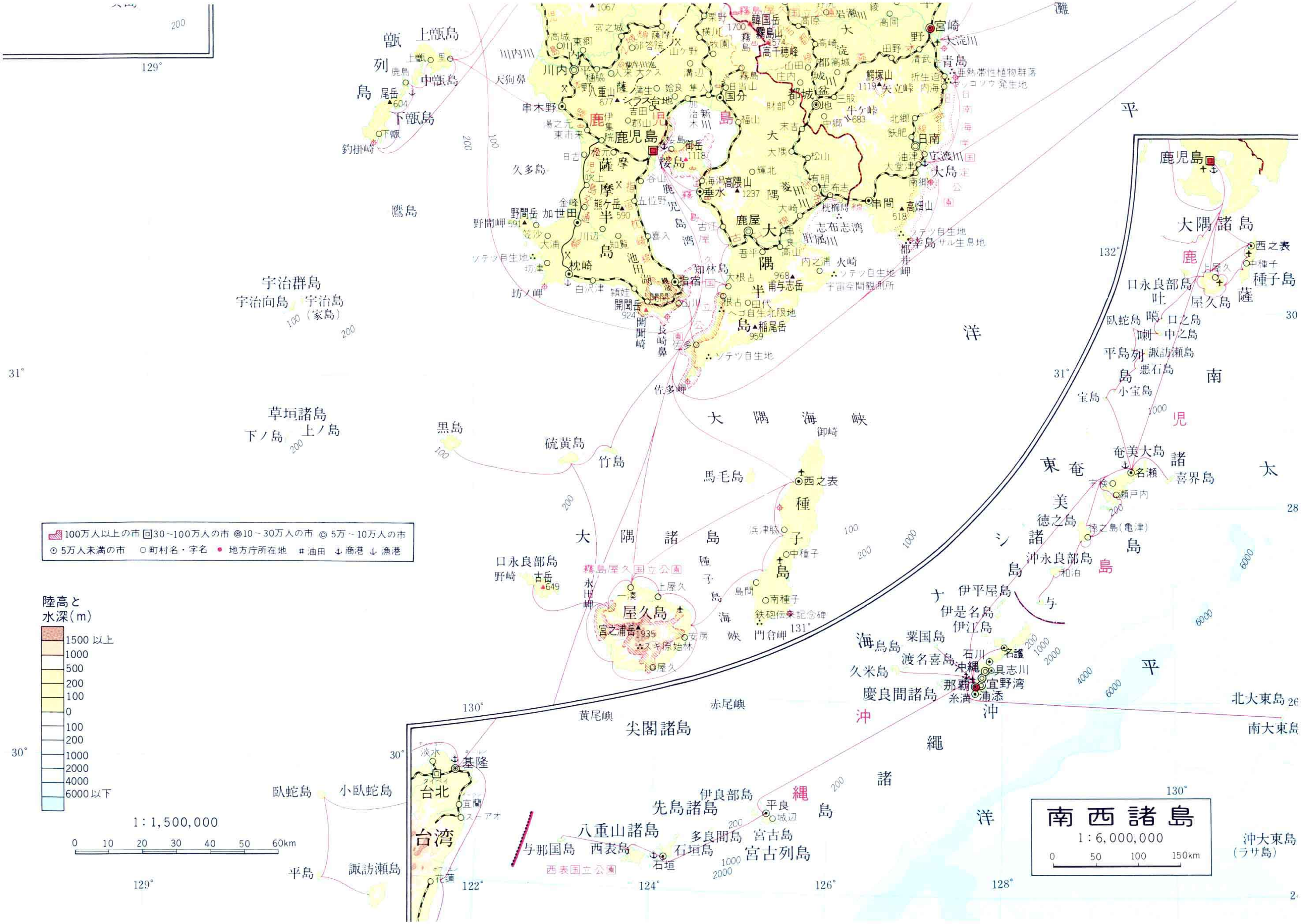
水産業は，近海に暖流の日本海流と対馬海流が流れていることと，黄海・東シナ海の広い大陸棚(たいりくだな)を近くに控えているためにきわめて盛んで，中でもリアス式海岸による天然の良港と多く島々をかかえる長崎県は，北海道・東京都に次ぐ漁獲量を誇っている。おもな漁業は北緯25°以北，東経128°30′以西のいわゆる〈以西底引網漁業〉で，グチ・タチウオ・ハモ・カレイ・タイなどをとっている。朝鮮海峡方面では，巻



九州地方



広島
呉
岩国
山口
周防
長門
石見
徳山
新南陽
下松
防府
宇部
小野田
下関
北九州
萩
響灘
玄海灘
対馬
対馬海峡
壱岐
壱岐水道
沖ノ島
小呂ノ島
相ノ島
周防灘
瀬戸内海
伊予灘
速吹瀬戸
豊予海峡
豊後水道
佐田岬半島
国東半島
姫島
中津
豊前
行橋
直方
飯塚
田川
福岡
春日
筑紫野
福岡
大分
別府
佐伯
津久見
臼杵
日田
竹田
久留米
柳川
大牟田
佐賀
唐津
伊万里
武雄
鹿島
佐世保
平戸
諫早
大村
長崎
島原
熊本
宇土
八代
水俣
人吉
阿蘇山
九州山地
宮崎
日向
延岡
西都
日南
五島列島
福江島
中通島
天草諸島
有明海
天草灘
日向灘
男女群島



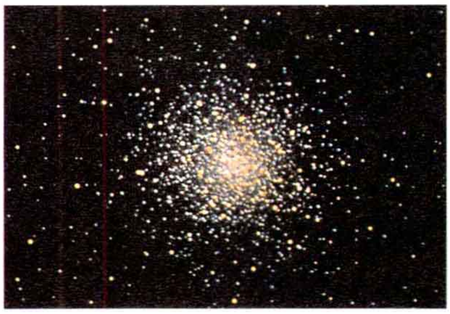
南西諸島
1:6,000,000
0 50 100 150km
1:1,500,000
0 10 20 30 40 50 60km
100万人以上の市 回30~100万人の市 ◎10~30万人の市 ◎5万~10万人の市
⊙5万人未満の市 ○町村名・字名 ● 地方庁所在地 ⌗油田 ⚓商港 ⚓漁港
陸高と水深(m)
1500 以上
1000
500
200
100
0
100
200
1000
2000
4000
6000以下
鹿児島
宮崎
大隅諸島
種子島
屋久島
口永良部島
吐噶喇列島
奄美大島
奄美諸島
喜界島
徳之島
沖永良部島
与論島
伊平屋島
伊是名島
伊江島
粟国島
渡名喜島
久米島
慶良間諸島
沖縄
那覇
北大東島
南大東島
沖大東島
(ラサ島)
尖閣諸島
赤尾嶼
黄尾嶼
先島諸島
宮古列島
宮古島
多良間島
伊良部島
八重山諸島
石垣島
西表島
与那国島
西表国立公園
台湾
台北
基隆
花蓮
甑島列島
上甑島
中甑島
下甑島
宇治群島
宇治向島
宇治島
(家島)
草垣諸島
上ノ島
下ノ島
黒島
硫黄島
竹島
馬毛島
大隅海峡
種子島海峡
薩摩半島
大隅半島
鹿児島湾
桜島
霧島屋久国立公園
太平洋
東シナ海
臥蛇島
小臥蛇島
平島
諏訪瀬島

き網によってイワシ・アジ・サバ・ブリなどをとっており，韓国(かんこく)とは〈李承晩(りしょうばん)ライン〉をめぐって紛争が絶えなかったが，1965年の日韓基本条約に伴う漁業協定によって，いちおう解決した。有明海ではノリの養殖が行なわれ，特に福岡県は全国第1位，佐賀県は第3位の収穫量をあげている。また，ハマチ(鹿児島県)・クルマエビ(熊本県)などの養殖も行なわれている。

地下資源は北九州の石炭が第1で，中でも筑豊炭田が最大であったが，採掘の歴史が古く，能率のよい炭鉱はあらかた掘り尽くされたことと，燃料としては石油や天然ガスにおされて，大企業の中にも休業や廃業が続出し，ついに1976年の貝島炭砿(たんこう)の閉山によって，筑豊炭田は消滅してしまった。現在，九州に残っているのは三池・崎戸高島・天草の3炭田のみで，なかでも主力となっているのは三池炭田である。石炭以外のめぼしい地下資源としては，鹿児島県の西錫山(にしすずやま)と大分県の豊栄のスズ，鹿児島県の串木野(くしきの)と同じく大口の金の鉱山ぐらいのものである。鉛と亜鉛の日本有数の産地であった対馬の対州鉱山は，1973年に閉山してしまった。

〔第2次産業〕石炭の斜陽化に加えて，大陸との関係が円滑でないことは，近年，北九州工業地帯の衰退をもたらした。福岡県の工業製品出荷額をみると，1955年には全国の4.9％であったものが，1972年には2.7％となり，静岡県(4.3％)や埼玉県(4.2％)にも及ばなくなっている。

北九州工業地帯の中心は北九州市であるが，そのさきがけとなったのは1901年(明治34)に操業を開始した官営の八幡(やわた)製鉄所で，1962年には戸畑にも新しい工場が完成し，現在ではともに新日本製鉄会社に所属している。原料の鉄鉱石はもとはおもに中国に仰いでいたが，現在ではマレーシア・オーストラリア・チリなどから輸入し，またコークス用の強粘結炭やくず鉄は，おもにアメリカ合衆国から輸入している。このほか筑豊炭田の石炭を原料としていた化学工業，付近の豊富な石灰岩を原料とするセメント・ガラスなどの窯業があり，鉄鋼業とともに生産財工業に重点を置く北九州工業地帯の特徴を示している。また，かつては久留米絣(くるめがすり)で知られた久留米はいまでは自動車タイヤなどのゴム工業を主とし，大牟田(おおむた)は第2次世界大戦前から三池炭田の石炭を原料とする肥料や染料などの化学工業コンビナートを形成してきたが，いまでは原料が輸入石油に切り換えられてコンビナートとしての意義を失っている。長崎や佐世保には大規模な造船所があり，長崎港外の香焼(こうやき)島にも，大形ドックが建設されている。また有田の磁器は古くから有名であり，大分は新産業都市に指定されて金属・化学工業が興っている。



球状星団　ヘルクレス座 M13

中・南九州には旭化成(あさひかせい)のある延岡，チッソの水俣(みなまた)のような一つの大企業に依存している工業都市や，八代のようにセメント・製紙・人絹・アルコールの4種の企業によってささえられている工業都市が点在している。鹿児島県では，サツマイモを原料とするデンプンやアルコール・しょうちゅうの製造，砂糖やたばこ・ハム・かつお節などの農水産物の加工工場があるのみで重化学工業はない。

〔交通と都市〕九州島では南北を結ぶ道路や鉄道が早くから発達したわりには，東西を結ぶ交通路は険しい九州山地に妨げられて建設が遅れた。西海岸を縫う鹿児島本線(門司(もじ)港～鹿児島)が全通したのは1908年で，当初は現在の肥薩線経由であったが，1927年から八代～川内～鹿児島間の開通によって現在の海岸線経由が本線となった。また東海岸の日豊本線(小倉～鹿児島)は1922年(大正11)に吉松まで開通，1932年に都城～隼人(はやと)間が開通して鹿児島へ通じるようになり，このほうを日豊本線とし，吉松までは吉都線とよんでいるが，東西を結ぶ豊肥本線(大分～久留米)は1934年といずれも昭和になってからの開通である。また鉄道網の最も密なのは福岡・佐賀・長崎県などの炭田地域であるが，石炭輸送をおもな目的としていたために現在はいずれも赤字線となり，中には佐世保市内の柚木(ゆのき)線のように1967年に廃線になったものもある。

道路網はだいたい鹿児島本線に沿う国道3号線と日豊本線に沿う国道10号線を基幹とし，また佐賀県の鳥栖(とす)から長崎に至る長崎本線に沿っては国道34号線が走っている。九州山地を横断するものとしては，大分～熊本～長崎の国道57号線がある。また別府から阿蘇を経て熊本に至り，三角(みすみ)からフェリーボートで島原に上陸して長崎に至る九州横断道路が，日本道路公団によって1964年に完成した。さらに天草諸島と九州島を結ぶ天草五*橋も1966年に開通している。このほか九州を南北に結ぶ九州縦貫自動車道(北九州～福岡～熊本～鹿児島)も一部が開通している。

本州と九州との間の関門海峡には，鉄道トンネルが1941年，国道トンネルが1958年に完成して本土と九州との一体化がなり，交通量の増加に伴って必要となった関門架橋も1970年に着工，1973年に完成した。また山陽新幹線も，1975年3月博多(はかた)まで全通，その新関門トンネルの延長は18.56kmで，アルプスのシンプロン，イタリアのアペニノに次いで世界第3位のトンネルである。

海上交通は昔からよく発達し，博多や坊津(ぼうのつ)は遣唐使の発着港であった。江戸時代には長崎がオランダや中国と貿易を行なっていた。明治以降は長崎～上海(シャンハイ)の国際航路が栄えたが，第2次世界大戦後は離島航路と，別府～大阪などの観光航路が主となっている。航空交通はアメリカ駐留軍と共用の福岡板付(いたつけ)空港が中心となり，ソウル・台北・香港(ホンコン)および東南アジアの各地へ定期便が出ている。このほか北九州(小倉)・壱岐・対馬・福江・長崎(大村)・熊本(健軍)・鹿児島(鴨池(かもいけ))・宮崎・大分(別府)・種子島・屋久島・喜界島・奄美大島(名瀬)・徳之島・沖永良部(おきのえらぶ)島に空港があって，全日空や東亜国内航空の定期便が就航している。1975年5月には，世界で初めての海上空港として，大村沖に新しい長崎空港がオープンした。これは大村市の沖合1km²の箕島(みしま)を埋め立てて造成したもので，旧長崎空港の滑走路が1,200mしかなく，ジェット機の発着ができなかったのに対して，2,500mの滑走路があり，全日空と東亜国内航空のジェット便が，東京との間を往復している。

1,346万の九州地方の総人口のうち3分の1近くの429万は福岡県に集まっている。これに佐賀・長崎の2県を加えると，670万となり，九州の人口の半数が北九州に集中していることがわかる。したがって都市も多くは北九州に集まり，人口1106万の北九州市と100万の福岡市もここにある。また7県の県庁所在地のうち福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島の5市は旧城下町であるが，長崎はもと幕府の直轄領で長崎奉行(ぶぎょう)の支配下にあった。宮崎は中世には城があったが江戸時代には城下町ではなく，県庁設置後に発展した珍しい例。➔393ページ(地図)

きゅうしゅうのう　【吸収能】媒質が光を吸収するとき，吸収エネルギーと入射エネルギーとの比をその媒質の吸収能という。この値は1以下であり，1に等しい理想的物質を黒*体という。吸収される光のエネルギーは物質内の分子や原子の振動状態や電子の運動状態のエネルギーに転化する。

きゅうしゅうれいぼ　【九州鈴慕】尺八の曲名。琴古*流本曲のうち，表十八曲に属する托鉢曲(たくはつきょく)。いわゆる〈鈴慕もの〉の一つで，虚無的な響きの曲趣をもつ。もと九州の虚無僧(こむそう)が奏していたもので，3世黒沢琴古が一月寺の福田伝次から伝授されたという。類似のものが明暗流にもあり，《九州流し》の名でよばれている。

きゅうじょう　【宮城】⇨皇居

きゅうじょうせいだん【球状星団】多数の恒星が丸く集まって見える星団。直径が10～100光年の空間に数万～数十万の恒星が球状に密集し，中心部では個々の星に分離できない。代表的なものとしてケンタウルス座のω星団(距離1.7万光年,視直径65′)，きょしちょう座の47星団(距離1.6万光年,視直径44′)，りょうけん座のM3星団(距離3.5万光年,視直径19′)などがある。明るい数個の球状星団はヘルツシュプルング-ラッセル図(H-R図)より距離を求めることができるが，他はケフェウス座δ型変光星の周期光度関係や，こと座RR型変光星の絶対光度から距離を求めている。球状星団は全部で100個ほど知られているが，これら星団の空間分布は散開星団のように銀河面への集中を示さず，銀河系を大きく取り囲む銀河系コロナ内にほぼ球状に分布している。球状星団の星は種族IIに属し，銀河系がまだ円板状にならない以前にできた古い星であると考えられている。 ➔前ページ(写)

きゅうじょうせんしゅ【球状船首】船首部の水面下にとっくり状のふくらみをつけ，喫水線付近の幅を狭くして水線の水切り角を鋭くした特殊の船形。これは水面下の球の影響で水の流れを整流し，船首でつくる波の影響を減らして水の抵抗を減少させることができる。この現象は，船の速さ(ノット)を船の長さ(フィート)の平方根で割った値(これを速長比という)が0.8以上の高速になると抵抗の減少が大きくなるので高速の客船や軍艦に利用されている。また最近の大形タンカーはほとんどこの形が用いられている。〔飯島幸人〕

きゅうしょうぼうえき【求償貿易】現行の為替(かわせ)貿易管理法に基づく物々交換(バーター)の貿易方式。正貨の支払いによらず，多く物々交換によらざるをえない両国間では，輸出総額と輸入総額とのバランスがとれるよう，輸出入品目とその金額を相談し，多額の取引が行なわれても正貨の国際移動が起こらないよう協定する。これを求償協定とよび，これによる現代のバーター貿易が求償貿易である。物の流れが起こっても金の流れが起こらないよう，輸出額と輸入額を同じくするよう協定するので，ギブ-アンド-テイク貿易ともいう。

きゅうしょく【休職】従業員・公務員を職務に従事させることが不可能であるか，または適当でないような事態が生じた場合，その従業員に対し，従業員の地位はそのまま保有させながら一時執務を免ずることをいう。経営者のつごうによる場合と労働者の側の事由による場合がある。後者の場合は特に，業務外の負傷・疾病(しっぺい)により就業できないときの取り扱いが問題である。休職の期間，休職中の賃金，休職期間が切れたときの処遇などは，労働協約・就業規則の定めるところによる。一般職国家公務員の休職については，国家公務員法・人事院規則に規定されている。〔木元美代子〕



球状船首

きゅうしん【丘疹】皮膚病の症状の一種。皮膚面から半球状・円錐(えんすい)形・扁平(へんぺい)に隆起した発疹。大きさはあわ粒大からエンドウ大までで，上から見ると円形・楕円(だえん)形・多角形などを呈する。真皮内の炎症による場合が多いが，表皮や真皮の増殖によるものもある。みずみずしく見えるものは漿液(しょうえき)性丘疹とよばれ，中に水がはいっている。最も普通にみられるものは，湿疹や皮膚炎のぽつぽつした発疹である。〔田嶋公子〕

きゅうじん【旧人】1848年，ジブラルタルで最初に発見され，さらに1856年ジュッセルドルフ近在のネアンデルタールで発見された人骨が論争をよび起こして以来，ヨーロッパ各地・アフリカ・中近東・中央アジア・中国・ジャワなどで発見される中期洪積世(こうせきせい)・第三間氷期から第四氷期にかけて(15万年～30,000年まえ)生息した化石人類の総称。ホモ-ネアンデルターレンシスは生息した時期，形態の特殊化の度合いから第三間氷期の進歩的，暖期ネアンデルタール人類と，第四氷期の古典的，寒期ネアンデルタール人類とに区分される。形態学的特徴は，身長は約155cm，頭蓋(とうがい)容積1,450cc，眉上弓(びじょうきゅう)が強く発達し，長頭・前頭・頭頂部は平坦(へいたん)で，額の丸みに乏しい。歯弓には歯隙(しげき)がなく，歯は強大であるが，人的な形をしている。

旧人の人類進化階程の位置づけには，直接祖先説，すなわち，原人→旧人→新人といった内因性定向進化によるとする説(ワイデンライヒ)，絶滅祖先説，すなわち，ネアンデルタールはプレサピエンスと同一時期に生息して絶滅した種で，新人はプレサピエンスから生じたとする説(バロア)，第三間氷期の進歩的ネアンデルタールから第四氷期の典型的ネアンデルタールに特殊化して絶滅し，特殊化しないネアンデルタールから新人が生まれたとする説，あるいは，形態の多様性を，性差とか，地域差で説明する説(長谷部(はせべ)言人・ウォッシュバーン)がある。伴出する石器は，ムステリアンあるいはルルバロアジアンとよばれるものである。〔鈴木 尚〕

きゅうしんしゃかいとう【急進社会党】1901年に結成されたフランスの政党。小市民・小農民を地盤としたブルジョア政党で，社会党より保守的である。両大戦間は議会の最大政党で，中道派の中心としてあいつぐ内閣に与党として参加したが，1938年に成立したダラディエ内閣がナチスと妥協してフランスを敗戦に導いたため，第2次世界大戦後は一時勢力を失った。第四共和政のもとで勢力を回復して，ほとんどの政府に参加したが，その保守的性格はいっそう強められた。〔大野真一郎〕

きゅうしんしゅぎ【急進主義】ラディカリズムともいう。現存の政治体制や社会制度の批判は鋭いが，組織的な一貫した運動をもたない諸分子の主張についていわれる。マルクス主義のように現体制の根本的変革の明確な戦略・戦術をもたず，急進主義は既存秩序を根底的に否定して新しい秩序の創造を求めるものであり，革命主義もこれに含まれる。しかし急進主義は革命主義よりも広義に用いられ，既存の体制のわく内における改革を求めるものであっても，その改革が根本的なものであれば急進主義とよばれる。19世紀イギリスにおいて，ベンサムの功利主義を理論的武器として政治的改革を要求した人々が〈哲学的急進派〉とよばれるのはその例である。〔西尾孝司〕

きゅうしんしんけい【求心神経】感覚・知覚を伝える上行性の神経繊維。➔神経

きゅうしんりょく【求心力】⇨向心力

きゅうすい【吸水】植物が生活に必要な水分を外界から取り入れる現象。単細胞や多細胞の水生植物では，体の表面から水分を吸収し，陸上植物では，おもに根の根毛細胞で吸収が行なわれる。細胞の吸水には内外の浸透圧の差による受動的な吸水と，吸水が持続的に行なわれるために呼吸を伴った能動的な吸水とがある。

植物細胞を水中に入れたとき，吸水する強さを吸水力という。吸水力は細胞の浸透圧によって促され，膜圧によって妨げられ，その関係は，吸水力＝浸透圧－膜圧で表わされる。吸水力は水分の蒸散，無機物の吸収などによってたえず変化し，中生植物(普通植物)でも15気圧くらいまでになるが，アッケシソウなどの塩生植物では50気圧にまで達するという。〔代谷 康〕

きゅうすう【級数】数列$\{a_n\}$の項を順次加えたもの，すなわち，$a_1+a_2+a_3+\cdots\cdots+a_n+\cdots\cdots$を級数という。項が有限個のとき有限級数，無限個のとき無限級数という。和の記号Σ(シグマ)を使えば，有限級数・無限級数はそれぞれ$\sum_{k=1}^{n} a_k$，$\sum_{k=1}^{\infty} a_k$と書ける。級数の例としては，となりあう2項の差がいつも一定である等差級数$\sum_{k=1}^{n}\{a+(k-1)d\}$，となりあう2項の比がいつも一定である

等比級数 $\sum ar^{k-1}$ などがある。また，

$$\sum_{k=1}^{n} k^2 = 1^2 + 2^2 + 3^2 + \cdots\cdots + n^2$$
$$= \frac{1}{6} n(n+1)(2n+1)$$
$$\sum_{k=1}^{n} k^3 = 1^3 + 2^3 + 3^3 + \cdots\cdots + n^3$$
$$= \frac{1}{4} n^2(n+1)^2,$$

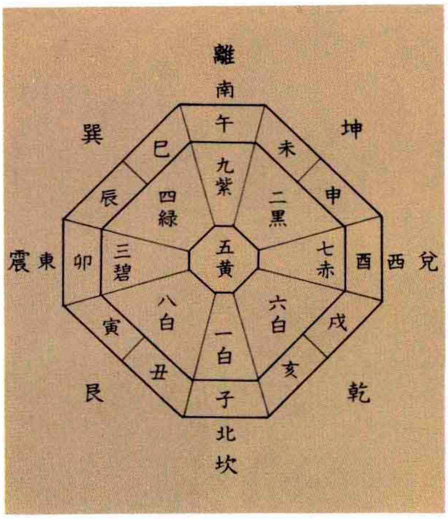
などもよく用いられる。〔菊池兵一〕

きゅうせいかんいしゅくしょう【急性肝萎縮症】 電撃性肝炎ともいう。肝臓組織の急激な破壊をきたす疾患。原因はウイルス性肝炎といわれている。肝臓は極度に萎縮し，黄色調の強い橙色（とうしょく）（黄色肝萎縮），ないしは帯赤かっ色（赤色肝萎縮）を呈する。前駆症状として食欲不振・倦怠感（けんたいかん）・悪心（おしん）・嘔吐（おうと）が，次いで黄疸（おうだん），出血傾向が出現する。神経症状として，けいれん，不安興奮状態から意識混濁をきたし，昏睡（こんすい）状態となり数日中に死亡する。急性肝炎の経過中，突如としてこの病状に移行するものが最も多いが，リン・サルバルサンなどの薬物による中毒性肝炎から移行するものもみられる。〔後藤義隆〕

きゅうせいきゅうれいせんのめい【九成宮醴泉銘】 中国，唐の太宗の勅令によって632年に建てられた碑。陝西（せんせい）省麟遊（りんゆう）県にある。魏徴（ぎちょう）が銘文（めいぶん）を撰（せん）し，欧陽詢（おうようじゅん）が楷書（かいしょ）で書したもので，碑文は24行，毎行50字からなる。九成宮は隋（ずい）の仁寿宮を改修した離宮で，632年太宗がここに避暑したとき，たまたま庭中に醴泉（甘味のある泉）を得たので，それを賞して銘文を刻せしめた。欧碑の代表作で，唐碑の傑作とされる。

きゅうせいぐん【救世軍】 キリスト教，プロテスタントの一派。1865年，イギリス，メソジスト教会の牧師ブースによって組織された。軍隊制度を特徴とし，貧民・犯罪者に対する慈善と救済に積極的に取り組んでいる。はじめ圧迫されたが，しだいに認められ，現在ほとんど世界各国に広まっている。ロンドンに万国本営がある。日本には1895年（明治28）E. ライトらによって伝えられ，山室軍平を指導者として発展し，公娼（こうしょう）制度廃止運動・社会救済事業に貢献した。1940年（昭和15）政府の弾圧により解散・改組され，翌年日本基督（キリスト）教団に吸収された。第2次世界大戦後，独立し再建された。現在，日本の信徒数10,000余で，機関紙《ときのこえ》を発行している。教義的にはほとんどメソジスト教会と同じであるが，洗礼および聖餐（せいさん）を救済の不可欠の条件とはせず，聖霊のきよめを重視する点が特色となっている。〔五十嵐誠〕

きゅうせいじゅつ【九星術】 年月に割り当てられてそれらを支配するという九星を用い，人の運命や方角などの吉凶を判断する法。最近では一般に気学といわれる。古代中国の術数家（天文・占いの研究家）によってつくられ，わが国には推古天皇のときに伝えられたという。熱帯に生育するものは寒帯にあっては十分な活動と生長が困難であるし，1年をみても春から夏にかけては万物は生長し，夏から秋にかけては収縮し，冬に至れば休止するが，このような自然の理に従えば栄え，逆らえば滅びるという思想に基づく。九星とは，一白・二黒（じこく）・三碧（さんぺき）・四緑（しろく）・五黄・六白・七赤・八白・九紫をいい，これは〈洛書（らくしょ）〉（夏の始祖といわれる禹（う）が洪水（こうずい）を治めたとき，黄河の支流洛水から現われたカメの甲にあったという文様）に基づき，それを数字に表わして色名を配したもので，その配列は図の後天定位盤にみられるとおりである。判断は，その人の生まれた年の星（本命星）と生まれた月の星（月命星）をもとに，後天定位盤および一定の約束に従って動く年・月・日・時の九星の配置盤を対照し，また十干十二支・易・五行説を配して行なう。〔柳下尚範〕



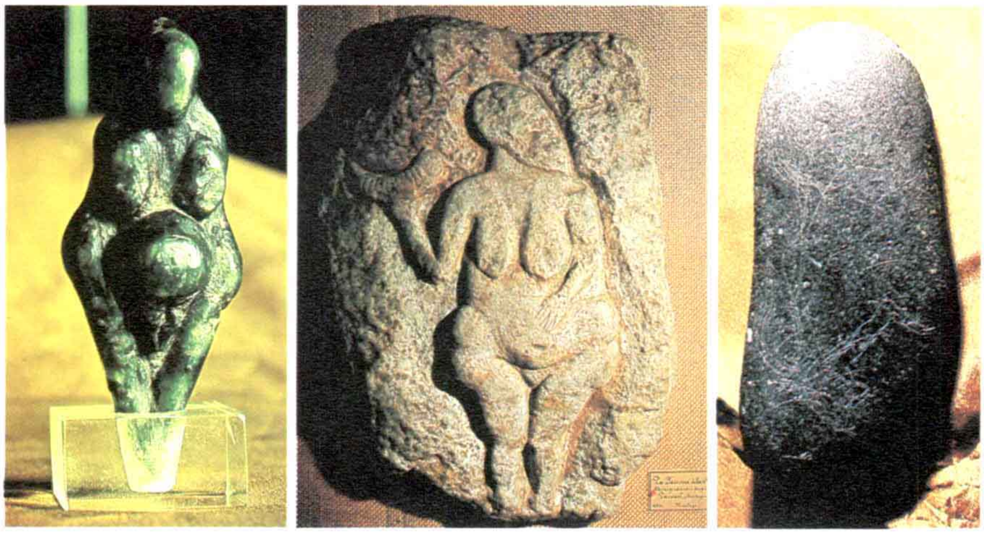
九星術　後天定位盤

きゅうせいほうしゃのうしょう【急性放射能症】 人体が概して大量の放射線の照射を受けた場合，被曝（ひばく）後数週間以内に個体に機能的または器質的な変化をきたして起こる症状。急性放射線障害とほぼ同義であるが，回復可能な障害を放射線障害とよび，回復困難とみられるものを放射能症とよんで区別することもある。広島・長崎の原爆では本症が多数の人に現われ，また最近では1954年（昭和29）ビキニ環礁での水爆実験の降下物を浴びた漁船第五福龍丸（だいごふくりゅうまる）の船員が本症を呈した事実がある。全身被曝では600レントゲン前後が致死量で，400レントゲン前後が半数致死量である。症状は被曝量の多少により重篤度や出現の時期が異なるが，まず頭痛・疲労・食欲不振・嘔気（おうき）・嘔吐が出現し，約1週間後に歯肉出血・脱毛・口腔（こうこう）粘膜炎症などをみる。➔放射線　➔原爆症　〔森成　元〕

きゅうせきほう【求積法】 微分方程式を解く方法の一。不定積分を有限回行なうことによって解を求めることをいう。たとえば，変数分離形・同次形・線形などの特殊な形をした微分方程式に対して，この方法は有効である。

きゅうせっきじだい【旧石器時代】 考古学における時代区分の一つで，地球上に人類がはじめて出現し，人類最古の文化を創造した時代である。この時代は地質学的には洪積世（こうせきせい）に属し，人類は利器としてまだ土器や磨製石器を知らず，主として打製石器を用いていた。また生産手段の面からみると，農耕・牧畜を行なわず狩猟・採集によって生活を維持していた段階である。旧石器時代は約190万年前に始まり，その終末は約10,000年前という長期にわたるものであった。その間には自然環境が著しく変化し，ヨーロッパでは4回にわたる氷河の発達がみられ，アフリカではそれに並行する雨期の消長があった。この気候の変動が人類文化の発展に大きな影響を与えたのである。旧石器時代の文化は，世界の各地によってそれぞれ異なった特色をもち，年代的にもずれがある。一般にはヨーロッパ・アフリカ地域における文化の発展が一つの基準とされ，前期（約190万～80,000年前），中期（80,000～34,000年前），後期（34,000～9,500年前）という発展の系列が認められている。なお旧石器時代の文化を石核石器（塊石の周辺を打ち欠いてつくった石器）系の文化，剝片（はくへん）石器（塊石からはぎ取った剝片を調整してつくった石器）系の文化とに分けることがあるが，一つの文化の中に石核石器と剝片石器が共存することは一般にみられる現象であるから，石器製作技術を表わす名称のみによって，文化段階を設定することは妥当でない。

【前期旧石器文化】 現在知られている人類最古の石器は，東アフリカのカフ文化・オルドベイ文化（礫器（れっき）文化）の石器である。この礫石の一端をあらく打ち欠いた簡単な石器は第四紀初頭に属し，190万年前のものといわれる。礫器文化はアフリカ全域からヨーロッパの一部にまで広がっており，この文化の創造者はオーストラロピテクスとよばれる猿人（えんじん）であったと考えられる。やがてこの礫器が発展して握斧（あくふ）となり，前期旧石器文化の代表とされるシェール文化・アシュール文化（握斧系文化）がアフリカ全土，西ヨーロッパから北西インドにかけての地域で発展するのである。なおこの時期には中部から東ヨーロッパにかけて握斧のない石器文化が栄え，イギリスのクラクトン文化はその代表的なものである。また東南アジアでは礫石の一面を打ち欠いてつくった打割石器（チョッパー）を主流とする石器文化がみられ，インドのソアン文化，中国の周口店下洞（かどう）文化などはそれに属する。この時期の文化の特色の一つは，地方差が認められずに，分布地域全体にわたって強い斉一（せいいつ）性が認められる点にある。また定形化した石器の種類の非常に少ないことも特色の一つである。この時期の文化



旧石器時代

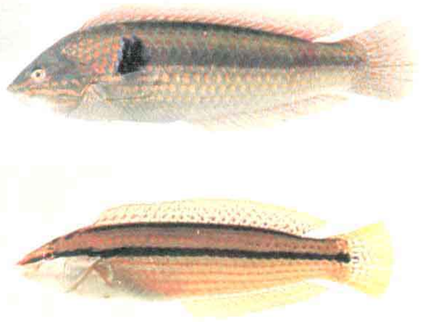
(左)女性像　イタリアのバルツィ-ロッシ出土　オーリニャック文化　サン-ジェルマン博物館蔵
(中)角杯を持つ女性　フランスのローセル出土　オーリニャック文化　サン-ジェルマン博物館蔵
(右)線刻石　岩壁に絵を描く際，デッサン用に使われた小石　サン-ジェルマン博物館蔵

はピテカントロプス*(原人*)によってつくられたといえる。

【中期旧石器文化】第三間氷期から最後の氷期のはじめにあたる時期で，この時代の代表的な文化はフランスのドルドーニュ地方のムスチエ岩陰遺跡によって示される，ムスチエ文化*である。小形の三角形の尖頭器*(せんとうき)と湾曲した側縁をもつ掻器(そうき)が代表的な石器とされるが，この時代になると使用目的によって石器の形態が分化し，ナイフ・石剣・石鏃(せきぞく)などもみられ，また骨角器*も存在した。環境の変化と人口の増加によって，前期に比べると文化の内容も複雑多様になり，各地の文化に地方差が認められるようになる。住居として多くの場合は岩陰や洞窟(どうくつ)が選ばれ，狩猟法も発達して集団的に行なうようになり，死者の埋葬や呪術(じゅじゅつ)なども行なわれたらしい。この時代の文化のにない手はネアンデルタール人*といわれる。

【後期旧石器時代】最後の氷期の第一小間氷期から洪積世の終わりまでの間で，剝片系石器から発展した細長い石刃石器を特色とする諸文化が出現し，オーリニャック文化*・ソリュートレ文化*・マドレーヌ文化*などがその代表的なものである。この時代は，これまでと異なってホモ-サピエンスとよばれる現生人類*が文化のにない手となったのが特徴である。石器の種類はさらに多様になり，弓矢・投げ槍(やり)などが多くみられ，特に道具をつくるための工具の発達が著しい。また骨角器の発達にも著しいものがあった。この時代の大きな特徴の一つは，呪術に基づく芸術が発展したことである。骨角器に刻まれた線彫りの図案や動物画，あるいは石や骨の彫刻品などがつくられた。さらに注目すべきは洞窟画*で，その芸術的価値はいまも失われていない。このような文化の発達によって生活内容も複雑化して呪術的要素が増加し，祭祀(さいし)・埋葬・身体装飾なども盛んに行なわれた。

【中石器文化】旧石器時代と新石器時代とをつなぐ中間の文化段階をいう。地質年代の上では後氷期で新石器時代と同じ沖積世(ちゅうせきせい)にはいっているが，文化の基調は旧石器文化にある。この文化の代表的な石器は，２～３cm大の幾何学的形態をした細石器*と大形の打製石斧である。細石器は，個々のものが単独の利器となるのではなく，木や骨棒に数個並べてはめこんでナイフ・掻器・もり・かまなどとして使用する合成利器に用いられた点に特色がある。この時代の終わりごろ土器がつくられだすが，まだ農耕・牧畜は行なわれず，あくまでも狩猟採集文化*であった。　〔河原純之〕



キュウセン　(上)雄　(下)雌

きゅうせん　【求仙】　硬骨魚類・ベラ科。全長25cmほどになる海産魚。体は薄く細長い。うろこは大きく，体表に粘液が多い。雄は青緑色地に濃かっ色斑(はん)がある。雌は赤かっ色地に濃かっ色斑を散らし，その体色には雌雄の間に同種とは思えぬほどの違いがある。そのため，地方によっては雄をアオベラ，雌をアカベラと俗称し，それぞれ別種の魚と思われていることもある。北海道以南の日本全土，朝鮮・南シナ海などに分布し，沿岸の浅いところにすむ。ベラ類中最も美味で，特に瀬戸内・大阪などで賞味される。ベラ科の魚は一般に夜は砂中にもぐって眠り，冬季も砂中にもぐっていて，姿を見せることが少ないが，キュウセンは特に著しい。　〔菅野　徹〕

きゅうせん　【休戦】　一時的戦闘行為の停止をいい，交戦国司令官または政府の間で休戦協定が締結される。休戦には，陸海空のすべての戦闘および戦闘地域にわたる一般的休戦と，特定の地域または部隊について部分的に行なう局地的休戦がある。休戦には期限がつけられるのが普通であるが，期限のない場合はいつでも戦闘を再開できる。休戦は戦闘の一時的中断であるから，戦争は終了しているわけではないし，また，後方活動も認められる。　〔広部和也〕

きゅうだいほんせん　【久大本線】　鹿児島本線久留米(くるめ)と日豊本線大分を結ぶ国鉄路線。営業キロ数141.5。1915年(大正４)に大分～小野屋間が開通，1934年(昭和９)に全線が開通した。九州横断鉄道の一つで，沿線の都市には日田がある。

きゅうたいりく　【旧大陸】　⇨アフロユーラシア

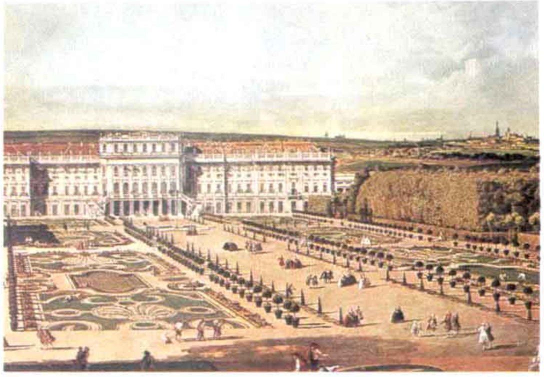
きゅうちゃく　【吸着】　気体または溶液中に置かれた固体表面に気体または溶質が，他の部分よりも高い濃度に存在する現象をいう。その原因としては化学変化を伴わない単なる物理的な力による凝集(物理的吸着)と，固体表面と吸着されるものとの間のなんらかの化学的結合による場合(化学的吸着)が考えられる。化学反応の促進に使われる固体触媒の触媒作用にはいずれにせよ吸着が前提となる。

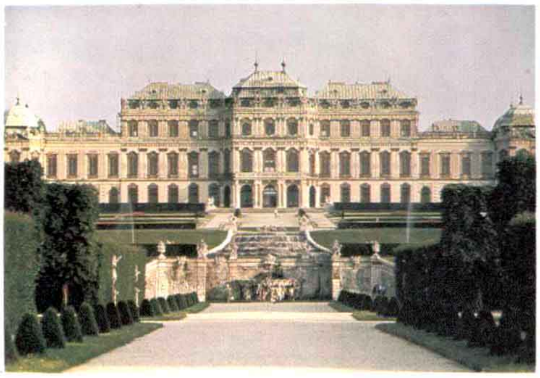
吸着剤としては一般に多孔性物質が使われるが，これは見かけの表面積以外に，その内部の細孔にそれよりはるかに大きい表面積をもっているからである。実用吸着剤としては，活性炭*・骨炭・酸性白土*・シリカゲル*などがあり，食用油・砂糖の脱色・脱臭に広く使われるほか，気体混合物からのある成分の分離・回収，防毒マスクなどにも用いられる。　〔志田正二〕

きゅうちゅう　【吸虫】　扁形(へんけい)動物・吸虫綱の総称。体は一般に扁平で，一生を通じて寄生性のものが多い。幼虫期には繊

宮　殿









(上左)ベルサイユ宮　〈鏡の間〉▲
フランス　バロック様式　17世紀後半
(上右)シェーンブルン宮殿
オーストリア　バロック様式　17世紀末
(下左)ベルベデーレ宮殿
オーストリア　オーストリア・バロック様式　1721～1723
(下右)ニュンフェンブルク宮殿〈有翼部寝室〉　ドイツ　アンピール様式　19世紀初頭

毛をもつ。成虫は吸盤をもち，消化管は盲管となっているものも多い。単性亜綱と二生亜綱に分けられ，人畜寄生虫はすべて二生亜綱に属する。これには雌雄同体のもの(肝吸虫・横川吸虫*など)と異体のもの(日本住血吸虫*など)とが含まれる。いずれも中間宿主を必要とし，２種の中間宿主を必要とするものも少なくない。卵は水中で適当な条件のもとに有毛幼虫(ミラシジウム)となって孵化(ふか)し，第１中間宿主(通常は巻き貝類)に穿入(せんにゅう)して増殖する(これを幼生生殖といい，条虫・線虫にはみられない)。種類によって多少の差異があるが，ミラシジウムからスポロシスト→レディア→(娘レディア)→セルカリアとなり，１個のミラシジウムから多数のセルカリアができる。セルカリアはさらに第２中間宿主(淡水魚類・カニ)にはいってメタセルカリアとなる。メタセルカリアは被嚢(ひのう)した感染型幼虫であり，適当な宿主に食われると，宿主体内で成虫となる。　〔山本　久〕

きゅうちゅうぎ　【九柱戯】　９本のピン(とっくりの形をした標的)を，ボールをころがして倒すゲーム。ドイツで始められたゲーム(ドイツ名はケーゲル)であるが，ヨーロッパ各地に伝わり流行した。現在10本のピンを立てて行なわれているボウリング*の原型と考えられる。

きゅうちゅうさんかいきゅう　【旧中産階級】　資本主義社会においては，ブルジョア化とプロレタリア化という階級*分化の法則が貫徹するが，分化の過程にある過渡的な階層としての中小地主・中小企業家・小商人などの小ブルジョアをさして旧中産階級という。小商品生産者としての社会的・経済的性格から，資本主義の発展とともに，その大部分はプロレタリアート*に転落する運命にあるとされる。彼らは勤労者としての性格と小規模生産手段の私的所有者としての性格を合わせもっているところから，ブルジョアジー*とプロレタリアートの中間でたえず浮動する傾向がある。なお，20世紀の帝国主義段階にはいると，ホワイトカラー*が大量に生み出されてくるが，彼らはみずからを賃金労働者と区別しようとする傾向を有する。このようなホワイトカラーを新中産階級とよぶ。　〔浜岡政好〕

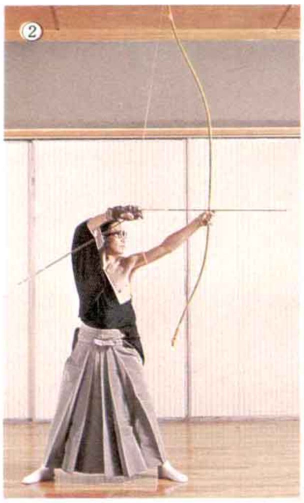
きゅうちゅうさんでん　【宮中三殿】　皇居内の賢所*，皇霊殿*および神殿*の総称。宮中祭祀(さいし)が行なわれる所で，吹上御苑(きょえん)と西の丸とのほぼ中間にある。賢所は皇祖天照大御神(あまてらすおおみかみ)を祭る御殿，皇霊殿は歴代天皇および皇族の御霊を祭る御殿，神殿は国じゅうの神々を祭る御殿。

きゅうちゅうぼうじゅうだいじけん　【宮中某重大事件】　現天皇(当時皇太子裕仁(ひろひと))の結婚にからむ宮中の紛糾事件。原敬(たかし)内閣当時，皇太子妃に旧薩摩(さつま)藩の島津忠重(ただしげ)の縁につながる久邇宮良子(くにのみやながこ)(現皇后)が内定されていたが，長州閥の山県有朋*(やまがたありとも)は自派に不利益であると考え，色盲の血統があるから妃として不適当であるとして，この結婚に異議を唱えた。このため，1920年(大正９)から翌年にかけてこの問題は紛糾したが，山県派の策謀を不敬問題とする右翼団体などの動きが表面化したので，1921年２月宮内省から内定に変更なしと発表され，内務省も同様趣旨の発表を行なって問題は決着した。この事件により山県の勢威は失われた。

きゅうていがか　【宮廷画家】　国王・ローマ教皇・地方的封建領主らに招聘(しょうへい)され，年金その他の特別の待遇を得て，彼らの注文に応じて制作する画家。14世紀半ば以降，イタリア・フランス・ネーデルランドなどの領主が多くの画家を招いたのがはじまりである。しかし，厳密には君主制の確立によって宮廷が成立した16世紀以後の画家を宮廷画家と考えるべきである。特に，ルイ14世を中心とするフランスの宮廷では，多くの宮殿建築が建造され，これの装飾を専門とする画家・彫刻家の集団が成立した。シャルル・ルブラン*・ブーシェ*らがこういった集団を監督する筆頭画家の代表的な例である。スペインにおいても，17～18世紀にはベラスケス*を代表とする多くの宮廷画家が存在した。　〔末吉雄二〕

きゅうていぶんがく　【宮廷文学】　宮廷中心の宮廷人の生活を描いた文学。宮廷貴族社会に発達し，フランス12～13世紀の宮廷ふうロマンや，日本の平安時代の貴族文学などが名高い。フランスの場合には，恋愛至上主義と高貴性(みやび)が高く評価され，高貴な女性と強く優しい騎士をめぐる王朝絵巻を展開する。日本の平安時代の文学も，王朝文学・宮廷文学とよばれ，10～12世紀の宮廷貴族社会が要求し発達させたものである。おもなものに和歌・物語・随筆・日記などがあり，いずれも宮廷貴族社会を地盤にして，特に宮廷出仕の女性(中下級貴族の女たち)を中心に栄えた。《源氏物語*》《枕草子*(まくらのそうし)》はその金字塔である。ここでも〈みやび〉〈もののあわれ*〉といった洗練された優雅な感情・生活・行為が理想とされている。　〔鈴木一雄〕











弓　道

弓道の射法八節　射る基礎の足踏み・胴造りから①弓構えにはいり，打ち起こしの構えから②引き分けの完成された③会で，気合いとともに④離れ・残身(心)となる。⑤後方より見た的前の会

きゅうでん　【宮殿】 国王・領主などの主権者の住居。その歴史は強大な専制君主の成立とともに古く，特にオリエント諸国で盛んに造営された。アッシリアのサルゴン王宮*，ペルシア帝国のペルセポリス*，またギリシアではクノッソス宮殿*が特に有名である。しかし，ギリシア・ローマでは宮殿よりも神殿の建築が重視された。中世封建社会では武備をもった実戦的な城*が中心を占め，大規模な宮殿建築は当時イスラム圏にあったグラナダのアルハンブラ宮殿*(13世紀)など，ごく一部にしかみられない。ルネサンス時代になると，宮殿建築はイタリアで多様に発展し，パラッツォ-ベッキオ*・パラッツォ-ピッティなど，切り石を数層に積み重ねるルスチカ造りのファサード*をもつものが数多く生まれた。16世紀，封建制の解体が進み，やがて絶対君主のもとで中央集権体制が確立すると，戦闘的要素を捨てた壮大な宮殿がつくられた。ルイ王朝のルーブル宮・ベルサイユ宮はその代表的な例であり，政治・文化の中心となり，日夜はなやかな宮廷生活が繰り広げられていた。ルーブル宮・ベルサイユ宮は広大な庭をもち，このスタイルはオーストリアのシェーンブルン宮殿，ドイツのサンスーシー宮*など，他のヨーロッパ諸国にも大きな影響を与えた。16～17世紀には城塞的要素をわずかにとどめた城館(シャトー)が好んで建てられた。➔前ページ(写)　〔斎藤高夫〕

きゅうでん　【球電】 雷雨に伴う電光の一種。球状の赤みをおびた火の玉で，ゆっくり飛んで破裂し，音を立てて消えていく。めったに起こらない特異な現象である。

きゅうどう　【弓道】 武道の一種。狩猟用具から武器へと発達した弓*は，古代においてすでに射芸として行なわれたが，1543年(天文12)鉄砲の伝来や徳川幕府下における平和の到来などによって武器としての使用は急速にすたれ，武道として射法に重点が置かれるに至った。しかしこれも，1862年(文久2)講武所*で弓術が廃止されてからはまったく衰微した。1895年(明治28)大日本武徳会*が創立されて弓道が復活され，日置(へき)・小笠原(おがさわら)の2流を総合した新しい弓道が開かれて学校体育に取り入れられ，大いに普及した。第2次世界大戦後は，1951年(昭和26)に制限が解かれ，今日に至っている。日本の弓の特色は，①木と竹を接着してつくられる長弓(212～225cm)であること(西欧や中国大陸系の短弓は木製で，90～150cm)，②握りが全長の下部約3分の1にあること(短弓の握りは中央)，③矢が竹製(長さ90～100cm)であることなどにある。短弓が大陸で発達したのに対し，長弓は大洋系種族の間で発達したとされる。さらに，日本の弓道の特色として，的中を競うだけでなく，武道の一つとして東洋流の静的な修養をめざしており，射の礼法を重んずる点があげられる。

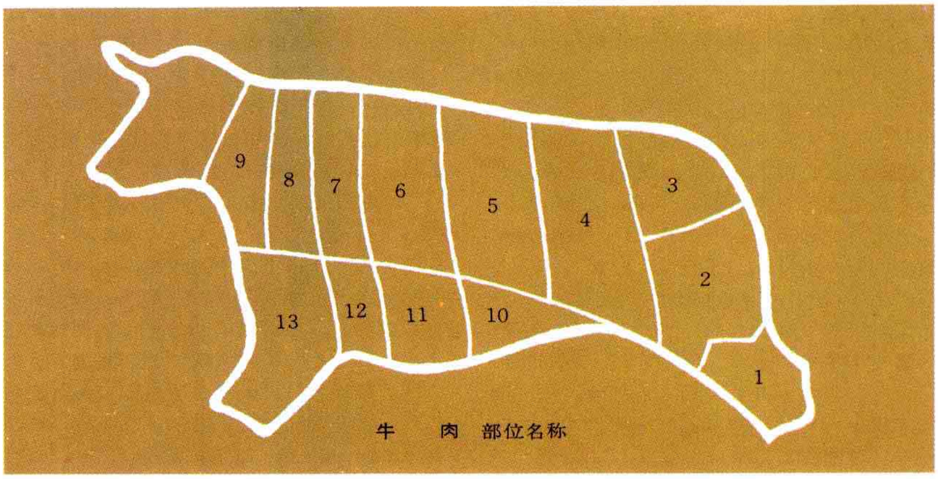
〈用具〉①現在の弓は，外の竹と両側の側木(そばき)とこれらに囲まれた〈ひご〉とよばれる竹片を合わせた1種の合板でできている。弭(はず)は弦をかけるところをいう。矢摺籐(やすりとう)は矢羽根が触れる部分。②弦は精製した麻を細く裂き，むらのないように撚(よ)り合わせて，天鼠子(くすね)(種油と松脂(まつやに)とを煮て練ったもの)を含ませて乾燥したもの。弓に張って握りと対する位置に中仕掛け(さぐりともいう)を設けて矢の筈(はず)をつがえる位置とする。③矢は篠竹(しのだけ)に加工して狂いを防ぐようにつくられた箆(の)に，矢羽根と矢の根をとりつけたもの。弓摺羽(ゆずりは)は弓の矢摺籐に対する部分をいう。④弽(ゆがけ)は鹿皮製(しかがわせい)の手袋のようなもの。矢を引き込むとき親指を保護して無理なく矢を放つために，右手につける。⑤的には霞的(かすみまと)・星的・大的・半的・近的などがある。霞的は射程15間3尺(28m)の近的用で，練習用には簡略化した星的が用いられる。大的は射程33間(60m)の遠的に用いるが，直径2尺6寸(79cm)の半的を使用することもある。近的は地上9寸(27cm)に的の中心が位置するように掛け，大的は地上6寸(18cm)につる。

〈射法〉1本の矢を射る順序は次の八節とされる。①足踏み：両足先を的の中心と一直線に，身長の2分の1程度の間隔で踏み開く。②胴づくり：背骨・首筋を伸ばして上体を安定させ，呼吸を整え，心気を落ち着けて立つ。③弓構(ゆがま)え：射を始める動作。弓をからだの正面または左斜めに構える。④打ち起こし：弓を引き分けるために弓矢を持った両手を打ち上げる。⑤引き分け：打ち起こした弓を，左右均等に引き分ける動作。弓を持つ左手はまっすぐに伸ばし，弦を引く右手はひじを曲げ，右のこぶしが右肩あたりまでくるように，矢の長さいっぱいに引き分ける。⑥会：引き分けの極限をいう。心・身・弓が一体となり，気力を充実して，両眼を開き，弓の左側から的の中心を見通してねらいを定める。⑦離れ：会で発射の機が熟するのに応じて，からだの中心から左右に開くように伸張し，気合いの発動とともに矢は自然に離れる。⑧残身(残心)：矢が射離れたあと，心気・態度を乱さずに放たれた矢の行くえを注視する。りっぱな射にはりっぱな残身が残り，射の品格を表現するとされる。〔藤岡　端〕

ぎゅうにく　【牛肉】 ウシの肉であるが，わが国では長く家畜(おもにウシ)の肉を食べることをはばかったので，ウシといわず，音読みにして牛肉とよんだといわれる。わが国でも太古・上古の肉食時代にはおそら

く食用に供していたと思われるが，仏教伝来後，インドの風習を学んで牛肉を食べなくなった。その後戦国時代に牛肉食が復活した。これはポルトガルの宣教師が信者にふるまったことからはじまっている。江戸時代になってキリシタン宗門が禁止されるとともに，牛肉食もまた自然に停止された。この風習も幕末以降明治の初年に改められ，今日に至っている。

一般に市販される肉の品質は，ウシの年齢・飼料・性別などによって異なるが，だいたい4～6歳の間の年齢のものがよいとされ，それ以上になると，繊維がかたく汁液(じゅうえき)も枯れてまずくなる。性別としては，去勢した雄ウシか，雌ウシがよく，品種は改良和牛(黒毛和種など)などがよい。乳肉兼用種・乳用種は肉質が劣る。部分的には鞍下(くらした)および臀部(でんぶ)の肉が最上で，ヒレ・ロースなどはこれにあたる。脚および腹部の肉は下級，一般にあぶり焼き・蒸し焼き・すき焼きなどにして賞味され，またコンビーフなどのかんづめに用いられる。満1歳までの子ウシの肉は淡赤色で水分が多く，脂肪は少なく，肉は柔らかい。洋風料理に珍重される。〔佐藤友太郎〕



牛　肉　部位名称

部　位	特　色	適する料理法
1 後肢肉 2 もも肉 (なか肉)	筋が多くかたい	ひき肉・煮込み・スープストック
3 もも肉の上部(らん)	柔らかい赤肉で美味	ロースト・ステーキ
4 内ロース (ヒレ)	脂肪が少なく，最も柔らかい赤味。最上肉	ステーキ・ロースト カツレツ・串焼き
5 外ロース	内ロースに次いで柔らかい霜降り肉。最も味がよいところから〈サー〉の敬称が与えられサーロインとよばれる	ステーキ・ロースト すき焼き・網焼き
6 肋肉 (背ロース)	外ロースよりややかたく脂肪が多い。肉厚	ロースト・煮込み すき焼き
7 8 肩肉	筋が多くややかたいが美味。脂肪は少ない	ひき肉・煮込み・スープストック
9 くび肉	かたく，味もよくない	煮込み・スープストック
10 下腹部肉	脂肪が多くヘットをとる。肉質はかたい	ひき肉
11 胸肉 (ばら肉)	肉と脂肪が交互の層になり，ロースよりかたいが味はよい	ひき肉・煮込み
12 前胸肉	肉質はかたいが，長時間煮込むとおいしい。コンビーフの原料	スープ
13 前肢肉	後肢肉に同じ	後肢肉に同じ

ぎゅうにゅう 【牛乳】 雌ウシの分泌する乳汁(にゅうじゅう)で，特有の香気と甘味をもつ。乳汁中ではカゼインがカゼインカルシウムの形でコロイド状に分散しているため，白色不透明の外観を与えている。牛乳の歴史はかなり古く，牛肉食を禁じたインドでも牛乳は古くから用いられていた。仏教の仏典にあるいわゆる〈五味〉が牛乳製品で，牛乳から酪・生酥(しょうそ)・熟酥・醍醐(だいご)と加工度が進むほど上味となる。無上の醍醐味などといわれる醍醐はいまのチーズにあたるものである。わが国では7世紀孝徳天皇時代に呉の国から献上されたとあり，平安朝では宮中で乳製品が用いられたという。その後使用が中断されたが，江戸後期に将軍が乳牛を飼養してバターをつくったとの記録がある。一般に広く飲まれるようになったのは明治以降である。

わが国の乳牛はホルスタイン種がほとんど大部分で，その他ジャージー・ガンジー・ショートホーン・エアシャー種などがある。泌乳量はホルスタイン種が最も多いが，脂肪含量ではジャージー・ガンジー種が多く，ホルスタイン種は最も低い。牛乳には，水分・タンパク質・脂肪・炭水化物・無機質のほか，ビタミンなどが含まれ，その組成や栄養価が母乳に似ているので母乳の代用に重用される。牛乳の組成は，乳牛の品種・年齢・泌乳期・搾乳法，乳房の位置，季節・飼料などによって異なる。たとえば夏に牧場飼育をすると脂肪は減少し，秋に牧舎飼育をすると増加することが知られている。

表-1　母乳・牛乳の標準組成(%)

	水分	タンパク質	脂肪	乳糖	灰分
母乳	88.2	1.4	3.1	7.1	0.2
牛乳	88.6	3.0	3.2	4.5	0.7

表-2　国内・外国産牛乳の組成の一例(%)

	水分	固形分	タンパク質	脂肪	乳糖	灰分
国内産	88.78	11.22	2.84	3.25	4.38	0.68
外国産	87.35	12.65	3.30	3.75	4.85	0.72

牛乳はその組成が示すように，栄養価値がきわめて高いので，細菌が繁殖しやすく，腐敗しやすい。また，病源菌や腐敗菌が存在することもある。したがって有害菌を殺し，しかも栄養価値を落とさぬためには，特殊の処理が必要である。わが国では〈厚生省令〉をもって生乳・市乳*および乳製品の〈成分規格〉および〈製造および保存の方法の規準〉を定めて取り締まっている。特殊な処理には，比較的低温に長時間加熱する方法(パストリゼーション)と比較的高温に短時間加熱する方法(瞬間殺菌)がある。このようにして殺菌した牛乳は，消費者の手に渡るまで10℃以下の低温に保存するよう規定されている。牛乳は，乳汁のまま使用されるほか，濃縮して練乳，乾燥して粉乳とする。またこれを原料として，バター・チーズ・乳酒などをつくる。このほか，主要成分であるカゼインや乳糖を分離して各種の用途に利用される。〔佐藤友太郎〕

ぎゅうにゅうぎらい 【牛乳嫌い】 乳児が牛乳をいやがって飲まないこと。その根本には食欲不振がある。3～4か月の乳児に多く，ことに母乳栄養児に牛乳を追加しようとしたとき，牛乳や粉乳をいやがり飲まないことが多い。この場合乳児の発育不良や栄養障害があれば，母乳をやめ(断乳)，空腹を利用して牛乳を飲ませたり，早期に離乳したりする方法をとる。人工栄養児の場合は，食欲を越えて無理に与えられていることが多く，またさじによる秤量(ひょうりょう)が多くなりすぎ，濃厚栄養になるときなどに起こりやすい。このような強制授乳

は，授乳そのものが不快感に結びつき，牛乳ぎらいになって，ついには哺乳(ほにゅう)びんを見せただけでも泣き出したり，吐きけ・嘔吐(おうと)をもよおしたりするようになる。したがって牛乳ぎらいに対しては，無理じいを避けるのがよい。また緊張した授乳態度も改めるべきである。〔高橋悦二郎〕

きゅうにゅうりょうほう【吸入療法】 薬剤の霧を鼻腔(びこう)または口腔から，吸入器によって吸入させる療法。上気道(副鼻腔・咽頭(いんとう)・喉頭(こうとう))の感染症，気管・気管支の炎症の場合，薬剤の投与と同時に行なう。吸入させる薬剤としては，抗生物質・タンパク分解酵素・アドレナリン・副腎(ふくじん)皮質ホルホン・去痰(きょたん)剤・グリセリンなど数多くある。目的は，気道に適度の湿度を与えて感染をおさえ，粘膜を柔らかくして排出しやすいようにし，粘膜を保護・再生することにある。耳鼻科・内科で行なうことが多い。〔石井哲夫〕

きゅうねつはんのう【吸熱反応】 反応が進むとき周囲から熱を奪う反応。液体の蒸発，多くの塩類の水への溶解などもこの種の反応にはいる。$2Cl_2+O_2=2Cl_2O-30.2$ kcalは代表的な吸熱反応である。吸熱反応の結果生成する化合物を吸熱化合物という。

きゅうばん【吸盤】 動物が他物や他動物などに吸着するための盤状構造の固着器官。脊椎(せきつい)動物では，魚類のコバンイタダキは頭部の背面に，爬虫(はちゅう)類のヤモリは指の掌面にある。こん虫ではゲンゴロウ類の雄にみられ，前肢(ぜんし)の付節(ふせつ)が吸盤となって多数並んでいる。イカ・タコなどの頭足類では腕にふつう4列に並び，ヒル類では体の前後両端にそれぞれ1個みられる。内部寄生をする吸虫類には体の前端に前吸盤，ほぼ中央の腹面上に後吸盤がある。外部寄生をする吸虫類の吸盤の数は，種類によってさまざまである。〔蒲原春一〕

きゅうひ【厩肥】 家畜の糞尿(ふんにょう)と敷きわらを堆積(たいせき)腐熟させた肥料。家畜や敷きわらの種類・堆積方法などによって，肥料の価値が違ってくる。成分含有量の一例をあげると，水分63.8％，有機物21.2％，窒素0.67％，カリ0.81％，リン酸0.36％などで，窒素・リン酸・カリの3成分の含量は少ないが，有機物資材としては優秀なものである。また，公害問題の一原因である家畜糞尿の有効処理法として，厩肥の製造は有用である。〔早瀬達郎〕

ぎゅうひ【求肥】 和菓子の原料。白玉粉*に白砂糖と水あめを加えて煮ながら，半透明になるまでよく練りあげたもの。柔らかく，しかも弾力があり，牛の皮に似ているので〈牛皮〉と書かれたが，牛肉食忌避の時代に〈求肥〉と改められた。室町時代，茶道の盛んなころにはじめてつくられたものといわれている。当時の砂糖はもっぱら黒糖であったため，〈牛皮〉の名のついたのもうなずかれる。求肥を用いた菓子に求肥あめ・求肥こんぶ・求肥団子・求肥糖・求肥まんじゅうなどがある。〔佐藤友太郎〕

きゅうひんかんじんほう【九品官人法】 中国の官吏登用法の一。220年三国魏(ぎ)の陳群が立案し，6世紀後半に隋(ずい)の文帝によって科挙*が始められるまで続いた。九品中正制度ともいう。まず中央政府に9等級の官制を立て，次に地方の郡に中正という職を置く。中正は中央政府の人事担当大臣司徒によって任命され，管内の官吏候補者を調査し，9等に格づけする。これを郷品という。この司徒系統で資格認定をされた官吏候補者は，天子の秘書官である尚書(しょうしょ)の管轄下に置かれた吏部系統で再審査され，一品から九品に等級づけられた官位を受け，実際の職につく。この際，郷品から4等下った官位から出発し，順次郷品と同じ等級の官品まで昇進するのが慣例であった。当初は，魏王朝の建国にあたって，後漢の官僚を整理・吸収するという，漢朝官僚追放令の性格をもったが，当時勃興(ぼっこう)しつつあった豪族勢力を背景として，魏晋(ぎしん)南北朝時代の貴族制度を成立，展開させるのに役だった。〔勝村哲也〕

きゅうひんほう【救貧法】 イギリスの社会法。チューダー朝(1845〜1603)下，社会的・経済的変動によって土地を失った農民が浮浪者・こじきなどとして都市にあふれたため，立法化された。ヘンリー8世が1531年に発布して以後，しだいに独立の法大系をとるようになった。初期には貧民救済の名によって，貧民を最も安価な労働力としてマニュファクチュアに供給する役割を果たしたが，産業改革後1834年に議会で根本的な改正が行なわれた。〔松下京子〕

きゅうふ【休符】 音楽で音の出ない場所と長さを指定するための記号。西洋音楽では，音符と同じように長さが定められている。なお，管弦楽などですべての楽器がいっせいに休むことをゲネラルパウゼといい，G.P.と略して示す。➔音符

きゅうふのうったえ【給付の訴え】 借金の返還を求める損害賠償請求のように，被害者が加害者に損害の支払いを求める，また原告*が被告*に対する給付請求権の主張について，その当否の審理裁判を求める訴訟*をいう。裁判所で取り扱う事件の多くはこの種の訴訟である。判決の主文は〈被告は原告に対し金100万円を支払え。訴訟費用は被告の負担とする〉といったような給付命令を掲げる。もしこのような判決を得ても被告が任意に履行しない場合は，この判決に基づいて強制執行*することができる。判決は確定していないと強制執行できないが，判決主文に仮執行*宣言がついていれば判決確定前でも強制執行ができる。判決によって直ちに権利の実現が行なわれる形成訴訟(➔訴訟)とは性質が異なる訴訟である。

きゅうほう【臼砲】 要塞砲(ようさいほう)・攻城砲・迫撃砲*など，大きい曲射弾道をもち，弾丸に垂直威力をもたせた火砲の称。砲身の長さは通常口径の12〜13倍以下で，他の砲種に比べて短い。射程は短いが，障害物を越えての射撃や要塞陣地の破壊などに大きな威力を発揮する。

きゅうぼうかほうそく【窮乏化法則】 資本主義社会では，資本蓄積*が進行するにつれて労働者階級の状態は必然的に悪化するという，マルクス*が指摘した法則。マルクスは資本主義的富の蓄積が進行すればするほど，資本の有機的構成*が高度化し，失業者は増大し，産業予備軍が創出され，その結果，労働者階級の側には〈貧困・労働苦・奴隷状態・無知・粗暴・道徳的堕落が蓄積される〉ことを指摘した。これに対して，資本主義の発展につれて，労働者階級の状態は資本家階級に比べれば相対的に悪化するとしても，少なくともその生活水準は絶対的には上昇してきている，したがって，相対的窮乏化は認められるが，絶対的窮乏化は認められない，という解釈もあり，幾多の論争が行なわれている。〔常盤政治〕

きゅうほうとう【旧法党】 中国，宋(そう)代に王安石ら新法党*の政策に反対した守旧派。神宗の絶大な信任を得て，王安石が財政再建と農村振興を眼目としたいわゆる新法を断行すると，保守的な老臣・大儒ら現状維持派がこれに反対し，以後哲宗・徽宗(きそう)のときも，新法党に非難・攻撃を浴びせてこれと対立・論争した。おもな旧法党の人物には司馬光*・文彦博*(ぶんげんはく)らがいる。北宋末期には政策論争よりも，感情的対立が中心になってきた。

きゅうほくく【旧北区】 動物地理学上の分布区の一。北極地方と熱帯東南アジアを除くユーラシア大陸の全域。日本列島も含まれる。またアフリカ大陸のサハラ砂漠(さばく)以北も含む。ネズミ・ヤマネ・ラクダ・ヒツジ・ヤギ・タヌキ・キジ・イノシシ・ノガンの類に固有な種類が多い。

きゅうみん【休眠】 生物がその活動や生長を一時停止した状態になること。外部要因(温度・湿度など)の影響で起こる場合と，外部要因に無関係な内因性のものとがある。前者には動物の冬眠・夏眠などがあり，生活条件に適さない寒さ・暑さ・乾燥などの時期に休眠にはいるもので，この場合には適当な条件が与えられれば活動が再開される。後者の例には植物の休眠芽の形成やこん虫の休眠などがあり，一度休眠にはいったら一定期間を経ないと条件が好転しても活動を再開しない。休眠中，生物は生長や運動を停止し，水分含量は減り，代謝は著しく低下する。〔吉田精一〕

こん虫の場合には寒冷などによる一時的な麻痺(まひ)ではなく，多くの場合内分泌的機構の変化によるものである。このため休眠の生起，その維持あるいは覚醒(かくせい)にはそれぞれ内的あるいは外的条件が関与している。こん虫の休眠については特によく

研究されているが，これには定時性休眠と随時性休眠とが区別される。前者は1化性カイコの卵休眠にみられるように，休眠の生起が遺伝的なものに支配されているものであり，後者はニカメイチュウのように発育期における日長条件などによって支配されるものである。こん虫の休眠はその生活環のパターンを決定するという点で生態学的にも重要な意味をもっている。休眠が発現する時期は種によってだいたい決まっているが，ある種のさなぎ休眠は脳における神経分泌細胞の活性が低下するためにひき起こされると考えられている。〔深谷昌次〕

きゅうみんき 【休眠期】 植物が種子・芽・胞子などの形で，外部的または内部的理由によって一時生活活動を停止する期間をいう。外部的理由としては冬季の気温の低下などがあり，内部的理由としては種子の未熟などがあげられる。

きゅうみんしゅし 【休眠種子】 成熟した種子は一般に発芽するまでに一定の休眠期を必要とするものが多いが，このような種子を休眠種子という。休眠の原因としては胚(はい)の未熟，胚が完成しても貯蔵物質が胚に利用される状態にないこと，発芽抑制物質の存在などが考えられる。

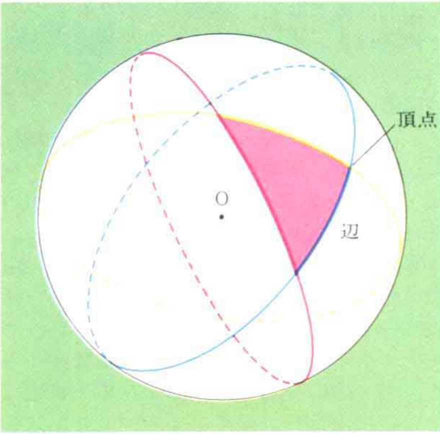
きゅうみんホルモン 【休眠ホルモン】 休眠の誘起とか維持に関係するホルモン全体の呼称である場合と，休眠に関与する特定のホルモンをさす場合とがある。後者にはいるものとしてはカイコの食道下神経節から分泌されるホルモンがあげられる。これは長谷川(はせがわ)金作によって命名されたもので，このホルモンはカイコのさなぎの時期に分泌され卵の休眠性を決定するという。これは食道下神経節の移植実験によって確かめられたものであるが，一方カイコ卵の休眠は脳が1次的に重要な役割を演じているとの説もある。一方，幼虫休眠ではアラタ体ホルモンが大きな役割を演じていることが，ニカメイチュウその他で明らかにされている。この場合アラタ体ホルモンも休眠ホルモンの一種と考えられよう。

きゅうめいせつび 【救命設備】 船舶や飛行機が遭難した場合，人命救助に用いられる設備や器具。〈船舶安全法〉の〈船舶設備規程〉に基づいて設けられるが，船種・大きさ・航路・旅客定員数によって差異がある。救命設備のおもな種類は，人を乗せて浮かぶもの(救命艇・救命いかだ)，人がつかまって浮かぶもの(救命浮器・救命浮環)，人が着用して浮かぶもの(救命胴衣)，救命浮環の位置を知らせるもの(自己発煙信号・自己点火燈)，救命いかだの位置を知らせるもの(信号紅炎・水密電気燈)，救命艇の位置を知らせるもの(落下傘(らっかさん)付き信号・日光信号鏡・持ち運び式無線装置など)，本船の位置を知らせるもの(火箭(ひや)・遭難信号自動発信器)などである。〔飯島幸人〕

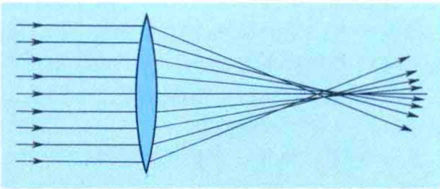


救命設備 (左上)救命艇 40人まで乗ることができる (左下)救命胴衣と浮環 (右上下)救命艇の中に常備されている諸器具。一定期間ごとに検査され，不良なものは取り換えられる

きゅうめんきかがく 【球面幾何学】 球面上の図形について，平面上のユークリッド幾何学と並行して論ずる幾何学の一部門。球面上では大円の劣弧が最短の道となり，2点を通る大円が一般にただ一つであるなど，平面における直線に似た性質をもつ。そこで，球面幾何学では大円を直線のように考えて，球面三角形の合同，辺の長さ，角の大小の関係などを調べる。特に，ユークリッドの平行線の公理が成立しないという特徴がある。〔小西勇雄〕



球面三角形



球面収差 レンズの中心近くを通る光線と，周辺を通る光線とでは焦点が異なる

きゅうめんさんかくけい 【球面三角形】 球面上で，三つの大円の弧によって囲まれた部分，または，その周。三つの弧を辺，それらの端の点を頂点という。頂点における角は，その点での2辺の接線のなす角である。球面三角形では三つの角の和は，つねに2直角より大きく，6直角より小さい。

きゅうめんさんかくほう 【球面三角法】 球面三角形の辺と角との関係を三角関数を用いて表わし，それによって球面図形の幾何学的性質を研究する数学の一部門。球面三角形の三つの角をA，B，C，それらに対する辺をa，b，cとする。辺a，b，cは，大円の弧の長さにあたり，中心角の大きさで表わされる。このとき，平面上の三角形の場合に似た性質，

正弦定理 $\dfrac{\sin a}{\sin A}=\dfrac{\sin b}{\sin B}=\dfrac{\sin c}{\sin C}$

余弦定理 $\cos a=\cos b\cdot\cos c+\sin b\cdot\sin c\cdot\cos C$

がなりたつ。球面三角法は，これらの定理を基礎として展開され，天文学や航海術などで広く使われる。〔小西勇雄〕

きゅうめんしゅうさ 【球面収差】 広義には，単色点光源からの光がある光学系を通ったのちに生ずる収差のうち，色収差を除いた他の五つの収差(ザイデルの5収差)をいう。狭義には，広義の球面収差の一つで，光軸上の1点から出たいろいろの光線が，ある光学系を通ったあとで，光軸上の1点に集まらず，それぞれの光軸を異なる点で切る現象。通常，近軸光線の集まる点からのずれで収差の大きさを表わす。

きゅうめんは【球面波】一様な媒質の中で1点から四方八方へ広がる波。波動の状態は波源からの距離だけで決まり，波面*が球面になる。球面波の振幅は中心からの距離に反比例して減少する。➔波動

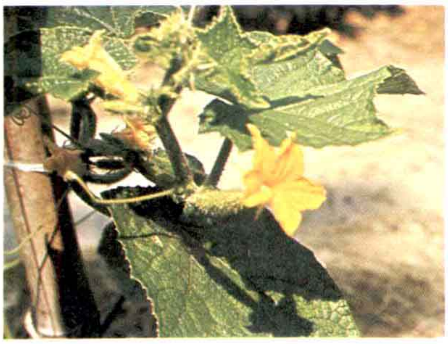
きゅうやくせいしょ【旧約聖書】⇨聖書

きゅうり【胡瓜】双子葉植物・ウリ科。つる性の一年生草本。葉は浅く切れ込んだ五角形で，葉腋(ようえき)から側枝と巻きひげを出し，各節に花をつける。雌雄同株で，雄花は5〜10花叢生(そうせい)し，子房下位の雌花は1〜3花雄花のつかない節につく。花はいずれも黄色の小花で，果実ははじめ白緑ないし緑色であるが完熟すると黄またはかっ色となり，網目の模様がつくものもある。果実の表面にはとげがあり，品種によって相違があるが，開花後7〜9日ぐらいで100gぐらいに達した未熟果を食用に供するのが普通である。また雌花の発現は環境要因によって左右され，一般に低温短日下で着生が多くなる傾向がある。

ヒマラヤ山麓(さんろく)が原産とされており，世界各地に分布し，各国で古くから栽培されている。わが国でも古くから栽培され，おもに南方から導入されたと思われる南支型と北方から導入された北支型とがあるが，現在は両型が混然となった雑種型が多くなっている。落合や相模(さがみ)半白などは南支型の，四葉や立秋などは北支型の代表的品種であるが，現在の長日落合やときわなどは雑種型である。

温和な気候を好むので，普通は春まいて初夏に収穫するが，温室を利用した促成栽培あるいはビニルハウスを利用した半促成栽培や抑制栽培なども盛んであり，また冷涼地の夏季を利用すると盛夏季から初秋にかけて良質の果実を生産することができる。このように多様な作型を利用することにより，現在では1年じゅう出荷の体制ができている。

キュウリは果実のうちでは生産・需要ともに安定したものであって消費も多いが，近年土壌(どじょう)から伝染する病害が多くなったため，これを回避するつぎ木法による栽培が行なわれる。つぎ木の台木には，ふつうカボチャやユウガオが用いられる。キュウリには不飽和アルコールのキュウリオールが含まれ，独得のかおりがあり，生食やつけ物にして利用することが多い。特に欧米諸外国ではピクルス*としての利用が盛んである。また，アスコルビン酸(ビタミンC)を分解する酵素(アスコルビナーゼ)を多く含むので，細かく切って他の野菜と混ぜるようなことは避けたほうがよいといわれている。〔松本正雄〕



キュウリ　雌花

きゅうりうお【胡瓜魚】硬骨魚類・キュウリウオ科。全長20cmほどになり，マイワシなどに似た形で細長いが，あぶらびれがある。背部はかっ色，腹部は銀白色。北海道以北の沿岸にすみ，春に川を上って産卵する。キュウリに似たにおいがあるのでこの名がついた。食用。

きゅうりりゅう【穹窿】⇨ボールト

きゅうりりゅう【九龍】カオルン　香港(ホンコン)島の対岸，九龍半島の先端にある都市。人口約130万。面積10km²。イギリスは1824年の南京(ナンキン)条約によって清(しん)国から香港島とその属島を獲得，次いで1860年の北京(ペキン)条約によって九龍を割譲させ，さらに1898年，深圳(しんせん)河以南の九龍半島(ニューテリトリーといわれる)の租借権を得た。市街はカコウ岩を基盤とする丘陵地の南西端にあたり，香港島のビクトリア市との間はフェリーボートでひんぱんに連絡している。広九鉄道の始発地で，約1時間で国境の深圳に到着する。以前は紡績・セメント・たばこなどの工業が存在したにすぎなかったが，第2次世界大戦後は繊維・金属・ゴム・食品・電気製品などの工業が急速に発達した。〔船越昭生〕

きゅうりりゅうちゅう【九龍虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゴミムシダマシ科。体長6〜8mm，体は細長くやや扁平(へんぺい)で，光沢のある黒かっ色。触角・口器は赤かっ色，脚・体の腹面も赤みをおびる。鞘翅には点刻が密布し，多くの条線が走る。ほとんど全世界に分布し，幼虫・成虫ともに貯穀類や乾果類などを食害する。1年に数世代を経過し，適温のもとでは冬季でも活動し摂食する。成虫を生きたままうのみにすると強壮の効があるといわれ，1940年ごろと近年に流行したが，その効果については医学的になんら根拠がない。

きゅうりょう【丘陵】高度がおよそ300mまでの小さい起伏をもった丘の地形を丘陵とよんでいる。丘陵は険しい地貌(ちぼう)をもっていないのが普通で，山頂は丸みをおびていることが多い。しかし，平地からは高度差が大きく見えるので，しばしば山という名を冠してよばれることがある。たとえば，関東平野の武蔵野(むさしの)台地の中にある狭山(さやま)丘陵はその名のとおり山とよばれている。丘陵の中でも老年期のものは特に起伏がなだらかで，谷は広く開け，農耕地などに利用されている。これに対して若い丘陵は狭く深い谷が切り込んでいる。この狭い谷も農耕地に利用されて主要な生産地区になっている。丘陵を形成する地質が若い場合には，なだらかというよりも岩屑(がんせつ)におおわれていて，谷も農耕地にならずいわゆる荒地の状態になる。瀬戸内海沿岸の盆地にはこの例がみられる。盆地の周辺がゆるやかに傾斜した硬軟2層の互層になっているときは，柔らかい地層が侵食されてかたい地層が周囲の低い丘陵よりも突出し，いわゆるケスタ*地形をつくる。

きゅうりょうく【休猟区】狩猟者のために狩猟鳥獣を増殖させる区域。狩猟を一時休止する区域なので休猟区という。休猟区は都道府県知事が3か年以内の期間を限定し，可猟地域の5分の1程度を常時休猟区に指定することにしている。1か所の休猟区の面積は，おおむね1953年(昭和28)以前(町村合併前)の市町村の面積とし，可猟地域中に均等に分布するよう設定することにされている。休猟区では狩猟を禁ずるほか，キジやコジュケイなどを放鳥して増殖が図られている。➔狩猟　〔白井邦彦〕

きゅうれき【旧暦】一般には改暦時を境として，それ以前の暦法をさす。日本では，1872年(明治5)にグレゴリオ暦*が採用される以前の太陰太陽暦*をいう。1684年(貞享1)渋川春海*が貞享暦(じょうきょうれき)をつくるまでは中国の暦を輸入して使っていた。その後，宝暦・寛政年間(1751〜1800)に改暦が行なわれ，1842年(天保13)に幕府の天文方渋川景佑(かげすけ)の編纂(へんさん)した天保暦(てんぽうれき)が最後の旧暦である。旧暦は現在では公式には用いられていないが，農業・漁業への便宜のためと地方で古い風習・慣行への愛着から使われているところがある。

きゅうろくじま【久六島】青森県の日本海岸，艫作崎(へなしざき)(黄金崎(こがねざき))の西方約30kmの沖合いにある無人島で，三つの岩礁からなっている。最大の岩礁は長さ55m，幅30mで，海抜約5mの二つの丘がある。草木も水もなく，霧の深いときには船と見誤ることもあり，航海上の難所である。しかし付近の海面は，ホッケ・アワビ・タナゴ・海藻(かいそう)などの好漁場で，明治以後青森県と秋田県の間で帰属をめぐって争われてきたが，1953年(昭和28)青森県への編入が決定し，現在西津軽郡深浦町に属している。しかし，秋田県側にも漁業の入会権が認められている。〔浅井得一〕

キューオーツー［Q_{O_2}］呼吸係数または酸素消費度ともいい，酸素吸収の速度を示す符号。呼吸の大きさを表わすのには，一般にQ_{O_2}を用いることになっている。これは乾燥重量1mg(または1g)の生体が1時間に吸収した酸素量をμlで計算した値である。同様に排出した二酸化炭素量をμlで表わすときにはQ_{CO_2}を用いる。一般にガス変化の速度を表わすのにQ_Xなる値が用いられ，Xは測定される物質を示す。Q_{O_2}は呼吸量を表わす以外にも，オキシダーゼなど

のようにガスの消長を伴う酵素反応の速度を表わすときにも用いられ，検圧計や容量分析法で吸収または排出されるガス量を測定し，ガス変化の速度を酵素材料の乾燥重量あたりに計算してこの符号で示すことがある。いま，乾燥重量10.8mgの酵母が30分間に177μlの酸素を消費したとすると，$Q_{O_2}=\frac{177\times 2}{10.8}=32.8$となる。〔山崎博子〕

キュクロペス［Kyklopes］ギリシア神話の1眼の巨人たち。単数はキュクロプス。ホメロスによれば，彼らはオデュッセウス*がトロヤからの帰途に立ち寄った島に住んでおり，彼とその部下たちはキュクロペスのひとりでポセイドンのむすこであるポリペモスに捕われ，朝夕ふたりずつ食われた。ヘシオドスによれば，彼らはウラノスとガイアの子で3人兄弟であり，ブロンテス（雷鳴）・ステロペス（雷電）・アルゲス（閃光（せんこう））とよばれ，ゼウスのために雷電をつくり，ヘパイストス*の下で鍛冶（かじ）仕事をしているという。噴火山の擬人化とされる。

キュニコスは【キュニコス派】アンチステネス*を祖とするギリシア哲学の一派。名称の由来は，アンチステネスの学校の所在地がアテナイの東郊キュノサルゲス（白いイヌ）にあったからとも，この派の代表的人物であるシノペのディオゲネス*が模範的に示した〈キュニコス-ビオス〉（イヌのような生活）からともいわれる。犬儒学派とも訳される。この派は，ソクラテス*の思想を禁欲主義の方向に発展させ，大部分の快楽はあてにならず，幸福をもたらすことがないとした。そして幸福は徳と和に基づき，努力や労苦の結果としての快楽こそ持続的な善にほかならないとして禁欲生活を説いた。また，欲望の根源たる外的条件にとらわれることを否定し，できるだけ自然に近い簡素な生活を理想として，ディオゲネスのようにこじき生活を送る者もあった。知識よりも実行，制度や文明を否定する反社会的態度などがこの派の特徴である。紀元前3世紀ごろが隆盛期であった。〔本橋正義〕

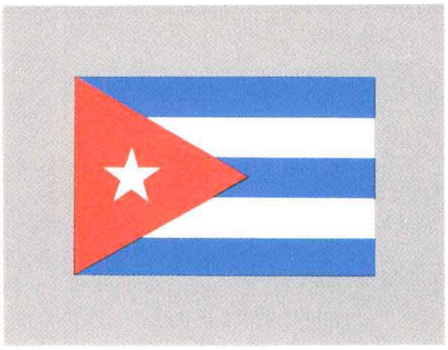
キューネ［Wilhelm Kühne］（1837～1900）ドイツの生理学者。アムステルダム大学およびハイデルベルク大学教授。酵素に関する先駆的研究を行ない，1874年トリプシンを単離し，網膜からポルフィロプシン（視紫）・ロドプシン（視紅）を抽出した。また神経および筋肉の生理化学的研究を行ない，《生理化学教科書》を著わした。

キューねつ【Q熱】リケッチア*による伝染性疾患。オーストラリアのクィーンズランドで発見され，その地名のかしら文字をとってQ熱とよばれる。やや不規則な高熱と頭痛，白血球増多などがみられ，原発性異型肺炎に似た肺炎を伴う。ふつう発疹（はっしん）はみられない。ダニによって媒介され，ヒトからヒトへの感染はみられない。潜伏期は12～26日で，治療にはクロルテトラサイクリンが有効。死亡例はほとんどない。予防には患者のたんと排泄物（はいせつぶつ）および家畜の乳などをよく消毒し，ダニを駆除する。〔国井乙彦〕



キューバ

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



キューバの国旗　1902年制定。3本の青い帯は独立当時の三つの地域，白は純潔，三角形は国民の団結を示している。白い星はキューバの主権と独立のシンボルである



近代的な高層ビルの建ち並ぶ首都ハバナの中心部。緑濃く広いプロムナードをもつ街路が，海岸まで続いている

キューバ（共和国）［Republic of Cuba, República de Cuba］西インド諸島最大のキューバ島とその周辺の小島からなる共和国。面積11万4,500km²。人口1978万（1979）。首都ハバナ。キューバ島は，北はフロリダ海峡を隔ててアメリカ合衆国のフロリダ半島に対し，西はユカタン海峡を経て対するユカタン半島とともにカリブ海とメキシコ湾を分ける。北・南両アメリカ大陸唯一の社会主義国。

〔自然〕ほぼ東西に細長いキューバ島は，いくつかの丘陵性の山地があるほかはきわめて平坦（へいたん）な地形を示している。島の東南端を標高約1,000mのシエラ-マエストラ山脈が東西に走り，最高峰はピコ-ツルキノ山（1,950m）。この山脈の西から島の西まで石灰岩の丘陵が波状の起伏をなして続き，西端に低いシエラ-デ-ロス-オルガノス山脈がある。細長い島のため，東部のカウト川が舟運の便がある唯一の川で，河口から120kmさかのぼれる。海岸線は岩石海岸が多く，出入りに富み，各所で良港湾に恵まれている。土壌（どじょう）は石灰岩の風化したアルミニウムと鉄分を含む多孔質土壌で，肥沃（ひよく）な耕土が厚く平地をおおい，サトウキビ栽培に好適である。キューバ島は熱帯圏にあるが，季節の変化もあり，ハバナの年間気温は最低22℃，最高27℃（平均気温約24℃）で，季節風の影響によって乾雨季が分かれる。気候の地域差は東西間には少なく南北間には大きい。冬は北東季節風によって北部で雨が降り，夏は南東季節風によって南部に雨が多い。年降雨量は1,000～1,800mm程度である。ハリケーン*は5～10月にかけて西南部をかすめて通り，生長期にある作物を大量の雨で潤すが，大形のものは多大の被害を与えることがある。

〔住民〕住民の約73％がスペイン系ヨーロッパ人であり，西インド諸島中では白人の比率が最も高い。ほかにアフリカ系黒人，インディアンと白人との混血（メスチゾ）が住んでいる。人口密度は1km²あたり約85人で，西インド諸島中では最も少ない。住民の文化はスペインの影響が強いが，距離的にアメリカ合衆国に近いことから，国語であるスペイン語のほかに英語も用いられ，特に都市ではアメリカ文化の影響が大きい。

〔産業・経済〕主要産業は農業で，国土は肥沃な土壌に恵まれているが，多くの農地がサトウキビとタバコの輸出用商品作物で占められ，このため自給用穀物の生産は需要に満たず，かなりの量を輸入している。甘蔗糖（かんしょとう）の生産高は年間約500万tで，世界第1位である。これは最大の市場アメリカ合衆国が隣国にあったこと，またアメリカがキューバ糖の輸入に特別の優遇措置をとってきたことなどの好条件があったことによる。サトウキビ畑は全耕地の半分以



キューバ　(左)ヤシの木の並ぶ首都ハバナの革命広場。ゲバラの巨大な肖像画とスローガンを掲げ，新興の気運がみなぎっている
(右)西部地方に見られるビニルハウス内での葉タバコの収穫風景。良質の葉巻きは，ハバナタバコの名で世界的に知られる

上を占め，全労働者の約3分の1はサトウキビ畑と製糖工場で働いている。粗糖生産高は1952年の790万tを頂点としてしだいに減少したが，なお世界の甘蔗糖生産量の約5分の1を生産している。1958年の革命以後，従来輸出砂糖の70～80％を買いつけ，最大の市場であったアメリカと国交を断絶したため，輸出先はソ連・東欧諸国へと大きく変わった。一時は食料自給と単一経済からの脱却を政策に掲げ，サトウキビの生産が減少したが，国際収支上の赤字から政策の再検討がなされている。革命前のキューバでは大土地所有制度が行なわれて少数の大地主が農地の約半分を所有し，サトウキビはこのような大農場を中心とする単一栽培によって生産された。優秀な製糖工場もアメリカ資本の経営で，工場経営者の中には農園を直営するものもあった。1959年5月，革命政府は土地改革の実施を決め，社会主義方式による農場経営を採用し，大土地所有をすべて禁じ，また小農の共同経営化を推し進めて，ソビエト式の集団農場や国営農場に改編した。またタバコは世界的に有名な良質の葉巻きを産し，西部の小農場で集約的に栽培されており，たばこ工場は首都ハバナとその周辺に多い。ほかに東部でバナナ，ピノス島でグレープフルーツ，ハバナ郊外でパイナップルなどを産する。

鉱産資源は銅・マンガン・ニッケルなどを開発中である。1961年以来，1962～1965年の経済発展4か年計画，1966～1971年の第1次工業化計画などを推進して，農業依存経済からの脱却を図っている。砂糖以外の貿易では，革命前は機械類・石油などをアメリカから輸入していたが，革命後はアメリカによって経済封鎖がなされたため共産圏や日本などから輸入するようになった。鉄道・道路網が国土をおおい，交通は比較的発達している。

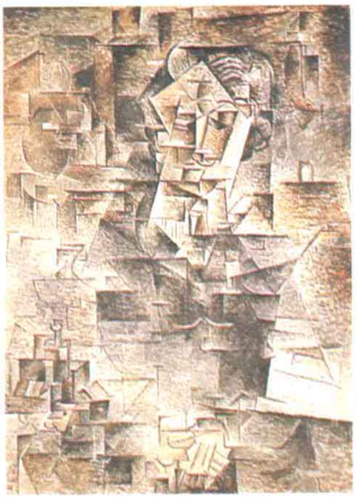
〔歴史・政治〕 キューバ島は1492年コロンブスによって発見され，インディアンがクーバとよんでいたところからキューバという島名がつけられた。以来スペイン人は島内各地に植民地を建設し，1519年北西岸にハバナ市を建設して，ここをこの経営の中心とした。本格的な開拓は16世紀後半以後で，サトウキビとタバコの栽培が開始され，アフリカの黒人奴隷を労働力として使った。アメリカ合衆国が独立するとキューバにも独立運動が起こり，1820年からはしばしば内乱の形をとるようになった。1895年から独立運動が起こり，1898年にはキューバ在住のアメリカ人保護のためにハバナに入港したアメリカ軍艦が撃沈されたことを契機としてアメリカ-スペイン戦争に突入し，アメリカ軍はキューバ島を占領した。アメリカの援助によって，キューバ共和国が誕生し，1901年憲法を制定し，1902年にはエストラダ-パルマが初代大統領となった。全国を6州に分け，それぞれにかなりの自治権を与え，大統領が元首となり，二院制の共和制を敷いた。しかし，独立の際の経緯から政治的にも経済的にもアメリカの影響力が大きく，アメリカ資本はサトウキビ農園，製糖・電信電話・電力会社など各方面に進出し，東南部のグアンタナモにはアメリカ海軍の軍港が建設された。キューバ国内の大地主層はアメリカ資本の経営する農園や会社に共同出資者として加わり，一般農民の生活はきわめて貧しかった。また政情不安と独裁政治の交替も民衆の反感をいっそう募らせ，第2次世界大戦後の1954年から大統領に就任したバチスタの独裁政権を倒そうとしてカストロ*らの革命が起こった。革命は1959年ハバナを落として成功し，同年に制定した国家基本法は，議会制度の規定を削除して，共産党中央機関が政策の決定にあたることになった。大統領制をとっているが，カストロは首相として社会主義政策を実施し，アメリカ資本による諸企業をすべて国有化し，大土地所有制を廃して，集団および国営農場制を採用した。1960年にはソ連や中国と国交を結んだため，アメリカはキューバの孤立化と経済制裁を策して1961年に国交を断絶した。他の中南米諸国もアメリカにならう国が多く，1962年には米州機構*から除外されたが，メキシコだけは国交を続けている。このため，国家の目標を社会主義体制の建設においていることもあって，社会主義国との結びつきを深めつつある。〔小栗　宏〕

キューバかくめい 【キューバ革命】 20世紀ラテンアメリカにおいて，メキシコ・ボリビアの革命に次ぐ第3の社会革命。特に徹底した社会主義社会の建設をめざしている点で，他の2革命とは異質である。

キューバの独立は，他の中南米諸国より遅れ，19世紀末のことであった。しかも独立後においても，〈プラット修正*〉によって実質上はアメリカの保護国とされた。1934年プラット修正は廃棄されたが，キューバの経済的なアメリカ依存にはなんの変化もなく，政治の実権も親米派が依然握っていた。1930年代にキューバの実力者となったバチスタは親米派の巨頭であり，独裁的政治で知られた。1952年クーデターで彼が再度大統領になると，国内に独裁反対の運動が高まった。その指導者のひとりカストロ*は一派を率いて，1953年7月26日，モンカダ兵営を襲撃した。この奇襲は失敗したが，以後カストロ派の反政府運動は〈7月26日運動〉と命名され，市民・農民の広範な支持を獲得した。そして1959年元日，ついにバチスタを追放した。反バチスタに参画したグループは雑多であり，思想的にも自由主義者，穏健な社会改革主義者らが含まれていた。しかし，しだいに穏健派は駆逐され，革命は社会主義的性格を濃くしていった。特に，1959年5月の農地改革法の制定は，キューバの社会主義化を大きく前進させた。また，アメリカ系会社の土地と資産の接収によってアメリカとの関係は悪化し，1961年1月両国は断交した。同年4月にはアメリカ政府の援助による反革命軍の侵攻を招いた。この侵攻を撃退した直後，カストロは社会主義革命を宣言し，ここに革命の基本路線が定められた。一方，共産圏との関係は緊密の度を加え，1962年10月には，キューバをめぐる世界戦争の危機，いわゆるキューバ危機を招いた。その後もソ連の援助に依存する面が少なくない。しかし，キューバはソ連の平和共存政策には批判的である。内政面では，カストロは革命支持の諸党を糾合して社会主義統一党を結成。1965年これを共産党と改称して指導権を握った。軍の実権も彼が掌握し，こうして軍と党にささえられた彼の指導力は依然強力である。しかし，経済面ではなお多くの困難をかかえ，特に消費物資の不足は国民の不満をかっている。革命の進展は経済問題の克服いかんにあるといえよう。〔松下　洋〕

キュビエ ［François Cuvilliés］（1698～1768）ロココ様式をドイツへ移植したベルギー人の建築家。1720年パリでロココ

キュービスム



ピカソ
《D.H.カーンワイラーの肖像》
1910

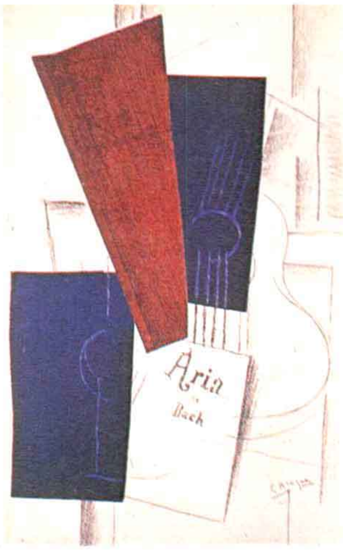
レジエ
《形態の対照》





グリス
《新聞のある静物》
1916

ブラック
《バッハのアリア》



様式を学び，1725年バイエルンの宮廷建築家に任ぜられ，ミュンヘンを中心に活躍。その手になるミュンヘンのバイエルン公によってつくられた宮殿ニンフェンブルクの庭園内にあるアマリエンブルク宮は，小ベルサイユともいわれる。

キュビエ [Georges Léopold Chrétien Frédéric Dagobert Cuvier] (1769〜1832) フランスの動物学者・古生物学者。モンベリアールに生まれ，シュツットガルトのカールスシューレ(旧兵学校)を卒業後，下等動物の研究を始めた。1795年，パリの自然博物館に就職，1802年教授となる。彼の生物学上の業績としては，比較解剖学の大成，相関原理の提唱，古生物学の創始，動物分類の四型説をあげることができる。彼は，無脊椎(むせきつい)動物の比較解剖学的研究に基づき，動物体を構成する一つの器官の形態は，他の器官の形態と一定の関係を示すという事実(相関の原理)を発見した。さらに，この原理を古生物学に応用し，骨格化石の一部からその古生物の形態全般を推定する方法を明らかにした。また，比較解剖学の研究成果に基づき，すべての動物は，脊椎動物・軟体動物・関節動物・放射動物に4分されると主張した。この分類はラマルクのそれとともに，動物の近代的分類の端緒をなしている。なお，上記の諸研究は，進化論に根拠を与えるはずであるが，キュビエ自身は進化論者ではなかった。彼は〈地球上に何回か天変地異が起こり，そのたびに生存しえた種が繁殖して分布を広めた〉と主張している。〔中村禎里〕

キュービスム [cubism] 1908年から1914年にかけて，パリを中心に興った前衛的美術運動。立体主義または立体派ともいう。ピカソ*・ブラック*によって創始され，現代造形美術にきわめて大きな影響を与えた。グリス*・レジェ*・ドローネー*らが代表的な画家である。1908年に，ブラックが現在キュービスムの代表的な画商とされているカーンワイラーの画廊で個展を開催した際，評論家ボークセルが〈すべてがキューブに還元されている〉と評したことからこの名称が起こった。その歴史的発展は，次のような3段階に大きく分けることができる。①セザンヌ的な初期(1907〜1909)：ニグロ彫刻とイベリア半島の古代彫刻やセザンヌ・グレコらの影響を受けたピカソと，おもにセザンヌの影響を受けたピカソに刺激されたブラックのふたりによって，対象を幾何学的な形態で表現することが創始された時期であって，ピカソの《アビニョンの娘たち》，ブラックの《レスタック風景》が代表的作品である。②分析的な時期(1910〜1912)：立体的な対象を幾何学的・平面的な形態に分析し，一つの対象を多数の視点から得られた形によって合成している時期であって，色彩は放棄されて単色に近くなり，ルネサンス以来の遠近法も放棄された。このころ，グリス・レジェ・ドローネー・メッサンジェ・グレーズらが参加した。③総合的な時期(1913〜1914)：前期の終わりごろにきわめて小さな小平面と短い直線によって解体された対象が，徐々におおまかな平面に整理・統合されていった時期である。キュービスムは，物の外観ではなくて本質を表現しようとするもので，立体的な物を平面の画面上にいかに表現するかという問題から出発した主知的な絵画運動である。セザンヌに触発されて対象を幾何学的な形態によってとらえ，多視点から得た形象を合成した結果，伝統的な遠近法を放棄して画面の平面性を強調することになり，さらに文字・木屑(きくず)・砂粒，大理石や木板の目の模様の模写などによって画面の表面を強調している。紙片をはり付けるパピエ-コレはその頂点に位置する技法であり，浮彫的効果によって物体(物)への道を開いた。ピカソのパピエ-コレはそうしたキュービスムの探求から一歩を踏み出し，シュルレアリスム*にあるような傾向を示している。なお，アポリネール*・サルモンらの詩人とメッサンジェ・グレーズらの画家が，キュービスムの理論的確立に貢献した。キュービスムは第1次世界大戦前後の画壇にきわめて強い影響を与えたが，直接的影響下にある衛星運動としてネオ-キュービスム・オルフィスム*・ピューリスム*・未来派*がある。さらに原始美術*を再評価し，アブストラクト-アート*を準備し，空想的な絵画のための技法を確立した。なお，わが国においては，万(よろず)鉄五郎*・坂田一男(かずお)らにその影響がわずか

に認められる。〔末吉雄二〕

キューピッド ⇨エロス

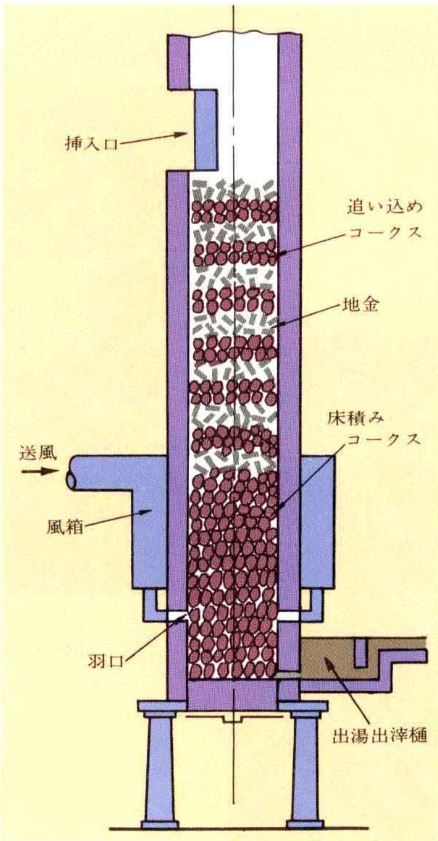
キュプラ [cupra] 銅アンモニア法によって製造した人造繊維。原料を酸化銅アンモニア溶液にとかして紡出する。きわめて細く柔らかで光沢があり，ビスコースレーヨン*よりやや強い。衣料用として婦人服・裏地・下着・和服などに，その他，カーテン・ふとん地・ふろしきなどに用いられる。なお，一般には取り扱いは普通のレーヨンと同様である。ベンベルグという商標で知られている。

キュポラ [cupola] 鋳鉄を溶解する炉。溶銑炉ともいう。円筒形の立て形炉で，内張りに使われる耐火物の種類により塩基性キュポラと酸性キュポラに分けられ，また炉体の一部を水冷したものを水冷キュポラという。燃料としてはコークスが使われ，原料には銑鉄・鋳鉄くず・鋼くず，それに成分調節のためのケイ素鉄・マンガン鉄や造滓材(ぞうさいざい)としての石灰石が使われる。下部にコークスを一定の高さまで詰め，上部の挿入口(そうにゅうこう)から地金とコークス・石灰石などを交互に挿入し，一方，下部から送風機で風を送ってコークスを燃焼させ，これに地金が直接接触して溶解する。電気炉などに比べて炉内のふんい気の調節が楽で溶解しやすいが，成分調節の困難なことが欠点である。〔加山延太郎〕

ギュヨー [guyot] 海洋底より1,000m以上そびえる海底の孤立した山を海山*というが，海山の頂上が平坦(へいたん)なものをギュヨーという。平頂海山ともいう。ギュヨーは第2次世界大戦後，北西太平洋で発見されてから，多数が同地域で発見されている。ギュヨーのいくつかの頂上から採集された岩石や，造礁サンゴや貝の化石類から，かつてはその頂上付近が海面上に出ていた火山で，波浪によって山頂部を削り取られ平坦化されてのちに，急速に沈降したものと考えられている。ギュヨーは，北西太平洋地域以外に南西太平洋・インド洋などでも発見されている。〔相原正彦〕

キュラソー ⇨リキュール

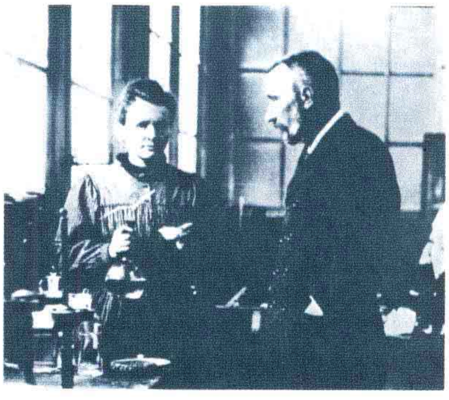
キュラソー(島) [Curaçao] クラサオ島ともいう。カリブ海，ベネズエラの北方64kmにあるオランダ領アンチル諸島中最大の島。面積452km²。人口14万3,000(1969)。1499年スペイン人オジェッタによって発見され，1624年以来オランダ領となっている。住民は，イギリス人・フランス人・シリア人・中国人・ニグロのほか，ムラートとよばれる白人と黒人の混血など多彩である。ベネズエラのマラカイボ湖に油田が発見されると，大形タンカーが接岸できるこの島に精油所が建設された。石油の精製を主産業としているが，キュラソー酒の原料となる甘橘(かんきつ)類の特産もある。主都ウィルレムスタッドは，18世紀につくられた美しい都市である。〔大崎　晃〕



キ ュ ポ ラ



キュラソー島　船だまりに沿って天幕張りのフルーツマーケットが店を出している。街頭には入植移民のいろいろな人種が見られる



キ ュ リ ー　(夫妻)　(左)マリー-キュリー　(右)ピエール-キュリー

キュリー [curie] 放射性物質の量を表わす単位。記号CまたはCi　当初(1910)はラジウムRa 1gが1秒間にラドンRnになる量と，Rnが1秒間にRaAになる量が等しい放射能平衡にあるときのRnの量6×10^{-6}gを1キュリーと名づけた。その後1950年，国際放射線標準委員会は人工放射性元素の出現などを考慮して3.700×10^{10}崩壊／秒の放射性核種の量を1キュリーと定義した。この値はRaでほぼ1gに等しい。なお，10^{-6}キュリーを1エマンという。〔福井崇時〕

キュリー(夫妻) [Pierre Curie, Marie Curie] (1859～1906)，(1867～1934) フランスの物理学者・化学者。ピエール-キュリーはパリに医師の子として生まれ，ソルボンヌ大学に学び，パリの物理化学学校の教授となった。ピエゾ電気の研究とそれに関連する電気計の考案，結晶の理論，さらに磁性物理学の研究(キュリーの法則，キュリー温度)などで学界に知られ，1895年マリー-スクロドフスカと結婚した。マリーはポーランドのワルシャワに生まれ，苦労しつつ科学に志し，当時ソルボンヌ大学に在学中であった。夫妻は当時発見された放射線の研究にいちはやく取り組み，放射能が原子に関するものであると推論して，新しい放射性物質の探究に向かい，新元素ポロニウム(マリーの祖国にちなんで命名)とラジウム(1898)を発見し，その性質を分析した。これらの功績により1903年，夫妻はベクレル*とともにノーベル物理学賞を受けたが，ソルボンヌ大学の教授となったピエールはまもなく事故死を遂げ，マリーが初の女性教授としてその後任者となった。以後マリーは単独で研究を続け，ラジウム原子量の精密な測定(1907)，金属ラジウムの分離抽出(1910)などを遂行，1911年には単独でノーベル化学賞を受けた。他方ラジウム研究所の創設(のちのキュリー実験所)に努力し，その所長として，フランス科学の進歩に貢献し，また第1次世界大戦中はX線医療班を組織して活動するなど，その活躍はめざましかった。➔ジョリオ-キュリー夫妻〔藤村　淳〕

キュリウム [curium] 超ウラン元素の一。記号Cm，原子番号96。質量数239～249の同位体があり，そのうち247は半減期が最も長く，4×10^{7}年以上である。1944年にシーボーグ*らによって，α線を$^{299}_{94}$Puに照射して96番元素としてはじめてつくりだされ，キュリー夫妻にちなんで命名された。

キュレネは 【キュレネ派】 アリスチッポス*を祖とするギリシア哲学の一派。アリスチッポスの生地である北アフリカのキュレネを中心に発展したところから，この名でよばれる。この派は，プロタゴラス*の感覚主義に基づいて，人生の目的は快楽であるとする快楽主義を主張した。アリスチッポスによれば，感覚的快楽は一時的なもの

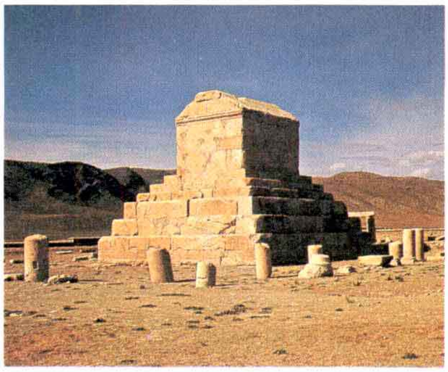
であるが，同時にそのためには識見も必要であるとされた。彼の考えはほぼそのまま娘から孫のアリスチッポスへと受け継がれたが，その後，テオドロス・アンニケリスのころには快楽よりも識見を重んずる精神的幸福が説かれた。さらにヘゲシアスは，快楽や幸福はけっして実現できるものでなく，むしろ苦痛に満ちた生活に無関心であることが必要であって，それができない場合には自殺するほうがよいとして，逆説的なペシミズムを説いた。この派は紀元前3世紀前半で衰えた。〔本橋正義〕

キュロス(2世) [Kyros] (?～BC530) ペルシア帝国*の建設者。在位BC559～BC530年。カンビュセス1世の子。メディア王国に服属していたペルシア諸族を率いて解放戦争を起こし，BC550年にメディア王国を滅ぼした。次いでBC547年には小アジアのリディア王国を征服。イオニアのギリシア諸都市も支配下に収めた。BC539年に新バビロニア王国を攻め，当時の世界の都バビロンを戦わずして占領した。捕囚のユダヤ人を解放したのはこのときである(→バビロン捕囚)。ただ一つ残されたオリエントの強国エジプトの遠征を行なうまえに，帝国の北東辺境を確保しようとして，BC530年に中央アジアの遊牧民マッサゲタイの国に侵入し，そこで戦死した。王の墓は，彼がペルシア本国に造営したパサルガダイ王宮の近くに現存する。王は寛大な政策で諸民族に臨み，ペルシア人から〈父〉，ユダヤ人から〈牧者〉としてたたえられ，ギリシア人も彼に理想の王者を見いだした。〔佐藤　進〕

キュロット [cullotte] 元来は17～18世紀に男子が着用した，ぴったりとしたひざまでのズボン。今日では，女子がスポーツなどのときに着用する，ズボン状のたけの短いキュロットスカートをさす。

キュンメル ⇨リキュール

きょう [経] 仏教の聖典のこと。梵語(ぼんご)sūtra(スートラ)の訳で，修多羅(しゅたら)と音写する。〈たていと〉を意味し，守るべき金言が貫き収められていることから，古代インドでは広く用いられた語。狭義には，仏教の経典を経・律・論の三蔵*に区分した際の一つをさし，また，九分・十二部教といわれる分類の一つをも意味する。広義では，大蔵経*(一切経)とよぶすべての仏教の経典の通称として用いられている。ブッダ*の在世当時には，経は口承で受け継がれた。一方，ブッダは仏の教えはベーダ語で語られてはならない。各自の国語で語られなければならないと説得した。そのため，早くから各国語で伝承された。日本では漢訳経典の冒頭にある〈如是我聞〉から始まるのが一般に経の形式と思われているけれども，詩のみのもの，物語ふうのもの，比喩(ひゆ)的なものと，その形式は多岐にわたっている。また，文字に書かれるようになってから，インドでは貝葉(ばいよう)というシュロの葉に似た葉に彫りつけたものを中心に，樺皮(かひ)や黄紙のものもあった。中国では紙本が一般的で，折り本・冊子本・巻子本などがあるが，また石経という岩に刻んだ経が生まれた。これは廃仏の影響であることはいうまでもない。日本では，中国の影響を受けたが，写経の発達に伴い，紺紙金泥(きんでい)・銀泥・金銀泥や紫紙などの豪華なものが生じた。それと同時に絵入り経も現われた。また，経典の1章のみを独立して尊んだ一品経(いっぽんぎょう)や，扇子に記したものなども現われた。民衆に広めるために，文盲の者にもわかるように絵で記した盲経も採用されるに至った。日本で有名になった経は，《阿含経*(あごんきょう)》をはじめとする初期の経典，大乗仏教の代表経典《般若経*(はんにゃきょう)》《華厳経*(けごんきょう)》《維摩経*(ゆいまきょう)》《勝鬘経*(しょうまんきょう)》《法華経*(ほけきょう)》《無量寿経*》《阿弥陀経*(あみだきょう)》，その他の密教教典など数多く知られている。〔石上善応〕



キュロス(2世)　パサルガダイにある同王の墓

きょう [羌] いまの青海省を中心に中国西北辺にいたチベット系遊牧民族。漢代に西羌とよばれ，匈奴*(きょうど)とともに中国西北辺を侵した。五胡(ごこ)十六国時代にこの種族に属す姚(よう)氏が長安に後秦(こうしん)を建国し，一時華北の大半を領した。唐代にはタングート(党項)の名で現われ，11～

経



《一字一仏妙法蓮華経序品》(空海筆)　国宝　平安前期　善通寺蔵



《平家納経》(外装)　華麗な装飾経の中でも極限を示すものとして名高い　平安後期　東京国立博物館蔵



盲経《般若心経》　文字の読めない人を教化するためにつくられた〈摩訶般若波羅蜜多心経，観自在菩薩，行深般若，波羅蜜多時……〉と読む　江戸中期

13世紀に西夏*を建国した。

きよう 【貴陽】 コイヤン 中国貴州省中央部にある，同省の省都。人口180万(推定)。雲貴高原*の東部に位置し，長沙(ちょうさ)・昆明(こんめい)・重慶に至る諸公路の交通の中枢的位置を占める。鉄道も重慶・雲南などに通じる。市街は楕円(だえん)状の城壁で囲まれ，城内には官衙(かんが)・学校・寺院や商店が集中している。行政の中心都市であるとともに，最近では城外に種々の工場が建設され，工業化が進んでいる。農産物や林産物・畜産物の集散地でもある。 〔千田 稔〕

ぎょう 【行】 仏教用語。①梵語(ぼんご)sanskāra(サンスカーラ)の訳で〈つくること〉を意味する。仏教の十二縁起*の第2にあげられる行は，現在の果報を招くべき過去の業*(ごう)と解釈される。また，五蘊*(ごうん)の第4の行蘊ははじめ意志の意味であったが，のちに色・受・想・識の四蘊以外の有為法(すべて因縁の集まりによってつくられた現象的存在)をさすようになった。②梵語gamana(ガマナ)の訳で，〈歩み行くこと〉を意味し，仏教でいう四威儀(行住座臥(ぎょうじゅうざが))の一つ，すなわち僧侶(そうりょ)らの歩行の際の注意すべき行儀作法をさす。③梵語carya(カルヤ)，またはcarita(カリタ)の訳で，〈動作・行為・実践〉を意味し，仏教において悟りのための実践・修行をさす。 〔佐藤良純〕

ぎょう 【堯】 中国上古の伝説上の聖天子。五帝のひとり。帝嚳(ていこく)の子。陶唐氏と号し，平陽(山西省臨汾(りんふん)県)に都したとされる。儒家からは理想的な徳政を行なったとして尊崇を受けた。帝位をその子の丹朱に譲らず，その大孝を聞いて二女をめあわせた舜*(しゅん)に譲った。禅譲のはじまりとされる。

きょうい 【胸囲】 胸郭周囲の大きさ。胸郭は体力に関係する肺・心臓を内蔵するため体力の評価に用いられる。測定方法は必ずしも統一されていないが，一般には，肩甲骨直下部を通り乳頭直上部に至る周囲を測定する。呼吸による差が大きいため，呼気時・吸気時両方の平均をとる方法，あるいは安静時とする方法がある。

きょういく 【教育】 ⇨次ページ

きょういくいいんかい 【教育委員会】 1948年(昭和23)制定の〈教育委員会法〉によれば，教育委員会は，新憲法および教育基本法*の精神にのっとり，公正な民意により，地方の実情に即した教育を行なうために，教育行政*の民主化を図り，地方分権化を徹底することによって，教育本来の目的を達成するための地方教育行政機関として設けられ，地方住民の直接選挙による教育委員で構成され，一般行政から独立して運営されるとあった。しかし，1956年にこの法律は廃止され，新たに〈地方教育行政の組織及び運営に関する法律〉(略称〈地方教育行政法〉)が制定・施行された。これは教育委員任命制を骨子とし，教育の政治的中立と教育行政の安定，教育行政と一般行政との調和，国および都道府県・市町村を通ずる教育行政の一体化・体制化，つまり，教育行政の中央集権化を志向したところから，旧法施行時と比べて，教育委員会の性格は異なってしまった。 〔山崎昌甫〕

きょういくえいが 【教育映画】 観賞者を教育ないし啓蒙(けいもう)する目的でつくられた映画。主として学校教育や社会教育の場で教材として使われるような映画をさすが，最近，視聴覚教育*の有効性が認識されるようになってから，いろいろな種類の映画が広く教育の目的に利用されるようになってきた。国策宣伝映画や企業PR映画なども広義の教育映画とみなすことができる。

きょういくがく 【教育学】 教育を研究対象として科学的・体系的に理論づけた学問。英語で教育学を意味するペダゴジーはギリシア語のパイダゴーゴス〈子どものあとからついていって導く人〉に由来する。教育学の始祖は，19世紀初めに《一般教育学》を著わしたヘルバルト*といわれ，コメニウス(→教授法)・ペスタロッチ*・フレーベル*らの教育に関する理論は，科学としての体系的理論構成に欠けるため，教育論とされている。ヘルバルトは倫理学で目的を，心理学で方法を理論化し，教育学を体系づけた。この体系は，ヘルバルト学派によって展開され，ヨーロッパ・アメリカの19世紀後半の教育学を構築した。最近の教育学は，教育科学あるいは教育の科学を意味する。これは，従来の思弁的・哲学的教育学を批判し，近代社会の教育問題に照応した実証的研究を行なう。そこでは，教育問題の所在を明らかにし，その実態の追求に基づいた方向を科学的に究明する学問として，専門分化が進んでいる。その結果，教育哲学*・教育史・教育社会学*・教育心理学*など多くの分野で理論の体系化が試みられている。 〔赤司政雄・浜田陽太郎〕

きょういくかてい 【教育課程】 ⇨カリキュラム

きょういくかんじ 【教育漢字】 義務教育の期間において読み書きともにできるように指導すべき漢字の意で，1947年(昭和22)2月16日〈内閣訓令,同告示〉によって公布された〈当用漢字別表〉の俗称である。当用漢字*が一般社会で使用する漢字の範囲を示したものであるのに対し，その中から国民教育における漢字学習の負担を軽くし，教育内容の向上を図るために，義務教育の期間に，読み書きともにできるように指導することが必要であると認められた881字である。当用漢字は義務教育修了者がいちおう読解できることがたてまえで，その中で特に書字能力を要求するものであるから，〈書き取り漢字〉とよぶこともある。1958年10月1日公布の〈小学校学習指導要領国語〉では〈学年別漢字配当表〉を添えて881字を学年別に配当しているが，1968年7月11日公布され，1969年度から実施された新学習指導要領では881字に115字を加えた学年別配当(1年46＋30，2年105－30＋70，3年187－70＋78，4年205－78＋68，5年194－68＋69，6年144－69＋115字)がある(各学年の最初の数字はまえの配当漢字数，＋は次学年から繰り上げ〔6年は新しく追加〕，－は前学年へ繰り上げた字数を示す)。 〔石黒 修〕

きょういくきほんほう 【教育基本法】 〈日本国憲法の精神に則(のっと)り，教育の目的を明示して，新しい日本の教育の基本を確立するために〉1947年(昭和22)に制定された法律。教育の基本的理念を明らかにする第1・2条，各種の教育制度のあり方を述べる第3～9条，教育行政*の目標・責任を明確にする第10条など，全11条からなる。第2次世界大戦前の教育勅語*を基底とした勅令主義の教育行政に対し，戦後のそれは，この教育基本法に基づく法律主義に立つことを鮮明にした。 〔山崎昌甫〕

きょういくきゅうこくろん 【教育救国論】 現代中国の教育思想。1920年代,軍閥政府下の教育界は，あいついで訪中したデューイ・モンローらアメリカ教育学者の思想の影響が強く，教師たちの間に，経済・政治の変革と切り離して，教育による社会改造を幻想する観念が広がった。これを教育救国論あるいは科学救国論という。一部の論者は，この思想をプラグマチズム*の中国版であると規定した。半植民地下での革命の進展過程で，この思想の果たした客観的な機能は教育者を革命から逃避させ，ひいては反革命に走らせた。これが教育救国論批判の重点である。1920年代の状況からすれば，知識人の〈悪(あ)しき政治からの超越〉の姿勢という問題もある。デューイ教育学説との関連で，晏陽初*(あんようしょ)や陶行知*の思想およびそれぞれの政治行動が，中華人民共和国でのプラグマチズム批判の中でしばしば問題とされている。→武訓 〔斎藤秋男〕

きょういくぎょうせい 【教育行政】 教育基本法*・学校教育法*・社会教育法*などに基づいて，教育政策の意図を実現するのに必要な，教育条件の整備・確立を図る機能。おもな行政機関としては，内閣(特に文部省)および地方自治体(特に教育委員会*)がある。第2次世界大戦後，わが国の教育行政は，戦前の中央集権的な統制から解放され，教育委員会法によって地方分権化されたが，地方教育行政法の成立とともに，再び文部省の権限が拡大・強化され，中央集権化の傾向を示し，当初の指導助言行政から指揮監督行政に転換しつつある。 〔山崎昌甫〕

きょういくけい 【教育刑】 応報刑*に対立する用語で改善刑・目的刑ともよばれる。犯人を改善し教育して通常の社会人に復帰させることを目的とする刑罰思想。19世紀末から刑罰思想の主流をなしている。

教育

【概念と目的】教育とはなにかという問いに対してはさまざまな解答が考えられるが，一つの答えとして，人間が他の人間の発達ないし変革を意図して一定の価値に向けて働きかけることであるということができる。教育をする側が特定の意図をもたなくても，それを受ける立場の者が影響・感化される場合があり，そうしたとき〈教育〉があったとも考えられるが，その場合には，教育とは区別される〈形成〉という概念を用いたほうがよいという人もある。また，教育を意図的教育と無意図的教育とに分け，学校教育などでは前者が強く現われ，家庭の教育などでは後者の性格が強いと説明する人もある。他の人間に対して，意図的に働きかけるという点では，〈宣伝〉などが教育と似た機能を発揮するが，教育はそれを受ける立場の人間を主体的存在としてとらえ，外からの働きかけと主体の内部にある発達の法則性とが統一されて，人間の追究すべき普遍的価値に近づくというところに特質がある。もっとも，教育という名のもとに，主体の内的な発達の論理を無視した働きかけが行なわれたことは歴史的事実であるが，近代思想に立脚してそれをとらえなおすならば，そうした事実は教育とは区別される〈教化〉とよばれるのにふさわしい事実であった。

〈教育〉の概念を，その文字のとおり〈教え育てる〉とか，エデュケート（英語）とかエルツィエン（ドイツ語）ということばがもっている〈ひき出す〉という意味においてとらえなおされたのは，近代に至ってからであった。中世では，子どもは知識の受容器のような存在とみなされ，教育の客体にほかならなかった。しかし近代では，子どもは教育を受ける主体として考えられ，子どもが人間としての自己実現を図っていくために，教育を受けることは人間の基本的権利の一つとして把握(はあく)されるに至った。このことは，たとえばJ. J. ルソー*の思想に結晶してみられる。そして，そのような近代的教育観は，人間が中世的な権威と社会的拘束からみずからを解放し，みずからの自由と尊厳を確立するという歴史的課題に立ち向かっていく過程で確認されていったのであった。

【教育の社会的性格】教育は社会現象であり，政治や経済に規定されると同時に，社会のあり方を変えていく力をもっている。したがって，教育はそれぞれの社会の歴史的発展段階によって，また民族や地域によって多様な形態をとる。もともとそれは，子どもの親が労働を中心とした生活の中で次の世代を養育するために，それまでにたくわえてきた知識や技能，総じて文化を伝達する営みにほかならなかったのが，近代社会の成立過程で公権力によって社会体制の中に組織しなおされたのであった。

その組織化の方策は，大まかにいって二つに分かれた。すなわち，絶対主義といわれる社会体制においては，国家権力が教育の私事性を否定するような方法で義務教育制度を構築したし，ブルジョアジーが主導権を握った市民革命によって近代社会が成立した場合には，そこにおける公教育は私事性の教育を原則として組織されたのであった。

第２次世界大戦前の日本やプロイセン-ドイツの公教育には前者の性格が濃厚であったし，フランスやイギリスでは，後者の原則が尊重された。第２次世界大戦後の日本で，憲法や教育基本法において教育を受けることが国民の権利としてとらえられたことは，近代教育思想の原則をあらためて確認し，平和と民主主義を教育の志向すべき価値としてとらえたからであった。しかし，その後の教育の歴史的事実では，必ずしもそのような原則が順調に実現されていったわけではない。戦後20数年の歴史が示すように，教育の問題はしばしば政治問題の焦点になってきたし，今後も教育のあり方をめぐって種々の対立や抗争がひき起こされざるをえないであろう。それだけに，教育に対しては，国民のすべてが深い関心を寄せ，諸課題に積極的に取り組んでいかなければならない。

【教育の制度】教育は，人間の生涯(しょうがい)を通じて，どこにおいても行なわれるべきものであるが，今日世界各国で制度的に最も組織されているのが学校教育制度である。そしてそれは初等・中等・高等の３段階に分けられているのが普通である。初等教育は，国民の基礎的教養と資質の向上を主たる任務とし，中等・高等教育は，歴史的には，国家・社会のエリートのための教育から，しだいに大衆のためにも開放されてきている。

近代公教育制度の発展過程で起こった重要問題の一つは，学校制度における身分的差別の撤廃問題である。特に欧米では，両親の社会的地位，経済的条件ならびに宗教的信条等により就学する学校が分かれていたので，そのような制度を自由と平等を原則とする民主主義の立場から改革すべきであるという主張が〈統一学校運動〉として展開された。日本でも第２次世界大戦以前には，初等教育と中等教育との間に，単なる段階的区別ではない階層・階級的差別があった。戦後のいわゆる六三制*は，これを克服し，国民の教育権を平等に保障していくことを原則とした制度であった。しかし，今日では，特に後期中等教育制度および高等教育制度における多様化を推し進めようとする動きがある。

なお，教育制度全体の充実・発展のために世界各国が努力をしていることに，幼年期の教育，障害児の教育，成人の教育などがあり，〈生涯教育〉という新しいことばさえ使われるようになった。

【教育の内容と方法】教育を機能的に考えると，知識や技能を習得させることと，感情や意志などを鍛えることに分けることができる。前者は学力をつけることであり，後者は人格をつくることであるといってよい。教育学では，前者を〈教授〉もしくは〈陶冶(とうや)〉といい，後者を〈訓育〉といっている。日本ではそれらをそれぞれ教科指導，生活指導という場合が多い。

教授（教科指導）のためには，過去の文化遺産の中から教材を選び出し，文化のもつ固有の論理と学習主体の発達の法則性とが統一されるように教科課程*が編成されなければならない。また，学校では子どもの集団的自治活動の人格形成に果たす意義が認められ，教科外活動*が教育計画の中に加えられ，教科課程と統一されて教育課程が作成される。この教育課程の内容および編成主体についても問題は多い。言語・数理・科学・技術・芸術・体育といった文化領域の固有の論理を追究する専門諸科学と教育内容とが結合されなければならないし，そのことを実践的ににになう教師の教養とか権利が尊重されなければなるまい。

教育の方法についていえば，教授については教授学という学問分野が17世紀あたりから発達してきており，日本でも，ペスタロッチ*やヘルバルト*らの学説がすでに明治期から紹介・受容され，いわば教授の定型ができあがった。大正期では，アメリカのプラグマティズム*の教育理論などの影響も受けて，学習主体である子どもの自発性とか自律性が尊重される動向が顕著になった。戦後のいわゆる新教育は，そうした傾向をいっそう推し進めたが，他方では科学的な知識・技能の系統的な教授の必要性も強調され，教師・教育学者，民間教育研究団体などが教授学研究の前進のために貴重な貢献をしてきている。

訓育すなわち生活指導の研究も，戦後一段の前進と深まりを示した。特に戦前の生活つづり方教育の中に含まれていた集団主義的人間を形成する論理の追究がなされ，かつての遺産を継承しつつも今日の課題に答えることができるような指導の方法が研究されてきている。

教育は人間のもっている潜在的な発達の可能性を全面的に開花させていくことでもあるが，そのことを具体的・実践的に実証していくことはわれわれのきびしい課題である。

〔中野　光〕

きょういくけん【教育権】 教育権という語は，いろいろな意味に用いられており，その用語は統一されていない。①国民の教育を受ける権利，②親が子どもを教育する権利，③教師が教育に携わる権利，④国が教育行政を行なう権利，というように多岐にわたる。しかし，憲法26条は〈能力に応じて，ひとしく教育を受ける権利〉(１項)を保障しようとする(すなわち①の意味)のであって，そのために〈保護者の教育を受けさせる義務と義務教育の無償〉(２項)を定めている。つまり，国は〈国民の教育を受ける権利〉としての主たる教育の機会均等を実質的に保障する義務を負うのであり，その義務は国が教育に関する条件整備を行なう義務である。またどのような内容の教育でもただ受けられさえすればよいというものではなく，受ける教育の内容を国民自身が決定する権利である。それは国民が，社会的に生存するための労働の意欲と技術を修得し，憲法のめざす平和で民主的な文化国家の主権者を教育を通じて国民自身が育成することを保障するものである。その意味で，社会的生存権*(生存的基本権)である性格をもつ権利である。その権利の内容や教育の種類などは，法律たとえば教育基本法に基づく学校教育法・社会教育法・私立学校法などで定められる。なお，教育についての権利は，学校教育のみならず，社会教育*・家庭教育*においても保障される。〔永井憲一〕

きょういくけんきゅうじょ【教育研究所】 教育の理論・実際に関する調査・研究の機関。第２次世界大戦後，教育改革の一環として，1946年(昭和21)教育刷新委員会*が政府に対してその開設を建議したのに始まり，今日では各地に設立されている。総数は約300。設立者別の内訳は，国立１，都道府県立44，市区立139，私立25，国立大学付設25，その他となっている。主要な事業活動は，①教育の調査・研究，②教職員の研修，③教育相談，④調査普及である。近年，教育の総合的な施策の必要から，各地に教育センター設立の気運が高まり，教育研究所はその中心的な機能を果たしつつある。なお，教育研究所相互の連絡協議の機関として，全国教育研究所連盟*が置かれている。〔佐藤英一郎〕

きょういくけんきゅうぜんこくしゅうかい【教育研究全国集会】 教育上の諸問題を全国的レベルで研究討議する集会。日教組*主催によるものと，文部省が実施するものとの二つがある。日教組主催による教育研究全国集会は，1951年(昭和26)日光で第１回が開かれ，以来，各支部・都道府県単位の教育研究集会と積み上げられ，毎年１月，全国集会が開かれることになった。当初は，山積する教育環境の解決すべき課題に研究が集中していたが，1955年の第４回長野集会を期に，教科別研究にも着手，〈平和を守り真実を貫く民主教育の確立〉を基本目標に，問題別・教科別研究が今日まで続けられ，その研究成果は《日本の教育》と題され，年次報告として刊行されている。一方，文部省も，1958年の教育課程改定を機に，この内容の定着化のために，都道府県単位から全国へと研究集会を開催した。しかし，この教研集会は，学習指導要領の伝達や，その能率的定着のための指導技術の研究が主流となっている。〔海老原治善〕

きょういくざいせい【教育財政】 教育行政*の運営に必要な財源を確保し，これを適切に支出するための国および地方公共団体の活動(特に国の財政活動)。アメリカでは，連邦財政からの教育費支出ばかりでなく，各州の教育委員会が一般行政区から独立した教育区における教育税の徴収権をもつから，教育財政が独自の領域として問題になりうる。しかし一般的には，アメリカをも含めて，地方公共団体の教育費*の膨張傾向は，国家財政のうち教育費負担の占める比率をいよいよ増大させるので，教育財政は，国家の教育政策を有効に実現する教育行政活動の経済的裏づけを与える，国家財政の一領域として考えられる。したがって，教育費支出をめぐる財政活動を通して，教育政策の性格などが把握(はあく)しうるとされる。最近のわが国の財政における教育費の比率は約12％，うち地方教育費補助は61％，この地方教育費補助の96％は義務教育費補助である。他方，地方財政においては，教育費の占める比率は地方歳出総額の28％もの高率で，うち国庫負担金・補助金などを除く地方純負担額は，実に75％に上る。これは地方教育費の支出にあたって，地方公共団体が設置する学校の経費は設置者負担，地方公共団体が行なう事務に必要な経費は地方事務費自己負担という原則によって，当該地方公共団体が負担するので，地方教育費による地方財政の圧迫は不可避的となる。そこで負担区分を明確化して負担の軽減を図る国庫補助要求が必要となり，逆に財政による教育行政の中央集権化を促すという矛盾を生んでいる。〔山崎昌甫〕

きょういくしゃかいがく【教育社会学】 教育現象を社会現象の一つとしてとらえ，主として社会学的方法によって解明しようとする経験科学で，教育学の主要な部門の一。1922年に刊行されたデュルケム*の《教育と社会学》は，初期の教育社会学に理論的基礎を与えたとされる。わが国でこの学問が唱導されたのは明治の末期であるが，本格的には第２次世界大戦以後，アメリカの影響を強く受けて，教育の実証的研究が重視され，新制大学の教職教育の中に位置を占めてからといえる。こういう歴史の浅さから，現状では学問としての体系・方法論などが確立されたとはいいきれない。しかし，パーソナリティーの社会的形成，集団と教育，地域社会と教育，文化と教育，経済と教育，社会体制と教育，教育調査法などの領域を研究の主要な対象に，着実な実証的研究が行なわれ，教育の分析に貢献している。〔浜田陽太郎〕

きょういくしょくいんめんきょじょう【教育職員免許状】 教育職員免許法に基づいて授与される資格証明。普通免許状(一級・二級)と臨時免許状とがある。普通免許状には，小学校・中学校・高等学校・養護・盲学校・聾(ろう)学校・養護学校・幼稚園の各教諭免許状の８種類，臨時免許状は助教諭免許状である。なお，中・高等学校教諭の免許状は，それぞれの教科領域ごとに授与され，授与権者は公立学校教員が都道府県教育委員会，私立学校教員が都道府県知事である。〔山崎昌甫〕

きょういくしんりがく【教育心理学】 一般心理学の諸法則を教育場面に応用する学問，あるいは教育場面特有の諸現象を心理学的に研究する学問とされてきた。その成立は，20世紀初めのソーンダイク*による学習の研究，ビネー*による知能の研究などからといえる。おもな研究領域は，〈子どもの成長発達〉，教育の核心とされる〈学習の問題〉，将来にわたる生き方の基礎となる〈パーソナリティーと適応〉，〈教育評価〉の四つとされるが，このほかに学級の心理，教師・生徒の心理，特殊児童の研究などがしだいに重視されるようになった。研究の方法は，観察・実験・評定・調査・質問紙・テスト・面接などのほか，特有のものにアクション-リサーチ(教育現場内での実験的研究)がある。〔石原静子〕

きょういくせいど【教育制度】
〔定義〕一定の国家ないし社会がみずからの教育理念・教育政策を実現するために，法律を制定して設ける制度の総体。学校教育・社会教育*・教育行政*などの諸制度を含むが，狭義には学校制度と同義である。
〔教育制度の設置〕教育制度の設置には，国家ないし社会の政治権力の性格，経済発展の程度，文化の伝統・慣習，教育のねらい・水準などの諸要因が作用する。そして，社会的に公認されて教育制度が成立すると，国家ないし社会の体制の維持・発展を促す組織・機構として持続的に運営される。しかし，これはけっして不変の組織・機構ではなく，歴史のそれぞれの段階によって異なる形態をとる。
〔西欧における成立事情〕西欧においては，中世封建時代から近代にかけて，教育の支配権は教会から国家に移行し，教育政策の意図も，共同体意識の育成から国民意識の統一形成へと転ずる。こうした移行・転換を背景にして，総じて近代的な教育制度は，特権的・身分的な性格を脱皮し，公教育組織を中心にして民主的・普遍的な方向に発展を遂げる。
〔教会立学校の復活〕中世封建時代，ことに12～13世紀の西欧各地の商工業都市では，都市内部の生産様式や日常生活の変化ある

いは新しい政治・経済・教育文化のにない手としての専門的職業人養成の必要などに応じて，急速に教育需要が高まる。この波に乗って，長いこと衰微していた教会立の学校（司教座聖堂学校・修道院学校・教区学校など）が復活，また，ギルド立の学校，市政府立の学校や私人経営の学校が新たに成立・普及した。

〔教育の内容，学校の類型〕当初，学校で施す教育の程度は，高低まちまちであり，学校の種別や系統も必ずしも明確ではなかった。学校の類型としては，主としてラテン語の読み・書き・文法を教えるラテン語系の学校（文法学校）と，国語の読み・書きを教える国語系の学校とに大別できる。その後，諸都市に，おもに七自由科（三学＝文法・修辞学・論理学，四科＝数学・幾何・天文学・音楽）を教える人文学部と医学・法学などの高度な学問を授ける専門学部とからなる大学が発生。しだいに大学入学準備を施すラテン語系の学校が系列化されてくる。子どもは7～8歳で入学し，およそ10年間の課程を踏んだのち大学へ進むことができる。高い授業料を払って長期間教育を子弟に受けさせることは，一般民衆にとってきわめて困難であり，したがってラテン語系の学校は，いきおい支配者層や裕福な商工業者のための教育機関と化していく。他方，一般民衆の子弟は，国語系の学校に数か月ないし数年通い，日常の仕事や生活に役だつ程度の国語の簡単な読み・書きを習うことで満足しなければならなかった。西欧諸国は，絶対主義時代以降，この2系統の学校を截然（せつぜん）と区別しながら，それぞれの制度・施設・内容の整備・充実を図り，長期にわたって，いわゆる複線型学校制度を維持し続ける。

19世紀の70年代，イギリス・フランス・ドイツなど各国で，公立・無償・強制就学を内容とする義務教育制度*が確立。ようやく初等教育段階の単線化を実現した。さらに1920年前後，同じく各国で，すべての者に中等教育を与えようとする民主的な統一学校運動が展開したが，結局第2次世界大戦前において複線型学校制度をくつがえすことができなかった。

この間アメリカ合衆国は，18世紀末の独立戦争を境にして，普通教育制度*の樹立を促し，さらに20世紀にはいって，8・4制ないし6・3・3制の近代的・大衆的な単線型学校制度をほぼ完全に実現した。

また，ソ連は，ロシア革命成立の翌年（1918），〈統一労働学校令〉に基づいて5・4制の単線型学校制度を実施している。

〔日本における教育制度の歴史〕日本では，徳川封建時代の末期，すでに多数の学校が各地に普及しているが，社会的身分によって通うべき学校が異なっていた。諸藩は，城下町にみずからの資力をもって藩校*をたて，8歳から15～16歳までの武士階級の子弟を収容し，儒学を中心に読み・書き・算・武芸などを授けた。幕末には，全国で藩学校の数は，250余に上っている。また，各藩は藩学校を補う教育機関として，領内の各地に郷学を開設している。幕府は，1630年（寛永7）江戸に，これら全国の藩学校の範ともいうべき昌平坂（しょうへいざか）学問所*を開き，各藩から集まった武士階級のすぐれた子弟を対象に，漢学・国学・洋学・医学・兵学などを教授し，役人や教員を養成した。そのほか，各地に私塾（しじゅく）が設けられ，商人や豪農の子弟に漢学・国学・洋学などを教えていた。これらの学校や私塾に対して，一般民衆は自分の子弟を寺子屋*に通わせて，簡単な読み・書き・算を習わせた。幕末において，寺子屋の全国総数は，およそ30,000に達する。西欧との比較でいえば，藩学校・郷学などはラテン語系の学校，また寺子屋は国語系の学校にあたるといえよう。これらの学校は，江戸時代を通じて，それぞれ形態を整え，人民の教育水準の向上に資したが，制度上，互いに上下の系列関係や横のつながりをもたなかった。

〔明治期の教育制度〕明治維新後，新政府はすみやかな近代統一国家の成立を期し，富国強兵策の一環として，1872年（明治5）〈学制*〉を発布，近代的な教育制度の樹立に着手した。その後，一部，制度上の手なおしを経て，1885年森有礼文相が，教育制度の全面的改革に着手した。翌年から〈帝国大学令〉〈中学校令〉〈小学校令〉をはじめ各種の学校令が公布され，1930年前後に，すべての学校段階にわたり学校制度が整備されるに至る。こうした動きの中で〈学制〉の示す単線型学校制度はしだいにくずれ去り，大衆的・単線的な尋常小学校は存続・定着し，その上に中学校から高等学校・専門学校・大学へ進むエリートコース，高等小学校から実業学校・師範学校へという職業コース，高等小学校・低度実業学校のみで終了するコースなどが併存。ここに，日本的にして複雑な複線型学校制度が生まれることになる。

その成因としては，民主主義思想の未成熟，階級による差別，資本と国民の要求に基づく教育需要の多様化をあげることができよう。この間，義務教育年限は4年から6年に延長，義務制尋常小学校の就学率は90％をはるかに突破し，初等から高等に至る学校の施設や内容も，著しく充実し，部分的な制度改正も施された。また大正から昭和にかけて，臨時教育会議・教育審議会などの公的な審議機関や民間の諸団体が教育制度の再検討を行ない，各種改革案を提示している。これらの一部として，統一学制実施，義務教育年限の延長などの問題が取り上げられているが，こうした一連の動きにもかかわらず，敗戦に至るまで複線型学校制度は，なんら基本的変更もなく存続したのである。

〔第2次世界大戦後の教育制度〕〈日本〉戦後，日本のこれまでの教育制度は根本から倒壊する。連合軍総司令部は，占領後，直ちに日本軍の武装解除を遂行するとともに，超国家主義的・軍国主義的な制度や思想の排除に努めた。その施策の一環として，日本教育制度の管理方針を指示し，教育界の民主主義化・自由主義化を促進。1946年（昭和21）3月の第1次アメリカ教育使節団来日，同8月教育刷新委員会の設置を経て，教育制度の全面的改革案が具体化する。1947年4月，教育基本法は，法律主義，教育の機会均等，義務教育無償9年制，男女共学，などを内容とする新しい教育の方針を示した。と同時に，学校教育法の規定に沿って，従来の複線型学校制度の完全な廃棄が決定的となり，新たに，小学校6年，中学校3年，高等学校3年，大学4年の民主的・統一的な学校制度が成立する。この学校制度は，基本的な体系をくずすことなく今日に及んでいる。しかし，この間，科学技術の発展や産業の要請による高等専門学校*の設置（1962），小・中学校における〈道徳〉の時間の特設（1958）など，制度上の部分的な改正が行なわれている。最近では，文部大臣は中央教育審議会に対し〈今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策〉（1967年7月）を諮問し，その答申をまって，初等から高等に至る学校制度全般の改革に着手しようとしている。学校系統の改変，5歳からの義務制，後期中等教育・大学教育の多様化，学校管理の強化などが当面の課題としてあげられている。これに対して，父母・国民や教育者の間に，あくまでも教育基本法体制を守り，民主的・統一的な学校制度をいっそう充実・発展させようという立場から，文部省の改革意図に反対する世論や運動が高まりつつある。

〈各国〉戦後，イギリス・フランス・西ドイツなどの諸国は，なおこれまでの複線型学校制度を維持し，根本的な学制改革を断行するに至っていないが，最近徐々に，前期中等教育部分の単線化を策して，単線型学校制度への接近を試行しつつあるというのが現状である。イギリスでは，1967年現在，義務教育年限は10年であり，その就学率は99.9％に達している。1944年の教育令によって，中等教育の改革が図られたが，文法・技術・近代の3系統の分化，パブリック-スクール*の温存などにより，いまなお複線型は解消されていない。最近，大都市で総合制中学校への再編成が進行している。フランスでも，イギリスと状況がほぼ同じであり，前期中等教育に生徒の適性発見をねらいとする2年制の観察課程を設けているのが特徴。西ドイツでは，義務教育年限は9年。基礎学校の4年間のみが共通課程で，その上は，高等科・中間学校・ギムナジウムの三つのコースに分化し，複線型が根強

く残っている。アメリカは，単線型の伝統を維持し続けているが，初等・中等の学校系統の多様化，たとえば六・三・三制，八・四制のほかに四・四・四制，六・六制の採用というような傾向にある。ソ連では，最近大都市に10年制義務学校がおかれた。中等教育段階は，大学進学コースと職業教育コースの二つに大別できる。

〔教育行政制度の改革〕第２次世界大戦終戦後，教育制度上，大きな変革を余儀なくされたのは，教育行政制度である。戦前の教育行政における中央統轄，官僚統制，命令服従関係に代わり，教育基本法，学校教育の規定に則して，民衆統制・地方分権・一般行政からの独立を原則とする，近代的・民主的教育行政制度が施行され，公選制教育委員会の設置，文部省権限の縮小，行政の指導助言化が実現する。総じて，教育行政は，国民の基本的人権と教育を受ける権利を尊重し，教育の目的を遂行するに必要な諸条件の整備を目標とした。しかし，1956年の公選制教委の廃止を境にして，再び権力の中央集中や教育への関与，学校・教員の管理，さらに教育の思想や内容の統制などを強化する傾向にある。

〔佐藤英一郎〕

〔中国の教育制度〕《近代以前》古来，中国人には尚古(しょうこ)思想が強く，早くから理想的な教育が行なわれ，そのよりどころを儒教*の古典(〈四書〉〈五経〉など)に求める傾向があった。組織された学校という形態で，計画的な人材養成が意図的に実施されたのは，漢代(BC206～AD220)以降とみるのが妥当であろう。古代帝国の成立により，官僚制の確立と維持，文字・印刷技術の普及，儒教の国教化による教育内容の基準化という３条件が，学校教育制度を必要かつ可能にした。学制は唐代(618～907)に至って整備され，貴族の子弟からの人材養成(養士)が体系化された。隋(ずい)代(581～618)に始まる科挙*制度(高等文官資格試験)が，従来の世襲制をやめ，門戸を開いて以後，学校は科挙に従属する傾向を強めた。これに批判的な民間の学者が独自に学生の教育にあたったのが，宋(そう)代(960～1279)に続出した書院*である。清朝(しんちょう)は在野の学習・討論の統制を意図して，書院の官学化を行ない，科挙廃止(1905)の前後，全国の書院は学堂*に再編された。

《近代・現代》近代以前においては，実質上は地主階級の子弟が特権的官僚層となるための学校であり，試験制度であった。近代以後の，国民大衆を対象とした学制改革は，次の三つの段階に分けられる。第１段階は，清朝末期から中華民国初期の改革で，日本の明治維新と文部省学制をモデルとした。第２段階は，五・四運動以降はアメリカ六・三制を導入(1922)，国民党時代(1928年南京(ナンキン)政府成立)は思想的には反共・三民主義*教育を推進した。第３段階は中華人民共和国初期，ソ連学制のほぼ全面的な適用(1951)であった。第１段階以来，貧困と帝国主義侵略下にある大衆への教育普及と政治的自覚の向上が課題であった。1949年に成立した中華人民共和国は，この教育課題を引き継いだのである。

《文化大革命*と教育》中華人民共和国成立以後も，共産党・政府は労農大衆からの文盲一掃と，革命後継者養成の青少年教育に力を注いだ。ソ連の経験を忠実に踏襲して幹部要員を養成しようとする〈専門家路線〉と，解放区以来の民族的経験を重視し，生産労働と教育・政治の結合を優先する〈大衆路線〉との対立が底流しており，これが顕在化したのがいわゆる文化大革命(1966)である。

《文化大革命後の教育》休校を続けた大学は1970年８月，４年ぶりで新入生を迎えた。高校卒業生は工農業生産・辺境地帯開発などの労働に参加する。高校から直ちに大学には進学せず，各生産単位・人民解放軍などが大学入学者を推薦するのである。小・中・高を通じて，教材の簡素化，就学年限短縮の実験が進み，五・四制(小学５年，中学・高校各２年，これを９年一貫制という)がほぼ定着する見通しであり，高校以上は労働・学習のらせん型といえよう。目標は肉体労働もできれば精神労働(専門の理論研究)もできる人間，すなわち〈全面発達〉の人間養成にあり，学制は六・三・三制を最終的に廃止し，またソ連の義務制とも異なる独自の体系をめざしている。〔斎藤秋男〕

きょういくそうだん　【教育相談】　一般には，児童・生徒の教育上の諸問題について，教育学的・心理学的・社会学的・医学的基礎に基づいて，専門的カウンセラー*の指導助言を得るための相談をいう。大別して，通常の児童・生徒の教育指導(家庭および学校の)のための教育相談と，社会的・情緒的・身体的な障害のために児童・生徒の学習能力や生活に異常がみられるときに行なう治療指導のための教育相談がある。現在，これらの相談は教育相談所・学校内教育相談室・児童相談所・臨床的施設などで，精神医学者・臨床心理学者・教育心理学者・ソーシャル-ワーカー・医師などが科学的な諸検査に基づいて行なっている。しかし，まだ相談専門家の育成が充足せず，治療に十分な施設も少なく，ことに教師のもつ教育実践上の広い問題に対応しえないなど，今後の課題が山積している。

〔小管茂雄〕

きょういくそくてい　【教育測定】　児童・生徒の知能・学力・性格・運動能・身体的成長などを客観的に精密に知るための方法の一。知能についての知能指数*(IQ)・知能偏差値，学力についての教育指数・学力偏差値，向性検査の向性指数などによって，測定の結果が示されている。しかし現在では，教育という領域の客観的に測定しにくい側面が認識され，このような数値に基づく尺度測定は反省されている。→教育評価

〔斎藤幸一郎〕

きょういくちょくご　【教育勅語】　1890年(明治23)に発布され，第２次世界大戦の敗戦(1945)に至るまで，わが国の教育方針の確立，国民の道徳意識の形成に決定的な役割を果たした明治天皇の勅語。これは，道徳の根源や教育の根拠を，天皇および歴代の天皇が支配・統治した国家，さらに，それに身命を賭(と)して仕えてきた臣民の忠君愛国の至誠に求め，この基盤の上に儒教の五倫*・五常を位置づけ，社会生活の規範とした。なお，1948年６月19日に衆参両議院は，教育勅語とそれに類する軍人勅諭などの失効確認・排除に関する決議案を可決している。

〔山崎昌甫〕

きょういくてつがく　【教育哲学】　教育問題の哲学的考察あるいはその成果としての教育理論。人格形成に直接かかわり，意図的・実践的である教育学は，当初なんらかの意味で哲学的であり，それへの批判として〈教育科学〉が生まれた。科学と哲学との関係は多くの問題を含んでいるが，教育学の方法論，個々の理論・方法と，それが立脚する教育観・世界観とのかかわりを追究することは，今日の重要な課題となっている。

〔池田貞夫〕

きょういくひ　【教育費】　教育のために支出される経費。一般的には，国および地方公共団体が学校教育・社会教育*などに要する経費，いわゆる公教育費をいう。しかし現実には，学校法人(→私立学校)や義務教育*による児童・生徒の教育に関する，父兄の負担する私的な教育費は相当な額に上り，かつ，教育を受けない場合には収入を放棄所得として教育費に入れる考え方もあり，公教育費のみに限定することは正しくない。1969年(昭和44)度の調査では，児童・生徒１人あたりの教育費は，文房具費を含めて小学校で約20,455円，中学校で27,520円，高等学校55,834円に上る。一方，教授費・維持費・修繕費などの消費的支出，土地，建築費，設備・備品費，図書購入費などの資本的支出などを含む学校経費から算出した，公教育費の児童・生徒１人あたりの経費平均は，1969年度の調査によれば，小学校95,732円，中学校103,428円，高等学校(全日制)134,459円となっている。

〔山崎昌甫〕

きょういくひょうか　【教育評価】　児童・生徒の知的な発達，行動の発達，性格・態度・興味の発達などが，教育目標に到達しているかどうかの価値的判定を行なうこと。教育評価を行なうためには，教師は学力検査・性格検査のような教育測定*によったり，教師が作成するテストやいわゆる試験を行なったりもするが，そればかりではなく，日常の児童・生徒についての観察などを通じての，主観的な判断によることもある。

また教育評価には，生徒の身体的条件や生活環境についての評価のように，教育の成果というよりは教育の基礎的条件の評価も含まれるし，広義には学校のあり方，教師自身についての評価も含まれる。そして，教育が本来的に全人教育であるべきであるという点からすれば，教育評価もまた多種多様な方向についての分析的な評価の並列のみでは不十分であって，分析的評価から総合的評価へとまとめられ，個々の児童・生徒についての全人的理解が実現されるべきである。〔斎藤幸一郎〕

きょういくふじょ【教育扶助】 生活保護法に基づいて，〈困窮のため最低限度の生活を維持することのできない者に対して〉義務教育*を受けるための費用を保障すること。その範囲は，①教科書等学用品，②通学用品，③学校給食その他義務教育に伴う必要なもの，とされている。金銭給付あるいは現物給付をもって行なわれるが，これが保護者の生活費に流用されることや，被扶助児童・生徒に与える精神的影響については慎重に配慮されねばならない。〔福井幸雄〕

きょういん【教員】 一般には，学校で教育に携わっている教師・先生をさす。現在では，公式にはこのことばは用いない。教育職員免許法では，教諭・助教諭の名称が小学校・中学校・高等学校に用いられている。ただし，教育公務員特例法では，教員ということばを使い，その範囲を教授・助教授・教諭・助教諭・養護教諭および講師としている。

大学を除いた一般教員の歴史をみると，第2次世界大戦を境にして，その資格には異常な差異がある。明治以来，義務教育に携わる教員は，師範学校教育を経ることが正規のコースとされてきたが，その師範学校は，昭和10年代までは中等教育機関とされていた。したがって，義務教育の教員は師範学校を出た正訓導，中等教育を終了した代用教員，検定試験に合格した検定教員の3種から構成されていて，中等教育機関の教員は，高等教育を受けた教員で構成するという原則をとってきた。戦後は教職員免許法によって，初等教育機関の教員も中等教育機関の教員も，原則としてその基礎資格を高等教育を受けた者とされ，一級免許状の所有者はいずれも学士号をもつと規定された。したがって，教員は高学歴の取得者しかなりえない特殊な職種となった。また，師範学校のような教員のみを養成する特別の教育機関は消滅した。今日，教員養成学部と一般にいわれている教育学部も，かつての師範学校の卒業生のような就職の自由を奪われている学部ではない。さらに，師範学校当時の教員の出身階層は，圧倒的に農家出身者が多数を占めていたが，今日では前述の制度の変遷によって，偏頗(へんぱ)な構成は是正されてきている。教職観の変遷も著しい。かつて聖職者とよばれていた教員も，労働者あるいは知的専門職としての主張を強くもつようになり，日本教職員組合*に集約される教員像に変わってきた。

そして，高学歴の取得資格と教職への義務就職の廃止は，教職を他の職種と平等の競合関係に置いたため，他産業の吸引力の強弱に伴い教員志願の消長をひき起こした。教員志願者から男子が減少し，女子の教員の占める率の増大をもたらし，他産業からの吸引力に乏しい女子高学歴取得者が，教員層を構成しはじめている。このような状況から，教員養成のあり方があらためて問われてもいる。〔浜田陽太郎〕

きょうえん【饗宴】 原題は《シュンポシオン(Symposion)》。プラトン*の中期対話編の一。ソクラテスとその友人たちが詩人のアガトンの家に集まって，エロス(愛*)について論じ合ったことを対話形式で著わしたもの。この中でソクラテスは巫女(みこ)ディオティマの口を借りて独自のエロスの説を展開している。エロスはポロス(豊かさ)とペニア(貧しさ)の子として，つねにみずからに欠けたものを求める本性をもつダイモン*であり，つねに倦(う)むことなく美を求めるものである。しかも，美しい肉体から美しい事がらへ，さらに美しい知恵へと順次高まっていって，ついには美そのものである美のイデアを認識するに至るものが，このエロスであると説いた。これが，いわゆる〈プラトニック-ラブ〉であるが，同時にまた，ギリシア的愛の根本的な意味ともなっている。〔本橋正義〕

きょうおうごこくじ【教王護国寺】 ⇨東寺

きょうか【教科】 児童・生徒に習得させるべき文化財を系統的に組織した一定の領域区分。現在の学習指導要領*では，小学校の教科は国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・体育，中学校では必修教科として国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，選択教科として外国語・農業・工業・商業・水産・家庭，高等学校では国語・社会・数学・理科・保健体育・芸術・外国語・家庭・農業・工業・商業・水産・看護・理数・音楽・美術の教科があり，各教科は〈教科に属する科目〉をもつ。

教科の起源はギリシア・ローマのころに始まり，中世に形を整えたとされる7自由科(文法・修辞・論理学・算術・幾何・天文・音楽)にあるといわれ，その種類・内容ともに変遷を遂げてきた。すなわち，ヨーロッパについていえば，教会権力が教育に対する支配権をもっていた中世にあっては教義問答が重要視され，ルネサンス期にはギリシア・ラテンの古典語が諸教科の中心的位置を占めた。その後近代における科学・技術の発展，産業革命の進行などの反映として地理・博物・物理・化学，さらには図工や職業に関する教科が成立し，教育課程の中に位置づけられるに至った。しかし，教科の種類と教科内容の増大は学習者である子どもの負担の増大をもたらすことから，教科の統合整理と教材の精選ということが今世紀における各国の課題となった。とりわけ最近の科学・技術の急激な発展は，その課題の克服を教育者に強く要請している。なお，今日，教科・教科教育をめぐる問題のうち，①各教科の人間形成に果たす固有の役割を認識すること，そのためにはそれぞれの教科の成立・発展過程を確かめること，②それぞれの教科の相互関係を構造的に把握(はあく)すること，また，教科と教科外活動(文化活動)との関連も重視すること，③教科内容の精選・組織化の仕事を具体的に推し進めるにあたって，教科の背後にある文化の論理と学習者である子どもの認識の法則とを統一的にとらえること，などが重要な問題点といえる。〔中野　光〕

きょうか【狂歌】 和歌の一種。こっけいな着想や言語遊戯的な要素を主にした〈狂体の和歌〉の意味である。古く正統な和歌の余興としてうたわれたものに，《万葉集》の戯咲歌(ぎしょうか)や《古今和歌集》以後の俳諧歌(はいかいか)があり，さらに鎌倉・南北朝期に嘲弄(ちょうろう)・揶揄(やゆ)・風刺を主とする落書が流行したが，そのような流れの上に，室町期にはいって狂歌の語が用いられ，盛行するようになった。初期の作者に藤原定家の孫にあたる暁月坊為守(ためもり)(《酒百首》を残したと伝えられる)がおり，1508年(永正5)には《永正狂歌合》が成立，1595年(文禄4)に雄長老の《新撰(しんせん)狂歌集》が編まれている。江戸前期は主として京阪(けいはん)の地で流行し，貞徳*・石田未得・卜養(ぼくよう)らが出，ややおくれて由縁斎貞柳が出るに及んで町人階層にまで広く普及した。江戸後期は主として江戸で飛躍的に流行し，狂歌三大家と称される四方赤良(よものあから)(→蜀山人(しょくさんじん))・唐衣橘洲*(からころもきっしゅう)・朱楽菅江*(あけらかんこう)らが出て，天明・寛政年間(1781～1800)のころその極に達した。以後さらに作者層は拡大したが，質の点で天明調以上には至らなかった。

狂歌は形の上では和歌と異ならないが，題材・用語ともにまったく自由である。和歌が古典的な雅の世界に題材・用語を求めたのに対し，狂歌は卑俗なもの，庶民の日常風俗などのような俗の世界を好んで題材とし，用語も俗語や日常語を用いて，こっけい・おかしみをねらったものであった。著しく遊戯性に重点をおいた文学の一種だといえよう。〔佐藤恒雄〕

きょうかい【教会】 キリスト教の信徒共同体。一般にはその集会の場となる教会堂(→教会堂建築)をもいうが，狭義には見えざるキリスト*を頭とし，信徒をその手足とするキリストの地上における身体(キリストの神秘体)をいう。キリスト教会がはじめて具体的な形を与えられるのは，ペン

テコステ(キリストの復活後50日め)の聖霊降臨によってである(《使徒行伝》2章)。使徒たちは最初はユダヤ教の会堂であるシナゴーグに集まって信仰を固め，キリストの教えを説きはじめた。またパウロ*やペテロ*はそれまでの宗教がもっていた民族的なわくを破って，異邦人に対しても活発に伝道した。このころ，すでに使徒・予言者・伝道者・教師・長老・監督・執事などの役職の別があった。2～3世紀，ローマの迫害のもとで，信仰はカタコンベ*を礼拝所として布教活動を続けた。313年，キリスト教は公認され，392年には国教とされ，古代カトリック教会が成立した。これに伴い，教会制度や教義も整備されていった。ローマ帝国崩壊後は，ペテロの後継者とされるローマ司教(教皇)の下で諸民族を一体とする教会のあり方が確立され，聖職位階制・ミサ典礼・修道会組織も確立された。9世紀以降，東方正教会が分離したが，13世紀には聖職叙任権闘争*を通じて，教会の勢力は絶頂期に達した。しかし16世紀，宗教改革によってプロテスタント教会が興り，さらにイギリス国教会が独立した。プロテスタント教会は数多くの分派を生んで今日に至っている。なお最近では，各教会内部で〈キリストの神秘体〉としての唯一の教会への合同の気運が高まってきている。
〔五十嵐誠〕

きょうかいおんがく　【教会音楽】　広義にはキリスト教と関係のある音楽全部をさすが，狭義には教会でとり行なわれる典礼や宗教上の儀式に用いられる音楽をいう。しかし一口に教会音楽といっても，各教派によって著しく異なった形態をとる。まずカトリック教会では，音楽が古くから教化の補助手段として考えられて使用されたため，典礼用として，中世以来の伝統をもつグレゴリオ聖歌*，それに基づくミサ*やモテット*などの多声楽を中心とする膨大な音楽をもった。これに対して，プロテスタント系の教会では，その教義からして，音楽はより簡単に扱われた。しかし，プロテスタントの中でもさまざまであり，コラール*や賛美歌*と若干のオルガン演奏を用いるにすぎない教派，比較的音楽を重視し，その結果としてバッハのカンタータや受難曲などを生み出すことになったルター派，両者の中間にあって，アングリカン-チャント・アンセムなど，固有の音楽をもつ聖公会などがある。
〔吉田泰輔〕

ぎょうかいがん　【凝灰岩】　火山灰*が堆積(たいせき)固結したもの。酸性岩*の凝灰岩は白色または淡色を呈し，塩基性岩*ではかっ色または緑色を呈することが多い。凝灰岩は元来火山ガラスを主体とするものであるが，ガラスは水が共存する環境では不安定であって，モンモリロン石*などの粘土鉱物やフッ石*類に変わりやすい。フッ石化が進んだ凝灰岩は強度もあり，石材に利用される。大谷(おおや)石*はその例。

ぎょうかいし　【業界紙】　ある特定の業界を対象とする商業新聞。多くは週刊だが日刊もある。現在日本では百数十社ある。購読範囲が狭いために広告収入に依存せねばならず，濃密な業界情報を伝えるとともに業界の寄生虫的存在になりやすい性質もある。

きょうかいせんぽう　【教会旋法】　グレゴリオ聖歌*を中心とする中世・ルネサンス音楽の規範となる旋法。理論的にはすでに9世紀にみられる。ドリア・フリギア・リディア・ミソクリディアの四正格旋法と，これらに接頭語ヒポをつけた四変格旋法からなる。名称がギリシア旋法*のそれと似ているが，直接の関係はない。16世紀には，イオニア・エオリアとその変格旋法という長短調への移行形が出現し，17世紀以降は，もっぱらこれらが教会旋法と称せられた。
➔旋法　〔吉田泰輔〕

きょうかいソナタ　【教会ソナタ】　バロック時代の器楽曲の形式の一つで，教会で使われる音楽によく適用された。ふつう緩・急・緩・急の四つの楽章を並べ，同じころに現われた室内ソナタが舞曲を集めたものであるのに対して，それぞれの楽章が対位法的な性格をもっている。しかし終楽章だけは舞曲の性格をもつことが多い。この形式は独奏ソナタ・トリオ-ソナタ・コンチェルト-グロッソに適用された。代表的な作曲者にコレルリ*がいる。　〔徳丸吉彦〕

きょうかいどうけんちく　【教会堂建築】　教会堂は，キリスト教徒の集まるところで，信者にとっては〈見えざる天のすまい――神の家〉である。宗教の盛んな時代，信徒らはもてるすべての財宝や知能をささげて教会堂を建てた。それは神への敬虔(けいけん)な信仰と奉仕によるもので，特にヨーロッパ中世には今日でも驚かずにはいられないような荘厳で美しい教会堂が数多く建てられている。一見変わらないようにみえる教会堂も，キリスト教の長い歴史の中でさまざまな変化をみせてきているので，その歴史をたどってみる。

〔教会堂の起こり〕1世紀にユダヤに発生したキリスト教は，東方諸国はもちろん，ローマにも急速に広まり，2世紀半ばごろにはいわゆる古カトリック教団が組織され，迫害を受けながらも信者を増していった。そのため，はじめはおもだった信者の家で行なわれていた集会も，特別の会堂を必要とするほど大きくなり，少なくとも3世紀にはいると，のちのものに比べれば非常に簡素ではあるが，各地の都市に教会堂が建てられるようになった。また，ローマで発見された地下礼拝堂(キリスト教のものかどうかはわからない)の形式からみて，あとに述べるようなバシリカ式の教会堂もすでにあったと想像される。

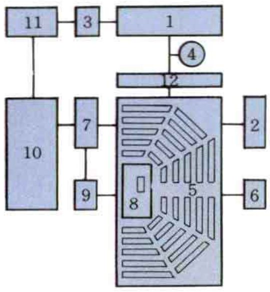
〔バシリカ式教会堂〕313年，コンスタンチヌスのミラノ勅令によってキリスト教が公認され，さらにローマの国教になると，教会堂建設はローマ皇帝の政策として行なわれる公の事業の一つとなった。ローマだけでもサン-ピエトロ・サン-パオロ-フォリ-レ-ムーラなどの壮麗な教会堂が次々と建てられ，他の諸都市にも影響を与えるようになった。これらの多くは，ローマのバシリカ*に似た構成をもっているので，バシリカ式教会堂とよばれ，それ以後の教会堂建築の基本となるものである。まず入り口をはいると，周囲に列柱廊(ストア)を巡らした四角形の前庭部(アトリウム*)に出る。この中央には体を清めるための水盤か噴泉がある。教会堂自体は細長い長方形の広間で，中央の広くて高い身廊(ネイブ)と，左右の一段低く幅も狭い側廊(アイル)からなっている。身廊と側廊によって屋根が2段になり，身廊の上部から採光するという点がバシリカの最も重要な特徴である。身廊の奥はアプス*とよぶ半円形の張り出しの間に終わり，ここだけは半ドームでおおわれる。アプスのいちばん奥にカテドラ*(司教の座)があり，その左右にアプスの壁に沿って僧職者の座席が設けられ，カテドラの前に祭壇が置かれる。アプスと身廊部の間に身廊と直角をなして同じ高さに広がるトランセプト*(袖廊)が設けられ，身廊部とはアーチでくぎられていた。

この当時のバシリカ式教会堂の多くは，大理石やモザイクでおおわれた内部の華麗さに対して，外観はほとんど装飾がなく質素である。また，入り口からアプスに向かう一つの方向性だけが重視されて，そこに列柱などが配置された。バシリカ式教会堂は，アジア・アフリカなどにも広がっていったが，地方色を取り入れてさまざまに変化していった。

〔集中式教会堂〕一方，おもに東方では八角形・六角形・正方形などの一つの中心をもつ多角形平面による集中式教会堂も建てられたが，この場合は中心が建物の中央にくるので教会堂としては使いにくいものであった。これに反して，洗礼堂や墓廟(はびょう)など記念碑的性格をもつものには，それにふさわしくローマのサンタ-コンスタンツァの大円形洗礼堂やラテラノの八角形洗礼堂などに用いられた。

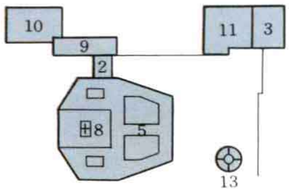
〔ビザンチン式教会堂〕330年都をローマからいまのイスタンブールに移したコンスタンチヌス大帝は新ローマを唱え，世界じゅうから建築家を集めて，オリエントの伝統を大幅に受け入れたビザンチン様式を生み出した。このころ，イランを中心にササン朝ペルシア(226～651)が栄えていたが，西アジアの伝統に基づいてボールト*やドーム*を駆使した宮殿建築をつくっており，れんがや石の技術も高い水準を示していた。それらの影響を受けて，東ローマにおけるその後の教会堂には，伝統的なバシリカの

図-1　機能組織図



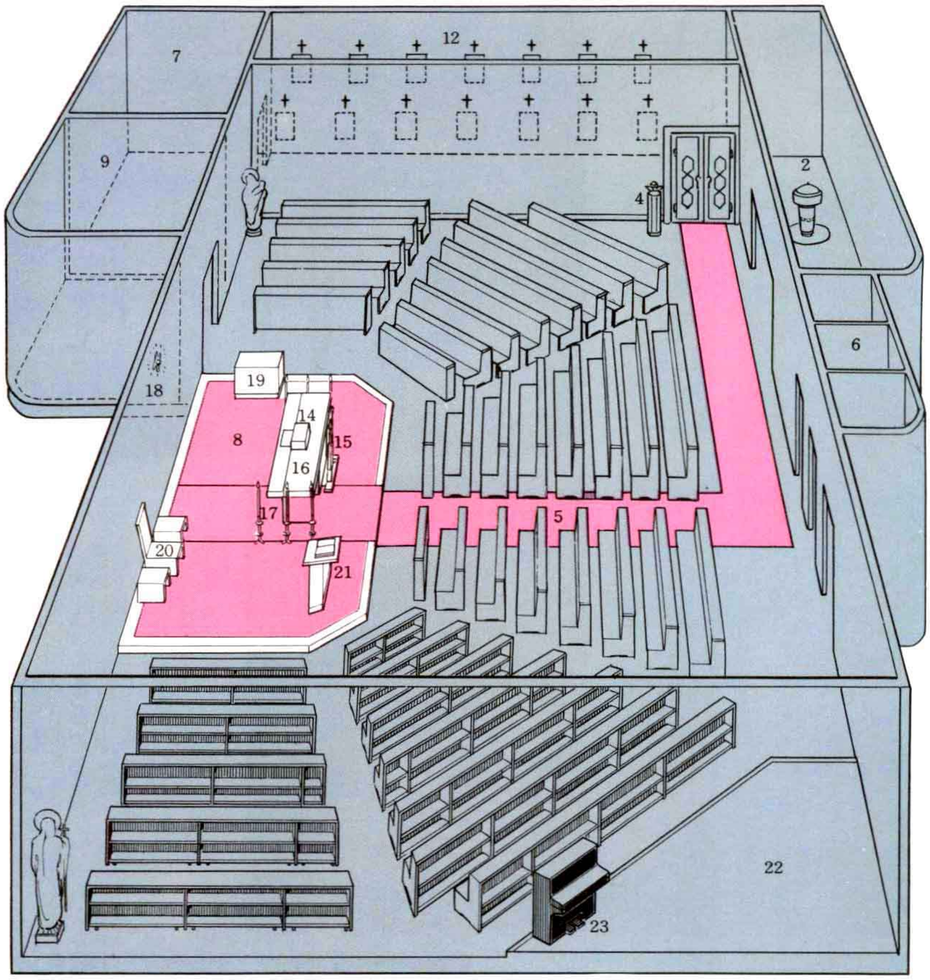
1　入　り　口
2　洗　礼　堂
3　事　務　室
4　聖　水　盤
5　身　　　廊
6　告　解　室
7　側　祭　壇
8　内　　　陣
9　聖　具　室
10　司　祭　館
11　集　会　室
12　十字架道行

図-2　全体配置実例



13　塔
14　聖　　櫃
15　十字架像
16　祭　　壇
17　燭　　台
18　聖体ランプ
19　聖　具　台
20　司　祭　席
21　聖書朗読台
22　聖歌隊席
23　オルガン

図-3　聖堂内の名称



教会堂建築

プランにドームをかけるさまざまな試みがみられ，やがてドーム-バシリカへと発展していった。

ドーム-バシリカの中でも建築史上の最大の偉観は，直径31ｍにも及ぶ大ドームをもつイスタンブールのアヤ-ソフヤ*である。アヤ-ソフヤは東ローマ領内の各地から集められた色大理石の円柱や石板で飾られ，ドームには一面に豪華なモザイクが施された。そして，ドームからペンデンチブ(穹隅(きゅうぐう))へ，そして半ドームへと変化する力は，巨大な空間にたくましい流動感を加えていた。また，9世紀，バシレイオス1世の新しい御堂に始まる中期ビザンチン建築は，中央のドームをささえるために四方に同じ長さの腕を伸ばし，これに円筒ボールトをかける，いわゆるギリシア十字形会堂*のプランを完成した。そしてさらに，四隅にもそれぞれ一つのドームを上げて，合計五つのドームを用いて平面を正方形にまとめるやり方が一般化していった。その後，東ローマ帝国はイスラムの圧迫によって領土を失い，十字軍によって海上勢力をなくし，衰亡の一途をたどるのであるが，14・15世紀にはさらに繊細になった後期ビザンチン様式をつくりだしている。

〔修道院の起こり〕一方，西ローマ帝国では，529年にベネディクトゥス*がモンテ-カシノに修道院を開き，66か条からなる〈ベネディクトゥスの戒律〉を定めたのをきっかけに修道院が栄え，やがて膨大な富を蓄積するに至ると，バシリカ式教会堂はこの修道院を背景に発展を続けるようになった。現存してはいないが，堂内に強い緊張を生み出す二重内陣式を採用したサンリキエ修道院はその典型である。

〔ロマネスク教会堂〕ロマネスク建築は，ヨーロッパがはじめて文化的統一体として完成され，政治的にも強い自信を得た時代(主として11～12世紀)の建築様式であり，膨大な経済力をもった修道院建築を中心として展開した。この時代の教会堂建築の課題はバシリカにいかにしてボールトをかけるかということであった。まずスパン*の小さい側廊に，それから身廊にかけられた。さらにボールト自体が技術的にもむずかしい交差ボールトへと発展していった。交差ボールトは，正方形平面に最も合理的に力が働くため，このときから構造的にも正方形を単位として構成される教会堂が建てられるようになった。伝統のバシリカ式を守りながらも，それぞれの国や地方で特徴ある形式がくふうされていった。一般に，ロマネスクの教会堂は，厚い壁や小さい窓，そして単純な装飾によって荘厳さを感じさせる。フランスのクリュニー修道院，イタリアのピサ本寺などがその典型である。

〔ゴシックの教会堂〕都市の発展とともに商工業者の活躍がめざましくなると，職人の数も増し，ギルド*が栄え，建築技術は大幅に高められた。ゴシック建築は，この巧緻(こうち)にして洗練された技術を基盤として成立した。ロマネスク以来のバシリカにボールトをかけるくふうがさらに進められて，サン-ドニ修道院の教会堂に見られるようなリブ-ボールトを用いるに至った。また，飛び控え(フライング-バットレス)の開発によって，教会堂の壁に巨大な窓をあけることが可能になると，そこにステンドグラスが使用されて堂内は美しい色と光に包まれるようになった。それと同時に，それまで内部中心であった教会堂建築も外部にその威容を誇るようになり，50ｍにも達するほどの天井ドームが出現するに至った。そして，この空へと伸びる垂直性を求める傾向は新しい架構技術の開発に伴いますます強くなっていった。こうしたゴシック様式は修道院の活躍ともあいまってヨーロッパじゅうに伝わったが，ドイツではこの時期に側廊・身廊ともほぼ同じ高さをもつハルレンキルヘ様式が完成され，ゴシックが栄えるのはケルン大聖堂*の建設以来である。しかし，このゴシック建築も時を経るにしたがい，イギリスのイリー大聖堂に見られるように，構造や様式を離れて自由な装飾が施されるようになると，やがて装

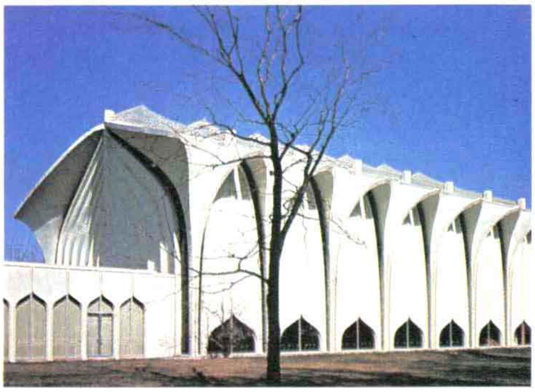
教会堂建築

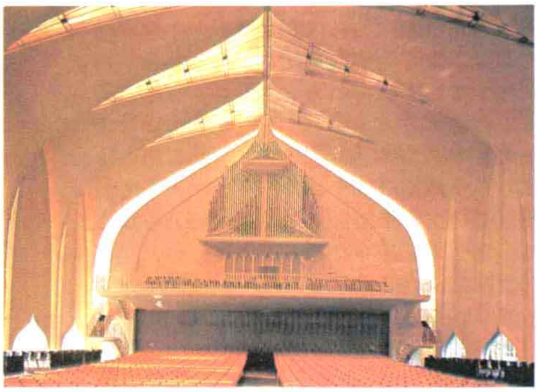


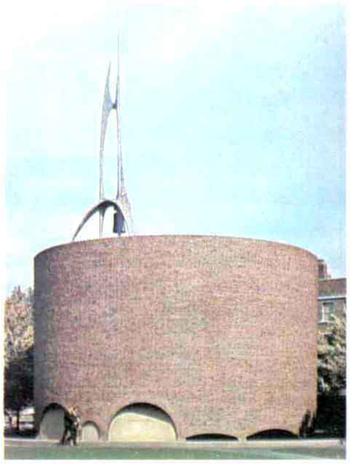


ロンシャン礼拝堂　建築家ル－コルビュジエの晩年の作で，彫刻に接したような，芸術的香気の高い建築である。フランス，ロンシャン。設計者ル－コルビュジエ

ノースショア－イスラエル教会　花弁のような巨大なプレキャストコンクリートでつくられている。アメリカ，シカゴ。設計者ミノル－ヤマサキ



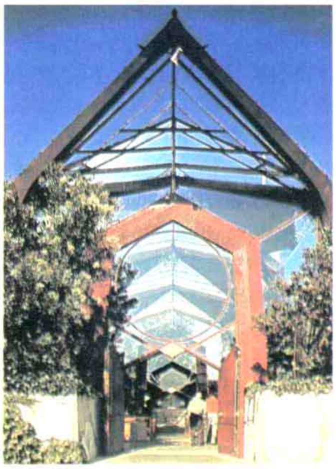






(左)M.I.T.の教会　マサチューセッツ工科大学の構内にある。古典様式をとりながら，水の反射やモビールなどによって，光の新しい効果をつくり出している。アメリカ，ケンブリッジ。設計者E.サーリネン

(右)ウエイフェアズ教会　旅行者のための教会である。全面をガラスでおおっているのでグラスチャーチともよばれる。アメリカ，ロサンゼルス。設計者ライト







ベルヘン－ミラグロサ聖堂　キャンデラの製作になる，最初のシェル構造である。教会堂建築における古い伝統的構造形式から脱却し，近代的構造形式がとられていることは注目に価する。メキシコ，メキシコシチー。設計者キャンデラ



東京カテドラル聖マリヤ大聖堂　H.P.シェルを駆使し，4枚の曲面を十字形に組み合わせることによって，ドラマチックな空間を作りあげている。東京都関口町。設計者丹下健三

飾過多時代を迎えるのである。

〔ルネサンスの教会堂〕こうした流れの中で，商業・貿易・手工業の発達によって富を蓄積したイタリア自由都市には，市民階級の勢力の増大と，自己の不滅化を夢みる僭主(せんしゅ)や法王の積極的な保護・奨励によってイタリア-ルネサンスが栄え，簡素な古典建築が再認識されるようになった。特にイタリアでは，ローマ以来の伝統をもち，ゴシックに同化しなかったため，古典をモチーフとした荘重な教会堂が数多く建てられた。ゴシックの上昇性に対して，これらの教会堂はドームを中心とした安定した比例美をみせ，記念堂的な色彩をおびていた。そして神をあがめつつも，人間を世界の中心とする思想をもつ当時のパトロンや建築家の自己表現の場としての性格をもっていたので，いわゆる建築家とよばれる人物が数多く登場するようになった。ドナド-ブラマンテは，サン-サチーロ教会堂やサンタ-マリア-デルレ-グラーツィエ教会堂に見られるように記念碑性の強い集中的なプランを追究した。また，その後に主としてミケランジェロの設計を中心として，1世紀半にわたって再建された，サン-ピエトロ聖堂などはルネサンス教会堂の典型である。

〔バロックの教会堂とその後の発展〕16世紀になると，新興勢力(プロテスタント)に対してローマ教皇庁を中心に展開されたカトリックの反宗教改革運動は，教会の権威を示すための劇的表現を教会堂建築に強く求めるようになった。この動きに伴い，教会堂建築は自由・大胆になり，壁面や装飾の豊かさはルネサンスの整然とした静的秩序に対して，内部の壮麗化と人間の移動によって次々に展開する劇的な空間をもたらし，バロック様式を生み出すに至った。17世紀におけるバロック期には，建築・彫刻・絵画を総合した幻想的ともいえる教会堂が数多く建てられた。そしてこの傾向はさらに強まり，やがて宗教上の要請よりも，芸術家や注文者の趣味が強調され，ロココ様式の繊細なデザインへと変貌(へんぼう)していった。18世紀半ばになると，パルテノンなどの古代神殿をまねたパリのサント-ジュヌビエーブ教会堂などが建てられ，19世紀にはロマンチシズムの風潮とともに中世諸様式の復興がみられた。しかし，科学技術の発達がもたらした近代社会になると，もはや教会堂建築は社会の主流とはなりえなくなり，むしろ近代建築の諸手法が新しい教会堂建築を促進させるようになった。鉄筋コンクリート構造による画期的作品として知られるオーギュスト-ペレ設計のノートルダム教会(フランス)やライト設計のユニティ-テンプル(アメリカ)，スペンス設計のコベントリー大聖堂などはその典型的なものである。一方，ル-コルビュジエ設計のロンシャンのノートルダム-デュ-オーやガウディ設計の未完の大作バルセロナのサグラダ-ファミリア教会のように個性の強い教会堂も世界中で次々と建てられている。

〔教会堂建築の諸施設〕このように変化・発展した教会堂建築も，今日では単に礼拝をするためだけのものではなく，伝道事業と同時に社会事業を行なうためのものでもある。このために，礼拝のための場所のほかに，集会所・教会学校，社会事業や伝道事業のための場所，僧職者の住居，その他事務所・書斎・食堂・台所など各種の施設を要求される。図はこれらの中からカトリック教会の場合を選んで示したものである。
〔武　基雄〕

きょうかいぶんれつ【教会分裂】 中世末期にヨーロッパのキリスト教世界が二つに分裂したできごと。シスマともいう。1309～1376年の間，ローマ教皇は南フランスのアビニョンに居住(教皇のバビロン捕囚*)していたが，次いで1378～1417年の間イタリアの枢機卿(すうききょう)の選んだローマの教皇とフランスの枢機卿の選んだアビニョンの教皇とが対立した。北イタリア・ドイツ・イギリスでは前者を，南イタリア・フランス・スペインなどは後者を支持した。これら一連の事件は教皇権の衰退を示すもので，のちの宗教改革を暗示する。この分裂を救うための宗教会議が開かれたが，ピサ会議(1409)ではかえって3人の教皇を出すことになった。しかし，コンスタンツ公会議*(1414～1418)で新たにマルチヌス5世を教皇とし，ようやく教会の統一に成功した。
〔兼岩正夫〕

きょうかいほう【教会法】 特にローマ-カトリック教会が制定した，信仰・倫理・組織など教会生活全般に関する規定または規則の集成をさす。その主体となっているのは《グラチアヌス法令集*》であるが，後代のいくつかの法令集がこれに付加された。現在は1917年に教皇ベネディクトゥス15世が発布したカノン法に準拠しており，国家法・国際法と並ぶ独立の法秩序を形づくっている。なお，プロテスタント諸派では一般に教会法を非聖書的として認めていない。
〔五十嵐誠〕

きょうかいりゅうほけん【教会留保権】 1555年のアウグスブルク宗教和議*によってドイツの諸侯および自由都市は，ローマ-カトリック教か，ルター派のいずれかを選択する自由を認められたが，例外として宗教諸侯(ドイツ帝国議会に議席をもつ司教・修道院長)がルター派に変わる場合には，その地位・領土・収入を失うべきものとされた。これが教会留保権で，ローマ-カトリック教会はこの留保によって勢力の維持を図ろうとした。
〔松　俊夫〕

きょうかいりょう【教会領】 カトリック教会の所有地。教皇領・司教領・修道院領などの別があった。キリスト教会はすでに古代末期から個人の喜捨により土地を所有していたが，キリスト教公認(313)後は異教所領を国家からもらい受けて，かなりの土地を所有した。中世にはいると，国王や貴族は魂の救済を求めて教会や修道院に土地を寄進し，さらに王侯など上層人士のみでなく農民もその土地を寄進して教会などの保護下にはいった。これらの土地は既存の農耕地だけでなく，開墾による新しい開拓地もあった。シトー派などの修道会はこの方面に大いに活動した。その経営は世俗所領と同様に荘園(しょうえん)経営によるものであったが，一般に世俗所領よりいっそう合理的・集約的であり，インムニテート*(公権不入権)などの特権をもっていた。中世の教会人の間にもこうした教会の土地所有に反対する意見があったが，それは異端として退けられた。教会領は宗教改革によって国王や領邦君主により没収され，プロテスタント国家では近代初めに消滅した。
〔兼岩正夫〕

きょうかいれき【教会暦】 教会生活の行事を律する教会固有の暦。教派によって公認するものもあれば，公認しないものもある。また，その詳細・簡易の別もある。ローマ-カトリック教会・ギリシア正教会・聖公会は公認し，その内容も詳しい。プロテスタント諸派はさまざまであり，一般にイエス-キリストの生涯(しょうがい)の事績，特に降誕(クリスマス)・復活(イースター)・聖霊降臨(ペンテコステ)を中心に構成されている。これに使徒・聖徒を記念する日，聖母に関する祝日などが加えられることもある。
〔五十嵐誠〕

きょうかがいかつどう【教科外活動】 正規の教科教育以外に，児童・生徒の個性を尊重し，自発学習を促すために設けられた教育諸活動。課外活動ともいう。近代学校の発足に伴い，すでにクラブ的なもの，学校行事的なものとして存在した。しかし，教科教育と並んで，児童・生徒の自主性や社会性の伸長，余暇の利用などの教育的価値が認められ，学校教育の中で一定の位置を与えられたのは，大正中期以降のことである。第2次世界大戦後，この活動は特別教育活動*として，教育課程構成の一領域として扱われるに至った。
〔佐藤英一郎〕

きょうかガラス【強化ガラス】 ガラスの表面層に，あらかじめ一様な圧縮ひずみを入れて，その強度を数倍またはそれ以上に高めたもの。従来は加熱と急冷によって物理的にひずみを入れていたが，最近は，イオン交換による化学的強化法が開発され，1mmくらいの薄いガラス板も強化できるようになった。いずれも破壊すると，全体がダイズまたはアズキ状の小片となり，そのかどは丸みをおびて危険性が少ない。交通機関その他の窓ガラス・食器など用途は広い。
〔境野照雄〕

きょうかく【胸郭】 胸部をつくる円錐(えんすい)形・かご状の骨格で，胸椎(きょうつい)12個，肋骨(ろっこつ)12対，胸骨1個からなる。

胸椎は支柱となり，これと肋骨が関節し，前面で胸骨に連結する。内部の腔所(こうしょ)を胸腔といい，肺・心臓などの胸部内臓があり，胸郭はこれを保護する。胸郭の上端は上に向かって開いており(胸郭上口)，ここには食道・気管・総頸動脈(そうけいどうみゃく)・迷走神経・大動脈・大静脈が出入する。胸郭の下端は下に向かって開いており(胸郭下口)，生体ではここを横隔膜がふさぐ。横隔膜は大動脈・大静脈・食道などに貫かれる。〔幡井　勉〕

きょうかく　【侠客】　ばくち打ちの美称。かけ事で勝負することを本業とする者。侠客が発生したのは江戸初期以後のことで，最初は武士階級に反抗する町奴(まちやっこ)がその典型であった。江戸中期以後，生糸・絹生産を副業とする農村では日常的な収入があったが娯楽に乏しく，また天領・旗本領(はたもとりょう)・寺社領は無警察状態であったため，上州(群馬県)や甲州(山梨県)の機業地，房総(千葉県)や東海道の漁港には侠客が多く現われた。彼らは賭場(とば)を開き，寺銭を徴収できる勢力範囲であるなわ張りをもった。親分・子分の関係は厳格な規律が守られ，その実情は今日の暴力団と同様であり，しばしば一般人に忌避される行動が多かった。〔渡辺欣雄〕

きょうがくしんけいしょう　【驚愕神経症】　重大な場面や事件に直面したときに起こる病的な心因反応。驚愕反応ともいう。顔が青くなり，冷汗が出，月経が止まるなどのほか，見当識の喪失や錯乱状態・感動麻痺(まひ)などの精神諸症状を伴うことがある。ふつう，数時間から数週間続いたのち正常にもどる。戦場で砲撃にさらされた兵士が恐怖の叫びをあげて塹壕(ざんごう)から飛び出したり，震災で崩壊したまちを不安・危惧(きぐ)などいっさいの感情が麻痺した状態でさまよい歩くなどはその例である。〔江本　弘〕

きょうかくせいけい　【胸郭成形】　肺結核の代表的な虚脱療法。かつては広く行なわれていたが，近来肺切除の普及によって胸郭成形を行なうことは少なくなった。しかし肺上葉にある壁の柔らかい空洞(くうどう)，肺の両側に空洞があって切除不可能なもの，膿胸(のうきょう)，肺切除後の成形などについては今日でも行なわれている。2～3週間の間隔をおいて2回の手術を行ない，第1～第6肋骨(ろっこつ)を切除するが，肺機能の悪いものでは空胴切開を併用したほうがよいとされている。〔三島好雄〕

きょうかくはるさめがさ　【侠客春雨傘】　歌舞伎(かぶき)脚本。世話物。6幕。福地桜痴作。通称《春雨傘》《実録の助六》など。1897年(明治30)東京歌舞伎座初演。歌舞伎十八番《助六由縁江戸桜(すけろくゆかりのえどざくら)》に構想を得たもので，主人公大口屋暁雨は，享保(きょうほう)年間(1716～1735)に実在した江戸の粋人。彼が御家人逸見(へんみ)一角の横暴から武家階級に反抗して侠客となり，一角を親のかたきとねらう娘薄雲を助けて，無事かたき討ちをさせる話。吉原(よしわら)で久しぶりに一角に対面した暁雨が，痛快なたんかを切る場面は特に名高い。〔西尾邦夫〕



強化食品
特殊栄養食品マーク

きょうかしょ　【教科書】　児童・生徒らの人間形成にとって，望ましいとされる思想・労働・生活などの諸内容をふまえて著述・編集される図書。1948年(昭和23)〈教科書の発行に関する臨時措置法〉では〈小学校，中学校，高等学校及びこれに準ずる学校において，教科課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として，教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって，文部大臣の検定を経たもの又は文部大臣において著作権を有するもの〉と規定している。

わが国では，古代では大学・国学，中世では勧学院・学問所・金沢文庫・足利(あしかが)学校，近世に至って藩校・郷学・私塾(しじゅく)といった教育機関が設けられたが，ここではおおむね中国大陸で成立した古典(特に儒教)，さらには日本の古典が，そのまま教科書として使用された。このように古典即教科書であった事実は，教育において教科書を絶対至上のものとするいわゆる教科書中心主義・教師中心主義の気風を醸成する一方，わが国民が，国の内外を問わず，広い文化教養を進んで消化・吸収していける基盤ともなった。また，平安時代の中葉からは，和漢混交文が成立・普及し，かなの発明ともあいまって，わが国独自の教科書も開発されるようになった。特に，平安後期から明治前半に至る約9世紀の間に盛んに編まれた往来物は，古代では貴族・僧侶(そうりょ)の，中世では加えて武家の間で使われ，近世になると庶民の家庭や寺子屋で広く学ばれ，初歩教育の発展に大きな足跡を残した。

近代にはいり，明治政府は教育の中央集権化を図り，1872年(明治5)に〈学制〉を頒布するが，翌年これに基づいて〈小学教則〉を出し，標準とすべき教科書類を指定した。その多くは《学問のすすめ》《勧善訓蒙(かんぜんくんもう)》《天変地異》など，欧米先進資本主義国にならった啓蒙書・翻案書の類であった。と同時に，東京に師範学校を設けて，ここで〈単語図〉〈連語図〉のような入門教材図や《小学読本》《小学算術書》などの教科書を編集した。明治10年代になると，自由民権運動への対策もあって，政府は教科書統制を一段ときびしくした，1880年には教科書取調掛を置き，不適当とみられるものの使用を禁止した。続いて翌年には，開申制度をとって使用教科書の届け出を府県に命じ，1883年に至って認可制度を設け，小学校教科書はすべて文部大臣の認可を必要とすることにした。こうした政策は，教科書の内容にも及び，特に修身教科書は，忠孝を根幹とする儒教思想で固められた。

1887年〈教科用図書検討規則〉が制定され，いわゆる検定時代にはいった。すなわち〈文部大臣ノ検定シタモノニ限リ〉教科書として認めようとしたもので，〈小学校令〉に基づいた各学年段階の教授要旨に基づく教科書が次々に編まれる一方，往来物系の手本や明治初年の啓蒙書は完全に姿を消した。また1890年に発布された教育勅語は，国家至上主義を基盤とする方向に，特に修身や日本史教科書を強く規制した。こうした教科書の国家統制は，その後もますます強化され，1903年から，ついにすべて国定化された。そして，1907年，1918年(大正7)，1932年(昭和7)，1941年と改訂を重ね，第2次世界大戦終了時にまで及んだ。国定化によって，教科書の価格が低廉となり，子どもの成長段階に即するよう，体裁・文章・さし絵などさまざまのくふうが試みられたが，内容が国家権力の企図する方向に画一化され，国民の信条・知性・情操における自由な伸長を大きく阻害することとなった。

終戦後の1947年，文部省は新学制下の教科書作成に着手したが，1949年，検定制度に切り替え現在に及んでいる。この間，1964年から，小・中学校における教科書の無償給付を実施，また，教科書の採択を個々の学校や教師に任せず，都道府県の教育委員会で行なうようになった。この結果，検定や採択の基準が問題となり，平和主義・民主主義・自由尊重の理念を盛り込んだ内容が抑圧されているのではないかとの疑いが起こり，家永(いえなが)三郎が教科書検定違憲訴訟(いわゆる家永裁判)を起こし，世人の注目を集めた。

現在，ほとんどの国で教科書の編集が盛んに行なわれている。その制度も，国定・検定・認可とさまざまであり，内容も種々であるが，特に信条・思想・政治的イデオロギーの上に大きな違いがみられる。こうした違いをいちおうは認めつつも，世界平和の実現と存続をめざして，国際理解を推し進めるための教材を豊かに内容に盛り込むことこそ，各国とも教科書行政における今後の共通課題としなければならないところであろう。→国定教科書〔石川松太郎〕

きょうかしょくひん　【強化食品】　微量ではあるが栄養上重要で，かつ普通の食事で不足しやすい成分を添加した食品。日本人の食生活の現状から，一般に，B_1・B_2・A・C・ニコチン酸などのビタミン，カル

シウム・鉄などの無機質，リジン・メチオニンなどの必須(ひっす)アミノ酸*が強化剤として使われている。なお，強化食品は，①食品の外観・食味を変えないこと，②強化された栄養素が食べるまでに損失しないこと，③安価であることなどが条件としてあげられる。強化食品には米・パン・菓子・調味料・マーガリンなどがあり，栄養改善法では〈特殊栄養食品〉とよび，その標示にあたっては厚生省の認可を得て，マークをつけることになっている。〔岡本治良〕

きょうかたびら【経帷子】死者に着せる経文を書き込んだ浄衣。経衣(きょうえ)・無常衣ともいう。鎌倉末期から室町時代にかけて真言宗が広めたといわれる。経文・陀羅尼*(だらに)・仏名などを書くのは，その呪力(じゅりょく)によって重罪の者も罪を免れるとする信仰によっている。はじめ白麻の単衣*(ひとえぎぬ)だったが，のちにもめんや紙衣が用いられるようになった。小そで・広そで・そでなしなどにつくる。経文などを書き込む書式は各宗によって異なる。なお，巡礼者・修験道(しゅげんどう)信者が生前に着るのは寿衣といい区別される。〔藤井正雄・渡辺欣雄〕

きょうかつざい【恐喝罪】暴行・脅迫をして相手方を畏怖(いふ)させ，それによって相手方から財物を交付させたり，または財産上不法な利益を得ることによって成立する犯罪(刑法249条)。暴行・脅迫の程度が相手方の抵抗を抑圧するほどのものでないこと，ともかく相手方の意思によって財物を交付させるということで強盗罪*と区別される。相手方に恐怖心を起こさせる手段・方法は問わない。脅迫の範囲も脅迫罪*より広い。刑は10年以下の懲役。未遂も罰せられる。〔野口恵三〕

きょうがのこ【京鹿子】双子葉植物・バラ科。観賞用として庭園に植えられる多年草。シモツケソウ*の仲間で，よく枝分かれし，高さ60～150cm，茎の一部は紅紫色になる。葉は掌状で先はとがり，縁に鋸歯(きょし)がある。6～7月に茎の上部に紅紫色の小さな花を穂のように多数つけ，美しい。花の白いものはナツユキソウとよばれる。

きょうかプラスチック【強化プラスチック】不飽和ポリエステル*を強化剤に加えて成形したもの。強化剤としてはガラス繊維が最もよく使われ，ガラス繊維で強化されたプラスチックの意味のfiberglass reinforced plasticを略してFRPとよばれる。また，強化ポリエステルといわれることもある。最大の特長は，その重量あたりの機械的強度がプラスチックの中でずばぬけて大きいことである。同じ重量で比較すると，引っ張り強さ・衝撃強度は金属材料にほとんど劣らず，比重が小さいので，金属材料に代わる軽量材料として需要分野が広い。また，成形に高圧を必要とせず，接触圧で，しかも常温で相当大きな物まで成形できるのも特長である。これらの特性を生かして，



キョウガノコ

自動車の車体，グライダーの機体，ヨット・ボートの船体，サーフボード，スキーなどの運動用具に利用されている。〔伊藤　卓〕

きょうかポリエステル【強化ポリエステル】⇨強化プラスチック

きょうがみさき【経ケ岬】京都府竹野郡に属する奥丹後半島北端の岬。京都府の最北端にあたり，若狭(わかさ)湾の東の越前岬(えちぜんみさき)と相対する。付近は高さ40m前後の海食崖(かいしょくがい)で，沖を対馬(つしま)海流が流れ，その一部が若狭湾を環流して複雑な潮流をなすので，航海の安全をはかるため，高さ約100mのところに1898年(明治31)点燈した経ケ岬燈台がある。この岬を境に，東はリアス式海岸で漁港が多いのに対し，西の海岸線は出入が少ない。付近は自然美に富み，若狭湾国定公園の西部にあたっている。〔味沢成吉〕

きょうかん【胸管】下半身と左上半身のリンパを集めるリンパ本幹。リンパは全身の末梢(まっしょう)からリンパ管によって運ばれ，最後はリンパ本幹により鎖骨下静脈に注いでいる。腸から吸収された栄養素のうち，おもに脂肪は胸管を経て血管にはいる。

きょうかんかく【共感覚】ある物を見たとき，形や色だけでなく，重さやかたさなどをも感じる場合がある。つまり，ある感覚器官から得られた情報から，他の感覚器官の情報が得られる現象で，これを混化というが，混化が観念内容にまで及んだ場合は通様性現象とよばれる。たとえば〈暗い音〉などという感じがそれであるが，このような現象がさらに極端になったものを共感覚という。ある音を聞くと必ず決まった色が見えるという色聴，歴史的な年代や年齢・月日・時間・数などが一定の型の上に乗って目に浮かんでくるというような数型の共感覚のほか，それぞれの色が高貴・平和・怒りなどという観念内容と結びつく色彩象徴などがある。〔吉田俊郎〕

きょうかんふくいんしょ【共観福音書】⇨福音書

きょうかんやく【強肝薬】肝機能のうち，代謝に関する部分を強める目的に使われる薬の総称。すなわち肝内解毒に関与すると思われる物質をすべて含むと考えられているが，これらを強肝薬としては認められないとする説もある。メチオニン・グルクロン酸・各種ビタミン・コリン・チスチンなどが含まれ，解毒・異物排泄(はいせつ)・抗脂肪肝作用などがあるとされている。

きょうぎ【経木】木材，特にアカマツ・エゾマツ・トドマツ・モミなどをかんな削りしたもの。古く，経文を書くのに薄い木片を用いたことからこの名がある。主として包装用で，かつては経木紙(きり紙・すぎ紙)・経木細工などにも用いられていたが，合成樹脂フィルムの発達によって生産は低下した。

ぎょうき【行基】(668～749)奈良時代の高僧。和泉(いずみ)(大阪府)大島郡峰田郷の人。百済(くだら)系の帰化人。伝承によれば早くから出家し，薬師寺にはいって道昭・義淵*(ぎえん)らに法相(ほっそう)学を学び，都鄙(とひ)を遊歴して郷里に帰り，民間布教に従事したといわれる。民衆に敬慕され，池溝(ちこう)・道橋・布施屋(無料宿泊所)を各地に開いた。彼の行動は，はじめ僧尼令違反として禁じられたが，のち聖武(しょうむ)天皇の帰依を受け，東大寺・国分寺の建立(こんりゅう)に協力，わが国最初の大僧正となった。世に文殊菩薩(もんじゅぼさつ)の化身とも伝えられた。〔玉山成元〕

きょうきじゅんびしゅうごうざい【凶器準備集合罪】2人以上の者が，他人の生命・身体・財産に対し，共同して害を加える目的をもって，凶器を準備して集合した者，または凶器の準備があることを知って集合した者に科す罪。2年以下の懲役または25,000円以下の罰金(刑法208条ノ2ノ1項)。この場合，みずから凶器を準備し，または凶器の準備があることを知って，人を集合させた者は刑が加重され，3年以下の懲役(凶器準備結集罪，同条2ノ2項)。成立要件としては，加害行為を共同して実現するために集合することを要する。ただし実行そのものを目的とせず，単に実行の相談のため集合した場合などは除外される。凶器には銃・刀・竹やりなどはもちろん，金づち・包丁・小刀など殺傷可能なすべての物が含まれる。暴力犯抑圧のために，1958年(昭和33)〈刑法一部改正〉の際新設された。〔井上公且〕

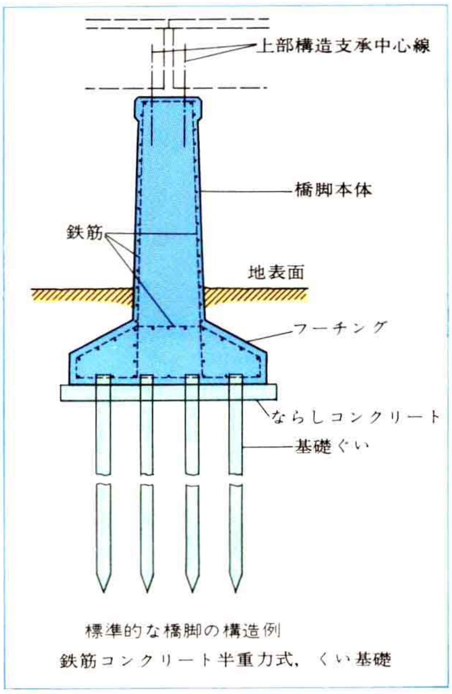
きょうぎじょう【競技場】スタジアムの訳語。通常，トラック・フィールド・観覧席をもつ陸上競技場をいう。ギリシアのオリンピアに残る古代の競技場(スタディオン)がその最古のものとされている。近代になってオリンピック大会の発展とともに施設が規格化された。第1種公認競技場(日本陸上競技連盟によって国内の主要競技会や国際競技会の開催が可能であると認められたもの)が備えるべきおもな条件は次のとおりである。①トラックの長さは1周400m。②距離の公差は10,000分の1。③走路は直線部で幅10m，8コース以上，長さ115

m以上。曲線部で幅10m，8コース。④3,000m障害競走のための施設。⑤公認の長距離競走路と競歩路に近接していることが望ましい。⑥補助競技場またはこれに相当する広場の併設。⑦各種の跳躍場と投擲(とうてき)場各2か所ずつ。⑧観覧席の収容人員5,000人以上。⑨500人以上を収容する更衣室。⑩浴場またはシャワー男子用・女子用各2か所以上。⑪降雨直後に使用を可能とする排水施設と，15か所以上の散水施設。⑫競技場と場外，観覧席とトラックの境界をはっきりさせること，など。毎年の国民体育大会の開催や外国選手の来訪が刺激となって，1969年(昭和44)4月現在，全国の第1種公認競技場数は43，地方大会の開催可能な第2種32，第3～5種の公認競技場(学校・クラブの施設を含む)の総計264である。なお，オリンピックの主競技場ではサッカー・馬術大障害飛び越し競技や開閉会式も行なわれるので，そのための施設も必要となる。わが国最大の競技場は東京の国立競技場*で，75,000人の収容力がある。

競技場を広義に考えると，サッカー場・野球場・自転車競技場なども含まれ，体操・バスケットボール・バレーボールなどを行なう体育館なども競技場といえよう。世界的には，収容力20万と称するサッカー場もある。〔藤岡　端〕

ぎょうきず【行基図】 日本の総図として最も古い地図で，奈良時代の僧行基*のつくったものといわれているが，その確証はない。しかし彼が諸国を行脚(あんぎゃ)して地理に通じていたことから可能性は認められる。9世紀のころにできたものと推定されるが，その後江戸時代初期に至るまで広く流布し，日本の総図のもとにされてきた。また中国やヨーロッパでも写されて，オルテリウス*の地図帳にも取り入れられている。しかし江戸時代初期，特に元禄(げんろく)・享保(きょうほう)年間(1688～1735)のころから幕府がつくった日本総図が広まるにつれ，しだいに利用されなくなった。〔別技篤彦〕

きょうきゃく【橋脚】 橋の全長が長く，これをひとまたぎに渡すことが得策でない場合，途中に設けられ，上部構造を分割して支持する構造物。地盤の状況に応じてくいやケーソンなどの基礎をもち，沈下したり地震の際に転倒したりしないようにつくられる。河流の中にある場合はなるべく通水を妨げず，また洪水(こうずい)の際に洗掘の害を受けないようにその方向や形状を決める。通常は鉄筋コンクリートでつくられるが，非常に高い場合には鉄骨コンクリート造りとすることもあり，都市内の高速道路などには鋼製のものも多い。〔堀井健一郎〕



橋　脚

きょうぎやくかん【協議約款】 労働協約*中に，使用者が労働者を解雇・昇進・懲戒・異動・配置転換などをする場合に，労働組合と協議する義務を定めた約款をいう。これに対して，同意義務を定めたものを同意約款という。学説・判例の大部分は，協議約款・同意約款は労働者の待遇に関する基準を定めたものであるから，これに規範的効力を認め，協議あるいは同意なしに使用者を解雇などした場合，その行為を無効としている。〔木元錦哉〕

きょうきゅう【供給】 売り手が代金の受け取りを目的として，財を市場に提供すること。一般に供給という場合，その産業全体の供給量をさしており，個人や一企業の供給量のことではない。供給量は通常，市場の価格によって影響され，その商品の価格が上昇するにしたがって増加する性質がある。→需要 →需要・供給曲線

きょうぎょう【協業】 生産過程において多数の労働者が互いに協力して労働する形態をいう。協業には，多くの労働者が同一の生産過程に従事する場合と，一連の連続した生産過程の中で仕事の内容が互いに異なっているが，それらの連続した生産過程を通ることによって，ある生産物が生産される場合とに分けられる。いずれの場合でも，多くの労働者が計画的に互いに協力して生産を行なうのである。生産の効率を高めるには，1人の労働者がすべての仕事をするのではなく，ある特定の専門的仕事に従事し，各労働者の異なった専門的仕事を計画的に調整しながら生産を行なう必要がある。これは分業*に基づく協業である。現代の生産形態はほとんどこの種の協業によってなされている。〔藤枝省人〕

きょうぎょうしんしょう【教行信証】 親鸞*(しんらん)の選集した浄土真宗の根本聖典。正式の題号は《顕浄土真実教行証文類》といい，教・行・信・証・真仏土・化身土の6巻からなる。念仏往生に関する重要な文を，広くインド・中国・日本の経・論・釈から類集し，浄土真宗の教えを明らかにしたもの。1224年(元仁1)親鸞52歳のとき，常陸(ひたち)(茨城県)の稲田で制作された。これは親鸞が師の法然*への報恩・感謝の思いから著わしたもので，当時の非仏教的な生き方や，法然の弟子(でし)たちの間に行なわれていた誤った信心のあり方を批判し，法然の教えの真意を明らかにしようとしたものである。坂東本とよばれる親鸞自筆の草稿本は東本願寺の所蔵で，1952年(昭和27)国宝に指定された。〔坂東性純〕

きょうぎょうひしぎむ【競業避止義務】 営業主(会社を含む)の営業と競争的な性質をもつ行為をしない義務。営業主に対して，特別密接な関係をもっている者が，承諾を得ないで，その営業主と同一の行為を自分または第三者のために(会社の代表取締役として行なう場合も含まれる)することは，営業主の利益を害し，得意先関係を破壊するおそれがある。そのため商法は，支配人，合名会社の社員，合資会社の無限責任社員，株式会社および有限会社の取締役などに，上記の競業避止義務を負わせている。この義務に違反した者は，義務違反あるいは不法行為による損害賠償をしなければならない。しかし，この損害の証明が困難で賠償要求もむずかしいため，また得意先関係を保持させるという配慮から，営業主に介入権*を認めている。〔松本治雄〕

きょうく【狂句】 ①有心連歌(うしんれんが)に対して，式目・詞(ことば)などにとらわれず即興的によむ無心連歌をいう。②川柳*の別名で，江戸中期に俳諧*(はいかい)から独立し，前句付*を経て川柳に至る間の地口・洒落*(しゃれ)などを使った俳諧の一異体。③4世川柳は前句付を俳風狂句の名でよび，5世川柳は柳風狂句と称し，初代川柳の選句を古川柳，以後を狂句とよんだ。そのほか，一般的に規格からはずれたこっけい・卑俗の漢詩・和歌などを狂句とよぶことがある。〔小池正胤〕

きょうけ【京家】 藤原氏*の南家・北家・武家とともに藤原四家の一。不比等(ふひと)の第4子麻呂(まろ)が長く京職大夫(きょうしきだいぶ)の職にあったので，その家を京家という。四家中最もふるわず，彼のあと公卿(くぎょう)となった者も浜成と冬緒の2名にすぎず，子孫として世に聞こえる者もまったくない。

きょうげき【京劇】 中国の古典劇。もともと皮黄戯(ひこうぎ)といい，ほかに京戯・京調・平劇(北京(ペキン)を北平といったときの称)などのよび方がある。

【歴史】京劇は100年余りの歴史をもつ。二黄(にこう)・西皮(せいひ)という2種の基本歌調からなる。二黄は，安徽(あんき)省の歌調と湖北省東部の黄岡(こうこう)と黄坡(こうひ)2県の歌調とが結びついたものであり，西皮は西北地方に起源する西秦腔(せいしんこう)を取り入れた歌調である。二黄と西皮は，はじ

めははっきり分かれていて，演じ物によってそれぞれの歌調で歌われていたが，のちにこれらを結びつけて，これをもととし，さらに北京で従来行なわれていた崑腔戯(こんこうぎ)や弋陽腔(よくようこう)などをも吸収して，漸次他派を圧倒していった。また，北京の社会環境や一般市民の好みに合わせるため，北京のことばや風俗・習慣に順応し,脚本や調子が庶民の美意識や生活感覚からの要求に答えたものになった。そして，太平天国の乱で崑曲*が衰微したのち，皮黄戯が完全に優位を占めた。そして，中国の国劇的存在となり,日本の歌舞伎劇(かぶきげき)に相当する位置を中国の演劇界で占めている。演じ物は，《東周列国志演義》《三国志演義》《水滸伝(すいこでん)》《精忠説岳全伝》《楊家将(ようかしょう)全伝》《説唐演義》その他の古典通俗小説に取材したものが多く,《封神演義》や《西遊記》などの神怪物,《紅楼夢》や《今古奇観》に収める世態人情物，あるいは《閲微草堂筆記》や《聊斎志異(りょうさいしい)》などの文語体怪談集，または民間説話から題材をとったものがある。そのほか，元曲*や崑曲など，在来の戯曲の脚本を改作したものも多い。

【内容】文戯・武戯・文武戯の3通りに分けられる。文戯は人情物・裁判物・滑稽物(こっけいもの)などを演じ，歌唱を主とし，伴奏には胡弓*(こきゅう)・月琴*・三弦などを用いる。武戯(武劇)は，武勇に関するものが多く，立ち回りを主とする。京劇の中でも立ち回りは特に発達している。伴奏には銅鑼(どら)・らっぱなど刺激の多い楽器を使う。文武戯は両者を兼ね，歌唱と立ち回りを併用する。役がらは，生・旦(たん)・浄・丑(ちゅう)の4種に大別され，役者はひとりで数役を兼ねることはない。生と浄はどちらも男役で，旦は女役，丑は男役のも女役のもある。生と旦は素顔の役で，浄と丑は隈取(くまどり)をする。浄は権勢のある敵役であり，その隈取は人物に対する非難の意あるいはその性格・寓意を表わす。丑は道化役または端敵役で，浄の扮(ふん)する人物の手下か腹心という関係にあり，その隈取は，鼻のまわりに四角とか丸の形に白く塗る。皮黄戯の発展に伴って，役がらはそれぞれ独自の演技を創造した。旦を例にとると，青衣(立女形)・花旦(色女形)・武旦(立ち回りを主とする女形)・老旦(老女形)などに分かれている。こうして,役がらは全体として非常に複雑・多彩になっている。歌は，歌調の数は一定して限られているが，節回しは変化に富み，限りがない。歌い方は，生・旦・浄・丑の役がらでそれぞれ異なっており，多くの生と浄と旦のうちの老旦は地声で，他の旦は作り声で，生のうちの小生(若衆)は地声と作り声の両方で歌う。丑はあまり歌わないが，歌うときは地声で歌う。せりふ回しは，韻白(韻を踏んだせりふ回し)と京白(北京語の発音によるせりふ回し)とあり,一定のリズムと調和のとれたメロディーがある。

京　劇



白蛇伝　古典京劇。生命を助けられた許仙という男への恩返しをする白蛇の化身は，梅蘭芳(右)の代表的舞台の一つである



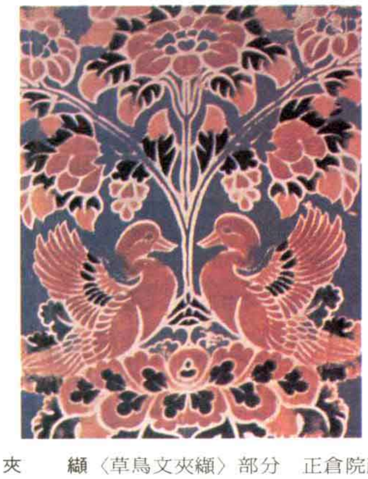
野猪林　《水滸伝》の一部を脚色した古典京劇。冤罪におとしいれられた林冲を助けて，皇帝の子を懲らしめる魯智深和尚



紅燈記　鉄道労働者李玉和一家の3代にわたる革命闘争を描いた現代京劇。李玉和尚(右)が日本軍憲兵隊長鳩山(左)と対決する場面



威虎山攻略　国民党匪賊座山雕の立てこもる威虎山に，解放軍偵察隊が人民とともに機知をもっていどむという現代京劇。たたかいに立ち上がった猟師の娘と偵察隊員



夾　纈〈草鳥文夾纈〉部分　正倉院蔵

所作はすべて舞踊的なしぐさで，実生活にみられる動作を誇張・美化したものである。立ち回りには素手で行なうものと，刀・槍(やり)・剣その他の武器を用いて行なうものとがある。〔今村与志雄〕

【現代京劇】新中国の成立後，政府と共産党は伝統演劇の保護育成とその近代化にのり出した。越劇や評劇など比較的歴史の浅い劇種では，早くから伝統様式による現代劇上演が試みられていたが，洗練された完成度の高い様式をもつ京劇の現代化は至難と思われていた。1958年には，中国京劇院の《白毛女*》をはじめとする現代化の大胆な実験がなされたが，その後も賛成論・反対論・慎重論がうずをまき，思想領域の論争として展開された。一方，社会主義建設の進行とともに民衆の意識はもはや古典京劇から遠ざかっていた。1964年，江青*女史の主唱によって北京で現代京劇競演大会が開かれ，全国の注目を集めた。ここに新しく誕生した現代京劇は，京劇本来の様式を基礎に，他種の伝統劇や現代劇からも栄養を取り入れた総合的な現代劇となったのである。従来舞台を支配していた帝王将相・才子佳人は現代の労働者・農民・兵士に席を譲り，伝統的な女形や隈取の化粧もなくなり，せりふは平明な普通語，舞台装置も照明も自在に用いられる。競演大会で初演された《紅燈記》《威虎山(いこざん)攻略》《沙家浜(さかほう)》などはその後も中国全土で上演され続けている。現代京劇は内容と形式から〈革命京劇〉ともよばれ，民衆に喜び迎えられて，いまでは完全に古典京劇にとってかわった。この京劇革命の成功は1965年以降の文化大革命*の道ならしの役割を果たしたということができる。〔内山　鶉〕

きょうけち【夾纈】 纈纈(きょうけち)とも書き，纐纈(こうけち)・﨟纈(ろうけち)と並ぶ天平染色の三纈の一。夾纈という語意から，挟(はさ)み染め，つまり後世の板締めと同様に，





狂　言
(左)釣　狐　狂言師の修業はこの曲で完成する。これは善竹十郎の初演の舞台。上は前ジテで，キツネが僧に化けて猟師のところへ行くところ。下は後ジテで，本性を現わしてわなにかかる直前
(右)靭　猿　狂言師の初舞台はこの曲のサルである。このサルは野村良介。父万之丞がシテ大名を，祖父万蔵が猿引きを演じている。サルが大名に許されて芸を見せるところ

文様を凸彫(とっちょう)した板の間に，折りたたんだ布をはさんで締めつけ，染料につけるか染料を注いで染めたと考えられている。現存する資料には，裂(きれ)を二つ折りにしたと思われる跡が見られ，模様はこれを境にして対照をなし，また布を何枚か重ねたと思われるような模様の輪郭のはっきりしたものや，ややぼやけたものがある。しかし，2色以上のものが，どのような過程で染め分けられたか，その技術の詳細は今日なお不明な点が多い。　〔勝呂小枝〕

ぎょうけつ【凝結】 水蒸気を含んだ空気の温度があるところまで下がると，水蒸気の一部が水滴に変わる現象。そのときの温度を露点という。すなわち，一定の温度の空気が含みうる水蒸気量には一定の限度がある。実際の凝結は大気中に浮遊している無数のちりのまわりに個々の水滴を形成する。この凝結の核となるちりを凝結核という。凝結核は媒煙・火山噴出物・海塩などの粒子であり，大気中いたるところに存在する。凝結核のまわりに凝結が起こると雲となるわけであるが，これが直ちに雨を降らすようになるのではない。水滴のまわりに凝結が続いて雨粒に成長するのではなく，雲粒の衝突・併合などの複雑な過程を経て雨粒は形成される。水蒸気を含んだ空気が大気中を上昇し，しだいに気温が下がってある高度に達すると凝結が始まる。この高度を凝結高度といい，雲底高度にあたる。➔雨　〔曲田光夫〕

きょうげべつでん【教外別伝】 仏教の中で，禅宗が独自の旗印としてあげた特色の一。仏教の教義を伝えるのに，教宗(禅宗以外の宗派)が経典の文字やことばによって伝える〈教内の法〉であるのに対して，禅宗は文字やことばによらず，ブッダの心を歴代の祖師の心を通して直接に受け継ぎ伝える〈教外の法〉であると主張したことによる。

きょうげん【狂言】 日本の古典喜劇。能*とは成立上密接な関係にあり，たえず同じ舞台で演じられてきたので，両者をいっしょにして能楽という。〈狂言〉はもと古い漢語で，常軌を逸した句，道理にはずれたことば，冗談などの意味をもつ一般名詞であった。わが国でもすでに《万葉集》に〈たわごと〉と読まれており，平安時代には架空のつくりごとから転じて小説などをさす〈狂言綺語(きご)〉の熟語で普及した。これが芸能の一種をさすようになったのは南北朝時代からで，まず延年*の芸の中に現われている。室町時代には狂言というほかに，〈をかし〉〈狂言能〉などともよばれたが，江戸時代になると〈歌舞伎(かぶき)狂言〉の語が一般化して狂言は演劇の別称のようになったので，近年は能狂言と称することもある。

〔歴史〕奈良時代に中国から渡来した散楽*の諸芸能のうち，こっけい物まねの要素を源流とする。これが《古事記》などにみられる日本古来の喜劇的演技としだいに結合し，平安時代にはいると民間に流行して，名称も日本的になまって猿楽*(さるがく)とよばれるようになった。このころ猿楽専業の役者は大寺社に隷属し，その法会や祭礼に奉仕していたので，密教的行法のうち芸能的要素の強い呪師(じゅし)のつとめや大寺院の余興大会である延年への参加，あるいは音楽的読経(どきょう)といえる声明*(しょうみょう)などの影響を受けて，こっけいの中にまじめな要素が芽ばえた。そこで室町初期世阿弥*(ぜあみ)らによって猿楽の芸が整備されたときには，歌舞中心の悲劇である能と対話中心の喜劇である狂言とに分離し，むしろ能のほうが猿楽の主流となっていた。狂言は一座の中で従属的立場に置かれたため，流儀の発生も能より遅れ，室町後期に大蔵流*，江戸初期に鷺(さぎ)流*・和泉(いずみ)流*が成立した。徳川幕府は能楽を武家の儀式芸能に指定し，能楽師には食禄(しょくろく)を与えて保護したので，大蔵・鷺2流は幕府直属の流儀，和泉流は尾張(おわり)徳川藩などに召しかかえられながら宮中御用もつとめる流儀として，江戸時代は安泰に経過した。それだけに明治維新による打撃は大きく，家元は一時3流とも廃絶，和泉流は新政府をたよって東京に集まった主として三宅(みやけ)派狂言師たち，大蔵流は東京で山本家，関西で茂山家と，いずれも弟子(でし)家によって芸統が保持されたが，鷺流はついに絶滅した。

現在は東京に大蔵流の大蔵弥太郎(やたろう)家・山本東次郎*家，和泉流の野村万蔵*家・三宅藤九郎家，関西に大蔵流の茂山千五郎家・茂山忠三郎家・善竹家，名古屋に和泉流の野村又三郎家・狂言共同社などが上演単位として活躍している。大蔵流の現家元は善竹家から出た大蔵弥太郎，和泉流は三宅藤九郎家から出た和泉保之(やすゆき)である。芸風は流儀より土地がらを反映し，東京は知性的で規則正しい芸，関西は情緒的で写実みの濃い芸，名古屋はその中間的な芸といえる。

〔本狂言〕狂言を演ずる役者を狂言方*とい

う。狂言方は本狂言のほかに間狂言(あいきょうげん)や三番叟(さんばそう)(→翁(おきな))・風流*(ふりゅう)を演ずる。本狂言は独立した筋をもつ劇で，ただ狂言というときにはこれをさすことが多い。世阿弥時代にはすでに能と本狂言との交互上演が行なわれていたが，本狂言だけを演ずる〈狂言尽くし〉も近年はことに盛んである。現行曲(流儀の公認曲)は大蔵流180番・和泉流254番，そのうち両流に共通の曲が174番で，合わせて260種の曲があるが，常時上演されるのは100番前後である。通常2～4人で演じ，主役をシテ*，脇役(わきやく)をアド*(特殊な場合にワキ*)とよぶが，立ち衆*などが登場して数人から10数人を要する曲や，まれにはひとりで演ずる曲もある。上演時間はほとんどが15～40分である。

〔本狂言の特色〕戯曲内容の特色としては，〈庶民性〉と〈笑い〉とがあげられる。本狂言の大多数は室町時代の現実の世相に取材しているので，登場人物は上は果報者(金持ち)・大名から下はばくち打ち・すっぱ(詐欺師)・盗人に至る各層各種の人物，さらに神仏・閻魔(えんま)・鬼や動植物にまで及んでいるが，歴史上の著名人物はごく少ない。これらのうち，武士や土豪の召使である太郎冠者*(かじゃ)が最も活躍し，またばくち打ち・盗人などには好意的で，真の悪人としては扱っていない。これに対し，大名・僧侶(そうりょ)などの権威ある者には批判的で，閻魔・鬼あるいは歴史上の著名人物などにも普通の人間のごく通俗な性格を与えて笑いの対象としている。題材上，本狂言は庶民の味方であるといえる。笑いも室町時代人の現実的で無邪気な一面を示し，明るくおおらかな楽しさに満ちている。こっけいを誘う手段としては，言語遊戯・誇張・矛盾などがあげられるが，下克上の時代につくられたものでありながら鋭い風刺を感じさせる曲は少なく，全体的に軽く，さっぱりした気分が支配的である。能楽貴族化の風潮を受け，日本人本来の温和で淡泊な国民性も反映して，しだいにどぎつさや品の悪さを洗い落としてきたためであろう。人間性の深みに触れ，笑いのうちに哀愁を漂わすような曲はごくまれである。

　本狂言はふつう脇狂言(わききょうげん)以外はシテの役がらにより分類する。各類型の特色を略述すると以下のとおり。①脇狂言：脇とは，《翁》が演じられるとき，それに添うものの意で，神仏・果報者・百姓などをシテとし，めでたい笑いを誘う。《末広がり*》《福の神*》など。②大名狂言：いばっている大名が実は愚かで無力なことを暴露する曲であるが，狂言の大名はみなおうようで，笑いもおおらかである。《靭猿*(うつぼざる)》《萩(はぎ)大名*》など。③太郎冠者狂言：冠者はだいたい愚鈍・横着・おくびょうあるいは酒好きであるが，無邪気なので，冠者に応援し明るく笑える。《素袍落*(すおうおとし)》《棒縛*(ぼうしばり)》など。④婿狂言：ういういしい婿が婿入りの儀式や婿志願に失敗することを扱っているもので，なごやかな，めでたい気分の漂う曲が多い。《八幡前(やわたのまえ)》《二人袴(ふたりばかま)》など。⑤女狂言：本狂言には尼以外の女性をシテとする曲はない。女狂言はいわば夫婦物で，妻のほうが気が強いのが，矛盾のこっけいを生む。《鎌腹(かまばら)》《花子*》など。⑥鬼狂言：鬼・閻魔などのたあいなく人間に負ける無力さが，漫画的で楽しい。《首引*》《節分》など。⑦山伏狂言：いかめしい山伏が無能力ぶりを発揮する曲が多い。風刺性もあるが，むしろ童話的。《菌*(くさびら)》《蝸牛(かぎゅう)》など。⑧出家狂言：僧侶の欲張り・破戒・無学を鋭くついて風刺的である。《宗論*》《無布施経(ふせないきょう)》など。⑨座頭狂言：盲人の失敗を笑った曲もあるが，盲目ゆえの深い知恵が哀愁を感じさせる佳作もある。《月見座頭*》《丼礑(どぶかっちり)》など。⑩雑狂言：以上の分類にはいらない曲を集めて雑多であり，盗人・ばくち打ち・すっぱ・商人・職人などをシテとする曲がここに入れられている。《瓜盗人*(うりぬすびと)》《三人片輪*》など。

〔作者・台本〕狂言の作者は明らかでない。大蔵流では南北朝時代の学僧玄恵*(げんえ)や室町時代中期の狂言方金春(こんぱる)四郎次郎(金春禅竹*の子)やその弟子の宇治弥太郎らを作者として伝えているが，そのままには信じられない。もちろん趣向の立案者はいたであろう。しかし，作者がはっきりしないのは，出演前に大筋だけを打ち合わせておき，あとは舞台へ出て適当に演ずる〈口立て〉によっていたためと思われる。台本として最も古いのは1578年(天正6)の奥書きのある《天正狂言本》であるが，これは簡略な筋書き程度のものにすぎない。詞章が細かく書き留められるようになったのは江戸初期からで，せりふが固定したのも江戸時代にはいってからと考えられる。しかし，狂言の言語は本来室町時代の口語を主体としており，中世の民間習俗が豊富に描かれていると考えられる。各流儀の台本は長く他見を許さぬ秘書として伝えられ，翻刻されるようになったのは大正初期以来である。ただ江戸前期から《狂言記*》と題されるやや記載の簡単な台本が版行されていたが，これは大蔵・鷺・和泉3流のどの台本とも定められず，ゆいしょは不明である。

〔演出・演技〕狂言は数百年の歴史を通じ，歌舞劇である能の影響下に，背景には老松が1本描いてあるだけで引き幕もない殺風景な能舞台*で演じ続けられてきた。そのために，部分的演技においては写実を基調としながら，全般的演出においては象徴劇の域を抜け切ることができなかった。狂言は能と違ってせりふとしぐさを主体としているが，狂言謡や小舞*などの歌舞的要素，特殊な物語話法である語りなどが加えられているものもあり，囃子(はやし)や地謡*が出て劇的進行に変化を与えている曲もある。劇としての構成は単純で類型化されており，ほとんどの曲は登場人物の自己紹介である〈名乗り〉で始まり，場面を転換するために舞台を一巡する〈道行き〉をして相手方を尋ねてから本筋にはいり，結末は〈やるまいぞ，やるまいぞ〉の〈追い込み留め〉などの数種に分類することができる。しかし，無装置であることは人物の動きだけで場面を自由に転換できる長所を生み，擬音用具を用いないことは戸をあけるときには〈ガラガラガラ〉，酒だるから酒をつぐときには〈ドブドブドブ，ピショピショピショ〉などと，演者が演技しながら擬声語を発する大胆でユーモラスな演技を考案させている。面や装束は狂言のユーモアや庶民性を象徴しており，道具にも写実的なものには農具・酒器・荒物など身近なものが多いが，一方羽帚(はぼうき)がガンを示したり，竹づえの先に結んだたれ布の黒がウシ，白がウマを表わしたりする奇抜で象徴的な例もある。また扇は閉じて太刀(たち)・のこぎり・石うす，開いて杯・とくり・戸などに巧みに多用されている。このように，狂言は近代写実劇の方向へは発展できなかったが，写実と象徴を融合して，簡潔で洗練された，今日の目からはむしろ斬新(ざんしん)に感じられる独自の様式を完成しているということができる。➔狂言装束 ➔狂言面　〔小林 責〕

きょうげんかた【狂言方】 能楽における役者の一部門。狂言*を演ずる。能の会では，能と能との間に本狂言を演ずるほか，能の登場人物の一役として間狂言*(あいきょうげん)をつとめる。また《翁*(おきな)》では三番叟(さんばそう)をつとめるほか，翁の面を運ぶ面箱持ちや，主要な役の一つである千歳(せんざい)(シテ方が金春(こんぱる)・金剛・喜多の3流の場合)をつとめる。現在大蔵流*・和泉(いずみ)流*の2流がある。なお，明治時代以前に歌舞伎(かぶき)劇場専属の狂言作者*の下位の者もこの名でよばれた。　〔長尾一雄〕

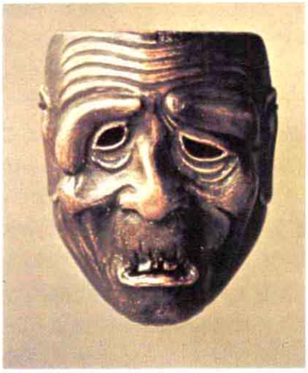
きょうげんき【狂言記】 狂言の台本集。狂言の家の台本は近年まで秘書として一般に公開されなかったが，本書は江戸時代を通じて市販された唯一の本狂言のテキストである。初刊は1660年(万治3)だが，普及したのは1699年(元禄12)刊行のもの以後で，翌年に《続狂言記》と《狂言記外五十番》が出版され，1730年(享保15)には《狂言記拾遺》が追加された。以上4編はそれぞれ本狂言50番を収録。その後，文化・天保(てんぽう)・嘉永(かえい)にも版を改め，明治以後は活字化されて出版され，大正末期までは狂言の代表的テキストと考えられていた。内容は詞章の簡略なものが多く，本書独特の曲もあって，大蔵流・和泉(いずみ)流・鷺(さぎ)流のいずれの流儀の台本でもなく，ゆいしょ不明。さし絵がはいっており，狂言の古態を知る参考になる。　〔小林 責〕

きょうげんさくしゃ【狂言作者】 歌舞伎(かぶき)で，劇場専属の脚本作者のこと。初





狂言装束
(左)狂言の代表的な役柄である太郎冠者の扮装。かみしも姿の一形式で，狂言上下ともいう。肩衣の背に特殊な模様を描くが，これは琴の柱を描いたもの
(右)市井の女を表わす代表的な扮装。明るい色の着物を着て，美男鬘をつける





狂言面
(左)祖　父　人間の老人役がかぶる。左右の顔面が著しく不均衡で，写実的な感じが強い。《腰祈》《財宝》《枕物狂》などで用いる
(右)乙　狂言の女面は醜女か老女に限る。これは《業平餅》《二九十八》などの若い女がつける醜女の面で，はじめ顔を隠したまま嫁にきて，あとで男がびっくりするなどの演出が多い

期には，文筆の才ある俳優が兼ねていたが，1680年(延宝8)富永平兵衛(とみながへいべえ)が作者として独立，その後，近松門左衛門*(ちかまつもんざえもん)が地位を確立させた。1760年(宝暦10)ごろには，劇場に専属の作者部屋(へや)を置き，首席の立て作者以下，その補助役の二枚目作者・三枚目作者，舞台進行係をつとめる狂言方，見習い作者という順の階級制度が完成した。明治になって，劇場部外の作家の脚本が上演されるようになってからこの制度はくずれたが，名称は現在に残った。ただし，現在は脚本の創作がほとんどなく，実質的には狂言方の任務のみで，脚本の浄書，書き抜き*や各種付け帳の作成などのほか，けいこから千秋楽までの舞台進行がおもな仕事である。開幕・閉幕の拍子木を打ち，黒衣(くろこ)を着てプロンプター*の役もつとめる。〔松井俊諭〕

きょうげんしょうぞく　【狂言装束】　狂言*の多くは室町時代の世相に取材しているので，装束にも当時の日常衣服が用いられ，能装束*の豪華絢爛(けんらん)と対照的に，簡素で渋い味わいがある。着付け(外から見えるいちばん下に着る装束)には，縦糸を生糸，横糸を練り糸で織った熨斗目*(のしめ)が多用され，大名や主人には大がらな横段模様の段熨斗目，果報者(金持ち)や婿などのめでたい役には紅白段の紅段熨斗目，太郎冠者(かじゃ)などにはしま模様のしま熨斗目を用いる。その上に大名は素袍(すおう)，主人は長裃*(ながかみしも)，太郎冠者は肩衣(かたぎぬ)と半袴(はんばかま)(狂言袴)をつけるが，これらはすべて麻製。肩衣には背面いっぱいに鬼がわら・鳴子・トンボ・カブなどが大胆に描かれ，半袴は三本傘(かさ)・ひきうす・帆掛け舟などを染め抜いた紋散らしで，どちらもいかにも庶民的であり，見ていて楽しい。えりの色はふつう浅葱(あさぎ)色であるが，めでたい役や女性は紅，強い役は黒，渋い役は茶などで装束を締め長方形の両端を前で重ねてたらす腰帯の模様は，冠者は黒い紋，僧や祖父(おおじ)は無地，神や女は金・銀を交えるなど，役がらの性格を示している。神・鬼など，役がらが非現実的になるにしたがって能の扮装(ふんそう)に近づくが，装束の種類は多くなく，組み合わせと色や模様などによって，さまざまな人物類型を表現しているのである。また女優を使わず，醜女・尼以外に女面も使わない狂言では，女性を表わすのに美男鬘(びなんかずら)という扮装をする。長い白麻で頭を巻いて前で結び，顔の左右にたらして両端を帯にはさんだ扮装である。〔小林　責〕

きょうけんびょう　【狂犬病】　恐水病ともいう。狂犬病ウイルス*による疾患で，哺乳(ほにゅう)動物，ことにイヌにみられる。その咬傷(こうしょう)によって，唾液(だえき)からヒトおよび他の哺乳動物に伝染する。狂犬病ウイルスは向神経性で，いったん発病すると中枢神経を冒されほとんど死亡する。罹患(りかん)したイヌは不穏になってうろつきまわり，しわがれた声でほえ，かみやすくなる。嚥下筋(えんげきん)のけいれん・麻痺(まひ)を起こして5～7日で死亡する。ヒトでは潜伏期は約2週間から8か月で平均約2か月。傷が中枢神経系に近くて深いほど発病が早く，症状も重い。多くは頭痛で始まり不穏・ゆううつ・不眠などがみられ，咬傷部の神経に沿って知覚異常が起こる。興奮期には発熱・唾液分泌亢進(こうしん)・反射亢進・昏睡(こんすい)などがみられ，中枢神経の興奮によって嚥下筋・呼吸筋のけいれんが起こるために呼吸困難を起こし，水を飲んだり単に水を見るだけでも嚥下筋のけいれんを起こす。この状態が3日ぐらい続いてから，顔面・舌・嚥下筋・眼筋・呼吸筋などの麻痺を起こし，急速に死亡する。本症の咬傷による発病率は5～50％で，発病すれば4～5日でほとんど100％死亡する。応急処置として狂犬による咬傷はできるだけすみやかに切除・焼灼(しょうしゃく)あるいは切開し，1％昇汞水(しょうこうすい)でよく洗う。予防としてはかんだイヌが狂犬かどうかを一定期間観察後，確実または疑い濃厚であれば，できるだけすみやかにワクチンを10数日間連日注射し，潜伏期間中に免疫力をつけるようにする。予防対策上さらに重要なことは，野ら犬をなくし，飼い犬には年2回予防接種を励行することである。〔国井乙彦〕

きょうけんびょうウイルス　【狂犬病ウイルス】　多種の恒温動物がこのウイルスに対して感受性をもっているが，特にイヌ・ネコ・キツネ・リス・コウモリが罹患(りかん)動物として注目される。通常，罹患動物による咬傷(こうしょう)から，唾液(だえき)に含まれて移されたウイルスが感染する。感染したウイルスは，ある期間の潜伏期ののちに中枢神経系に至って増殖し，末梢(まっしょう)に広がって唾液腺(だえきせん)でも増殖する。予防には不活化ウイルスのワクチンが使われている。このウイルスの研究は，培養細胞であまりよく増殖しないためもあって，比較的遅れている。形態は主として円筒状(70×200mμ程度)で，被膜で包まれ，遺伝物質としてリボ核酸*(RNA)をもつ。37℃，24時間で強い不活化を受ける。有機溶媒には比較的抵抗力が強い。〔石川　彬〕

きょうげんめん　【狂言面】　狂言*で使う面。狂言はふつう素面で演ずるが，特異な人間や神仏・鬼・亡霊・動植物などの役は面をつける。面の種類は20余，本狂言で面を用いるのは全体の8分の1程度である。人間では，老人が祖父(おおじ)，老尼が尼，醜女が乙(おと)をつける。祖父は左右の対象を欠いた極端な老人の顔，尼もこれに近く，乙ははなはだしい不美人の面で，いずれも人間ばなれしている。乙はおかめ*の原型であるが，仏像に扮装(ふんそう)するときにも使う。神仏面は，《翁*(おきな)》が三番叟(さんばそう)の〈鈴の段〉につけて神聖視される黒式尉に

(しきじょう)や間狂言*(あいきょうげん)で末社の神が用いる登り髭(ひげ)は笑った老人面であり，夷(えびす)・大黒・毘沙門(びしゃもん)・福の神など庶民的な神の面とともに親しみやすい。鬼や閻魔(えんま)用の武悪はインド人の顔からヒントを得たともいわれ，ごつい顔であるが，泣き笑いの表情は恐ろしさにほど遠い。老人の亡霊にはすべて鼻引きを流用していたが，塗師(ぬし)平六・通円など，その役だけの面もつくられた。イヌ・ウシ・ウマ・カニの精などには賢徳，きのこやヘビの精などには空(うそ)吹きを使う。賢徳は横をにらんだ目，空吹きはすぼめて曲げた口が特徴。ひょっとこ*を思わせる空吹きはかかしの顔にも転用される。そのほか，写実的なサル・キツネ・タヌキなどの面もある。狂言面は能面と違って人間みが濃く，あいきょうのある点が共通しており，キツネが化けた老僧を写し，無気味な印象を与える白蔵主(はくぞうす)などは特殊な例である。〔小林　責〕

ぎょうこ【凝固】 液体または気体が固体に変わること。逆に固体から液体になることを融解*，気体になることを昇華*という。凝固が始まると，終わってしまうまでは一定の温度に保たれる。この温度を凝固点という。凝固点は圧力と不純物濃度によって変わる。凝固したとき体積が減るものは圧力の増加とともに凝固点は上がり，体積がふえるものは圧力の増加とともに凝固点は下がる。また溶質が液相のほうにはいりやすいときは凝固点は下がり，固相のほうにはいりやすいときは凝固点は上がる。単位質量の液体が，凝固が終わるまでに放出する熱量を凝固熱とよぶ。これは固体よりも液体のほうが内部エネルギーが高いので，その差が放出されるのである。水の場合は0℃，1気圧においては80cal/gである。〔中野藤生〕

きょうごいん【教護院】 不良行為をした18歳未満の不良児や，将来不良行為をするおそれのある虞犯(ぐはん)少年*を収容し，彼らが社会生活に適応するような適切な教育と保護を加えることを目的とした施設。児童福祉施設13種のうちの一つで，国立・都道府県立の施設がある。入所児童に対しては生活指導や職業指導および教護の目的の範囲内で，学校教育法に基づく学習指導要領*にのっとった学科指導を行なっている。児童の収容については，親権*者または後見*人の同意を必要とするが，家庭裁判所による場合は必要ではない。なお，この教護院は少年院*と異なる。〔椿　輝男〕

きょうこう【胸腔】 胸郭内部の腔所。➔胸郭

きょうこう【恐慌】 資本主義的商品生産の基本矛盾(生産の社会的性格と所有の私的性格との間の矛盾)の爆発によって起こる経済生活の攪乱(かくらん)現象をいう。現象的には，過剰生産のために商品が採算にあった価格では売れなくなり，物価の暴落，企業の倒産，失業者の続出，賃金の低下，銀行や株式取引所の破産等々の経済的困窮状態として現われる。しかし，こうした社会の経済的困窮状態は，その原因が資本主義的生産様式そのものの中にあるという点で，洪水(こうずい)や旱魃(かんばつ)などの天災や戦争などによる経済的困窮とは根本的に異なる。ここに恐慌が資本主義に固有の過剰生産恐慌といわれる理由がある。資本主義のもとではなぜこのような恐慌が起こるのか，という原因の説明については，生産の無政府性説・部門間不比例説・過少消費説・利潤率低下説など諸説がある。しかし，その根本原因は資本制生産様式そのものの〈基本矛盾〉に求められるべきであろう。資本制生産は商品として生産された財貨の交換が貨幣によって媒介される経済のことである。物物交換経済では売ることは同時に買うことであり，買うことは同時に売ることであるから，売りと買いは統一されている。しかし，資本主義社会では交換過程に貨幣が介入することによって売りと買いが時間的にも場所的にも分離される。売ったからといって直ちに買わなければならないという必然性はない。しかし，人は買い手なしには売ることはできない。それゆえ，売りと買いの分離は際限なく持続される性質のものではなく，やがて暴力的にでも二者の関係は統一されなければならなくなる。この暴力的・強制的な交換関係の統一性の回復が恐慌にほかならない。また，資本制商品生産の特徴は労働力までもが商品化されていて，労働者は労働力を売ることによって生活費(＝賃金)を得るという関係にある。しかし，資本にとって生産の目的は利潤の追求，剰余価値の生産にあるから，労働力はその価値(賃金)以上の剰余価値を生産するかぎりでのみ雇用される。こうして，資本制生産は労働者(＝勤労大衆)の消費力(賃金)以上の価値を生産し，社会の消費力(需要)に限度がないかのように生産の無制限な拡大を展開していく。しかし，生産の拡大は社会の消費限界から独立して存在しうるものではなく，やがて生産と消費の不均衡な関係は暴力的にでも調整されなければならなくなる。マルクスは〈あらゆる現実の恐慌の究極の根拠は，いぜんとしてつねに，あたかも社会の絶対的消費能力だけが限界をなすかのように，生産力を発展させようとする資本制生産の衝動と比較しての，大衆の窮乏と消費限界である〉といっている。こうして恐慌という暴力的調整によって，資本制生産はその内在する諸矛盾を一時的に解決し，次の景気局面に移っていく。すなわち，恐慌・不況・好況・繁栄という四つの局面を経て再び新たな恐慌に見舞われるという形で循環的に発展する(これを景気循環という)。資本主義社会は1825年以降ほぼ10年ごとに循環性の周期的恐慌に見舞われてきた。しかし，独占資本主義，特に国家独占資本主義*段階にあるといわれる今日では，管理通貨制の上に行なわれる国家の景気政策などにより，恐慌は必ずしも古典的形態をとるとは限らなくなった。〔常盤政治〕

きょうこう【教皇】 ローマ-カトリック教会の首長。法王ともいい，ローマの司教が兼ねる。〈父〉を意味するギリシア語papaに由来し，元来は聖職者一般をさした。教皇はペテロの後継者であり，地上における神の代理者として最高権威者とされ，それゆえ教皇の座にあるかぎり不可謬(ふかびゅう)であるとされた。教皇の行なう職務には教会法の制定，勅書の発布，枢機卿(すうききょう)の選任などがある。教皇権は中世の聖職叙任権闘争*から12世紀末のインノケンチウス3世*のとき，最盛期にあったが，十字軍遠征以後弱まった。なお，プロテスタント諸派・イギリス国教会・東方正教会は教皇を認めていない。〔高山高雄・石井忠厚〕

きょうこうちょう【教皇庁】 ローマ聖庁・法王庁ともいう。バチカン市国にあり，ローマ-カトリック教会の中央機関。教皇*を最高統治者とし，枢機卿(すうきけい)を長官とする12聖省，裁判所，委員会，教皇五局などがある。聖省とは別格に国務省があり，諸外国との外交交渉や大公使の派遣などはここを通して行なわれる。

きょうこうちょっけい【胸高直径】 人の胸の高さにおける立ち木の直径をいう林学用語。わが国では1.2ｍを胸高としているが，外国では1.3ｍとか4.5フィートなどとするところがある。斜面にある木は根もとの上面からはかり，木が斜立する場合は垂直にはかる。

きょうこうのバビロンほしゅう【教皇のバビロン捕囚】 14世紀の教皇権の衰退を示す事件。アビニョン幽囚ともいう。フランス王フィリップ4世*は教皇ボニファチウス8世*と争い，1309年フランス出身のクレメンス5世*を南フランスのアビニョンに教皇として擁立した。以後1377年まで7代にわたって教皇はアビニョンにあり，のちの教会分裂の原因となった。

きょうこうほうき・にんいほうき【強行法規・任意法規】 当事者の意思いかんにかかわらず無条件に適用される法規を強行法規といい，当事者の意思によって適用を排除しうる法規を任意法規という。強行法規に違反する法律行為*は公の秩序に反し無効である(民法90・91条)。公法上の規定や労働法・農地法・借地法・借家法などはだいたい強行法規の性格をもつ。民法の中でも親族・相続編や物権編の大部分の規定は強行法規であるが，経済取引上の契約や債権*の規定は任意法規が多い。〔黒木三郎〕

きょうこうりょう【教皇領】 ⇨教会領

きょうごくし【京極氏】 佐々木信綱(のぶつな)の四男氏信を祖とする。嫡流の兄泰綱(やすつな)(六角氏*の祖)が南近江(みなみおうみ)(滋賀県)を領したのに対し，支流の氏信は北近

江を領した。高氏(道誉)のとき足利尊氏(あしかがたかうじ)に従って室町幕府に重きをなし，近江・上総(かずさ)(千葉県)・出雲(いずも)(島根県)・隠岐(おき)(島根県)・飛騨(ひだ)(岐阜県)の守護を兼ね，山名・一色・赤松氏とともに室町幕府の四職(ししき)家の一つとなった。応仁(おうにん)の乱後は領国を形成しえず没落したが，高次が豊臣秀吉(とよとみひでよし)に見いだされ，江戸幕府では近江大津・出雲松江などを経て讃岐(さぬき)(香川県)丸亀(まるがめ)領主となった。高次の弟高知(たかとも)の家は丹後(京都府)宮津・田辺(たなべ)・峰山に分かれて藩主となったが，田辺より但馬(たじま)(兵庫県)豊岡(とよおか)に移された京極家だけが明治まで存続。ともに子爵。〔村尾元忠〕

きょうごくたかつぐ【京極高次】(1563～1609) 安土桃山・江戸初期の武将。家は室町幕府の四職家の一つとして重きをなした。はじめ浅井氏に属し，浅井氏滅亡後は織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕えた。姉は秀吉の側室松の丸殿。その縁故でしだいに加増され，1595年(文禄4)大津六万石を与えられた。淀殿*(よどどの)の妹を妻とした。関ヶ原の役には徳川方に属して籠城(ろうじょう)，守備を全うできず高野山に隠れた。のち若狭(わかさ)(福井県)小浜に封ぜられ，八万五千石を領した。〔善積美恵子〕

きょうごくためかね【京極為兼】(1254～1332) 鎌倉後期の歌人。京極為教(ためのり)の子。伏見天皇の信任を得て，いわゆる京極派*の指導者として，伝統的・保守的な二条派*の二条為世らに対し，革新的・進歩的な歌論・歌風を示した。政争にかかわって1298年(永仁6)佐渡に流され，数年後に許されたが，1316年(正和5)再び土佐に流され，晩年を河内(かわち)(大阪府)に過ごして生涯(しょうがい)を終えた。《玉葉和歌集*》撰進(せんしん)のほかに，歌論書《為兼卿(ためかねきょう)和歌抄》がある。〔桑原博史〕

きょうごくどおり【京極通り】 京都市中京区の街路。平安京では，賀茂(かも)川西岸に沿う東京極大路と，桂(かつら)川の東岸に沿う西京極大路が東西両端を画する街路であった。東京極大路は，いまの京都市の中心部を河原(かわら)町通り*と平行して南北に走る寺町通りで，三条と四条の間は新京極とよばれ，商店・劇場・映画館などが多い繁華街である。西京極大路は，右京(西京)の衰退によって自然消滅し，いまは西京極の地域にその名をとどめる。〔浅井得一〕

きょうごくは【京極派】 歌道*の流派。京極為兼*(ためかね)とその縁者たち，持明院統*の伏見天皇とその周辺の歌人たち，為兼の主家西園寺実兼(さいおんじさねかね)の関係者たちからなり，対二条派集団の称。大覚寺統*によった守旧的な二条派*に対し，持明院統によって新歌風を標榜(ひょうぼう)して激しく対立した。その歌風は総じて清新自由で，客観的・感覚的であり，近代に至って高く評価された。《玉葉和歌集*》《風雅和歌集*》はこの派の選集になる。〔佐藤恒雄〕

きょうこつばん【狭骨盤】 小骨盤の前後径・横径・斜径などの諸径線のいくつかが短縮し，そのために胎児の娩出(べんしゅつ)に障害をきたすもの。骨盤は大骨盤と小骨盤に分けられるが，産科的に意義のあるのは小骨盤である。小骨盤は前方に湾曲した1個の骨管を形成する。これが骨産道で，分娩時に胎児が通過する経路である。分娩の難易に密接な関係があるのは骨盤入り口部の前後径である。高度の狭骨盤では自然分娩は不可能で，帝王切開術*を行なわねばならない。〔木川源則〕

きょうさい【共済】 相互救済を目的として，主として同じ職業または地域の人々が団結して組合*を形成し，それぞれ共済掛け金を分担し，その所属の組合員の身上または所有する動産や不動産に偶然の事故が発生したときに，共済金を支給する制度である。現在わが国には，官庁，会社の従業員などによる各種の共済組合*と，中小企業等協同組合法・農業協同組合法・消費生活協同組合法・水産業協同組合法などに基づいて設立されている各種の協同組合*によって行なわれる共済とがある。〔庭田範秋〕

きょうさいくみあい【共済組合】 不慮の災害をこうむったとき，相互に救済しあうという相互扶助の精神にのっとってつくられた組織。組合の加入者は，まず一定額の掛け金を納めておき，組合員が死亡・負傷・疾病(しっぺい)，またその他の災害をこうむったとき，その積み立てておいた金額の中から，ある一定金額を，その被害にあった組合員に支給し，その組合員および家族を救済しようとするものである。欧米では，17世紀後半から発達したのであるが，日本では，19世紀末に山口県のセメント工場で組織されたのが最初である。現在，国家公務員共済組合・公共企業体職員等共済組合・市町村職員共済組合や私立学校教職員共済組合などがある。〔原　豊〕

きょうさにゅうとつきん【胸鎖乳突筋】 胸骨上端と鎖骨の内側から起こり，側頸部(そくけいぶ)を斜め後上方に上がって側頭骨の耳介の後下方にある乳様突起に終わる，1対の強大な筋。ある側のものが働けば頭はその反対側に向き，両側のものが同時に働くと頭は上方を向く。この筋肉は，頭を斜め後方に向けたときには頸部にはっきり現われ，その存在を察知できる。

きょうさはん【教唆犯】 他人をそそのかして犯罪を行なう決意をさせることにより成立する犯罪。説得・誘導そのほか手段は問わない。しかし，すでに犯行の決意をしている者に応援その他で決意を強化させることは従犯*(幇助犯(ほうじょはん))であって教唆ではない。教唆犯は正犯(被教唆者)と同じ刑で処断される(刑法61条)。教唆された者が自分で犯罪を実行せず，さらに他人を教唆して犯罪を実行させた場合も教唆犯として，正犯と同じに罰せられる。教唆犯は，正犯(被教唆者)が犯罪を実行したときに罰せられ，つまり正犯に従属して可罰的となり，そそのかされた者が犯行に出なかったときは別に処罰されないという説(共犯従属犯説)が通説・判例である。なお特別法には，教唆自体が独立に処罰される場合(たとえば破壊活動防止法41条)がある。〔野口恵三〕

きょうさんけん【共産圏】 第2次世界大戦後に人民民主主義政権を樹立して人民共和国を宣言し，ソ連・中国を中心に，共産主義*社会もしくは社会主義*社会をめざしている国家群の総称。しかし，当初からユーゴスラビアは独自の立場をとっており，また現在では，中国とソ連の間に国際共産主義運動の原則的諸問題について対立(→中ソ論争)があるなど，必ずしも共産圏としての統一歩調はとれていない。ソ連・東ドイツ・ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリア・アルバニア・ユーゴスラビア・中国・北朝鮮・モンゴル・北ベトナムなど。〔広部和也〕

きょうさんしゅぎ【共産主義】 ⇨432ページ

きょうさんしゅぎせいねんだん【共産主義青年団】 中国共産党の指導する青年組織。1949年4月新民主主義青年団として発足し，1957年5月現在の名に改称した。規約は〈党の助手〉と規定しており，党の委託を受けて少年先鋒隊(せんぽうたい)の指導にあたる。ソビエトのコムソモール*およびピオニール*の経験に学んだ，中国共産党→青年組織→少年少女組織という系統的な政治教育指導のパイプであって，志願制と厳格な審査をたてまえとする。文化大革命*の中で団の指導機構は崩壊したが，1969年4月の9全大会以後再建された。〔斎藤秋男〕

きょうさんとうせんげん【共産党宣言】 マルクス*とエンゲルス*の共同執筆による共産主義の根本思想を示す著書。国際的な労働者組織である共産主義者同盟の依頼を受けて執筆し，1848年2月ロンドンで刊行された。マルクスとエンゲルスは歴史を搾取階級と被搾取階級との階級闘争の歴史として把握(はあく)した。そして階級闘争の歴史を終結するには，資本主義社会の被搾取階級であるプロレタリアートが，階級対立の根である私有財産を革命によって廃止することによって自己解放を行なうのでなくてはならないと主張した。この自己解放とは共産主義社会の実現であり，その実現のための〈万国のプロレタリア団結せよ〉という結語は有名である。今日なお共産主義の古典として広く読まれている。〔仲村計美〕

きょうし【狂詩】 江戸中・後期から明治初期までに行なわれた漢詩の一異体。漢詩の形式に俗語・卑語などを取り入れ，こっけい・風刺の表現を主とした。古くは一休禅師*の《狂雲集》にもみられるが，大田南畝(なんぽ)(蜀山人*(しょくさんじん))の《寝惚(ねぼけ)



経　師
《職人尽歌合絵巻》(部分)
高松宮家蔵

先生文集》(1767)(明和4)以後急に盛んになり，多くの儒者・文人の余技としてつくられて詩集も立て続けに出版された。

きょうじ　【経師】 一般に経巻や仏画の表装に携わった職人を称していう。もとは経文の書写をする者たちをいったが，のちには経巻の装丁をする者たちをもよぶようになり，さらに表具師一般の別称ともなった。奈良時代には経師は写経所にいて，仏教経典を作成する仕事に従事していたが，平安時代に公設の写経所がなくなり，僧侶(そうりょ)みずからこれを行ない，装丁をも兼ねるようになった。鎌倉時代以降，経師は経巻の表装者となり，さらに室町時代には，それのみならず一般書画の表装・装丁をも行なうようになった。そのころから軸物の表装やふすまの上張りなどをする表具師と同義の職人となったものと思われる。〔渡辺欣雄〕

きょうじ　【脇侍】 挟侍とも書き，脇士(わきじ)・脇立(わきだち)ともいう。仏像で本尊の両わきに侍してその徳用を表わし仕える。本尊と脇侍を総称して三尊仏*という。本尊によって脇侍が異なり，阿弥陀仏(あみだぶつ)には観音・勢至両菩薩(ぼさつ)，薬師如来には日光・月光(がっこう)両菩薩または薬王・薬上両菩薩，釈迦仏(しゃかぶつ)にはマハーカッサパ(迦葉(かしょう))とアーナンダ(阿難)の二大弟子(でし)，または普賢(ふげん)・文殊(もんじゅ)両菩薩が従う。法隆寺の釈迦三尊像(国宝)，薬師寺の薬師三尊像(国宝)，三千院の阿弥陀三尊像などが有名である。〔大南龍昇〕

ぎょうじ　【行司】 烏帽子(えぼし)・直垂(ひたたれ)をつけ，軍配*を持って相撲*(すもう)の取り組みを進行させ，審判にあたる役。ただし，勝負の判定に審判委員(勝負検査役)から異議の申し立て(ものいい)があった場合は，その決定に従わねばならない。平安時代の相撲節会*(すまいのせちえ)では〈立ち合わせ〉とよばれたが，《信長公記》には行司(事)の名がみられる。寛文・延宝(1661～1680)に現在のような土俵がつくられるまでは，相撲は倒れるまで戦う闘技であったため，勝負の判定は今日のように微妙なものではなかったので，行司の任務は進行係としての色彩が強かった。また，呼び出し*と行司との区別が明らかになったのも，江戸時代にはいって勧進相撲が盛んになってからである。



行　司
25代木村庄之助
(夏装束)

現在，行司は序ノ口・序二段・三段目・幕下・十枚目(十両)・幕内・三役格・立行司の8階級からなっており，立行司は，最高位の木村庄之助(しょうのすけ)と次位の式守伊之助(しきもりいのすけ)の2名で，この名は代々継承されている。もと，行司は相撲部屋(べや)に所属していたが，1958年(昭和33)以来行司部屋として独立した。また，1959年に定年制が実施され，定年は65歳と決められた。〔小林　喬〕

きょうしき　【京職】 律令(りつりょう)制において，戸籍・田宅・雑徭*(ぞうよう)・訴訟・市場・租税など広く京師内の司法・行政一般をつかさどる官庁。京師を南北に通じる朱雀(すざく)大路によって東西両京に分かち，東に左京職，西に右京職を置いた。東西の市司*(いちのつかさ)も京職の監督を受けた。689年(持統3)が初見で，平安時代は検非違使*(けびいし)の設置で有名無実化した。

きょうしきこきゅう　【胸式呼吸】 胸郭の運動による呼吸。吸収運動の場合，主として外肋間筋(がいろっかんきん)およびその軟骨間筋の収縮による胸郭挙上による。これによって胸腔(きょうこう)容積が拡大するため，空気が受動的に流入するのである。呼出運動の場合，内肋間筋の収縮による胸郭沈下や，胸郭の自重による沈下がある。通常の呼吸はこの胸式呼吸と横隔膜の運動による腹式呼吸*の合併した胸腹式呼吸である。➔呼吸

きょうしきょく　【狂詩曲】 ⇨ラプソディー

きょうじせい　【強磁性】 磁場をかけるとその方向に強く磁化し，磁場を取り去っても磁化(残留磁化)が残り，磁気ヒステリシス*を示す場合，物質は強磁性をもつといい，この物質を強磁性体という。強磁性体は各物質に固有のある温度(キュリー温度)以下で強磁性を示す。強磁性の素因は磁気共鳴*などの実験から電子のスピン*による磁気モーメントであることが確認されている。強磁性体は結晶をつくっている各原子内電子の磁気モーメントの間に，それらが互いに平行になろうとする力(➔交換力)が働いて強磁性になる。キュリー温度以上では交換力が原子の熱運動によって妨げられ，磁場をかけても強く磁化されず，残留磁化はなくなる(➔常磁性)。強磁性体には比較的高い温度まで強磁性を示す遷移元素の鉄・コバルト・ニッケル，低温で強磁性を示す希土類元素のガドリニウム・ジスプロシウム・エルビウム，およびマンガンと銅の合金などがある。強磁性体は磁場をかけない状態では全体の磁気モーメントは互いに平行にならず，磁区とよばれる多くの領域に分かれ，それぞれの領域は強く磁化されるが，磁化の向きがふぞろいなため，全体としては小さな磁化しか示さない。〔中野藤生〕

きょうじせいたい　【強磁性体】 磁性体*のうち，磁化率*および透磁率*が磁界の強さによって変わる物質。磁化の強さは磁界の強さに比例しない。鉄・ニッケル・コバルトおよびそれらの合金や化合物がこれに属する。いわゆる磁性材料とよばれるものの多くはこれで，その性質は次のとおりである。①磁化率や透磁率の値が非常に大きい。②磁界の強さをある一定値以上に強くすると，物質内の磁束密度*および磁化の強さに飽和(➔磁気飽和)が現われる。③磁気ヒステリシス*現象をみせるものもある。④残留磁気*をもつ。

外から加えられた磁界によって磁性体に磁化が発生するメカニズムは，その内部に生ずる磁気モーメント*の配列の違いによって，次の2通りが考えられている。①原子の磁気モーメントが平行に並んでいる場合。②大きな磁気モーメントをもつ金属イオンと，小さな磁気モーメントをもつ金属イオンとが，互いに反平行に交互に並んでいる場合。①の場合をフェロ磁性体といい，金属強磁性体がこれである。②の場合をフェリ磁性体といい，フェライトなどの金属酸化物強磁性体がこれである。この場合には，2種類の磁気モーメントの差が全体の磁化を与えることになる。〔堀内和夫〕

きょうしつ　【教室】 学校教育の基本的な場であり，児童・生徒の学習・作業・生活の場である。普通教室と特別教室とに分けられるが，ともに児童・生徒の多角的

➔434ページ

共産主義

共産主義 communism という語は，ラテン語のcommunisから発したもので，本来財産の共有の状態あるいはその制度を意味した。したがってその思想の歴史は古い。すでにそれは古代ギリシアのプラトン*の思想の中に現われていたし，16〜17世紀のトーマス-モア*の《ユートピア》やカンパネラの《太陽の都》のような空想的ユートピア思想にもみられた。しかし，それが思想としての体系をもち，かつ現実に社会的影響力をもつのは近代にはいってからである。すなわち，近代共産主義の元祖といわれるバブーフ*・ブランキ*などの平等主義，サン-シモン・フーリエ・オーエンらの空想的社会主義*，プルードン・バクーニンらのアナーキズム*などは，それぞれ共産主義を理想としたのである。しかし，共産主義の理念を単にユートピアとして描くのではなく，それを〈科学〉として体系づけたのはマルクス*とエンゲルス*であった。19世紀中葉以後形成されたマルクス主義は，その後先進的な知識人や労働者階級に大きな影響を与え，世界の有力な思想および運動に発展した。今日では，共産主義はマルクス主義とほとんど同一視されるようになっている。

〔共産主義の理論〕 資本主義*の発展は，人間および社会生活の内部に人間疎外という問題を派生させた。資本主義社会では，学問・芸術や愛情・信頼もまたすべて商品化される。マルクスは《経済学・哲学草稿》の中で〈人間を人間として前提とするならば，愛情は愛情とだけしか交換することができない〉と言っているが，人間が非人間化された資本主義社会では，結婚も経済的条件に大きく支配された商品とならざるをえない状況がある。このように，マルクス主義思想の出発点は，疎外*から人間を人間として真に解放する，というユートピアである。エンゲルスが《空想より科学への社会主義の発展》の中でフーリエ・サン-シモンらをユートピア社会主義者としたが，革命的な思想にはその根底にユートピアが必ずある。ただ，マルクス主義はユートピアをユートピアに終わらせず，資本主義社会の本質を科学的・体系的に分析してそれを変革し，人間解放の理論をうちたてたのである。

レーニン*もいうように，マルクス主義には，三つの思想的源泉がある。ドイツ古典哲学・イギリス古典経済学そしてフランス社会主義(これには前記バブーフらの平等主義，サン-シモンらのユートピア社会主義，プルードンらのアナーキズムが考えられる)の三つであり，その批判的摂取からマルクス主義は生まれた。このようにマルクス主義の理論は，哲学・経済学・政治理論を3本柱とし，具体的には，①自然や社会および認識の最も基礎的諸法則に関する，科学としての弁証法的唯物論*(唯物弁証法)，②人間の社会生活を物質的生産を基礎としてとらえ，かつ社会を歴史的発展において把握(はあく)する史的唯物論*(唯物史観)，③階級*の出現以来の歴史の発展を非和解的な階級対立の観点からみる階級闘争*の理論，④資本主義社会の経済法則を明らかにする経済学説，⑤国家の本質を階級支配の機関とする国家論，⑥資本主義社会の変革のための社会主義革命理論，の六つからなっている。

ヘーゲルは弁証法を〈現実の世界の一切の運動，一切の生命，一切の活動の原理〉とみなし，自然・歴史・精神の全世界が不断の運動・変化・発展のうちにあることを示したが，マルクス・エンゲルスは，それを〈自然・人間社会および思考の一般的な運動法則と発展法則に関する科学〉として確立し，それを自己の壮大な学問体系の方法的基礎とした。

マルクス主義以前あるいは以外の歴史観は，一般に歴史を運命，神の摂理，天才や英雄あるいは個人の利己心などに求める観念的なものであったが，マルクス主義は，階級の出現以来の人類社会の歴史を，生産手段の所有関係に基づく階級闘争の歴史とし，この所有関係の根本に物質的生産のあることを明らかにする。そしてこれこそ社会的・政治的・精神的な生活一般の基本条件であるとして(土台と上部構造)，人間社会を客観的・科学的に把握しうるものとした。階級社会を，奴隷制・農奴制(封建制)・資本制と続く歴史的発展においてとらえ，社会主義社会を過渡期として共産制社会への到達を〈歴史の必然〉とみるのである。また，イギリス古典経済学の成果を批判的に吸収し発展させ，資本主義の基本的な経済構造(土台)を分析したマルクスの経済学説は，①労働力という特殊な商品が資本によって買われて生産過程に投入され，それによってつくられた商品が資本のために利潤を生むという労働価値説*に基づく剰余価値論(あるいは搾取理論)，②さらにこの搾取が資本主義の発展に伴って，ますます強化されるという窮乏化理論，③個別資本の無政府的な利潤追求の競争が社会全体の需要と供給のバランスを破壊するという恐慌理論の三つを中心として，資本主義社会の崩壊を論じたものである。

しかしその崩壊は，ただ自動的にやってくるのではなく，人間がみずから主体的に変革しなければならないものなのである。ここにマルクス主義の政治理論の意義がある。マルクス主義によれば，国家*は最初の階級社会である奴隷制社会の出現とともに現われたのであって，それ以前の社会(原始共産制)には存在しなかったし，また存在する条件もなかった。無階級の原始共産制社会が財産と特権を私有する階級とそうでない階級とに分裂するようになってはじめて，支配階級にとって国家が必要とされたのである。したがって，きたるべき共産主義社会では，国家は階級とともに当然死滅するものとされる。エンゲルスは《家族・私有財産および国家の起源》の中で〈階級の発生が不可避的であったのと同様，その消滅も不可避的であろう。階級とともに国家は不可避的に消滅する。すなわち，糸車や青銅のおのと合わせて古代の博物館へ……〉といっている。こうして，ブルジョアジー*によるプロレタリアート*の支配と搾取のための機関であるブルジョア国家を変革する主体として，プロレタリアートが登場するのである。《共産党宣言*》の末尾に記されたことば〈万国の労働者よ，団結せよ〉は，その高らかな叫びであった。

〔共産主義の発展〕 マルクスそしてエンゲルスの死後，共産主義の理論と運動は多くの試練の中で拡大・深化されていったが，その中で中心となったのはレーニンであった。20世紀にはいって世界は，資本主義の最高の段階である帝国主義*に突入するが，レーニンの確立した帝国主義の理論と，プロレタリアート独裁*を中心にいっそう豊かにされた革命理論は，レーニンの鋭い現実感覚と卓抜な指導力とあいまって，ロシア革命*を勝利に導く原動力となった。レーニンがスイス亡命中に書いた《帝国主義論*》は，帝国主義を〈資本主義の独占段階〉と規定し，この段階では，ヒルファーディング*の〈組織された資本主義〉論やカウツキー*の〈超帝国主義〉論とは逆に，多くの分野で不均衡な発展と対立が激化し，諸国家間にも支配と従属の形態が生まれ，植民地争奪の闘争が顕著になり，ついには帝国主義戦争が勃発(ぼっぱつ)するであろうと予測した。こうして，レーニンは帝国主義戦争，それの内乱への転化，そして社会主義革命の勝利という過程を予見したのである。

またプロレタリアート独裁の理論は，すでにマルクスの《フランスにおける階級闘争》に現われており，1852年のワイデマイヤーあての書簡，また《ゴータ綱領批判》(→ゴータ綱領)の中にも展開されていた。それは資本主義のもとでの階級闘争は，必然的にプロレタリアート独裁に至ること，そしてこの独裁は資本主義から共産主義社会に至る過渡的段階であることを主張したものである。また彼は，1871年のパリ-コンミューン*の中にプロレタリアート独裁の国家形態を発見していた。レーニンは，このプロレタリアート独裁のロシアにおける具現を，議会制共和国ではなくソビエト制共和国に見いだし，このコンミューン型国家こそプロレタリアート独裁に最も適した政治形態

であるとしたのである。レーニンの理論は，マルクス主義の発展として，しばしばマルクス-レーニン主義とよばれるが，レーニン主義には，マルクス主義の帝国主義段階における創造的発展という側面とともに，また後進国ロシアという特殊な土壌(どじょう)に生まれた，特殊な側面をももっていることを見のがしてはならないだろう。ともすれば後者が意識的にか無意識的にか軽んぜられ，前者のみが強調されてきたが，共産主義の理論と運動は，レーニン以後いわば先進国型と後進国型に分かれる傾向が現われてくるのである。

〔共産主義の新展開〕 しかしこの傾向がはっきりとした形で出てくるのは，1953年のスターリン*の死後である。いわゆるスターリン時代には，共産主義世界の教皇であったスターリンの絶対的権威によって，多元化の傾向は表面化するに至らず，スターリンを頂点とする一枚岩的団結が誇示されていた。しかし，ソビエト共産党20回大会におけるフルシチョフの〈秘密報告〉をもって幕を揚げたスターリン批判運動は，共産主義の理論と運動に新しく多元化への道を開いた。その後は中ソ論争を筆頭に，トリアッチ*らの精力的な問題提起，イタリア・フランス両国共産党間の論争などがはなばなしく展開された。この一連の動きの中で提起された問題は，①現代資本主義の性格の把握，②現代国家論，③社会主義への移行(革命)形態の問題，④プロレタリアート独裁の問題，⑤社会主義国家論，など多岐にわたる。その背景には，内部的にはスターリン時代を通じてみられた共産主義の理論と運動の硬直化と創造的発展の鈍化があり，外的には第2次世界大戦後の資本主義世界における国家独占資本主義のいっそうの進展という局面がある。したがって現代資本主義および現代国家の変化をどうとらえるか，そしてそれを変革する形態(革命方式)をどう考えるかが最も重大な論点となった。

1960年の〈81か国共産党・労働者党代表者会議〉の統一見解(→モスクワ声明)は，世界資本主義の現段階を次のように分析している。〈資本主義世界体制は衰退と腐朽の深刻な過程にある。帝国主義の矛盾は独占資本主義の国家独占資本主義への転化を促進した。国家独占資本主義は民族の生活に対する独占の支配を強めつつ，独占体の力と国家の力を単一の機構に結合したが，それは資本主義制度を救済するために，労働者階級に対する搾取と広範な人民各層からの略奪によって，帝国主義ブルジョアジーに最大限の利潤の増加をもたらすためである〉。このように，現代国家を帝国主義ブルジョアジーの利潤を最大限に確保するための手段とする見解に対して，一方では経済・社会生活への国家の介入が増大したことを国家の中立性ないし国家の超階級的性格の現われとしてとらえる傾向が出てきた。その典型的な例を〈ユーゴスラビア共産主義者同盟(共産党)綱領〉にみることができる。この傾向は，その後しだいに西欧先進国の共産主義の一部にも現われてきた。それは明らかに修正主義*というにふさわしいが，しかし階級国家*の本質的認識を堅持する人の中にも，移行形態をめぐって，かなり明確に先進国型と後進国型の分化が生じてきた。それは先進国における有利な条件，たとえばそこでは議会制が制度上国政の枢要な機関として存在し，また多くの民主的諸権利が確認されており，労働者階級をはじめとする広範な大衆の政治的・社会的進出がそれをささえている，ということなどによるものである。そしてそこから，いわゆる平和革命の可能性も説かれるようになる。

〈モスクワ声明〉 いわゆるモスクワ声明は，〈平和的な方法で社会主義革命をやり遂げる〉ことが〈労働者階級と全人民の利益に，民族全体の利益に合致する〉とし，〈現在の条件のもとでは，一連の資本主義国で前衛部隊に導かれる労働者階級は，労働者の統一戦線および人民戦線，その他あらゆる形態のいろいろの政党や社会団体の協定や政治的協力に基づいて，人民の大多数を統一し，内戦なしに国家権力を握り，基本的な生産手段を人民の手に移すことのできる可能性をもっている〉として，平和革命の可能性を述べている。そしてまた，それは可能性であって，それが現実のものとなるかどうかは，〈人民の圧倒的多数の意志に対する反動勢力の抵抗力，社会主義をめざす戦いのあれこれの段階で，反動勢力が暴力*をふるうかどうか〉にかかっているとした。しかし，これは中ソ論争*の中で中国の激しい反論をよんだ。中国共産党は，〈戦術的観点から出発して平和移行の願望を提起することは有益なことである。だが，平和移行の可能性を強調しすぎることは妥当ではない〉として，それをフルシチョフ修正主義と非難し，暴力革命の基本原則を守れと強調したのである。しかし声明は1957年のモスクワ会議宣言とともに社会主義移行形態の多様性を確認し，各国の具体的状況に応じて多様な形態を追求すべきだと述べている。こうして，共産主義の理論と運動はソビエトを総本山とした一元的状況から，多元的状況へと移っていったのである。

〔日本の共産主義〕 わが国における共産主義思想は，他の多くの近代思想と同様，外来思想として日露戦争前後から輸入された。1904年(明治37)の幸徳秋水*・堺利彦*(さかいとしひこ)による《共産党宣言》の翻訳紹介は，この意味で一時期を画したものである。その翌年河上肇*(かわかみはじめ)の《新史観セリグマン教授の歴史の経済的説明》という小著が発表された。それは，彼のその後の長い唯物史観研究の出発点となるとともに，日本における共産主義研究の出発点ともなった。当時の時代的環境は，共産主義の研究にははなはだ不利であった。河上は大正時代にはいって1919年(大正8)雑誌《社会問題研究》を創刊し，ここに唯物史観に関する紹介・翻訳・研究を次々に発表し，1921年にはそれをまとめて《唯物史観》を刊行した。また1924年には雑誌《マルクス主義》が創刊され，福本和夫がこれによって論陣を張り，福本イズム*として少なからぬ影響力をもった。

一方1922年の日本共産党*の結成は，日本における共産主義の理論と運動の発展にとって大きなできごとであった。しかし，その結成が天皇制*権力の下で非合法になされたことや，その後の活動があいついで徹底的な弾圧を受けたことなどが，大衆的基盤の上に共産主義を発展させることを事実上妨げた。この状況は，非共産党の立場からの共産主義研究の場合も同様であった。それにもかかわらず，わが国の社会科学の発展にマルクス主義の果たした役割はきわめて大きいものがあった。第2次世界大戦前には社会科学はマルクス主義と同義語とさえ思われていたのである。日本のマルクス主義にとって天皇制権力の分析は第1に取り組まなければならない課題であった。日本共産党は，その綱領草案に天皇制の廃止と民主主義共和国の樹立を宣言していたが，1927年(昭和2)綱領〈日本に関するテーゼ〉(二十七年テーゼ)においてこれを決定した。これは，山川イズム(→山川均(ひとし))・福本イズムをそれぞれ〈右翼日和見(ひよりみ)主義〉〈左翼日和見主義〉と批判して，革命の展望を明らかにしたものであった。これと並んで展開された日本資本主義論争*は，山田盛太郎・平野義太郎・山田勝次郎・服部之総(はっとりしそう)ら講座派*と，猪俣津南雄(いのまたつなお)・櫛田民蔵(くしだたみぞう)・向坂逸郎・大内兵衛ら労農派*との間に，明治維新および日本資本主義の性格について論争されたもので，日本の社会科学の水準を高めるのに貢献した。この論争は日本における革命の戦略・戦術とも直接関連している。すなわち，前者が日本における封建制の残存を重視し，まずブルジョア民主主義革命が必要だと主張した(二段階革命論)のに対し，後者は封建制は本質的に消滅し，ブルジョアジーが国家権力を掌握しており，したがってきたるべき革命は社会主義革命であるとした(一段階革命論)。しかしこのような活動も，国内の戦時色が濃くなるに伴い，軍部などによる圧迫の強化によって閉塞(へいそく)させられていった。第2次世界大戦後の民主主義*のいぶきは，日本における共産主義の発展の大きな基盤となった。

〔伊藤昭一郎〕

かつ自主的・創造的な活動ができる条件を備えていなければならない。わが国の教室は画一的な形式に規定され，学級定員も外国に比べて多く，教育環境としてはよくない。教室運営にしても，教育実践とのかかわりにおいて改善が図られる余地がある。

ぎょうじゃ 【行者】 仏道を修行する人。普通は念仏を唱える者を念仏行者,《法華経(ほけきょう)》を信じている者を法華経の行者,真言を行なう者を真言行者という。日本では中世から苦行などをしたり，出家はせずに長髪長爪(ちょうそう)などの異形で奇行をしたり，一定の姿で名山霊跡を巡拝する者などを行者とよんでいる。

きょうじゃくきごう 【強弱記号】 西洋音楽の発想記号の一。音の大きさの程度を示すもので，速度記号*とともに表情記号の最も基本的な部分を構成する。代表的なものに次のようなものがある。

①部分の強弱を示すもの。

ff	フォルティッシモ	非常に強く
f	フォルテ	強く
mf	メゾフォルテ	やや強く
mp	メゾピアノ	やや弱く
p	ピアノ	弱く
pp	ピアニッシモ	非常に弱く

このほかfff(フォルテ-フォルティッシモ)，*ppp*(ピアノ-ピアニッシモ)，さらに*ffff*, *pppp*などが用いられる場合がある。

②特定の音または限られた数個の音に対して用いられるもの。

sf(sfz)	スフォルツァンド	特に強く
fp	フォルテピアノ	強く，そして急に弱く

③強弱が継続的に変化するもの。

<	(cresc)クレッシェンド	しだいに強く
>	(decresc)デクレッシェンド	しだいに弱く
dim	ディミヌエンド	しだいに弱く

なお，強弱標語として，poco(少しだけ)，più(さらに)，molto(きわめて)などがある。〔吉田泰輔〕

きょうじゅうごう 【共重合】 2種以上の単量体を共存させて行なう重合*反応。これに対し，1種類の単量体だけの重合反応を単独重合という。重合機構によりラジカル共重合・イオン共重合の2種があり，共重合体分子鎖中での単量体の配列のしかたから，ランダム共重合・ブロック共重合・グラフト共重合・交互共重合などがある。さまざまな単量体の組み合わせで共重合させることによって，単独重合では得られない新しい性質の合成繊維・合成樹脂・合成ゴムなどをつくることができるので，工業的意義はすこぶる大きい。アクリル繊維はアクリロニトリルと塩化ビニルの，食品包装に使われる透明フィルムは塩化ビニリデンと塩化ビニルのそれぞれ共重合体であるし，合成ゴムにおけるSBR*・NBR*などもおのおのスチレンおよびアクリロニトリルとブタジエンとの共重合体である。グラフト型ABS樹脂*は，ポリブタジエンの分子鎖の中途からスチレンとアクリロニトリル共重合体が継ぎ木のように伸びている(グラフト重合)三元共重合体(ターポリマー)の一つである。エチレンプロピレンゴムもエチレンとプロピレンをイオン共重合させたものであり，EPTといわれるものはエチレン・プロピレンにブタジエンを第三成分として加えたターポリマーである。➔高分子 ➔プラスチック〔伊藤 卓〕

ぎょうしゅうはんのう 【凝集反応】 抗原抗体反応の一種で，血球や細菌などの抗原がそれに対する抗血清によって塊状に凝集する反応。この際の抗原を凝集原，抗体を凝集素という。血清中に特定の細菌やウイルスが含まれているかどうかの判定や，細菌の菌型の決定に用いられる。また，血液型の判定もこの反応を利用している。

ぎょうしゅうりょく 【凝集力】 物体を構成する分子・原子あるいはイオンの間に働く引力。分子を構成する原子は，互いに化学結合*によって強く結合され,さらにそれらの分子間には互いに引力が働いて固体や液体が構成される。

きょうしゅく 【強縮】 強直ともいう。骨格筋あるいはこれに連なる神経に刺激を加えると,普通の筋は収縮し,そしてまた元にもどる。しかし，二つ以上の刺激を反復して加えると,刺激頻度(ひんど)が適当ならばそれぞれの各単収縮は合成されて，刺激がくり返される間，収縮状態が続く。これを強縮という。各個の単収縮が融合せずに動揺するものを不完全強縮，動揺のないものを完全強縮という。

きょうじゅつ 【供述】 被告人・被疑者・参考人・証人らの訴訟関係者が公判*において裁判官または検事・警察官の面前で直接申し述べること。供述者自身が作成した書面を供述書といい，供述者の供述を録取者が聞きとって書面に表現したものを供述調書(供述録取書ともいう)という。供述は，公判廷で裁判官の面前において行なわれたもの以外は，証拠能力が制限されている。ただ被告人に対する供述調書は，その供述が被告人に不利益な事実の承認であり，任意性について疑いがない場合は証拠能力が認められる。〔井上公耳〕

きょうじゅつきょひけん 【供述拒否権】 刑事事件で被疑者および被告人が，自己に不利益な供述*を拒否できる権利。単に黙秘権(終始沈黙する権利)ということもある。憲法38条は〈何人も自己に不利益な供述を強要されない〉と規定しており，自白*の偏重を排し，被疑者・被告人の人権を保障している。この権利を保護するため，捜査機関は取り調べに際して被疑者に対し，あらかじめ自己の意思に反して供述する必要がない旨を告げなければならない(刑事訴訟法198条)。被告人は，公判廷においても供述する義務はなく，質問に対しても供述を拒むことができる(刑事訴訟法311条)。なお，氏名について黙秘の権利の有無が学説上争われているが，判例では場合によっては認めている。〔井上公耳〕

きょうじゅほう 【教授法】 言語・科学・芸術などの文化内容を媒介として，子どもの知識・技能の向上・発展を意図する教授の方法。その研究は17世紀のコメニウス*に始まるとされる。彼は，むちをもって学習を強制する当時の教授法を批判し，自然における動植物の成長過程の合法則性をモデルに，学習内容を易から難へ順序だてるとともに，言語だけにたよる形式的方法ではなく，直観を重視した内実的認識をという教授法の原理を主張した。近代において大きな貢献をしたのは，ドイツのヘルバルト*である。彼は，教授段階を学習者の思考発展の筋道に沿って4段階に区分し(彼の後継者のチラーやラインらが5段階に修正した)，いわゆる5段階教授法を定式化した。これは明治20年代にわが国にも紹介され，公教育における教授法に大きな影響を与えた。しかし，わが国においては，第2次世界大戦後の10年間は，教授法研究が軽視されていた。それは，教授内容(教材)を所与のものとして子どもに伝達する教授技術の矮小(わいしょう)化に対する批判が強かったからでもあった。また，教授という概念が退けられ，学習指導という概念がそれにとって代わり，子どもの興味・経験を尊重するあまり，客観的な文化内容の習得がもつ人間変革に対する意義が軽視されたからでもあった。このような傾向は，昭和30年代にはいるとしだいに克服され，教授法研究のもつ意義が再確認され，授業研究の名称で教授法研究が質量ともに発展している。〔中野 光〕

きょうしょ 【教書】 アメリカの大統領が上下両院(議会)に送る意見書。教書には一般教書・経済教書・予算教書があり，また必要に応じて送付される特別教書がある。アメリカ大統領は議会に議席をもっていないために，議会との関係において議会に自己の政策や意見を送ることのできる教書権と，議会が決めた法律案を拒否することのできる拒否権をもっている。教書は書面による場合と大統領が議会で口述する場合とがある。➔大統領制〔西尾孝司〕

ぎょうしょ 【行書】 ⇨書体

ぎょうしょう 【行商】 消費者のもとへ生産物を売り歩くこと。行商は市商(いちあきない)・店商(みせあきない)などが行なわれにくい所に発達し，交換・交易の古い姿を示している。呼び売り・振り売りなどの小規模にとどまるものと，越後(えちご)の毒消売り，富山の売薬商人，近江(おうみ)商人などのように全国的な行商圏をもつものとに大別される。生産の著しく異なる漁村と農村，農民・漁

民と町方の人との間に行なわれる場合が多く，最初は，祝事や困窮に際して有無を通じ合う機能に付随して行なわれたものと思われる。古くからの行商にはいくつかの特色がある。〈得意〉とよばれる取引先が決まっていて，交易そのものとは別に，特殊な贈答がまつわっていたもの，訪問する時期がほぼ一定しているもの，徳島県海部(かいふ)郡阿部(あべ)村の〈イタダキ〉や鹿児島市谷山の〈ヨメジョ〉などの名で知られるほとんど女性の行商人などがあった。また，運搬法が行商人の呼称になっている例として，イタダキ・ボテフリ・ツヅラオイ・カタギなどがある。〔北見俊夫〕

ぎょうしょういせき【仰韶遺跡】中国，河南省澠池(べんち)県仰韶村にある新石器時代の遺跡。1921年スウェーデンの考古学者J. G.アンダーソンが赤地黒彩の美しい彩文土器を発見して以来，中国彩陶文化は仰韶文化とよばれる。新中国の最近の発掘調査では，仰韶からは彩陶のほか龍山(りゅうざん)文化に属する黒陶・灰陶を出し，彩陶文化はむしろ西安の半坡(はんぱ)，河南省の廟底溝(びょうていこう)で代表されるとする。

きょうしょくいんくみあい【教職員組合】教職員の勤務条件の改善(賃金・労働条件)を通し，その社会的・経済的・政治的地位の向上をめざす労働組合。当初は職能団体として成立し，19世紀後半から労働者としての自覚を深め，労働法規に守られた労働組合として発展した。第1次世界大戦時には，それまでの勤務・労働条件の改善にとどまらず，教科書から好戦思想の追放をめざす，反戦平和の教育運動を展開した。その組織的中心は，教育労働者インターナショナル(通称エドキンテルン)であった。第2次世界大戦後は，この伝統を受け継ぎ，1948年世界教員組合連合(略称FISE)が結成された。また，アメリカなど反共自由主義国の教職員組合を中心に，1951年国際自由教員組合連合(略称IFFTU)が誕生し，それぞれ国際的団結力を背景に，教職員の地位向上，平和擁護のための政治的運動，民主主義教育の発展の運動のために活躍している。最近では，各国政府の教育政策樹立のための重要な発言権をもちはじめ，それがILO*・ユネスコ*の〈教師の地位の勧告〉で確定した。こうした国際的動向からは，わが国の現状は著しく立ち遅れているといえる。➛日教組〔海老原治善〕

きょうしょくかてい【教職課程】教育職員免許状を取得しうるように，大学その他の教育機関に設置された教育課程，またはコース。〈教職に関する専門科目〉と〈教科に関する専門科目〉との二つの領域からなっているが，〈教職に関する専門科目〉によって編成された教育課程のみをよぶこともある。この課程は，教育職員免許法第5条の規定に基づいて必要な授業科目を置き，その授業を担当する教員を配置し，さらに同法施行規則第2章に定める手続きによって，文部大臣に課程の認定を申請したとき，はじめて公的なものとなる。〔山崎昌甫〕

きょうじょしぎ【京女鷸】鳥類・シギ科。頭骨の形態はシギ科の特徴を，外部形態はチドリ科の特徴を示すので，チドリ科に入れられたり，別にキョウジョシギ科とされることもある。全長約22cm，くちばし・脚はチドリ類のように短い。冬羽は，顔頭部・背面・胸部は濃かっ色，腹部は純白。夏羽は，顔頭部は白色部とかっ色部からなる複雑な模様になり，背面には美しい栗色(くりいろ)の羽毛が生じる。おもに北極海沿岸で繁殖し，日本には春・秋に干潟(ひがた)・川原などに多数渡来する。〔安部直哉〕

きょうしょのきん【挾書の禁】中国，秦(しん)の始皇帝*が法家の李斯(りし)の意見に従って，医・薬・農・占以外の書物を民間人が所蔵することを禁止し，違反すれば一家皆殺しにしたこと。〈焚書坑儒(ふんしょこうじゅ)〉ともいわれ，その法令を〈挾書の律〉という。〈挾〉とは〈所蔵する〉の意。

きょうじょもの【狂女物】能の曲がらの一。狂女をシテとするものをいう。《隅田川(すみだがわ)》《蟬丸*(せみまる)》《班女*(はんじょ)》《花筐(はながたみ)》《百万》《三井寺*》など。世阿弥*(ぜあみ)が〈この道第一のおもしろつくの芸能〉と述べたとおり，愛する者を尋ねる哀れと興奮性の演技のおもしろさで，今日もしばしば上演される。

きょうしん【強震】⇨地震

きょうしん【共振】一般に，物体に外部から振動させるような力を加えたとき，その物体の固有振動数*と，外部からの力の振幅数が等しければ，物体の振動は激しくなってその振幅は増大していく。この現象を共振という。たとえば，長いばねやゴムひもにおもりをつるして上端を手で持ち，自由に上下に振動させると，手の振動数がばねやゴムひもの固有振動数に等しいときには，おもりは手の振幅よりはるかに大きい振幅で振動する。

このような現象は，音や電気の場合にも起こる。音のほうでは，この現象を特に共鳴*とよんでいる。電気の場合についていえば，ラジオ放送を聞くとき，バリコン*を回すことがあるが，これは受信機の振動回路の固有振動数を，放送された電波の振動数(周波数)に一致させることによって共振を起こさせ，アンテナ回路中の電気振動の振動(電圧)を大きくさせるためである。電気のほうでは，このように固有振動数を調節して共振を起こさせることを同調*とよんでいる。

きょうしんかいろ【共振回路】⇨固有振動 ⇨LC回路 ⇨共振

きょうじんこう【強靭鋼】焼き入れや焼きもどしによって強度とねばりを向上させ，機械構造用に使用される鋼。添加元素としては，焼き入れ性を増し，焼きもどし性を改良するためマンガン・クロム・ニッケル・モリブデンなどが適当な組み合わせで配合され，またバナジウム・ケイ素などを少量添加するものもある。特にホウ素は微量(0.03%程度)で焼き入れ性を増大させる強い働きがある。

きょうしんしょう【狭心症】心筋の酸素不足が原因で，胸骨下部に発作性に現われる疼痛(とうつう)。冠状動脈硬化症によることが多く，不安・胸部狭窄感(きょうさくかん)を伴う。疼痛は，左肩から左上肢(さじょうし)に放散することが多い。典型的な狭心症は運動時ならびに精神的亢奮時(こうふんじ)にみられるが，安静時にも起こる。運動などのあとに起こるものは労作性狭心症，安静時に起こるものは安静狭心症とよばれる。本症は一過性のものであり，ニトログリセリン・亜硝酸アミド投与によって直ちに改善をみる点で，心筋梗塞*(こうそく)と明らかに異なる。しかし冠動脈硬化が基礎疾患である点は共通で，両者の間に移行がみられるものを中間型という。中間型では狭心痛の持続が長く，ニトログリセリンの効果もないが，冠動脈の完全な閉塞や心筋の壊死(えし)は起こらない。

冠動脈硬化がない場合でも，重症な貧血・甲状腺(こうじょうせん)機能亢進症・大動脈弁疾患が基礎疾患となり狭心症を起こす場合もある。狭心症の心電図は，発作時に一過性の心内膜下層の虚血像を示す。しかし，同様の所見があっても，疼痛などの臨床所見のないものは狭心症とはよばず，心筋障害とよぶ。治療には，基礎疾患の治療のほか，禁煙や過食を避けることが必要で，冠拡張剤が用いられる。発作時にはニトログリセリン・亜硝酸アミドが投与される。〔清水直容〕

ぎょうしんせい【暁新世】地質時代のうちの新生代第三紀*を5分した第1番めの時代。中生代白亜紀のあと，始新世のまえ。約6,500万年前から始まり，この時代と次の始新世を合わせた期間は約2,800万年である。暁新世に堆積(たいせき)した地層を暁新統といい，この地層の標準地域はベルギーおよびロンドン・パリ付近である。➛地質時代

きょうじんちゅうてつ【強靭鋳鉄】⇨鋳鉄

ぎょうしんとう【暁新統】⇨暁新世

きょうじんにっき【狂人日記】中国の文学者魯迅*(ろじん)の短編小説。1918年，《新青年》に発表。のち小説集《吶喊(とっかん)》に収録。ゴーゴリの同名の作品にヒントを得，狂人の手記の形式をとる。主人公は人に食われるという強迫観念をもつが，自分も人食いだと思い込み，その絶望の底から，まだ人を食ったことのない子どもに救いを求める。家族制度と，それをささえる儒教イデオロギーを批判したもの。

きょうしんのう【恭親王】(1832～1893) 中国，清朝(しんちょう)の皇族。道光帝の第6子。名は奕訢(えききん)。咸豊帝*(かんぽうてい)を補佐し，1860年イギリス・フランスと北京(ペキン)条約*を結んだ。同治帝が即位すると

軍機大臣となり，曾国藩(そうこくはん)・李鴻章(りこうしょう)・左宗棠(さそうとう)とともに同治中興*を遂行。同治帝の死後西太后*に退けられた。

きょうしんやく【強心薬】心臓衰弱を回復させるために用いる薬の総称。狭義の強心薬はジギタリスのようなステロイド核をもつ強心配糖体をさすが，広義にはカンフル・テラプチックのように中枢興奮を伴う蘇生(そせい)薬をも含める。

きょうせい【共生】2種類の生物がおもに食物に関係して密接な利害関係にあり，助け合っていること。その双方が利益を受けている場合を双利共生といい，草食獣とその腸内に共生する細菌，ワニとワニドリ，アリとアリマキなどがその例である。一方だけが利益を受け，他方は害を受けない場合を片利共生といい，ヒオウギなどの二枚貝とカクレガニ，フジナマコとカクレウオ，サメとコバンザメなどの例がある。しかし，片利共生は寄生*との区別が困難な場合が多い。植物では，マメ科植物と根粒バクテリアのように栄養を互いにやり取りして共生するもの，地衣類のように菌類と藻(そう)類がそれぞれきまった種類の組み合わせで共生しているものなどがある。〔松本忠夫〕

ぎょうせい【行政】⇨三権分立

ぎょうせいいいんかい【行政委員会】行政機関と異なり，準立法的ないし準司法的権限をももつ合議制の国家機関。資本主義経済の発展がもたらす複雑化した社会現象を十分に処理できるよう設けられたもので，わが国では駐留軍の民主化政策の一環として第2次世界大戦後急速に発達した。立法・司法機関とは別に，独自に規則制定権・裁決権があり，また職務遂行の独自性を確保する必要から，委員の身分保障が厳しく行なわれている。ほかの一般行政機関に対する独自性が保たれる一方，逆に国民の直接的監視のもとにおく目的で，リコール*制がとられることもある。委員の構成・任期・選出方法などにはそれぞれの法律の定めるところにより異なるが，一般に民主的運営をめざすため，学識経験者，各階層の利害代表者，政治的中立者をもって構成される。現存する行政委員会は，国に置かれたものとしては人事院(内閣直属)・総理府・各省の外局に設けられている公正取引委員会*・国家公安委員会・中央労働委員会*などがあり，地方公共団体のものとして教育委員会*・選挙管理委員会・農業委員会などがある。➔委員会制　〔寺尾方孝〕

ぎょうせいかいぼう【行政解剖】検死*によって死因の明らかにされない変死体についてその死因を決定し，犯罪と関係があるか否かを明らかにするために行なう病理学的および法医学的解剖。これに対して犯罪行為と死因との因果関係を知るために行なうものを司法解剖といい，いずれも法医解剖の範疇(はんちゅう)にはいる。わが国では1946年(昭和21)から東京都の区の存する区域，大阪市・京都市・横浜市・名古屋市・神戸(こうべ)市および北九州市の諸地区に監察医*制度が敷かれ，1949年公布の死体解剖保存法に基づいて監察医がこれを行なっている。行政解剖の対象となるのは，行路病死者，水死体，中毒死体，災害死体，医師にかからず死亡した死体などである。行政解剖によって自殺・他殺の別が判明したり，伝染病が発見・確認されたりすることもある。〔朝倉　了〕

ぎょうせいかんりちょう【行政管理庁】1948年(昭和23)総理府*の外局として設置された国の機関。行政機構・行政運営についての企画・調査・調整および監察の任にあたる。長官は国務大臣。第2次世界大戦後の数次にわたる行政機構改革・行政整理はこの庁の主導のもとに行なわれ，最近においても行政機構が肥大化したため行政整理に努めており，国鉄の放漫経営を指摘し監察するなどの活動も行なっている。

ぎょうせいきょうてい【行政協定】国会の承認を経ることなく締結される一種の条約*。アメリカ合衆国で広く用いられた。アメリカ合衆国大統領は国家の元首，行政府の首長，あるいは軍の総指揮官として，外国との条約を議会の批准手続きなしに行政行為として取り結ぶことが慣習的に認められてきた。内容上は一般の条約と効力において変わりはない。F.ルーズベルト大統領はしばしばこれを用いたため，秘密外交・権力乱用の批判があった。日本では，条約の締結は国会の承認を要することが憲法で定められているが，その施行に必要な細則や条約の委任に基づく規定はこのかぎりでなく，政府の執行命令・委任命令の性質をおびるものとして行政府レベルで処理される。これが行政協定である。➔日米行政協定　〔寺尾方孝〕

ぎょうせいけいさつ【行政警察】国家または国民に対する危害を除去し，その安全と秩序を維持するために人の権利および自由を制限する警察作用のうち，司法警察*作用(犯罪捜査，被疑者の逮捕など)を除いたものをいう。警察許可，警察下命，警察上の立ち入り調査，警告，制止などをおもな作用とする。第2次世界大戦前の警察は，広大な行政警察権限を有していたが，戦後は警察の民主化に伴い，銃砲火薬・古物営業・質屋営業・風俗営業の許可・取り締まりに縮小され，大部分は他の行政機関に移管された。〔井上公耳〕

ぎょうせいさいばん【行政裁判】⇨行政訴訟

きょうせいしっこう【強制執行】国家の強制力によって，私法上の給付請求権の満足を図るための裁判上の手続き。私人と私人の間の紛争は，国家の裁判という形式により権利・義務を決めることで解決するが，相手方がその判決どおり任意に履行しないとき，近代的法治国家にあっては私人が自力で請求権を実現することを禁止している(自力救済の禁止)。このため国家の強制力によって実現することになる。強制執行*するためには，確定判決，仮執行*宣言つき未確定判決，公正証書*などの債務名義*といわれるものが執行の前提として請求権の存在を公証する証書として必要とされる。強制執行の主体は，執行当事者と執行機関である。執行する側を強制執行債権者といい，執行される側を強制執行債務者という。判決の手続きでいえば原告・被告にあたる。執行機関は執行官または裁判所で，強制執行は種々区別される。①金銭債権についての強制執行，②金銭の支払いを目的としない債権についての強制執行の二つに大別され，さらに①は，㋑有体動産に対する強制執行，㋺債権および他の財産権に対する強制執行，㋩不動産に対する強制執行，㋥船舶に対する強制執行に分かれ，②は，㋑物の引き渡しを目的とする債権についての強制執行，㋺作為または不作為を目的とする債権についての強制執行に分けられる。また強制の方法により直接強制・代替執行・間接執行に分けられる。〔内田剛弘〕

きょうせいしゅうようじょ【強制収容所】一般には政治犯などを捕えて強制労働を行なわせるところをいうが，特にナチス*が第2次世界大戦中にユダヤ人を捕えて虐殺したアウシュビッツ・ダッハウなどが有名。ここでは単に強制労働が行なわれただけでなく，さまざまな虐待や毒ガスなどによる大量虐殺が行なわれた。

ぎょうせいしょし【行政書士】他人から依頼されて，官公庁署に提出する書類，その他権利義務・事実証明に関する書類の作成を職業として報酬を得ている者をいう。一定の資格を有することが必要とされ，都道府県知事の行なう試験に合格し，登録しなければならない。

ぎょうせいしょぶん【行政処分】行政機関が，法規に基づいて国民に対して権利を与えあるいは剝奪(はくだつ)し，義務を命じあるいは免除したりするような，法律上の効果を発生させる行政上の行為。たとえば質屋・公衆浴場の営業許可，運転免許，特許，租税の賦課，土地・家屋の収用などがこれにあたり，法令の上では認可・許可・下命・特許・承認・裁定・免除などと規定されているものがこれに属する。行政行為とほぼ同じ。私法上の行為と異なる点は次のとおりである。①法に基づいて行なわれねばならず，自由意思では成立しない。②処分の成立に欠損があっても行政庁または裁判所の取り消しがあるまで拘束力をもつ。③〈自力執行力〉とよばれる強制力をもつ。たとえば違法建築の取りこわし，土地の強制収用など。④一定時間が経過すると処分が違法でも裁判所などで争えなくなる。〔寺尾方孝〕

きょうせいしりょく【矯正視力】近視・遠視または乱視のある場合に，適正なめが

ねをかけてはかった視力。通常，単に視力という場合はこの矯正視力をさす。

きょうせいしんどう【強制振動】 振動体に外から周期的に変化する外力を加えると，その振動体の固有振動*が起こるとともに，外力の周期と同じ周期の振動が起こる。これを強制振動という。固有振動のほうは減衰しやがて消滅するが，強制振動だけは外力の加わるかぎり残る。外力の振動数が振動体の固有振動数に近いとき，振動体の振幅は特に大きくなる。これを共鳴*または共振*という。

きょうせいそうかん【強制送還】 外国人を強制的に出国させて，本国へ送還すること。犯罪人の引き渡しが強制的出国として行なわれて本国へ送還する場合や，不法密入国者を本国へ送る場合などになされる。政治的亡命者を特別な事由で追放する場合は，本国へ強制送還することは望ましくなく，本国以外に追放すべきである。また，捕虜は，実際の敵対行為が終了したのち，遅滞なく解放しかつ送還しなければならないが，これを強制送還主義という。〔広部和也〕

きょうせいそうさ【強制捜査】 捜査機関が人の身がらを拘束するなど，強制手段を用いて行なう捜査方法。捜査は身がらを拘束しない任意捜査によることが人権尊重の点から望ましいが，逃走のおそれのある者，証拠隠滅を図る者に対しては，逮捕して捜査する必要があるため，特に殺人・強盗などの凶悪犯に対してはこの措置がとられる。なお，本犯についての証拠がない場合に，窃盗・詐欺などの別件犯罪で逮捕する場合もある。〔井上公耳〕

ぎょうせいそしょう【行政訴訟】 行政官庁の行なった行為の公法*上の法律関係を争う訴訟。これには四つの種類がある。①抗告訴訟：行政庁の違法な処分の取り消し・変更を求める訴訟。②当事者訴訟：市町村相互の境界の争いや公務員の給与請求訴訟。③民衆訴訟：選挙の有効性に関して国民が国または地方自治体を相手どって起こす訴訟，納税訴訟など。④機関訴訟：行政機関相互の権限争議についての訴訟。たとえば地方公共団体の長と議会の間の争い。

わが国においては，第2次世界大戦前には行政裁判所がこの訴訟を扱ってきたが，新憲法下では一般の司法裁判所が管轄するようになった。ただし〈行政事件特別法〉で，行政事件の特殊性，公共の利益を考慮して訴訟手続きに特例が認められている。➔訴え〔寺尾方孝〕

きょうせいちゅうさい【強制仲裁】 労働争議*を調整する最も強権的解決方法。労働関係調整法は，当事者の申請による任意仲裁をたてまえとしているが，公共企業体等労働関係法・地方公営企業労働関係法は，当事者の合意によらなくても当事者を拘束する仲裁による介入を認めた。これを強制仲裁という。

きょうせいちょうてい【強制調停】 当事者の申請を待たず，強制的に行なわれる調停*。強制仲裁*と並んで労働争議*を調整する強権的な方法である。自主的調整の原則の例外をなすもので，公益事業*などの特殊事件に限られている（労働関係調整法18条4号）。しかし，強制調停は当事者に対して開始を強制するだけで，調停案の受諾を強制するものではない。

きょうせいちょきん【強制貯金】 使用者が労働者に強制的に賃金の一部を天引きして貯金させること。わが国では，第2次世界大戦中インフレ防止のために行なわれた。戦前は〈義務貯金〉〈信認金〉〈保証金〉などの名目で一種の足止め策として用いられ，事実上強制労働*の役割を果たしていたが，労働基準法はこれをいっさい禁止した。例外として労働者の委託を受けて貯蓄金を管理する場合，たとえば俗にいう社内預金などについて，種々の取り締まり規定を設けて認めた（同法18条）。〔木元錦哉〕

ぎょうせいほう【行政法】 国および地方公共団体の行政権の組織と作用を規律する国内公法。行政法という名称をもつ統一的な法が存するわけではなく，多数の行政機関の組織と作用を規律する多数の法の総称として使われる。行政法は国家全体の根本的組織・作用を定める憲法*と区別され，立法・司法に関する法とも区別される。行政法は公法であるから，行政主体が公の行政権行使にあたるかぎりで規律し，私人の立場に立つ法律関係には適用されない。またふつう，行政法というときには国内法をさし，国際行政は条約*などの国際公法にゆだねられる。行政法は大別して大陸型と英米型に分けられる。大陸型は私法と公法の明確な分離の上に公法として行政法の体系が存在し，行政主体としての国家権力と国民との間の法律関係を特別に規律しようとしている。行政法上の争訟については一般の司法裁判所とは別に行政裁判所の制度が設けられている。これに対し英米型では私法・公法の分離を認めず，争訟はすべて司法裁判所が所轄する。これは市民的法体系が確立し，国家権力と国民との関係を特殊に規律することが否認されていたためである。しかし資本主義の発達に伴う問題を処理するため，近年では行政委員会*が発達し，行政法がしだいに分離・発展するようになった。わが国では，第2次世界大戦前は大陸型の体系にのっとっていたが，戦後英米型にならって改革され，行政裁判所も廃止されて一般裁判所がすべての争訟を管轄することになった。〔寺尾方孝〕

きょうせいやく【強精薬】 男女両性，特に男性の性欲あるいは性機能を高める薬の総称。性ホルモン*をも含むが，しばしば性ホルモン発見以前の薬の総称として用いられる。これにはヨヒンビンのように中枢神経を刺激して勃起（ぼっき）を起こさせるものや，カンタリスのように尿中に排出されて尿道を刺激して催淫（さいいん）作用を示すものなどが含まれる。しかし，これらには性ホルモンのように造精力を高める働きはない。

きょうせいろうどう【強制労働】 労働者の意思に反して強制的に労働させること。従来わが国では，鉱山の〈たこ部屋（べや）〉などにみられるように封建的な労働関係が多くあったため，労働基準法は憲法18条に基づき，労働者の解放，基本的人権*尊重の見地から，いっさいの強制労働を禁止し，違反者には同法上最も重い罰則を科している（同法5条・117条）。ILO*105号条約（強制労働の廃止に関する条約）は，既存の種々の制度に思想的に反対する見解をいだいたり，あるいは発表することに対する制裁としての強制労働，労働規律の手段としての強制労働，同盟罷業に参加したことに対する制裁としての強制労働などを禁止している。しかし，わが国ではまだこの条約は批准していない。〔木元美代子〕

きょうせいわいせつざい【強制猥褻罪】 13歳以上の男女に対して，暴行や脅迫を加えて猥褻の行為をする犯罪。なお，相手が13歳未満の男女であれば，暴行・脅迫を加えなくても，ただ猥褻の行為をしただけで本罪が成立する（刑法176条）。また，13歳以上の男女の場合でも，相手が熟睡中とか気を失って倒れているときのように心神喪失または抗拒不能の状態にあるのに乗じ，または相手をこのような状態におとしいれて猥褻の行為をすれば，暴行・脅迫を加えなくても強制猥褻と同じに処罰される（準強制猥褻罪，刑法178条）。刑は6月以上7年以下の懲役。未遂も罰せられる（刑法179条）。死傷の結果が生ずれば刑が加重される。この場合の猥褻行為は姦淫（かんいん）（性交）以外のみだらな行為をいい（性交に及べば強姦罪*が成立），暴行・脅迫は相手方の反抗を抑圧する程度のものであることを要する。被害者が告訴*をしなければ処罰されないが，2人以上の者が現場で共同して行なった場合は告訴を要しない。〔野口恵三〕

きょうせん【胸腺】 胸郭の前面にある胸骨の下にある内分泌腺。右葉と左葉に分かれ，2～3歳で最大となって重さ25～28g程度に達するが，15～16歳ごろから退化し，成人では脂肪化する。皮質と髄質に分けられ，皮質には胸腺細胞とよばれるリンパ球が存在し，髄質にはハッサル小体といわれる上皮性の組織がみられる。なお近年，胸腺が内分泌作用を有するか否かについて議論があり，むしろ否定的な考えが強まっている。また，人体において最初にリンパ球が産生される所で，しかも体内各所にあるリンパ組織に対して，抗体産生能力を賦活するある種の物質を生後しばらくの期間産生していることが判明している。成人に達しても胸腺の退化が起こらない場合には

胸腺体質とよばれ，全身のリンパ節が発達してショック死を起こすことが多い。〔幡井 勉〕

きょうそ 【教祖】 一宗一派の創始者ないし開祖。教義・儀礼・教団とともに宗教を構成する４本の柱の一。広義には，キリスト教ではキリスト，イスラム教ではマホメット，仏教ではブッダをさす。仏教各宗派によって宗祖・亜祖・祖師ともいうが，わが国では一般に明治以降の新興宗教の場合に特に〈教祖〉とよんでいる。教祖は深い宗教経験に基づいてみずからを神ないし神の子と主張して開教したものが多く，宗教集団が組織化されるにしたがってしだいに神格化され，集団のシンボルとして絶対視されていく過程をたどる。自然的宗教集団の場合には教祖は存在しないが，代わって神話的祖先・英雄が語られる。〔藤井正雄〕

きょうそう 【競争】 ひとりひとりの人間が利己的な動機に基づいてとる行動が，互いに競い合う状態をいう。資本主義社会の基本的原理は私有財産制*・自由主義・営利主義にあるが，これらの原理のもとで資本主義社会が経済進歩をもたらすのは競争原理があるからである。A.スミス*は《国富論》において，資本主義社会では，個々人の利己心に基づく経済行為は〈神のみえざる手〉によって社会全体の経済水準を最も効果的に高めることができる，と説いた。すなわち，私有財産制と利己心に基づく人間の経済行為は競争を生み出し，生産者と消費者が競争を通じて各人の満足のいくように諸財を配分することができるという，経済的資源の最適配分が達成できるというのが競争原理である。この原理を最も有効に作用させるには，消費者と生産者がそれぞれ同じような経済状態に置かれていることが前提になる。競争はそれ自体優勝劣敗をも意味するからこの前提がいつまでも維持できるという保証はない。しかし，経済社会の最適資源配分は競争条件をできるだけ整備することによってのみ達成できるのである。それゆえ，資本主義社会では競争原理を阻害するいろいろな原因を取り除くことが最も重要なことといわなければならない。〔藤枝省人〕

きょうぞう 【胸像】 頭部から胸あるいは肩にかけての彫刻像。体軀(たいく)のどの部分で切るかは特にきまりはなく，腕を欠く場合が多い。エジプトにはほとんどなく，ギリシアのヘレニズム初期ごろから発達したといわれ，ローマ時代には大いに隆盛した。中世ではふるわなかったが，15世紀イタリア-ルネサンス期に復活し，近代でも多数制作されている。絵画と異なり，彫刻では半身像や七分身像は少ない。

きょうそうきょく 【狂想曲】 ⇨カプリチオ

きょうそうきょく 【協奏曲】 合奏曲の形態の一。コンチェルトともいい，〈闘う〉を意味するラテン語コンチェルターレに由来する。多くの場合，管弦楽*とひとりの独奏によって演奏されるが，管弦楽は単なる伴奏ではなく，音楽構成の不可欠な要素であり，また独奏は管弦楽の一員としてではなく，管弦楽に対立するだけの役割をもつ。協奏曲は交響曲*に比べて，次の２点で異なることが多い。第１は，交響曲が四つの楽章をもつのに対して，協奏曲は交響曲の第３楽章にあたるメヌエットやスケルツォがなく，急～緩～急の順序に並べられた三つの楽章からなる。そして一般に第１楽章は協奏的ソナタ形式とよばれるソナタ形式の変形で，呈示が管弦楽と独奏とによって２度行なわれる。また第３楽章はロンド形式である場合が多い。第２は，独奏による技巧が重要な要素になっており，協奏曲の歴史はそれぞれの独奏楽器にかなった技巧の開拓の歴史でもある。独奏者に自由に腕をふるわせるカデンツァ*が楽章の終わりに置かれているのも，こうした目的のためである。



脇 息

協奏曲は1700年ごろから現代まで多くの作品が書かれ，曲種として定着している。初期には二つ以上の音響群の対立があれば，演奏手段や楽曲形式はどのようなものであっても，協奏曲(コンチェルト)と考えられがちであった。17世紀後半になると，このような演奏法にふさわしい形態として，独奏協奏曲(ソロ-コンチェルト)と合奏協奏曲(コンチェルト-グロッソ)の２形式がしだいにはっきりしてきた。前者の代表的作曲家にはトレルリ・アルビノーニ*・ビバルディ*がおり，後者の作曲家にはコレルリ*がいる。合奏協奏曲が音量の対比を中心にしていたのに対し，独奏協奏曲はバイオリン・フルート・オーボエ・トランペットなどの楽器を中心にして独奏者の名人芸を発揮させながら，形式的にも発展してきた。急～緩～急の３楽章形式も，後期バロック時代にすでに確立されており，古典派以降これが踏襲されていた。18世紀後半，ピアノが実用化されてのち，古典派・ロマン派はピアノを独奏楽器とする協奏曲を大胆に展開したが，名人芸の重視という点ではバロック時代と変わらない。なお，独奏は原理的にはひとりである必要はないので，バロック時代から複数のものもつくられている。〔徳丸吉彦〕

きょうそうはんじゃく 【教相判釈】 経典を分類・判別する方法。仏教の経典は数が多く，その説き方や思想内容も一様ではない。それらをブッダ*が一生涯(いっしょうがい)に説いたものとすると，個々の経典の特殊性や関連性が問題となる。そこで諸経典の説かれた順序・形式・内容などによって経典を分類し，優劣を定め，体系づけて，ブッダの教説の本質を明らかにしようとする必要から生じたものである。特にこれが発展したのは中国においてであるが，中国・日本の仏教では自己の信奉する経典や教義内容の優劣を位置づける傾向が強くなり，宗派成立の要件とさえなった。それだけに種類も多いが，天台宗の五時八教*，華厳宗(けごんしゅう)の五教*十宗，真言宗の顕密二教・十住心などは代表的な教相判釈である。〔佐藤成順〕

きょうそうやく 【強壮薬】 貧血をなおし，体力を増進させ，体質を変える作用のある薬の総称。ビタミン・ホルモン・アミノ酸などが応用されるまえの時代の名称なので，リン・ヒ素・鉄などのほか，ロカイ・キナなどのように異化作用を有する植物もこの中に含まれる。ごく少量を，病気の回復期に持続的に使う。

きょうそうようじどうしゃ 【競走用自動車】 ⇨モータースポーツ

きょうそく 【脇息】 すわったときにもたれる用具。わきつき・ひじかけともいう。奈良時代の《東大寺献物帳》には〈挟軾(きょうしょく)〉の名で記されている。現存する最古のものは正倉院にある聖武(しょうむ)天皇所用といわれ，長さ約111cm，幅約14cm，高さ約33cm。紫檀(したん)の甲板(こうのいた)は木象眼で美しく装飾されている。鎌倉時代以後には全体の寸法も縮まり，使い方もひざの前に置き，ひじをついてもたれたが，のちにはわきに置くようになった。さらに安土桃山時代には寄懸(よりかかり)といって箱形のものになり，江戸時代にはさらに小形になった。〔合田 濤〕

きょうそくほん 【教則本】 主として音楽の演奏技術を習得させるために構成された教科書。邦楽では実際に演奏されている楽曲で練習を始めることが多いが，西洋音楽では特定の様式や特定の技術の習熟に適するように作曲されたものを使うことが多い。ピアノのチェルニー*やハノンの作品，バイオリンのクロイツェルやシェフチクの作品などが代表的な例である。最近は，20世紀の音楽様式に最初から慣れさせるために，技術的な初歩段階で12音技法を入れたものもある。〔徳丸吉彦〕

きょうそばえ 【蠁蛆蠅】 ⇨カイコソウジバエ

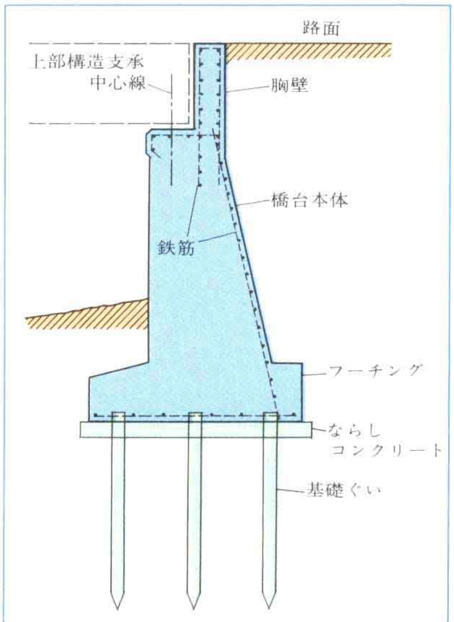
ぎょうだ【行田(市)】 埼玉県北部の市。戦国時代は成田氏の城下町であった。その居城忍城(おしじょう)は関東七城の一つといわれる名城で，上杉(うえすぎ)謙信軍にも，1590年(天正18)の石田三成の水攻めにも落ちなかった。江戸時代は阿部(あべ)氏・松平氏十万石の城下町で，藩士の子女の副業に由来するたびの名産地となった。明治初年には成田町といったが，1889年(明治22)に忍町，1949年(昭和24)に行田と改称して市制施行。人口73,000。関東平野の北西部，利根(とね)川と周囲に水田地帯が広がる。産業三大別人口比は13:46:41。繊維関係の中小工場が多く，全国のたびの60%をつくっていたが，たびの需要減のために，最近はくつした・作業服などの生産に転向した工場が多い。また，電気機具・ゴム製品などの工場も進出し，行田工業団地が造成されている。利根川の水を総合的に利用する利根導水路計画の中心部で，埼玉水路の利根大堰(おおぜき)が1968年に完成した。農業は米作のほか，ダイコン・ウリ類・イチゴを産する。秩父(ちちぶ)鉄道が通じ，国道125号線が市域を東西に貫通する。南東部にある埼玉古墳群は史跡に指定され，数個の前方後円墳とともに〈風土記(ふどき)の丘〉として保存されている。

きょうたい【暁台】(1732～1792) 江戸中期の俳人。加藤氏のち久村(くむら)氏。別号暮雨巷(ぼうこう)など。名古屋の生まれ。尾張(おわり)徳川家に仕えたが若年で職を辞し，のち俳諧(はいかい)をもっぱらとした。藩の大身横井也有*(やゆう)から受けた庇護(ひご)は少なくない。また蕪村*(ぶそん)一派との交流もあり，蕉門(しょうもん)の俳書の覆刻や1783年(天明3)春の芭蕉(ばしょう)百回忌取越追善正式俳諧開催など，蕉風復帰運動を積極的に行ない，俳壇に重きをなした。晩年，二条家に召されて俳諧宗匠の免状を受けている。〔弥吉沙恵〕

きょうだい【鏡台】 鏡架または鏡立(かがみたて)ともいい，本来は鏡を立てかける台であったが，近代には調髪道具や化粧品をおさめる，引き出しつきの箱型になった。材料はクワ・シタン・カキ・ケヤキなどがある。正倉院に奈良時代の鏡を入れる鏡箱があるが，平安時代には和風調度の発達に伴い，蒔絵(まきえ)で飾られた華美なものがつくられた。室町時代に木わくを組み立てて鏡を載せる鏡台が現われ，さらに化粧道具箱の上に鏡をとりつけたものがつくられるようになったが，これは上流社会のものであり，一般に用いられるようになったのは江戸時代にはいってからである。明治時代になると，大形のガラス鏡が使用されるようになり，従来の箱台の上に鏡を回転できるようにくふうされた。昭和になると卓上用の小形鏡台，姿見の大形鏡台，三面鏡などが普及し，最近ではたんすの天板に取り付けた鏡も現われている。〔合田　濤〕



鏡　台　初音蒔絵鏡台　徳川黎明会蔵



標準的な橋台の構造例
鉄筋コンクリート半重力式，くい基礎

橋　台

きょうだい【橋台】 橋の両端にあって上部構造を支持する台。一般に背面から土圧も受ける点が橋脚*とは異なっているが，そのほかのことは類似しており，あたかも擁壁*(ようへき)と橋脚とを兼ねたような構造物である。

きょうだいじけん【京大事件】 一般には滝川事件をさすが，思想・教育の統制が強化された体制下の，大学の自治，学問の自由にかかわっていた京都大学の諸事件をいう。①沢柳事件:1913年(大正2)7月，文部省の意向〈7教授の辞職〉に従った沢柳政太郎*総長と法科大学教授会とが対立し，奥田義人(よしんど)文相らの斡旋(あっせん)があって，教授会の意見がいれられた。②学連事件:1926年1月，京都大学などの学生社会科学連合会の学生に治安維持法*の適用があり，38人が起訴された。③滝川事件:1933年(昭和8)5月，法学部滝川幸辰*(ゆきとき)教授の《刑法読本》が共産主義的であるとして，文部省(鳩山(はとやま)一郎*文相)が滝川教授の罷免を要求した。これに対し，法学部教授会は全員が辞表を提出し，弾圧に抗したが，政府声明，教授会内部の分裂があって，滝川教授はじめ多数の辞職者を出した。〔赤司政雄〕

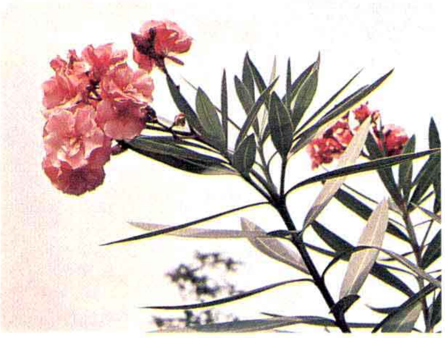
きょうだいぶん【兄弟分】 肉親の兄弟の関係ではなく，他人どうしが兄弟の約束を結んだもの。大工・鍛冶(かじ)・左官などの職人仲間や香具師(やし)・博徒(ばくと)の仲間に多く，芸能界や農民・漁民の間にもみられる。もとは，同一の親方に属する子方の者どうしの間に結ばれた情誼(じょうぎ)的相互扶助の関係である。一般的な友人関係よりも緊密な関係であり，家族的人間関係の擬制であり，それを拡大した観念形態でもある。

きょうたく【供託】 債権者が弁済*の受領を拒んだり，あるいは不在などのため受領してもらうことができなかったり，さらにだれが債権者であるかを確知することができない場合に，弁済者がその弁済の目的物を供託所に寄託して債務を免れる制度をいう(民法494条)。民法が規定しているのはこの意味における供託(弁済供託)であるが，そのほか目的の種類によっては，担保供託・保管供託・特殊供託等々の供託もある。借地・借家などの賃料をめぐっての争いでよく利用される制度である。供託をなすには，債務の履行地の供託所，たとえば金銭・有価証券については法務局に，その他の物品については法務大臣によって別に指定された倉庫営業者・銀行などにこれをしなければならない。また供託者は供託したものを遅滞なく債権者に通知しなければならないとされている(民法495条)。弁済の目的物が供託に適しないものであったり，また，こわれたり，腐ったりするおそれがあるとき，あるいはその保存に費用がかかりすぎるときには，供託者はこれを処分して代金に換えて供託することができる(民法497条)。供託者はまた，債権者が目的物を受領する意思表示をしない間，および供託を有効とした判定が確定しない間は，供託物を取りもどすことができる。ただし，この場合は供託がなされなかったとみなされ，弁済の効力は生じない(民法496条)。〔黒木三郎〕

きょうだん【教団】 特定の宗教信仰を奉じ，宗教儀礼・布教を行ない，信者の教化・育成を図ることを目的とする神社・寺院・教会・布教所・修道院などの宗教法人を包括する宗教団体。代表的な教団として，神社を包括する神社本庁*，寺院・教会・布教所を包括する仏教各宗派や新興宗教の諸教

団，教会を包括するキリスト教団などがある。一般に，宗教を宗教たらしめている要素として教義(教祖*)・儀礼・教団の3ないし4要素があげられる。教団は共通の信仰を分かち合う同信共同体で，教祖の教えを体系化した教義から発現し，信仰は共通の儀礼を通して強められる。教義が宗教の理念面，儀礼が宗教の行為面とすれば，教団は宗教の形態・構造面ということができる。〔藤井正雄〕

きょうちくとう【夾竹桃】 双子葉植物・キョウチクトウ科。インド原産の常緑低木。江戸時代から庭園に栽植された。高さ5mになる。葉は革質，披針(ひしん)形で，3枚ずつ輪生する。夏，枝端に集散花序に紅色の花をつける。花は筒状で上部が分裂し，基部に糸状の飾りがある。果実は10cmぐらいの細長いさやで，両端に絹毛のはえた種子がある。乾燥や潮風に強く，傾斜地や海岸に植えられる。普通は八重咲きのヤエキョウチクトウで，ほかに白花のシロバナキョウチクトウ，淡黄色のウスギキョウチクトウがある。葉は強心・利尿などの薬効があるが，家庭では用いてはならない。〔横井朝子〕


キョウチクトウ　ヤエキョウチクトウ


経　筒　粉川寺経塚出土。奈良国立博物館蔵

ぎょうちゅう【蟯虫】 線形動物・線虫綱に属する寄生虫。成虫は盲腸に寄生し，体長10mm内外。雌は夜間に大腸を下降し，肛門部(こうもんぶ)に産卵する。虫卵の発育はきわめて迅速で，産卵後数時間で感染可能となる。ヒトはこれを経口的に取り込んで感染する。取り込まれた卵は小腸上部で孵化(ふか)し，回虫*のような体内移行をせずに直接盲腸部に定住して成虫となる。産卵を開始するのは感染後約2週間である。多数寄生した場合には，盲腸や虫垂に炎症を起こすことがある。しかし，蟯虫症の主症状は肛門部のかゆみとそれに伴う不眠・神経症状である。蟯虫の感染は保育園・幼稚園などの集団生活や家庭内での接触を通して起こるのが一つの特色で，したがってその予防・駆除対策もその方面に向けられる必要がある。幼・小児の回虫感染が著しく減少した今日では，蟯虫駆除が重要な問題となるであろう。治療にはピペラジン製剤・ポキールなどを用いる。予防は手洗いの励行，清潔な衣類着用，集団検診・集団駆虫などを行なう。〔山本　久〕

きょうちょうかい【協調会】 1919年(大正8)設立された民間調査研究機関。枢密院副議長清浦奎吾(けいご)・貴族院議長徳川家達(いえさと)・実業家渋沢栄一らを中心に，第1次世界大戦後激化した労働運動に対して，労使協調を主旨に，中央職業紹介所を設け，職工家計・俸給者(ほうきゅうしゃ)家計調査の実施，争議の仲裁・調停，関係立法の建議などの事業を行なった。第2次世界大戦後，1946年(昭和21)解散。

きょうちょうゆうし【協調融資】 一つの企業の必要資金(特に長期資金)を二つ以上の金融機関が，融資条件・融資割合などを事前に協定して行なう貸し出しをいう。第2次世界大戦中に行なわれた共同融資と異なり，資金をプールしないで，個々に融資する形式をとる。協調融資は，通常，企業が大口の資金を円滑に調達しようとする場合，あるいは，金融機関側からみて1行で融資を行なうには資金負担や危険負担が大きい場合などによく用いられる方法である。わが国では，戦後，石油精製業を中心に，この方式が行なわれた。〔池内得二〕

きょうつうご【共通語】 異なる言語または方言の上に広がる相互の意志疎通のための共通的言語。古典期以降のギリシア語*諸方言の上に成立したコイネー(共通語)はアテナイのアッチカ方言であったし，日本の共通語は東京の山の手方言をその母体としたものである。また，現在，英語は世界各国間の共通語としての有力な資格を備えている。このように共通語となる言語は，元来自然発生的で現実に使用されているものが，社会的・文化的理由によって人為的にその資格を獲得したものである。言語の最上のタイプといった価値的概念が含まれない点で標準語*とは異なる。〔崎山　理〕

きょうつうのうぎょうせいさく【共通農業政策】 EEC*(ヨーロッパ経済共同体)が，農業面での共同市場実現のためにとる諸政策。主要農産物の品目ごとに共通価格を設け，域内農産物の単一市場を完成させる。この共通価格は世界市場価格を上回るため，域外からの輸入に対しては輸入課徴金(共通価格と輸入価格の差額)を徴収し，域外への輸出に対しては輸出払いもどし(共通価格と輸出価格の差額)を行ない，域内の保護市場を実現し，ある程度の自給自足化をねらっている。さらに，農業共同市場の運営と域内農業の生産性の向上・合理化を推進するための機関として，農業指導保証基金(FEOGA)が設けられ，財政的にも共同体財源による運営が意図されている。EEC内では生産性の高い農産物輸出国のフランス・オランダと，農産物輸入国である西ドイツ・イタリアとの利害対立や農産物の高価格・生産過剰が問題となっており，農業近代化・農業構造改善計画の実施が今後の課題となっている。〔深海博明〕

きょうづか【経塚】 仏教経典を書写して経筒*に入れ，鏡・短刀・合子(ふたつきのわん)・貨幣などとともに地中に埋納し，盛り土をしたもの。その上に五輪塔*を建てることもある。平安中期に円仁*(えんにん)が唐から伝えたときに始まるといわれ，経を守護して長く後世に伝え，保存することを目的としたが，室町時代にはいると，みずからの祈願や先霊の追福のために行なわれた。埋経には，その材料によって紙本経・柿経(こけらきょう)・瓦経*(かわらきょう)などがある。

きょうづつ【経筒】 書写した経巻を納入して経塚*(きょうづか)に埋納する容器。納経は法華経8巻が最も多く，開経(無量義経)および結経(観普賢経(かんふげんきょう))を加えて10巻とする場合もある。主として銅製であるが，鉄製・陶製・石製もある。通例は縦長の円筒形にふたをつけているが，六角形のものもある。ふたの上につけた鈕(ちゅう)の形状によって相輪形・仏像形・宝珠形などに区別される。1007年(寛弘4)の銘がある，奈良県金峰山(きんぶさん)出土の藤原道長発願経筒が紀年銘品中の最古品。〔河田　貞〕

きょうていぼうえき【協定貿易】 通商条約の結ばれていない国と国とが，互いの通商関係を保持・促進するための取り決めに基づく貿易形態の総称。国家間の貿易は通常通商条約を結んで基本を決めるが，無条約国または条約交渉中の国家間では，求償貿易*のような便法を考え，1～2年程度の暫定的な貿易協定を実現させている。日本対中国の覚書貿易はその適例である。民間貿易は，この国家協定にしばられ，そのわく内で行なわれるので，安いところからほしいだけ買い，高いところに売りたいだけ売るという商業の自由性は発揮されない。〔上坂酉三〕

きょうと【京都(府)】 近畿(きんき)地方中央部の府。北西部は日本海に面し，北東部は福井県，東は滋賀県，南は奈良県・大阪府，西は兵庫県と接する。山城・丹後の全

域と丹波の東部を占める。面積4,612km²，人口249万7,000人，人口密度は1km² 541人。府花はシダレザクラ，府木はキタヤマスギ，府鳥はオオミズナギドリ。府庁のある京都以下11市と，12郡(32町1村)に分かれる。

〔自然〕府域は北西から南東にかけて細長く，中国山地の東の延長である丹波山地が府域の大半を占め，平地に乏しい。北西部には奥丹後半島が日本海に突き出し，中央部には高さ800〜900m前後の山々が東西に連なって分水嶺(ぶんすいれい)をなしている。日本海沿岸部は山地が海に迫り，奥丹後半島の東側は地盤沈下のために海岸線の出入りが多い。若狭(わかさ)湾に含まれる宮津湾・舞鶴(まいづる)湾・栗田(くんだ)湾などは典型的なリアス式海岸で，日本三景の一つに数えられる天ノ橋立*(あまのはしだて)もあり，周辺一帯は若狭湾国定公園*に指定されている。平地は南東部に京都盆地が開け，保津川や由良(ゆら)川の谷に沿って亀岡(かめおか)盆地・福知山盆地などの狭い山間盆地がある。京都盆地は瀬戸内海から淀(よど)川の流域に沿った陥没帯の延長にあたり，北から東へかけては愛宕(あたご)山(924m)・比叡(ひえい)山(848m)などの山々が連なり，その南には清水(きよみず)山などのいわゆる〈東山36峰〉が東の近江(おうみ)盆地とをくぎっている。多くの川は丹波山地に源を発して，北または南へ流れる。丹波山地の滋賀県境から発する由良川は西流して福知山盆地をつくり，ここで北に転じて若狭湾に注ぐ。丹波山地東端から発する大堰(おおい)川は，西流して保津川と名を変え，亀岡盆地を南へ流れて京都盆地にはいり，さらに桂(かつら)川となって京都盆地の西部を流れる。そのほか，京都盆地には北から京都市街を貫く賀茂(かも)川，琵琶湖(びわこ)に発する宇治川，布引(ぬのびき)山地(三重県)に発する木津川が流れ込み，南部低地に集まって山崎の谷の入り口で合流して淀川となり，大阪湾に注ぐ。合流点付近にはかつて巨椋池(おぐらのいけ)があったが，1939年(昭和14)に干拓されて水田となった。気候は一般に裏日本式気候を示し，冬は日本海側の季節風の影響を受けて寒冷で雨が多く，降雪期間も長い。夏は太平洋側から季節風が吹き，丹波山地に集中豪雨をもたらして由良川・大堰川流域ではしばしば水害に襲われる。京都盆地は夏はきわめて暑く，冬は寒さのきびしい内陸式気候で，丹波山地と比べて降水量が少ない。京都市の年平均気温は14.8℃，1月3.5℃，8月27.3℃，年降水総量は1,638mmを記録する。



京都府

〔産業・経済〕産業三大別人口比は5:36:59で，府民分配所得は1人あたり136万5,000円(1977)で，全国8位である。〈農林水産業〉耕地面積は約43,000ヘクタールで，府域の9%余にすぎない。水田率は80.1%で，米作は京都盆地をはじめ福知山盆地・亀岡盆地で行なわれ，北部山地ではきわめて少ない。米の平年収量は約11万tである。麦類はもうごく少量しか作られていない。京都盆地は開発が古く，都市が早くから発達したので，京都周辺の上賀茂や嵯峨野(さがの)では，ダイコン・キュウリ・キャベツ・ナスなどの野菜類の栽培が盛んである。茶の栽培の歴史も古く，平安末期から宇治茶の名が知られ，宇治を中心とする山城地方と丹波の綾部(あやべ)地方が主産地である。生産量は全国の3%にすぎないが，そのうちの40〜50%は玉露・碾茶(ひきちゃ)などの高級品に加工される。特産物に亀岡付近のマツタケや乙訓(おとくに)郡のたけのこのほか，丹波グリ・聖護院(しょうごいん)ダイコン・九条ネギなどがある。畜産業は，古くから丹波ウシまたは但馬(たじま)ウシとよばれる役肉牛が丹波山地を中心に約8,000頭飼育され，福知山市には日本三大市場の一つである家畜市場が開かれる。乳牛は9,000頭，ブタ37,000頭，ニワトリ129万羽が飼育されるが，最近一般に家畜家禽の飼育頭羽数は減っている。林野面積は35万ヘクタールで府域の約74%を占め，丹波山地からスギ・ブナ・マツなどを伐採して阪神(はんしん)地方へ移出する。京都市の北部，大堰川支流の清滝川流域に産するキタヤマスギは，北山丸太とよばれる高級木材の原木として知られる。水産業は，若狭湾一帯で行なわれ，宮津市・舞鶴市と与謝(よさ)郡伊根(いね)町はブリの定置網漁業が盛んで，舞鶴市ではサバ漁もみられる。〈鉱工業〉地下資源としては，丹波山地のマンガン，亀岡市西郊のタングステン，大江山のニッケル・銀などの金属鉱物，ケイ石・耐火粘土・石灰岩などの非金属鉱物がある。マンガンの産量は全国一で，特に乾電池に利用される二酸化マンガンは全国





京都府　(上)京都の東の玄関口にあたる山科。京都市の広がる京都盆地は，正面の丘陵東山山地の向こうにかすんでいる。東海道本線(右手)と国道1号線が，いずれも京都へ向けて走る
(下)洛北の大原の里。寂光院・三千院などの史跡があり，付近の農家には，写真のような趣きのある入母屋造りも多く見られる

の約17%を産する。タングステンの採掘量は年産約400tで全国の60%近くを占めるが，最近は需要減少に伴って減産の一途をたどっている。工業の大部分は京都市に集中し，工業製品の年間出荷額は1兆4,612億円(1972)である。伝統的な家内工業には，京都市の西陣織・京焼・京友禅・京人形などがあり，伏見地区の清酒醸造も平安時代からの古い歴史をもっている。また，中部の峰山町や与謝郡の野田川流域では古くから農家の副業として丹後縮緬(ちりめん)の生産が行なわれている。最近，京都市南西地域に金属・精密機械・電気機器・計器・化学などの近代工業が興り，宇治市周辺の化繊工業とともに洛南(らくなん)工業地帯が形成され，今後の発展が期待されている。そのほか，綾部市・福知山市にはレーヨン工場，舞鶴市には造船工場がある。

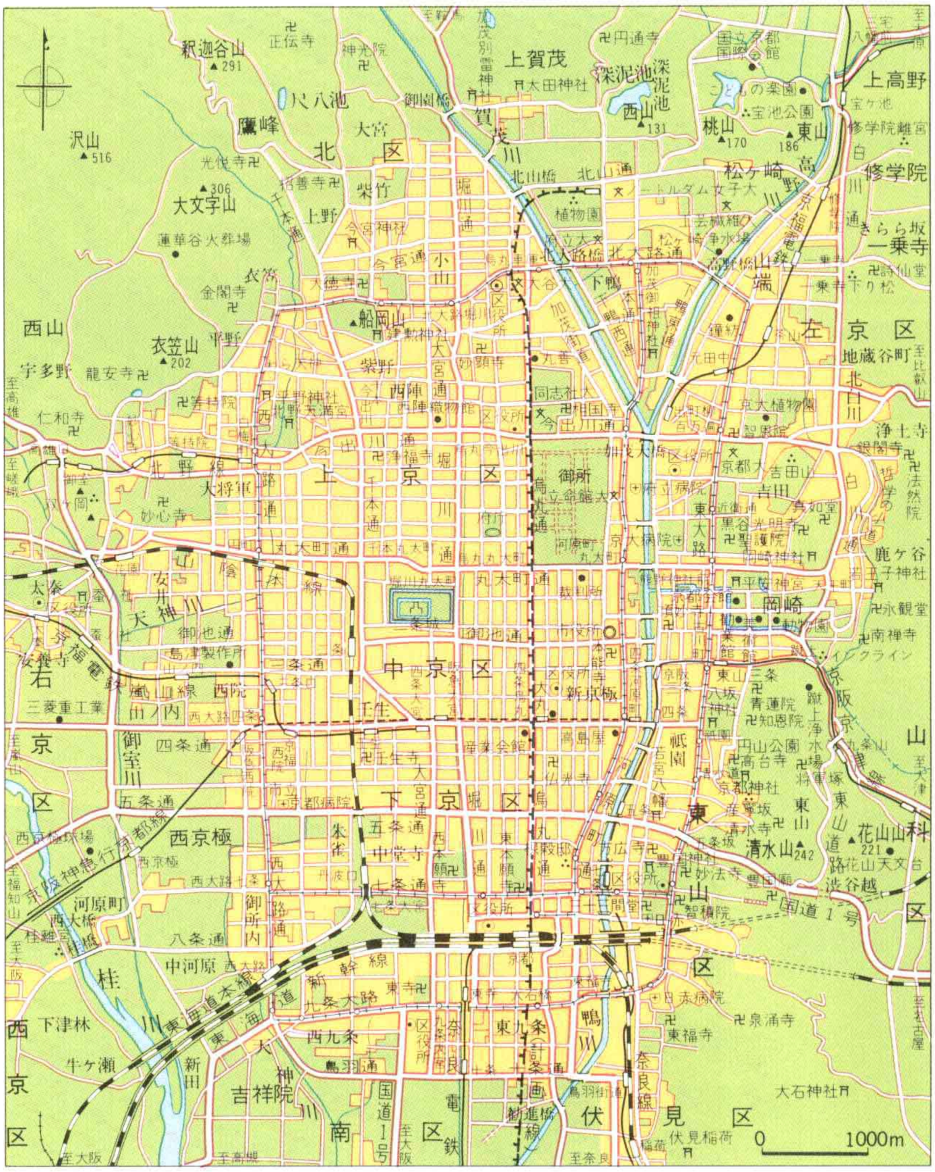
〔交通・都市〕江戸時代の陸路は，京都を中心に，大津を経て東へ延びる東海道，淀川沿いに大阪へ向かう京街道，山崎を経て西宮(にしのみや)へ向かう西国街道，福知山盆地へ通ずる山陰街道，南下する奈良街道，北の小浜へ通ずる周山街道など，四方へ諸街道が走っていた。今日ではこれらの諸街道がほぼそのまま主要な自動車道路となり，東海道・西国街道は国道1号線，山陰街道は9号線，奈良街道は24号線，周山街道は162号線となった。また名神高速道路は京都南部を東から西へ通り抜け，二つのインターチェンジが置かれている。鉄道はこれらの街道沿いに発達し，東海道本線・同新幹線が京都市内を貫通するほか，亀岡・福知山を経て日本海沿岸へ延びる山陰本線，綾部と舞鶴を結ぶ舞鶴線，西舞鶴と豊岡(とよおか)を結ぶ宮津線，東舞鶴と敦賀(つるが)を結ぶ小浜線などがあり，京都と奈良の間には奈良線が走っている。社線は京都市を中心に四方へ延び，近畿日本鉄道は奈良市・橿原(かしはら)市・天理市方面へ，京阪電鉄は淀屋橋(大阪市)・宇治市方面へ，京阪神急行は梅田(大阪市)へ通じている。バス交通では，名神高速道路に大阪～名古屋間のハイウエーバスが通じ，また，京都市内の遊覧観光バスが特に発達している。比叡山道・奥比叡ドライブウエー・西山ドライブウエーなどの民営有料道路も観光開発に役だっている。海上交通では，舞鶴－小樽(おたる)の長距離フェリーがあり，舞鶴港の整備拡張工事が進んでいる。人口は都市部に著しく集中し，都市部の人口総計205万に対して，郡部では37万にすぎない。京都盆地には，平安時代から明治初年までわが国の首都であった京都市と，洛南の溪口(けいこう)集落で平等院の門前町であった宇治市がある。そのほかの主要都市はいずれも城下町として発達した歴史をもち，丹後地方に宮津市・舞鶴市，丹波地方に福知山・綾部・亀岡の3市があって，各地域の中心都市的な機能を果たしている。宮津・亀岡は1953年の町村合併促進法施行以後の新市で，城陽・向日(むこう)・長岡京の3市は京都市の衛星都市的な性格をもち，ともに1972年に市制を施行，また1977年には八幡市が誕生した。

〔歴史〕大和(やまと)文化圏に属する南部の山城地方は早くから開け，古代には畿内5か国の一つに数えられた。大和朝廷の発展につれて，進んだ文化をもつ帰化氏族が京都盆地の開発に大きな役割を果たし，秦(はた)氏・鴨(かも)氏らが定着した。広隆寺は秦氏が，賀茂神社は鴨氏が建立(こんりゅう)したと伝えられる。奈良時代末期には，桓武(かんむ)天皇が京都遷都を決して，794年(延暦13)に平安京が造成された。市街は右京・左京の両地区に分かれていたが，遷都後しばらくして低湿な右京地区はさびれ，人口は左京地区に集中しはじめ，院政や平氏の興隆などにつれて市域はしだいに東へ延長された。平安時代には東郊の北白川付近に寺院や貴族の屋敷が増加し，末期には平氏が六波羅(ろくはら)を中心に栄えた。保元(ほうげん)・平治の乱を経て，平清盛が福原遷都を行なったが，1年後にはまた京都が首都となり，中世にはいってからは経済都市の機能を強めて，鎌倉時代には左京の室町と西洞院(にしのとういん)にはさまれる南北路の商業地域〈町〉に，商店や土倉が軒を並べた。南北朝から室町時代にかけては，地域的な団結を示す〈町〉の数がしだいに増加し，町人の団結意識も深まったが，一方，土倉・酒屋の搾取に反対した農村の土一揆(つちいっき)もしばしば起こった。室町末期には応仁(おうにん)の乱によって市域の大半が焼け野原となり，焼失家屋は30,000余戸に達した。戦国時代にあいついで政権を握った織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)は京都の復興を図り，特に秀吉は市街や伏見などとの交通路を整備し，聚楽第(じゅらくだい)や御土居(おどい)(周囲に土塁を巡らした一種の城郭)をつくった。江戸幕府が成立すると，徳川家康(いえやす)は二条城をつくり，京都所司代を置いて，市域をその管轄下に入れた。以後，京都は江戸・大阪とともに〈三都〉とよばれて栄え，江戸中期の1681年(天和1)には人口約58万を数えた。当時の市勢の発展の原動力は西陣織業で，これと関連して越後屋(えちごや)(三井)・高島屋・白木屋・大丸などの呉服商も大企業に成長し，大名貸しとして勢力をふるう三井組・島田組・小野組などが生まれた。一方，出雲(いずも)文化圏に属する丹波・丹後の両国

は地域的に発達が遅れ，文化にもほとんどみるべきものがなかった。丹波地区では，鎌倉時代に土肥氏・北条(ほうじょう)氏があいついで守護となり，南北朝以後は山名氏，さらに細川氏が守護となった。江戸時代には，篠山(ささやま)・柏原(かいばら)・福知山・山家(やまが)・園部・綾部・亀岡の７藩が置かれた。丹後地区では，鎌倉時代に日本海沿岸の宮津・田辺(たなべ)(舞鶴)に港が開け，同地区が六波羅探題の直轄地となり，南北朝以後は一色氏が守護となって強大な勢力を誇った。江戸時代には，宮津・峰山・田辺の３藩が置かれた。江戸幕府の大政奉還によって，山城地区には1868年(明治１)に京都府が置かれ，山城の国にあった御料地・幕領や宮・門跡・公家(くげ)・寺院などの領地を含めて統轄した。1871年廃藩置県に際して，山城の淀藩と丹波の亀岡・園部・綾部・山家の各藩の領地を併合した桑田・船井・何鹿(なじか)の３郡が京都府の域内に編入され，篠山・柏原・福知山の３藩は豊岡県となった。1876年に，豊岡県が廃止され，福知山地方や丹波の天田郡および丹後の全域が京都府に編入されて，現在の府域が確定した。
〔浅井得一〕

きょうと 【京都(市)】 京都府の南東部に位置する府庁のある市で，わが国十大都市の一。京都盆地内部の開発の歴史は古く，794年(延暦13)の平安京の建設から明治初年の東京遷都まで，1,075年間首都の地位を占めていた。平安時代には日本の政治の中心地，鎌倉時代以後は文化・経済・宗教などの中心地として重要な役割を果たしてきた。明治以降は新産業計画に基づく近代都市化が進み，第２次世界大戦中にも戦火を受けなかったので，日本の歴史と伝統を保存する代表的な国際観光文化都市として世界に知られている。1889年(明治22)市制施行。面積610.61km²，人口1145万。

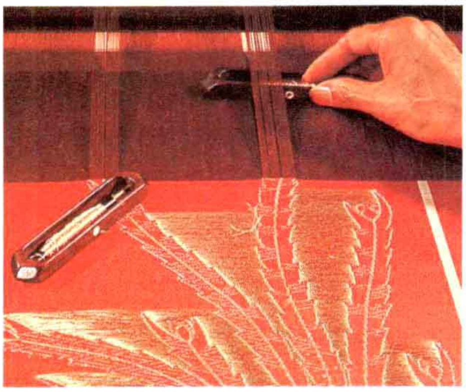
市域は京都盆地のほぼ全域と丹波山地東部を占める。京都盆地は東山・西山・北山の連山に三方を囲まれて南北に細長く，南西方は淀(よど)川によって大阪平野へ通ずる。盆地部には人口が集中して市街地をつくり，北部の山間部は人口密度が小さい。市街地には直交する道路で区画された平安朝の都市計画が残り，市制施行以後は周辺部の農山村も市域内に編入された。典型的な内陸性気候で，気温の年較差が大きく，寒暑はそれぞれきびしい。産業三大別人口比は2：36：62で，生産部門より消費部門の占める比率のほうが大きい。盆地の低地部では水田耕作がみられ，嵯峨野(さがの)や桃山丘陵・上賀茂(かみがも)などの洪積(こうせき)台地では近郊野菜栽培が行なわれる。工業の開発の歴史も古く，1890年に琵琶湖(びわこ)疏水が完成して産業動力の電化が可能となったが，その後伸び悩みの状態が続いた。最近南西郊に金属・精密機械・電気機器・計器・化学などの近代工業が興り，阪神(はんしん)工



京都市


京都駅の南，九条通りにある東寺とその界隈。遠くに駅前のビル街と京都タワーが見え，その左手に東本願寺の屋根が望まれる



京都市　(左上)友禅のさらし風景。いまは桂川だけに見られ，川原には美しい色模様が繰り広げられて，京都の風物詩の一つになっている　(右上)桃山時代以来の古い伝統をもつ伏見の酒蔵。白壁の蔵が建ち並ぶ。1月初旬に仕込みにかかり，2月下旬ごろに新酒ができる　(左下)高瀬川。17世紀初め豪商角倉了以によって開かれ，京の町に大きな役割を果たしてきたが，いまは市街の屋並みの中を静かに流れている　(右下)古い伝統を誇る西陣織。工程は近代化したが，最高級品は日に数センチほどしかできあがらないという(写真は花鳥の文様)

業地帯の延長線にあたる洛南(らくなん)工業地帯が発展している。伏見区は灘(なだ)と並び称される酒造地である。古い伝統をもつ家内工業では，西陣織・友禅染・京焼・京人形などが全国に知られ，京染・漆器・仏具・茶道具・象眼細工・扇子・京菓子などの特産もある。

東海道本線・同新幹線が市中を貫通し，奈良線・山陰本線の起点となり，京阪電鉄・京阪神急行京都線・近畿(きんき)日本鉄道京都線・奈良電鉄などが周辺各地を結ぶ。道路交通では名神高速道路・国道1号線(東山バイパス)・9号線(桂(かつら)バイパス)・24号線・162号線が集まり，東山道路・比叡(ひえい)山道・奥比叡ドライブウエー・西山ドライブウエーなどの有料道路もあって，市域内外の観光地巡りのバス交通が発達している。市街電車は，1895年，全国ではじめて開通した古い歴史をもっているが，しだいに路線が縮小されつつある。関西一の学園都市で，明治初年にわが国最初の小学校・中学校・女学校がつくられ，今日では京都大学をはじめ，同志社大学・立命館大学や龍谷(りゅうこく)大学・大谷大学をはじめとする寺院経営の各大学など，高等教育機関が集まる。京都国立博物館・府立図書館・宝物殿などの文化施設も多い。

観光資源は，古都1,000年の歴史的遺物を中心にきわめて豊富で，寺院・神社・史跡などは数千を数え，観光産業は市の有力な財源である。おもな名所・観光地は，特別史跡・特別名勝の鹿苑(ろくおん)寺(金閣寺)庭園・慈照寺(銀閣寺)庭園・醍醐(だいご)寺三宝院庭園，特別名勝の西芳(さいほう)寺(苔(こけ)寺)庭園・天龍寺庭園・大徳寺方丈庭園・大仙院(だいせんいん)書院庭園・龍安(りょうあん)寺方丈庭園・本願寺大書院庭園・二条城二之丸庭園・金地院庭園をはじめ，京都御所・新京極・三十三間堂・清水寺・知恩院・東山・平安神宮・修学院離宮・嵐山(あらしやま)・桂離宮などがある。清流として名高い賀茂川は市街の東部を貫流し，三条・四条・五条などの大橋がかかり，まわりの祇園(ぎおん)・先斗(ぽんと)町などの花街(はなまち)も観光客を集める。代表的な年中行事には葵祭(あおいまつり)(5月15日)・祇園祭(7月17〜24日)・大文字送り火(8月16日)・時代祭(10月22日)などがある。〔浅井得一〕

きょうど【匈奴】紀元前4世紀末から約500年間，モンゴル高原一帯を制圧した騎馬民族。紀元前2世紀ごろ冒頓単于(ぼくとつぜんう)が出て各部族を統一し，東は興安嶺(こうあんれい)から西はパミール高原に至る地帯を勢力下におさめ，漢の高祖*を白登山(山西省大同付近)に囲み，以後その娘と通婚して歳幣を受け，優位を保つ国交を続けた。しかし，彼の時代が匈奴の最盛時代で，やがて漢の武帝と連年戦って敗れ，ゴビ砂漠(さばく)の北に退いたが，BC60年ごろに内紛が起こって5単于が併立し，さらに郅支(しっし)・呼韓邪(こかんや)両単于の対立となり，呼韓邪は漢の保護を受けた。郅支は西方タラス川流域にのがれ，その故地は呼韓邪に統一された。その後漢と匈奴の和平は続いたが，48年また内紛を起こし，南北に分裂した。北匈奴は後漢の討伐を受けて西走したが4世紀にヨーロッパに侵攻して，ゲルマンの大移動*の原因となったヨーロッパ史上のフン族*はこれであるといわれている。南匈奴は漢の保護を受けて陝西(せんせい)省・山西省の北部，オルドス地帯に住居し，五胡(ごこ)十六国のときに南下して前趙(ぜんちょう)・北涼・後趙(こうちょう)などを建てたが，北魏(ほくぎ)の時代に漢民族に同化されてしまった。なお，人種的にはモンゴル族・イラン族・トルコ族など異説があってさだかではない。〔米田賢次郎〕

ぎょうどう【行道】最も広義には仏道を修行することをいう。しかし一般には列をなして進む意味から，仏に敬礼の意を表わして右回りに回る繞仏(にょうぶつ)や堂塔のまわりを回る繞堂と同義に用いられる。右回り(右繞)は敬意を表する場合のインド的表現である。中国や日本では，重要な法会のとき，僧侶(そうりょ)が読経し，あるいは散華*(さんげ)しながら堂の内外を練り歩くことを行道といい，仏教的儀礼の一つとされる。

きょうどうぎょぎょうけん【共同漁業権】⇨漁業

きょうどうくみあい【協同組合】経済活動を行なっていく上で力の弱い小生産者や消費者が，経済上の地位を改善し維持することを目的として結成した組織。消費者としての利益を追求する消費者協同組合*と，生産者としての利益を確保しようとする生産者協同組合とがある。後者には産業別に農業・水産業・商工業の協同組合があり，共同購入，共同販売，施設の共同利用，共同加工および資金貸し付けなどの事業を行なっている。これらの活動は営利のためではなく，組合員への便益の提供を目的にしている。運営面では民主的な運営をめざして各組合員に平等に1票の議決権が与えられている。協同組合の発生は資本主義の変

革運動と結びつきがあり，産業革命期に起こった各種の社会運動の中で発生している。1844年イギリスのランカシャーのフランネル職工たちによって，ロッチデールで結成された消費者協同組合がその発端である。

きょうどうくみあいほけん 【協同組合保険】 協同組合によって行なわれる保険。協同組合は，組合員相互の共存共栄を目的としているから，協同組合保険もまた互助共済を目的とする。この点株式会社や相互会社における保険が結局は利潤を追求して経営されるのに対し，協同組合保険では，労働者や農・漁民，中小企業者または都市などの消費者である組合員の利益を中心として経営される点に特色が認められる。わが国では，保険業法で保険事業の経営主体として協同組合を法認していないため，これらは共済という名目で，実質上の保険またはそれにかなり類似したものを実施している。〔庭田範秋〕

きょうどうさよう 【協同作用】 個体群や生物群集における生物間の相互作用のうち，関係した個体すべてに有利に作用する場合をいう。コロニーや生物社会をつくって生活する種の場合，その個体相互間に種内協同作用がある。異なった2種の間の協同は種間協同作用といわれる。協同作用はそれがなければ両生物ともに生存や繁殖が困難になる相利作用，そうでない場合の原協同作用の二つに分けることができる。前者の例としては，アリ植物とアリ，菌類と藻類の2者よりできあがっている地衣類，虫媒花とこん虫などの関係がある。後者の例としてはワニとワニドリ，ヤドカリとイソギンチャクなどの関係があげられる。

きょうどうさんせっくつ 【響堂山石窟】 中国，北斉(ほくせい)時代の石窟寺院。石窟は河北省の河南省との境近くに北と南とに分かれて造営され，南に7窟，北に3窟ある。石灰岩の山に開削されたもので，窟内には仏・菩薩(ぼさつ)・羅漢(らかん)・力士・獅子(しし)などの石彫があり，豊かな肉づき，角ばった相好は北斉彫刻の代表的作品である。隋(ずい)・唐時代に若干の小窟がつけ加えられた。

きょうどうしじょう 【共同市場】 経済統合の一形態で，統合に参加する諸国間で，域内貿易を自由化し(関税・貿易制限その他の撤廃)，対外共通関税を設定するだけでなく，それに加えて域内の生産要素(資本・労働)移動の自由化が達成された段階をいう。なお，EECがヨーロッパ共同市場と通称されているように，経済統合・地域統合の別称として共同市場が使用されることもある。

きょうどうしゃかい 【共同社会】 ⇨ゲマインシャフト

きょうどうじゅうたく 【共同住宅】 ⇨集合住宅

きょうどうしょく 【教導職】 明治初年，政府の教化政策上置いた官職名。政府は神祇(じんぎ)省を設け神社・神官を管轄し，廃仏毀釈(きしゃく)を行なって僧侶(そうりょ)や一般の非難を浴びたため，1872年(明治5)教部省を設置し教導職14等級をおいて僧侶・神官をこれに任じた。各社寺を説教場とし，日を決めて三条教則により大教宣布を行なった。三条教則第1条は神道崇拝を強要するもので，1873年教導職教育のため大教院を設置していよいよこの傾向が濃くなったため仏教側の反対が起こり，1875年大教院廃止，1884年教導職も政教分離の方針により廃止となった。〔安達淑子〕

きょうどうせいはん 【共同正犯】 2人以上の責任能力者が共同して犯罪を実行することをいう(刑法60条)。これには，①共同して犯罪を実行しようとする意思(共謀)があること(主観的要件)，②共同して現に犯罪を実行すること(客観的要件)が必要である。たとえばA・B・Cの3人が共謀して盗みにはいり，Aが金庫を破り，Bが金品を取り出し，Cが現場で見張りをしているような場合，A・B・Cは共同正犯の関係に立ち，みな窃盗罪の正犯として処罰される。なお，判例は，共謀のうえ実行の分担を決めた場合は，実際に実行をしなかった者に対しても共同正犯の成立を認めている(共謀共同正犯)。➔共犯 〔野口恵三〕

きょうどうそうぞく 【共同相続】 相続人が数人共同で相続する場合を共同相続という。相続人が1人のみに限られる単独相続に対する相続形態。旧民法のもとでは遺産相続についてのみとされていたが，新民法では封建的な家督相続を廃止し，すべて共同相続の原則をとり，男女・長幼も相続上まったく区別せず平等としている。遺産分割が行なわれるまでは，遺産は共同相続人の共有となる(民法898条)。共有の法的性質については，学説は共有説・合有説に分かれている。〔黒木三郎〕

きょうどうそしょう 【共同訴訟】 一つの訴訟手続きに数人の原告または被告が関与している訴訟形態をいう。訴えの主観的併合とよばれる。たとえば1人の原告が数人の被告に対して，もしくは数人の原告が1人の被告に対して，または数人の原告が数人の被告に対して一個の訴訟手続きに訴えを併合提起する訴訟のことである。

きょうどうたい 【共同体】 一定の地域で，人間の共同生活が行なわれ，人々の社会的諸関係のすべてが含まれている地域社会をいう。基本的構造の特徴は生産手段としての土地の占有と労働組織の再生産を前提として，地縁・近縁の共同体感情によって結びつけられていることである。外部社会に対しては封鎖的であって，その内部では権威や身分に拘束された関係で規制されている。歴史的には古代社会から封建社会の終末まで次々に継起した生産様式であるが，分業・交換・資本主義的商品生産の発展，通信・交通の発展，社会的接触範囲の拡大とともに消滅してきた。〔鶴見紀文〕

きょうどうつうしんしゃ 【共同通信社】 わが国の代表的な通信社。全国の日刊新聞社と日本放送協会を加盟社としている非営利的な民間共同組織。第2次世界大戦直後に解散した同盟通信社のあとを受け，1945年(昭和20)11月1日創立。全国を網羅(もうら)する取材網と海外駐在の特派員およびAP・UPI・ロイター・タス・新華社などと相互通信契約を結んで内外のニュースおよびニュース写真を入手し，加盟社に配信している。東京に本社を置き，全国都道府県所在地および海外主要都市に支社または支局を置いている。〔須藤泰秀〕

きょうとうほ 【橋頭堡】 ある障害(河川，地雷原，大きな地隙(ちげき)など)の敵側に確保している地域をいう。主力部隊がその障害を通過するのを援護するか，または敵側における将来の作戦のための足場を確保するために設ける。橋頭堡が河川攻防の拠点として重大な役割を果たした戦例は古来少なくない。なお，同類語として，上陸作戦のとき敵海岸にまず拠点として設定される区域を海岸堡，空挺(くうてい)作戦で空挺進攻部隊が最初に攻撃・奪取する地域を空挺堡という。〔森田 哲〕

きょうどうぼうぎ 【共同謀議】 ふたり以上の者が違法な行為をしようと合意すること。共謀ともいう。合意だけで犯罪とみなされ処罰される場合がある。国家公務員法(110条17号)・地方公務員法(61条4号)は，争議行為の共謀をした者を，いずれも3年以下の懲役または10万円以下の罰金に処すると定めている。

きょうどうぼきん 【共同募金】 コミュニティ-チェストの訳語。共同社会の福祉向上のために，住民の自立的な発意と努力によって資金をつくるためのもの。コミュニティ-オーガニゼーションの重要な要素として，社会福祉協議会活動との連係のもとに行なわれる。1913年アメリカ合衆国クリーブランド市で発祥し，以来アメリカ・カナダにおいて発達した。日本では1947年(昭和22)以来，10月1日から12月31日までを期間として，〈赤い羽根〉をシンボルに全国でいっせいに行なわれている。しかし，日本の共同募金は，アメリカのそれと発生過程も現在の形態もかなり異なっており，法人募金が少なく，戸別募金が中心となっている。1951年から法的に規制されることになった。〔広瀬卓爾〕

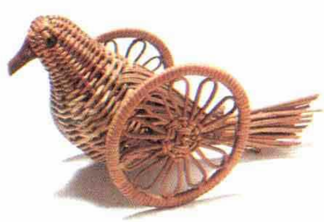
きょうどうほけん 【共同保険】 損失を，保険者と被保険者の間で，ないしは複数の保険者の間で分担することを約した協定。保険者が共同で担保責任を負う場合，各保険者は負担責任の割合を保険金額に対して決定し，その割合を限度として塡補(てんぽ)の責任を負う。保険料収入の権利もこの割合による。アメリカでは，保険金額，付保された財貨の価値および損失の関係から，特

郷土玩具

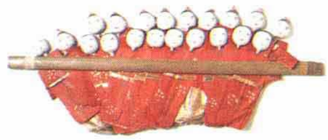

三春駒(福島)


犬張り子(東京)


八幡起き上がり(石川)


鳩車(長野)


伏見土人形(京都)


流し雛(鳥取)


首でこ(徳島)


古賀土人形(長崎)

定の割合を被保険者が負担することを約する場合にも使用されている。大船舶の海上保険,大建築・大工場の火災保険などに適用される。 〔清水 晶〕

きょうどうほしょう 【共同保証】 数人の保証人が同一の債務を*保証する関係をいう。この場合,数人が1個の契約で同時に保証人になっても,別々に保証人になっても,各保証人はその頭割りで保証債務を負担することになる(民法456条)。これを〈分別の利益〉という。しかし,主たる債務が*不可分債務であるときや*連帯保証のとき,さらには数人の保証人がいても頭割りにしないという特約をしたときには,それぞれが全額の保証債務を負担しなければならず,〈分別の利益〉はない。共同保証人は弁済した金額を債務者に求償しうるが,他の共同保証人に対しても求償できる。すなわち,〈分別の利益〉によらないで弁済しなければならなかった場合に,あるひとりの保証人が全額ないしその人の負担額を越えて弁済したときは,他の共同保証人に対して連帯債務者間の求償関係に準じて求償できる。〈分別の利益〉を有するにもかかわらず,保証人のひとりが全額またはその人の負担額を越えて弁済したときは,その越えた部分についての求償は他の共同保証人に対してなしうるが,債務者との関係は,依頼されないでなった保証人の弁償の限度に限られており,全額を求償することはできない。 〔黒木三郎〕

きょうどがくしゅう 【郷土学習】 身近な郷土の自然・社会を直観的・労作的学習によって理解させ,郷土愛を育てようとする教育方法として,ドイツの〈郷土科〉に始まり,わが国にその思想が輸入された。明治以来,小学校の一部で試みられた郷土学習が,明確な形で全国的に機能したのは,昭和初年の文部省および民間団体の主張としてであった。その一は郷土自慢にとどまり,狭い愛郷心から国家主義へと国民教化の方向をたどり,他の一は郷土直視の学習として,*生活つづり方を通じて社会批判の教育へと発展し,弾圧された。第2次世界大戦後の郷土学習は,*社会科を中心に生活つづり方・*生活教育および郷土教育計画などの実践活動として存在する。 〔赤司政雄〕

きょうどがんぐ 【郷土玩具】 江戸時代に日本各地で発生し,城下町を中心に各所でつくられ,庶民に親しまれつつ,つくり続けられてきた手づくりのおもちゃ。鎖国のため外国の影響はほとんどなく,大名の割拠で国内の交流も困難であった徳川時代に,各地で得られる土・木・紙・竹・わら・布などを材料として,その土地の生活・習俗・信仰を反映してつくられていたものである。郷土玩具というのは,明治以後輸入材料を用いて機械で量産された玩具と区別して用いた名称で,大正中期に名づけられた。それ以前は土俗玩具・大供玩具・地方玩具・おもちゃなどとよばれていたが,郷土玩具がいちばん適当であったため,自然に統一されるようになった。

【材料と種類】 ①土:生活用具の陶磁器やかわらなどを焼くかたわら,節句に飾る雛人形(ひなにんぎょう)や天神様,その他置き物のおもちゃが多くつくられ,のちにおもちゃ専門の製作者が現われるようになった。焼き物に適した良質の土のある場所で,かつ運搬に比較的便利な町に多く産する。②木:樹木の多い山間などに住む*木地屋たちが盆やわんなどをつくる余暇に,子どものためにこ*まや舟などをつくったのがはじめである。東北地方のろくろ細工の職人は*こけしをつくりだしたし,九州地方のきじ車は最初父親たちが子どものために一つ一つくり与えたものが,のちには商品としてつくられるようになった。また海べでは木舟が生まれている。③紙:主として城下町で発達した。これは反古紙(ほごがみ)が入手可能であったために張り子細工がくふうされたもの。江戸時代,紙は貴重品であったので新しい紙をおもちゃに使用することはできず,反古紙利用は自然のなりゆきであった。また家庭では,母親がわずかな紙を利用して*姉様や紙雛を考案し,これがのちには祭礼などで売られるようになった。④その他:わらでは豊作祈願や虫よけの祈りのわら馬やわら人形が農村で巧みに製作され,糸や布は古いものを使用して手まりのようにつくられて子どもたちの遊び道具となり,また美しくししゅうして雛祭りなどの飾りとされた。

【歴史】郷土玩具は，子どもの遊具の目的のみでなく，おとなを対象とした飾り物的な要素のものも多くあり，悪疫よけ・災難よけ・子育て・安産・商売繁盛・招福長寿・豊作祈願などの信仰に結びついたものも各所につくられ，神社・仏閣の祭礼や縁日に門前の市で売られたり，また神社や寺から直接にお守りとして授与されていたものもある。明治時代になり交通が発達して地域間の交流が容易になり，また新しく輸入されたブリキ・セルロイド類のおもちゃが量産されるようになると，古いこれらのものの製作はしだいに衰退していった。しかし，教育や科学的な目的でつくられたものより，おとなの趣味・趣向のものが主とされていたこと，また素朴(そぼく)な材料を生かし，すぐれた着想で独特な造形美を示す作品が多かったことが，子どもの手を離れたあとでもおとなを対象として引き続きつくられた要因となっている。また，信仰に関するものは根強く，祭礼などに欠かせぬものとして残ってきたのである。

明治中期以後，当時の欧米心酔主義に反発して日本古来のおもちゃ愛好家が生まれ，1891年(明治24)には東京神田の清水(しみず)晴風が，全国各地のおもちゃを集めて木版刷りの画集《うなゐの友》第1巻を発刊し，1913年(大正2)までに続編を6巻刊行した。また東京在住の名士・文士などの間に愛玩趣味が生まれ，展覧会や会合が行なわれて世間の注目を浴びた。しかし，それらはわずかに限られた一部の人にすぎなかったが，1930年(昭和5)武井(たけい)武雄の《日本郷土玩具 東の部・西の部》が出版されて以来，全国に郷土玩具の収集熱が高まった。第2次世界大戦の戦災により大半の郷土玩具は消滅し，戦後の生活の変化のため古い手づくりの玩具の作者は激減したが，反面，収集家・研究家は激増し，そのよさが再認識されるようになった。現在では農閑期に老人がわずかに製作し，後継者のないところが多い。また郷土玩具を機械化し量産している者もあるが，手づくりのよさは失われてしまっている。

なお，郷土玩具と混同されているものに，観光みやげ品の玩具がある。これは都会で大量生産されて各観光地・温泉地に送られるもので，古くからその土地にある郷土玩具とは異質のものである。郷土玩具の研究家・収集家は混同を避けるために，古くからあるものを伝統玩具，新しく観光みやげ品となったものを観光玩具とよんで区別している。現在，郷土玩具という名称は，戦後の全国的な交通の発達，生活の変革で不適当であると論議されているが，それよりも郷土玩具の後継者のないことのほうが問題で，真の郷土玩具は過去のものとなりつつある。〔牧野玩太郎〕

郷土玩具　代表的な郷土人形

八幡馬(青森)	すすきみみずく(東京)	伏見土人形(京都)	相々傘(高知)
人形笛(青森)	犬張り子(東京)	神農のとら(大阪)	うそ(福岡)
ねぶた(青森)	大山こま(神奈川)	法華寺の守り犬(奈良)	弓野土人形(佐賀)
堤土人形(宮城)	三角だるま(新潟)	手向山の立絵馬(奈良)	ハタ(長崎)
松川だるま(宮城)	六角だこ(新潟)	瓦猿(和歌山)	鯨の潮吹き(長崎)
鳴子こけし(宮城)	木牛(新潟)	姫路張り子(兵庫)	古賀土人形(長崎)
八橋土人形(秋田)	高岡獅子頭(富山)	人形筆(兵庫)	北山田雉子車(大分)
中山土人形(秋田)	富山土人形(富山)	流し雛(鳥取)	木葉猿(熊本)
久之浜天狗面(秋田)	八幡起き上がり(石川)	姉様(島根)	べんた(熊本)
御殿まり(山形)	鳩車(長野)	首振り虎(島根)	宇土張り子(熊本)
三春駒(福島)	美江寺土鈴(岐阜)	吉備津の犬と鳥(岡山)	人吉きじ車(熊本)
三春張り子(福島)	祝鯛(静岡)	田面舟(広島)	うずら車(宮崎)
赤べこ(福島)	浜松張り子(静岡)	三体神輿(広島)	上りざる(宮崎)
目なしだるま(群馬)	親子だるま(山梨)	ほうこさん(香川)	佐土原土人形(宮崎)
鴻巣赤物(埼玉)	小坂井風車(愛知)	姫だるま(愛媛)	鯛車(鹿児島)
船渡張り子(埼玉)	牛若弁慶(愛知)	首でこ(徳島)	糸雛(鹿児島)
真菰馬(千葉)	小幡土人形(滋賀)	鯨舟(高知)	

きょうどげいのう【郷土芸能】⇨民俗芸能

きょうとこくりつきんだいびじゅつかん【京都国立近代美術館】1963年(昭和38)設立。京都市から勧業館別館の寄付を受けて，国立近代美術館分館として発足，1967年6月に独立して現在に至っている。わが国の近代工芸品の収集・展示に重点が置かれ，近代美術に関する各種展覧会を開催している。

きょうとこくりつはくぶつかん【京都国立博物館】1889年(明治22)，宮内省通達をもって図書寮付属博物館が廃止され，東京・奈良と同時に帝国京都博物館として設置，工事の完成をまって1897年に開館。その後京都帝室博物館と改称し，1924年(大正13)今上天皇の成婚に際し恩賜京都博物館として京都市に移管された。1952年(昭和27)京都国立博物館として新発足，収蔵品は守屋(もりや)孝蔵コレクションのほか日本・中国の古写経・漢鏡があり，展示は平安時代美術を基本方針としている。〔陰里鉄郎〕

きょうとござん【京都五山】京都禅寺中最高の寺格。1386年(元中3・至徳3)将軍足利義満(あしかがよしみつ)は従来の五山*の制に全面的な改革を加えて，京都・鎌倉別に五山の寺格を制定した。南禅寺を別格の上位とし，京都五山には天龍(てんりゅう)・相国(しょうこく)・建仁(けんにん)・東福・万寿の各寺がその順位で列せられた。京都五山は室町幕府の厚い保護のもとに，五山文学*・水墨画*・石庭など学問・芸術を発達させ，文化史上独自の気運を生み出した。〔高崎徳次〕

きょうとごしょ【京都御所】京都市上京区京都御苑(きょえん)内にある。1869年(明治2)東京遷都までは皇居であった。たびたびの火災と源平の争乱などで，平安末期から鎌倉時代を通じて歴代天皇は里内裏*(さとだいり)に移られることが例となり，皇居が定まらなかった。現在の地が皇居と定められるようになったのは南北朝時代の北朝*からである。室町時代，戦火などで一時各所に遷幸されたこともあったが，1569年(永禄12)織田信長(のぶなが)が壮麗な皇居をこの地に再造し，豊臣(とよとみ)・徳川両氏も修造を加えたので諸宮殿は整い，周域も拡大されて築地(ついじ)・諸門を巡らした。近世にしばしば炎上したが，1790年(寛政2)江戸幕府は平安京の古制により紫宸殿*(ししんでん)以下皇居を完成した。1854年(安政1)に再び炎上したのを，翌年寛政の造営に従って再建されたのが現在の京都御所である。東京遷都後は周辺の建物を整理して造園化し，広大高雅な京都御苑となった。宮殿の小御所は1954年(昭和29)焼失したが1958年再建された。特


京都御所
紫宸殿

に平安時代の寝殿造り*の様式を伝える紫宸殿・清涼殿・飛香舎(ひぎょうしゃ)は知られる。南東には仙洞(せんとう)御所*・大宮御所がある。〔高崎徳次〕

きょうどし【郷土史】⇨地方史

きょうとしこうきょうがくだん【京都市交響楽団】日本最初の地方自治体の管弦楽団。1956年(昭和31)に京都市立の交響楽団として誕生した。初代指揮者はチェリウス。1958年に二期会と提携したモーツァルト-オペラ-シリーズで毎日音楽賞を受賞し，以後，カウフマン・森正・外山雄三(とやまゆうぞう)を指揮者に迎え，80名編成の管弦楽団として，きわめて多角的な活動をしている。定期演奏会は年10回で，大阪フィルハーモニー交響楽団*とともに関西の音楽運動の中心となっている。1961年芸術選奨を受賞。〔向坂正久〕

きょうとしゅご【京都守護】鎌倉初期の幕府の職名。1185年(文治1)北条時政(ほうじょうときまさ)が初代。京都の治安維持，在京御家人の統率，洛中(らくちゅう)の裁判などを行ない，朝廷と幕府間の連絡・交渉にあたった。しかし，役所として完成されたものではなく，重要時に派遣される臨時的性格が強かった。承久(じょうきゅう)の乱後，六波羅(ろくはら)探題*の設置に伴い消滅した。

きょうとしゅごしょく【京都守護職】幕末，京都に設けられた江戸幕府の職名。1862年(文久2)京都は尊王攘夷(そんのうじょうい)運動*の中心となり，洛中(らくちゅう)の物情は不穏で治安が悪化したため，従来の京都所司代*の上に京都守護職を新設し皇居警護にあたらせた。会津藩主松平容保*(かたもり)が任命され，役高五万石を給せられた。会津藩士のほかに，浪士をもって編成された新撰組*(しんせんぐみ)をその支配下に置き，池田屋騒動*・禁門の変*などに京都警備のため活躍した。1864年(元治1)一時松平慶永*(よしなが)に代わったことがあったが，容保が再任し，1867年(慶応3)王政復古*とともに廃止となった。

きょうとしょしだい【京都所司代】江戸幕府の職名。1600年(慶長5)関ケ原の役後京都に置かれた。禁裏警備を名目にして朝廷・公家(くげ)を監視したほか，京都町奉行(まちぶぎょう)・奈良町奉行・伏見町奉行の管理，近畿(きんき)諸国における天領*の訴訟処理，西国諸大名の動静監視など広範な権限をもった。譜代大名*のうちから任命され，奥平信昌(のぶまさ)が初任，次いで板倉勝重*(かつしげ)・重宗(しげむね)父子が任命され，幕府の威信伸張に努めた。幕末に京都守護職*設置後はその補佐機関となった。〔高崎徳次〕

きょうとしんぶん【京都新聞】京都府の代表的日刊新聞。京都府の新聞界は，1879年(明治12)創刊された《京都商業迅報》の系譜を引く《日刊新聞》と，1912年(大正1)《関西日日新聞》として発足した《京都日日新聞》の2紙が競合していたが，1942年(昭和17)，第2次世界大戦時の新聞統制によって合併し《京都新聞》となり，現在に至っている。発行部数朝刊約42万8,000(1980)。

きょうとだいがく【京都大学】国立大学。1897年(明治30)西日本を代表する大学として設立された京都帝国大学に始まる。1949年(昭和24)学制改革により，同付属医専・第三高等学校を合わせて新制大学となった。現在，文・法・教育・経済・工・理・農・医・薬学の9学部と教養部，各大学院研究科，化学・人文科学・結核・工学・木材・食糧科学・防災・基礎物理学・ウイルス・経済の各研究所，原子炉実験所をもつ。アカデミックな東京大学*に対し，自由で人文主義の伝統に立つ学風で知られている。本部は京都市左京区吉田(よしだ)本町。

きょうとぼんち【京都盆地】京都府の南東部を占め，山城盆地ともよばれる。東は比叡(ひえい)山や如意ケ岳(470m)などの東山，北は鞍馬(くらま)山(570m)・貴船山(700m)などの北山，西は小塩山(640m)・ポンポン山(679m)などの西山のいずれも1,000mに満たない低い山地に囲まれ，盆地とは断層によって限られている。南は生駒(いこま)・笠置(かさぎ)の山地に続く丘陵に限られている。これらの山地からは琵琶湖(びわこ)に源をもつ宇治川をはじめ，北から鴨(かも)川と高野川，西から桂(かつら)川，南から木津川がそれぞれ盆地を貫流し，盆地西部の天王山の南にあたる狭隘部(きょうあいぶ)で合流して淀(よど)川となり，大阪平野へ至る。盆地を取り囲む台地や丘陵の地層は，海性や淡水性の貝類化石を含み，かつては大阪湾の奥が盆地にまで達していたと思われ，また，洪積(こうせき)世には盆地は湖をたたえていたことを物語っている。盆地床は周囲の山から流入する川の堆積(たいせき)によって沖積(ちゅうせき)平野を形成しているが，特に北部には鴨川の運搬した土砂による扇状地が北から南に向かってゆるやかに傾斜しており，京都市街はこの上に開けている。盆地の南部は低湿地が多く，宇治川と木津川にはさまれた地域は海抜10m前後で，かつての湖のなごりといわれる巨椋池(おぐらいけ)があったが，1939年(昭和14)の干拓の完成により水田化されて消失してしまった。盆地の開発は古くから進められていたが，794年(延暦13)の平安京の建設以後1,000年余りの間日本の政治をはじめ宗教・学術・芸術の中心としての役割を果たし，伝統的な産業もよく発達してきた。盆地の沖積平野の大部分は水田となり，周囲の洪積台地では畑作が行なわれ，中でも宇治丘陵の高級品を主とする茶，西山地域のたけのこやマツタケは有名である。最近は阪神(はんしん)工業地帯の急速な発展に伴い，盆地内も都市化・工業化が急速に進んでいる。〔味沢成吉〕

きょうとまちぶぎょう【京都町奉行】江戸幕府の職名。1600年(慶長5)京都に置かれた。京都所司代*の管理下にあって皇居の警備に任じたほか，五畿(ごき)・丹波・播磨(はりま)・近江(おうみ)の8か国(京都・大阪・奈良・兵庫・滋賀の諸府県)内の天領*の貢租を徴収し，また8か国内の天領・寺社領と京都市中の訴訟を裁断した。定員2名で東と西の両奉行に分かれ，月番交替制により職務を行なった。奉行には旗本(はたもと)が就任し，その下に与力*20騎，同心*50人が付属した。〔高崎徳次〕

きょうどりょうり【郷土料理】ある地方独特の調理法でつくられ，特有の風情(ふぜい)をもった料理をいう。現在郷土食とよばれるものの大半は，祖先食とよばれるべきものの遺風，あるいは変化したものである。もとの形は，一般には長い間に気候・風土・交通・文化程度などによってすたれていったが，わずかに特殊な地方に残存して，今日郷土料理として伝えられている。本山荻舟によれば，それらは次のように分類され，本来の意味で郷土料理といえるものは①であるとしている。①ある地方に特産する材料に適応する特殊の調理法が発達して，現に行なわれているもの。しかし，その材料は生産に限りがあり，また気候・風土の関係からその地方の人にだけ適する調理法である場合が多い。北海道のシシャモ，秋田のハタハタ，三陸のホヤ，富山のホタルイカ，京都のスグキナ，岡山のベイカ，大分のマコガレイ，佐賀のムツゴロウなどを使った料理がある。②他の地で生産された貯蔵のきく材料とその調理法や加工法が各地に普遍し，生産地よりは消費地で発達しているもの。たとえば，コンブ・棒だら・身欠きにしんなどは，加工法・調理法とも主産地の北海道よりは京阪地方で発達し，その名物となっている。③広範囲に共通生産される材料で，ある時代には同じ手法で調理されていたが，各地方ごとに多少の異同を生じながら発達したもので，これには日本在来のもののほかに，外来の材料や調理法が融合したものもある。北海道の三平汁(さんぺいじる)は関西・四国・九州のかす汁・卯の花汁と，また秋田のしょっつる*は，香川のイカナゴじょうゆと共通している。秋田のきりたんぽ*，長野・岐阜の五平もち，栃木・群馬の酢むつかりは平安時代には近畿地方で行なわれたという記録がある。山梨県の餺飩(ほうとう)は奈良時代に伝来した唐菓子の一種であるが，室町時代の末には九州地方で家庭料理として普及した。大分県の黄飯，東九州・愛媛のサツマ(魚飯)，長崎のしっぽく料理*，鹿児島の薩摩汁(さつまじる)などは中国からの影響を受けたもので，土佐(高知)のかつおたたき(土佐づくり)は洋風を加味したものといわれる。高知の皿鉢(さわち)料理(大きな皿鉢になま物・煮物・焼き物・酢の物など6～7種類の料理を豪華に盛り込んだ宴会料理)は，江戸から明治時代までは各地で行なわれていた方式が遺風を残しているものである。〔塩川ふみ〕

きょうな【京菜】双子葉植物・アブラ

ナ科の一年生草本。ミズナ(水菜)ともいう。つけ菜類の一種で，京都地方で古くから栽培されていたが，現在は各地でつくられる。深い切れ込みのある細い葉が多く出る。葉の切れ込みのないのをミブナ(壬生菜)という。

ぎょうねん 【凝然】 (1240～1321) 鎌倉時代の仏教学者。華厳宗(けごんしゅう)に属する。伊予(いよ)(愛媛県)の出身。16歳で出家，のち東大寺戒壇院に住し，仏教学の研究・講述に専念した。仏教各宗の教理に通じ，《八宗綱要》《三国仏法伝通縁起》《内典塵露章(ないてんじんろしょう)》など，全仏教の歴史や教理の概説書を著わした。そのほか華厳宗に関しては，《華厳宗要義》《法界義鏡》など多くの著があり，この2著は華厳学概論として不滅の光を放っている。〔鎌田茂雄〕

きょうのしき 【京の四季】 端唄(はうた)・うた沢の曲名。京都の四季の風情をよみこんだもので，俗曲の中でも特によく知られた曲である。天保(てんぽう)年間(1830～1843)以後江戸の人がつくったとされている。三味線(しゃみせん)は本調子。

きょうばい 【競売】 ⇨けいばい

きょうはくかんねん 【強迫観念】 ばかばかしい，つまらないと思いながら，その観念や考えを意識から追い払うことができない場合，その観念や考えを強迫観念という。強迫観念は，精神医学的には強迫症状の一つで，強迫観念・強迫行為・確かめ癖などが含まれる。強迫観念には，人を殺したり傷つけたりするのではないかといった思い込み，あるいは物をなくしたのではないか，落とすのではないかなどといった疑惑的な考え，猥褻(わいせつ)な考え，また病気・屎尿(しにょう)・細菌などに関する不潔・不安・罪悪感を伴う固着観念などがある。また，数や無意味なことばが浮かんできて頭から離れない場合もある。せんさく癖・確かめ癖に伴う強迫観念には，戸締まり，火のもと，電燈の点滅，ガス・水道の開閉などについて，しめ忘れや消し忘れをしてはいないかなどの考えが浮かんで，何度も確かめないと安心しない。

これらの強迫観念のために，手を何度も洗う(洗浄強迫)，寝るまえに寝床のシーツを何度もこすったりまくらを一定の数だけたたくといった就眠儀式，ドアのところへ何度も行きつもどりつする確かめ行為など，さまざまな強迫行為が起こる。これらの強迫症状は強迫神経症の主症状であるが，もっと軽い癖や性格の形では，強迫性格の人にみられる。強迫性格者には，杓子(しゃくし)定規，過度の潔癖・きちょうめん・細かさ，整理整頓癖(せいとんへき)などがみられる。強迫観念は，本人がばかばかしいという批判をもつ点で妄想*(もうそう)と区別され，むしろ，自分の意志に反して浮かんできてしまう点で本人の苦痛も深刻である。またその内容について，本人が楽しんだり関心を向けたりしていない点で支配観念や願望空想と区別される。〔北田穣之介〕

きょうはくこ 【鏡泊湖】 チンポー湖 中国，黒龍江(こくりゅうこう)省南部の湖。牡丹江(ぼたんこう)上流を玄武岩質の溶岩流がせき止めてできたといわれる。面積130km^2，標高339m，最大深度48m。湖水の出口には落差20mの大瀑布(ばくふ)があり，満州国時代にこの落差を利用してつくられた鏡泊湖水力発電所がある。11月中旬から4月20日ごろまでは結氷するが，漁場としての価値も高く，コイ・フナ・ライギョ・サケ・マスの漁獲がある。湖岸では大理石が産出される。〔千田 稔〕

きょうはくざい 【脅迫罪】 恐怖心を起こさせる目的で，相手方またはその親族の生命・身体・自由・名誉に危害を加えることを通告する犯罪(刑法222条)。通告の方法は口頭でも書面でも，また態度その他で示してもよく，実際に危害を加える意思がなくてもよい。通告の内容は客観的に危害を予感させるに足りるものであればよく，相手方が恐怖したかどうかも本罪の成立に関係はない。刑は2年以下の懲役または25,000円以下の罰金。〔野口恵三〕

きょうばし 【京橋】 東京都中央区の一地域。広くは旧京橋区をさし，銀座*・新橋*・築地*(つきじ)・月島*などを含み，北半の旧日本橋区とともに現区域を形成するが，一般には日本橋と銀座の間にある京橋1～3丁目をさす。地名の起源は，江戸初期に京へ上る東海道の最初の橋が掛けられたことにちなむ。隅田(すみだ)川西岸の沖積地(ちゅうせきち)で，かつては京橋川・築地川などの運河が縦横に通じていたが，いまは大半が埋め立てられて，首都高速道路が通じている。東京駅八重洲(やえす)口に近く，高層ビルが立ち並ぶビジネス街である。地下鉄銀座線京橋駅がある。〔浅井得一〕

きょうはしんとう 【教派神道】 明治政府によって公認された神道系宗教集団。神道十三派ともいう。明治政府は，大政復古の理念，伝統的神道思想を基本に，神社神道を国家的な制度として宣布運動に力を入れた。しかし，欧米思想の影響を受けて信教の自由の気運におされたため，当初の画一的な教化方針に代えて，1882年(明治15)神官と教導職を分離して個人教化による各派神道の独立を認めた。これらは神社神道と異なり，開祖ないし教祖，教典・教会をもっている(神道大教のみは教祖をもたない)。黒住教*は江戸中期の黒住宗忠(むねただ)を開祖とし，天照大御神(あまてらすおおみかみ)を拝し，神人合一の信仰を説く。神道修成派は新田邦光(にったくにてる)を教祖とし，〈修理固成〉〈大義照明〉を教学の主眼とする。この2派はすでに1876年に別派独立した。神道大教ははじめ神道本局と称し，神道諸教派の母体となった。三条教憲*(さんじょうきょうけん)(教則三条)が教義の中心である。出雲大社教(いずもおおやしろきょう)は千家尊福*(たかとみ)を事実上の組織者とし，出雲大社と不離一体の立場から，生死一如の教えを説いた。大成教は平山省斎の主唱になり，儒教・仏教からも教理を摂取して，安心立命・静座調息を主眼とした。実行教は柴田(しばた)花守により，また扶桑教(ふそうきょう)は宍野(ししの)半により創立され，ともに富士講の系統に属し，富士山を信仰し，造化三神(アメノミナカヌシノカミ・タカミムスビノカミ・カミムスビノカミ)を拝し，登拝修行によって神人合一を説く。御岳教(みたけきょう)は長野県木曽の御岳山を霊山とし，登拝による修行と六根清浄(しょうじょう)・禊祓(みそぎはらい)を重視する。神習教は吉村正秉(よしむらまさもち)を教祖とし，大教宣布を推進した。以上の7派は1882年に認可された。神理教は佐野経彦(つねひこ)の創始になる。遠祖ニギハヤヒノミコトの教えを奉じ，神理の明徴をめざし，三条教憲と十項の教戒を立てた。禊教は坂田鉄安の組織化になり，天照大御神を中心に神道の宣揚をめざした。この2派は1894年独立。金光教*(こんこうきょう)は神前に奉仕して天地の道理を人に伝え，人の願いを神に祈る〈お取次(とりつぎ)〉に特色がある。1900年独立。天理教*は中山みき*によって開かれ，祭神天理王命(てんりおうのみこと)の啓示が中心で，〈世界一列陽気ぐらし〉の実現をめざしている。1908年に独立した。〔小笠原春夫〕

きょうはん 【共犯】 ふたり以上の者が相互的な意思連絡のもとに犯罪を行なうこと。これには，①ひとりでも実現できる犯罪をふたり以上で行なう場合(任意的共犯)と，②犯罪の性質上ふたり以上でなければできない犯罪，たとえば賭博(とばく)罪・賄賂(わいろ)罪・騒乱罪などの場合(必要的共犯)があり，普通は任意的共犯のことをいう。これには三つの形がある。①甲と乙が盗みにはいり，ふたりで金庫をかつぎ出してくるように甲・乙ともに犯罪を実行した場合(共同正犯*という)。②甲が乙をそそのかして乙に盗みをさせるというように，乙だけが犯罪を実行する場合(教唆犯*という)。③乙が盗みをするとき，甲が合いかぎを貸してやるなど，乙の犯罪の実行を容易にしてやる場合(従犯*または幇助犯(ほうじょはん)という)がある。狭義には②③だけを共犯といい，教唆犯・従犯の場合，前例でいえば乙が実際に犯罪を実行したときに限り，教唆者・幇助者の甲が罰せられるという説(共犯従属性説)が通説・判例の見解である。〔野口恵三〕

きょうひしょう 【強皮症・鞏皮症】 血管周囲に始まる結合組織の硬化によって起こる病気で，膠原病*(こうげんびょう)の一種。全身の皮膚のみならず内臓も冒される汎発(はんぱつ)性強皮症と，病変が皮膚の一部に限られる限局性強皮症とがある。①汎発性強皮症：手足に始まり全身に及ぶ。レイノー症状といって寒気にあたると指先が紫色から蒼白(そうはく)になって強く痛む。はじめは浮腫(ふしゅ)状にはれるが，指で押してもへこま

ず，しだいにかたくなって手足の運動が不自由となる。顔が冒されると表情の乏しい仮面状になる。皮膚はかっ色を呈し，ところどころに白斑(はくはん)を生ずる。心臓や肺が冒されると呼吸困難などの症状が現われ，食道や腸が冒されると嚥下(えんげ)困難や下痢を起こして衰弱する。摂生に気をつけ，栄養をとり，寒気にあたらないようにする。入浴やマッサージは効果がある。重症疾患なので入院加療が必要である。②限局性強皮症：はじめ帯紫紅色斑を生じ，次いでその部分がかたくなり，ついに萎縮(いしゅく)してへこむ。生命の危険はないがなおりにくい。〔田嶋公子〕

きょうびるい【狭鼻類】 ⇨霊長類

きょうふ【教父】 キリスト教の古代教会において，教会の建設，教義の発展など，正統信仰のために尽くした人々の呼称。教父(パトレ)の原義は〈信仰の指導者〉で教理に忠実で教会から特に認められた人々をさす。このうち使徒と関係あった者を〈使徒的教父〉とよぶ。有名な教父にローマのクレメンスやイグナチウス・テルトゥリアヌス・アタナシウス・ヒエロニムス・アウグスチヌスがいる。

ぎようふうけんちく【擬洋風建築】 幕末から明治にかけて行なわれた洋風建築。洋風建築について正規の教育を受けたことのない棟梁(とうりょう)建築家の設計・施工であるため，日本建築の細部手法が混入していて，独特の情緒をもっている。幕末では，開港場の外人居留地の建築や，幕府雄藩による洋式工場の建設など，ごく限られていた洋風建築が，明治維新後，文明開化への志向の高まりから，新時代の象徴となり，日本全国のいたるところで強い記念的な意識のもとに建設された。実例は，県庁や郡役所・警察署・小学校校舎などに多い。明治初年の地方では，洋風建築のための近代的な建築生産組織が育っていなかったし，中央ですらようやくそれを育成しはじめたばかりであったから，中央の建設能力にも期待できず，在来の伝統技術の系譜に立つ棟梁に，その建設をゆだねなければならなかった。大役をになった棟梁たちは，居留地の建築や中央の洋風建築を見学して手本とし，彼らなりの洋風の理解を持ち帰って建設にあたったが，その理解は伝統的な日本建築の素養の中でなされたものだったから，正統的な洋風建築の目から見ればまがいものという評価が生まれてくる。しかし，その独特の情緒こそ，最も文明開化の情熱を表現しえたものとして評価する立場もある。〔渡辺保忠〕



擬洋風建築 旧開智学校(重要文化財)。松本市。1876年竣工。当初市の中央部を流れる女鳥羽川のほとりにあったが，移転および修理を施すため，1963年着工，1964年完了

きょうふしょう【恐怖症】 フォビアともいう。フォビアは，ギリシア語のフォボスに由来し，恐れ・こわがり・驚きの意味を含むことばで，特に，常識的にはたいして危険とみえない状況や対象を病的に恐れ，こわがる異常反応を恐怖症という。

恐怖症には，多少ともだれでもが忌みきらう夜(暗やみ)・孤独・死・病気や刃物などのとんがったもの，あるいはイヌ・ウマ・ネズミ・ヘビ・クモなどに関する〈普通恐怖〉と，普通の人がこわがらない特定の状況を恐れる〈状況恐怖〉がある。状況恐怖には，赤面恐怖(人前に出ると赤くなる)・不潔恐怖(何度手を洗っても汚れが落ちない)・閉所恐怖(窓をしめきるのがこわい)などのほか，外出恐怖・高所恐怖・乗り物恐怖などさまざまな症状がある。恐怖症をもつ人物はその恐怖の対象や状況を回避していれば落ち着いているが，どうしても恐怖の対象や状況に直面しなければならないと不安・恐怖が高まり，恐怖状態に陥る。このため，その人物の生活範囲は制限されたものになってしまう。また恐怖症は，正常な幼児にもその発達途上でみられるし，正常な成人も癖や苦手の形でひそかにもっていることがあるが，特に神経症の症状として現われることが多く，恐怖症を主症状とする神経症を恐怖症とよぶ。〔北田穣之介〕

きょうぶしょう【教部省】 明治初年，社寺・宗教を管轄した官庁。はじめ平田派復古神道(しんとう)の影響により神祇(じんぎ)省を置いて神社・神官を管轄し，寺院・僧侶(そうりょ)の江戸以来の特権を奪って廃仏崇神の方針をとったが，僧侶は公的地位獲得のため仏教を管轄する官庁の設置を要求した。その後，1872年(明治5)神祇省を廃して教部省を置き，社寺廃立，神官・僧侶の任命・昇級などを管掌させた。しかし真の目的は神道国教政策実施にあった。そのため大教宣布の教化機関として教導職を設け，祭政一致の皇国思想を広く国民に普及させようとしたが成績ふるわず，1877年教部省は廃止され，宗教関係事務は内務省に移管されるようになった。〔安達淑子〕

ぎょうぶしょう【刑部省】

1 律令(りつりょう)制における8省の一。訴訟・裁判，罪人の処罰を行なう役所。卿(かみ)・大輔(すけ)・少輔以下の職員があり，その被官には大・中・少の判事および解部(ときべ)があり，贓贖司(あかもののつかさ)・囚獄司が所属した。解部は訴訟事情の尋問，判事は刑部卿とともに罪名を決定・裁決した。9世紀の初め検非違使(けびいし)の新設に伴って，廃止された。

2 1868年(明治1)刑部省を廃止し，刑法官を設置したが，1869年の官制改革で刑法官に代わって設置された司法機関。1871年司法省の新設で廃止された。〔安達淑子〕

きょうふしん【恐怖心】 一般には，こわい・恐ろしい・あぶないなど，恐れる感情の総称であるが，心理学用語としては，特定の危険な対象に対する感情をさし，不安と区別する。ふつう，この恐れの感情はその内容によって次のように分類される。①通常恐怖(強く急で，適応性・習慣性のできていない対象に対するもの)，②条件づけられた恐怖(ある対象が現存しなくても，過去の経験からその対象を暗示するような兆候に対してもつもの)，③社会的に学習された恐怖(社会通念としての禁忌(タブー)など)。これらは，極端に強くなければだれでももつ正常なもので，社会生活における自己発揮に役だつ面もある。恐怖症はこれが高じて不合理で病的な症状を示すものをいう。〔佐伯喜和子〕

きょうふせいじ【恐怖政治】 テロリズムの手段による支配をいい，支配者が暴力的脅威によって政治的反対派を屈服させるために行なう政治をいう。恐怖政治は革命ないしは反革命によって樹立された新政権が，その権力確立のために投獄や虐殺などの手段で反対派を一掃しようとするときに行なわれる。

特にフランス革命中，1793年5月から1794年7月にかけてジャコバン党が行なった恐怖政治は有名である。1793年5月ジロンド党を追放して政権を握ったジャコバン党は，ロベスピエールの指導下に，同じく山岳党に属するエベール派その他の協力を得て，公安委員会・保安委員会・革命裁判所などの機関を掌握し，反革命運動・外戦・経済危機に対処して革命の目的を貫徹するために非常手段をとった。反革命勢力抑圧のための嫌疑者(けんぎしゃ)法の制定，生活安定のための一般最高価格法の施行，封建的土地所有の無償解放などが具体的政策として推進された。この約1年間にマリー-アントアネット・コルデーらのほか，多くの王党・ジロンド党員など，合わせて14,000人が処刑された。この変革を通じて市民社会建設という革命の目的が達成できたが，その結果解放された小市民・小農は生活の安定を得るとともに保守化し，それを背景

とするテルミドールの反動*でロベスピエール政権が打倒されて，恐怖政治は終わりを告げた。〔大野真一郎〕

きょうふつこんごうぶつ【共沸混合物】 混合液の組成と，平衡蒸気の組成が等しいとき，その液を共沸混合物という。混合液の沸点は組成とともに変化していき，共沸混合物の組成で極大または極小となる。エチルアルコールと水との混合液では，アルコールが95.6％の組成のとき沸点は極小(78.15℃)となり，それ以外の組成のときは，しだいに78.15℃に近づこうとする。塩化水素と水とでは前者が20.24％の組成で沸点は極大(108℃)となり，共沸混合物を形成する。〔竹下三吉〕

きょうふてつがく【教父哲学】 キリスト教的哲学の前段階をなすもので(2～9世紀)，後段階をなすスコラ哲学*と区別されている。教父哲学の特徴は，哲学がいまだキリスト教教義と分かたれず，キリスト教こそ唯一の真の哲学とみなされた点にみられ，理性によってできるかぎり信仰の真理を明らかにしようとした。このことはギリシア哲学(おもにプラトン哲学・新プラトン派の哲学)によってキリスト教的真理を理解しようと努力することを意味する。その著述がギリシア語・ラテン語の別によって，ギリシア教父・ラテン教父と呼称される。前者にアレキサンドリアのクレメンス*・オリゲネス*，ニッサのグレゴリウス*・バシリオスら，後者にテルトゥリアヌス*・アンブロシウス*，聖書のラテン語訳によって有名なヒエロニムス*らがあるが，ヒッポの司教アウグスチヌス*はラテン教父中最大の人である。また，スコラ哲学に大きな影響を与えたボエチウス*もそのひとりである。〔広川洋一・黒田杏子〕

きょうぶん【狂文】 江戸中期以後に盛んに行なわれたこっけいな文章。漢文的なものと和文的なものがある。いずれも，その時代に流行した俗語・卑語を，漢語の俗訓などを使って自由に表現した。漢文的なものは大田南畝(なんぽ)(蜀山人*(しょくさんじん))の《寝惚(ねぼけ)先生文集》，寺門(てらかど)静軒の《江戸繁昌記*(はんじょうき)》など，和文的なものには風来山人(平賀源内*)の《風来六部集(りくぶしゅう)》などがある。

きょうほ【競歩】 一定の距離を歩く速さを競う競技。歩法(歩き方)に次のような制約がある。①一方の足が地面を離れるまえに他方の足は着地する。②上体は直立する。③両足が地面に着いているときは両ひざが伸びている。このような条件から，競歩の歩き方は，曲げた両ひじを前腹部で交錯させるとともに腰を振りながら進む独特の歩き方となる。競技中に歩法に関して2度注意を受けると失格となる。競歩はローマ時代の軍事訓練から生まれたといわれているが，近世になるとイギリスで流行し，19世紀後半から競技として行なわれるようになった。近代オリンピックでは1906年のアテネ中間大会から採用され(1,500m)，以後距離は一定していなかったが，1932年の第10回ロサンゼルス大会から50kmとなり，さらに1956年の第14回メルボルン大会から20kmが加わって，現在この2種目が正式種目である。日本記録として公認される種目は，20,000m・30,000m・50,000m・20マイル・30マイル・2時間などがある。記録は，トラックで行なわれた場合のみ公認される。世界最高記録は，①20km：1時間25分57秒2(ソ連のベドヤコフ，1959年)，②50km：3時間55分36秒(ソ連のアガポフ，1965年)。〔伊東春雄〕

きょうぼう【教房】 中国，唐代以後の宮廷舞楽の教習所。すでに隋(ずい)代(7世紀)に楽人は首都長安に集められていたが，玄宗のとき教房として整備され，清朝(しんちょう)の初期まで続いた。ときには楽人・舞人は3,000を数えたが，彼らは身分上は一種の奴隷とみなされていた。わが国の内教坊はこれにならったもので，節会(せちえ)などに出仕する舞妓(ぶぎ)を養成した。《続日本紀》の759年(天平宝字3)の項に見えるが長くは続かず，平安中期には廃されたらしい。

ぎようほうしゅう【岐陽方秀】(1363～1424) 室町前期の臨済宗の僧。不二道人と号す。讃岐(さぬき)(香川県)の人。俗姓は佐伯(さえき)氏。幼時に京都の外祖父から詩書を学び，11歳で東福寺の侍童となり，翌年安国寺で得度した。のち鎌倉の寿福寺や京都の南禅寺に移り，讃岐の道福寺に住したが，晩年は東福寺の不二庵(ふじあん)にとどまった。博学と詩文で名声を得，程朱学の新注をなし，将軍足利義持(あしかがよしもち)の帰依を受けた。1424年(応永31)62歳で寂した。著は《不二遺稿》ほか。〔田中良昭〕

きょうほうのかいかく【享保の改革】 寛政の改革*，天保(てんぽう)の改革*と合わせ，江戸幕府が行なった三大改革の一。1716年(享保1)徳川吉宗(よしむね)の将軍就任から1745年(延享2)の隠退までの30年間の幕府政治の総称。復古理想主義で，財政再建策を中心に幕藩体制*の強化・安定のための政治を行なった。吉宗は将軍親裁を強化し，足高*(たしだか)の制によって人材登用を図り，幕府官僚体制を整備した。財政の再建のために上米*(あげまい)の制で諸大名から米を上納させ，倹約令*を出して支出を抑制，生活緊縮を行ない，農村に対しては定免制*を採用して年貢(ねんぐ)収納を強化した。また産業開発を推進し，新田開発を奨励し，サトウキビ・朝鮮ニンジンなどの栽培を勧めた。ほかに裁判事務の促進のため相対済し令*を出し，目安箱*を設置して民意を問い，防火制度や養生所設置などの意見を取り上げた。法制の整備も行ない，公事方御定書*(くじかたおさだめがき)や《御触書(寛保)集成》を編纂(へんさん)した。流通面では，通貨の統一，米価の安定に努力し，江戸中期以降は進展する商品経済・商業資本を掌握するため市場統制に着手した。これらの施策は幕政を緊張させて幕藩体制の安定に貢献したが，改革の後半期からは年貢収納は限界に達し，農村は疲弊して百姓一揆*(いっき)が盛行した。1732年(享保17)の享保の飢饉*(ききん)により米価は大変動して安定性を欠き，1736年(元文1)からは元文金銀(古文字金銀)を発行して貨幣の質を低下させるなど，改革は行きづまった。これは，幕藩財政悪化の原因である商品経済進展への対応策が不十分であったためである。〔松尾 涼〕

きょうほうのききん【享保の飢饉】 天明の飢饉*，天保(てんぽう)の飢饉*とともに，江戸時代における三大飢饉*の一。1732年(享保17)の夏，西日本一帯で起こったイナゴの害による。餓死者多数に上り，多くの窮民が都市に流入した。しかし都市においても米価が暴騰し，翌年正月には江戸で大規模な打ちこわし*が発生。幕府は蔵米*を払い下げ，飢饉地帯外からの回米*を命じて，米の買い占めを禁止し，また酒造を制限した。1734～1735年の豊作で解消した。〔松尾 涼〕

きょうま【京間】 主として近畿(きんき)以西で行なわれる畳の大きさ。6.3尺(190.9cm)に3.15尺の大きさをもち，関東地方で行なわれる田舎間*(いなかま)に比べ，ひとまわり大きい。この畳の大きさは，7尺前後だった中世の上流住宅の柱間が，しだいに縮小して桃山時代に6.5尺に定着したとき生まれたもので，柱寸法4寸(12.1cm)のときの，真々柱間(柱の中心から中心までの距離)2間(13尺)のへやの畳の大きさに相当する。しかし，真々柱間の設計では，へやごとで畳寸法に違いが生ずるので，この畳の大きさを固定させ，畳寸法を基準単位として割り付けを行ない，その外側に柱を配する内法(うちのり)制の設計がくふうされ，江戸時代初期に完成した。この畳割りの技術は，上流住宅の高級な設計技術として生まれたが，どのへやの畳も大きさが一定で互換性があり，商品として規格生産できる利点があるところから，近畿以西の庶民住宅に広く普及した。〔渡辺保忠〕

きょうまい【京舞】 日本舞踊*のうちの上方舞*の一つで，京都に起こり，その地で発達した舞踊。井上(いのうえ)流・篠塚(しのづか)流があるが，後者は1886年(明治19)3世文三郎の没後しだいに衰え，今日では流名を残すのみとなった。したがって現在の京舞は井上流によって代表される。井上流は，3世井上八千代*以後祇園(ぎおん)新地の舞の師匠となったので，祇園との関係が深く，京舞といえば祇園の舞を連想させる。音楽は地うたが多いが，義太夫節(ぎだゆうぶし)や江戸長唄(ながうた)も使う。なお，吉村(よしむら)流を京舞の中に入れる説もある。〔戸部銀作〕

きょうまく【胸膜】 漿膜(しょうまく)の一種で，肋膜(ろくまく)ともいい，胸腔(きょうこう)を裏打ちする壁側胸膜と肺の表面に密着する臓

側胸膜とからなる。胸膜からはつねに少量の漿液が分泌され，肺の運動による摩擦を防止している。壁側胸膜と臓側胸膜は肺内部で互いに連絡し，この両者によってつくられる腔所を胸膜腔という。胸膜腔は胸腔内に左右1対あり，その間を縦隔という。胸膜腔は生体では陰圧になっており，肺への空気の吸引を容易にしている。なお，胸膜腔の中に空気のはいることを気胸*という。〔蟠井　勉〕

きょうまく【莢膜】 細菌の細胞壁の外側をおおっている粘質層が，肺炎双球菌や炭疽(たんそ)菌におけるように発達して，単染色やグラム染色で菌体周辺の透明帯として認められ，特殊な莢膜染色法で染め出すことができる場合に莢膜という。物質的には肺炎双球菌では多糖体，炭疽菌ではd-グルタミン酸からなるポリペプチド，ペスト菌では多糖体とタンパク質からなりエンベロップとよばれる。培養菌よりも生体内で発育した菌に容易に形成され，莢膜を失った変異株も存在する。〔和気　朗〕

きょうまく【強膜】 鞏膜とも書く。眼球を外側から包み，前方で角膜*に続くじょうぶな膜。白目の部分は眼球結膜*の下に白い強膜があるためにできる。➔目

きょうまくえん【胸膜炎】 ⇨肋膜炎(ろくまくえん)

きょうまくえん【強膜炎】 俗に白目といわれる強膜眼球壁の大部分を占めている白くて弾性のある強い膜の炎症。角膜に接した白目の部分が充血し，ときにははれて，押すと圧痛がある。原因は結核または結核アレルギーによるものが多く，再発する場合が多い。治療としては結核によるものは抗結核剤，アレルギーによるものはステロイドホルモンの使用で容易に治癒(ちゆ)する。

きょうます【京枡】 近世から近代に至る法定の枡*。豊臣秀吉(とよとみひでよし)は全国統一の際，京都周辺で用いられていた京枡を全国の法定枡とし，京枡をもって天下の石盛*を行なった。江戸幕府ははじめ，関西は京枡，関東は江戸枡を用いることを定めたが，1669年(寛文9)全国を京枡で統一し，枡座に京枡の製作と専売を命じた。1870年(明治3)明治政府も京枡を法定枡に制定し，その一般的使用はメートル法実施期にまで及んだ。

ぎょうむじょうおうりょうざい【業務上横領罪】 業務に関連して他人から委託されて預かり保管している財物，たとえばセールスマンが会社から託されて持ち歩いている見本品などを，かってに売却・質入れ・拐帯(かいたい)して不法に領得する犯罪(刑法253条)。刑は10年以下の懲役。➔横領罪

ぎょうむじょうかしつ【業務上過失】 業務上必要な注意を怠ること。そのため他人に傷害を与えたり，死亡させたりすると5年以下の懲役または禁錮(きんこ)もしくは50,000円以下の罰金(刑法211条)に処せられる。業務とは，継続的に行なう事務であればよく，収入の有無，本務か兼務かの区別，免許の有無を問わないが，業務の性質上人の生命・身体に対する危険を伴うものに限られる。一般の過失に比べ刑が加重されている。➔過失

ぎょうむぼうがいざい【業務妨害罪】 他人の業務を，不特定多数の者にデマ(流言)を飛ばして妨害したり，他人の店頭に不良品を投げ込むような計略を用いて妨害(刑法233条)する犯罪。威力(暴行・脅迫または権勢・地位など)による圧迫を加えて妨害しても(威力業務妨害罪)同じく罰せられる(刑法234条)。業務がじゃまされる危険があればよく，妨害の結果は必要ではない。労働争議行為も正当な範囲を越えるとこの罪にあたることがある。刑は3年以下の懲役または50,000円以下の罰金。〔野口恵三〕

ぎょうむめいれい【業務命令】 使用者が労働者を具体的な労働に従事させるために発する指揮・命令。明治憲法下では使用者が一方的に決めていたが，現行法では労使双方の合意によって決まる(労働基準法15条)。その根拠は，具体的には労働協約*・就業規則*・労働契約*に求められる。業務命令が違法でない正当な権利行使だといえるためには，それが強行法規*・労働協約・就業規則・労働契約に違反しないこと，公序良俗に反しないこと，権利濫用にならないことなどが要求される。さらに，実際上，業務命令が有効となるのは，その業務が適正な場合である。〔木元錦哉〕

きょうめい【共鳴】 振動体に外から振動を加えるとき，その力の大きさはそのままで振動数だけを変えてやれば，振動数がある特定の値に近いときに振動体の振動が著しく顕著になる現象。これは，電気回路で生ずる共振*と同じような現象で，共振ともいわれる。共鳴を起こす振動数を振動体の固有振動数という。

同じ調子の音叉*(おんさ)を並べておき，一方だけをしばらく鳴らしたのちこれを手で止めれば，はじめ鳴らさなかったほうの音叉も鳴りだしていることがわかる。これは一つの共鳴現象の例である。このように共鳴は，振動体がその固有振動数で非常に振動しやすいために起こる現象である。したがってまた，振動体にいろいろの振動数を含む外力を与えれば，振動体はその固有振動数に等しい振動数で最もよく振動する。弦楽器で弦の長さを変えて固有振動数を変化させ，あるいは管楽器のように気柱の長さを変えてその固有振動数を変化させることによっていろいろの調子の音を出すのはこの原理による。〔池谷和夫〕

きょうめいばこ【共鳴箱】 音叉*(おんさ)の下部に音を強める目的でつけられる木製の箱。一方だけ口の開いたものが普通であるが，高い振動数のものには両方開いたものを用いることがある。音叉の柄の部分は縦方向に振動し，この振動が共鳴箱部分に伝わり，さらに共鳴箱内部の空気の振動を引き起こす。空気部分の固有振動数が音叉の固有振動数にほぼ等しいとき大きい音が聞こえる。太鼓・鼓やバイオリン・ギター・三味線(しゃみせん)などの弦楽器の胴は一種の共鳴箱で，音を強めている。〔池谷和夫〕

きょうもの【京物】 日本伝統音楽の地歌・箏曲(そうきょく)の中で，文化・文政ごろ(19世紀初期)に京都で作曲された一連の作品をさす。松浦検校(けんぎょう)・菊岡検校*・石川勾当(こうとう)・八重崎検校*らのすぐれた作曲家・編曲家によるもので，《八重衣*》《笹(ささ)の露*》《茶音頭(ちゃおんど)》《四季の眺(ながめ)》などがある。これらに共通の音楽的特色としては，器楽による手事*の大規模なものが歌の間に挿入(そうにゅう)されるという構成法をとり，しかも三味線の原曲に箏のパートを加えて替手*(かえて)という対位法的手法のおもしろみを出していることである。〔山口　修〕

きょうやき【京焼】 江戸時代に京都洛中(らくちゅう)・洛外で焼かれた窯芸の総称。洛東粟田口(あわたぐち)には，すでに桃山期の慶長年間(1596～1614)に窯業があって瀬戸における陶法が導入され，信楽(しがらき)の陶工も移って築窯されていたのが始まりとみられる。また，1643年(寛永20)には八坂焼があって色絵の技術が創始されていたとも推測されている。このように京都の窯芸が緒についたおり，名工野々村仁清*が招聘(しょうへい)されて御室窯(おむろがま)を築き，すぐれた轆轤(ろくろ)技術で色絵陶を大成して名作をのこし，他の京焼をはじめ全国各地の窯芸に大きな影響を与えた。仁清のあとを受けて京焼を展開させ，別趣の境地に達したのが尾形乾山*(けんざん)である。彼は兄尾形光琳*(こうりん)のいわゆる琳派の装飾画風の意匠を陶器の世界で表現している。その後，京焼はやや不振であったが，文化・文政年間(1804～1829)に清水六兵衛*(ろくべえ)が新たに磁器を焼いて清水焼とよばれ，従来の色絵陶器を圧して主流となった。一方，個人作家として奥田穎川(えいせん)・仁阿弥(にんなみ)道八*・青木木米*・欽古堂亀祐(きんこどうきすけ)らが輩出し，江戸後期の京焼は再び黄金時代を迎え，名工たちは各地の窯に招かれ，また地方陶工で京都に学ぶ者もあり，京都は当時製陶指導の中心をなした。〔矢部良明〕

きょうゆ【教諭】 ⇨教員

きょうゆう【共有】 数人が共同して一つの物を所有する形態をいう。各共有者はその共有物に対して持ち分(共有物に対する物権的支配の及ぶ一定割合)を有する。持ち分について民法はこれをいちおう相等しいものと推定しているが(民法250条)，共有者間の契約によって定めることができるほか，法律の規定によって定められているものもある。共有者のひとりがその持ち分を放棄したり，相続人がなくて死亡した場

合には，その持ち分は他の共有者へその持ち分の割合に応じて帰属する(民法255条)。各共有者はその持ち分を譲渡したり，担保*に供するなど自由に使用・収益・処分することができるが，組合財産や相続財産については制限がある(民法676・905条)。しかし，各共有者は他の共有者の同意を得ずには共有物に変更を加えたり，共有物全体を処分することはできない(民法251条)。共有物の管理に関する事項については，各共有者の過半数によって決めねばならない(民法252条)。管理費用は各共有者がその持ち分に応じて負担しなければならない(民法253条)。共有物の分割については，一定期間その分割を禁止する契約がないかぎり，各共有者はいつでも自己の持ち分について分割請求することができる(民法256条)。分割の協議が整わないときは裁判所で決めてもらえる(民法258条)。分割の結果，各共有者は持ち分に応じてその目的物の単独所有者となるけれども，他の共有者の得た部分に対しては，売り主と同様に担保責任を負わなければならない(民法261条)。なお，この共有関係は，所有権以外の財産権*(たとえば，地上権*・永小作権*・地役権*・抵当権*・鉱業権*・漁業権*など)についても準用される(民法264条)。さらに，広義の共有には合有*や総有*が含まれ，これらは狭義の共有とは区別される。〔黒木三郎〕

きょうゆうけつごう【共有結合】 形式的には2個の原子間で，おのおのの原子が電子を1個ずつ出し合い，その2個の電子を両方の原子が共有することによって形成される化学結合*。電子対結合ともいう。この典型的な例は水素分子である。共有結合は結合に関与している電子を点で表わし，H:H，C:Cのような記号で表わす。2個の電子からなる電子対が安定な結合をつくる機構は，ハイトラー・ロンドンが量子力学を用いて，はじめて理論的に説明した。〔三輪誠・清水正幸〕

きょうゆうてん【共融点】 共融混合物を生じる温度。共融混合物には不変系のものとそうでないものがあり，したがって，共融点も一定のものと，ある範囲で変化するものがある。二成分系の場合はそれらの組成で表わした融点図において，融点曲線が極小になる点が共融点である。ここでは両成分が完全にとけ合っており，これを冷却するとそれらの混合物の固相(共晶)を得る。共晶は一定温度で融解・凝固し，融点に幅がない。すなわち，二成分系でありながら一成分系のような挙動を示す。共融点が幅をもつのは三成分系以上のときだけである。〔三輪誠・野宮健司〕

きょうゆうでんたい【強誘電体】 ⇨誘電体

きょうゆうりん【共有林】 法律的には2人以上の共有に属する山林をいう。共同購入または遺産相続によって共有林が生ずることもあるが，現存している共有林の多くは通常，記名共有林・連名共有林と称されているものである。これらは，明治維新前から存在する村山(部落有林)が維新以降町村の性格変化ならびに町村合併を通じて変貌(へんぼう)する過程で生じた一形態であり，村(部落)に居住する世帯主の氏名を連ねて共有名義としたものである。〔野々村豊〕

きょうよう【教養】 人間の精神生活を豊かにする営みをいい，英語のカルチャー(culture)にあたる。これは本来〈耕作〉を意味したラテン語culturaを語源とする。これが〈教養〉の意味をもったのは，キケロが精神の円満な発達のためには〈心の耕作〉が必要であると説いたことに発する。一般に〈教養として〉という場合には，〈専門として〉あるいは〈職業として〉ではなしに，芸術・学問などの精神文化を理解することをいう。しかし，これは実生活から離れた装飾的なものに陥りがちで，〈教養主義〉ということばは，そのような否定的側面の指摘である。教養の肯定的な精神は，ヨーロッパで，自由な人間の姿を古典の中に見いだそうとしたルネサンス*の人文主義思想，および18世紀ドイツの新人文主義思想(ゲーテ*・シラー*)の中に生きていた。また，フランスを中心とした〈啓蒙(けいもう)思想〉(ボルテール*・ルソー*)は，没社会的なものとしてではなく，社会批判の武器としてそれを継承した。今日も，教養については，それを所有しなければならぬ社会的階層，科学・技術に対する教養への等閑視などの，多くの問題が提起されている。〔福井幸雄〕

ぎょうよう【杏葉】 ①馬具の面繋(おもがい)・胸繋・尻繋(しりがい)につけられる金属製，または皮製の装飾具。形がアンズの葉に似ているところから，この名があるとされる。古墳時代から用いられていたが，平安時代に中国のものが移入され，いっそう盛んに使われた。②平安時代以後，肩を守るために胴丸*のよろいに用いられた付属品。鉄板を皮で包み，縁に覆輪をかけたものが多い。のちに胴丸にそでがつくと，胸板の高ひもの上にたれて栴檀(せんだん)の板・鳩尾(きゅうび)の板のように用いた。〔稲垣史生〕

きょうようざい【強要罪】 相手方またはその親族の生命・身体・自由・名誉・財産に対し危害を加えるような言動をして，人に義務のないことをむりにさせたり，当然なしうる権利の行使を妨害したりする罪(刑法223条)。たとえば脅迫してむりに寄付をさせたり，借用証を破棄させたり，辞職願いに印をつかせたりするのがこの罪にあたる。刑は3年以下の懲役。未遂も罰せられる。➔脅迫罪

きょうようしょうせつ【教養小説】 ある人間が青少年期から中壮年に至る過程で教養を積み，人格的・内面的に自己を完成させていくさまを描いた小説をいう。ドイツ語のビルドゥンクスロマンの訳で，主としてドイツにおいて愛好された。フランスにおける《赤と黒*》のように，成功のためにブルジョア社会の中でもまれる主人公を描いた小説や，社会からはみ出した人物を描いたロシアの〈余計者*〉小説と対照的に，内面的完成をめざすところに，教養小説のドイツ的特徴がある。ウィーラント*の《アガトン》に始まり，ゲーテ*の《ウィルヘルム・マイスター*》において頂点をなす。ケラー*の《緑のハインリヒ》やマン*の《魔の山》《ヨゼフとその兄弟たち》などもその例で，フランスではロラン*の《ジャン・クリストフ*》も教養小説といえる。〔北条元一〕

ぎょうよがっこう【業余学校】 中華人民共和国において，文盲一掃運動を目標に，労働者・農民に対して設けられた学校。業余小学・業余初中・業余高中の3段階に分かれる。正規の学校の補助機関ではあるが，一定の教科書を修了した者に対しては，普通学校卒業と同等の資格が与えられている。

きようらけいご【清浦奎吾】 (1850～1942) 政治家。熊本県出身。1876年(明治9)司法省にはいる。のち内務畑に移り，1887年保安条例*公布の際には警保局長として敏腕をふるった。山県有朋(やまがたありとも)の直系官僚として第2次松方内閣以来，法相・農商務相を歴任し，1906年枢密顧問官となる。1914年(大正3)第2次山本内閣崩壊後，組閣に着手したが，政友会・憲政会・海軍の反対にあい不成立に終わる。1922年枢密院議長。1924年貴族院の勢力を主力とする超然内閣を組織し，首相となったが，第2次憲政擁護運動*を指導した護憲三派の攻撃を受けて議会を解散，総選挙に惨敗したため約5か月で総辞職。晩年は重臣に列した。〔岸野淳子〕

きょうらんもの【狂乱物】 日本舞踊・音曲のうち，狂人を題材とした作品，またその系統。能をもとにしたものや，巷間(こうかん)の事件・伝説に取材したものをはじめとして数が多い。現在流行している曲目には清元節の《隅田川*(すみだがわ)》《保名*(やすな)》，常磐津節(ときわずぶし)の《お光(みつ)狂乱》《お夏狂乱*》，長唄(ながうた)の《二人椀久*(ににんわんきゅう)》《賤機帯*(しずはたおび)》などがある。

きょうりきこ【強力粉】 硬質小麦から得られる小麦粉で，タンパク質・グルテン量が多い。原料小麦として，カナダのマニトバ小麦，アメリカのダーク-ノーザン春小麦などが有名である。わが国ではあまりつくられていない。水とこねたとき粘りがあり，また弾力が強いので，パン用に最も適し，ラーメン・マカロニ・スパゲッティの原料としても貴重である。

きょうりせい【郷里制】 中国の地方制度で，県の下部を構成する半官半民的な組織。秦(しん)・漢時代には，100戸で1里，10里で1亭(てい)，10亭で1郷をなし，数郷で1県を形成して教化・徴税・治安の徹底を図ったといわれる。亭は交通・通信に関す

る別系統の組織とする考えもあるが，その後いろいろの変遷を経て隋(ずい)代に100戸を里とし，500戸を郷とする2級制が確立した。これは唐代に受け継がれ，里には里正，郷には耆老(きろう)が民間から選ばれ，政府機関との連絡にあたった。〔日比野丈夫〕

きょうりもんどうしょ【教理問答書】キリスト教会で子女または入信志願者に，キリスト教信仰を教えるために一般に問答形式で書かれた本。カテキズムともいう。プロテスタントではルターの《大・小教理問答書》，カルバンの《ジュネーブ教理問答》，ドイツ改革派教会の《ハイデルベルク教理問答書》，イギリス長老派教会の《ウェストミンスター教理問答書》が有名である。カトリックでは《公教要理》といい，信ずべきこと，守るべきこと，神の恵みを受ける道の3部からなる。〔五十嵐誠〕

きょうりゅうるい【恐龍類】中生代に栄えた爬虫(はちゅう)類の総称。ダイノザウルスともいう。世界各地に産するが，中でも中央・北アメリカに多い。骨盤の構造に特徴があり，トカゲ型骨盤類・鳥型骨盤類に二大別される。前者はトカゲに似た形で尾や首が長く頭は小さい。二脚性・肉食性の獣脚類と四脚性・草食性・両生の龍脚類に分かれる。龍脚類は特に体が巨大で，ディプロドクスやブロントザウルスなどがある。鳥型骨盤類は草食性，多くのものは四脚性で，肉食性の恐龍から身を守る機能をもつに至ったもので，鳥脚類・鎧龍(がいりゅう)類・角甲類に分かれ，イグアノドン*・ステゴザウルス・トリケラトプスなどがある。恐龍類は，ちょうど今日の哺乳(ほにゅう)動物のように，当時の陸上動物の上に君臨した。〔神戸信和〕

きょうりょう【橋梁】⇨橋

きょうりょくレーヨン【強力レーヨン】普通のレーヨンより強度の大きいもの。フィラメント*・ステープル*とともに製造され，前者はタイヤコードなどに，後者は服地・裏地・袋地・家具装飾などに用いる。一般性能および取り扱いはレーヨンと同様。

ぎょうれつ【行列】長方形に配列した数の組。マトリックスともいう。たとえば，①のような連立一次方程式で重要なのは，未知数 x，y ではなく，係数 a，b，c，a'，b'，c' の値の組である。この係数の値の組を②のように配列して書くと，どの数がどの未知数の係数であるか，また定数であるかなどもわかり，①の形で連立方程式を書いたのと同じである。また，いくつかのベクトル*の組を表わすにも，それらの成分を用いて②のように長方形に並べて書くと便利なことが多い。

① $\begin{cases} ax+by+c=0 \\ a'x+b'y+c'=0 \end{cases}$

② $\begin{pmatrix} a & b & c \\ a' & b' & c' \end{pmatrix}$

行数が m，列数が n の行列では，第 i 行で第 k 列にある数をその $(i,\ k)$ 成分または要素といい，a_{ik} と書いて次のように表わす。

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} & \cdots\cdots a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} & \cdots\cdots a_{2n} \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ a_{m1} & a_{m2} & a_{m3} & \cdots\cdots a_{mn} \end{pmatrix}$$

この行列をくわしくは $(m,\ n)$ 型行列といい，特に $(n,\ n)$ 型のものを n 次の正方行列という。

$(1,\ n)$ 型行列すなわち1行だけからなる行列 $(a_1,\ a_2,\ \cdots\cdots,\ a_n)$ を n 次の行ベクトルといい，$(m,\ 1)$ 型行列を m 次の列ベクトルともいう。なお，行列は( )の代わりに〚 〛や‖ ‖を用いて表わしたり，(a_{ik}) や $[a_{ik}]$ と略記したりする。正方行列で対角線上にない要素 $a_{ik}(i\neq k)$ がすべて0であるものを対角線行列，そのうち a_{ii} がみな等しいものをスカラー行列といい，特に，$a_{ii}=1$ であるスカラー行列を単位行列という。なお，要素がすべて0である行列を零(ゼロ)行列という。

数 a と行列 $A=[a_{ik}]$ の積を，$aA=[aa_{ik}]$ と定める。同じ型の行列 $A=[a_{ik}]$ と $B=[b_{ik}]$ の和は，$a_{ik}+b_{ik}$ を要素とする行列 $A+B=[a_{ik}+b_{ik}]$ と定める。また，$A=[a_{ij}]$ と $B=[b_{ik}]$ の積は，A の列数と B の行数が一致する場合にだけ，$a_{ij}\,b_{jk}$ の j についての和 $c_{ik}=\sum_j a_{ij}\,b_{jk}$ を要素とする行列 $AB=[c_{ik}]$ と定める。n 次の正方行列の全体は環となり，零行列は零元，単位行列は単位元となる。➔群〔小西勇雄〕

ぎょうれつしき【行列式】正方行列に対応して，一定のきまりによって定まる式(➞行列)，たとえば，連立方程式①は，②が0でないとき，ただ1組みの根をもつ。②は①の係数の行列 $A=\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix}$ に対応して定まる式である。

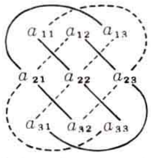
① $\begin{cases} a_{11}x+a_{12}y=b_1 \\ a_{21}x+a_{22}y=b_2 \end{cases}$

② $a_{11}a_{22}-a_{12}a_{21}$

また，三次の正方行列 $A=(a_{ij})$ を係数とする連立方程式 $a_{i1}x+a_{i2}y+a_{i3}z=0$，$(i=1,\ 2,\ 3)$ は，行列 A から定まる次式が0でないときに，$x=y=z=0$ 以外の根をもつ。

③ $a_{11}a_{22}a_{33}+a_{12}a_{23}a_{31}+a_{13}a_{21}a_{32}$
$-a_{11}a_{23}a_{32}-a_{12}a_{21}a_{33}-a_{13}a_{22}a_{31}$

この式は，右の図の実線で結んだ3数の積を加え，点線で結んだ3数の積を引いてつくられたものとみられる。



一般に，n 次の正方行列 $A=(a_{ik})$，$(i,\ k=1,\ 2,\ \cdots\cdots,\ n)$ に対し，②，③のように，n^2 個の要素 a_{ik} で定まる式

$$\Sigma(\pm)a_{1p_1}\,a_{2p_2}\cdots\cdots a_{np_n}$$

を A の行列といい，$|a_{ik}|$ または $|A|$ と表わす。ただし，$p_1,\ p_2,\ \cdots p_n$ は1から n までの番号の順列で，Σ(シグマ)はそのすべての順列についての和を示す。また，符号±は $p_1,\ p_2,\cdots p_n$ が $1,2,\cdots n$ のとき＋とし，これからどれか2個の番号を互いに入れ替えるごとに＋と－を入れ替えて定まる符号を示す。

〈行列式の性質〉行列式については次の基本的な性質がある。
①行列 A と，その行と列を入れ替えた行列(これを転置行列という)は同じ行列式をもつ。それで以下，行について述べる諸性質は列についても成立する。
② A の一つの行の各要素を c 倍した行列の行列式は $c|A|$ に等しい。
③ $A=(a_{ik})$ の第 i 行を a'_{i1}，a'_{i2}，…，a'_{in} で置き替えた行列を A' とし，$a_{i1}+a'_{i1}$，$a_{i2}+a'_{i2}$，……，$a_{in}+a'_{in}$ で置き替えた行列を A'' とすると，$|A''|=|A|+|A'|$ となる。
④ A の二つの行を互いに入れ替えると行列式の符号が変わる。したがって，二つの行が一致すると行列式は0である。

これらの諸性質は行列式の値を計算するときにも用いられる。〔小西勇雄〕

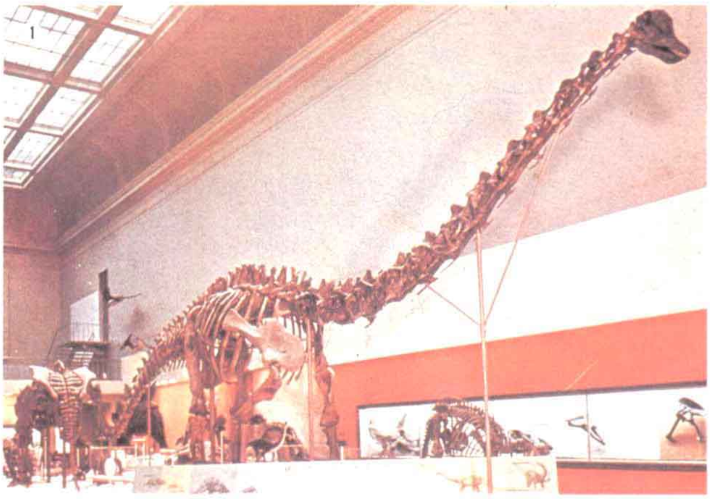
きょうわえんぜつじけん【共和演説事件】1898年(明治31)8月に起こった第1次大隈(おおくま)内閣の文相尾崎行雄*の舌禍事件。帝国教育会の席上，尾崎は拝金主義を批判して，〈日本に共和制が行なわれれば，三井・三菱(みつびし)が大統領候補になるだろう〉と演説した。これに対して山県有朋(やまがたありとも)ら官僚は，これを不敬の発言として貴族院で政府を攻撃した。与党憲政党の旧自由党系もこれに同調したため，同年10月尾崎は辞職。その後任をめぐって憲政党内の対立は激化し，党分裂・内閣崩壊の契機となった。〔安達淑子〕

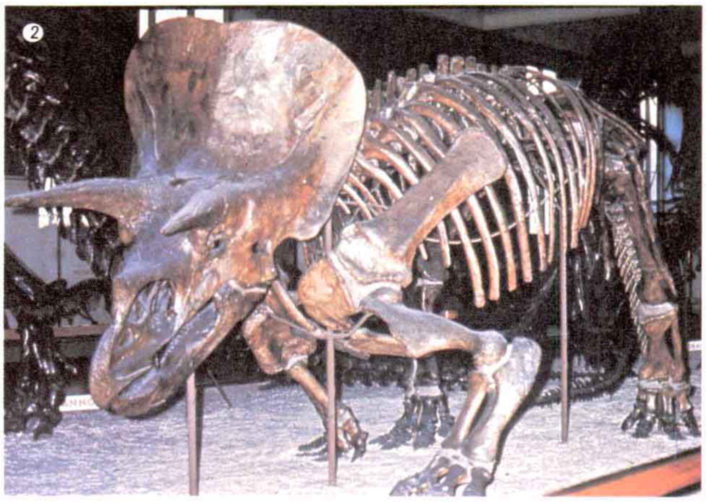
きょうわおん【協和音】音楽でふつう二つ以上の音が相対的に強く融合していると判断されたとき，その2音を協和音とよぶ。しかし，これには聞き手の主観が関与し，またその音がどのような前後関係で使われるかによっても異なる。協和・不協和の考え方はきわめて古くからあり，古代ギリシア語では二つの音の振動数の比が1対1，1対2など，単純な整数の比になるほど協和の度が強いと考えられた。しかし，現実に協和と考えられている音程は複雑な比になっており，この説は認められない。協和に関する多くの物理学的・生理学的な解釈には，満足がいくものがない。しかし中世から19世紀までの西洋では，音楽を構成する要素を，その機能から協和・不協和に分けていることは重要である。この場合も，その区別は時代によって異なっている。また現代音楽や邦楽では協和・不協和が意味をもたないため，伝統的な西洋音楽で不協和とみなされていた2度音程が，他の音程と同じように使われている。〔徳丸吉彦〕

きょうわかい【協和会】⇨満州国協和会

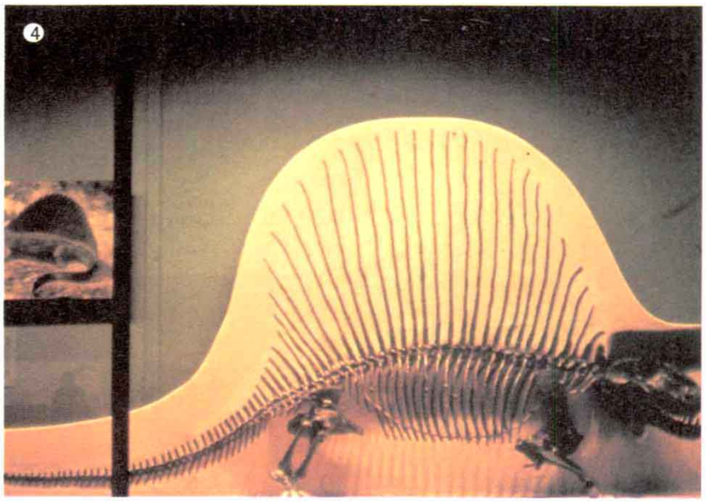
きょうわこく【共和国】共和制*の国家。今日多くの国が共和国であるが，おもな国は，アメリカ合衆国・アルジェリア・アルゼンチン・イタリア・インド・アラブ連合・カナダ・スイス・ソビエト社会主義共和国

➔456ページ

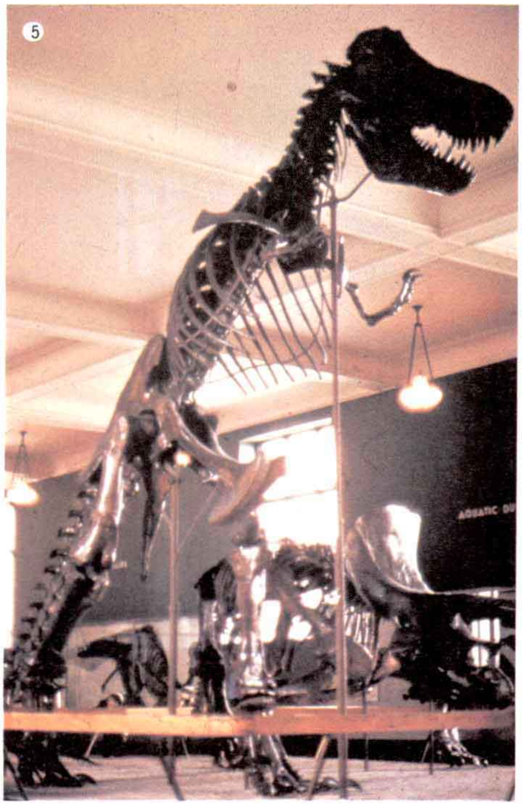


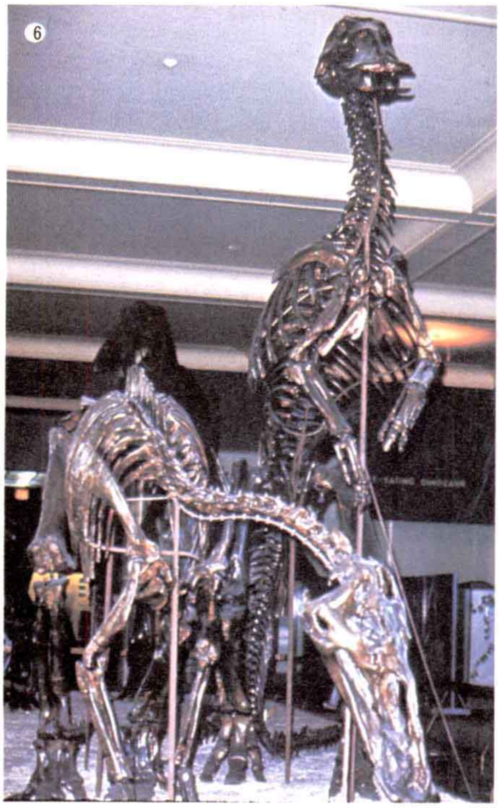


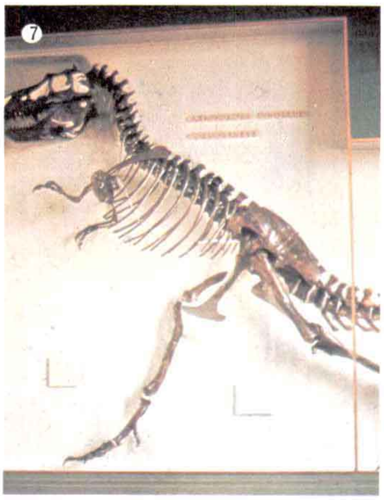




①ディプロドクス　ジュラ紀　②トリケラトプス　白亜紀
③プレシオザウルス　白亜紀　④ディメトロドン　二畳紀
⑤チラノザウルス　白亜紀　⑥アナトザウルス　白亜紀
⑦ゴルゴザウルス　白亜紀　⑧ヒプセルザウルスの卵









連邦・中華人民共和国や東ヨーロッパの人民民主主義諸国，ドイツ連邦共和国(西ドイツ)・ドイツ民主共和国(東ドイツ)・ブラジル・フランス・モンゴル人民共和国である。イギリスや日本は民主化されたとはいっても，形式的には君主制が残存しており，君主制国家である。〔西尾孝司〕

きょうわせい【共和制】主権が国民にある政治体制で，国民によって公選される大統領を国の元首とする国家形態をいい，君主制・貴族制と対比される。共和制はすでに古代ギリシアのアテナイなどにおいてみられるが，近代的共和制はピューリタン革命(1642)後の一時期のイギリスを除けば，まずアメリカとフランスにおいて実現された。アメリカはイギリスとの植民地独立戦争によって，フランスはルイ絶対王制を打倒した大革命によって〈人民主権国家〉を打ち立てた。それは，他国の支配を打破し，あるいは封建的身分秩序を廃止し，万民平等の原則の上に打ち立てられたものである。その意味で共和制は近代民主主義原理としての人民主権論の必然の帰結であり，共和制と民主主義は相互補完的な制度であるといえる。現代においては人民民主主義諸国が誕生し，社会主義をめざす国家として発展している。これまでの共和国は，これに対して，ブルジョア共和国あるいは議会制共和国といわれる。〔西尾孝司〕

きょうわとう【共和党】アメリカ二大政党の一。〈ミズーリ協定〉を廃棄し，准州への奴隷制拡大を招来するカンサス-ネブラスカ法の制定直後，1854年7月ミシガン州で結成された。フェデラリスト党・国民共和党・ホイッグ党の流れを引き，奴隷制拡大に反対する北部商工業者・西部農民，全国の労働者が主体となり，奴隷制容認の民主党と対立した。1856年大統領選挙にジョン-フリーモントを立てて敗北したが，1860年奴隷制反対と保護関税をスローガンにリンカーンが当選した。南北戦争中に党の実権は北東部の産業資本家に移り，再建の時代に産業資本重視政策をとり，南部再建は混乱した。1913年までクリーブランドを除き大統領職を独占し，ビジネスの政党として自由放任政策，保護関税，金本位制，公有地払い下げ，鉄道への援助など，独占資本主義経済の発展を図り，アメリカ-スペイン戦争以後，積極的に帝国主義的海外進出にも乗り出した。しかし，金権・腐敗政治や政策の保守化も出現し，グラントの時代には自由共和党が，タフトの時代には革新党が共和党から脱退して結党した。1912年政権は民主党に奪われたが，1920年再び政権を獲得し，〈平常への復帰〉を遂げ，第1次世界大戦後の〈クーリッジ景気〉をもたらしたが，フーバーのとき大恐慌が発生し，以後20年間ふるわなかった。1953年にアイゼンハワーの個人的人気でいったん返り咲いたが，1961年民主党のケネディに政権を明け渡した。1968年大統領にニクソンが選出され，再び共和党大統領の時代となった。しかし，共和党は議会では1931年以来4年を除いて万年少数党と化している。その原因には，都市人口の増加，支持層をWASP(白人・アングロサクソン・プロテスタント)に置いていること，ニューディールの結果〈進歩〉の党のイメージを得た民主党に比べ，高所得者・〈保守〉の党のイメージのあること，ニューヨーク州知事ロックフェラーを代表とする党内進歩派の政策でさえ民主党の追随とみなされるほど党の体制が古いことなどが考えられる。共和党と民主党は〈レッテルの違った，中身の同じびん〉といわれるように，政策面での差は少ないが，共和党は比較的に権力分散・企業優先・緊縮予算・個人主義，社会福祉への無関心，反共の傾向が強い。〔折井一彦〕

きょうわれき【共和暦】⇨革命暦

きょうわん【峡湾】⇨フィヨルド

きょえいのいち【虚栄の市】サッカレーの小説(1848)。ナポレオン戦争下の19世紀初頭におけるイギリス上流社会の縮図の中に，人間の虚栄と利己心が風刺的リアリズムで描かれる。背徳的な美女ベッキー-シャープは，下層のおいたちから世知を身につけ，やがて富と地位を求めて男性を遍歴，醜聞の中で上流社会を泳ぎまわる。対照的に可憐(かれん)で世間知らずな娘アミリア-セドリーも，虚栄と利己心を免れることができない。感傷・誇張を排した描写と緊密な構成など，小説作法においても非凡である。〔長崎勇一〕

きょか【許可】法規によって一般に禁止されている行為を，特定の場合，特定人に対して解除し，行為を合法的に可能にする行政処分をいう。たとえば，建築許可，旅館業・風俗営業の許可，道路使用の許可などである。許可は新しい権利の設定ではなく，一般的禁止の解除を意味するにとどまる。自由権擁護の観点から，近年では許可に代わって届け出または登録によることが多い。法令では免許・認許などともいう。

ぎょかいきょうよほう【漁海況予報】原義的には，漁況(魚のとれぐあい)と海況(海の状態)の現状を把握(はあく)して，一定時間後に起こるであろう情況を予測して通報すること。日本のほか，大韓民国や北欧諸国などでも漁海況の情報を伝達し，予測を試みている。現在日本で実施している海況予測は，漁況予測のためのものであるから，海況とは漁場環境の状態とその変化と考えてさしつかえない。具体的には，漁場の物理・化学的な環境(水温・塩分・海流など)と，生物的環境(プランクトン・餌料(じりょう)，他魚種との競合)の，ある時間後の予測を行ない，さらにその漁場で，将来行なわれるであろう漁業のための情報を与えることである。いつ，どこで，なにが，どれくらい漁獲されるかは，生物学的な知識のみでなく，海洋学的な知識をも要求する。漁況予測の内容は，魚群の質(系群・年齢，魚体の大きさなど)，魚群の量(資源の大きさ，来遊する量・分布の密度)，漁場(漁場の位置・面積，形成される時期・漁期の長短など)である。この作業は，過去における知識や研究の集積があってはじめて可能であり，きわめて難事である。このことは，かねてから漁業者の最も切実な希望であり，水産庁では，1964年(昭和39)度よりこの事業を実施してきている。現在では主として日本近海の多獲性魚類を対象としている。〔石野　誠〕

ぎょかくぶつうんぱんせん【漁獲物運搬船】漁猟場から市場へ漁獲物またはその化成品を専門に運搬する船。これらの船は一般に冷蔵または冷凍あるいは塩蔵の設備をもっているから，冷蔵または冷凍貨物船であるが，漁猟場と市場の間のみを往復する場合に限り，法規上で漁船に含まれることになっている。大形のものでは工船や冷凍貨物船と兼用されることが多い。

ぎょかす【魚粕】生魚を煮沸したのち，圧搾して水分と油脂の大部分を除いた残りを乾燥したもの。主として原料となる種類はニシン・イワシ・ざこである。魚の肉質部が多いため窒素成分が9～10%と多く，リン酸4～6%を含み，肥料として利用される。かんづめ・かつお節の製造副産物を〈魚荒かす〉といい，〈魚節煮かす〉は魚節を煮て〈だし〉をとったあとのかすをいう。干魚肥料は生魚を海岸の砂上で乾燥したもので，油脂が多いため遅効性である。

きよかわはちろう【清川八郎】(1830～1863) 幕末の志士。出羽(でわ)(山形県)庄内(しょうない)藩清川村の郷士斎藤治兵衛豪寿(じへえひでとき)の三男。安積艮斎(あさかごんさい)・千葉周作に文武を学び，田中河内介(かわちのすけ)・真木保臣(やすおみ)(和泉守(いずみのかみ))・平野国臣らと尊攘(そんじょう)運動を行なったが，寺田屋騒動で運動に失望。1863年(文久3)幕府の浪士組(のちの新撰組(しんせんぐみ))徴募に応じ京都壬生(みぶ)に駐屯(ちゅうとん)。近藤勇(いさみ)ら佐幕派隊士と対立，江戸に下って新徴組に編入されたが，まもなく幕府の佐々木只三郎(たださぶろう)らに暗殺された。〔松尾　涼〕

ぎょがんレンズ【魚眼レンズ】⇨写真レンズ

ぎょき【漁期】漁業の行なわれている期間。多くの水産生物の場合，特定の時期に漁獲が最も多く，これを盛漁期とよんでいる。魚種が異なると，産卵期・索餌(さくじ)期・適温回遊期も異なるが，同一種についてみると，毎年多少の時期のずれはあるが，ほぼ似たような時期になると，ある特定水域に特定な水産生物がやってきて，漁期が形づくられる。資源保護などの立場から，限られた種族については，一定期間採捕を禁ずることがあり，これを禁漁期とよんでいる。〔石野　誠〕

きょぎひょうじ 【虚偽表示】 内心の意思と異なる表示行為をなすについて，相手方と合意のうえでなす意思表示*。たとえば，債権の執行を免れるために，友人と通謀して不動産を仮装売買する行為である。虚偽表示は当事者間においては無効であり(民法94条1項)，そうした仮装売買を信頼して行為をなした善意(➡善意・悪意)の第三者に対しては，虚偽表示の無効を主張することはできない(民法94条2項)。もっとも，婚姻や縁組みなどにみられる当事者の意思を絶対的に必要とする身分上の行為については，だれに対しても無効を主張することができる。なお，虚偽表示の当事者である相手方がその不動産を第三者に転売したときには，本人が相手方に賠償を請求できることはもちろんである。➔錯誤 ➔心裡(しんり)留保　〔黒木三郎〕

ぎょきょう 【漁況】 漁獲の行なわれている状況。すなわち，どこで，なにが，どの程度とられているか，そしてそれが時間的にどんな変化をしているかが漁況の実態である。漁況がよいというのは，漁獲の多い状態をいい，漁獲が減少すると漁況が不良になったという。漁況の変動には，短期変動と長期変動があり，このような変動論を取り扱う学問が漁況論である。漁況変動の原因にはいろいろあって，その水産生物種内の問題(たとえば，増殖・成長や資源量の増減など)，漁場への来遊群の量，漁場環境の条件(自然的および人為的)などが考えられる。さらにそのうえに，漁獲行為そのもの(漁船の数，漁具・漁法の相違，漁獲の強度など)が漁況に変化を及ぼし，また，需要供給の経済原則にも従って変化するものである。　〔石野　誠〕

ぎょぎょう 【漁業】 魚類その他の水産資源生物を，海や湖沼・河川から取り上げる産業形態。通常，水産業*ということばとほとんど同様な意義で使用されることがあるが，一般には漁業のもつ概念は，水産業のもつそれよりもやや狭い意味で用いられる。すなわち，水産業ということばの内容には，水産養殖業とか，水産製造業(水産加工業)をも含む。

〔漁業の歴史〕古来，衣食住が人間の生活にとって，自己保存・種族保存のために本質的な意義をもっていたことはいうまでもないが，特に食が優先していたであろうことは容易に想像される。古代人は，山野に草の実や根を求め，水辺の魚類を採取して，デンプンやタンパク質・ビタミンなどを摂取していたことであろう。随所に見いだされる貝塚(かいづか)から，貝殻(かいがら)に混じって魚の骨も散見されている。当時すでに，ごく沿岸部にすむ移動性の少ない魚族が，採捕の主対象となっていたことであろう。さらにまた，採取した貝の一部(たとえばアワビの貝殻)は，古代人の生活用具の一つとして活用されていたらしい。石器時代の貝



漁　業　出航直前のサケ−マス漁業の独航船。大漁と航海安全を祈る大漁旗をにぎやかに飾って景気をつける。　函館港(1970年5月15日)

塚からは，骨や角製のつり針，もりなどの漁具が発見され，積極的な漁労のなされていたらしいことが推察される。また，土器に残されている絵模様から，素朴(そぼく)な漁網が用いられていたこともうかがえる。この時代にはすでに丸木舟が出現し，浅海や内湾あるいは河川・湖沼水域で漁労がなされていたと考えられ，この時代の貝塚の中から，数十種類もの魚骨が出土している。太古からの漁労の変遷は，当然ながら，漁具・漁船の，さらには食物の保存や加工の技術の発達をも伴ったものであったろう。石器時代の骨製や角製のつり針・もりから，金属時代の鉄製品に変わっていったし，つり糸や漁網としての繊維も，草木のつるや皮を直接使用していた時代から，紡ぎ糸をつくることを知った時代を経て今日に至っている。そしてきわめて近年まで，漁業資材といえば，ヒツジの腸からつくった天然てぐすを含めて，そのほとんどが天然繊維であった。第2次世界大戦後の著しい化学繊維工業の発達は，漁業資材面にも画期的な変化をもたらした。漁労に専従する船舶も，いまや数千トンの大形船となっている。

〔漁業の形態と分類〕水産生物の採捕には，刺突するか，つり針によってつり上げるか，網漁具によって捕獲するか，いずれかの漁労方法がとられてきたことは，太古から現代に至るまで，その間に本質的な変化はなかった。漁船や漁具の発達は，その生産の場を外洋へと拡大し，やがては，生活必需品の生産から，商品の生産へと質的な変化を促してきた。このような過程の中で，原始的な産業として漁業が行なわれていた時代には，漁労と漁業との区別が少なく，漁労を行なうことが，即漁業を営むと考えることが多かった。しかし，漁業が近代的な産業として，大規模に発達してきた今日では，単一の漁労を行なうことが，必ずしも漁業を営むことにならない場合が多くなってきた。そこで，行政上その他の必要性から，漁業を分類しておく必要がある。列記してみると次のようになる。概して漁業の名称は，漁労の名称でよばれるか，あるいは漁具の名称を冠してよばれ，さらには制度・漁場・事業形態上の区分に従った呼称が多い。①漁具・漁法による分類：大きく分類すれば，網漁業*・つり漁業*・刺突漁業・採貝採藻(さいそう)漁業*に分けられる。②漁獲物の種類による分類：漁業の主対象とする水産生物名を冠して呼称する。たとえば，イワシ漁業・サケ−マス漁業*など。③漁業法規による分類：漁業法による手続きに従えば，免許漁業・許可漁業・自由漁業の3種に分けることができる。すなわち，免許漁業には，定置漁業・区画漁業・共同漁業が，許可漁業には，指定遠洋漁業およびそれ以外の農林大臣による許可漁業と，都道府県知事の許可によるものがある。単に知事に届け出て行なうのが自由漁業である。④漁場による分類：漁業を営む海域，あるいは母港からの距離によって，一般には次のような分類がされている。操業水域により，鹹水(かんすい)漁業・淡水漁業・汽水漁業に3分され，淡水漁業は，さらに河川漁業*・湖沼漁業に分ける。鹹水漁業は，沿岸漁業*・沖合い漁業*(さらに近海漁業にも分ける場合がある)・遠洋漁業*に分けて考えられ，遠洋漁業は母船式漁業*・海外漁業に細分される。⑤漁業経営形態による分類：労働形態や漁業資本形態の違いにより，次のような分類もなされる。非資本家的漁業(単独漁業・同族的漁業・協同的漁業→生産手段の共有か私有)，資本家的漁業(個人漁業・組合漁業・会社漁業→合名・合資・株式の別)に分けられる。⑥その他による分類：わが国の漁業白書や農林統計では，別の分類を行なっている。すなわち，海面漁業および内水面漁業に大別し，前者は捕鯨業・外洋漁業・一般海面漁業に細分されていて，これらのものがさらに細かに分類されて記入されている。さらに近年では，その生物の生活史の全部，もしくは一部を人間の管理下において育成し，人類の食糧として利用しようとする漁業形態も生まれ，「栽培漁業」とか「育てる漁業」とか呼ばれている。

【漁業法】漁業生産についての基本的な制度を定めた法律である(現行法1949年)。江戸時代には，沿岸漁場は部落総有の形態，沖合いは共同利用に開放されていたし，その後期には，一部では領主の許可による独占漁場が分化されていた。明治維新を迎えて，海面の国有宣言と，従来の漁業上の慣行との間に，一時混乱が生じたが，漁業組合準則1886年(明治19)の制度期を経て，1901年はじめて旧漁業法が成立，漁業権制度が確立され，慣行との調整に成功した。次いで第2次世界大戦後，現行漁業法が制定されたが，水面を総合的に利用し，生産力を増すことに努め，民主的な運用を期したのが現行法である。海・河川・湖沼に本法は適用され，領海内では外国人に対しても本法は当然適用されるものである。

【日本の漁業，世界の漁業】過去におけるＦＡＯ(国連食糧農業機関)の統計資料によると年間漁獲量100万t以上の国は，ソ連・日本・ペルー・アメリカ・ノルウエー・チリー・スペイン・カナダ・アイスランド・イギリスなどである。長い間世界一の漁業生産をあげてきた日本の漁業も，ペルーにその位置を譲って久しいし(1962年以降)，1975年にはソ連の漁獲増が日本を抜き第1位となった。ペルーの漁獲高の主体は，同国沖のアンチョベタによるものであるため，海の状態がアンチョベタの生息に不適当になる(エル・ニイーニヨ)と，大量斃死が起こり総漁獲も急激に減少することが起こる。日本やソ連のように，対象魚種が多岐にわたっていると，年漁獲総量の変動は小さく，安定している。

ソ連・アメリカ・カナダや北欧諸国は一般に古くから漁業生産が多く，みずからの需要を満たして,他国に余剰物を輸出している水産国と考えてよかろう。特にソ連は動物蛋白を海洋生物に求めているため，漁船数，漁獲量共に世界第一位を占めるに至った。

わが国の1975年の総漁獲高約1,000万tのうち，約200万tは北洋のスケトウダラによるものである。近海産の大衆魚であるサンマやアジの漁獲は減少しているが，マイワシ資源量が1970年代に入り大幅に増大してきている。サバ資源もおよそ40万ｔ前後の漁獲が維持されているが，近海の多獲性回遊魚には，資源量の増減が顕著で，また卓越魚種の交替のあることも，長年の漁獲統計をみるとわかる。北洋のサケ・マスに対する国際規制の強化のため，その漁獲量は減少しているし，マグロ類の漁獲の減少は，主として資源水準の低下に起因するものである。今後，日本の遠洋漁獲物の増大は，二百海里漁業専管域の設定の拡大とともに大きくは望めないであろう。政府や業界はこれをおぎなうために，沿岸浅海域を中心とした海面での増養殖漁業に力を入れてきている。〔石野　誠〕

ぎょぎょうきしょう【漁業気象】 産業気象学の一部門。漁業者のための，航海や操業・経営にとって必要な海洋気象学である。その内容は，高気圧・低気圧の動き，風や風浪の強さ，うねり・海霧・流氷などの研究，および情報の伝達をも含む。この情報は，漁業者を主対象とするから，海況も重要なものである。漁業気象学に関しては，わが国のそれは世界で最も進んだ情報を提供しているといえる。国内数か所に海洋気象台が設置されていて，それぞれの海域を分担している。函館(はこだて)海洋気象台は，北洋漁場の気象・海況の通報をも行ない，特にオホーツク海の流氷情報の伝達など重要である。長崎海洋気象台は，おもに九州西方海域・東シナ海・黄海方面の漁場に対して，海況図を含む漁業気象通報を流し，漁業者に喜ばれている。神戸(こうべ)および舞鶴(まいづる)海洋気象台も，それぞれの海域について業務を分掌している。しかし，これにも漁船のほうからの気象・海象のデータの提供が十分あることが前提となっている。気象庁からは，ラジオを通じての漁業気象通報のほか，ファクシミリによって天気図・海況図が放送され，海上で直接生産に従事する者をはじめ，水産加工業者にも，有効に利用されている。〔石野　誠〕

ぎょぎょうきょうどうくみあい【漁業協同組合】 組合員である漁民に,直接的に奉仕することを目的とした，組合組織の法人で，信用・販売・購買・利用などの事業を行なっている。地区組合と業種別組合とがある。地区漁業協同組合は，年間30～39日の間で，定款で定められた日数以上，漁業に従事する漁民を正会員としている。沿海の漁業協同組合のほとんどはこれで，組合員の福利厚生，経済的地位の向上などのための事業を行なう。また，みずから漁業を自営することもできる。都道府県単位で，漁業協同組合連合会(県漁連などと略称)があるほか，さらに上部組織として，全国漁業協同組合連合会(全漁連)がある。業種別漁業協同組合は，サケ・マス・マグロ漁業など，特定の漁業を営む者に限定した組合で，設立，組合員の資格，事業なども地区漁業協同組合のそれに準じている。たとえば,日本カツオ-マグロ漁業協同組合連合会(日カツ連)は,カツオ-マグロ漁業協同組合の全国的なものとしての組織である。〔石野　誠〕

ぎょぎょうけん【漁業権】 一定の漁場内で，特定の漁業を他人を排除して，独占的に営むことのできる権利。この漁業権に基づいて営むことのできる漁業が漁業権漁業であり，大別すると免許漁業・許可漁業・自由漁業に分けられる。所轄大臣もしくは知事の許可を受けた許可漁業は，免許漁業ほど独占排他的ではない。自由漁業といえども，所轄知事に届け出て行なうものであるから，だれでも自由に漁業を営むことができるという意味ではない。

漁業権漁業

免許漁業	定置漁業	定置漁業①～②
	区画漁業	第1種～第3種区画漁業
	共同漁業	第1種～第5種共同漁業
許可漁業	指定遠洋漁業	大形捕鯨業 以西トロール漁業 以西機船底引き網漁業 遠洋カツオ-マグロ漁業
	指定遠洋漁業以外の農林大臣許可漁業	中形機船底引き網漁業 中形カツオ-マグロ漁業 小形捕鯨業 大形旋網漁業 指定中形旋網漁業 母船式漁業 シロチョウガイ等採取業 サケ-マス流し網漁業 トロール漁業
	地方長官許可漁業	中形旋網漁業 小形機船底引き網漁業 瀬戸内海機船底引き網漁業 その他
自由漁業		

ぎょぎょうじょうやく【漁業条約】 漁業を行なううえで必要な国際間の取りきめのうち,国会で批准されたもの。国際間の漁業紛争を除く目的や，漁業資源の保護を目的とし，従来から関係国間で話し合いが持たれてはきたが，自国地先沖合海域の漁業開発が進むにつれ，ますますその必要性が増大してきている。国会で批准された漁業条約のほかに，実効上では差のない政府間の合意に基づく協定や，政府が直接介入しない民間協定が結ばれる場合もある。我が国では国際捕鯨取締条約，北太平洋の公海漁業に関する国際条約，大西洋まぐろ類の保存のための国際条約，北西大西洋の漁業に関する国際条約，南東大西洋の生物資源の保存に関する条約などを批准している。政府間の協定としては，日ソ漁業暫定協定やソ日漁業暫定協定，日本と大韓民国との間の漁業に関する協定などがある。日中漁業協定などは，民間レベルで定められた協定である。いずれも国際紛争を未然に防ぎ，漁業権益を守るために役立っている。〔石野　誠〕

ぎょぎょうせんかんすいいき【漁業専管水域】 自国地先の漁業資源を保護する目的や，漁業それ自体を保護するために，領海の外に一定水域を設定して，他国の漁業を制限もしくは排除することがある。この水域を漁業専管水域といい，旧海洋法時代から一部の国家では実施してきた。新海洋法が論議される過程では他の資源確保も含め，排他的経済水域という表現が用いられ，それらに対して，沿岸国の主権が及ぶものとされてきている。しかし実際に開発利用の対象となっているものは生物資源や，石

油・天然ガスなどの化石燃料資源である。中でも漁業資源の利用が進んでいるため，各国はいち早く排他的経済水域二百海里の中で，いち早く漁業専管水域を設定して，自国の漁業権益の確保につとめている。漁業専管水域内の漁業を継続していくためには，沿岸国との間に新たな漁業協定の締結が必要である。〔石野　誠〕

きょく　【極】　⇨磁極

きょく　【極】

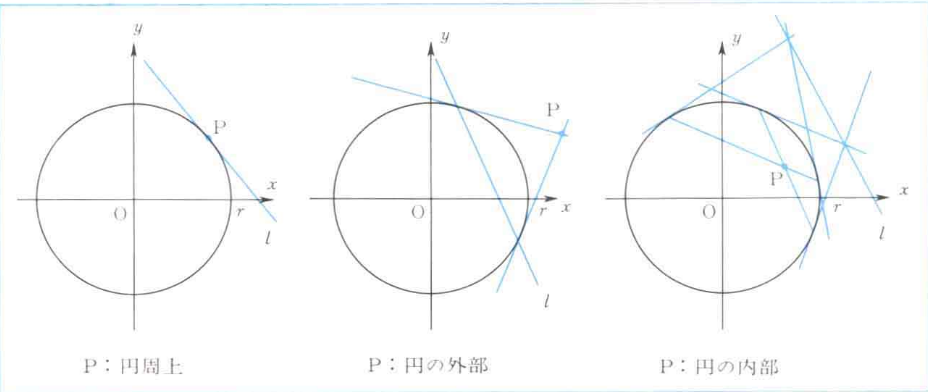
1数学：点P(x_0，y_0)が円$x^2+y^2=r^2$の上にあるとき，直線l：$x_0x+y_0y=r^2$はPにおけるこの円の接線となる。また，Pがこの円周上にないときは，直線lは図のような位置にある。この点Pを円$x^2+y^2=r^2$に関する直線lの極といい，直線lを点Pの極線という。極および極線の概念は，一般の円錐(えんすい)曲線の場合に一般化することができる。➔極座標

2地学：①地球の自転軸と地球表面との交点(北極と南極)。極を基準にして地理学上の緯度が定まり，極の緯度は90°である。極は地球表面に固定されたものでなく，わずかではあるがたえず移動している(➔極運動　➔緯度変化)。②地球の自転軸と天球との交点(天の北極と天の南極)。赤道の極という場合もある。極は天体の日周運動の中心である。現在はこぐま座のα星の近くに位置するが，歳差*によって天球上を移動し，黄道の極のまわりを約23.5°の半径で約26,000年の周期で回っている。③地球の中心を通り，黄道面に垂直な直線が天球と交わる点。黄道の極という。

3物理学：①磁極のこと。物体が磁気作用をもつとき，その作用の最も強い部分。N極とS極とがある。②電極のこと。真空または誘電体中に電界をつくるため，あるいは媒質中に電流を流すために外部導線とつながる一定の形をした導体。真空管の電極，電池の電極など。

4生物学。➔極性　➔動物極

ぎょく　【玉】　中国では古くから玉器*が愛好され，玉についての記述は《書経》にすでに現われている。その文章から，産地は崑崙(こんろん)山脈であったことがわかる。玉でつくった種々の器や飾り物は，東洋一般で最も高価なものとされてきた。また，ニュージーランドのマオリ族の先祖，スイスの湖上部落，アメリカ-インディアンなどの新石器時代遺物の中にも，玉でつくられたおのや武器などが見いだされる。以上はいずれも軟玉系統のもので，硬度が6～6.5，比重は2.9～3.1であるが，硬玉系統のものは硬度6.5～7，比重3.3である。硬玉は軟玉よりも産出がまれなのでいっそう高価で，その中でも美しい緑色のものはヒスイ*(翡翠)として宝石の扱いを受けている。良質の原石の産地はビルマの奥地に限られており，広州がその取引の中心である。また，鉱物組成では，軟玉はトウセン石またはアクチ



極



玉　(上)筆洗い(黄玉)　(下)筆置き(翡翠)

ノセン石(いずれもカクセン石*の一種)の微晶の緻密(ちみつ)な集合体であり，硬玉はヒスイキ石(キ石*の一種)である。いずれも，塊状の集合体が全体として脂(あぶら)の凝り固まったような乳白色・半透明の感じを与え，細工を施すときにひび割れなどがはいりにくく，仕上がりのはだがなめらかなものが珍重される。色調としては白の中に，緑・黄など種々の色を不規則におびることがある。〔片山信夫〕

ぎょく　【漁区】　特定漁場の区域。すなわち，漁業を行なう上で，種々の規定で定められた特定の水面区域をいう。国際間の紛争を避けるためのもの，各漁業組合間で定められるもの，同一魚種を目的とした異漁業形態間で定められるものなどがある。競合を避けたり，資源保護に重点を置いて定められる例が多い。

ぎょぐ　【漁具】　魚・貝・海藻(かいそう)その他の水産生物を採捕するために用いる機具・器材の総称。したがってこの中には，直接漁獲のために用いられる主漁具，主漁具の働きを助ける副漁具が含まれている。定置網やつり具などは主漁具であり，集魚燈*や魚群探知機*は副漁具にあたる。漁具はまた，使用の方法によって，運用漁具(能動的に使用するもの)や定置漁具(一定期間一定場所に敷設して使用する)に区分されることもある。漁具はふつう，網漁具・つり漁具，その他に分類される。①網漁具：これは網地類・綱類・うき・おもりの全部もしくは一部からなる。使用目的・場所・時期・漁労方法などにより，漁具の大略の形と規模が決まる。網地の材料・品質・太さ，網目の大きさ，ロープの太さなどは，材料表を用意することによって決められ，網地の配置，縫い合わせ方法などは，漁具使用書や設計図・展開図などを用意し，これに従って構成していく。網地とロープとの結合をする場合などに，網地の水中での形状を考慮して，縮結(いせ)を入れる。各構成部分の材料力学的な検討を加えておけば，力学的にも平衡のとれた網具ができあがる。②つり漁具：つり糸とつり針*からなり，必要に応じてさおが用いられる。つり針の大きさと形状は，目的とする生物の習性や大きさ，漁法により決定される。したがって，その形状はまさに千差万別である。つり糸は，細くて水切れがよく，強靱(きょうじん)であることが必要条件である。第2次世界大戦後は，旧来の天然繊維から，ほとんどが合成繊維に変わってきている。つりざおは魚の〈あたり〉に合わせて魚を確実に針にかからせることや，かかった魚の抵抗を緩和し，つり糸の切断を避けるのに役だつ。③その他：雑漁具の中には，ウナギやクジラを突く刺突漁具や，アワビをとる板金など簡単なものも含まれる。〔石野　誠〕

きょくあじさし　【極鰺刺】　鳥類・カモメ科。全長35～40cm，くちばしは赤色，頭は黒色，背は灰白色，尾は白色。おもに北極周辺の海岸と河川の流域で繁殖。わが国には未記録。海岸に沿って長い渡りをするので有名で，たとえば，標識調査の結果によれば，1951年7月15日にグリーンランドで放した鳥が10月30日に南アフリカ連邦で発見されており，この間に約18,000kmを飛



玉　澗
《山市青嵐図》 南宋

行したと考えられる。また，南北両極圏間を渡り回って生活しているものもあると考えられている。〔安部直哉〕

きょくうんどう【極運動】 地球の自転軸が地球表面と交わる点(つまり地球の両極)が固定されていないで，平均の位置から半径約10mの範囲内を，たえず反時計回りに移動している現象。極運動は地球の自転軸が地球の形状軸と一致していないことに起因し，1765年にオイラー*によって理論的に指摘され，1890年ごろドイツの天文学者K.F.キュストナーとアメリカの天文学者S.C.チャンドラーが緯度の観測から発見した。観測によれば，極運動は約12月と約14月の周期運動の合成であり，後者をチャンドラー周期という。極運動のため，地球上各地の天文経緯度はたえず変動しているが，これを観測するために北緯39°8′上に数か所の緯度観測所*が置かれている。わが国の水沢緯度観測所*はその一つで，1962年(昭和37)以後国際的な極運動観測の中央局となっている。 →緯度変化 →経度変化 〔木下　宙〕

ぎょくかい【玉海】 ⇨玉葉

きょくかく【極核】 めしべの子房中の胚嚢(はいのう)の中央に位置する2個の核。上極核と下極核とあり，のちに合一して中心核となる。花粉管の精核の1個と受精して3倍数染色体をもつ核となり，分裂をくり返して胚乳の組織をつくる。→胚嚢

ぎょくかん【玉澗】 若芬(じゃくふん)玉澗。中国，南宋(なんそう)末から元にかけての水墨画家。字(あざな)は仲石。杭州(こうしゅう)の上天竺(じょうてんじく)寺の書記をつとめた僧で，雲山を映すことにすぐれた筆意があり，枯木・波岸・万里江山などを描いたと伝えるが，特に瀟湘(しょうしょう)八景*を描いた潑墨*(はつぼく)の山水が有名である。晩年は自然のうちに身を潜め，亭(ちん)をつくって玉澗という扁号(へんごう)を掲げていた。室町期以降のわが国水墨画に与えた影響は牧谿*(もっけい)と並んで大きい。《瀟湘八景》のほか《廬山図(ろざんず)》が現存する。なお，同期に同号を号した画家には孟(もう)玉澗・彬(さん)玉澗・瑩(えい)玉澗らがいる。〔中島純司〕

ぎょくがん【玉眼】 仏像*の眼を表現する方法の一。仏像の眼は木彫ではそのまま木を刻んでつくるのが普通で，これを彫眼という。これに対して仏像の頭部を裂いて内部からガラス玉，または水晶を挿入(そうにゅう)したものを玉眼という。この方法はすでに平安末期の様式をもつ仏像に採用されているが，《吾妻鏡(あづまかがみ)》には運慶*がはじめてこれを用いたと記している。運慶のころにこの方法が完成の域に達したものであろう。〔大谷旭雄〕

きょくきどう【極軌道】 赤道面と90°，もしくはそれに近い角度をなすような軌道面をもつ人工衛星の軌道。完全に90°の軌道面であれば，その人工衛星は地球の両極の真上を通る。90°に近いだけのときは，両極の真上とはならないが，極の上空の近くを通過する軌道となる。いずれにしても，そのような人工衛星からは自転する地球のほぼ全表面を見おろせることになるので，地球の全域を見渡すことを必要とする人工衛星では極軌道をとるようにする。偵察(ていさつ)用の軍事衛星とか気象衛星などである。極軌道をとらせるためには，南北の方向に近い角度で発射する。したがって，人工衛星にその必要とする速さを与えるのに，地球の自転のために生ずる地表の速度を利用できない。極軌道を描いた最初の人工衛星はアメリカのディスカバラー衛星1号で，1959年2月に打ち上げられた。〔新羅一郎〕

きょくげい【曲芸】 大衆芸能の一種。アクロバット*のように高度の技術訓練を経た芸。古代エジプト・ローマ・ギリシアにすでに綱渡りやアクロバットの記録があり，それがのちにサーカスなどに受け継がれた。日本では，奈良時代，散楽*の一部として中国から伝来したのがはじまりで，江戸時代には，さら回し・曲ごまなどの曲芸が行なわれたが，明治になると西洋曲芸も移入され，寄席(よせ)やサーカスなどで多種多様に行なわれるようになった。〔興津　要〕

きょくけいどうぶつ【曲形動物】 動物分類上の一門名。内肛(ないこう)動物ともいう。体は本体と柄とに分かれ，柄で他物に付着して生活する。本体は萼部(がくぶ)とよばれ，上部に触手が環状に並び，その中に口と肛門が開くが，体腔(たいこう)はない。多くは5mm以下の小動物で，淡水産2種，汽水産1種のほかはすべて海産。世界に約60種といわれる。研究は十分進んでいないが，体腔がない点などから，扁形(へんけい)動物*に近いものとされることが多い。ウミウドンゲの類を含み，このうちスズコケムシは全長5mmほど，萼部は白色，柄は淡かっ色で，干潮線下の岩石・貝類・海藻(かいそう)などに付着する。ほとんどが全世界に分布する種類で，日本でも太平洋に普通に見られ，姿・形はうどんげ*によく似ている。〔菅野　徹〕

きょくけん【極圏】 地球の66°30′の緯線より高緯度の地域。北半球の地域を北極圏，南半球の地域を南極圏という。前者は主として北極海で占められ，後者は主として南極大陸により占められる。

きょくげん【極限】 関数 $f(x)$ において，xが一定の値aに限りなく近づくとき$f(x)$が限りなく一定の値bに近づくならば，関数$f(x)$には，xがaに限りなく近づいたときの極限が存在して，その極限値はbであるという。あるいは，xがaに限りなく近づくとき，$f(x)$はbに収束するともいう。このことを，記号で$\lim_{x\to a} f(x)=b$と書き，たとえば次のように計算される。

$$\lim_{x\to 2}\frac{x^2-x-2}{x-2}=\lim_{x\to 2}\frac{(x-2)(x+1)}{x-2}$$
$$=\lim_{x\to 2}(x+1)=3$$

極限をとる計算は，微分係数*や定積分の値を求めることの基礎である(→積分)。極限をとる計算は，ニュートン*とライプニッツ*がはじめて組織的に用いたが，極限の概念を明確にしたのはコーシー*である。〔青柳雅計〕

きょくこうきあつ【極高気圧】 氷におおわれている北極・南極付近に形成される寒冷高気圧。シベリア高気圧*と同じく，地表から冷却されてできるもので，背が低い。高気圧の中心は極の中心とは一致せず，冬の北極では太平洋側にずれている。近年，極の寒冷化が強まっており，そこから流出する寒気のために日本付近の天候にも大きな影響を与えている。

きょくざひょう【極座標】 点の位置を表わす方法の一。平面上に定点Oと半直線OXをとり，この平面上の任意の点Pに対して，$OP=r$，$\angle XOP=\theta$であるとき，(r, θ)を点Pの極座標という。点と極座標を1対1に対応させるために，$0\leqq r$，$0\leqq\theta<2\pi$と定める。Oを極，OXを始線という。直交座標の原点を極座標の極とし，x軸の正の部分OXを始線とするとき，点Pの直交座標(x, y)と極座標との関係は，$x=r\cos\theta$，$y=r\sin\theta$，$r^2=x^2+y^2$，$\tan\theta=\frac{y}{x}$である(→座標)

三次元空間においては，点$P(x, y, z)$の極座標(r, θ, φ)を$x=r\sin\theta\cos\varphi$，$y=r\cdot\sin\theta\sin\varphi$，$z=r\cos\theta$，$r\geqq 0$，$0\leqq\theta\leqq\pi$，$0\leqq\varphi\leqq 2\pi$で定義する。〔青柳雅計〕

ぎょくざん【玉山】 ユイ山 台湾中央部にある台湾山脈の主峰。標高3,950m。土語でバットンクァン，欧米ではモリソン山という。日本領有時代は新高(にいたか)山といった。

第三紀層よりなり，山麓(さんろく)から山頂にかけて，熱・暖・温・寒の各植生帯がみられる。陳有蘭渓(ちんゆうらんけい)・荖濃渓(ろうのうけい)・楠梓仙渓(なんしせんけい)などの諸川が発源し，いずれも深い峡谷を形成している。

きょくさんじん【曲山人】(？～1836) 江戸後期の人情本*作者。江戸の生まれ。本名仙吉(せんきち)，別号三文舎自楽，司馬山人。はじめ読本*・草双紙*(くさぞうし)の浄書などに従い，人情本《仮名文章娘節用*(かなまじりむすめせつよう)》を書いて好評を博した。また《教外俗文娘消息》は愛欲描写のみに走ることなく，場面・背景の描写にも意を用い，特に近世末期の江戸庶民の女性風俗を描いて巧みであった。

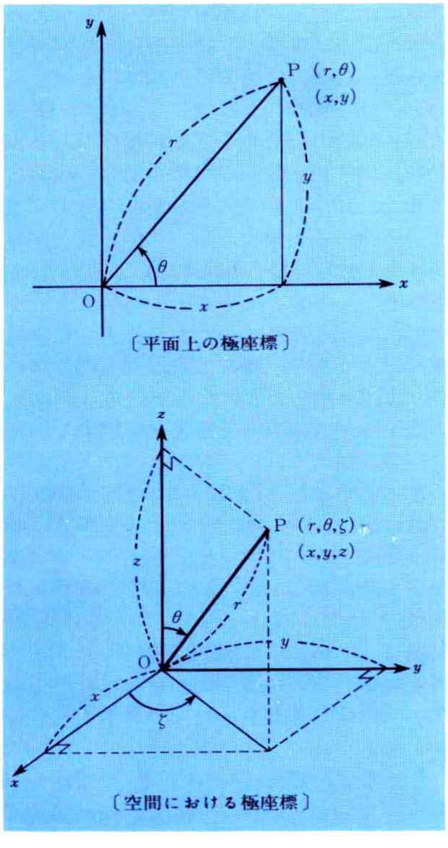
きょくし【局紙】 大蔵省印刷局で1879～1880年(明治12～13)ごろに創製した和紙。ミツマタを原料とし，一種の溜漉(ためずき)法ですいた厚紙で，株券・証券・賞状などに用いられる。現在は福井県今立郡今立町で産する。機械ずきもある。

きょくしょう【極小】 ⇨極大

ぎょくずい【玉髄】 セキエイの微小結晶が網目状に集まり，超顕微鏡的な細孔をもつ，ケイ酸の緻密(ちみつ)集合体。脂肪光沢，透明または半透明。玉髄は，乳白色・半透明でほぼ均質な玉髄とよばれるものと，しま状または同心円状に赤みをおびたメノウ*に分けられる。変種に，紅玉髄(酸化鉄のために赤みをおびる)・チャート*・ケイ化木*がある。飾り石として用いられる。各種の岩石のすきまを埋めて産する。



玉　髄　茨城県諸富野産



極座標

きょくすいようしき【曲水様式】 庭園に東から南へ，南から西へと稲妻形に流した遣水(やりみず)。奈良時代に始まり，中国の〈曲水宴〉の故事によっている。のちに，池を細くして曲線を多くしたり，普通の流れでも稲妻形にしたり，枯山水*の枯流れをこの形にしたものを，曲水様式と称した。三重県の北畠神社庭園などは有名である。

きょくせい【極性】 生物体または器官・組織・細胞などが，ある一つの軸に沿って生理的または形態的に互いに相異なる性質をもっているとき，これを極性といい，この軸の両端を極という。たとえばヤナギの木は上部に枝葉を，下部に根をもっているが，この枝の一部を切り取って適当な環境に置いてやると，もとの上下位置に無関係に置かれた場合でも(倒立させたり横臥(おうが)させても)つねにもとの木についていたときの上の部分からは葉条が，下の部分からは不定根が形成されてくる。このことはその部分ごとに植物体自体に備わった極性の結果決まることで，単なる重力によるものでないことを示している。動物でも，プラナリアなどで体を横断すると，頭方に面した切断面からは頭部が，尾方に面した切断面からは尾が再生してくる。極性は生物体の各部分の違いが内因的な違いに由来することを示しているが，なぜこのような極性を生ずるか，またこの極性の原因がなんであるかについては不明の点が多い。おそらくこの軸に沿って物質代謝活性の勾配(こうばい)があるためではないかと考えられており，事実，代謝制御剤を生物に与えて極性を転換させたり，喪失させたりすることができる。➔分化　➔再生　〔吉田精一〕

きょくせん【極線】 ⇨極

きょくせん【曲線】 ユークリッド*が線についてその著《ストイケア*》で〈線は幅のない長さ〉〈線の端は点〉などと，直覚的な説明をしているように，線は平面上または空間内の一次元的な点の集合である。線は，常識的には直線とそれ以外の線(曲線)に区別できるが，数学的にはこの区別はあまり意味がない。それで，直線と曲線をひっくるめて曲線という場合もある(➔直線)。

19世紀末にフランスの数学者ジョルダンは，曲線を解析的に説明した。平面上の曲線についてそれを紹介しよう。

〔ジョルダン曲線〕 f,g を〔0,1〕で定義された連続関数(➔関数)とし，t を媒介変数*として $x=f(t)$，$y=g(t)$，$0 \leqq t \leqq 1$ で表わされる座標(x, y)をもつ点の集合を連続弧(ジョルダン弧)という。このとき，2点$(f(0), g(0))$，$(f(1), g(1))$を端といい，異なるt_1，t_2に対して$f(t_1)=f(t_2)$，$g(t_1)=g(t_2)$となることがあれば，点$(f(t_1), g(t_1))$を重複点という。重複点のない連続弧を単純弧といい，両端が一致する連続弧で，それ以外に重複点のないものをジョルダン曲線(単一閉曲線)という。円・楕円(だえん)などはその例である。平面上のジョルダン曲線は，その平面を内部と外部の二つの領域に分ける。これをジョルダンの曲線定理という。一般的にいって，曲線は，有限個の連続弧が連結したものである。➔図-1(次ページ)

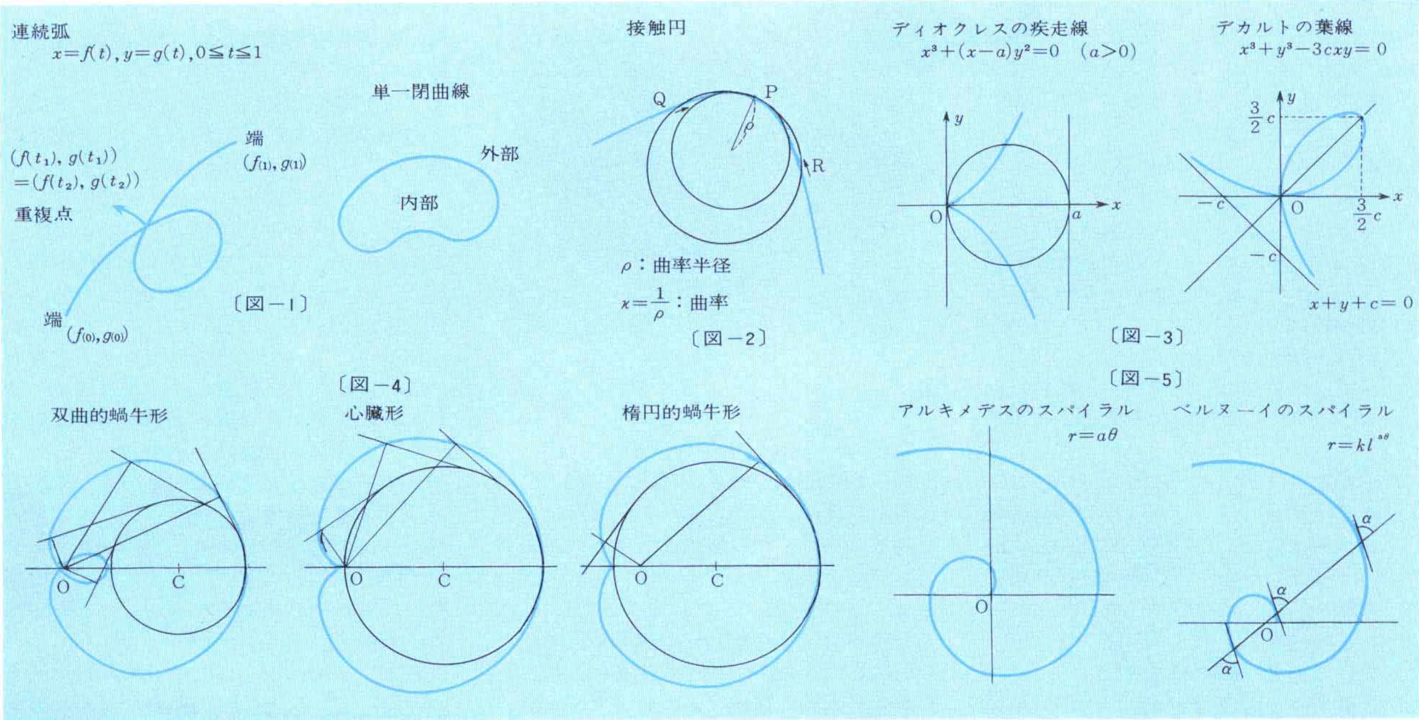
〔曲率〕 平面曲線上の1点Pに近い曲線上の2点をQ，Rとし，3点P，Q，Rの定める円がQ，RをPに近づけるとき，ある一定の円に限りなく近づくならば，その極限として定まる円を，点Pにおけるこの曲線の接触円という。この接触円の半径を曲率半径，その逆数を曲率という。➔図-2

〔曲線の長さ〕 連続曲線上の2点P，Qの間の弧をn個に分ける点を$P=P_0$，P_1，P_2，…，P_{n-1}，$P_n=Q$とし，nを限りなく大きくして最大の線分$P_{k-1}P_k$を0に近づけたとき，n個の線分の和である$\sum_{k=1}^{n} P_{k-1}P_k$が有限で一定な値に近づくならば，その極限値をこの曲線のPからQまでの長さという。曲線の方程式を$y=f(x)$，P，Qのx座標をそれぞれa，bとするとき，PからQまでのこの曲線の長さlは$l=\int_a^b \sqrt{1+|f'(x)|^2}\,dx$で表わされる。

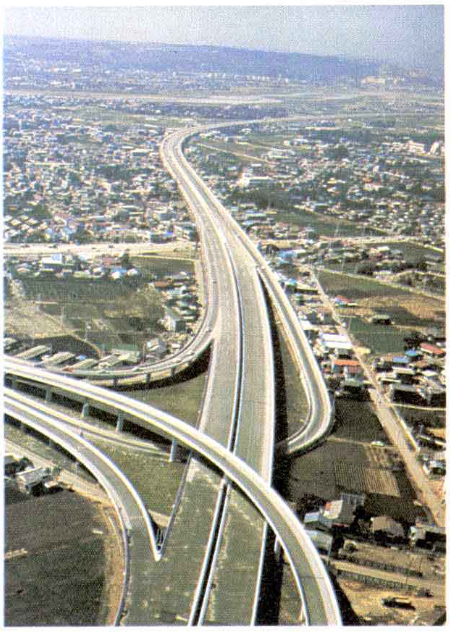
〔代数曲線・超越曲線〕 $f(x, y)$を2変数x，yの多項式とするとき，x，y直交座標に関して$f(x, y)=0$の表わす曲線を代数曲線という。このとき，$f(x, y)$の次数をその曲線の次数といい，一次の代数曲線は直線，二次の代数曲線はいわゆる円錐(えんすい)曲線*になる。代数曲線でないものを超越曲線といい，正弦曲線・指数曲線・対数曲線などはその例である。

1 三次の代数曲線として$f(x)+(x-a)y^2=0$(ただし$f(x)$は三次以下の多項式)の形で表わされるシッソイド(疾走線)がある。特に，$f(x)=x^3$のときの曲線をディオクレスの疾走線といい，$f(x)=x^2\left(\frac{x}{3}+a\right)$のときの曲線を原点のまわりに$\frac{\pi}{4}$だけ回転すれば，方程式は$x^3+y^3-3cxy=0$の形になる。これをデカルトの葉線という。➔図-3

2 四次の代数曲線の例としては，$(x^2+y^2-ax)^2=b^2(x^2+y^2)$の形で表わされるリマソン(蝸牛(かぎゅう)形)がある。これは定点Oから定円Cの接線へおろした垂線の足の軌



曲　　線



曲 線 橋



曲 線 計



玉 泉 寺　本堂

跡で，その定点Oが円外・周上・円内にあるに従って，それぞれ双曲的蝸牛形($a>b$)，心臓形($a=b$)，楕円的蝸牛形($a<b$)とよばれる。➔図-4

③スパイラル(うずまき線・らせん)の多くは極座標(r, θ)を用いて表わされる。最も簡単な式$r=a\theta$で示される曲線は，アルキメデス*によって研究され，極を通る2直線$\theta=\theta_1$, $\theta=\theta_2$($\theta_1<\theta_2$)とこの曲線によって囲まれる部分の面積は，$a^2(\theta_2^3-\theta_1^3)/6$なることが発見されたので，この曲線をアルキメデスのスパイラルという。さらに，方程式$r=ke^{a\theta}$で示される曲線は，極を通る直線とこれが曲線と交わる点における接線とのなす角が一定であり，この曲線の伸開線*・縮閉線*はいずれもこの曲線と合同であることをJ.ベルヌーイ*が発見した。それでこの曲線をベルヌーイのスパイラルという。➔図-5　〔菊池兵一〕

きょくせんきょう　【曲線橋】　橋体の平面形状が曲線をなしている橋。高速道路などの建設に際しては，道路の機能に重点が置かれるので，その面からの要求によって曲線橋を架設する機会が多くなった。通常の直橋に比べて，設計・製作・架設などのいずれの点からもより高度の技術が要求されるが，最近の構造工学の進歩によって，いまでは一般的なものになっている。橋体にねじり力の作用することが特徴で，そのため，中空箱形断面を有する桁(けた)構造にすることが多い。全体がS字形をしているものは特にS字橋とよぶ。〔堀井健一郎〕

きょくせんけい　【曲線計】　曲線の長さを測定する器械。キルビメーターともいう。曲線に沿って先端についている小さな導輪を回転させると，進んだ曲線上の長さが目盛りに示されるようになっている。地図上の曲がった道路や川の長さを測定するのに便利で，最近では小形の普及型もある。

ぎょくせんじ　【玉泉寺】　静岡県賀茂(かも)郡下田町にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。山号は瑞龍山(ずいりゅうざん)。開山は一嶺(いちれい)俊栄。本尊は釈迦(しゃか)如来。現存の本堂は天正年間(1573～1591)の創建。日米和親条約に基づいて1856年(安政3)着任したアメリカ総領事ハリス*の領事館となったことで有名。境内にアメリカ・ロシア海軍軍人の墓がある。

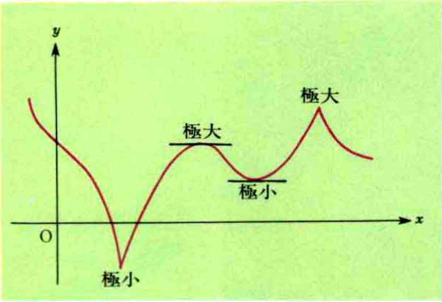
きょくぜんせん　【極前線】　極付近をおおう極気団とその南側(南半球では北側)にある寒帯気団の間に形成される前線。ポーラーフロントともいう。極前線は固定した

位置にあるのではなく，発生しては移動するという流動的なもので，平均位置は夏季は北に寄り，冬季は南に寄る傾向をもっている。この前線に低気圧が発生し，前線に沿って移動することが多く，悪天候をもたらす。

きょくそう 【極相】 安定期・クライマックスともいう。群落*が遷移によって長期間変わることがなく，安定したものになっている状態をいう生態学用語。極相に達した群落(極相群落という)は，比較的少数の種類が優占し，他種の侵入を許さない。気候条件の同じ地域には必ず同じ生活形をもつ極相群落が出現するとする考え(単極相説)と，気候条件が同一でも土壌(どじょう)条件の相違で異なる生活形をもつ極相群落が出現するという考え(多極相説)とがあるが，後者が一般的である。〔船越真樹〕

きょくたい 【極体】 卵子形成の際にできる特別な細胞の一種。生殖細胞のいちばんもとになる始原生殖細胞は，生殖巣の中で分裂をくり返して増殖する。次いで分裂をやめて肥大する成長期にはいり，卵母細胞とよばれるようになる。卵母細胞は2回の細胞分裂，すなわち減数分裂*を続けて行なうが，これは著しい不等分裂で，分裂した細胞の細胞質の大部分は一方に集まり，他方は核とごく少量の細胞質を含む小さな細胞にすぎない。この小さいほうの細胞を極体とよび，そのできる位置は卵の動物極となる。このように第1回めの減数分裂で極体ができることを，残った大形の卵母細胞をもととして考えるとき，極体の放出という。続いて第2回めの分裂によってほぼ同じ場所に極体ができ，成熟卵ができる。〔蒲原春一〕

きょくだい 【極大】 曲線や曲面が，ある1点において近くの他のどの点よりも高く盛り上がっている状態を極大，近くの他のどの点よりも低くなっている状態を極小という。連続関数$f(x)$が，絶対値の十分小さな($h \neq 0$)に対して，$f(a+h)<f(a)$が成立するとき，$f(x)$は$x=a$において極大であるといい，$f(a+h)>f(a)$が成立するとき，$f(x)$は$x=a$において極小であるという。この場合の関数値$f(a)$を，極大値または極小値という。極大値と極小値を合わせて極値という。極値を求めるには，微分可能な範囲内で，$f'(a)=0$となる点を見いだし，$f''(x)$が$x=a$の近くで連続ならば，$f''(a)>0$のとき$f(a)$は極大値，$f''(a)<0$のとき$f(a)$は極小値をとる。微分可能でない範囲では，その前後での関数の増減を調べることで極大かどうかがわかる。〔青柳雅計〕



極 大・極 小

ぎょくだいしんえい 【玉台新詠】 中国，六朝(りくちょう)時代の詩集。10巻。陳の詩人徐陵(507〜583)が梁(りょう)代，簡文帝の命により編集。古代から梁代までの詩，特に男女相思の情をうたったもの，およびそれに関係あるものを選んで収録。艶麗(えんれい)な作風を特色とする。

きょくち 【極地】 ⇨極

きょくちしょくぶつ 【極地植物】 寒帯より高緯度の極圏に生育する植物。全域が永久凍土層上にあり，夏でも平均気温は10℃以下で，植物の生育期間は2〜3か月にすぎない。このため，温度変化・凍結・融解に耐え，ごく少ない降水量で生活できる一群の植物のみが生育する。北半球の極圏では，地衣・コケ類を中心とする植生がみられ，一年生草本は少なく，スゲ*・イワヒゲ・ツガザクラ*などの多年生草本・低木が混じって生育する。低温のため生長はおそく，森林はつくらない。森林限界付近の低緯度地帯にのみ高木が生育する。南半球の極圏では，イネ科やカヤツリグサ科の草本が中心で，地衣・コケ類は比較的少ない。〔船越真樹〕

きょくちふう 【局地風】 地形の影響によって，その地域に特有の吹き方をする風。風害などの調査によって，局地的な強風について多くのことが知られている。局地風のおもなものには，海陸風*・山谷風*や山越え気流，谷間を吹き抜ける風などがある。海陸風と山谷風は，場所によって日射による地表の熱せられる度合いが異なるために起こる現象であり，山越え気流と谷間を吹き抜ける風は，自由に吹いている風が地形の影響で変形される現象である。

海陸風は沿岸地方で現われる強風の性質はないが，その地域の風向に影響し，大気汚染などの状況を変える。山谷風は盆地形などの起伏のある地域の風の吹き方と，それに伴う地表近くの気温に強い影響を与える。山越え気流には二つの側面があり，一つは山を越した気流の速度が下流で強まることであり，もう一つは気温が下流で上ることである。気温が下流で上るのは空気中に含まれている水蒸気のためで，空気が風上側で水蒸気の凝結により湿潤断熱*的に上昇し，山の下流では乾燥断熱*的に暖められながら下降し，かわいた暖かい風になる。この現象をフェーン*という。山越え気流の例は各地にあり，岡山県の広戸風，四国のやまじ風などは有名。関東地方の冬のからっ風もその一つで，北海道・北陸地方などにも多い。また，山のほうから吹き降ろす冷たい風を〈おろし*〉とよんでいるが，これは冷たい高原に堆積(たいせき)した冷たい空気が付近を通る低気圧などの影響で引き降ろされるために起こる場合であると考えられている。山形県の〈清川だし〉は山のくぼ地に堆積した冷たい空気が，低気圧のために谷間に沿って吹き降ろされて，平野に開けたところに起こる強風である。谷間を吹き抜ける風は，地形的にいって谷間が平野に開けるところで強風になることが多い。〔曲田光夫〕

きょくちほう 【極地法】 探検・登山用語。まずベースキャンプを設定して，逐次第1キャンプ・第2キャンプと前進基地をつくりながら目標点に迫る方法。1922年，イギリスの第1次エベレスト遠征隊が用いてから，ヒマラヤなどの規模の大きな山岳地での登山法として一般化した。日本国内でも，積雪期登山に多く利用されている。この方法は高度順応とパーティーの総合力を高めるのによいが，キャンプ設定やキャンプ間の荷上げに長い日程を要する。これに対して，山麓(さんろく)またはベースキャンプから一気に目標点に達する方法をラッシュ法という。〔大島幸夫〕

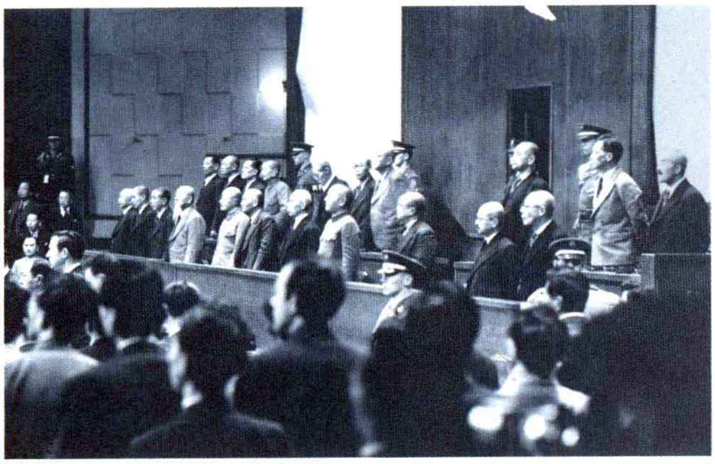
きょくちょうたんぱ 【極超短波】 ⇨電磁波

きょくちょうたんぱテレビ 【極超短波テレビ】 ⇨テレビジョン

きょくていおん 【極低温】 絶対0度に近いきわめて低い温度領域。ときには液化水素以下の温度をさすこともある。極低温では格子(こうし)の熱振動など熱運動の影響が小さくなり，高温では隠れていた量子効果が強く現われる。たとえば，超流動*や超電気伝導*などは極低温ではじめて現われる量子効果である。熱運動の影響が小さくなった場合の物質中の原子・分子あるいは電子のふるまいを調べるのにも極低温領域は重要である。4.2〜1.0°Kの温度領域は，ヘリウム^{4}Heの減圧で容易に得られる。1°K以下の温度を得るには次のような方法が利用される。^{3}Heの減圧によって0.3°Kまで，^{3}He-^{4}Heミックスチャーの混合熱を利用して10^{-3}°Kまで，常磁性イオンを用いる断熱消磁によって10^{-3}°Kまで，核スピンを利用した核断熱消磁によって10^{-6}°Kまでの温度が得られる。温度を読み取るのには，ヘリウムの場合はヘリウム蒸気圧温度計，断熱消磁の場合は塩の帯磁率の温度特性が利用される。〔中野藤生〕

きょくていばきん 【曲亭馬琴】 ⇨滝沢馬琴

きょくとう 【極東】 英語のファー-イーストの訳で，中国では〈遠東〉という。ヨーロッパ人からみてヨーロッパから最も遠い東洋をさしたもので，アジアの東部をいうが，その範囲は必ずしも明確ではない。1960年(昭和35)に締結され，1970年に自動延長された日米安全保障条約*でも極東の範囲については定義がなく，条約締結当時の



極東国際軍事裁判
被告席

両国政府の統一解釈では，フィリピン以北ならびに日本およびその周辺地域で韓国(かんこく)や中華民国(台湾)の支配下にある地域を含むものとされ，インドシナ半島は含まれていない。しかし地理的には，ふつうインドシナ半島のうちのタイ以東，マレーシア，インドネシア，フィリピン，中国の東部，朝鮮半島，東シベリア，日本などの地域をさし，その範囲はかなり広い。〔浅井得一〕

きょくとういいんかい【極東委員会】 第2次世界大戦後，降伏した日本に対して設立された連合国の管理基本政策の最高決定機関。アメリカの提唱により組織された極東諮問委員会を，1945年(昭和20)12月26日アメリカ・イギリス・ソ連3国のモスクワ会談*の決定で改組し，ワシントンに設置したもの。構成国は当初アメリカ・イギリス・ソ連・中国・フランス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・オランダ・インド・フィリピンの11か国であったが，のちにビルマ・パキスタンが加わった。決議は過半数でなされ，アメリカ・イギリス・中国・ソ連4国に拒否権*があった。対日講和条約*の発動に伴い自然消滅。〔広部和也〕

きょくとうこくさいぐんじさいばん【極東国際軍事裁判】 1946年(昭和21)第2次世界大戦後，日本の主要戦犯処罰のため，東京市ケ谷の旧陸軍士官学校で開廷された国際裁判。東京裁判ともいう。同年1月連合国司令官マッカーサー元帥の命令で設立，5月3日開始。アメリカ・イギリス・中国・ソ連など11か国が原告で，元首相東条英機*(ひでき)ら28名が起訴された。侵略戦争は犯罪か，不法な戦争による殺害は殺人罪になるか，国家への個人の責任の追及の是非などを主要争点に，起訴理由は55に上った。占領下という特殊事情の下で裁判は進行し，1948年4月6日審理終了。東条ら7名は絞首刑，終身禁錮(きんこ)16名，禁錮20年・同7年各1名の判決があった。→戦争犯罪〔千野境子〕

きょくねん【極年】 地球物理的現象は地球的規模で起こるから，その解明には世界各地で，特に常時観測の困難な極地方をも含めて，同一の時期に観測する必要がある。そこで約1年の期間を定め，世界各国が協力して観測を行ない，極地方にも観測隊を派遣することが企てられた。この期間を極年という。第1回は1882年8月から翌年8月まで，12か国が参加して地磁気*やオーロラ*の観測が行なわれた。以後50年ごとに行なうことになり，第2回は1932年8月から翌年9月まで，地磁気やオーロラに加えて，高層気象・空中電気・地電流の観測が実施された。日本でも富士山頂に気象観測所が新設され，サハリン(樺太(からふと))・仙台(せんだい)・下田・阿蘇(あそ)で地磁気，東京で高層気象の観測が行なわれた。以後科学が急速に進歩したため，第3回は25年後の1957～1958年に行なわれ，名称も国際地球観測年*と改められた。〔堀福太郎〕

きょくびき【曲弾き】 楽器の曲芸的な演奏法。日本では三味線(しゃみせん)の場合が多い。非常に速いテンポでひいたり，ふだんは使わない場所でひいて，音高や音色で特殊な効果を出す場合が多い。代表的な例としては，新内節《関取千両幟(せきとりせんりょうのぼり)》のやぐら太鼓の部分，長唄(ながうた)《昔噺(むかしばなし)たぬき》の腹鼓の部分があげられる。寄席(よせ)芸として三味線を背中でひいたり，撥(ばち)の代わりに他のものを用いるのも曲びきといわれるが，西洋でもバイオリン(弓をひざではさんで，楽器を動かすなど)を中心に曲芸の一種として行なわれている。

きょくひどうぶつ【棘皮動物】 動物門の一。ウミユリ・ウミシダ・ヒトデ・クモヒトデ・ウニ・ナマコなどが含まれ，世界に約6,000種が知られる。特異な体制で，群体*をつくるものが一種もないなど，他の動物門とはっきり区別される。成体は一般に五放射相称の体制をしているが，幼生はすべて左右相称である。体内には体腔(たいこう)を有しており，中胚葉(ちゅうはいよう)性の石灰質(マグネシウム質ともいう)の骨板を皮下にもっている。骨板が小さくまばらなものはナマコのように体が柔らかいが，ナマコ類以外のものは骨板が密に並んで体がかたい。骨板の上にとげを生ずることが多く，棘皮動物の名のゆえんとなっている。骨板にはまた管足を出す小孔が開く。一般に口は腹側の中央に，肛門(こうもん)は背側の中央に開くが，ヒトデ類・クモヒトデ類は肛門を欠き，ウミユリ類では口も肛門も背側に開く。ナマコ類のように体が横倒しになった形のものでは，口は前端に，肛門は後端に開く。

棘皮動物にはこの動物門に独特な水管系(管足系)とよばれる器官系があり，運動や捕食活動などを行なっている。水管系は体背面に開く小孔(穿孔板(せんこうばん))に始まり，口に近い位置で消化管を取り巻く環状管につながる。環状管は5本の放射管を出し，放射管は分枝して管足に通ずる。水管系には，ふるい状の構造をしている穿孔板を通じて水管系内壁の繊毛の働きで取り込まれた外界の水が満たされている(ウミユリ・ウミシダ・ナマコでは体腔液で満たされる)。放射管からは左右の水平方向に分枝が一対ずつ多数派生し，その先に垂直方向に細首の花びんをさかさにしたような中空構造のものが一つずつついており，その太い部分をアンプル，細い部分を管足という。ウニ・ヒトデ・ナマコでは，管足が次のようなしくみで働いて，運動器官ないし捕食器官としての役割を果たす。アンプルと放射管分枝との間にはアンプルに向かう方向には開かない弁があり，アンプルを形づくる筋肉が収縮すると，その内部の液が放射管にもどれぬため，薄い筋肉でできている管足を長軸方向に伸ばす。管足の先端は吸盤になっていて，他物に吸着し，収縮する。その際，吸着した相手が小さければえさとして体に引き寄せられるし，大きければ体全体がそれに引き寄せられ，これをくり返して体を移動させることができる。1本1本の管足は糸のように細いが，多数が集まって調整された動きをするので，体は任意の方向に移動しうる。その速さはヒトデの場合で毎分15cmといわれ，また，その力は1cm²あたり約700gといわれる。ヒトデが激浪にもまれても容易に岩礁から引きはがされないのは，この力による。

神経系は，食道を囲む神経環とそれから出る放射神経とからなり，中枢神経の発達はない。運動の調整をつかさどり，また化学物質・明暗・振動などに反応する。眼といえるものはない。血管系は発達が悪く，心臓などのような搏動(はくどう)器官はない。体腔内には体腔壁の繊毛運動で随所に移動する一種の血液があり，その中に自由に運動するアメーバ状の血球が含まれる。この血球は脊椎(せきつい)動物の白血球と同様の働きをする。なお，ナマコには脊椎動物のとは構造の違うヘモグロビン(エリスロクルオリン*)を含む赤血球をもつ種類がある。腎臓(じんぞう)などの排出器官はない。呼吸は体表の全面で行なうほか，ヒトデでは皮膚に皮鰓(ひ

さい)が生じ，ナマコでは直腸に開口する特殊な呼吸器官である樹枝状の水肺があり，ウミユリでは肛門から水を出入させて呼吸する。クモヒトデ・ナマコなどの一部に雌雄同体があるほかは雌雄異体で，卵・精子は体外で受精する。卵は孵化(ふか)したのち，一般に浮遊生活をする幼生から著しい変態を経て成体になる。これらの幼生の形態は親とまったく違った姿をしており，ウニではエキノプルテウス，クモヒトデではオフィオプルテウス，ヒトデではビピンナリア，ナマコではオーリクラリアとよばれる。

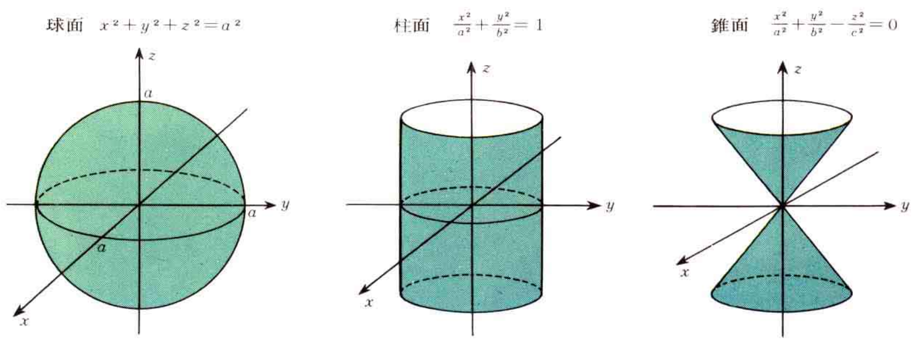
まれに汽水に侵入するものもあるが，ほとんどが塩分のうすい海水を好まぬ純海水産で，成体はすべて底生性。ウミユリは他物に固着し，他は岩礁に付着したり砂泥底(さでいてい)に埋もれたりして生きている。ウミシダには腕をけいれんしたように振って水中を泳ぐことのできるものがあるが，ほとんどのものが泳ぐことができず，運動が非常に緩慢なものが多い。南氷洋・北氷洋を含む地球上の全海域に広く分布し，垂直分布も潮干帯から深海に及び，3,120 mの海底からウニ，4,700 mの海底からナマコ・ヒトデなどが採集されたこともある。

棘皮動物門は，ウミユリ(ウミシダが含まれる)・ヒトデ・クモヒトデ・ウニ・ナマコの五綱に分けられるが，そのそれぞれが特色のある区別しやすい動物群としてまとまっている。ヒトデの幼生とギボシムシの幼生とが酷似していること，棘皮動物とギボシムシの間で初期発生がよく似ていること，皮下に骨格をもつこと，一部の化石棘皮動物に鰓穴(えらあな)とみなされるものがみられることなどから，棘皮動物は遠い過去に脊椎動物と共通の祖先動物から分かれて，進化してきたものと思える。

ウニの生殖巣がかなり多くの国で食べられ，ナマコが日本・中国などで食べられるほか，直接の利用価値はほとんどない動物群である。〔菅野　徹〕

きょくふ【曲阜】 チュイフー　中国，山東省南西部の都市。周代の魯(ろ)国の都で，孔子*の生地として有名。秦(しん)・漢より南北朝にかけて地方行政の一中心であったが，隋(ずい)・唐以後は衰えていなか町となった。しかし，市街の中央には広大な孔子廟(びょう)や孔子の子孫の住む孔宅などがあり，郊外には孔子の墓所である至聖林があって，中国文化の故郷として今日に及んでいる。また，現市街を南西角に含む4 km平方の城壁遺跡の中央にある漢の霊光殿の遺跡は，わが国の考古学者の手によって発掘された。〔日比野丈夫〕

ぎょくへん【玉篇】〈ごくへん〉ともいう。中国，梁(りょう)の顧野王の編した最初の実用向き字書。30巻(543年)。後漢の《説文*》にならって542の部首を分け，16,917字を収録したというが，早く散逸した。各字について六朝(りくちょう)当時の字音を表わす反切*をつけ，用例を示しつつ字解を付した。のち，北宋(ほくそう)の陳彭年(ちんほうねん)らが《重修玉篇》を勅選したが，それは原本の姿をかなり変えてしまった。日本には唐写本4巻が残ったほか，空海の《篆隷万象名義(てんれいばんしょうめいぎ)》などに《玉篇》を引用してあり，部分的にもとの姿を知ることができる。〔藤堂明保〕



曲　面

きょくほうやく【局方薬】 日本薬局方に収められている医薬品。日本薬局方には第1部と第2部があり，第1部には主として繁用される原薬の医薬品および基礎的製剤，第2部には主として混合製剤およびその原薬の医薬品が収載されている。第8改正日本薬局方では，第1部に735品目，第2部に396品目が収められている。日本薬局方は時代に遅れないため，少なくとも10年以内には改正されるので，局方薬もそのつど新しく変更される。薬局方にどんな医薬品を収載するかについては次の基準による。①繁用される医薬品，②繁用されないが，薬効が明らかで治療上重要な医薬品，③治療上必要なもので，使用にあたって危険を伴うおそれがあるため，規格を作成する必要のあるもの，④医薬品の原料(製剤用)として使用されるもの。局方薬は製造に際し許可を必要とするが，他の医薬品と異なり，医薬品としての適否の審査を受ける必要はない。➔薬局方　➔医薬品〔鈴木郁生〕

きょくめん【曲面】 普通には，曲線が移動することによってできる軌跡*または立体の表面。三次元の直交座標系に関し，二次方程式で表わされる曲面を二次曲面といい，その代表的なものとして球面・柱面・錐面(すいめん)などがある。球面のように境界のない連続曲面を閉曲面，自分自身を切らない曲面を単一という。したがって，球面は単一閉曲面(ジョルダン曲面ともいう)の一例である。曲面には，球面のように表裏の区別のあるものと，〈メービウスの帯*〉のようにその区別のないものとがある。〔菊池兵一〕

ぎょくもん【玉門】 ユイメン　中国甘粛省西部の都市。東西20km，南北40kmにわたる大油田を中心とする都市で，人口20万人のうちには玉門鉱務局従業員とその家族が多くを占める。1937年中華民国政府の調査によって油田の存在が確認され，その後中華人民共和国政府は，ソ連・ルーマニアなどの援助によって，近代的な設備をもつ石油コンビナートの基地を建設するに至った。原油は蘭州(らんしゅう)・旅大・上海(シャンハイ)などの精油所に運ばれる。〔千田　稔〕

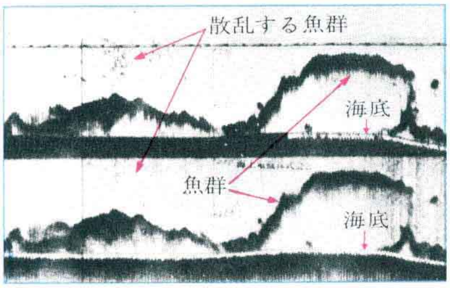
ぎょくもんかん【玉門関】 中国，漢代に甘粛省西部に置かれた関所。今日の敦煌(とんこう)の西北約100kmにあたる。BC108～BC107年の武帝時代に創設されたらしく，南東の陽関と並んで中国内地から西域に通ずる重要な関門であった。なお，南北朝時代には今日の玉門*付近に後退し，隋(ずい)・唐時代まで存続した。

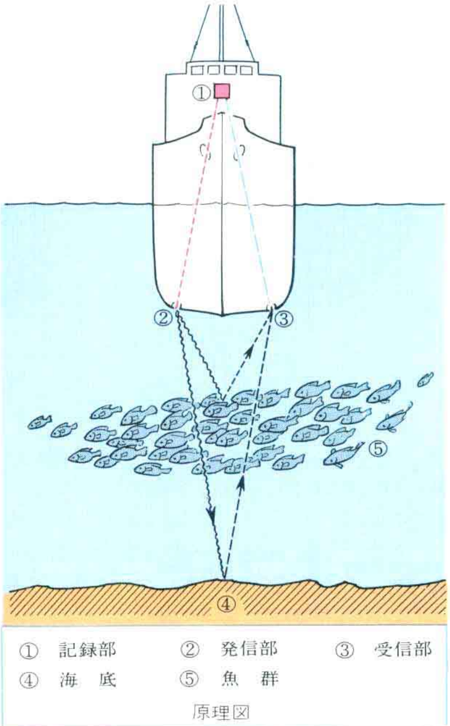
きょくよう【極葉】 環形動物と軟体動物の卵には，発生の初期に一時的に細胞質が半球状に突出するものがある。これを極葉とよぶ。軟体動物のツノガイの例でみると，第1回めの卵割で二つの割球に分かれると同時に，大きな極葉が突出する。この極葉はやがて割球の一つに吸収され，この割球は他の割球よりも大きくなる。このような極葉のもつ意義を調べるため，極葉を切除して発生を続けさせてみると，頂毛や繊毛環の一部が欠けた幼生ができる。したがって極葉は発生能力の点で他の胚(はい)の部分と区別されるものをもっていることがわかる。〔蒲原春一〕

ぎょくよう【玉葉】《玉海(ぎょくかい)》ともいう。藤原(九条)兼実*(かねざね)の日記。1164年(長寛2)10月より1200年(正治2)12月まで，当時の複雑な政治情勢や有職(ゆうそく)故実が細かに記されている。摂関家の中で特異な存在であった兼実自身の意見や批判も豊富で，平安末期・鎌倉初期の政治史，有職故実の研究に貴重な史料となっている。

ぎょくようわかしゅう【玉葉和歌集】 第14番めの勅撰(ちょくせん)和歌集。はじめ1293年(永仁1)4人の選者に下命があったが中絶，1311年(応長1)京極為兼*(ためかね)が伏見院の院宣を受け，翌年(正和1)奏覧してなった。総歌数2,801首は〈二十一代集*〉の中で最も多い。《万葉集》の歌が多くとられていること，時間の推移や陰影の交錯をとらえた鋭い自然観照に特色がある。二条派*中心の中世・近世を通じてほとんど顧みられなかったが，近代になって異色の歌風が高く評







魚群探知機　(左上)魚群探知機記録装置(拡大記録併記式)　ふつう記録と同時に，指示した深度の拡大記録(水深０～800ｍの場合約140倍まで拡大可能)を同一紙面に描く　(左下)北洋海域におけるスケソウダラ群の２周波併記記録　上は50キロサイクル　下は24キロサイクル

価されるようになった。　〔佐藤恒雄〕

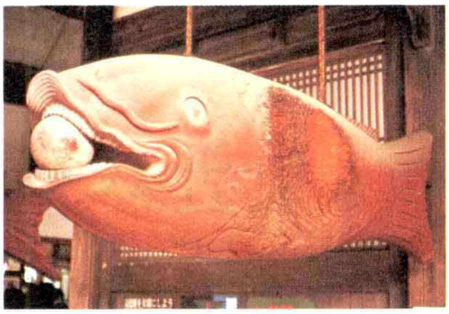
きょくりつ　【曲率】　⇨曲線

きょくりつはんけい　【曲率半径】　⇨レンズ

きょくりょう　【極量】　毒薬・劇薬は使用にあたって小量でも危険が起こるので，取り扱う医師・薬剤師のために医薬品ごとに注意すべき分量を定めている。これを極量という。極量は一般にこの量以上は用いない量で，これ以上では危険を起こすおそれがある量である。国際的にも定められているが，人種・食事などの相違があるため一定ではない。わが国では日本薬局方で定義されている。極量は注射薬などの例外もあるが，一般におとなが内服するときの量で示されている。　〔江本龍雄〕

ぎょくろ　【玉露】　緑*茶のうち，おおいをして栽培し，製した茶の一種。この茶の起源は天明年間(1781～1788)に静岡の山形屋庄八(しょうはち)が，茅(かや)や竹で日おおいをつくって霜害を防いで製造したのがはじまりといわれ，また1835年(天保６)に江戸の茶商山本徳翁が始めたともいわれる。新芽の２～３葉開いた茶園に，よしずや竹す・こもなどで約15～20日間日おおいをしてから摘むもので，テアニンなどの成分がふえ，うまみのある茶となる。　〔大石貞男〕

きょくろく　【曲彔】　いすの一種。曲録・曲籙とも書く。ひじ掛けや背板などの形状が曲線を多用していることから，この呼称が生まれた。固定した四脚をつけたものと，両脚を交差して折り畳み式にしたものの２種がある。禅僧の肖像画である頂*相(ちんそう)



魚　鼓　万福寺

に多く描かれているので，中国宋(そう)代にかの地の禅宗寺院で流行をみ，鎌倉期にはわが国でも使用されたと考えられる。

ぎょぐんたんちき　【魚群探知機】　海面下の，目で直接見ることのできない深さにいる魚群の動静を探る機器。正しくは超音波魚群探知機といい，魚探機，あるいは単に魚探ともいう。本来は水深をはかる目的で考案された音響測深器である。船底の発信器から発信された超音波が，海底や魚群から反射音となって受信され，増幅されたのち，ブラウン管上に映像されたり，記録紙上に記録されるようになっている。すぐれた魚群探知機の係員になると，魚種・動き・分布密度の推定も可能であるという。魚群探知機の研究は，第２次世界大戦後急速に進み，漁業界に大幅に取り入れられた。沿岸の小形船にまで導入され，たとえばイワシ巾着網(きんちゃくあみ)などの場合，昔であれば海の色や海鳥の動静からイワシ群の動きを推察して操業していたものが，現在ではすべて魚群探知機にたより，魚探船の誘導により魚群を包囲して漁業を行なっている。底引き*網の場合には海底の形状察知の役目も果たしてくれる。　〔石野　誠〕

ぎょこ　【魚鼓】　禅宗寺院で庫裡(くり)の軒下にかけて用いる打鳴具。木製内部くりぬきの魚形で，外面は刻彫を施して魚の容姿を表わす。魚板は用途は同じながら，内部くりぬきはなく板状の魚形をさす。僧侶(そうりょ)の日夜励むべきことを示して，魚がつねに開眼していることになぞらえたという。四天王寺・永平寺のものが知られる。

きょこう　【虚構】　⇨フィクション

ぎょこう　【漁港】　漁船の根拠地，漁獲物の水揚げ地の役割を果たす港湾。漁船の安全な停泊場所，水揚げ設備，輸送設備，出漁資材の仕込み，漁船・漁具の修理工場，冷凍工場，加工工場などをもっている。法規上，日本では沿岸漁港を第１種，沖合い漁港を第２種，遠洋漁港を第３種，遠洋漁港のうちで特に重要なものを特定３種，避難港の類を第４種とよんで，それぞれの規模によって，設備に対して国庫や都道府県の補助を受けている。　〔小栗　宏〕

きょこうへい　【許広平】　シュイコワンピン　(1898～1968)　中国の婦人運動家。魯*迅(ろじん)の夫人。北京(ペキン)で女子学生のとき，教師の魯迅を知り，文通を始め，1926年魯迅が北京を脱出し南方へおもむくと，これに同行し，1927年上海(シャンハイ)で同棲(どうせい)生活にはいった。ふたりの往復書簡集《両地書》にその間の経過は詳しい。魯迅の没後は，その全集編集に努力，日本軍占領下，日本軍憲兵隊にとらわれたが，拷問に耐え忍んだ。その記録《暗い夜の記録》が知られている。婦人運動にも活躍，文化大革*命では，なき魯迅の精神を普及・顕彰するために尽力し，いわゆる造反派を鼓舞したという。著書は前記のほか，魯迅に関する思い出の記が３種ある。　〔今村与志雄〕

きょこくいっちないかく　【挙国一致内閣】　反対党を交えて成立した内閣。わが国では満州事*変(1931)以後，軍部・官僚による独裁体制が進行し，それまでの政党中心の政治様式がおさえられてきた。諸政党も戦争協力の道を進み，軍部に対する抵抗はみられず，すべての政党・勢力は一体となって時局に対処すべきだといわれるようになり，それまでの政党内*閣制は軍部・官僚中心のものとなり，政党もこれに従う内閣が組織された。こうしてできた内閣を，当時挙国一致内閣などといった。世界では，第１次世界大戦中のイギリスのロイド・ジョー*ジ内閣，1931年のマクドナル*ド内閣，第２次世界大戦中のチャーチ*ル内閣などがその例である。　〔鈴木安蔵〕

ギョーザ　【餃子】　中国語ではチャオツという。点*心(テンシン)の一種で，小麦粉でつくった皮に肉・魚貝・野菜などのあんを包んだもの。仕上げの方法によって，次の３

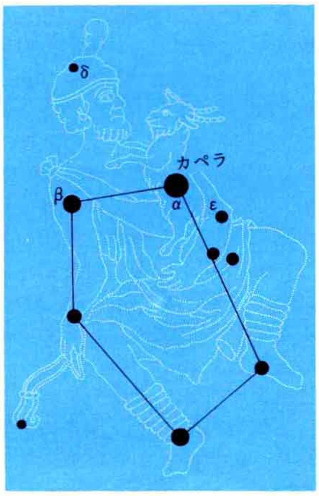
種がある。①水餃子(ショイチャオツ)(熱湯でゆでる)，②鍋貼餃子(クオティエチャオツ)または鍋貼児(クオティエル)(油を敷いた鉄なべで焼く)，③蒸餃子(チョンチャオツ)(蒸す)。その昔，敵国の糧(かて)を食することを潔しとせず，汨羅江(べきらこう)に投身自殺をした詩人屈原の死をいたみ，毎年5月5日の節句にはちまきを投じて供養していたのが，いつのころからか餃子を用いるようになったという。わが国には第2次世界大戦後に伝わり，軽食として広く親しまれている。

〈作り方〉①皮：小麦粉を微温湯でこね，しばらくねかしたものをさらによくこねて棒状に伸ばす。これを等分にちぎり，めん棒で直径約8cmの円形に薄く伸ばす。②あん：豚肉またはエビに，ネギ・ハクサイのみじん切りを加え，しょうゆ・ごま油などで味つけをしてよく混ぜ合わす。③皮にあんを載せて半月形に包み，先に述べた方法で仕上げる。〔曾根喜和子〕

きょさいとう【巨済島】 コーチェ島 朝鮮半島南東部の鎮海湾にあり，朝鮮半島の属島としては済州島に次ぐ第2に大きい島。面積389km²。人口約13万。おもに丘陵地からなり，耕地に恵まれないため農業は不振で，東部の長承浦と西部の巨済を中心として漁業が盛んである。なお，南西の閑山島と対岸の忠武の間の水道は，文禄(ぶんろく)・慶長の役の際，李舜臣(りしゅんしん)が鉄甲船によってわが国の水軍を苦しめたところである。また朝鮮戦争中，国連軍最大の捕虜収容所が設けられ，1952年，収容中の捕虜が反乱を起こして収容所の幹部を監禁したことで有名になった。〔船越昭生〕

きょさいぼう【巨細胞】 原形質に富み，その中に1個または多数の核を有する大きな細胞。炎性肉芽組織や腫瘍(しゅよう)組織の中にみられる。細胞の融合，または原形質分裂を伴わないで核分裂だけが行なわれた場合に生ずる。病的には，異物巨細胞・ラングハンス巨細胞・ステルンベルグ巨細胞などがある。また，生理的には骨髄巨核球・破骨細胞・絨毛(じゅうもう)上皮の巨細胞などとして出現する。

きよさと【清里】 山梨県北西部，八ケ岳(やつがたけ)南東麓(なんとうろく)の地区で，北巨摩(きたこま)郡高根町に属する。小海線清里駅周辺の海抜1,300m内外の高原地帯で，第2次世界大戦後広大な未墾地であった念場原を中心にして，乳牛の導入や野菜の抑制栽培による開発が進み，集団酪農地帯に指定されて県下の先端にたつ近代経営を行なっている。一方，盛夏でも21～23℃の高冷な気候によって健康な夏の保養地として発展しており，東京方面の学校の寮が集まり，町営・県営のロッジなども設置されている。周辺部は八ケ岳中信高原国定公園に含まれ，夏季には八ケ岳・飯盛(めしもり)山などへの登山客が多い。北部の〈美しの森〉はツツジの名所として知られ，また立教大学教授ポール-ラッシュ博士を中心に建設された〈清里農村センター〉では酪農指導が行なわれ，診療所などの付属施設とともに開発の推進に寄与している。小海線と交差して国道14号線(佐久甲州街道)が南北に縦貫する。なお，清里駅(1,274m)は北隣の野辺山(のべやま)駅に次ぐわが国第2の高位駅である。〔浅井得一〕



ぎょしゃ座

きよざわまんし【清沢満之】(1863～1903) 浄土真宗大谷派の教育家。尾張(おわり)(愛知県)藩士徳永(とくなが)家の出身。16歳で僧籍にはいり，東本願寺の育英教校に学ぶ。本山の留学生として東京大学哲学科に学び，フェノロサに私淑し，ヘーゲル哲学を学ぶ。1888年(明治21)愛知県大浜の西方寺に入寺。真宗京都中学校長，高倉学寮の講師をつとめたが，肺患を縁にきびしい禁欲生活にはいり，ミニマム-ポシブル(最小限の可能性)を生活信条とした。《阿含経(あごんきょう)》《歎異抄(たんにしょう)》《エピクテタス語録》を自己の三部経と称した。東本願寺改革運動を起こして宗門の改革に努めた。東京本郷森川町に私塾(しじゅく)浩々洞(こうこうどう)を開いて宗教的人材の養成に努め，雑誌《精神界》を刊行して精神主義を説いた。真宗大学の学監もつとめた。〔坂東性純〕

きょし【鋸歯】 葉の縁がぎざぎざになっていることで，サクラ・ヤマブキなどに典型的である。鋸歯が二重となっているものを重鋸歯という。なお，縁が平滑となっているものを全縁または全辺という。

ぎょしだい【御史台】 中国の監察官の役所。御史は君主に侍御する史官であったが，秦(しん)の統一後，殿中で官吏を督察する任務をおびるようになった。御史大夫の下に，御史中丞(ちゅうじょう)などの官が前漢にあり，後漢になって御史中丞を長官とする御史台が成立した。隋(ずい)・唐以後にも受け継がれたが，明(みん)代に廃され，代わって都察院が置かれた。

きょじつ【虚実】 芸術論の用語で，江戸時代に俳論や戯曲論において用いられた。〈虚〉は無であり，うそ・偽りをさし，〈実〉は有であり，事実・誠を意味する。近松門左衛門(もんざえもん)は，穂積以貫の著《難波土産(なにわみやげ)》の伝えるところによれば，芸術は〈実〉と〈虚〉との皮膜の間にあるとする〈虚実皮膜〉論を説き，芸術の真実は事実と虚構との中間にあることを指摘した。これは芸術における虚構の意義を主張した点で画期的な論である。このような虚実論においては，〈実〉は事実としての真であり，〈虚〉は芸術上の真であるとみなされているとも考えられ，虚構を構築することによって，かえってありのままの事実以上の真を表わしうるという主張がみられる。〔鈴木一雄〕

きょしてきぶんせき【巨視的分析】 経済分析の一方法。経済体系を個々の家計・企業に分解し，これら個別的経済主体の経済活動による個々の財や用役の価格の決定機構を分析して経済体系を把握(はあく)しようとする微視的分析(ミクロ分析)に対して，経済社会の集計的諸量(国民所得・消費支出・投資支出・物価水準など)の間の諸関係を，総体的に分析する手法。マクロ分析ともいう。近年，統計的資料の利用とあいまって著しい発展を遂げた。〔富田重夫〕

きょしもん【鋸歯文】 考古学上の遺跡や遺物に施された原始文様の一種。最も原始的な幾何学的文様で，三角形を一線に連続または交差して並べて描き，のこぎりの歯の並びに似ているのでこの名称がある。弥生(やよい)文化期の土器や銅鐸(どうたく)にしばしばこの文様が使用され，また同期遺物と併出する細線鋸歯文鏡の鏡背文様ともなっている。古墳文化期にはいってからは，鑑鏡・装飾古墳壁画・器財埴輪(はにわ)の文様として盛んに用いられているが，世界各地にみられる原始文様なので，源流を系統だてて求めることはむずかしい。〔高崎徳次〕

きょじゃくじ【虚弱児】 先天的または後天的原因により，身体発育が遅れたり，からだの働きが異常で，病気に対する抵抗力の弱い児童。しばしば次のような状態が認められる。①特に病気にかかりやすく，罹患(りかん)すれば重症になりやすく，またなおりにくい，②頭痛・腹痛・下肢痛(かしつう)などを訴え，疲労しやすく疲労の回復もおそい，③発育不良・神経質・栄養不良・貧血・無気力など。

ぎょしゃざ【馭者座】 冬，銀河に浸って天頂付近にかかる星座。クリーム色の1等星カペラを中心に，大きな五角形を描く。この星座には，27年の周期で3.1～3.8等まで変光する有名な食連星ぎょしゃ座ε星がある。➔星座

きょじゅう・いてんのじゆう【居住・移転の自由】 住居を決定し，それを変えることの自由。憲法は，それを国民の自由権として保障する(22条)。移転の自由は，国内での場合と国外への場合に分けられるが，特に後者は〈移住の自由〉ともいわれる。政治的理由でそれが制限されるようなことが

第2次世界大戦中などではしばしばあった(例，強制疎開など)が，民主主義の国では基本的に保障されなければならない自由の一つである。しかし憲法では，特に〈公共の福祉に反しないかぎり〉という条件がつけられているが，そのような場合は，伝染病予防法・*癩(らい)予防法などによる強制隔離や，受刑者の刑務所内の*拘禁のような場合に限られるべきである。〔永井憲一〕

きょしょ【居所】 生活の本拠たる住所ではないが，人が多少とも継続して居住する場所をいう。住所があるなしにかかわらずこれが知れないときや，日本人でも外国人でも日本に住所をもたない者については，居所が住所とみなされ(民法22条・23条)，その効力は住所と同じである。➔住所

ぎょしょう【魚醬】 魚類・イカ・貝類またはその内臓などを生のままかめに入れて辛い塩づけにし，日光のあたらない床下などにたくわえ，自然にしみ出てくる上水をこしてしょうゆの代用にするもの。以前は自家用として仕込み，少なくとも数年以上経たものを使用していたが，最近では市販されている。代表的なものに，秋田県の*しょっつる，香川県のイカナゴしょうゆ，北海道・石川県のイカしょうゆなどがある。

ぎょしょう【魚礁】 魚群がよく集まっている海底の浅い突出部。根あるいは曽根(そね)ともいう。その成因には構造性のものと火山性のものとがある。魚礁付近では，地形の影響によって上昇流と下降流を生じ，海水の混合が活発で栄養塩類に富んでいる。また，浅いために日光の透過もよくプランクトンがよく繁殖する。中には深海の突出部を形成するものもある。わが国では，伊豆(いず)諸島・小笠原(おがさわら)諸島沿い，南西諸島沿いの海や，日本海などに多くの魚礁がみられる。なお最近では，人工*魚礁をつくって漁場の生産を高める事業が行なわれている。〔石野　誠〕

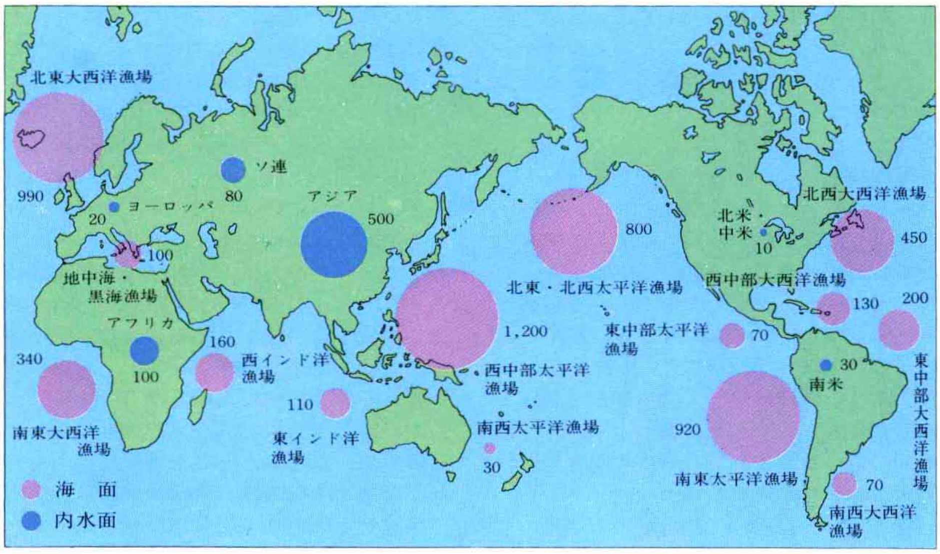
ぎょじょう【漁場】 漁業の行なわれる場所。すなわち，水産資源生物が相当長期間にわたって滞留するか，次々と新しい群れが補給されて相当多量の群れが一定期間連続してみられ，その場で漁業が成立する場合，その水域を漁場という。一般には，その水域では水産生物の分布密度が高く，しかも漁具の使用が容易な海洋条件であることが必要である。*回遊魚の場合には，季節的には大幅な〈漁場の移動〉があるが，底生生物を対象とする場合には，その移動は比較的小さい。

【漁場の分類】実用上の要求から，いろいろな基準によって，漁場の分類がなされている。①魚種による場合：たとえば，カツオ漁場・サンマ漁場・マグロ漁場など。②漁具・漁法による場合：たとえば，一本づり漁場・底引き網漁場・定置網漁場など。③漁場の遠近による場合：地先漁場・沿岸漁場・沖合い漁場(近海漁場)・遠洋漁場など。④法規などによる場合：たとえば，許可漁場・*入会漁場など。⑤漁場の形式・機構による場合：潮境漁場・湧昇(ゆうしょう)域漁場・渦流(かりゅう)漁場・堆礁(たいしょう)漁場など。⑥水域別による場合：アフリカ漁場・北洋漁場・南氷洋漁場など。

【漁場の形成】魚はいつ，どこでも均一に分布しているわけではなく，漁場が形成されるには理由がある。①潮境漁場(サンマ漁場など)：魚群は一般に潮境(*潮目)に集群する。この水域では，二つの性質の異なった水塊が接しているので，魚類などにとっては潮境は一種の環境障壁となる。また，流れが潮境で集束するので，プランクトンなどの餌料(じりょう)浮遊物もそこに集積する傾向をもち，魚群は足をとめる。三陸沖にみられる親潮・黒潮の接触域がそのよい例であり，海水の水平方向，鉛直方向への混合が盛んで周辺水域が肥沃(ひよく)化され，プランクトンの増殖がみられ，これを捕食する魚群の索餌場ともなる。このようないろいろな条件が重なってよい漁場が形成されている。②湧昇域漁場(ペルー沖イワシ漁場)：ペルー沖には，イワシの好漁場があって，いまでは世界一の水産物生産を誇っている。その理由は，下層にある肥沃な水が，ペルー沖で表層近くまで湧昇していて，きわめて生産力の高い海域を形成しているからである。湧昇現象は，風の力や海水の流れ海底地形などによってひき起こされる。日本近海の例では，ときとして出現する紀州沖冷水塊が，下層水の湧昇によることがわかっていて，その周縁にカツオやビンナガの好漁場ができることがある。③渦流漁場：流れとか海底の地形の影響を受けて，力学的・地形的な渦流が生じて，魚群の集群がみられる。④堆礁漁場：*堆とか*礁が存在すると，付近上層の海水に乱れが生じ，生産力が高い水域が形成され，また集まった魚は根付き魚・瀬付き魚となり，好漁場を形成する。〔石野　誠〕



魚　礁　コンクリートブロックを沈めた茨城県沖の人工魚礁。魚はムツ



漁　場　世界の漁場と漁獲高(1970)。単位万t。国際連合《FAO漁業統計年鑑》による

きょしょうせきにん【挙証責任】 立証責任ともいう。訴訟上，証拠を提出して争わなければ，存否いずれとも証明のつかないような事件について，不利益に認定されてしまう法律上の地位をいう。①民事訴訟において，たとえば貸金を返せと主張する者は金銭貸借契約の存在，金銭を授受した事実を立証しなければならないが，すでに返済したとか，*時効にかかったというような主張をした場合は，借り主側でそれらの事実を立証しなければ借り主に不利益な認定がされてしまう。このように権利関係の発生・変更・消滅についての法律効果を主張する者は，これらを規定する法律要件にあたる事実を立証しなければ不利益な認定を受けてしまう。②刑事訴訟においては，存否いずれとも証明がつかないような事件は，〈疑わしきは罰せず〉の原則により被告人に有利に認定しなければならないという原則が働いているからである。〔野口恵三〕

きょしん【許慎】(?～147ごろ) 中国，

後漢の文字学者。河南郾城(えんじょう)の人。賈逵(かき)・馬融らの門を尋ねて古典に通じ，古典研究の第一歩はまず文字の正確な意味をとらえることにあると考えて，《説文解字》(14巻，序録1巻)を著わした。100年，45歳ごろの作である。この書は中国の文字学のもとを築いたもので，のち許学(文字学)は鄭学(ていがく)に訓詁学(くんこがく)と並んで古典研究の基礎とされた。〔藤堂明保〕

きょじんしょう【巨人症】成長ホルモンの分泌異常によって身長が異常に伸長したもの。脳下垂体の酸好性細胞(成長ホルモンを分泌する細胞)に骨端線が閉鎖して骨の成長が止まるまえに腺腫(せんしゅ)(ときに過形成)が発生すると，成長ホルモンの産生過剰となり，身長は著しい発育促進をみせ，正常値よりもはるかに大きくなって2mを越す。この場合，成長ホルモン以外の脳下垂体ホルモンは腫瘍(しゅよう)のために分泌が少なくなることがある。成長ホルモンの測定が可能となってから診断は容易となった。治療は放射線照射や脳下垂体の外科的剔除(てきじょ)などを行なう。ふつう，知能は正常人と変わらないが，ときに知能の発育が遅れることがあり，また比較的若年で死亡することがある。なお，発育期以降に成長ホルモンの分泌異常をみると，骨端・指先・下顎(かがく)などが異常に発育する末端巨大症となる。〔清水直容〕

きょじんでんせつ【巨人伝説】巨人に関する伝説は世界的に分布しているが，日本にもいくつか誇張されて伝えられている。群馬県高崎市にある赤沼は，大太(だいだら)法師が赤城(あかぎ)山に腰かけ，足を伸ばして力んだ足跡だと伝えられている。大太法師系統の伝説は東日本に多く，ダイダラ坊・ディラボッチなどとよばれている。東北地方では足跡よりも，岩の上の大きなへこみなどを伴う伝説が多い。九州では大人弥五郎(やごろう)とよばれ，山づくりの話を伴って伝えられている。また，巨人のかついだ麻幹(おがら)のてんびん棒が折れて簀(す)の子の目から土がこぼれ落ち，それぞれ山になったという伝説が広く流布している。外国では，北欧神話のイミル，インドのベーダ神話のプルシャ，中国神話の盤古などの伝説が有名である。〔山路勝彦〕

きよす【清洲(町)】愛知県西春日井(にしかすがい)郡に属する名古屋市西郊の町。人口16,000。古くは清須(きよす)と書き，織田信長(のぶなが)の居城があった。蔬菜(そさい)園芸の盛んな純農村であったが，東海道本線・名古屋鉄道本線・国道22号線で名古屋市に結ばれているため，近年は住宅・工場の進出が著しい。

きょすう【虚数】⇨複素数

きよすみでら【清澄寺】千葉県安房(あわ)郡天津小湊(あまつこみなと)町にある日蓮宗(にちれんしゅう)の寺。山号は千光山。771年(宝亀2)不思議法師(名不明のため)の創建といい，



清 澄 寺　本堂と安房17番札所観音堂(手前)

平安初期円仁(えんにん)が中興したと伝わる。鎌倉時代までは天台宗に属し，江戸中期に真言宗に転宗，さらに1949年(昭和24)日蓮宗に改宗して別格山となった。13世紀初め北条政子(ほうじょうまさこ)の寄進を受け，また江戸時代には寺領百七十石を受け，房総両国(千葉県)の氏寺と称した。1096年(永長1)炎上，まもなく再建されたが，18世紀の初め再び伽藍(がらん)を焼失した。現在の堂宇はその後の再建である。なお日蓮は安房国東条郷の生まれで，12歳のとき当寺にはいり，その後各地を遍歴してこの地にもどり，旭ケ森(あさひがもり)で日蓮宗開宗宣言をした。

きよすみやま【清澄山】千葉県房総半島南東部の山で標高383m。第三紀の砂岩層からなり，北側は緩斜面であるが，南側は急傾斜して加茂川地溝帯(ちこうたい)に面する。山頂には清澄寺があり，南東麓(ろく)の小湊(こみなと)の誕生寺とともに日蓮上人(にちれんしょうにん)ゆかりの地で，観光的にも名高い。

きよせ【季寄せ】⇨歳時記

きよせ【清瀬(市)】東京都中北部の市。1940年(昭和15)ごろから東京の郊外住宅地として発展をはじめ，最近特に人口増加が著しい。1970年10月市制施行。人口6万1,000。かつて清戸といい，江戸時代には川越街道の宿場であった。市域の南東部は武蔵野(むさしの)台地の一部で，畑地・山林が多く，北西部は埼玉県との境を流れる柳瀬(やなせ)川流域の低地で，水田もみられる。南から西へかけては東久留米(ひがしくるめ)・東村山の両市，北から東へかけては埼玉県の所沢・新座(にいざ)の両市と接する。産業三大別人口比は3：30：67。最近，西武鉄道池袋線の清瀬駅を中心として都営住宅その他の宅地造成が盛んである。閑静で空気もよいので，昭和の初めから西武鉄道南側地区には結核予防会などの療養所が集まっている。

きょせい【巨星】太陽に比べて質量・半径ともにはるかに大きな恒星。放つ光の量も非常に多く，絶対等級は0等より明るい。ヘルツシュプルング−ラッセル図(H-R図)上で，スペクトル型によらずほぼ水平に並ぶグループを形づくっている。太陽の200倍の直径をもつアンタレス(さそり座のα星)はその例である。巨星は主系列星が進化した星である。

きょせい【去勢】

1 本来は雄動物の精巣を除去することをいうが，広義には雌の卵巣の除去を含め，生殖腺(せいしょくせん)除去ともいう。除去とは手術的な摘出だけではなく，薬品・熱，X線などの放射線の照射などによって生殖腺の機能を除く場合も含まれる。去勢された動物は生殖腺ホルモンの影響を失い，第2次性徴や第3次性徴が退化する。しかし，このような動物に，生殖腺を移植したり生殖腺ホルモンの働きをもった物質を投与すると回復する。家畜では，不良な雄畜の種付けを防ぐとともに，性質を温順にして管理・使役を容易にし，肥育効果を向上させるために行なわれる。ふつう，陰嚢(いんのう)を切開し，精巣と精巣上体を引き出して切除するが，去勢ペンチ・ゴムひもなどを使った無血去勢法も行なわれている。一般にブタは生後30〜40日，ウシは6〜10か月，メンヨウは2〜3週間が適期とされている。去勢はこのような実用面ばかりではなく，生殖腺から分泌されるホルモンの影響を調べようとするときに，実験手段として欠くことのできないものである。〔蒲原春一・太田正義〕

2 ヒトの生殖腺を除去すること。主として男子の両側睾丸(こうがん)を除去することをいうが，女子の両側卵巣の除去を女性去勢ということもある。もと，中国の後宮に仕える宦官(かんがん)は去勢され，また，腐刑・宮刑とよばれる刑罰で睾丸の除去が行なわれたが，現在では医学的目的で行なわれることがほとんどである。たとえば，睾丸の悪性腫瘍(しゅよう)や前立腺腫瘍，ことに前立腺癌(がん)の治療法の一つとして，また，強度の外傷による睾丸の挫滅(ざめつ)などの場合に，除睾術すなわち去勢が行なわれる。特殊な場合として，性的倒錯症者の性転換の目的で去勢が行なわれることもある。去勢によって結果的に生殖腺ホルモンの分泌がなくなるわけであるが，ヒトの場合，それが行なわれた年齢的時期によって，成人前とあととでは去勢による肉体的および精神的影響は異なり，成人後では必ずしも性欲の欠如を意味するものではない。〔藤井和明〕

きょせいコンプレックス【去勢コンプレックス】精神分析の基本概念の一。フロイトによれば，子どもは〈男女とも最初はペニスをもって生まれたが，女性は生後，禁じられた行為の罰として去勢によってこれを失った〉と考える。このような去勢をめぐる空想や観念の複合体を去勢コンプレックスとよぶ。男子は母親に対して性的(近親相姦(そうかん)的)な衝動を感じたり，性愛的行為(たとえば自慰行為)によってペニスを切断されるかもしれないという深刻な去勢不安をいだく。このような不安は一般にエディプス期に生じ，男子の場合，この不安によ



漁　船　(左上)手繰り船(以西底引き船)　200トン　2そうの船で網を引く機船底引き網漁業の代表的なもの。(右上)トロール漁船5,000トン　1そうで網を引く機船底引き網漁業の代表的なもの。(左下)母船式サケ-マス漁業の独航船(サケ-マス流し網漁船)　100トン　(右下)捕鯨船(キャッチャーボート)　700トン

ってエディプス-コンプレックス*が解消するのに対して，女子はペニス羨望(せんぼう)によってエレクトラ-コンプレックス*が始まる点が大きく異なっている。　〔片山義郎〕

きょせきコンクリート　【巨石コンクリート】　1個の重量が約45kg以上の割り石または玉石を埋め込んだコンクリート。施工の方法は粗石コンクリート*に準ずる。巨石相互の間隔は約15cm以上，巨石とコンクリートとの最小距離は30cm以上がよい。

きょせきぶんか　【巨石文化】　巨石記念物を特徴とする古代文化。巨石記念物(メガリシック-モニュメント)とは，ヨーロッパにおいて，新石器時代から青銅器時代にかけて巨大な石で構築された墳墓あるいは遺跡をさすが，類似のものは広く世界各地にも存在している。したがって，原始信仰に関係すると思われるものが多い。その種類にはメンヒル*(立石)・アリュニュマン(列石)・ストーン-サークル*(環状列石)・ドルメン*(卓石墳)・羨道墳(せんどうふん)などがある。メンヒルは最も単純な巨石建造物で，多くは埋葬地点の近くに巨石を立てる。フランスのブルターニュ地方に特に濃密に分布し，イギリス・南ドイツ・地中海方面，さらに近東・インド・インドシナ・東南アジアにも及ぶ。アリュニュマンは多数のメンヒルが直線的に立ち並んだもの。ヨーロッパではブルターニュ地方に限られ，アジアでは東南アジアに多く，太平洋のマリアナ諸島にもある。ストーン-サークルは立石を環状に並べたもので，この分布は広く，ドイツ・イギリス・フランスからイラン・チベット・シベリア・モンゴル，さらに日本の北海道・東北地方にもみられる。ドルメンは巨大な石の足の上に，さらに巨大な石をふたのようにかぶせたもので，ヨーロッパ北部からフランス・イギリス・イベリア半島・コルシカ島・パレスチナからインド・朝鮮・南洋に及ぶ。日本の古墳*にみられる羨道墳はドルメンの発達した形態である。

〔牛島　厳〕

ぎょせん　【漁船】　漁業に従事するか，漁業と関連のある任務をもっている船舶の総称。漁船には，その任務内容から分類すると，次のようなものがある。①もっぱら漁労作業に従事する船。②漁労に従事し，漁獲物を保蔵したり，処理・加工する設備をもつ船。③他船の漁獲したものや加工品を運搬する船。④漁業を主目的としないが，漁労設備をもち，漁業に関連ある調査研究を行なったり，教育のための訓練を目的とする船。漁船を呼称するのに，漁業種類を冠する場合もある。のり舟・一本づり漁船・カツオ漁船・延縄(はえなわ)漁船・捕鯨船・捕鯨母船・サケ-マス漁船・底引き網漁船などがそれである。漁船の多くは，漁労目的のために特別に建造されるので，船型や装備には特異なものがある。たとえば，カツオ漁船には餌料(じりょう)生イワシのための生簀(いけす)やつり台や散水装置がある。トロール漁船には，オッターボードを揚げるためのギャロスや，強力なウインチが必要な装備である。漁獲物の鮮度保持は，漁船のひとしく意を注ぐ点で，ごく一部のものを除き，冷凍・冷蔵の設備をもっている。

【漁船の登録】すべての漁船は，漁船法による登録をしなければならない。登録した漁船には，登録票が交付されるが，登録は動力船のみならず，無動力船の場合も例外ではない。漁船は次のように，大きさによって1～7級に区分される。①100トン以上の海水動力船。②5～99トンの海水動力船。③4.9トン以下の海水動力船。④4.9トン以上の海水無動力漁船。⑤4.9トン以下の海水無動力漁船。⑥淡水動力漁船。⑦淡水無動力漁船。登録ずみの漁船には登録票番号表示，たとえば，ＣＢ1-25とは，千葉県庁に登録した1級漁船のことを示し，ＴＫ-２-1006は，東京都庁登録の２級漁船を意味する。一方，船舶安全法では，漁業の種類により３種類に分けている。①沿岸漁業を中心とした漁業に従事するものを第１種従業制限漁船。②沖合いおよび遠洋漁業を行なうものを第２種従業制限漁船。③母船式漁業に従業する母船，および漁獲物の運搬船，試験調査船・指導船・練習船などの特殊船を第３種従業制限漁船としている。　〔石野　誠〕

ぎょせんそんがいほしょう　【漁船損害補償】　漁業の保護・育成のために国が行なう経済政策の一種で，保険のもつ公共性と社会性を広く漁民にまで及ぼしたものである。1952年(昭和27)に制定された漁船損害補償法では，漁船損害補償を，漁船保険組合の漁船保険事業および政府の再保険*事業によって行なう旨を規定している。漁船が不慮の事故によりこうむった損害の復旧を補償し，さらに適当な時期における更新を容易にし，漁業経営の安定に資することを目的とし，一定の条件下での義務加入制，満期保険制および保険料の一部国庫負担などを採用して，特に中小漁民の保護・育成に重点を置いているのが特徴とされる。➔漁船保険　〔庭田範秋〕

ぎょせんほけん　【漁船保険】　漁具を含む漁船の滅失・沈没・損傷その他の事故による損害の填補(てんぽ)を目的とする保険。漁船は漁業者にとって主要な生産手段・財産であり，これを失いまたは破損されることは，生産の機会を奪われるだけでなく，その生活すら脅かされる。漁船は，一般の船舶に比して危険率が高く，危険の性質も異なるため，海上保険者からは漁船保険は敬遠されてきた。このため，わが国では，1937年(昭和12)漁船保険法を制定し，漁船所有者で組織する保険組合がその組合員の所有する漁船につき相互保険を行ない，政府がその責任について再保険*を引き受け，さらに国庫補助を行ない，また，船舶満期保険のような生命保険の原理を採用した損害保険を実施して，漁業の保護・育成を図る

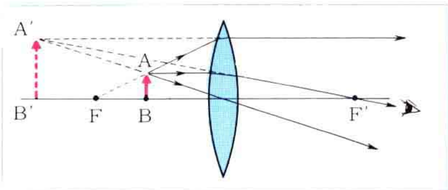
ようにした。➔漁船損害補償〔庭田範秋〕

きょぞう【虚像】 光学系を通過した光線を逆向きに延長したものが像をつくるとき，これを虚像という。すなわち，任意の1点から出た光線束がある光学系を通過したあとで，1点に集まらなくとも，逆の方向に延長すると1点に集まるならば，これはもとの点の虚像であり，それらが集まって物体の虚像をつくる。平面鏡に映る物体の姿や，虫めがね*を通して見られる拡大された像はいずれもこの例である。

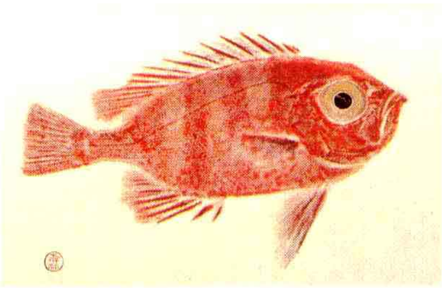
キヨソーネ［Edoardo Chiossone］（1832～1898） イタリアの銅版画家。1875年（明治8）招かれて来日，大蔵省紙幣寮（のちの印刷局）に奉職し各種紙幣・切手などの製作を担当，後進のためにその技術の指導にあたりながら，明治天皇や明治元勲の肖像版画を多く描いた。なお，彼が在日中に収集した30,000点余の日本美術品は，遺言によって故郷のジェノバ市に寄贈され，キヨソーネ博物館に収蔵されている。

ぎょそん【漁村】 主として水産業（漁業・水産養殖・水産加工）収入に依存する住民で形成される集落をいう。わが国では，島国である関係上，古くから水産業の発達がみられ，漁業集落もおよそ4,000内外に及んだ。このうち湖沼・河川漁業もみられるが，そのほとんどは臨海漁業である。大別すれば，純漁村と半農半漁村とに分けられるが，前者は山地・傾斜地で農耕に不利な地帯にみられ，後者は農耕可能な砂浜・磯浜（いそはま）地帯に発達し，その数も圧倒的に多い。水産業の主体である漁業は，水界の生物を捕獲するもので，自然の制約を強く受ける産業であるところから，その生産力の増大は，漁労技術（船・漁具）の進歩いかんにかかっている。その結果，生産手段の所有をめぐって，網主・船主と網子・船子との間に，支配・従属関係が生まれた。また，沿岸漁場の共同所有によって，漁場入会権（➔入会権）の確立も行なわれた。しかし，造船技術の進歩によって，遠洋漁業*のウェートが高まり，漁村はその規制力を弱め，資本蓄積の増大，大資本の進出が行なわれている。また漁業は本来副食物提供の地位にあるために自給自足を行なうことができず，古くから市場*の開発が行なわれていた。交通機関の発達，生物の長期保存技術および加工技術の開発によって，大量捕獲・大量消費が確立され，この面からも大資本の進出が可能になった。この結果，沿岸漁業を中心とする漁村は衰退し，これに代わって沖合い・遠洋漁業の村と，漁港集落の形成がみられる。しかし，そのほとんどは大資本に対抗するには，あまりに零細であり，むしろ，漁業プロレタリア化，または季節出かせぎ漁民として大資本に雇われ，若干の沿岸漁業を兼業している漁民が多い。〔根本英美〕

ぎょたい【魚袋】 平安時代以来，束帯*のときに用いられた装身具の一種。中国，唐朝の随身符の制を移入したものである。唐朝の宮中に出入する者は魚形の随身符を左右合わせて身分を証明したが，その随身符を入れた袋が魚袋の起こり。日本ではサメ皮でつくって魚形の金具をつけ，節会*（せちえ）などの式日に石帯の左か右につけた。嵯峨（さが）天皇（在位809～823）のころからみられ，平安中期になると参議以上は金装，四位・五位は銀装と定められた。〔勝呂千枝〕



虚像 Aより出た光線はレンズで屈折され，あたかもA′から出てきたように見える



魚拓 クルマダイ。間接法

きょだいじ【巨大児】 形態に異常はないが，発育がきわめて佳良なために普通の成熟児に比べて著しく大きい新生児。わが国では生下時体重3,800g以上のものを巨大児としている。胎児が巨大になる原因については不明なことが多いが，遺伝的因子，母体の糖尿病などに関係があるとされている。特に糖尿病母体の巨大児出生率は非常に高率である。巨大児は児頭と骨盤の関係が不均衡になるために，分娩障害を起こす率が高い。〔木川源則〕

きょだいとし【巨大都市】 人口100万以上の都市をいい，〈百万都市〉〈世界都市〉〈巨人都市〉などともいう。19世紀から20世紀にかけての産業・交通の発達によって，金融・交易・企業などの経済的な中枢機能を集中した巨大な都市が出現するようになった。巨大都市は，その周囲に多くの中小都市を衛星都市として付属させている。巨大都市の人口は，都市区域の取り方によって異なり，たとえば東京の場合，東京都ならば1,137万，区部ならば822万となり，ロンドンやニューヨークも，大ロンドン・大ニューヨークをとった場合と市街部分をとった場合とでは人口が違ってくる。しかし最も狭い区域をとった場合でも，世界に巨大都市はおよそ80あり，そのほとんどが東アジア・西ヨーロッパ・アメリカ合衆国北東部など北半球の温帯に集中している。〔浅井得一〕

ぎょたく【魚拓】 魚の拓本*の意で，魚の姿態を紙や布の面に写し取るもの。おもに遊漁者が獲物の大きさを記録するために取る。〈魚拓〉という名称は近年のもので，古くは〈魚の押し形〉とか〈魚摺（ず）り〉とかよばれていた。魚拓はわが国独特のもので，外国にはその例がない。現在知られている最古の魚拓は，山形県鶴岡（つるおか）市で発見された1855年（安政2）のものである。

魚拓の作り方には直接法と間接法とがある。直接法は，筆やはけを使って魚体に墨または絵の具を塗り，その上に紙または布を載せ，指先や手のひらで上方から押しなじませて魚姿を写し取るものである。間接法は，魚体に薄手の紙や布をはりつけて密着させ，その上から，墨や絵の具をしみこませたタンポ（紅絹（もみ）に青梅綿（おうめわた）を包み込んだもの）で静かにたたきながら魚姿を写し取るものである。直接法では紙や布の表面が魚体に接し，間接法では裏面が接するのであるから，写し取った魚姿はちょうど向きが反対になる。直接法・間接法ともにそれぞれ作品に特徴があり，その優劣は決定しがたい。魚拓に用いる紙は，画仙紙（がせんし）・麻紙・奉書紙などで，布は布目のつんだもめん・麻・絹などがよい。いずれも，直接法では厚手のものを，間接法にはやや薄手のものが用いられる。〔清水游谷〕

きょだつ【虚脱】

1 正常な血液循環がはなはだしく障害され，全身活力の突然の喪失をきたした状態。原因は大出血，血管運動中枢の麻痺（まひ），呼吸循環系の反射機能の障害，物質代謝の極端な低下，血圧の極端な低下，血管に対する毒物の作用などがあげられる。ショック*の高度な状態も虚脱に含まれる。症状は，皮膚蒼白（そうはく）・冷や汗などがあり，脈搏（みゃくはく）は細小頻数（ひんすう）で不整脈，血圧と体温は降下し，呼吸は浅く促迫する。また，意識混濁などをきたす場合もある。

2 内臓が部分的に異常な収縮をすること。おもに肺の拡張の不全状態（無気肺）をいう。手術後の肺の虚脱，虚脱性肺炎などや，肺結核の虚脱療法（人工気胸・胸郭成形術・横隔神経捻除（ねんじょ）術・人工気腹など）においてもみられる。〔国井乙彦〕

きょたんやく【去痰薬】 痰（気道にたまった粘りけのある分泌物）を外に排出させる薬の総称。痰をとかして排出しやすくする溶解性去痰薬にはヨード塩類・アンモニウム塩類などがある。また，分泌を亢進（こうしん）させて痰を希薄にし，排出しやすくする悪心（おしん）性去痰薬にはサポニン類・セネガ根・桜皮などがある。このほか，せきを誘発して排出させる刺激性去痰薬，分泌を抑制する分泌抑制去痰薬などがあるが，あまり使用されない。

きょちゅうちょうてい【居中調停】 ⇨仲介

ぎょっき【玉器】 中国では古来玉*（軟

玉)を材料に種々の玉器をつくった。殷(いん)・周時代の人は玉の美しさに霊力を求め，圭(けい)・笏(こつ)・琮(そう)・璧(へき)などの祭器を多くつくったが，秦(しん)・漢時代以後は呪術(じゅじゅつ)的意味が薄れ，実用的な装身具が多い。

きよつきょう【清津峡】新潟県の南東部，信濃(しなの)川支流の清津川中流にある渓谷(けいこく)で，信濃川との合流点から約5kmさかのぼった中魚沼郡中里村小出(こいで)から上流へ約8kmの八木沢までをいう。キ石安山岩をうがって数十メートルの断崖(だんがい)をつくり，早瀬や淵(ふち)などとともに渓谷美をなし，新緑や紅葉のころは特に美しい。清津温泉もあり，訪れる客も多い。一帯は上信越高原国立公園*の一部になっている。

きょっこう【極光】⇨オーロラ

きよつね【清経】能の曲名。世阿弥*(ぜあみ)作。二番目物。平清経は平家の負けいくさを悲しみ，豊前(ぶぜん)(大分県)柳ケ浦で兵船から海中に身を投げて死ぬ。家臣淡津三郎が遺品を持って都へもどり，清経の妻に事態を伝えると，妻は清経のふがいない死を恨むが，そのまくらもとに清経の幽霊が現われ，敗戦の宿命と妻への愛情とを述べて慰め，自身も成仏する。シテは清経の霊。淡津三郎はワキが，清経の妻はシテヅレがつとめる。〔長尾一雄〕

ぎょどう【魚道】魚群が移動していく道筋。定置網などは，この魚道を遮断(しゃだん)して敷設し効果をあげている。河川水域の場合，ダムなどの構築により，魚道の閉ざされるのを防ぐため，緩勾配(かんこうばい)の魚梯(ぎょてい)をつくって，上り下りのできるように施設してある。魚梯にはほかにエレベーター式・閘門(こうもん)式などもある。

きょどうはん【挙動犯】結果が発生してもしなくても，ともかく一定の行為をすれば，それだけで刑法に触れる犯罪。猥褻(わいせつ)罪・住居侵入罪などである。形式犯ともよばれ，結果の発生を必要とする実質犯*(結果犯)に対して用いられる。

きょなん【鋸南(町)】千葉県安房(あわ)郡に属し，浦賀水道に面する。人口13,000。漁村で海水浴場のある保田町と農村の勝山町が，1959年(昭和34)に合併して新発足した。町名は鋸(のこぎり)山の南にあるという意。保田の内陸部では草花が栽培され，房州の草花の露地栽培の北限になっている。房総西線・国道127号線が通ずる。

きょねん【巨然】中国，北宋(ほくそう)の画家。南京(ナンキン)の開元寺の僧で，山水画を描いていたが，やがて汴京(べんけい)(いまの開封)の開宝寺にはいった。董源*(とうげん)を祖述した水墨山水画で著名で，画風は野逸の景がはなはだ備わると評され，景物の布置が自然で平淡である。また筆墨秀潤で，董源とともに南宗画*の祖といわれる。

きよのけんじ【清野謙次】(1885～1955) 病理学者・人類学者。岡山県に生まれる。京都大学医学部卒業ののち同大学医学部病理学教授となり，さらに東京医学専門学校(東京医科大学の前身)教授に転じた。生体染色に関する研究により1922年(大正11)帝国学士院賞を受賞。また，日本人の起源に関する特異な研究を行なった。



清　津　峡



清原元輔《三十六歌仙絵巻》断簡　五島美術館蔵



魚　　道　東京都水道局調布取水所

きよはらし【清原氏】天武天皇の皇子舎人(とねり)親王*の子孫で，平安初期に清原真人(まひと)の姓を賜わった氏。系統はいくつかあるらしいが確かではない。①中央では夏野・深養父*(ふかやぶ)・元輔*(もとすけ)・清少納言*ら著名な学者・文人が出たが，政治的にはふるわなかった。②出羽(山形県・秋田県)の豪族清原氏はこれと同族かどうかは疑わしいが，深養父の子孫と称し，武則(たけのり)は前九年の役*の戦功によって鎮守府*将軍に任ぜられた。その孫真衡(さねひら)の代に同族間で後三年の役*を起こし，滅亡した。〔綾　弘道〕

きよはらのなつの【清原夏野】(782～837) 平安初期の政治家。舎人(とねり)親王の曾孫(そうそん)。小倉王の子。804年(延暦23)はじめて清原真人(まひと)の姓を賜う。官は従二位，右大臣に至る。《内裏式》の改訂，《令義解(りょうのぎげ)》の選定，《日本後紀》の編修に関与し，朝集使常荒田・親王任国の制などに関して献策するところ多く，また文人としても高名であった。

きよはらのふかやぶ【清原深養父】平安時代の歌人。生没年未詳。清原元輔*(もとすけ)の祖父，清少納言*の曾祖父(そうそふ)にあたる。900年前後(寛平・延喜のころ)活躍した。《古今和歌集*》をはじめ，勅撰集(ちょくせんしゅう)に41首の歌を収録。家集に《深養父集》。

きよはらのもとすけ【清原元輔】(908～990) 平安中期の歌人。《後撰和歌集*(ごせんわかしゅう)》選者，三十六歌仙(かせん)のひとり。深養父*(ふかやぶ)の孫，春光(はるみつ)の子で清少納言*の父。歌人として名高く，大中臣能宣(おおなかとみのよしのぶ)・源順*(したごう)・紀時文・坂上望城(もちき)とともに〈梨壺(なしつぼ)の五人〉のひとりとして別当藤原伊尹*(これただ)のもとで《万葉集*》の訓点(古点)と《後撰和歌集*》の選歌に従った。62歳で従五位下，受領(ずりょう)としては肥後守(ひごのかみ)を最後に，83歳で任地で客死。家集に《元輔集》。〔安藤太郎〕

きよはらのよりなり【清原頼業】(1122～1189) 平安末期の儒者。夏野*の後裔(こうえい)。明経博士(みょうぎょうのはかせ)。高倉天皇の侍読。博学多識で，朝廷から諮問を受けて答申することは多く採用された。九条兼実(かねざね)によって国の大器，道の棟梁(とうりょう)と称賛された。死後，子孫はこれを京都嵯峨(さが)の車折(くるまざき)神社に祭った。

ぎょばん【魚板】⇨魚鼓

ぎょひ【魚肥】魚に由来する肥料の総称。わが国では古くから用いられ，徳川時代にはすでに相当大量に使用されていた記録がある。1936年(昭和11)には生産量が46万tに達したが，しだいに減少してきている。第2次世界大戦後は近海資源の欠乏と農業構造改善に伴う畜産振興により，原料は需要の急増した飼料に多く回され，1967年には85,000tにすぎない。主産地は北海道と三陸地方。魚かす*・魚荒かす・干魚肥料・魚節煮かすに大別される。〔早瀬達郎〕

きょひけん【拒否権】国際法上，国際連合の安全保障理事会*の表決手続きにおける，アメリカ・イギリス・ソ連・フランス・中華民国の5常任理事国の特権的な表決権を意味する。安全保障理事会は15か国で構成され，前記5大国は常任理事国，他の10か国は非常任理事国である。安全保障理事会が活動する際の決議は，手続き事項については，単に9理事国の賛成投票によって行なわれるが，他のすべての事項，すなわち，非手続き事項(実質事項ともいう)については，常任理事国すべての同意投票を含む9理事国の賛成投票によって行なわれる。したがって，後者の場合，常任理事国は1国の反対だけで決議を不成立にすることができ，この大国の決議成立の拒否をする権利を拒否権という。国連の大国主義を示す

ものである。拒否権の適用がある事項は，紛争の処理と強制措置に関する事項，地域的協定または機関による行動の許可，戦略的信託統治の監督，事務総長の選任，加入・除名の勧告など，国連の重要な活動に関するものがそれにあたる。第2次世界大戦後の国際社会における東西対立から，拒否権の行使もこれを反映して国際連合の安全保障に関する機能にとって重大な支障となっており，修正が望まれる。〔広部和也〕

ぎょぶつ【御物】天皇の所有している物品をいう。〈ぎょもつ〉ともいう。君主の所有品を御物としるしている《史記》が出典となっている。実際には単に天皇のお手回り品ばかりではなく，皇室の所蔵になる美術品・工芸品・図書文献類なども含めてよばれ，むしろ一般には，皇室関係の美術・工芸品が御物の名称で知られている。1930年(昭和5)，宮内省(宮内庁の前身)は御物調査委員会規定を定めて，御物となるべきものを審査のうえ宮内大臣が指定した。それによると，皇室に属する書画・図書類のほかに，皇室にゆいしょあるもの，歴史の証徴となるべきもの，および美術的鑑賞の価値あるものなどがあげられている。その指定の際，御物についての指定・解除・保管に関し，厳重な規定が設けられた。しかし第2次世界大戦後は，単に皇室の私有財産をさすようになり，宮内庁の侍従職がその取り扱いの責任にあたっている。御物は現に皇居に所蔵されているもののほか，奈良の東大寺正倉院，京都の東山御文庫，国立博物館などに収蔵されているものも多く，特に限られたもの以外は，一般に展覧・拝観の機会が設けられている。〔高崎徳次〕

ぎょふん【魚粉】魚肥の別名のように通称されているが，魚かす・魚荒かす・干魚肥料を2mm以下の粉末にしたものである。化学肥料と比べると肥効はゆるやかで，窒素・リン酸の効果は油かすと同価値である。配合肥料原料として多く用いられる。

きょぶんとうじけん【巨文島事件】1885～1887年，朝鮮海峡の小島である巨文島をイギリスが占領した事件。当時中国の清朝(しんちょう)は朝鮮政界を支配していたが，ロシアもまた朝露通商条約を結んで，元山港の使用権を得た。中央アジアでロシアと激しく対立していたイギリスは，ロシア極東艦隊の通路にあたる巨文島を1885年4月突如占領，砲台を築いて牽制(けんせい)した。一方ロシアは，清朝がイギリスの占領を認めるならばロシアもまた朝鮮の一部を占領すると清朝に抗議した。その後中央アジアでの両国の衝突も治まったので，ロシアはイギリスの撤退後も巨文島を占領しないと清朝に約したため，1887年2月イギリスは同島を撤退した。〔安達淑子〕

ギヨーマン［Armand Guillaumin］(1841～1927) フランスの画家。セザンヌやピサロと交わりながら，印象派の一員として活躍した。パリ郊外などを扱った叙情味の豊かな風景画，よくまとまった構図の静物画が出色。



ギヨーマン《ペシャデワールの村》1822 レンヌ市立美術館蔵



清水寺　本堂

きよみずでら【清水寺】京都市東山区清水にある法相宗(ほっそうしゅう)の寺。興福寺の末寺。山号は音羽山(おとわさん)。798年(延暦17)，坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)が，延鎮を開基として創建したといわれている。810年(弘仁1)国家安泰を祈る道場となり，朝野の信仰あつく，また市民遊楽の地としてにぎわった。特に中世，西国三十三所の第十六番札所として参詣人(さんけいにん)が多かった。現在の本堂は1633年(寛永10)3代将軍徳川家光(いえみつ)によって再建されたものであるが，平安以来の伝統的な様式により，懸崖(けんがい)に建てられて，舞台造りとして有名である。本尊の十一面観音立像は国宝に，末吉(すえよし)船図・角倉(すみのくら)船図などの渡海船額は重要文化財に指定されている。〔毛利早公子〕

きよみずやき【清水焼】⇨京焼　⇨次項

きよみずろくべえ【清水六兵衛】京都東山の陶工。清水(しみず)ともいい，初代六兵衛は清水焼の祖。代々六兵衛を称する陶家清水家の中で，第3代清水六兵衛(1808～1883)が最もすぐれた作品を残している。その作陶の範囲は青磁・染付・赤絵などと幅広く，特に朝鮮陶・瀬戸陶の雅趣を写したものに妙技を発揮し，京風の気分にいなかの野性味を盛った初代からの陶風を完成した。

きょむしゅぎ【虚無主義】⇨ニヒリズム

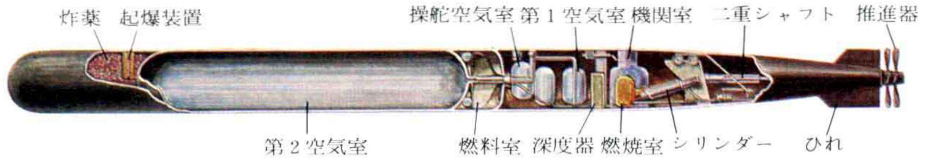
ぎょもう【漁網】⇨網漁具

きよもとうめきち【清元梅吉】清元節三味線(しゃみせん)方。今日まで4世を数える。初世(1841～1907)の門弟である2世(1854～1911)が有名で，《三千歳(みちとせ)》《青海波》などを作曲した。その実子である3世(1889～1966)は名人として名高く，作品に《お夏狂乱》《小袖物狂(こそでものぐるい)》などがある。

きよもとえんじゅだゆう【清元延寿太夫】清元節の家元。今日まで6世を数える。初世(1777～1825)は富本節から別れて清元節を創始した。その実子である2世(1802～1855)，清元お葉の婿になった4世(1832～1904)，4世の養子の5世(1862～1943)らは，清元節をそれぞれの時代にあった形に変化させ，多くのレパートリーを残した。

きよもとぶし【清元節】わが国の伝統音楽の曲種の一。語り物あるいは浄瑠璃(じょうるり)の一流派とされ，常磐津節(ときわずぶし)・富本節とともに豊後節(ぶんごぶし)系浄瑠璃ともよばれる。初世清元延寿太夫(だゆう)が始め，1814年(文化11)富本節から分かれて流派として独立した。種々ある浄瑠璃の中でもいちばん新しい様式で，主として歌舞伎(かぶき)の舞踊音楽として発展してきたが，舞踊曲ではない素浄瑠璃としての曲もある。音楽的な新しさが声楽・器楽の両面にくふうされており，江戸末期の退廃的な美感の表現であるといわれている。とりわけ発声法が他の流派と異なり，高音域の裏声や柔らかな音色をねらって鼻腔(びこう)に共鳴させた発声を行なう。鼻音的発声法が顕著に現われた例として，字句の間に〈ン〉の音を挿入(そうにゅう)することが多い。三味線(しゃみせん)は中棹(なかざお)のやや細めのものを使い，あくまでも声楽が主体となり，伴奏はごく控えめに柔らかな音色でつけられる。旋律構造は微妙な装飾音に特徴がある。演奏形態は〈二丁三枚〉ということばのとおり，正式には三味線が2人，太夫(語り手)が3人である。三味線は地(本手)が中心となり，いわばそれの引き立て役として対位法的な手法の上調子が従う。代表的な曲に，《保名(やすな)》《累(かさね)》《三千歳(みちとせ)》《神田祭》《青海波》《北州》などがある。〔山口　修〕

ぎょゆ【魚油】水産動物油脂のうち魚体油をさし，肝油および海獣油と区別する。普通は原料によっていわし油・にしん油・さんま油などに区分するが，原料種が不明であったり，あるいは数種の魚油の混合の場合はざこ油ともいう。魚油の採取法に



魚　雷　93式酸素魚雷

は自家消化法・アルカリ消化法・酵素消化法・蒸煮法・煮取法・圧搾法および溶剤抽出法がある。魚油は種々の物質の混合物で，一般にグリセライドを主とし，アルコール・炭化水素・ステアリン・脂溶性ビタミンを含む。採取された魚油には臭気があるため，精製ののち水素を添加して硬化油にされる。魚油そのままでは低級なせっけんや塗料，硬化油はマーガリン・せっけん・ろうそくなどに用いる。〔久保田穣〕

きょゆう　【許由】　中国上古の伝説上の逸民。堯(ぎょう)から帝位を譲られたが，拒絶して箕山(きざん)に隠栖(いんせい)した。また，九州の長に推薦されたが，けがらわしいことを聞いたとして自分の耳を洗った。ある人にもらったひょうたんを唯一の器として水を飲んだが，それを木の枝にかけたところ，風に鳴る音がうるさいとして捨てたという〈許由一瓢(いっぴょう)〉の故事も有名。道家より隠逸の模範とされる。

きょようかん　【居庸関】　チュイヨンコワン　中国，北京(ペキン)北西方約600kmにある古関。華北とモンゴルを結ぶ交通の要衝で，大行山脈を越える隘路(あいろ)に置かれた。前秦(ぜんしん)時代から九塞(さい)の一つに数えられ，元代を除き漢民族にとって北方のモンゴル族防衛の要衝であった。現在はアーチ状の城門雲台が残っている。門は元のラマ教保護によって発展したラマ教芸術の粋を凝らした遺跡として名高く，各種の文様と，漢字・サンスクリット・チベット・モンゴルなどの各文字による陀羅尼(だらに)が刻まれている。

きょようせんりょう　【許容線量】　放射線によって人が受ける害をできるだけ少なくするために決められた被曝(ひばく)線量。個人被曝許容線量と外部許容線量がある。前者は人間に対する量で，後者は放射性同位元素などを取り扱う施設による害をできるだけ少なくするためにその施設が守らねばならない線量である。放射線は生物の細胞組織に変化を与える。たとえば，大量に浴びると血液中の白血球の量が変化したり皮膚に潰瘍(かいよう)ができたり，また，遺伝学的には突然変異を起こすともいわれている。しかし一方，放射性同位元素などの放射能を有する物質はトレーサーあるいは放射線源としていろいろな分野で非常に役だつものであり，また原子炉は新しい動力源として開発が進められている。そこでこれらを利用することにより人類は恩恵を受ける。このために放射線を浴びることはある程度はやむをえないにしても，利益と害とのかねあいでここまではがまんしてもよいという線量が決められねばならない。国際放射線防護委員会(ICRP)では，医学的・生物学的に研究されて決められており，勧告の形で発表されている。放射性同位元素等を取り扱うことを職業とする者と一般の者とでは受ける利益の程度も異なるので，被曝許容線量も別々に定められている。わが国の法律では，上記の勧告に基づき放射線関係の職業に従事する者に対する被曝許容線量として3か月間に3レム(放射線量の単位で放射線人体当量という)以下と定められている。また放射線関係の施設は区域外，すなわち一般人の通行するおそれのある所へは1週間につき10ミリレム以上の外部放射線量が出ないように遮蔽物(しゃへいぶつ)などを置かねばならないこととされている。〔加藤敏郎〕

きょらい　【去来】　(1651〜1704)　江戸前期の俳人。向井氏。名は兼時。医師元升(げんしょう)の子で，武術などにひいでたが，官途を求めず京都市西郊嵯峨(さが)の落柿舎(らくししゃ)に住んだ。芭蕉(ばしょう)に親しく指導を受け，深い学識と温厚篤実の性格もあって蕉門有数の高弟となり，《猿蓑(さるみの)》を編集・刊行した。終生師の説を守り，蕉門内外の論争には《俳諧(はいかい)問答》《旅寝論》などをもって答え，また《去来抄》を草して師説を伝えた功績は大きい。〔奥野純一〕

ぎょらい　【魚雷】　魚形水雷の略称。艦艇または航空機から水中に発射され，その後は一定深度を自走して艦船底部に衝突・爆発して撃沈する兵器。

【歴史】オーストリアの海軍士官ルピスがいだいていた構想に，当時イタリアのフューメに住んでいたイギリス人の技師R.ホワイトヘッドが協力，技術的援助を与えて現在の魚雷とおおむね同じ原理のものを完成させた(1866)。ホワイトヘッドはその後も改良を続け，1868年にはヨーロッパの主要海軍が，ホワイトヘッド魚雷を装備するに至った。その戦績としては，ロシア-トルコ戦争でロシアの海軍がこれを用いてトルコの汽船を撃沈したのが最初。日清(にっしん)・日露両戦争の海上戦闘で日本海軍は魚雷により戦果をあげた。第1次世界大戦では，水上艦艇と潜水艦がこれを装備，このころの魚雷は直径53.3cm，速力35ノット(約65km/時)，爆薬量150kg，最大射程6,500mに達していた。魚雷の発達に伴い，水雷艇・水雷駆逐艦(のちの駆逐艦)・雷撃機などが出現，海上戦闘の様相を大きく変えた。

【種類と構造】先端には起爆装置および高性能爆薬，中部に気室(魚雷全長の約半分を占める)，後部には機関を中心に，深度機・燃料室・平衡室など，魚雷の航走・命中に必要な機器が装備され，最後端はプロペラとかじ(縦・横)である。原動機は圧縮空気で駆動されるレシプロエンジンを用いるのが普通である。電池により電動機を駆動させる，いわゆる電気魚雷もある。第2次世界大戦中，日本海軍が使用した酸素魚雷は，射程40,000m，爆薬量500kg，速力45ノット(約83km/時)以上に達し，しかも無航跡という世界一の高性能を示した。〔藤井冬木〕

きょらいしょう　【去来抄】　去来の草した俳論集。1704年(宝永1)ごろの稿。芭蕉(ばしょう)や同門の俳人の言説を集成し，芭蕉の句評を収めた《先師評》，門弟間の合評をまとめた《同門評》，蕉門の俳諧(はいかい)法式を解説する《故実》，不易流行・寂(さび)・しおり・移り・ひびきなど蕉風の本質論を収める《修行教》の4部よりなる。土芳(どほう)の《三冊子(さんぞうし)》と並ぶ蕉風俳論の代表作。

ぎょらいてい　【魚雷艇】　魚雷を主兵装とするモーターボート型の高速艇。第1次世界大戦中に，イギリスやドイツ海軍がスポーツ用船艇や警備艇を基礎に魚雷を搭載(とうさい)し，沿岸警備に使用したのが最初。港湾や島の多い海域・海峡などで大形艦に対する攻撃に適性をもつ。第2次世界大戦中のアメリカの魚雷艇の活躍は有名で，連絡・哨戒(しょうかい)・救難などにも使われている。

きょり　【距離】　ある空間内に2点P，Qが与えられたとき，その空間内のPからQへの道に沿ってはかった長さを道のりという。PからQまでの道のりのうち最小の値をその距離という。ユークリッド空間(→空間)では，直線上の2点P(x_1)，Q(x_2)の距離は$|x_1-x_2|$，平面上の2点P(x_1, y_1)，Q(x_2, y_2)の距離は$\sqrt{(x_1-x_2)^2+(y_1-y_2)^2}$，球面上の2点P，Qの距離はその2点を通る大円の弧の長さになる。2点P，Qの距離は，PとQの位置によって定まる関数ρ(P，Q)で，これを特徴づける性質は次の三つである。

①　P≠Qのときρ(P，Q)＞0，ρ(P，P)＝0

②　ρ(P，Q)＝ρ(Q，P)

③　ρ(P，Q)＋ρ(Q，R)≧ρ(P，R)

一般に，図形Fと図形F′との距離は，F，F′上にそれぞれ点A，Bをとったとき，ρ(A,B)の最小値で定義する。〔菊池兵一〕

きょりく　【許六】　(1656〜1715)　江戸前期の俳人。森川氏。別号に五老井・菊阿仏(きくあぶつ)など。近江(おうみ)(滋賀県)彦根(ひこね)藩士で，絵画・漢詩もよくした。俳諧(はいかい)は其角(きかく)らについたのち，1692年(元禄5)芭蕉(ばしょう)に謁して懇切な指導を受け，《柴門之辞(さいもんのじ)》を贈られた。芭蕉没後，彦根俳壇の中心として選集《韻塞(いんふたぎ)》《篇

突(へんつき)》(河野李由(こうのりゆう)と共選)や俳文集《本朝文選》を刊行。また，去来*と《俳諧問答》の論争を展開し，《宇陀法師(うだのほうし)》を著わすなど，蕉風俳諧の理念の明確化に貢献した。〔奥野純一〕

きょりけい　**【距離計】**　ある地点からある地点までの距離を光学的にはかる器械。プリズムとレンズの組み合わせの違いでいろいろの種類があるが，その構造と原理を二重像式距離計で説明すれば以下のとおりである。図において，A，Bは直角プリズムで，Aは固定し，Bは固定軸のまわりを回転する。Dは色ガラスをはめこんだスライドである。いま，AからPまでの距離をはかるためにレンズCからのぞくと，Aを通ったPの像と，Bで反射してDを通り，さらにAで反射した色のついたPの像とが二重に見える。そこで，二つの像が一致するまでBを回転し，Bについている目盛りを読み取れば距離がわかる。おもに写真をとる際の距離測定に用いられたが，現在ではカメラに組み込まれた連動式がほとんどである(→カメラ)。なお，より精度の高いものに測距儀がある。

ぎょりゅう　**【御柳】**　双子葉植物・離弁花類・ギョリュウ科。中国原産の落葉高木で高さ6mほどになる。幹は直立し，密に細長い枝を出す。葉は非常に小さいので鱗片(りんぺん)のように見え，枝に密生する。花は淡紅色の小さな5弁花で，枝先に総状花序につき，春と夏の2度咲く。春の花は大きくて前年の枝に咲き，結実しないが，春の花より小さい夏の花は今年の枝に咲き，結実する。果実は蒴果(さくか)で，種子に冠毛がある。庭園に植えられる。〔加藤僖重〕

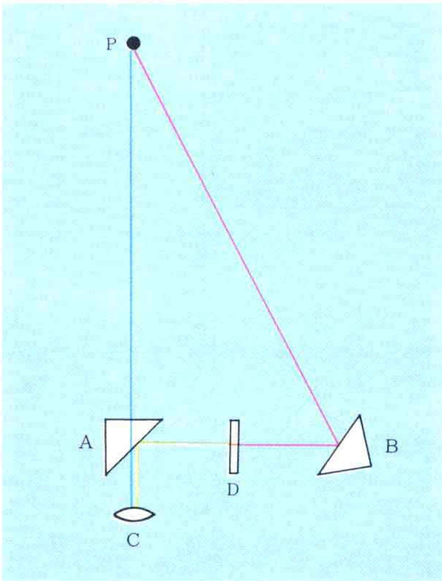
ぎょりゅうるい　**【魚龍類】**　中生代三畳紀に出現し，ジュラ紀に栄え，白亜紀に滅亡した爬虫(はちゅう)類。最も高度に水生に適応した群れである。イクチオザウルスはこの仲間である。

ぎょりんずさつ　**【魚鱗図冊】**　中国，宋(そう)代以降，特に明(みん)代から租税徴収の資料として作成された土地台帳。一筆ごとの区画を示した地図をつくり，これに各土地の所在地・地目・面積・形状・境界・税額，所有者と耕作者の氏名などが記入してある。これを総合した図が魚のうろこの並んだ形に似ているところからこの名が生まれた。

ぎょりんせん　**【魚鱗癬】**　皮膚の表面が乾燥し，厚い角質がひび割れて魚のうろこ状を呈する遺伝性角化症。尋常性魚鱗癬と先天性魚鱗癬に大別される。尋常性魚鱗癬は俗に鮫肌(さめはだ)とよばれるもので，生後1～2年から現われ，四肢(しし)の外側を冒すほか，軀幹(くかん)にも現われるが腋窩(えきか)や陰部は冒されない。夏季軽快して冬季増悪するが，一般に思春期になると軽快する。ビタミンAの内服や外用が行なわれるが，入浴もよい。先天性魚鱗癬はまれで，血族結婚の場合に多く，前者より重症である。〔田嶋公子〕



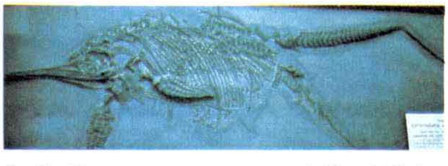
魚雷艇



距離計　原理図



ギョリュウ

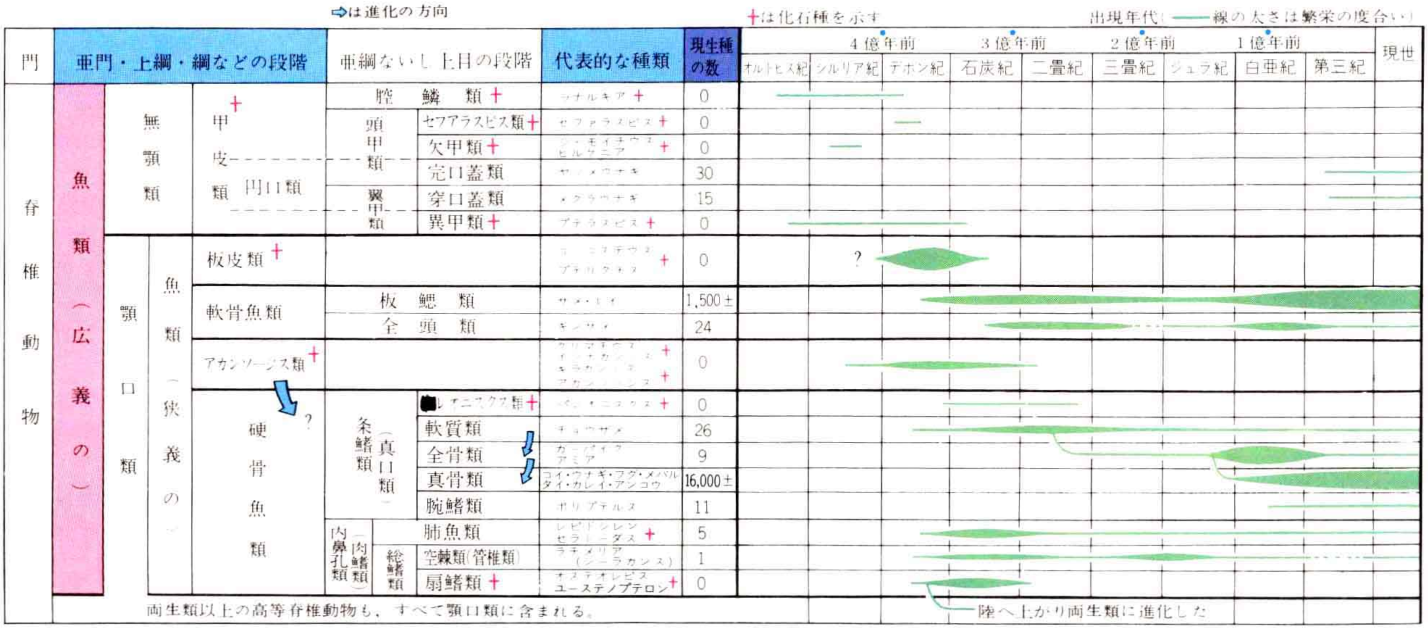


魚龍類　イクチオザウルス。魚龍は卵胎生なので幼体の状態で分娩する。写真は分娩中に死んで化石となったもの

ぎょるい　**【魚類】**　脊椎(せきつい)動物のうち最も下等な動物群。地球上にはさまざまの魚がおり，サメとフナとでは，姿も生態もすむ場所も異なる。しかし，千差万別の魚の間にも共通する特徴がある。つまり，すべてが終生水中の生活を送る冷血脊椎動物で，解剖学的には脊椎をもち，えらで呼吸し，四肢(しし)がなくひれをもち，一定の体温をもたぬ動物である。なお，ヤツメウナギ・メクラウナギなどの円口類*は，外観は名の示すようにウナギに似ているが，上顎(じょうがく)・下顎がなくて筒のような口をもっているなど，体のしくみが他の魚類と大いに異なるので，狭義の魚類からは除くことが多い。狭義の魚類は，サメ・エイ・ギンザメなど，骨格に硬骨のない軟骨魚類(現生種約1,500)，コイ・タイなど骨格が主として硬骨からなる硬骨魚類(現生種約16,000)，シルリア紀から石炭紀初期に淡水で栄えた板皮類，シルリア紀から二畳紀初期に淡水に分布したアカンソージス類に分けられているが，学者によっては最後の二つを板皮類(広義)として一つにまとめている。これらのグループは，分類学上それぞれ綱として扱われることが多い。

【進化】魚類は最も下等な脊椎動物であると同時に，ヒトを含む高等脊椎動物を生み出す母体となった動物でもある。魚類の進化の道筋は，化石が十分発見されていないこともあって推定にたよらざるをえない部分もあるが，およそ次のように考えられている。魚類(広義)として最も古くに現われたのは甲皮類で，古生代オルドビス紀の地層からその化石が発見されている。これは鎧(よろい)のようにかたい甲質の板に身を固め，上下に押しつぶされたような形のものが多い。外形は現生の魚とさほど違わないが，上顎・下顎がなく，丸い口であることが大きな違いであり，内部骨格は軟骨からなっていたと思われている。この類はデボン紀に栄えたが，ちょうど同じころに進化してきた有顎の魚との生存競争に敗れたのか，石炭紀の初めには滅び去った。現生のメクラウナギ・ヤツメウナギ類は，口の構造からみて甲皮類の末裔(まつえい)と考えられる。有顎の魚類(狭義の魚類で，顎口類という)のうちの最古の化石は，シルリア紀後半の地層から発見されるアカンソージス類で，コイのような胴体にサメのような尾をもち，かたいとげのあるひれをもつが，この類の先祖はなんであるかはわかっていない。デボン紀の初めを最盛期としてしだいに衰え，二畳紀の初めに絶滅した。この類を学者によって軟骨魚類に入れたり，硬骨魚類に入れたりしているが，最近は硬骨魚類の直接の先祖とみなす考え方が強まっている。アカンソージス類とほぼ同じころのシルリア紀末期に，板皮類が出現した。これは鎧のような殻(から)をもち，甲皮類に似ているが，硬骨性の骨格と両顎があることで区別される。デボン紀の淡水域に広く分布したが，石炭紀の初めのころに絶滅した。

軟骨魚類はデボン紀の中期に現われ，中生代の初めには一時衰えたが，ギンザメ類を除いてはよく繁栄し，今日に至っている。



魚　類

初期のころは淡水域に分布したが，現在ではほとんどの種が海水生である。硬骨魚類はオルドビス紀に先祖が現われたらしいが，はっきりしたことはわかっていない。しかし，デボン紀にはすでに条鰭(じょうき)類・肺魚類・空棘(くうきょく)(シーラカンス)類・扇鰭類の4グループが出現していた(空棘類と扇鰭類はともにふさ状のひれをもつので，総鰭類としてまとめることがある)。条鰭類は淡水域に出現したが，中生代以降大いに繁栄して，今日ではあらゆる水域に進出しており，現生硬骨魚のほとんどがこれに属する。肺魚類はうきぶくろの変形した肺をもち，古生代の淡水域に一時的に栄えたが，今日ではわずかの種類が命脈を保つにすぎない。空棘類は特筆すべき繁栄を示さず，主として海域に生活し，白亜紀末期を最後として化石さえも姿を消しており，絶滅したと考えられた。しかし，1938年にインド洋の南アフリカ海域からラチメリア-カルムネという種が捕獲され，さらに1952年にも再び捕獲されて現在でも生き残っていることがわかり，〈生きている化石〉として有名になった。扇鰭類は淡水域に生活し，さして繁栄するでもなく，二畳紀の中期にその主脈は絶滅するが，デボン紀の末期近くに主脈から分かれた一分枝がその後陸上に進出して肺呼吸をし，両生類へと進化し，さらにはヒトを含む脊椎動物の先祖となった。

〔形態〕 中央が太く頭と尾の方向に細まるいわゆる魚形のものが多いが，細長いものや平たいものなど変化がある。サメやマグロなどのような紡錘形，紡錘形を前後に引き伸ばしたウナギ形，紡錘形を軽く伸ばしたフグ形，体を背腹の方向に押しつぶした縦扁(じゅうへん)形(アンコウ・エイなど)，縦扁形と押しつぶす方向が90°異なる側扁形(アジ・タイなど)などである。

体は頭・胴・尾の3部に分かれるが，境めは判然としない。うろこがあるのが普通で(円口類にはまったくない)，体表は粘液が多くぬるぬるしていて皮膚と水の間の摩擦を少なくするのに役だっている。サメのうろこは楯鱗(じゅんりん)とよばれて歯と同様の構造を示し，硬骨魚類のものは真皮の変化したコスミン鱗・硬鱗・骨鱗(円鱗・骨鱗の2種がある)である(→うろこ)。魚類には四肢がなく，運動は体の屈伸とひれによって行なう。ひれには，体の左右に対をなすひれ(胸びれと腹びれ)と，体の正中面上にしかないひれ(背びれ・しりびれ・尾びれ)があり，胸びれと腹びれはそれぞれ高等脊椎動物の四肢にあたる。これらのひれは体の平衡維持にも役だっているが，ひれの全部または一部を欠くものも少なくない。硬骨魚類の尾びれはふつう上下が対称で正尾とよばれるが，チョウザメやサメでは上半葉が長く伸びて不対称となり歪尾(わいび)といわれ，またエイでは退化してむち状となっている。ウナギやアナゴでは尾びれ・背びれ・しりびれが連なり，境目がはっきりしない。

体の側面には小さな穴のあいた側線鱗の列(側線)がある。側線にはえらぶたの後ろから尾にかけて1本走っているものが多いが，ハゼのように体表に現われないものや，カレイ・アイナメなどのように何本もの側線をもつものもあり，また頭部に側線が分布するものも多い。側線鱗は球状の感覚器につながっており，側線によって水圧・水流の方向・振動などを感ずる。急速度で泳ぐものや急流にすむものに発達する傾向がある。

頭部にはえら穴があるが，その数は魚種によって異なり，硬骨魚類とギンザメでは左右に1対，大部分のサメ・エイでは5対，ラブカ・カグラザメでは6対，エドアブラザメでは7対である。なお，円口類のメクラウナギでは6対，ヤツメウナギでは7対である。

魚類の体の前端には口があり，多くのものでは水平またはやや斜め上方に開くが，円口類・軟骨魚類の多くは体下面に，ホウネンエソ・ミシマオコゼなどはほぼ垂直に上面に開く。歯は上下顎だけではなく，のどの奥や口蓋(こうがい)にもあるものがあり，イボダイの仲間では食道にもあることが知られている。

魚類の体色はさまざまであるが，一般に軟骨魚類と北方の硬骨魚類および円口類はじみで，南方系の硬骨魚類ははでである。また，体色は体調のいかんや生きているときと死んだとき，闘争に勝ったときや敗れたときなどによって著しく異なる。また，カンダイ・ブリ・サザナミヤッコ・カゴカキダイなどのように成魚と幼魚で斑紋(はんもん)やしま模様の著しく異なるものや，キュウセンなどのように雄と雌でまったく色彩や斑紋の異なるもの，コイ科のもののように生殖期の雌雄間で色彩の違いが生じるものなどがある。さらに，アミメハギ・カレイなどのように周囲の環境に合わせて体色・斑紋を変化させるものがある。なお，魚のしま模様は，頭から尾の方向に走るものを縦じま(水平じま)，背から腹の方向に走るものを横じま(垂直じま)という。

大きさは，ジンベエザメのように体長15m，重さ数千キログラムに達するものから，フィリピンの淡水に生息するハゼの一種ミスチクス-ルソネンシスのように全長15mmしかないものまでさまざまである。なお，淡水魚で最大のものは，アマゾン川にすむピラルク(アラパイヌ)で，全長4.5m，体重180kgに達する。

〔生理〕魚類の多くは口を開閉してえら*に新しい水を送り，水中にとけている酸素をえらに分布する毛細血管から吸収している。ウナギはえら呼吸だけでなく皮膚呼吸も行ない，ドジョウは腸でも呼吸する。肺魚類ではうきぶくろ*の変形した肺で，直接に空気を呼吸する。うきぶくろは硬骨魚類の大部分にみられ，発生的には消化管から分かれたもので，陸生脊椎動物の肺と相同といわれる。うきぶくろは中に含まれる気体を調節して体の比重調節に役だつが，感覚器・発音器，副次的な呼吸器としても働くものがある。

魚類の循環系は閉鎖血管系*であり，心臓は1心房・1心室からなる。血液中には赤血球と白血球があり，赤血球には核があり，ヘモグロビンを含むため血液は赤い。多くのもののえらの内面には，鰓耙(さいは)(鰓師)というくしの歯状の構造があり，ここで水とともに飲み込んだ食物をこし分けている。鰓耙はプランクトンを食べるものに発達している。多くの硬骨魚類の胃と小腸の間には幽門垂という盲囊(もうのう)があるが，この大きさと数は魚類の種類によって異なる。軟骨魚類・肺魚類・チョウザメには腸内にらせん形の弁がある。

魚類の体液濃度は，淡水魚でも海水魚でもほとんど変わりなく，海水よりも薄く淡水よりも濃い。このため，環境水と体液の間には浸透圧の差がある。淡水魚の場合には周囲の水がえらや口腔(こうこう)表面などの半透膜から侵入するため，これを腎臓(じんぞう)に送って多量の薄い尿として排出し，えらの細胞で周囲の水から塩類を取り込み，体液を一定に保っている。海水魚では周囲の水のほうが浸透圧が高いので，体液は脱水されやすい。このため，多量の海水を飲み込んで水分を吸収するとともに，海水中の塩類を腎臓やえらの細胞を通じて排出し，体液の濃度を一定に保っている。軟骨魚類では，代謝の老廃物である尿素とトリメチルアミンオキサイドを，他の脊椎動物では致命的になるほど大量に血中にとどめ，体液濃度を海水よりもやや高めに保っている。

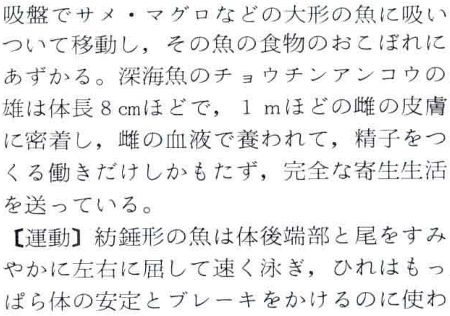
魚類の目のレンズは球形(魚眼レンズ)で，広範囲が見えるが，頭部の両側についているため，前方の一定の狭い範囲を除いて単眼視できる。また，ヒトの目のようにレンズの厚さの調節によってピントを合わせることはできないが，レンズ自体を動かすことによって調節する。中南米の淡水にすむアナブレプス(四目魚)は水面上と水面下を同時にながめられるようにおのおのの目が上下に仕切られており，水面上を見る目を外に出して泳ぐ。また，深海魚のギガンチュラのように望遠鏡のような筒の先に目をつけたものや，ディアカントスの稚魚のように細長い柄の先に目をもつものなどがある。味覚を感じる味蕾(みらい)は舌のほか，口腔・ひげ・鰓耙・胸びれなどの表面に分布している。嗅覚(きゅうかく)は一般に鋭く，サメなどは出血した動物がいると，かなり遠くからでもそのにおいをかぎつけて集まる。耳は頭骨内に存在し，内耳だけからなり，平衡器官としても働く。

魚類には発光*するものがあり，マツカサウオ・ハダカイワシなどに著しい。また，シビレエイ・シビレウナギ・シビレナマズなどのように発電するものも知られている。さらにイシモチやドジョウ・ホウボウのように発音する魚がある。

〔食性〕魚類の多くは動物食性であり，一部のものが雑食性。ソウギョやイスズミなどは草や藻(も)を好んで食べるが，植物質のものしか食べぬというものはほとんどない。動物食性のものの多くはえさをまるのみにする型で，フグ・サメ・ピラニアなどのようにえさをかみ切って食べる型のものは比較的少ない。アンコウは頭上に細長い柄の先に虫状のものがついた背びれの変形物をもち，これで他の魚をおびき寄せてまるのみにする。ハタ類は自分の体長の半分ほどのえさをまるのみするし，深海魚のクロボウズギス(キアスモドン)・サッコファリンクスは自身よりも大きな魚をもまるのみにする。コバンイタダキは，背びれの変形物である吸盤でサメ・マグロなどの大形の魚に吸いついて移動し，その魚の食物のおこぼれにあずかる。深海魚のチョウチンアンコウの雄は体長8cmほどで，1mほどの雌の皮膚に密着し，雌の血液で養われて，精子をつくる働きだけしかもたず，完全な寄生生活を送っている。

〔運動〕紡錘形の魚は体後端部と尾をすみやかに左右に屈して速く泳ぎ，ひれはもっぱら体の安定とブレーキをかけるのに使われる。ウナギ形のものは蛇行(だこう)して進む。イザリウオはひれで海底をいざるようにして進み，ヘコアユでは速く泳ぐとき以外は頭を下にして垂直になり，背の方向にゆるやかに進む。ナイル川にすむサカサナマズ類は腹を上にして泳ぐ。トビハゼ・ムツゴロウなどは干潟(ひがた)のどろの上をはねて進み，キノボリウオも池から池へと陸上をはねて進む。トビウオは風向きにもよるが，400mも滑空することができる。

〔発生〕魚類の多くは雌雄異体であるが，クロダイや一部のハタ類などに雌雄同体がみられる。フナ・メダカ・キュウセンなどでは精巣中に卵が混在することがあるが，この卵には受精能力がない。ウミタナゴ・グッピー・メバル・カサゴなど一部の硬骨魚と軟骨魚類は体内受精を行ない，大部分の硬骨魚類と円口類は体外受精をする。体内受精をするもののうち，ジンベエザメ・ネコザメ・ギンザメ・ガンギエイなどは受精卵を産むが，多くのものは孵化(ふか)した子魚を産む。魚類の卵の多くは小形であるが，受精卵として産出するものは大形であり，ジンベエザメの卵殻(らんかく)は長さ30cm，幅・厚さ12cmに達する。大部分の魚類は卵や子魚を産みっぱなしにするが，テンジクダイ類やシクリッド類などのように卵を口に含んで守るもの(マウスブリーダーという)，トゲウオ類などのように巣をつくって卵を守るもの，ギンポ類などのように卵塊のそばを離れずに番をするものなどがある。また，タナゴ・ヒガイは二枚貝，クダヤガラはマボヤ，クサウオはタラバガニの体内にそれぞれ産卵し，孵化するまでの期間の安全を図る。タツノオトシゴ・ヨウジウオなどの雌は雄の腹部の袋に産みつけ，孵化した子魚は雄の袋から〈産み〉出される。



キョン

子魚は一部のもので親魚とまったく異なる姿を経過して成体になる。たとえばウナギ・アナゴ・サッコファリンスクなどは木葉形で，透明なレプトセファルスという幼生段階を経る。また，チョウチョウウオ類はとげの多いトリクチス幼生を経るし，マグロ類・マンボウなどもとげの多い幼期を経る。カレイ類では，孵化後しばらくは一般の魚と同様に頭の両側に目があって，表層近くを泳いでいるが，やがて一方の目が頭頂を越えて他方の目のほうに寄り，底生生活を送るようになる。

〔分布〕硬骨魚類・軟骨魚類ともに最初は淡水域に出現したが，やがて海への移住に成功し，地球上のあらゆる水域に分布するようになった。ウナギ・サケ・アユなどのように両域を往来するものは比較的種類が少ないが，淡水域では36℃の温泉にすむものや，高度4,500mの高山湖にすむものもある。海洋では数千メートルの深海にも生息するものが知られ，最深記録はソ連の調査船ビチャージ号が日本海溝(かいこう)の7,579mの海底から採集したクサウオ類である。

〔利用〕魚類には食用にされるものが多い。また，肥料・飼料などにも利用される。このほか，魚種によって卵・肝臓・ひれなども利用される。さらに，ちくわ・かまぼこ・さつまあげなど加工食品としても利用される。観賞の目的にも利用され，キンギョ・ニシキゴイ，淡水性熱帯魚，さらに，チョウチョウウオ類・ナンヨウハギなどの海水魚が観賞用に飼育される。〔菅野　徹〕

キョン〔羌〕哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。体長85cm，肩高45cmほどで，

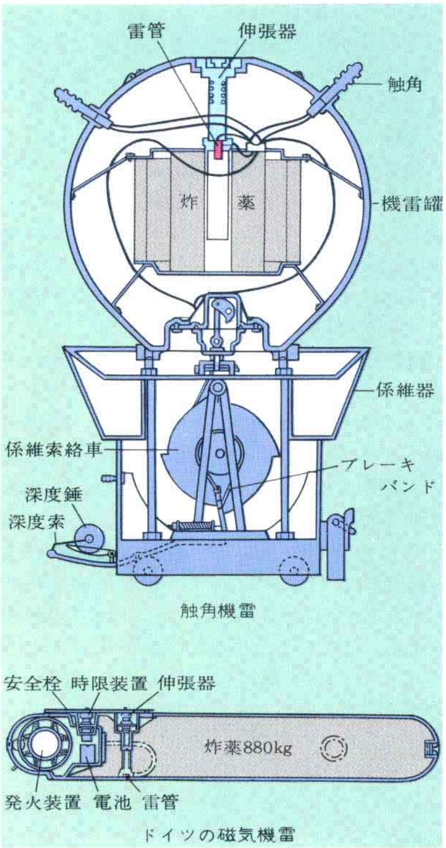


キラウェア山 約10km² におよぶ広大なカルデラをもつ頂上部。噴火の壮大さを物語っている

雄には短い角があり，上犬歯は長くきば状。目の下方に大きな腺(せん)が開口し，一見目のように見えるためヨツメジカともいう。体はくすんだ赤かっ色。中国南部および台湾の森林に1～2頭ですみ，早朝あるいは夕刻に樹葉や木の芽などの植物質を食う。

きらい 【機雷】 機械水雷の略称。海中に浮かべて敵艦船の接触もしくは接近により爆発を起こし，船を撃沈する兵器。係維機雷・浮遊機雷・感応機雷などに大別される。係維機雷はおもりをもち，機雷本体は海面下数メートルのところに固定され，通行する艦船が接触するとはじめて爆発するもの。浮遊機雷は敵艦が必ず通過すると思われる海域に，機雷を浮遊させるものである。感応機雷は第2次世界大戦中に実用された磁気機雷・音響機雷・水圧機雷の総称で，艦船の接近に物理的に感応して，接触しなくても爆発を起こすもの。その防御は係維機雷・浮遊機雷に比べてはるかに困難とされている。第2次世界大戦で，わが国はアメリカの爆撃機B29により投下敷設された機雷約21,400個により約200万トンの船舶を沈没・大破に至らせ，国民生活の決定的な破滅を招いた。 〔藤井冬木〕

キラウェア(山) ［Kilauea］ ハワイ島東部の活火山。標高1,222m。あまり高くはないが，長径4km，短径3.2km，深さ120mの世界有数のカルデラをもつ山として知られる。〈火のカーテン〉とよばれる数kmにわたる溶岩噴泉が見られ，カルデラ壁上には火山観測所や観光客のための施設が整い，北のマウナケア山，西のマウナロア山とともにアメリカ合衆国のハワイ国立公園に指定されている。たびたび噴火し，耕作に多くの被害を与えてきたが，近年では1840年・1960年の噴火が大きかった。〔大石堪山〕



機　雷



キララガイ



キランソウ

きらずり 【雲母摺】 浮世絵版画の摺法の一形式。雲母粉を用いて銀摺に代えたもので，喜多川歌麿*(うたまろ)や東洲斎(とうしゅうさい)写楽*の大首絵の背景に効果的に用いられている。雲母摺の下地に墨を使ったものを〈黒雲母(くろきら)〉，紅のときは〈紅雲母〉，下地に色を用いないものを〈白雲母〉という。なお，美人画や花鳥画に部分的に用いて，画面に豪華な印象を加えている場合もある。

きらよしなか 【吉良義央】 (1641～1702) 江戸中期の幕臣。義冬の子。上野介(こうずけのすけ)と称す。幕府の典礼について諸大名を指南する高家*をつとめた。1701年(元禄14)勅使の江戸下向に際し，勅使接待役の赤穂(あこう)城主浅野長矩*(ながのり)に典礼を指南したが，長矩を侮辱したため江戸城中で切られ負傷した。長矩は即日切腹・領地没収に処されたが，義央は御役(おやく)御免のみの軽い処分で，まもなく隠居した。しかし，翌年12月本所松坂町の隠居所を赤穂義士に襲撃されて殺された。➔赤穂義士〔松尾　涼〕

きららがい 【雲母貝】 軟体動物・二枚貝類・マメクルミガイ科。殻長(かくちょう) 2cm，殻高1cmほど。殻表は黄かっ色の殻皮をかむり，内面には強いウンモ様の光沢がある。北海道から九州までと朝鮮半島の潮間帯から水深650mの砂泥底(さでいてい)にすみ，生息深度は北方ほど小さい。

きられよさぶろう 【切られ与三郎】 ⇨与話情浮名横櫛(よわなさけうきなのよこぐし)

ぎらん 【宜蘭】 イーラン 台湾北東部の都市。宜蘭県の県庁所在地。人口10万(1960年推)。旧名を噶瑪蘭(かまらん)といい，1875年に噶瑪蘭通判を改めて宜蘭県を置いた。もと高山族の一グループ平埔族(へいほぞく)が住んでいたが，清(しん)代初頭から漢民族の開拓が活発化し，付近一帯は豊かな農業地帯として発展し，台湾東部最大の米穀市場が立った。市内には孔子廟(こうしびょう)・城隍廟(じょうこうびょう)があって，開拓の古いことを示している。付近に員山・礁の2温泉がある。〔船越昭生〕

きらんそう 【金瘡小草】 双子葉植物・シソ科。ジゴクノカマノフタともいう。道ばたや土手に多く見られる多年草。茎は四方に広がって地面をはい，長さ5～15cm。全体に白色のちぢれた毛がある。葉は長楕円(ちょうだえん)形で縁にあらい鋸歯(きょし)がある。春，葉のつけ根に濃紫色の唇形(しんけい)状の花をつける。

きり 【錐】 穴あけ用の工具。木工用と金工用とがある。木工用のきりは，くぎ・木ねじ・ボルトなどの予備穴あけに用いる。わが国在来のきりは，鋼製の刃に木製の柄をつけ，手でもんで使うので手もみぎりともいう。小さな穴あけ用につぼぎり・ねずみ刃ぎりなどがある。西洋建築の導入以降，木造トラスなどに用いるボルトの穴あけ用として，刃がらせん状についているらせんぎり(ギムレット)が普及した。西洋系のきりは，柄が押え用の握りと回転用の取っ手からなり，用途に応じて刃先を変える形式になっている。金工用のきりはドリルという場合が多い(➔ドリル)。〔渡辺保忠〕

きり 【桐】 双子葉植物・ゴマノハグサ

科。中国原産の落葉高木で，わが国でも広く栽培されている。生長が早く，40年くらいで胸高直径90cm，高さ10mに達する。特に一度伐採して2番めの枝条を立てたものは生長が早い。葉は対生，広卵形で全縁または3～5浅裂，全面に粘りけのある毛が密生し，長柄がある。5月上～中旬に枝の先に美しい紫花を開く。花冠は筒形，先が5裂して唇形(しんけい)になり5～6cm，内面に黄色の条がある。果実は卵形で，長さ3～4cm，熟すと二つに割れ，膜質の翅(はね)のある種子を多数散らす。材は白色～帯淡紅白色で，光沢が美しく軽い。吸湿性に乏しく耐火性に富み，音響の伝導がよい。そのため，建築材や建具・家具・さしもの・楽器・げた・浮きなどに用いる。岩手県で栽培される南部ギリは良質で，特に珍重される。温暖地のキリは病害虫に冒されやすく，材が疎軟で，品質が劣る。苗木は〈根伏せ〉といって，一年生の苗木の根系の中から1～1.5cm径の根を15cmくらい切り取り，種根として育ててふやす。〔横井朝子〕

きり【霧】 空気中の水蒸気が凝結*して水滴の群れをなしているのが雲であるが，霧は地表面付近にできた雲ということができる。瀬戸内海では濃霧のためしばしば船の衝突事故を起こし，また1966年(昭和41)3月4日カナダ航空の旅客機が羽田空港で着陸失敗による事故を起こしたのも霧が大きな障害になっているなど，霧による交通事故は非常に多い。霧ができる原因にはいろいろの場合があって複雑であるが，風が弱く上空の比較的低い所に気温の逆転層*がある場合が多い。これは，霧ができるのは地表からの冷却によることが多いが，風が強いと冷却効果を弱くし，気温逆転層は空気の上下の混合をおさえて，冷却効果を助けるためである。霧はその発生原因によって，放射霧・移流霧・前線霧・滑昇霧・蒸気霧などに分けることができる。①放射霧は，夜間放射のために地表面が冷却することが原因で晴天の朝などに発生する霧である。この場合には逆転層がわりあい低い所にできてそのすぐ下に層雲が発生し，それが地表にまで広がって霧になることが多い。その高さは数十メートルから200m程度である。秋から冬にかけて多く，明け方に発生して10時ごろには消えてしまう。②移流霧は，冷たい地面または海面上を空気が流れるときに冷やされてできる。6月から7月にかけて北海道南東部や三陸沖に発生する海霧*は，寒流である親潮の上を北上する暖気団によってできる典型的な移流霧である。③前線霧は，前線に沿って発生するもので，その成因は複雑であるが，温暖前線近くに気温の逆転層が形成されることが多く，また暖かい雨からの蒸発による蒸気霧のようなものであることが多い。④滑昇霧は，斜面に沿って風が吹き上がる場合にできる。この霧は，雲と同じように断熱膨張(→断熱変化)による冷却が成因で，比較的強い風のときに現われる。⑤蒸気霧は，秋から冬にかけて冷たい空気が暖かい水面上にくると，水面から蒸発する暖かい湿った空気と混合して霧となるものである。〔曲田光夫〕

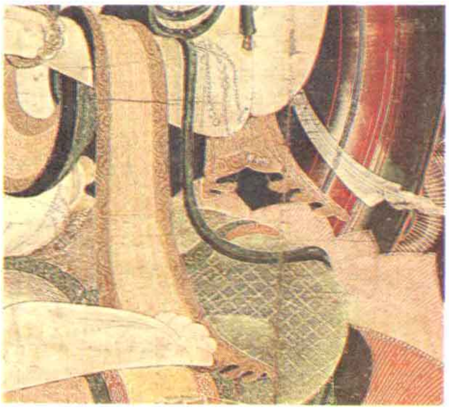
きりいし【切り石】 石材のうち，直方体に仕上げられたものをいう。敷き石や壁面をつくるのに用いる。切り石積みは，切り石を積み上げてつくった壁体をいう。

きりうじがかんぼ【切蛆大蚊】 ⇨ガガンボ

キリエ［kyrie］ ミサ通常文の最初のものの第1語。〈キリエ-エレイソン(主よ，あわれみたまえ)〉の略で，主のあわれみを求めて唱えられる。〈キリエ-エレイソン，クリステ-エレイソン(キリストよ，あわれみたまえ)，キリエ-エレイソン〉と続く。



キ　リ　花と果実



切　金　東京国立博物館蔵の《孔雀明王図》右下半部部分。全図にわたって切金が施されているが，天衣の比礼は立涌文，膝前には花文入七宝繋文が認められる

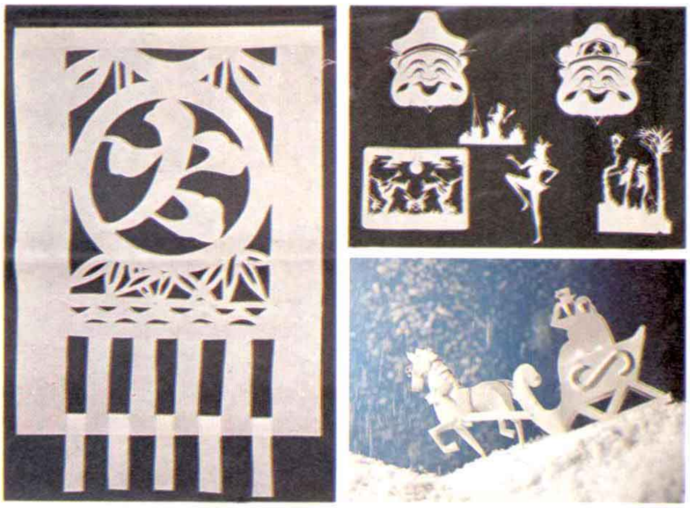
ギリェン［Nicolás Guillén］(1903～　) キューバの詩人。1920年代にキューバを中心に生まれた〈黒人詩〉の代表者。処女詩集《ソンのモチーフ》によって名を知られた。代表作は《ソンゴロ-コソンゴ》《西インド諸島》などで，特に後者は黒人の悲惨な生活をうたい，強い社会性を示している。

きりおとしやね【切り落とし屋根】 屋根の斜面の一つの下半部を切り落とした形式。屋根裏の利用につごうがよく，養蚕地帯や深雪地域の住家に見られる。妻入りのものをかぶと造り*，平入りのものを赤城(あかぎ)型屋根*という。

きりかえばた【切り替え畑】 林地・原野を開墾して畑とし，数年間利用して収穫が減少すると，もう一度林地・原野にもどして林産物を収穫するという方法で利用する畑。切り畑ともいう。焼畑*と技術的にはよく似ているが，純粋な焼畑が林産物を収穫の対象とはしていない点で異なり，また，日本の僻地(へきち)で行なわれる焼畑は林産物を収穫の対象にしているが，畑との交替が不定期である。だいたい林地を15年，畑地3～4年で交替させ，林地には育ちの早い苗木を植えて，育てば薪炭用に売り出す。畑ではサツマイモ・陸稲・豆などがつくられ，主として自給用にあてられる。現在日本では伊豆(いず)七島，新潟県の粟(あわ)島など，離島にしか残存していない。〔小栗　宏〕

きりかね【切金・截金】 細金ともいい，金銀の箔(はく)を細かく切ってはりつけ，文様を施す技法。主として仏画・仏像の彩色や蒔絵(まきえ)の装飾などに用いられる。薄い箔を細い線状，あるいは細かい三角や四角の小片に切って筆で描いたようにはりつけるが，実際の描線よりも仕上がりがよく，装飾的効果も大きい。平安期から鎌倉期にかけて最も盛んに行なわれた。

きりがみざいく【切り紙細工】 紙を切り，種々に細工する手芸。切り形・切り紙ともいう。古くから世界各地で行なわれて



切り紙細工
(左)寄席芸人の切り紙　三遊亭小燕雀作
(右上)宮崎県西臼杵郡の日向夜神楽に用いるエリモノとよばれる切り紙
(右下)立体的な現代の切り紙細工







切り紙細工

(上)中国の剪紙　小刀でいくつかに折りたたんだ紙を刻んで形を切り抜いてつくる
(下)家庭装飾用としてつくられた広東と福建地方の剪紙

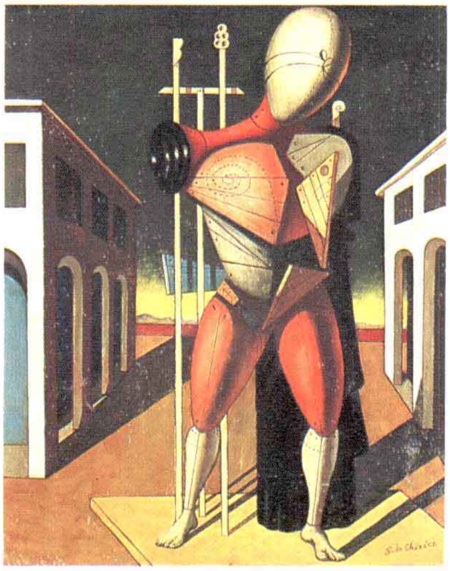


霧ケ峰　高原上には，なだらかな一面の緑の草原が展開する。観光用の自動車道路の開通とともに訪れる人も多いが，貴重な自然の破壊も進んでいる



キリギリス（雄）

いるが，日本では菱(ひし)つなぎとよばれた七夕*(たなばた)の笹(ささ)に飾りつける天の川切り形が室町時代につくられた。江戸時代になると切り紙細工は手芸として広く流行し，《嬉遊笑覧(きゆうしょうらん)》(1830)に人の似顔を切り抜いて見せ物にする芸人が現われたことが記されている。そのほか，日本の伝統的な切り紙模様に〈紋切り〉がある。これは紋形の対称性を利用したもので，紙をたたんで種々の紋形を切り抜くものである。なお，きまりきった様式を俗に紋切り形というのは紋形を切り抜いた厚紙を型紙とし，上から色をすりこんで簡単に紋章を描く方法に由来している。



キリコ《吟遊詩人》1916ごろ　ブリヂストン美術館蔵

きりがみね　【霧ケ峰】　長野県中央部，諏訪湖(すわこ)の北東方にある高原状の火山で，車山(1,925 m)が最高峰。流動性の大きい溶岩からなる楯状(たてじょう)火山で，車山から北西方の和田峠(1,531 m)まで，標高1,000～1,500 mの高原が展開する。ほとんどが草原で，八島池・鎌ケ池(かまがいけ)などの高層湿原がところどころにあり，湿原植物群落は天然記念物になっている。冬のスキー・スケート場，夏のキャンプ場・グライダー練習場があり，年間を通じ多くの人々が訪れる。〔高野　繁〕

きりぎりす　【螽蟖】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。体長38～48mm。体色は緑色とかっ色が混じるが，その程度は個体によって変化する。前翅は体長よりも長い長翅形と短い短翅形とがあり，後者のほうが多く見られる。触角は糸状で長い。後脚はよく発達していて長く，よく跳躍する。本州・四国・九州に分布し，成虫は6月ごろから初秋にかけて草原に普通に見られ，前翅の重なり合う部分にある発音器をこすり合わせて，〈ギースチョン〉と鳴く。雌は長い産卵管をもち，まったく鳴かない。古くから鳴く虫の代表的なものとして庶民に親しまれてきた。北海道および朝鮮・中国北部からシベリアなどには，本種によく似ているが，翅(はね)が長く緑色部の多いハネナガキリギリスが分布する。また，ヤブキリも本種に似ているが，前胸背が短いこと，翅が長いことなど形態的に異なるほか，樹上にあって〈シリシリ……〉と連続した高声で鳴くことなどで区別できる。本州・四国・九州に分布し，成虫の出現期はキリギリスよりもやや早い。〔鈴木邦雄〕

キリコ　[Giorgio de Chirico]（1888～1978）　形而上(けいじじょう)絵画の運動で知られるイタリアの画家。ギリシア生まれ。はじめは，イタリア14世紀の巨匠たちとドイツ－ローマン派の画家の影響を受けたが，1910年ごろから，白日夢を思わせる幻覚と憂愁に満ちた神秘的な世界を追求した。時間が停止したようなメタフィジックな明確さはシュルレアリスム*にも影響を与え，近代絵画に特異な位置を占める。

きりこだま　【切子玉】　古墳時代*の飾り玉の一種。形がガラスの切籠(きりこ)（四角のものの，かどかどを落とした形）に似ているのでこの名がつけられた。石材は水晶が最も多く，瑪瑙(めのう)・ガラス・蠟石(ろうせき)などもある。水晶の結晶体を切断してみがきあげる制作の上から六角形が普通であるが，まれに他の角形もみられる。長さは一般に

2〜3cm，直径は1〜1.5cmぐらいである。朝鮮の楽浪古墳(→楽浪文化)や慶州古墳から多く出土することから，朝鮮からの渡来経路が考えられる。

きりさげ【切り下げ】 髪形の一。未亡人が，夫に操を立て再び他家へ嫁に行かぬしるしとして，髪の毛を首のあたりで短く切り落としたものをいう。したがってまげを結わず根を結ぶだけで，あとは下げ髪にしておく。この風習は江戸時代から明治ごろまであった。なお，男子の髪形にもこの名があるが，これはまげを結わず，総髪にして肩のあたりで切りそろえたものである。

きりさめ【霧雨】 直径0.15mm程度の大きさの雨滴からなる雨。空気中に浮かんでいるように見え，空気の弱い動きにも従うのが見える。ふつう，大気中の雨滴の直径は，雲0.02mm，霧雨0.15mm，細雨0.5mm，並雨1〜2mm，雷雨3mm程度である。霧雨はたかだか数百メートルの薄い層状の雲から降る。0.02mm程度の雲から霧雨程度の大きさに成長するには，雲が水からできている場合，大きさの異なる水滴が数百メートルの雲層内を落下する過程での衝突併合によって可能である。また雲が氷を含んでいる場合には，水と氷に対する水蒸気の飽和度の差異から説明することができる。霧雨による降水量は，1時間に1mmを越えることは少ない。〔曲田光夫〕

きりざんしょう【切り山椒】 もち菓子の一。山椒もちともいう。江戸末期につくられた江戸銘菓の一つで，天保(てんぽう)年間(1830〜1843)日本橋小伝馬(こでんま)町の〈べったら市*〉で売り出され，現在まで続いている。米沢(よねざわ)の切り山椒も有名である。蒸したしん粉をうすでよくつき，砂糖を入れてこね合わせてから，山椒油または山椒粉を混ぜる。これを再び蒸してからつき，1cmぐらいの厚さに伸ばし，さましてからたんざくに切る。〔塩川ふみ〕

ギリシア［Greece］ ギリシア語でヘラスあるいはエラス，ラテン語でグラエキアという。ギリシア人が最初に歴史を形成した舞台は，バルカン半島の南端地域，エーゲ海を隔てた対岸の小アジア西岸地方，その間に散在するエーゲ海の諸島を含んだ範囲である。このうちギリシア本土の面積はわが国の北海道よりも狭く，しかもギリシア神話で有名なオリンポス山をはじめとして各地に山岳が起伏し，平野に乏しかったので，穀物が不足していて，海外からの輸入によらねばならなかった。このような事情は，エーゲ海の諸島はもとより，やや平地に恵まれた小アジア西岸においても大差はなかった。雨量が少なく高温な亜乾燥地帯に属するので，ブドウ・オリーブなどの果樹栽培に適し，ぶどう酒・オリーブ油はギリシア人の生活必需品であっただけでなく，海外に輸出された。牧畜では，ヒツジ・ヤギの飼育が行なわれた。このような風土がやがて多くのポリス*を成立させ，民会・演劇・体育競技など市民の野外での公私の生活を盛んにする一因となった。

【東地中海世界の中のギリシア】この風土に文明の曙光(しょこう)をもたらしたのは，小アジア系と地中海系との混成民族であるクレタ人である。クレタ島はBC2000年ごろ青銅器文明の盛期にはいり，象形文字やA・B2種の線文字を使用し，首都クノッソスなどの宮殿遺跡から推定されるように，強力な王の支配と東地中海の制海権を保持していた。ここに成立したエーゲ文明*は，オリエント諸地域の影響を受けながらも，装飾壁画や多彩陶器にみられるように，海洋的風土に即した繊細華麗で写実性と流動感に富む美術を生んだ。BC1400年ごろクレタ島が地震またはギリシア人の来襲によって破壊されたのち，エーゲ文明の中心はギリシア本土南部に移り，ミケーネ*やピュロスからはクレタと同種の粘土板文書が出土している。また，ミケーネの陶器がシリア・パレスチナから出土しているところからも，東地中海世界の有機的一体性が主張され，《旧約聖書》とホメロス*の叙事詩が共通の基盤から成立したという仮説が，シリアのウガリット(ラス-シャムラ)出土の叙事詩などを手がかりにして有力視されるようになった。同時に，ミケーネやティリンスなどにみられる巨石で固めた城壁や門，居城の中心に炉を備えた大広間はクレタ島の開放的な宮殿とは異なった北方的要素を示す。

出土文書によって知られる当時のギリシア諸王国は，官僚・書記を具備し，多数の村々を支配し，人民に貢納と賦役を課した小形のオリエント的専制君主国であったと推定される。このようなミケーネ型の社会・文化のおもなにない手はギリシア民族の東方方言群に属するアカイア人で，イオニア族とともにBC2000年代の初めころバルカン半島を南下してギリシアに定着し，エーゲ海および東地中海地域と盛んに交易を行なった。しかしBC2000年代の末には，新たに西方方言群に属するドリア人のギリシア人が南下して，ミネーネ王国などを破壊したが，これに先だってアカイア人とイオニア人はヒッタイト王国やトロヤ(第7A市)滅亡後に小アジア西岸に進出し，やがてドリア人もこれにならって，それぞれ北部・中部・南部に植民地を形成した。ミケーネ社会の強力な王権の姿は消え，多くの小共同体国家に分裂したが，このころ鉄器の使用が始まり，物質的生産力，特に武器の生産に著しい発展がみられた。

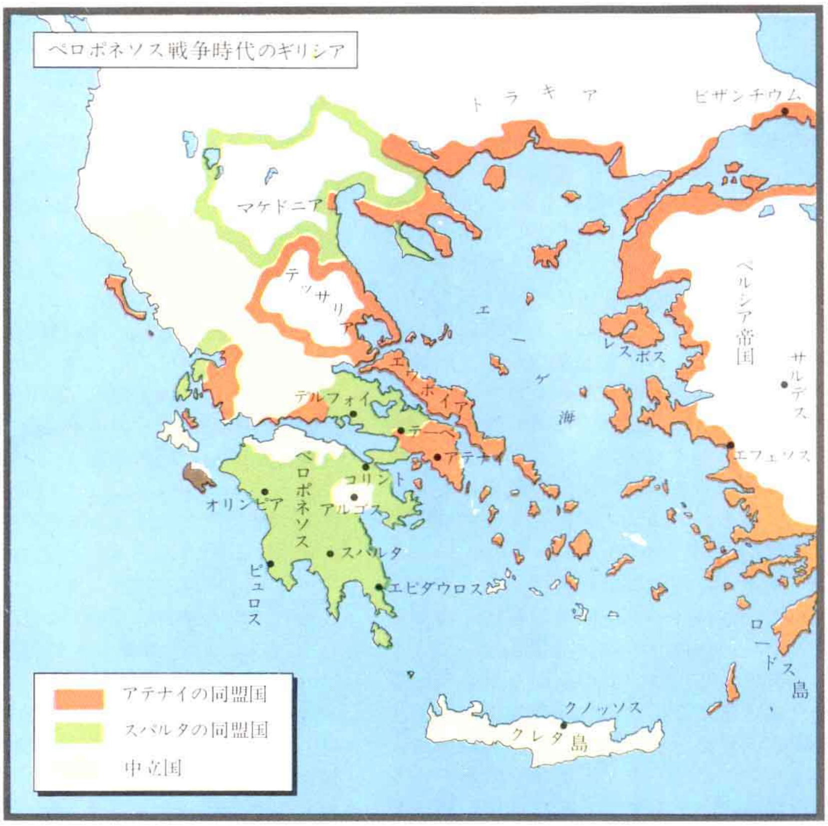
【ポリスの成立と英雄時代】やがて紀元前9〜紀元前8世紀ごろから，古代ギリシアの最も基本的な政治・社会構造であるポリスが発生した。ポリスの成立は村落的定住と氏族制社会を止揚し，血縁的共同体から地縁的社会への前進を意味したが，それはポリス以前の社会における貴族の支配が確立するか，あるいは新来の西方方言群のギリシア人が先住民を征服して支配階級となることによって実現された。前者の場合はアテナイを典型とし，貴族の中心市への集住はプルタルコスの《英雄伝*》の巻頭に語られる英雄テセウスの業績に帰せられている。後者の場合は先住民アカイア人を征服したドーリア人のスパルタ*が範例とされるが，生産的労働を行なわず，政治と軍事に専心しうる階級の成立を前提としている点は同じである。ポリスは中心市と周囲の田園とからなり，中心市にはポリスの守護神を祭る小高い丘(アクロポリス*)があり，そのふもとには市民生活のセンターとなる広場(アゴラ)があった。ポリスは自由・自治を理想とし，市民の公私の生活はこの共同体の中に完全に包摂された。

この時代には，王権はしだいに凋落(ちょうらく)し，貴族の支配がこれに代わった。貴族は，血統と富(土地・家畜)に基づく〈騎士〉としての軍事的職能を確立し，神々の子孫としての英雄であることを裏書きする系譜が作成された。このような〈英雄時代〉には，ドーリア人侵入以来の文明の破壊と停滞が起こったにもかかわらず，かえってギリシア人の文化的創造力が芽ばえてきた。彼らは，ミケーネ文字と断絶し，新たにフェニキア人からアルファベットを学び，母音を考案してギリシア文字をつくり，また民族共通の体験をうたった叙事詩を生み出した。ホメロスの作とされる《イリアス*》と《オデュッセイア*》は，神々と人間とが交錯して織りなす戦争と冒険の英雄叙事詩であり，ヘシオドス*は《神統記》によってギリシア神話を系統立て，また《仕事と暦日》において一小農民の哀歓を率直にうたった。こうして，エーゲ海世界の大地母神を中心とする母権制社会の宗教は北方的・ギリシア的なゼウス*を中心とする父権制社会の宗教に結合され，また個別的な地方神崇拝から民族共通のオリンポスの宗教を成立させた。そして，オリンポスの十二神とよばれる男女の主要神をはじめとして，それぞれの神が一定の職分と機能をもって自然界と人間界の諸事象をつかさどった。これらの神々は不老不死であることを除けば人間と同一の姿態と感情をもつものと考えられ，また特権的な神官身分や一定の教理によって信仰を律する経典もなかったから，人々は自由に神々を解釈することが許され，芸術性豊かな神話が創造された。また，全ギリシア的祭典におけるオリンピック競技などのように体育や文芸が競われ，ギリシア文化の進歩と民族精神の結成に寄与した。

【ギリシア世界の拡大と社会の変動】やがてギリシア人は，紀元前8〜紀元前6世紀の間に地中海・黒海の沿岸各地に大規模な植民活動を行ない，植民市を建設した。その中にはビザンチオン・ネアポリス・マッサリアのように，今日それぞれイスタンブ



ギリシア　アテナイのアクロポリス　アクロポリスがポリスの国家的な活動の中枢を占めるのに対し，アゴラ(手前)は市民生活の中心となった



ール・ナポリ・マルセイユとして繁栄を続けている都市もある。植民の原因は，土地のない市民の耕地取得という農業的意味を主としたが，商業的活動もこれに伴い，また政争に敗れた市民の新しいポリス建設という政治的な動機の場合もあった。植民市は，祭儀・法律・慣習などを母市から継承したが，ローマや近代国家の植民地とは異なって政治的にはまったく独立であった。このように，ギリシア人が広い世界に植民し，いたるところで原住民と接触した結果，ギリシア語を語らない異民族をバルバロイ(〈聞き苦しい言語を語る者〉の意)とよび，みずからはヘレネスと称した。また，このようなギリシア世界の拡大と紀元前7世紀初めにリディアまたはイオニアで発明された鋳造貨幣の普及とは遠隔地商業と手工業の発達を促し，労働力の不足によって植民地周辺世界から多くの異民族が奴隷として購入された。他方，貨幣経済の進展は市民(平民)の階層分化を推進し，債務のために自由民から奴隷となる者が生じた反面，農産物の販売や商業・手工業によって富をたくわえた者もあった。また，手工業生産の発達によって武具が安価に入手できるようになったため，貴族の戦士に代わって中小土地所有市民の重装歩兵密集隊が国防の主力となった。

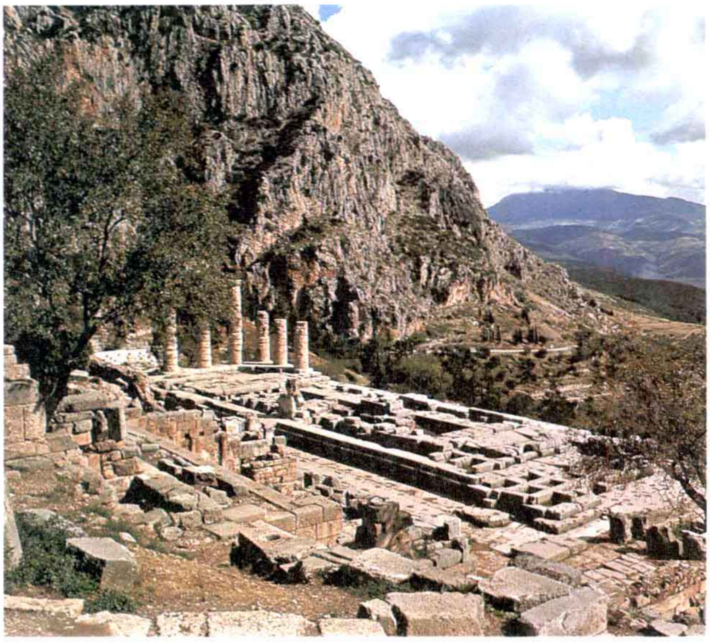
このように経済・軍事に進出してきた平民は，貴族の専制に対して成文法の制定や参政権を要求した。紀元前6世紀初めのソロン*の財産評価政治からペイシストラトス*の僭主(せんしゅ)政を経て，同世紀末クレイステネス*の民主政治にまで発展したアテナイは，その好例である。これに対してスパルタでは，元来征服者であるドーリア族のスパルタ人が多数のアカイア族の被征服民(ヘロット)の現物貢納で生活したところから，自衛の必要上，いわゆるリクルゴスの制度を施行し，市民持ち分地の譲渡・分割の禁止，鎖国主義の徹底，青少年の軍国主義的教育を励行したが，一定の土地所有者である重装歩兵市民団によって支配されたことは，この時期のアテナイと大差はなかった。

この時代には，民権の伸張によって民衆への文化の普及，個人意識の解放がみられた。文学においては，個性の発露である叙情詩が発生し，情熱的な女流詩人サッポー*をはじめとしてテオグニス*・アナクレオン*らの詩人が輩出した。また，政治社会の変動は世界観の領域にも大きな影響を及ぼし，従来の現世的・貴族的なオリンポスの宗教に対して，彼岸的・平民的なディオニュソス宗教が熱狂的に伝播(でんぱ)し，さらにそれは醇化(じゅんか)されてオルペウス教(→オルフィズム)を生んだ。他方，伝統に束縛されず，商業・航海の盛んであった東方イオニアにおいては自然哲学が起こり，物質の実体または始原を尋ね，自然現象を法則に支配されるものとした。

〔ポリス社会の完成〕 このようなギリシア世界の発展に対し，やがて大きな外圧による民族的試練が訪れた。ペルシア帝国の全オリエント世界統一によって小アジアのギリシア植民市は政治的自由を失い，経済的圧迫を受けたので，BC500年ミレトス市を中心とするイオニアのギリシア人は独立反乱を企てたが失敗した。ペルシア王ダレイオス1世*はイオニア人を応援したアテナイなどを討つために軍を送り，ペルシア戦争*が勃発(ぼっぱつ)したが，アテナイはBC490年独力でペルシア軍をマラトンの戦い*に撃退した。ダレイオス1世の子クセルクセス*はみずから大軍を率いて海陸からギリシアに侵入し，これに屈従する都市もあったが，このときはスパルタもアテナイと連合して防戦し，アテナイのテミストクレスの率いる海軍はBC480年，ペルシア海軍をサラミスの海戦*で大いに破り，翌年プラタイアイの戦いでもギリシア連合軍は勝利を収め，ペルシアの武力によるギリシア征服の野望を挫折(ざせつ)させた。ペルシア戦争におけるギリシアの勝利は，専制政治に対する市民団の自由独立の勝利を意味し，この戦勝に最も功績のあったアテナイは，デロス同盟*を結成してその盟主となり，ペルシアの再侵入に備え，BC448年ついにイオニアの独立をペルシアに承認させた。

ペルシア戦争後のアテナイでは，海戦に水兵として従軍した無産市民の発言権が急速に増大して民主政治が徹底し，財産の有無にかかわらず全市民の総会である民会*(エクレシア)が国政の最終決定権をもつようになり，他の諸市にも普及した。アテナイが民主政治の模範となったのはペリクレス*の力によることが大きいが，同時に彼はデロス同盟の盟主としてのアテナイの地位を利用し，同盟資金の金庫をデロスからアテナイに移し，戦争で破壊されたアテナイの復

デルフォイのアポロン神殿　パルナソス山のすそにあり，すべてのギリシア人の宗教的中心であった。その神託は特に崇拝された。神殿は紀元前6世紀初頭に建てられた





デロス島　アポロン・アルテミス両神の生誕地とされ，古くから神聖視されてきた。またBC477年デロス同盟が結成されると，同盟の金庫はここに置かれた

興や無産市民の政治参与のためにその資金を流用した。ペリクレス時代のアテナイの指導的地位は文化の諸領域においても現われ，アテナイは〈ギリシアの教師〉とたたえられた。この時期の文学ではピンダロスが叙情詩の掉尾(とうび)を飾ったのち，アテナイの全盛期には演劇が栄え，アイスキュロス・ソポクレス・エウリピデスの三大悲劇詩人の作品やアリストパネスの喜劇が上演された。歴史学もこの時代に起こり，ヘロドトス・ツキジデスが出て，前者はペルシア戦争を，後者はペロポネソス戦争の歴史を記した。またヒッポクラテスが科学的医学を樹立し，前代の所産であった自然哲学もヘラクレイトス・パルメニデス・エンペドクレスらを経てデモクリトスの古代原子論を生むに至った。

アテナイの民主政全盛期には，これに応ずる青少年の技能としての弁論術や修辞学の教授を業とするソフィストたちが活動し，彼らの相対主義の立場による道徳律や国法などの批判は青少年たちをひきつけた。これに対してソクラテスは，終始アテナイ市民として思考し，行動し，市民の道徳的向上に精魂を傾けたが，市民の誤解と反感を招き，伝統的宗教にそむく不敬の徒，青年子弟を誤らす者として告訴され，死刑の宣告を受け，BC399年この不法な判決に服して毒杯を傾けた。

〔ポリス社会の衰退〕 アテナイに完成された古代民主政は，奴隷はもとより婦人・在留外人の参政権を認めず，またデロス同盟の諸都市に対して圧力を加えた。やがて，かねてアテナイの隆盛をねたんでいたスパルタとの間に長期にわたるペロポネソス戦争(BC431～BC404)が起こった。その間アテナイではペリクレスが病死したあと，民主政は扇動政治家にあやつられる衆愚政治に堕し，ついにペロポネソス戦争にも敗れてアテナイの黄金時代は去った。これに代わったスパルタの覇権(はけん)も30年にしてテーベに奪われたが，テーベもまもなく衰えた。紀元前4世紀のポリス相互間の慢性的分立抗争による農業の荒廃，ポリス内部の党争の結果としての多数市民の亡命，貨幣経済の進展による貧富の差の増大と傭兵(ようへい)使用の流行とは，市民皆兵の原理に立ったポリス的生活を崩壊に近づけた。このとき台頭したのがギリシア北方のマケドニアで，ついにその王フィリッポス2世はアテナイ・テーベ連合軍を破って，BC338年ギリシアの覇権を握った。

紀元前4世紀のポリス社会の危機にあたり，ソクラテスの弟子(でし)プラトン，プラトンの弟子アリストテレスがあいついで出た。プラトンは経験的事物を越えて存在する真実在としてのイデアの観想(テオリア)を説き，アリストテレスがこれを批判して個物に内在する実体(ウーシア)を説き，質料から形相への目的論的発展を述べてヨーロッパの観念論哲学の二大潮流を形成した。両者はともにポリス衰退期にあって依然ポリスの伝統に立つ哲学であり，同時に現実のポリスの欠陥を克服して理想のポリスを建設しようとする構想をもち，それは国家論として呈示された。プラトンの初期の著作《国家》では，婦人・財産の共有者たる統治者・戦士とは別に生産者の身分を区別した理想国家が説かれたが，晩年の著作《法律》では市民におのおの家族と一定の土地・奴隷をもつことを許し，法に基づく国家的規制と教育的意義を主張した。アリストテレスの国家論はプラトンより現実的で，多数のポリスの制度史的研究に基づいて，ポリスをよく生きんがための共同体と規定し，政体は君主政・貴族政・民主政のいずれでも運用が正しければよいとしながら，奴隷制を極力擁護した。プラトンもアリストテレスも，ポリスを乗り越える時代が近づきつつあることを予測することはできなかったのである。これに対して，小ソクラテス派と総称されるキュレネ派・キュニコス派は，それぞれ快楽・禁欲を説く個人倫理的性格をおびるとともに，ソフィストの影響をも受けてポリス的生活に背を向ける性格を示し，ヘレニズム時代の思潮への先駆的役割を演じた。

〔ヘレニズム時代〕 フィリッポス2世の死後，その子アレクサンドロス(大王)は父の志を継いで，BC334年ペルシア遠征に出発し，ペルシア軍に連戦連勝し，まず小アジア・シリア地方を経てエジプトにはいり，ナイル河口にアレキサンドリア市を建てた。その後，東に転じてアルベラの戦いでダレイオス3世を破り，ついにBC330年ペルシアを滅ぼした。アレクサンドロスはさらに東進してインドにはいったのち，軍を返してバビロンに凱旋(がいせん)し，ここに都して大帝国の支配者となった。しかしBC323年，そ



ギリシア

🏙300万人以上の都市　回100～300万人の都市　◎50～100万人の都市
◎10～50万人の都市　⊙5～10万人の都市　○5万人未満の都市　•首府　#油田

の政治的手腕を十分発揮する前に急死した。大王の死後，部下の諸将があい争い，大帝国は分裂したが，そのうちエジプト・シリア・マケドニアの3国が有力で，ギリシアはアエトリア・アカイアの二つの都市同盟をつくって自衛に努めたが，経済的・文化的繁栄はオリエントに移り，ギリシアの衰退は明白となった。

オリエントではエジプトのアレキサンドリア，シリアのアンチオキア，小アジアのペルガモンなどが文化の中心となり，ポリスと民族を越えたコスモポリタン的な特色を示した。哲学にはストア派*とエピクロス派が創立され，それぞれ前代のキュニコス派・キュレネ派の思想傾向を新しい時代環境に即して発展させ，前者は禁欲，後者は快楽を重んじた。これらは賢者の理想を掲げて外界の事物に動かされない内心の平静を求め，ポリス生活の価値を軽視して個人の幸福に思いを潜め，同時に世界市民主義の傾向をおびた点は共通しており，善悪真偽の〈判断中止(エポケー*)〉を唱えたピュロンの始めた懐疑派ともあい通じるものがあった。

ポリスの独立が失われたため，公的性格の強いオリンポスの神々の礼拝は衰え，激しい変動の時代にあって〈運命の女神〉や君主礼拝が盛んになり，エジプトのイシス教，ペルシアのミトラ教などオリエントの密儀宗教も流入し，ギリシア在来の神々との習合が行なわれ，カルデアの占星術も伝来した。同時に拡大された世界を背景として自然科学が大きな発展を遂げ，特にアレキサンドリアの王立研究所・大図書館に多数の学者が集められ，エラトステネス*・アリスタルコス*・ヒッパルコス・エウクレイデス(ユークリッド*)・アルキメデス*・ヘロフィロスらが数々の業績をあげたが，王室保護下の象牙(ぞうげ)の塔の研究にとどまった。科学の成果の応用による技術の発明は当時の奴隷制社会では重視されず，また宗教が科学的・合理的思考より優位を占めたため，自然科学の発展はまもなく沈滞してしまった。またヘレニズム文化はオリエントとギリシアの文化を結合し，その影響は遠く中央アジア・インドから中国・日本にまで及び，のちにヘレニズム世界を征服したローマもその文化的遺産を多く継承した。〔秀村欣二〕



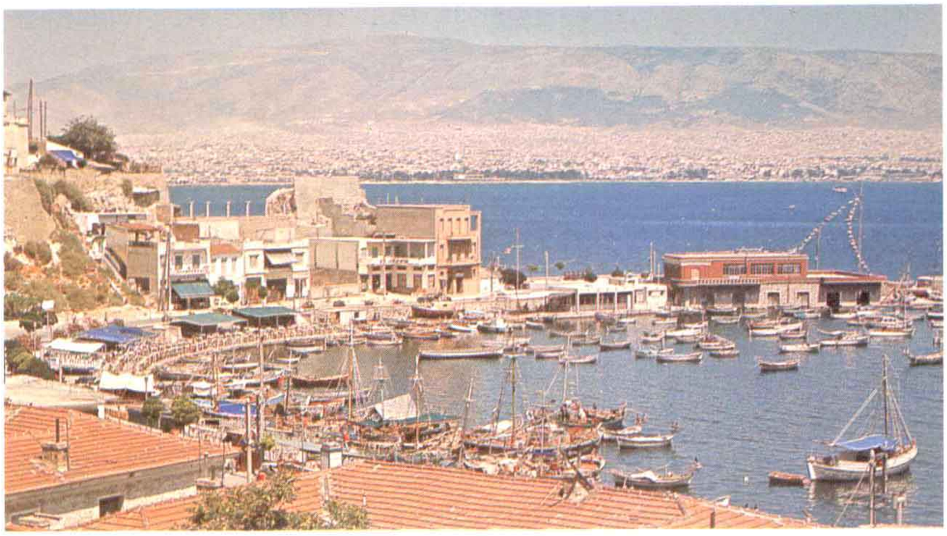
ギリシアの国旗　白は清純，淡青色はギリシアの晴れ渡った空を表わしている。青・白9本の横条は，アポロの9人の娘を表わしたといわれ，十字はキリスト教国であることを示している。起源は，トルコからの独立戦争のとき使ったものだという説と，初代の国王オットー1世が生家ババリア家で使っていた青と白の色を国旗にとり入れたという説がある

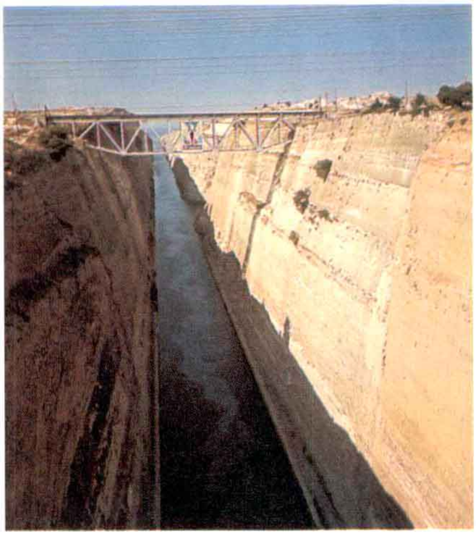
ギリシア(共和国)　［Hellenic Republic］　ヨーロッパ南東部，地中海に突き出たバルカン半島の南部とその付近にある多くの島からなる共和国。東はエーゲ海を隔ててトルコに面し，西はイオニア海を隔ててイタリアに面し，北はブルガリア・ユーゴスラビア・アルバニアに接する。面積13万2,000km²。人口944万(1979年推)。首都アテネ。

〔自然〕本土を南北に走るピンドス山脈は古生代の岩層からなり，地殻(ちかく)運動が激しく行なわれたため，海岸線は複雑なリアス式のところが多く，小さな湾入が各地にみられる。山がちで複雑な地形のため，耕地は国土の30％程度で，さらに土壌(どじょう)侵食に悩まされる。また，森林に乏しく，諸所に石灰岩が露出している。気候は北部以外は冬に雨が多くて暖かく，夏は乾燥して暑い地中海性気候だが，地域により変化が激しく，雨量は西海岸に多い。なお，アテネの年平均気温は20℃，7月は27℃，1月は9℃。

〔住民〕住民の90％以上はギリシア人だが，現在のギリシア人は古代ギリシア人の純粋の子孫とはいいがたく，諸民族の混血で，言語も古代ギリシア語と異なる新ギリシア語である。ほかに少数のトルコ人・ユダヤ人・マケドニア人が住む。文盲率は20％。宗教はギリシア正教が中心で，住民の98％がその信徒である。

〔産業・経済〕耕地が少ない割には農民が多く，就業者の53％に達している。タバコ・穀類・ブドウ・オリーブなどを産し，特に全人口の約8分の1が携わるタバコ栽培はこの国の主要な産業で，北部のマケドニア・テッサリア地方が主産地である。しかし，









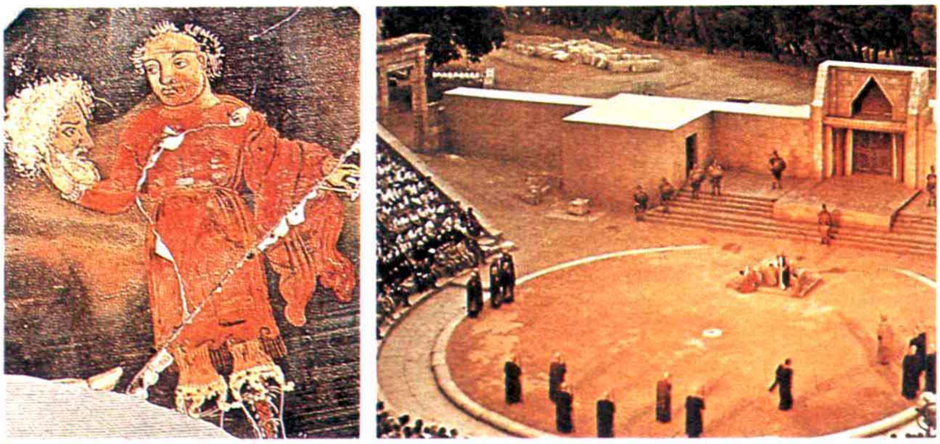
(左上)首都アテネの外港ピレウスの船だまり。対岸の町並みも白々として見え，山はだも木々の少ない典型的な地中海性気候を見せている
(右上)ペロポネソス半島の基部で，エーゲ海とイオニア海とを結んでいるコリント運河。長さ6.3km，深さ8m，幅は約20数m
(左下)首都アテネ，アクロポリスの丘の麓に広がる旧市街の一部。丘の上には古代の遺跡が見える
(右下)西岸のイオニア海側に流れるテアミス川流域の自然景観(エピロス地方)。岩はだの露呈する低い山々が続いている

農業技術の遅れなどから食糧の自給ができず，大量に小麦を輸入している。工業は食品加工が主で，それも以前はアテネやピレウスの周辺に限られていたが，第2次世界大戦後は各地に広がった。鉱産は大理石・鉄などを埋蔵しているが開発は遅れ，鉄鉱石を輸出し，石油・石炭は輸入にたよっている。輸出の40%をタバコで占め，ほかに干しぶどう・ぶどう酒・オリーブなどがあり，輸入は穀物・木材・石油・石炭・織物などで，毎年大幅な輸入超過を続けている。この経済の不均衡を補っているのが海運収入で，742万総トン(1968)の商船を保有して，世界第5位の海運国となり，数人の大船主がいる。沿岸の水上交通は盛んであるが，陸上交通はふるわず，鉄道の総延長は約3,000km。アテネとテッサロニキに空港があり，ヨーロッパと西アジア・北アフリカを結ぶ要地となっている。

〔政治〕1829年の独立当初は共和政体をとったが，まもなく失敗して1832年に王政に変わり，1843年には憲法を制定した。20世紀にはいって2回にわたるバルカン戦争*によってクレタ島が復帰し，1924年共和制へ転換，1935年には国民投票によって再び王政にもどり，第2次世界大戦では枢軸軍のイタリアと戦ったが占領され，戦後は内乱とめまぐるしい変転を続けた。1946年の国民投票の結果，王権が確定し，1947年にパウロス1世が即位した。政体は立憲君主制で，国会は一院制。1952年に北大西洋条約機構(NATO)に加盟してNATO軍に基地を提供し，アメリカ合衆国の軍事援助を受けて，経済的にも強い影響下にあった。1967年に軍事クーデターにより軍事政権を樹立，王家は国外に亡命して，1973年王制を廃止，共和制を採用して現在に至っている。

〔梶川勇作〕

〔歴史〕BC1500～BC1000年ごろ，バルカン半島の北西部にいたギリシア人が南下し，多くの都市国家を建てた。紀元前9～紀元前8世紀にはアテナイをはじめとする多くのポリスが成立し，紀元前8～紀元前6世紀にかけては黒海沿岸・イタリア，イベリア半島まで植民都市を広げた。これらの諸都市の中ではアテナイとスパルタが強い力をもち，アテナイは古代民主政治が進展し，スパルタは軍事都市として発展した。BC500年にイオニア地方の諸都市がペルシアに反乱したことからペルシア戦争が始まったが，ギリシアはマラトンの戦い・サラミスの海戦でペルシアを破り，諸ポリスとデロス同盟を結んだ。しかし，主導権を握ったアテナイの権力が強まるにつれポリスの反感を招き，BC431～BC404年にかけてペロポネソス戦争が発生し，アテナイとスパルタが争い，アテナイは敗れた。このポリス間の抗争は，ポリス国家そのものの衰退をもたらし，BC338年には北方の新興勢力マケドニアに敗れた。こうしてアレクサンドロス大王に始まるヘレニズム時代に，ギリシア文化は東方に広まったが，経済は衰退し人口も減少していった。紀元前2世紀には，ローマの属州に組み入れられ，ローマ内乱期には戦場となってギリシアの荒廃はさらに進んだ。ローマ帝国の支配下に，ギリシア文化はローマに流入したが，政治・経済の上で衰退したギリシアは，ローマ皇帝の文化的保護のもとに観光地の状態にとどまった。このころギリシアのキリスト教化が始まったが，ローマ帝国が東西に分裂するとギリシアはビザンチン(東ローマ)帝国の支配下に置かれた。3世紀末からゲルマン民族の大移動が起こると，ギリシアもいくたびか異民族の侵入を受けた。特にスラブ族が大量に南下して定住すると，ギリシア人との混血が始まり，ギリシアはしだいにスラブ化された。またアラブ人やブルガリア人・ノルマン人もたびたび侵入したが，第4回十字軍以来，ベネチアの勢力が強大となった。15世紀になると，小アジア



ギリシア演劇　(左)悲劇面を手にするギリシア時代の俳優。短いキトンを着，高駄をはいている(紀元前4世紀)　(右)エピダウロス劇場を復元，現代に上演されたギリシア劇の舞台

を中心にオスマン・トルコが強大となり，ギリシアもその支配下にはいった。そのため多数のギリシア人がイタリアに渡ってルネサンスの一翼をになったが，トルコの支配に反抗したギリシア人は虐殺され，あるいはトルコとロシア・西ヨーロッパ諸国との戦争の場となって荒廃を続けた。18世紀後半になると，ようやく民族運動が高まりはじめ，フランス革命の影響下に独立の機運がさらに強くなって，おりからトルコに対立していたイギリスやフランスの援助を得て1821年独立戦争が起こり，独立王国の成立へと進んだ。〔桜木　庚〕

ギリシアえんげき　【ギリシア演劇】　紀元前6〜紀元前3世紀ごろ，ギリシア文化圏，特にアテナイを中心に未曾有(みぞう)の開花期を迎えた古代ギリシア劇は，今日知られる最古の完成された演劇形態であり，ヨーロッパ文化の源流の生命を保っている。

〔発生〕ギリシア劇の始源は，BC2000年ごろのエーゲ文明*における農耕祭祀(さいし)にまでさかのぼらなければならないが，高度の美術形式をそなえるに至ったのは，紀元前6世紀ごろ始まった種々の劇作の試みや上演方法の革新によってである。すなわち，ブドウの収穫を喜び，ディオニュソス(バッカス)をたたえる叙事詩的な合唱歌ディテュランボスは，ホメロスの英雄叙事詩の劇的な構成を受け入れることによって演劇の発生を促していたが，BC560年アテナイの僭主(せんしゅ)となったペイシストラトスが，民衆に人気のあるディオニュソスの祭礼を国家的に制定し，その奉献行事として悲劇上演を始めたことによって，急速に発展した。発生時の演劇は，こうしてディテュランボスを歌う舞唱団が主体であったが，さらにドーリス人の間で盛んであったイアンボス詩*の形式が挿入(そうにゅう)されるに及んで劇としての形式が完成した。また，レスボス島生まれの詩人アリオンはディテュランボスに笛の伴奏を添え，コロス*(舞唱団)を50人の円舞形式とし，さらにアッチカ悲劇の祖といわれるテスピスは仮面を使用し，〈テスピスの舞台〉とよばれる卓上にコロスの指揮者を登場させ，コロスとの対話形式を創始することによって最初の俳優を生み出した。

〔種類〕悲劇・喜劇・サテュロス劇の三つからなり，いずれもディオニュソスの祭礼から生まれた。悲劇(トラゴーディア)は，元来ディオニュソスの従者サテュロス(ヤギに似た半獣半神)の仮装をした舞唱団の歌を意味し，ディテュランボスから生じた。喜劇(コモーディア)は，元来余興行列の歌を意味し，いなかのディオニュソス祭における陽気な歌合わせから生じた。サテュロス劇は，悲劇が国家的祭礼の中心形式として荘重化していくにつれ，悲劇の起源を保存し記念するため，国家が制定した形式であり，コロスは必ずサテュロスから構成されなければならなかった。悲劇は，クレイステネス*の改革からペリクレス*執政の黄金時代にかけて，国家政策と民族意識の高揚および三大詩人の輩出によって未曾有の発達を示した。すなわち，アイスキュロス*は俳優を2人にして対話を拡大深化し，ソポクレス*は3人に増して悲劇性をさらに強め，エウリピデス*はその主知的合理性によって民衆に近づけた。

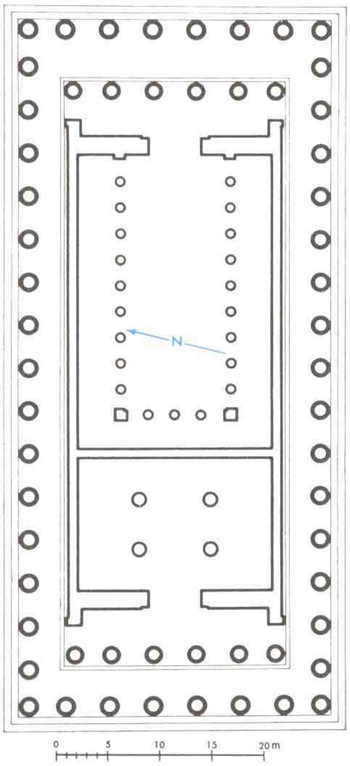
　しかし，紀元前5世紀ごろを頂点に，アテナイ国家の衰退と時を同じくして悲劇は急速に凋落(ちょうらく)の一途をたどり，イオンやアガトンを最後に姿を消していった。喜劇は，悲劇が貴族や市民を対象に国家的威厳を示したのに対し，地方の農民層を基盤に発生したせいもあって，国家や社会に対する風刺や嘲笑(ちょうしょう)を推進させた。アテナイに定着したのは，紀元前6世紀ごろのメガラ出身のスサリオンによるといわれ，悲劇に約半世紀遅れて国家的行事に制定された。最大の作家アリストパネス*は，国家的英雄である三大悲劇詩人を縦横に冷笑し，民衆の奔放な批評と生命力を伝えている。アリストパネスなどの古喜劇からメナンドロス*などの新喜劇に移るにつれて風俗的要素を濃くしていったが，悲劇凋落後も活力を失わず，紀元前3世紀ごろまで存続してローマ喜劇に引き継がれた。なお，サテュロス劇で現存するのはエウリピデスの1編のみである。

〔劇場〕最古の形態は，ディテュランボスのための円形の土間であったが，北側に木の桟敷(さじき)が設けられるようになり，やがて山腹の斜面に石を敷きつめた恒久的な野外劇場となった。観客席(テアトロン)が斜面に段状をなして中央の演舞場(オルケストラ)を三方から囲み，演舞場後方には楽屋(あるいは背景)の役目をする方形のスケネをもつ。演舞場中央の祭壇は，舞台効果にも転用され，その他滑車舞台や雷鳴器，事件解決に神を登場させる宙づり機械(デウス-エクス-マキナ*)など，かなり高度な舞台機構をもっていたと推測される。なお収容人数は，現存する劇場によれば14,000〜20,000人程度である。

〔俳優〕一般に，悲劇俳優は長い外袍(がいほう)を着け，頭上に高い鬘状(かずらじょう)のもの(オンコス)，足に高駄(たかだ)(コトルノス)をはき，仮面をかぶる。登場人物が荘重な英雄であり，かつ野外での効果のためであったろうが，不明な点が多い。なお，すべて男優によって演じられた。

〔上演〕悲劇を中心とする早春の大ディオニュソス祭と，喜劇を中心とする初冬のレナイア祭の二大行事があり，いずれも執政官および10の部族代表による審査による競演(アゴン)の形式をとった。大ディオニュソス祭では，3人の詩人がそれぞれ悲劇3編(3部作)とサテュロス劇1編を提出し，国家から認定された市民の財政負担のもとに準備が進められ，3日間にわたる競演ののち国家から栄誉と賞金が与えられた。レナイア祭の競演は1日間で，上演は早朝から一般市民はじめ神官・貴族，外国の貴賓などを集めて行なわれた。衰退期には，国家から入場料を支給するテオリコンの制度なども設けられたが，衰退をとどめることはできなかった。〔大島　勉〕

ギリシアおんがく　【ギリシア音楽】　古代ギリシアの音楽は現代ギリシアの音楽とは根本的に異なるが，いずれも東洋的色彩の濃い点では共通している。西洋音楽史はギリシアから始まるという俗説もあるが，実際には古代ギリシアの音楽的遺産はローマに正統に継承されたわけではなく，むしろ，アラビア音楽の理論確立の補助として伝えられ，そこからヨーロッパへと，いわば間接的に影響を及ぼした。わずかな資料から推察される音楽の実体は，器楽・歌曲・演劇付随音楽といったもので，使われた楽器はアウロス(2本の管をもつダブルリードの気鳴楽器)・キタラ*・リラ*などであった。吟遊詩人が語り物の伴奏にキタラを使ったり，サッポー*やアナクレオン*の詩の朗唱の



ドリス式建築のパルテノン神殿平面図　紀元前5世紀中葉　アテネ　アクロポリス



イオニア式建築のエレクテイオン神殿，コライの台座女像柱　紀元前5世紀後半　アテネ　アクロポリス

ギリシア建築



テセイオン神殿全景　紀元前5世紀中葉　アテネ　ヘファイステイオン



エピダウロス円形劇場部分(55段の座席)

伴奏にリラが使われたりした。演劇においてはコロス*(舞唱団)が活躍し，アウロスが伴奏楽器であった。音階理論の基礎となっているのは完全4度のわくの中の4音で構成されるテトラコルドで，その4種類を組み合わせてオクターブに至る7種のギリシア旋法*を設定している。それぞれの旋法には，たとえばフリギア調は情熱的，リディア調は女性的，ミクソリディア調は悲哀的というように倫理的特性が付与されている。ギリシアの音楽美学の基盤となっているのはエトス論*で，これは音楽というものは人間の意志・精神に多大の影響を及ぼすものであり，また音楽は国家社会の道徳的な土台であると考えるところからきている。

古代以後19世紀初めごろまでのギリシア音楽がどのように変容していったかはほとんど知られていない。現代のギリシア音楽，特に民俗音楽は，ブルガリア・アルバニアなどの東ヨーロッパ諸国のように東洋的な音階・装飾音型・付加リズムをもち，西ヨーロッパとはかなり異質である。芸術音楽では何人かの作曲家が現われたが，活動は今後に期待される。〔山口　修〕

ギリシアけんちく　【ギリシア建築】　紀元前9世紀から紀元前3世紀にかけて，ギリシア本土・エーゲ海諸島嶼(とうしょ)・小アジアなどの都市国家，ギリシアの植民都市を中心に形成された建築様式。紀元前14世紀ごろに北方から移住してきたギリシア人は，長い暗黒期を経たのち，紀元前6世紀ごろから急速に洗練された建築を生み出し，紀元前5世紀に最盛期を迎えた。その主要な建築は神殿建築であり，それに多大の資材と芸術的能力が傾注された。ギリシア神殿の原型は，ミュケナイ時代の王城内のメガロンという住居から発展したものであった。メガロンは，矩形(くけい)平面をなし，その三方を壁で囲み，他の一方に2本の柱をもつ開口部を配する構成であったが，初期のイン-アンティス形式の神殿は，それとほぼ同形の簡素なものであった。その後，前面に4本の柱よりなる玄関廊をもつプロステュロス形式，前後面に4本の柱をもつアンフィプロステュロス形式が形成され，さらに建物の四周に円柱廊を巡らしたペリプテロス形式へと発展した。後期には，二重円柱廊をもつディプテロス形式も現われた。これらの神殿の各形式はその規模によっても使い分けられた。

建築材料は大理石や石灰石などの石材が代表的である。石材は表面をなめらかな白色に仕上げて使用されたが，有孔質の石灰石では漆喰(しっくい)を塗って仕上げることもあった。石材は接着剤を用いずにから積みされ，鉄製のかすがいやだぼで補強された。石材相互の継ぎ目は接着部がわからないほど精巧に仕上げられた。こういう点にも，古代ギリシア人の石材加工の技術の高さと，完全を求める精神がうかがわれる。大理石の産地としてはアテネ近郊のペンテリコス山，パロス島・ナキソス島のものが良質であった。しかし，初期のギリシア神殿は木材や粘土・生れんがを材料として建てられており，それがしだいに石積み壁や石柱に変えられていったと考えられる。

ギリシア神殿は，神像や供物・宝物を納めておく場所であった。したがって，建物の内部を飾りたてることよりも，外部の形式や比例調和に多くの能力を傾けた。こうして，紀元前6世紀ごろには，建築各部の相互によく調和する比例関係に従って，いくつかのオーダー*にまとめられた。ギリシア神殿には，オーダーによってドリス式・イオニア式・コリント式などがある。

標準的なギリシア神殿は，ペリプテロス形式で，3段の基壇の上に立ち，入り口以外には開口部のない石壁造りの内室の四周に列柱廊を巡らす構成である。神殿内部は，入り口にあたる玄関廊，神像や供物・宝物を納める内陣，玄関廊に対する形式上の必要から内陣の後ろ側に対称に設けられた後玄関廊からなりたつ。神殿は前後左右相称で，平面は長方形をなし南北に長く東西に狭い。入り口は東方に面し，切り妻の妻入りである。架構法は柱梁(ちゅうりょう)により切り妻屋根をささえる楣式(びしき)構造*である。神殿のほか，ギリシア建築には円形劇場*・競技場・公共建築・ストアなどがみられる。建築様式は神殿とほぼ同一である。ストア

は外側に列柱，背面に壁をもつ細長い廊下形式の商店建築で，ギリシアの各都市の広場に建てられ，ギリシア人の日常生活の中心となった。　〔鈴木誠司〕

ギリシアご　【ギリシア語】　インド-ヨーロッパ語族*に属する一言語。フェニキア文字*に由来するギリシア文字*を用いる。ヨーロッパにおいて最も長い歴史をもち，ホメロスの二大叙事詩《イリアス》《オデュッセイア》から現代語に至るまでおよそ3,000年にわたる。ただし，古典語と現代語との間では前者がインド-ヨーロッパ祖語的な複雑な語形変化を保つものであったのに反して後者はより簡素化されており，また語彙(ごい)においても大きな相違がある。古典ギリシア語は，東群として，①イオニア・アッチカ，②アルカディア・キプロス，③アイオリア，西群として，④北西ギリシア，⑤ドーリアの諸方言に分かれ，その分布範囲は小アジアからシチリア島・南イタリア，黒海沿岸からエジプトに及んで一大文化圏を形成した。特に①は文化的に重要で，この方言で著作した文学者(三大悲劇作家アイスキュロス・エウリピデス，ソポクレス・喜劇作家アリストパネスら)・哲学者(プラトン・アリストテレスら)・歴史学者(ヘロドトス・ツキジデスら)を輩出せしめた。アテナイのアッチカ方言は紀元前4世紀ごろから東地中海の共通語*としての地位を獲得し，これをコイネーとよぶ。現代語はこのコイネーを継承したもので，その最古の記録は1～2世紀になった《新約聖書》である。現代の使用者数はギリシア本土の約850万人のほか，小アジア沿岸地方，南イタリアの一部，北アメリカの移民を含めると1,000万人前後と推定される。諸方言の大部分はコイネーが再び分裂して生じたものであるが，標準語*としてはコイネーにより近づけられたカテラブーサ(純粋語)の使用がロマイックまたはデモティック(日常的口語)よりも優勢となりつつある。　〔崎山　理〕

ギリシアしかしゅう　【ギリシア詞華集】　BC90年ごろの詩人メレアグロスが紀元前4世紀ごろからの短詩(平均8行)を集めたアンソロジー*。アルキロコス*からメレアグロス自身までの46人，134編の詩を《花冠(アントロギア)》という名のもとに集大成した。その後，これをもとに多くの詩人がさまざまの詩をつけ加えていったが，10世紀ごろコンスタンチノス-ケパラスが15巻にまとめあげた。恋愛詩・奉献詩・碑文詩・設題詩・教訓詩・酒宴歌・風刺詩・追悼詩・なぞとき歌など多種の詩を含んでいる。

ギリシアじゅうじけいかいどう　【ギリシア十字形会堂】　筒形ボールト(➔ボールト)を直交させ，各腕部の長さが等しい十字形(ギリシア十字形)をつくり，その交差部にドームを載せ，周囲を正方形の外壁で囲った中～後期のビザンチン建築特有の聖堂。長方形のバシリカ*の上に半球のドーム*を載せたのはビザンチン建築がはじめてであり，ボールトを交差させ，その腕の長さを等しくすることは，ドームの強大な横圧に対して非常に合理的な解決方法である。方形の四すみにできる空間は，十字形部分より低い交差ボールトまたは4個の小形ドームでおおわれる。　〔渡辺保忠〕



ギリシア十字形会堂　小メトロ教会堂(ギリシア，アテネ)

ギリシアしんわ　【ギリシア神話】　⇨490ページ

ギリシアせいきょうかい　【ギリシア正教会】　⇨東方正教会

ギリシアせんぽう　【ギリシア旋法】　ギリシア語でハルモニアイといい，通常，譜例に示した7種が使用される。これらはテトラコルドの組み合わせによって生ずる旋法の中から取り出されたもので，歌手や楽器の演奏に好つごうな音域を構成する旋法と考えられる。下降形をとり，教会旋法*のような終止音・テノール音をもたず，ただ，核音*(メセ)としてのイ音が重要視される。➔ギリシア音楽

ギリシアてつがく　【ギリシア哲学】　⇨492ページ

ギリシアどくりつせんそう　【ギリシア独立戦争】　15世紀半ば以来ギリシアはトルコの支配下にあったが，その苛酷(かこく)な圧制に対する抵抗は，19世紀初頭の国民主義運動の刺激を受けて，1821年から独立戦争として展開された。トルコは大量虐殺をもって報復したので，ヨーロッパの自由主義者はギリシアに同情し，詩人バイロンをはじめ義勇軍に参加する者も多かったが，メッテルニヒの圧力によりヨーロッパ諸国の援助もなく，エジプトの救援を得たトルコ軍の攻撃により独立軍は危機に陥った。ここに至ってイギリスは，同じく近東進出を望むフランス・ロシアを誘ってギリシア援助に乗り出し，1827年ナバリノの戦い*でトルコ艦隊を全滅させ，1829年アドリアノープルの和議を結んでギリシアの独立を承認させた。　〔大野慎一郎〕

ギリシアびじゅつ　【ギリシア美術】

【先史ギリシア美術】ヘレネス(ギリシア人のみずからをさした呼称)の形成は民族移動の結果である。この蛮族はインド-ヨーロッパ語系で，バルカン半島北部からギリシア半島への南下は紀元前20世紀から行なわれ，第1波は紀元前15世紀，第2波は紀元前12世紀に頂点に達した。エーゲ海に青銅が伝播(でんぱ)したのは紀元前24～紀元前20世紀ごろと考えられるが，キクラデス諸島から出土する新石器時代の《偶像》(BC3000)は，近代的・抽象的な造形感覚でわれわれを驚かせるが，目・まゆ・口などは彩色されていたので，ずっと現実的なものであったにちがいない。これは，ギリシア時代の《アプロディテ》の前身であり，青銅・農耕文明の最高神で，受胎の生命力を表わす〈地母神〉である。青銅時代のエーゲ文明*の中心はクレタ島であり，海上商業による富の蓄積は，紀元前16世紀に頂点に達する華麗なクレタ文明を開花させた。近代的な採光・排水・通風の設備を備えた複雑なプランをもった宮殿が建設されたが，壁面は植物・動物・人物などの主題が，自然主義的な柔軟さといきいきとした色彩で，流動的な明るい効果を生み，この平和で洗練された特性は，象牙(ぞうげ)小彫像やカマレス陶器*などの工芸品に見ることができる。ギリシア本土では，紀元前15世紀に頂点に達した〈アカイア人〉の南下によって，先住民族が制圧されたが，文化的にはクレタ文明の影響を受けて，いわゆるミケーネ美術が誕生した。宮殿は北方民族特有の城砦(じょうさい)となり，壁画・工芸品にも狩猟や戦闘などの主題が現われる。王侯の墳墓内部は大穹窿(だいきゅうりゅう)をもち，宮殿のプランもクレタ宮殿の〈迷路〉から，前後の方向をもったメガロン形式の単純明快な構成に移る。

【ギリシア美術】①幾何学様式(紀元前10世紀～紀元前8世紀)：クレタ・ミケーネ文明の消失後，最初のヘレネスの造形的表現は，特にアッチカを中心として，墓地に奉納された等身大の陶器や，小形の奉納ブロンズ像に見ることができる。陶器は全体のシンメトリックで有機的な構成，装飾文様の直線・菱形(ひしがた)・ジグザグなどから幾何学様式とよばれる。これらのモニュメンタルな性格こそギリシア美術の本質である。

②アルカイック様式(紀元前8世紀～紀元前6世紀)：この時期の最初に，本土の美術はイオニア様式の強い影響を受けた。陶器においては，幾何学文様はミケーネの遺産を引き継いだイオニアの柔軟な植物文によって，コリント様式(紀元前7世紀～紀元前6世紀)を生んだ。紀元前6世紀にはアッチカ陶器は黒絵式を発明，さらに紀元前6世紀末には赤絵式陶器が始まった。ギリシア彫刻は最初クソアノンとよばれる，エジプトふうの木彫から出発した。紀元前7世紀半ば，神殿が木造から石造になると同時に，大形石像彫刻が始まる。この時代の美術の本質は神殿や墓地に奉納・建立(こんりゅう)された若者の像(クロス)と着衣の若い女子像(コレ)の制作の展開のうちに示され，内的な生



キクラデスの偶像　先史時代　ルーブル美術館蔵



幾何学様式の壺　紀元前～1世紀　アテネ国立考古博物館蔵



ミラーニのアポロン　紀元前6世紀前半　フィレンツェ考古博物館蔵



クーロス　ブロンズ小像　ポリュクレイトス？　紀元前1世紀　ルーブル美術館蔵

ギリシア美術



アテニアン－カップ部分〈アマゾンと戦うギリシア人〉　紀元前5世紀前半



《巨人族と神々の戦い》(部分)　ペルガモン，ゼウス神殿大祭壇浮彫　ペルガモン美術館蔵

命力の表現が徹底的に追求された。

③古典様式(紀元前5世紀～紀元前4世紀)：ペルシア戦役の死闘と勝利によって，ギリシア美術は古典様式を完成する。しかし，戦闘遂行中のギリシア美術を特にその比類ない悲劇的な緊張によって厳格様式(紀元前5世紀前半)とよぶこともある。例としては，オリンピアのゼウス神殿，アイギナのアファイア神殿などがあげられる。戦後*ペリクレスの政治によってアテナイでギリシア理想主義文化の輝かしい花が開いたとき，〈神々の制作者〉といわれる大彫刻家*フェイディアス以上にこの精神的な高さを表現しえた芸術家はいなかった。さらに，ドリスの伝統に立ったアルゴスの*ポリュクレイトスは，《カノン》(規範)と名づける完全作品を制作した。紀元前5世紀の高貴な単純と静穏な偉大は紀元前4世紀にはいると，異なった美の理想に変化する。*スコパスに見る動きに満ちた激情の表現と，アッチカ出身の*プラクシテレスによって完成された，優雅で節度のある調和の美である。宮廷作家*リュシッポスは，ポリュクレイトスの安定した比例を変えて，流動する現実を表現した。

④ヘレニスチック時代(紀元前1世紀～323)：アレクサンドロスの東洋遠征と死は，ギリシア世界を根底から変化させ，芸術の中心地は各王国の首都に移った。作家は王や個人のために制作する。この時代の様式は豊かな多様性とリアリズムが特徴で，風俗的・日常的な主題が好まれた。一方，古典的な調和と節度を破る〈巨大なもの〉〈劇的なもの〉への表現が試みられ，その最もモニュメンタルな造形は，ペルガモンの神殿装飾彫刻に見ることができる。〔穴沢一夫〕

ギリシアぶんがく 【ギリシア文学】 インド-ヨーロッパ語族に属するギリシア語を語る民族がバルカン半島の南端にはじめて姿を現わしたのは紀元前19世紀半ばとされる。彼らは馬とろくろを有し，雷鳴の神をあがめていたが，まだ文学とよぶべきものをもたず，未開の種族であった。しかし，彼らを迎えたエーゲ海，とりわけクレタ島では，エジプトからメソポタミアから影響を受けながらも，なお固有のはなやかな海洋文化が円熟期にはいっていた。ギリシア文学の魂ともいうべき神話の中には，このきわめて初期のギリシア人と先進エーゲ文明の出会いをとどめているものが少なくない。最も著しい例は，クレタ島クノッソスでのウシ退治や，*アリアドネの糸をたぐって*ラビュリントス(迷宮)を脱出する*テセウスの冒険譚(ぼうけんたん)であろう。先住民族の美しくいかめしい女神らとの出会いは，ギリシア文学にしばしばみられるテーマであるが，これは未開人と先進文化との触れ合いを現わすものかもしれない。

やがてギリシア人自身もクレタのあとをおそって紀元前15世紀以後ミケーネ・ピュロス・ティリンス・アテナイ・テーベ・オルコメノス・イオルコスなどの諸地に富と勢力をたくわえた。各地の王侯たちが自分らの業績をなんらかの形でとどめようとしたとき，文学の萌芽(ほうが)が現われはじめたのではないかと思われる。紀元前12世紀初頭の各地の状況から察すれば，王侯たちは軍備・祭祀(さいし)・出納に関するかなり詳細な記録をつづる専門的な書記を使っていたらしい。同時代のオリエント諸国の例から考えると，王たちの事績を記録し賛美する書記ないしは詩人たちが宮廷にはべっていたとしても不思議ではない。ギリシア最後の叙事詩《*イリアス》《*オデュッセイア》の中にもそのようなミケーネ時代末期の証言ともいうべきことばづかい・内容が数多く指摘される。ミケーネ時代の文学作品は直接には残っていないが，ギリシア文学の根幹となっている英雄伝説はこの時代に形成されたものである。たとえば，アルゴ号遠征譚(→アルゴナウチカ)，カリュドンのイノシシ退治，*ヘラクレス伝説，*トロヤ戦争伝説などは後世の詩人や劇作家らに豊富な材料を供している。これらはすべてミケーネ時代の王たちの事績を中核としている。

海洋にまつわるさまざまの冒険譚はギリシア文学にひんぱんにみられるテーマであるが，これと並んで重要性をもっているのは，大地の恵みと豊饒(ほうじょう)にまつわる*デメテルとその娘*ペルセポネの神話，および

ギリシア神話

神話は民族の成立と歴史と，その精神構造を物語っている。ギリシア神話の広範性・多様性，生き生きとした物語性は，そのままギリシア民族のたどってきたさまざまな地域，他民族との接触交渉，先移民族の文化的影響などを語るものである。エジプト，エーゲ海の諸島，小アジア，レバノン地方，シュメール，アッカド，ヒッタイト，シリア地方にみられる神話とギリシア神話の共通性，語源不明の神々の名まえなどは，その間の事情を語るものと思われる。多種雑多なギリシア神話を大別すれば，大体三つに分けられる。第1はゼウス*を中心にしたオリンポスの神々にまつわる神話，第2は正統なる神々の系譜から逸脱しているが，不老不死の特典をもつ自然神たちの神話，第3は神々と人間との間に生まれた英雄たちにまつわる伝説である。英雄たちは超人間的な力と知恵をもつが，不老でも不死でもなく，死すべき運命をもつ人たちである。

【オリンポスの十二神】天地創造主の話はギリシア神話にはない。世界のはじめにカオス*(混沌(こんとん))があり，そこから大地母神(ガイア*)が生まれた。このガイアが神神と自然の母であって，そのむすこたちの没落をあやつり，自身は幾世代も生き延びている。ガイアは天空神ウラノス*を生み，それを夫として山や海，神々と次の支配者クロノス*を生む。クロノスは父を倒し，第2代めの支配者となるが，彼もまたわがむすこゼウスに敗れて追われる。ここでゼウス支配下の世界が実現する。ティタノマキア(巨神戦争)で旧世代に勝利を収めてから，ゼウスは旧世代の神々とも，同世代の神々とも，またゼウスの子どもの世代の神々とも仲よくそれぞれ支配権を分けあって，調和のとれた美しい世界を現出する。鍛冶(かじ)神ヘパイストス*のつくった不滅の館(やかた)は，ギリシア北方のオリンポス山頂に神々の住居として，あるいは会議所として君臨した。ここには神々と人間の父ゼウスを主神として，妃ヘラ*，海を支配するポセイドン*，知恵と音楽の神アポロン*，その妹で処女神アルテミス*，技術をつかさどる女神(めがみ)アテナ*，びっこの鍛冶神ヘパイストス，その妻で愛と美の女神アプロディテ*，その愛人で戦争をつかさどるアレス*，麦と穀物をつかさどるデメテル*，神々の使者ヘルメス*，いちばん年若い酒の神ディオニュソス*，以上の神々が十二神とよばれ，世界を支配した。そして地下の世界はハデス*が支配していた。

ギリシアの神々は人間的である。人間以上に人間臭いという点で定評がある。主神ゼウスにしろ，怒るときは雷光をもって人を打ち砕き恐怖を与えるが，日常生活では好色で神と人を問わず，目にとまった女があれば主神の特権を利用してこれに近づき，目的を遂げている。しかも嫉妬(しっと)深い妻ヘラの目を盗むのにうき身をやつしている。ヘラの嫉妬は女神であるだけに手に負えず，ゼウスの愛を受けた女やその子どもらを徹底的に痛めつける。ヘルメス神の悪巧みやアプロディテの多情，不相応の美女を妻にもつ醜男(ぶおとこ)ヘパイストスの愚直と懊悩(おうのう)など，神々は人間世界のあらゆる弱点や葛藤(かっとう)を大らかに拡大してみせている。

【自然の神々】ギリシアの神々の多様性はおそらく世界でも随一であろう。森や木，泉や川に住む無数のニンフ*たち，おのれの醜さを恥じて洞穴(どうけつ)に隠れ住むパン*，上半身は人間，下半身はヤギの姿をしたいたずら好きのサチュロス*たち，半人半馬で行儀の悪いケンタウロス*たち，太陽の馬車を駆ける太陽神ヘリオス，月の女神セレネ*，あけぼのの女神エオス*などは，それぞれ十二神のだれかに遠縁をもつが，ほとんど独立した存在の神々である。これらの神々は単に名称だけの存在ではなく，その特性をよく伝える物語にいろどられている。この点は自然の象徴としてのローマの神々の場合と著しく異なるところである。

【英雄伝説】神々と人間との間に生まれたもの，またはその後裔(こうえい)で，人よりすぐれた力と知恵をもち，すぐれたことを行なった人間たちについての伝説が英雄伝説である。これらは歴史以前に実際に起こったある事件が口から口へと伝えられ，特定の英雄に結びつけられて語りつがれた場合が多い。したがって伝説からある程度の歴史を推定することができる。テセウス*の物語やヘラクレス*の帰還などの話はその好例であろう。一方，民話的要素も見のがすことができない。歴史的事実として存在した事がらの中から語り継ぐうちに，人々が興味を示した部分だけが特に拡大され，潤色を加えられて伝わっていく。オデュッセウス*の海洋冒険譚(ぼうけんたん)(→オデュッセイア)やアルゴ号遠征譚(アルゴナウチカ*)はその例である。

父から子へ，孫へ，あるいは職業的吟唱(ぎんしょう)詩人が人々のために歌ううちに，神話伝説は徐々に統合され，英雄諸家の系譜という形をとって整頓(せいとん)されていった。はじめはおのおのの地方で独立した諸家の物語があったのが，やがて相互間に世代的な調整が行なわれるようになった。テセウスの物語とヘラクレスの冒険譚の接触，テーベ市の建国者カドモス*とエウロペ神話の接触などがある。これがやがて神話世界の大事件，たとえばイアソン*を中心とするアルゴ号遠征という壮挙には，オルペウス*・ヘラクレスをはじめ名だたる英雄が集まってくるし，魔女キルケ*やセイレン*なども登場してくる。カリュドンのイノシシ狩りには全ギリシア世界から英雄たちがはせ参じ，アタランテのほかメレアグロス*，カストルとポリュデウケスの双児，イアソン・ペレ

そのさまざまな変形である。四季とともに死と再生を遂げる大地の生命力の神秘も，おそらくギリシア人が先住民族の文明から学んだ考えであろうが，これは彼ら自身の文学的想像力に多大の刺激を与えた。またギリシア文学にはじめて現われる演劇文学も，その原動力を死と再生の祭祀に負うものであったとされる。

【叙事詩・叙情詩】古代ギリシア文学が作り出した叙事詩・叙情詩・劇詩などの諸形式は，それぞれの詩がうたわれ演じられる時と場所の要請に基づいて発生したものである。英雄叙事詩が紀元前8世紀ごろの王侯貴族の宮廷で盲目の詩人らによって吟唱されていたことは，《オデュッセイア》のような叙事詩そのものの中でも語られている。文字の助けがほとんどないままに詩人らはあるテーマに従って即興的に詩句を連ねて，英雄の功をうたい語った。ホメロス*の六脚韻形式はそのような即興的上演の必要から長年の伝統によって蓄積された特殊な措辞や筋の展開技法に依存している。紀元前7世紀の叙情詩人，アルクマン*・サッポー*・アルカイオス*らの作り出した美しい均斉(きんせい)のとれた旋舞歌形式やスタンザの形式も，各地の神々の祭りや祝婚・祝勝など，当時の重要な公式行事に多数の市民たちが参加して歌い舞う必要から整えられた歌詞形式にほかならない。アルキロコス*の反抗的な活気のある詩も，彼自身の不満を吐露したものというよりは戦陣の兵士らの間に漂う気分にことばと形を与えたものというべきであろう。ピンダロス*やバキュリデス*のけんらんたる大祝勝歌群では，祭りの場の客観的要請と勝利を祝う詩人の主体的な意味づけがみごとな調和に達している。

【悲劇・喜劇】紀元前6世紀に叙事詩・叙情詩上演のための貴族的催しが最盛期であったのに比して，紀元前5世紀にはアテナイの民主政治が全盛期を迎えて，それまでよりもはるかに多数の市民たちの参加できる文学形式が要求されることとなった。ギリシアの悲劇・喜劇の起源は今日なお明らかではないが，アイスキュロス*・ソポクレス*・エウリピデス*らの大悲劇作家やアリストパネス*らの喜劇詩人がほとんど時を同じくしてアテナイに輩出し，年々ディオニュソス祭やレナイア祭において名作を世に送





トロヤ戦争は数々の英雄伝説を生んだ。メネラオス(左)は妻ヘレネを取り返すためにパリスと戦う　赤絵式キュリックス　ルーブル美術館蔵

オリンポスの神々を支配するゼウス*(右)とその妃ヘラ　ドリス式建築の壁面を飾ったフリーズから　パレルモ－ナショナル博物館蔵

ウス・テラモンらの名もみえる。テーベ攻防戦では，カドモスに始まる建都からオイディプス王ののろわれた運命という縦の糸に，ポリュネイケスのもとに7人の英雄が集まるという横の糸が繰り広げられる。これらの英雄集団の中で最も華麗な絵巻物を展開するのがトロヤ遠征物語である。ここには英雄のみならず神々も直接参加し戦っている。アガメムノン*・アキレウス*・オデュッセウス・アイアス*・ヘクトル*・ヘレネ*・パリス*など枚挙にいとまがない。

以上のような系統づけは紀元前8世紀ごろにはできていたらしく，ホメロスの叙事詩では神々と英雄たちの整理はほぼ完了しているといってよい。神々の系譜を意識的に系統づけたのはホメロスと同時代の詩人ヘシオドス*で，彼をもって神話の大まかなわく組みはいちおう終止符を打たれたといえよう。

〔神話の意義〕豊富で多様なギリシア神話は歴史時代のギリシア人になにをもたらしただろうか。深く流動する伝承と神話の海から，ホメロスは人間の意志と運命の争いをくみ取り，それを不滅の形におさめた。ヘシオドスはもとより，ピンダロス*の到達した貴族的個性の賛歌は神話の光彩にいろどられて不滅の光を放っている。悲劇詩人らは神話を永遠のわく組みにして人間の姿を極限状態にまで問いつめる。さらにプラトン*のような哲学者にとっても，その思考の背後には深く豊かな神話があり，それが哲学的思考を刺激している。

神話・伝説はギリシアの詩人と聴衆または読者大衆との共通の財産，共通の思考の母体であった。神話・伝説に現われた人間の諸経験はつねに創造的思索に新しい刺激や出発点を提供した。また真理を追求する知性の前に，奥深い層をつぎつぎに開示して，分析や批判の誘いとなったのである。詩人たちは自己の時代の求める表現形式に従って自分の問いと答えを文字につづった。神話・伝説の世界はそのまま新しい表現形式，新しい思考方法によって生き続け，つねに新しいものを創造していったのである。

〔久保正彰〕

った背景には，アテナイの全市民の熱烈な参加と支援があったことを忘れてはならない。悲劇詩が理想と現実との相克，神の正義と人間的打算との軋轢(あつれき)，あるいは個人の良識と政治的責任の葛藤(かっとう)など，真剣に政治や人間性の問題を劇のテーマとして追求しつづけ，3人の大悲劇詩人がそれぞれ特色ある答えを出すことができたのも，悲劇上演に参加している市民層の深い政治意識や人間観を基盤としていたためであろう。これは喜劇詩においてさらに著しい。本来，喜劇は悲劇と異なり，文学形式として明確に規定しがたいものではあるが，アリストパネスの喜劇作品の場合，ある仮定の政治的問題の荒唐無稽(こうとうむけい)な解決という基本的な筋の運びをもつものが多い。涙も笑いもポリスを営む動物であるという自覚から発したといって過言ではない。

→ギリシア演劇

〔歴史・哲学〕このような通俗な意味での文学への参加が，真の意味での人間の思索や想像にとって有益であろうか。古代ギリシア文学が雄大な飛翔(ひしょう)を遂げるためみずからに課した問いがこれであった。ヘロドトス*の史述は明らかに人々の前で朗読されるべきものとしてつづられている。しかし，真の歴史とは単に人々の興を誘うだけのものであってよいはずはない。人間の行為を厳正に再現し説明し認識する学問はきびしい。歴史家ツキジデス*は歴史の真実に開眼したとき，これまでの詩や演劇が望みえなかった新しい道を発見した。

また哲学の分野においても，パルメニデス*やエンペドクレス*らはまだ聴衆を意識する詩人たちであったが，ソクラテス*においてまったく別種の哲学者を発見する。彼の真実究明法はひとりではできず，つねに参加者を必要とする。しかし，それは視覚的聴覚的快楽への共同参加ではなく，善のイデアへの参加であり，批判への参加を意味する。〈それはほんとうであろうか〉という問いが，それまでの詩や演劇の生命にとどめを刺したことは否定できない。文学とは要するに〈たとえ〉にすぎないものであって，それが〈たとえ〉として，あるいは模倣として適当か否かを論ずることができるとしても，文学そのものを究極的認識の対象にすることはできない。アリストテレスの

→494ページ

ギリシア哲学

紀元前7世紀後半から紀元6世紀前半にかけて，ギリシア本土を中心に地中海全域に展開した，ギリシア人およびその影響下にあった異邦人たちの哲学活動をさす。

〔哲学の起源〕古代ギリシア人は紀元前9世紀ごろ北シリア(セム系フェニキア人の土地)に植民市を興して以来，北は黒海沿岸から地中海の東と西の沿岸地方の各地に植民市を建設し，貿易活動を展開した。特に小アジア沿岸地方では，ギリシア(イオニア)人はオリエントの先進文化，すなわちアナトリアやバビロニアやエジプトの文化に，直接あるいはフェニキア人を介して接することができた。ギリシア人のものの見方の源泉となったホメロス(BC750年以降)やヘシオドス(BC700年ごろ)にもオリエントの神話などの影響がみられる。ギリシア人はこうしたオリエント文化を積極的に摂取するとともに，植民活動で鍛えた自主独立の精神をもって独自な思考形式を生み出してきた。その顕著なものが哲学(フィロソフィア＝愛知)とよばれる思考形態であった。

これは，イオニア沿岸第1の植民都市ミレトスに地理的環境や貿易の繁栄，僭主(せんしゅ)の進取的・民主的政治などの諸条件が整い，イオニア人生来の探求(ヒストリア)精神が熟して生まれた思想形式で，貿易商タレス*に始まるミレトス派*により第一歩が踏み出された。この派の哲学活動はその後のギリシア哲学，ひいてはヨーロッパ哲学に一定の方向を与えた点で画期的であった。彼らは，オリエントやホメロス・ヘシオドスに伝承された宗教的・神話的世界観と実際的・技術的知識を原理的に統一し再構成して，自然的・合理的な世界解明を試みた。オリエントでは宗教的・神話的世界観と厳密な科学知識は神官や祭司がつかさどり，ギリシアではホメロスやヘシオドスのような詩人がうたっていた。もと王制社会に発するこうした世界観にはテオゴニア(神々の誕生と世界支配権の継承)とコスモゴニア(天地開闢(かいびゃく)と自然界の生成)が含まれており，両者は，神の代理としてであれ現神としてであれ，王者にとっては直結していた。つまり，自然現象と社会現象の背後にはつねに神々が働いており，王者は祭儀や呪術(しゅじゅつ)をもってこれに対応できると信じられていた。時代が下って王侯貴族から庶民へと知と力の社会的な場が広がるにつれて，神々と自然に対する見方や対応に変化が生じた。ホメロスやヘシオドスでは，神々は人間と同性・同形的にうたわれている(擬人観)。イオニア哲学者たちは，こうした神々と自然に対する見方を変えた。擬人的神観を批判すると同時に，神々の名と機能を自然そのもののうちにかえしたのである。すなわち，物事はすべて日常の経験で感覚・知覚するありのまま(自然の姿)にとらえるとともに，自然の生成や変化をそのうちに内在する不変の原理(もとのもの)から説明しようとした。神の正義も自然の正義つまり自然の厳然たる秩序ないし必然性としてとらえられ，神々も人間もこの自然の必然性に服さざるをえないとされた。こうしてギリシア哲学は，まずイオニアの哲学者たちの自然的・合理的思考による宇宙論的哲学として展開するわけである。

他方，ギリシア哲学には別種の宗教的世界観が加わってきた。それはイタリア系のピタゴラス派にみられるオルペウス教(霊肉二元観に立ち霊魂輪廻(りんね)を信じ，禁欲生活によって魂の浄化を求める密儀教団)の影響である(→オルフィズム)。これによってこの派は，物としての自然とは異質の霊魂を主体的原理とする哲学的思考を展開しはじめている。これはやがてソクラテス*やプラトン*に受け継がれてイデア論的哲学を生む。ギリシア哲学はこの2系統の哲学的思考が対立したり結合したりして，複雑な発展様相を示すことになり，ひいてはアリストテレス主義とプラトン主義の二大潮流となってヨーロッパ哲学の歴史を貫流することになる。

〔ギリシア哲学の特色〕ギリシア哲学は自然(フュシス)ないし世界(コスモス)や社会(ポリスとその政治的諸形態)やその中に生きる人間について，テオリア*(観想)の立場からとロゴス*(言語・理知・論理)を通して原理的な解明を行なおうとしたところに，先進諸国にみられない根本的特色がある。さらに，これを母体として諸科学が誕生した点から，その原理的思考のさまざまな試みの中に，その後のヨーロッパ的思考の源泉と範型の大部分を読み取ることができる。

〔ギリシア哲学の歴史〕歴史的・社会的変遷に応じた傾向からみて，初期・中期・後期の3期に大別できる。

初期はソクラテス以前(紀元前7世紀後半～紀元前5世紀前半)で，自然哲学ないし宇宙論的時代である。ポリスの形成と隆盛期にあたり，自然と宇宙に向かって原理的思考がきわめて意欲的・積極的に働いた。中期は古典的アテナイ期(紀元前5世紀後半～紀元前4世紀後半)で，ソフィスト*たちやソクラテス・プラトン・アリストテレス*の活動期である。アテナイのポリスが民主政治の短い盛りを経て衰退に向かう時期にあたり，人間や社会に目が向けられ，以前の哲学の批判とともに集大成や体系化が行なわれた。後期はヘレニズム-ローマ期ないし古代末期(紀元前4世紀後半～紀元6世紀前半)である。マケドニアとローマの帝国主義的支配の時期にあたり，専門諸科学が活発となるが，哲学は処生術化するとともに，東西文化の政治的一円化のもとに折衷化したり，宗教的・神秘的色彩を濃くしたりする。

《初期》前述のように，植民活動の成果としてギリシア人はミレトス派においてヨーロッパ哲学の道を開いた。タレスを祖とするこの学派はアナクシマンドロス*，アナクシメネス*と受け継がれたが，各人はそれぞれ個人として独自な見解を表明している。タレスは貿易商人としてエジプトに行き，またバビロニア人に接して測地や天文の経験的・技術的知識を学び，それに基づいて幾何学の定理の発見や日食の予言などを行なった。アナクシマンドロスは地図の作成，諸天体の大きさや相互間の距離の数学的・比例的算定や，生物の起源と人間の発生について進化論的な説明を行なった。またアナクシメネスは天体の生成や運動，地震の説明など，主として天文気象学的な科学研究を行なった。しかし重要なことは，彼らが総じて万物の生成変化の諸相を永遠に運動しているいわば生ける唯一の原初物質から説こうとした(物活論とよばれた)点である。これは，万物は水からなるとか，もろもろの存在者は無限者から出てそれにかえるとか，原初的な空気の濃密化と希薄化によって万物は生じるとかいうかたちで表明されたが，同時に万物が冷たいものと熱いもの，湿ったものとかわいたものなどの対立物としてとらえられている点が注目される。すなわち，自然の生成が第1原理である生ける物質の円環的運動としてとらえられる一方，自然の内部に対立と抗争があり，同時に全体としては統一と調和が保たれているとみられている。そしてこの運動の円環性と存在者の対立と調和の把握(はあく)こそギリシア的思考の根本をなすものである。ミレトス派の天文学や数学の科学的活動も，こうした哲学的思考の母体の中で未分化のまま行なわれており，その意味で総じて自然学的ないし自然哲学的である。ミレトス派と離れて孤立的なヘラクレイトス*が，万物の生成を永遠に生ける根源的な火の絶えざる対立的な変化として説き，矛盾の統一的調和としてのロゴス(理法)を強調したことも，これと同様である。

ペルシア帝国の進出とともにイオニア植民市を離れる哲学者たちが出た。コロフォンのクセノパネス*もそのひとりで，彼は地中海沿岸の各地を放浪する詩人哲学者として化石や海の侵食などを目撃したところから，ミレトス派のように万物は大地から出て大地にかえると説いた。一方，ホメロスやヘシオドスのうたう神々，すなわち嫉妬(しっと)や詐欺や盗みをはたらき，戦いを好む神々を激しく攻撃したが，ミレトス派のように神々を自然にかえす代わりに，自然

の動静を越えた不動で理性的な唯一神を求めた。この点，後述のエレア派の先駆者ともされる。

　サモス島から南部イタリア(クロトン)に移民団を率いて移住したピタゴラスは，前述のようにオルペウス教にならった教団を組織し，政治行動と宗教活動を展開した。他方，教団の内部では彼らは万物の根源を数とする原理的立場に立って，数学・天文学や音楽理論ないし医学の研究を進めた。そして数の完全な知識こそ魂の幸福であるとした。この派において，きびしい戒律のもとに清浄な共同生活を送る生き方と，純粋な学問研究との密接な連関がみられる。つまり，宗教と科学を結びつけた哲学の型がみられる。この型はまたプラトン哲学の源泉になった。しかし，この期の画期的な哲学的事件はエレア派の存在一元論の提唱であった。

　エレア派の祖パルメニデスは，ミレトス派の物活論をはじめヘラクレイトスやピタゴラス派に対して徹底的な批判を加えた。存在と非存在がきびしく区別され，非存在を含む生成は虚妄(きょもう)として退けられた。この派は思惟(しい)の対象は不生不滅で不変不動の一なる存在であるとしたが，エンペドクレスはこの説を受け止めて，存在としての4元素(土・水・空気・火)および愛と憎の動力原理とによって，あらためて世界の生成の段階的周期説を展開した。またアナクサゴラスは，あらゆる種類の極微な存在者(種子)と理性(ヌース)によって宇宙形成を説いた。後者において諸他の物質と区別され，まったく自由で独立し，整序力をもつ理性が登場したことは注目される。彼らは質的多元論者とよばれるが，これに対して，多数のものが存在するならそれらは一者のような性質をもつべきだとするエレア派のメリッソスの示唆に従って，レウキッポスとデモクリトスは質的性質をもたない無数の原子(アトム，充実した存在者)とこれらがみずから動きうるための空虚な空間(非存在)を同格な原理として立て，万物の生成の機械的・必然的な説明を可能にした。かくて原子論はイオニアの宇宙論的哲学に危機をもたらしたエレア派の批判を乗り越えて，自然哲学として頂点に達することができた。

〈中期〉 ペルシアに大勝してデロス同盟の主となったアテナイは，ペリクレスの民主主義が効を奏して，政治と文化に大きな伸展をみせた。国法を信奉し，法の前の平等を尊重したアテナイ自由民の民主主義は，それ自身後代への大きな遺産となったが，パルテノンの神殿に象徴される古典期の文化と思想は，悲劇や喜劇の作品，ヘロドトスの《歴史》，ツキジデスの《戦史》などに結実した。

　しかし，哲学の古典期はこれより1世紀おくれて出現する。東西の植民都市で発展した自然学や弁論術は，紀元前5世紀前半からしだいにアテナイに集まってきた。クラゾメナイのアナクサゴラスは若い科学者としてペリクレスに招かれ，アルケラオスやエウリピデスらに合理思想を吹き込んだ。ソフィストの大人物プロタゴラスは，デモクリトスの出身地でもあるアブデラから来て，ペリクレスのために新都市の憲法を起草したが，特に良家の子弟を民主主義社会に有用な人材として養成する徳の教師を名のった。レオンチノイのゴルギアスもアテナイに使節として来て，その弁論術をもって青年たちを魅了し，アリスチッポス・イソクラテス・アガトン・アイスキネスらの弟子(でし)を生んだ。前者は人間中心の相対的知識論(人間は万物の尺度)を，後者はエンペドクレスに学んだ弁論術を駆使して懐疑的虚無主義(パルメニデスの存在論に抗議して〈なにものも存在しない，たとえ存在しても認識しえない，認識しえても他人に伝ええない〉という弁論)を展開した。しかし彼らの主張は，亜流たちの争論術とともにソクラテスやプラトンの批判の対象となった。

　アテナイの市民ソクラテスは，ペリクレスが政権を握りはじめたBC443年ごろ青年期を迎え，東西の新知識に触れて自然学に熱中したり，ソフィスト的言動を行なったりしたが，晩年にデルフォイのアポロンの神託を得てからは市民たちと哲学問答を始めた。しかし，相手に徳のなんであるかを問うて魂の気づかいを勧めながら，みずからはなにも知らないという彼の言動は誤解を招き，徳と知の合一による人間革命を願った哲学活動も，ついに獄死によって中絶せざるをえなかった。おりからペロポネソス戦争がアテナイの敗北に終わり，30人僭主の恐怖政治を経て再び回復しつつあった民主政治も，彼には不利であった。師の獄死にあって，小ソクラテス派とよばれた弟子たちはそれぞれにその精神を受け継いで故郷に散り，論理研究あるいは個人主義的な処世術に生きることになった。

　アテナイ名門の出のプラトンは，師ソクラテスの死を契機としてアテナイの政治には背を向け，ひたすら理想国の建設を願ってその期待をシチリアの僭主たちにかけるとともに，他方ではアテナイに学園アカデメイアを建設して学問の研究と教育に専念した。この学園はイソクラテスの学校に対抗するものであったが，やがて地中海全域の学徒の集まる学問の殿堂として1,000年に近い歴史(529年閉鎖)を生きることになった。プラトンがその晩年，シチリアの僭主ディオニュソス2世と弟子ディオンの確執に苦慮しているころ，北方マケドニアの帝国主義(フィリッポス2世)はしだいにアテナイその他に勢力を伸ばしはじめていた。

　これに対応するかのように，BC336年マケドニアの小都市スタゲイロスからアリストテレスがアカデメイアに入学し，以後20年間学園で研究と指導に励んだ。BC347年プラトンの死後，一時小アジアやマケドニアの宮廷で研究と教育を続けたあとアテナイに再帰し，学園リュケイオンを設けてペリパトス派の学問研究の道を開いた。しかし，アレクサンドロス大王の死の翌年(BC322)，反マケドニア運動に追われて母の故郷カルキスに退かざるをえなかった。きっすいのアテナイ人プラトンがソクラテスの志を継いで，真実のポリス建設のために〈善のイデア〉を究極原理とするイデアの弁証法哲学を展開したのに対して，他国人アリストテレスはプラトニストとして出発しながら，イオニア自然学と父祖の医学に養われた実証精神をもってたえずイデア批判を行ない，やがて独自な目的論的実体論をふまえた理論(第一哲学すなわち神学・存在論と自然学)と実践(弁論術・政治学・倫理学)と制作(詩学)の3部門にわたる学問体系を築き上げた。この2巨匠によってギリシア哲学の古典期は代表される。

〈後期〉 ①プラトン・アリストテレス死後のアテナイは，すでにアレクサンドロス大王の後継者たちの統治する一地域の中心自治体となり，そこにはアカデメイア派とペリパトス派，次いでエピクロス派とストア派，さらに懐疑派も加わって，互いに影響し合いながら併存した。各派に共通なことは，ポリスの独立が失われて，帝国主義に統一されてゆく現実世界に対して，また伝統の学問に対して，積極消極の差はあれ，ひとしく個人の内面の自由と幸福を守ろうとする姿勢が基本になっていることである。

　プラトン死後のアカデメイアは，第2代学頭スペウシッポスや第3代学頭クセノクラテスでは師の晩年のイデア数論の刺激で数学化し，ピタゴラス派の影響が強くなったが，ポレモン・クラントルでは倫理的になり，中期のアルケシラオスでは懐疑的傾向を示し，さらに後期のカルネアデスで定説主義にもどり，アンチオコスになると中期ストア派(パナイチオス)と結びつき，またペリパトス派にも接近して折衷的になった。ペリパトス派も第2代学頭テオプラストスや学僚たちのころは師の学風に従って科学研究や学説史の著述を行なったが，すでにピタゴラス派の影響があり，第3代学頭ストラトンではエピクロス派の原子論が導入され，祖の経験主義も感覚主義になり，さらに第4代学頭リュコンたちでは実践哲学的関心が主になり，第7代学頭ディオドロスでは徳に無苦を加えてストア派に近づいた。

　エピクロス派は他の学派と異なり，アテ

ナイ人エピクロスがBC304年アテナイに庭園学校を開いて以来,騒々しい現実から隠れて,尊敬する師の学説を守って少数の弟子と縁者が家庭的団結のうちに平安と自由を楽しみ,また迫害に堪えながら200年近くも存続した。神々と死を恐れず,口腹のささやかな満足をもって心の平安を保つには,デモクリトスの原子論がいちばんよいとして受け入れられた。同じく唯物論的であってもこの派と最も敵対的なストア派は,セム系フェニキア人ゼノン*がアテナイのアゴラに講筵(こうえん)を開いたのに始まり,3代めクリュシッポスが理論的基礎を固めて以後は,世界国家(コスモポリス)の同胞とともに生きようとするその積極的な態度が最も多くの人々の受け入れるところとなった。自然に従って生きる賢者を理想とし,外物にとらわれずに自由な意志(自我)に立脚しようとするストア派は,労苦をいとわないキュニコス派*と結合して,他派の哲学者の道徳的実践面に強く影響を与えた。

理論と現実に対して最も消極的なのは懐疑派であった。この派の祖ピュロン*(紀元前3世紀前半)と弟子のティモンは諸学派を批判し,欲望を理性がおさえる生活術は効果がないと説き,判断を控え,独断を避け生活の煩いにとらわれない不動心をひたすら求めた。この派の影響を受けた新アカデメイアのカルネアデスはストア派の不整合性をあばき,感覚も理性も絶対的な真理をとらええないと主張したが,彼自身実践のための蓋然(がいぜん)的な知識を許したため,批判的な懐疑主義も不整合となり,結局この派は前述のようにアンチオコスらに至って諸学派との折衷に終わらざるをえなかった。紀元1世紀前後にアイネシデモスやアグリッパが出て懐疑のしかたを整理し,もとのピュロニズムにかえった。かくて懐疑論は,セクストゥス-エンペイリコスに代表される経験的ないし方法的医学派に基盤を提供することになった。

②ヘレニズム期の学問研究の中心舞台はBC302～BC180年の間しばらくアレキサンドリアに移った。アテナイのリュケイオンを受け継いだ図書館や博物館(ムセイオン)や付設学校がプトレマイオス朝の援助で設立され,伝承の文献の収集とともに文献学や文法学が盛んになった。個別科学の領域でも独創性が発揮された。プトレマイオス1世の治下には幾何学者エウクレイデス(ユークリッド*)が,同2世・同3世の全盛期には地理学にひいでたエラトステネス*や力学者アルキメデス*が,同4世の治下には天文学者アリスタルコス*が出た。しかし,同7世の悪政と図書館の一部の炎上によってアレキサンドリアの文化活動は停滞し,紀元前2～紀元前1世紀の主要な学者は東方の地で活動している。ストア派のクラテスはペルガモンで,中期ストア派の最大の哲学者であらゆる領域で通俗的な科学活動をしたポセイドニオスや独創的な天文学者ヒッパルコスはロドス島で活躍した。

③紀元前1世紀末ローマのアウグストゥスがマケドニアをはじめ東方諸国を征服して以後,政治の中心はローマに移ったが,その政治的一円化は再びギリシア哲学と東方諸宗教の融合*をいっそう盛んにした。ユダヤ人フィロン*はアレキサンドリアでユダヤ教をギリシア哲学によって解明しようとした。神秘主義*的傾向も強まり,新ピタゴラス派*や新プラトン派*が台頭した。後者はエジプト人プロチノス*を祖とし,プラトンを宗とし,一者の神秘的体験のもとにアリストテレスやストア派を摂取してギリシア哲学の総合を行なった。理性とロゴスのギリシア哲学はこの派においてしばらく啓示宗教のキリスト教と対峙(たいじ)したが,やがて西方の最大の教父アウグスチヌス*によって摂取され,中世を経て近世に生き続けることになる。

ギリシア哲学は,行動的なローマ人にもそれなりに摂取され,通俗化された。キケロ*によるギリシア哲学用語のラテン語化や,セネカ*・エピクテトス*・マルクス-アウレリウス*らのローマのストア主義も,ギリシア思想のヨーロッパへの伝播(でんぱ)を助けた。また,プラトンやアリストテレスや新プラトン派の著作はビザンチン帝国内に存続したが,他方オリエントではこれらの著作はシリア語やアラビア語あるいはヘブライ語に翻訳されてイスラム圏に行きわたり,やがて中世末期からルネサンス期にかけてヨーロッパに伝えられた。ギリシアのポリスは早く滅びたが,ヘレネ(ギリシア)化された異邦人たちの中にその精神は生き続け,現在に至っている。〔村治能就〕

《詩学*》はこの前提に立っている。かくて文学が虚構の世界と断ぜられたとき,華麗な技巧をもって詩をつづったテオクリトス*・カリマコス*らのヘレニズム時代の詩人らの詩は,風流人の手すさびにとどまらざるをえなかった。

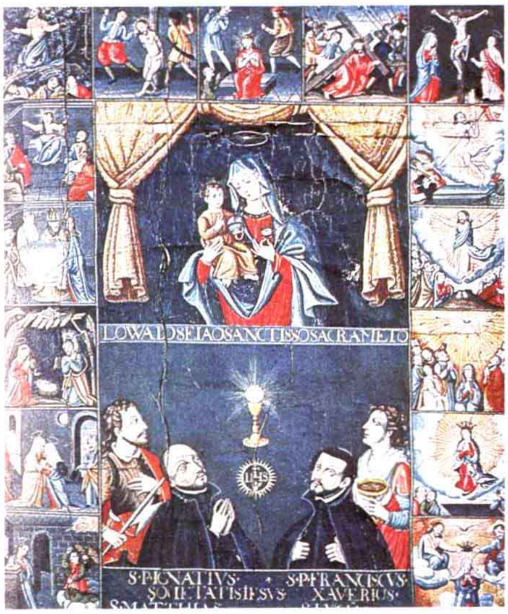
神話的な暗やみと光から発してアリストテレスに至る古代ギリシア文学の歴史には,小説以外のほとんどすべての文芸形式の原型が認められる。今日なおわれわれが文学を論ずるとき,古代ギリシアを避けることができない理由もここにある。〔久保正彰〕

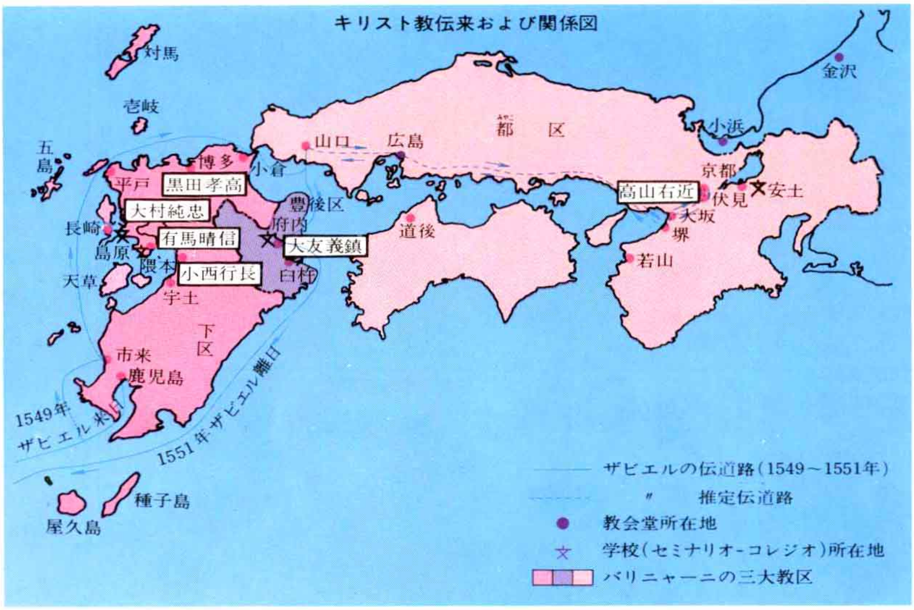
ギリシアもじ【ギリシア文字】 ギリシア語*の文字で,アルファベット*のはじめ。第1字〈アルファ〉と第2字〈ベータ〉とがセム語でそれぞれ〈ウシ〉〈家〉を意味するとおり,ギリシア人がフェニキア人の手を経て北セムから文字を取り入れてつくったものである。セム語が子音だけを表わす音節文字(まがい字母文字)だったのを,気音字と半母音字を母音字にして,字母文字(アルファベット)に変えた。帯気子音や複合子音には別に字をつくった。紀元前9世紀ごろに現われ,東系統と西系統があるが,紀元前4世紀以後,東のイオニア系統で統一され,現代に至る。エトルリア文字を通じてローマ字*の源流となり,エジプトのコプト文字やロシア文字(キリール文字*)にもなった。最古のギリシア語文献は,早くミノア(音節)文字で書かれていた。〔日下部文夫〕

Α	α	アルファ	Ν	ν	ニュー
Β	β	ベータ	Ξ	ξ	クシー
Γ	γ	ガンマ	Ο	ο	オミクロン
Δ	δ	デルタ	Π	π	パイ
Ε	ε	エプシロン	Ρ	ρ	ロー
Ζ	ζ	ゼータ	Σ	σ,ς	シグマ
Η	η	イータ	Τ	τ	タウ
Θ	θ	シータ	Υ	υ	イプシロン
Ι	ι	イオタ	Φ	φ	ファイ
Κ	κ	カッパ	Χ	χ	キイ
Λ	λ	ラムダ	Ψ	ψ	プシー
Μ	μ	ミュー	Ω	ω	オメガ

ギリシアれき【ギリシア暦】 古代ギリシアでは都市ごとに独特の暦があって,しかも時代によって変遷があり,きわめて種種雑多な暦法が行なわれたが,すべて太陰太陽暦*であった。閏月*(うるうづき)は6月または12月の次で,例外的にはその他の月の次に置く暦もあった。月初めの日は新月の見えはじめを観測して決められていたようである。紀元前6世紀以後閏月の置き方も確立し,8年法・19年法が採用された。8年法は8年間に3回閏月を置き,8暦年を99朔望月*(さくぼうげつ)とし平均総日数を2,922日と定め,1年の平均の長さは365.2500日とする。また19年法では19年間に7回閏月を置き,19暦年を235朔望月とし,その平均総日数を6,940日と定め,1年の平均の長さは365.2632日とした。この6,940日の周期をメトン周期*という。〔木下 宙〕

キリシタン【切支丹】 吉利支丹・幾里志多無などとも書く。1549年(天文18)イエズス会士フランシスコ-ザビエル*が鹿児島に伝え,のち西南日本を中心に浸透したカトリック*の教え,またその信徒。日本に伝来した当初は南蛮宗・伴天連宗(ばてれんしゅう)ともよばれ,のちキリシタンと一般に称された。伝道の初期には九州のキリシタン大名*や織田信長(のぶなが)らによって保護され,急速に広まったが,九州征伐*の際に長崎がキリスト教会の領地になっていることを聞いた豊臣秀吉*(とよとみひでよし)は,天下統一にとって障害になると考え,1587年(天正15)伴天連追放令*を出したが,国民への禁教には至らなかった。江戸時代には封建制倫理と





キリシタン　(左)日本のキリシタン画家が原図をもとに描いたもの　《マリア十五玄義図》　京都大学蔵

対立する思想・信仰として禁教政策を強め，1612年(慶長17)幕府直轄領に，翌年全国に禁教令*を施行し，高山右近*(うこん)ら信徒をルソン島に追放した。以後キリスト教徒に対する圧迫を強め，島原の乱*(1637～1638)以後全国的に弾圧を強化し，踏み絵*・禁書*・宗門改め*・寺請制度*によって表面上キリスト教徒は絶滅。しかし以後も一部の熱心な信徒が隠れキリシタン*・離れキリシタンとして九州の一部に存続した。明治新政府も初期には江戸幕府の禁教政策を踏襲したが，1873年(明治6)信仰の自由を認め，キリスト教信仰を公認した。〔松尾　涼〕

キリシタンだいみょう　【キリシタン大名】　16世紀末から17世紀初頭にかけてキリスト教に帰依した多くは九州の諸大名。キリシタン*伝来後，教会はまず諸大名を改宗させ，その家臣や領民を教化する方針をとった。改宗した大名の中には貿易上の利益を得るために改宗して信徒となる者もあった。おもな大名として，九州の大友宗麟(そうりん)(義鎮(よししげ))・有馬晴信(ありまはるのぶ)・大村純忠(すみただ)・黒田孝高(よしたか)，京畿(けいき)では小西行長(のち肥後(熊本県))・高山右近(うこん)らがいる。彼らは洗礼を受け，教名を用い，旗印に十字架や聖像を，印章にはローマ字を使用し，領内のキリシタンを保護するなど，キリシタン伝道を推進した。しかし豊臣(とよとみ)・徳川両氏の禁教政策により17世紀前半には消滅した。〔松尾　涼〕

キリシタンばん　【キリシタン版】　1590年(天正18)，イタリアの学僧アレハンドロ－バリニャーノが，活版印刷機・活字一式と工人若干名を伴って来朝し，これを肥前(長崎県)加津佐の日本耶蘇会(やそかい)学林にすえて印書を開始し，1611年(慶長16)のキリシタン禁制に至るまで，およそ20年間



キリシタン版　(ドチリナ－キリシタン)1592年刊　東洋文庫蔵

に天草・長崎・京都と印行の場所を移動しながら，日本語(ローマ字および漢字・かなまじり)・ラテン語・ポルトガル語で30種の書物を印行した。その書物をキリシタン版という。刊行地名によって，加津佐版・天草版・長崎版とよばれることもある。印刷事業はすべてキリスト教伝道の一手段として行なわれたもので，刊行書の多くは宗教書が占め，これに次いでは外来宣教師のための語学書・辞典類，《平家物語》《伊曾保(いそほ)物語》(イソップ物語*)《金句集》《和漢朗詠集》《太平記》の国字本も含まれていた。キリシタン版はキリシタン禁制以来没収廃棄されたので，残存するものはきわめて少なく，中には書名だけわかって実物の1部も残存しないものもあり，多くとも数部を出ない。〔庄司浅水〕

キリシタンぶんか　【キリシタン文化】　安土桃山時代～江戸初期にかけ，キリスト教とともに日本に伝えられた西欧文化をいう。宗教文学や宗教画などキリスト教信仰に関するものを中心に，医学・天文・航海・測量・地理などについての知識も伝えられ，当時の人々の道徳観や世界観，言語や風習に影響を与えた。禁教以後は弾圧とともに衰退し，風習や実学的なもの以外は江戸初期までに消滅した。キリシタン文化の中でもキリシタン文学と称されるものは庶民文学の先駆的意義をもつもので，キリシタンの人々によって翻訳された《こんてむつすむんち》(《キリストに倣(なら)いて*》のポルトガル名)や《ひいですの(信仰)の導師》などの宗教文学や，《伊曾保(いそほ)物語*》(イソップ物語*)など庶民的な寓話集(ぐうわしゅう)がある。〔松尾　涼〕

キリシタンやしき　【キリシタン屋敷】　江戸小石川小日向(こびなた)(現在の東京都文京区茗荷谷(みょうがだに)町)にあったキリシタン信徒を拘禁した牢獄(ろうごく)。1646年(正保3)宗門改*役井上政重(まさしげ)の屋敷内に設置，転宗した伴天連*(ばてれん)らを収容し，また宗門改めの情報収集にあたらせた。1708年(宝永5)に潜入したイタリア人宣教師シドッチ*がここで新井白石の尋問を受け，逆に白石に強い影響を与えたことが知られる。1792年(寛政4)宗門改役とともに廃止された。〔松尾　涼〕

きりしま　【霧島】　双子葉植物・ツツジ科。ふつう庭園に観賞用として栽培され，まれに山野に自生する常緑低木。おそらくヤマツツジと他の数種の交配によりできたもので，多くの園芸品種がある。高さ60～150cm。葉は互生し，細長い倒卵形で，先は微凸端(びとったん)になる。多くは枝先に輪状につく。春，小枝の先に赤色花を数個つける。花は短い柄をもち，花冠は漏斗状鐘形で5裂し，濃紅色の斑点(はんてん)がある。品種のヤエキリシマはがく片が完全に花片化したもの，ム



霧島屋久国立公園



霧　島　山　北西方上空から見た霧島火山群の大観。左手に火口壁の欠けた韓国岳，その右に大きく水をたたえた大浪池，中央遠景にそびえるのが高千穂峰で，その手前が新燃岳

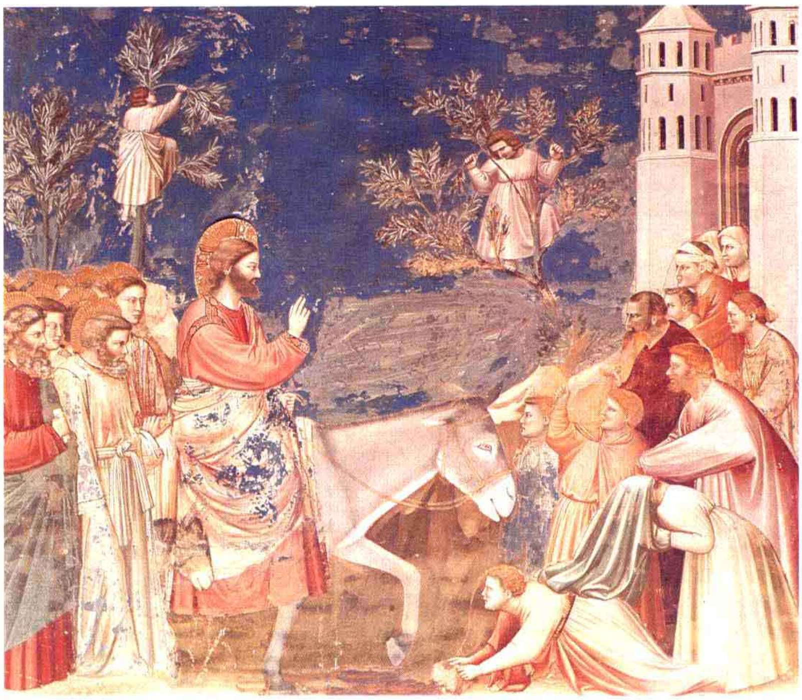
ラサキキリシマは紅紫色の花をつける。
〔横井朝子〕

きりしまかざんたい　【霧島火山帯】　九州中央部から薩南（さつなん）諸島にかけて延びる火山帯。阿蘇（あそ）山・霧島山・桜島・開聞岳などを含み，さらに硫黄（いおう）島・口之永良部（くちのえらぶ）島・中之島・諏訪之瀬（すわのせ）島などの火山がある。活火山が多く，大きなカルデラをもつものが多い。

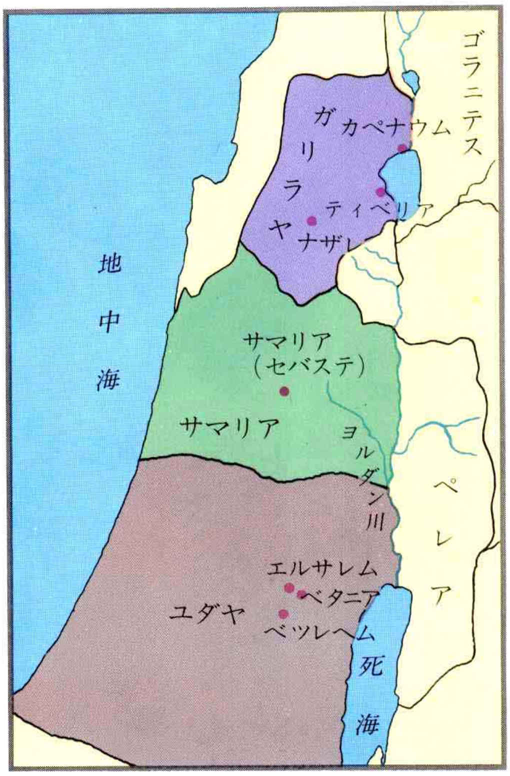
きりしまじんぐう　【霧島神宮】　鹿児島県始良（あいら）郡霧島町にある。祭神は，天饒国饒天津日高彦火瓊々杵尊（あめにきしくににきしあまつひだかひこほのににぎのみこと）（瓊々杵尊）。霧島山の高千穂峰の中腹にあるところから，霧島ノ峰ノ神ともいう。社伝によれば，もと山頂の瀬戸尾に祭られていたが，1112年（天永３）以降たびたびの噴火で社殿を焼失，瀬戸尾から北西２kmほどの山下霧島王子とよばれる末社付近に移祭，くだって1729年（享保14）現在の地に社殿を定めたという。９月19日の例祭，旧暦１月１日の散籾（うちまき）祭りのほか，旧暦２月４日の御田植（おたうえ）祭りや同じく９月19日の豊穣（ほうじょう）祭りがあり，豊穣祭りの７日まえに行なわれる猿田彦（さるだひこ）巡行祭と11月10日の天孫降臨祭は，日本神話と関係の深い特殊神事である。
〔佐野文哉〕

きりしまやくこくりつこうえん　【霧島屋久国立公園】　九州南部の鹿児島県と宮崎県にまたがり，霧島山一帯と，桜島，薩摩（さつま）半島の南東端，大隅（おおすみ）半島の南西岸の一部，屋久島を含む。面積552.31km²。1934年（昭和９）国立公園に指定された。霧島火山群は活火山に属し，最高峰韓国（からくに）岳（1,700m）や高千穂峰（1,574m）など多くの山峰を連ねている。大浪池（おおなみいけ）など，旧噴火口に水をたたえる火口湖が多く，変化に富む雄大な山容と合わせて美しい。山中は暖帯常緑樹の原生林におおわれ，またミヤマキリシマ*・ヤマツツジ*の群生も見られる。近くには霧島温泉をはじめとして豊かな温泉が多い。鹿児島湾の中に成生した桜島には，御岳（北岳）（1,118m）・南岳（1,060m）などがあり，南岳の火口からわずかに煙をふいている。溶岩の重なり合った島の光景は雄大である。海岸にはアコウなどの亜熱帯植物の群落が見られる。指宿（いぶすき）市から開聞（かいもん）町にかけての海岸には多くの温泉が分布し，海の温泉場としても名高く，また，佐多岬（みさき）とともにソテツの自生地としても知られている。屋久島には九州の最高峰，宮之浦岳（1,935m）がそびえ，深山幽谷の場所が多く，屋久スギの原生林など未開の自然に接することができる。
〔木村東一郎〕

きりしまやま　【霧島山】　九州南部，宮崎・鹿児島両県にまたがってそびえる火山。大小20余の火山の総称で，最高峰の韓国（からくに）岳（1,700m）をはじめ，伝説の山高千穂峰（たかちほのみね）（1,574m），活火山の新燃岳（1,421m）の山々や多数の火口湖・高原があり，変化の多い火山地形を呈している。頂上付近には高山植物のミヤマキリシマ*の群落がある。天孫降臨の建国の神話伝説をもつ山で，史跡が多く，高千穂峰の南西山腹には霧島神宮*がある。バス道路がよく通じ，霧島屋久国立公園*の一部になっている。
〔高野　繁〕



キリスト　エルサレムにはいるイエス-キリスト　ジョット　1305ごろ　サンタ-マリア-デラ-アレーナ聖堂



キリスト　[Christ]〈キリスト〉とは元来は固有名詞ではなく普通名詞であった。旧約宗教においては，神によって聖別され，王または祭司の重職に任ぜられる者は〈膏(あぶら)注がれ〉た。この受膏者(じゅこうしゃ)は〈メシア〉と称せられたが，これは後期ユダヤ教が〈神の国〉を期待する中で，やがて出現すべき〈救世主〉の意味に変わっていった。そして〈メシア＝受膏者〉のギリシア語訳が〈キリスト〉なのである。それに対して〈イエス〉とは，〈ヤーウェ神は救い〉を意味するが，当時しばしばみられた固有名詞であり，旧約の〈ヨシュア〉に相当する。したがって，〈イエス-キリスト〉とは，元来〈イエスこそが救世主である〉という告白定式なのであるが，すでに《新約聖書》の中でイエス-キリストまたはキリストは，ほとんど固有名詞化して，現在に至っている。

すでにイエス-キリストという名において，このように歴史と信仰告白が結合しているが，事情は彼の事績を記した文書においても同様である。彼の言行を再構成する史料としては，ほとんど《新約聖書》中のいわゆる福音書*に限られてしまう。この福音書のイエス観において，歴史と信仰とが分かちがたく結合しているのである。つまり，原始教団のキリスト像が，歴史のイエス像と重なり合っている。批判的歴史研究の場合，史料としては《ヨハネの福音書》は全体として除かれる。次に残りの3福音書は，〈マルコによる福音書〉〈イエスの言葉集〉(いわゆるQ史料)，マタイおよびルカの特種史料とに分析され，それぞれの古い層が求められる。この際ユダヤ教と原始教団の信仰に依存すると思われるもの，それぞれの福音書記者の手になると考えられる部分，さらに伝説的な奇跡物語も，史料としては除かれる。この残りがイエス再構成の第1次的な史料となる。

〈イエスの生涯(しょうがい)と思想〉　イエスはBC4年ごろ，ガリラヤのナザレで生まれた。父ヨセフは木工一般を手がける大工，母はマリアである。いわゆるマリアの処女受胎は，イエスの神的起源を表明する伝説である。兄弟姉妹の中には，のちに原始教団の指導者となったヤコブや，ユダらがいた。《ルカの福音書》や外典福音書に記されるイエスの幼時物語は伝説的であって，一般にイエスに関する伝記的な記録，経歴や容貌(ようぼう)や性格に関する信頼すべき記録は残されていない。また，イエスの言行の歴史的順序についても，イエスの受洗と受難物語を除いては，再構成できない。

AD20年代の後半，イエスは洗礼者ヨハネ*から受洗したのち，ガリラヤで公の活動を開始した。彼は，死海西北岸で修道院的な生活を送っていたエッセネ派教団とは違い，町や村で教えを説いた。聴衆の多くは下層民であり，当時疎外されていた〈土地の民〉や遊女や取税人と交わった。彼に従う者の群れには女性も少なくなかった。これらは，当時の教師のふるまいとしては異例のものである。

イエスと当時のユダヤ教の律法学者との大きな違いは，イエスが《旧約聖書》の権威から出発して教えず，人のあり方に関する真実を直截(ちょくせつ)に語ったことである。教え方は思弁的・体系的ではなく，煩瑣(はんさ)な学者的引用にもよらず，短い断言的アフォリズムやたとえ話を用いた。彼の教説の中心にあるものは〈神の支配〉という事がらである。この事がらは，イエス当時の後期ユダヤ教の黙示文学といわれる考え方のわく組みの中で語られている。黙示文学は，やがて歴史の終末が到来し，新天新地が出現し，神の国が建てられると考えていた。しかし〈神の支配〉とイエスがいう，その事がら自身は，人間を人格的・自覚的存在としてなりたたせる根底というべきものである。換言すれば，自由と愛がなりたつ人格共同体の根底である。自由はイエスの場合権威主義的な律法や，みずからの生のための思い煩い，また他人に依存し拘束されることからの自由であり，主体的に自己のあり方を選び取る自由である。愛は，自己は他者とのかかわりの中にしかありえないという事実に，自覚的に即した行動にほかならない。だから自由と愛とは矛盾し合うところがある。しかしこの両者がともになりたつ場が，神のたまものとして現実に存在している。すなわち，人格は愛の関係の中で具体的に自由であり，自由に愛である，そういうあり方へと向けて定められている。この定めが〈神の支配〉なのだが，人はこの定めを知らず，知らないだけではなく，これに反して生きている。ここに〈悔い改め〉が要求される根拠があり，悔い改めた人間には，上の定めがたまものとして働きはじめ，人格共同体がなりたつ。つまり〈神の支配〉を根拠として倫理がなりたち，この〈定め〉の貫徹として，神の国の到来が望まれる。

イエスの教えは，《旧約聖書》を権威としてここから出発するユダヤ教へのまっこうからの批判を含んでいる。そしてイエスの活動がよび起こした大衆運動は，当時のメシ



《エゼキエルの幻》
パリ国立図書館蔵
13～14世紀



《聖フォア座像》 コンク
985ごろ 聖フォア教会



《十字架像》 1150ごろ

キリスト教美術



《ダロウの書》のミニアチュール(部分) 690ごろ

ア期待と結びついていったので，ユダヤを政治的・経済的に支配していたローマ帝国官憲には，対ローマ反乱への危険を含むものとみられた。こうしてユダヤ支配層とローマ官憲は，AD31年ごろの春，ユダヤ教の大祭である過越祭(すぎこしのまつり)のおり，イエスを逮捕し，政治的反乱の首謀者という罪名をきせて十字架につけ，処刑した。

イエスの生時にはイエスをほんとうには理解しなかった弟子(でし)たちは，イエスの死後，おそらくこれをきっかけとして，イエスの述べ伝えた〈神の支配〉のリアリティーをつかんだ。そしてみずからイエスのように生きうる者となり，イエスを理解した。このできごとは，当時の考え方に従って，〈イエスが復活して，その力が弟子たちの中に働きはじめた〉と理解された。こうして〈イエスの復活〉という信仰，すなわち，〈十字架上に死んで復活したイエスこそキリストである〉という宣教が成立した。こうして〈キリスト〉とは事がら上人格存在の根底なのであって，ゆえにここから，〈イエスは神の子であり万物の主である〉という信仰が展開していった。 〔八木誠一〕

キリストきょう 【キリスト教】 ⇨500ページ

キリストきょうこうよう 【キリスト教綱要】 カルバン*の主著。プロテスタント最初の神学書。1536年初版，1559年決定版(第7版)刊行。いずれもラテン語で書かれている。なお，1860年にはフランス語で出されたが，これはフランス語で最初の神学書。決定版の内容は神・キリスト・聖書・教会についての4編，80章からなる。神の権威と，聖書における唯一の啓示の主張をもって，プロテスタント神学の基礎づけを行なった。ルターの諸著とともに，宗教改革時代の最も体系的な著書とされる。

キリストきょうしゃかいしゅぎ 【キリスト教社会主義】 19世紀後半に生まれたキリスト教と社会主義の結合による社会運動。キリスト教には，もともと正義と愛の究極的な立場に立って人間社会を変革しようとする原理があり，ことに神の国(よき社会)の教義を現実の社会の中に実現させようとする運動は，ヨーロッパ中世の異端の系列やクロムウェル*などに現われていた。こうした社会変革の契機は，19世紀になってサン-シモン*やR.オーエン*たちの空想社会主義者の中にもはっきりと合流していた。特に資本制社会になってから，一般民衆をよりひどく苦しめるさまざまの社会矛盾を解き明かすことが緊急の課題となりながら，かつてのキリスト教はブルジョアと妥協して変革への実践的関心を失っており，逆にユートピア的な社会主義者から，次いで科学的社会主義思想によって刺激を受け，社会主義の問題提起を受け入れた。これがいわゆる〈キリスト教的社会主義〉で，イギリス近代ではモーリス*・キングズリー*らがその先駆をなし，アメリカでは1889年キリスト教社会主義者の団体が誕生した。わが国では明治期における最初の社会主義運動指導者に，キリスト教信仰者が多いので有名である。社会変革と人間解放の原理として社会主義が一つのまとまった思想形態をとったのは，1898年(明治31)創立の社会主義研究会発足のころであり，このときの主要メンバーに村井知至(ともゆき)・安部磯雄*(あべいそお)・片山潜*・幸徳秋水*らがいる。また廃娼(はいしょう)運動に力を注いだ救世軍の山室軍平*，貧民窟(くつ)に住み込んで労働運動に活躍した賀川豊彦*(かがわとよひこ)ら実践的な闘士も出た。しかしキリスト教は安易に他の思想や社会運動に同化してキリスト教そのものを無にしているとして，キリスト教固有の原理を主張した矢内原忠雄*(ただお)の手きびしい批判もある。現在ではアメリカのR.ニーバーやティリッヒなど著名な指導者がおり，また欧米ではキリスト教の影響の強い政党や組合などもつくられている。 〔溝口 潔〕

キリストきょうせいねんかい 【キリスト教青年会】 ⇨YMCA

キリストきょうびじゅつ 【キリスト教美術】 キリスト教徒の宗教生活に必要な機能をもつ教会・修道院などの建築物と，聖杯・遺物匣(いぶつばこ)・祭服などの工芸品，およびキリスト教*に関する図像を表現した彫刻・絵画などをさす。キリスト教の前身であるユダヤ教*は，神性の可視的表現すなわち宗

教芸術を否定・禁止しているが，正統キリスト教会は宗教芸術を認めてこれを奨励してきた。しかし，初期キリスト教の神学者は一般に図像表現に反対しており，反対運動はその後もくり返して行なわれた。特に8世紀から9世紀半ばごろの東方教会では，多くの美術品が破壊されたイコノクラスム*(聖像破壊)をひき起こした。また，16世紀の宗教改革以後，プロテスタント教会は一般的に宗教美術に対して消極的であり，カルビン派*は破壊活動を行なった。その展開をたどると，当初3世紀ほどの間は強く迫害され，美術的発展の余地はなかったが，キリスト教徒の地下墳墓(カタコンベ*)からは象徴的な図像の壁画と石棺彫刻が発見されている。

ローマ帝国の国教となって以後，4世紀ごろからキリスト教美術は急速に発達していった。全能の神をたたえる精神主義的な華麗な美術として，コンスタンチノープル(イスタンブール)を中心とするビザンチン美術*は13世紀まで続いた。西ヨーロッパでは，ビザンチン美術の影響下にあったが，11～12世紀ごろロマネスク美術*として開花した。12世紀の末から13世紀はゴシック美術*の時代であり，徐々に自然主義的な傾向を強めていった。ルネサンス時代は異教的・世俗的な要素がはいって，絵画においても正確な人体表現・遠近法が追求されるようになった。17世紀にはプロテスタントに対する反宗教改革としてキリスト教美術を再び聖化しようとする運動が起こり，劇的な表現によって宗教感情の高揚を求めたが，近代化が進むとともに宗教的感情が希薄となった。〔末吉雄二〕

キリストきょうみんしゅどうめい【キリスト教民主同盟】Christlich-Demokratische Union Deutschlands 略称CDU。西ドイツの一政党。1945年にカトリック・新教両教徒の代表がバートゴーデスベルクに集まって結成した政党。政治行為におけるキリスト教徒の責任を基本精神とする中道政党で，大資本・地主および軍国主義勢力の利益を代表して創設されたものであるが，階級的基盤は大資本から中間層に及ぶ。自由経済の立場をとる事実上の保守党で，アデナウアー*・エアハルト*両政権をささえて10数年の間与党の地位にあり，第2次世界大戦後の西ドイツの復興と発展に大きく貢献した。〔広部和也〕

キリストしゃのじゆう【キリスト者の自由】ルター*の三大文書の一。1520年，ドイツ語とラテン語で同時に出版された小冊子で，キリスト者の福音的生活を30条の命題に要約してある。特に〈キリスト者はすべての者の上に立つ自由な君主であってなんぴとにも従属しない〉〈キリスト者はすべての物のしもべであってなんぴとにも従属する〉の第1・第2命題が重要で，キリストにおける信仰と愛の一致の事実がキリスト者にこのことを可能にすると説く。

キリストにならいて【キリストに倣いて】キリスト教の信仰修養書。著者はトマス・ア・ケンピス*とされるが，G.フローテあるいはゼルボルテとする説があり，特に前者が有力。いずれにせよ〈共同生活の兄弟団〉の中で生まれたことはまちがいない。中世文学の傑作とされ，15世紀にヨーロッパ諸国語に訳されて広く読まれた。神秘主義的なふんい気のうちにきびしい自己批判，魂の純粋性の追究，世俗と自我の克服，キリストとの精神的交わりなどが書かれている。内的相克の激しさと純粋性が人々の心を強くとらえて放さない。なお，わが国では1596年(慶長1)キリシタン版として出版された。

きりたけもんじゅうろう【桐竹紋十郎】文楽の人形つかい。

[1]初世(1847？～1910) 桐竹門十郎の子。18歳で文楽座*を出て転々としたのち，1876年(明治9)復帰して亀松(かめまつ)を名のり，翌年紋十郎と改名。はじめ立ち役*をやっていたが，のち女方遣(おやまつかい)となり，政岡(まさおか)・お辻(つじ)・お園などで人気を得た。はなやかな芸風で，初世吉田(よしだ)玉造と並び称された。著書《桐竹紋十郎手記》がある。

[2]2世(1900～1970) 3世吉田文五郎*門下。1927年(昭和2)襲名，文五郎に次ぐ女方遣として脚光を浴びた。第2次世界大戦後，因会(ちなみかい)を脱退して三和会を結成，新作にも意欲的で，重要無形文化財保持者に指定された。〔前田慎一〕

きりたっぷ【霧多布】北海道釧路(くしろ)支庁，厚岸(あっけし)郡浜中町の中心集落。霧多布島と本土を結ぶ陸繋(りくけい)砂州上に規則正しい格子(こうし)状の道路網をもつ市街が形成され，背後は琵琶瀬(びわせ)川流域の泥炭地(でいたんち)である。コンブを採取し，沿岸・沖合い漁業では，サケ・マス・ホッキガイ・タコ・カニなどの水揚げが多く，近海捕鯨の基地もある。1952年(昭和27)の十勝沖(とかちおき)地震，1960年のチリ地震による津波の際には，海抜約2mにすぎない市街地の北部が浸水し，多くの被災家屋を出したが，その後防潮堤が設けられ，津波による砂州の切断部には霧多布大橋がかけられた。市街地北方に根室本線・国道44号線が通じ，霧多布島の東端の湯沸岬(みさき)には燈台がある。〔浅井得一〕

きりたんぽ【切り蒲英・切り短穂】秋田県の郷土料理として知られ比内鶏(ひないどり)を使った大館地方のものは特に名物とされている。昔，きこりやかりゅうどによってつくられたなべ料理で，残り飯をつぶしてくしに塗り付けて焼き，野鳥なべに入れたものといわれ，くしに刺した形がけいこやりの穂先のたんぽに似ており，それを食べよい長さに切るところからこの名がついたという。もとは冷や飯の利用法としてくふうされたものであるが，のちにはたきたての飯を使うようになり，甘味と香気が加わった。鶏肉・ネギ・セリ・ささがきごぼう・焼き豆腐・きのこ類とともに煮込む。さんしょうみそやくるみしょうゆにつけて茶うけとしても食する。〔塩川ふみ〕

きりつせいたんぱくにょう【起立性蛋白尿】若年者で，立位のまま一定の姿勢が続いたのち採取した尿に，正常以上のタンパクを検出するもの。若年者の約5％に認められる。肝臓による下大静脈の圧迫により，腎(じん)静脈圧が高まることが原因とされている。通常このタンパク尿は軽度であり，安静にしていれば認められない。腎機能は正常で，まったく無害のものであるが，腎疾患でも立位時にタンパク尿が増加することがあるので，鑑別が必要。〔清水直容〕

きりつぼ【桐壺】

[1]淑景舎(しげいしゃ)ともいう。平安京内裏殿舎の一。壺は内裏の中庭のことで，桐があるのでこの名がある。女御(にょうご)・更衣の住居。

[2]《源氏物語*》第1帖(じょう)の巻名。光源氏の出生から元服・結婚までを扱う。前半は帝の愛を受けつつ早世した身分の低い母桐壺更衣の悲哀が，後半は母のおもかげを写した藤壺女御の入内(じゅだい)と彼女への思慕の萌芽(ほうが)が中心。主人公の幼少期を総括し，50余帖の序的意味をもつが，一方，物語執筆がある程度進んだのちにここに冠せられたという説もある。

きりづみおんせん【霧積温泉】群馬県碓氷(うすい)郡松井田町にあり，泉温39℃，含ミョウバン重炭酸土類泉で，皮膚病・火傷・打撲(だぼく)・リウマチなどにきくといわれる。霧積川の上流，標高1,080mの高地に位置し，周囲を山に囲まれた閑静な温泉で避暑に適する。秋の紅葉が美しく，鼻曲山，碓氷峠・北軽井沢方面へのハイキングコースもある。交通は信越本線横川駅からバスの便がある。

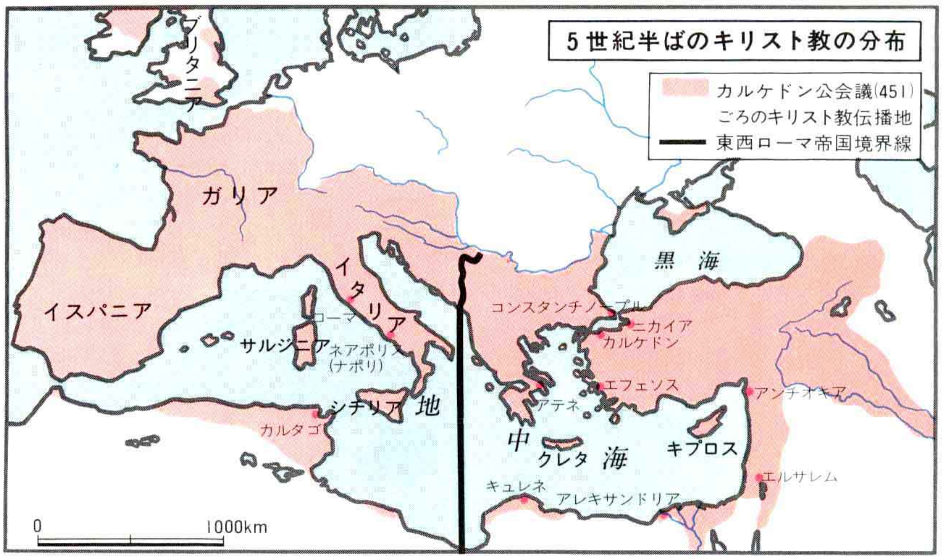
ぎりにんじょう【義理人情】義理と人情を合わせたことば。義理とは時代・階層・職などによって多少の相違があるが，共同体の秩序維持に必要な〈つきあい〉関係の倫理的規範。義理を欠く，義理がたい，だれそれに義理があるといった場合，贈答・見舞いをはじめとして，親類づきあい・仲間づきあい・村づきあいなど，つきあい関係の倫理に関連している。義理の直接表現としては，冠婚葬祭，ことに凶事に際しての会葬協力，なにかにつけての贈答などが一般的である。共同体的規制の強い村落社会では，義理を守らないと，村八分*に処せられ，つきあいを絶たれることもあった。つきあいが成立するためには，互いに義理を守ることが要求されるし，義理を欠くときは，つきあいを基盤として形成された共同体の動揺を招くことになる。共同体的規制の強い社会ほど義理を欠くことを不道徳とみる傾向が強い。こうした傾向はやくざの社会に

→504ページ

キリスト教

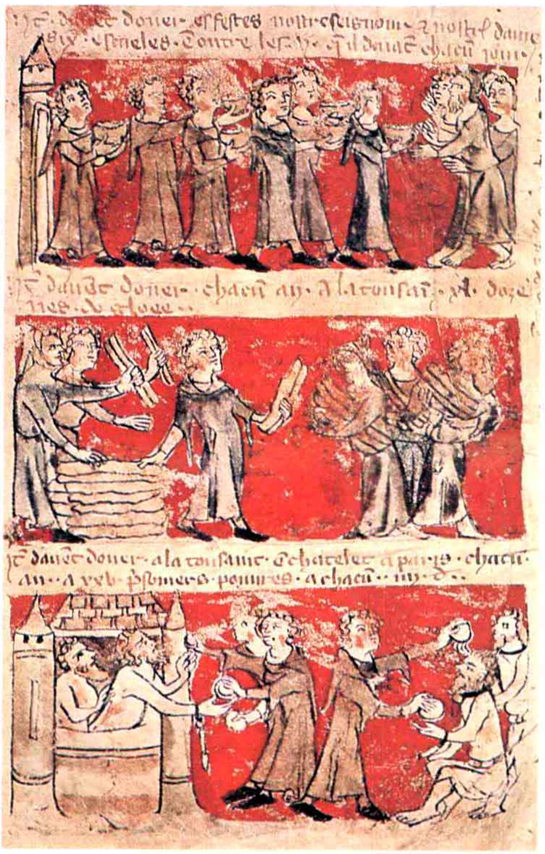
約2,000年前，イスラエル北部，ガリラヤのナザレで育ったイエスという人物によって始められ，使徒パウロによって広められた宗教。その母体はユダヤ教*である。仏教・イスラム教と並んで世界三大宗教の一。旧教(カトリック教会*・ギリシア正教会)と新教(プロテスタント諸教会)とに大別され，信徒の数は世界の全人口の27.4%に及んでいる。

〔教義〕キリスト教はイエスを救主キリスト*であると告白する。教義は教会がこの告白に基づいて信仰を定式化したものである。厳密な意味で全教会的教義は〈三位一体論*〉と〈キリスト論〉である。前者は父としての神，子としてのイエス-キリスト，人々の心を信仰に開く聖霊*は一つの本質であるという。それら3者を通じて現在するのは同じ神であり，むしろ父・子・聖霊は神の存在の三つのあり方であるとする。後者はキリストの人格についての教義である。カルケドン信条によれば，キリストは神性においても人性においても完全であり，真実の神にして同時に真実の人間であり，しかもその神性と人性は混合せず，変化も分離もせずに二つの性質において認められるべきであるとされている。しかしこのような人格をもったキリストは，ひとりの人間といいうるのかという疑問が残る。19世紀の歴史研究は，このような〈教義のキリスト〉から〈歴史のイエス〉へ人々の関心を移した。ルナンは人道主義者としての《イエス伝》(1863)を書いた。しかし共観福音書の厳密な歴史的研究は，イエスの伝記を再建することは不可能であるという結論に達し，また，たとえ再建されたとしても，単なる史的イエスは救主キリストとは別のものであるという反省も起こった。現代のキリスト論は，キリストの神性と人性の関係にではなく，信仰のキリストと歴史的イエスの関係に関心を集中している。〈処女降誕〉は処女マリアが聖霊によって身ごもり，処女のままイエスを生んだとする説(《新約聖書　ルカ伝》2章)である。偉人が超自然的誕生によって生まれたという神話は，洋の東西を問わず数多くある。確かに処女による降誕はキリスト教独自のものであるが，これは永遠なる神の子が自然と歴史の中に受肉*したこと(これを受肉論という)を説明しようとする古代的表現と考えてよい。〈キリストの復活〉はキリストが十字架の上で死んでのち3日めに復活したと信じられていることで，死からの復活という物語そのものは神話である。しかし，そのような神話的表現で言い表わされている事がらは実際に起こったできごとである。そのできごとによって，生前イエスの弟子(でし)であった人たちが，イエスこそ自分たちの救主であると考えるようになった。その時点からキリスト教信仰が始まった。復活に限らず，聖書の中にはさまざまな神話がある。神話そのものを信ずるのはまちがいで，神話的表現によって語られている事がらを問題とすべきであるという主張が〈非神話化論〉である。〈教会と聖礼典〉については，教会の原語はエクレシアであり，これは〈呼び出された者たちの集会〉の意で，教会とは信徒の集会である。しかしカトリック教会は自分たちだけが地上にある唯一の真実な教会であり，それはローマ教皇がキリストによって正しい教えの権威を与えられた使徒たちの後継者であるという考えによる。プロテスタント教会は，教会は信仰者の集団であり，福音が語られ，聖礼典が行なわれるところはすべて教会と考える。聖礼典としてカトリック教会には洗礼・聖餐(せいさん)・懺悔(ざんげ)・堅信礼・結婚・終油・聖職任命の七つがあるが，プロテスタント教会では洗礼と聖餐のみである。聖礼典は神の恵みの外的・可視的なしるしであるが，カトリック教会はその客観的な効果を強調するのに対し，プロテスタント教会は聖礼典を受ける者の信仰という主体的条件を強調する。〈救い〉については，カトリック教会は聖礼典にあずかることによって救われるとするのに対し，プロテスタント教会はイエスが救主であると信ずることによって救われるとする。



〔歴史〕キリスト教の創始者イエスについてはわずかなことしかわからない。ふつう，西暦はイエスが生まれた年を元年として起算されているとされるが，実際はイエスはBC4年ごろ生まれ，ガリラヤのナザレの出身で，AD31年ごろ，エルサレムで処刑されたと考えられている。歴史的にみれば，キリスト教はユダヤ教から発生した。イエスが生きた時代，ユダヤはローマ帝国の支配下にあり，ローマの総督ピラトによって治められていた。ユダヤ教はメシア信仰をもっている。彼らはローマ帝国によるユダヤの支配は，彼らに対する神の罰であると考え，いつの日かメシア(救世主)が来臨して彼らに政治的自由を回復させることを期待していた。またそのような事がらが，天の雲に乗ってやって来る天的人間によって達成されるだろうとも考え，そのようなことが起こる天変地異を含んだ終末の日を待ち望んでいた。このような時代に，イエスは〈神の国〉すなわち終末の日はすでに目前にあると説き，直ちに悔い改めよといった。ユダヤ教徒はナザレの建具屋イエスをメシアと認めない。イエス自身も自分をメシアであると考えていたかどうか，いまはわからない。しかし一群の人々が，イエスの死後，彼を神の子キリストであり，復活して天に上ったと考えるようになった。キリストとはメシアのギリシア語訳である。このできごとをペンテコステ(聖霊降臨)といい，ここからキリスト教が始まった。この新しく生まれたキリスト教をヘレニズム的ローマ世界に広め，ユダヤ教の一分派から世界的宗教にしたのは使徒パウロ*である。しかし，キリスト教の勢力が増すにつれて，その終末論的王国待望がローマ帝国にとって危険なものとみなされるようになり，有名なネロ帝の迫害(AD64)，ドミチアヌス帝(在位81～96年)の迫害となる。迫害の場所は，マッシモ競技場としていまもローマ市内に残っている。外部からの迫害や内部の分派，異端に対して正しい教会のあり方が求められ，2世紀後半にかけて生まれたのが古代カトリック教会である。カトリックとは元来〈普遍的〉という意味である。ディオクレチアヌス帝(在位284～305年)の大迫害後，313年，コンスタンチヌス大帝によっ





(左)中世の権力階級　中央に教権を代表する教皇と俗権を代表する皇帝がおり，それを取り巻いて枢機卿・司教・修道院長・国王・領主らが並んでいる　アンドレア－ダ－フィレンツェ作　サンタ－マリア－ノベルラ聖堂
(右)14世紀の神学生の生活　パリのアベ－マリア－カレッジの学生生活を描いている

てキリスト教は公許され，ニケア会議(325)コンスタンチノープル会議(381)で三位一体論が，カルケドン会議(451)でキリスト論が制定され，キリスト教の根本的教義が固まった。コンスタンチヌス帝がローマからビザンチウムに遷都し，名まえをコンスタンチノープルと変えたのは330年である。《告白》《神の国》を書いたアウグスチヌス(354～430)はこのころの人である。コンスタンチノープル遷都以来，ローマ司教は西方における皇帝の実質的後継者になった観があった。元来ローマの司教は使徒ペトロ*にさかのぼる使徒的継承をもっていると考えられていた。こういう事情を推進したのがレオ１世(在位440～461年)であり，グレゴリウス１世(在位590～604年)に至って，〈教皇(Papa)〉の称号をローマの司教にだけ限り，王権に対する教皇権の優越を主張した。すなわち中世のはじまりである。

ブリテン諸島にキリスト教を広め，カンタベリーをその本拠としたのもグレゴリウス１世である。476年西ローマ帝国がゲルマン人の大移動によって滅び，フランク王国が登場すると，王権と教権の提携が成立する。そのカロリング朝のカール大帝(１世)(742～814)はローマ教皇レオ３世からイタリア王－ローマ皇帝という称号を受けた。すなわち西ローマ帝国滅亡後，ここに至ってローマ帝国が再興され，それをなさしめたのがローマ教皇だったのである。カール大帝の死後，カロリング朝は東フランク・中央フランク・西フランクの３王国に分裂し，東フランク王国がドイツ，西フランク王国がフランスとなる。この東フランク王国から出たのがオットー１世で，彼は962年ローマ教皇ヨハネス12世から〈神聖ローマ帝国〉の帝冠を受けた。この10世紀のローマ教皇庁は破倫・奸計(かんけい)のうずまく暗黒時代として知られている。1054年に至って，コンスタンチノープルのギリシア正教会と，ローマ－カトリック教会が分裂する。一般にカトリック教会*とよばれているのは，このギリシア正教会と分離したのちのローマ－カトリック教会のことであり，それ以前のものを古代カトリック教会とよぶ。ギリシア正教会は，1453年東ローマ帝国がトルコに滅ぼされてのちはモスクワが中心となった。東西分離後，教皇グレゴリウス７世(在位1073～1085)，インノケンチウス３世(在位1198～1216)に至って，ローマ教皇権は絶頂期を迎える。前者はローマ教皇のみが正統にして普遍的であり，教皇は皇帝も廃することができると宣言し，時のドイツ皇帝ハインリヒ４世に，1077年いわゆる〈カノッサの屈辱*〉を味わわせ，後者は教皇権を太陽に，皇帝権を月になぞらえた。この時期に十字軍*が生まれ，各種の修道院が創設され，スコラ学が発生し，大学が創立され，中世は最盛期を迎える。1096年から1270年まで７回にわたる十字軍の遠征は，イスラム教徒であるトルコ人の手から聖地エルサレムを奪回するのが直接の動機であり，その目的は最終的には達せられなかったが，歴史的には重要な結果をもたらした。通路にあたった北イタリア地方の都市の興隆と封建制度の衰退，東方，特にアラビアの科学・学問の輸入と大学の発展などである。騎士道の花が咲いたのもこのころとされる。この新文化の輸入と都市生活の華美化に拮抗(きっこう)して生まれたのが修道院で，有名なものは，フランスのクレルボーのベルナルドゥス(1091～1153)，小鳥に説教したことで有名なアッシジのフランチェスコ(1182～1226)，スペイン貴族出身のドミニクス(1170～1221)らによって建てられた修道会である。このドミニコ会士の中から出たのが〈スコラ学の王〉トマス－アクィナス(1225～1264)である。十字軍の遠征によって輸入されたアラビア文化を介してアリストテレスの著作が紹介されたが，彼はアリストテレスの哲学を応用して，キリスト教の教義を説明し，啓示と理性の一致を説いた。教師と学生が組合をつくり，一つの組織としての大学が生まれたのも1200年ごろとされている。大学(ユニベルシタス)とは元来，協同組合を意味する。最も有名なものがパリとオックスフォード大学である。こうして時代は中世後期に移る。フランス王フィリップ４世は，ローマ教皇ボニファチウス８世との確執ののち，1305年教皇庁をフランスのアビ







(左上)ジュネーブの宗教改革者の像　左から2人めがカルバン
(左下)16世紀，日本を訪れたポルトガルの宣教師たち　神戸市立南蛮美術館蔵
(右)イエズス会を創始し，教会改革運動の中心となったイグナチウス-デ-ロヨラ　ルーベンス　ウィーン博物館蔵

ニョンに移した。いわゆる教皇の〈アビニョン幽囚〉である。1378年，ローマ側はウルバヌス4世を立て，二つの教皇庁が併立する教会の分離時代(1378～1409)となり，両者を統一しようとして開かれたピサ会議(1409)はさらにもうひとりの教皇を加える結果になった。この状態はマルチノ5世(在位1417～1431年)の登場によって終わったが，以後，教皇と司教による公会議との間の優先順序をめぐっての争いの間に中世は過ぎ去る。すなわち反ローマ思想の台頭，それに対する悪名高い宗教裁判所の設立，それにもかかわらず，イギリスのウィクリフ(1320～1384)，ボヘミアのフス(1370ごろ～1415)，イタリアのサボナローラ(1452～1498)らによる宗教改革の黎明(れいめい)である。そして教会の外では北イタリアを中心に文芸復興も興っていた。

ルター*(1483～1546)が1517年に免罪符*に関する提題を掲示したことから宗教改革が始まった。免罪符とは，元来それを買うことによって教会の課した刑罰を免れるというものであった。それがルターの時代には拡大解釈されて，救いが金で買えるかのごとくなった。ルターは，救いとはそのようなものではなく，キリストにおける神の恵みのみによるとした。教皇レオ10世の彼に対する異端審問・破門警告にあって，1520年，ルターはローマ教会と決別した。このルターの考えに賛成するドイツの諸侯が，1529年開かれた第2回シュパイエル帝国議会で教皇派に抗議(プロテスト)したのがプロテスタント(抗議者)教会の名のおこりである。時を同じくして，スイスにはツウィングリ(1484～1531)，少し遅れてカルバン(1509～1564)の改革運動があった。カルバン*は〈二重予定説〉で有名である。これは，人間の救いと滅亡は，神によってあらかじめ定められているとする説で，これによって彼は神のみのもつ主権を強調した。その後，ルター主義は主として北欧に広がり，カルバン主義はフランス・オランダ地方に広まった。その過程でこの改革運動はさまざまな迫害に出会うが，中でもフランスのカルバン主義者たち，すなわちユグノーに加えられた聖バルテルミーの虐殺*(1572)は有名である。イギリスの宗教改革はこのような信仰運動とは無関係であった。ヘンリー8世の離婚をローマ教皇クレメンス7世が認めないことからローマ-カトリック教会から分離したもので，これがイギリス国教会*となった。スペイン・イタリアではこの改革運動は宗教裁判の炎の中で窒息した。ローマ教会の内部にも改革運動が起こり，その中心人物がバスクの貴族出身のイグナチウス-デ-ロヨラ(1491～1556)である。彼はイエズス会*をつくったが，日本にキリスト教が伝えられたのは，このロヨラの最大の協力者，フランシスコ-ザビエル(1506～1552)によってである。このイエズス会がドイツにはいり，カトリック諸侯を刺激したことから，プロテスタント諸侯との間に三十年戦争(1618～1648)が始まった。これによってドイツの近代化が大幅に遅れた。その後，啓蒙(けいもう)時代に至るまでの時期は，〈プロテスタント正統主義〉とよばれる時代で，宗教改革の精神は衰退した。イギリスのピューリタン(清教徒)はカルバン主義の流れをくみ，イギリス王室の弾圧に抗して，1620年，自由を求めて新大陸へ渡ったのが，ピルグリム-ファーザーズ*である。

啓蒙時代に至って，キリスト教は科学的思惟と直面する。すなわち近代が始まった。イギリスに理神論*が起こり，神は世界の創造主だが，いったんつくられた世界はそれ自身の法則によって動くとした。こういう風潮に対して，宗教改革の精神をもう一度取りもどしたのがメソジスト教会*の創始者ウェスレー(1703～1791)である。フランスの啓蒙主義は，ボルテール・ルソー・百家全書派にみられるように反教会的であり，ドイツのそれは概して穏健であった。啓蒙思想はカトリック教会にも力を及ぼし，1773年，俗化したイエズス会を解散に追いやった(1814年に再興)。1798年ナポレオンはローマを一つの共和国とし，時のピウス6世は囚人としてフランスで死んだ。啓蒙主義はドイツではカント・ヘーゲルのドイツ観念論によって克服されたが，その哲学的キリスト教理解に対して〈宗教体験〉を主張し

たのが，《宗教論》を書いたシュライエルマッハー*である。またヘーゲルの弁証法的歴史理解から奇跡*はありえないと考え，聖書の中の神話を削除してイエスを単にひとりの人間としたのがダビット-シュトラウス*である。キリスト教をこのように歴史的・科学的に理解しようとする態度は，19世紀後半にかけてますます強まった。しかし，そのような科学的態度では宗教とか人間の本質を十分に把握(はあく)することはできないという反省が，第1次世界大戦後現われ，これがバルト*によって主唱された〈神の言(ことば)の神学〉である。19世紀のカトリック教会はその勢いを盛り返す。1814年ピウス7世はフランス幽閉からローマに帰り，反近代主義・教皇絶対主義(ウルトラモンタニスム)を推進した。1870年第1回バチカン公会議ではピウス9世は〈私が伝統である〉という有名なことばを吐いて教皇無謬説(むびゅうせつ)を教理に制定させた。1870年のイタリア統一後，イタリア政府は教皇の権利と財産を保証し，教皇は〈バチカンの囚人〉たるを甘んじている。19世紀のイギリスでは，聖公会の中に教会を宗教改革以前の状態にもどそうとする運動があり，これがオックスフォード運動*とよばれる。同時に1828年，国教であるイギリス国教会以外の教派にも同等の市民権が認められ，長老派*・会衆派・バプテスト・クエーカー派・ユニテリアン派，それにメソジスト教会から発生した救世軍*などが登場した。1620年のプリマス移民以来，アメリカ合衆国には国教会なるものは存在しない。移住のごく初期からバプテスト・クエーカー派・聖公会などがはいり，おびただしい数の教派が存在している。奴隷制度と南北戦争は，多くの教会を南と北に分裂させ，ごく最近に至るまでこの分裂は続いていた。

【日本とキリスト教】1549年(天文18)，イエズス会のザビエルが鹿児島に上陸し，山口を拠点にして伝道した。彼は2年半で日本を去ったが，その後継者たちがあいついで来日し，大友宗麟(そうりん)・大村純忠(すみただ)・高山右近らの大名が改宗し，1576年(天正4)京都には南蛮寺(教会)が落成した。そして1582年には大友・大村，大村の実兄で同じく改宗した有馬義貞(ありまよしさだ)の3大名は少年使徒をローマに送っている(→天正遣欧使節)。豊臣秀吉(とよとみひでよし)もはじめはキリスト教に好意的であったが，1587年いわゆる伴天連(バテレン)追放の5か条を出した。日本26聖人が長崎で殉教したのは1596年(慶長1)である。しかしこの禁令は徹底されず，フランシスコ会・ドミニコ会・アウグスチノ会の宣教師も来日し，徳川家康(いえやす)は江戸に教会を建てることを許し，1605年ごろには信者の数は約70万に上ったといわれる。1613年伊達政宗(だてまさむね)は支倉(はせくら)常長らをローマへ送った(→慶長遣欧使節)。1614年幕府は伴天連を禁令とし，棄教しない者を国外へ追放した。高山右近がマニラへ追放されたのはこのときである。天草四郎に率いられた島原の乱*は1637年(寛永14)に起こった。その後潜伏キリシタンは五島方面に明治初期の復活に至るまで残っていた。1858年(安政5)の諸外国との修好通商条約締結後，1862年(文久2)横浜に，1865年(慶応1)長崎の大浦に天主堂が建てられた。キリスト教が解禁になったのは1873年(明治6)である。その後，カトリック-キリスト教は明治末年まではパリの外国宣教会によって伝道された。プロテスタント諸派は，1872年各教派にとらわれない無教派の横浜基督(キリスト)公会(教会とはいわなかった)を設立し，これを日本基督公会に発展させようとしたが，その後あいついだ各派宣教師の流入の結果，結局教派分立の形で諸教会が設立された。薩長(さっちょう)藩中心の明治政府に志を得ない元旗本(はたもと)とか佐幕藩系の青年たちの間に，政治ではなくて，洋学とか文明開化とかへの関心が高まり，それとともにキリスト教が受け入れられたという事情がある。その青年たちには横浜・札幌(さっぽろ)・熊本(くまもと)を中心にした三つのグループがあった。このようにプロテスタント-キリスト教は西洋文明の輸入という事情と結びついてはいってきたが，これが明治政府の天皇制絶対主義的国家観と最初に衝突したのが札幌グループ出身の内村鑑三の不敬事件であった(1891)。内村は従来のキリスト教諸派から独立した無教会主義を唱道した。日清(にっしん)戦争後の日本資本主義の膨張に伴う貧富の差の増大から，社会主義研究会(1898)を設立したのが安部磯雄(あべいそお)・片山潜らのキリスト者である。山室軍平の救世軍もこのころ活躍した。《死線を越えて》を書いた賀川豊彦(かがわとよひこ)は1921年(大正10)神戸(こうべ)川崎造船所のストライキを指導して当時の労働運動の先頭に立った。昭和になって日本の軍国主義化が進み，1939年(昭和14)宗教団体法が議会を通過して宗教団体は国家の統制下に置かれることになり，30余りのプロテスタント教派が合体して，1941年日本基督教団となった。第2次世界大戦中の軍国主義に対してたたかったのは1937年筆禍で東京大学を辞職した無教会派の矢内原忠雄(ただお)である。戦後，日本基督教団からいくつかの旧教派が離脱した。現在日本の信者の数はプロテスタントが約71万，カトリック・ギリシア正教会が合わせて約41万である。

【キリスト教の分布】現在世界のカトリックの人口は58,047万，ギリシア正教会12,568万，プロテスタント21,812万であり，地球上の全人口の27.4%。カトリックはドイツ・スカンジナビア三国・スイスを除いたヨーロッパ諸国，南アメリカ・メキシコ・カナダ東部で，ギリシア正教はソ連・バルカン諸国で，プロテスタントはドイツ・スイス・スカンジナビア諸国のほか，アメリカ合衆国・カナダ・オーストラリアで有力である。 〔小田垣雅也〕

日本のキリスト教各派の教勢一覧

教会の名称	会堂数	教職者数	信徒数	教会の名称	会堂数	教職者数	信徒数	教会の名称	会堂数	教職者数	信徒数
カトリック教会	1 014	9 896	387 204	ナザレン	175	99	4 454	セブンスデー・アドベンチスト	122	815	9 372
日本キリスト正教会(ギリシア正教)	108	68	24 699	アッセンブリー	116	274	6 722				
				ホーリネス	133	276	7 563	栄光の福音	20	100	3 987
日本基督教団	1 670	2 188	189 480	基督兄弟団	80	141	2 950	在日大韓	48	53	3 196
日本聖公会	275	339	55 252	インマヌエル	150	209	10 103	*ものみの塔	1 096	2 500	45 000
日本福音ルーテル	141	192	19 330	聖イエス会	78	130	4 298	無教会集会	47	—	1 557
日本基督教会	130	149	19 330	日本イエスキリスト	82	185	8 435	原始福音	127	168	50 000
日本基督改革派	104	103	6 875	基督教カナン	14	28	2 385	世界基督教統一神霊教会	(削除)		
バプテスト連盟	256	327	25 485	イエスの御霊	519	226	101 382				
バプテスト同盟	66	102	4 114	*活水基督	14	15	1 192	その他	1 959	3 943	125 416
同盟基督教団	143	305	5 735	救世軍	89	233	9 510	総計	8 944	23 233	1 123 022
自由メソジスト	32	47	3 573	基督の教会	136	122	3 753				

注　*印，1979年の統計

(基督教年鑑1980年版による)

仁義を重んずるという形で強く残っていた。

鎌倉期以降，武家社会の成熟に伴い，武士道の基盤をなす義の観念が生まれた。それが江戸時代にはいると儒教倫理に裏づけられ，庶民の生活規範としても影響を与えた。

江戸時代の文芸は，好んで義理人情の葛藤(かっとう)・衝突を描いた。義理に徹するために人情を殺す悲しさ，あるいは義理と人情の板ばさみに苦しんだあげくの心中が，文芸や芝居のかっこうのテーマとして人気を博した。

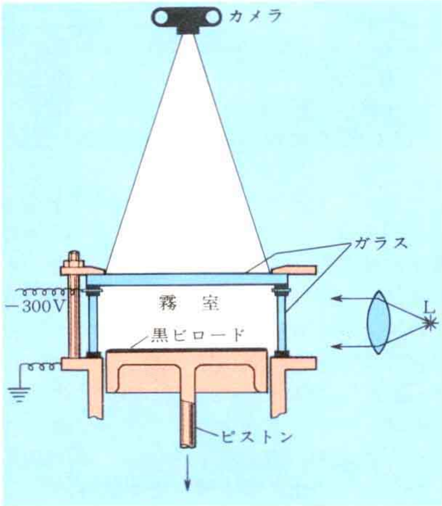
社会の進展に伴って，各人が所属する共同体関係が複雑化し，どのような関係への義理を重んずべきか，また人情と義理のいずれを重んずべきかについて，動揺が起こってきたのは当然の推移であった。➔人情噺(にんじょうばなし)　〔直江広治〕

きりのとしあき　【桐野利秋】　(1838～1877)　幕末・明治初期の軍人。薩摩(さつま)藩の微禄(びろく)の家に生まれる。はじめ中村半次郎と称し，1862年(文久 2)島津久光(ひさみつ)に従って上京，西郷隆盛(たかもり)の意図を受けて尊王攘夷(じょうい)運動に奔走。1871年(明治 4)一大隊を率いて京都に行き，陸軍少佐(同年7月28日就任)として近衛(このえ)親兵を指揮した。翌年鎮西鎮台(当時本営は熊本県，分営は広島・鹿児島県)に出張，1873年陸軍裁判所長となったが，征韓論(せいかんろん)に破れるとすぐに西郷と帰国した。1877年 2 月西南戦争で西郷軍の大隊長として熊本城を攻めたが，城山で戦死した。　〔安達淑子〕

きりのはな　【桐の花】　北原白秋の歌集。1913年(大正 2)刊。短歌 446 首および歌論ふうのエッセー 6 編を収録。伝統的な短歌に近代フランス詩ふうの詩情を盛って歌壇に清新な香気を吹き込み，《アララギ》などによっていた現実派歌人たちにも影響を与えた。

きりは　【切羽】　鉱山の採掘作業を行なう現場。採掘(鉱)切羽・採炭切羽・掘進切羽などと使われる。採掘や掘進が行なわれる岩壁面のみをいう場合と，そのような岩壁面を含んで付近一帯をさす場合とがある。削岩機や積み込み機械がうなり，圧縮空気のパイプや水のホースが走り，作業員が忙しく立ち働く鉱山の第一線である。

きりばこ　【霧箱】　過飽和水蒸気が入射した放射線によって生じたイオンを核として凝結することを利用して電子・陽子・α粒子などの荷電粒子の飛跡を直接見る装置。1897年イギリスの実験物理学者ウィルソンが電気素量を測定する目的で開発し，1911年これを改良して荷電粒子の飛跡をとらえることに成功したのでウィルソンの霧箱ともいう。水蒸気の過飽和状態における霧滴の研究に端を発している。水蒸気は膨張率が1.25以下では空気中のちりが核となって霧滴ができる。膨張をくり返したり，濾過(ろか)した空気では核になるちりがなくなるため，膨張率1.25以下では霧が生じない。膨張率が1.25を越すと膨張率の増大とともに，ちりが核となっている霧より細かい霧が増す。さらに電場をかけると霧の数は減少し，放射性物質を近づけると霧の数が増すことからイオンが核になっていることがわかった。空気と水の場合は，膨張率が1.25から1.38の間ではイオンが核となり，1.25で陰イオンが，1.31以上で陽イオンが核となることもわかった。その後，イギリスの物理学者ブラケット・ウィルソンらは種々の改良を行なった。



霧　　箱　ウィルソンの霧箱の構造図


鑽　　火　大国魂神社蔵


桐　一　葉　長柄堤訣別場　(右)片桐且元(8世坂東三津五郎)(左)木村重成(3世市川寿海)

断熱膨張による過飽和の発生のほかに過飽和を常時保有する目的で，1939年アメリカの物理学者ラングスドルフは拡散霧箱を考案した。密閉容器の天井で高温の蒸気をつくり，底面部を低温にすると蒸気が下方に拡散する途中で逆温度勾配(こうばい)のため過飽和状態ができる。この装置は水平面内に過飽和領域ができるため，加速器実験に大いに利用された。　〔福井崇時〕

キリバス(共和国)　⇨ギルバート(諸島)

きりび　【鑽火】　柔らかな木の厚板の上に，先のとがった棒をあて，強くもみつづけて発火された火。古代にはこの方法によって火をつくったが，のちに清浄な火として神事に用いられ，現在でも伊勢(いせ)神宮・出雲(いずも)大社などでは神供の調理やお燈明に用いられている。発火に使用する用具で現存する最古のものは静岡県登呂(とろ)遺跡から出土した弥生(やよい)期のもので，20cmほどの火鑽杵(ひきりきね)と，数個の棒穴がある長さ20cmほどの火鑽臼(ひきりうす)である。なお，旅立ちなどのとき，その人の安全を願って火打ち石を打って出す火花を体にかけることを切り火ともいう。　〔直江広治〕

きりひとは　【桐一葉】　坪内逍遙(しょうよう)の戯曲。 6 幕。《早稲田(わせだ)文学》に連載され，1904年(明治37)東京座初演。大阪冬の陣を背景に豊臣(とよとみ)家滅亡を描く悲劇で，忠臣片桐且元(かたぎりかつもと)が豊臣家の悲運回復に心を砕くが，淀君(よどぎみ)と年若い秀頼(ひでより)を取り巻く内紛のため窮地に追いやられ，後事を木村重成(しげなり)に託して故郷へ退くという話。この続編が《沓手鳥(ほととぎす)孤城落月》。歌舞伎(かぶき)の技法を取り入れて新しい史劇をめざした逍遙の第 1 作で，明治劇壇に大きな影響を与えた。

きりふき　【霧吹き】　アイロンかけや地のしをするとき，布に湿りけを与えるために用いる用具。金属製やプラスチック製で，口で吹くもの，指でポンプを動かすもの，握力を利用する引き金式のもの，圧縮した空気を使うものなどがあるが，力の多く必要としないもので，細かい霧が平均に広く行き渡り，水滴のぼた落ちしないものがよい。口で吹くものは不衛生で，最近ではほとんど見られなくなった。

きりふりのたき　【霧降滝】　栃木県日光市に属し，東照宮の北西 3 kmにあり，鬼怒(きぬ)川支流の板穴川にかかる滝の一。総高は65mであるが， 2 段に分かれ，上の滝は高さ約25m，下の滝は高さ約26mである。この 2 段になっているところで滝の水はしぶきを上げ，霧のようになるためにこの名がある。華厳滝(けごんのたき)・龍頭滝(りゅうずのたき)などとともに日光の名瀑(めいばく)の一つで，板穴川にはこのほか，玉簾滝(たますだれのたき)・丁字滝などの大小の滝が見られる。付近一帯

は風光にすぐれ，日光国立公園の一部を形成する。〔味沢成吉〕

きりぼしだいこん　【切り干し大根】　ダイコンを切って乾燥したもの。生ダイコンはほとんど水分と繊維ばかりであるが，切り干し大根になると，タンパク質が10%以上となり栄養価が高くなる。愛知県の宮重(みやしげ)ダイコンは柔らかく甘味も多いので原料として最も適し，東京の練馬ダイコンは白色であるが甘味が乏しいため味は劣る。切り方によって千切り(細長く切ったもの)・上切り(千切りよりやや太目)・角切り(たんざく形)・花形(輪切り)などがある。総菜用として煮物・はりはりづけ・木の芽みそあえなどに用いられる。〔佐藤友太郎〕

きりまい　【切米】　⇨蔵米

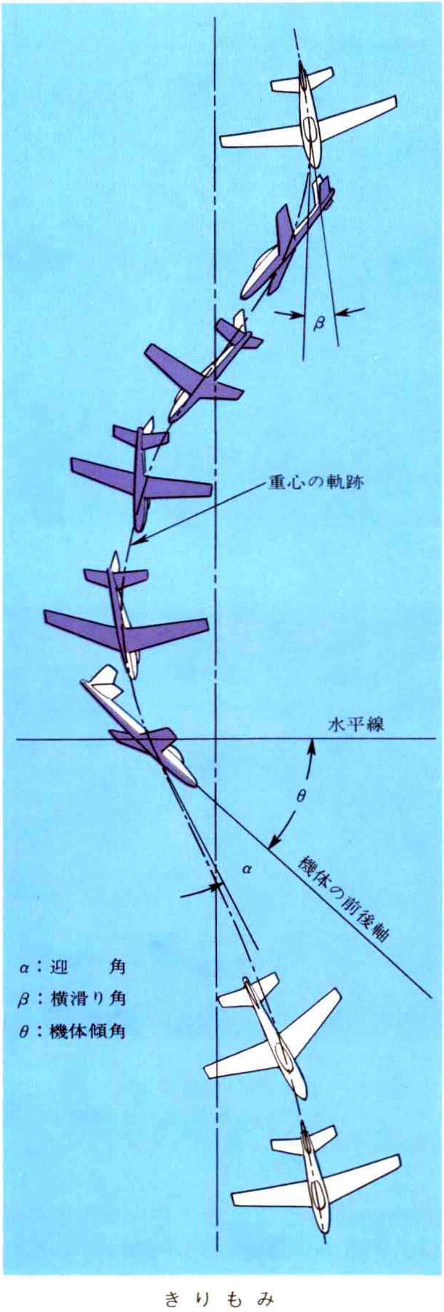
キリマンジャロ(山)　〔Kilimanjaro〕　アフリカ大陸東部，タンザニアとケニアとの国境近くにあり，大地溝(だいちこう)帯*に沿う世界最高の火山。最高峰キボ(5,895m)は同大陸の最高峰。赤道付近にあるにもかかわらず頂部には数条の氷河が見られる。三つの円錐(えんすい)形成層火山からなる複式火山で，最も古いシラカム峰は北西部に，次に古いマウェンジ峰は南東部に，最も新しいキボ峰はこの中間に位置している。高度1,000m以下の山腹斜面は不毛地であるが，南側斜面の1,000～2,000mの所ではコーヒー・サイザルアサなどが栽培される。1889年ドイツ人ハンス-マイヤーがキボ峰に初登頂し，1912年にはドイツ人フリッツ-クルーテがマウェンジ峰に初登頂した。また，1958年(昭和33)には早稲田(わせだ)大学の赤道アフリカ遠征隊も登山した。〔野間三郎〕



キリマンジャロ
万年雪をいただく主峰キボの頂上部と荒涼とした斜面。なだらかな稜線をもち，登頂もさほど困難ではない

きりもみ　【錐揉み】　飛行機が失速したのちに陥る運動形態の一。機体は鉛直軸のまわりに，回転速度の速い，横すべりを伴う旋回を続けながら，らせん降下を行なう。きりもみを分けて垂直きりもみおよび水平きりもみとし，脱出が容易という意味で前者を良性きりもみ，脱出困難か不可能という意味で後者を悪性きりもみという。図はきりもみにはいっている飛行機の運動を示す。垂直きりもみは機首を下げた形で，機体傾角(水平面に対する機体の角度)θが50°以上，旋転速度は比較的おそく，旋転の半径は比較的大きい。水平きりもみはθが40°以下で，迎角αは非常に大きい。このため旋転速度が大きく，旋転半径は小さくなる。極端な場合は片方の翼端付近に回転軸があるほどである。θがその間にあるものを中間きりもみという。

小形機についてはどの機種でも，きりもみにはいらないかまたははいっても脱出が容易であることを，実際に証明することが法規によって要求されている。戦闘機や練習機は激しい運動をするから失速の機会も多いので，きりもみにはいらないように注意しなければならない。またはいっても容易に脱出できなくてはならない。なお，このような機体では操縦訓練の一課程としてきりもみが加えられている。〔中口　博〕

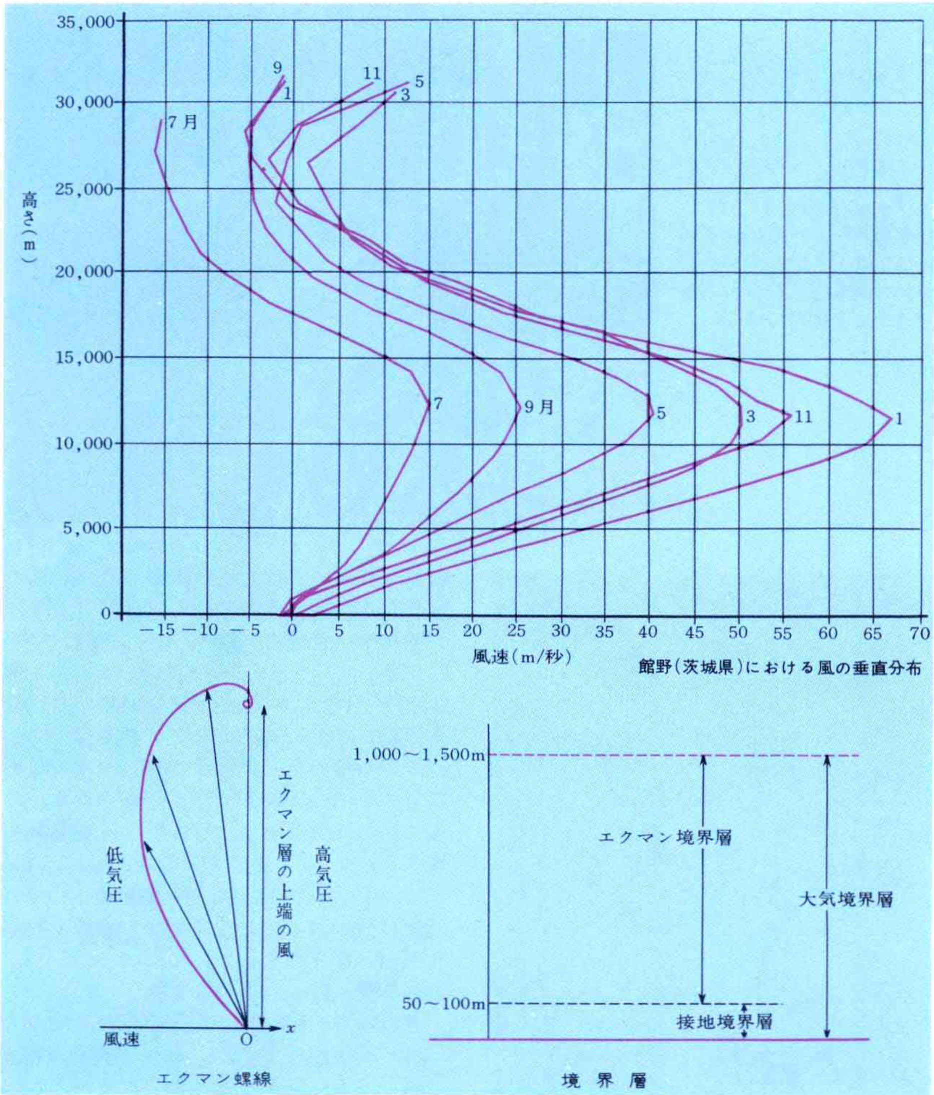


きりもみ

ギリヤークぞく　【ギリヤーク族】　別称ニブフ。アムール川下流地域とサハリン(樺太(からふと))のテルパニヤ湾以北に住む民族。人口約4,200。言語は古アジア語群に含まれるが系統不明。隣接するツングース系民族とアイヌの中間的形質が認められる。おもに漁労と海獣猟に依存し，イヌを家畜とする。精緻(せいち)なくま祭りを行ない，シャーマニズムを信仰。父系的外婚単位としての氏族に分かれる。第2次世界大戦後少数が北海道へ移住した。

きりゆ　【桐油】　⇨とうゆ

きりゅう　【気流】　空気の流れ。地上では風として観測される。ふつう気流は気圧の低いほうへ向かうと考えられるが，地球上で観測すると自転によって生じる転向力*という見かけ上の力を受けて気流は変形され，だいたい等圧線に沿うようになる。気流に変動を与える原因は気圧変動のほかに，摩擦力と地形の効果が大きい。放射，地表面からの加熱・冷却などの影響は気圧を通して気流に影響を与える。地表から高度2kmぐらいまでは地面摩擦の影響を受ける範囲として，大気境界層とよばれ，それより上の大気とは違う性質をもつとされている。大気境界層の中で地表から数十メートルの範囲を接地境界層といい，さらに特有の性質をもっている。接地境界層内では乱流が卓越して，熱・水蒸気・運動量などを一様に上方に運び，風は対数法則的に上方で増加する。接地境界層に対し，その上の境界層をエクマン境界層とよび，そこではエクマンらせんの法則(➞風)で風が変化するとされている。大気境界層の上では摩擦効果は小で，気流はだいたい等圧線に沿う地衡風*が卓越している。そのほか，気流に影響を与える大きなものとしては山岳がある。ヒマラヤ山系のように大きい山は地球上の大規模な気流に強い影響を与え，富士山程度のスケールの小さい山は局地的な気流に大



気　流

きな変化をもたらす。すなわち，ヒマラヤ山系の下流には定常的なトラフ*をつくり，富士山の下流には波動性の乱れをつくる。水平気流の収束する所に上昇気流が起こり，雲や雨をもたらす素因になるので，上昇気流は天気現象に対してきわめて重要な働きをする。〔曲田光夫〕

きりゅう　【騎龍】 爬虫(はちゅう)綱の中で恐龍群・鳥盤目に属する騎龍亜目をさす。白亜紀後期の草食性四脚歩行性の有角恐龍で，今日のヤギュウに生態が似ていた。頭は大で，全長の3分の1に近いが，それは後頭部(3頂骨・鱗骨(りんこつ))の扁平(へんぺい)なひだのためである。ひだは，はじめは下顎(かがく)の咀嚼(そしゃく)運動のために発達し，次いで頸動脈(けいどうみゃく)など頸部の保護にもなった。頭部には，強大な角がサイのようにはえている。大部分は北アメリカの北西部に発見されている。三騎龍*などはこの仲間である。〔神戸信和〕

きりゅう　【桐生(市)】 群馬県南東部の市。古くから六斎市が開かれた市場町で，天満宮前に桐生新町が建設されて以来，絹織物が発達した。1922年(大正11)市制施行。人口13万4,000。足尾山地南西麓(ろく)，渡良瀬(わたらせ)川左岸の段丘上に位置し，北東から流下する桐生川の渓口(けいこう)集落。産業三大別人口比は2：55：43。〈東の西陣〉とよばれる北関東一の機業地で，市域の西部・北部で輸出品，北東部で着尺，南部では帯地が製造され，桐生川流域には染色・撚糸(ねんし)などの関連工場がある。最近では金属・機械・輸送用機械製造などの近代工業も興り，東毛地区経済圏の中核となっている。両毛線・足尾線・上毛電鉄・東武鉄道桐生線が集まり，国道50号線が市街を貫通する。



桐 生 市　織物の町桐生では，市の東側を流れる桐生川の水で，いまも友禅染めの水洗いが行なわれる。また川原は，その干し場に使われている

きりょくがん　【輝緑岩】 火成岩の一種。玄武岩*は地下あまり深くない所で地層の間に貫入岩床*となったり，岩脈*として産することもまれではない。その場合には結晶が平均して大きくなっているので粗粒玄武岩という。粗粒玄武岩はマグマからの晶出時に，同時に分離した熱水*の変質作用を受けて，シャチョウ石*はリョクレン石*とアルバイト*などの集合体に，またキ石*などの有色鉱物*はリョクデイ岩*に変わっていることが多い。このように変質した粗粒玄武岩を輝緑岩という。〔片山信夫〕

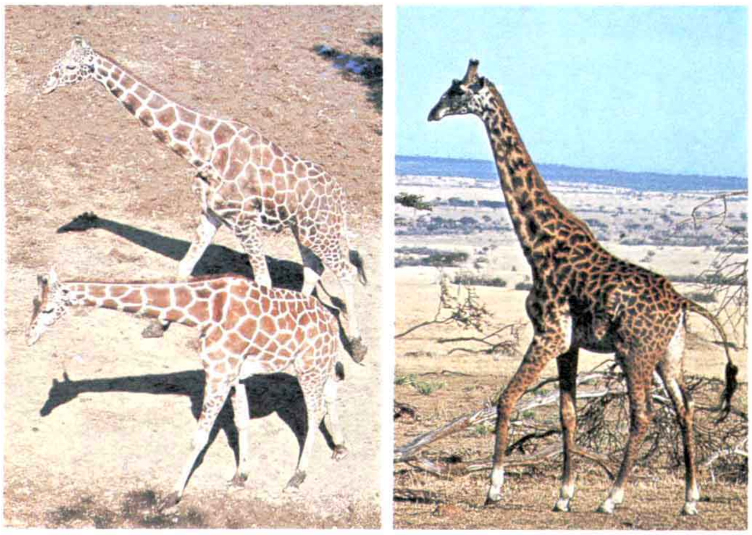
きりょくぎょうかいがん　【輝緑凝灰岩】 玄武岩*や輝緑岩*に伴って産出する変質した塩基性の凝灰岩*。アルバイト*・リョクレン石*・リョクデイ石*・ホウカイ石*などの細かい結晶の集合体になっている。多少の片状構造を示すのがつねである。わが国の中生代や古生代の地層にしばしば見いだされる。赤かっ色・赤紫色・緑色などを呈し，緻密(ちみつ)なものはすずり石として珍重される。赤間ケ石*はその例である。

きりょくはつでん　【汽力発電】 ボイラーによって発生した高温・高圧の蒸気によってタービンを回転し，これにつながれた発電機を回して，熱エネルギー→機械的エネルギー→電気エネルギーへと変換する発電方式。汽力発電所・内燃力発電所・ガスタービン発電所*を総称して火力発電所*というが，汽力発電が全火力発電容量の大部分を占める。➔火力発電

キリールもじ　【キリール文字】 グラゴール文字とともに古代スラブ字母で，ロシア文字の祖。キリールの名は，ビザンチンの宣教師キリロス(826～869)が，古代ギリシア文字からつくったものと考えられていたからであるが，彼がつくったのはグラゴール文字のほうで，彼の死後その弟子(でし)聖クレメントにより東部ブルガリアでさらに簡明なキリール文字がつくられたといわれている。9世紀後半に現われた古代教会スラブ語の文語(ただし最古の文献は10～11世紀の写本，オストロミール福音書など)に用いられている。12世紀ごろまで，グラゴール文字と並んでスラブ諸民族の間に用いられていたが，その後キリール文字が優勢となった。現代のロシア文字は，18世紀はじめピョートル大帝の文字改革を経て，単純化されたものである。〔片岡　孝〕

きりん　【麒麟】 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・キリン科。ジラフともいう。陸生哺

乳類中最も高く，肩高3.6mほどで，頭頂まで5.3mほど。くびは長いが頸骨(けいこつ)の数は7個で，他の哺乳類と同じである。サハラ砂漠(さばく)以南のアフリカに限産し，アカシアがまばらにはえる草原などに小さな群れですむ。早朝または夕刻にアカシアの葉や小枝，ときに果実や草などを，長さ45cmに達する長い舌で巧みに食う。視覚・聴覚がすぐれ，前後肢(ぜんこうし)を同時に動かし，時速50kmほどで走る。地理的変異があり，アミメキリン・マサイキリンなどの亜種がある。本種と同じ属のものは第三紀鮮新世から第四紀洪積(こうせき)世にかけて広くアジアにも分布していたが，今日では絶滅した。〔今泉吉典〕



キ リ ン
(左)アミメキリン
(右)マサイキリン

きりん【麒麟】 龍*(りゅう)・カメ・鳳凰(ほうおう)とともに，中国の伝説に知られる瑞獣(ずいじゅう)。麟の文字はすでに《詩経》や《春秋》にみえているが，その態様を詳細に記されるのは後世になってからである。前漢末の京房《易伝》には〈麟は麕(くじか)の身体をもち，ウシの尾とウマの蹄(ひづめ)とをそなえ，五色の彩あり，腹下は黄色で，背の高さは1丈2尺ある〉と述べ，神秘的な空想上の動物として描かれている。麒麟が瑞獣とされるのは〈麟は仁獣なり，王者あれば則(すなわ)ち至る〉とした《公羊伝*(くようでん)》によるもので，聖王が世を治めるときに出現する動物とされていたからである。なお，1日に千里を走るといわれる想像上のウマを騏驎ともいう。→チョンリマ〔渡辺欣雄〕

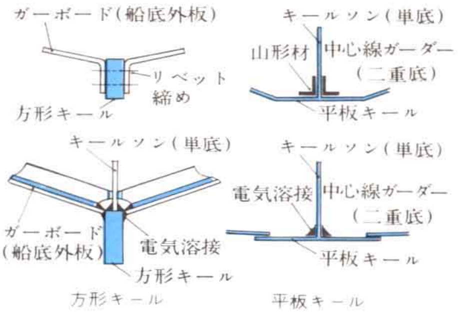
きりんさい【麒麟菜】 紅藻(こうそう)類・ミリン科。リュウキュウツノマタともいう。熱帯地方に産する暗紅色ないし黄紅色の海藻で，わが国では南西諸島に産する。高さ25cmに達し，多肉質・円柱状で，不規則に分枝する。有性生殖のほかに，果胞子・四分胞子による無性生殖を行なう。寒天の原藻とするほか，ゆでて塩蔵し，食用ともする。

きりんそう【麒麟草】 双子葉植物・ベンケイソウ科の多年草。山の岩の上などにはえ，ときに観賞用として栽培される。太い根から茎が群がってはえ，高さ5～30cm。葉は肉質で，倒卵形から長楕円(ちょうだえん)形，へりに鋸歯(きょし)がある。6月ごろ茎の先に黄色の花びら5枚からなる小花を多数つけ，美しい。ホソバノキリンソウはこれに似ているが葉がやや細い。



キリンソウ　エゾキリンソウとよばれる寒地型

きりんビール【麒麟麦酒(株)】 業界最大のビール製造会社。明治のはじめ，アメリカ人コプランドが横浜でビールの醸造を始めたのが端緒で，1907年(明治40)に250万円の資本金で会社設立。以来寡占下での過当競争の業界にあって着実に地盤を固め，現在では市場占拠率52％を占め，業界第1位。事業内容はビール91％，清涼飲料8％，その他1％の比率。本社東京。工場は横浜・尼崎(あまがさき)・仙台(せんだい)・京都，新設の取手など12工場をもつ。資本金322億1,700万円，年間売上高8,305億3,500万円，従業員数7,863名(1980年7月現在)。



キ ー ル

キール［keel］
①船体最下部の中心線上を縦に通る材料で，船の背骨ともいうべきもの。龍骨(りゅうこつ)ともいう。キールはその構造により方形キールと平板キールがある。前者は木船時代の遺物であって角材が船底から突出している型である。この型では大形船には十分な強さが得られず，また損傷の機会も多くなるので，現在ではほとんど用いられない。後者は船底外板の一部であって，他の外板より少し厚い板にすぎない。
②河川内で石炭運搬をするような平底船の一種。〔飯島幸人〕

キール［Kiel］ 西ドイツ北部，バルト海に臨む港湾都市。シュレスウィヒ-ホルシュタイン州の主都。人口26万6,000(1974)。湾奥部でも水深200mという天然の良港で，造船をはじめ，車両・機械・化学・繊維などの工業が盛んである。特に造船は盛んで，ドイツ最大のホーバルトベルク造船所は，工員13,500人を擁するという。漁獲高も多く，その水揚げ・取引・加工も活況を呈する。キール運河*は市を経由して北海とバルト海を結び，鉄道・道路・水運の要衝である。ドイツ帝国以来の軍港であったため，第2次世界大戦中，イギリス空軍の爆撃によって市の80％が破壊されたが，戦後まもなく復興し，都市再建の模範とされた。都市計画による近代的な市街は美しく，1665年創立のキール大学や，世界経済研究所をもつ。1918年，停泊中の軍艦の水兵の起こした反乱はドイツ革命の発火点となった。〔野間三郎〕



キール運河　北海とバルト海との水位の変動があるために，キール市側に水門がある

キール(運河)［Kiel］ 西ドイツ北部，ユトランド半島の根もとを横切り，西の北海と東のバルト海のキール湾とを結ぶ運河。長さ約98km。主として軍事上の目的からつくられたもので，1895年に完成し，第1次世界大戦まではカイゼル-ウィルヘルム運河とよばれた。バルト海の沿岸にあるキール港から南西に向かい，レンツブルグを経て，

エルベ川河口のブルンスビュッテルに至る。これによってハンブルク港からユトランド半島を迂回(うかい)することなく,直接バルト海に出られるようになった。〔大石堪山〕

ギルガメシュじょじし【ギルガメシュ叙事詩】 バビロニアの英雄叙事詩。主人公のウルク王ギルガメシュが永遠の生を求めて放浪する物語で,しばしば《オデュッセイア*》に比べられる。ウル第3王朝のシュルギ王時代(紀元前20世紀ごろ)にその原型ができあがったと考えられる。その内容はきわめて多岐にわたるが,アッシュルバニパルの図書館から発掘された紀元前7世紀の粘土板写本では,《旧約聖書》の〈ノアの箱舟〉の物語と似た洪水(こうずい)伝説が書かれている。

キルギス(共和国) [Kirgizskaya S.S.R.] ソビエト連邦を構成する共和国の一。天山山脈中にあり,東は中国新疆(しんきょう)ウイグル自治区,西はウズベク共和国,南はタジク共和国,北はカザフ共和国に接する。面積19万8,000km²。人口329万1,000(1975)。首都フルンゼ。

〈自然・住民〉国土の大部分が山地で,フェルガナ盆地の周辺,イシク湖岸などに狭い平地が見られるにすぎないが,この国土の15%ほどの平地部に人口の70%が集中している。住民はトルコ系のキルギス人(40.5%),ロシア人・ウクライナ人(計37%),ウズベク人(11%),タタール人,ウイグル人,タジク人,カザフ人など。〈産業・経済〉牧畜が盛んで,ヒツジ・ウシ・ヤク・ヤギなどを多く飼い,小がらで耐久力のあるウマが知られる。農業は,灌漑(かんがい)によって河谷・盆地などで小麦・テンサイ・大麻・タバコ・米・ケシ・果実類を栽培している。また養蜂(ようほう)も知られる。鉱工業では,石油・石炭・アンチモン・水銀などを産し,中でも水銀とアンチモンの埋蔵量はソ連第1といわれる。製糖などの食品加工や繊維・金属などの工業が発達している。水力発電も盛んである。〈政治・歴史〉1921年,ロシア連邦共和国内のソビエトトルキスタンの一部となった。のち中央アジアの再編成によって,キルギス自治共和国となり,1936年に現在の体制となった。〔斎藤晨二〕

ギルギット [Gilgit] インド半島の北西部,カシミール地方北部にある町。現在西パキスタンの統治下にある。カラコラム山脈南部の山峡,海抜1,500mのところに位置し,インダス川の支流ギルギット川に臨む。かつては仏教の聖地であったが,現在はカシミールからチトラル・フンザ・ヒンズークシの諸峠へ通じる国道沿いにあることから,戦略上の要地である。

キルクーク [Kirkuk] イラク北部にある同名の州の州都。バグダットの北約300kmに位置する。人口17万5,000人(1965)。イギリス・オランダ・アメリカ・フランスの4か国が共同で経営するイラク石油会社の操業するキルクーク油田の中心地で,ここから地中海岸までパイプラインによって原油を送り出している。なお,パイプラインはレバノンのトリポリ,シリアのバニアス,イスラエルのハイファに至る3ルートがあるが,ハイファ向けは中東戦争のために中断している。〔今井留吉〕

キルケ [Kirke] ギリシア神話の伝説的な島アイアイエに住む,魔術にすぐれた魅惑的な女神。太陽神ヘリオスとオケアノスの娘。オデュッセウス*はトロヤからの帰途,この島に漂着。部下は女神に魔法の酒を飲まされてブタにされるが,ヘルメス神から魔よけの草をもらったオデュッセウスは逆に女神を困らせ,部下をもとの姿にもどさせる。その後1年ともに暮らし,ふたりの間にテレゴノスを得た。



キルケ ティバルディの作とされる《キルケとオデュッセウス》(部分) ボローニャ大学蔵



キルケゴール

ギールケ [Otto Friedrich von Gierke] (1841～1921) ドイツの法学者。ブレスラウ・ハイデルベルク・ベルリン各大学教授を歴任。ドイツに独特の団体法を歴史的・理論的に研究し,その後の法人理論に多くの影響を与えた。その著《ドイツ団体法論》は,今日でも法学研究者の必読文献とされている。

キルケゴール [Sören Aabye Kierkegaard] (1813～1855) デンマークの哲学者。コペンハーゲンの生まれ。父の特異な幼児教育により豊かな想像力,鋭い弁証力を身につけ,異常な家庭環境,不幸な恋愛などを通して宗教体験を深め,そこからたえずわきでる思想をデンマーク文学の範となる文章につづった。敬虔(けいけん)なプロテスタントで,キリスト者となることを生涯(しょうがい)の課題とし,既成教会との戦いのうちに生を終えた。人間存在の本質は時と永遠,無限と有限とがかかわりあう実存にあるとし,これを3段階に分け,ロマン派的審美主義の段階,宗教と倫理とを融和しようとする人格の倫理的段階,ヘーゲル的思弁によってはとらえられない逆説としての神を主張する宗教的段階を説いた。さらに,これらの3段階を通じて人間の自己理解は深まるが,結局は超越者から疎外された罪人としての自覚・絶望に至らざるをえないとし,絶望を越えるには理性ではなく,神の前にひとりで立つ単独者の信仰による飛躍がなければならぬと説く。今日の主要な実存哲学者,特にハイデッガー*・ヤスパース*は彼の思想の洗礼を受けている。主著《あれかこれか》《反復》《不安の概念》《死に至る病》。〔玉井 治〕

ギルダス [Gildas] (516ごろ～570ごろ) イギリスの修道士・歴史家。賢者とあだ名される。イングランド西部の出身で,ブルターニュに修道院を建ててそこで著述し,ローマとアイルランドへ行ったと伝えられる。著書《ブリタニアの破壊と悲嘆について》は中世イギリスの最初の歴史的著作であり,かつ5世紀のアングロ-サクソン人の侵入とその後の歴史に関するほとんど唯一の史料である。この作品はブリトン人の支配者たちにあてて書かれ,ローマ支配下のブリタニアの歴史をしるし,アングロ-サクソン人の侵入による災禍はブリトン人の不正に対する神の罰であるとし,直ちに悔い改めることを説いた暗く希望のない内容である。〔兼岩正夫〕





キルティング
(左)スキーウエア
(右)ポットカバー

キルティング [quilting] 2枚の布地の中間に詰め綿あるいはふくらみのあるし

ん地をはさみ，上から縫って浮き彫りの模様を表わす技法。保温と装飾とを兼ねた材料として古くからジャケット・コート・ガウン・帽子・ベッドカバー・掛けぶとん・クッションなどに手芸的に利用された。近来ミシン模様のキルティング生地が市販され，衣料・寝具などに用いられている。

キルト ［kilt］ スコットランド北部のハイランド地方における男子の民族衣装。縦ひだのあるゆったりとしたスカートふうのもので，現在は軍楽隊の服装として知られている。布地は家がらを表わすタータン*を使用する。

ギルド ［Guild］ 中世ヨーロッパに成立した商工業者の組合。11～12世紀ごろの都市の成立に伴って生まれ，商人組合と手工業者の同職組合(ツンフト)とに分かれる。最初に現われた商人組合は，海外通商を発展させるため，あるいは都市やその周辺の商品販売権を独占するために結成され，都市の有力な勢力となった。同職組合は都市内の同一産業に従事する手工業者が集まってつくられたもので，会員相互の連帯と平等を守り，営業を独占して組合外の人々をその仕事から締め出すことをきめた。そのために生産物の品種や数量，労働人員や労働時間，製品の価格などについて厳重な統制を敷いた。組合員は親方のみに限られていた。それは販路の限られた中世社会で経済の安定に役だったが，その閉鎖性は中世末期にはますますひどくなり，半ば世襲的存在となって，生産の発展を阻害するようになった。 〔兼岩正夫〕

キルドこう 【キルド鋼】 完全に脱酸した鋼塊。鎮静鋼ともいう。鋼塊の種類は，脱酸方式によりキルド鋼・セミキルド鋼・リムド鋼・キャップド鋼などに分類されるが，キルド鋼はこの中で脱酸程度が最もよいもので，炉中においてフェロマンガン・フェロシリコンで溶鋼の脱酸を行ない，さらに取鍋*(とりべ)中でフェロシリコン・アルミニウムで完全に脱酸する。したがって，鋳型の中の凝固進行中にほとんどガスが発生せず，静かに凝固するので均一な材質が得られるが，上部中心に収縮孔ができ，歩どまりがよくない。一般に高級な鋼の製造に用いられ，たとえば高炭素鋼・鍛造用鋼・ボイラー用厚板・合金鋼・工具鋼などはキルド鋼でつくられる。 〔長谷川正義〕

ギルドしゃかいしゅぎ 【ギルド社会主義】 フランスのサンジカリズム*，アメリカの産業組合主義の影響を受け，第1次世界大戦前後にイギリスに生まれた社会主義思想。ギルド*とは中世のギルド組織を模した強力な労働組合・教会・消費者組合などの機能集団を意味する。なお，産業別全国ギルドを組織することによって，産業を国家から切り離し，労働者の自主管理にしていこうとするものである。

キルナ ［Kiruna］ スウェーデン最北部



ギルド　12～13世紀，商業ギルドは最も盛んに活動し，都市の自治権獲得運動の中心となった



キルヒナー　《四阿の緑の婦人》　バイエァー画廊

の都市。人口29,000(1969)。世界最大の鉄鉱床の一つキルナ鉱山を背後にもち，含有量70%という高品位の鉄鉱石(推定埋蔵量10億t)を露天掘りによって採掘し年間500～1000万tの産出高がある。1902年にラップランド鉄道が開通して以来，採掘が盛んになり，都市が拡大された。鉱石は夏季はボスニア湾に臨むルレオ港から輸出されるが，冬季には凍結するためノルウェー北部のナルビクから輸出される。スキー・つりなどで春・夏に観光客が集まる。〔野間三郎〕

ギルバート ［gilbert］ 起磁力または磁位差のC.G.S.電磁単位。1C.G.S.電磁単位の磁気量の点磁荷，あるいは点磁極が2点間を移動して1エルグの仕事をしたときに，2点間の磁位差を1ギルバートという。ギルバートは10/4π(アンペア回数)。

ギルバート(諸島) ［Gilbert］ 中部太平洋の赤道周辺，マーシャル諸島の南東に分布するさんご礁群島。1979年7月，キリバスの国名のもとに独立した。総面積684km²。人口6万。首府はタラワ。原住民はミクロネシア人。タロイモ・ココヤシなどを栽培し，また漁業を営んで中国料理の材料フカのひれを産している。1567年にスペインの探検家A.メンダナが発見し，1764年に探検家ジョン-バイロン(詩人ジョージ-バイロン*の父)が名づけた。1892年からイギリスの保護領で，その後直轄植民地となり，南東にあるエリス諸島とともに統合されていた。第2次世界大戦中の1942年(昭和17)に日本軍が占領したが，1943～1944年アメリカ軍が占領，このときマキン島とタラワ島は激戦地となった。 〔大崎 晃〕

ギルバート ［William Gilbert］ (1540～1603) イギリスの医者・物理学者。磁気学の父といわれる。ケンブリッジ大学に学び，ロンドンで開業医となり，のちエリザベス1世の侍医となった。その生涯(しょうがい)の詳細は不明であるが，航海者であったノーマンの書にヒントを得て磁気を研究し，主著《磁石について》(1600)で地球が巨大な磁石であることを述べ，経験を基礎にする立場から，磁気の性質を体系的に論じた。なお，電気にエレクトリシティーの名をはじめて用いたのはギルバートである。

キルヒナー ［Ernst Ludwig Kirchner］ (1880～1938) ドイツの画家・版画家。表現主義*運動の先駆者として知られる。1905年，ヘッケルやシュミット-ロットルフらとドレスデンに美術団体〈橋派*〉を結成。また，ベルリンの〈嵐(あらし)派〉やミュンヘンの青騎士展にも参加した。限られた色彩と単純化した形態によって都会に生きる人間像を描く。1926年以後の作品には抽象的傾向がうかがえる。版画，特に木版にすぐれ，油彩にもその技法が反映されている。〔岸野悦子〕

キルヒホフ ［Gustav Robert Kirchhoff］ (1824～1887) ドイツの物理学者。ハイデルベルク大学・ベルリン大学教授。電磁気学では定常電流に関する〈キルヒホフの法則*〉を確立し，電磁波・電気振動を調べ，その他数理物理学・流体力学など多方面に活躍した。とりわけスペクトル分析および熱放射に関する研究は有名で放射に関する〈キルヒホフの法則〉は熱放射論の基礎を築いたものである。思想的には記述実証主義の立場をとり，主著《力学講義》はこの立場から力学の反省と批判を試みたものである。

キルヒホフのほうそく 【キルヒホフの法則】 回路網の電圧・電流の分布を決定する重要な法則で，第1・第2の2法則からなる。〈第1法則〉 回路網中のある接続点に流れ込む電流の総和は0に等しい（すなわち，$\sum_n i_n=0$）。 図中の接続点1を例にとってみると，1には矢印で示した向きをもつi_1～i_5が流入し，流出している。1に流れ込む向きを正にとると，第1法則は$i_1+i_2-i_3+i_4-i_5=0$を意味している。もしこれが0でないとすると，接続点1において電流の湧出(ゆうしゅつ)か吸い込みがなければならないが，〈エネルギーの保存則*〉からこれはありえないことを示している。〈第2法則〉 回路網中のある閉回路の各枝路に沿う

起電力*と逆起電力*の総和は0に等しい。図中の閉回路①②③④について考えると，各枝路①～④の中の起電力をV_1～V_4，逆起電力(または電圧降下)をv_1～v_4とすると，$\sum_{n=1}(V_n+v_n)=0$である。もしそうでないとすると，たとえば接続点1から3→4→5→1ともどって，この電圧の和が0にならなければ，接続点1の電位が不足となって不合理である。〔堀内和夫〕

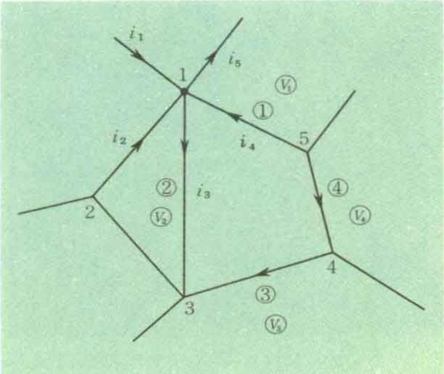
ギルランダイヨ [Domenico Ghirlandaio] (1449～1494) イタリアの画家。初期ルネサンスの代表的なフレスコ画家のひとりで，その工房でミケランジェロ*ら多くのすぐれた画家を育成した。作品は精細な建築描写を背景に，構成と調和するように明確に人物群像を配し，しばしばフィレンツェの市民を描き込む。代表作には《聖フランシスの生涯(しょうがい)》《マリアと洗礼者ヨハネ伝》などがある。

キールン【基隆】台湾北部の港市。人口約35万。旧名鶏籠(けいろう)。1626年にスペインが，1642年にオランダがこの地を占領し，1665～1683年にかけて，鄭(てい)氏がここによった。日本領有時代に築港設備を完成して台湾第1の貿易港として発展し，現在対日交通・貿易の要衝をなすとともに，全島漁獲の60%を集散する大漁港である。

きれじ【切れ痔】⇨痔裂

きれじ【切れ字】連歌・俳諧(はいかい)で，発句が一句として独立した意義と形式を保つために，句中または句末で特別に切れる働きをすることば，たとえば〈古池や蛙(かわず)飛び込む水の音〉の〈や〉のような働きをする動詞・助動詞などで，〈かな〉〈けり〉〈つ〉〈ぬ〉〈ず〉〈らん〉などの語の称。連歌時代から平句と発句とを区別する手段として切れ字を考えていた。《去来抄》によれば，芭蕉(ばしょう)は〈切れ字に用ふる時は四十八字皆切れ字なり。用ひざる時は一字も切れ字なし〉といった。服部土芳(はっとりとほう)の《三冊子(さんぞうし)》でも，形式的に切れ字を加えても付け句と同じ句体で，ほんとうには切れない句もあるし，切れ字がなくても切れる句もあると述べ，形の上だけの切れ字にとらわれるべきでないとしたが，また，〈切れ字なくては発句のすがたにあらず，付け句の体なり〉として，その意義や本質を尊重している。〔中野沙恵〕

キレートかごうぶつ【キレート化合物】2座以上の多座配位子が多座配位してできた錯化合物をキレート化合物あるいは単にキレートといい，多座配位子のことをキレート試薬またはキレート剤という。キレートとは，2座配位子が中心原子に配位した形がカニのはさみに似ているところから，ギリシア語のカニのはさみを意味する語に由来したものである。キレートの応用で重要なものはキレート滴定で，このキレート剤として代表的なものは，EDTA(エチレンジアミン四酢酸)$(HOOCCH_2)_2NCH_2CH_2N(CH_2COOH)_2$で，これは水にとけにくいが，ナトリウム塩は水に可溶で，通常これで標準液を調整する。この試薬は，遷移元素はもちろん，アルカリ土類金属とも安定なキレート化合物をつくる。したがってこれを用いて金属を分析定量することができる。またキレート剤を適当な有機溶媒にとかして，金属イオンを作用させると，そのうちのある金属イオンを有機相中に抽出することができる。キレート剤・溶媒・pHなどを適当に選ぶことによって，金属イオンの混合液から一群の金属イオンだけを選択的に抽出することができ，分離精製することができる。〔鈴木 篁〕



キルヒホフの法則



ギルランダイヨ《ジョバンナ-トルナブオーニ像》1488

キレナイカ [Cirenaica] アフリカ大陸北部，リビア・アラブ共和国の北東部地域。面積85万5,000km²。人口約33万(1960年推)。首都ベンガジはこの地域にある。海岸地域では農業が行なわれ，オリーブ・雑穀・ブドウなどをつくっている。近年，外国資本による石油の開発が盛んに行なわれている。住民の大部分はアラビア人の牧民で，ヒツジ・ラクダ・ヤギ・ウシなどを飼っている。第2次世界大戦まではイタリアの植民地であったが，戦後キレナイカ王国となり，1951年リビア連合王国の成立とともにキレナイカ国王が連合王国の国王となった。〔小栗 宏〕

キレネ [Cirene] アフリカ大陸北部，リビア共和国東部にある地中海岸の町。古代ギリシア時代にギリシアの植民都市として栄えた。その後ローマの属州，エジプト領，ビザンチン帝国領となり，7世紀にアラビア人によって征服されて以来，回教徒の支配が続いた。20世紀にはいってから古代遺跡の発掘が行なわれ，有名な《浴場のビーナス像》をはじめとして古代の文化遺産が多数発見された。

ギレリス [Emil Grigor'evich Gilel's] (1916～) ソ連のピアニスト。生地のオデッサ音楽院でレインゲバルトに，モスクワ音楽院でネイハウスに師事した。1933年全ソ連コンクール第1位，1936年ウィーンコンクール第2位，1938年ブリュッセルコンクール第1位を獲得し，第2次世界大戦後の国際舞台にはなやかに登場した。その精力的な演奏はリヒテル*とともに現代ソ連の代表的なピアニストとしての魅力をもっている。モスクワ音楽院教授。1956年に来日した。〔向坂正久〕

きれんさんみゃく【祁連山脈】チーリエン山脈 中国甘粛省・青海省の境界に横たわる山脈。アルチン山脈の東部をなす断層山脈で，最高峰祁連山は5,925m。前漢の武帝以前，匈奴(きょうど)の盛時にはその勢力がここまで伸びて，重要な根拠地となっていた。断層運動が続き中国のおもな地震帯の一。

きれんじゃく【黄連雀】⇨レンジャク

きろくえいが【記録映画】最も広義には，現実の中に素材を求め，現実を対象として撮影されたフィルムによってつくりあげられる映画をいう。この場合，記録映画の中には，ニュース映画・美術映画・旅行映画なども含まれる。これに対して，ポール-ローサ*は独自の観点から，〈現実的な素材の劇化を行なう映画〉と定義した。そこでは，記録映画は現実的な現象の単なる描写・記述に終わるべきでなく，作者がある独自の態度を保ちながら社会的な現象をとらえ，社会に内在する今日的な問題を明確にし，民衆にそれを強く訴える(プロパガンダする)べきものとされる。したがって，劇化とは問題の明確化のために行なわれる構成を意味し，必ずしも虚構化を意味するものではない。ローサの定義によると，ニュース映画その他は記録映画から除外されるが，しかし一方ではある種の劇映画(たとえば《戦艦ポチョムキン*》など)や国策映画

のようなものが含まれることになる。これではかえって記録映画の性格をあいまいにしかねない。なぜならば，この場合に記録映画は，むしろ作者の態度や方法の問題と考えられるからである。

一般的には記録映画は次のようなものと考えられる。人間や社会にとって意義のある現実的で社会性のある事件や行為を対象とし(この点で美術映画などと異なる)，明確な作家的態度をとる作者によって(この点でニュース映画と異なる)，現実を対象として撮影したフィルムを用いて(この点で劇映画から区別される)つくられる映画である。

歴史的にみると，最初のリュミエール兄弟*の映画はある意味で記録映画的であったが，1920年代に映画の純粋化が叫ばれて，純粋映画*や抽象映画*などのいわゆる前衛映画運動が生じたときに，はじめて意義的な記録映画運動が生じた。そして1930年代の前半，イギリスに興った記録映画運動は，それまでの傾向を集大成したものとして注目され，大きな影響を今日にまで及ぼしている(→イギリス映画)。映画の本質への問いかけが盛んに行なわれるとき，記録映画が大きく問題の中心に浮かび上がるのは，映画が本質的にカメラという機械による対象の記録であるためであろう。1940年代のネオレアリスモ*もある意味で記録映画からの影響の結果であり，1960年代のシネマ-ベリテ*も新しい記録映画の方法と考えられ，劇映画への影響も大きい。　〔浅沼圭司〕

きろくしょうえんけんけいしょ【記録荘園券契所】 記録所ともいう。1069年(延久1)後三条天皇*のとき荘園整理の目的で設置された。券契(証拠書類)が不明であったり，1045年(寛徳2)発令の寛徳の整理令以後新設したり，国務に妨げがある荘園に対して強い決意で整理にあたったため，それまで数回にわたり出された荘園整理令*に比べかなりの成果をあげた。その後1111年(天永2)と1156年(保元1)にも設置され，国司と荘園領主間の紛争を裁いた。また1293年(永仁1)伏見天皇は政治の刷新を図り，その組織と権限を拡大し，さらに建武中興*の際記録所を公家(くげ)政治の中心機関としたが，中興の失敗とともにその実は失われた。→荘園　〔菊池礼子〕

きろくぶんがく【記録文学】 事実の記録的表現に基づく文学。探訪(ルポルタージュ)による報告，探検記・旅行記・従軍記，さらに日記・自伝・生活記録などを含む。記録性(ドキュメンタリー)を最重要視し，虚構(フィクション)に基づく小説などに対してノンフィクションともよばれるが，新聞・雑誌の記事などがノンフィクションであるとしても，記録文学とは直ちにいえない。事実性とともに文学性が要求されるのである。たとえば，ジョン-リード*の《世界をゆるがせた十日間》は，ロシア革命の激動を事実の積み重ねによって描き，小説以上に豊かな感動を誘い，記録文学の傑作として名高い。洋の東西を問わず，文学の歴史において記録文学的な要素は古くからあり，日本でも《蜻蛉(かげろう)日記》《蘭学(らんがく)事始》など，記録に基づき文学性の高い作品がある。しかし記録文学は20世紀において，方法的自覚のもとに文学の重要なジャンルとして確立。リードの作品のほか，エドガー-スノー*の《中国の赤い星》，ジョージ-オーウェル*の《カタロニア讃歌(さんか)》，その他多くの探検記・航海記，さらにジイド*ら小説家の紀行や日記，日本では細井和喜蔵の《女工哀史》，火野葦平*(あしへい)の《麦と兵隊》，大田洋子の《屍(しかばね)の街(まち)》，広津和郎*(かずお)の《松川裁判》，杉浦明平*(すぎうらみんぺい)の《ノリソダ騒動》などがある。〔田島　修〕

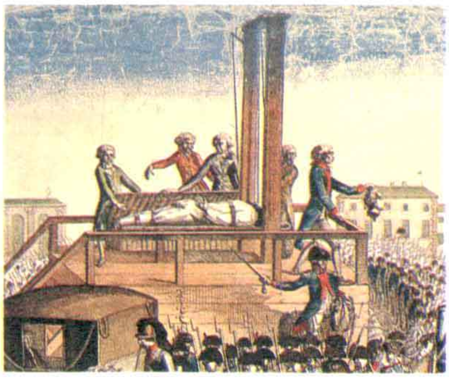
記録映画


《糧なき土地》(ブニュエル監督，1932)スペインの貧困を凝視した前衛作家の作品


《民族の祭典》(リーフェンシュタール監督，1938)ナチス-ドイツのオリンピック映画


《夜と霧》(レネ監督，1955)ナチスの強制収容所の記録をもとに戦争を告発した作品


《東京オリンピック》(市川崑監督，1965)スポーツの記録を独自な映像美に高めた


ギロチン　1793年1月，パリで処刑されたルイ16世　カルナバレ美術館蔵

キログラム [Kilogram] メートル法の質量*(または重量)の単位。国際キログラム原器の質量として定められた基本単位で，純粋の水1lの質量にほぼ等しい。記号kg　補助単位として次のようなものがある。

ミリグラム(mg)……1kgの1,000,000分の1
グラム(g)…………1kgの1,000分の1
トン(t)……………1,000kg

キログラムげんき【キログラム原器】 メートル法国際条約によって定められた質量の単位の基準となるものである(→原器)。度量衡万国中央局に保管されている国際キログラム原器とメートル条約加入国に配布されている各国キログラム原器がある。いずれも白金約90%，イリジウム約10%の合金でできており，高さ・直径がともに39mmの直円筒である。質量の単位は，国際キログラム原器(1879年製)が正確に1kgと定められており，最大密度の水1,000cm³は3.945℃において0.999972kgである。日本のキログラム原器は1885年製のNo.6，1.000000169kgで，通商産業省工業技術院中央計量検定所に保管されている。　〔今淳治郎〕

キログラムじゅう【キログラム重】 ⇨重力

ギロチン [guillotine] フランス革命時代に盛んに使用された処刑道具。ルイ16世のほか，恐怖政治の下でマリー-アントワネットら，さらにテルミドールの反動でロベスピエールもこれで処刑された。2本の柱の間に刃が落ちてきて，下に横たわる死刑囚の首を断つ。この名の由来については，

ギヨタンという医者が発明したためとも，1789年の国民議会でその使用を彼が提案したためとも伝えられている。

キーロフ ［Kirov］ ソビエト連邦，ヨーロッパ-ロシア北部の同名州の州都。1934年まではビヤトカとよばれた。ボルガ川支流のビヤトカ川に臨む。人口137万1,000(1975)。機械・金属加工・木材・皮革・マッチ・食品などの工業が興り，鉄道・道路の要地である。12世紀ロシア人の移住地として興った都市で，17～18世紀にはロシア～シベリア交易の中心として栄えた。

キロメートル ⇨メートル

キロワットじ ［キロワット時］ ⇨電力

きわた ［木綿］ 双子葉植物・パンヤ科の落葉高木。インド・マレーシア・タイ・台湾原産。高さは25mほどになる。樹皮は灰かっ色で幹にとげがある。葉は掌状複葉。1～2月，赤ないし紅色または白色の花を枝端に群生する。果実は長楕円(ちょうだえん)形でパンヤノキ*に似る。綿がとれるが，経費がかかるためパンヤノキほど栽培されていない。

きわだまぐろ ［黄肌鮪］ ⇨キハダマグロ

ぎわだんのらん ［義和団の乱］ 中国で，清(しん)末に起こった排外運動。義和団事変・北清事変ともいう。義和団は義和拳教(けんきょう)を信ずる白蓮教*(びゃくれんきょう)系の秘密結社で，排外・反キリスト教を目標とし，義和団の乱の中心となった。1898年から1900年にかけ，華北諸省から満州の一部へ波及した義和団の運動は，清朝政府の中の保守的な皇族・官僚の保護を受け，キリスト教徒や宣教師を殺害し，教会を焼き，鉄道・電線を破壊したが，1900年6月から8月にかけて，北京(ペキン)の列国大公使館区域を包囲攻撃した。ふつう，この北京を包囲攻撃した事変をいう。日本・イギリス・アメリカ・ロシア・フランス・ドイツ・イタリア・オーストリアの8か国は連合軍を組織して，公使館などを救った。西太后と光緒帝(こうちょてい)は西安に逃げ，李鴻章*(りこうしょう)らが和平交渉にあたり，1901年，首謀者の処罰，列国の華北駐兵権，賠償金4億5,000万テールなどを決めた北京議定書が調印された。この事変を機に清国の保守主義は破れ，清朝の権威は失墜し，辛亥(しんがい)革命*による共和制への道を開いた。また，ロシアがこのときに満州を占領したことは，日露戦争の原因となった。 〔衣川 強〕

きわめつきばんずいちょうべえ ［極付幡随長兵衛］ 歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《湯殿の長兵衛》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1881年(明治14)東京春木座初演。侠客(きょうかく)幡随院長兵衛*(脚本では幡随長兵衛)の事跡を実録ふうに脚色した世話物*で，旗本(はたもと)水野十郎左衛門の恨みを買った長兵衛が，水野邸の湯殿で壮烈な最期を遂げるまでを描いている。

きわり ［木割］ 日本建築の設計寸法にみられる一定の比例関係。この比例関係に基づいて設計する方法を木割術または木割といい，中世では木砕(きくだき)ともいった。日本建築の設計では，建物の用途や規模に応じて，構成部材の組み合わせ方(構造形式)，部材の配置寸法(たとえば柱間寸法)，部材それ自身の大きさを決めることが設計の要点となるが，構造形式が定まると，自由に設計しているようでも，一定の標準が生まれてくる。この標準を，部材寸法の比例関係として意識的に整理したものが木割である。このような標準は古代初めの建築からすでにあったが，古代では，あくまで設計のめやすとされ，これに縛られずに自由に，すぐれた造形感覚を発揮して設計がなされた。中世にはいって，建築を設計する各匠家では，設計能力を維持するため，木割による設計術を体系化し，基準寸法の定め方や各部分の比例関係を細かく厳密に決めるようになり，中世末にほぼ完成に達した。しかし木割術の完成は，どの建築もみな機械的に寸法が割り出されて，設計の個性が失われ，近世建築の造形意匠を低下させる原因となった。 〔渡辺保忠〕



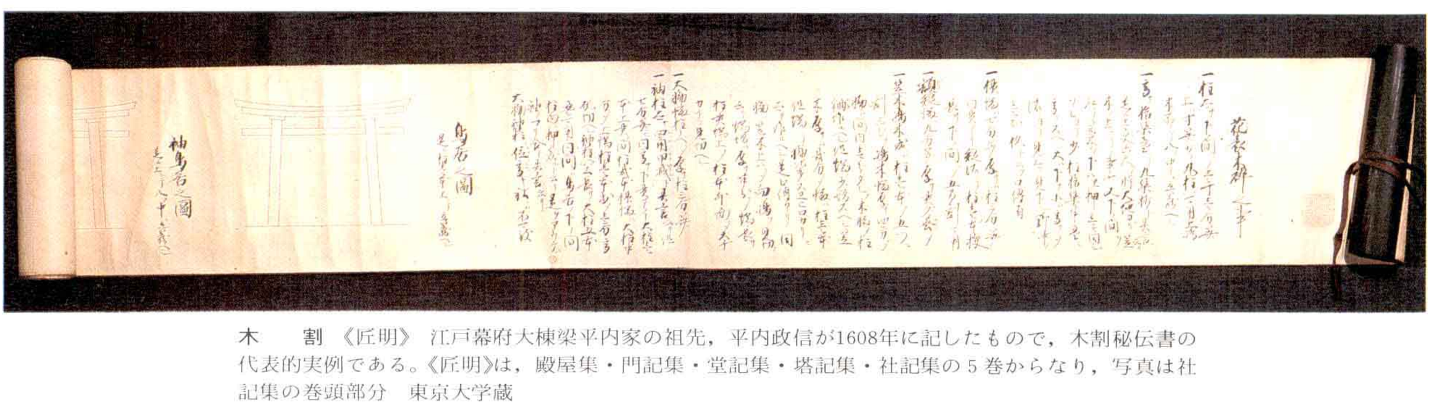
義和団の乱 西洋人を排斥し，洋書を燃やしているところ

きん ［琴］ ⇨チン

きん ［金］ 周期律表第I族に属する金属元素。記号Au，原子番号79，原子量196.967。

［性質］ 融点1,063℃，沸点2,710℃，比重19.3(20℃)。硬度2.5～3で展性・延性に富み，0.1μの厚さの箔(はく)にすることができ，1gの金を針金にすると3km以上にも延ばすことができる。黄金色の美麗な光沢をもち，イオン化傾向*が非常に小さく化学的に安定で，高温に加熱しても酸化しない。硫酸・塩酸・硝酸などの酸に対して抵抗力が強く，溶解しないが，王水*や酸素の存在でシアン化アルカリ溶液には溶解する。

［産状・製錬］ 金はおもにシゼンキン*として，セキエイ脈中に存在し，鉱脈状の山金と，この風化作用などによって生じた砂金とがある。このほか，オウテッ鉱*・オウドウ鉱*などの硫化鉱中に含まれていることもある。また，ケイ酸質の金銀鉱は，銅・鉛などの乾式製錬に融剤として使用されるので，これらの製錬の際の副産物として回収されることが多い(乾式法)。金・銀*のみを得る製錬方法は，鉱石の種類によって異なるが，主として混汞(こんこう)法・シアン化法により，また，補助として比重選鉱法・浮遊選鉱法*を用い，これらを併用する場合が多い。①混汞法：鉱石を水中で粉砕して鉱泥(こうでい)とし，それに水銀を入れて激しく攪拌(かくはん)して，金・銀と水銀のアマルガム*とし，レトルト中で蒸留して水銀を分離し，残留物を溶融して粗金銀をつくる。②シアン化法：前記の鉱泥をシアン化液中で長時間攪拌して，空気と接触させながら金・銀を溶解させ，濾過(ろか)・清浄にした貴液(金銀液)に亜鉛末を加えて金・銀を沈殿させる。この沈殿物を，次に記す精製工



木　割《匠明》 江戸幕府大棟梁平内家の祖先，平内政信が1608年に記したもので，木割秘伝書の代表的実例である。《匠明》は，殿屋集・門記集・堂記集・塔記集・社記集の5巻からなり，写真は社記集の巻頭部分　東京大学蔵

程を経て精金とする。なお，前記の銅・鉛の製錬工程からの陽極泥は分銀工程で粗金銀とし，さらに銀電解で銀を分離して粗金が得られる。③精製：粗金を鋳造して陽極とし，塩酸酸性塩化金溶液を電解液として電解すると，金は陰極の純金板上に析出する。これを溶融して電気型金を得る。ウォールウイル法ともよばれる。

〔生産〕自由世界の金生産量は，南アフリカ共和国が約70％を占め，残りは十数か国から産出されるが，供給不足で共産圏から輸入している。国際金相場の大波乱により，中東諸国・インドネシアなどの公的機関の売買・民間の私的保有金も急増するなど，その需給関係の推移も激動している。日本では新産金・再生金・回収金を含めても急激に増加している需要には不足で，相当量(1978年99 t)を輸入し，供給は1979年には193 tに達した。

自由世界の金生産量推移　(単位 t)

国名＼年度	1978	1979	1980
南アフリカ	706.4	703.3	675.0
カナダ	54.0	51.1	49.3
日本	41.9	40.0	36.8
ブラジル	22.0	25.0	35.0
アメリカ	30.2	30.2	27.6
フィリピン	20.2	19.1	22.0
オーストラリア	20.1	18.6	17.3
その他	83.5	74.6	80.0
自由世界計	979.2	961.3	943.0
共産圏より輸入	410.	199.	90.
合計	1 389.	1 160.	1 033.

注）共産圏は統計を公表しない
鉱山　1981年8月

〔用途〕自由世界の金需要は私的保有を除いて，宝飾・電子機器・歯科医療・勲章記章・貨幣などに区分されるが，金価格の暴騰・暴落により宝飾関係の実需は変動が激しく，また，加工部門に対する影響も甚大である。近年，その安定性，高信頼性のためトランジスター・IC・LSIなどの電子工業用が非常に増加している。その他陶磁器・時計・万年筆・宇宙産業用・めっき用などに使用される。純金のままでは柔らかすぎるので，銀・銅・亜鉛・ニッケル・パラジウムなどとの合金として用いる。合金元素によって銀は黄白色・緑色，銅は赤色，白金とニッケルは白色にする傾向がある。合金としての純度はカラット(K)で表わす。純金を24Kとし18Kといえば金分18，他の金属分6を含む75重量％金合金をいう。

〔貨幣としての金〕貨幣として金が用いられるようになった理由は，①その産出が希少であり，②耐久性や審美性に富み，価値保蔵手段としてすぐれているからである。しかし，小額取引用の交換手段としては多量に産出される銀のほうがすぐれている。人類の金に対する愛好は古代からのもので，現在も金の民間需要は非常に根強い。その理由は，世界的なインフレーションとドル・ポンドの弱化，国際緊張などによる金投機と，産業用金需要の増大によるものである。良鉱の減少，人件費の上昇などによる金生産費の上昇もあって，金価格は長期的には上昇しているが，短期的には上下の騰落が激しい。1934年から1971年まで金の公定価格は，1トロイオンス(31.1035g)＝35ドルに据え置かれたが，ロンドンなどの金の自由市場では，1960年ごろから金投機が起こり，自由金相場は上昇したが，1968年3月には金の二重価格制度(公定価格と金の自由価格相場の二本立ての公認)が採用され，さらに1971年にはアメリカの金交換停止と1オンス＝38ドルへの金価格の引き上げ(1973年には42.22ドルへ引き上げ)が行なわれた。その後1976年のIMF規約改正で公定価格が廃止され，IMFとアメリカの公的金の放出が行なわれたが，インフレーションと国際情勢の悪化で，それも中止され，1980年1月にはアフガン問題を契機として，金価格は1オンス850ドルまで暴騰したが，1981年には400〜500ドルまで下がった。



キーン
オセロを演ずるキーン

きん【斤】尺貫法の重さの単位。160匁つまり600gにあたる。古来，はかるべき品目によって，1斤の目方がまちまちであり，120匁・160匁・180匁・200匁などのものがあったが，1951年(昭和26)から160匁に統一された。現在では，特殊な場合を除いて用いられていない。

きん【金】

1 中国，女真族の王朝(1115〜1234)。東北地方と北部中国を領有。女真族完顔(ワンヤン)部の部長阿骨打*(アクダ)は，ハルビン付近を根拠地として契丹*(きったん)の支配から独立し，宋(そう)と結んでしだいに契丹を侵略したが，その子太宗に至ってこれを滅ぼした(1125)。次いで宋とも戦端を開き，1127年国都汴京(べんけい)(開封)をおとしいれ，江南に追いやった(靖康(せいこう)の変)。1142年宋と講和し，淮水(わいすい)以北を領有，絹・銀などの歳幣を受け，貿易を活発に行ない，しだいに中国的国家へ変貌(へんぼう)した。第4代海陵王は，1153年国都をハルビン付近の会寧府から燕京(えんけい)(いまの北京(ペキン))に移し，中国化を進めるとともに全国統一をめざして宋と開戦した。海陵王の失敗のあと世宗は民族主義の維持を図り，次の章宗時代とともに小康を保った。しかし，従属契丹人の反抗，女真人の漢化による奢侈(しゃし)と軟弱化，経済的基盤の脆弱(ぜいじゃく)性などがしだいに表面に現われ，第7代衛紹王以後はモンゴルの侵入を受けて衰亡に向かった。1214年国都を開封に移したが，まもなくモンゴルと宋に挟撃(きょうげき)されて哀帝は自殺し，金は滅びた。開国以来，兵農一致体制である猛安謀克(もうあんぼうこく)制*によって女真族を組織し，また女真文字を制定して民族主義を鼓舞し，かなりの成功を収めた。熙宗(きそう)や章宗は漢文化摂取に努め，書画の王庭筠(おうていいん)や文学の元好問らが知られる。仏教も流布し，各地に仏塔が建てられた。〔梅原　郁〕

2(元末) ➔大金国

キーン［Edmand Kean］(1787〜1833) 19世紀前半に活躍したイギリスの代表的舞台俳優。なぞに包まれた幼年時代を送り，旅回りの役者から，1814年ロンドンで《ベニスの商人》のシャイロックを演じて一躍名をなした。エキセントリックな人がらと情熱的な演技が特徴で，シェークスピア劇の悪役イアゴー・マクベス・リチャード3世などをやらせたら右に出る者はなかったという。その波乱に富んだ生涯(しょうがい)は映画化・戯曲化されている。

ぎん【銀】周期律表第Ⅰ族に属する金属元素。記号Ag，原子番号47，原子量107.810。

〔性質〕銀白色，光沢のある金属。面心立方格子(こうし)の結晶。融点960.5℃，沸点1,980℃，比重10.49(20℃)。展性・延性は金に次ぎ，熱および電気の伝導率は金属中で最大。水素・窒素・炭素とは高温でも反応せず，酸素中で加熱しても直接酸化しない。オゾンにより黒色の過酸化銀Ag_2O_2をつくる。ハロゲン・イオウとは親和力が強く，硫化水素には常温でも侵されて黒色の硫化銀Ag_2Sをつくる。塩酸のような非酸化性の酸には溶解しないが，硝酸や熱濃硫酸には溶解して，硝酸銀$AgNO_3$や硫酸銀Ag_2SO_4を生成する。水酸化アルカリには不溶であるが，酸素とともに溶解すると水酸化ナトリウムに溶解する。原子価は＋1価が普通だが，＋2価も知られている。

〔産状・製錬〕天然にシゼンギンとして産出するが，一般には硫化物として産し，特に重要な鉱物はキギン鉱Ag_2Sである。ほかにノウユウギン鉱Ag_3SbS_3・タンコウギン鉱Ag_3AsS_3・カクギン鉱$AgCl$などがある。また，ホウエン鉱・キドウ鉱・センアエン鉱*などの鉛・銅・亜鉛の硫化鉱の中に多量に産出することがある。一般に銀は金と共存して産出することが多く金とともに処理される。製錬法も金と同じく，シアン化法・乾式法などがある。①シアン化法：シ

アン化ナトリウム水溶液中に鉱粒を入れ，空気を吹き込みながら攪拌して，金・銀を溶解し，濾過・清浄にした液に亜鉛末を加えて金・銀を沈殿させ，これを鋳造して粗金銀とする。②乾式法：銅・鉛製錬の副産物として生産する方法で，粗銅・粗鉛中の金・銀は電解精練工程で，陽極泥として沈殿し，さらに分銀で粗金銀とする。シアン化法による粗銀とともにこれを陽極とし，微酸性硝酸銀溶液を電解液として電解すると，陰極(ステンレス鋼板)に銀は樹枝状に析出し，鋳造して電気銀とする。陽極中の金は沈殿となるのでさらに金電解で回収される。

〔生産〕自由世界の銀需要は1978年には約２万ｔに達したが，新産銀は8,000ｔ台で大幅な供給不足で，輸入・廃貨・回収・私的保有銀などの二次的供給源から補われている。

国際銀相場の暴騰・暴落の大波乱により，需給関係の変動も激しい。主産地はメキシコ・ペルー・日本・カナダ・アメリカなどである。日本での生産は再生銀を含めて，ここ数年，1,300t前後であるが，急激に伸びている工業用消費の増加には供給不足で，需要の約30％を輸入に頼っている。

自由世界の銀生産量　単位ｔ

国名＼年度	1978	1979	1980
メキシコ	1 580.0	1 670.2	1 601.8
ペルー	1 150.8	1 331.2	1 259.7
日本	1 206.3	1 216.3	1 176.6
カナダ	1 250.3	1 147.7	1 035.7
アメリカ	1 225.5	1 185.0	964.2
オーストラリア	774.5	827.3	855.3
その他中南米	724.7	637.6	637.6
その他	439.0	382.4	400.3
自由世界合計	8 351.1	8 397.7	7 931.2

注）共産圏は統計を公表しない　　1981年８月

〔用途〕金と並んで古くから装身具・美術工芸品・貨幣・食器・歯科材料などとして利用されてきた。近年は，写真の感光材料(硝酸銀)としての消費が過半を占め，また，電気・熱の良導体・耐食性などの特性からトランジスター・IC・LSIなどの電子工業用・接点(銀・銅・パラジウム合金)・銀ろう(銀・銅・亜鉛合金)などの工業用消費が著しく増加しているが，国際銀相場の大波乱による変動が激しいので，実需の変動も大きく，省銀化も進められている。
〔藤瀬直正・古屋弘〕

➔銀貨

ぎんい　【銀緯】　⇨銀河座標

ぎんいちもんじせせり　【銀一文字挵蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科。翅(はね)を広げた長さは32mm内外。翅の表面は一様に光沢のある黒色だが，裏面は前翅ではかっ色で前縁・外縁は暗黄色，後翅では暗黄色で中央に全翅を貫いて翅端に達する銀白色の一帯がある。日本全土・朝鮮・中国・台湾などに分布する。成虫はススキの原を弱々しく飛翔(ひしょう)し，湿地や花上に訪れる。卵はススキの若葉に１個ずつ産みつけられ，幼虫は葉を長く筒状に巻いて中に潜んで摂食する。

きんいろ・ぎんいろ　【金色・銀色】　色名。金色は金のような色。金属的な光沢のある，やや赤みのある黄色。こがね色・山吹色・金色(きんしょく)ともいう。銀色は銀のような色。金属的な光沢のある明るい灰色。しろがね色・銀色(ぎんしょく)ともいう。いわゆる金*・銀などの金属の色は，その固有の色相とともに金属的な強い光沢を伴う。しかし，色相としてとらえるには，その光沢は度外視したほうがよい。この観点からの金色は比較的彩度の低い，やや赤みのある黄色，銀色は明るい灰色と考えてよいであろう。金色・銀色は日本工業規格(JIS)慣用色名ではあるが，ともに三属性による表示の規定はない。〔武井邦彦〕

きんいんちょくしょ　【金印勅書】　〈黄金文書〉ともいう。1356年，神聖ローマ皇帝カール４世*が発布した勅令で，使用された印鑑が黄金製なのでこの名がある。ドイツでは大空位時代*(1254～1273)のあと，大諸侯の勢力が強化されていたが，特に７人の有力諸侯が強力な王室による統治をきらって権力の弱い候補者を王に選ぶ習慣になっていた。金印勅書は彼ら選帝侯*の地位と特権を確認し，皇帝の選挙に関する規定などを定めたもので，その結果，王権はますます低下し，ドイツの分裂は決定的なものとなった。➔領邦国家　〔松　俊夫〕

きんうんも　【金雲母】　⇨雲母

きんえん　【筋炎】　一般に随意筋の炎症をいい，わが国では欧米に比して多く，若年者に特に多いといわれる。急性化膿(かのう)性筋炎が大部分を占め，これはブドウ状球菌によるものが多く，腸腰筋が好発部位とされている。以前筋肉リウマチといわれていた腰痛・頸部痛(けいぶつう)・肩甲部痛では，筋肉内にかたいしこりや圧痛のある場所があり，最近は結合織炎*とよばれている。特殊なものとして筋肉内に化骨がみられる化骨性筋炎がある。まれではあるが，結核や梅毒による筋炎もみられる。〔三島好雄〕

きんか　【金貨】　金を素材とする貨幣*。金貨は高額取引には適している。古代ギリシアでは金と銀の合金(➔自然金)でつくったエレクトロン貨幣のほかはおもに銀貨*が用いられ，金貨の使用はヘレニズム時代・帝政ローマ時代になってからである。その後のものではビザンチンのソリドウス金貨，フィレンツェのフローリン金貨が有名であり，また近代では金本位制度*をとったイギリスのソボリン金貨がある。わが国では古代にはあまり用いられず，鋳造貨幣になったのは豊臣秀吉(とよとみひでよし)の天正大判・小判，徳川家康(いえやす)の慶長金銀*以後であった。明治時代には金本位制度の採用によって，20円・10円・５円などの金貨が鋳造された。➔金　〔速水　保〕

きんか　【金華】　チンホワ　中国，浙江(せっこう)省中部の都市。杭州(こうしゅう)の南西約100km，銭塘江(せんとうこう)の支流金華江に臨む。水陸交通の要衝で，金華江の水運と浙灨(せっかん)鉄道(杭州～株州)によって，杭州をはじめ江西・湖南両省方面と連絡することができる。付近一帯に産する米・サトウキビ・茶・ナツメ・ハム・紙や，国内の９割を産するホタル石などを集散する。北方10kmの金華山は石灰岩よりなる景勝地で，鍾乳洞(しょうにゅうどう)もある。〔船越昭生〕

ぎんか　【銀貨】　銀を素材とする貨幣。銀は金より多量に産出されるが，耐久性において金に劣る。古代ギリシアではアテナイのドラクマ銀貨，古代ローマではデナリウス銀貨などがあり，中世にもおもに銀貨が用いられていた。しかし，新大陸の発見によって銀の産出量が急増したため，銀の価値は下落して銀貨は補助貨幣*になった。東洋では銀の産出が比較的少ないためその価値は高く，小額取引には用いられず，銀貨はあまり鋳造されなかった。わが国では慶長金銀*以来，丁銀・豆板銀がつくられた。明治時代の金本位制度の採用以後は，銀貨は補助貨幣として用いられ，１円・50銭・20銭・10銭などがつくられた。第２次世界大戦後に100円銀貨が鋳造されたことがあるが，それも廃止され，現在では白銅貨に変わっている。➔銀本位制度　〔速水　保〕

ぎんが　【銀河】　いて座から，わし・はくちょう・カシオペア・ペルセウス・いっかくじゅう・ほ・みなみじゅうじ・ケンタウルス・さそりの諸星座を通る大円に沿って，天球を帯状に取り巻いている淡くぼんやり光った領域。天の川ともいう。肉眼では淡い光の帯のように見えるが，望遠鏡で見ると無数の恒星の集まりであることがわかる。恒星が銀河に密集して見えるのは，多くの恒星が扁平(へんぺい)な円板上に集まり，われわれの太陽系もその円板の中にあたるためである。➔天の川　➔銀河系
〔磯部琇三〕

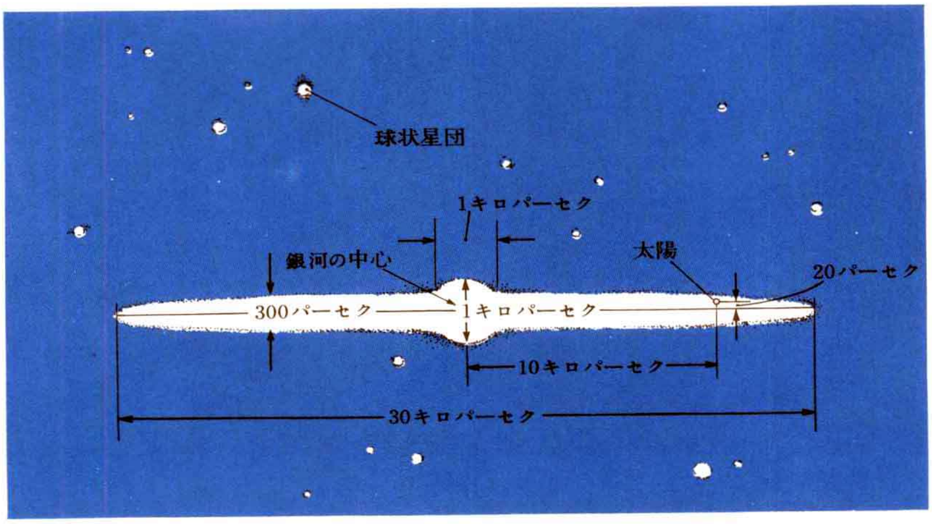
きんかいきん　【金解禁】　金輸出の禁止を解禁すること。金輸出の禁止とは，金本位制度*が完全に働くための一つの重要な条件である金の輸出の自由を禁止することで，金本位制の停止にほかならない。そしてその解禁は，金本位制の停止を解除して，金本位制に復帰することである。金本位制は貨幣単位と金の一定量との等価関係を維持するために，金貨の鋳造の自由，溶解の自由を認め，かつ金の輸出入の自由を認めていた。したがって，金本位制をとる２国間の為替(かわせ)相場は金平価(➔為替平価)を中心に安定した。それは，国際収支が赤字となると為替相場が下落するが，ある限度まで下がると中央銀行から公定の相場で買い入れた金を輸送して相手国に送り，その

国の中央銀行で通貨に替えて支払うほうが有利になるからである。しかし,中央銀行の金保有高が減少してくると,無制限に金兌換(きんだかん)に応じてこれを自由に外国に輸出することが不可能になる。そこで,やむをえず金輸出を禁止する。その結果,為替相場の下落には限度がなくなり,中央銀行が外国為替市場の取引に介入し,外貨を売買して為替相場を一定に維持するとか,進んでは為替管理・貿易統制をとることになる。

金輸出の禁止を解除し,金本位制に復帰するには,まず相当額の金準備を蓄積することが必要である。また,有力な外国の中央銀行などから緊急時における借り入れの便宜の約束を取り付けることも必要である。それにもまして重要なのは,為替相場の基準である金平価が,その経済力に相応で国際収支の均衡の維持が困難でないということである。そこで,金本位制停止前の旧平価にもどって解禁するのがよいか,現実の推移に適合した新平価によって解禁するのがよいかという選択が必要になる。多くの場合,旧平価解禁は国内的にはデフレーション政策が必要であり,失業その他の犠牲が大きいことが指摘される。〔小泉　明〕

第1次世界大戦中,金本位制は世界的に停止されたが,戦後列国はあいついで金解禁を行ない,金本位制に復帰した。しかし,わが国は経済界が不安定であったため,その実施に踏み切ることができなかった。1929年(昭和4)成立した浜口内閣は蔵相井上準之助のもとに,緊縮財政・産業合理化を進め,政綱の一つに金解禁を掲げて,当時不況に悩んでいた日本経済を一挙に立て直そうとした。金融引き締めによって日本の為替相場が金平価に近づき,国際収支が好転したのを契機として,政府は同年11月金輸出解禁令を公布し,翌1930年1月11日をもって金解禁を断行した。しかし,日本経済の体質を過信して旧平価で金解禁を行なったことや,おりからの世界恐慌の影響などに原因されて,解禁後期待されたような輸出増進はみられず,かえって多額の正貨流出が始まった。さらに,列国の金輸出再禁止や1931年の満州事変の勃発(ぼっぱつ)から,わが国においても再禁止が必至であるという予測からドル買い(→ドル買い事件)が盛んに行なわれるようになり,金本位制の維持は困難となり,金解禁は完全に失敗に終わった。1931年12月犬養(いぬかい)内閣は組閣後直ちに金輸出を禁止した。〔高崎徳次〕

きんかいわかしゅう　【金槐和歌集】　源実朝(さねとも)の家集。《鎌倉右大臣家集》ともいう。〈金〉は鎌倉の鎌の偏,〈槐〉は槐門(大臣の異称)の略。伝本により異なるが歌数は700首前後で,四季・恋・雑の順序に分類されている。実朝は,藤原定家の指導のもとに新古今調の歌もかなりよんでいるが,彼の歌の特色は万葉調のよみぶりにあり,それらは雑の部の歌に多く見いだされる。



銀 河 系

きんかかく　【金価格】　1934年にアメリカは金の買い上げ価格を1トロイオンス(31.1035g)=35ドルと定め,それ以来この公定価格はくぎづけされている。アメリカが各国の中央銀行にこの価格で金を売却することにより,またロンドンを中心とする金市場の自由価格が騰貴すると金プール協定を通じて1トロイオンス=35ドルの価格で金を売却することによって,金の公定価格と自由市場価格が一致するように努めてきた。しかし,ドル不安によって起こった1967年11月以後の金投機の結果,1968年3月アメリカをはじめとする各国中央銀行は自由市場との間の金の売買を停止し,金の公定価格と自由市場価格は関係がなくなり,いわゆる金の二重価格制がとられるようになった。〔小泉　明〕

きんかく　【金閣】　⇨鹿苑(ろくおん)寺

きんかく　【筋覚】　筋肉覚ともいう。われわれは視覚を用いなくても四肢(しし)の運動の方向や程度,つまりその位置を知り,また,他動的運動も感ずることができる。これは体内深部にある受容器によるのであり,これを筋肉による感覚と考え,1826年ベルが筋覚とよんだ。その後,筋にくる神経束には運動と感覚の両種の繊維があることがわかり,また筋肉内の末梢(まっしょう)受容器を筋紡錘体というようになった。これは目と内耳を除き最も高度に発達した受容器である。〔平野修助〕

ぎんかく　【銀閣】　⇨慈照寺

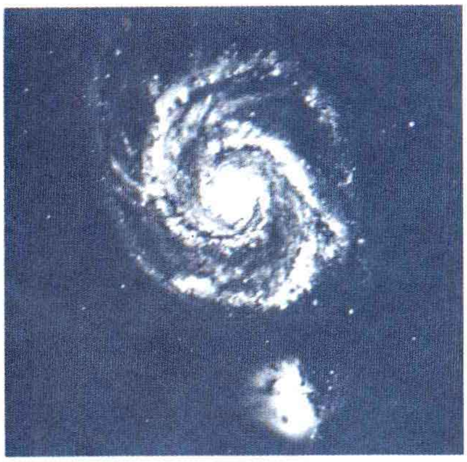
きんかくびょう　【菌核病】　子嚢(しのう)菌によって起こる作物の病気。アブラナ・ダイズ・クワ・タバコなどが本病にかかって枯死すると,組織の表面または内部にかっ色ないし黒色のネズミ糞(ふん)状の菌核が見られる。これは病原菌の菌糸が密にからみ合ったもので,越年器官として役だつ。アブラナの最も恐ろしい病気で,主として茎に発生し,病斑(びょうはん)は不正形でかっ色ないし灰白色となり,組織は腐敗し,裂ける。茎は空洞(くうどう)化し,密生した白色の綿毛状菌糸の間に大きな黒色菌核が多数点在する。菌核が地表に落ちて越冬し,翌年発芽すると,子嚢盤といわれる小さなきのこを生じ,これから子嚢胞子が飛散して本病が蔓延(まんえん)する。菌核は地表では2年間は生存するが,湿地または地下10cm以上深いところでは,翌春までには死滅するものが多い。菌糸は種子中で1年以上生存する。防除法は,連作を避けて3年以上の輪作とし,種子中に混在する菌核を除くこと,また,例年発病する時期のおよそ10日まえから石灰イオウ合剤・銅製剤などを茎や土壌(どじょう)表面に2～3回散布する。〔渡辺　実〕

きんかくほんいせいど　【金核本位制度】　金や金為替(きんかわせ)を中央銀行に集中し,国内通貨としては金貨以外の鋳貨や銀行券などの流通のみを許す制度。このうち,1925年にイギリスが金本位制に復帰したときのように,金地金を中央銀行に集中し,中央銀行は金地金の売買に応ずるだけで金貨への兌換(だかん)は行なわないものを金地金本位制度という。ほかに金為替本位制度がある。➔金本位制度

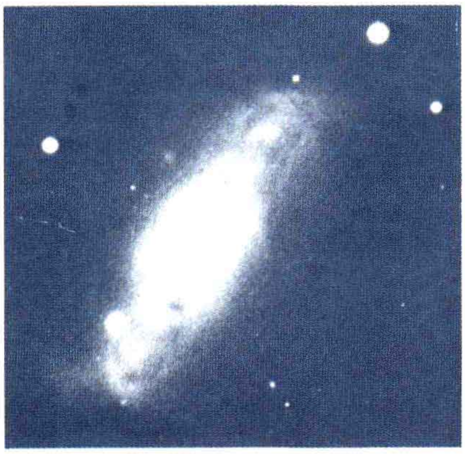
ぎんがけい　【銀河系】　われわれの見る天の川を構成している恒星の集団。太陽系に属している小宇宙を形成している。われわれのまわりの恒星が凸(とつ)レンズ状に分布していることは,すでに18世紀カントによって,暗い星ほど銀河面に集中して見えることから推論されていたが,銀河系の構造について最初に科学的な研究をしたのはハーシェルである。彼は天球上に約1,000か所の観測点を選び,望遠鏡の視野内にある星の数を等級別に数えて,恒星の分布を調べた。その後恒星の物理的性質や運動の研究が進歩し,電波による星間ガスの観測が成功して,今日では銀河系のようすがかなり詳しくわかるようになった。銀河系を構成しているおもな天体は,球状星団・散



楕円星雲(アンドロメダ座 NGC205)



渦状星雲(りょうけん座 M51)



棒渦状星雲(かみのけ座 NGC4314)



不規則星雲(りょうけん座 NGC4244)

銀河系外星雲

開星団*，星団に属さない恒星，星間ガス*・星間塵(せいかんじん)などで，この間をγ線から電波に至るすべての波長の電磁波*や宇宙線*が飛びかっている。銀河系の形は扁平(へんぺい)な円板状で，大部分の恒星と星間物質は銀河面に集中し，円板の直径は約10万光年，中心部の厚みは約15,000光年である。太陽は銀河の中心から約30,000光年離れ，銀河面より50光年くらい北側に位置し，われわれから見ると銀河の中心はいて座の方向にあたる。恒星やガスの密度は銀河面から離れるにつれて減少し，銀河面付近の密度の2分の1になる距離は恒星の場合で約1,000光年，ガスや星間塵の場合は集中度が強く300光年くらいである。銀河系の円板部を大きく取り囲む直径約15万光年の球状の空間を銀河系コロナ*とよび，希薄なガスで満たされ，球状星団はこの領域に分布している。

銀河面内に存在する星間塵は遠くの天体の光を3,000光年あたり約1等級弱める。このため，最も明るい星でも銀河面に沿って10,000光年以上の距離にある場合には，その光を詳しく分析することはできない。しかし，星間塵は銀河面近傍にしか存在しないので，銀河面から離れた方向では十分な距離まで観測できる。銀河系外星雲*が銀河面から離れた方向で多く観測されるのはこのためである。銀河系は全体として回転運動を行なっており，太陽近傍における回転速度は約250km/秒で，銀河系の中心を一回りするのに約25億年かかる。中心から3,000光年あたりまでは剛体のような角速度一定の回転運動をしているが，それより外側にいくほど回転角速度は減少する。この回転速度からニュートンの運動の法則を用いて銀河系全体の質量を求めると，太陽質量の2,000億倍という値が得られる。また中性水素の放つ線スペクトル(波長21cm)の観測から星間ガスの密度分布を求めると，円板部においてはうずまき状に分布し，太陽はその腕の一つの縁に位置していることがわかった。年齢の若い散開星団*，O型星・B型星や電離水素領域も，中性水素ガスの腕にあたる所に分布しているが，晩期型の星や年齢の古い球状星団はうずまき状の分布を示さない。銀河系の星には種族Ⅰと種族Ⅱの星が含まれている。種族Ⅱの星は，銀河系が他の小宇宙と分離したころ，つまり大部分が水素原子よりなるガスが楕円(だえん)体状に集まって回転速度もあまり大きくなかった時代に生まれ，球状星団と同じような空間分布をしていると考えられる。このため種族Ⅱの星で現在たまたま銀河面の近くにあるものは，円板状に集まって銀河回転をしている種族Ⅰの星に対する相対速度が大きく，高速度星*として観測される。

銀河系の中心から約10,000光年のあたりまで，ガスが毎秒数十キロメートルの速度で外向きに流れ出ている。これは銀河系の中心核の活発な活動(たとえば爆発)と関係があるのではないかと想像されている。➔星団　〔磯部琇三〕

ぎんがけいがいせいうん【銀河系外星雲】 銀河系*の外にあって，銀河系と同じように無数の恒星と星間物質からなる大規模な天体。小宇宙とか島宇宙ともよばれる。望遠鏡が十分発達していなかった19世紀までは，銀河系内のガス星雲との区別がつかず同じ星雲の名でよばれていたが，観測技術の向上により，アンドロメダ星雲のように近距離にある銀河系外星雲は恒星の集団であることが判明した。遠距離にあって個々の星に分解できない銀河系外星雲も，スペクトルを調べることによって銀河系内星雲と区別できる。

【分類】銀河系外星雲は，形状によって①楕円(だえん)星雲，②渦状(かじょう)星雲，③棒渦状星雲，④不規則星雲などに分類される。この分類は見かけの形だけでなく，物理的な意味をもっていて，たとえば星雲内に星間物質が存在する割合は上記の①→④の順に多くなっている。また楕円星雲のスペクトルはG型からK型の星の合成スペクトルであるが，②③④の順に早期型に移り，不規則星雲の中にはO型・B型のスペクトルが見られるものもある。この星雲のスペクトル型は，星雲の年齢を示していて早期型になるほど年齢が若くなっている。

【質量・距離・空間分布】銀河系外星雲の質量は広い範囲に分布していて，NGC6822のように球状星団の数倍程度にすぎないものから，太陽質量の1,000億倍以上のものまで存在している。近距離にある銀河系外星雲の距離は，そこに含まれるケフェウス座δ型変光星*の周期-光度関係から求められるが，個々の星に分解できない遠距離の星雲はスペクトル線の赤方変移を測定し，ハッブル*の速度距離関係を用いて決める。

銀河系外星雲は宇宙内に一様に分布しているのではなく，大部分は星雲群*または星雲団*を形成している。また天球上の分布をみると，銀緯*の高くなるほど数多くの銀河系外星雲が存在し，銀河面に近い領域にはほとんど見えない。これは銀河面に集中して分布する吸収物質によってその方向がおおい隠されているためである。

【星雲の爆発】M82星雲*やM87星雲*では，中心核より外側に向かってジェット状に光が吹き出しているのが見られ，そのスペクトルを調べると，太陽の数百万倍の質量をもったガス塊が秒速数千キロメートルで激しく飛び散っていることがわかる。ガス塊全体の運動エネルギーは，超新星*のエネルギー10万個分以上に相当するばくだいな量で，

銀河系外星雲の中心核がなんらかの原因で爆発した結果だと考えられている。このような天体からは強力な電波が観測されることが多いが，これは爆発によって光速度近くまで加速された電子が，磁場の中でシンクロトロン放射を放つためと考えられる（→銀河電波）。〔磯部琇三〕

ぎんがけいコロナ【銀河系コロナ】円板状に恒星が密集する銀河系を大きく取り巻いて，球状に分布する非常に希薄なガス。球状星団が散在する領域にあたる。密度が低く温度が高いため，ほとんどすべての原子は電離していると考えられ，高速で飛び回る電子が磁場に曲げられて電波を発生する。

ぎんがけいないせいうん【銀河系内星雲】銀河系*内にあって，広がりをもった雲状に見える天体。①円板状の惑星のような外観をもつ惑星状星雲*，②不定形に広がった散光星雲*，③背景の星の光をおおい隠して暗い裂け目のように見える暗黒星雲*，などに分類される。銀河系外星雲*のような恒星の集団ではなくて，連続的に分布したガス（星間ガス*）と微塵（びじん）（星間塵）よりなっている。銀河系内星雲の距離は直接求めることはできないが，惑星状星雲や散光星雲についてはそれらを発光させている恒星の距離から，また暗黒星雲はその中と外における恒星の見え方を比較することによって，だいたいの距離を推定することができる。惑星状星雲の大きさは0.1～1.0光年程度で，星雲を構成しているガスは膨張運動を示している。散光星雲の広がりは数光年～数十光年，また暗黒星雲はグロビュールとよばれる数千天文単位*の小さなものから，数百光年に及ぶ大きなものまで多種多様なものが存在している。〔磯部琇三〕

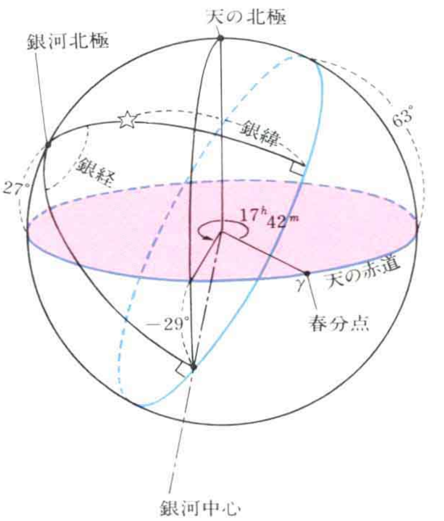
ぎんがざひょう【銀河座標】天体の位置を表わす天球座標系の一。銀河は，天の赤道に約63°の傾きを保って天球を一回りしているが，この銀河の平均中心線をなす大円を銀河赤道とよぶ。基準面として銀河赤道を含む面（これを銀河面という）を，基準方向として銀河の中心方向をとり，天体の位置を銀経・銀緯として表わすのが銀河座標系である。銀経は北から見て反時計回りに0°～360°，銀緯は銀河赤道より北に0～＋90°，南に0～－90°まではかる。赤道座標・黄道座標で表わされた天体の位置は，地球の歳差・章動*によって時間とともにわずかながら変わるが，銀河座標は変化しない。なお基準方向を，銀河面と赤道面の交点にとったはかり方を旧銀河座標系とよんでいる。〔磯部琇三〕

きんかざん【金華山】宮城県牡鹿（おしか）郡牡鹿町に属し，牡鹿半島の南東にある面積約9km²の島。また，島の中央よりやや北寄りにある海抜445mの山。牡鹿半島とは幅1kmの金華山瀬戸で隔てられ，瀬戸に臨んだ斜面中腹に黄金山（こがねさん）神社があり，財宝の守護神として古くから東北人の信仰の対象となってきた。全島がアカマツ・モミ・ブナ・ケヤキなどの密林におおわれ，シカやサルなどの野生動物も多い。海岸には奇岩が連なり，金華山上からの展望もすぐれて牡鹿半島県立自然公園の中心となっている。石巻（いしのまき）・女川（おながわ）・鮎川（あゆかわ）から出る観光船が島の西岸の桟橋（さんばし）に着き，参道を約1km歩くと黄金山神社に達する。ホテルはあるが，民家はなく，定住者はいない。沖合いはマッコウクジラ・イワシクジラの漁場で，牡鹿半島の鮎川が捕鯨基地となっている。〔浅井得一〕

きんかざんおり【金華山織】繻子地（しゅすじ）に紋様を毛切（けきれ）または輪奈（わな）で織り表わした紋ビロードの一。経糸（たていと）に地を組織する地経（生糸）と紋様を表わす毛経（半練（はんねり）か本練の絹糸）の2種を用いて整経し，紋織機で引きあげられた毛経に銅線を織り込んで輪奈をつくり，地合（じあい）の部分には撚（より）金糸を2杼（ひ）連続して織り込み，順次にこれをくり返す。

ぎんがせいうん【銀河星雲】⇨銀河系内星雲

ぎんがせいだん【銀河星団】散開星団と同義語。この星団の銀河系内での分布が銀河面に集中しているので，この名がある。→散開星団



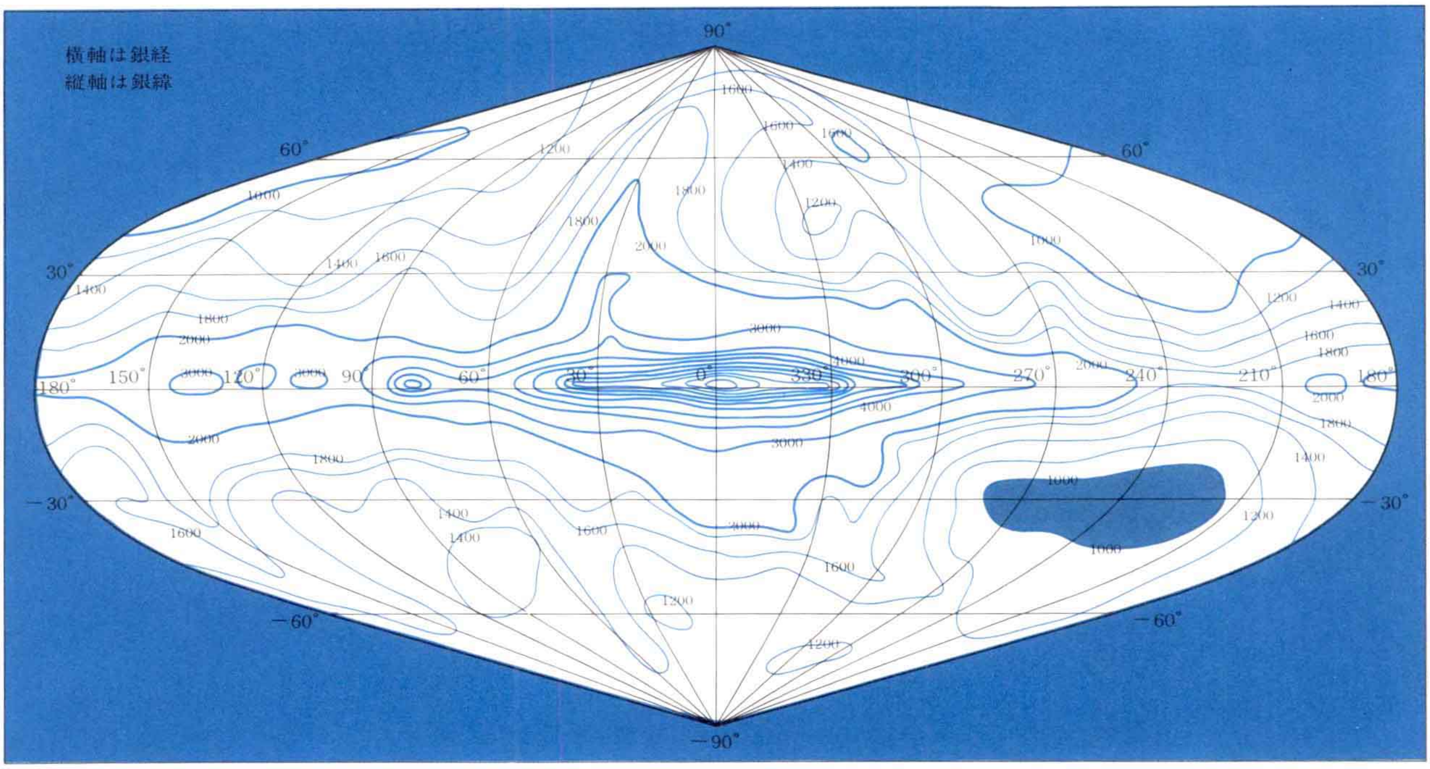
銀河座標

ぎんがせきどう【銀河赤道】⇨銀河座標

きんかちょう【錦華鳥】鳥類・キンパラ科。オーストラリア原産の小鳥。わが国には明治時代に輸入され，その後繁殖が容易なため家禽（かきん）化された。大きさはジュウシマツよりやや小さく，羽装がシマウマに似ていることからゼブラ-フィンチともいわれる。ほおの赤い可憐（かれん）な鳥で，動作は活発。繁殖は仮母にたよっていたため，自身で育雛（いくすう）するものは少ないが，根気よくためせば自家繁殖も可能である。コダイ（古代）キンカチョウ・シロキンカチョウとよばれる色変わりがある。〔石島芳郎〕

ぎんがでんぱ【銀河電波】銀河系内で放射される電波の総称。ただし，太陽系の天体からくるものは除かれる。成因から，熱放射・非熱放射・線放射の3種に大別される。熱放射による電波は，電離した原子と電子の熱運動によって発生し，スペクトルは波長が短くなるほど強度が大きいか，波長によらず強度一定である。この種の電波の発射源は，銀河系内の電離水素領域，特に散光星雲*（たとえばオリオン座ガス星雲）である。非熱放射は，宇宙線の電子成分（すなわち非常にエネルギーの高い電子）が磁場の中を運動するときに発生し，波長の長くなるとともに強度が増加するスペクトルをもっている。この機構により生ずる放射をシンクロトロン放射という。そしてこの種の高速電子の起源は，宇宙線と星間ガスの衝突によって生じる場合と，超新星の爆発（たとえばかに星雲*）によって電子が加速される場合が考えられる。非熱電波の空間分布は銀河面，特に銀河中心方向に集中しているが，全天にほぼ一様に分布している成分もあり，これは銀河コロナ*によるものと解釈されている。また，超新星の残骸（ざんがい）からも非常に強い非熱電波が観測されている。電波領域の線放射として銀河系内でいままでに見つかったものには，中性水素原子による波長21cmの放射，OH分子に


金 華 山
島の東海岸，渺茫たる太平洋に臨む千畳敷き岩の奇観。カコウ岩質の岩石からなっている。遊覧船が観光客を乗せて島を巡る



銀河電波　周波数85メガヘルツ(波長3.5m)で観測した銀河電波の強度分布

よる波長18cmの電波水素の再結合線などがあげられる。たとえば中性水素の21cm線の観測から銀河系の渦状(かじょう)構造が明らかになったように，線放射電波の研究は銀河系内の物理的状態を知るのにたいへん重要な手がかりを与える。可視光は星間吸収*によって弱められるので，銀河面内ではせいぜい10,000光年あたりまでしか観測できないが，電波はこのような吸収を受けないので，銀河系の奥深くまで見通すことができる。したがって，銀河電波の研究は銀河系全体の構造などを調べるには欠かせない有効な手段である。〔磯部琇三〕

きんかふ【琴歌譜】　平安初期に大歌所で教習された大歌*の譜本。歌詞のないものを含めて19曲が収められているが，歌詞は上代語のおもかげを多く残し，記紀歌謡*と重複するものもあり，ほぼそれと同時代のものと考えられる。981年(天元4)大歌師前丹波掾多安樹(さきのたんばのじょうおおのやすき)から安家という人が借りて書写したというものが残されている。歌曲名と歌詞，琴*の譜とが合わせしるされており，記譜法が不十分なため詳細な解読は不可能であるが，古代の歌唱法・伴奏法の一部が推定され，また上代文学史上でも貴重な資料となっている。〔鈴木一雄・山口修〕

ギンガム［gingham］　薄地の格子(こうし)じまの綿布。人造繊維製もある。色糸で鮮明な格子じま模様を織り出した軽快な服地で，夏の婦人服・子ども服・ブラウス・パジャマ・エプロンなどに用いられる。

きんかめむし【金亀虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科・キンカメムシ亜科の総称。体の大きさは変化に富み，色彩は大半の種類では美しい金属光沢のある黒色・かっ色・灰色・金緑色・藍色(あいいろ)・赤色・橙黄(とうおう)色などを呈する。一般に種々の植物を食べ，雌成虫が卵や若虫を保護する習性のある種類も知られる。アジア・アフリカの熱帯地方に多くの種が分布し，温帯地方には少ない。日本に産する代表的な種類には次のようなものがある。アカスジキンカメムシは体長17〜20mm，金緑色の地に淡紅色の条斑(じょうはん)があり，本州・四国・九州・台湾・中国などに分布し，初夏に種々の広葉樹上に見られる。ニシキキンカメムシは体長19mm内外，前種に似ているが，金緑色の地に紫紅色の条斑があり，本州・九州・朝鮮に分布し，初夏のころイワフジ・ウツギなどに見られる。オオキンカメムシは体長20〜25mm，橙色あるいは橙赤色の地に黒色の帯があり，本州・四国・九州・台湾・中国やアジアの熱帯に広く分布し，アブラギリ・ツバキに寄生する。〔鈴木邦雄〕



キンカン　マメキンカン。樹・果実などが小さく，盆栽などにされる

ぎんがめん【銀河面】　⇨銀河座標

きんかわせほんいせいど【金為替本位制度】　金本位制度をとっている他国の為替手形を中央銀行*が売買することによって，金と国内通貨の結びつきを維持しようとする制度。第1次世界大戦後，金の不足によって各国で採用されるようになった。第2次世界大戦後，IMF*(国際通貨基金)体制のもとで，世界各国は金と結びつきのあるドルを中心とする金為替本位制度をとるようになった。しかし，ドルに依存した制度的な矛盾と運営面での欠陥からしばしば通貨不安が起きている。➔金本位制度〔速水　保〕

きんかん【金橘・金柑】　双子葉植物・ミカン科の常緑低木。中国原産で古く日本に渡来し，日本の暖地に植えられている果樹。高さ3mくらいになり，枝は細く密に出，ほとんどとげがない。葉は小さく，披針(ひしん)形，裏面白緑色。ミカン属のものとは異なって葉脈は不明瞭(ふめいりょう)。葉肉に多くの油点がある。夏に葉腋(ようえき)から1〜3個の芳香のある白色小花を出す。果実は液果で，3cmほどの倒卵形。橙黄(とうおう)色に熟し，生食のほかかんづめ・砂糖づけにされ，ナガキンカン・マルキンカンがおもに栽培される。フクシュウキンカンは果実が最も大きく品質もよい。〔横井朝子〕

きんかん【金冠】　むし歯で崩壊した歯に対し，金属やセメントなどを充填(じゅうてん)するのでは，形の回復が困難な場合に，もとあった歯と同じ形の金属性のキャップをかぶせ，歯の形と機能の回復を図る人工歯

冠をいう。主として使用される金属は，20Kの金や白金加金のほか，金パラジウム・銀合金・ニッケル-クロム合金などである。

きんがん【近眼】⇨近視

きんかんがっき【金管楽器】気鳴楽器の一。ブラスあるいは真鍮(しんちゅう)管楽器ともいわれる。演奏者の両くちびるがダブルリードとして振動して発音し，それが管の中の空気柱の振動にもたらされる吹奏楽器で，いわゆるらっぱの類である。おもな金管楽器にはトランペット・トロンボーン・チューバ・ホルンなどがある。

きんかんしょく【金環食】日食の一種。太陽の視半径が月の視半径より大きいときに日食が起こると，月と太陽が完全に重なっても太陽の縁が環状にはみ出して見える。このような場合を金環食という。

きんき【禁忌】

1 タブーに似た概念として使われる学術用語。清浄を保ち，神聖な人や物を犯すことをせず，また不浄とされている行為や事物を避けることをいい，信仰上の理由によることが多い。日本語でいう広義の忌みに最もよく類似している。忌みには神への奉仕，神を祭る場合のように清浄を保つ意味と，〈忌みきらう〉というように嫌悪(けんお)・忌避の意味とがあるが，神聖・清浄なものに接触することをはばかるという考えと，穢(けがれ)・不浄に接触するのを恐れる態度との感覚は共通している。積極的な忌みは，物忌み精進などの語が示すように禊(みそぎ)・祓(はらえ)をしたり，忌み小屋にこもって俗界とは隔離した別火(煮たきを別にすること)の生活の中で，さまざまな禁制を守ったりするものであり，消極的な忌みは，不浄・穢，あるいは〈いまれ〉〈うまれ〉〈おそれ〉などとよばれ，それらとの接触が回避されるもので，死や血をけがれたものとして避けるのはこれに属する。忌みの根本は信仰にあったが，その信仰が衰退すると，忌みの内容も動揺し分化してきて，禁忌といえばもっぱら不可侵・禁制・隔離が意識され，〈してはいけない〉といった不行為だけに限定されるようになった。近年，タブーという語が一般に使われるようになって，運動競技の禁止規則を破ることや，礼儀作法に反する行動，社会生活上の規則違反なども〈タブーを犯す〉というふうに使われている。こうした傾向は，忌みを犯すことは当然に害や罰など悪い結果を招く，という意識が強くなり，神聖なことに関与するための積極的な忌みよりも，けがれに触れ，不可侵・禁制を犯した結果の制裁ばかりが強調され警戒されるようになって生じたものである。もとの積極的な意義が忘れられ，ただ〈するものではない〉という禁止だけが生活知識として記憶伝承されるようになると，禁忌は俗信・迷信の感じだけが残ることになる。そこで，生活の近代化・都市化が進むに伴って，禁忌習俗は急激に衰えていった。



琴棋書画 〈風俗図〉彦根屏風部分　井伊家蔵　当世風俗にかりて，琴は三味線，棋は双六，書は文，画は背景の屏風というふうに趣向的に琴棋書画を表現している

柳田国男によれば，禁忌の内容は，①忌まれる行為，②忌まれる日時，③忌まれる方角，④土地の忌み，⑤物の忌み，⑥ことばの忌み，などに分類される。行為・不行為の禁忌は，神事と葬制に関する行為を日常生活の中で行なうことを忌むものが最も多く，出針・立ち針とか，一杯茶・一ぜん飯・さかさ水などが広く知られている。日時の禁忌では年の丙午(ひのえうま)をはじめ，葬送の友引，挙式の仏滅など民間暦による日忌み，三隣亡や不就日などのほか，旅行の3晩泊まり・7日帰りを忌む風習もある。また，月の朔日(ついたち)・満月，1日の中では朝・夜について多くの禁忌が知られている。方角に関するものは陰陽道(おんみょうどう)の知識に基づくものが多いが，わが国に固有と思われるものもあり，正月の恵方(えほう)や鬼門・北まくらなどのほか，旅行・移転の方角などを気にする人はいまも少なくない。土地の忌みには海・山・田畑・屋敷・塚(つか)・墓その他がある。癖地(くせち)・入らず山・病田・けち田などがこれで，立ち入ることをはばかる山や，耕作するとたたりがあるといわれる田，あるいは建築を忌む尾先・谷口・堂の前や三角屋敷などが知られている。物の忌みも多い。食物の四つ足・二足・生臭い物を忌んだり，赤石を拾って持ち込むと火事になるとか，山中の大木の二またのものやきわだって特殊な枝ぶりのものを神樹として切らぬなどは全国的な習俗であり，栽培を忌む禁忌作物，屋敷内・庭内に植えることを忌む禁忌植物などの種類も多い。また不行為，日忌み，物の忌みなどには，特定の個人または一家・一族・地域共同体だけに守られているものも少なくない。その多くは信仰上の理由によって説明され，ある食品を生涯(しょうがい)口にしない人，正月に門松(かどまつ)を立てない家，ニワトリを飼わない村，ゴマやキュウリを栽培しない村なども珍しくはない。また，全国的に行なわれている忌服は近親者の死去したのち，一定期間喪に服するものである。忌引き休暇は死の忌みを他に移さぬために勤務先を欠勤するのが本来で，葬送で忙しいからというのは本意ではなかった。〔今野圓助〕

2 医学用語。それをなすことによって患者の病状をさらに悪化させたり，治療の妨げとなることをさし，ひいては患者の生命に危険をもたらす可能性を含み，絶対してはいけないものという強い内容をもつことが多い。たとえば①脳血出・くも膜下出血の患者に安易に浣腸(かんちょう)をしたり入浴を許可したりすること，②心筋硬塞(こうそく)患者に血管収縮剤を投与すること，③換気障害を示す肺疾患患者に強い鎮静剤を投与すること，④消化管出血による血圧降下に対し，むやみに昇圧剤を投与すること，⑤胆嚢(たんのう)疾患患者に脂肪食を投与すること，⑥膵臓炎(すいぞうえん)の急性期における摂食，⑦ピリンやペニシリン過敏症患者にピリン化合物・ペニシリン製剤を投与することなど，数多くのものがある。なお，配合禁忌とは，数種の薬品を配合したとき，その配合が薬の作用上拮抗(きっこう)したり，物理的・化学的変化を起こしてその薬効に変化を与えたりする場合をいう。〔佐藤隆志〕

きんきけん【近畿圏】近畿地方の2府5県に中部地方の福井県を加えた地域をいう。関東地方の首都圏，中部地方の中部圏に対応するもので，1963年(昭和38)に制定された近畿圏整備法によって，その秩序ある発展と整備・開発が計画されている。既成都市区域・近郊整備区域・都市開発区域・保全区域の四つに分けて計画が進められ，その面積は37,174km^2で全国の10.1%，人口は2,123万で19.0%，工業出荷額は7兆6,000億円で25%にあたる。中心である京阪神(けいはんしん)およびその近郊地域を除くと，周辺地域は後進性が目だっており，京阪神への産業や人口の過度集中を防ぎ，またその適正配置をはかるとともに，交通・輸送施設など公共施設の整備を推進することが，大きな目標となっている。近畿圏整備本部は東京にあり，建設大臣がその長官を兼ねている。〔浅井得一〕

きんきしょが【琴棋書画】漢画の画題。中国で古くから文人高士らの最も高雅なたしなみとして喜ばれた四芸(琴・棋・書・画)のようすを描く。屏風(びょうぶ)・襖(ふすま)などに一連に描くことが多い。奥深い山中に，高

士らが侍童を仲間にしてみずから四芸を行なう形が普通で，変形として美人風俗に描くこともあるが，江戸時代には当時の風俗を借りて描いたものもある。わが国にも作例は多いが，宗継筆の大徳寺養徳院襖絵（よすまえ），狩野（かのう）永徳*筆の妙心寺聚光院（じゅこういん）襖絵，海北（かいほう）友松*筆の建仁（けんにん）寺襖絵などが秀逸である。

きんきちほう【近畿地方】 日本の中央よりやや西にあり，日本の地中海ともいうべき瀬戸内海の東の端に面し，西南日本の要地として，北九州とともにわが国で最も古くから開けた地方である。3世紀前半ごろ日本にあったと《魏志倭人伝（ぎしわじんでん）》にしるされている邪馬台国*（やまたいこく）の所在地についても，北九州説と大和（やまと）説がいまだに論争されている。近畿の〈畿〉は，中国で天子の居城から500里（周代の1里は405m）以内の天子直轄の地域をいったもので，畿内ともいった。近畿地方はすでに4世紀のころから大和朝廷によって開かれ，現在も各地に古墳や条里制*の跡が多く見られるが，794年（延暦13）に都が奈良から京都に移され，以後1869年（明治2）まで，皇居の所在地となっていた。そのため京都のある山城をはじめ，大和・河内（かわち）・摂津・和泉（いずみ）の5か国を畿内といい，近畿とはこの畿内およびその近隣地方という意味で，現在の行政区画では三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の2府5県にあたる。面積は33,030km²で国土の8.87％にあたり，人口は2,090万で全国の18％を占める。

近畿地方は，長く日本の政治や文化の中心となっていたので，人々の日常生活や美術・工芸などに多くの特色を残している。京都・奈良の市内や近郊，高野山・伊勢（いせ）市などには古くて著名な社寺が多く，その中には貴重な文化財の保存されているものも少なくない。また江戸時代に，大阪の町人層をおもなにない手として発達した上方文化は，今日の日本文化の形成の上に大きな役割を果たし，京都・大阪方言を中心とする近畿方言は，東北や関東の方言に比べて柔らかい響きをもっている。

【地形】海岸線はきわめて複雑で，北は日本海に面して，リアス式海岸の若狭（わかさ）湾の一部と，それを西から囲む奥丹後半島がある。中央部は西に日本第2の属島である淡路島（兵庫県）と大阪湾，東に伊勢湾があって，大きくくびれている。南は太平洋に向かって紀伊半島が突出し，その南岸一帯は狭い海岸段丘によって縁どられた隆起海岸をなしているが，北東および北西に向かうにつれてしだいにリアス式海岸に転じている。東部にあって伊勢湾口を扼（やく）している志摩半島の海岸線は，日本でも代表的なリアス式海岸とされているが，その南部のいわゆる先志摩は，隆起海食台地が侵食を受けて沈水したもので，英虞（あご）湾などのおぼれ谷*がよく発達している。紀伊半島と西の四国との間は紀伊水道といい，東の太平洋岸は熊野灘（くまのなだ）とよぶ。半島の南端には陸繫島*（りくけいとう）の潮岬（しおのみさき）があって，北緯33°26′にあたり，本州の最南端をなす。

また近畿地方は地形上，北部山地・中央低地・南部山地の三つに区分することができる。北部山地は，中国山地とその延長であるなだらかな丹波山地が大部分を占め，その内部には福知山・篠山（ささやま）・亀岡（かめおか）などの断層盆地がある。中央低地は大阪湾岸から伊勢湾岸にかけて広がり，その北東部にはわが国第1の琵琶湖（びわこ）があるが，連続した平野ではなくて，大阪平野・奈良盆地・京都盆地・近江（おうみ）盆地・伊勢平野などの間に，金剛山地・生駒（いこま）山地・笠置（かさぎ）山地・鈴鹿（すずか）山地などの断層によって限られた南北方向に走る山地があって，低地を分断している。琵琶湖から流れて瀬田川から宇治川と名を変え，京都盆地から大阪平野に出て大阪湾に注ぐ淀（よど）川は，古くから交通や灌漑（かんがい），近くは発電に利用されてきた重要な川である。また中国山地および丹波山地の南には姫路平野があるが，これも一続きのものではなく，千種（ちぐさ）川・市川・加古川の流域の小平野を合わせたものである。

南部山地は，近畿地方で最も高くまた幅の広い紀伊山地からなり，その中央には大峰山脈があって，八剣山（1,915m）は近畿地方の最高峰である。伊勢湾に注ぐ櫛田（くしだ）川と三重・奈良県境の高見峠を経て紀伊水道に注ぐ紀ノ川を結ぶ線はわが国の中央構造線*の一部で，紀伊山地は地質構造上中央構造線以南にあたる外帯の特色をよく示し，北から古生層・中生層・第三紀層が時代順に東西方向に配列している。山地が海岸まで迫っているために，北西部の紀ノ川流域を除けば平地に乏しいが，風光には恵まれて伊勢志摩と吉野（よしの）熊野の二つの国立公園がある。

【気候と生物】気候も三つに区分される。北部山地の日本海沿岸は裏日本式気候で冬は雪が多く，丹波山地は霧が深いので知られている。中央低地は一般に瀬戸内式気候であるが，京都や奈良の盆地は寒暖の差の大きいいわゆる内陸性気候を呈し，京都市では冬は底冷えがし，夏の暑さもまたきびしい。南部山地と伊勢平野は表日本式気候で，降水量が多く，中でもその南東部の大台ヶ原山付近から海岸にかけた地域は日本における最多雨地とされ（大台ヶ原山頂には気象観測所がある），熊野灘に面する尾鷲（おわせ）とともに年降水量は4,000mmを越える。尾鷲の年降水量の記録は6,174mm（1954）である。また，黒潮が海岸近くを流れているため温暖で，海岸にはハマユウなどの亜熱帯性植物が見られる。

本州は動物分布の上で，同じアジアの旧北区*に属するとしても北と南では相当の相違があり，おもに両生類・こん虫類・鳥類の分布の上から，その境界は敦賀（つるが）湾と伊勢湾を結ぶ地峡部とされている。両生類ではアカガエル科に属する小形のヌマガエルは南方型のもので，近畿地方が世界の北限となっている。また，サンショウウオのうちのカスミサンショウウオをはじめ幾種かは奈良・和歌山以西にしかおらず，近畿特有のこん虫としてはナニワトンボ・キイオサムシなどがある。また特別天然記念物に指定されている動物に，滋賀県坂田郡山東町のゲンジボタル，地域を定めず指定されているカモシカ，兵庫県出石（いずし）郡出石町のコウノトリ，兵庫県と三重県のオオサンショウウオがあるが，コウノトリは絶滅に瀕（ひん）している。ツキノワグマ・イノシシ・ホンシュウジカ・ニホンザルは各地の山地に多く生息し，またかつて多かったニホンオオカミは，通説では1905年に現在の奈良県吉野郡東吉野村鷲家（わしか）でとれたのを最後に絶滅したといわれているが，いまだに大峰山脈付近にその生存を信じている人もいる。

植物の種類は豊富で，奈良市春日（かすが）山の暖帯性および温帯性植物の混合した原生林は，都市近郊にあるものとしては珍しく，特別天然記念物に指定されており，人工林としては日本三大美林の一つとされている吉野スギがある。また奈良県は熱帯性のツルマンリョウの北限，北地系のスズランの南限であり，三重県や和歌山県にはオオタニワタリをはじめ熱帯性のシダ類が多い。

【第1次産業】大阪平野・奈良盆地・姫路平野などは早くから農業が発達し，雨量が少ないためにため池による灌漑が行なわれ，琵琶湖周辺の近江盆地とともに良質の米の産地として知られている。武庫川中流の三田（さんだ）盆地の三田米は，古くから酒造米やすし米として名高い。しかし，人口が多いために米の移出が可能なのは滋賀県だけで，おもに大阪府と兵庫県に送られている。琵琶湖の周辺にある多くの内湖は，古くから干拓によって水田に利用され，江州米（ごうしゅうまい）は質量ともに全国的にすぐれていたが，第2次世界大戦後は周辺の工業化によって兼業農家が増加したために停滞の状態にある。京阪神（けいはんしん）地方の農村では，近郊農業が盛んで，野菜では4～5毛作を行なうところもあり，また大阪平野の東部，生駒山山麓（さんろく）の柏原（かしわら）市堅下（かたしも）のブドウ，奈良盆地のスイカ，京都盆地のたけのこ，宇治の茶は全国でも有名である。また近畿地方はタマネギの全国一の産地で，兵庫県と大阪府を合わせて全国の約5分の1を産し，兵庫県では淡路島，大阪府では南部の和泉地区が主で，水田の裏作としてつくられている。淡路島では草花の栽培も盛んである。かつては水田の裏作として，麦やナタネを多く作っていたが，いまでは裏作がすたれてしまい，伊勢平野の

小麦や近江盆地のナタネがやや目だつ程度である。和歌山県有田川沿岸のミカンは古くから名高く，最近はネーブルもつくっている。丹波山地ではいわゆる神戸(こうべ)牛として知られる役肉牛の飼育が盛んで，最近は乳牛も増加している。

紀伊山地では，吉野スギをはじめ木材の産が多く，和歌山や新宮に集散されている。もとは紀ノ川や熊野川を利用していかだで流していたが，いまはダム建設のために水路が閉ざされたこともあって，ほとんどトラック輸送に代わった。丹波山地も林業が盛んで，また京都市北郊の北山のスギは，北山丸太の名で茶室建築などに欠かせないものとなっている。丹波山地ではマツタケ，三重・奈良・兵庫・和歌山県ではシイタケなどの林野副産物があり，また兵庫県のクリは全国有数である。

水産業は紀伊半島の沿岸が主で，黒潮の流れる沖合いでは，ブリ・カツオ・マグロがとれ，串本(くしもと)・勝浦・尾鷲などの漁港が発達し，遠洋漁業の根拠地ともなっている。和歌山県の太地(たいじ)町は日本の捕鯨業の発祥地として知られ，最近は熊野灘のクジラが少なくなったので不振であるが，南氷洋捕鯨船の乗組員が多い。志摩半島は日本の真珠養殖の発祥地で，いまもその中心である。日本海岸では兵庫県の香住が最大の漁港で，冬のマツバガニは名高い。また51種の魚のいる琵琶湖をはじめとして，内水面漁業も盛んで，奈良県大和郡山(やまとこおりやま)のキンギョの養殖は日本一である。

地下資源は少なく，兵庫県に明延(あけのべ)・生野の日本有数のスズ鉱山があったが，生野は1973年に閉山してしまった。水力発電は古くから発達し，琵琶湖の水を引いた京都市蹴上(けあげ)の発電所は，1889年に完成している。現在では熊野川水系をはじめとして，100余の水力発電所があり，兵庫県の奥多々良木(おくたたらぎ)(最大出力60.6万kW)，京都府の喜撰山(きせんやま)(46.6万kW)，奈良県の池原(35万kW)発電所の規模は，それぞれ日本の4，5，9位(1975)である。また最近は大形火力発電所の建設も進み，姫路第2発電所の出力は255万kWに達する。

〔第2次産業〕歴史の古い近畿地方には，京都の西陣織・友禅染・清水焼，奈良の筆・墨などの伝統的な工業がある。近代的な工業地帯としては阪神工業地帯があり，これは明治20年代に形成されて全国の工業地帯のさきがけをなしたもので，その生産額も1950年(昭和25)ごろまでは四大工業地帯の首位に立っていたが，1972年の出荷額は全国の17％で，21％の京浜に次いで第2位となっている。その中心は神戸から西宮(にしのみや)・尼崎(あまがさき)・大阪・堺(さかい)にかけた大阪湾岸で，金属・機械・車両・造船などの重工業の大工場が並び，堺から泉大津・岸和田にかけては繊維などの軽工業が盛んである。また大阪から京都にかけた地域には，



近 畿 地 方　淀川の中流，寝屋川市付近から京都方向を望む。左側に直線を描いて東海道新幹線が走り，その延長に山崎の狭隘部が見える

電気器具・化学・食品などの工場が多く，中でも松下電器産業の町である門真(かどま)市が目だっている。

もともとこの工業地帯は軽工業に特色があったが，第2次世界大戦後は重化学工業にその中心が移った。最近では大阪湾岸の埋め立てによる堺・泉北工業地域の造成が行なわれ，工業用地の不足を補っているが，地下水の過度のくみ上げによる地盤沈下，煙害，交通麻痺(まひ)などの問題が起こっている。

阪神工業地帯は神戸から西の明石(あかし)・加古川から姫路付近まで延びており，姫路市内の広畑の埋め立て地には新日本製鉄の大製鉄所があって，専門の広畑港も開かれている。さらに西の相生(あいおい)には石川島播磨(はりま)重工業の造船所があり，赤穂(あこう)には塩を原料とした化学工業が興っている。このほか紀伊水道に臨む和歌山には，古くからの繊維工業のほか，鉄鋼・化学などの工業があり，下津町には丸善石油の精油工場がある。琵琶湖の沿岸には，豊富な水を利用して大津や彦根(ひこね)に化学繊維などの工場があり，また名神高速道路の開通によってインターチェンジの設けられた栗東(りっとう)町に新しい工場地域が生まれつつある。

津・松阪(まつさか)には繊維工業が発達しているが，津には最近日本鋼管のドックが完成して，大形タンカーが製造されている。四日市には，旧海軍の施設を利用した三菱(みつびし)と埋め立て地につくられた大協石油の二つのグループによる石油コンビナートがあって，石油精製のほか合成繊維・合成ゴム・合成樹脂などの生産をしているが，工場から排出する有毒ガスによる公害が大きな問題となっている。

近畿地方の工業の特色としてあげられることは，一つの都市で特殊な生産品を出し，それが全国の半ば以上からときにはほとんど独占的なシェアを占める例が目だつことで，三重県鈴鹿市白子の染色用その他に使う型紙(99％)，大阪府八尾市の歯ブラシ(50％)，泉大津市の綿毛布(93％)，泉佐野市のタオル(50％)と紡織機の杼(ひ)(70％)，兵庫県小野市のそろばん(90％)と鎌(かま)(80％)などが好例である。

〔交通と都市〕鉄道交通の動脈としては，東海道本線・同新幹線・山陽本線があり，山陰本線・北陸本線・関西本線がこれを助け，紀伊半島を一周する紀勢本線も1959年に全通した。また私鉄の発達は関東地方にまさり，京都・大阪・神戸・奈良・和歌山などの各都市を結ぶ近畿日本・京阪・京阪神急行・阪神・南海の各線は通勤と観光の二つの目的によって利用され，中でも近畿日本鉄道*は大阪・京都・奈良・三重・愛知・岐阜の2府4県にまたがる路線をもつ日本最大の民間鉄道会社である。山陽新幹線も1972年に岡山まで，75年に博多(はかた)まで開通した。国道は，東海道本線にほぼ並行する1号線と山陽本線にほぼ並行する2号線が幹線となり，山陰本線に沿って9号線，紀勢本線に沿って42号線がある。また名神高速道路は東名高速道路と結んで，関西と関東の自動車交通に一つの革命をもたらした。

神戸・大阪の二大貿易港があるが，この2港を拠点として外国航路のほか瀬戸内海航路がよく発達し，またフェリーボートもよく使われている。

京都・大阪・奈良をはじめ歴史の古い都市が多く，また大阪と神戸の周辺には衛星都市の発達が著しい。都市として人口100

万以上のものに大阪・京都・神戸，50万以上のものに堺・尼崎，30万以上のものに東大阪・姫路・和歌山・西宮・豊中・高槻(たかつき)・枚方・吹田があるが，大阪市の人口が1970～1975年の５年間に6.8％も減少しているのは，大都市の生活環境が悪化しつつあることを物語っており，反面周辺の交野(かたの)市(56.5％)・高槻市(13.0％)や箕面(みのお)市(38.7％)では人口増加が急速である。巨大都市への人口の過密集中化を防止し，その周辺を開発して，両者の地域格差の是正を図るための近畿圏整備法は，1963年以来実施されつつあり，その成果が期待されている。➜525ページ(地図)

ぎんぎつね【銀狐】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。黒色の毛に，毛先だけ銀白色の毛が混じり，体が銀色に似た色を呈するキツネをいう。シベリアやカナダなどの比較的寒冷な地方に多い。キツネの体色は変化が多く，黄色・赤かっ色・黒かっ色までいろいろあるが，同じ腹の子に異なった色のものが見られるので，個体変異にすぎないとされる。

きんきにっぽんてつどう【近畿日本鉄道】 関西急行電鉄と南海鉄道が1944年(昭和19)に合併して成立した交通企業で，1947年に南海電気鉄道を分離し，のちに奈良電気鉄道・信貴生駒(しぎいこま)電鉄・三重電気鉄道などを合併して現在の形になった。大阪府西南部・京都府南部・奈良県・三重県・愛知県東南部にわたって地方鉄道とバス路線を経営している。鉄道の営業キロ数586.7，全線直流で電化され，路線延長および車両数ではわが国最大の私鉄である。主要路線には大阪線(上本町～伊勢(いせ)中川間，1914～1930年に大阪電気軌道と参宮急行電鉄により開業)，奈良線(布施～近畿日本奈良間，1914年に大阪電気軌道により開業)，山田線(伊勢中川～宇治山田間，1930～1931年に参宮急行電鉄により開業)，名古屋線(伊勢中川～近畿日本名古屋間，1915～1938年に伊勢鉄道ほかにより開業)，南大阪線(阿倍野橋(あべのばし)～橿原(かしわら)神宮駅間，1898～1929年に河陽鉄道ほかにより開業)などがある。〔青木栄一〕

きんきゅうじどうしゃ【緊急自動車】 緊急用務のためサイレンを鳴らし，赤色の警光燈をつけて運転中の自動車。消火に向かう消防自動車，負傷者や急病人の救急に従事している救急自動車，交通取り締まりや犯罪捜査中のパトロール－カーなどのほか，自衛隊用自動車の一部，電気・ガス事業その他の公益事業において危険防止のための応急作業に使用する自動車も含まれる。緊急自動車は，緊急用務のためにやむをえないときは道路の右側を通行したり，法令の規定によって停車しなければならない場合でも停車の必要がないなどの特例が設けられ，他の車両などはこれに道を譲ることが義務づけられている。〔成田武男〕

きんきゅうしゅうかい【緊急集会】 衆議院の解散と同時に参議院は閉会となるが，国会を召集する緊急の必要が生じたとき，内閣は参議院に緊急の集会を求めることができる。これを緊急集会という。この場合，参議院だけの集会であるが，国会としての活動と認められる。国に緊急の必要が生じたときとは，公共の安全を保持し，またはその災厄(さいやく)を避けるといった消極的目的をもったもののみをさし，福祉増進のような積極的目的をもったものや，緊急の必要性のない憲法改正の発議，その他重要な法案の審議などは性質上許されない。緊急集会でとられた措置は一時的なものであり，次の国会開会後10日以内に衆議院の同意が得られないときはその効力が失われる(憲法54条)。しかし，すでに行なわれた処分の効力には影響を及ぼさず，また同意が得られたときは，国会の通常の手続きによって行なわれたのと同じ効力をもつ。〔吉田善明〕

きんきゅうたいほ【緊急逮捕】 重大な犯罪を犯したのではないかと思われる十分な理由があり，しかも緊急を要し，逮捕状の発行を待つ時間的余裕がない場合に，まず逮捕し，その後逮捕状を請求するという逮捕の一方式。憲法が認めているのは，通常逮捕(令状を要する)・現行犯逮捕(令状を要しない)の二つである。刑事訴訟法で規定されたもので，その合憲性につき学説上の争いがあるが，判例では合憲としている。緊急逮捕することができるのは，検察官・検察事務官・司法警察職員だけであり，逮捕する際は，その理由を告げなければならない。なお逮捕後直ちに逮捕令状を請求しなければならず，もし令状が出ない場合は直ちに釈放しなければならない。〔井上公耳〕

きんきゅうちょうせい【緊急調整】 労働争議への介入方法の一。1952年(昭和27)炭労の大規模なストライキに備えて，労働関係調整法の中に挿入(そうにゅう)された。民間の公益事業の争議，あるいは大規模な争議において，国民経済あるいは国民生活を危うくするおそれがある場合には，総理大臣は，中央労働委員会の意見を聞いたうえで緊急調整の決定ができる。決定後，50日間(公益事業は争議予告期間を加えて60日間)争議が禁止され，その間，中央労働委員会はこの争議調整を優先処理し，最大限の努力を払わねばならない(同法35・38条)。緊急調整違反の争議行為は，20万円の罰金に処せられる(同法40条)。〔木元錦哉〕

きんきゅうちょくれい【緊急勅令】 明治憲法８条で認められた天皇の例外的な立法権行使の一形態。すなわち立法については，天皇は国会の協賛を得て行なう定めであり，今日の用語でいえば，法律案について国会で議決し，天皇がこれを裁可することによって法律が成立するしくみであったが，これに対して，例外的に８条では，国会が閉会しているとき，公共の安全のため，また災厄(さいやく)を避けるために緊急な必要があると判断したときは，天皇は法律と同じ効力をもつ勅令を発布しうるとした。これは，次の国会で否決されれば，それから先は効力を失うものとされていたが，法律に代わって，法律と同じ効力をもつ命令を定めうるというようなことは，今日の憲法ではまったくない。〔鈴木安蔵〕

きんきゅうどうぎ【緊急動議】 国会の本会議で，緊急の必要上，議事日程の順序を変更し，その議事日程に他の案件を追加することをいう。ただし，法律案のように議案として処理されるものは動議とよばれないので案件に含まれない。議長が必要と認めたとき，または議員の動議があったときは，議長は討論を用いないで議院にはかって処理できることになっている。

きんきゅうひなん【緊急避難】
【民法上】他人の物によって急迫な危難が生じた場合に，危難を避けるためその物を毀損(きそん)することをいう。正当防衛と同様に違法性を欠くため，損害賠償の責任を生じない(民法720条)。たとえば，他人の飼いイヌがかみついてきたときに，イヌを殺すことは緊急避難となる。しかし，市街地の流失を避けるために河川の堤防をこわして洪水(こうずい)を農地に誘導することは，刑法上は緊急避難になるが，堤防自体が危険をもたらしたのではないから民法上ではならないとされている。〔黒木三郎〕
【刑法上】急迫な危難を避けるため，やむをえず他の法益を侵害する行為。暴走してくる自動車を避けるため他人の住居に侵入する場合のように自己または他人の生命・身体・自由・財産(名誉・貞操なども含む)に対してやむをえず行なった行為は，上例でいえば避けようとした生命法益が侵害した住居法益よりも価値的に優越しているから，このような場合は違法性がなく無罪(刑法37条)。上例とは逆に財産法益を守るため他人の生命法益を侵害する場合は過剰避難となり違法性をもつ。ただ情状により刑が減軽・免除されうるにすぎない。また，警察官・消防士のように危難におもむく職業をもつ者には緊急避難は認められない(刑法37条２項)。〔野口恵三〕
【国際法上】国家または国民に対する急迫または現実の侵害を避けるために，その国家がやむをえず行なう防衛行為。これによってその行為が本来有する違法性が阻却され，国際法上適法とされる。相手国の侵害が〈不正な侵害でない〉点で自衛権と異なる。したがって，侵害が相手国の責任に帰すべき違法行為に基づいて生じたものではなく，自然の事実とか，第三国の行為に基づいて生じたものである。〔広部和也〕

きんきゅうめいれい【緊急命令】
[1]緊急の必要がある場合に議会を無視して，一方的に行政府が発する命令。明治憲

法では，天皇が緊急の場合，法律に代わって命令(→緊急勅令)を発することができるとしていた。現行憲法では緊急時の制度として参議院に緊急集会*が認められているが，緊急命令はいっさい認められていない。

②地方労働委員会の発した不当労働行為*の救済命令*に不服ある使用者が，裁判所に行政訴訟*を提起したとき，受訴裁判所が判決確定まで，その労働委員会の命令に従うべきであると使用者に出す命令をいう。使用者が行政訴訟を起こすと，労働委員会の命令が阻止され確定判決まで期日がかかる。この期間の措置を緊急に講じないと，不当労働行為の救済の実効性が失われるためである。この命令に違反すると処罰される。

〔吉田善明・木元美代子〕

きんぎょ 【金魚】 硬骨魚類・コイ科の淡水魚。野生のフナから突然変異によって赤変型(ヒブナ)が生じ，それが飼われているうちにさらに突然変異によって変わりものを生じ，また，変わりものどうしの交配によって新しい変わりものが生ずるなどして，体形にも体色にも驚くほど変化のある今日のキンギョが生まれたといわれる。したがって，品種によってはフナとは似ても似つかぬようなものもあるが，分類学上はすべてフナと同種である。フナとキンギョの交配によって繁殖能力のある子ができること(コイとキンギョの雑種は繁殖能力をもたない)，どの品種のキンギョでも，何代も飼い続けているうちにはしだいに先祖返りをしてフナと同じものになってしまうこと，フナとキンギョが基本的には形態が類似していること，染色体がフナと同数・同形であることなどが，これを裏付けている。

〔歴史〕キンギョの飼育は，中国で1,200年ほどまえに行なわれ，700年ほど昔からは本格的な飼育が始まったといわれるが，のちしだいに世界的に広まった。中でも日本へは最も早く渡来し，日本で生まれた品種も少なくない。日本へは16世紀初頭のころ，ヨーロッパへは17世紀ころ，アメリカへは日本を経て明治の初年に渡ったと思われる。日本では18世紀ごろまでは，珍しい魚とされてはなはだ高価であり，17世紀中ごろには30cmほどのワキン1尾が米70～80kgと等価であったという。元禄(げんろく)時代(1688～1703)の奢侈(しゃし)を禁ずる法令によって，1694年江戸市中のキンギョが没収されたという記録もみられる。その後しだいに繁殖し，庶民の間にも飼育が流行するようになった。文化・文政(1804～1829)のころには品種改良も大いに進み，品評会なども行なわれるようになった。以来一部の高級品種を除いて，わが国では最も一般的な愛玩魚(あいがんぎょ)として親しまれている。

〔形態〕キンギョはフナから生じたものであるため，基本的な体形・大きさ・習性などはフナと異ならない。しかし，長年の飼育による淘汰(とうた)で，外形上は非常な変化を示している。〈ひれ〉多くの品種でしりびれと尾びれの軟条が，フナを含む他の魚のようには左右合一せず，左右に分かれている。その結果，キンギョ独特の左右に開いた形の尾びれやしりびれがみられる(フナと同様の尾びれをキンギョの場合にはフナ尾という)。背びれは，ランチュウ・シュウキン・チョウテンガンなどで欠除していることが多く，これらの品種では背びれのないものが尊ばれる。〈眼〉デメキンでは体軸に直角に水平方行へ眼球が突出する。チョウテンガンでは水平方向に突出した眼球がさらに直角に上方(背側)に回転して頭頂と水平になり，眼球は側面で頭についている。スイホウガンでは眼球の縁だけが突出して，水泡(すいほう)状の出目になっている。いずれも稚魚期には普通眼で，孵化(ふか)後1か月～1年で眼の突出が完了する。〈体色〉基調は赤・オレンジ・白色などで，これに黄・青・紫・黒・かっ色などが加わり，さらに単色であったり，入り混じったり，斑(ふ)になったりして，千変万化の体色を示す。体色は，真皮中の色素細胞(黒・黄・赤の3種類がある)の種類と組み合わせに，その深さ，うろこの裏面と真皮の下にある虹胞層(こうほうそう)の欠除の程度などが複雑にからみあって変化する。虹胞層はグアニン*からなり，鏡の水銀のように光を反射し，これがよく発達するとうろこが輝いて見え，完全に欠如すると血液の色が透けて見える。虹胞層を欠くうろこを透明鱗(とうめいりん)といい，この種のうろこをもつものは孵化のはじめから色づいており，成長にしたがって色が濃くなる。普通鱗のものでは，孵化後かなりの間フナと同じ色(フナ色という)で，2か月を過ぎるころから，いわゆる色変わり現象を起こして着色する。〈体形〉ワキンなどを除く大部分の品種では，脊椎骨(せきついこつ)の短縮によってフナに比べて体が短い。ランチュウ・オランダシシガシラなどでは頭部に肉瘤(にくりゅう)を生ずる。

〔品種〕主として中国と日本で多くの品種がつくり出されてきた。①ワキン(和金)：体形はフナに近く，フナ尾のこともある。どのひれもあまり長くない。体色は赤・白または赤白のまだらなど。体長30cmに達する。じょうぶで，最も安価。②リュウキン(琉金)：ひれが長く，特に尾びれは長くて美しい。ときにフナ尾がある。赤や赤白の更紗(さらさ)など。ワキンについでじょうぶで安価。琉球を経て渡来したとしてこの名がついたらしい。アメリカではニンフと呼んでいる。成長を抑制して体長2～3cmにおさえたものをマメリュウという。③デメキン(出目金)：眼球が突出しているが，体形はリュウキンに酷似する。体色により，アカデメキン・クロデメキン・サンショクデメキンに分けられる。④チョウテンガン(頂天眼)：眼球が横に突出して，しかも上を向き，きわめて奇異な面相を呈する。清(しん)朝の中ごろに出現したらしく，宮廷で深い陶鉢(とうはち)に入れて飼育されたものの中から，上方の光を集める形の突然変異が現われたという。背びれを欠き，体色は金色に光る赤や，赤白のまだらのものが多い。⑤スイホウガン(水泡眼)：体形はデメキンに似ているが，目の縁だけが水泡のようにふくらみ，動くたびにぶよぶよと揺れてはなはだ珍妙である。日本ではまれ。⑥ランウェンユイ(藍文魚)：リュウキンに酷似するが，体色が銀色をおびた藍(あい)色。日本では珍しい。⑦チュンシュユイ(珍珠魚)：体はリュウキンに似ているが，ひれはかなり短い。うろこが厚ぼったいのが特徴。日本ではまれにしか飼われない。⑧オランダシシガシラ(和蘭獅子頭)：各ひれが長くて，特に尾びれが長く，リュウキンに似ている。尾と胴がほぼ同長で，合わせて30cmに達するものがある。体色は黄・赤や赤白のまだらまたは鉄色など。頭に肉瘤が発達する。豪華な感じのする品種でよく飼われ，寿命が長い。⑨ジキン(地錦)：名古屋を中心に愛玩される高級種。ワキン型の体形をしているが，尾びれが後ろから見るとX字状に分かれており，泳いでいる中途に静止するとき，尾が開く姿が優美かつ華麗である。また，酒石酸などで人工的に色彩を調整して，胴体は白色，ひれ・えらぶた・口先だけは赤の個体(六鱗とよばれる)をつくり，洗練された色彩が楽しまれている。⑩ナンキン(南京)：島根県宍道(しんじ)町を中心に保存されている。ランチュウに似ているが肉瘤はない。六鱗を尊ぶ。⑪テツオナガ(鉄尾長)：リュウキンがフナ色に先祖返りしたもので，胸びれが黄色く光るものが多い。⑫ランチュウ(蘭鋳)：古くから珍重されてきた高級品種。胴は寸づまりで，卵か小判のような形を呈する。頭に肉瘤があり，尾は開くが短い。背びれのないものをよしとする。金色に光る赤・白または赤白のまだらなどがある。弱く，飼いにくい。かつて関西に流行したものに，肉瘤のないオオサカランチュウがある。⑬ハナフサ(鼻房)：リュウキンに似た形だが，鼻孔のひだが肥大し，球のようになる。きわめて珍しい品種である。⑭ヤマガタキンギョ(山形金魚)：東北地方でよく飼われている耐寒性の強いもので，リュウキン型であるが，尾は長いフナ尾である。⑮ワトウナイ(和唐内)：ワキンのように体は細長く，各ひれが長い。⑯トサキン(土佐金)：高知市を中心に飼育される特殊な品種で，リュウキンに似ているが尾びれが両側に展開し，その後縁が前方に反転する。赤か赤白の更紗である。⑰シュブンキン(朱文錦)：ワキンに似た姿で，赤・白・青などの更紗に，小黒斑を散らすものが多く，複雑な色彩を呈する。一般によく飼育される。⑱ツガルニシキ(津軽錦)：津軽地方で古くから飼育されている。体に丸みがあり，頭に肉瘤がある。赤や赤白の更紗。

キンギョ


ワキン


ヒブナ


アズマニシキ


キャリコ


ジキン


チョウテンガン


ヤマガタキンギョ


シュブンキン


オランダシシガシラ


ランチュウ


アカデメキン

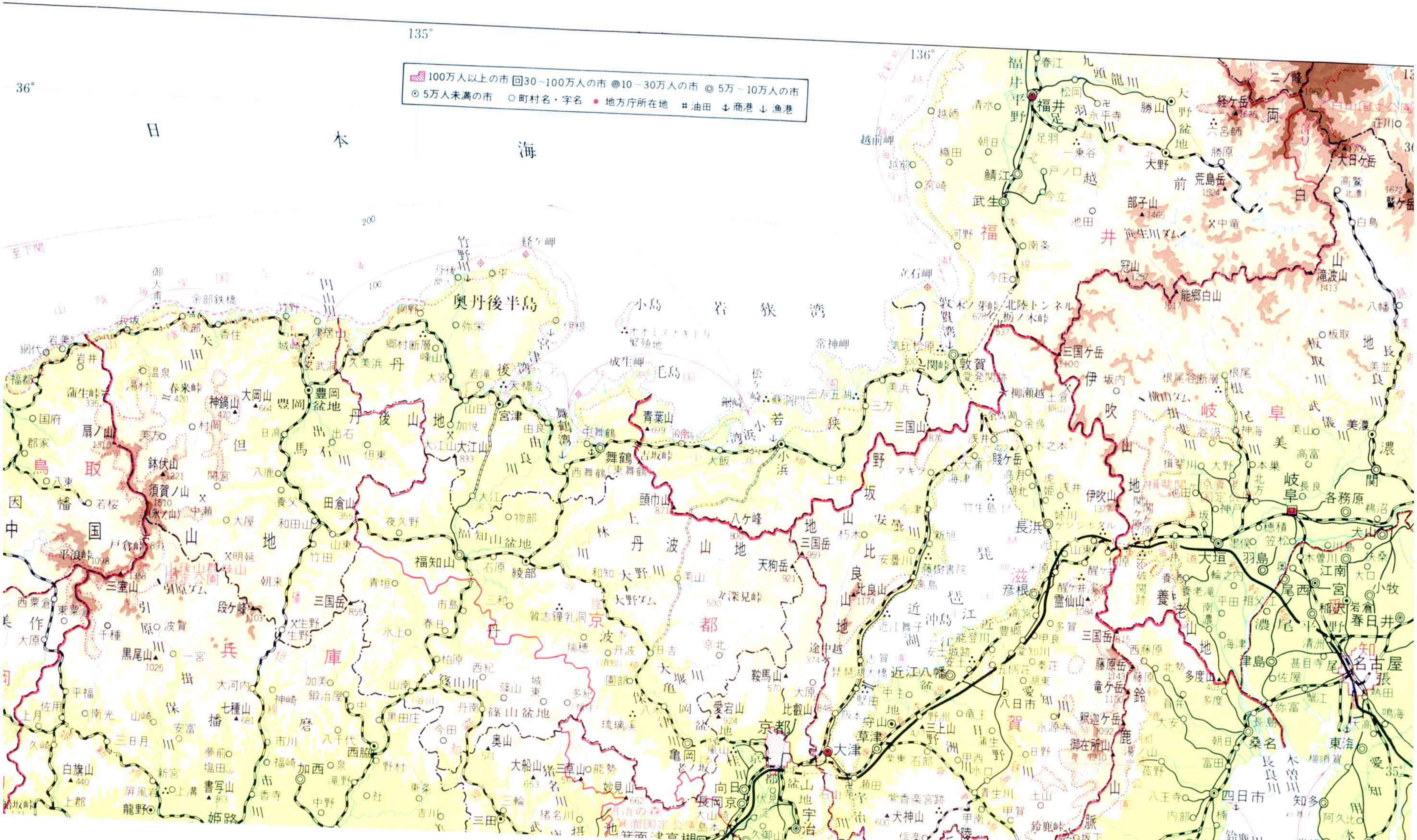

スイホウガン


チュンシュユイ

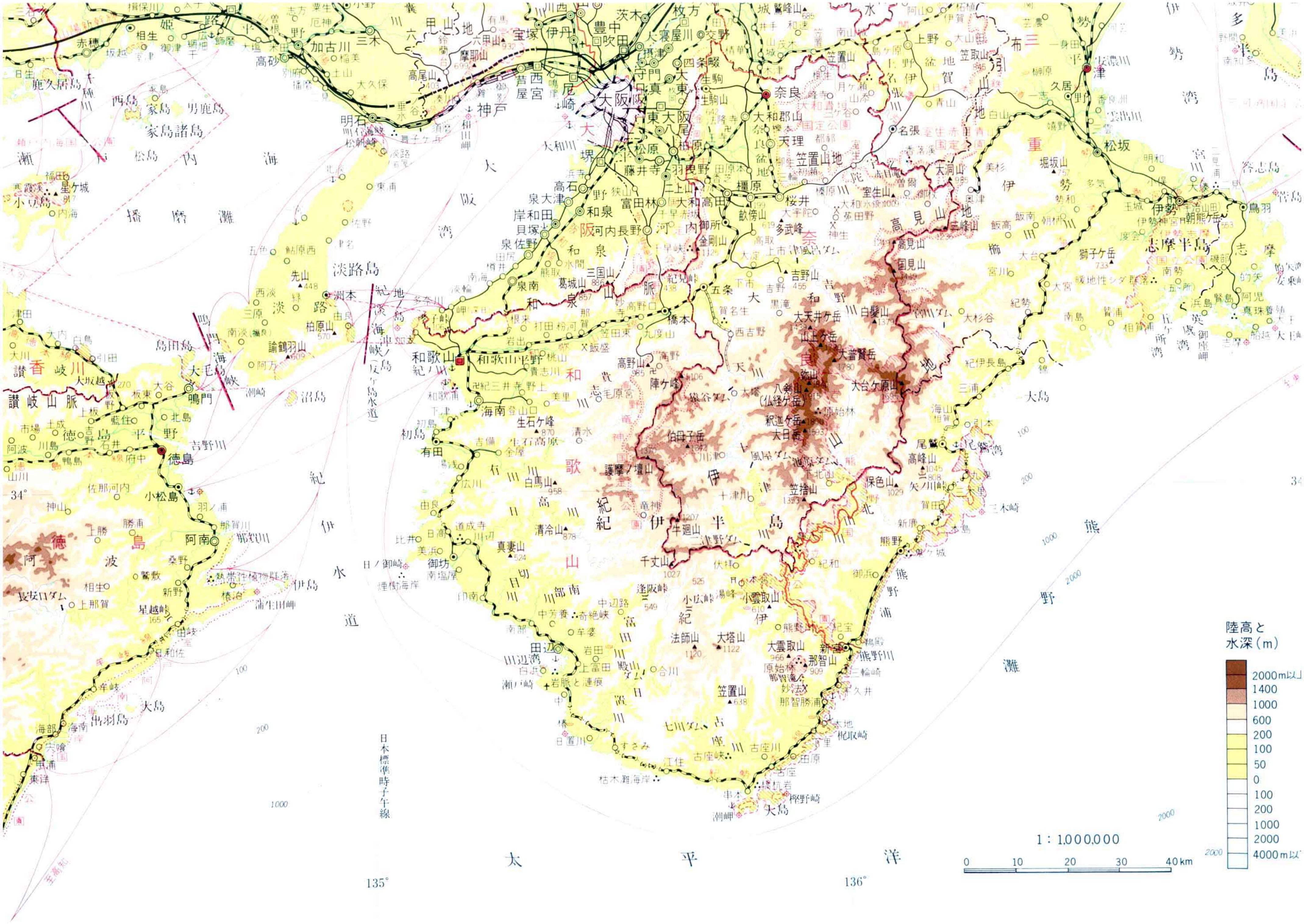

トサキン


リュウキン

近畿地方



100万人以上の市 回30～100万人の市 ◎10～30万人の市 ◎5万～10万人の市
⊙5万人未満の市 ○町村名・字名 ● 地方庁所在地 ⌗ 油田 ⚓ 商港 ⚓ 漁港
日本海
若狭湾
奥丹後半島
福井
岐阜
滋賀
京都
兵庫
鳥取
大津
京都
名古屋
福井平野
琵琶湖
丹波山地
中国山地
135°
136°
36°



陸高と水深(m)
2000m以上
1400
1000
600
200
100
50
0
100
200
1000
2000
4000m以上
1:1,000,000
0
10
20
30
40km
135°
136°
34°
太
平
洋
熊
野
灘
紀
伊
水
道
播
磨
灘
瀬
戸
内
海
大
阪
湾
伊
勢
湾
日本標準時子午線
紀伊半島
志摩半島
淡路島
和歌山
大阪
奈良
神戸
津
松坂
徳島
鳴門
阿南
堺
岸和田
田辺
新宮
伊勢
鳥羽
尼崎
西宮
明石
加古川
高砂
姫路
赤穂
天理
桜井
五条
橋本
海南
有田
御坊
熊野
尾鷲
大台ケ原山
大普賢岳
八剣山
(仏経ケ岳)
釈迦ケ岳
大天井ケ岳
山上ケ岳
伯母子岳
護摩ノ壇山
高野山
金剛山
吉野山
高見山
国見山
白髪山
笠置山地
生駒山
葛城山
三国山
先山
諭鶴羽山
柏原山
大雲取山
那智山
法師山
大塔山
笠置山
真妻山
白馬山
清冷山
生石ケ峰
千丈山
牛廻山
笠捨山
保色山
高峰山
堀坂山
獅子ケ岳
潮岬
大島
沼島
友ケ島
紀淡海峡
鳴門海峡

⑲キャリコ：普通鱗と透明鱗が混じり合って複雑な色彩を呈するもので，サンショクデメキンとリュウキンとの交雑によるもののうち，普通眼のものをいう。⑳アズマニシキ(東錦)：サンショクデメキンとオランダシシガシラの交雑によって得られたもののうち，体色は前者で体形は後者に似たものを淘汰してできた品種。体色に変化があり，非常に美しい。昭和初年，横浜の金魚商加藤金蔵の作出。㉑コメット：アメリカで普通に飼育されているじょうぶな品種。日本から輸入したリュウキンが現地で繁殖し，選別不十分のためフナ尾がそのまま飼育されて固定したもの。赤か赤白のまだらのものが多い。日本のヤマガタキンギョと同じものである。㉒ヒブナ(緋鮒)：本来のヒブナは野生のフナの赤変型で，尾びれもしりびれも分かれていないものであるが，きわめてまれにしか出現しない。赤いワキンのフナ尾のものをヒブナとよぶことがある。この場合はしりびれが２枚に分かれていることが多い。㉓テツギョ(鉄魚)：山形県尾花沢市の若畑沼(わかはたぬま)，宮城県加美郡の山形県境に近い魚取沼(ゆとりぬま)や青森・岡山県，北海道・朝鮮などから，1922年(大正11)から昭和の初めにかけて報告され，いずれも野生のものであるためキンギョの原種ではないかと騒がれた。フナ色・白・赤，赤白のまだらなどがあり，フナ尾である。フナとキンギョの雑種と考えられている。

〔飼育〕ランチュウ・ジキン・トサキンなどの高級品種を除いて，飼育は簡単である。容器にはキンギョを少なめに入れ，水温を急変させなければ長く飼うことができる。数を入れすぎると，水中酸素の欠乏により鼻上げをする。適温は10～26℃で，ほぼ10℃以下では餌(えさ)をとらなくなる。普通の状態での生存限界は，高温34℃，低温－2℃で，水面が氷結しても水底で生存するが，寒地では多少の防寒措置が必要となる。雑食性で，植物質の餌だけでなく動物質のものを混ぜて与えるとよい。餌の与えすぎはよくない。庭の池でも自然に繁殖することがある。病気としては，体に白い粉を振りかけたようになる白点病が最も普通である。これは繊毛虫の寄生によるもので，伝染性が強い。早く発見して，高純度のメチレンブルーの５％水溶液を水２ *l* あたり１滴程度入れたものの中にしばらく入れておくとよい。その他，体表に甲殻(こうかく)類のチョウ*やイカリムシ*が寄生することがある。これらは肉眼で見えるので，ピンセットなどで取り除く。〔菅野　徹〕

ぎんきょうはんのう【銀鏡反応】 アルデヒドのような還元性有機化合物の検出に使う反応の一。清浄なガラス容器に試料溶液を入れ，これにアンモニア性硝酸銀溶液を加え加温すると，溶液中の銀イオンが還元されて金属銀となり，容器の内面に析出して鏡面のようになる。アンモニア性硝酸銀溶液はトレンス氏液ともいわれ，硝酸銀の水溶液にアンモニア水を加え，いったん生じたかっ色の沈殿が消失するまでアンモニア水を加え透明液にしたものである。ホルマリン・グルコースなどがこの反応を起こす典型的なもので，主としてこれらの検出に使われる。その他，ブレンツカテキン・ピロガロール・ヒドロキノン・焦性ブドウ酸・没食子酸・酒石酸塩などもこの反応を起こす。また，このような分析化学的な利用法とは別に，魔法びんや鏡の製造に使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

きんきようりゃく【金匱要略】 中国の古典医学書。別名《傷寒雑病編》。後漢末の名医張仲景*の作といわれている。熱性病以外の諸疾患について，薬物治療を述べた中国最古の医書である。現在においても，《傷寒論*》と並ぶ漢方薬物治療の指針として，最も重要視され，活用されている。

きんぎょがい【金魚貝】 軟体動物・二枚貝類・ザルガイ科。殻長(かくちょう) 7 cm，殻高 8 cm，殻幅 5 cmほど。両殻がよくふくらみ，シジミガイに外観が似ているが，殻(から)は厚くかたい。殻表は淡紅ないし鮮紅色で，赤かっ色の殻皮におおわれ，内面は白い。遠州灘(えんしゅうなだ)以南，南太平洋に広く分布し，水深10～50 mの砂底にすむ。名も形も大きさも似たものに，ギンギョガイがあり，殻表は，淡紅色か淡黄色，紫紅色の殻皮をかぶる。紀伊(きい)半島以南の浅海の砂底に分布する。



キンギョガイ

きんぎょくかん【金玉羹・錦玉羹】 透明で，味の淡泊な夏向きの涼味菓子。江戸中期に創作され，薄茶色をしているところからこの名がつけられた。煮とかした寒天に砂糖・水あめを混ぜて煮つめたもの(金玉液という)を流し箱で固めたものが基本であるが，金玉液にクズを加えた吉野羹(よしのかん)，あわ立てた卵白を混ぜ合わせた淡雪羹(あわゆきかん)などが知られる。

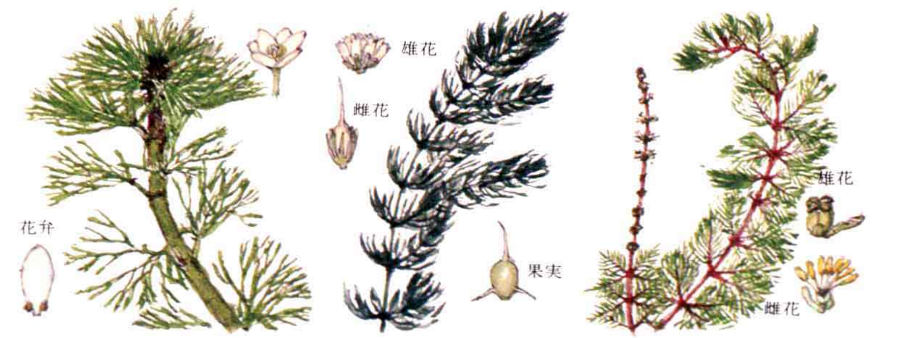
きんぎょくきん【金玉均】 (1851～1894) 朝鮮，李朝(りちょう)末期の独立党の指導者。若くして，革新的な実学思想を学び，開国思想に影響されていた。来日して福沢諭吉らと会い，日本の近代化に接した。日本の武力を借りて，保守派の閔妃(びんひ)一派を倒そうとし，清仏(しんふつ)戦争で敗れた清の力が弱まったのに乗じて1884年12月にクーデター(甲申(こうしん)の変*)を起こし，保守派を一掃して要職についたが，清の反撃と日本軍の撤退でクーデターは失敗，日本に亡命した。のち上海(シャンハイ)で暗殺された。

きんぎょそう【金魚草】 双子葉植物・ゴマノハグサ科の多年草。ヨーロッパ南部から北アフリカにかけての原産。観賞用として花壇に栽培され，切り花としても多く利用される。園芸では一年草として扱われる。茎は基部のほうが木質化し，高さ20～80cm。茎は基部がややふくらみ先はとがる。花はふつう夏に開く。切り花用として温室で栽培されるものは種子をまく時期により，春から秋に花がみられる。花は基部が筒状，先は仮面状をし，キンギョに似るのでこの名がある。花色は白・黄・紅・紫色など。



キンギョソウ

きんぎょも【金魚藻】 双子葉植物・アリノトウグサ科。池や沼に沈んではえる多年生の水草。ホザキノフサモともいう。茎は長いもので１ m以上になる。一つの節に糸状に切れた葉を４枚輪生し，夏，茎の上部に淡かっ色の花を穂状につける。一般に



キンギョモ　左からハゴロモモ，マツモ，キンギョモ

はマツモ科のマツモ*を誤ってキンギョモといい，金魚屋ではスイレン科のハゴロモモをキンギョモとよぶことがある。いずれも淡水魚を飼うときに水槽(すいそう)に入れる。

きんきんせんせいえいがのゆめ 【金々先生栄花夢】 江戸後期の黄表紙*。恋川春町*作。赤本・黒本・青本から黄表紙への転機をなした作品。いなか出の金村屋金兵衛(きんべえ)が粟餅屋(あわもちや)での昼寝の夢に金持ちの婿となり，江戸市中の遊里を回り，夢さめて故郷へもどるという筋。能《邯鄲*(かんたん)》の趣向を借り，当時流行の衣服・言語を豊富に取り入れ，草双紙*を子どもの読み物から〈通*〉と〈うがち〉のおとなの鑑賞に耐える文学とした。〔小池正胤〕

きんぎんふくほんいせいど 【金銀複本位制度】 ⇨銀本位制度

きんぎんぼく 【金銀木】 ⇨ヒョウタンボク

キング ［Charles Edward King］（1874～1950） ハワイ音楽の作曲家。本土で音楽学校を卒業ののち，長い間ホノルルで教師として教壇に立つかたわら，合唱グループを指揮するなどの音楽活動を続けた。本格的な作曲活動にはいったのは40歳以後で，有名な結婚の歌《ケ-カリ-ネイ-アウ》《島の歌》などの名曲を発表した。

キング ［Martin Luther King, Jr.］（1929～1968） アメリカの黒人牧師。公民権運動指導者。ジョージア州アトランタの牧師の家に生まれ，モアハウス大学・クローザー神学校・ボストン大学に学んだ。1955～1956年，アラバマ州モントゴメリーのバス-ボイコット運動で人種差別撤廃運動指導者として一躍有名になった。1957年SCLC（南部キリスト者指導会議）を設立し，以後その議長として1963年アラバマ州バーミングハムの人種差別廃止運動，ワシントン大行進，1965年セルマ（アラバマ州）行進などを指揮した。ガンジー*の思想を受け継ぎ，非暴力主義による人種的統合を主張し，〈ブラック-パワー〉には反対した。1967年には政府のベトナム政策に反対し，全国的に不服従運動を展開した。1968年テネシー州メンフィスのモーテルで暗殺された。なお，1964年ノーベル平和賞を受賞。➔黒人問題〔折井一彦〕

キング-オリバー ⇨オリバー

キングコブラ ［king cobra］ 爬虫(はちゅう)類・コブラ科。インドから東南アジア・フィリピンなどに分布。体長4～5.5mに達する最大の毒蛇(どくじゃ)。インドコブラほど頸部(けいぶ)は広がらないが，体の3分の1は立ち上がる。神経毒が強く，毒量が多いのできわめて危険。特に繁殖期には簡単な巣をつくり，卵を保護しているので，夜間に知らずに近づくと，進んで攻撃してくる。ほかのヘビや爬虫類を好んで捕食する。インド地方では神の使いとされている。

キング-コール ⇨コール



キングストン　市内のケア公園。正面の建物は銀行，その右の赤い屋根は生命保険会社。背後に教会の白い塔が見える



キンクロハジロ

キング-コング ［King Kong］ 映画に登場する怪獣の一つで，巨大なゴリラ。1933年アメリカの映画製作者クーパーのつくった《キング-コング》にはじめて登場，特殊撮影*による奇想天外な活躍ぶりをみせた。この種の巨大怪獣の第1号で，最も有名。のち，日本でもこれに類した怪獣，たとえばゴジラ*などが登場した。

キングストン ［Kingston］ 西インド諸島中にある独立国，ジャマイカの首都。人口123万（1975）。ジャマイカ島の南東岸に位置する天然の良港で，貿易港。砂糖・バナナ・コーヒーなどの農産物の輸出とカリブ海地方の貿易中継地として重要。特にコーヒーは〈ブルーマウンテン〉の名で世界に知られる。付近に世界有数のボーキサイト鉱山がある。年平均気温は26℃と快適な気候で，カリブ海の保養地となっている。イギリス植民地時代から行政の中心地となり，独立後は首都になった。1907年の地震で全滅したことがあるが，都市計画によって再建された。〔小栗　宏〕

キングズリー ［Charles Kingsley］（1819～1875） イギリスの宗教家・小説家。ロンドン大学・ケンブリッジ大学に学び，イギリス国教会の牧師となり，のち一時ケンブリッジ大学の近代史教授となる。キリスト教社会主義に共鳴し，社会小説《酵母》《オールトン-ロック》を書き，童話《水の子ら》も広く知られる。彼のカトリック攻撃をめぐるニューマン*との論争は有名である。

キングズリーホール ［Kingsley Hall］ 1897年（明治30）3月，片山潜*らキリスト教社会主義者によって，東京神田三崎町に設立されたわが国最初のセツルメント*。キングズリー*にちなんで，1893年アメリカのピッツバーグ市に設立されたキングズリー館をまねたもの。幼稚園・市民学校などの事業が開設されたが，片山が労働組合運動に没頭するに至ってキリスト教者の反対を受け，閉鎖した。

キングピン ［kingpin］ 自動車の前車軸に挿入(そうにゅう)された軸。前車輪はこの軸を中心にして方向を変える。またセミトレーラーの前部に設けられ，トラクターの第5輪にはまる軸もキングピン（第5輪キングピン）とよばれる。自動車を前方から見たとき，キングピンの中心線は路面に対して垂直でなく，タイヤ接地面の方向に傾斜している。これをキングピン傾きという。キングピン中心線の延長とタイヤ接地面中心とを一致させると，制動時や走行中に路面から受ける力によって生ずるキングピン回りのモーメントが減少し，かじ取りがたやすくなる。また，キングピン中心線の延長が路面と交わる点がタイヤ接地面中心より内側（6～12mm）にあるため，かじ取り装置に復元力が与えられる。アメリカでは重要人物を俗にキングピンというが，自動車でも重要な心棒なのでこの名がある。〔成田武男〕

きんくろはじろ 鳥類・ガンカモ科。全長40～45cm前後，腹部および翼の一部は白色，他の部分は雄は黒色，雌は黒かっ色。少数が北海道で繁殖し，湾内・河口などの浅い水域に多数が渡来して越冬する。潜水しておもに貝類を食べる。

きんぐん 【禁軍】 中国で天子の近衛兵(このえへい)を一般的に禁軍とよび，唐代からその称がある。宋(そう)代では国都守衛のほかに征伐にもあたる正規の国軍を意味し，各州に対立する廂軍(しょうぐん)，郷村を守る郷兵に対立する存在になった。宋の禁軍は殿前・馬軍・歩軍の三司が分掌した。

きんけい 【金鶏】 鳥類・キジ科。原産地は中国の南西部山地帯。ほぼキジぐらいの大きさで，雄は頭上に美しい金色の房状羽があり，腰も金色，胸腹部は赤色，尾は長く全体にかっ色の地に黒色の網目斑(はん)があり，他の部分も青・緑色などの羽毛をもつ，きわめてはでな美しい鳥。雌は全体にじみなかっ色。美しいことと，飼育下でよく産卵するので，古くから世界各国で愛玩(あいがん)飼育されている。わが国には，徳川時代から輸入されている。〔石島芳郎〕

ぎんけい 【銀経】 ⇨銀河座標

ぎんけい 【銀鶏】 鳥類・キジ科。原産地は中国南西部からチベット東部の高い山地帯。キジよりやや大きく，雄は胸と下背は青緑色，腹は白色，頸側部(けいそくぶ)と上背は白色で，黒色のうろこ状の斑紋(はんもん)がある。尾は幅広く長く，白地に黒の横線が

あり，美しい。雌はじみなかっ色。キンケイ同様に古くから愛玩(あいがん)飼育されているが，キンケイほど採卵は容易でない。キンケイとの交配雑種はキンギンケイ(金銀鶏)といわれる。〔石島芳郎〕

きんけいぎく　【金鶏菊】　双子葉植物・キク科。北アメリカ原産の一年草。明治の初めに日本にはいり，観賞用として栽培される。上部で枝分かれし，高さ25～60cm。葉は対生で羽状に切れ，小葉は卵形。夏，茎の先に周囲が黄，中心が紫色の直径4cmほどの花をつける。

きんけいでんせつ　【金鶏伝説】　黄金のニワトリが地下に埋まっているという伝説。分布の広い伝説で，①金鶏が神社の御神体であり，境内に埋められている，②金鶏が塚(つか)や墓に埋められている，③正月元旦の朝に鳴く，④金鶏の鳴き声は吉凶にかかわりがある，⑤長者伝説などに伴うなど，いくつかの類型がある。この伝説から，祝占のために神の天降(あまくだ)りの場所とたたえられて，その土地や家が祝福されると考えられた。〔山路勝彦〕

きんけんせいじ　【金権政治】　富あるいは金の力によって政権の座を獲得し，その力によって支配が維持されている政治。広く資本主義社会で，資本家・財閥が，他の勢力をおさえて政治を支配することをいう。〈権力は腐敗する〉のたとえのとおり，金権政治は典型的な腐敗政治である。しかし，資本主義の発達につれて，権力は金持ち階級によって掌握されるのが普通であり，そのかぎりで資本主義下の政治はつねに金権政治の契機を内包している。富の偏在が著しい国ほど金権政治に堕しやすく，今日の日本の政治にもその傾向があることは否定できない。〔西尾孝司〕

きんこ　【光参】　棘皮(きょくひ)動物・ナマコ類・キンコ科。長さ10～20cm，長楕円(ちょうだえん)形で，最大の体幅は長さの約半分。灰かっ色ないし黄白色で，不規則な斑紋(はんもん)があることもある。関東北部以北，佐渡・北海道・千島・カムチャツカ・サハリン(樺太(からふと))・沿海州などの15～50mの砂泥底(さでいてい)にすむ。キンコ科のナマコは他のナマコ類とは異なって砂を食わず，触手でプランクトンを集めて口に運ぶ。宮城県金華山沖と北海道が有名な産地で，北海道ではフジコとよばれることが多い。ゆでて完全に乾燥させ，中国料理に使う。なお，煮干しにしたナマコ類をいりこと総称するが，誤ってキンコとよぶことも多い。〔菅野　徹〕

きんこ　【金庫】　全額政府出資の政府金融機関である公庫に対する語。地方公共団体や協同組合などの団体，および一定の資格を備えた個人が加入し，これら所属員からの預金の受け入れや債券発行もできる半官半民の金融機関。したがって貸し出しなどの資金運用面でも組合金融などが中心と



キンケイ



ギンケイ



キンコ

なる。金庫には農林中央金庫・商工組合中央金庫がある。なお，信用金庫は中小企業を対象とする民間の金融機関である。

きんこ　【禁錮】　犯罪を原因として科せられる自由刑。監獄に拘禁されるが，定役(刑務作業)に服さなくてもよい点で懲役と区別される(刑法13条)。主として過失犯(→過失)に科され，実際上は請願によって刑務作業に服する者が多く，懲役との区別は少ない。無期禁錮・有期禁錮の2種があり，有期は1月以上15年以下(刑法13条・14条)。

きんこう　【金工】　⇨工芸

きんこう　【金鉱】　金の鉱石としてはシゼンキンが最も普通であるが，セキエイやカオリンなどとともに鉱脈として産することが多い。シゼンキン中には多少の銀を合金として含有する。含銀量が30％に達するとこれをエレクトラムという。また金および銀がテルルとの化合物として産することもある。一般に鉱脈や火成鉱床中に存在する金を山金といい，これが風化・分解して流され海岸または川の流路に沿って砂と混じって存在する金を砂金という。〔今井秀喜〕

ぎんこう　【銀行】　⇨次ページ

ぎんこう　【銀鉱】　銀の鉱石鉱物は，銀の硫化物およびシゼンギンである。その産状には次のような種類がある。銀の硫化物(キギン鉱・ノウコウギン鉱・ポリバス鉱・その他)が，浅成金鉱脈に伴われる場合には，鉱石中の銀の品位は金品位の3～100倍である。北海道鴻ノ舞(こうのまい)鉱山，静岡県清越鉱山の鉱石はこの例である。また，ホウエン鉱中には，多かれ少なかれ銀が含まれる。一部の銀はホウエン鉱の結晶構造の中にはいり，一部はシメンドウ鉱・マチルダ銀などの含銀硫化鉱物のホウエン鉱中に含まれる。岐阜県神岡鉱山の鉱石はこの種のホウエン鉱を産する。これら銀の硫化鉱物は，二次的に地表で風化・分解してシゼンギンとなる。また，銀が初成分にシゼンギンとして産することもあり，カナダのオンタリオ州のコバルト鉱山はシゼンギンとコバルト鉱を伴う。この種の鉱床はセンウラン鉱を伴う。〔今井秀喜〕

ぎんこうけいれつ　【銀行系列】　⇨系列融資

ぎんこうけん　【銀行券】　銀行の発行する一種の貨幣。最初は持参人に対する一覧払いの銀行の債務証書であったが，しだいに社会の信認を得て貨幣として流通するようになった。特にはじめは多数の銀行がそれぞれ銀行券を発行していたのだが，やがて中央銀行が独占的に銀行券を発行するようになり，現在では銀行券が通貨の中心となり，政府紙幣・政府鋳貨は補助通貨となっている。わが国では1882年(明治15)公布の日本銀行条例に基づいて日本銀行が設立され，1885年から銀行券の発行は日本銀行に集中されるようになった。銀行券は金本位制度の時代には金貨と兌換(だかん)可能な兌換銀行券であったが，今日の管理通貨制度のもとでは不換銀行券である。しかし，法貨としては政府紙幣・政府鋳貨とともに最終的な決済手段となっている。〔速水　保〕

きんこうざいせい　【均衡財政】　国や地方公共団体で，1年を単位としてみたとき，財政収入と財政支出とが均衡している場合をいう。また，財政収入が財政支出を下回っている場合を赤字財政，財政収入が財政支出を上回っている場合を黒字財政ないしは超均衡財政といっている。そして，こうした状態にある予算を，それぞれ均衡予算・赤字予算・黒字予算という。この場合，財政収入というのは，経常収入のことであって，公債・借入金を含まないことはいうまでもない。しかし，財政支出についてはこれを経常支出とするもの，経常支出と政府投資との合計とするものなどいくつかの立場がある。後者はさらに政府投資を，自償的なもの，つまり元利をその収益で償還で

➜534ページ

銀　　行

一方で貨幣の預託を受け，他方でその貸し付けを業務とする金融機関。

〔歴史〕銀行の歴史は非常に古く，古代の法典として著名なバビロニア王のハムラビ法典*にもすでに預金と貸し付けの取引に関する準則が定められていた。古代東方諸国で最初にこの業務を行なったのは各地の神殿であったが，のちには外国貿易に従事した富裕な商人がしだいに貨幣の預託と貸し付けを業務とするようになり，それを貿易業の資金に運用した。また，貨幣の輸送を受託する業務を行ない，送金手形を使用した。やがて東地中海一帯から黒海周辺に貨幣鋳造が盛んになり，ギリシア諸都市でその両替業が興り，両替商は両替と地金銀売買のほかに，預金・貸し付け・送金振替などの業務を営み，また公立の機関が国庫金の出納，貨幣の両替，預金・貸し付けを行なっていた。ビザンチウムやフェニキアの都市ティロスにもこのころ銀行が興っている。ローマ帝国では各地に公立の銀行が建てられ，国庫金の出納や政府鋳造貨幣を取り扱うようになった。また，貨幣制度が改鋳によって複雑化し，両替商も盛んであった。➔貨幣

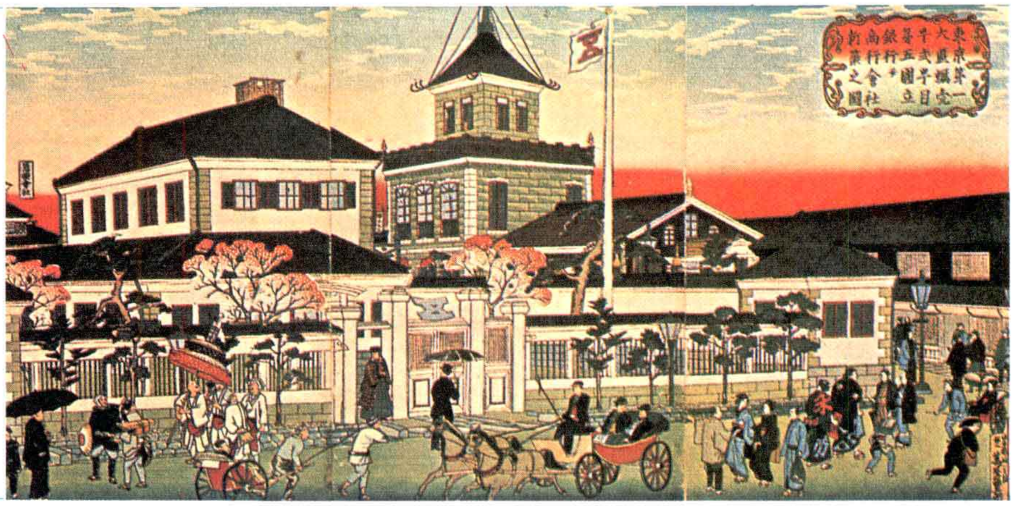
中世にはいると商業は沈滞し，貨幣諸業務も衰退した。ことにキリスト教会は貨幣の貸し付けによって利子をとることを罪悪とみなし，貸し付け行為を禁止した。しかし，ユダヤ人はその規制の外にあって活躍した。また，修道院は土地の買いもどし条件つきの売り渡しという形式で資金を貸し付け，地代の名義で利子をとっていた。これものちに禁止され，やがて十字軍の遠征によって地中海貿易が再開され，イタリア諸都市の商人が繁栄したが，政府の財政は窮乏し，ベネチア政府は1171年に終身年金を売り出し，のちには永久年金を売り出した。政府の債務は国債登録所に登記され，これが振替勘定に利用され，商業貨幣となった。1587年にリアルト銀行，1619年にジロ銀行が設立され，1637年に両振替銀行は統合され，18世紀末まで継続した。ジェノバでは1407年に赤字財政の整理のためサン-ジョルジュ銀行が設立され，一般銀行業務も行なった。フィレンツェでは富裕な商工業者が銀行業を兼ね，彼らはコンパニアとよぶ同族組合的な組織で共同出資をし，諸国の王侯に貸し付けを行ない，コンメンダという利益分配契約の名義で大衆から預金を吸収した。13世紀中ごろには，フランシスコ会が信者の出資によって貧困者に無利子で貸し付けを行なう慈善銀行を設立し各地に波及した。しかし，経費支出のためある程度の利子の徴収はやむをえず認めるようになった。

近世にはいって通商路が変化して，北海沿岸にヨーロッパ商業の中心が移り，アンベルス・アムステルダムが商業および金融の中心となった。1609年設立されたアムステルダム銀行は，原則として受託金の運用は禁じられたから預金払いもどしは確実とされ，この銀行による振替決済は国際的な信用を博した。イギリスでは1640年代に，ロンドンの金匠が商人から支払い資金の寄託を受け，金匠手形という譲渡性のある預り証を発行し，手形の利用によって預金の振替を行なう方法が生まれた。また，金匠は預かり資金の運用を認められ，貸し付けや手形割引を行ない，また貯蓄性の預金も受け入れ，漸次，金匠が銀行業に専業化していった。

この金匠手形がやがて銀行手形すなわち銀行券*になり，1694年，イングランド銀行*が特許によって設立され，18世紀末にはロンドン市内で唯一の銀行券発行銀行となった。このほか，ロンドン以外の各地にも銀行が設けられ，それぞれ銀行券を発行した。そこで銀行券の発行を統制するため，1844年のピール条例によって，イングランド銀行が唯一の発券銀行となり，近代的な中央銀行*制度がここにはじめて確立した。1834年ウェストミンスター銀行の設立以後，株式組織の銀行が民間に続出したが，その後合併により銀行の集中が進行した。イングランド銀行は1946年労働党内閣によって国有化された。アメリカは植民地時代から通貨が不足したため，それを補うのに銀行が設立され，銀行券発行をその主要任務とした。各州が法律によって銀行券発行を管理し，これを州法銀行とよんだ。1863年国法銀行法が制定され，全国共通の基準が定められた。しかし，全国に多数の発券銀行があり，かつ支払い準備は公債寄託を中心としていたため，通貨供給は弾力性に欠けていた。1914年には連邦準備法が定められ，全国を12地区に分け，各地区に一つの連邦準備銀行を置き，地方分権的な中央銀行制度を確立した。

〔中央銀行〕中央銀行の任務はまず第1に銀行券を発行することである。銀行券はその起源からいえば，これと引き替えに一定額の金貨あるいは銀貨を支払うという銀行の約束手形であったが，その信用が高まって金貨・銀貨と並んで，それ自体が現金通貨として流通するようになった。はじめは多数の銀行がそれぞれ銀行券を発行していたのだが，通貨供給量の調整は経済活動の基礎であるから，やがてその発行権が中央銀行に独占的に集中されるようになった。その最初は前に述べたとおりイングランド銀行である。これは銀行券の過剰発行によって経済の混乱を経験したからである。しかし，銀行券の発行権を奪われた民間の商業銀行はやがて小切手*による振替決済が可能である当座預金*制度を発達させた。これは通貨と同様の機能を果たすようになったので預金通貨とよばれることになった。この預金通貨の供給量も，各銀行がその支払い準備として保有する現金通貨量に支配されており，現金通貨の主要部分である銀行券，あるいはそれに代わる中央銀行預金の量に左右されるため，銀行券の発行量を調整することが，間接に預金通貨の量をも調整することになる。19世紀の金本位制度*の時代には中央銀行の発行する銀行券は本位貨幣である金貨と兌換（だかん）されるのが原則であり，中央銀行が銀行券を発行するには，それに対応して金準備を保有することが必要とされた。ただ金準備額はその一部にあたればよく，残りの部分は一流の商業手形*か政府短期証券*など安全性と流動性の高い金融資産が保証準備として保有されていればよかった。金本位制度下においては各国の為替（かわせ）相場は金平価を中心とし，金現送点を上下限とする範囲内にとどまった。そして，輸出超過となれば金貨が流入し，輸入超過となれば金貨が流出し，金準備の増減に応じて中央銀行の銀行券発行高が増減した。これが国内の所得水準と物価水準に影響して，自動調節作用が起こり，輸出超過は輸入超過に，輸入超過は輸出超過に反転するとされた。その後，金の不足と偏在によって，また，管理価格*や賃金の下方硬直性によってこの自動調節作用は阻害され，各国は管理通貨制度*に移った。この場合，国内の物価の安定と完全雇用，あるいは高度成長のみを目標として為替相場を金の自由な変動に任せるならば，金準備も外貨準備も不要である。しかし，為替相場の変動をある限界に収めようとすると，中央銀行が金・外貨準備をもつことが必要となる。もっともそれは中央銀行とは別個の為替安定資金*などの特別勘定に任せてもよい。IMF*（国際通貨基金）体制では短期には固定為替相場*をとり，長期には基礎的不均衡の調整のための変更を認めているから，依然として金・外貨準備が必要である。国際通貨基金はこの補完のために基金の資金を提供するのである。

商業銀行は，その支払い準備金が不足する場合には中央銀行に手形の再割引，手形貸し付けなどを求める。このため，中央銀行は〈銀行の銀行〉といわれる。これが商業銀行の支払い準備金の量を中央銀行が調節する一つのルートである。また，中央銀行は〈政府の銀行〉でもあり，国庫金の出納事務，公債の発行・償還の業務取り扱い，またときには政府に貸し出しを行ない，公債の発行にあたって公債を引き受ける。これは中央銀行が信用造出によって政府に資金を



国立銀行　1873年設立の第五国立銀行（錦絵）　1872年の国立銀行条例制定によって，第一・第二・第四・第五国立銀行があいついで設立された。第一国立銀行は三井・小野組によって，第二国立銀行は横浜為替会社の後身，第四国立銀行は新潟県の大地主市島家によって，第五国立銀行は鹿児島県の士族たちによって設立されたものである。その後1879年には153の国立銀行を数えるに至ったが，1882年6月，中央銀行設立を企図した日本銀行条例が制定され，以後これら国立銀行は普通銀行に変わっていった

供給することになる。また，金融市場の状況をみてこれを引き締めるためには公開市場で公債を売り，これを緩和するためには買う操作を行なう。中央銀行の金融調整の主要な政策手段は，商業銀行の法定支払い準備率を上げ下げすること，手形の再割引や貸し付けにあたっての公定歩合を上げ下げすること，また，公開市場に出動して売買する公債の量を増減させることなどである。

〔商業銀行*と長期信用銀行〕短期の資金を集めて，短期の貸し出しを行なうのが商業銀行の主要任務である。イギリスでは商業資金あるいは企業の運転資金を供給する短期金融機関と企業の設備資金を供給する長期金融機関に分離するのが原則とされ，商業銀行は前者に専門化すべきものとされた。これに対してドイツなどでは両者を兼営する銀行が発達した。前者を分業銀行制度，後者を兼営銀行制度という。日本の普通銀行はほぼ商業銀行にあたり，形式上は分業銀行であるが，実際上は兼営銀行として発達してきた。日本の普通銀行は当座預金*・普通預金などのように短期資金を吸収するばかりでなく，定期預金のような中期の貯蓄性預金も吸収しており，したがってまた貸し出しについても，企業の運転資金ばかりでなく，設備資金も貸し出している。これはドイツはじめ資本主義の発達の遅れた国に共通する特色でもある。イギリスの場合には産業革命の先駆者として資本市場の発達が照応したこともあり，また国際金融の中心地として短期の貿易手形の市場が発達したこともあって，分業銀行制度の原則が確立された。ところがドイツや日本では産業革命が遅れており，急速に工業化を進めるため，銀行は運転資金ばかりでなく設備資金の供給にも参加せざるをえなかったのである。

商業銀行について分業銀行制度が主張されたのは次の理由による。商業銀行は本来短期の資金を吸収するものであるから，これに対応して貸し出しも短期に限定するならば，短期の貸し出しはたえず回収され，銀行の資金運用はきわめて流動性が高く，預金の引き出しに危険なく対処できる。この点で兼営銀行制度は安全性に欠けるとされた。これは銀行経営のうえからみた論点である。国民経済のうえからみると，商業銀行は預金通貨の創造機関である。これは支払い準備金として，預金の全額にあたる現金を保有する必要はなく，その一部でよいということから起こるものである。いまかりに100万円の現金を銀行の当座預金としたとする。銀行はその10%にあたる10万円を支払い準備金として残し，90万円を貸し出したとしよう。借り手がこれをその銀行の当座預金勘定に振り込んだとすると，借り手は90万円の小切手を切ることが可能であり，はじめの当座預金の預金主も同様に100万円の小切手を切ることができる。一方では現金通貨が100万円減少したのに，他方では預金通貨は合計190万円増加している。すなわち，信用の造出が行なわれているのである。借り手が小切手を利用せず現金で引き出せばもちろん信用の造出はない。したがって支払い準備率と，貸出額のうちどれだけが現金で支払われるかという比率によって，この信用造出の比率が異なってくる。借り手にわたった90万円が支出されて，第2の銀行の当座預金となったとして，この銀行がまた支払い準備金として9万円を残し，81万円を貸し出したとする。そして，それが第3の銀行に預け入れられ同様の過程がくり返されると，信用造出額の累計は100万円＋90万円＋81万円＋……＝1,000万円となるはずである。支払い準備率が小さいほど，また銀行外への現金流出率が小さいほどこの倍率は高くなる。このように商業銀行は当座預金勘定によって信用造出を行なうことが可能である。すなわち商業銀行は現金通貨と並んで，一国の通貨の重要な部分である預金通貨を造出できるのである。この力を用いて運転資金の供給を行なっているわけであるが，運転資金の場合には短期で回収されるので問題はないが，それが設備資金の供給に用いられるとその回収は長期を必要とするので，回収されるまでの間は国民経済のうえからみると通貨供給が過剰になる危険があるとされる。これが分業銀行制度を支持するもう一つの論点である。

そこで中期・長期の設備資金は，証券市場によるか，あるいは長期金融機関によって，長期資金を吸収してあてるべきであると主張される。1852年にフランスで設立されたクレディ-フォンシェ-ド-フランス（不動産銀行）・クレディ-モビリエ（動産銀行）はその先駆である。今日のわが国では長期信用銀行がそれにあたり，その資金は金融債の発行によって吸収される。割引金融債と利付き金融債の2種類を発行し，これは大衆に売り，あるいは普通銀行はじめ他の金融機関に売っている。このほか商工中央金庫*・農林中央金庫*もまた同様に金融債を発行し，前者は中小企業に，後者は農林業に資金を供給している。また，信託銀行は貸付信託その他の方式で長期資金を吸収し，基幹産業その他に資金を供給している。わが国の信託銀行は信託業務と並んで普通銀行業務を営んでおり，長期信用銀行の場合，短期金融業務がある限度まで認められている。このようにわが国では両種の金融機関の業務分野は相互に交錯している。商業銀行は信用造出機関といわれるのに対して，長期信用銀行などは信用媒介機関といわれる。しかし，最近では，信用媒介機関の発行する各種の金融資産の中には，通貨保有の代替物として選択されるものがあり，この発達はそれだけ通貨の需要量を減少させているという意味では，信用造出機関が通貨を供給しているのと異ならないという見解もある。

ぎんこう

〔銀行再編成〕いずれにせよ，わが国ではもともと短期金融機関と長期金融機関の業務分野は相互に交錯していたのであるが，これをさらに進めて，兼営銀行制度を全面的に認めよという主張が現われている。それが銀行デパート論とか，銀行業務の多様化論といわれるものである。これは最近のアメリカ・イギリス・フランス・西ドイツなどの主要諸国に起こった傾向に暗示を得たものであり，また国内では普通銀行，特に都市銀行の資金吸収面でのウエイトが徐徐に低下してきたのを挽回(ばんかい)しようとする意図も含まれている。明治の初め以来わが国の普通銀行は実質上は兼営銀行的であったが，ほかに特殊銀行として動産銀行・不動産銀行にあたるものが発達しており，戦後の改革によって特殊銀行は廃止された。これを受けて都市銀行・地方銀行などの普通銀行のほかに長期信用銀行・信託銀行などがそれぞれの分野に地盤を固めており，これをにわかに再編成することは摩擦が大きい。しかし，金融機構の効率化が，日本経済の国際化の進展に伴って要請されている今日，金融機関の各業務分野の境界を低くし，競争原理を全面的に取り入れることが必要だと提唱されている。また，銀行業務へのコンピューターの導入が盛んになってきており，その結果，技術的な必要から各銀行間の業務提携も進んでおり，この面からも画期的な変革に迫られている。今後の銀行は単に資金の需給の調整だけではなく，一つの情報産業として産業の発展を媒介し，調整する役割をになうことにもなるであろう。

銀行は各地で手形交換所を設けて手形交換を行なっているが，その機械化が現在進められている。金融機関の共同行動のためにまず各金融機関を番号で表示する。そして機械処理のための共同ルールがつくられた。わが国では1965年(昭和40)春には共同コードをつくり，MICR(マグネティック-インク-キャラクター-レコグニション)方式を採用する基本規定が定められた。さらに1967年にはMICRの金額表示を小切手に印字する場合のやり方も決められた。これは銀行だけでなく，全金融機関の共同ルールとなる可能性を強くもっている。労働力の節約のために，あるいは情報革命時代に備えるために，オンライン-システム*の採用も普及し，銀行の各支店には無帳簿・無計算の窓口ができることになる。また手形交換所は為替交換もしているが，地方銀行協会は1968年7月から電信電話公社と協力してコンピューターを導入，地方銀行データ通信システムを採用した。これは全国銀行協会のメンバーと商工中央金庫が加盟する全体の組織となる予定である。この機械化を背景にして，アメリカで始まったクレジット-カード-システムもやがて発達するであろう。これが発達すれば，クレジット*さえもっていれば，現金も小切手ももつ必要のない，いわゆるキャッシュレス，そしてチェックレスの時代がくるであろう。

また銀行は営業上必要な資料を保存しているが，それらも電子計算機に記憶させて，必要に応じてとり出すことになろう。そして，この業務は分化して，いわゆる情報産業として，価格をとって情報を提供するということも起こるであろう。〔小泉　明〕

きる種類のものと，非自償的なものとに分け，非自償的なもののみに限定する立場と，自償的なものまで含めて考える立場とがある。〔西野義彦〕

きんこうたいしょう　【菌交代症】一般に化学療法などを行なった際，正常人にも存在している体内の細菌群に変化が起こる。つまり，使用薬剤に対して感受性の高い菌は減少ないしは死滅し，反対に感受性の低い菌，耐性菌は増殖する。この現象を菌交代現象，増殖した菌によってひき起こされる疾患を菌交代症という。たとえば，ペニシリン療法中に口腔(こうこう)内に存在するα-溶連菌が消失してグラム陰性菌が増殖し，この菌による二次的感染症を起こしたりする場合などで，ペニシリン使用中にカンジダ症*の起こった例や，ストレプトマイシン使用中にブドウ球菌感染を起こした例などもある。いずれも共存菌が栄養源の奪い合い上有利になるとか，拮抗(きっこう)物質を産出する菌が抗生物質によって抑圧され，有利な環境となって増殖し，次いで感染をひき起こすのである。抗生物質使用患者のうち，重症者(悪性腫瘍(しゅよう)・白血病など)，末期状態，副腎(ふくじん)皮質ホルモン剤の長期大量併用者などに発症することが多く，生体の感染抵抗性の低下も一因と考えられている。〔国井乙彦〕

きんこうちたい　【近郊地帯】⇨グリーンベルト

きんこうのうぎょう　【近郊農業】都市の近郊にみられる農業の形態で，新鮮な野菜・くだもの・草花の栽培や養鶏・酪農などを営み，都市市場へ出荷する商業的農業が特色。都市の近郊は土地のゆとりがなく地価が高いので，近郊農業は他の農業に比べて経営規模が小さく，多毛作を行ない，資本・技術・労働力・肥料を大量に投下して集約的な経営を行なう。しかし，都市市場に近接しているため出荷に要する時間と費用が最少におさえられ，収益の高い生産物を自由に選択して経営することができる。わが国では東京・大阪・名古屋など大都市の近郊に，ヨーロッパでは北西ヨーロッパの工業地帯の周辺であるオランダ・デンマーク・北フランス・南イギリスなどに，アメリカ合衆国では東北部工業地帯周辺のメリーランド州・ニュージャージー州・ロングアイランド島などに発達している。〔大石堪山〕

ぎんこうひきうけてがた　【銀行引き受け手形】銀行が引き受けをした為替(かわせ)手形のことであり，通常，貿易決済のために発行される信用状*に基づき振り出される期限付き手形*である。信用状発行銀行は，輸出業者が自行を支払い人とする為替手形を振り出す際，その為替手形が信用状に記載されている条件を具備しているかぎり，その為替手形の引き受け・支払い保証をすることになる。特に一流銀行が引き受けた銀行引き受け手形は，支払いが絶対に確実であるから，金融市場で最も低い利率で容易に割引される。〔安井孝治〕

きんこうりろん　【均衡理論】経済活動における基本的な要素は財貨の供給と需要とこれら両者が出会う場としての市場である。これらの諸要素間の関係を分析する理論を一般に均衡理論という。均衡理論は二つに大別される。一つは一般均衡理論，他は部分均衡理論である。一般均衡理論は経済体系を構成するすべての財貨の需要と供給に影響を及ぼす要因の間に，どのような相関関係が成立すれば，すべての財貨の需給関係が同時に満足されるかを分析する。これに対して部分均衡理論は，一般均衡状態を構成する諸種の財貨の需給関係の中で特に強い影響をもつ要因間の関係のみを取り上げ，他の要因の影響を無視して，それら特定の要因がどのような価をとれば需給が同時に満足されるかを分析する。前者はワルラス*やパレード*などのローザンヌ学派*の立場であり，後者はマーシャル*・ピグー*などのケンブリッジ学派の立場である。〔藤枝省人〕

きんこうわん　【錦江湾】⇨鹿児島湾

きんこきかん　【今古奇観】中国，明(みん)代の通俗短編小説集。40巻。1巻につき小説1編の割合で40編の小説を収める。1632～1644年，明末のころに成立。編者は抱甕(ほうよう)老人とあるが，経歴は不明。明代の世態人情を彷彿(ほうふつ)させる作品が少なくない。日本にも早くから伝わり，江戸時代に流行して，翻訳や翻案が多く出た。

きんこりゅう　【琴古流】尺八の流派の一。都山流*と並んで最も大きな流派である。18世紀中ごろ，普化宗に所属していた黒沢琴古によって実質的に開かれた。琴古は積極的に各地に伝わっていた古曲を集め，それを整理し，多くの弟子(でし)に教授した。江戸時代の尺八音楽は世俗音楽ではなかったので，特に流派を名のる習慣がないまま，その音楽だけが伝承されていった。明治維

新によって普化宗が廃されると，黒沢琴古の流れをくむ吉田(よしだ)一調が，新たに芸術音楽の一流派として琴古流の形態を明確にし，すぐれた奏者である2世荒木古童，邦楽研究者としても名高い上原六四郎らと協力して，この派の制度を確立した。今日使用されている記譜法はこのころ上原によって整備されたものである。また明治になって，尺八だけによる古典を離れて，尺八以外の楽器に由来する音楽(外曲)の演奏を盛んに行ない，三曲合奏を積極的に取り上げたのも，この派の特徴である。今日でも，この派の門弟はくろうと・しろうとを問わず多くの数に上り，古典本曲の伝承を中心にしながらも，新曲をもしだいに生みつつある。〔徳丸吉彦〕

きんこん　【菌根】　菌類が共生的，非病原的またはやや病原的に付着して生活している高等植物の根をいう。一般に菌根をもつ高等植物は，無機物やビタミン類を菌(根菌)から受け，ときには細胞内にはいった菌糸を消化し，根菌は植物の根から有機物を取っている。根の組織と菌糸の結びつき方によって，マツなどのように菌糸が根の表面をおおい，細胞内に菌糸のはいらない外菌根と，ランなどのように菌糸が根の内部深く広がって細胞内へも侵入している内菌根に分けられる。〔吉田精一〕

きんこんしき　【金婚式】　⇨結婚記念日

ぎんこんしき　【銀婚式】　⇨結婚記念日

きんこんしょくぶつ　【菌根植物】　菌根をもち，その菌(根菌)と共生し，またはこれにまったく栄養を依存するなどの植物。前者にアカマツ・カバノキ・ラン類があり，後者にオニノヤガラ・ツチアケビなどがある。

きんざ　【金座】　江戸時代における金貨(大判を除く)鋳造所。勘定奉行(ぶぎょう)の支配下にあり，金貨(小判・一分金など)の鋳造・鑑査を独占的に請け負う特権的組合。御金改役(金座の長官)・金座(鋳造・鑑査などいっさいを管掌する座人)・吹所(小判師の鋳造工場)の3者によって構成される。1595年(文禄4)徳川家康(いえやす)が金工後藤徳乗の弟子(でし)，後藤光次(みつつぐ)を江戸に招いて小判を鋳造させたのに始まる。ほかに駿河(するが)(静岡県)・京都・佐渡(新潟県)にも置かれたが，関ケ原の役後廃止され，江戸の金座のみ存続した。のち光次の子孫が代々御金改役に任命され，1772年(安永1)幕府が新規の銭座を許可しなくなって以降は銭の鋳造も行ない，明治に至った。金座の跡は現在の日本銀行の地である。〔松尾　涼〕

ぎんざ　【銀座】　江戸時代の銀貨鋳造所。銀貨(丁銀・豆板銀)鋳造を独占的に請け負う特権的組合。特権の代償として年々運上を上納した。座人は10数名。大黒常是の一族が代々頭役(かしらやく)(長官)を世襲。1705年(宝永2)までは金座の支配，のち勘定奉行(ぶぎょう)の直接支配となる。1598年(慶長3)徳川家康(いえやす)が堺(さかい)の南鐐座(なんりょうざ)の一員であった湯浅作兵衛(さくべえ)常是(のちの大黒常是)を招いて京都の伏見に銀貨鋳造所を設け，1601年これを伏見銀座とし，また1606年駿府(すんぷ)(静岡県)に駿府銀座を設置して銀貨を発行させた。のち江戸・京都・大阪・長崎にも設けた。1800年(寛政12)6月一時廃止されたが，同月各地の旧座人から15名を選んで再興し，1869年(明治2)まで続いた。なお，1772年(安永1)以降，金座と同様に銭も鋳造した。〔松尾　涼〕



金　座《金座絵巻》(部分)　後藤　勝蔵



銀　座　〈歩行者天国〉の銀座通り。車両通行禁止の日曜日は，車道いっぱいに人波で埋めつくされる。4丁目から3丁目方向を望んだもの

ぎんざ　【銀座】　東京都中央区銀座1～8丁目を占める地区で，日本の代表的な高級商店街を形成する。地名は，1612年(慶長17)幕府が駿府(すんぷ)銀座をこの地へ移したことにちなむ。1874年(明治7)の大火で付近一帯が焼失したのを契機として，政府は市街経営を計画してれんが建築の家屋を国費で建て，アーク燈の街路に名物の柳並み木が生まれた。築地(つきじ)の外国人居留地に近かったこと，1882年に品川～浅草間に鉄道馬車が敷設されたことなどで発展した。関東大震災後は，京橋から新橋に至る約1kmの中央通りにデパート，各種高級専門店が進出し，裏通りにはカフェー・喫茶店が著しく増加して，いわゆる〈銀座八丁〉の繁栄をもたらした。第2次世界大戦後は，国電有楽町駅から数寄屋橋(すきやばし)・銀座4丁目を経て築地に至る通りも著しく発展している。みゆき通り・並木通りには高級服飾店が並び，日本の流行の先端を切っている。地下には，日比谷(ひびや)から三原橋まで約1kmにわたるプロムナードがあり，地下鉄銀座線・丸ノ内線・日比谷線の接続する銀座総合駅が設けられている。東銀座の三十間堀(さんじっけんぼり)や西銀座の外堀は戦後埋め立てられて，首都高速道路が建設されている。〔浅井得一〕

きんさく　【金策】　キムチェク　朝鮮，咸鏡(かんきょう)北道南部の港市。1899年に開港し，長く城津と称していたが，この地の出身で朝鮮戦争で戦死した軍司令官金策将軍にちなんで，1953年に改名した。漁港であるとともに，恵山鉄道によって背後の山間地帯を広く商圏に収め，林・鉱産物を集散する商港でもある。近年は魚油工場・魚肥工場・マグネシウム工場，大規模な製鋼工場などが建ち，工業都市化が進んでいる。

ぎんざけ　【銀鮭】　硬骨魚類・サケ科。ギンマスともいう。全長85cmほどになる。形はサケとほとんど変わらず，体色は背が青緑色，腹が銀白色。他のサケ・マス類と同様，川に上って産卵する。北太平洋に広く分布し，まれに北海道の川にもさかのぼる。北洋で漁獲されるサケ・マスの中では少ないほうである。おもにかんづめにされ，美味。

きんさこう　【金沙江】　チンシャー川　中国揚子江上流部。青海省西部に源をもつムルウス川とチュマ川が合流して通天河となり，四川省から雲南省を経て，東流して四川省南部で岷江(みんこう)と合流するまでをいう。この間の延長2,200余km。舟運の便はほとんどない。

ぎんざめ　【銀鮫】　軟骨魚類・ギンザメ科の一種をさす場合と，それに近い魚を総

称する場合とがある。ギンザメ類はいずれも頭が大きく，尾部に向かって順次体が細くなり，ほぼ糸状の尾びれに終わる。目先がとがり，口が下面につく頭部のようすは，ウサギやネズミの顔つきによく似ている。胸びれは非常に大きく扇状。雄は腹びれの内側に1対の交尾器を備え，目先と腹びれの直前に，交尾時に雌を確保する働きをもつと考えられている突起をもつものが多い。体内受精をし，革質のカプセルに包まれた卵を産む。いずれも，ほぼ100ｍ以上の深い海底にすむ。

ギンザメは全長1ｍ余り，体は銀白色。北海道から東シナ海に分布し，下等かまぼこの原料とされる。ココノホシギンザメ（ウサギギンザメ）は全長約1ｍ，黒かっ色の体にほぼ9個の白斑(はくはん)があり，青森から銚子(ちょうし)の太平洋岸に分布する。アカギンザメは全長80cmほどで灰かっ色，相模(さがみ)湾から高知沖に分布する。以上の3種はわが国で普通に漁獲される。ギンザメ目に近いものに，吻(ふん)が剣状に突き出したテングギンザメ目があり，日本近海の深海底からもまれに得られる。ギンザメ目・テングギンザメ目はともに全頭亜綱に属し，骨は軟骨で，サメに似ているが，えら穴が1対しかないところなど，硬骨魚類にも似たところがあり，古くは，硬骨魚類とサメ類の中間に位置する動物群と考えられたこともある。しかし，現在ではシルリア紀にサメの祖先型から分枝し，特別に分化したサメ類とみなす説が有力である。全頭亜綱の名は，この類の上顎(じょうがく)が頭骨に癒合(ゆごう)して一体化していることによる。〔菅野　徹〕

きんざんじ　【金山寺】 中国江蘇(こうそ)省鎮江府郊外の金山にある寺。揚子江に臨んで伽藍(がらん)がそびえている。東晋(とうしん)の元帝時代(317～321)，あるいは明(みん)帝時代(322～324)の創建とされる。505年武帝はここで水陸懺法(せんぼう)の仏教行事を行なったといわれる。1021年，山号を金山，寺号を龍遊(りゅうゆう)寺と改めた。宋(そう)代以後江南における文人の遊行所として知られ，清(しん)代には康熙(こうき)帝・乾隆(けんりゅう)帝が訪れて江天寺と改めたが，金山寺の名で有名である。〔京戸慈光〕

きんざんじ　【金山寺】 朝鮮南部の全羅(ぜんら)北道金堤郡の母岳山にある寺。金山仏寺ともいう。新羅(しらぎ)末期(9～10世紀)に創建された。壬辰(じんしん)の乱*(1592)のとき炎上したが，石造舎利塔，六重石塔は延焼を免れて現存し，新羅全盛時代のおもかげを残している。康熙(こうき)年間(1662～1722)に大寂光殿が再建され，その内陣の後壁に描かれた観音像は朝鮮の壁画中の第1とされ，また3層の大建築弥勒殿(みろくでん)は朝鮮に残る唯一の様式で建築史上注目される。また766年内陣に安置された弥勒像は約10ｍもある大銅像である。〔京戸慈光〕

きんざんじ　【径山寺】 中国浙江(せっこう)省杭州(こうしゅう)府の天目山の東北峰にある禅寺。中国禅宗の最高寺格である五山の一つで，臨済宗の大道場である。唐の天宝年間(742～755)の初め，国一禅師道欽(どうきん)によって開かれ，769年代宗の命によって寺が建てられ，1180年ごろ興聖万寿禅寺の号を賜わった。大慧宗杲(だいえそうこう)や無準師範*(むじゅんしはん)らが住した。なお，径山寺みそ*はこの寺に由来するといわれる。〔京戸慈光〕

きんざんじみそ　【径山寺味噌】 なめみそ*の一種。金山寺味噌とも書く。赤かっ色の柔らかいみそで，アサの実，ショウガ・シソなどを加えているところから独特の芳香があり，食欲をそそり，また貯蔵性もある。麦粒がつぶれず，舌ざわりのよいものが良品とされている。中国浙江(せっこう)省の古寺径山寺*でつくられたものを北条時頼(ほうじょうときより)の時代に宋(そう)の一山一寧が製法を伝えたといわれるが，一説には径山寺で修行した紀州(和歌山県)の興国寺の開山が製法を持ち帰って日本でつくりはじめたともいわれる。また文徳天皇時代に唐僧湛誉(たんよ)が伝えた加工みそも径山寺みそであったろうといわれる。大豆と大麦を原料としたこうじに食塩と水を加え，シロウリ・ナス，アサの実，ショウガ・シソなどを刻んで仕込み，8～10か月おいて熟成させる。最近では熟成後に水あめや砂糖などの甘味を加えたものが多い。〔塩川ふみ〕

ぎんざんだいら　【銀山平】 新潟県の南東部，福島県との県境の只見(ただみ)川最上流部にあたる山あいに形成された盆地。北魚沼郡湯之谷村にある。近世初期，この付近から銀が採掘され鉱山町がつくられた。第2次世界大戦前までは，この付近に多くの部落があったが，戦後，只見川の電源開発でダムが建設され，川筋の部落はダムの底に沈み，現在は2～3の部落を残すのみとなった。奥只見ダム*によってできた奥只見湖は銀山湖ともよばれ，尾瀬と結ぶ観光道路の建設も進んで，観光地としての開発が進められている。〔味沢成吉〕

きんし　【近視】 眼の屈折異常の一種。近視眼・近眼・近目ともいう。屈折の正常な正視では，水晶体が無調節状態で，無限遠方からの光(平行光線)が網膜に像を結ぶため，遠方でもよく見える。近視では，眼前の一定距離が遠点*となるので，それよりも遠い距離のものは網膜の前方に結像し，ぼんやりする。しかし，遠点より近い距離にあるものは，水晶体が調節して焦点があい，鮮明に見える。

近視には屈折性近視・軸性近視がある。屈折性近視は，正視よりも屈折力が強いために網膜の前方に結像する。軸性近視は，角膜の中心から眼底の中心までの距離(眼軸)が正常のもの(24㎜)より長いために網膜の前方に結像する。仮性近視といわれるものは，一時的な屈折性近視で，悪い姿勢で長時間読書などをすることにより，水晶体の厚さを変える毛様体が異常収縮し，調節ができなくなったものである。近視の場合，遠方が見えるようにするには，凹(おう)レンズをかけることによって，網膜前方の結像を網膜に結像するようにする。これを近視の矯正(きょうせい)という。そのときかけるレンズの強さを近視の強さとする。レンズの強さは，そのレンズの焦点距離(メートルで表わす)の逆数で表わし，これをジオプター(略号D，近視の場合は－で示す)という。たとえば，焦点距離1ｍの凹レンズは－1D，0.5ｍのときは－2Dとなる。以前は度という単位を使用したが，現在ではあまり用いない。1ジオプターが40度，2ジオプターが20度で，度とジオプターとは反比例する。近視の度合いはジオプターによって，弱度近視(－3D以下)・中等度近視(－3～－6D)・強度近視(－6D以上)・最高度近視(－10D以上)に分けられる。－18～－20Dのものは矯正がむずかしく，水晶体の除去手術によって遠方視力をよくする場合がある。この場合，近くのものを見るためには凸レンズによって矯正する。強度近視は軸性近視のものが多く，しばしば遺伝性が認められる。弱度近視は近業(目を近づけてする仕事)のしすぎによって起こる屈折性近視が多い。学校近視というのは，屈折性近視であり，仮性近視から移行したものが多い。

治療は，凹レンズの眼鏡をかけさせるか，またはコンタクトレンズ*を装用させる矯正以外になく，近視そのものを治療する方法はない。仮性近視については治療が可能であり，一般にこれを近視の治療といっている場合が多い。〔氏原　弘〕

きんし　【菌糸】 俗にかびやきのことよばれる藻菌(そうきん)類・嚢子菌(のうしきん)類・担子菌類は，胞子が適当な環境下で発芽すると細長い糸状体として延長し，また分岐しつつ生長する。それを菌糸とよぶ。菌糸の膜はキチン*またはセルロース*で管状をなし，隔壁があるものとないものとがある。中には小さな核やグリコーゲン・脂肪を含むが，葉緑体は含まない。一次菌糸は核が単一，二次菌糸はそれが重複して，担子菌類では子実体をつくる。生殖菌糸は空中に伸びて頂端に胞子を形成し，気菌糸とよばれる。なお，菌糸の集合体は菌糸体とよばれる。〔和気　朗〕

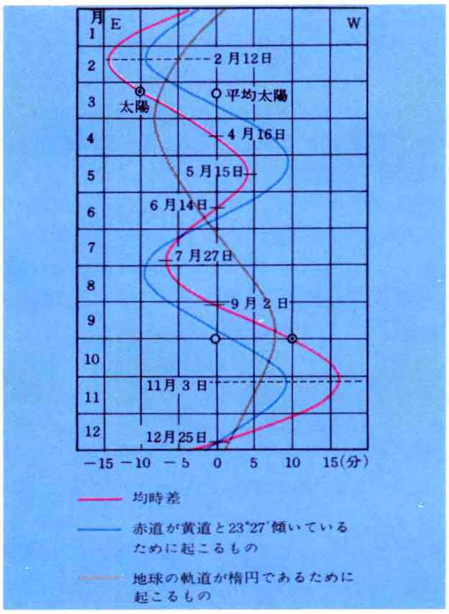
きんじき　【禁色】 古くから朝廷でその着用を制限・禁止している服色をいう。朝廷の服制は身分・位階*によって精細に規定され，規定以上の服色は禁色としてその着用が許されなかった。しかしふつう特に禁色という場合は，天皇・皇族の袍*(ほう)の染色である青・赤・支子(くちなし)・黄丹・深紫・深緋(しんぴ)・深蘇芳(しんすおう)の7色と有文の綾織物(あやおりもの)をさし，臣下の着用が禁止され，着用した場合は処罰された。

きんし・ぎんし 【金糸・銀糸】 金箔(きんぱく)・銀箔を和紙に張って細長く切断したものを，絹糸・綿糸・化繊糸をしんとして巻きつけた糸。特殊の金属光沢によって装飾用に供せられる。繻珍(しゅちん)・糸錦(いとにしき)・金襴(きんらん)などに織り込み，またししゅう糸として用いる。帯地・袈裟(けさ)・能装束などに使われる。

きんじくこうせん 【近軸光線】 ⇨レンズ

きんしくんしょう 【金鵄勲章】 ⇨勲章

きんじさ 【均時差】 単に時差ともいう。真太陽時*と平均太陽時*の差すなわち，真太陽*と平均太陽*の赤経(または時角)の差。真太陽の南中は均時差が正のときには12時過ぎに起こり，負のときには12時前に起こる。均時差は，1年間に極大・極小がそれぞれ2回ずつ現われる。それは，①黄道が赤道に対して23°27′傾いており，②地球の軌道が楕円(だえん)であることに起因する。均時差が極大・極小または0となる日にちは年によってわずか異なる。 〔木下 宙〕

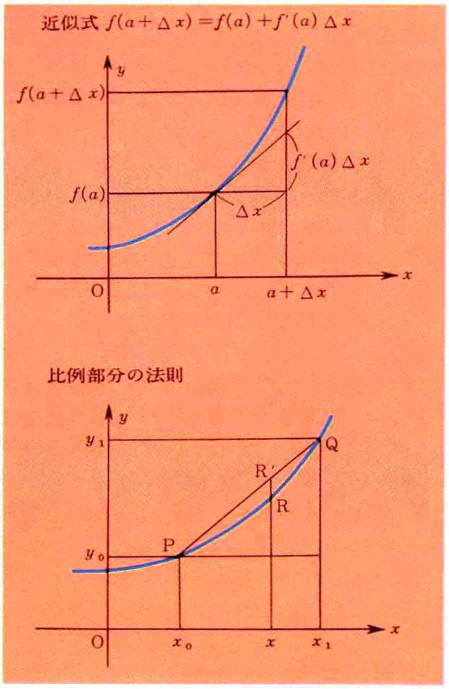


均 時 差 均時差曲線

きんじしき 【近似式】 ⇨近似値

きんジストロフィーしょう 【筋ジストロフィー症】 おもに小児に発症する遺伝性筋萎縮症(きんいしゅくしょう)の一型で，四肢(しし)の軀幹(くかん)に近い部の筋肉が徐々に萎縮していく疾患。筋萎縮と脱力がみられ，歩行は動揺し，上肢では肩甲骨(けんこうこつ)が突出したようにみえ，上肢の挙上などが障害される。この疾患は次の3型に大別される。①デュシャンヌ型：最も多い型で，3～5歳の男児にみられ，比較的進行が早く，10歳前後で歩行不可能となり，下腿(かたい)に肥大が認められる。②腰肢帯型：小児から青年期の男女にみられ，進行はゆるやかであるといわれる。③顔面肩甲上膊(じょうはく)型：遺伝性が濃厚で，顔面筋も冒されているが，進行性はあまりない。骨格筋に変性があり，また筋肉中にある種々の酵素の活性が血液中において高いので，診断の助けになる。わが国でも最近社会的に注目され，対策が進められているが，根本的な治療法はまだ確立されていない。 〔井形昭弘〕

きんじち 【近似値】 真の値の代わりに用いるこれに近い値。円周率*πの値は無理数であって，循環しない無限小数で表わされるが，近似値として3.14や$\frac{22}{7}$を代用するのはその一例である。近似値 a から真の値 A を引いたもの，すなわちΔaを a の誤差といい，$\Delta a>0$ の場合と$\Delta a<0$ の場合とがあるが，符号を考えないで$|\Delta a|$を誤差ということもある。真の値Aは必ずしもわかっているとはかぎらないので，誤差の代わりに$|a-A|=|\Delta a|\leqq\delta a$を満たす誤差の限界$\delta a$を問題にすることが多い。また，$|\Delta a/A|$を相対誤差，$\delta a/A$を相対誤差の限界という。二つの近似値の和・差の誤差は，それぞれの近似値の誤差の限界の和を越えない。近似値の積・商の相対誤差は，それぞれの相対誤差の限界の和を越えない。



近 似 値

関数の近似値や誤差を扱うのに微分係数*を利用することができる。関数$f(x)$において，xがaから$a+\Delta x$まで変化するとき，Δxが十分に小さい値であるならば，$f(a+\Delta x)\fallingdotseq f(a)+f'(a)\Delta x$がなりたつ。この式の右辺は$f(a+\Delta x)$の近似値を求めるために用いるもので，$f(x)$の近似式という。たとえば，$f(x)=\frac{1}{x}$のとき，$f'(x)=-\frac{1}{x^2}$であるから

$$\frac{1}{a+\Delta x}\fallingdotseq\frac{1}{a}-\frac{1}{a^2}\Delta x$$

したがって，$\frac{1}{1+0.04}\fallingdotseq 1-0.04=0.96$

$$\frac{1}{1-0.05}\fallingdotseq 1+0.05=1.05$$

数表を利用するときは，隣接した引数(数表に掲載してある変数の値)x_0，x_1の間の値xに対する関数値を求めることが必要な場合がある。この場合の計算法を補間法という。補間法の最も簡単なものは，次の比例部分の法則である。これは2点P，Qの座標$(x_0,\ y_0)$，$(x_1,\ y_1)$が表から求められたとき，$\overset{\frown}{PQ}$を直線とみて，$x_0<x<x_1$なるxに対応するyの値を$y\fallingdotseq y_0+\frac{y_1-y_0}{x_1-x_0}(x-x_0)$から算出するものである。 〔菊池兵一〕

きんしつぎゅうにゅう 【均質牛乳】 ⇨ホモ牛乳

きんしつろ 【均質炉】 ⇨原子炉

きんしばい 【金糸梅】 双子葉植物・オトギリソウ科の半落葉低木。中国原産で，わが国にも古くから観賞用として渡来した。現在では人家近くの湿った石がきやがけなどに自生状態ではえる。高さ1m内外で，枝はたれ下がる。葉は対生，卵形で全縁，裏面は白緑色，油点が散在する。初夏，枝先に集散花序に黄色花をつける。花は径3cmぐらいで美しく，ウメの花に似る。円形の花片は5枚で巴(ともえ)状に重なる。蒴果(さくか)は卵形で宿存がくがある。近縁種にビョウヤナギがあり，花はより大輪。ともに株分けで繁殖させうる。 〔横井朝子〕

きんしゃ 【錦紗】 現在，一般には錦紗縮緬(ちりめん)の略称とされているが，第2次世界大戦前には錦紗御召(おめし)をもさしていた。錦紗縮緬は経緯ともに細い生糸を用い，経糸(たていと)を密にし，緯糸(ぬきいと)には右撚(みぎより)・左撚の強撚糸(きょうねんし)を一越(ひとこし)ごとに交互に織り込んだ縮緬の一種である。糸が細く密なため，皺(しぼ)立ちが細かく，平滑な感じであり，光沢があって，軽目なのが特徴である。戦前には，重目の皺の高い縮緬に対して軽目な小皺の特色が喜ばれ，染生地(そめきじ)として大きな需要があった。しかし，近年では着尺地にはあまり使われず，もっぱらすそ回しや羽裏(はうら)などに使用されている。

1909年(明治42)ごろ丹後(京都府)で開発され，明治末から大正初期にかけて，大流行をきたした。この流行に刺激されて，大正期には羽二重や御召にも薄手で軽目のものがつくられるようになり，錦紗羽二重とか錦紗御召とよばれてきた。 〔北村哲郎〕

キンシャサ [Kinshasa] アフリカ大陸中部にあるザイール(旧ベルギー領)の首都。コンゴ盆地の西端にあり，コンゴ川下流の河港市になっている。人口199万(1975年推)。1960年にこの国が独立するまでも，旧ベルギー領の首都であった。旧称はレオ

ボルドビル。対岸にコンゴ人民共和国(旧フランス領)の首都ブラザビルがある。コンゴ盆地にはいる鉄道・道路・航路・航空路の集中する要地で，国内産物の集散地であるとともにそれら産物の加工工業も発達し，特に綿工業・ジュート工業・木材加工などが盛んである。〔小栗　宏〕

きんしゅ【筋腫】 筋組織よりなる腫瘍(しゅよう)。筋繊維の別により，平滑筋腫と横紋筋腫に区別する。大部分は平滑筋腫で，主として子宮に好発し，部位により粘膜下筋腫・壁内筋腫・漿膜下(しょうまくか)筋腫に分けられる。結節状でかなりかたく，しばしば多発して，大きなものは成人頭大になることもある。

きんしゅう【錦州】 チンチョウ　中国遼寧(りょうねい)省西部の都市。人口35万(1953年推)。清(しん)代の錦州府城。遼河の支流小凌河(しょうりょうが)の左岸にあり，瀋山(しんざん)鉄道(瀋陽～山海関)に沿い，承徳と結ぶ承徳鉄道を分岐する。満州事変(1931)の奉天陥落後，張学良*はここに退き，翌年には日本軍の占拠するところとなった。穀物・毛皮の市場として名高く，阜新(ふしん)・北票の石炭や電力を利用し，パルプ・紡織の工業も発達している。市街には旧跡が多く，ことに広済寺の白塔(８角13層)が知られる。〔千田　稔〕

きんじゅう【近習】 主君の側近に常時仕えている家臣。平安時代，朝廷にすでにその名称がみえるが，鎌倉幕府では職制になり，1223年(貞応２)に定員・勤務規定が整えられた。足利尊氏(あしかがたかうじ)により制定された建武式目*には〈近習者を撰(えら)ばるべきこと〉の条項がある。江戸幕府にもその職制が置かれ，御近習筆頭人とよばれていた側用人*(そばようにん)は江戸中期の幕政に権力をふるった。

きんしゅうしゅく【筋収縮】 筋肉が収縮すること。筋収縮は化学的エネルギーを運動などの機械的仕事に転換する現象である。分子レベルでの収縮はアクトミオシン*とよばれる収縮性タンパク質による。このタンパク質はある種のバクテリアにも見られる。筋組織の進化は，神経組織の発達と並行して，生物の外部環境に対する反応を発達させた。骨格筋は筋繊維(筋原繊維を多量に含む細胞)が多数集まったもので，筋膜に包まれ，両端は腱(けん)組織となって骨部に付着する。１本の運動神経繊維の末端が多数の枝に分かれ，各枝の先が神経終板となって筋繊維に付着している。筋原繊維は数μの幅の横紋構造をもっている。横紋は強い複屈折性を示し，暗く見えるA帯と明るく見えるＩ帯とからなり，A帯の中央にはH板という複屈折性の低い部分が，Ｉ帯の中央には暗く見えるＺ膜がある。Ｚ膜と隣のＺ膜までが一つの単位で，静止状態の筋では２～３μの幅をもつのが普通である。A帯はおもにミオシン*から，Ｉ帯はアクチン*からなっており，ともにアクトミオシンを構成するタンパク質である。Ｉ帯を構成する細いフィラメントはA帯を構成する太いフィラメントと指を組み合わせるように互いに組み合わさっているが，筋肉の収縮時にはＩ帯の幅だけが変化する。このとき，双方のフィラメントの長さには変化のないことから，Ｉ帯のフィラメントがA帯のフィラメントの間をすべって移動するのだろうと考えられている(すべり説)。この移動のためのエネルギーは，カルシウムイオンとマグネシウムイオンの存在下でアクトミオシンがＡＴＰ*を分解することによって得られる。収縮した筋肉の弛緩(しかん)は，カルシウムを除去することによって実現する。カルシウムの除去は筋原繊維を取り巻く筋小胞体(弛緩因子・筋ミクロソーム)によって行なわれているが，この反応もエネルギー源としてＡＴＰを必要とする。弛緩因子は，筋膜を通じて神経の支配を受けていると思われる。

筋肉は，収縮にも弛緩にもＡＴＰを必要とするが，筋肉が激しく活動している場合，酸素呼吸によってＡＴＰを合成する系からの供給では不十分である。ＡＴＰの供給系にはいくつかあり，筋肉に多量に含まれるクレアチンリン酸*のエネルギーをクレアチンキナーゼの触媒でＡＤＰに渡してＡＴＰを再合成する反応，ミオキナーゼの触媒で２モルのＡＤＰから１モルのＡＴＰとAMP*を合成する反応，グリコーゲンを乳酸まで分解する系からの供給などは，すべて酸素を必要としない反応である。肝臓は乳酸をグリコーゲンに再合成するが，合成が分解に間に合わないときには乳酸が蓄積されて疲労が起こる。収縮後の回復期には酸素呼吸によって生じたエネルギーを使用している。〔原野友之〕

きんしゅほう【禁酒法】 アメリカの1919年のウォルステッド法と，1920年の憲法修正第18条(《禁酒修正》)の俗称。1826年アメリカ禁酒協会の結成以後，アメリカの禁酒運動は組織的になり，婦人改革運動とともに発展した。一時，下火になったが，1870年代に再燃し，1869年禁酒党，1895年全米反酒場連盟が結成された。1845年ニューヨーク州が酒類の販売を禁止し，1846年メーン州がはじめて全面的禁酒法を制定，第１次世界大戦前に禁酒州は26に達した。戦時中の食糧確保のため，ドイツ人醸造業者への反感もあって制定されたウォルステッド法は，0.5％以上のアルコール含有飲料を酒類とみなして販売を禁止し，第18条修正では酒類の密造・密輸・密売が禁止された。しかし，法律の執行はむずかしく，1920年代には違反や犯罪が続発し，ギャングがはびこった。1933年憲法修正21条で廃止され，それ以後禁酒にするか否かは各州の決定にゆだねられた。現在では，ミシシッピ州のみが州法によって禁酒を実施している。〔折井一彦〕

きんしょ【禁書】 書籍の出版・販売，ときには所蔵をも禁止すること。古くは中国，秦(しん)の始皇帝の挟書(きょうしょ)の禁*，近くはドイツのナチスや日本の東条軍閥，またアメリカのマッカーシーの禁書などが知られる。禁書の多くは宗教・政治・風俗上の理由によるが，時代により国により禁書の内容もさまざまである。《聖書》に次いで最大の売れ行きを示したといわれるトマス-ア-ケンピスの《キリストに倣(なら)いて*》や，教育の大宝典といわれるジャン-ジャック-ルソーの《エミール*》が，ときの政府の忌諱(きい)に触れて禁書の厄(やく)にあったことがある。〔庄司浅水〕

きんしょくじ【錦織寺】 滋賀県野洲(やす)郡中主町木部(きべ)にある浄土真宗木部派の本山。〈にしごりでら〉ともいう。山号は遍照山。本尊は阿弥陀(あみだ)如来。858年(天安２)慈覚大師円仁(えんにん)が天台別院として建立(こんりゅう)，毘沙門天(びしゃもんてん)を安置して天安堂とした。1235年(嘉禎１)親鸞(しんらん)が当寺に滞在し所持していた阿弥陀像を本堂に安置し，以後浄土真宗に転宗した。四条天皇から天神護法院錦織寺の勅額を賜わった。天正年間(1573～1591)および1694年(元禄７)に火災にあい，現在の建物はその後に再建されたもの。〔毛利早公子〕

きんしょもくろく【禁書目録】 教皇庁が信徒に信仰上・道徳上の理由から読むことを禁じた図書の目録。ラテン語でIndex Librorum Prohibitorum。〈インデックス〉と略称される。1546年トリエント公会議で禁書令が出され，1559年はじめて〈禁書目録〉が公にされた。その後，数十回改定され，今日でも緩和されてはいるが生きつづけている。

きんしろく【近思録】 ⇨伝習録

きんしんこうはい【近親交配】 共通の祖先をもつ二つの個体の間での交配。二つの個体が共通の遺伝子をより多くもつ場合，より程度の強い近親交配となる。動植物では親子間が最も近く，次に兄弟姉妹間，異父または異母の兄弟姉妹間，となる。生物・医学実験では，材料のばらつきによる誤差をなくすために，遺伝的に均一化したものを用いるが，近親交配を続けると，遺伝的に均一化してくる。

きんしんこん【近親婚】 親族関係の密接な者の間の婚姻*をいい，民法はこれを禁止している。すなわち，直系血族(→直系・傍系)の婚姻は自然血族たると法定血族(たとえば，養親と養子)たるとを問わず禁止され(民法734条)，法定血族はその関係が消滅したあとでも許されない(民法736条)。また，３親等内の傍系血族間の婚姻(たとえば，自分と甥(おい)・姪(めい)またはおじ・おばなど)および直系姻族間の婚姻(たとえば，自分とむすこの配偶者および自分の配偶者の連れ子など)もそれぞれ優生学的・道徳的見地か

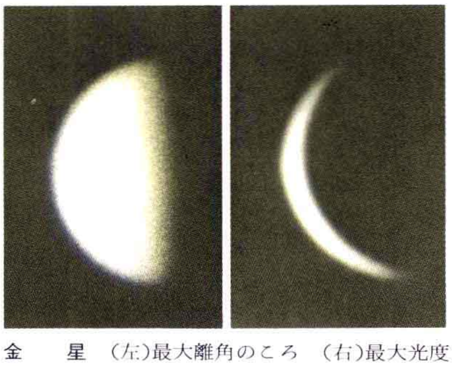
ら禁止されている(民法734条・735条)。したがって，いとこどうしの婚姻であるとか，夫が亡妻の姉妹と婚姻する順縁婚，妻が亡夫の兄弟と婚姻する逆縁婚などは禁止されていない。これらの制限に反して受理された婚姻は，当事者・親族・検察官からの訴えによって取り消される(民法744条)。〔黒木三郎〕

ぎんすじつとが【銀条苞蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。翅(はね)を広げた長さ20mm内外。頭部および胸部は灰かっ色をおびた白色，腹部は灰かっ色。前翅の前縁部に沿って，かっ色の線で囲まれた顕著な銀白色紡錘形の大きな斑紋(はんもん)がある。日本全土のほか朝鮮・アムール川流域地方からヨーロッパにまで広く分布し，草原地帯に多い。

ギンズバーグ ［Allen Ginsberg］（1926〜 ） アメリカの詩人。1950年代の半ばに，サンフランシスコを中心に〈ビート-ジェネレーション〉の活躍を起こし，《吠(ほ)える》などホイットマンの流れをくむ反俗的な詩集を発表した。その人間喪失への激しい告発は，仏教への深い関心や反戦運動への参加などにつながっている。

きんせい【近世】 ⇨時代区分

きんせい【金星】 地球より内側を回る惑星。軌道長半径は0.723天文単位。公転周期は225日。離心率は0.007で惑星のうち最も小さく，円軌道に近い。最大離角は，地球軌道が楕円(だえん)であるため，45.7°〜45.9°の間を変化する。最大光度は－4.4等級で，全天で太陽・月に次いで明るい。夕方西の空に，また朝方東の空に明るく輝いているので，よいの明星または明けの明星とよばれる。赤道半径は6,056km，視直径は内合のときで64″，外合のときで10″である。内惑星であるので満ち欠けが激しい。地球に近づいて視直径が大きいときに三日月形になり，満月形のときには距離が遠くて視直径が小さくなるため，観測するのがむずかしい。反射能は0.85で惑星中最大である。金星の表面は厚い大気におおわれている。これは，太陽面通過のときに金星本体のまわりに光の環ができることにより想像されていたが，1910年7月ふたご座の恒星を金星が掩蔽(えんぺい)したときに月の場合のように瞬時には消失せず，2.5秒を要した事実によって，大気の存在が確認された。金星の大気は二酸化炭素CO_2が地上の250倍も存在していて，酸素O_2や水蒸気は非常に少ない。大気圧は20気圧で，温度は300〜500℃である。このような高温度は，太陽放射の吸収と大気による保温効果によって保たれる。厚い雲の層があるために，表面にはほとんど模様が見られないし，あっても定常的ではない。このため，自転周期を決めることが困難であったが，レーダーの測定によって250日で逆向きに(公転方向に対して)自転していることがわかった。質量は，



金　星　(左)最大離角のころ　(右)最大光度のころ

衛星をもっていないので彗星(すいせい)など他の天体へ及ぼす摂動から求められ，地球質量の0.815倍である。〔磯部琇三〕

きんせいせき【菫青石】 マグネシウム・鉄・アルミニウムのケイ酸塩鉱物。造岩鉱物の一。$Al_3(Mg, Fe)_2[Si_5AlO_{18}]$ 斜方晶系。比重2.5〜2.8，硬度7，劈開(へきかい)不明瞭(ふめいりょう)，屈折率1.52〜1.58。無色透明または青みをおび，六角柱状または板状結晶で，偽六方の双晶をなすことが多い。アルミナ質の堆積(たいせき)岩が変成作用を受けてホルンフェルス化し，結晶片岩に変わったときや，火山岩中に産する。京都府亀岡(かめおか)市産のものは桜石とよばれ，天然記念物に指定されている。天然のものは2価の鉄を多量に含んでいるためあまり用途がないが，合成マグネシウムキンセイ石は，熱膨張が少ないため，耐火性窯業材料として有用である。〔加藤敏郎〕

きんせいたん【金聖嘆】 （？〜1661） 中国，明(みん)末・清(しん)初の文芸批評家。蘇州(そしゅう)(江蘇省)の生まれ。本姓は張，名は釆(さい)。聖嘆は字(あざな)。従来卑しめられていた《水滸伝(すいこでん)》《西廂記(せいしょうき)》などの通俗文芸を取り上げ，原作を自分の好みに書き改め，それに鋭利な評語を差し入れて批評した。明から清への革命の際に，彼は生活苦に陥り，しだいに生死の問題，利那(せつな)と永遠の問題に心をひそめ，虚無的思想に向かった。学生運動の巻き添えとなり，反逆罪に問われて刑死。〔松沢　勝〕

きんせいたんさたい【金星探査体】 金星に接近または着陸して観測し，地球に報告，または写真撮影して電送する無人飛行体。金星への打ち上げ時期は584日(ほぼ1年7か月)ごとに巡ってくる。アメリカが1959年に打ち上げたパイオニア5号は，時期を逸したために人工惑星になった。またソ連は，1961年に惑星間ステーション金星1号を打ち上げたが失敗した。1962年には，アメリカのマリナー2号が金星の約35,000kmまで近づいて通過した。マリナー2号は重さ201kg。金星の表面温度が427℃に達すること，磁場は地球の10分の1以下であること，金星を取り巻く放射能帯はないことなどを測定した。金星観測後約3週間電波通信が続き，通信の最大距離は8,640万kmであった。1965年にはソ連の金星2号が打ち上げられて金星に命中したが，命中前に電波がとだえて失敗した。その後1967年に金星4号は金星の大気に突入，観測カプセルをパラシュートによって軟着陸させることに成功し，その6日後に打ち上げられたアメリカのマリナー5号も金星から3,990kmまで接近，通過した。次いで1969年には金星5号・6号が打ち上げられ，これらは金星の大気中を降下した。〔原田三夫〕

きんせいちょう【錦静鳥】 鳥類・キンパラ科。オーストラリア原産でジュウシマツほどの大きさの小鳥。シュバシ(アカバシ)キンセイチョウ・キバシキンセイチョウ・クロハシキンセイチョウ・オナガキンセイチョウの4種類があり，その種類によって分布はそれぞれ異なる。わが国には大正時代にはじめて輸入された。羽色は，キバシキンセイチョウを除いて，胸部の黒い斑紋(はんもん)がエプロンのように見えるのが特徴。もの静かなおとなしい鳥で，巣引きは仮母を利用すれば楽にできる。〔石島芳郎〕

きんせいぶっきょう【近世仏教】 室町時代以後になると仏教界には，鎌倉仏教の成立にみられたような，生き生きとした思想的な動きはみられなくなるが，寺子屋などによる寺院・僧侶(そうりょ)の庶民教育への参加によって仏教の民衆化が進むとともに，五山文学に代表されるような仏教思想の文芸や美術などへの影響が顕著になり，当時の生活・文化の向上に，大きな役割を果たすようになった。しかしその反面，寺院・僧侶はさまざまな社会的・経済的な活動を展開し，一向一揆(いっき)や法華(ほっけ)一揆のごとく，信徒を結集して政治権力と対抗する場合もあった。このような動きに対して，織田信長(のぶなが)は，それが自分に反抗する場合には，その武力を徹底的に破壊しようとし，豊臣秀吉(とよとみひでよし)は検地によって寺院の経済力の弱体化を図った。徳川家康(いえやす)は1603年(慶長8)江戸幕府を開くと，寺院勢力を封建体制の中に繰り込もうとし，臨済宗の崇伝の協力を得て，慶長年間(1596〜1614)から必要に応じて寺院法度(はっと)を制定し，その統制に踏み出した。寺院法度は諸大寺それぞれのために定めたものと，宗派別のものとから始まるが，1665年(寛文5)には従来の個別的な法度を整理して，諸宗一般に共通した〈諸宗寺院法度〉が制定された。これよりさき1635年(寛永12)，幕府は諸宗の監督と取り締まりのために寺社奉行(ぶぎょう)を置き，これらによって仏教は幕府の支配に完全に服し，それに利用されることになってしまった。

この点において，江戸時代の仏教に関係深いのがキリシタンの禁制である。これは秀吉以来の政策であったが，幕府が圧迫を強化したため，それに抵抗して1637年島原の乱が起こった。幕府はキリスト教徒へ

の圧迫をいっそう強化するとともに，仏教への回心を強制し，寺院からそれを証明する証文を出させた。これが寺請(てらうけ)証文で，のちに幕府はこれを全国的な制度に広げ，すべての者をいずれかの宗旨の寺院に帰属させ，その檀家(だんか)であることを届け出させた。これに基づいてできたのが宗旨人別帳で，幕府はその支配体制維持のために，これを幕末まできびしく実施させた。

これらの諸政策によって，いわゆる檀家制度が確立し，家とその信仰を世襲化し，年中行事と祖先崇拝を中心に仏教は受け継がれていき，仏教の民衆間への浸透はいっそう進んだが，反面，寺院生活が安定したため，仏教の本来的活動はしだいに失われていった。このように幕府は仏教を支配・統制していったが，同時に文治主義に立って，寺院法度で学問を奨励したため，諸宗において宗学(教理学)研究が盛んになった。しかし日蓮宗(にちれんしゅう)における受不施派と不受不施派との対立，浄土真宗における三業(さんごう)惑乱などのように，宗内における活発な論議はあまり行なわれなかった。つまり仏教界そのものが幕府の支配体制に組み込まれていたため，仏教を当時の生活に適応させるか，単なる訓詁(くんこ)学に終わらせる場合が多かった。しかし，天台宗の天海*が わが国ではじめて《大蔵経》を開板，それに続いて黄檗宗(おうばくしゅう)をわが国に伝えた隠元の弟子(でし)鉄眼*も《大蔵経》の開板をし，特に後者は部数も多かったので，仏典の研究に貢献するところが大きかった。また真宗の浄厳(じょうごん)と飲光*(おんこう)(慈雲尊者)は梵語(ぼんご)の研究にあたり，中でも飲光による文法や読解の研究は，明治中期以後における近代仏教学の先駆的役割を果たすものといえよう。〔奈良博順〕

きんせきぶん 【金石文】 中国古代の青銅器や石碑などに刻まれた文字。古くは銅を金といったので金石文(略して金文)といい，また青銅器に刻まれたので鐘鼎文(しょうていぶん)ともいう。殷(いん)代末期のものと周代のものは甲骨文字*に似て，それを肉太に装飾化した字体であり，春秋戦国時代のものはさらに変化して古文(または古籀(こちゅう))と総称される字体を用い，秦(しん)の石鼓文は篆文(てんぶん)でしるされている。王室からの賞賜を受けた記念や後世に残すべき勲功をしるしたものが多く，周代の〈毛公鼎(もうこうてい)〉〈虢季子白盤(かくきしはくばん)〉などが有名である。〔藤堂明保〕



金石文

きんせきへいようじだい 【金石併用時代】 人類が利器・器具の材料として金属と石を併用していた時代。一般には石器時代*から金属器時代へ移る過渡期の時代といわれるが，19世紀の後半ごろから青銅器時代*に先だち石器時代に続くものとして設定された純銅器時代または銅石器時代をさす。人類ははじめての金属として銅を発見して銅器を使っていたが，石器はなお残存していて，両者は並行して使用されていた。原則的にはこのような時代を金石併用時代といっている。〔河原純之〕



キンセンカ

きんせつさよう 【近接作用】 物体間の力が媒質を通じて有限の速さで作用すること。２物体間の力は，一方の物体に生じた変化がそれに接する物質に伝えられ，その変化がまたその隣の物質に及ぶ，というしかたで他方の物体に伝えられる。電磁的な力や万有引力のように真空中でも力が伝わる場合には，空間そのものが媒質の役割を演ずると考える。→遠達作用

きんせつしんかん 【近接信管】 ＶＴ信管ともいう。弾体の頭部に取り付けられた一種の電波信管で，目標の近くを弾丸が通過するときに周波数の急激な変化により起爆装置を作動させるようにしたもの。命中しなくても爆発して敵機を撃墜しうる対空機銃弾がこれによって生まれた。第２次世界大戦末期，アメリカ軍の研究機関により完成され，対空射撃に飛躍的な威力の向上をもたらした。

ぎんせん 【銀川】 インチョワン 中国寧夏回族自治区の都市。人口16万(1953年推)。もと寧夏といった。黄河の左岸に位置し，包蘭(ほうらん)鉄道(包頭～蘭州)に沿う。宋(そう)代には西夏の都として栄え，市街には堅固な城郭を巡らしていたが，19世紀後半，イスラム教徒の乱で破壊された。付近一帯は黄河の水で灌漑(かんがい)された肥沃(ひよく)な農業地帯で，穀類のほか羊毛・ラクダ毛・牛皮などの畜産物が豊富である。住民の約３分の１は回族(イスラム教を信奉する少数民族)が占める。〔千田　稔〕

きんせんか 【金盞花】 双子葉植物・キク科。ヨーロッパ原産の越年草。正しくはトウキンセンカとよばれるもので，同属のホンキンセンカよりも一般的であるため，キンセンカというと本種をさす。花壇・切り花用として栽培される。茎は高さ15～50cm，よく枝分かれし，全体に軟毛がある。葉は先のほうがふくらんだ長卵形で淡緑色。夏，枝の先に直径４～８cmの橙黄(とうおう)色・橙赤色などの頭花をつける。

きんせん・ぎんせん 【金銭・銀銭】 金または銀で鋳造された銭*。金銭は760年(天平宝字４)に鋳造された開基勝宝がある。のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)が天正大判・小判のほかに永楽通宝金銭を鋳造したと伝えられるが不明。江戸時代には金座*などで多量に小判などが鋳造された。銀銭は708年(和銅１)に和同開珎*(かいほう)銀銭，760年太平元宝銀銭を鋳造。室町末期から丁銀*が鋳造された。豊臣秀吉は天正通宝・永楽銭*などの銀銭を鋳造。江戸初期には慶長通宝・元和(げんな)通宝などの銀銭を鋳造。以後，丁銀・豆板銀として銀座*で鋳造された。〔松尾　涼〕

きんせんさいけん 【金銭債権】 代金・貸し金・賃金など，金銭の支払いを目的とする債権*をいう。金銭は価値の存在形態であって，物としての個性をもつものではない。したがって，金銭債権は貨幣にではなく金額に重点があるのだから，履行不能*の問題を生ずる余地はなく，履行遅滞*の問題が生ずるにすぎない。金銭債権は各種の通貨をもって弁済することができるが，特定の通貨で支払うことを特約した場合はそれに従わなければならない(民法402条１項)。ただしこの場合でも，その特定の通貨が強制通用力を失えば，債務者は他の通貨で支払うことになる(民法402条２項)。また外国通貨で金額を決めた場合でも，為替(かわせ)相場(→外国為替相場)によって日本の通貨に換算して支払うことができる(民法403条)。金銭債権の履行遅滞による賠償については，債務者は自分の不可抗力や債権者の損害のないことを主張することはできず，債権者は履行遅滞の事実のみによって損害賠償*を請求しうる(民法419条２項)。賠償額は法定利率または約定利率*に基づいて計算される(民法419条１項)。なお金銭債権については，民法の規定以外に法律によって規定されている重要なものがある。たとえば，商法・手形法・利息制限法・質屋営業法・借地法・借家法など。〔黒木三郎〕

きんせんしんたく 【金銭信託】 信託の受託者が一般の委託者から一定の期間を決

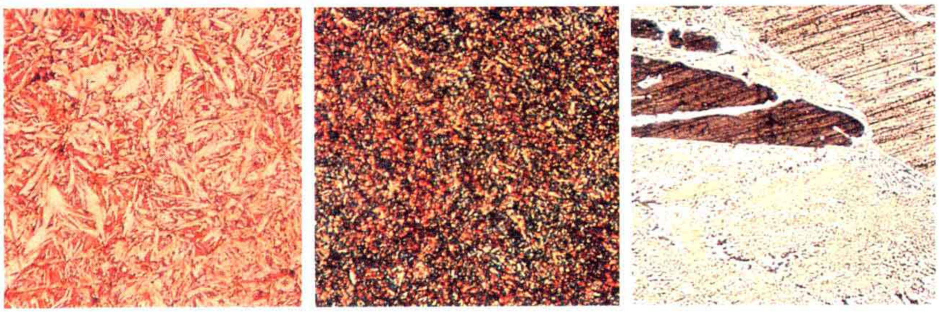
めて金銭を預かり，事業会社への貸し出し，有価証券の買い入れなどに運用し，収益と元本を金銭の形で委託者に引き渡すことをいう。このうち，特定金銭信託は委託者がその運用を具体的かつ個別に指示するものであり，指定金銭信託は委託者がその運用方法について，貸し付けとか証券とかいうようにだいたいの範囲を指示し，細かい運用は受託者に任せるものであるが，わが国の信託銀行*の金銭信託は大部分指定金銭信託である。預け入れ期間が長いため利息が高く，長期貯蓄として有利である一方，資金は産業の長期設備資金の供給源となっている。〔速水　保〕

きんせんとうろくき　【金銭登録機】　現金の出納に際してその内容を表示・記録・合計加算する機器。キャッシュレジスターまたは単にレジスターともいう。広く一般小売り商店・飲食サービス業・スーパーマーケットやデパートなどで使用される。手動式・電動式がある。金銭登録機は，現金の出納を容易にするだけでなく，商品管理・取引管理・店員別管理を可能にし，確実な資料を提供する。また，つり銭を自動的に計算するものや，コンピューターのインプット-データを作成するOCRレジスター・MTPレジスターとよばれるものも開発されている。最近では，電子レジスター出現とともに，カラー-タッグリーダー・MTカセット・クレジット-カードリーダーのユニットとともにシステムマシンとして時代的変貌(へんぼう)を遂げようとしている。

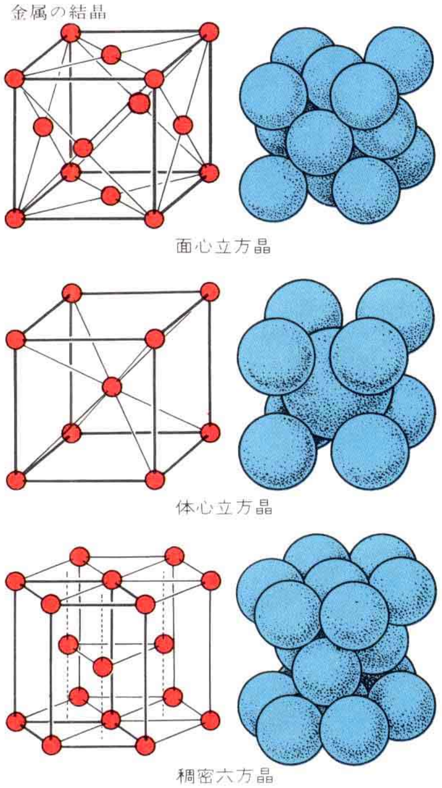
金銭登録機はアメリカのバー経営者ジェームズ-リッティ・ジョン-リッティ兄弟によって発明(1878)され，その後1883年(明治16)にジョン・H.パターソンがナショナル-キャッシュ-レジスター会社(NCR)を設立し，商店組織の中で起こりうる〈まちがい〉〈不注意〉〈無関心〉〈怠慢〉〈できごころ〉の五つの人間通有の欠陥を防止する機能を付加して，本格的に商品化した。〔石原　啓〕

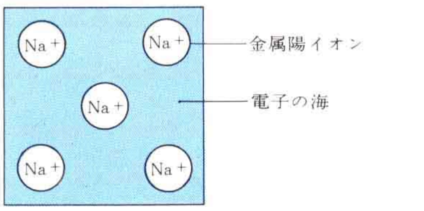
きんそうがく　【金相学】　⇨金属組織学

きんぞく　【金属】　金属とは，いわゆる金属的諸性質を伴っている物質のことで，一般に常温で固体(結晶集合体)であり，金属的な光沢をもち，たたくと金属的な音を発し，かつ展性・延性に富み，比重が大きい。また熱や電気の良導体である。特に金属の電導性は，組織内の自由電子の移行によるため良好であるが，温度の上昇につれて低下する。このことから〈金属とは，自由電子群によって電気を伝導し，温度上昇につれて電気伝導性を低下させるような結晶物質である〉と規定することもできる。しかし，以上の性質には例外も多く，水銀は常温で液体であり，ナトリウムやカリウムは水に浮くほど軽い。蒼鉛(そうえん)は電気や熱の不良導体である。単体で金属となりうる元素(金属元素)は約70種あり，これは天然に存在する元素中で，希ガス元素・ハロゲ



金　属　(左)オーステナイト顕微鏡写真(×330)　(中)マルテンサイト顕微鏡写真(×230)　(右)銅・アンチモン包晶顕微鏡写真(×82)





金　属　金属の結合　それぞれの原子から離れた価電子が，ほぼ一様な負電荷の海(電子の海)をつくり，その中に規則的に陽イオンが並ぶ。これはナトリウムの例

ン元素，それに酸素・窒素・イオウなどの元素を除いたほとんどである。周期律表では左にいくにつれて，同族では下にいくにつれて金属性が増す。またV族のヒ素・アンチモン・ビスマス，VI族のセレン・テルルなどは金属と非金属の中間的な性質を示すため，半金属とよばれることもある。

〔結晶構造〕金属は規則正しい結晶体を構成する。一般に物質の結晶系を大別すると，立方晶系・六方晶系・正方晶系・三方晶系・斜方晶系・単斜晶系・三斜晶系の7種類になり，さらに立方晶は単純・面心・体心の3型，正方晶は単純・体心の2型，斜方晶は単純・底心・体心・面心の4型，単斜晶は単純・底心の2型に分類される。このうち，大部分の金属は①体心立方晶(カリウム・モリブデン・バナジウムなど)，②面心立方晶(ニッケル・銅・アルミニウムなど)，③稠密(ちゅうみつ)六方晶(マグネシウム・亜鉛・カドミウムなど)，および①〜③のうちの二つか三つの形をとる。たとえば，クロムやリチウムは①と②，ジルコニウムやナトリウムは①と③，コバルトは②と③，カルシウムやストロンチウムは①②③の結晶構造をとる。またスズは立方晶にも正方晶にもなり，水銀は三方晶である。➔結晶

〔金属の性質〕一般に金属元素の水酸化物は塩基性で，酸の水素と置換して塩をつくる。水溶液中では塩化物の可溶塩はイオン化するが，イオン化傾向は軽金属ほど著しく，この性質は他の化学的性質と一致する。金属の結晶は，原子間の金属結合*により保たれる。金属の特徴である種々の性質はこの結合形態によることが多い。金属結合は金属の主要な結合方式で，各原子が電子を放出して金属陽イオンと自由電子となり，これらが互いに引力によって結びつく結合形式である。この結合力はイオン結合や原子価結合より弱いが，分子結合よりは強い。

金属に限らず，物質は一般に所定の温度・圧力のもとでは気体・液体・固体の3相をとりうる。物質が一つの相から他の相へ移るときには，一定圧力のもとで温度(変態温度)は一定の値を与える。いろいろな組成割合の二成分系について，それぞれの変態温度を求めて，温度と組成の関係をグラフに表わすと，いわゆる状態図が得られる。この状態図によって，さまざまな合金系の性状を探ることができる。銅-ニッケル合金系では，すべての組成範囲にわたって固溶体(とけ合っている状態の固体)を形づくり，スズ-鉛合金系では共晶(融液から組成元素が一定の割合で同時に晶出してできる混合物)をつくり，ニッケル-ビスマス合金系では包晶(合金系の融液部分と析出した固相部分とが反応して，もとの結晶を包み込む

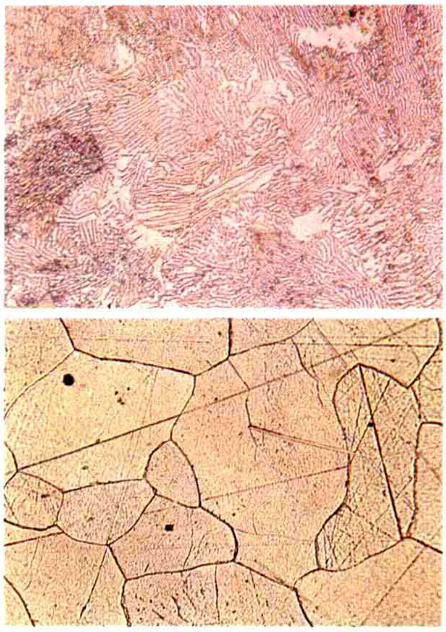
形で新たに析出した別種の結晶)を生じ，銀-ニッケル合金系では偏晶(融液から固相と別種融液が生じてできた組織で，多くの偏析を伴う)をもたらす。このほか，パーライト鋼のような共析晶(固溶体から二つの成分元素を一定の割合で析出させた混合物)や，銅-スズ合金系における包析晶(一つの固相が次に析出した固相と反応して別の固相を生じたもの)などがある。このような組織が金属(合金)の性質に重要な役割を果たす。

金属の組織や性状に関しては，熱処理や機械加工の諸効果，時効硬化・拡散現象・塑性変形・再結晶などの影響も重要である。熱処理には焼き入れ・焼きなまし・焼きもどしの別があり，機械加工には圧延・鍛造・押し出しなどがある。また電気・磁気的性質，耐食性・耐摩耗性・耐熱性なども重要な性質である。一般に貴金属や銅は電導率が高く，ケイ素鋼は導磁率がすぐれている。クロム-ニッケル鋼の耐食性は高く，マンガンの耐摩耗性は優秀である。

〔金属の歴史〕 人類の金属利用の歴史はかなり古く，すでに新石器時代にはシゼンキンの存在が知られ，その後シゼンドウや隕鉄*(いんてつ)が見いだされている。エジプトやバビロニアではBC5000年ごろから青銅器が用いられはじめ，BC3000年ごろには各地で盛んに使用された。中国でも殷(いん)王朝初期(BC1500年ごろ)から青銅器時代が始まった。鉄はBC2000年ごろから利用されはじめ，メソポタミアの古墳やエジプトのピラミッドから，そのころのものとみられる鉄器が出土している。銅器時代から鉄器時代への移行はBC1500～BC1200年ごろといわれており，特に製鉄方法や鉄器製造の技術はBC1300年ごろ小アジアのヒッタイトで著しく発達した。その一地方アルメニアでは浸炭*法も行なわれた。ヒッタイトの滅亡とともに製鉄法は中央アジア一帯に広がり，オリエントは全般的な鉄器時代にはいった。なおこのころの鉄は貴金属扱いされており，価格は金の5倍，銀の40倍であった。はがねの焼き入れ法はBC900年ごろ，焼きもどし法はBC300年ごろこれらの地域で始まったが，このころには用途別の鋼材も生産されるようになった。鉄製武器の威力で近隣諸国を征服したアッシリア，鉄3,000tを用いたソロモン王の神殿建設などはそのことを物語る。

東洋では，インドでBC1500年ごろから，中国で周王朝末期(BC700年ごろ)からそれぞれ鉄器を用いはじめた。日本へは紀元前後，鉄器と銅器がほとんど同時に渡来し，弥生(やよい)時代には和鋼(たたら吹き鋼)もつくられた。

金属製造法は近世にはいって急速に進歩した。特に鉄鋼は木炭式高炉が14世紀に現われていたが，18世紀になってコークス式高炉や圧延機もつくられた。19世紀にはいるとまず熱風炉が，続いて転炉・平炉が開発され，現在に至るまでに改良をくり返して大規模化してきたが，同時に各種の電気炉も開発され，今日の鉄鋼量産時代を迎えた。他の金属では，鉛がBC1500年ごろから，水銀がギリシア・ローマ時代から知られている。またモリブデン・ウラン・チタン・クロムなどは18世紀後半に，イリジウム・カルシウム・カリウム・ナトリウム・アルミニウムなどは19世紀になって発見された。〔秋枝哲児〕



金属顕微鏡 金属の顕微鏡写真 (上)パーライトの結晶(×180) (下)フェライトの結晶(×200)

きんぞくアークようせつほう 【金属アーク溶接法】 母材と同じ金属を電極として用い，その金属電極と母材との間にアークを発生させ，母材といっしょに金属電極を溶融させて母材を溶接する方法。ソ連のスラビアノフが1892年に発明した。金属電極はその後いろいろ研究され，フラックスなどを塗り，被覆アーク溶接棒として，最も一般的に使用されるようになった。金属アーク溶接はガス溶接に比べて溶接速度が速く，溶接部の強度が大きく，軟鋼・抗張力鋼・ステンレス鋼などの溶接に用いられている。〔内田信邦〕

きんぞくかへい 【金属貨幣】 金属を素材とする貨幣*。金属は，希少性と耐久性によって価値が安定していること，運搬が容易であること，分割が可能であることなどによって，歴史的には金・銀などの貴金属が用いられてきた。その後，貴金属の不足と信用貨幣*の発達に伴い，本位貨幣*として用いられていた金貨*や銀貨*はしだいに姿を消し，銅・白銅・ニッケルなどの素材価値の低い補助貨幣*に限られるようになった。➔硬貨

きんぞくかんかごうぶつ 【金属間化合物】 金属元素どうしが簡単な原子数の割合で結合してできる，成分元素とは異なった性質をもつ化合物。各成分元素の原子価と，化合物でのそれらの組成比との間には，金属と非金属間の化合物でのような単純な関係がない場合が多い。たとえば，CuZn，Ag_5Al_3，Cd_6Na，AuSn(Cu：銅，Zn：亜鉛，Ag：銀，Al：アルミニウム，Cd：カドミウム，Na：ナトリウム，Au：金，Sn：スズ。金属間化合物では決まった呼称がなく，元素記号を並べて表わすことが多い)などはその一例である。金属間化合物は，金属元素を決まった組成比によって混ぜ合わせ，溶融し，冷却して固めることによって得られ，さまざまな形の結晶構造*をもつ。成分元素に特有の性質や結晶構造とははっきり異なった性質や構造をもつ点で，ふつうの合金や固溶体*と違っている。たとえば，CuZnは，Cu(面心立方結晶)ともZn(六方最密結晶)とも異なった塩化セシウム形という体心立方に似た結晶である。金属間化合物は，金属としての一般的な性質をもつものが多いが，そうでないものもある。周期律表*のIII族の元素In(インジウム)・Ga(ガリウム)・Alなどと，V族元素Sb(アンチモン)・As(ヒ素)・P(リン)などとの1対1の組成比の化合物は，III-V族金属間化合物とよばれ，IV族のゲルマニウムやシリコンと同様の結晶構造(ダイヤモンド形)と半導体*性をもち，中でもInSb，InAs，GaAsなどは半導体材料として注目される。〔中野藤生〕

きんぞくけつごう 【金属結合】 金属状態での原子間の結合。金属状態では，価電子は金属の特定の格子(こうし)イオンに束縛されず，比較的自由に結晶内を動ける自由電子的な性質を有している。ゾンマーフェルト・ブロッホらは，これら金属中の電子に量子力学を適用した。現在では金属の種々の物性は量子統計力学で説明されている。➔金属

きんぞくげんそ 【金属元素】 金属性の単体をつくる元素の総称。元素は金属元素と非金属元素に大別される。しかし，ホウ素・ケイ素・セレン・テルルなど数種の元素は，温度や圧力の変化によって属性が変わり，準金属として取り扱われているものもある。金属元素は，常温で液体の水銀を除いてすべて結晶である。また，結晶構造に従って立体的に規則正しく配列しており，価電子は自由電子としてその間を自由に動きまわっている。➔金属 〔古屋 弘〕

きんぞくけんびきょう 【金属顕微鏡】 金属のような不透明体の表面の状態を観察する目的でつくられた顕微鏡。一般の顕微鏡に鉛直照明装置を組み合わせたものである。すなわち側方の照明用光源からの光を対物レンズの後方に置かれたプリズムまたはガラス板で曲げ，被検体の表面をてらして観察する。特に偏光装置を有するものもある。

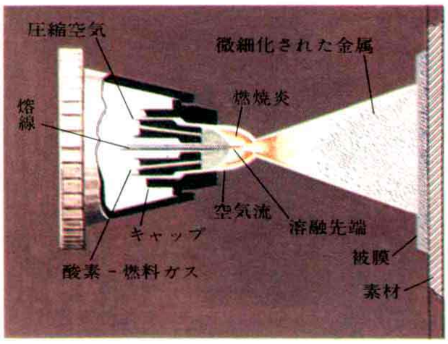
被検体金属は一般にエメリーペーパーやバフによって鏡面状に研摩され，そのまま

観察される場合もあるが，普通は表面を腐食して組織を浮き出させてから観察を行なう。鉄鋼材料などでは腐食液として３～５％ピクリン酸アルコール，３～５％硝酸アルコールが用いられている。〔草川隆次〕

きんぞくこうぎょう　【金属工業】 鉄鋼業・非鉄金属工業・金属製品工業を含む。鉄鋼業には製銑・製鋼から鋳鍛造・鍍金(ときん)などの各工程が含まれ，非鉄金属工業は鉄以外の金属，すなわちアルミニウム・銅・鉛・亜鉛・ニッケル・金・銀などの製錬・加工業を含む。金属製品工業は金属を原料とする製造工業のうち，機械工業に含まれないものを含むが，洋食器・刃物・工具・建築用金属製品，その他の金属製器具と多岐にわたっている。

金属工業は，おもに建設業・機械工業に対して原料資材を供給する基礎産業であり，重工業の中心部門である。わが国の生産額は1968年(昭和43)に７兆5,700億円に達し，製造業全体の18.5％を占めている。金属工業の中心をなすものは鉄鋼業であり，その生産額は金属工業全体の50％を越える。鉄鋼業生産の中で圧倒的な割合を占めるのは，日本産業を代表するような巨大な一貫メーカー*であり，銑鉄から製鋼さらにブリキのような２次製品に至る多種な製品を生産している。これに反して，事業数が4,000を越え，全金属工業の71％を占める金属製品工業の生産額の占める比重はわずか21％にすぎず，この部門が中小企業を主とした企業構成であることを示している。金属工業のうち非鉄金属工業の生産額が占める比重は26％，おもな製造品目は，アルミニウム・銅・鉛・亜鉛である。〔原　豊〕

きんぞくさくえんせんりょう　【金属錯塩染料】 クロム・銅などの金属と錯塩を形成している染料。アゾ染料*に属するものが多い。日光や洗たくに対する堅牢度(けんろうど)を増大させることを目的とする。元来，酸性媒染染料*やある種の直接染料*では，染色時あるいはその前後で金属処理をして繊維上で金属錯塩を形成させていたが，その後酸性媒染染料の系列にあらかじめ染料分子中に金属錯塩を形成させたものが出現した。ネオラン染料(スイス，チバ社，1924)，パラチンファスト染料(西ドイツ，BASF社)などがそれであるが，これらは染料１分子と金属１原子とが結合したもの(1：1型金属錯塩染料)で，均染性を得るためには強酸性の染浴を必要とする欠点があった。その後，中性浴で染色できるイルガラン染料(西ドイツ，ガイジ社，1951)やシバラン染料(チバ社)へと発展した。これらは染料２分子と金属１原子とが結合したもの(2：1型金属錯塩染料)である。直接染料の関係でも錯塩形成(銅錯塩が多い)にいっそう有効な形の染料(ベンゾファストコッパー染料・コプランチン染料など)が開発され，多数の堅牢な染料が出現している。また，パーロンファスト染料など，合成繊維*用の金属錯塩染料もある。〔稲田正作〕



金属溶射法　溶線式ガス溶射

きんぞくし　【金属糸】 ⇨メタリックヤーン

きんぞくせっけん　【金属石鹸】 脂肪酸の金属塩のうち，アルカリ金属塩以外の総称。一般のアルカリせっけんは金属せっけんの一部であるが，単にせっけんとよんで区別する。アルカリせっけんが水溶性なのに対し，一般に水には不溶性で，有機溶剤に可溶である。金属せっけんは炭化水素溶液にして乾式洗浄に用いられるほか，塩の種類によって，光沢剤(アルミニウム・亜鉛)・化粧品(マグネシウム・マンガン・チタン・カルシウム)・減摩潤滑剤(カルシウム・アルミニウム・鉛・亜鉛・スズ)・顔料分散剤(アルミニウム・カルシウム・亜鉛)などに用いられる。➔せっけん〔岡部平八郎〕

きんぞくそしきがく　【金属組織学】 別名金相学ともいう。金属顕微鏡または電子顕微鏡などを用いて金属および合金の組織と組成，および物理的性質を研究する学問である。一般に平衡状態図を中心にして研究されている。この状態図の作成には熱分析法・電気抵抗測定法・X線回折法などが用いられる。イギリスのノルビが1864年にはじめて金属の顕微鏡組織の研究を行なった。

きんぞくはく　【金属箔】 金属の展延性を利用し，一般に小径のロールまたはその他の方法を用いて10^{-1}～10^{-6}mm程度の厚さに圧延したものである。金・銀・スズ・アルミニウム・白金などが代表的な金属箔として用いられている。中でも金箔は特に展延性がよく，牛皮の中にはさんで打ち延ばし，厚さ10^{-6}mmのものまでつくられ，美術工芸品に用いられている。銀箔は主として美術工芸品，スズ箔・アルミニウム箔はたばこ・食品の包装やコンデンサーなどに用いられている。白金箔は美術工芸品以外に電気抵抗体に用いられている。〔草川隆次〕

きんぞくばんぶき　【金属板葺】 金属板で屋根をふいたもの，またはふくこと。屋根重量が軽量で，金属板の継ぎ目が少なく，しかも雨がはいりにくいために緩勾配(かんこうばい)の屋根がふけるが，断熱性・防音性に欠け，止めつけが不十分だと風ではがされやすい。亜鉛引き鉄板・アルミニウム板・銅板などが平板・波板・コルゲート板として用いられる。住宅の屋根は一文字ぶき・ひしぶき，あるいはかわら棒ぶき(軒先に直角に450mm内外にかわら棒を打って金属板で包む)などがあり，工場・倉庫などの屋根には波板が用いられる。〔神山幸弘〕

きんぞくひょうめんしょり　【金属表面処理】 金属体の表面に施す加工技術の総称。金属表面技術あるいは金属表面処理技術ともいう。化学的・電気化学的あるいは金属工学的な技術を金属表面処理と狭義に解釈する場合もあるが，厳密な定義はない。金属表面処理を分類すると，①脱脂・酸洗・洗浄・機械研摩・化学研摩・電解研摩など，金属の素面をつくる法，あるいは金属表面仕上げ法，②表面焼き入れ・浸炭・窒化・金属浸透などの表面層の化学的熱処理法，③金属被覆(めっき)法，④非金属被覆法(塗装を含む)，⑤プラスチックなどの非金属体表面に金属を被覆する法がある。〔上田重朋〕

きんぞくふん　【金属粉】 金属の粉末。広義には合金粉を含む。金属材料が工業的に容易に得られる場合はおもに機械的粉砕法でつくるが，特殊な金属，あるいは用途によっては，化合物を分解・還元するなどの化学的粉砕法でつくることも多い。粉末冶金(やきん)に用いられ，塗料・印刷インキ・触媒・火薬および溶接棒などの原料とされる。

きんぞくまえしょりとりょう　【金属前処理塗料】 金属に対する塗料の付着性の向上，腐食に対する一時保護作用を果たすことを目的とした塗料。代表的なものはエッチングプライマーまたはウォシュプライマーとよばれる。主成分はポリビニルブチラール樹脂とクロム酸塩およびリン酸塩で，１液型，および主剤と添加剤を使用時に混合する２液型がある。10μ前後の薄い塗膜を形成し，鉄だけでなく非鉄金属の表面調整剤として用いられる。〔鈴木荘司〕

きんぞくようしゃほう　【金属溶射法】 とけた金属を物体の表面に吹きつけて被覆を行なう方法で，わが国では古くはメタリコンとよばれていた。この方法は，電気めっき・溶接・クラッド・スパッタリングなど他の金属被覆法と比較して装置が簡単で移動性に富み，素材の変形が小さく，加工時間が短く，大形機器や複雑な形状の物体に加工できるなどの特長がある。現在，工業的にはガス式・爆燃式・アーク式・プラズマジェット式などの溶射法が実用化されている。金属溶射の目的は橋梁(きょうりょう)などの構築物，各種機械・器具の部品の表面に耐食・耐熱・耐摩耗(たいまもう)などの性質を与えることであり，亜鉛・アルミニウム・鋼・モリブデン・超硬合金などが溶射される。金属溶射以外に，アルミナのような酸化物，ニッケルアルミナイドなどの金属間化合物*の溶射も行なわれる。〔藤井康次〕

Document generated by Anna's Archive around 2023-2024 as part of the DuXiu collection (https://annas-blog.org/duxiu-exclusive.html).

Images have been losslessly embedded. Information about the original file can be found in PDF attachments. Some stats (more in the PDF attachments):
{
  "before_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTMuemlw",
    "filename_decoded": "40439093.zip",
    "filesize": 228831111,
    "md5": "c31a3f5f03b5adf02de2da6f4411cca2",
    "header_md5": "4cb8c6b111ea1c8f3882b5d563ea17bc",
    "sha1": "be2952bba23d56b04ba5de999c4aaaee605951cd",
    "sha256": "d1222e68abf146320a959fde1dc5ef762bfe5f86b03790258161b095b9e33982",
    "crc32": 3095678579,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 238269575,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 2847408000
  },
  "after_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTMuemlw",
    "filename_decoded": "40439093.zip",
    "filesize": 228728129,
    "md5": "370138fbefbcb64ca75e280d0f5f365c",
    "header_md5": "d2a90016148e94169336db1503286996",
    "sha1": "cff68a3113316949deca838ee18ef6c9ca8caf6b",
    "sha256": "67832985f433c7f4b6d454ab16a102702c645887ddd998ff06fab4825e1b815a",
    "crc32": 2502108708,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 238258591,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 3597072000
  },
  "pdf_generation_missing_pages": false
}